

講義概要

シラバス
SYLLABUS

2019年度

森ノ宮医療大学

大学院

2019年度

講義概要

シラバス -SYLLABUS-

想いのすべてを、医療の力に。



森ノ宮医療大学

保健医療学部

鍼灸学科
理学療法学科
看護学科
臨床検査学科
作業療法学科
臨床工学科

大学院

保健医療学研究科 保健医療学専攻(修士課程)
保健医療学研究科 医療科学専攻(博士後期課程)

専攻科

助産学専攻科

目次

— CONTENTS —

- 2 五十音検索
- 27 鍼灸学科 鍼灸コース・スポーツ特修コース
(2014年度以降入学生カリキュラム)
- 103 鍼灸学科 鍼灸コース・スポーツ特修コース
(2018年度以降入学生カリキュラム)
- 193 鍼灸学科 教職課程(2016年度以降入学生カリキュラム)
- 205 鍼灸学科 教職課程(2018年度以降入学生カリキュラム)
- 217 理学療法学科(2014年度以降入学生カリキュラム)
- 273 理学療法学科(2018年度以降入学生カリキュラム)
- 345 看護学科(2016年度入学生カリキュラム)
- 375 看護学科(2017年度以降入学生カリキュラム)
- 481 看護学科 教職課程(2017年度以降入学生カリキュラム)
- 487 看護学科 教職課程(2019年度入学生カリキュラム)
- 495 臨床検査学科(2016年度以降入学生カリキュラム)
- 601 作業療法学科(2016年度以降入学生カリキュラム)
- 703 臨床工学科(2018年度以降入学生カリキュラム)
- 775 保健医療学専攻(修士課程)(2017年度以降入学生カリキュラム)
- 819 医療科学専攻(博士後期課程)(2018年度以降入学生カリキュラム)
- 857 助産学専攻科(2019年度入学生カリキュラム)

五十音検索

鍼灸学科

(鍼灸コース、スポーツ特修コース)

う		
運動学	136	
運動機能検査法(Aクラス)	156	
運動機能検査法(Bクラス)	157	
運動生理学	98	
運動生理機能学演習	92	
え		
英会話	119	
英語Ⅰ(初級)(Aクラス)	115	
(Bクラス)	116	
英語Ⅱ(中級)(Aクラス)	117	
(Bクラス)	118	
栄養学	127	
お		
応用英語演習	121	
応用鍼灸実技Ⅰ(特殊鍼法)(Aクラス)	170	
(Bクラス)	171	
応用鍼灸実技Ⅱ(ロールプレイ・施術所見学)		
(Aクラス)	172	
(Bクラス)	173	
応用鍼灸治療学Ⅰ(スポーツ総論)	57	
応用鍼灸治療学Ⅱ(スポーツ各論)	58	
応用鍼灸治療学Ⅲ(小児・婦人科)	59	
応用鍼灸治療学Ⅳ(外科・麻酔科・ 泌尿器科・耳鼻科・眼科)	60	
応用鍼灸治療学Ⅴ(内科)(Aクラス)	61	
(Bクラス)	62	
応用鍼灸治療学Ⅵ(リハビリ・老年)	64	
応用鍼灸治療学Ⅶ(物理療法)	65	
		応用鍼灸治療学Ⅷ(美容・未病) 66
		か
		介護学概論 67
		解剖学Ⅰ(骨・筋) 129
		解剖学Ⅱ(神経) 131
		解剖学Ⅲ(内臓・脈管) 132
		化学 108
		学外見学実習Ⅰ 179
		学外見学実習Ⅱ 53
		画像診断学 38
		学校保健(学校安全・救急処置) 95
		学校保健(小児保健・精神保健) 94
		関係法規・経営論 42
		漢方医学各論 69
		き
		基礎英語演習 120
		基礎鍼実技Ⅰ(Aクラス) 166
		(Bクラス) 167
		基礎鍼実技Ⅱ(Aクラス) 168
		(Bクラス) 169
		基礎ゼミナール 105
		基礎鍼実技Ⅰ(Aクラス) 162
		(Bクラス) 163
		基礎鍼実技Ⅱ(Aクラス) 164
		(Bクラス) 165
		キャリアデザイン 178
		け
		ケアマネジメント 68
		経穴局所解剖演習Ⅰ(Aクラス) 147
		(Bクラス) 148
		経穴局所解剖演習Ⅱ(Aクラス) 149

(B クラス)	150	スポーツ実習Ⅰ 体づくり運動	183
経絡経穴学Ⅰ (A クラス)	143	スポーツ実習Ⅱ サッカー	99
(B クラス)	144	スポーツ実習Ⅲ 陸上競技	184
経絡経穴学Ⅱ (A クラス)	145	スポーツ実習Ⅳ 柔道	100
(B クラス)	146	スポーツ実習Ⅴ ダンス	185
健康科学(スポーツ社会学を含む)	123	スポーツ実習Ⅵ 器械運動	186
健康管理学Ⅰ	124	スポーツ実習Ⅶ 水泳	187
健康管理学Ⅱ	125	スポーツ実習Ⅷ 生涯スポーツ	188
現代医学系鍼灸応用実習	44	スポーツ障害学・栄養学	91
現代医学系鍼灸学Ⅰ (整形外科系)		スポーツ心理学	96
(A クラス)	158	スポーツバイオメカニクス	192
(B クラス)	159	せ	
現代医学系鍼灸学Ⅱ (内科系)		生化学	137
(A クラス)	40	整形外科学	141
(B クラス)	41	生物学	107
現代医学系鍼灸学実習Ⅰ (A クラス)	174	生命倫理学	112
(B クラス)	175	生理学Ⅰ (動物生理学)	133
こ		生理学Ⅱ (植物生理学)	134
コンディショニング技術論	182	生理学Ⅲ (応用生理学)	135
し		そ	
情報処理 (A クラス)	109	卒業研究：鍼灸現代系(高崎)	89
(B クラス)	110	卒業研究：鍼灸現代系(高橋)	90
鍼灸安全学	39	卒業研究：鍼灸現代系(辻丸)	87
鍼灸科学概論Ⅰ	151	卒業研究：鍼灸現代系(鍋田)	88
鍼灸総合演習Ⅰ	71	卒業研究：鍼灸現代系(松熊)	83
鍼灸総合演習Ⅱ	72	卒業研究：鍼灸情報系(山下)	84
鍼灸総合演習Ⅲ	73	卒業研究：鍼灸東洋系(松熊)	82
鍼灸のための理学療法学・看護学	70	卒業研究：スポーツ特修系(老田)	86
身体運動科学	128	卒業研究：スポーツ特修系(中原)	85
心理学	111	た	
す		体育原理	101
スポーツ医学	36	体力トレーニング論(旧カリ)	97
スポーツ健康科学演習	122	体力トレーニング論(新カリ)	191

ち	
チーム医療とコミュニケーション	126
て	
哲学	113
テーピング技術論	181
と	
統合医療概論	29
東洋医学概論Ⅰ	152
東洋医学概論Ⅱ	153
東洋医学概論Ⅲ	154
東洋医学各論Ⅰ	162
東洋医学系検査法(Aクラス)	160
(Bクラス)	161
東洋医学系鍼灸応用実習	47
東洋医学系鍼灸実習Ⅰ(Aクラス)	176
(Bクラス)	177
東洋医学系鍼灸実習Ⅱ(Aクラス)	45
(Bクラス)	46
東洋医療概論	129
特殊鍼灸治療学(刺絡・通電等)	56
トレーニング科学演習Ⅰ	
(レジスタンスエクササイズ1)	189
トレーニング科学演習Ⅱ(エアロビックダンス・	
ウォーキング・ジョギング)	190
トレーニング科学演習Ⅲ(レジスタンスエクサ	
サイズ2・水中運動)	190
トレーニング科学演習Ⅳ(指導実習)	93
な	
内科学	142
に	
日本国憲法	114
ひ	
美容鍼灸学総論	180
病理学	138
ふ	
附属施術所応用実習(Aクラス)	51
(Bクラス)	52
附属施術所基礎実習(Aクラス)	48
(Bクラス)	50
物理学	106
ほ	
保健医療研究(井手口)	77
保健医療研究(大月)	79
保健医療研究(尾崎)	78
保健医療研究(高崎)	80
保健医療研究(高橋)	80
保健医療研究(辻)	81
保健医療研究(辻丸)	79
保健医療研究(仲西)	76
保健医療研究(中原・老田)	76
保健医療研究(鍋田)	75
保健医療研究(堀川)	81
保健医療研究(増山)	75
保健医療研究(松熊)	78
保健医療研究(安田)	77
保健医療研究(山下)	74
ま	
マーケティング入門	43
り	
リハビリテーション医学	37
臨床医学各論Ⅱ(各科)	30
臨床医学各論Ⅲ(各科)	31
臨床医学各論Ⅳ(外科・麻酔科)	32
臨床医学総論(症候学)(Aクラス)	139
(Bクラス)	140
臨床灸実習(Aクラス)	54

(B クラス)	55
臨床生理学	155
ろ	
老年ケア演習	69

鍼灸学科(教職課程)

き

教育課程論	211
教育行政学	209
教育原理	207
教育実習Ⅰ	201
教育実習Ⅱ	202
教育実習事前事後指導	200
教育心理学	210
教育相談の基礎と方法	215
教育方法論	199
教職実践演習(中・高)	203
教職論	208

せ

生徒指導論	214
-------------	-----

と

道徳教育論	212
特別活動論	213

ほ

保健体育科教育法Ⅰ	195
保健体育科教育法Ⅱ	196
保健体育科教育法Ⅲ	197
保健体育科教育法Ⅳ	198

理学療法学科

い

医学英語	291
医療関係法規論(旧カリ)	229
医療関係法規論(新カリ)	327

う

運動学実習	311
運動器系理学療法学	232
運動器系理学療法学 I	336
運動器系理学療法学技術論	233

え

英会話	290
英語 I (初級) (A クラス)	286
(B クラス)	287
英語 II (中級) (A クラス)	288
(B クラス)	289
栄養学	299

お

応用英語演習	293
--------------	-----

か

介護学概論・ボランティア活動論	325
化学	278

き

基礎運動学	309
基礎運動療法学各論	334
基礎運動療法学総論	333
基礎英語演習	292
基礎ゼミナール	275
基礎日常生活活動学	332
基礎理学療法学 I	328
基礎理学療法学演習	329
義肢装具学	339
救急処置法	220

け

健康科学(スポーツ社会学を含む)	295
健康管理学 I	296
健康管理学 II	297
言語聴覚療法、摂食・嚥下障害学	223
検査測定実習	343

こ

公衆衛生学	314
-------------	-----

さ

作業療法・芸術療法論	324
------------------	-----

し

社会福祉学	284
小児科学(人間発達学)	321
情報処理	279
神経系理学療法学	234
神経系理学療法学 I	337
神経系理学療法学技術論	235
身体運動科学	300
人体の機能 I (動物性機能)	307
人体の機能 II (植物性機能)	308
人体の構造 I (神経系)	304
人体の構造 II (循環・内臓)	305
人体の構造演習 I (運動器)	302
人体の構造演習 II (運動器)	303
人体の構造実習	306
心理学	281

す

スポーツ医学	225
スポーツ健康科学演習	294

せ

生化学	315
生活環境論(旧カリ)	240
生活環境論(新カリ)	341

整形外科学	320	て	
精神医学	322	テーピング技術論	326
生物学	277	哲学	283
生命倫理学	282	と	
そ		統計学	280
卒業研究Ⅰ：角田	250	統合医療概論	219
卒業研究Ⅰ：金尾	254	東洋医療概論	301
卒業研究Ⅰ：河村	244	な	
卒業研究Ⅰ：木内	251	内科系理学療法学	236
卒業研究Ⅰ：工藤	252	内科系理学療法学技術論	237
卒業研究Ⅰ：澤田	247	内部障害系理学療法学Ⅰ	338
卒業研究Ⅰ：杉本	253	に	
卒業研究Ⅰ：三木屋	243	日本国憲法	285
卒業研究Ⅰ：中根	248	は	
卒業研究Ⅰ：堀	245	発達障害理学療法学	241
卒業研究Ⅰ：前田	249	ひ	
卒業研究Ⅰ：松尾	255	病理学	316
卒業研究Ⅰ：森谷	246	ふ	
卒業研究Ⅱ：角田	264	物理学	276
卒業研究Ⅱ：金尾	268	物理療法学	335
卒業研究Ⅱ：河村	257	り	
卒業研究Ⅱ：木内	265	理学療法触診法	230
卒業研究Ⅱ：工藤	266	理学療法セミナーⅠ	226
卒業研究Ⅱ：澤田	260	理学療法セミナーⅡ	227
卒業研究Ⅱ：杉本	267	理学療法セミナーⅢ	228
卒業研究Ⅱ：三木屋	256	理学療法特論Ⅰ	238
卒業研究Ⅱ：中根	261	理学療法特論Ⅱ	239
卒業研究Ⅱ：堀	258	理学療法のための看護学・鍼灸学	224
卒業研究Ⅱ：前田	262	理学療法評価学各論	331
卒業研究Ⅱ：森谷	259	理学療法評価学総論	330
ち		リハビリテーション医学(旧カリ)	221
地域理学療法学	340	リハビリテーション医学(新カリ)	323
チーム医療とコミュニケーション	298	リハビリテーション概論	313

臨床運動学	310
臨床見学実習	342
臨床心理学	312
臨床総合実習Ⅰ	269
臨床総合実習Ⅱ	270
臨床評価実習	269
臨床病態学Ⅰ	317
臨床病態学Ⅱ	318
臨床病態学Ⅲ	319
臨床理学療法評価学Ⅲ	231
ろ	
老年医学	222
老年期理学療法学	242

看護学科

あ

IPW 論 408

い

医学英語 396

医療概論 425

え

英会話 I 395

英語 I (初級) (A クラス) 391

(B クラス) 392

英語 II (中級) (A クラス) 393

(B クラス) 394

栄養学 404

疫学 429

お

応用英語演習 398

か

外来看護論 465

化学 380

家族看護学 467

学校保健 468

看護学概論 430

看護過程演習 436

看護関係法規 427

看護管理論 347

看護研究 478

看護理論 431

き

基礎英語演習 397

基礎看護学実習 I 437

基礎看護学実習 II 437

基礎ゼミナール 377

け

形態機能学 I 409

形態機能学 II 410

形態機能学 III 411

形態機能学 IV 412

健康科学(スポーツ社会学を含む) 400

健康管理学 I 401

健康管理学 II 402

健康教育論 466

健康相談活動論 469

こ

公衆衛生学 426

公衆衛生看護活動論 I 472

公衆衛生看護活動論 II 473

公衆衛生看護活動論 III 474

公衆衛生看護活動論 IV 475

公衆衛生看護学演習 471

公衆衛生看護学概論 470

公衆衛生看護学実習 349

公衆衛生看護管理論 476

公衆衛生看護セミナー 373

さ

災害・国際看護論 348

在宅看護援助論 I 463

在宅看護援助論 II 434

在宅看護概論 462

在宅看護論実習 349

し

社会福祉学 387

主題実習 I (基礎看護) 350

主題実習 I (公衆衛生看護) 358

主題実習 I (在宅看護) 357

主題実習 I (小児看護) 355

主題実習 I (精神看護)	356	生物学	379
主題実習 I (成人看護・急性期)	351	生命倫理学	385
主題実習 I (成人看護・慢性期)	352	西洋思想史	390
主題実習 I (母性看護)	354	そ	
主題実習 I (老年看護)	353	卒業研究：安部	368
主題実習 II	359	卒業研究：基礎	359
小児看護援助論 I	452	卒業研究：急性	360
小児看護援助論 II	453	卒業研究：公衆衛生	367
小児看護学概論	451	卒業研究：在宅	369
小児看護学実習	461	卒業研究：小児	365
情報処理 (A クラス)	381	卒業研究：精神	366
(B クラス)	382	卒業研究：母性	363
身体運動科学	405	卒業研究：慢性	361
心理学	384	卒業研究：森	370
診療援助論 I	434	卒業研究：老年	362
診療援助論 II	435	ち	
す		チーム医療とコミュニケーション	403
スポーツ健康科学演習	399	て	
せ		哲学	386
生化学	414	と	
生活援助論 I	432	統計学	383
生活援助論 II	433	東洋医療概論	406
精神看護援助論 I	456	統合医療概論	407
精神看護援助論 II	457	東洋思想史	389
精神看護学概論	455	に	
精神看護学実習	461	日本国憲法	388
成人看護援助論 I	439	は	
成人看護援助論 II	441	発達心理学	415
成人看護援助論 III	442	ひ	
成人看護援助論 IV	443	微生物学	416
成人看護学概論	438	病理学	417
成人看護学実習 I (急性)	458	ふ	
成人看護学実習 II (慢性)	458	フィジカルアセスメント	413

物理学	378
ほ	
保健医療福祉行政論	477
保健統計学	428
母性看護援助論 I	449
母性看護援助論 II	450
母性看護学概論	448
母性看護学実習	460
よ	
養護概説	467
り	
臨床看護学セミナー I	371
臨床看護学セミナー II	372
臨床看護技術セミナー	374
臨床心理学	424
臨床病態学 I	419
臨床病態学 II	420
臨床病態学 III	421
臨床病態学 IV	422
臨床病態学 V	423
臨床薬理学	418
ろ	
老年看護援助論 I	446
老年看護援助論 II	447
老年看護学概論	445
老年看護学実習 I	459
老年看護学実習 II	460

看護学科(教職課程)

き

教育課程論	489
教育行政学	485
教育原理	483
教育心理学	486
教育相談の基礎と方法	494
教育方法論	494
教職論	484

せ

生徒指導論	493
-------------	-----

と

道徳教育論	490
特別活動論	491

臨床検査学科

あ

IPW 論 544

い

医学英語 I 511

医学英語 II 512

医学概論 542

一般検査学 554

遺伝子検査学 558

遺伝子検査学実習 559

医用工学概論 545

医用工学実習 546

医療安全管理学 580

医療情報科学 579

え

英会話 I 513

英会話 II 514

英語 I (初級) (A クラス) 507

(B クラス) 508

英語 II (中級) (A クラス) 509

(B クラス) 510

栄養学 522

か

画像検査学 575

関係法規 580

漢方医学概論 524

き

寄生虫検査学 564

基礎ゼミナール 497

救急災害医学 536

け

血液検査学 I 549

血液検査学 II 550

血液検査学実習 551

健康科学(スポーツ社会学を含む) 516

健康管理学 I 519

健康管理学 II 520

検査技術科学序論 540

検査総合管理学 578

こ

公衆衛生学 543

し

身体運動科学 523

人体の機能 I 529

人体の機能 II 530

人体の構造 I 526

人体の構造 II 527

人体の構造実習 528

社会福祉学 504

情報処理 (A クラス) 499

(B クラス) 500

小児医学 534

食品衛生学 582

食品関係法規 582

心理学 501

す

スポーツ健康科学演習 515

せ

生化学 518

生化学各論 531

生化学実習 532

生命倫理学 502

生物学 499

生理機能検査学 I 571

生理機能検査学 II 572

生理機能検査学 III 573

生理機能検査学実習	574	微生物検査学実習	563
そ		病理学	541
総合演習Ⅰ	583	病理検査学	552
総合演習Ⅱ	584	病理検査学実習	553
総合演習Ⅲ	586	ふ	
卒業研究Ⅰ(上田)	587	物理学	498
卒業研究Ⅰ(小林・竹岡)	590	分析化学	533
卒業研究Ⅰ(小宮山・藤原)	589	ほ	
卒業研究Ⅰ(佐伯)	592	放射性同位元素検査学	557
卒業研究Ⅰ(森)	588	め	
卒業研究Ⅰ(脇・前川)	591	免疫検査学Ⅰ	566
卒業研究Ⅱ(小林・竹岡)	595	免疫検査学Ⅱ	567
卒業研究Ⅱ(小宮山・藤原)	594	免疫検査学実習	568
卒業研究Ⅱ(佐伯)	597	や	
卒業研究Ⅱ(森)	593	薬理学	537
卒業研究Ⅱ(脇・前川)	596	ゆ	
ち		輸血・移植検査学	569
チーム医療とコミュニケーション	521	輸血・移植検査学実習	570
超音波検査学Ⅰ	576	り	
超音波検査学Ⅱ	577	リハビリテーション概論	538
て		臨床化学検査学Ⅰ	555
哲学・宗教学	503	臨床化学検査学Ⅱ	556
と		臨床化学検査学実習	557
統計学	506	臨床検査学総論	539
統合医療概論	525	臨床病態学Ⅰ	547
東洋思想史	517	臨床病態学Ⅱ	548
に		臨床薬理学	581
日本国憲法	505	臨地実習	598
は		ろ	
バイオテクノロジー演習	560	老年医学	535
ひ			
微生物検査学Ⅰ	561		
微生物検査学Ⅱ	562		

作業療法学科	公衆衛生学	641
あ	さ	
IPW 論	作業科学入門	663
い	作業療法概論	664
医学英語 I	作業療法特論 I	679
医学英語 II	作業療法特論 II	680
医療関係法規論	作業療法評価学総論	665
え	し	
英会話 I	社会福祉学	610
英会話 II	障害者地域生活支援論	686
英語 I (初級) (A クラス)	小児科学(人間発達学)	648
(B クラス)	情報処理	606
英語 II (中級) (A クラス)	身体障害作業療法治療学演習	680
(B クラス)	身体障害作業療法治療学各論	675
栄養学	身体障害作業療法治療学総論	671
か	身体障害作業療法評価学	666
介護学概論・ボランティア活動論	人体の機能 I (動物性機能)	636
漢方医学概論	人体の機能 II (植物性機能)	637
漢方医学各論	身体運動科学	629
き	人体の構造 I (循環・内臓)	633
義肢装具学	人体の構造 II (神経系)	634
基礎運動学	人体の構造演習(運動器)	632
基礎作業学	人体の構造実習	635
基礎ゼミナール	心理学	607
救急処置法	す	
け	スポーツ医学	657
芸術療法論	スポーツ健康科学演習	621
健康科学(スポーツ社会学を含む)	せ	
健康管理学 I	生化学	624
健康管理学 II	生活環境論	685
言語聴覚療法、摂食・嚥下障害学	整形外科学	647
こ	精神医学	649
高次脳機能障害作業療法評価学	精神医学各論	650

精神障害作業療法治療学演習	681	に	
精神障害作業療法治療学各論	676	日常生活活動学	670
精神障害作業療法治療学総論	672	日本国憲法	611
精神障害作業療法評価学	667	の	
生物学	605	脳神経外科学	646
生命倫理学	608	は	
そ		発達障害作業療法治療学演習	683
卒業研究 I (伊藤)	688	発達障害作業療法治療学各論	677
卒業研究 I (金森)	693	発達障害作業療法治療学総論	674
卒業研究 I (小林)	686	発達障害作業療法評価学	668
卒業研究 I (中西)	692	ひ	
卒業研究 I (中村)	691	病理学	642
卒業研究 I (橋本)	690	ふ	
卒業研究 I (松下)	689	物理学	604
卒業研究 I (横井)	687	り	
卒業研究 II (身体障害)	694	理学療法概論	654
卒業研究 II (精神障害)	696	リハビリテーション医学	653
卒業研究 II (発達障害)	698	リハビリテーション概論	640
卒業研究 II (老年期障害・地域)	697	臨床運動学	639
ち		臨床心理学	651
チーム医療とコミュニケーション	627	臨地見学実習	699
地域作業療法学	684	臨床検査実習	700
て		臨床総合実習	702
哲学・宗教学	609	臨床評価実習	701
と		ろ	
統合医療概論	631	老年医学	652
東洋医学概論 I	659	老年期障害作業療法治療学演習	682
東洋医学概論 II	660	老年期障害作業療法治療学各論	677
東洋思想史	623	老年期障害作業療法治療学総論	673
統計学	612		
な			
内科学 I	643		
内科学 II	644		

臨床工学科	健康管理学Ⅱ	730
い	こ	
医学英語	公衆衛生学	734
医学概論	し	
医用工学	システム制御工学	762
医用機器学概論	社会福祉学	715
医療統計学	情報処理(Aクラス)	709
え	(Bクラス)	710
英会話	情報処理工学	760
英語Ⅰ(初級)(Aクラス)	情報処理・システム制御工学実習	
(Bクラス)	(Aクラス)	763
英語Ⅱ(中級)(Aクラス)	(Bクラス)	764
(Bクラス)	人工呼吸装置学	772
栄養学	人体機能補助装置学	773
お	人体の機能Ⅰ	737
応用英語演習	人体の機能Ⅱ	738
応用化学	人体の構造Ⅰ	735
応用数学	人体の構造Ⅱ	736
応用物理学	心理学	712
か	す	
化学	数学演習	746
画像診断装置学	スポーツ健康科学演習	727
看護学概論	せ	
き	生化学	739
基礎医学演習	生体材料工学	766
基礎医学実習(Aクラス)	生体情報処理工学	768
(Bクラス)	生体物生工学	765
基礎英語演習	生物学	707
基礎ゼミナール	生命倫理学	713
け	西洋史概説	718
血液浄化装置学	た	
健康科学(スポーツ社会学を含む)	体外循環装置学	770
健康管理学Ⅰ		

ち	
チーム医療とコミュニケーション	731
て	
哲学	714
電気工学 I	750
電気工学 II	751
電気工学実習 (A クラス)	753
(B クラス)	754
電子工学 I	755
電子工学 II	756
電子工学実習 (A クラス)	757
(B クラス)	758
と	
統計学	711
東洋史概説	717
に	
日本国憲法	716
は	
バイオメカニクス	767
ひ	
病理学	740
ふ	
物理学	706
ほ	
放射線工学概論	759
め	
免疫学	741
や	
薬理学	742

保健医療学専攻

う

運動生理学特論 790

え

英語文献講読 784

栄養・代謝生化学特論 787

か

介護福祉学特論 803

看護技術特論 793

看護研究方法論 781

看護理論特論 782

き

QOL 評価法特論 783

け

血管病理病態学特論 797

し

柔道整復学特論 799

鍼灸健康科学特論 792

神経系理学療法学特論 802

心身健康科学特論 795

人体機能学特論 786

人体構造学特論 785

せ

生体防御系臨床鍼灸学特論 794

専門演習(工藤・角田) 806

専門演習(工藤・前田) 807

専門演習(伊津美・村上) 808

専門演習(仲西・藤重) 809

専門演習(伊藤・横井) 810

専門演習(堀・角田) 805

た

代替・統合医療特論 777

と

東洋医学史特論 778

特別研究(伊津美・村上) 811

特別研究(伊藤・横井) 816

特別研究(工藤・角田) 812

特別研究(工藤・前田) 817

特別研究(仲西・藤重) 814

特別研究(堀・角田) 813

特別研究(山下・増山) 815

な

内科系理学療法学特論 804

は

バイオメカニクス健康科学特論 791

発達健康支援看護学特論 788

発達支援看護開発特論 789

ふ

分子循環器病学特論 796

ほ

保健医療教育特論 780

保健医療研究方法論 779

り

リハビリテーション学特論 798

療養支援看護学特論 800

療養支援看護開発特論 801

臨床検査画像診断学特論 798

医療科学専攻

い

医史学・医療社会学概論 824

医療科学概論 821

医療科学研究方法論 822

か

介護予防技術開発特論 829

看護技術開発特論 831

け

研究倫理特論 823

こ

後期専門演習(青木) 838

後期専門演習(上田) 844

後期専門演習(荻原) 848

後期専門演習(川畑) 833

後期専門演習(澤田) 840

後期専門演習(中原) 834

後期専門演習(仲西) 835

後期専門演習(前川) 846

後期専門演習(前田) 839

後期専門演習(村上) 841

後期専門演習(森) 845

後期専門演習(森谷) 837

後期専門演習(横井) 847

後期専門演習(吉岡) 843

後期専門演習(吉村) 842

後期専門演習(横井・山下) 832

後期特別研究 I (青木・山下) 851

後期特別研究 I (前川・山下) 852

後期特別研究 I (村上・吉村) 850

後期特別研究 I (山下・横井) 849

後期特別研究 II (青木・村上) 853

後期特別研究 II (村上・吉村) 854

後期特別研究 II (青木・山下) 855

後期特別研究(前川・山下) 856

し

システム生理学特論 825

鍼灸医療技術開発特論 830

ふ

分子治療学特論 827

分子病体検査学特論 828

り

臨床神経解剖学特論 826

助産学専攻科

う

ウイメンズヘルスとリプロダクティブケア .. 863

し

周産期医学論 860

助産管理学 871

助産学課題研究 876

助産学実習 I 872

助産学実習 II 873

助産学総論 859

助産診断・技術学 I 865

助産診断・技術学 II 866

助産診断・技術学 III 868

助産診断・技術学 IV 870

女性健康学総論 861

新生児診断・発達論 862

ち

地域母子保健学 871

地域母子保健実習 874

は

ハイリスク母子支援論 862

ハイリスク母子実習 874

ふ

分娩介助技術学演習 864

ほ

補完代替医療とアロマセラピー 875

鍼灸学科 鍼灸コース・スポーツ特修コース
(2014年度以降 入学生カリキュラム)

授業科目名	統合医療概論(鍼灸) (Introduction to Integrative Medicine)		
主担当教員	山下 仁	担当教員	山下 仁、増山 祥子 保坂 政憲、森 美侖紀
科目ナンバリング	CS027	科目区分	学部共通科目 該当項目 DP③
配当年次	3	開講学期	前期 金曜 4限 金曜 5限
授業形態	講義	単位数	2 鍼灸・選択 スポーツ・選択
授業概要	<p>統合医療という言葉が医療の中で使われるようになってきたが、実際に統合医療が何を指し、どうあるべきなのかについては合意が得られていない。本授業では、統合医療の概念と現状について解説するとともに、統合医療の重要な構成要素であるEBMと補完代替医療について概説する。また、各種治療の有効性と安全性について、エビデンスにもとづく批判的吟味のポイントについても解説する。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 統合医療の概念と現状について理解する。 2. EBMの概念と手法について理解する。 3. 補完代替医療の種類と概要について説明できる。 4. 各種医療手段についてエビデンスにもとづく批判的吟味ができる。 <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>医療や行政において統合医療は賛否両論である。医師その他の医療従事者も支持派と反対派に分かれている。本学生も卒業すればいずれその議論に巻き込まれる。なぜ賛否両論があるのか、よく考えながら受講していただきたい。</p>		
教科書			
資料を配布する			
参考書			
各教員が必要に応じて授業担当時に紹介する			
研究室/オフィスアワー			
山下 仁：東棟 24 研究室、月・火 6 時間			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	医療におけるエビデンスの重要性 (山下)	健康関連商品の広告に目を通す	山下
2	EBM① (山下)	EBMについて調べる	山下
3	EBM② (増山)	鍼灸学領域の EBM について調べる	増山
4	医療情報の探し方と読み取り方 (山下)	附属図書館にある鍼灸学関連の学術雑誌の目次に通し、論文の種類を調べる	山下
5	臨床試験と研究デザイン (山下)	臨床試験または治療についてネットで調べる	山下
6	健康産業と研究倫理・利益相反 (山下)	医学・保健医療学研究におけるデータ捏造・改ざん事件についてネットで調べる	山下
7	補完代替医療概論① (山下)	自分または家族が使っている補完代替医療に相当する健康法や商品を調べる	山下
8	補完代替医療概論② (山下)	自分または家族が使っている補完代替医療に相当する健康法や商品を調べる	山下
9	補完代替医療の実例：あん摩・マッサージ・指圧① (保坂)	あん摩・マッサージ・指圧についてネットで調べる	保坂
10	補完代替医療の実例：あん摩・マッサージ・指圧② (保坂)	あん摩・マッサージ・指圧についてネットで調べる	保坂
11	補完代替医療の実例：アロマセラピー① (森)	アロマセラピーの実例についてネットで調べる	森
12	補完代替医療の実例：アロマセラピー② (森)	アロマセラピーの実例についてネットで調べる	森
13	スピリチュアル・ケアと NBM (山下)	スピリチュアルという概念について調べる	山下

14	緩和ケア・難病ケアと統合医療 (増山)	自分または家族が治療困難な病気になる場合、何を求めるか仮想する	増山
15	統合医療は何を統合するのか (山下)	14 回までに習った内容を整理する	山下
成績評価方法と基準			割合
①筆記試験			①70%
②課題提出物			②30%

臨床医学各論Ⅱ(各科)鍼灸 (Detailed Clinical Medicine II【General】)			
授業科目名	臨床医学各論Ⅱ(各科)鍼灸	担当教員	鍋田 智之
主担当教員	鍋田 智之	専門基礎科目	DP②
科目ナンバリング	SB115	後期	月曜 4 限
配当年次	3	単位数	2
授業形態	講義		必修
授業概要	<p>主要な検査所見から病態を理解する。2年次までに学習した内科学、整形外科学の主要な病態とその検査法を再確認する。また、鍼灸治療の適否についても検討する。</p> <p>3年次の客観的臨床能力試験について説明する。運動器系を中心とした病態の理解と検査の選択、鍼灸治療部位の選択について理解する。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 主要な検査の意義と得られる所見から病態を推測できる。 2. 簡単な症例から病態を理解し、鍼灸治療の適否を選択できる。 3. 簡単な症例から適切な検査を選択して実行できる。 <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 2年次までに学習した内容について予習をしてから講義に臨むこと。 2. 講義を聞かずに教科書だけ読んで理解困難と考えられるため、出席して講義を聞くこと。 3. 疑問点は大切に、解決に向けて行動すること。 4. 私語は授業妨害・他学生への迷惑行為なので退室させます。その場合、速やかに退室すること。 <p>教科書</p> <p>臨床医学総論 (東洋療法学校協会編 医業出版株式会社)</p> <p>参考書</p> <p>なし</p> <p>研究室/オフィスアワー</p> <p>E 棟 4 階共同研究室にて随時受け付ける。</p> <p>授業展開及び授業計画表</p>		
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	バイタルサイン、熱型、不整脈、血圧、呼吸	バイタルサインの正常値、血圧・呼吸の変動に与える因子について予習を行うこと。	
2	全身の診察1 顔貌、精神状態、言語、体格と栄養	言語障害について予習しておくこと	
3	全身の診察 姿勢と歩行、皮膚所見	授業後より周囲の姿勢や歩行について観察すること	
4	局所の診察 頭部、顔面、眼、鼻、耳	頭頸部の主要な疾患について予習しておくこと	
5	局所の診察 口腔、頸部、胸部、乳房、肺	口腔、頸部、胸部、乳房、肺に関連する疾患について予習しておくこと	
6	局所の診察 心臓、腹部、背部、四肢	心臓、腹部、背部、四肢に関連する病態や所見について予習しておくこと。	
7	中間テスト 1-6回で重要と説明した項目について4択問題を出题する。 神経系の診察 ※反射検査を除く	中間テストの学習をしていくこと。	
8	運動機能検査 ※ROM、MMT、MTを除く	脳神経外科で学習した事項を復習して行くこと。	
9	臨床検査学1 尿検査、便検査、血液検査	生理学の腎臓、血液について復習して行くこと。	
10	臨床検査学2 血液生化学検査、生体機能検査	泌尿器症候の分類、発症機序を理解する。泌尿器疾患の診察、検査法の意義について学んだことを復習しておくこと。	
11	検査法まとめ 症例トレーニング	これまでに学習した検査項目について予習しておくこと。	
12	検査法まとめ 症例トレーニング	これまでに学習した検査法について予習しておくこと。	

13	客観的臨床能力試験対策	予め配布している対策資料を事前に学習しておくこと。	
14	客観的臨床能力試験対策	予め配布している対策資料を事前に学習しておくこと。	
15	客観的臨床能力試験対策	予め配布している対策資料を事前に学習しておくこと。	
成績評価方法と基準			割合
①中間テスト1回			①30%
②期末テスト(筆記)により評価する。			②70%

臨床医学各論Ⅲ(各科)鍼灸 (Detailed Clinical Medicine III【General】)			
授業科目名	臨床医学各論Ⅲ(各科)鍼灸	担当教員	仲西 宏元
主担当教員	仲西 宏元	科目区分	専門基礎科目
科目ナンバリング	SB116	開講学期	後期
配当年次	3	単位数	2
授業形態	講義	備考	火曜2限 必修
授業概要	この科目は、泌尿器科、小児科、産婦人科、耳鼻咽喉科、皮膚科、眼科領域などの基礎知識と各領域の重要疾患の概要及び診察法について学習する。		
到達目標	領域の疾患の特徴を理解し、病態生理・検査方法・治療法が説明できる。		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	1. テキスト・配布された資料にも眼を通すこと。 2. 出席は重視する。		
教科書	臨床医学各論、東洋療法学校協会		
参考文献	鍼灸療法技術ガイド 研究室/オフィスマワー		
授業展開及び授業計画表	東棟4階研究室9 昼休み随時相談		
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	泌尿器科疾患1 前立腺疾患(前立腺炎・前立腺肥大・前立腺癌)	予習：前立腺疾患について調べる 復習：授業内容をもとに重要項目の確認	
2	泌尿器科疾患2 膀胱疾患(膀胱炎・膀胱結石・膀胱腫瘍)	予習：膀胱疾患について調べる 復習：授業内容をもとに重要項目の確認	
3	泌尿器科疾患3 前立腺疾患・膀胱疾患のまとめ	予習：前立腺・膀胱疾患について調べる 復習：授業内容をもとに重要項目の確認	
4	小児科疾患 小児神経症(不安神経症・神経性抑うつ・対人恐怖症) 小児夜尿	予習：小児神経症・夜尿症について調べる 復習：授業内容をもとに重要項目の確認	
5	婦人科疾患1 子宮癌・乳癌・月経異常・更年期障害・子宮筋腫	予習：婦人科疾患について調べる 復習：授業内容をもとに重要項目の確認	
6	婦人科疾患2 子宮癌・乳癌・月経異常・更年期障害・子宮筋腫	予習：婦人科疾患について調べる 復習：授業内容をもとに重要項目の確認	
7	皮膚科疾患1 皮膚炎(接触性・アトピー性など)	予習：皮膚科疾患について調べる 復習：授業内容をもとに重要項目の確認	
8	皮膚科疾患2 尋麻疹、脱毛症	予習：皮膚科疾患について調べる 復習：授業内容をもとに重要項目の確認	
9	眼科疾患1 結膜炎(アレルギー性・感染性)、角膜炎、表膜腫	予習：眼科疾患について調べる 復習：授業内容をもとに重要項目の確認	
10	眼科疾患2 白内障・緑内障・眼精疲労	予習：眼科疾患について調べる 復習：授業内容をもとに重要項目の確認	
11	耳鼻咽喉科疾患1 (耳疾患) 中耳炎・メニエール病・突発性難聴など	予習：耳鼻咽喉科疾患、特に耳疾患について調べる 復習：授業内容をもとに重要項目の確認	
12	耳鼻咽喉科疾患2 (鼻疾患) アレルギー性鼻炎・副鼻腔炎など	予習：耳鼻咽喉科疾患、特に鼻疾患について調べる 復習：授業内容をもとに重要項目の確認	
13	耳鼻咽喉科疾患3 (口腔疾患)	予習：耳鼻咽喉科疾患、特に口腔疾患について調べる 復習：授業内容をもとに重要項目の確認	

口内炎・舌炎・舌癌など	復習：授業内容をもとに重要項目の確認
耳鼻咽喉科疾患4 (咽喉頭疾患) 扁桃炎・咽頭炎・咽頭癌・反回神経麻痺・喉頭癌など	予習：耳鼻咽喉科疾患、特に咽喉頭疾患について調べる 復習：授業内容をもとに重要項目の確認
14	
15	
成績評価方法と基準	割合
出席は2/3以上を必要とし、基準を満たした者について筆記試験を実施する。	筆記 100%

授業科目名	臨床医学各論Ⅳ(外科・麻酔科)(鍼灸) (Detailed Clinical Medicine IV (Surgical / Anesthetic))		
主担当教員	三木 宏文	担当教員	三木 宏文、高崎 雷太、高橋 秀郎
科目ナンバリング	SB117	専門基礎科目	ディプロマポリシー 該当項目
配当年次	3	開講学期	曜日・時限
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	<p>チーム医療の一翼を担う鍼灸師が医療従事者として、理解しておくべき他の医学領域の一つとしての外科的治療学を学ぶ。外科的な思考法としての消毒、不潔、消毒、感染の捉え方、外科総論としての外科学の基本的な考え方や腫瘍、炎症、外傷といった外科的疾患、手術の前後の周術期管理をも学ぶ。</p> <p>ここでは、外科的疾患での、病院前処置、入院後の術前管理、麻酔、手術、術後管理、疼痛管理、緩和医療について学習する。</p> <p>到達目標</p> <p>医療における外科の守備範囲を理解する。外科的治療学全般の周術期管理を含めた特質を理解する。救急救命的な外科的処置を理解する。</p> <p>外科領域として鍼灸の教科書に収録されている内容は、ほぼ救急医療である。損傷、ショック、救急処置と外科的感染症、救急蘇生の要領を理解すること。</p> <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>配布された講義資料に目を通す</p> <p>・私生活は授業妨害・他学生への迷惑行為なので退避させる。最低限の礼儀を辨えること。</p> <p>・私生活は忘れて、カードリーダーを通せなかった場合は、当日申し出ること。後日の「この日は出席していません」は認めない。</p>		
教科書	臨床医学各論(第2版) 医歯薬出版: 288頁～310頁		
参考書	疾患別外科看護 監修: 桑野タ子出版: 中央法規		
授業展開及び授業計画表	<p>救急蘇生法の指針2015 (医療従事者用、改訂第5版) へるす出版</p> <p>研究室/オフィスアワー</p> <p>高橋秀郎 イーストポート4F 共同研究室 月曜日 水曜日</p>		
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	外科的治療学1 骨損傷総論 骨損傷の種類、骨損傷の症状	予習: 骨損傷の概略について調べる 復習: 配布資料の重要事項を確認する	高橋・高崎
2	外科的治療学2 骨損傷各論 骨損傷の予後、身体管理	予習: 骨損傷が身体各部に与える影響について調べる 復習: 授業内容を確認する	高橋・高崎
3	外科的治療学3 骨損傷各論 骨損傷の治療方針、代表的疾患	予習: 骨折治療の原則について調べる 復習: 配布資料の重要事項を確認する	高橋・高崎
4	外科的治療学4 脱臼総論 脱臼の定義と概説 疫学	予習: 脱臼 脱臼損傷について理解する 復習: 授業の重要事項を確認する	高橋・高崎
5	外科的治療学5 脱臼各論 脱臼の治療方針 疫学	予習: 脱臼の発生機序について確認する 復習: 授業の重要事項を確認する	高橋・高崎
6	脱臼各論 代表的疾患	予習: 脱臼の発生機序について確認する 復習: 重要な事項を確認する	高橋・高崎
7	外科的治療学7 軟部組織損傷各論 靭帯損傷 挫傷	予習: 靭帯損傷の発生機序について理解する 復習: 授業の重要事項を確認する	高橋・高崎
8	外科的治療学8 軟部組織損傷各論 末梢神経障害	予習: 末梢神経障害の症状を理解する 復習: 授業の重要事項を確認する	高橋・高崎
9	術後疼痛管理、慢性疼痛	予習: 術後管理について考える 復習: 授業の重要事項を確認する	三木
10	術後合併症、感染	予習: 術後管理について考える 復習: 授業の重要事項を確認する	三木
11	輸液管理、輸血管理	予習: 輸液・輸血について調べる 復習: 授業の重要事項を確認する	三木

12	損傷概論	熱傷、凍傷と凍傷 (288頁～292頁)・外因性疾患の分類、環境障害: 熱傷、熱中症、偶発性低体温症 (配布資料) を復習しておくこと。	三木
13	ショック、救急処置	ショックの分類と治療の原則(292頁～295頁)・ショックの血行動態 (配布資料、297、298頁) を復習しておくこと。	三木
14	外科的感染症	外科的感染症 (295頁～297頁)、特殊な感染症 (配布資料) について、復習しておくこと。	三木
15	心肺蘇生	心肺蘇生 (299頁～301頁)、救急初期診療、根本治療、集中治療、院内連携について復習しておくこと。	三木
成績評価方法と基準			割合
①高橋・高崎: 筆記試験			①50%
②三木: 筆記試験			②50%
2/3 回以上の出席を必要とする			

鍼灸総合演習Ⅰ(鍼灸) (Acupuncture/Moxibustion Comprehensive Seminar I)			
授業科目名	鍼灸総合演習Ⅰ(鍼灸)	担当教員	智之、辻 涼太、 畑川 奈央、森 優也
主担当教員	畑川 智之	専門科目	DP①
科目ナンバリング	SS507	科目区分	月曜 2 限 水曜 3 限 水曜 4 限 金曜 2 限
配当年次	4	開講学期	前期
授業形態	講義	単位数	4
授業概要	<p>3 年次までの学習で鍼灸臨床を行う上で重要な知識を再認識したと考える。4 年次に改めて学習することで、知識を完成させ、卒業後の臨床で活用できる。</p> <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>① 開講される全ての科目において 3 分の 2 以上の出席を求め、知識を完成させること。</p> <p>② 自主的かつ計画的に自宅学習を行うこと。</p> <p>③ e-ラーニングを活用すること。</p> <p>④ 授業中の許可ない入退室および睡眠は認めない。</p>		
到達目標	<p>3 年次までの学習で鍼灸臨床を行う上で重要な知識を再認識したと考える。4 年次に改めて学習することで、知識を完成させ、卒業後の臨床で活用できる。</p>		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	<p>① 開講される全ての科目において 3 分の 2 以上の出席を求め、知識を完成させること。</p> <p>② 自主的かつ計画的に自宅学習を行うこと。</p> <p>③ e-ラーニングを活用すること。</p> <p>④ 授業中の許可ない入退室および睡眠は認めない。</p>		
教科書	<p>東洋療法学校協会編 「解剖学」「生理学」「東洋医学概論」「東洋医学臨床論」「経絡六学」「リハビリテーション医学」 研究室/オフィスアワー</p>		
特に指定しない。			
参考書			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	気血津液弁証 臟腑弁証	予習：気血津液のさまざまな病的状態を確認する。各臟腑の特徴を確認する。 復習：各弁証の特徴的な症状を覚える。臟腑の失調で出現する特徴的な症状を覚える。 予習：経脈病証について、教科書で予習する。 六経弁証について、教科書で予習しておく。 復習：経脈の流注上の症状を確実に覚えてから、その他の症状を覚えていく。授業で習った六経ごとの症状を、確実に覚える。 予習：奇経八脈の流注や八総穴を覚える。内経中に出てくる様々な疾病名は難しい名称が多いため、教科書で予習しておく。 復習：奇経八脈の病証を理解し、覚える。各疾病を理解して覚える。	
2	奇経八脈病証	予習：奇経八脈の流注や八総穴を覚える。内経中に出てくる様々な疾病名は難しい名称が多いため、教科書で予習しておく。 復習：奇経八脈の病証を理解し、覚える。各疾病を理解して覚える。	
3	黄帝内経中の疾病	予習：脈診、腹診、舌診 復習：弁証と総て覚える。	
4	脈診、腹診、舌診	予習：難経 69 難、難経 75 難 復習：難経 69 難について確認する。	
5	難経 69 難、難経 75 難	予習：補瀉の手法を確認する。古代九鍼と古代刺法を確認する。 復習：補瀉の手法を覚える。古代九鍼を 3 つの分類ごとに覚え、それらを用いて行う古代刺法を覚える。	
6	補瀉の手法 古代刺法	予習：補瀉の手法を確認する。古代九鍼と古代刺法を確認する。 復習：補瀉の手法を覚える。古代九鍼を 3 つの分類ごとに覚え、それらを用いて行う古代刺法を覚える。	
7	解剖学の基礎 骨学、筋学(体幹)	予習：補瀉の手法を確認する。古代九鍼と古代刺法を確認する。 復習：補瀉の手法を覚える。古代九鍼を 3 つの分類ごとに覚え、それらを用いて行う古代刺法を覚える。	

8	骨学、筋学(上肢、下肢)	毎回、前回の学習分について小テストを行います。復習を怠らないようにしてください。
9	脈管(心臓)	毎回、前回の学習分について小テストを行います。復習を怠らないようにしてください。
10	脈管(動脈、静脈)	毎回、前回の学習分について小テストを行います。復習を怠らないようにしてください。
11	内臓(消化管、呼吸器)	毎回、前回の学習分について小テストを行います。復習を怠らないようにしてください。
12	内臓(腎臓、生殖器)	毎回、前回の学習分について小テストを行います。復習を怠らないようにしてください。
13	神経系(中枢神経)	毎回、前回の学習分について小テストを行います。復習を怠らないようにしてください。
14	神経系(自律神経)	毎回、前回の学習分について小テストを行います。復習を怠らないようにしてください。
15	血液・心臓	国家試験過去問題の出題傾向を分析してやること 出題率の高い項目は、反復して学習すること 国家試験過去問題の出題傾向を分析してやること 出題率の高い項目は、反復して学習すること
16	血圧、呼吸器の機能	国家試験過去問題の出題傾向を分析してやること 出題率の高い項目は、反復して学習すること
17	消化器の機能、代謝	国家試験過去問題の出題傾向を分析してやること 出題率の高い項目は、反復して学習すること
18	体温、腎機能	国家試験過去問題の出題傾向を分析してやること 出題率の高い項目は、反復して学習すること
19	内分泌、生殖器の機能	国家試験過去問題の出題傾向を分析してやること 出題率の高い項目は、反復して学習すること
20	神経の機能(神経、シナプス、末梢神経) 中枢の機能	国家試験過去問題の出題傾向を分析してやること 出題率の高い項目は、反復して学習すること
21	筋の作用機序、反射	国家試験過去問題の出題傾向を分析してやること 出題率の高い項目は、反復して学習すること
22	感覚器の機能 生体の防衛系	国家試験過去問題の出題傾向を分析してやること 出題率の高い項目は、反復して学習すること
23	骨度法	経穴を取るための骨度について予習してください。
24	経絡の流注	経絡の接続や流れを確認する。
25	総経穴の学習	総穴の書き取りテストを実施する。要予習。
26	胸部・腹部の経穴の確認	主に構並びについての学習を行う。小テストなども行うので要復習のこと。
27	経穴に関する解剖学	総穴に關係した局所解剖についての講義。要復習。
28	要穴の学習	要穴について、小テストも複数回行う。要復習。
29	奇経八脈の学習	小テストなども行う。要復習。
30	国家試験過去問題の学習	過去問題で誤った問題についてノートに解説を作成し、1 週間以内に提出すること。
成績評価方法と基準		
1.5 週で構成される科目が 4 種類ある。全体で 3 分の 2 以上の出席が必要である。		
学期末評価として 6 科目によって構成される 100 問の試験を実施する。60 点以上で合格とする。		
割合 期末評価 100%		

授業科目名		鍼灸総合演習Ⅱ(鍼灸) (Acupuncture/Moxibustion Comprehensive Seminar II)	
主担当教員	鍋田 智之	担当教員	鍋田 智之、森 優也 山本 哲也、上野 晃、安部 匠夫
科目ナンバリング	SS08	科目区分	ディプロマポリシー 該当項目 DP①
配当年次	4	開講学期	後期
授業形態	講義	単位数	4
授業概要	卒業年次を迎えて、これまで学習した事項を整理し、改めて学習することで認識が深まることを目的とする。ここでは、現代医学を遂行する上で必要な一般臨床医学に繋がる知識について、「医療概論」「公衆衛生学」「関係法規」「解剖学」「病理学」「臨床医学」を関連付けて学習する。		
到達目標	3.年次までの学習で医学知識および技術を遂行する上で重要な知識を再認識したと考える。4.年次に改めて学習することで、知識を完成させて卒業後の臨床で活用できる。		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	① 開講される全ての科目において3分の2以上の出席を求め、 ② 自主的かつ計画的に自主学習を行うこと。 ③ eラーニングを活用すること。 ④ 授業中の許可なく入室および遅退は認めない。		
教科書			
特指定しない。			
参考書			
東洋療法学校協会編	「医療概論」「公衆衛生学」「関係法規」「臨床医学名論」		
研究室/オフィスアワー			
各教員の指示に従うこと。			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	社会保険制度、医療制度について理解する。医療倫理について理解する。我が国の法制度について調べる。	予習：我が国の社会保険制度について調べる。 復習：我が国の法制度について調べる。	
2	あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゆう師等に関する法律を深く理解する。公衆衛生活動の概要を理解する。	予習：関係法規を確認しておく。 復習：配布資料を活用した知識の定着を図る。 予習：予防医学について調べる。食中毒の種類、原因、症状を調べる。	
3	ライフスタイル、食品衛生や運動と健康との関係を理解する。	予習：配布資料を活用した知識の定着を図る。 復習：配布資料を活用した知識の定着を図る。	
4	環境と健康① 生活環境と健康②	予習：病理学の病因分類を確認しておく。 復習：配布資料を活用した知識の定着を図る。	
5	環境と健康③ 公害、環境問題について理解する。	予習：環境問題について情報を収集する。 復習：配布資料を活用した知識の定着を図る。	
6	産業保健を理解する。 精神保健、精神障害を理解する。	予習：労働衛生、精神保健について調べる。 復習：配布資料を活用した知識の定着を図る。	
7	母子保健について理解する。 成人保健および高齢者保健について理解する。	予習：母子保健統計、生活習慣病について調べ る。 復習：配布資料を活用した知識の定着を図る。	
8	感染症とその対策について理解する。	予習：感染症法について調べる。 復習：配布資料を活用した知識の定着を図る。	
9	消毒法・消毒法の種類と内容について理解する。 疫学と保健統計について理解する。	予習：消毒薬、分析疫学について調べる。 復習：配布資料を活用した知識の定着を図る。	
10	診察学・疾患各論 診察の方法、神経疾患	予習：シラハスを確認する。 復習：配布資料を活用した知識の定着を図る。	
11	診察学・疾患各論 ②生命徴候の診察、整形外科疾患	予習：配布資料を活用した知識の定着を図る。 復習：配布資料を活用した知識の定着を図る。	

12	診察学・疾患各論 ③局所の診察、循環器・呼吸器疾患	予習：配布課題の解答解説をする。 復習：配布資料を活用した知識の定着を図る。
13	診察学・疾患各論 ④全身の診察、内分泌疾患、肝胆膵疾患	予習：配布課題の解答解説をする。 復習：配布資料を活用した知識の定着を図る。
14	診察学・疾患各論 ⑤神経系の診察、血液・造血器疾患	予習：配布課題の解答解説をする。 復習：配布資料を活用した知識の定着を図る。
15	診察学・疾患各論 ⑥神経系の診察、膠原病、代謝・栄養疾患	予習：配布課題の解答解説をする。 復習：配布資料を活用した知識の定着を図る。
16	⑦運動機能検査、感染症	予習：配布課題の解答解説をする。 復習：配布資料を活用した知識の定着を図る。
17	⑧臨床検査法、消化管疾患	予習：配布課題の解答解説をする。 復習：配布資料を活用した知識の定着を図る。
18	⑨その他の診察、主な症状の診察法、泌尿器疾患、一般外科	予習：配布課題の解答解説をする。 復習：配布資料を活用した知識の定着を図る。
19	診察学・疾患各論 ⑩主な症状の診察法、麻酔科・耳鼻科疾患・眼科疾患	予習：配布課題の解答解説をする。 復習：配布資料を活用した知識の定着を図る。
20	診察学・疾患各論 ⑪主な症状の診察法、その他の疾患	予習：配布課題の解答解説をする。 復習：配布資料を活用した知識の定着を図る。
21	感覚器系(視覚)	予習：配布資料を活用した知識の定着を図る。 復習：配布資料を活用した知識の定着を図る。
22	感覚器系(聴覚)	予習：配布資料を活用した知識の定着を図る。 復習：配布資料を活用した知識の定着を図る。
23	解剖学総合学習	解剖学全範囲の4択問題を実施します。誤った部分の解説を作成しなさい。
24	疾病についての基本的考え方、病因	予習：特になし 復習：授業をもとに・教科書の確認
25	循環器書	予習：特になし 復習：授業をもとに・教科書の確認
26	退行性病変	予習：特になし 復習：授業をもとに・教科書の確認
27	進行性病変	予習：特になし 復習：授業をもとに・教科書の確認
28	植物生理学復習	予習：特になし 復習：課題ノートへの提出
29	動物生理学復習	予習：特になし 復習：課題ノートへの提出
30	生理学総合演習	予習：特になし 復習：課題ノートへの提出
成績評価方法と基準		割合
開講される全ての科目(分組はオリエンテーションで指定)を総合して3分の2以上の出席を必要とする。後期に実施される6回の単位認定試験(160問)のうち、当該科目にあたる問題数のうち、以下の条件を必要とする。		100%
①6回の試験の平均で6割以上		
②1～4の試験で5割以上で、かつ5、6回試験の平均で6割以上		
①あるいは②の条件を満たしたものを合格とする。		

授業科目名	鍼灸総合演習Ⅲ(鍼灸) (Acupuncture/Moxibustion Comprehensive Seminar III)		
主担当教員	鍋田 智之	担当教員	鍋田 智之、松熊 秀明、 辻 涼太、高橋 秀郎、堀川 奈央
科目ナンバリング	SS509	科目区分	ディプロマポリシー 該当項目 DP①
配当年次	4	開講学期	後期 水曜 1 限 水曜 2 限 水曜 3 限 水曜 4 限
授業形態	講義	単位数	4
授業概要	必修・選択 必修		

卒業年次を迎えて、これまで学習した事項を整理し、改めて学習することで認識が深まることを目的とする。ここでは、鍼灸臨床を行う上で頻度の高い項目について、「生理学」「東洋医学概論」「東洋医学臨床論」「リハビリテーション医学」「経絡経穴学」「はり理論・きゅう理論」を関連付けて学習する。特に、「東洋医学臨床論」では一般臨床医学およびリハビリテーション医学の融合を図る。

到達目標
3年次までの学習で鍼灸臨床を行う上で重要な知識を再認識したと考える。4年次に改めて学習することで、知識を完成させて卒業後の臨床で活用できる。

履修上の注意(学生へのメッセージ)
① 開講される全ての科目において3分の2以上の出席を求める。
② 自主的かつ計画的に自宅学習を行うこと。
③ e-ラーニングを活用すること。
④ 授業中の許可しない入室および睡眠は認めない。

【尾河田清】
東洋医学に少しでも不安があれば、しっかりと取り組むこと
教科書
新版経絡穴論 東洋療法学校協会編、医道の日本
新版東洋医学概論、東洋療法学校協会編、医道の日本
参考書
東洋療法学校協会編
「生理学」「東洋医学概論」「東洋医学臨床論」「リハビリテーション医学」「経絡経穴学」「はりきゆう理論」
東洋学術出版社
「鍼灸学 (臨床編)」
研究室/オファスアワー

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	鍼灸の復習	予習：東洋医学概論の振り返り 復習：授業でのキーワードを振り返り、まとめること 予習：臓腑病証の振り返り 復習：授業でのキーワードを振り返り、まとめること	辻
2	臓腑病証の復習	予習：臓腑病証の振り返り 復習：授業でのキーワードを振り返り、まとめること	辻
3	東洋医学概論の症例、過去問題の解答	臓腑病証のキーワードを振り返りながら、練習問題のキーワードを確認する。	辻
4	東洋医学臨床論の症例、過去問題の解答	臓腑病証のキーワードを振り返りながら、練習問題のキーワードを確認する。	辻
5	問題作成と解答の反復練習	臓腑病証のキーワードを振り返りながら、練習問題のキーワードを確認する。	辻
6	リハビリテーション医学総論	予習：特になし 復習：課題ノートの提出	高橋
7	障害の評価	予習：特になし 復習：課題ノートの提出	高橋
8	関節運動、正常歩行	予習：特になし 復習：課題ノートの提出	高橋
9	脳卒中、背髄損傷のリハビリテーション	予習：特になし 復習：課題ノートの提出	高橋

10	末梢神経障害と装具、閉塞性肺疾患、慢性関節リウマチとリハビリテーション	予習：特になし 復習：課題ノートの提出	高橋
11	パーキンソン病、切筋、膝関節疾患、腰痛疾患のリハビリテーション	予習：特になし 復習：課題ノートの提出	高橋
12	東洋医学臨床論(現代) 頸肩腕上肢の疾患と鍼灸治療	予習：特になし 復習：課題ノートの提出	鍋田
13	東洋医学臨床論(現代) 腰下肢の疾患と鍼灸治療	予習：特になし 復習：課題ノートの提出	鍋田
14	東洋医学臨床論(現代) 上肢のスポーツ障害と鍼灸治療	予習：特になし 復習：課題ノートの提出	鍋田
15	東洋医学臨床論(現代) 下肢のスポーツ障害と鍼灸治療	予習：特になし 復習：課題ノートの提出	鍋田
16	東洋医学臨床論(現代) 顔面神経麻痺、三叉神経痛、後頭神経痛と鍼灸治療	予習：特になし 復習：課題ノートの提出	鍋田
17	植物生理学 要点確認	予習：特になし 復習：課題ノートの提出	鍋田
18	動物生理学 要点確認	予習：特になし 復習：課題ノートの提出	鍋田
19	生理学総合演習	予習：特になし 復習：課題ノートの提出	鍋田
20	五要穴確認	予習：特になし 復習：課題ノートの提出	辻
21	背部灸穴の確認	予習：特になし 復習：課題ノートの提出	辻
22	腹部・胸部の経穴の確認	予習：特になし 復習：課題ノートの提出	辻
23	頭部の経穴の確認	予習：特になし 復習：課題ノートの提出	辻
24	上腕部・大腿部の経穴の確認	予習：特になし 復習：課題ノートの提出	辻
25	4択問題を通して、全経絡・全経穴の確認	予習：特になし 復習：課題ノートの提出	辻
26	鍼灸の基礎知識	予習：特になし 復習：課題ノートの提出	松熊
27	リスク管理	予習：特になし 復習：課題ノートの提出	松熊
28	鍼灸治療の基礎	予習：特になし 復習：課題ノートの提出	松熊
29	鍼灸療法的一般治療論	予習：特になし 復習：課題ノートの提出	松熊
30	関連学説	予習：特になし 復習：課題ノートの提出	松熊
成績評価方法と基準			
開講される全ての科目(分組はオリエンテーションで指定)を総合して3分の2以上の出席を必要とする。後期に実施される6回の単位認定試験(160問)のうち、当該科目にあたる問題数のうち、以下の条件を必要とする。 ①6回の試験の平均で6割以上 ②1~4の試験で5割以上で、かつ5、6回試験の平均で6割以上 ③あるいは②の条件を満たしたものを合格とする。			
割合			
100%			

授業科目名	スポーツ医学(鍼灸) (Sports Medicine)			
主担当教員	川畑 浩久	担当教員	川畑 浩久、吉岡 敏治	
科目ナンバリング	SB118	専門基礎科目	ディプロマポリシー 該当①②③	
配当年次	3	開講学期	前期・時限	月曜3限
授業形態	演習	単位数	2	必修、選択
授業概要	2年次の整形外科で学んだ運動器の解剖とスポーツ傷害について、メディカルチェックや症状、対処法などについてより理解を深め、またスポーツ外傷における救急処置の重要性についても学ぶ。あわせてスポーツ現場で遭遇しやすい内科疾患についてもメディカルチェックや症状について学ぶ。			
到達目標	重症度と緊急度を理解し、スポーツ現場で発生する最も重要な心停止に対応できるようになること、また、発生頻度の高い脳震盪と頭部外傷、熱中症の病態を理解し、発生現場における予防や救急処置法を習得する。さらにスポーツ現場で遭遇する運動器の外傷や障害、内科疾患についてのメディカルチェックや対処法についても習得する。			
履修上の注意(学生へのメッセージ)	スポーツ医学は、運動器の解剖学、生理学を土台にするもので、他の講義で学んだ局所解剖や運動機能の評価方法、理学所見の取り方等を習得することから始める。庄とんどの授業内容は、資料として配布するスライドを中心に進めるので、講義に出席せず、資料だけを見ても理解困難である。心停止や頭部外傷、熱中症等の傷害発生の理論的なイメージを獲得する努力を要することが重要である。			
教科書				
配布プリント(適宜配布いたします。)				
参考書	1. 臨床医学各論 (第2版) 医歯薬出版 179頁～185頁、288頁～301頁 2. 救急蘇生法の指針 2015 (医療従事者用、改訂第5版) へるす出版 3. 標準整形外科学 第12版、中村利孝/松野文夫 監修 医学書院、2014。 4. 新版 スポーツ整形外科学 マニュアル 福林徹 監修 中外医学社、2013。 5. スポーツ整形外科学 中嶋貢之 編集 南江堂、1988年。			
研究室/オフィスアワー				
吉岡敏治 (G棟研究室4) / 原則月曜日2・3時間目ですが、その他、部屋にいれば、いつでも訪問可です。 川畑浩久 (G棟研究室707) / 木、金曜日17:00～18:00ですが、部屋にいればいつでも訪問可です。				
授業展開及び授業計画表				
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当	
1	スポーツ外傷の救急処置 重症度と緊急度、心肺障害、脳震盪と頭部外傷、脊髄損傷、熱中症	予習：不要(整形外科の外傷部分) 復習：配布プリント	吉岡	
2	スポーツ外傷・障害の総論： 1) 内科的疾患に対する確診およびメディカルチェック	予習：スポーツにより発生する主な内科疾患の症状などについて予習しておくこと 復習：これまで学んだ内科疾患の検査法などについて復習すること	川畑	
3	スポーツ外傷・障害の総論： 1) 運動器疾患に対する確診およびメディカルチェック 2) 運動器疾患に対する処置(応急処置(テーピング・三角巾など)および外科的処置)	予習：スポーツにより発生する主な運動器疾患について予習しておくこと 復習：これまで学んだ運動器疾患の検査法などについて復習すること	川畑	
4	肩関節のスポーツ外傷・障害： 1) 急性外傷の症状(自覚症状・他覚所見)と処置方法(スポーツの中止と応急処置ならびにその後の治療法)	予習：肩関節の解剖学・障害： 復習：授業で学んだ肩関節の外傷について復習すること	川畑	
5	肩関節のスポーツ外傷・障害： 1) 慢性の障害の症状(自覚症状・他覚所見)と治療法ならびに予防法	予習：肩関節の解剖学・障害： 復習：授業で学んだ肩関節の障害について復習すること	川畑	
6	肘関節のスポーツ外傷・障害： 1) 急性外傷の症状(自覚症状・他覚所見)と処置方法(スポーツの中止と応急処置ならびにその後の治療法) および 2) 慢性の障害の症状(自覚症状・他覚所見)と治療法ならびに予防法	予習：肘関節の解剖学・障害： 復習：授業で学んだ肘関節の外傷・障害について復習すること	川畑	

7	手関節のスポーツ外傷・障害： 1) 急性外傷の症状(自覚症状・他覚所見)と処置方法(スポーツの中止と応急処置ならびにその後の治療法) および 2) 慢性の障害の症状(自覚症状・他覚所見)と治療法ならびに予防法	予習：手関節の解剖学、運動学について予習しておくこと 復習：授業で学んだ手関節の外傷・障害について復習すること	川畑
8	指関節のスポーツ外傷・障害： 1) 急性外傷の症状(自覚症状・他覚所見)と処置方法(スポーツの中止と応急処置ならびにその後の治療法) および 2) 慢性の障害の症状(自覚症状・他覚所見)と治療法ならびに予防法	予習：指関節の解剖学、運動学について予習しておくこと 復習：授業で学んだ指関節の外傷・障害について復習すること	川畑
9	股関節のスポーツ外傷・障害： 1) 急性外傷の症状(自覚症状・他覚所見)と処置方法(スポーツの中止と応急処置ならびにその後の治療法) および 2) 慢性の障害の症状(自覚症状・他覚所見)と治療法ならびに予防法	予習：股関節の解剖学、運動学について予習しておくこと 復習：授業で学んだ股関節の外傷・障害について復習すること	川畑
10	膝関節のスポーツ外傷・障害： 1) 急性外傷の症状(自覚症状・他覚所見)と処置方法(スポーツの中止と応急処置ならびにその後の治療法)	予習：膝関節の解剖学、運動学について予習しておくこと 復習：授業で学んだ膝関節の外傷について復習すること	川畑
11	膝関節のスポーツ外傷・障害： 1) 慢性の障害の症状(自覚症状・他覚所見)と治療法ならびに予防法	予習：膝関節の解剖学、運動学について予習しておくこと 復習：授業で学んだ膝関節の障害について復習すること	川畑
12	下腿部・足関節、足部のスポーツ外傷・障害： 1) 急性外傷の症状(自覚症状・他覚所見)と処置方法(スポーツの中止と応急処置ならびにその後の治療法)	予習：足関節・足部の解剖学、運動学について予習しておくこと 復習：授業で学んだ足関節・足部の外傷について復習すること	川畑
13	下腿部・足関節、足部のスポーツ外傷・障害： 1) 慢性の障害の症状(自覚症状・他覚所見)と治療法ならびに予防法	予習：足関節・足部の解剖学、運動学について予習しておくこと 復習：授業で学んだ足関節・足部の障害について復習すること	川畑
14	体幹(頸部、胸部、腰部)のスポーツ外傷・障害： 1) 急性外傷の症状(自覚症状・他覚所見)と処置方法(スポーツの中止と応急処置ならびにその後の治療法) および 2) 慢性の障害の症状(自覚症状・他覚所見)と治療法ならびに予防法	予習：頸部、胸部、腰部の解剖学、運動学について予習しておくこと 復習：授業で学んだ頸部、胸部、腰部の外傷・障害について復習すること	川畑
15	スポーツによる内科的疾患： 1) 循環器・呼吸器疾患における慢性的な障害の症状(自覚症状・他覚所見)と治療法ならびに予防法 2) 消化器・泌尿器疾患における慢性的な障害の症状(自覚症状・他覚所見)と治療法ならびに予防法	予習：スポーツにより発生する主な循環器、呼吸器、消化器、泌尿器などの疾患の症状などについて予習しておくこと 復習：これまで学んだ循環器、呼吸器、泌尿器疾患について復習すること	川畑
成績評価方法と基準			
1. 定期試験にて評価する。			
			割合
			1.100%

授業科目名	リハビリテーション医学(鍼灸) (Rehabilitation Medicine)		
主担当教員	高橋 秀郎	担当教員	高橋 秀郎
科目ナンバリング	SB119	科目区分	専門基礎科目
配当年次	3	開講学期	後期
授業形態	講義	単位数	2
授業概要			
	リハビリテーションの概念や、代表的疾患のリハビリテーションの実際を概説する		
到達目標			
他職種である理学療法士との情報共有するための基礎知識を習得する			
履修上の注意(学生へのメッセージ)			
新しい知見の習得に努めること			
遅刻の申告、延着証明の提出は当日に限り有効とする			
教科書			
リハビリテーション医学 東洋療法学校協会編 ・ 土肥信之著 ・ 医歯薬出版株式会社			
参考書			
和才 嘉昭, 細川 一郎 共著 : リハビリテーション技術全書 ; 株式会社 医学書院			
研究室 / オフィスアワー			
共同研究室 月曜日、水曜日、金曜日 各曜日の9 : 00~17 : 45			
但し講義の時間は除く			
授業履修期及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	Aリハ'リハビリテーションと障害 基本理念 自立生活Bリハ'リハビリテーション医学と医療 Cリハ'リハビリテーション医学の概念	教科書の熟読ノートの整理	
2	C障害の評価 心身機能・身体構造の評価 活動の評価	身体構造の理解と解剖学の復習	
3	C障害の評価 参加の評価 合併症(筋用症候群)の評価 失行、失認など	身体構造の理解と解剖学の復習	
4	D医学的リハ'リハビリテーション 装具療法と義肢	身体構造の理解と解剖学の復習	
5	D医学的リハ'リハビリテーション 装具療法と義肢	身体構造の理解と解剖学の復習	
6	脳卒中のリハ'リハビリテーション 脳卒中とは評価急性期のリハ'リハビリテーション理学療法、作業療法	教科書の用語の理解と解剖学の復習	
7	脳卒中のリハ'リハビリテーション回復期のリハ'リハビリテーション理学療法、作業療法言語療法脳卒中リハ'リハビリテーションのゴール	教科書の用語の理解と解剖学の復習	
8	脊髄損傷のリハ'リハビリテーション 脊髄損傷とは 脊髄損傷による症状と障害	脊髄の構造について予習	
9	脊髄損傷のリハ'リハビリテーション 急性期のリハ'リハビリテーション回復期のリハ'リハビリテーション	教科書の用語の理解と解剖学の目的的理解	
10	切断のリハ'リハビリテーション 切断の原因と分類 合併症	教科書の熟読ノートの整理	
11	小児のリハ'リハビリテーション 小児のリハ'リハビリテーションの特徴 脳性麻痺のリハ'リハビリテーション	教科書の用語の理解と解剖学の目的的理解	
12	骨関節疾患 末梢神経障害 関節リウマチ呼吸器疾患のリハ'リハビリテーション慢性閉塞性肺疾患	解剖学の復習特に末梢神経について	
13	正常歩行と異常歩行歩行とは歩行のサイクル	下肢関節の構造と筋肉の予習	
14	正常歩行と異常歩行 歩行の速度とエネルギー消費 歩行の分析 異常歩行	下肢関節の構造と筋肉の予習	
15	講義全体のまとめと振り返り	講義全体のまとめ	
成績評価方法と基準			割合

授業科目名	画像診断学(鍼灸) (Image Diagnosis)		
主担当教員	高橋 秀郎	担当教員	高橋 秀郎
科目ナンバリング	SB120	科目区分	専門基礎科目 DP②③
配当年次	3	開講学期	前期
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	<p>放射線の歴史を学び、画像診断とは、医療においてどのような役割を占めているのか、一般撮影、CT、MRI、超音波などの検査の種類や基礎的なことを学ぶと共に専門職として鍼灸師を目指す学生にも、様々な医療画像を眺める力をつける。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 各画像より局所の構造を理解する 2. 正映像を理解し局所の異常を見出す努力をする。 3. 検査の目的を理解する。 4. 様々な検査や疾患との関わりを理解する 5. 各画像より疾患の概要を理解する。 <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 各モダリティでの画像診断の特徴を認識する。 2. 配布された講義資料に目を通すこと。 3. 授業内容での講義内容に耳を傾けること。 4. 画像症例を通して、読影力を身につける。 5. 解剖学や疾患に対する知識が必要とされる。 6. 医療職種として必要な知識を持って欲しい。 		
教科書	使用しない(プリント配布)。		
参考書			
特になし			
研究室/オフィスアワー			
E棟4階共同研究室	月	水	金
但し講義時間を除く			

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	脊柱読影 脊柱骨格復習	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにシラバスとプリントの確認	
2	脊柱読影 脊柱骨格復習	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにシラバスとプリントの確認	
3	肩関節の読影 肩関節骨格復習	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにシラバスとプリントの確認	
4	肩関節の読影 肩関節骨格復習	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにシラバスとプリントの確認	
5	変形性関節症 変形性関節症の病態	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにシラバスとプリントの確認	
6	変形性関節症 変形性関節症の病態	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにシラバスとプリントの確認	
7	肘関節の読影 肘関節骨格復習	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにシラバスとプリントの確認	
8	肘関節の読影 肘関節骨格復習	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにシラバスとプリントの確認	
9	手関節の読影 手関節骨格復習	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにシラバスとプリントの確認	
10	股関節の読影 股関節骨格復習	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにシラバスとプリントの確認	
11	股関節、膝関節の読影	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにシラバスとプリントの確認	
12	膝関節の読影 膝関節骨格復習	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにシラバスとプリントの確認	
13	足関節の読影 足関節骨格復習	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにシラバスとプリントの確認	

14	足関節の読影 足関節骨格復習	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにシラバスとプリントの確認
15	MRIとCT	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにシラバスとプリントの確認
成績評価方法と基準		割合
期末試験		100%
平常点を考慮することがある		

鍼灸安全学(鍼灸) (Safe Practice of Acupuncture and Moxibustion)			
授業科目名	山下 仁	担当教員	山下 仁、古瀬 暢達
主担当教員	山下 仁	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目 DP①
科目ナンバリング	SS208	科目区分	曜日・時限
配当年次	3	開講学期	火曜 2限
授業形態	講義	単位数	1
授業概要	必修・選択 必修		
鍼灸臨床におけるリスクを減らして患者および施術者の安全を確保するために必要な理論と手法を学ぶ。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療におけるリスクマネジメントの基本的な考え方が理解できる。 2. 鍼灸臨床における患者および施術者の安全管理ができる。 3. 主要な鍼灸医療事故の対処・分析・予防ができる。 		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	患者と自身を守る重要な知識と心得なので真剣に取り組んでいただきたい。		
教科書	なし (必要に応じて資料を配布する)		
参考書	<p>マンガ鍼灸臨床インテンデント 山下仁監修・犬養ヒロ画 医道の日本社 5日間学ぶ医療安全超入門 日本医療安全入門学会監修 学研 鍼灸医療安全ガイドライン 鍼灸安全性委員会編 医歯薬出版 鍼灸医療安全対策マニュアル 鍼灸安全性委員会編 医歯薬出版 研究室/オフィスアワー</p>		
山下 仁：東棟 24 研究室、月・火 6 時限			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	ヒューマンエラーとシステム要因	自分の経験したリスクを想起し列記する	山下
2	医療安全に関する概念モデルと実践モデル	自分の経験したリスクをモデルに当てはめる	山下
3	鍼灸の有害事象 (1) 疫学的特徴	インターネットで関連有害事象を調べる	古瀬
4	鍼灸の有害事象 (2) 気胸	インターネットで関連有害事象を調べる	山下
5	鍼灸の有害事象 (3) その他の臓器損傷と折鍼	インターネットで関連有害事象を調べる	山下
6	鍼灸の有害事象 (4) 神経傷害	インターネットで関連有害事象を調べる	山下
7	鍼灸の有害事象 (5) 感染	インターネットで関連有害事象を調べる	山下
8	鍼灸の有害事象 (6) その他の有害事象	インターネットで関連有害事象を調べる	山下
9	副作用とインフォームド・コンセント	施術前に患者に説明する事項を考える	山下
10	感染制御	有害事象として報告されている主な細菌・ウイルス感染について調べる	山下
11	鍼灸関連器具・機器と医療廃棄物	主要な鍼灸関連医療機器の仕様を調べる	山下
12	患者の権利、情報管理、信頼維持	リスボン宣言について調べる	山下
13	寒天培地を用いた手洗いチェック	当日前から授業まで石鹸や擦式消毒剤を使った手洗いをしなくてはいけない	古瀬・山下
14	事故発生後の対応・対処	過去の訴訟と判例についてネットで調べる	山下
15	授業総括と関連情報収集方法	附属図書館のデータベースと図書を調べる	山下
成績評価方法と基準			
			割合

授業科目名	現代医学系鍼灸学Ⅱ(内科系)〔鍼灸 A〕 (Acupuncture from Modern Medicine Perspective II [Internal Medicine])			
主担当教員	鈴木 信	担当教員	鈴木 信	
科目ナンバリング	SS212	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP①
配当年次	3	開講学期	曜日・時限	水曜 2 限
授業形態	演習	単位数	1	必修・選択 必修
授業概要	鍼灸臨床で遭遇する機会が多い内科疾患の中で、診断から推定できる疾病について、疾病概念、臨床症状の特徴、検査所見などを解説し疾患の理解を深める。さらにベッドサイドで可能な検査法を實習し、現代医学的痛症抑療を行い鍼灸治療の適応・不適応を認識する。			
到達目標	患者が訴える症状に対し医療面接や鍼灸師に可能なベッドサイド診察法から鍼灸治療の適応、不適応が判断でき、適確な臨床推論ができる能力や技術を獲得する。			
履修上の注意(学生へのメッセージ)	毎時間以下を参照すること。忘れた場合には次席とみなす。 白衣の着用、聴診器、打腫箱。講義に関する質問は、講義中に随時受付ける。			
教科書	鍼灸基本テクニックのマスター教本			
参考書				
特に無し				
研究室/オフィスアワー				
授業日の兼任講師控室				
授業展開及び授業計画表				
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当	
1	身体診察実技 1	随時指示する		
2	身体診察実技 2 筆記小テスト			
3	身体診察実技 3 診察実技小テスト			
4	身体診察実技 4			
5	身体診察実技 5 筆記小テスト			
6	身体診察実技 6			
7	身体診察実技 7 診察実技小テスト			
8	身体診察実技 8 筆記小テスト			
9	身体診察実技 9			
10	身体診察実技 10 診察実技小テスト			
11	身体診察実技 11			
12	身体診察実技 12 筆記小テスト			
13	身体診察実技 13 診察実技小テスト			
14	身体診察実技 14			
15	身体診察実技 総合練習			
成績評価方法と基準				割合

①定期試験
②小テスト
2/3以上の出席を必要とする。

①50%
②50%

現代医学系鍼灸学Ⅱ(内科系)(鍼灸B) (Acupuncture from Modern Medicine Perspective II【Internal Medicine】)			
授業科目名	鍼本 信	担当教員	鍼本 信
主担当教員	SS212	専門科目	DP①
科目ナンバリング	3	開講学期	前期
配当年次	演習	単位数	1
授業形態			必修・選択
授業概要	鍼灸臨床で遭遇する機会が多い内科疾患の中で、診断から推定できる疾患について、疾病概念、臨床症状の特徴、検査所見などを説明し、疾患の理解を深める。さらにベッドサイドで可能な検査法を実習し、現代医学的病態把握を行い、鍼灸治療の適応・不適応を認識する。		
到達目標	患者が訴える感訴に対し医療面接や鍼灸師に可能なベッドサイド診察法から鍼灸治療の適応、不適応が判断でき、適切な臨床推論ができる能力や技術を獲得する。		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	毎時間以下を参照すること。忘れた場合には欠席とみなす。 白衣の着用、聴診器、打腫挫。講義に關する質問は、講義中に随時受付ける。		
教科書			
刺鍼基本テクニックのマスター教本			
参考書			
特に無し			
研究室/オフィスアワー			
授業日の兼任講師授室			
授業履修計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	身体診察実技1	随時指示する	
2	身体診察実技2 雑記小テスト		
3	身体診察実技3 診察実技小テスト		
4	身体診察実技4		
5	身体診察実技5 雑記小テスト		
6	身体診察実技6		
7	身体診察実技7 診察実技小テスト		
8	身体診察実技8 雑記小テスト		
9	身体診察実技9		
10	身体診察実技10 診察実技小テスト		
11	身体診察実技11		
12	身体診察実技12 雑記小テスト		
13	身体診察実技13 診察実技小テスト		
14	身体診察実技14		
15	身体診察実技 総合練習		
成績評価方法と基準			割合

①定期試験
②小テスト
2/3以上の出席を必要とする。

授業科目名	関係法規・経営論(鍼灸) (Related Laws and Regulations / Management)			
主担当教員	坂部 昌明	担当教員	坂部 昌明、安田 実	
科目ナンバリング	SS216	科目区分	専門科目	DP①
配当年次	4	開講学期	前期	月曜 1限
授業形態	講義	単位数	2	必修
授業概要				
【関係法規】	本講座では、鍼灸師に関わる「ルール」について学んでいただきます。社会にあっては、鍼灸師とはどのような存在であり、日本がどのような鍼灸師を求めているのか、これを知らずに、鍼灸師となることは、本当に危険です。			
【経営論】	日本においては、違法若しくは不法な行為、又は不当な行為などを行ってしまっただけでなく、「ルール」を知らなかったと主張しても許されることはありません。一方、「ルール」さえ知っていれば、他の鍼灸師との「差」をつけることができます。法律とは、「ルール」であるからこそ、その使い方が重要なのです。			
到達目標	本講座では、上述の2つのテーマについて十分に思考を巡らしたうえで受講いただけたらと思います。			
【関係法規】	本講義の受講により、下の5点について自らの意見を述べられるようになっていただきます。			
【経営論】	<ul style="list-style-type: none"> ■ 免許とは何か。 ■ はり灸と鍼灸師の関係。 ■ 日本の公的医療保険との関わり。 ■ 日本の医療・衛生行政。 ■ 未来の医療のかたち。 			
【関係法規】	1. 学習者は、一般的目標として、ビジネス、マネジメント (経営) の基礎的考え、サービスの概念と重要性、事業創出の目標について知識を持ち、理解する。			
【経営論】	2. 個別到達目標としては、ビジネス、マネジメントの基礎知識や考え方を取得することで、産業社会の仕組みの概略的理解と問題解決の方法の一部を理解することが出来る。			
【関係法規】	3. 事業活動全般において、組織等のサービスの提供する側の発想と論理について理解を深めることができる。			
【関係法規】	履修上の注意 (学生へのメッセージ)			
【関係法規】	関係法規部分については、講義と演習の順番で授業を組み立てていきます。次の点に留意してください。			
【経営論】	★演習課題については必ず取り組み、他者任せにしないでください。			
【関係法規】	★演習課題についてレジュメを作成し、報告を行い、質疑にこたえてください。			
【経営論】	1. 配布された講義資料を読み、自分自身でさらに考えを深め、コメントを付け加えることができるような批判的視点を持つこと。			
【関係法規】	2. 出された課題は提出すること。			
【経営論】	3. 新聞雑誌等で報道される社会のあらゆる経済活動について、立場や役割を代えて視点を持つ、また思考する訓練を実践してみること。			
教科書	【関係法規】			
【関係法規】	■ (公社) 東洋療法学校協会 編「前田和彦 著 『関係法規 第7判』 医歯薬出版、2009年、東京。			
【経営論】	「鍼灸院経営入門 (サブテキスト)」2019年版 (毎回講義時に該当部分を配布します)			
参考書				

【関係法規】	■ 図書館資料を利用できるよう、利用証を作っておいてください。			
【経営論】	<ul style="list-style-type: none"> ・医道の日本社編集部編『はじめての鍼灸マッサー治療院開業ベシックスマニュアル』2016年 ・ソロモン『消費者行動論』丸善出版2015年 ・マイケル・E・ポーター『医療戦略の本質』日経BP社2009年 ・水越敏介・藤田健『新しい公共・非営利のマーケティング』中央経済社2013年 ・C・G・ルンバース『北欧式サービス志向のマネジメント』ミネルヴァ書房2013年 ・浜口隆則『起業の技術』かんき出版2013 ・伊藤崇彦『1からのサー・ビジネス経営』2010 ・富田秀徳『鍼灸院経営術』医道の日本社2016年 ・田中洋輔『ブランド戦略全書』有斐閣2014年 ・F・コトラー『ブランド』他『コトラーのブランドエッセンス』サー・ビス・マーケティング』ピアソン2002 			
研究室/オフィスアワー	研究室/オフィスアワー			
【関係法規】	研究室を有していませんが、学生の皆さんからの要請があれば時間を決めて質問等をお受けします。いつでもご相談ください (mail: info_skb285@gmail.com)。			
【経営論】	南棟7階 毎週木曜日5限			
授業展開及び授業計画表				
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当	
1	テーマ) はり師きゆう師の定義と業務範囲 内容) はり師きゆう師とは法律上どのような存在であるかということ、その業務範囲を整理します。	■ 復習課題を提示する	坂部	
2	演習課題) ①はり師きゆう師の業務と、他の医療者、医療従事者の業務の関連性 ②はり師きゆう師の行為の限界 テーマ) 業務の開始に関する規程等および罰則等 内容) 施術所の開設や、出張専門業務、潜在業務の開始届出などはり師きゆう師の業務の開始に必要な届出等、および違反に対する罰則等について整理します。	※必ず演習課題については調べ、レジュメを作成してください。	坂部	
3	演習課題) ①開業の届出以外に必要なとなる届出の種類とその内容。 ②方法を根拠とする制裁あるいは利益調整。 テーマ) 医療制度に関する法律と医療者および医療従事者に関する法律 内容) 医療法に代表される、医療制度に関する諸法令について、および医療サービスを実際に提供する者に関する法律について整理する。	■ 復習課題を提示する	坂部	
4	演習課題) ①看護師とはり灸 ②医師とはり灸 ③理学療法士とはり灸 テーマ) 社会福祉制度とはり師きゆう師 内容) 医療以外の社会保険制度の枠組におけるはり師きゆう師の現状を整理する。	※必ず演習課題については調べ、レジュメを作成してください。	坂部	
5	演習課題) ①介護施設におけるはり灸の実施 ②生活保護と障がい 内容) 日本における社会保険制度について知ると共に、療養費の仕組みについて整理する。	■ 復習課題を提示する	坂部	
6	演習課題) ①介護施設におけるはり灸の実施 ②生活保護と障がい 内容) 日本における社会保険制度について知ると共に、療養費の仕組みについて整理する。	※必ず演習課題については調べ、レジュメを作成してください。	坂部	
7	演習課題) ①介護施設におけるはり灸の実施 ②生活保護と障がい 内容) 日本における社会保険制度について知ると共に、療養費の仕組みについて整理する。	■ 復習課題を提示する	坂部	
8	演習課題) ①介護施設におけるはり灸の実施 ②生活保護と障がい 内容) 日本における社会保険制度について知ると共に、療養費の仕組みについて整理する。	■ 復習課題を提示する	坂部	
9	演習課題) ①介護施設におけるはり灸の実施 ②生活保護と障がい 内容) 日本における社会保険制度について知ると共に、療養費の仕組みについて整理する。	■ 復習課題を提示する	坂部	
10	演習課題) ①介護施設におけるはり灸の実施 ②生活保護と障がい 内容) 日本における社会保険制度について知ると共に、療養費の仕組みについて整理する。	■ 復習課題を提示する	坂部	
11	演習課題) ①介護施設におけるはり灸の実施 ②生活保護と障がい 内容) 日本における社会保険制度について知ると共に、療養費の仕組みについて整理する。	■ 復習課題を提示する	坂部	
	職業活動の基本 (会社の仕事・経営、顧客ニーズ、コンプライアンス)	■ 復習課題を提示する	安田	

		確認	
12	ブランドとブランド作り、サイレントセールスとは？ ビジネスマナー・コミュニケーションとその手法 リーダーシップとチームワーク、人のネットワーク	予習：今までの経験で接客応対でのクレーム事例はあったか、その場合の対応について思ったことをまとめる。 身近な事例、先輩、先輩にビジネスマナーの概要を調べる（どんなことが言われているのか、また、アポイントや訪問時の注意等） 復習：授業をもとにシラバス、プリント教材の確認	安田
13	企業経営における財務・経理の基本と分析と損益分岐点の演習	予習：ある特定の企業の財務諸表を入手し、不明な語句を抜き出す 復習：授業をもとにシラバス、プリント教材の確認	安田
14	顧客心理とクレーム対応、信頼性の確保、リスクマネジメントとは？ 鍼灸院経営の目標設定、中長期計画、スケジューリング、事業計画案作成	予習：身近な百貨店、ホテル、専門ショップ、コンビニ、ファーストフード等サービス提供を主体とする起業の接客応対の状況を調べる（どんなことが基本となっているのか、また、印象はどう違うのか等） 復習：授業をもとにシラバス、プリント教材の確認	安田
15	ビジネス文書・契約書、法律税金の基本知識	予習：契約書を読み、その理解を深めるとともに自ら作成してみる 復習：授業をもとにシラバス、プリント教材の確認	安田
	成績評価方法と基準		割合
	【関係法規】 最後にまとめる試験を行います。試験の形式は追って連絡します。 ①期末試験		①50% ②20% ③30%
	【経営論】 ②各講義後の課題または確認問題の提出 ③講義終了時の理解度及びレポート試験		

授業科目名		マーケティング入門(鍼灸) (Introduction to Marketing)	
担当教員	安田 実	担当教員	安田 実
科目ナンバリング	SS217	科目区分	専門科目
配当年次	4	開講学期	前期
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	<p>将来開業する可能性のある鍼灸院、また就職する可能性の高い医療法人や行政機関など多くの公益法人は通常の企業と比較して非営利法人としての公益性や役割の重要性をより多く担っている。</p> <p>また、医療を含め広くサービスに関わる業種は、マーケティングやマネジメントについても、モノの製造を中心とするメーカーや企業型営利法人とは異なるアプローチを要請されている。本講義では、現在のサービスマーケティングの考え方について実例を通して、批評的視点で学ぶ。さらに、意思決定や問題解決の手法について基本的な知識の取得と情報の手や選別の判断について多くの事例とともに理解し、取得することを講義の主題においている。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学修者は、一般的な目標として、マーケティングの基礎的考え方、サービスの概念と重要性、企業経営の概略について知識を持ち、理解する。 2. 個別到達目標としては、マーケティングの発想法や考え方を取得することで、産業社会の組織の理解と問題解決の方法の一部を理解することができる。 3. 消費生産活動において、組織等のサービスの提供する側の発想と論理について理解を深めることができる。 <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 配布された講義資料を読み、自分自身でさらに考えを深め、コメントを付け加えることができるような批評的視点を持つこと。 2. 出された課題は提出すること。 3. 社会のあらゆる経済活動について、立場や役割を代えて視点を替えて、また思考する訓練を実践してみること。 		
教科書	<p>プリント教材「マーケティング入門(サブテキスト) 2019年版」 (毎回講義時に該当部分を配布します)</p>		
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・フィリップコトラー他『コトラーのマーケティング4.0』朝日新聞出版 2017 ・フィリップ・コトラー『コトラーマーケティングの未来と日本』KADOKAWA 2017 ・園田圭作『行動デザイン』すばる舎 2016 ・ソロモン『消費者行動論』丸善出版 2015 ・C・G・グルンルース『北歐型サービス志向のマネジメント』ミネルヴァ書房 2013 ・池田英一他『マーケティング』有斐閣 2010 ・小川 孔輔『マーケティング入門』日本経済新聞社 2009 ・博報堂ブランドコンサルティング『サービスブランディング』ダイヤモンド社 2008 ・フィスク他『サービスマーケティング入門』法政大学出版局 <p>研究室/オフィスアワー</p>		
	研究室 3 / 木曜日 5 限		
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	マーケティングとは何か	予習：シラバスの確認と「サービスの特性の理解」、「サービスマーケティングとその周辺について」の事前予習プリントの提出 復習：授業をもとにプリント教材の作成提出	
2	マーケティングとサービス	予習：事前配布プリントの確認と「サービスの種類」の事前予習プリントの提出 復習：授業をもとにプリント教材の作成提出	
3	マーケティングマネジメントとは	予習：事前配布プリントの確認と「ロコモとサービス」の事前予習プリントの提出 復習：授業をもとにプリント教材の作成提出	
4	ロコモの本質	予習：事前配布プリントの確認と「連立計算問題」、「損益計算演習」の事前予習プリントの提出 復習：授業をもとにプリント教材の作成提出	

5	損益分岐点の理解と応用	予習：事前配布プリントの確認と「マーケティングの7Pの理解」、「損益計算演習②」の事前予習プリントの提出 復習：授業をもとにプリント教材の作成提出			
6	損益分岐点の演習、活用	予習：事前配布プリントの確認と「マーケティングの7Pの理解」、「損益計算演習②」の事前予習プリントの提出 復習：授業をもとにプリント教材の作成提出			
7	サービスマーケティングの7Pとは	予習：事前配布プリントの確認と「マーケティングマトリクス」の理解、「ディスプレイ・オンラインの不思議」の事前予習プリントの提出 復習：授業をもとにプリント教材の作成提出			
8	サービスの要素とその特性について	予習：事前配布プリントの確認と「通称発見」「海難法と機織法」、「批判的思考」の事前予習プリントの提出 復習：授業をもとにプリント教材の作成提出			
9	マーケティングミックスとは	予習：事前配布プリントの確認と「購入決定のプロセス」の事前予習プリントの提出 復習：授業をもとにプリント教材の作成提出			
10	サービス行為のデザイン	予習：事前配布プリントの確認と「医療法人とは何か」の事前予習プリントの提出 復習：授業をもとにプリント教材の作成提出			
11	マーケティング戦略とブランドマネジメント	予習：事前配布プリントの確認と「医療法・あはき法とは何か」の事前予習プリントの提出 復習：授業をもとにプリント教材の作成提出			
12	鍼灸院・医療機関とマーケティングの活用応用	予習：事前配布プリントの確認と「論文の書き方」の事前予習プリントの提出 復習：授業をもとにプリント教材の作成提出			
13	事業運営の法律的基礎知識	予習：事前配布プリントの確認と「論文の書き方」の事前予習プリントの提出 復習：授業をもとにプリント教材の作成提出			
14	マーケティングと身近な法律、行動経済学	予習：事前配布プリントの確認と「医療経済学と行動経済学」の事前予習プリントの提出 復習：授業をもとにプリント教材の作成提出			
15	顧客満足度を高める、提議関係を通じて、これまでの学習内容の総括とその理解チェック	予習：事前配布プリントの確認と「法律用語」の事前予習プリントの提出 復習：授業をもとにプリント教材の作成提出			
成績評価方法と基準					割合
1. 各講義後の課題または確認問題の提出					40%
2. 講義終了時の理解度確認テスト及びレポート					60%

現代医学系鍼灸応用実習(鍼灸)		現代医学系鍼灸実習Ⅱでは主に運動器疾患の痛態像、およびそれら疾患に対する検査法、鍼灸治療について学習したが、本科目では実際の症例を取り上げ、的確に病態を把握し、それらに対する検査法を駆使して治療方針を立て、治療法も現代医学的手法や東洋医学的観点からのアプローチができるように演習する。また適切な治療法を自分で考える能力を伸ばし、それらの結果を自分の言葉で記録できる能力をつける。		藤川 直孝		藤川 直孝	
主担当教員	藤川 直孝	科目区分	専門科目	該当項目	DP①④	担当教員	藤川 直孝
科目ナンバリング	SS307	開講学期	後期	曜日・時限	水曜 4 限	専任	
配当年次	3	単位数	1	必修・選択	選択		
授業形態	実習						
到達目標							
① 実際の症例から病態を把握できる。							
② 病態から検査および治療方針を選択できる。							
③ 適切な施術を安全に施行できる。							
④ 限られた時間と環境でそれらを実践できる。							
⑤ ①～④について実践できた場合、筋骨格系の診察および治療法を理解できる。							
履修上の注意(学生へのメッセージ)							
施術者としての技術のみならず、病を患う人に対する人間理解を深め、はり師・灸師としても求められる必要かつ十分な技術を求めます。積極的に実習を行い、疑問点は教員に訪ね、自分で判断し、記録が出来るよう努力してください。							
教科書							
「ポケット鍼灸臨床ガイド」 坂本 歩監修 アルテミア刊							
参考書							
「目で見る運動機能検査法」 南江堂刊							
研究室/オフィスアワー							
水曜日、午後4時限 非常勤講師控え室							
授業展開及び授業計画表							
回数	学習内容	予習・復習・課題等	担当				
1	頸肩腕部の症例(頸椎症性神経根症・胸郭出口症候群、小胸筋症候群など)	2年次で学習した頸椎症、胸郭出口症候群について病態把握、検査法について復習すること。					
2	肩関節の症例(肩こり、五十肩、上腕二頭筋長頭腱炎、腱板損傷など)	肩関節周辺疾患について病態把握、検査法について復習すること。					
3	診療演習 1	1～2回で学習した疾患を実際の症例で演習する。					
4	上肢症例(上腕骨内側・外側上顆炎、腱鞘炎、ゴルフ肘、肘部神経根症)	上肢の症例について病態把握、検査法について復習すること。					
5	上肢の末梢神経障害の症例(橈骨神経、正中神経、尺骨神経)	上肢の末梢神経障害である橈骨・正中・尺骨神経障害について復習すること。					
6	診療演習 2	4～5回で学習した疾患を実際の症例で演習する。					
7	腰痛の症例(筋筋膜性腰痛、腰椎椎間関節性腰痛、仙腸関節性腰痛)	腰痛の症例について病態把握し、検査法を駆使して鑑別できるように予習すること。					
8	腰下肢痛の症例(変形性股関節症、腰椎椎間板ヘルニア、梨状筋症候群)	腰下肢痛の症例について病態把握、検査法を予習すること。					
9	診療演習 3	7～8回で学習した疾患を実際の症例で演習する。					
10	ジャンパー膝、胸腰靭帯離断関節症(変形性膝関節症、靭帯損傷)	膝関節障害の病態把握、検査法を復習すること。					
11	下肢のスポーツ障害(シンスプリント、アキレス腱炎、足関節捻挫など)	日常よく見られるスポーツ障害について病態把握し検査法を予習すること。					
12	診療演習 4	10～11回で学習した疾患について演習する。					
13	十二経筋について演習する。	十二経筋について復習する。					
14	十二皮部について演習する	十二皮部について復習する。					

15	全体のまとめと振り返り	
成績評価方法と基準		割合
1. レポート課題		1. 60%
2. 定期試験		2. 40%

授業科目名		東洋医学系鍼灸実習Ⅱ(鍼灸A) (Acupuncture from Oriental Medicine Perspective 【Practice II】)	
担当教員	尾河 由清	担当教員	尾河 由清
科目ナンバリング	SS309	科目区分	ディプロマポリシー 該当項目 DP①④
配当年次	3	開講学期	曜日・時限 月曜 4 限
授業形態	実習	単位数	1
授業概要			
<p>1. 要穴および管鍼術の術式についてまとめる。</p> <p>2. 中医学科の中から、代表的な疾患をピックアップし、病因・病機・病証の解説を行い、症例を元に、選穴や術式を考え、実技を行う。</p> <p>3. 症例に対して、要穴の作用やそれを引き出す管鍼術の術式を考え練習を行う。</p>			
到達目標			
<p>1. 東洋医学の基礎を振り返り、治療の効果を実感する。</p> <p>2. 鍼灸臨床における東洋医学的視点の基礎を身につける。</p> <p>3. 要穴や管鍼術の術術をまとめ、鍼灸臨床に必要な基本を修得する。</p>			
履修上の注意(学生へのメッセージ)			
<p>1. しっかりと基本を学び、臨床で使える東洋医学の考え方を身につけましょう。</p> <p>2. 経穴(要穴)を覚えましょう。</p> <p>3. 管鍼術の効率的な術式を身につけましょう。</p> <p>4. 座学と実技を行います。</p> <p>5. 進捗具合により、授業計画や取り扱う症状に変更の可能性があります。</p>			
教科書			
<p>図でわかる中医針灸治療のプロセス、朱江、劉雲提、宋瑋 編、篠原昭二監訳、東洋医学出版社</p> <p>新編経絡経穴概論第2版、東洋療法学校協会編、医道の日本</p> <p>新版東洋医学概論、東洋療法学校協会編、医道の日本</p>			
参考書			
<p>針灸学 基礎編、兵頭明善、東洋学術出版社</p> <p>針灸学 臨床編、兵頭明善、東洋学術出版社</p> <p>詳解針灸要穴辞典 趙吉平・王燕平編著 柴崎英子訳 東洋学術出版社</p> <p>東洋医学臨床論、東洋療法学校協会編、医道の日本</p> <p>研究室／オフィスアワー</p>			
授業終了後、60分程度(非常勤講師室)			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	授業概要、要穴概要(五腧穴、五要穴、下合穴、四総穴、八会穴、八脈交会穴)	予習：経穴の要穴を復習 復習：要穴を復習	尾河由清
2	管鍼術の基本(雀啄術、随鍼術、旋撚術、回旋術、細指術、示指打法、管散術、副刺激)	予習：基本実技を復習 復習：本日の内容を振り返る	尾河由清
3	肩こり、腰痛、病態把握、実技(構鍼カルテ提出)	予習：頸肩部、腰下肢の筋、経穴について 復習：頸肩部、腰下肢の筋、経穴について	尾河由清
4	頭部・上焦の病1、頭痛①(肝胆系病証) 病態把握、実技(構鍼カルテ提出)	予習：教科書の頭痛を予習しておく 復習：本日の病態・選穴の復習	尾河由清
5	頭部・上焦の病1、頭痛②(肝胆系病証) 病態把握、実技(構鍼カルテ提出)	予習：教科書の頭痛を予習しておく 復習：本日の病態・選穴の復習	尾河由清
6	頭部・上焦の病2、不眠①(心系病証) 病態把握、実技(構鍼カルテ提出)	予習：教科書の不眠・多夢を予習しておく 復習：本日の病態・選穴の復習	尾河由清
7	頭部・上焦の病2、不眠②(心系病証) 病態把握、実技(構鍼カルテ提出)	予習：教科書の不眠・多夢を予習しておく 復習：本日の病態・選穴の復習	尾河由清
8	中焦の病1：胃病①(脾胃系病証) 病態把握、実技(構鍼カルテ提出)	予習：教科書の胃痛を予習しておく 復習：本日の病態・選穴の復習	尾河由清
9	中焦の病1：胃病②(脾胃系病証) 病態把握、実技(構鍼カルテ提出)	予習：教科書の胃痛を予習しておく 復習：本日の病態・選穴の復習	尾河由清
10	下焦の病1：便秘①(脾胃系病証) 病態把握、実技(構鍼カルテ提出)	予習：教科書の便秘を予習しておく 復習：本日の病態・選穴の復習	尾河由清
11	下焦の病1：便秘②(脾胃系病証) 病態把握、実技(構鍼カルテ提出)	予習：教科書の便秘を予習しておく 復習：本日の病態・選穴の復習	尾河由清
12	月経の異常1：周期異常(経早、経遅、経乱)	予習：月経について 復習：本日の病態・選穴の復習	尾河由清

13	月経の異常 2：痛経	予習：月経について 復習：本日の病態・選穴の復習	尾河由清
14	1. 経穴（要穴）の復習 2. 管鍼術の復習 3. 講座全体の質疑応答	予習：要穴の作用・部位について。管鍼術の術式名・各術式の目的・方法について。 復習：要穴について。管鍼術について。	尾河由清
15	1. 経穴（要穴）の復習 2. 管鍼術の復習 3. 講座全体の質疑応答	予習：要穴の作用・部位について。管鍼術の術式名・各術式の目的・方法について。 復習：要穴について。管鍼術について。	尾河由清
成績評価方法と基準			割合
学期末試験 筆記 100%			100%

※授業内で提出の指示のある課題が未提出の場合、学期末試験の評価を0点とする。
※試験詳細は、授業内で説明。

授業科目名 東洋医学系鍼灸実習Ⅱ(鍼灸B) (Acupuncture from Oriental Medicine Perspective [Practice II])			
主担当教員	尾河由清	担当教員	尾河由清
科目ナンバリング	SS309	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目 DP①④
配当年次	3	開講学期	前期
授業形態	実習	単位数	1
授業概要			
1. 要穴および管鍼術の術式についてまとめる。 2. 中医学の中から、代表的な疾患をピックアップし、病因・病機・病証の解説を行い、症例を元に、選穴や術式を考え、実技を行う。 3. 症例に対して、要穴の作用やそれを引き出す管鍼術の術式を考え練習を行う。			
到達目標			
1. 東洋医学の基礎を振り返り、治療の効果を実感する。 2. 鍼灸臨床における東洋医学的視点の基礎を身につける。 3. 要穴や管鍼術の術術をまとめ、鍼灸臨床に必要な基本を修得する。			
履修上の注意(学生へのメッセージ)			
1. しつかりと基本を学び、臨床で使える東洋医学の考え方を身につけましょう。 2. 経穴(要穴)を覚えましょう。 3. 管鍼術の効果的な術式を身につけましょう。 4. 座学と実技を行います。 5. 進捗具合により、授業計画や取り扱う症状に変更の可能性があります。			
教科書			
図でわかる中医針灸治療のプロセス、朱江、劉雲提、宋詩 編、篠原昭二監訳、東洋医学出版社 新版経絡経穴概論、東洋療法学校協会編、医道の日本 新版東洋医学概論、東洋療法学校協会編、医道の日本			
参考書			
針灸学 基礎編、兵頭明香、東洋学術出版社 針灸学 臨床編、兵頭明香、東洋学術出版社 針灸学 経絡要穴辞典 趙吉平・王燕平編著 柴崎瑛子訳 東洋学術出版社 東洋医学臨床論、東洋療法学校協会編、医道の日本			
研究室/オフィスアワー			
授業終了後、60分程度(非常勤講師室)			

授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	授業概要、要穴概要(五俞穴、五要穴、下合穴、四總穴、八会穴、八脈交会穴)	予習：経穴学の要穴を復習 復習：要穴を復習	尾河由清
2	管鍼術の基本(雀啄術、随鍼術、旋然術、回旋術、細指術、示指打法、管鍼術、副刺激)	予習：基本実技を復習 復習：本日の内容を振り返る	尾河由清
3	肩こり、腰痛：病態把握、実技(横膈カルテリ提出)	予習：頭肩部、腰下肢の筋、経穴について 復習：頭肩部、腰下肢の筋、経穴について	尾河由清
4	頭部・上焦の病1：頭痛①(肝胆系病証) 病態把握、実技(横膈カルテリ提出)	予習：教科書の頭痛を予習しておく 復習：本日の病態・選穴について	尾河由清
5	頭部・上焦の病2：頭痛②(肝胆系病証) 病態把握、実技(横膈カルテリ提出)	予習：教科書の頭痛を予習しておく 復習：本日の病態・選穴について	尾河由清
6	頭部・上焦の病2：不眠①(心系病証) 病態把握、実技(横膈カルテリ提出)	予習：教科書の不眠・多夢を予習しておく 復習：本日の病態・選穴について	尾河由清
7	頭部・上焦の病2：不眠②(心系病証) 病態把握、実技(横膈カルテリ提出)	予習：教科書の不眠・多夢を予習しておく 復習：本日の病態・選穴について	尾河由清
8	中焦の病1：胃痛①(脾胃系病証) 病態把握、実技(横膈カルテリ提出)	予習：教科書の胃痛を予習しておく 復習：本日の病態・選穴について	尾河由清
9	中焦の病1：胃痛②(脾胃系病証) 病態把握、実技(横膈カルテリ提出)	予習：教科書の胃痛を予習しておく 復習：本日の病態・選穴について	尾河由清
10	下焦の病1：便秘①(脾胃系病証) 病態把握、実技(横膈カルテリ提出)	予習：教科書の便秘を予習しておく 復習：本日の病態・選穴について	尾河由清
11	下焦の病1：便秘②(脾胃系病証) 病態把握、実技(横膈カルテリ提出)	予習：教科書の便秘を予習しておく 復習：本日の病態・選穴について	尾河由清
12	月経の異常1：周期異常(経早、経遅、経乱)	予習：月経について 復習：本日の病態・選穴の復習	尾河由清

13	月経の異常 2：痛経	予習：月経について 復習：本日の痛経・週穴の復習	尾河由清
14	1. 経穴（要穴）の復習 2. 管鍼術の復習 3. 講座全体の質疑応答	予習：要穴の、作用・部位について。管鍼術の術式名、各術式の目的・方法について。 復習：要穴について。管鍼術について。	尾河由清
15	1. 経穴（要穴）の復習 2. 管鍼術の復習 3. 講座全体の質疑応答	予習：要穴の、作用・部位について。管鍼術の術式名、各術式の目的・方法について。 復習：要穴について。管鍼術について。	尾河由清
成績評価方法と基準			割合
学期末試験 筆記 100%			100%
※授業内で提出の指示のある課題が未提出の場合、学期末試験の評価を0点とする。 ※試験詳細は、授業内で説明。			

授業科目名	東洋医学系鍼灸応用実習(鍼灸) (Acupuncture from Oriental Medicine Perspective 【Applied Practice】)		
主担当教員	赤丸 敏行	担当教員	赤丸 敏行
科目ナンバリング	SS310	科目区分	専門科目 DP①④
配当年次	3	開講学期	曜日・時限 水曜4限
授業形態	実習	単位数	1
授業概要	<p>鍼灸臨床で遭遇しうる症例(症状)を紹介し、その中から鍼灸の守備範囲を理解する。また種々の症候に対する東洋医学的な伝承思想や手法および現代医学的な治効理論や科学的情報の活用を学び、適用する鍼灸治療の構築を考える。</p> <p>到達目標</p> <p>四診や現代医学的な検査や既往から得られた情報を速やかに解析し、的確な施術を構築できる技術を得る。つまり Reality of The Bedside をテーマに伝承された医学思想および現代医療に対応した臨床情報の活用を学ぶということである。</p> <p>一般症状から難病に付随する症状あるいは不定で広範囲に渡る症状などに対し臨場感のある臨床を想定し対応できる技量を目指し、今後の大きな目標である「必要とされる臨床家」としての適応力、つまり現代医療に携わる医療人(臨床家)としての自覚や知識・技量を研鑽し、人(患者)を思いやる心を育てることを重視する。当然、国家試験も念頭に置くことは忘れない。</p> <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>臨床を意識した授業です。授業では白衣着用。当然ですが飲食や携帯電話の操作は不可です。</p>		
教科書			
随時テキストを配布			
参考書			
参考になる書籍・引用書籍は随時紹介します			
研究室/オフィスアワー			
水曜日 14:10~14:40			
非常勤講師控え室			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	四診の重要性の確認、四診の重要性に対する理解と問診表の作成	現代臨床に結びつく四診を理解する。各診察法の特徴を理解する。	
2	消化器症状を有する症例を課題とし、素因と現症から施術の構築導入を考える。	鍼術の効果を学ぶために陰陽の特徴を認識しやすしい脾胃の経絡に注目する。治療構築を行うと共に鍼の響きや刺入感を体験する。	
3	疲労と排尿障害を有する患者を弁証し、灸法の効果を検証する。	腎虚の症状を検証し、腎経の経穴を中心に灸技を施す。虚と陽虚の症例を基に補瀉の必要性を考える。	
4	腰痛を例に部位や使用鍼によって得られる鍼の響きの違いなどから補瀉を理解する。	腰部筋中心に臨床において、最も運用されるであろう膀胱経の経穴を学ぶ。	
5	血生化学情報を理解し、鍼治療の守備範囲を検証する。	鍼灸臨床で注意しておかなければならない血液生化学的検査項目を確認検証する。特に感染・炎症・出血に関わる検査は重要である。	
6	難病に伴う症状において鍼灸の守備範囲を理解する。	特定疾患は温湿が常であるが鍼灸が適応する疾患および症状が存在する。その導入には注意点も多いが、鍼灸の適応とその効果を学ぶ。	
7	鍼灸の適応する症状と必要な得気を認識する。	充分な鍼刺激を必要とする場合も臨床に存在する。より明確な響き(得気)や通電療法から得気提供の注意点を学ぶ。	
8	末梢性顔面神経麻痺の特徴と鍼灸治療の効果を確認する。	臨床で遭遇する末梢性顔面神経麻痺の特徴と鍼灸治療の効果を確認する。顔面の経穴および刺激技術を確認する。	
9	不眠や入眠障害などの睡眠異常に適応する鍼灸治療を考える。	鍼灸における不眠改善効果は興味深いものがあり、その効果の根拠と施術構築を学ぶ。	
10	更年期症状(や婦人科疾患付随症状)に適応する鍼灸を理解する。	更年期障害や婦人科疾患付随症状の治療は、特に経絡や下腹部、仙骨部の経穴に注目する。	
11	心理的状況に注目し問診術と適応する手技を考える。	心理状態の変動をとらえる技術も臨床では必要である。心理試験から鍼灸の適応範囲を検証	

		すし、自律神経の緊張緩和に用いられる経穴の有効性を検証する。	
12	テクノストレスによる視覚から波及する種々の症状および難聴を例に感覚器に対する総合的な治療の構築を行う。	VDTや難聴の多岐に渡る症状を理解し、後頭部、肩胛部、腰部の経穴に注目する。	
13	卒中後遺症など四肢の麻痺性疾患に対する鍼灸治療を考える。	上肢の麻痺や異常歩行あるいは失語など脳血管障害後の症状について症例をもとに適応する鍼灸治療を検証する。興味深い灸法や井穴への施球も取り上げる。	
14	鍼灸効果とその作用機序から「アガエツク」などへの展望を考える。	現代医療の中で鍼灸が貢献できる根拠を作用機序だけでなく治療術としてそして養生法としての歴史的経緯も含めて検証し、アンチエイジングへの可能性を検証する。	
15	終末医療や老人医療における鍼灸の実践と今後を考える。	消耗性疾患に対する鍼灸の守備範囲を理解し、補陰・補陽・補血・補氣・鎮痛・安神を目標とした治療を検証する。	
成績評価方法と基準			割合
定期試験結果を成績評価面とする 授業の取り組み方質疑応答は重視します			試験 100%

授業科目名		附属施術所基礎実習(鍼灸 A) (Basic Training at the Affiliated Clinic)			
主担当教員	鍋田 智之	担当教員	鍋田 智之、増山 祥子、仲西 宏元、大川 祐世		
科目ナンバリング	SS402	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー	DP①④
配当年次	3	開講学期	前期	曜日・時間	前期(月曜)限 月曜2限)、 後期(月曜)限 月曜2限)
授業形態	実習	単位数	2	必修・選択	必修
<p>授業概要</p> <p>【附属施術所実習】 附属施術所実習では、教員の診療を見学して患者への対応力、知識・技術を理解する。学習の進度によるが、患者の検査、治療の補助を指示することができる。3年次の実習では、特に整形外科・運動器系疾患に対する現代医学的対応法について学習する。</p> <p>【カンファレンス】 3年次に開講される本講義のカンファレンスは、整形外科系疾患に関する診療について理解することを目的としている。各講義で提示される課題について討議し、問題を解決することを繰り返す。また、ロールプレイ方式を用いて疾患に関する面接、検査、病態把握、治療方針決定、治療の実践の全てを行い、実践力を養う。後期後半には2年次生と合同カンファレンスを行い、2年次生を患者として診察・治療を実施する。</p> <p>到達目標</p> <p>【附属施術所実習】 ①教員の診療を見学し、学習する。 ②医療面接を行い、病態を理解する。 ③必要な検査を選択し、患者に実施して病態把握に結び付けることができる。 ④医療面接・検査結果から病態把握を行い、治療計画を策定できる。</p> <p>【カンファレンス】 ①複雑症例を用いたロールプレイを経て、診療の一連の流れを理解する。 ②施術所実習を経て得た情報に基づいて小グループにて討議する。 ③施術所実習を経て得た情報に基づいて、検査、治療計画の立案と実践を行うことができる。 ④回生討議に出席される整形外科系疾患の鍼灸臨床について理解する。 ⑤施術者としての人間性を高める。 ⑥模擬患者を対象として、診察・治療の一連の流れを実施できる。</p> <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>【附属施術所実習】 指定された集合時間を遵守すること。特別な事情がない限り遅刻は認めない。遅刻した場合も参加を認めない。指定された服装、髪型などについて遵守すること。不適切な場合は参加を認めない。積極的に討議に参加すること。 実習をやむを得ない理由で欠席した場合は、補習を実施することがある。この場合、進捗の遅いこととなる。実習をやむを得ない理由以外で欠席する場合は参加を認められなかった場合、評価を失うため、評価を行わない。この場合、補習の実施については学科会議にて協議して決定するが、認められた場合は再評価の扱いとなる。</p> <p>【カンファレンス】 指定された集合時間を遵守すること。特別な事情がない限り遅刻は認めない。遅刻した場合も参加を認めない。指定された服装、髪型などについて遵守すること。不適切な場合は参加を認めない。積極的に討議に参加すること。 模擬患者の診察・治療において知りえた事実について、守秘義務を遵守すること。</p> <p>教科書</p> <p>特に指定しない。</p> <p>参考書</p> <p>特になし</p> <p>研究室/オフィスアワー</p> <p>【附属施術所実習】 実習時の指導者の指示に従うこと。 【カンファレンス担当：鍋田】 月～金の昼休み時間 東棟4階22研究室</p> <p>授業展開及び授業計画表</p>					

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	カンファレンス 1, 2 単元 ロールプレイ① 上肢の整形外科疾患に基づいたロールプレイ ①症例の問診 ②検査の選択と実施 ③治療計画の作成 報告書の作成方法指導 文献検索方法指導	予習：鍼灸診断治療学、運動機能検査法、医療コミュニケーションを再度確認しておくこと。 復習：提示症例や外来診察して症例について病態、治療法などをまとめること。	
2	カンファレンス 3, 4 単元 ロールプレイ② 頸肩部・上肢の整形外科疾患に基づいたロールプレイ ①症例の問診 ②検査の選択と実施 ③治療計画の作成	予習：対象疾患の鍼灸治療について学習すること 復習：治療法を復習すること 対象疾患の文献を1編検索して学習すること	
3	カンファレンス 5, 6 単元 ロールプレイ③ 腰部・膝下肢の整形外科疾患に基づいたロールプレイ ①症例の問診 ②検査の選択と実施 ③治療計画の作成	予習：対象疾患の鍼灸治療について学習すること 復習：治療法を復習すること 対象疾患の文献を1編検索して学習すること	
4	カンファレンス 7, 8 単元 ロールプレイ④ 下肢の整形外科疾患に基づいたロールプレイ ①症例の問診 ②検査の選択と実施 ③治療計画の作成	予習：対象疾患の鍼灸治療について学習すること 復習：治療法を復習すること 対象疾患の文献を1編検索して学習すること	
5	カンファレンス 9, 10 施所見学症例を用いたカンファレンス 直近の施所実習で学習した症例について、同一奨励を担当した学生同士で報告用PPTを作成し、引用文献に基づいて1グループ10分間の発表を行い、ディスカッションを行う。	予習：直近の施所実習にて学習した症例について、報告用PPTを作成すること 復習：カンファレンスの指摘事項について整理すること	
6	カンファレンス 11, 12 単元 模擬患者(2年生)を対象とした診察・治療トレーニング	予習：鍼灸診断治療学、運動機能検査法、医療コミュニケーションを再度確認しておくこと。 復習：症例について病態、治療法などをまとめること。	
7	カンファレンス 13, 14 単元 カンファレンス 11, 12 単元の診療内容に関するカンファレンス(2年生へ指導)	予習：自身の診療内容について、報告できるように準備すること。 復習：症例について病態、治療法などをまとめること。	
8	カンファレンス 15, 16 単元 模擬患者(2年生)を対象とした診療トレーニングと解説訓練	予習：鍼灸診断治療学、運動機能検査法、医療コミュニケーションを再度確認しておくこと。 復習：提示症例や外来診察して症例について病態、治療法などをまとめること。	
9	附属施設実習 1, 2 単元 教員の診療実習	集合時間を厳守し、服装・髪型に注意すること。 患者側の立場に立った言動を心がけ、医療人とは何かを考えておくこと。	
10	附属施設実習 単元 3, 4 医療面接トレーニング・症例報告	集合時間を厳守し、服装・髪型に注意すること。 患者に対するために何をすべきかを考え、必要な予習をして臨むこと。 導教員の確認を受けてから提出すること。	
11	附属施設実習 単元 5, 6 医療面接から病態把握をし、検査を選択するトレーニング	集合時間を厳守し、服装・髪型に注意すること。 患者に対するために何をすべきかを考え、必要な予習をして臨むこと。 導教員の確認を受けてから提出すること。	
12	附属施設実習 単元 7, 8 医療面接・検査結果から病態把握をし、治療方針を打ち出すトレーニング	集合時間を厳守し、服装・髪型に注意すること。 患者に対するために何をすべきかを考え、必要な予習をして臨むこと。 導教員の確認を受けてから提出すること。	

13	附属施設実習 単元 9, 10 医療面接・検査結果から病態把握をし、治療方針を打ち出すトレーニング。治療補助。	集合時間を厳守し、服装・髪型に注意すること。 患者に対するために何をすべきかを考え、必要な予習をして臨むこと。 終了後は1週間以内にレポートを完成させ、指導教員の確認を受けてから提出すること。	
14	附属施設実習 単元 11, 12 診療の一連の流れを学生患者を用いて全て実践するトレーニング	集合時間を厳守し、服装・髪型に注意すること。 患者に対するために何をすべきかを考え、必要な予習をして臨むこと。 終了後は1週間以内にレポートを完成させ、指導教員の確認を受けてから提出すること。	
15	附属施設実習 期末評価 模擬症例の問診 問診結果から筆記試験を解答する ①病態把握 ②必要な検査と想定される陽性所見 ③治療計画 ④治療内容 ⑤患者指導	予習：国家試験対象科目である東洋医学臨床論の現代表で出題される各種疾患への対応を学習すること。	
成績評価方法と基準			割合
附属施設実習 60% カンファレンス 40%とし、100点満点で評価する。60点以上を合格とする。 全出席を必要とする。OSCEでは医療面接・検査・鍼灸技・灸灸技を行う。1ステージ100点満点×4=400点満点で評価し、6割以上の取得を必要とする。各ステージは5割以上を必須とする。 筆記試験は、国家試験と同様の4択問題を実施する。東洋医学増強、経絡経穴学、東洋医学臨床論より100問を出題し、60点以上を合格とする。実習の評価は、OSCEおよび筆記試験の合格を必須とする。			附属施設実習 60% カンファレンス 40%
【カンファレンス】 授業中に指示する課題を評価する。			
【附属施設実習】 レポート評価 10点×6回=60点とする。			

附属施設所基礎実習(鍼灸B) (Basic Training at the Affiliated Clinic)			
授業科目名	担当教員	智之、辻丸 泰永、 堀川 奈央、大川 祐世	担当教員
科目ナンバリング	科目区分	専門科目	タイプ/ローテーション/ 該当項目
SS402			DP①④
配当年次	3	前期	前期(金曜1限 金曜2限)、 後期(金曜1限 金曜2限)
授業形態	実習	2	必修・選択
授業概要	<p>【附属施設所実習】 附属施設所実習では、教員の診療を見学して患者への対応力・知識・技術を理解する。学習の進度によるが、患者の検査、治療の補助を指示することがある。3年次の実習では、特に整形外科・運動器系疾患に対する現代医学的な対処法について学習する。</p> <p>【カンファレンス】 3年次に開講される本講義のカンファレンスは、整形外科系疾患に関する診療について理解することを目的としている。各講義で提示される課題について討議し、問題を解決することを目指す。また、ロールプレイ方式を用いて疾患に関する医療面接、検査、病態把握、治療方針決定、治療の実践の全てを行い、実践力を養う。後期後半には2年次生と合同カンファレンスを行い、2年次生を患者として診察・治療を実施する。</p>		
到達目標	<p>【附属施設所実習】 ①教員の診療を見学し、学習する。 ②医療面接を行い、病態を理解する。 ③必要な検査を選択し、患者に実施して病態把握に結び付けられることができる。 ④医療面接・検査結果から病態把握を行い、治療計画を策定できる。</p> <p>【カンファレンス】 ①模擬症例を用いたロールプレイを経て、診療の一連の流れを理解する。 ②施設所実習を経て得た情報に基づいて小グループにて討議する。 ③施設所実習を経て得た情報に基づいて、検査、治療計画の立案と実践を行うことができる。 ④国家試験に出題される整形外科系疾患の鍼灸臨床について理解する。 ⑤施術者としての人間性を高める。 ⑥模擬患者を対象として、診察・治療の一連の流れを実施できる。</p>		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	<p>【附属施設所実習】 ①教員の診療を見学し、学習する。 ②医療面接を行い、病態を理解する。 ③必要な検査を選択し、患者に実施して病態把握に結び付けられることができる。 ④医療面接・検査結果から病態把握を行い、治療計画を策定できる。</p> <p>【カンファレンス】 ①模擬症例を用いたロールプレイを経て、診療の一連の流れを理解する。 ②施設所実習を経て得た情報に基づいて小グループにて討議する。 ③施設所実習を経て得た情報に基づいて、検査、治療計画の立案と実践を行うことができる。 ④国家試験に出題される整形外科系疾患の鍼灸臨床について理解する。 ⑤施術者としての人間性を高める。 ⑥模擬患者を対象として、診察・治療の一連の流れを実施できる。</p>		
教科書			
特に指定しない。			
参考書			
特に指定しない			
研究室/オフィスアワー	<p>【附属施設所実習】 実習時の指導者の指示に従うこと。 【カンファレンス担当：鍼田】 月～金の昼休み時間 東館4階22研究室</p>		
授業展開及び授業計画表			

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	カンファレンス 1, 2 単元 ロールプレイ① 上肢の整形外科疾患に基づいたロールプレイ ①症例の問診 ②検査の選択と実施 ③治療計画の作成 報告書の作成方法指導 文献検索方法指導	予習：鍼灸診断治療学、運動機能検査法、医療コミュニケーションを再度確認しておくこと。 復習：提示症例や外来診察して症例について病態、治療法などをまとめること。	
2	カンファレンス 3, 4 単元 ロールプレイ② 頸肩部・上肢の整形外科疾患に基づいたロールプレイ ①症例の問診 ②検査の選択と実施 ③治療計画の作成	予習：対象疾患の鍼灸治療について学習すること 復習：治療法を復習すること 対象疾患の文献を1編検索して学習すること	
3	カンファレンス 5, 6 単元 ロールプレイ③ 腰部・腰下肢の整形外科疾患に基づいたロールプレイ ①症例の問診 ②検査の選択と実施 ③治療計画の作成	予習：対象疾患の鍼灸治療について学習すること 復習：治療法を復習すること 対象疾患の文献を1編検索して学習すること	
4	カンファレンス 7, 8 単元 ロールプレイ④ 下肢の整形外科疾患に基づいたロールプレイ ①症例の問診 ②検査の選択と実施 ③治療計画の作成	予習：対象疾患の鍼灸治療について学習すること 復習：治療法を復習すること 対象疾患の文献を1編検索して学習すること	
5	カンファレンス 9, 10 施設所実習症例を用いたカンファレンス 直近の施設所実習で学習した症例について、同一実習を担当した学生同士で報告用PPTを作成し、引用文献に基づいて1グループ10分間の発表を行い、フィードバックを行う。	予習：直近の施設所実習にて学習した症例について、報告用PPTを作成すること 復習：カンファレンスの指摘事項について整理すること	
6	カンファレンス 11, 12 単元 模擬患者(2年生)を対象とした診察・治療レコーディング	予習：鍼灸診断治療学、運動機能検査法、医療コミュニケーションを再度確認しておくこと。 復習：症例について病態、治療法などをまとめること。	
7	カンファレンス 13, 14 単元 カンファレンス11, 12 単元の診療内容に関するカンファレンス(2年生へ指導)	予習：自身の診療内容について、報告ができるように準備すること。 復習：症例について病態、治療法などをまとめること。	
8	カンファレンス 15, 16 単元 模擬患者(2年生)を対象とした診療トレーニングと解説訓練	予習：鍼灸診断治療学、運動機能検査法、医療コミュニケーションを再度確認しておくこと。 復習：提示症例や外来診察して症例について病態、治療法などをまとめること。	
9	附属施設所実習 1, 2 単元 教員の診療見学	医療面接における注意事項を再確認して臨むこと。 集合時間を厳守し、服装・髪型に注意すること。 患者側の立場に立った言動を心がけ、医療人とはいかに考えようか。	
10	附属施設所実習 単元 3, 4 医療面接トレーニング・症例報告	集合時間を厳守し、服装・髪型に注意すること。 患者に対するためにより何をすべきかを考え、必要な予習をして臨むこと。 終了後は1週間以内にレポートを完成させ、指導教員の確認を受けてから提出すること。	
11	附属施設所実習 単元 5, 6 医療面接から病態把握をし、検査を選択するトレーニング	集合時間を厳守し、服装・髪型に注意すること。 患者に対するためにより何をすべきかを考え、必要な予習をして臨むこと。 終了後は1週間以内にレポートを完成させ、指導教員の確認を受けてから提出すること。	
12	附属施設所実習 単元 7, 8 医療面接・検査結果から病態把握をし、治療方針を打ち出すトレーニング	集合時間を厳守し、服装・髪型に注意すること。 患者に対するためにより何をすべきかを考え、必要な予習をして臨むこと。 終了後は1週間以内にレポートを完成させ、指導	

13	<p>附属施設所実習 単元 9.10 医療面接・検査結果から病態把握をし、治療方針を打ち出すトレーニング。治療補助。</p>	<p>導教員の確認を受けてから提出すること。 集合時間を厳守し、服装・髪型に注意すること。患者に対するために何をすべきかを考え、必要な予習をして臨むこと。 導教員の確認を受けてから提出すること。</p>	
14	<p>附属施設所実習 単元 11.11, 12 診療の一連の流れを学生患者を用いて全て実践するトレーニング</p>	<p>集合時間を厳守し、服装・髪型に注意すること。患者に対するために何をすべきかを考え、必要な予習をして臨むこと。 導教員の確認を受けてから提出すること。</p>	
15	<p>附属施設所実習 期末評価 模擬症例の問診 問診結果から筆記試験を解答する ①病態把握 ②必要な検査と想定される陽性所見 ③治療計画 ④治療内容 ⑤患者指導</p>	<p>予習：国家試験対象科目である東洋医学臨床論の現代系で出題される各種疾患への対応を学習すること。</p>	
<p>成績評価方法と基準</p>			
<p>附属施設所実習 60% カンファレンス 40%とし、100点満点で評価する。60点以上を合格とする。 全出席を必要とする。 客観的臨床能力試験 (OSCE) と筆記試験を実施する。OSCE では医療面接・検査・観察・実践を行う。1セッション100点満点×4=400点満点で評価し、6割以上の取得を必要とする。各セッションは5割以上を必須とする。国家試験と同様の4択問題を実施する。東洋医学概論、経絡経穴学、東洋医学臨床論より100問を出題し、60点以上を合格とする。実習の評価は、OSCE および筆記試験の合格を必須とする。</p>			
<p>【カンファレンス】 授業中に指示する課題を評価する。 【附属施設所実習】 レポート評価10点×6回=60点とする。</p>			
<p>割合 附属施設所 60% カンファレ ンス40%</p>			

<p>附属施設所実習(鍼灸) (Practical Training at the Affiliated Clinic)</p>			
授業科目名	辻 涼太	担当教員	辻 涼太、増山 祥子、 中西 宏元、大川 祐世
主担当教員	辻 涼太	専門科目	DP①④
科目ナンバリング	SS403	科目区分	前期
配当年次	4	開講学期	曜日・時限 後期(月曜 3限 月 曜 4限)、 後期(月曜 3限 月 曜 4限)
授業形態	実習	単位数	2
授業概要	<p>1. 教員の指導下で、施術活動に補助として参加する。 2. 問診や診察により病態を推察し、治療計画や評価について教員と意見交換をする。 3. 観察あるいは施術補助した症例や疾患について、文献検索などを用いて調べ、power point 等を用いてカンファレンスで発表し討論する。</p>		
到達目標	<p>1. 基本的な患者対応、問診、診察補助、鍼灸適否判断、施術補助、記録ができる。 2. 患者の苦痛を理解し、医療従事者としてのモラルと使命感を身に付ける。 3. 観察した症例を正確に記し、病態や治療効果を客観的に分析してプレゼンできる。 4. 現代医学、東洋医学の両面で患者の病態を把握できる力を身につける。 5. 種別患者を対象として実際に治療ができる技術を身に付ける。</p>		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	<p>1. 実習マニュアルにもとづき、身だしなみや態度などに細心の注意を払うこと。 2. 遅刻は、臨床業務に支障を来たす行為であり、臨床実習における心構えの観点からも認めない。 3. 指定された時間に附属鍼灸施設所に集合し、出席確認。身だしなみやチェック・必要備品のチェック・注意事項などを行うた上で実習を開始する。 4. 施術準備を手伝う。 5. 少数人数に分かれ教員のブースで見学や施術補助を行う。 6. 片付けを手伝う。 7. 疑問点や学んだことをメモして、臨床実習終了後に調べてまとめ、グループや担当教員と意見交換を行う。</p>		
教科書	<p>各授業時に配付された資料に基づく</p>		
参考書	<p>1. 工藤慎太郎編著<運動器疾患の「なぜ?」がわかる臨床解剖学、医学書院> 2. 工藤慎太郎編著<運動療法「なぜ?」がわかる超音波解剖学、医学書院></p>		
研究室/オフィスアワー	<p>報告書の提出時に、書く指導教員の指定する日時・場所以て実施する</p>		
授業展開及び授業計画表	<p>授業概要</p>		
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
	<p>1. 施設所における実習 1) 小グループによるローテーションとする。 2) 指導教員の下で、患者案内、問診、診察、施術補助などを行う。 3) 模擬カルテに記録し、不明な点を調べて加筆した後、実習室にあるカンファレンス用紙に記載する。模擬カルテの書き方はSOAP形式に沿って記載する。実習室にあるカンファレンス用紙は、意見交換した施設担当教員の印をもらう。</p> <p>2. 臨床カンファレンス (隔週で実施する) 1) 観察・施術補助した症例、あるいは与えられた課題疾患について調べる。 2) プレゼン資料を作成する。(最低1文 献以上は論文検索を行うこと)</p>	<p>予習：経絡経穴学、現代医学系鍼灸実習、東洋医学系鍼灸実習、附属施設所基礎実習で学んだ内容を実習に入る前に確認すること。 復習：附属施設所で見学した症例について各自で調べ、power point 等によりまとめること。</p>	

<p>3) 資料 (配布または power point 等) に基づき症例の発表をする。 4) 討論して意見交換を行う。</p> <p>3. 医療面接トレーニング (時間的に余裕がある場合に実施する) 1) 小グループで協力患者または模擬患者を相手に医療面接を行う。 2) 学生全体で問題点を指摘し合う。 3) 教員から改善点の指導を受ける。</p> <p>4. 診察トレーニング (隔回で実施する) 1) 徒手検査、東洋医学検査を模擬患者相手に実施し、修練する。 2) 全ての学生が検査と診察をスムーズに出来るように実施する。 3) 模擬患者を相手に診察から施術までのロールプレイ式トレーニングを行う。 4) 初回に限り、文献検索の方法も合わせて指導する。</p>	<p>割合</p> <p>①60% ②40%</p>
<p>成績評価方法と基準</p> <p>①実習態度・身だしなみ・質疑応答・施術補助能力に関するチェックを行う。 ②カンファレンスにおける発表や取り組みを学内ルーブリックに基づき評価する。</p> <p>※カンファレンスは全て出席し、症例報告のプレゼン、発言、知識のチェックを行う。 ※割り当てられた全てのローテーションへの出席を必要とする。</p> <p>上記全ての項目が認められて、初めて成績として評価を行う。 但し、学年末試験が60点以上とれていない場合は再試験を受けなければならぬ。 出席では公欠の場合に補講を実施するが、その他の遅刻・欠席の補講は認めず、成績を不可とする。</p>	

<p>授業科目名 附属施設所応用実習(鍼灸 B) (Practical Training at the Affiliated Clinic)</p>		<p>担当教員 辻 涼太 辻丸 泰永、堀川 奈央、大川 祐世</p>	
<p>主担当教員 辻 涼太</p>	<p>科目ナンバリング SS403</p>	<p>科目区分 専門科目</p>	<p>該当項目 DP①④</p>
<p>配当年次 4</p>	<p>開講学期 前期</p>	<p>曜日・時間 曜日・時間</p>	<p>前期(金曜 3限 金曜 4限)、後期(金曜 3限 金曜 4限)</p>
<p>授業形態 実習</p>	<p>単位数 2</p>	<p>必修・選択 必修</p>	<p>必修</p>
<p>授業概要 附属施設所における見学実習に必要な診察上の基礎知識や、医療従事者としての常識を身につける。ロールプレイを通じて、診療の流れを理解する。自身が患者になることによって、患者の立場を理解する。積極的にティスカッションに参加する。また、スポーツ現場において、安全かつ計画的に鍼灸師が治療を行うのに必要な検査・病態把握・対処法について学ぶ。スポーツ障害の基本を理解するとともに、傷害の予防法・治療法をトレーニング・目的筋別のストレッチ手法などを用いて、アスリートのコアトレーニング、パフォーマンス向上についての知識・技術の習得およびスポーツ外傷の応急処置を習得する。</p>			
<p>到達目標 ①医療者として自覚と責任ある行動ができるようになる。 ②患者の立場を理解する。 ③診療の流れを身に着ける。 ④ティスカッションに自らの意見を持って積極的に参加する。 ⑤スポーツ鍼灸に必要なトレーニング・ストレッチの知識を習得し説明できる。 ⑥スポーツ外傷の処置の知識を習得し説明できる。 ⑦スポーツに必要な関連領域の事項について理解し説明できる。</p>			
<p>履修上の注意 (学生へのメッセージ) 常にそばに患者がいると想定しながら、現場を意識して授業に臨む。実習室を使用する際には白衣の着用を義務付け、態度不良な場合は、減点の対象とする。</p>			
<p>教科書 各授業時に配付された資料に基づく</p>			
<p>参考書 1. 工藤謙太郎編著<運動器疾患の「なぜ?」がわかる臨床解剖学、医学書院> 2. 工藤謙太郎編著<運動療法「なぜ?」がわかる超音波解剖学、医学書院></p>			
<p>研究室/オフィスアワー 報告書の提出時に、各指導教員の指定する日時・場所にて実施する。</p>			
<p>授業展開及び授業計画表</p>			
<p>回数</p>	<p>学習内容</p>	<p>予習・復習・課題等</p>	<p>担当</p>
<p>1. 施設所における実習 1) 小グループによるローテーションを行う。 2) 指導教員下で、患者案内、問診、診断、施術補助を行う。 3) 模擬カルテに記載し、不明な点を調べて加筆した後、実習簿のあるカンファレンス用紙に記載する。模擬カルテの書き方は SOAP 方式に沿って記載する。実習簿にあるカンファレンス用紙は、意見交換した担当教員に印をもらう。 2. 臨床カンファレンス (隔回の実施) 1) 観察。施術補助した症例、あるいは与えられた課題疾患について調べる。 2) プレゼン資料を作成する。(1 文献以上の論文検索を行う) 3) 資料 (配布または Power Point 等) に基づき症例を発表する。 4) 討論して意見交換を行う。</p>	<p>予習：経絡経穴学、現代医学系鍼灸実習、スポーツ医学等について附属施設所基礎実習で学んだ内容を実習前に確認する。 復習：附属施設所で見学した症例について各自で調べ、power point 等にまとめる。</p>	<p>予習：経絡経穴学、現代医学系鍼灸実習、スポーツ医学等について附属施設所基礎実習で学んだ内容を実習前に確認する。 復習：附属施設所で見学した症例について各自で調べ、power point 等にまとめる。</p>	<p>担当</p>

<p>3、医療面接トレーニング（時間的に余裕のある場合に実施）</p> <p>1）小グループで協力患者または模擬患者相手に実施する。</p> <p>2）学生全体で問題点を指摘し合う。</p> <p>3）教員から改善点の指導を受ける。</p> <p>4、徒手検査、テーピング、ストレッチトレーニング（隔回の実施）</p> <p>1）スポーツ障害等の症例に対する検査を、診察をスムーズに行うように実施する。</p> <p>2）模擬患者を相手に診察から、対処法（テーピング、ストレッチ等）をロールプレイ形式でトレーニングを行う。</p> <p>3）文献検索の方法も合わせて指導する。</p>	<p>割合</p> <p>①60%</p> <p>②40%</p>
--	-----------------------------------

学外見学実習Ⅱ(鍼灸) (Extramural Observation Training II)						
授業科目名	松熊 秀明	担当教員	松熊 秀明、山下 仁、仲西 宏元、大月 隆史			
主担当教員	松熊 秀明	専門科目	DP①④			
科目ナンバリング	SS405	科目区分	曜日・時限			
配当年次	4	開講学期	前期(実習)、後期(実習)			
授業形態	実習	単位数	1			
授業概要	<p>必修・選択</p>					
<p>学外の鍼灸あるいは現代医療の臨床施設を訪問し、見学を行う。学内では得ることのできない緊張感や体験を通じて職業意識を強く持たせる。また、その内容を詳細に記録し、見学した症例と診断治療について調べてレポートで報告する。</p> <p>スポーツ特修コース・教職課程の学生は、特別支援学校実習およびコース長が定める学外施設において実習を行う。</p> <p>一般企業での就業を目指す学生で希望する者は、企業におけるインターンシップ実習を行う。</p> <p>実習は、30時間以上を必須とする。</p>	<p>到達目標</p> <p>臨床現場の雰囲気を感じ取り、臨機応変な判断と言動ができる。</p> <p>患者の苦痛を理解し、医療従事者としてのマラルと使命感を身に付ける。</p> <p>観察した症例を正確に記し、病態や治療効果を冷静に分析して報告できる。</p> <p>スポーツ特修コース・教職課程の学生、及び一般企業におけるインターンシップを履修する者は、各施設における実習を通じ、職業意識を高める。</p>	<p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>1. 疑問点は早期に解決するように積極的に行動すること。</p> <p>2. 態度・姿勢には十分気を付けること。</p>	<p>教科書</p> <p>特になし</p> <p>参考書</p> <p>特になし</p> <p>研究室/オフィスアワー</p> <p>真備4階研究室9、研究室3</p> <p>昼休み随時相談</p> <p>授業展開及び授業計画表</p>	<p>学修内容</p> <p>授業計画</p> <p>1. オリエンテーション</p> <p>1) 注意事項。</p> <p>2) 見学施設の決定。</p> <p>3) 見学施設の決定と実習計画立案。</p> <p>2. 学外見学（前期期間中の定められた曜日または夏期休暇を利用して実施する）</p> <p>1) 決定した見学先の訪問と見学。運時刻は欠席と同等に扱う。</p> <p>2) 見聞したこと、指導を受けたことを詳細に記録する。</p> <p>3. レポート提出</p> <p>1) 見学した症例や治療法について文献を参考にして詳しく調べる。</p> <p>2) レポートを書く。</p> <p>教科書 配付資料 参考書 ?</p> <p>授業の進め方「グループ」ごとに決められた実習施設へ参加する。実習態度と身だしなみ成績評価方法と基準（実習施設からのフィードバック含む）50%</p> <p>レポート50%</p>	<p>予習：患者への対応、四診法について勉強しておくこと。</p> <p>復習：各自症例について内容をまとめ病態を理解すること。</p>	<p>担当</p>

割り当てられた見学実習先での運刻なき参加が必要	
成績評価方法と基準	割合 100%
課題レポートの提出することによって単位の認定を行う。 運刻、欠席は認められない。	

授業科目名		臨床灸実習(鍼灸 A) (Clinical Moxibustion Training)		
主担当教員	松熊 秀明	担当教員	松熊 秀明、大川 祐世	
科目ナンバリング	SS406	科目区分	専門科目	DP①④
配当年次	3	開講学期	前期	水曜1限
授業形態	実習	単位数	1	鍼灸・必修 スポーツ・選択
授業概要				
国家試験に出題された症例に対し、様々な灸法を用いて治療を行う。				
到達目標				
1. 医療者としての自覚と責任ある行動ができる。 2. 様々な灸法を行うことができる。 3. 各種の症例に対し灸治療ができる。 履修上の注意(学生へのメッセージ) 1. 出席を重複する。 2. 授業態度が不良(私語、携帯を見ること等)の者は減点対象とする。 3. 次回行う症例を事前に渡すので、病態と治療部位を調べ、治療部位に取穴できること。 4. 毎回小テスト(病態、治療部位、取穴)を行う。				
教科書				
教科書執筆小委員会「はりきゆう理論」医道の日本社				
参考書				
中村辰三著「お灸入門」医歯薬出版 岡田明三「まるごとお灸百科」医道の日本社 研究室／オフィスアワー 研究室1(棟棟4F)/月曜日3限				
授業展開及び授業計画表				
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当	
1	上肢の症例に対し、透熱灸を行う。	予習：次回行う症例を渡すので、病態および治療部位を考えること。 復習：習った内容をスムーズに行なえるようになるまで、何度も練習すること。	松熊、大川	
2	膝の痛みに対し、知熱灸を行う。	予習：次回行う症例を渡すので、病態および治療部位を考えること。 復習：習った内容をスムーズに行なえるようになるまで、何度も練習すること。	松熊、大川	
3	椎間板ヘルニアに対し、押灸を行う。	予習：次回行う症例を渡すので、病態および治療部位を考えること。 復習：習った内容をスムーズに行なえるようになるまで、何度も練習すること。	松熊、大川	
4	肩の障害に対し、みそ灸を行う。	予習：次回行う症例を渡すので、病態および治療部位を考えること。 復習：習った内容をスムーズに行なえるようになるまで、何度も練習すること。	松熊、大川	
5	大腿部の外側部の痛みとしひれに対し、台座灸を行う。	予習：次回行う症例を渡すので、病態および治療部位を考えること。 復習：習った内容をスムーズに行なえるようになるまで、何度も練習すること。	松熊、大川	
6	過活動膀胱に対し、棒灸を行う。	予習：次回行う症例を渡すので、病態および治療部位を考えること。 復習：習った内容をスムーズに行なえるようになるまで、何度も練習すること。	松熊、大川	
7	上肢の神経麻痺に対し、線香灸または機械灸を行う。	予習：次回行う症例を渡すので、病態および治療部位を考えること。 復習：習った内容をスムーズに行なえるようになるまで、何度も練習すること。	松熊、大川	
8	理学的テスト陽性所見から疾患を考え、薬物灸を行う。	予習：次回行う症例を渡すので、病態および治療部位を考えること。	松熊、大川	

9	右肩関節痛に対し、隔物灸（受講生が用意）を行う。	復習：習った内容をスムーズに行なえるようになるまで、何度も練習すること。 予習：次回行う症例を渡すので、病態および治療部位を考えること。 復習：習った内容をスムーズに行なえるようになるまで、何度も練習すること。	松熊、大川
10	膝のスポーツ障害に対し灸頭鍼を行う。	予習：次回行う症例を渡すので、病態および治療部位を考えること。 復習：習った内容をスムーズに行なえるようになるまで、何度も練習すること。	松熊、大川
11	乗り物酔いに対し、台座灸と箱灸を行う。	予習：次回行う症例を渡すので、病態および治療部位を考えること。 復習：習った内容をスムーズに行なえるようになるまで、何度も練習すること。	松熊、大川
12	肘のスポーツ障害に対し、知熱灸を行う。	予習：次回行う症例を渡すので、病態および治療部位を考えること。 復習：習った内容をスムーズに行なえるようになるまで、何度も練習すること。	松熊、大川
13	小指にシビレに対し、ピワの葉灸を行う。	予習：次回行う症例を渡すので、病態および治療部位を考えること。 復習：習った内容をスムーズに行なえるようになるまで、何度も練習すること。	松熊、大川
14	腰痛・肩こりに対し、これまでに学習した灸法の中から受講者が選び治療をする。	復習：これまでに習った内容をスムーズに行なえるようになるまで、何度も練習すること。 予習：予習した内容を学習すること。 復習：学んだことを実践してみる。	松熊、大川
15	治療法の総括		松熊、大川
成績評価方法と基準			割合
①期末試験			①52%
②小テスト			②48%
4/5以上の出席を必要とする。			

授業科目名	臨床灸実習(鍼灸B) (Clinical Moxibustion Training)		
主担当教員	松熊 秀明	担当教員	松熊 秀明、大川 祐世
科目ナンバリング	SS406	科目区分	ディプロマポリシー 該当項目 DP①④
配当年次	3	開講学期	前期 水曜2限
授業形態	実習	単位数	1 鍼灸・必修 スポーツ・選択
授業概要			
国家試験に出題された症例に対し、様々な灸法を用いて治療を行う。			
到達目標			
1. 医療者としての自覚と責任ある行動ができる。			
2. 様々な灸法を行うことができる。			
3. 各種の症例に対し灸治療ができる。			
履修上の注意(学生へのメッセージ)			
1. 出席を重視する。			
2. 授業態度が不良(私語、携帯を見ること等)の者は減点対象とする。			
3. 次回行う症例を事前に渡すので、病態と治療部位を調べ、治療部位に關しては適切に取穴できること。			
4. 毎回小テスト(病態、治療部位、取穴)を行う。			
教科書			
教科書執筆小委員会「はりきり理論」医道の日本社			
参考書			
中村原三著「お灸入門」医歯薬出版			
岡田明三「まるごとお灸百科」医道の日本社			
研究室/オフィスアワー			
研究室 1(東棟4F)/月曜日3限			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	上肢の症例に対し、透熱灸を行う。	予習：次回行う症例を渡すので、病態および治療部位を考えること。 復習：習った内容をスムーズに行なえるようになるまで、何度も練習すること。	松熊、大川
2	膝の痛みに対し、知熱灸を行う。	予習：次回行う症例を渡すので、病態および治療部位を考えること。 復習：習った内容をスムーズに行なえるようになるまで、何度も練習すること。	松熊、大川
3	椎間板ヘルニアに対し、押灸を行う。	予習：次回行う症例を渡すので、病態および治療部位を考えること。 復習：習った内容をスムーズに行なえるようになるまで、何度も練習すること。	松熊、大川
4	肩の障害に対し、みそ灸を行う。	予習：次回行う症例を渡すので、病態および治療部位を考えること。 復習：習った内容をスムーズに行なえるようになるまで、何度も練習すること。	松熊、大川
5	大腿部の外側部の痛みとしひれに対し、台座灸を行う。	予習：次回行う症例を渡すので、病態および治療部位を考えること。 復習：習った内容をスムーズに行なえるようになるまで、何度も練習すること。	松熊、大川
6	過活動膀胱に対し、棒灸を行う。	予習：次回行う症例を渡すので、病態および治療部位を考えること。 復習：習った内容をスムーズに行なえるようになるまで、何度も練習すること。	松熊、大川
7	上肢の神経麻痺に対し、線香灸または機鍼灸を行う。	予習：次回行う症例を渡すので、病態および治療部位を考えること。 復習：習った内容をスムーズに行なえるようになるまで、何度も練習すること。	松熊、大川
8	理学的テスト陽性所見から疾患を考え、薬物灸を行う。	予習：次回行う症例を渡すので、病態および治療部位を考えること。	松熊、大川

		復習：習った内容をスムーズに行なえるようになるまで、何度も練習すること。 予習：次回行う症例を速く読むこと。 復習：習った内容をスムーズに行なえるようになるまで、何度も練習すること。 予習：次回行う症例を速く読むこと。 復習：習った内容をスムーズに行なえるようになるまで、何度も練習すること。	松熊、大川
9	右肩関節痛に対し、胸物灸（受講生が用意）を行う。	復習：習った内容をスムーズに行なえるようになるまで、何度も練習すること。 予習：次回行う症例を速く読むこと。 復習：習った内容をスムーズに行なえるようになるまで、何度も練習すること。	松熊、大川
10	膝のスポーツ障害に対し灸頭鍼を行う。	復習：習った内容をスムーズに行なえるようになるまで、何度も練習すること。 予習：次回行う症例を速く読むこと。 復習：習った内容をスムーズに行なえるようになるまで、何度も練習すること。	松熊、大川
11	乗り物酔いに対し、台座灸と箱灸を行う。	復習：習った内容をスムーズに行なえるようになるまで、何度も練習すること。 予習：次回行う症例を速く読むこと。 復習：習った内容をスムーズに行なえるようになるまで、何度も練習すること。	松熊、大川
12	肘のスポーツ障害に対し、知熱灸を行う。	復習：習った内容をスムーズに行なえるようになるまで、何度も練習すること。 予習：次回行う症例を速く読むこと。 復習：習った内容をスムーズに行なえるようになるまで、何度も練習すること。	松熊、大川
13	小指にシビレに対し、ピワの葉灸を行う。	復習：習った内容をスムーズに行なえるようになるまで、何度も練習すること。 予習：次回行う症例を速く読むこと。 復習：習った内容をスムーズに行なえるようになるまで、何度も練習すること。	松熊、大川
14	腰痛・肩こりに対し、これまでに学習した灸法の中から受講者が選び治療をする。	復習：習った内容をスムーズに行なえるようになるまで、何度も練習すること。 予習：次回行う症例を速く読むこと。 復習：習った内容をスムーズに行なえるようになるまで、何度も練習すること。	松熊、大川
15	治療法の総括	復習：学んだことを通試してみること。	松熊、大川
成績評価方法と基準			割合
①期末試験			①5%
②小テスト			②4%
4/5以上の出席を必要とする。			

授業科目名	特殊鍼灸治療学(刺絡・通電等)(鍼灸) (Special Acupuncture Treatment【Bloodletti/ Electroacupuncture, etc.】)		
主担当教員	増山 祥子	担当教員	増山 祥子、大川 祐世
科目ナンバリング	SS407	科目区分	ディプロマポリシー 該当項目
配当年次	3	開講学期	後期
授業形態	実習	単位数	1
授業概要	<p>(増山祥子)</p> <p>これまでに学んだ鍼の基礎技法と衛生上の注意点を基本に、低周波鍼通電療法について安全に臨床応用できる技術を修得する。</p> <p>(大川祐世)</p> <p>古来、重要な鍼の手段として用いられてきた刺絡療法について解説する。また、刺絡療法を行う際の衛生操作についても学習し、安全に刺絡療法を行う技術を身につける。</p> <p>到達目標</p> <p>(増山祥子)</p> <p>鍼の臨床上の衛生概念を身につけることができる／頰肩腰背部における安全な刺絡と低周波鍼通電療法を行うことができる</p> <p>(大川祐世)</p> <p>刺絡を取り巻く諸問題について理解する／安全かつ衛生的に刺絡を行うことができる。</p>		
履修上の注意(学生へのメッセージ)			
教科書	<p>(増山祥子)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回目の講義は注意事項について重要な説明となるため、必ず出席をすること。 ・毎回授業の前半にリスクを避けるための重要な事項を説明する。前向きな姿勢で履修すること。 ・1.0回目は総合点に関わるので必ず出席をすること。 <p>(大川祐世)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・刺絡第1回目の授業で、刺絡を実施する際の注意点を含む重要な講義を行ったため、必ず出席すること。 ・実技は不注意によって危険が伴うため、集中して臨むこと。 ・刺絡は出血を伴う技法のため、苦手な方はあらかじめ相談すること。 		
特になし			
参考書			
特になし			
研究室/オフィスアワー			
(増山祥子) 木曜 5 限			
(大川祐世) 火曜 5 限			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	・低周波鍼通電 概要と注意事項（低周波鍼通電機器の操作、適応と注意、作用機序） ・TENS（=transcutaneous electrical nerve stimulation 経皮的末梢神経電気刺激）の体験	予習：これまで学んできた刺絡方法の予習 復習：授業をもとにシラバスの確認	増山
2	前腕の鍼通電テクニック	予習：関連する筋や支配神経、経絡経穴を予習 復習：前回実施した部位の復習	増山
3	腰部の鍼通電テクニック	予習：関連する筋や支配神経、経絡経穴を予習 復習：前回実施した部位の復習	増山
4	頰肩部の鍼通電テクニック	予習：関連する筋や支配神経、経絡経穴を予習 復習：前回実施した部位の復習	増山
5	下腿の鍼通電テクニック 2	予習：関連する筋や支配神経、経絡経穴を予習 復習：前回実施した部位の復習	増山
6	筋パルスと神経パルス	予習：関連する筋や支配神経、経絡経穴を予習 復習：前回実施した部位の復習	増山
7	鍼麻酔、疼痛閾値による鎮痛効果体験	予習：鍼麻酔についての情報収集 復習：前回実施した部位の復習	増山

8	顔面部への鍼通電テクニック	予習：関連する筋や支配神経、経絡穴を予習 復習：前回実施した部位の復習	増山
9	各論	予習：これまで実施した課題について確認 復習：授業をもとにシラバスの確認	増山
10	総論	予習：安全な施術方法についての確認 復習：実施した施術についての自己点検	増山
11	刺絡概論	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにシラバスの確認	大川
12	井穴刺絡①	予習：本講義内容を確認 復習：前回の講義内容の復習	大川
13	井穴刺絡②	予習：本講義内容を確認 復習：前回の講義内容の復習	大川
14	皮膚刺絡①	予習：本講義内容を確認 復習：前回の講義内容の復習	大川
15	皮膚刺絡②	予習：本講義内容を確認 復習：前回の講義内容の復習	大川
成績評価方法と基準			割合
1. 実技試験/筆記試験/受講態度 (増山祥子)			1. 50% 2. 50%
2. 実技試験/受講態度 (大川祐世)			
3. 上記を合算し、60点以上で単位認定とする			
4. 4/5回以上の出席を必要とし、基準を満たした者について試験を実施する			

授業科目名		応用鍼灸治療学Ⅰ(スポーツ総論)(鍼灸) (Applied Acupuncture TreatmentⅠ [Sports in General])	
主担当教員	高崎 雷太	担当教員	高崎 雷太、伊奈 新太郎
科目ナンバリング	SS408	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目 DP①
配当年次	3	開講学期	前期
授業形態	演習	単位数	1
授業概要	スポーツ傷害の整形外科疾患に対して専門的観点から臨床に活用できるように教授する。講義によって臨床に必要な事項について理解を深め、さらに実習によって診察・治療技術を習得する。 内容として、全身各部位のスポーツ傷害のもとに患者の局所的状態および総合的状態に対する基本的な診察と治療が行える能力を習得する。 コンディショニングに関連したストレッチ及び、テーピングを状況に応じた利用ができる事を目的とする。		
到達目標	1. 外傷の知識を習得し説明できる。 2. 代表的なスポーツ傷害における診察手順と病態、鍼灸治療について理解し実践できる。 3. コンディショニングとして、ストレッチおよびテーピングが適切に行える。		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	実習室を使用する際には、清潔な白衣の着用を義務付ける。		
教科書			
授業時に配付する資料			
参考書	東洋医学臨床論 はりきゅう編 公益社団法人東洋療法学校協会 目で見る運動機能検査法 竹内義孝 澤田 書 南江堂		
研究室/オフィスアワー	高崎：4階共同研究室/月曜日～ 金曜日 (不定期なため事前に確認が必要)		
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	オリエンテーション 上肢の解剖 上肢の運動機能特性について 症例(スポーツ) 傷害に対する検査、対処法	予習：頭肩上部の筋・骨格について予習する。 復習：学習した手法と実技は反復練習すること。	
2	上肢の解剖 上肢の運動機能特性について 症例(スポーツ) 傷害に対する鍼灸治療、検査、対処法	予習：シラバスおよび教科内容の確認および代表的なスポーツ傷害について調べる 復習：授業をもとに内容確認 学習した知識を活用した鍼灸治療を、組み立て実践する。	
3	上肢の解剖 上肢の運動機能特性について 症例(スポーツ) 傷害に対する検査、対処法 症例(上肢障害モデル) に対して鍼灸治療・手技・ストレッチ・テーピング・包帯を複合的に実施する。	予習：シラバスおよび教科内容の確認および代表的なスポーツ傷害について調べる 復習：授業をもとに内容確認 学習した知識を活用した鍼灸治療を組み立て実践する。	
4	症例トレーニング1 上肢障害モデルに対して鍼灸治療・手技・ストレッチ・テーピング・包帯を複合的に実施する。	予習：シラバスおよび教科内容の確認および代表的なスポーツ傷害について調べる 復習：授業をもとに内容確認 学習した知識を活用した鍼灸治療を組み立て実践する。	
5	症例トレーニング2 上肢障害モデルに対して鍼灸治療・手技・ストレッチ・テーピング・包帯を複合的に実施する。	予習：臨床における代表的なスポーツ傷害に対するテーピング等の対応を学ぶ 復習：授業をもとに内容確認 学習した知識を活用した鍼灸治療を組み立て実践する。	
6	下肢の解剖(膝部) 下肢の運動機能特性について 症例(スポーツ) 傷害に対する検査、対処法	予習：シラバスおよび教科内容の確認および代表的なスポーツ傷害について調べる 復習：授業をもとに内容確認 学習した知識を活用した鍼灸治療を組み立て実践する。	

7	下肢の解剖 (膝部) 下肢の運動機能特性について 症例 (スポーツ) 傷害に対して鍼灸治療・手技・ストレッチ・テーピング・包帯を複合的に実施する。	予習：シラバスおよび教科内容の確認および代表的なスポーツ傷害に対するテーピング等の対応を学ぶ 復習：授業をもとに内容確認 学習した知識を活用した鍼灸治療を組み立てる 予習：シラバスおよび教科内容の確認および代表的なスポーツ傷害に対するテーピング等の対応を学ぶ 復習：授業をもとに内容確認 学習した知識を活用した鍼灸治療を組み立てる
8	下肢の解剖 (膝部) 下肢の運動機能特性について 症例 (スポーツ) 傷害に対して鍼灸治療・手技・ストレッチ・テーピング・包帯を複合的に実施する。	予習：シラバスおよび教科内容の確認および代表的なスポーツ傷害に対するテーピング等の対応を学ぶ 復習：授業をもとに内容確認 学習した知識を活用した鍼灸治療を組み立てる
9	症例トレーニング3 下肢障害モデルに対して鍼灸治療・手技・ストレッチ・テーピング・包帯を複合的に実施する。	予習：シラバスおよび教科内容の確認および代表的なスポーツ傷害に対するテーピング等の対応を学ぶ 復習：授業をもとに内容確認 学習した知識を活用した鍼灸治療を組み立てる
10	下肢の解剖 (足関節部) 下肢の運動機能特性について 症例 (スポーツ) 傷害に対して鍼灸治療・手技・ストレッチ・テーピング・包帯を複合的に実施する。	予習：臨床における代表的なスポーツ傷害に対するテーピング等の対応を学ぶ 復習：授業をもとに内容確認 学習した知識を活用した鍼灸治療を組み立てる
11	下肢の解剖 (足関節部) 下肢の運動機能特性について 症例 (スポーツ) 傷害に対して鍼灸治療・手技・ストレッチ・テーピング・包帯を複合的に実施する。	予習：臨床における代表的なスポーツ傷害に対するテーピング等の対応を学ぶ 復習：授業をもとに内容確認 学習した知識を活用した鍼灸治療を組み立てる
12	症例トレーニング5 下肢障害モデルに対して鍼灸治療・手技・ストレッチ・テーピング・包帯を複合的に実施する。	予習：臨床における代表的なスポーツ傷害に対するテーピング等の対応を学ぶ 復習：授業をもとに内容確認 学習した知識を活用した鍼灸治療を組み立てる
13	症例トレーニング6 下肢障害モデルに対して鍼灸治療・手技・ストレッチ・テーピング・包帯を複合的に実施する。	予習：臨床における代表的なスポーツ傷害に対するテーピング等の対応を学ぶ 復習：授業をもとに内容確認 学習した知識を活用した鍼灸治療を組み立てる
14	前期授業締め確認 試験対策等	予習：臨床における代表的なスポーツ傷害に対するテーピング等の対応を学ぶ 復習：授業をもとに内容確認 足関節テーピング復習等
15	授業内試験 (症例) に対する処置法、テーピングを実施)	予習：内反捻挫に対するテーピングを反復練習しておくこと 前期実技授業の内容を総合的に評価する

成績評価方法と基準
1. 出席は4/5回以上を必要とし、基準を満たした者について、授業内実技試験を実施する。
2. 総合評価が80点以上で単位認定する。

授業科目名	応用鍼灸治療学Ⅱ (スポーツ各論)(鍼灸) (Applied Acupuncture Treatment II (Detailed Sports))	
主担当教員	高橋 秀郎	担当教員
科目ナンバリング	SS409	専門科目
配当年次	3	開講学期
授業形態	演習	単位数
授業概要	安全かつ計画的に鍼灸師が治療を行うのに必要なスポーツ医学の基本を理解するとともに、スポーツによる傷害の予防法・治療法だけでなく、臨床(整形外科領域)に必要な診察の進め方、アシートのコンディショニング、パフォーマンス向上についての知識・技術の習得およびスポーツ外傷の処置を教授し実技において習得する。また、これからの高齢社会、余暇社会を視野においた時代的な要求に応えられる幅広い知識を深めるため、スポーツ活動が身体にどのような影響を与えるかといった基本的事項をも学習する。	
到達目標	1. スポーツ傷害に必要な知識、特に整形外科領域を習得し説明できる。 2. スポーツ鍼灸に必要な物理療法機器の知識を習得し説明できる。 3. スポーツ外傷の処置の知識を習得し説明できる。 4. スポーツ鍼灸に必要な関連領域の事項について理解し説明できる。	

実習室を使用する際には白衣の着用を義務付ける。 また授業態度の不良な場合は、1回目には注意とし2回目からは成績より減点する。
教科書
授業時に配付する資料
参考書
1. 東洋療法学校協会著<スポーツ東洋療法ハンドブック、医道の日本社> 2. 内田正監修、<標準整形外科学第11版、医学書院> 研究室/オフィス/アワー
共同研究室/月曜日 16:00~18:00、水曜日 16:00~18:00

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	スポーツ領域で用いられる物理療法1 寒冷療法が局所に及ぼす生理的特性について スポーツ領域で用いられる物理療法2 物理療法が競技者にもたらす生理的变化について	予習：RICE処置について調べる 復習：授業をもとに重要事項と配付資料の確認 予習：超音波療法、温熱療法、マイクロ波療法、低周波療法、干渉波療法について調べる 復習：授業をもとに重要事項と配付資料の確認	
2	スポーツ外傷の処置の実際1 整形外科領域 競技者への処置を行う際の留意点 医療安全の観点からの適応の判断	予習：四肢の外傷に対する処置について調べる 復習：授業で実施した実技について技術習得が確実となるように自己練習する	
3	スポーツ外傷の処置の実際2 スポーツ外傷の応急処置の実際 上肢の骨折に対する処置法の実際	予習：ストレッティングについて調べる 復習：授業をもとに重要事項と配付資料の確認 予習：ストレッティングについて調べる 復習：授業をもとに重要事項と配付資料の確認	
4	スポーツ鍼灸に必要な基礎知識1 ストレッティングが局所に及ぼす生理的変化	予習：四肢の外傷に対する処置について調べる 復習：授業で実施した実技について技術習得が確実となるように自己練習する	
5	スポーツ鍼灸に必要な基礎知識2 ストレッティングに対するストレッティングの実際	予習：四肢の外傷に対する処置について調べる 復習：授業で実施した実技について技術習得が確実となるように自己練習する	
6	スポーツ外傷の応急処置の実際3 整形外科領域 上肢の骨折に対する処置法の実際	予習：ストレッティングについて調べる 復習：授業をもとに重要事項と配付資料の確認 予習：ストレッティングについて調べる 復習：授業をもとに重要事項と配付資料の確認	
7	スポーツ外傷の処置の実際4 整形外科領域 下肢の骨折に対する処置法の実際	予習：四肢の外傷に対する応急処置について調べる 復習：授業で実施した実技について技術習得が確実となるように自己練習する	
8	スポーツ外傷の処置の実際5 整形外科領域 四肢の脱臼に対する処置法の実際	予習：四肢の外傷に対する応急処置について調べる 復習：授業で実施した実技について技術習得が確実となるように自己練習する	
9	スポーツ鍼灸に必要な基礎知識3 整形外科領域 適応疾患の判断と治療法の実際	予習：ストレッティングについて調べる 復習：授業をもとに重要事項と配付資料の確認	

10	スポーツ鍼灸に必要な基礎知識 4 可動域制限と鍼灸治療について	予習：ストレッチングについて調べる 復習：授業をもとに重要事項と配付資料の確認	割合
11	スポーツ鍼灸に必要な基礎知識 5 鍼灸治療症例検討	予習：ストレッチングについて調べる 復習：授業をもとに重要事項と配付資料の確認	
12	スポーツ鍼灸に必要な基礎知識 6 鍼灸治療症例検討	予習：ストレッチングについて調べる 復習：授業をもとに重要事項と配付資料の確認	
13	スポーツ鍼灸に必要な基礎知識 5 整形外科領域 四肢の捻挫に対する処置法の実際	予習：軟部組織損傷の応急処置について調べる 復習：授業で実施した実技について技術習得が 確実となるように自己練習する	
14	スポーツ鍼灸に必要な基礎知識 6 整形外科領域 軟部組織損傷から競技復帰までの留意点	予習：軟部組織損傷の応急処置について調べる 復習：授業で実施した実技について技術習得が 確実となるように自己練習する	
15	スポーツ鍼灸に必要な基礎知識 7 整形外科領域 スポーツ障害の治療総合演習	予習：これまでに習ったことを学習する 復習：授業をもとに重要事項と配付資料の確認	
成績評価方法と基準			
1. 出席は4/5回以上を必要とし、基準を満たした者について実技試験を実施する。			
2. 定期試験 100%で評価を行う。但し授業態度が不良の者は減点の対象とする。			
3. 60点以上で単位認定する。			

授業科目名	応用鍼灸治療学Ⅲ(小児・婦人科)(鍼灸) (Applied Acupuncture Treatment III (Pediatric / Gynecological))																																																					
主担当教員	増山 祥子	担当教員 増山 祥子, 中村 真理																																																				
科目ナンバリング	SS410	専門科目 小児・婦人科 該当項目 DP①																																																				
配当年次	4	開講学期 前期 木曜2限																																																				
授業形態	演習	単位数 1 必修・選択 選択																																																				
授業概要	産婦人科鍼灸では、婦人科・産科領域の主症状および代表的疾患を取り上げ、現代医学および東洋医学の両面から症状の発生機序、治療方針、鑑別診断が可能となるように指導すると共に、女性の生理や月経異常、更年期障害、妊娠嘔吐、乳汁分泌不足などの代表的疾患の主症状および疾患に対する鍼灸治療の基本的な技術を教授する。また、小児鍼灸学では、大抵で発達した小児を中心に小児に小児に対する鍼灸治療の基本的な技術を教授する。特に小児に多くみられる疾患についての知識と診察方法を修得することによって、症状が急激に変化する小児に対応できる臨床能力を養う。																																																					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・1~7回 臨床例を教員に裏す必要性を理解する。「美容」「増毛」「不眠」「バスタアツプ」「鍼灸院経営」をテーマに各種弁証を確立し配穴まで理解する。「美容」「増毛」の効果について写真と臨床研究の結果から患者へのプレゼンテーションが実践できる。「美容」を実技にて完成する。「増毛」を高所治療のデモンストラーションにより、理解を深める。「不眠」は弁証を学び、実技をすることにより、臨床能力を高める。(中村真理) ・8~15回 EBMの観点から小児鍼灸および鍼灸婦人科疾患(月経に伴う愁訴、更年期障害、妊娠悪阻、骨盤位、不妊)に対する情報を得ることができる。本領域に関わる国家試験レベルの理解ができる。(増山祥子) 																																																					
履修上の注意(学生へのメッセージ)	東洋医学概論、東洋医学臨床が基礎知識として必要である。特に気血津液弁証、臟腑弁証について理解する必要がある。実技ではお互いに顔面部や頭部に刺激する。授業までに教科書に目を通しておくこと。(中村真理)																																																					
教科書	東洋医学概論 (医道の日本社) 東洋医学臨床論 (医道の日本社)																																																					
参考文献	鍼灸学「基礎編」「経穴編」「随穴編」(東洋学術出版社) 中医学診断学ノート 内山恵子著 (東洋学術出版社) 研究室/オフィスアワー 木曜5限(増山祥子) 授業前後の時間(中村真理)																																																					
授業展開及び授業計画表	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>学修内容</th> <th>予習・復習・課題等</th> <th>担当</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>美容鍼灸</td> <td>予習：気血津液の各々の症状について確認 復習：授業をもとにシラバスの確認</td> <td>中村</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>美容鍼灸(実技・プレゼンテーション)</td> <td>予習：シラバスの確認 復習：前回授業内容の復習</td> <td>中村</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>増毛鍼灸</td> <td>予習：東洋医学臨床論の「脱毛」 復習：前回授業内容の復習</td> <td>中村</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>増毛鍼灸(鍼灸院経営・実技デモンストラーション)</td> <td>予習：シラバスの確認 復習：前回授業内容の復習</td> <td>中村</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>バスタアツプ</td> <td>予習：シラバスの確認 復習：前回授業内容の復習</td> <td>中村</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>不眠</td> <td>予習：東洋医学臨床論の「不眠」 復習：前回授業内容の復習</td> <td>中村</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>不眠弁証と実技</td> <td>予習：シラバスの確認 復習：前回授業内容の復習</td> <td>中村</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>小児領域の鍼灸</td> <td>予習：鍼灸対応の小児疾患について調べる 復習：授業内容の復習</td> <td>増山</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>婦人科 月経周期と女性ホルモンについて～月経に伴う愁訴1</td> <td>予習：女性ホルモンの働きについて 復習：授業内容の復習</td> <td>増山</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>婦人科 月経に伴う愁訴2</td> <td>予習：性成熟期における女性ホルモンの働きについての復習</td> <td>増山</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>婦人科 更年期障害と鍼灸</td> <td>予習：更年期における女性ホルモンの働きについて 復習：授業内容の復習</td> <td>増山</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>婦人科 不妊症と鍼灸</td> <td>予習：シラバスの確認 復習：授業内容の復習</td> <td>増山</td> </tr> </tbody> </table>		回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当	1	美容鍼灸	予習：気血津液の各々の症状について確認 復習：授業をもとにシラバスの確認	中村	2	美容鍼灸(実技・プレゼンテーション)	予習：シラバスの確認 復習：前回授業内容の復習	中村	3	増毛鍼灸	予習：東洋医学臨床論の「脱毛」 復習：前回授業内容の復習	中村	4	増毛鍼灸(鍼灸院経営・実技デモンストラーション)	予習：シラバスの確認 復習：前回授業内容の復習	中村	5	バスタアツプ	予習：シラバスの確認 復習：前回授業内容の復習	中村	6	不眠	予習：東洋医学臨床論の「不眠」 復習：前回授業内容の復習	中村	7	不眠弁証と実技	予習：シラバスの確認 復習：前回授業内容の復習	中村	8	小児領域の鍼灸	予習：鍼灸対応の小児疾患について調べる 復習：授業内容の復習	増山	9	婦人科 月経周期と女性ホルモンについて～月経に伴う愁訴1	予習：女性ホルモンの働きについて 復習：授業内容の復習	増山	10	婦人科 月経に伴う愁訴2	予習：性成熟期における女性ホルモンの働きについての復習	増山	11	婦人科 更年期障害と鍼灸	予習：更年期における女性ホルモンの働きについて 復習：授業内容の復習	増山	12	婦人科 不妊症と鍼灸	予習：シラバスの確認 復習：授業内容の復習	増山
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当																																																			
1	美容鍼灸	予習：気血津液の各々の症状について確認 復習：授業をもとにシラバスの確認	中村																																																			
2	美容鍼灸(実技・プレゼンテーション)	予習：シラバスの確認 復習：前回授業内容の復習	中村																																																			
3	増毛鍼灸	予習：東洋医学臨床論の「脱毛」 復習：前回授業内容の復習	中村																																																			
4	増毛鍼灸(鍼灸院経営・実技デモンストラーション)	予習：シラバスの確認 復習：前回授業内容の復習	中村																																																			
5	バスタアツプ	予習：シラバスの確認 復習：前回授業内容の復習	中村																																																			
6	不眠	予習：東洋医学臨床論の「不眠」 復習：前回授業内容の復習	中村																																																			
7	不眠弁証と実技	予習：シラバスの確認 復習：前回授業内容の復習	中村																																																			
8	小児領域の鍼灸	予習：鍼灸対応の小児疾患について調べる 復習：授業内容の復習	増山																																																			
9	婦人科 月経周期と女性ホルモンについて～月経に伴う愁訴1	予習：女性ホルモンの働きについて 復習：授業内容の復習	増山																																																			
10	婦人科 月経に伴う愁訴2	予習：性成熟期における女性ホルモンの働きについての復習	増山																																																			
11	婦人科 更年期障害と鍼灸	予習：更年期における女性ホルモンの働きについて 復習：授業内容の復習	増山																																																			
12	婦人科 不妊症と鍼灸	予習：シラバスの確認 復習：授業内容の復習	増山																																																			

13	婦人科 国家試験対策・実技	予習：シラバスの確認 復習：授業内容の復習	増山
14	婦人科 産科における鍼灸 1～妊娠悪阻、骨盤位妊娠	予習：妊娠期の女性ホルモン の動きについて 復習：授業内容の復習	増山
15	婦人科 産科における鍼灸 2～総論 体験、実技	予習：シラバスの確認 復習：授業内容の復習	増山
成績評価方法と基準			割合
1. 筆記試験および総合的に評価する (中村真理)			1. 50%
2. 筆記試験および総合的に評価する (増山祥子)			2. 50%
3. 出席は2/3回以上を必要とし、基準を満たした者について試験を実施する。			

授業科目名	応用鍼灸治療学Ⅳ(外科・麻酔科・泌尿器科・耳鼻科・眼科)(鍼灸) (Applied Acupuncture Treatment IV)		
主担当教員	中西 宏元	担当教員	中西 宏元
科目ナンバリング	SS411	科目区分	専門科目
配当年次	4	開講学期	後期
授業形態	演習	単位数	1
授業概要	疼痛性疾患・泌尿器科・耳鼻咽喉科・眼科・皮膚科の主治状および代表疾患を取り上げ、現代医学的および東洋医学的両面から症状の発現機序と鑑別診断を理解する必要がある。さらに各領域の代表疾患および主治状に対する鍼灸治療の基本的な方法と知識を修得し、自ら鍼灸治療の理論を考究する。		
到達目標	応用鍼灸治療学Ⅳは患者の病態と心身状態を把握し、鍼灸医学と西洋医学の特徴を理解し、適切な対応ができる基本的な知識と鍼灸技術と医療人としての態度を身につけることを目標とする。本科目を理解するには関連教科と密接に関連させ、現代医学と鍼灸医学との関連性が理解できる。		
	外科・麻酔科領域では疼痛疾患とその治療法が説明できる。		
	耳鼻咽喉科領域では顔面、鼻、耳、口腔の代表疾患と治療法を説明できる。		
	眼科領域では、眼瞼・結膜、白内障、緑内障、屈折・調節異常などの疾患を理解し、その治療法を説明できる。		
	皮膚科領域では湿疹・脱毛などの疾患と治療法を説明できる。		
	各領域の疾患に対し、適切な治療部位（経穴など）に適切な刺激・施灸技術を身につける。		
	履修上の注意(学生へのメッセージ)		
	1. 配布された講義資料にも目を通すこと。		
	2. 出席は重視する。		
教科書			
配布テキスト			
参考書			
配付資料にて実施する。			
研究室／オフィスアワー			
棟 4階研究室9			
昼休み随時相談			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	疼痛性疾患の鍼灸治療法 1 (外科・麻酔科専門領域の理解)	予習：麻酔科領域での疼痛疾患を考究しておくこと 復習：痛み方の鍼灸治療の仕方について理解しておくこと	
2	疼痛性疾患の鍼灸治療法 2 (顔面痛・三叉神経痛の理解)	予習：三叉神経痛について理解しておくこと 復習：鍼灸治療の仕方について理解しておくこと	
3	耳鼻咽喉科の鍼灸治療 1 (鼻の主治候、鼻閉・鼻汁・くしゃみ)	予習：鼻の構造について。 復習：鼻症状と疾患、鍼灸治療について。	
4	耳鼻咽喉科の鍼灸治療 2 (耳の構造・機能と眩暈・耳鳴・難聴)	予習：耳の構造について。 復習：耳症状と疾患の関連性について。	
5	耳鼻咽喉科の鍼灸治療 3 (顔面神経麻痺の病態と診察法)	予習：顔面神経の病態生理について。 復習：末梢性顔面神経麻痺の鍼灸治療について。	
6	耳鼻咽喉科の鍼灸治療 4 (口腔疾患、口内炎・顎関節症の病態と診察法)	予習：口腔の構造・機能について。 復習：口腔疾患の鍼灸治療について。	
7	皮膚疾患 1 (アトピー性皮膚炎の鍼灸治療)	予習：皮膚の構造機能について。 復習：重要な皮膚疾患の鍼灸治療について。	
8	皮膚疾患 2 (脱毛症の鍼灸治療)	予習：皮膚の構造機能について。 復習：重要な皮膚疾患の鍼灸治療について。	
9	眼科疾患の鍼灸治療 1 (眼の構造と機能、病歴聴取のポイント)	予習：眼の機能と構造。 復習：眼の構造について。	
10	眼科疾患の鍼灸治療 2 (眼瞼疾患の概要、屈折・調節異常、眼精疲労)	予習：眼の屈折・調節機能について。 復習：眼の屈折・調節機能について。	
11	眼科疾患の鍼灸治療 3 (麦粒腫、眼瞼下垂など)	予習：眼瞼部の構造と疾患について。 復習：各疾患の鍼灸治療について。	

12	眼科疾患の鍼灸治療4（結膜・角膜疾患の概要、結膜炎、角膜炎）	予習：結膜・角膜の構造と機能について。 復習：結膜疾患の鍼灸治療法について。
13	眼科疾患の鍼灸治療5（水晶体の疾患、白内障特に老人性白内障）	予習：水晶体の構造について。 復習：白内障の中医学について理解すること。
14	眼科疾患の鍼灸治療6（眼圧と緑内障）	予習：眼圧と網膜について。 復習：緑内障の中医学について。
15	講義全体のまとめ	予習：各科の構造と重要疾患について。 復習：基本的構造と疾患の鍼灸治療について。
成績評価方法と基準		割合
4/5以上の出席を必要とする。		①50%
①レポート、②口頭試験にて評価する。		②50%

授業科目名	応用鍼灸治療学Ⅴ(内科)(鍼灸Ⅳ) (Applied Acupuncture Treatment V【Internal】)		
主担当教員	奥村 裕一	担当教員	奥村 裕一、油谷 真空
科目ナンバリング	SS412	科目区分	専門科目
配当年次	3	開講学期	後期
授業形態	演習	単位数	1
授業概要	これまで学習した鍼灸治療の基礎を十分に理解した上で、応用力を高め、臨床能力を向上させることを目的としている。鍼灸治療には、発展の歴史において様々な理論や技術が構築され、伝えられてきた。本授業は、学生自らが選択して臨床で活躍されておられる先生方から直伝いただくものである。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 東洋医学的診察・診断に必要な知識を再確認する。 東洋医学的診察技術の向上を目指す。 東洋医学的病態の把握能力を高める。 治療計画を立案できる。 刺鍼技術の習得と治療観を養う 		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	<ol style="list-style-type: none"> 四診（望聞問切）合参の意味を認識しながらとりくむ。 それぞれの診察が何に結びつくかを考えながら行う。 体表の反応が微妙に変化することを認識し、デリケートに触れなければならないことを意識しておくこと。 出席、授業態度は重視する。背部が診やすく、肘から手、膝から足先がすぐ確認できる）で受講する。 実技に適した服装（腹部、背部が診やすく、肘から手、膝から足先がすぐ確認できる）で受講する。 医療従事者としての意識を高めた実技にとりくむ。 		
教科書	『体表観察学』藤本運風著 緑書房		
参考書	『体表観察学』藤本運風著 緑書房 『鍼灸舌診アトラス』藤本運風著 緑書房 『胃の気の脈診』藤本運風著 森ノ宮医療学園出版部 研究室／オフィスアワー		
1 階非常勤講師教室/授業の前後のみ対応可能			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	総論 1（体表観察とは）	体表観察学参照	
2	原穴診 1	体表観察学参照	
3	原穴診 2	体表観察学参照	
4	胃の気の脈診	胃の気の脈診を参考／配布資料	
5	背侯診 1	体表観察学参照	
6	背侯診 2	体表観察学参照	
7	体表観察総括	体表観察学参照／配布資料	
8	総論 2（体表観察の復習）	体表観察学参照	
9	刺鍼練習 夢分流腫診 1	体表観察学参照	
10	刺鍼練習 夢分流腫診 2	体表観察学参照	
11	刺鍼練習 体表観察全般 1	体表観察学参照	
12	刺鍼練習 体表観察全般 2	体表観察学参照	
13	刺鍼練習 体表観察から弁証	体表観察学参照	
14	体表観察から弁証・刺鍼治療	配布資料	

15	総復習／実技評価	体表観察学参照／胃の気の脈診参考／配布資料
成績評価方法と基準		
割合		
1.	授業中の技術向上に対する姿勢評価 実技授業に適切に服装で受講すること 授業に関わらない物は、ベツド周りに置かない 授業中の「退出」は、その「理由」を教員に告げて了解を得え、「入室」時も教員に帰ってきたことを必ず報告したのち着席する	1. 20% 2. 80%
2.	実技評価 授業中、実技中は、医療者としてふさわしくない態度や行動をとらない	
3.	4/5以上の出席を必要とする。	

授業科目名	応用鍼灸治療学V(内科)(鍼灸B) (Applied Acupuncture Treatment V【Internal】)		
主担当教員	中野 正得	担当教員	中野 正得、山内 健太郎
科目ナンバリング	SS412	科目区分	ディプロマポリシー 該当項目 DP①
配当年次	3	開講学期	後期 曜日・時限 水曜3限
授業形態	演習	単位数	1
授業概要	<p>1. はじめに 一般社団法人東洋はり医学会関西STYLEによる、『誰でもできる経絡治療』について、理論と実技を手から手への技術指導によって実習する。 その特徴は、 ①痛くない鍼と熱くない灸による治療 ②再現性と客観性のある治療 ③全ての症状は病氣は経絡の変動によって起こるのだから、その変動を整えれば全てが解決するという病理観に基づく治療 これが、(一社) 東洋はり医学会関西STYLE／方式による誰でもできる経絡治療である。</p> <p>2. 経絡治療とは 経絡治療とは、正経十二経と奇経八脈を含む経絡系統の気血の虚実を弁え補瀉調整し、生命力を高め疾病からの回復と予防をはかる最も古い最も新しい日本伝統鍼灸術である。</p> <p>3. 経絡治療の術式 本会が実践している経絡治療は、以下の術式からなる。</p> <p>①「本治法」・・・疾病の根本的原因である主たる変動経絡の気血の虚実を補瀉調整して生命力を強化する術式。鍼灸を含む伝統医学の最高峰に位置する治療法。 ②「補助療法」・・・症状の現れている局所の虚実を補瀉調整して症状の緩和をはかる術式。 ③「補助療法」・・・即効性のある特殊な治療を施さならなる症状の緩和をはかる術式。これには「奇経治療」「子午治療」「ナソ・ムノ治療」「刺絡鍼法」等がある。</p> <p>このように、本・標・補助による三位一体の治療を駆使して、患者を病苦から救うために研究開発されたのが、「東洋はり関西STYLE」の経絡治療である。</p> <p>4. この演習で実習すること ①前半8回(担当：中野正得) 経絡治療の本治法を実習するための理論を学び実習する。 これを行うために、四診法、特に脈診・腹診、証決定、治療法則、補法の基本刺鍼を実習する。 中でも、この演習のメインのひとつである補法の基本刺鍼は、数十年前の医学書に伝承鍼灸研究雑誌として記載されている。この刺鍼を、時空を超えてみんなに伝承できることが何よりの幸せである。 是非楽しんで実習してもらいたい。 毎回公開臨床も行うので乞うご期待。</p> <p>②後半7回(担当：山内健太郎) 経絡治療の標治法と補助療法を実習するための理論を実習する。 特に奇経治療や子午治療は、高遠道路のように即効性があり、臨床だけでなく、鍼灸ポランディア(スポーツイベントでのアシリート)のケアや災害医療における被災者のケア)で活用することができ、治療法として実際に使用できるような理論と実技手法を修得してもらいたい。 後半の最大のメインは奇経治療で、この演習では世界中で大人気の「宮脇奇経治療」の理論を学び実習する。 海外では Miyawaki Style の呼び名で親しまれている。 その特徴は世紀の大発見「奇経腹診」による診察診断にある。 乞うご期待。</p> <p>高随奇経治療 https://harifantsist.amebaownd.com/pages/1267893/page_201709122318</p> <p>全15回の演習では、共通して痛くない鍼と熱くない灸で行う。 痛くなく、熱くなく、怖くなく、人にやさしい安心・安全・完全な鍼灸医療を患者に提供できるように。 その修得を行う。(中野・山内)</p> <p>中野正得：8回 山内健太郎：7回</p>		
到達目標	<p>1. 経絡治療特に本治法が理解でき、実践できる。 2. 証の決定が実践できる。</p>		

3. 脉診・臍診が実践できる。			
4. 補法の臍が実践できる。			
5. 奇経治療が実践できる。			
6. 時代のニーズに合った治療が実践できる。			
履修上の注意(学生へのメッセージ)			
1. 積極的に実習に参加する。			
2. 東洋医学を心得た治療のできる医療人になってほしい。			
3. 様々な患者に対応のできる医療人になる。			
最後に一言			
中野：「みなさんは鍼灸が好きですか。私は大好きです。こんなに素晴らしい職業は他にありません。」			
山内：「みなさんにも是非この素晴らしい職業を体験してもらえよう一杯お伝えします。」			
教科書			
特になし			
資料を配布します			
参考書			
宮脇和登著 よくわかる経絡治療 たにぐら書店			
研究室/オフィスアワー			
質問等はメールにて受け付けます			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	誰でもできる経絡治療／中野正得の公開臨床	予習：経絡治療とは↓ https://hariqifantsist.amebaownd.com/pages/1262184/page_201709110128 復習：経絡治療とは↓	中野正得
2	誰でもできる脉診(みやくしん)／公開臨床	予習：脉診とは↓ https://hariqifantsist.amebaownd.com/pages/1262184/page_201709110128 復習：脈さえあれば自分の脈を診てみる。	中野正得
3	誰でもできる腹診(ふくしん)／公開臨床	予習：臍診とは↓ https://hariqifantsist.amebaownd.com/pages/1262184/page_201709110128 復習：就寝時・起床時に自分のお腹を診てみる。	中野正得
4	誰でもできる証決定と治療法則／公開臨床	予習： https://hariqifantsist.amebaownd.com/pages/1262184/page_201709110128 復習：自分の脈や腹を診て自分なりに証を立ててみる。	中野正得
5	誰でもできる補法の基本刺臍	予習：補法の基本刺臍とは↓ https://youtu.be/MorfMlpulC-g 復習：毎日自分の体、主に大腿部やお腹に臍をして補法の基本刺臍を練習する。自分に痛くなく刺せて初めて人に臍ができる。	中野正得
6	みんなで作ってみよう経絡治療～診察診断から治療まで①／公開臨床	予習：経絡治療の診察診断から治療の流れとは↓ https://hariqifantsist.amebaownd.com/pages/1262184/page_201709110128 復習：経絡治療で自己治療をしてみる。	中野正得
7	みんなで作ってみよう経絡治療～診察診断から治療まで②／公開臨床	予習：経絡治療の診察診断から治療の流れとは↓ https://hariqifantsist.amebaownd.com/pages/1262184/page_201709110128 復習：経絡治療で自己治療をしてみる。	中野正得
8	みんなで作ってみよう経絡治療～診察診断から治療まで③／公開臨床	予習：経絡治療とは↓ https://hariqifantsist.amebaownd.com/pages/1262184/page_201709110128 復習：毎日経絡治療で自己治療をして自分の健康を守る。	中野正得
9	よくわかる奇経治療 基礎理論と実技	予習：奇経/脈の種類 復習：適応症を覚える	山内健太郎
10	よくわかる奇経治療の方法と実習	予習：臍診の注意点 復習：奇経治療の方法を覚える	山内健太郎

11	よくわかる奇経治療の取穴、治療方法と実技	予習：奇経の治療穴を取穴する 復習：特殊な治療穴を覚える	山内健太郎
12	よくわかる奇経治療の診察診断～治療まで	予習：知熱灸施術のやり方 復習：病因・病証を覚える	山内健太郎
13	よくわかる奇経治療の診察診断～治療まで	予習：奇経治療を実際にやってみる 復習：奇経治療の流れを覚える	山内健太郎
14	わかりやすい標治法と子午治療の理論と実習	予習：背筋俞穴、膻中、膻中、膻中を覚える 復習：標治法を実践する	山内健太郎
15	わかりやすい臨床に即した経絡治療の流れと総まとめ	予習：奇経治療・本治法・標治法・補助療法の流れと使用穴、手技を確認する 復習：臨床に即した経絡治療を実践する	山内健太郎
成績評価方法と基準			
1. 口頭試問			
2. 実技テスト			
3. 平常点(授業への参加姿勢等)			
4/5 以上の出席が必要です。			

授業科目名	応用鍼灸治療学Ⅵ(リハビリ・老年)(鍼灸) (Applied Acupuncture Treatment VI【Rehabilitation / Geriatric】)			
主担当教員	高橋 秀郎	担当教員	高橋 秀郎	
科目ナンバリング	SS413	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①
配当年次	4	開講学期	前期	水曜 1 限
授業形態	演習	単位数	1	選択
授業概要	<p>外傷後や老年期に起こりえる身体の動きの不調についての改善策を検討する。歩行を含めた日常生活動作の不調を主訴とした患者の、関節の動きや身体の使い方を観察する。これからの高齢社会、高齢社会を視野においた時代的な要求に応えられる幅広い知識を深めるため、整形外科疾患による身体構造の変化がどのように日常生活に影響するかといった基本的事項等も学習する。</p> <p>到達目標</p> <p>整形外科疾患患者の身体変化を観察できる 関節の動きを観察、評価することができる 歩行訓練、体位変換、可動域訓練の基本的事項を実践できる</p> <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>実技、実演を多用する予定 積極的に実技に参加すること 1. 出席を重視する。 2. 授業態度が不良(私語、携帯を見ること等)の者は減点対象とする。 3. 遅刻の申告、延滞証明の提出は当日に限り有効とする。</p>			
教科書				
標準整形外科学第 11 版	内田淳正 監修 河野邦夫 伊藤隆造 著	医学書院	東洋療法学校協会	
標準整形外科学第 11 版	内田淳正 監修	医学書院		
研究室/オフィスアワー	月曜日、水曜日、金曜日 各曜日 9:00~17:45 但し講義時間以外			
授業展開及び授業計画表				
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当	
1	歩行 歩行サイクルの説明	歩行サイクルの用語について復習する		
2	歩行 歩行の観察	歩行サイクルの用語について復習する		
3	歩行 歩行時の筋活動	歩行サイクルの用語について復習する		
4	頸部疾患 腰痛の原因となる疾患 画像診断 適応の判断	標準整形外科学の学習		
5	腰部疾患 疼痛の発生原因とその対策	標準整形外科学の学習		
6	頸部疾患 適応外の判断と医療安全を考慮した計画	標準整形外科学の学習		
7	頸部疾患 頸部疾患の症状と診断	頸部疾患の特徴の予習		
8	頸部疾患 変形性頸椎症 頸椎ヘルニア 画像診断 適応の判定	頸部の骨格の復習 頸部の軟部組織の復習		
9	頸部疾患 治療の原則 頸椎疾患の及ぼす影響	頸部神経の復習		
10	肩関節疾患 肩関節疾患の鑑別 治療方針の原則	肩関節周囲の解剖 構造の理解		
11	肩関節疾患 肩関節疾患の症状 適応外診断	肩関節周囲の骨格の理解		
12	肩関節疾患 画像診断 安全性を考慮しての可動域訓練	肩関節周囲の構造 軟部組織の構造の理解		

13	膝関節疾患 膝関節疾患とその症状	膝関節の解剖 軟部組織の構造の理解
14	膝関節疾患 膝関節疾患の症状が歩行に与える影響	歩行サイクル 歩容の観察
15	総合演習	総合復習
成績評価方法と基準		
レポートにより評価を行う。		
4/5 以上の出席が必要。		
		割合
		100%

成用鍼灸治療学Ⅶ(物理療法)(鍼灸) (Applied Acupuncture Treatment VII【Physical Medicine】)			
授業科目名	高橋 秀郎	担当教員	高橋 秀郎、松熊 秀明
主担当教員	高橋 秀郎	専門科目	DP①
科目ナンバリング	SS414	科目区分	後期
配当年次	4	開講学期	月曜 2限
授業形態	演習	単位数	1
授業概要	<p>将来臨床現場で扱う可能性の高い物理療法機器の作用機序を学び、実際に使用することによって、機器の使用感や操作方法について学ぶ。</p> <p>到達目標</p> <p>物理療法機器の操作に精通することができる</p> <p>物理療法機器を使用したときの身体の変化について観察することができる</p> <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>実技、実演を多用する予定</p> <p>積極的に実技に参加すること</p> <p>1.出席を重視する。</p> <p>2.授業態度が不良(私語、携帯を見ること等)の者は減点対象とする。</p> <p>教科書</p> <p>特になし。</p> <p>参考書</p> <p>特になし。</p> <p>研究室/オフィスアワー</p> <p>月曜日の3限</p>		
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	オリエンテーション 療養費の支給基準について	講義予定説明	高橋、松熊
2	背部 背柱起立筋の触診 肩甲間部 手技療法	配布資料を熟読すること 講義の重要事項について整理すること	高橋、松熊
3	腰部 腰痛 体幹回旋ストレッチ	配布資料を熟読すること 講義の重要事項について整理すること	高橋、松熊
4	頸部 回旋ストレッチ 頸部の筋触診	配布資料を熟読すること 講義の重要事項について整理すること	高橋、松熊
5	背部 背柱起立筋の触診 肩甲間部 手技療法	配布資料を熟読すること 講義の重要事項について整理すること	高橋、松熊
6	肩関節 肩甲骨周囲筋群 五十肩 腱板断裂	局所解剖と関節構造の理解 手技の復習	高橋、松熊
7	肘関節 肘関節総腱 内反外反ストレステスト 拘縮後療法	局所解剖と関節構造の理解 手技の復習	高橋、松熊
8	手関節 前腕筋群ストレッチ 外側上顆炎 肘筋のアプローチ	局所解剖と関節構造の理解 手技の復習	高橋、松熊
9	手指部 母指球筋 中手筋 触診ストレッチ 手指関節脱臼捻挫	局所解剖と関節構造の理解 手技の復習	高橋、松熊
10	股関節 殿筋群触診 ストレッチ 手技療法	局所解剖と関節構造の理解 手技の復習	高橋、松熊
11	足関節 徒手検査 下腿前面後面 手技療法	局所解剖と関節構造の理解 手技の復習	高橋、松熊
12	物理療法機器について解説 1	局所解剖と関節構造の理解 手技の復習	高橋、松熊
13	物理療法機器について解説 2	局所解剖と関節構造の理解 手技の復習	高橋、松熊
14	物理療法機器について解説 3	局所解剖と関節構造の理解 手技の復習	高橋、松熊
15	物理療法機器について解説 4	局所解剖と関節構造の理解 手技の復習	高橋、松熊

成績評価方法と基準		割合
期末試験(100%)	4/5以上の出席が必要	100%

授業科目名 応用鍼灸治療学Ⅳ(美容・未病)(鍼灸) (Applied Acupuncture Treatment VIII 【Cosmetic / Mibyou】)			
主担当教員	吉田 美智子	担当教員	吉田 美智子
科目ナンバリング	SS415	専門科目	ディプロマコース 該当項目
配当年次	3	開講学期	後期
授業形態	演習	単位数	1
授業概要	必修・選択 選択		
鍼灸施術には古来より疾病の予防効果があるとされ、伝承されてきた施術方法が多数ある。その中よりこの授業では「健康・未病」とテーマにとくに健康増進や生活習慣病の予防的施術方法を主とする。人々が心身共に美しくあるためにはなににもまた健康・未病でなければならぬ。その相違の元に鍼灸療法のみならず運動療法もあわせてその対処療法を学習していく。またその中でも特に欧米で注目されている「美容鍼灸」を中心に講義と実技で展開していく。健康鍼灸方法及び作用機序等について鍼灸の適応範囲を学習する。			
到達目標			
人間の健康と美容に関わる鍼灸学の方法ならびに運動療法、またそれらの効果機序および副作用等の予防等を理解し、最新美容鍼灸技術が実践できる。			
履修上の注意(学生へのメッセージ)			
1. いままで学習してきた鍼灸等を基礎とした上で、さらなる発展のある科目であることを理解すること			
2. 配布された講義資料に目を通すこと			
3. 出席を重視する			
4. 自分自身の健康管理におきかえてこの授業をかんがめること			
5. 疑問点は放置せず、積極的に解決に向けて行動すること			
6. 実技授業には必ず指定された白衣を着用し清潔な身だしなみで受講すること			
教科書			
使用なし			
参考書			
経穴経路学			
研究室/オフィスアワー			
担当授業時間帯 前後			
非常勤講師控え室			
授業展開及び授業計画表			
回数	学習内容	予習・復習・課題等	担当
1	健康と美容：美容鍼灸の現状：欧米の鍼灸事情と歴史より考察	予習：欧米での鍼灸治療の実態、WHOの鍼灸治療適用範囲を調べる 復習：授業をもとに資料を確認	
2	皮膚の構成と機能：表皮・真皮	予習：解剖学の皮膚構成を理解しておくこと 復習：授業をもとに資料を確認	
3	シワ・しみ・たるみ・肌荒れのおこるメカニズムと西洋医学的療法	予習：紫外線の皮膚への影響を調べてくる 復習：細胞活性化させるためシミを引き起こすメカニズムを資料をもとに確認	
4	東洋医学の観点からシワ・しみ・たるみ・肌荒れの原因考察	予習：気血津液の相互関係とその主たる働きを調べておく 復習：授業をもとに資料を確認	
5	東洋医学からの治療アプローチ①	予習：東洋医学五行の働きを確認しておく 復習：授業をもとに資料を確認	
6	東洋医学からの治療アプローチ②	予習：顔面の経路と経穴を理解しておく 復習：授業をもとに資料を確認	
7	美容鍼灸としての治療法の実態	予習：顔面の経穴の取穴部位を確認しておくこと 復習：授業をもとに来週からの実技に向けて横刺の練習しておくこと	
8	美容鍼灸実技①	予習：横刺の意義を理解しておくこと 復習：授業内で実施して横刺の技術法を次回授業までに復習練習しておく	
9	美容鍼灸実技②	予習：顔面の取穴部位を確認しておく 復習：押手圧、刺鍼方向を理解し確認	
10	美容鍼灸実技③	予習：短鍼の種類をしらべしておくこと	

		復習：授業をもとに其々の鍼の取り扱いについて確認 予習：シワにメカニズムについて再度理解しておく 復習：授業をもとに横刺がどの部位にでも施せるように練習する	
11	美容鍼灸実技④	予習：シミ、そばかすのメカニズムを理解しておく 復習：授業をもとに顔面のみならず四肢への刺鍼が早く切皮膚痛なくできるよとに練習する	
12	美容鍼灸実技⑤	予習：全実技授業より未習得と思われる技術を見出し自身への課題を見つける 復習：全実技授業をもとに実技全般を確認	
13	美容鍼灸実技⑥	予習：これまでの美容鍼灸実技についてそれだけの違いを調べておく 復習：この最終授業をもとに資料を確認し各手技について重要と思われる部分を書き留めておく	
14	実技⑦ 実技授業の総まとめとして各手技を実施	予習：顔面刺鍼への要注意事項まとめしておく 復習：全授業をもとに自身の健康について自己評価する	
15	健康と美容について		割合
成績評価方法と基準			
①授業態度 座学、実技時間とも学習意欲を持って積極的な態度で臨むこと			
②鍼灸実技 授業中に行う実技小テスト			
③課題提出物 各目的の美容鍼について手順、使用手技、注意事項 などについてのレポート提出 尚、課題、提出期限、作成方法などの詳細は授業内で説明します			
2/3以上の出席が必要			

介護学概論(鍼灸) (Introduction to Nursing Care)			
授業科目名	担当教員	科目区分	上田 喜敏
主担当教員	上田 喜敏	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目
科目ナンバリング	SS501	開講学期	前期
配当年次	3	単位数	1
授業形態	講義		水曜 3限 必修・選択 選択
授業概要	この授業では、日本の高齢者や障がいのある人々のケアをする意義について理解し、それに基づいた様々な援助技術の基本を理解する。具体的には、介護保険制度、訪問介護などの在宅サービスの内容と目的を理解する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. ケア（介護）について理解することができる。 2. 日本の社会保険制度について理解することができる。 3. 介護保険制度について理解することができる。 4. 高齢者支援の方法について理解することができる。 履修上の注意（学生へのメッセージ） <ol style="list-style-type: none"> 1. 配布した講義資料については事前に読むこと。 2. 疑問点があれば、必ず聞くこと、講義メモをとること。 3. 今まで聞いたことのない用語が出るので復習すること。 4. 講義中の携帯電話はカバンの中にし、内容の盗聴等がある。 5. 授業の進行状況により、内容の変更等がある。 6. 介護に興味を持つよう心がけること。 		
教科書			
配布資料にて実施。			
参考書			
介護支援専門員テキスト			
研究室/オフィスアワー			
研究室 7/毎木曜日午前			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	科目ガイダンスと介護について	復習：授業中のメモと配布資料の確認	
2	日本の社会保険制度 1	復習：授業中のメモと配布資料の確認	
3	日本の社会保険制度 2	復習：授業中のメモと配布資料の確認	
4	介護保険制度 1	復習：授業中のメモと配布資料の確認	
5	介護保険制度 2	復習：授業中のメモと配布資料の確認	
6	介護保険制度 3	復習：授業中のメモと配布資料の確認	
7	介護保険制度 4	復習：授業中のメモと配布資料の確認	
8	高齢者支援展開論 1	復習：授業中のメモと配布資料の確認	
9	高齢者支援展開論 2	復習：授業中のメモと配布資料の確認	
10	高齢者支援展開論 3	復習：授業中のメモと配布資料の確認	
11	高齢者支援展開論 4	復習：授業中のメモと配布資料の確認	
12	高齢者支援展開論 5	復習：授業中のメモと配布資料の確認	
13	高齢者の人権問題	復習：授業中のメモと配布資料の確認	
14	高齢者の身体特性	復習：授業中のメモと配布資料の確認	
15	高齢者の日常生活と介護のまとめ	復習：授業中のメモと配布資料の確認	

成績評価方法と基準	割合
定期試験（100点）の結果、80点以上で単位を認定する。2/3以上の出席が必要。	100%

授業科目名		ケアマネジメント(鍼灸) (Care Management)																																																																	
主担当教員	上田 喜敬	担当教員	上田 喜敬																																																																
科目ナンバリング	SS02	専門科目	ケアマネジメント																																																																
配当年次	3	後期	水曜 5 限																																																																
授業形態	演習	単位数	1																																																																
授業概要	<p>わが国では介護保険制度や総合支援法制度を契機に、「ケアマネジメント」という用語は急速に定着してきた。介護保険制度でのケアマネジメントを理解するとともに、高齢者のニーズについてアセスメントから理解をすすめる。また、高齢者や障害のある人々の介助として車いす介助技術について理解を深めることを学ぶ。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ケアマネジメントの意義と目的について理解する 2. 介護保険下のケアマネジメントを理解する 3. アセスメントを理解する 4. 車いす介助技術を理解する <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 必ず復習はすること(初めての言葉等が多いので) 2. 興味を持つこと 3. 講義中は携帯電話等はカバンに入れること 4. 車いす介助の実技がある(季節により前にする場合あり) <p>教科書</p> <p>なし 配付資料で授業を進めます。</p> <p>参考書</p> <p>福祉キーワードシリーズ ケアマネジメント 白澤政和 渡辺裕美 福富昌城 中央法規 研究室/オフィスアワー 東棟 4 階研究室。随時相談。</p>																																																																		
授業展開及び授業計画表	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>学修内容</th> <th>予習・復習・課題等</th> <th>担当</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション</td> <td>ケアマネジメントの概念と歴史的経緯</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>介護保険でのケアマネジメント</td> <td>講義内容の復習を行う。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>ケアマネジャーの仕事・面接・相談(インテーク)</td> <td>講義内容の復習を行う。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>アセスメント・サービス計画(ケアプラン)の作成</td> <td>講義内容を復習する。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>サービス調整・サービス担当者会議</td> <td>講義内容を復習する。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>モニタリング・給付管理業務</td> <td>講義内容を復習する。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>ケアマネジャーの専門性とケアプラン・サービス取組み事例紹介</td> <td>講義内容を復習する。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>アセスメント方法1</td> <td>講義内容を復習する。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>アセスメント方法2</td> <td>講義内容を復習する。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>アセスメント方法3</td> <td>講義内容を復習する。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>車いすの基本</td> <td>講義内容を復習する。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>車いすの基本技術1</td> <td>講義内容を理解する。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>車いすの基本技術2</td> <td>講義内容を理解する。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>車いすの基本技術3</td> <td>講義内容を理解する。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>ケアマネジメントと鍼灸(まとめ)</td> <td>鍼灸師として福祉領域にどのような関与ができるかについて考えること。</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当	1	オリエンテーション	ケアマネジメントの概念と歴史的経緯		2	介護保険でのケアマネジメント	講義内容の復習を行う。		3	ケアマネジャーの仕事・面接・相談(インテーク)	講義内容の復習を行う。		4	アセスメント・サービス計画(ケアプラン)の作成	講義内容を復習する。		5	サービス調整・サービス担当者会議	講義内容を復習する。		6	モニタリング・給付管理業務	講義内容を復習する。		7	ケアマネジャーの専門性とケアプラン・サービス取組み事例紹介	講義内容を復習する。		8	アセスメント方法1	講義内容を復習する。		9	アセスメント方法2	講義内容を復習する。		10	アセスメント方法3	講義内容を復習する。		11	車いすの基本	講義内容を復習する。		12	車いすの基本技術1	講義内容を理解する。		13	車いすの基本技術2	講義内容を理解する。		14	車いすの基本技術3	講義内容を理解する。		15	ケアマネジメントと鍼灸(まとめ)	鍼灸師として福祉領域にどのような関与ができるかについて考えること。	
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当																																																																
1	オリエンテーション	ケアマネジメントの概念と歴史的経緯																																																																	
2	介護保険でのケアマネジメント	講義内容の復習を行う。																																																																	
3	ケアマネジャーの仕事・面接・相談(インテーク)	講義内容の復習を行う。																																																																	
4	アセスメント・サービス計画(ケアプラン)の作成	講義内容を復習する。																																																																	
5	サービス調整・サービス担当者会議	講義内容を復習する。																																																																	
6	モニタリング・給付管理業務	講義内容を復習する。																																																																	
7	ケアマネジャーの専門性とケアプラン・サービス取組み事例紹介	講義内容を復習する。																																																																	
8	アセスメント方法1	講義内容を復習する。																																																																	
9	アセスメント方法2	講義内容を復習する。																																																																	
10	アセスメント方法3	講義内容を復習する。																																																																	
11	車いすの基本	講義内容を復習する。																																																																	
12	車いすの基本技術1	講義内容を理解する。																																																																	
13	車いすの基本技術2	講義内容を理解する。																																																																	
14	車いすの基本技術3	講義内容を理解する。																																																																	
15	ケアマネジメントと鍼灸(まとめ)	鍼灸師として福祉領域にどのような関与ができるかについて考えること。																																																																	

成績評価方法と基準	
	割合
試験にて評価(100点)、2/3以上の出席が必要	試験 100%

老年ケア演習(鍼灸) (Geriatric Care Seminar)																											
授業科目名	老年ケア演習	小島 賢久	小島 賢久、松熊 秀明、大月 隆史																								
主担当教員	小島 賢久	担当教員	小島 賢久、松熊 秀明、大月 隆史																								
科目ナンバリング	SS510	専門科目	DP①②③④																								
配当年次	3	開講学期	後期																								
授業形態	演習	単位数	1																								
授業概要	<p>はり師きゅう師も高齢者の実態を知り、精神的なケアが必要である。また、鍼灸臨床においては高齢者や障害者に接する機会が少なくないため、介助・介護のあり方および方法の理解は重要である。そこで老年ケア演習では、ベッド、車イスの場合の介護方法と日常生活に必要な食事・排泄・入浴という三つのケアの手順や基本的事項についてシミュレーショントレーニングを交えながら教授する。</p> <p>到達目標</p> <p>施設の雰囲気を感じ取り、随機必要な判断と言動ができる。</p> <p>利用者を理解し、医療従事者としてのモラルと使命感を身に付ける。</p> <p>観察した経験を正確に記し、利用者・スタッフの行動を冷静に分析して報告できる。</p> <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>欠席や遅刻をした場合、単位を認められないことがあります。</p> <p>授業の進め方 学外の施設で実施するので、事前に説明会を行う。</p> <p>グループを決め、グループごとに期間を設け、実施する。</p> <p>教科書</p> <p>配付プリント</p> <p>参考書</p> <p>特になし</p> <p>研究室/オフィスアワー</p> <p>研究室に常駐しています。</p>																										
授業展開及び授業計画表	<p>授業展開及び授業計画表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>学修内容</th> <th>予習・復習・課題等</th> <th>担当</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td> <p>授業計画 1～15回の授業は、特別養護老人ホーム等で1週間の真中した演習を実施する。</p> <p>1. オリエンテーション</p> <p>2. 学外見学</p> <p>・見附きしたこと、指導を受けたことを詳細に記録する。</p> <p>・見学した利用者の状況について文献を参考に詳しく調べる。</p> </td> <td> <p>担当する部門の利用者の状況に応じて必要な知識・技術を予習・復習する。</p> </td> <td>小島賢久</td> </tr> <tr> <td colspan="4">成績評価方法と基準</td> </tr> <tr> <td colspan="4">1. 実習態度 (見学施設からのフィードバック含む)</td> </tr> <tr> <td colspan="4">2. レポート</td> </tr> <tr> <td colspan="4">4/5以上の出席が必要とする。</td> </tr> </tbody> </table>			回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当	1	<p>授業計画 1～15回の授業は、特別養護老人ホーム等で1週間の真中した演習を実施する。</p> <p>1. オリエンテーション</p> <p>2. 学外見学</p> <p>・見附きしたこと、指導を受けたことを詳細に記録する。</p> <p>・見学した利用者の状況について文献を参考に詳しく調べる。</p>	<p>担当する部門の利用者の状況に応じて必要な知識・技術を予習・復習する。</p>	小島賢久	成績評価方法と基準				1. 実習態度 (見学施設からのフィードバック含む)				2. レポート				4/5以上の出席が必要とする。			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当																								
1	<p>授業計画 1～15回の授業は、特別養護老人ホーム等で1週間の真中した演習を実施する。</p> <p>1. オリエンテーション</p> <p>2. 学外見学</p> <p>・見附きしたこと、指導を受けたことを詳細に記録する。</p> <p>・見学した利用者の状況について文献を参考に詳しく調べる。</p>	<p>担当する部門の利用者の状況に応じて必要な知識・技術を予習・復習する。</p>	小島賢久																								
成績評価方法と基準																											
1. 実習態度 (見学施設からのフィードバック含む)																											
2. レポート																											
4/5以上の出席が必要とする。																											

漢方医学各論(鍼灸) (Detailed Kampo Medicine)																																											
授業科目名	漢方医学各論	担当教員	中西 宏元																																								
主担当教員	中西 宏元	専門科目	DP②																																								
科目ナンバリング	SS504	開講学期	前期																																								
配当年次	3	単位数	1																																								
授業形態	講義	単位数	1																																								
授業概要	<p>近年、補完代替医療や統合医療の考えに漢方医学が多く組み込まれている。その結果、多くの医療機関で漢方医学が導入されており、東洋医学の専門家のみならず、医療関係者が漢方医学について知る事は重要となりつつある。漢方医学概論では、漢方医学の歴史、病理学、処方学、診断学を講義する。消化器疾患、呼吸器疾患、婦人科疾患、整形外科疾患、高齢者の疾患、ストレス性疾患、循環器疾患を取り上げ、それぞれ代表的な疾患に対する漢方病理学、診断、治療について講義する。</p> <p>到達目標</p> <p>症例ごとの漢方医学的病態を理解し、適切な対応が出来る。</p> <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>漢方医学概論で学んだ漢方概念を元に、日常的な診療で遭遇する各疾患に対して、漢方医学的な視点を持って診療出来るようになることを希望します。</p> <p>教科書</p> <p>はじめの漢方診療ノート (三浦忠道著、医学書院)</p> <p>はじめの漢方診療症例演習 (三浦忠道監修、医学書院)</p> <p>参考書</p> <p>はじめの漢方診療 十五話 (三浦忠道著、総合診療ブックス、医学書院)</p> <p>症例から学ぶ和漢診療学第3版 (寺澤健年著、医学書院)</p> <p>研究室/オフィスアワー</p> <p>研究室9/在室時</p>																																										
授業展開及び授業計画表	<p>授業展開及び授業計画表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>学修内容</th> <th>予習・復習・課題等</th> <th>担当</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>講師からみた漢方の世界観</td> <td> <p>これまで学んだ漢方概論を復習し、自分なりの漢方概念を確認しておいて下さい。</p> <p>漢方概論のおさらいと、お互いの概念の違いなどをディスカッション出来ればと思います。</p> </td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>和漢診療学とは何か</td> <td> <p>教科書の第2章、第7章、終章を予め読んで来て下さい。</p> <p>漢方医学の科学的解明についての知識を身につけ、漢方といえども、科学的な姿勢を持って診療出来る様にならばと思います。</p> </td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>漢方医学の病態のとなえかた</td> <td> <p>教科書の第3章を予め読んで来て下さい。重要な概念である、気血水、五臟論、陰陽につき、もう一度おさらい致します。</p> </td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>漢方医学の診察法</td> <td> <p>教科書の第4章を予め読んで来て下さい。</p> <p>漢方医学的な診察法につき、改めて実践を交えながら、確認して頂きます。</p> </td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>漢方薬の成り立ちと特徴</td> <td> <p>教科書の第5章を予め読んで来て下さい。</p> <p>基本的かつ重要な処方、生薬についてや、配合の妙などの理解を深めます。</p> </td> <td></td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>冷えと漢方</td> <td> <p>漢方概論とこれまでの講義で概説された理念を症例や疾患に対し、より具体的に説明していきます。</p> <p>「絵でみる和漢診療学」を参考にされることを推奨致します。</p> <p>1 回目は西洋医学では捉えにくい、冷えの症候についての理解を深めます。</p> </td> <td></td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>疲労と漢方</td> <td> <p>2 回目は漢方医学的にみた疲労のメカニズムと対応について理解を深めます。</p> </td> <td></td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>消化器疾患と漢方</td> <td> <p>3 回目は消化管、肝・胆・膵疾患と漢方治療について理解を深めます。</p> </td> <td></td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>呼吸器疾患と漢方</td> <td> <p>4 回目は呼吸器疾患と漢方治療について理解を深めます。</p> </td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当	1	講師からみた漢方の世界観	<p>これまで学んだ漢方概論を復習し、自分なりの漢方概念を確認しておいて下さい。</p> <p>漢方概論のおさらいと、お互いの概念の違いなどをディスカッション出来ればと思います。</p>		2	和漢診療学とは何か	<p>教科書の第2章、第7章、終章を予め読んで来て下さい。</p> <p>漢方医学の科学的解明についての知識を身につけ、漢方といえども、科学的な姿勢を持って診療出来る様にならばと思います。</p>		3	漢方医学の病態のとなえかた	<p>教科書の第3章を予め読んで来て下さい。重要な概念である、気血水、五臟論、陰陽につき、もう一度おさらい致します。</p>		4	漢方医学の診察法	<p>教科書の第4章を予め読んで来て下さい。</p> <p>漢方医学的な診察法につき、改めて実践を交えながら、確認して頂きます。</p>		5	漢方薬の成り立ちと特徴	<p>教科書の第5章を予め読んで来て下さい。</p> <p>基本的かつ重要な処方、生薬についてや、配合の妙などの理解を深めます。</p>		6	冷えと漢方	<p>漢方概論とこれまでの講義で概説された理念を症例や疾患に対し、より具体的に説明していきます。</p> <p>「絵でみる和漢診療学」を参考にされることを推奨致します。</p> <p>1 回目は西洋医学では捉えにくい、冷えの症候についての理解を深めます。</p>		7	疲労と漢方	<p>2 回目は漢方医学的にみた疲労のメカニズムと対応について理解を深めます。</p>		8	消化器疾患と漢方	<p>3 回目は消化管、肝・胆・膵疾患と漢方治療について理解を深めます。</p>		9	呼吸器疾患と漢方	<p>4 回目は呼吸器疾患と漢方治療について理解を深めます。</p>	
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当																																								
1	講師からみた漢方の世界観	<p>これまで学んだ漢方概論を復習し、自分なりの漢方概念を確認しておいて下さい。</p> <p>漢方概論のおさらいと、お互いの概念の違いなどをディスカッション出来ればと思います。</p>																																									
2	和漢診療学とは何か	<p>教科書の第2章、第7章、終章を予め読んで来て下さい。</p> <p>漢方医学の科学的解明についての知識を身につけ、漢方といえども、科学的な姿勢を持って診療出来る様にならばと思います。</p>																																									
3	漢方医学の病態のとなえかた	<p>教科書の第3章を予め読んで来て下さい。重要な概念である、気血水、五臟論、陰陽につき、もう一度おさらい致します。</p>																																									
4	漢方医学の診察法	<p>教科書の第4章を予め読んで来て下さい。</p> <p>漢方医学的な診察法につき、改めて実践を交えながら、確認して頂きます。</p>																																									
5	漢方薬の成り立ちと特徴	<p>教科書の第5章を予め読んで来て下さい。</p> <p>基本的かつ重要な処方、生薬についてや、配合の妙などの理解を深めます。</p>																																									
6	冷えと漢方	<p>漢方概論とこれまでの講義で概説された理念を症例や疾患に対し、より具体的に説明していきます。</p> <p>「絵でみる和漢診療学」を参考にされることを推奨致します。</p> <p>1 回目は西洋医学では捉えにくい、冷えの症候についての理解を深めます。</p>																																									
7	疲労と漢方	<p>2 回目は漢方医学的にみた疲労のメカニズムと対応について理解を深めます。</p>																																									
8	消化器疾患と漢方	<p>3 回目は消化管、肝・胆・膵疾患と漢方治療について理解を深めます。</p>																																									
9	呼吸器疾患と漢方	<p>4 回目は呼吸器疾患と漢方治療について理解を深めます。</p>																																									

10	循環器疾患と漢方	5. 回目は循環器疾患と漢方治療について理解を深めます。	割合 1: 40% 2: 60%
11	腎・泌尿器疾患と漢方	6. 回目は腎・泌尿器疾患と漢方治療について理解を深めます。	
12	産婦人科疾患と漢方	7. 回目は産婦人科疾患と漢方治療について理解を深めます。	
13	神経、精神疾患と漢方	8. 回目は神経、精神疾患と漢方治療について理解を深めます。	
14	整形外科疾患と漢方	9. 回目は整形外科疾患と漢方治療について理解を深めます。	
15	生活習慣病と高齢者医療に対する漢方	最後は現代医療における漢方医学の位置づけについて総合的な理解を深めます。未病、無病息災の概念から、代謝、内分泌疾患を含めた生活習慣病に対する漢方治療の重要性を理解します。特に高齢者では、疾病が様々なで複合していることも多く、高齢者の特徴とこれまで学んで来たこととの応用法について理解を深めます。	
成績評価方法と基準			
1: 単元ごとに小テスト(5問程度)を実施する。評価は40%			
2: 定期試験。評価は60%			

授業科目名	鍼灸のための理学療法学・看護学(鍼灸) (Physical Therapy and Nursing for Acupuncture/Moxibustion)		
主担当教員	鍋田 智之	担当教員	鍋田 智之、角田 晃啓、村上 生美、脇 英彦、小林 貴代
科目ナンバリング	SS506	科目区分	ディプロマポリシー 該当項目 DP①②③④
配当年次	3	開講学期	曜日・時限 火曜 1限 水曜 5限
授業形態	演習	単位数	1
授業概要	必修・選択 必修		
到達目標	各学科において、他学科の連携や知識・技術に触れることを目的に看護学・鍼灸学・作業療法学・臨床検査学および理学療法学を学び、IPW (Interprofessional Work = 専門職連携) を5学科協働で演習形式にて実践する。 各分野の特徴やチーム内での役割とその専門性を学び、その上で看護、鍼灸、作業療法、臨床検査、理学療法法の各分野で共通する疾患や障害を基に、IPWの実践について、討議・経験・学修する。(オムニバス形式/全15回)		
到達目標	到達目標		
	各分野の講義を通じ専門性を理解しつつ、実際の症例を基に IPW を経験し、チーム医療の実践に求められる豊かな感性と倫理観を養う。		
	履修上の注意(学生へのメッセージ)		
	1) 授業中の私語、メールなどには厳しく対処する。 2) 疑問点を大切に自分で調べて解決するように行動すること。 3) 出席は3/5以上を必要とし、その基準を満たした者について成績評価を行う。		
教科書			
資料を配布あり			
参考書			
各自準備すること			
研究室/オフィスアワー			
【角田 晃啓】火・水曜日:17:00-18:00 【村上 生美】火曜日2限:10:40~13:00			

授業展開及び授業計画表	担当
回数	予習・復習・課題等
1	医療系職種の種類①(看護学) 予習:本学看護学科のカリキュラムに目を通し復習:看護の専門性を理解し、鍼灸との接点を理解しておく。 担当:村上
2	医療系職種の種類②(理学療法学) 予習:本学理学療法学科のカリキュラムに目を通しておく。 復習:理学療法法の専門性を理解し、鍼灸との接点を理解しておく。 担当:角田
3	医療系職種の種類③(作業療法学) 予習:本学作業療法学科のカリキュラムに目を通しておく。 復習:作業療法法の専門性を理解し、鍼灸との接点を理解しておく。 担当:横井
4	医療系職種の種類④(臨床検査学) 予習:本学臨床検査学科のカリキュラムに目を通しておく。 復習:臨床検査の専門性を理解し、鍼灸との接点を理解しておく。 担当:脇
5	チーム医療の実践 (各学科教員による Case Conference) 予習:鍼灸師の役割を再確認しておく。 復習:立案したアプローチを各分野に説明できるように準備しておく。 担当:各分野の専門性についての復習をしておく。
6	症例提示におけるアプローチ立案とその考察 ① 予習:鍼灸師の役割を再確認しておく。 復習:立案したアプローチを各分野に説明できるように準備をしておく。 担当:各分野の専門性についての復習をしておく。
7	症例提示におけるアプローチ立案とその考察 ② 予習:鍼灸師の役割を再確認しておく。 復習:立案したアプローチを各分野に説明できるように準備をしておく。 担当:各分野の専門性についての復習をしておく。

8	症例提示におけるアブローチ立案とその考察 ③	予習：鍼灸師の役割を再確認しておく。 復習：立案したアブローチを各分野に説明できるように準備しておく。	
9	症例提示におけるアブローチ立案とその考察 ④	予習：鍼灸師の役割を再確認しておく。 復習：立案したアブローチを各分野に説明できるように準備しておく。	
10	症例提示におけるアブローチ立案とその考察 ⑤	予習：各分野の専門性についての復習をしておく。 復習：IPWで討議したことをまとめておく。	
11	IPW① (11回～14回は4コマ連続)	予習：各分野の専門性についての復習をしておく。 復習：IPWで討議したことをまとめておく。	
12	IPW② (11回～14回は4コマ連続)	予習：各分野の専門性についての復習をしておく。 復習：IPWで討議したことをまとめておく。	
13	IPW③ (11回～14回は4コマ連続)	予習：各分野の専門性についての復習をしておく。 復習：IPWで討議したことをまとめておく。	
14	IPW④ (11回～14回は4コマ連続) プレゼンテーション	予習：IPWで討議したことをまとめておく。 復習：プレゼンテーションの準備。	
15	IPW⑤プレゼンテーションと振り返り	予習：IPWで討議したことをまとめておく。 復習：IPWで発表で得たことをまとめておく。	
成績評価方法と基準			割合
1) レポート			40%
2) [PW] プレゼンテーション (提示するルーブリックに基づき表冊する)			60%
2/3以上の出席を必要とする			

鍼灸総合演習Ⅰ(鍼灸) (Acupuncture/Moxibustion Comprehensive Seminar I)			
授業科目名	鍼田 智之	担当教員	鍼田 智之、辻 涼太、 堀川 奈央、森 盛也
主担当教員	鍼田 智之	科目ナンバリング	SS507
科目ナンバリング	SS507	科目区分	専門科目
配当年次	4	開講学期	前期
授業形態	講義	単位数	4
授業概要	卒業年度を迎えて、これまで学習した事項を整理し、改めて学習することで認識が深まることを目的とする。ここでは、鍼灸臨床を行う上で頻度の高い項目について、「解剖学」「東洋医学概論」「東洋医学臨床論」「経絡経穴学」「リハビリテーション医学」を関連付けて学習する。		
到達目標	3年次までの学習で鍼灸臨床を行う上で重要な知識を再認識したと考える。4年次に改めて学習することで、知識を完成させて卒業後の臨床で活用できる。		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	① 開講される全ての科目において3分の2以上の出席を求める。 ② 自主的かつ計画的に自宅学習を行うこと。 ③ eラーニングを活用すること。 ④ 授業中の許可ない入退室および睡眠は認めない。		
教科書	教科書		
特に指定しない。	特に指定しない。		
参考書	参考書		
東洋療法学校協会編 「解剖学」「生理学」「東洋医学概論」「東洋医学臨床論」「経絡経穴学」「リハビリテーション医学」	東洋療法学校協会編 「解剖学」「生理学」「東洋医学概論」「東洋医学臨床論」「経絡経穴学」「リハビリテーション医学」		
研究室/オフィスアワー	研究室/オフィスアワー		
各教員の指示に従うこと。	各教員の指示に従うこと。		
授業展開及び授業計画表	授業展開及び授業計画表		
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	気血津液弁証 臟腑弁証	予習：気血津液のさまざまな病的状態を確認する。各臟腑の特徴を確認する。 復習：各弁証の特徴的な症状を覚える。臟腑の失調で出現する特徴的な症状を覚える。 予習：経脈痛証について、教科書で予習する。 六経弁証について、教科書で予習しておく。	
2	経脈病証 六経弁証	復習：経脈痛証について、教科書で予習する。 六経弁証について、教科書で予習しておく。 復習：経脈の流注上の症状を確実に覚えてから、その他の症状を覚えていく。授業で習った六経ことの症状を、確実に覚える。 予習：奇経八脈の流注や八絡穴を覚える。内経中に出てくる様々な疾病名は難しい名称が多いため、教科書で予習しておく。	
3	奇経八脈病証 黄帝内経中の疾病	復習：奇経八脈の病証を理解し、覚える。各疾病を理解して覚える。 予習：脈診、腹診、舌診について確認する。 復習：弁証と絡めて覚える。	
4	脈診、腹診、舌診	予習：難経69難について確認する。 復習：難経69難によって導き出される経穴を覚える。	
5	難経69難、難経75難	予習：補瀉の手法を確認する。古代九鍼と古代刺法を確認する。 復習：補瀉の手法を覚える。古代九鍼を3つの分類ごとに覚え、それらを用いて行う古代刺法を覚える。	
6	補瀉の手法 古代鍼法	予習：補瀉の手法を確認する。古代九鍼と古代刺法を確認する。 復習：補瀉の手法を覚える。古代九鍼を3つの分類ごとに覚え、それらを用いて行う古代刺法を覚える。	
7	解剖学の基礎 骨学、筋学(体幹)	毎回、前回の学習分について小テストを行います。復習を怠らないようにしてください。	

8	骨学、筋学（上肢、下肢）	毎回、前回の学習分について小テストを行います。復習を怠らないようにしてください。
9	脈管（心臓）	毎回、前回の学習分について小テストを行います。復習を怠らないようにしてください。
10	脈管（動脈、静脈）	毎回、前回の学習分について小テストを行います。復習を怠らないようにしてください。
11	内臓（消化管、呼吸器）	毎回、前回の学習分について小テストを行います。復習を怠らないようにしてください。
12	内臓（腎臓、生殖器）	毎回、前回の学習分について小テストを行います。復習を怠らないようにしてください。
13	神経系（中枢神経）	毎回、前回の学習分について小テストを行います。復習を怠らないようにしてください。
14	神経系（自律神経）	毎回、前回の学習分について小テストを行います。復習を怠らないようにしてください。
15	血液・心臓	国家試験過去問題の出題傾向を分析してやること 出題率の高い項目は、反復して学習すること
16	血圧、呼吸器の機能	国家試験過去問題の出題傾向を分析してやること 出題率の高い項目は、反復して学習すること
17	消化器の機能、代謝	国家試験過去問題の出題傾向を分析してやること 出題率の高い項目は、反復して学習すること
18	体温、腎機能	国家試験過去問題の出題傾向を分析してやること 出題率の高い項目は、反復して学習すること
19	内分泌、生殖器の機能	国家試験過去問題の出題傾向を分析してやること 出題率の高い項目は、反復して学習すること
20	神経の機能（神経、シナプス、末梢神経） 中枢の機能	国家試験過去問題の出題傾向を分析してやること 出題率の高い項目は、反復して学習すること
21	筋の作用機序、反射	国家試験過去問題の出題傾向を分析してやること 出題率の高い項目は、反復して学習すること
22	感覚器の機能 生体の防御系	国家試験過去問題の出題傾向を分析してやること 出題率の高い項目は、反復して学習すること
23	骨度法	経穴を取るための骨度について予習してください。
24	経絡の流注	経絡の接続や流れを確認する。
25	総経穴の学習	経穴の書き取りテストを実施する。要復習。
26	胸部・腹部の経穴の確認	主に横並びについての学習を行う。小テストなども行うので要復習のこと。
27	経穴に関する解剖学	経穴に關係した局所解剖についての講義。要復習。
28	要穴の学習	要穴について、小テストも複数回行う。要復習。
29	奇経八脈の学習	小テストなども行う。要復習。
30	国家試験過去問題の学習	過去問題で誤った問題についてノートに解説を作成し、1週間以内に出題すること。
成績評価方法と基準		割合
15週で構成される科目が4種類ある。全体で3分の2以上の出席が必要である。		期末評価
学期末評価として6科目によって構成される100問の試験を実施する。60点以上で合格とする。		100%

授業科目名	鍼灸総合演習Ⅱ(鍼灸) (Acupuncture/Moxibustion Comprehensive Seminar II)		
主担当教員	鍋田 智之	担当教員	鍋田 智之、森 優也、 山本 哲也、上野 晃、安部 辰夫
科目ナンバリング	SS508	科目区分	ディプロマポリシー 該当項目
配当年次	4	開講学期	後期
授業形態	講義	単位数	4
授業概要	卒業年次を迎えて、これまで学習した事項を整理し、改めて学習することで認識が深まることを目的とする。ここでは、現代医学を遂行する上で必要な臨床医学に関する知識について、「医療概論」「公衆衛生学」「関係法規」「解剖学」「生理学」「臨床医学」を関連付けて学習する。		
到達目標	3年次までの学習で医学知識および技術を遂行する上で重要な知識を再認識したと考える。4年次に改めて学習することで、知識を完成させて卒業後の臨床で活用できる。		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	履修上の注意(学生へのメッセージ)		
① 開講される全ての科目において3分の2以上の出席を求める。			
② 自主的かつ計画的に自宅学習を行うこと。			
③ e-ラーニングを活用すること。			
④ 授業中の許可ない入退室および睡眠は認めない。			
教科書			
特に指定しない。			
参考書			
東洋療法学校協会編 「医療概論」「公衆衛生学」「関係法規」「解剖学」「臨床医学総論」「臨床医学各論」			
研究室/オフィスアワー			
各教員の指示に従うこと。			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	社会保障制度、医療制度について理解する。医療倫理について理解する。医療関係法規について理解する。	予習：我が国の社会保障制度について調べる。 復習：我が国の法制度について調べる。 復習：配布資料を活用した知識の定着を図る。	
2	あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゆう師等に関する法律を深く理解する。公衆衛生活動の概要を理解する。	予習：関係法規を確認しておく。 復習：関係法規を確認しておく。 予習：予防医学について調べる。食中毒の種類、原因、症状を調べる。 復習：配布資料を活用した知識の定着を図る。	
3	ライフスタイル、食品衛生や運動と健康との関係を理解する。	予習：病理解の病因分類を確認しておく。 復習：病理解の病因分類を確認しておく。 予習：環境と健康① 生活環境と健康② 環境と健康③ 公害、環境問題について理解する。	
4	環境と健康①	予習：労働衛生、精神保健について調べる。 復習：労働衛生、精神保健について調べる。	
5	環境と健康②	予習：母子保健について理解する。 復習：母子保健について理解する。	
6	精神保健、精神障害を理解する。	予習：成人保健および高齢者保健について理解する。 復習：成人保健および高齢者保健について理解する。	
7	母子保健について理解する。	予習：感染症とそれの対策について理解する。 復習：感染症とそれの対策について理解する。	
8	成人保健および高齢者保健について理解する。	予習：消毒法・消毒薬、分析疫学について理解する。 復習：消毒法・消毒薬、分析疫学について理解する。	
9	感染症とそれの対策について理解する。	予習：疫学・疾患各論 診察学・疾患各論	
10	診察学・疾患各論	予習：診察学の方法、神経疾患 復習：診察学の方法、神経疾患	
11	診察学・疾患各論	予習：生命徴候の診察、整形外科疾患 復習：生命徴候の診察、整形外科疾患	

12	診察学・疾患各論 ③局所の診察、循環器、呼吸器疾患	予習：配布課題の解答解説をする。 復習：配布資料を活用した知識の定着を図る。	成績評価方法と基準 開講される全ての科目（分類はオリエンテーションで指定）を総合して3分の2以上の出席を必要とする。 後期に実施される6回の単位認定試験（160問）のうち、当該科目にあたる問題数のうち、以下の条件を必要とする。 ①6回の試験の平均で6割以上 ②1～4の試験で5割以上で、かつ5、6回試験の平均で6割以上 ③あるいは②の条件を満たしたものを合格とする。	
13	診察学・疾患各論 ④全身の診察、内分泌疾患、肝胆膵疾患	予習：配布資料を活用した知識の定着を図る。 復習：配布資料を活用した知識の定着を図る。		
14	診察学・疾患各論 ⑤神経系系の診察、血液・造血器疾患	予習：配布資料を活用した知識の定着を図る。 復習：配布資料を活用した知識の定着を図る。		
15	診察学・疾患各論 ⑥神経系系の診察、膠原病、代謝、栄養疾患	予習：配布資料を活用した知識の定着を図る。 復習：配布資料を活用した知識の定着を図る。		
16	診察学・疾患各論 ⑦運動機能検査、感染症	予習：配布資料を活用した知識の定着を図る。 復習：配布資料を活用した知識の定着を図る。		
17	診察学・疾患各論 ⑧臨床検査法、消化管疾患	予習：配布資料を活用した知識の定着を図る。 復習：配布資料を活用した知識の定着を図る。		
18	診察学・疾患各論 ⑨その他の診察、主な症状の診察法、泌尿器疾患、一般外科	予習：配布資料を活用した知識の定着を図る。 復習：配布資料を活用した知識の定着を図る。		
19	診察学・疾患各論 ⑩主な症状の診察法、麻酔科・耳鼻科疾患、眼科疾患	予習：配布資料を活用した知識の定着を図る。 復習：配布資料を活用した知識の定着を図る。		
20	診察学・疾患各論 ⑪主な症状の診察法、その他の疾患	予習：配布資料を活用した知識の定着を図る。 復習：配布資料を活用した知識の定着を図る。		
21	感覚器系（視覚）	予習：配布資料を活用した知識の定着を図る。 復習：配布資料を活用した知識の定着を図る。		
22	感覚器系（聴覚）	予習：配布資料を活用した知識の定着を図る。 復習：配布資料を活用した知識の定着を図る。		
23	解剖学総合学習	予習：配布資料を活用した知識の定着を図る。 復習：配布資料を活用した知識の定着を図る。		
24	疾病についての基本的考え方、病因	予習：特になし 復習：授業をもとに、教科書の確認		
25	循環障害	予習：特になし 復習：授業をもとに、教科書の確認		
26	退行性病変	予習：特になし 復習：授業をもとに、教科書の確認		
27	進行性病変	予習：特になし 復習：授業をもとに、教科書の確認		
28	植物生理学復習	予習：課題ノートの提出 復習：課題ノートの提出		
29	動物生理学復習	予習：特になし 復習：課題ノートの提出		
30	生理学総合演習	予習：特になし 復習：課題ノートの提出		
成績評価方法と基準				割合
開講される全ての科目（分類はオリエンテーションで指定）を総合して3分の2以上の出席を必要とする。 後期に実施される6回の単位認定試験（160問）のうち、当該科目にあたる問題数のうち、以下の条件を必要とする。 ①6回の試験の平均で6割以上 ②1～4の試験で5割以上で、かつ5、6回試験の平均で6割以上 ③あるいは②の条件を満たしたものを合格とする。				100%

鍼灸総合演習Ⅲ(鍼灸) (Acupuncture/Moxibustion Comprehensive Seminar III)			
授業科目名	鍼田 智之	担当教員	鍼田 智之、松熊 秀明、辻 涼太、高橋 秀帆、堀川 奈央
主担当教員	鍼田 智之	専門科目	DP①
科目ナンバリング	SS509	科目区分	水曜 1限 水曜 2限 水曜 3限 水曜 4限
配当年次	4	開講学期	曜日・時限
授業形態	講義	単位数	4
授業概要	必修・選択 必修		
到達目標	卒業年次を迎えて、これまで学習した事項を整理し、改めて学習することで認識が深まることを目的とする。ここでは、鍼灸臨床を行う上で頻度の高い項目について、「生理学」「東洋医学概論」「東洋医学臨床」「リハビリテーション医学」「経絡穴学」「はり理論、きょうり理論」を関連付けて学習する。特に、「東洋医学臨床」では一般臨床医学およびリハビリテーション医学の融合を図る。		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	3年次までの学習で鍼灸臨床を行う上で重要な知識を再認識したと考える。4年次に改めて学習することで、知識を完成させて卒業後の臨床で活用できる。		
履修される全ての科目において3分の2以上の出席を求める。	① 開講される全ての科目において3分の2以上の出席を求める。		
②自主的かつ計画的に自宅学習を行うこと。	②自主的かつ計画的に自宅学習を行うこと。		
③eラーニングを活用すること。	③eラーニングを活用すること。		
④授業中の許可なく入室および睡眠は認めない。	④授業中の許可なく入室および睡眠は認めない。		
【尾河由清】	東洋医学に少しでも不安があれば、しっかりと取り組むこと		
東洋医学に少しでも不安があれば、しっかりと取り組むこと	東洋医学に少しでも不安があれば、しっかりと取り組むこと		
教科書	新編経絡穴概論、東洋療法学校協会編、医道の日本 新版東洋医学概論、東洋療法学校協会編、医道の日本		
参考書	参考書		
東洋療法学校協会編	東洋療法学校協会編		
「生理学」	「生理学」		
東洋学術出版社	東洋学術出版社		
「鍼灸学（臨床編）」	「鍼灸学（臨床編）」		
研究室/オフィスアワー	研究室/オフィスアワー		
各教員の指示に従うこと。	各教員の指示に従うこと。		
授業展開及び授業計画表	授業展開及び授業計画表		
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	対象の復習	予習：東洋医学概論の振り返り 復習：授業でのキーワードを振り返り、まとめること	辻
2	臓腑病証の復習	予習：臓腑病証の振り返り 復習：授業でのキーワードを振り返り、まとめること	辻
3	東洋医学概論の症例、過去問題の解答	臓腑病証のキーワードを振り返りながら、練習問題のキーワードを確認する。	辻
4	東洋医学臨床論の症例、過去問題の解答	臓腑病証のキーワードを振り返りながら、練習問題のキーワードを確認する。	辻
5	問題作成と解答の反復練習	臓腑病証のキーワードを振り返りながら、練習問題のキーワードを確認する。	辻
6	リハビリテーション/医学総論	予習：特になし 復習：課題ノートの提出	高橋
7	障害の評価	予習：特になし 復習：課題ノートの提出	高橋
8	関節運動、正常歩行	予習：特になし 復習：課題ノートの提出	高橋
9	脳卒中、脊髄損傷のリハビリテーション	予習：特になし 復習：課題ノートの提出	高橋

10	末梢神経障害と装具、閉塞性肺疾患、慢性関節リウマチとリハビリテーション リウマチとリハビリテーションの提出	予習：特になし 復習：課題ノートの提出	高橋
11	ハーキンソン病、切断、膝関節疾患、腰痛疾患のリハビリテーション 復習：課題ノートの提出	予習：特になし 復習：課題ノートの提出	高橋
12	東洋医学臨床論(現代) 頭肩部上肢の疾患と鍼灸治療 復習：課題ノートの提出	予習：特になし 復習：課題ノートの提出	鍋田
13	東洋医学臨床論(現代) 腰下肢の疾患と鍼灸治療 復習：課題ノートの提出	予習：特になし 復習：課題ノートの提出	鍋田
14	東洋医学臨床論(現代) 上肢のスポーツ障害と鍼灸治療 復習：課題ノートの提出	予習：特になし 復習：課題ノートの提出	鍋田
15	東洋医学臨床論(現代) 下肢のスポーツ障害と鍼灸治療 復習：課題ノートの提出	予習：特になし 復習：課題ノートの提出	鍋田
16	東洋医学臨床論(現代) 顔面神経麻痺、三叉神経痛、後頭神経痛と鍼灸治療 復習：課題ノートの提出	予習：特になし 復習：課題ノートの提出	鍋田
17	植物生理学 要点確認 復習：課題ノートの提出	予習：特になし 復習：課題ノートの提出	鍋田
18	動物生理学 要点確認 復習：課題ノートの提出	予習：特になし 復習：課題ノートの提出	鍋田
19	生理学総合演習 予習：特になし 復習：課題ノートの提出	予習：特になし 復習：課題ノートの提出	鍋田
20	五要穴確認 予習：特になし 復習：課題ノートの提出	予習：特になし 復習：課題ノートの提出	辻
21	背部愈穴の確認 予習：特になし 復習：課題ノートの提出	予習：特になし 復習：課題ノートの提出	辻
22	腹部・胸部の経穴の確認 予習：特になし 復習：課題ノートの提出	予習：特になし 復習：課題ノートの提出	辻
23	頭部の経穴の確認 予習：特になし 復習：課題ノートの提出	予習：特になし 復習：課題ノートの提出	辻
24	上腕部・大腿部の経穴の確認 予習：特になし 復習：課題ノートの提出	予習：特になし 復習：課題ノートの提出	辻
25	4択問題をを通して、全経絡・全経穴の確認 予習：特になし 復習：課題ノートの提出	予習：特になし 復習：課題ノートの提出	辻
26	鍼灸の基礎知識 予習：特になし 復習：課題ノートの提出	予習：特になし 復習：課題ノートの提出	松熊
27	リスク管理 予習：特になし 復習：課題ノートの提出	予習：特になし 復習：課題ノートの提出	松熊
28	鍼灸治療の基礎 予習：特になし 復習：課題ノートの提出	予習：特になし 復習：課題ノートの提出	松熊
29	鍼灸療法的一般治療論 予習：特になし 復習：課題ノートの提出	予習：特になし 復習：課題ノートの提出	松熊
30	関連学説 予習：特になし 復習：課題ノートの提出	予習：特になし 復習：課題ノートの提出	松熊
成績評価方法と基準			割合
開講される全ての科目(分類はオリエンテーションで指定)を総合して3分の2以上の出席を必要とする。後期に実施される6回の単位認定試験(160問)のうち、当該科目にあたる問題数のうち、以下の条件を必要とする。 ①6回の試験の平均で6割以上 ②1~4の試験で5割以上で、かつ5、6回試験の平均で6割以上 ③あるいは②の条件を満たしたものを合格とする。			100%

授業科目名	保健医療研究(鍼灸):山下ゼミ (Health Sciences Research)		
主担当教員	山下 仁	担当教員	山下 仁
科目ナンバリング	SS510	科目区分	ディプロマポリシー 該当項目
配当年次	3	開講学期	前期 曜日・時限 後期(木曜3限)
授業形態	演習	単位数	2 必修・選択 必修
授業概要	3年次の1年間、担当教員のゼミに所属して専門分野についての学びを行う。 4年次の選択科目「卒業研究」に繋げる研究活動を行うことも可とする。		
到達目標	1年間の活動内容は、所定の書式を用いて報告書を作成する。		
研究倫理について理解することができる。ゼミでの活動を通して、課題の発見、情報の収集と分析、結果の整理と報告といった一連の活動について、方法を理解する。 課題は担当教員が提示するものから選択するが、独自の課題を発見して担当教員と相談することも可とする。			
1年間の活動内容は、所定の書式を用いて報告書を作成する。			
履修上の注意(学生へのメッセージ)	1. 15単元以上の学習活動が必要とする。開講日、出席必要数などは担当教員の指示に従うこと。 2. 学習内容は担当教員より指示されるが、探求的学習を行うこと。		
教科書			
担当教員の指示に従うこと。			
参考書			
担当教員の指示に従うこと。			
研究室/オフィスアワー			
担当教員の指示に従うこと。			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
	単元1-4は、各ゼミ指導教員によって以下の内容を学科共通で実施する。 ①文献検索指導 ②論文抄読会 ③1名につき1課題を与え、根拠に基づいた報告書提出指導	都度、指示する	
	単元5-15は、ゼミ担当者毎に課題を与えて指導を行う。 後期末にゼミ活動報告書の提出を必須とする。		
成績評価方法と基準		割合	
各担当先生より出題されたテーマについての報告書(レポート)にて評価		レポート 60% 平常の取り 組み40%	

授業科目名		保健医療研究(鍼灸):増山ゼミ (Health Sciences Research)																													
主担当教員	増山 祥子	担当教員	増山 祥子																												
科目ナンバリング	SS510	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目																												
配当年次	3	科目区分	DP①④																												
授業形態	演習	開講学期	前期(集中講義)、 後期(木曜3限)																												
授業概要	2	単位数	必修・選択 必修																												
<p>3年次の1年間、担当教員のゼミに所属して専門分野についての学びを行う。 4年次の選択科目「卒業研究」に繋げる研究活動を行うことも可とする。</p> <p>到達目標</p> <p>研究論理について理解することができる。ゼミでの活動を通じて、課題の発見、情報の収集と分析、結果の整理と報告といった一連の活動について、方法を理解する。 課題は担当教員が提示するものから選択するが、独自の課題を発見して担当教員と相談することも可とする。 1年間の活動内容は、所定の書式を用いて報告書を作成する。</p> <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>1. 15単元以上の学習活動が必要とする。開講日、出席必要数などは担当教員の指示に従うこと。 2. 学習内容は担当教員より指示されるが、探求的学習を行うこと。</p> <p>教科書</p> <p>担当教員の指示に従うこと。</p> <p>参考書</p> <p>担当教員の指示に従うこと。</p> <p>研究室/オフィスアワー</p> <p>担当教員の指示に従うこと。</p> <p>授業展開及び授業計画表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>学修内容</th> <th>予習・復習・課題等</th> <th>担当</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>単元1-4は、各ゼミ指導教員によって以下の内容を学科共通で実施する。 ①文献検索指導 ②論文抄読会 ③1名につき1課題を与え、根拠に基づいた報告書提出指導</td> <td>都度指示する</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>単元5-15は、ゼミ担当者毎に課題を与えて指導を行う。 後期末にゼミ活動報告書の提出を必須とする。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="4">成績評価方法と基準</td> </tr> <tr> <td colspan="4">各担当先生より出題されたテーマについての報告書(レポート)にて評価</td> </tr> <tr> <td colspan="4">割合</td> </tr> <tr> <td colspan="4">100%</td> </tr> </tbody> </table>				回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当		単元1-4は、各ゼミ指導教員によって以下の内容を学科共通で実施する。 ①文献検索指導 ②論文抄読会 ③1名につき1課題を与え、根拠に基づいた報告書提出指導	都度指示する			単元5-15は、ゼミ担当者毎に課題を与えて指導を行う。 後期末にゼミ活動報告書の提出を必須とする。			成績評価方法と基準				各担当先生より出題されたテーマについての報告書(レポート)にて評価				割合				100%			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当																												
	単元1-4は、各ゼミ指導教員によって以下の内容を学科共通で実施する。 ①文献検索指導 ②論文抄読会 ③1名につき1課題を与え、根拠に基づいた報告書提出指導	都度指示する																													
	単元5-15は、ゼミ担当者毎に課題を与えて指導を行う。 後期末にゼミ活動報告書の提出を必須とする。																														
成績評価方法と基準																															
各担当先生より出題されたテーマについての報告書(レポート)にて評価																															
割合																															
100%																															

授業科目名		保健医療研究(鍼灸):綿田ゼミ (Health Sciences Research)																													
主担当教員	綿田 智之	担当教員	綿田 智之																												
科目ナンバリング	SS510	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目																												
配当年次	3	科目区分	DP①④																												
授業形態	演習	開講学期	前期(集中講義)、 後期(木曜3限)																												
授業概要	2	単位数	必修・選択 必修																												
<p>3年次の1年間、担当教員のゼミに所属して専門分野についての学びを行う。 4年次の選択科目「卒業研究」に繋げる研究活動を行うことも可とする。</p> <p>到達目標</p> <p>研究論理について理解することができる。ゼミでの活動を通じて、課題の発見、情報の収集と分析、結果の整理と報告といった一連の活動について、方法を理解する。 課題は担当教員が提示するものから選択するが、独自の課題を発見して担当教員と相談することも可とする。 1年間の活動内容は、所定の書式を用いて報告書を作成する。</p> <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>1. 15単元以上の学習活動が必要とする。開講日、出席必要数などは担当教員の指示に従うこと。 2. 学習内容は担当教員より指示されるが、探求的学習を行うこと。</p> <p>教科書</p> <p>担当教員の指示に従うこと。</p> <p>参考書</p> <p>担当教員の指示に従うこと。</p> <p>研究室/オフィスアワー</p> <p>担当教員の指示に従うこと。</p> <p>授業展開及び授業計画表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>学修内容</th> <th>予習・復習・課題等</th> <th>担当</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>単元1-4は、各ゼミ指導教員によって以下の内容を学科共通で実施する。 ①文献検索指導 ②論文抄読会 ③1名につき1課題を与え、根拠に基づいた報告書提出指導</td> <td>指示された文献を読み込み、内容をまとめて報告できるようにする。</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>単元5-15は、ゼミ担当者毎に課題を与えて指導を行う。 後期末にゼミ活動報告書の提出を必須とする。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="4">成績評価方法と基準</td> </tr> <tr> <td colspan="4">各担当先生より出題されたテーマについての報告書(レポート)にて評価</td> </tr> <tr> <td colspan="4">割合</td> </tr> <tr> <td colspan="4">100%</td> </tr> </tbody> </table>				回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当		単元1-4は、各ゼミ指導教員によって以下の内容を学科共通で実施する。 ①文献検索指導 ②論文抄読会 ③1名につき1課題を与え、根拠に基づいた報告書提出指導	指示された文献を読み込み、内容をまとめて報告できるようにする。			単元5-15は、ゼミ担当者毎に課題を与えて指導を行う。 後期末にゼミ活動報告書の提出を必須とする。			成績評価方法と基準				各担当先生より出題されたテーマについての報告書(レポート)にて評価				割合				100%			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当																												
	単元1-4は、各ゼミ指導教員によって以下の内容を学科共通で実施する。 ①文献検索指導 ②論文抄読会 ③1名につき1課題を与え、根拠に基づいた報告書提出指導	指示された文献を読み込み、内容をまとめて報告できるようにする。																													
	単元5-15は、ゼミ担当者毎に課題を与えて指導を行う。 後期末にゼミ活動報告書の提出を必須とする。																														
成績評価方法と基準																															
各担当先生より出題されたテーマについての報告書(レポート)にて評価																															
割合																															
100%																															

授業科目名		保健医療研究(鍼灸):仲西ゼミ (Health Sciences Research)	
主担当教員	仲西 宏元	担当教員	仲西 宏元
科目ナンバリング	SSS10	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目
配当年次	3	科目区分	DP①④ 前期(集中講義)、 後期(木曜3限)
授業形態	演習	開講学期	曜日・時限
授業概要	2	単位数	必修・選択
<p>3年次の1年間、担当教員のゼミに所属して専門分野についての学びを行う。 4年次の選択科目「卒業研究」に繋げる研究活動を行うことも可とする。</p> <p>到達目標</p> <p>研究倫理について理解することができる。ゼミでの活動を通して、課題の発見、情報の収集と分析、結果の整理と報告といった一連の活動について、方法を理解する。 課題は担当教員が提示するものから選択するが、独自の課題を発見して担当教員と相談することも可とする。 1年間の活動内容は、所定の書式を用いて報告書を作成する。</p> <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>1. 15単元以上の学習活動が必要とする。開講日、出席必要数などは担当教員の指示に従うこと。 2. 学習内容は担当教員より指示されるが、探求的学習を行うこと。</p> <p>教科書</p> <p>担当教員の指示に従うこと。</p> <p>参考書</p> <p>担当教員の指示に従うこと。</p> <p>研究室/オフィスアワー</p> <p>担当教員の指示に従うこと。</p>			
授業展開及び授業計画表		授業展開及び授業計画表	
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
	単元1-4は、各ゼミ指導教員によって以下の内容を学科共通で実施する。 ①文献検索指導 ②論文抄読会 ③1名につき1課題を与え、根拠に基づいた報告書提出指導	単元1-4は、各ゼミ指導教員によって以下の内容を学科共通で実施する。 ①文献検索指導 ②論文抄読会 ③1名につき1課題を与え、根拠に基づいた報告書提出指導	研究テーマに関する文献を収集する。
	単元5-15は、ゼミ担当者毎に課題を与えて指導を行う。 後期末にゼミ活動報告書の提出を必須とする。	単元5-15は、ゼミ担当者毎に課題を与えて指導を行う。 後期末にゼミ活動報告書の提出を必須とする。	
成績評価方法と基準		割合	
各担当先生より出題されたテーマについての報告書(レポート)にて評価		研究活動 50%、 報告書50%	

授業科目名		保健医療研究(鍼灸):中原・老田ゼミ (Health Sciences Research)	
主担当教員	中原 英博	担当教員	中原 英博、老田 肇司
科目ナンバリング	SSS10	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目
配当年次	3	科目区分	DP①④ 前期(集中講義)、 後期(木曜3限)
授業形態	演習	開講学期	曜日・時限
授業概要	2	単位数	必修・選択
<p>3年次の1年間、担当教員のゼミに所属して専門分野についての学びを行う。 4年次の選択科目「卒業研究」に繋げる研究活動を行うことも可とする。</p> <p>到達目標</p> <p>研究倫理について理解することができる。ゼミでの活動を通して、課題の発見、情報の収集と分析、結果の整理と報告といった一連の活動について、方法を理解する。 課題は担当教員が提示するものから選択するが、独自の課題を発見して担当教員と相談することも可とする。 1年間の活動内容は、所定の書式を用いて報告書を作成する。</p> <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>1. 15単元以上の学習活動が必要とする。開講日、出席必要数などは担当教員の指示に従うこと。 2. 学習内容は担当教員より指示されるが、探求的学習を行うこと。</p> <p>教科書</p> <p>担当教員の指示に従うこと。</p> <p>参考書</p> <p>担当教員の指示に従うこと。</p> <p>研究室/オフィスアワー</p> <p>担当教員の指示に従うこと。</p>			
授業展開及び授業計画表		授業展開及び授業計画表	
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
	単元1-4は、各ゼミ指導教員によって以下の内容を学科共通で実施する。 ①文献検索指導 ②論文抄読会 ③1名につき1課題を与え、根拠に基づいた報告書提出指導	単元1-4は、各ゼミ指導教員によって以下の内容を学科共通で実施する。 ①文献検索指導 ②論文抄読会 ③1名につき1課題を与え、根拠に基づいた報告書提出指導	研究テーマに関する文献を収集する。
	単元5-15は、ゼミ担当者毎に課題を与えて指導を行う。 後期末にゼミ活動報告書の提出を必須とする。	単元5-15は、ゼミ担当者毎に課題を与えて指導を行う。 後期末にゼミ活動報告書の提出を必須とする。	
成績評価方法と基準		割合	
各担当先生より出題されたテーマについての報告書(レポート)にて評価		割合 100%	

授業科目名		保健医療研究(鍼灸):安田ゼミ (Health Sciences Research)	
主担当教員	安田 実	担当教員	安田 実
科目ナンバリング	SS510	科目区分	DP①④
配当年次	3	開講学期	前期 後期(木曜3限)
授業形態	演習	単位数	2
授業概要	<p>3年次の1年間、担当教員のゼミに所属して専門分野についての学びを行う。 4年次の選択科目「卒業研究」に繋げる研究活動を行うことも可とする。</p> <p>到達目標</p> <p>研究論理について理解することができる。ゼミでの活動を通じて、課題の発見、情報の収集と分析、結果の整理と報告といった一連の活動について、方法を理解する。 課題は担当教員が提示するものから選択するが、独自の課題を発見して担当教員と相談することも可とする。 1年間の活動内容は、所定の書式を用いて報告書を作成する。</p> <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>1. 15単元以上の学習活動が必要とする。開講日、出席必要数などは担当教員の指示に従うこと。 2. 学習内容は担当教員より指示されるが、探求的学習を行うこと。</p> <p>教科書</p> <p>担当教員の指示に従うこと。</p> <p>参考書</p> <p>担当教員の指示に従うこと。</p> <p>研究室/オフィスアワー</p> <p>担当教員の指示に従うこと。</p>		
授業展開及び授業計画表			
回数	<p>学修内容</p> <p>単元1-4は、各ゼミ指導教員によって以下の内容を学科共通で実施する。 ①文献検索指導 ②論文抄読会 ③1名につき1課題を与え、根拠に基づいた報告書提出指導</p> <p>単元5-15は、ゼミ担当者毎に課題を与えて指導を行う。 後期末にゼミ活動報告書の提出を必須とする。</p>	<p>予習・復習・課題等</p> <p>広く社会事象を知るために、新聞(全国紙)、雑誌(業界の専門雑誌が好ましい)書籍について、具体的な指示があった場合には、その指示を積極的に取り組んでください。</p> <p>本学の就職説明会、企業の主催するインターンシップ、就職合同説明会等、就職活動についての指示があった場合には、積極的に参加してください。</p>	担当
成績評価方法と基準	割合		
各担当先生より出題されたテーマについての報告書(レポート)にて評価	100%		

授業科目名		保健医療研究(鍼灸):井手ロゼミ (Health Sciences Research)	
主担当教員	井手口 範男	担当教員	井手口 範男
科目ナンバリング	SS510	科目区分	DP①④
配当年次	3	開講学期	前期 後期(木曜3限)
授業形態	演習	単位数	2
授業概要	<p>3年次の1年間、担当教員のゼミに所属して専門分野についての学びを行う。 4年次の選択科目「卒業研究」に繋げる研究活動を行うことも可とする。</p> <p>到達目標</p> <p>研究論理について理解することができる。ゼミでの活動を通じて、課題の発見、情報の収集と分析、結果の整理と報告といった一連の活動について、方法を理解する。 課題は担当教員が提示するものから選択するが、独自の課題を発見して担当教員と相談することも可とする。 1年間の活動内容は、所定の書式を用いて報告書を作成する。</p> <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>1. 15単元以上の学習活動が必要とする。開講日、出席必要数などは担当教員の指示に従うこと。 2. 学習内容は担当教員より指示されるが、探求的学習を行うこと。</p> <p>教科書</p> <p>担当教員の指示に従うこと。</p> <p>参考書</p> <p>担当教員の指示に従うこと。</p> <p>研究室/オフィスアワー</p> <p>担当教員の指示に従うこと。</p>		
授業展開及び授業計画表			
回数	<p>学修内容</p> <p>単元1-4は、各ゼミ指導教員によって以下の内容を学科共通で実施する。 ①文献検索指導 ②論文抄読会 ③1名につき1課題を与え、根拠に基づいた報告書提出指導</p> <p>単元5-15は、ゼミ担当者毎に課題を与えて指導を行う。 後期末にゼミ活動報告書の提出を必須とする。</p>	<p>予習・復習・課題等</p> <p>自分のテーマに関しての文献やデータ解析の奉納について議論します。毎回の講義に備えて、準備すること。</p>	担当
成績評価方法と基準	割合		
各担当先生より出題されたテーマについての報告書(レポート)にて評価	100%		

授業科目名		保健医療研究(鍼灸):尾崎ゼミ (Health Sciences Research)	
主担当教員	尾崎 朋文	担当教員	尾崎 朋文
科目ナンバリング	SSS10	専門科目	DP①④
配当年次	3	開講学期	前期(集中講義)、 後期(木曜3限)
授業形態	演習	単位数	2
授業概要			
3年次の1年間、担当教員のゼミに所属して専門分野についての学びを行う。 4年次の選択科目「卒業研究」に繋げる研究活動を行うことも可とする。			
到達目標			
研究倫理について理解することができる。ゼミでの活動を通して、課題の発見、情報の収集と分析、結果の整理と報告といった一連の活動について、方法を理解する。 課題は担当教員が提示するものから選択するが、独自の課題を発見して担当教員と相談することも可とする。 1年間の活動内容は、所定の書式を用いて報告書を作成する。			
履修上の注意(学生へのメッセージ)			
1. 15単元以上の学習活動が必要とする。開講日、出席必要数などは担当教員の指示に従うこと。 2. 学習内容は担当教員より指示されるが、探求的学習を行うこと。			
教科書			
担当教員の指示に従うこと。			
参考書			
担当教員の指示に従うこと。			
研究室/オフィスアワー			
担当教員の指示に従うこと。			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
	単元1-4は、各ゼミ指導教員によって以下の内容を学科共通で実施する。 ①文献検索指導 ②論文抄読会 ③1名につき1課題を与え、根拠に基づいた報告書提出指導	都度指示する	
	単元5-15は、ゼミ担当者毎に課題を与えて指導を行う。 後期末にゼミ活動報告書の提出を必須とする。		
成績評価方法と基準			
各担当先生より出題されたテーマについての報告書(レポート)にて評価			割合
			100%

授業科目名		保健医療研究(鍼灸):松熊ゼミ (Health Sciences Research)	
主担当教員	松熊 秀明	担当教員	松熊 秀明
科目ナンバリング	SSS10	専門科目	DP①④
配当年次	3	開講学期	前期 後期(木曜3限)
授業形態	演習	単位数	2
授業概要			
3年次の1年間、担当教員のゼミに所属して専門分野についての学びを行う。 4年次の選択科目「卒業研究」に繋げる研究活動を行うことも可とする。			
到達目標			
研究倫理について理解することができる。ゼミでの活動を通して、課題の発見、情報の収集と分析、結果の整理と報告といった一連の活動について、方法を理解する。 課題は担当教員が提示するものから選択するが、独自の課題を発見して担当教員と相談することも可とする。 1年間の活動内容は、所定の書式を用いて報告書を作成する。			
履修上の注意(学生へのメッセージ)			
1. 15単元以上の学習活動が必要とする。開講日、出席必要数などは担当教員の指示に従うこと。 2. 学習内容は担当教員より指示されるが、探求的学習を行うこと。			
教科書			
担当教員の指示に従うこと。			
参考書			
担当教員の指示に従うこと。			
研究室/オフィスアワー			
担当教員の指示に従うこと。			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
	単元1-4は、各ゼミ指導教員によって以下の内容を学科共通で実施する。 ①文献検索指導 ②論文抄読会 ③1名につき1課題を与え、根拠に基づいた報告書提出指導	予習：希望する研究内容について考えてくると。必ず資料に基づいて検討すること。 復習：指導教員の指示に従って、具体的なテーマをまとめること。	
	単元5-15は、ゼミ担当者毎に課題を与えて指導を行う。 後期末にゼミ活動報告書の提出を必須とする。	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。 収集したデータを、必要に応じて統計を用いながら解析すること。解析結果を指導教員に報告し、研究目的に対する結果、考察を議論すること。 抄録を作成すること。	
成績評価方法と基準			
各担当先生より出題されたテーマについての報告書(レポート)にて評価			割合
			100%

保健医療研究(鍼灸):大月ゼミ (Health Sciences Research)			
授業科目名	大月 隆史	担当教員	大月 隆史
主担当教員	大月 隆史	専門科目	DP①④
科目ナンバリング	SS510	科目区分	前期(集中講義)、 後期(木曜3限)
配当年次	3	開講学期	前期
授業形態	演習	単位数	2
必修・選択	必修・選択		必修
授業概要	<p>3年次の1年間、担当教員のゼミに所属して専門分野についての学びを行う。 4年次の選択科目「卒業研究」に繋げる研究活動を行うことも可とする。</p>		
到達目標	<p>研究論理について理解することができる。ゼミでの活動を通じて、課題の発見、情報の収集と分析、結果の整理と報告といった一連の活動について、方法を理解する。 課題は担当教員が提示するものから選択するが、独自の課題を発見して担当教員と相談することも可とする。 1年間の活動内容は、所定の書式を用いて報告書を作成する。</p>		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	<p>1. 15単元以上の学習活動が必要とする。開講日、出席必要数などは担当教員の指示に従うこと。 2. 学習内容は担当教員より指示されるが、探求的学習を行うこと。</p>		
教科書			
担当教員の指示に従うこと。			
参考書			
担当教員の指示に従うこと。			
研究室/オフィスアワー			
担当教員の指示に従うこと。			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
	<p>単元1-4は、各ゼミ指導教員によって以下の内容を学科共通で実施する。</p> <p>①文献検索指導 ②論文抄読会 ③1名につき1課題を与え、根拠に基づいた報告書提出指導</p>	都度指示する	
	<p>単元5-15は、ゼミ担当者毎に課題を与えて指導を行う。 後期末にゼミ活動報告書の提出を必須とする。</p>		
成績評価方法と基準			
各担当先生より出題されたテーマについての報告書(レポート)にて評価			
割合			
100%			

保健医療研究(鍼灸):丸丸ゼミ (Health Sciences Research)			
授業科目名	丸丸 泰永	担当教員	丸丸 泰永
主担当教員	丸丸 泰永	専門科目	DP①④
科目ナンバリング	SS510	科目区分	前期(集中講義)、 後期(木曜3限)
配当年次	3	開講学期	前期
授業形態	演習	単位数	2
必修・選択	必修・選択		必修
授業概要	<p>3年次の1年間、担当教員のゼミに所属して専門分野についての学びを行う。 4年次の選択科目「卒業研究」に繋げる研究活動を行うことも可とする。</p>		
到達目標	<p>研究論理について理解することができる。ゼミでの活動を通じて、課題の発見、情報の収集と分析、結果の整理と報告といった一連の活動について、方法を理解する。 課題は担当教員が提示するものから選択するが、独自の課題を発見して担当教員と相談することも可とする。 1年間の活動内容は、所定の書式を用いて報告書を作成する。</p>		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	<p>1. 15単元以上の学習活動が必要とする。開講日、出席必要数などは担当教員の指示に従うこと。 2. 学習内容は担当教員より指示されるが、探求的学習を行うこと。</p>		
教科書			
担当教員の指示に従うこと。			
参考書			
担当教員の指示に従うこと。			
研究室/オフィスアワー			
担当教員の指示に従うこと。			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
	<p>単元1-4は、各ゼミ指導教員によって以下の内容を学科共通で実施する。</p> <p>①文献検索指導 ②論文抄読会 ③1名につき1課題を与え、根拠に基づいた報告書提出指導</p>	都度指示する	
	<p>単元5-15は、ゼミ担当者毎に課題を与えて指導を行う。 後期末にゼミ活動報告書の提出を必須とする。</p>		
成績評価方法と基準			
各担当先生より出題されたテーマについての報告書(レポート)にて評価			
割合			
100%			

授業科目名		保健医療研究(鍼灸):高橋ゼミ (Health Sciences Research)	
主担当教員	高橋 秀郎	担当教員	高橋 秀郎
科目ナンバリング	SSS10	科目区分	専門科目
配当年次	3	開講学期	前期
授業形態	演習	単位数	2
授業概要			
3年次の1年間、担当教員のゼミに所属して専門分野についての学びを行う。 4年次の選択科目「卒業研究」に繋げる研究活動を行うことも可とする。			
到達目標			
研究倫理について理解することができる。ゼミでの活動を通して、課題の発見、情報の収集と分析、結果の整理と報告といった一連の活動について、方法を理解する。 課題は担当教員が提示するものから選択するが、独自の課題を発見して担当教員と相談することも可とする。 1年間の活動内容は、所定の書式を用いて報告書を作成する。			
履修上の注意(学生へのメッセージ)			
1. 15単元以上の学習活動が必要とする。開講日、出席必要数などは担当教員の指示に従うこと。 2. 学習内容は担当教員より指示されるが、探求的学習を行うこと。			
教科書			
担当教員の指示に従うこと。			
参考書			
担当教員の指示に従うこと。			
研究室/オフィスアワー			
担当教員の指示に従うこと。			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
	単元1-4は、各ゼミ指導教員によって以下の内容を学科共通で実施する。 ①文献検索指導 ②論文抄読会 ③1名につき1課題を与え、根拠に基づいた報告書提出指導	文獻検索方法の確認	
	単元5-15は、ゼミ担当者毎に課題を与えて指導を行う。 後期末にゼミ活動報告書の提出を必須とする。		
成績評価方法と基準			
各担当先生より出題されたテーマについての報告書(レポート)にて評価			
			割合
			100%

授業科目名		保健医療研究(鍼灸):高崎ゼミ (Health Sciences Research)	
主担当教員	高崎 雷太	担当教員	高崎 雷太
科目ナンバリング	SSS10	科目区分	専門科目
配当年次	3	開講学期	前期
授業形態	演習	単位数	2
授業概要			
3年次の1年間、担当教員のゼミに所属して専門分野についての学びを行う。 4年次の選択科目「卒業研究」に繋げる研究活動を行うことも可とする。			
到達目標			
研究倫理について理解することができる。ゼミでの活動を通して、課題の発見、情報の収集と分析、結果の整理と報告といった一連の活動について、方法を理解する。 課題は担当教員が提示するものから選択するが、独自の課題を発見して担当教員と相談することも可とする。 1年間の活動内容は、所定の書式を用いて報告書を作成する。			
履修上の注意(学生へのメッセージ)			
1. 15単元以上の学習活動が必要とする。開講日、出席必要数などは担当教員の指示に従うこと。 2. 学習内容は担当教員より指示されるが、探求的学習を行うこと。			
教科書			
担当教員の指示に従うこと。			
参考書			
担当教員の指示に従うこと。			
研究室/オフィスアワー			
担当教員の指示に従うこと。			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
	単元1-4は、各ゼミ指導教員によって以下の内容を学科共通で実施する。 ①文献検索指導 ②論文抄読会 ③1名につき1課題を与え、根拠に基づいた報告書提出指導	①研究に関する論文の検索 ②研究ノートへの纏め等を行う	
	単元5-15は、ゼミ担当者毎に課題を与えて指導を行う。 後期末にゼミ活動報告書の提出を必須とする。		
成績評価方法と基準			
各担当先生より出題されたテーマについての報告書(レポート)にて評価			
			割合
			100%

保健医療研究(鍼灸):辻ゼミ (Health Sciences Research)			
授業科目名	辻 涼太	担当教員	辻 涼太
主担当教員	辻 涼太	専門科目	DP①④
科目ナンバリング	SS510	科目区分	前期(集中講義)、 後期(木曜3限)
配当年次	3	開講学期	前期
授業形態	演習	単位数	2
必修・選択	必修・選択		必修
授業概要	<p>3年次の1年間、担当教員のゼミに所属して専門分野についての学びを行う。 4年次の選択科目「卒業研究」に繋げる研究活動を行うことも可とする。</p>		
到達目標	<p>研究論理について理解することができる。ゼミでの活動を通じて、課題の発見、情報の収集と分析、結果の整理と報告といった一連の活動について、方法を理解する。 課題は担当教員が提示するものから選択するが、独自の課題を発見して担当教員と相談することも可とする。 1年間の活動内容は、所定の書式を用いて報告書を作成する。</p>		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	<p>1. 15単元以上の学習活動が必要とする。開講日、出席必要数などは担当教員の指示に従うこと。 2. 学習内容は担当教員より指示されるが、探求的学習を行うこと。</p>		
教科書			
担当教員の指示に従うこと。			
参考書			
担当教員の指示に従うこと。			
研究室/オフィスアワー			
担当教員の指示に従うこと。			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
	<p>単元1-4は、各ゼミ指導教員によって以下の内容を学科共通で実施する。</p> <p>①文献検索指導 ②論文抄読会 ③1名につき1課題を与え、根拠に基づいた報告書提出指導</p>	都度指示する	
	<p>単元5-15は、ゼミ担当者毎に課題を与えて指導を行う。 後期末にゼミ活動報告書の提出を必須とする。</p>		
成績評価方法と基準			
各担当先生より出題されたテーマについての報告書(レポート)にて評価			
割合			
100%			

保健医療研究(鍼灸):堀川ゼミ (Health Sciences Research)			
授業科目名	堀川 奈央	担当教員	堀川 奈央
主担当教員	堀川 奈央	専門科目	DP①④
科目ナンバリング	SS510	科目区分	前期(集中講義)、 後期(木曜3限)
配当年次	3	開講学期	前期
授業形態	演習	単位数	2
必修・選択	必修・選択		必修
授業概要	<p>3年次の1年間、担当教員のゼミに所属して専門分野についての学びを行う。 4年次の選択科目「卒業研究」に繋げる研究活動を行うことも可とする。</p>		
到達目標	<p>研究論理について理解することができる。ゼミでの活動を通じて、課題の発見、情報の収集と分析、結果の整理と報告といった一連の活動について、方法を理解する。 課題は担当教員が提示するものから選択するが、独自の課題を発見して担当教員と相談することも可とする。 1年間の活動内容は、所定の書式を用いて報告書を作成する。</p>		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	<p>1. 15単元以上の学習活動が必要とする。開講日、出席必要数などは担当教員の指示に従うこと。 2. 学習内容は担当教員より指示されるが、探求的学習を行うこと。</p>		
教科書			
担当教員の指示に従うこと。			
参考書			
担当教員の指示に従うこと。			
研究室/オフィスアワー			
担当教員の指示に従うこと。			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
	<p>単元1-4は、各ゼミ指導教員によって以下の内容を学科共通で実施する。</p> <p>①文献検索指導 ②論文抄読会 ③1名につき1課題を与え、根拠に基づいた報告書提出指導</p>	都度指示する	
	<p>単元5-15は、ゼミ担当者毎に課題を与えて指導を行う。 後期末にゼミ活動報告書の提出を必須とする。</p>		
成績評価方法と基準			
各担当先生より出題されたテーマについての報告書(レポート)にて評価			
割合			
100%			

卒業研究(鍼灸・鍼灸東洋系(松熊)) (Graduation Research)			
授業科目名	松熊 秀明	担当教員	松熊 秀明
主担当教員	SSS11	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目
科目ナンバリング	4	科目区分	前期(金曜5限)、 後期(金曜5限)
配当年次	演習	開講学期	曜日・時限
授業形態	2	単位数	必修・選択 選択
<p>授業概要</p> <p>鍼灸学科教員が担当するセミナーに所属し、指導教員の指示に従って研究活動を行い、卒業論文を作成する。情報を収集し、批判的吟味を経て情報の質を評価し、研究計画を立案作成する。計画に基づいてデータ収集を行い、分析・評価を経て論文としてまとめる。これらの一連の過程を経ることによって、社会人として求められる情報を精査し、計画・立案する能力を修得する。成果は報告書(抄録)として提出し、報告集として印刷される。</p> <p>【指導教員とテーマ】</p> <p>尾崎明文(教授)：安全な鍼灸と小児鍼に関する実験的研究 辻 涼太(講師)：東洋医学的治療の研究(筋課題・経絡治療など)</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> ①研究倫理について理解することができる。 ②指導教員の指示に従って、関連領域の知識・技術を修得できる。 ③関連文献の収集に関する方法を修得できる。 ④関連文献を批判的に吟味し、情報の質を評価できる。 ⑤質の高い方法論を用いて、データの収集・分析ができる。 ⑥論理的な文章構成を用いて論文を作成できる。 <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <ol style="list-style-type: none"> ①ゼミの指導教員の指示に従って、30 単位以上の活動を行ってください。 ②指導教員 1 名につき、所属できるゼミ生は最大 4 名とします。 ③規定に従って、論文および報告書の提出をしてください。 ④研究計画書を作成し、学術研究委員会承認審査部会の承認を得て実施すること。 ⑤研究倫理を遵守すること。 <p>教科書</p> <p>指導教員の指示に従う。</p> <p>参考書</p> <p>指導教員の指示に従う。</p> <p>研究室/オフィスアワー</p> <p>指導教員の指示に従う。</p> <p>授業展開及び授業計画表</p>			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	研究テーマの協議	予習：希望する研究内容について考えてくると。必ず資料に基づいて検討すること。 復習：指導教員の指示に従って、具体的なテーマをまとめること。	尾崎、辻、堀川
2	文献検索	テーマに応じてキーワードを決定し、指定された検索サイトを利用して学術論文の収集を行う。	尾崎、辻、堀川
3	文献検索	テーマに応じてキーワードを決定し、指定された検索サイトを利用して学術論文の収集を行う。	尾崎、辻、堀川
4	論文抄読会	収集した文献を熟読し、要点をまとめたレポートを作成すること。	尾崎、辻、堀川
5	論文抄読会	収集した文献を熟読し、要点をまとめたレポートを作成すること。	尾崎、辻、堀川
6	データベースの作成	収集した文献に番号を付け、PC を用いてデータベースを作成すること。	尾崎、辻、堀川
7	研究計画の作成	研究計画を作成すること。	尾崎、辻、堀川
8	研究計画の作成。倫理委員会提出書類の作成。	研究計画を作成すること。	尾崎、辻、堀川

9	備品・消耗品の発注。研究機材の確保。研究環境の整備。	研究環境の整備。対象の確保。	研究環境を整備する上で必要な事項を整理すること。	尾崎、辻、堀川
10	研究対象の整備。対象の確保。	研究対象の整備を行うこと。	研究対象の整備を行うこと。	尾崎、辻、堀川
11	データ収集	倫理委員会承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	倫理委員会承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	尾崎、辻、堀川
12	データ収集	倫理委員会承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	倫理委員会承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	尾崎、辻、堀川
13	データ収集	倫理委員会承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	倫理委員会承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	尾崎、辻、堀川
14	データ収集	倫理委員会承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	倫理委員会承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	尾崎、辻、堀川
15	データ収集	倫理委員会承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	倫理委員会承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	尾崎、辻、堀川
16	データ収集	倫理委員会承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	倫理委員会承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	尾崎、辻、堀川
17	データ収集	倫理委員会承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	倫理委員会承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	尾崎、辻、堀川
18	データ収集	倫理委員会承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	倫理委員会承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	尾崎、辻、堀川
19	データ収集	倫理委員会承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	倫理委員会承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	尾崎、辻、堀川
20	データ収集	倫理委員会承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	倫理委員会承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	尾崎、辻、堀川
21	データ整理	収集したデータを、表管理ソフトなどを活用して整理する。	収集したデータを、表管理ソフトなどを活用して整理する。	尾崎、辻、堀川
22	データ整理	収集したデータを、表管理ソフトなどを活用して整理する。	収集したデータを、表管理ソフトなどを活用して整理する。	尾崎、辻、堀川
23	データ解析	収集したデータを、必要に応じて統計を用いながら解析する。	収集したデータを、必要に応じて統計を用いながら解析する。	尾崎、辻、堀川
24	データ解析	収集したデータを、必要に応じて統計を用いながら解析する。解析結果を指導教員に報告し、研究目的に対する結果、考察を議論する。	収集したデータを、必要に応じて統計を用いながら解析する。解析結果を指導教員に報告し、研究目的に対する結果、考察を議論する。	尾崎、辻、堀川
25	卒業研究報告会準備	報告用のパワーポイントを作成する。	報告用のパワーポイントを作成する。	尾崎、辻、堀川
26	卒業研究報告会準備	報告用のパワーポイントを作成する。	報告用のパワーポイントを作成する。	尾崎、辻、堀川
27	卒業研究報告会(ゼミ内)	報告用のパワーポイントを作成し、既定の時間内で発表および質疑応答を行う。	報告用のパワーポイントを作成し、既定の時間内で発表および質疑応答を行う。	尾崎、辻、堀川
28	卒業論文作成	報告会での指摘事項を受けて、論文を作成する。	報告会での指摘事項を受けて、論文を作成する。	尾崎、辻、堀川
29	卒業論文作成	報告会での指摘事項を受けて、論文を作成する。	報告会での指摘事項を受けて、論文を作成する。	尾崎、辻、堀川
30	卒業論文報告書(抄録)提出	卒業論文報告書(抄録)提出	卒業論文報告書(抄録)提出	尾崎、辻、堀川
成績評価方法と基準				割合
全卒業生の3分の2以上の出席を必要とする。研究活動の状況について評価する。平常評価として、最終評価の40%を占める。研究発表として、論文および報告書の提出が必要となる。規定に従って、期限までに指導教員へ提出する。				100%

授業科目名		卒業研究(鍼灸)・鍼灸現代系(松熊) (Graduation Research)			
主担当教員		松熊 秀明		松熊 秀明	
科目ナンバリング		SS511	科目区分	専門科目	DP①④
配当年次		4	開講学期	前期	前期(金曜 5 限)、 後期(金曜 5 限)
授業形態		演習	単位数	2	必修・選択 選択
<p>授業概要 鍼灸学科教員が担当するゼミに所属し、指導教員の指示に従って研究活動を行い、卒業論文を作成する。情報を収集し、批判的吟味を通じて情報の質を評価し、研究計画を立案作成する。計画に基づいてデータ収集を行い、分析・評価を経て論文としてまとめる。これらの一連の過程を経ることによって、社会人として求められる情報を精査し、計画・立案する能力を修得する。成果は報告書(抄録)として提出し、報告書として印刷される。</p> <p>【指導教員とテーマ】 鍋田智之(教授)：睡眠のメカニズムについて学習し、鍼灸治療が睡眠に与える効果を検証する。 松熊秀明(准教授)：鍼灸の抗炎症作用に関する文献的研究、鍼灸のストレス作用に関する研究 辻丸泰永(講師)：施術所受診患者のカルテ集計による特定病態の分析 高橋秀郎(講師)：スポーツ障害に対する鍼灸治療 高崎富太(講師)：足関節捻挫における鍼灸治療後の運動力学的検証 その他、各教員が指導可能と判断した研究を実施する。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> ①研究倫理について理解することができる。 ②指導教員の指示に従って、関連領域の知識・技術を修得できる。 ③関連文献の収集に関する方法を修得できる。 ④関連文献を批判的に吟味し、情報の質を評価できる。 ⑤質の高い方法論を用いて、データの収集・分析ができる。 ⑥論理的な文章構成を用いて論文を作成できる。 <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <ol style="list-style-type: none"> ①ゼミの指導教員の指示に従って、30 単位以上の活動を行ってください。 ②指導教員 1 名につき、所属できるゼミ生は最大 4 名とします。 ③規定に従って、論文および報告書の提出をしてください。 ④研究計画書を作成し、學術研究委員会研究倫理審査部会の承認を得て実施すること。 ⑤研究倫理を遵守すること。 					
教科書					
指導教員の指示に従う。					
参考書					
指導教員の指示に従う。					
研究室/オフィスアワー					
指導教員の指示に従う。					
授業履修及び授業計画表					
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当		
1	研究テーマの協議	予習：希望する研究内容について考えてくると、必ず資料に基づいて検討すること。 復習：指導教員の指示に従って、具体的なテーマをまとめること。	鍋田、松熊、高橋、高崎、辻丸		
2	文献検索	テーマに応じてキーワードを決定し、指定された検索サイトを利用して学術論文の収集を行う。	鍋田、松熊、高橋、高崎、辻丸		
3	文献検索	テーマに応じてキーワードを決定し、指定された検索サイトを利用して学術論文の収集を行う。	鍋田、松熊、高橋、高崎、辻丸		
4	論文抄読会	収集した文献を熟読し、要点をまとめたレポートを作成すること。	鍋田、松熊、高橋、高崎、辻丸		
5	論文抄読会	収集した文献を熟読し、要点をまとめたレポートを作成すること。	鍋田、松熊、高橋、高崎、辻丸		

6	データベースの作成	収集した文献に番号を付け、PC を用いてデータベースを作成すること。	鍋田、松熊、高橋、高崎、辻丸
7	研究計画の作成	研究計画を作成すること。	鍋田、松熊、高橋、高崎、辻丸
8	研究計画の作成。倫理委員会提出書類の作成。	研究計画を作成すること。	鍋田、松熊、高橋、高崎、辻丸
9	備品・消耗品の発注。研究機材の確保。研究環境の整備。	研究環境を整備する上で必要な事項を整理すること。	鍋田、松熊、高橋、高崎、辻丸
10	研究環境の整備。対象の確保。	研究対象の確保を行うこと。	鍋田、松熊、高橋、高崎、辻丸
11	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	鍋田、松熊、高橋、高崎、辻丸
12	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	鍋田、松熊、高橋、高崎、辻丸
13	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	鍋田、松熊、高橋、高崎、辻丸
14	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	鍋田、松熊、高橋、高崎、辻丸
15	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	鍋田、松熊、高橋、高崎、辻丸
16	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	鍋田、松熊、高橋、高崎、辻丸
17	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	鍋田、松熊、高橋、高崎、辻丸
18	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	鍋田、松熊、高橋、高崎、辻丸
19	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	鍋田、松熊、高橋、高崎、辻丸
20	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	鍋田、松熊、高橋、高崎、辻丸
21	データ整理	収集したデータを、表管理ソフトなどを活用して整理する。	鍋田、松熊、高橋、高崎、辻丸
22	データ整理	収集したデータを、表管理ソフトなどを活用して整理する。	鍋田、松熊、高橋、高崎、辻丸
23	データ解析	収集したデータを、必要に応じて統計を用いながら解析する。	鍋田、松熊、高橋、高崎、辻丸
24	データ解析	収集したデータを、必要に応じて統計を用いながら解析する。解析結果を指導教員に報告し、研究目的に対する結果、考察を議論する。	鍋田、松熊、高橋、高崎、辻丸
25	卒業研究報告会準備	報告用のパワーポイントを作成する。	鍋田、松熊、高橋、高崎、辻丸
26	卒業研究報告会準備	報告用のパワーポイントを作成する。	鍋田、松熊、高橋、高崎、辻丸
27	卒業研究報告会(ゼミ内)	報告用のパワーポイントを作成し、既定の時間内で発表および質疑応答を行う。	鍋田、松熊、高橋、高崎、辻丸
28	卒業論文作成	報告会での指導事項を受けて、論文を作成する。	鍋田、松熊、高橋、高崎、辻丸

		辻丸
29	卒業論文作成 報告会での指摘事項を受けて、論文を作成する。	錦田、松熊、高橋、高崎、辻丸
30	卒業論文報告書（抄録）提出 報告会での指摘事項を受けて、論文を作成する。	錦田、松熊、高橋、高崎、辻丸
成績評価方法と基準		割合
全授業の3分の2以上の出席を必要とする。研究活動の状況について評価する。平常評価として、最終評価の40%を占める。研究発表として、論文および報告書の提出が必要となる。規定に従って、期限までに指導教員へ提出する。		100%

卒業研究(鍼灸)・鍼灸情報系(山下) (Graduation Research)			
授業科目名	山下 仁	担当教員	山下 仁
主担当教員	SS511	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目
科目ナンバリング	4	科目区分	前期
配当年次	演習	開講学期	曜日・時限 前期(金曜5限)、 後期(金曜5限)
授業形態	2	単位数	選択
授業概要	<p>鍼灸学科教員が担当するゼミに所属し、指導教員の指示に従って研究活動を行い、卒業論文を作成する。情報を収集し、批判的吟味を経て情報の質を評価し、研究計画を立案作成する。計画に基づいてデータ収集を行い、分析・評価を経て論文としてまとめる。これらの一連の過程を経ることによって、社会人として求められる情報を精査し、計画・立案する能力を修得する。成果は報告書（抄録）として提出し、報告集として印刷される。</p> <p>【指導教員とテーマ】</p> <p>山下 仁（教授）：安全な鍼灸施術に関する基礎的研究、日本鍼灸のエビデンスのデータベース作成、鍼灸のエビデンスの情報収集と情報整備、世界の鍼灸事情に関する文献からの情報抽出、または代田文誌の選した資料の調査を行う。その他、学生の提案で指導可能と判断した研究も可能とする。</p> <p>堀山裕子（准教授）：婦人科領域における鍼灸のエビデンス（文献調査・問題点抽出）、緩和ケア領域における鍼灸のエビデンス（文献調査・問題点抽出）、鍼灸臨床における衛生操作情報のアート表現、または低周波鍼通電療法による鎮痛に関する実験を行う。その他、学生の提案で指導可能と判断した研究も可能とする。</p>		
到達目標	<p>①研究倫理について理解することができる。</p> <p>②指導教員の指示に従って、関連領域の知識・技術を修得できる。</p> <p>③関連文献の収集に関する方法を修得できる。</p> <p>④関連文献を批判的に吟味し、情報の質を評価できる。</p> <p>⑤質の高い方法論を用いて、データの収集・分析ができる。</p> <p>⑥論理的な文章構成を用いて論文を作成できる。</p> <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>①ゼミの指導教員の指示に従って、30単元以上の活動を行ってください。</p> <p>②指導教員1名につき、所属できるゼミ生は最大4名とします。</p> <p>③規定に従って、論文および報告書の提出をしてください。</p> <p>④研究計画書を作成し、学術研究委員会研究倫理審査部会の承認を得て実施すること。</p> <p>⑤研究倫理を遵守すること。</p>		
教科書			
指導教員の指示に従う。			
参考書			
指導教員の指示に従う。			
研究室/オフィスアワー			
指導教員の指示に従う。			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	研究テーマの協議	予習：希望する研究内容について考えてくると。必ず資料に基づいて検討すること。 復習：指導教員の指示に従って、具体的なテーマをまとめること。	
2	文献検索	テーマに応じてキーワードを決定し、指定された検索サイトを利用して学術論文の収集を行う。	
3	文献検索	テーマに応じてキーワードを決定し、指定された検索サイトを利用して学術論文の収集を行う。	
4	論文抄読会	収集した文献を熟読し、要点をまとめたレポートを作成すること。	
5	論文抄読会	収集した文献を熟読し、要点をまとめたレポートを作成すること。	

6	データベースの作成	収集した文献に番号を付け、PCを用いてデータベースを作成すること。
7	研究計画の作成	研究計画を作成すること。
8	研究計画の作成。倫理委員会提出書類の作成。	研究計画を作成すること。
9	備品・消耗品の発注。研究機材の確保。研究環境の整備。	研究環境を整備する上で必要な事項を整理すること。
10	研究環境の整備。対象の確保。	研究対象の確保を行うこと。
11	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。
12	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。
13	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。
14	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。
15	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。
16	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。
17	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。
18	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。
19	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。
20	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。
21	データ整理	収集したデータを、表管理ソフトなどを活用して整理する。
22	データ整理	収集したデータを、表管理ソフトなどを活用して整理する。
23	データ解析	収集したデータを、必要に応じて統計を用いながら解析する。
24	データ解析	収集したデータを、必要に応じて統計を用いながら解析する。解析結果を指導教員に報告し、研究目的に対する結果、考察を議論する。
25	卒業研究報告会準備	報告用のパワーポイントを作成する。
26	卒業研究報告会準備	報告用のパワーポイントを作成する。
27	卒業研究報告会（ゼミ内）	報告用のパワーポイントを作成し、既定の時間内で発表および質疑応答を行う。
28	卒業論文作成	報告会での指摘事項を受けて、論文を作成する。
29	卒業論文作成	報告会での指摘事項を受けて、論文を作成する。
30	卒業論文報告書（抄録）提出	報告会での指摘事項を受けて、論文を作成する。
成績評価方法と基準		
全授業の3分の2以上の出席を必要とする。研究活動の状況について評価する。平常評価として、最終評価の40%を占める。研究成果として、論文および報告書の提出が必要となる。規定に従って、期限内までに指導教員へ提出する。		

授業科目名	卒業研究(鍼灸)・スポーツ特修系(中原) (Graduation Research)														
主担当教員	中原 英博	担当教員	中原 英博												
科目ナンバリング	SS511	科目区分	専門科目												
配当年次	4	開講学期	前期												
授業形態	演習	単位数	2												
授業概要	<p>鍼灸学科教員が担当するゼミに所属し、指導教員の指示に従って研究活動を行い、卒業論文を作成する。情報を収集し、批判的吟味を経て情報の質を評価し、研究計画を立案作成する。計画に基づいてデータ収集を行い、分析・評価を経て論文としてまとめ上げる。これらの一連の過程を経ることによって、社会人として求められる情報を精査し、計画・立案する能力を修得する。成果は報告書（抄録）として提出し、報告書によって印刷される。</p> <p>【指導教員とテーマ】</p> <p>以下の各生理解学テーマ（①～⑧）については、宮本忠吉（教授）、中原英博（准教授）、上田真也（講師）の3名の教員が協力して指導に当たります。また、学校保健体育科教育に関する⑩⑪の研究テーマは、老田準司（教授）が指導に当たります。</p> <p>①生体の統合的呼吸・循環調節機構の解明。 ②長期運動トレーニングによる生体適応のメカニズムに関する研究（トレーニング効果）。 ③運動負荷に対する生体反応のメカニズムに関する研究（運動生理）。 ④高強度運動時の骨格筋細胞代謝動態の定量解析。 ⑤システム定量解析を用いた新しいトレーニング評価システムの開発に関する研究。 ⑥スポーツウェアの着圧が生理学的パラメータに及ぼす影響の研究。 ⑦鍼刺刺激法を用いた新規循環制御システムの構築。 ⑧アロマセラピーに用いる精油の芳香刺激が生体に及ぼす影響。 ⑩体育の授業教材の意義についての一考察。 ⑪体育と保健の授業での取り扱いについての一考察。 ⑫上記内容に関わらず、学生が希望する内容で各教員が指導可能と判断したもの。</p>														
到達目標	①研究倫理について理解することができる。 ②指導教員の指示に従って、関連領域の知識・技術を修得できる。 ③関連文献の収集に関する方法を修得できる。 ④関連文献を批判的に吟味し、情報の質を評価できる。 ⑤質の高い方法論を用いて、データの収集・分析ができる。 ⑥論理的な文章構成を用いて論文を作成できる。 履修上の注意(学生へのメッセージ)														
教科書	①ゼミの指導教員の指示に従って、30単元以上の活動を行ってください。 ②指導教員1名につき、所属できるゼミ生は最大4名とします。 ③規定に従って、論文および報告書の提出をしてください。 ④研究計画書を作成し、学術研究倫理審査部会の承認を得て実施すること。 ⑤研究倫理を遵守すること。														
指導教員の指示に従う。	教科書														
参考書	指導教員の指示に従う。														
指導教員の指示に従う。	研究室/オフィスアワー														
指導教員の指示に従う。	指導教員の指示に従う。														
授業展開及び授業計画表	<table border="1"> <tr> <th>回数</th> <th>学修内容</th> <th>予習・復習・課題等</th> <th>担当</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td>研究テーマの協議</td> <td>予習：希望する研究内容について考えてくること。必ず資料に基づいて検討すること。 復習：指導教員の指示に従って、具体的なテーマをまとめること。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>文献検索</td> <td>テーマに応じてキーワードを利用して学術論文の収集を行う。</td> <td></td> </tr> </table>			回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当	1	研究テーマの協議	予習：希望する研究内容について考えてくること。必ず資料に基づいて検討すること。 復習：指導教員の指示に従って、具体的なテーマをまとめること。		2	文献検索	テーマに応じてキーワードを利用して学術論文の収集を行う。	
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当												
1	研究テーマの協議	予習：希望する研究内容について考えてくること。必ず資料に基づいて検討すること。 復習：指導教員の指示に従って、具体的なテーマをまとめること。													
2	文献検索	テーマに応じてキーワードを利用して学術論文の収集を行う。													

3	文献検索	テーマに応じてキーワードを決定し、指定された検索サイトを利用して学術論文の収集を行う。	
4	論文抄読会	収集した文献を熟読し、要点をまとめたレポートを作成すること。	
5	論文抄読会	収集した文献を熟読し、要点をまとめたレポートを作成すること。	
6	データベースの作成	収集した文献に番号を付け、PCを用いてデータベースを作成すること。	
7	研究計画の作成	研究計画を作成すること。	
8	研究計画の作成	倫理委員会承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	
9	備品・消耗品の発注。研究機材の確保。研究環境の整備。	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	
10	研究環境の整備。対象の確保。	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	
11	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	
12	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	
13	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	
14	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	
15	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	
16	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	
17	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	
18	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	
19	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	
20	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	
21	データ整理	収集したデータを、表管理ソフトなどを活用して整理する。	
22	データ整理	収集したデータを、表管理ソフトなどを活用して整理する。	
23	データ解析	収集したデータを、必要に応じて統計を用いながら解析する。	
24	データ解析	収集したデータを、必要に応じて統計を用いながら解析する。解析結果を指導教員に報告し、研究目的に対する結果、考察を議論する。	
25	卒業研究報告会準備	報告用のパワーポイントを作成する。	
26	卒業研究報告会準備	報告用のパワーポイントを作成する。	
27	卒業研究報告会(ゼミ内)	報告用のパワーポイントを作成し、既定の時間内で発表および質疑応答を行う。	
28	卒業論文作成	報告会での指摘事項を受けて、論文を作成する。	
29	卒業論文作成	報告会での指摘事項を受けて、論文を作成する。	
30	卒業論文報告書(抄録)提出	報告会での指摘事項を受けて、論文を作成する。	
成績評価方法と基準			割合
全授業の3分の2以上の出席を必要とする。研究活動の状況について評価する。平常評価として、最終評価の40%を占める。研究成果として、論文および報告書の提出が必要となる。規定に従って、期限までに指導教員へ提出する。			100%

授業科目名	卒業研究(鍼灸)：スポーツ特修系(老田) (Graduation Research)		
主担当教員	老田 肇司	担当教員	老田 肇司
科目ナンバリング	SS511	科目区分	ディプロマポリシー 該当項目
配当年次	4	開講学期	前期 前期(金曜5限)、 後期(金曜5限)
授業形態	演習	単位数	2
授業概要	<p>鍼灸学科教員が担当するゼミに所属し、指導教員の指示に従って研究活動を行い、卒業論文を作成する。情報収集、批判的吟味を経て情報の質を評価し、研究計画を立案作成する。計画に基づいてデータ収集を行い、分析・評価を経て論文としてまとめる。これらの一連の過程を経ることによって、社会人として求められる情報を精査し、計画・立案する能力を修得する。成果は報告書(抄録)として提出し、報告集として印刷される。</p> <p>【指導教員とテーマ】</p> <p>以下の各生理解学的研究テーマ(①~⑧)については、宮本忠吉(教授)、中原英博(准教授)、上田真也(講師)の3名の教員が協力して指導に当たります。また、学校保健体育科教育に関する⑨⑩の研究テーマは、老田肇司(教授)が指導に当たります。</p> <p>①生体の統合的呼吸・循環調節機構の解明。 ②長期運動トレーニングによる生体適応のメカニズムに関する研究(トレーニング効果)。 ③④運動負荷に対する生体反応のメカニズムに関する研究(運動生理)。 ⑤高強度運動時の骨格筋糖質代謝動態の定量的解析。 ⑥システム定量的解析を用いた新しいトレーニング評価システムの開発に関する研究。 ⑦システム定量的解析を用いた運動時換気流速の痛能生理解明(主に動物実験)。 ⑧スポーツウェアの着圧が生理解学的パラメータに及ぼす影響の検討。 ⑨鍼刺療法を用いた新規循環制御システムの構築。 ⑩アロマセラピーを用いる精油の芳香刺激が生体に及ぼす影響。 ⑪体質と健康の授業での取り組みについての考察。 ⑫上記内容に関わらず、学生が希望する内容で各教員が指導可能と判断したもの。</p>		
到達目標	<p>①研究倫理について理解することができる。 ②指導教員の指示に従って、関連領域の知識・技術を修得できる。 ③関連文献の収集に関する方法を修得できる。 ④関連文献を批判的に吟味し、情報の質を評価できる。 ⑤質の高い方法論を用いて、データの収集・分析ができる。 ⑥論理的な文章構成を用いて論文を作成できる。</p>		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	<p>①ゼミの指導教員の指示に従って、30単位以上の活動を行ってください。 ②指導教員1名につき、所属できるゼミ生は最大4名とします。 ③規定に従って、論文および報告書の提出をしてください。 ④研究計画書を作成し、学術研究委員会研究倫理審査部会の承認を得て実施すること。 ⑤研究倫理を遵守すること。</p>		
教科書			
指導教員の指示に従う。			
参考書			
指導教員の指示に従う。			
研究室/オフィスアワー			
指導教員の指示に従う。			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	研究テーマの協議	予習：希望する研究内容について考えてくると。必ず資料に基づいて検討すること。復習：指導教員の指示に従って、具体的なテーマをまとめること。	
2	文献検索	テーマに応じてキーワードを利用して学術論文の収集を行う。	

3	文献検索	テーマに応じてキーワードを決定し、指定された検索サイトを利用して学術論文の収集を行う。	
4	論文抄読会	収集した文献を熟読し、要点をまとめたレポートを作成すること。	
5	論文抄読会	収集した文献を熟読し、要点をまとめたレポートを作成すること。	
6	データベースの作成	収集した文献に番号を付け、PCを用いてデータベースを作成すること。	
7	研究計画の作成	研究計画を作成すること。	
8	研究計画の作成	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	
9	備品・消耗品の発注。研究機材の確保。研究環境の整備。	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	
10	研究環境の整備。対象の確保。	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	
11	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	
12	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	
13	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	
14	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	
15	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	
16	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	
17	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	
18	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	
19	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	
20	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	
21	データ整理	収集したデータを、表管理ソフトなどを活用して整理する。	
22	データ整理	収集したデータを、表管理ソフトなどを活用して整理する。	
23	データ解析	収集したデータを、必要に応じて統計を用いながら解析する。	
24	データ解析	収集したデータを、必要に応じて統計を用いながら解析する。解析結果を指導教員に報告し、研究目的に対する結果、考察を議論する。	
25	卒業研究報告会準備	報告用のパワーポイントを作成する。	
26	卒業研究報告会準備	報告用のパワーポイントを作成する。	
27	卒業研究報告会(ゼミ内)	報告用のパワーポイントを作成し、既定の時間内で発表および質疑応答を行う。	
28	卒業論文作成	報告会での指摘事項を受けて、論文を作成する。	
29	卒業論文作成	報告会での指摘事項を受けて、論文を作成する。	
30	卒業論文報告書(抄録)提出	報告会での指摘事項を受けて、論文を作成する。	
成績評価方法と基準			割合
全授業の3分の2以上の出席を必要とする。研究活動の状況について評価する。平常評価として、最終評価の40%を占める。-1			1 40%
研究成果として、論文および報告書の提出が必要となる。規定に従って、期限までに指導教員へ提出する。-2			2 60%

授業科目名	卒業研究(鍼灸):鍼灸現代系(辻丸) (Graduation Research)																														
主担当教員	辻丸 泰永	担当教員	辻丸 泰永																												
科目ナンバリング	SS511	科目区分	DP①④																												
配当年次	4	開講学期	前期(金曜5限)、後期(金曜5限)																												
授業形態	演習	単位数	2																												
授業概要	<p>鍼灸学科教員が担当するゼミに所属し、指導教員の指示に従って研究活動を行い、卒業論文を作成する。情報を収集し、批判的吟味を経て情報の質を評価し、研究計画を立案作成する。計画に基づいてデータ収集を行い、分析・評価を経て論文としてまとめる。成果は報告書(抄録)として提出し、報告書として印刷される。</p> <p>【指導教員とテーマ】 福田知之(教授): 睡眠のメカニズムについて学習し、鍼灸治療が睡眠に与える効果を検証する。 松尾泰明(准教授): 鍼灸の抗炎症作用に関する文献的研究。鍼灸の抗ストレス作用に関する研究 辻丸泰永(講師): 施術所受診患者のカルテ集計による特定病態の分析 高橋秀郎(講師): スポート障害に対する鍼灸治療 高峰重太(講師): 足関節捻挫における鍼灸治療後の運動力学的検証 その他、各教員が指導可能と判断した研究を実施する。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> ①研究倫理について理解することができる。 ②指導教員の指示に従って、関連領域の知識・技術を修得できる。 ③関連文献の収集に際して方法を修得できる。 ④関連文献を批判的に吟味し、情報の質を評価できる。 ⑤質の高い方法論を用いて、データの収集・分析ができる。 ⑥論理的な文章構成を用いて論文を作成できる。 <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <ol style="list-style-type: none"> ①ゼミの指導教員の指示に従って、30単元以上の活動を行ってください。 ②指導教員1名につき、所属できるゼミ生は最大4名とします。 ③指定に従って、論文および報告書の提出をしてください。 ④研究計画書を作成し、学術研究委員会研究倫理審査部会の承認を得て実施すること。 ⑤研究倫理を遵守すること。 <p>教科書</p> <p>指導教員の指示に従う。</p> <p>参考書</p> <p>指導教員の指示に従う。</p> <p>研究室/オフィスアワー</p> <p>指導教員の指示に従う。</p>																														
授業展開及び授業計画表	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>学修内容</th> <th>予習・復習・課題等</th> <th>担当</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>研究テーマの協議</td> <td>予習: 希望する研究内容について考えてくること。必ず資料に基づいて検討すること。 復習: 指導教員の指示に従って、具体的なテーマをまとめること。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>文献検索</td> <td>テーマに応じてキーワードを利用して学術論文の収集を行う。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>文献検索</td> <td>テーマに応じてキーワードを決定し、指定された検索サイトを利用して学術論文の収集を行う。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>論文抄読会</td> <td>収集した文献を熟読し、要点をまとめたレポートを作成すること。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>論文抄読会</td> <td>収集した文献を熟読し、要点をまとめたレポートを作成すること。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>データベースの作成</td> <td>収集した文献に番号を付け、PCを用いてデータベースを作成すること。</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当	1	研究テーマの協議	予習: 希望する研究内容について考えてくること。必ず資料に基づいて検討すること。 復習: 指導教員の指示に従って、具体的なテーマをまとめること。		2	文献検索	テーマに応じてキーワードを利用して学術論文の収集を行う。		3	文献検索	テーマに応じてキーワードを決定し、指定された検索サイトを利用して学術論文の収集を行う。		4	論文抄読会	収集した文献を熟読し、要点をまとめたレポートを作成すること。		5	論文抄読会	収集した文献を熟読し、要点をまとめたレポートを作成すること。		6	データベースの作成	収集した文献に番号を付け、PCを用いてデータベースを作成すること。	
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当																												
1	研究テーマの協議	予習: 希望する研究内容について考えてくること。必ず資料に基づいて検討すること。 復習: 指導教員の指示に従って、具体的なテーマをまとめること。																													
2	文献検索	テーマに応じてキーワードを利用して学術論文の収集を行う。																													
3	文献検索	テーマに応じてキーワードを決定し、指定された検索サイトを利用して学術論文の収集を行う。																													
4	論文抄読会	収集した文献を熟読し、要点をまとめたレポートを作成すること。																													
5	論文抄読会	収集した文献を熟読し、要点をまとめたレポートを作成すること。																													
6	データベースの作成	収集した文献に番号を付け、PCを用いてデータベースを作成すること。																													

7	研究計画の作成	研究計画を作成すること。	
8	研究計画の作成。倫理委員会提出書類の作成。	研究計画を作成すること。	
9	備品・消耗品の発注。研究機材の確保。研究環境の整備。	研究環境を整備する上で必要な事項を整理すること。	
10	研究環境の整備。対象の確保。	研究対象の確保を行うこと。	
11	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	
12	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	
13	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	
14	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	
15	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	
16	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	
17	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	
18	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	
19	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	
20	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	
21	データ整理	収集したデータを、表管理ソフトなどを活用して整理する。	
22	データ整理	収集したデータを、表管理ソフトなどを活用して整理する。	
23	データ解析	収集したデータを、必要に応じて統計を用いながら解析する。	
24	データ解析	収集したデータを、必要に応じて統計を用いながら解析する。解析結果を指導教員に報告し、研究目的に対する結果、考察を議論する。	
25	卒業研究報告会準備	報告用のパワーポイントを作成する。	
26	卒業研究報告会準備	報告用のパワーポイントを作成する。	
27	卒業研究報告会（ゼミ内）	報告用のパワーポイントを作成し、既定の時間内で発表および質疑応答を行う。	
28	卒業論文作成	報告会での指摘事項を受けて、論文を作成する。	
29	卒業論文作成	報告会での指摘事項を受けて、論文を作成する。	
30	卒業論文報告書（抄録）提出	報告会での指摘事項を受けて、論文を作成する。	
成績評価方法と基準			割合
全授業の3分の2以上の出席を必要とする。研究活動の状況について評価する。平常評価として、最終評価の40%を占める。研究成果として、論文および報告書の提出が必要となる。規定に従って、期限内に指導教員へ提出する。			100%

授業科目名	卒業研究(鍼灸)・鍼灸現代系(鍼田) (Graduation Research)		
主担当教員	鍼田 智之	担当教員	鍼田 智之
科目ナンバリング	SS511	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目
配当年次	4	開講学期	前期 後期(金曜5限)、 後期(金曜5限)
授業形態	演習	単位数	2
授業概要	鍼灸学科教員が担当するゼミに所属し、指導教員の指示に従って研究活動を行い、卒業論文を作成する。情報を収集し、批判的吟味を経て情報の質を評価し、研究計画を立案作成する。計画に基づいてデータ収集を行い、分析・評価を経て論文としてまとめる。これらの一連の過程を経ることによって、社会人として求められる情報を精査し、計画・立案する能力を修得する。成果は報告書(抄録)として提出し、報告集として印刷される。 【指導教員とテーマ】 鍼田智之(准教授)：睡眠のメカニズムについて学習し、鍼灸治療が睡眠に与える効果を検証する。 私熊秀明(准教授)：鍼灸の抗炎症作用に関する文献的研究、鍼灸の抗ストレス作用に関する研究。 辻丸泰永(講師)：施術所受診患者のカルテ集計による特定病態の分析 高橋泰郎(講師)：スポーツ障害に対する鍼灸治療 高崎雷太(講師)：足関節捻挫における鍼灸治療後の運動力学的検証 その他、各教員が指導可能と判断した研究を実施する。		

到達目標	①研究倫理について理解することができる。 ②指導教員の指示に従って、関連領域の知識・技術を修得できる。 ③関連文献の収集に関する方法を修得できる。 ④関連文献を批判的に吟味し、情報の質を評価できる。 ⑤質の高い方法論を用いて、データの収集・分析ができる。 ⑥論理的な文章構成を用いて論文を作成できる。 履修上の注意(学生へのメッセージ) ①ゼミの指導教員の指示に従って、30単位以上の活動を行うてください。 ②指導教員1名につき、所属できるゼミ生は最大4名とします。 ③規定に従って、論文および報告書の提出をしてください。 ④研究計画書を作成し、学術研究委員会研究倫理審査部会の承認を得て実施すること。 ⑤研究倫理を遵守すること。		
教科書			
指導教員の指示に従う。			
参考書			
指導教員の指示に従う。			
研究室/オフィスアワー			
指導教員の指示に従う。			
授業展開及び授業計画表			

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	研究テーマの協議	予習：希望する研究内容について考えてくこと。必ず資料に基づいて検討すること。 復習：指導教員の指示に従って、具体的なテーマをまとめること。	
2	文献検索	テーマに応じてキーワードを決定し、指定された検索サイトを利用して学術論文の収集を行う。	
3	文献検索	テーマに応じてキーワードを決定し、指定された検索サイトを利用して学術論文の収集を行う。	
4	論文抄読会	収集した文献を熟読し、要点をまとめたレポートを作成すること。	
5	論文抄読会	収集した文献を熟読し、要点をまとめたレポートを作成すること。	
6	データベースの作成	収集した文献に番号を付け、PCを用いてデータベースを作成すること。	

7	研究計画の作成	研究計画を作成すること。	
8	研究計画の作成。倫理委員会提出書類の作成。	研究計画を作成すること。	
9	備品・消耗品の発注。研究機材の確保。研究環境の整備。	研究環境を整備する上で必要な事項を整理すること。	
10	研究環境の整備。対象の確保。	研究対象の確保を行うこと。	
11	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	
12	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	
13	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	
14	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	
15	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	
16	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	
17	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	
18	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	
19	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	
20	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	
21	データ整理	収集したデータを、表管理ソフトなどを活用して整理する。	
22	データ整理	収集したデータを、表管理ソフトなどを活用して整理する。	
23	データ解析	収集したデータを、必要に応じて統計を用いながら解析する。	
24	データ解析	収集したデータを、必要に応じて統計を用いながら解析する。解析結果を指導教員に報告し、研究目的に対する結果、考察を議論する。	
25	卒業研究報告会準備	報告用のパワーポイントを作成する。	
26	卒業研究報告会準備	報告用のパワーポイントを作成する。	
27	卒業研究報告会（ゼミ内）	報告用のパワーポイントを作成し、既定の時間内で発表および質疑応答を行う。	
28	卒業論文作成	報告会での指摘事項を受けて、論文を作成する。	
29	卒業論文作成	報告会での指摘事項を受けて、論文を作成する。	
30	卒業論文報告書（抄録）提出	報告会での指摘事項を受けて、論文を作成する。	
成績評価方法と基準			割合
全授業の5分の4以上の出席を必要とする。研究活動の状況について評価する。平常評価として、最終評価の40%を占める。研究成果として、論文および報告書の提出が必要となる。規定に従って、期限までに指導教員へ提出する。			40% 60%

授業科目名		卒業研究(鍼灸)：鍼灸現代系(高崎) (Graduation Research)			
主担当教員	高崎 雷太	担当教員	高崎 雷太	高崎 雷太	
科目ナンバリング	SS511	科目区分	専門科目	DP①④	
配当年次	4	開講学期	前期	前期(金曜 5限)、 後期(金曜 5限)	
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	選択
授業概要					
鍼灸学科教員が担当するゼミに所属し、指導教員の指示に従って研究活動を行い、卒業論文を作成する。情報を収集し、批判的吟味を経て情報の質を評価し、研究計画を立案作成する。計画に基づいてデータ収集を行い、分析・評価を経て論文としてまとめ上げる。これらの一連の過程を経ることによって、社会人として求められる情報を精査し、計画・立案する能力を修得する。成果は報告書(抄録)として提出し、報告書として印刷される。					
【指導教員とテーマ】					
藤田智之(教授)：睡眠のメカニズムについて学習し、鍼灸治療が睡眠に与える効果を検証する。					
松尾泰明(准教授)：鍼灸の抗炎症作用に関する文献的研究。鍼灸の抗ストレス作用に関する研究					
辻丸泰永(講師)：施術所受診患者のカルテ集計による特定病態の分析					
高橋秀太郎(講師)：スボート障害に対する鍼灸治療					
高崎雷太(講師)：足関節捻挫における鍼灸治療後の運動力学的検証					
その他、各教員が指導可能と判断した研究を実施する。					
到達目標					
①研究倫理について理解することができる。					
②指導教員の指示に従って、関連領域の知識・技術を修得できる。					
③関連文献の収集に関する方法を修得できる。					
④関連文献を批判的に吟味し、情報の質を評価できる。					
⑤質の高い方法論を用いて、データの収集・分析ができる。					
⑥論理的な文章構成を用いて論文を作成できる。					
履修上の注意(学生へのメッセージ)					
①ゼミの指導教員の指示に従って、30単元以上の活動を行ってください。					
②指導教員1名につき、所属できるゼミ生は最大4名とします。					
③指定に従って、論文および報告書の提出をしてください。					
④研究計画書を作成し、学術研究委員会研究倫理審査部会の承認を得て実施すること。					
⑤研究倫理を遵守すること。					
教科書					
指導教員の指示に従う。					
参考書					
指導教員の指示に従う。					
研究室/オフィスアワー					
指導教員の指示に従う。					
授業展開及び授業計画表					
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当		
1	研究テーマの協議	予習：希望する研究内容について考えてくること。 復習：指導教員の指示に従って、具体的なテーマをまとめること。			
2	文献検索	テーマに応じてキーワードを決定し、指定された検索サイトを利用して学術論文の収集を行う。			
3	文献検索	テーマに応じてキーワードを決定し、指定された検索サイトを利用して学術論文の収集を行う。			
4	論文抄読会	収集した文献を熟読し、要点をまとめたレポートを作成すること。			
5	論文抄読会	収集した文献を熟読し、要点をまとめたレポートを作成すること。			
6	データベースの作成	収集した文庫に番号を付け、PCを用いてデータベースを作成すること。			

7	研究計画の作成	研究計画を作成すること。
8	研究計画の作成。倫理委員会提出書類の作成。	研究計画を作成すること。
9	備品・消耗品の発注。研究機材の確保。研究環境の整備。	研究環境を整備する上で必要な事項を整理すること。
10	研究対象の整備。対象の確保。	研究対象の確保を行うこと。
11	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。
12	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。
13	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。
14	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。
15	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。
16	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。
17	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。
18	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。
19	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。
20	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。
21	データ整理	収集したデータを、表管理ソフトなどを活用して整理する。
22	データ整理	収集したデータを、表管理ソフトなどを活用して整理する。
23	データ解析	収集したデータを、必要に応じて統計を用いながら解析する。
24	データ解析	収集したデータを、必要に応じて統計を用いながら解析する。解析結果を指導教員に報告し、研究目的に対する結果、考察を議論する。
25	卒業研究報告会準備	報告用のパワーポイントを作成する。
26	卒業研究報告会準備	報告用のパワーポイントを作成する。
27	卒業研究報告会（ゼミ内）	報告用のパワーポイントを作成し、既定の時間内で発表および質疑応答を行う。
28	卒業論文作成	報告会での指摘事項を受けて、論文を作成する。
29	卒業論文作成	報告会での指摘事項を受けて、論文を作成する。
30	卒業論文報告書（抄録）提出	報告会での指摘事項を受けて、論文を作成する。
成績評価方法と基準		
割合		
出席基準を満たし、100点満点の評価で行い、平常評価および論文提出により評価を行う。		
全授業の3分の2以上の出席を必要とする。研究活動の状況について評価する。平常評価として、最終評価の40%を占める。研究成果として、論文および報告書の提出が必要となる。規定に従って、期限までに指導教員へ提出する。		

卒業研究(鍼灸)・鍼灸現代系(高橋) (Graduation Research)			
授業科目名	高橋 秀郎	担当教員	高橋 秀郎
主担当教員	SS511	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目
科目ナンバリング		科目区分	DP①④
配当年次	4	開講学期	前期(金曜5限)、 後期(金曜5限)
授業形態	演習	単位数	2
授業概要	鍼灸学科教員が担当するゼミに所属し、指導教員の指示に従って研究活動を行い、卒業論文を作成する。情報を収集し、批判的吟味を経て情報の質を評価し、研究計画を立案作成する。計画に基づいてデータ収集を行い、分析・評価を経て論文としてまとめる。これらの一連の過程を経ることによって、社会人として求められる情報を精査し、計画・立案する能力を修得する。成果は報告書(抄録)として提出し、報告集として印刷される。 【指導教員とテーマ】 綿田智之(准教授)：睡眠のメカニズムについて学習し、鍼灸治療が睡眠に与える効果を検証する。 私原秀明(准教授)：鍼灸の抗炎症作用に関する文献的研究、鍼灸の抗ストレス作用に関する研究。 辻丸泰永(講師)：施術所受診患者のカルテ集計による特定病態の分析 高橋泰郎(講師)：スポーツ障害に対する鍼灸治療 高橋雷太(講師)：足関節捻挫における鍼灸治療後の運動力学的検証 その他、各教員が指導可能と判断した研究を実施する。		
到達目標	①研究倫理について理解することができる。 ②指導教員の指示に従って、関連領域の知識・技術を修得できる。 ③関連文献の収集に関する方法を修得できる。 ④関連文献を批判的に吟味し、情報の質を評価できる。 ⑤質の高い方法論を用いて、データの収集・分析ができる。 ⑥論理的な文章構成を用いて論文を作成できる。 履修上の注意(学生へのメッセージ) ①ゼミの指導教員の指示に従って、30単元以上の活動を行うてください。 ②指導教員1名につき、所属できるゼミ生は最大4名とします。 ③規定に従って、論文および報告書の提出をしてください。 ④研究計画書を作成し、学術研究委員会研究倫理審査部会の承認を得て実施すること。 ⑤研究倫理を遵守すること。 教科書 指導教員の指示に従う。 参考書 指導教員の指示に従う。 研究室/オフィスアワー 指導教員の指示に従う。 指導教員の指示に従う。 授業展開及び授業計画表		
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	研究テーマの協議	予習：希望する研究内容について考えてくると。必ず資料に基づいて検討すること。 復習：指導教員の指示に従って、具体的なテーマをまとめること。 テーマに応じてキーワードを決定し、指定された検索サイトを利用して学術論文の収集を行う。	
2	文献検索	テーマに応じてキーワードを決定し、指定された検索サイトを利用して学術論文の収集を行う。	
3	文献検索	収集した文献を熟読し、要点をまとめたレポートを作成すること。	
4	論文抄読会	収集した文献を熟読し、要点をまとめたレポートを作成すること。	
5	論文抄読会	収集した文献に番号を付け、PCを用いてデータベースを作成すること。	
6	データベースの作成		

7	研究計画の作成	研究計画を作成すること。	
8	研究計画の作成。倫理委員会提出書類の作成。	研究計画を作成すること。	
9	備品・消耗品の発注。研究機材の確保。研究環境の整備。	研究環境を整備する上で必要な事項を整理すること。	
10	研究環境の整備。対象の確保。	研究対象の確保を行うこと。	
11	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	
12	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	
13	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	
14	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	
15	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	
16	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	
17	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	
18	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	
19	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	
20	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	
21	データ整理	収集したデータを、表管理ソフトなどを活用して整理する。	
22	データ整理	収集したデータを、表管理ソフトなどを活用して整理する。	
23	データ解析	収集したデータを、必要に応じて統計を用いながら解析する。	
24	データ解析	収集したデータを、必要に応じて統計を用いながら解析する。解析結果を指導教員に報告し、研究目的に対する結果、考察を議論する。	
25	卒業研究報告会準備	報告用のパワーポイントを作成する。	
26	卒業研究報告会準備	報告用のパワーポイントを作成する。	
27	卒業研究報告会（ゼミ内）	報告用のパワーポイントを作成し、既定の時間内で発表および質疑応答を行う。	
28	卒業論文作成	報告会での指摘事項を受けて、論文を作成する。	
29	卒業論文作成	報告会での指摘事項を受けて、論文を作成する。	
30	卒業論文報告書（抄録）提出	報告会での指摘事項を受けて、論文を作成する。	
成績評価方法と基準			割合
全授業の3分の2以上の出席を必要とする。研究活動の状況について評価する。平常評価として、最終評価の40%を占める。研究成果として、論文および報告書の提出が必要となる。規定に従って、期限までに指導教員へ提出する。			100%

授業科目名	スポーツ傷害学 栄養学(鍼灸) (Sports Injuries / Nutriology)		
主担当教員	松下 美穂	担当教員	松下 美穂、植杉 優一
科目ナンバリング	SS518	科目区分	DP①
配当年次	4	開講学期	前期
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	<p>スポーツ選手にとって、体力の維持および競技成績の向上という身体的な目標を達成するためや、将来の健康づくり指導者として生活習慣病の予防・改善を指導するためには、幅広い栄養的知識が必要である。本講義ではそれらを含めた栄養知識と食事のあり方を学ぶ。また、スポーツ外傷や運動を起因とする疾病について、それらの発生メカニズムを知り、運動中のケガと疾病の予防およびその対処方法を理解することは重要である。本授業においては、これらをあわせて学ぶ。</p> <p>到達目標</p> <p>(植杉)</p> <p>スポーツ現場に従事する者として、状況に見合った適切な栄養管理・指導ができるよう、現場で活躍できる知識を身につける。</p> <p>(松下)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. スポーツ傷害が発生する要因が理解できる。 2. スポーツ現場における鍼灸の役割を理解できる。 3. 種目に応じたスポーツ傷害の特徴が理解できる。 4. スポーツ傷害発生から競技復帰までのプロセスが理解できる。 <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>(植杉)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 栄養学、運動生理学と関連付けて学習するため、既に受講済みである授業の内容について復習しておくこと。 2. 基本的な数学を必要とすることがあるが、できるだけ解りやすく行う。 <p>スポーツ傷害を理解するために、解剖学・運動学を理解しておくことが大切であるため、復習しておくこと。</p>		
教科書	特に無し		
参考書	参考書		
(植杉)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 樋口満 編著「コンディショニングのスポーツ栄養学」、2001年 2. 小林修平・樋口満 編著「アスリートのための栄養・食事ガイド」、2001年 (松下) <p>公認アシレティックトレーナー専門科目テキストワークブック</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 運動器の解剖とスポーツ外傷・障害の基礎知識 2. アスレティックリハビリテーション <p>株式会社文芸堂</p> <p>研究室/オフィスアワー</p>		
(植杉)	兼任講師のため、質問等は授業前後の時間に受け付ける。		
(松下)	兼任講師のため、質問等は授業前後の時間に受け付ける。		
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	スポーツ傷害学総論 (松下)	予習：解剖学・運動学の確認 復習：配布プリント・キーワードの確認	
2	スポーツと鍼灸との関わり (松下)	予習：解剖学・運動学の確認 復習：配布プリント・軸診の確認	
3	下肢のスポーツ傷害① (松下)	予習：解剖学・運動学の確認 復習：足部の解剖と評価法の確認	
4	下肢のスポーツ傷害② (松下)	予習：解剖学・運動学の確認 復習：膝・股関節の解剖と評価法の確認	
5	体幹のスポーツ傷害① (松下)	予習：解剖学・運動学の確認 復習：体幹の解剖と評価法の確認	
6	体幹のスポーツ傷害② (松下)	予習：解剖学・運動学の確認 復習：体幹の解剖と評価法の確認	

7	上肢のスポーツ傷害① (松下)	予習：解剖学・運動学の確認 復習：上肢の解剖と評価法の確認	割合
8	上肢のスポーツ傷害② (松下)	予習：解剖学・運動学 復習：上肢の解剖と評価法の確認	1/3
9	コンディショニング① (松下)	予習：解剖学・運動学・種目特性の確認 復習：種目別の問題点を検討する	2/3
10	コンディショニング② (松下)	予習：解剖学・運動学 復習：種目別の問題点を考える	
11	スポーツ実施時の代謝と栄養(植杉)	予習：栄養学・運動生理学の確認 復習：配布プリント、キーワードの確認	
12	スポーツ選手の基本的食事 (試合期・休養期の食事) (植杉)	予習：普段の食事パランスの確認 復習：配布プリント、キーワードの確認	
13	スポーツ選手の体づくり (増量と減量) (植杉)	予習：競技特性についての確認 復習：配布プリント、キーワードの確認	
14	スポーツ選手の障害予防のための栄養(植杉)	予習：スポーツ障害等の確認 復習：配布プリント、キーワードの確認	
15	スポーツ・健康とサプリメント(植杉)	予習：自ら採取中のサプリメントの確認 復習：配布プリント、キーワードの確認	
成績評価方法と基準			
植杉：担当する授業の最終回にプレゼンテーションを実施する。			
松下：筆記試験を実施する。			

授業科目名		運動生理機能学演習(鍼灸) (Exercise Physiological Function 【Seminar】)	
主担当教員	中原 英博	担当教員	中原 英博、佐野 加奈絵、伊藤 剛、教員未確定
科目ナンバリング	SS521	科目区分	専門科目
配当年次	3	開講学期	後期
授業形態	演習	単位数	2
授業概要	<p>本講義では、運動生理学の体験学習を交えた学生参加型の授業を展開する。授業では小班単位で演習課題に取り組み、自らの力でレポートを作成するという過程を通じて、運動時の生体機能に関する知識や理解を深める。</p> <p>到達目標</p> <p>スポーツ選手の運動機能の評価や、呼吸循環器疾患における運動不能の原因、およびその症状を識別するため方法論や、それを実施することの意義を理解できる。</p> <p>1年次に学んだ生理学の知識をベースとして、運動時における生理学的応答の測定方法や長期トレーニングによる生体反応の動的、時間的動態や適応変化を理解し、その評価方法やその反応のメカニズムに関する説明(考察)ができる。</p> <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>運動生理学の知識をベースとした演習授業を展開するため、運動生理機能学演習の履修にあたっては、原則として運動生理学講義を履修し、単位を取得したものに限りです。</p>		
履習前の準備	<p>演習前の準備</p> <p>運動生理学の授業で用いた教科書(運動処方)などを調べて、体力や呼吸循環系に関する各測定項目についての知識や理解を深めておく。</p> <p>演習で修得すべき専門知識、専門技術を調べておく。</p>		
教科書			
特に指定しない。			
参考書			
特に指定しない。			
研究室/オフィスアワー			
宮本：原則月曜日 3時限目・4時限目、その他、部屋にいればいつでも訪問可です。 眞間等はいつでも自由どうぞ。			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	健康増進における運動の意義、身体運動の生理学的基礎 (講義)	スポーツ選手の運動機能の評価や、呼吸循環器疾患における運動不能の原因、およびその症状を識別するための各種方法論についての理解を深めておく。	
2	運動時における呼吸循環代謝システムの関連メカニズムの概要 (講義)		
3	運動時における生理学的応答(高次脳機能・脳循環・呼吸調節機能)の測定・評価方法(講義)		
4	運動時のエネルギー代謝機構(有酸素性代謝と無酸素性代謝)の量的、時間的動態(講義)		
5	最大酸素摂取量の測定及び評価①(実習)：直接法を用いて最大酸素摂取量を測定し、評価する。		
6	最大酸素摂取量の測定及び評価②(実習)：間接法を用いて最大酸素摂取量を測定し、評価する。		
7	無酸素性作業閾値の測定及び評価(実習)：ラング運動負荷試験、疲労ガス及び低酸素ガス負荷試験、肺機能試験によって運動時換気量と反応の決定機構を定量的に評価する方法を学習する。		

8	新体力テストの測定とその評価方法の学習① (実習)：20～64歳を対象にした、体力テストによって体力を測定し、評価する。	
9	新体力テストの測定とその評価方法の学習② (実習)：65～74歳を対象にした、新体力テストによって体力を測定し、評価する。	
10	運動時における生理学的応答の測定及び評価 (実習)：体力テスト実施中の生理学的応答(心拍数及び血圧などの自律神経活動の評価、深部体温、心エコー検査、筋電図解析等)を測定し、評価する。	
11	身体組成の測定とその評価 (実習)：皮脂厚計及びインピーダンス法を用いて体脂肪量を測定し、それぞれ評価する。	
12	フィールドにおける体力指標の測定及び評価 (実習)：フィールド場面で用いられる、体力指標(胸時計型心拍計、乳酸、血糖、Borgスケール)の測定法を学習し、測定する。	
13	バイオメカニクスにおける分析法とその評価 ①(実習)：身体動作を運動学的手法(映像撮影法等)を用いて測定し、評価する。	
14	バイオメカニクスにおける分析法とその評価 ②(実習)：身体動作を生理学的手法(筋電図等)を用いて測定し、評価する。	
15	課題レポートの提出とそれに基づくプレゼンテーションと質疑応答	
成績評価方法と基準		割合
1. 課題レポート 4/5以上の出席を必要とする。		1. 100%

授業科目名	トレーニング科学演習Ⅳ(指導実習)(鍼灸) (Training Science Seminar Ⅳ【Coaching Practice】)		
主担当教員	中原 英博	担当教員	中原 英博、教員未確定
科目ナンバリング	SS525	科目区分	ディプロマポリシー 該当項目 DP①
配当年次	3	開講学期	後期 曜日・時限 火曜5限
授業形態	演習	単位数	1 必修・選択 選択
授業概要	健康運動実践指導者にとって必要となる、「適切な運動プログラムを構成する能力」、「自ら原本を示せる実践能力」を養う。また、健康づくり運動に必要なとなる、ウォーキング・ジョギング・水中運動を必要に応じて演習プログラムに取り入れて行う。		
到達目標	健康運動実践指導者になるための基礎知識を身につける。		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	この講義では、健康実践指導者の資格取得試験に向けた対策を行います。一緒に頑張ってください。		
教科書	健康運動実践指導者養成用テキスト		
参考書	なし		
研究室/オフィスアワー	東棟4階研究室 水曜日 17:00～18:00		
授業展開及び授業計画表	回数	学修内容	予習・復習・課題等 担当
	1	健康づくり施設概論について	シラバスを確認しておくこと。
	2	運動生理学について	テキストの運動生理学に関連する章を読んでおくこと。
	3	機能解剖とバイオメカニクスについて	テキストのバイオメカニクスに関連する章を読んでおくこと。
	4	栄養摂取と運動について	テキストの栄養摂取と運動に関連する章を読んでおくこと。
	5	体力の測定と評価について	テキストの体力測定に関連する章を読んでおくこと。
	6	健康づくりと運動プログラムについて	テキストの運動プログラムに関連する章を読んでおくこと。
	7	運動指導の心理学的基礎について	テキストの運動と心理学に関連する章を読んでおくこと。
	8	運動障害と予防・応急処置について	テキストの運動障害と予防に関連する章を読んでおくこと。
	成績評価方法と基準		割合
	1. 筆記試験		1. 70%
	2. 講義中の意欲・態度		2. 30%
	4/5以上の出席が必要。		

授業科目名 学校保健(小児保健・精神保健)(鍼灸スポーツ) (School Health / Mental Health)			
主担当教員	宮永 啓子	担当教員	宮永 啓子
科目ナンバリング	SS512	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目
配当年次	3	開講学期	前期
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	<p>学校保健を学ぶ意義や目的を理解し、学校現場での実践方法について学修する。 保健体育の教員を目指す立場から、学校保健におけるチーム学校の主体者として、養護教諭やその他の教員との連携を、実際の学校現場をイメージしながら学修する。 授業は講義形式が主であるが、双方向に意見交換できる場も設ける。</p> <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校現場で学ぶ児童・生徒等の健康を護り、増進するために必要な知識とその実践方法を学ぶ。 ・児童・生徒等を取り巻く、現代的な健康課題や精神的な健康問題を学び、将来学校現場での指導に生かすことができる実践力を身につける。 <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>学校期における健康問題について、興味関心をもって読むこと。 教職を目指す意欲を持ち、受身ではなく、積極的に授業に参加する姿勢を望みます。</p> <p>教科書</p> <p>渡辺正樹 編著「学校保健概論」光生館</p> <p>参考書</p> <p>適宜授業時にプリントを配布する。</p> <p>研究室/オフィスアワー</p> <p>非常勤講師控室</p> <p>授業展開及び授業計画表</p>		
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	ガイダンス、学校保健の意義と目的	予習：教科書の内容について確認しておく。 復習：授業の復習（以下、全ての授業に同じ）	
2	学校保健の構造と内容 「チーム学校」と教職員間の連携	予習：自身の中・高時代の学校保健に関する行事や出来事をまとめる。 予習：教科書 2章・3章を予習	
3	子どもの発達発達・健康診断		
4	子どもの健康課題と病氣 学校生活において留意すべき子どもの病氣	予習：子どもに多いアレルギー疾患を調べる。 予習：教科書 5章を予習し、学校で予防すべき感染症についてまとめる。	
5	感染症とその予防	予習：最近のニュースや記事から、子どもの心 の問題を取り上げてみる。 予習：不登校について身近な症例をあげ考 える。	
6	学校精神保健(1) 児童生徒の心の健康に関する現状と課題	予習：教科書 8章を予習	
7	学校精神保健(2) 心の健康問題への対応(不登校・虐待等)	予習：保健室でのできごとを思い出し、養護教 諭の役割を考えてくる。	
8	学校での性教育 保健室の役割	予習：過去のニュースや記事から地域の災害や 事故事例を調べる。 予習：日本スポーツ振興センター災害給付につ いて調べる。	
9	養護教諭の仕事 学校安全・危機管理(1)	予習：教科書 11章を予習	
10	地域社会 学校安全・危機管理(2)	予習：教育心理学などで学んだ発達障害につい て復習しておく。	
11	学校管理下 学校の環境衛生	予習：教科書 13章を予習	
12	特別支援教育について		
13	学校保健計画と学校保健組織活動		
14	総括 私にとつての学校保健		

成績評価方法と基準	割合
1. レポート課題	1. 20%
2. 筆記試験	2. 60%
3. 授業中の発表・発言等	3. 20%

授業科目名		学校保健(学校安全・救急処置)(鍼灸スポーツ) (School Health 【Security / Emergency Treatment】)	
主担当教員	老田 準司	担当教員	老田 準司
科目ナンバリング	SS513	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目
配当年次	3	開講学期	後期
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	<p>学校保健及び学校安全、救急法の意義や構造、課題について学ぶ。</p> <p>到達目標</p> <p>学校保健は、保健教育、保健管理、保健組織活動によって成り立っていることを理解するとともに、学校安全では、救急法を体得できるようにする。</p> <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>アクティブラーニングを用いた授業を展開するので、自分の考えを他の人に理解してもらえらるよう、説明方法を工夫・改善するよう努力してください。(模擬授業を展開する中で、学校保健・安全の内容、課題について意見交換する中で整理する。)</p> <p>教科書</p> <p>学校保健概論 光生館 飛邊正樹 編纂(前期学校保健からの継続)</p> <p>高等学校学習指導要領解説 保健体育・体育編(文部科学省)</p> <p>中学校学習指導要領解説保健体育編(文部科学省)</p> <p>参考書</p> <p>学校保健マニュアル(南山堂)</p> <p>研究室/オフィスアワー</p> <p>14研究室 金曜日 16:30~17:30</p>		
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	科目オリエンテーション及び学校保健・学校安全の意義と構造について学修する。	教科書の内容について、一覽しておく	
2	授業形態の中心である課題解決学習方法、アクティブラーニングについて理解する。	課題解決学習やアクティブラーニングについて理解を進める	
3	子どもの発達発育について理解する。	教科書の関連項目を一覽しておく	
4	感染症とその予防について理解する。	教科書の関連項目を一覽しておく。	
5	保健学習 中学校保健分野の指導案作成・発表と評価を行いその保健課題について検討する。	保健分野の発表される単元について、内容を調べるとともに、発表についての評価方法を理解しておく。	
6	保健学習 中学校保健分野の指導案作成・発表とその評価を行い、保健課題について検討する。また、保健分野の内容のまとめを行う。	保健分野の発表される単元について、内容を調べるとともに、発表についての評価方法を理解しておく。	
7	保健学習 高等学校科目保健の指導案作成・発表とその評価を行い、保健課題について検討する。	高等学校科目保健の発表される単元について、内容を調べるとともに、発表についての評価方法を理解しておく。	
8	保健学習 高等学校科目保健の指導案作成・発表とその評価を行い、保健課題について検討する。	高等学校科目保健の発表される単元について、内容を調べるとともに、発表についての評価方法を理解しておく。	
9	保健学習 高等学校科目保健の指導案作成・発表とその評価を行い、保健課題について検討する。また、高等学校科目保健の内容のまとめを行う。	高等学校科目保健の発表される単元について、内容を調べるとともに、発表についての評価方法を理解しておく。	
10	保健学習のまとめ 学修した内容をまとめる。	学修した内容を復習しておく。	
11	学校安全・危機管理について理解する。	卒業した学校の安全教育について、振り返っておく	
12	学校安全 自然災害と熱中症予防	自然災害についての理解と二次災害予防及び熱中症予防の対策について理解を深めておく	
13	学校安全 応急手当のけがの応急手当	止血法を含むけがの応急手当について理解を深めておく	

14	学校安全 学校安全一を(活用)	応急手当のうち、心肺蘇生法の方法について理解を深めておく	
15	学校安全 応急手当(実習)	応急手当のうち心肺蘇生法特に胸骨圧迫法について理解を深め、方法を学ぶ。	
成績評価方法と基準			割合
1	課題発表		1 30%
2	小テスト		2 30%
3	課題テスト		3 30%
4	授業積極性		4 10%

授業科目名	スポーツ心理学(鍼灸スポーツ) (Sports Psychology)		
主担当教員	中原 英博	担当教員	中原 英博
科目ナンバリング	SS514	科目区分	ディプロマポリシー 該当項目 DP①
配当年次	3	開講学期	後期
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	<p>心理状態は我々の行動に影響を及ぼし、positive な心理状態は良い performance をもたらし、negative な心理状態は悪い performance を生み出す。またその心理状態は、自律神経系を介した呼吸循環応答を素出させる。</p> <p>授業では、スポーツ現場において必要と考えられる心理学の基礎知識について解説し、スポーツ場面・運動指導時における心理的影響の重要性を理解させるとともに、競技中・指導中の心理状態を外部より知る術を学習する。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・心理学の基礎知識を学び、スポーツ場面・指導時における心理の状態がもたらす精神的・身体的影響を理解する。 ・自分自身の競技生活やスポーツの指導場面において、本講義で学んだことが反映できるようになる。 		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	講義内容の詳細を説明するために、初回の授業に必ず出席すること。		
教科書	その都度資料を配布します。		
参考書	特になし		
研究室/オフィスアワー	東棟4階研究室 水曜日 17:00~18:00		
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	心理学の基礎知識	シラバスを確認すること。	
2	スポーツ現場における心理学の重要性	授業に関連する内容を調査しておくこと。	
3	運動実践にかかわる社会・心理・環境要因について	授業に関連する内容を調査しておくこと。	
4	運動指導にかかる効率と効果について	授業に関連する内容を調査しておくこと。	
5	心理状態とそれに関連する脳領域	授業に関連する内容を調査しておくこと。	
6	心理状態と呼吸循環応答	授業に関連する内容を調査しておくこと。	
7	視覚・音がもたらす知覚認知	授業に関連する内容を調査しておくこと。	
8	不快(不安と緊張)の情動がもたらす生体反応	授業に関連する内容を調査しておくこと。	
9	快の情動がもたらす生体反応	授業に関連する内容を調査しておくこと。	
10	心理的尺度とその測定方法	授業に関連する内容を調査しておくこと。	
11	心理生理指標とその測定方法	授業に関連する内容を調査しておくこと。	
12	リラクゼーション方法	授業に関連する内容を調査しておくこと。	
13	運動スキルの遂行における身体制御	授業に関連する内容を調査しておくこと。	
14	運動技能の学習	授業に関連する内容を調査しておくこと。	
15	スポーツ現場での心理学の応用	授業に関連する内容を調査しておくこと。	
成績評価方法と基準	割合		

レポートを講ず。学習態度・意欲などにより総合的に判断する。	レポート 80% 学習態度・意欲 20%
-------------------------------	-------------------------------

授業科目名	体カトレニング論(鍼灸スポーツ) (Physical Training Studies)			
主担当教員	伊藤 剛	担当教員	伊藤 剛	
科目ナンバリング	SSS19	科目区分	ディプロマポリシー 該当項目	DP①
配当年次	4	開講学期	曜日・時限	火曜 5限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択 選択
授業概要				
本講義では、体カトレニングに関連する機能解剖学や運動生理学などについて、講義形式にて学びを深める。トレニングによる組織や器官(器管系)の構造的・機能的変化やそれに伴う生理機能の変化などについて学ぶとともに、各種トレニングの効果について最新の学術的根拠についても解説する。また各種トレニングを実践するとともに、安全かつ効果的なトレニング方法の取得と指導方法などについても学ぶ。さらに目的に応じたトレニングプログラム作成が可能となるよう授業を進めていく。				
到達目標				
1. 体カ・トレニングに関連した機能解剖学・運動生理学・トレニング科学を理解する。				
2. 安全かつ効果的なトレニングの実践および指導が可能となる。				
3. 目的に応じたトレニングプログラムの作成が可能となる。				
履修上の注意(学生へのメッセージ)				
1. 実技を実施する上で動きやすい服装および室内履きを準備すること。				
2. 実技では得手不得手は問わないので積極的に参加すること。				
教科書				
特になし。必要に応じてプリントなどを配布する。				
参考書				
『体カトレニングの理論と実践』 その他、必要に応じて提示する				
研究室/オフィスアワー				
火曜日 9:00~11:00 : 教室または非常勤講師室				
授業展開及び授業計画表				
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当	
1	ガイダンス/体カトレニング論とは	予習：シラバスの確認 復習：体力の定義について確認		
2	体カトレニングの科学的基礎 1	予習・復習：トレニング原理・原則について事前にとらめ、再確認する		
3	体カトレニングの科学的基礎 2	予習：骨学・関節学・筋学について確認 復習：運動器の解剖学についてまとめる		
4	体カトレニングの科学的基礎 3	予習：運動生理学の基礎を確認 復習：キーワード、重要語句の確認		
5	ウォーミングアップ・クーリングダウン	予習：ストレッチングの各種形態をまとめる 復習：自身の競技特性を考慮し応用する		
6	レジスタンストレニング 1 (実習)	予習：上半身の機能解剖学について確認 復習：自身の目的に応じて応用実践する		
7	レジスタンストレニング 2 (実習)	予習：下半身の機能解剖学について確認 復習：自身の目的に応じて応用実践する		
8	レジスタンストレニング 3 (実習)	予習：体幹の機能解剖学について確認 復習：自身の目的に応じて応用実践する		
9	パワー・スピード系トレニング (実習)	予習：オリエンティエーションについて理解 復習：指定メテリアを通じてポイントを確認		
10	有酸素系トレニング 1 (実習)	予習：呼吸・循環機能について確認 復習：キーワード、重要語句の確認		
11	有酸素系トレニング 2 (実習)	予習：サキトトレニングをまとめる 復習：指定参考書の確認		
12	ピリオダイゼーション (期分け) とは	予習：子どもの発育・発達について理解 復習：課題について考察し次週提出		
13	トレニングプログラムの作成	予習：球技系競技の特性について理解 復習：課題について考察し次週発表する		
14	トレニングプログラムの指導	予習：グループ発表について取り組む 復習：発表について自己評価する		
15	体カトレニングにおける安全対策	予習：CPR/RICE処置を確認しておく 復習：臨床での応用を自己でまとめる		

成績評価方法と基準	割合
1. 原則3分の2以上の出席者を評価の対象とする。	2-1:50
2. 授業への参加度:50%・グループ発表:40%・授業内レポート10%	2-2:40
3. 授業への参加度とは、得手不得手に関わらない能動的な実技への参加と、講義において教員からの質問に對する論理的かつ積極的な発言などを評価する。	2-3:10

授業科目名		運動生理学(鍼灸スポーツ) (Exercise Physiology)	
主担当教員	中原 英博	担当教員	中原 英博
科目ナンバリング	SS20	専門科目	ディプロマポリシー該当項目
配当年次	3	開講学期	前期
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	<p>本講義では、運動負荷時にはじめて出現する生理現象の固有の変化、長期トレーニングによる器管、組織の構造的変化やそれらに伴う運動生理機能の向上、不活動(運動不足)による生理機能低下などについて、特に、呼吸器系、循環器系およびそれらをコントロールする自律神経系を中心とした、個体レベルでの生体制御システムの運動適応の過程について、運動生理学、スポーツ科学の観点から解説する。これにより、第1次予防の視点に立つて運動が健康づくり、特に生活習慣病予防に役立つ根拠を示す。</p> <p>また、実際の医療やスポーツ科学の現場において広く活用されている</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1次予防の視点に立つて、運動が健康づくり、特に生活習慣病予防に役立つ根拠を説明できる。 ・スポーツ選手や運動機能の評価や、呼吸器系疾患における運動不能の原因、およびその症状を識別するための方法論や、それを実施することの意義を理解できる。 <p>1.年次に学んだ生理学の知識をベースとして、運動時における生理学的応答の測定方法や長期トレーニングによる生体反応の量的、時間的動態や適応変化を理解し、その評価方法やその反応のメカニズムに関する説明(考察)ができる</p>		
到達目標	<p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>1. 2年次の生理学、健康スポーツ科学演習 トレーニング科学演習にて得た知識、経験をベースとした授業を展開するため、運動生理学の履修にあたっては、1、2年次に学んだ上記科目内容について、再度見直しをしておくこと、特に、体力や呼吸器系代謝系に関する各測定項目についての知識や理解を深めておくこと。授業内容の予習、復習については、私のホームページ(www.respiratorycontrol.com)を活用してください。</p>		
教科書	アメリカ体育学会 編 日本体力医学会体力科学編集委員会 監訳「運動処方指針-運動負荷試験と運動プログラム-原著第7版」南江堂、2006年		
参考書	参考書・参考資料等 宮村英晴 編集「新運動生理学(下巻)」真境交易(株)医書出版部中野昭一 著「図説・運動の仕組みと応用-運動・生理・生化学」学芸(普及版)」運動薬出版、2001年		
研究室/オフィスアワー	研究室/オフィスアワー		
E-メール(研究室)①	原則 月曜日 3時限目・4時限目		
その他	部屋にいればいつでも訪問可です。質問等はいつでもご自由どうぞ。		
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	健康の増進と運動:健康増進における運動の意義、身体運動の生理学的基礎	1. 2年次の生理学、健康スポーツ科学演習 トレーニング科学演習にて得た知識(特に用語)の再確認をしておくこと	
2	運動と代謝システム:運動時のエネルギー供給機構、有酸素性代謝と無酸素性代謝		
3	運動時のエネルギー代謝:運動時の糖質代謝、脂質代謝		
4	運動時のエネルギー代謝:運動時の蛋白質代謝、脂質代謝		
5	運動時の循環調節:運動時の圧反射システムによる心拍、血圧制御機構		
6	運動と呼吸システム:運動時の肺換気、ガス交換、呼吸運動の神経性および液性調節		
7	運動時の呼吸調節:運動時の化学反射システムによる呼吸調節機構		
8	運動と体温:運動時の体温調節機構		
9	運動と環境:特殊環境下における運動の生理		
10	長期トレーニングと生体システムの運動適応:長期トレーニング、不活動(運動不足)による生体システムの運動適応変化		

11	運動と病態生理:運動制限をきたす疾患の病態生理		
12	運動負荷試験の基礎と実際(1):運動負荷に対する呼吸循環代謝システムの運動メカニズムの概要		
13	運動負荷試験の基礎と実際(2):運動に対する生理学的応答の測定・評価		
14	運動処方の実際(1):運動による生活習慣病の予防効果		
15	運動処方の実際(2):運動による生活習慣病の予防のプログラム作成		
成績評価方法と基準			割合
課題レポート			課題レポート
筆記試験			ト80%
上記平均点の結果、60点以上で単位認定とする。			筆記試験 20%

授業科目名		スポーツ実習Ⅱサッカー(競気スポーツ) (Sports Practice II (Soccer))	
主担当教員	伊奈 新太郎	担当教員	伊奈 新太郎
科目ナンバリング	SS601	科目区分	DP①③
配当年次	3	開講学期	後期
授業形態	実習	単位数	1
授業概要	<p>本授業では、基礎・基本が中心の技術練習にほなるが、技術の習得だけではなく、サッカーを介しての指導者(教師)目線での立ち居振る舞いや、プレーヤー(生徒役)への声かけを学ぶ機会として指導実践を複数回行う。決められたテーマに沿い、指導案の作成、指導実践の振り返りとしてプレーヤー役となった受講生皆でディスカッションし情報共有する中で、指導技術の向上と技術習得指導、指導者・教育者として『必要なこと』を養う事を目的とする。</p> <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サッカーの基本技術を習得し、デモンストレーションができる ・サッカーの指導実践を行う事で Plan (計画)・Do (実行)・Check (評価・確認)・Act (改善) サイクルを体験し、準備段階から指導内容に対し深く理解すると共に、実現性・安全性を配慮したメニューの構築と、指導者としての立ち居振る舞いができる <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>軽度の雨天であれば、屋外(グリーンスクエア)にて行いますが、天候予報と授業前の降雨状況と体育館の空き状況では体育館で実施する場合があります。体育館シューズも予め用意するようにして下さい。</p> <p>「アイスブレイクの指導実践」と「サッカーのテーマでの指導実践」の最低2回実施。</p> <p>持ち物(指導実践時)</p> <p>笛・バイランダー・筆記用具・時計</p>		
教科書			
適宜、資料等を配布する。			
参考書	<p>公益財団法人日本サッカー協会「サッカー指導教本2016 JFA公認C級コーチ」2016年</p> <p>財団法人日本サッカー協会「JFAキッズドリル」2005年</p> <p>財団法人日本サッカー協会「JFAキッズドリル2アイスブレイク集」2010年</p> <p>研究室/オフィスアワー</p>		
東棟4F 共同研究室2	月13:00~	金13:00~	
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	サッカーの歴史およびルールについて 指導実践1:エクスプレッション	歴史とルール、判例エピソード後、グループワークにて実技を 実施	
2	実技①:7対1練習「ドリブルとパス」「ドリブルとパス」「ドリブルとパス」 ゲームとコーチング:「ドリブルとパス」「ドリブルとパス」	配布資料のキープワークと留意点を理解する	
3	実技②:7対1練習「ドリブルとパス」「ドリブルとパス」 観る:「5対1おにごっこ」「4対1おにごっこ」 ゲームとコーチング:「ドリブルとパス」「ドリブルとパス」 守備の準備:「ドリブルとパス」「ドリブルとパス」	配布資料のキープワークと留意点を理解する	
4	実技③:7対1練習「ドリブルとパス」「ドリブルとパス」 ゲームとコーチング:「ドリブルとパス」「ドリブルとパス」 守備の準備:「ドリブルとパス」「ドリブルとパス」	配布資料のキープワークと留意点を理解する	
5	実技④:7対1練習「ドリブルとパス」「ドリブルとパス」 ゲームとコーチング:「ドリブルとパス」「ドリブルとパス」 守備の準備:「ドリブルとパス」「ドリブルとパス」	配布資料のキープワークと留意点を理解する	
6	指導実践①:7対1練習 観る:「5対1おにごっこ」「4対1おにごっこ」 ゲームとコーチング:「ドリブルとパス」「ドリブルとパス」	キープワークと留意点を意識して指導実践とアプレ を行う	
7	指導実践②:7対1練習 観る:「5対1おにごっこ」「4対1おにごっこ」 ゲームとコーチング:「ドリブルとパス」「ドリブルとパス」	キープワークと留意点を意識して指導実践とアプレ を行う	

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
8	指導実践③:7対1練習 観る:「5対1おにごっこ」「4対1おにごっこ」 ゲームとコーチング:「ドリブルとパス」「ドリブルとパス」 守備の準備:「ドリブルとパス」「ドリブルとパス」	キープワークと留意点を意識して指導実践とアプレ を行う	
9	指導実践④:7対1練習 観る:「5対1おにごっこ」「4対1おにごっこ」 ゲームとコーチング:「ドリブルとパス」「ドリブルとパス」	キープワークと留意点を意識して指導実践とアプレ を行う	
10	指導実践⑤:7対1練習 観る:「5対1おにごっこ」「4対1おにごっこ」 ゲームとコーチング:「ドリブルとパス」「ドリブルとパス」	指導実践を行います。指導実践担当者は決めら れた期日までに指導案を提出して下さい。	
11	指導実践⑥:7対1練習 観る:「5対1おにごっこ」「4対1おにごっこ」 ゲームとコーチング:「ドリブルとパス」「ドリブルとパス」	指導実践を行います。指導実践担当者は決めら れた期日までに指導案を提出して下さい。	
12	指導実践⑦:7対1練習 観る:「5対1おにごっこ」「4対1おにごっこ」 ゲームとコーチング:「ドリブルとパス」「ドリブルとパス」	指導実践を行います。指導実践担当者は決めら れた期日までに指導案を提出して下さい。	
13	指導実践⑧:7対1練習 観る:「5対1おにごっこ」「4対1おにごっこ」 ゲームとコーチング:「ドリブルとパス」「ドリブルとパス」	キープワークと留意点を意識して指導実践とアプレ を行う	
14	指導実践⑨:7対1練習 観る:「5対1おにごっこ」「4対1おにごっこ」 ゲームとコーチング:「ドリブルとパス」「ドリブルとパス」	キープワークと留意点を意識して指導実践とアプレ を行う	
15	指導実践⑩:7対1練習 観る:「5対1おにごっこ」「4対1おにごっこ」 ゲームとコーチング:「ドリブルとパス」「ドリブルとパス」	キープワークと留意点を意識して指導実践とアプレ を行う	
成績評価方法と基準			
1. 指導案作成・内容 (PCで作成、詳細・注意点・作図)			
2. 授業への取り組み (物品の準備、片付け、アプレ時の取り組み)			
3. 指導実践時の指導力(1回目からの修正度合) (箱・時間配分・説明・コミュニケーションの準備・指導)			
			割合
			1. 20%
			2. 40%
			3. 40%

スポーツ実習Ⅳ柔道(鍼灸スポーツ) (Sports Practice IV【Judo】)			
授業科目名	スポーツ実習Ⅳ柔道(鍼灸スポーツ)	担当教員	老田 準司
主担当教員	老田 準司	担当教員	老田 準司
科目ナンバリング	SS603	専門科目	テニソロマボリジャー 該当項目
配当年次	3	開講学期	前期
授業形態	実習	単位数	1
授業概要	必修		
柔道の歴史、基本技術について、実技を通して学習する。			
到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> 日本の伝統的な武道の柔道について、その精神や体育実技としての柔道について学習する。 中学校、高等学校の体育の授業における基本・基礎的技術や理論を習得し、指導できるようになる。 			
履修上の注意(学生へのメッセージ)			
<ul style="list-style-type: none"> 安全を確保するため、体調管理を徹底すること。 			
教科書			
<ul style="list-style-type: none"> 文部科学省「中学校学習指導要領解説 保健体育編」 東山書房 文部科学省「高等学校学習指導要領解説 保健体育・体育編」 東山書房 			
参考書			
新しい柔道の授業づくり(大修館書店)			
研究室/オフィスアワー			
第14研究室			
授業展開及び授業計画表			
回数	学習内容	予習・復習・課題等	担当
1	<ul style="list-style-type: none"> 柔道場の設営(巻をひく)、柔道着の着用の方法、礼法、受け身の基本 	<ul style="list-style-type: none"> 体調管理の徹底を図っておくこと。 柔道の歴史について調べておくこと。 実技ノートの使用法について、理解する。 	
2	<ul style="list-style-type: none"> 姿勢、崩きの習得 受け身 	<ul style="list-style-type: none"> 柔道着等の清潔を維持する方策を立てておくこと。 	
3	<ul style="list-style-type: none"> 受け身(支えつり込み足を利用) 崩しとつくり 固め技(袈裟固め)とその逃れ方 	<ul style="list-style-type: none"> 実技ノートに本日の授業内容、注意点、課題等について整理、記述しておくこと。 	
4	<ul style="list-style-type: none"> 受け身(組手から中腰姿勢での受け身) 投げ技(形を利用しての支え釣り込み足) 固め技(横四方固め)とその逃れ方 	<ul style="list-style-type: none"> 実技ノートに留意点、学習課題を記述する。 	
5	<ul style="list-style-type: none"> 受け身(大腰を利用して) 固め技(肩固め) その逃れ方 固め技の約束稽古 	<ul style="list-style-type: none"> 実技ノートに留意点、学習課題を記述する。 	
6	<ul style="list-style-type: none"> 受け身(立技を利用しての受身) 投げ技(形を利用しての送足私) 固め技(約束稽古) 	<ul style="list-style-type: none"> 実技ノートに留意点、学習課題、次時の取組姿勢を記述する。 	
7	<ul style="list-style-type: none"> 受け身(前回り受身) 投げ技(形を利用しての私腰) 	<ul style="list-style-type: none"> 実技ノートに学習課題と次時の取組姿勢を記述する。 	
8	<ul style="list-style-type: none"> 受け身(前回り受身) 投げ技(大内刈り、小内刈り、小外刈り) 	<ul style="list-style-type: none"> 実技ノートに留意点、学習課題を整理し、次時の取組姿勢を記述する。 	
9	<ul style="list-style-type: none"> 受け身 投げ技(形を利用しての一本背負い) 投げ技の約束稽古 	<ul style="list-style-type: none"> 実技ノートに留意点、学習課題を整理し、次時の取組姿勢を記述する。 	
10	<ul style="list-style-type: none"> 受け身(前回り受身) 立ち技から寝技への連絡 	<ul style="list-style-type: none"> 実技ノートに留意点、学習課題と次時の取組姿勢を記述する。 	
11	<ul style="list-style-type: none"> 寝技の連絡 	<ul style="list-style-type: none"> 立ち技と寝技の取組方法の違いを理解出来るようになること 	
12	<ul style="list-style-type: none"> 寝技、立ち技(固め技、投げ技)の復習 約束稽古 	<ul style="list-style-type: none"> 試合の方法と試合審判規定 	
13	<ul style="list-style-type: none"> 形(手技、腰技)の習得 	<ul style="list-style-type: none"> 実技ノートに留意点、学習課題を記述する。 形の意義について理解できるようにする。 	

14	<ul style="list-style-type: none"> 形(足技)の習得 	形の意義について理解し、基本動作ができるようになる。次時の立ち技のテストのため、復習をしておく。	
15	<ul style="list-style-type: none"> 投げ技、固め技の復習 約束稽古 技術の確認(前回り受身、立ち技のテスト) 	柔道の受身や立技、固め技の基本について理解し、説明できるようにする。	
成績評価方法と基準			
1 基礎技能試験、			
①受身			
②形による立技			
2 実技ノート			
3 授業態度(意欲・関心・協力)			
			割合
			1 70%
			2 20%
			3 10%

授業科目名 体育原理(鍼灸スポーツ) (Principle of Physical Education)			
主担当教員	老田 準司	担当教員	老田 準司
科目ナンバリング	SS607	科目区分	ディプロマポリシー 該当項目 DP①③
配当年次	3	開講学期	曜日・時間 木曜 4限
授業形態	講義	単位数	2 必修・選択 選択
授業概要			
体育とスポーツを理解する上で必要な基礎基本的事項や、諸課題について学習する。			
到達目標			
体育やスポーツの原理的な事項について理解できるようにする。			
履修上の注意(学生へのメッセージ)			
アクティブラーニングとして課題解決学習も取り入れるので、受け身でない姿勢で授業に臨んでください。			
教科書			
教養としての体育原理 友添秀則・岡出美則 編 大修館書店			
参考書			
体育原理講義(大修館)			
研究室/オフィスアワー			
第14研究室 火曜日16:30~17:30			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	オリエンテーション、体育原理の輪郭	体育原理の概要について理解する	
2	体育とその概念	体育とは何かを考察しておく	
3	体育とその理念	体育の理念について理解する	
4	体育とスポーツの相違	体育とスポーツの違いについて考察する	
5	スポーツ規範と教育的価値	スポーツの教育的価値について考察する	
6	課題発表Ⅰ スポーツ種目の起源及び発展過程、課題	スポーツ種目の歴史、特長について考察しておく。	
7	課題発表Ⅱ スポーツ種目の起源及び発展過程、課題	スポーツ種目の歴史、特長について考察しておく。	
8	課題発表Ⅲ スポーツ種目の起源及び発展過程、課題	スポーツ種目の歴史、特長について考察しておく。	
9	体育における競技	競技について考察しておく	
10	体育と指導者	指導者の役割、価値について理解を進める	
11	体育と人間形成	人間形成こととしての体育の役割について理解する	
12	体育と身体形成	体育と身体形成の関係を理解する	
13	学校体育の存在意義と目標	学校体育の意義を理解する	
14	学校体育の可能性	学校体育の可能性について考察しておく	
15	体育・スポーツの諸課題	体育とスポーツの課題について考察する。	
成績評価方法と基準			割合
1 課題の発表			1 30%
2 小テスト			2 20%
3 課題テスト			3 50%

鍼灸学科 鍼灸コース・スポーツ特修コース
(2018年度 入学生カリキュラム)

授業科目名	基礎ゼミナール(鍼灸) (Basic Seminar)		
主担当教員	鍼田 智之	担当教員	鍼田 智之、安田 実、松熊 秀明、辻丸 泰永、辻 涼太
科目ナンバリング	LA001	科目区分	ディプロマポリシー 該当項目 DP②③④
配当年次	1	開講学期	前期 火曜 2限
授業形態	演習	単位数	2 必修・選択 必修

授業概要
本講義では、大学における学びの幅を拡大し、自ら考えて問題を解決する能力を養うことを目的としている。その一環として、本学教員による大学における学びのガイダンスと討論を7回、ローテーションで受講する。
また、キャリアデザインの授業と連動してグループワークや発表を行い、グループでの討論や問題解決法について学習する。

到達目標

- 1) 附属施設での見学を経て、目指す資格の内容について理解を深める。
- 2) 大学にて学ぶ臨床技術の内容を体験し、学びのモチベーションを高める。
- 3) 学内で学びを展開する教員の専門分野を知り、テーマを持って討論する。
- 4) 与えられたテーマについて調査、整理、報告のプロセスを実践する。
- 5) 大学での学習における情報編集能力(収集・加工・創造・表現)およびプレゼンテーション能力を習得する。
- 6) 批判的思考および主体的な問題解決方法を探索する態度、姿勢を身につける。
- 7) 図書館などの大学施設を利用した学習方法を身につける。
- 8) グループワークの進行方法や討論方法について学ぶ。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

- 1) 前半8回は少人数制教育のため、利用教室が異なる。スケジュールを確認し、教室移動に注意すること。
- 2) テーマを持って学び、積極的に調査、整理、報告を行うこと。
- 3) グループワークには積極的に参加すること。

教科書

特に指定しない。

参考書

授業時に紹介する。

研究室/オフィスアワー

授業時の教員指示に従う。原則、各教員の研究室にて実施する。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	オリエンテーション ローテーションスケジュールの説明、授業の目的の理解。「鍼灸学科を選択した理由と将来の目標」 各自3分間の発表	鍼灸学科を選択した理由と将来の目標を考えてくる	
2	図書館利用セミナー 図書館利用方法、WEBによる文献検索、収集方法について	入学後、授業前までに図書館を訪れて閲覧すること	
3	自己分析と自己アピール 履歴書について	自分の長所・短所を出来るだけ多く考えてくること 「医療の諸問題について」レポートを作成して授業に出席すること。 グループワークでは代表1例を選び発表用のパワーポイントを作成すること。	
4	「医療の諸問題について」グループディスカッション	グループごとに発表の準備をすること	
5	「医療の諸問題について」グループ発表	鍼灸治療が活躍する分野について、3種類以上調べてくること	
6	鍼灸師が活躍するフィールドと現状	なし	
7	鍼灸臨床体験 グループ1:運動器疾患と鍼灸 グループ2:東洋医学と鍼灸	なし	
8	鍼灸臨床体験 グループ1:東洋医学と鍼灸 グループ2:運動器疾患と鍼灸	なし	鍼田智之

9	5グループ ローテーション授業 「鍼灸臨床における診察から治療」	鍼灸治療について調べてくること レポート提出	辻丸講師
10	5グループ ローテーション授業 「スポーツの現場での鍼灸師の役割」	スポーツの現場で活躍する鍼灸師について調べてくること レポート提出	鍼田教授
11	5グループ ローテーション授業 「社会科学関係分野の知識の理解とその応用」	大学生として知っておきたい社会科学関係分野のガイドライン知識の取得と討論について学修します。 レポート提出	安田教授
12	5グループ ローテーション授業 「東洋医学と鍼灸」	東洋医学の治療法について WEB や図書館を利用して調べてくること レポート提出	辻丸講師
13	5グループ ローテーション授業 「鍼灸の実験」	鍼灸治療によるリラクゼーション効果について、WEBや図書館を利用して調べてくること レポート提出	松熊准教授
14	業界研究に関するグループ発表	グループごとに発表の準備をすること	
15	履歴書の作成。 キャリアデザイン作成と提出	キャリアデザインを考えること。	
成績評価方法と基準			
2 回のグループワークにおけるディスカッション方法およびレポート・プレゼンテーションを評価する。			
①第1回:プレゼンテーション10点、レポート20点			
②第2回:プレゼンテーション10点、レポート25点			
③各教員が指定する提出物の提出状況を評価する7点×5 回35点			
④2/3以上の出席			
割合			
①30%			
②35%			
③35%			

授業科目名		物理学(鍼灸) (Physics)	
主担当教員	久国 正章	担当教員	久国 正章
科目ナンバリング	LA003	教養科目	ディプロマポリシー 該当項目
配当年次	1	開講学期	後期
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	<p>さまざまな自然現象をよく観察してみると簡単な基本原理に基づいていることがわかる。物理学とはそのような基本原理を論理的に説明する学問であり、工学はもとより生物学、医学などの幅広い分野の基礎となっている。本講義は力学・熱力学・電磁気学などについて幅広い知識を学習し、医療現場で実際に活用できる知識を習得できる授業構成である。</p> <p>到達目標</p> <p>水の比熱と日本の気候との関係についてこの原理の人体中での応用 注射針の先端が皮膚に及ぼす圧力について 血圧とは 電磁気の基本知識 上記の内容を学習していく。</p> <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>1. 自然現象を理解するための基本となる科目であることを認識する。 2. 配布された資料を使用し、講義を行う。 3. 出席は重視する。 4. 身近な自然現象を物理学の観点で考察する。 5. 疑問点は大切に、解決に向けて行動する。</p>		
教科書			
プリント使用			
参考書			
ペッドサイトを科挙する	平田雅子 著 Gakken		
研究室/オフィスアワー			
非常勤控室	月曜と木曜		
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	熱力学 比熱	水の比熱が大きいことと人間は体温を一定に保つことができる。 授業用プリントを読み直し、疑問点は質問してください。	
2	熱力学 潜熱、代謝量	水分が蒸発する際、必要となる熱について代謝量と年齢・性別との関係について確認して下さい。	
3	力の合成と分解、力のつりあい、作用・反作用の法則	力の分解の作図方法を覚えると、授業プリントが理解しやすくなります。	
4	力学 重心、力のモーメント	筋肉は私たちが思っている以上の力を発揮しているのか、力のモーメントの分野を読み直し確認してみましょう。	
5	力学 腰にかかる負担	腰を曲げたり、重いものを持つと、腰にかなりの負担を強いることとなります。具体的な数値を知ること、日常生活から毎を付けるようにしましょう。	
6	力学 滑りにくい床	雪道の歩き方を確認しましょう。理解が難しい場合は、力の分解のプリントを真直して下さい。	
7	力学 圧力、気圧	潜水艇について確認しておきましょう。10m潜ると1気圧の力を受けます。	
8	力学 アルキメデスの原理	以前、献血の際に用いられていた血液比重について復習しておきましょう。	
9	力学 ベルヌーイの定理	血圧測定を勉強するときに登場する、動圧と静圧。これらはベルヌーイの定理に記載されています。	
10	力学 入浴効果	和式風呂と洋式風呂の、人体への影響について復習しておきましょう。	

11	電気 オームの法則	冬になると静電気という思えない隙に悩まされま すが、静電気がたまるとは、どういうことな のでしょうか。	
12	電気 感電ショック、アース	電流値と人体への影響における表を一読して おいて下さい。	
13	単位 ヘマトクリット値	多くの単位が登場しましたが、わからないもの があれば今回整理しておいて下さい。	
14	磁気 磁界、電磁誘導	IH調理器、リニアモーターカーなどに利用 される電磁誘導について復習しておきましょう。	
15	電磁波 紫外線	紫外線による人体への影響について確認して おきましょう。	
成績評価方法と基準			割合
毎回レポートを提出してもらう。			①65%
①定期試験55点			②45%
②レポート45点			
合計100点のうち、60点以上で単位認定する。			

授業科目名		生物学(鍼灸) (Biology)	
主担当教員	久国 正章	担当教員	久国 正章
科目ナンバリング	LA002	授業科目	ディプロマポリシー 該当項目 DP③
配当年次	1	開講学期	曜日・時間 月曜 1限
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	<p>専門科目の理解を深めるための基礎的な生物学を学習する。 身体的には、下記単元を中心に、ヒトのからだについて理解を深める。 【細胞の構造】細胞小器官の種類とその働き 【代謝】代謝・消化・吸収 【個体の恒常性と調節】恒常性の維持・ホルモン 【刺激の受容と反応】刺激・受容・神経系</p>		
到達目標	<p>ヒトの生命の仕組みについて、その基本的事項を習得することを目的とする。 好気呼吸の過程を理解する。 恒常性について理解を深める。 体液性免疫と細胞性免疫の違いを説明できる。</p>		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	この講座を通して基礎用語を確認することが出来ます。高校で生物を学習していない、または不得意科目であった学生はぜひ受講してください。		
教科書			
書籍名	視覚でとらえる生物図録		
著者名	鈴木孝仁 監修		
出版社名	教研出版		
参考書			
カラー図解	アメリカ版 大学生物学の教科書 第1巻 細胞生物学		
研究室/オフィスアワー			
非常勤控室	月曜と、水曜の午前中		
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	細胞の構造とその働き	細胞の種類はたくさんありますが、細胞の大きさや構造はどのように違っているのでしょうか？	
2	細胞の構造とその働き 細胞を構成する物質(炭水化合物と脂肪)	私たちの体にはたくさん細胞がありますが、細胞の基本構造は同じです。その構造について確認しておきましょう。	
3	細胞を構成する物質(タンパク質) 浸透性	ヒトの細胞がどんな物質でできているか確認してみよう。	
4	選択透過性、動物の組織	能動輸送にはATPが必要ですが、その理由を考えてみてください。	
5	細胞内での代謝 酵素の性質	日常生活でいう「代謝」と生物学で扱う「代謝」は少し異なります。その違いも含めて確認しておきましょう。	
6	酵素の性質	酵素の性質はたくさんありますが、一つ一つ確認してください。	
7	外呼吸と内呼吸	生物学でいう「呼吸」は内呼吸のことです。	
8	好気呼吸の過程	「クエン酸回路」について簡単に説明します。復習した上で、他の教材も読んでみてください。	
9	消化・吸収、恒常性	食べ物を食べると栄養になりますね。その仕組みについて調べていきましょう。	
10	血液の組成、血液の凝固 血管系	血液は体重の何分の一を占めていますか？	
11	心臓と肝臓	肝臓はお酒を分解するのはもちろん、他にもたくさんのお仕事を担っています。	
12	腎臓の構造と働き	私たちは毎日何回もおしっこをします。おしっこの役割は何なのでしょう？	

13	免疫系	病気から守ってくれる白血球の仕事について確認しましょう。	
14	細胞性免疫、アレルギー	免疫反応が生体に不利に働くアレルギー。アレルギーに悩まされる人が増えてきていますが、その基本を学習しましょう。	
15	神経系、脳の構造と働き	脳は不思議な存在です。少し覗いてみましょう。	
成績評価方法と基準			割合
①定期試験100点のうち、60点以上で単位認定する。			①100%

授業科目名	化学(鍼灸) (Chemistry)		
主担当教員	安部 辰夫	担当教員	安部 辰夫
科目ナンバリング	LA017	教養科目	テ/プロモ/ボ/ジ/ー 該当項目
配当年次	1	開講学期	後期
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	必修・選択 選択		
到達目標	基礎医学科目に必要な化学的事項を正しく理解できることを念頭に置いている。		
生体反応に見られる各種の化学反応を正しく理解し、それらが生体機能に密接に関連することを理解して欲しい。			
履修上の注意(学生へのメッセージ)			
たよらずに化学を履修しようとしても、基礎医学科目で取り上げられる化学はある種生体内の反応に特化しているため、新たに学習が必要があると捉えて欲しい。			
教科書			
「ライフサイエンスのための化学」 化学同人			
参考書			
「理工系の基礎化学」 化学同人			
研究室/オフィスアワー			
火曜日から金曜日入室	イーストポート4階 研究室 1		

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	原子の構造と周期表	予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
2	電子配置とイオン化	予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
3	化学結合	予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
4	物質の三態	予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
5	化学平衡と反応速度論1	予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
6	化学平衡と反応速度論2	予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
7	酸と塩基の反応	予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
8	酸化と還元反応	予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
9	炭水素化合物1	予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	

10	炭水素化合物2	予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
11	糖質の構造と働き	予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
12	脂質の構造と働き	予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
13	タンパク質・アミノ酸の構造と働き	予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
14	核酸の構造と働き	予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
15	講義全体のまとめと振り返り	予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
成績評価方法と基準			割合
①期末試験			①100%

情報処理(鍼灸A) (Information Processing)			
授業科目名	平山 裕子	担当教員	平山 裕子
主担当教員	平山 裕子	教養科目	ディプロマポリシー 該当項目
科目ナンバリング	LA004	科目区分	DP③
配当年次	2	開講学期	曜日・時間 月曜 3限
授業形態	演習	単位数	2 必修・選択 必修
授業概要	<p>本講義では、コンピュータを利用する上で必要な基礎知識のほか、レポート作成等役立つ情報処理技術、すなわちワープロや表計算、プレゼンテーションを中心としたソフトウェアの基礎知識と基本操作の習得を目指す。また、コンピュータ利用技術の習得に加えて、情報化社会に必要な倫理観と情報の保護を学ぶために、技術的な面に加えて個人情報保護法等の法令や指針についても学ぶ。なお、コンピュータのオペレーティングシステム(OS)は Windows を、ソフトウェアはマイクロソフトの Word、Excel、PowerPoint 等を使用する。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. PC 利用に限らず、広く情報倫理と個人情報保護の重要性を理解し、説明できる 2. Word による文書(レポート、論文)の作成ができる 3. Excel による基本的なデータの集計・解析ができる 4. PowerPoint を用いて資料を作成し、効果的なプレゼンテーションができる 5. インターネットを利用した情報検索のスキルを習得する <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. PC を使った演習を行なうので、休むことなく参加すること 2. 作業内容(作成したファイル等)を保存するための USB メモリを用意すること 3. PC 演習室での飲食は禁止(机の上に置くのも禁止) する <p>教科書</p> <p>中村健壽監修、森由紀著、医療従事者のための情報リテラシー、日経 BP 社</p> <p>参考書</p> <p>佐藤憲一他、Windows 7 によるコンピュータのための情報リテラシー、共立出版、2013 金谷孝之・服部建大、基礎から学ぶ医療情報、共立出版、2014 研究室/オフィスアワー</p>		
授業前後			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	ガイダンス	テキスト「はじめに」および「監修にあたって」を読み、USB メモリを用意する	
2	情報セキュリティと情報モラル	テキスト第7章を読む。 (単に読むだけでなく、わからない専門用語等について下調べをしておく、以下同様)	
3	コンピュータ概論	第1章を読む	
4	Word 基礎-1-	第2章、1節～3節を読む	
5	Word 基礎-2-	第2章、4節～5節を読む	
6	Word 応用-1-	第3章、1節～2節を読む	
7	Word 応用-2-	第3章、3節を読む	
8	小テスト1	Word に関する操作・機能を確認する	
9	Excel 基礎-1-	第4章、1節～3節を読む	
10	Excel 基礎-2-	第4章、4節を読む	
11	Excel 応用-1-	第5章、1節～3節を読む	
12	Excel 応用-2-	第5章、4節～5節を読む	
13	小テスト2	Excel に関する操作・機能を確認する	

14	PowerPoint 基礎	第6章、1節～3節を読む	
15	PowerPoint 応用	第6章、4節を読む	
成績評価方法と基準			
①定期試験			割合
②課題の提出状況			①50%
③小テスト			②30%
④2/3 以上の出席			③20%

授業科目名		情報処理(鍼灸B) (Information Processing)		担当教員		平山 裕子	
主担当教員		平山 裕子		教養科目		ディプロマポリシー 該当項目	
科目ナンバリング		LA004		後期		DP③	
配当年次		2		開講学期		曜日・時限	
授業形態		演習		単位数		2	
授業概要		演習		必修・選択		必修・必修 スポーツ・選択	
<p>本講義では、コンピュータを利用する上で必要な基礎知識のほか、レポート作成等役立つ情報処理技術、すなわちワープロや表計算、プレゼンテーションを中心としたソフトウェアの基礎知識と基本操作の習得を目標とする。また、コンピュータ利用技術の習得に加えて、情報化社会に必要な倫理観と情報の保護を学ぶために、技術的な面に加えて個人情報保護法等の法令や指針についても学ぶ。なお、コンピュータのオペレーティングシステム(OS)は Windows を、ソフトウェアはマイクロソフトの Word、Excel、PowerPoint 等を使用する。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. PC 利用に限らず、広く、情報倫理と個人情報保護の重要性を理解し、説明できる 2. Word による文書(レポート、論文)の作成ができる 3. Excel による基本的なデータの集計・解析ができる 4. PowerPoint を用いて資料を作成し、効果的なプレゼンテーションができる 5. インターネットを利用した情報検索のスキルを習得する <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. PC を使った演習を行うので、休むことなく参加すること 2. 作業内容(作成したファイル等)を保存するための USB メモリを用意すること 3. PC 演習室での飲食は禁止(机の上に置くのも禁止) する <p>教科書</p> <p>中村健壽監修、森由紀著、医療従事者のための情報リテラシー、日経 BP 社</p> <p>参考書</p> <p>佐藤第一他、Windows 7 によるコンピュータのための情報リテラシー、共立出版、2013</p> <p>金谷孝之、服部建夫、基礎から学ぶ医療情報、共立出版、2014</p> <p>研究室/オフィスアワー</p>							
授業前後							
授業展開及び授業計画表							
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当				
1	ガイダンス	テキスト「はじめに」および「監修にあたって」を読み、USB メモリを用意する					
2	情報セキュリティと情報モラル	テキスト第7章を読む (単に読むだけでなく、わからない専門用語等について下調べをしておく、以下同様)					
3	コンピュータ概論	第1章を読む					
4	Word 基礎-1-	第2章、1節～3節を読む					
5	Word 基礎-2-	第2章、4節～5節を読む					
6	Word 応用-1-	第3章、1節～2節を読む					
7	Word 応用-2-	第3章、3節を読む					
8	小テスト1	Word に関する操作・機能を確認する					
9	Excel 基礎-1-	第4章、1節～3節を読む					
10	Excel 基礎-2-	第4章、4節を読む					
11	Excel 応用-1-	第5章、1節～3節を読む					
12	Excel 応用-2-	第5章、4節～5節を読む					
13	小テスト2	Excel に関する操作・機能を確認する					

14	PowerPoint 基礎	第6章、1節～3節を読む	
15	PowerPoint 応用	第6章、4節を読む	
成績評価方法と基準			
①定期試験		割合	
②課題の提出状況		①50%	
③小テスト		②30%	
④2/3 以上の出席		③20%	

授業科目名	心理学(鍼灸) (Psychology)		
主担当教員	井手口 範男	担当教員	井手口 範男
科目ナンバリング	LA005	教養科目	DP③
配当年次	2	開講学期	後期
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	心理学は、人の心の仕組みや働きがどのようなかを研究する学問です。授業では人の性格、知覚や感情のほか、人の成長過程や人間関係の心理などについても学習します。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 心理学の基本的な研究方法について説明できる 2. 心理学の諸理論について説明ができる 3. 心理学の諸問題と日常生活上の諸問題を結びつけて理解、解決ができる 		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	PC によるプレゼンテーション資料を活用した講義形式を中心に授業を進める。適宜、簡単な実習形式の実験を実施し、レポート提出を求めたり、小テストを課すことがある。		
教科書			
藤田哲也 編著、「絶対に役立つ教養の心理学-人生を有意義に過ごすために-」,ミネルヴァ書房			
参考書			
大竹文雄・平井啓 編著,「医療現場の行動経済学-すれ違う患者と患者-」, 東洋経済新報社 その他、適宜指示する。			
研究室/オフィスアワー			
E棟4F研究室1/火曜日5時限(空いていれば適宜対応します)			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	ガイダンス	テキスト第0章を読む (単に読むだけでなく、わからない専門用語等について下調べをしておく、以下同様)	
2	知覚1:人間の目の性質と世界をとらえるしくみ	テキスト第1章1節、2節を読む	
3	知覚2:知覚の法則性,まとめ	テキスト第1章3節、4節を読む	
4	記憶1:記憶の基本的なしくみと記憶方法	テキスト第2章1節、2節を読む	
5	記憶2:行為のし忘れのしくみ,まとめ	テキスト第2章3節、4節を読む	
6	対人関係1:他者理解と出会い	テキスト第3章1節、2節を読む	
7	対人関係2:認知の一貫性と納得,まとめ	テキスト第3章3節、4節、5節を読む	
8	動機づけ1:動機づけのメカニズムと行動の関わり	テキスト第4章1節、2節を読む	
9	動機づけ2:やる気を引き出すことばかけ	テキスト第4章3節を読む	
10	思考1:メタファー	テキスト第5章1節、2節を読む	
11	思考2:アナロジー,まとめ	テキスト第5章3節、4節、5節を読む	
12	青年期:青年期の特徴と悩み	テキスト第6章を読む	
13	発達1:思考,ことばの発達	テキスト第7章1節、2節を読む	
14	発達2:人との関係づくり,まとめ	テキスト第7章3節、4節を読む	
15	学習:人間行動の基礎理論(条件付けを中心)	テキストに含まれない項目なので、各人、適宜「条件付け」について調べる	
成績評価方法と基準			割合

授業科目名	生命倫理学(鍼灸) (Bioethics)		
主担当教員	日高明	担当教員	日高明
科目ナンバリング	LA008	教養科目	ディプロマポリシー 該当項目 DP③
配当年次	2	開講学期	前期
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	<p>本講義では、現代の社会で起こっている多様な生命倫理上の問題とともに、医療やケアの現場で起こる倫理的な問題を取り上げ、生命倫理の多様な現状を紹介いたします。受講者がこれらについての考察を行い討議することで、自身の生命観や人間観を捉え直し、ひいては医療人としていかに患者に向き合うかを自覚することを目指します。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 講義で扱った生命倫理問題を理解する。具体的には、各テーマについて、本まかな説明ができる。 2. 広く生命倫理の問題を知ること、生命観・人間観を養う。具体的には、「生命とはなにか」「人間とはなにか」という問いに、先人の知見や社会通念を引いて答えることができる。あるいは自分の経験を交えて語ることができる。 3. 生命倫理的な社会問題について、広く関心を持つようになる。 <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>講義で取り扱った倫理学および生命倫理にかかわるケースについて、他の受講者と話をしてみてください。相手の考えに同意できなければ、なぜ自分の考えと食い違っているのかという「食い違いのポイント」を一緒に探してみてください。また、二者択一ではなく、他の方法は無いのかも考えてください。</p> <p>受講に当たっての細かいルールは、第一回の講義で説明します。</p>		
教科書			
使用しない(適宜、資料を配布する)			
参考書			
小泉博明ほか『テーマで読み解く生命倫理』教育出版、2016年。そのほか必要に応じて紹介する。			
研究室/オフィスアワー			
講義の前後に兼任講師控室にて対応可			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	倫理とは、生命倫理学とは(概要、分類、なぜ学ぶのか)	シラバスの確認、資料の復習	日高明
2	人間とは(「人間の定義、人間と動物とのギャップ、人間の脆弱性と協調性)	配布資料の復習とノートのまとめ。人間とその他の動物を分けるものはなにか、考える。	日高明
3	規範倫理学①(功利主義、義務論)	多数を擁護するために少数が犠牲になる事例をひとつ想定し、功利主義と義務論をそれぞれ立場では、どのような態度をとらざるかをまとめる。	日高明
4	規範倫理学②(徳倫理学、ケアの倫理)	資料の復習。規範倫理学のそれぞれの立場についてまとめる。	日高明
5	西洋の生命観	近代医学(科学)は生命をどのようなものとして捉えるか、まとめる。	日高明
6	東洋の生命観	講義中に説明した複数の「死後のあり方」のうち、自分がどれにリアリティを感じるか、またなぜそう感じるのかについて考える。	日高明
7	個人情報保護	講義で紹介された事例をもとに、医療・介護施設において、なにが個人情報にあたるか、第三者へ提供するさいにどのような制約があるかについて、まとめる。	日高明
8	死について考える①(死の捉え方の変遷、死のプロセス、死の疑似体験)	「10年後の自分」を想定し、そこから「今の自分」を振り返り、「喪失したもの」について語ってみる。	日高明
9	死について考える②(EOLのケア、ACP)	実際にアドバンスディレクティブ(事前指示書)に記入し、その時点で指示した代理人と、話し合う。	日高明
10	死について考える③(安楽死・尊厳死)	尊厳死肯定派と否定派、双方の立場についてまとめる。	日高明
11	グループワーク	話し合った内容をまとめる。	日高明
12	生について考える①(出生前診断)	配布資料の復習とノートのまとめ。人間の生命のはじまりはどの時点からか、考える。	日高明

13	生について考える②(代理出産)	代理出産をめぐって、どのような問題が生じるか。講義で説明した事例をもとにまとめる。	日高明
14	生について考える③(卵子・精子提供、デザイナーベイビー)	生殖補助医療はどこまで認められているか、どこまで認められるべきか、考える。	日高明
15	グループワーク	話し合った内容をまとめる。	
成績評価方法と基準			
1、テスト			
2、グループワークと講義への参加度			
			割合
			1、60%
			2、40%

授業科目名	哲学(概論) (Philosophy)		
主担当教員	松枝 啓至	担当教員	松枝 啓至
科目ナンバリング	LA018	科目区分	DP③
配当年次	1	開講学期	後期
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	<p>哲学における重大な問題の一つである「懷疑論」をテーマにして、われわれは何をどのような方法で正しく認識できるのか、知ることができているのかについて学んでいく。</p> <p>「哲学」のもっともその意味合いは、「知を愛すること」である。人間にとっての「知識」「知恵」がどのようなものであるのか、あるいはどのような仕方でもそれをわれわれは手に入れることができるのか、は哲学における大きな問題の一つである。どのような分野であれ、何らかの学問をやっている以上でこの問題は避けて通れないものである。このような問題系は一般には認識論・知識論と呼ばれている。この授業ではこの認識論・知識論という問題を、手掛かりに考察を深めていき、物事を正しく捉えようとするときに、様々な側面からその対象を疑うという作業は必須のものである。哲学における「懷疑論」はその「疑う」という作業を徹底的に行うことであり、が中心テーマとなる。加えてそれらの議論を踏まえた上で、自然科学的な知識はどのような仕方であるべきであるのかについても考察する。今回は特に現代科学の直接的な論述である17世紀の自然科学について論じる。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ヘレニズム時代の古代懷疑主義が、どのような背景で生まれ、その内容・独自性が何であるかを十分に理解することができる。 2. 近代において復讐した古代懷疑主義が近代においてどのように受容され、改変されたのかを十分に理解することができる。 3. 複雑な懷疑の論理構造がどのようなものかを、ワイトゲンシュタインの思想を手掛かりに、批判的に十分に理解することができる。 4. 近代の自然科学の知識がどのように成立しているのか <p>履修上の注意 (学生へのメッセージ)</p> <p>現代では何の疑いもなく受け入れられている思想も、過去に様々な変遷をたどってきている。この授業ではそのような思想のダイナミズムの一端を感じ取ってもらいたい。</p> <p>「哲学」および「懷疑論」におけるさまざまな思想を習得するためには、毎回、授業理解を少しずつ積み重ねていく必要がある。このため、この授業では予習として前回までの授業内容を十分に読み返すことが求められる。また評価方法に記してあるように、授業中に不定期で小テストを行うが、その時間内容は当日の授業だけでなく、それ以前の授業内容を踏まえたものである。毎回の予習・復習を怠らないうようにすること。小テストについては、行った回の次回以降で授業中にコメントをしますので、それも踏まえ授業内容のより深い理解に努めること。</p> <p>他の受講者の迷惑になるので、私語は厳禁。ひどい場合は成績評価においてペナルティを与える。</p> <p>教科書</p> <p>毎回レジュメプリント・資料プリントを配布する。</p> <p>参考書</p> <p>必要に応じて授業中に紹介する。</p> <p>研究室/オフィスアワー</p> <p>授業内容について質問があるときは、授業時間の前後に直接講師に質問すること。</p>		
授業期間及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	ガイダンス・講義全体の題旨・概要と成績評価などについて説明。講義の導入としてソクラテスの哲学を紹介する。	(予習)「哲学」および「懷疑論」についてのイメージを自分なりに考えておくこと。 (復習)レジュメプリント・資料プリントに目を通し、授業内容に対する理解を深めておくこと。	
2	ソクラテスの哲学: 「哲学」とはどのような営みかについて、前回は引き続き、ソクラテスを紹介しつつ論じる。	(予習) 前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。 (復習)レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。	
3	ヘレニズム時代の思想①: 懷疑論とはそもそも何か? おおびrostア主義の思想。	(予習) 前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。 (復習)レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。	
4	ヘレニズム時代の思想②: 古代懷疑主義の思想。ピュロ、アルケラフラス、アイソステマス、アグリッパなど。	(予習) 前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。 (復習)レジュメプリント・資料プリントを何ども読み返し、授業内容の理解に努めること。	
5	近代の懷疑主義的思想①: モンテーニュにおける	(予習) 前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。	

	分には深くおくこと。 (復習)レジュメプリント・資料プリントを何ども読み返し、授業内容の理解に努めること。	分には深くおくこと。 (復習)レジュメプリント・資料プリントを何ども読み返し、授業内容の理解に努めること。	割合
6	近代の懐疑主義的思想②: テカロトの方法的懐疑その1。	(予習) 前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。 (復習)レジュメプリント・資料プリントを何ども読み返し、授業内容の理解に努めること。	小テスト 50% 期末試験 50%
7	近代の懐疑主義的思想③: テカロトの方法的懐疑その2。	(予習) 前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。 (復習)レジュメプリント・資料プリントを何ども読み返し、授業内容の理解に努めること。	
8	懐疑論に抗して: ワイトゲンシュタインの思想。	(予習) 前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。 (復習)レジュメプリント・資料プリントを何ども読み返し、授業内容の理解に努めること。	
9	自然科学的知識はどのような正当化されるのか? その①: テカロトの自然科学その1。	(予習) 前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。 (復習)レジュメプリント・資料プリントを何ども読み返し、授業内容の理解に努めること。	
10	自然科学的知識はどのような正当化されるのか? その②: テカロトの自然科学その2、およびテカロトにおける心身問題その1。	(予習) 前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。 (復習)レジュメプリント・資料プリントを何ども読み返し、授業内容の理解に努めること。	
11	自然科学的知識はどのような正当化されるのか? その③: テカロトにおける心身問題その2。	(予習) 前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。 (復習)レジュメプリント・資料プリントを何ども読み返し、授業内容の理解に努めること。	
12	自然科学的知識はどのような正当化されるのか? その④: テカロトの自然科学とニュートン物理学の関係。	(予習) 前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。 (復習)レジュメプリント・資料プリントを何ども読み返し、授業内容の理解に努めること。	
13	自然科学的知識はどのような正当化されるのか? その⑤: 近代における自然科学の方法論(備後法)。	(予習) 前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。 (復習)レジュメプリント・資料プリントを何ども読み返し、授業内容の理解に努めること。	
14	自然科学的知識はどのような正当化されるのか? その⑥: 近代における自然科学の方法論(仮説演繹法)。	(予習) 前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。 (復習)レジュメプリント・資料プリントを何ども読み返し、授業内容の理解に努めること。	
15	講義全体のまとめ 期末試験についての説明	(予習) 前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。 (復習)レジュメプリント・資料プリントを何ども読み返し、授業内容の理解に努めること。	
成績評価方法と基準			
期末試験を50点、授業中に不定期に行う計5回の小テスト(1回につき10)を50点とし、合わせて100点満点として評価する。			
小テストは授業中(授業開始後の30分か授業終了前の30分、テスト時間をとる)に行うのでレジュメやノートを目ながら解答して構わない。授業内容を十分に理解し、そのうえで自分の意見や考えを一定の字数で述べる事ができるかどうかを評価する。			
期末試験については、講義全体の流れとキーワードをしっかり理解しているかを問う。試験の出題範囲や形式の詳細については、第15回目の講義時に説明する			

授業科目名	日本国憲法(鍼灸) (Constitution of Japan)		
主担当教員	楠田 重幸	担当教員	楠田 重幸
科目ナンバリング	LA009	教養科目	ディプロマポリシー 該当項目
配当年次	1	開講学期	前期
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	<p>社会規範たる法の理念を理解する中で、法体系のしくみ並びに日本の最高法規としての日本国憲法の現行の概要解釈と、今日の基本的な人権規定に関する論点について解説を行うとともに、時事関連・医療運来事項に関する問題点及び今後の課題に対しても説明を進める。また、国家資格をもとに、施術者の一員として業務に従事するにおいて、必要不可欠な保健衛生に関する法規(保健衛生関連法規)の理解と把握、並びに職務遂行に伴う人権に対する法的責任の現状について、更なる理解を深めるための指導を行う。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日本国憲法の成立経緯と特色を理解する。 2. 基本的人権の尊重規定をもとに、個人の尊厳に関して法的側面から、その理解を深める。 3. 医療と人権に関する大切さを理解する。 4. 鍼灸学科における「あはき法」をもとに、今後の業務遂行に必要な関係法規のしくみを学習し理解する。 5. 現在の医療過誤に関する状況と、人権に対する法的責任の重荷を検証する。 6. 時事関連問題として、違憲立法審査権に関わる諸項目や裁判員制度の現状と今後の対応課題についての理解を深める。 <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日本国憲法の内容理解とともに、医療法規に関する指導説明が加わることから、補充解説たる板書筆記が重要となる。 2. 指導内容に即した市販書籍は多数に亘るため、教科書代用の資料冊子にて講義を行う。 3. 疑問点や分かりにくい事項が生じた場合は、当面質問を行うことで理解を進めること。 4. 将来の業務実践を見据え、指導内容に対する人権・人格の尊重に積極的取り組みを求める。 <p>教科書</p> <p>指定しない。</p>		
参考書			
特になし。			
研究室/オフィスアワー			
授業前後の非常勤講師控室			
授業展開及び授業計画表			

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	法と社会生活① 法の成立並びに社会と規範	予習：シラバス・テキスト冊子の確認を行う 復習：キーワード、重要語句の確認を行う	
2	法と社会生活② 法と道徳、法の支配、法体系のしくみ	予習：社会規範としての法の意義を考える 復習：法の概念の理解と確認を行う	
3	日本国憲法の制定史 明治憲法との比較、個人の尊厳と人権保障の限界	予習：日本国憲法の成立経緯を確認する 復習：講義内容をもとに、基本的人権規定の各事項を理解し把握する	
4	日本国憲法の特徴 基本理念及び基本原理	予習：テキスト冊子より、キーワードの確認 復習：重要語句について再チェックする	
5	基本的人権規定① 基本的人権の成立経緯と人権規定	予習：テキスト冊子より、キーワードの確認 復習：重要語句について再チェックする	
6	基本的人権規定② 包括的基本権、自律的自己決定権	予習：テキスト冊子より第13条の役割を確認する 復習：講義内容の完全理解に努める	
7	基本的人権規定③ 新しい人権(人格権と幸福追求権)	予習：テキスト冊子より、本項の確認を行う 復習：講義内容の完全理解に努める	
8	基本的人権規定④ 尊厳死の定義、臓器移植法の問題点	予習：自然死と脳死の捉え方の相違をテキスト冊子から理解する 復習：本項目の現在の解釈を確認する	
9	関係法規① 施術者に対する関係法規のしくみと位置づけ	予習：シラバス・テキスト冊子の確認 復習：講義内容をもとに、施術者の役割を確認する	
10	関係法規② 日本国憲法と保健衛生法規とのつながり	予習：シラバス・テキスト冊子の確認を行う 復習：保健衛生法規のしくみの理解と確認を行う	
11	医療過誤と法的責任① 医療過誤の実態と権利侵害	予習：テキスト冊子の本項の確認を行う 復習：キーワード、重要語句の確認を行う	

12	医療過誤と法的責任② 医療過誤における法的責任	予習：医療過誤に関する事例を調べ、復習：特に民事責任に関して確認を行う	
13	統治行為① 国会・内閣規定より、選挙制度並びに議院内閣制	予習：現行の選挙制度を確認する 復習：1票の格差問題について理解を深める	
14	統治行為② 裁判所規定より、違憲立法審査権並びに裁判員制度の現状	予習：テキスト冊子より、キーワードの確認 復習：講義事項についての確認	
15	日本国憲法の改正手続	予習：現行憲法の改正の必要性を調べる 復習：国民投票法の改正における影響を確認する	
成績評価方法と基準			割合
①指導項目に関し、筆記試験を行う。※60点以上で単位認定する。			①100%

英 語 Ⅰ (初級) (級 別 A) (English 1 [Beginner])			
授業科目名	竹内 恵子	担当教員	竹内 恵子
主担当教員	竹内 恵子	教養科目	ディプロマポリシー 該当項目 DP②
科目ナンバリング	LA011	科目区分	曜日・時限 木曜 5 限
配当年次	1	開講学期	必修・選択
授業形態	演習	単位数	2
授業概要	英語Ⅰでは、日常生活で最低限必要とされる、スピーキング、リスニング、リーディングのスキルを総合的に習得する。基本的な文法を復習し、単語・熟語・慣用句などの語彙を機やしながら、最低限自己表現できるコミュニケーション力を身につける。また、多くのリスニングをこなすし、英語に耳を慣らしていく。授業を通して、英語に対する抵抗感をなくし、英語を学ぶことは楽しいという感覚を習得する。さらに、多読を行い、多量のインプットをすることにより、英語力アップを目指す。		
到達目標	日常生活で目や耳にする英語に親しみ、それらを最低限理解できる。 基本的な文法、語彙、表現を身につける。 履修上の注意 (学生へのメッセージ) 積極的に授業に参加すること。 宿題 (特にリーディングの予習) は必ずしてから授業に臨むこと。 私語、携帯電話の使用などは慎むこと。 教科書 Good Morning World ① (Susan Stempleski, James Morgan / Cengage Learning, 2014) 参考書 英和辞書 研究室 / オフィスアワー 東棟 1 階 講師控室 授業展開及び授業計画表		
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	Greetings and intros	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
2	Getting to know you	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
3	Countries and Nationalities	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
4	Countries of the world	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
5	Personal Items	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
6	Gift giving	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
7	Activities and Interests	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
8	For here or to go?	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	

7.			
9	Everyday activities	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
10	Food	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
11	Food and eating habits	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
12	My Family	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
13	This is my family!	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
14	All in the family	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
15	Review	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
成績評価方法と基準			
①定期試験 ②プレゼンテーション・その他課題・授業態度 参加 ③多読 2/3 以上の出席が必要。			
			割合 ①40% ②40% ③20%

授業科目名 英語Ⅰ(初級)(必修B) (English I [Beginner])			
主担当教員	長尾 晋宏	担当教員	長尾 晋宏
科目ナンバリング	LA011	教養科目	ディプロマポリシー 該当項目
配当年次	1	開講学期	前期
授業形態	演習	単位数	2
授業概要	英語Ⅰでは、日常生活で最低限必要とされる、スピーキング、リスニング、リーディングのスキルを総合的に習得する。基本的な文法を復習し、単語・熟語・慣用句などの語彙を増やしながら、最低限自己表現できるコミュニケーション力を身につける。また、多くのリスニングをこなし、英語に耳を慣らし、英語に対する抵抗感をなくし、英語を学ぶことは楽しいという感覚を習得する。さらに、多読を行い、多量のインプットをすることにより、英語カアップを目指す。		
到達目標	日常生活で目や耳にする英語に親しみ、それらを最低限理解できる。 基本的な文法、語彙、表現を身につける。 積極的に授業に参加すること。 宿題(特にリーディングの予習)は必ずしてから授業に臨むこと。 私語・携帯電話の使用などは慎むこと。		
教科書	Good Morning World ① (Susan Stempleski, Nancy Douglas, James Morgan / Cengage Learning, 2014)		
参考書			
英和辞書			
研究室/オフィスアワー			
東棟4階研究室 14			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	Greetings and intros	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
2	Getting to know you	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
3	Countries and Nationalities	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
4	Countries of the world	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
5	Personal Items	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
6	Gift giving	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
7	Activities and Interests	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
8	For here or to go?	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
9	Everyday activities	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
10	Food	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
11	Food and eating habits	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
12	My Family	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
13	This is my family!	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
14	All in the family	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
15	Review	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
成績評価方法と基準			
①定期試験 ②プレゼンテーション・その他課題・授業態度・参加 ③多読 2/3以上の出席が必要。			
割合 ①40% ②40% ③20%			

授業科目名 英語Ⅱ(中級)(級名A) (English II【Intermediate】)			
主担当教員	竹内 恵子	担当教員	竹内 恵子
科目ナンバリング	LA012	教養科目	DP②
配当年次	1	開講学期	曜日・時限 木曜 5限
授業形態	演習	単位数	2 必修
授業概要			
前期科目の英語Ⅰに引き続き、本授業でも、日常生活で最低必要とされる、スピーキング、リスニング、リーディングのスキルを総合的に習得する。基本的な文法を復習し、単語・熟語・慣用句などの語彙を博覧ながら、最低限自己表現できるコミュニケーション力を身につける。また、多くのリスニングをこなし、英語に耳を慣らし、多読を行い、多量のインプットをすることにより、英語力アップを目指す。授業を通して、英語に対する抵抗感をなくし、英語を学ぶことが楽しいという感覚を習得する。			
到達目標			
基本的な文法、語彙を確実に身につける。			
英語で最低限のコミュニケーションが取れる。			
簡単な英文を正確に理解できる。			
履修上の注意(学生へのメッセージ)			
積極的に授業に参加すること。			
宿題(特にリーディングの予習)は必ずしてから授業に臨むこと。			
私語、携帯電話の使用などは慎むこと。			
教科書			
Good Morning World ① (Susan Stempleski, Nancy Douglas / Gengage Learning, 2014) (英語Ⅰで使ったテキストを引き続き使用する。英語Ⅰを履修していない者のみ、購入すること。)			
参考書			
英和辞典			
多読用図書			
研究室/オフィスアワー			
E棟1階講師控室			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	Time	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
2	Time and schedules	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
3	Special Occasions	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
4	Holidays and celebrations	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
5	Person to Person	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
6	Living with others	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
7	Home Sweet Home	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
8	Housing	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	

			後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。
9	Clothing		次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。
10	Shopping for clothes		次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。
11	Jobs and Ambitions		次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。
12	Jobs		次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。
13	Dress the part		次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。
14	Good jobs		次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。
15	Review		次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。
成績評価方法と基準			
①定期試験			
②プレゼンテーション・その他課題・授業態度・参加			
③多読			
2/3以上の出席が必要。			
			割合
			①40%
			②40%
			③20%

授業科目名 英語Ⅱ(中級)(鍼灸B) (English II 【Intermediate】)			
主担当教員	長尾 晋宏	担当教員	長尾 晋宏
科目ナンバリング	LA012	教養科目	ディプロマポリシー 該当項目
配当年次	1	開講学期	後期
授業形態	演習	単位数	2
授業概要	<p>前期科目の英語Ⅰに引き継ぎ、本授業でも、日常生活で最低限必要とされる、スピーキング、リスニング、リーディングのスキルを総合的に習得する。基本的な文法を復習し、単語・熟語・慣用句などの語彙を増やしながら、最低限自己表現できるコミュニケーション力を身につける。また、多くのリスニングをこなし、英語に耳を慣らし、多量に耳をインプットをすることにより、英語力アップを目指す。授業を通して、英語に対する抵抗感をなく、英語を学ぶことは楽しいという感覚を習得する。</p> <p>到達目標</p> <p>基本的な文法、語彙を確実に身につける。 英語で最低限のコミュニケーションが取れる。 簡単な英文を正確に理解できる。</p> <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>積極的に授業に参加すること。 宿題(特にリーディングの予習)は必ずしてから授業に臨むこと。 私語、携帯電話の使用などは慎むこと。</p> <p>教科書 Good Morning World ① (Susan Stempleski, Nancy Douglas, James Morgan / Gengage Learning, 2014) (英語Ⅰで使用したテキストを引き続き使用する。英語Ⅰを履修していない者のみ、購入すること。)</p> <p>参考書 英和辞典 多読用図書 研究室/オフィスアワー</p>		
授業展開及び授業計画表	E 棟 4 階 研究室 14		
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	Time	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
2	Time and schedules	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
3	Special Occasions	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
4	Holidays and celebrations	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
5	Person to Person	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
6	Living with others	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
7	Home Sweet Home	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
8	Housing	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	

9	Clothing	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
10	Shopping for clothes	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
11	Jobs and Ambitions	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
12	Jobs	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
13	Dress the part	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
14	Good jobs	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
15	Review	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
成績評価方法と基準			
①定期試験			
②プレゼンテーション・その他課題・授業態度・参加			
③多読			
2/3以上の出席が必要。			
			割合
			①40%
			②40%
			③20%

授業科目名		英会話(雑談) (English Conversation)	
主担当教員	Julian Houseman	担当教員	Julian Houseman
科目ナンバリング	LA021	教養科目	ディプロマポリシー 該当項目 DP②
配当年次	2	科目区分	曜日・時限 金曜 2 限
授業形態	演習	開講学期	前期
		単位数	2
授業概要	<p>英会話 I では、基本的な英語によるコミュニケーション能力を習得することを目的とする。英会話の基本的ルールである、(1)主語の存在、(2)語順(主語・動詞・疑問詞・疑問詞など)、(3)膠着力、を意識しながら、日常生活の中で、道を尋ねる、買い物をする、自己紹介をするなどといった他人と関わる際に最低限必要な会話を身に付ける。</p> <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 自己紹介ができる。 最低限の日常会話ができる。 自分の考えを最低限伝えることができる。 <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>ペアワーク、グループワークなどによる会話の練習が多いため、積極的に授業に参加すること。前回の授業の復習を必ずしてから授業に臨むこと。</p> <p>私語、携帯電話の使用などは慎むこと。</p> <p>教科書</p> <p>書名/Title : CHALLENGER 6 著者名/Authors : ECC総合教育研究所 出版社・出版年 / ECC 価格 : 2,000 円</p> <p>参考書</p> <p>特になし</p>		
研究室/オフィスアワー	E 棟 1 階非常勤講師控室		
授業展開及び授業計画表	授業展開及び授業計画表		
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	Course introduction, Classroom English	授業の復習並びに会話確認テスト準備	
2	Introduction yourself Greetings	授業の復習並びに会話確認テスト準備	
3	Greetings friends Casual Greetings	授業の復習並びに会話確認テスト準備	
4	What' s your sister' s name? Talk about people	授業の復習並びに会話確認テスト準備	
5	Free time Talk about activities	授業の復習並びに会話確認テスト準備	
6	Exercise Talk about exercise	授業の復習並びに会話確認テスト準備	
7	What kind of bike do you have? Closed questions and follow-up questions	授業の復習並びに会話確認テスト準備	
8	Food you like Open questions and closed questions	授業の復習並びに会話確認テスト準備	
9	Clothes Talk about shopping	授業の復習並びに会話確認テスト準備	
10	Is it expensive? Adjectives and recommendations	授業の復習並びに会話確認テスト準備	
11	Visiting someone Talking someone	授業の復習並びに会話確認テスト準備	
12	Saying people Offering something	授業の復習並びに会話確認テスト準備	
13	What' s this wooden thing? Talk about objects	授業の復習並びに会話確認テスト準備	
14	Describing people Wh~question	授業の復習並びに会話確認テスト準備	

15	講義全体のまとめ	授業の復習並びに総括小テスト準備
成績評価方法と基準		割合
①)授業参加度		①)20%
②)小テスト		②)60%
③)確認テスト		③)20%
④)2/3 以上の出席		

授業科目名	基礎英語演習(鍼灸)		
主担当教員	藤重 仁子	担当教員	藤重 仁子
科目ナンバリング	LA023	教養科目	ディプロマポリシー 該当項目
配当年次	2	開講学期	前期
授業形態	演習	単位数	2
授業概要	<p>本授業では、TOEIC 形式の練習問題を解きながら、リーディングカとリスニング力を強化することを目的とする。頻出の語彙、熟語、慣用句を確認しつつ、日常生活を送るうえで相手と十分な意味疎通を図ることのできる英語力を身に着ける。</p> <p>到達目標</p> <p>基本的な文法、語彙、表現を徹底的に習得する。</p> <p>TOEIC500 点相当の英語力を身に着ける。</p> <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>積極的に授業に参加すること。</p> <p>宿題は必ずしてから授業に臨むこと。</p> <p>私語、携帯電話の使用などは慎むこと。</p> <p>教科書</p> <p>Score Booster for the TOEIC L&R Test Pre-Intermediate (Yumiko Mizoguchi, Machiko Yanagita / 金星堂, 2019)</p> <p>参考書</p> <p>英和辞書</p> <p>研究室/オフィスアワー</p> <p>E 棟 4 階研究室 22</p> <p>授業展開及び授業計画表</p>		

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	Introduction / Unit 1 Travel	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。
2	品詞①:名詞(可算名詞・不可算名詞)	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。
3	Unit 2 Dining Out	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。
4	品詞②:形容詞(名詞修飾、補語)	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。
5	Unit 3 Media	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。
6	品詞③:副詞(動詞・形容詞修飾)	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。
7	Unit 4 Entertainment	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。
8	時制(現在・過去・未来・現在進行形)	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。

9	Unit 5 Purchasing	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。
10	3 単現の s (修飾語句を含む主語)	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。
11	Unit 6 Clients	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。
12	能動態-受動態(感情を表す表現)	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。
13	Unit 7 Recruiting	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。
14	動詞の後ろの動名詞、不定詞(前置詞の後ろの動名詞、定型表現)	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。
15	Review	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。
成績評価方法と基準			割合
①小テスト			①40%
②その他課題・授業態度・参加			②60%
2/3 以上の出席が必要。			

授業科目名	応用英語演習(勉攻)		担当教員	藤重 仁子
主担当教員	藤重 仁子		担当教員	藤重 仁子
科目ナンバリング	LA024	科目区分	教養科目	DP②
配当年次	2	開講学期	後期	水曜 5限
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択
授業概要	<p>本授業では、TOEIC 形式の練習問題を解きながら、リーディングカリスニング力を強化することを目的とする。頻出の語彙、熟語、慣用句を確認しつつ、日常生活を渡るうえで相手と十分意思疎通を図ることができる英語力を身に着ける。</p> <p>到達目標</p> <p>文法、語彙、表現を徹底的に習得する。 TOEIC550 点相当程度の英語力を身に着ける。</p> <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>積極的に授業に参加すること。 宿題(特にリーディングの予習)は必ずしてから授業に臨むこと。 私語、携帯電話の使用などは慎むこと。</p> <p>教科書</p> <p>Score Booster for the TOEIC L&R Test Pre-Intermediate (Yumiko Mizoguchi, Machiko Yanagita / 金星堂, 2019) (前期に基礎英語演習を履修した者は、再度購入する必要はありません)</p> <p>参考書</p> <p>英和辞書</p>			
研究室/オフィスアワー				
E 棟 4 階研究室 22				
授業履修期及び授業計画表				
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当	
1	Introduction / Unit 8 Personnel	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。		
2	代名詞(主格・所有格・目的格・所有代名詞)	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。		
3	Unit 9 Advertising	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。		
4	比較(比較級、最上級、as ... as)	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。		
5	Unit 10 Meetings	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。		
6	前置詞(理由・譲歩・時、定型表現)	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。		
7	Unit 11 Finance	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。		
8	接続詞(理由・譲歩・時)	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。		

9	Unit 12 Offices	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。		
10	前置詞・接続詞対比	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。		
11	Unit 13 Daily Life	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。		
12	関係代名詞(主格・所有格・目的格)	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。		
13	Unit 14 Sales & Marketing 語彙①(名詞・形容詞)	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。		
14	Unit 15 Events 語彙②(動詞・副詞)	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。		
15	Review	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。		
成績評価方法と基準			割合	
①小テスト			①40%	
②その他課題・授業態度・参加			②20%	
③Review test			③40%	
2/3 以上の出席が必要。				

授業科目名		スポーツ健康科学演習(鍼灸) (Sports Health Science Seminar)	
主担当教員	中原 英博	担当教員	中原 英博、佐野 加奈絵、伊奈 新太郎、信江 彩加、濱口 幹太、山口 晏奈、長谷川 夏輝、伊藤 剛
科目ナンバリング	CS017	学部共通科目	DP③
配当年次	1	後期	水曜 1 限 水曜 2 限
授業形態	演習	単位数	2
授業概要			
本スポーツ健康科学演習では、学生が自らの適正に応じてスポーツトレーニング種目を選択できるよう、軽スポーツ、球技スポーツ、ダンス、エアロビクス、ダンス、レジスタンス運動など多様なスポーツ・トレーニング種目を用意し、各種目特性を生かして、「思いっきり体を動かす爽快感」と「ブレを身体に感じる屈伸の楽しさ」を存分に体験できるようにゲーム主体の授業プログラムを提供する。その中で、体力のレベルアップや身体動作の向上を図ると同時に、ゲーム等を自主的に運営する能力を養う。また、スポーツ・トレーニングの意義を通じて、学生同士の心の交流や人間関係を育み、生涯にわたり楽しく、計画的にスポーツ・トレーニングを実施する習慣を習得することを目指す。			
到達目標			
1. スポーツ活動を通じて、学級の枠を超えた学生同士の心の交流や人間関係を育むことができる。			
2. スポーツ活動を通じて、基礎体力や、技術が向上する。			
3. スポーツ活動を通じて、チームワークの重要性を認識できる。			
4. 生涯にわたり楽しく、計的にスポーツを実施する習慣を身につけることができる。			
履修上の注意(学生へのメッセージ)			
服装について (1)各教員からの指示がない限り、トレーニング用ジャージ・ハット・シューズは毎週持参し、更衣した後、授業に臨むこと。 (2)シューズは屋外用、屋内用ともにゴムの運動靴を用意すること。屋外でのスポーツ種目を実施するクラスの者は、雨天により急きょ屋内種目に変更する場合がありますので、毎回の授業時において、屋内用シューズは必ず用意しておくこと。 (3)授業中におけるメガネや時計などの破壊、コンタクトレンズや装飾品の紛失について担当教員は責任を負わない。 注意事項 (1)集合場所 日にお(特に雨天時)によって、各クラス担当教員ごとに、授業を行う場所やバス運行時刻等が変更する場合があります。特別指示がない場合においても、毎回、注意して掲示板を見る習慣をつけること。 (2)各運動施設までの移動手段について 本学では、1回生全員を対象に、本学体育館や近隣の代替運動施設を利用して、スポーツ・健康科学演習を行います。近隣(バスで約10~20分)の運動施設までの移動には、大学前から現地まで買切りバスをチャーターし、みなさんを送迎します。 ※ 鍼灸学科スポーツ特修コース希望者は、資格取得のための必要な運動種目(レジスタンス運動)を選択する必要があります。			
教科書			
特に指定しない。			
参考書			
特に指定しない。			
研究室/オフィスアワー			
原則月曜日 3 時限目・4 時限目 その他、部屋にいればいつでも訪問可です。質問等はいつでも自由にとどうぞ。			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	オリエンテーション クラス分けガイダンス スポーツ種目の選択、コースの決定	軽スポーツ、球技スポーツ、ダンスなど多様なスポーツ種目の特性について理解を深めておく。	
2	種目・用具特性の把握		
3	基本技術の習得	基本技術の習得	
4	基本技術の習得	スポーツ種目に応じた基本技術の習得①	
5	基本技術の習得	スポーツ種目に応じた基本技術の習得②	
		基本技術の習得	
		スポーツ種目に応じた基本技術の習得③	

6	応用技術の習得 スポーツ種目に応じた応用技術の習得①		
7	応用技術の習得 スポーツ種目に応じた応用技術の習得②		
8	応用技術の習得 スポーツ種目に応じた応用技術の習得③		
9	基本・応用技術の発展 模擬ゲームの実施とルールを理解①		
10	基本・応用技術の発展 模擬ゲームの実施とルールを理解②		
11	ゲームの展開 学生主体のゲーム運営①		
12	ゲームの展開 学生主体のゲーム運営②		
13	ゲームの展開 学生主体のゲーム運営③		
14	ゲームの展開 学生主体のゲーム運営④		
15	ゲームの展開 学生主体のゲーム運営⑤		
16	健康づくりとレジスタンス運動		
17	形態測定、身体組成の評価		
18	レジスタンス運動の種類①		筋の活動様式から見た分類とその特徴 等尺性筋収縮:アイトニックトレーニング 等張性筋収縮:アイトニックトレーニング 等速性筋収縮:アイトキネティックトレーニング
19	レジスタンス運動の種類②		運動様式から見た分類
20	アイトニックトレーニングの実際①		適切なプログラムの立案の基礎
21	アイトニックトレーニングの実際②		基礎体力の養成
22	アイトニックトレーニングの実際③		目的別トレーニング
23	アイトニックトレーニングの実際④		最大筋力の測定法
24	アイトニックトレーニングの実際⑤		フリーウェイトトレーニングとマシントレーニング
25	アイトニックトレーニングの実際⑥		長所と短所
26	身体各部のレジスタンストレーニング①		胸部のトレーニング種目
27	身体各部のレジスタンストレーニング②		上肢の筋群(上腕部・前腕部)のトレーニング種目
28	身体各部のレジスタンストレーニング③		背部の筋群のトレーニング種目
29	身体各部のレジスタンストレーニング④		肩関節・腰部の筋群のトレーニング種目
30	身体各部のレジスタンストレーニング⑤		下肢の筋群(脚部・臀部)のトレーニング種目
成績評価方法と基準			
授業回数の 2/3(20 コマ)以上出席すること(本授業科目においては1日で2コマ分の授業となっているので 10 日以上出席が必要で)。授業開始後、30 分を超えての遅刻は欠席とみなす。成績の評価は、原則として 2/3 以上出席した者を対象とする。			
①参加・技能・理解・積極性などを総合的に判定するとともに、授業最終日にはレポートの提出を義務づける。 その成績が60点未満の者は不可とし単位を認定しない。			
割合 ①100%			

授業科目名	健康科学(スポーツ社会学を含む)(競免) (Health Science [Including Sports Sociology])		
主担当教員	佐野 加奈絵	担当教員	佐野 加奈絵
科目ナンバリング	CSO18	科目区分	学部共通科目 DP③
配当年次	1	開講学期	前期 木曜 3限
授業形態	講義	単位数	2 必修・選択 選択
授業概要	健康に対する意識が高まり、健康食品や健康器具などがブームとなっている近年、マスメディアを通して流されている情報には、科学的根拠が乏しいものも少なくはない。本授業では、生活習慣病、地域社会における健康維持、増進に関わる取り組みや考え方や、運動や食事指導に関する科学的根拠に基づいた専門的な知識を身につけることを目標とする。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・運動や食事指導に関する科学的根拠に基づいた専門的な知識を身につける。 ・本邦における健康維持、増進に関わる取り組みや考え方について理解する。 		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	毎回配布する資料を用いて、必ず復習してください。		
教科書	適宜、資料を配布する。		
参考書	<ul style="list-style-type: none"> 出村 隼一 監修「健康・スポーツ科学講義」杏林書院、2005年 田中嘉代次編「健康運動の支援と実践」金芳堂、2006年 		
研究室/オフィスアワー	東棟 4F 月曜日 9:00-10:30		
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	健康とは？	予習：シラハスの確認。 復習：配布プリント、キーワードの確認。	
2	運動、栄養と肥満症との関係	予習：シラハスの確認。 復習：配布プリント、キーワードの確認。	
3	運動、栄養と糖尿病との関係	予習：シラハスの確認。 復習：配布プリント、キーワードの確認。	
4	運動、栄養と脂質異常症との関係	予習：シラハスの確認。 復習：配布プリント、キーワードの確認。	
5	三大栄養素(精質・脂質・タンパク質)の役割	予習：シラハスの確認。 復習：配布プリント、キーワードの確認。	
6	微量栄養素(ビタミン・ミネラル)と水の役割	予習：シラハスの確認。 復習：配布プリント、キーワードの確認。	
7	消化器の構造と機能	予習：シラハスの確認。 復習：配布プリント、キーワードの確認。	
8	食品群の理解と応用	予習：シラハスの確認。 復習：配布プリント、キーワードの確認。	
9	エネルギー摂取量と消費量との関係	予習：シラハスの確認。 復習：配布プリント、キーワードの確認。	
10	運動時におけるエネルギー産生メカニズム	予習：シラハスの確認。 復習：配布プリント、キーワードの確認。	
11	運動処方の方の原則と実際	予習：シラハスの確認。 復習：配布プリント、キーワードの確認。	
12	運動と食飲の関係―最新のトピックス―	予習：シラハスの確認。 復習：配布プリント、キーワードの確認。	
13	日本人の食事摂取基準について	予習：シラハスの確認。 復習：配布プリント、キーワードの確認。	
14	健康づくりに関する本邦の取り組み	予習：シラハスの確認。 復習：配布プリント、キーワードの確認。	
15	講義全体のまとめと振り返り	予習：シラハスの確認。 復習：配布プリント、キーワードの確認。	
成績評価方法と基準	割合		

①定期試験で評価する。
15回の講義に対し、必要な時間数の出席が必須である。

授業科目名	健康管理学Ⅰ(鍼灸) (Healthcare Management I)		
主担当教員	河合 英里子	担当教員	河合 英里子
科目ナンバリング	CS022	学部共通科目	DP③
配当年次	2	開講学期	前期
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	<p>近年、生活習慣病の危険因子が明らかになされつつある。危険因子を多く有する人は疾患に罹患する確率が高くなることから、日常生活でいかに健康管理を行うかについての関心が高まっている。本講義では、運動不足の健康への影響を学び、ライフスタイルに応じた健康づくりのための身体活動基準、目的に応じた効果的なトレーニング法の原理、原則を学修する。特に、有酸素性運動の健康上の必要性を学び、運動処方(強度・時間・頻度)に関する知識を養う。また、運動強度の指標を理解し、ウォーミングアップとクールダウン、及びレジスタンス運動を含めた、運動処方プログラムの構成についても学修する。</p>		
到達目標	<p>1. 健康管理と疾病の予防に関する基礎知識を習得し、予防医学の重要性を理解する。 2. 健康づくりのための運動に必要な知識、生活習慣病予防に役立つ基礎知識を説明できる。 3. 健康管理のための正しい知識を身につけ、健康の保持増進に役立てることができる。</p>		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	履修上は、健康管理実践指導者の資格取得に向けて運動や健康に関する基礎を学びます。一緒に頑張ってくださいませよう。		
教科書			
健康運動実践指導者養成用テキスト(健康体づくり事業財団)			
参考書			
なし			
研究室/オフィスアワー			
講義の無い曜日は学校にいないので連絡があるときは講義の前夜にお願いたします。			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	健康管理と運動の効果	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノートプリントの確認	
2	運動不足と健康への影響	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノートプリントの確認	
3	健康づくりのための身体活動基準 2013	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノートプリントの確認	
4	健康づくりのための運動プログラム	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノートプリントの確認	
5	トレーニングの原理・原則	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノートプリントの確認	
6	運動処方の条件	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノートプリントの確認	
7	運動強度の指標	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノートプリントの確認	
8	運動処方プログラムの構成	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノートプリントの確認	
9	ウォーミングアップとクールダウン	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノートプリントの確認	
10	有酸素性運動とその効果	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノートプリントの確認	
11	有酸素性運動の強度	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノートプリントの確認	
12	有酸素性運動の運動時間・頻度	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノートプリントの確認	
13	有酸素性運動の指導上の留意点	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノートプリントの確認	
14	レジスタンス運動	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノートプリントの確認	
15	健康づくりの運動プログラムの実際	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノートプリントの確認	

成績評価方法と基準	割合
1. 授業態度及び授業への参加姿勢	1. 30%
2. 筆記試験	2. 70%

授業科目名		健康管理学 II (鍼灸) (Healthcare Management II)		河合 英理子		河合 英理子	
主担当教員		河合 英理子		担当教員		河合 英理子	
科目ナンバリング		CS023		学部共通科目		ディプロマポリシー 該当項目	
配当年次		2		開講学期		前期	
授業形態		講義		単位数		2	
授業概要		講義		単位数		2	
到達目標		講義		単位数		2	
<p>近年、生活習慣病だけでなく、加齢に伴う生活機能低下を防ぐ対策が重要課題となってきた。健康寿命を延伸するために、日常生活でいかに健康管理を行うかについての関心が高まっている。本講義では、疾病構造の変化と身体活動・運動不足の関連性、身体運動のメカニズム、および健康度の一つの尺度となる体力・日常動作について理解を深めると同時に、第一次予防の視点に立って運動が健康づくり、特に生活習慣病予防・介護予防に役立つ根拠について学修する。生活習慣病とロコモティブシンドロームを予防し、健康寿命を延伸するための理論、並びに具体的な実践方法についても理解を深める。</p>							
<p>到達目標</p>							
<p>1. 生活習慣病・加齢に伴う生活機能低下に関する基礎知識を習得し、予防医学の重要性を理解する。 2. 健康寿命の延伸に必要な基礎知識、生活習慣病予防・介護予防に役立つ健康づくり運動の知識を説明できる。 3. 健康管理のための正しい知識を身につけ、健康の保持増進に役立てることができる。</p>							
<p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p>							
<p>この講義では、健康実践指導者の資格取得に向けて運動や健康に関する基礎を学びます。一緒に頑張ってくださいよう。</p>							
<p>教科書</p>							
<p>健康運動実践指導者養成用テキスト(健康体力づくり事業財団)</p>							
<p>参考書</p>							
<p>なし</p>							
<p>研究室/オフィスアワー</p>							
<p>講義の無い曜日は学校にいないので連絡があるときは講義の前後にお願いします。</p>							
授業展開及び授業計画表							
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当				
1	疾病構造の変化と健康管理	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認					
2	身体運動に関する筋肉・骨・関節	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認					
3	関節運動と筋機能	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認					
4	運動発現のメカニズム	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認					
5	骨格筋の収縮とエネルギー供給	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認					
6	筋繊維の種類と特徴	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認					
7	筋収縮の様式と筋力	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認					
8	トレーニングと骨格筋	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認					
9	体力・基本的動作スキルの発達	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認					
10	老化に伴う身体機能の変化	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認					
11	姿勢と歩行の発達と退行	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認					
12	運動実践の効果	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認					
13	健康管理の進め方と実際1	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認					
14	健康管理の進め方と実際2	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認					
15	健康管理の進め方と実際3	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認					

成績評価方法と基準		割合	
1. 授業態度及び授業への参加姿勢		1. 30%	
2. 筆記試験		2. 70%	

授業科目名	チーム医療とコミュニケーション(鍼灸) (Team Medical Care and Communication)		
主担当教員	小島 賢久	担当教員	小島 賢久、鍋田 智之、堀川 奈央
科目ナンバリング	CS020	科目区分	学術共通科目
配当年次	2	開講学期	前期
授業形態	演習	単位数	2
授業概要	<p>チーム医療とコミュニケーションについて、それぞれを分けて考える。 ○コミュニケーション 現代のはり師きゆう師は、単に治療法を習得するだけではなく、現在の患者や医療をとりまく社会環境を十分に理解、認識し、患者とのコミュニケーションを図る必要がある。医療コミュニケーションでは複雑な社会に生活する患者とのコミュニケーション形成を主体とし、医療面接技法を活用し、患者を取り巻く状況を理解することを目指す。</p> <p>○チーム医療 変容する医療環境の中で、患者に対する心身両面への対応が求められ、患者を中心とした専門領域を異にする職種が関与している。チーム医療論では、これら医療、福祉の専門職がチームとして包括的に患者のケアを行うためにそれぞれの役割、機能、責務について理解し、相互の連携のあり方について考える。実際の事例についても学び、チームの一因としてお互いに理解を深め、理想的なチーム医療を考察する。</p> <p>到達目標</p> <p>患者-医療者間のコミュニケーションの重要性を理解し、医療者としての基本的な態度や技術を身につける。</p> <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>医療コミュニケーションについては、参加型の授業を実施するため、欠席しないようにすること</p> <p>教科書</p> <p>必要に応じて資料を配布する。</p> <p>参考書</p> <p>チーム医療論 鷹野和美 編著 医歯薬出版</p> <p>研究室/オフィスアワー</p> <p>小島賢久:事務所に常駐しています。</p>		
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	概論:チーム医療について	復習:チーム医療における鍼灸師の役割を調べる。	鍋田
2	地域支援センターと介護予防における鍼灸師の役割	予習:介護予防訓練について予習する。 復習:なし	堀川
3	キャリア支援セミナー 希望する進路分野について	予習:希望する進路分野について考えてくる。 復習:希望する進路分野を構成するチームについて検討する。	鍋田
4	希望する進路分野で求められるチーム活動と大学での学習 (グループワーク)	予習:希望する分野について改めて考える 復習:報告書を作成する。	鍋田
5	希望する進路分野を達成するためのこれからの学びについて (グループ発表)	予習:報告書を作成する。 復習:なし	小島賢久
6	コミュニケーションの大切さ 医療コミュニケーションの説明	予習:毎回、1から2名程度の学生を指名し、みんなの前で医療面接を行ってもらいます。毎回、誰を指名するかは決めません。いつ指名されても対応できるように、どのような手順で実施するかを毎回考えておいてください。 復習:すべての回の回で、ディスカッションあるいは、ロールプレイを行います。個々でディスカッション、ロールプレイの振り返りをしてください。	鍋田
7	何を聞くか グループディスカッション		小島賢久
8	全体トレーニング1 グループディスカッション		小島賢久

9	どの様に聴くか、傾聴と共感 グループディスカッション	小島賢久
10	全体トレーニング2 グループディスカッション	小島賢久
11	全体トレーニング3 面接	小島賢久
12	トライアングルトレーニング(整形外科1) ロールプレイ	小島賢久
13	トライアングルトレーニング(整形外科2) ロールプレイ	小島賢久
14	模擬患者とのトレーニング1	小島賢久
15	模擬患者とのトレーニング2	小島賢久
成績評価方法と基準		
② 筆記試験		
②レポート(チーム医療 10点×2種類)		
③2/3以上の出席		
割合		
①80%		
②20%		

授業科目名	栄養学(鍼灸) (Nutriology)		
主担当教員	南方 克之	担当教員	南方 克之
科目ナンバリング	CS024	学部共通科目	ディプロマポリシー 該当項目 DP③
配当年次	2	開講学期	後期 木曜 3限
授業形態	講義	単位数	2 必修・選択 選択
授業概要	<p>国民総医療費は38兆5850億円に達し、その医療費の55.6%は65歳以上の高齢者が占めているとのことである。2013年度の高齢者数は3190万人(全人口の25.1%)であるが、2030年度には3685万人(31.6%)に達すると予測されている。総医療費の半分以上を占める高齢者が、15年後には3人に1人の割合になることを考えると、いかにして高齢者の健康寿命を長くするかがとても重要になる。1人でも多くの高齢者が健康で過ごせるように医療従事者が食事指導できることが大切と考え、健康の保持増進に次ぐことのできない「栄養」に関する正しい知識を学修する。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 栄養素の種類と働きについて理解し、食生活と疾病の関係性について説明できる。 2. 消化と吸収およびエネルギー代謝について説明できる。 3. ライフサイクルと栄養摂取について理解し、栄養アセスメントについて説明できる。 <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「栄養学」に興味を持って授業に臨んでください。 2. 初回授業で実施の詳細を説明します。 		
教科書	『イラスト基礎栄養学第2版』大口健司・小野廣紀・田村明／東京教学社		
参考書	なし		
研究室/オフィスアワー	研究室/オフィスアワー		
森ノ宮医科大学:西棟4F434研究室(火曜日11:00~18:00)	森ノ宮医療学園専門学校:2F 職員事務室/授業外対応可能(木曜日以外)		
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	栄養の概念	予習:教科書(P.1~12)の確認 復習:授業をもとに授業内容の確認	
2	食物の摂取	予習:教科書(P.13~19)の確認 復習:授業をもとに授業内容の確認	
3	消化・吸収と栄養素の体内動態①	予習:教科書(P.21~38)の確認 復習:授業をもとに授業内容の確認	
4	消化・吸収と栄養素の体内動態②	予習:教科書(P.21~38)の確認 復習:授業をもとに授業内容の確認	
5	たんぱく質の栄養①	予習:教科書(P.39~52)の確認 復習:授業をもとに授業内容の確認	
6	たんぱく質の栄養②	予習:教科書(P.39~52)の確認 復習:授業をもとに授業内容の確認	
7	炭水化物の栄養①	予習:教科書(P.53~63)の確認 復習:授業をもとに授業内容の確認	
8	炭水化物の栄養②	予習:教科書(P.53~63)の確認 復習:授業をもとに授業内容の確認	
9	脂質の栄養①	予習:教科書(P.67~77)の確認 復習:授業をもとに授業内容の確認	
10	脂質の栄養②	予習:教科書(P.67~77)の確認 復習:授業をもとに授業内容の確認	
11	ビタミンの栄養①	予習:教科書(P.79~97)の確認 復習:授業をもとに授業内容の確認	
12	ビタミンの栄養②	予習:教科書(P.79~97)の確認 復習:授業をもとに授業内容の確認	
13	ミネラル(無機質)の栄養	予習:教科書(P.99~112)の確認 復習:授業をもとに授業内容の確認	
14	水・電解質の栄養的意義	予習:教科書(P.113~121)の確認 復習:授業をもとに授業内容の確認	
15	エネルギー代謝	予習:教科書(P.123~130)の確認 復習:授業をもとに授業内容の確認	

成績評価方法と基準	割合
定期試験 出題範囲:授業内で扱った範囲	100%

①定期試験(80%)
②レポート(20%)

授業科目名	身体運動科学(鍼灸) (Science of Human Body Movement)		
担当教員	今井 大喜	担当教員	今井 大喜
科目ナンバリング	CS025	学部共通科目	ディプロマポリシー 該当項目 DP③
配当年次	2	開講学期	前期 金曜 1限
授業形態	演習	単位数	2 必修・選択 選択
授業概要	<p>ヒトが運動する、あるいは活動するということとはどういうことを意味するのか。本講義では、このような最も基本的な事柄から組織き、身体を運動させることの意義や目的とその達成のために我々の身体がどのように適応するのかについて科学的根拠に基づきながら解説する。</p>		
到達目標	<p>身体を運動させる意義や目的を理解し、各々の目的に応じた適応を自ら積極的に獲得できるような専門的知識を習得する。</p>		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	<p>毎時間コミュニケーションカードに授業内容についてのコメントや質問等を記入してもらおう。必要に応じて授業の冒頭で返答する。</p>		
教科書			
使用しない			
参考書			
必要に応じて紹介する			
研究室/オフィスアワー			
授業時間の前後 20分			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	イントロダクション	配布資料(Web 掲載)を参考に学修内容を整理しておくこと	
2	健康と体力	配布資料(Web 掲載)を参考に学修内容を整理しておくこと	
3	体力と身体運動	配布資料(Web 掲載)を参考に学修内容を整理しておくこと	
4	運動のメカニズム	配布資料(Web 掲載)を参考に学修内容を整理しておくこと	
5	体力における精神的要素	配布資料(Web 掲載)を参考に学修内容を整理しておくこと	
6	運動時の体温調節(暑熱環境)	配布資料(Web 掲載)を参考に学修内容を整理しておくこと	
7	運動時の体温調節(寒冷環境)	配布資料(Web 掲載)を参考に学修内容を整理しておくこと	
8	運動と脱水	配布資料(Web 掲載)を参考に学修内容を整理しておくこと	
9	スポーツイベントと運動強度	配布資料(Web 掲載)を参考に学修内容を整理しておくこと	
10	筋力トレーニング	配布資料(Web 掲載)を参考に学修内容を整理しておくこと	
11	持久力トレーニング	配布資料(Web 掲載)を参考に学修内容を整理しておくこと	
12	運動トレーニングとエネルギー消費量	配布資料(Web 掲載)を参考に学修内容を整理しておくこと	
13	エネルギー補給とからだづくり	配布資料(Web 掲載)を参考に学修内容を整理しておくこと	
14	コンディショニングのための栄養	配布資料(Web 掲載)を参考に学修内容を整理しておくこと	
15	講義全体のとめと振り返り	配布資料(Web 掲載)を参考に学修内容を整理しておくこと	
成績評価方法と基準			割合

授業科目名	東洋医療概論(鍼灸)		担当教員	大川 祐世、安田 実	
主担当教員	大川 祐世	科目共通科目	学部共通科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP②③
科目ナンバリング	CS028	科目区分	後期	曜日・時限	火曜 3限
配当年次	1	開講学期	後期	曜日・時限	火曜 3限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	必修
授業概要	医療とは何か?をテーマに、本授業では西洋医学および東洋医学の起源を振り返り、現在までの医療の変遷について概説する。また現代医療における医の倫理についても概説し、医療人として必要な倫理観を身につける。				
到達目標	1. 東洋医学、特に鍼灸の歴史について概要を理解する 2. 現代医療の制度を理解する 3. 医の倫理について説明できる				
履修上の注意(学生へのメッセージ)	これから医療人を目指す皆さんに、医療とは何か?を真剣に考えていただきたいと思います。積極的に授業に臨んでください。				
教科書	社団法人東洋療法学校協会編『医療概論』医歯薬出版株式会社				
参考書	平成22-23年度 厚生労働科学研究費補助金 地域医療基盤開発推進研究事業「統合医療を推進するための日本伝統医学の標準化」研究班 編纂『日本伝統医学テキスト 鍼灸編』、『日本伝統医学テキスト 漢方編』 研究室/オフィスアワー				
大川祐世 火曜 5限	授業展開及び授業計画表				
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当		
1	森/宮医療学園の歴史①	シラバスを確認して	安田		
2	森/宮医療学園の歴史②	前回の復習をして	安田		
3	東洋医学史 起源	黄帝内経について調べてくる	大川		
4	東洋医学史 日本伝来	東洋医学史を調べてくる	大川		
5	東洋医学史 日本独自の発展	東洋医学史を調べてくる	大川		
6	東洋医学史 明治・大正・昭和期	明治、大正、昭和の出来事を調べてくる	大川		
7	東洋医学史 現代鍼灸	現代の医療に関する興味のあることを調べてくる	大川		
8	医療概論 時代・文化による医療の変遷	興味のある時代を調べてくる	大川		
9	医療概論 現代医療の課題	現代の医療に関する興味のあることを調べてくる	大川		
10	医療概論 医療制度	医療制度に関して調べてくる	大川		
11	医療概論 EBM・NBM	EBMとNBMについて調べてくる	大川		
12	医療概論 医療倫理	医療倫理について調べてくる	大川		
13	医療概論 医療倫理	医療倫理について調べてくる	大川		
14	鍼灸医療	医療について考えてくる	大川		
15	医療とは? 14回の総復習	これまでの授業で分からなかったところを明確にして	大川		
成績評価方法と基準	割合 ①筆記試験 ①70% ②課題提出物 ②30%				

授業科目名	解剖学Ⅰ(骨・筋)(鍼灸) (Anatomy I【Musculoskelet1】)		担当教員	高橋 秀郎	
主担当教員	高橋 秀郎	科目区分	専門基礎科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP②③
科目ナンバリング	SB101	科目区分	前期	曜日・時限	前期(月曜 2限)、 後期(月曜 1限)
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	後期(月曜 1限)
授業形態	講義	単位数	4	必修・選択	必修
授業概要	解剖学Ⅰ(骨・筋)では、人体の基礎を構成し、運動器系の中心的な役割を担う骨と筋を学習する。骨については、分類・構造などの総論と、各骨の部位や形態的特徴などを、講義のみならず骨模型実習を通して学習する。筋については、分類・構造などの総論に加えて、各筋の起始、停止、支配神経、作用などを学習する。これらの理解を通じて、骨と筋が運動器として機能するときにとどのような連携しているか考えるときにも、運動時に重要な役割を果たしている関節や靭帯の形態と機能についても理解を深める。経穴の取穴部位に記載されている骨・筋は、事前に学習します。				
到達目標	(1)骨格系と筋肉系に關する主要構造や主要部位の名称が言えるとともに、これらがどう配置しているかが説明できる。 (2)骨の連結と筋のはたらきの概要が説明できる。 (3)主要関節の構造とそれに係わる筋の作用が説明できる。				
履修上の注意(学生へのメッセージ)	講義は教科書の内容を中心として解説を行う。医療人として必要最低限の知識であることを理解すること。通直、小テストを行うので暗記作業をしっかりすること。成績不良の者に対して補講を行うことがある。遅刻の申告、延着証明の提出は当日に限り有効とする				
教科書	解剖学第2版、(公益社団)東洋療法学校協会編、医歯薬出版会社				
参考書	鍼灸師・柔道整復師のための局所解剖カラーアトラス、北村清一郎編集、南江堂 分冊解剖学Ⅰ 総説・骨学・軟骨学・筋学、金原出版 人体解剖学改訂第42版 藤田恒太郎 南江堂				
研究室/オフィスアワー	月曜日、水曜日、金曜日 各曜日 9:00~17:45 但し講義時間を除く				
授業展開及び授業計画表	回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当	
1	骨学(1):骨格系・筋系総論	骨学(1):骨格系・筋系総論	予習:講義プリントに沿って予習ノート作成 復習:授業を元に予習ノートの加筆と修正		
2	骨学(2):骨の連結 椎骨 椎骨の構造	骨学(2):骨の連結 椎骨 椎骨の構造	予習:講義プリントに沿って予習ノート作成 復習:授業を元に予習ノートの加筆と修正		
3	筋学(1):筋の種類と補助装置	筋学(1):筋の種類と補助装置	予習:講義プリントに沿って予習ノート作成 復習:授業を元に予習ノートの加筆と修正		
4	筋学(2):運動の種類 筋の支配神経	筋学(2):運動の種類 筋の支配神経	予習:講義プリントに沿って予習ノート作成 復習:授業を元に予習ノートの加筆と修正		
5	骨学(3):脊柱部 頸椎 椎管 椎間孔	骨学(3):脊柱部 頸椎 椎管 椎間孔	予習:講義プリントに沿って予習ノート作成 復習:授業を元に予習ノートの加筆と修正		
6	骨学(4):胸椎 胸椎 仙椎 胸骨 肋骨	骨学(4):胸椎 胸椎 仙椎 胸骨 肋骨	予習:講義プリントに沿って予習ノート作成 復習:授業を元に予習ノートの加筆と修正		
7	筋学(3):浅胸筋 深胸筋 呼吸筋の分類 横隔膜の構造と作用	筋学(3):浅胸筋 深胸筋 呼吸筋の分類 横隔膜の構造と作用	予習:講義プリントに沿って予習ノート作成 復習:授業を元に予習ノートの加筆と修正		
8	筋学(4):体幹の筋 腹直筋 腹横筋 内腹斜筋 外腹斜筋 膈後胃について	筋学(4):体幹の筋 腹直筋 腹横筋 内腹斜筋 外腹斜筋 膈後胃について	予習:講義プリントに沿って予習ノート作成 復習:授業を元に予習ノートの加筆と修正		
9	筋学(5):背部の筋 浅背筋 僧帽筋 広背筋 肩甲筋 大菱形筋 小菱形筋	筋学(5):背部の筋 浅背筋 僧帽筋 広背筋 肩甲筋 大菱形筋 小菱形筋	予習:講義プリントに沿って予習ノート作成 復習:授業を元に予習ノートの加筆と修正		
10	筋学(6):背部の筋 深背筋 第1層 上後縦筋 下後縦筋 第2層 肩胛後頭下筋 後縦筋 椎棘立筋 横突筋	筋学(6):背部の筋 深背筋 第1層 上後縦筋 下後縦筋 第2層 肩胛後頭下筋 後縦筋 椎棘立筋 横突筋	予習:講義プリントに沿って予習ノート作成 復習:授業を元に予習ノートの加筆と修正		

11	骨学(5):自由上肢骨 鎖骨 肩甲骨	予習:講義プリントに沿って予習ノート作成 復習:授業を元に予習ノートの加筆と修正
12	骨学(6):上肢骨 尺骨 橈骨	予習:講義プリントに沿って予習ノート作成 復習:授業を元に予習ノートの加筆と修正
13	骨学(7):肘関節 近位橈尺関節 遠位橈尺関節 手の骨	予習:講義プリントに沿って予習ノート作成 復習:授業を元に予習ノートの加筆と修正
14	骨学(8):上肢の関節 指骨と関節	予習:講義プリントに沿って予習ノート作成 復習:授業を元に予習ノートの加筆と修正
15	筋学(7):上肢帯の筋 三角筋 棘上筋 棘下筋 小円筋 肩甲下筋	予習:講義プリントに沿って予習ノート作成 復習:授業を元に予習ノートの加筆と修正
16	筋学(8):上肢帯の筋 上腕二頭筋 上腕三頭筋	予習:講義プリントに沿って予習ノート作成 復習:授業を元に予習ノートの加筆と修正
17	筋学(9):前腕筋群 浅層の筋 深層の筋	予習:講義プリントに沿って予習ノート作成 復習:授業を元に予習ノートの加筆と修正
18	筋学(10):前腕伸筋群 手根管	予習:講義プリントに沿って予習ノート作成 復習:授業を元に予習ノートの加筆と修正
19	筋学(11):手内筋 母指球筋 小指球筋 中手筋	予習:講義プリントに沿って予習ノート作成 復習:授業を元に予習ノートの加筆と修正
20	骨学(9):骨盤 腸骨 恥骨 坐骨 骨盤の構造	予習:講義プリントに沿って予習ノート作成 復習:授業を元に予習ノートの加筆と修正
21	筋学(10):大腿骨 膝蓋骨 骨盤復習	予習ノートのまとめ
22	骨学(11):脛骨 腓骨 足根骨	予習:講義プリントに沿って予習ノート作成 復習:授業を元に予習ノートの加筆と修正
23	筋学(12):下肢帯筋 内寛骨筋 外寛骨筋	予習:講義プリントに沿って予習ノート作成 復習:授業を元に予習ノートの加筆と修正
24	筋学(13):大腿部の筋 伸筋 屈筋 内転筋群	予習:講義プリントに沿って予習ノート作成 復習:授業を元に予習ノートの加筆と修正
25	筋学(14):大腿の筋復習 下腿の筋	予習:講義プリントに沿って予習ノート作成 復習:授業を元に予習ノートの加筆と修正
26	筋学(15):下腿の筋 前面伸筋群 外側面群 骨筋群 後面下腿三頭筋	予習:講義プリントに沿って予習ノート作成 復習:授業を元に予習ノートの加筆と修正
27	筋学(16):足部の筋 母指球筋 小指球筋 中足筋	予習:講義プリントに沿って予習ノート作成 復習:授業を元に予習ノートの加筆と修正
28	骨学(12):頭蓋骨 脳頭蓋	予習:講義プリントに沿って予習ノート作成 復習:授業を元に予習ノートの加筆と修正
29	骨学(13):頭蓋骨 脳頭蓋 内頭蓋底 外頭蓋底	予習:講義プリントに沿って予習ノート作成 復習:授業を元に予習ノートの加筆と修正
30	骨学(15):頭蓋骨 顔面頭蓋	予習ノートのまとめ
成績評価方法と基準		
①定期試験を2回実施する。小テスト、口頭試問を適宜実施する。 いずれにも合格することが必要で、合格点に達しない場合には各回につき再試験を行う。 試験は各100点満点。60点以上で合格とする。		
割合		
①100%		

授業科目名	解剖学Ⅱ(神経)(鍼灸) (Anatomy II【Nervous】)		
主担当教員	森谷 正之	担当教員	森谷 正之、吉田 篤
科目ナンバリング	SB102	科目区分	ディプロマポリシー 該当項目 DP2②③
配当年次	1	開講学期	前期 水曜 2 限 土曜 2 限
授業形態	講義	単位数	2 必修・選択 必修
授業概要	<p>解剖学Ⅱ(神経)では、系統解剖学の立場から、感覚器、末梢神経、中枢神経について学習する。感覚器では、外界の情報を感受する器官の構造と機能について学習する。末梢神経では、感覚器により得られた外界の情報を中枢神経に送り、中枢神経系からの出力情報を末梢効果器に伝える神経系について学習する。さらに運動神経系、感覚神経系、自律神経系の機能と形態との関連性について学習する。中枢神経系は脳と脊髄から構成され、外界からの情報を感受し、その情報を処理、統合して行動、情動、思考、記憶など高度な指令を出す重要な部分である。</p> <p>到達目標</p> <p>(1) 感覚器の種類と基本的構造を説明できる。 (2) 末梢神経の基本的構成を説明できる。 (3) 中枢神経の基本的構成を説明できる。 (4) 感覚器、末梢神経、中枢神経による情報の処理の仕組みの概要を説明できる。</p> <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>講義は教科書を中心に進めます。適宜資料を配付するので、復習時の参考として理解を深めて下さい。講義の進行・予定や単位認定の詳細等については、初回講義時に説明します。</p> <p>教科書</p> <p>社団法人 東洋療法学校協会編 『解剖学(第2版)』 医歯薬出版株式会社</p> <p>参考書</p> <p>藤田恒太郎人体解剖学 改訂第42版(南江堂) クロスマン、ニアリー(水野、野村 訳)『神経解剖学(第2版)』(医学書院) 研究室/オフィスアワー E 棟4階(研究室 I) 月曜日午後5時～午後7時、各日屋休みの時間帯は原則研究室に在室しています。</p> <p>授業展開及び授業計画表</p>		
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	神経系総論、感覚器(外皮)	事前に教科書の該当部分を読んで下さい。 また、配布資料を復習の際の参考として下さい。	森谷
2	感覚器(視覚器)	事前に教科書の該当部分を読んで下さい。 また、配布資料を復習の際の参考として下さい。	森谷
3	感覚器(平衡聴覚器、味覚器、嗅覚器)	事前に教科書の該当部分を読んで下さい。 また、配布資料を復習の際の参考として下さい。	森谷
4	末梢神経(脳神経① 第Ⅰ～Ⅵ脳神経)	事前に教科書の該当部分を読んで下さい。 また、配布資料を復習の際の参考として下さい。	森谷
5	末梢神経(脳神経② 第Ⅶ～ⅩⅡ脳神経、脊髄神経①頭神経)	事前に教科書の該当部分を読んで下さい。 また、配布資料を復習の際の参考として下さい。	森谷
6	末梢神経(脊髄神経②頸神経、胸神経)	事前に教科書の該当部分を読んで下さい。 また、配布資料を復習の際の参考として下さい。	森谷
7	末梢神経(脊髄神経③仙骨神経、自律神経)	事前に教科書の該当部分を読んで下さい。 また、配布資料を復習の際の参考として下さい。	森谷
8	感覚器と末梢神経の形態 まとめ	感覚器と末梢神経の形態について、教科書、ノート、配布資料などで復習して下さい。	森谷
9	中枢神経(脳①終脳、間脳)	事前に教科書の該当部分を読んで下さい。 また、配布資料を復習の際の参考として下さい。	森谷
10	中枢神経(脳②脳幹)	事前に教科書の該当部分を読んで下さい。 また、配布資料を復習の際の参考として下さい。	森谷
11	中枢神経(脳③小脳)	事前に教科書の該当部分を読んで下さい。 また、配布資料を復習の際の参考として下さい。	森谷
12	中枢神経(脊髄①脊髄の構造)	事前に教科書の該当部分を読んで下さい。 また、配布資料を復習の際の参考として下さい。	森谷
13	中枢神経(伝導路①反射路、上行性伝導路)	事前に教科書の該当部分を読んで下さい。 また、配布資料を復習の際の参考として下さい。	森谷

14	中枢神経(伝導路②下行性伝導路)	事前に教科書の該当部分を読んで下さい。 また、配布資料を復習の際の参考として下さい。	森谷
15	中枢神経の形態 まとめ	中枢神経の形態について、教科書、ノート、配布資料などで復習して下さい。	森谷
成績評価方法と基準			割合
①筆記試験(90%)			①90%
②課題等の提出(10%)			②10%
評価の具体的な内容については、初回講義時に説明します。			

授業科目名	解剖学Ⅲ(内臓・脈管)(鍼灸) (Anatomy III [Visceral / Vascular])		
主担当教員	森谷 正之	担当教員	森谷 正之
科目ナンバリング	SB103	専門基礎科目	ディプロマポリシー 該当項目
配当年次	1	開講学期	後期
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	<p>解剖学Ⅲ(内臓・脈管)では、循環系と内臓系とを中心にして系統解剖学の立場から基本的な概念と知識の習得を目指す。臨床系専門科目に先駆けて、心臓血管系、リンパ系、消化器系、呼吸器系、泌尿生殖器系、内分泌系など多岐におよぶ学習範囲を系統立てて学習する。単なる名称の記憶にとどまらず、形態と機能との関わりを考え、医師に携わる者として基礎となる知識や論理的性のある思考能力を身につける。</p> <p>到達目標</p> <p>①循環系(心臓・血管系、リンパ系)などの基本的構成を説明できる。 ②内臓系(消化器、呼吸器、泌尿器、生殖器、内分泌器など)の基本的構成を説明できる。</p> <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>講義は教科書を中心に進めます。適宜資料を配付するので、復習時の参考として理解を深めて下さい。講義の進行・予定や単位認定の詳細等については、初回講義時に説明します。</p> <p>教科書</p> <p>社団法人東洋療法学校協会編『解剖学(第2版)』医歯薬出版株式会社</p> <p>参考書</p> <p>藤田恒太郎『人体解剖学 改訂第42版』(南江堂)</p> <p>研究室/オフィスアワー</p> <p>E棟4階(研究室11)</p> <p>月曜日午後5時～午後7時、各日昼休みの時間帯は原則研究室に在室しています。</p> <p>授業展開及び授業計画表</p>		
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	講義の概要、脈管系総論	事前に教科書の該当部分を読んで下さい。 また、配布資料を復習の参考として下さい。	森谷
2	心脈管系(心臓)	事前に教科書の該当部分を読んで下さい。 また、配布資料を復習の参考として下さい。	森谷
3	心脈管系(動脈系)	事前に教科書の該当部分を読んで下さい。 また、配布資料を復習の参考として下さい。	森谷
4	心脈管系(静脈系)	事前に教科書の該当部分を読んで下さい。 また、配布資料を復習の参考として下さい。	森谷
5	胎児循環 リンパ系(総論)	事前に教科書の該当部分を読んで下さい。 また、配布資料を復習の参考として下さい。	森谷
6	リンパ系(リンパ節、リンパ管)	事前に教科書の該当部分を読んで下さい。 また、配布資料を復習の参考として下さい。	森谷
7	脈管系の復習	脈管系の形態について、教科書、ノート、配布資料などで復習して下さい。	森谷
8	内臓系総論、呼吸器	事前に教科書の該当部分を読んで下さい。 また、配布資料を復習の参考として下さい。	森谷
9	消化器①(口腔、咽頭、食道、胃)	事前に教科書の該当部分を読んで下さい。 また、配布資料を復習の参考として下さい。	森谷
10	消化器②(小腸、大腸、肝臓、膵臓)	事前に教科書の該当部分を読んで下さい。 また、配布資料を復習の参考として下さい。	森谷
11	泌尿器	事前に教科書の該当部分を読んで下さい。 また、配布資料を復習の参考として下さい。	森谷
12	生殖器①(男性生殖器)	事前に教科書の該当部分を読んで下さい。 また、配布資料を復習の参考として下さい。	森谷
13	生殖器②(女性生殖器)	事前に教科書の該当部分を読んで下さい。 また、配布資料を復習の参考として下さい。	森谷
14	内分泌器	事前に教科書の該当部分を読んで下さい。 また、配布資料を復習の参考として下さい。	森谷
15	内臓系の復習	内臓系の形態について、教科書、ノート、配布資料などで復習して下さい。	森谷
成績評価方法と基準	割合		

①筆記試験(90%)
②課題等の提出(10%)
評面の具体的な内容については、初回講義時に説明します。

授業科目名		生理学Ⅰ(動物生理学(鍼灸)) (Physiology I【Animal】)	
主担当教員	科目ナンバリング	科目区分	担当教員
鍋田 智之	SB104	専門基礎科目	鍋田 智之
配当年次	1	開講学期	ディプロマポリシー 該当項目
授業形態	講義	単位数	曜日・時限 月曜 3限
授業概要	必修・選択 必修		
生理学Ⅰでは、神経の基礎、筋運動、感覚について学習する。			
到達目標			
1. 神経の興奮と伝達について理解する。 2. 筋収縮のメカニズムについて理解する。 3. 脊髄反射について理解する。 4. 皮膚感覚について理解する。 5. 特殊感覚について理解する。			
履修上の注意(学生へのメッセージ)			
1. 本講義では、国家試験の出題傾向から重要項目を抜粋して伝えているので、漏らさずに記録すること。 2. 講義内容と病氣、診察、鍼灸治療法などを関連づけて説明するために必要な科目であることを十分に理解して臨むこと。 3. 前回の授業内容について、5-10問程度の小テストを毎講義前に行うので、必ず復習して臨むこと。			
教科書			
「生理学」 東洋療法学校協会編 医歯薬出版			
参考書			
目で見るからだのメカニズム 柴章書 医学書院			
研究室/オフィスアワー			
昼休みを中心として、研究室に在室中はいつでも相談に来ること			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	第1章:細胞 体液の組成 物質移動	予習:教科書の該当部分を予め読んでおくこと。 復習:本単元の学習内容について、次単元にて小テストを行うので、授業中に重要と述べて項目を学習すること。 予習:教科書の該当部分を予め読んでおくこと。 復習:本単元の学習内容について、次単元にて小テストを行うので、授業中に重要と述べて項目を学習すること。	
2	第11章:ニューロン 興奮伝導	予習:教科書の該当部分を予め読んでおくこと。 復習:本単元の学習内容について、次単元にて小テストを行うので、授業中に重要と述べて項目を学習すること。 予習:教科書の該当部分を予め読んでおくこと。 復習:本単元の学習内容について、次単元にて小テストを行うので、授業中に重要と述べて項目を学習すること。	
3	第11章:興奮伝達 脊髄	予習:教科書の該当部分を予め読んでおくこと。 復習:本単元の学習内容について、次単元にて小テストを行うので、授業中に重要と述べて項目を学習すること。 予習:教科書の該当部分を予め読んでおくこと。 復習:本単元の学習内容について、次単元にて小テストを行うので、授業中に重要と述べて項目を学習すること。	
4	第13章:筋繊維の種類 骨格筋の構造	予習:教科書の該当部分を予め読んでおくこと。 復習:本単元の学習内容について、次単元にて小テストを行うので、授業中に重要と述べて項目を学習すること。 予習:教科書の該当部分を予め読んでおくこと。 復習:本単元の学習内容について、次単元にて小テストを行うので、授業中に重要と述べて項目を学習すること。	
5	第13章:興奮収縮連関 筋の収縮型	予習:教科書の該当部分を予め読んでおくこと。 復習:本単元の学習内容について、次単元にて小テストを行うので、授業中に重要と述べて項目を学習すること。 予習:教科書の該当部分を予め読んでおくこと。 復習:本単元の学習内容について、次単元にて小テストを行うので、授業中に重要と述べて項目を学習すること。	
6	第13章:筋のエネルギー代謝	予習:教科書の該当部分を予め読んでおくこと。 復習:本単元の学習内容について、次単元にて小テストを行うので、授業中に重要と述べて項目を学習すること。 予習:教科書の該当部分を予め読んでおくこと。 復習:本単元の学習内容について、次単元にて小テストを行うので、授業中に重要と述べて項目を学習すること。	
7	第14章:骨格筋の神経支配と伸張反射	予習:教科書の該当部分を予め読んでおくこと。 復習:本単元の学習内容について、次単元にて小テストを行うので、授業中に重要と述べて項目を学習すること。 予習:教科書の該当部分を予め読んでおくこと。 復習:本単元の学習内容について、次単元にて小テストを行うので、授業中に重要と述べて項目を学習すること。	

8	第14章:拮抗抑制 自己抑制 屈曲反射	予習:教科書の該当部分を予め読んでおくこと。 復習:本単元の学習内容について、次単元にて小テストを行うので、授業中に重要と述べて項目を学習すること。 予習:教科書の該当部分を予め読んでおくこと。 復習:本単元の学習内容について、次単元にて小テストを行うので、授業中に重要と述べて項目を学習すること。	
9	第14章:その他の反射 中間テスト	予習:教科書の該当部分を予め読んでおくこと。 復習:本単元の学習内容について、次単元にて小テストを行うので、授業中に重要と述べて項目を学習すること。 予習:教科書の該当部分を予め読んでおくこと。 復習:本単元の学習内容について、次単元にて小テストを行うので、授業中に重要と述べて項目を学習すること。	
10	第15章:感覚の一般 二点弁別測定	予習:教科書の該当部分を予め読んでおくこと。 復習:本単元の学習内容について、次単元にて小テストを行うので、授業中に重要と述べて項目を学習すること。 予習:教科書の該当部分を予め読んでおくこと。 復習:本単元の学習内容について、次単元にて小テストを行うので、授業中に重要と述べて項目を学習すること。	
11	第15章:触圧覚 温度覚	予習:教科書の該当部分を予め読んでおくこと。 復習:本単元の学習内容について、次単元にて小テストを行うので、授業中に重要と述べて項目を学習すること。 予習:教科書の該当部分を予め読んでおくこと。 復習:本単元の学習内容について、次単元にて小テストを行うので、授業中に重要と述べて項目を学習すること。	
12	第15章:痛覚	予習:教科書の該当部分を予め読んでおくこと。 復習:本単元の学習内容について、次単元にて小テストを行うので、授業中に重要と述べて項目を学習すること。 予習:教科書の該当部分を予め読んでおくこと。 復習:本単元の学習内容について、次単元にて小テストを行うので、授業中に重要と述べて項目を学習すること。	
13	第15章:深部感覚 内臓感覚 味覚 嗅覚	予習:教科書の該当部分を予め読んでおくこと。 復習:本単元の学習内容について、次単元にて小テストを行うので、授業中に重要と述べて項目を学習すること。 予習:教科書の該当部分を予め読んでおくこと。 復習:本単元の学習内容について、次単元にて小テストを行うので、授業中に重要と述べて項目を学習すること。	
14	第15章:聴覚 平衡覚	予習:教科書の該当部分を予め読んでおくこと。 復習:本単元の学習内容について、次単元にて小テストを行うので、授業中に重要と述べて項目を学習すること。 予習:教科書の該当部分を予め読んでおくこと。 復習:本単元の学習内容について、次単元にて小テストを行うので、授業中に重要と述べて項目を学習すること。	
15	第15章:視覚	予習:教科書の該当部分を予め読んでおくこと。 復習:本単元の学習内容について、次単元にて小テストを行うので、授業中に重要と述べて項目を学習すること。 予習:教科書の該当部分を予め読んでおくこと。 復習:本単元の学習内容について、次単元にて小テストを行うので、授業中に重要と述べて項目を学習すること。	
成績評価方法と基準			割合
①講義前に実施する全ての小テスト評価 正解数/10問×4回=40点(最大)			①40%
②期末テスト(筆記) 60点			②60%
全評価合計で60%以上を取得すること。			

授業科目名		生理学Ⅱ(植物生理学)(鍼灸) (Physiology II (Plant))	
主担当教員	鍋田 智之	担当教員	鍋田 智之
科目ナンバリング	SB105	専門基礎科目	DP②③
配当年次	1	後期	火曜1限
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	<p>生理学Ⅱでは、血液、心臓、呼吸、消化、代謝について学習する。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 血液の組成と凝固について理解する。 2. 心臓の機能を理解する。 3. 循環の調節について理解する。 4. 呼吸の調節について理解する。 5. 消化・吸収・排泄について理解する。 6. 代謝と体温調節について理解する。 <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本講義では、国家試験の出題傾向から重要項目を抜粋して伝えるので、漏らさずに記録すること。 2. 講義内容と病案、診察、鍼灸治療などを関連づけて説明するために必要な科目であることを十分に理解して臨むこと。 3. 前回の授業内容について、5-10問程度の小テストを毎講義前に行うので、必ず復習して臨むこと。 <p>教科書</p> <p>「生理学」東洋療法学校協会編 医歯薬出版</p> <p>参考書</p> <p>目で見るからだのメカニズム 堺章著 医学書院</p> <p>研究室/オフィスアワー</p> <p>月曜から水曜のお昼休み。その他、研究室にいればいつでも。予定表は東棟4階研究室20のドアに貼っています。</p>		
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	前期確認テストと解説	予習:教科書の該当部分を予め読んでおくこと。 復習:本単元の学習内容について、次単元にて小テストを行うので、授業中に重要と述べて項目を学習すること	
2	第2章:血液の組成 血液凝固	予習:教科書の該当部分を予め読んでおくこと。 復習:本単元の学習内容について、次単元にて小テストを行うので、授業中に重要と述べて項目を学習すること	
3	第2章:血液型 大小循環	予習:教科書の該当部分を予め読んでおくこと。 復習:本単元の学習内容について、次単元にて小テストを行うので、授業中に重要と述べて項目を学習すること	
4	第3章:心臓	予習:教科書の該当部分を予め読んでおくこと。 復習:本単元の学習内容について、次単元にて小テストを行うので、授業中に重要と述べて項目を学習すること	
5	第3章:血管運動と血圧	予習:教科書の該当部分を予め読んでおくこと。 復習:本単元の学習内容について、次単元にて小テストを行うので、授業中に重要と述べて項目を学習すること	
6	第3章:循環の調節 リンパ系	予習:教科書の該当部分を予め読んでおくこと。 復習:本単元の学習内容について、次単元にて小テストを行うので、授業中に重要と述べて項目を学習すること	
7	中間テスト 第4章:呼吸運動と肺の機能	予習:教科書の該当部分を予め読んでおくこと。 復習:本単元の学習内容について、次単元にて小テストを行うので、授業中に重要と述べて項目を学習すること	

8	第4章:ガス交換と呼吸調節	予習:教科書の該当部分を予め読んでおくこと。 復習:本単元の学習内容について、次単元にて小テストを行うので、授業中に重要と述べて項目を学習すること	予習:教科書の該当部分を予め読んでおくこと。 復習:本単元の学習内容について、次単元にて小テストを行うので、授業中に重要と述べて項目を学習すること
9	第5章:口腔内の消化 嚥下	予習:教科書の該当部分を予め読んでおくこと。 復習:本単元の学習内容について、次単元にて小テストを行うので、授業中に重要と述べて項目を学習すること	予習:教科書の該当部分を予め読んでおくこと。 復習:本単元の学習内容について、次単元にて小テストを行うので、授業中に重要と述べて項目を学習すること
10	第5章:胃 十二指腸の消化	予習:教科書の該当部分を予め読んでおくこと。 復習:本単元の学習内容について、次単元にて小テストを行うので、授業中に重要と述べて項目を学習すること	予習:教科書の該当部分を予め読んでおくこと。 復習:本単元の学習内容について、次単元にて小テストを行うので、授業中に重要と述べて項目を学習すること
11	第5章:小腸の消化と吸収	予習:教科書の該当部分を予め読んでおくこと。 復習:本単元の学習内容について、次単元にて小テストを行うので、授業中に重要と述べて項目を学習すること	予習:教科書の該当部分を予め読んでおくこと。 復習:本単元の学習内容について、次単元にて小テストを行うので、授業中に重要と述べて項目を学習すること
12	第5章:大腸の機能と排便	予習:教科書の該当部分を予め読んでおくこと。 復習:本単元の学習内容について、次単元にて小テストを行うので、授業中に重要と述べて項目を学習すること	予習:教科書の該当部分を予め読んでおくこと。 復習:本単元の学習内容について、次単元にて小テストを行うので、授業中に重要と述べて項目を学習すること
13	第6章:栄養素と代謝	予習:教科書の該当部分を予め読んでおくこと。 復習:本単元の学習内容について、次単元にて小テストを行うので、授業中に重要と述べて項目を学習すること	予習:教科書の該当部分を予め読んでおくこと。 復習:本単元の学習内容について、次単元にて小テストを行うので、授業中に重要と述べて項目を学習すること
14	第7章:産熱と放熱	予習:教科書の該当部分を予め読んでおくこと。 復習:本単元の学習内容について、次単元にて小テストを行うので、授業中に重要と述べて項目を学習すること	予習:教科書の該当部分を予め読んでおくこと。 復習:本単元の学習内容について、次単元にて小テストを行うので、授業中に重要と述べて項目を学習すること
15	第7章:体温調節の仕組み	予習:教科書の該当部分を予め読んでおくこと。 復習:本単元の学習内容について、次単元にて小テストを行うので、授業中に重要と述べて項目を学習すること	予習:教科書の該当部分を予め読んでおくこと。 復習:本単元の学習内容について、次単元にて小テストを行うので、授業中に重要と述べて項目を学習すること
成績評価方法と基準			
①講義前に実施する全ての小テスト評価 正解数/10問×4回=40点(最大)			
②期末テスト(筆記) 60点			
全評価合計で60%以上を取得すること。			
割合			
①40%			
②60%			

授業科目名 生理学Ⅲ(応用生理学)(鍼灸) (Physiology III【Applied】)			
主担当教員	科目名	担当教員	科目名
科目ナンバリング	SB106	専門基礎科目	DP2②③
配当年次	1	後期	火曜2限
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	講義	必修・選択	必修
到達目標			
生理学Ⅲでは、自律神経系、大脳による調節、生体の防御機構、排尿、内分泌について学習する。			
到達目標			
1. 自律神経による生体の調節について理解する。			
2. 脳が生体情報をどのようにコントロールしているかを理解する。			
3. 生体が外敵からどのように身を守っているかを理解する。			
4. 尿の生成と排泄について理解する。			
5. 内分泌による生体の調節について理解する。			
履修上の注意(学生へのメッセージ)			
1. 本講義では、国家試験の出題傾向から重要項目を抜粋して伝えるので、漏らさずに記録すること。			
2. 講義内容と病氣、診察、鍼灸治療法などを関連づけて説明するために必要な科目であることを十分に理解して臨むこと。			
3. 前回の授業内容について、5-10問程度の小テストを毎講義前に行うので、必ず復習して臨むこと。			
教科書			
「生理学」 東洋療法学校協会編 医歯薬出版。			
参考書			
目で見るからだのメカニズム 柴章書 医学書院			
研究室/オフィスアワー			
昼休みを中心として、研究室に在室中はいつでも相談に来ること			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	第12章:自律神経総論 交感神経系	予習:教科書の該当部分を予め読んでおくこと。 復習:本単元の学習内容について、次単元にて小テストを行うので、授業中に重要と述べて項目を学習すること。 予習:教科書の該当部分を予め読んでおくこと。 復習:本単元の学習内容について、次単元にて小テストを行うので、授業中に重要と述べて項目を学習すること。	
2	第12章:副交感神経系	予習:教科書の該当部分を予め読んでおくこと。 復習:本単元の学習内容について、次単元にて小テストを行うので、授業中に重要と述べて項目を学習すること。 予習:教科書の該当部分を予め読んでおくこと。 復習:本単元の学習内容について、次単元にて小テストを行うので、授業中に重要と述べて項目を学習すること。	
3	第12章:自律神経調節と反対	予習:教科書の該当部分を予め読んでおくこと。 復習:本単元の学習内容について、次単元にて小テストを行うので、授業中に重要と述べて項目を学習すること。 予習:教科書の該当部分を予め読んでおくこと。 復習:本単元の学習内容について、次単元にて小テストを行うので、授業中に重要と述べて項目を学習すること。	
4	第11章:脳幹 間脳 小脳	予習:教科書の該当部分を予め読んでおくこと。 復習:本単元の学習内容について、次単元にて小テストを行うので、授業中に重要と述べて項目を学習すること。 予習:教科書の該当部分を予め読んでおくこと。 復習:本単元の学習内容について、次単元にて小テストを行うので、授業中に重要と述べて項目を学習すること。	
5	第11章:大脳 生体のフィードバック機構	予習:教科書の該当部分を予め読んでおくこと。 復習:本単元の学習内容について、次単元にて小テストを行うので、授業中に重要と述べて項目を学習すること。 予習:教科書の該当部分を予め読んでおくこと。 復習:本単元の学習内容について、次単元にて小テストを行うので、授業中に重要と述べて項目を学習すること。	
6	第16章:炎症	予習:教科書の該当部分を予め読んでおくこと。 復習:本単元の学習内容について、次単元にて小テストを行うので、授業中に重要と述べて項目を学習すること。 予習:教科書の該当部分を予め読んでおくこと。 復習:本単元の学習内容について、次単元にて小テストを行うので、授業中に重要と述べて項目を学習すること。	
7	第16章:免疫	予習:教科書の該当部分を予め読んでおくこと。 復習:本単元の学習内容について、次単元にて小テストを行うので、授業中に重要と述べて項目を学習すること。 予習:教科書の該当部分を予め読んでおくこと。 復習:本単元の学習内容について、次単元にて小テストを行うので、授業中に重要と述べて項目を学習すること。	

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
8	第17章:生体のリズム	予習:教科書の該当部分を予め読んでおくこと。 復習:本単元の学習内容について、次単元にて小テストを行うので、授業中に重要と述べて項目を学習すること。 予習:教科書の該当部分を予め読んでおくこと。 復習:本単元の学習内容について、次単元にて小テストを行うので、授業中に重要と述べて項目を学習すること。	
9	第8章:腎臓の構造と働き	予習:教科書の該当部分を予め読んでおくこと。 復習:本単元の学習内容について、次単元にて小テストを行うので、授業中に重要と述べて項目を学習すること。 予習:教科書の該当部分を予め読んでおくこと。 復習:本単元の学習内容について、次単元にて小テストを行うので、授業中に重要と述べて項目を学習すること。	
10	第8章:尿の生成と体液調節	予習:教科書の該当部分を予め読んでおくこと。 復習:本単元の学習内容について、次単元にて小テストを行うので、授業中に重要と述べて項目を学習すること。 予習:教科書の該当部分を予め読んでおくこと。 復習:本単元の学習内容について、次単元にて小テストを行うので、授業中に重要と述べて項目を学習すること。	
11	第8章:排泄と排尿 内分泌総論	予習:教科書の該当部分を予め読んでおくこと。 復習:本単元の学習内容について、次単元にて小テストを行うので、授業中に重要と述べて項目を学習すること。 予習:教科書の該当部分を予め読んでおくこと。 復習:本単元の学習内容について、次単元にて小テストを行うので、授業中に重要と述べて項目を学習すること。	
12	第9章:視床下部 下垂体 甲状腺 副甲状腺	予習:教科書の該当部分を予め読んでおくこと。 復習:本単元の学習内容について、次単元にて小テストを行うので、授業中に重要と述べて項目を学習すること。 予習:教科書の該当部分を予め読んでおくこと。 復習:本単元の学習内容について、次単元にて小テストを行うので、授業中に重要と述べて項目を学習すること。	
13	第9章:副腎皮質 副腎髄質	予習:教科書の該当部分を予め読んでおくこと。 復習:本単元の学習内容について、次単元にて小テストを行うので、授業中に重要と述べて項目を学習すること。 予習:教科書の該当部分を予め読んでおくこと。 復習:本単元の学習内容について、次単元にて小テストを行うので、授業中に重要と述べて項目を学習すること。	
14	第9章:性ホルモン 血糖調節	予習:教科書の該当部分を予め読んでおくこと。 復習:本単元の学習内容について、次単元にて小テストを行うので、授業中に重要と述べて項目を学習すること。 予習:教科書の該当部分を予め読んでおくこと。 復習:本単元の学習内容について、次単元にて小テストを行うので、授業中に重要と述べて項目を学習すること。	
15	第10章:生殖器の作用	予習:教科書の該当部分を予め読んでおくこと。 復習:本単元の学習内容について、次単元にて小テストを行うので、授業中に重要と述べて項目を学習すること。 予習:教科書の該当部分を予め読んでおくこと。 復習:本単元の学習内容について、次単元にて小テストを行うので、授業中に重要と述べて項目を学習すること。	
成績評価方法と基準			
①講義前に実施する全体的小テスト評価 正解数/10問×4回=40点(最大)			
②期末テスト(筆記) 60点			
全評価合計で60%以上を取得すること。			
割合			
①40%			
②60%			

運動学(鍼灸) (Kinesiology)																																																																			
授業科目名	高橋 秀郎	担当教員	高橋 秀郎																																																																
主担当教員	高橋 秀郎	専門基礎科目	ディプロマポリシー 該当項目																																																																
科目ナンバリング	SB108	前期	DP①③																																																																
配当年次	2	単位数	水曜 2 限																																																																
授業形態	演習	2	必修・選択																																																																
授業概要	<p>関節の動きを理解する。関節の構成体である骨、筋を理解し、動力源である筋の作用を理解する。</p> <p>到達目標</p> <p>各関節の具体的な動きを理解、体験する。筋の作用と実際の動きを関連付けさせる。</p> <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>従前の解剖学の知識を復習する事</p> <p>遅刻の申告、延着証明の提出は当日に限り有効とする</p>																																																																		
教科書	リハビリテーション医学 東洋療法学校協会編・土肥信之著・医歯薬出版株式会社																																																																		
参考書	特になし																																																																		
研究室/オフィスアワー	共同研究室/月曜日、水曜日、金曜日 各曜日 9:00~17:45 但し講義時間以外																																																																		
授業展開及び授業計画表	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>学修内容</th> <th>予習・復習・課題等</th> <th>担当</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 歩行とは 歩行サイクル</td> <td>歩行の動作について</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>歩行 歩行の期 重心の軌跡とタカリズム</td> <td>動きと筋の作用の合致</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>異常歩行の種類 説明</td> <td>歩行に関する筋について</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>関節運動とトルク トルク この3種類</td> <td>動きと筋の作用の合致</td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>空間における関節運動 運動面と軸 重心線 下肢の荷重 異常姿勢</td> <td>関節構造の理解 起始、停止の理解</td> <td></td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>運動路と感覚路 錐体路と錐体外路 2 次ニューロン 反射 反射弓</td> <td>反射の構成要素</td> <td></td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>背屈反射、姿勢反射と立ち直り反射 連合反応と共同運動</td> <td>反射の構成要素</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>随意運動と不随意運動 フィードバック制御 フィードフォワード制御 骨体体の機能</td> <td>運動の種類について</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>脊柱の動きと筋の作用 胸郭の動きと呼吸筋の作用 肩甲骨と肩の機能</td> <td>関節構造の理解 起始停止の理解</td> <td></td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>肩甲骨・肩とは、肩甲骨・肩の構造 肩甲骨の動きと作用する筋</td> <td>動きと筋の作用の合致</td> <td></td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>肩甲骨・肩とは、肩甲骨・肩の構造 肩甲骨の動きと作用する筋</td> <td>関節構造の理解 起始停止の理解</td> <td></td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>肘と前腕の機能</td> <td>動きと筋の作用の合致</td> <td></td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>手と手指の機能 手指の内転と外転まで</td> <td>関節構造の理解 起始停止の理解</td> <td></td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>母指に作用する筋 手の変形 骨盤と股関節</td> <td>動きと筋の作用の合致</td> <td></td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>膝関節の機能 骨の構造 半月板 膝関節の韧带</td> <td>関節構造の理解 起始停止の理解</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当	1	オリエンテーション 歩行とは 歩行サイクル	歩行の動作について		2	歩行 歩行の期 重心の軌跡とタカリズム	動きと筋の作用の合致		3	異常歩行の種類 説明	歩行に関する筋について		4	関節運動とトルク トルク この3種類	動きと筋の作用の合致		5	空間における関節運動 運動面と軸 重心線 下肢の荷重 異常姿勢	関節構造の理解 起始、停止の理解		6	運動路と感覚路 錐体路と錐体外路 2 次ニューロン 反射 反射弓	反射の構成要素		7	背屈反射、姿勢反射と立ち直り反射 連合反応と共同運動	反射の構成要素		8	随意運動と不随意運動 フィードバック制御 フィードフォワード制御 骨体体の機能	運動の種類について		9	脊柱の動きと筋の作用 胸郭の動きと呼吸筋の作用 肩甲骨と肩の機能	関節構造の理解 起始停止の理解		10	肩甲骨・肩とは、肩甲骨・肩の構造 肩甲骨の動きと作用する筋	動きと筋の作用の合致		11	肩甲骨・肩とは、肩甲骨・肩の構造 肩甲骨の動きと作用する筋	関節構造の理解 起始停止の理解		12	肘と前腕の機能	動きと筋の作用の合致		13	手と手指の機能 手指の内転と外転まで	関節構造の理解 起始停止の理解		14	母指に作用する筋 手の変形 骨盤と股関節	動きと筋の作用の合致		15	膝関節の機能 骨の構造 半月板 膝関節の韧带	関節構造の理解 起始停止の理解	
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当																																																																
1	オリエンテーション 歩行とは 歩行サイクル	歩行の動作について																																																																	
2	歩行 歩行の期 重心の軌跡とタカリズム	動きと筋の作用の合致																																																																	
3	異常歩行の種類 説明	歩行に関する筋について																																																																	
4	関節運動とトルク トルク この3種類	動きと筋の作用の合致																																																																	
5	空間における関節運動 運動面と軸 重心線 下肢の荷重 異常姿勢	関節構造の理解 起始、停止の理解																																																																	
6	運動路と感覚路 錐体路と錐体外路 2 次ニューロン 反射 反射弓	反射の構成要素																																																																	
7	背屈反射、姿勢反射と立ち直り反射 連合反応と共同運動	反射の構成要素																																																																	
8	随意運動と不随意運動 フィードバック制御 フィードフォワード制御 骨体体の機能	運動の種類について																																																																	
9	脊柱の動きと筋の作用 胸郭の動きと呼吸筋の作用 肩甲骨と肩の機能	関節構造の理解 起始停止の理解																																																																	
10	肩甲骨・肩とは、肩甲骨・肩の構造 肩甲骨の動きと作用する筋	動きと筋の作用の合致																																																																	
11	肩甲骨・肩とは、肩甲骨・肩の構造 肩甲骨の動きと作用する筋	関節構造の理解 起始停止の理解																																																																	
12	肘と前腕の機能	動きと筋の作用の合致																																																																	
13	手と手指の機能 手指の内転と外転まで	関節構造の理解 起始停止の理解																																																																	
14	母指に作用する筋 手の変形 骨盤と股関節	動きと筋の作用の合致																																																																	
15	膝関節の機能 骨の構造 半月板 膝関節の韧带	関節構造の理解 起始停止の理解																																																																	

成績評価方法と基準	
	割合
	100%

生化学(鍼灸) (Biochemistry)			
授業科目名	森 美梢	担当教員	森 美梢
主担当教員	森 美梢	専門基礎科目	DP③
科目ナンバリング	SB120	科目区分	曜日・時限
配当年次	2	開講学期	金曜 3限
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	必修・選択		
生体の恒常性維持に必要な基本物質の構造と機能、それらの代謝に関する知識を学ぶ。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 細胞の基本構造と細胞内小器官の役割について説明できる。 2) 三大栄養素(タンパク質・糖質・脂質)の構造と機能、代謝の概略について説明できる。 3) 酵素の反応機構ならびに調節機構の概略を説明できる。 4) 核酸の構造と機能、遺伝情報からのタンパク質合成について説明できる。 5) 無機質やホルモンの作用について説明できる。 		
履修上の注意(学生へのメッセージ)			
教科書を中心に講義を行います。教科書内容や配布資料も参考にして理解を深めてください。			
教科書			
イラスト 生化学入門 相原英孝 他著 東京化学社			
参考書			
医学書院 生化学 人体の構造と機能②			
研究室/オフィスアワー			
木曜日午後5時～7時			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	人体の仕組み	予習:教科書の該当部分を読んでおくこと 復習:配布資料や板書内容も合わせて振り返りを行うこと	
2	タンパク質の構造と動き①	予習:教科書の該当部分を読んでおくこと 復習:配布資料や板書内容も合わせて振り返りを行うこと	
3	タンパク質の構造と動き②	予習:教科書の該当部分を読んでおくこと 復習:配布資料や板書内容も合わせて振り返りを行うこと	
4	糖質の構造と動き①	予習:教科書の該当部分を読んでおくこと 復習:配布資料や板書内容も合わせて振り返りを行うこと	
5	糖質の構造と動き②	予習:教科書の該当部分を読んでおくこと 復習:配布資料や板書内容も合わせて振り返りを行うこと	
6	脂質の構造と動き①	予習:教科書の該当部分を読んでおくこと 復習:配布資料や板書内容も合わせて振り返りを行うこと	
7	脂質の構造と動き②	予習:教科書の該当部分を読んでおくこと 復習:配布資料や板書内容も合わせて振り返りを行うこと	
8	核酸の構造と動き	予習:教科書の該当部分を読んでおくこと 復習:配布資料や板書内容も合わせて振り返りを行うこと	
9	酵素の性質と動き	予習:教科書の該当部分を読んでおくこと 復習:配布資料や板書内容も合わせて振り返りを行うこと	
10	ビタミンの種類と動き	予習:教科書の該当部分を読んでおくこと 復習:配布資料や板書内容も合わせて振り返りを行うこと	

11	水・無機質の動き	予習:教科書の該当部分を読んでおくこと 復習:配布資料や板書内容も合わせて振り返りを行うこと	
12	栄養素の消化と吸収	予習:教科書の該当部分を読んでおくこと 復習:配布資料や板書内容も合わせて振り返りを行うこと	
13	生体の恒常性を保つシステム	予習:教科書の該当部分を読んでおくこと 復習:配布資料や板書内容も合わせて振り返りを行うこと	
14	エネルギーの消費と供給 生体の防御システム(免疫)	予習:教科書の該当部分を読んでおくこと 復習:配布資料や板書内容も合わせて振り返りを行うこと	
15	全体のまとめと振り返り	予習:教科書の該当部分を読んでおくこと 復習:配布資料や板書内容も合わせて振り返りを行うこと	
成績評価方法と基準			割合
筆記試験			100%

授業科目名	病理学(鍼灸) (Pathology)		
主担当教員	安部 辰夫	担当教員	安部 辰夫、湯谷 達、川波 博
科目ナンバリング	SB109	科目区分	専門基礎科目
配当年次	2	開講学期	前期
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	学生が将来臨床の現場に立つ時に目の当たりにする疾患を中心に、その病因や成り立ち、病態を理解できるように、さまざまな疾患についての詳細な説明と演習を行う。		
到達目標	学生が将来臨床の現場に立つ時に目の当たりにする疾患について、その病因や成り立ち、病態を理解する。		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	病理学の専門用語やいろいろな病態に対する概念は、他の医学分野でも共通に用いるものである。それらをしっかりと理解し、自らも用いることができ、かつ的確に裏取りをしなければならない。そのためにはそれらを確実に理解し、記憶に留めておかなければならない。		
教科書			
病理学講義 東洋療法学校協会編 医歯薬出版株式会社			
参考書			
「はじめの一歩の病理学」 羊土社			
研究室/オフィスアワー			
火曜日から金曜日に在室	イーストボート4階 研究室20		

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	病理学の概要	予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
2	病因	予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
3	病因2	予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
4	循環障害	予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
5	退行性病変	予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
6	代謝障害	予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
7	進行性病変	予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
8	炎症	予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	

9	腫瘍	予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
10	腫瘍2	予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
11	免疫異常	予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
12	アレルギー	予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
13	先天異常	予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
14	先天異常2	予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
15	「病理学」総論のまとめ	予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
成績評価方法と基準			割合
①期末試験			①80%
②小テスト			②20%

授業科目名	臨床医学総論(鍼灸 A)		
主担当教員	辻丸 桑永	担当教員	辻丸 桑永
科目ナンバリング	SB121	専門基礎科目	ディプロマポリシー 該当項目 DP②
配当年次	2	開講学期	曜日・時限 月曜 4限
授業形態	講義	単位数	2 必修・選択 必修
授業概要	<p>良き医療人になるためには、適切な診察法を理解し、疾患の主な症候を理解することが重要である。内科学を基礎とした診察法・検査所見・症候学の理解を深める。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 症候の理解を深める。 2. 各症候・診察結果・検査結果から考えられる疾患を想起出来る様にする。 <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療人として重要な知識であることを認識する。 2. 疑問点は本切に、解決の向けて努力すること。 3. 授業中の許可のない入室および睡眠は認めない。 4. 最低限度の礼儀をわきまえること。 5. 3分の2以上の出席を求める。 		
教科書			
臨床医学総論(東洋療法学校法協会編 医歯薬出版株式会社)			
参考書			
なし			
研究室/オフィスアワー			
水曜日			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	症候とは	症候学とは何かを覚えておくこと	
2	肩こり(頸肩腕痛)	予習:肩こり(頸肩腕痛)の分類、発症機序を理解する。 復習:診察・検査から肩こり(頸肩腕痛)の原因疾患を想起出来る様にする。 予習:肩痛・上肢痛の分類、発症機序を理解する。 復習:診察・検査から肩痛・上肢痛の原因疾患を想起出来る様にする。	
3	肩痛・上肢痛	予習:肩痛・上肢痛の分類、発症機序を理解する。 復習:診察・検査から肩痛・上肢痛の原因疾患を想起出来る様にする。	
4	腰下肢痛	予習:腰痛、腰下肢痛の分類、発症機序を理解する。 復習:診察・検査から腰痛、腰下肢痛の原因疾患を想起出来る様にする。	
5	運動麻痺・関節痛(肘・肩)	予習:運動麻痺・関節痛(肘・肩)の分類、発症機序を理解する。 復習:診察・検査から運動麻痺・関節痛の原因疾患を想起出来る様にする。	
6	頭痛・顔面痛・歯痛	予習:頭痛・顔面痛・歯痛の分類、発症機序を理解する。 復習:診察・検査から頭痛・顔面痛・歯痛の原因疾患を想起出来る様にする。	
7	めまい・耳鳴り・難聴	予習:めまい・耳鳴り・難聴の分類、発症機序を理解する。 復習:診察・検査からめまい・耳鳴り・難聴の原因疾患を想起出来る様にする。	
8	不眠・疲労・倦怠	予習:不眠・疲労・倦怠の分類、発症機序を理解する。 復習:診察・検査から不眠・疲労・倦怠の原因疾患を想起出来る様にする。	
9	動悸・胸痛	予習:動悸・胸痛の分類、発症機序を理解する。 復習:診察・検査から動悸・胸痛の原因疾患を想起出来る様にする。	
10	咳・痰・鼻閉・鼻汁・呼吸困難(息切れ)	予習:咳・痰・鼻閉・鼻汁・呼吸困難(息切れ)の分類、発症機序を理解する。	

11	腹痛・易感染	復習:診察・検査から咳・痰・鼻閉・呼吸困難の原因疾患を想起出来る様にする。 予習:腹痛・易感染の分類、発症機序を理解する。 復習:診察・検査から腹痛・易感染の原因疾患を想起出来る様にする。 予習:排便障害・浮腫の分類、発症機序を理解する。 復習:診察・検査から排便障害・浮腫の原因疾患を想起出来る様にする。	
12	排尿障害(頻尿・無尿・多尿)・浮腫	予習:月経異常・不正器出血の分類、発症機序を理解する。 復習:診察・検査から月経異常・不正器出血の原因疾患を想起出来る様にする。	
13	月経異常・不正器出血	予習:肥満・やせ・便秘・下痢・食欲不振の分類、発症機序を理解する。 復習:診察・検査から肥満・やせ・便秘・食欲不振の原因疾患を想起出来る様にする。	
14	肥満・やせ・便秘・下痢・食欲不振	予習:出血・貧血・シヨツクの分類、発症機序を理解する。 復習:診察・検査から出血・貧血・シヨツクの原因疾患を想起出来る様にする。	
15	出血・貧血・シヨツク	予習:咳・痰・鼻閉・鼻汁・呼吸困難(息切れ)の分類、発症機序を理解する。 復習:診察・検査から咳・痰・鼻閉・鼻汁・呼吸困難(息切れ)の原因疾患を想起出来る様にする。	
16	講義全体のまとめ	講義全体のまとめとふりかえり	
成績評価方法と基準			割合
1.筆記テスト100%			1.100%
2.3分2以上の出席			※3分の2以上の出席がないと受験資格がありません

授業科目名	臨床医学総論(鍼灸B)		
主担当教員	辻丸 泰永	担当教員	辻丸 泰永
科目ナンバリング	SB121	専門基礎科目	ディプロマポリシー 該当項目
配当年次	2	開講学期	前期
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	授業概要 良き医療人になるためには、適切な診察法を理解し、疾患の主な症候を理解することが重要である。内科学を基礎とした診察法、検査所見、症候学の理解を深める。		
到達目標	1. 症候の理解を深める。 2. 各症候、診察結果、検査結果から考えられる疾患を想起出来る様にする。 履修上の注意(学生へのメッセージ)		
教科書	1. 医療人として重要な知識であることを認識する。 2. 授業中は大切に、解決のに向けて努力すること。 3. 授業中の許可のない入退室および遅寝は認めない。 4. 最低限度の礼儀をわきまえること。 5. 3分の2以上の出席を求める。		
参考書	臨床医学総論(東洋療法学校協会編 医薬業出版株式会社)		
なし			
研究室/オフィスアワー			
水曜日			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	症候とは	症候学とは何かを考えておくこと	
2	肩こり(頸肩腕痛)	予習:肩こり(頸肩腕痛)の分類、発症機序を理解する。 復習:診察・検査から肩こり(頸肩腕痛)の原因疾患を想起出来る様にする 予習:肩痛・上肢痛の分類、発症機序を理解する。 復習:肩痛・上肢痛の分類、発症機序を理解する。	
3	肩痛・上肢痛	予習:肩痛・上肢痛の分類、発症機序を理解する。 復習:肩痛・上肢痛の分類、発症機序を理解する。	
4	腰下肢痛	予習:腰痛・腰下肢痛の分類、発症機序を理解する。 復習:腰痛・腰下肢痛の分類、発症機序を理解する。	
5	運動麻痺・関節痛(肘・肩)	予習:運動麻痺・関節痛(肘・肩)の分類、発症機序を理解する。 復習:診察・検査から運動麻痺・関節痛の原因疾患を想起出来る様にする	
6	頭痛・顔面痛・歯痛	予習:頭痛・顔面痛・歯痛の分類、発症機序を理解する。 復習:診察・検査から肩こりの原因疾患を想起出来る様にする	
7	めまい・耳鳴り・難聴	予習:めまい・耳鳴り・難聴の分類、発症機序を理解する。 復習:診察・検査からめまい・耳鳴り・難聴の原因疾患を想起出来る様にする	
8	不眠・疲労・倦怠	予習:不眠・疲労・倦怠の分類、発症機序を理解する。 復習:診察・検査から不眠、疲労、倦怠の原因疾患を想起出来る様にする	
9	動悸・胸痛	予習:動悸・胸痛の分類、発症機序を理解する。 復習:診察・検査から動悸・胸痛の原因疾患を想起出来る様にする	
10	咳・痰・鼻閉・鼻汁・呼吸困難(息切れ)	予習:咳・痰・鼻閉・鼻汁・呼吸困難の分類、発症機序を理解する。	

11	腹痛・易感染	復習:診察・検査から咳・痰・鼻閉・呼吸困難の原因疾患を想起出来る様にする 予習:腹痛・易感染の分類、発症機序を理解する。 復習:診察・検査から腹痛・易感染の原因疾患を想起出来る様にする	
12	排尿障害(頻尿、無尿、多尿)・浮腫	予習:排尿障害・浮腫の原因疾患を想起出来る様にする 復習:診察・検査から排尿異常・浮腫の原因疾患を想起出来る様にする	
13	月経異常・不正性器出血	予習:月経異常・不正性器出血の分類、発症機序を理解する。 復習:検査から月経異常・不正性器出血の原因疾患を想起出来る様にする	
14	肥満・やせ・便秘・下痢・食欲不振	予習:肥満・やせ・便秘・下痢・食欲不振の分類、発症機序を理解する。 復習:診察・検査から肥満・やせ・便秘・食欲不振の原因疾患を想起出来る様にする	
15	出血・貧血・ショック	予習:出血・貧血・ショックの分類、発症機序を理解する。 復習:診察・検査から出血・貧血・ショックの原因疾患を想起出来る様にする	
16	講義全体のまとめ	講義全体のまとめとふりかえり	
成績評価方法と基準			割合
1.筆記テスト100%			1.100%
2.3分2以上の出席			※3分の2以上の出席がないと受験資格がありません

整形外科(鍼灸) (Orthopedics)		高橋 秀郎		高橋 秀郎	
授業科目名	整形外科(鍼灸)	担当教員	高橋 秀郎	高橋 秀郎	
主担当教員	高橋 秀郎	専門基礎科目	DP②	該当項目	
科目ナンバリング	SB111	科目区分	前期	曜日・時間	水曜 3限
配当年次	2	開講学期	2	必修・選択	必修
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	必修
授業概要					
整形外科疾患は、四肢・体幹の運動器の疾患で鍼灸やスポーツ医学では特に重要である。四肢体幹の診断・治療をすすめていく上で知っておくべき整形外科学を学ぶ。					
到達目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 整形外科医がどのように整形外科疾患を診断・治療するのかを学ぶ。 2. 基本は運動器の解剖である。 3. 整形外科疾患の保存療法と手術療法を学ぶ。 4. 整形外科疾患に対する治療をすすめる上で必要な整形外科基礎知識を学ぶ。 5. 整形外科疾患が原因の身体障害者に対する基本的動作能力の回復を図るには、何が必要かを学ぶ。運動器の問題点を見つける。目を育てる。 					
履修上の注意(学生へのメッセージ)					
整形外科学は解剖学、生理学、臨床病態学を土台とするものである。教科書、スライドを中心に授業を進めるが、これまでに他の講義で学んできた局所解剖や運動機能の評価方法等について質問することから始める。質問は座席表にしたがって行う。教科書にない疾患や病態も重要なものは一部講義対象にするが、これらは配布するプリントでカバーする。					
注意事項					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義を聞かずに教科書だけ読んで理解困難と考えられるため、出席して講義を聞くこと。 2. 疾患について理論的なイメージを持ち、理解する努力をすること。 3. 疑問点は大切に、解決に向けて行動すること。 4. 私語は授業妨害・他学生への迷惑行為なので遠慮させる。最低限の礼儀を辨えること。 5. 遅刻の申告、延滞証明の提出は当日限り有効とする 6. 座席表にしたがって、着席すること。 7. 座席表にしたがって、着席すること。 					
教科書					
臨床医学各論(第2版)医歯薬出版 121頁～192頁					
参考書					
整形外科疾患の理学療法 金原出版、運動機能障害症候群のマネジメント 医歯薬出版 標準整形外科学 医学書院					
研究室/オフィスアワー					
共同研究室/月曜日、水曜日、金曜日 各曜日 9:00～17:45 但し、履修時間以外					
授業展開及び授業計画表					
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当		
1	自己紹介、今後の授業について	インフォームドコンセントについて理解すること。			
2	整形外科総論(1):保存的治療と観血的治療	運動器の解剖、関節の動き(基本)について解剖学で学んだことを予習しておくこと			
3	整形外科総論(2):診断と検査	授業で学んだ筋力評価、整形外科的診察法、画像診断法の理解を深めること。			
4	関節疾患(1)	関節の構造、関節症について復習し理解すること。			
5	関節疾患(2)	小児関節疾患を含むその他の関節疾患について復習し理解を深めること。小テストを実施する。			
6	骨代謝性疾患、骨腫瘍	骨粗鬆症、くる病、骨軟化症、骨腫瘍について授業内容を復習し理解を深めること。			
7	関節リウマチと類縁疾患	授業に使うスライドとプリントを復習すること。			
8	筋・腱膜疾患	運動器疾患後管理・合併症を理解し、周術期看護を整理すること。			
9	形態異常(小児整形)	先天性股関節脱臼、内反足、筋性斜頸、側彎症について理解を深めること。			
10	脊椎疾患(1)	椎間板ヘルニア、後縦靭帯骨化症、変形性脊椎症について理解を深めること。			

11	脊椎疾患(2)	脊椎骨折、脊髄損傷について理解を深めること。小テストを実施する。	
12	骨及び軟部組織の外傷(1)	骨折、脱臼、捻挫について復習して理解を深めること。	
13	骨及び軟部組織の外傷(2)	スポーツ障害(テニス肘、ゴルフ肘、野球肘、野球肩、ジャンパー膝)について復習して理解を深めること。	
14	ロコモと高齢者運動療法	授業に使うスライドとプリントを復習すること。小テストを実施する。	
15	その他の整形外科疾患	胸郭出口症候群、頸胸症候群、手根管症候群について復習して理解を深めること。	
成績評価方法と基準			割合
定期試験			100%

授業科目名		内科学(鍼灸) (Internal Medicine)	
主担当教員	五十嵐 淳介	担当教員	五十嵐 淳介
科目ナンバリング	SB122	専門基礎科目	DP②
配当年次	2	開講学期	後期
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	<p>よき医療人になる上で必要不可欠な内科学の知識・考え方について講義する。診断学・症候学を理解し、医師の現場で応用できるようにする。また各種疾患について臓器別に講義を行い、その病態・治療を論理的に理解・説明できるようにする。</p>		
到達目標	<p>1. 消化管・肝胆膵・循環・呼吸・内分泌の各種臓器の働きを理解する。 2. 症状・症候の病的意義が説明できる。 3. 各種疾病の病態を理解し、そこから臨床症状が合理的に説明できる。 履修上の注意(学生へのメッセージ) 1. しつかり集中して講義を聴講し、各7が可能な限り詳しくノートを作成すること、私語厳禁。 2. 講義内容は膨大であるから、予習復習は必須である。 3. 基礎医学(人体の構造・人体の機能)をよく復習すること。 4. 各疾患の病態を論理的に理解したうえで、個々の事項を記憶すること(丸暗記は不適)。 5. 第14回講義の際に練習問題を配付する。学習の一助とせよ。</p>		
教科書	臨床医学各論(東洋療法学校協会編 医歯薬出版株式会社)		
参考書	指定しない。図表は指定教科書以外からも多数引用するが、個々の出典は可能な限り示す。発展学習を希望する者にはさらに高度な教科書を個別に推薦する中で、申し出よ。		
研究室/オフィスアワー	研究室/オフィスアワー C棟七階研究室15。オフィスアワーは水曜五限(16:20~17:50)。これ以外の時間に来室を希望する場合は事前予約の連絡を行うこと。講義時に口頭で、または随時電子メールにて受け付ける。junsuke_igarashi@nominiva-u.ac.jp。オフィスアワー以外の来室であって予約がない場合、対応しないことがある。		
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	消化管疾患-1	口腔と食道の解剖・生理機能について事前に再度学習しておくこと。教科書21~40ページを用いて、口腔・食道疾患の病態について合理的説明ができるようにせよ。	再
2	消化管疾患-2	胃の解剖・生理機能について事前に再度学習しておくこと。教科書21~40ページを用いて、胃の疾患の病態について合理的説明ができるようにせよ。	再
3	消化管疾患-3	膵臓の解剖・生理機能について事前に再度学習しておくこと。教科書21~40ページを用いて、膵臓の疾患の病態について合理的説明ができるようにせよ。	再
4	肝胆膵疾患-1	肝臓の解剖・生理機能について事前に再度学習しておくこと。教科書41~56ページを用いて、肝疾患の病態について合理的説明ができるようにせよ。	再
5	肝胆膵疾患-2	胆道と膵臓の解剖・生理機能について事前に再度学習しておくこと。教科書41~56ページを用いて、胆道と膵臓の疾患の病態について合理的説明ができるようにせよ。	再
6	循環器疾患-1	心臓と血管の解剖・生理機能について事前に再度学習しておくこと。教科書193~220ページを用いて、心臓と血管の病態について合理的説明ができるようにせよ。	再
7	循環器疾患-2	心臓と血管の解剖・生理機能について事前に再度学習しておくこと。教科書193~220ページを用いて、心臓と血管の病態について合理的説明ができるようにせよ。	再

8	循環器疾患-3	学習しておくこと。教科書193~220ページを用いて、心不全・不整脈・先天性心疾患の病態について合理的説明ができるようにせよ。	再
9	循環器疾患-4	心臓と血管の解剖・生理機能について事前に再度学習しておくこと。教科書193~220ページを用いて、心臓と血管の病態について合理的説明ができるようにせよ。	再
10	呼吸器疾患-1	呼吸器の解剖・生理機能について事前に再度学習しておくこと。教科書57~80ページを用いて、呼吸器の病態について合理的説明ができるようにせよ。	再
11	呼吸器疾患-2	呼吸器の解剖・生理機能について事前に再度学習しておくこと。教科書57~80ページを用いて、閉塞性呼吸器疾患・拘束性呼吸器疾患の病態について合理的説明ができるようにせよ。	再
12	呼吸器疾患-3	呼吸器の解剖・生理機能について事前に再度学習しておくこと。教科書57~80ページを用いて、気胸・肺癌・気管支拡張症の病態について合理的説明ができるようにせよ。	再
13	内分泌疾患-1	内分泌系の解剖・生理機能について事前に再度学習しておくこと。教科書97~110ページを用いて、下垂体疾患・甲状腺疾患の病態について合理的説明ができるようにせよ。	再
14	内分泌疾患-2	内分泌系の解剖・生理機能について事前に再度学習しておくこと。教科書97~110ページを用いて、副腎疾患の病態について合理的説明ができるようにせよ。	再
15	練習問題	教員が示す解答例と自らの解答を比較し、学習の一助とせよ。	割合
成績評価方法と基準			割合
期末定期試験(マークシート式)			100%

授業科目名	経絡経穴 I (鍼灸 A) (Meridian Lines and Points I)		尾崎 朋文	尾崎 朋文、仲村 正子
主担当教員	尾崎 朋文	担当教員	ディプロマポリシー 該当項目	DP①
科目ナンバリング	SS201	科目区分	曜日・時間	木曜 4 限
配当年次	1	開講学期	必修・選択	必修
授業形態	講義	単位数	1	必修
授業概要	経絡経穴は鍼灸の根幹をなすものである。その中で 1 年次には入門編という位置づけとし、経絡の種類、それに属する経穴名、経穴を取つるために必要な解剖学的知識、経穴の取穴部位などを学修する。 経絡経穴 I では、任脈、督脈、手の太陰肺経、足の陽明大腸経、手の陽明大腸経、足の太陰脾経、手の少陰心経の 158 穴の名称、部位等を学修する。取穴に際しては骨度法や同身寸を理解すると共に、基準となる骨、筋脈、動脈拍動部などを学修し、経穴の正確な部位の特定ができるよう学修する。 ※本科科目は要務経線のある教員等による授業科目です			
到達目標	1. 経絡と経穴を理解する。 2. 骨度法、同身寸法について理解する。 3. 経穴を取つるために必要な解剖学的名称を触り説明できる。 4. 履修した経穴を取穴することができる。 履修上の注意 (学生へのメッセージ) 1. 白衣の着用を義務とする。 2. 授業には、必ず教科書、参考図書を持参する。 3. 取穴の際には、いつでもモデル役ができるよう服装に気をつけること。 4. 取穴の際に必要な「水性のペン」を持参する。			
教科書	「経絡経穴概論」医道の本社 教科書執筆小委員会 (尾崎朋文他)			
参考書	「鍼灸師、柔道整復師のための局所経刺カテーтра」 南江堂 大阪大学歯学部口腔解剖学第二講座鍼灸解剖グループ (尾崎朋文他) 研究室 / オフィスアワー 尾崎: 4 階研究室 18 仲村: 4 階研究室 13			
授業展開及び授業計画表	回数 学修内容 予習・復習・課題等 担当			
1	経絡経穴概論 1	予習: シラバス・教科書の確認 経絡・経穴の基礎 (P2~P9) 復習: 授業をもとにシラバス・教科書の確認	尾崎 朋文 仲村 正子	
2	経絡経穴概論 2	予習: 骨度法、階別学的取穴方向に関する用語の確認 (P9~P23) 復習: 授業をもとにシラバス・教科書の確認	尾崎 朋文 仲村 正子	
3	任脈 1 (経絡と経穴名と取穴)	予習: 任脈 (委中~中脘) の確認 (P40~P47) 復習: 授業をもとにシラバス・教科書の確認	尾崎 朋文 仲村 正子	
4	任脈 2 (経絡と経穴名と取穴)	予習: 任脈 (上脘~承漿) の確認 (P46~P51) 復習: 授業をもとにシラバス・教科書の確認	尾崎 朋文 仲村 正子	
5	督脈 1 (経絡と経穴名と取穴)	予習: 督脈 (長強~大椎) の確認 (P26~P33) 復習: 授業をもとにシラバス・教科書の確認	尾崎 朋文 仲村 正子	
6	督脈 2 (経絡と経穴名と取穴)	予習: 督脈 (龍門~膈交) の確認 (P32~P39) 復習: 授業をもとにシラバス・教科書の確認	尾崎 朋文 仲村 正子	
7	手の太陰肺経 (経絡と経穴名と取穴)	予習: 手の太陰肺経 (中府~少商) の確認 (P52~P59) 復習: 授業をもとにシラバス・教科書の確認	尾崎 朋文 仲村 正子	
8	手の陽明大腸経 1 (経絡と経穴名と取穴)	予習: 手の陽明大腸経 (商陽~曲池) の確認 (P60~P67) 復習: 授業をもとにシラバス・教科書の確認	尾崎 朋文 仲村 正子	
9	手の陽明大腸経 2 (経絡と経穴名と取穴)	予習: 手の陽明大腸経 (肘髁~迎香) の確認 (P66~P74) 復習: 授業をもとにシラバス・教科書の確認	尾崎 朋文 仲村 正子	
10	足の陽明胃経 1 (経絡と経穴名と取穴)	予習: 足の陽明胃経 (承泣~厲臑) の確認 (P72~P79) 復習: 授業をもとにシラバス・教科書の確認	尾崎 朋文 仲村 正子	

11	足の陽明胃経 2 (経絡と経穴名と取穴)	復習: 授業をもとにシラバス・教科書の確認 予習: 足の陽明胃経 (厲臑~氣衝) の確認 (P78~P85) 復習: 授業をもとにシラバス・教科書の確認	尾崎 朋文 仲村 正子
12	足の陽明胃経 3 (経絡と経穴名と取穴)	予習: 足の陽明胃経 (髀關~厲兌) の確認 (P84~P91) 復習: 授業をもとにシラバス・教科書の確認	尾崎 朋文 仲村 正子
13	足の太陰脾経 1 (経絡と経穴名と取穴)	予習: 足の太陰脾経 (隱白~衝門) の確認 (P92~P99) 復習: 授業をもとにシラバス・教科書の確認	尾崎 朋文 仲村 正子
14	足の太陰脾経 2 (経絡と経穴名と取穴)	予習: 足の太陰脾経 (府舎~大包) の確認 (P98~P102) 復習: 授業をもとにシラバス・教科書の確認	尾崎 朋文 仲村 正子
15	手の少陰心経 (経絡と経穴名と取穴) 前期まとめ	予習: 手の少陰心経 (極泉~少衝) の確認 (P104~P109) 復習: 授業をもとにシラバス・教科書の確認	尾崎 朋文 仲村 正子
成績評価方法と基準			割合
① 期末試験 (筆記試験) 50%			① 50%
② 期末試験 (口答試験) 40%			② 40%
③ 小テストの平均点 10%			③ 10%
評価は①~③の合算 (100%) とする。 基準は①・②とも 60 点以上で単位認定とする。 2/3 以上の出席を必要とする。			

授業科目名	経絡経穴Ⅰ (鍼灸B) (Meridian Lines and Points I)		
主担当教員	尾崎 明文	尾崎 明文、仲村 正子	尾崎 明文、仲村 正子
科目ナンバリング	SS201	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目
配当年次	1	開講学期	前期
授業形態	講義	単位数	1
授業概要	経絡経穴は鍼灸の根幹をなすものである。その中で1年次には入門編という位置づけとし、経絡の種類、それに属する経穴名、経穴を取穴するために必要な解剖学的知識、経穴の取穴部位などを学修する。 経絡経穴Ⅰでは、任脈、督脈、手の太陰肺経、手の陽明大腸経、足の太陰脾経、足の陽明大腸経、手の少陰心経の158穴の名称、部位等を学修する。取穴に際しては骨度法や同身寸を理解すると共に、基準となる骨、筋腱、動脈拍動部などを学修し、経穴の正確な部位の特定ができるよう学修する。		
到達目標	※本科目は実務経験のある教員等による授業科目です		
1. 経絡と経穴を理解する。			
2. 骨度法・同身寸法について理解する。			
3. 経穴を取穴するために必要な解剖学的名称を触り説明できる。			
4. 履修した経穴を取穴することができる。			
履修上の注意 (学生へのメッセージ)			
1. 白衣の着用を義務とする。			
2. 授業には、必ず教科書、参考図書を持参する。			
3. 取穴の際には、いつでもモラル役ができるよう服装に気をつけること。			
4. 取穴の際に必要な「水性のペン」を持参する。			
教科書			
「経絡経穴概論」医道の日本社 教科書執筆小委員会 (尾崎明文他)			
参考書			
「鍼灸師、柔道整復師のための局所解剖カラートラス」 南江堂 大阪大学歯学部口腔解剖学第二講座鍼灸解剖グループ (尾崎明文他)			
研究室/オフィスアワー			
尾崎: 4階研究室 18			
仲村: 4階研究室 13			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	経絡経穴概論1	予習: シラバス、教科書の確認 経絡・経穴の基礎 (P2~P9) 復習: 授業をもとにシラバス、教科書の確認	尾崎 明文 仲村 正子
2	経絡経穴概論2	予習: 骨度法、解剖学的部位と方向に関する用語の確認 (P9~P23) 復習: 授業をもとにシラバス、教科書の確認	尾崎 明文 仲村 正子
3	任脈1 (経絡と経穴名と取穴)	予習: 任脈 (灸線~中脘) の確認 (P40~P47) 復習: 授業をもとにシラバス、教科書の確認	尾崎 明文 仲村 正子
4	任脈2 (経絡と経穴名と取穴)	予習: 任脈 (上脘~承漿) の確認 (P46~P51) 復習: 授業をもとにシラバス、教科書の確認	尾崎 明文 仲村 正子
5	督脈1 (経絡と経穴名と取穴)	予習: 督脈 (長強~大椎) の確認 (P26~P33) 復習: 授業をもとにシラバス、教科書の確認	尾崎 明文 仲村 正子
6	督脈2 (経絡と経穴名と取穴)	予習: 督脈 (長強~大椎) の確認 (P26~P33) 復習: 授業をもとにシラバス、教科書の確認	尾崎 明文 仲村 正子
7	手の太陰肺経 (経絡と経穴名と取穴)	予習: 手の太陰肺経 (中府~少商) の確認 (P52~P59) 復習: 授業をもとにシラバス、教科書の確認	尾崎 明文 仲村 正子
8	手の陽明大腸経1 (経絡と経穴名と取穴)	予習: 手の陽明大腸経 (商陽~曲池) の確認 (P60~P67) 復習: 授業をもとにシラバス、教科書の確認	尾崎 明文 仲村 正子
9	手の陽明大腸経2 (経絡と経穴名と取穴)	予習: 手の陽明大腸経 (肘髁~迎香) の確認 (P66~P71) 復習: 授業をもとにシラバス、教科書の確認	尾崎 明文 仲村 正子

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
10	足の陽明胃経1 (経絡と経穴名と取穴)	予習: 足の陽明胃経 (承泣~厲臑) の確認 (P72~P79) 復習: 授業をもとにシラバス、教科書の確認	尾崎 明文 仲村 正子
11	足の陽明胃経2 (経絡と経穴名と取穴)	予習: 足の陽明胃経 (睛窓~氣衝) の確認 (P78~P85) 復習: 授業をもとにシラバス、教科書の確認	尾崎 明文 仲村 正子
12	足の陽明胃経3 (経絡と経穴名と取穴)	予習: 足の陽明胃経 (髀關~厲兌) の確認 (P84~P91) 復習: 授業をもとにシラバス、教科書の確認	尾崎 明文 仲村 正子
13	足の太陰脾経1 (経絡と経穴名と取穴)	予習: 足の太陰脾経 (厲白~衝門) の確認 (P92~P99) 復習: 授業をもとにシラバス、教科書の確認	尾崎 明文 仲村 正子
14	足の太陰脾経2 (経絡と経穴名と取穴)	予習: 足の太陰脾経 (府舎~大包) の確認 (P98~P102) 復習: 授業をもとにシラバス、教科書の確認	尾崎 明文 仲村 正子
15	手の少陰心経 (経絡と経穴名と取穴) 前期まとめ	予習: 手の少陰心経 (極泉~少衝) の確認 (P104~P109) 復習: 授業をもとにシラバス、教科書の確認	尾崎 明文 仲村 正子
成績評価方法と基準			
①期末試験 (筆記試験) 50%			
②期末試験 (口答試験) 40%			
③小テストの平均点 10%			
評価は①~③の合算 (100%) とする。			
基準は①・②・③とも60点以上で単位認定とする。			
2/3以上の出席を必要とする。			

経絡線六学 II (鍼灸 A) (Meridian Lines and Points II)		尾崎 朋文	尾崎 朋文、仲村 正子
授業科目名	担当教員	科目区分	専門科目
主担当教員	尾崎 朋文	SS202	タイロママボリシー 該当項目 DP①
科目ナンバリング			
配当年次	1	開講学期	曜日・時間 木曜 4限
授業形態	講義	単位数	必修・選択 必修
授業概要	<p>経絡線六学は鍼灸の根幹をなすものである。その中で1年次には入門編という位置づけとし、経絡の種類、それに属する経穴名、経穴を取穴するために必要な解剖学的知識、経穴の取穴部位などを学修する。</p> <p>経絡線六学 II では、手の太陽小腸経、足の太陽膀胱経、足の少陰腎経、手の厥陰心包経、手の少陽三焦経、足の少陽胆経、足の厥陰肝経の203穴の名称、部位等を学修する。取穴に際しては骨度法や同身寸を理解すると共に、基準となる骨、筋腫、動脈拍動部などを学修し、経穴の正確な部位の特定ができるよう学修する。</p> <p>※本科科目は実務経験のある教員等による授業科目です</p>		
到達目標	<p>1. 経絡と経穴を理解する。 2. 骨度法、同身寸法について理解する。 3. 経穴を取穴するために必要な解剖学的名称を触り説明できる。 4. 履修した経穴を取穴することができる。</p>		
履修上の注意 (学生へのメッセージ)	履修上の注意 (学生へのメッセージ)		
教科書	<p>1. 白衣の着脱を義務とする。 2. 授業には、必ず教科書、参考図書を持参する。 3. 取穴の際には、いつでもモデル役ができるよう服装に気をつけること。 4. 取穴の際に必要な「水性のペン」を持参する。</p>		
参考書	<p>「経絡線六概論」医道の日本社 教科書執筆小委員会 (尾崎朋文他)</p>		
授業展開及び授業計画表	<p>鍼灸師、柔道整復師のための局所解剖カラートラース 南江堂 大阪大学歯学部口腔解剖学第二講座鍼灸解剖グループ (尾崎朋文他) 研究室 / オフィスアワー 尾崎: 4階研究室 18 仲村: 4階研究室 13</p>		
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	手の太陽小腸経1 (経絡と経穴名と取穴)	予習: 手の太陽小腸経 (少沢 ~ 臑兪) の確認 (P110~115) 復習: 授業をもとにシラバス、教科書の確認	尾崎 朋文 仲村 正子
2	手の太陽小腸経2 (経絡と経穴名と取穴) 足の太陽膀胱経1 (経絡と経穴名と取穴)	予習: 手の太陽小腸経 (天宗 ~ 臑兪) の確認 (P116~119) 予習: 足の太陽膀胱経 (睛明 ~ 曲差) の確認 (120~123) 復習: 授業をもとにシラバス、教科書の確認	尾崎 朋文 仲村 正子
3	足の太陽膀胱経2 (経絡と経穴名と取穴)	予習: 足の太陽膀胱経 (五処 ~ 胆兪) の確認 (P122~129) 復習: 授業をもとにシラバス、教科書の確認	尾崎 朋文 仲村 正子
4	足の太陽膀胱経3 (経絡と経穴名と取穴)	予習: 足の太陽膀胱経 (承扶 ~ 胃門) の確認 (P136~143) 復習: 授業をもとにシラバス、教科書の確認	尾崎 朋文 仲村 正子
5	足の太陽膀胱経4 (経絡と経穴名と取穴)	予習: 足の太陽膀胱経 (志室 ~ 至陰) の確認 (P142~149) 復習: 授業をもとにシラバス、教科書の確認	尾崎 朋文 仲村 正子
6	足の太陽膀胱経5 (経絡と経穴名と取穴)	予習: 足の少陰腎経 (湧泉 ~ 四滿) の確認 (P150~155) 復習: 授業をもとにシラバス、教科書の確認	尾崎 朋文 仲村 正子
7	足の少陰腎経1 (経絡と経穴名と取穴)	予習: 足の少陰腎経 (中注 ~ 兪府) の確認 (P156~163)	尾崎 朋文 仲村 正子
8	足の少陰腎経2 (経絡と経穴名と取穴)		尾崎 朋文 仲村 正子

成績評価方法と基準		復習: 授業をもとにシラバス、教科書の確認	
9	手の厥陰心包経 (経絡と経穴名と取穴)	予習: 手の厥陰心包経 (天池 ~ 中衝) の確認 (P164~169) 復習: 授業をもとにシラバス、教科書の確認	尾崎 朋文 仲村 正子
10	手の少陽三焦経1 (経絡と経穴名と取穴)	予習: 手の少陽三焦経 (肩髃 ~ 肩髃) の確認 (P170~177) 復習: 授業をもとにシラバス、教科書の確認	尾崎 朋文 仲村 正子
11	手の少陽三焦経2 (経絡と経穴名と取穴)	予習: 手の少陽三焦経 (天髃 ~ 糸竹空) の確認 (P176~181) 復習: 授業をもとにシラバス、教科書の確認	尾崎 朋文 仲村 正子
12	足の少陽胆経1 (経絡と経穴名と取穴)	予習: 足の少陽胆経 (瞳子髃 ~ 頭臨泣) の確認 (P182~189) 復習: 授業をもとにシラバス、教科書の確認	尾崎 朋文 仲村 正子
13	足の少陽胆経2 (経絡と経穴名と取穴)	予習: 足の少陽胆経 (目窓 ~ 環跳) の確認 (P190~195) 復習: 授業をもとにシラバス、教科書の確認	尾崎 朋文 仲村 正子
14	足の少陽胆経3 (経絡と経穴名と取穴)	予習: 足の少陽胆経 (風市 ~ 足竅陰) の確認 (P196~201) 復習: 授業をもとにシラバス、教科書の確認	尾崎 朋文 仲村 正子
15	足の厥陰肝経 (経絡と経穴名と取穴)	予習: 足の厥陰肝経 (大敦 ~ 期門) の確認 (P202~209) 復習: 授業をもとにシラバス、教科書の確認	尾崎 朋文 仲村 正子
成績評価方法と基準			
①期末試験 (筆記試験) 50%			
②期末試験 (口答試験) 40%			
③小テストの平均点 10%			
評価は①~③の合算 (100%) とする。			
基準は①・②とも60点以上で単位認定とする。			
2/3以上の出席を必要とする。			

経絡経穴Ⅱ (鍼灸B) (Meridian Lines and Points II)		
授業科目名	経絡経穴Ⅱ (鍼灸B)	尾崎 朋文
主担当教員	尾崎 朋文	尾崎 朋文、仲村 正子
科目ナンバリング	SS202	専門科目
配当年次	1	後期
授業形態	講義	曜日・時限
授業概要	1 単位数	必修・選択
到達目標	1 必修	必修
経絡経穴は鍼灸の根幹をなすものである。その中で1年次には入門編という位置づけとし、経絡の種類、それに属する経穴名、経穴を取穴するために必要な解剖学的知識、経穴の取穴部位などを学習する。	尾崎 朋文、仲村 正子	尾崎 朋文、仲村 正子
経絡経穴Ⅱでは、手の太陽小腸経、足の太陽膀胱経、足の少陰腎経、手の厥陰心包経、手の少陽三焦経、足の少陽胆経、足陰肝経の203穴の名称、部位等を学習する。取穴に際しては骨度法や同身寸を理解すると共に、基準となる骨、筋膜、動脈拍動部などを学習し、経穴の正確な部位の特定ができるよう学習する。	ディプロマポリシー 該当項目	DP①
※本科目は実務経験のある教員等による授業科目です	曜日・時限	木曜 5限
到達目標	必修・選択	必修
1. 経絡と経穴を理解する。		
2. 骨度法・同身寸法について理解する。		
3. 経穴を取穴するために必要な解剖学的名称を触り説明できる。		
4. 履修した経穴を取穴することができる。		
履修上の注意(学生へのメッセージ)		
1. 白衣の着用を義務とする。		
2. 授業には、必ず教科書、参考図書を持参する。		
3. 取穴の際には、いつでもモラル役ができるよう服装に気をつけること。		
4. 取穴の際に必要な「水性のペン」を持参する。		
教科書		
「経絡経穴概論」医道の日本社 教科書執筆小委員会(尾崎朋文他)		
参考書		
「鍼灸師、柔道整復師のための局所解剖カラートラース」南江堂 大阪大学歯学部口腔解剖学第二講座鍼灸解剖グループ(尾崎朋文他)		
研究室/オフィスアワー		
尾崎:4階研究室18 仲村:4階研究室13		
授業展開及び授業計画表		
回数	学修内容	担当
1	手の太陽小腸経1(経絡と経穴名と取穴)	尾崎 朋文 仲村 正子
	予習:手の太陽小腸経(少沢～臑兪)の確認(P110～115) 復習:授業をもとにシラバス、教科書の確認	
2	手の太陽小腸経2(経絡と経穴名と取穴) 足の太陽膀胱経1(経絡と経穴名と取穴)	尾崎 朋文 仲村 正子
	予習:手の太陽小腸経(天宗～臑宮)の確認(P116～119) 予習:足の太陽膀胱経(晴明～曲差)の確認(120～123) 復習:授業をもとにシラバス、教科書の確認	
3	足の太陽膀胱経2(経絡と経穴名と取穴)	尾崎 朋文 仲村 正子
	予習:足の太陽膀胱経(五処～胆兪)の確認(P122～129) 復習:授業をもとにシラバス、教科書の確認	
4	足の太陽膀胱経3(経絡と経穴名と取穴)	尾崎 朋文 仲村 正子
	予習:足の太陽膀胱経(承扶～胃門)の確認(P135) 復習:授業をもとにシラバス、教科書の確認	
5	足の太陽膀胱経4(経絡と経穴名と取穴)	尾崎 朋文 仲村 正子
	予習:足の太陽膀胱経(承扶～胃門)の確認(P136～143) 復習:授業をもとにシラバス、教科書の確認	
6	足の太陽膀胱経5(経絡と経穴名と取穴)	尾崎 朋文 仲村 正子
	予習:足の太陽膀胱経(志室～至陰)の確認(P142～149) 復習:授業をもとにシラバス、教科書の確認	
7	足の少陰腎経1(経絡と経穴名と取穴)	尾崎 朋文 仲村 正子
	予習:足の少陰腎経(湧泉～四滿)の確認(P150～155) 復習:授業をもとにシラバス、教科書の確認	
8	足の少陰腎経2(経絡と経穴名と取穴)	尾崎 朋文 仲村 正子
	予習:足の少陰腎経(中注～兪府)の確認(P156～163)	

成績評価方法と基準		
9	手の厥陰心包経(経絡と経穴名と取穴)	尾崎 朋文 仲村 正子
	予習:手の厥陰心包経(天池～中衝)の確認(P164～169) 復習:授業をもとにシラバス、教科書の確認	
10	手の少陽三焦経1(経絡と経穴名と取穴)	尾崎 朋文 仲村 正子
	予習:手の少陽三焦経(関衝～肩髃?)の確認(P170～177) 復習:授業をもとにシラバス、教科書の確認	
11	手の少陽三焦経2(経絡と経穴名と取穴)	尾崎 朋文 仲村 正子
	予習:手の少陽三焦経(天髃～糸竹空)の確認(P176～181) 復習:授業をもとにシラバス、教科書の確認	
12	足の少陽胆経1(経絡と経穴名と取穴)	尾崎 朋文 仲村 正子
	予習:足の少陽胆経(瞳子髎～頭臨泣)の確認(P182～189) 復習:授業をもとにシラバス、教科書の確認	
13	足の少陽胆経2(経絡と経穴名と取穴)	尾崎 朋文 仲村 正子
	予習:足の少陽胆経(目窓～環跳)の確認(P190～195) 復習:授業をもとにシラバス、教科書の確認	
14	足の少陽胆経3(経絡と経穴名と取穴)	尾崎 朋文 仲村 正子
	予習:足の少陽胆経(風市～足竅陰)の確認(P196～201) 復習:授業をもとにシラバス、教科書の確認	
15	足の厥陰肝経(経絡と経穴名と取穴)	尾崎 朋文 仲村 正子
	予習:足の厥陰肝経(大敦～期門)の確認(P202～209) 復習:授業をもとにシラバス、教科書の確認	
成績評価方法と基準		
①期末試験(筆記試験) 50%		
②期末試験(口答試験) 40%		
③小テストの平均点 10%		
評価は①～③の合算(100%)とする。		
基準は①、②とも60点以上で単位認定とする。		
2/3以上の出席を必要とする。		

経穴局所解剖演習 I (鍼灸 A) (Topology of Meridian Points Seminar I)			
授業科目名	経穴局所解剖演習 I (鍼灸 A)	担当教員	尾崎 朋文、仲村 正子
主担当教員	尾崎 朋文	専門科目	DP①
科目ナンバリング	SS203	科目区分	月曜 1限
配当年次	2	開講学期	前期
授業形態	演習	単位数	1
授業概要	必修		
<p>経穴局所解剖は、経絡六学で学んだ経絡名、経穴名、取穴の知識を踏まえ、さらに経穴の局所解剖学的な観点から三次元的に考察する。すなわち、各経穴の筋、運動神経、知覚神経、血管、および経穴部に存在する神経線維や動脈管などを学修する。さらに各経穴の主治や要穴、および奇穴(新穴を含む)36穴の経穴名・取穴部位・主治も学修する。および経絡・経穴の現代的研究も学修する。</p> <p>※本科目は実務経験のある教員等による授業科目です</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各経穴の局所解剖(筋肉・運動神経・知覚神経・血管)を理解する。 2. 各経穴の主治を理解する。 3. 奇経入脈、要穴を理解する。 4. 奇穴(新穴)の経穴名と取穴と主治を理解する。 5. 経絡・経穴の現代的研究を理解する。 		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 白衣の着用を義務とする。 2. 授業には、必ず教科書、参考図書を持参する。 3. 取穴の際は、いつでもモデル役ができるよう服装に気をつけること。 4. 取穴の際、実技道具にある「灸点ペン」を持参する。 		
教科書	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「経絡経穴概論」医道の日本社 教科書執筆小委員会(尾崎朋文他) 2. 「鍼灸師・柔道整復師のための局所解剖カラーアトラス」南江堂 		
参考書	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「経絡経穴概論」医道の日本社 教科書執筆小委員会(尾崎朋文他) 		
大阪大学歯学部口腔解剖学第二講座鍼灸解剖グループ(尾崎朋文他)			
研究室/オフィスアワー			
尾崎: 4階研究室 18	仲村: 4階研究室 13		
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	経穴局所解剖演習概論 奇穴(新穴を含む)1	予習: 奇穴(四神総~鹿門)の確認(P216~223) 復習: 授業をもとにシラバス、教科書の確認 仲村 正子	尾崎 朋文 仲村 正子
2	奇穴(新穴を含む)2	予習: 奇穴(肩内陵~脚気八処の穴)の確認(P224~229) 復習: 授業をもとにシラバス、教科書の確認	尾崎 朋文 仲村 正子
3	任脈(局所解剖と主治と要穴)	予習: 任脈(会陰~承漿)の確認(P40~P51) 復習: 授業をもとにシラバス、教科書の確認 仲村 正子	尾崎 朋文 仲村 正子
4	督脈(局所解剖と主治と要穴)	予習: 督脈(長強~囑交)の確認(P26~P39) 復習: 授業をもとにシラバス、教科書の確認 仲村 正子	尾崎 朋文 仲村 正子
5	手の太陰肺経(局所解剖と主治と要穴)	予習: 手の太陰肺経(中府~少商)の確認(P52~59) 復習: 授業をもとにシラバス、教科書の確認 仲村 正子	尾崎 朋文 仲村 正子
6	手の陽明大腸経1(局所解剖と主治と要穴)	予習: 手の陽明大腸経(商陽~曲池)の確認(P60~P67) 復習: 授業をもとにシラバス、教科書の確認	尾崎 朋文 仲村 正子
7	手の陽明大腸経2(局所解剖と主治と要穴)	予習: 手の陽明大腸経(肘髁~迎香)の確認(P66~P71) 復習: 授業をもとにシラバス、教科書の確認 仲村 正子	尾崎 朋文 仲村 正子
8	足の陽明胃経1(局所解剖と主治と要穴)	予習: 足の陽明胃経(承泣~欠盆)の確認(P72~P79) 復習: 授業をもとにシラバス、教科書の確認 仲村 正子	尾崎 朋文 仲村 正子
9	足の陽明胃経2(局所解剖と主治と要穴)	予習: 足の陽明胃経(氣戸~氣衝)の確認(P78~P85) 復習: 授業をもとにシラバス、教科書の確認 仲村 正子	尾崎 朋文 仲村 正子
10	足の陽明胃経3(局所解剖と主治と要穴)	予習: 足の陽明胃経(髀關~厲兌)の確認(P84~P91) 復習: 授業をもとにシラバス、教科書の確認 仲村 正子	尾崎 朋文 仲村 正子

成績評価方法と基準			
11	足の太陰脾経1(局所解剖と主治と要穴)	復習: 授業をもとにシラバス、教科書の確認 予習: 足の太陰脾経(臍白~衝門)の確認(P92~P99) 復習: 授業をもとにシラバス、教科書の確認 仲村 正子	尾崎 朋文 仲村 正子
12	足の太陰脾経2(局所解剖と主治と要穴)	予習: 足の太陰脾経(府舎~大包)の確認(P98~P102) 復習: 授業をもとにシラバス、教科書の確認 仲村 正子	尾崎 朋文 仲村 正子
13	手の少陰心経(局所解剖と主治と要穴)	予習: 手の少陰心経(極泉~少衝)の確認(P104~P109) 復習: 授業をもとにシラバス、教科書の確認 仲村 正子	尾崎 朋文 仲村 正子
14	手の太陽小腸経1(局所解剖と主治と要穴)	予習: 手の太陽小腸経(少沢~臑兪)の確認(P110~115) 復習: 授業をもとにシラバス、教科書の確認 仲村 正子	尾崎 朋文 仲村 正子
15	手の太陽小腸経2(局所解剖と主治と要穴)	予習: 手の太陽小腸経(支宗~臑宮)の確認(P116~119) 復習: 授業をもとにシラバス、教科書の確認 仲村 正子	尾崎 朋文 仲村 正子
<ol style="list-style-type: none"> ①期末試験(筆記試験) 50% ②期末試験(口答試験) 40% ③小テストの平均点 10% 評価は①~③の合算(100%)とする。 基準は①・②とも60点以上で単位認定とする。 4/5以上の出席を必要とする。			
割合			
筆記 50%			
口頭 40%			
小テスト 10%			

経穴局所解剖演習 I (鍼灸 B) (Topology of Meridian Points Seminar 1)			
授業科目名	経穴局所解剖演習 I (鍼灸 B)	尾崎 朋文	尾崎 朋文、仲村 正子
主担当教員	尾崎 朋文	担当教員	尾崎 朋文、仲村 正子
科目ナンバリング	SS203	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目
配当年次	2	開講学期	前期
授業形態	演習	単位数	1
授業概要	<p>経穴局所解剖は、経絡経穴で学んだ経絡名、経穴名、取穴の知識を踏まえ、さらに経穴の局所解剖学的見地から三次元的に考察する。すなわち、各経穴の筋、運動神経、知覚神経、血管、および経穴に存在する神経幹や動脈幹などを学修する。さらに各経穴の主治や要穴、および奇穴(新穴含む)36穴の経穴名、取穴部位・主治も学修する。および経絡・経穴の現代的研究も学修する。</p> <p>※本科目は実務経験のある教員等による授業科目です</p>		
到達目標	<p>1. 各経穴の局所解剖(筋肉、運動神経、知覚神経、血管)を理解する。 2. 各経穴の主治を理解する。 3. 奇経八脈、要穴を理解する。 4. 奇穴(新穴)の経穴名と取穴と主治を理解する。 5. 経絡・経穴の現代的研究を理解する。</p> <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>1. 白衣の着用を義務とする。 2. 授業には、必ず教科書、参考図書を持参する。 3. 取穴の際には、いつでもモデル役ができるよう服装に気をつけること。 4. 取穴の際、実技道具にある「灸点ペン」を持参する。</p>		
教科書	<p>1. 経絡経穴概論(医道の日本社 教科書執筆小委員会(尾崎朋文他)) 2. 鍼灸師・柔道整復師のための局所解剖カラーアトラス J 南江堂</p>		
参考書	<p>大阪大学歯学部口腔解剖学第二講座鍼灸解剖グループ(尾崎朋文他) 研究室/オフィスアワー 尾崎 4 階研究室 18 仲村 4 階研究室 13</p>		
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	経穴局所解剖演習概論 奇穴(新穴を含む)1	予習:奇穴(四神膠～龜門)の確認(P216～223) 復習:授業をもとにシラバス、教科書の確認	尾崎 朋文 仲村 正子
2	奇穴(新穴を含む)2	予習:奇穴(肩内陵～脚氣八処の穴)の確認(P224～229) 復習:授業をもとにシラバス、教科書の確認	尾崎 朋文 仲村 正子
3	任脈(局所解剖と主治と要穴)	予習:任脈(空陰～承漿)の確認(P40～P51) 復習:授業をもとにシラバス、教科書の確認	尾崎 朋文 仲村 正子
4	督脈(局所解剖と主治と要穴)	予習:督脈(長強～龜交)の確認(P26～P39) 復習:授業をもとにシラバス、教科書の確認	尾崎 朋文 仲村 正子
5	手の太陰肺経(局所解剖と主治と要穴)	予習:手の太陰肺経(中府～少商)の確認(P52～59) 復習:授業をもとにシラバス、教科書の確認	尾崎 朋文 仲村 正子
6	手の陽明大腸経1(局所解剖と主治と要穴)	予習:手の陽明大腸経(商陽～曲池)の確認(P60～P67) 復習:授業をもとにシラバス、教科書の確認	尾崎 朋文 仲村 正子
7	手の陽明大腸経2(局所解剖と主治と要穴)	予習:手の陽明大腸経(肘髁～迎香)の確認(P66～P71) 復習:授業をもとにシラバス、教科書の確認	尾崎 朋文 仲村 正子
8	足の陽明胃経1(局所解剖と主治と要穴)	予習:足の陽明胃経(承泣～欠盆)の確認(P72～P79) 復習:授業をもとにシラバス、教科書の確認	尾崎 朋文 仲村 正子
9	足の陽明胃経2(局所解剖と主治と要穴)	予習:足の陽明胃経(氣戸～氣衝)の確認(P78～P85) 復習:授業をもとにシラバス、教科書の確認	尾崎 朋文 仲村 正子
10	足の陽明胃経3(局所解剖と主治と要穴)	予習:足の陽明胃経(髀關～厲兌)の確認(P84～P91) 復習:授業をもとにシラバス、教科書の確認	尾崎 朋文 仲村 正子

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
11	足の太陰脾経1(局所解剖と主治と要穴)	復習:授業をもとにシラバス、教科書の確認 予習:足の太陰脾経(隱白～衝門)の確認(P92～P99) 復習:授業をもとにシラバス、教科書の確認	尾崎 朋文 仲村 正子
12	足の太陰脾経2(局所解剖と主治と要穴)	予習:足の太陰脾経(府舎～大包)の確認(P98～P102) 復習:授業をもとにシラバス、教科書の確認	尾崎 朋文 仲村 正子
13	手の少陰心経(局所解剖と主治と要穴)	予習:手の少陰心経(極泉～少衝)の確認(P104～P109) 復習:授業をもとにシラバス、教科書の確認	尾崎 朋文 仲村 正子
14	手の太陽小腸経1(局所解剖と主治と要穴)	予習:手の太陽小腸経(少沢～偏瘻)の確認(P110～115) 復習:授業をもとにシラバス、教科書の確認	尾崎 朋文 仲村 正子
15	手の太陽小腸経2(局所解剖と主治と要穴)	予習:手の太陽小腸経(天宗～聽宮)の確認(P116～119) 復習:授業をもとにシラバス、教科書の確認	尾崎 朋文 仲村 正子
成績評価方法と基準			
①期末試験(筆記試験) 50%			
②期末試験(口答試験) 40%			
③小テストの平均点 10%			
評価は①～③の合算(100%)とする。 基準は①・②とも60点以上で単位認定とする。 4/5以上の出席を必要とする。			

経六局所解剖演習Ⅱ (鍼灸 A) (Topology of Meridian Points Seminar II)			
授業科目名	尾崎 明文	担当教員	尾崎 明文、仲村 正子
主担当教員		専門科目	DP①
科目ナンバリング	SS204	後期	月曜 4限
配当年次	2	単位数	1
授業形態	演習		必修・選択
授業概要	<p>経六局所解剖は、経絡六学で学んだ経絡名、経穴名、取穴の知識を踏まえ、さらに経穴の局所解剖学的拠地から三次元的に考察する。すなわち、各経穴の筋、運動神経、知覚神経、血管、および経穴部に存在する神経幹や動脈幹などを修得する。さらに各経穴の主治や要穴を修得する。および経絡・経穴の現代的な研究も学修し、最終的に胸腹部・背部・上肢・下肢・頭頸部をまとめる。</p> <p>※本科目には実務経験のある教員等による授業科目目です</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 各経穴の局所解剖(筋肉・運動神経・知覚神経・血管)を理解する。 2. 各経穴の主治を理解する。 3. 奇経入脈、要穴を理解する。 4. 奇穴(新穴)の経穴名と取穴と主治を理解する。 5. 経絡・経穴の現代的な研究を理解する。 <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 白衣の着用を義務とする。 2. 授業には、必ず教科書、参考図書を持参する。 3. 取穴の際には、いつでもモデル役ができるよう服装に気をつけること。 4. 取穴の際に必要な水性のペンを持参する。 <p>教科書</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「経絡六職論」医道の日本社「教科書執筆小委員会(尾崎明文他) 2. 鍼灸師・柔道整復師のための局所解剖カラーアトラス」南江堂 大塚太学解剖学第二講座鍼灸解剖グループ(尾崎明文他) <p>参考書</p>		
特に指定しない			
研究室/オフィスアワー	尾崎・4階研究室 18 仲村・4階研究室 13		
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	足の太陽膀胱経1(局所解剖と主治と要穴)	予習:足の太陽膀胱経(精明~天柱)の確認(P122~P125) 復習:授業をもとにシラバス、教科書の確認	尾崎 明文 仲村 正子
2	足の太陽膀胱経2(局所解剖と主治と要穴)	予習:足の太陽膀胱経(天柱~委中)の確認(P126~P135)、(腑分~秩辺)の確認(P138~P143) 復習:授業をもとにシラバス、教科書の確認	尾崎 明文 仲村 正子
3	足の太陽膀胱経3(局所解剖と主治と要穴)	予習:足の太陽膀胱経(承扶~委中)の確認(P136~P137)、(合陽~至陰)の確認(P144~P149) 復習:授業をもとにシラバス、教科書の確認	尾崎 明文 仲村 正子
4	足の少陰腎経1(局所解剖と主治と要穴)	予習:足の少陰腎経(湧泉~陰谷)の確認(P155) 復習:授業をもとにシラバス、教科書の確認	尾崎 明文 仲村 正子
5	足の少陰腎経2(局所解剖と主治と要穴)	予習:足の少陰腎経(横骨~俞府)の確認(P156~P163) 復習:授業をもとにシラバス、教科書の確認	尾崎 明文 仲村 正子
6	手の厥陰心包経・手の少陽三焦経1(局所解剖と主治と要穴)	予習:手の厥陰心包経(天池~中衝)の確認(P166~P169)、手の少陽三焦経(關衝~天井)の確認(P172~P175) 復習:授業をもとにシラバス、教科書の確認	尾崎 明文 仲村 正子
7	手の少陽三焦経2(局所解剖と主治と要穴)	予習:手の少陽三焦経(清冷淵~承竹空)の確認(P176~P181) 復習:授業をもとにシラバス、教科書の確認	尾崎 明文 仲村 正子

8	足の少陽胆経1(局所解剖と主治と要穴)	予習:足の少陽胆経(瞳子?~風池)の確認(P184~P191) 復習:授業をもとにシラバス、教科書の確認	尾崎 明文 仲村 正子
9	足の少陽胆経2(局所解剖と主治と要穴)	予習:足の少陽胆経(肩井~環跳)の確認(P192~P195) 復習:授業をもとにシラバス、教科書の確認	尾崎 明文 仲村 正子
10	足の少陽胆経3(局所解剖と主治と要穴)	予習:足の少陽胆経(風市~足竅陰)の確認(P196~P201) 復習:授業をもとにシラバス、教科書の確認	尾崎 明文 仲村 正子
11	足の厥陰肝経(局所解剖と主治と要穴) 経絡・経穴の現代的な研究	予習:足の厥陰肝経(大敦~期門)の確認(P204~P209) 経絡現象、経穴の形態学的特徴、経穴現象、ポリモーダル受容器 復習:授業をもとにシラバス、教科書の確認	尾崎 明文 仲村 正子
12	体幹(胸腹部・背腰部)の経穴、募穴、背部俞穴 講義後、グループディスカッション	体幹(胸腹部・背腰部)の経穴、募穴、背部俞穴	尾崎 明文 仲村 正子
13	上肢の経穴、五俞穴、原穴、郄穴、絡穴 講義後、グループディスカッション	上肢の経穴、五俞穴、原穴、郄穴、絡穴	尾崎 明文 仲村 正子
14	下肢の経穴、奇経八脈、八脈交会穴、四総穴、八金穴、下合穴 講義後、グループディスカッション	下肢の経穴、奇経八脈、八脈交会穴、四総穴、八金穴、下合穴	尾崎 明文 仲村 正子
15	頭頸部の経穴、主要経穴の安全深度 講義後、グループディスカッション	頭頸部の経穴、主要経穴の安全深度 講義後、グループディスカッション	尾崎 明文 仲村 正子
成績評価方法と基準			
①期末試験(筆記試験) 50%			
②期末試験(口答試験) 40%			
③小テストの平均点 10%			
評価は①~③の合算(100%)とする。			
基準は①・②・③とも60点以上で単位認定とする。			
4/5以上の出席を必要とする。			

授業科目名	経穴局所解剖演習Ⅱ(鍼灸B) (Topology of Meridian Points Seminar II)		
主担当教員	尾崎 朋文	担当教員	尾崎 朋文、仲村 正子
科目ナンバリング	SS204	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目
配当年次	2	開講学期	後期
授業形態	演習	単位数	1
授業概要	1 必修、選択 必修		
到達目標	<p>経穴局所解剖は、経絡経穴で学んだ経絡名、経穴名、取穴の知識を踏まえ、さらに経穴の局所解剖学的見地から三次元的に考察する。すなわち、各経穴の筋、運動神経、知覚神経、血管、および経穴に存在する神経幹や動脈幹などを学修する。さらに各経穴の主治や要穴を学修する。および経絡、経穴の現代的研究も学修し、最終的に胸腹部・背部・上肢・下肢・頭頸部をまとめる。</p> <p>※本科目は実務経験のある教員等による授業科目です</p>		

- 到達目標
1. 各経穴の局所解剖(筋肉、運動神経、知覚神経、血管)を理解する。
 2. 各経穴の主治を理解する。
 3. 奇経八脈、要穴を理解する。
 4. 奇穴(新穴)の経穴名と取穴と主治を理解する。
 5. 経絡・経穴の現代的研究を理解する。
- 履修上の注意(学生へのメッセージ)
1. 白衣の着用を義務とする。
 2. 授業には、必ず教科書、参考図書を持参する。
 3. 取穴の際には、いつでもモデル役ができるよう服装に気をつけること。
 4. 取穴の際に必要な「水性のペン」を持参する。

教科書

1. 経絡経穴概論「医道の日本社」教科書執筆小委員会(尾崎朋文他)
2. 鍼灸師、柔道整復師のための局所解剖カラートラース(南江堂)
- 大阪大学歯学部口腔解剖学第二講座鍼灸解剖グループ(尾崎朋文他)

参考書

特に指定しない

研究室/オフィスアワー

尾崎:4階研究室 18
仲村:4階研究室 13

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	足の太陽膀胱経1(局所解剖と主治と要穴)	予習:足の太陽膀胱経(精明~天柱)の確認(P122~P125) 復習:授業をもとにシラバス、教科書の確認 予習:足の太陽膀胱経(大井~会陽)の確認(P126~P135)、(附分~秩辺)の確認(P138~P143) 復習:授業をもとにシラバス、教科書の確認	尾崎 朋文 仲村 正子
2	足の太陽膀胱経2(局所解剖と主治と要穴)	予習:足の太陽膀胱経(承扶~委中)の確認(P136~P137)、(合陽~至陰)の確認(P144~P149) 復習:授業をもとにシラバス、教科書の確認	尾崎 朋文 仲村 正子
3	足の太陽膀胱経3(局所解剖と主治と要穴)	予習:足の少陰腎経(湧泉~陰谷)の確認(P152~P155) 復習:授業をもとにシラバス、教科書の確認	尾崎 朋文 仲村 正子
4	足の少陰腎経1(局所解剖と主治と要穴)	予習:足の少陰腎経(横骨~徹府)の確認(P156~P163) 復習:授業をもとにシラバス、教科書の確認	尾崎 朋文 仲村 正子
5	足の少陰腎経2(局所解剖と主治と要穴)	予習:手の厥陰心包経(天池~中衝)の確認(P166~P169)、手の少陽三焦経(関衝~天井)の確認(P172~P175) 復習:授業をもとにシラバス、教科書の確認	尾崎 朋文 仲村 正子
6	手の厥陰心包経・手の少陽三焦経1(局所解剖と主治と要穴)	予習:手の少陽三焦経(清冷淵~承竹空)の確認(P176~P181) 復習:授業をもとにシラバス、教科書の確認	尾崎 朋文 仲村 正子
7	手の少陽三焦経2(局所解剖と主治と要穴)	復習:授業をもとにシラバス、教科書の確認	尾崎 朋文 仲村 正子

8	足の少陽胆経1(局所解剖と主治と要穴)	予習:足の少陽胆経(瞳子?~風池)の確認(P184~P191) 復習:授業をもとにシラバス、教科書の確認	尾崎 朋文 仲村 正子
9	足の少陽胆経2(局所解剖と主治と要穴)	予習:足の少陽胆経(肩井~環跳)の確認(P192~P195) 復習:授業をもとにシラバス、教科書の確認	尾崎 朋文 仲村 正子
10	足の少陽胆経3(局所解剖と主治と要穴)	予習:足の少陽胆経(風市~足竅隆)の確認(P196~P201) 復習:授業をもとにシラバス、教科書の確認	尾崎 朋文 仲村 正子
11	足の厥陰肝経(局所解剖と主治と要穴) 経絡・経穴の現代的研究	予習:足の厥陰肝経(大敦~期門)の確認(P204~P209) 経絡病象、経穴の形態学的特徴、経穴病象、ポリモーダル受容器 復習:授業をもとにシラバス、教科書の確認	尾崎 朋文 仲村 正子
12	体幹(胸腹部・背腰部)の経穴、募穴、背俞穴 講義後、グループディスカッション	体幹(胸腹部・背腰部)の経穴、募穴、背俞穴	尾崎 朋文 仲村 正子
13	上肢の経穴、五俞穴、原穴、郄穴、絡穴 講義後、グループディスカッション	上肢の経穴、五俞穴、原穴、郄穴、絡穴	尾崎 朋文 仲村 正子
14	下肢の経穴、奇経八脈、八脈交会穴、四総穴、八会穴、下合穴 講義後、グループディスカッション	下肢の経穴、奇経八脈、八脈交会穴、四総穴、八会穴、下合穴	尾崎 朋文 仲村 正子
15	頭頸部の経穴、主要経穴の安全深度 講義後、グループディスカッション	主要経穴の安全深度 総合まとめ	尾崎 朋文 仲村 正子
成績評価方法と基準			
①期末試験(筆記試験) 50%			
②期末試験(口答試験) 40%			
③小テストの平均点 10%			
評価は①~③の合算(100%)とする。			
基準は①・②とも60点以上で単位認定とする。			
4/5以上の出席を必要とする。			

鍼灸科学概論 I (鍼灸) (Introduction to Acupuncture and Moxibustion Science I)			
授業科目名	鍼灸科学概論 I (鍼灸)	担当教員	松熊 秀明
主担当教員	松熊 秀明	担当教員	松熊 秀明
科目ナンバリング	SS218	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目
配当年次	2	開講学期	曜日・時限 水曜 3限
授業形態	講義	単位数	必修・選択 必修
授業概要	<p>鍼灸科学概論では、人体における感覚器の機能的役割を正確に理解し、人体に対し鍼灸刺激がどのように作用するかについて学習する。</p> <p>※本科目は実務経験のある教員等による授業科目です</p> <p>到達目標</p> <p>人体における感覚器の機能的役割を正確に理解し、そのことを説明できる。</p> <p>鍼灸刺激の疼痛効果のメカニズムを理解し、説明できる。</p> <p>臨床の場で、容易な言葉で患者に説明できる。</p> <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <ol style="list-style-type: none"> 出席を重視する。 授業態度が不良(私語、携帯電話等)の者は減点対象とする。 配布された講義資料にも目を通すこと。 疑問点は大切に、解決に向けて行動すること。 <p>教科書</p> <p>教科書執筆小委員会「はり灸やう理論」医道の日本社</p> <p>参考書</p> <p>特になし。</p>		
研究室/オフィスアワー	研究室1(東棟4F)/月曜日3限		
授業展開及び授業計画表	研究室1(東棟4F)/月曜日3限		
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	痛み感覚の受容と伝導～内因性疼痛物質(P.43-46)	予習:シラバスを見て、次の講義の範囲(教科書)を読むこと。 復習:講義資料、教科書を見てまとめること。	松熊
2	求心性神経線維の種類と特徴(P.46-48)	予習:シラバスを見て、次の講義の範囲(教科書)を読むこと。 復習:講義資料、教科書を見てまとめること。	松熊
3	痛覚投射部位～関連痛(P.48-49)	予習:シラバスを見て、次の講義の範囲(教科書)を読むこと。 復習:講義資料、教科書を見てまとめること。	松熊
4	温度感覚の受容と伝導(P.50-51)	予習:シラバスを見て、次の講義の範囲(教科書)を読むこと。 復習:講義資料、教科書を見てまとめること。	松熊
5	触圧感覚の受容と伝導～触覚の伝導路(P.52-54)	予習:シラバスを見て、次の講義の範囲(教科書)を読むこと。 復習:講義資料、教科書を見てまとめること。	松熊
6	筋の伸張刺激および筋の振動の受容と伝導(P.54)	予習:シラバスを見て、次の講義の範囲(教科書)を読むこと。 復習:講義資料、教科書を見てまとめること。	松熊
7	鍼灸刺激と反射～鍼麻酔(P.54-60)	予習:シラバスを見て、次の講義の範囲(教科書)を読むこと。 復習:講義資料、教科書を見てまとめること。	松熊
8	鍼鎮痛～SPA(P.61-62)	予習:シラバスを見て、次の講義の範囲(教科書)を読むこと。 復習:講義資料、教科書を見てまとめること。	松熊
9	鍼鎮痛の発現機構(P.63-64)	予習:シラバスを見て、次の講義の範囲(教科書)を読むこと。 復習:講義資料、教科書を見てまとめること。	松熊
10	鍼鎮痛の発現機構～ゲートコントロール説(P.64-67)	予習:シラバスを見て、次の講義の範囲(教科書)を読むこと。	松熊

11	刺激と反応～内臓求心性神経(P.67-75)	復習:講義資料、教科書を見てまとめること。 予習:シラバスを見て、次の講義の範囲(教科書)を読むこと。 復習:講義資料、教科書を見てまとめること。	松熊
12	自律神経系の化学的伝達と受容体～血管の自律神経性調節機序(P.75-77)	予習:シラバスを見て、次の講義の範囲(教科書)を読むこと。 復習:講義資料、教科書を見てまとめること。	松熊
13	鍼の血流に及ぼす影響～体性自律反射による鍼の効果(P.78-79)	予習:シラバスを見て、次の講義の範囲(教科書)を読むこと。 復習:講義資料、教科書を見てまとめること。	松熊
14	体性自律反射による鍼の効果～鍼刺激とポリモータル受容器(P.80-83)	予習:シラバスを見て、次の講義の範囲(教科書)を読むこと。 復習:講義資料、教科書を見てまとめること。	松熊
15	生体防御機構に及ぼす鍼灸刺激の影響～白血球機能への影響(P.84-86)	復習:講義資料、教科書を見てまとめること。	松熊
成績評価方法と基準			割合
①小テスト			①40%
②期末試験			②100%

授業科目名	東洋医学概論 I (鍼灸) (Introduction to Oriental Medicine I)		
主担当教員	辻 涼太	担当教員	辻 涼太
科目ナンバリング	SS208	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目 DP①
配当年次	1	開講学期	前期
授業形態	講義	単位数	1
授業概要	1 必修		
東洋医学がどのような概念で構築されている医学なのかを理解するための導入授業であり、全体像を捉え、上級学年(各論・診察・治療)へ繋がる基本知識を学ぶ。			
※本科目は実務経験のある教員等による授業科目です			
到達目標			
下記の内容の概要を理解する。			
1. 陰陽五行の基本法則を理解する。			
2. 基本物質である、気・血・津液の概念を認識する。			
3. 東洋医学における生理学となる臓腑の働きを理解する。			
4. 東洋医学の視点による病の捉え方と治療を理解し慣れる。			
5. 東洋医学に流れる哲学が身近なものであることを感じられる。			
履修上の注意(学生へのメッセージ)			
教科書は必須してください。分からない事は出来るだけ自ら教科書で調べ習得をつけるようお願いいたします。			
教科書			
新版東洋医学概論 社団法人 東洋療法学校協会編 医道の日本社			
参考書			
配付プリント			
研究室/オフィスアワー			
東棟 4 階研究室 3			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	東洋医学の変革(中国と日本)	予習: 既成概念を持たずに参加してください 復習: 確認テストで間違えたところを読み返してください	
2	陰陽と五行(東洋医学の哲学)	予習: 前回の授業を振り返っておくこと 復習: 確認テストで間違えたところを読み返してください	
3	基本物質の理解(精・気・血・津液)	予習: 前回の授業を振り返っておくこと 復習: 確認テストで間違えたところを読み返してください	
4	気・血・津液の不足・鬱滞で起こる病理(気血津液病証への導入)	予習: 前回の授業を振り返っておくこと 復習: 確認テストで間違えたところを読み返してください	
5	これまでの復習	これまで行ってきた内容について復習しておく事。 確認テストを行う。	
6	藏象学 肝	復習: 確認テストで間違えたところを読み返してください	
7	藏象学 心	復習: 確認テストで間違えたところを読み返してください	
8	藏象学 脾	復習: 確認テストで間違えたところを読み返してください	
9	藏象学 肺	復習: 確認テストで間違えたところを読み返してください	
10	藏象学 腎	復習: 確認テストで間違えたところを読み返してください	
11	藏象学 六腑	復習: 確認テストで間違えたところを読み返してください	
12	五行分類(五行色体)	復習: 自宅で暗記をしてください	

13	五行 グループワーク	予習: これまでの授業を振り返っておくこと
14	五行確認テスト	予習: 出来るだけ自分で覚えておくこと 復習: 確認テストで間違えたところを読み返してください
15	前期総復習	これまでの確認テストを全て目を通した上で持つこと
成績評価方法と基準		
【出席について】 3分の2以上の出席を要件とする。欠席超過した者は試験を受験する事が出来ない。		
【評価の配点】 ①学期末試験 ②授業態度(ひとしい授業態度が無くようであれば減点する事が有る)		
		割合
		①100%

東洋医学概論 II (鍼灸) (Introduction to Oriental Medicine II)			
授業科目名	担当教員	担当教員	担当教員
東洋医学概論 II (鍼灸)	辻 涼太	辻 涼太	辻 涼太
科目ナンバリング	SS007	科目区分	専門科目
配当年次	1	開講学期	後期
授業形態	講義	単位数	1
授業概要	東洋医学概論 I で学んだ東洋医学を更に進め、専門的な内容の理解へとグレードアップする。特に、正常な人体の働きを中心に理解を深め、二年生から始まる東洋医学的な診察や各論の準備を行ない、鍼灸師としてのベースを作る。		
到達目標	※本科目は実務経験のある教員等による授業科目です		
	①鍼灸治療に欠かせない要穴の学習 ②八綱弁証を理解する ③気血津液弁証を理解する ④臟腑弁証を理解する ⑤弁証症例演習に取組む		
	履修上の注意(学生へのメッセージ)		
	1. 東洋医学の用語に慣れること。 2. 全ての用語が初めての単語として素直に受け入れる。 3. 全ての授業に出席すること。 4. できれば、自分のノートをつくること。 5. 分からないことは、まず自分で調べる努力をすること。 6. 今後の東洋医学の全てを決定する基礎知識と成るため、理解できないことは、解決していく努力をすること。		
教科書	新版東洋医学概論 社団法人東洋療法学校協会編 医道の日本社		
参考書			
配付プリント			
研究室/オフィスアワー			
随時・東棟 4 階 研究室			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	気血津液の作用	予習：前期の授業を振り返っておく 復習：授業の振り返り(ノートを作成がベスト)	
2	八綱弁証とは	予習：前期の授業を振り返っておくこと 復習：授業の振り返り(ノートを作成がベスト)	
3	気血津液弁証とは	予習：前期の授業を振り返っておくこと 復習：授業の振り返り(ノートを作成がベスト)	
4	五穴穴の成り立ちと五要穴の意味	予習：前期の授業を振り返っておくこと 復習：授業の振り返り(ノートを作成がベスト)	
5	臟腑の働き	予習：前期の授業を振り返っておくこと 復習：レポート課題の作成	
6	臟腑弁証 肝	予習：前期の授業を振り返っておくこと 復習：授業の振り返り(ノートを作成がベスト)	
7	臟腑弁証 心	予習：ここまでの振り返りを行ないテストの準備を行う う	
8	臟腑弁証 脾	予習：該当するところの教科書を読んでおくこと 復習：授業の振り返り(ノートを作成がベスト)	
9	臟腑弁証 肺	予習：前期の授業を振り返っておくこと 復習：授業の振り返り(ノートを作成がベスト)	
10	臟腑弁証 腎	予習：前期の授業を振り返っておくこと 復習：授業の振り返り(ノートを作成がベスト)	
11	これまでの復習	予習：前期の授業を振り返っておくこと 復習：授業の振り返り(ノートを作成がベスト)	
12	症例演習と要穴確認	予習：前期の授業の振り返り(ノートを作成がベスト)	

13	症例演習と要穴確認 2	予習：これまでの資料に目を通しておくこと
14	総復習	予習：これまでの資料に目を通しておくこと
15	グループワーク 症例演習を作成する	予習：症例演習問題を準備
成績評価方法と基準		
【評価の記号】		
① 期末試験		
* 詳細は授業内で告知する		
出席要件: 2/3 以上の出席を要件とする。下回った学生は期末試験を受験できない。		
		割合
		① 100%

授業科目名	東洋医学概論Ⅲ(鍼灸) (Introduction to Oriental MedicineⅢ)		
主担当教員	辻 涼太	担当教員	辻 涼太
科目ナンバリング	SS220	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目 DP①
配当年次	2	開講学期	曜日・時限 木曜 2 限
授業形態	講義	単位数	1
授業概要	1 必修・選択 必修		
鍼灸の中で用いられている鍼の種類や刺法、六経病証や経脈病証に見られる病の捉え方を学び、実際の症例から考察し治療法を構築できるように指導する。			
※本科目は実務経験のある教員等による授業科目です			
到達目標			
講義で扱う刺法は名前だけでなく実技に活用できるように。難易度の高い各病証をしっかりと把握する。			
履修上の注意(学生へのメッセージ)			
1年で行ってきた学習内容が必須となります。分らなかった場合はすぐに1年の内容から見直しを始めて下さい。			
教科書			
新版 東洋医学概論 (医道の日本社)			
参考書			
配布プリント			
研究室/オフィスアワー			
東棟 4F 研究室 3			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	1年次の東洋医学を振り返る	予習:1年生の内容を確認してください 復習:確認テストを参照してください	
2	古代刺法 1 実際に体験しよう。	復習:確認テストを参照下さい	
3	古代刺法 2 実際に体験しよう。	復習:確認テストを参照下さい	
4	古代刺法 3 実際に体験しよう。	復習:確認テストを参照下さい	
5	臟腑弁証の復習	復習:確認テストを参照下さい	
6	腑の弁証	復習:確認テストを参照下さい	
7	三陰三陽病証(六経弁証) 1	復習:確認テストを参照下さい	
8	六経弁証 2 十二経脈弁証 1	復習:確認テストを参照下さい	
9	十二経脈病証 2	復習:確認テストを参照下さい	
10	奇経八脈病証	復習:確認テストを参照下さい	
11	病証の総復習	復習:確認テストを参照下さい	
12	脈診	復習:確認テストを参照下さい	
13	舌診 腹診	復習:確認テストを参照下さい	
14	古代と近代の鍼灸史(書籍を中心に)	復習:確認テストを参照下さい	
15	総復習の回 東洋医学の基礎をマスターしよう	復習:確認テストを参照下さい	

成績評価方法と基準	割合
1 期末試験	1 100%
出席要件:3分の2以上の出席を条件とする	

授業科目名	臨床生理学(鍼灸)		
主担当教員	鍼田 智之	担当教員	鍼田 智之
科目ナンバリング	SS222	専門科目	DP①
配当年次	2	開講学期	後期
授業形態	講義	単位数	1
授業概要	<p>① 症状から病態を推察できる。 ② 病態を生理学的に解説することができる。 ③ 臨床検査結果から病態を読み解くことができる。 ④ 全ての患者が有するストレス反応を理解し、鍼灸治療に結び付けられることができる。</p>		
到達目標	<p>※本科目は実務経験のある教員等による授業科目です</p> <p>① 授業の履修態度が著しく不良の場合は、退室を指示します。 ② 教科書および教材(レジュメ)を必ず持参してください。</p>		
教科書	臨床医学総論 東洋療法学校協会編		
参考書	はりきり理論 東洋療法学校協会編 生理学 東洋療法学校協会編		
E 棟4階研究室 在室時(主に昼休みにいます)	研究室/オフィスアワー		
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	診察法の意義と方法	予習：教科書を事前に学習すること 復習：授業で配布する国家試験過去問題を次回授業までに回答してこること 授業までに回答してこること	
2	バイタルサインと病態	予習：教科書を事前に学習すること 復習：授業で配布する国家試験過去問題を次回授業までに回答してこること	
3	顔貌 精神状態 言語	予習：教科書を事前に学習すること 復習：授業で配布する国家試験過去問題を次回授業までに回答してこること	
4	体格 栄養状態 姿勢 歩行	予習：教科書を事前に学習すること 復習：授業で配布する国家試験過去問題を次回授業までに回答してこること	
5	皮膚 粘膜 皮下組織 爪	予習：教科書を事前に学習すること 復習：授業で配布する国家試験過去問題を次回授業までに回答してこること	
6	眼 鼻 耳 口腔	予習：教科書を事前に学習すること 復習：授業で配布する国家試験過去問題を次回授業までに回答してこること	
7	頸部 胸部 乳房 肺 腹部	予習：教科書を事前に学習すること 復習：授業で配布する国家試験過去問題を次回授業までに回答してこること	
8	中間試験 一般検査	予習：中間試験の勉強をすること 復習：授業で配布する国家試験過去問題を次回授業までに回答してこること	
9	血液生化学検査	予習：自身または家族の血液検査結果を見て理解すること 復習：資料の復習	
10	生理学検査 総論まとめ	予習：教科書を事前に読むこと 復習：復習すること	

11	ストレスによる生体反応	予習：自律神経・ストレスホルモン・作用を生理学の教科書で予習すること 復習：身近な者を問診して症状を考察すること
12	ストレスと鍼灸	予習：身近な者を問診すること 復習：症状から鍼灸治療部位を考察すること
13	自律神経反応と脈診・舌診	予習：生理学の血管支配・血圧調節について生理学の教科書を読むこと 復習：身近な者の脈・舌を診察すること
14	睡眠と鍼灸	予習：身近な者の睡眠を調査してこること 復習：自身の睡眠習慣を調査すること
15	症例検討	予習：予め配布された症例を読み解くこと 復習：期末試験対策
成績評価方法と基準		
全授業の2/3を出席すること		
① 中間試験 40%		
② 期末試験 60%		
		割合
		① 40%
		② 60%

授業科目名		運動機能検査法(鍼灸A) (Test Method of Motor Function)	
主担当教員	高崎 雷太	担当教員	高崎 雷太、伊奈 新太郎
科目ナンバリング	SS210	専門科目	テプロマボリナー
配当年次	2	開講学期	前期
授業形態	演習	単位数	1
授業概要	整形外科疾患の治療を行う際に必須となる、病態把握(診断)やその手順(診察)の方法を学ぶ。整形外科疾患の病態を学習し、治療の適応があるかを適切に判断する手法を学習する以上の知識、技術を用いた運動機能検査法を習得する。		
到達目標	検査における「意義」「方法」「陽性所見」を学び、ストレスをかける方向と力加減(運動学)を実践することができる。患者の状態から考えうる整形外科疾患を考察することができる。適応疾患であることを見極め、安全な治療を計画的に行うことができる。		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	実技、実習などで積極的に参加すること。多くのモデルが存在する講義実習なのでたくさんのモデルを経験すること。		
教科書	臨床医学総論 奈良信雄 著 公益社団法人東洋療法学校協会 目で見る運動機能検査法 竹内義孝・澤田規 著 南江堂		
参考書	S. Hoppenfeld 著、野島元雄 監訳 「四肢関節と背椎の診かた」 医歯薬出版。		
研究室/オフィスアワー	共同研究室/月曜日～ 金曜日 13:00～(不定期なため事前確認が必要)		
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	肩関節疾患 肩部の解剖 1 ガーハウン 2 腕落下テスト 3 スピードテスト 4 ヤーゴンテスト 5 ベインフルアークサイン	関節構造の理解	
2	肩関節疾患 肩部の解剖 腱板損傷の発生機序 上腕二頭筋損傷の症状 1 ガーハウン 2 腕落下テスト 3 スピードテスト 4 ヤーゴンテスト	関節構造の理解 検査における「意義」「方法」「陽性所見」が言えて、ストレスをかける方向と力加減(運動学)を実践できる。	
3	肘関節周囲の疾患 肘部の解剖 1 中指伸展テスト 2 ティーフテスト 3 チェルビーク 4 フレンテスト 5 手根管のチネル徴候 6 フレネルサインテスト 7 キョロ管のチネル徴候 8 トムゼンテスト	関節構造の理解 検査における「意義」「方法」「陽性所見」が言えて、ストレスをかける方向と力加減(運動学)を実践できる。	
4	肘関節周囲の疾患 肘部の解剖 1 中指伸展テスト 2 ティーフテスト 3 チェルビーク 4 フレンテスト 5 手根管のチネル徴候 6 フレネルサインテスト 7 キョロ管のチネル徴候 8 トムゼンテスト	関節構造の理解 検査における「意義」「方法」「陽性所見」が言えて、ストレスをかける方向と力加減(運動学)を実践できる。	
5	頸部及び上肢の解剖 1 フットテスト 2 肘頭(エナック)テスト 3 ライトテスト	関節構造の理解 検査における「意義」「方法」「陽性所見」が言えて、ストレスをかける方向と力加減(運動学)を実践できる。	
6	頸部及び上肢の解剖 1 フットテスト 2 肘頭(エナック)テスト 3 ライトテスト	関節構造の理解 検査における「意義」「方法」「陽性所見」が言えて、ストレスをかける方向と力加減(運動学)を実践できる。	
7	頸部、背部の解剖 1 シヤウアン側屈圧迫テスト 2 シヤウアン回旋圧迫テスト	関節構造の理解 検査における「意義」「方法」「陽性所見」が言えて、ストレスをかける方向と力加減(運動学)を実践できる。	

	3 スパルカテスト 4 肩引き下げテスト 5 棘突起叩打テスト	て、ストレスをかける方向と力加減(運動学)を実践できる。 関節構造の理解 検査における「意義」「方法」「陽性所見」が言えて、ストレスをかける方向と力加減(運動学)を実践できる。	
8	頸部、背部の解剖 1 シヤウアン側屈圧迫テスト 2 シヤウアン回旋圧迫テスト 3 スパルカテスト 4 肩引き下げテスト 5 棘突起叩打テスト	て、ストレスをかける方向と力加減(運動学)を実践できる。 関節構造の理解 検査における「意義」「方法」「陽性所見」が言えて、ストレスをかける方向と力加減(運動学)を実践できる。	
9	腰部の解剖 1 棘突起叩打テスト 2 下肢伸展挙上テスト 3 セーグテスト 4 プラガテスト 5 大腰神経伸展テスト 6 ケッパテスト	て、ストレスをかける方向と力加減(運動学)を実践できる。 関節構造の理解 検査における「意義」「方法」「陽性所見」が言えて、ストレスをかける方向と力加減(運動学)を実践できる。	
10	仙骨周囲の解剖 1 仙腸関節ストレッチテスト 2 トーマテスト 3 トロプアルテスト 4 ハットテスト	て、ストレスをかける方向と力加減(運動学)を実践できる。 関節構造の理解 検査における「意義」「方法」「陽性所見」が言えて、ストレスをかける方向と力加減(運動学)を実践できる。	
11	膝部の解剖 半月板損傷の症状 1 フレアー圧迫テスト 2 マックレーテスト 3 フレアー牽引テスト	て、ストレスをかける方向と力加減(運動学)を実践できる。 関節構造の理解 検査における「意義」「方法」「陽性所見」が言えて、ストレスをかける方向と力加減(運動学)を実践できる。	
12	膝部の解剖 1 フレアー圧迫テスト 2 マックレーテスト 3 フレアー牽引テスト	て、ストレスをかける方向と力加減(運動学)を実践できる。 関節構造の理解 検査における「意義」「方法」「陽性所見」が言えて、ストレスをかける方向と力加減(運動学)を実践できる。	
13	膝部の解剖 1 ラックマンテスト 2 後方引き出し徴候 3 外反ストレステスト 4 内反ストレステスト (ペーラー徴候)	て、ストレスをかける方向と力加減(運動学)を実践できる。 関節構造の理解 検査における「意義」「方法」「陽性所見」が言えて、ストレスをかける方向と力加減(運動学)を実践できる。	
14	膝部の解剖 1 ラックマンテスト 2 後方引き出し徴候 3 外反ストレステスト 4 内反ストレステスト	て、ストレスをかける方向と力加減(運動学)を実践できる。 関節構造の理解 検査における「意義」「方法」「陽性所見」が言えて、ストレスをかける方向と力加減(運動学)を実践できる。	
15	膝関節疾患 1 膝蓋骨圧迫テスト 2 膝蓋骨不安感テスト 3 膝蓋跳動テスト 足関節の解剖 4 足根管のチネル徴候 5 トンプソンテスト	て、ストレスをかける方向と力加減(運動学)を実践できる。 関節構造の理解 検査における「意義」「方法」「陽性所見」が言えて、ストレスをかける方向と力加減(運動学)を実践できる。	
	成績評価方法及び基準		割合
	① 定期試験 出席基準 4/5 以上の出席が必要です。 60 点以上で単位認定する。		①100%

現代医学系鍼灸学Ⅰ(整形外科系)(鍼灸A) (Acupuncture from Modern Medicine Perspective I Orthopedics)			
授業科目名	現代医学系鍼灸学Ⅰ(整形外科系)(鍼灸A) (Acupuncture from Modern Medicine Perspective I Orthopedics)		
主担当教員	佐藤 正人 担当教員 佐藤 正人、辻丸 泰永		
科目ナンバリング	SS211 専門科目 ティンロムボリン		
配当年次	2 後期 曜日・時限 DP① 火曜 1限		
授業形態	講義 2 必修・選択 必修		
授業概要	鍼灸臨床で最も多い愁訴である、頸肩腕痛、肩痛、腰痛、腰下肢痛、頭痛の5症候を取り上げて、それぞれの痛みの発生順序(基礎知識)から診察法(技術)までを学ぶ。 ※本科目は実務経験のある教員等による授業科目です		
到達目標	1. 医療者としての自覚と責任ある行動ができる。 2. 鍼灸臨床で遭遇しやすい症候に対して、基本的な診察、鑑別診断ができる。 履修上の注意(学生へのメッセージ) 1. 常に对患者をイメージして診察技術を学ぶ 2. 医療者として恥じない意図を育て、行動できるようになる。		
教科書			
授業時に配付する資料			
参考書			
特になし			
研究室/オフィスアワー			
講師控え室/授業の前後の時間帯			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	診察法総論 1. (鍼灸師と診察、適応不適応についてなど)	予習/ティンラバスの確認 復習/配布資料の内容再認識	
2	診察法総論 2. (臨床とカルテ、ペーパーテスト)	予習/テキスト内容 復習/配布資料の内容再確認	
3	診察法総論 3. (深部反射、病的反射の真習、ペーパーテスト)	復習/配布資料の内容再認識	
4	頸肩腕痛の診察法 1. (頸肩腕部の解剖、鑑別法など)	予習/テキストの内容 復習/頸肩腕痛の診察スタートラインの暗記	
5	頸肩腕痛の診察法 2. (頸肩腕痛の痛楚、理学検査、ペーパーテスト)	予習/テキストの内容 復習/頸肩腕痛の診察スタートラインの暗記	
6	頸肩腕痛の診察法 3. (頸肩腕痛の問診、身体診察、ペーパーテスト)	予習/身体診察法の内容 復習/「身体診察法」の復習	
7	頸肩腕痛の診察法 4. (インフォームドコンセント、頸肩腕痛の診察まとめ)	予習/「医療面接を交えた診察法」考案 復習/「配布資料の内容再認識	
8	頸肩腕痛診察シミュレーション	予習/頸肩腕痛全学習内容 復習/頸肩腕痛診察法の要点チェック	
9	腰下肢痛の診察法 1. (腰下肢の解剖、鑑別法など)	予習/テキストの内容 復習/腰痛の診察スタートラインの暗記	
10	腰下肢痛の診察法 2. (腰下肢痛の痛楚、病態把握、ペーパーテスト)	予習/テキストの内容 復習/「下肢痛の診察スタートライン」の暗記	
11	腰下肢痛の診察法 3. (腰下肢痛の理学検査、病態把握、ペーパーテスト)	予習/テキストの内容 復習/「腰下肢痛の診察スタートライン」の暗記	
12	腰下肢痛の診察法 4. (腰下肢痛の問診、身体診察、ペーパーテスト)	予習/テキスト内容 復習/「身体診察法」の復習	
13	腰下肢痛の診察法 5. (下肢痛の問診、身体診察)	予習/テキスト内容 復習/「身体診察法」の復習	
14	腰下肢痛の診察法 6. (腰下肢痛の診察まとめ、インフォームドコンセント)	予習/腰下肢痛全学習内容 復習/腰下肢痛診察法の要点チェック	

15	診察法と診察法の前期総括	予習/前期に学んだ診察法を整理してまとめる 復習/学生同士で診察をシミュレーションしてみる	
16	肩関節痛の診察法 1. (肩関節の解剖、鑑別法など)	予習/テキストの内容 復習/「肩関節痛の診察スタートライン」の暗記	
17	肩関節痛の診察法 2. (肩関節痛の痛楚把握、理学検査、ペーパーテスト)	予習/テキストの内容 復習/「肩関節痛の診察スタートライン」の暗記	
18	肩関節痛の診察法 3. (肩関節痛の問診、身体診察、ペーパーテスト)	予習/テキスト内容 復習/「身体診察法」の復習	
19	肩関節痛の診察法 4. (肩関節痛の診察まとめ、インフォームドコンセント)	予習/肩関節痛全学習内容 復習/肩関節痛診察法の要点チェック	
20	膝関節痛の診察法 1. (膝関節の解剖、鑑別法など)	予習/テキストの内容 復習/「膝関節痛の診察スタートライン」の暗記	
21	膝関節痛の診察法 2. (膝関節痛の理学検査、病態把握、ペーパーテスト)	予習/テキストの内容 復習/「膝関節痛の診察スタートライン」の暗記	
22	膝関節痛の診察法 3. (膝関節痛の問診、身体診察、ペーパーテスト)	予習/テキスト内容 復習/「身体診察法」の復習	
23	膝関節痛の診察法 4. (膝関節痛の診察まとめ、インフォームドコンセント)	予習/膝関節痛全学習内容 復習/膝関節痛診察法の要点チェック	
24	頭痛の診察法 1. (頭痛とは)	予習/テキストの内容 復習/「頭痛の診察スタートライン」の暗記	
25	頭痛の診察法 2. (頭痛の神経学的検査、ペーパーテスト)	予習/テキストの内容 復習/「頭痛の診察スタートライン」の暗記	
26	頭痛の診察法 3. (頭痛の一次性頭痛とは、身体診察、ペーパーテスト)	予習/テキスト内容 復習/「身体診察法」の復習	
27	頭痛の診察法 4. (二次性頭痛、頭痛の診察まとめ、インフォームドコンセント)	予習/頭痛全学習内容 復習/頭痛診察法の要点チェック	
28	診察法と診察法の後期総括 1. (肩関節、膝関節、頭痛の診察法)	予習/診察～治療までをイメージしてみる 復習/学生同士で診察～治療までをシミュレーションしてみる	
29	診察法と診察法の全期総括 2. (頸肩腕痛、腰下肢痛、肩関節痛、膝関節痛、頭痛の診察法)	予習/診察～治療までをイメージしてみる 復習/学生同士で診察～治療までをシミュレーションしてみる	
30	診察法と診察法の全期総括 3. (頸肩腕痛、腰下肢痛、肩関節痛、膝関節痛、頭痛の診察法)	予習/診察～治療までをイメージしてみる 復習/学生同士で診察～治療までをシミュレーションしてみる	
成績評価方法と基準			
①本試験 ②授業内でのペーパーテスト評価 ①と②を総合する 授業内での評価は、ペーパーテストおよび授業中において以下の点が守られずに忠告を受け、その場で即座に改善されない者に対して行う。 1. 「実技授業に適さない身だしなみ」は、授業が始まる前に全て整えることを怠らない。 2. ベット上、およびその周りに、授業に関与しない物(飲食物、カバン、上着など)は一切置かない。また、ワゴンの上段は清潔を保つこと。 3. 授業中のやむを得ない「退出」は、その「理由」を教員に告げて了解を得る。「入室」時も教員に帰ってきたことを告げて着席する。			
割合 ①80% ②20%			

現代医学系鍼灸学Ⅰ(整形外科系)鍼灸B (Acupuncture from Modern Medicine Perspective I 【Orthopedics】)			
授業科目名	現代医学系鍼灸学Ⅰ(整形外科系)鍼灸B (Acupuncture from Modern Medicine Perspective I 【Orthopedics】)	担当教員	佐藤 正人、辻丸 桑永
主担当教員	佐藤 正人	担当教員	佐藤 正人、辻丸 桑永
科目ナンバリング	SS211	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目
配当年次	2	開講学期	曜日・時限 火曜 2限
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	必修		
到達目標	鍼灸臨床で最も多い器診である、頸肩腕痛、肩痛、膝痛、腰下肢痛、頭痛の5症候を取り上げて、それぞれの痛みの発生源(基礎知識)から診察法(技術)までを学ぶ。 ※本科目は実務経験のある教員等による授業科目です		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	1. 医療者としての自覚と責任ある行動ができる。 2. 鍼灸臨床で遭遇しやすい症候に対して、基本的な診察、鑑別診断ができる。		
教科書	履修上の注意(学生へのメッセージ)		
授業時に配付する資料	1. 常に対患者をイメージして診察技術を学ぶ 2. 医療者として恥じない意識を育て、行動できるようにする。		
参考書	教科書		
特になし	授業時に配付する資料		
研究室/オフィスアワー	参考書		
講師控え室/授業の前後の時間帯	特になし		
授業展開及び授業計画表	研究室/オフィスアワー		
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	診察法総論 1. (鍼灸師と診察、適応不応症についてなど)	予習/シラバスの確認 復習/配布資料の内容再認識	
2	診察法総論 2. (臨床とカルテ、ペーパーテスト)	予習/テキスト内容 復習/配布資料の内容再認識	
3	診察法総論 3. (深部反射、病的反射の実習、ペーパーテスト)	復習/配布資料の内容再認識	
4	頸肩腕痛の診察法 1. (深部反射、病的反射の実習、ペーパーテスト)	予習/テキストの内容 復習/「頸肩腕痛の診察スタートライン」の暗記	
5	頸肩腕痛の診察法 2. (頸肩腕部の解剖、鑑別法など)	予習/テキストの内容 復習/「頸肩腕痛の診察スタートライン」の暗記	
6	頸肩腕痛の診察法 3. (頸肩腕痛の病態、理学検査、ペーパーテスト)	予習/テキストの内容 復習/「頸肩腕痛の診察スタートライン」の暗記	
7	頸肩腕痛の診察法 4. (頸肩腕痛の問診、身体診察、ペーパーテスト)	予習/「医療面接を交えた診察法」の復習 復習/「頸肩腕痛の診察スタートライン」の暗記	
8	頸肩腕痛診察シミュレーション	予習/「医療面接を交えた診察法」の復習 復習/「頸肩腕痛の診察スタートライン」の暗記	
9	腰下肢痛の診察法 1. (深部反射、病的反射の実習、ペーパーテスト)	予習/頸肩腕痛全学習内容 復習/頸肩腕痛診察法の要点チェック	
10	腰下肢痛の診察法 2. (腰下肢の解剖、鑑別法など)	予習/テキストの内容 復習/「腰痛の診察スタートライン」の暗記	
11	腰下肢痛の診察法 3. (腰痛の理学検査、病態把握、ペーパーテスト)	予習/テキストの内容 復習/「腰痛の診察スタートライン」の暗記	
12	腰下肢痛の診察法 4. (下肢痛の理学検査、病態把握、ペーパーテスト)	予習/「下肢痛の診察スタートライン」の暗記 復習/「腰下肢痛の診察スタートライン」の暗記	
13	腰下肢痛の診察法 5. (下肢痛の問診、身体診察)	予習/「下肢痛の診察スタートライン」の暗記 復習/「腰下肢痛全学習内容」の復習	
14	腰下肢痛の診察法 6. (腰下肢痛の診察スタートライン)	予習/「腰下肢痛全学習内容」の復習 復習/「腰下肢痛診察法の要点チェック」	

15	診察法と診察法の前期総括	予習/前期に学んだ診察法を整理してまとめる 復習/学生同士で診察をシミュレーションしてみる	
16	肩関節痛の診察法 1. (肩関節の解剖、鑑別法など)	予習/テキストの内容 復習/「肩関節痛の診察スタートライン」の暗記	
17	肩関節痛の診察法 2. (肩関節痛の病態把握、理学検査、ペーパーテスト)	予習/テキストの内容 復習/「肩関節痛の診察スタートライン」の暗記	
18	肩関節痛の診察法 3. (肩関節痛の問診、ペーパーテスト)	予習/テキストの内容 復習/「肩関節痛の診察スタートライン」の復習	
19	肩関節痛の診察法 4. (肩関節痛の理学検査、病態把握、ペーパーテスト)	予習/肩関節痛全学習内容 復習/「肩関節痛診察法の要点チェック」	
20	膝関節痛の診察法 1. (膝関節の解剖、鑑別法など)	予習/テキストの内容 復習/「膝関節痛の診察スタートライン」の暗記	
21	膝関節痛の診察法 2. (膝関節痛の問診、ペーパーテスト)	予習/テキストの内容 復習/「膝関節痛の診察スタートライン」の暗記	
22	膝関節痛の診察法 3. (膝関節痛の理学検査、病態把握、ペーパーテスト)	予習/テキストの内容 復習/「膝関節痛の診察スタートライン」の復習	
23	膝関節痛の診察法 4. (膝関節痛の問診、身体診察、ペーパーテスト)	予習/膝関節痛全学習内容 復習/「膝関節痛診察法の要点チェック」	
24	頭痛の診察法 1. (頭痛とは)	予習/テキストの内容 復習/「頭痛の診察スタートライン」の暗記	
25	頭痛の診察法 2. (頭痛の神経学的検査、ペーパーテスト)	予習/テキストの内容 復習/「頭痛の診察スタートライン」の暗記	
26	頭痛の診察法 3. (頭痛の二次性頭痛とは、身体診察、ペーパーテスト)	予習/テキストの内容 復習/「頭痛の診察スタートライン」の復習	
27	頭痛の診察法 4. (二次性頭痛、頭痛の診察まとめ、インフォームドコンセント)	予習/頭痛全学習内容 復習/頭痛診察法の要点チェック	
28	診察法と診察法の後期総括 1. (肩関節、膝関節、頭痛の診察法)	予習/診察～治療までをイメージしてみる 復習/学生同士で診察～治療までをシミュレーションしてみる	
29	診察法と診察法の全期総括 2. (頸肩腕痛、腰下肢痛、肩関節痛、膝関節痛、頭痛の診察法)	予習/診察～治療までをイメージしてみる 復習/学生同士で診察～治療までをシミュレーションしてみる	
30	診察法と診察法の全期総括 3. (頸肩腕痛、腰下肢痛、肩関節痛、膝関節痛、頭痛の診察法)	予習/診察～治療までをイメージしてみる 復習/学生同士で診察～治療までをシミュレーションしてみる	
成績評価方法及び基準			
①本試験 ②授業内でのペーパーテスト評価 ①と②を総合する。 授業内での評価は、ペーパーテストおよび授業中において以下の点を守られず、その場で即座に改善されない者に対して行う。 1. 「実技授業に適さない身だしなみ」は、授業が始まる前に全て整えることを怠らない。 2. ベット上、およびその周りに、授業に関わらない物(飲食物、カバン、上着など)は一切置かない。また、ワゴンの上段は清潔を保つこと。 3. 授業中のやむを得ない「退出」は、その「理由」を教員に告げて了解を得る。「入室」時も教員に帰ってきたことを告げて着席する。			
割合 ①80% ②20%			

授業科目名 東洋医学系検査法(鍼灸A) (Oriental Medical Method of Examination)			
主担当教員	担当教員	担当教員	担当教員
堀川 奈央	堀川 奈央	堀川 奈央	堀川 奈央
科目ナンバリング	SS213	専門科目	ディプロマポリシー該当項目 DP①
配当年次	2	開講学期	前期
授業形態	演習	単位数	1
授業概要	1 年生で学習した東洋医学的な診察法である四診法について実技を行う。中医学では体の真帯を四診(望診・問診・聞診・切診)で診察し、診断を行い治療方法の計画を立て経穴に刺激や灸灸が行えるように技術を修得する。		
到達目標	鍼灸治療には「理・法・方・穴・術」という流れによって弁証論治をおこなう。治療に行つたの必要となる情報を得るための四診法を修得する。		
	1. 望診(顔色の望診、腹診、舌診、背候診) 2. 問診 3. 聞診 4. 切診(脈診、原穴診、背候診、腹診) これらの情報を修得する。		
	履修上の注意(学生へのメッセージ)		
	1. 配布された講義資料にも目を通すこと。 2. 出席は重視する。		
教科書			
配布テキスト			
参考書			
東洋医学概論(東洋療法学校協会) 鍼灸学基礎編			
研究室/オフィスアワー			
東棟4階研究室9 昼休み随時相談			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	講義概要 中医学基礎理論と四診法	予習: 四診法に必要な虚実の判定について勉強すること 復習: 虚実について理解・説明できる	
2	望診① グループ学習 顔面診、舌診について	予習: 1 年生で学習した東洋医学の基礎を復習しておくこと 復習: 舌診の基本的な所見を理解・説明できる	
3	望診② グループ学習 腹診、背候診について	予習: 1 年生で学習した東洋医学の基礎を復習しておくこと 復習: 腹診・背候診の基本的な所見を理解・説明できる	
4	望診③ まとめ グループ学習	予習: 1 年生で学習した東洋医学の基礎を復習しておくこと 復習: 望診の基本的な所見を理解・説明できる	
5	切診① グループ学習 脈診について	予習: 1 年生で学習した東洋医学の基礎を復習しておくこと 復習: 脈診の基本的な所見を理解・説明できる	
6	切診② グループ学習 脈診について	予習: 1 年生で学習した東洋医学の基礎を復習しておくこと 復習: 脈診の基本的な所見を理解・説明できる	
7	切診③ グループ学習 脈診・原穴診・切経について	予習: 1 年生で学習した東洋医学の基礎を復習しておくこと 復習: 脈診・原穴・切経の基本的な所見を理解・説明できる	
8	切診④ グループ学習 背候診・腹診について	予習: 1 年生で学習した東洋医学の基礎を復習しておくこと 復習: 背候診・腹診の所見を理解・説明できる	
9	切診⑤ まとめ	予習: 1 年生で学習した東洋医学の基礎を復習しておくこと	

グループ学習	復習: 切診の所見を理解・説明できる
問診① グループ学習 患者情報の聴取の練習	予習: 1 年生で学習した東洋医学の基礎を復習しておくこと 復習: 問診からの基本的な所見を理解・説明できる
問診② グループ学習 患者情報の聴取の練習	予習: 1 年生で学習した東洋医学の基礎を復習しておくこと 復習: 問診から所見を理解・説明できる
望診 グループ学習	予習: 1 年生で学習した東洋医学の基礎を復習しておくこと 復習: 望診の基本的な所見を理解・説明できる
まとめ グループ学習 問診・望診	予習: 1 年生で学習した東洋医学の基礎を復習しておくこと 復習: 望診の基本的な所見を理解・説明できる
四診法の実施① グループ学習	予習: 1 年生で学習した東洋医学の基礎を復習しておくこと 復習: 四診法かの情報を理解・説明できる
四診法の実施② グループ学習	予習: 1 年生で学習した東洋医学の基礎を復習しておくこと 復習: 四診法かの情報を理解・説明できる
成績評価方法と基準	割合
4/5 以上の出席を必要とする。 筆記試験 50%、実技 50%(試験 70%、授業評価 30%)で評価する。筆記試験と実技試験ともに 60%以上で単位を認定する * 授業評価は授業態度、提出物、小テストなど 但し、筆記試験は定期試験で実施し、実技試験は授業期間中に実施する。	筆記 50%、実技 50%

東洋医学系検査法(鍼灸B) (Oriental Medical Method of Examination)			
授業科目名	堀川 奈央	担当教員	堀川 奈央
主担当教員	SS213	専門科目	DP①
科目ナンバリング	2	開講学期	曜日・時限
配当年次	演習	単位数	1
授業形態			必修・選択
授業概要			必修
<p>1 年生で学習した東洋医学的な診察法である四診法について実技を行う。 中医学では体の異常を四診(望診・問診・聞診・切診)で診察し、診断を行い治療方法の計画を立て経穴に刺激や施灸が行えるように技術を修得する。</p>			
到達目標			
鍼灸治療には「理・法・方・穴・術」という流れによって弁証論治をおこなう。治療を行うのに必要となる情報を得るための四診法を修得する。			
<ol style="list-style-type: none"> 望診(顔色の望診、腹診、舌診、舌診) 問診 聞診 切診(脈診、原穴診、背候診、腹診) これらの情報を修得する。			
履修上の注意(学生へのメッセージ)			
<ol style="list-style-type: none"> 配布された講義資料にも目を通すこと。 出席は重視する。 			
教科書			
配布テキスト			
参考書			
東洋医学概論(東洋療法学校協会) 鍼灸学基礎編			
研究室/オフィスアワー			
東棟4階研究室9 昼休み随時相談			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	講義概要 中医学基礎理論と四診法	予習：四診法に必要な虚実の判定について勉強すること 復習：虚実について理解・説明できる	
2	望診① グループ学習 顔面診、舌診について	予習：1 年生で学習した東洋医学の基礎を復習しておくこと 復習：舌診の基本的な所見を理解・説明できる	
3	望診② グループ学習 腹診、背候診について	予習：1 年生で学習した東洋医学の基礎を復習しておくこと 復習：腹診・背候診の基本的な所見を理解・説明できる	
4	望診③ まとめ グループ学習	予習：1 年生で学習した東洋医学の基礎を復習しておくこと 復習：望診の基本的な所見を理解・説明できる	
5	切診① グループ学習 脈診について	予習：1 年生で学習した東洋医学の基礎を復習しておくこと 復習：脈診の基本的な所見を理解・説明できる	
6	切診② グループ学習 脈診について	予習：1 年生で学習した東洋医学の基礎を復習しておくこと 復習：脈診の基本的な所見を理解・説明できる	
7	切診③ グループ学習 脈診・原穴診・切候について	予習：1 年生で学習した東洋医学の基礎を復習しておくこと 復習：脈診・原穴診・切候の基本的な所見を理解・説明できる	
8	切診④ グループ学習 背候診、腹診について	予習：1 年生で学習した東洋医学の基礎を復習しておくこと 復習：背候診の所見を理解・説明できる	
9	切診⑤ まとめ	予習：1 年生で学習した東洋医学の基礎を復習しておくこと	

	グループ学習	復習：切診の所見を理解・説明できる
10	問診① グループ学習 患者情報の聴取の練習	予習：1 年生で学習した東洋医学の基礎を復習しておくこと 復習：問診からの基本的な所見を理解・説明できる
11	問診② グループ学習 患者情報の聴取の練習	予習：1 年生で学習した東洋医学の基礎を復習しておくこと 復習：望診の基本的な所見を理解・説明できる
12	望診 グループ学習	予習：1 年生で学習した東洋医学の基礎を復習しておくこと 復習：望診の基本的な所見を理解・説明できる
13	まとめ グループ学習 問診・望診	予習：1 年生で学習した東洋医学の基礎を復習しておくこと 復習：望診の基本的な所見を理解・説明できる
14	四診法の実施① グループ学習	予習：1 年生で学習した東洋医学の基礎を復習しておくこと 復習：四診法かの情報を理解・説明できる
15	四診法の実施② グループ学習	予習：1 年生で学習した東洋医学の基礎を復習しておくこと 復習：四診法かの情報を理解・説明できる
成績評価方法と基準		
4/5 以上の出席を必要とする。 筆記試験 50%、実技 50% (試験 70%、授業評価 30%) で評価する。筆記試験と実技試験ともに 60% 以上で単位を認定する。 * 授業評価は授業態度、提出物、小テストなど 但し、筆記試験は定期試験で実施し、実技試験は授業期間中に実施する。		
割合		
筆記 50%、実技 50%		

授業科目名	東洋医学各論 I (鍼灸) (Detailed Oriental Medicine I)		
主担当教員	上野 晃	担当教員	上野 晃
科目ナンバリング	SS214	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目
配当年次	2	後期	曜日・時限 木曜 2 限
授業形態	講義	単位数	1
授業概要	<p>中医診断学および中医弁証概論</p> <p>※本科目は実務経験のある教員等による授業科目です</p> <p>到達目標</p> <p>中医診断学である、四診法の理論習得と弁証学の基礎を習得する。</p> <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>東洋医学概論を基礎とした応用の理論になります。東洋医学的治療の要になります。治療家になる上での楽しさを一緒に共有できれ ばと思いますので、一緒にやり進めましょう。</p> <p>教科書</p> <p>授業プリント</p> <p>参考書</p> <p>『針灸学「基礎編」』</p> <p>研究室/ オフィスアワー</p> <p>授業日の兼任講師控室</p> <p>授業展開及び授業計画表</p>		
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	東洋医学的診断法について	基本的に授業で指示します。	
2	四診法とは？	東洋医学概論(五色体表など)	
3	望診	東洋医学概論(五臓六腑の働きなど)	
4	望診		
5	望診		
6	聞診		
7	問診	東洋医学概論(五臓六腑の働きなど)	
8	問診	東洋医学概論(五臓六腑の働きなど)	
9	問診	東洋医学概論(五臓六腑の働きなど)	
10	問診		
11	切診	東洋医学概論(五臓六腑の働きなど)	
12	切診		
13	切診		
14	切診		
15	四診法まとめ	四診法	
成績評価方法と基準	割合		
テストで評価を行う。	100%		

授業科目名	基礎鍼灸実技 I (鍼灸 A) (Basic Skill Practice for Acupuncture I)		
主担当教員	高崎 雷太	担当教員	高崎 雷太、堀川 奈央
科目ナンバリング	SS301	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目
配当年次	1	前期	曜日・時限 木曜 1 限
授業形態	実習	単位数	1
授業概要	<p>1. 鍼による基本操作を指導する</p> <p>2. 正確かつ安全な刺鍼を指導する</p> <p>3. 自身・他人の体への刺鍼を練習する</p> <p>※本科目は実務経験のある教員等による授業科目です</p> <p>到達目標</p> <p>1. 鍼による基本実技を理解することができる</p> <p>2. 正確かつ安全な刺鍼を体得することができる</p> <p>3. 自身・他人の体への刺鍼を体得することができる</p> <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>1. 本実習は鍼灸の根幹をなすものであることを認識する。</p> <p>2. 出席は重視する。</p> <p>3. 始業時間には、授業に必要な準備を済ませておく。</p> <p>4. 実習における身なりを整える。特に白衣・名札の着用、頭髪、爪など。</p> <p>5. 実習の際、手足・体幹が出せる準備をしておく。</p> <p>教科書</p> <p>「鍼灸医療安全ガイドライン」 医歯薬出版株式会社 尾崎昭弘・坂本歩・尾崎明文/鍼灸安全性委員会</p> <p>参考書</p> <p>「鍼灸師・柔道整復師のための局所解剖カラートラス」 南江堂 大阪大学歯学部口腔解剖学第二講座鍼灸解剖グループ(尾崎明文他) 「ボケット鍼灸臨床ガイド」アルテミア 森ノ宮医療学園出版部 坂本歩</p> <p>研究室/ オフィスアワー</p> <p>高崎・4階共同研究室/ 月曜日～ 金曜日 13:00～(不定期なため事前に確認が必要)</p> <p>堀川・4階研究室 13</p> <p>授業展開及び授業計画表</p>		
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	1. オリエンテーション1(毫鍼の各部位の名称、両手挿管)	レジュメにより、毫鍼各部の名称、規格、材質、などを学習し、両手挿管を練習する。	
2	2. オリエンテーション2(両手挿管、片手挿管)	古代九鍼と現在日本で使われている鍼と鍼法を学習し、鍼枕を用いて刺鍼の基本操作を学習する。	
3	3. オリエンテーション3(片手挿管)	「鍼灸基礎実習ノート」を教科書に片手挿管の操作を学ぶ。	
4	4. 刺鍼の安全性1(医療過誤、事故、手洗い、消毒)	「鍼灸医療安全ガイドライン」を教科書に鍼灸医療事故、有害事象の防止対策について学習する。	
5	5. 刺鍼の安全性2(安全性1、ベッドサイドでの注意)	鍼施術前準備として、心構え、態度、服装、手洗い、消毒について教科書を中心に学習する。	
6	6. 身体各部への刺鍼1(自身の下腿への刺鍼)	自身の下腿部に刺鍼の基本操作通りに刺鍼する。	
7	7. 身体各部への刺鍼2(他人の下腿への刺鍼)	他人の下腿部に刺鍼の基本操作通りに刺鍼する。	
8	8. 片手挿管テスト 1 分間 8 回行う。評価として、8 回未満は減点し、8 回を越える回数	衛生的な髪型および服装と、正しい方法による片手挿管を評価する。	

9	は加点する。 9. 身体各部への刺鍼3(他人の前腕への刺鍼) 身体各部への刺鍼4(他人の腰部への刺鍼)、	他人の腰部への刺鍼の基本操作通りに刺鍼する。 () " " " 腰部の安全深度について学 習する。 他人の後頭部への刺鍼の基本操作通りに刺鍼す る。 () " " " 後頭部の安全深度について 学習する。 他人の腰部への刺鍼の基本操作通りに刺鍼する。 () " " " 腰部の安全深度について学 習する。
10	10. 身体各部への刺鍼5(他人の後頭部(項部)への刺鍼)	他人の後頭部への刺鍼の基本操作通りに刺鍼する。 () " " " 後頭部の安全深度について学 習する。
11	11. 身体各部への刺鍼6(他人の腰部への刺鍼)	他人の腰部への刺鍼の基本操作通りに刺鍼する。 () " " " 腰部の安全深度について学 習する。
12	12. 身体各部への刺鍼7(他人の前頭・前腕への刺鍼)	他人の前頭・前腕部への刺鍼の基本操作通りに刺 鍼する。 () " " " 前頭前腕部の安全深度について 学習する。
13	13. 身体各部への刺鍼8(他人の肩背部への刺 鍼)	他人の肩背部への刺鍼の基本操作通りに刺鍼す る。 () " " " 肩背部の安全深度について 学習する。
14	14. 片手挿管テスト1分間に12回行う。 評価として、12回未滿は減点し、12回を越える回 数は加点する。	衛生的な髪型および衛生的服装と、正しい方法による片 手挿管を評価する。
15	15. 授業内試験(一連の刺鍼操作や特殊刺鍼法・ 各種刺鍼法の刺鍼操作)	針実技に必要な準備および衛生的操作ほか、前 期実技授業の内容を総合的に評価する。
成績評価方法及び基準		
1. 授業内試験(一連の刺鍼操作や特殊刺鍼法・各種刺鍼法の刺鍼操作)		
2. 授業内テスト①(片手挿管の連続操作 8回)		
3. 授業内テスト②(片手挿管の連続操作 12回)		
※2と3における、片手挿管連続操作の回数に達していない者は、補講授業を必ず受講する。 原則として授業時間数の4/5以上の出席を必要とし、60点以上で単位認定する。		

基礎刺鍼実技 I (鍼灸B) (Basic Skill Practice for Acupuncture I)			
授業科目名	高崎 雷太	担当教員	高崎 雷太、堀川 奈央
主担当教員	高崎 雷太	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目 DP①
科目ナンバリング	SS301	科目区分	
配当年次	1	開講学期	曜日・時限 木曜2限
授業形態	実習	単位数	1 必修・選択 必修
授業概要			
1. 鍼による基本操作を指導する			
2. 正確かつ安全な刺鍼を指導する			
3. 自身・他人の体への刺鍼を練習する			
※本科目は実務経験のある教員等による授業科目です			
到達目標			
1. 鍼による基本操作を理解することができる			
2. 正確かつ安全な刺鍼を体得することができる			
3. 自身・他人の体への刺鍼を体得することができる			
履修上の注意(学生へのメッセージ)			
1. 本実習は鍼灸の履修をなすものであることを認識する。			
2. 出席は重視する。			
3. 始業時には、授業に必要な準備を済ませておく。			
4. 実習における身なりを整える。特に白衣・名札の着用、頭髮、爪など。			
5. 実習の際、手足・体幹が出せる準備をしておく。			
教科書			
「鍼灸医療安全ガイドライン」 医歯薬出版株式会社			
尾崎昭弘・坂本歩・尾崎明文/鍼灸安全性委員会			
参考書			
「鍼灸師・柔道整復師のための局所解剖カラーアトラス」 南江堂			
大阪大学医学部口腔鍼灸学第二講座鍼灸解剖グループ(尾崎明文他)			
「ポケット鍼灸臨床ガイド」アルタミア 森ノ宮医療学園出版部			
坂本歩			
研究室/オフィスアワー			
高崎:4階共同研究室/月曜日～ 金曜日 13:00～(不定期なため事前の確認が必要)			
堀川:4階研究室 13			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	1. オリエンテーション①(電鍼の各部位の名称、 両手挿管)	レジュメにより、電鍼各部の名称、規格、材質、な どを学習し、両手挿管を練習する。 古代九針と現在日本で使われている鍼と鍼法を 学習し、 パワーポイントにより両手・片手挿管の操作を学 ぶ、	
2	2. オリエンテーション②(両手挿管、片手挿管)	「鍼灸基礎実習ノート」を教科書に片手挿管の操 作を学び、鍼枕を用いて刺鍼の基本操作を学習 する。	
3	3. オリエンテーション③(片手挿管)	「鍼灸医療安全ガイドライン」を教科書に鍼灸医療 事故、 有害事象の防止対策について学習する。 鍼施術前準備として、心構え、態度、服装、手洗 い、消毒 について教科書を中心に学習する。	
4	4. 刺鍼の安全性1(医療過誤、事故、 手洗い、消毒)	自身の下腿部に刺鍼の基本操作通りに刺鍼す る。 (手洗い、消毒、滅菌、医療廃棄物の処理を確実 に行う)	
5	5. 刺鍼の安全性2(安全性1、ベッドサイドでの注 意)	自身の下腿部に刺鍼の基本操作通りに刺鍼す る。 (手洗い、消毒、滅菌、医療廃棄物の処理を確実 に行う)	
6	6. 身体各部への刺鍼1(自身の下腿への刺鍼)	他人の下腿部への刺鍼の基本操作通りに刺鍼す る。 (手洗い、消毒、滅菌、医療廃棄物の処理を確実 に行う)	
7	7. 身体各部への刺鍼2(他人の下腿への刺鍼)	衛生的な髪型および服装と、正しい方法による片 手挿管を評価する。	
8	8. 片手挿管テスト1分間に8回行う。 評価として、8回未滿は減点し、8回を越える回数		

	は加点する。		
9	9. 身体各部への刺鍼3(他人の前胸への刺鍼) 身体各部への刺鍼4(他人の腰部への刺鍼)。	他人の腰部へ刺鍼の基本操作通りに刺鍼する。 () 、腰部の安全深度について学 習する) 他人の後頭部へ刺鍼の基本操作通りに刺鍼す る。 () 、後頭部の安全深度について 学習する) 他人の腰部へ刺鍼の基本操作通りに刺鍼する。 () 、腰部の安全深度について学 習する) 他人の前頭・前胸部へ刺鍼の基本操作通りに刺 鍼する。 () 、前頭前胸部の安全深度について 学習する) 他人の肩背部へ刺鍼の基本操作通りに刺鍼す る。 () 、肩背部の安全深度について 学習する)	
10	10. 身体各部への刺鍼5(他人の後頭部(項部) への刺鍼)		
11	11. 身体各部への刺鍼6(他人の腰部への刺鍼)		
12	12. 身体各部への刺鍼7(他人の前頭・前胸への 刺鍼)		
13	13. 身体各部への刺鍼8(他人の肩背部への刺 鍼)		
14	14. 片手挿管テスト 1分間に12回行う。 評価として、12回未滿は減点し、12回を越える回 数は加点する。	衛生的な髪型および服装と、正しい方法による片 手挿管を評価する。	
15	15. 授業内試験(一連の刺鍼操作や特殊鍼法・ 各種鍼法の刺鍼操作)	針薬法に必要な準備および衛生的操作ほか、前 期実技授業の内容を総合に評価する。	
成績評価方法と基準			
1. 授業内試験(一連の刺鍼操作や特殊鍼法・各種鍼法の刺鍼操作)			
2. 授業内テスト①(片手挿管の連続操作 8回)			
3. 授業内テスト②(片手挿管の連続操作 12回)			
※2と3における、片手挿管連続操作の回数に達していない者は、補講授業を必ず受講する。 原則として授業時間数の4/5以上の出席を必要とし、60点以上で単位認定する。			

授業科目名	基礎鍼灸実技Ⅱ(鍼灸A) (Basic Skill Practice for AcupunctureⅡ)		
主担当教員	高崎 雷太	担当教員	高崎 雷太、堀川 奈央
科目ナンバリング	SS302	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目
配当年次	1	後期	木曜2限
授業形態	実習	単位数	1
授業概要	本講義は、前期までの基礎的な刺鍼操作の復習から始まり、現在鍼灸臨床上で主として行われている様々な刺鍼法を習得し、かつ解 析を理解した上で、体系指標から刺鍼点を捉えることが出来るように指導することを目的としている。本講義で行う鍼灸臨床上で主と して行われている刺鍼法とは、①小児鍼、②低周波鍼通電療法、③灸頭鍼法、④皮内鍼法、⑤磁石療法である。正しく刺鍼点を捉える線 習として、①運動脈洞刺鍼、②後山骨孔刺鍼、③坐骨神経刺鍼を指導する。その他、鍼灸臨床に必要な技術として、血圧測定の方 法・意義とその修練を行う。また、知識や技術だけでなく、患者に対する適切な態度や配慮・衛生概念も併せて学習する。		
到達目標	※本科目は実務経験のある教員等による授業科目です		
到達目標	1. 鍼による基本実技を行える 2. 正確かつ安全な刺鍼を体得することができる 3. 自身・他人の体への刺鍼を体得することができる 4. 各種鍼法の基本を理解し、正しく行うことができる 5. 特殊鍼法の基本を理解し、正しく刺鍼することができる 履修上の注意(学生へのメッセージ)		
教科書	1. 本実習は鍼灸の指針をなすものであることを認識する。 2. 出席は重視する。 3. 始業時間には、授業に必要な準備を済ませておく。 4. 実習における身なりを整える。特に白衣・名刺の着用、頭髪、爪など。 5. 実習の際、手足・体幹が出せる準備をしておく。		
参考書	「鍼灸医療安全ガイドライン」 医歯薬出版株式会社 尾崎昭弘・坂本歩・尾崎明文/鍼灸安全性委員会		
授業展開及び授業計画表	研究室/オフィスアワー 高崎・4階共同研究室/月曜日～ 金曜日 13:00～(不定期なため事前確認が必要) 堀川・4階研究室 13		
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	1. 身体各部への刺鍼11(他人の大腿部への刺 鍼)	固物通しの練習しておくこと。 他人へ刺鍼の基本操作通りに刺鍼する。 (手洗い、消毒、廃鍼、医療廃棄物の処理を確 実に行う)	
2	2. 身体各部への刺鍼12(他人の背部への刺鍼)	固物通しの練習しておくこと。 他人へ刺鍼の基本操作通りに刺鍼する。 (手洗い、消毒、廃鍼、医療廃棄物の処理を確 実に行う)	
3	3. 血圧測定	衛生的な髪型および服装と、正しい方法による血 圧を測定する。	
4	4. 各種鍼法1(小児鍼法入門)	他人へ基本操作通りに施術する。 (手洗い、消毒、廃鍼、医療廃棄物の処理を確 実に行う)	
5	5. 各種鍼法2(低周波鍼通電療法入門)	他人へ正しい方法で刺鍼操作を行う。 (手洗い、消毒、廃鍼、医療廃棄物の処理を確 実に行う)	
6	6. 各種鍼法3(灸頭鍼法1入門)	鍼灸へ正しい方法で刺鍼操作を行う。 (手洗い、消毒、廃鍼、医療廃棄物の処理を確 実に行う)	
7	7. 各種鍼法3(灸頭鍼法2入門)	他人へ正しい方法で刺鍼操作を行う。 (手洗い、消毒、廃鍼、医療廃棄物の処理を確 実に行う)	

8	8. 片手挿管テスト 1 分間に 13 回行う。 評価として、13 回未満は減点し、13 回を越える回数 は加点する。	衛生的な髪型および服装と、正しい方法による片 手挿管を評価する。	
9	9. 各種鍼法 4 (皮内鍼法入門)	他人へ正しい方法で刺鍼操作を行う。 (手洗い、消毒、廃鍼、医療廃棄物の処理を確実 に行う)	
10	10. 各種鍼法 5 (直刺、横刺、斜刺)	他人へ正しい方法で刺鍼操作を行う。 (手洗い、消毒、廃鍼、医療廃棄物の処理を確実 に行う)	
11	11. 各種鍼法 6 (直刺、横刺、斜刺、捻鍼、雀啄 等)	他人へ正しい方法で刺鍼操作を行う。 (手洗い、消毒、廃鍼、医療廃棄物の処理を確実 に行う)	
12	12. 特殊鍼法 1 (顔面刺鍼入門)	他人へ正しい方法で刺鍼操作を行う。 (手洗い、消毒、廃鍼、医療廃棄物の処理を確実 に行う)	
13	13. 特殊鍼法 2 (後仙骨孔刺鍼入門)	他人へ正しい方法で刺鍼操作を行う。 (手洗い、消毒、廃鍼、医療廃棄物の処理を確実 に行う)	
14	14. 血圧測定 規定時間内に聴診法・聴診法の 測定を行う。片手挿管テスト 1 分間に 15 回行 う。評価として、15 回未満は減点し、15 回を越える回 数は加点する。	衛生的な髪型および服装と、正しい方法による血 圧測定および片手挿管を評価する。	
15	15. 期末試験 (一連の刺鍼操作や特殊鍼法・各 種鍼法の刺鍼操作)	針灸技に必要の準備および衛生的操作ほか、前 期実技授業の内容を総合的に評価する。	
成績評価方法と基準			
1. 期末試験 (一連の刺鍼操作や特殊鍼法・各種鍼法の刺鍼操作)			
2. 期末試験 (片手挿管の連続操作 13 回)			
3. 期末試験 (片手挿管の連続操作 15 回)			
4. 期末試験 (血圧測定)			
※2と3における、片手挿管連続操作の回数に達していない者は、補講授業を必ず受講する。 原則として授業時間数の 4/5 以上の出席を必要とし、60 点以上で単位認定する。			

基礎鍼灸実技 II (鍼灸 B) (Basic Skill Practice for Acupuncture II)			
授業科目名	高崎 雷太	担当教員	高崎 雷太、堀川 奈央
主担当教員	高崎 雷太	科目区分	専門科目
科目ナンバリング	SS302	後期	曜日・時限
配当年次	1	単位数	1
授業形態	実習	必修・選択	必修
授業概要	本講義は、前期までの基礎的な刺鍼操作の復習から始まり、現在鍼灸臨床上で主として行われている様々な刺鍼法を習得し、かつ解 剖を理解した上で、体系指書から刺鍼点を捉えることとを目的としている。本講義で行う鍼灸臨床で主と して行われている刺鍼法とは、①小児鍼、②低周波鍼通電療法、③灸療法、④皮膚刺鍼法、⑤吸角法である。正しい刺鍼点を捉える練 習として、①理動脈刺鍼、②後仙骨孔刺鍼、③坐骨神経刺鍼を指導する。その他、鍼灸臨床に必要な技術として、血圧測定の方 法・意義とその修練を行う。また、知識や技術だけでなく、患者に対する適切な態度や配慮・衛生概念も併せて学習する。		
	※本科目は実務経験のある教員等による授業科目です		
到達目標	1. 鍼による基本実技を行える 2. 正確かつ安全な刺鍼を体得することができる 3. 自身・他人の体への刺鍼を体得することができる 4. 各種鍼法の基本を理解し、正しく行うことができる 5. 特殊鍼法の基本を理解し、正しく刺鍼することができる 履修上の注意 (学生へのメッセージ)		
	1. 本実習は鍼灸の履修をなすものであることを認識する。 2. 出席は重視する。 3. 始業時には、授業に必要な準備を済ませておく。 4. 実習における身なりを整える。特に白衣・名札の着用、頭髪、爪など。 5. 実習の際、手足・体幹が出せる準備をしておく。		
教科書	「鍼灸医療安全ガイドライン」 医療薬出版株式会社 尾崎昭弘・坂本歩・尾崎朋文/鍼灸安全性委員会 参考書		
	「鍼灸師・柔道整復師のための局所解剖カラーアトラス」 南江堂 大阪大学歯学部口腔解剖学第二講座鍼灸解剖グループ (尾崎朋文他) 「ボケット鍼灸臨床ガイド」アルテミア 森ノ宮医療学園出版部 (坂本歩) 研究室/オフィスアワー		
	高崎・4階共同研究室/月曜日～ 金曜日 13:00～ (不定期なため事前に確認が必要) 堀川・4階研究室 13		
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	1. 身体各部への刺鍼 11 (他人の大腿部への刺 鍼)	固物通しの練習をしておくこと。 他人へ刺鍼の基本操作通りに刺鍼する。 (手洗い、消毒、廃鍼、医療廃棄物の処理を確実 に行う)	
2	2. 身体各部への刺鍼 12 (他人の背部への刺鍼)	固物通しの練習をしておくこと。 他人へ刺鍼の基本操作通りに刺鍼する。 (手洗い、消毒、廃鍼、医療廃棄物の処理を確実 に行う)	
3	3. 血圧測定	衛生的な髪型および服装と、正しい方法による血 圧を測定する。	
4	4. 各種鍼法 1 (小児鍼法入門)	他人へ基本操作通りに施術する。 (手洗い、消毒、廃鍼、医療廃棄物の処理を確実 に行う)	
5	5. 各種鍼法 2 (低周波鍼通電療法入門)	他人へ正しい方法で刺鍼操作を行う。 (手洗い、消毒、廃鍼、医療廃棄物の処理を確実 に行う)	
6	6. 各種鍼法 3 (灸頭鍼法 1 入門)	鍼灸へ正しい方法で刺鍼操作を行う。 (手洗い、消毒、廃鍼、医療廃棄物の処理を確実 に行う)	
7	7. 各種鍼法 3 (灸頭鍼法 2 入門)	他人へ正しい方法で刺鍼操作を行う。 (手洗い、消毒、廃鍼、医療廃棄物の処理を確実 に行う)	

8	8. 片手挿管テスト 1 分間に 13 回行う。 評価として、13 回未満は減点し、13 回を越える回数 は加点する。	衛生的な型および服装と、正しい方法による片 手挿管を評価する。	
9	9. 各種滅菌法 4 (皮内滅菌法入門)	他人へ正しい方法で刺鍼操作行う。 (手洗い、消毒、腐滅、医療廃棄物の処理を確実 に行う)	
10	10. 各種滅菌法 5 (直刺、機刺、斜刺)	他人へ正しい方法で刺鍼操作行う。 (手洗い、消毒、腐滅、医療廃棄物の処理を確実 に行う)	
11	11. 各種滅菌法 6 (直刺、機刺、斜刺、捻鍼、雀啄 等)	他人へ正しい方法で刺鍼操作行う。 (手洗い、消毒、腐滅、医療廃棄物の処理を確実 に行う)	
12	12. 特殊滅菌法 1 (顔面刺鍼入門)	他人へ正しい方法で刺鍼操作行う。 (手洗い、消毒、腐滅、医療廃棄物の処理を確実 に行う)	
13	13. 特殊滅菌法 2 (後仙骨孔刺鍼入門)	他人へ正しい方法で刺鍼操作行う。 (手洗い、消毒、腐滅、医療廃棄物の処理を確実 に行う)	
14	14. 血圧測定 規定時間内に触診法、聴診法の 測定を行う。片手挿管テスト 1 分間に 15 回行 う。 評価として、15 回未満は減点し、15 回を越える回 数は加点する。	衛生的な型および服装と、正しい方法による血 圧測定および片手挿管を評価する。	
15	15. 期末試験 (一連の刺鍼操作や特殊滅菌法・各 種滅菌法の刺鍼操作)	針刺法に必要な準備および衛生的操作ほか、前 期実技授業の内容を総合的に評価する。	割合
成績評価方法と基準			
1. 期末試験 (一連の刺鍼操作や特殊滅菌法・各種滅菌法の刺鍼操作)			
2. 期末試験 (片手挿管の連続操作 13 回)			
3. 期末試験 (片手挿管の連続操作 15 回)			
4. 期末試験 (血圧測定)			
※2と3における、片手挿管連続操作の回数に達していない者は、補講授業を必ず受講する。 原則として授業時間数の 4/5 以上の出席を必要とし、60 点以上で単位認定する。			

授業科目名	基礎実技 I (鍼灸 A) (Basic Skill Practice for Moxibustion I)		
主担当教員	松熊 秀明	担当教員	松熊 秀明、大川 祐世、仲村 正子
科目ナンバリング	SS303	科目区分	ディプロマポリシー 該当項目
配当年次	1	開講学期	曜日・時限 木曜 2 限
授業形態	実習	単位数	1
授業概要	きゅう術に必要な灸の基礎実技を知り、正確かつ安全に身体へ施灸することができるよう知識・技能を学修する。施灸技術に習熟す るには技術の鍛錬・研鑽が必要であり大切である。灸から艾柱(米粒大、半米粒大)を作る方法を学び、形状と大きさが均一の 艾柱を連続作成できるようにする。作り方によって燃焼温度が上下することを理解し、一定の燃焼温度に成るよう艾柱の作成技法を 習得する。 ※本科目は実務経験のある教員等による授業科目です		
到達目標	到達目標 正確かつ安全に身体へ施灸することができるよう知識・技能を学修する。 灸から一定の大きさおよび温度の艾柱(米粒大、半米粒大)を作成できる。 一定の速さで艾柱に点火できる技術を身につける。 履修上の注意(学生へのメッセージ) 1. 出席を重視する。 2. 授業態度が不良(私語、携帯電話をみる等)の者は減点対象とする。 3. 宿題は全て提出すること。		
教科書	教科書 中村原三著「お灸入門」医歯薬出版 参考書 教科書執筆小委員会「はりきゅう実技(基礎編)」医道の日本社		
研究室/オフィスアワー	研究室/オフィスアワー 研究室 1(東棟 4F)/月曜日 3 限		
授業展開及び授業計画表	授業展開及び授業計画表		
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	ひもの作成	復習: ひもの作りの作成	松熊、大川、 仲村
2	艾柱の作成(米粒大)	復習: 艾柱の作成(米粒大) 課題: ひもの作りが出来ること。	松熊、大川、 仲村
3	艾柱(米粒大)のスムーズな作成	復習: 施灸板を用いた施灸訓練	松熊、大川、 仲村
4	艾柱(米粒大)のスムーズな作成および点火	復習: 施灸板を用いた施灸訓練	松熊、大川、 仲村
5	施灸用紙を用いた、一定時間内での施灸訓練(米 粒大)	復習: 施灸板を用いた、一定時間内での施灸訓練	松熊、大川、 仲村
6	紙上施灸(米粒大)、紙上施灸(半米粒大)	復習: 施灸板を用いた、一定時間内での施灸訓練	松熊、大川、 仲村
7	スピード練習(米粒大)、紙上施灸(半米粒大)	復習: 施灸板を用いた、一定時間内での施灸訓練	松熊、大川、 仲村
8	スピード練習(米粒大、半米粒大)	復習: 施灸板を用いた、一定時間内での施灸訓練	松熊、大川、 仲村
9	紙上施灸(米粒大、半米粒大)、スピード練習(米 粒大、半米粒大)	復習: 施灸板を用いた、一定時間内での施灸訓練 課題: 施灸用紙を用いた施灸訓練	松熊、大川、 仲村
10	紙上施灸(米粒大、半米粒大)、スピード練習(半 米粒大)、小テスト(スピード: 米粒大)	復習: 施灸板を用いた、一定時間内での施灸訓練 課題: 施灸用紙を用いた施灸訓練	松熊、大川、 仲村
11	紙上施灸(米粒大、半米粒大)、小テスト(スピー ド: 半米粒大)	復習: 施灸板を用いた、一定時間内での施灸訓練 課題: 施灸用紙を用いた施灸訓練	松熊、大川、 仲村
12	小テスト(紙上施灸: 米粒大、半米粒大)	復習: 施灸板を用いた、一定時間内での施灸訓練 課題: 施灸用紙を用いた施灸訓練	松熊、大川、 仲村
13	小テスト(スピード、紙上施灸: 米粒大)	復習: 施灸板を用いた、一定時間内での施灸訓練 課題: 施灸用紙を用いた施灸訓練	松熊、大川、 仲村

14	小テスト(スピード、紙上施灸、半米粒大)	松熊、大川、仲村
15	総復習:紙上施灸、紙上施灸(米粒大、半米粒大)	松熊、大川、仲村
成績評価方法と基準		
割合		
1. 20%		
2. 40%		
3. 40%		

1. 宿題
2. 授業中に行う小テスト
3. 定期試験。(ただし、期末試験で24点以下のは不合格とする)

基礎灸実技 I (鍼灸 B) (Basic Skill Practice for Moxibustion I)			
授業科目名	松熊 秀明	担当教員	松熊 秀明、大川 祐世、仲村 正子
主担当教員	SS903	専門科目	DP①
科目ナンバリング	1	科目区分	曜日・時限
配当年次	実習	開講学期	木曜1限
授業形態		単位数	1
授業概要	きゅう師に必要な灸の基礎実技を知り、正確かつ安全に身体へ施灸することができるよう知識・技能を学修する。施灸技術に習熟する(には技術の鍛錬・研鑽が必要であり大切である。靴立から艾柱(米粒大、半米粒大など)を作る方法を学び、形状と大きさが均一の艾柱を連続作成できるようにする。作り方によって燃焼温度が上下することを理解し、一定の燃焼温度に成るよう艾柱の作成技法を習得する。		
	※本科目は実務経験のある教員等による授業科目です		
	到達目標		
	正確かつ安全に身体へ施灸することができるよう知識・技能を学修する。 散文から一定の大きさおよび温度の艾柱(米粒大、半米粒大など)を作成できる。 一定の速さで艾柱に点火できる技術を身につける。		
	履修上の注意(学生へのメッセージ)		
	1. 出席を重視する。 2. 授業態度が不良(私語、携帯を見ること等)の者は減点対象とする。 3. 宿題は全て提出すること。		
	教科書		
	中村辰三著「お灸入門」医歯薬出版		
	参考書		
	教科書執筆小委員会「はりきゅう実技(基礎編)」医道の日本社		
	研究室/オフィスアワー		
	研究室1(棟棟4F)/月曜日3限		
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	ひもの作成	復習:ひも作りの作成	松熊、大川、仲村
2	艾柱の作成(米粒大)	復習:艾柱の作成(米粒大) 課題:ひも作りが出来ること。	松熊、大川、仲村
3	艾柱(米粒大)のスムーズな作成	復習:施灸板を用いた施灸訓練	松熊、大川、仲村
4	艾柱(米粒大)のスムーズな作成および点火	復習:施灸板を用いた施灸訓練	松熊、大川、仲村
5	施灸用紙を用いた、一定時間内の施灸訓練(米粒大)	復習:施灸板を用いた、一定時間内での施灸訓練	松熊、大川、仲村
6	紙上施灸(米粒大)、紙上施灸(半米粒大)	復習:施灸板を用いた、一定時間内での施灸訓練	松熊、大川、仲村
7	スピード練習(米粒大)、紙上施灸(半米粒大)	復習:施灸板を用いた、一定時間内での施灸訓練	松熊、大川、仲村
8	スピード練習(米粒大、半米粒大)	復習:施灸板を用いた、一定時間内での施灸訓練	松熊、大川、仲村
9	紙上施灸(米粒大、半米粒大)、スピード練習(米粒大、半米粒大)	復習:施灸板を用いた、一定時間内での施灸訓練 課題:施灸用紙を用いた施灸訓練	松熊、大川、仲村
10	紙上施灸(米粒大、半米粒大)、スピード練習(半米粒大)、小テスト(スピード、米粒大)	復習:施灸板を用いた施灸訓練 課題:施灸用紙を用いた施灸訓練	松熊、大川、仲村
11	紙上施灸(米粒大、半米粒大)、小テスト(スピード、半米粒大)	復習:施灸板を用いた、一定時間内での施灸訓練 課題:施灸用紙を用いた施灸訓練	松熊、大川、仲村
12	小テスト(紙上施灸、米粒大、半米粒大)	復習:施灸板を用いた施灸訓練 課題:施灸用紙を用いた施灸訓練	松熊、大川、仲村
13	小テスト(スピード、紙上施灸、米粒大)	復習:施灸板を用いた、一定時間内での施灸訓練 課題:施灸用紙を用いた施灸訓練	松熊、大川、仲村
14	小テスト(スピード、紙上施灸、半米粒大)	復習:施灸板を用いた施灸訓練 課題:施灸用紙を用いた施灸訓練	松熊、大川、仲村

15	総復習：極上灸、紙上灸、米粒灸、半米粒大） 練習：自分の上肢、下肢への灸灸訓練	松熊、大川、仲村
成績評価方法と基準		
割合		
1. 20%		
2. 40%		
3. 40%		
1. 宿題		
2. 授業中に行う小テスト		
3. 定期試験。(ただし、期末試験で24点以下のもは不合格とする)		

授業科目名		基礎灸実技Ⅱ(鍼灸A) (Basic Skill Practice for MoxibustionⅡ)			
担当教員	松熊 秀明	担当教員	松熊 秀明、大川 祐世、仲村 正子		
科目ナンバリング	SS304	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー	DP①
配当年次	1	開講学期	後期	曜日・時限	木曜1限
授業形態	実習	単位数	1	必修・選択	必修
<p>授業概要</p> <p>人体への灸灸を練習する。身体各部の構造的特徴、灸灸方法と注意点を理解し実践する。灸灸の簡単な部位から行い、技術の向上に沿って灸灸が困難な部位を要する。また、無痛灸も併せて実施する。</p> <p>※本科目は実務経験のある教員等による授業科目です</p> <p>到達目標</p> <p>身体各部の構造的特徴と注意点を理解し、お互いに灸灸できる。 直接灸および間接灸について理解し、実践することができる。</p> <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>1. 出席を重視する。 2. 授業態度が不良(私語、携帯を見ること等)の者は減点対象とする。 3. 宿題は全て提出すること。</p> <p>教科書</p> <p>中村辰三著「お灸入門」医歯薬出版</p> <p>参考書</p> <p>教科書執筆小委員会「はりきり灸実技(基礎編)」医道の日本社</p> <p>研究室/オフィスアワー</p> <p>研究室1(棟棟4F)/月曜日3限</p>					
授業展開及び授業計画表					
回数	字修内容	予習・復習・課題等	担当		
1	後期の授業内容、評価方法の説明、大腿部への連続灸灸の練習、スピードテストの練習。	予習:スピードテストの練習。 復習:スピードテストの練習と大腿部への連続灸灸の練習。 課題:灸灸用紙を用いた灸灸訓練。	松熊、大川、仲村		
2	乾燥よもぎから艾の作成	予習/復習:スピードテストの練習と大腿部への連続灸灸の練習。 課題:灸灸用紙を用いた灸灸訓練。	松熊、大川、仲村		
3	小テスト:スピードテスト(米粒大) 構え作り	予習/復習:スピードテストの練習と大腿部への連続灸灸の練習。 課題:灸灸用紙を用いた灸灸訓練。	松熊、大川、仲村		
4	小テスト:スピードテスト(半米粒大) 箱灸、温筒灸	予習/復習:スピードテストの練習と大腿部への連続灸灸の練習。 課題:灸灸用紙を用いた灸灸訓練。	松熊、大川、仲村		
5	隔物灸	予習/復習:スピードテストの練習と大腿部への連続灸灸の練習。 課題:灸灸用紙を用いた灸灸訓練。	松熊、大川、仲村		
6	小テスト:大腿部への連続灸灸(透熱灸(下肢))	予習:指定された灸灸穴を取穴できること。 復習:スピードテストの練習と大腿部への連続灸灸の練習。習った内容をスムーズに行なえるようになるまで、何度も練習する。 課題:灸灸用紙を用いた灸灸訓練。	松熊、大川、仲村		
7	透熱灸(上肢)	予習:指定された灸灸穴を取穴できること。 復習:スピードテストの練習と大腿部への連続灸灸の練習。習った内容をスムーズに行なえるようになるまで、何度も練習する。 課題:灸灸用紙を用いた灸灸訓練。	松熊、大川、仲村		
8	透熱灸(背部)	予習:指定された灸灸穴を取穴できること。 復習:スピードテストの練習と大腿部への連続灸灸の練習。習った内容をスムーズに行なえるようになるまで、何度も練習する。 課題:灸灸用紙を用いた灸灸訓練。	松熊、大川、仲村		

9	透熱灸(頸部)	予習：指定された経穴を取穴できること。 復習：スピードテストの練習と大腿部への連続施灸の練習。習った内容をスムーズに行なえるようになるまで、何度も練習する。 課題：施灸用紙を用いた施灸訓練。 予習：指定された経穴を取穴できること。 復習：スピードテストの練習と大腿部への連続施灸の練習。習った内容をスムーズに行なえるようになるまで、何度も練習する。 課題：施灸用紙を用いた施灸訓練。	松熊、大川、仲村
10	透熱灸(頸部)	予習：指定された経穴を取穴できること。 復習：スピードテストの練習と大腿部への連続施灸の練習。習った内容をスムーズに行なえるようになるまで、何度も練習する。 課題：施灸用紙を用いた施灸訓練。	松熊、大川、仲村
11	小テスト：スピードテスト(米粒大)糸状灸	予習：指定された経穴を取穴できること。 復習：スピードテストの練習と大腿部への連続施灸の練習。習った内容をスムーズに行なえるようになるまで、何度も練習する。 課題：施灸用紙を用いた施灸訓練。	松熊、大川、仲村
12	小テスト：スピードテスト(米粒大)多壮灸	予習：指定された経穴を取穴できること。 復習：スピードテストの練習と大腿部への連続施灸の練習。習った内容をスムーズに行なえるようになるまで、何度も練習する。 課題：施灸用紙を用いた施灸訓練。	松熊、大川、仲村
13	小テスト：大腿部への透熱灸知熱灸	予習：指定された経穴を取穴できること。 復習：スピードテストの練習と大腿部への連続施灸の練習。習った内容をスムーズに行なえるようになるまで、何度も練習する。 課題：施灸用紙を用いた施灸訓練。	松熊、大川、仲村
14	複数の部位への透熱灸1	予習：指定された経穴を取穴できること。 復習：スピードテストの練習と大腿部への連続施灸の練習。習った内容をスムーズに行なえるようになるまで、何度も練習する。 課題：施灸用紙を用いた施灸訓練。	松熊、大川、仲村
15	複数の部位への透熱灸2	予習：指定された経穴を取穴できること。 復習：スピードテストの練習と大腿部への連続施灸の練習。習った内容をスムーズに行なえるようになるまで、何度も練習する。 課題：施灸用紙を用いた施灸訓練。	松熊、大川、仲村
成績評価方法と基準			
1. 宿題 2. 授業中に行う小テスト 3. 定期試験、(ただし、期末試験で29点以下のもは不合格とする)			

基礎灸実技Ⅱ(鍼灸Ⅱ) (Basic Skill Practice for Moxibustion II)				
授業科目名	松熊 秀明	担当教員	松熊 秀明、大川 祐世、仲村 正子	
主担当教員	松熊 秀明	科目ナンバリング	SS304	
科目ナンバリング	SS304	科目区分	専門科目	
担当年度	1	開講学期	後期	
授業形態	実習	単位数	1	
授業概要	人体への施灸を練習する。身体各部の構造的特徴、施灸方法と注意点を理解し実践する。施灸の簡単な部位から行い、技術の向上に沿って施灸が困難な部位を委嘱する。また、無慮灸も併せて実施する。 ※本科目は実務経験のある教員等による授業科目です			
到達目標	身体各部の構造的特徴と注意点を理解し、お互いに施灸できる。 直接灸および間接灸について理解し、実践することができる。			
履修上の注意(学生へのメッセージ)	1. 出席を重視する。 2. 授業態度が不良(私語、携帯電話等)の者は減点対象とする。 3. 宿題は全て提出すること。			
教科書	中村原三著「お灸入門」医歯薬出版			
参考書	教科書執筆小委員会「はりきょう実技(基礎編)」医道の日本社			
研究室/オフィスアワー	研究室1(東棟4F)/月曜日3限			
授業展開及び授業計画表	回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	後期の授業内容、評価方法の説明。大腿部への連続施灸の練習。スピードテストの練習。	予習：スピードテストの練習。 復習：スピードテストの練習と大腿部への連続施灸の練習。 課題：施灸用紙を用いた施灸訓練。	予習：スピードテストの練習。 復習：スピードテストの練習と大腿部への連続施灸の練習。 課題：施灸用紙を用いた施灸訓練。	松熊、大川、仲村
2	乾燥よもぎから艾の作成	予習/復習：スピードテストの練習と大腿部への連続施灸の練習。 課題：施灸用紙を用いた施灸訓練。	予習/復習：スピードテストの練習と大腿部への連続施灸の練習。 課題：施灸用紙を用いた施灸訓練。	松熊、大川、仲村
3	小テスト：スピードテスト(米粒大)棒灸作り	予習/復習：スピードテスト(米粒大)棒灸作り 課題：施灸用紙を用いた施灸訓練。	予習/復習：スピードテスト(米粒大)棒灸作り 課題：施灸用紙を用いた施灸訓練。	松熊、大川、仲村
4	小テスト：スピードテスト(半米粒大)箱灸、温筒灸	予習/復習：スピードテスト(半米粒大)箱灸、温筒灸 課題：施灸用紙を用いた施灸訓練。	予習/復習：スピードテスト(半米粒大)箱灸、温筒灸 課題：施灸用紙を用いた施灸訓練。	松熊、大川、仲村
5	隔物灸	予習/復習：隔物灸の練習。 課題：施灸用紙を用いた施灸訓練。	予習/復習：隔物灸の練習。 課題：施灸用紙を用いた施灸訓練。	松熊、大川、仲村
6	小テスト：大腿部への連続施灸透熱灸(下肢)	予習：指定された経穴を取穴できること。 復習：スピードテストの練習と大腿部への連続施灸の練習。習った内容をスムーズに行なえるようになるまで、何度も練習する。 課題：施灸用紙を用いた施灸訓練。	予習：指定された経穴を取穴できること。 復習：スピードテストの練習と大腿部への連続施灸の練習。習った内容をスムーズに行なえるようになるまで、何度も練習する。 課題：施灸用紙を用いた施灸訓練。	松熊、大川、仲村
7	透熱灸(上肢)	予習：指定された経穴を取穴できること。 復習：スピードテストの練習と大腿部への連続施灸の練習。習った内容をスムーズに行なえるようになるまで、何度も練習する。 課題：施灸用紙を用いた施灸訓練。	予習：指定された経穴を取穴できること。 復習：スピードテストの練習と大腿部への連続施灸の練習。習った内容をスムーズに行なえるようになるまで、何度も練習する。 課題：施灸用紙を用いた施灸訓練。	松熊、大川、仲村
8	透熱灸(背部)	予習：指定された経穴を取穴できること。 復習：スピードテストの練習と大腿部への連続施灸の練習。習った内容をスムーズに行なえるようになるまで、何度も練習する。 課題：施灸用紙を用いた施灸訓練。	予習：指定された経穴を取穴できること。 復習：スピードテストの練習と大腿部への連続施灸の練習。習った内容をスムーズに行なえるようになるまで、何度も練習する。 課題：施灸用紙を用いた施灸訓練。	松熊、大川、仲村

9	透熱灸(腹部)	予習：指定された経穴を取穴できること。 復習：スピードテストの練習と大腿部への連続施灸の練習。習った内容をスムーズに行なえるようになるまで、何度も練習する。 課題：施灸用紙を用いた施灸訓練。	松熊、大川、仲村
10	透熱灸(頸部)	予習：指定された経穴を取穴できること。 復習：スピードテストの練習と大腿部への連続施灸の練習。習った内容をスムーズに行なえるようになるまで、何度も練習する。 課題：施灸用紙を用いた施灸訓練。	松熊、大川、仲村
11	小テスト：スピードテスト(米粒大)糸状灸	予習：指定された経穴を取穴できること。 復習：スピードテストの練習と大腿部への連続施灸の練習。習った内容をスムーズに行なえるようになるまで、何度も練習する。 課題：施灸用紙を用いた施灸訓練。	松熊、大川、仲村
12	小テスト：スピードテスト(米粒大)多壮灸	予習：指定された経穴を取穴できること。 復習：スピードテストの練習と大腿部への連続施灸の練習。習った内容をスムーズに行なえるようになるまで、何度も練習する。 課題：施灸用紙を用いた施灸訓練。	松熊、大川、仲村
13	小テスト：大腿部への連続施灸知熱灸	予習：指定された経穴を取穴できること。 復習：スピードテストの練習と大腿部への連続施灸の練習。習った内容をスムーズに行なえるようになるまで、何度も練習する。 課題：施灸用紙を用いた施灸訓練。	松熊、大川、仲村
14	複数の部位への透熱灸1	予習：指定された経穴を取穴できること。 復習：スピードテストの練習と大腿部への連続施灸の練習。習った内容をスムーズに行なえるようになるまで、何度も練習する。 課題：施灸用紙を用いた施灸訓練。	松熊、大川、仲村
15	複数の部位への透熱灸2	予習：指定された経穴を取穴できること。 復習：スピードテストの練習と大腿部への連続施灸の練習。習った内容をスムーズに行なえるようになるまで、何度も練習する。 課題：施灸用紙を用いた施灸訓練。	松熊、大川、仲村
成績評価方法と基準			割合
1. 復習			1. 20%
2. 授業中に行う小テスト			2. 30%
3. 定期試験。(ただし、期末試験で29点以下のもは不合格とする)			3. 50%

授業科目名 応用鍼灸実技Ⅰ(鍼灸A)			
主担当教員	松熊 秀明	担当教員	松熊 秀明、仲村 正子
科目ナンバリング	SS311	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目 DP①
配当年次	2	開講学期	曜日・時限 月曜3限
授業形態	実習	単位数	必修・選択 必修
<p>授業概要</p> <p>特殊鍼灸(小児鍼、皮内鍼、円皮鍼、低周波鍼通電法、耳鍼、頭鍼療法)および、様々な刺激の術式について学ぶ。</p> <p>※本科目は実務経験のある教員等による授業科目です</p> <p>到達目標</p> <p>小児鍼、皮内鍼、円皮鍼、低周波鍼通電法、耳鍼、頭鍼療法を行うことが出来る。</p> <p>様々な刺激の術式を行うことができる。</p> <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>実技、実演を多用する予定</p> <p>積極的に実技に参加すること</p> <p>1. 出席を重視する。</p> <p>2. 授業態度が不良(私語、携帯を見ること等)の者は減点対象とする。</p> <p>教科書</p> <p>教科書執筆小委員会「はりきゅう理論」医道の日本社</p> <p>参考書</p> <p>図解 鍼灸臨床手技の実際 尾崎昭弘 医歯薬出版株式会社</p> <p>研究室/オフィスアワー</p> <p>研究室1(棟棟4F)/月曜日3限</p> <p>研究室1(棟棟4F)/月曜日3限</p>			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	オリエンテーション	予習・復習：1年次に学んだ鍼灸実技を復習すること。	予習・復習：1年次に学んだ鍼灸実技を復習すること。
2	小児鍼	予習：はりきゅう理論の教科書15～17頁を読むこと。 復習：学習した内容を追試すること。	予習：はりきゅう理論の教科書15～17頁を読むこと。 復習：学習した内容を追試すること。
3	皮内鍼、円皮鍼	予習：はりきゅう理論の教科書15～17頁を読むこと。 復習：学習した内容を追試すること。	予習：はりきゅう理論の教科書15～17頁を読むこと。 復習：学習した内容を追試すること。
4	低周波鍼通電療法1	予習：はりきゅう理論の教科書15～17頁を読むこと。 復習：学習した内容を追試すること。	予習：はりきゅう理論の教科書15～17頁を読むこと。 復習：学習した内容を追試すること。
5	低周波鍼通電療法2	予習：はりきゅう理論の教科書15～17頁を読むこと。 復習：学習した内容を追試すること。	予習：はりきゅう理論の教科書15～17頁を読むこと。 復習：学習した内容を追試すること。
6	耳鍼	予習：はりきゅう理論の教科書15～17頁を読むこと。 復習：学習した内容を追試すること。	予習：はりきゅう理論の教科書15～17頁を読むこと。 復習：学習した内容を追試すること。
7	頭鍼療法	予習：はりきゅう理論の教科書15～17頁を読むこと。 復習：学習した内容を追試すること。	予習：はりきゅう理論の教科書15～17頁を読むこと。 復習：学習した内容を追試すること。
8	間歇術、屋漏術	予習：はりきゅう理論の教科書13～14頁を読むこと。 復習：学習した内容を追試すること。	予習：はりきゅう理論の教科書13～14頁を読むこと。 復習：学習した内容を追試すること。
9	旋斲術、回旋術	予習：はりきゅう理論の教科書13～14頁を読むこと。 復習：学習した内容を追試すること。	予習：はりきゅう理論の教科書13～14頁を読むこと。 復習：学習した内容を追試すること。
10	振せん術、副刺激術	予習：はりきゅう理論の教科書13～14頁を読むこと。 復習：学習した内容を追試すること。	予習：はりきゅう理論の教科書13～14頁を読むこと。 復習：学習した内容を追試すること。
11	示指打法、随鍼術	予習：はりきゅう理論の教科書13～14頁を読むこと。 復習：学習した内容を追試すること。	予習：はりきゅう理論の教科書13～14頁を読むこと。 復習：学習した内容を追試すること。

		復習：学習した内容を追試すること。	
12	内調術、細指術	予習：はりきゅう理論の教科書 13～14 頁を読むこと。 復習：学習した内容を追試すること。	
13	管散術、乱鍼術	予習：はりきゅう理論の教科書 13～14 頁を読むこと。 復習：学習した内容を追試すること。	
14	鍼尖転移法、刺鍼転向術	予習：はりきゅう理論の教科書 13～14 頁を読むこと。 復習：学習した内容を追試すること。	
15	総括(特殊鍼法、様々な刺鍼の術式)	予習：はりきゅう理論の教科書 13～14、15～17 頁を読むこと。 復習：学習した内容を追試すること。	
成績評価方法と基準			割合
①小テスト			①40%
②期末試験			②60%

授業科目名	応用鍼灸実技 I (鍼灸 B)		
主担当教員	松熊 秀明	担当教員	松熊 秀明、仲村 正子
科目ナンバリング	SS311	科目区分	専門科目 DP①
配当年次	2	開講学期	前期 月曜 4 限
授業形態	実習	単位数	1
授業概要	<p>特殊鍼法(小児鍼、皮内鍼、皮内鍼、円皮鍼、低周波鍼通電法、耳鍼、頭鍼鍼法)および、様々な刺鍼の術式について学ぶ。 ※本科目は実務経験のある教員等による授業科目です 到達目標</p> <p>小児鍼、皮内鍼、円皮鍼、低周波鍼通電法、耳鍼、頭鍼鍼法を行うことができる。 履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>実技、実演を多用する予定 積極的に実技に参加すること 1. 出席を重視する。 2. 授業態度が不良(私語、携帯電話をみること等)の者は減点対象とする。 教科書</p>		
教科書執筆小委員会「はりきゅう理論」医道の日本社			
参考書			
図解 鍼灸臨床手技の実践 尾崎昭弘 医歯薬出版株式会社			
研究室/オフィスアワー			
研究室 1(東棟 4F)/月曜日 3 限			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	オリエンテーション	予習・復習:1 年次に学んだ鍼灸実技を追試すること。	
2	小児鍼	予習:はりきゅう理論の教科書 15～17 頁を読むこと。 復習:学習した内容を追試すること。	
3	皮内鍼、円皮鍼	予習:はりきゅう理論の教科書 15～17 頁を読むこと。 復習:学習した内容を追試すること。	
4	低周波鍼通電療法 1	予習:はりきゅう理論の教科書 15～17 頁を読むこと。 復習:学習した内容を追試すること。	
5	低周波鍼通電療法 2	予習:はりきゅう理論の教科書 15～17 頁を読むこと。 復習:学習した内容を追試すること。	
6	耳鍼	予習:はりきゅう理論の教科書 15～17 頁を読むこと。 復習:学習した内容を追試すること。	
7	頭鍼療法	予習:はりきゅう理論の教科書 15～17 頁を読むこと。 復習:学習した内容を追試すること。	
8	間歇術、塵瀉術	予習:はりきゅう理論の教科書 13～14 頁を読むこと。 復習:学習した内容を追試すること。	
9	旋捻術、回旋術	予習:はりきゅう理論の教科書 13～14 頁を読むこと。 復習:学習した内容を追試すること。	
10	振せん術、副刺激術	予習:はりきゅう理論の教科書 13～14 頁を読むこと。 復習:学習した内容を追試すること。	
11	示指打法、随鍼術	予習:はりきゅう理論の教科書 13～14 頁を読むこと。 復習:学習した内容を追試すること。	

12	内臓術、細指術	復習：学習した内容を通読すること。 予習：はりきゅう理論の教科書 13～14 頁を読むこと。 復習：学習した内容を通読すること。
13	管散術、乱臓術	予習：はりきゅう理論の教科書 13～14 頁を読むこと。 復習：学習した内容を通読すること。
14	鍼尖転移法、刺鍼転向術	予習：はりきゅう理論の教科書 13～14、15～17 頁を読むこと。 復習：学習した内容を通読すること。
15	総括(特殊鍼法、様々な刺鍼の術式)	予習：はりきゅう理論の教科書 13～14、15～17 頁を読むこと。 復習：学習した内容を通読すること。
成績評価方法と基準		
①小テスト		
②期末試験		
		割合
		①40%
		②60%

授業科目名	応用鍼灸実技Ⅱ(鍼灸 A)		
主担当教員	高崎 雷太	担当教員	高崎 雷太、増山 祥子、仲西 宏元、大川 祐世
科目ナンバリング	SS312	科目区分	ディプロマポリシー 該当項目 DP①
配当年次	2	開講学期	後期 月曜 1 限 月曜 2 限
授業形態	実習	単位数	1
授業概要	必修・選択		
ロールプレイを通じて、診療の流れを理解する。また、自身が患者になることにより、患者の立場を理解する。ロールプレイおよびカンファレンスでは積極的にディスカッションに参加する。所属施設での実習を行い、3 年次以降の実習に参加する心構えを持つ。 ※本科目は実務経験のある教員等による授業科目です			
到達目標			
①医療者として自覚と責任ある行動ができるようになる。 ②患者の立場を理解する。 ③診療の流れを身に着ける。 ④ディスカッションに自らの意見をもち積極的に参加する。			
履修上の注意(学生へのメッセージ)			
常にそばに患者がいると想定しながら、現場を意識して授業に臨む。 学習グループは 9 月に実施する各専門臨床能力試験(医療面接、整形外科的検査、鍼灸実技)の結果から 4 班に分ける。 学習熱度が低い班は検査法および実技の練習から開始するため、ロールプレイ教材を終えることができない場合は、補習授業への出席を義務付ける。			
教科書			
授業中に配付する資料(テキスト)			
参考書			
特になし			
研究室/オフィスアワー			
報告書の提出時に、各指導教員の指定する日時・場所にて実施する。			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	オリエンテーション 症例のロールプレイの練習 カンファレンス ロールプレイ① 上肢の整形外科疾患に基づいたロールプレイ	単元 1 で配布される実習所を熟読し、服装や髪型について十分に注意すること。 予習：現代医学系鍼灸学Ⅰ(整形外科系)、運動機能検査法、チーム医療とコミュニケーションを再度確認しておくこと。 復習：提示症例や外来診察して症例について病態、治療法などをまとめること。	
2	①症例の問診 ②検査の選択と実施 ③治療計画の作成 ④治療 カンファレンス	予習：現代医学系鍼灸学Ⅰ(整形外科系)、運動機能検査法、チーム医療とコミュニケーションを再度確認しておくこと。 復習：提示症例や外来診察して症例について病態、治療法などをまとめること。	
3	①症例の問診 ②検査の選択と実施 ③治療計画の作成 ④治療 カンファレンス	予習：現代医学系鍼灸学Ⅰ(整形外科系)、運動機能検査法、チーム医療とコミュニケーションを再度確認しておくこと。 復習：提示症例や外来診察して症例について病態、治療法などをまとめること。	
4	①症例の問診 ②検査の選択と実施 ③治療計画の作成 ④治療 カンファレンス	予習：現代医学系鍼灸学Ⅰ(整形外科系)、運動機能検査法、チーム医療とコミュニケーションを再度確認しておくこと。 復習：提示症例や外来診察して症例について病態、治療法などをまとめること。	
5	カンファレンス ロールプレイ④	予習：現代医学系鍼灸学Ⅰ(整形外科系)、運動機能検査法、チーム医療とコミュニケーションを再度確認しておくこと。 復習：提示症例や外来診察して症例について病態、治療法などをまとめること。	

	上記の整形外科疾患に基づいたロールプレイ ①症例の問診 ②検査の選択と実施 ③治療計画の作成 ④治療	確認しておくこと。 復習：提示症例や外来診察して症例について病態、治療法などをまとめること。	
6	カンファレンス ロールプレイ⑤ 下肢の整形外科疾患に基づいたロールプレイ ①症例の問診 ②検査の選択と実施 ③治療計画の作成 ④治療	予習：現代医学系鍼灸学Ⅰ（整形外科系）、運動機能検査法、チーム医療とコミュニケーションを再度確認しておくこと。 復習：提示症例や外来診察して症例について病態、治療法などをまとめること。	
7	カンファレンス ロールプレイ⑥ 下肢の整形外科疾患に基づいたロールプレイ ①症例の問診 ②検査の選択と実施 ③治療計画の作成 ④治療	予習：現代医学系鍼灸学Ⅰ（整形外科系）、運動機能検査法、チーム医療とコミュニケーションを再度確認しておくこと。 復習：提示症例や外来診察して症例について病態、治療法などをまとめること。	
8	3年生との合同実習 3年生の患者として診療を受ける。	自身の治療終了後、受けた治療内容について次のカンファレンスまでに検討すること	
9	3年生との合同実習 3年生の患者として診療を受ける。	自身の治療終了後、受けた治療内容について次のカンファレンスまでに検討すること	
10	3年生との合同カンファレンス 各自が診療を受けた内容について、3年生を中心にディスカッションする。	カンファレンスで議論した内容について、レポートを作成する。	
11	3年生との合同カンファレンス 各自が診療を受けた内容について、3年生を中心にディスカッションする。	カンファレンスで議論した内容について、レポートを作成する。	
12	附属施設所見学 施設所にて準備・施設についての説明を受ける。 教員が行う診療を見学する。	実習書を熟読しておくこと。 実習終了後に指定のレポート用紙を用いて、報告書を作成し、1週間以内に担当者へ提出すること。	
13	附属施設所見学 施設所にて準備・施設についての説明を受ける。 教員が行う診療を見学する。	実習書を熟読しておくこと。 実習終了後に指定のレポート用紙を用いて、報告書を作成し、1週間以内に担当者へ提出すること。	
14	3年生との合同実習 3年生の患者として診療を受ける。	施設所見学を踏まえて、自身の症状に対する診療内容を事前に検討しておくこと。	
15	3年生との合同カンファレンス 各自が診療を受けた内容について、3年生を中心にディスカッションする。	カンファレンスを経て、報告書を提出すること。	
成績評価方法と基準			
①カンファレンス報告書 1回 ②施設所見学報告書 1回 報告書を全て提出すること。 全出席とする。			
①50% ②50%			
ロープレイ教材の全てを終える必要がある。習熟度別班で2年次前期までの復習から開始した班は、補習に出席して全教材を終えなければ評価しない。			

現代医学系鍼灸学実習Ⅰ（鍼灸A）（Acupuncture from Modern Medicine Perspective【Practice I】）		現代医学系鍼灸学実習Ⅰ（鍼灸A）		現代医学系鍼灸学実習Ⅰ（鍼灸A）	
授業科目名	佐藤 正人	担当教員	佐藤 正人、辻丸 泰永、鈴木 信	科目区分	DP①
主担当教員	SS305	専門科目	アイロムボリシー	後期	水曜2限
科目ナンバリング	2	開講学期	曜日・時限	必修・選択	必修
配当年次	実習	単位数	1		
授業形態					
授業概要	診察から治療に至るまでの一連の流れを運動器系症候（頸肩腕痛、肩痛、膝痛、腰下肢痛、頭痛）を取り上げて実践的に学習する。治療では、基本技術に加え、各症候に対する具体的な施術法を学ぶ。				
到達目標	※本科目は実務経験のある教員等による授業科目です				
	1. 医療者としての自覚と責任ある行動ができる。 2. 診察所見を元にして鍼灸師にとって必要最低限の鑑別ができる。 3. 鍼灸臨床で遭遇しやすい症候に対して基本的な施術ができる。				
	履修上の注意（学生へのメッセージ） 1. 現代医学系鍼灸学で学んだことをベースにして進行するため、常に両教科をセットにして学習する 2. 常に実際の臨床をイメージして授業に臨む。 3. 医療者として恥じない意識を育て、行動できるようにする。				
	教科書 刺鍼基本テクニックのマスター教本 発行：日本臨床鍼灸懇話会				
	参考書				
	特になし				
	研究室／オフィスアワー				
	講師控え室／授業前後の時間帯				
	授業展開及び授業計画表				
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当		
1	治療に関するオリエンテーション（1年次の復習）	予習／シラバス確認 復習／受講内容の再確認			
2	治療技術基礎 1.	予習／シラバス確認 復習／受講内容の再確認			
3	治療技術基礎 2.	予習／テスト範囲の学習、現代医学系鍼灸学で学んだ範囲に目を通す 復習／刺鍼、施灸、触診など学んだことを追試してみる			
4	治療技術基礎 3.	予習／テスト範囲の学習、現代医学系鍼灸学で学んだ範囲に目を通す 復習／刺鍼、施灸、触診など学んだことを追試してみる			
5	治療技術基礎 4.	予習／テスト範囲の学習、現代医学系鍼灸学で学んだ範囲に目を通す 復習／刺鍼、施灸、触診など学んだことを追試してみる			
6	治療技術基礎 5.	予習／テスト範囲の学習、現代医学系鍼灸学で学んだ範囲に目を通す 復習／刺鍼、施灸、触診など学んだことを追試してみる			
7	頸肩腕痛の治療法（鍼灸基礎技術）	予習／テスト範囲の学習、現代医学系鍼灸学で学んだ範囲に目を通す 復習／刺鍼、施灸、触診など学んだことを追試してみる			
8	頸肩腕痛の治療法（鍼灸治療技術）	予習／テスト範囲の学習、現代医学系鍼灸学で学んだ範囲に目を通す 復習／刺鍼、施灸、触診など学んだことを追試してみる			
9	頸肩腕痛の治療法、3.（病態鑑別～治療技術）	予習／テスト範囲の学習、現代医学系鍼灸学で学んだ範囲に目を通す			

10	頸肩腕痛の治療法 4. (診察～治療技術)	復習/刺鍼、施灸、触診など学んだことを追試してみる 予習/テスト範囲の学習、現代医学系鍼灸学で学んだ範囲に目を通す 復習/刺鍼、施灸、触診など学んだことを追試してみる	
11	腰下肢痛の治療法 1. (鍼灸基礎技術)	予習/テスト範囲の学習、現代医学系鍼灸学で学んだ範囲に目を通す 復習/刺鍼、施灸、触診など学んだことを追試してみる	
12	腰下肢痛の治療法 2. (鍼灸基礎技術)	予習/テスト範囲の学習、現代医学系鍼灸学で学んだ範囲に目を通す 復習/刺鍼、施灸、触診など学んだことを追試してみる	
13	腰下肢痛の治療法 3. (痛症鑑別～治療技術)	予習/テスト範囲の学習、現代医学系鍼灸学で学んだ範囲に目を通す 復習/刺鍼、施灸、触診など学んだことを追試してみる	
14	腰下肢痛の治療法 4. (診察～治療技術)	予習/テスト範囲の学習、現代医学系鍼灸学で学んだ範囲に目を通す 復習/刺鍼、施灸、触診など学んだことを追試してみる	
15	診察法と治療法の前期総括	予習/各症候に対して診察～治療までをイメージしてみる 復習/学生同士で診察～治療までをシミュレーションしてみる	
成績評価方法と基準			割合
①実技試験 ②授業中の技術向上に対する姿勢 4/5以上の出席を必要とする。			①80% ②20%
授業内での評価は、実技テストおよび以下の項目が守れず、その場で即座に改善できなかった者に対して行う。 1. 「実技授業に適さない身だしなみ」は、授業が始まる前に全て整えることを怠らない。 2. ハット上、およびその周りには、授業に関わらない物(飲食物、カバン、上着など)は一切置かない。また、ワゴンの上段は清潔を保つこと。 3. 授業中のやむを得ない「退出」は、その「理由」を教員に告げて了解を得え、「入室」時も教員に帰ってきた。			

現代医学系鍼灸学実習 I (鍼灸 B) (Acupuncture from Modern Medicine Perspective 【Practice I】)		現代医学系鍼灸学実習 I (鍼灸 B)	
授業科目名	現代医学系鍼灸学実習 I (鍼灸 B)	担当教員	佐藤 正人、辻丸 泰永、鈴木 信
主担当教員	佐藤 正人	科目区分	専門科目
科目ナンバリング	SS305	開講学期	後期
配当年次	2	単位数	1
授業形態	実習	必修・選択	必修
授業概要	診察から治療に至るまでの一連の流れを運動器系症候(頸肩腕痛、肩痛、膝痛、腰下肢痛、頭痛)を取り上げて実践的に学習する。治療では、基本技術に加え、各症候に対する具体的な治療法を学ぶ。 ※本科目は実務経験のある教員等による授業科目です		
到達目標	1. 医療者と責任ある行動ができる。 2. 診察所見を元にして鍼灸師にとって必要最低限の鑑別ができる。 3. 鍼灸臨床で遭遇しやすい症候に対して基本的な施術ができる。		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	1. 現代医学系鍼灸学で学んだことをベースにして進行するため、常に高教科をセットにして学習する 2. 常に実際の臨床をイメージして授業に臨む 3. 医療者として恥じない意識を育て、行動できるようにする。		
教科書	鍼灸基本テクニックのマスター教本 発行: 日本臨床鍼灸懇話会		
参考書	特になし		
研究室/オフィスアワー	講師控え室/授業前後の時間帯		
授業展開及び授業計画表	回数	学修内容	予習・復習・課題等 担当
	1	治療に関するオリエンテーション(1年次の復習)	予習/シラバス確認 復習/受講内容の再確認
	2	治療技術基礎 1.	予習/シラバス確認 復習/受講内容の再確認
	3	治療技術基礎 2.	予習/テスト範囲の学習、現代医学系鍼灸学で学んだ範囲に目を通す 復習/刺鍼、施灸、触診など学んだことを追試してみる
	4	治療技術基礎 3.	予習/テスト範囲の学習、現代医学系鍼灸学で学んだ範囲に目を通す 復習/刺鍼、施灸、触診など学んだことを追試してみる
	5	治療技術基礎 4.	予習/テスト範囲の学習、現代医学系鍼灸学で学んだ範囲に目を通す 復習/刺鍼、施灸、触診など学んだことを追試してみる
	6	治療技術基礎 5.	予習/テスト範囲の学習、現代医学系鍼灸学で学んだ範囲に目を通す 復習/刺鍼、施灸、触診など学んだことを追試してみる
	7	頸肩腕痛の治療法 1. (鍼灸基礎技術)	予習/テスト範囲の学習、現代医学系鍼灸学で学んだ範囲に目を通す 復習/刺鍼、施灸、触診など学んだことを追試してみる
	8	頸肩腕痛の治療法 2. (鍼灸治療技術)	予習/テスト範囲の学習、現代医学系鍼灸学で学んだ範囲に目を通す 復習/刺鍼、施灸、触診など学んだことを追試してみる
	9	頸肩腕痛の治療法 3. (痛症鑑別～治療技術)	予習/テスト範囲の学習、現代医学系鍼灸学で学んだ範囲に目を通す 復習/刺鍼、施灸、触診など学んだことを追試してみる

10	頭肩腕痛の治療法 (診察～治療技術)	復習/刺鍼、施灸、触診など学んだことを通試してみる 予習/テキスト範囲の学習、現代医学系鍼灸学で学んだ範囲に目を通す 復習/刺鍼、施灸、触診など学んだことを通試してみる	
11	腰下肢痛の治療法 (鍼灸基礎技術)	予習/テキスト範囲の学習、現代医学系鍼灸学で学んだ範囲に目を通す 復習/刺鍼、施灸、触診など学んだことを通試してみる	
12	腰下肢痛の治療法 (鍼灸治療技術)	予習/テキスト範囲の学習、現代医学系鍼灸学で学んだ範囲に目を通す 復習/刺鍼、施灸、触診など学んだことを通試してみる	
13	腰下肢痛の治療法 (病態鑑別～治療技術)	予習/テキスト範囲の学習、現代医学系鍼灸学で学んだ範囲に目を通す 復習/刺鍼、施灸、触診など学んだことを通試してみる	
14	腰下肢痛の治療法 (診察～治療技術)	予習/テキスト範囲の学習、現代医学系鍼灸学で学んだ範囲に目を通す 復習/刺鍼、施灸、触診など学んだことを通試してみる	
15	診察法と治療法の前期総括	予習/各症候に対して診察～治療までをイメージしてみる 復習/学生同士で診察～治療までをシミュレーションしてみる	
成績評価方法と基準			割合
①素技試験 ②授業中の技術向上に対する姿勢 4/5以上の出席を必要とする。			
授業内での評価は、実技テスト(おおよび以下の項目が守れず)に忠告を受け、その場で即座に改善できなかつた者に対して行う。 1. 「実技授業に通さない身だしなみ」は、授業が始まる前に全て整えることを怠らない。 2. ベット上、およびその周りには、授業に関わらない物(飲食物、カバン、上着など)は一切置かない。また、ワゴンの上段は清潔を保つこと。 3. 授業中のやむを得ない「退出」は、その「理由」を教員に告げて了解を得、「入室」時も教員に帰ってきた			①80% ②20%

東洋医学系鍼灸実習Ⅰ(鍼灸A) (Acupuncture from Oriental Medicine Perspective [Practice 1])			
授業科目名	東洋医学系鍼灸実習Ⅰ(鍼灸A)	担当教員	堀川 奈央
主担当教員	堀川 奈央	専門科目	アロマトロジー
科目ナンバリング	SS308	後期	水曜1限
配当年次	2	単位数	1
授業形態	実習	必修・選択	必修
授業概要			
鍼灸臨床を行うにあたって、必要となる東洋医学的診察法である四診を中心とした弁証を修得する。 特に東洋医学の基礎を理解し、その中でも四診法と弁証構成から弁証論治ができ、それに準じた治療法を考へ身に着けること。 ※本科目は実務経験のある教員等による授業科目です			
到達目標			
1. 四診法(望・問・聞・切)を理解し、説明できる 2. 四診法から患者の病態(弁証)ができ鍼灸治療に応用できる 3. 各疾患の弁証を理解し、鍼灸治療に応用できる 4. 弁証を理解し、説明できる 5. 八綱弁証・病邪弁証・気血津液弁証・臟腑弁証などを理解し、説明できる 履修上の注意(学生へのメッセージ)			
1. テキスト・配布された資料にも眼を通すこと。 2. 出席は重視する。			
教科書			
配布テキスト			
参考書			
鍼灸学基礎編			
研究室/オフィスアワー			
東棟4階研究室9 昼休み・随時相談			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	概要説明(弁証構成)	予習:1年生で学習した東洋医学の基礎を復習しておくこと 復習:基本的な構成を覚えること	
2	八綱弁証① 表裏・寒熱について	予習:1年生で学習した東洋医学の基礎を復習しておくこと 復習:虚寒・寒熱の説明と鍼灸治療できるようにしておくこと	
3	八綱弁証② 虛実・陰陽について	予習:1年生で学習した東洋医学の基礎を復習しておくこと 復習:虚実・陰陽の説明と鍼灸治療できるようにしておくこと	
4	病邪弁証① 傷寒・温病について 内因・外因・不内外因について	予習:1年生で学習した東洋医学の基礎を復習しておくこと 復習:傷寒・温病の説明と鍼灸治療できるようにしておくこと	
5	病邪弁証② 六経弁証について	予習:1年生で学習した東洋医学の基礎を復習しておくこと 復習:六経弁証の説明と鍼灸治療できるようにしておくこと	
6	病邪弁証③ 三焦弁証、衛気營血弁証について	予習:1年生で学習した東洋医学の基礎を復習しておくこと 復習:衛気營血弁証・三焦弁証の説明と鍼灸治療できるようにしておくこと	
7	気血津液弁証① 気・血の病証について	予習:1年生で学習した東洋医学の基礎を復習しておくこと 復習:気血津液弁証の説明と鍼灸治療できるようにしておくこと	
8	気血津液弁証② 気・血・津液の病証について	予習:1年生で学習した東洋医学の基礎を復習しておくこと 復習:気血津液弁証の説明と鍼灸治療できるようにしておくこと	
9	臟腑弁証① 心・小腸の病証について	予習:1年生で学習した東洋医学の基礎を復習しておくこと	

10	臟腑弁証② 肺・大腸の病証について	復習：臟腑弁証の説明と鍼灸治療できるように 予習：1年生で学習した東洋医学の基礎を復習し ておくこと 復習：臟腑弁証の説明と鍼灸治療できるように 予習：1年生で学習した東洋医学の基礎を復習し ておくこと	
11	臟腑弁証③ 脾・胃の病証について	復習：臟腑弁証の説明と鍼灸治療できるように 予習：1年生で学習した東洋医学の基礎を復習し ておくこと	
12	臟腑弁証④ 肝・胆の病証について	復習：臟腑弁証の説明と鍼灸治療できるように 予習：1年生で学習した東洋医学の基礎を復習し ておくこと	
13	臟腑弁証⑤ 腎・膀胱の病証について	復習：臟腑弁証の説明と鍼灸治療できるように 予習：1年生で学習した東洋医学の基礎を復習し ておくこと	
14	経絡弁証 経脈・経筋の病証について	復習：経絡弁証の説明と鍼灸治療できるように 予習：1年生で学習した東洋医学の基礎を復習し ておくこと	
15	全体のもとめと振り廻り	復習：臟腑弁証の説明と鍼灸治療できるように 予習：1年生で学習した東洋医学の基礎を復習し ておくこと	
成績評価方法と基準		割合	
4/5以上の出席を必要とする。 筆記試験 50%、実技試験 50%で評価する。筆記試験と実技試験ともに60%以上で単位を認定する 筆記試験 50%、実技試験 50%で評価する。筆記試験は授業期間中に実施する。 但し、筆記試験は定期試験で実施し、実技試験は授業期間中に実施する。		筆記 50%、 実技 50%	

東洋医学系鍼灸実習Ⅰ(鍼灸B) (Acupuncture from Oriental Medicine Perspective [Practice I])		東洋医学系鍼灸実習Ⅰ(鍼灸B)	
授業科目名	堀川 奈央	担当教員	堀川 奈央
主担当教員	堀川 奈央	専門科目	デプロマポリシー 該当項目
科目ナンバリング	SS008	科目区分	DP①
配当年次	2	開講学期	曜日・時限 水曜2限
授業形態	実習	単位数	1
授業概要	鍼灸臨床を行うにあたって、必要となる東洋医学的診察法である四診を中心とした弁証を修得する。 特に東洋医学的基礎を理解し、その中でも四診法と弁証構成から弁証論法ができ、それに準じた治療法を考え身に着けること。 ※本科目は実務経験のある教員等による授業科目です		
到達目標	1. 四診法(望・問・聞・切)を理解し、説明できる 2. 四診法から患者の病態(弁証)ができ鍼灸治療に活用できる 3. 各疾患の弁証を理解し、鍼灸治療に活用できる 4. 弁証を理解し、説明できる 5. 八綱弁証、病邪弁証、気血津液弁証、臟腑弁証などを理解し、説明できる		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	1. テキスト、配布された資料にも眼を通すこと。 2. 出席は重視する。		
教科書			
配布テキスト			
参考書			
鍼灸学基礎編			
研究室/オフィスアワー	東棟 4階研究室9 屋体が随時相談		
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	概要説明(弁証構成)	予習：1年生で学習した東洋医学の基礎を復習し ておくこと 復習：基本的な構成を覚えること	
2	八綱弁証① 表裏・寒熱について	予習：1年生で学習した東洋医学の基礎を復習し ておくこと 復習：虚寒・寒熱の説明と鍼灸治療できるように しておくこと	
3	八綱弁証② 虚实・陰陽について	予習：1年生で学習した東洋医学の基礎を復習し ておくこと 復習：虚実・陰陽の説明と鍼灸治療できるように しておくこと	
4	病邪弁証① 傷寒・温病について	予習：1年生で学習した東洋医学の基礎を復習し ておくこと 復習：傷寒・温病の説明と鍼灸治療できるように しておくこと	
5	病邪弁証② 六経弁証について	予習：1年生で学習した東洋医学の基礎を復習し ておくこと 復習：六経弁証の説明と鍼灸治療できるように しておくこと	
6	病邪弁証③ 三焦弁証、衛氣營血弁証について	予習：1年生で学習した東洋医学の基礎を復習し ておくこと 復習：衛氣營血弁証・三焦弁証の説明と鍼灸治療 できるように	
7	気血津液弁証① 気・血の病証について	予習：1年生で学習した東洋医学の基礎を復習し ておくこと 復習：気血津液弁証の説明と鍼灸治療できるよう に	
8	気血津液弁証② 気・血・津液の病証について	予習：1年生で学習した東洋医学の基礎を復習し ておくこと 復習：気血津液弁証の説明と鍼灸治療できるよう に	
9	臟腑弁証① 心・小腸の病証について	予習：1年生で学習した東洋医学の基礎を復習し ておくこと	

10	臓腑弁証② 肺・大腸の病証について	復習：臓腑弁証の説明と鍼灸治療できるように 予習：1年生で学習した東洋医学の基礎を復習しておくこと 復習：臓腑弁証の説明と鍼灸治療できるようにしておくこと	割合 筆記50%、 実技50%
11	臓腑弁証③ 脾・胃の病証について	予習：1年生で学習した東洋医学の基礎を復習しておくこと 復習：臓腑弁証の説明と鍼灸治療できるようにしておくこと	
12	臓腑弁証④ 肝・胆の病証について	予習：1年生で学習した東洋医学の基礎を復習しておくこと 復習：臓腑弁証の説明と鍼灸治療できるようにしておくこと	
13	臓腑弁証⑤ 腎・膀胱の病証について	予習：1年生で学習した東洋医学の基礎を復習しておくこと 復習：臓腑弁証の説明と鍼灸治療できるようにしておくこと	
14	経絡弁証 経脈・経筋の病証について	予習：1年生で学習した東洋医学の基礎を復習しておくこと 復習：経絡弁証の説明と鍼灸治療できるようにしておくこと	
15	全体のまとめと振り返り	東洋医学的な治療方法について自分自身で考え治療ができるように	
成績評価方法と基準			
4/5以上の出席を必要とする。筆記試験と実技試験ともに60%以上で単位を認定する。筆記試験50%、実技試験50%で評価する。筆記試験は定期試験で実施し、実技試験は授業期間中に実施する。但し、筆記試験は定期試験で実施し、実技試験は定期試験で実施する。			

授業科目名	キャリアデザイン(鍼灸) (Career Designs)		
主担当教員	辻 涼太	担当教員	辻 涼太、鍋田 智之
科目ナンバリング	SS505	科目区分	ディプロマポリシー 該当項目 DP②③④
配当年次	1	開講学期	曜日・時限 火曜1限
授業形態	講義	単位数	1 必修・選択 必修
授業概要	<p>大医学は将来の自己像を考え、ステップアップするための重要な選択である。自身が描いた将来像を実現するために、大学生活を有意義に過ごす必要がある。そのためには、1年次に明確な将来計画を考え、大学在学中に何をしなければならぬかを定める必要がある。自身が考え、実践した結果が社会に求められる人材への成長に繋がり、就職活動とその他の結果にも結び付く。本授業では、業界研究を通じて自身のキャリアデザインを作成し、社会人として求められる「主体性」「協調性」「論理性」の基礎を身につける。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本大学を選んだ進路選択理由について自己確認することができる。 2. 鍼灸業界の現状と将来性について理解し、業界研究を通じて自分のキャリアデザインを作成できる。 3. 自己分析を通じて自分自身を知り、自己変革に繋げることができる。 4. 社会人としてのマナーや態度を理解し、大学生活における生活習慣を身につけることができる。 5. 目標とする資格について理解し、大学生活における学習目標を明確にすることができる。 <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 大学生活を有意義に過ごすだけでなく、卒業後の将来計画にも関係する科目であることを理解する。 2. 社会人へのステップとして、大学では自ら情報を収集し、整理、報告しなければならぬことを理解し、主体的に取り組むこと。 3. グループワークでは、互いの考えを尊重するとともに、自分の意見を相手に説明する力が必要となる。 4. 自分のキャリアデザインについては、家族や周囲の助言を受けつつも、自分自身が考えて決めなければならないことを理解すること。 5. 業界セミナーについては、講師の都合により日程が予定と異なる場合がある。この場合、講義順序の変更を行うことがある。 		
教科書			
特にあります。			
参考書			
授業時に紹介します。			
研究室/オフィスアワー			
前期 金曜日1、2時間目 東棟4階研究室			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	オリエンテーション グループワーク「鍼灸学科を選択した理由と将来の目標」 各自3分間の発表	「鍼灸学科を選択した理由と将来の目標」について、指定の用紙に記入して持参すること。	
2	図書館セミナー 図書館利用方法、WEBによる文献検索、収集方法について	医療の諸問題について「グループワーク、レポート作成のために、学習した情報収集作業を駆使して準備すること。」 自分の長所、短所について各10種類列記し、それぞれ事例をもってアピールできるように準備しておくこと。 社会人・医療人としてのマナーを心掛けて学生生活を送ること。	
3	社会人・医療人としてのマナーと態度 自己分析と自己アピール グループワーク		
4	「医療の諸問題について」グループディスカッション	「医療の諸問題について」レポートを作成して授業に出席すること。 グループで代表1例を選び、発表に用いるパワーポイントの作成など、発表準備をすること。	
5	「医療の諸問題について」 グループ発表	グループごとに発表準備をすること。	
6	業界セミナー 鍼灸業界の現状と今後	鍼灸学会・鍼灸師会のホームページを閲覧してか ら授業に臨むこと。	
7	業界セミナー スポーツトレーナーによる特別講義	自分の興味のある分野の情報を収集すること	
8	鍼灸師資格とその他の資格との関連について 専門性の高い資格・技術の応用範囲について	興味をもった資格情報を自身で調査すること。	

9	鍼灸学科カリキュラムと希望する分野を目指すための選択授業の組み合わせについて	学生歴のキャリアグラムを事前に確認し、学生歴を当日持参すること。また、自分の興味のある分野について、家族とも話し合ってくること。	
10	業界研究① WEBによる業界情報の収集	自身の目指す将来構想をまとめること。 授業で調べた希望する業界情報を整理してくること。	
11	業界研究② WEBによる業界情報の収集 求人情報の閲覧 勤務希望地域、アクセス、希望条件の検討	架空でよいが、希望する就職条件を考慮してくること。 授業で調査した結果をレポートにまとめること。	
12	業界セミナー 医療機関での研修と勤務に関する特別講義	授業11で調査した内容をレポートにまとめること。 同じ目標を持つ者同士で業界の現状、目指す資格、求められる技術、在学中のプラン、就職活動についてまとめ、次の発表用のパワーポイントなどプレゼンテーションの準備をすること。	
13	業界研究結果に関するグループワーク	履歴書を作成するための基礎情報を整理してくること。 自身の考えるキャリアプランについて、保護者と話してくること。	
14	業界研究結果に関するグループ発表 パワーポイントによる発表		
15	履歴書の記載。 キャリアデザインの作成と提出	面接試験のトレーニングを行うこと。	
成績評価方法と基準			割合
①キャリアデザインレポート20点			①20%
②履歴書 20点			②20%
③面接実技試験 60点			③60%
上記の総合評価の結果、60点以上で単位認定する。			

授業科目名		学外見学実習Ⅰ(鍼灸) (Extramural Observation Training I)		
主担当教員	松熊 秀明	担当教員	松熊 秀明、大月 隆史	
科目ナンバリング	SS524	科目区分	専門科目	DP①④
配当年次	2	開講学期	前期	前期(実習)、 後期(実習)
授業形態	実習	単位数	1	必修・選択 必修
授業概要				
3年次に臨床実習を行う前に、社会人として自覚し、求められる姿勢について理解する場として、本実習を実施する。学生各自が多様な分野で実習を行い、社会に求められる人材として成長することを期待している。				
到達目標				
①社会人として求められる「礼」について実践できる。				
②組織の一員として、指示事項を的確に遂行できる。				
③活動に自主的かつ積極的に取り組む。				
④チーム活動ではメンバーと協調性を発揮して進めることができる。				
⑤議論には積極的に参加し、論理的に物事を考え、論理的に行動に移すことができる。				
履修上の注意(学生へのメッセージ)				
単元1,14,15は全員参加にて開催する。指定する日時に必ず出席すること。 大学が指定する施設以外の学外活動を行う場合は、必ず責任者の署名・捺印を受けた報告書を提出する。				
教科書				
なし				
参考書				
なし				
研究室/オフィスアワー				
学科長・副学科長・学生支援室にて随時受け付ける。				
授業展開及び授業計画表				
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当	
1	オリエンテーション 社会人マナー研修	社会人としてあるべき姿について、考えてくるように。		
2	学外ボランティア活動 大学指定実習先での活動 ※社会人としての姿勢として、主体性・協調性・論理性をもとに着けてくること。	実習先について事前に調査し、適切な準備をすること。特に指定されている服装および準備物は急がないこと。また、事前に指示を受けた事項については必ず実行してから実習に臨むこと。		
3	学外ボランティア活動 大学指定実習先での活動 ※社会人としての姿勢として、主体性・協調性・論理性をもとに着けてくること。	実習先について事前に調査し、適切な準備をすること。特に指定されている服装および準備物は急がないこと。また、事前に指示を受けた事項については必ず実行してから実習に臨むこと。		
4	学外ボランティア活動 大学指定実習先での活動 ※社会人としての姿勢として、主体性・協調性・論理性をもとに着けてくること。	実習先について事前に調査し、適切な準備をすること。特に指定されている服装および準備物は急がないこと。また、事前に指示を受けた事項については必ず実行してから実習に臨むこと。		
5	学外ボランティア活動 大学指定実習先での活動 ※社会人としての姿勢として、主体性・協調性・論理性をもとに着けてくること。	実習先について事前に調査し、適切な準備をすること。特に指定されている服装および準備物は急がないこと。また、事前に指示を受けた事項については必ず実行してから実習に臨むこと。		
6	学外ボランティア活動 大学指定実習先での活動 ※社会人としての姿勢として、主体性・協調性・論理性をもとに着けてくること。	実習先について事前に調査し、適切な準備をすること。特に指定されている服装および準備物は急がないこと。また、事前に指示を受けた事項については必ず実行してから実習に臨むこと。		
7	学外ボランティア活動 大学指定実習先での活動 ※社会人としての姿勢として、主体性・協調性・論理性をもとに着けてくること。	実習先について事前に調査し、適切な準備をすること。特に指定されている服装および準備物は急がないこと。また、事前に指示を受けた事項については必ず実行してから実習に臨むこと。		
8	学外ボランティア活動 大学指定実習先での活動 ※社会人としての姿勢として、主体性・協調性・論理性をもとに着けてくること。	実習先について事前に調査し、適切な準備をすること。特に指定されている服装および準備物は急がないこと。また、事前に指示を受けた事項については必ず実行してから実習に臨むこと。		

9	学外ボランティア活動 大学指定実習先での活動 ※社会人としての姿勢として、主体性・協調性・論理性をもとに備けてくること。	実習先について事前に調査し、適切な準備をすること。特に指定されている服装および準備物は急がないこと。また、事前に指示を受けた事項については必ず実行してから実習に臨むこと。	
10	学外ボランティア活動 大学指定実習先での活動 ※社会人としての姿勢として、主体性・協調性・論理性をもとに備けてくること。	実習先について事前に調査し、適切な準備をすること。特に指定されている服装および準備物は急がないこと。また、事前に指示を受けた事項については必ず実行してから実習に臨むこと。	
11	学外ボランティア活動 大学指定実習先での活動 ※社会人としての姿勢として、主体性・協調性・論理性をもとに備けてくること。	実習先について事前に調査し、適切な準備をすること。特に指定されている服装および準備物は急がないこと。また、事前に指示を受けた事項については必ず実行してから実習に臨むこと。	
12	学外ボランティア活動 大学指定実習先での活動 ※社会人としての姿勢として、主体性・協調性・論理性をもとに備けてくること。	実習先について事前に調査し、適切な準備をすること。特に指定されている服装および準備物は急がないこと。また、事前に指示を受けた事項については必ず実行してから実習に臨むこと。	
13	学外ボランティア活動 大学指定実習先での活動 ※社会人としての姿勢として、主体性・協調性・論理性をもとに備けてくること。	実習先について事前に調査し、適切な準備をすること。特に指定されている服装および準備物は急がないこと。また、事前に指示を受けた事項については必ず実行してから実習に臨むこと。	
14	学外活動を通じて社会人としての姿勢についてグループワークを行う。	社会人として求められる姿勢についてまとめること。	
15	学外活動を通じて社会人としての姿勢についてグループワークを行う。	社会人としての姿勢をグループでまとめて、報告書を出すこと。	
成績評価方法と基準			
単元 1, 14, 15 への出席は必須とする。			
①活動報告書の提出を必須とする。40%。			
②グループワーク後に作成する報告書を重箱する。60%。			
実習先より、実習中に不適切な言動から実習を中止された場合、評価を行わない。			

授業科目名		美容鍼灸学総論(鍼灸)	
主担当教員	森 美侑紀	担当教員	森 美侑紀
科目ナンバリング	SS626	科目区分	ディプロマポリシー 該当項目
配当年次	2	開講学期	曜日・時限 金曜 3 限 金曜 4 限
授業形態	演習	単位数	1
授業概要	<p>心身の健康と美を内面から高める手法としてのアロマセラピーを科学的に学ぶ。アロマセラピーに関する基礎知識、禁忌や注意事項、精油の選択方法、状況に応じたケア方法など「安全かつ的確に用いるための理論と実践方法を学ぶ。</p> <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・補完代替医療の中でのアロマセラピーの役割を理解する。 ・安全かつ的確な実践方法を学ぶ。 ・安全かつ的確な実践方法を学ぶ。 ・安全かつ的確な実践方法を学ぶ。 <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>実技にも積極的に参加し、自らの心身両面を通してアロマセラピーの有用性、危険性を感じ、学んでいただきたいと思えます。遅刻・欠席、忘れ物のないよう。</p> <p>教科書</p> <p>もっと身近にアロマセラピー メディカルから日常まで 改定増補版/森美侑紀著/森ノ宮医療学園出版部</p> <p>参考書</p> <p>配布プリント</p> <p>研究室/オフィスアワー</p> <p>木曜日午後5時～7時</p>		
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	アロマセラピーの概要	予習:テキストp6-18を読むこと 復習:配布資料や板書内容も併せて振り返りを行うこと	
2	精油の化学成分と禁忌	予習:テキストp127-133を臨んでおくこと 復習:配布資料や板書内容も併せて振り返りを行うこと	
3	植物油の基礎知識	予習:テキストp118-126を臨んでおくこと 復習:配布資料や板書内容も併せて振り返りを行うこと	
4	アロマセラピーの実践 ①上肢のトリートメント座位	上肢のケアにおける注意事項の復習 ならびに手技の復習	
5	アロマセラピーの実践 ②上肢のトリートメント背臥位	上肢のケアにおける注意事項の復習 ならびに手技の復習	
6	アロマセラピーの実践 ③下肢のトリートメント	下肢のケアにおける注意事項の復習 ならびに手技の復習	
7	アロマセラピーの実践 ④上下肢のトータルケア	上肢・下肢のケアにおける注意事項の復習 ならびに手技の復習	
8	アロマセラピーの実践 ⑤背部へのトリートメント	背部のケアにおける注意事項の復習 ならびに手技の復習	
9	アロマセラピーの実践 ⑥背部から頭部へのトリートメント	背部のケアにおける注意事項の復習 ならびに手技の復習	
10	アロマセラピーの実践 ⑦腹部のトリートメント	腹部のケアにおける注意事項の復習 ならびに手技の復習	
11	アロマセラピーの実践 ⑧フェイスタリートメントの基礎	フェイスタリアにおける注意事項の復習 ならびに手技の復習	
12	アロマセラピーの実践 ⑨フェイスタリートメントの応用	フェイスタリアにおける注意事項の復習 ならびに手技の復習	
13	アロマセラピーの実践 ⑩トータルケア1	4～12 回までのケアの総復習	
14	アロマセラピーの実践 ⑪トータルケア2	4～12 回までのケアの総復習	

15	全体のまとめと振り返り	配布資料や板書内容も併せて振り返りを行うこと
成績評価方法と基準		割合
実技レポート 筆記試験		40% 60%
		2/3以上の出席が必要

授業科目名		テーピング技術論(鍼灸) (Taping Skills)	
担当教員	宮武 大貴	担当教員	宮武 大貴、鍋田 智之、伊奈 新太郎
科目ナンバリング	SS627	科目区分	ティップマボリシー 該当項目 DP①
配当年次	2	開講学期	曜日・時限 木曜1限
授業形態	実習	単位数	1
授業概要	トレーナーやスポーツ指導者が現場で目の当たりにする外傷や障害に対するテーピングを応用も含め機能的に巻けること		
到達目標	各部位におけるスポーツ外傷や障害に対するテーピングを応用も含め機能的に巻ける		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	2グループに分け、初回は合同でオリエンテーションを行い、上肢/体幹グループと下肢グループを7回目で入れ替わる。上肢/体幹には肩関節・膝関節を扱う為、露出が可能な服装にて受講して下さい。下肢は大腿部・膝関節・足関節を扱う為、大腿部から足趾までが露出が可能な服装にて受講して下さい。		
教科書			
適宜資料を配布する			
参考書			
スポーツ外傷障害からみたテーピングの実技と理論(第5版)、文光堂、山本幾栄・野田哲由・平沼憲治			
研究室/オフィスアワー			
棟棟 4F 共同研究室/月曜日 13:00~ 金曜日 13:00~ (不定期なため事前に確認が必要)			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	オリエンテーション テーピングの基礎知識 足関節捻挫予防テーピングの巻き方と実践	シフトの確認	宮武大貴 伊奈新太郎
2	肩関節①(肩関節の脱臼予防テーピング)	肩関節の解剖	宮武大貴
3	肩関節②(肩鎖関節の重脱臼時の痛み軽減テーピング)	前回の理解 肩関節の解剖	宮武大貴
4	肘関節①(側副靭帯損傷の予防テーピングと痛み軽減テーピング①)	前回の理解 肘関節の解剖	宮武大貴
5	肘関節②(肘関節の伸展時における痛みがある場合の固定テーピング)	前回の理解 肘関節の解剖	宮武大貴
6	手関節~指:母指(母指の脱臼予防テーピング)	前回の理解 手関節の解剖	宮武大貴
7	手関節~指:4指(指の脱臼予防テーピング)	前回の理解 手関節の解剖	宮武大貴
8	競技特性テーピング(膝節など)	前回の理解	宮武大貴
9	足関節①(足関節の予防テーピング・踵部)	足関節の解剖	伊奈新太郎
10	足関節②(足関節の予防テーピング・足底筋膜炎・下腿ネオボ)	前回の理解 足関節の解剖	伊奈新太郎
11	足関節③(足関節の予防テーピング・ファンクショナルテーピング・自着性テープ)	前回の理解 足関節の解剖	伊奈新太郎
12	足関節④(足関節の予防テーピング・伸縮性の違い・まとめ)	前回の理解 足関節の解剖	伊奈新太郎
13	膝関節①(膝関節内外側副靭帯損傷・大腿部打撲)	前回の理解 膝関節の解剖	伊奈新太郎
14	膝関節②(前十字靭帯損傷・後十字靭帯損傷・ハムストリングスの肉離れ)	前回の理解 膝関節の解剖	伊奈新太郎
15	膝関節③(膝関節靭帯損傷テーピングまとめ)	前回の理解 膝関節の解剖	伊奈新太郎

成績評価方法と基準	割合
毎授業毎の 1. 巻く・巻かれる姿勢(取り組む姿勢) 2. 巻く際の準備 3. テーピングの出来栄(各部位の最終回の段階で評価) 4/5以上の出席を必要とする。	1. 20% 2. 20% 3. 60%

授業科目名	コンディショニング技術論(鍼灸)		担当教員	宮武 大貴、伊奈 新太郎
主担当教員	宮武 大貴	科目区分	専門科目	DP①
科目ナンバリング	SS628	開講学期	後期	木曜1限
配当年次	2	単位数	1	選択
授業形態	演習			
授業概要	<p>コンディショニングとは「目的とする試合に向けての期間を限定された中で体調と、日常的なトレーニングをいかにによりよい状態で効果的に継続していくか」ということへの対応である。※引用：日本オリンピック委員会 スポーツ現場におけるコンディショニングをあらゆる方向から学習(経験)し、選手をよりよい状態で目的とする試合に臨めるように、自ら身体を動かしながら実践形式で学んでいく、到達目標</p> <p>? 選手へのウォーミングアップおよびクールダウンのメニュー作りができるようになる。 ? あらゆるトレーニングから状況に応じた効果的なトレーニングを選択し、選手のニーズに対応できるようにする。 ? ヘアストレッチング等より選手の疲労回復に努めることができるようになる。</p>			
履修上の注意(学生へのメッセージ)	<p>? 積極的に授業に参加する。 ? 準備から片付けはみんなで行う。</p>			
教科書	無し			
特記事項	無し			
参考書	無し			
研究室/オフィスアワー	無し			
兼任講師控室	無し			
授業展開及び授業計画表	回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
	1	【コンディショニング1】 ガイダンス	予習:シラハスの確認 解剖学 復習:解剖学 骨学・筋学を主に行う。	
	2	【コンディショニング2】 ウォーミングアップの実践①	予習:解剖学 骨学・筋学を主に行う。 復習:ガイダンスの内容	
	3	【コンディショニング3】 ウォーミングアップの実践②	予習:解剖学 骨学・筋学を主に行う。 復習:ウォーミングアップの実践①で学んだこと。	
	4	【コンディショニング4】 ウォーミングアップの実践③	予習:解剖学 骨学・筋学を主に行う。 復習:ウォーミングアップの実践②で学んだこと。	
	5	【コンディショニング5】 下肢ストレッチングの実践①	予習:下肢の筋学を主に覚えておく 復習:ウォーミングアップの実践③で学んだこと。	
	6	【コンディショニング6】 下肢ストレッチングの実践②	予習:下肢の筋学を主に覚えておく 復習:下肢ストレッチングの実践①	
	7	【コンディショニング7】 上肢ストレッチングの実践①	予習:下肢の筋学を主に覚えておく 復習:下肢ストレッチングの実践②	
	8	【コンディショニング8】 上肢ストレッチングの実践②	予習:上肢の筋学を主に覚えておく 復習:上肢ストレッチングの実践①	
	9	【コンディショニング9】 コア・ディネーショントレーニング	予習:上肢の筋学を主に覚えておく 復習:上肢ストレッチングの実践②	
	10	【コンディショニング10】 ファンクショナルトレーニング	予習:ウォーミングアップについて 復習:コア・ディネーショントレーニング	
	11	【コンディショニング11】 S&O トレーニング	予習:ウォーミングアップについて 復習:ファンクショナルトレーニング	
	12	【コンディショニング12】 ウエイトレニング①	予習:ウォーミングアップについて 復習:S&O トレーニング	
	13	【コンディショニング13】 ウエイトレニング②	予習:ウォーミングアップについて 復習:ウエイトレニング	
	14	【コンディショニング14】 講義全体のまとめ①	予習:グループワークのための準備 復習:ウォーミングアップメニュー作成	
	15	【コンディショニング15】 講義全体のまとめ②	予習:グループワークのための準備 復習:ウォーミングアップメニュー作成	

成績評価方法と基準	割合
1 平常点	①30%
2 14回目 15回目 グループによるウォーミングアップメニューの作成と実践	②70%
2/3以上の出席が必要	

授業科目名	スポーツ実習Ⅰ 体づくり運動(鍼灸スポーツ) (Sports Practice I【Basic Exercise】)		
主担当教員	佐野 加奈絵	担当教員	佐野 加奈絵
科目ナンバリング	SS638	科目区分	タイプロボリンター 該当項目 DP①
配当年次	1	開講学期	曜日・時限 水曜3限
授業形態	実習	単位数	1
授業概要	<p>本授業では、自己の身体に關心を持ち、体力・運動能力に関する課題をもって体をほぐし、体力を高めることを目的とする。特に、ウォーミングアップやクーリングダウンに関する基礎的な知識を習得することや多様なストレッチングの特徴を理解することを目的とする。</p> <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己の身体の特徴を把握し、それに応じた体づくり運動を実践できるようにする。 ・科学的根拠に基づき、適切なストレッチングを選択し、ウォーミングアップやクーリングダウンを行える能力を養う。 <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>諸事情により、授業を見学する際もスポーツウェアに着替えてください。</p> <p>教科書</p> <p>文部科学省「中学校学習指導要領解説 保健体育編」東山書房、2008年 文部科学省「高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編」東山書房、2009年</p> <p>参考書</p> <p>細江文科編「動きの『感じ』と『気づき』を大切にしたい体づくり運動の授業づくり」教育出版、2011年</p> <p>研究室/オフィスアワー</p> <p>棟棟 4F 月曜 AM9:00-10:30</p>		
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	体づくり運動の意義と目的	予習: シラバスの確認 復習: 配布プリント、キーワードの確認	
2	ストレッチングの種類と特性	予習: 学習指導要領の確認 復習: 配布プリント、キーワードの確認	
3	ストレッチングの目的と効果	予習: 学習指導要領の確認 復習: 配布プリント、キーワードの確認	
4	ストレッチングの実際	予習: 学習指導要領の確認 復習: 配布プリント、キーワードの確認	
5	ストレッチング実施上のポイントと注意点	予習: 学習指導要領の確認 復習: 配布プリント、キーワードの確認	
6	ウォーミングアップとクーリングダウンとは?	予習: 学習指導要領の確認 復習: 配布プリント、キーワードの確認	
7	ウォーミングアップとクーリングダウンの目的と効果	予習: 学習指導要領の確認 復習: 配布プリント、キーワードの確認	
8	ウォーミングアップとクーリングダウンの実際	予習: 学習指導要領の確認 復習: 配布プリント、キーワードの確認	
9	ウォーミングアップとクーリングダウンの注意点	予習: 学習指導要領の確認 復習: 配布プリント、キーワードの確認	
10	体ほぐしの運動① 自分や仲間の体や心の状態の確認	予習: 学習指導要領の確認 復習: 配布プリント、キーワードの確認	
11	体ほぐしの運動② 体の状態を整える運動	予習: 学習指導要領の確認 復習: 配布プリント、キーワードの確認	
12	体ほぐしの運動③ 仲間と交流を豊かにするため	予習: 学習指導要領の確認 復習: 配布プリント、キーワードの確認	
13	体力を高める運動① 調整力	予習: 学習指導要領の確認 復習: 配布プリント、キーワードの確認	
14	体力を高める運動② 筋力	予習: 学習指導要領の確認 復習: 配布プリント、キーワードの確認	
15	体力を高める運動③ 持久力	予習: 学習指導要領の確認 復習: 配布プリント、キーワードの確認	
成績評価方法と基準	割合		
①指導案20%、②授業への取り組み50%、③課題レポート30%で評価する。	①20%		
	②50%		

③30%

授業科目名		スポーツ実習Ⅲ陸上競技(鍼灸スポーツ) (Sports Practice III [Track and Field])	
主担当教員	伊東 太郎	担当教員	伊東 太郎
科目ナンバリング	SS602	科目区分	DP①③
配当年次	1	開講学期	後期
授業形態	実習	単位数	1
授業概要	<p>本授業は教職課程認定科目の一つであり、中高体育科教育を教授するに足る専門的知識および技能を修得することを一目標とする。受講生が、陸上競技における正しい記録測定の方法と実技中の安全対策を学修するとともに、技能向上に積極的に取り組み、記録挑戦や競争への楽しさや喜びを体験することを期待する。</p> <p>高等学校学習指導要領に基づき、トラック種目として100m、400m、リレー、50mハードル及び2000m競争を、フィールド種目として跳躍種目は走り幅跳び、走り高跳び及び三段跳びを、投てき種目は砲丸投げとやり投げ(ターボジャ)</p> <p>到達目標</p> <p>本授業の学修目標は以下の3点とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 受講生自身が教育現場で見本をみせられるよう、各種目の基本的および効率の良い動きを身につけることができるようにする。 2) 陸上競技のルールやマナーを正確に理解し記録測定を正確に実施できるようにする。 3) 陸上競技各種目の技術の名称や特有の動きのポイント、体力の高め方、運動観察の方法を理解するとともに、安全性に配慮できるようにする。 <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>1回の授業で、複数の種目を組み合わせて練習や記録測定を実施するため、以下の授業計画表のまま実施しない(詳細はオリエンテーションにおいて)。</p> <p>なお、天候、気温により計画等を変更する場合も、雨天に備え、傘やタオルや着替用衣服など各自用意しておくこと。</p> <p>陸上競技の面白さの大部分は、自己記録の更新と相手記録との競争にある。</p> <p>毎週、より高い記録を出すための研究、創意工夫、準備して授業に臨んでほしい。</p> <p>ランニングシューズとジャージの着用は必須。</p> <p>詳細は1週目オリエンテーションにて。</p> <p>教科書</p> <p>特になし</p> <p>参考書</p> <p>日本陸連 公式サイト 陸上競技ルールブック http://www.jaaf.or.jp/athlete/rule/</p> <p>研究室/オフィスアワー</p> <p>履修上の相談等は、PCメールアドレス 12448@muu.jp ホームページをお願いします。</p>		
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	オリエンテーション(授業の進め方、各種目の記録測定および記録の点数化についての説明、ウォーミングアップの実施)	学修内容について予習(種目のルール、動画)	
2	短距離走 100m(正しいランニングフォームのための練習。スタートダッシュ～加速～中間走～フィニッシュまでの流れを学修する。練習 50m走の記録測定方法など)	学修内容について予習(種目のルール、動画)	
3	短距離走 400m(特に中間走の高いスピードを維持して走ることをわらう)	学修内容について予習(種目のルール、動画)	
4	ハードル走①(インターバルを3歩でリズムカルに走る。ハードルを低く走り越す)	学修内容について予習(種目のルール、動画)	
5	ハードル走②(振り上げ脚を振り下ろしながら抜き足を早く前へ引き出す。50m走とハードル走とのタイム差からハードリング技能を検証)	学修内容について予習(種目のルール、動画)	
6	リレー 4×100m(4名の100m走の合計タイムをおおよそ揃えてチーム分けし、バトンパス練習をする)	学修内容について予習(種目のルール、動画)	
7	長距離走 2000m(自己に適したペースを維持して走る。ほぼ毎授業、持久走の練習は実施する。)	学修内容について予習(種目のルール、動画)	
8	走り幅跳び (スピードに乗った助走と力強い踏み切、空中動作から効率良い着地動作まで)	学修内容について予習(種目のルール、動画)	

9	走り高跳び(ペリローロールの修得。はさみ跳びから背跳びへの移行。用具の安全性への配慮)の使い方	学修内容について予習(種目のルール、動画)	
10	三段跳び(ホップ・ステップ・ジャンプの一連の身体)	学修内容について予習(種目のルール、動画)	
11	砲丸投げ(サイドステップやグラブからの投出し速度の獲得。事故防止などの安全対策)	学修内容について予習(種目のルール、動画)	
12	やり投げ(クロスステップからの投出し速度の獲得。事故防止などの安全対策)	学修内容について予習(種目のルール、動画)	
13	希望種目の記録更新への再トライアル(トラック種目)	ルールおよび測定方法の復習	
14	希望種目の記録更新への再トライアル(跳躍種目)	ルールおよび測定方法の復習	
15	希望種目の記録更新への再トライアル(投てき種目)	ルールおよび測定方法の復習	
成績評価方法と基準			
1. 技能点(測定記録を得点化し、短距離走、跳躍、投てきおよび長距離走の計10種目の平均点)			割合
2. レポート			1. 80%
を評価の対象とする。			2. 20%

授業科目名	スポーツ実習Vダンス(鍼灸スポーツ) (Sports Practice V 【Dance】)		
主担当教員	山口 晏奈	担当教員	山口 晏奈
科目ナンバリング	SS604	科目区分	ディプロマポリシー 該当項目 DP①③
配当年次	1	開講学期	曜日・時限 金曜3限
授業形態	実習	単位数	1
授業概要	中心身の健康に役立つ幅広いダンスの指導ができるよう、本実習では楽しみながら行えるスポーツの1つであるエアロビックダンスを中心に、その特性を理解し、基礎技術を学修する。対象者に応じた安全で効果的なダンスプログラムの作成と指導方法を学ぶ。また、各種ダンスで身体表現や創作法を学び、グループワークによる作品づくり・発表を通じ、創作力とコミュニケーション力を養うダンス指導についても学修する。		
到達目標	①ダンスの基礎的な身体の使い方を学び、創る、踊る、観るという総合的な観点でダンスの技能を身につける。 ②共同作業を通して、互いの表現を認め合い、自己表現力を高め、積極的に取り組む姿勢を身につける。 ③教習現場等での指導力を身につける。		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	教育研究の目的として、ビデオ撮影を行う場合があります。撮影にあたっては、学生の権利・名誉を侵害することのないよう充分配慮します。		
教科書	なし		
参考書	健康運動実践指導者養成用テキスト(健康・体力づくり事業財団) 中学校・高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編(文部科学省)		
研究室／オフィスアワー	質問・相談はメールで受け付けております。 問い合わせ: u214093@ouhs.ac.jp		
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	ガイダンス、ダンスとは何か?	予習: シラハスの確認 復習: シラハス・学習指導要領を確認	
2	エアロビックダンス: 特性と効果 ダンス: 仲間と関わり合うリズムダンス	予習: ダンスの特性を考える 復習: 授業をもとにキョウトを確認	
3	エアロビックダンス: 音楽について ダンス: 基本動作の習得	予習: ダンスの音楽を探す 復習: 授業をもとに音楽・リズムの確認	
4	エアロビックダンス: プログラムとは? ダンス: 日常動作からの動きの探求	予習: 音楽を用いた基本的な動きを考える 復習: 授業をもとにプログラムを確認	
5	エアロビックダンス: 運動強度 ダンス: 仲間と関わる動きの探求	予習: 運動強度を調節する方法を考える 復習: 授業をもとに授業内容を確認	
6	エアロビックダンス: 基本ステップ1 ダンス: イメージと動きについて	予習: 基本ステップを考える 復習: 授業をもとに基本ステップを確認	
7	エアロビックダンス: 基本ステップ2 ダンス: 創作法①テーマと音楽	予習: 基本ステップの応用を考える 復習: 授業をもとに基本ステップを確認	
8	エアロビックダンス: 指導者の役割 ダンス: 創作法②動きの大きさや強弱	予習: プログラム作成と指導練習 復習: 授業をもとに指導内容を確認	
9	エアロビックダンス: プログラム作成1 ダンス: 創作法③群の動きと構成展開	予習: 担当プログラムの作成と指導練習 復習: 授業をもとにプログラム内容を確認	
10	エアロビックダンス: プログラム作成2 ダンス: 動きのイメージについて	予習: 担当プログラムの作成と指導練習 復習: 授業をもとにプログラム内容を確認	
11	リハーサル	予習: グループ発表に取り組む 復習: 授業をもとにダンスと授業内容を確認	
12	創作ダンス発表会	予習: グループ発表に取り組む 復習: 授業をもとにダンスと授業内容を確認	
13	ビデオ鑑賞	予習: 作品の内容について思い出ししておく 復習: 発表について評価シートで採点を行う	

14	ダンス指導の実際1	予習：ダンス創作と指導練習 復習：授業をもとに指導内容を確認	
15	ダンス指導の実際2	予習：ダンス創作と指導練習 復習：授業をもとに指導内容を確認	
成績評価方法と基準			割合
①平常点			①50%
②授業内発表			②20%
③レポート提出			③30%

授業科目名		スポーツ実習VI器械運動(鍼灸スポーツ) (Sports Practice VI [Apparatus Gymnastics])	
主担当教員	正見 こずえ	担当教員	正見 こずえ
科目ナンバリング	SS605	科目区分	ディプロマポリシー 該当項目
配当年次	2	開講学期	曜日・時限
授業形態	実習	単位数	必修・選択
授業概要	器械運動は非日常的な要素が多く含まれているため敬遠されがちである。しかし、その運動の多くは、体力・運動能力・空間での身体調整能力などを高めるための基礎であり、大変重要な役割を担っている。 本授業は学習指導要領に取り上げられている技を系統的・段階的に指導し、その技の習得をはかる。 また、技を安全に実施できるための補助法についても習得することを目的とする。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 器械運動の基本的な技を習得する。 器械運動における段階練習の方法や補助方法を習得する。 		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	授業時に説明します。		
教科書	講義中に適宜必要に応じ指示します。		
参考書	講義中に適宜必要に応じ指示します。		
研究室/オフィスアワー	研究室内にて		
授業前後の時間、兼任講師控室等にて	授業前後の時間、兼任講師控室等にて		
授業展開及び授業計画表			
回数	字修内容	予習・復習・課題等	担当
1	ガイダンス/器械運動とは？ 授業の進め方を確認する。 種目特性について理解する。	授業の進め方と種目特性および注意点、テスト種目についての説明	
2	体づくり運動 器械運動の導入にあたる様々な運動を体験する。	器械運動の導入段階としてからだつくり運動を実施する。 手で支える運動から倒立を段階的に習得	
3	マット運動① マット運動の種目特性、技群を理解する。	接点技群の実施(指導方法・技の習得を含む)ゆりかご、前転、後転の習得	
4	マット運動② 支える運動と転がる運動、倒立の体験	接点技群・翻転技群を実施(指導方法・技の習得を含む)および習得する	
5	マット運動③ 接点技群の段階練習を体験する。 技の習得を目指し、補助方法を学習する。	前方倒立回転跳びを中心に、倒立回転系の技を習得	
6	マット運動④ 倒立回転技群の段階練習を体験する。 技の習得を目指し、補助方法を学習する。	技の組み合わせによる連続・テスト種目の練習および習得	
7	マット運動⑤ グループごとにテストを実施する(習得した技を発表する)	技の組み合わせによる連続・テストとその解説	
8	跳び箱運動① 跳び箱運動の種目特性、技群を理解する。	切り返し系・回転系の基本技の実施 抱え込み跳び、台上前転	
9	跳び箱運動② 跳び箱の導入運動、段階練習を体験する。	回転系の基本技の実施(指導方法・技の習得を含む)倒立回転跳び	
10	跳び箱運動③ 切り返し系の技の習得を目指す。	跳び箱運動(切り返し系・回転系)のテストとその解説	
11	跳び箱運動④ 回転系の技の習得を目指す。	懸垂系・腕立て支持系の基本技の実施(指導方法・技の習得を含む)	
12	鉄棒運動① 鉄棒の種目特性、技群を理解する。	懸垂系・腕立て支持系の基本技の実施(指導方法・技の習得を含む)	
13	鉄棒運動② 支持回転の習得を目指す。	技の組み合わせによる連続・テスト種目の練習(上がる、回る、下りる)	

14	軟棒運動③ 「上がる、回って、降りる」技の習得を目指す。 グループ毎にテストを実施する	技の組み合わせによる連続・テストとその解説
15	全体のまとめと振り返り	ノートの提出
成績評価方法と基準		
1. 実技点		割合
2. 授業への取り組み		1. 60% 2. 40%

授業科目名	スポーツ実習Ⅳ水泳(鍼灸スポーツ) (Sports Practice VII 【Swimming】)		
主担当教員	小林 大輔	担当教員	小林 大輔
科目ナンバリング	SS606	科目区分	ディプロマポリシー 該当項目 DP①④
配当年次	2	開講学期	後期
授業形態	実習	単位数	1
授業概要	水泳の基礎、クロール、平泳ぎ、背泳、バタフライの泳法と特性、指導法および安全管理を学修します。		
到達目標	1. クロール、平泳ぎ、背泳ぎ、バタフライの特性と泳法を学び、自身の泳力アップを図るとともに学校体育・生涯スポーツの視点に立った指導法を身につける。 2. 水泳における危険性を理解し、水場における安全管理能力も身につける。		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	1. 競泳用水着、キャップ、ゴーグル(任意)を着用すること。 2. 着衣水泳実施の際にはTシャツ、短パンを着用すること。		
教科書	なし		
参考書	学校体育実技指導資料第4集 水泳指導の手引き (文部科学省)		
研究室/オフィスアワー	研究室/オフィスアワー		
大学の講義時は非常勤講師室にあります。それ以外の時間帯に質問などがありましたらメールで連絡してください。 sotobayashi@morinomiya.ac.jp			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	オリエンテーション：水泳の特性と注意事項 水泳・水中の安全管理：衛生上の留意点、救急法、着衣泳、起こりうる事故など	食事、睡眠をしっかりととり体調を整える。 水泳の危険性を確認する。	
2	泳力チェック①：クロール、平泳ぎ	各種泳法を調べ、確認しておく。	
3	泳力チェック②：クロール平泳ぎのタイム計測	トップスリートと自身や他の学生のタイムを比較してみる。	
4	水泳の基本：浮き身、ストリームラインの姿勢、キックの基本 クロールの泳法と指導法：基本姿勢との関連、四肢の動かし方、呼吸法、指導上の留意点	水泳の基本姿勢であるストリームラインについて調べる。 クロールの泳法について調べる。	
5	クロールの泳力向上：泳法を理解し、練習する。	クロールの泳法について調べる。	
6	平泳ぎの泳法と指導法：基本姿勢との関連、四肢の動かし方、呼吸法、指導上の留意点	平泳ぎの泳法について調べる。	
7	平泳ぎの泳力向上：泳法を理解し、練習する。	平泳ぎの泳法について調べる。	
8	背泳ぎの泳法と指導法：基本姿勢との関連、四肢の動かし方、呼吸法、指導上の留意点	背泳ぎの泳法について調べる。	
9	背泳ぎの泳力向上：泳法を理解し、練習する。	背泳ぎの泳法について調べる。	
10	バタフライの泳法と指導法：基本姿勢との関連、四肢の動かし方、呼吸法、指導上の留意点	バタフライの泳法について調べる。	
11	泳力の向上、ターン、個人メドレー	ターンの方法について調べる。	
12	距離を泳ぐ、クロール、平泳ぎ	速く泳ぐことと距離を泳ぐことの速いについて調べ、考察する。	
13	泳力チェック③：各種泳法のタイム計測	第4回目の授業で計測した自身のタイムを確認し、授業を通して上達した部分、足りない部分について考える。	
成績評価方法と基準			
割合			

①70%
②30%

1. 学習態度・意欲
2. 実技試験
 - ・実技試験は、クロール、その他1泳法のタイムを評価する。
 - ・見学者にはレポートの提出を課す。

授業科目名		スポーツ実習Ⅷ生涯スポーツ(鍼灸スポーツ) (Sports Practice VIII 【Lifelong Sports】)	
主担当教員	漢口 幹太	担当教員	漢口 幹太
科目ナンバリング	SS639	科目区分	専門科目
配当年次	2	開講学期	前期
授業形態	実習	単位数	1
授業概要	本スポーツ実習では、ゲーム主体の授業を行う中で、体力のレベルアップや身体動作の向上を図るのみならず、スポーツを行う楽しさや喜びを通じて生涯にわたり行えるスポーツ実践を図る。また、実習全体を通して、学生同士の交流や人間関係を育むことも本実習の大きな狙いである。授業では、競技スポーツのような高強度運動だけでなく、軽スポーツ、球技スポーツ、レクリエーションスポーツなど多種多様なスポーツ種目を楽しみながら実施する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. スポーツ活動を通じて、「体を動かす爽快さ」や「スポーツの楽しさ」を経験することにより、生涯にわたり楽しく計画的に、かつ安全にスポーツを実践する習慣を身につける。 2. スポーツ活動を通じて、基礎体力や技術が向上する。 3. スポーツ活動を通じて、学生同士の交流や豊かな人間関係を構築する。 4. グループ学習を通じて、コミュニケーション能力や課題解決能力を高める。 		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	<ul style="list-style-type: none"> ・身体活動が可能な服装(装飾品は不可) ・大学生として節度ある態度で授業に臨むこと 		
教科書	なし		
参考書	必要に応じて授業中に指示する		
研究室/オフィスアワー	非常勤講師室		
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	オリエンテーション	予習:シラバスの確認 復習:次回の体力測定項目の確認	
2	体力測定	予習:体力測定項目の確認 復習:体力測定結果について理解する	
3	屋内団体スポーツ①:基本技術の習得	予習:屋内スポーツについて調べる 復習:実践したスポーツの技能の確認	
4	屋内団体スポーツ②:技術の実践 ゲームの展開	予習:前回の屋内スポーツの実践について検討する 復習:実践したスポーツの運用の確認	
5	屋外団体スポーツ①:基本技術の習得	予習:屋外スポーツについて調べる 復習:実践したスポーツの技能の確認	
6	屋外団体スポーツ②:技術の実践 ゲームの展開	予習:前回の屋外スポーツの実践について検討する 復習:実践したスポーツの運用の確認	
7	屋内個人スポーツ①:基本技術の習得	予習:屋内スポーツについて調べる 復習:実践したスポーツの技能の確認	
8	屋内個人スポーツ②:技術の実践 ゲームの展開	予習:前回の屋内スポーツの実践について検討する 復習:実践したスポーツの運用の確認	
9	屋外個人スポーツ①:基本技術の習得	予習:屋外スポーツについて調べる 復習:実践したスポーツの技能の確認	
10	屋外個人スポーツ②:技術の応用と実践 ゲームの展開	予習:前回の屋外スポーツの実践について検討する 復習:実践したスポーツの運用の確認	
11	ニュースポーツ①:基本技術の習得	予習:実践したスポーツについて検討する 復習:実践したスポーツの技能の確認	
12	ニュースポーツ②:ゲームの展開	予習:前回のニュースポーツの実践について検討する 復習:実践したスポーツの運用の確認	

13	レクリエーションスポーツ	予習：レクリエーションスポーツについて調べる 復習：実践したスポーツの技能の確認	割合 60% 20% 20%
14	障害者スポーツ	予習：障害者スポーツについて調べる 復習：実践したスポーツの技能の確認	
15	体力測定	予習：前回の体力測定結果を確認する 復習：前後の測定結果について検討する	
成績評価方法と基準			
1. 授業への取り組み・態度(積極性、協調性等)・貢献度			
2. 技能の理解・習熟			
3. 授業で指示した課題			

授業科目名	トレーニング科学演習 I (レジスタンスエクササイズ 1)(鍼灸スポーツ) (Training Science Seminar I【Resistance Exercise I】)																																						
主担当教員	宮本 忠吉	担当教員	宮本 忠吉、教員未確定																																				
科目ナンバリング	SS642	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目 DP①③																																				
配当年次	1	開講学期	後期 水曜3限																																				
授業形態	演習	単位数	1 必修・選択 選択																																				
授業概要	<p>トレーニング科学および身体運動学等の学問分野に関する基本的な知識をベースとして、本演習では、バーベルやダンベルなどのフリーウェイトマシン機器を用いた最大筋力の評価や、パワー、筋持久力、柔軟性などの体力指標の評価を行い、そこで得られたデータを基にスポーツ種目、個人に応じたスポーツレジスタンスシステムエクササイズトレーニングプログラムの作成に取り組む。</p> <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 科学的なトレーニングに関する理論とその実践方法について学習する。 レジスタンストレーニングに関する基礎理論をベースとして、安全で科学的なトレーニングを実践、指導できる能力を身につける。 <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>鍼灸学科スポーツ特修コース希望者は、スポーツ健康科学演習(種目:レジスタンス運動)においても、本教科書を活用します。</p>																																						
教科書	Fr'ed'eric Delavier 著、今井純子 訳、白木仁 監訳「目でみる筋力トレーニングの解剖学」大修館書店、2002年																																						
参考書	授業の進行に応じて都度教示します。																																						
研究室/オフィスアワー	原則月曜日 3時限目・4時限目 その他、部屋にいればいつでも訪問可です。質問等はいつでも自由にとらうぞ。																																						
授業展開及び授業計画表	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>学修内容</th> <th>予習・復習・課題等</th> <th>担当</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>トレーニング科学理論の概略</td> <td>健康づくりとレジスタンス運動</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>レジスタンストレーニングの基礎理論(1)</td> <td>トレーニングの目的</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>レジスタンストレーニングの基礎理論(2)</td> <td>身体特性の評価</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>レジスタンストレーニングの応用展開(1)</td> <td>最大有酸素能力向上のための条件</td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>レジスタンストレーニングの応用展開(2)</td> <td>最大無酸素性能力向上のための条件</td> <td></td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>レジスタンストレーニングの応用展開(3)</td> <td>最大筋力・筋パワー・筋持久力向上のための条件</td> <td></td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>レジスタンストレーニングの実践</td> <td>自重や身近な用具を使ったトレーニングの実践 インターバルトレーニングやサーキットトレーニングの実践</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>トレーニング適応の効果と適応</td> <td>呼吸・循環・代謝及び筋骨格系の形態及び機能のトレーニング適応変化</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>成績評価方法と基準</p> <p>成績の評価は原則として4/5以上出席した者を対象とし、①課題レポート(70点)と②演習内容に取り組む姿勢や理解度(30点)を総合的に評価する。</p>			回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当	1	トレーニング科学理論の概略	健康づくりとレジスタンス運動		2	レジスタンストレーニングの基礎理論(1)	トレーニングの目的		3	レジスタンストレーニングの基礎理論(2)	身体特性の評価		4	レジスタンストレーニングの応用展開(1)	最大有酸素能力向上のための条件		5	レジスタンストレーニングの応用展開(2)	最大無酸素性能力向上のための条件		6	レジスタンストレーニングの応用展開(3)	最大筋力・筋パワー・筋持久力向上のための条件		7	レジスタンストレーニングの実践	自重や身近な用具を使ったトレーニングの実践 インターバルトレーニングやサーキットトレーニングの実践		8	トレーニング適応の効果と適応	呼吸・循環・代謝及び筋骨格系の形態及び機能のトレーニング適応変化	
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当																																				
1	トレーニング科学理論の概略	健康づくりとレジスタンス運動																																					
2	レジスタンストレーニングの基礎理論(1)	トレーニングの目的																																					
3	レジスタンストレーニングの基礎理論(2)	身体特性の評価																																					
4	レジスタンストレーニングの応用展開(1)	最大有酸素能力向上のための条件																																					
5	レジスタンストレーニングの応用展開(2)	最大無酸素性能力向上のための条件																																					
6	レジスタンストレーニングの応用展開(3)	最大筋力・筋パワー・筋持久力向上のための条件																																					
7	レジスタンストレーニングの実践	自重や身近な用具を使ったトレーニングの実践 インターバルトレーニングやサーキットトレーニングの実践																																					
8	トレーニング適応の効果と適応	呼吸・循環・代謝及び筋骨格系の形態及び機能のトレーニング適応変化																																					

授業科目名	トレーニング科学演習Ⅱ(エアロビクス・ウォーキング・ジョギング)(鍼灸スポーツ) (Training Science Seminar II 【Aerobic Dance / Walking / Jogging】)		
主担当教員	折田 真弓	担当教員	折田 真弓
科目ナンバリング	SS643	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目
配当年次	1	開講学期	水曜3限
授業形態	演習	単位数	1
授業概要	<p>運動(スポーツ)トレニングを実施する目的は、競技力向上、健康増進、筋力・持久力向上、ダイエット等、実施する個人によって多種多様である。本演習では、有酸素系エクササイズを演習プログラムの一種として取り入れ、主に有酸素代謝機能の向上やダイエットを目的とする効果的なトレニング方法の理論と実践を体験学習できるような授業を展開する。また、健康体力に関する測定、講義も行いたい。トレーニング科学および運動生理学等の学問分野に関する基礎的な知識を養う。</p> <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エアロビックエクササイズ(ジョギング)の運動効果を理解し、安全に実践できる。 ・ウォーキングとジョギングの特性と効果を理解し説明できる ・対象者に応じた効果的な運動プログラムの作成と、安全な運動指導ができる。 <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>授業内で説明</p> <p>教科書</p> <p>適宜、資料を配布する。</p> <p>参考書</p> <p>健康運動実習指導者養成用テキスト(健康体力づくり事業財団)</p> <p>研究室/オフィスアワー</p> <p>なし</p> <p>授業展開及び授業計画表</p>		
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	健康づくりとエアロビクスエクササイズ	予習:シラバスの確認 復習:授業をともにシラバス、プリントの確認 予習:健康ウォーキング法について考える 復習:授業をともにシラバス、プリントの確認	
2	ウォーキングの運動効果と特性	予習:運動プログラムを考える 復習:測定結果をもとに歩行分析をする	
3	ウォーキング測定、歩行速度、歩幅・歩数・心拍数	予習:運動プログラムの作成・フォーラム・指導上 復習:授業をともにプリント・指導内容の確認	
4	ウォーキングのプログラムの作成・フォーラム・指導上の留意点	予習:運動プログラムを作成する・指導練習 復習:指導の自己評価を行う	
5	エアロビクスエクササイズの実践指導1	予習:ウォーキングとジョギングの違いについて考える 復習:授業をともにプリント・指導内容の確認	
6	ジョギングの運動効果・指導上の留意点	予習:測定結果を分析する 復習:運動プログラムを作成する・指導練習	
7	ジョギング測定、心拍数、RPE、プログラム作成	予習:運動プログラムの自己評価を行う	
8	エアロビクスエクササイズの実践指導2		
成績評価方法と基準			
割合			
①授業に即ち相対姿勢や態度(積極性・協調性)、参加、貢献の程度(70%) ②技能の理解、習熟度、運動能力の水準、およびレポート(30%)をそれぞれ評価する。 4/5以上の出席が必要。			

授業科目名	トレーニング科学演習Ⅲ(レジスタンス・スタイクス・2・水中運動)(鍼灸スポーツ) (Training Science Seminar III 【Resistance Exercise II / Aquatic Exercise】)		
主担当教員	折田 真弓	担当教員	折田 真弓, 中原 英博
科目ナンバリング	SS644	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目
配当年次	2	開講学期	曜日・時限
授業形態	演習	単位数	1
授業概要	<p>運動(スポーツ)トレニングを行う上で必要不可欠な知識と考え方を学習する。さまざまな環境で運動指導が安全に行うことができるようになる。持久的トレニングの効果を理解し、適切な指導ができるようになる。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 運動の効果を理解する。 2. 持久的・間欠的トレニングを適切に指導できる。 3. 水中運動を適切に指導できる。 <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>授業内で説明</p> <p>教科書</p> <p>適宜、資料を配布する。</p> <p>参考書</p> <p>健康運動実習指導者養成用テキスト(健康体力づくり事業財団)</p> <p>研究室/オフィスアワー</p> <p>東棟4階研究室 水曜日 17:00~18:00</p> <p>授業展開及び授業計画表</p>		
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	持久的トレニングの効果の理解	シラバスの確認とトレニングの種類について予習しておくこと。	
2	持久的トレニングの実践	持久的トレニングの効果を理解する。	
3	インターバルトレニングの効果の理解	インターバルトレニングの特性および種類を理解する。	
4	インターバルトレニングの実践	持久的トレニング・インターバルトレニングの効果について合理的説明ができるように復習すること。	
5	水中運動の利点・問題点の理解	水中運動と陸上運動の違いについて説明できるように復習すること。	
6	水中運動における心拍数と強度の関係の理解	心拍数の測定及びRPEの計測方法について予習しておくこと。	
7	水中ウォーキング実習	水中ウォーキングの意義について予習しておくこと。	
8	水中エアロビクス実習	水中運動の利点・問題点について合理的説明ができるように復習すること。	
成績評価方法と基準			
割合			
筆記試験(70%)、講義中の意欲・態度(30%)。 4/5以上の出席が必要。			
講義中の意欲・態度 30%			

授業科目名		体カトレニング論(鍼灸スポーツ) (Physical Training Studies)			
主担当教員	伊藤 剛	担当教員	伊藤 剛		
科目ナンバリング	SS646	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP①
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時間	火曜 5限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	選択
授業概要					
本講義では、体カトレニングに関連する機能解剖学や運動生理学などについて、講義形式にて学びを深める。トレニングによる組織や器官(器管系)の構造的・機能的変化やそれに伴う生理機能の変化などについて学ぶとともに、各種トレニングの効果について最新の学術的根拠についても解説する。また各種トレニングを実践するとともに、安全かつ効果的なトレニング方法の取得と指導方法などについても学ぶ。さらに目的に応じたトレニングプログラム作成が可能となるよう授業を進めていく。					
到達目標					
1. 体カトレニングに関連した機能解剖学・運動生理学・トレーニング科学を理解する。 2. 安全かつ効果的なトレニングの実践および指導が可能となる。 3. 目的に応じたトレニングプログラムの作成が可能となる。					
履修上の注意(学生へのメッセージ)					
1. 実技を実施するので動きやすい服装および室内履きを準備すること。 2. 実技では得手不得手は問わないので積極的に参加すること。					
教科書					
特になし。必要に応じてプリントなどを配布する。					
参考書					
『体カトレニングの理論と実践』その他、必要に応じて提示する					
研究室/オフィスアワー					
火曜日 9:00~11:00. 教室または非常勤講師室					
授業展開及び授業計画表					
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当		
1	ガイダンス/体カトレニング論とは	予習:シラバスの確認 復習:体力の定義について確認			
2	体カトレニングの科学的基礎1	予習・復習:トレニング原理・原則について事前 にまとめ、再確認する。			
3	体カトレニングの科学的基礎2	予習:骨字・関節学・筋学について確認 復習:運動器の解剖学についてまとめる			
4	体カトレニングの科学的基礎3	予習:運動生理学の基礎を確認 復習:キーワード、重要語句の確認			
5	ウォーミングアップ・クーリングダウン	予習:ストレッチングの各種形態をまとめる 復習:自身の競技特性を考慮し応用する			
6	レジスタンストレーニング1(実習)	予習:上半身の機能解剖学について確認 復習:自身の目的に応じて応用実践する			
7	レジスタンストレーニング2(実習)	予習:下半身の機能解剖学について確認 復習:自身の目的に応じて応用実践する			
8	レジスタンストレーニング3(実習)	予習:体幹の機能解剖学について確認 復習:自身の目的に応じて応用実践する			
9	パワースピード系トレーニング(実習)	予習:オリンピックについて理解 復習:指定メチアを通じてポイントを確認			
10	有酸素系トレーニング1(実習)	予習:呼吸・循環器機能について確認 復習:キーワード、重要語句の確認			
11	有酸素系トレーニング2(実習)	予習:サーキットトレーニングをまとめる 復習:指定参考書の確認			
12	ピリオダイゼーション(期分け)とは	予習:子どもの栄養・栄養について理解 復習:課題について考察し次週提出			
13	トレーニングプログラムの作成	予習:球技系競技の特性について理解 復習:課題について考察し次週発表する			
14	トレーニングプログラムの指導	予習:グループ発表について取り組む 復習:発表について自己評価する			
15	体カトレニングにおける安全対策	予習:OPR/ROE処置を確認しておく 復習:臨床での応用を自己でまとめる			

成績評価方法と基準		割合
1. 原則 3 分の 2 以上の出席者を評価の対象とする。 2. 授業への参加度:50%・グループ発表:40%・授業内レポート10% 3. 授業への参加度とは、得手不得手に関わらない能動的な実技への参加と、講義において教員からの質問に対する論理的かつ積極的な発言などを評価する。		2-1:50 2-2:40 2-3:10

授業科目名	スポーツバイオメカニクス(鍼灸スポーツ) (Sports Biomechanics)		
主担当教員	佐野 加奈絵	担当教員	佐野 加奈絵
科目ナンバリング	SS647	科目区分	DP①
配当年次	2	開講学期	前期
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	スポーツや身体運動をバイオメカニクスの観点から考えるために必要な基礎知識を学習するとともに、歩・走・跳・投・泳などの具体的な身体運動のメカニズムを探る。		
到達目標	動きや力に関連する空間であるバイオメカニクス(生体力学)の視点からスポーツや身体運動を分析・考察する能力を養うとともに、体育・スポーツの研究や指導の現場に役立つ基礎知識を身につける。		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	1. 解剖生理学、機能解剖学、運動生理学と関連付けて学習するため、既に受講済みである授業の内容について復習しておくこと。 2. 基本的な数学、物理学の知識を必要とすることがあるが、できるだけ繰り返しやってくる。 3. 力学計算を行うので、定期および電卓は毎時間必須である。		
教科書			
テキストは使用しない。講義にはパワーポイントを使用し、適宜、資料を配付する。			
参考書	1. James G. Hay 著「スポーツ技術のバイオメカニクス」ブツハウスHD、2011年 2. 中村隆一・齋藤宏・長崎浩 著「基礎運動学 第6版」医師薬出版、2003年		
研究室/オフィスアワー			
東棟4F 月曜日			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	ガイダンス:バイオメカニクスとは何か、運動指導におけるバイオメカニクスの意義	予習: シラバスの確認。 復習: 配布プリント、キーワードの確認。	
2	筋のしくみと筋電図:筋の種類と特性、筋収縮の仕組み、感覚と反射	予習: 解剖生理学、機能解剖学の確認。 復習: 配布プリント、キーワードの確認。	
3	運動と力学1:力学の基礎、ニュートンの運動方程式	予習: 高校までの数学、物理の復習。 復習: 配布プリント、キーワードの確認。	
4	運動と力学2:ニュートンの運動方程式、落下運動	予習: 高校までの数学、物理の復習。 復習: 配布プリント、キーワードの確認。	
5	運動と力学3:落下運動、力学的エネルギー	予習: 高校までの数学、物理の復習。 復習: 配布プリント、キーワードの確認。	
6	運動と力学4:運動量、力積、てこの原理	予習: 高校までの数学、物理の復習。 復習: 配布プリント、キーワードの確認。	
7	筋のしくみと筋電図:筋電図	予習: 解剖生理学、機能解剖学の確認。 復習: 配布プリント、キーワードの確認。	
8	「立つ」のバイオメカニクス:立位姿勢の安定性、身体重心	予習: 立つ動作に関わる筋を調べる。 復習: 配布プリント、キーワードの確認。	
9	「立つ」のバイオメカニクス:姿勢調節、よい姿勢	予習: ヒットの立ち姿を観察する。 復習: 配布プリント、キーワードの確認。	
10	「歩く」のバイオメカニクス:歩行の流れと名称、歩行率、跛歩	予習: 歩く動作に関わる筋を調べる。他人の歩行を観察する。 復習: 配布プリント、キーワードの確認。	
11	「走る」のバイオメカニクス:ピッチとストラライド、速く走るための動作	予習: アスリートの走る動作を観察し、速く走る動きについて考える。 復習: 配布プリント、キーワードの確認。	
12	「跳ぶ」のバイオメカニクス:跳躍動作の特徴、筋の弾性と弾性エネルギー、地面反力と抜重	予習: 垂直跳びを実践し、高く飛び動きについて考える。 復習: 配布プリント、キーワードの確認。	
13	「投げる」のバイオメカニクス:投動作の特徴と共通点、運動連鎖、ボールの飛行と空気抵抗	予習: 投動作にみられる運動について考える。 復習: 配布プリント、キーワードの確認。	
14	「泳ぐ」のバイオメカニクス:水の抵抗と揚力、泳動作、泳速度の決定因子	予習: アスリートの泳ぐ動作を観察し、速く走る動きについて考える。 復習: 配布プリント、キーワードの確認。	

15	授業全体のまとめと振り返り	予習: 授業全体を振り返り、バイオメカニクスの意義を考える。 復習: 試験内容の確認。
成績評価方法と基準		割合
①授業中の意欲・態度		①30%
②課題・テスト		②20%
		③50%

鍼灸学科 教職課程
(2016 年度以降 入学生カリキュラム)

保健体育科教育法 I (教職課程・减免) (Teaching Method for Health and Physical Education 1)			
授業科目名	保健体育科教育法 I (教職課程・减免)	担当教員	老田 準司、小川 千枝
主担当教員	老田 準司	教職に関する科目	ディプロマポリシー 該当項目
科目ナンバリング	SE613	科目区分	曜日・時限
配当年次	3	開講学期	前期
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	保健体育科教育の目標と内容および指導理論を講義形式で学ぶ。また、単元計画および学習指導案を作成し、模擬授業において実践する。		
到達目標	学校体育の制度、体育科教育の目標と内容および指導理論を理解し、特に高等学校の生徒を対象にした的確な単元計画および学習指導案を作成できるようにする。また、学習指導案に沿った授業を展開できるようにする。		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	教員免許取得のための授業です。積極的な姿勢に取り組んでください。		
教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・高橋達十郎・出巻則十・高橋秀則・岩田謙 編著「体育科教育学入門」 大修館書店 ・日本保健科教育学会 編「保健科教育法入門」 大修館書店 ・文部科学省「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 保健体育編」 東山書房 ・文部科学省「高等学校学習指導要領 解説 保健体育編・体育編」（出版され次第） 		
参考文献	保健体育科教育法 I から IV で通して使用します。		
授業内において指示を出します			
研究室/オフィスアワー			
月～金曜日			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	学習指導要領と学校体育のカリキュラムについて（目標、内容、構造、制度）	文部科学省のホームページをチェックし、公示された学習指導要領および中央教育審議会の答申に目を通しておくこと。	
2	体育授業の学習指導論 1（教材、教具、学習指導論）	文部科学省のホームページをチェックし、公示された学習指導要領および中央教育審議会の答申に目を通しておくこと。	
3	体育授業の学習指導論 2（学習指導、学習形態）	文部科学省のホームページをチェックし、公示された学習指導要領および中央教育審議会の答申に目を通しておくこと。	
4	体育授業の指導方略と指導技術	文部科学省のホームページをチェックし、公示された学習指導要領および中央教育審議会の答申に目を通しておくこと。	
5	高等学校体育授業の単元計画および学習指導案の立案	文部科学省のホームページをチェックし、公示された学習指導要領および中央教育審議会の答申に目を通しておくこと。	
6	高等学校学習指導要領における各領域の内容および評価規準の理解と教材研究 1（体づくり運動、器械運動、陸上競技）	文部科学省のホームページをチェックし、公示された学習指導要領および中央教育審議会の答申に目を通しておくこと。	
7	高等学校学習指導要領における各領域の内容および評価規準の理解と教材研究 2（水泳、球技）	文部科学省のホームページをチェックし、公示された学習指導要領および中央教育審議会の答申に目を通しておくこと。	
8	高等学校学習指導要領における各領域の内容および評価規準の理解と教材研究 3（武道、ダンス、体育理論）	文部科学省のホームページをチェックし、公示された学習指導要領および中央教育審議会の答申に目を通しておくこと。	
9	学習指導案作成	授業プリントおよび各競技種目の指導書を用いて、教材研究をしておくこと	
10	模擬授業 1	模擬授業の準備をする	

11	模擬授業 2	模擬授業の準備をする	
12	模擬授業 3	模擬授業の準備をする	
13	模擬授業 4	模擬授業の準備をする	
14	模擬授業の振り返りと改善点の検討、学習指導案の修正 1	模擬授業について再確認しておく	
15	模擬授業の振り返りと改善点の検討、学習指導案の修正 2	模擬授業について再確認しておく	
成績評価方法と基準			割合
・授業内レポート（教材研究）			30%
・期末レポート（学習指導案および単元計画）			70%

授業科目名	保健体育科教育法Ⅱ(教職課程:鍼灸) (Teaching Method for Health and Physical Education II)			
主担当教員	老田 準司	担当教員	老田 準司、小川 千枝	
科目ナンバリング	SE614	教職に関する科目	ディプロマポリシー 該当項目	
配当年次	3	開講学期	前期 木曜 2 限	
授業形態	講義	単位数	2 必修	
授業概要				
学校教育(主に高等学校)における保険課教育の学習内容を理解したうえで、高等学校での保健科学習に見合った確かな単元計画および学習指導案を立案する。また、立案した学習指導案にそって模擬授業を行う。				
到達目標				
学校教育(主に高等学校)における保健科教育の学習内容および評価規程を理解し、適切な単元計画および学習指導案を立案することができるようになる。また、立案した指導案にそって授業を行うことができるようになる。				
履修上の注意(学生へのメッセージ)				
教員免許取得のための授業です。積極的な姿勢で授業に取り組んでください。				
教科書				
・ 高橋建夫・岡田美則・丸藤秀則・岩田靖 編著「体育科教育学習入門」 大修館書店 ・ 日本保健科教育学会 編「保健科教育法入門」 大修館書店 ・ 文部科学省「中学校学習指導要領(平成29年告示) 解説 保健体育編」 東山書房 ・ 文部科学省「高等学校学習指導要領 解説 保健体育編・体育編」(出版され次第)				
保健体育科教育法ⅠからⅣで通して使用します。				
参考書				
授業内で指示を出します				
研究室/オフィスアワー				
月曜～金曜				
授業展開及び授業計画表				
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当	
1	学校教育における保健科教育の位置づけ(カリキュラム、目標)	文部科学省のホームページにアクセスし、公示された学習指導要領(保健体育編)および中央教育審議会の答申に目を通しておくこと。	公示	
2	高等学校「保健」における学習目標の理解、単元計画および学習指導案の立案方法	文部科学省のホームページにアクセスし、公示された学習指導要領(保健体育編)および中央教育審議会の答申に目を通しておくこと。	公示	
3	保健の授業における教材、教具	文部科学省のホームページにアクセスし、公示された学習指導要領(保健体育編)および中央教育審議会の答申に目を通しておくこと。	公示	
4	保健の授業スタイル、指導方法	文部科学省のホームページにアクセスし、公示された学習指導要領(保健体育編)および中央教育審議会の答申に目を通しておくこと。	公示	
5	高等学校学習指導要領における「保健」の各領域の学習内容および評価規程の理解と教材研究1	文部科学省のホームページにアクセスし、公示された学習指導要領(保健体育編)および中央教育審議会の答申に目を通しておくこと。	公示	
6	高等学校学習指導要領における「保健」の各領域の学習内容および評価規程の理解と教材研究2	文部科学省のホームページにアクセスし、公示された学習指導要領(保健体育編)および中央教育審議会の答申に目を通しておくこと。	公示	
7	高等学校学習指導要領における「保健」の各領域の学習内容および評価規程の理解と教材研究3	文部科学省のホームページにアクセスし、公示された学習指導要領(保健体育編)および中央教育審議会の答申に目を通しておくこと。	公示	
8	高等学校学習指導要領における「保健」の各領域の学習内容および評価規程の理解と教材研究4	文部科学省のホームページにアクセスし、公示された学習指導要領(保健体育編)および中央教育審議会の答申に目を通しておくこと。	公示	
9	単元計画および学習指導案の作成	授業内の資料および各競技種目の指導教本等を参照し、教材研究しておく	模範授業の準備をしておく	
10	模範授業1	模範授業の準備をしておく	模範授業の準備をしておく	
11	模範授業2	模範授業の準備をしておく	模範授業の準備をしておく	

12	模範授業3	模範授業の準備をしておく	模範授業の準備をしておく
13	模範授業4	模範授業の準備をしておく	模範授業の準備をしておく
14	模範授業の振り返りと改善点の検討、学習指導案の修正	模範授業の改善点を検討しておく	模範授業の改善点を検討しておく
15	模範授業の振り返りと改善点の検討および学習指導案の修正2	模範授業の改善点を検討しておくこと	模範授業の改善点を検討しておくこと
成績評価方法と基準			
授業内レポート(教材案)			
期末レポート(単元計画、学習指導案)			
割合			
30%			
70%			

保健体育科教育法Ⅲ(教職課程: 减免) (Teaching Method for Health and Physical Education III)			
授業科目名	保健体育科教育法Ⅲ(教職課程: 减免) (Teaching Method for Health and Physical Education III)		
主担当教員	小川 千枝	担当教員	小川 千枝
科目ナンバリング	SE615	教職に関する科目	ディプロマポリシー 該当項目
配当年次	3	開講学期	曜日・時限 木曜 1限
授業形態	講義	単位数	2 中一 種 免 の み 必 修
授業概要	<p>中学校保健体育科(体育分野)の目標、内容、評価規準、指導理論を十分に理解することができる。また、実際の授業を想定した単元計画および学習指導案を立案し、模擬授業を行う。</p> <p>到達目標</p> <p>中学校保健体育科(体育分野)の目標、内容、評価規準、指導理論を十分に理解することができる。また、実際の授業を想定した単元計画および学習指導案を立案し、模擬授業を行う。</p> <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>教員免許取得のための授業です。積極的な姿勢で取り組んでください。</p>		
教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・高橋建夫十回出版則十友添秀則十岩田謙 編著「体育科教育学入門」 大修館書店 ・日本保健科教育学会 編「保健科教育法入門」 大修館書店 ・文部科学省「中学校学習指導要領(平成29年告示) 解説 保健体育編」 東山書房 ・文部科学省「高等学校学習指導要領 解説 保健体育編・体育編」(出版され次第) 		
参考文献	保健体育科教育法ⅠからⅣで通して使用します。		
授業内で指示を出します。	研究室/オフィスアワー		
授業日の非常勤講師控え室	授業日の非常勤講師控え室		
授業展開及び授業計画表	授業展開及び授業計画表		
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	中学校体育の目標、内容、評価規準、構造、制度	文部科学省のホームページにアクセスし、公示されている学習指導要領(保健体育編)および中央教育審議会の答申に目を通しておくこと。	
2	中学校体育の授業づくり1(教材、教具および評価規準)	文部科学省のホームページにアクセスし、公示されている学習指導要領(保健体育編)および中央教育審議会の答申に目を通しておくこと。	
3	体育の授業づくり2(単元計画、学習指導案)	文部科学省のホームページにアクセスし、公示されている学習指導要領(保健体育編)および中央教育審議会の答申に目を通しておくこと。	
4	体育授業における指導論(学習形態、教師行動、指導技術)	文部科学省のホームページにアクセスし、公示されている学習指導要領(保健体育編)および中央教育審議会の答申に目を通しておくこと。	
5	学習指導要領における各領域の内容及び評価基準の理解と教材研究1(体づくり運動、器械運動、陸上競技)	文部科学省のホームページにアクセスし、公示されている学習指導要領(保健体育編)および中央教育審議会の答申に目を通しておくこと。	
6	学習指導要領における各領域の内容及び評価基準の理解と教材研究2(水泳、球技)	文部科学省のホームページにアクセスし、公示されている学習指導要領(保健体育編)および中央教育審議会の答申に目を通しておくこと。	
7	学習指導要領における各領域の内容及び評価基準の理解と教材研究3(武道、ダンス、体育理論)	文部科学省のホームページにアクセスし、公示されている学習指導要領(保健体育編)および中央教育審議会の答申に目を通しておくこと。	
8	指導案の作成、模擬授業の意義	授業内の資料および各競技種目の実技指導書を参考にし、教材研究をしていくこと。	
9	模擬授業1	模擬授業の準備を綿密に行うこと	
10	模擬授業2	模擬授業の準備を綿密に行うこと	
11	模擬授業3	模擬授業の準備を綿密に行うこと	

12	模擬授業4	模擬授業の準備を綿密に行うこと	
13	模擬授業5	模擬授業の準備を綿密に行うこと	
14	模擬授業の振り返りおよび改善策の検討と指導案の修正	模擬授業の準備を綿密に行うこと	
15	模擬授業の振り返りおよび改善策の検討と学習指導案の修正	模擬授業を振り返り、反省点を挙げておく。	
成績評価方法と基準			割合
授業内レポート(教材案)			30%
期末レポート(単元計画、学習指導案)			70%

授業科目名		保健体育科教育法Ⅳ(教職課程・鍼灸) (Teaching Method for Health and Physical Education IV)	
主担当教員	小川 千枝	担当教員	小川 千枝
科目ナンバリング	SE616	教職に関する科目	ディプロマポリシー 該当項目
配当年次	3	開講学期	曜日・時限 木曜 2 限
授業形態	講義	単位数	2 必修・選択 修
授業概要			
保健科教育の目標、内容指導理論、授業方法を講義形式で学習し、実際の授業を想定した単元計画および学習指導案を立案し、模擬授業をおこなう。			
到達目標			
中学校保健体育(保健分野)の目標、内容(評価規程)、指導理論を理解し、的確な単元計画および学習指導案を立案できるようになる。また、学習指導要領に基づいた授業を展開できるようにする。(模擬授業ができる)。			
履修上の注意(学生へのメッセージ)			
教員免許取得のための授業です。積極的な姿勢で取り組んでください。			
教科書			
・ 高橋建夫・岡出美則・五添秀則・岩田靖 編著「体育科教育学入門」大修館書店 ・ 日本保健科教育学会 編「保健科教育法入門」大修館書店 ・ 文部科学省「中学校学習指導要領(平成29年告示) 解説 保健体育編」東山書房 ・ 文部科学省「高等学校学習指導要領 解説 保健体育編・体育編」(出版され次第)			
参考文献			
保健体育科教育法ⅠからⅣを通して使用します。			
授業内で指示を出します			
研究室/オフィスアワー			
授業日の非常勤講師控え室			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	保健科教育と健康教育	文部科学省のホームページにアクセスし、公示されている学習指導要領(保健体育編)および中央教育審議会の答申に目を通しておくこと。	公示
2	中学校における保健科教育の位置づけ	文部科学省のホームページにアクセスし、公示されている学習指導要領(保健体育編)および中央教育審議会の答申に目を通しておくこと。	公示
3	学習指導要領における中学校保健分野の目標と評価規程	文部科学省のホームページにアクセスし、公示されている学習指導要領(保健体育編)および中央教育審議会の答申に目を通しておくこと。	公示
4	中学校保健授業における単元計画、学習指導案の立案方法(教材、教具論)	文部科学省のホームページにアクセスし、公示されている学習指導要領(保健体育編)および中央教育審議会の答申に目を通しておくこと。	公示
5	「(1)健康な生活と疾病予防」の学習内容・評価規程の理解と教材研究	文部科学省のホームページにアクセスし、公示されている学習指導要領(保健体育編)および中央教育審議会の答申に目を通しておくこと。各領域に関わりそうなトピックスをチェックしてみる。	公示
6	「(2)心身の機能の発達と心の健康」の内容・評価基準の理解と教材研究	文部科学省のホームページにアクセスし、公示されている学習指導要領(保健体育編)および中央教育審議会の答申に目を通しておくこと。各領域に関わりそうなトピックスをチェックしてみる。	公示
7	「(3)障害の防止」の学習内容・評価規程の理解と教材研究	文部科学省のホームページにアクセスし、公示されている学習指導要領(保健体育編)および中央教育審議会の答申に目を通しておくこと。各領域に関わりそうなトピックスをチェックしてみる。	公示

8	「(4)健康と環境」の学習内容・評価規程の理解と教材研究	文部科学省のホームページにアクセスし、公示されている学習指導要領(保健体育編)および中央教育審議会の答申に目を通しておくこと。各領域に関わりそうなトピックスをチェックしてみる。	
9	単元計画および学習指導案の作成	各領域の健康課題に関するトピックスを用いて、教材研究しておくこと。	
10	模擬授業1	模擬授業の準備を綿密に行うこと	
11	模擬授業2	模擬授業の準備を綿密に行うこと	
12	模擬授業3	模擬授業の準備を綿密に行うこと	
13	模擬授業4	模擬授業の準備を綿密に行うこと	
14	模擬授業の振り返り、改善点の検討、指導案の修正	模擬授業の振り返り、改善点の検討、指導案の修正	
15	模擬授業の振り返り、改善点の検討、指導案の修正	模擬授業の振り返り、改善点の検討、指導案の修正	
成績評価方法と基準			割合
授業内レポート(教材案)			30%
期末レポート(単元計画、学習指導案)			70%

授業科目名 教育方法論(教職課程・鍼灸) (Studies of Teaching Methods)			
主担当教員	安藤 福光	担当教員	安藤 福光
科目ナンバリング	SE619	教職に関する科目	ティプロマボリシー 該当項目
配当年次	3	開講学期	前期 月曜 5限
授業形態	講義	単位数	2 必修・選択
授業概要			
教育方法をめぐる理論や実践について概観する。主として、教育学における方法論的な議論のふりかたから、さまざまな実践活動、そして現代の授業の方法や技術、あわせて情報機器や教材の活用について学ぶ。講義で取り上げる教育方法に関する基本の把握を求める。			
到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・教育方法に関する基本的な知識について、理解することができる。 ・具体的な指導技術（情報機器等の操作を含む）について、理解することができる。 ・教育方法の現代的な課題を理解し、実践に生かそうとすることができる。 			
履修上の注意(学生へのメッセージ)			
・教職の講義であることを自覚して臨むこと。			
教科書			
・毎回の講義時に資料を配布する。			
参考書			
・根津朋実・吉江森男編著 (2010)『教育内容・方法』培風館			
研究室/オフィスアワー			
授業時に指示をする			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	オリエンテーション 教育方法論を学ぶために	講義で配布した資料を用いて予習と復習を行うこと。	
2	教育方法とは何か	講義で配布した資料を用いて予習と復習を行うこと。	
3	教育方法学の意義と目標	講義で配布した資料を用いて予習と復習を行うこと。	
4	教材とぞの研究	講義で配布した資料を用いて予習と復習を行うこと。	
5	学習指導の原理 (1) コミュニケーション、ペスタロッチ、ヘルバルト、デュロイの原理	講義で配布した資料を用いて予習と復習を行うこと。	
6	学習指導の原理 (2) 教師ドラマの原理	講義で配布した資料を用いて予習と復習を行うこと。	
7	学習指導の原理 (3) 直観の原理、内発的動機づけの原理、主体的な学習 (アクティビティ・ラーニング)の原理、視聴覚メディアの活用	講義で配布した資料を用いて予習と復習を行うこと。	
8	学習指導過程と指導案の作成方法	講義で配布した資料を用いて予習と復習を行うこと。	
9	児童生徒の理解	講義で配布した資料を用いて予習と復習を行うこと。	
10	学習集団の編成	講義で配布した資料を用いて予習と復習を行うこと。	
11	導入・発問の仕方	講義で配布した資料を用いて予習と復習を行うこと。	
12	板書の方法とノート指導のあり方	講義で配布した資料を用いて予習と復習を行うこと。	
13	教室内コミュニケーション	講義で配布した資料を用いて予習と復習を行うこと。	
14	評価の方法	講義で配布した資料を用いて予習と復習を行うこと。	

15	学校現場における教育方法の事例	講義で配布した資料を用いて予習と復習を行うこと。	
成績評価方法と基準			割合
到達目標に関する期末試験			100%

評価(単元のまとめテスト含む) 指導案作成と体育実技の理解、 授業への取組姿勢	60% 30% 10%
---	-------------------

授業科目名		教育実習事前事後指導(教職課程: 鍼灸) (Before-and-after Guidance for Teaching Practice)	
主担当教員	老田 準司	担当教員	老田 準司、福島 慎也、阿部 秀高
科目ナンバリング	SE622	教職に関する科目	テ/プロモボ/ジ-
配当年次	3	後期	曜日・時限
授業形態	講義	単位数	1
授業概要	<p>教育実習にあたり、生徒に与える影響の大きさを認識するとともに、実習に対する基本的な心構えや技能を学習し、実習に対応する実践力を身に付ける。</p> <p>到達目標</p> <p>教育実習に活用できる実践力を身に付けるとともに、事後に反省を生かす取組を進める。また、教員としての使命感、倫理観、授業展開力を養う。</p> <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>学校教育現場の具体的な場面を想定しての授業を展開するので、体験してきた中学校、高等学校生活をとも参者に、生徒に具体的に指導できる方法を考えておくこと。</p> <p>教科書</p> <p>文部科学省「中学校学習指導要領解説保健体育編」</p> <p>文部科学省「高等学校学習指導要領解説保健体育・体育編」</p> <p>参考書</p> <p>新・めざそう保健体育教師(朝日出版)</p> <p>研究室/オフィスアワー</p> <p>1.4研究室 火曜日 13:00~14:30</p> <p>金曜日 10:40~14:30</p>		
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	学校の概要把握	学校の現状について情報を収集しておく。	
2	教員免許制度の理解	日本や諸外国の免許制度について調べておく。	
3	学校における保健体育科教員の理解	保健体育科教員の存在意義等について、考えをまとめておく。	
4	教育実習の目的と意義の学修	教育実習の情報を収集しておく。	
5	教育実習までに準備しておくべき事項の学修	ラジオ体操の正確な動作を理解し、指導者として演技できるように繰り返し練習する。	
6	教育実習経験者から話を聞く。(4年生から教育実習に臨む心構え、事前に体得すべき事項について話を聞く。)	(復) 4年生からの体験談を整理しておく。	
7	ラジオ体操の基本理解	(復) 体育実技の準備体操に多用されるラジオ体操の基本を理解する。	
8	ラジオ体操の実践力育成	(復) 理解した基本に基づき、実践力をつけるため、繰り返し運動を行う。	
9	授業展開方法(体育実技種目の理解・学校現場dで活用される種目の理解と授業展開方法①)	競技種目の特長、歴史、ルールについて調べておく。	
10	授業展開方法(体育実技種目の理解・学校現場eで活用される種目の理解と授業展開方法②)	競技種目の特長、歴史、ルールについて理解しておく。	
11	授業展開方法(体育実技種目の理解・学校現場fで活用される種目の理解と授業展開方法③)	学校の選択授業での現状の情報を収集しておく。	
12	授業展開方法(体育実技種目の理解・学校現場gで活用される種目の理解と授業展開方法④)	(復) 選択授業で実施される競技種目が指導できるよう学修したことを整理する。	
13	授業実践力の養成①(特別支援教育の現状と理解)	特別支援教育について、情報を収集し、課題等を整理しておく。	
14	授業実践力の養成②(支援教育の理解と実践方法学修)	特別支援教育について、整理された課題について、解決方法について事前に情報を収集しておく。	
15	授業まとめと課題整理	教育実習受講時の要領および要点を整理し、課題解決方策のため情報を収集する。	
成績評価方法と基準			割合

授業科目名 教育実習Ⅰ(教職課程・編入) (Teaching Practice 1)			
主担当教員	老田 準司	担当教員	老田 準司、福島 信也、阿部 秀高
科目ナンバリング	SE623	教職に関する科目	ディプロマポリシー 該当項目
配当年次	4	開講学期	前期
授業形態	実習	単位数	2
授業概要	<p>1 中学校で、実践的指導力のある指導教員の下での体験を通じ、教育実践の基礎的能力を身に付ける。</p> <p>2 教育実践に関わることを通じて、生徒理解を深め、教員になるうえでの課題を把握する。</p>		
到達目標	<p>1 教科指導においては、保健分野、体育分野の学習指導案作成方法や生徒の実態を踏まえた指導の基礎基本（情報機器の活用法）について理解でき、授業ができるようになる。</p> <p>2 学級担任や分掌業務等について、職務内容を实地に即して理解できるようになる。</p> <p>3 生徒との積極的な関わりを通して、生徒理解を深めるとともに、生徒とのコミュニケーション方法を習得する。</p> <p>4 教育実習から得られた課題について、今後の大学生活で、知識技能を中心に課題解決に努める。</p>		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	履修上の注意(学生へのメッセージ)		
専門教科の学習については、十分な準備をすることにも、多くの時間、生徒に対応することを念頭に、服装、態度、言葉遣いに細心の注意を払っての行動をとること。	専門教科の学習については、十分な準備をすることにも、多くの時間、生徒に対応することを念頭に、服装、態度、言葉遣いに細心の注意を払っての行動をとること。		
教科書	教科書		
中学校学習指導要領保健体育編	中学校学習指導要領保健体育編		
中学校学習指導要領保健体育編	中学校学習指導要領保健体育編		
参考書	参考書		
めざそう保健体育教師(朝日出版)	めざそう保健体育教師(朝日出版)		
研究室/オフィスアワー	研究室/オフィスアワー		
研究室 14 火曜日 16時30分～18時	研究室 14 火曜日 16時30分～18時		
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	<p>教育実習校でオリエンテーション</p> <p>1 教育方針、校訓等について説明を聞く。</p> <p>2 実習中の注意事項について説明を受ける。</p> <p>3 実習の予定の確認を受ける。</p> <p>4 校内の施設設備、用具について説明を受ける。</p>	<p>実習日までに、大学で習得した知識、技能について整理し、実習に備える。</p>	
2	中学校における教育実習の留意点及び、実習への不安対処方法	アンケート調査結果で得られた不安への対処法を学ぶ。	
3	中学校教員の業務についての理解	学校業務について理解を深めておく。	
4	中学校学習指導要領による中学校の学習指導	学習指導要領の内容についての理解を深めておく。	
5	中学校学習指導要領保健体育編による体育分野の領域・内容	8領域のうち、体づくり運動、器械運動について理解を深めておく。	
6	中学校学習指導要領保健体育編による体育分野の領域・内容	8領域のうち陸上競技、水泳について理解を深めておく。	
7	中学校学習指導要領保健体育編による体育分野の領域・内容	8領域のうち、球技、武道について理解を深めておく。	
8	中学校学習指導要領保健体育編による体育分野の領域・内容	8領域のうち、ダンス、体育理論について理解を深めておく。	
9	学習指導要領保健体育編及び実際に学校現場で使用されている教科書を活用しての保健分野の前2単元の理解(アクティブラーニングでの授業展開理解)	心身の機能の発達と心の健康、健康と環境の単元の理解を深めておく。	
10	学習指導要領保健体育編及び実際に学校現場で使用されている教科書を活用しての保健分野の単元の理解	障害の防止の単元の理解を深めておく。	
11	学習指導要領保健体育編及び実際に学校現場で使用されている教科書を活用しての保	健康な生活と疾病の予防の単元の理解を深めておく。	

履修上の注意(学生へのメッセージ)	
12	特別活動等の内容について理解を深めておく。
13	学級活動についての理解を深めておく
14	部活動についての理解を深めておく
15	教科や教科外活動全般について理解を深めておく
成績評価方法と基準	
1 実習校からの評価	割合
2 本学での講義	1 80%
3 教育実習簿(日誌)の内容	2 10%
	3 10%

授業科目名		教育実習Ⅱ(教職課程・鍼灸) (Teaching Practice II)	
主担当教員	老田 準司	担当教員	老田 準司、福島 信也、阿部 秀高
科目ナンバリング	SE624	教職に関する科目	ディプロマポリシー 該当項目
配当年次	4	開講学期	前期
授業形態	実習	単位数	2
授業概要			
1	高等学校で、実践的指導力のある指導教員の下での体験を通じ、教育実践の基礎基本的能力を身に付ける。		
2	教育実践に関わることを通じて、生徒理解を深め、教員になるうえでの課題を把握する。		
到達目標			
1	教科指導においては、科目保健、科目体育の学習指導案作成方法や生徒の実態を踏まえた指導の基礎基本（情報機器の活用方法など）について理解でき、授業ができるようになる。		
2	学級担任や分掌業務等について、職務内容を实地に即して理解できるようになる。		
3	生徒との積極的な関わりを通して、生徒理解を深めるとともに、生徒とのコミュニケーション方法を習得する。		
4	教育実習から得られた課題について、今後の大学生活で、知識技能を中心に課題解決に努める。		
履修上の注意(学生へのメッセージ)			
教育現場での実習なので、教科指導力や生徒対応力等を向上などの準備をしておくとともに、服装、態度、言葉遣いに細心に注意した行動をとること。			
教科書			
高等学校学習指導要領			
高等学校学習指導要領解説保健体育編・体育編			
参考書			
めざそう保健体育教師(朝日出版)			
研究室/オフィスアワー			
研究室 14 火曜日 16時30分～18時			
授業期間及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	教育実習校でオリエンテーション 1 教育方針、校訓等について説明を聞く。 2 実習中の注意事項について説明を受ける。 3 実習の予定の確認を受ける。 4 校内の施設設備、用具について説明を受ける。	実習日までに大学で習得した知識、技能について整理し、実習に備える。	
2	高等学校における教育実習の留意点及び実習への不安対処方法	アンケート調査結果で得られた不安への対処法を学ぶ。	
3	高等学校の教員の業務について理解	学校業務について調べておく。	
4	高等学校学習指導要領の内容の理解 高等学校全体の学習指導	学習指導要領の内容についての理解を深め、総説及び教科の目標、内容について運動について理解を深めておく。	
5	高等学校学習指導要領解説保健体育編・体育編 高等学校学習指導要領解説保健体育の目標内容	8 領域のうち、器械運動、陸上競技について理解を深めておく。	
6	高等学校学習指導要領解説保健体育編・体育編での科目体育の内容	8 領域のうち、水泳、球技について理解を深めておく。	
7	高等学校学習指導要領解説保健体育編・体育編での科目体育の内容	8 領域のうち、武道、ダンス、体育理論について理解を深めておく。	
8	高等学校学習指導要領解説保健体育編・体育編での科目体育の内容	科目保健の目標及び内容のうち、現代社会と健康の単元の理解を深めておく。	
9	高等学校学習指導要領解説保健体育編・体育編での科目保健の内容(アクティブラーニングの展開方法の理解)	内容のうち、生涯を通じる健康、社会生活と健康の単元の理解を深めておく。	
10	高等学校学習指導要領解説保健体育編・体育編での科目保健の内容	LHRやSHR、学校行事について生徒への支援方法を学ぶ。	
11	特別活動の理解	部活動の支援方法について学ぶ。	
12	教科外活動の理解		

13	専門教科以外の活動の理解	HR活動の理解を深めておく	
14	校務分掌について情報を得る	校務分掌についての理解を深めておく	
15	学校教育活動全般について理解する	学区全体で取り組まれている活動について理解を深めておく	
成績評価方法と基準			
割合			
1	実習校からの評価		1 80%
2	本学での講義		2 10%
3	教育実習簿(日誌)の内容		3 10%

授業科目名	教職実践演習(中・高)【教職課程・鍼灸】(Practical Training of Teaching【Junior / Senior High School】)		
主担当教員	老田 準司	担当教員	老田 準司、福島 信也、阿部 秀高
科目ナンバリング	SE625	科目区分	ディプロマポリシー 該当項目
配当年次	4	開講学期	曜日・時間
授業形態	演習	単位数	火曜 2限
授業概要	2 必修・選択 必修		
到達目標	<p>○ 教員としての必要な知識技能を確認するとともに、教職に就くにあたり、自己の課題を把握し、解決の道筋を探る能力を身に付けることができる内容を学修する。</p> <p>○ 教育実習で体得した教育の基礎的技術をより応用の効く技術にするため、事例研究、グループ討議、模擬授業を適切に組み合わせて授業を履修できる能力を身に付ける。</p>		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	<p>○ これまで学修してきた教科、教職に関する事項を確認し、教員としての基礎基本の定着を図る。</p> <p>○ 教科内容の理解を深め、学習指導案作成や授業スキルの習得を図る。</p>		
教える立場としての意識を持つて授業に臨み、積極的に授業に参加する姿勢を持つこと。			
教科書			
高等学校学習指導要領解説保健体育・体育編(文部科学省)			
中学校学習指導要領解説保健体育編(文部科学省)			
参考書			
高等学校学習指導要領(文部科学省)			
中学校学習指導要領(文部科学省)			
教育法規(教育開発研究所)			
研究室/オフィスアワー			
14研究室 火曜日16時30分～18時			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	オリエンテーション、演習の進め方と評価方法の説明、 教育実習を振り返る一教職の意義	教育実習の体験をまとめておく。積極的な討議参加を心がける。	
2	教育実習を振り返る・教科指書の課題(中学校・高等学校)	教科指導での課題を整理しグループ内で発表できるようにしておく。	
3	教育実習を経験後の保健体育科指導案作成	生徒が積極的に取り組める指導案作成の資料をグループで用意する。	
4	保健体育科指導案作成と展開①	教育実習を経験を基礎としての指導案作成のための資料を準備しておく。	
5	保健体育科指導案作成と展開②	選択授業で実施される競技種目の資料を収集しておく。	
6	保健体育科指導案作成と展開③	体験した競技種目の反省点を整理しておく。	
7	保健体育科指導案作成と展開④	展開実践した競技種目の課題の整理をグループで行う。	
8	授業中の事故対応(体育実技中の事故判例研究)	グループ討議の内容を理解、定着させる。	
9	部活動中の事故対応(事故判例研究)	グループ討議の内容を理解、定着させる。	
10	道徳教育の学修①(現状と理解)	学校で実施されている道徳教育の現状の情報収集をしておく	
11	道徳教育の学修②(課題把握と展開)	道徳教育の課題について、情報を収集しておく。	
12	道徳教育の学修③(課題解決法の検討と展開)	検討課題把握のための情報を収集しておく。	
13	教育現場経験者の講義(支援学校)	講義後に講師と意見交換し課題を整理する。	
14	学校での新たな課題への対応(職務・生徒指導・教科指導・部活動)	最近の学校での課題を整理しておく。	

15	演習のまとめ(教員として使命感、倫理観、授業展開力等が、授業を通して、どれだけ養えたかを確認する。)	授業ノートに本演習の内容、意見を整理する。
成績評価方法と基準		
1 指導案作成内容、 2 実技実践への積極的姿勢 3 討議参加姿勢 3 教職理解		割合 1 40% 2 20% 3 20% 4 20%

鍼灸学科 教職課程
(2018 年度以降 入学生カリキュラム)

授業科目名 教育原理(教職課程・編入) (Principle of Education)			
主担当教員	和崎 光太郎	担当教員	和崎 光太郎
科目ナンバリング	SE609	教職に関する科目	ティプロボリシー 該当項目
配当年次	1	開講学期	前期
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	<p>①教育の基礎・基本的な原理を学ぶために教育の歴史や思想などの視点から各時代において教育や学校がどのような位置づけられてきたかを考察する。 ②諸外国の教育について学び、現在の日本の教育がどのような思想的・歴史的背景を有しているのかを理解することで、学校教育や社会教育の在り方について見識を深める。 ③現代における教育の課題や教育改革等の動きにも理解を深め、現代に求められる教師として必要な資質能力の習得を目指す。</p>		
到達目標	<p>①教育の基本的な概念や方法を踏まえた上での教育の意義・目的・理念を理解する。 ②日本及び諸外国の教育に関する歴史や思想、及び学校の働きについての知識を身につける。 ③現代の学校教育について理解を深め、教員として必要な資質能力を身につける。</p>		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	履修中の私語にはかなり厳しく対応します。		
教科書	「小学校学習指導要領Ⅰ(平成29年告示)及びⅡ(平成29年告示)」及び「中学校学習指導要領Ⅰ(平成29年告示)」を、必ず購入して授業に持参してください。他、授業中に配布するレジュメをテキストとします。		
参考書	授業中に適宜紹介する。		
研究室/オフィスアワー	研究室/オフィスアワー		
授業に関して何か質問等ありましたら、メールで、大学名・氏名を明記した上で送信してください(携帯メール不可)。	授業に関して何か質問等ありましたら、メールで、大学名・氏名を明記した上で送信してください(携帯メール不可)。		
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	教育学と教育の成り立ち	集中講義として開講するので、適宜授業中に指示する。	
2	教育する意味と目的①: 日本国憲法を読む	同上。	
3	教育する意味と目的②: 教育基本法の第1章を読む	同上。	
4	教育する意味と目的③: 教育基本法の第2章以降を読む	同上。	
5	教育の理念及び目的についてのまとめと到達度評価	同上。	
6	初等教育のねらいと内容①: 小学校学習指導要領の第1章・第2章を読む	同上。	
7	初等教育のねらいと内容②: 小学校学習指導要領の第3章以降を読む	同上。	
8	前期中等教育のねらいと内容①: 中学校学習指導要領の第1章・第2章を読む	同上。	
9	前期中等教育のねらいと内容②: 中学校学習指導要領の第3章以降を読む	同上。	
10	学習指導についてのまとめと到達度評価	同上。	
11	西洋教育思想史①: エラスムス・ルター・コメニウス・ロック	同上。	
12	西洋教育思想史②: ルソー・ペスタロッチ・フレイベル・ヘルバルト	同上。	
13	新教育の思想家と大正自由教育	同上。	
14	戦後日本の教育史	同上。	

15	教育の思想と歴史についてのまとめと到達度評価	同上。
成績評価方法と基準		割合
到達度評価(持込可のテスト)		100%

授業科目名 教職論(教職課程・鍼灸) (Studies of Teacher Training)			
主担当教員	阿部 秀高	担当教員	阿部 秀高
科目ナンバリング	SE608	教職に関する科目	ディプロマポリシー 該当項目
配当年次	1	開講学期	前期
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	現代における教職とはどのような職業なのかを考えていくことを講義の中心とします。教職に関する資格・職務・制度についての基礎知識について理解を深め、教職に対しての心構えについて形成する。		
到達目標	教職に関する基礎的な知識を的確に答えることができる。また、現代の日本に求められる教師像を、自ら探求し、論述することができる。		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	教職志望者であるという強い目的意識をもって受講して欲しい。さもないと、途中で断念することになるであろう。講義形式で授業を進めるが、グループワークを取り入れる予定であり、受講生にも発言を求める。なお、受講生の数、興味・関心に応じて、講義計画を変更することもある。		
教科書			
人間教育を実践する教師への道—教師の仕事と教育行政— 阿部秀高著 (株)ERP			
参考書			
授業の際に必要なことについて紹介します。			
研究室/オフィスアワー			
研究室 20 または教職支援センター/在室時間随時			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	オリエンテーション 教師をめざす	・教職課程の概要を確認する ・教員のイメージを話し合ってみよう。	
2	教職とは何か	・教職の意義について確認する。 ・教職の意義について話し合ってみよう。 ・教師職の変遷について、時代と教師の役割から考察する。	
3	教師職の変遷と理想の教師像	・理想の教師像を話し合ってみよう。 ・学校の歴史とその機能について確認する。	
4	学校とは1 成立の歴史と機能	・理想の学校を話し合ってみよう。 ・出身校(高等学校)の学校案内・HPより学校の概要を確認する。	
5	学校とは2 自身の学校(高等学校を中心に)	・それぞれの学校についての相違点から、学校とはどのようなものか話し合ってみよう。	
6	教師の仕事1 小学校・中学校・高等学校教員	・教師の一日のスケジュール ・各校種の教員の仕事を確認する。	
7	教師の仕事2 養護教諭の仕事	・一日のスケジュールと年間のスケジュール ・養護教諭の仕事を確認する。	
8	学校と教師1 教科指導・校務分掌	・授業づくりと評価について確認する。 ・校務分掌について、特に保健に関する分掌について確認する。	
9	学校と教師2 学級経営・課外活動	・学級経営、課外活動について確認する。	
10	学校教育をめぐる現状と教師	・9 回までの学びから学校教育をめぐる現状と教師の役割について話し合ってみよう。	
11	国内の教育政策の動向1 学力・役割	・文部科学省HPより、最新の教育施策を調べてみよう。 ・今求められる学力と教師の役割について話し合ってみよう。	
12	国内の教育政策の動向2 資質・能力の向上	・文部科学省HPより、最新の教育施策を調べてみよう。 ・今求められる教員の資質・能力について考え、話し合ってみよう。	

13	諸外国の教師と学校	・外国の学校と教師について確認する。 ・日本との違いについて話し合ってみよう。	
14	教職への進路選択と教員採用試験	・教員採用試験の情報を調べてみよう。	
15	教職論の振り返り 課題レポート	・教職論の学習を振り返り、整理しよう。 ・自分の理想の学校・教師像をまとめてみよう。	
成績評価方法と基準			
①最終回における課題レポート			割合
②授業におけるグループワーク活動への参加・課題への取り組み・学びの履歴シートの出来映え、提出状況などを総合して評価する。グループワークを取り入れる予定。			①30% ②70%

授業科目名 教育行政学(教職課程・補欠) (Educational Administration)			
主担当教員	阿部 秀高	担当教員	阿部 秀高
科目ナンバリング	SE610	科目区分	ディプロマポリシー 該当項目
配当年次	2	開講学期	曜日・時限 火曜 1限
授業形態	講義	単位数	2 必修・選択 必修
授業概要 教育行政とは、「国や地方公共団体の自治体が、教育法規を実現するため、教育法規を基礎に教育制度を運営し、教育条件の整備と教育活動の補助・助成を行うこと」である。本講義では、教育行政学に関して、受講者がこれまでの学校教育の中で経験した教育行政の一端を振り返るとともに、教育行政施策に関するマスコミ報道等を手掛かりとしながら、日本の教育行政の現状と今後の課題について学ぶ。			
到達目標 1. 教育行政の理念、組織、仕組みに関する基礎知識を持つことができる。 2. 教育行政と学校・教員との関係を理解することができる。 3. 教育行政を巡る今日的な課題について理解することができる。 4. 教育行政について考究するために必要な情報の取得方法を知り、活用することができる。			
履修上の注意(学生へのメッセージ) 1. 主体的・協働的に学ぶアクティブ・ラーナーになること。 2. 限られた時間内で一定程度の文章を書く習慣を身に付けること。 3. 問題意識を持って受講すること。 4. 授業中の携帯電話等の使用はしないこと。			
教科書			
「人間教育を実践する教師への道—教師の仕事と教育行政—」 阿部秀高著 株式会社 ERP			
参考書			
『教育法規エッセンス』元兼正浩／花書院 その他、必要に応じて紹介する。			
研究室／オフィスアワー			
東棟4階20研究室／在室時は随時			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	オリエンテーション 「教育行政学」の学びのアウトラインを知る	予習：シラバス・教科書の確認 復習：授業をもとに今後の学修を確認する	
2	公教育の原理と思想 公教育の概念や公教育の原理について学ぶ	予習：教科書を読んでおく 復習：三原則の具体例を調べる	
3	学校体系 外国の単線型・複線型学校体系及び日本の学校体系について学ぶ	予習：教科書を読んでおく 復習：日本の学校体系について調べる	
4	教育の法体系① 教育法系の体系及び学校教育法の整備について学ぶ	予習：教科書を読んでおく 復習：学修内容を400字程度でまとめる	
5	教育の法体系② 教育基本法の改正と教育行政の責任の明確化について学ぶ	予習：教科書を読んでおく 復習：今後の課題を調べる	
6	中央教育行政 教育改革における教育行政の役割や文部科学省の組織について学ぶ	予習：教科書を読んでおく 復習：文部科学省の主要施策を調べる	
7	地方教育行政 地方教育行政の役割と教育委員会の制度について学ぶ	予習：教科書を読んでおく 復習：出身地の教育振興基本計画を調べる	
8	教育課程行政 教育課程に関する法制度及び学習指導要領の変遷と教科書採択等について学ぶ	予習：教科書を読んでおく 復習：教科書の調べる	
9	教育財政と学校財務 教育費の基本原理や教職員にかかる経費について学ぶ	予習：教科書を読んでおく 復習：学修内容を400字程度でまとめる	
10	学校経営改革 学校経営改革の内容を知るとともに地域と共につくる学校について学ぶ	予習：教科書を読んでおく 復習：子どもの今について調べる	

11	学校評価 学校評価の制度及び学校評価システムの展開について学ぶ	予習：教科書を読んでおく 復習：出身校の学校評価を調べる	
12	教員評価 教員評価の制度及び教員評価の実施方法等について学ぶ	予習：教科書を読んでおく 復習：学修内容を400字程度でまとめる	
13	学校安全① いじめ問題への対応及び学校における衛生・健康管理について学ぶ	予習：教科書を読んでおく 復習：いじめ防止対策基本方針を調べる	
14	学校安全② 防犯・安全対策及び学校事故への安全対策と災害に対する備えについて学ぶ	予習：教科書を読んでおく 復習：学校事故のニュースを調べる	
15	課題レポート 講義全体を振り返り、学修状況を確認する。	予習：講義内容の振り返りをしておく 復習：学修内容を800字程度でまとめる	
成績評価方法と基準			
1. 授業中記録した学びの履歴シート【50%】			
2. 最終回の課題レポート【30%】			
3. 授業での発言、主体的な学びの姿勢【20%】			
			割合
			1. 50%
			2. 30%
			3. 20%

授業科目名	教育心理学(教職課程・鍼灸) (Educational Psychology)		
主担当教員	北口 勝也	担当教員	北口 勝也
科目ナンバリング	SE611	教職に関する科目	ディプロマポリシー 該当項目
配当年次	2	開講学期	曜日・時限 金曜 3限
授業形態	講義	単位数	2 必修・選択 必修
授業概要	<p>教育心理学は心理学で得られた知見を教育現場に応用する科学である。学校教育を考える上で、教育心理学に関するさまざまな知識や技術を習得し、それらを利用して教育に関わる現象を分析的に捉えることは重要である。また、近年、「不登校」「いじめ」「学習困難」「学習障害」といった学校をめぐる出来事が社会問題化してきている。この授業では、教育心理学の基本的知識を正確に理解し、実際の教育現場をイメージしながら考える基礎を養うことを主な目的としている。</p> <p>到達目標</p> <p>(1) 乳幼児期から青年期の各時期における運動・言語・認知・社会性の発達及び発達上の問題のある子どもへの対応に関する知識と技術を獲得している。</p> <p>(2) 主体的学習を支える記憶、行動、動機づけ、集団づくり、学習評価の在り方などについて、発達の特徴と関連づけて理解している</p> <p>(3) 教育における心理学の意義を理解し、具体的な問題解決を志向する態度を身につけている。</p> <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>授業前に配布する資料を熟読して授業に備えること。授業後には講義内容を復習し、次回授業冒頭の小テストに備えること。小テストは自己採点して、答えられなかった部分については、前回資料をよく復習して、知識を確実に身につけておくこと。</p>		
教科書			
なし			
参考書			
なし			
研究室/オフィスアワー			
非常勤講師控室			
授業履修期及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	発達と教育① ー乳幼児期～幼児期ー	予習として配布資料を熟読すること、復習として小テストを見直して知識を確認すること	復習として小
2	発達と教育② ー学童期～思春期ー	予習として配布資料を熟読すること、復習として小テストを見直して知識を確認すること	復習として小
3	発達と教育③ ー青年期ー	予習として配布資料を熟読すること、復習として小テストを見直して知識を確認すること	復習として小
4	記憶のしくみを知る ー認知心理学ー	予習として配布資料を熟読すること、復習として小テストを見直して知識を確認すること	復習として小
5	記憶に携る教授法を考える ー認知心理学ー	予習として配布資料を熟読すること、復習として小テストを見直して知識を確認すること	復習として小
6	学習のしくみを知る ー学習心理学ー	予習として配布資料を熟読すること、復習として小テストを見直して知識を確認すること	復習として小
7	行動のしくみを知る ー応用行動分析ー	予習として配布資料を熟読すること、復習として小テストを見直して知識を確認すること	復習として小
8	「やる気」の心理学 ー動機づけ心理学ー	予習として配布資料を熟読すること、復習として小テストを見直して知識を確認すること	復習として小
9	授業に必要な心理学的知識に関するまとめ	予習としてまとめテストに備えること、復習としてまとめテストの解答を見直して知識を確認すること	復習としてま
10	評価の心理的影響を知る	予習として配布資料を熟読すること、復習として小テストを見直して知識を確認すること	復習として小
11	性格の把握と学べる集団作りを知る ー性格心理学・社会心理学ー	予習として配布資料を熟読すること、復習として小テストを見直して知識を確認すること	復習として小
12	発達障害への対応を知る ー臨床心理学ー	予習として配布資料を熟読すること、復習として小テストを見直して知識を確認すること	復習として小
13	児童生徒に見られる心の問題 ー臨床心理学ー	予習として配布資料を熟読すること、復習として小テストを見直して知識を確認すること	復習として小
14	教師の専門性とカウンセリングマインド ー臨床心理学ー	予習として配布資料を熟読すること、復習として小テストを見直して知識を確認すること	復習として小
15	個別指導に必要な心理学的知識に関するまとめ	予習としてまとめテストに備えること、復習としてまとめテストの解答を見直して知識を確認すること	復習としてま

成績評価方法と基準	割合
①講義中に Rowe れる2回のまとめテスト	①80%
②小テスト	②20%
の成績により評価する。	

授業科目名		教育課程編(教職課程・編外) (Curriculum Studies)		
主担当教員	河原 和之	担当教員	河原 和之	
科目ナンバリング	SE612	教職に関する科目	ディプロマポリシー 該当項目	
配当年次	2	開講学期	曜日・時限	火曜 4限
授業形態	講義	単位数	必修・選択	必修
授業概要				
教育課程とは、カリキュラム(Curriculum)の訳語であり、学校における教育計画の全体像といつてよい。この時間は、日本における教育課程の編成と具体的事例について提案し議論する				
到達目標				
日本における教育課程をめぐる現実の問題と課題、そして具体例について習得する				
履修上の注意(学生へのメッセージ)				
ネット情報や新聞をよく読むとともに、メディアの報道にも日常的に注意を払いながら、日本における現実の教育問題について把握できるように努力してほしい。				
教科書	なし。授業時に資料やワークシートを用意する。			
参考書				
授業中において適宜紹介する。				
研究室/オフィスアワー				
授業時に連絡する				
授業展開及び授業計画表				
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当	
1	オリエンテーション	予習：シラバスの確認 復習：学習の心構えや受講注意、アイスブレイキング	アイズブレイキ	
2	教育課程の歩み	予習：学習指導要領の歴史の概略を知る 復習：学習指導要領変化の要因を確認		
3	教育課程と学習観	予習：系統主義か問題解決学習か 復習：ゲームによる学習方法の違いを確認		
4	教育課程と学習指導要領	予習：部活動の位置づけや変化など 復習：上記について自分の意見を書く		
5	主体的、対話的な深い学び1	予習：学習指導要領を読む 復習：河原 NHKわくわく授業をまとめる		
6	主体的、対話的な深い学び2	予習：河原 NHKわくわく授業の分析 復習：河原授業の成果と課題の整理		
7	主体的、対話的な深い学び3	予習：実践事例を書く 復習：学生による実践事例を読む		
8	主体的、対話的な深い学び4	予習：学生による実践事例を読む 復習：分析をまとめる		
9	キーコンピテンシー1	予習：コミュニケーション力を中心に予習 復習：授業時のワークシットを整理		
10	キーコンピテンシー2	予習：ディベート力を中心に予習 復習：授業時のワークシットを整理		
11	キーコンピテンシー3	予習：発表力を中心に予習 復習：他者のプレゼンの成否について整理		
12	キーコンピテンシー4	予習：企画・参画力を中心に予習 復習：企画・参画型の事例を開発		
13	キーコンピテンシー5	予習：学校行事の具体例の報告 復習：学校行事の意義についてまとめる		
14	キーコンピテンシー6	予習：総合的な学習の意義と具体的事例 復習：総合的な学習の事例を考える		
15	講義全体のまとめと振り返り	予習：授業から学んだことかんがえたことの交流 復習：まとめの感想を書く		
成績評価方法と基準				割合

1	レポート	授業指導案、総合的な学習、各種行事など	1	30%
2	プレゼン	授業、各種発表など	2	30%
3	最終レポート「授業をうけて学んだこと考えたこと」		3	20%
4	授業への姿勢		4	20%

詳細は、授業中に説明する

授業科目名		道徳教育論(教職課程・鍼灸) (Moral Education)																																					
主担当教員	福島 信也	担当教員	福島 信也																																				
科目ナンバリング	SE617	教職に関する科目	ディプロマポリシー 該当項目																																				
配当年次	2	開講学期	曜日・時限 金曜 4 限																																				
授業形態	講義	単位数	2 必修・選択 必修																																				
<p>授業概要</p> <p>本授業では、『特別の教科・道徳(中学校50分)の作り方を実践的に学びます。2018年度から小学校、2019年度から中学校で特別の教科「道徳科」になり、教科書が配布されています。教育実習でも「道徳科」を担当させている学校が増えています。また、新高等学校学習指導要領(2019.4/1～2022.3/31 移行期間 2022年4/1より施行)の主な改善事項の一つに、「道徳教育の充実」が挙げられ、全ての教師が協力して道徳教育を展開することを規定(総則)しています。生徒たちが興味をもって深い学びを得られる授業をどうしたらできるでしょうか。学校現場の様子も説明しながら、受講者同士の話し合い(グループ活動)、教材や授業方法の検討、学習指導案作成、(フチ)模範授業などを通じて、これらの問題を考えたいと思います。</p> <p>到達目標</p> <p>※学校における道徳教育の位置づけやねらい、内容について理解する ※『中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編(平成29年7月)』の重要事項について、答えることができる。 ※「道徳とは何か」、「なぜ必要なのか」など、説明することができる。 ※道徳授業の実践に資する知識や技能を身につける ※生徒たちの道徳性の発達や興味・関心、社会的要請などを踏まえ、授業を工夫しながら学習指導案を作成する。(全員) ※作成した学習指導案をもとに、(フチ)模範授業をする。(全員) ※道徳授業に興味・関心をもち、道徳授業(生命尊重など)をさらにやってみてみたい。</p> <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●授業で配布したプリントは、必ずファイル(綴じ込んで保存)すること。 ●プリントを通読み返し、授業で学んだことを復習すること。 ●授業で配布した課題プリントは、必ず提出すること。 ●教材をじっくり読み込んで(何回も)、学習指導案を作成すること。 <p>教科書</p> <p>使用しない。プリントを配布します。</p> <p>参考書</p> <ul style="list-style-type: none"> ●文部科学省「中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」平成29年7月 ●授業は配布するプリントに基づいて行います。 ●学校現場で役立つ内容が含んでいるプリントを用意します。プリントは実践に活かすことができるので、ファイル(綴じ込んで保存)すること。 <p>その他、参考となる文献などは授業中に適宜紹介していきます。</p> <p>研究室/オフィスアワー</p> <p>イーストポート4階 研究室20</p>																																							
<p>授業展開及び授業計画表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>学修内容</th> <th>予習・復習・課題等</th> <th>担当</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 及び 自分を語る ～答えない道徳の問題 どう解く?～</td> <td>プリント復習</td> <td>福島信也</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>「特別の教科 道徳」改訂のポイント(その1) 【学習指導要領解説】配布</td> <td>プリント復習</td> <td>福島信也</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>「特別の教科 道徳」改訂のポイント(その2) 【道徳教材冊子】配布 福島先生の模範授業</td> <td>プリント復習 『中学校学習指導要領解説』を読み直す</td> <td>福島信也</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>～小・中・高校でも利用できる教材を使って～</td> <td>プリント復習</td> <td>福島信也</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>「特別の教科 道徳」改訂のポイント(その3)</td> <td>プリント復習 教材の分析(内容項目を考えよう) 『中学校学習指導要領解説』を読み直す</td> <td>福島信也</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>道徳授業の指導法(1) 「授業の形態・指導過程」などについて</td> <td>プリント復習 教材分析</td> <td>福島信也</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>道徳授業の指導法(2) ～「評価」について、指導案作成のポイント～ 【「書き用課題用紙」配布</td> <td>プリント復習 教材分析</td> <td>福島信也</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>道徳授業の指導法(3) 授業(展開)を知ろう!①</td> <td>プリント復習 教材分析</td> <td>福島信也</td> </tr> </tbody> </table>				回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当	1	オリエンテーション 及び 自分を語る ～答えない道徳の問題 どう解く?～	プリント復習	福島信也	2	「特別の教科 道徳」改訂のポイント(その1) 【学習指導要領解説】配布	プリント復習	福島信也	3	「特別の教科 道徳」改訂のポイント(その2) 【道徳教材冊子】配布 福島先生の模範授業	プリント復習 『中学校学習指導要領解説』を読み直す	福島信也	4	～小・中・高校でも利用できる教材を使って～	プリント復習	福島信也	5	「特別の教科 道徳」改訂のポイント(その3)	プリント復習 教材の分析(内容項目を考えよう) 『中学校学習指導要領解説』を読み直す	福島信也	6	道徳授業の指導法(1) 「授業の形態・指導過程」などについて	プリント復習 教材分析	福島信也	7	道徳授業の指導法(2) ～「評価」について、指導案作成のポイント～ 【「書き用課題用紙」配布	プリント復習 教材分析	福島信也	8	道徳授業の指導法(3) 授業(展開)を知ろう!①	プリント復習 教材分析	福島信也
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当																																				
1	オリエンテーション 及び 自分を語る ～答えない道徳の問題 どう解く?～	プリント復習	福島信也																																				
2	「特別の教科 道徳」改訂のポイント(その1) 【学習指導要領解説】配布	プリント復習	福島信也																																				
3	「特別の教科 道徳」改訂のポイント(その2) 【道徳教材冊子】配布 福島先生の模範授業	プリント復習 『中学校学習指導要領解説』を読み直す	福島信也																																				
4	～小・中・高校でも利用できる教材を使って～	プリント復習	福島信也																																				
5	「特別の教科 道徳」改訂のポイント(その3)	プリント復習 教材の分析(内容項目を考えよう) 『中学校学習指導要領解説』を読み直す	福島信也																																				
6	道徳授業の指導法(1) 「授業の形態・指導過程」などについて	プリント復習 教材分析	福島信也																																				
7	道徳授業の指導法(2) ～「評価」について、指導案作成のポイント～ 【「書き用課題用紙」配布	プリント復習 教材分析	福島信也																																				
8	道徳授業の指導法(3) 授業(展開)を知ろう!①	プリント復習 教材分析	福島信也																																				

9	～指導案のラフスケッチをしてみよう!～ 道徳授業の指導法(4) 授業(展開)を知ろう!② ～指導案の内容を工夫しよう!～	プリント復習 指導案作成	福島信也
10	道徳授業の指導法(5) 授業(導入・展開・終末)を知ろう!③ ～指導案の内容をさらに工夫する!～ 指導案検討	プリント復習 指導案作成	福島信也
11	～指導案の内容をさらに磨める～ 【提出用課題用紙】配布	プリント復習 指導案作成	福島信也
12	指導案検討会 ～指導案をグループで高め合おう&(フチ)模範授業を成功させよう～ (フチ)模範授業の工夫・準備、指導案提出	プリント復習 (フチ)模範授業の準備	福島信也
13	(フチ)模範授業(1)	(フチ)模範授業の準備 模範授業の評価・自己評価	福島信也
14	(フチ)模範授業(2)	模範授業の評価・自己評価	福島信也
15	(フチ)模範授業(3) まとめ(学校教育における道徳教育の使命)	(フチ)模範授業の準備 模範授業の評価・自己評価	福島信也
成績評価方法と基準			割合
<ul style="list-style-type: none"> ●(フチ)模範授業は全員が行います。 ●学習指導案は全員が提出します。 ●授業では、課題(プリント・コメントシート)を提出します。 			<ul style="list-style-type: none"> ●模範授業: 30% ●道徳指導案: 35% ●授業内課題: 35%

授業科目名		特別活動論(教職課程・編入) (Special Activities)	
主担当教員	天野 義美	担当教員	天野 義美
科目ナンバリング	SE618	教職に関する科目	ディプロマポリシー 該当項目
配当年次	2	開講学期	前期
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	<p>①人間形成の必要な部分を特別活動が担うという観点から、特別活動の特質や意義、活動内容、指導方法などについて考察する。</p> <p>②一方向的講義に終始するのではなく、話し合いや担当者自身の教育実践の紹介を織り交ぜながら、特別活動の大切さを共に追究する。</p> <p>③本授業では、特別活動の理論と指導法について、概論(第1回)→総論(第2～4回)→各論(第5～8回)→細論(第9～14回)→まとめ(第15回)で展開し、それぞれの理解を促すうえで、最後にレポートの提出を講ずる。</p> <p>到達目標</p> <p>①本授業に積極的に参加し、特別活動に関する基礎的な知識を修得できるようにする。</p> <p>②授業内容を踏まえて、特別活動の教育的意義について自己の考えを確立できるようにする。</p> <p>③教育の今日的課題の解決に向けて、特別活動の果たすべき役割を理解できるようにする。</p> <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>①中高生の現状や課題に関心を持ち、その原因と対策、解決への道筋などを教育課題として、主体的に授業に臨むこと。</p> <p>②「為すこと」によって学ぶという特別活動の方法原理に基づいて、授業中のグループワークや演習にも、自主的、実践的に参加すること。</p> <p>③授業での配布資料の末尾に、その講義の「まとめ」欄を設けているので、授業の展開を振り返って「まとめ」の内容が定着できるように復習に努めること。また、欄外に、次時の学習課題を明記しているため、「学習指導要領解説 特別活動編」などを参考に予習をしておくこと。</p> <p>④授業中のスマホ使用は認めない。(減点の対象になる場合もあるため厳守のこと)</p>		
教科書	なし(講義の中で資料を配布する)		
参考書	<p>「やさしく学ぶ特別活動」 赤坂雅裕他(ミネルヴァ書房)</p> <p>「中学校学習指導要領解説 特別活動編」 文部科学省(ぎょうせい)</p> <p>「高等学校学習指導要領解説 特別活動編」 文部科学省(翔文堂出版)</p> <p>「学級・学校文化を創る特別活動 中学校編」 国立教育政策研究所(東京書籍)</p> <p>研究室/オフィスアワー</p>		
授業終了後、教室内外及び講師控室で質問を受ける。			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	特別活動の概要 ・特別活動とは何か? ・学校教育での位置付け	予習: 学校教育における特別活動とは何か。 復習: 教育課程に位置付けている特別活動の内容を確認する。 ・学校教員としての位置付け	天野
2	特別活動の特質 ・子どもの現状と課題 ・特質と方法原理	予習: 教育の課題解決に向けて、特別活動が果たすべき役割とは何か。 復習: 特別活動の特質、方法原理を確認する。	天野
3	特別活動の変遷 ・歴史的な歩み ・今回の学習指導要領の改訂	予習: 特別活動の歩みと指導要領との関連はどうなっているのか。 復習: 特別活動の変遷と、今回の指導要領の改訂の主旨を理解する。	天野
4	特別活動の目標と内容 ・目標と教育的意義 ・内容とその取扱い ・校種間の関連	予習: 小・中・高の特別活動の目標、教育的意義、内容とは何か。 復習: 特別活動の目標・意義・内容について確認する。	天野
5	学級活動(ホームルーム活動)の目標と内容 ・目標と教育的意義 ・内容とその取扱い ・展開事例	予習: 学級活動の目標、及び、それを達成するための内容にはどのようなものがあるのか。 復習: 学級活動の目標・意義・内容について理解する。	天野
6	生徒会活動の目標と内容 ・目標と教育的意義 ・内容とその取扱い ・展開事例	予習: 生徒会活動の目標、及び、それを達成するための内容にはどのようなものがあるのか。 復習: 生徒会活動の目標・意義・内容について理解する。	天野

7	<p>学校行事の目標と内容①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標と教育的意義 ・内容とその取扱い (1)儀式的行事 (2)文化的行事 	<p>予習: 学校行事の目標、及び、それを達成するための内容(儀式的行事、文化的行事)にはどのようなものがあるのか。</p> <p>復習: 学校行事の目標・意義・内容について理解する。</p>	天野
8	<p>学校行事の目標と内容②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内容とその取扱い (3)健康安全・体育的行事 (4)旅行・集団宿泊的行事 (5)労生産・奉仕的行事 ・展開事例 	<p>予習: 学校行事の目標、及び、それを達成するための内容(健康安全・体育的行事、旅行・集団宿泊的行事、勤労生産・奉仕的行事)にはどのようなものがあるのか。</p> <p>復習: 学校教育における学校行事の果たす役割について整理する。</p>	天野
9	特別活動の指導計画 ・全体計画 ・③内容の相互関連 ・年間指導計画	<p>予習: 特別活動を効果的に展開するための指導計画(どのようになっているのか)。</p> <p>復習: 特別活動の全体計画、並びに、各々の年間指導計画を理解する。</p>	天野
10	特別活動と他の教育活動との関連 ・各教科との関連 ・道徳科との関連 ・総合的な学習の時間との関連	<p>予習: 各教科・道徳科・総合的な学習の時間との教育的な関連を整理する。</p> <p>復習: 円滑な学級経営を築く上で、特別活動が果たす役割や機能をどう捉えるべきか。</p>	天野
11	特別活動と学校・学年・学級経営 ・人間関係の形成 ・社会性の育成(社会参画) ・生徒指導の充実(自己実現)	<p>予習: 学級経営や学級活動の(1)【学級や学校における生活づくりへの参画】を中心にした特別活動の指導実践</p> <p>復習: 学級・学年・学級経営における特別活動の役割や重要性を理解する。</p>	天野
12	特別活動の指導実践(1)【学級や学校における生活づくりへの参画】を中心にした特別活動の指導実践	<p>予習: 学級指導案の一般的な形式・書式、書き方、内容とはどのようなものか。</p> <p>復習: 学級活動の活動過程と、一時間の学習指導案の要点を把握する。</p>	天野
13	特別活動の評価 ・学力の捉え方 ・特別活動で育つ力 ・評価の実際	<p>予習: 評価の持つ意味と、特別活動の評価のあり方とは何か。</p> <p>復習: 生徒のよさを積極的に認めて評価することの意義を理解する。</p>	天野
14	特別活動をめぐる諸問題 ・理解の深化 ・学校力・教師力 ・活動時間の確保	<p>予習: 特別活動の充実を図るために、学校や教師に必要なことは何か。</p> <p>復習: 特別活動の活動時間の確保について、考察する。</p>	天野
15	これからの学校教育と特別活動、講義のまとめ ・課題と展望 ・キーワードでの振り返り ・全体のまとめ	<p>予習: これからの学校教育の中で、特別活動に期待されることは何か。授業で出てきたキーワードをもとに、特別活動論の講義を振り返る。</p> <p>復習: 特別活動に関する知識・理解を確実なものにする。</p>	天野
成績評価方法と基準			
<p>①レポート(80%)、授業時の提出物・授業参加度・授業態度(20%)により、総合的に評価する。</p> <p>・注: 授業中のスマホ使用は厳禁。声掛けに従わない場合は、減点の対象とする。(正当な理由のない遅刻・中抜け・早退は、2回で欠席1回相当とみなす。)</p> <p>・例: 欠席5回と遅刻または早退1回で、評価対象外となる。</p>			
割合			
<p>・レポート(80%)</p> <p>・授業態度(20%)</p>			

授業科目名		生徒指導論(教職課程・鍼灸) (Student Guidance)			
主担当教員	吉田 卓司	担当教員	吉田 卓司	サブ担当教員	吉田 卓司
科目ナンバリング	SE620	科目区分	教職に関する科目	該当科目	ディプロマポリシー
配当年次	2	開講学期	後期	曜日・時限	集中講義
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	必修
授業概要					
この授業では、生徒指導上の課題に関する具体的な対応策とともに、それを支える教育論について講義する。取り上げる課題は、個別ケースの対応法から、学校、地域、国家等のマクロレベルの制度論、政策論まで、多面的である。本講義では、そのような内容理解と今日の子どもたちのおかれている状況を前提として、今日の教師の生徒指導観および中高生の心理や発達上の諸問題についての理解を促す。各教育課程における生徒指導や教育相談の考え方や実践方法を身につける。					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導の意義、実践方法について説明できる。 ・グループワークや生徒指導の模擬実践を行い、児童生徒の発達状況等を的確にアセスメントしたり、実課題のある生徒に対する対応ができる。 ・教師の教育観、授業観と生徒指導の実践との関連や、中学校・高等学校において比較的多くみられる生徒指導上の問題や課題について考察し、教育課題の解決方法や対応運例について説明できる。 履修上の注意(学生へのメッセージ) 					
予習…授業前に学習範囲のテキストを読み、そこで取り上げる教育問題について考察する。レポートを科す場合は、事前に指示する。					
復習…アクティブ・ラーニング等によって、自分の考えと他の受講者との考えを比較し、グループ討議等を通じて、問題意識や課題解決手段について理解を深めたことなどをミニレポートにまとめて提出する。					
教科書					
文部科学省「生徒指導要領」教育図書					
吉田卓司「教育実践基礎論」三栄出版					
参考書					
適宜紹介する。					
研究室/オフィスアワー					
講義の前後に質問などを受ける					
授業展開及び授業計画表		担当			
回数	学習内容	予習・復習・課題等			
1	生徒指導とはー生徒指導の意義	生徒指導の意義を字がかりに生徒指導の意義を学び、今日の学校教育の現場に求められている教育力と何かが考察する。本時の講義内容について、講義前の予習として、テキストの該当部分を読み、講義後の復習として、講義内容の振り返りと総括を各自のノート及び配布・返却されたプリント等に記しておくこと。			
2	集団指導と個別指導の方法原理	問題事象の解決が防止における生徒指導の方法原理の観点から生徒指導のあり方を理解する。本時の講義内容について、講義前の予習として、テキストの該当部分を読み、講義後の復習として、講義内容の振り返りと総括を各自のノート及び配布・返却されたプリント等に記しておくこと。			
3	生徒指導体制と教育相談ー学校における生徒指導体制と教育相談	学校教育の生徒指導体制と教育相談体制について具体的な事例を通じて考える。本時の講義内容について、講義前の予習として、テキストの該当部分を読み、講義後の復習として、講義内容の振り返りと総括を各自のノート及び配布・返却されたプリント等に記しておくこと。			
4	生徒指導の具体的展開?ー暴力(体罰問題を含む)	学校における暴力事象の対応について、その現状を学ぶ。本時の講義内容について、講義前の予習として、テキストの該当部分を読み、講義後の復習として、講義内容の振り返りと総括を各自のノート及び配布・返却されたプリント等に記しておくこと。			

5	生徒指導の具体的展開?ーいじめなど	ネットいじめを含むいじめ事象への生徒指導体制と方針について理解する。本時の講義内容について、講義前の予習として、テキストの該当部分を読み、講義後の復習として、講義内容の振り返りと総括を各自のノート及び配布・返却されたプリント等に記しておくこと。			
6	生徒指導の具体的展開?ー不登校など	不登校の意義とアセスメントについて考え、対応策についてフレキシブルに考える。本時の講義内容について、講義前の予習として、テキストの該当部分を読み、講義後の復習として、講義内容の振り返りと総括を各自のノート及び配布・返却されたプリント等に記しておくこと。			
7	生徒指導の進め方?校則と懲戒処分	生徒指導方針を校内で共有し、校則と懲戒処分のあり方を考える。本時の講義内容について、講義前の予習として、テキストの該当部分を読み、講義後の復習として、講義内容の振り返りと総括を各自のノート及び配布・返却されたプリント等に記しておくこと。			
8	生徒指導の進め方?インターネットトラブルなど	生徒指導方針を関係機関と共通理解し、関係機関と連携する方策を考える。本時の講義内容について、講義前の予習として、テキストの該当部分を読み、講義後の復習として、講義内容の振り返りと総括を各自のノート及び配布・返却されたプリント等に記しておくこと。			
9	進路指導(キャリア教育)の基本原則と位置付け	進路指導の基本的な考え方を深く理解し、その意義を考える。本時の講義内容について、講義前の予習として、テキストの該当部分を読み、講義後の復習として、講義内容の振り返りと総括を各自のノート及び配布・返却されたプリント等に記しておくこと。			
10	進路指導の進め方?ー進路ガイダンスの実際	ここまでの進路指導の展開に関して考察する。本時の講義内容について、講義前の予習として、テキストの該当部分を読み、講義後の復習として、講義内容の振り返りと総括を各自のノート及び配布・返却されたプリント等に記しておくこと。			
11	進路指導の進め方?ー進路カウンセリングの実際	問題意識を通じて進路指導の課題を考察する。本時の講義内容について、講義前の予習として、テキストの該当部分を読み、講義後の復習として、講義内容の振り返りと総括を各自のノート及び配布・返却されたプリント等に記しておくこと。			
12	生徒指導・進路指導の進め方?保護者対応と家庭・地域との連携	生徒指導及びキャリア教育の観点から、望ましい進路指導計画とは何かを考える。本時の講義内容について、講義前の予習として、テキストの該当部分を読み、講義後の復習として、講義内容の振り返りと総括を各自のノート及び配布・返却されたプリント等に記しておくこと。			
13	生徒指導・進路指導の進め方?チーム学校ー地域・関係機関との連携	問題事象の事前防止や事後対応などの具体的な指導計画と学校経営を考える。本時の講義内容について、講義前の予習として、テキストの該当部分を読み、講義後の復習として、講義内容の振り返りと総括を各自のノート及び配布・返却されたプリント等に記しておくこと。			
14	生徒指導に関する振り返りと総括	列挙した生徒指導のよき行いを行うか、その内容について、講義前の予習として、テキストの該当部分を読み、講義後の復習として、講義内容の振り返りと総括を各自のノート及び配布・返却されたプリント等に記しておくこと。			
15	進路指導に関する振り返りと総括	本講義を振り返り、教育としての意義・能力および教育観・人間観を考える。本時の講義内容について、講義前の予習として、テキストの該当部分を読み、講義後の復習として、講義内容の振り返りと総括を各自のノート及び配布・返却されたプリント等に記しておくこと。			
成績評価方法と基準		割合			

<p>定期試験 (50%) 講義レポート (20%) アクティブラ ーニング (15%) 予習・復習課 題(15%)</p>	<p>定期試験、講義時に作成するレポート、予習・復習課題については、教職免許取得者として必要な知識の理解と学 修内容に関して自ら考え、主体的に学びとったことを表現できているかを評価の基準とする。また、講義時のアクティ ブラーニングについては、参加態度の主体性と積極性を単面の基準とする。</p>
--	---

授業科目名				教育相談の基礎と方法(教職課程・編外) (Basics and Methods for Educational Counseling)			
主担当教員	吉田 卓司	担当教員	吉田 卓司				
科目ナンバリング	SE621	科目区分	テアプロモポリシー 該当科目				
配当年次	2	開講学期	曜日・時限	月曜2限			
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	必修		
授業概要	<p>本講義では、教育相談に関する基礎理論と具体的な対応策を講義する。取り上げる課題は、個別ケースの対応法から、学校、地域、社会等のレベルの制度論、政策論まで、多面的である。本講義では、そのような内容理解と今日の子どもたちのおかれている状況を前提として、ロールプレイなどのアクティブラーニングを取り入れて、教育相談の模擬実践を行い、児童生徒の発達状況や環境等を的確にアセスメントする能力と教育相談の対応力を養成する。</p> <p>到達目標</p> <p>本講義の目的は、教員として、教育相談に必要な知識、技能などの修得である。単なる知識やスキルの理解にとどまらず、可能な限りアクティブな学修手法を用いながら、教育相談(カウンセリング)における実践的な教育力を養成することを目標とする。</p> <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>教職免許取得を目的とする科目であることから、アクティブラーニングや予習・復習に対する主体的な学習態度と品位ある言動を学修のすべての段階において求める。</p>						
教科書	<p>文部科学省『生徒指導提要』教育図書 吉田卓司『教育実践基礎論』三学出版 兵庫民主教育研究所『子どもの人権委員会』子ども虐待と向き合う三学出版</p>						
参考書	<p>講義時に適宜紹介する。</p>						
研究室／オフィスアワー	<p>講義の前後に質問等を受け付ける。</p>						
授業展開及び授業計画表							
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当				
1	教育相談とは何かー教育相談の意義	本時の講義内容について、講義前の予習として、テキストの該当部分を読了しておくこと。また、講義後の復習として、講義内容の振り返りと総括を各自のノート及び配布・返却されたプリント等に記しておくこと。	吉田卓司				
2	教育相談(カウンセリング)の基礎理論	本時の講義内容について、講義前の予習として、テキストの該当部分を読了しておくこと。また、講義後の復習として、講義内容の振り返りと総括を各自のノート及び配布・返却されたプリント等に記しておくこと。	吉田卓司				
3	教育相談の方法原理	本時の講義内容について、講義前の予習として、テキストの該当部分を読了しておくこと。また、講義後の復習として、講義内容の振り返りと総括を各自のノート及び配布・返却されたプリント等に記しておくこと。	吉田卓司				
4	教育相談の具体的方法?ー個別・集団面接等の手法	本時の講義内容について、講義前の予習として、テキストの該当部分を読了しておくこと。また、講義後の復習として、講義内容の振り返りと総括を各自のノート及び配布・返却されたプリント等に記しておくこと。	吉田卓司				
5	教育相談の具体的方法?ー課題のある児童生徒の理解とソーシャルワーク	本時の講義内容について、講義前の予習として、テキストの該当部分を読了しておくこと。また、講義後の復習として、講義内容の振り返りと総括を各自のノート及び配布・返却されたプリント等に記しておくこと。	吉田卓司				
6	教育相談の具体的方法?ーカウンセリングマインドと多角的・総合的支援	本時の講義内容について、講義前の予習として、テキストの該当部分を読了しておくこと。また、講義後の復習として、講義内容の振り返りと総括を各自のノート及び配布・返却されたプリント等に記しておくこと。	吉田卓司				

7	教育相談の進め方・受容・共感の姿勢・共感的理解と姿勢	本時の講義内容について、講義前の予習として、テキストの該当部分を読了しておくこと。また、講義後の復習として、講義内容の振り返りと総括を各自のノート及び配布・返却されたプリント等に記しておくこと。	吉田卓司
8	教育相談の進め方?カウンセラー・ソーシャルワーカー等との協働	本時の講義内容について、講義前の予習として、テキストの該当部分を読了しておくこと。また、講義後の復習として、講義内容の振り返りと総括を各自のノート及び配布・返却されたプリント等に記しておくこと。	吉田卓司
9	教育相談計画と学校組織・チーム学校と保護者対応	本時の講義内容について、講義前の予習として、テキストの該当部分を読了しておくこと。また、講義後の復習として、講義内容の振り返りと総括を各自のノート及び配布・返却されたプリント等に記しておくこと。	吉田卓司
10	個別課題に向き合う教育相談の展開?いじめ	本時の講義内容について、講義前の予習として、テキストの該当部分を読了しておくこと。また、講義後の復習として、講義内容の振り返りと総括を各自のノート及び配布・返却されたプリント等に記しておくこと。	吉田卓司
11	個別課題に向き合う教育相談の展開?不登校	本時の講義内容について、講義前の予習として、テキストの該当部分を読了しておくこと。また、講義後の復習として、講義内容の振り返りと総括を各自のノート及び配布・返却されたプリント等に記しておくこと。	吉田卓司
12	個別課題に向き合う教育相談の展開?虐待	本時の講義内容について、講義前の予習として、テキストの該当部分を読了しておくこと。また、講義後の復習として、講義内容の振り返りと総括を各自のノート及び配布・返却されたプリント等に記しておくこと。	吉田卓司
13	個別課題に向き合う教育相談の展開?自殺防止	本時の講義内容について、講義前の予習として、テキストの該当部分を読了しておくこと。また、講義後の復習として、講義内容の振り返りと総括を各自のノート及び配布・返却されたプリント等に記しておくこと。	吉田卓司
14	教育相談とチーム学校ー地域・関係機関(医療・福祉・心理等)との連携	本時の講義内容について、講義前の予習として、テキストの該当部分を読了しておくこと。また、講義後の復習として、講義内容の振り返りと総括を各自のノート及び配布・返却されたプリント等に記しておくこと。	吉田卓司
15	：講義の振り返りと総括	本時の講義内容について、講義前の予習として、テキストの該当部分を読了しておくこと。また、講義後の復習として、講義内容の振り返りと総括を各自のノート及び配布・返却されたプリント等に記しておくこと。	吉田卓司
成績評価方法と基準			割合
定期試験			(90%)
講義レポート			(20%)
アクティブラーニング			(15%)
予習・復習課題			(15%)
定期試験、講義時に作成するレポート、予習・復習課題については、教職免許取得者として必要な知識の理解と学修内容に關して自ら考え、主体的に学習とつたことを実現できているかを評価の基準とする。また、講義時のアクティブラーニングについては、参加態度の主体性と積極性を評価の基準とする。			

理学療法学科

(2014 年度以降 入学生カリキュラム)

授業科目名	統合医療概論(理学) (Introduction to Integrative Medicine)		
主担当教員	山下 仁	担当教員	山下 仁、森 美侑紀、増山 祥子
科目ナンバリング	CS027	科目区分	学部共通科目
配当年次	3	開講学期	前期
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	<p>統合医療という言葉が医療の中で使われるようになってきたが、実際に統合医療が何を指し、どうあるべきなのかについては合意が得られていない。本授業では、統合医療の概念と現状について解説するとともに、統合医療の重要な構成要素である EBM と補完代替医療について概説する。また、各種治療の有効性と安全性について、エビデンスにもとづく批判的吟味のポイントについても解説する。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 統合医療の概念と現状について理解する。 2. EBM の概念と手法について理解する。 3. 補完代替医療の種類と概要について説明できる。 4. 各種医療手段についてエビデンスにもとづく批判的吟味ができる。 <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>医療や行政において統合医療は賛否両論である。医師その他の医療従事者も支持派と反対派に分かれている。本学生も卒業すればいずれその議論に巻き込まれる。なぜ賛否両論があるのか、よく考えながら受講していただきたい。</p>		
教科書			
資料を配布する。			
参考書			
各教員が必要に応じて授業担当時に紹介する。			
研究室/オフィスアワー			
山下 仁: 東棟 24 研究室、月・火6時間			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	医療におけるエビデンスの重要性 (山下)	健康関連商品の広告に目を通す	
2	EBM① (山下)	EBM について調べる	
3	EBM② (増山)	理学療法学領域の EBM について調べる	
4	医療情報を探し方と読み取り方 (山下)	附属図書館にある理学療法学関連の学術雑誌の目次を目を通し、論文の種類を調べる	
5	補完代替医療の実例: アロマセラピー① (森)	アロマセラピーの実例についてネットで調べる	
6	補完代替医療の実例: アロマセラピー② (森)	アロマセラピーの実例についてネットで調べる	
7	臨床試験と研究デザイン (増山)	臨床試験または治療についてネットで調べる	
8	保健医療研究における倫理 (山下)	医学・保健医療学研究におけるデータ関連・改ざん事件についてネットで調べる	
9	補完代替医療概論 (山下)	自分または家族が使っている補完代替医療に相当する健康法や商品を調べる	
10	補完代替医療における代表的な診断治療体系とその概要 (山下)	自分または家族が使っている補完代替医療に相当する健康法や商品を調べる	
11	緩和ケア、難病ケアと鍼灸治療 (増山)	自分または家族が治療困難な病気になった時に何を求めるか仮説する	
12	統合医療の概念と現状 (山下)	スピリチュアルという概念について調べる	
13	統合医療・補完代替医療の近況 (山下)	最近よく売られている補完代替医療系の商品やサービスを手で調べる	
14	統合医療の実践例 (山下)	最近よく売られている補完代替医療系の商品やサービスをネットで調べ、批判的に考察する。	

15	統合医療は何を統合するのか (山下)	14 回までに習った内容を整理する
成績評価方法と基準		割合
① 筆記試験		① 70%
② 課題提出物		② 30%

授業科目名 救急処置法(理学) (Emergency Treatment)			
主担当教員	吉岡 敏治	担当教員	吉岡 敏治
科目ナンバリング	SB114	専門基礎科目	ディプロマポリシー 該当項目
配当年次	3	開講学期	後期
授業形態	講義	単位数	1
授業概要	必修・選択		
到達目標	<p>救急患者とは健康状態が急変した人であり、救急医療とはだに何らかの医学的介入を必要とする人を対象とする医療である。講義では多岐にわたる内因性、外因性疾患の代表事例の病態、診断、治療の原則を学ぶ。</p> <p>2)内因性、外因性疾患の代表事例の病態、診断、治療の原則を学ぶ。</p> <p>3)蘇生法、止血法、体位保持法、固定法、運搬法等、各救急場面における基本的な処置技術を習得する。</p> <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>救急医療に従事した40年余の経験から、実際の事例や研究結果をスライドに示して、臨床に密着した講義を行う。救急医療は医療の原点であると同時に、内科的知識と外科的知識の両方が必要な応用医療でもある。したがって解剖学や臨床病理学等、これまでに学んだ他の講義と重複する内容も多いので、3年生前期までに得られた知識について質問をしながら、対話形式で授業を進める。また、救急救命士の国家試験の中から、救急処置に必要な知識、判断、処置に関する問題を約150題選択し、解答とともに配布する。評価はこの授業中の質問(30点)と教科書</p> <p>講義内容については詳細な資料を作成するので、教科書は不要</p> <p>参考書</p> <p>救急検査指針:救急検査認定技師テキスト へるす出版 救急蘇生法の指針2015(医療従事者用、改訂第5版) へるす出版 リハビリテーション リスク管理/ハンドブック (株)メンカルビユー社 救急法(野外活動における応急手当)・ボーイスカウト連盟 研究室/オフィスアワー</p>		
吉岡敏治(3棟、研究室4)ノ/原則月曜日 2-3時間目ですが、その他、部屋にいればいつでも訪問可です。			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	オリエンテーション(自己紹介) 救急医療の特徴	予習:不要 復習:救急医療の方程式、ABOEアブローチを理解する	
2	救急医療体制と搬送システム 関連法について	予習:不要 復習:救急医療機関、救急医療情報システム の整備状況、三次コネディネートと精科 科救急の現況を理解する	
3	緊急度と重症度 心肺停止と一次救命処置(BLS)	予習:不要 復習:緊急度、重症度の判断とその対応、一 次救命処置の重要性を理解する	
4	小児・乳児の心肺蘇生 二次救命処置(ALS)	予習:不要 復習:成人と異なる小児・乳児の心肺蘇生法 を習得するのみならず、アブローチの仕方 を理解する。医師の行う二次救命処置を理 解する。	
5	心拍再開後の集中治療 救急カート	予習:不要 復習:心拍再開後の病態(心停止後脳損傷)、 脳圧降下療法、冠動脈インターベンション の重要性、呼吸管理、体温管理、血糖管理の あり方等ICUでの治療を理解する。病棟や 外来の救急カートの備える資機材を考える	
6	ショックの分類と病態	予習:不要 復習:循環の3要素、Frank-Starlingの法 則、Starling & Pappenheimerの法則、血	

7	ショックの診断と治療 クラッシュ症候群について	流の再配分とショック臓器を理解する	予習:不要 復習:ショックの臨床診断、輸液の意義、ク ラッシュ症候群の発生機序と病態を理解す る。
8	中枢神経系疾患	中枢神経系疾患	予習:不要 復習:脳血管障害と炎症性脳疾患の診断と 治療(理学所見、画像診断、髄液所見)
9	循環器系疾患 呼吸器系疾患	循環器系疾患 呼吸器系疾患	予習:不要 復習:高血圧性緊急症、感染性心内膜炎、急 性冠症候群、不整脈、大動脈解離、ガス交換 機序、過換気症候群、アナフィラキシー、肺 塞栓症、その他の呼吸器疾患
10	消化器系疾患	消化器系疾患	予習:不要 復習:消化管出血、穿孔、腸管虚血、腸閉塞、 腸重積重質、絞腸ヘルニア、肝・胆道系の結 石、炎症の診断と治療、(急性腹症)
11	泌尿・生殖器系疾患 内分泌・代謝系疾患、その他	泌尿・生殖器系疾患 内分泌・代謝系疾患、その他	予習:不要 復習:尿路結石症、前立腺肥大の診断と治 療、高血糖緊急症(糖尿性ケトアシドーシ ス、非ケトン生高浸透圧症)の病態と治療
12	外傷	外傷	予習:不要 復習:外傷の重症度と予後(Big Data)、 JPTCプロトコールを理解し、外傷患者の観 察・処置の流れを理解する
13	熱傷、熱中症 (凍傷、偶発性低体温症、電撃傷)	熱傷、熱中症 (凍傷、偶発性低体温症、電撃傷)	予習:不要 復習:熱傷、熱中症の病態を理解し、診断、重症 度判定ができるようになる
14	中毒、化学損傷 異物	中毒、化学損傷 異物	予習:不要 復習:急性中毒の基本的な毒物動態を理解 し、治療の原則を考える。日本中毒情報セン ターのホームページを閲覧する
15	遭遇しやすい症状とその対処法 失神、めまい、痙攣、てんかん発作、 発熱と高体温、鼻出血、歯痛	遭遇しやすい症状とその対処法 失神、めまい、痙攣、てんかん発作、 発熱と高体温、鼻出血、歯痛	予習:不要 復習:失神やめまいにはその病態により、高 リスクのものや低リスクのものがある、良 く遭遇するこれらの症状の発症機序と対応 の基本を習得する
成績評価方法と基準			
①授業中の質問			
②後期期末試験			
割合			
①30%			
②70%			

授業科目名		リハビリテーション医学(理学) (Rehabilitation Medicine)		
主担当教員	前田 薫	担当教員	前田 薫	
科目ナンバリング	SB120	科目区分	専門基礎科目	DF①②
配当年次	3	開講学期	前期	水曜 3限
授業形態	講義	単位数	1	必修・選択 必修
授業概要	本講義では、リハビリテーション医学の全体像について説明する。リハビリテーション医学の科学的基礎は多岐に渡り研究されており、めざましく進歩している。これらのうち、基礎と思われる事項について講義を行う。			
到達目標	リハビリテーション医学の各分野の基礎事項について説明できる。			
履修上の注意(学生へのメッセージ)	講義内容が多岐に渡る。したがって、講義内容をより良く理解するためには、各回に指定されている予習・復習を行うことが重要である。			
教科書	千野直一(監修)、現代リハビリテーション医学(改訂第4版)、金原出版			
参考書	特に指定しない。			
研究室/オフィスアワー	前田:アポイントメントを事前にとってください。対応困難な時間帯:毎週月曜2限、毎週火曜、前田が担当の授業時間			
授業展開及び授業計画表				
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当	
1	リハビリテーション医学総論(前田)	予習:教科書の当該範囲を読む。 復習:講義で強調した箇所について理解できているかを確認する。	前田	
2	機能解剖・生理・運動学(前田)	予習:教科書の当該範囲を読む。 復習:講義で強調した箇所について理解できているかを確認する。	前田	
3	リハビリテーション学診断(前田)	予習:教科書の当該範囲を読む。 復習:講義で強調した箇所について理解できているかを確認する。	前田	
4	機能障害の評価(前田)	予習:教科書の当該範囲を読む。 復習:講義で強調した箇所について理解できているかを確認する。	前田	
5	日常生活活動の評価(前田)	予習:教科書の当該範囲を読む。 復習:講義で強調した箇所について理解できているかを確認する。	前田	
6	リハビリテーション治療学①(前田)	予習:教科書の当該範囲を読む。 復習:講義で強調した箇所について理解できているかを確認する。	前田	
7	リハビリテーション治療学②(前田)	予習:教科書の当該範囲を読む。 復習:講義で強調した箇所について理解できているかを確認する。	前田	
8	リハビリテーション医学各論①(前田)	予習:教科書の当該範囲を読む。 復習:講義で強調した箇所について理解できているかを確認する。	前田	
9	リハビリテーション医学各論②(前田)	予習:教科書の当該範囲を読む。 復習:講義で強調した箇所について理解できているかを確認する。	前田	
10	リハビリテーション医学各論③(前田)	予習:教科書の当該範囲を読む。 復習:講義で強調した箇所について理解できているかを確認する。	前田	

11	地域包括ケアシステム(前田)	予習:教科書の当該範囲を読む。 復習:講義で強調した箇所について理解できているかを確認する。	前田
12	再生医療とリハビリテーション医学(前田)	予習:教科書の当該範囲を読む。 復習:講義で強調した箇所について理解できているかを確認する。	前田
13	ICFの考え方と生活支援	予習:ICFについて復習しておく 復習:講義資料をもとにICFの図を作成してみる	前田
14	支援技術コミュニケーションとチーム医療	予習:チーム医療の概念を復習しておく 復習:講義で強調された事項を理解しているかチェックする	前田
15	スポーツとリハビリテーション医学(前田)	予習:教科書の当該範囲を読む。 復習:講義で強調した箇所について理解できているかを確認する。	前田
成績評価方法と基準			割合
筆記試験の結果、60/100点以上で単位認定する。			100%

授業科目名	老年医学(理学) (Geriatrics)		
主担当教員	前川 佳敬	担当教員	
科目ナンバリング	SB121	専門基礎科目	
配当年次	3	開講学期	
授業形態	講義	単位数	
授業概要	<p>高齢化社会において必要不可欠である老年病医学について講義する。老化の概念・加齢に伴う生理的変化・老年症候群を概説し、老年期に多く見られる各種疾患の特徴について講義する。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 老化のメカニズムが説明できる。 2. 加齢に伴う機能の変化を理解する。 3. 高齢者の機能評価の意義と手法を説明できる。 4. 老年症候群の意義と病態を理解する。 5. 老年期における各種疾患の病態を把握する。 6. 疾患治療としての医療だけでなく、全人的医療を理解する。 <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>1. 高齢化社会における医療人として、社会的必要性の高い知識であることを認識すること。</p> <p>2. 講義を聞かずに教科書だけ読んで理解困難と考えられるため、出席して講義を聞くこと。</p> <p>3. 学習すべき量が多いため、効率よく理解すべく必ずノートに板書内容を記載すること。試験前に教科書を読んで全部覚えるのは不可能です。ノートに沿って教科書を活用して下さい。</p> <p>4. 疾患について論理的なイメージを理解する努力をすること。</p> <p>5. 疑問点は大切に、解決に向けて行動すること。</p> <p>6. 努力をしない学生・態度不良の学生には単位を与えないこと。</p>		
教科書	標準理学療法学・作業療法学 老年学 (著者: 大内尉義 医学書院)		
参考書	なし		
研究室/オフィスアワー	C棟研究室8/部屋にいればいつでも訪問可です。質問等はいつでも自由にとようそ。		
授業展開及び授業計画表	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	老化のメカニズムと独立した概念としての老年病医学の理解	老年医療の独自性・特殊性を復習して理解する。	
2	加齢に伴う生理機能の変化1	老化による生理機能の変化を自宅学習にて理解しておく。	
3	加齢に伴う生理機能の変化2	老化による生理機能の変化を自宅学習にて理解しておく。	
4	高齢者に伴う運動機能・精神心理面の変化	老化による運動機能・精神心理面の変化を自宅学習にて理解しておく。	
5	高齢者の機能評価1	機能評価の手法を説明できるようにしておく。	
6	高齢者の機能評価2	CGAの構成要素・意義を理解しておく。	
7	老年症候群における代表的な症候の理解1	老年症候群の意味と高齢者医療における重要性を理解しておく。	
8	老年症候群における代表的な症候の理解2	種々の老年症候群を説明できるようにする。	
9	精神疾患(認知症・うつ病など)	認知症の症状・原因疾患、高齢者のうつ病の特徴について理解を深めること。	
10	脳血管障害	種々の脳血管障害の特徴について理解を深めること。	
11	高齢者の循環器疾患1	虚血性心疾患・不整脈・心不全の理解を深める。	
12	高齢者の循環器疾患2	虚血性心疾患・不整脈・心不全の理解を深める。	

13	高齢者の呼吸器疾患	高齢者の肺炎・COPDについて理解すること。
14	高齢者の内分泌疾患	糖尿病・メタボリック症候群の病態・合併症について理解を深めること。
15	講義全体の総復習	授業での総復習をより深めておくこと。
成績評価方法と基準		割合
筆記テスト		筆記テスト 100%

授業科目名		言語聴覚療法、摂食・嚥下障害学(理学) (Speech-language-hearing Therapy / Dysphagia)																																													
主担当教員	堀 竜次	担当教員	堀 竜次、金尾 顕郎、渋谷 精英、戸名 久美子																																												
科目ナンバリング	SB123	科目区分	専門基礎科目 DP②																																												
配当年次	3	開講学期	後期																																												
授業形態	講義	単位数	2																																												
授業概要	<p>(概要)オムニバス形式にて理学療法士・作業療法士が知っておくべき言語・高次脳機能障害および摂食・嚥下障害について学習する。</p> <p>【言語聴覚療法 渋谷精英 6回・戸名久美子 4回】</p> <p>コミュニケーション障害の内容と評価・訓練方法について学習する</p> <p>【嚥下障害学 渋谷精英 2回】嚥下障害の評価と摂食嚥下療法について学習する。</p> <p>【嚥下障害学 金尾顕郎 1回】嚥下機能と姿勢調整について学習する。</p> <p>【嚥下障害学 堀 竜次 2回】嚥下に関わる解剖学と生理学および脳嚥性肺炎予防のアプローチについて学習する。</p>																																														
到達目標	<p>1. 言語・高次脳機能障害について理解し、意思伝達時の留意点・工夫などを体得する。</p> <p>2. 嚥下障害について理解し、理学療法士・作業療法士がどのような働きをこなせるようになる。</p>																																														
履修上の注意(学生へのメッセージ)	<p>1. 講義内容は、理学療法・作業療法を定めるに当たり必要な内容であることを認識すること。</p> <p>2. 演習やグループワークには積極的に参加し、疑問点について、必ず解決の行動をとること。</p>																																														
教科書	<p>「絵でわかる言語障害」毛束真知子 学研</p> <p>「脳からわかる摂食・嚥下障害」馬場元敏、鎌倉やよい 学研</p>																																														
参考文献	<p>特に無し</p>																																														
研究室/オフィスアワー	<p>堀・金曜日の3-4限目(研究室)</p> <p>金尾・水曜日の1限目、もしくは、事前に連絡があれば随時対応します。</p> <p>渋谷・戸名：講義日の非常勤講師控室</p>																																														
授業展開及び授業計画表	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>学修内容</th> <th>予習・復習・課題等</th> <th>担当</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>言葉とは？</td> <td>予習：教科書の第1章を予習しておく 復習：講義で実施した小テストの復習</td> <td>戸名</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>聴覚障害</td> <td>予習：教科書の12~23ページを予習しておく 復習：講義で実施した小テストの復習</td> <td>戸名</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>構音障害</td> <td>予習：教科書の24~48ページを予習しておく 復習：発声・発語の仕組みについて復習する</td> <td>渋谷</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>音声障害</td> <td>予習：教科書の50~53ページを予習しておく 復習：音声障害の症状について復習する</td> <td>渋谷</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>失語症 1</td> <td>予習：教科書の58~99ページを予習しておく 復習：失語症の概念と症状について復習する</td> <td>渋谷</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>失語症 2</td> <td>予習：教科書の58~99ページを予習しておく 復習：失語症の評価と対応について復習する</td> <td>渋谷</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>高次脳機能障害 1</td> <td>予習：事前に配布する「高次脳機能障害」のプリントを予習しておく 復習：講義で実施した小テストの復習</td> <td>渋谷</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>高次脳機能障害 2</td> <td>予習：事前に配布する「高次脳機能障害」のプリントを予習しておく 復習：講義で実施した小テストの復習</td> <td>渋谷</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>認知症</td> <td>予習：第1回目講義で配布する「認知症」のプリントを予習しておく 復習：講義で実施した小テストの復習</td> <td>戸名</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>吃、小児の言語障害、AAC</td> <td>予習：第1回目講義で配布する「吃、小児の言語障害、AAC」のプリントを予習しておく 復習：講義で実施した小テストの復習</td> <td>戸名</td> </tr> </tbody> </table>			回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当	1	言葉とは？	予習：教科書の第1章を予習しておく 復習：講義で実施した小テストの復習	戸名	2	聴覚障害	予習：教科書の12~23ページを予習しておく 復習：講義で実施した小テストの復習	戸名	3	構音障害	予習：教科書の24~48ページを予習しておく 復習：発声・発語の仕組みについて復習する	渋谷	4	音声障害	予習：教科書の50~53ページを予習しておく 復習：音声障害の症状について復習する	渋谷	5	失語症 1	予習：教科書の58~99ページを予習しておく 復習：失語症の概念と症状について復習する	渋谷	6	失語症 2	予習：教科書の58~99ページを予習しておく 復習：失語症の評価と対応について復習する	渋谷	7	高次脳機能障害 1	予習：事前に配布する「高次脳機能障害」のプリントを予習しておく 復習：講義で実施した小テストの復習	渋谷	8	高次脳機能障害 2	予習：事前に配布する「高次脳機能障害」のプリントを予習しておく 復習：講義で実施した小テストの復習	渋谷	9	認知症	予習：第1回目講義で配布する「認知症」のプリントを予習しておく 復習：講義で実施した小テストの復習	戸名	10	吃、小児の言語障害、AAC	予習：第1回目講義で配布する「吃、小児の言語障害、AAC」のプリントを予習しておく 復習：講義で実施した小テストの復習	戸名
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当																																												
1	言葉とは？	予習：教科書の第1章を予習しておく 復習：講義で実施した小テストの復習	戸名																																												
2	聴覚障害	予習：教科書の12~23ページを予習しておく 復習：講義で実施した小テストの復習	戸名																																												
3	構音障害	予習：教科書の24~48ページを予習しておく 復習：発声・発語の仕組みについて復習する	渋谷																																												
4	音声障害	予習：教科書の50~53ページを予習しておく 復習：音声障害の症状について復習する	渋谷																																												
5	失語症 1	予習：教科書の58~99ページを予習しておく 復習：失語症の概念と症状について復習する	渋谷																																												
6	失語症 2	予習：教科書の58~99ページを予習しておく 復習：失語症の評価と対応について復習する	渋谷																																												
7	高次脳機能障害 1	予習：事前に配布する「高次脳機能障害」のプリントを予習しておく 復習：講義で実施した小テストの復習	渋谷																																												
8	高次脳機能障害 2	予習：事前に配布する「高次脳機能障害」のプリントを予習しておく 復習：講義で実施した小テストの復習	渋谷																																												
9	認知症	予習：第1回目講義で配布する「認知症」のプリントを予習しておく 復習：講義で実施した小テストの復習	戸名																																												
10	吃、小児の言語障害、AAC	予習：第1回目講義で配布する「吃、小児の言語障害、AAC」のプリントを予習しておく 復習：講義で実施した小テストの復習	戸名																																												

11	嚥下のメカニズム	予習：嚥下の5期モデルについて予習しておく 復習：嚥下に關わる解剖学と生理学を復習する	堀
12	嚥下機能と姿勢調整	予習：嚥下の運動メカニズムについて予習しておく 復習：嚥下と姿勢の關係について復習する	金尾
13	嚥下障害の評価	予習：教科書の116~120ページを予習しておく 復習：嚥下障害の評価を復習する	渋谷
14	摂食嚥下療法	予習：教科書の121~129ページを予習しておく 復習：直接嚥下訓練、間接嚥下訓練について復習する	渋谷
15	誤嚥性肺炎予防のアプローチ	予習：誤嚥性肺炎について予習しておく 復習：誤嚥性肺炎予防の概念について復習する	堀
成績評価方法と基準			
1. 学期末の筆記試験により評価する(言語聴覚療法:60%、嚥下障害学:40%)			
2. 授業中に実施される課題レポート・小テストを評価の対象とする。			

授業科目名	理学療法のための看護学・鍼灸学(理学) (Nursing and Acupuncture/ Moxibustion for Physical Therapy)		
担当教員	中根 征也	担当教員	中根 征也、鍋田 智之、青木 元邦、角田 晃啓、吉村 弥須子、臨 英彦、小林 貴代
科目ナンバリング	SB124	科目区分	DP①②③④
配当年次	3	開講学期	前期
授業形態	演習	単位数	1
授業概要	必修・選択		
到達目標	各分野の講義を通じ専門性を理解しつつ、実際の症例を基にIPWを経験し、チーム医療の実践に求められる豊かな感性と倫理観を養う。		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	1) 授業中の私語、メールなどには厳しく対処する。 2) 疑問点を大切にしながら自己で調べて解決するように行動すること。 3) 出席は2/3以上を必要とし、その基準を満たした者について成績評価を行う。		
教科書			
資料を配布あり			
参考書			
各自準備すること			
研究室/オフィスアワー			
吉村弥須子:W棟3階334研究室/月曜日16:30-18:00(実習で不在の場合があるので随時相談可) 山下 仁:E棟4階 研究室24/月・火曜日6時限目 中根 征也:E棟4階 研究室19/木曜日4時限目以降(時間は事前に相談することが望ましい)			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	医療系職種の種類①(看護学) 到達目標 看護の定義、看護の対象(個人・家族・集団)を共通理解し、チーム医療における看護の役割について説明できる。	予習: 本学看護学科のカリキュラムに目を通しておく。 復習: 看護の専門性を理解し、理学療法との接点を理解しておく。	吉村
2	医療系職種の種類②(鍼灸学)	予習: 本学鍼灸学科のカリキュラムに目を通しておく。 復習: 鍼灸の専門性を理解し、理学療法との接点を理解しておく。	鍋田
3	医療系職種の種類③(作業療法学)	予習: 本学作業療法学科のカリキュラムに目を通しておく。 復習: 作業療法の専門性を理解し、理学療法との接点を理解しておく。	中西
4	医療系職種の種類④(臨床検査学)	予習: 本学臨床検査学科のカリキュラムに目を通しておく。 復習: 臨床検査の専門性を理解し、理学療法との接点を理解しておく。	脇
5	チーム医療の準備 (各学科教員によるCase Conference)	予習: 各分野の専門性についての復習しておく。 復習: デモンストラーションを通じ、各分野と理学療法との役割を理解する。	全担当教員
6	症例提示におけるアプローチ立案とその考察①	予習: 理学療法士の役割を再確認しておく。 復習: 立案したアプローチを各分野に説明できるように準備しておく。	角田・中根

7	症例提示におけるアプローチ立案とその考察②	予習: 理学療法士の役割を再確認しておく。 復習: 立案したアプローチを各分野に説明できるように準備しておく。	角田・中根
8	症例提示におけるアプローチ立案とその考察③	予習: 理学療法士の役割を再確認しておく。 復習: 立案したアプローチを各分野に説明できるように準備しておく。	角田・中根
9	提示症例におけるアプローチ立案とその考察④	予習: 理学療法士の役割を再確認しておく。 復習: 立案したアプローチを各分野に説明できるように準備しておく。	角田・中根
10	提示症例におけるアプローチ立案とその考察⑤	予習: 各分野の専門性についての復習しておく。 復習: IPWで討議したことをまとめておく。	角田・中根
11	IPW①(11回~14回は4コマ連続)	予習: 各分野の専門性についての復習しておく。 復習: IPWで討議したことをまとめておく。	全担当教員
12	IPW②(11回~14回は4コマ連続)	予習: 各分野の専門性についての復習しておく。 復習: IPWで討議したことをまとめておく。	全担当教員
13	IPW③(11回~14回は4コマ連続)	予習: 各分野の専門性についての復習しておく。 復習: IPWで討議したことをまとめておく。	全担当教員
14	IPW④(11回~14回は4コマ連続) プレゼンテーション	予習: IPWで討議したことをまとめておく。 復習: プレゼンテーションの準備。	全担当教員
15	IPW⑤プレゼンテーションと振り返り	予習: プレゼンテーションの準備。 復習: IPWや発表で得たことをまとめておく。	全担当教員
成績評価方法と基準			
①レポート			
②【IPW】プレゼンテーション(提示するルーブリックに基づき評価する)			
③出席は2/3以上を必要とし、その基準を満たした者について成績評価を行う。			

授業科目名	スポーツ医学(理学) (Sports Medicine)			担当教員	川畑 浩久、吉岡 敏治
主担当教員	川畑 浩久	科目区分	専門基礎科目	担当項目	DP①②③
科目ナンバリング	SB126	開講学期	前期	曜日・時限	月曜 3限
配当年次	3	演習	2	必修・選択	必修
授業形態					
授業概要	<p>2 年次の整形外科で学んだ運動器の解剖とスポーツ構害について、メディカルチェックや症状、対処法などについてより理解を深め、またスポーツ外傷における救急処置の重要性についても学ぶが、あわせてスポーツ現場で遭遇しやすい内科疾患についてもメディカルチェックや症状について学ぶ。</p>				
到達目標	<p>重症度と緊急度を理解し、スポーツ現場で発生する最も重要な心肺停止に対応できるようにすること、また、発生頻度の高い脳震盪と頭部外傷、熱中症の病態を理解し、発生現場における予防や救急処置法を習得する。 さらにスポーツ現場で遭遇する運動器の外傷や障害、内科疾患についてのメディカルチェックや対処法についても習得する。</p>				
履修上の注意(学生へのメッセージ)	履修上の注意(学生へのメッセージ)				
スポーツ医学は、運動器の解剖学、生理学を土台にするもので、他の講義で学んだ局所解剖や運動機能の評価方法、理学所見の取り方を質問することから始める。ほとんどの授業内容は、資料として配付するスライドを中心に進めるので、講義に出席せず、資料だけを見ても理解困難である。心肺停止や頭部外傷、熱中症等の構害発生の理論的なイメージを獲得する努力をすることが重要である。					
教科書					
配布プリント(適宜配布いたします。)					
参考書	<p>1. 臨床医学各論(第2版)医療社出版 179 頁～185 頁、288 頁～301 頁 2. 救急蘇生法の指針 2015(医療従事者用、改訂第5版)へるす出版 3. 標準整形外科学 第12版、中村利孝/松野丈夫 監修、医学書院、2014。 4. 新版 スポーツ整形外科マニュアル、福林徹 監修、中外医学社、2013。 5. スポーツ整形外科学、中嶋章之 編纂、南江堂、1988年。</p>				
研究室/オフィスアワー					
吉岡敏治(C棟研究室4)/原月曜日2-3時間目ですが、その他、部屋にいれば、いつでも訪問可です。 川畑浩久(C棟研究室707)/木、金曜日17:00～18:00ですが、部屋にいればいつでも訪問可です。					
授業展開及び授業計画表					
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当		
1	スポーツ外傷の救急処置 重症度と緊急度、心肺蘇生、脳震盪と頭部外傷、背髄損傷、熱中症	予習：不要(整形外科学の外傷部分) 復習：配布プリント	吉岡		
2	スポーツ外傷・障害の総論： 1) 内科的疾患に対する健康およびメディカルチェック 2) 運動器疾患に対する健康およびメディカルチェック	予習：スポーツにより発生する主な内科疾患の症状などについて予習しておくこと 復習：これまで学んだ内科疾患の検査法などについて復習すること	川畑		
3	スポーツ外傷・障害の総論： 1) 運動器疾患に対する健康およびメディカルチェック 2) 運動器疾患に対する処置(応急処置(テーピング・三角巾など)および外科的処置)	予習：スポーツにより発生する主な運動器疾患について予習しておくこと 復習：これまで学んだ運動器疾患の検査法などについて復習すること	川畑		
4	肩関節のスポーツ外傷・障害： 1) 急性外傷の症状(自覚症状・他覚所見)と処置方法(スポーツの中止と応急処置ならびにその後の治療法)	予習：肩関節の解剖学について予習しておくこと 復習：授業で学んだ肩関節の外傷について復習すること	川畑		
5	肩関節のスポーツ外傷・障害： 1) 慢性な障害の症状(自覚症状・他覚所見)と治療法ならびに予防法	予習：肩関節の解剖学、運動学について予習しておくこと 復習：授業で学んだ肩関節の障害について復習すること	川畑		
6	肘関節のスポーツ外傷・障害： 1) 急性外傷の症状(自覚症状・他覚所見)と処置方法(スポーツの中止と応急処置ならびにその後の治療法)および 2) 慢性な障害の症状(自覚症状・他覚所見)と治療法ならびに予防法	予習：肘関節の解剖学、運動学について予習しておくこと 復習：授業で学んだ肘関節の外傷、障害について復習すること	川畑		

7	手関節のスポーツ外傷・障害： 1) 急性外傷の症状(自覚症状・他覚所見)と処置方法(スポーツの中止と応急処置ならびにその後の治療法)および 2) 慢性な障害の症状(自覚症状・他覚所見)と治療法ならびに予防法	予習：手関節の解剖学、運動学について予習しておくこと 復習：授業で学んだ手関節の外傷、障害について復習すること	川畑		
8	指関節のスポーツ外傷・障害： 1) 急性外傷の症状(自覚症状・他覚所見)と処置方法(スポーツの中止と応急処置ならびにその後の治療法)および 2) 慢性な障害の症状(自覚症状・他覚所見)と治療法ならびに予防法	予習：指関節の解剖学、運動学について予習しておくこと 復習：授業で学んだ指関節の外傷、障害について復習すること	川畑		
9	股関節のスポーツ外傷・障害： 1) 急性外傷の症状(自覚症状・他覚所見)と処置方法(スポーツの中止と応急処置ならびにその後の治療法)および 2) 慢性な障害の症状(自覚症状・他覚所見)と治療法ならびに予防法	予習：股関節の解剖学、運動学について予習しておくこと 復習：授業で学んだ股関節の外傷、障害について復習すること	川畑		
10	膝関節のスポーツ外傷・障害： 1) 急性外傷の症状(自覚症状・他覚所見)と処置方法(スポーツの中止と応急処置ならびにその後の治療法)	予習：膝関節の解剖学、運動学について予習しておくこと 復習：授業で学んだ膝関節の外傷について復習すること	川畑		
11	膝関節のスポーツ外傷・障害： 1) 慢性な障害の症状(自覚症状・他覚所見)と治療法ならびに予防法	予習：膝関節の解剖学、運動学について予習しておくこと 復習：授業で学んだ膝関節の障害について復習すること	川畑		
12	下腿部・足関節のスポーツ外傷・障害： 1) 急性外傷の症状(自覚症状・他覚所見)と処置方法(スポーツの中止と応急処置ならびにその後の治療法)	予習：足関節、足部の解剖学、運動学について予習しておくこと 復習：授業で学んだ足関節、足部の外傷について復習すること	川畑		
13	下腿部・足関節のスポーツ外傷・障害： 1) 慢性な障害の症状(自覚症状・他覚所見)と治療法ならびに予防法	予習：足関節、足部の解剖学、運動学について予習しておくこと 復習：授業で学んだ足関節、足部の障害について復習すること	川畑		
14	体幹(頸部、胸部、腰部)のスポーツ外傷・障害： 1) 急性外傷の症状(自覚症状・他覚所見)と処置方法(スポーツの中止と応急処置ならびにその後の治療法)および 2) 慢性な障害の症状(自覚症状・他覚所見)と治療法ならびに予防法	予習：頸部、胸部、腰部の解剖学、運動学について予習しておくこと 復習：授業で学んだ頸部、胸郭、腰部の外傷、障害について復習すること	川畑		
15	スポーツによる内科的疾患： 1) 循環器・呼吸器疾患における慢性な障害の症状(自覚症状・他覚所見)と治療法ならびに予防法 2) 消化器・泌尿器疾患における慢性な障害の症状(自覚症状・他覚所見)と治療法ならびに予防法	予習：スポーツにより発生する主な循環器、呼吸器、消化器、泌尿器などの疾患の症状などについて予習しておくこと 復習：これまで学んだ循環器、呼吸器、消化器、泌尿器疾患について復習すること	川畑		
成績評価方法と基準					
1. 定期試験にて評価する。					
割合					
100%					

授業科目名	理学療法セミナーⅠ(理学)(Physical Therapy Seminar I)		
主担当教員	木内 隆裕	担当教員	木内 隆裕、澤田 優子、仲本 正美、杉本 圭、松尾 浩希、林 真太郎
科目ナンバリング	SS201	科目区分	ディプロマポリシー 該当項目 DP①
配当年次	4	開講学期	前期
授業形態	演習	単位数	1
授業概要	集中講義 必修		
到達目標	理学療法士として臨床で働くために必要な基礎知識及び専門知識を、特に主要な箇所に焦点を当てて体系的かつ網羅的に学習する。		
下記 1) ~ 3) について、本学で設定している難易度の問題を解答できること。			
1) 主な運動器疾患・神経系疾患・内科系疾患の理学療法評価			
2) 主な運動器疾患・神経系疾患・内科系疾患の基礎医学的知識			
3) 主な運動器疾患・神経系疾患・内科系疾患に対する基礎理学療法			
履修上の注意(学生へのメッセージ)			
1) 下記授業計画は時系列ではなく、授業内容はあくまでも教員ごとに展開されるので注意すること。			
2) 教科書以外の問題集に取り組むことは推奨しない。			
3) 授業進行において、項目毎の予習・復習が必須となるため、怠らないように注意すること。			
教科書			
1) 医歯薬出版編 理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイント 専門基礎分野 基礎医学 2019. 医歯薬出版。			
2) 医歯薬出版編 理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイント 専門基礎分野 臨床医学 2019. 医歯薬出版。			
3) 医歯薬出版編 理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイント 基礎PT学 2019. 医歯薬出版。			
4) 医歯薬出版編 理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイント 障害別 PT 治療学 2019. 医歯薬出版。			
参考書			
1) リハビリ、アイベック社。			
その他、各自で標準的、かつ最小限の書籍をみつけること。			
研究室/オフィスアワー			
各教員とも随時対応する。ただし、事前に予約すること。			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	評価と運動療法の基礎 1	ROM テスト、MMT など	仲本
2	評価と運動療法の基礎 2	ROM 運動、筋力強化運動など	仲本
3	評価と運動療法の基礎 3	運動処方、運動分析など	仲本
4	神経疾患と理学療法 1	脳卒中など	木内
5	神経疾患と理学療法 2	脳卒中など	木内
6	神経疾患と理学療法 3	神経変性疾患、神経筋疾患など	木内
7	神経疾患と理学療法 4	脊髄損傷など	木内
8	運動器疾患と理学療法 1	正常歩行の運動学・運動力学など	杉本
9	運動器疾患と理学療法 2	関節リウマチ、変形性関節症など	松尾
10	運動器疾患と理学療法 3	骨折、整形外科リハビリなど	松尾
11	小児疾患と理学療法 1	人間発達学など	澤田
12	小児疾患と理学療法 2	小児疾患と理学療法	澤田
13	呼吸器疾患と理学療法	慢性閉塞性肺疾患など	杉本
14	循環器疾患と理学療法	虚血性心疾患など	杉本

15	代謝疾患と理学療法	糖尿病など	松尾
成績評価方法と基準			
1) マークシート形式の中間試験(配分 30%)及び期末試験(配分 70%)を実施する。			割合
2) 総合成績で 60%以上(小数切り捨て)の得点を取得した場合に単位を認定する。			中間 30%
2/3 以上の出席を必要とする。			期末 70%

授業科目名	理学療法セミナーⅡ(理学) (Physical Therapy Seminar II)			
主担当教員	木内 隆裕	担当教員	木内 隆裕、河村 廣幸、金尾 顕郎、三木屋 良輔、角田 晃啓、澤田 優子、仲本 正美、中根 征也、工藤 慎太郎、堀 竜次、杉本 圭、松尾 浩希、林 真太郎、海蔵寺 陽子	
科目ナンバリング	SS202	科目区分	専門科目	DP①
配当年次	4	開講学期	後期	月曜1限
授業形態	演習	単位数	1	必修・選択
授業概要	解剖学や生理学などの基礎分野から理学療法士の評価(特に関節可動域検査や徒手筋力検査などの基礎評価)及び治療までを網羅し、障害を有する患者に対する経験的あるいは標準的理学療法法の知識体系を理解することを目的とする。対象は小児から高齢者までを含み、神経障害や精神疾患などもこの科目の範疇とする。			
到達目標	下記 1) ~ 3) について、本学で設定している難易度の問題を解答できること。 1) 解剖学、生理学、運動学、病理学などの基礎分野 2) 障害を有する患者に対する理学療法評価 3) 障害を有する患者に対する経験的あるいは標準的な理学療法 履修上の注意(学生へのメッセージ) 1) 下記授業計画は時系列でなく、授業内容はあくまでも教員ごとに展開されるので注意すること。 2) 各授業範囲に該当する教科書を必ず持参すること。 3) 各授業範囲に該当する書籍のうち、問題集以外に自己学習でよく参照している書籍1冊を持参すること。 4) 授業時間外に課されている課題を適宜実施し、指定された日時に提出すること。			
教科書	1) 医歯薬出版編 理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイント 専門基礎分野 基礎医学 2019, 医歯薬出版。 2) 医歯薬出版編 理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイント 専門基礎分野 臨床医学 2019, 医歯薬出版。 3) 医歯薬出版編 理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイント 基礎PT学 2019, 医歯薬出版。 4) 医歯薬出版編 理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイント 障害別PT治療学 2019, 医歯薬出版。			
参考書	1) リハビリ、アイベック社。 その他、各自で標準的、かつ最小限の書籍をみつけること。 研究室/オフィスアワー			
各担当教員の他科目のオフィスアワーに準ずる。				
授業展開及び授業計画表				
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当	
1	神経系の解剖・生理学と臨床A	・画像検査、神経伝導検査を含む。 ・少なくとも、教科書の中で左記範囲に該当する範囲を精選的に予習・復習しておくこと。	木内	
2	内臓の解剖・生理学と臨床A	・画像検査、心電図を含む。 ・少なくとも、教科書の中で左記範囲に該当する範囲を精選的に予習・復習しておくこと。	三木屋	
3	骨関節の解剖・生理学と臨床A	・画像検査を含む。 ・少なくとも、教科書の中で左記範囲に該当する範囲を精選的に予習・復習しておくこと。	工藤	
4	基礎評価学	・ROMテストやMMTなどを含む。 ・少なくとも、教科書の中で左記範囲に該当する範囲を精選的に予習・復習しておくこと。	木内	
5	呼吸障害A	・少なくとも、教科書の中で左記範囲に該当する範囲を精選的に予習・復習しておくこと。	金尾・堀	
6	循環障害A	・少なくとも、教科書の中で左記範囲に該当する範囲を精選的に予習・復習しておくこと。	三木屋	
7	代謝障害A	・少なくとも、教科書の中で左記範囲に該当する範囲を精選的に予習・復習しておくこと。	角田	
8	運動器障害A	予習・X線画像・MRI画像など、医療画像について予習しておく。	河村	

		復習: 基本的な運動器疾患の理学療法について復習する。 少なくとも、教科書の中で左記範囲に該当する範囲を精選しておくこと。	
9	精神医学・臨床心理学A	少なくとも、教科書の中で左記範囲に該当する範囲を精選しておくこと。	海蔵寺
10	精神医学・臨床心理学B	少なくとも、教科書の中で左記範囲に該当する範囲を精選しておくこと。	海蔵寺
11	義肢・装具A	少なくとも、教科書の中で左記範囲に該当する範囲を精選しておくこと。	仲本
12	神経変性疾患、神経筋疾患	少なくとも、教科書の中で左記範囲に該当する範囲を精選しておくこと。	木内
13	脳卒中A	少なくとも、教科書の中で左記範囲に該当する範囲を精選しておくこと。	杉本
14	脊髄損傷A	少なくとも、教科書の中で左記範囲に該当する範囲を精選しておくこと。	松尾
15	小児A	少なくとも、教科書の中で左記範囲に該当する範囲を精選しておくこと。	澤田
成績評価方法と基準			
1) マークシート形式の試験を複数回行い、総合成績の得点率が60%以上(小数切り捨て)であった者に単位を認定する。 2/3以上の出席を必要とする。			
試験 100%			

授業科目名	理学療法セミナーⅢ(理学) (Physical Therapy Seminar III)			
主担当教員	三木屋 良輔	担当教員	三木屋 良輔、河村 廣幸、金尾 顕郎、角田 晃啓、澤田 優子、仲本 正美、中根 征也、工藤 慎太郎、堀 竜次、杉本 圭、松尾 浩希、林 真太郎、木内 隆裕、安部 辰夫、海蔵寺 陽子	
科目ナンバリング	SS203	科目区分	専門科目	DP①
配当年次	4	開講学期	後期	月曜 1限
授業形態	演習	単位数	1	必修
授業概要	理学療法における評価及び治療を基礎から体系的に整理しながら、その基礎となる基礎医学の知識との繋がりを理解すること、並びに、疾患及び障害に関する具体的な臨床医学の知識との繋がりを理解することを目的とする。基礎医学として病理学や感染症学も含み、対象は小児から高齢者までを含む。			
到達目標	下記 1) ~ 3) について、本学で学習している難易度の問題を解答できること。 1) 理学療法における評価及び治療に関する知識 2) 理学療法評価、及び運動療法の基礎となる基礎医学の知識 3) 疾患及び障害に関する具体的な臨床医学の知識 履修上の注意(学生へのメッセージ) 1) 下記授業計画は時系列でなく、授業内容はあくまでも教員ごとに展開されるので注意すること。 2) 各授業範囲に該当する教科書を必ず持参すること。 3) 各授業範囲に該当する書籍のうち、問題集以外に自己学習でよく参照している書籍 1冊を持参すること。 4) 授業時間外に課外されている課題を適宜実施し、指定された日時に出講すること。			
教科書	1) 医療系出版 理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイント 専門基礎分野 基礎医学 2019 医療系出版。 2) 医療系出版 理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイント 専門基礎分野 臨床医学 2019 医療系出版。 3) 医療系出版 理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイント 基礎 PT 学 2019 医療系出版。 4) 医療系出版 理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイント 障害別 PT 治療学 2019 医療系出版。			
参考書	1) リハビリ。アイベック社。 その他、各自で標準的、かつ最小限の書籍をみつつけること。			
研究室/オフィスアワー	研究室/オフィスアワー			
各担当教員の他科目のオフィスアワーに準ずる。				
授業展開及び授業計画表				
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当	
1	神経系の解剖・生理学と臨床 B	画像検査、神経伝導検査を含む。 ・少なくとも、教科書の中で左記範囲に該当する範囲を横断的に予習・復習しておくこと。	木内	
2	内臓の解剖・生理学と臨床 B	画像検査、心電図検査を含む。 ・少なくとも、教科書の中で左記範囲に該当する範囲を横断的に予習・復習しておくこと。	三木屋	
3	骨関節の解剖・生理学と臨床 B	画像検査を含む。 ・少なくとも、教科書の中で左記範囲に該当する範囲を横断的に予習・復習しておくこと。	工藤	
4	運動学・運動療法	歩行を主に取り扱う。 ・少なくとも、教科書の中で左記範囲に該当する範囲を横断的に予習・復習しておくこと。	三木屋	
5	病理学・感染症	・少なくとも、教科書の中で左記範囲に該当する範囲を横断的に予習・復習しておくこと。	安部	
6	呼吸障害 B	・少なくとも、教科書の中で左記範囲に該当する範囲を横断的に予習・復習しておくこと。	金尾・堀	
7	循環障害 B	・少なくとも、教科書の中で左記範囲に該当する範囲を横断的に予習・復習しておくこと。	三木屋	
8	代謝障害 B	・少なくとも、教科書の中で左記範囲に該当する範囲を横断的に予習・復習しておくこと。	角田	

9	運動器障害 B	少なくとも、教科書の中で左記範囲に該当する範囲を横断的に予習・復習しておくこと。	河村
10	運動器障害 C	少なくとも、教科書の中で左記範囲に該当する範囲を横断的に予習・復習しておくこと。	河村
11	精神医学・臨床心理学 C	少なくとも、教科書の中で左記範囲に該当する範囲を横断的に予習・復習しておくこと。	海蔵寺
12	義肢・装具 B	少なくとも、教科書の中で左記範囲に該当する範囲を横断的に予習・復習しておくこと。	仲本
13	脳卒中 B	少なくとも、教科書の中で左記範囲に該当する範囲を横断的に予習・復習しておくこと。	杉本
14	背髄損傷 B	少なくとも、教科書の中で左記範囲に該当する範囲を横断的に予習・復習しておくこと。	松尾
15	小児 B	少なくとも、教科書の中で左記範囲に該当する範囲を横断的に予習・復習しておくこと。	澤田
成績評価方法と基準			
1) マークシート形式の試験を複数回行い、総合成績の得点率が 60%以上(小数切り捨て)であった者に単位を認定する。 2/3 以上の出席を必要とする。			
試験 100%			

医療関係法規論(理学) (Medicine Related Laws and Regulations)			
授業科目名	李 庸吉	担当教員	李 庸吉
主担当教員	SS204	専門科目	DP①
科目ナンバリング	3	開講学期	曜日・時間
配当年次	講義	単位数	木曜 5限
授業形態			必修・選択
授業概要			必修
ここで勉強することになる分野は「医事法」と称される領域になるが、それは憲法をはじめ民法、刑法、行政法等、複数の法の複合領域ともいえる。そこで、まず医事法全体を概観しながら法の基本的な概念を身につけていき、次いで理学療法士にとって関連の深い諸法について学び、裁判例などにも触れてみたい。			
到達目標			
1. 理学療法士に関連を有する法律並びに行政について理解させる。			
2. 基本的な法概念と法試験を身につけた上、理学療法士及び作業療法士法を理解させる。			
3. 医師法をはじめとする医療関係者法並びに医療法の概要、さらに理学療法士の法的な位置づけについての知識を習得させる。			
4. また責任法という観点から、法を学ぶことが医療者の行動指針につながることも理解させる。			
履修上の注意(学生へのメッセージ)			
他の教科もそうでしょうが、法学も一夜漬けでどうこうできるものではありません。欠席が多いと駅が分からなくなるのは必至でしょうか。毎回の出席と復習が何より大事だと思います。			
教科書			
手嶋豊『医事法入門(第5版)』(有斐閣アルマ)			
参考書			
特に無し			
研究室/オフィスアワー			
非常勤講師控室			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	イントロダクション、医療者が法を学ぶ意義	配布資料を基に復習することが望ましいと思います。まずは用語に慣れることも念頭においておくとよいでしょう。	
2	法とは何か、法の種類と体系	同上また、最初は予習より復習の方に主眼をおくことよいと思います。	
3	医療と人権(総説)	同上個別具体的な事項については講義の中で適宜お伝えします。	
4	各論:自己決定権、プライバシー権等	同上ゆとりのある方は、上にあげている参考書等を用いて予習をすることができれば、さらに理解が立体的になってよいと思います。	
5	医療における刑法上の問題(総説)	同上	
6	各論:生命:身体に関する罪を中心に	同上	
7	医療における民法上の問題(総説)	同上	
8	各論:医療契約、不法行為	同上	
9	理学療法士及び作業療法士法①(総則、免許、欠格事由)	同上	
10	理学療法士及び作業療法士法②(業務、守秘義務、罰則)	同上	
11	医療関係者法(医師法、歯科医師法、保健師助産師看護師法等)	同上	
12	医療法(医療提供の理念、医療提供施設及びその管理等)	同上	
13	医療安全(医療の質、リスクマネジメント等)	同上加えて参考資料等を適宜紹介するようにします。	
14	判例学習	同上	

15	講義全体のまとめと振り返り	試験に向けて総復習となるでしょうが、とにかく反復すること、考えることがしっかりと理解にも結びつきます。法学は決して暗記オンリーの科目ではないことに留意する必要があります。	割合 ①30% ②70%
成績評価方法と基準			
①レポート(ミニレポート)課題			
②定期試験			

授業科目名	理学療法触診法(理学) (Palpation Method of Physical Therapy)		
主担当教員	工藤 慎太郎	担当教員	工藤 慎太郎、前田 薫
科目ナンバリング	SS205	科目区分	専門科目
配当年次	3	開講学期	後期
授業形態	演習	単位数	1
授業概要	必修・選択		
理学療法士は手でお客者の症状を診て、治療します。その基本となる技術を習得する科目です。具体的には骨部位の正確な触診、筋の正確な触診を通して、触診と徒手療法技術を学びます。しっかりと練習することで、解剖学的な情報に基づく評価・徒手療法が可能になります。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 1. 関節が正確に触診できる。 2. 筋が正確に触診できる。 3. 狙った筋を選択的に収縮させられる。 		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	<ul style="list-style-type: none"> ・触診部位を露出できる格好を準備して下さい。(男性:ズボン、女性:スパンツ&キャミソール) ・水性のサインペン(黒・青・赤・緑)を用意して下さい。(蛍光ペンは不可) ・ジャージを用意して下さい。 		
教科書			
機能解剖と触診			
参考書			
運動療法「なぜ?」がわかる超音波解剖学(医学書院)			
運動療法のための機能解剖学的触診技術(メジカルビュー社)			
研究室/オフィスアワー			
東棟4F17研究室 月曜日1限/時間が空いているときは対応します(要予約)			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	肩甲骨・鎖骨・上腕骨近位端	該当部位の教科書を読んでくること	
2	棘上筋・棘下筋・小円筋・大円筋	該当部位の教科書を読んでくること	
3	肩甲下筋・小胸筋・烏口筋	該当部位の教科書を読んでくること	
4	上腕二頭筋・上腕筋・上腕三頭筋	該当部位の教科書を読んでくること	
5	骨盤・大腿骨近位端・腸腰筋	該当部位の教科書を読んでくること	
6	大殿筋・中殿筋・小殿筋	該当部位の教科書を読んでくること	
7	膝蓋骨・大腿骨遠位端・脛骨近位端	該当部位の教科書を読んでくること	
8	大腿直筋・内側広筋・外側広筋	該当部位の教科書を読んでくること	
9	半膜様筋・半腱様筋・大腿二頭筋	該当部位の教科書を読んでくること	
10	縫工筋・薄筋・長内転筋・大内転筋	該当部位の教科書を読んでくること	
11	脛骨・遠位端・内果・外果・前脛骨筋・長趾伸筋・長母趾伸筋	該当部位の教科書を読んでくること	
12	腓腹筋・ヒラメ筋・長腓骨筋・短腓骨筋	該当部位の教科書を読んでくること	
13	長趾屈筋・長母趾屈筋・後脛骨筋・後脛骨動脈	該当部位の教科書を読んでくること	
14	足根骨	該当部位の教科書を読んでくること	
15	演習全体のまとめと振り返り	該当部位の教科書を読んでくること	

成績評価方法と基準	割合
各講義での小テスト点数により判定します。小テストで6割に満たない場合は、定期試験により60点以上で合格とする。	100%
4/5以上の出席を必要とする。	

臨床理学療法評価学Ⅲ(理学) (Clinical Physical Therapy Evaluation III)			
授業科目名	臨床理学療法評価学Ⅲ(理学)	担当教員	角田 昇啓、河村 廣幸、三木屋 良輔
主担当教員	角田 昇啓	専門科目	DP①
科目ナンバリング	SS210	科目区分	後期
配当年次	3	開講学期	月曜 1限 金曜 1限
授業形態	演習	単位数	必修・選択 必修
授業概要	臨床理学療法評価学Ⅲでは理学療法評価の基礎ならびに各種疾患特有の評価を修めたいうえで、評価プロセスの実践を学習する。その目的において理学療法の実践における接遇、症例報告の意義を再確認し、これに必要な各種技能について学習する。		
到達目標	※本科目は実務経験のある教員等による授業科目です		
到達目標	理学療法場面に必要となる接遇を実践できる ディリノートに必要な内容を想起し、適切に記述することができる 動作観察を実践し、自身での模倣ならびに客観的な記述ができる 症例レポートに必要な内容を想起し、適切に記述することができる 症例報告に必要な内容を想起し、適切に記述することができる 履修上の注意(学生へのメッセージ) 本講義で学習する内容が臨床評価実習、臨床総合実習で直ちに必要とされることを認識し、授業ごとの到達目標を達成できない場合は適宜担当教員に相談すること。		
教科書	特になし(適宜、授業資料を配布する)		
参考書	K. G. Neumann 『観察による歩行分析』医学書院 『動画でみる臨床動作分析のポイント』理学療法 24 巻 8 号 2007 年 研究室/オフィスアワー		
角田・木曜日の 5 時限目 (研究室)			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	ディリノートの書き方①	適宜授業内容を復習する	角田
2	ディリノートの書き方②	課題:ディリノートの作成	角田
3	異常歩行①	基礎運動学(P410-415)を読み理解を深め、大殿筋歩行、中殿筋歩行、下垂足/尖足歩行を自身で模倣する	河村・角田
4	異常歩行②	基礎運動学(P410-415)を読み理解を深め、迷離性歩行(腰背痛、股関節痛)、拘縮歩行(股関節、膝関節)を自身で模倣する	河村・角田
5	異常歩行③	課題:異常歩行についての発表	河村・角田
6	歩行観察①	正常歩行の復習	三木屋
7	歩行観察②	歩行観察記録演習	三木屋
8	歩行観察③	歩行観察記録フィードバック	三木屋
9	歩行観察④	歩行分析演習	三木屋
10	症例レポート①	適宜授業内容を復習する	河村・角田
11	症例レポート②	適宜授業内容を復習する	河村・角田
12	症例レポート③	課題:症例レポートの作成①	河村・角田
13	症例レポート④	課題:症例レポートの作成②	河村・角田

14	症例報告①	適宜授業内容を復習する	河村・角田
15	症例報告②	課題:症例報告書の作成	河村・角田
成績評価方法と基準			割合
定期試験は行わず、適宜提示される課題の提出によって評価する。 4/5 以上の出席を必要とする。			課題:100%

授業科目名 運動器系理学療法学(理学) (Physical Therapy for Motor System)			
主担当教員	河村 廣幸	担当教員	河村 廣幸、前田 薫
科目ナンバリング	SS305	専門科目	ディプロマポリシー該当項目 DP①
配当年次	3	開講学期	前期
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	必修・選択		
<p>整形外科疾患を中心とし、疾患自体の知識とその治療と理学療法計画、日常生活指導について解説する。(オムニバス形式/15回) (河村 廣幸/9回 前田 薫/6回)</p> <p>※本科目には実務経験のある教員等による授業科目です</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 運動器疾患に対する理学療法の基礎理論とその背景が理解できる。 2. 運動学と運動器疾患の病態を結び付け、治療の進め方を理解する。 3. 運動器疾患の治療技術を知る。 <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床でもっとも多く遭遇し、評価・治療できなくてはならない領域であることを認識する。 2. 運動学・評価学・理学療法学・基礎運動療法および整形外科科学の知識がこの講義を受けるベースとして必要であることを認識する。したがって、予習が大変に重要である。 3. 配布資料は教科書を相互に補完するもので、よく理解しておかなければならない。 4. 講義の都度、理解が確実であるか判断し、不十分な点については速やかに担当教員に質問すること。 			
<p>教科書</p> <p>河村廣幸 他:ここがポイント 整形外科疾患の理学療法 金原出版</p> <p>参考書</p> <p>松野丈夫 中村利孝 総編集・標準整形外科 医学書院 石川 朗 総編集・15レクチャーシリーズ 運動器障害理学療法学 I および II 中山書店 Gary & Shinkman: 整形外科理学療法 原著第2版-基礎と実践- 医歯薬出版 河村廣幸編・リハビリに直結する！運動器画像の見かた 羊土社</p> <p>研究室/オフィスアワー</p> <p>河村:月・火曜日 13~18時 ただし、実習訪問など不在の時もあるので予約が望ましい。 前田:月・水・木の5限(確実性が高いのは左記であるが、それ以外も随時対応する)</p>			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	画像の見方	予習:整形外科画像の見方について予習しておく。 復習:再度整形外科の教科書と授業内容を照らし合わせる。 予習:骨柱とその周辺の解剖学と運動学について、それらの教科書を読み、再確認しておく。また、腰痛疾患と体幹・股関節の運動学につき再学習しておく。 復習:腰痛の種類と原因疾患を対応させられるよう、ノートに基づき整合性を確認する。	河村廣幸
2	腰痛の病態と評価・治療(前田 薫)	予習:腰痛の生活指導、体幹の可動性改善および筋力増強につき予習しておく。 復習:腰痛のADLと力学的ストレスの関係を整理する。	前田 薫
3	いわゆる腰痛症患者に対する治療とADL指導	予習:腰痛のADLと力学的ストレスの関係を整理する。 予習:肩関節について解剖学と運動学を、それらの教科書を読み、再確認しておく。肩・軟部組織ともに重要。また、肩関節疾患の病態につき再学習しておく。 復習:肩関節周囲炎に含まれる病態とその発症機序・治療手法について、説明できるよう、ノートで再確認する。	河村廣幸
5	骨折の病態と評価・治療	予習:標準整形外科科学の骨折の章を熟読すること。骨折の修復過程を再確認しておくこと。	前田 薫 河村廣幸

6	高齢者骨折の特徴と評価・治療	復習:骨折の種類とそれによる治療方針、リスクの違いについて、ノートで再確認する。 予習:手関節、肩関節、股関節、脊柱の解剖学と運動学を、それらの教科書を見、再確認しておくこと。高齢者の4大骨折について、原因と病態をまとめ、高年齢者の4大骨折の名称と原因が暗唱できる程度にノートを用いて再確認しておくこと。また、治療手法についても整理しておく。	前田 薫
7	変形性関節症の病態と評価	予習:関節軟骨の性質、増殖、炎症、圧力(物理学力)について確認しておく。 復習:変形性関節症について考えられている発症メカニズムをノートで確認する。	前田 薫
8	変形性股関節症の評価・治療	予習:変形性股関節症の病態についてまとめておく。 復習:変形性股関節症の病態と治療手法を整理する。	河村廣幸
9	変形性膝関節症の評価・治療	予習:変形性膝関節症の病態についてまとめておく。 復習:変形性膝関節症の病態と治療手法を整理する。	河村廣幸
10	人工関節の適応と置換術	予習:人工膝・股関節の構造と禁忌肢位を、ノートおよび教科書をもとに再確認しておく。人工膝・股関節の骨への接着法の違いを説明できるよう、復習する。	前田 薫
11	人工関節術後の治療	予習:人工関節の構造と禁忌肢位についてまとめておく。 復習:人工関節の構造と手術手技に起因する治療手技の変化を整理する。	河村廣幸
12	関節リウマチの病態と評価・治療	予習:滑膜関節、指関節、膝関節、炎病について再確認しておく。関節リウマチの経過・病態についてまとめる。 復習:関節リウマチの関節症状と関節外症状を説明できるようにする。病態と治療手技・ADL指導について整理する。	河村廣幸
13	頸椎疾患の病態と評価・治療	予習:頸椎とその周辺組織の解剖学と運動学・頸椎疾患を、それらの教科書を見、再確認しておく。 復習:神経根症状と脊髄症状の違いを説明できるよう、ノートをもとに復習する。頸椎疾患の治療に際しては再学習する。	前田 薫
14	頸椎の手術	予習:頸椎疾患と手術につき整形外科の教科書より再学習する。 復習:頸椎の手術による脆弱性や固定性、それによる理学療法の変化について整理する。	河村廣幸
15	膝関節前帯状軟骨の病態と評価・治療	予習:膝関節の解剖学と運動学を、それらの教科書を見、十分に確認しておくこと。内側副韧带・前・前及び後十字靭帯損傷の病態について整理しておく。 復習:膝関節前帯状軟骨が起る要因を、前帯別に説明できるよう、ノートをもとに確認する。各靭帯損傷の脆弱性と治療手法について整理する。	河村廣幸
成績評価方法と基準			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 提出レポート 2. 記述試験 3. 上記の総合評価の結果 60点以上を単位認定する。 			
割合			
提出レポート 30%			
記述試験 30%			
70%			

授業科目名		運動器系理学療法学技術論(理学) (Technique of Physical Therapy for Motor System)		
主担当教員	河村 廣幸	担当教員	河村 廣幸、三木 麗、良輔、前田 薫、工藤 慎太郎	
科目ナンバリング	SS306	科目区分	ディプロマポリシー該当項目	DP①
配当年次	3	開講学期	曜日・時間	水曜 4限
授業形態	演習	単位数	必修・選択	必修
授業概要				
運動器系理学療法学で学習した内容を踏まえ、運動器疾患に対する評価・治療手技について実技を主体に学習する。運動器系理学療法学の技術は、運動療法と共に評価学や他の神経系や内科系理学療法にも共通する理学療法法の根幹となる学問である。この演習では、これらの知識・技術の復習を交えながら応用技術まで学習する。				
到達目標				
1. 運動器系理学療法の評価・治療技術を理解する。				
2. 治療技術の理論を説明できる。				
3. 評価・治療技術を実施できる。				
履修上の注意(学生へのメッセージ)				
1. 運動器系理学療法学で配付された資料を再学習する。				
2. 実技練習にはリスクを伴うので、緊張感を持ち、細心の注意を払って学習にのぞむこと。				
3. 授業の復習過程を重視する。反復学習が必要である。				
教科書				
河村廣幸 他:ここがポイント 整形外科疾患の理学療法 金原出版(運動器系理学療法学と同一)				
参考書				
松野 丈夫/中村 利孝 監修:標準整形外科 医学書院				
石川 朗 総編集:15レクチャーシリーズ 運動器障害理学療法学 I およびII 中山書店				
Gary & Shirkman:整形外科理学療法 原著第2版-基礎と実践- 医歯薬出版				
研究室/オフィスアワー				
河村:月・火曜日 13~18時 ただし、実習訪問など不在の時もあるもので予約が望ましい。				
授業展開及び授業計画表				
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当	
1	腰痛に対する評価	予習:腰痛疾患とその評価について再学習しておく。 復習:腰痛疾患とその評価について再学習しておく。 課題:腰痛疾患とその評価について再学習しておく。	予習・腰痛疾患とその評価について再学習しておく。 復習:腰痛疾患とその評価について再学習しておく。 課題:腰痛疾患とその評価について再学習しておく。	
2	腰痛に対する運動療法とADL指導	予習・課題:各運動療法の役割整理と実技の復習。 復習:腰痛疾患とその評価について再学習しておく。	予習:腰痛疾患とその評価について再学習しておく。 復習:腰痛疾患とその評価について再学習しておく。 課題:腰痛疾患とその評価について再学習しておく。	
3	肩関節周囲炎に対する評価	予習・課題:肩関節周囲炎の治療について再学習しておく。 復習:肩関節周囲炎の治療について再学習しておく。	予習:肩関節周囲炎の治療について再学習しておく。 復習:肩関節周囲炎の治療について再学習しておく。	
4	肩関節周囲炎に対する運動療法	予習・課題:各運動療法の役割整理と実技の復習。 復習:肩関節周囲炎の治療について再学習しておく。	予習:肩関節周囲炎の治療について再学習しておく。 復習:肩関節周囲炎の治療について再学習しておく。 課題:肩関節周囲炎の治療について再学習しておく。	
5	骨折の評価	予習:骨折とその評価について再学習しておく。 復習:骨折の評価について再学習しておく。	予習:骨折とその評価について再学習しておく。 復習:骨折の評価について再学習しておく。	
6	骨折に対する運動療法	予習・課題:骨折のリスク管理について整理と実技の復習。 復習:骨折の評価について再学習しておく。	予習:骨折の評価について再学習しておく。 復習:骨折の評価について再学習しておく。 課題:骨折のリスク管理について整理と実技の復習。	
7	変形性関節症に対する評価	予習:変形性膝・股関節症とその評価について再学習しておく。 復習:変形性膝・股関節症の評価について再学習しておく。	予習:変形性膝・股関節症とその評価について再学習しておく。 復習:変形性膝・股関節症の評価について再学習しておく。	
8	変形性関節症に対する運動療法	予習:変形性膝・股関節症の治療について再学習しておく。 復習:変形性膝・股関節症の治療について再学習しておく。	予習:変形性膝・股関節症の治療について再学習しておく。 復習:変形性膝・股関節症の治療について再学習しておく。	
9	人工股・膝関節置換術後の運動療法とADL指導	予習:THK・TKAについて再学習しておく。	予習:THK・TKAについて再学習しておく。	

10	頸椎疾患に対する評価	復習・課題:THK・TKAの運動療法とリスク管理について実技の復習。 予習:頸椎疾患とその評価について再学習しておく。 復習:頸椎疾患とその評価について再学習しておく。	復習・課題:THK・TKAの運動療法とリスク管理について実技の復習。 予習:頸椎疾患とその評価について再学習しておく。 復習:頸椎疾患とその評価について再学習しておく。
11	頸椎疾患に対する運動療法	予習:頸椎疾患の治療について再学習しておく。 復習:頸椎疾患の治療について再学習しておく。	予習:頸椎疾患の治療について再学習しておく。 復習:頸椎疾患の治療について再学習しておく。
12	脊椎術後のADL指導と介助法	予習:脊椎手術とリスクについて再学習しておく。 復習:課題:脊椎術後の運動療法とリスク管理について実技の復習。	予習:脊椎手術とリスクについて再学習しておく。 復習:課題:脊椎術後の運動療法とリスク管理について実技の復習。
13	膝関節初期帯損傷に対する評価	予習:膝関節初期帯損傷とその評価について再学習しておく。 復習:課題:膝関節初期帯損傷評価チャートを作成する。	予習:膝関節初期帯損傷とその評価について再学習しておく。 復習:課題:膝関節初期帯損傷評価チャートを作成する。
14	膝関節初期帯損傷に対する運動療法	予習:膝関節初期帯損傷について再学習しておく。 復習:課題:膝関節初期帯損傷後の運動療法とリスクについて再学習しておく。	予習:膝関節初期帯損傷について再学習しておく。 復習:課題:膝関節初期帯損傷後の運動療法とリスクについて再学習しておく。
15	全行程の復習とチェック	予習:整形外科疾患の理学療法について全体を通し復習しておく。 復習:各運動療法の理論と実技が統合できるよう復習する。	予習:整形外科疾患の理学療法について全体を通し復習しておく。 復習:各運動療法の理論と実技が統合できるよう復習する。
成績評価方法と基準			
1. 講義中あるいは講義後に、学生同士で評価し合った評価表の提出			
2. 実技試験			
上記の合計点の結果、60点以上で単位認定する。			
授業の4/5以上の出席を必要とする。			
			割合
			課題 20%
			実技試験 80%

神経系理学療法学(理学) (Nervous System Physical Therapy)			
授業科目名	中根 征也	中根 征也, 杉本 圭, 松尾 浩希, 木内 隆裕	担当教員
科目ナンバリング	SS307	ディプロマポリシー該当項目	DP①
配当年次	3	開講学期	前期
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	脳卒中を中心とした中枢神経疾患、変性疾患の疾患の特徴やメカニズム、その疾患や病態に応じた理学療法評価及び理学療法の意義や実践について学修する。 ※本科科目は実務経験のある教員等による授業科目です		
到達目標	1) 中枢神経系の構造と機能を理解し、図示や説明ができる。 2) 中枢神経疾患、変性疾患の発生メカニズムや病態の特徴、理学療法について理解し、具体的に述べることができる。 履修上の注意(学生へのメッセージ) 1) 指定された教科書を毎回の授業に持参すること。 2) 1回の講義内容が多いため、シラバスに明記されている予習復習を必ず行うこと。 3) 必要出席回数は、授業回数の4/5以上とする。 4) 授業が実技形式の場合には、シヤーズ上下、および本学指定の上履きを着用して参加すること。		
教科書	1) 吉尾雅泰 編: 標準理学療法学 神経理学療法学 第2版 医学書院, 2018 2) 川平和美 編: 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 神経内科学 第4版 医学書院, 2013 3) 鈴木則宏 編: 神経診断クローズアップ 正しい病巣診断のコツ 改訂第2版、メジカルビュー社, 2015 4) 武田功 編: PTマニュアル 背髄損傷の理学療法 第3版、医歯薬出版株式会社, 2017		
参考書	1) 細田多穂 編: 理学療法ハンドブック 改訂第4版、協同医学出版社, 2010 2) 河村廣幸 編: こころノイベント: 脳卒中の理学療法、金原出版, 2018 3) 田崎義昭 他: ベッドサイドの神経の診かた 改訂第18版、南山堂, 2016 4) 潮見義編: PT・OT ビジュアルテキスト 神経障害理学療法学、羊土社, 2018		
研究室/オフィスアワー	中根征也: 4階研究室/木曜日 4時限目以降(時間は事前に相談することが望ましい) 木内隆裕: 4階研究室/火曜日 午後 杉本 圭: 4階研究室/木曜日 4-5時限目(時間は事前に相談することが望ましい) 松尾浩希: 4階研究室/金曜日 3-5時限目(時間は事前に相談することが望ましい)		
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	中枢神経系の構造と機能	予習: 「標準理学療法学 神経理学療法学」(以下、テキストとする)の pp. 4-15 を読んでおくこと。 復習: 中枢神経の主要伝導路と脳脊髄の機能が説明できる。 予習: テキストの pp. 30-43, pp. 46-64, pp. 67-73 を読んでおくこと。 復習: ①脳卒中の発生メカニズムについて説明できる。 ②脳画像から損傷部位を説明できる。	杉本
2	脳卒中の発症および回復のメカニズム 脳画像と臨床症状	予習: テキストの pp. 76-88, pp. 94-101 を読んでおくこと。 復習: ①脳卒中後の障害と Iof との関係と説明でき、代数的な評価を説明できる。 ②意識障害の評価・リスク管理について説明できる。	木内
3	脳卒中理学療法の評価 脳卒中の障害と急性期理学療法① (意識障害)	予習: テキストの pp. 102-127 を読んでおくこと。 復習: ①運動麻痺の発生メカニズムと理学療法について説明できる。 ②感覚障害・感覚障害	松尾
4	脳卒中の障害と急性期理学療法② (運動麻痺・感覚障害)	予習: テキストの pp. 102-127 を読んでおくこと。 復習: ①運動麻痺の発生メカニズムと理学療法について説明できる。 ②感覚障害の発生メカニズムと理学療法について説明できる。	杉本

5	脳卒中の障害と回復期理学療法① (痛み・筋萎縮異常)	予習: テキストの pp. 203-214, pp. 131-139 を読んでおくこと。 復習: ①痛みの発生のメカニズムと理学療法について説明できる。 ②異常筋緊張の発生メカニズムと理学療法について説明できる。	杉本
6	脳卒中の障害と回復期理学療法② (運動失調)	予習: テキストの pp. 140-153 を読んでおくこと。 復習: 運動失調の発生メカニズムと理学療法について説明できる。	杉本
7	脳卒中の障害と回復期理学療法③ (姿勢定位障害・姿勢ハランズ障害)	予習: テキストの pp. 229-252 を読んでおくこと。 復習: 姿勢定位障害・姿勢ハランズ障害の発生メカニズムと理学療法について説明できる。	木内
8	脳卒中の障害と回復期理学療法④ (高次脳機能障害)	予習: テキストの pp. 16-29, pp. 154-202 を読んでおくこと。 復習: 種々の高次脳機能障害の発生のメカニズムと理学療法について説明できる。	木内
9	脳卒中の障害と生活期理学療法 (二次的機能障害・上肢機能障害)	予習: テキストの pp. 217-226, pp. 288-304 を読んでおくこと。 復習: ①二次的機能障害の発生のメカニズムと理学療法について説明できる。 ②脳卒中片麻痺の上肢機能障害の特徴を理解し、その評価・理学療法目的と実践を説明できる。	木内
10	Parkinson 病の理学療法	予習: テキストの pp. 307-320 を読んでおくこと。 復習: Parkinson 病の病態と治療方針を理解し、理学療法目的と実践を説明できる。	中根
11	脊髄小脳変性症の理学療法 多発性硬化症の理学療法	予習: テキストの pp. 323-334, pp. 352-364 を読んでおくこと。 復習: ①脊髄小脳変性症の病態と治療方針を理解し、理学療法目的と実践を説明できる。 ②多発性硬化症の病態と治療方針を理解し、理学療法目的と実践を説明できる。	中根
12	筋萎縮性側索硬化症の理学療法 Guillain-Barré症候群の理学療法	予習: テキストの pp. 335-351, pp. 368-376 を読んでおくこと。 復習: ①筋萎縮性側索硬化症の病態と治療方針を理解し、理学療法目的と実践を説明できる。 ②Guillain-Barré?の病態と治療方針を理解し、理学療法目的と実践を説明できる。	中根
13	脊髄損傷とは?	予習: 脊髄の解剖・生理について予習する。 復習: 脊髄の解剖・生理から脊髄損傷の障害が予測できる。	松尾
14	脊髄損傷の理学療法	予習: 「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 神経内科学 第4版」の pp. 226-240 を読んでおくこと。 復習: 脊髄損傷患者に対する理学療法の流れを理解できる。	中根
15	講義全体のまとめ	脳卒中、神経筋疾患、脊髄損傷について復習しておくこと。	中根
成績評価方法と基準			割合
①単位認定のための必要出席回数(授業回数の2/3以上)とする。 ②筆記試験で評価する。			②100%

神経系理学療法学技術論(理学) (Nervous System Physical Therapy Skills)																																			
授業科目名	中根 征也	担当教員	中根 征也、杉本 圭、松尾 浩希、木内 隆裕																																
主担当教員	中根 征也	専門科目	DP①																																
科目ナンバリング	SS308	科目区分	前修																																
配当年次	3	開講学期	1																																
授業形態	演習	単位数	必修																																
授業概要	臨床理学療法評価学Ⅱや神経系理学療法学で学んだ中枢神経障害に対する評価、理学療法の知識を実践できるようにする。主に、脊髄障害および脳血管障害について、実技や患者モデル(patient)を用いて、障害を把握するための手法やプログラムを自ら立案し、実践する。																																		
到達目標	<p>中枢神経を解剖学・生理学的に理解を深め、それらの疾患の障害構造を理解し、理学療法のより実践的な知識と技術を身につける。</p> <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>1) 必要出席回数には、授業回数の4/5以上とする。</p> <p>2) 授業が実技形式の場合には、シャージ上下、および本学指定の上履きを着用して参加すること。</p> <p>3) 未知の障害に対してどれだけの種類の可能性があるかを課題であり、限らないバリエーションをもつ障害者の方に対応できるように柔軟な思考としっかりとした基礎知識をもって講義に臨むこと。</p>																																		
教科書	<p>1) 吉尾雅春 編:標準理学療法学 神経理学療法学 第2版、医学書院、2018</p> <p>2) 川平和美 編:標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 神経内科学 第4版、医学書院、2013</p> <p>3) 武田功 編:PTマニュアル 脊髄損傷の理学療法 第3版、医文堂出版株式会社、2017</p> <p>4) 鈴木則宏 編:神経診断クローズアップ 正しい病巣診断のコツ 改訂第2版、メジカルビュー社、2015</p> <p>5) 潮見泰蔵 編:PT・OT ビジュアルテキスト リハビリテーション基礎評価学、羊土社、2014</p>																																		
参考書	<p>1) 細田多穂 編:理学療法ハンドブック 改訂第4版、協同医学出版社、2010</p> <p>2) 河村廣幸 編:ここがポイント!脳卒中の理学療法、医文堂、2018</p> <p>3) 田嶋義昭 他:ペッドサイドの神経の診かた 改訂第18版、南山堂、2016</p> <p>4) 潮見泰蔵 編:PT・OT ビジュアルテキスト 神経障害理学療法学、羊土社、2018</p> <p>5) 岩崎 洋 編:脊髄損傷マニュアル 第2版、文光堂、2014</p>																																		
研究室/オフィスアワー	<p>中根征也:4階研究室/木曜日 4時限目以降(時間は事前に相談することが望ましい)</p> <p>木内隆裕:4階研究室/火曜日 午後</p> <p>杉本 圭:4階研究室/木曜日 4-5時限目 金曜日 3-5時限目(時間は事前に相談することが望ましい)</p> <p>松尾浩希:4階研究室/金曜日 3-5時限目(時間は事前に相談することが望ましい)</p>																																		
授業展開及び授業計画表	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>学修内容</th> <th>予習・復習・課題等</th> <th>担当</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>脳卒中の急性期理学療法①(ボジヨニング)</td> <td>予習:ボジヨニングについて予習する。 復習:脳血管障害患者に対するボジヨニングについて説明・介入ができる。</td> <td>中根</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>脳卒中の急性期理学療法②(関節可動域運動)</td> <td>予習:関節可動域運動について予習する。 復習:脳血管障害患者に対する関節可動域運動について理解できる。</td> <td>杉本</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>脳卒中の急性期理学療法③(起上がり)</td> <td>予習:動作分析について予習する。 復習:脳血管障害患者の起上がりについて説明・介入ができる。</td> <td>杉本</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>脳卒中の急性期理学療法④(起立・着座)</td> <td>予習:動作分析について予習する。 復習:脳血管障害患者の起立・着座について説明・介入ができる。</td> <td>松尾</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>脳卒中の回復期理学療法①(補装具)</td> <td>予習:補装具について予習する。 復習:脳血管障害の補装具の特徴について説明できる。</td> <td>木内</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>脳卒中の回復期理学療法②(高次脳機能障害)</td> <td>予習:脳の局在について予習する。 復習:高次脳機能障害の種類とその説明ができる。</td> <td>木内</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>脳卒中の回復期理学療法④(移乗)</td> <td>予習:動作分析について予習する。 復習:脳血管障害患者の移乗について説明・介入ができる。</td> <td>杉本</td> </tr> </tbody> </table>			回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当	1	脳卒中の急性期理学療法①(ボジヨニング)	予習:ボジヨニングについて予習する。 復習:脳血管障害患者に対するボジヨニングについて説明・介入ができる。	中根	2	脳卒中の急性期理学療法②(関節可動域運動)	予習:関節可動域運動について予習する。 復習:脳血管障害患者に対する関節可動域運動について理解できる。	杉本	3	脳卒中の急性期理学療法③(起上がり)	予習:動作分析について予習する。 復習:脳血管障害患者の起上がりについて説明・介入ができる。	杉本	4	脳卒中の急性期理学療法④(起立・着座)	予習:動作分析について予習する。 復習:脳血管障害患者の起立・着座について説明・介入ができる。	松尾	5	脳卒中の回復期理学療法①(補装具)	予習:補装具について予習する。 復習:脳血管障害の補装具の特徴について説明できる。	木内	6	脳卒中の回復期理学療法②(高次脳機能障害)	予習:脳の局在について予習する。 復習:高次脳機能障害の種類とその説明ができる。	木内	7	脳卒中の回復期理学療法④(移乗)	予習:動作分析について予習する。 復習:脳血管障害患者の移乗について説明・介入ができる。	杉本
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当																																
1	脳卒中の急性期理学療法①(ボジヨニング)	予習:ボジヨニングについて予習する。 復習:脳血管障害患者に対するボジヨニングについて説明・介入ができる。	中根																																
2	脳卒中の急性期理学療法②(関節可動域運動)	予習:関節可動域運動について予習する。 復習:脳血管障害患者に対する関節可動域運動について理解できる。	杉本																																
3	脳卒中の急性期理学療法③(起上がり)	予習:動作分析について予習する。 復習:脳血管障害患者の起上がりについて説明・介入ができる。	杉本																																
4	脳卒中の急性期理学療法④(起立・着座)	予習:動作分析について予習する。 復習:脳血管障害患者の起立・着座について説明・介入ができる。	松尾																																
5	脳卒中の回復期理学療法①(補装具)	予習:補装具について予習する。 復習:脳血管障害の補装具の特徴について説明できる。	木内																																
6	脳卒中の回復期理学療法②(高次脳機能障害)	予習:脳の局在について予習する。 復習:高次脳機能障害の種類とその説明ができる。	木内																																
7	脳卒中の回復期理学療法④(移乗)	予習:動作分析について予習する。 復習:脳血管障害患者の移乗について説明・介入ができる。	杉本																																

8	脳卒中の回復期理学療法⑤(歩行)	予習:動作分析について予習する。 復習:脳血管障害患者の歩行について説明・介入ができる。	杉本
9	脳卒中の生活期理学療法	予習:二次的機能障害について予習する。 復習:脳血管障害患者の二次的機能障害について説明・介入ができる。	松尾
10	脳卒中の理学療法について	脳卒中の理学療法について復習しておくこと、その説明がで	中根
11	脊髄損傷の理学療法評価(ASIA分類、Zancolloni分類、Frankel分類、SCIM)	予習:脊髄損傷の評価を実施できる。 復習:脊髄損傷の評価を実施できる。	木内
12	脊髄損傷の急性期理学療法(ボジヨニング、ギャッジアップ、関節可動域運動)	予習:運動療法の基本概念を予習する。 復習:脊髄損傷者に対する急性期の理学療法について説明・介入ができる。	松尾
13	脊髄損傷の回復期理学療法(寝返り・起上がり、push up)	予習:運動療法の基本概念を予習する。 復習:脊髄損傷者に対する回復期の理学療法について説明・介入ができる。	中根
14	脊髄損傷の生活期理学療法(座位バランス、移乗)	予習:運動療法の基本概念を予習する。 復習:脊髄損傷者に対する回復期の理学療法について説明・介入ができる。	中根
15	脊髄損傷の理学療法について	脊髄損傷の理学療法について復習しておくこと、	中根
成績評価方法と基準			
①筆記試験で評価する。			
②単位認定のための必要出席回数は「授業回数の4/5以上」とする。			

内科系理学療法学(理学) (Physical Therapy for Internal Medicine)			
授業科目名	金尾 顕郎	担当教員	金尾 顕郎、角田 晃啓、堀 竜次
主担当教員	SS309	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目
科目ナンバリング	3	科目区分	前期
配当年次	講義	開講学期	火曜 4 限
授業形態	2	単位数	必修・選択
授業概要	<p>(概要)オムニバス方式にて運動や活動に影響する解剖・生理を基に、呼吸・循環機能、代謝機能を中心に学習し、呼吸循環障害、生活習慣病などの理学療法評価、運動療法、リスク管理をする。また、測定機器等の計測結果についても考察し、内科系障害を理解する。</p> <p>【内部障害の基礎 全5回】呼吸・心臓・代謝の生理学を理解し、内部障害の基礎知識を教授する</p> <p>【呼吸器疾患 金尾顕郎 全5回】主に、呼吸器疾患がもつ病理学的特性や運動機能障害を理解し、その理学療法プロセス、日常生活活動作指導の基礎知識を教授する。</p> <p>【循環器疾患 堀竜次 全5回】主に循環器疾患がもつ病理学的特性や運動機能障害を理解し、その理学療法プロセス、日常生活活動作指導の基礎知識を教授する。</p> <p>【代謝性疾患 角田晃啓 全3回】主に糖尿病や高血圧などの生活習慣病がもつ運動機能障害を理解し、その理学療法プロセス、日常生活活動作指導の基礎知識を教授する</p>		
到達目標	※本科目は実務経験のある教員等による授業科目です		
内容	内科系障害の成り立ちや評価方法を理解し、運動療法の組み立てが理解できる。		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	リスク管理が理解できる。		
教科書	履修上の注意(学生へのメッセージ)		
参考文献	<p>1. 内科系理学療法は理学療法を進めるにあたり必要な科目であることを認識すること</p> <p>2. 循環器疾患については、小テストを行いますので教科書の出題範囲を必ず予習すること。事前に講義資料を配布するので必ず予習をすること</p> <p>3. 疑問点について、必ず解決の行動をとること</p>		
授業展開及び授業計画表	<p>教科書 松尾善美 編. PT-01 ビジュアルテキスト 内部障害理学療法学. 羊土社 医療情報科学研究所 編. 病気が見える vol. 2 循環器. MEDIC MEDIA 医療情報科学研究所 編. 病気が見える vol. 3 糖尿病・代謝・内分泌. MEDIC MEDIA 谷本良一 心臓運動負荷テストと運動療法 南江堂 研究室/オフィスアワー</p> <p>金尾・水曜日の1限、もしくは、事前に連絡があれば随時対応します。 角田・木曜日の5時限目(研究室) 堀・金曜日の3・4限目(研究室)</p>		
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	【内部障害の基礎 全2回】呼吸・心臓・代謝の生理学1	予習：授業内容に関する内容について、教科書を読んでおくこと 復習：当日の配布資料を使用し復習すること 予習：授業内容に関する内容について、教科書を読んでおくこと 復習：当日の配布資料を使用し復習すること	角田・堀
2	【内部障害の基礎 全2回】呼吸・心臓・代謝の生理学2	予習：授業内容に関する内容について、教科書を読んでおくこと 復習：当日の配布資料を使用し復習すること	角田・堀
3	【呼吸器疾患 全5回】1. 呼吸障害の成り立ち	予習：授業内容に関する内容について、教科書を読んでおくこと 復習：当日の配布資料を使用し復習すること 予習：授業内容に関する内容について、教科書を読んでおくこと 復習：当日の配布資料を使用し復習すること	金尾
4	【呼吸器疾患 全5回】2. 呼吸障害の評価	予習：授業内容に関する内容について、教科書を読んでおくこと 復習：当日の配布資料を使用し復習すること	金尾
5	【呼吸器疾患 全5回】3. 呼吸リハビリテーション①	予習：授業内容に関する内容について、教科書を読んでおくこと 復習：当日の配布資料を使用し復習すること	金尾
6	【呼吸器疾患 全5回】4. 呼吸リハビリテーション②	予習：授業内容に関する内容について、教科書を読んでおくこと 復習：当日の配布資料を使用し復習すること	金尾
7	【呼吸器疾患 全5回】5. 循環器疾患の理学療法プロセス	授業は連続性をもって進むので当日の配布資料を復習し、各回ごとに消化してすすめること。	金尾

8	【循環器疾患 全5回】1. ハイタルサイン	予習：教科書(病気が見える 循環器)を確認すること 復習：授業は連続性をもって進むので当日の配布資料を復習し、各回で消化してすすめること	堀
9	【循環器疾患 全5回】2. 身体所見のみがた	予習：教科書(病気が見える 循環器)を確認すること 復習：授業は連続性をもって進むので当日の配布資料を復習し、各回で消化してすすめること	堀
10	【循環器疾患 全5回】3. 心電図検査	予習：教科書(病気が見える 循環器)を確認すること 復習：授業は連続性をもって進むので当日の配布資料を復習し、各回で消化してすすめること	堀
11	【循環器疾患 全5回】4. 循環器理学療法1	予習：教科書(内部障害理学療法学)を確認すること 復習：授業は連続性をもって進むので当日の配布資料を復習し、各回で消化してすすめること	堀
12	【循環器疾患 全5回】5. 循環器理学療法2	予習：教科書(内部障害理学療法学)を確認すること 復習：授業は連続性をもって進むので当日の配布資料を復習し、各回で消化してすすめること	堀
13	【代謝性疾患 全3回】1. 代謝機能障害の実際	予習：教科書(内部障害理学療法学:P263-271)を確認すること 復習：授業は連続性をもって進むので当日の配布資料を復習し、各回で消化してすすめること	角田
14	【代謝性疾患 全3回】2. 代謝機能障害に対する理学療法	予習：教科書(内部障害理学療法学:P271-280)を確認すること 復習：授業は連続性をもって進むので当日の配布資料を復習し、各回で消化してすすめること	角田
15	【代謝性疾患 全3回】3. 代謝機能障害の患者教育	予習：事前配布資料を確認すること 復習：授業は連続性をもって進むので当日の配布資料を復習し、各回で消化してすすめること	角田
成績評価方法と基準			割合
1. 学期末の筆記試験により評価する(呼吸器系:40%、循環器系:35%、代謝系:25%)			1. 80%
2. 呼吸循環器系に關しては別途、授業中に受講される課題レポート・小テストを評価の対象とする			2. 20%

内科系理学療法技術論(理学) (Physical Therapy Technique for Internal Medicine)			
授業科目名	内科系理学療法技術論(理学)	担当教員	金尾 颯郎、角田 昇啓、堀 竜次
主担当教員	金尾 颯郎	専門科目	DP①
科目ナンバリング	SS310	科目区分	曜日・時限
配当年次	3	開講学期	火曜 5限
授業形態	演習	単位数	1
授業概要	<p>(概要)オムニバス方式にて呼吸循環器疾患および生活習慣病等の理学療法プロセス、日常生活動作指導について、理学療法の実践、リスク管理、再評価などの技術を学習する。</p> <p>【呼吸器疾患】金尾颯郎/堀 竜次 6回(主に呼吸器系障害の理学療法技術について学習する。</p> <p>【循環器疾患】堀 竜次 4回(主に循環器系障害の理学療法技術について学習する。</p> <p>【代謝性疾患】角田昇啓 2回(主に代謝系障害の理学療法技術について学習する。</p> <p>【症例検討】金尾颯郎/堀 竜次/角田昇啓 3回(内部障害事例から評価・プログラムの立案について学習)</p>		
到達目標	<p>1. 内科系障害患者に対する運動処方方の理解と理学療法プログラムの立案ができる</p> <p>2. 理学療法プログラムを実施し、再評価ができる</p>		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	<p>1. 講義内容は特殊なものではなく、多くの障害に対して理学療法を進める上で必要だと認識すること。</p> <p>2. 疑問点について、必ず解決の行動をとること。</p> <p>3. 下記授業計画は時系列ではなく、授業内容はあくまでも各教員ごとに展開されるので注意すること。</p>		
教科書	<p>松尾善美 編. PT・OT ビジュアルテキスト 内部障害理学療法学. 羊土社</p> <p>堀 竜次. 呼吸器コンディショニングテクニック. メディカ出版</p>		
参考書	<p>医療情報科学研究所 編. 病気が見える vol.2 循環器. MEDIC MEDIA</p> <p>医療情報科学研究所 編. 病気が見える vol.3 糖尿病・代謝・内分泌. MEDIC MEDIA</p> <p>医療情報科学研究所 編. 病気が見える vol.4 呼吸器. MEDIC MEDIA</p> <p>谷本興一. 心肺運動負荷テストと運動療法. 南江堂</p>		
研究室/オフィスアワー	<p>研究室/オフィスアワー</p>		
金尾・水曜日の1限、もしくは、事前ご連絡があれば随時対応します。			
角田・木曜日の5時限目(研究室)			
堀・金曜日の3-4限目(研究室)			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	【呼吸器障害 全6回】 1. 呼吸生理と解剖	予習：生理学・解剖学を教科書にて予習しておくこと 復習：資料をまとめること	金尾・堀 角田
2	【呼吸器障害 全6回】 2. 肺機能検査	予習：スパイロメトリーの検査項目を見しておくこと 復習：測定値の意味についてまとめておくこと	金尾・堀 角田
3	【呼吸器障害 全6回】 3. 運動負荷試験(歩行テスト)	予習：教科書および事前資料を確認すること 復習：測定値の意味についてまとめておくこと	金尾・堀 角田
4	【呼吸器障害 全6回】 4. 呼吸介助手技(基本)	予習：教科書および事前資料を確認すること 復習：実技を反復して練習すること	金尾・堀 角田
5	【呼吸器障害 全6回】 5. 呼吸介助手技(応用)	予習：教科書および事前資料を確認すること 復習：実技を反復して練習すること	金尾・堀 角田
6	【呼吸器障害 全6回】 6. 排痰手技	予習：気道クリアランスと喀痰・吸引の項目を讀んでおくこと 復習：吸引の手順とリスクについて復習しておくこと	金尾・堀 角田
7	【循環器障害 全4回】 1. 視診・触診実技	予習：教科書および事前資料を確認すること 復習：実技を反復して練習すること	堀・金尾 角田
8	【循環器障害 全4回】 2. 聴診実技	予習：教科書および事前資料を確認すること 復習：実技を反復して練習すること	堀・金尾 角田
9	【循環器障害 全4回】 3. 心電図検査実技	予習：教科書および事前資料を確認すること 復習：心電図波形の演習問題を解くこと	堀・金尾 角田
10	【循環器障害 全4回】 4. 運動負荷試験(自転車エルゴメーター)	予習：教科書および事前資料を確認すること 復習：測定値から運動処方を考えること	堀・金尾 角田
11	【代謝障害 全2回】 1. 血糖測定	予習：血糖測定について学習すること 復習：血糖測定レポートにまとめる	角田・堀 金尾

12	【代謝障害 全2回】 2. 運動時代制	演習問題に取り組みの中で内科系理学療法学の講義内容を復習して臨むこと。	角田・堀 金尾
13	【症例検討 全3回】	講義内容をグループワークの中で積極的に討論する。	金尾・堀 角田
14	【症例検討 全3回】	講義内容をグループワークの中で積極的に討論する。	金尾・堀 角田
15	【症例検討 全3回】	講義内容をグループワークの中で積極的に討論する。	金尾・堀 角田
成績評価方法と基準			
<p>1. 学期末の筆記試験により評価する(呼吸器系:40%、循環器系:35%、代謝系:25%)</p> <p>2. 授業で行った症例の発表および討論内容を評価の対象とする</p> <p>3. 単位認定のための必要出席回数は「授業時間の5分の4以上」とする</p>			

理学療法特論 I (理学) (Advanced Physical Therapy I)			
授業科目名	理学療法特論 I (理学) (Advanced Physical Therapy I)		
主担当教員	木内 隆裕 担当教員 木内 隆裕、澤田 優子、仲本 正美、杉本 圭、松尾 浩希、林 真太郎		
科目ナンバリング	SS12		
配当年次	3		
授業形態	講義		
授業概要	2 必修・選択		
到達目標	1) 代表的疾患の病態と、その理解の基礎となる解剖学・生理学・病理学の知識を関係づけることができる。 2) 代表的疾患に対する典型的な理学療法(評価及び治療)と、その理解の基礎となる解剖学・生理学・運動学の知識を関係づけることができる。 3) 代表的疾患の病態と、それらに対する典型的な理学療法(評価及び治療)の知識を関係づけることができる。		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	1) 授業進行において、項目毎の予習・復習が必須となるため、各らないように注意すること。 2) 下記授業計画は時系列ではなく、授業内容はあくまでも教員ごとに展開されるので注意すること。		
教科書			
1) 各授業の予習・復習欄に記載した書籍 (他の授業で教科書指定された書籍)			
参考書			
1) リハドリル、アイベック社。			
研究室・オフィスアワー			
在室時は随時			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	呼吸器疾患と理学療法	1) 松尾善美編、内部障害理学療法学、第1版、羊土社、2016。(PT-01ビジュアルテキスト)。を確認する。	杉本
2	循環器疾患と理学療法	1) 松尾善美編、内部障害理学療法学、第1版、羊土社、2016。(PT-01ビジュアルテキスト)。を確認する。	杉本
3	糖尿病と理学療法	1) 松尾善美編、内部障害理学療法学、第1版、羊土社、2016。(PT-01ビジュアルテキスト)。を確認する。	松尾
4	骨折と基礎評価①	1) 潮見泰蔵、下田信明編、リハビリテーション基礎評価学、第1版、羊土社、2014。(PT-01ビジュアルテキスト)。 2) 富士武史、河村広幸、小柳 磨毅、整形外科疾患の理学療法-こがポイント!、第2版、金原出版、2006。 3) Kirsten G7tz-Neumann 原著、月城慶一ら訳、観察による歩行分析、第1版、医学書院、2005。を確認する。	杉本
5	骨折と基礎評価②	1) 潮見泰蔵、下田信明編、リハビリテーション基礎評価学、第1版、羊土社、2014。(PT-01ビジュアルテキスト)。 2) 富士武史、河村広幸、小柳 磨毅、整形外科疾患の理学療法-こがポイント!、第2版、金原出版、2006。 3) Kirsten G7tz-Neumann 原著、月城慶一ら訳、観察による歩行分析、第1版、医学書院、2005。を確認する。	松尾
6	骨折と基礎評価③	1) 潮見泰蔵、下田信明編、リハビリテーション基礎評価学、第1版、羊土社、2014。(PT-01ビジュアルテキスト)。	松尾

2)	富士武史、河村広幸、小柳 磨毅、整形外科疾患の理学療法-こがポイント!、第2版、金原出版、2006。 3) Kirsten G7tz-Neumann 原著、月城慶一ら訳、観察による歩行分析、第1版、医学書院、2005。を確認する。			澤田
7	高齢疾患とADL①	1) 潮見泰蔵、下田信明編、リハビリテーション基礎評価学、第1版、羊土社、2014。(PT-01ビジュアルテキスト)。 2) 奈良 勲、日常生活活動学・生活環境学(標準理学療法学) 3) 細田多穂、地域リハビリテーション学テキスト		澤田
8	高齢疾患とADL②	1) 潮見泰蔵、下田信明編、リハビリテーション基礎評価学、第1版、羊土社、2014。(PT-01ビジュアルテキスト)。 2) 奈良 勲、日常生活活動学・生活環境学(標準理学療法学)		澤田
9	脳卒中と理学療法①	1) 潮見泰蔵、下田信明編、リハビリテーション基礎評価学、第1版、羊土社、2014。(PT-01ビジュアルテキスト)。 2) 川平和美編、神経内科学、第4版、医学書院、2013。(標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野)を確認する。		木内
10	脳卒中と理学療法②	1) 潮見泰蔵、下田信明編、リハビリテーション基礎評価学、第1版、羊土社、2014。(PT-01ビジュアルテキスト)。 2) 川平和美編、神経内科学、第4版、医学書院、2013。(標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野)を確認する。		木内
11	脊髄損傷と理学療法①	1) 潮見泰蔵、下田信明編、リハビリテーション基礎評価学、第1版、羊土社、2014。(PT-01ビジュアルテキスト)。 2) 川平和美編、神経内科学、第4版、医学書院、2013。(標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野)を確認する。		木内
12	脊髄損傷と理学療法②	1) 潮見泰蔵、下田信明編、リハビリテーション基礎評価学、第1版、羊土社、2014。(PT-01ビジュアルテキスト)。 2) 川平和美編、神経内科学、第4版、医学書院、2013。(標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野)を確認する。		木内
13	補装具と理学療法①	1) 豊田 輝、石垣栄司編、義肢・装具学、第1版、羊土社、2016。(PT-01ビジュアルテキスト)。を確認する。		仲本
14	補装具と理学療法②	1) 豊田 輝、石垣栄司編、義肢・装具学、第1版、羊土社、2016。(PT-01ビジュアルテキスト)。を確認する。		仲本
15	補装具と理学療法③	1) 豊田 輝、石垣栄司編、義肢・装具学、第1版、羊土社、2016。(PT-01ビジュアルテキスト)。を確認する。		仲本
成績評価方法と基準				割合
1) 授業ごとに提示される課題(配分30%)ならびに定期試験(配分70%)で評価する。 2) 総合成績で60%以上(小数切り捨て)の得点を取得した場合に単位を認定する。 2/3以上の出席を必要とする。				課題 30% 試験 70%

授業科目名	理学療法特論Ⅱ(理学)(Advanced Physical Therapy II)			
主担当教員	杉本 圭	担当教員	杉本 圭、澤田 優子、仲本 正美、松尾 浩希、林 真太郎、木内 隆裕	
科目ナンバリング	SSS13	科目区分	専門科目	DP①
配当年次	4	開講学期	前期	集中講義
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択
授業概要	理学療法士として臨床で働くために必要な基礎知識及び専門知識を、体系的かつ網羅的に学習する。			
到達目標	理学療法特論Ⅱでは、理学療法特論Ⅰで学んだ内容を基に、各領域における理学療法及びそれに必要な学習を行っていく。その手法においては、学生を主体としたアクティブラーニングを中心とした取組みを實踐していく。自ら学ぶ姿勢と適切な学習方法を習得することを目標とする。			
履修上の注意(学生へのメッセージ)	毎回与えられるテーマについて予習と復習を欠かさざること。			
教科書	なし			
参考書	1) 医歯薬出版編 理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイント 専門基礎分野 基礎医学 2019, 医歯薬出版。 2) 医歯薬出版編 理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイント 専門基礎分野 臨床医学 2019, 医歯薬出版。 3) 医歯薬出版編 理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイント 基礎 PT 学 2019, 医歯薬出版。 4) 医歯薬出版編 理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイント 障害別 PT 治療学 2019, 医歯薬出版。 5) リハビリティル, アイベック社。			
研究室/オフィスアワー	各教員とも随時対応する。ただし、事前に予約すること。			
授業展開及び授業計画表	回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
	1	概要説明 基礎医学①	・基礎医学(解剖学・運動学・生理学)の理解に必要な知識を予習する。 ・教科書を中心に復習する。	杉本
	2	基礎医学②	・基礎医学(解剖学・運動学・生理学)の理解に必要な知識を予習する。 ・教科書を中心に復習する。	杉本
	3	基礎医学③	・基礎医学(解剖学・運動学・生理学)の理解に必要な知識を予習する。 ・教科書を中心に復習する。	松尾
	4	基礎医学④	・基礎医学(解剖学・運動学・生理学)の理解に必要な知識を予習する。 ・教科書を中心に復習する。	松尾
	5	運動器系理学療法①	・運動器系理学療法学の理解に必要な知識を予習する。 ・教科書を中心に復習する。	杉本
	6	運動器系理学療法②	・運動器系理学療法学の理解に必要な知識を予習する。 ・教科書を中心に復習する。	杉本
	7	理学療法評価学①	・理学療法評価学の理解に必要な知識を予習する。 ・教科書を中心に復習する。	杉本
	8	理学療法評価学②	・理学療法評価学の理解に必要な知識を予習する。 ・教科書を中心に復習する。	杉本
	9	内科学①	・内科学の理解に必要な知識を予習する。 ・教科書を中心に復習する。	杉本
	10	内科学②	・内科学の理解に必要な知識を予習する。 ・教科書を中心に復習する。	杉本

11	理学療法治療学①	・理学療法治療学の理解に必要な知識を予習する。 ・教科書を中心に復習する。	仲本
12	理学療法治療学②	・理学療法治療学の理解に必要な知識を予習する。 ・教科書を中心に復習する。	仲本
13	中枢神経障害学①	・中枢神経障害学の理解に必要な知識を予習する。 ・教科書を中心に復習する。	木内
14	中枢神経障害学②	・中枢神経障害学の理解に必要な知識を予習する。 ・教科書を中心に復習する。	木内
15	精神医学・臨床心理学	・精神医学・臨床心理学の理解に必要な知識を予習する。 ・教科書を中心に復習する。	澤田
成績評価方法と基準			
1) 成績評価については、定期試験(マークシート形式)に60%、各回で実施される小テストに40%を配分し、総合成績の得点率で60%以上を取得すれば単位を認定する。			

授業科目名	生活環境論(理学) (Living Environment)		
主担当教員	三木屋 良輔	担当教員	三木屋 良輔
科目ナンバリング	SS402	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目
配当年次	3	開講学期	前期
授業形態	演習	単位数	1
授業概要	この授業では、障がいのある人や高齢者が、日常生活をする上で、個人の障がいの因子だけでなく、周りの環境と相互に影響を及ぼすことを述べるとともに、国際生活分類(ICF)に基づき、現状の障がいや地域ケアにおいてどのような影響を及ぼしているのか、それを解消するためにとどのようなが理学療法士に求められるのかを理解する。 身体的には、高齢者の日常生活や心身機能について述べるとともに、福祉のまちづくり、住宅改修、その他の福祉用具(起居関連用具・移乗関連用具・入浴関連用具・自動具関連・排泄関連)について述べる。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生活環境論の目的を理解することができる。 2. 国際生活機能分類(ICF)について理解することができる。 3. 福祉用具や住宅について理解することができる。 4. 高齢者の心身機能や日常生活を理解できる。 		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	履修上の注意(学生へのメッセージ)		
教科書	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教科書や配布された講義資料は、事前に読んでおくこと。 2. 出席と態度は重視する。携帯は授業中に触らないこと。 3. わからない箇所があれば、必ず質問すること。 4. 講義中のメモをとること、試験に出題有り。 		
参考文献	<ol style="list-style-type: none"> 1) 細田多穂、生活環境テキスト、南江堂、2016 2) 上田喜敏(編)：セーフティケアの介護・看護、ヒューマンヘルスケア・システム、2016 		
奈良版：日常生活活動・生活環境学第4版、医学書院、2012			
研究室/オフィスアワー			
授業時間、金曜日以外の空き時間			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	生活環境とは	復習：授業を元に教科書・配布資料を見直す 予習：教科書を読んでおく	
2	障害構造分類について	復習：授業を元に教科書・配布資料の確認 予習：教科書を読んでおく	
3	高齢者の身体特性・ADL について	復習：授業を元に教科書・配布資料の確認 予習：教科書を読んでおく	
4	ノーマライゼーションとバリアフリー概念	復習：授業を元に教科書・配布資料の確認 予習：教科書を読んでおく	
5	環境体験の実施	復習：授業を元に教科書・配布資料の確認 予習：教科書を読んでおく	
6	生活環境整備に関する法的制度について	復習：授業を元に教科書・配布資料の確認 予習：教科書を読んでおく	
7	介護保険制度について	復習：授業を元に教科書・配布資料の確認 予習：教科書を読んでおく	
8	住宅改修について	復習：授業を元に教科書・配布資料の確認 予習：教科書を読んでおく	
9	浴室改修について	復習：授業を元に教科書・配布資料の確認 予習：教科書を読んでおく	
10	環境整備グループワーク①	復習：授業を元に教科書・配布資料の確認 予習：教科書を確認しておく	
11	環境整備グループワーク②	復習：授業を元に教科書・配布資料の確認 予習：前回の授業を確認しておく	
12	環境整備グループワーク発表	復習：授業を元に教科書・配布資料の確認 予習：前回の授業を確認しておく	
13	起居・移乗・移動関連用具1(実技)	復習：授業を元に教科書・配布資料の確認	

14	起居・移乗・移動関連用具2(実技)	予習：前回の授業を勝手にしておく 復習：授業を元に教科書・配布資料の確認
15	自動具関連用具とまとめ	予習：これまでの授業を確認しておく 復習：授業を元に教科書・配布資料の確認
成績評価方法と基準		
1. 図面課題と、2. 定期試験の結果、60点以上で単位を認定する。2/3以上の出席が必要。なお、レポートについては授業の中で説明する。		
割合		
1. 20%		
2. 80%		

発達障害心理学療法学(理学) (Physical Therapy for Developmental Disability)			
授業科目名	発達障害心理学療法学(理学) (Physical Therapy for Developmental Disability)		
主担当教員	澤田 優子	担当教員	澤田 優子
科目ナンバリング	SS403	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目
配当年次	3	開講学期	曜日・時限 金曜 3限
授業形態	演習	単位数	1
授業概要	小児の理学療法は、疾患や障害の特性のみならず、発達について知る必要がある。また、小児の発達を支える環境調整についても学び、その中で理学療法士の役割について考えることが重要である。 本講義では小児理学療法を実施するための発達・疾患・障害および環境調整について理解することを目的とする。 到達目標 1. 小児の発達を理解する。 2. 小児の疾患・障害を理解する。 3. 小児の理学療法の評価、治療を理解する。 履修上の注意(学生へのメッセージ) 講義前、講義後に教科書を読んでおくこと。 随時確認テストを実施します。		
教科書	小児理学療法学テキスト(改訂第3版) 細田多穂監修 南江堂		
参考書	1. GNFW粗大運動能力尺度—脳性麻痺児のための評価的尺度 ダイアン・ラッセル(著)、近藤 和泉、福田 道隆、青山 香(翻訳) 出版社: 医学書院 2. PEDJ—リハビリテーションのための子ども低学齢児のための能力低下評価法 里宇 明元、岡川 博之、近藤 和泉(翻訳) 出版社: 医歯薬出版 3. 新生児・小児の発達障害診断マニュアル 村上 氏康、村地 俊二(編) 出版社: 医歯薬出版 4. リハビリテーションのための発達科学入門 遠野大書(著) 出版社: 協同医学書出版社 5. 99のWeb 動画 研究室/オフィスアワー 月曜日 3時限目		
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	正常発達1	予習:教科書の講義該当箇所を読んでおく 復習:教科書の講義該当箇所を読み、講義内容をまとめる 予習:教科書の講義該当箇所を読んでおく 復習:教科書の講義該当箇所を読み、講義内容をまとめる	
2	正常発達2	予習:教科書の講義該当箇所を読んでおく 復習:教科書の講義該当箇所を読み、講義内容をまとめる	
3	正常発達3	予習:教科書の講義該当箇所を読んでおく 復習:教科書の講義該当箇所を読み、講義内容をまとめる	
4	正常発達4	予習:教科書の講義該当箇所を読んでおく 復習:教科書の講義該当箇所を読み、講義内容をまとめる	
5	正常発達5	予習:教科書の講義該当箇所を読んでおく 復習:教科書の講義該当箇所を読み、講義内容をまとめる	
6	正常発達6	予習:教科書の講義該当箇所を読んでおく 復習:教科書の講義該当箇所を読み、講義内容をまとめる	
7	脳性麻痺1	予習:教科書の講義該当箇所を読んでおく 復習:教科書の講義該当箇所を読み、講義内容をまとめる	
8	脳性麻痺2	予習:教科書の講義該当箇所を読んでおく 復習:教科書の講義該当箇所を読み、講義内容をまとめる	

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
9	脳性麻痺3	予習:教科書の講義該当箇所を読んでおく 復習:教科書の講義該当箇所を読み、講義内容をまとめる	
10	小児整形疾患	予習:教科書の講義該当箇所を読んでおく 復習:教科書の講義該当箇所を読み、講義内容をまとめる	
11	知的障害	予習:教科書の講義該当箇所を読んでおく 復習:教科書の講義該当箇所を読み、講義内容をまとめる	
12	遺伝性疾患	予習:教科書の講義該当箇所を読んでおく 復習:教科書の講義該当箇所を読み、講義内容をまとめる	
13	重症心身障害児	予習:教科書の講義該当箇所を読んでおく 復習:教科書の講義該当箇所を読み、講義内容をまとめる	
14	子どもの呼吸障害	予習:教科書の講義該当箇所を読んでおく 復習:教科書の講義該当箇所を読み、講義内容をまとめる	
15	療育、訪問リハ、全体のまとめ	予習:これまでの講義内容を復習し、疑問点を整理しておく 復習:教科書を熟読し、理解を深める	
成績評価方法と基準			
割合			
1. 確認テストまたはレポート(毎授業で実施します。計 15回)			
2. 試験			
2/3以上の出席が必要			
1.を20%、 2.を80%として評価し、60点以上で単位認定とします。			

授業科目名 老年期理学療法学(理学) (Geriatric Physical Therapy)			
主担当教員	澤田 優子	担当教員	澤田 優子
科目ナンバリング	SS404	専門科目	DP①
配当年次	3	開講学期	後期
授業形態	演習	単位数	1
授業概要	<p>老年期の理学療法においては、老年期の特性を正しく認識し、総合的に機能を把握することが必要である。本講義では、老年期の特性について、運動機能面、認知機能面など、多側面から解説する。また、症例検討やグループワークを実施し、理学療法の実践を理解することを目標とする。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 老年期の特徴を理解する 2. 老年期の理学療法の実践を理解する <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>講義前、講義後に配布資料を読んでおくこと。</p> <p>随時確認テストを実施する。</p> <p>グループワークに積極的に参加すること。</p>		
教科書	<p>1. 高齢者理学療法学テキスト: 細田多穂(監修) 南江堂</p> <p>2. リハビリテーション基礎評価学: 潮見泰蔵(編集) 羊土社</p> <p>3. 日常生活活動学: 生浜理博, 森島勲(監修) 鶴見隆正/ 隆島研吉(編集) 医学書院</p> <p>※2, 3は他学年講義で既に使用した版を参考</p>		
参考書	<p>高齢者の理学療法 森本 崇(編集) 三輪書店</p> <p>高齢者の機能障害に列する運動療法 運動療法各論 市橋 明(編集) 文光堂</p> <p>高齢者理学療法学 島田裕之(総編集) 医歯薬出版</p> <p>研究室/ オフィスアワー</p>		
月曜日の時限目	月曜日の時限目		
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	老年期の特徴と理学療法 1	予習: 老年学についてのこれまでの知識を整理しておく。講義該当箇所を読んでおく。 復習: 教科書の講義該当箇所を読み、講義内容をまとめる	
2	老年期の特徴と理学療法 2	予習: 教科書の該当箇所を読んでおく 復習: 教科書・配布資料の該当箇所を読み、講義内容をまとめる	
3	老年期の理学療法評価 1	予習: 教科書の該当箇所を読んでおく 復習: 教科書・配布資料の該当箇所を読み、講義内容をまとめる	
4	老年期の理学療法評価 2	予習: 教科書の該当箇所を読んでおく 復習: 教科書・配布資料の該当箇所を読み、講義内容をまとめる	
5	老年期の理学療法評価 3	予習: 教科書の該当箇所を読んでおく 復習: 教科書・配布資料の該当箇所を読み、講義内容をまとめる	
6	老年期の理学療法評価 4	予習: 教科書の該当箇所を読んでおく 復習: 教科書・配布資料の該当箇所を読み、講義内容をまとめる	
7	老年期の疾患特性別理学療法 1	予習: 教科書の該当箇所を読んでおく 復習: 教科書・配布資料の該当箇所を読み、講義内容をまとめる	

内容をまとめる	
8	老年期の疾患特性別理学療法 2 予習: 教科書の該当箇所を読んでおく 復習: 教科書・配布資料の該当箇所を読み、講義内容をまとめる
9	老年期の疾患特性別理学療法 3 予習: 教科書の該当箇所を読んでおく 復習: 教科書・配布資料の該当箇所を読み、講義内容をまとめる
10	老年期の疾患特性別理学療法 4 予習: 教科書の該当箇所を読んでおく 復習: 教科書・配布資料の該当箇所を読み、講義内容をまとめる
11	老年期の疾患特性別理学療法 5 予習: 教科書の該当箇所を読んでおく 復習: 教科書・配布資料の該当箇所を読み、講義内容をまとめる
12	老年期の疾患特性別理学療法 6 予習: 教科書の該当箇所を読んでおく 復習: 教科書・配布資料の該当箇所を読み、講義内容をまとめる
13	老年期の疾患特性別理学療法 7 予習: 教科書の該当箇所を読んでおく 復習: 教科書・配布資料の該当箇所を読み、講義内容をまとめる
14	老年期の疾患特性別理学療法 8 予習: 教科書の該当箇所を読んでおく 復習: 教科書・配布資料の該当箇所を読み、講義内容をまとめる
15	高齢社会の課題と展望 予習: 教科書の該当箇所を読んでおく 復習: 教科書・配布資料の該当箇所を読み、講義内容をまとめる
成績評価方法と基準	
1. 確認テストまたはレポート(毎授業で実施します。計 15 回) 2. 試験 2/3 以上の出席が必要	
割合 1. を 20% 2. を 80%と して評価し、 60 点以上で 単位認定とし ます。	

卒業研究 I (理学) 三木屋 (Graduation Research I)			
授業科目名	三木屋 良輔	担当教員	三木屋 良輔
主担当教員	SS501	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目
科目ナンバリング	3	科目区分	DF①④
配当年次	3	開講学期	前期 後期(金曜 5 限)、 後期(月曜 1 限)
授業形態	演習	単位数	2
授業概要	<p>必修・選択 必修</p> <p>研究指導教員の下で研究テーマを決め、先行研究レビュー、研究計画作成を行う。 学習成果として、研究計画を中間発表会で報告する。 本ゼミのメインテーマは、骨格筋増強、運動耐容能向上である。具体的には高齢者に見られる筋減少症(サルコペニア)を改善するための科学的基盤テーマの習得を目指す。また地域高齢者の介護予防について、高齢者の行動変容を促すシステム作りも目指す。よって本ゼミでは、骨格筋増強のメカニズムを中心とした学習を中心に展開する。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 研究倫理について理解することができる。 2. 専門領域における資料および文献収集ができる 3. 専門領域における実験または調査などの研究方法を理解する。 4. 研究計画を作成し、プレゼンテーションができる。 <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>指導教員とよく話し合って研究活動を進めること。</p>		
教科書			
無し			
参考書	市橋明 著: 運動療法学, 文光堂 鈴木隆雄 監修: 完全版介護予防マニュアル, 法研 研究室/オフィスアワー		
火曜日午後、金曜日以外の時間に予めアポイントを取ってください。			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	ゼミオリエンテーション1	年間行動予定の確認	
2	研究概論1	研究課題を考えておく	
3	体操実技演習	予防体操を予習する	
4	地域介護予防活動1	予防体操を実演する	
5	筋力測定実技演習1	MMT を予習しておく	
6	可動域測定実技演習2	ROM-T を予習しておく	
7	文献抄読会1	課題文献を予習しておく	
8	文献抄読会2	課題文献を予習しておく	
9	文献抄読会3	課題文献を予習しておく	
10	地域介護予防活動2	予防体操を実演する	
11	機器使用実習1	関節トルクについて予習しておく	
12	機器使用実習2	肺機能について予習しておく	
13	文献抄読会4	課題文献を予習しておく	
14	文献抄読会5	課題文献を予習しておく	

15	地域介護予防活動3	予防体操を実演する	
16	文献抄読会6	課題文献を予習しておく	
17	症例検討会	経験した症例のレジュメを作成する	
18	文献抄読会7	課題文献を予習しておく	
19	文献抄読会8	課題文献を予習しておく	
20	地域介護予防活動4	予防体操を実演する	
21	文献抄読会9	課題文献を予習しておく	
22	文献抄読会10	課題文献を予習しておく	
23	文献抄読会11	課題文献を予習しておく	
24	文献抄読会12	課題文献を予習しておく	
25	地域介護予防活動5	予防体操を実演する	
26	研究計画作成1	実施予定の研究計画を立てる。	
27	研究計画作成2	研究の予備実験を実施する	
28	研究計画作成3	研究の目的を決める	
29	研究計画作成4	研究計画を完成する	
30	研究計画作成5	倫理委員会申請書類を作成する	
成績評価方法と基準			
			割合
1、研究計画、2、中間報告書を評価対象とする。 4/5 以上の出席が必要			1、研究計画 20%、2、中 間報告書 8 0%

授業科目名		卒業研究Ⅰ(理学):河村(Graduation ResearchⅠ)		河村 廣幸		河村 廣幸	
主担当教員		河村 廣幸		担当教員		河村 廣幸	
科目ナンバリング		SS01		専門科目		ディプロマポリシー 該当項目	
配当年次		3		開講学期		前期(金曜5限)、 後期(月曜1限)	
授業形態		演習		単位数		2	
授業概要		必修・選択					
<p>研究指導教員の下で研究テーマを決め、先行研究レビュー、研究計画作成を行う。 学習成果として、研究計画を中間発表会で報告する。 基本的な研究方法やよく基本的な統計学など、スムーズな研究進行のための基礎知識を得ると共に、パイロットスタディが考えられるようにする。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 研究倫理について理解することができる。 2. 専門領域における資料および文献収集ができる。 3. 専門領域における実験または調査などの研究方法を理解する。 4. 研究計画を作成し、プレゼンテーションができる。 <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>指導教員とよく話し合っって研究活動を進めること。</p> <p>教科書</p> <p>随時資料は提供する</p> <p>参考書</p> <p>特になし</p> <p>研究室/オフィスアワー</p> <p>相談の上、決定する</p>							
授業展開及び授業計画表							
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当				
1	本卒業研究の概要説明	卒業研究を開始するにあたり、疑問や構想などをまとめておく。					
2	医学研究のあり方	医学研究とは何か、ネット上でよいので詳しく調べておく					
3	理学療法研究について①	理学療法士の行っている研究について、学会抄録から概要を検索しておく。					
4	理学療法研究について②	理学療法研究について、学会抄録から研究方法を学習しておく					
5	理学療法研究について③	研究活動における被験者の権利について学習しておく					
6	情報処理と研究法①	1年時に学習した情報処理について再学習しておく					
7	情報処理と研究法②	自身のPCについての辞書登録について調べておく					
8	情報処理と研究法③	自身のPC上で、IME・ワープロ・表計算ソフトの基本的な使い方を学習しておく					
9	情報処理と研究法④	データベースの概念について調べておく					
10	情報処理と研究法⑤	データベースにしたい情報について収集しておく					
11	卒業研究例の提示① 他校の事例から	ネット上でよいので、分野を問わず、大学の卒業研究論文について、少なくとも5つ以上は読んでおくこと。					
12	卒業研究例の提示② 本校の事例から	図書館に有る当校の卒業研究を一読しておく					
13	卒業研究例の提示③ 本校の事例から	図書館に有る当校の卒業研究を一読しておく					
14	基礎統計学①	平均・標準偏差・T検定など基本統計用語について					

		て調べておく	
15	基礎統計学②	データの種類と尺度について調べておく	
16	基礎統計学③	研究デザインと母集団・標本など、サンプルの取り出し方など調べておく	
17	基礎統計学④	仮説検定・相関分析・要因分析・回帰分析・主成分分析などについて調べておく。	
18	自身が行いたい研究の検討会1	研究動機、対象と方法、予想される結果についてまとめて、書類として先に提出する。	
19	自身が行いたい研究の検討会2	発表の準備しておく	
20	自身が行いたい研究の検討会3	発表の準備しておく	
21	文献収集と抄読会1	発表会での指摘を元に、文献や資料の収集、まとめを行う。	
22	文献収集と抄読会2	必要な文献の収集とまとめをしておく	
23	文献収集と抄読会3	必要な文献の収集とまとめをしておく	
24	文献収集と抄読会4	必要な文献の収集とまとめをしておく	
25	パイロットスタディ1	予備実験の準備しておく(要相談)。	
26	パイロットスタディ2	データ収集準備・機材および人材を準備しておく	
27	パイロットスタディ3	データ収集準備・機材および人材を準備しておく	
28	パイロットスタディ4	データ収集準備・機材および人材を準備しておく	
29	中間発表会1	発表会の準備、プレゼンソフトにて発表資料を作成しておく。	
30	中間発表会2	発表会の準備、プレゼンソフトにて発表資料を作成しておく。	
成績評価方法と基準			割合
研究計画書の提出、中間報告会での発表を評価対象とする			100%
4/5以上の出席が必要			

卒業科目名 卒業研究Ⅰ(理学)：堀 (Graduation Research 1)			
主担当教員	堀 竜次	担当教員	堀 竜次
科目ナンバリング	SS501	専門科目	DP①④
配当年次	3	開講学期	前期(金曜 5 限)、 後期(月曜 4 限)
授業形態	演習	単位数	2
授業概要	<p>研究指導教員の下で研究テーマを決め、先行研究レビュー、研究計画作成を行う。 学習成果として、研究計画を中間発表会で報告する。 呼吸理学療法ヒックスを知るため、呼吸理学療法講習会等へ参加する。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 研究倫理について理解することができる。 2. 専門領域における資料および文献収集ができる。 3. 専門領域における実験または調査などの研究方法を理解する。 4. 研究計画を作成し、プレゼンテーションができる。 <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>指導教員と話し合って研究活動を進めるが、学生自身が主体的に取り込むこと。</p> <p>教科書</p> <p>教科書を使用しない 資料は随時配布する</p> <p>参考書</p> <p>特になし</p> <p>研究室/オフィスアワー</p> <p>金曜日3・4限(研究室)、それ以外は個別に相談</p>		
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	研究課題の決定と情報収集	文献を検索、整理しておく	堀
2	研究課題の決定と情報収集	文献を検索、整理しておく	堀
3	研究課題の決定と情報収集	文献を検索、整理しておく	堀
4	研究課題の決定と情報収集	文献を検索、整理しておく	堀
5	研究課題の決定と情報収集	文献を検索、整理しておく	堀
6	研究課題の決定と情報収集	文献を検索、整理しておく	堀
7	研究課題の決定と情報収集	文献を検索、整理しておく	堀
8	研究課題の決定と情報収集	文献を検索、整理しておく	堀
9	研究計画およびスケジュール立案	配布資料を読んでおく	堀
10	研究計画およびスケジュール立案	配布資料を読んでおく	堀
11	研究計画およびスケジュール立案	配布資料を読んでおく	堀
12	研究計画およびスケジュール立案	配布資料を読んでおく	堀
13	研究計画およびスケジュール立案	配布資料を読んでおく	堀
14	研究計画およびスケジュール立案	配布資料を読んでおく	堀
15	パイロット・スタディの実施	測定機器等の準備を行う	堀

16	パイロット・スタディの実施	測定機器等の準備を行う	堀
17	パイロット・スタディの実施	測定機器等の準備を行う	堀
18	パイロット・スタディの実施	測定機器等の準備を行う	堀
19	パイロット・スタディの実施	測定機器等の準備を行う	堀
20	パイロット・スタディの実施	測定機器等の準備を行う	堀
21	パイロット・スタディの実施	測定機器等の準備を行う	堀
22	パイロット・スタディの実施	測定機器等の準備を行う	堀
23	研究計画書作成とプレゼンテーション	プレゼンテーション事前準備を行う	堀
24	研究計画書作成とプレゼンテーション	プレゼンテーション事前準備を行う	堀
25	研究計画書作成とプレゼンテーション	プレゼンテーション事前準備を行う	堀
26	研究計画書作成とプレゼンテーション	プレゼンテーション事前準備を行う	堀
27	研究計画書作成とプレゼンテーション	プレゼンテーション事前準備を行う	堀
28	研究計画書作成とプレゼンテーション	プレゼンテーション事前準備を行う	堀
29	研究計画書作成とプレゼンテーション	プレゼンテーション事前準備を行う	堀
30	中間報告会発表	発表後、意見をもちに計画書を修正する	堀
成績評価方法と基準			
1. 提出された研究計画書の内容を評価対象とする			割合 1. 50% 2. 50%
2. 中間報告会での発表および討議内容を評価対象とする			
3. 単位認定のための必要出席回数は、4/5以上とする			

14	研究テーマと方法の検討(研究計画書の作成)	自身の研究テーマを理解し、説明できるように研究計画書を作成しておくこと。
15	動物実験①(データ収集)	適正な実験の実施と正確な記録を取れるように準備しておくこと。
16	動物実験②(データ収集)	適正な実験の実施と正確な記録を取れるように準備しておくこと。
17	動物実験③(データ収集)	適正な実験の実施と正確な記録を取れるように準備しておくこと。
18	動物実験④(データ収集)	適正な実験の実施と正確な記録を取れるように準備しておくこと。
19	動物実験⑤(データ収集)	適正な実験の実施と正確な記録を取れるように準備しておくこと。
20	動物実験⑥(データ収集)	適正な実験の実施と正確な記録を取れるように準備しておくこと。
21	動物実験⑦(データ収集)	適正な実験の実施と正確な記録を取れるように準備しておくこと。
22	動物実験⑧(データ収集)	適正な実験の実施と正確な記録を取れるように準備しておくこと。
23	動物実験⑨(データ収集)	適正な実験の実施と正確な記録を取れるように準備しておくこと。
24	動物実験⑩(データ収集)	適正な実験の実施と正確な記録を取れるように準備しておくこと。
25	動物実験データの取りまとめ(結果の整理)	動物実験の経過と得られた結果を説明できるように整理しておくこと。
26	動物実験データの取りまとめ(結果の統計処理)	結果の整理に必要な統計処理の方法について理解しておくこと。
27	中間報告会の準備(得られた結果の検証)	得られた結果を整理し説明できるように準備しておくこと。
28	中間報告会の準備(データ整理)	得られた実験結果の報告方法について考えておくこと。
29	中間報告会の準備(結果の考察)	自身の実験で得られた成果から明らかになったことを説明できるようにしておくこと。
30	中間報告会の準備(プレゼンテーションの準備)	中間報告会の規定に従って、プレゼンテーションできるように準備しておくこと。
成績評価方法と基準		
研究計画書の提出、中間報告会等での発表を評価対象とする 4/5以上の出席が必要 動物実験に関わる教育訓練を受講すること ①研究計画書の内容 ②中間報告会等での発表		
		割合 ①50% ②50%

授業科目名	卒業研究 I (理学): 森谷 正之 (Graduation Research I)		担当教員	森谷 正之
主担当教員	森谷 正之	科目区分	専門科目	該当項目
科目ナンバリング	SSS01	開講学期	前期	DP①④ 前期(金曜 5 限)、 後期(集中講義)
配当年次	3	単位数	2	必修
授業形態	演習			
授業概要	<p>研究指導教員の下で研究テーマを決め、先行研究レビュー、研究計画作成を行う。 学習成果として、研究計画を中間発表会で報告する。 動物実験により口腔顔面領域の感覚情報伝達、運動制御に関わる神経機構の解明を目指す。動物実験の実施に関わる倫理規程等を習得すると共に、基本的な実験手法、データの記録と取りまとめ、実験結果の整理について学ぶ。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 研究倫理について理解することができる。 2. 専門領域における資料および文献収集ができる。 3. 専門領域における実験または調査などの研究方法を理解する。 4. 研究計画を作成し、プレゼンテーションができる。 <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>指導教員とよく話し合っって研究活動を進めること。 動物実験に関わる教育訓練を受講すること。</p> <p>教科書</p> <p>教科書として指定する書物は無いが、必要に応じて資料等を配布する。</p> <p>参考書</p> <p>必要に応じて資料等を配布する。</p>			
研究室 / オフィス / アワー	E 棟4階(研究室 11) 月曜日午後5時~午後7時、各日休みの時間帯は原則研究室に在室しています。			
授業展開及び授業計画表				
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当	
1	オリエンテーション	事前配布された資料を読んでおくこと。		
2	専門領域における資料および文献収集(神経解剖学の基礎)	事前配布された資料の内容を理解し、説明できるようにしておくこと。		
3	専門領域における資料および文献収集(口腔顔面領域の解剖学)	事前配布された資料の内容を理解し、説明できるようにしておくこと。		
4	専門領域における資料および文献収集(咀嚼運動の基礎知識)	事前配布された資料の内容を理解し、説明できるようにしておくこと。		
5	専門領域における資料および文献収集(嚙下の基礎知識)	事前配布された資料の内容を理解し、説明できるようにしておくこと。		
6	動物実験に関わる研究倫理と実験動物の特性についての学習(関連法規の基礎知識)	事前配布された資料を読んでおくこと。		
7	動物実験に関わる研究倫理と実験動物の特性についての学習(研究倫理の基礎知識)	事前配布された資料を読んでおくこと。		
8	動物実験に関わる研究倫理と実験動物の特性についての学習(実験動物の種類と特性)	事前配布された資料を読んでおくこと。		
9	実験動物の取り扱い(飼養方法の概要)	事前配布された資料を読んでおくこと。		
10	実験動物の取り扱い(麻酔方法の種類と特徴)	事前配布された資料を読んでおくこと。		
11	実験動物の取り扱い(人畜共通感染症と対策)	事前配布された資料を読んでおくこと。		
12	研究テーマと方法の検討(文献検索によるこれまでの研究成果の整理)	事前配布された資料の内容を理解し、説明できるようにしておくこと。		
13	研究テーマと方法の検討(未知の事象の整理)	事前配布された資料の内容を理解し、説明できるようにしておくこと。		

卒業研究 I (理学) 澤田 (Graduation Research I)			
授業科目名	澤田 優子	担当教員	澤田 優子
主担当教員	澤田 優子	専門科目	DP①④
科目ナンバリング	SS501	科目区分	前期(金曜 5 限)、 後期(月曜 4 限)
配当年次	3	開講学期	前期(月曜 4 限)
授業形態	演習	単位数	2
授業形態	演習	必修・選択	必修
授業概要			
研究指導教員の下で研究テーマを決め、先行研究レビュー、研究計画作成を行う。			
学習成果として、研究計画を中間発表会で報告する。			
研究テーマは、小児の理学療法および地域で実施する健康増進などとする。			
研究方法として、調査研究を実施する。			
到達目標			
1. 研究倫理について理解することができる。			
2. 専門領域における資料および文献収集ができる。			
3. 専門領域における実験または調査などの研究方法を理解する。			
4. 研究計画を作成し、プレゼンテーションができる。			
履修上の注意(学生へのメッセージ)			
指導教員とよく話し合って研究活動を進めること。			
教科書			
配布資料、文献など			
参考書			
随時紹介する			
研究室 / オフィスアワー			
月曜日 1 限目			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	研究テーマの決定(1)	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う	
2	研究テーマの決定(2)	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う	
3	研究テーマの決定(3)	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う	
4	研究テーマの決定(4)	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う	
5	研究テーマの決定(5)	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う	
6	関心領域の文献検討(1)	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う	
7	関心領域の文献検討(2)	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う	
8	関心領域の文献検討(3)	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う	
9	関心領域の文献検討(4)	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う	
10	関心領域の文献検討(5)	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う	
11	研究計画作成(1)	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う	
12	研究計画作成(2)	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う	
13	研究計画作成(3)	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う	
14	研究計画作成(4)	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う	
15	研究計画作成(5)	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う	

16	倫理審査申請(1)	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う
17	倫理審査申請(2)	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う
18	倫理審査申請(3)	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う
19	倫理審査申請(4)	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う
20	倫理審査申請(5)	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う
21	予備調査(1)	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う
22	予備調査(2)	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う
23	予備調査(3)	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う
24	予備調査(4)	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う
25	予備調査(5)	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う
26	中間報告会準備(1)	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う
27	中間報告会準備(2)	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う
28	中間報告会準備(3)	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う
29	中間報告会準備(4)	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う
30	中間報告会準備(5)	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う
成績評価方法と基準		
割合		
課題への取り組み姿勢 50% 研究計画書の提出、中間報告会での発表 50%		

卒業研究 I (理学): 中根 (Graduation Research I)																																															
授業科目名	中根 征也	担当教員	中根 征也																																												
主担当教員	SS01	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目																																												
科目ナンバリング	3	科目区分	DP①④																																												
配当年次	演習	開講学期	前期 (金曜 5 限)、 後期 (月曜 1 限)																																												
授業形態	2	単位数	必修																																												
<p>授業概要</p> <p>研究指導教員の下で研究テーマを決め、先行研究レビュー、研究計画作成を行う。学習成果として、研究計画を中間発表会で報告する。</p> <p>理学療法分野の中でも特に、「神経発達症(発達障害)への運動療法」に関する概念に基づいた運動療法「患者の知覚・認知領域の追求」「患者教育」について運動療法の必要性や効果について研究を行なう。具体的には、関連分野の基本文献ならびに各自「各グループ」の研究テーマに即した論文を精読し、各自またはグループ単位で卒業研究に向けた予備的研究を実施する。なお、前述した領域以外にも学生の提案で教員が指導可能と判断した研究でも積極的に受け入れる。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 研究倫理について理解することができる。 2. 専門領域における資料および文献収集ができる。 3. 専門領域における実験または調査などの研究方法を理解する。 4. 研究計画を作成し、プレゼンテーションができる。 <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>原則的にゼミを週 1 回のペースで行なっている。定められたゼミ時間以外でも事前事後学習に積極的に取り組み、何事もろっさり楽しむこと。</p> <p>学生主体のゼミではあるが、各学生の状況に合わせてながら、担当教員と報告・連絡・相談をしっかりと行ないながら進めて行く。</p> <p>教科書</p> <p>特に定めなし。</p> <p>参考書</p> <p>松本茂 他: 大学生のための「読む・書く・プレゼン」の方法。玉川大学出版部。2014 佐藤望 編: アカデミック・スキルズ 大学生のための知的技法入門 第 2 版。慶応義塾大学出版会。2012 山田実 編: PT・OT のための臨床研究はじめの一步。羊土社。2016</p> <p>研究室 / オフィスアワー</p> <p>4 階研究室 / 木曜日 4 時限目以降 (時間は事前に相談することが望ましい)</p>																																															
<p>授業展開及び授業計画表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>学修内容</th> <th>予習・復習・課題等</th> <th>担当</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション / 卒業研究について説明する。</td> <td>事前学習として、授業において紹介する書籍や資料の事前読了、先行研究の調査と要約を求める事後学習として、計画書の作成、データの取りまとめ、プレゼンテーション資料の作成を求める場合がある。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>卒業論文テーマの見つけ方 / テーマの見つけ方について説明する。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>卒業論文執筆について / 論文執筆方法について説明する。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>文献読解と要約の方法 / キーワードや文献、論文の読解と要約方法を説明する。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>文献抄読①</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>文献抄読②</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>文献抄読③</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>文献抄読④</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>文献抄読⑤</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>文献抄読⑥</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当	1	オリエンテーション / 卒業研究について説明する。	事前学習として、授業において紹介する書籍や資料の事前読了、先行研究の調査と要約を求める事後学習として、計画書の作成、データの取りまとめ、プレゼンテーション資料の作成を求める場合がある。		2	卒業論文テーマの見つけ方 / テーマの見つけ方について説明する。			3	卒業論文執筆について / 論文執筆方法について説明する。			4	文献読解と要約の方法 / キーワードや文献、論文の読解と要約方法を説明する。			5	文献抄読①			6	文献抄読②			7	文献抄読③			8	文献抄読④			9	文献抄読⑤			10	文献抄読⑥		
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当																																												
1	オリエンテーション / 卒業研究について説明する。	事前学習として、授業において紹介する書籍や資料の事前読了、先行研究の調査と要約を求める事後学習として、計画書の作成、データの取りまとめ、プレゼンテーション資料の作成を求める場合がある。																																													
2	卒業論文テーマの見つけ方 / テーマの見つけ方について説明する。																																														
3	卒業論文執筆について / 論文執筆方法について説明する。																																														
4	文献読解と要約の方法 / キーワードや文献、論文の読解と要約方法を説明する。																																														
5	文献抄読①																																														
6	文献抄読②																																														
7	文献抄読③																																														
8	文献抄読④																																														
9	文献抄読⑤																																														
10	文献抄読⑥																																														

11	研究テーマの検討① / 2-3 名ずつ、各自の研究テーマについて発表を行う。		
12	研究テーマの検討② / 2-3 名ずつ、各自の研究テーマについて発表を行う。		
13	研究テーマの検討③ / 2-3 名ずつ、各自の研究テーマについて発表を行う。		
14	研究テーマの決定① / 各自、研究テーマについて担当教員と話し合い、決定する。		
15	研究テーマの決定② / 各自、研究テーマについて担当教員と話し合い、決定する。		
16	オリエンテーション / 後期の取り組みを説明する。		
17	研究テーマ発表① / 2-3 名ずつ、前期で決定した研究テーマのあらましましを発表する。		
18	研究テーマ発表② / 2-3 名ずつ、前期で決定した研究テーマのあらましましを発表する。		
19	研究テーマ発表③ / 2-3 名ずつ、前期で決定した研究テーマのあらましましを発表する。		
20	研究計画の仮立案① / 教員と話し合いをしながら、研究計画の仮立案を行う。		
21	研究計画の仮立案② / 教員と話し合いをしながら、研究計画の仮立案を行う。		
22	プレ卒業研究の検討① / 準備①		
23	プレ卒業研究の検討② / 準備②		
24	プレ卒業研究の実験①		
25	プレ卒業研究の実験②		
26	研究計画書の作成① / 担当教員と話し合いをしながら作成する。		
27	研究計画書の作成② / 担当教員と話し合いをしながら作成する。		
28	研究計画書の作成③ / 担当教員と話し合いをしながら詳細計画を作成する。		
29	研究計画書の作成④ / 担当教員と話し合いをしながら詳細計画を作成する。		
30	発表会		
成績評価方法と基準			
割合			
① 計画書 : 50%			
② 中間報告会での発表 : 50%			
③ 4/5 以上の出席が必要			

卒業研究 I (理学) 前田 (Graduation Research I)			
授業科目名	前田 薫	担当教員	前田 薫
主担当教員	SS501	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目
科目ナンバリング	3	科目区分	DP①④
配当年次	3	開講学期	前期 後期(金曜 5 限) 後期(月曜 4 限)
授業形態	演習	単位数	2 必修・選択 必修
授業概要 研究指導教員の下で研究テーマを決め、先行研究レビュー、研究計画を作成を行う。 学習成果として、研究計画を中間発表会で報告する。 当卒業研究では、立位姿勢制御機構の神経生理学的検討をテーマとする研究を行う。 到達目標 1. 研究倫理について理解することができる。 2. 専門領域における資料および文献収集ができる。 3. 専門領域における実験または調査などの研究方法を理解する。 4. 研究計画を作成し、プレゼンテーションができる。			
履修上の注意(学生へのメッセージ)			
指導教員とよく話し合っって研究活動を進めること。			
教科書			
文献、資料、記事等を随時配布する。			
参考書			
なし			
研究室/オフィスアワー			
金曜日とするが、事前に予約をすること。			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	先行研究レビュー①	予習: 事前に配布する文献を読み要約を作成する。 復習: 文献の内容について授業で討論したことを研究ノートに記録する。 予習: 事前に配布する文献を読み要約を作成する。 復習: 文献の内容について授業で討論したことを研究ノートに記録する。	
2	先行研究レビュー②	予習: 事前に配布する文献を読み要約を作成する。 復習: 文献の内容について授業で討論したことを研究ノートに記録する。 予習: 事前に配布する文献を読み要約を作成する。 復習: 文献の内容について授業で討論したことを研究ノートに記録する。	
3	先行研究レビュー③	予習: 事前に配布する文献を読み要約を作成する。 復習: 文献の内容について授業で討論したことを研究ノートに記録する。 予習: 事前に配布する文献を読み要約を作成する。 復習: 文献の内容について授業で討論したことを研究ノートに記録する。	
4	先行研究レビュー④	予習: 事前に配布する文献を読み要約を作成する。 復習: 文献の内容について授業で討論したことを研究ノートに記録する。 予習: 事前に配布する文献を読み要約を作成する。 復習: 文献の内容について授業で討論したことを研究ノートに記録する。	
5	先行研究レビュー⑤	予習: 事前に配布する文献を読み要約を作成する。 復習: 文献の内容について授業で討論したことを研究ノートに記録する。 予習: 事前に配布する文献を読み要約を作成する。 復習: 文献の内容について授業で討論したことを研究ノートに記録する。	
6	先行研究レビュー⑥	予習: 事前に配布する文献を読み要約を作成する。 復習: 文献の内容について授業で討論したことを研究ノートに記録する。 予習: 事前に配布する文献を読み要約を作成する。 復習: 文献の内容について授業で討論したことを研究ノートに記録する。	
7	先行研究レビュー⑦	予習: 事前に配布する文献を読み要約を作成する。 復習: 文献の内容について授業で討論したことを研究ノートに記録する。	

8	先行研究レビュー⑧	予習: 事前に配布する文献を読み要約を作成する。 復習: 文献の内容について授業で討論したことを研究ノートに記録する。 予習: 事前に配布する文献を読み要約を作成する。 復習: 文献の内容について授業で討論したことを研究ノートに記録する。
9	先行研究レビュー⑨	予習: 事前に配布する文献を読み要約を作成する。 復習: 文献の内容について授業で討論したことを研究ノートに記録する。 予習: 事前に配布する文献を読み要約を作成する。 復習: 文献の内容について授業で討論したことを研究ノートに記録する。
10	先行研究レビュー⑨	予習: 文献の内容について授業で討論したことを研究ノートに記録する。 予習: 研究計画書をあらかじめ作成しておく。 復習: 授業での討論にもとづいて研究計画書を修正する。
11	研究計画書の作成①	予習: 研究計画書をあらかじめ作成しておく。 復習: 授業での討論にもとづいて研究計画書を修正する。
12	研究計画書の作成②	予習: 研究計画書をあらかじめ作成しておく。 復習: 授業での討論にもとづいて研究計画書を修正する。
13	研究計画書の作成③	予習: 研究計画書をあらかじめ作成しておく。 復習: 授業での討論にもとづいて研究計画書を修正する。
14	研究計画書の作成④	予習: 研究計画書をあらかじめ作成しておく。 復習: 授業での討論にもとづいて研究計画書を修正する。
15	研究計画書の作成⑤	予習: 研究計画書をあらかじめ作成しておく。 復習: 授業での討論にもとづいて研究計画書を修正する。
16	研究計画書の作成⑥	予習: 研究計画書をあらかじめ作成しておく。 復習: 授業での討論にもとづいて研究計画書を修正する。
17	倫理申請書の作成①	予習: 研究倫理についての配布資料を読み、それにもとづいて倫理申請書類をあらかじめ作成しておく。 復習: 授業での討論にもとづいて申請書を修正する。
18	倫理申請書の作成②	予習: 研究倫理についての配布資料を読み、それにもとづいて倫理申請書類をあらかじめ作成しておく。 復習: 授業での討論にもとづいて申請書を修正する。
19	倫理申請書の作成③	予習: 研究倫理についての配布資料を読み、それにもとづいて倫理申請書類をあらかじめ作成しておく。 復習: 授業での討論にもとづいて申請書を修正する。
20	予備の実験①	予習: 予備的実験の手順を確認しておく 復習: 予備的実験の実施結果から生じた問題点を研究ノートに記録する。
21	予備的実験②	予習: 予備的実験の手順を確認しておく 復習: 予備的実験の実施結果から生じた問題点を研究ノートに記録する。
22	予備的実験③	予習: 予備的実験の手順を確認しておく 復習: 予備的実験の実施結果から生じた問題点を研究ノートに記録する。
23	予備的実験④	予習: 予備的実験の手順を確認しておく 復習: 予備的実験の実施結果から生じた問題点を研究ノートに記録する。
24	予備的実験⑤	予習: 予備的実験の手順を確認しておく 復習: 予備的実験の実施結果から生じた問題点を研究ノートに記録する。
25	研究計画の修正①	予習: 予備的実験の結果にもとづき、研究計画の修正案をつくる。 復習: 授業での討論にもとづき、研究計画を修正する。
26	研究計画の修正②	予習: 予備的実験の結果にもとづき、研究計画の修正案をつくる。 復習: 授業での討論にもとづき、研究計画を修正する。

27	研究計画のプレゼンテーションの準備①	予習：研究計画のプレゼンテーションのスライドを作成してくる。 復習：授業での討論に基づいて、スライドの修正を行う。	
28	研究計画のプレゼンテーションの準備②	予習：研究計画のプレゼンテーションのスライドを作成してくる。 復習：授業での討論に基づいて、スライドの修正を行う。	
29	研究計画のプレゼンテーションの準備③	予習：研究計画のプレゼンテーションのスライドを作成してくる。 復習：授業での討論に基づいて、スライドの修正を行う。	
30	研究計画のプレゼンテーション	予習：プレゼンテーションの練習 復習：質疑応答の内容をもとに研究計画の修正が必要であればそれを行う。	割合 100%
成績評価方法と基準			
研究計画書の提出、中間報告会での発表を評価対象とする 4/5以上の出席が必要			

卒業科目名 卒業研究Ⅰ(理学)：角田 (Graduation Research I)			
主担当教員	角田 晃啓	担当教員	角田 晃啓
科目ナンバリング	SS501	科目区分	ディプロマポリシー 該当項目
配当年次	3	開講学期	前期(金曜5限)、 後期(月曜1限)
授業形態	演習	単位数	必修・選択 必修
授業概要			
研究指導教員の下で研究テーマを決め、先行研究レビュー、研究計画作成を行う。 学習成果として、研究計画を中間発表会で報告する。			
到達目標			
1. 研究倫理について理解することができる。 2. 専門領域における資料および文献収集ができる。 3. 専門領域における実験または調査などの研究方法を理解する。 4. 研究計画を作成し、プレゼンテーションができる。 履修上の注意(学生へのメッセージ)			
指導教員とよく話し合っ研究活動を進めること。			
教科書			
なし			
参考書			
各自必要な図書を探すこと			
研究室／オフィスアワー			
木曜日			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	研究テーマの決定①	課題の遂行に必要な知識の充足につとめること。	
2	研究テーマの決定②	課題の遂行に必要な知識の充足につとめること。	
3	文献抄録①	課題の遂行に必要な知識の充足につとめること。	
4	文献抄録②	課題の遂行に必要な知識の充足につとめること。	
5	研究倫理①	課題の遂行に必要な知識の充足につとめること。	
6	研究倫理②	課題の遂行に必要な知識の充足につとめること。	
7	文献抄録③	課題の遂行に必要な知識の充足につとめること。	
8	文献抄録④	課題の遂行に必要な知識の充足につとめること。	
9	研究テーマの構造化①	PEC0について学習し、自身のテーマを構造化する	
10	研究テーマの構造化②	PEC0について学習し、自身のテーマを構造化する	
11	研究テーマの構造化③	PEC0について学習し、自身のテーマを構造化する	
12	文献抄録⑤	課題の遂行に必要な知識の充足につとめること。	
13	文献抄録⑥	課題の遂行に必要な知識の充足につとめること。	
14	研究テーマ発表会①	プレゼンテーションの準備を行う	
15	研究テーマ発表会②	プレゼンテーションの準備を行う	
16	文献抄録⑦	課題の遂行に必要な知識の充足につとめること。	

17	文献抄読⑧	課題の遂行に必要な知識の充足につとめること。
18	文献抄読⑨	課題の遂行に必要な知識の充足につとめること。
19	研究計画発表会①	プレゼンテーションの準備を行う
20	研究計画発表会②	プレゼンテーションの準備を行う
21	研究倫理③	課題の遂行に必要な知識の充足につとめること。
22	研究倫理④	課題の遂行に必要な知識の充足につとめること。
23	研究倫理⑤	課題の遂行に必要な知識の充足につとめること。
24	予備実験①	課題の遂行に必要な知識の充足につとめること。
25	予備実験②	課題の遂行に必要な知識の充足につとめること。
26	予備実験③	課題の遂行に必要な知識の充足につとめること。
27	研究計画の修正①	課題の遂行に必要な知識の充足につとめること。
28	研究計画の修正②	課題の遂行に必要な知識の充足につとめること。
29	研究報告会①	プレゼンテーションの準備を行う
30	研究報告会②	プレゼンテーションの準備を行う
成績評価方法と基準		割合
1. 研究計画書の提出		1. 40%
2. 中間報告会での発表		2. 40%
3. ゼミ内でのディスカッション		3. 20%
4/5以上の出席が必要		

授業科目名	卒業研究 I (理学); 木内 (Graduation Research I)		
主担当教員	木内 隆裕	担当教員	木内 隆裕
科目ナンバリング	SS501	科目区分	専門科目
配当年次	3	開講学期	前期
授業形態	演習	単位数	2
授業概要	研究指導教員の下で研究テーマを決め、先行研究レビュー、研究計画作成を行う。 学習成果として、研究計画を中間発表会で報告する。 ヒトを対象とした実験研究(主に神経生理学研究、あるいは心理生理学研究)の初歩について学び、シンプルな実験を計画することを目標とする。その目標達成のため、各自の進捗状況に合わせて適宜、課題を課す(英語論文の部分抄読を含む)。		
到達目標	1. 研究倫理について理解することができる。 2. 専門領域における資料および文献収集ができる。 3. 専門領域における実験または調査などの研究方法を理解する。 4. 研究計画を作成し、プレゼンテーションができる。		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	・指導教員への報告・連絡・相談を怠らないこと。 ・実験補助には積極的に参加し、互いに助け合うこと。 ・プレゼンテーションを行う場合は、自分で事前に資料を準備すること。 ・実験機器は丁寧に扱うこと。		
教科書	1) 市橋則明編 運動療法学 障害別アプローチの理論と実際 第2版 文光堂 2014. 参考書 1) 木塚朝博, 木竜徹, 増正 他 (著). 表面筋電図 第1版, 東京電機大学出版局, 2006. 2) 相澤良二 (翻訳). 筋電図のための解剖ガイド. 四肢・体幹. 第3版, 西村書店, 1997. 3) 神田善伸(著). フリー統計ソフトEZR(Easy R)で誰でも簡単統計. 第1版. 南江堂, 2014. 4) 河馬栄輝, 木村雅彦(編). リハビリテーション統計学. 第1版. 中山書店, 2015. (15レクチャーシリーズ).		
研究室/オフィスアワー	随時(ただし、授業及び会議の時間以外)		
授業展開及び授業計画表	回数	学修内容	予習・復習・課題等 担当
1	卒業研究入門	限られた範囲内でのような研究ができるかを考えること。	限られた範囲内でのような研究ができるかを考えること。
2	卒業研究入門	限られた範囲内でのような研究ができるかを考えること。	限られた範囲内でのような研究ができるかを考えること。
3	卒業研究入門	限られた範囲内でのような研究ができるかを考えること。	限られた範囲内でのような研究ができるかを考えること。
4	卒業研究入門	限られた範囲内でのような研究ができるかを考えること。	限られた範囲内でのような研究ができるかを考えること。
5	卒業研究入門	限られた範囲内でのような研究ができるかを考えること。	限られた範囲内でのような研究ができるかを考えること。
6	論文検索及び抄読	「医学中央雑誌」、「Medical Online」、「Medical Finder」、「J-stage」による文献検索操作を各自で独習すること。	「医学中央雑誌」、「Medical Online」、「Medical Finder」、「J-stage」による文献検索操作を各自で独習すること。
7	論文検索及び抄読	「医学中央雑誌」、「Medical Online」、「Medical Finder」、「J-stage」による文献検索操作を各自で独習すること。	「医学中央雑誌」、「Medical Online」、「Medical Finder」、「J-stage」による文献検索操作を各自で独習すること。
8	論文検索及び抄読	「医学中央雑誌」、「Medical Online」、「Medical Finder」、「J-stage」による文献検索操作を各自で独習すること。	「医学中央雑誌」、「Medical Online」、「Medical Finder」、「J-stage」による文献検索操作を各自で独習すること。
9	論文検索及び抄読	「医学中央雑誌」、「Medical Online」、「Medical Finder」、「J-stage」による文献検索操作を各自で独習すること。	「医学中央雑誌」、「Medical Online」、「Medical Finder」、「J-stage」による文献検索操作を各自で独習すること。
10	論文検索及び抄読	「医学中央雑誌」、「Medical Online」、「Medical Finder」、「J-stage」による文献検索操作を各自で独習すること。	「医学中央雑誌」、「Medical Online」、「Medical Finder」、「J-stage」による文献検索操作を各自で独習すること。

		で独習すること。	
11	実験の体験、及び、具体的研究内容の考案	・限られた範囲内でどのような研究ができるかを考えること。 ・必ず実験記録をつけること。	
12	実験の体験、及び、具体的研究内容の考案	・限られた範囲内でどのような研究ができるかを考えること。 ・必ず実験記録をつけること。	
13	実験の体験、及び、具体的研究内容の考案	・限られた範囲内でどのような研究ができるかを考えること。 ・必ず実験記録をつけること。	
14	実験の体験、及び、具体的研究内容の考案	・限られた範囲内でどのような研究ができるかを考えること。 ・必ず実験記録をつけること。	
15	実験の体験、及び、具体的研究内容の考案	・限られた範囲内でどのような研究ができるかを考えること。 ・必ず実験記録をつけること。	
16	予備実験の実施	・実験準備は自発的に行うこと。 ・必ず実験記録をつけること。	
17	予備実験の実施	・実験準備は自発的に行うこと。 ・必ず実験記録をつけること。	
18	予備実験の実施	・実験準備は自発的に行うこと。 ・必ず実験記録をつけること。	
19	予備実験の実施	・実験準備は自発的に行うこと。 ・必ず実験記録をつけること。	
20	予備実験の実施	・実験準備は自発的に行うこと。 ・必ず実験記録をつけること。	
21	予備実験の実施、及び、研究計画の立案	・実験準備は自発的に行うこと。 ・必ず実験記録をつけること。	
22	予備実験の実施、及び、研究計画の立案	・実験準備は自発的に行うこと。 ・必ず実験記録をつけること。	
23	予備実験の実施、及び、研究計画の立案	・実験準備は自発的に行うこと。 ・必ず実験記録をつけること。	
24	予備実験の実施、及び、研究計画の立案	・実験準備は自発的に行うこと。 ・必ず実験記録をつけること。	
25	予備実験の実施、及び、研究計画の立案	・実験準備は自発的に行うこと。 ・必ず実験記録をつけること。	
26	研究計画の説明用スライド作成	・完成度が低い段階から積極的に添削を受けに来ること。	
27	研究計画の説明用スライド作成	・完成度が低い段階から積極的に添削を受けに来ること。	
28	研究計画の説明用スライド作成	・完成度が低い段階から積極的に添削を受けに来ること。	
29	研究計画の説明用スライド作成	・完成度が低い段階から積極的に添削を受けに来ること。	
30	研究計画の説明用スライド作成	・完成度が低い段階から積極的に添削を受けに来ること。	
成績評価方法と基準			割合
研究計画書の提出、中間報告会での発表を評価対象とする。 4/5以上の出席を必要とする。			研究計画書 中間報告会

卒業研究Ⅰ(理学)：工藤 (Graduation Research I)			
授業科目名	工藤 慎太郎	担当教員	工藤 慎太郎
主担当教員	SS501	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目
科目ナンバリング	3	科目区分	前期(金曜5限)、 後期(月曜1限)
配当年次	演習	開講学期	曜日・時限
授業形態	2	単位数	必修・選択
授業概要	研究指導教員の下で研究テーマを決め、先行研究レビュー、研究計画作成を行う。 学習成果として、研究計画を中間発表会で報告する。 運動器系理学療法・スポーツ理学療法の臨床研究、基礎研究を行います。三次元動作解析、超音波エコーを用いた運動解析を行います。運動器理学療法やスポーツ理学療法に興味のある学生が履修することを望みます。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究倫理について理解することができる。 2. 専門領域における実験および文献取扱いができる。 3. 専門領域における実験または調査などの研究方法を理解する。 4. 研究計画を作成し、プレゼンテーションができる。 		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	指導教員とよく話し合って研究活動を進めること。 特に運動器・スポーツ理学療法に関わるテーマの臨床研究、基礎研究に関わります。		
教科書	教科書		
特に指定はありません。ゼミ活動の進捗に応じて適宜必要な資料は指導教員から提示します。			
参考書	参考書		
特に指定はありません。ゼミ活動の進捗に応じて適宜必要な資料は指導教員から提示します。			
研究室/オフィスアワー	研究室/オフィスアワー		
木曜日4-5限 東棟4F17 研究室(要事前アポイントメント)			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	研究テーマ決定のための文献抄読と講義	研究テーマに関する文献検索	
2	研究テーマ決定のための文献抄読と講義		
3	研究テーマ決定のための文献抄読と講義		
4	研究テーマ決定のための文献抄読と講義		
5	研究テーマ決定のための文献抄読と講義		
6	研究テーマ決定のための文献抄読と講義		
7	研究テーマ決定のための文献抄読と講義		
8	研究テーマ決定のための文献抄読と講義		
9	研究テーマ決定のための文献抄読と講義		
10	研究テーマ決定のための文献抄読と講義		
11	実験仮説と方法の立案		
12	実験仮説と方法の立案		
13	実験仮説と方法の立案		
14	プレ実験		
15	プレ実験		

16	実験計画書作成		
17	実験計画書作成		
18	実験計画書作成		
19	実験計画書作成		
20	実験開始		
21	実験開始		
22	実験開始		
23	実験開始		
24	実験開始		
25	実験開始		
26	実験開始		
27	実験開始		
28	実験開始		
29	実験開始		
30	実験結果のまとめ		
成績評価方法と基準			割合 中間報告会1 00%
研究計画書の提出、中間報告会での発表を評価対象とする 4/5以上の出席を必要とする。			

授業科目名	卒業研究Ⅰ(理学):杉本 (Graduation ResearchⅠ)		
主担当教員	杉本 圭	担当教員	杉本 圭
科目ナンバリング	SS501	科目区分	タイプロマンリナー 該当項目 DP①④
配当年次	3	開講学期	前期 曜日・時限 後期(月曜1限)
授業形態	演習	単位数	2 必修・選択 必修
授業概要	研究指導教員の下で研究テーマを決め、先行研究レビュー、研究計画作成を行う。 学習成果として、研究計画を中間発表会で報告する。 理学療法分野の中でも特に「神経発達症児への運動介入の効果に関する研究」「身体活動時にヒトがどこを視ているのかに関する研究」「生体心理学概念に基づいた運動療法に関する研究」「患者の知覚・認知領域に関する研究」について、理学療法士の評価技術や運動療法の必要性や効果について研究を行う。具体的には、関連分野の基本文献ならびに各自(各グループ)の研究テーマに即した論文を輪読し、各自またはグループ単位で卒業研究に向けた予備的研究を実施する。 到達目標 1. 研究倫理について理解することができる。 2. 専門領域における実務および文献収集ができる。 3. 専門領域における実験または調査などの研究方法を理解する。 4. 研究計画を作成し、プレゼンテーションができる。 履修上の注意(学生へのメッセージ) 原則的にゼミを週1回のペースで中根ゼミ、松尾ゼミと合同で行う。定められたゼミ時間以外でも事前事後学習に積極的に取り組み、何事も楽しむこと。 学生主体のゼミではあるが、各学生の状況に合わせてながら、担当教員と報告・連絡・相談をしっかりと行いながら進めて行く。		
教科書	特に定めない。		
参考書	松本茂 他:大学生のための「読む・書く・プレゼン・ディベート」の方法、玉川大学出版部、2014 佐藤望 編:アカデミック・スキルズ大学生のための知的技法入門 第2版、慶應義塾大学出版会、2012 研究室/オフィスアワー 木曜日:4:5 限目		
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	オリエンテーション/卒業研究について説明する。	事前学習として、授業において紹介する書籍や資料の事前読了、先行研究の調査と要約を求める場合がある。 事後学習として、計画書の作成、データの取りまとめ、プレゼンテーション資料の作成を求める場合がある。	
2	卒業論文テーマの見つけ方/テーマの見つけ方について説明する。		
3	卒業論文執筆について/論文執筆方法について説明する。		
4	文献読解と要約の方法/テキストや文献、論文の読解と要約方法を説明する。		
5	文献抄読①		
6	文献抄読②		
7	文献抄読③		
8	文献抄読④		
9	文献抄読⑤		
10	文献抄読⑥		
11	研究テーマの検討①/2-3 名ずつ、各自の研究テーマについて発表を行う。		

12	研究テーマの検討②/2-3名ずつ、各自の研究テーマについて発表を行う。
13	研究テーマの検討③/2-3名ずつ、各自の研究テーマについて発表を行う。
14	研究テーマの決定①/各自、研究テーマについて担当教員と話し合い、決定する。
15	研究テーマの決定②/各自、研究テーマについて担当教員と話し合い、決定する。
16	オリエンテーション/後期の取り組みを説明する。
17	研究テーマ①/2-3名ずつ、前期で決定した研究テーマのあらましを発表する。
18	研究テーマ②/2-3名ずつ、前期で決定した研究テーマのあらましを発表する。
19	研究テーマ③/2-3名ずつ、前期で決定した研究テーマのあらましを発表する。
20	研究計画の仮立案①/教員と話し合いながら、研究計画の仮立案を行う。
21	研究計画の仮立案②/教員と話し合いながら、研究計画の仮立案を行う。
22	プレ卒業研究の検討①/準備①
23	プレ卒業研究の検討②/準備②
24	プレ卒業研究の実験①
25	プレ卒業研究の実験②
26	研究計画書の作成①/担当教員と話し合いをしながら作成する。
27	研究計画書の作成②/担当教員と話し合いをしながら作成する。
28	研究計画書の作成③/担当教員と話し合いをしながら作成する。
29	研究計画書の作成④/担当教員と話し合いをしながら作成する。
30	発表会
成績評価方法と基準	
①研究計画書の提出、中間報告会での発表を評価対象とする 4/5以上の出席が必要	
割合	
①)100%	

卒業研究 I (理学)：金尾 (Graduation Research I)			
授業科目名	金尾 顕郎	担当教員	金尾 顕郎
主担当教員	SS501	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目
科目ナンバリング	3	科目区分	前期 (金曜 5 限)、 後期 (月曜 1 限)
配当年次	演習	開講学期	曜日・時限
授業形態	2	単位数	必修・選択
授業概要	必修 2		
<p>研究指導教員の下で研究テーマを決め、先行研究レビュー、研究計画作成を行う。 進捗状況を報告する。 学習成果として、研究計画を中間発表会で報告する。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 研究倫理について理解することができる。 2. 専門領域における資料および文献収集ができる。 3. 専門領域における実験または調査などの研究方法を理解する。 4. 研究計画を作成し、プレゼンテーションができる。 <p>履修上の注意 (学生へのメッセージ)</p> <p>指導教員とよく話し合って研究活動を進めること。 期日を守ること。</p> <p>教科書</p> <p>特に定めがない。</p> <p>参考書</p> <p>特に定めがない。</p> <p>研究室/オフィスアワー</p> <p>水曜日の午前 研究室に在室時 事前の連絡が必要</p> <p>授業展開及び授業計画表</p>			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	講義 オリエンテーション	実施テーマに関する事前・事後の自己学習を行うこと	
2	文献抄読①	実施テーマに関する事前・事後の自己学習を行うこと	
3	文献抄読②	実施テーマに関する事前・事後の自己学習を行うこと	
4	文献抄読③	実施テーマに関する事前・事後の自己学習を行うこと	
5	文献抄読④	実施テーマに関する事前・事後の自己学習を行うこと	
6	文献抄読⑤	実施テーマに関する事前・事後の自己学習を行うこと	
7	テーマの決定	実施テーマに関する事前・事後の自己学習を行うこと	
8	研究テーマの参考文献抄読①	実施テーマに関する事前・事後の自己学習を行うこと	
9	研究テーマの参考文献抄読②	実施テーマに関する事前・事後の自己学習を行うこと	
10	研究テーマの参考文献抄読③	実施テーマに関する事前・事後の自己学習を行うこと	
11	研究テーマの参考文献抄読④	実施テーマに関する事前・事後の自己学習を行うこと	
12	研究テーマの参考文献抄読⑤	実施テーマに関する事前・事後の自己学習を行うこと	
13	研究計画の立案①	実施テーマに関する事前・事後の自己学習を行うこと	
14	研究計画の立案②	実施テーマに関する事前・事後の自己学習を行うこと	

15	研究倫理審査①	実施テーマに関する事前・事後の自己学習を行うこと
16	研究倫理審査②	実施テーマに関する事前・事後の自己学習を行うこと
17	研究倫理審査③	実施テーマに関する事前・事後の自己学習を行うこと
18	研究計画の決定	実施テーマに関する事前・事後の自己学習を行うこと
19	予備実験①	実施テーマに関する事前・事後の自己学習を行うこと
20	予備実験②	実施テーマに関する事前・事後の自己学習を行うこと
21	予備実験③	実施テーマに関する事前・事後の自己学習を行うこと
22	予備実験④	実施テーマに関する事前・事後の自己学習を行うこと
23	予備実験⑤	実施テーマに関する事前・事後の自己学習を行うこと
24	予備実験⑥	実施テーマに関する事前・事後の自己学習を行うこと
25	予備実験⑦	実施テーマに関する事前・事後の自己学習を行うこと
26	予備実験⑧	実施テーマに関する事前・事後の自己学習を行うこと
27	予備実験⑨	実施テーマに関する事前・事後の自己学習を行うこと
28	予備実験⑩	実施テーマに関する事前・事後の自己学習を行うこと
29	中間報告①	実施テーマに関する事前・事後の自己学習を行うこと
30	中間報告②	実施テーマに関する事前・事後の自己学習を行うこと
成績評価方法と基準		割合
4/5以上の出席が必要 研究計画書の提出、中間報告会での発表を評価対象とする		
1. 課題への取り組み姿勢		1. 50%
2. 研究計画書の提出および中間報告会での発表		2. 50%

授業科目名		卒業研究Ⅰ(理学):松尾 (Graduation Research I)		
主担当教員	松尾 浩希	担当教員	松尾 浩希	
科目ナンバリング	SS501	科目区分	専門科目	DP①④
配当年次	3	開講学期	前期	前期(金曜 5限)、 後期(月曜 1限)
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択 必修
授業概要 研究指導教員の下で研究テーマを決め、先行研究レビュー、研究計画作成を行う。 学習成果として、研究計画を中間発表会で報告する。 主な研究テーマとして、「視覚と姿勢制御」「生態心理学的概念に基づいた運動療法」「傷害予防教育」などについて研究を行う。 研究テーマに関連した分野の文献抄読や卒業研究に向けた予備的研究を各自(各グループ)で実施していく。				
到達目標 1. 研究倫理について理解することができる。 2. 専門領域における資料および文献収集ができる。 3. 専門領域における実験または調査などの研究方法を理解する。 4. 研究計画を作成し、プレゼンテーションができる。 履修上の注意(学生へのメッセージ) 原則的にゼミを週1回のみで行う。卒業研究の作成に向けて自分のやるべきことに真摯に取り組むこと。 学生が主体となり、積極的担当教員や学生同士で議論しながら卒業研究を進めてください。				
教科書 特に定めがない。必要に応じて資料を配布する。				
参考書 石黒主:この1冊できちんと書ける! 論文・レポートの基本、日本実業出版社、2012				
研究室/オフィスアワー 金曜日:9:00-12:00				
授業展開及び授業計画表				
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当	
1	オリエンテーション/卒業研究Ⅰについて説明する。	事前学習として、授業において紹介する書籍や資料の事前読了、先行研究の調査と要約を求める。事後学習として、計画書の作成、テーマの絞りまとめ、プレゼンテーション資料の作成を求める場合がある。		
2	卒業論文のテーマの見つけ方/テーマの見つけ方について説明する。			
3	卒業論文執筆について/論文執筆方法について説明する。			
4	文献読解と要約の方法/テキストや文献、論文の読解と要約方法を説明する。			
5	文献抄読①			
6	文献抄読②			
7	文献抄読③			
8	文献抄読④			
9	文献抄読⑤			
10	文献抄読⑥			
11	研究テーマの検討①/2-3名ずつ、各自の研究テーマについて発表を行う。			
12	研究テーマの検討②/2-3名ずつ、各自の研究			

	テーマについて発表を行う。	
13	研究テーマの検討③/2-3名ずつ、各自の研究テーマについて発表を行う。	
14	研究テーマの決定①/各自、研究テーマについて担当教員と話し合い、決定する。	
15	研究テーマの決定②/各自、研究テーマについて担当教員と話し合い、決定する。	
16	オリエンテーション/後期の取り組みを説明する。	
17	研究テーマ発表①/2-3名ずつ、前期で決定した研究テーマのあらましを発表する。	
18	研究テーマ発表②/2-3名ずつ、前期で決定した研究テーマのあらましを発表する。	
19	研究テーマ発表③/2-3名ずつ、前期で決定した研究テーマのあらましを発表する。	
20	研究計画の仮立案①/担当教員と話し合いながら、研究計画の仮立案を行う。	
21	研究計画の仮立案②/担当教員と話し合いながら、研究計画の仮立案を行う。	
22	卒業研究の検討①/準備①	
23	卒業研究の検討②/準備②	
24	卒業研究の実験①	
25	卒業研究の実験②	
26	研究計画書の作成①/担当教員と話し合いながら詳細計画を作成する。	
27	研究計画書の作成②/担当教員と話し合いながら詳細計画を作成する。	
28	研究計画書の作成③/担当教員と話し合いながら詳細計画を作成する。	
29	研究計画書の作成④/担当教員と話し合いながら詳細計画を作成する。	
30	中間報告会	
成績評価方法と基準		割合
①研究計画書の提出、中間報告会での発表を評価対象とする 4/5以上の出席が必要		①100%

授業科目名	卒業研究Ⅱ(理学):三木屋 (Graduation Research II)			
主担当教員	三木屋 良輔	担当教員	三木屋 良輔	
科目ナンバリング	SS502	科目区分	ディプロマポリシー 該当項目	DP①④
配当年次	4	開講学期	曜日・時限	前期(月曜1限)、 後期(月曜1限)
授業形態	演習	単位数	必修・選択	必修
授業概要	<p>研究指導教員の下で研究テーマを決め、先行研究レビュー、研究計画作成を行う。 学習成果として、研究計画を中間発表会で報告する。 本ゼミのメインテーマは、骨格筋増強、運動耐容能向上である。具体的には高齢者に見られる筋減少症(サルコペニア)を改善するための科学的基礎データの蓄積を目指す。また地域高齢者の介護予防について、高齢者の行動変容を生み出すシステム作りも目指す。よって本ゼミでは、骨格筋増強のカギニズムを中心とした学習を中心に展開する。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 研究倫理について理解することができる。 2. 研究計画に基づき、研究をすすめることができる。 3. 収集したデータを解析、解釈し、論理的解釈にもとづき論文執筆ができる。 4. 研究結果と解釈についてプレゼンテーションとディスカッションができる。 <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>指導教員とよく話し合って研究活動を進めること。</p>			
教科書	無し			
参考書	市橋則明 著;運動療法学, 文光堂 鈴木隆雄 監修;完全版介護予防マニュアル, 法研 研究室/オフィスアワー			
授業展開及び授業計画表	火曜日午後(地域高齢者予防体操実施予定日)、金曜日(三木屋不在)以外の時間に予めアポイントを取ってください。			

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	ゼミオリエンテーション1	年間行動予定の確認	
2	研究概論1	研究課題を考えておく	
3	体操実技演習	予防体操を予習する	
4	地域介護予防活動1	予防体操を実演する	
5	筋力測定実技演習1	MMTを指導できるように予習しておく	
6	可動域測定実技演習2	ROM-Iを指導できるように予習しておく	
7	文献抄読会1	課題文献を予習しておく	
8	文献抄読会2	課題文献を予習しておく	
9	文献抄読会3	課題文献を予習しておく	
10	地域介護予防活動2	予防体操を実演する	
11	機器使用実習1	関節トルクについて予習しておく	
12	機器使用実習2	肺機能について予習しておく	
13	文献抄読会4	課題文献を予習しておく	
14	文献抄読会5	課題文献を予習しておく	

15	地域介護予防活動 3	予防体操を要済する	
16	文献抄読 6	課題文献を予習しておく	
17	症例検討会	経験した症例のレジユメを作成する	
18	文献抄読 7	課題文献を予習しておく	
19	文献抄読 8	課題文献を予習しておく	
20	地域介護予防活動 4	予防体操を要済する	
21	文献抄読 9	課題文献を予習しておく	
22	文献抄読 10	課題文献を予習しておく	
23	文献抄読 11	課題文献を予習しておく	
24	文献抄読 12	課題文献を予習しておく	
25	地域介護予防活動 5	予防体操を要済する	
26	研究論文作成 1	研究論文の構成を立てる。	
27	研究論文作成 2	研究論文のデータを処理する	
28	研究論文作成 3	研究論文を作成する	
29	研究論文作成 4	研究論文を校正する	
30	研究論文提出	研究論文を提出する	
成績評価方法と基準			割合
1、最終報告会2、抄録提出を評価対象とする			1、最終報告会20%
4/5以上の出席が必要			2、抄録提出80%とする

卒業研究 II (理学): 河村 (Graduation Research II)			
授業科目名	河村 廣幸	担当教員	河村 廣幸
主担当教員	河村 廣幸	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目
科目ナンバリング	SS502	科目区分	DP①④
配当年次	4	開講学期	前期(月曜1限)、 後期(月曜1限)
授業形態	演習	単位数	2
授業概要	必修・選択		
到達目標	2		
授業内容	研究指導教員の下で研究を進め、学習成果として、卒業論文を作成する。 実験研究を通して、文献検索・標本抽出・予備実験・本実験・データ処理・論文作成の家庭を経験する。実験研究を通して、文献検索・標本抽出・予備実験・本実験・データ処理・論文作成の家庭を経験する。		
到達目標	1. 研究倫理について理解することができる。 2. 研究計画に基づき、研究をすすめることができる。 3. 収集したデータを解析・解釈し、論理的解釈にもとづき論文執筆ができる。 4. 研究結果と解釈についてプレゼンテーションとディスカッションができる。		
履修上の注意	(学生へのメッセージ)		
指導教員とよく話し合って研究活動を進めること。			
教科書			
特になし			
参考書			
はじめての研究法:神陵文庫			
研究室/オフィスアワー			
要相談			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	学生は、学修目標が達成できるよう、ゼミ担当教員と密に連絡をとり、学修計画を立てる。	計画を立て、実施する。	
2	研究計画の修正	中間発表会での意見をまとめ、修正案を作成しておく	
3	パイロットスタディ①	予備実験のための準備をしておく	
4	パイロットスタディ②	パイロットスタディ①からの修正点をまとめる	
5	本実験データ収集①	実験データをまとめるデータベースを作成しておく	
6	本実験データ収集②	本実験①のデータをまとめておく	
7	本実験データ収集③	本実験②のデータをまとめておく	
8	本実験データ収集④	本実験③のデータをまとめておく	
9	データ分析①	本実験データを処理しやすいように PC データとしてまとめておく	
10	データ分析②	データ分析①からデータの特徴を掴む	
11	データ分析③	データ分析②からデータの特徴を掴む	
12	データ分析④	データ分析③からデータの特徴を掴む	
13	論文作成①	論文のアウトラインを作成しておく	
14	論文作成②	論文執筆	
15	論文作成③	論文執筆	

16	論文作成④	論文執筆	
17	論文作成⑤	論文執筆	
18	論文作成⑥	論文執筆	
19	論文作成⑦	論文執筆	
20	論文作成⑧	論文執筆	
21	論文作成⑨	論文執筆	
22	論文作成⑩	論文執筆	
23	抄録作成①	卒業論文をまとめ、要約しておく	
24	抄録作成②	抄録の修正部分を修正しておく	
25	スライド・発表原稿作成①	スライドおよび発表原稿の作業を作成しておく	
26	スライド・発表原稿作成②	原稿修正	
27	スライド・発表原稿作成③	原稿修正	
28	スライド・発表原稿作成④	原稿修正	
29	卒業論文発表会①	スライド修正と発表原稿を作成しておく	
30	卒業論文発表会②	スライド修正と発表原稿を作成しておく	
成績評価方法と基準			割合
最終報告会での発表、卒業論文抄録を評価対象とする 4/5以上の出席が必要			100%

卒業研究Ⅱ(理学):堀 (Graduation Research II)			
授業科目名	堀 電次	担当教員	堀 電次
主担当教員	SS502	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目
科目ナンバリング	4	科目区分	DP①④
配当年次	演習	開講学期	前期(月曜1限)、 後期(月曜1限)
授業形態	2	単位数	必修・選択
授業概要			
研究指導教員の下で研究を進め、学習成果として、卒業論文を作成する。 内科系理学療法士ヒックスを知るため、学芸等へ参加する。 研究成果のあったものは、学芸発表系にエントリーする。			
到達目標			
1. 研究倫理について理解することができる。 2. 研究計画に基づき、研究をすすめることができる。 3. 収集したデータを解析、解釈し、論理的解釈にもとづき論文執筆ができる。 4. 研究結果と経験についてプレゼンテーションとディスカッションができる。			
履修上の注意(学生へのメッセージ)			
指導教員と話し合っ研究活動を進めるが、学生自身が主体的に取り込むこと。			
教科書			
教科書は使用しない 資料は随時配布する			
参考書			
フリー統計ソフト EZR(EasR)で誰でも簡単統計解析。2015、南江堂、神田善信著			
研究室/オフィスアワー			
金曜日3・4限(研究室)、それ以外は個別に相談			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	研究計画に基づきデータ測定	データ測定の準備と測定したデータ管理を行う	堀
2	研究計画に基づきデータ測定	データ測定の準備と測定したデータ管理を行う	堀
3	研究計画に基づきデータ測定	データ測定の準備と測定したデータ管理を行う	堀
4	研究計画に基づきデータ測定	データ測定の準備と測定したデータ管理を行う	堀
5	研究計画に基づきデータ測定	データ測定の準備と測定したデータ管理を行う	堀
6	研究計画に基づきデータ測定	データ測定の準備と測定したデータ管理を行う	堀
7	研究計画に基づきデータ測定	データ測定の準備と測定したデータ管理を行う	堀
8	研究計画に基づきデータ測定	データ測定の準備と測定したデータ管理を行う	堀
9	研究計画に基づきデータ測定	データ測定の準備と測定したデータ管理を行う	堀
10	研究計画に基づきデータ測定	データ測定の準備と測定したデータ管理を行う	堀
11	データの解析および統計	教科書等を利用して事前にデータ解析を行う	堀
12	データの解析および統計	教科書等を利用して事前にデータ解析を行う	堀
13	データの解析および統計	教科書等を利用して事前にデータ解析を行う	堀
14	データの解析および統計	教科書等を利用して事前にデータ解析を行う	堀
15	データの解析および統計	教科書等を利用して事前にデータ解析を行う	堀

16	データの解析および統計	教科書等を利用して事前にデータ解析を行う	堀
17	データの解析および統計	教科書等を利用して事前にデータ解析を行う	堀
18	データの解析および統計	教科書等を利用して事前にデータ解析を行う	堀
19	データの解析および統計	教科書等を利用して事前にデータ解析を行う	堀
20	データの解析および統計	教科書等を利用して事前にデータ解析を行う	堀
21	論文作成および研究発表準備	論文・プレゼンテーション資料を事前に準備しておく	堀
22	論文作成および研究発表準備	論文・プレゼンテーション資料を事前に準備しておく	堀
23	論文作成および研究発表準備	論文・プレゼンテーション資料を事前に準備しておく	堀
24	論文作成および研究発表準備	論文・プレゼンテーション資料を事前に準備しておく	堀
25	論文作成および研究発表準備	論文・プレゼンテーション資料を事前に準備しておく	堀
26	論文作成および研究発表準備	論文・プレゼンテーション資料を事前に準備しておく	堀
27	論文作成および研究発表準備	論文・プレゼンテーション資料を事前に準備しておく	堀
28	論文作成および研究発表準備	論文・プレゼンテーション資料を事前に準備しておく	堀
29	論文作成および研究発表準備	論文・プレゼンテーション資料を事前に準備しておく	堀
30	最終研究発表会	論文を最終修正し完成する	堀
成績評価方法と基準			
1. 提出された卒業論文採録の内容を評価対象とする			
2. 最終報告会での発表および討論内容を評価対象とする			
3. 単位認定のための必要出席回数は、4/5以上とする			

卒業研究Ⅱ(理学):森谷 (Graduation Research II)			
授業科目名	森谷 正之	担当教員	森谷 正之
主担当教員	森谷 正之	専門科目	DP①④
科目ナンバリング	SS502	科目区分	前修(月曜1限)、後期(月曜1限)
配当年次	4	開講学期	曜日・時限
授業形態	演習	単位数	2
授業概要	授業概要 研究指導教員の下で研究を進め、学習成果として、卒業論文を作成する。 動物実験により口腔顔面領域の感覚情報伝達、運動制御に関わる神経機構の解明を目指す。動物実験の実施に関わる倫理規程等を習得すると共に、基本的な実験手法、データの記録と取りまとめ、実験結果の整理について学ぶ。		
到達目標	到達目標 1. 研究倫理について理解することができる。 2. 研究計画に基づき、研究を進めることができる。 3. 収集したデータを解析・解釈し、論理的解釈にもとづき論文執筆ができる。 4. 研究結果と解釈についてプレゼンテーションとディスカッションができる。 履修上の注意(学生へのメッセージ) 指導教員とよく話し合った研究活動を進めること。 動物実験に関わる教育訓練を受講すること。		
教科書	教科書		
教科書として指定する書物はないが、必要に応じて資料等を配布する。			
参考書	参考書		
必要に応じて資料等を配布する。			
研究室/オフィスアワー	研究室/オフィスアワー		
E棟4階(研究室11)	月曜日午後5時～午後7時、各日昼休みの時間帯は原則研究室に在室しています。		
授業展開及び授業計画表	授業展開及び授業計画表		
回数	学習内容	予習・復習・課題等	担当
1	学生は、学習目標が達成できるよう、ゼミ担当教員と密に連絡をとり、学習計画を立てる。卒業研究Ⅰの中間報告会での成果発表内容を検証し、必要に応じて研究計画の修正を行う。	計画を立て、実施する。	森谷
2	動物実験①(データ収集)	適正な実験の実施と正確な記録を取れるように準備しておくこと。	森谷
3	動物実験②(データ収集)	適正な実験の実施と正確な記録を取れるように準備しておくこと。	森谷
4	動物実験③(データ収集)	適正な実験の実施と正確な記録を取れるように準備しておくこと。	森谷
5	動物実験④(データ収集)	適正な実験の実施と正確な記録を取れるように準備しておくこと。	森谷
6	動物実験⑤(データ収集)	適正な実験の実施と正確な記録を取れるように準備しておくこと。	森谷
7	動物実験⑥(データ収集)	適正な実験の実施と正確な記録を取れるように準備しておくこと。	森谷
8	動物実験⑦(データ収集)	適正な実験の実施と正確な記録を取れるように準備しておくこと。	森谷
9	動物実験⑧(データ収集)	適正な実験の実施と正確な記録を取れるように準備しておくこと。	森谷
10	動物実験⑨(データ収集)	適正な実験の実施と正確な記録を取れるように準備しておくこと。	森谷
11	動物実験⑩(データ収集)	適正な実験の実施と正確な記録を取れるように準備しておくこと。	森谷
12	動物実験⑪(データ収集)	適正な実験の実施と正確な記録を取れるように準備しておくこと。	森谷
13	動物実験⑫(データ収集)	適正な実験の実施と正確な記録を取れるように準備しておくこと。	森谷

卒業科目名		卒業研究Ⅱ(理学):澤田 (Graduation Research II)	
主担当教員	澤田 優子	担当教員	澤田 優子
科目ナンバリング	SS502	科目区分	専門科目 ディプロマポリシー 該当項目
配当年次	4	開講学期	前期 曜日・時限 後期(月曜1限) 後期(月曜1限)
授業形態	演習	単位数	2 必修・選択 必修
授業概要 研究指導教員の下で研究を進め、学習成果として、卒業論文を作成する。 研究テーマは、小泉の理学療法および地域で実施する健康増進などとする。 研究方法として、調査研究を実施する。			
到達目標 1. 研究倫理について理解することができる。 2. 研究計画に基づき、研究をすすめることができる。 3. 収集したデータを解析、解釈し、論理的解釈にもとづき論文執筆ができる。 4. 研究結果と経験についてプレゼンテーションとディスカッションができる。 履修上の注意(学生へのメッセージ) 指導教員とよく話し合って研究活動を進めること。			
教科書 配布資料、文献など 参考書 随時紹介する 研究室/オフィスアワー 月曜日1時限目			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	データ収集(1)	事前準備、事後の整理を行い、計画を立てて研究を進める	研究
2	データ収集(2)	事前準備、事後の整理を行い、計画を立てて研究を進める	研究
3	データ収集(3)	事前準備、事後の整理を行い、計画を立てて研究を進める	研究
4	データ収集(4)	事前準備、事後の整理を行い、計画を立てて研究を進める	研究
5	データ収集(5)	事前準備、事後の整理を行い、計画を立てて研究を進める	研究
6	データ解析(1)	事前準備、事後の整理を行い、計画を立てて研究を進める	研究
7	データ解析(2)	事前準備、事後の整理を行い、計画を立てて研究を進める	研究
8	データ解析(3)	事前準備、事後の整理を行い、計画を立てて研究を進める	研究
9	データ解析(4)	事前準備、事後の整理を行い、計画を立てて研究を進める	研究
10	データ解析(5)	事前準備、事後の整理を行い、計画を立てて研究を進める	研究
11	最終報告会準備(1)	事前準備、事後の整理を行い、計画を立てて研究を進める	研究
12	最終報告会準備(2)	事前準備、事後の整理を行い、計画を立てて研究を進める	研究
13	最終報告会準備(3)	事前準備、事後の整理を行い、計画を立てて研究を進める	研究
14	最終報告会準備(4)	事前準備、事後の整理を行い、計画を立てて研究を進める	研究

14	これまでのデータ整理	これまでの収集データをとりまとめ、研究指導者と内容を検証できるように整理しておくこと。	森谷
15	動物実験⑬(データ収集)	前回のデータの取りまとめで実施しなかった問題点を修正する。適正な実験の実施と正確な記録を取れるように準備しておくこと。	森谷
16	動物実験⑭(データ収集)	適正な実験の実施と正確な記録を取れるように準備しておくこと。	森谷
17	動物実験⑮(データ収集)	適正な実験の実施と正確な記録を取れるように準備しておくこと。	森谷
18	動物実験⑯(データ収集)	適正な実験の実施と正確な記録を取れるように準備しておくこと。	森谷
19	動物実験⑰(データ収集)	適正な実験の実施と正確な記録を取れるように準備しておくこと。	森谷
20	動物実験⑱(データ収集)	適正な実験の実施と正確な記録を取れるように準備しておくこと。	森谷
21	動物実験⑲(データ収集)	適正な実験の実施と正確な記録を取れるように準備しておくこと。	森谷
22	動物実験⑳(データ収集)	適正な実験の実施と正確な記録を取れるように準備しておくこと。	森谷
23	動物実験の経過と結果の整理	研究指導者と共に動物実験の経過と結果を説明できるように準備しておくこと。	森谷
24	動物実験結果の整理(統計処理)	研究指導者と共に実験結果の統計処理ができるように準備しておくこと。	森谷
25	動物実験結果の整理(図表の作成)	研究指導者と共に実験結果を図表にまとめることができるように準備しておくこと。	森谷
26	卒業論文の作成(緒言、材料と方法)	研究指導者の指導の下、「緒言」と「材料と方法」を記述することができるように準備しておくこと。	森谷
27	卒業論文の作成(結果、図表)	研究指導者の指導の下、「結果」と説明用の図表を記述できるように準備しておくこと。	森谷
28	卒業論文の作成(考察、図表)	研究指導者の指導の下、「考察」と説明用の図表を記述できるように準備しておくこと。	森谷
29	卒業論文の作成(引用文献、要約)	研究指導者の指導の下、「引用文献」と「要約」を記述することができるように準備しておくこと。	森谷
30	卒業論文の作成(最終)と報告会の準備	卒業論文の内容を確認すると共に、発表会の準備しておくこと。	森谷
成績評価方法と基準 最終報告会での発表、卒業論文(抄録を含む)を評価対象とする 4/5以上の出席が必要 動物実験に関わる教育訓練を受講すること ①最終報告会での発表 ②卒業論文(抄録を含む)			

15	最終報告会準備(5)	事前準備、事後の整理を行い、計画を立てて研究を進める	
16	文献検討(1)	事前準備、事後の整理を行い、計画を立てて研究を進める	
17	文献検討(2)	事前準備、事後の整理を行い、計画を立てて研究を進める	
18	文献検討(3)	事前準備、事後の整理を行い、計画を立てて研究を進める	
19	文献検討(4)	事前準備、事後の整理を行い、計画を立てて研究を進める	
20	文献検討(5)	事前準備、事後の整理を行い、計画を立てて研究を進める	
21	論文執筆(1)	事前準備、事後の整理を行い、計画を立てて研究を進める	
22	論文執筆(2)	事前準備、事後の整理を行い、計画を立てて研究を進める	
23	論文執筆(3)	事前準備、事後の整理を行い、計画を立てて研究を進める	
24	論文執筆(4)	事前準備、事後の整理を行い、計画を立てて研究を進める	
25	論文執筆(5)	事前準備、事後の整理を行い、計画を立てて研究を進める	
26	論文執筆(6)	事前準備、事後の整理を行い、計画を立てて研究を進める	
27	論文執筆(7)	事前準備、事後の整理を行い、計画を立てて研究を進める	
28	論文執筆(8)	事前準備、事後の整理を行い、計画を立てて研究を進める	
29	論文執筆(9)	事前準備、事後の整理を行い、計画を立てて研究を進める	
30	論文執筆(10)	事前準備、事後の整理を行い、計画を立てて研究を進める	
成績評価方法と基準			割合
最終報告会での発表、卒業論文抄録を評価対象とする 4/5以上の出席が必要			課題への取り組み姿勢 50% 最終報告会 での発表、卒業論文抄録 50%

卒業研究Ⅱ(理學):中根 (Graduation Research II)			
授業科目名	卒業研究Ⅱ(理學):中根	中根 征也	中根 征也
主担当教員		担当教員	専門科目
科目ナンバリング	SS502	科目区分	DP①④
配当年次	4	開講学期	前期(月曜1限)、 後期(月曜1限)
授業形態	演習	単位数	2
授業概要	研究指導教員の下で研究を進め、学習成果として、卒業論文を作成する。 理学療法分野の中でも特に、「神経発達症児(発達障がい児)への運動療法」に基いた運動療法「患者の知覚・認知領域の追求」患者教育」について運動療法の必要性や効果について研究を行います。具体的には、関連分野の論文を幅広くに各自(各グループ)の研究テーマに即した論文を精読し、各自またはグループ単位で卒業研究に向けた予備的研究を実施する。卒業研究Ⅰと卒業研究Ⅱを通じて最終的な成果物として、各自(各グループ)の研究テーマについての卒業論文と発表を行なう。		
到達目標	1. 研究倫理について理解することができる。 2. 研究計画に基づき、研究をすすめることができる。 3. 収集したデータを解析・解釈し、論理的解釈にもとづき論文執筆ができる。 4. 研究結果と解釈についてプレゼンテーションとディスカッションができる。 履修上の注意(学生へのメッセージ) 原則的にゼミを週1回のペースで行なっている。定められたゼミ時間以外でも事前事後学習に積極的に取り組み、何事もつかり楽しんでください。 学生主体のゼミではあるが、各学生の状況に合わせて合合わせながら、担当教員と報告・連絡・相談をしっかりと行ないながら進めて行く。 教科書 特に定めない。		
参考書	小笠原 孝康:新版 大学生のためのレポート・論文術、講談社現代新書、2009 戸田山和久:論文教室 レポートから卒業論文まで、NHKブックス、2010 山田実 編:PI-OTのための臨床研究はしめの一歩、羊土社、2016 研究室/オフィスアワー		
4階研究室/木曜日 4時限目以降(時間は事前に相談することが望ましい)			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	オリエンテーション/卒業研究Ⅱについて詳細を説明する。	事前学習として、授業において紹介する書籍や資料の事前読了、先行研究の調査と要約を求める場合がある。 事後学習として、計画書の作成、テーマの取りまとめ、プレゼンテーション資料の作成を求める場合がある。	
2	研究構想の紹介①/2-3名ずつ、各自の研究計画を発表する。		
3	研究構想の紹介②/2-3名ずつ、各自の研究計画を発表する。		
4	研究構想の紹介③/2-3名ずつ、各自の研究計画を発表する。		
5	研究計画の確認①/担当教員と研究計画について最終確認を行なう。		
6	研究計画の確認②/担当教員と研究計画について最終確認を行なう。		
7	卒業研究の実験①	これ以降は、これまでに以上担当教員との話し合いの機会を多く設けること。	
8	卒業研究の実験②		
9	卒業研究の実験③		
10	卒業研究の実験④		

11	卒業研究の実験データの確認①	
12	卒業研究の実験データの確認②	
13	卒業研究の実験データの分析方針の確認①	
14	卒業研究の実験データの分析方針の確認②	
15	発表会/進捗状況の発表を行なう。	
16	オリエンテーション/論文執筆方法について再度、説明する。	
17	卒業研究の実験データの分析①	
18	卒業研究の実験データの分析②	
19	卒業論文の構想の検討①/2-3名ずつ、各自の卒業論文の構想について発表を行なう。	
20	卒業論文の構想の検討②/2-3名ずつ、各自の卒業論文の構想について発表を行なう。	
21	卒業論文の構想の検討③/2-3名ずつ、各自の卒業論文の構想について発表を行なう。	
22	卒業論文執筆①/担当教員と相談をしながら執筆する。	
23	卒業論文執筆②/担当教員と相談をしながら執筆する。	
24	卒業論文執筆③/担当教員と相談をしながら執筆する。	
25	卒業論文執筆④/担当教員と相談をしながら執筆する。	
26	発表会/進捗状況の発表を行なう。	
27	卒業論文執筆⑤/担当教員と相談をしながら執筆する。	
28	卒業論文のまとめと最終報告会の準備①	
29	最終報告会の準備②	
30	最終報告会	
成績評価方法及び基準		割合
①最終報告会での発表		30%
②卒業論文抄録		②論文抄録: 70%
③4/5以上の出席が必要		

卒業研究Ⅱ(理学):前田 (Graduation Research II)			
授業科目名	前田 薫	担当教員	前田 薫
主担当教員	SS502	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目
科目ナンバリング	4	科目区分	前期(月曜1限)、 後期(月曜1限)
配当年次	演習	開講学期	曜日・時限
授業形態	2	単位数	必修・選択
授業概要	研究指導教員の下で研究を進め、学習成果として、卒業論文を作成する。 当卒業研究では、立位姿勢制御機構の神経生理学的検討をテーマとする研究を行う。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究倫理について理解することができる。 2. 研究計画に基づき、研究をすすめることができる。 3. 収集したデータを解析、解釈し、論理的解釈にもとづき論文執筆ができる。 4. 研究結果と解釈についてプレゼンテーションとディスカッションができる。 		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	指導教員とよく話し合っ研究活動を進めること。		
教科書	文献、資料、記事等を随時配布する。		
参考書	なし		
研究室/オフィスアワー	研究室/オフィスアワー		
金曜日とするが、事前に予約をすること。	金曜日とするが、事前に予約をすること。		
授業展開及び授業計画表			
回数	字修内容	予習・復習・課題等	担当
1	実験の準備と実施①	予習:計画にもとづいた実験の準備を行い手順を確認しておく。 復習:実験の実施全般にわたる問題点を研究ノートに記録し、次の実験で修正できるように準備する。	
2	実験の準備と実施②	予習:計画にもとづいた実験の準備を行い手順を確認しておく。 復習:実験の実施全般にわたる問題点を研究ノートに記録し、次の実験で修正できるように準備する。	
3	実験の準備と実施③	予習:計画にもとづいた実験の準備を行い手順を確認しておく。 復習:実験の実施全般にわたる問題点を研究ノートに記録し、次の実験で修正できるように準備する。	
4	実験の準備と実施④	予習:計画にもとづいた実験の準備を行い手順を確認しておく。 復習:実験の実施全般にわたる問題点を研究ノートに記録し、次の実験で修正できるように準備する。	
5	実験の準備と実施⑤	予習:計画にもとづいた実験の準備を行い手順を確認しておく。 復習:実験の実施全般にわたる問題点を研究ノートに記録し、次の実験で修正できるように準備する。	
6	実験の準備と実施⑥	予習:計画にもとづいた実験の準備を行い手順を確認しておく。 復習:実験の実施全般にわたる問題点を研究ノートに記録し、次の実験で修正できるように準備する。	

7	実験の準備と実施⑦	予習：計画にもとづいた実験の準備を行い手順を確認しておく。 復習：実験の実施全般にわたる問題点を研究ノートに記載し、次の実験で修正できるよう準備する。
8	実験の準備と実施⑧	予習：計画にもとづいた実験の準備を行い手順を確認しておく。 復習：実験の実施全般にわたる問題点を研究ノートに記載し、次の実験で修正できるよう準備する。
9	実験の準備と実施⑨	予習：計画にもとづいた実験の準備を行い手順を確認しておく。 復習：実験の実施全般にわたる問題点を研究ノートに記載し、次の実験で修正できるよう準備する。
10	実験の準備と実施⑩	予習：計画にもとづいた実験の準備を行い手順を確認しておく。 復習：実験の実施全般にわたる問題点を研究ノートに記載する。
11	データ分析①	予習：データの分析手順を確認しておく。 復習：授業において担当教員から得たアドハイスをもとに、分析手順を見直し、それにもとづいたデータ分析を行う。
12	データ分析②	予習：データの分析手順を確認しておく。 復習：授業において担当教員から得たアドハイスをもとに、分析手順を見直し、それにもとづいたデータ分析を行う。
13	データ分析③	予習：データの分析手順を確認しておく。 復習：授業において担当教員から得たアドハイスをもとに、分析手順を見直し、それにもとづいたデータ分析を行う。
14	データ分析④	予習：データの分析手順を確認しておく。 復習：授業において担当教員から得たアドハイスをもとに、分析手順を見直し、それにもとづいたデータ分析を行う。
15	データ分析⑤	予習：データの分析手順を確認しておく。 復習：授業において担当教員から得たアドハイスをもとに、分析手順を見直し、それにもとづいたデータ分析を行う。
16	データ分析⑥	予習：データの分析手順を確認しておく。 復習：授業において担当教員から得たアドハイスをもとに、分析手順を見直し、それにもとづいたデータ分析を行う。
17	データ分析⑦	予習：データの分析手順を確認しておく。 復習：授業において担当教員から得たアドハイスをもとに、分析手順を見直し、それにもとづいたデータ分析を行う。
18	データ分析⑧	予習：データの分析手順を確認しておく。 復習：授業において担当教員から得たアドハイスをもとに、分析手順を見直し、それにもとづいたデータ分析を行う。
19	データの解釈と論文作成①	予習：データの分析結果の解釈を考え、研究ノートに記載しておく。 復習：授業における討論にもとづいて論文を作成する。
20	データの解釈と論文作成②	予習：データの分析結果の解釈を考え、研究ノートに記載しておく。 復習：授業における討論にもとづいて論文を作成する。
21	データの解釈と論文作成③	予習：データの分析結果の解釈を考え、研究ノートに記載しておく。 復習：授業における討論にもとづいて論文を作成する。
22	データの解釈と論文作成④	予習：データの分析結果の解釈を考え、研究ノートに記載しておく。 復習：授業における討論にもとづいて論文を作成する。
23	データの解釈と論文作成⑤	予習：データの分析結果の解釈を考え、研究ノートに記載しておく。

		復習：授業における討論にもとづいて論文を作成する。 予習：データの分析結果の解釈を考え、研究ノートに記載しておく。 復習：授業における討論にもとづいて論文を作成する。	
24	データの解釈と論文作成⑥	予習：データの分析結果の解釈を考え、研究ノートに記載しておく。 復習：授業における討論にもとづいて論文を作成する。	
25	データの解釈と論文作成⑦	予習：データの分析結果の解釈を考え、研究ノートに記載しておく。 復習：授業における討論にもとづいて論文を作成する。	
26	データの解釈と論文作成⑧	予習：データの分析結果の解釈を考え、研究ノートに記載しておく。 復習：授業における討論にもとづいて論文を作成する。	
27	研究プレゼンテーションの準備①	予習：研究全般にわたるプレゼンテーションのスライドを作成しておく。 復習：授業での討論にもとづいて、スライドを修正する。	
28	研究プレゼンテーションの準備②	予習：研究全般にわたるプレゼンテーションのスライドを作成しておく。 復習：授業での討論にもとづいて、スライドを修正する。	
29	研究プレゼンテーションの準備③	予習：研究全般にわたるプレゼンテーションのスライドを作成しておく。 復習：授業での討論にもとづいて、スライドを修正する。	
30	研究プレゼンテーションの実施	予習：プレゼンテーションの練習 復習：質疑応答の内容にもとづいて論文に必要な修正を行う。	割合 100%
成績評価方法と基準			
最終報告会での発表、卒業論文抄録を評価対象とする 4/5以上の出席が必要			

卒業研究Ⅱ(理学);角田 (Graduation Research II)			
授業科目名	角田 異登	担当教員	角田 異登
主担当教員	角田 異登	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目
科目ナンバリング	SS502	科目区分	DP①④
配当年次	4	開講学期	前期 後期(月曜1限) 後期(月曜1限)
授業形態	演習	単位数	2
授業概要	必修・選択 必修		
到達目標	研究指導教員の下で研究を進め、学習成果として、卒業論文を作成する。		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	<p>1. 研究倫理について理解することができる。</p> <p>2. 研究計画に基づき、研究をすすめることができる。</p> <p>3. 収集したデータを解析、解釈し、論理的解釈にもとづき論文執筆ができる。</p> <p>4. 研究結果と解釈についてプレゼンテーションとディスカッションができる。</p>		
指導教員とよく話し合っ研究活動を進めること。			
教科書			
特になし			
参考書			
適宜必要な文献を採ること			
研究室/オフィスアワー			
木曜日			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	本実験①	計画を立て、実施する。	
2	本実験②	計画を立て、実施する。	
3	本実験③	計画を立て、実施する。	
4	本実験④	計画を立て、実施する。	
5	本実験⑤	計画を立て、実施する。	
6	データの見直し①	必要に応じて計画を修正する	
7	データの見直し②	計画を立て、実施する。	
8	本実験⑥	計画を立て、実施する。	
9	本実験⑦	計画を立て、実施する。	
10	本実験⑧	計画を立て、実施する。	
11	本実験⑨	計画を立て、実施する。	
12	本実験⑩	計画を立て、実施する。	
13	統計解析①	自身の研究に必要な統計手法を選択する	
14	統計解析②	自身の研究に必要な統計手法を理解し、解析を行う	
15	統計解析③	自身の研究に必要な統計解析を実行し、結果の解釈を行う	
16	論文作成①	適宜関連領域の研究を review する	

17	論文作成②	適宜関連領域の研究を review する	
18	論文作成③	適宜関連領域の研究を review する	
19	論文作成④	適宜関連領域の研究を review する	
20	論文作成⑤	適宜関連領域の研究を review する	
21	論文作成⑥	適宜関連領域の研究を review する	
22	論文作成⑦	適宜関連領域の研究を review する	
23	論文作成⑧	適宜関連領域の研究を review する	
24	論文作成⑨	適宜関連領域の研究を review する	
25	論文作成⑩	適宜関連領域の研究を review する	
26	研究発表①	プレゼンテーションの準備を行う	
27	研究発表②	プレゼンテーションの準備を行う	
28	研究発表③	プレゼンテーションの準備を行う	
29	研究報告会①	プレゼンテーションの準備を行う	
30	研究報告会②	プレゼンテーションの準備を行う	
成績評価方法と基準			割合
1. 卒業論文抄録			1. 40%
2. 最終報告会での発表			2. 40%
3. セミナーでのディスカッション			3. 20%
4/5 以上の出席が必要			

授業科目名	卒業研究Ⅱ(理学)・木内 (Graduation Research II)		
主担当教員	木内 隆裕	担当教員	木内 隆裕
	SS02	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目
科目ナンバリング	SS02	科目区分	DP①④
配当年次	4	開講学期	前期 後期(月曜1限)
授業形態	演習	単位数	2 必修・選択 必修

授業概要
研究指導教員の下で研究を進め、学習成果として、卒業論文を作成する。
ヒトを対象とした実験研究(主に神経生理学研究、あるいは心理生理学研究)で得られたデータを統計学的に解析し、その結果を丁寧に洞察しながら論文にまとめ、その目標とする。その目標達成のため、各自の進捗状況に合わせて、ラボのメンバーでデータ検討を重ねる(ブレゼンテーションを含む)。

- 到達目標
1. 研究倫理について理解することができる。
 2. 研究計画に基づき、研究をすすめることができる。
 3. 収集したデータを解析、解釈し、論理的解釈にもとづき論文執筆ができる。
 4. 研究結果と解釈についてプレゼンテーションとディスカッションができる。
- 履修上の注意(学生へのメッセージ)
- ・指導教員への報告、連絡、相談を怠らないこと。
 - ・実験補助には積極的に参加し、互いに助け合うこと。
 - ・プレゼンテーションを行う場合は、自分で事前に資料を準備すること。
 - ・実験機器は丁寧に扱うこと。

教科書

- 1) 市橋則明編、運動療法学、障害別アプローチの理論と実際、第2版、文光堂、2014。
- 参考書
- 1) 木塚明博、木重徹、増田正、他(著)、表面筋電図、第1版、東京電機大学出版局、2006。
 - 2) 栢森良二(翻訳)、筋電図のための解剖ガイド、四肢、体幹、第3版、西村書店、1997。
 - 3) 神田善伸(著)、フリー統計ソフトEZR(Easy R)で誰でも簡単統計解析、第1版、南江堂、2014。
 - 4) 対馬栄輝、木村雅彦(編)、リハビリテーション統計学、第1版、中山書店、2015。(15レクチャーシリーズ)。

研究室/オフィスアワー

随時(ただし、授業及び会議の時間以外)

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	研究計画に基づく実験データの取得	・実験準備は自発的に行うこと。 ・必ず実験記録をつけること。	
2	研究計画に基づく実験データの取得	・実験準備は自発的に行うこと。 ・必ず実験記録をつけること。	
3	研究計画に基づく実験データの取得	・実験準備は自発的に行うこと。 ・必ず実験記録をつけること。	
4	研究計画に基づく実験データの取得	・実験準備は自発的に行うこと。 ・必ず実験記録をつけること。	
5	研究計画に基づく実験データの取得	・実験準備は自発的に行うこと。 ・必ず実験記録をつけること。	
6	研究計画に基づく実験データの取得	・実験準備は自発的に行うこと。 ・必ず実験記録をつけること。	
7	研究計画に基づく実験データの取得	・実験準備は自発的に行うこと。 ・必ず実験記録をつけること。	
8	研究計画に基づく実験データの取得	・実験準備は自発的に行うこと。 ・必ず実験記録をつけること。	
9	研究計画に基づく実験データの取得	・実験準備は自発的に行うこと。 ・必ず実験記録をつけること。	
10	研究計画に基づく実験データの取得	・実験準備は自発的に行うこと。 ・必ず実験記録をつけること。	
11	研究計画に基づく実験データの解析	・解析にはマイPCからラボPCを用いること。 ・必ず解析記録をつけること。	
12	研究計画に基づく実験データの解析	・解析にはマイPCからラボPCを用いること。 ・必ず解析記録をつけること。	

13	研究計画に基づく実験データの解析	・解析にはマイPCからラボPCを用いること。 ・必ず解析記録をつけること。	
14	研究計画に基づく実験データの解析	・解析にはマイPCからラボPCを用いること。 ・必ず解析記録をつけること。	
15	研究計画に基づく実験データの解析	・解析にはマイPCからラボPCを用いること。 ・必ず解析記録をつけること。	
16	研究計画に基づく実験データの解析	・解析にはマイPCからラボPCを用いること。 ・必ず解析記録をつけること。	
17	研究計画に基づく実験データの解析	・解析にはマイPCからラボPCを用いること。 ・必ず解析記録をつけること。	
18	研究計画に基づく実験データの解析	・解析にはマイPCからラボPCを用いること。 ・必ず解析記録をつけること。	
19	研究計画に基づく実験データの解析	・解析にはマイPCからラボPCを用いること。 ・必ず解析記録をつけること。	
20	研究計画に基づく実験データの解析	・解析にはマイPCからラボPCを用いること。 ・必ず解析記録をつけること。	
21	卒業論文及び抄録の作成 (場合によっては、実験データの再解析)	・完成度が低い段階から積極的に添削を受けに来ること。	
22	卒業論文及び抄録の作成 (場合によっては、実験データの再解析)	・完成度が低い段階から積極的に添削を受けに来ること。	
23	卒業論文及び抄録の作成 (場合によっては、実験データの再解析)	・完成度が低い段階から積極的に添削を受けに来ること。	
24	卒業論文及び抄録の作成 (場合によっては、実験データの再解析)	・完成度が低い段階から積極的に添削を受けに来ること。	
25	卒業論文及び抄録の作成 (場合によっては、実験データの再解析)	・完成度が低い段階から積極的に添削を受けに来ること。	
26	卒業論文及び抄録の作成	・細部まで目を通しながら丁寧に修正を行うこと。	
27	卒業論文及び抄録の作成	・細部まで目を通しながら丁寧に修正を行うこと。	
28	卒業論文及び抄録の作成	・細部まで目を通しながら丁寧に修正を行うこと。	
29	卒業論文及び抄録の作成	・細部まで目を通しながら丁寧に修正を行うこと。	
30	卒業論文及び抄録の作成	・細部まで目を通しながら丁寧に修正を行うこと。	
成績評価方法と基準			
最終報告会での発表、卒業論文抄録を評価対象とする。 4/5以上の出席を必要とする。			
			割合
			研究計画書 中間報告会

授業科目名	卒業研究Ⅱ(理学):工藤 (Graduation Research II)		
主担当教員	工藤 慎太郎	担当教員	工藤 慎太郎
科目ナンバリング	SS02	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目 DP①④
配当年次	4	開講学期	前期 後期(月曜1限)、 後期(月曜1限)
授業形態	演習	単位数	2 必修・選択 必修
授業概要			
研究指導教員の下で研究を進め、学習成果として、卒業論文を作成する。			
運動器生理学療法、スポーツ理学療法の臨床研究、基礎研究を行います。三次元動作解析、超音波エコーを用いた運動解析を行います。運動器理学療法やスポーツ理学療法に興味のある学生が履修することを望みます。			
到達目標			
1. 研究倫理について理解することができる。			
2. 研究計画に基づき、研究をすすめることができる。			
3. 収集したデータを解析、解釈し、論理的解釈にもとづき論文執筆ができる。			
4. 研究結果と解釈についてプレゼンテーションとディスカッションができる。			
履修上の注意(学生へのメッセージ)			
指導教員とよく話し合って研究活動を進めること。			
研究成果の外部への公開(学会発表)を積極的に進めましょう。			
教科書			
特になし、必要資料は指導教員から適宜配布します。			
参考書			
特になし、必要なものは適宜、指導教員から配布します。			
研究室/オフィスアワー			
個別にアポイントメントを取って応じます。			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	追加実験	計画を立て、実施する。	
2	追加実験		
3	追加実験		
4	追加実験		
5	追加実験		
6	追加実験		
7	追加実験まとめ		
8	追加実験まとめ		
9	卒業論文作成		
10	卒業論文作成		
11	卒業論文作成		
12	プレゼンテーション資料作成		
13	プレゼンテーション資料作成		
14	プレゼンテーション資料作成		

15	プレゼンテーション資料作成	
16	プレゼンテーション資料作成	
17	プレゼンテーション練習	
18	プレゼンテーション練習	
19	プレゼンテーション練習	
20	プレゼンテーション練習	
21	卒業研究発表予演	
22	追加データ分析	
23	追加データ分析	
24	追加データ分析	
25	追加データ分析	
26	卒業研究発表予演	
27	卒業研究発表会	
28	卒業論文修正	
29	卒業論文修正	
30	卒業論文完成	
成績評価方法と基準		
最終報告会での発表、卒業論文抄録を評価対象とする 4/5以上の出席を必要とする。		
割合 卒業論文 100%		

卒業研究Ⅱ(理学) 杉本 (Graduation Research II)			
授業科目名	杉本 主	担当教員	杉本 主
主担当教員	SS502	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目
科目ナンバリング	4	開講学期	前期(月曜1限)、 後期(月曜1限)
配当年次	2	単位数	必修・選択
授業形態	演習		必修・選択
授業概要	研究指導教員の下で研究テーマを決め、先行研究レビュー、研究計画作成を行う。 学習成果として、研究計画を中間発表会で報告する。 理学療法士の分野の中でも特に、「神経発達症児への運動介入の効果に関する研究」「患者の知覚・認知領域に関する研究」「身体活動時にヒトがどこを視ているのかに関する研究」「生体心理学的現象に基づいた運動療法に関する研究」「患者の知覚・認知領域に関する研究」について、理学療法士の評価技術や運動療法の必要性や効果について研究を行う。具体的には、関連分野の基本文献ならびに各自(各グループ)の研究テーマに即した論文を精読し、各自またはグループ単位で卒業研究Ⅰに向けた予備的研究を実施する。卒業研究Ⅰと卒業研究Ⅱを通じた最終的な成果物として、各自(各グループ)の研究テーマについての卒業論文と発表を行ってもらう。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究論理について理解することができる。 2. 研究計画に基づき、研究をすすめることができる。 3. 収集したデータを解析、解釈し、論理的解釈にもとづき論文執筆ができる。 4. 研究結果と解釈についてプレゼンテーションとディスカッションができる。 		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	原目的にゼミを週1回のペースで中根ゼミ、松尾ゼミと合同で行う。定められたゼミ時間以外でも事前事後学習に積極的に取り組み、何事も楽しむこと。		
教科書	学生主体のゼミではあるが、各学生の状況に合わせて、担当教員と報告・連絡・相談をしっかりと行いながら進めて行く。		
特に定めがない。			
参考書	小笠原 善康;新版 大学生のためのレポート・論文術, 講談社現代新書, 2009 戸田山和久;論文の教室 レポートから卒論まで, NHKブックス, 2010		
研究室/オフィスアワー	研究室/オフィスアワー		
木曜日:4-5 限目			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	オリエンテーション/卒業研究Ⅱについて詳細を説明する。	事前学習として、授業において紹介する書籍や資料の事前読了、先行研究の調査と要約を求める場合がある。 事後学習として、計画書の作成、データの取りまとめ、プレゼンテーション資料の作成を求める場合がある。	
2	研究構想の紹介①/2-3名ずつ、各自の研究計画を発表する。		
3	研究構想の紹介②/2-3名ずつ、各自の研究計画を発表する。		
4	研究構想の紹介③/2-3名ずつ、各自の研究計画を発表する。		
5	研究計画の確認①/担当教員と研究計画について最終確認を行う。		
6	研究計画の確認②/担当教員と研究計画について最終確認を行う。		
7	卒業研究の実験①		
8	卒業研究の実験②		
9	卒業研究の実験③		
10	卒業研究の実験④		

11	卒業研究の実験データの確認①		
12	卒業研究の実験データの確認②		
13	卒業研究の実験データの分析方針の確認①		
14	卒業研究の実験データの分析方法の確認②		
15	発表会/進捗状況の発表を行う。		
16	オリエンテーション/論文執筆方法について再度、説明する。		
17	卒業研究の実験データの分析①		
18	卒業研究の実験データの分析②		
19	卒業論文の構想の検討①/2-3名ずつ、各自の卒業論文の構想について発表を行う。		
20	卒業論文の構想の検討②/2-3名ずつ、各自の卒業論文の構想について発表を行う。		
21	卒業論文の構想の検討③/2-3名ずつ、各自の卒業論文の構想について発表を行う。		
22	卒業論文の執筆①/担当教員と相談をしながら執筆する。		
23	卒業論文の執筆②/担当教員と相談をしながら執筆する。		
24	卒業論文の執筆③/担当教員と相談をしながら執筆する。		
25	卒業論文の執筆④/担当教員と相談をしながら執筆する。		
26	発表会/進捗状況の発表を行う。		
27	卒業論文の執筆⑤/担当教員と相談をしながら執筆する。		
28	卒業論文のまとめと最終報告会の準備①		
29	最終報告会の準備②		
30	最終報告会		
成績評価方法と基準			
①最終報告会での発表、卒業論文抄録を評価対象とする 4/5以上の出席が必要			
			割合
			①100%

卒業研究Ⅱ(理学)：金尾 (Graduation Research II)			
授業科目名	卒業研究Ⅱ(理学)：金尾	担当教員	金尾 顕郎
主担当教員	金尾 顕郎	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目
科目ナンバリング	SS02	科目区分	DP①④
配当年次	4	開講学期	前期(月曜1限)、 後期(月曜1限)
授業形態	演習	単位数	2
授業概要	必修・選択		
研究指導教員の下で研究を進め、学習成果として、卒業論文を作成する。			
到達目標			
1. 研究倫理について理解することができる。			
2. 研究計画に基づき、研究をすすめることができる。			
3. 収集したデータを解析、解釈し、論理的解釈にもとづき論文執筆ができる。			
4. 研究結果と解釈についてプレゼンテーションとディスカッションができる。			
履修上の注意(学生へのメッセージ)			
指導教員とよく話し合っ研究活動を進めること。			
計画的に進めること。			
教科書			
特に定めぬ。			
参考書			
特に定めぬ。			
研究室/オフィスアワー			
水曜日の午前			
研究室に在室時			
事前の連絡が必要			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	講義① オリエンテーション	計画を立て、研究を進める準備と整理	
2	講義②	計画を立て、研究を進める準備と整理	
3	本実験①	事前準備と事後の整理を行い、計画的に進める	
4	本実験②	事前準備と事後の整理を行い、計画的に進める	
5	本実験③	事前準備と事後の整理を行い、計画的に進める	
6	本実験④	事前準備と事後の整理を行い、計画的に進める	
7	本実験⑤	事前準備と事後の整理を行い、計画的に進める	
8	本実験⑥	事前準備と事後の整理を行い、計画的に進める	
9	本実験⑦	事前準備と事後の整理を行い、計画的に進める	
10	本実験⑧	事前準備と事後の整理を行い、計画的に進める	
11	本実験⑨	事前準備と事後の整理を行い、計画的に進める	
12	本実験⑩	事前準備と事後の整理を行い、計画的に進める	
13	本実験⑪	事前準備と事後の整理を行い、計画的に進める	
14	本実験⑫	事前準備と事後の整理を行い、計画的に進める	
15	実験結果の報告	事前準備と事後の整理を行い、計画的に進める	

16	実験の見直し①	事前準備と事後の整理を行い、計画的に進める	
17	実験の見直し②	事前準備と事後の整理を行い、計画的に進める	
18	論文の作成①	事前準備と事後の整理を行い、計画的に進める	
19	論文の作成②	事前準備と事後の整理を行い、計画的に進める	
20	論文の作成③	事前準備と事後の整理を行い、計画的に進める	
21	論文の作成④	事前準備と事後の整理を行い、計画的に進める	
22	論文の作成⑤	事前準備と事後の整理を行い、計画的に進める	
23	論文の作成⑥	事前準備と事後の整理を行い、計画的に進める	
24	論文の作成⑦	事前準備と事後の整理を行い、計画的に進める	
25	論文の作成⑧	事前準備と事後の整理を行い、計画的に進める	
26	論文の作成⑩	事前準備と事後の整理を行い、計画的に進める	
27	論文の報告会	事前準備と事後の整理を行い、計画的に進める	
28	論文の修正①	事前準備と事後の整理を行い、計画的に進める	
29	論文の修正②	事前準備と事後の整理を行い、計画的に進める	
30	論文最終報告	最終報告会の準備とまとめを行う	
成績評価方法と基準			
4/5以上の出席が必要			
最終報告会での発表、卒業論文抄録を評価対象とする			
1. 課題への取り組み姿勢			
2. 最終報告会での発表と卒業論文抄録			
			割合
			1. 50%
			2. 50%

授業科目名	臨床評価実習(理学) (Clinical Evaluation Training)			
主担当教員	中根 征也	担当教員	中根 征也、河村 廣幸、金尾 顕郎、三木屋 良輔、前田 薫、角田 晃啓、澤田 優子、仲本 正美、工藤 慎太郎、杉本 圭、松尾 浩希、林 真太郎、木内 隆裕	
科目ナンバリング	SSS04	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目 DP①③④
配当年次	3	開講学期	前期	曜日・時間
授業形態	実習	単位数	3	必修・選択
授業概要	2年次までに学修した知識と技術をもとに、対象者への検査・測定の実施を通して、理学療法評価の実践能力を向上させることを目的に行われる3週間の実習である。			
到達目標	<p>対症と検査・測定の実戦を通して、対象者の生活機能を理解することを目標とする。これを実現するための行動目標を以下のとおりとする。</p> <p>①対象者への問診を通して、対象者の主訴や home を理解できる。 ②病歴の症候学を理解し、必要な検査・測定項目を想起できる。 ③実習指導者の指導のもと、安全に配慮した理学療法介入を経験する。 ④問診内容ならびに、検査・測定結果について考察する。</p> <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>1. 実習態度には十分に注意する。(言葉遣い、素行、時間・期限の厳守など医療人・学生としての規律の遵守) 2. 履修要件として、リハビリテーション論、臨床理学療法実習、理学療法評価学Ⅰ・理学療法評価学Ⅱに該当する科目のうち臨床理学療法評価学Ⅱを除いた科目の単位の取得しておくこと。 3. 臨床実習のため、原則欠席は認めない。</p>			
教科書				
適宜、実習に必要なことを各自で調べる。				
参考書				
適宜、実習に必要なことを各自で調べる。				
研究室/オフィスアワー				
各実習施設担当教員のオフィスアワーに準ずる。				
授業展開及び授業計画表				
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当	
1	病院・施設における理学療法部門の位置づけおよび現場における理学療法士の業務全般・他職種との役割分担やチーム活動を学ぶ。	日々の学習内容をディリリーノートに整理する。		
2	患者(患児)と直接かかわり、医療人としての医療倫理に基づき基本的なマナーを身につける。	日々の学習内容をディリリーノートに整理する。		
3	患者情報の収集の経験。	日々の学習内容をディリリーノートに整理する。		
4	患者の接遇の実際を体験。	日々の学習内容をディリリーノートに整理する。		
5	検査・測定・理学療法評価の経験。	検査・測定の実績を簡潔に評価レポートにまとめる。可能であればレジュメを作成し、口頭報告できるところが望ましい。		
成績評価方法と基準	割合			
①実習評価	①70%			
②実習記録と終了後の報告会	②30%			
③総合評価にて60点以上の評価に値する内容で単位認定する。				

授業科目名	臨床総合実習Ⅰ(理学) (Comprehensive Clinical Training I)			
主担当教員	中根 征也	担当教員	中根 征也、河村 廣幸、金尾 顕郎、三木屋 良輔、前田 薫、角田 晃啓、澤田 優子、仲本 正美、工藤 慎太郎、杉本 圭、松尾 浩希、林 真太郎、木内 隆裕	
科目ナンバリング	SSS05	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目 DP①③④
配当年次	4	開講学期	前期	曜日・時間
授業形態	実習	単位数	8	必修・選択
授業概要	3年次までに履修した理学療法全般にわたる知識と技術、評価実習で習得した理学療法評価の実践能力をもとに、臨床実習指導者の指導のもと、自己で計画した理学療法プログラムの実践を経験するための8週間の実習である。			
到達目標	<p>対症と検査・測定の実戦を通して、理学療法プログラムを立案し、これを実施することを目標とする。これを実現するための行動目標を以下のとおりとする。</p> <p>①理学療法評価の経験を通して、対象者の生活機能を想起できる。 ②対象者の生活機能を、さまざまな理学療法プログラムを想起できる。 ③実習指導者の指導の下、安全に配慮した理学療法介入を経験する。 ④理学療法介入を通して、対象者が日々変化していることを認識する。 ⑤対象者の変化を通して、理学療法評価の内容を再度検証する。</p> <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>1. 実習態度には十分に注意する。(言葉遣い、素行、時間・期限の厳守など医療人・学生としての規律の遵守) 2. 履修要件として、臨床理学療法評価学Ⅰ、臨床理学療法実習、理学療法評価学Ⅰ・理学療法評価学Ⅱに該当する科目のうち、臨床理学療法評価学Ⅰ、理学療法特論Ⅱを除く単位の取得しておくこと。 3. 臨床実習のため、原則欠席は認めない。</p>			
教科書				
適宜、実習に必要なことを各自で調べる。				
参考書				
適宜、実習に必要なことを各自で調べる。				
研究室/オフィスアワー				
各実習施設担当教員のオフィスアワーに準ずる。				
授業展開及び授業計画表				
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当	
1	病院・施設における理学療法部門の位置づけおよび現場における理学療法士の業務全般・他職種との役割分担やチーム活動を学ぶ。	日々の学習内容をディリリーノートに整理する。		
2	患者(患児)と直接かかわり、医療人としての医療倫理に基づき基本的なマナーを身につける。	日々の学習内容をディリリーノートに整理する。		
3	患者情報の収集	日々の学習内容をディリリーノートに整理する。		
4	患者の接遇の実際	日々の学習内容をディリリーノートに整理する。		
5	検査・測定・評価	検査・測定の実績を簡潔に評価レポートにまとめる。可能であればレジュメを作成し、口頭報告できるところが望ましい。		
6	問題点の抽出と訓練プログラムの立案	検査・測定の実績を簡潔に評価レポートにまとめる。可能であればレジュメを作成し、口頭報告できるところが望ましい。		
7	訓練プログラムの実施	訓練プログラムの実施		

8	再評価・考察	実施した訓練プログラムの効果について検証する。できる限り客観的に他者に対して説明しうる内容であることが望ましい。	割合 ①70% ②30%
成績評価方法と基準			
①実習評価			
②実習記録と終了後の報告会の総合評価にて60点以上の評価に達する内容で単位認定する。			

授業科目名		臨床総合実習Ⅱ(理学) (Comprehensive Clinical Training II)		
担当教員	中根 征也	担当教員	中根 征也、河村 廣幸、金尾 顕郎、三木屋 良輔、前田 薫、角田 晃啓、澤田 優子、仲本 正美、工藤 慎太郎、杉本 圭、松尾 浩希、林 真太郎、木内 隆裕	
科目ナンバリング	SS506	科目区分	専門科目	DF①③④
配当年次	4	開講学期	前期	前期(実習)、後期(実習)
授業形態	実習	単位数	8	必修・選択
授業概要 3 年次までに履修した理学療法全般にわたる知識と技術、評価実習で習得した理学療法評価の実践能力をもとに、臨床実習指導者の指導のもと、自己で計画した理学療法プログラムの実践を経験するための8週間の実習である。				
到達目標 対象者の生活機能の理解を通じて、理学療法プログラムを立案し、これを実施することを目標とする。これを表現するための行動目標を以下のとおりとする。 ①理学療法評価の経験を通じて、対象者の生活機能を想起できる。 ②対象者の生活機能をふまえた理学療法プログラムを想起できる。 ③実習指導者の指導の下、安全に配慮した理学療法介入を経験する。 ④理学療法介入を通じて、対象者が日々変化していることを認識する。 ⑤対象者の変化を通じて、理学療法評価の内容を再度検証する。				
履修上の注意(学生へのメッセージ) 1. 実習態度には十分に注意する。(言葉遣い、素行、時間・期限の厳守など医療人・学生としての規律の遵守) 2. 履修要件として、臨床理学療法評価学Ⅲ、臨床評価実習、理学療法特論Ⅰ、理学療法特論Ⅱを除く単位を取得しておくこと。 3. 臨床実習のため、原則欠席は認めない。				
教科書				
適宜、実習に必要なことを各自で調べること。				
参考書				
適宜、実習に必要なことを各自で調べること。				
研究室／オフィスアワー				
各実習施設担当教員のオフィスアワーに準ずる。				
授業展開及び授業計画表				
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当	
1	病院・施設における理学療法部門の位置づけおよび現場における理学療法士の業務全般・他職種との役割分担やチーム活動を学ぶ	日々の学習内容をデیلیーノートに整理する。		
2	患者(患児)と直接かかわり、医療人としての医療倫理に基づく基本的マナーを身につける	日々の学習内容をデیلیーノートに整理する。		
3	患者情報の収集	日々の学習内容をデیلیーノートに整理する。		
4	患者の接遇の実践	日々の学習内容をデیلیーノートに整理する。		
5	検査・測定・評価	検査・測定の記録を簡潔に評価レポートにまとめる。可能であればレジュメを作成し、口頭報告できるところが望ましい。		
6	問題点の抽出と訓練プログラムの立案	検査・測定の記録を簡潔に評価レポートにまとめる。可能であればレジュメを作成し、口頭報告できるところが望ましい。		
7	訓練プログラムの実施	訓練プログラムを実施する。実施においてはこれ		

8	再評価・考察	<p>までの学習内容を復習し、最大限の注意を払うこと。 実施した訓練プログラムの効果について検証する。 できる限り客観的に他者に対して説明しうる内容であることが望ましい。</p>	
成績評価方法と基準			割合
<p>①実習評価 ②実習記録と終了後の報告会の総合評価にて60点以上の評価に達する内容で単位認定する。</p>			<p>①70% ②30%</p>

理学療法学科

(2018 年度以降 入学生カリキュラム)

基礎ゼミナール(理学) (Basic Seminar)			
授業科目名	中根 征也	担当教員	中根 征也、角田 晃啓、阿部 秀高
主担当教員	LA001	科区分	ディプロマポリシー 該当項目 DP②③④
科目ナンバリング	1	開講学期	曜日・時限 火曜 1限
配当年次	演習	単位数	必修・選択 必修
授業形態			
授業概要	<p>第1～3回(角田担当)</p> <p>あらゆる学問において基礎知識(または基礎力)は欠かせないものである。理学療法学では一定の科学的(生物・物理・化学)、数学的知識が必須となる。この講義の第1～3回は、以下のことを目的として行われる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自己(学生)の基本的な科学、数学的知識の現状を正しくとらえる。 上述の知識がなぜ大切なのかを知る。 上記の知識を正しく円滑に用いられるよう練習する。 <p>第4回～15回(阿部、中根担当)</p> <p>本演習では、本学の沿革と教育理念の理解、主体的学習態度の育成、アカデミックスキルの習得を目標とする。また、幅広く明確な職業観を養うために必要な社会人基礎力を理解することも目標とし、さらには、自分や他者と向き合い、刺激しあひ、思考を深め、創造するといふコミュニケーションの本質を理解する。</p> <p>到達目標</p> <p>第1～3回(角田担当)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 学生が自己の基礎学力を正しくとらえる。 2) 学生が基礎学力と理学療法学の関係を述べることができる。 3) 学生が基礎学力の不足分を自主的に補うために行動できるようになる。 <p>第4回～15回(阿部、中根担当)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 自大学理解(森ノ宮医療大学の教育理念が理解できる。) 2) 大学におけるアカデミックスキルを身につけることができる。 3) コミュニケーションスキルが構築できる。 4) 基礎的なポートフォリオ作成能力を身につける。 5) 幅広く明確な職業観を身につける。 6) 社会人基礎 		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	履修中は、積極的に質問や発言を行い、担当教員と十分なコミュニケーションを図ること。		
教科書	授業中は、積極的に質問や発言を行い、担当教員と十分なコミュニケーションを図ること。		
参考文献	<p>第1～3回: 指定しない。必要に応じて資料を配布する。</p> <p>第4回～15回: 指定しない。必要に応じて資料を配布する。</p>		
研究室/オフィスアワー	<p>第1～3回: 指定しない。</p> <p>第4回～15回: 佐藤望編『アカデミック・スキルズ大生のための知的技法入門第2版』慶応義塾大学出版会、2012 松本 茂他『大生のための「読む・書く・プレゼン・ディベート」の方法第2版』玉川大学出版部、2017</p>		
授業展開及び授業計画表	<p>阿部秀高: 4階研究室 / 在室時は随時</p> <p>中根征也: 4階研究室 / 木曜日 4時限目以降(時間は事前に相談することが望ましい)</p> <p>角田晃啓: 4階研究室 / 在室時は随時</p>		

6	アカデミックスキルズ② 資料・文献の活用方法 意旨の述べ方・交流の仕方 討論の作法	予習: 事前に配布する資料を読んでおくこと。 復習: 資料・講義を振り返りまとめる。	阿部
7	アカデミックスキルズ③ 論理的な文章(レポート)の書き方 場に応じた適切な表現方法	予習: 事前に配布する資料を読んでおくこと。 復習: 授業を振り返りまとめる。	阿部
8	ポートフォリオ作成① 社会人とは? 医療福祉関係者、理学療法士の職業理解	予習: 社会人、医療福祉関係者、理学療法士に必要な要素を自分なりに考えておく。 復習: 資料・講義を振り返りまとめる。	中根
9	ポートフォリオ作成② 自分について	予習: 過去の体験、今の自分、未来の自分を考え 復習: 資料・講義を振り返りまとめる。	中根
10	キャリア講座① 社会人基礎力テスト	予習: 社会人基礎力について自分なりにまとめておく。 復習: 資料・講義を振り返りまとめる。	中根
11	社会人基礎力について① 「考え抜く力」、「前に踏み出す力」について	予習: 社会人基礎力について自分なりにまとめておく。 復習: 資料・講義を振り返りまとめる。	中根
12	社会人基礎力について② 「チームで動く力」について	予習: 社会人基礎力について自分なりにまとめておく。 復習: 資料・講義を振り返りまとめる。	中根
13	キャリア講座② 社会人基礎力を基に自分を振り返る	予習: 社会人基礎力について自分なりにまとめておく。 復習: 医療倫理について調べておく。	中根
14	医療倫理	予習: 医療倫理について調べておく。 復習: 資料・講義を振り返りまとめる。	中根
15	感染予防対策 手洗い マスク装着 ガウン装着	予習: 事前に配布する資料を読んでおくこと。 復習: 資料・講義を振り返りまとめる。	中根
成績評価方法と基準			割合
第1～3回(角田担当)			①20%
①第1～3回の小テストの結果			②60%
第6回～14回(阿部、中根担当)			③20%
②レポート課題			
③毎回のコメントシート			
①②③を右記の割合で計算し、60%以上の者を合格とする。			

授業科目名	物理学(理学) (Physics)		
主担当教員	久国 正章	担当教員	久国 正章
科目ナンバリング	LA003	教養科目	ディプロマポリシー 該当項目 DP③
配当年次	1	開講学期	後期 月曜 4 限
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	<p>到達目標</p> <p>物理量・単位 力のつりあい 力のモーメント この原理の人体中での応用 血圧とは 上記の内容を学習していきます。 履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>1. 自然現象を理解するための基本となる科目であることを認識して下さい。 2. 配布された資料を使用し、講義を行います。</p>		
教科書			
プリントを使用します。			
参考書			
ベッドサイトを科学する 平田雅子 著 Gakken			
研究室/オフィスアワー			
非常勤控室 月曜と木曜			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	水の体積と温度の関係、スカラーとベクトル	ベクトルという数学で扱う内容が書かれています が、力を作図するとき必要になりますので、わから なくならぬ教科書を読みおこなってください。	
2	比熱、力の合成	力の合成は、平行四辺形を作る、ということだけ 覚えましょう。	
3	代動量、力の分解	力の分解は、力の合成の逆というだけですが、内 容が難しいので、教科書や小テストを何回も読み なおしましょう。	
4	小テスト①とその解説、ニュートンの運動の法則	自転車や車の運転を考えると、加速度は力に比 例、質量に反比例することがわかります。	
5	作用・反作用の法則、力のモーメント	シーソーの話は簡単ですが、次回以降につなご う。	
6	摩擦係数、第1種のとこ	重い頭を支えているのは誰でしょう？	
7	心臓マッサージ、第2種のとこ	第2種のとこは、人体にはあまりないのです。	
8	質量と重さの違い、第3種のとこ	第3種のとこの利点をおさえます。	
9	力と圧力の違い、腰にかかると	腰への負担を減らすにはどうすべきだったでしょう か？	
10	小テスト②とその解説	第1種～第3種のとこについて復習しておきましょ う。	
11	気圧とは	私たちに1気圧の力が働いています。それを 認識すると、いろいろなことが見えてきます。	
12	入浴の圧力効果	和式風呂と洋式風呂による、人体への影響につ いて確認しましょう。	
13	酸素ポンベ、仕事	酸素ポンベに残る酸素の量の求め方について	

14	浮力	以前、献血のときに使われていた血液比重。その 仕組みについて確認しましょう。	
15	血圧、運動量	体への衝撃は何によらるのでしょうか？	
成績評価方法と基準			割合
①小テスト(計2回)			①30%
②確認テスト			②30%
③定期試験			③40%
小テスト(計2回)と定期試験は必ず受験して下さい。			

授業科目名		生物学(理学) (Biology)	
主担当教員	久国 正章	担当教員	久国 正章
科目ナンバリング	LA002	教養科目	ディプロマポリシー 該当項目 DP③
配当年次	1	開講学期	前期 月曜 2限
授業形態	講義	単位数	2 必修・選択 選択
授業概要 専門科目の理解を深めるための基礎的な生物学を学習する。 具体的には、下記単元を中心に、ヒトのからだについて理解を深める。 【細胞の構造】細胞小器官の種類とその働き 【代謝】代謝・消化・吸収 【個体の恒常性と調節】恒常性の維持・ホルモン 【刺激の受容と反応】刺激・受容・神経系 到達目標 ヒトの生命の仕組みについて、その基本的事項を習得することを目的とする。 好気呼吸の過程を理解する。 恒常性について理解を深める。 体液性免疫と細胞性免疫の違いを説明できる。 履修上の注意(学生へのメッセージ) この講座を通して基礎用語を確認することが出来ます。高校で生物学を学習していない、または不得意科目であった学生はぜひ受講して下さい。 教科書 書籍名: 裸眼でとらえる生物図録 著者名: 鈴木孝仁 監修 出版社名: 教研出版 参考書 カラー図解 アメリカ版 大学生物学の教科書 第1巻 細胞生物学 研究室/オフィスアワー 非常勤控室 月曜と、水曜の午前中 授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	細胞の構造とその働き	細胞の種類はたくさんありますが、細胞の大きさや構造はどう違っているのでしょうか?	
2	細胞の構造とその働き 細胞を構成する物質(炭水化物と脂肪)	私たちの体にはたくさんの細胞がありますが、細胞の基本構造は同じです。その構造について確認しておきましょう。	
3	細胞を構成する物質(タンパク質) 浸透性	ヒトの細胞がどんな物質からできているか確認してみましょう。	
4	選択透過性、動物の組織	能動輸送にはATPが必要ですが、その理由を考えてみてください。	
5	細胞内での代謝、酵素の性質	日常生活でいう「代謝」と生物学で扱う「代謝」は少し異なります。その違いも含めて確認しておきましょう。	
6	酵素の性質	酵素の性質はたくさんありますが、一つ一つ確認してください。	
7	外呼吸と内呼吸	生物学という「呼吸」は内呼吸のことです。	
8	好気呼吸の過程	「クエン酸回路」について簡単に説明します。復習した上で他の教材も読んでみてください。	
9	消化・吸収、恒常性	食べ物を食べると栄養になりますね。その仕組みについて調べてみましょう。	
10	血液の組成、血液の凝固 血管系	血液は体重の何分の一を占めていますか?	
11	心臓と肝臓	肝臓はお酒を分解するのはもちろん、他にもたくさんのお仕事を担っています。	
12	腎臓の構造と働き	私たちは毎日何回もおしっこをします。おしっこの役割は何なのでしょう?	

13	免疫系	病気から守ってくれる白血球の仕事について確認しましょう。	
14	細胞性免疫、アレルギー	免疫反応が生体に不利に働くアレルギー。最近のアレルギーに悩まされる人が増えてきていますが、その基本について学習しましょう。	
15	神経系、脳の構造と働き	脳は不思議な存在です。少し覗いてみましょう。	
成績評価方法と基準			割合
①定期試験100点のうち60点以上で単位認定する。			①100%

授業科目名	化学(理学) (Chemistry)		
主担当教員	安部 辰夫	担当教員	安部 辰夫
科目ナンバリング	LA017	教養科目	ディプロマポリシー 該当項目
配当年次	1	開講学期	前期
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	基礎医学科目に必要な化学的事項を正しく理解できることを念頭に置いている。		
到達目標	生体反応に見られる各種の化学反応を正しく理解し、それらが生体機能に密接に関連することを理解して欲しい。		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	たよまずでに化学を履修しようとも、基礎医学科目で取り上げられる化学はある種生体内の反応に特化しているため、新たに学習が必要があると捉えて欲しい。		
教科書	「ライフサイエンスのための化学」 化学同人		
参考書	「理工系の基礎化学」 化学同人		
研究室/オフィスアワー	研究室/オフィスアワー		
火曜日から金曜日入室	イーストポート4階 研究室 1		

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	原子の構造と周期表	予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
2	電子配置とイオン化	予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
3	化学結合	予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
4	物質の三態	予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
5	化学平衡と反応速度論1	予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
6	化学平衡と反応速度論2	予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
7	酸と塩基の反応	予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
8	酸化と還元反応	予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
9	炭水素化合物1	予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	

10	炭水素化合物2	予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
11	糖質の構造と働き	予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
12	脂質の構造と働き	予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
13	タンパク質・アミノ酸の構造と働き	予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
14	核酸の構造と働き	予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
15	化学全体のまとめと振り返り	予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
成績評価方法と基準			割合
①期末試験			①100%

授業科目名			情報処理(理学) (Information Processing)		
主担当教員		河村 廣幸	担当教員		河村 廣幸、角田 昇啓
科目ナンバリング	LA004	科目区分	ディプロマポリシー 該当項目	DP③④	
配当年次	1	開講学期	曜日・時限	金曜 1限	
授業形態	演習	単位数	必修・選択	必修	
<p>授業概要</p> <p>医学教育においては膨大な情報が存在する。その情報を効率的に収集・整理・分析・発表するために必要な能力を育成する。そのために、コンピュータやデジタルカメラなどデジタル機器の基礎知識と基本操作を習得する。コンピュータやインターネット利用における情報倫理と情報保護を理解する。医療情報の記録・整理の基本を習得する。ワープロソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの基本的な操作方法を習得し、資料を作成できる。</p> <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p># USBメモリを必ず持参すること(授業中に作成したファイルを保管する為)。 # PC演習室での飲食は厳禁とする(机の上に置くのも禁止)。 ## できるだけ、自身が所有するノートパソコン(WindowあるいはMac)を持参し、修得できるようにする。 ### 重要事項は各自がノートに記載すること。 ### 下記授業計画は予定であり、学生の修得状況により前後することがあるので留意すること。</p>					
<p>到達目標</p> <p>コンピュータやデジタルカメラなどデジタル機器の基礎知識と基本操作を習得する。 コンピュータやインターネット利用における情報倫理と情報保護を理解する。 医療情報の記録・整理の基本を習得する。 ワープロソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの基本的な操作方法を習得し、資料を作成できる。</p>					
<p>教科書</p> <p>[改訂第3版 ver.2] 基礎からわかる情報リテラシー：技術評論社</p> <p>参考書</p> <p>特になし(適宜、授業資料を配布)</p> <p>研究室/オフィスアワー</p> <p>河村：在室時は随時 角田：在室時は随時</p>					
<p>授業展開及び授業計画表</p>					
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当		
1	コンピュータの基礎知識(用語:Windows / Mac) gmail アカウントを作る	予習：教科書 第1章を確認する。 復習：授業内容と教科書第1章を照らし合わせる。	河村・角田		
2	情報収集、記録、整理法 タッチタイピングの基本	予習：教科書の第9章を確認する。 拡張子について理解する 課題：タッチタイピングの基本技術を身に付ける	角田・河村		
3	ワープロソフトの使い方①	予習：教科書 第2章を確認する。 課題：授業にて作成した word ファイルを提出する。	角田・河村		
4	ワープロソフトの使い方②	予習：教科書 第2章を復習する。 課題：授業にて作成した word ファイルを提出する。	角田・河村		
5	表計算ソフトの使い方①	予習：教科書第6章を確認する。 復習：授業内容と教科書第6章を照らし合わせる。	角田・河村		
6	表計算ソフトの使い方②	予習：教科書第6章を復習する。 復習：授業にて作成した excel ファイルを提出する。	角田・河村		
7	プレゼンテーションソフトの使い方①	予習：教科書の第7章を確認する。 復習：授業内容と教科書第7章を照らし合わせる。	角田・河村		
8	プレゼンテーションソフトの使い方② PowerPointでの自己紹介	予習：教科書第7章を復習する。 課題：プレゼン資料を作成・提出する。	角田・河村		
9	画像作成ソフトの使い方①	予習：教科書第4章を確認する。 復習：作図機能を利用し、人型(スタティックピクチャ	河村・角田		

		一)を自由に作画できるようにする 課題：授業にて作成した bmp ファイルを提出する。 予習：PowerPointの作画機能を確認しておく 課題：指定ドロー画像の作成・提出 予習：家にあるデジタルカメラ(スマホカメラでも可)の説明書を読む 課題：デジタルカメラで動作記録する。指定画像の提出 予習：家にあるビデオカメラがあるいはスマホのビデオ機能の仕様にについて調べる 復習：患者記録のための撮影方法についてまとめる	河村・角田
10	画像作成ソフトの使い方②		河村・角田
11	デジタルカメラの使い方		河村・角田
12	デジタルビデオの使い方		河村・角田
13	スマホ・タブレットの使い方	課題：自分の所有しているスマホ・タブレットの説明書を読んでおく。 予習：教科書第11・12章を確認する。 復習：自分が使用しているスマホや PC の対策が十分か確認する	河村・角田
14	個人情報保護		河村・角田
15	総括と振り返り		河村・角田
成績評価方法と基準			
1. 定期試験			
2. 課題			
割合			
1. 70%			
2. 30%			

① 定期試験
② 小テスト

授業科目名 統計学(理学) (Statistics)			
主担当教員	井手口 範男	担当教員	井手口 範男
科目ナンバリング	LA010	教養科目	ディプロマポリシー 該当項目 DP③
配当年次	1	後期	水曜 4 限
授業形態	演習	単位数	2
授業概要	<p>統計学の基礎や概念を学び、実験や調査で得られたデータをどのような統計手法を用いて分析し、どのように解釈すればよいかを理解し、それらを正に実際に自分たちでデータを分析することによって、基礎的な統計処理を身につけることを目指す。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 統計学の基礎を理解する。 2. 推定と検定の考え方を理解し、説明することができる。 3. 量的データに対して適切な分析方法を選択することができる。 <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>毎回の授業のつながり方が非常に重要で、また、毎回小テストを実施しますので、欠席のないように留意すること</p>		
教科書	向後千春・富永敦子、ファーストブック 統計学がわかる、技術評論社		
参考書			
授業内で適宜紹介する	研究室/オフィスアワー		
授業展開及び授業計画表	E棟4F研究室1/火曜日5時限(空いていければ適宜対応します)		
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	ガイダンス	シラバスを確認して、テキスト「はじめに」を読む(単に読むだけでなく、わからない専門用語等について下調べをしておく、以下同様)	
2	測定値の性質 (尺度水準)	「尺度水準」とは何が調べられる	
3	平均と度数分布・分散と標準偏差	テキスト1章を読む	
4	母集団と標本・区間推定と信頼区間	テキスト2章を読む	
5	相関係数・2変数間の関係	ピアソンの積率相関係数、スピアマンの順位相関係数、ケンダールの順位相関係数について調べる	
6	仮説検定の考え方と帰無仮説	テキスト3-1を読む	
7	観測度数と期待度数	テキスト3-2、3-3を読む	
8	カイ2乗検定	テキスト3-4を読む	
9	被験者ごとの差の平均の信頼区間	テキスト4-1、4-2を読む	
10	対応がないデータによるt検定(ウェルチの方法)	テキスト4-3を読む	
11	対応があるデータによるt検定	テキスト5章を読む	
12	1要因の分散分析-1-	テキスト6-1、6-2を読む	
13	1要因の分散分析-2-	テキスト6-3を読む	
14	2要因の分散分析-1-	テキスト7-1、7-2を読む	
15	2要因の分散分析-2-	テキスト7-3を読む	
成績評価方法と基準			割合

授業科目名		心理学(理学) (Psychology)	
主担当教員	海蔵寺 陽子	担当教員	海蔵寺 陽子
科目ナンバリング	LA005	教養科目	ディプロマポリシー 該当項目
配当年次	1	開講学期	前期
授業形態	講義	単位数	2
<p>授業概要 心理学は、人の心の仕組みや働きがどのようなになっているかを研究する学問です。授業では人の性格、知覚や感情のほか、人の成長過程や人間関係の心理などについても学習します。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 人間の一般的心理、基本的心理、行動を理解することができる 身近な経験について心理学的に説明することができる <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <ol style="list-style-type: none"> 身近な経験を心理学的に考えてみる 疑問点を大切にし、解決に向けて行動すること <p>教科書</p> <p>イラストレート心理学入門 齋藤勇 著 誠信書房</p> <p>参考書</p> <p>心理学の基礎 今田寛・宮田洋・賀集寛 共編 培風館</p> <p>研究室/オフィスアワー</p> <p>なし</p>			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	心理学とは	予習：教科書の確認 復習：授業をもとにノート、教科書の確認	
2	知覚と認知1	予習：認知機能について教科書を読んでおく 復習：授業をもとにノート、教科書の確認	
3	知覚と認知2	予習：エトの情報処理システムについて教科書を読んでおく 復習：授業をもとにノート、教科書の確認	
4	感情と情動	予習：情動表出について教科書を読んでおく 復習：授業をもとにノート、教科書の確認	
5	欲求と動機づけ1	予習：生理的欲求、心理的欲求について教科書を読んでおく 復習：授業をもとにノート、教科書の確認	
6	欲求と動機づけ2	予習：達成動機について新聞・テレビ・メディア記事などを一つ調べる 復習：授業をもとにノート、教科書の確認	
7	学習1	予習：条件反射について新聞・テレビ・メディア記事などを一つ調べる 復習：授業をもとにノート、教科書の確認	
8	学習2	予習：学習理論について教科書を読んでおく 復習：授業をもとにノート、教科書の確認	
9	記憶	予習：記憶について教科書を読んでおく 復習：授業をもとにノート、教科書の確認	
10	性格と気質	予習：性格とは何か考える 復習：授業をもとにノート、教科書の確認	
11	臨床心理	予習：心の健康について新聞・テレビ・メディア記事などを一つ調べる 復習：授業をもとにノート、教科書の確認	
12	無意識と深層心理1	予習：無意識について教科書を読んでおく 復習：授業をもとにノート、教科書の確認	
13	無意識と深層心理2	予習：自我防衛機制について教科書を読んでおく 復習：授業をもとにノート、教科書の確認	
14	発達心理	予習：発達段階とその特徴について教科書を読んでおく 復習：授業をもとにノート、教科書の確認	

15		社会心理1	復習：授業をもとにノート、教科書の確認
成績評価方法と基準			予習：自己評価について教科書を読んでおく 復習：授業をもとにノート、教科書の確認
①定期試験			割合
②平常点(レポート、授業態度など)			(1)80% (2)20%

授業科目名	生命倫理学(理学) (Bioethics)		
主担当教員	神田 靖士	担当教員	神田 靖士
科目ナンバリング	LA008	教養科目	タイプDボバリン 該当項目
配当年次	1	開講学期	前期
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	<p>生命をめぐる倫理(道徳・規範)的諸問題をさまざまな視点から考察し、医療領域における今日的かつ具体的問題に対応できる思考能力を養います。生命科学・医学研究の発展は目覚しく、その成果をもとにした先端医療技術はわれわれに希望をもたらすとともに多くの新たな問題を提起しています。本講義では、生命倫理の誕生と展開を概説し、続いでどのように日本に受容されたのかを論じます。特に人権尊重を視野に入れ、最近の生命倫理学上の事例をとり入れつつ論じます。授業は、講義を中心として、VTR、質疑、グループ討論を交えて行います。</p>		

到達目標	<p>生命倫理学の歴史的背景と法律並びに国際比較することにより現在の問題点について理解し、具体的な倫理的問題を包括的な観点から把握することを目標とします。特に最近の医療領域(出生前診断と妊娠中絶、脳死と臓器移植、終末期医療、再生医療、遺伝情報)の取り扱い)において生じた倫理的諸問題を個別に取り上げ、討論を行いながら個々の倫理観を構築することを到達目標とします。</p> <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生命倫理は医療関係を志す者として根底にある倫理的な考え方を学習する科目であるので、自ら疑問及び興味を持ち積極的に講義に臨むことを強く希望します。 2. グループ討論には積極的に参加すること。 3. 出席者は、私語・スマホの使用は厳禁。講義中の私語は授業妨害・他学生への迷惑行為なので遠慮させます。その場合、遅やか退席すること。 4. 最低限の礼儀をわきまえること。
------	---

教科書	
特に指定なし。講義資料を適宜配布します。	
参考書	伏木匡次、櫻 則章、霜田 求『生命倫理と医療倫理』金芳堂 小林圭津子『看護のための生命倫理』ナカニシヤ出版 グレンジャー・ヘンリス『医療倫理Ⅰ・Ⅱ』みすず書房
研究室/オフィスアワー	
在室時は訪問可。 質問がある場合は授業終了時に各自申し出て下さい。また、メールでも随時受付を行います。 メールアドレス:kandas@hirakata.kmu.ac.jp	

授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	生命倫理概論(生命倫理とはどのような学問か)	※前週でグループ討論を行うので、前の週に行った授業内容に関して復習をし、分からない箇所の理解を深めた上でグループ討論に臨むこと。	
2	着床前診断と出生前診断	レポート	
3	着床前診断と出生前診断について討論及び発表	レポート	
4	尊厳死と安楽死	レポート	
5	尊厳死と安楽死について討論及び発表	レポート	
6	臓器移植と脳死	レポート	
7	臓器移植と脳死について討論及び発表	レポート	
8	再生医療とクローン技術	レポート	
9	再生医療とクローン技術について討論及び発表	レポート	
10	インフォームド・コンセント(十分な説明と同意、告知)	レポート	
11	インフォームド・コンセント(十分な説明と同意、告知)における倫理観について討論及び発表	レポート	

12	代理出産における倫理観		
13	代理出産における倫理観について討論及び発表	レポート	
14	動物を対象とした研究における倫理観		
15	動物を対象とした研究における倫理観について討論及び発表	レポート	
成績評価方法と基準			
<p>・定期試験は行わず、平常評価(出席、レポート等)で総合評価する。 ①グループ討論への参加状況(出欠を含む) ②討論後の発表 ③課題レポート</p>			
			割合
			①20%
			②20%
			③60%

授業科目名	哲学(理学) (Philosophy)		
主担当教員	田中 美子	担当教員	田中 美子
科目ナンバリング	LA018	教養科目	ディプロマポリシー 該当項目
配当年次	1	開講学期	後期
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	<p>「何のために生きるのか」をテーマに、「人生を支えるもの」を考えます。元氣などきには人生について思い悩まない人でも、けがや病気をきっかけに、人生について考えるようになります。患者さんの思いに寄り添えることを目指して、古今東西のさまざまな思想や宗教を、おもに講義形式で学びます。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 患者さんの悩み(なぜ私はがんになったの?)を、具体的に想像できる。 2. (患者さんの立場に立って)悩む自分を、さらにその外側から捉えられる。 3. 古今東西の哲学や宗教の概略を知る。 <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>教科書は使用しません。ノートを用意してください。 授業の内容は、多少、変更することがあります。</p> <p>教科書</p> <p>使用しない。</p> <p>参考書</p> <p>『生命科学たいま講義中』 岡田安弘著 金芳堂 2016年 『生きるための哲学』 岡田真司著 河出文庫(河出書房新社) 2016年 『がん哲学外来へようこそ』 樋野興夫著 新潮新書(新潮社) 2016年 『死を迎える心構え』 加藤尚武著 PHP研究所 2016年 『出家の人生のすずめ』 篠田清一著 集英社新書(集英社) 2015年 『哲学の使い方』 篠田清一著 岩波新書(岩波書店) 2014年 『くじけそうなる時の臨床哲学クリニック』 篠田清一著 ちくま学芸文庫(筑摩書房) 2011年 『4コマ哲学教室』</p>		
研究室/オフィスアワー			
授業の前後に、質問等を受け付けます。 自宅への電話でも受け付けます。番号は改めてお伝えします。			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	哲学と他の学問とのちがいは	ノートをまとめ直しましょう。	
2	仏教の「善女のたとえ」	初期仏教思想について調べ、ノートにまとめておきましょう。	
3	「確かなものは何もない」という確かさ	「諸行無常」や「ニヒリズム」「ニーチェ」について調べ、ノートにまとめておきましょう。	
4	死ぬために生きられるか	ハイデガーの哲学について調べ、ノートにまとめておきましょう。	
5	悩まない「物」になりたいか	サルトルの哲学について調べ、ノートにまとめておきましょう。	
6	つらい気持ちを、はき出してみる	フロイトの心理学について調べ、ノートにまとめておきましょう。	
7	表現することで救われる	ユングの心理学について調べ、ノートにまとめておきましょう。	
8	なぜ病室に千羽鶴があるのか	千羽鶴に込められた意味を知り、他の日本の伝統文化についても調べてみましょう。	
9	東洋的アイデンティティ	仏教の「無我」、西田幾多郎の哲学(「矛盾的自己同一」がキーワード)、和辻哲郎の倫理学(「間柄」がキーワード)などについて調べ、ノートにまとめておきましょう。	
10	がんに期待されているとしたら	東洋思想を応用し、「私」がけがや病気をなんとかするのではなく、「けがや病気が」私に何を期待しているのか等と、発想を転換して考えてみましょう。	
11	「がん哲学外来」という試み	授業の内容を併せて、自分の考えもノートにまとめておきましょう。	

12	イスラームについて知ろう	イスラーム(イスラム教)について調べ、ノートにまとめておきましょう。
13	正義の味方はだれの味方か	正義論について調べ、ノートにまとめておきましょう。
14	たんなる手段ではなく目的としての人間	カントの哲学やその背景のキリスト教について調べ、ノートにまとめておきましょう。
15	ケース・スタディとディスカッション	けがをした人や病気になる人の気持ちを想像して、目に見えない大切なものについて考えてみましょう。
成績評価方法と基準		
①毎授業の「振り返り(ミニレポート)」 授業の内容が反映されていること。		
②学期末の「レポート」 調べた内容が客観的にまとめられていること。 自分の考察が書かれていること。		
割合		
①約 50%		
②約 50%		

授業科目名	社会福祉学(理学) (Social Welfare)		
主担当教員	中村 亮太	担当教員	中村 亮太
科目ナンバリング	LA008	教養科目	ディプロマポリシー 該当項目
配当年次	1	開講学期	前期
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	<p>障害者の地域生活や現代の社会問題について考察することを通じて、社会福祉の基礎について学ぶ。社会福祉に関する考え方、制度、支援などについて、時事問題や映像資料も踏まえながら具体的に学んでいく。適宜、受講者の意見を聞きながら、授業を進めていく。</p>		
到達目標	<p>様々な社会問題について、社会福祉の視点から考察し、理解できるようにすることを目標とする。</p>		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	<p>毎回、質問や感想を記したコミュニケーションペーパーの提出を求める。そこで提出されたものについては、次の授業で解説やコメントを行なう。</p>		
教科書			
毎回の授業においてレジュメを配布する。			
参考書			
授業中に適宜紹介する。			
研究室/オフィスアワー			
授業の前後、あるいはメール等にて質問などを受け付ける。			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	オリエンテーション——社会福祉とは何か	今回の講義内容について見直し、次回の講義テーマについて調べる	
2	社会福祉の歴史——社会の変化と福祉	今回の講義内容について見直し、次回の講義テーマについて調べる	
3	社会福祉と地域包摂ケア	今回の講義内容について見直し、次回の講義テーマについて調べる	
4	社会福祉における支援の担い手	今回の講義内容について見直し、次回の講義テーマについて調べる	
5	社会福祉におけるケアの質	今回の講義内容について見直し、次回の講義テーマについて調べる	
6	社会福祉と地域①:障害者運動の歴史	今回の講義内容について見直し、次回の講義テーマについて調べる	
7	社会福祉と地域②:身体障害者の地域生活	今回の講義内容について見直し、次回の講義テーマについて調べる	
8	社会福祉と地域③:知的障害者の地域生活	今回の講義内容について見直し、次回の講義テーマについて調べる	
9	社会福祉と地域④:精神障害者の地域生活	今回の講義内容について見直し、次回の講義テーマについて調べる	
10	社会福祉と市場経済	今回の講義内容について見直し、次回の講義テーマについて調べる	
11	社会福祉の分野①:育児問題	今回の講義内容について見直し、次回の講義テーマについて調べる	
12	社会福祉の分野②:教育問題	今回の講義内容について見直し、次回の講義テーマについて調べる	
13	社会福祉の分野③:雇用問題	今回の講義内容について見直し、次回の講義テーマについて調べる	
14	社会福祉の分野④:老後問題	今回の講義内容について見直し、次回の講義テーマについて調べる	
15	講義全体のまとめと振り返り	本講義全体を見直す	
成績評価方法と基準	割合		

①定期試験	①70% ②30%
②平常点(コミュニケーションペーパーなど)	

日本国憲法(理学) (Constitution of Japan)			
授業科目名	植田 重幸	担当教員	植田 重幸
主担当教員	植田 重幸	教養科目	ディプロマポリシー 該当項目
科目ナンバリング	LA009	科目区分	DP③
配当年次	1	開講学期	後期
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	<p>社会規範たる法の理念を理解する中で、法体系のしくみ並びに日本の最高法規としての日本国憲法の現行の概要を解説し、今日の基本的な人権規定に関する論点について解説を行うとともに、時事関連・医療関連条項に関わる問題点及び今後の課題に対しても説明を進める。また、コ・メディカルをもとに、診療の補助の一人として業務に従事するにおいて、必要不可欠な保健衛生に関する法規(保健衛生関連法規)の理解と把握、並びに職務遂行に伴う人権に対する法的責任の現状について、更なる理解を深めるための指導を行う。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本国憲法の成立経緯と特色を理解する。 2. 基本的人権の尊重規定をもとに、個人の尊厳に関して法的側面から、その理解を深める。 3. 医療と人権に関わる大切なことを理解する。 4. 理学療法学科における「理学療法士及び作業療法士法」をもとに、今後の業務遂行に必要な関係法規のしくみを学習し理解する。 5. 現在の医療過誤に関する状況と、人権に対する法的責任の事柄を検証する。 6. 時事関連問題として、違憲立法審査権に関わる諸項目や裁判員制度の現状と今後の対応課題についての理解を深める。 		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	<p>1. 日本国憲法の内容を理解し、医療法規に関する指導説明が加わることから、補充解説たる板書筆記が重要となる。 2. 指導内容に即した市販書籍は多数に亘るため、教科書代用の資料冊子にて講義を行う。 3. 疑問点や分かりにくい事項が生じた場合は、適宜質問を行うことで理解を進めること。 4. 将来の業務実践を見据え、指導内容に対する人権・人格の尊重に十分留意し積極的取り組みを求める。</p>		
教科書	<p>指定しない。</p>		
参考書	<p>特になし。</p>		
研究室/オフィスアワー	<p>研究室/オフィスアワー</p>		
授業前後の非常勤講師控室	<p>授業前後の非常勤講師控室</p>		
授業展開及び授業計画表	<p>授業展開及び授業計画表</p>		
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	法と社会生活① 法の成立並びに社会と規範	予習：シラバス・テキスト冊子の確認を行う 復習：キーワード、重要語句の確認を行う	
2	法と社会生活② 法と道徳、法の支配、法体系のしくみ	予習：社会規範としての法の意義を考える 復習：法の概念の理解と確認を行う	
3	日本国憲法の制定史 明治憲法との比較、個人の尊厳と人権保障の限界	予習：日本国憲法の成立経緯を確認する 復習：講義内容をもとに、基本的人権規定の各事項を理解し把握する	
4	日本国憲法の特徴 基本理念及び基本原理	予習：テキスト冊子より、キーワードの確認 復習：重要語句について再チェックする	
5	基本的人権規定① 基本的人権の成立経緯と人権規定	予習：テキスト冊子より、キーワードの確認 復習：重要語句について再チェックする	
6	基本的人権規定② 包括的基本権、自律的自己決定権	予習：テキスト冊子より第13条の役割を確認する 復習：講義内容の完全理解に努める	
7	基本的人権規定③ 新しい人権(人格権と幸福追求権)	予習：テキスト冊子より、本項の確認を行う 復習：講義内容の完全理解に努める	
8	基本的人権規定④ 尊厳死の定義、臓器移植法の問題点	予習：自然死と脳死の捉え方の相違をテキスト冊子から理解する 復習：本項目の現在の解釈を確認する	
9	関係法規① コ・メディカルに対する関係法規のしくみと位置づけ	予習：シラバス・テキスト冊子の確認 復習：講義内容をもとに、コ・メディカルの役割を確認する	
10	関係法規② 日本国憲法と保健衛生法規とのつながり	予習：シラバス・テキスト冊子の確認を行う 復習：保健衛生法規のしくみの理解と確認を行う	

11	医療過誤と法的責任① 医療過誤の実態と権利侵害	予習：テキスト冊子の本項の確認を行う 復習：キーワード、重要語句の確認を行う	
12	医療過誤と法的責任② 医療過誤における法的責任	予習：医療過誤に関する事例を調べる 復習：特に民事責任に関して確認を行う	
13	統治行為① 国会・内閣規定より、選挙制度並びに議院内閣制	予習：現行の選挙制度を確認する 復習：1票の格差問題について理解を深める	
14	統治行為② 裁判所規定より、違憲立法審査権並びに裁判員制度の現状	予習：テキスト冊子より、キーワードの確認 復習：講義事項についての確認	
15	日本国憲法の改正手続	予習：現行憲法の改正の必要性を調べる 復習：国民投票法の改正における影響を確認する	
成績評価方法と基準			割合
①指導項目に関し、筆記試験を行う。※60点以上で単位認定する。			①100%

授業科目名 英語Ⅰ(初級)(理學A) (English I [Beginner])			
主担当教員	竹内 恵子	担当教員	竹内 恵子
科目ナンバリング	LA011	教養科目	ディプロマポリシー 該当項目 DP②
配当年次	1	開講学期	曜日・時限 金曜 2 限
授業形態	演習	単位数	2
授業概要	英語Ⅰでは、日常生活で最低限必要とされる、スピーキング、リスニング、リーディングのスキルを総合的に習得する。基本的な文法を復習し、単語・熟語・慣用句などの語彙を増やしながら、最低限自己表現できるコミュニケーション力を身につける。また、多くのリスニングをこなし、英語に耳を慣らし、英語に対する抵抗感をなくし、英語を学ぶことは楽しいという感覚を習得する。さらに、多読を行い、多量のインプットをすることにより、英語カアップを目指す。		
到達目標	日常生活で目や耳にする英語に親しみ、それらを最低限理解できる。 基本的な文法、語彙、表現を身につける。 積極的に授業に参加すること。 宿題(特にリーディングの予習)は必ずしてから授業に臨むこと。 私語・携帯電話の使用などは慎むこと。		
教科書	Good Morning World ① (Susan Stempleski, Nancy Douglas, James Morgan / Cengage Learning, 2014)		
参考書			
英和辞書			
研究室/オフィスアワー			
東棟1階講師控室			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	Greetings and intros	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
2	Getting to know you	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
3	Countries and Nationalities	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
4	Countries of the world	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
5	Personal Items	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
6	Gift giving	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
7	Activities and Interests	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
8	For here or to go?	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	

9	Everyday activities	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
10	Food	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
11	Food and eating habits	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
12	My Family	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
13	This is my family!	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
14	All in the family	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
15	Review	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
成績評価方法と基準			
①定期試験 ②プレゼンテーション・その他課題・授業態度・参加 ③多読 2/3以上の出席が必要。			
			割合
			①40% ②40% ③20%

英 語 Ⅰ (初級/理 学 B) (English 1 [Beginner])																																							
授業科目名	長尾 晋宏	担当教員	長尾 晋宏																																				
主担当教員	長尾 晋宏	教養科目	ディプロマポリシー 該当項目																																				
科目ナンバリング	LA011	科目区分	DP②																																				
配当年次	1	開講学期	曜日・時限 金曜 2 限																																				
授業形態	演習	単位数	2																																				
授業形態	演習	必修・選択	必修																																				
授業概要	英語Ⅰでは、日常生活で最低限必要とされる、スピーキング、リスニング、リーディングのスキルを総合的に習得する。基本的な文法を復習し、単語・熟語・慣用句などの語彙を構やしながら、最低限自己表現できるコミュニケーション力を身につける。また、多くのリスニングをこなし、英語に耳を慣らし、英語に対する抵抗感をなくし、英語を学ぶことは楽しいという感覚を習得する。さらに、多読を行い、多量のインプットをすることにより、英語力アップを目指す。																																						
到達目標	日常生活で目や耳にする英語に親しみ、それらを最低限理解できる。 基本的な文法、語彙、表現を身につける。 履修上の注意 (学生へのメッセージ) 積極的に授業に参加すること。 宿題(特にリーディングの予習)は必ずしてから授業に臨むこと。 私語、携帯電話の使用などは慎むこと。 教科書 Good Morning World ① (Susan Stempleski, James Morgan / Cengage Learning, 2014) 参考書 英和辞書																																						
研究室/オフィスアワー	東棟 4 階研究室 14																																						
授業展開及び授業計画表	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>学修内容</th> <th>予習・復習・課題等</th> <th>担当</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Greetings and intros</td> <td>次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Getting to know you</td> <td>次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>Countries and Nationalities</td> <td>次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>Countries of the world</td> <td>次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>Personal Items</td> <td>次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>Gift giving</td> <td>次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>Activities and Interests</td> <td>次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>For here or to go?</td> <td>次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当	1	Greetings and intros	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。		2	Getting to know you	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。		3	Countries and Nationalities	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。		4	Countries of the world	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。		5	Personal Items	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。		6	Gift giving	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。		7	Activities and Interests	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。		8	For here or to go?	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当																																				
1	Greetings and intros	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。																																					
2	Getting to know you	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。																																					
3	Countries and Nationalities	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。																																					
4	Countries of the world	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。																																					
5	Personal Items	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。																																					
6	Gift giving	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。																																					
7	Activities and Interests	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。																																					
8	For here or to go?	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。																																					

7.			
9	Everyday activities	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
10	Food	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
11	Food and eating habits	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
12	My Family	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
13	This is my family!	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
14	All in the family	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
15	Review	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
成績評価方法と基準			
①定期試験 ②プレゼンテーション・その他課題・授業態度 参加 ③多読 2/3 以上の出席が必要。			
			割合 ①40% ②40% ③20%

授業科目名 英語Ⅱ(中級)理學A (English II 【Intermediate】)			
主担当教員	竹内 恵子	担当教員	竹内 恵子
科目ナンバリング	LA012	教養科目	DP②
配当年次	1	開講学期	金曜 2 限
授業形態	演習	単位数	必修
<p>授業概要</p> <p>前期科目の英語Ⅰに引き継ぎ、本授業でも、日常生活で最低限必要とされる、スピーキング、リスニング、リーディングのスキルを総合的に習得する。基本的な文法を復習し、単語・熟語・慣用句などの語彙を増やし、最低限自己表現できるコミュニケーション力を身につける。また、多くのリスニングをこなし、英語に耳を慣らし、多量に耳をインプットをすることにより、英語力アップを目指す。授業を通して、英語に対する抵抗感をなく、英語を学ぶことは楽しいという感覚を習得する。</p> <p>到達目標</p> <p>基本的な文法、語彙を確実に身につける。 英語で最低限のコミュニケーションが取れる。 簡単な英文を正確に理解できる。</p> <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>積極的に授業に参加すること。 宿題(特にリーディングの予習)は必ずしてから授業に臨むこと。 私語、携帯電話の使用などは慎むこと。</p> <p>教科書 Good Morning World ① (Susan Stempleski, Nancy Douglas, James Morgan / Cengage Learning, 2014) (英語Ⅰで使用したテキストを引き続き使用する。英語Ⅰを履修していない者のみ、購入すること。)</p> <p>参考書 英和辞典 多読用図書 研究室/オフィスアワー</p>			
E 棟 1 階講師控室			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	Time	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
2	Time and schedules	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
3	Special Occasions	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
4	Holidays and celebrations	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
5	Person to Person	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
6	Living with others	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
7	Home Sweet Home	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
8	Housing	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	

9	Clothing	後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
10	Shopping for clothes	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
11	Jobs and Ambitions	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
12	Jobs	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
13	Dress the part	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
14	Good jobs	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
15	Review	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
成績評価方法と基準			割合
①定期試験			①40%
②プレゼンテーション・その他課題・授業態度・参加			②40%
③多読			③20%
2/3以上の出席が必要。			

英語Ⅱ(中級)理學B) (English II【Intermediate】)			
授業科目名	長尾 晋宏	担当教員	長尾 晋宏
主担当教員	長尾 晋宏	所属	晋宏
科目ナンバリング	LA012	教養科目	ディプロマポリシー 該当項目
配当年次	1	開講学期	後期
授業形態	演習	単位数	2
授業概要	<p>前期科目の英語Ⅰに引き続き、本授業でも、日常生活で最低必要とされる、スピーキング、リスニング、リーディングのスキルを総合的に習得する。基本的な文法を復習し、単語・熟語・慣用句などの語彙を博やしながら、最低限自己表現できるコミュニケーション力を身につける。また、多くのリスニングをこなし、英語に耳を慣らし、多読を行い、多量の本を読むことにより、英語力アップを目指す。授業を通して、英語に対する抵抗感をなくし、英語を学ぶことが楽しいという感覚を習得する。</p> <p>到達目標</p> <p>基本的な文法、語彙を確実に身につける。 英語で最低限のコミュニケーションが取れる。 簡単な英文を正確に理解できる。 履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>積極的に授業に参加すること。 宿題(特にリーディングの予習)は必ずしてから授業に臨むこと。 私語、携帯電話の使用などは慎むこと。 教科書</p> <p>Hello New York (Takehisa Tsuchiya, Yoshihiko Honda and Braven Shillie / 金星堂, 2016) (英語Ⅰで使用したテキストを引き続き使用する。英語Ⅰを履修していない者のみ、購入すること。)</p> <p>参考書</p> <p>英和辞典 多読用図書</p>		
研究室/オフィスアワー	E棟4階研究室14		
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	I'm not feeling well.	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
2	体調を述べる	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
3	Tickets for a Yankee game	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
4	誘う	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
5	What's on the shopping list?	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
6	誘いを断る	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
7	MOMA is fun!	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
8	聞き直す	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	

		後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
9	The "Fourth of July" is coming up.	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
10	予定を尋ねる	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
11	Who is that guy?!	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
12	提案する	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
13	You're my best friend.	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
14	会話を切り出す	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
15	We're going to be late!	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
成績評価方法と基準			
①定期試験 ②プレゼンテーション、その他課題・授業態度・参加 ③多読 2/3以上の出席が必要。			
			割合 ①40% ②40% ③20%

授業科目名	英会話(理学) (English Conversation)		Julian Houseman	Julian Houseman
主担当教員	Julian Houseman	担当教員	Julian Houseman	
科目ナンバリング	LA021	教養科目	ディプロマポリシー	DP②
配当年次	2	開講学期	曜日・時限	金曜 1限
授業形態	演習	単位数	必修・選択	選択
授業概要	<p>英会話 I では、基本的な英語によるコミュニケーション能力を習得することを目的とする。英会話の基本的ルールである、(1)主語の存在、(2)語順(主語・動詞・疑問文・疑問詞など)、(3)読解力、を意識しながら、日常生活の中で、道を尋ねる、買い物をする、自己紹介をするなどといった他人と関わる際に最低限必要な会話を身に付ける。</p> <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 自己紹介ができる。 最低限の日常会話ができる。 自分の考えを最低限伝えることができる。 <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>ペアワーク、グループワークなどによる会話の練習が多いため、積極的に授業に参加すること。前回の授業の復習を必ずしてから授業に臨むこと。</p> <p>私語、携帯電話の使用などは慎むこと。</p>			
教科書	<p>書名/Title : CHALLENGER 6 著者名/Authors : EOC 総合教育研究所 出版社・出版年 / EOC 価格 : 2,000 円</p>			
参考書				
特になし				
研究室/オフィスアワー				
E 棟 1 階 非常勤講師控室				
授業展開及び授業計画表				
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当	
1	Course introduction, Classroom English	授業の復習並びに会話確認テスト準備		
2	Introduction yourself Greetings	授業の復習並びに会話確認テスト準備		
3	Greetings friends Casual Greetings	授業の復習並びに会話確認テスト準備		
4	What' s your sister' s name? Talk about people	授業の復習並びに会話確認テスト準備		
5	Free time Talk about activities	授業の復習並びに会話確認テスト準備		
6	Exercise Talk about exercise	授業の復習並びに会話確認テスト準備		
7	What kind of bike do you have? Closed questions and follow-up questions	授業の復習並びに会話確認テスト準備		
8	Food you like Open questions and closed questions	授業の復習並びに会話確認テスト準備		
9	Clothes Talk about shopping	授業の復習並びに会話確認テスト準備		
10	Is it expensive? Adjectives and recommendations	授業の復習並びに会話確認テスト準備		
11	Visiting someone Talking someone	授業の復習並びに会話確認テスト準備		
12	Saying people Offering something	授業の復習並びに会話確認テスト準備		
13	What' s this wooden thing? Talk about objects	授業の復習並びに会話確認テスト準備		
14	Describing people Wh~questions	授業の復習並びに会話確認テスト準備		

15	講義全体のまとめ	授業の復習並びに総括小テスト準備	割合
	成績評価方法と基準		
	①授業参加度		①20%
	②小テスト		②60%
	③確認テスト		③20%

授業科目名		医学英語(理医学) (English for Medicine)	
主担当教員	長尾 晋宏	担当教員	長尾 晋宏
科目ナンバリング	LA022	教養科目	ディプロマポリシー 該当項目
配当年次	2	科目区分	DP②
授業形態	演習	開講学期	曜日・時限 木曜 2 限
		単位数	2
授業概要		必修・選択	選択
医療従事者に必要な英語のコミュニケーション能力をつけるため、臨床現場で患者の言葉を正確に理解したり、患者に正確な指示を伝えたりするために必要となる表現や語彙を習得する。また、医学関連の文献や論文、その他情報の収集方法と論文の構成を習得し、専門分野における最先端の研究情報を得るためのスキルを身につける。			
到達目標			
最低限の者とコミュニケーションがとれる。			
最低限の医学用語が理解できる。			
医学分野の英語の論文がどのような構成になっているのか理解できる。			
履修上の注意(学生へのメッセージ)			
積極的に授業に参加すること。			
宿題や予習(特にリーディング)は必ずしてから授業に臨むこと。			
携帯電話の使用、私語は慎むこと。			
教科書			
実践看護英語(竹林修一、英宝社、2014)			
参考書			
英和辞書			
研究室/オフィスアワー			
東棟 4 階研究室 14			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	Introduction / Medical terminology / Getting to know the patients 1	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
2	Getting to know the patients 2	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
3	Getting to know the patients 3	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
4	Getting to know the patients 4	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
5	Examination 1	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
6	Examination 2	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
7	Instructing medication	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
8	Treating the patients 1	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
9	Treating the patients 2	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
10	Treating the patients 3	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	

11	Operation / PubMed について、論文の構成について	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
12	Pregnancy / Articles on PT 1	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
13	In the hospital / Articles on PT 2	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
14	Emergencies / Articles on PT 3	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
15	Living a healthy life / Review	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
成績評価方法と基準			割合
小テスト			30%
プレゼンテーションおよびその他課題			40%
授業参加態度			30%
2/3 回以上の出席が必要。			

授業科目名	基礎英語演習(理学)		
主担当教員	長尾 晋宏	担当教員	長尾 晋宏
科目ナンバリング	LA023	教養科目	ディプロマポリシー 該当項目
配当年次	2	開講学期	前期
授業形態	演習	単位数	2
授業概要	<p>本授業では、TOEIC 形式の練習問題を解きながら、リーディングカとリスニング力を強化することを目的とする。頻出の語彙、熟語、慣用句を確認しつつ、日常生活を送るうえで相手と十分な意思疎通を図ることのできる英語力を身に着ける。</p> <p>到達目標</p> <p>基本的な文法、語彙、表現を徹底的に習得する。</p> <p>TOEIC500 点相当の英語力を身に着ける。</p> <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>積極的に授業に参加すること。</p> <p>宿題は必ずしてから授業に臨むこと。</p> <p>私語、携帯電話の使用などは慎むこと。</p> <p>教科書</p> <p>Score Booster for the TOEIC L&R Test Pre-Intermediate (Yumiko Mizoguchi, Machiko Yanagita / 金星堂, 2019)</p> <p>参考書</p> <p>英和辞書</p> <p>研究室/オフィスアワー</p> <p>E 棟 4 階研究室 14</p> <p>授業展開及び授業計画表</p>		

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	Introduction / Unit 1 Travel	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。
2	品詞①:名詞(可算名詞・不可算名詞)	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。
3	Unit 2 Dining Out	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。
4	品詞②:形容詞(名詞修飾、補語)	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。
5	Unit 3 Media	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。
6	品詞③:副詞(動詞・形容詞修飾)	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。
7	Unit 4 Entertainment	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。
8	時制(現在・過去・未来・現在進行形)	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。

9	Unit 5 Purchasing	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。
10	3 単現の s (修飾語句を含む主語)	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。
11	Unit 6 Clients	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。
12	能動態-受動態(感情を表す表現)	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。
13	Unit 7 Recruiting	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。
14	動詞の後ろの動名詞、不定詞(前置詞の後ろの動名詞、定型表現)	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。
15	Review	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。
成績評価方法と基準			
①小テスト ②その他課題・授業態度・参加 2/3 以上の出席が必要。			
割合 ①40% ②60%			

授業科目名	応用英語演習(理学)		
主担当教員	長尾 晋宏	担当教員	長尾 晋宏
科目ナンバリング	LA024	教養科目	ディプロマポリシー 該当項目 DP②
配当年次	2	開講学期	後期 火曜 1限
授業形態	演習	単位数	2
授業概要			
本授業では、TOEIC 形式の練習問題を解きながら、リーディングカリスニング力を強化することを目的とする。頻出の語彙、熟語、慣用句を確認しつつ、日常生活を渡るうえで相手と十分な意思疎通を図ることができる英語力を身に着ける。			
到達目標			
文法、語彙、表現を徹底的に習得する。 TOEIC550 点相当程度の英語力を身に着ける。			
履修上の注意(学生へのメッセージ)			
積極的に授業に参加すること。 宿題(特にリーディングの予習)は必ずしてから授業に臨むこと。 私語、携帯電話の使用などは慎むこと。			
教科書			
Score Booster for the TOEIC L&R Test Pre-Intermediate (Yumiko Mizoguchi, Machiko Yanagita / 金星堂, 2019) (前期に基礎英語演習を履修した者は、再度購入する必要はありません)			
参考書			
英和辞書			
研究室/オフィスアワー			
E 棟 4 階研究室 14			
授業履修期及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	Introduction / Unit 8 Personnel	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもっと一度確認しておくこと。	
2	代名詞(主格・所有格・目的格・所有代名詞)	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもっと一度確認しておくこと。	
3	Unit 9 Advertising	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもっと一度確認しておくこと。	
4	比較(比較級、最上級、as ... as)	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもっと一度確認しておくこと。	
5	Unit 10 Meetings	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもっと一度確認しておくこと。	
6	前置詞(理由・譲歩・時、定型表現)	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもっと一度確認しておくこと。	
7	Unit 11 Finance	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもっと一度確認しておくこと。	
8	接続詞(理由・譲歩・時)	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもっと一度確認しておくこと。	

9	Unit 12 Offices	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもっと一度確認しておくこと。	
10	前置詞・接続詞対比	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもっと一度確認しておくこと。	
11	Unit 13 Daily Life	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもっと一度確認しておくこと。	
12	関係代名詞(主格・所有格・目的格)	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもっと一度確認しておくこと。	
13	Unit 14 Sales & Marketing 語彙①(名詞・形容詞)	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもっと一度確認しておくこと。	
14	Unit 15 Events 語彙②(動詞・副詞)	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもっと一度確認しておくこと。	
15	Review	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもっと一度確認しておくこと。	
成績評価方法と基準			割合
①小テスト ②その他課題・授業態度・参加 ③Review test 2/3 以上の出席が必要。			①40% ②20% ③40%

授業科目名		スポーツ健康科学演習(理学) (Sports Health Science Seminar)																																							
主担当教員	中 原 英 博	担 当 教 員	中原 英博、佐野 加奈絵、伊奈 新太郎、信江 彩加、折田 真弓、濱口 幹太、山口 晏奈、伊藤 剛																																						
科目ナンバリング	CS017	科目区分	学部共通科目	学割共通科目	DP③																																				
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	水曜 1限 水曜 2限																																				
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	選択																																				
<p>授業概要</p> <p>本スポーツ健康科学演習では、学生が自らの適正に応じてスポーツ種目を選択できるよう、軽スポーツ、球技スポーツ、球技スポーツ、ダンス、ニューズポーツ、ダンスなど多種多様なスポーツ種目を用意し、各種目特性を生かして、1限いっきり体を動かす爽快感と2限を通じて感じる理屈の楽しさを存分に経験できるようにゲーム主体の授業プログラムを提供する。その中で、体力のレベルアップや身体動作の向上を図ると同時に、ゲームを自主的に運営する能力を養い、また、スポーツの実践を通じて、学生同士の心の交流や人間関係を育み、生涯にわたり楽しく、計画的にスポーツを実践する習慣を育成することも本実習の大きな狙いである。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. スポーツ活動を通じて、学科の枠を超えた学生同士の心の交流や人間関係を育むことができる。 2. スポーツ活動を通じて、基礎体力や、技術が向上する。 3. スポーツ活動を通じて、チームワークの重要性を認識できる。 4. 生涯にわたり楽しく、計画的にスポーツを実践する習慣を身につけることができる。 <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>服装について</p> <ol style="list-style-type: none"> (1)各教員からの指示がない限り、トレーニング用ジャツパン・シューズは毎週持参し、更衣した後、授業に臨むこと。 (2)シューズは屋外用、屋内用ともにゴム底の運動靴を用意すること。屋外のスポーツ種目を実施するクラスの者は、雨天により急ぎ屋内種目に変更する場合がありますので、毎回の授業時において、屋内用シューズは必ず用意しておくこと。 (3)授業中におけるメガネや時計などの破壊、コンタクトレンズや装飾品の紛失について担当教員は責任を負わない。 <p>注意事項 (1)集合場所 日にち(特に関)</p> <p>教科書</p> <p>特に指定しない。</p> <p>参考書</p> <p>特に指定しない。</p> <p>研究室/オフィスアワー</p> <p>原則月曜日 3時限目・4時限目 その他、部屋内にいればいつでも訪問可です。質問等はいつでも自由にとらえ。</p>																																									
<p>授業展開及び授業計画表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>学修内容</th> <th>予習・復習・課題等</th> <th>担当</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション クラス分けガイダンス スポーツ種目の選択、コースの決定</td> <td>軽スポーツ、球技スポーツ、ニューズポーツ、ダンスなど多種多様なスポーツ種目の特性について理解を深めておく。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>オリエンテーション クラス分けガイダンス スポーツ種目の選択、コースの決定</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>スポーツ種目特性の理解 種目・用具特性の把握</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>スポーツ種目特性の理解 種目・用具特性の把握</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>基本技術の習得</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>基本技術の習得</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>基本技術の習得</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>基本技術の習得</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>						回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当	1	オリエンテーション クラス分けガイダンス スポーツ種目の選択、コースの決定	軽スポーツ、球技スポーツ、ニューズポーツ、ダンスなど多種多様なスポーツ種目の特性について理解を深めておく。		2	オリエンテーション クラス分けガイダンス スポーツ種目の選択、コースの決定			3	スポーツ種目特性の理解 種目・用具特性の把握			4	スポーツ種目特性の理解 種目・用具特性の把握			5	基本技術の習得			6	基本技術の習得			7	基本技術の習得			8	基本技術の習得		
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当																																						
1	オリエンテーション クラス分けガイダンス スポーツ種目の選択、コースの決定	軽スポーツ、球技スポーツ、ニューズポーツ、ダンスなど多種多様なスポーツ種目の特性について理解を深めておく。																																							
2	オリエンテーション クラス分けガイダンス スポーツ種目の選択、コースの決定																																								
3	スポーツ種目特性の理解 種目・用具特性の把握																																								
4	スポーツ種目特性の理解 種目・用具特性の把握																																								
5	基本技術の習得																																								
6	基本技術の習得																																								
7	基本技術の習得																																								
8	基本技術の習得																																								

9	基本技術の習得 スポーツ種目に応じた基本技術の習得③	
10	基本技術の習得 スポーツ種目に応じた基本技術の習得③	
11	応用技術の習得 スポーツ種目に応じた応用技術の習得①	
12	応用技術の習得 スポーツ種目に応じた応用技術の習得①	
13	応用技術の習得 スポーツ種目に応じた応用技術の習得②	
14	応用技術の習得 スポーツ種目に応じた応用技術の習得②	
15	応用技術の習得 スポーツ種目に応じた応用技術の習得③	
16	応用技術の習得 スポーツ種目に応じた応用技術の習得③	
17	基本、応用技術の発展 模擬ゲームの実施とルールの理解①	
18	基本、応用技術の発展 模擬ゲームの実施とルールの理解①	
19	基本、応用技術の発展 模擬ゲームの実施とルールの理解②	
20	基本、応用技術の発展 模擬ゲームの実施とルールの理解②	
21	ゲームの展開 学生主体のゲーム運営①	
22	ゲームの展開 学生主体のゲーム運営①	
23	ゲームの展開 学生主体のゲーム運営②	
24	ゲームの展開 学生主体のゲーム運営②	
25	ゲームの展開 学生主体のゲーム運営③	
26	ゲームの展開 学生主体のゲーム運営③	
27	ゲームの展開 学生主体のゲーム運営④	
28	ゲームの展開 学生主体のゲーム運営④	
29	ゲームの展開 学生主体のゲーム運営⑤	
30	ゲームの展開 学生主体のゲーム運営⑤	
成績評価方法と基準		割合
授業回数の 2/3(20 コマ)以上出席すること(本授業科目においては1日で2コマ分の授業となつているので 10 日以上出席が必要ですが)、授業開始後、30 分を超えての遅刻は欠席とみなす。成績の評価は、原則として 2/3 以上出席した者を対象とする。 ①参加・技能・理解・積極性などを総合的に判定するとともに、授業最終日にはレポートの提出を義務づける。 その成績が60点未満の者は不可とし単位を認定しない。		①100%

授業科目名	健康科学(スポーツ社会学を含む)(理学) (Health Science [Including Sports Sociology])		
主担当教員	濱口 幹太	担当教員	濱口 幹太
科目ナンバリング	CS018	学部共通科目	DP③④
配当年次	1	開講学期	前期 月曜 1限
授業形態	講義	単位数	2 必修・選択 選択
授業概要	健康に対する意識が高まり、健康食品や健康器具などがブームとなっている近年、マスメディアを通して流されている情報には、科学的根拠が乏しいものも少なくはない。本授業では、生活習慣病、地域社会における健康維持、増進に関わる取り組みや考え方や考え方、運動や食事指導に関する科学的根拠に基づいた専門的な知識を身につけることを目標とする。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・運動や食事指導に関する科学的根拠に基づいた専門的な知識を身につける。 ・本邦における健康維持、増進に関わる取り組みや考え方について理解する。 		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	・大学生として節度ある態度で授業に臨むこと		
教科書			
適宜、資料を配布する。			
参考書			
出村 眞一 監修「健康・スポーツ科学講義」杏林書院、2005年			
田中嘉代次編「健康運動の支援と実践」金芳堂、2006年			
研究室/オフィスアワー			
非常勤講師室			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	オリエンテーション	予習：シラバスの確認 復習：内容の確認	
2	健康・体力の概念	予習：健康に関する記事をチェック 復習：今回の内容を再確認	
3	アルコールの影響とは	予習：身体に及ぼす影響をチェック 復習：今回の内容を再確認	
4	喫煙について	予習：身体に及ぼす影響をチェック 復習：今回の内容を再確認	
5	高脂血症・動脈硬化症	予習：どのような症状があるかチェック 復習：今回の内容を再確認	
6	高血圧・脳卒中・心臓病	予習：どのような症状があるかチェック 復習：今回の内容を再確認	
7	糖尿病・メタボリックシンドローム	予習：どのような症状があるかチェック 復習：今回の内容を再確認	
8	前半まとめ	予習：今までの内容の確認 復習：今までの内容の確認	
9	身体活動の必要性	予習：運動習慣のチェック 復習：今回の内容を再確認	
10	肥満について	予習：体型をチェック 復習：今回の内容を再確認	
11	薬物乱用について	予習：薬物の影響のチェック 復習：今回の内容を再確認	
12	救急法	予習：心肺蘇生法のチェック 復習：今回の内容を再確認	
13	スポーツトレーニング	予習：スポーツの種目のチェック 復習：今回の内容を再確認	
14	健康に関するVTR	予習：健康に関する記事をチェック 復習：今回の内容を再確認	
15	後半まとめ	予習：今までの内容の確認 復習：今までの内容の確認	
成績評価方法と基準	割合		

授業科目名	健康管理学 I (理学) (Healthcare Management I)		
主担当教員	伊黒 浩二	担当教員	伊黒 浩二
科目ナンバリング	CS022	学部共通科目	DP③④
配当年次	2	開講学期	前期
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	<p>近年、生活習慣病の危険因子が明らかになれつつある。危険因子を多く有する人は疾患に罹患する確率が高くなることから、日常生活でいかに健康管理を行うかについての関心が高まっている。本講義では、運動不足の健康への影響を学び、ライフスタイルに応じた健康づくりのための身体活動基準、目的に応じた効果的なトレーニング法の原理、原則を学修する。特に、有酸素性運動の健康上の必要性を学び、運動処方条件(強度・時間・頻度)に関する知識を養う。また、運動強度の指標を理解し、ウォーミングアップとクールダウン、及びレジスタンス運動。</p>		
到達目標	<p>1. 健康管理と疾病の予防に関する基礎知識を習得し、予防医学の重要性を理解する。 2. 健康づくりのための運動に必要な知識、生活習慣病予防に役立つ基礎知識を説明できる。 3. 健康管理のための正しい知識を身につけ、健康の保持増進に役立てることができる。</p>		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	①寝ない ②喋らない ③内職しない ④スマホを触らない 以上のルールを守って熱心に学習して下さい。		
教科書			
特にありません。			
参考書	<p>健康・スポーツ科学の基礎(出村順一監修、杏林書院) 健康・スポーツ科学テキスト トレーニング科学(北川薫編集・文光堂) 特定健診・保健指導に役立つ 健康運動指導マニュアル(佐藤祐造編集・文光堂)、他</p>		
研究室/オフィスアワー			
授業開始前は非常勤講師室にいます。			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	健康管理について 1	予習：シラハスの確認 復習：授業をノート・プリントの確認	
2	健康管理について 2	予習：シラハスの確認 復習：授業をノート・プリントの確認	
3	生活習慣病と運動 1	予習：シラハスの確認 復習：授業をノート・プリントの確認	
4	生活習慣病と運動 2	予習：シラハスの確認 復習：授業をノート・プリントの確認	
5	生活習慣病と運動 3	予習：シラハスの確認 復習：授業をノート・プリントの確認	
6	トレーニングの基礎知識	予習：シラハスの確認 復習：授業をノート・プリントの確認	
7	全身持久カトレニングについて	予習：シラハスの確認 復習：授業をノート・プリントの確認	
8	筋持久力・筋カトレニングについて 1	予習：シラハスの確認 復習：授業をノート・プリントの確認	
9	筋持久力・筋カトレニングについて 2	予習：シラハスの確認 復習：授業をノート・プリントの確認	
10	パワートレーニングについて	予習：シラハスの確認 復習：授業をノート・プリントの確認	
11	トレーニングでの注意点 1 ウォームアップとウォームダウン 1	予習：シラハスの確認 復習：授業をノート・プリントの確認	
12	トレーニングでの注意点 2 ウォームアップとウォームダウン 2	予習：シラハスの確認 復習：授業をノート・プリントの確認	
13	トレーニングでの注意点 3 オーバーワークサイズによる身体的問題	予習：シラハスの確認 復習：授業をノート・プリントの確認	
14	トレーニングでの注意点 4 購置を予防するためのアイシング	予習：シラハスの確認 復習：授業をノート・プリントの確認	

15	講義全体のまとめ	予習：シラハスの確認 復習：授業をノート・プリントの確認
成績評価方法と基準		
①筆記試験		
②授業ごとの小テスト・課題提出		
・全授業のうち 2/3 以上の出席が必要		
割合		
①70%		
②30%		

健康心理学 II (理学) (Healthcare Management II)			
授業科目名	健康心理学 II (理学) (Healthcare Management II)	担当教員	伊黒 浩二
主担当教員	伊黒 浩二	学部共通科目	DP③④
科目ナンバリング	CS023	科目区分	後期
配当年次	2	開講学期	木曜 3限
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	<p>近年、生活習慣病だけでなく、加齢に伴う生活機能低下を防ぐ対策が重要課題となってきた。健康寿命を延伸するために、日常生活でいかに健康管理を行うかについての関心が高まっている。本講義では、疾病構造の変化と身体活動・運動不足の関連性、身体活動のメカニズム、および健康度の一つの尺度となる体力・日常動作について理解を深めると同時に、第一次予防の視点に立って運動が健康づくり、特に生活習慣病予防・介護予防に役立つ役割について学修する。生活習慣病とロコモティブシンドロームを予防し、健康寿命を延伸するための理論、並び</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生活習慣病・加齢に伴う生活機能低下に関する基礎知識を習得し、予防医学の重要性を理解する。 2. 健康寿命の延伸に必要な基礎知識、生活習慣病予防・介護予防に役立つ健康づくり運動の知識を説明できる。 3. 健康管理のための正しい知識を身につけ、健康の保持増進に役立てることができる。 <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>①寝ない ②喋らない ③内職しない ④スマホを触らない 以上のルールを守って熱心に学習して下さい。</p>		
教科書			
特記事項	特記ありません		
参考書	<p>健康・スポーツ科学の基礎(山村順一監修・杏林書院)</p> <p>健康・スポーツ科学テキスト トレーニング科学(北川薫編集・文光堂)</p> <p>特定健診・保健指導に役立つ「健康運動指導マニュアル」(佐藤祐彦編集・文光堂)、他</p> <p>研究室/オフィスアワー</p>		
授業開始前は非常勤講師室にいます。			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	健康管理について 1	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	
2	健康管理について 2	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	
3	中高年者の身体的特徴と運動 1	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	
4	骨粗鬆症と運動	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	
5	変形性関節症と運動	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	
6	生活習慣病と運動 1 メタボリックシンドローム	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	
7	生活習慣病と運動 2 高血圧症	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	
8	生活習慣病と運動 3 糖尿病	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	
9	生活習慣病と運動 4 高脂血症	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	
10	生活習慣病と運動 5 虚血性心疾患	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	
11	有酸素エクササイズについて	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	
12	レジスタンスエクササイズについて	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	
13	ウォームアップとウォームダウンについて 1	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	
14	ウォームアップとウォームダウンについて 2	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	

15	講義全体のまとめ	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	割合
成績評価方法と基準			
①筆記試験			①70%
②授業ごとの小テスト・課題提出 授業の2/3回以上の出席が必要			②30%

授業科目名	チーム医療とコミュニケーション(理学) (Team Medical Care and Communication)			
主担当教員	三木屋 良輔	担当教員	三木屋 良輔、横井 實津志	
科目ナンバリング	CS020	科目区分	学術共通科目	DP②③
配当年次	2	開講学期	前期	月曜 1限
授業形態	講義	単位数	2	必修
授業概要	コミュニケーションについては、人を援助する専門家に要求される基本的姿勢と、患者とのコミュニケーションを行っていく上で必要となる理論と実際について学んでいく。 チーム医療については、患者中心の医療を実現していくために欠かせない他職種への理解と連携の在り方、過去の医療事故の原因と対策について学んでいく。また実際に医療や福祉の現場で活躍する他職種の方に来て頂き、リハビリテーションとの関わりについて講義して頂くことも予定している。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 理学療法士として患者、家族と関わる上で求められる姿勢や態度を身に着ける。 2. チーム医療で求められる他職種への理解や関わり方について理解する。 			
履修上の注意(学生へのメッセージ)	講義の中で学ぶ内容は日々の生活の中でも応用できる理論ばかりですので、知識だけでなく、実践を通して身に着けていくことに重点を置いてください。			
教科書	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の中で考えたこと、感じたことを可能な限り言語化するよう心掛けて下さい。 2. 講義の中で考えたこと、感じたことを可能な限り言語化するよう心掛けて下さい。 3. 学修内容は必要に応じて変更することがあります。 			
三宅わか子・他編:理学療法コミュニケーション論 医歯業出版				
参考書				
必要に応じて紹介します。				
研究室/オフィスアワー				
授業時間、水曜日、金曜日以外で空いている時間。				
授業展開及び授業計画表				
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当	
1	なぜコミュニケーションを学ぶのか	講義内容を理解し、実践してください	三木屋 良輔	
2	社会で働くために必要な力とは?	講義内容を理解し、実践してください	三木屋 良輔	
3	伝える 伝わるコミュニケーションとは?	講義内容を理解し、実践してください	三木屋 良輔	
4	コミュニケーションのタイプ	講義内容を理解し、実践してください	三木屋 良輔	
5	コミュニケーションにおける解決と解消について	講義内容を理解し、実践してください	三木屋 良輔	
6	妥協点を見つけるために受容的に聴く実践	講義内容を理解し、実践してください	三木屋 良輔	
7	自分の情報を整理する力について	講義内容を理解し、実践してください	三木屋 良輔	
8	自分の情報を整理する力についての実践	講義内容を理解し、復習してください	三木屋 良輔	
9	相手の気持ちに立つて話をする力について	講義の内容について復習してください	三木屋 良輔	
10	感情のコントロールについて	講義の内容について復習してください	三木屋 良輔	
11	臨床実習で求められるコミュニケーション	講義の内容について復習してください	三木屋 良輔	
12	リハビリ職種として理学療法士の役割とチーム医療の実際	講義の内容について復習してください	三木屋 良輔	
13	リハビリ職種として作業療法士の役割とチーム医療の実際	講義の内容について復習してください	横井 實津志	
14	各職種の役割とチーム医療の実際	講義の内容について復習してください	三木屋 良輔	
15	講義全体のまとめ		三木屋 良輔	

成績評価方法と基準	割合
・単位認定には、2/3以上の出席を必要とします。複数回のレポート課題の成績6割以上で単位認定します。レポートの詳細については講義の中で説明します。	1、レポート 100%

授業科目名	栄養学(理学) (Nutriology)		
主担当教員	南方 克之	担当教員	南方 克之
科目ナンバリング	CS024	学部共通科目	ディプロマポリシー 該当項目 DP③
配当年次	2	開講学期	後期 木曜 4限
授業形態	講義	単位数	2 必修・選択 選択
授業概要	<p>国民総医療費は38兆5850億円に達し、その医療費の55.6%は65歳以上の高齢者が占めているとのことである。2013年度の高齢者数は3190万人(全人口の25.1%)であるが、2030年度には3685万人(31.6%)に達すると予測されている。総医療費の半分以上を占める高齢者が、15年後には3人に1人の割合になることを考えると、いかにして高齢者の健康寿命を長くするかがとても重要になる。1人でも多く的高齢者が健康で過ごせるように医療従事者が食事・指導できることが大切と考え、健康の保持増進に次ぐことのできない</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 栄養素の種類と働きについて理解し、食生活と疾病の関係性について説明できる。 2. 消化と吸収およびエネルギー代謝について説明できる。 3. ライフサイクルと栄養摂取について理解し、栄養アセスメントについて説明できる。 <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「栄養学」に興味を持って授業に臨んでください。 2. 初回授業で実施の詳細を説明します。 		
教科書	『イラスト基礎栄養学第2版』大口健司・小野廣紀・田村明／東京学芸社		
参考書	なし		
研究室/オフィスアワー	森ノ宮医療大学：西棟4F434研究室(火曜日11:00～18:00) 森ノ宮医療学園専門学校：2F 職員事務室／授業外対応可能(木曜日以外)		
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	栄養の概念	予習：教科書(P.1～12)の確認 復習：授業をもとに授業内容の確認	
2	食物の摂取	予習：教科書(P.13～19)の確認 復習：授業をもとに授業内容の確認	
3	消化・吸収と栄養素の体内動態①	予習：教科書(P.21～38)の確認 復習：授業をもとに授業内容の確認	
4	消化・吸収と栄養素の体内動態②	予習：教科書(P.21～38)の確認 復習：授業をもとに授業内容の確認	
5	たんぱく質の栄養①	予習：教科書(P.39～52)の確認 復習：授業をもとに授業内容の確認	
6	たんぱく質の栄養②	予習：教科書(P.39～52)の確認 復習：授業をもとに授業内容の確認	
7	炭水化物の栄養①	予習：教科書(P.53～63)の確認 復習：授業をもとに授業内容の確認	
8	炭水化物の栄養②	予習：教科書(P.53～63)の確認 復習：授業をもとに授業内容の確認	
9	脂質の栄養①	予習：教科書(P.67～77)の確認 復習：授業をもとに授業内容の確認	
10	脂質の栄養②	予習：教科書(P.67～77)の確認 復習：授業をもとに授業内容の確認	
11	ビタミンの栄養①	予習：教科書(P.79～97)の確認 復習：授業をもとに授業内容の確認	
12	ビタミンの栄養②	予習：教科書(P.79～97)の確認 復習：授業をもとに授業内容の確認	
13	ミネラル(無機質)の栄養	予習：教科書(P.99～112)の確認 復習：授業をもとに授業内容の確認	
14	水・電解質の栄養的意義	予習：教科書(P.113～121)の確認 復習：授業をもとに授業内容の確認	
15	エネルギー代謝	予習：教科書(P.123～130)の確認 復習：授業をもとに授業内容の確認	

成績評価方法と基準	割合
定期試験 出題範囲：授業内で扱った範囲	100%

1. 授業の3分の2以上の出席が必要です。
2. 期末テスト80点以上で単位認定とします。

授業科目名 身体運動科学(理学) (Science of Human Body Movement)			
主担当教員	外林 大輔	担当教員	外林 大輔
科目ナンバリング	CS025	学部共通科目	ディプロマポリシー 該当項目
配当年次	2	開講学期	後期
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	本講義では、競技スポーツ、健康運動、運動療法、日常生活活動、労働などの身体活動に対する生体の一時的変化や適応現象のメカニズムについて学び、身体活動の生理学的基礎と、健康、競技スポーツおよび生活習慣病予防のためのトレーニングや栄養との関連性について学ぶ。		
到達目標	運動がもたらす身体への生理学的意義について、これまで学習してきた生理学や解剖学をベースに学ぶことで、改めて基礎医学の重要性を理解し、資格取得後の現場に活かせる知識と考え方を身に付ける。		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	最新のデータや知見を読ませて講義を進めます。できるだけ学生さんたちに興味を持ってもらい、講義中のディスカッションや講義に対する内容の要望などありましたら、遠慮なくお寄せください。		
教科書	授業時に配布するプリント		
参考書	改訂版 運動生理学の基礎と発展(春日規克著・プリンスベース) 運動生理学のニューエビデンス(宮村美晴著・真興交易医書出版)		
研究室/オフィスアワー	大学の講義時は非常勤講師室におります。それ以外の時間帯に質問などがありましたら、メールで連絡してください。 sotobayashi@mor.inomiya.ac.jp		
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	身体運動科学の概要	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
2	運動と筋・骨格①	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
3	運動と筋・骨格②	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
4	ストレングス&コンディショニング	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
5	柔軟性の科学①	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
6	柔軟性の科学②	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
7	運動と循環①	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
8	運動と循環②	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
9	運動と呼吸	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
10	運動と免疫	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
11	運動と栄養	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
12	運動と食生活	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
13	フィジカルチェック	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
14	脳振盪	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
15	講義全体のまとめ・試験対策	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
成績評価方法と基準			割合

授業科目名	東洋医療概論(理学)		担当教員	横山 浩之
主担当教員	横山 浩之	科目区分	学部共通科目	担当項目
科目ナンバリング	CS028	開講学期	後期	曜日・時間
配当年次	2	単位数	2	木曜 5 限
授業形態	講義			必修・選択
授業概要	<p>東アジアで発祥し発展した診断治療体系である東洋医学は、近年エビデンスの検証が進むにつれて批判的吟味と慎重が行われ、有効性と安全性が示されたものについては現代医療の中で応用する試みが行われるようになってきた。東洋医学は心と身体の調和を重視しており、その考え方や具体的な手法を学ぶことは、健康増進だけでなく健康回復の過程においても充実した生活と人生観を取り戻す一助になると考えられる。この授業では、東洋で発祥し伝承されてきた各種治療体系の概要・生命観・具体的手法を知り、患者や高齢者などのように臨床応用していけよいか考える機会を与える。この授業では特に理論と体系の基本を教習する。</p>			
到達目標	<p>下記の内容の概要を理解する。 1. 東洋医学の分野を理解する。 2. 東洋医学の基本的思考法を理解する。 3. 東洋医学が身近なものであることを認識する。</p>			
履修上の注意(学生へのメッセージ)	<p>1. 東洋医学の用語に慣れること。 2. 全ての授業に出席すること。 3. できれば、自分のノートをつくること。</p>			
教科書	なし			
参考書	なし			
なし	なし			
研究室/オフィスアワー	なし			
授業前後の非常勤講師控室	なし			
授業展開及び授業計画表	回数	学習内容	予習・復習・課題等	担当
1	ガイダンス、東洋医学とは この講義を学習することの意味を説明できる	復習：授業の振り返り	予習：前回の授業を振り返っておくこと 復習：授業の振り返り	
2	東洋医学の分野	予習：前回の授業を振り返っておくこと 復習：授業の振り返り	予習：前回の授業を振り返っておくこと 復習：授業の振り返り	
3	陰陽・五行	予習：前回の授業を振り返っておくこと 復習：授業の振り返り	予習：前回の授業を振り返っておくこと 復習：授業の振り返り	
4	臓腑経絡(1)	予習：前回の授業を振り返っておくこと 復習：授業の振り返り	予習：前回の授業を振り返っておくこと 復習：授業の振り返り	
5	臓腑経絡(2)	予習：前回の授業を振り返っておくこと 復習：授業の振り返り	予習：前回の授業を振り返っておくこと 復習：授業の振り返り	
6	診察	予習：前回の授業を振り返っておくこと 復習：授業の振り返り	予習：前回の授業を振り返っておくこと 復習：授業の振り返り	
7	鍼灸治療	予習：前回の授業を振り返っておくこと 復習：授業の振り返り	予習：前回の授業を振り返っておくこと 復習：授業の振り返り	
8	漢方治療	予習：前回の授業を振り返っておくこと 復習：授業の振り返り	予習：前回の授業を振り返っておくこと 復習：授業の振り返り	
9	手技療法	予習：前回の授業を振り返っておくこと 復習：授業の振り返り	予習：前回の授業を振り返っておくこと 復習：授業の振り返り	
10	中医学	予習：前回の授業を振り返っておくこと 復習：授業の振り返り	予習：前回の授業を振り返っておくこと 復習：授業の振り返り	
11	東洋医学の歴史	予習：前回の授業を振り返っておくこと 復習：授業の振り返り	予習：前回の授業を振り返っておくこと 復習：授業の振り返り	
12	東洋医学の特徴	予習：前回の授業を振り返っておくこと 復習：授業の振り返り	予習：前回の授業を振り返っておくこと 復習：授業の振り返り	
13	家庭における東洋医学	予習：前回の授業を振り返っておくこと 復習：授業の振り返り	予習：前回の授業を振り返っておくこと 復習：授業の振り返り	
14	東洋医学と民間療法	予習：前回の授業を振り返っておくこと 復習：授業の振り返り	予習：前回の授業を振り返っておくこと 復習：授業の振り返り	

15	東洋医学の将来と課題	予習：前回の授業を振り返っておくこと 復習：授業の振り返り	割合
成績評価方法と基準			
【評価の配点】			
1. 出席・授業態度			1. 40%
2. レポート提出			2. 60%
* 詳細は授業内で告知する			

授業科目名	人体の構造演習Ⅰ(運動器)(理学) (Human Anatomy Seminar I【Motor System】)		
主担当教員	北村 清一郎	担当教員	北村 清一郎
科目ナンバリング	SB126	専門基礎科目	DF①②③
配当年次	1	開講学期	前期
授業形態	演習	単位数	1
授業概要	<p>人体の構造演習(運動器)(理学)のⅠとⅡでは、人体の基礎を構成し、運動器の中心的な役割を担う骨格系と筋肉系を学習する。骨格系については、骨の種類・構造などの総論と、個々の骨の解剖構造や形態的特徴、ならびに隣接骨間の連結などを、講義のみならず骨模型実習を通して学習する。筋肉系については、筋肉(筋)の種類・構造などの総論に加えて、個々の筋の起始・停止、支配神経・作用などを学習する。これらの学習を通じて、骨と筋が運動器として機能するときどのような連携しているか、考えるところにも、運動時に重要な役割を果たしている関節や靭帯の形態と機能についても理解を深める。前期に実施する「人体の構造演習Ⅰ(運動器)(理学)」では、骨格系・骨の連結・筋肉系の総論、ならびに上肢の骨格系と筋肉系を学習する。</p> <p>到達目標</p> <p>(1)骨の構造と連結の概要、ならびに全身の骨格系の概要が説明できる。 (2)筋肉の構造とはたらきの概要、ならびに筋肉系を支える構造の概略が説明できる。 (3)上肢の各骨の主要構造と主要部位の名称が言えるとともに、これらがどう配置しているかが説明できる。 (4)上肢の各筋の存在部位とはたらき、ならびに他筋との位置関係が説明できる。 (5)上肢の主要関節の構造とそれに係わる筋の作用が説明できる。</p> <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>講義は教科書の内容を中心に、構造の理解に不可欠な図を多く取り込んだパワーポイント(スライド)を用いて行う。講義内容はプリントにして、あらかじめ配布するので、これを元に予習ノートを作成する。実習は講義室とは別の部屋で行われる。実習ではスケッチの提出が求められるので、A4の無地ノート(線が引かれていない)を準備する。</p>		
教科書	「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学(第4版)」 編集 野村 嶺 (医学書院)		
参考書			
特になし			
研究室/オフィスアワー	E棟4階研究室5/毎週月曜日・火曜日・木曜日の日休。		
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	骨格系総論	予習:講義プリントに沿って予習ノート作成 復習:授業を元に予習ノートの加筆と修正	
2	ともかく骨を見てみよう(実習)1	予習:講義プリントに沿って予習ノート作成 復習:授業を元に予習ノートの加筆と修正	
3	靭帯学総論	予習:講義プリントに沿って予習ノート作成 復習:実習内容を元に予習ノートの加筆と修正 課題:指定された骨をスケッチする。	
4	ともかく骨を見てみよう(実習)2	予習:講義プリントに沿って予習ノート作成 復習:授業を元に予習ノートの加筆と修正	
5	筋学総論	予習:講義プリントに沿って予習ノート作成 復習:実習内容を元に予習ノートの加筆と修正 課題:指定された骨をスケッチする。	
6	ともかく骨を見てみよう(実習)3	予習:講義プリントに沿って予習ノート作成 復習:実習内容を元に予習ノートの加筆と修正	
7	上肢の骨と関節1	予習:講義プリントに沿って予習ノート作成 復習:授業を元に予習ノートの加筆と修正	
8	上肢の骨の観察(実習)1	予習:講義プリントに沿って予習ノート作成 復習:実習内容を元に予習ノートの加筆と修正 課題:指定された骨をスケッチする。	
9	上肢の骨と関節2	予習:講義プリントに沿って予習ノート作成 復習:授業を元に予習ノートの加筆と修正	
10	上肢の骨の観察(実習)2	予習:講義プリントに沿って予習ノート作成 復習:実習内容を元に予習ノートの加筆と修正 課題:指定された骨をスケッチする。	

11	上肢の骨の観察(実習)3	予習:講義プリントに沿って予習ノート作成 復習:実習内容を元に予習ノートの加筆と修正 課題:指定された骨をスケッチする。	
12	浅背筋と淺胸筋	予習:講義プリントに沿って予習ノート作成 復習:授業を元に予習ノートの加筆と修正	
13	上肢帯の筋-上腕の筋	予習:講義プリントに沿って予習ノート作成 復習:授業を元に予習ノートの加筆と修正	
14	前腕の筋-手の筋	予習:講義プリントに沿って予習ノート作成 復習:授業を元に予習ノートの加筆と修正	
15	上肢の筋の解剖DVD鑑賞	予習:講義プリントに沿って上肢筋を復習しておく 復習:DVDの内容を元に予習ノートの加筆と修正	
成績評価方法と基準			
学期末に筆記試験を行う。筆記試験は100点満点、これに15点満点の実習スケッチ点を合わせて合計115点満点とし、その60%以上の得点をもって合格とする。合格点に達しない場合には筆記試験の再試験を1回のみ行い、やはりスケッチ点を合わせた60%以上の得点でもって合格とする。			
割合			
筆記試験87% スケッチ13%			

人体の構造演習Ⅱ(運動器/理学) (Human Anatomy Seminar II【Motor System】)			
授業科目名	北村 清一郎	担当教員	北村 清一郎
主担当教員	SB127	専門基礎科目	DP①②③
科目ナンバリング	1	開講学期	後期
配当年次	1	曜日・時限	木曜 2限
授業形態	演習	単位数	1
授業概要	<p>人体の構造演習(運動器)(理学)のIとIIでは、人体の基礎を構成し、運動器の中心的な役割を担う骨格系と筋肉系を学習する。骨格系については、骨の分類、構造などの総論と、個々の骨の解剖構造や形態的特徴、ならびに隣接骨間の連続などを、講義のみならず骨模型実習を通して学習する。筋肉系については、筋肉(筋)の分類、構造などの総論に加えて、個々の筋の起始、停止、支配神経、作用などを学習する。これらの学習を通じて、骨と筋が運動器として機能するときどのような連携しているかを考えるとともに、運動時に重要な役割を果たしている筋</p>		
到達目標	<p>(1) 下肢と体幹の各骨の主要解剖構造や主要部位の名称が書えるとともに、これらがどう配置しているかが説明できる。 (2) 下肢と体幹の各筋の存在部位はたつき、ならびに他筋との位置関係が説明できる。 (3) 下肢と体幹の主要関節の構造とそれに際する筋の作用が説明できる。</p>		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	<p>講義は教科書の内容を中心とし、構造の理解に不可欠な図を多く取り込んだパワーポイント(スライド)を用いて行う。講義内容はプリントにして、あらかじめ配布するので、これを元に予習ノートを作成する。実習は講義室とは別の部屋で行われる。実習ではスケッチの提出が求められるので、A4の無地ノート(線が引かれていない)を準備する。</p>		
教科書	「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学(第4版)」 編集 野村 暁 (医学書院)		
参考書	特に無し		
研究室/オフィスアワー	E 棟4階研究室5 / 毎週月曜日・水曜日・木曜日・土曜日の昼休み。		
授業展開及び授業計画表	回数	学修内容	担当
1	下肢の骨と関節 1	予習：講義プリントに沿って予習ノート作成 復習：授業を元に予習ノートの加筆と修正	
2	下肢の骨の観察(実習) 1	予習：講義プリントに沿って予習ノート作成 復習：実習内容を元に予習ノートの加筆と修正 課題：指定された骨をスケッチする。	
3	下肢の骨と関節 2	予習：講義プリントに沿って予習ノート作成 復習：授業を元に予習ノートの加筆と修正	
4	下肢の骨の観察(実習) 2	予習：講義プリントに沿って予習ノート作成 復習：実習内容を元に予習ノートの加筆と修正 課題：指定された骨をスケッチする。	
5	下肢の骨の観察(実習) 3	予習：講義プリントに沿って予習ノート作成 復習：実習内容を元に予習ノートの加筆と修正 課題：指定された骨をスケッチする。	
6	下肢帯の筋・大腿の筋	予習：講義プリントに沿って予習ノート作成 復習：授業を元に予習ノートの加筆と修正	
7	下腿の筋・足の筋	予習：講義プリントに沿って予習ノート作成 復習：授業を元に予習ノートの加筆と修正	
8	頭蓋	予習：講義プリントに沿って予習ノート作成 復習：授業を元に予習ノートの加筆と修正	
9	頭蓋・脊柱・胸郭の骨の観察(実習) 1	予習：講義プリントに沿って予習ノート作成 復習：実習内容を元に予習ノートの加筆と修正 課題：指定された骨をスケッチする。	
10	脊柱と胸郭	予習：講義プリントに沿って予習ノート作成 復習：授業を元に予習ノートの加筆と修正	
11	頭蓋・脊柱・胸郭の骨の観察(実習) 2	予習：講義プリントに沿って予習ノート作成 復習：実習内容を元に予習ノートの加筆と修正 課題：指定された骨をスケッチする。	
12	頭蓋・脊柱・胸郭の骨の観察(実習) 3	予習：講義プリントに沿って予習ノート作成 復習：実習内容を元に予習ノートの加筆と修正	

課題：指定された骨をスケッチする。	
13	頭部の筋・頸部の筋 予習：講義プリントに沿って予習ノート作成 復習：授業を元に予習ノートの加筆と修正
14	深胸部の筋・腹部の筋 予習：講義プリントに沿って予習ノート作成 復習：授業を元に予習ノートの加筆と修正
15	深背部の筋・下肢の筋の解剖DVDの鑑賞 予習：講義プリントに沿って予習ノート作成 復習：授業を元に予習ノートの加筆と修正
成績評価方法と基準	
学期末に筆記試験を行う。筆記試験は100点満点、これに15点満点の実習スケッチ点を合わせて合計115点満点とし、その60%以上の得点でもって合格とする。	
合格点に達しない場合には筆記試験の再試験を1回のみ行い、やはりスケッチ点を合わせた60%以上の得点でもって合格とする。	
割合	
筆記試験 87%	
スケッチ 13%	

授業科目名	人体の構造 I (神経系/理学) (Human Anatomy I [Nervous System])		
主担当教員	森谷 正之	担当教員	森谷 正之、吉田 篤
科目ナンバリング	SB128	専門基礎科目	ディプロマポリシー 該当項目 DP①②③
配当年次	1	開講学期	前期
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	<p>人体の構造 II (神経系) では、系統解剖学の立場から、感覚器、末梢神経、中枢神経について学習する。感覚器では、外界の情報を受容する器としての構造と機能について学習する。末梢神経では、感覚器により得られた外界の情報を中枢神経に送り、中枢神経系からの出力情報を末梢神経系に伝える神経系について学習する。さらに運動神経系、感覚神経系、自律神経系の機能と形態との関連性について習得する。中枢神経系は脳と脊髄から構成され、外界からの情報を受容し、その情報を処理、統合して行動、情動、思考、記憶など高度な機能を含む重要な部分で</p>		

到達目標

(1) 感覚器の種類と基本的構造を説明できる。
(2) 末梢神経の基本的構成を説明できる。
(3) 中枢神経の基本的構成を説明できる。
(4) 感覚器、末梢神経、中枢神経による情報処理の仕組みの概要を説明できる。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

講義は教科書を中心に進めます。適宜資料を配付するので、復習時の参考として理解を深めて下さい。講義の進行・予定や単位認定の詳細等については、初回講義時に説明します。

教科書

野村 謙 編集 『構理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学(第4版)』 医学書院

参考書

藤田 恒太郎 『人体解剖学 改訂第42版』 (南江堂)
クロスマン、ニアリー(水野、野村 訳) 『神経解剖学カラーテキスト(医学書院)』
研究室/オフィスアワー
E 棟4階(研究室 11)
月曜日午後5時～午後7時、各日昼休みの時間帯は原則研究室に在室しています。

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	講義の概要、感覚器(外皮、視覚器)	事前に教科書の該当部分を読んで下さい。 また、配布資料を復習の際の参考にして下さい。	森谷
2	感覚器(平衡感覚器、嗅覚器、味覚器)	事前に教科書の該当部分を読んで下さい。 また、配布資料を復習の際の参考にして下さい。	森谷
3	神経系総論	事前に教科書の該当部分を読んで下さい。 また、配布資料を復習の際の参考にして下さい。	森谷
4	末梢神経(脳神経① 第 I ~ VI 脳神経)	事前に教科書の該当部分を読んで下さい。 また、配布資料を復習の際の参考にして下さい。	森谷
5	末梢神経(脳神経② 第 VII ~ 第 XII 脳神経)	事前に教科書の該当部分を読んで下さい。 また、配布資料を復習の際の参考にして下さい。	森谷
6	末梢神経(脊髄神経① 頸神経 胸神経)	事前に教科書の該当部分を読んで下さい。 また、配布資料を復習の際の参考にして下さい。	森谷
7	末梢神経(脊髄神経② 腰神経 仙骨神経、自律神経系)	事前に教科書の該当部分を読んで下さい。 また、配布資料を復習の際の参考にして下さい。	森谷
8	感覚器と末梢神経の形態 まとめ	感覚器と末梢神経の形態について、教科書、ノート、配布資料などで復習して下さい。 事前に教科書の該当部分を読んで下さい。	森谷
9	中枢神経(脊髄)	事前に教科書の該当部分を読んで下さい。 また、配布資料を復習の際の参考にして下さい。	森谷
10	中枢神経(脳幹)	事前に教科書の該当部分を読んで下さい。 また、配布資料を復習の際の参考にして下さい。	森谷
11	中枢神経(小脳)	事前に教科書の該当部分を読んで下さい。 また、配布資料を復習の際の参考にして下さい。	森谷
12	中枢神経(間脳、終脳① 大脳皮質)	事前に教科書の該当部分を読んで下さい。 また、配布資料を復習の際の参考にして下さい。	森谷
13	中枢神経(終脳② 辺縁系 大脳基底核)	事前に教科書の該当部分を読んで下さい。 また、配布資料を復習の際の参考にして下さい。	森谷

14	中枢神経(神経路)	事前に教科書の該当部分を読んで下さい。 また、配布資料を復習の際の参考にして下さい。	森谷
15	中枢神経の形態 まとめ	中枢神経の形態について、教科書、ノート、資料などで復習して下さい。	森谷
成績評価方法と基準			割合
①筆記試験(90%)			①90%
②課題等の提出(10%)			②10%
評価の具体的な内容については、初回講義時に説明します。			

人体の構造Ⅱ(循環・内臓(理学)) (Human Anatomy II (Splanchnic Circulation))			
授業科目名	人体の構造Ⅱ(循環・内臓(理学)) (Human Anatomy II (Splanchnic Circulation))	担当教員	森谷 正之
主担当教員	森谷 正之	科目区分	専門基礎科目
科目ナンバリング	SB129	後期	水曜 3限
配当年次	1	単位数	2
授業形態	講義	必修・選択	必修
授業概要	<p>人体の構造Ⅰ(循環・内臓)では、循環系と内臓系を中心に人体の正常構造について系統解剖学の立場から基本的な概念と知識の習得を目指す。臨床系専門科目に先駆けて、心臓血管系、リンパ系、消化器系、呼吸器系、泌尿生殖器系、内分泌系など多岐におよぶ学習範囲を系統立てて学習する。単なる名称の記憶にとどまらず、形態と機能との関わりを考え、医師に携わる者として基礎となる知識や論理性のある思考能力を身につける。</p> <p>到達目標</p> <p>①循環系(心臓血管系、リンパ系など)の基本的構成を説明できる。 ②内臓系(消化器、呼吸器、泌尿器、生殖器、内分泌器など)の基本的構成を説明できる。</p> <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>講義は教科書を中心に進めます。適宜資料を配付するので、復習時の参考として理解を深めて下さい。講義の進行・予定や単位認定の詳細等については、初回講義時に説明します。</p> <p>教科書</p> <p>野村織 編集 『標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学(第4版)』 医学書院</p> <p>参考書</p> <p>藤田恒太郎『人体解剖学 改訂第42版』(南江堂)</p> <p>研究室/オフィスアワー</p> <p>E棟4階(研究室Ⅱ) 月曜日から土曜日まで午後7時～午後9時、各日昼休みの時間帯は原則研究室に在室しています。</p> <p>授業展開及び授業計画表</p>		
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	講義の概要 血液とリンパ 脈管系(循環器系)総論	事前に教科書の該当部分を読んで下さい。 また、配布資料を復習の際の参考にして下さい。	森谷
2	心臓	事前に教科書の該当部分を読んで下さい。 また、配布資料を復習の際の参考にして下さい。	森谷
3	小循環(肺循環)と大循環(体循環) 動脈系①(総頸動脈、鎖骨下動脈、胸大動脈)	事前に教科書の該当部分を読んで下さい。 また、配布資料を復習の際の参考にして下さい。	森谷
4	動脈系②(腹大動脈、総腸骨動脈)	事前に教科書の該当部分を読んで下さい。 また、配布資料を復習の際の参考にして下さい。	森谷
5	静脈系	事前に教科書の該当部分を読んで下さい。 また、配布資料を復習の際の参考にして下さい。	森谷
6	胎生期の循環系 リンパ系	事前に教科書の該当部分を読んで下さい。 また、配布資料を復習の際の参考にして下さい。	森谷
7	脈管系の復習	脈管系の形態について、教科書、ノート、配布資料などで復習して下さい。	森谷
8	内臓学総論 消化器系①(口腔、咽頭、食道)	事前に教科書の該当部分を読んで下さい。 また、配布資料を復習の際の参考にして下さい。	森谷
9	消化器系②(胃、小腸、大腸)	事前に教科書の該当部分を読んで下さい。 また、配布資料を復習の際の参考にして下さい。	森谷
10	消化器系③(肝臓、膵臓) 呼吸器系①(外鼻、鼻腔)	事前に教科書の該当部分を読んで下さい。 また、配布資料を復習の際の参考にして下さい。	森谷
11	呼吸器系②(気管、気管支、肺)	事前に教科書の該当部分を読んで下さい。 また、配布資料を復習の際の参考にして下さい。	森谷
12	泌尿器系	事前に教科書の該当部分を読んで下さい。 また、配布資料を復習の際の参考にして下さい。	森谷
13	生殖器系①(男性生殖器)	事前に教科書の該当部分を読んで下さい。 また、配布資料を復習の際の参考にして下さい。	森谷
14	生殖器系②(女性生殖器) 内分泌系	事前に教科書の該当部分を読んで下さい。 また、配布資料を復習の際の参考にして下さい。	森谷
15	内臓系の復習	内臓系の形態について、教科書、ノート、配布資料などで復習して下さい。	森谷

成績評価方法と基準	割合
①筆記試験(90%) ②課題等の提出(10%) 評価の具体的な内容については、初回講義時に説明します。	①90% ②10%

授業科目名 人体の構造実習(理学) (Human Anatomy Training)			
主担当教員	川畑 浩久	担当教員	川畑 浩久
科目ナンバリング	SB104	専門基礎科目	DP②③④
配当年次	2	開講学期	後期
授業形態	実習	単位数	1
授業概要	<p>人体の構造的、機能的な最小単位である細胞には様々な形態を有しているものがあり、器官・臓器はそれらが一定の秩序に従って構成されている。本実習ではヒトの身体から取った組織標本の顕微鏡観察を通じて、これまで学習した「人体の機能」について、ミクロからマクロまで関連づけながら理解を深めるとともに、生命の尊厳についても学習する。</p> <p>到達目標</p> <p>生物の最小単位である細胞がいかなる「形態」を有し、どのような「機能」を発揮しているのかについて「観察」を通じて理解を深めること。各器官・臓器の機能についてもより深く理解し、さらに疾病における形態変化がどのような機能障害を生じるかについても考察できるようにする。</p> <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>1. 組織学の理解を深めることは、解剖学や生理学のみならず病理学や病態学の理解を深めることにつながるから、積極的に学習すること。</p> <p>2. 顕微鏡観察においてはイメージを理解することや観察力を身につける努力をすること。</p> <p>3. 実習で扱う顕微鏡やプレパラートは精密機器かつ貴重な資料であることから、丁寧に扱うこと。</p> <p>4. 実習室は毎朝チームが異なるため極力欠席をしないようにすること。</p> <p>5. 実習室は精密機器を扱うことから飲食を禁止すること。</p> <p>6. 受講にあたっては最低限の礼儀をわきまえること。また私語などは授業妨害・他学生</p>		
教科書	適宜資料もしくはプリントを配布する		
参考書	<p>1. 牛本匠明 著「入門組織学」 南江堂 2013年</p> <p>2. 伊藤隆、阿部和厚 著「組織学 第19版」 南山堂 2005年</p> <p>3. 野上晴雄 著「新組織学 (Qシリーズ) 改訂第6版」日本医事新報社 2016年</p>		
研究室/オフィスアワー	0 棟研究室 707: 木、金曜日 17:00~18:00 ですが、部屋にいればいつでも訪問可です。		
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	実習の進め方、組織学の歴史、組織標本の観察方法ならびに作成方法、組織学総論(4大組織)についての解説	予習: 人体の構造、機能で学んだ組織、細胞について調べておくこと 復習: 4大組織について復習しておくこと	川畑
2	上皮組織 1: 上皮(皮膚組織)についての解説および観察	予習: 人体の構造、機能で学んだ皮膚組織について調べておくこと 復習: 観察した皮膚組織の構造について復習しておくこと	川畑
3	上皮組織 2: 上皮(消化管粘膜上皮)についての解説および観察	予習: 人体の構造、機能で学んだ上皮(食道および胃粘膜上皮)について調べておくこと 復習: 観察した食道および胃粘膜上皮の構造について復習しておくこと	川畑
4	上皮組織 3: 腸上皮(外分泌腺(胃腺、唾液腺))についての観察および解説	予習: 人体の構造、機能で学んだ胃腺・唾液腺について調べておくこと 復習: 観察した胃腺・唾液腺の構造について復習しておくこと	川畑
5	上皮組織 4: 腸上皮(内分泌腺(甲状腺、膵内分泌腺))についての観察および解説	予習: 人体の構造、機能で学んだ甲状腺・膵内分泌腺について調べておくこと 復習: 観察した甲状腺・膵内分泌腺の構造について復習しておくこと	川畑
6	支持組織 1: 軟骨組織(気管軟骨・骨端軟骨)についての解説および観察	予習: 人体の構造、機能で学んだ軟骨組織について調べておくこと 復習: 観察した気管軟骨・骨端軟骨の構造について復習しておくこと	川畑
7	支持組織 2: 骨組織、血管(動脈)、血液細胞についての解説および観察	予習: 人体の構造、機能で学んだ骨、血管(動脈)、血液細胞について調べておくこと 復習: 観察した骨、血管(動脈)の組織学的構造について復習しておくこと	川畑

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
8	筋組織 横紋筋、平滑筋、心筋について解説および観察	予習: 人体の構造、機能で学んだ筋組織について調べておくこと 復習: 観察した筋組織の組織学的構造について復習しておくこと	川畑
9	神経組織 神経組織(骨髄、大脳、小脳)についての解説および観察	予習: 人体の構造、機能で学んだ神経組織について調べておくこと 復習: 観察した骨髄、大脳、小脳の組織学的構造について復習しておくこと	川畑
10	呼吸器系: 気管および肺についての解説および観察	予習: 人体の構造、機能で学んだ気管、肺について調べておくこと 復習: 観察した気管、肺の組織学的構造について復習しておくこと	川畑
11	消化器系 1: 消化管(小腸、大腸)についての解説および観察	予習: 人体の構造、機能で学んだ小腸、大腸について調べておくこと 復習: 観察した小腸、大腸の組織学的構造について復習しておくこと	川畑
12	消化器系 2: 肝臓、胆嚢についての解説および観察	予習: 人体の構造、機能で学んだ肝臓、胆嚢について調べておくこと 復習: 観察した肝臓、胆嚢の組織学的構造について復習しておくこと	川畑
13	循環器系: 心臓、血管・リンパ(組織・骨髄・胸腺)についての解説および観察	予習: 人体の構造、機能で学んだ心臓・骨髄・胸腺について調べておくこと 復習: 観察した心臓・血管・リンパ(組織・骨髄・胸腺)の組織学的構造について復習しておくこと	川畑
14	泌尿器系: 腎(糸球体および尿管)についての解説および観察	予習: 人体の構造、機能で学んだ腎(糸球体および尿管)について調べておくこと 復習: 観察した腎の組織学的構造について復習しておくこと	川畑
15	組織学のまとめ: これまで観察してきた正常組織像の総復習	予習: これまで観察してきた正常組織像について調べておくこと 復習: まとめで学んだ組織像について復習すること	川畑
成績評価方法と基準			
1. 実習ノートの提出 (※実習ノートの提出は授業終了後必ず提出すること。未提出の際は欠席とみなす場合もある。)			
2. 授業内での小テスト			
3. 4/5以上の出席が必要			
割合			
1. 70%			
2. 30%			

授業科目名 人体の機能1 (動物性機能/理学) (Human Physiology I (Animal Function))			
主担当教員	今村 行雄	担当教員	今村 行雄
科目ナンバリング	SB105	専門基礎科目	DF①②③
配当年次	1	開講学期	前期 金曜3限
授業形態	講義	単位数	2 必修・選択 必修
授業概要	<p>生理学について学ぶ。人体の正常な機能について学習し、医学の他の分野を学ぶための基礎を身につけることを目的とする。人体の機能1では、神経系と血液を中心に取り扱う。</p> <p>到達目標</p> <p>細胞の構造と機能のあらましを述べることができる。 神経細胞とシナプスについて概説することができる。 中枢神経の主要部位の構造とその主な機能を述べることができる。 感覚の受容について述べることができる。 筋肉の収縮・弛緩について述べることができる。 血液の組成と、それぞれの成分の役割を説明できる。 履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>参考書として推薦していますが、生理学第4版(医学書院)はわかりやすくとてもいい教科書なのでできるだけ購入してください。講義はこの生理学の教科書(参考書として推薦)に基づいて作成した資料を使っています。生理学は皆さんにとってとても重要な科目の一つです。しかし、その内容は非常に多く、初学者が陥りやすい陥みとしては、すべてを網羅して隅から隅まで固めておくのは難しく、どこに力点をいけたいか知りたいたいことだと思います。本講義では皆さんができるだけ迷わないようにするため、知識の整理した資料を作成しています。また、最後には一回の試験での評価は皆さんも逆に大変だと思います。そこで、毎回講義の終わりに知識の確認のための練習問題をやっていただき、真ん中あたり(第8回)および最後(15回)にまとめと小テストを行います。すなわち、小テスト2回+最後の期末1回で評価します。</p>		
教科書			
使用しない。生理学第4版に基づき作成した資料で講義を進めます。			
参考書	生理学 第4版 (標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野) 医学書院		
研究室/オフィスアワー			
質問などありましたら、講義終了後、教室もしくは非常勤講師教室で受け付けます			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	序説、生命現象と人体	生理学とはどのような学問なのか、人体の諸臓器・体液の働き・ホメオスタシスについて述べられるようにする。	人体の諸臓器・体液の働き・ホメオスタシスについて述べられるようにする。
2	ニューロンとシナプス	細胞膜の働きと生体膜電位について述べられるようにする。	細胞膜の働きと生体膜電位について述べられるようにする。
3	神経の興奮伝導と末梢神経(その1)	神経細胞の構造と末梢神経の種類について述べられるようにする。	神経細胞の構造と末梢神経の種類について述べられるようにする。
4	神経の興奮伝導と末梢神経(その2)	シナプスによる興奮伝達の仕組みについて述べられるようにする。	シナプスによる興奮伝達の仕組みについて述べられるようにする。
5	中枢神経系(その1)	中枢神経系について概説できるようになるとともに、脊髄から間脳に至る部位の機能について述べられるようにする。	中枢神経系について概説できるようになるとともに、脊髄から間脳に至る部位の機能について述べられるようにする。
6	中枢神経系(その2)	小脳、大脳各部位の機能について述べられるようにする。	小脳、大脳各部位の機能について述べられるようにする。
7	中枢神経系(その3)	脳の高次機能についてその測定方法や脳の保護機能について述べられるようにする。	脳の高次機能についてその測定方法や脳の保護機能について述べられるようにする。
8	前半のまとめ及び小テスト		
9	筋と骨(その1)	骨格筋の機能について述べられるようにする。	骨格筋の機能について述べられるようにする。
10	筋と骨(その2)	心筋・平滑筋と骨の機能について述べられるようにする。	心筋・平滑筋と骨の機能について述べられるようにする。
11	感覚(その1)	感覚の受容の仕組みについて概説できるようになるとともに、体性感覚・内臓感覚について説明できるようにする。	感覚の受容の仕組みについて概説できるようになるとともに、体性感覚・内臓感覚について説明できるようにする。

12	感覚(その2)	特殊感覚(視覚・聴覚・味覚・嗅覚)の受容の仕組みについて説明できるようにする。	1. 小テスト 2. 期末テスト 3. 授業態度 で評価する。
13	血液(その1)	血液の成分について概説できるようになるとともに、赤血球の働きについて説明できるようにする。	
14	血液(その2)	白血球・血小板の働きと血液型の仕組みについて説明できるようにする。	
15	後半のまとめ及び小テスト		
16			
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
成績評価方法と基準			割合
			1. 20%
			2. 70%
			3. 10%

授業科目名 人体の機能Ⅱ(植物性機能/理学) (Human Physiology II【Vegetative Function】)			
主担当教員	今村 行雄	担当教員	今村 行雄
科目ナンバリング	SB106	専門基礎科目	ディプロマポリシー 該当項目 DP①②③
配当年次	1	開講学期	後期 金曜 3限
授業形態	講義	単位数	2 必修・選択
授業概要	<p>生理学について学ぶ。人体の正常な機能について学習し、医学の他の分野を学ぶための基礎を身につけることを目的とする。人体の機能Ⅱでは、循環器・消化器をはじめとした内臓を中心に取り扱う。</p> <p>到達目標</p> <p>心臓と血管のあらましを説明できるとともに、循環調節について概説することができる。</p> <p>呼吸力学とガスとの運搬を概説できるとともに、呼吸調節について説明できる。</p> <p>腎臓の働きについて説明できるとともに、体液調節の仕組みについて述べることができる。</p> <p>消化と吸収の仕組みを概説できる。</p> <p>さまざまなホルモンの分泌の仕組みと働きについて説明できる。</p> <p>代謝と体温の調節について概説できる。</p> <p>生殖と発生をあらましを説明できる。</p> <p>運動に伴う人体の機能変化について説明できる。</p> <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>参考書として推薦していますが、生理学第4版(医学書院)はわかりやすくとても良い教科書なのでできるだけ購入してください。講義はこの生理学の教科書(参考書として推薦)に基づいて作成した資料を使っています。生理学は皆さんにとってとても重要な科目の一つです。しかし、その内容は非常に多く、初学者が陥りやすい陥みとしては、すべてを網羅して隅から隅まで暗記しておくのは難しく、どこに力点をのけたらいいかわからないというところだと思います。本講義では皆さんができるだけ速く進むようにするために、配属した資料を作成して</p>		
教科書			
使用しない。	生理学第4版に基づき作成した資料で講義を進めます。		
参考書	生理学第4版(標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野) 医学書院		
研究室/オフィスアワー			
質問などありましたら、講義終了後、教室もしくは非常勤講師控室で受け付けます			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	心臓と循環(その1)	心臓の興奮・収縮・運動・心臓電気生理・心電図について述べられるようにする。	
2	心臓と循環(その2)	血管の働きと血圧の成り立ちについて述べられるようにする。	
3	心臓と循環(その3)	微小循環と腎臓器における循環調節の特徴について述べられるようにする。	
4	呼吸とガスの運搬(その1)	呼吸器の働きと換気力学について述べられるようにする。	
5	呼吸とガスの運搬(その2)	ガス交換と呼吸調節の仕組みについて述べられるようにする。	
6	尿の生成と排泄(その1)	尿生成の仕組みについて述べられるようにする。	
7	尿の生成と排泄(その2)と酸塩基平衡	尿生成の調節の仕組みと、酸塩基平衡の異常を含む体液成分変化への身体の対応について述べられるようにする。	
8	前半のまとめ及び小テスト		
9	消化と吸収	栄養素の消化と吸収の仕組みについて述べられるようにする。	
10	内分泌(その1)	生理活性物質の分類とホルモンの作用の仕組みについて概説できるようにする。	
11	内分泌(その2)	いろいろなホルモンの分泌と作用の仕組みについて述べられるようにする。	
12	代謝と体温	栄養素の代謝と体温の調節の仕組みについて述べられるようにする。	

13	生殖と発生	生殖と発生について述べられるようにする。
14	運動生理	運動に伴う人体の機能変化について説明できるようにする。
15	後半のまとめ及び小テスト	
成績評価方法と基準		
割合		
1. 小テスト		
2. 期末テスト		
3. 授業態度で評価する。		
1. 20%		
2. 70%		
3. 10%		

授業科目名 基礎運動学(理学) (Basic Kinesiology)			
主担当教員	角田 晃啓	担当教員	角田 晃啓
科目ナンバリング	SB107	専門基礎科目	ディプロマポリシー 該当項目 DP①②③
配当年次	1	開講学期	後期 火曜 1限
授業形態	講義	単位数	1 必修・選択
授業概要	基礎運動学では、人体の構造と機能(骨、筋、神経)をふまえて、人体が空間のなかでどのように動くかを学習する。特に重力の影響を受けた状態での運動について理解することを目的とする。		
到達目標	空間の中での身体の運動を理解できる。 身体の運動に関与している骨、関節、靭帯、筋について説明できる。 また、各関節固有の運動について用語を理解・記憶し、他者に対して説明できる。		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	解剖学・生理学の知識が必要となるため必ず復習すること。		
教科書	中村隆一『基礎運動学』医歯薬出版		
参考書	Donat Id A. Neumann 『筋骨格系のキネシオロジー』医歯薬出版 A. I. Kapandji 『カパンジ 関節の生理学』医歯薬出版 研究室/オフィスアワー 角田・木曜日の5時限目(研究室)		
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	力学の基礎	教科書・配布資料を読み、基本姿勢、運動の方向(面と軸)、テコについて理解する。	
2	運動器の基礎	教科書・配布資料を読み、骨・神経・筋の概要について理解する。	
3	肘関節・前腕の運動	教科書・配布資料を読み、肘関節の骨・関節構造・靭帯、筋、運動について理解する。	
4	肩関節の運動(1)	教科書・配布資料を読み、肩関節の骨・関節構造・靭帯、筋、運動について理解する。	
5	肩関節の運動(2)	教科書・配布資料を読み、肩関節の骨・関節構造・靭帯、筋、運動について理解する。	
6	手関節・手の運動(1)	教科書・配布資料を読み、手関節の骨・関節構造・靭帯、筋、運動について理解する。	
7	手関節・手の運動(2)	教科書・配布資料を読み、手関節の骨・関節構造・靭帯、筋、運動について理解する。	
8	上肢の運動学	到達目標：上肢の運動にまつわる用語を理解、記憶し、他者に対して説明できる。	
9	股関節の運動(1)	教科書・配布資料を読み、股関節の骨・関節構造・靭帯、筋、運動について理解する。特に肩関節との類似点・相違点について理解する。	
10	股関節の運動(2)	教科書・配布資料を読み、股関節の骨・関節構造・靭帯、筋、運動について理解する。	
11	膝関節・下腿の運動	教科書・配布資料を読み、膝関節の骨・関節構造・靭帯、筋、運動について理解する。特に肘関節・前腕との類似点・相違点について理解する。	
12	足関節の運動(1)	教科書・配布資料を読み、足関節の骨・関節構造・靭帯、筋、運動について理解する。特に手関節・手との類似点・相違点について理解する。	
13	足関節の運動(2)	教科書・配布資料を読み、足関節の骨・関節構造・靭帯、筋、運動について理解する。	
14	脊柱・体幹の運動(1)	教科書・配布資料を読み、脊柱・体幹の骨・関節構造・靭帯、筋、運動について理解する。	
15	脊柱・体幹の運動(2)	教科書・配布資料を読み、脊柱・体幹の骨・関節構造・靭帯、筋、運動について理解する。	

成績評価方法と基準	
確認テスト	割合 20%
中間試験	40%
期末試験	40%

	(20%) 定期試験 (80%)
--	------------------------

臨床運動学(理学) (Clinical Kinesiology)			
授業科目名	臨床運動学(理学)	工藤 慎太郎	工藤 慎太郎
主担当教員	工藤 慎太郎	担当教員	工藤 慎太郎
科目ナンバリング	SB108	専門基礎科目	DF①②③
配当年次	2	前期	曜日・時限
授業形態	演習	単位数	1
授業概要	<p>身体の運動を解剖学的・生体力学的側面から学び、種々の疾患において生じる症状を運動学的に理解し、理学療法アプローチを考察できるようにするための基礎を形成する。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 四肢の正常な関節運動の動を説明できる。 四肢の運動機能障害を運動学的に説明できる。 履修上の注意(学生へのメッセージ) <ol style="list-style-type: none"> 1年次に行った解剖学・運動学を復習して臨むこと 理学療法の基礎をなす重要な科目です。十分な予習と復習をして下さい。 分からない時は勝手に質問して下さい。 <p>教科書</p> <p>工藤慎太郎編;運動器疾患の「なぜ?」がわかる臨床解剖学;医学書院</p> <p>参考書</p> <p>坂井建男;プロメテウス人体解剖学;医学書院 中村隆一編;基礎運動学;医歯薬出版株式会社 研究室/オフィスアワー</p> <p>東棟4F17 研究室/月曜1限または時間が空いているときに対応します(要予約)。</p>		
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	オリエンテーション	解剖学・運動学の復習	
2	肩関節	肩関節の静的安定化機構について	
3	肩関節	肩関節動的安定化機構について	
4	肩甲胸郭関節	肩甲胸郭関節の筋について	
5	股関節	股関節の安定化機構について	
6	膝関節	Screw home movementについて	
7	膝関節靭帯	膝関節静的安定化機構について	
8	半月板	半月板機能について	
9	足関節	足関節の Normal tracking movementについて	
10	足関節の靭帯	足関節の安定化機構について	
11	足部	足部アーチの構造について	
12	体幹	脊柱の安定化機構について	
13	肩関節機能障害の運動学的考察	肩関節の運動学について	
14	膝関節機能障害の運動学的考察	膝関節の運動学について	
15	まとめ	まとめ	
成績評価方法と基準			割合
講義中に随時小テストと定期試験で総合的に判定し、60点以上で単位認定とする。			講義中に課す課題の遂行・提出状況

授業科目名		運動学実習(理学)	
主担当教員	前田 薫	担当教員	
科目ナンバリング	SB130	前田 薫、角田 昇啓、中本 正美、 工藤 慎太郎	
配当年次	1	専門基礎科目	DP①②
授業形態	演習	曜日・時間	木曜 1限
授業概要		必修・選択	必修
到達目標	<p>本授業において、学生は、運動学の知識を測定・解析に用いる方法の概略と論理的思考の基礎を習得することを、①立位パランス、②筋活動、③立ち上がり動作の解析、④呼吸ガス分析を実施する。専門的な機器の操作は継続するため、教員の指示にしたがって実施する。そして、一連の実験課程をレポートにまとめ、結果の予想、実験、レポートの作成の課程で、学生は論理的思考と順序立った報告書の作成を経験し、その習得を得る。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・運動学の知識を測定・解析に用いる方法の概略と論理的思考の課程を説明できる ・論理的なレポートを書くことができる 		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	<ul style="list-style-type: none"> ・学生を班に別けて、班によって授業実施日時を変えて実施します。 ・すべて(別添配付する授業進行表(前期中に配布))にしたがって行動してください。 ・グループワークが中心です。 		
教科書	<ul style="list-style-type: none"> 1)青木隆明(監修)、運動療法のための機能解剖学的触診技術、上肢、メジカルビュー社 2)青木隆明(監修)、運動療法のための機能解剖学的触診技術、下肢、メジカルビュー社 3)中村隆一『基礎運動学』医歯薬出版 		
参考書			
特に指定しない。			
研究室/オフィスアワー			
各教員に事前にアポイントメントを取ってください。具体的には各担当教員から指示があります。			
授業期間及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	【オリエンテーション】 ・実習の班分け ・実習の進め方の説明 ・レポートの書き方の説明 ・実験演習①	予習：教科書の該当ページを読んでおく。 復習：実技内容を各自練習しておく。	前田
2	【オリエンテーション②】 ・実験演習②	予習：教科書の該当ページを読んでおく。 復習：実技内容を各自練習しておく。	前田
3	【床反力実習①】 ・測定する項目について仮説を立てる ・仮説を検証する方法を立案する ・測定を実施する ・データを解析する	予習：教科書の該当ページを読んでおく。 復習：実技内容を各自練習しておく。	中本
4	【床反力実習②】 ・測定する項目について仮説を立てる ・仮説を検証する方法を立案する ・測定を実施する ・データを解析する	予習：教科書の該当ページを読んでおく。 復習：実技内容を各自練習しておく。	中本
5	【筋電図実習①】 ・測定する項目について仮説を立てる ・仮説を検証する方法を立案する ・測定を実施する ・データを解析する	予習：教科書の該当ページを読んでおく。 復習：実技内容を各自練習しておく。	前田
6	【筋電図実習②】 ・測定する項目について仮説を立てる ・仮説を検証する方法を立案する ・測定を実施する ・データを解析する	予習：教科書の該当ページを読んでおく。 復習：実技内容を各自練習しておく。	前田

7	【筋電図実習③】 ・測定する項目について仮説を立てる ・仮説を検証する方法を立案する ・測定を実施する ・データを解析する	予習：教科書の該当ページを読んでおく。 復習：実技内容を各自練習しておく。	前田
8	【筋電図実習④】 ・測定する項目について仮説を立てる ・仮説を検証する方法を立案する ・測定を実施する ・データを解析する	予習：教科書の該当ページを読んでおく。 復習：実技内容を各自練習しておく。	前田
9	【呼吸ガス実習①】 ・測定する項目について仮説を立てる ・仮説を検証する方法を立案する ・測定を実施する ・データを解析する	予習：教科書の該当ページを読んでおく。 復習：実技内容を各自練習しておく。	角田
10	【呼吸ガス実習②】 ・測定する項目について仮説を立てる ・仮説を検証する方法を立案する ・測定を実施する ・データを解析する	予習：教科書の該当ページを読んでおく。 復習：実技内容を各自練習しておく。	角田
11	【呼吸ガス実習③】 ・測定する項目について仮説を立てる ・仮説を検証する方法を立案する ・測定を実施する ・データを解析する	予習：教科書の該当ページを読んでおく。 復習：実技内容を各自練習しておく。	角田
12	【立ち上がり動作の解析実習①】 ・測定する項目について仮説を立てる ・仮説を検証する方法を立案する ・測定を実施する ・データを解析する	予習：教科書の該当ページを読んでおく。 復習：実技内容を各自練習しておく。	工藤
13	【立ち上がり動作の解析実習②】 ・測定する項目について仮説を立てる ・仮説を検証する方法を立案する ・測定を実施する ・データを解析する	予習：教科書の該当ページを読んでおく。 復習：実技内容を各自練習しておく。	工藤
14	【立ち上がり動作の解析実習③】 ・測定する項目について仮説を立てる ・仮説を検証する方法を立案する ・測定を実施する ・データを解析する	予習：教科書の該当ページを読んでおく。 復習：実技内容を各自練習しておく。	工藤
15	【立ち上がり動作の解析実習④】 ・測定する項目について仮説を立てる ・仮説を検証する方法を立案する ・測定を実施する ・データを解析する	予習：教科書の該当ページを読んでおく。 復習：実技内容を各自練習しておく。	工藤
成績評価方法と基準			割合
レポート 100%			レポート 100%

授業科目名	臨床心理学(理学) (Clinical Psychology)		
主担当教員	海蔵寺 陽子	担当教員	海蔵寺 陽子
科目ナンバリング	SB117	専門基礎科目	ディプロマポリシー 該当項目
配当年次	1	開講学期	後期
授業形態	演習	単位数	1
授業概要	必修・選択		
臨床心理学は、人間の不適応行動の研究や治療を目的とする心理学です。授業では、人の心の構造のほか、具体的な心理検査や心理療法について学習します。			
到達目標			
1. 心の病気とその症状を理解する			
2. 各種の心理検査について理解し、その特徴を説明できる			
3. 各種の心理療法について理解し、その特徴を説明できる			
履修上の注意(学生へのメッセージ)			
1. 身近な経歴を臨床心理学的に考えてみる			
2. 疑問を大切に、解決に向けて行動すること			
教科書			
臨床心理学序説 高橋雅春・高橋依子 著 ナカニシヤ出版			
参考書			
はじめの臨床心理学 森谷寛之・竹松志乃 編著 北樹出版			
研究室/オフィスアワー			
なし			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	臨床心理学とは	予習：教科書の確認 復習：授業をもとにノート、教科書の確認	
2	心理療法とは	予習：心の健康について考えてみる 復習：授業をもとにノート、教科書の確認	
3	精神力動的心理学法1	予習：心の動きについて新聞・テレビ・メディア記事などをひとつ調べる 復習：授業をもとにノート、教科書の確認	
4	精神力動的心理学法2	予習：精神分析について教科書を読んでおく 復習：授業をもとにノート、教科書の確認	
5	精神力動的心理学法3	予習：自分の考え方を記録してみる 復習：授業をもとにノート、教科書の確認	
6	行動療法1	予習：行動療法について教科書を読んでおく 復習：授業をもとにノート、教科書の確認	
7	行動療法2	予習：学習理論について調べておく 復習：授業をもとにノート、教科書の確認	
8	クライエント中心療法	予習：傾聴について調べておく 復習：授業をもとにノート、教科書の確認	
9	その他の心理学法	予習：心理療法に関する新聞・テレビ・メディア記事などをひとつ調べておく 復習：授業をもとにノート、教科書の確認	
10	心理テストとは	予習：心理テストを実施する際、注意すべきことは何か考えてみる 復習：授業をもとにノート、教科書の確認	
11	性格テスト1	予習：性格テストについて教科書を読んでおく 復習：授業をもとにノート、教科書の確認	
12	性格テスト2	予習：性格テストに関する新聞・テレビ・メディア記事などをひとつ調べておく 復習：授業をもとにノート、教科書の確認	
13	知能テスト1	予習：知能について考える 復習：授業をもとにノート、教科書の確認	
14	知能テスト2	予習：知能テストについて教科書を読んでおく 復習：授業をもとにノート、教科書の確認	

15	講義全体のまとめと振り返り	予習：心理療法、心理テストを実施するときの注意点について考えてみる 復習：授業をもとにノート、教科書の確認
成績評価方法と基準		割合
①期末試験		①80%
②平常点(レポート、授業態度など)		②20%

レポート提出ならびに適宜行われる授業内容の確認によって評価する。 100%

授業科目名		リハビリテーション概論(理学) (Introduction to Rehabilitation)			
主担当教員	角田 晃啓	担当教員	角田 晃啓、金尾 顕郎、中根 征也		
科目ナンバリング	SB109	科目区分	専門基礎科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP①
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	木曜 2限
授業形態	演習	単位数	1	必修・選択	必修
授業概要					
リハビリテーションについて、理学療法を中心にその概要を教授する。					
到達目標					
1. リハビリテーションをとりまく一般的な知識が理解できる。					
2. リハビリテーションにおける理学療法の領域、位置づけが理解できる。					
履修上の注意(学生へのメッセージ)					
必要に応じてフィールドワークを行うことがあるので必ず参加すること。					
教科書					
樽原彰夫 PT・OT・ST・ナーースを目指す人のためのリハビリテーション総論 診断と治療社					
参考書					
特になし(適宜、授業資料を配布)					
研究室/オフィスアワー					
角田:在室時は随時					
金尾:水曜日の1限、もしくは、事前に連絡があれば随時対応します。					
授業展開及び授業計画表					
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当		
1	リハビリテーションの概要	到達目標:リハビリテーションの歴史、概要について理解する。			
2	疾病と障害、ICIDHとICF	到達目標:疾患と障害の違いについて理解し、これを説明できる。			
3	リハビリテーション関連職種	到達目標:リハビリテーション関連職種の職域の違いについて説明できる。			
4	日常生活活動の概念と評価①	到達目標:ADLの構成要素を知る。			
5	日常生活活動の概念と評価②	到達目標:ADLの構成要素を知り、これを評価できる。			
6	リハビリテーションの手段と方法①	到達目標:リハビリテーションの対象となる機能障害、特に関節可動域制限について理解し、それを測定するための手段を想起できる。			
7	リハビリテーションの手段・方法②	到達目標:リハビリテーションの対象となる機能障害、特に筋力低下について理解し、それを測定するための手段を想起できる。			
8	疾患別リハビリテーション	到達目標:疾患に応じたリハビリテーションの特色について理解する。			
9	病期別リハビリテーション:急性期①	到達目標:病期ごとのリハビリテーションの特性を知り、理解を深めること。			
10	病期別リハビリテーション:急性期②	到達目標:病期ごとのリハビリテーションの特性を知り、理解を深めること。			
11	病期別リハビリテーション:回復期①	到達目標:病期ごとのリハビリテーションの特性を知り、理解を深めること。			
12	病期別リハビリテーション:回復期②	到達目標:病期ごとのリハビリテーションの特性を知り、理解を深めること。			
13	病期別リハビリテーション:維持期①	到達目標:病期ごとのリハビリテーションの特性を知り、理解を深めること。			
14	病期別リハビリテーション:維持期②	到達目標:病期ごとのリハビリテーションの特性を知り、理解を深めること。			
15	リハビリテーションの実際	到達目標:15回の授業の総括としてリハビリテーションについて自分なりの見識をもつ。			
成績評価方法と基準				割合	

授業科目名		公衆衛生学(理学) (Public Health)	
主担当教員	今村 行雄	担当教員	今村 行雄
科目ナンバリング	SB110	専門基礎科目	DP①
配当年次	1	後期	金曜 1限
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	<p>個人水準で健康を扱う臨床医学に対して、衛生・公衆衛生学は社会水準で健康を取り扱うので社会医学とも呼ばれる。その範囲は多岐にわたる。健康に影響をおよぼす様々なリスクを特定し、予防活動に結びつける学習である。本講義では「社会に役立つ公衆衛生」を基本として、衛生・公衆衛生学の理論、衛生行政、予防、健康、老人・成人保健、生活習慣病や難病疾患、産業衛生、母子保健、衛生統計などについて学習する。さらに、世界における日本の現状および動向について理解し、日本における公衆衛生のあり方について考える。</p>		
到達目標	<p>私たちの生活や健康は、社会の制度に支えられている。公衆衛生学は、健康を支える制度そのものである。公衆衛生の歴史や体制、内容を知り、自らの生活や健康を守り、向上を図るための知識を習得する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 公衆衛生学とは何かを知る。 2. 疫学について知り、曝露について理解する。 3. 健康を害する因子を探り、予防とは何かを理解する。 4. 健康維持のための施策についての理解する。 5. 日本の医療状況を理解し、世界各国の状況と比較できる。 		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	<p>公衆衛生学は、進歩する医療技術や研究成果だけでなく、国の情勢や法律、予算などにも左右され、変化していくものである。講義で習ったことは現時点での事実であることを認識し、講義終了後には統計データなどは最新のもの各自、調べて知識をアップデートする必要がある(特に国家試験前)ことに留意すること。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 新聞やニュースなどを通じて、社会情勢に目を向けること。 2. 常に疑問を持ち、調べ、客観的に評価し、自分の知識を深めること。 		
教科書	なし。(参考書1に基づいて作成した配布資料を使って講義を進めます)		
参考書	なし。		
1. 学生のための現代公衆衛生(南山堂)			
2. 公衆衛生がわかる(メディックメディア)			
研究室/オフィスアワー	非常勤講師控室		
授業履修期及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	健康の科学としての公衆衛生学	課題：公衆衛生とは何か、WHO、疫学研究	
2	人口の動向	授業の復習 課題：人口の増減が社会生活にどう影響するか	
3	妊娠・出産と胎児の保健	授業の復習および次回の講義の予習 課題：周産期の保健について理解する	
4	新生児・乳幼児期の保健	授業の復習 課題：胎児、乳幼児期の保健を理解する	
5	青少年の保健	授業の復習と次回講義の予習 課題：学校保健について理解する	
6	成人期の保健	授業の復習および次回の講義の予習 課題：生活習慣病について理解する	
7	老年期の保健と死の問題	予習：シラバス・資料確認 課題：高齢者福祉について理解する	
8	心の健康と心身障害	予習：シラバス・資料確認 課題：精神保健について理解する	
9	環境の衛生	予習：シラバス・資料の確認 課題：環境とは何か、理解する	
10	環境汚染と公害	予習：シラバス・資料の確認 課題：公害問題について理解する	
11	感染症・微生物による病気	予習：シラバス・資料の確認 課題：感染症について理解	

12	食物と健康 1	予習：シラバス・資料の確認 課題：食中毒について理解	
13	食物と健康 2	予習：シラバス・資料の確認 課題：食中毒菌などの理論を深める	
14	職業生活と健康	予習：シラバス・資料の確認 課題：職業病について理解する	
15	保健・医療の行政	予習：資料の確認 課題：衛生行政の種類について理解する	
成績評価方法と基準			割合
試験(90%)+授業態度(10%)で評価します。試験で評価し、単位認定とする。			試験 90%
単位認定基準及び試験受験資格は、大学の規定に依る。			受講態度 10%

授業科目名		生化学(理学) (Biochemistry)	
主担当教員	南方 克之	担当教員	南方 克之
科目ナンバリング	SB131	専門基礎科目	ディプロマポリシー 該当項目 DP③
配当年次	2	開講学期	前期 木曜 4限
授業形態	講義	単位数	2 必修・選択 選択
授業概要			
ヒトが生きているためにはまずエネルギーが必要である。このエネルギーを生み出す仕組みはどうなっているのか、また体内の恒常性を維持する仕組みはどうなっているのか、生体防御の仕組みはどうなっているのか、これらの仕組みの必要性をまずは大きな枠で捉え、その細部のシステムについて、我々の体の中で起こっている様々な化学反応について学習する。			
到達目標			
1. 人体の仕組みについて理解し、説明できる。 2. 栄養素の種類とその構造・はたらきについて理解し、説明できる。 3. 生体の恒常性を保つシステムと防御するシステムについて理解し、説明できる。			
履修上の注意(学生へのメッセージ)			
1. 「人体の仕組み」について興味を持って授業に臨んでください。 2. 初回授業で実施の詳細を説明します。			
教科書			
『イラスト生化学入門第3版』相原英孝・大森正英・尾崎きよ子・竹中寛子・田村明・長村洋一・野澤義則/東京化学社			
参考書			
なし			
研究室/オフィスアワー			
森/宮医療大学:西棟4F434研究室(木曜日11:00~20:00) 森/宮医療学園専門学校:2F 教員事務室/授業外対応可能(木曜日以外)			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	人体の仕組み①	[予習]教科書(P2~12)の確認 [復習]授業をもとに授業内容の確認	
2	たんぱく質の構造とはたらき①	[予習]教科書(P14~32)の確認 [復習]授業をもとに授業内容の確認	
3	たんぱく質の構造とはたらき②	[予習]教科書(P14~32)の確認 [復習]授業をもとに授業内容の確認	
4	糖質の構造とはたらき①	[予習]教科書(P34~50)の確認 [復習]授業をもとに授業内容の確認	
5	糖質の構造とはたらき②	[予習]教科書(P34~50)の確認 [復習]授業をもとに授業内容の確認	
6	脂質の構造とはたらき①	[予習]教科書(P52~62)の確認 [復習]授業をもとに授業内容の確認	
7	脂質の構造とはたらき②	[予習]教科書(P52~62)の確認 [復習]授業をもとに授業内容の確認	
8	核酸の構造とはたらき	[予習]教科書(P64~76)の確認 [復習]授業をもとに授業内容の確認	
9	酵素の性質とはたらき	[予習]教科書(P78~88)の確認 [復習]授業をもとに授業内容の確認	
10	ビタミンの種類とはたらき	[予習]教科書(P90~100)の確認 [復習]授業をもとに授業内容の確認	
11	水・無機質のはたらき	[予習]教科書(P102~114)の確認 [復習]授業をもとに授業内容の確認	
12	栄養素の消化・吸収	[予習]教科書(P116~126)の確認 [復習]授業をもとに授業内容の確認	
13	生体の恒常性を保つシステム	[予習]教科書(P128~136)の確認 [復習]授業をもとに授業内容の確認	
14	エネルギーの消費と供給	[予習]教科書(P138~150)の確認 [復習]授業をもとに授業内容の確認	
15	生体の防御システム~免疫~	[予習]教科書(P152~158)の確認 [復習]授業をもとに授業内容の確認	
成績評価方法と基準			割合

授業科目名 病理学(理学) (Pathology)			
主担当教員	河川 直正	担当教員	河川 直正
科目ナンバリング	SB1032	専門基礎科目	ディプロマポリシー 該当項目
配当年次	2	開講学期	前期
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	<p>学生が将来臨床の現場に立つ時に目の当たりにする疾患を中心に、その病因や成り立ち、病態を理解できるよう、さまざまな疾患についての詳細な説明と演習を行う。</p> <p>到達目標</p> <p>病気の成り立ちを十分に理解し、その知識を将来臨床の場で生かせるようにする。</p> <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>病理学の専門用語やいろいろな病態に対する概念は、他の医学分野でも共通に用いるものである。それらをしっかりと理解し、自らも用いることができ、かつ的確に表現できなければならない。そのためにはそれらを確認し理解し、記憶に留めておかなければならない。</p>		
教科書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 病理学 医学書院		
参考書	シンブル病理学 南江堂		
研究室/オフィスアワー	研究室/オフィスアワー		
研究室在室時	研究室在室時		
授業展開及び授業計画表	授業展開及び授業計画表		
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	病理学とは 退行性病变と進行性病变①	教科書 5～6 ページ、15～23 ページの退行性病变(壊死、アポトーシス、萎縮)について理解でき、退行性病变を説明できる。	
2	退行性病变と進行性病变②	教科書 15 から 23 ページの進行性病变(肥大、過形成、化生)について理解でき進行性病变を説明できる。	
3	炎症①	教科書 61～72 ページの炎症について理解でき急性炎症、慢性炎症について説明できる。	
4	炎症② 再生と創傷治癒	教科書 61～72 ページの炎症について理解でき炎症の種類について説明できる。教科書 23～25 ページの再生と創傷治癒について理解し説明できる。	
5	循環傷害①	教科書 37～48 ページの循環傷害(浮腫、充血、出血、出血)について理解でき浮腫、充血、出血、出血を説明できる。	
6	循環傷害②	教科書 37～48 ページの循環傷害(血栓症、塞栓症、虚血と梗塞、高血圧、側副循環)について理解でき血栓症、塞栓症、虚血、高血圧、側副循環を説明できる。	
7	免疫と感染症①	教科書 50～59 ページの免疫(自然免疫と獲得免疫)について理解でき自然免疫と獲得免疫、免疫にかかわる細胞、抗体について説明できる。	
8	免疫と感染症②	教科書 50～59 ページの免疫について理解できアレルギー、免疫不全について理解できる。教科書 65～72 ページの感染症について理解でき説明できる。	
9	腫瘍①	教科書 73～92 ページの腫瘍(腫瘍の定義、腫瘍の命名と分類)について理解でき腫瘍の定義、腫瘍の命名と分類について説明できる。	
10	腫瘍②	教科書 73～92 ページの腫瘍(腫瘍の形態、転移、腫瘍の発生病理と原因)について理解でき腫瘍の形態、転移、腫瘍の発生病理と原因について説明できる。	

11	先天異常と奇形①	教科書 101～112 ページの先天異常について理解でき単一遺伝子疾患、メンデルの法則に従わない遺伝性疾患について説明できる。	
12	先天異常と奇形②	教科書 101～112 ページの先天異常について理解でき染色体異常について説明できる。奇形について理解でき発生原因、種類について説明できる。	
13	代謝異常①	教科書 27～35 ページの代謝傷害(アミノ酸代謝障害、核酸代謝障害、脂質代謝障害)について理解でき説明できる。	
14	代謝異常② 老化	教科書 27～35 ページの代謝傷害(糖質代謝障害、色素代謝障害)について理解でき説明できる。教科書 93～100 ページの老化について理解でき説明できる。	
15	病理総論のまとめ	病理総論についてのまとめ	
成績評価方法と基準			割合
①期末試験			①100%

授業科目名	臨床病態学 I (理学) (Clinical Pathology I)			
主担当教員	青木 元邦	担当教員	青木 元邦	
科目ナンバリング	SB1033	科目区分	専門基礎科目	
配当年次	2	開講学期	前期	
授業形態	講義	単位数	2	
授業概要	<p>よき医病人になる上で必要不可欠な内科学の知識・考え方について講義する。診断学・治療学を理解し、医療の現場で応用できるようにする。また各種疾患について臓器別に講義を行い、その病態・治療を論理的に理解・説明できるようにする。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 循環・呼吸・消化・肝胆臓の各種臓器の働きを理解する。 症状・症候の病的意義が説明できる。 各種疾患の病態を理解し、そこから臨床症状が合理的に説明できる。 			
履修上の注意(学生へのメッセージ)	<p>1. 内科学(疾病の理解)は現代医療の基礎知識であることを認識して取り組むこと。 2. 講義を聞かずに教科書だけ読んで理解困難と考えられるため、出席して講義を聞くこと。 3. 学習すべき量が多いため、効率よく理解すべく必ずノートに板書内容を記載すること。試験前に教科書を眺んで全部覚えるのは不可能です。ノートに沿って教科書を活用してください。 4. 疾患について論理的なイメージを理解する努力をすること。 5. 疑問点は大切に、解決に向けて行動すること。 6. 努力をしない学生・態度不良の学生には単位を与えないこと</p>			
教科書	標準理学療法学・作業療法学 内科学 (著者:大成淳志 医学書院)			
参考書	なし			
研究室/オフィスアワー	原則月曜午後・水曜日・金曜日午後(ただし会議等でないこともあります) その他、部屋にいればいつでも訪問可です。質問等はいつでも自由どうぞ。			
授業展開及び授業計画表	回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	臓器の基本的な働きと循環器疾患の病態の理解	心臓の解剖・生理機能について事前に再度学習しておくこと。		
2	臓器の基本的な働きと循環器疾患の病態の理解	循環器疾患の病態メカニズムについて合理的説明ができるように復習すること。		
3	臓器の基本的な働きと循環器疾患の病態の理解	循環器疾患の病態メカニズムについて合理的説明ができるように復習すること。		
4	臓器の基本的な働きと呼吸器疾患の病態の理解	呼吸器の解剖・生理機能について、事前に再度学習しておくこと。		
5	臓器の基本的な働きと呼吸器疾患の病態の理解	呼吸器疾患の病態メカニズムについて合理的説明ができるように復習すること。		
6	臓器の基本的な働きと呼吸器疾患の病態の理解	呼吸器疾患の病態メカニズムについて合理的説明ができるように復習すること。		
7	臓器の基本的な働きと消化器疾患の病態の理解	消化器の解剖・生理機能について事前に再度学習しておくこと。		
8	臓器の基本的な働きと消化器疾患の病態の理解	消化器疾患の病態メカニズムについて合理的説明ができるように復習すること。		
9	臓器の基本的な働きと消化器疾患の病態の理解	消化器疾患の病態メカニズムについて合理的説明ができるように復習すること。		
10	臓器の基本的な働きと肝胆臓疾患の病態の理解	肝臓・胆嚢・膵臓の解剖・生理機能について事前に再度学習しておくこと。		
11	臓器の基本的な働きと肝胆臓疾患の病態の理解	肝臓疾患の病態メカニズムについて合理的説明ができるように復習すること。		
12	臓器の基本的な働きと肝胆臓疾患の病態の理解	肝臓疾患の病態メカニズムについて合理的説明ができるように復習すること。		
13	血液疾患の病態の理解 1	血液疾患の病態について合理的説明ができるように復習すること。		
14	血液疾患の病態の理解 2	血液疾患の病態について合理的説明ができるように復習すること。		

15	講義全体の総復習	各臓器の解剖・生理的機能およびこれまでに学んだ疾患の病態の総復習をすること。
成績評価方法と基準		割合
筆記試験		100%

授業科目名	臨床病態学Ⅱ(理学)(Clinical Pathology II)		青木 元邦	青木 元邦
主担当教員	青木 元邦	担当教員	青木 元邦	
科目ナンバリング	SB1034	専門基礎科目	ディプロマポリシー	DP①②
配当年次	2	開講学期	曜日・時限	水曜 4 限
授業形態	講義	単位数	2	必修
授業概要	<p>よき医療人になる上で必要不可欠な内科学の知識・考え方について講義する。診断学・症候学を理解し、医療の現場で応用できるようにする。また各種疾患について臓器別に講義を行い、その病態を論理的に理解・説明できるようにする。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 症状・症候の病的意義が説明できる。 2. 各種疾病の病態を理解し、そこから臨床症状が合理的に説明できる。 <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床病態学(疾病の理解)は現代医療の基礎知識であることを認識して取り組むこと。 2. 講義を聞かずに教科書だけ読んで理解困難と考えられるため、出席して講義を聞くこと。 3. 学習すべき量が多いため、効率よく理解すべく必ずノートに板書内容を記載すること。試験前に教科書を読んで全部覚えるのは不可能です。ノートに沿って教科書を活用してください。 4. 疾患について論理的なイメージを理解する努力をすること。 5. 疑問点は大切に、解決に向けて行動すること。 6. 努力をしない学生・態度不良の学生には単位を与えないこと <p>教科書</p> <p>標準理学療法学・作業療法学 内科学 (著者:大成淳志 医学書院)</p> <p>参考書</p> <p>なし</p> <p>研究室/オフィスアワー</p> <p>原則月曜午後 金曜日午後(ただし会議等でないこともあります)</p> <p>その他、部屋にいればいつでも質問可です。質問等はいつでも自由どうぞ。</p> <p>授業展開及び授業計画表</p>			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当	
1	代謝性疾患の病態の理解 1	代謝性疾患の病態メカニズムについて合理的説明ができるように復習すること。		
2	代謝性疾患の病態の理解 2	代謝性疾患の病態メカニズムについて合理的説明ができるように復習すること。生活習慣病・メタボリック症候群について理解を深める。		
3	臓器の基本的な働きと内分泌疾患の病態の理解 1	各臓器のホルモン分泌機構について事前に予習しておくこと。		
4	臓器の基本的な働きと内分泌疾患の病態の理解 2	各臓器のホルモン分泌機構について知識を確実にしておくこと。		
5	臓器の基本的な働きと内分泌疾患の病態の理解 3	内分泌疾患について合理的説明ができるように復習すること。		
6	臓器の基本的な働きと腎疾患の病態の理解 1	腎臓の解剖・生理機能について事前に再度学習しておくこと。		
7	臓器の基本的な働きと腎疾患の病態の理解 2	腎疾患の病態メカニズムについて合理的説明ができるように復習すること。		
8	臓器の基本的な働きと腎疾患の病態の理解 3	腎疾患の病態メカニズムについて合理的説明ができるように復習すること。		
9	膠原病・アレルギー疾患の病態の理解 1	免疫機構の理解とアレルギーの病態を合理的に説明できるように復習すること。		
10	膠原病・アレルギー疾患の病態の理解 2	各種膠原病について合理的説明ができるように復習すること。		
11	膠原病・アレルギー疾患の病態の理解 3	各種膠原病について合理的説明ができるように復習すること。		
12	神経疾患の病態・症候の理解 1	神経疾患の病態・症候について復習すること。		
13	神経疾患の病態・症候の理解 2	神経疾患の病態・症候について復習すること。		
14	感染症の病態・治療の理解 1	感染症の病態・治療について理解を深めること。		

15	感染症の病態・治療の理解 2	感染症の原因・病態・症候について理解を深めること。
成績評価方法と基準		割合
筆記試験		100%

授業科目名	臨床病態学Ⅲ(理学)(Clinical Pathology Ⅲ)		
主担当教員	前川 佳敬	担当教員	前川 佳敬、三木 宏文、吉岡 敏治
科目ナンバリング	SB1035	科目区分	専門基礎科目 DP①②
配当年次	2	開講学期	後期 木曜 1 限 金曜 5 限
授業形態	講義	単位数	2 必修・選択 必修
授業概要	<p>よき医人になる上で必要不可欠な病態学の知識・考え方について講義する。診断学・症候学を理解し、医療の現場で応用できるようにする。また各種疾患について、その病態・治療を論理的に理解・説明できるようにすると同時に、患者の訴え・状態から検査・治療の必要性の有無が判断できる能力を身につける。リハビリテーションの実施中やスポーツ中に起こる不慮の心肺停止を想定し、それに対応できる知識と処置の実際を学ぶ。心肺蘇生法は、医療従事者として確実に身につけることが必要である。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 各種疾病の本質・病態を論理的に理解する。 2. 各種疾病の臨床症状・治療法・ケアが合理的に説明できる。 3. わが国における救急医療システムを理解し、心肺蘇生法の基本を学ぶ。 4. 心肺呼吸停止、心肺蘇生法について理論的なイメージを構築する努力をすること。 <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 疾病の理解は現代医療の基礎知識であることを認識して取り組むこと。 2. 講義を聞かずに教科書だけ読んで理解しようとすると、出題して講義を聞くこと。 3. 学習すべき量が多いため、効率よく理解すべく必ずノートに板書内容を記載すること。試験前に教科書を読んで全部覚えるのは不可能です。ノートに沿って教科書を活用してください。 4. 疾患について論理的なイメージを理解する努力をすること。 5. 疑問点は大切に、解決に向けて行動すること。 6. 努力をしない学生・態度不良の学生には単位を与えられません。 <p>教科書</p> <p>配教急は配布資料で十分理解できるように資料を整えているので、テキストは不要である。 老年医学は資料を配布します。</p> <p>参考書</p> <p>救急蘇生法の指針2015(医療従事者用、改訂第5版) へるす出版 標準理学療法学・作業療法学 老年学(著者:大内静彦 医学書院) 研究室/オフィスアワー</p> <p>前川:0 棟研究室B/ 柳屋:1 いればいつでも訪問可です。質問等はいつでもご自由どうぞ。 吉岡:0 棟研究室4/ 原和月曜 2-3 時間目ですが、その他、部屋にいればいつでも訪問可です。</p>		
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	救急医療の特徴、救急医療体制と搬送システム 死の判定と心肺停止の基準	予習:不要 復習:救急医療の方程式、ABODE アプローチを理解する。一次、二次、三次救急医療施設とヘリ搬送を念ひ、救急患者の搬送状況を把握する。死と心肺停止の基準を説明できること。	吉岡敏治
2	一次救命処置(BLS)、二次救命処置(ALS)、小児・乳児の心肺蘇生	予習:不要 復習:一次救命処置の重要性を理解する。医師の行う二次救命処置を理解する。	吉岡敏治
3	老化のメカニズムと独立した概念としての老年病医学の理解	老年医療の独自性・特殊性を復習して理解する。	
4	加齢に伴う生理機能・運動機能・精神心理面の変化	老年医療の独自性・特殊性を復習して理解する。	
5	高齢者の機能評価	老年医療の独自性・特殊性を復習して理解する。	
6	老年症候群における代表的な症候の理解	老年医療の独自性・特殊性を復習して理解する。	
7	高齢者における主な疾患(1)	老年医療の独自性・特殊性を復習して理解する。	
8	高齢者における主な疾患(2)	老年医療の独自性・特殊性を復習して理解する。	

成績評価方法と基準	割合
吉岡:心肺蘇生に関連する救急救命士国家試験から20題を出題する。 前川:筆記試験	吉岡:15% 前川:40%

授業科目名		整形外科(理学) (Orthopedics)	
主担当教員	宮田 重樹	担当教員	宮田 重樹
科目ナンバリング	SB116	専門基礎科目	ディプロマポリシー 該当項目
配当年次	2	開講学期	前期
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	<p>整形外科疾患は、理学療法士が治療する中心の一つである。四肢・体幹疾患の理学療法を行う上で知っておくべき整形外科学を学ぶ。実習に際して必要な知識、国家試験に際して必要な知識、理学療法士として仕事するうえで必要な知識を学ぶ。教科書、スライドを中心に進め、知識を深めるために順次生徒に質問していく。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 整形外科疾患をどのように診断するのか学ぶ。 2. 整形外科疾患をどのように治療するのか学ぶ。 3. 整形外科疾患の保存療法と手術療法を学ぶ。 4. 整形外科疾患に対する治療をすすめる上で必要な整形外科基礎知識を学ぶ。 5. 整形外科疾患が原因の身体障害者に対する基本的動作能力の回復を図るには、何が必要か学ぶ。 6. 運動器の問題を見つける目を育てる。 <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>私語etc授業の妨げとなる生徒は退場してもらおう。</p>		
教科書	標準整形外科学(第12版)医学書院		
参考書	整形外科疾患の理学療法 金盾出版 運動機能障害重症候群のマネジメント 医歯薬出版		
研究室/オフィスアワー	研究室/オフィスアワー		
講義日の非常勤講師控室	講義日の非常勤講師控室		
授業展開及び授業計画表	授業展開及び授業計画表		
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	整形外科と理学療法、整形外科保存療法とリハビリ	運動器の解剖 授業に使うスライドのプリント	小テスト
2	整形外科の診断と診断方法	授業に使うスライドのプリント	小テスト
3	姿勢とアライメント、動作分析	授業に使うスライドのプリント	小テスト
4	関節、関節運動学	授業に使うスライドのプリント	小テスト
5	骨と骨折、外傷1	授業に使うスライドのプリント	小テスト
6	骨と骨折、外傷2	授業に使うスライドのプリント	小テスト
7	リウマチと関連疾患	授業に使うスライドのプリント	小テスト
8	骨代謝疾患、骨腫瘍	授業に使うスライドのプリント	小テスト
9	整形外科疾患:肩、肘、手	授業に使うスライドのプリント	小テスト
10	整形外科疾患:頸、胸椎、胸部	授業に使うスライドのプリント	小テスト
11	整形外科疾患:腰椎	授業に使うスライドのプリント	小テスト
12	整形外科疾患:股関節、膝、足	授業に使うスライドのプリント	小テスト
13	神経筋疾患、末梢神経損傷、骨髄・脊髄損傷	授業に使うスライドのプリント	小テスト

14	ロコモと高齢者運動療法	授業に使うスライドのプリント	小テスト
15	スポーツ障害	授業に使うスライドのプリント	小テスト
成績評価方法と基準			
①定期試験		割合	
②小テスト+授業中の口答		①70% ②30%	

授業科目名		小児科学(人間発達学(理学) (Pediatrics 【Human Development Studies】))	
主担当教員	澤田 優子	担当教員	澤田 優子
科目ナンバリング	SB117	科目区分	専門基礎科目
配当年次	2	開講学期	後期
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	<p>小児の正常発達および疾患・治療について講義する。小児の特性について、運動機能面、認知機能面、言語機能面などの多側面から解説する。また、小児疾患に関わる多職種役割についても解説する。講義中には症例検討やグループワークを実施し、治療の実践を理解することを目標とする。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人間発達について理解する。 2. 小児の疾患・障害を理解する。 3. 小児疾患の治療を理解する。 <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>講義前、講義後に教科書を読んでおくこと。 随時確認テストを実施します。</p>		
教科書	<p>高田豊 編 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 小児科学 医学書院</p> <p>参考書</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イラストでわかる人間発達学 上杉 雅之 (監修) 医歯薬出版株式会社 2. イラストでわかる小児理学療法 上杉 雅之 (監修) 医歯薬出版株式会社 3. リベリテーションのための発達科学入門 浅野大喜 (著) 出版社: 協同医学出版社 <p>その他、講義中に紹介する 研究室/オフィスアワー</p>		
月曜日 3 時限目			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	人間発達 1	予習:教科書の講義該当箇所を読んでおく 復習:教科書の講義該当箇所を読み、講義内容をまとめる	人間発達 1
2	人間発達 2	予習:教科書の講義該当箇所を読んでおく 復習:教科書の講義該当箇所を読み、講義内容をまとめる	人間発達 2
3	人間発達 3	予習:教科書の講義該当箇所を読んでおく 復習:教科書の講義該当箇所を読み、講義内容をまとめる	人間発達 3
4	人間発達 4	予習:教科書の講義該当箇所を読んでおく 復習:教科書の講義該当箇所を読み、講義内容をまとめる	人間発達 4
5	人間発達 5	予習:教科書の講義該当箇所を読んでおく 復習:教科書の講義該当箇所を読み、講義内容をまとめる	人間発達 5
6	人間発達 6	予習:教科書の講義該当箇所を読んでおく 復習:教科書の講義該当箇所を読み、講義内容をまとめる	人間発達 6
7	人間発達 7	予習:教科書の講義該当箇所を読んでおく 復習:教科書の講義該当箇所を読み、講義内容をまとめる	人間発達 7
8	小児疾患 1:新生児未熟児疾患	予習:教科書の講義該当箇所を読んでおく 復習:教科書の講義該当箇所を読み、講義内容をまとめる	小児疾患 1:新生児未熟児疾患
9	小児疾患 2:先天性異常と遺伝病	予習:教科書の講義該当箇所を読んでおく 復習:教科書の講義該当箇所を読み、講義内容をまとめる	小児疾患 2:先天性異常と遺伝病
10	小児疾患 3:神経・筋・骨系疾患①	予習:教科書の講義該当箇所を読んでおく 復習:教科書の講義該当箇所を読み、講義内容をまとめる	小児疾患 3:神経・筋・骨系疾患①

11	小児疾患 4:神経・筋・骨系疾患②	予習:教科書の講義該当箇所を読んでおく 復習:教科書の講義該当箇所を読み、講義内容をまとめる	小児疾患 4:神経・筋・骨系疾患②
12	小児疾患 5:循環器疾患、呼吸器疾患	予習:教科書の講義該当箇所を読んでおく 復習:教科書の講義該当箇所を読み、講義内容をまとめる	小児疾患 5:循環器疾患、呼吸器疾患
13	小児疾患 6:血液疾患、免疫・アレルギー疾患、膠原病	予習:教科書の講義該当箇所を読んでおく 復習:教科書の講義該当箇所を読み、講義内容をまとめる	小児疾患 6:血液疾患、免疫・アレルギー疾患、膠原病
14	小児疾患 7:その他の疾患①	予習:教科書の講義該当箇所を読んでおく 復習:教科書の講義該当箇所を読み、講義内容をまとめる	小児疾患 7:その他の疾患①
15	小児疾患 8:その他の疾患②	予習:教科書の講義該当箇所を読んでおく 復習:教科書の講義該当箇所を読み、講義内容をまとめる	小児疾患 8:その他の疾患②
成績評価方法と基準			
1. 確認テストまたはレポート(毎授業で実施します。計 15 回) 2. 試験			
割合 1. を 20%、 2. を 80%として評価し、60 点以上で単位認定とします。			

精神医学(理学) (Psychiatric Medicine)			
授業科目名	精神医学(理学)	石井 淳一	石井 淳一、太尾 惠理
主担当教員	石井 淳一	担当教員	石井 淳一、太尾 惠理
科目ナンバリング	SB118	専門基礎科目	ディプロマポリシー 該当項目 DP①②③
配当年次	2	開講学期	前期
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	<p>精神医学の対象となる疾病概念、診断法、治療法について、理解できる。 精神医学の対象となる疾病概念、診断法、治療法について、理解できる。 精神医学の対象となる疾病概念、診断法、治療法について、理解できる。 精神医学の対象となる疾病概念、診断法、治療法について、理解できる。</p>		
到達目標	<p>精神医学の対象となる疾病概念、診断法、治療法について、理解できる。 精神医学の対象となる疾病概念、診断法、治療法について、理解できる。 精神医学の対象となる疾病概念、診断法、治療法について、理解できる。 精神医学の対象となる疾病概念、診断法、治療法について、理解できる。</p>		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	<p>精神医学の対象となる疾病概念、診断法、治療法について、理解できる。 精神医学の対象となる疾病概念、診断法、治療法について、理解できる。 精神医学の対象となる疾病概念、診断法、治療法について、理解できる。 精神医学の対象となる疾病概念、診断法、治療法について、理解できる。</p>		
教科書	<p>STEP 精神科 (監修: 岸本年史 著: 高橋茂樹 海馬書房)</p>		
参考書	<p>標準理学療法学・作業療法学・専門基礎分野 精神医学 (監修: 奈良 勲/鎌倉 矩子 編集: 上野 武治 医学書院)</p>		
研究室/オフィスアワー	<p>研究室/オフィスアワー</p>		
講義の前後の時間、非常勤講師控室にて質問や相談を受ける。	<p>講義の前後の時間、非常勤講師控室にて質問や相談を受ける。</p>		
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	ガイダンス及び精神医学についての説明	予習は不要。講義内容を復習すること。	石井/太尾
2	大脳の構造、失語、失行、失認など	予習は不要。講義内容を復習すること。	石井/太尾
3	睡眠と脳波	予習は不要。講義内容を復習すること。	石井/太尾
4	精神症状学	予習は不要。講義内容を復習すること。	石井/太尾
5	心理検査	予習は不要。講義内容を復習すること。	石井/太尾
6	治療総論	予習は不要。講義内容を復習すること。	石井/太尾
7	精神科疾患総論	予習は不要。講義内容を復習すること。	石井/太尾
8	各論(1)認知症、症状性精神病	予習は不要。講義内容を復習すること。	石井/太尾
9	各論(2)てんかん	予習は不要。講義内容を復習すること。	石井/太尾
10	各論(3)アルコール依存症、薬物依存	予習は不要。講義内容を復習すること。	石井/太尾
11	各論(4)いわゆる内因性精神障害	予習は不要。講義内容を復習すること。	石井/太尾
12	各論(5)統合失調症	予習は不要。講義内容を復習すること。	石井/太尾
13	各論(6)神経症性障害	予習は不要。講義内容を復習すること。	石井/太尾
14	各論(7)生理的・身体的要因に関連した障害、パーソナリティ障害	予習は不要。講義内容を復習すること。	石井/太尾
15	精神医学と社会	予習は不要。講義内容を復習すること。	石井/太尾
成績評価方法と基準			割合

1. レポート(テーマ及び提出期限、作成方法等の詳細は授業内で説明する)
2. 筆記試験(定期試験)
上記をそれぞれ評価した上で、平均の結果合計60点以上を単位認定とする。

1. 50%
2. 50%

授業科目名		リハビリテーション医学(理学) (Rehabilitation Medicine)	
主担当教員	前田 薫	担当教員	前田 薫
科目ナンバリング	SB120	科目区分	ディプロマポリシー 該当項目 DP①②
配当年次	1	開講学期	曜日・時限 木曜 4限
授業形態	講義	単位数	2 必修・選択 必修
授業概要	本講義では、リハビリテーション医学の全体像を説明する。リハビリテーション医学の科学的基礎は多岐に渡り研究されており、めざましく進歩している。これらのうち、基礎と思われる事項について講義を行う。		
到達目標	リハビリテーション医学の各分野の基礎事項について説明できる。		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	講義内容が多岐に渡る。したがって、講義内容をより良く理解するためには、各回に指定されている予習・復習を行うことが重要である。		
教科書	千野直一(監修)、現代リハビリテーション医学(改訂第4版)、金原出版		
参考書	特に指定しない。		
研究室/オフィスアワー	前田:アポイントメントを事前にとってください。対応困難な時間帯:毎週月曜2限、毎週火曜、前田が担当する授業時間帯		
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	リハビリテーション医学総論(前田)	予習:教科書の当該範囲を読む。 復習:講義で強調した箇所について理解できているかを確認する。	前田
2	機能解剖・生理・運動学(前田)	予習:教科書の当該範囲を読む。 復習:講義で強調した箇所について理解できているかを確認する。	前田
3	リハビリテーション診断(前田)	予習:教科書の当該範囲を読む。 復習:講義で強調した箇所について理解できているかを確認する。	前田
4	機能障害の評価(前田)	予習:教科書の当該範囲を読む。 復習:講義で強調した箇所について理解できているかを確認する。	前田
5	日常生活活動の評価(前田)	予習:教科書の当該範囲を読む。 復習:講義で強調した箇所について理解できているかを確認する。	前田
6	リハビリテーション治療学①(前田)	予習:教科書の当該範囲を読む。 復習:講義で強調した箇所について理解できているかを確認する。	前田
7	リハビリテーション治療学②(前田)	予習:教科書の当該範囲を読む。 復習:講義で強調した箇所について理解できているかを確認する。	前田
8	リハビリテーション医学各論①(前田)	予習:教科書の当該範囲を読む。 復習:講義で強調した箇所について理解できているかを確認する。	前田
9	リハビリテーション医学各論②(前田)	予習:教科書の当該範囲を読む。 復習:講義で強調した箇所について理解できているかを確認する。	前田
10	リハビリテーション医学各論③(前田)	予習:教科書の当該範囲を読む。 復習:講義で強調した箇所について理解できているかを確認する。	前田
11	地域包括ケアシステム(前田)	予習:教科書の当該範囲を読む。 復習:講義で強調した箇所について理解できているかを確認する。	前田

12	再生医療とリハビリテーション医学(前田)	予習:教科書の当該範囲を読む。 復習:講義で強調した箇所について理解できているかを確認する。	前田
13	ICTの考え方と生活支援(上田陽之)	予習:ICTについて復習しておく 復習:講義資料をもとにICTの図を作成してみる	上田
14	支援技術コミュニケーションとチーム医療(上田陽之)	予習:チーム医療の概念を復習しておく 復習:講義で強調された事項を理解しているかチェックする	上田
15	スポーツとリハビリテーション医学(前田)	予習:教科書の当該範囲を読む。 復習:講義で強調した箇所について理解できているかを確認する。	前田
成績評価方法と基準			割合
筆記試験の結果、60/100点以上で単位認定する。			100%

授業科目名 作業療法・芸術療法論(理学) (Occupational Therapy / Art Therapy)			
主担当教員	小林 貴代	担当教員	小林 貴代、橋本 弘子
科目ナンバリング	SB122	専門基礎科目	ディプロマポリシー 該当項目
配当年次	2	開講学期	前期
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	<p>理学療法と同じくリハビリテーション医療の一分野を担う作業療法、芸術療法について教授する。作業療法に関しては作業療法と作業療法士の定義、概念、作業療法の手段、役割と専門性、リハビリテーションチームの他の関連分野との連携等について学習する。芸術療法に関しては、主な芸術療法(ダンスセラピー、アートセラピーなど)の体験を通じて自身や他者に与えられた身体的・精神的効果を実感し、その効用がなぜ表れるのかを脳機能からも理解を深める。また芸術療法がどのようなようにリハビリテーションに生かされるのかについて理解を深める。</p>		
到達目標	<p>理学療法士として作業療法を理解し、リハビリテーションチームにおける協業と連携の重要性を考える事が出来る。</p>		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	<p>教科書・参考書・視聴覚教材・配布資料など全ての内容に目を通すこと <授業の進め方> 1 作業療法総論・各論は視聴覚教材を導入し一斉講義を行う 2 作業療法の実践では演習・グループ討議・発表を行う 3 福祉用具・排泄用具・自助具・コミュニケーション支援機器などの体験を行う 芸術療法論においては、体験することで自身に起こった変化を鋭敏に察知して、それらが身体や精神、認知に与える影響などを考える機会としてほしい。そのため実技や講義において真摯な態度で受講してください。</p>		
教科書	<p>1. 芸術療法論の概念を学んだ後、体験を通じ理解</p>		
特記事項	<p>配布プリントにて対応する</p>		
参考書	<p>1. 作業療法ガイドブック・テキスト 身体障害作業療法学 長崎重信 MEDICAL VIEW 2. 標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法 他全12巻 倉 謙吉 三輪書店 3. 人と集団・場一人の集まりと場を利用する一 第2版 鎌倉矩子編 三輪書店 4. レクリエーション 社会参加を促す治療的レクリエーション 寺山久美子監修 三輪書店 5. 障害中者の集団リハビリテーション 大田仁史 三輪書店 6. 表現アートセラピー入門 小野京子 誠信書房</p>		
研究室/オフィスアワー	<p>研究室C 棟7階19号室と共同研究室にて、授業・会議などない時間で随時対応する</p>		
授業展開期及び授業計画表	<p>木曜日(10:40~12:10) 研究室C 棟7階19号室と共同研究室にて、授業・会議などない時間で随時対応する</p>		
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	(小林)作業療法概論 オリエンテーション 作業療法総論1 作業療法総論1 歴史・定義・概念	作業療法史、定義、概念など作業療法士協会ハンフレットの配布物の内容を復習する。リハビリテーションチームの協業を知り、専門職種の特性と役割を理解する。視聴覚教材にて理解を深める	小林
2	(小林)作業療法各論1 コミュニケーション支援	神経筋障害を中心としたコミュニケーション支援機器を体験し、非言語的・ローテク/ロジック・ハイテク/ロジックに渡るコミュニケーションの支援の在り方について学ぶ。	小林
3	(小林)作業療法各論2 排泄の評価と福祉用具	日常生活活動の中でも、最も関わる頻度が高く、重要である排泄ケアについて、評価に基づき福祉用具の適応などを学ぶ。	小林
4	(小林)作業療法各論3 高次脳機能評価と作業療法	中枢神経系障害で高次脳機能障害が認められる作業療法の実践3	小林
5	(小林)作業療法の実践1 福祉機器評価・導入時の動作分析 (ADL・APDL (IADL)・OOL 生活環境と作業療法学)	各種福祉用具機器を介した動作分析を行い、機器の介助技術についても検討を加える。	小林
6	(小林)作業療法の実践2 福祉機器評価・導入時の動作分析 (ADL・APDL (IADL)・OOL 生活環境と作業療法学)	各種福祉用具機器を介した動作分析を行い、機器の介助技術についても検討を加える。	小林

7	(小林)作業療法の実践3 福祉機器評価・導入時の動作分析 (ADL・APDL (IADL)・OOL 生活環境と作業療法学)	各種福祉用具機器を介した動作分析を行い、機器の介助技術についても検討を加える。	小林
8	(小林)作業療法の実践4 脳科学と作業科学	作業療法学における脳をなす作業科学を学ぶ	小林
9	(小林)作業療法の実践5 高齢期における認知症と作業療法	高齢期における作業療法の軸をなす認知症について学ぶ	小林
10	(小林)作業療法の実践6 小児領域における作業療法	小児・発達領域における作業療法について学ぶ	小林
11	芸術療法とはなにか オリエンテーション 芸術療法の歴史 芸術療法の表現形式と適応	芸術療法の歴史や様々な様式について知り、どのような疾患に適用するのかを学ぶ。また、作業療法、理学療法との接点を考える。	橋本
12	ニューロダンス	ダンスを体験し、身体的および精神的変化を体験する。体験した事についても認知機能からレポートにまとめ提出する。	橋本
13	ボディワーク	身体を動かさずに変化する精神面について体験し、その理論についても学ぶ	橋本
14	アートセラピー	フィンガーペイントについて予習を行う	橋本
15	マインドフルネスの体験と 理学療法と芸術療法の接点について考える	今まで配布した資料、内容について復習を行っておく。理学療法と芸術療法の接点についてレポートを提出する。	橋本
成績評価方法と基準			
1. 期末試験 2. 提出物・レポート・出席状況(2/3) これらを総合的に評価する			
割合 1. 50% 2. 50%			

介護学概論・ボランティア活動論(理学) (Introduction to Nursing Care / Volunteer Activities Studies)																																											
授業科目名	前田 薫	担当教員	前田 薫																																								
主担当教員	前田 薫	専門基礎科目	DP②																																								
科目ナンバリング	SB125	科目区分	後期																																								
配当年次	2	開講学期	金曜 1限																																								
授業形態	演習	単位数	1																																								
授業概要	【介護学概論】地域包括ケアおよび介護保険の仕組みについて学び、将来その関係者と協業する時に必要な基礎を形成する。また、患者および利用者の身体アセスメントおよび介助についての基礎技術を身につけるために、実技練習を行う。 【ボランティア活動論】自発性に裏付けされた主体的な活動であるボランティアについて理解を深め、医療人としての前に障害のある方や高齢者の方を思える人間形成としてボランティアについて学び、また NPO/NGO 法人について学び、理学療法士として将来活躍できるフィールドの拡がりについてイメージを形成する。																																										
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. ケア(介護)について理解できる。 2. 日本の社会保険制度について理解できる 3. 高齢者や障害のある人の支援の方法について理解できる。 4. 将来ボランティアとして活躍できるフィールドについて理解できる。 																																										
履修上の注意(学生へのメッセージ)	<ul style="list-style-type: none"> ・配布資料を事前に読むこと。 ・自発性を発揮してボランティアを体験することを勧める。 																																										
教科書	教科書の指定はなし。																																										
参考書	資料を配布する。																																										
特に指定しない。	特になし。																																										
研究室/オフィスアワー	前田:月曜2限、火曜、第3木曜3限以外で予約をとり、来室してください。																																										
授業展開及び授業計画表	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>学修内容</th> <th>予習・復習・課題等</th> <th>担当</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>日本における介護の現状と問題点を考える ・被介護者の視点から</td> <td>予習:事前配布資料を読んでおく 復習:授業メモと配布資料を確認</td> <td>前田</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>日本における介護の現状と問題点を考える② ・介護者の視点から</td> <td>予習:事前配布資料を読んでおく 復習:授業メモと配布資料を確認</td> <td>前田</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>日本における介護の現状と問題点を考える③ ・サービス提供者の視点から</td> <td>予習:事前配布資料を読んでおく 復習:授業メモと配布資料を確認</td> <td>前田</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>介護現場における身体アセスメント① ・情報と機器が少ない状況でどのようにして安全なケアを実施するのか。</td> <td>予習:事前配布資料を読んでおく 復習:授業メモと配布資料を確認</td> <td>前田</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>介護現場における身体アセスメント② ・情報と機器が少ない状況で安全なケアを実施するための身体アセスメント練習</td> <td>予習:事前配布資料を読んでおく 復習:授業メモと配布資料を確認</td> <td>前田</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>介助技術① ・ベッド上ポジション ・ベッド上での肢位の変換 ・起き上がり介助</td> <td>予習:事前配布資料を読んでおく 復習:授業メモと配布資料を確認</td> <td>前田</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>介助技術② ・立ち上がり介助 ・トランスファー介助 ・車いす駆動の介助</td> <td>予習:事前配布資料を読んでおく 復習:授業メモと配布資料を確認</td> <td>前田</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>介助技術③ ・更衣介助 ・排泄介助(下着等の上げ下ろし) ・入浴介助 ・食事介助</td> <td>予習:事前配布資料を読んでおく 復習:授業メモと配布資料を確認</td> <td>前田</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>本来の「ボランティア」は何か? ・現在のボランティアのイメージ</td> <td>予習:事前配布資料を読んでおく 復習:授業メモと配布資料を確認</td> <td>前田</td> </tr> </tbody> </table>			回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当	1	日本における介護の現状と問題点を考える ・被介護者の視点から	予習:事前配布資料を読んでおく 復習:授業メモと配布資料を確認	前田	2	日本における介護の現状と問題点を考える② ・介護者の視点から	予習:事前配布資料を読んでおく 復習:授業メモと配布資料を確認	前田	3	日本における介護の現状と問題点を考える③ ・サービス提供者の視点から	予習:事前配布資料を読んでおく 復習:授業メモと配布資料を確認	前田	4	介護現場における身体アセスメント① ・情報と機器が少ない状況でどのようにして安全なケアを実施するのか。	予習:事前配布資料を読んでおく 復習:授業メモと配布資料を確認	前田	5	介護現場における身体アセスメント② ・情報と機器が少ない状況で安全なケアを実施するための身体アセスメント練習	予習:事前配布資料を読んでおく 復習:授業メモと配布資料を確認	前田	6	介助技術① ・ベッド上ポジション ・ベッド上での肢位の変換 ・起き上がり介助	予習:事前配布資料を読んでおく 復習:授業メモと配布資料を確認	前田	7	介助技術② ・立ち上がり介助 ・トランスファー介助 ・車いす駆動の介助	予習:事前配布資料を読んでおく 復習:授業メモと配布資料を確認	前田	8	介助技術③ ・更衣介助 ・排泄介助(下着等の上げ下ろし) ・入浴介助 ・食事介助	予習:事前配布資料を読んでおく 復習:授業メモと配布資料を確認	前田	9	本来の「ボランティア」は何か? ・現在のボランティアのイメージ	予習:事前配布資料を読んでおく 復習:授業メモと配布資料を確認	前田
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当																																								
1	日本における介護の現状と問題点を考える ・被介護者の視点から	予習:事前配布資料を読んでおく 復習:授業メモと配布資料を確認	前田																																								
2	日本における介護の現状と問題点を考える② ・介護者の視点から	予習:事前配布資料を読んでおく 復習:授業メモと配布資料を確認	前田																																								
3	日本における介護の現状と問題点を考える③ ・サービス提供者の視点から	予習:事前配布資料を読んでおく 復習:授業メモと配布資料を確認	前田																																								
4	介護現場における身体アセスメント① ・情報と機器が少ない状況でどのようにして安全なケアを実施するのか。	予習:事前配布資料を読んでおく 復習:授業メモと配布資料を確認	前田																																								
5	介護現場における身体アセスメント② ・情報と機器が少ない状況で安全なケアを実施するための身体アセスメント練習	予習:事前配布資料を読んでおく 復習:授業メモと配布資料を確認	前田																																								
6	介助技術① ・ベッド上ポジション ・ベッド上での肢位の変換 ・起き上がり介助	予習:事前配布資料を読んでおく 復習:授業メモと配布資料を確認	前田																																								
7	介助技術② ・立ち上がり介助 ・トランスファー介助 ・車いす駆動の介助	予習:事前配布資料を読んでおく 復習:授業メモと配布資料を確認	前田																																								
8	介助技術③ ・更衣介助 ・排泄介助(下着等の上げ下ろし) ・入浴介助 ・食事介助	予習:事前配布資料を読んでおく 復習:授業メモと配布資料を確認	前田																																								
9	本来の「ボランティア」は何か? ・現在のボランティアのイメージ	予習:事前配布資料を読んでおく 復習:授業メモと配布資料を確認	前田																																								

・ボランティア活動の変遷			
10	NGO/NPO について知る	予習:事前配布資料を読んでおく 復習:授業メモと配布資料を確認	前田
11	ボランティアの現場における理学療法士の役割	予習:事前配布資料を読んでおく 復習:授業メモと配布資料を確認	前田
12	ボランティアと世界の課題	予習:事前配布資料を読んでおく 復習:授業メモと配布資料を確認	前田
13	ボランティアの事例検討① 「環境問題」	予習:事前配布資料を読んでおく 復習:授業メモと配布資料を確認	前田
14	ボランティアの事例検討② 「発展途上国支援」	予習:事前配布資料を読んでおく 復習:授業メモと配布資料を確認	前田
15	ボランティアの事例検討③ 「被災地(省)支援」	予習:事前配布資料を読んでおく 復習:授業メモと配布資料を確認	前田
成績評価方法と基準			
①レポート課題			
②筆記試験			
割合			
①40%			
②60%			

授業科目名		テーピング技術論(理学) (Taping Skills)	
主担当教員	伊黒 浩二	担当教員	伊黒 浩二、外林 大輔
科目ナンバリング	SB127	専門基礎科目	テプロマポリシー 該当項目
配当年次	2	開講学期	後期
授業形態	演習	単位数	1
授業概要	リハビリテーション分野の臨床技術として利用価値が高い外傷の応急処置に必要な包帯法、副子固定法および骨折や軟部組織損傷に対する離別法を教授する。また、スポーツ中に起こり得る外傷及び障害について学び、それら処置の必要性を理解するとともに処置法を習得する。さらにテーピングの技術に必要な基礎知識および関節の固定と運動の制限、組織の圧迫等に用いられるテーピング方法、応急処置や再発防止も含めた外傷の予防、運動の矯正に加えテーピング前の診断、材料・用具の使用法、テーピング後の確認、巻き替えや除去を学び、上・下肢の運動器傷害のテーピング法、応急処置法についても学習する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 基本包帯法について理解し実践できる。 2. 骨折、脱臼の応急処置を理解し実践できる。 3. 軟部組織損傷の応急処置について理解し実践できる。 4. テーピングの基本知識を習得し説明できる。 5. 各部のテーピング法について理解し実践できる。 		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	1. 受講に関して材料費として8,000円が必要である。 2. 実習室を使用する際には白衣もしくはスポーツウェアの着用を義務付ける。		
教科書			
授業時に配付する資料			
参考書			
特におりません			
研究室/オフィスアワー			
授業の前後は非常勤講師控え室にいます。			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	運動器の外傷について 1	予習：シラハバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
2	運動器の外傷について 2	予習：シラハバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
3	外傷の応急処置 1	予習：シラハバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認、実施した実技について練習	
4	外傷の応急処置 2	予習：シラハバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認、実施した実技について練習	
5	テーピングの基礎的知識と技術	予習：シラハバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認、実施した実技について練習	
6	足関節のテーピング 1	予習：シラハバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認、実施した実技について練習	
7	足関節のテーピング 2	予習：シラハバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認、実施した実技について練習	
8	足関節のテーピング 3	予習：シラハバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認、実施した実技について練習	
9	足関節の応急処置テーピング	予習：シラハバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認、実施した実技について練習	
10	足底・足趾のテーピング	予習：シラハバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認、実施した実技について練習	

11	膝関節のテーピング1	予習：シラハバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認、実施した実技について練習	
12	膝関節のテーピング2	予習：シラハバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認、実施した実技について練習	
13	膝関節の応急処置テーピング	予習：シラハバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認、実施した実技について練習	
14	筋のテーピング	予習：シラハバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認、実施した実技について練習	
15	手指のテーピング、総合練習	予習：シラハバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認、実施した実技について練習	
成績評価方法と基準			
1. 出席は 2/3 以上を必要とし、基準を満たした者について試験を実施する。			
2. 期末試験は課題提出(100%)で評価する。			
3. 60 点以上で単位認定する。			
			割合
			2. 10 割

医療関係法規論(理学) (Medicine Related Laws and Regulations)			
授業科目名	李 庸吉	担当教員	李 庸吉
主担当教員	SS204	専門科目	DP①
科目ナンバリング	1	開講学期	曜日・時限
配当年次	講義	単位数	2
授業形態		必修・選択	必修
<p>授業概要</p> <p>ここで勉強することになる分野は「医事法」と称される領域になるが、それは憲法をはじめ民法、刑法、行政法等、複数の法の複合領域ともいえる。そこで、まず医事法全体を概観しながら法の基本的な概念を身につけていき、次いで理学療法士にとって関連の深い諸法について学び、裁判例などにも触れてみたい。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 理学療法士に関連を有する法律並びに行政について理解させる。 2. 基本的な法概念と法解釈を身につけた上、理学療法士及び作業療法士法を理解させる。 3. 医師法をはじめとする医療関係者法並びに医療法の概要、さらに理学療法士の法的な位置づけについての知識を習得させる。 4. また責任法という観点から、法を学ぶことが医療者の行動指針につながることも理解させる。 <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>他の教科もそうでしょうが、法学も一歩進んでどうこうできるものではありません。欠席が多いと駅が分からなくなるのは必至でしょうか、毎回の出席と復習が何より大事だと思います。</p> <p>教科書</p> <p>手嶋豊『医事法入門[第5版]』(有斐閣アルマ)</p> <p>参考書</p> <p>特に無し</p> <p>研究室/オフィスアワー</p> <p>非常勤講師控室</p> <p>授業展開及び授業計画表</p>			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	イントロダクション、医療者が法を学ぶ意義	配布資料を基に復習することが望ましいと思います。まずは用語に慣れることも念頭においておくようにしよう。	
2	法とは何か、法の種類と体系	同上また、最初は予習より復習の方に主眼をおくことよいと思います。	
3	医療と人権(総説)	同上個別具体的な事項については講義の中で適宜お伝えします。	
4	各論:自己決定権、プライバシー権等	同上ゆとりのある方は、上にあげている参考書等を用いて予習をすることができれば、さらに理解が立体的になってよいと思います。	
5	医療における刑法上の問題(総説)	同上	
6	各論:生命・身体に関する罪を中心に	同上	
7	医療における民法上の問題(総説)	同上	
8	各論:医療契約、不法行為	同上	
9	理学療法士及び作業療法士法①(総則、免許、欠格事由)	同上	
10	理学療法士及び作業療法士法②(業務、守秘義務、罰則)	同上	
11	医療関係者法(医師法、歯科医師法、保健師助産師看護師法等)	同上	
12	医療法(医療提供の理念、医療提供施設及びその管理等)	同上	
13	医療安全(医療の質、リスクマネジメント等)	同上加えて参考資料等を適宜紹介するようにします。	
14	判例学習	同上	
15	講義全体のまとめと振り返り	試験に向けて総復習となるでしょうが、とにかく反	

	復すること、考えることがしっかりした理解にも結びつきます。法学は決して暗記オナーリーの科目ではないことに留意する必要があります。	割合 ①30% ②70%
成績評価方法と基準		
①レポート(ミニレポート)課題		
②定期試験		

授業科目名 基礎理学療法Ⅰ(理学)			
主担当教員	角田 晃啓	担当教員	角田 晃啓、澤田 優子 工藤 慎太郎
科目ナンバリング	SS211	科目区分	専門科目
配当年次	2	開講学期	前期
授業形態	演習	単位数	1
授業概要	必修		
本講義では理学療法の実践における思考過程を解剖学・生理学・運動学の知識に基づいて教授する。			
※本科目は実務経験のある教員等による授業科目です			
到達目標			
種々の疾患や病態を、解剖学・生理学・運動学の観点から理解することができる。			
履修上の注意(学生へのメッセージ)			
到達目標の達成には1年次に学習した解剖学・生理学・運動学の内容に基づいて思考していくプロセスが必要です。これについての学習が不足していた場合、目標達成は困難になるので自己学習に努めて下さい。			
教科書			
なし。適宜資料を配布する。			
参考書			
適宜資料を配布する。			
研究室/オフィスアワー			
在室時は適宜			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	・オリエンテーション ・基礎知識の確認	1年次に学習した解剖学・生理学・運動学の知識について復習してから望むこと	角田 工藤 澤田
2	リハビリをする前に(1)	本テーマを通じて以下のキーワードを理解する。 【意識障害、血圧の異常、脈拍の異常、呼吸の異常、経皮的酸素飽和度の異常、感染対策、リスク管理 etc】	澤田
3	リハビリをする前に(2) ・グループ発表・知識の確認		澤田
4	リハビリをする前に(3) ・実技演習		澤田 角田 工藤
5	体の硬さを科学する(1)	本テーマを通じて以下のキーワードを理解する。 【筋組織、結合組織、筋緊張、神経線維、組織損傷、発痛物質、関節構成体、受動的トルク etc】	工藤
6	体の硬さを科学する(2)		工藤
7	体の硬さを科学する(3) ・グループ発表・知識の確認		工藤
8	体の硬さを科学する(4) ・実技演習		角田 澤田
9	体の硬さを科学する(5) ・実技演習		工藤 角田 澤田
10	息切れを科学する(1)	本テーマを通じて以下のキーワードを理解する。 【大循環・小循環、内呼吸・外呼吸、ヘモグロビン、換気、感覚、静水圧、静脈還 etc】	角田
11	息切れを科学する(2)		角田
12	息切れを科学する(3) ・グループ発表・知識の確認		角田

13	息切れを科学する(4) ・実技演習	角田 工藤 澤田
14	息切れを科学する(5) ・実技演習	角田 工藤 澤田
15	まとめ	角田 工藤 澤田
成績評価方法と基準		
・成績評価 (1)確認試験 (2)適宜行われる小テスト ・基準:4/5 以上の出席を必要とする。		
		割合 (1)60% (2)40%

授業科目名		基礎理学療法学演習(理学)	
主担当教員	中根 征也	担当教員	中根 征也、三木屋 良輔、堀 竜次、杉本 圭、松尾 浩希
科目ナンバリング	SS213	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目 DP①
配当年次	2	開講学期	前期(月曜3限)、 後期(月曜3限)
授業形態	演習	単位数	1
授業概要	<p>学生同士の小グループ(模擬患者役、理学療法士役、実施内容確認役)に分かれ、講義内容に記載された項目を通じて、臨床に必要な知識・技術・態度について学習・修得し、各自に対して試験(客観的臨床能力試験・OSCE)を実施する。</p> <p>※本科目は実務経験のある教員等による授業科目です</p> <p>到達目標</p> <p>①臨床に必要最低限の知識・技術・態度について理解し、修得する。 ②理解し、取得した知識・技術・態度を臨床で活用することができる。 履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>1)必要出席回数は、授業回数の4/5以上とし、その基準を満たした者についてOSCEを実施する。 2)授業が実技形式の場合には、シャージ上下、および本学指定の上履きを着用して参加すること。 3)授業期間中や試験前に実技練習を行うが、単位取得にはその練習会に出席することが必要である。 4)必要に応じて、適宜「補講」を開催する。</p>		
教科書	才藤栄一 監修:PT・OTのための臨床技能とOSCE コミュニケーションと介助・検査測定編 金原出版株式会社 2015		
参考書	才藤栄一 監修:PT・OTのための臨床技能とOSCE 機能障害・能力低下への介入編 金原出版株式会社 2017		
研究室/オフィスアワー	研究室/オフィスアワー		
中根 征也; 4階研究室/木曜日 4時限目以降(時間は事前に相談することが望ましい)	中根 征也; 4階研究室/木曜日 4時限目以降(時間は事前に相談することが望ましい)		
三木屋良輔; 堀 竜次; 杉本 圭; 松尾 浩希; 4階研究室/ 金曜日 3-5時限目(時間は事前に相談することが望ましい)	三木屋良輔; 堀 竜次; 杉本 圭; 松尾 浩希; 4階研究室/ 金曜日 3-5時限目(時間は事前に相談することが望ましい)		
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	標準予防策	予習:「PT・OTのための臨床技能とOSCE コミュニケーションと介助・検査測定編」(以下、テキストとする)のpp.16-19を読んでおくこと。 復習:各グループにて練習をしておくこと。	コミュニケーションとOSCE コミュニケーションと介助・検査測定編(以下、テキストとする)のpp.16-19を読んでおくこと。 復習:各グループにて練習をしておくこと。
2	リスク管理	予習:テキストのpp.20-30を読んでおくこと。 復習:各グループにて練習をしておくこと。	予習:テキストのpp.20-30を読んでおくこと。 復習:各グループにて練習をしておくこと。
3	コミュニケーション技法	予習:テキストのpp.31-36を読んでおくこと。 復習:各グループにて練習をしておくこと。	予習:テキストのpp.31-36を読んでおくこと。 復習:各グループにて練習をしておくこと。
4	これまでの講義のまとめ1	予習:「標準予防策」「リスク管理」「コミュニケーション技法」の復習と練習。 復習:各グループにて練習をしておくこと。	予習:「標準予防策」「リスク管理」「コミュニケーション技法」の復習と練習。 復習:各グループにて練習をしておくこと。
5	ホットバック実施の補助	予習:テキストのpp.37-45を読んでおくこと。 復習:各グループにて練習をしておくこと。	予習:テキストのpp.37-45を読んでおくこと。 復習:各グループにて練習をしておくこと。
6	車椅子の駆動介助	予習:テキストのpp.68-77を読んでおくこと。 復習:各グループにて練習をしておくこと。	予習:テキストのpp.68-77を読んでおくこと。 復習:各グループにて練習をしておくこと。
7	面接技法	予習:テキストのpp.100-107を読んでおくこと。 復習:各グループにて練習をしておくこと。	予習:テキストのpp.100-107を読んでおくこと。 復習:各グループにて練習をしておくこと。
8	これまでの講義のまとめ2	予習:「ホットバックの実施の補助」「車椅子の駆動補助」「面接技法」の復習と練習。 復習:各グループにて練習をしておくこと。	予習:「ホットバックの実施の補助」「車椅子の駆動補助」「面接技法」の復習と練習。 復習:各グループにて練習をしておくこと。
9	脈拍と血圧の測定	予習:テキストのpp.117-129を読んでおくこと。 復習:各グループにて練習をしておくこと。	予習:テキストのpp.117-129を読んでおくこと。 復習:各グループにて練習をしておくこと。
10	形態測定	予習:テキストのpp.198-211を読んでおくこと。 復習:各グループにて練習をしておくこと。	予習:テキストのpp.198-211を読んでおくこと。 復習:各グループにて練習をしておくこと。

11	関節可動域測定1	予習:テキストのpp.141-168を読んでおくこと。 復習:各グループにて練習をしておくこと。	予習:テキストのpp.141-168を読んでおくこと。 復習:各グループにて練習をしておくこと。
12	関節可動域測定2	予習:各グループにて練習をしておくこと。	予習:各グループにて練習をしておくこと。
13	徒手筋力測定1	予習:テキストのpp.167-194を読んでおくこと。 復習:各グループにて練習をしておくこと。	予習:テキストのpp.167-194を読んでおくこと。 復習:各グループにて練習をしておくこと。
14	徒手筋力測定2	予習:テキストのpp.167-194を読んでおくこと。 復習:各グループにて練習をしておくこと。	予習:テキストのpp.167-194を読んでおくこと。 復習:各グループにて練習をしておくこと。
15	これまでの講義のまとめ 3と講義全体のまとめ	予習:「脈拍と血圧の測定」「形態測定」「関節可動域測定」「徒手筋力測定」の復習と練習。 復習:各グループにて練習をしておくこと。	予習:「脈拍と血圧の測定」「形態測定」「関節可動域測定」「徒手筋力測定」の復習と練習。 復習:各グループにて練習をしておくこと。
成績評価方法と基準			
学修したすべての項目から出題される実技試験を実施する。			
その実技試験において、すべての項目で60%以上の得点の者に単位を与える。			
割合			
100%			

授業科目名	理学療法評価学総論(理学) (General Physical Therapy Evaluation)		
主担当教員	木内 隆裕	担当教員	木内 隆裕、仲本 正美、杉本 圭、松尾 浩希、林 真太郎
科目ナンバリング	SS208	科目区分	ディプロマポリシー該当項目
配当年次	1	開講学期	曜日・時限
授業形態	演習	単位数	1
授業概要	必修、選択		

理学療法評価学は対象者の生活機能を分析する方法の一つであり、リハビリテーション計画の立案やその効果判定等を目的として実施されるものである。本科目では、理学療法評価学から治療計画までのプロセスを学習する。また、情報収集、医療面接、基本的評価手法の一部(触診、形態測定、関節可動域測定)を修得する。これらの評価項目について意義、目的を理解し、その内容を対象者に説明して測定できることを目標とする。

- ※本科目は実務経験のある教員等による授業科目です
- 到達目標
- 1) 理学療法評価学の意義、目的、およびプロセスについて概説できる。
 - 2) 生活機能・障害の分類(ICD、ICIDH、ICF)について概説できる。
 - 3) 触診・形態測定、関節可動域測定の意味や目的について説明できる。
 - 4) 上記3つの基本的評価手法を、筋骨格系の解剖学の知識と結びつけて説明できる。
 - 5) 上記3つの基本的評価手法を実施することができる。

- 履修上の注意(学生へのメッセージ)
- 1) 本科目は演習科目に該当し、必要出席回数は「授業回数の5分の4以上」を採用する。
 - 2) 指定された教科書を毎回の授業に持参すること。
 - 3) 実技形式の場合には、シヤージ上下、および本学指定の上履きを着用して参加すること。また、インナーには、すぐに肘、膝、足部を露出できるものを着用すること。
 - 4) 髪が長い場合は実技に支障の無いようにくくること。
 - 5) 飲食は禁止とする。

教科書

- 1) 潮見泰蔵、下田信明、PT・OTデジタルテキスト、リハビリテーション基礎評価学、羊土社、2014
- 2) 中村隆一、齋藤宏、長崎浩、基礎運動学、第6版補訂、医歯薬出版、2012。
- 3) 林典雄、運動療法のための機能解剖学的触診技術、上肢、改訂第2版、メジカルビュー社、2011。
- 4) 林典雄、運動療法のための機能解剖学的触診技術、下肢・体幹、改訂第2版、メジカルビュー社、2012。

参考書

- 1) Neumann DA、筋骨格系のキネシオロジー-原著第2版、医歯薬出版、2012。
- 2) 河上敬介、磯貝香、骨格筋の形と触察法、改訂第2版、大崎閣社、2013。

研究室/オフィスアワー

木内隆裕: 4階研究室/火・金曜日 午後
 中根征也: 4階研究室/木曜日 1・2時限目
 杉本圭: 4階研究室/木曜日 4・5時限目
 仲本正美: 4階研究室/

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	【実技室】 評価の概念、医療面接の基礎 触診と形態測定①: 概論、四肢長(下肢)	予習: 測定に使うランドマークの確認 復習: 学習範囲の実技	木内
2	【実技室】 触診と形態測定②: 四肢長(下肢・上肢)	予習: 測定に使うランドマークの確認 復習: 学習範囲の実技	木内
3	【実技室】 触診と形態測定③: 四肢長(上肢・体幹)	予習: 測定に使うランドマークの確認 復習: 学習範囲の実技	仲本
4	【実技室】 触診と形態測定④: 四肢長(下肢・体幹)、肩胛	予習: 測定に使うランドマークの確認 復習: 学習範囲の実技	仲本
5	【実技室】 触診と形態測定⑤: 肩胛、その他	予習: 測定に使うランドマークの確認 復習: 学習範囲の実技	仲本
6	【実技室】 関節可動域測定①: 概論、肘関節	予習: 基本軸・移動軸・参考可動域、二関節筋 復習: 学習範囲の実技	木内
7	【実技室】 関節可動域測定②: 前腕、手関節	予習: 基本軸・移動軸・参考可動域、二関節筋 復習: 学習範囲の実技	木内
8	【実技室】 関節可動域測定③: 肩甲上腕関節、肩甲骨	予習: 基本軸・移動軸・参考可動域、二関節筋 復習: 学習範囲の実技	仲本

9	【実技室】 関節可動域測定④: 肩甲上腕関節、肩甲骨	予習: 基本軸・移動軸・参考可動域、二関節筋 復習: 学習範囲の実技	仲本
10	【実技室】 関節可動域測定⑤: 脊柱(頸部、胸腰部)	予習: 基本軸・移動軸・参考可動域、二関節筋 復習: 学習範囲の実技	松尾
11	【実技室】 関節可動域測定⑥: 股関節	予習: 基本軸・移動軸・参考可動域、二関節筋 復習: 学習範囲の実技	松尾
12	【実技室】 関節可動域測定⑦: 膝関節、足関節	予習: 基本軸・移動軸・参考可動域、二関節筋 復習: 学習範囲の実技	松尾
13	【実技室】 関節可動域測定⑧: 足関節、その他	予習: 基本軸・移動軸・参考可動域、二関節筋 復習: 学習範囲の実技	松尾
14	【実技室】 バイタルサイン測定	予習: 循環器の生理学 復習: 学習範囲の実技	木内
15	【講義室】 評価の概念・過程 生活機能・障害の分類(ICD、ICIDH、ICF)	予習: 教科書の導入部分 復習: ICD、ICIDH、ICF	木内
成績評価方法と基準			
1) 単位認定のための必要出席回数(総授業回数の5分の4以上)とする。 2) 実技テスト(配分60%)と筆記テスト(配分40%)で評価し、総合成績の得点率60%以上(小教切捨て)で単位を設定する。ただし、実技テストの平均得点率が60%未満(小教切捨て)の場合は、筆記試験の結果によらず不可とする。 3) 実技テストの評価には事前に配付するルーブリックを使用する。			

理学療法評価学各論(理学) (Detailed Physical Therapy Evaluation)		木内 隆裕	担当教員	木内 隆裕、中本 正美、杉本 圭、松尾 浩希
主担当教員	科目ナンバリング	SS207	科目区分	DP①
配当年次	2	開講学期	前期	火曜 3 限 火曜 4 限
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択
授業概要 理学療法評価は対象者の生活機能を分析する方法の一つであり、リハビリテーション計画の立案やその効果判定等を目的として実施されるものである。本科目では1年次理学療法評価学総論から継承して、基本的評価手法を修得する。具体的には、筋力、感覚、疼痛、反射の評価手法を背景知識と結びつけながら学習し、さらにはトップダウン型の定性的評価手法である姿勢・動作観察(分析)の基本を学習する。 ※本科目は実務経験のある教員等による授業科目です				
到達目標 1) 徒手筋力検査に必要な解剖学・生理学・運動学の知識を述べることができる。 2) 徒手筋力検査を適切な方法で実施することができる。 3) 感覚検査・反射検査に必要な解剖学・生理学の知識を述べることができる。 4) 感覚検査・反射検査を適切な方法で実施することができる。 5) 座位・立位・立ち上がり動作の観察(分析)に必要な解剖学・生理学・運動学の知識を述べることができる。 6) 座位・立位・立ち上がり動作の観察(分析)を行い、記述できる。 履修上の注意(学生へのメッセージ) 1) 本科目は演習科目であり、必要出席回数は「授業回数の5分の4以上」を採用する。 2) 指定された教科書を毎回の授業に持参すること。 3) 実技形式の場合には、ジャージー上下、および本学指定の上履きを着用して参加すること。また、ジャージーの内側には肘や膝を露出できるシャツなどを着用すること。 4) 髪が短い場合は実技に支障の無いようにすること。 5) 飲食は禁止とする。				
教科書 1) 湖見泰雄, 下田信明編, PT-OT ビジュアルテキスト, リハビリテーション基礎評価学, 羊土社, 2014. 2) Hislop, H.J.; Montgomery, J. 新・徒手筋力検査法, 原書第9版, 津山直一, 中村樹三訳, 共同医学出版社, 2014. 3) 林典雄, 運動療法のための機能解剖学的手法, 上肢, 改訂第2版, メジカルビュー社, 2011. 4) 林典雄, 運動療法のための機能解剖学的手法, 下肢・体幹, 改訂第2版, メジカルビュー社, 2012. 5)				
参考書 1) 河上敬介, 編員書, 骨格筋の形と機能, 改訂第2版, 大崎閣社, 2013. 2) 田崎義昭, 高藤佳雄, 坂井文彦, ベッドサイドの神経の診かた, 改訂第17版, 南山堂, 2010. 3) 黒川幸雄, 小林豊作, 佐藤成徳, 大西秀明編, 6ステップ式臨床動作分析マニュアル, 第2版, 文光堂, 2010. 4) 臨床歩分析研究会編, 臨床実習のための歩分析トレーニングブック, 第1版, 金原出版, 2010. 5) 中山恭彦編, 3日間で行う理学療法臨床評価プログラム				
研究室/オフィスアワー 木内隆裕: 4階研究室/火・金曜日 午後 中根正也: 4階研究室/金曜日 4時限目(時間前は事前にご相談することが望ましい) 杉本圭: 4階研究室/木曜日 4時限目(時間は事前にご相談することが望ましい) 中本正美: 4階研究室/				
授業展開及び授業計画表				
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当	
1	徒手筋力検査1: 原理・原則・注意点 股関節①(伸屈)	・力のモーメント ・左記の運動に関わる筋の起始、停止、支配神経 (「基礎運動学」参照、以下同様)	木内、中根、杉本、中本	
2	徒手筋力検査2: 股関節②(屈曲・外転・内転)	・力のモーメント ・左記の運動に関わる筋の起始、停止、支配神経	木内、中根、杉本、中本	
3	徒手筋力検査3: 股関節③(内転・外転・内旋)	・力のモーメント ・左記の運動に関わる筋の起始、停止、支配神経	木内、中根、杉本、中本	

4	徒手筋力検査4: Hand-held dynamometerを用いた筋力測定実習 足関節(底屈、背屈) 徒手筋力検査5: 足関節(外返し、内返し) 体幹(伸屈、屈曲、回旋)	・力のモーメント ・左記の運動に関わる筋の起始、停止、支配神経	木内、中根、杉本、中本
5	徒手筋力検査6: 体幹②(骨盤上)	・力のモーメント ・左記の運動に関わる筋の起始、停止、支配神経	木内、中根、杉本、中本
6	頭頸部①(頸部伸屈、頸部伸屈、複合伸屈) 頭頸部②(頸部屈曲、頸部伸屈、複合屈曲)	・力のモーメント ・左記の運動に関わる筋の起始、停止、支配神経	木内、中根、杉本、中本
7	頭頸部③(頸部屈曲、頸部伸屈、複合屈曲)	・力のモーメント ・左記の運動に関わる筋の起始、停止、支配神経	木内、中根、杉本、中本
8	Hand-held dynamometerを用いた筋力測定実習、その他	テスト範囲: 下肢、体幹、頭頸部のMMT	木内、中根、杉本、中本
9	実技試験セクション1(下肢・体幹・頭頸部)	・質問は試験1週間前まで受け付ける。 ・試験ペーパーは前日の朝に発表する。	木内、中根、杉本、中本
10	実技試験セクション1(下肢・体幹・頭頸部)	・質問は試験1週間前まで受け付ける。 ・試験ペーパーは前日の朝に発表する。	木内、中根、杉本、中本
11	徒手筋力検査9: 肩関節①(屈曲、伸屈、外転、水平内転)	・力のモーメント ・左記の運動に関わる筋の起始、停止、支配神経	木内、中根、杉本、中本
12	徒手筋力検査10: 肩関節②(水平外転、外旋、内旋) 肩甲骨①(外転・上方回旋)	・力のモーメント ・左記の運動に関わる筋の起始、停止、支配神経	木内、中根、杉本、中本
13	徒手筋力検査11: 肩甲骨②(掌上・内転、下側・内転、下方回旋)	・力のモーメント ・左記の運動に関わる筋の起始、停止、支配神経	木内、中根、杉本、中本
14	徒手筋力検査12: 肩甲骨③(下側) 肘関節(屈曲、伸屈) 前腕(回旋、内回)	・力のモーメント ・左記の運動に関わる筋の起始、停止、支配神経	木内、中根、杉本、中本
15	徒手筋力検査13: 手関節(背屈、背屈) Hand-held dynamometerを用いた筋力測定実習	・力のモーメント ・左記の運動に関わる筋の起始、停止、支配神経	木内、中根、杉本、中本
16	感覚検査1: 触覚、触圧覚	・触覚の伝導路、デルマトーム	木内、中根、杉本、中本
17	実技試験セクション2(上肢・肩甲骨)	・質問は試験1週間前まで受け付ける。 ・試験ペーパーは前日の朝に発表する。	木内、中根、杉本、中本
18	実技試験セクション2(上肢・肩甲骨)	・質問は試験1週間前まで受け付ける。 ・試験ペーパーは前日の朝に発表する。	木内、中根、杉本、中本
19	感覚検査2: 触覚、温痛覚、関節覚	・温痛覚の伝導路、デルマトーム ・関節覚の伝導路	木内、中根、杉本、中本
20	感覚検査3: 関節覚、振動覚、その他	・複合感覚の伝導路 ・疼痛の評価	木内、中根、杉本、中本
21	反射検査1: 概論	・反射弓 ・腱体路、腱体外路	木内、中根、杉本、中本
22	反射検査2: 腱反射②(膝蓋腱、アキレス腱) 皮膚反射(腹壁反射)	・反射弓 ・腱体路、腱体外路	木内、中根、杉本、中本
23	姿勢観察・分析1: 概論、立位	レポート課題: 立位観察の記述	木内、中根、杉本、中本
24	姿勢観察・分析2: 立位	レポート課題: 立位観察の記述	木内、中根、杉本、中本
25	実技試験セクション3(感覚、反射)	・質問は試験1週間前まで受け付ける。 ・試験ペーパーは前日の朝に発表する。	木内、中根、杉本、中本
26	実技試験セクション3(感覚、反射)	・質問は試験1週間前まで受け付ける。 ・試験ペーパーは前日の朝に発表する。	木内、中根、杉本、中本
27	動作観察・分析1: 概論、立ち上がり	レポート課題: 座位の記述	木内、中根、杉本、中本
28	動作観察・分析2: 立ち上がり	レポート課題: 立ち上りの記述	木内、中根、杉本、中本
29	動作観察・分析3: 立ち上がり	レポート課題: 立ち上りの記述	木内、中根、杉本、中本

30	動作観察・分析4: 立ち上がり	レポート課題: 立ち上がりの記述	木内、中根、 杉本、仲本
成績評価方法と基準			割合
1) 単位認定のための必要出席回数は「総授業回数(5分)の4以上」とする。			
2) 実技テスト(配分50%)、筆記テスト(配分30%)、レポート(配分20%)で評価する。ただし、再試験については、実技テストと筆記テスト(各々配分50%)で評価する。			実技 50%
3) 実技テストの評価には事前に配付するルーブリックを使用する。			試験 30%
4) 総合成績の得点率が60%以上(小数切捨て)であった者に単位を認定する。ただし、実技テストの平均得点率が60%未満(小数切捨て)の場合は、筆記試験の結果によらず不可とする。			レポート 20%

授業科目名	基礎日常生活学(理学) (Basic Daily Activities)																																														
主担当教員	仲本 正美	担当教員	仲本 正美																																												
科目ナンバリング	SS301	科目区分	ディプロマポリシー 該当項目																																												
配当年次	1	開講学期	後期																																												
授業形態	演習	単位数	1																																												
授業概要	<p>基礎日常生活学では、人間の日常生活の基本として遂行される食事、排泄、整容、更衣、移動などの代表的な動作を取り上げ、それらの動作遂行に必要な条件を解説するとともに、日常生活活動の概念、位置づけを教授する。Barthelemy index、FIMなどの日常生活活動の代表的な評価スケールと動作の実用性、自立尺度について教授する。また正常歩行のメカニズムについて、運動学、解剖学、力学を交えて教授し、さらには杖や車椅子の使用方法について教授する。</p> <p>※本科目は実務経験のある教員等による授業科目です</p>																																														
到達目標	<p>1. 基礎日常生活活動(ADL)の概念を理解し動作の自立度・実用性が想起できる。</p> <p>2. 日常生活活動の評価スケールを適切に使用できる。</p> <p>3. 正常歩行の要素を理解し、その因子を理解できる。</p> <p>4. 正常歩行の要素を対象者に詳細に説明できる。</p> <p>5. 杖、車椅子の使用方法について理解できる。</p> <p>6. 杖、車椅子の使用方法を対象者に説明できる。</p>																																														
履修上の注意(学生へのメッセージ)	<p>1. 理学療法士の必須能力である動作観察・分析の礎となることを認識する。</p> <p>2. 回転モーメントなど物理学について、常識レベルの復習が必要。</p> <p>3. 身近な動作を通して、関節の動き、筋収縮を考慮してみる。</p> <p>4. 暗記レベルの知識だけでなく、理解すること。</p>																																														
教科書	<p>奈良勲他著:標準理学療法学 日常生活活動・生活環境学、医学書院 淵見泰誠、下田信明、P1-01 ヒジューアルテキスト、リハビリテーション基礎評価学、羊土社 島中泰彦編:これならできる!姿勢・動作・歩行分析、羊土社</p>																																														
参考書	<p>中村隆一著:基礎運動学、医歯薬出版 キルステンゲッツ・ノイマン著:観察による歩行分析、医学書院 武田功著:ベリ―歩行分析、医歯薬出版</p>																																														
研究室/オフィスアワー	9:00-16:00 授業時間以外																																														
授業展開及び授業計画表	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>学修内容</th> <th>予習・復習・課題等</th> <th>担当</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ADL の概念と範囲</td> <td>教科書の ADL の概念について復習しておく</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>ADL の評価1</td> <td>教科書の ADL の評価スケールについて予習しておく</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>ADL の評価2</td> <td>ADL の評価について復習する 教科書の Barthelemy index について予習しておく</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>ADL の評価3</td> <td>FIM に関する国家試験過去問を復習する</td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>正常歩行1</td> <td>T字杖と松葉杖について予習しておく 歩行メカニズムについて復習する</td> <td></td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>正常歩行2</td> <td>杖の合わせ方を予習しておく 歩行メカニズムについて復習する</td> <td></td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>歩行補助具</td> <td>杖歩行について予習しておく 歩行メカニズムについて復習する</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>杖の適合判定</td> <td>車いすの種類について予習しておく 歩行メカニズムについて復習する</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>車椅子</td> <td>車いすの自走の仕方を予習しておく 歩行メカニズムについて復習する</td> <td></td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>演習1</td> <td>車いすの介助の仕方を予習しておく 歩行メカニズムについて復習する</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当	1	ADL の概念と範囲	教科書の ADL の概念について復習しておく		2	ADL の評価1	教科書の ADL の評価スケールについて予習しておく		3	ADL の評価2	ADL の評価について復習する 教科書の Barthelemy index について予習しておく		4	ADL の評価3	FIM に関する国家試験過去問を復習する		5	正常歩行1	T字杖と松葉杖について予習しておく 歩行メカニズムについて復習する		6	正常歩行2	杖の合わせ方を予習しておく 歩行メカニズムについて復習する		7	歩行補助具	杖歩行について予習しておく 歩行メカニズムについて復習する		8	杖の適合判定	車いすの種類について予習しておく 歩行メカニズムについて復習する		9	車椅子	車いすの自走の仕方を予習しておく 歩行メカニズムについて復習する		10	演習1	車いすの介助の仕方を予習しておく 歩行メカニズムについて復習する	
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当																																												
1	ADL の概念と範囲	教科書の ADL の概念について復習しておく																																													
2	ADL の評価1	教科書の ADL の評価スケールについて予習しておく																																													
3	ADL の評価2	ADL の評価について復習する 教科書の Barthelemy index について予習しておく																																													
4	ADL の評価3	FIM に関する国家試験過去問を復習する																																													
5	正常歩行1	T字杖と松葉杖について予習しておく 歩行メカニズムについて復習する																																													
6	正常歩行2	杖の合わせ方を予習しておく 歩行メカニズムについて復習する																																													
7	歩行補助具	杖歩行について予習しておく 歩行メカニズムについて復習する																																													
8	杖の適合判定	車いすの種類について予習しておく 歩行メカニズムについて復習する																																													
9	車椅子	車いすの自走の仕方を予習しておく 歩行メカニズムについて復習する																																													
10	演習1	車いすの介助の仕方を予習しておく 歩行メカニズムについて復習する																																													

11	演習2	移業について予習しておく	割合
12	演習3	移業の介助について予習しておく 歩行メカニズムについて復習する 歩行メカニズムについて復習する	①20% ②40% ③40%
13	ADL のまとめ1(グループワーク)	正常歩行、杖歩行、車いす移動について対象者に説明できるようにしておく 授業内容を復習する	
14	ADL のまとめ2(グループワーク)	正常歩行、杖歩行、車いす移動について対象者に説明できるようにしておく 授業内容を復習する	
15	ADL のまとめ3(グループワーク)	正常歩行、杖歩行、車いす移動について対象者に説明できるようにしておく 授業内容を復習する	
成績評価方法と基準			
①小テスト			
②発表			
③定期試験			
授業時数の 2/3 以上の出席が必要です。			

授業科目名	基礎運動療法学総論(理学) (Basic Kinesitherapy)		
主担当教員	前田 薫	担当教員	前田 薫、三木屋 良輔
科目ナンバリング	SS902	科目区分	専門科目 DP①
配当年次	2	開講学期	前期 水曜2限
授業形態	演習	単位数	1 必修・選択 必修
授業概要	<p>ヒトの動作を構成する要素として、“姿勢”、“力筋”、“巧みさ”が重要になる。理学療法において多く用いられる運動療法では、それらを“関節可動域運動”、“筋力強化トレーニング”、“運動学習”として組み込んでいる。本科目では、学生自身にそれぞれの理論を用いた運動療法を実施し、その科学的評価により理論の検証を行い、発表してもらう。この経験を通じて、運動療法の理論を理解し、実際に健常者に対してそれぞれの運動療法を処方する上での注意点が説明できるようにする。</p> <p>※本科目は実務経験のある教員等による授業科目です</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 筋力トレーニングの理論を理解し、健常者に対してトレーニングを処方できる。 2. 関節可動域制限の病理とストレッチの理論を理解し、健常者に対してストレッチを処方できる。 3. 運動学習理論を理解し、健常者の運動学習を進めるトレーニングを処方できる。 <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 1年次に行った解剖学・運動学を復習して読むこと 2. 自分たちで十分な量の文献的調査が必要です。分からないことは積極的に担当教員と密に連携をとって進めて下さい。 3. 発表の時や討論の時は積極的に参加し、否定的な発言をしないようにして下さい。 		
教科書	<ol style="list-style-type: none"> 1. 市橋則明編、運動療法学、障害別アプローチの理論と実際、第2版、文光堂、2014 		
参考書	<ol style="list-style-type: none"> 石井直方、究極の筋力トレーニング 最新スポーツ生理学と効率的体づくり 沖田実、関節可動域制限—病態の理解と治療の考え方 リチャード・A・シュミット、運動学習とパフォーマンス 		
研究室/オフィスアワー			
各担当教員に個別にアポイントメントを取ってください。			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	オリエンテーション 講義(筋力トレーニング①)	教科書の該当部分を読む	前田 三木屋
2	講義(筋力トレーニング②)	教科書の該当部分を読む	三木屋
3	講義(ストレッチ)	教科書の該当部分を読む	前田
4	講義(運動学習①)	教科書の該当部分を読む	前田
5	講義(運動学習②)	教科書の該当部分を読む	前田
6	グループワーク グループの決定 文献研究および測定計画の立案①	実験の計画	前田 三木屋
7	グループワーク 文献研究および測定計画の立案②	実験の計画	前田 三木屋
8	グループワーク 文献研究および測定計画の立案③	実験の計画	前田 三木屋
9	グループワーク 初回測定 トレーニングの実施①	実験の計画の内容確認	前田 三木屋
10	グループワーク トレーニングの実施②	実験の計画の内容確認	前田 三木屋
11	グループワーク トレーニングの実施③	実験の計画の内容確認	前田 三木屋
12	グループワーク トレーニング後の測定	実験の計画の内容確認	前田 三木屋
13	レポートのプレゼンテーション①	基礎知識の復習	前田

		三木屋
14	レポートのプレゼンテーション②	前田三木屋 基礎知識の復習
15	全体のまとめ	前田三木屋 基礎知識の復習
成績評価方法と基準		
割合		
発表内容、提出物、試験で総合的に判定し、60点以上で単位認定とする。 発表内容、提出物、試験で総合的に判定し、60点以上で単位認定とする。 2/3以上の出席を必要とする。		
発表内容 (30%)、提出物 (10%)、試験 (60%)		

授業科目名 基礎運動療法学各論(理学) (Basic Kinesitherapy)			
主担当教員	工藤 慎太郎	担当教員	工藤 慎太郎、三木屋 良輔
科目ナンバリング	SS303	科目区分	ディプロマポリシー 該当項目 DP①
配当年次	2	開講学期	曜日・時限 火曜2限
授業形態	演習	単位数	1 必修・選択 必修
授業概要			
運動学、臨床運動学、基礎運動療法総論の内容を、実際の運動療法を実施する過程を経験しながら、組み合わせる。とくにヒトの動作を観察し、問題点を推測し、評価を行い、必要な運動療法プログラムを実施するという過程の中で、運動療法のプログラムの実施を行う。これにより、3年次に行う評価実習および疾患別理学療法での思考過程の基盤を形成する。			
※本科目は実務経験のある教員等による授業科目です			
到達目標			
1. 健常者の歩行を観察・分析し、問題点を推測できる。			
2. 問題点に対する検査測定結果から適切な運動療法を処方できる。			
3. 運動療法の効果を生体力学的に分析することが出来る。			
履修上の注意(学生へのメッセージ)			
1. 臨床運動学・基礎運動療法総論の内容を復習して下さい。			
2. エクセルによるデータ処理が必要になります。不慣れたヒトは早い段階で教員に確認して下さい。			
3. 自分たちで十分な量の文献的調査が必要です。分からないことは積極的に担当教員と密に連携をとって進めて下さい。			
4. 発表の時や討論の時は積極的に参加し、否定的な発言をしないようにして下さい。			
教科書			
島中 森彦編:これならできる!姿勢・動作・歩行分析			
参考書			
観察による歩行分析、医学書院			
臨床歩行分析研究会、臨床歩行計測入門、医歯薬出版株式会社			
研究室/オフィスアワー			
月曜日1限:			
その他授業時間外、放課後空いている時間に随時対応しますが予約するようにして下さい。			

授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	オリエンテーション	歩行周期・観察による歩行分析について	
2	歩行動作観察	歩行 Kinematics 提出	
3	歩行計測実習・運動機能評価実習	歩行 Kinematics 提出	
4	歩行計測実習・運動機能評価実習	歩行中の下肢関節モーメントについて	
5	歩行計測実習・運動機能評価実習	歩行中の下肢関節モーメントについて	
6	歩行時の Kinematics & Kinetics	歩行中の下肢関節モーメントについて	
7	運動療法プログラムの立案	歩行中の下肢関節モーメントについて	
8	運動療法プログラムの立案	歩行中の下肢関節モーメントについて	
9	運動療法プログラムの立案	歩行中の下肢関節モーメントについて	
10	運動療法プログラム発表	歩行中の下肢関節モーメントについて	
11	運動療法プログラム発表	歩行中の下肢関節モーメントについて	
12	運動療法プログラム発表	歩行中の下肢関節モーメントについて	
13	歩行計測実習・運動機能評価実習		
14	発表		

15	発表	
成績評価方法と基準		
割合		
発表内容	試験で総合的に判定し、60点以上で単位認定とする。 4/5以上の出席を必要とする。	内容 (70%)、試験 (30%)

授業科目名	物理療法学(理学) (Physiatrics)		
主担当教員	仲本 正美	担当教員	仲本 正美
科目ナンバリング	SS304	科目区分	ディプロマポリシー 該当項目 DP①
配当年次	1	開講学期	曜日・時限 月曜3限
授業形態	演習	単位数	1
授業概要	<p>医学的リハビリテーションにおける物理療法法の位置付け、目的を理解する。物理療法で用いられる手段が人体に作用する機序を種類別に理解し、それに関連付けてそれぞれの適応と禁忌を想起できるようにする。</p> <p>※本科目は実務経験のある教員等による授業科目です</p> <p>到達目標</p> <p>物理療法法の位置付け、目的が理解できる。</p> <p>種類別に作用機序・適応・禁忌が想起できる。</p> <p>物理療法法の機器を操作することができる。</p> <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>機器の操作を体験することがあるが、安全のために必ず教員の指示に従うこと。</p>		
教科書	教科書		
物理療法学	松澤正・江口勝彦、金原出版株式会社		
参考書	参考書		
理学療法概論	奈良 勲、医歯薬出版株式会社		
物理療法マニュアル	嶋田智明 他、医歯薬出版株式会社		
EBM 物理療法	Michelle H. Cameron 編著、医歯薬出版株式会社		
研究室/オフィスアワー	9:00-16:00 授業時間以外		
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	オリエンテーション:物理療法学の総論	教科書1章、2章を読んでください。	
2	温熱療法:ホット/バック/パラフィン	教科書第3章を読んでください。 前回の内容の小テストをします。	
3	寒冷療法	教科書第4章を読んでください。 前回の内容の小テストをします。	
4	水治療法	教科書第9章を読んでください。 前回の内容の小テストをします。	
5	牽引療法	教科書第10章を読んでください。 前回の内容の小テストをします。	
6	光線療法:赤外線・紫外線・レーザー	教科書第5、6章を読んでください。 前回の内容の小テストをします。	
7	高周波療法:極超短波・超短波	教科書第5章を読んでください。 前回の内容の小テストをします。	
8	復習および機器操作の体験①	第1~7講の授業プリントを持ってきてください。 シヤージに着替えてきてください。 前回の内容の小テストをします。	
9	中間試験	第1~8講の内容について試験をします。	
10	超音波療法(1):特徴と作用	教科書第7章を読んでください。 前回の内容の小テストをします。	
11	超音波療法(2):操作方法	教科書第7章を読んでください。 前回の内容の小テストをします。	
12	電気療法(1):特徴と作用	教科書第8章を読んでください。 前回の内容の小テストをします。	
13	電気療法(2):刺激設定	教科書第8章を読んでください。 前回の内容の小テストをします。	
14	電気療法(3):操作方法	教科書第8章を読んでください。 前回の内容の小テストをします。	

15	復習および機器操作の体験②	第10～14講の授業プリントを持ってきてください。 ジャージに着替えてきてください。 前回の内容の小テストをします。
成績評価方法と基準		割合
①第2～8講の小テスト:授業開始時に実施		①10%
②中間試験(第1～8講の内容)		②40%
③第10～15講の小テスト:授業開始時に実施		③10%
④定期試験(第10～15講の内容)		④40%
<p>〔①(配分 20%) + ②(配分 80%)〕、〔③(配分 20%) + ④(配分 80%)〕で算出した点数が、いずれも得点率 60%以上(小 数点切捨て)の場合に単位を認定する。 2/3以上の出席が必要。</p>		

授業科目名		運動器系理学療法学Ⅰ(理学) (Physical Therapy for Motor SystemⅠ)	
主担当教員	工藤 慎太郎	担当教員	工藤 慎太郎
科目ナンバリング	SS314	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目
配当年次	2	開講学期	曜日・時限 火曜4限
授業形態	演習	単位数	1
授業概要	運動器に対する理学療法評価の臨床的・思考過程を経験し、各種運動器疾患に対する理学療法評価を健常者に対して実施できるようにする。		
到達目標	※本科目は実務経験のある教員等による授業科目です		
<p>1. 臨床的思考過程を説明できる。 2. 運動器疾患に対する理学療法評価を健常者に対して実施できる。 3. 学習した内容をグループ討論の中で、披露することができる。</p>			
履修上の注意(学生へのメッセージ)	履修上の注意(学生へのメッセージ)		
<p>1. 自分たちで十分な量の文献的調査が必要です。分からないことは積極的に担当教員と密に連携をとって進めて下さい。 2. 発表の時や討論の時は積極的に参加し、否定的な発言をしないようにして下さい。</p>			
教科書	教科書		
工藤慎太郎: 運動機能講書の「なぜ?」がわかる評価戦略	工藤慎太郎: 運動機能講書の「なぜ?」がわかる評価戦略		
参考書	参考書		
工藤慎太郎: 運動器疾患の「なぜ?」がわかる臨床解剖学	工藤慎太郎: 運動器疾患の「なぜ?」がわかる臨床解剖学		
研究室/オフィスアワー	研究室/オフィスアワー		
棟棟 4F17 研究室/月曜1限または時間がないときに対応します(要予約)。	棟棟 4F17 研究室/月曜1限または時間がないときに対応します(要予約)。		
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	オリエンテーション	必要な実技の練習と疾患に対する知識の整理	工藤
2	変形性股関節症に対する理学療法評価の思考過程	必要な実技の練習と疾患に対する知識の整理	工藤
3	変形性股関節症に対する理学療法評価の思考過程	必要な実技の練習と疾患に対する知識の整理	工藤
4	膝蓋骨骨折に対する理学療法評価の思考過程	必要な実技の練習と疾患に対する知識の整理	工藤
5	膝蓋骨骨折に対する理学療法評価の思考過程	必要な実技の練習と疾患に対する知識の整理	工藤
6	スポーツ障害に対する理学療法評価の思考過程	必要な実技の練習と疾患に対する知識の整理	工藤
7	スポーツ障害に対する理学療法評価の思考過程	必要な実技の練習と疾患に対する知識の整理	工藤
8	大腿骨頭部骨折に対する理学療法評価の演習	必要な実技の練習と疾患に対する知識の整理	工藤
9	大腿骨頭部骨折に対する理学療法評価の演習	必要な実技の練習と疾患に対する知識の整理	工藤
10	大腿骨頭部骨折に対する理学療法評価の演習	必要な実技の練習と疾患に対する知識の整理	工藤
11	変形性膝関節症に対する理学療法評価の演習	必要な実技の練習と疾患に対する知識の整理	工藤
12	変形性膝関節症に対する理学療法評価の演習	必要な実技の練習と疾患に対する知識の整理	工藤
13	変形性膝関節症に対する理学療法評価の演習	必要な実技の練習と疾患に対する知識の整理	工藤
14	スポーツ障害に対する理学療法評価の思考過程	必要な実技の練習と疾患に対する知識の整理	工藤
15	スポーツ障害に対する理学療法評価の思考過程	必要な実技の練習と疾患に対する知識の整理	工藤

成績評価方法と基準	割合
定期試験により単位認定を行う。 4/5以上の出席を必要とする。	100%:試験

神経系理学療法学Ⅰ(理学) (Nervous System Physical Therapy I)			
授業科目名	中根 征也、杉本 圭、松尾 浩希、木内 隆裕		
担当教員	中根 征也		
科目ナンバリング	SS317		
科目区分	専門科目		
配当年次	2		
開講学期	後期		
授業形態	演習		
単位数	1		
必修・選択	必修		
備考	DP①		
月曜5限			
必修			
授業概要			
脳卒中を中心とした中枢神経疾患・変性疾患の疾患の特徴やメカニズム、その疾患や病態に応じた理学療法評価及び理学療法の意味や実践について学修する。			
※本科目は実務経験のある教員等による授業科目です			
到達目標			
1) 中枢神経系の構造と機能を理解し、図示や説明ができる。			
2) 中枢神経疾患、変性疾患の発生メカニズムや病態の特徴、理学療法について理解し、具体的に述べることができる。			
履修上の注意(学生へのメッセージ)			
1) 指定された教科書を毎回の授業に持参すること。			
2) 1回の講義内容が多いので、シラバスに明記されている予習復習を必ず行うこと。			
3) 必要出席回数は、授業回数の4/5以上とする。			
4) 授業が実技形式の場合には、ジャージ上下、および本学指定の上履きを着用して参加すること。			
教科書			
1) 吉尾雅春 編:標準理学療法学 神経理学療法学 第2版, 医学書院, 2018			
2) 川平和美 編:標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 神経内科学 第4版, 医学書院, 2013			
3) 鈴木則宏 編:神経診断クローズアップ 正しい病巣診断のコツ 改訂第2版, メジカルビュー社, 2015			
4) 武田功 編:PT マニュアル 背腰痛の理学療法 第3版, 医歯薬出版株式会社, 2017			
参考書			
1) 細田多穂 編:理学療法ハンドブック 改訂第4版, 協同医学出版社, 2010			
2) 河村廣幸 編:こがポイント!脳卒中の理学療法, 金原出版, 2018			
3) 田嶋義昭 他:ベッドサイドの神経の診かた 改訂第18版, 南山堂, 2016			
4) 潮見泰蔵 編:PT・OTとジュアラルテキスト 神経障害理学療法学, 辛土社, 2018			
研究室/オフィスアワー			
中根征也:4階研究室/木曜日 4時限目以降(時間は事前に相談することが望ましい)			
木内隆裕:4階研究室/火曜日 午後			
杉本 圭:4階研究室/木曜日 4・5時限目(時間は事前に相談することが望ましい)			
松尾浩希:4階研究室/金曜日 3・5時限目(時間は事前に相談することが望ましい)			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	中枢神経系の構造と機能	予習:「標準理学療法学 神経理学療法学」(以下、テキストとする)のpp.4-15を読んでおくこと。 復習:中枢神経の主要伝導路と脳脊髄の機能が説明できる。	杉本
2	脳卒中の発症および回復のメカニズム 脳画像と臨床症状	予習:テキストの pp. 30-43, pp. 46-64, pp. 67-73 を読んでおくこと。 復習: ①脳卒中の発生メカニズムについて説明できる。 ②脳画像から損傷部位を説明できる。	木内
3	脳卒中理学療法の手順 脳卒中の障害と急性期理学療法① (意識障害)	予習:テキストの pp. 76-88, pp. 94-101 を読んでおくこと。 復習: ①脳卒中後の障害と10Fとの関連を説明でき、代表的な障害を説明できる。 ②意識障害の評価・リスク管理について説明できる。	松尾
4	脳卒中の障害と急性期理学療法② (運動麻痺・感覚障害)	予習:テキストの pp. 102-127 を読んでおくこと。 復習: ①運動麻痺の発生メカニズムと理学療法について説明できる。 ②感覚障害の発生メカニズムと理学療法について説明できる。	杉本

5	脳卒中の障害と回復期理学療法① (痛み・筋緊張異常)	予習：テキストの pp. 203-214, pp. 131-139 を読んでおくこと。 復習：①痛みの発生のメカニズムと理学療法について説明できる。 ②肩腕筋緊張の発生メカニズムと理学療法について説明できる。	杉本
6	脳卒中の障害と回復期理学療法② (運動失調)	予習：テキストの pp. 140-153 を読んでおくこと。 復習：運動失調の発生メカニズムと理学療法について説明できる。	杉本
7	脳卒中の障害と回復期理学療法③ (姿勢安定障害・姿勢バランス障害)	予習：テキストの pp. 229-252 を読んでおくこと。 復習：姿勢安定障害・姿勢バランス障害の発生メカニズムと理学療法について説明できる。	木内
8	脳卒中の障害と回復期理学療法④ (高次脳機能障害)	予習：テキストの pp. 16-29, pp. 154-202 を読んでおくこと。 復習：種々の高次脳機能障害の発生のメカニズムと理学療法について説明できる。	木内
9	脳卒中の障害と生活期理学療法 (二次的機能障害・上肢機能障害)	予習：テキストの pp. 217-226, pp. 288-304 を読んでおくこと。 復習：①二次的機能障害の発生のメカニズムと理学療法について説明できる。 ②脳卒中片麻痺の上肢機能障害の特徴を理解し、その評価・理学療法目的と実際を説明できる。	木内
10	Parkinson 病の理学療法	予習：テキストの pp. 307-320 を読んでおくこと。 復習：Parkinson 病の病態と治療方針を理解し、理学療法目的と実際を説明できる。	中根
11	脊髄小脳変性症の理学療法 多発性硬化症の理学療法	予習：テキストの pp. 323-334, pp. 352-364 を読んでおくこと。 復習：①脊髄小脳変性症の病態と治療方針を理解し、理学療法目的と実際を説明できる。 ②多発性硬化症の病態と治療方針を理解し、理学療法目的と実際を説明できる。	中根
12	筋萎縮性側索硬化症の理学療法 Guillain-Barré 症候群の理学療法	予習：テキストの pp. 335-351, pp. 368-376 を読んでおくこと。 復習：①筋萎縮性側索硬化症の病態と治療方針を理解し、理学療法目的と実際を説明できる。 ②Guillain-Barré 症候群の病態と治療方針を理解し、理学療法目的と実際を説明できる。	中根
13	脊髄損傷とは？	予習：脊髄の解剖・生理について予習する。 復習：脊髄の解剖・生理から脊髄損傷の障害が予測できる。	松尾
14	脊髄損傷の理学療法	予習：「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 神経内科学 第4版」の pp. 226-240 を読んでおくこと。 復習：脊髄損傷患者に対する理学療法の流れを理解できる。	中根
15	講義全体のまとめ	脳卒中、神経筋疾患、脊髄損傷について復習しておくこと。	割合 ②100%

成績評価方法と基準
①単位認定のための必要出席回数(ば「授業回数の4/5以上」とする。
②筆記試験で評価する。

授業科目名	内部障害系理学療法学 I (理学)																																																		
主担当教員	金尾 颯郎	担当教員	金尾 颯郎、角田 晃啓、堀 竜次																																																
科目ナンバリング	SS320	科目区分	ディプロマポリシー 該当項目																																																
配当年次	2	開講学期	曜日・時限 火曜 3 限																																																
授業形態	演習	単位数	1																																																
授業概要	<p>(概要)オムニバス方式にて内部障害に起因する運動機能・生活機能の低下について、理学療法評価を中心に教授する。 【内部障害の基礎 全 3 回】呼吸・循環・代謝を扱う諸器官の解剖学的・生理学的知識から、内部障害の基礎知識までを教授する。 【呼吸器疾患 金尾颯郎 全 4 回】呼吸器疾患の病理学的特性やそれらに起因する運動機能・生活機能障害を理解し、これに対する理学療法評価に必要な基礎知識とその実践について教授する。 【循環器疾患 堀 竜次 全 4 回】循環器疾患の病理学的特性やそれらに起因する運動機能・生活機能障害を理解し、これに対する理学療法評価に必要な基礎知識とその実践について教授する。</p> <p>※本科科目は実務経験のある教員等による授業科目です</p> <p>到達目標</p> <p>1. 内部障害の病理学的特性やそれらに起因する運動・生活機能の低下を理解できる。 2. 内部障害患者の抱える問題点について理解し、それに対する理学療法評価を実践できる。</p> <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>1. 循環器疾患については、小テストを行いますので教科書の出題範囲を必ず予習すること。事前に講義資料を配布するので必ず予習をすること 2. 疑問点については、必ず解決の行動をとること</p> <p>教科書</p> <p>私尾善美 編 PT・OT ビジュアルテキスト 内部障害理学療法学 羊土社 医療情報科学研究所 編 病気が見える vol.2 循環器 MEDIC MEDIA 参考書 医療情報科学研究所 編 病気が見える vol.3 糖尿病・代謝・内分泌 MEDIC MEDIA 医療情報科学研究所 編 病気が見える vol.4 呼吸器 MEDIC MEDIA 谷本限一 心肺運動負荷テストと運動療法 南江堂 研究室/オフィスアワー 金尾：水曜日の1限、もしくは、事前に連絡があれば随時対応します。 堀田：金曜日の3-4限 角田：木曜日の5限</p>																																																		
授業展開及び授業計画表	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>学修内容</th> <th>予習・復習・課題等</th> <th>担当</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>【内部障害の基礎 全 3 回】 1. 疾病構造</td> <td>学習内容について、教科書で確認し、予習をしてから望むこと</td> <td>金尾、堀、角田</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>【内部障害の基礎 全 3 回】 2. 内部障害の構造と機能</td> <td>学習内容について、教科書で確認し、予習をしてから望むこと</td> <td>金尾、堀、角田</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>【内部障害の基礎 全 3 回】 3. 運動生理</td> <td>学習内容について、教科書で確認し、予習をしてから望むこと</td> <td>金尾、堀、角田</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>【呼吸器疾患 全 4 回】 1. 呼吸器疾患の成り立ちと呼吸生理</td> <td>呼吸器について、必要項目を教科書で確認し、予習をしてから望むこと</td> <td>金尾</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>【呼吸器疾患 全 4 回】 2. 血液検査と肺機能検査</td> <td>呼吸器について、必要項目を教科書および事前配布資料を確認し、予習をしてから望むこと</td> <td>金尾</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>【呼吸器疾患 全 4 回】 3. 呼吸理学療法のためのフィジカルアセスメント(講義)</td> <td>呼吸器について、必要項目を教科書および事前配布資料を確認し、予習をしてから望むこと</td> <td>金尾</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>【呼吸器疾患 全 4 回】 4. 呼吸理学療法のためのフィジカルアセスメント(演習)</td> <td>呼吸器について、必要項目を教科書および事前配布資料を確認し、予習をしてから望むこと</td> <td>金尾</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>【循環器疾患 全 4 回】 1. 循環器のハイタルサインのみかた</td> <td>教科書「病気が見える・循環器」の該当箇所を予習・復習すること</td> <td>堀</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>【循環器疾患 全 4 回】 2. 循環器疾患のフィジカルアセスメント(講義)</td> <td>教科書「病気が見える・循環器」の該当箇所を予習・復習すること</td> <td>堀</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>【循環器疾患 全 4 回】 3. 循環器疾患のフィジカル・アセスメント(演習)</td> <td>教科書「病気が見える・循環器」の該当箇所および前回講義資料をもとに予習・復習すること</td> <td>堀</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>【循環器疾患 全 4 回】 4. 心電図の基礎</td> <td>教科書「病気が見える・循環器」の該当箇所を予習・復習すること</td> <td>堀</td> </tr> </tbody> </table>			回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当	1	【内部障害の基礎 全 3 回】 1. 疾病構造	学習内容について、教科書で確認し、予習をしてから望むこと	金尾、堀、角田	2	【内部障害の基礎 全 3 回】 2. 内部障害の構造と機能	学習内容について、教科書で確認し、予習をしてから望むこと	金尾、堀、角田	3	【内部障害の基礎 全 3 回】 3. 運動生理	学習内容について、教科書で確認し、予習をしてから望むこと	金尾、堀、角田	4	【呼吸器疾患 全 4 回】 1. 呼吸器疾患の成り立ちと呼吸生理	呼吸器について、必要項目を教科書で確認し、予習をしてから望むこと	金尾	5	【呼吸器疾患 全 4 回】 2. 血液検査と肺機能検査	呼吸器について、必要項目を教科書および事前配布資料を確認し、予習をしてから望むこと	金尾	6	【呼吸器疾患 全 4 回】 3. 呼吸理学療法のためのフィジカルアセスメント(講義)	呼吸器について、必要項目を教科書および事前配布資料を確認し、予習をしてから望むこと	金尾	7	【呼吸器疾患 全 4 回】 4. 呼吸理学療法のためのフィジカルアセスメント(演習)	呼吸器について、必要項目を教科書および事前配布資料を確認し、予習をしてから望むこと	金尾	8	【循環器疾患 全 4 回】 1. 循環器のハイタルサインのみかた	教科書「病気が見える・循環器」の該当箇所を予習・復習すること	堀	9	【循環器疾患 全 4 回】 2. 循環器疾患のフィジカルアセスメント(講義)	教科書「病気が見える・循環器」の該当箇所を予習・復習すること	堀	10	【循環器疾患 全 4 回】 3. 循環器疾患のフィジカル・アセスメント(演習)	教科書「病気が見える・循環器」の該当箇所および前回講義資料をもとに予習・復習すること	堀	11	【循環器疾患 全 4 回】 4. 心電図の基礎	教科書「病気が見える・循環器」の該当箇所を予習・復習すること	堀
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当																																																
1	【内部障害の基礎 全 3 回】 1. 疾病構造	学習内容について、教科書で確認し、予習をしてから望むこと	金尾、堀、角田																																																
2	【内部障害の基礎 全 3 回】 2. 内部障害の構造と機能	学習内容について、教科書で確認し、予習をしてから望むこと	金尾、堀、角田																																																
3	【内部障害の基礎 全 3 回】 3. 運動生理	学習内容について、教科書で確認し、予習をしてから望むこと	金尾、堀、角田																																																
4	【呼吸器疾患 全 4 回】 1. 呼吸器疾患の成り立ちと呼吸生理	呼吸器について、必要項目を教科書で確認し、予習をしてから望むこと	金尾																																																
5	【呼吸器疾患 全 4 回】 2. 血液検査と肺機能検査	呼吸器について、必要項目を教科書および事前配布資料を確認し、予習をしてから望むこと	金尾																																																
6	【呼吸器疾患 全 4 回】 3. 呼吸理学療法のためのフィジカルアセスメント(講義)	呼吸器について、必要項目を教科書および事前配布資料を確認し、予習をしてから望むこと	金尾																																																
7	【呼吸器疾患 全 4 回】 4. 呼吸理学療法のためのフィジカルアセスメント(演習)	呼吸器について、必要項目を教科書および事前配布資料を確認し、予習をしてから望むこと	金尾																																																
8	【循環器疾患 全 4 回】 1. 循環器のハイタルサインのみかた	教科書「病気が見える・循環器」の該当箇所を予習・復習すること	堀																																																
9	【循環器疾患 全 4 回】 2. 循環器疾患のフィジカルアセスメント(講義)	教科書「病気が見える・循環器」の該当箇所を予習・復習すること	堀																																																
10	【循環器疾患 全 4 回】 3. 循環器疾患のフィジカル・アセスメント(演習)	教科書「病気が見える・循環器」の該当箇所および前回講義資料をもとに予習・復習すること	堀																																																
11	【循環器疾患 全 4 回】 4. 心電図の基礎	教科書「病気が見える・循環器」の該当箇所を予習・復習すること	堀																																																

12	【代謝性疾患 全4回】 1. 血糖の調節機構	該当箇所について教科書・配布資料を確認し、予習してから望むこと。	角田
13	【代謝性疾患 全4回】 2. 糖尿病の病型と基準	該当箇所について教科書・配布資料を確認し、予習してから望むこと。	角田
14	【代謝性疾患 全4回】 3. 運動負荷と血糖値(演習)	該当箇所について教科書・配布資料を確認し、予習してから望むこと。	角田
15	【代謝性疾患 全4回】 4. 糖尿病合併症	該当箇所について教科書・配布資料を確認し、予習してから望むこと。	角田
成績評価方法と基準			
1. 学期末の筆記試験により評価する(総論:10%、呼吸器系:30%、循環器系:30%、代謝系:30%)			
2. 呼吸循環器系に關しては別途、授業中に実施される課題レポート・小テストを評価の対象とする			
2/3以上の出席を必要とする			

授業科目名	義肢装具学(理学) (Prosthetics)		
担当教員	河村 廣幸	担当教員	河村 廣幸
科目ナンバリング	SS311	科目区分	DP①②
配当年次	2	開講学期	後期
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	義肢装具学(理学) (Prosthetics)		
到達目標	<p>※本科目は実務経験のある教員等による授業科目です</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 義肢・装具の分類と名称・構造・アライメントを説明できる。 2. 義足歩行・装具歩行の運動機構について説明できる。 3. 義肢装具の適応を説明できる。 4. 義肢装具にかかわる理学療法が説明できる。 <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>義肢装具は馴染みのないものかと思いますが、一つ一つの名称ごと授業ごとに確実に記憶していかないと学習が進まなかつたかたがたになります。併記してはいただけないことも多いかと思いますが、頑張ってください。</p>		
教科書	義肢装具学テキスト(改訂第3版) (シンブル理学療法学シリーズ) 南江堂 細田 多穂 (監修)		
参考文献	日本整形外科学会・日本リハビリテーション学会 監修「義肢装具のチェックポイント」医学書院		
研究室/オフィスアワー	研究室/オフィスアワー		
河村:月・金曜日13~18時 ただし、実習訪問など不在の時もあるので予約が望ましい。			
授業履修開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	装具総論・装具のための運動学	予習:装具の定義・種類について予習しておく。 復習:装具の構造や名称を確実に記憶する。	
2	短下肢装具	予習:短下肢装具について予習しておく 復習:短下肢装具の各部名称と運動学的効果について復習する	
3	長下肢装具	予習:長下肢装具について予習しておく 復習:長下肢装具の各部名称と運動学的効果について復習する	
4	靴型装具・下肢装具チェックアウト	予習:靴型装具について予習しておく 復習:靴型装具の各部名称と運動学的効果について復習する。下肢装具のチェックアウトについて復習する	
5	頭部体幹装具	予習:整形外科の脊柱疾患について復習しておく 復習:頭部体幹装具について予習しておく 復習:頭部体幹装具の各部名称と運動学的効果について復習する	
6	義肢総論	予習:義足と下肢の切断について予習しておく 復習:義肢および切断の基礎についてまとめる	
7	切断原因と治療	予習:切断原因、特に末梢循環障害について予習しておく 復習:各疾患の理解を深めるよう、基礎医学の教科書をまとめる	
8	切断部位と切断術	予習:切断手術について、整形外科の教科書を熟読しておく 復習:切断法の特徴を復習する	
9	切断者の評価・断端管理法	予習:一般的な理学療法評価について復習しておく 復習:切断者の評価と断端管理法について整理	

	する	
10	足継手・下腿義足ソケット・股義足 予習：足継手・下腿義足ソケット・股義足について予習しておく 復習：足継手の役割、下腿義足ソケットの特徴・股義足についてまとめる 予習：膝継手・大腿義足ソケットについて予習しておく 復習：膝継手の役割、大腿義足ソケットの特徴についてまとめる	
11	膝継手・大腿義足ソケット 予習：運動学の歩行・異常歩行について復習しておく 復習：義足歩行の動作観察についてまとめる 予習：下腿義足のアラライメントと一般的な異常歩行について復習しておく 復習：下腿切断患者・アラライメントの変化による異常歩行をまとめる	
12	義足歩行の特徴・歩行練習 予習：大腿義足のアラライメントと一般的な異常歩行について復習しておく 復習：大腿切断患者・アラライメントの変化による異常歩行をまとめる	
13	下腿義足の異常歩行 予習：下腿切断を想定し、床上動作・立ち上がり・階段・スロープでの活動を行っておく 復習：下腿切断者の応用動作がまねできるような身体を動かし復習する	
14	大腿義足の異常歩行	
15	応用動作練習	
成績評価方法と基準		割合 記述試験 100%
筆記試験にて60点以上で単位認定とする		

授業科目名 地域理学療法学(理学) (Community Physical Therapy)			
主担当教員	澤田 優子	担当教員	澤田 優子
科目ナンバリング	SS401	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目 DP①
配当年次	2	開講学期	後期
授業形態	講義	単位数	2
授業概要 地域理学療法は疾患特性を踏まえたうえで、地域でのような生活をしていくかを考えていくことが重要である。本講義では、地域理学療法の特徴および介護保険制度などの関連制度について解説する。また、症例検討やグループワークを積極的に行い、地域理学療法の実践を理解できるように目標とする。 ※本科目は実務経験のある教員等による授業科目です			
到達目標 1. 地域理学療法の特徴を理解する 2. 地域理学療法に関する制度を理解する 3. 地域理学療法の実践を理解する			
履修上の注意(学生へのメッセージ) 講義前、講義後に教科書および配布資料を読んでおくこと 随時確認テストを実施する			
教科書 ピジュアルレクチャー 地域理学療法学 第3版 浅川育代 編著 医歯薬出版株式会社			
参考書 地域リハビリテーション学テキスト(改訂第3版) 備酒伸彦 南江堂 地域リハビリテーション学原論 大田 仁中 (著) 医歯薬出版株式会社 地域理学療法学 重森健太(著) 羊土社 研究室/オフィスアワー			
月曜日 3時限目			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	地域リハビリテーション学総論1	予習：教科書または配布資料の当該箇所を読んでおく 復習：教科書または配布資料の当該箇所を読み、講義内容をまとめる 予習：教科書または配布資料の当該箇所を読んでおく 復習：教科書または配布資料の当該箇所を読み、講義内容をまとめる	
2	地域リハビリテーション学総論2	予習：教科書または配布資料の当該箇所を読んでおく 復習：教科書または配布資料の当該箇所を読み、講義内容をまとめる	
3	地域理学療法の対象及び関連制度1	予習：教科書または配布資料の当該箇所を読んでおく 復習：教科書または配布資料の当該箇所を読み、講義内容をまとめる	
4	地域理学療法の対象および関連制度2	予習：教科書または配布資料の当該箇所を読んでおく 復習：教科書または配布資料の当該箇所を読み、講義内容をまとめる	
5	介護保険制度下での地域理学療法1	予習：教科書または配布資料の当該箇所を読んでおく 復習：教科書または配布資料の当該箇所を読み、講義内容をまとめる	
6	介護保険制度下での地域理学療法2	予習：教科書または配布資料の当該箇所を読んでおく 復習：教科書または配布資料の当該箇所を読み、講義内容をまとめる	
7	介護保険制度下での地域理学療法3	予習：教科書または配布資料の当該箇所を読んでおく 復習：教科書または配布資料の当該箇所を読み、講義内容をまとめる	

8	在宅理学療法 1	予習：教科書または配布資料の当該箇所を読んでおく 復習：教科書または配布資料の当該箇所を読み、講義内容をまとめる 予習：教科書または配布資料の当該箇所を読んでおく 復習：教科書または配布資料の当該箇所を読み、講義内容をまとめる	
9	在宅理学療法 2	予習：教科書または配布資料の当該箇所を読んでおく 復習：教科書または配布資料の当該箇所を読み、講義内容をまとめる	
10	在宅理学療法 3	予習：教科書または配布資料の当該箇所を読んでおく 復習：教科書または配布資料の当該箇所を読み、講義内容をまとめる	
11	在宅理学療法 4	予習：教科書または配布資料の当該箇所を読んでおく 復習：教科書または配布資料の当該箇所を読み、講義内容をまとめる	
12	在宅理学療法 5	予習：教科書または配布資料の当該箇所を読んでおく 復習：教科書または配布資料の当該箇所を読み、講義内容をまとめる	
13	在宅理学療法 6	予習：教科書または配布資料の当該箇所を読んでおく 復習：教科書または配布資料の当該箇所を読み、講義内容をまとめる	
14	在宅理学療法 7	予習：教科書または配布資料の当該箇所を読んでおく 復習：教科書または配布資料の当該箇所を読み、講義内容をまとめる	
15	症例検討	予習：教科書または配布資料の当該箇所を読んでおく 復習：教科書または配布資料の当該箇所を読み、講義内容をまとめる。これまでの講義内容を復習しておく。	
成績評価方法と基準			割合
1. 確認テストまたはレポート(毎授業で実施します。計 15 回)			20%
2. 試験			80%と して評価し、 60 点以上で 単位認定とし ます。

授業科目名		生活環境論(理学) (Living Environment)																																																					
主担当教員	三木屋 良輔	担当教員	三木屋 良輔																																																				
科目ナンバリング	SS402	科目区分	ディプロマポリシー 該当項目 DP①																																																				
配当年次	2	開講学期	曜日・時限 水曜 3 限																																																				
授業形態	演習	単位数	1																																																				
授業概要	この授業では、障がいのある人や高齢者が、日常生活をする上で、個人の障がいの因子だけでなく、周りの環境と相互に影響を及ぼすことを述べることも、国際生活機能分類(ICF)に基づき、現状の障がいや地域ケアにおいてどのような影響を及ぼしているのか、それを解消するためにどのようなことが理学療法士に求められるのかを理解する。具体的には、高齢者の日常生活や心身機能について述べるとともに、福祉のまちづくり、住宅改修、その他の福祉用具(起居関連用具、移乗関連用具、入浴関連用具、自動扉関連用具、排泄関連用具)について述べる。 ※本科目は実務経験のある教員等による授業科目です																																																						
到達目標	1. 生活環境論の目的を理解することができる。 2. 国際生活機能分類(ICF)について理解することができる。 3. 福祉用具や住宅について理解することができる。 4. 高齢者の心身機能や日常生活を理解できる。 履修上の注意(学生へのメッセージ) 1. 教科書や配布された講義資料は、事前に読んでおくこと。 2. 出席と態度は重視する。出席は授業中に欠けないこと。 3. わからない箇所があれば、必ず質問すること。 4. 講義中のメモをとること、試験に出題有り。																																																						
教科書	1) 細田多穂、生活環境学テキスト、南江堂、2016 2) 上田善敏(編)、セーフティケアの介護・看護、ヒューマンヘルスケア・システム、2016 参考書																																																						
奈良親：日常生活活動・生活環境学第 4 版、医学書院、2012																																																							
研究室/オフィスアワー																																																							
授業時間、金曜日以外の空き時間																																																							
授業展開及び授業計画表	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>学修内容</th> <th>予習・復習・課題等</th> <th>担当</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>生活環境とは</td> <td>復習：授業を元に教科書・配布資料を見直す 予習：教科書を読んでおく</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>障害構造分類について</td> <td>復習：授業を元に教科書・配布資料の確認 予習：教科書を読んでおく</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>高齢者の身体特性・ADL について</td> <td>復習：授業を元に教科書・配布資料の確認 予習：教科書を読んでおく</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>ノーマライゼーションとバリアフリー概念</td> <td>復習：授業を元に教科書・配布資料の確認 予習：教科書を読んでおく</td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>環境体験の実施</td> <td>復習：授業を元に教科書・配布資料の確認 予習：教科書を読んでおく</td> <td></td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>生活環境整備に関する法的制度について</td> <td>復習：授業を元に教科書・配布資料の確認 予習：教科書を読んでおく</td> <td></td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>介護保険制度について</td> <td>復習：授業を元に教科書・配布資料の確認 予習：教科書を読んでおく</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>住宅改修について</td> <td>復習：授業を元に教科書・配布資料の確認 予習：教科書を読んでおく</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>浴室改修について</td> <td>復習：授業を元に教科書・配布資料の確認 予習：教科書を読んでおく</td> <td></td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>環境整備グループワーク①</td> <td>復習：授業を元に教科書・配布資料の確認 予習：教科書を読んでおく</td> <td></td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>環境整備グループワーク②</td> <td>復習：授業を元に教科書・配布資料の確認 予習：教科書を読んでおく</td> <td></td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>環境整備グループワーク発表</td> <td>復習：授業を確認しておく 予習：前回の授業を確認しておく</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当	1	生活環境とは	復習：授業を元に教科書・配布資料を見直す 予習：教科書を読んでおく		2	障害構造分類について	復習：授業を元に教科書・配布資料の確認 予習：教科書を読んでおく		3	高齢者の身体特性・ADL について	復習：授業を元に教科書・配布資料の確認 予習：教科書を読んでおく		4	ノーマライゼーションとバリアフリー概念	復習：授業を元に教科書・配布資料の確認 予習：教科書を読んでおく		5	環境体験の実施	復習：授業を元に教科書・配布資料の確認 予習：教科書を読んでおく		6	生活環境整備に関する法的制度について	復習：授業を元に教科書・配布資料の確認 予習：教科書を読んでおく		7	介護保険制度について	復習：授業を元に教科書・配布資料の確認 予習：教科書を読んでおく		8	住宅改修について	復習：授業を元に教科書・配布資料の確認 予習：教科書を読んでおく		9	浴室改修について	復習：授業を元に教科書・配布資料の確認 予習：教科書を読んでおく		10	環境整備グループワーク①	復習：授業を元に教科書・配布資料の確認 予習：教科書を読んでおく		11	環境整備グループワーク②	復習：授業を元に教科書・配布資料の確認 予習：教科書を読んでおく		12	環境整備グループワーク発表	復習：授業を確認しておく 予習：前回の授業を確認しておく	
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当																																																				
1	生活環境とは	復習：授業を元に教科書・配布資料を見直す 予習：教科書を読んでおく																																																					
2	障害構造分類について	復習：授業を元に教科書・配布資料の確認 予習：教科書を読んでおく																																																					
3	高齢者の身体特性・ADL について	復習：授業を元に教科書・配布資料の確認 予習：教科書を読んでおく																																																					
4	ノーマライゼーションとバリアフリー概念	復習：授業を元に教科書・配布資料の確認 予習：教科書を読んでおく																																																					
5	環境体験の実施	復習：授業を元に教科書・配布資料の確認 予習：教科書を読んでおく																																																					
6	生活環境整備に関する法的制度について	復習：授業を元に教科書・配布資料の確認 予習：教科書を読んでおく																																																					
7	介護保険制度について	復習：授業を元に教科書・配布資料の確認 予習：教科書を読んでおく																																																					
8	住宅改修について	復習：授業を元に教科書・配布資料の確認 予習：教科書を読んでおく																																																					
9	浴室改修について	復習：授業を元に教科書・配布資料の確認 予習：教科書を読んでおく																																																					
10	環境整備グループワーク①	復習：授業を元に教科書・配布資料の確認 予習：教科書を読んでおく																																																					
11	環境整備グループワーク②	復習：授業を元に教科書・配布資料の確認 予習：教科書を読んでおく																																																					
12	環境整備グループワーク発表	復習：授業を確認しておく 予習：前回の授業を確認しておく																																																					

13	起居・移乗・移動関連用具 1 (実技)	予習：前回の授業を確認しておく 復習：授業を元に教科書・配布資料の確認	
14	起居・移乗・移動関連用具 2 (実技)	予習：前回の授業を確認しておく 復習：授業を元に教科書・配布資料の確認	
15	自助具関連用具とまとめ	予習：これまでの授業を確認しておく 復習：授業を元に教科書・配布資料の確認	
成績評価方法と基準			割合
1、図面課題と、2、定期試験の結果、60点以上で単位を認定する。3/5以上の出席が必要。なお、レポートについては授業の中で説明する。			1、20% 2、80%

授業科目名		臨床見学実習(理学) (Clinical Observation Training)		
主担当教員	中根 征也	担当教員	中根 征也、河村 廣幸、金尾 颯郎、三木屋 良輔、前田 薫、角田 晃啓、澤田 優子、仲本 正美、工藤 慎太郎、杉本 圭、松尾 浩希、林 真太郎、木内 隆裕	
科目ナンバリング	SS503	科目区分	専門科目	DP①③④
配当年次	1	開講学期	前期	前期(実習)、後期(実習)
授業形態	実習	単位数	1	必修・選択
授業概要				
これまでに履修した教養科目群・学部共通科目群および学科専門基礎科目で修得した内容をもとに、対象者との接触を通じて、社会人、医療人としての対応力を経験することを目的とする。また、学内の履修内容だけでなく社会的マナーや IP0 に応じたコミュニケーションを経験し、その能力の向上を目的とする。				
到達目標				
1 年次に行う臨床見学実習では「対象者や職員とコミュニケーションを図り、社会における理学療法士の役割を認識する」ことを目標とします。これを実現するための行動目標を以下の通りとする。				
①実習施設の全体的な業務と機能を知る。				
②理学療法士の臨床業務の概要を知る。				
③リハビリテーションチームの構成を知り、その一員として理学療法士の役割責任及び協調性を自覚する。				
④問診・医療面接を経験する。				
履修上の注意(学生へのメッセージ)				
1. 実習態度(言葉遣い、行動、時間・期限の厳守など)には十分に注意する。				
2. 臨床実習のため、原則欠席は認めない。				
教科書				
適宜、実習に必要なことを各自で調べる。				
参考書				
適宜、実習に必要なことを各自で調べる。				
研究室/オフィスアワー				
各実習施設担当教員のオフィスアワーに準ずる。				
授業展開及び授業計画表				
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当	
1	病院・施設における理学療法部門の位置づけおよび現場における理学療法士の業務全般・他職種との役割分担やチーム活動学ぶ。	日々の学習内容をデリリーノートに整理する。		
2	患者(患児)と直接かかわり、医療人としての医療倫理に基づく基本的マナーを身につける。	日々の学習内容をデリリーノートに整理する。		
3	医学的兆候を知る為の血圧測定や脈拍の計測などのバイタルチェックや問診などの実技も経験する。	日々の学習内容をデリリーノートに整理する。		
4	今まで履修した分野の知識を臨床の場で確認する。	日々の学習内容をデリリーノートに整理する。		
5	実習開始時と現在までの変化を自覚し、弱点の克服に努める。	前日までの学習内容をまとめデリリーノートに記載する。 実習後レポートを提出する。		
成績評価方法と基準				
割合				
①実習評価				
②実習記録と終了後のグループワーク・プレゼンテーションの総合評価にて60点以上の評価に値する内容を単位認定する。				
①70% ②80%				

授業科目名		検査測定実習(理学)		中根 征也、河村 廣幸、金尾 顕郎、三木屋 良輔、前田 薫、角田 晃啓、澤田 慶子、仲本 正美、工藤 慎太郎、杉本 圭、松尾 浩希、林 真太郎、木内 隆裕	
主担当教員	中根 征也	担当教員			
科目ナンバリング	SSS14	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP①③④
配当年次	2	開講学期	前期	曜日・時間	前期(実習)、後期(実習)
授業形態	実習	単位数	1	必修・選択	必修
授業概要					
これまでに履修した教養科目群・学部共通科目群および学科専門基礎科目で修得した内容を基に、対象者への検査・測定を経験し、臨床評価実習へむけた技術を向上させることを目的に行われる1週間の実習である。					
また、専門職、社会人としてのマナーやルールに基づいて行動し、リハビリテーションチームの構成について学び、理学療法士の役割を把握することも目的とする。					
到達目標					
2. 年次に行う検査測定実習では「理学療法士の臨床業務の概要を把握し、対象者への検査・測定・測定の技術を向上させる」ことを目標とする。					
①実習施設におけるリハビリテーションチームの構成および理学療法部門の位置づけを把握できる。					
②実習指導者が対象者に対して実践した理学療法内容を認識できる。					
③問診・医療面接をもとに、必要な検査・測定を想起できる。					
④実習指導者の指導のもと、安全に配慮した検査・測定を経験する。					
履修上の注意(学生へのメッセージ)					
1. 実習態度には十分に注意する。(言葉遣い、素行、時間・期限の厳守など医療人・学生としての規律の遵守)					
2. 臨床実習のため、原則欠席は認めない。					
教科書					
適宜、実習に必要なことを各自で調べる。					
参考書					
適宜、実習に必要なことを各自で調べる。					
研究室/オフィスアワー					
各実習施設担当教員のオフィスアワーに準ずる。					
授業展開及び授業計画表					
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当		
1	病院・施設における理学療法部門の位置づけおよび現場における理学療法士の業務全般・他職種との役割分担やチーム活動を学ぶ。	日々の学習内容をデリリーノートに整理する。			
2	患者(児童)と直接かかわり、医療人としての医療倫理に基づく基本的マナーを身につける。	日々の学習内容をデリリーノートに整理する。			
3	患者情報の収集。	日々の学習内容をデリリーノートに整理する。			
4	問診・医療面接の経験。	日々の学習内容をデリリーノートに整理する。			
5	検査・測定項目の想起。	日々の学習内容をデリリーノートに整理する。			
6	検査・測定の経験。	日々の学習内容をデリリーノートに整理する。			
7	実習開始時と現在までの変化を自覚し、弱点の克服に努める。	前日までの学習内容をデリリーノートに記載する。 実習後レポートを提出する。			
成績評価方法と基準					
①実習評価					
②実習記録と終了後のグループワーク・プレゼンテーションの総合評価にて60点以上の評価に値する内容を単位認定する。					
割合					
①70%					
②30%					

看護学科

(2016 年度 入学生カリキュラム)

看護管理論(看護) (Nursing Management)			
授業科目名	看護管理論(看護)	担当教員	臨床 陽子
主担当教員	臨床 陽子	担当教員	臨床 陽子
科目ナンバリング	IP1408	統合分野	DP①
配当年次	4	科目区分	火曜 3限 火曜 4限 木曜 2限 木曜 3限
授業形態	講義	後期	曜日・時限
授業概要	単位数	1	必修・選択
<p>施設内の看護部門を体系的に運営していくための基礎的知識を習得し、看護管理に関する必要な知識を習得する。看護管理とは、患者に安全で効果的なケアを提供することであり、看護職者による仕事の過程である。この過程は、目標を達成する一連の行為または運用であり、特にデータ収集、計画、指導及び統制環境を形成する過程である。この過程は、目標を達成することの一連の行為または運用であり、特にデータ収集、計画、指導及び統制について、講義やティムスカッションを通して学ぶ。また、一般の看護職者として知識や技術を応用し、現代社会に必要とされるリーダーシップ能力を修得する。さらに組織には運営目標があり、部門の目標、病棟等の目標、そして個人の目標があり全てのスタッフが管理者であることを学ぶ。</p>			
到達目標			
<p>1. 管理の概略、マネジメントプロセスとマネジメントサイクルの概要等について説明できる。 2. 看護職が責任を持って、対象者の抱える問題を明らかにし、ケアを提供することを説明できる。 3. 管理者の責任と個人の責任を理解し、看護サービスへのマネジメントについて説明できる。 4. 看護とは何か、看護論とは何かを理解し、看護を取り巻く諸制度に関する知識を知る。 組織における原理原則や組織と個人の原理原則を理解するために、マネジメントに必要な知識と技術</p>			
履修上の注意(学生へのメッセージ)			
<p>1. 看護とは何か、そして対象は誰かを考える。 2. 看護部門を効果的に運営するしくみと、個人の責任とは。 3. 看護管理とは何か、患者が安全で安楽な看護実践とは、働くもの健康管理とは。 グループ討論には積極的に参加する。</p>			
教科書			
上泉和子他著「系統看護学講座 統合分野」看護管理 看護の統合と実践1)医学書院			
参考書			
村島さい子他編著「ナーシンググラフィカ」[基礎看護学看護管理]MCメディア出版			
研究室/オフィスアワー			
西棟研究室 332 臨床陽子 臨床実習のためアポイントを取ってください			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	看護管理とは 組織風土と組織文化 臨床現場で日常起こる事例を通して看護管理を考える 到達目標 ①管理とはについて自分の周囲のことで説明できる	予習：教科書 P2～13 自分の管理しているものについて考えておく 復習：資料の整理	
2	ケアのマネジメント：患者の権利の尊重、安全管理 到達目標 ①患者の権利を尊重した態度について語ることができる。 ②患者の安全を確保するための看護ケアが説明できる。	予習：主題実習での学びの振り返り、安全で安楽に患者を看護するためのどのような組織にするか考えておく 復習：教科書 P16～73	
3	ケアのマネジメント：チーム医療、看護業務の実践 到達目標 ①多職種と協働したケアのマネジメントの重要性について説明できる。 ②チーム医療の中での看護職者の役割が説明できる。	予習：主題実習での学びの振り返り、安全で安楽に患者を看護するためのどのような組織にするか考えておく 復習：教科書 P16～73	
4	看護サービスのマネジメント 組織として看護サービスをマネジメントする。	予習：主題実習での学びの振り返り、看護の組織化についてまとめておく	

	看護サービス提供のしくみづくり。 到達目標 ①目標を達成するためのどのような組織にすれば良いか考えることができる。 ②看護サービスについて臨床の事例で説明できる。	臨床ではどのような方法がとられていたのか整理しておく 復習：教科書 P76～96	
5	看護サービスのマネジメント 労働環境、施設・設備環境のマネジメント、組織におけるリスクマネジメント 到達目標 ①労働時間、勤務体制等に関する内容を説明できる。 ②組織におけるリスク管理を説明できる。	予習：主題実習での学びの振り返り、安全で安楽に患者を看護するためのどのような組織にするか考えておく 復習：教科書 P110～148	
6	看護を取り巻く諸制度 今までの授業を振り返り振り返りグループワークをする。 到達目標 ①社会人としての責務を果たす行動がとれる。	予習：看護関係法規の授業資料に目を通しておく 復習：教科書 P152～179	
7	看護管理の実践 看護管理認定看護師 (ゲストスピーカー) 到達目標 ①A病院における看護マネジメントの実践を学ぶ。	予習：主題実習での学びの振り返り、目標達成するためのどのようなツールがあるか学習しておく 復習：教科書	
8	アウトカムの管理(目標管理)		
成績評価方法と基準			
筆記試験100%			
割合			
100%			

授業科目名	災害・国際看護論(看護) (Disasters and International Nursing)		
担当教員	升田 寿賀子	担当教員	升田 寿賀子、冢曾 美里
科目ナンバリング	IP1409	科目区分	総合分野
配当年次	4	開講学期	後期
授業形態	講義	単位数	1
授業概要	<p>災害看護では、災害発生に備えた心構えと看護の方法を学び、平常時から地域全体で備えるとともに、被災時に被災地域や被災者の看護に必要な知識を学ぶ。また、災害時の安全なケア環境の提供について理解する。国際看護では、グローバルヘルスの現状と課題を理解すると共に、異文化などの多様性を尊重する看護を学ぶことで、国際的な視野を養う。</p> <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害の種類や災害サイクルについて理解できる。 ・災害時の医療救護活動のフェーズ(超急性期、急性期、慢性期、亜急性期、慢性期、静穏期)と各期の看護について理解できる。 ・災害看護活動における食事、排泄、睡眠、清潔、環境といった生活への援助、身体的・精神的健康増進について理解できる。 ・災害時の医療チームと看護の役割を理解する。 ・グローバルヘルスの現状と対策を理解することができる。 ・異文化や多様性を尊重する看護を理解することができる。 ・国際協力活動における看護の役割を理解することができる。 <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>本科目は、看護の統合科目である。自己の意見をもちディスカッションに参加するなど、主体的に学ぶ姿勢を求める。</p>		
教科書	なし(資料配布)		
参考書	<p>酒井明子・菊池志津子編:災害看護 改訂第3版 南江堂, 2018 南裕子・山本あい子:災害看護学習テキスト実践編, 日本看護協会出版会, 2007. 浦田嘉久子, 小原真理子編:災害看護学-国際看護学-看護の統合と実践(3)医学書院, 2016 他、授業で提示する</p>		
研究室/オフィスアワー	634 研究室 升田 随時 235 研究室 冢曾 随時		
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	授業ガイダンス 災害看護1 災害の特徴、法制度、支援体制	予習: 近年発生した災害について 復習: 授業内容	升田
2	災害看護2 災害サイクルにおける看護士の役割 創 急性期 トリアージ	予習: 災害サイクル、トリアージについて 復習: 授業内容	升田
3	災害看護3 災害サイクルにおける看護士の役割 亜急性期から静穏期	予習: 避難所、仮設住宅で起こる健康問題について 復習: 授業内容	升田
4	災害看護4 災害時の応急処置演習	予習: 一次救命処置、創処置、包帯・三角巾法について 復習: 授業内容	升田
5	災害看護5 災害支援ナース、DMATの活動について ゲストスピーカーによる講義	予習: 災害支援ナース、DMATについて 復習: 授業内容	升田
6	国際看護1 国際看護とは	予習: 世界の保険医療の問題について 復習: 授業内容	冢曾
7	国際看護2 世界の健康問題と取り組み	予習: 授業で提示する 復習: 授業内容	冢曾
8	国際看護3 文化を考慮した看護	予習: 授業で提示する 復習: 授業内容	冢曾

成績評価方法と基準	
1. 災害看護 2. 国際看護	レポート課題と授業中に行うテスト 授業中の行う筆記試験
	割合 1. レポート 課題 30% テスト 30% 2. 筆記試験 40%

在宅看護論実習(看護) (Home Health Nursing Practicum)			
授業科目名	清水 容子	担当教員	清水 容子、升田 寿賀子、麻見 公子
主担当教員	HHN405	統合分野	DP①②③④
科目ナンバリング	4	開講学期	実習
配当年次	実習	単位数	2
授業形態	実習	必修・選択	必修
授業概要	在宅看護の実践において大きな社会的役割を担っている訪問看護に同行することで、在宅療養をしている人及びその家族の健康状態と生活状況を統合的に把握、理解し、訪問看護の基礎的な展開方法を養う。また、在宅看護の発展的役割を担っている役割を学ぶ。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 疾病や障害を持ちながら訪問看護を利用している人とその家族の生活状況が理解できる。 2. 訪問看護師の活動を通して、利用者とその家族に応じた看護について考えられることができる。 3. 在宅療養を支える在宅システムについて理解できる。 4. 訪問看護に必要な態度が実践できる。 		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	今までの在宅看護論講義・演習内容および、他領域の講義、実習を復習し統合させて実習に臨む。特に、制度については、よく復習をしておく。事前課題を行うと共に、日常生活援助技術の修得も各自行い実習に臨む。		
教科書	利用者を訪問する意味をよく考え、指示された訪問時の身だしなみを守り、訪問マナー等実習での言動に注意を払う。また、実習中担当教員と適宜連絡を取り、相影・報告を怠らないように注意する。		
ナージング・グラフィック	在宅看護論 地域療養を支えるケア		
参考書	角田直枝著「実践できる在宅看護技術ガイド 学研メディカル秀潤社」		
研究室/オフィスアワー	実習期間中に担当教員に確認すること		
授業展開及び授業計画表	学修内容	予習・復習・課題等	担当
回数	訪問看護ステーションの管轄範囲の地域の特徴、利用者の状況等を事前学習や管理者からのオリエンテーション内容から理解する。また、ステーションの概要について理解する。訪問看護師との同行訪問により、在宅で療養する人やその家族の生活状況、看護の実際について学修し、在宅での看護の個別性について理解を深める。また、地域での多職種、他機関との連携の場を体験し、その必要性と具体的な方法について学ぶ。教員巡回時及び学内実習時に教員にアドバイスを自主的に求め、実習記録を充実させることで、在宅看護の理解を深める。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習(事前学習)課題を行ったうえで実習に臨む 2. 実習ステーションの地区の状況 3. 対象者の特徴 4. 訪問看護制度 5. 介護保険と医療保険での訪問看護の利用の違い 6. 在宅ケアのための社会資源 7. 在宅看護の対象者に多い疾患 8. 在宅で行われる医療処置 9. 日常生活援助(在宅での工夫点・留意点) 10. 在宅で介護のアセスメントに必要な情報等 11. その他(授業内容) 	実習中、指定された実習記録用紙に記録をする実習中に指導者から与えられた課題、在宅看護を理解する
成績評価方法と基準	出席(全出席が評価の前提となる)、実習態度、実習記録、カンファレンスの参加状況、指導者の評価等を総合的に評価表		
	勘合 100%		

公衆衛生看護学実習(看護) (Public Health Nursing Practice)			
授業科目名	大巻 悦子	担当教員	大巻 悦子、関口 敏彰、富田 久子
主担当教員	PHN418	統合分野	DP①②③④
科目ナンバリング	4	開講学期	実習
配当年次	実習	単位数	4
授業形態	実習	必修・選択	選択
授業概要	地域で生活する個人、家族、集団を対象とした疾病予防と健康増進に関する公衆衛生看護学活動の理解を深め、保健師の機能である保健指導、計画策定・評価、相談・支援、教育・普及啓発、実際の調整・ネットワーク機能などを実践的に学ぶ。また公衆衛生看護学活動を展開していくうえで必要なシステムや施策について考えられる力を養う。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 地域の健康課題を明らかにし、解決・改善する方向性を見出すことができる。 2) 健康課題を解決、改善し健康増進能力を高める活動の展開について理解し、その一部を実施することができる。 3) 地域の人々や関係機関との協働および社会資源の活用について理解できる。 4) 地域の健康危機管理について理解できる。 5) 公衆衛生看護学活動について他者に伝えることができる。 6) 実習を通して健康課題の対応策を考え地域看護計画を立案し、HIAを用いて健康影響評価を行い、計画の根拠について明文化することができる。 		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	1、3年次までの各領域に関する復習を行い、地域看護学領域に関しては、概論から活動論、保健福祉行政論を十分に学習して臨むこと。		
教科書	2、主問題実習 I で行った地域診断を本実習で確認・検討を重ねる。		
参考書	3、訪問・面接技術の復習・練習をしておくこと。		
研究室/オフィスアワー	4、実習中に行う健康教育の準備工程を十分に持ち臨むこと。		
授業展開及び授業計画表	学修内容	予習・復習・課題等	担当
回数	公衆衛生看護学 : インターメディカル(1年次購入) 国民衛生の動向(2年次購入) これからの保健医療福祉行政論(3年次購入)	1. 実習施設で行われる事業について事前に学習する。 2. 主問題実習 I で行った地域診断について、不足している情報を収集し、完成させる。 3. HIA を活用し地域診断から明らかにになった健康課題について、事業計画を立案し、評価について考える。 4. 学修目標に従い、実習要項を確認すること。 5. 実習施設で行う実習内容について情報収集すること。健康教育の実施については、実習前から計画的に行い、実習施設指導者と連携をはかりつつ、十分に練習を重ねること。	大巻悦子 富田久子 関口敏彰
成績評価方法と基準	実習内容、実習記録等を総合的に評価する 実習は全日出席が前提である		
	勘合 100%		

授業科目名		主題実習Ⅰ(看護)・基礎看護 (Theme-oriented Practicum 1)			
主担当教員	村上 生美	担当教員	村上 生美、伊津美 孝子、住田 陽子、越智 奈穂美、松村 比呂子	科目ナンバリング	TOP501
配当年次	4	科目区分	統合分野	該当項目	DP①②③④
授業形態	実習	開講学期	前期	曜日・時限	実習
授業概要	2 必修・選択				
<p>本実習は、3年次までに修得した知識や技術あるいは臨床実習における学修を統合し、各自が掲げた主題(テーマ)を主体的に追究・実践することにより、看護実践能力育成に繋がることを目指したものである。</p> <p>学生は、過去の学修を振り返り、各領域(基礎・成人急性・成人慢性・老年・母性・小児・精神・在宅・公衆衛生)が定めた多様なサブテーマ(テーマ)を基に主題(テーマ)の焦点を絞り、実習領域を選択する。主題(テーマ)はこれまでに実習における制限や限界をこえて視野を拡大したもの、経験を活かしてさらに専門性を深めるもの、今後の看護実践能力に繋がるようなものについて焦点を絞る。これは卒業研究と連携することが可能である。</p> <p>学生は、確定した領域の指導のもと、各自の主題(テーマ)に応じた実習計画を立案し、実践する。さらには、一連の過程をまとめ、プレゼンテーションする。</p> <p>詳細は別途、全体オリエンテーションおよび各領域オリエンテーションで説明する。</p>					
到達目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. これまでの学修経験を統合して課題を認識することができる。 2. 各自が選択した領域のサブテーマ(テーマ)を基に主題(テーマ)を絞ることができる。 3. 主題(テーマ)の意義を説明することができる。 4. 主題(テーマ)に関する知識や先行研究を活用することができる。 5. 主題(テーマ)に関する実践現場の現実を認識することができる。 6. 実践可能な実習計画を立案することができる。 7. 計画のもとに主体的に実践することができる。 8. 一連の過程をまとめ、プレゼンテーションすることができる。 					
履修上の注意(学生へのメッセージ)					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 主題実習Ⅰは、専門分野Ⅱ「臨床実習Ⅰ(急性・慢性・老年・母性・小児・精神)16 単位のうち、10 単位を修得しておかなければ履修できない。なお、履修しても実習で不可となつた領域は選択できない。また、在宅看護論実習が当該年度において履修できない学生は、(学生便宜、看護学臨床実習要項参照)。 2. 実習領域については、事前に希望調査を行う。学生は希望の3 領域を選択し、希望調査票に記載し提出する。ただし各領域の担当学生人数を超える場合は、希望の領域で実習できないことがある。 3. 領域によっては、在宅看護論実習と重なっている時期がある。在宅看護論実習の時期を確認し、領域の選択をする。 4. 公衆衛生看護学領域での実習は、保健師課程学生のみが対象となる。 5. 各領域、実習内容が異なるため、実習に関する詳細は担当教員の指示に従う。 6. 各領域のサブテーマは、下記の「学修内容」参照。 					
教科書					
担当教員の指示を受ける					
参考書					
担当教員の指示を受ける					
研究室/オフィスアワー					
担当教員の指示を受ける					
授業展開及び授業計画表					
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当		
1	基礎看護学 1) 看護管理 2) チーム医療 3) 患者の夜間のニーズ 4) 外来看護	担当教員の指示を受ける			
2	成人看護学(急性期) 1) 急性期の看護 ・高度救命救急センター(TOU) ・急性期看護(術後急性期の看護) 2) 手術室の看護 上記に、チーム医療、継続看護、看護マネジメント、看護管理、災害看護などを含む	担当教員の指示を受ける			

3	成人看護学(慢性期) 1) 慢性期から在宅までの多職種連携 2) 看護専門外来と認定・専門看護師の役割 上記に、チーム医療、地域医療連携室、専門外来、看護マネジメント、看護管理、災害看護などを含む	成人看護学(慢性期) 1) 慢性期から在宅までの多職種連携 2) 看護専門外来と認定・専門看護師の役割 上記に、チーム医療、地域医療連携室、専門外来、看護マネジメント、看護管理、災害看護などを	担当教員の指示を受ける
4	老年看護学 1) 老年看護学における継続看護(施設や在宅に向けた多職種連携) 2) 看護マネジメント・看護管理 ・一般病棟、回復期リハビリテーション病棟(P-T, OT, STとの協働)、認知症対応型グループホーム	老年看護学 1) 老年看護学における継続看護(施設や在宅に向けた多職種連携) 2) 看護マネジメント・看護管理 ・一般病棟、回復期リハビリテーション病棟(P-T, OT, STとの協働)、認知症対応型グループホーム	担当教員の指示を受ける
5	母性看護学 1) 周産期における 妊産婦・新生児看護の統合 2) 周産期におけるハイリスク妊産婦・新生児の看護 3) 次世代育成支援(地域母子支援) * 上記に看護マネジメント・看護管理、災害看護などを含む	母性看護学 1) 周産期における 妊産婦・新生児看護の統合 2) 周産期におけるハイリスク妊産婦・新生児の看護 3) 次世代育成支援(地域母子支援) * 上記に看護マネジメント・看護管理、災害看護などを	担当教員の指示を受ける
6	小児看護学 1) 健康障害のある子どもとその家族への援助のあり方および、入院生活が子どもと家族に与える影響 2) 多職種連携による重症心身障害児への援助のあり方および、対象者の反応(ニーズ)を踏み取り一部援助を実施	小児看護学 1) 健康障害のある子どもとその家族への援助のあり方および、入院生活が子どもと家族に与える影響 2) 多職種連携による重症心身障害児への援助のあり方および、対象者の反応(ニーズ)を踏み取り一部援助を実施	担当教員の指示を受ける
7	精神看護学 1) 治療の場(病院)を中心とした支援 2) 生活の場(地域)を中心とした支援 ・看護、多職種連携(チームアプローチ)、専門性、継続性、アウトルーチ、家族支援、リハビリ、ストレッチング等を視点に展開する。	精神看護学 1) 治療の場(病院)を中心とした支援 2) 生活の場(地域)を中心とした支援 ・看護、多職種連携(チームアプローチ)、専門性、継続性、アウトルーチ、家族支援、リハビリ、ストレッチング等を視点に展開する。	担当教員の指示を受ける
8	在宅看護論 1) 在宅での看護展開を行う 2) 病者を取り巻く在宅支援の社会資源について学修する 3) 精神疾患をもつ在宅療養者の看護について学修する	在宅看護論 1) 在宅での看護展開を行う 2) 病者を取り巻く在宅支援の社会資源について学修する 3) 精神疾患をもつ在宅療養者の看護について学修する	担当教員の指示を受ける
9	公衆衛生看護学 1) 学校保健 2) 産業保健 3) 行政保健(地域診断・地域包括支援センター)	公衆衛生看護学 1) 学校保健 2) 産業保健 3) 行政保健(地域診断・地域包括支援センター)	担当教員の指示を受ける
成績評価方法と基準			
担当教員が実習態度、実習内容、実習記録等を総合的に評価する。原則として全出席が評価の対象。			
			割合
			評価表
			100%

授業科目名		主題実習Ⅰ(看護)・成人看護(急性期) (Theme-oriented Practicum 1)	
主担当教員	吉村 弥須子	担当教員	吉村 弥須子、久木元 由紀子、宮本 佳子
科目ナンバリング	TOP501	科目区分	統合分野 DP①②③④
配当年次	4	開講学期	前期 実習
授業形態	実習	単位数	2 必修・選択
授業概要			
<p>本実習は、3年次までに修得した知識や技術あるいは臨床実習における学びを統合し、各自が掲げた主題(テーマ)を主体的に追究・実践することにより、看護実践能力育成に繋がることが目指したものである。</p> <p>学生は、過去の学びを振り返り、各領域(基礎・成人急性・老年・母性・小児・精神・在宅・公衆衛生)が定めた多様なサブテーマを基に主題(テーマ)の焦点を絞り、実習希望領域を選択する。主題(テーマ)はこれまでの実習における制限や阻害をこえて視野を拡大したものの、経験を活かしてさらに専門性を深めるもの、今後の看護実践能力に繋がるようなものについて焦点を絞る。これは卒業研究と連携することが可能である。</p> <p>学生は、確定した領域の指導のもと、各自の主題(テーマ)に応じた実習計画を立案し、実践する。さらには、一連の過程をまとめ、プレゼンテーションする。</p> <p>詳細は別途、全体オリエンテーションおよび各領域オリエンテーションで説明する。</p>			
到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. これまでの学習経験を統合して課題を認識することができる。 2. 各自が選択した領域のサブテーマを基に主題(テーマ)を絞ることができる。 3. 主題(テーマ)の意義を説明することができる。 4. 主題(テーマ)に関する知識や先行研究を活用することができる。 5. 主題(テーマ)に関する実践現場の現実を認識することができる。 6. 実現可能な実習計画を立案することができる。 7. 計画のもとに主体的に実践することができる。 8. 一連の過程をまとめ、プレゼンテーションすることができる。 			
履修上の注意(学生へのメッセージ)			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 主題実習Ⅰは、専門分野Ⅱ「臨床実習」(急性・慢性・老年・母性・小児・精神)16単位を修得しておかなければ履修できない。なお、履修しても実習で不可となった領域は選択できない。また、在宅看護論実習が当該年度において履修できない学生は、在宅領域での選択は出来ない。 2. 実習開始、看護学臨床実習(実習参照)。 3. 当学生人数を超える場合は、希望の領域で実習できないことがある。 4. 領域によって、在宅看護論実習と重なっている時期がある。在宅看護論実習の時期を確認し、領域の選択をする。 5. 公衆衛生看護学領域の実習は、保健師課程学生のみが対象となる。 6. 各領域、実習内容が異なるため、実習に関する詳細は担当教員の指示に従う。 7. 各領域のサブテーマは、下記の「学修内容」参照。 			
教科書			
担当教員の指示を受ける			
参考書			
担当教員の指示を受ける			
研究室/オフィスアワー			
担当教員の指示を受ける			
授業履修期及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	基礎看護学 1) 看護管理 2) チーム医療 3) 患者の夜間のニーズ 4) 外来看護	担当教員の指示を受ける	
2	成人看護学(急性期) ・急性期の看護 ・高度救命救急センター(TOU) ・急性期病棟(術後急性期の看護) 2) 手術室の看護	担当教員の指示を受ける	

3	成人看護学(慢性期) 1) 慢性期から在宅までの多職種連携 2) 看護専門外来と認定・専門看護師の役割 上記に、チーム医療、地域医療連携室、専門外来、看護マネジメント、看護管理、災害看護などを含む。	担当教員の指示を受ける
4	老年看護学 1) 老年看護学における継続看護(施設や在宅に向けた多職種連携) 2) 看護マネジメント・看護管理 一般病棟、回復期リハビリテーション病棟(P.T. OT. STとの協働)、認知症対応型グループホーム	担当教員の指示を受ける
5	母性看護学 1) 産前産後における 妊産婦・新生児看護の統合 2) 産前産後におけるハイリスク妊産婦・新生児の看護 3) 次世代育成支援(地域母子支援) 地域における母子や家族への支援 * 上記に看護マネジメント・看護管理、災害看護などを含む。 小児看護学 1) 健康障害のある子どもとその家族への援助のあり方および、入院生活が子どもと家族に与える影響 2) 多職種連携による重症心身障害児への援助のあり方および、対象者の反応(ニーズ)を踏み取り一部援助を実施	担当教員の指示を受ける
6	精神看護学 1) 治療の場(病棟)を中心とした支援 2) 生活の場(地域)を中心とした支援 ・看護、多職種連携(チームアプローチ)、専門性、継続性、アウトリーチ、家族支援、リカバリ、ストレッチング等を視点に展開する。 在宅看護論 1) 在宅での看護展開を行う 2) 療養を取り巻く在宅支援の社会資源について学修する 3) 精神疾患をもつ在宅療養者の看護について学修する	担当教員の指示を受ける
9	公衆衛生看護学 1) 学校保健 2) 産業保健 3) 行政保健(地域診断・地域包括支援センター)	担当教員の指示を受ける
成績評価方法と基準 担当教員が実習態度、実習内容、実習記録等を総合的に評価する。原則として全出席が評価の対象。		
割合 評価表 100%		

授業科目名 主題実習Ⅰ(看護)・成人看護(慢性期) (Theme-oriented Practicum I)																			
主担当教員	藤本 陽子	担当教員	藤本 陽子、澤田 悦子、高木 みどり																
科目ナンバリング	TOP501	科目区分	ディプロマポリシー該当項目 DP①②③④																
配当年次	4	開講学期	前期																
授業形態	実習	単位数	2																
授業概要	<p>本実習は、3年次までに修得した知識や技術あるいは臨床実習における学修を統合し、各自が掲げた主題(テーマ)を主体的に追究・実践することにより、看護実践能力育成に繋がることを目指したものである。</p> <p>学生は、過去の学修を振り返り、各領域(基礎・成人急性・成人慢性・小児・精神・在宅・公衆衛生)が定めた多様なサブテーマ(テーマ)を基に主題(テーマ)の集点を絞り、実習希望領域を選択する。主題(テーマ)はこれまでに実習における制限や限局を考慮して視野を拡大したもの、経験を活かしてさらに専門性を深めるもの、今後の看護実践能力に繋がるようなものについて焦点を絞る。これは卒業研究と連携することが可能である。</p> <p>学生は、確定した領域の指導のもと、各自の主題(テーマ)に応じた実習計画を立案し、実践する。さらには、一連の過程をまとめ、プレゼンテーションする。</p> <p>詳細は別途、全体オリエンテーションおよび各領域オリエンテーションで説明する。</p>																		
到達目標	<p>1. これまでの学修経験を統合して課題を認識することができる。</p> <p>2. 各自が選択した領域のサブテーマを基に主題(テーマ)を絞ることができる。</p> <p>3. 主題(テーマ)の意義を説明することができる。</p> <p>4. 主題(テーマ)に関する知識や先行研究を活用することができる。</p> <p>5. 主題(テーマ)に関する実践現場の現実を認識することができる。</p> <p>6. 実践可能な実習計画を立案することができる。</p> <p>7. 計画のもとに主体的に実践することができる。</p> <p>8. 一連の過程をまとめ、プレゼンテーションすることができる。</p>																		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	<p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>1. 主題実習Ⅰは、専門分野Ⅱ「臨床実習Ⅰ(急性・慢性・老年・母性・小児・精神)16」単位のうち、10単位を修得しておかなければ履修できない。なお、履修しても実習で不可欠な領域は選択できない。また、在宅看護論実習が当該年度において履修できない学生(学生便宜、看護学臨床実習(真)参照)。</p> <p>2. 実習領域については、事前に希望調査を行う。学生は希望の3領域を選択し、希望調査票に記載し提出する。ただし各領域の担当学生人数を超える場合は、希望の領域を要さないことがある。</p> <p>3. 領域によっては、在宅看護論実習と重なっている時期がある。在宅看護論実習の時期を確認し、領域の選択をする。</p> <p>4. 公衆衛生看護学領域での実習は、保健師課程学生のみが対象となる。</p> <p>5. 各領域、実習内容が異なるため、実習に関する詳細は担当教員の指示に従う。</p> <p>6. 各領域のサブテーマは、下記の「学修内容」参照。</p>																		
教科書	<p>担当教員の指示を受ける</p> <p>参考書</p> <p>担当教員の指示を受ける</p> <p>研究室/オフィスアワー</p> <p>担当教員の指示を受ける</p>																		
授業展開及び授業計画表	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>学修内容</th> <th>予習・復習・課題等</th> <th>担当</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>基礎看護学 1)看護管理 2)チーム医療 3)患者の夜間のニーズ 4)外来看護</td> <td>担当教員の指示を受ける</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>成人看護学(急性期) 1)急性期の看護 ・高度救命救急センター(TOU) ・急性期看護(術後急性期の看護) 2)手術室の看護 上記に、チーム医療、継続看護、看護マネジメント、看護管理(慢性期) 成人看護学(慢性期)</td> <td>担当教員の指示を受ける</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>成人看護学(慢性期) 1)慢性期から在宅までの多職種連携</td> <td>担当教員の指示を受ける</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当	1	基礎看護学 1)看護管理 2)チーム医療 3)患者の夜間のニーズ 4)外来看護	担当教員の指示を受ける		2	成人看護学(急性期) 1)急性期の看護 ・高度救命救急センター(TOU) ・急性期看護(術後急性期の看護) 2)手術室の看護 上記に、チーム医療、継続看護、看護マネジメント、看護管理(慢性期) 成人看護学(慢性期)	担当教員の指示を受ける		3	成人看護学(慢性期) 1)慢性期から在宅までの多職種連携	担当教員の指示を受ける	
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当																
1	基礎看護学 1)看護管理 2)チーム医療 3)患者の夜間のニーズ 4)外来看護	担当教員の指示を受ける																	
2	成人看護学(急性期) 1)急性期の看護 ・高度救命救急センター(TOU) ・急性期看護(術後急性期の看護) 2)手術室の看護 上記に、チーム医療、継続看護、看護マネジメント、看護管理(慢性期) 成人看護学(慢性期)	担当教員の指示を受ける																	
3	成人看護学(慢性期) 1)慢性期から在宅までの多職種連携	担当教員の指示を受ける																	

	2)看護専門外来と協定・専門看護師の役割 上記に、チーム医療、地域医療連携室、専門外来、看護マネジメント、看護管理、災害看護などを含む		
4	老年看護学 1)老年看護学における継続看護(施設や在宅に向けた多職種連携) 2)看護マネジメント・看護管理 ・一般病棟、回復期リハビリテーション病棟(P-T、OT、STとの協働)、認知症対応型グループホーム	担当教員の指示を受ける	
5	母性看護学 1)周産期における 妊産婦・新生児看護の統合看護 2)周産期におけるハイリスク妊産婦・新生児の看護 3)次世代育成支援地域母子支援 地域における母子や家族への支援 * 上記に看護マネジメント・看護管理、災害看護などを含む。	担当教員の指示を受ける	
6	小児看護学 1)健康障害のある子どもとその家族への援助のあり方および、入院生活が子どもと家族に与える影響 2)多職種連携による重症心身障害児への援助のあり方および、対象者の反応(ニーズ)を読み取り一部援助を実施	担当教員の指示を受ける	
7	精神看護学 1)治療の場(病棟)を中心とした支援 2)生活の場(地域)を中心とした支援 ・看護、多職種連携(チームアプローチ)、専門性、継続性、アウトリーチ、家族支援、リカバリー、ストレッチング等を視点に展開する。	担当教員の指示を受ける	
8	在宅看護論 1)在宅での看護展開を行う 2)療養を取り巻く在宅支援の社会資源について学修する 3)精神疾患をもつ在宅療養者の看護について学修する	担当教員の指示を受ける	
9	公衆衛生看護学 1)学校保健 2)産業保健 3)行政保健(地域診断・地域包括支援センター)	担当教員の指示を受ける	
成績評価方法と基準			
担当教員が実習態度、実習内容、実習記録等を総合的に評価する。			
原則として全出席が評価の対象。			
			割合 評価表 100%

授業科目名	主題実習Ⅰ(看護)・老年看護 (Theme-oriented Practicum 1)			
主担当教員	南部 登志江	担当教員	南部 登志江、外村 昌子、津崎 勝代	
科目ナンバリング	TOP501	科目区分	統合分野	DF①②③④
配当年次	4	開講学期	前期	実習
授業形態	実習	単位数	2	必修・選択
授業概要				
<p>本実習は、3年次までに修得した知識や技術あるいは臨地実習における学修を統合し、各自が掲げた主題(テーマ)を主体的に探究・実践することにより、看護実践能力育成に繋がることを目指したものである。</p> <p>学生は、過去の学修を振り返り、各領域(基礎・成人急性・成人慢性・老年・母性・小児・精神・在宅・公衆衛生)が定めた多様なサブカテゴリー(テーマ)を基に主題(テーマ)の焦点を終り、実習希望領域を選択する。主題(テーマ)はこれまでの実習における制限や阻害をこえて視野を拡大したものの、総論を活かしてさらに専門性を深めるもの、今後の看護実践能力に繋がるようなものについて焦点を絞る。これは卒業研究と連携することが可能である。</p> <p>学生は、確定した領域の指導のもと、各自の主題(テーマ)に応じた実習計画を立案し、実践する。さらには、一連の過程をまとめ、プレゼンテーションする。</p> <p>詳細は別途、全体オリエンテーションおよび各領域オリエンテーションで説明する。</p>				
到達目標				
<ol style="list-style-type: none"> 1. これまでの学修経験を統合して課題を認識することができる。 2. 各自が選択した領域のサブカテゴリーを基に主題(テーマ)を絞ることができる。 3. 主題(テーマ)の意義を説明することができる。 4. 主題(テーマ)に関する知識や先行研究を活用することができる。 5. 主題(テーマ)に関する実践現場の現実を認識することができる。 6. 実現可能な実習計画を立案することができる。 7. 計画のもとに主体的に実践することができる。 8. 一連の過程をまとめ、プレゼンテーションすることができる。 				
履修上の注意(学生へのメッセージ)				
<p>1. 主題実習Ⅰは、専門分野Ⅱ「臨地実習」(急性・慢性・老年・母性・小児・精神)16 単位のうち 10 単位を修得しておかなければ履修できない。なお、履修しても単習で不可となった領域は選択できない。また、在宅看護論実習が当該年度において履修できない学生は、在宅領域での選択は出来ない。</p> <p>(学生便宜、看護学臨地実習要員参照)</p> <p>2. 実習領域については、事前に希望調査を行う。学生は希望の 3 領域を選択し、希望調査票に記載し提出する。ただし各領域の担当学生人数を超える場合は、希望の領域で実習できないことがある。</p> <p>3. 領域によっては、在宅看護論実習と重なっている時期がある。在宅看護論実習の時期を確認し、領域の選択をする。</p> <p>4. 公衆衛生看護学領域の実習は、保健師課程学生のみが対象となる。</p> <p>5. 各領域、実習内容が異なるため、実習に関する詳細は担当教員の指示に従う。</p> <p>6. 各領域のサブカテゴリーは、下記の「学修内容」参照。</p>				
教科書				
担当教員の指示を受ける				
参考書				
担当教員の指示を受ける				
研究室/オフィスアワー				
担当教員の指示を受ける				
授業展開及び授業計画表				
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当	
1	基礎看護学 1) 看護管理 2) チーム医療 3) 患者の夜間のニーズ 4) 外来看護	担当教員の指示を受ける		
2	成人看護学(急性期) 1) 急性期の看護 ・高度救命救急センター(TCU) ・急性期病棟(術後急性期の看護) 2) 手術室の看護 上記に、チーム医療、継続看護、看護マネジメント、看護管理、災害看護などを含む。	担当教員の指示を受ける		

3	成人看護学(慢性期) 1) 慢性期から在宅までの多職種連携 2) 看護専門外来と認定・専門看護士の役割 上記に、チーム医療、地域医療連携室、専門外来、看護マネジメント、看護管理、災害看護などを含む。	担当教員の指示を受ける	
4	老年看護学 1) 老年看護学における継続看護(施設や在宅に向けた多職種連携) 2) 看護マネジメント・看護管理 T、OT、STとの協働)、認知症対応型グループホーム	担当教員の指示を受ける	
5	母性看護学 1) 周産期における 妊産婦・新生児看護の統合看護 2) 周産期におけるハイリスク妊産婦・新生児の看護 3) 次世代育成支援(地域母子支援) 地域における母子や家族への支援 * 上記に看護マネジメント・看護管理、災害看護などを含む。	担当教員の指示を受ける	
6	小児看護学 1) 健康障害のある子どもとその家族への援助のあり方および、入院生活が子どもと家族に与える影響 2) 多職種連携による重症心身障害児への援助のあり方および、対象者の反応(ニーズ)を読み取り一部援助を実施	担当教員の指示を受ける	
7	精神看護学 1) 治療の場(病院)を中心とした支援 2) 生活の場(地域)を中心とした支援 ・看護、多職種連携(チームアプローチ)、専門性、継続性、アワードリーチ、家族支援、リカバリー、ストレッチング等を視点に展開する。	担当教員の指示を受ける	
8	在宅看護論 1) 在宅での看護展開を行う 2) 療養者を取り巻く在宅支援の社会資源について学修する 3) 精神疾患をもつ在宅療養者の看護について学修する	担当教員の指示を受ける	
9	公衆衛生看護学 1) 学校保健 2) 産業保健 3) 行政保健(地域診断・地域包括支援センター)	担当教員の指示を受ける	
成績評価方法と基準			
担当教員が実習態度、実習内容、実習記録等を総合的に評価する。原則として全出席が評価の対象。			
			割合 評価表 100%

授業科目名 主題実習Ⅰ(看護・母性看護 (Theme-oriented Practicum I))			
主担当教員	橋本 富子	担当教員	橋本 富子、家宮 美里、樋口 優子
科目ナンバリング	TOP501	統合分野	DP①②③④
配当年次	4	開講学期	前期
授業形態	実習	単位数	2
授業概要	<p>本実習は、3年次までに修得した知識や技術あるいは臨床実習における学修を統合し、各自が掲げた主題(テーマ)を主体的に追究・実践することにより、看護実践能力育成に繋がることを目指したものである。</p> <p>学生は、過去の学修を振り返り、各領域(基礎・成人・急性・成人・慢性・老年・母性・小児・精神・在宅・公衆衛生)が定めた多様なサブカテゴリー(テーマ)を基に主題(テーマ)の焦点を絞り、実習希望領域を提示する。主題(テーマ)はこれらまでの実習における制限や眼点をこえて視野を拡大したもの、経験を活かしてさらに専門性を深めるもの、今後の看護実践能力に繋がるようなものについて焦点を絞る。これは卒業研究と連携することが可能である。</p> <p>学生は、確定した領域の指導のもと、各自の主題(テーマ)に応じた実習計画を立案し、実行する。さらには、一連の過程をまとめ、プレゼンテーションする。</p> <p>詳細は別途、全体オリエンテーションおよび各領域オリエンテーションで説明する。</p>		
到達目標	<p>1. これまでの学修経験を統合して課題を認識することができる。</p> <p>2. 各自が選択した領域のサブカテゴリーを基に主題(テーマ)を絞ることができる。</p> <p>3. 主題(テーマ)の意義を説明することができる。</p> <p>4. 主題(テーマ)に関する知識や先行研究を検索することができる。</p> <p>5. 主題(テーマ)に関する実践現場の現実を認識することができる。</p> <p>6. 実現可能な実習計画を立案することができる。</p> <p>7. 計画のもとに主体的に実践することができる。</p> <p>8. 一連の過程をまとめ、プレゼンテーションすることができる。</p>		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	<p>1. 主題実習Ⅰは、専門分野Ⅱ「臨床実習(急性・慢性・老年・母性・小児・精神)」6単位を修得しておかなければ履修できない(学生便宜、看護学臨床実習要項参照)。</p> <p>2. 実習領域については、事前に希望調査を行う。学生は希望の3領域を選択し、希望調査票に記載し提出する。ただし各領域の担当学生人数を超える場合は、希望の領域で実習できないことがある。</p> <p>3. 領域によっては、在宅看護論実習と重なっている時期がある。在宅看護論実習の時期を確認し、領域の選択をする。</p> <p>4. 公衆衛生看護学領域での実習は、保健師課程学生のみが対象となる。</p> <p>5. 各領域、実習内容が異なるため、実習に関する詳細は担当教員の指示に従う。</p> <p>6. 各領域のサブカテゴリーは、下記の「学修内容」参照。</p>		
教科書			
担当教員の指示を受ける			
参考書			
担当教員の指示を受ける			
研究室/オフィスアワー			
担当教員の指示を受ける			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	基礎看護学 1) 看護管理 2) チーム医療 3) 患者の夜間のニーズ 4) 外来看護	担当教員の指示を受ける	
2	成人看護学(急性期) 1) 急性期の看護 ・高度救命救急センター(10U) ・集中治療室(ICU) 2) 手術室の看護 上記に、チーム医療、継続看護、看護マネジメント、看護管理、災害看護などを含む	担当教員の指示を受ける	
3	成人看護学(慢性期) 1) 慢性期の看護 2) 回復期の看護	担当教員の指示を受ける	

	大阪府急性期・総合医療センター12 階東西病棟を中心に実習 上記に、チーム医療、地域医療連携室、専門外来、看護マネジメント、看護管理、災害訓練参加などを含む		
4	老年看護学 1) 老年看護学における継続看護を病棟で実施する。 2) 看護マネジメント・看護管理を体験する。 ― 一般病棟 回復期リハビリテーション病棟(多職種連携)、認知症対応グループホーム	担当教員の指示を受ける	
5	母性看護学 1) 受け持ち実習 妊産婦と新生児への看護の統合 ハイリスクの妊産婦と新生児への看護 2) 次世代育成実習 地域における母子や家族への支援 * 上記に看護マネジメント・看護管理、災害看護を含む。	担当教員の指示を受ける	母性看護学 教員
6	小児看護学 1) 健康障害のある子どもと家族への援助のあり方および、入院生活が子どもと家族に与える影響。 2) 多職種連携による重症心身障害児への援助のあり方および、対象者の反応(ニーズ)を読み取り一部援助を実施。	担当教員の指示を受ける	
7	精神看護学 1) 治療の場(病棟)を中心とした支援 2) 生活の場(地域)を中心とした支援 ・看護、多職種連携(チームアプローチ)、専門性、継続性、アウトリーチ、家族支援、リカバリー、ストレッチング等を視点に展開する。 在宅看護論 1) 在宅での看護展開を行う 2) 療養を取り巻く在宅支援の社会資源について学修する 3) 精神疾患をもつ在宅療養者の看護について学修する	担当教員の指示を受ける	
8	公衆衛生看護学 1) 学校保健 2) 産業保健 3) 行政保健(地域診断)	担当教員の指示を受ける	
成績評価方法と基準			
担当教員が実習態度、実習内容、実習記録等を総合的に評価する。原則として全出席が評価の対象。			

授業科目名	主題実習Ⅰ(看護)・小児看護 (Theme-oriented Practicum 1)			
主担当教員	黒岩 志紀	担当教員	黒岩 志紀、徳島 佐由美、安井 渚	
科目ナンバリング	TOP501	科目区分	統合分野	DP①②③④
配当年次	4	開講学期	前期	実習
授業形態	実習	単位数	2	必修・選択
授業概要				
<p>本実習は、3年次までに修得した知識や技術あるいは臨床実習における学修を統合し、各自が掲げた主題(テーマ)を主体的に探究・実践することにより、看護実践能力育成に繋がることを目指したものである。</p> <p>学生は、過去の学修を振り返り、各領域(基礎・成人急性・老年・母性・小児・精神・在宅・公衆衛生)が定めた多様なサブカテゴリーを基に主題(テーマ)の焦点を絞り、実習希望領域を選択する。主題(テーマ)はこれまでの実習における制限や阻害をこえて視野を広げたもの、総論を活かしてさらに専門性を深めるもの、今後の看護実践能力に繋がるようなものについて焦点を絞る。これは卒業研究と連携することが可能である。</p> <p>学生は、確定した領域の指導のもと、各自の主題(テーマ)に応じた実習計画を立案し、実践する。さらには、一連の過程をまとめ、プレゼンテーションする。</p> <p>詳細は別途、全体オリエンテーションおよび各領域オリエンテーションで説明する。</p>				
到達目標				
<ol style="list-style-type: none"> 1. これまでの学修経験を統合して課題を認識することができる。 2. 各自が選択した領域のサブカテゴリーを基に主題(テーマ)を絞ることができる。 3. 主題(テーマ)の意義を説明することができる。 4. 主題(テーマ)に関する知識や先行研究を活用することができる。 5. 主題(テーマ)に関する実践現場の現実を認識することができる。 6. 実現可能な実習計画を立案することができる。 7. 計画のもとに主体的に実践することができる。 8. 一連の過程をまとめ、プレゼンテーションすることができる。 				
履修上の注意(学生へのメッセージ)				
<ol style="list-style-type: none"> 1. 主題実習Ⅰは、専門分野Ⅱ「臨床実習」(急性・慢性・老年・母性・小児・精神)16 単位のうち 10 単位を修得しておかなければ履修できない。なお、履修しても単習で不可となつた領域は選択できない。また、在宅看護論実習が当該年度において履修できない学生は、在宅領域での選択は出来ない。 2. 実習領域については、事前に希望調査を行う。学生は希望の 3 領域を選択し、希望調査票に記載し提出する。ただし各領域の担当学生人数を超えないことである。 3. 領域によっては、在宅看護論実習と重なっている時期がある。在宅看護論実習の時期を確認し、領域の選択をする。 4. 公衆衛生看護学領域の実習は、保健師課程学生のみが対象となる。 5. 各領域、実習内容が異なるため、実習に関する詳細は担当教員の指示に従う。 6. 各領域のサブカテゴリーは、下記の「学修内容」参照。 				
教科書				
担当教員の指示を受ける				
参考書				
担当教員の指示を受ける				
研究室/オフィスアワー				
担当教員の指示を受ける				
授業展開及び授業計画表				
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当	
1	基礎看護学 1) 看護管理 2) チーム医療 3) 患者の夜間のニーズ 4) 外来看護	担当教員の指示を受ける		
2	成人看護学(急性期) 1) 急性期の看護 ・高度救命救急センター(TCU) ・急性期病棟(術後急性期の看護) 2) 手術室の看護 上記に、チーム医療、継続看護、看護マネジメント、看護管理、災害看護などを含む	担当教員の指示を受ける		

3	成人看護学(慢性期) 1) 慢性期から在宅までの多職種連携 2) 看護専門外来と認定・専門看護師の役割 上記に、チーム医療、地域医療連携室、専門外来、看護マネジメント、看護管理、災害看護などを含む 老年看護学 1) 老年看護学における継続看護(施設や在宅に向けた多職種連携) 2) 看護マネジメント・看護管理 T・OT、STとの協働)、認知症対応型グループホーム	担当教員の指示を受ける	
4	母性看護学 1) 周産期における妊産婦・新生児看護の統合 2) 周産期におけるハイリスク妊産婦・新生児の看護 3) 次世代育成支援(地域母子支援) 地域における母子や家族への支援 * 上記に看護マネジメント・看護管理、災害看護などを含む。	担当教員の指示を受ける	
5	小児看護学 1) 健康障害のある子どもとその家族への援助のあり方および、入院生活が子どもと家族に与える影響	担当教員の指示を受ける	
6	精神看護学 1) 治療の場(病院)を中心とした支援 2) 生活の場(地域)を中心とした支援 ・看護、多職種連携(チームアプローチ)、専門性、継続性、アウトリーチ、家族支援、リカバリー、ストレッチング等を視点に展開する。	担当教員の指示を受ける	
7	在宅看護論 1) 在宅での看護展開を行う 2) 病者を取り巻く在宅支援の社会資源について学修する 3) 精神疾患をもつ在宅療養者の看護について学修する	担当教員の指示を受ける	
8	公衆衛生看護学 1) 学校保健 2) 産業保健 3) 行政保健(地域診断・地域包括支援センター)	担当教員の指示を受ける	
成績評価方法と基準			
担当教員が実習態度、実習内容、実習記録等を総合的に評価する。原則として全出席が評価の対象。			
			割合
			評価表
			100%

授業科目名 主題実習Ⅰ(看護・精神看護 (Theme-oriented Practicum 1))			
主担当教員	蓮池 光人	担当教員	蓮池 光人、原 翔子、矢野 秀蔵
科目ナンバリング	TOP501	科目区分	ディプロマポリシー該当項目 DP①②③④
配当年次	4	開講学期	前期
授業形態	実習	単位数	2
授業概要	<p>本実習は、3年次までに修得した知識や技術あるいは臨床実習における学修を統合し、各自が掲げた主題(テーマ)を主体的に追究・実践することにより、看護実践能力育成に繋がることを目指したものである。</p> <p>学生は、過去の学修を振り返り、各領域(基礎・成人急性・成人慢性・老年・母性・小児・精神・在宅・公衆衛生)が定めた多様なサブカテゴリー(テーマ)を基に主題(テーマ)の焦点を絞り、実習希望領域を選択する。主題(テーマ)はこれまでの実習における制限や限界を考慮して視野を拡大したもの、経験を活かしてさらに専門性を深めるもの、今後の看護実践能力に繋がるようなものについて焦点を絞る。これは卒業研究と連携することが可能である。</p> <p>学生は、確定した領域の指導のもと、各自の主題(テーマ)に応じた実習計画を立案し、実践する。さらには、一連の過程をまとめ、プレゼンテーションする。</p> <p>詳細は別途、全体オリエンテーションおよび各領域オリエンテーションで説明する。</p>		
到達目標	<p>1. これまでの学修経験を統合して課題を認識することができる。</p> <p>2. 各自が選択した領域のサブカテゴリーを基に主題(テーマ)を絞ることができる。</p> <p>3. 主題(テーマ)の意義を説明することができる。</p> <p>4. 主題(テーマ)に関する知識や先行研究を活用することができる。</p> <p>5. 主題(テーマ)に関する実践現場の現実を認識することができる。</p> <p>6. 実践可能な実習計画を立案することができる。</p> <p>7. 計画のもとに主体的に実践することができる。</p> <p>8. 一連の過程をまとめ、プレゼンテーションすることができる。</p>		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	<p>1. 主題実習Ⅰは、専門分野Ⅱ(臨床実習Ⅰ(急性・慢性・老年・母性・小児・精神)16 単位のうち、10 単位を修得しておかなければ履修できない。なお、履修しても実習で不可欠な領域は選択できない。また、在宅看護論実習が当該年度において履修できない学生(学生便宜、看護学臨床実習(真参照))。</p> <p>2. 実習領域については、事前に希望調査を行う。学生は希望の3 領域を選択し、希望調査票に記載し提出する。ただし各領域の担当学生人数を超える場合は、希望の領域を要できないことがある。</p> <p>3. 領域によっては、在宅看護論実習と重なっている時期がある。在宅看護論実習の時期を確認し、領域の選択をする。</p> <p>4. 公衆衛生看護学領域での実習は、保健師課程学生のみが対象となる。</p> <p>5. 各領域、実習内容が異なるため、実習に関する詳細は担当教員の指示に従う。</p> <p>6. 各領域のサブカテゴリーは、下記の「学修内容」参照。</p>		
教科書			
担当教員の指示を受ける			
参考書			
担当教員の指示を受ける			
研究室/オフィスアワー			
担当教員の指示を受ける			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	<p>基礎看護学</p> <p>1)看護管理</p> <p>2)チーム医療</p> <p>3)患者の夜間のニーズ</p> <p>4)外来看護</p>	<p>担当教員の指示を受ける</p>	
2	<p>成人看護学(急性期)</p> <p>1)急性期の看護</p> <p>・高度救命救急センター(TOU)</p> <p>・急性期看護(術後急性期の看護)</p> <p>2)手術室の看護</p> <p>上記に、チーム医療、継続看護、看護マネジメント、看護管理(急性期)</p>	<p>担当教員の指示を受ける</p>	
3	<p>成人看護学(慢性期)</p> <p>1)慢性期の看護</p>	<p>担当教員の指示を受ける</p>	

	2)看護専門外来と密着・専門看護師の役割 上記に、チーム医療、地域医療連携室、専門外来、看護マネジメント、看護管理、災害看護などを含む		
4	<p>老年看護学</p> <p>1)老年看護学における継続看護(施設や在宅に向けた多職種連携)</p> <p>2)看護マネジメント・看護管理</p> <p>・一般病棟、回復期リハビリテーション病棟(P-T、OT、STとの協働)、認知症対応型グループホーム</p>	<p>担当教員の指示を受ける</p>	
5	<p>母性看護学</p> <p>1)周産期における 妊産婦・新生児看護の統合看護</p> <p>2)周産期におけるハイリスク妊産婦・新生児の看護</p> <p>3)次世代育成支援(地域母子支援)</p> <p>地域における母子や家族への支援</p> <p>* 上記に看護マネジメント・看護管理、災害看護などを含む。</p>	<p>担当教員の指示を受ける</p>	
6	<p>小児看護学</p> <p>1)健康障害のある子どもとその家族への援助のあり方および、入院生活が子どもと家族に与える影響</p> <p>2)多職種連携による重症心身障害児への援助のあり方および、対象者の反応(ニーズ)を読み取り一部援助を実施</p>	<p>担当教員の指示を受ける</p>	
7	<p>精神看護学</p> <p>1)治療の場(病棟)を中心とした支援</p> <p>2)生活の場(地域)を中心とした支援</p> <p>・看護、多職種連携(チームアプローチ)、専門性、継続性、アウトリーチ、家族支援、リカバリー、ストレッチング等を視点に展開する。</p> <p>在宅看護論</p>	<p>担当教員の指示を受ける</p>	
8	<p>在宅看護論</p> <p>1)在宅での看護展開を行う</p> <p>2)療養を取り巻く在宅支援の社会資源について学修する</p> <p>3)精神疾患をもつ在宅療養者の看護について学修する</p>	<p>担当教員の指示を受ける</p>	
9	<p>公衆衛生看護学</p> <p>1)学校保健</p> <p>2)産業保健</p> <p>3)行政保健(地域診断・地域包括支援センター)</p>	<p>担当教員の指示を受ける</p>	
成績評価方法と基準			
担当教員が実習態度、実習内容、実習記録等を総合的に評価する。			
原則として全出席が評価の対象。			
			割合 評価表 100%

授業科目名	主題実習Ⅰ(看護)・在宅看護 (Theme-oriented Practicum 1)			
主担当教員	清水 容子	担当教員	清水 容子、升田 寿賀子、綿治 葉子	
科目ナンバリング	TOP501	科目区分	統合分野	DF①②③④
配当年次	4	開講学期	前期	実習
授業形態	実習	単位数	2	必修
授業概要	<p>本実習は、3年次までに修得した知識や技術あるいは臨地実習における学修を統合し、各自が掲げた主題(テーマ)を主体的に探究・実践することにより、看護実践能力育成に繋がることを目指したものである。</p> <p>学生は、過去の学修を振り返り、各領域(基礎・成人急性・成人慢性・老年・母性・小児・精神・在宅・公衆衛生)が定めた多様なサブカテゴリー(テーマ)を基に主題(テーマ)の焦点を絞り、実習希望領域を選択する。主題(テーマ)はこれまでの実習における制限や阻害を越えて視野を拡大したものを、総論を活かしてさらに専門性を深めるもの、今後の看護実践能力に繋がるようなものについて焦点を絞る。これは卒業研究と連携することが可能である。</p> <p>学生は、確定した領域の指導のもと、各自の主題(テーマ)に応じた実習計画を立案し、実践する。さらには、一連の過程をまとめ、プレゼンテーションする。</p> <p>詳細は別途、全体オリエンテーションおよび各領域オリエンテーションで説明する。</p>			
到達目標	<p>1. これまでの学修経験を統合して課題を認識することができる。</p> <p>2. 各自が選択した領域のサブカテゴリーを基に主題(テーマ)を絞ることができる。</p> <p>3. 主題(テーマ)の意義を説明することができる。</p> <p>4. 主題(テーマ)に関する知識や先行研究を活用することができる。</p> <p>5. 主題(テーマ)に関する実践現場の現実を認識することができる。</p> <p>6. 実現可能な実習計画を立案することができる。</p> <p>7. 計画のもとに主体的に実践することができる。</p> <p>8. 一連の過程をまとめ、プレゼンテーションすることができる。</p>			
履修上の注意(学生へのメッセージ)	<p>履修実習Ⅰは、専門分野Ⅱ「臨地実習」(急性・慢性・老年・母性・小児・精神)16 単位のうち 10 単位を修得しておかなければ履修できない。なお、履修しても単習で不可となつた領域は選択できない。また、在宅看護論実習が当該年度において履修できない学生は、在宅領域での選択は出来ない。</p> <p>(学生便宜、看護学臨地実習要員参照)</p> <p>2. 実習領域については、事前に希望調査を行う。学生は希望の3 領域を選択し、希望調査票に記載し提出する。ただし各領域の担当学生人数を超えた場合は、希望の領域で履修できないことがある。</p> <p>3. 領域によっては、在宅看護論実習と重なっている時期がある。在宅看護論実習の時期を確認し、領域の選択をする。</p> <p>4. 公衆衛生看護学領域の実習は、保健師課程学生のみが対象となる。</p> <p>5. 各領域、実習内容が異なるため、実習に関する詳細は担当教員の指示に従う。</p> <p>6. 各領域のサブカテゴリーは、下記の「学修内容」参照。</p>			
教科書				
担当教員の指示を受ける				
参考書				
担当教員の指示を受ける				
研究室/オフィスアワー				
担当教員の指示を受ける				
授業展開及び授業計画表				
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当	
1	<p>基礎看護学</p> <p>1) 看護管理</p> <p>2) チーム医療</p> <p>3) 患者の夜間のニーズ</p> <p>4) 外来看護</p>	担当教員の指示を受ける		
2	<p>成人看護学(急性期)</p> <p>1) 急性期の看護</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高度救命救急センター(TCU) ・急性期病棟(術後急性期の看護) <p>2) 手術室の看護</p> <p>上記に、チーム医療、継続看護、看護マネジメント、看護管理、災害看護などを含む。</p>	担当教員の指示を受ける		

3	<p>成人看護学(慢性期)</p> <p>1) 慢性期から在宅までの多職種連携</p> <p>2) 看護専門外来と認定・専門看護士の役割</p> <p>上記に、チーム医療、地域医療連携室、専門外来、看護マネジメント、看護管理、災害看護などを含む。</p>	担当教員の指示を受ける	
4	<p>老年看護学</p> <p>1) 老年看護学における継続看護(施設や在宅に向けた多職種連携)</p> <p>2) 看護マネジメント・看護管理</p> <p>T、OT、STとの協働)、認知症対応型グループホーム</p>	担当教員の指示を受ける	
5	<p>母性看護学</p> <p>1) 周産期における 妊産婦・新生児看護の統合看護</p> <p>2) 周産期におけるハイリスク妊産婦・新生児の看護</p> <p>3) 次世代育成支援(地域母子支援)</p> <p>地域における母子や家族への支援</p> <p>* 上記に看護マネジメント・看護管理、災害看護などを含む。</p>	担当教員の指示を受ける	
6	<p>小児看護学</p> <p>1) 健康障害のある子どもとその家族への援助のあり方および、入院生活が子どもと家族に与える影響</p> <p>2) 多職種連携による重症心身障害児への援助のあり方および、対象者の反応(ニーズ)を読み取り一部援助を実施</p>	担当教員の指示を受ける	
7	<p>精神看護学</p> <p>1) 治療の場(病院)を中心とした支援</p> <p>2) 生活の場(地域)を中心とした支援</p> <p>・看護、多職種連携(チームアプローチ)、専門性、継続性、アワードリーチ、家族支援、リカバリー、ストレッチング等を視点に展開する。</p>	担当教員の指示を受ける	
8	<p>在宅看護論</p> <p>1) 在宅での看護展開を行う</p> <p>2) 療養者を取り巻く在宅支援の社会資源について学修する</p> <p>3) 精神疾患をもつ在宅療養者の看護について学修する</p>	担当教員の指示を受ける	
9	<p>公衆衛生看護学</p> <p>1) 学校保健</p> <p>2) 産業保健</p> <p>3) 行政保健(地域診断・地域包括支援センター)</p>	担当教員の指示を受ける	
成績評価方法と基準			
担当教員が実習態度、実習内容、実習記録等を総合的に評価する。原則として全出席が評価の対象。			
			割合
			評価表
			100%

授業科目名 主題実習Ⅰ(看護)・公衆衛生看護 (Theme-oriented Practicum I)			
主担当教員	大巻 悦子	担当教員	大巻 悦子、関口 敏彰、雷田 久子
科目ナンバリング	TOP501	科目区分	ディプロマポリシー該当項目 DP①②③④
配当年次	4	開講学期	前期
授業形態	実習	単位数	2
授業概要	<p>本実習は、3年次までに修得した知識や技術あるいは臨床実習における学修を統合し、各自が掲げた主題(テーマ)を主体的に追究・実践することにより、看護実践能力育成に繋がることを目指したものである。</p> <p>学生は、過去の学修を振り返り、各領域(基礎・成人急性・成人慢性・老年・母性・小児・精神・在宅・公衆衛生)が定めた多様なサブカテゴリー(テーマ)を基に主題(テーマ)の焦点を絞り、実習希望領域を選択する。主題(テーマ)はこれまでの実習における制限や限界を考慮して視野を拡大したもの、経験を活かしてさらに専門性を深めるもの、今後の看護実践能力に繋がるようなものについて焦点を絞る。これは卒業研究と連携することが可能である。</p> <p>学生は、確定した領域の指導のもと、各自の主題(テーマ)に応じた実習計画を立案し、実践する。さらには、一連の過程をまとめ、プレゼンテーションする。</p> <p>詳細は別途、全体オリエンテーションおよび各領域オリエンテーションで説明する。</p>		
到達目標	<p>1. これまでの学修経験を統合して課題を認識することができる。</p> <p>2. 各自が選択した領域のサブカテゴリーを基に主題(テーマ)を絞ることができる。</p> <p>3. 主題(テーマ)の意義を説明することができる。</p> <p>4. 主題(テーマ)に関する知識や先行研究を活用することができる。</p> <p>5. 主題(テーマ)に関する実践現場の現実を認識することができる。</p> <p>6. 実践可能な実習計画を立案することができる。</p> <p>7. 計画のもとに主体的に実践することができる。</p> <p>8. 一連の過程をまとめ、プレゼンテーションすることができる。</p>		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	<p>1. 主題実習Ⅰは、専門分野Ⅱ(臨床実習Ⅰ(急性・慢性・老年・母性・小児・精神)16 単位のうち、10 単位を修得しておかなければ履修できない。なお、履修しても実習で不可欠な領域は選択できない。また、在宅看護論実習が当該年度において履修できない学生(学生便宜、看護学臨床実習(真)参照)。</p> <p>2. 実習領域については、事前に希望調査を行う。学生は希望の3 領域を選択し、希望調査票に記載し提出する。ただし各領域の担当学生人数を超える場合は、希望の領域を要できないことがある。</p> <p>3. 領域によっては、在宅看護論実習と重なっている時期がある。在宅看護論実習の時期を確認し、領域の選択をする。</p> <p>4. 公衆衛生看護学領域での実習は、保健師課程学生のみが対象となる。</p> <p>5. 各領域、実習内容が異なるため、実習に関する詳細は担当教員の指示に従う。</p> <p>6. 各領域のサブカテゴリーは、下記の「学修内容」参照。</p>		
教科書			
担当教員の指示を受ける			
参考書			
担当教員の指示を受ける			
研究室/オフィスアワー			
担当教員の指示を受ける			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	基礎看護学 1) 看護管理 2) チーム医療 3) 患者の夜間のニーズ 4) 外来看護	担当教員の指示を受ける	
2	成人看護学(急性期) 1) 急性期の看護 ・高度救命救急センター(TCU) ・急性期看護(術後急性期の看護) 2) 手術室の看護 上記に、チーム医療、継続看護、看護マネジメント、看護管理(慢性期)	担当教員の指示を受ける	
3	成人看護学(慢性期) 1) 慢性期の看護	担当教員の指示を受ける	

	2)看護専門外来と密着・専門看護師の役割 上記に、チーム医療、地域医療連携室、専門外来、看護マネジメント、看護管理、災害看護などを含む		
4	老年看護学 1)老年看護学における継続看護(施設や在宅に向けた多職種連携) 2)看護マネジメント・看護管理 ・一般病棟、回復期リハビリテーション病棟(P-T、OT、STとの協働)、認知症対応型グループホーム	担当教員の指示を受ける	
5	母性看護学 1)周産期における 妊産婦・新生児看護の統合看護 2)周産期におけるハイリスク妊産婦・新生児の看護 3)次世代育成支援地域母子支援 地域における母子や家族への支援 * 上記に看護マネジメント・看護管理、災害看護などを含む。	担当教員の指示を受ける	
6	小児看護学 1)健康障害のある子どもとその家族への援助のあり方および、入院生活が子どもと家族に与える影響 2)多職種連携による重症心身障害児への援助のあり方および、対象者の反応(ニーズ)を読み取り一部援助を実施	担当教員の指示を受ける	
7	精神看護学 1)治療の場(病棟)を中心とした支援 2)生活の場(地域)を中心とした支援 ・看護、多職種連携(チームアプローチ)、専門性、継続性、アウトリーチ、家族支援、リカバリー、ストレッチング等を視点に展開する。	担当教員の指示を受ける	
8	在宅看護論 1)在宅での看護展開を行う 2) 療養を取り巻く在宅支援の社会資源について学修する 3)精神疾患をもつ在宅療養者の看護について学修する	担当教員の指示を受ける	
9	公衆衛生看護学 1)学校保健 2)産業保健 3)行政保健(地域診断・地域包括支援センター)	担当教員の指示を受ける	大巻悦子 関口敏彰 雷田久子
成績評価方法と基準 担当教員が実習態度、実習内容、実習記録等を総合的に評価する。 原則として全出席が評価の対象。			
		割合	100%

授業科目名 主題実習Ⅱ(看護) (Theme-oriented Practicum II)			
主担当教員	大巻 悦子	担当教員	大巻 悦子、関口 敏彰、富田 久子
科目ナンバリング	TOP502	統合分野	DP①②③④
配当年次	4	開講学期	実習
授業形態	実習	単位数	1
授業概要	地域で障がい者を抱えながら生活する人々や家族の生活や健康課題、地域で生活している障がい者の支援体制、障がい者がその人らしく生きることのできる地域社会づくりについて理解を深め、保健師としての必要な能力を養う。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域で生活している障がい者の生活や健康課題について理解する。 2. 障がい者を支える家族の生活や健康課題について理解する。 3. 地域の障がい者支援体制について理解する。 4. 障がい者支援にかかわる専門職とその役割について理解する。 5. 障がい者に焦点を当てたヘルスポロモーションについて理解する。 6. 障がい者がその人らしく生きることのできる地域社会づくりや支援体制について考えることができる。 		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	1、地域看護活動論実習の集大成と考え取り組むこと。		
教科書	今までに使用した教科書、資料とする。		
参考書			
公衆衛生がみえる:医療情報科学研究所編集;メテックメディア発行			
研究室/オフィスアワー	大巻 W236 研究室、 富田 W634 研究室、 関口 W234 研究室 事前に担当教員に確認すること		
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	障がいのある方を対象とした、就労継続支援事業所、生活介護事業所、障害福祉サービス事業所、障害者支援施設、地域生活支援センターでの実習を行う。	各施設の特徴や対象者について事前学習を行う。 関係法規や社会資源について確認する。 グループメンバー間での情報の共有をし、学びを深めること	大巻悦子 関口敏彰 富田久子
成績評価方法と基準	割合		
実習態度、実習内容、実習記録等を総合的に評価する 原則として全出席をもって評価の対象とする	100%		

授業科目名 卒業研究(看護):基礎看護領域 (Graduation Research)																															
主担当教員	村上 生美	担当教員	村上 生美、伊津美 孝子、住田 陽子、越智 奈穂美																												
科目ナンバリング	GR504	科目区分	統合分野																												
配当年次	4	開講学期	前期 後期(月曜 2限) 後期(月曜 2限)																												
授業形態	演習	単位数	2																												
授業概要	<p>これまでの既修得知識や演習、臨地実習等の経験を想起し、3年前期に学修した「看護研究」の知識や技術を活用し、各自が立てた研究計画をもとにテーマ収集、解析、考察を深め、卒業論文としてその成果をまとめる。なお、本科目は「主題実習Ⅰ」と関連させて取り組むことができる。</p> <p>研究テーマは以下の①～④から選択する</p> <ol style="list-style-type: none"> ①看護技術(清拭、足浴、手浴、洗濯、覆法、手指巧緻性等)の実験的検討 ②外来で看護を受ける患者や家族のニーズについて(小児・精神・母性を除く外来看護) ③チーム医療の現状や多職種とのかわりについて ④夜間の患者のニーズや病床環境(音、室温等)について <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 研究倫理について理解することができる。 2. 既修得知識や臨地実習経験の中から興味を持ったことについてテーマを絞ることができる。 3. 先行研究について文献検索し、そのテーマに取り組む意味を理解することができる。 4. テーマに対する実現可能な研究計画を立案することができる。 5. 計画に沿って研究を実行することができる。 6. 研究のデータを集計、解析し結果を出すことができる。 7. 結果を分析し、考察することができる。 8. 一連の過程を論文としてまとめる(プレゼンテーションを含む)ことができる。 9. セミ活動において主体的に参加し、コミュニケーションをとることができる。 <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>※先修条件※ 卒業研究は次の要件を充足しなければ履修できない。 (1) 教養科目群の必修科目 10 単位 (14 単位中) (2) 専門基礎分野のうち「人体の構造と機能」及び「疾病の成り立ちと回復の促進」の中の必修科目 14 単位 (3) 専門分野Ⅱ「臨地実習」16 単位のうち 10 単位 尚、卒業研究のテーマに関連する分野の必修科目(在宅看護論実習を除く)を修得しておくこと。 ※論文集と抄録集を作成し大学で保管する。</p> <p>教科書</p> <p>担当教員より指示する。</p> <p>参考書</p> <p>担当教員より指示する。</p> <p>研究室/オフィスアワー</p> <p>ガイダンス時に知らせる。</p> <p>授業展開及び授業計画表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>学修内容</th> <th>予習・復習・課題等</th> <th>担当</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>第1回～2回:卒業研究に関する全体ガイダンス①②</td> <td>第1回:3年次に履修した看護研究について復習しておくこと</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>第3回～4回:研究疑問や関心のある現象の明確化①②</td> <td>以下、各担当教員より指示する</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>第5回～6回:研究テーマの検討と絞り込み①②</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>第7回～8回:研究テーマに関連した文献検討①②</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>第9回～10回:研究テーマに関連した文献検討③④</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>第11回～12回:研究テーマに関連した文献検討⑤⑥</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当	1	第1回～2回:卒業研究に関する全体ガイダンス①②	第1回:3年次に履修した看護研究について復習しておくこと		2	第3回～4回:研究疑問や関心のある現象の明確化①②	以下、各担当教員より指示する		3	第5回～6回:研究テーマの検討と絞り込み①②			4	第7回～8回:研究テーマに関連した文献検討①②			5	第9回～10回:研究テーマに関連した文献検討③④			6	第11回～12回:研究テーマに関連した文献検討⑤⑥		
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当																												
1	第1回～2回:卒業研究に関する全体ガイダンス①②	第1回:3年次に履修した看護研究について復習しておくこと																													
2	第3回～4回:研究疑問や関心のある現象の明確化①②	以下、各担当教員より指示する																													
3	第5回～6回:研究テーマの検討と絞り込み①②																														
4	第7回～8回:研究テーマに関連した文献検討①②																														
5	第9回～10回:研究テーマに関連した文献検討③④																														
6	第11回～12回:研究テーマに関連した文献検討⑤⑥																														

7	第13回～14回:研究テーマに関連した文献検討⑦⑧	
8	第15回～16回:文献検討のまとめ・研究の方向性の検討①②	
9	第17回～18回:文献検討のまとめ・研究の方向性の検討③④	
10	第19回～20回:研究方法の検討:データの選択①②	
11	第21回～22回:研究方法の検討:データ収集・分析方法①②	
12	第23回～24回:研究方法の検討:倫理的配慮①②	
13	第25回～26回:研究計画書の作成①②	
14	第27回～28回:研究計画書の作成③④	
15	第29回～30回:研究フィールド、参加者の募集①②	
16	第31回～32回:データ収集:実験法・観察法・面接法・質問紙等の検討①②	
17	第33回～34回:データ収集/実施①②	
18	第35回～36回:データ収集/実施③④	
19	第37回～38回:データ収集/実施⑤⑥	
20	第39回～40回:データの整理①②	
21	第41回～42回:データ分析:実施①②	
22	第43回～44回:データ分析:実施③④	
23	第45回～46回:研究結果の考察①②	
24	第47回:研究結果の考察③	
24	第48回:研究結果の考察④および結論	
25	第49回～50回:研究論文の作成①②	
26	第51回～52回:研究論文の作成③④	
27	第53回～54回:研究論文の作成:抄録の作成①②	
28	第55回～56回:研究論文の作成:発表の準備①②	
29	第57回～58回:研究発表①②	
30	第59回～第60回:研究発表③④	
成績評価方法と基準		割合
1.論文とプレゼンテーション、活動のプロセス全体を総合して次の視点で評価する。 評価基準(ルーブリック)を活用する) ①テーマの有用性 ②方法の妥当性 ③解析の確実性 ④考察の客観性 ⑤論旨の一貫性 ⑥プレゼンテーション ⑦セミへの主体的参加 ⑧主張、今後の発展性 2.4/5以上の出席が必要		卒業論文 100%

授業科目名		卒業研究(看護):【急性】成人看護領域 (Graduation Research)	
主担当教員	吉村 弥須子	担当教員	吉村 弥須子、久木元 由紀子、宮本 佳子
科目ナンバリング	GR504	科目区分	統合分野
配当年次	4	開講学期	前期
授業形態	演習	単位数	2
授業概要			
これまでの既修得知識や演習、臨床実習等の経験を想起し、3年前期に学修した「看護研究」の知識や技術を活用し、各自が立てた研究計画をもとにデータ収集、解析、考察を深め、卒業論文としてその成果をまとめる。なお、本科目は「主題実習Ⅰ」と関連させて取り組むことができる。			
研究テーマは以下の①～④から選択する。研究方法は事例研究または文献研究とする。			
①周手術期にある患者および家族への看護			
②手術を受けるがん患者の看護			
③救命救急、集中治療室、手術室における看護実践			
④主題実習Ⅰに関連したテーマであるいは、成人看護実習Ⅰで受け持った事例を振り返りケーススタディを行う			
到達目標			
1. 研究倫理について理解することができる。			
2. 既修得知識や臨床実習経験の中から興味を持ったことについてテーマを絞ることができる。			
3. 先行研究について文献検索し、そのテーマに取り組む意味を理解することができる。			
4. テーマに対する実現可能な研究計画を立てることができる。			
5. 計画に沿って研究を実行することができる。			
6. 研究のデータを集計、解析し結果を出すことができる。			
7. 結果を分析し、考察することができる。			
8. 一連の過程を論文としてまとめる(プレゼンテーションを含む)ことができる。			
9. セミ活動において主体的に参加し、コミュニケーションをとることができる。			
履修上の注意(学生へのメッセージ)			
《先修条件》			
卒業研究は次の要件を充足しなければ履修できない。なお、卒業研究のテーマに関連する領域の必修科目(在宅看護論実習を除く)を修得しておくこと。			
(1)教養科目群の必修科目 14単位のうち10単位			
(2)専門基礎分野のうち、「人体の構造と機能」及び「疾病の成り立ちと回復の促進」中の必修科目 14単位			
(3)専門分野Ⅱ「臨床実習」(急性・慢性・老年・母性・小児・精神)16単位のうち10単位			
※論文集と抄録集を作成し文学で保管する。			
教科書			
担当教員より指示する。			
参考書			
担当教員より指示する。			
研究室/オフィスアワー			
ガイダンス時に知らせる。			
授業展開及び授業計画表			
回数	字修内容	予習・復習・課題等	担当
1	第1回～2回:卒業研究に関する全体ガイダンス①②	研究テーマに関する文献検索を行う。	全教員
2	第3回～4回:研究疑問や関心のある現象の明確化①②	研究テーマに関する文献検索を行う。	全教員
3	第5回～6回:研究テーマの検討と絞り込み①②	研究テーマに関する文献検索を行い、研究テーマを絞り込む。	全教員
4	第7回～8回:研究テーマに関連した文献検討①②	研究テーマに関する論文をクリティークする。	全教員
5	第9回～10回:研究テーマに関連した文献検討③④	研究テーマに関する論文をクリティークする。	全教員
6	第11回～12回:研究テーマに関連した文献検討⑤⑥	研究テーマに関する論文をクリティークする。	全教員

7	第13回～14回:文献様式のまとめ、研究の方向性の検討①②	研究テーマに関する論文のレビューと研究方法について発表する。	全教員
8	第15回～16回:研究方法の検討:デザインの選択①②	研究方法について発表する。	全教員
9	第17回～18回:研究方法の検討:データの収集・分析方法①②	研究方法について発表する。	全教員
10	第19回～20回:研究方法の検討:倫理的配慮①②	事例研究の場合の倫理的配慮について発表する。	全教員
11	第21回～22回:研究計画書の作成①②	研究計画書を作成し随時発表する。	担当教員
12	第23回～24回:研究計画書の作成③④	研究計画書を作成し随時発表する。	担当教員
13	第25回～26回:研究計画書の作成⑤⑥	研究計画書を作成し随時発表する。事例研究の場合、研究倫理委員会に申請書を提出する。	担当教員
14	第27回～28回:研究計画書の作成⑦⑧	研究計画書を作成し随時発表する。	担当教員
15	第29回～30回:研究計画書の発表①②	データ収集を行い、必要時図表としてまとめる。	全教員
16	第31回～32回:データ収集/実施①②	データ収集を行い、必要時図表としてまとめる。	担当教員
17	第33回～34回:データ収集/実施③④	データ収集を行い、必要時図表としてまとめる。	担当教員
18	第35回～36回:データ収集/実施⑤⑥	データ収集を行い、必要時図表としてまとめる。	担当教員
19	第37回～38回:データ分析/実施①②	データ分析を行い、必要時図表としてまとめる。	担当教員
20	第39回～40回:データ分析/実施③④	データ分析を行い、必要時図表としてまとめる。	担当教員
21	第41回～42回:研究論文の作成:結果の記述①②	分析した結果を文章化して結果としてまとめる。	担当教員
22	第43回～44回:研究論文の作成:結果の記述③④	分析した結果を文章化して結果としてまとめる。	担当教員
23	第45回～46回:研究結果の考察①②	結果をもとに考察する。	担当教員
24	第47回～48回:研究結果の考察③④	結果をもとに考察する。	担当教員
25	第49回～50回:研究論文の作成:考察①②	考察を文章化する。	担当教員
26	第51回～52回:研究論文の作成:考察③④	考察を文章化する。	担当教員
27	第53回～54回:研究論文の作成:考察・結論⑤⑥	考察から結論を文章化する。	担当教員
28	第55回～56回:研究論文の抄録の作成①②	所定の書式に基づき抄録を作成する。	担当教員
29	第57回～58回:研究論文の発表の準備①②	パワーポイントなどを作成し発表準備を行う。	担当教員
30	第59回～60回:研究論文の発表①②	論文の発表を行う。	全教員
成績評価方法と基準			割合
1.論文とプレゼンテーション、活動のプロセス全体を総合して次の観点で評価する。 評価基準(ルーブリック)を活用する) ①テーマの有用性 ②方法の妥当性 ③解析の確実性 ④考察の客観性 ⑤論旨の一貫性 ⑥プレゼンテーション ⑦ゼミへの主体的参加 ⑧主張、今後の発展性 2.4/5以上の出席が必要			1.100%

授業科目名	卒業研究(看護):【個性】成人看護領域 (Graduation Research)		
担当教員	藤本 陽子	担当教員	藤本 陽子、澤田 悦子、高木 みどり
科目ナンバリング	GR504	科目区分	統合分野 DP①④
配当年次	4	開講学期	前期 曜日・時限 後期(月曜2限)
授業形態	演習	単位数	2
授業概要	<p>①必修・選択</p> <p>これまで既修得知識や演習、随地実習等の経験を想起し、3年前期に学習した「看護研究」の知識や技術を活用し、各自が立てた研究計画をもとにデータ収集、解析、考察を深め、卒業論文としてその成果をまとめる。なお、本科目は「主題実習Ⅰ」と関連させて取り組むことができる。</p> <p>研究テーマは以下の①～④から選択する。研究方法は事例研究または文献研究とする。</p> <p>①慢性期・回復期・終末期にある患者および家族への看護 ②多職種連携・地域連携における看護実践 ③看護マネジメントにおける看護実践 ④主題実習Ⅰに関連したテーマであるいは、成人看護学実習Ⅱで受け持った事例を振り返りケーススタディを行う</p> <p>到達目標</p> <p>1. 研究倫理について理解することができる。 2. 既修得知識や随地実習経験の中から興味を持ったことについてテーマを絞ることができる。 3. 先行研究について文献検索し、そのテーマに取り組む意味を理解することができる。 4. テーマに対する実現可能な研究計画を立てることができる。 5. 計画に沿って研究を実行することができる。 6. 研究のデータを集計、解析し結果を出すことができる。 7. 結果を分析し、考察することができる。 8. 一連の過程を論文としてまとめる(プレゼンテーションを含む)ことができる。 9. セミ活動において主体的に参加し、コミュニケーションをとることができる。</p> <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>《先修条件》 卒業研究は次の要件を充足しなければ履修できない。なお、卒業研究のテーマに関連する領域の必修科目(在宅看護論実習を除く)を修得しておくこと。 (1) 教養科目群の必修科目14.単位のうち10.単位 (2) 専門基礎分野のうち、「人体の構造と機能」及び「疾病の成り立ちと回復の促進」の中の必修科目14.単位 (3) 専門分野Ⅱ「随地実習」(急性・慢性・老年・母性・小児・精神)16.単位のうち10.単位 ※論文集と抄録集を作成し大学で保管する。</p> <p>教科書</p> <p>担当教員より指示する。</p> <p>参考書</p> <p>担当教員より指示する。</p> <p>研究室/オフィスアワー</p> <p>ガイダンス時に知らせる。</p> <p>授業展開及び授業計画表</p>		
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	第1回～2回:卒業研究に関する全体ガイダンス①②	看護研究に関する資料を拝見する	
2	第3回～4回:研究疑問や関心のある現象の明確化①②	随地実習や授業の中で感じたことについて考えておく 研究疑問や関心のある現象の明確化	
3	第5回～6回:研究テーマの検討と絞り込み①②	研究疑問や関心のある現象を明確にし、研究テーマの検討と絞り込みしておく	
4	第7回～8回:研究テーマに関連した文献検討①②	自分のテーマに沿って文献が検索できる 文献をグループでクリティークする 30.文献を読み解く	
5	第9回～10回:研究テーマに関連した文献検討③④	自分のテーマに沿って文献が検索できる 文献をグループでクリティークする 30.文献を読み解く	
6	第11回～12回:研究テーマに関連した文献検討⑤⑥	自分のテーマに沿って文献が検索できる 文献をグループでクリティークする	

7	第13回～14回:文献検討のまとめ、研究の方向性の検討①②	30 文献を読み解く 計画した内容をもとに、研究の方向性を具体的に考える 倫理に関する資料を作成する 倫理的配慮、研究に関する説明書、同意書を作成し次回に提出する データ収集・分析方法	
8	第15回～16回:研究方法の検討:デザイン①②	倫理的配慮、研究に関する説明書、同意書を完成し次回に提出する 臨床地で研究をする学生は倫理審査の準備を完成させ提出できる準備が必要	
9	第17回～18回:研究方法の検討:データ収集・分析方法①②	研究計画書の作成ができる	
10	第19回～20回:研究方法の検討:倫理的配慮①②	研究計画書の作成ができる	
11	第21回～22回:研究計画書の作成①②	研究計画書の作成ができる	
12	第23回～24回:研究計画書の作成③④	研究計画書の作成ができる	
13	第25回～26回:研究計画書の作成⑤⑥	研究計画書の作成ができる	
14	第27回～28回:研究計画書の作成⑦⑧	完成した研究計画書をグループ内で発表ができる	
15	第29回～30回:研究計画書の発表①②	個別指導 データ収集が実施できる	
16	第31回～32回:データ収集/実施①②	個別指導 データ収集が実施できる	
17	第33回～34回:データ収集/実施③④	個別指導 データ収集が実施できる	
18	第35回～36回:データ収集/実施⑤⑥	個別指導 データ収集が実施できる	
19	第37回～38回:データ収集/実施①②	個別指導 データ分析:実施できる	
20	第39回～40回:データ分析/実施③④	個別指導 データ分析:実施できる	
21	第41回～42回:研究論文の作成:結果の記述①②	個別指導 研究論文の作成:結果の記述ができる	
22	第43回～44回:研究論文の作成:結果の記述③④	個別指導 研究論文の作成:結果の記述ができる	
23	第45回～46回:研究結果の考察①②	個別指導 研究結果の考察ができる	
24	第47回～48回:研究結果の考察③④	個別指導 データ分析:考察ができる	
25	第49回～50回:研究論文の作成:考察①②	個別指導 研究論文の作成:考察ができる	
26	第51回～52回:研究論文の作成:考察③④	個別指導 研究論文の作成:考察ができる	
27	第53回～54回:研究論文の作成:考察・結論⑤⑥	個別指導 研究結果の考察、結論が記述できる	
28	第55回～56回:研究論文の抄録の作成①②	抄録が作成出来る	
29	第57回～58回:研究論文の発表の準備①②	研究論文の準備ができる	
30	第59回～60回:研究論文の発表①②	研究論文の発表ができる	
成績評価方法と基準			割合
1.論文とプレゼンテーション、活動のプロセス全体を総合して次の観点で評価する。 評価基準(ルーブリックを活用する) ①テーマの有用性 ②方法の妥当性 ③解析の確実性 ④考察の客観性 ⑤論旨の一貫性 ⑥プレゼンテーション ⑦ゼミへの主体的参加 ⑧主張、今後の発展性 2.4/5以上の出席が必要			1. 100%

授業科目名	卒業研究(看護)：老年看護領域 (Graduation Research)																																		
主担当教員	南部 登志江	担当教員	南部 登志江、外村 昌子、津崎 勝代																																
科目ナンバリング	GR504	統合分野	ディプロマポリシー 該当項目 DP①④																																
配当年次	4	開講学期	前期 前期(月曜2限)、 後期(月曜2限)																																
授業形態	演習	単位数	2																																
授業概要	<p>これまでの既修得知識や演習・臨地実習等の経験을想起し、3年前期に学修した「看護研究」の知識や技術を活用し、各自が立てた研究計画をもとにデータ収集、解析、考察を深め、卒業論文としてその成果をまとめる。なお、本科目は「主題実習Ⅰ」と関連させて取り組むことができる。</p> <p>研究テーマは以下の①～⑤から選択する</p> <p>①高齢患者を通して、病院や施設・在宅への継続看護、他職種連携のあり方について</p> <p>②主題実習Ⅰに関連したテーマ</p> <p>③認知症高齢者、不常用シニア高齢者、骨折高齢患者、感覚器障害高齢患者、終末期高齢患者などの到達目標</p>																																		
到達目標	<p>1. 研究倫理について理解することができる。</p> <p>2. 既修得知識や臨地実習経験の中から興味を持ったことについてテーマを絞ることができる。</p> <p>3. 先行研究について文献検索し、そのテーマに取り組む意味を理解することができる。</p> <p>4. テーマに対する実現可能な研究計画を立てることができる。</p> <p>5. 計画に沿って研究を実行することができる。</p> <p>6. 研究のデータを集計、解析し結果を出すことができる。</p> <p>7. 結果を分析し、考察することができる。</p> <p>8. 一連の過程を論文としてまとめる(プレゼンテーションを含む)ことができる。</p> <p>9. セミ活動において主体的に参加し、コミュニケーションをとることができる。</p>																																		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	<p>《先修条件》 卒業研究は次の要件を充足しなければ履修できない。なお、卒業研究のテーマに関連する領域の必修科目(在宅看護論実習を除く)を修得しておくこと。 (1) 専攻科目群の必修科目 14 単位のうち 10 単位 (2) 専門基礎分野のうち、「人体の構造と機能」及び「疾病の成り立ちと回復の促進」の中の必修科目 14 単位 (3) 専門分野Ⅱ「臨地実習Ⅰ」(急性・慢性・老年・母性・小児・精神)16 単位のうち 10 単位 ※論文集と抄録集を作成し大学で保管する。</p>																																		
教科書	担当教員より指示する。																																		
参考書	担当教員より指示する。																																		
研究室/オフィスアワー	担当教員より指示する。																																		
ガイダンス時知らせ	ガイダンス時に知らせる。																																		
授業展開及び授業計画表	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>学修内容</th> <th>予習・復習・課題等</th> <th>担当</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>第1回～2回:卒業研究に関する全体ガイダンス①②</td> <td>第1回:シラバスを読んでくる 第2回:課題:学生各自で先行研究論文を検索してノートに記載し提出する</td> <td>上西 外村 津崎</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>第3回～4回:研究疑問や関心の明確化①②</td> <td>研究疑問や関心の明確化①②</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>第5回～6回:研究テーマの検討と絞り込み①②</td> <td>第5回～6回:各自で研究テーマを記載して検討する</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>第7回～8回:研究テーマに関連した文献検討①②</td> <td>第7回～8回:各自で先行研究の論文を持参して検討する</td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>第9回～10回:文献検討のまとめ、研究の方向性の検討①②</td> <td>先行研究の論文を持参して検討する</td> <td></td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>第11回～12回:研究方法の検討:デザイン①②</td> <td>第11回:研究方法を検討する</td> <td></td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>第13回～14回:研究方法の検討:研究場所・参加者・参加者の募り方①②</td> <td>第13回:研究方法を検討する</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当	1	第1回～2回:卒業研究に関する全体ガイダンス①②	第1回:シラバスを読んでくる 第2回:課題:学生各自で先行研究論文を検索してノートに記載し提出する	上西 外村 津崎	2	第3回～4回:研究疑問や関心の明確化①②	研究疑問や関心の明確化①②		3	第5回～6回:研究テーマの検討と絞り込み①②	第5回～6回:各自で研究テーマを記載して検討する		4	第7回～8回:研究テーマに関連した文献検討①②	第7回～8回:各自で先行研究の論文を持参して検討する		5	第9回～10回:文献検討のまとめ、研究の方向性の検討①②	先行研究の論文を持参して検討する		6	第11回～12回:研究方法の検討:デザイン①②	第11回:研究方法を検討する		7	第13回～14回:研究方法の検討:研究場所・参加者・参加者の募り方①②	第13回:研究方法を検討する	
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当																																
1	第1回～2回:卒業研究に関する全体ガイダンス①②	第1回:シラバスを読んでくる 第2回:課題:学生各自で先行研究論文を検索してノートに記載し提出する	上西 外村 津崎																																
2	第3回～4回:研究疑問や関心の明確化①②	研究疑問や関心の明確化①②																																	
3	第5回～6回:研究テーマの検討と絞り込み①②	第5回～6回:各自で研究テーマを記載して検討する																																	
4	第7回～8回:研究テーマに関連した文献検討①②	第7回～8回:各自で先行研究の論文を持参して検討する																																	
5	第9回～10回:文献検討のまとめ、研究の方向性の検討①②	先行研究の論文を持参して検討する																																	
6	第11回～12回:研究方法の検討:デザイン①②	第11回:研究方法を検討する																																	
7	第13回～14回:研究方法の検討:研究場所・参加者・参加者の募り方①②	第13回:研究方法を検討する																																	

8	第15回:研究方法の検討:データ収集・分析方法 第16回:研究方法の検討:倫理的配慮	第15回:データ収集・分析方法を記載して検討する 第16回:倫理的配慮を記載して検討する	
9	第17回~18回:説明書・同意書・依頼文を作成して検討する 第19回~20回:ケーススタディ学習①② 第21回~22回:水J法学習①②	第17回:説明書・同意書・依頼文を作成して検討する ケーススタディについて看護研究の教科書を読んでおく 第21回:説明後、演習を行う 第22回:成果を発表する	
10	第23回~24回:インタビュー・内容分析学習①②	インタビュー方法、内容分析について調べておく	
11	第25回~26回:研究計画書の作成①② 第27回~28回:研究計画書の作成③④	指導された部分を修正し、授業に出席する。 指導された部分を修正し、授業に出席する。	
12	第29回~30回:研究計画書の作成⑤⑥ 第31回~32回:研究フィールド・参加者の募集①②	指導された部分を修正し、授業に出席する。 指導教員の指導の下で進めていく	
13	第33回~34回:データ収集:観察法、面接法、質問紙等の検討①② 第35回~36回:データ収集/実施①②	指導教員の指導の下で進めていく	
14	第37回~38回:データ収集/実施③④ 第39回~40回:データ収集/実施⑤⑥		
15	第41回~42回:データ分析:データの整理・分析方法の検討①② 第43回~44回:データ分析:実施①②		
16	第45回~46回:データ分析:実施③④ 第47回~48回:データ分析:実施⑤⑥		
17	第49回~50回:研究結果の考察①② 第51回~52回:研究論文の作成:結果の記述①②		
18	第53回~54回:研究論文の作成:考察①② 第55回:研究論文の作成:結論 第56回:研究論文の作成:抄録の作成① 第57回:研究論文の作成:抄録の作成② 第58回:研究論文の作成:発表の準備① 第59回~60回:研究論文の作成:発表の準備②③		
19	成績評価方法と基準	割合	
20	1. 論文とプレゼンテーション、活動のプロセス全体を総合して次の視点で評価する。 評価基準(ルーブリックを活用する) ①テーマの有用性 ②方法の妥当性 ③解析の確実性 ④考察の客観性 ⑤論旨の一貫性 ⑥プレゼンテーション ⑦ゼミへの主体的参加 ⑧主張、今後の発展性 2. 4/5以上の出席が必要		1. 100%

授業科目名	卒業研究(看護):母性看護領域 (Graduation Research)		
主担当教員	橋本 富子	担当教員	橋本 富子、冨貴 美里、樋口 優子
科目ナンバリング	GR504	科目区分	統合分野
配当年次	4	開講学期	前期 後期(月曜2限)、 後期(月曜2限)
授業形態	演習	単位数	2
授業概要	<p>①ハイスコア女性性の妊娠、出産、育児に関するテーマ ②地域連携や他職種連携、および次世代育成支援に関するテーマ ③セクシャルティやジェンダーに関するテーマ ④主眼実習Ⅰの看護実践に関するテーマ ⑤主眼実習Ⅰや母性看護学実習で受け持った事例を振り返るケーススタディ</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 研究倫理について理解することができる。 2. 既修得知識や臨床実習経験の中から興味を持ったことについてテーマを絞ることができる。 3. 先行研究について文献検索し、そのテーマに取り組み意味を理解することができる。 4. テーマに対する実現可能な研究計画を立てることができる。 5. 計画に沿って研究を実行することができる。 6. 研究のデータを集計、解析し結果を出すことができる。 7. 結果を分析し、考察することができる。 8. 一連の過程を論文としてまとめる(プレゼンテーションを含む)ことができる。 9. セミ活動において主体的に参加し、コミュニケーションをとることができる。 <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>《先修条件》 卒業研究は次の要件を充足しなければ履修できない。なお、卒業研究のテーマに関連する領域の必修科目(在宅看護論実習を除く)を修得しておくこと。 (1) 看護科目群の必修科目 14 単位のうち 10 単位 (2) 専門基礎分野のうち、「人間の構造と機能」及び「疾病の成り立ちと回復の促進」の中での必修科目 14 単位 (3) 専門分野Ⅱ「臨床実習Ⅰ(急性・慢性・老年・母性・小児・精神)」16 単位のうち 10 単位 ※論文集と抄録集を作成し大学で保管する。</p> <p>教科書</p> <p>担当教員より指示する。</p> <p>参考書</p> <p>担当教員より指示する。</p> <p>研究室/オフィスアワー</p> <p>ガイダンス時に知らせる。</p> <p>授業展開及び授業計画表</p>		
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	第1回~2回:卒業研究に関する全体ガイダンス①②	既習の看護研究を復習する。	以下、母性看護学教員で担当する
2	第3回~4回:研究の必要性、臨床疑問と研究疑問についての講義①②	第3回:臨床疑問と研究疑問、研究の意義を次回までにレポートとして提出する。 第4回:研究開始から卒業論文提出までの研究スケジュールと学業を立てる。 第5回:再度、文献を検索し、研究テーマに即した関連文献を次回に持参して、内容を教員へ伝え、指導をうける。 第6回:再度、文献を検索し、研究テーマに即した関連文献を次回に持参して、内容を教員へ伝え、指導をうける。研究の背景(案)を作成。	
3	第5回~6回:文献検索①②		

4	第7回:文献検索③ 第8回:研究疑問と研究テーマの決定①	第7回:再度、文献を精査し、研究テーマに即した関連文献を次回に持参して、内容を教員へ伝え、指導を受ける。研究の背景(案)を作成。 第8回:研究テーマに合わせた研究方法を、先行研究の内容を整理して決める。 第9回:研究テーマに合わせた研究方法を、先行研究の内容を整理して決める。 第10回:研究方法についての書籍を調べ読み、教員に質問し、研究方法の妥当性を吟味する。 第11回:研究手法についての書籍を調べ読み、教員に質問し、研究方法の妥当性を吟味する。 第13回:14回:実現可能性も含め、研究方法を教員と相談して決める。 第15回:事前に記述すべき項目を教員に確認し、研究計画書を作成する。 第16回:作成した研究計画書を教員から指導を受け、修正する。	第7回:再度、文献を精査し、研究テーマに即した関連文献を次回に持参して、内容を教員へ伝え、指導を受ける。研究の背景(案)を作成。 第8回:研究テーマに合わせた研究方法を、先行研究の内容を整理して決める。 第9回:研究テーマに合わせた研究方法を、先行研究の内容を整理して決める。 第10回:研究方法についての書籍を調べ読み、教員に質問し、研究方法の妥当性を吟味する。 第11回:研究手法についての書籍を調べ読み、教員に質問し、研究方法の妥当性を吟味する。 第13回:14回:実現可能性も含め、研究方法を教員と相談して決める。 第15回:事前に記述すべき項目を教員に確認し、研究計画書を作成する。 第16回:作成した研究計画書を教員から指導を受け、修正する。
5	第9回:研究疑問と研究テーマの決定② 第10回:計画した研究方法の理解①	第17回:研究倫理に即した内容であるかを再確認し、修正し、申請手続きを行う。 第18回:自らの研究結果を予測し、発表内容を構想する。 第19回:自らの研究結果を予測し、発表内容を構想する。 第20回:研究実施にむけた準備を教員の指導をうけながら行う。研究スケジュールを修正する。 第21回:研究実施にむけた準備を教員の指導をうけながら行う。研究スケジュールを修正する。 第22回:教員に相談し、調査の準備・実施を行う。 第23回:24回:調査の実施②③	第17回:研究倫理に即した内容であるかを再確認し、修正し、申請手続きを行う。 第18回:自らの研究結果を予測し、発表内容を構想する。 第19回:自らの研究結果を予測し、発表内容を構想する。 第20回:研究実施にむけた準備を教員の指導をうけながら行う。研究スケジュールを修正する。 第21回:研究実施にむけた準備を教員の指導をうけながら行う。研究スケジュールを修正する。 第22回:教員に相談し、調査の準備・実施を行う。 第23回:24回:調査の実施②③
6	第11回:研究手法の理解②③	第19回:研究の発表準備とスライド作成についての講義② 第20回:研究実施の準備①	第19回:研究の発表準備とスライド作成についての講義② 第20回:研究実施の準備①
7	第13回:14回:計画した研究方法の決定①②	第25回:26回:調査の実施④⑤ 第27回:28回:調査の実施⑥⑦	第25回:26回:調査の実施④⑤ 第27回:28回:調査の実施⑥⑦
8	第15回:16回:研究計画書の作成①②	第29回:30回:調査の実施⑧⑨ 第31回:32回:調査の実施⑩⑪ 第33回:34回:調査の実施⑫⑬ 第35回:36回:データの整理①② 第37回:38回:分析・解析①②	第29回:30回:調査の実施⑧⑨ 第31回:32回:調査の実施⑩⑪ 第33回:34回:調査の実施⑫⑬ 第35回:36回:データを整理し、教員に指導を仰ぐ。 第37回:38回:データを整理し、教員に指導を仰ぐ。
9	第17回:研究倫理の申請 第18回:研究の発表準備とスライド作成についての講義①	第39回:40回:分析・解析③④ 第41回:42回:卒業研究論文の作成 研究方法①② 第43回:44回:卒業研究論文の作成 研究方法③④ 第45回:46回:卒業研究論文の作成 結果①② 第47回:48回:卒業研究論文の作成 結果③④ 第49回:50回:卒業研究論文の作成 考察・結論①② 第51回:52回:卒業研究論文の作成 考察・結論③④ 第53回:54回:卒業研究論文の作成 背景①② 第55回:56回:卒業研究論文の作成 背景③④ 第57回:58回:卒業研究論文の作成 抄録①②	第39回:40回:分析・解析③④ 第41回:42回:卒業研究論文の作成 研究方法①② 第43回:44回:卒業研究論文の作成 研究方法③④ 第45回:46回:卒業研究論文の作成 結果①② 第47回:48回:卒業研究論文の作成 結果③④ 第49回:50回:卒業研究論文の作成 考察・結論①② 第51回:52回:卒業研究論文の作成 考察・結論③④ 第53回:54回:卒業研究論文の作成 背景①② 第55回:56回:卒業研究論文の作成 背景③④ 第57回:58回:卒業研究論文の作成 抄録①②
10	第19回:研究の発表準備とスライド作成についての講義② 第20回:研究実施の準備①	第59回:研究論文の作成・発表の準備① 第60回:研究論文の作成・発表	第59回:研究論文の作成・発表の準備① 第60回:研究論文の作成・発表

成績評価方法と基準	評価を受ける。	割合
1. 論文とプレゼンテーション、活動のプロセス全体を総合して次の観点で評価する。 ① プレゼンテーションの有用性 ② 方法の妥当性 ③ 解析の確実性 ④ 考察の客観性 ⑤ 論旨の一貫性 ⑥ プレゼンテーション ⑦ セミへの主体的参加 ⑧ 主張、今後の発展性 2. 4/5 以上の出席が必要		卒業研究の評価表に基づく。

卒業研究(看護)・小児看護領域 (Graduation Research)			
授業科目名	黒岩 志紀	担当教員	黒岩 志紀、徳島 佐由美、安井 渚
主担当教員	黒岩 志紀	ディプロマポリシー 該当項目	DP①④
科目ナンバリング	GR504	科目区分	統合分野
配当年次	4	開講学期	前期 後期(月曜2限)
授業形態	演習	単位数	2 必修・選択 必修
授業概要 これまでの既修得知識や演習、臨地実習等の経験を超越し、3年前期に学修した「看護研究」の知識や技術を活用し、各自が立てた研究計画をもとにデータ収集、解析、考察を深め、卒業論文としてその成果をまとめる。なお、本科目は「主題実習Ⅰ」と関連させて取り組むことができる。 研究テーマは小児看護学全般からテーマを設定する			
到達目標 1. 研究倫理について理解することができる。 2. 既修得知識や臨地実習経験の中から興味を持ったことについてテーマを設定することができる。 3. 先行研究について文献検索し、そのテーマに取り組み意味を理解することができる。 4. テーマに対する実証可能な研究計画を立案することができる。 5. 計画に沿って研究を実行することができる。 6. 研究のデータを集計、解析し結果を出すことができる。 7. 結果を分析し、考察することができる。 8. 一連の過程を論文としてまとめる(プレゼンテーションを含む)ことができる。 9. セミ活動において主体的に参加し、コミュニケーションをとることができる。 履修上の注意(学生へのメッセージ) ≪先修条件≫ 卒業研究は次の要件を充足しなければ履修できない。なお、卒業研究のテーマに関連する領域の必修科目(在宅看護論実習を除く)を修得しておくこと。 (1) 教養科目群の必修科目 14 単位のうち 10 単位 (2) 専門基礎分野のうち、「人体の構造と機能」及び「疾病の成り立ちと回復の促進」の中の必修科目 14 単位 (3) 専門分野Ⅱ「臨地実習」(急性・慢性・老年・母性・小児・精神) 16 単位のうち 10 単位 ※論文集と抄録集を作成し大学で保管する。			
教科書 担当教員より指示する。			
参考書 担当教員より指示する。			
研究室/オフィスアワー ガイダンス時に知らせる。			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	第 1 回～2 回: 卒業研究に関する全体ガイダンス①②	第 1 回～2 回: 3 年次に履修した「看護研究」の復習	
2	第 3 回～4 回: 研究疑問や関心のある現象の明確化①②	以降は担当教員からの指示による	
3	第 5 回～6 回: 研究テーマの検討と絞り込み①②		
4	第 7 回～8 回: 研究テーマに関連した文献検討①②		
5	第 9 回～10 回: 研究テーマに関連した文献検討③④		
6	第 11 回～12 回: 研究テーマに関連した文献検討⑤⑥		
7	第 13 回～14 回: 研究テーマに関連した文献検討⑦⑧		
8	第 15 回～16 回: 研究方法の検討: デザインの選択①②		
9	第 17 回～18 回: 研究方法の検討: 研究場所・参加者・参加者の募り方①②		

10	第 19 回～20 回: 研究方法の検討: データ収集・分析方法①②		
11	第 21 回～22 回: 研究方法の検討: 倫理的配慮①②		
12	第 23 回～24 回: 研究計画書の作成①②		
13	第 25 回～26 回: 研究計画書の作成③④		
14	第 27 回～28 回: 研究デザインに応じた研究の実践①②		
15	第 29 回～30 回: 研究デザインに応じた研究の実践③④		
16	第 31 回～32 回: 研究デザインに応じた研究の実践⑤⑥		
17	第 33 回～34 回: 研究デザインに応じた研究の実践⑦⑧		
18	第 35 回～36 回: データ整理・分析①②		
19	第 37 回～38 回: データ整理・分析③④		
20	第 39 回～40 回: データ整理・分析⑤⑥		
21	第 41 回～42 回: 結果の考察①②		
22	第 43 回～44 回: 結果の考察③④		
23	第 45 回～46 回: 研究論文の作成①②		
24	第 47 回～48 回: 研究論文の作成③④		
25	第 49 回～50 回: 研究論文の作成⑤⑥		
26	第 51 回～52 回: 研究論文の作成⑦⑧		
27	第 53 回～54 回: 研究論文の作成: 抄録の作成①②		
28	第 55 回～56 回: 発表準備①②		
29	第 57 回～58 回: 研究発表①②		
30	第 59 回～60 回: 研究発表③④		
成績評価方法と基準 1. 論文とプレゼンテーション、活動のプロセス全体を総合して次の視点で評価する。 評価基準(ルーブリックを活用する) ① テーマの有用性 ② 方法の妥当性 ③ 解析の確実性 ④ 考察の客観性 ⑤ 論旨の一貫性 ⑥ プレゼンテーション ⑦ セミへの主体的参加 ⑧ 主張、今後の発展性 2. 4/5 以上の出席が必要			
			割合
			1. 100%

卒業研究(看護・精神看護領域 (Graduation Research))																																			
授業科目名	卒業研究(看護・精神看護領域)	担当教員	担当教員																																
主担当教員	蓮池 光人	蓮池 光人、原 邦子、矢野 秀蔵																																	
科目ナンバリング	GR504	統合分野	DP①④																																
配当年次	4	開講学期	前期 後期(月曜2限) 後期(月曜2限)																																
授業形態	演習	単位数	2																																
授業概要	<p>これまでの既修得知識や演習、臨床実習等の経験を想起し、3年前期に学修した「看護研究」の知識や技術を活用し、各自が立てた研究計画をもとにデータ収集、解析、考察を深め、卒業論文としての成果をまとめる。なお、本科目は「主題実習Ⅰ」と関連させて取り組むことができる。</p> <p>主な研究テーマは以下の①～⑤を基本とし、①～③の場合、主題実習Ⅰ(精神)を選択していることが望ましい。</p> <p>①精神科病棟での看護実践にかかわる内容 ②地域精神保健医療福祉社にかかわる内容 ③精神保健医療福祉団体の専門性、多職種連携にかかわる内容 ④当事者・家族の体験にかかわる内容 ⑤メンタルヘルスにかかわる内容</p> <p>到達目標</p> <p>1. 研究倫理について理解することができる。 2. 既修得知識や臨床実習経験の中から興味を持ったことについてテーマを絞ることができる。 3. 先行研究について文献検索し、そのテーマに取り組む意味を理解することができる。 4. テーマに対する実現可能な研究計画を立案することができる。 5. 計画に沿って研究を実行することができる。 6. 研究のテーマを整理、解析し結果を出すことができる。 7. 結果を分析し、考察することができる。 8. 一連の過程を論文としてまとめる(プレゼンテーションを含む)ことができる。 9. ゼミ活動において主体的に参加し、コミュニケーションをとることができる。</p> <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>《必修条件》 卒業研究は次の要件を充足しなければ履修できない。なお、卒業研究のテーマに関連する領域の必修科目(在宅看護論実習を除く)を修得しておくこと。 (1)教養科目群の必修科目14単位のうち10単位 (2)専門基礎分野のうち、「人体の構造と機能」及び「疾病の成り立ちと回復の促進」(中の必修科目)14単位 (3)専門分野Ⅱ「臨床実習」(急性・慢性・老年・母性・小児・精神)16単位のうち10単位 ※論文と抄録集を作成し大学で保管する。</p> <p>教科書</p> <p>担当教員より指示する。</p> <p>参考書</p> <p>担当教員より指示する。</p> <p>研究室/オフィスアワー</p> <p>ガイダンス時に知らせる。</p> <p>授業履修期及び授業計画表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>学修内容</th> <th>予習・復習、課題等</th> <th>担当</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>第1回～2回:卒業研究に関する全体ガイダンス①②</td> <td>都度指示する</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>第3回～4回:研究疑問や関心のある現象の明確化①②</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>第5回～6回:研究テーマの検討と絞り込み①②</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>第7回～8回:研究テーマに関連した文献検討①</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>第9回～10回:研究テーマに関連した文献検討③</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>第11回～12回:研究テーマに関連した文献検討⑤⑥</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>第13回～14回:文献検討のまとめ・研究の方向性の検討①②</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			回数	学修内容	予習・復習、課題等	担当	1	第1回～2回:卒業研究に関する全体ガイダンス①②	都度指示する		2	第3回～4回:研究疑問や関心のある現象の明確化①②			3	第5回～6回:研究テーマの検討と絞り込み①②			4	第7回～8回:研究テーマに関連した文献検討①			5	第9回～10回:研究テーマに関連した文献検討③			6	第11回～12回:研究テーマに関連した文献検討⑤⑥			7	第13回～14回:文献検討のまとめ・研究の方向性の検討①②		
回数	学修内容	予習・復習、課題等	担当																																
1	第1回～2回:卒業研究に関する全体ガイダンス①②	都度指示する																																	
2	第3回～4回:研究疑問や関心のある現象の明確化①②																																		
3	第5回～6回:研究テーマの検討と絞り込み①②																																		
4	第7回～8回:研究テーマに関連した文献検討①																																		
5	第9回～10回:研究テーマに関連した文献検討③																																		
6	第11回～12回:研究テーマに関連した文献検討⑤⑥																																		
7	第13回～14回:文献検討のまとめ・研究の方向性の検討①②																																		

8	第15回～16回:研究方法の検討:デザインの選択①②		
9	第17回～18回:研究方法の検討:研究場所・参加者・参加者の選り方①②		
10	第19回～20回:研究方法の検討:データ収集・分析方法①②		
11	第21回～22回:研究方法の検討:倫理的配慮①②		
12	第23回～24回:研究計画書の作成①②		
13	第25回～26回:研究計画書の作成③④		
14	第27回～28回:研究計画書の作成⑤⑥		
15	第29回～30回:研究計画書の作成⑦⑧		
16	第31回～32回:研究フィールド:参加者の募集①②		
17	第33回～34回:データ収集:観察法・面接法・質問紙等の検討①②		
18	第35回～36回:データ収集/実施①②		
19	第37回～38回:データ収集/実施③④		
20	第39回～40回:データ収集/実施⑤⑥		
21	第41回～42回:データ分析:データの整理・分析方法の検討①②		
22	第43回～44回:データ分析:実施①②		
23	第45回～46回:データ分析:実施③④		
24	第47回～48回:データ分析:実施⑤⑥		
25	第49回～50回:研究結果の考察①②		
26	第51回～52回:研究結果の考察③④		
27	第53回～54回:研究論文の作成:結果の記述①②		
28	第55回～56回:研究論文の作成:考察①②		
29	第57回～58回:研究論文の作成:抄録の作成①②		
30	第59回～60回:研究論文の作成:発表の準備①②		
成績評価方法と基準			
1.論文とプレゼンテーション、活動のプロセス全体を総合して次の視点で評価する。 評価基準(ルーブリックを活用する) ①テーマの有用性 ②方法の妥当性 ③解析の確実性 ④考察の客観性 ⑤論旨の一貫性 ⑥プレゼンテーション ⑦ゼミへの主体的参加 ⑧主張、今後の発展性 2.4/5以上の出席が必要			
割合			
1.100%			

卒業研究(看護・公衆衛生看護領域 (Graduation Research))																											
授業科目名	大巻 悦子	担当教員	大巻 悦子、関口 敏彰、富田 久子																								
主担当教員	GR504	科目区分	ディプロマポリシー 該当項目 DP①④																								
科目ナンバリング	4	開講学期	前期 後期(月曜2限)																								
配当年次	演習	単位数	2																								
授業形態	演習	必修・選択	必修																								
<p>授業概要</p> <p>これまでの既修得知識や演習、臨地実習等の経験を活かし、3年前期に学修した「看護研究」の知識や技術を活用し、各自が立てた研究計画をもとにデータ収集、解析、考察を深め、卒業論文としてその成果をまとめる。なお、本科目は「主題実習Ⅰ」と関連させて取り組むことができる。</p> <p>研究テーマは以下の①～⑤から選択する</p> <p>①地域で生活する人が抱える健康課題 ②予防に拠点をあいた支援のあり方(対象別保健活動) ③健康教育に関わる内容 ④公開された保健データをを用いた分析 ⑤その他</p>																											
<p>到達目標</p> <p>1. 研究倫理について理解することができる。 2. 既修得知識や臨地実習経験の中から興味を持ったことについてテーマを絞ることができる。 3. 先行研究について文献検索し、そのテーマに取り組み意味を理解することができる。 4. テーマに対する実証可能な研究計画を立案することができる。 5. 計画に沿って研究を実行することができる。 6. 研究のデータを集計、解析し結果を出すことができる。 7. 結果を分析し、考察することができる。 8. 一連の過程を論文としてまとめる(プレゼンテーションを含む)ことができる。 9. ゼミ活動において主体的に参加し、コミュニケーションをとることができる。 履修上の注意(学生へのメッセージ)</p>																											
<p>《先修条件》 卒業研究は次の要件を充足しなければ履修できない。なお、卒業研究のテーマに関連する領域の必修科目(在宅看護論実習を除く)を修得しておくこと。 (1) 看護科目群の必修科目 14 単位のうち 10 単位 (2) 専門基礎分野のうち、「人体の構造と機能」及び「疾病の成り立ちと回復の促進」の中の必修科目 14 単位 (3) 専門分野Ⅱ「臨地実習Ⅱ(急性・慢性・老年・母性・小児・精神)」16 単位のうち 10 単位 ※論文集と抄録集を作成し大学で保管する。</p>																											
<p>教科書</p> <p>担当教員より指示する。</p> <p>参考書</p> <p>担当教員より指示する。</p> <p>研究室/オフィスアワー</p> <p>ガイダンス時に知らせる。</p>																											
<p>授業展開及び授業計画表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>学修内容</th> <th>予習・復習・課題等</th> <th>担当</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>第 1 回～2 回:卒業研究に関する全体ガイダンス①②</td> <td>自分を取り組みたい研究テーマについて文献や論文を調べ深める。</td> <td>大巻悦子 富田久子 関口敏彰</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>第 3 回～4 回:自身の興味と関心の明確化①②</td> <td>自分を取り組みたい研究テーマについて文献や論文を調べ深める。</td> <td>大巻悦子 富田久子 関口敏彰</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>第 5 回～6 回:自身の興味・関心に関する情報収集①②</td> <td>自分を取り組みたい研究テーマについて文献や論文を調べ深める。</td> <td>大巻悦子 富田久子 関口敏彰</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>第 7 回～8 回:自身の興味・関心に関する情報共有①②</td> <td>自分を取り組みたい研究テーマについて文献や論文を調べ深める。</td> <td>大巻悦子 富田久子 関口敏彰</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>第 9 回～10 回:自身の興味・関心からの研究テーマの検討①②</td> <td>自分を取り組みたい研究テーマについて文献や論文を調べ深める。</td> <td>大巻悦子 富田久子</td> </tr> </tbody> </table>				回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当	1	第 1 回～2 回:卒業研究に関する全体ガイダンス①②	自分を取り組みたい研究テーマについて文献や論文を調べ深める。	大巻悦子 富田久子 関口敏彰	2	第 3 回～4 回:自身の興味と関心の明確化①②	自分を取り組みたい研究テーマについて文献や論文を調べ深める。	大巻悦子 富田久子 関口敏彰	3	第 5 回～6 回:自身の興味・関心に関する情報収集①②	自分を取り組みたい研究テーマについて文献や論文を調べ深める。	大巻悦子 富田久子 関口敏彰	4	第 7 回～8 回:自身の興味・関心に関する情報共有①②	自分を取り組みたい研究テーマについて文献や論文を調べ深める。	大巻悦子 富田久子 関口敏彰	5	第 9 回～10 回:自身の興味・関心からの研究テーマの検討①②	自分を取り組みたい研究テーマについて文献や論文を調べ深める。	大巻悦子 富田久子
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当																								
1	第 1 回～2 回:卒業研究に関する全体ガイダンス①②	自分を取り組みたい研究テーマについて文献や論文を調べ深める。	大巻悦子 富田久子 関口敏彰																								
2	第 3 回～4 回:自身の興味と関心の明確化①②	自分を取り組みたい研究テーマについて文献や論文を調べ深める。	大巻悦子 富田久子 関口敏彰																								
3	第 5 回～6 回:自身の興味・関心に関する情報収集①②	自分を取り組みたい研究テーマについて文献や論文を調べ深める。	大巻悦子 富田久子 関口敏彰																								
4	第 7 回～8 回:自身の興味・関心に関する情報共有①②	自分を取り組みたい研究テーマについて文献や論文を調べ深める。	大巻悦子 富田久子 関口敏彰																								
5	第 9 回～10 回:自身の興味・関心からの研究テーマの検討①②	自分を取り組みたい研究テーマについて文献や論文を調べ深める。	大巻悦子 富田久子																								

6	第 11 回～12 回:興味ある研究テーマに関する文献検索①②	自分を取り組みたい研究テーマについて文献や論文を調べ深める。また、他者との意見交換を行う。	大巻悦子 富田久子 関口敏彰
7	第 13 回～14 回:興味ある研究論文の批判的検討①②	自分を取り組みたい研究テーマについて文献や論文を調べ深める。また、他者との意見交換を行う。	大巻悦子 富田久子 関口敏彰
8	第 15 回～16 回:興味ある研究テーマに関する背景の整理①②	自分を取り組みたい研究テーマについて文献や論文を調べた結果に基づきテーマを明確にする。	大巻悦子 富田久子 関口敏彰
9	第 17 回～18 回:研究テーマと目的の具体化の検討①②	自分を取り組みたい研究テーマについて文献や論文を調べた結果に基づきテーマを明確にする。	大巻悦子 富田久子 関口敏彰
10	第 19 回～20 回:研究デザインの選択①②	研究テーマについて、研究デザイン、対象者、分析の方法、倫理的配慮等を検討する。	大巻悦子 富田久子 関口敏彰
11	第 21 回～22 回:研究対象の明確化①②	研究テーマについて、研究デザイン、対象者、分析の方法、倫理的配慮等を検討する。	大巻悦子 富田久子 関口敏彰
12	第 23 回～24 回:研究調査・分析手法の選択①②	研究テーマについて、研究デザイン、対象者、分析の方法、倫理的配慮等を検討する。	大巻悦子 富田久子 関口敏彰
13	第 25 回～26 回:倫理的配慮の検討①②	研究テーマについて、研究デザイン、対象者、分析の方法、倫理的配慮等を検討する。	大巻悦子 富田久子 関口敏彰
14	第 27 回～28 回:研究計画書の作成①②	研究計画書の作成。	大巻悦子 富田久子 関口敏彰
15	第 29 回～30 回:研究計画書の作成③④	研究計画書の作成。	大巻悦子 富田久子 関口敏彰
16	第 31 回～32 回:研究協力者への依頼①②	研究計画書に基づき必要な作業(インタビュー調査・文献など情報収集)を行う。	大巻悦子 富田久子 関口敏彰
17	第 33 回～34 回:研究データの収集書式(質問紙・情報整理表等)の作成①②	研究計画書に基づき必要な作業(インタビュー調査・文献など情報収集)を行う。	大巻悦子 富田久子 関口敏彰
18	第 35 回～36 回:研究データの収集書式(質問紙・情報整理表等)の作成③④	研究計画書に基づき必要な作業(インタビュー調査・文献など情報収集)を行う。	大巻悦子 富田久子 関口敏彰
19	第 37 回～38 回:研究データの収集①②	研究計画書に基づき必要な作業(インタビュー調査・文献など情報収集)を行う。	大巻悦子 富田久子 関口敏彰
20	第 39 回～40 回:研究データの収集③④	研究計画書に基づき必要な作業(インタビュー調査・文献など情報収集)を行う。	大巻悦子 富田久子 関口敏彰
21	第 41 回～42 回:収集したデータの整理①②	研究計画書に基づき必要な作業(インタビュー調査・文献など情報収集)を行う。	大巻悦子 富田久子 関口敏彰
22	第 43 回～44 回:研究データの分析①②	研究データの分析	大巻悦子 富田久子 関口敏彰
23	第 45 回～46 回:研究データの分析③④	研究データの分析	大巻悦子 富田久子 関口敏彰
24	第 47 回～48 回:分析結果の整理①②	研究データの分析・整理	大巻悦子 富田久子 関口敏彰
25	第 49 回～50 回:研究論文(結果)の作成①②	論文作成	大巻悦子 富田久子 関口敏彰
26	第 51 回～52 回:研究論文(考察)の作成①②	論文作成	大巻悦子 富田久子 関口敏彰
27	第 53 回～54 回:研究論文(考察)の作成③④	論文作成	大巻悦子 富田久子 関口敏彰

28	第 55 回～56 回：研究論文の見直しと修正①②	論文の見直しと修正	大巻悦子 富田久子 関口敏彰
29	第 57 回～58 回：研究抄録の作成①②	研究抄録の作成、本文の完成	大巻悦子 富田久子 関口敏彰
30	第 59 回：研究発表の準備 第 60 回：研究発表の実施	研究発表の準備と実施	大巻悦子 富田久子 関口敏彰
成績評価方法と基準			
1. 論文とプレゼンテーション、活動のプロセス全体を総合して次の視点で評価する。 評価基準(ルーブリックを活用する) ①テーマの有用性 ②方法の妥当性 ③解析の確実性 ④考察の客観性 ⑤論旨の一貫性 ⑥プレゼンテーション ⑦ゼミへの主体的参加 ⑧主張、今後の発展性 2. 4/5 以上の出席が必要			
			割合 1. 100%

授業科目名	卒業研究(看護):安部 (Graduation Research)		
主担当教員	安部 辰夫	担当教員	安部 辰夫
科目ナンバリング	GR504	統合分野	ディプロマポリシー 該当項目
配当年次	4	開講学期	前期(月曜 2 限)、 後期(月曜 2 限)
授業形態	演習	単位数	2
授業概要			
看護に関わる疾患について病理学の視点により解析していく、各自のテーマに沿った文献研究と実験・観察から論考をまとめる。			
到達目標			
研究倫理について理解することができ、研究に取り組むことで疾患に対する認識とそこから得られる看護への展開・応用といった方策を探る。			
履修上の注意(学生へのメッセージ)			
《先修条件》 卒業研究は次の要件を充足しなければ履修できない。なお、卒業研究のテーマに関連する単位の必修科目(在宅看護論実習を除く)を修得しておくこと。 (1) 教養科目群の必修科目 14 単位のうち 10 単位 (2) 専門基礎分野のうち、「人体の構造と機能」及び「疾病の成り立ちと回復の促進」の中の必修科目 14 単位 (3) 専門分野Ⅱ「臨地実習」(急性・慢性・老年・増性・小児・精神)16 単位のうち 10 単位 ※論文集と抄録集を作成し本学で保管する。			
教科書			
研究テーマによるもので未定			
参考書			
研究テーマによるもので未定			
研究室/オフィスアワー			
火曜日から金曜日 車庫 研究室 1			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	卒業研究のテーマを決め、テーマに沿った論文、書籍、公文書の検索、それらの検討、実験系の計画立案、予備実験・本実験、データの解析、論文執筆、プレゼンテーション、討論などを行う。	卒業研究のテーマに沿って各自が自発的に展開してゆく。	
成績評価方法と基準			
4/5 以上の出席を必要とする ①論文とプレゼン ②研究態度 以上を総合的に判断し評価する。			
			割合 ①80% ②20%

授業科目名		卒業研究(看護)在宅看護領域 (Graduation Research)	
主担当教員	清水 容子	担当教員	清水 容子、升田 寿賀子、麻見 公子
科目ナンバリング	GR504	科目区分	ディプロマポリシー 該当項目 DP①④
配当年次	4	開講学期	前期 後期(月曜2限) 後期(月曜2限)
授業形態	演習	単位数	2 必修・選択 必修
授業概要			
これまでの既修得知識や演習、臨地実習等の経験を想起し、3年前期に学修した「看護研究」の知識や技術を活用し、各自が立てた研究計画をもとにデータ収集、解析、考察を深め、卒業論文としてその成果をまとめる。なお、本科目は「主題実習Ⅰ」と関連させて取り組むことができる。			
研究テーマは下記の①～⑤から選択する			
① 主題実習Ⅰに関連したテーマ、あるいは事例検討			
② 訪問看護に関する文献検討			
③ 在宅看護支援のあり方に関連した文献研究			
④ 介護問題に関する文献検討			
⑤ 介護用品の開発と工夫に関する研究			
到達目標			
1. 研究倫理について理解することができる。			
2. 既修得知識や臨地実習経験の中から興味を持ったことについてテーマを設定することができる。			
3. 先行研究について文献検索し、そのテーマに取り組み意味を理解することができる。			
4. テーマに対する実証可能な研究計画を立案することができる。			
5. 計画に沿って研究を実行することができる。			
6. 研究のデータを集計、解析し結果を出すことができる。			
7. 結果を分析し、考察することができる。			
8. 一連の過程を論文としてまとめる(プレゼンテーションを含む)ことができる。			
9. セミ活動において主体的に参加し、コミュニケーションをとることができる。			
履修上の注意(学生へのメッセージ)			
《先修条件》			
卒業研究は次の要件を充足しなければ履修できない。なお、卒業研究のテーマに関連する領域の必修科目(在宅看護論実習を除く)を修得しておくこと。			
(1) 教養科目群の必修科目 14 単位のうち 10 単位			
(2) 専門基礎分野のうち、「人体の構造と機能」及び「疾病の成り立ちと回復の促進」の中の必修科目 14 単位			
(3) 専門分野Ⅱ「臨地実習」(急性・慢性・老年・小児・精神) 16 単位のうち 10 単位			
※ 論文集と抄録集を作成し大学で保管する。			
教科書			
適宜提示する			
参考書			
ナーシング・グラフィック 基礎看護学 看護研究			
研究室/オフィスアワー			
適宜必要時にアポイントを取ること。			
清水研究室/ 336 研究室			
升田研究室/ 634 研究室			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	第 1, 2 回 卒業研究に関する全体ガイダンス①②	看護研究講義内容を想起できるように復習しておく。仮テーマを決め予め文献検索しておく。	
2	第 3, 4 回 研究疑問や関心のある現象の明確化①②	仮テーマを決め予め文献検索をしていく。看護研究講義内容を想起できるように復習しておく。	
3	第 5 回 クリテータ(文献検討)について	文献 5 編以上収集読み込む。文獻リスト作成しておく。	
4	第 6, 8 回 クリテータ(文献検討)の実際①②③ クリテータ執筆	文献検討内容を A4 にまとめる	
5	第 9, 10 回 研究テーマの絞り込み	文献 10 編以上読み込む	
6	第 11, 12 回 研究計画書の書き方①②	看護研究講義内容を想起し研究計画書を作成する。	

7	第 13, 14 回 研究テーマの再検討と絞り込み①②		
8	第 15, 17 回 研究テーマに関連したクリテータ①②③		
9	第 18, 20 回 研究計画書作成		
10	第 21, 22 回 研究計画書発表	研究計画書を作成し発表を行う。ゼミ生で積極的 に意見交換を行う。	
11	第 23, 24 回 研究計画書修正		
12	第 25, 29 回 データ収集		
13	第 30, 34 回 データ集計分析		
14	第 35, 36 回 中間発表会	発表媒体を作成し、この時点での研究の過程を簡 潔に発表する。教員、ゼミ生からのアドバイスを踏 まえ研究を進める。	
15	第 37, 40 回 結果分析し考察する		
16	第 41, 53 回 論文作成		
17	第 54, 55 回 抄録作成		
18	第 56, 57 回 論文発表準備		
19	第 58, 60 回 論文発表会	パワーポイント等の媒体を作成し、研究をまとめ プレゼンテーションを行う。ゼミ生は評面の視点に従 い、活発な意見交換を行う。	
成績評価方法と基準			
1. 論文とプレゼンテーション、活動のプロセス全体を総合して次の視点で評価する。			
評価基準(ルーブリックを活用する)			
① テーマの有用性			
② 方法の妥当性			
③ 解析の確実性			
④ 考察の客観性			
⑤ 論旨の一貫性			
⑥ プレゼンテーション			
⑦ セミへの主体的参加			
⑧ 主張、今後の発展性			
2. 4/5 以上の出席が必要			
割合			
			1 100%

卒業研究(看護)・森 (Graduation Research)			
授業科目名	卒業研究(看護)・森 森 美侑紀	担当教員	森 美侑紀
主担当教員	森 美侑紀	総合分野	森 美侑紀
科目ナンバリング	GRS04	統合分野	ディプロマポリシー 該当項目 DP①④
配当年次	4	開講学期	前期(月曜2限)、 後期(月曜2限)
授業形態	演習	単位数	2
授業概要	必修・選択		
到達目標	指導教員の下で研究テーマを決め、先行研究レビュー、研究計画の作成を行う。計画に基づいてデータ収集を行い、分析・評価を行った上で卒業論文としてまとめる。 当卒業研究では、統合医療におけるアロマセラピーの役割に関する基礎的研究を行う。主として植物精油(アロマセラピー)が生体に及ぼす影響について、実験動物をもちいて組織学的・分子生物学的な研究を行うものとする。		
到達目標	1. 研究倫理について理解することができる。 2. 先行研究について文献検索し、そのテーマに取り組み、意味を理解することができる。 3. テーマに対する実現可能な研究計画を立案することができる。 4. 計画に沿って研究を実行することができる。 5. 研究のデータを集計、解析し結果を出すことができる。 6. 結果を分析し、考察することができる。 7. 一連の過程を論文としてまとめる。		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	<p>《先修条件》 卒業研究は次の要件を充足しなければ履修できない。なお、卒業研究のテーマに関連する領域の必修科目(在宅看護論実習を除く)を修得しておくこと。 (1) 教養科目群の必修科目 14 単位のうち 10 単位 (2) 専門基礎分野のうち、「人体の構造・機能」及び「疾病の成り立ちと回復の促進」中の必修科目 14 単位 (3) 専門分野Ⅱ「臨地実習」(急性・慢性・老年・母性・小児・精神)16 単位のうち 10 単位 ※論文集と抄録集を作成し大学で保管する。</p>		
教科書			
担当教員より指示する。			
参考書			
担当教員より指示する。			
研究室/オフィスアワー			
指導教員の指示に依る。			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	第1回～2回:卒業研究に関する全体ガイダンス ①②	予習:希望する研究テーマについて考えておくこと 復習:指示に従い、具体的なテーマをまとめること	
2	第3回～4回:研究テーマの協議	予習:希望する研究テーマについて考えておくこと 復習:指導教員の指示に従い、具体的なテーマをまとめること	
3	第5回～6回:文献検索	テーマに応じた学術論文の検索・収集を行う	
4	第7回～8回:文献検索	テーマに応じた学術論文の検索・収集を行う	
5	第9回～10回:文献検索	テーマに応じた学術論文の検索・収集を行う	
6	第11回～12回:研究計画書の作成	指導教員の指示に従い、研究計画書を作成する	
7	第13回～14回:研究計画書の作成	指導教員の指示に従い、研究計画書を作成する	
8	第15回～16回:研究計画書の発表・修正	指導教員の指示に従い、研究計画書を作成する	
9	第17回～18回:倫理委員会提出書類の作成	指導教員の指示に従い、倫理委員会提出書類を作成する	
10	第19回～20回:データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して研究データの収集を行う。	

11	第21回～22回:データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して研究データの収集を行う。
12	第23回～24回:データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して研究データの収集を行う。
13	第25回～26回:データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して研究データの収集を行う。
14	第27回～28回:データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して研究データの収集を行う。
15	第29回～30回:データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して研究データの収集を行う。
16	第31回～32回:データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して研究データの収集を行う。
17	第33回～34回:データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して研究データの収集を行う。
18	第35回～36回:データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して研究データの収集を行う。
19	第37回～38回:データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して研究データの収集を行う。
20	第39回～40回:データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して研究データの収集を行う。
21	第41回～42回:データ整理	収集したデータを整理する。
22	第43回～44回:データ整理	収集したデータを整理する。
23	第45回～46回:データ分析	収集したデータを統計等を用いて解析する。
24	第47回～48回:データ分析	収集したデータを統計等を用いて解析する。
25	第49回～50回:研究論文作成	指導教員の指示に従い、卒業論文を作成する。
26	第51回～52回:研究論文作成	指導教員の指示に従い、卒業論文を作成する。
27	第53回～54回:研究論文作成	指導教員の指示に従い、卒業論文を作成する。
28	第55回～56回:研究論文作成	指導教員の指示に従い、卒業論文を作成する。
29	第57回～58回:卒業論文作成	指導教員の指示に従い、卒業論文を作成する。
30	第59回～60回:卒業論文報告書提出	指導教員の指示に従い、卒業論文報告書を作成し提出する。
成績評価方法と基準		
1. 論文と活動のプロセス全体を総合して次の観点で評価する。 評価基準(ルーブリックを活用する) ①テーマの有用性 ②方法の妥当性 ③解析の確実性 ④考察の客観性 ⑤論旨の一貫性 ⑥ゼミへの主体的参加 ⑦主張、今後の発展性 2. 4/5以上の出席が必要		
割合		
1. 100%		

授業科目名		臨床看護学セミナーⅠ(看護) (Clinical Nursing Seminar 1)		
主担当教員	木田 岩男	担当教員	木田 岩男	
科目ナンバリング	PI1505	科目区分	統合分野	DP①
配当年次	4	開講学期	前期	集中講義
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択
授業概要				
形態機能学(解剖生理学)・生化学・微生物学・臨床薬理学・病理学・臨床病態学・看護学で学んだ知識を統合することで、看護の実践に役立つ事柄が出来る方法論の獲得を目標とする。具体的には、呼吸器系・循環器系・消化器系・腎泌尿器系・内分泌代謝系の各系統別に、それぞれ代表的な疾患を取り上げ、その病理病態、治療、看護についてそれぞれの関連性を明らかにし、エビデンスに基づいた看護が出来る能力を修得する。各テーマの説明に先立って、学生に治療や看護の根拠を考えることを通じて、看護の実践における考える力を養う。				
到達目標				
臨床において必要な基礎知識と看護の実践における考える力を習得する。				
履修上の注意(学生へのメッセージ)				
1. 配布資料は教科書の補足資料として学習の参考にする。 2. 講義前には予習として教科書の該当箇所を一読しておく。 3. 講義中に指示するので、教科書の重要箇所にアンダーラインを引き、そこは必ず復習する。 4. ノートを必ずとる。 5. 出席は重視する。				
教科書				
レビューブック2019 出版社:株式会社メディックメディア				
参考書				
クエスチョン・バンク看護師国家試験問題解説2019 第19版 メディックメディア				
研究室/オフィスアワー				
研究室:西棟233研究室 オフィスアワー:月曜5限・水曜5限				
授業展開及び授業計画表				
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当	
1	主な呼吸器疾患	予習:教科書の該当箇所を一読する。		
2	肺の悪性腫瘍	予習:教科書の該当箇所を一読する。		
3	呼吸障害	予習:教科書の該当箇所を一読する。		
4	呼吸不全と呼吸管理	予習:教科書の該当箇所を一読する。		
5	呼吸器系のリハビリテーション	予習:教科書の該当箇所を一読する。		
6	主な循環器疾患	予習:教科書の該当箇所を一読する。		
7	ショックとその対応	予習:教科書の該当箇所を一読する。		
8	循環障害とその管理	予習:教科書の該当箇所を一読する。		
9	心不全の治療と看護	予習:教科書の該当箇所を一読する。		
10	循環器系のリハビリテーション	予習:教科書の該当箇所を一読する。		
11	主な消化器疾患	予習:教科書の該当箇所を一読する。		
12	消化器系の悪性腫瘍	予習:教科書の該当箇所を一読する。		
13	主な消化器症状とそのケア	予習:教科書の該当箇所を一読する。		
14	便秘・イレウスとそのケア	予習:教科書の該当箇所を一読する。		
15	肝障害	予習:教科書の該当箇所を一読する。		

16	疾患別栄養管理	予習:教科書の該当箇所を一読する。		
17	経管栄養法	予習:教科書の該当箇所を一読する。		
18	主な腎・泌尿器疾患	予習:教科書の該当箇所を一読する。		
19	腎不全	予習:教科書の該当箇所を一読する。		
20	排尿障害	予習:教科書の該当箇所を一読する。		
21	排尿管理	予習:教科書の該当箇所を一読する。		
22	透析	予習:教科書の該当箇所を一読する。		
23	輸液管理	予習:教科書の該当箇所を一読する。		
24	主な内分泌疾患	予習:教科書の該当箇所を一読する。		
25	内分泌疾患の治療	予習:教科書の該当箇所を一読する。		
26	糖尿病と血糖コントロール	予習:教科書の該当箇所を一読する。		
27	高脂血症・高尿酸血症の治療	予習:教科書の該当箇所を一読する。		
28	生殖器系の疾患	予習:教科書の該当箇所を一読する。		
29	周産期疾患	予習:教科書の該当箇所を一読する。		
30	老化と老年症候群	予習:教科書の該当箇所を一読する。		
成績評価方法と基準				
①学力評価試験 ②平常点(授業態度・授業への参加姿勢)で評価する。 4/5以上の出席を必要とする				
				割合
				①70% ②30%

授業科目名		臨床看護学セミナーII(看護) (Clinical Nursing Seminar II)	
主担当教員	木田 岩男	担当教員	木田 岩男
科目ナンバリング	IP11506	科目区分	看護学 DP①
配当年次	4	開講学期	後期
授業形態	演習	単位数	2
授業概要	形骸機能学(解剖生理学)・生化学・微生物学・臨床薬理学・病理学・臨床病態学・看護学で学んだ知識を統合することで、看護の実践に役立つ事が出てくる方法論の獲得を目標とする。具体的には、脳神経系・感覚器系・運動器系・造血器系・生体防御系の各系統別に、それぞれ代表的な疾患を取り上げ、その病理病態、治療、看護についてそれぞれの関連性を考え、エビデンスに基づいた看護が出来る能力を修得する。各テーマの説明に先立って、学生に治療や看護の根拠を伝えることを通じて、看護の実践における考える力を養う。		
到達目標	臨床において必要な基礎知識と看護の実践における考える力を習得する。		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	1. 配布資料は教科書の補足資料として学習の参考にする。 2. 講義前には予習として教科書の該当箇所を一読しておく。 3. 講義中に指示するので、教科書の重要箇所アンダーラインを引き、そこは必ず復習する。 4. ノート必ずとる。 5. 出席は重視する。		
教科書	レビューブック2019 出版社:株式会社メディックメディア		
参考書	クエスチョン・バンク看護師国家試験問題解説2019 第19版 メディックメディア		
研究室/オフィスアワー	研究室:西棟233研究室 オフィスアワー:月曜5限・水曜5限		
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	主な脳・神経疾患	予習:教科書の該当箇所を一読する。	
2	脳循環障害	予習:教科書の該当箇所を一読する。	
3	頭蓋内圧亢進症と脳ヘルニア	予習:教科書の該当箇所を一読する。	
4	脳外科手術・放射線療法時のケア	予習:教科書の該当箇所を一読する。	
5	脳・神経疾患の薬物療法	予習:教科書の該当箇所を一読する。	
6	麻痺とそのケア	予習:教科書の該当箇所を一読する。	
7	高次脳機能障害	予習:教科書の該当箇所を一読する。	
8	脳変性疾患	予習:教科書の該当箇所を一読する。	
9	認知症とそのケア	予習:教科書の該当箇所を一読する。	
10	脳卒中患者のリハビリテーション	予習:教科書の該当箇所を一読する。	
11	末梢神経障害	予習:教科書の該当箇所を一読する。	
12	視機能の異常	予習:教科書の該当箇所を一読する。	
13	聴覚機能の異常	予習:教科書の該当箇所を一読する。	
14	嗅覚・味覚異常	予習:教科書の該当箇所を一読する。	
15	主な骨疾患	予習:教科書の該当箇所を一読する。	

16	骨折の治療と合併症予防	予習:教科書の該当箇所を一読する。
17	主な筋疾患	予習:教科書の該当箇所を一読する。
18	筋障害	予習:教科書の該当箇所を一読する。
19	運動器系疾患のリハビリテーション	予習:教科書の該当箇所を一読する。
20	皮膚・体温調節の仕組みとその異常	予習:教科書の該当箇所を一読する。
21	主な血液・造血器疾患	予習:教科書の該当箇所を一読する。
22	貧血	予習:教科書の該当箇所を一読する。
23	白血病とリンパ腫	予習:教科書の該当箇所を一読する。
24	免疫異常	予習:教科書の該当箇所を一読する。
25	自己免疫疾患	予習:教科書の該当箇所を一読する。
26	易感染状態	予習:教科書の該当箇所を一読する。
27	感染症の種類	予習:教科書の該当箇所を一読する。
28	感染症の治療	予習:教科書の該当箇所を一読する。
29	院内感染対策	予習:教科書の該当箇所を一読する。
30	講義全体のまとめと振り返り	予習:教科書の該当箇所を一読する。
成績評価方法と基準		
①学力評価試験 ②平常点(授業態度・授業への参加姿勢)で評価する。 4/5以上の出席を必要とする		
割合 ①70% ②30%		

授業科目名	公衆衛生看護セミナー(看護) (Public Health Nursing Seminar)			
主担当教員	大巻 悦子	担当教員	大巻 悦子、関口 敏彰、富田 久子	
科目ナンバリング	PH507	科目区分	統合分野	DP①
配当年次	4	開講学期	後期	集中講義
授業形態	演習	単位数	1	選択
授業概要	<p>本授業では前期の公衆衛生看護学開講を踏まえて、さらに地域連携に主眼を置き、地域ケアシステムの構築に関する課題を抽出し、事業化・施策化の推進能力を養い、課題は高齢者保健、母子保健、障害者保健等とし、地域における実践事例やフィールドワークの学びから公衆衛生看護の活動方法と特性を明確にし、卒業後の公衆衛生看護実践能力の向上を目指す。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域ケアシステムの事業化・施策化の意義を明確にすることができる。 2. 効果的・効率的なケアの提供を立案し、ケアの公平性と継続性の保証について考えを述べることができる。 3. 地域社会の流動化に伴う社会格差・健康格差についての洞察力を養う。 <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 事前学習に際して、文献等資料を把握すること。 2. グループワーク、発表での積極的な参加 <p>教科書</p> <p>これまでに使用した教科書、参考書、配布資料とし、不足は適宜配布する。</p> <p>参考書</p> <p>白波瀬達也『貧困と地域—あいらん地区から見る高齢化と孤立化—』:中公新書</p>			
研究室/オフィスアワー				
大巻:236 研究室 関口:234 研究室 富田:634 研究室	随時			
授業展開及び授業計画表				
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当	
1	地域ケアシステムに関する検討(公衆衛生看護学実習を踏まえて)	予習:実践事例を抽出する 復習:抽出された課題について情報収集	大巻・富田 関口	
2	地域ケアシステムに関する事例検討(1)	予習:抽出された課題についてまとめ 復習:事例のまとめを行う	大巻・富田 関口	
3	地域ケアシステムに関する事例検討(2)	予習:抽出された課題について情報収集 復習:抽出された課題について情報収集	大巻・富田 関口	
4	公衆衛生看護学実習における健康教育の評価	予習:抽出された課題について情報収集 復習:公衆衛生看護学実習で抽出された地域の課題を確認する。	大巻・富田 関口	
5	健康影響予測評価(Health Impact Assessment: HIA) の実践(1)	予習:抽出された課題についてまとめ 復習:抽出された課題についてまとめ	大巻・富田 関口	
6	健康影響予測評価(Health Impact Assessment: HIA) の実践(2)	予習:公衆衛生看護学実習で抽出された地域の課題をHIAで確認する。 復習:HIAの実践について	大巻・富田 関口	
7	フィールドワークの地域について知る	予習:フィールドワークの地域に関する文献を読む 復習:	大巻・富田 関口	
8	フィールドワークの地域について知る	予習:フィールドワークを行う地域の情報収集のため資料や文献を調べ。 復習:フィールドワークからの情報を整理する	大巻・富田 関口	
9	フィールドワークの地域について知る	予習:フィールドワークを行う地域の情報収集を整理し、フィールドワークの準備を行う。	大巻・富田 関口	
10	フィールドワーク	予習:フィールドワークを行う地域の資料や文献を確認する。 復習:フィールドワークからの情報を整理する	大巻・富田 関口	
11	フィールドワーク	予習:フィールドワークを行う地域の資料や文献を確認する。 復習:フィールドワークからの情報を整理する	大巻・富田 関口	
12	フィールドワーク	予習:フィールドワークを行う地域の資料や文献を確認する。 復習:フィールドワークからの情報を整理する	大巻・富田 関口	

13	フィールドワーク	予習:フィールドワークを行う地域の資料や文献を確認する。 復習:フィールドワークからの情報を整理する	大巻・富田・関口
14	フィールドワークのまとめ(振り返り)	予習:フィールドワークからの疑問について情報収集 復習:疑問から課題を考える	大巻・富田・関口
15	公衆衛生看護の活動方法と特性の発表	予習:発表の資料の検討 復習:レポート作成	大巻・富田・関口
成績評価方法と基準			
割合			
1. 事例検討・HIAでの取り組み			
2. フィールドワークにおける取り組み(事前を含む)			
3. 自己の課題に関するレポート			
4. ルーブリックの評価表を活用する			
4/5以上の出席が必要			

授業科目名	臨床看護技術セミナー(看護) (Clinical Nursing Art Seminar)		
主担当教員	山田 寿賀子	担当教員	吉村 弥須子、村上 生美、藤本 陽子、大巻 悦子、伊津美 孝子、住田 陽子、清水 容子、外村 昌子、関口 敏彰、久木元 由紀子、橋本 富子、蓮池 光人、升田 寿賀子、黒岩 志紀、徳島 佐由美、津崎 勝代、富田 久子、原 邦子、越智 奈穂美、安井 渚、家曾 美里、澤田 悦子、宮本 佳子、高木 みどり、矢野 秀蔵、樋口 優子、南部 登志江、麻見 公子
科目ナンバリング	IP1S08	科目区分	総合分野
配当年次	4	開講学期	後期
授業形態	演習	単位数	1
授業概要	医療現場や地域社会において必要とされる看護ケアを認識し、対象の状況に応じた看護が実践できる能力を養う。これまでに学習した専門的知識と技術、臨床実習での体験を統合し、根拠や倫理観に基づき看護ケアを立案し実践する。事例患者の看護過程と看護技術の演習を通して、自己の看護実践における課題を明確にし、課題解決につなげる方略を学習する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 事例患者のアセスメントが実施できる。 事例患者に必要な看護計画が立案できる。 看護計画に基づき看護技術を実施し評価できる。 自己の看護実践における課題を見出し、課題解決に向けた演習が実施できる。 自己の課題を実践し評価できる。 		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	<ol style="list-style-type: none"> 事例患者の看護に必要な事前学習を行い、個人ワークを行う。 個人ワークができていなければグループワークに参加できない。 グループワークには積極的に参加する。 看護技術演習の際は、臨床実習に準じた身だしなみに整える。 		
教科書	1. これまでの授業や実習などで使用した教科書、参考書 2. 授業資料		
参考書	必要時配布する。		
研究室/オフィスアワー			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	ガイダンス 看護師教育の技術項目と卒業時の到達度の確認 事例の説明	事例患者の看護過程に必要な学習を行い資料を 持参する。 看護師教育の技術項目と卒業時の到達度を確認 し、自己の看護実践における課題を見出す。→課 題レポート①提出。	全教員
2	看護過程 アセスメント 個人ワーク①	事例患者の看護過程に必要な学習を行い資料を 持参する。 患者の課題をアセスメントする。	全教員
3	看護過程 アセスメント 個人ワーク②	事例患者の看護過程に必要な学習を行い資料を 持参する。 個人ワークをもとに、グループワークで患者の状 態をアセスメントし、関連図を描き、看護計画を立 案する。	全教員
4	看護過程 関連図作成・看護計画立案 グループワーク① *個人ワーク持参	事例患者の看護過程に必要な学習を行い資料を 持参する。 個人ワークをもとに、グループワークで患者の状 態をアセスメントし、関連図を描き、看護計画を立 案する。	全教員

5	看護過程 関連図作成・看護計画立案 グループワーク②	看護過程 看護技術演習の一連のプロセスを評 価し発表する。	個人ワークをもとに、グループワークで患者の状 態をアセスメントし、関連図を描き、看護計画を立 案する。	全教員
6	看護過程 関連図作成・看護計画立案 グループワーク③	看護過程 看護技術演習の一連のプロセスを評 価し発表する。	個人ワークをもとに、グループワークで患者の状 態をアセスメントし、関連図を描き、看護計画を立 案する。	全教員
7	看護過程 関連図作成・看護計画立案 グループワーク④	看護過程 看護技術演習の一連のプロセスを評 価し発表する。	個人ワークをもとに、グループワークで患者の状 態をアセスメントし、関連図を描き、看護計画を立 案する。	全教員
8	看護技術演習① 実践・評価	看護過程 看護技術演習の一連のプロセスを評 価し発表する。	看護計画に基づき看護技術を実施し、看護実践 の評価を行う。	全教員
9	看護技術演習② 実践・評価	看護過程 看護技術演習の一連のプロセスを評 価し発表する。	看護計画に基づき看護技術を実施し、看護実践 の評価を行う。	全教員
10	看護技術演習③ 実践・評価	看護過程 看護技術演習の一連のプロセスを評 価し発表する。	看護計画に基づき看護技術を実施し、看護実践 の評価を行う。	全教員
11	看護技術演習④ 実践・評価	看護過程 看護技術演習の一連のプロセスを評 価し発表する。	看護計画に基づき看護技術を実施し、看護実践 の評価を行う。	全教員
12	看護過程 看護技術演習のまとめ 発表準備	看護過程 看護技術演習の一連のプロセスを評 価し発表する。	看護計画に基づき看護技術を実施し、看護実践 の評価を行う。	全教員
13	発表会、振り返り①	看護過程 看護技術演習の一連のプロセスを評 価し発表する。	看護計画に基づき看護技術を実施し、看護実践 の評価を行う。	全教員
14	発表会、振り返り②	看護過程 看護技術演習の一連のプロセスを評 価し発表する。	看護計画に基づき看護技術を実施し、看護実践 の評価を行う。	全教員
15	看護師教育の技術項目と卒業時の到達度の確認 自己の看護実践の評価、レポート作成、提出	看護過程 看護技術演習の一連のプロセスを評 価し発表する。	個人ワークをもとに、グループワークで患者の状 態をアセスメントし、関連図を描き、看護計画を立 案する。	全教員
成績評価方法と基準				
ルーブリック評価表に基づき評価する。評価項目は以下のとおり。 ・自己学習 ・レポート 課題①:「自己の看護実践における課題と課題への取り組み」 課題②:「自己の看護実践における課題の達成状況と評価」 ペーン設定: 余白 上下左右 25mm 40 字 × 30 行 ・看護過程 アセスメント 個人ワーク ・看護技術演習 関連図作成・看護計画 グループワーク ・発表 授業への取り組み ・4/5 回以上の出席が必要。カードリーダーにて出席管理を行う。				
ルーブリック 評価表に基 づく				

看護学科

(2017 年度以降 入学生カリキュラム)

授業科目名	基礎ゼミナール(看護) (Basic Seminar)	
主担当教員	伊津美 孝子	担当教員
担当教員	伊津美 孝子、住田 陽子、清水 啓子、外村 昌子、関口 敏彰、久木元 由紀子、橋本 富子、蓮池 光人、升田 寿賀子、福島 信也、黒岩 志紀、徳島 佐由美、津崎 勝代、原 邦子、阿部 秀高、越智 奈穂美、安井 浩、家曹 美里、澤田 悦子、宮本 佳子、高木 みどり、矢野 秀蔵、樋口 優子、南部 登志江、麻見 公子、安部 匠夫、森 美情紀	
科目ナンバリング	LA001	教養科目
配当年次	1	開講学期
授業形態	演習	単位数
授業概要	<p>【看護学科教員】</p> <p>本演習は、新入生が大學生としての生活にできるだけ早く適応できるよう、学生を支援することを目的としている。身体的には、学生を少人数のグループに分け、担当教員に配属し、以下の内容を学修しながら大學生に求められる一般常識や態度を涵養する。なお原則として、本演習の担当教員がチャーターとなる。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 大卒での学修の特徴 (2) 情報の収集や文献の検索の方法 (3) 論文の読み方、レポート作成 (4) プレゼンテーション <p>【阿部秀高】</p> <p>森ノ宮医療大學生として必要な学問、大学への理解を深め、これから本学での学びの意欲を高めるために、大学における学びの基礎となる社会基礎力の向上を図る。そのために必要となる学びの技能を基礎から学び習得していくことを目指す。</p> <p>到達目標</p> <p>【看護学科教員】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 大学として主体的に活動することができる。 2. これまでの高等学校と違い、大学における学修の特徴を述べることができる。 3. 他者の話を聞く、他者の話を理解する、自分の意見を述べる、といった基本的なコミュニケーション力を表現できる。 4. 学修した知識や技術を活用して、レポートを書くことができる。 5. 基礎的な論文や雑誌・報告書等を読んでまとめることができる。 6. 文献等を検索し、取り寄せることができる。 7. プレゼンテーションができる <p>【阿部秀高】</p> <p>森ノ宮医療大學生としての意識を持ち、大學生として求められる資質・能力の基礎力向上を目指す。自分の考えを論理的に表現し、他者と協働する力を伸ばす。真実的には、</p> <ol style="list-style-type: none"> ①学修方法としての傾聴・記録に関するトレーニング ②資料活用、大学図書館の利用方法(文献検索) ③論理的な文章表現について(大学のレポートにふさわしい用語・符号の使い方や構成など文章表現)を字んていく。 <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>【看護学科教員】</p> <p>ひとりひとりが積極的に参加すること、グループとしてのまとまりも期待する。普段から、学生自身のみならず、身近な、あるいは国内外で生起している事柄に関心を寄せる習慣をつけること。学生は、担当教員と密に連絡を取りながら進めること。</p> <p>【阿部秀高】</p> <p>森ノ宮医療大學生としてのアイデンティティを持ち、大學生としての基礎的な資質・能力の向上させるために、次の3点の意識を高めてください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 森ノ宮医療大學生として自覚と誇りを持ち、将来への原動力を持つ。 2. 大學生として自分自身を振り返り、マナーや礼節を重んじる。 3. 大學生としての学びの姿勢を身につけ、目標を持って学ぶ。 <p>教科書</p> <p>【看護学科教員】</p> <p>使用しない。</p>	

【阿部秀高】	特に指定はしない。授業時にプリントを配布するので、各自紛失しないようにファイリングし毎回持参すること。	
参考書		
【看護学科教員】	担当教員が必要に応じて紹介する。	
【阿部秀高】	講義内で適宜指示する	
研究室/オフィスアワー		
ゼミナールの初回到担当教員のオフィスアワーを確認すること。		
授業展開及び授業計画表		
回数	学修内容	担当
1	【看護学科教員】8回～15回 初回は全体講義(ガイダンス)→集合場所は掲示 板で指示する。 ゼミナールの方法は各グループで話し合った方法 で行う。 発表も原則として、グループ内で行う。	伊津美 孝子
2	【阿部秀高】	阿部秀高
成績評価方法と基準		
【看護学科教員】	レポートで評価する。(ルーブリック評価) テーマ「基礎ゼミナールの成長」A4 1枚 フォント:10.5 マージン:上下:20mm 左:20mm 右:10mm 提出日は後日連絡するので期限を厳守すること。 評価基準は以下のとおりである。 ①根拠のある主張をしている。 ②論旨が通っている。 ③よく考え、調べ、練られている。 ④文章をよく推敲し、誤字や脱字がない。 ⑤時間が厳守されている。 ※レポートの他、参加状況を参考にする。	【看護】50% 【阿部秀高】50%
【阿部秀高】	平常点評価(授業毎回の振り返りなど)60%、講義最終回に作成した課題レポート40%。	

授業科目名	物理学(看護) (Physics)		担当教員	久国 正章
主担当教員	久国 正章	科目区分	教養科目	DP③
科目ナンバリング	LA003	開講学期	後期	木曜 3 限
配当年次	1	単位数	2	選択
授業形態	講義			
授業概要	<p>さまざまな自然現象をよく観察してみると簡単な基本原理に基づいていることがわかる。物理学とはそのような基本原理を論理的に説明する学問であり、工学はもとより生物学、医学などの幅広い分野の基礎となっている。本講義は力学・熱力学・電磁気学などについて幅広い知識を学修し、医療現場で実際に活用できる知識を習得できる授業構成である。</p>			
到達目標	<p>水の比熱と日本の気候との関係について この原理の人体中での応用 注射針の先端が皮膚に及ぼす圧力について 血圧とは 電磁気の基本知識 上記の内容を学修していく。 履修上の注意(学生へのメッセージ)</p>			
教科書	<p>1. 自然現象を理解するための基本となる科目であることを認識する。 2. 配布された資料を使用し、講義を行う。 3. 出席は重視する。 4. 身近な自然現象を物理学の観点で考察する。 5. 疑問点は大切にし、解決に向けて行動する。</p>			
プリント使用	あり			
参考書	あり			
ペッドサイトを科する	平田雅子 著 Gakken			
研究室/オフィスアワー	あり			
非常勤控室	あり			
授業展開及び授業計画表	あり			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当	
1	熱力学 比熱	水の比熱が大きいことと人間は体温を一定に保つことができる。 授業用プリントを読み直し、疑問点があれば質問して下さい。		
2	熱力学 潜熱、代謝量	水分が蒸発する際、必要となる熱量について代謝量と年齢・性別との関係について確認して下さい。		
3	力の合成と分解、力のつりあい、作用・反作用の法則	力の分解の作図方法を覚えると、授業プリントが理解しやすくなります。		
4	力学 重心、力のモーメント	筋肉は私たちが思っている以上の力を発揮していることが少なくありません。力のモーメントの分野を読み直し、どれくらいの力が働いているか、確認してみましょう。		
5	力学 腰にかかる負担	腰を曲げたり、重いものを持つと、腰にかなりの負担を強いることになります。具体的な数値を知ることから日常生活から毎々つけるようにしましょう。		
6	力学 滑りにくい床	雪道の歩き方を確認しましょう。理解が難しい場合は、力の分解のプリントを真直して下さい。		
7	力学 圧力、気圧	潜水艇について確認しておきましょう。10m潜ると1気圧の力を受けます。		
8	力学 アルキメデスの原理	以前、献血の際に利用されていた血液比重について、復習しておきましょう。		
9	力学 ベルヌーイの定理	血圧測定について学習するとき登場する、動圧と静圧、ベルヌーイの定理に記述されています。		
10	力学 入浴効果	和式風呂と洋式風呂の、人体への影響について復習しておきましょう。		

11	電気 オームの法則	冬になると静電気という思えない胸に悩まされま すが、静電気がたまるとは、どういことなの うか。		
12	電気 感電ショック、アース	電流値と人体への影響についての表を一読して おいて下さい。		
13	単位 ヘマトクリット値	多くの単位が登場しましたが、わからないものが あれば、今回整理しておきましょう。		
14	磁気 磁界、電磁誘導	IH 調理器、リニアモーターカーなど電磁誘導につ いて復習しておきましょう。		
15	電磁波 紫外線	紫外線による人体への影響について確認してお きましょう。		
成績評価方法と基準				割合
毎回レポートを提出してもらう。				①65%
①定期試験55点				②45%
②レポート45点				
合計100点のうち、60点以上で単位認定する。				

授業科目名		生物学(看護) (Biology)	
主担当教員	久国 正章	担当教員	久国 正章
科目ナンバリング	LA002	教養科目	ディプロマポリシー 該当項目 DP③
配当年次	1	開講学期	曜日・時間 月曜 3限
授業形態	講義	単位数	必修・選択 2 必修
授業概要 専門科目の理解を深めるための基礎的な生物学を学修する。 具体的には、下記単元を中心に、ヒトのからだについて理解を深める。 【細胞の構造】細胞小器官の種類とその働き 【代謝】代謝・消化・吸収 【個体の恒常性と調節】恒常性の維持・ホルモン 【刺激の受容と反応】刺激・受容・神経系 到達目標 ヒトの生命の仕組みについて、その基本的事項を習得することを目的とする。 好気呼吸の過程を理解する。 恒常性について理解を深める。 体液性免疫と細胞性免疫の違いを説明できる。 履修上の注意(学生へのメッセージ) この講座を通して基礎用語を確認することが出来ます。高校で生物を学習していない学生にも解りやすく講義を進めていきます。 教科書 書籍名：視覚でとらえる生物図録 著者名：鈴木孝仁 監修 出版社名：教研出版 参考書 カラー図解 アメリカ版 大学生物学の教科書 第1巻 細胞生物学 研究室/オフィスアワー 非常勤控室 月曜と、水曜の午前中 授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	細胞の構造とその働き	細胞の種類はたくさんありますが、細胞の大きさや構造はどう違っているのでしょうか？	
2	細胞の構造とその働き 細胞を構成する物質(炭水化物と脂肪)	私たちの体にはたくさんの細胞がありますが、その基本構造はすべて同じです。細胞の構造について確認しておきましょう。	
3	細胞を構成する物質(タンパク質) 浸透性	ヒトの細胞がどんな物質でできているか確認してみよう。	
4	選択透過性、動物の組織	能動輸送にはATPが必要ですが、その理由を考えてみてください。	
5	細胞内での代謝 酵素の性質	日常生活でいう「代謝」と生物学で扱う「代謝」は少し異なります。その違いも含めて確認しておきましょう。	
6	酵素の性質	酵素の性質はたくさんありますが、一つ一つ確認してください。	
7	外呼吸と内呼吸	生物学でいう「呼吸」とは内呼吸のことです。	
8	好気呼吸の過程	「クエン酸回路」について簡単に説明します。復習したうえで他の教材も読んでみてください。	
9	消化・吸収、恒常性	食べ物を食べると栄養になりますね。その仕組みについて調べてみましょう。	
10	血液の組成、血液の凝固 血管系	血液は体重の何分の一を占めていたでしょうか？	
11	心臓と肝臓	肝臓はお酒を分解するのはもちろん、他にもたくさんのお仕事を担っています。	
12	腎臓の構造と働き	私たちは毎日何回もおしっこをします。おしっこの役割は何なのでしょう？	

13	免疫系	病気から守ってくれる白血球の仕事について確認しましょう。	
14	細胞性免疫、アレレルギー	免疫反応が生体に不利に働くアレレルギー。最近では、アレレルギーに悩まされる人が増えてきていますが、その基本について学習しましょう。	
15	神経系、脳の構造と働き	脳は不思議な存在です。少し覗いてみましょう。	
成績評価方法と基準			割合
①定期試験100点のうち60点以上で単位認定する。			①100%

授業科目名	化学(看護) (Chemistry)		
主担当教員	安部 辰夫	担当教員	安部 辰夫
科目ナンバリング	LA017	教養科目	ディプロマポリシー 該当項目
配当年次	1	開講学期	前期
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	必修・選択 選択		
基礎医学科目に必要な化学的事項を正しく理解できることを念頭に置いている。			
到達目標			
生体反応に見られる各種の化学反応を正しく理解し、それらが生体機能に密接に関連することを理解して欲しい。			
履修上の注意(学生へのメッセージ)			
たよらずに化学を履修しようとも、基礎医学科目で取り上げられる化学はある種生体内の反応に特化しているため、新たに学習が必要があると捉えて欲しい。			
教科書			
「ライフサイエンスのための化学」 化学同人			
参考書			
「理工系の基礎化学」 化学同人			
研究室/オフィスアワー			
研究室/オフィスアワー			
火曜日から金曜日まで 1	イーストポート4階 研究室 1		

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	原子の構造と周期表	予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
2	電子配置とイオン化	予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
3	化学結合	予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
4	物質の三態	予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
5	化学平衡と反応速度論1	予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
6	化学平衡と反応速度論2	予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
7	酸と塩基の反応	予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
8	酸化と還元反応	予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
9	炭水素化合物1	予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	

10	炭水素化合物2	予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
11	糖質の構造と働き	予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
12	脂質の構造と働き	予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
13	タンパク質・アミノ酸の構造と働き	予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
14	核酸の構造と働き	予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
15	化学のまとめ	予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
成績評価方法と基準			割合
①期末試験			①100%

情報処理(看護A) (Information Processing)			
授業科目名	情報処理(看護A)	担当教員	平山 裕子
主担当教員	平山 裕子	教養科目	ディプロマポリシー 該当項目 DP③
科目ナンバリング	LA004	科目区分	木曜 2 限
配当年次	1	開講学期	前期
授業形態	演習	単位数	2
授業概要	<p>本講義では、コンピュータを利用する上で必要な基礎知識のほか、レポート作成等役立つ情報処理技術、すなわちワープロや表計算、プレゼンテーションを中心としたソフトウェアの基礎知識と基本操作の習得を目指す。また、コンピュータ利用技術の習得に加えて、情報化社会に必要な倫理観と情報の保護を学ぶために、技術的な面に加えて個人情報保護法等の法令や指針についても学ぶ。なお、コンピュータのオペレーティングシステム(OS)は Windows を、ソフトウェアはマイクロソフトの Word、Excel、PowerPoint 等を使用する。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. PC 利用に限らず、広く情報倫理と個人情報保護の重要性を理解し、説明できる 2. Word による文書(レポート、論文)の作成ができる 3. Excel による基本的なデータの集計・解析ができる 4. PowerPoint を用いて資料を作成し、効果的なプレゼンテーションができる 5. インターネットを利用した情報検索のスキルを習得する <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. PC を使った演習を行なうので、休むことなく参加すること 2. 作業内容(作成したファイル等)を保存するための USB メモリを用意すること 3. PC 演習室での飲食は禁止(机の上に置くのも禁止) する <p>教科書</p> <p>中村健壽監修、森由紀著、医療従事者のための情報リテラシー、日経 BP 社</p> <p>参考書</p> <p>佐藤憲一他、Windows 7 によるコンピュータのための情報リテラシー、共立出版、2013 金谷孝之・服部建大、基礎から学ぶ医療情報、共立出版、2014 研究室/オフィスアワー</p>		
授業前後			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	ガイダンス	テキスト「はじめに」および「監修にあたって」を読み、USB メモリを用意する	
2	情報セキュリティと情報モラル	テキスト第7章を読む。 (単に読むだけでなく、わからない専門用語等について調べておく、以下同様)	
3	コンピュータ概論	第1章を読む	
4	Word 基礎-1-	第2章、1 節～3 節を読む	
5	Word 基礎-2-	第2章、4 節～5 節を読む	
6	Word 応用-1-	第3章、1 節～2 節を読む	
7	Word 応用-2-	第3章、3 節を読む	
8	小テスト1	Word に関する操作・機能を確認しておく	
9	Excel 基礎-1-	第4章、1 節～3 節を読む	
10	Excel 基礎-2-	第4章、4 節を読む	
11	Excel 応用-1-	第5章、1 節～3 節を読む	
12	Excel 応用-2-	第5章、4 節～5 節を読む	
13	小テスト2	Excel に関する操作・機能を確認する	

14	PowerPoint 基礎	第6章、1 節～3 節を読む	
15	PowerPoint 応用	第6章、4 節を読む	
成績評価方法と基準			割合
①定期試験			①50%
②課題の提出状況			②30%
③小テスト			③20%

授業科目名	情報処理(看護B) (Information Processing)	
主担当教員	平山 裕子	担当教員 平山 裕子
科目ナンバリング	LA004	教養科目 ディプロマポリシー 該当項目 DP③
配当年次	1	開講学期 前期 木曜 3 限
授業形態	演習	単位数 2 必修・選択 必修

授業概要
本講義では、コンピュータを利用する上で必要な基礎知識のほか、レポート作成等役立つ情報処理技術、すなわちワープロや表計算、プレゼンテーションを中心としたソフトウェアの基礎知識と基本操作の習得を目標とする。また、コンピュータ利用技術の習得に加えて、情報化社会に必要な倫理観と情報の保護を学ぶために、技術的な面に加えて個人情報保護法等の法令や指針についても学ぶ。なお、コンピュータのオペレーティングシステム (OS) は Windows を、ソフトウェアはマイクロソフトの Word、Excel、PowerPoint 等を使用する。

- 到達目標**
1. PC 利用に限らず、広く、情報倫理と個人情報保護の重要性を理解し、説明できる
 2. Word による文書 (レポート、論文) の作成ができる
 3. Excel による基本的なデータの集計・解析ができる
 4. PowerPoint を用いて資料を作成し、効果的なプレゼンテーションができる
 5. インターネットを利用した情報検索のスキルを習得する

履修上の注意 (学生へのメッセージ)

1. PC を使った演習を行うので、休むことなく参加すること
2. 作業内容 (作成したファイル等) を保存するための USB メモリを用意すること
3. PC 演習室での飲食は禁止 (机の上に置くのも禁止) する

教科書

中村健壽監修、森由紀著、医療従事者のための情報リテラシー、日経 BP 社

参考書

佐藤憲一他 Windows 7 によるコンピュータのための情報リテラシー、共立出版、2013
金谷孝之・服部建夫、基礎から学ぶ医療情報、共立出版、2014

研究室 / オフィスアワー

授業前後

授業展開及び授業計画表

回数	学習内容	予習・復習・課題等	担当
1	ガイダンス	テキスト「はじめに」および「監修にあたって」を読み、USB メモリを用意する	
2	情報セキュリティと情報モラル	テキスト第7章を読む。 (単に読むだけでなく、わからない専門用語等について下調べをしておく、以下同様)	
3	コンピュータ概論	第1章を読む	
4	Word 基礎-1-	第2章、1節～3節を読む	
5	Word 基礎-2-	第2章、4節～5節を読む	
6	Word 応用-1-	第3章、1節～2節を読む	
7	Word 応用-2-	第3章、3節を読む	
8	小テスト1	Word に関する操作・機能を確認しておく	
9	Excel 基礎-1-	第4章、1節～3節を読む	
10	Excel 基礎-2-	第4章、4節を読む	
11	Excel 応用-1-	第5章、1節～3節を読む	
12	Excel 応用-2-	第5章、4節～5節を読む	
13	小テスト2	Excel に関する操作・機能を確認する	

14	PowerPoint 基礎	第6章、1節～3節を読む
15	PowerPoint 応用	第6章、4節を読む
成績評価方法と基準		割合
①定期試験		①50%
②課題の提出状況		②30%
③小テスト		③20%

授業科目名 統計学(看護) (Statistics)			
主担当教員	井手口 範男	担当教員	井手口 範男
科目ナンバリング	LA010	科目区分	ディプロマポリシー 該当項目 DP③
配当年次	1	開講学期	曜日・時間 水曜 2限
授業形態	演習	単位数	2 必修・選択 必修
授業概要 統計学の基礎や概念を学び、実験や調査で得られたデータをどのような統計手法を用いて分析し、どのように解釈すればよいかを理解し、それらを元に実際に自分たちでデータを分析することによって、基礎的な統計処理を身につけることを目指す。			
到達目標 1. 統計学の基礎を理解する。 2. 推定と検定の考え方を理解し、説明することができる。 3. 重要なデータに対して適切な分析方法を選択することができる。			
履修上の注意(学生へのメッセージ) 毎回の授業のつながりが非常に重要です。また、毎回小テストを実施しますので、欠席のないように留意すること			
教科書 向後千春・雷永敦子、ファーストブック 統計学がわかる、技術評論社			
参考書 授業内で適宜紹介する			
研究室/オフィスアワー E棟4F研究室1/火曜日5時限(空いていれば適宜対応します)			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	ガイダンス	シラバスを確認して、テキスト「はじめに」を読む(単に読むだけでなく、わからない専門用語等について下調べをしておく、以下同様)	
2	測定値の性質(尺度水準)	「尺度水準」とは何か調べる	
3	平均と度数分布・分散と標準偏差	テキスト1章を読む	
4	母集団と標本・区間推定と信頼区間	テキスト2章を読む	
5	相関係数; 2変数間の関係	テキスト3章を読む	
6	仮説検定の考え方と帰無仮説	ピアソンの積率相関係数、スピアマンの順位相関係数、ケンドールの順位相関係数について調べる	
7	観測度数と期待度数	テキスト3-1を読む	
8	カイ2乗検定	テキスト3-2, 3-3を読む	
9	被験者ごとの差の平均の信頼区間	テキスト3-4を読む	
10	対応がないデータによるt検定(ウェルチの方法)	テキスト4-1, 4-2を読む	
11	対応があるデータによるt検定	テキスト4-3を読む	
12	1要因の分散分析-1-	テキスト5章を読む	
13	1要因の分散分析-2-	テキスト6-1, 6-2を読む	
14	2要因の分散分析-1-	テキスト6-3を読む	
15	2要因の分散分析-2-	テキスト7-1, 7-2を読む	
	成績評価方法と基準	テキスト7-3を読む	
			割合

①定期試験	①80%
②小テストレポート等	②20%

授業科目名	心理学(看護) (Psychology)		
主担当教員	井手口 範男	担当教員	井手口 範男
科目ナンバリング	LA005	教養科目	ディプロマポリシー 該当項目
配当年次	1	開講学期	後期 月曜 4 限
授業形態	講義	単位数	2 必修・選択 選択
授業概要	<p>心理学は、人の心の仕組みや動きがどのようにになっているかを研究する学問です。授業では人の性格、知覚や感情のほか、人の成長過程や人間関係の心理などについても学習します。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 心理学の基本的な研究方法について説明できる 2. 心理学の諸理論について説明ができる 3. 心理学の諸問題と日常生活上の諸問題を結びつけて理解、解決ができる <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>PC によるプレゼンテーション資料を活用した講義形式を中心に授業を進める。適宜、簡単な実習形式の実験を実施し、レポート提出を求めたり、小テストを課すことがある。</p> <p>教科書</p> <p>藤田哲也 編著、「絶対に役立つ教養の心理学-人生を有意義に過ごすために-」ミネルヴァ書房</p> <p>参考書</p> <p>大竹文雄・平井啓 編著、「医療現場の行動経済学-すれ違う医者と患者-」, 東洋経済新報社 その他、適宜指示する。</p> <p>研究室/オフィスアワー</p> <p>E棟4F研究室1/火曜日5時限(空いていれば適宜対応します)</p>		
授業展開及び授業計画表			
回数	学習内容	予習・復習・課題等	担当
1	ガイダンス	テキスト第0章を読む (単に読むだけでなく、わからない専門用語等について下調べをしておく、以下同様)	
2	知覚1:人間の目の性質と世界をとらえるしくみ	テキスト第1章1節、2節を読む	
3	知覚2:視覚の法則性、まとめ	テキスト第1章3節、4節を読む	
4	記憶1:記憶の基本的なしくみと記憶方法	テキスト第2章1節、2節を読む	
5	記憶2:行為のし忘れのしくみ、まとめ	テキスト第2章3節、4節を読む	
6	対人関係1:他者理解と出会い	テキスト第3章1節、2節を読む	
7	対人関係2:認知の一貫性と説得、まとめ	テキスト第3章3節、4節、5節を読む	
8	動機づけ1:動機づけのメカニズムと行動の関わり	テキスト第4章1節、2節を読む	
9	動機づけ2:やる気を引き出すことばがけ	テキスト第4章3節を読む	
10	思考1:メタファー	テキスト第5章1節、2節を読む	
11	思考2:アナロジー、まとめ	テキスト第5章3節、4節、5節を読む	
12	青年期:青年期の特徴と悩み	テキスト第6章を読む	
13	発達1:思考、ことばの発達	テキスト第7章1節、2節を読む	
14	発達2:人との関係づくり、まとめ	テキスト第7章3節、4節、5節を読む	
15	学習:人間行動の基礎理論(条件付けを中心に)	テキストに含まれない項目なので、各人、適宜条件付けについて調べる	
成績評価方法と基準	割合		

授業科目名		生命倫理学(看護) (Bioethics)	
主担当教員	田中 美子	担当教員	田中 美子
科目ナンバリング	LA006	教養科目	ディプロマポリシー 該当項目
配当年次	1	科目区分	DP③
授業形態	講義	開講学期	前期
授業概要	2	曜日・時間	月曜 2限
到達目標		必修・選択	選択
履修上の注意(学生へのメッセージ)	「生命倫理学」の主なトピックを取り上げながら、その是非について一様に真顔に考える時間を持ちます。授業は講義が中心ですが、ディスカッションも行う予定です。		
教科書	1. 『いのち』は誰が決めるのかと、どの現場でも考えられる習慣を身につける。 2. 『誰のための医療か』誰のためのケアか』を、他の人の立場でも考えられる。		
参考書	『はじめて学ぶ生命倫理学』 小林亜津子 著 ちくまプリマー新書 167(筑摩書房) 2011年		
授業展開及び授業計画表	『はじめて学ぶ生命倫理学』 岡田安弘 著 金芳堂 2016年 『生命倫理学とは何か』 アラスデア・V・キャンベル 著 山本圭一郎他訳 勁草書房 2016年 『生命倫理の教科書』 黒崎剛・野村俊明編著 ミネルヴァ書房 2014年 『ルボ 看護の魂』 小林美希 著 岩波新書 1614(岩波書店) 2016年 『00Lって何だろう』 小林亜津子 著 ちくまプリマー新書 2018年 『看護師という生き方』 宮子あずさ 著 ちくまプリマー新書 2013年 『いのちのはなはなぜ大切なのか』 小澤竹俊 著 ちくまプリマー新書 2007年 研究室/オフィスアワー 授業の前夜に、質問等を受け付けます。 自宅への電話でも受け付けます。番号は改めてお伝えします。		
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	倫理学と他の学問とのちがいは	ノートをまとめ直ししよう。	
2	いのちの「終わり」は誰が決めるのか	教科書第1章を読んでおきましょう。	
3	安楽死事件と安楽死に伴う諸問題	自分の考えをノートに記録しておきましょう。	
4	子どもの医療は誰が決めるのか	教科書第2章を読んでおきましょう。	
5	子どもの医療に関する事例 宗教、あるいは人を支えるもの	自分の考えをノートに記録しておきましょう。	
6	判断能力は誰が決めるのか	教科書第3章を読んでおきましょう。	
7	不均衡な構造がもたらす諸問題(男女差別、人種差別、医療者と患者の関係等)	自分の考えをノートに記録しておきましょう。	
8	いのちの「質」は誰が決めるのか	教科書第4章を読んでおきましょう。	
9	デザイナーベビーをめぐる諸問題	自分の考えをノートに記録しておきましょう。	
10	双子の生死は誰が決めるのか	教科書第5章を読んでおきましょう。	
11	意識は人格の座か(意識と身体の哲学)	自分の考えをノートに記録しておきましょう。	
12	人体実験からインフォームド・コンセントへ	自分の考えをノートに記録しておきましょう。	
13	いのちの「優先順位」は誰が決めるのか	教科書第6章を読んでおきましょう。	
14	いのちの「始まり」は誰が決めるのか	教科書第7章を読んでおきましょう。	
15	受精卵と中絶胎児に関する諸問題	自分の考えをノートに記録しておきましょう。	

成績評価方法と基準		割合
①毎授業の「振り返り(ミニレポート)」。	②学期末の「レポート」。	①約 50%
授業の内容が反映されていること。		②約 50%
調べた内容が客観的にまとめられていること。		
自分の考察が書かれていること。		

授業科目名	哲学(看護) (Philosophy)		
主担当教員	田中 美子	担当教員	田中 美子
科目ナンバリング	LA018	教養科目	ディプロマポリシー 該当項目
配当年次	1	開講学期	後期
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	<p>「何のために生きるのか」をテーマに、「人生を支えるもの」を考えます。元気なときに人生について思い悩まない人でも、けがや病気をきっかけに、人生について考えるようになります。患者さんの思いに寄り添えることを目指して、古今東西のさまざまな思想や宗教を、おもしろい講義形式で学びます。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 患者さんの悩み(なぜ私ばかりなのだろう)などを、具体的に想像できる。 2. (患者さんの立場に立ってみて)悩む自分を、さらにその外側から捉えられる。 3. 古今東西の哲学や宗教の概略を知る。 <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>教科書は使用しません。ノートを用意してください。 授業の内容は、多少、変更することがあります。</p> <p>教科書</p> <p>使用しない。</p> <p>参考書</p> <p>『生命科学だいま講義中』岡田安弘著 金芳堂 2016年 『生きるための哲学』岡田尊司著 河出文庫(河出書房新社) 2016年 『がん哲学外来へようこそ』榎野興夫著 新潮新書(新潮社) 2016年 『死を迎える心構え』加藤尚武著 PHP研究所 2016年 『出殡的人生のすすめ』佐々木潤著 集英社新書(集英社) 2015年 『哲学の使い方』黛田清一著 岩波新書(岩波書店) 2014年 『くじけそうな時の臨床哲学クリニック』黛田清一著 ちくま学芸文庫(筑摩書房) 2011年 『4コマ哲学教室』</p> <p>研究室/オフィスアワー</p> <p>授業の前夜に、質問等を受け付けます。 自宅への電話でも受け付けます。番号は改めてお伝えします。</p> <p>授業展開及び授業計画表</p>		
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	哲学と他の学問とのちがいが	ノートをまとも直しましょう。	
2	仏教の「毒矢のたとえ」	初期仏教思想について調べて、ノートにまともしておきましょう。	
3	「確かなものは何もない」という確かさ	「諸行無常」や「ニヒリズム」(ニーチェ)について調べて、ノートにまともしておきましょう。	
4	死ぬために生きられるか	ハイガーの哲学について調べて、ノートにまともしておきましょう。	
5	悩まない「物」になりたいか	フロイトの心理学について調べて、ノートにまともしておきましょう。	
6	つらい気持ちを、はき出してみる	ユングの心理学について調べて、ノートにまともしておきましょう。	
7	表現することで救われる	千羽鶴に込められた意味を知り、他の日本の伝統文化についても調べてみましょう。	
8	なぜ病室に千羽鶴があるのか	仏教の「無我」、西田幾多郎の哲学(「矛盾の同一」がキーワード)、和辻哲郎の倫理学(「間柄」がキーワード)などについて調べて、ノートにまともしておきましょう。	
9	東洋的アイデンティティ	東洋思想を応用し、「私」がけがや病気をなんとかするのではなく、「けがや病気が私に何を期待しているのか」と、発想を転換して考えてみましょう。	
10	がんを期待されているとしたら		
11	「がん哲学外来」という試み	授業の内容を併せて、自分の考えもノートにまともしておきましょう。	

12	イスラームについて知ろう	イスラーム(イスラム教)について調べ、ノートにまともしておきましょう。	
13	正義の味方はだれの味方か	正義論について調べ、ノートにまともしておきましょう。	
14	たんなる手段ではなく目的としての人間	カントの哲学やその背景のキリスト教について調べ、ノートにまともしておきましょう。	
15	ケース・スタディとディスカッション	けがをした人や病気になるた人の気持ちや想像して、目に負えない大切なものについて考えてみましょう。	
成績評価方法と基準			割合
①毎授業の「振り返り(ミニレポート)」。			①約 50%
②学期末の「レポート」。			②約 50%
調べた内容が客観的にまともめらわれていること。自分の考察が書かれていること。			

授業科目名		社会福祉学(看護) (Social Welfare)	
主担当教員	掛川 直之	担当教員	掛川 直之
科目ナンバリング	LA008	授業科目	DP③
配当年次	1	開講学期	前期
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	<p>(貧困)という問題を通して、社会福祉の基礎を学ぶ。社会福祉にかんする考え方、制度、課題等について、時事的な問題や映像素材などをとおして具体的に学んでいく。一方通行にならないように、受講生の意見を聴いたり、グループワークをとりいれるなど、できるだけ退屈にならないような参加型の講義を心がける。</p> <p>到達目標</p> <p>日本社会に生じるさまざまな生活問題とその背景について、社会福祉の観点から理解すること、その解決に向けて自分の考えを自分のことばで説明できるようにすることを目指す。</p> <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>講義の進め方や成績評価の方法等の詳細については、初回の授業における説明をする。なお、講義毎に、質問や感想を記したコミュニケーションペーパーの提出を求める。ここで出された質問等については、次回の講義の冒頭で解説をくわえる。</p> <p>教科書</p> <p>毎回の講義においてレジュメを配布する。</p> <p>参考書</p> <p>金子充『入門 貧困論：ささあろ／たすけあろ社会をつくるために』(明石書店、2017年) 若田正義・上野合加代子・藤村正之『ウェルビーイング・ダウン 社会福祉入門』(改訂版)、『福祉の世界』への招待』(有斐閣、2013年) 掛川直之編著『不安解消！出所支援。わたしたちができること』(旬報社、2018年)</p> <p>研究室/オフィスアワー</p> <p>講義の前夜、あるいはメール等にて質問等を受け付ける。</p>		
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	〔オリエンテーション〕社会福祉の学び方：医療と福祉はつながっている	今回の講義内容について見直し、次回の講義テーマについて調べる	
2	〔社会福祉の基本①〕社会福祉の考え方：人間はひとりでは生きられない	今回の講義内容について見直し、次回の講義テーマについて調べる	
3	〔社会福祉の基本②〕貧困問題から社会福祉を考える。あなたはどんな「溜め」をもっている？	今回の講義内容について見直し、次回の講義テーマについて調べる	
4	〔社会福祉の基本③〕社会保障のしくみ：国や自治体の役割を考える	今回の講義内容について見直し、次回の講義テーマについて調べる	
5	〔社会福祉の基本④〕ドラマ『サイレント・プリア』から考えるソーシャルワーク：ソーシャルワーカーのしごと	今回の講義内容について見直し、次回の講義テーマについて調べる	
6	〔社会福祉の分野①〕拡大する高齢者の貧困：老後は年金だけで生活できる？	今回の講義内容について見直し、次回の講義テーマについて調べる	
7	〔社会福祉の分野②〕病氣や障がいをもつ人と貧困：適切な医療を受けるために	今回の講義内容について見直し、次回の講義テーマについて調べる	
8	〔社会福祉の分野③〕女性やマイリテイティは貧困に陥りやすい？：ジェンダーについて考える	今回の講義内容について見直し、次回の講義テーマについて調べる	
9	〔社会福祉の分野④〕子どもの貧困も自己責任？：成長発達の権利	今回の講義内容について見直し、次回の講義テーマについて調べる	
10	〔社会福祉の分野⑤〕漫画『健康で文化的な最低限度の生活』から考える生活保護制度：生きるための最後の砦	今回の講義内容について見直し、次回の講義テーマについて調べる	
11	〔社会福祉の分野⑥〕映画『わたしは、ダニエル・ブレイク』から考える生活保護受給とパッシング：差別と偏見の背後にある誤解	今回の講義内容について見直し、次回の講義テーマについて調べる	

12	〔地域と社会福祉〕牽ヶ崎とホームレス問題：医療・保健・福祉の機能が集約された迷いのまち	今回の講義内容について見直し、次回の講義テーマについて調べる	
13	〔犯罪と社会福祉〕どうして「犯罪者」に福祉が必要なの？：貧困・社会的排除のスパイラル	今回の講義内容について見直し、次回の講義テーマについて調べる	
14	〔生活と社会福祉〕社会の「障壁」をみつける。社会を築くことができるのか？	今回の講義内容について見直し、次回の講義テーマについて調べる	
15	〔社会福祉の応用〕私たちにできること：第1回～第14回までのまとめ	本講義全体を見直す	
成績評価方法と基準			割合
①定期試験			①70%
②コミュニケーションペーパー			②30%

授業科目名	日本国憲法(看護) (Constitution of Japan)			
主担当教員	楠田 重幸	担当教員	楠田 重幸	
科目ナンバリング	LA019	教養科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP③
配当年次	1	開講学期	後期	金曜 4 限
授業形態	講義	単位数	2	選択
授業概要				
社会規範たる法の理念を理解する中で、法体系のしくみ並びに日本の憲法としての日本国憲法の現行の概要解釈と、今日の基本的な人権規定に関する論点について解説を行うとともに、時事関連・医療関連条項に関する問題点及び今後の課題に対しても説明を定める。また、コマディカルをもとに、診療の補助の一人として業務に従事において、必要不可欠な保健衛生に関する法規(保健衛生関連法規)の理解と把握、並びに職務遂行に伴う人権に対する法的責任の現状について、更なる理解を深めるための指導を行う。				
到達目標				
<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本国憲法の成立経緯と特色を理解する。 2. 基本的人権の尊重規定をもとに、個人の尊厳に関して法的制面から、その理解を深める。 3. 医療と人権に関する本切さを理解する。 4. 看護学科における「保健師・助産師・看護師法」をもとに、今後の業務遂行に必要な関係法規のしくみを学習し理解する。 5. 現在の医療通則に関する状況と、人権に対する法的責任の実態を検証する。 6. 時事関連問題として、違憲立法審査権に関する諸項目や裁判員制度の現状と今後の対応課題についての理解を深める。 				
履修上の注意(学生へのメッセージ)				
<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本国憲法の内容理解とともに、医療法規に関する指導説明が加わることから、補充解説たる板書筆記が重要となる。 2. 指導内容に即して市販書籍は多数に亘るため、教科書代用の資料冊子にて講義を行う。 3. 疑問点や分かりにくい事項が生じた場合は、適宜質問を行うことで理解を進めること。 4. 将来的な業務実践を前提し、指導内容に対する人権・人格の尊重に十分留意し積極的取り組みを求める。 				
教科書				
指定しない。				
参考書				
特になし				
研究室/オフィスアワー				
授業前後の非常勤講師控室				
授業展開及び授業計画表				
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当	
1	法と社会生活① 法の成立並びに社会と規範	予習：シラバス・テキスト冊子の確認を行う 復習：キーワード、重要語句の確認を行う		
2	法と社会生活② 法と道徳、法の支配、法体系のしくみ	予習：社会規範としての法の意義を考える 復習：法の概念の理解と確認を行う		
3	日本国憲法の制定史 明治憲法との比較、個人の尊厳と人権保障の限界	予習：日本国憲法の成立経緯を確認する 復習：講義内容をもとに、基本的人権規定の各事項を理解し把握する		
4	日本国憲法の特徴 基本理念及び基本原理	予習：テキスト冊子より、キーワードの確認 復習：重要語句について再チェックする		
5	基本的人権規定① 基本的人権の成立経緯と人権規定	予習：テキスト冊子より、キーワードの確認 復習：重要語句について再チェックする		
6	基本的人権規定② 包括的基本権、自律的自己決定権	予習：テキスト冊子より第13条の役割を確認する 復習：講義内容の完全理解に努める		
7	基本的人権規定③ 新しい人権(人格権と幸福追求権)	予習：テキスト冊子より、本項の確認を行う 復習：講義内容の完全理解に努める		
8	基本的人権規定④ 尊厳死の定義、臓器移植法の問題点	予習：自然死と脳死の捉え方の相違をテキスト冊子から理解する 復習：本項目の現在の解釈を確認する		
9	関係法① コ・メディカルに対する関係法規のしくみと位置づけ	予習：シラバス・テキスト冊子の確認 復習：講義内容をもとに、コ・メディカルの役割を確認する		
10	関係法② 日本国憲法と保健衛生法規とのつながり	予習：シラバス・テキスト冊子の確認を行う 復習：保健衛生法規のしくみの理解と確認を行う		

11	医療通則と法的責任① 医療通則の裏面と権利侵害	予習：テキスト冊子の本項の確認を行う 復習：キーワード、重要語句の確認を行う		
12	医療通則と法的責任② 医療通則における法的責任	予習：医療通則に関する事例を調べる 復習：特に民事責任に関して確認を行う		
13	統治行為① 国会・内閣規定より、選挙制度並びに議院内閣制	予習：現行の選挙制度を確認する 復習：1 票の格差問題について理解を深める		
14	統治行為② 裁判所規定より、違憲立法審査権並びに裁判員制度の現状	予習：テキスト冊子より、キーワードの確認 復習：講義事項についての確認		
15	日本国憲法の改正手続	予習：現行憲法の改正の必要性を調べる 復習：国民投票法の改正における影響を確認する		
成績評価方法と基準				
①指導項目に関し、筆記試験を行う。※60 点以上で単位認定する。				
割合				
①100%				

授業科目名	東洋史概論(看護)		
主担当教員	重信 あゆみ	担当教員	重信 あゆみ
科目ナンバリング	LA020	教養科目	ディプロマポリシー 該当項目
配当年次	3	開講学期	前期
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	<p>古代より中国人は人体に多大な興味をもち、そのため様々なことを試みてきた。そして、その中で生まれてきたのが中国思想である。この授業においては、東洋医学の背景にある文化、特に思想について学んでいく。そして、その思想と中国医学がどのように影響を及ぼしあっていたのかについて学んでいく。</p> <p>到達目標</p> <p>中国文化の基礎となっている歴史、思想を理解する。中国の思想には「いかに生き抜くか」が根底にある。その中で、諸子百家と呼ばれる人々には多くの思想を生み出し、広めてきた。中国医学の根底となる思想を通じて「いかに生き延びたいのか」を考える授業をする。また、現代社会において中国思想がどのように反映されているのかについても理解する。</p> <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 配付された資料には必ず目を通すこと。 2. 出席は重視する。 3. 疑問点は大切に、解決に向けて行動すること。 <p>教科書</p> <p>プリントを配布する。</p> <p>参考書</p> <p>マイケル・ヒュエット/クリスティーン・グロスロー著 熊谷淳子訳 『ハーバードの人生が変わる東洋哲学』早川書房、2016年 研究室/オフィスアワー</p> <p>授業後、非常勤講師室</p> <p>授業展開及び授業計画表</p>		
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	教科科目のガイダンス	半期ですべての時代の流れを復習すること	
2	死生観のあらわれ	中国の墓の壁画を通して、死生観を学ぶ	
3	孔子の理想とした西周	西周の遺物を中心に文化・歴史を学ぶ	
4	黄泉の国「中国と日本の比較」	中国と日本の死後の世界を画像を通して比較する	
5	孫子の兵法	孫子の兵法が三國時代や現在にまで影響を及ぼしていることを学ぶ	
6	古代中国における病気の遠敷方法	古代中国の人々は病気の原因を何に求めたのか、そして、それを遠敷させるには、どのように考えていたのかを考える。	
7	道教の神「西王母」	不老長寿の神である西王母について学ぶ。西王母は古来より現在に至るまで信仰されている神である。なぜ、ひととは、不老長寿を追いかけたいのか。西王母の愛護を通して考える。	
8	張目吐舌	ひととは生き抜くためにあらゆる手段を講じた。そのなかでも悪霊から自身を守るために魔除けをつくる。その共通点が「張目吐舌」である。東西交渉を通して伝えられた「張目吐舌」について考える。	
9	「精」「氣」「神」	「精」「氣」という人にとって基本となる思想について触れる。ほんとうの元氣とは何かについて考える。	
10	老子「道」	「柔は剛より強い」、この思想を通して、どのように実践されてきたのか、現在にどのように実践しているのかを考える。	
11	科挙制度を学ぶ	科挙制度を通じて、古代中国における人材確保の仕方学ぶ。また、教育についても触れる。	
12	日本における中国①	日本における中国の影響を学ぶ。	

13	日本の中の中国②	前講義につき、日本の中の中国の影響、そして、要容を学ぶ。	
14	「癒し」	ストレス社会である現在、さまざまな「癒し」がある。各自の癒しについて考えてもらい、なぜ癒されるのかを科学的に検証していく。	
15	思想と東洋医学	半期のおまとめを行う。ひととはなぜ「不老長寿」を追い求めてきたのかをまとめを行いながら考えていく。	
成績評価方法と基準			割合
① 授業ごとの感想文			①10%
② レポート課題			②20%
③ 定期試験			③70%

授業科目名	西洋史概説(看護)		
主担当教員	松枝 啓至	担当教員	松枝 啓至
科目ナンバリング	LA009	教養科目	ディプロマポリシー 該当項目
配当年次	3	開講学期	前期
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	<p>現代の日本社会においては、意識するしないに関わらず、様々な分野で西洋社会(ヨーロッパ諸国・北アメリカ)の影響を受けている。とりわけ江戸時代が終わり明治時代になって以降、政治・経済システムや文化といった側面では、日本は多くのものを西洋社会から受け入れ、伝統的な日本社会に溶け込ませようとしてきた(それがうまくいった例もあれば、失敗に終わった例もあろう)。本講義では、そのような点で重要なものである西洋社会の特色について、西洋の歴史を古代から現代まで概観していくことで、理解を深めていくことを目指したい。</p> <p>西洋の歴史もかなり古く、数多くの重大な出来事が起こっているが、本講義ではそれらを網羅的に事細かく解説することは避け、いくつかのトピックに絞って西洋文化・社会の特徴を把握することを試みる。例えば古代ギリシャ・ローマ文明、中世のキリスト教社会の成立、近代の様々な革命(科学革命・産業革命・政治革命)などである。</p> <p>また本講義では西洋における自然科学史・特に医療にかかわる歴史についても適時紹介し解説していきたい。現代の医療もまた様々な面で西洋文化の影響下にあり、西洋において「医」の考え方がどのように変遷していったのかを理解することは、現代の医療を学ぶ上でも重要な視点を与えてくれるだろう。</p>		

到達目標

1. 現在の西洋社会の出来事ともいえる古代ギリシャ・ローマ文明の内実と特徴を理解することができる。
2. 現代の西洋社会においても重要な一部を成しているキリスト教が西洋中世においてどのように社会に浸透していったのかを理解することができる。
3. ルネサンス期から近世にかけて、西洋社会で巻き起こった様々な変化を理解することができる。
4. 近代から現代にかけて、西洋社会で巻き起こった様々な変化を理解することができる。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

現代の日本社会・文化においては、西洋社会・文化に由来するものが数多くあり、常識となっているものもある(逆に違和感があり馴染めないものもある)。本講義では、そうしたもののルーツとなるものを、西洋の歴史をたどって概観していくことで理解を深めたい。またそういったものについていろいろと考えを巡らせてみることを大切にしたい。

西洋史におけるさまざまなトピックを充分に学修するために、毎回、授業理解をかしずく積み重ねていく必要がある。このため、この授業では予習として前回までの授業内容を充分におさらいして受講することが求められる。また評価方法に記してあるように、授業中に不定期で小テストを行うが、その設問内容は当日の授業だけでなく、それ以前の授業内容を踏まえたものである。毎回の予習・復習を怠らないようにすること。小テストについては、行った回の次回以降で授業中にコメントをするので、それも踏まえて授業内容のより深い理解に努めること。

他の受講者の迷惑になるので、私語は厳禁。ひどい場合は成績評価においてペナルティを与える。

教科書

毎回レジュメプリント・資料プリントを配布する。

参考書

必要に応じて授業中に紹介する。

研究室/オフィスアワー

授業内容について質問があるときは、授業時間の前後に直接講師に質問すること。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	講義全体の趣旨・概要と成績評価などについて説明(ガイダンス)。また講義の導入として古代ギリシャの文化・社会について①。	(予習)西洋社会・文化について自分がどういうイメージを抱いているのかを考えておくこと。 (復習)レジュメプリント・資料プリントに目を通し、授業内容に対する理解を深めておくこと。	
2	古代ギリシャの文化・社会について②。およびヒポクラテスの「医」について。	(予習)前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。 (復習)レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。	
3	古代ローマの文化・社会について。およびガレノスの「医」について。	(予習)前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。 (復習)レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。	

4	中世キリスト教社会の成立について①。およびアウグスティヌスの「国」について。	(予習)前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。 (復習)レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。	
5	中世キリスト教社会の成立について②。および「ペスト(黒死病)」について。	(予習)前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。 (復習)レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。	
6	ルネサンス・ルターの宗教改革、三十年戦争について。および「解剖学」について。	(予習)前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。 (復習)レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。	
7	17世紀の西洋社会・文化について(近代的国家の形成過程や科学革命など)。およびハーヴェイの「血液循環論」について。	(予習)前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。 (復習)レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。	
8	18世紀の啓蒙思想について(モンテスキュー、ルソー、アダム・スミスなどの思想)。およびレーヴェンハックの「顕微鏡」について。	(予習)前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。 (復習)レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。	
9	産業革命とフランス革命について。およびバスターールの「フランス」について。	(予習)前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。 (復習)レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。	
10	ウィーン体制と国民国家の形成過程、帝国主義について。および「X 繻装置」について。	(予習)前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。 (復習)レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。	
11	アメリカ独立戦争とアメリカ合衆国の成立について。および「天然痘」について。	(予習)前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。 (復習)レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。	
12	第一次世界大戦前後の西洋社会・文化について(ロシア革命やヴェルサイユ体制など)。および「人工心臓装置」について。	(予習)前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。 (復習)レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。	
13	第二次世界大戦前後の西洋社会・文化について(世界大恐慌やファシズムの台頭など)。およびクリックとワトソンの「二重らせん」について。	(予習)前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。 (復習)レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。	
14	第二次世界大戦後の西洋社会・文化について(冷戦とポスト冷戦など)。および「MRI スキャナー」について。	(予習)前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。 (復習)レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。	
15	講義全体のまとめ 期末試験についての説明	(予習)これまで授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。 (復習)期末試験に備え、レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。	
成績評価方法と基準			割合
期末試験を50点、授業中に不定期に行う計5回の小テスト(1回につき10)を50点とし、合わせて100点満点として評価する。			小テスト 50%
小テストは授業中(授業開始後の30分が授業終了前の30分、テスト時間をとる)に行うのでレジュメやノートを見ながら解答して構わない。授業内容を充分に理解し、そのうえで自分の意見や考えを一定の字数で述べるようにすることが求められる。			期末試験 50%
期末試験については、講義全体の流れとキーワードをしっかり理解しているかを問う。試験の出題範囲や形式の			

詳細については、第 15 回目の講義時に説明する

授業科目名		英語 I (初級)(看護 A) (English I [Beginner])	
主担当教員	長尾 晋宏	担当教員	長尾 晋宏
科目ナンバリング	LA011	教養科目	ディプロマポリシー 該当項目 DP②
配当年次	1	開講学期	曜日・時限 水曜 3 限
授業形態	演習	単位数	2
授業概要	<p>英語 I では、日常生活で最低限必要とされる、スピーキング、リスニング、リーディングのスキルを総合的に習得する。基本的な文法を復習し、単語・熟語・慣用句などの語彙を構やしながら、最低限自己表現できるコミュニケーション力を身につける。また、多くのリスニングをこなし、英語に耳を慣らしていく。授業を通して、英語に対する抵抗感をなくし、英語を学ぶことは楽しいという感覚を習得する。さらに、多読を行い、多量のインプットをすることにより、英語力アップを目指す。</p>		
到達目標	<p>日常生活で目や耳にすると英語に親しみ、それらを最低限理解できる。 基本的な文法、語彙、表現を身につける。 履修上の注意(学生へのメッセージ)</p>		
	<p>積極的に授業に参加すること。 宿題(特にリーディングの予習)は必ずしてから授業に臨むこと。 私語、携帯電話の使用などは控むこと。</p>		
教科書	教科書		
	Good Morning World ① (Susan Stempleski, Nancy Douglas, James Morgan / Cengage Learning, 2014)		
参考書	参考書		
英和辞書	英和辞書		
研究室/オフィスアワー	研究室/オフィスアワー		
東棟 4 階研究室 14	東棟 4 階研究室 14		
授業展開及び授業計画表	授業展開及び授業計画表		
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	Greetings and intros	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
2	Getting to know you	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
3	Countries and Nationalities	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
4	Countries of the world	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
5	Personal Items	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
6	Gift giving	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
7	Activities and Interests	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
8	For here or to go?	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	

		と。	
9	Everyday activities	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
10	Food	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
11	Food and eating habits	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
12	My Family	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
13	This is my family!	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
14	All in the family	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
15	Review	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
成績評価方法と基準			割合
①定期試験			①40%
②プレゼンテーション・その他課題・授業態度・参加			②40%
③多読			③20%
2/3以上の出席が必要。			

授業科目名 英語Ⅰ(初級)(看護B) (English I【Beginner】)			
主担当教員	竹内 恵子	担当教員	竹内 恵子
科目ナンバリング	LA011	教養科目	ディプロマポリシー 該当項目 DP②
配当年次	1	開講学期	曜日・時限 水曜3限
授業形態	演習	単位数	2
授業概要	英語Ⅰでは、日常生活で最低限必要とされる、スピーキング、リスニング、リーディングのスキルを総合的に習得する。基本的な文法を復習し、単語・熟語・慣用句などの語彙を増やしながら、最低限自己表現できるコミュニケーション力を身につける。また、多くのリスニングをこなし、英語に耳を慣らし、授業を通して、英語に対する抵抗感をなくし、英語を学ぶことは楽しいという感覚を習得する。さらに、多読を行い、多量のインプットをすることにより、英語力アップを目指す。		
到達目標	日常生活で目や耳にする英語に親しみ、それらを最低限理解できる。		
	基本的な文法、語彙、表現を身につける。		
	履修上の注意(学生へのメッセージ)		
	積極的に授業に参加すること。		
	宿題(特にリーディングの予習)は必ずしてから授業に臨むこと。		
	私語、携帯電話の使用などは慎むこと。		
	教科書		
	Good Morning World ① (Susan Stempleski, Nancy Douglas, James Morgan / Cengage Learning, 2014)		
	参考書		
	英和辞書		
	研究室/オフィスアワー		
	東棟1階講師控室		
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	Greetings and intros	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
2	Getting to know you	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
3	Countries and Nationalities	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
4	Countries of the world	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
5	Personal Items	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
6	Gift giving	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
7	Activities and Interests	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
8	For here or to go?	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	

9	Everyday activities	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
10	Food	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
11	Food and eating habits	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
12	My Family	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
13	This is my family!	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
14	All in the family	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
15	Review	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
成績評価方法と基準			割合
①定期試験			①40%
②プレゼンテーション・その他課題・授業態度・参加			②40%
③多読			③20%
2/3以上の出席が必要。			

授業科目名		英語Ⅱ(中級)(看護A) (English II 【Intermediate】)	
主担当教員	長尾 晋宏	担当教員	長尾 晋宏、竹内 恵子
科目ナンバリング	LA012	科目区分	ディプロマポリシー 該当項目 DP②
配当年次	1	開講学期	曜日・時限 水曜3限
授業形態	演習	単位数	2
授業概要	<p>前期科目の英語Ⅰに引き続き、本授業でも、日常生活で最低限必要とされる、スピーキング、リスニング、リーディングのスキルを総合的に習得する。基本的な文法を復習し、単語・熟語・慣用句などの語彙を増やしながら、最低限自己表現できるコミュニケーション力を身につける。また、多くのリスニングをこなし、英語に耳を慣らし、多読を行い、多量のインプットをすることにより、英語力アップを目指す。授業を通して、英語に対する抵抗感をなくし、英語を学ぶことは楽しいという感覚を習得する。</p> <p>到達目標</p> <p>基本的な文法、語彙を確実に身につける。 英語で最低限のコミュニケーションが取れる。 簡単な英文を正確に理解できる。 履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>積極的に授業に参加すること。 宿題(特にリーディングの予習)は必ずしてから授業に臨むこと。 私語、携帯電話の使用などは控むこと。</p> <p>教科書 Good Morning World ① (Susan Stempleski, Nancy Douglas, James Morgan / Cengage Learning, 2014) (英語Ⅰで使用したテキストを引き続き使用する。英語Ⅰを履修していない者のみ、購入すること。)</p> <p>参考書 英和辞典 多読用図書 研究室/オフィスアワー E棟4階研究室14</p>		
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	Time	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
2	Time and schedules	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
3	Special Occasions	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
4	Holidays and celebrations	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
5	Person to Person	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
6	Living with others	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
7	Home Sweet Home	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
8	Housing	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	

		後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
9	Clothing	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
10	Shopping for clothes	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
11	Jobs and Ambitions	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
12	Jobs	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
13	Dress the part	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
14	Good jobs	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
15	Review	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
成績評価方法と基準			割合
①定期試験			①40%
②プレゼンテーション・その他課題・授業態度・参加			②40%
③多読			③20%
2/3以上の出席が必要。			

授業科目名 英語Ⅱ(中級)(看護B) (English II [Intermediate])			
主担当教員	竹内 恵子	担当教員	竹内 恵子、長尾 晋宏
科目ナンバリング	LA012	教養科目	ディプロマポリシー DP②
配当年次	1	開講学期	曜日・時限 水曜3限
授業形態	演習	単位数	2
授業概要	<p>前期科目の英語Ⅰに引き続き、本授業でも、日常生活で最低限必要とされる、スピーキング、リスニング、リーディングのスキルを総合的に習得する。基本的な文法を習得し、単語・熟語・慣用句などの語彙を増やしながら、最低限自己表現できるコミュニケーション力を身につける。また、多くのリスニングをこなし、英語に耳を慣らし、多読を行い、多量のコンテンツをすることにより、英語力アップを目指す。授業を通して、英語に対する抵抗感をなくし、英語を学ぶことは楽しいという感覚を習得する。</p> <p>到達目標</p> <p>基本的な文法、語彙を確実に身につける。 英語で最低限のコミュニケーションが取れる。 簡単な英文を正確に理解できる。 履修上の注意(学生へのメッセージ) 積極的に授業に参加すること。 宿題(特にリーディングの予習)は必ずしてから授業に臨むこと。 私語、携帯電話の使用などは慎むこと。 教科書 Good Morning World ① (Susan Stempel eski, Nancy Douglas, James Morgan / Cengage Learning, 2014) (英語Ⅰで使用したテキストを引き続き使用する。英語Ⅰを履修していない者のみ、購入すること。) 参考書 英和辞典 多読用図書 研究室/オフィスアワー E棟1階講師控室</p>		
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	Time	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
2	Time and schedules	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
3	Special Occasions	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
4	Holidays and celebrations	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
5	Person to Person	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
6	Living with others	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
7	Home Sweet Home	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
8	Housing	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業	

9	Clothing	後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
10	Shopping for clothes	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
11	Jobs and Ambitions	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
12	Jobs	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
13	Dress the part	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
14	Good jobs	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
15	Review	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
成績評価方法と基準			割合
①定期試験			①40%
②プレゼンテーション・その他課題・授業態度・参加			②40%
③多読			③20%
2/3以上の出席が必要。			

授業科目名	英会話 I (履修) (English Conversation I)		
主担当教員	Julian Houseman	担当教員	Julian Houseman
科目ナンバリング	LA021	科目区分	ディプロマポリシー 該当項目 DP②
配当年次	2	開講学期	曜日・時限 金曜 1 限
授業形態	演習	単位数	必修・選択 2 選択
授業概要	英会話 I では、基本的な英語によるコミュニケーション能力を習得することを目的とする。英会話の基本的ルールである、(1) 主語の存在、(2) 語順(主語・動詞・疑問詞など)、(3) 語彙力、を意識しながら、日常生活の中で、道を尋ねる、買い物をする、自己紹介をするなどといった他人と関わる際に最低限必要な会話を身につける。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 自己紹介ができる。 最低限の日常会話ができる。 自分の考えを最低限伝えることができる。 		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	履修上の注意(学生へのメッセージ)		
ペアワーク、グループワークなどによる会話の練習が多いため、積極的に参加すること。前回の授業の復習を必ずしてから授業に臨むこと。			
教科書			
書名/Title : CHALLENGER 6			
著者名/Authors : EGC 総合教育研究所			
出版社・出版年 / EGC			
価格 : 2,000 円			
参考書			
特になし			
研究室 / オフィスアワー			
E 棟 1 階非常勤講師教室			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	Course introduction, Classroom English	授業の復習並びに会話確認テスト準備	
2	Introduction yourself Greetings	授業の復習並びに会話確認テスト準備	
3	Greetings friends Casual Greetings	授業の復習並びに会話確認テスト準備	
4	What' s your sister' s name? Talk about people	授業の復習並びに会話確認テスト準備	
5	Free time Talk about activities	授業の復習並びに会話確認テスト準備	
6	Exercise Talk about exercise	授業の復習並びに会話確認テスト準備	
7	What kind of bike do you have? Closed questions and follow-up questions	授業の復習並びに会話確認テスト準備	
8	Food you like Open questions and closed questions	授業の復習並びに会話確認テスト準備	
9	Clothes Talk about shopping	授業の復習並びに会話確認テスト準備	
10	Is it expensive? Adjectives and recommendations	授業の復習並びに会話確認テスト準備	
11	Visiting someone Talking someone	授業の復習並びに会話確認テスト準備	
12	Saying people Offering something	授業の復習並びに会話確認テスト準備	
13	What' s this wooden thing? Talk about objects	授業の復習並びに会話確認テスト準備	
14	Describing people Wh~questions	授業の復習並びに会話確認テスト準備	

15	講義全体のまとめ	授業の復習並びに総括小テスト準備
成績評価方法と基準		割合
①授業参加度		①20%
②小テスト		②60%
③確認テスト		③20%

授業科目名	医学英語(看護) (English for Medicine)		
主担当教員	長尾 晋宏	担当教員	長尾 晋宏
科目ナンバリング	LA022	科目区分	DP②
配当年次	2	開講学期	後期
授業形態	演習	単位数	2
授業概要	<p>医療従事者に必要な英語のコミュニケーション能力を身につけるため、臨床現場で患者の主訴等の発話を正確に理解したり、患者に正確な指示を伝えたりするために必要となる表現や語彙を習得する。また、医学関連の文献や論文、その他情報収集方法と論文の構成を習得し、専門分野における最先端の研究情報を得るためのスキルを身につける。</p> <p>留米医療従事者となる皆さんに、ぜひ受講をお勧めする。</p> <p>到達目標</p> <p>最低限患者とコミュニケーションがとれる。 最低限の医学用語が理解できる。 医学分野の英語の論文がどのような構成になっているのか理解できる。</p> <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>積極的に授業に参加すること。 宿題や予習(特にリーディング)は必ずしてから授業に臨むこと。 携帯電話の使用、私語は慎むこと。</p> <p>教科書</p> <p>実践看護英語(竹林修一、英宝社、2014)</p> <p>参考書</p> <p>英和辞書</p> <p>研究室/オフィスアワー</p> <p>棟棟 4 階研究室 14</p>		
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	Introduction / Medical terminology / Getting to know the patients 1	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
2	Getting to know the patients 2	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
3	Getting to know the patients 3	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
4	Getting to know the patients 4	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
5	Examination 1	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
6	Examination 2	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
7	Instructing medication	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
8	Treating the patients 1	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
9	Treating the patients 2	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
10	Treating the patients 3	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	

11	Operation / Plumbed) について、論文の構成について	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	
12	Pregnancy / Articles on Nursing 1	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	
13	In the hospital / Articles on Nursing 2	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	
14	Emergencies / Articles on Nursing 3	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	
15	Living a healthy life / Review	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	
成績評価方法と基準			割合
小テスト			30%
プレゼンテーションおよびその他課題			40%
授業参加態度			30%
2/3以上の出席が必要。			

授業科目名 基礎英語演習(看護)			
主担当教員	長尾 晋宏	担当教員	長尾 晋宏
科目ナンバリング	LA023	教養科目	ディプロマポリシー 該当項目 DP②
配当年次	2	開講学期	曜日・時限 火曜5限
授業形態	演習	単位数	2
授業概要	本授業では、TOEIC 形式の練習問題を履きながら、リーディング力とリスニング力を強化することを目指す。頻出の語彙、熟語、慣用句を確認しつつ、日常生活を送るうえで相手を十分意思疎通を図ることができる英語力を身に付ける。		
到達目標	基本的な文法、語彙、表現を徹底的に習得する。 TOEIC500 点相当の英語力を身に付ける。		
履修上の注意 (学生へのメッセージ)	積極的に授業に参加すること。 宿題は必ずしてから授業に臨むこと。 私語、携帯電話の使用などは慎むこと。		
教科書	Score Booster for the TOEIC L&R Test Pre-Intermediate (Yumiko Mizoguchi, Machiko Yanagita / 金星堂, 2019)		
参考書			
英和辞書			
研究室/オフィスアワー			
E 棟 4 階研究室 14			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	Introduction / Unit 1 Travel	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
2	品詞①・名詞(可算名詞・不可算名詞)	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
3	Unit 2 Dining Out	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
4	品詞②・形容詞(名詞修飾、補語)	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
5	Unit 3 Media	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
6	品詞③・副詞(動詞・形容詞修飾)	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
7	Unit 4 Entertainment	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
8	時制(現在・過去・未来・現在進行形)	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	

9	Unit 5 Purchasing	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
10	3 単現の s (修飾語句を伴う主語)	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
11	Unit 6 Clients	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
12	能動態・受動態 (感情を表す表現)	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
13	Unit 7 Recruiting	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
14	動詞の後ろの動名詞・不定詞 (前置詞の後ろの動名詞、定型表現)	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
15	Review	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
成績評価方法と基準			割合
①小テスト			①40%
②その他課題・授業態度・参加			②60%
2/3以上の出席が必要。			

授業科目名	応用英語演習(看護)		
主担当教員	長尾 晋宏	担当教員	長尾 晋宏
科目ナンバリング	LA024	科目区分	DP②
配当年次	2	開講学期	曜日・時限 火曜 1 限
授業形態	演習	単位数	2
授業概要	本授業では、TOEIC 形式の練習問題を解きながら、リーディング力とリスニング力を強化することを目的とする。頻出の語彙、熟語、慣用句を確認しつつ、日常生活を送るうえで相手と十分意思疎通を図ることができる英語力を身に着ける。		
到達目標	文法、語彙、表現を徹底的に習得する。 TOEIC550 点相当程度の英語力を身に着ける。		
履修上の注意 (学生へのメッセージ)	積極的に授業に参加すること。 宿題 (特にリーディングの予習) は必ずしてから授業に臨むこと。 私語、携帯電話の使用などは控むこと。		
教科書	Score Booster for the TOEIC L&R Test Pre-Intermediate (Yumiko Mizoguchi, Machiko Yanagita / 金星堂, 2019) (前期に基礎英語演習を履修した者は、再度購入する必要はありません)		
参考書			
英和辞書			
研究室 / オフィスアワー			
E 棟 4 階研究室 14			
授業展開及び授業計画表	回数	学修内容	担当
1	Introduction / Unit 8 Personnel	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
2	代名詞 (主格・所有格・目的格・所有代名詞)	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
3	Unit 9 Advertising	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
4	比較 (比較級、最上級、as ... as)	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
5	Unit 10 Meetings	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
6	前置詞 (理由・譲歩・時、定型表現)	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
7	Unit 11 Finance	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
8	接続詞 (理由・譲歩・時)	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	

9	Unit 12 Offices	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	割合
10	前置詞・接続詞対比	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	①40%
11	Unit 13 Daily Life	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	②20%
12	関係代名詞(主格・所有格・目的格)	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	③40%
13	Unit 14 Sales & Marketing 語彙①(名詞・形容詞)	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
14	Unit 15 Events 語彙②(動詞・副詞)	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
15	Review	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
成績評価方法と基準			
①小テスト			
②その他課題・授業態度・参加			
③Review test			
2/3以上の出席が必要。			

授業科目名	スポーツ健康科学演習(看護) (Sports Health Science Seminar)		
主担当教員	中原 英博	担当教員	中原 英博、佐野 加奈絵、伊奈 新太郎、堀江 彩加、濱口 幹太、山口 晏奈、長谷川 夏輝、伊藤 剛
科目ナンバリング	CS017	科目区分	学部共通科目
配当年次	1	開講学期	後期
授業形態	演習	単位数	2
授業概要	<p>本スポーツ健康科学演習では、学生が自らの適正に於いてスポーツ・トレーニング種目を選択できるよう、軽スポーツ、球技スポーツ、ダンス、ダンス、ダンス、ダンスなど多様なスポーツ・トレーニング種目を用意し、各種目特性を生かして、「思いっきり体を動かす喜び」を感じて感じる理由の楽しさを存分に体験できるようにゲーム主体の授業プログラムを提供する。その中で、体力のレベルアップや身体動作の向上を図ると同時に、ゲーム等を自主的に運営する能力を養う。また、スポーツ・トレーニングの実践を通じて学生同士の心の交流や人間関係を育み、生涯にわたり楽しく、計画的にスポーツ・トレーニングを実践する習慣を育成することも本実習の大きな狙いである。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. スポーツ活動を通じて、学級の枠を超えた学生同士の心の交流や人間関係を育むことができる。 2. スポーツ活動を通じて、基礎体力や、技術が向上する。 3. スポーツ活動を通じて、チームワークの重要性を認識できる。 4. 生涯にわたり楽しく、計画的にスポーツを実践する習慣を身につけることができる。 <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>履修について</p> <ol style="list-style-type: none"> (1)各教員からの指示がない限り、トレーニング用シャツ・パンツ・シューズは毎週持参し、更衣した後、授業に臨むこと。 (2)シューズは屋外用、屋内用ともにゴム底の運動靴を使用すること。屋外でのスポーツ種目を実施するクラスの場合は、雨天により急ぎ屋内種目に変更する可能性があるため、毎回の授業時において、屋内用シューズは必ず用意しておくこと。 (3)授業中におけるみかネや時計などの破壊、コンタクトレンズや装飾品の紛失について担当教員は責任を負わない。 <p>注意事項</p> <ol style="list-style-type: none"> (1)集合場所 日中に(特に雨天時)によって、各クラス担当教員ごとに、授業を行う場所やバス運行時刻等が変更する場合があります。特別指示がない場合においても、毎回、注意して掲示板を見る習慣をつけること。 (2)各運動施設までの移動手段について 本学では、1回生全員を対象に、本学体育館や近隣の代替運動施設を利用して、スポーツ・健康科学演習を行います。近隣(バスで約10~20分)の運動施設までの移動には、大学前から現地まで買い切りバスをチャーターし、以下のタイムスケジュールにしたがって、みなさんを送迎します。 <p>教科書</p> <p>特に指定しない。</p> <p>参考書</p> <p>特に指定しない。</p> <p>研究室/オフィスアワー</p> <p>原則月曜日 3時限目・4時限目 その他、部屋にいればいつでも訪問可です。質問等はいつでも自由にとどうぞ。</p>		
予習・復習 課題等	担当		
1	オリエンテーション クラス分けガイダンス スポーツ種目の選択、コースの決定	予習・復習 課題等	軽スポーツ、球技スポーツ、ダンスなど多様なスポーツ種目の特性について理解を深めておく。
2	オリエンテーション クラス分けガイダンス スポーツ種目の選択、コースの決定		
3	スポーツ種目特性の理解 種目・用具特性の把握		
4	スポーツ種目特性の理解 種目・用具特性の把握		
5	基本技術の習得 スポーツ種目に応じた基本技術の習得①		

6	基本技術の習得 スポーツ種目に応じた基本技術の習得①			
7	基本技術の習得 スポーツ種目に応じた基本技術の習得②			
8	基本技術の習得 スポーツ種目に応じた基本技術の習得②			
9	基本技術の習得 スポーツ種目に応じた基本技術の習得③			
10	基本技術の習得 スポーツ種目に応じた基本技術の習得③			
11	応用技術の習得 スポーツ種目に応じた応用技術の習得①			
12	応用技術の習得 スポーツ種目に応じた応用技術の習得①			
13	応用技術の習得 スポーツ種目に応じた応用技術の習得②			
14	応用技術の習得 スポーツ種目に応じた応用技術の習得②			
15	応用技術の習得 スポーツ種目に応じた応用技術の習得③			
16	応用技術の習得 スポーツ種目に応じた応用技術の習得③			
17	基本・応用技術の発展 複雑ゲームの実施とルールの理解①			
18	基本・応用技術の発展 複雑ゲームの実施とルールの理解①			
19	基本・応用技術の発展 複雑ゲームの実施とルールの理解②			
20	基本・応用技術の発展 複雑ゲームの実施とルールの理解②			
21	ゲームの展開 学生主体のゲーム運営①			
22	ゲームの展開 学生主体のゲーム運営①			
23	ゲームの展開 学生主体のゲーム運営②			
24	ゲームの展開 学生主体のゲーム運営②			
25	ゲームの展開 学生主体のゲーム運営③			
26	ゲームの展開 学生主体のゲーム運営③			
27	ゲームの展開 学生主体のゲーム運営④			
28	ゲームの展開 学生主体のゲーム運営④			
29	ゲームの展開 学生主体のゲーム運営⑤			
30	ゲームの展開 学生主体のゲーム運営⑤			
成績評価方法と基準		割合		
授業回数の2/3(20コマ)以上出席すること(本授業科目においては1日で2コマ分の授業となっているので10日以上出席が必要です)。授業開始後、30分を超えての遅刻は欠席とみなす。成績の評価は、原則として2/3以上出席した者を対象とする。		1. 100%		
①参加・技能・理解・積極性などを総合的に判定するとともに、授業最終日にはレポートの提出を義務づける。その成績が60点未満の者は不可とし、単位を認定しない。				

授業科目名	健康科学(スポーツ社会学を含む)(看護) (Health Science [Including Sports Sociology])		
主担当教員	濱口 幹太	担当教員	濱口 幹太
科目ナンバリング	CS018	学部共通科目	ディプロマポリシー 該当項目
配当年次	1	開講学期	曜日・時限 月曜1限
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	健康に対する意識が高まり、健康食品や健康器具などがブームとなっている近年、マスメディアを通じて流されている情報には、科学的根拠が乏しいものも少なくはない。本授業では、生活習慣病、地域社会における健康維持、増進に関わる取り組みや考え、運動や食事指導に関する科学的根拠に基づいた専門的な知識を身につけることを目標とする。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・運動や食事指導に関する科学的根拠に基づいた専門的な知識を身につける。 ・本邦における健康維持、増進に関わる取り組みや考え方について理解する。 		
履修上の注意	・大学生として節度ある態度で授業に臨むこと		
教科書			
適宜、資料を配布する。			
参考書			
出村優一監修「健康・スポーツ科学講義」杏林書院、2005年			
田中晝代代編「健康運動の支援と実践」金芳堂、2006年			
研究室/オフィスアワー			
非常勤講師室			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	オリエンテーション	予習: シラバスの確認 復習: 内容の確認	
2	健康・体力の概念	予習: 健康に関する記事をチェック 復習: 今回の内容を再確認	
3	アルコールの影響とは	予習: 身体に及ぼす影響をチェック 復習: 今回の内容を再確認	
4	喫煙について	予習: 身体に及ぼす影響をチェック 復習: 今回の内容を再確認	
5	高脂血症・動脈硬化症	予習: どのような症状があるかチェック 復習: 今回の内容を再確認	
6	高血圧・脳卒中・心臓病	予習: どのような症状があるかチェック 復習: 今回の内容を再確認	
7	糖尿病・メタボリックシンドローム	予習: どのような症状があるかチェック 復習: 今回の内容を再確認	
8	前半まとめ	予習: 今までの内容の再確認 復習: 今までの内容の再確認	
9	身体活動の必要性	予習: 運動習慣のチェック 復習: 今までの内容の再確認	
10	肥満について	予習: 体型のチェック 復習: 今回の内容を再確認	
11	薬物乱用について	予習: 薬物の影響のチェック 復習: 今回の内容を再確認	
12	救急法	予習: 心肺蘇生法のチェック 復習: 今回の内容を再確認	
13	スポーツトレーニング	予習: スポーツの種目のチェック 復習: 今回の内容を再確認	
14	健康に関するVTR	予習: 健康に関する記事をチェック 復習: 今回の内容を再確認	
15	後半まとめ	予習: 今までの内容の再確認 復習: 今回の内容を再確認	
成績評価方法と基準		割合	

定期試験で評価する。15回の講義に対し、必要な時間数の出席が必須である。

健康管理学 I (看護) (Healthcare Management I)			
授業科目名	健康管理学 I (看護) (Healthcare Management I)		
主担当教員	伊黒 浩二	担当教員	伊黒 浩二
科目ナンバリング	CS022	科目区分	学部共通科目
配当年次	2	開講学期	前期
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	<p>近年、生活習慣病の危険因子が明らかになれつつある。危険因子を多く有する人は疾患に罹患する確率が高くなることから、日常生活でいかに健康管理を行うかについての関心が高まっている。本講義では、運動不足の健康への影響を学び、ライフステージに応じた健康づくりのための身体活動基準、目的に応じた効果的なトレーニング法の原理、原則を学修する。特に、有酸素性運動の健康上の必要性を学び、運動処方条件(強度・時間・頻度)に関する知識を養う。また、運動強度の指標を理解し、ウォーミングアップとクーリングダウン、及びレジスタンス運動を含めた、運動処方プログラムの構成についても学修する。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 健康管理と疾病の予防に関する基礎知識を習得し、予防医学の重要性を理解する。 2. 健康づくりのための運動に必要な知識、生活習慣病予防に役立つ基礎知識を説明できる。 3. 健康管理のための正しい知識を身につけ、健康の保持増進に役立てることができる。 <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>①寝らない ②喋らない ③内職しない ④スマホを触らない 以上のルールを守って熱心に学習して下さい。</p>		
教科書			
特にありません。			
参考書	健康・スポーツ科学の基礎(出村慎一監修・杏林書院) 健康・スポーツ科学テキスト トレーニング科学(北川薫編集・文光堂) 特定健診・保健指導に役立つ 健康運動指導マニュアル(佐藤祐造編集・文光堂)、他		
研究室/オフィスアワー	研究室/オフィスアワー		
授業開始前は非常勤講師室にいます。			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	健康管理について 1	予習:シラハスの確認 復習:授業をもとにノート・プリントの確認	
2	健康管理について 2	予習:シラハスの確認 復習:授業をもとにノート・プリントの確認	
3	生活習慣病と運動 1	予習:シラハスの確認 復習:授業をもとにノート・プリントの確認	
4	生活習慣病と運動 2	予習:シラハスの確認 復習:授業をもとにノート・プリントの確認	
5	生活習慣病と運動 3	予習:シラハスの確認 復習:授業をもとにノート・プリントの確認	
6	トレーニングの基礎知識	予習:シラハスの確認 復習:授業をもとにノート・プリントの確認	
7	全身持久力トレーニングについて	予習:シラハスの確認 復習:授業をもとにノート・プリントの確認	
8	筋持久力・筋力トレーニングについて 1	予習:シラハスの確認 復習:授業をもとにノート・プリントの確認	
9	筋持久力・筋力トレーニングについて 2	予習:シラハスの確認 復習:授業をもとにノート・プリントの確認	
10	パワートレーニングについて	予習:シラハスの確認 復習:授業をもとにノート・プリントの確認	
11	トレーニングでの注意点 1 ウォームアップとウォームダウン 1	予習:シラハスの確認 復習:授業をもとにノート・プリントの確認	
12	トレーニングでの注意点 2 ウォームアップとウォームダウン 2	予習:シラハスの確認 復習:授業をもとにノート・プリントの確認	
13	トレーニングでの注意点 3 オーバーエクササイズによる身体的問題	予習:シラハスの確認 復習:授業をもとにノート・プリントの確認	
14	トレーニングでの注意点 4 障害を予防するためのアイシング	予習:シラハスの確認 復習:授業をもとにノート・プリントの確認	

15	講義全体のまとめ	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	割合
成績評価方法と基準			
①筆記試験			①70%
②授業ごとの小テスト・課題提出 ・全授業のうち2/3以上の出席が必要			②30%

授業科目名		健康管理学Ⅱ(看護) (Healthcare Management II)	
担当教員	伊黒 浩二	担当教員	伊黒 浩二
科目ナンバリング	CS023	学部共通科目	ディプロマポリシー 該当項目 DP③
配当年次	2	開講学期	曜日・時限 水曜3限
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	<p>近年、生活習慣病だけでなく、加齢に伴う生活機能低下を防ぐ対策が重要課題となってきた。健康寿命を延伸するために、日常生活でいかに健康管理を行うかについての関心が高まっている。本講義では、疾病構造の変化と身体活動・運動不足の関連性、身体運動のメカニズム、および健康度の一つの尺度となる体力・日常動作について理解を深めると同時に、第一次予防の視点に立って運動が健康づくり、特に生活習慣病予防・介護予防に役立つ根拠について学修する。生活習慣病とロコモティブシンドロームを予防し、健康寿命を延伸するための理論、並びに具体的な実践方法についても理解を深める。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生活習慣病・加齢に伴う生活機能低下に関する基礎知識を習得し、予防医学の重要性を理解する。 2. 健康寿命の延伸に必要な基礎知識、生活習慣病予防・介護予防に役立つ健康づくり運動の知識を説明できる。 3. 健康管理のための正しい知識を身につけ、健康の保持増進に役立てることができる。 <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>①寝ない ②喋らない ③内職しない ④スマホを触らない 以上のルールを守って熱心に学習して下さい。</p> <p>教科書</p> <p>特にありません</p> <p>参考書</p> <p>健康・スポーツ科学の基礎(出村順一監修・杏林書院) 健康・スポーツ科学テキスト・トレーニング科学(北川重編集・文光堂) 特定健診・保健指導に役立つ 健康運動指導マニュアル(佐藤祐造編集・文光堂) 他</p> <p>研究室 / オフィスアワー</p> <p>授業開始前は非常勤講師室にいます。</p> <p>授業展開及び授業計画表</p>		
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	健康管理について 1	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	
2	健康管理について 2	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	
3	中高年者の身体的特徴と運動 1	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	
4	骨粗鬆症と運動	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	
5	変形性関節症と運動	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	
6	生活習慣病と運動 1 メタボリックシンドローム	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	
7	生活習慣病と運動 2 高血圧症	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	
8	生活習慣病と運動 3 糖尿病	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	
9	生活習慣病と運動 4 高脂血症	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	
10	生活習慣病と運動 5 虚血性心疾患	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	
11	有酸素エクササイズについて	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	
12	レジスタンスエクササイズについて	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	
13	ウォーームアップとウォーームダウンについて 1	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	
14	ウォーームアップとウォーームダウンについて 2	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	

15	講義全体のまとめ	予習：シラハバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	割合
成績評価方法と基準			
①筆記試験			①70%
②授業ことの小テスト・課題提出 授業の2/3以上の出席が必要			②30%

授業科目名		チーム医療とコミュニケーション(看護) (Team Medical Care and Communication)	
主担当教員	升田 寿賀子	担当教員	升田 寿賀子、久木元 由紀子、 蓮池 光人
科目ナンバリング	CS020	科目区分	学術共通科目
配当年次	1	開講学期	後期
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	<p>本科目では、チーム医療の特性および、チーム医療に必要なコミュニケーションの基礎的知識・技術を学ぶが、さらに、看護コミュニケーションの特性を踏まえた技術について、体験的に理解しながら実能力を得ることをめざす。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. チーム医療の特性を理解する 2. チーム医療における看護の特性を理解する 3. チーム医療におけるコミュニケーションの特性と重要性を理解する 4. コミュニケーションおよび看護コミュニケーションの基礎的知識と技術を理解する 5. チーム医療におけるコミュニケーション上の課題・展望を考える <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>本科目は、保健医療の場におけるチームアプローチおよび、看護の基本となる重要な位置づけであることを自覚の上、主体的に学ぶ姿勢を求める</p> <p>教科書</p> <p>なし(資料配布)</p> <p>参考書</p> <p>水本清久他編(2011):実践チーム医療論 医歯薬出版 川島みどり他(2008):看護カンファレンス、第3版 医学書院 平澤久一監修(2014):表層看護のすすめ～言葉の向こうのコミュニケーション、第1版、メディカ出版 岩崎久志(2014):看護・チーム支援に活かすカウンセリング 兎洋書房 杉本なおみ(2013):改訂 医療者のためのコミュニケーション入門 改訂版 精神看護出版 大森詔子他(2003):仲間とみがく看護のコミュニケーション・センス、第1版 医歯薬出版 国立がん研究センター 東病院看護部(2)</p> <p>研究室/オフィスアワー</p> <p>久木元(西棟235研究室)講義後または、相談の上随時</p>		
授業展開及び授業計画表			
回数	学習内容	予習・復習・課題等	担当
1	ガイダンス IPW、チーム医療とは	授業内で提示する	升田
2	チーム医療に必要な知識と能力	授業内で提示する	升田
3	チーム医療での他職種について①	授業内で提示する	升田
4	チーム医療での他職種について②	授業内で提示する	升田
5	チーム医療での他職種について③	授業内で提示する	升田
6	カンファレンスについて①	授業内で提示する	升田
7	カンファレンスについて②	授業内で提示する	升田
8	看護とコミュニケーション ①「看護とは何かについて考えることができる ②「人間」とは何かについて考えることができる	授業内で提示する	蓮池
9	笑いのコミュニケーションについて ①「笑いの視点からコミュニケーションについて考えることができる ②「笑いのあるコミュニケーションの実践方法について理解する	授業内で提示する	蓮池・ゲスト スピカー
10	看護師同士でのコミュニケーション ①臨床の場における看護師のコミュニケーションについて理解する	授業内で提示する	蓮池

11	治療対象者とのコミュニケーション ①治療対象者と看護師のコミュニケーションについて理解する ②治療対象者を取り巻く人々と看護師のコミュニケーションについて理解する	授業内で提示する	蓮池
12	がん患者とのコミュニケーション	授業内で提示する	久木元
13	チーム医療におけるコミュニケーションの実践、がん専門看護師 メンタルケアするためのコミュニケーション ①対象に寄り添うとは何かを理解する ②メンタルケアに必要なコミュニケーションを理解する	授業内で提示する	久木元・ガス トスピカー
14		授業内で提示する	蓮池
15	チーム医療におけるコミュニケーションのまとめ	授業内で提示する	升田
成績評価方法と基準			
①小テスト(チーム医療、専門職の役割について) ②レポート課題 3回 (チーム医療、コミュニケーション、ガスT講義) 上記を基礎とし、60点以上を単位認定とする			

授業科目名		栄養学(看護) (Nutriology)	
主担当教員	森 美侑紀	担当教員	森 美侑紀
科目ナンバリング	CS024	学部共通科目	ディプロマポリシー 該当項目
配当年次	1	開講学期	曜日・時限 月曜 5 限
授業形態	講義	単位数	必修・選択 必修
授業概要			
栄養素の種類や働きを学び、消化吸収と代謝経路およびその調節系を理解する。			
到達目標			
1) 三大栄養素(糖・脂質・タンパク質)の消化・吸収・代謝の基礎を説明できる。 2) 食事摂取基準および身体活動に応じた消費エネルギー算出の理論を説明できる。 3) ビタミンの作用と欠乏症について説明できる。			
履修上の注意(学生へのメッセージ)			
教科書を中心に講義を行います。が、板書内容や配布資料も参考にして理解を深めてください。			
教科書			
イラスト基礎栄養学(第2版)大口健司 他著 東京教学社			
参考書			
系統看護学講座 栄養学 人体の構造と機能 ③			
研究室/オフィスアワー			
木曜日 午後5時～7時			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	栄養の概念	予習:教科書の該当部分を読んでおくこと 復習:配布資料や板書内容も合わせて振り返りを行うこと	
2	食物の摂取	予習:教科書の該当部分を読んでおくこと 復習:配布資料や板書内容も合わせて振り返りを行うこと	
3	消化・吸収と栄養素の体内動態①	予習:教科書の該当部分を読んでおくこと 復習:配布資料や板書内容も合わせて振り返りを行うこと	
4	消化・吸収と栄養素の体内動態②	予習:教科書の該当部分を読んでおくこと 復習:配布資料や板書内容も合わせて振り返りを行うこと	
5	タンパク質の栄養	予習:教科書の該当部分を読んでおくこと 復習:配布資料や板書内容も合わせて振り返りを行うこと	
6	炭水化物の栄養①	予習:教科書の該当部分を読んでおくこと 復習:配布資料や板書内容も合わせて振り返りを行うこと	
7	炭水化物の栄養②	予習:教科書の該当部分を読んでおくこと 復習:配布資料や板書内容も合わせて振り返りを行うこと	
8	脂質の栄養	予習:教科書の該当部分を読んでおくこと 復習:配布資料や板書内容も合わせて振り返りを行うこと	
9	ビタミンの栄養①	予習:教科書の該当部分を読んでおくこと 復習:配布資料や板書内容も合わせて振り返りを行うこと	
10	ビタミンの栄養②	予習:教科書の該当部分を読んでおくこと 復習:配布資料や板書内容も合わせて振り返りを行うこと	
11	ミネラル(無機質)の栄養	予習:教科書の該当部分を読んでおくこと 復習:配布資料や板書内容も合わせて振り返りを行うこと	

12	水・電解質の栄養的意義	予習：教科書の該当部分を読んでおくこと 復習：配布資料や板書内容も合わせて振り返りを行うこと
13	エネルギー代謝①	予習：教科書の該当部分を読んでおくこと 復習：配布資料や板書内容も合わせて振り返りを行うこと
14	エネルギー代謝②	予習：教科書の該当部分を読んでおくこと 復習：配布資料や板書内容も併せて振り返りを行うこと
15	全体のまとめと振り返り	予習：教科書の該当部分を読んでおくこと 復習：配布資料や板書内容も合わせて振り返りを行うこと
成績評価方法と基準		
①筆記試験		
割合		
①100%		

身体運動科学(看護) (Science of Human Body Movement)			
授業科目名	身体運動科学(看護)	担当教員	外林 大輔
主担当教員	外林 大輔	担当教員	外林 大輔
科目ナンバリング	CS025	学部共通科目	ディプロマポリシー 該当項目 DP③
配当年次	2	開講学期	曜日・時限 水曜3限
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	講義	単位数	2
到達目標	運動がもたらす身体への生理学的意義について、これまで学習してきた生理学や解剖学をベースに学ぶことで、改めて基礎医学の重要性を理解し、資格取得後の現場に活かせる知識と考え方を身に付ける。		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	最新のデータや知見を踏まえて講義を進めます。できるだけ学生さんたちに興味を持ってもらいたいので、講義中のディスカッションや講義に対する内容の要望などがありましたら、遠慮なくお寄せください。		
教科書	教科書		
授業時に配布するプリント	授業時に配布するプリント		
参考書	参考書		
改訂版 運動生理学の基礎と発展(春日親亮著・フリースペース)	改訂版 運動生理学の基礎と発展(春日親亮著・フリースペース)		
運動生理学のニュートン・エビデンス(宮村実晴著・真興交易医書出版)	運動生理学のニュートン・エビデンス(宮村実晴著・真興交易医書出版)		
研究室ノオフィスアワー	研究室ノオフィスアワー		
大学の講義時は非常勤講師室におります。それ以外の時間帯に質問などがありましたら、メールで連絡してください。 sotobayashi@morinomiya.ac.jp	大学の講義時は非常勤講師室におります。それ以外の時間帯に質問などがありましたら、メールで連絡してください。 sotobayashi@morinomiya.ac.jp		
授業展開及び授業計画表	授業展開及び授業計画表		
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	身体運動科学の概要	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
2	運動と筋・骨格①	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
3	運動と筋・骨格②	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
4	ストレッチング&コンディショニング	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
5	柔軟性の科学①	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
6	柔軟性の科学②	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
7	運動と循環①	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
8	運動と循環②	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
9	運動と呼吸	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
10	運動と免疫	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
11	運動と栄養	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
12	運動と食生活	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
13	フィジカルチェック	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
14	脳振盪	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
15	講義全体のまとめ・試験対策	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
成績評価方法と基準			割合

①100%

授業科目名	東洋医療概論(看護)		
主担当教員	横山 浩之	担当教員	横山 浩之
科目ナンバリング	CS028	科目区分	学部共通科目
配当年次	2	開講学期	後期
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	<p>東アジアで発展した診断治療体系である東洋医学は、近年エビデンスの検証が進むにつれて批判的吟味と見直しが行われ、有効性と安全性が示されたものについては現代医療の中で応用する試みが見られるようになってきた。東洋医学は心と身体との調和を重視しており、その考え方や具体的な手法を学ぶことは、健康増進だけでなく健康回復の過程においても充実した生活と人生観を取り戻す一助になると考えられる。この授業では、東洋で発せられたさまざまな治療体系の概要・生命観・身体的手法を知り、患者や高齢者にとどのよう臨床応用していけばよいか考える機会を与える。この授業では特に理論と体系の基本を教授する。</p> <p>到達目標</p> <p>下記の内容の概要を理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 東洋医学の分野を理解する。 2. 東洋医学の基本的思考法を理解する。 3. 東洋医学が身近なものであることを認識する。 <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 東洋医学の用語に慣れること。 2. 全ての授業に出席すること。 3. できれば、自分のノートをつくること。 <p>教科書</p> <p>なし</p> <p>参考書</p> <p>なし</p> <p>研究室/オフィスアワー</p> <p>授業前後の非常勤講師控室</p> <p>授業展開及び授業計画表</p>		
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	ガイダンス、東洋医学とは この講義を学習することの意味を説明できる	復習: 授業の振り返り	
2	東洋医学の分野	予習: 前回の授業を振り返っておくこと 復習: 授業の振り返り	
3	陰陽・五行	予習: 前回の授業を振り返っておくこと 復習: 授業の振り返り	
4	臟腑経絡(1)	予習: 前回の授業を振り返っておくこと 復習: 授業の振り返り	
5	臟腑経絡(2)	予習: 前回の授業を振り返っておくこと 復習: 授業の振り返り	
6	診察	予習: 前回の授業を振り返っておくこと 復習: 授業の振り返り	
7	鍼灸治療	予習: 前回の授業を振り返っておくこと 復習: 授業の振り返り	
8	漢方治療	予習: 前回の授業を振り返っておくこと 復習: 授業の振り返り	
9	手技療法	予習: 前回の授業を振り返っておくこと 復習: 授業の振り返り	
10	中医学	予習: 前回の授業を振り返っておくこと 復習: 授業の振り返り	
11	東洋医学の歴史	予習: 前回の授業を振り返っておくこと 復習: 授業の振り返り	
12	東洋医学の特徴	予習: 前回の授業を振り返っておくこと 復習: 授業の振り返り	
13	家庭における東洋医学	予習: 前回の授業を振り返っておくこと 復習: 授業の振り返り	
14	東洋医学と民間療法	予習: 前回の授業を振り返っておくこと 復習: 授業の振り返り	

15	東洋医学の将来と課題	予習：前回の授業を振り返っておくこと 復習：授業の振り返り
成績評価方法と基準		割合
【評価の配点】		1. 40%
1. 出席・授業態度		2. 60%
2. レポート提出		
* 詳細は授業内で告知する		

授業科目名	統合医療概論(看護) (Introduction to Integrative Medicine)	
主担当教員	山下 仁	担当教員 山下 仁、森 美侑紀、増山 祥子
科目ナンバリング	CS027	学部共通科目 該当項目 DP②③
配当年次	2	科目区分 開講学期 後期 曜日・時限 木曜1限 木曜2限
授業形態	講義	単位数 2 必修・選択 選択
<p>授業概要</p> <p>統合医療という言葉が医療の中で使われるようになってきたが、実際に統合医療が何を指し、どうあるべきなのかについては合意が得られていない。本授業では、統合医療の概念と現状について解説するとともに、統合医療の重要な構成要素であるEBMと補完代替医療について概説する。また、各種治療の有効性と安全性について、エビデンスにもとづく批判的吟味のポイントについても解説する。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 統合医療の概念と現状について理解する。 2. EBMの概念と手法について理解する。 3. 補完代替医療の種類と概観について説明できる。 4. 各種医療手段についてエビデンスにもとづく批判的吟味ができる。 <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>医療や行政において統合医療は賛否両論である。医師その他の医療従事者も支持派と反対派に分かれている。本学生も卒業すればいずれその議論に巻き込まれる。なぜ賛否両論があるのか、よく考えながら受講していただきたい。</p> <p>教科書</p> <p>資料を配布する。</p> <p>参考書</p> <p>各教員が必要に応じて授業担当時に紹介する。</p> <p>研究室／オフィスアワー</p> <p>山下仁：東棟24 研究室、月・火6時限</p>		
授業展開及び授業計画表		
回数	学修内容	予習・復習・課題等 担当
1	医療におけるエビデンスの重要性(山下)	健康関連商品の広告に目を通す
2	EBM(山下)	EBMについて調べる
3	EBM シュミレーション(増山)	看護領域のEBMについて調べる
4	EBMと診療ガイドライン(山下)	臨床試験または治療についてネットで調べる
5	健康産業と研究倫理・利益相反(山下)	医学・保健医療学研究におけるデータ捏造・改ざん事件についてネットで調べる
6	補完代替医療概論・統合医療概論(山下)	
7	看護における代替療法(緒方)	看護における代替医療・統合医療の現状を知る
8	ソフトマツサージの実践(緒方)	ソフトマツサージ・タッチケアの手法と効果を知る
9	アロマセラピー①(森)	アロマセラピーについてネットで調べる
10	アロマセラピー②(森)	アロマセラピーについてネットで調べる
11	ヨガ・マインドフルネス(増山)	
12	代表的な補完代替療法①鍼灸ほか(山下)	自分または家族が使っている補完代替医療に相応する健康法や商品を調べる
13	代表的な補完代替療法②サプリメントほか(山下)	自分または家族が使っている補完代替医療に相応する健康法や商品を調べる
14	スピリチュアル・ケアとNBIM(山下)	スピリチュアルという概念について調べる

15	緩和ケア・難病ケアと統合医療(増山)	自分または家族が治療困難な病気になった時に何を求めるか、仮想する
成績評価方法と基準		割合
①筆記試験		①70%
②課題提出物		②30%

授業科目名	IPW 論(看護) (Inter-Professional Work)	
主担当教員	久木元 由紀子	担当教員 久木元 由紀子、鍋田 智之、 角田 晃啓、蓮池 光人、升田 寿賀子、 脇 英彦
科目ナンバリング	CS029	学部共通科目 ディプロマポリシー 該当項目 DP②③④
配当年次	3	前期 曜日・時間 火曜3限 水曜5限
授業形態	演習	単位数 1
授業概要	<p>各分野の講義を通じ専門性を理解しつつ、実際の症例を基に IPW を経験し、チーム医療の実践に求められる豊かな感性と倫理観を養う。</p> <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>1) 授業中の私語、メールなどには厳しく対処する。 2) 疑問点を大切に自分で調べて解決できるよう行動すること。 3) グループワークに積極的に参加し活発なカンファレンスを行う。 4) 出席は 2/3 以上を必要とし、その基準を満たした者について成績評価を行う。</p> <p>教科書</p> <p>資料を配布あり</p> <p>参考書</p> <p>適宜提示する</p> <p>研究室/オフィスアワー</p> <p>久木元 研究室 239</p>	

授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	ガイダンス 医療系職種①(作業療法学)	作業療法士について事前学修しておく	久木元
2	医療系職種②(鍼灸学)	鍼灸師について事前学修しておく	
3	医療系職種③(理学療法学)	理学療法士について事前学修しておく	
4	医療系職種④(臨床検査学)	臨床検査技師について事前学修しておく	
5	チーム医療の実践 (各学科教員による Case Conference)	チーム医療や多職種連携について脚べる 課題として出された症例について、各自、看護問題、計画を立案していく	全学科教員 看護学科 教員
6	症例提示におけるアプローチ立案とその考察①	看護学科のグループワークで出てきた疑問点を修正する	看護学科 教員
7	症例提示におけるアプローチ立案とその考察②	看護学科のグループワークで出てきた疑問点を修正する	看護学科 教員
8	症例提示におけるアプローチ立案とその考察③	看護学科のグループワークで出てきた疑問点を修正する	看護学科 教員
9	症例提示におけるアプローチ立案とその考察④	看護学科のグループワークで出てきた疑問点を修正する	看護学科 教員
10	症例提示におけるアプローチ立案とその考察⑤	看護学科のグループワークで出てきた疑問点を修正する	看護学科 教員
11	IPW①(11回~14回は4コマ連続)	看護学科のグループワークで話し合った問題点と計画をまとめ、他学科に発表できるように準備を行う。	全学科教員
12	IPW②(11回~14回は4コマ連続)	多職種とのグループワークで出てきた疑問点を修正する	全学科教員

13	IPW③(11回～14回は4コマ連続)	多職種とのグループワークで出てきた疑問点を修正する	全学科教員
14	IPW④(11回～14回は4コマ連続)	多職種とのグループワークで出てきた疑問点を修正する	全学科教員
15	IPW⑤(プレゼンテーションと振り返り)	多職種とのグループワークで話し合った問題点と計画をまとめ、発表できるように準備を行う。	全学科教員
成績評価方法と基準			
①レポート			割合
②[IPW]プレゼンテーション(提示するルーブリックに基づき表面する)			①40%
③出席は2/3以上を必要とし、その基準を満たした者について成績評価を行う。			②60%

授業科目名	形態機能学Ⅰ(看護)(Morphofunctional StudiesⅠ)		
主担当教員	北村 清一郎	担当教員	北村 清一郎
科目ナンバリング	SB101	科目区分	専門基礎分野 DP②③
配当年次	1	開講学期	前期
授業形態	講義	単位数	1
授業概要	形態機能学Ⅰでは、人体の概要、細胞と組織、人体を構成する内臓系と循環器系の構造を学習する。内臓系については消化器系、呼吸器系、泌尿器系、生殖器系の構造を、細胞・組織のレベルから理解し、同時に並行的に学習する機能(形態機能学Ⅱ)と関連させつつ学習する。人体の概要や細胞・組織では、内臓系を学ぶに必要となる基礎的概念を把握する。循環器系は、くに消化器系と呼吸器系、泌尿器系と密接に関連しており、これらのつながりを把握することも重要である。これらの学習を通して、生命維持のための仕組みを理解する。		
到達目標	(1)細胞の構造、組織の概要、細胞・組織・器官の層序性を説明できる。 (2)各内臓系を構成する臓器の位置と形態が分かるとともに、各臓器の構造を機能との関わりから説明できる。 (3)循環器系の構成と体内での分布、消化器系、呼吸器系、泌尿器系との関わりが説明できる。		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	講義は教科書の内容を中心に、構造の理解に不可欠な図を多く取り込んだパワーポイント(スライド)を用いて行う。講義内容はプリントにして、あらかじめ配布するので、これを元に予習ノートを作成する。		
教科書	「解剖生理学 人体の構造と機能①」坂井 建雄、岡田 隆夫 (医学書院)		
参考書	特になし。		
研究室/オフィスアワー	毎週月曜日・火曜日・木曜日の昼休み		
授業展開及び授業計画表	回数	学修内容	予習・復習・課題等
	1	人体とはどのようなものか	予習:講義プリントに沿って予習ノート作成 復習:授業を元に予習ノートの加筆と修正
	2	細胞の構造	予習:講義プリントに沿って予習ノート作成 復習:授業を元に予習ノートの加筆と修正
	3	上皮組織、結合組織	予習:講義プリントに沿って予習ノート作成 復習:授業を元に予習ノートの加筆と修正
	4	筋組織と神経組織	予習:講義プリントに沿って予習ノート作成 復習:授業を元に予習ノートの加筆と修正
	5	口・咽頭・食道の構造	予習:講義プリントに沿って予習ノート作成 復習:授業を元に予習ノートの加筆と修正
	6	腹部消化管の構造	予習:講義プリントに沿って予習ノート作成 復習:授業を元に予習ノートの加筆と修正
	7	脾臓・肝臓・胆嚢の構造、腹膜	予習:講義プリントに沿って予習ノート作成 復習:授業を元に予習ノートの加筆と修正
	8	鼻腔と喉頭	予習:講義プリントに沿って予習ノート作成 復習:授業を元に予習ノートの加筆と修正
	9	気管、気管支、肺、胸膜	予習:講義プリントに沿って予習ノート作成 復習:授業を元に予習ノートの加筆と修正
	10	循環器系の構成、心臓の構造	予習:講義プリントに沿って予習ノート作成 復習:授業を元に予習ノートの加筆と修正
	11	血管の構造、肺循環、体循環の動脈	予習:講義プリントに沿って予習ノート作成 復習:授業を元に予習ノートの加筆と修正
	12	体循環の静脈、リンパとリンパ管、脾臓	予習:講義プリントに沿って予習ノート作成 復習:授業を元に予習ノートの加筆と修正
	13	腎臓と排尿路	予習:講義プリントに沿って予習ノート作成 復習:授業を元に予習ノートの加筆と修正
	14	男性生殖器系	予習:講義プリントに沿って予習ノート作成 復習:授業を元に予習ノートの加筆と修正
	15	女性生殖器系	予習:講義プリントに沿って予習ノート作成 復習:授業を元に予習ノートの加筆と修正

成績評価方法と基準	割合
学期末に筆記試験を行う。筆記試験は100点満点とし、60%以上の得点でもって合格とする。合格点に達しない場合には、筆記試験の再試験を1回のみ行う。	筆記試験 100%

授業科目名	形態機能学Ⅱ(看護) (Morphofunctional StudiesⅡ)		
主担当教員	木田 岩男	担当教員	木田 岩男
科目ナンバリング	SB102	科目区分	専門基礎分野
配当年次	1	開講学期	前期
授業形態	講義	単位数	1
授業概要	<p>形態機能学Ⅱでは、消化器系、呼吸器系、血液・造血器系、循環器系といった、人体の器官系それぞれの正常な機能(生理機能)について学習する。また、これら器官系の連携による生体の恒常性維持機構についても理解する。さらに、人体の形態(解剖)的な特徴と機能との関係を中心に考察することで、疾病を理解する為に必要な知識を身につける。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 各器官系統別に、人体の正常な機能を、その形態(構造)と関連付けて理解する。 2. 各器官系統別に、人体の各機能の調節機構について理解する。 3. 各器官系の連携とホメオスタシスについて理解する。 <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 配布資料は教科書の補足資料として学修の参考にする。 2. 講義前には学習として教科書の該当箇所を一読しておく。 3. 講義中に指示するので、教科書の重要箇所(アンダーライン)を引き、そこは必ず復習する。 4. 疑問点があれば何でも質問し、解決してから次に進むようにする。 5. 出席は重視する。 <p>教科書</p>		
	坂井 建雄、岡田 隆夫 解剖生理学「人体の構造と機能①」(医学書院)		
	参考書		
	江連 和久、村田 栄子 看護学生のための解剖生理学 (メヂカルフレンド社)		
	研究室/オフィスアワー		
	研究室:西棟233研究室 オフィスアワー:月曜5限・水曜5限		
	授業展開及び授業計画表		
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	機能からみた人体とホメオスタシス	予習:教科書の該当箇所を一読する。	
2	栄養の消化と吸収(口腔・食道・胃)	予習:教科書の該当箇所を一読する。	
3	栄養の消化と吸収(小腸・大腸)	予習:教科書の該当箇所を一読する。	
4	栄養の消化と吸収(膵臓・肝臓・胆臓)	予習:教科書の該当箇所を一読する。	
5	呼吸の機能(呼吸運動)	予習:教科書の該当箇所を一読する。	
6	呼吸の機能(呼吸気量)	予習:教科書の該当箇所を一読する。	
7	呼吸の機能(ガス交換とガスの運搬)	予習:教科書の該当箇所を一読する。	
8	呼吸の機能(呼吸運動の調節)	予習:教科書の該当箇所を一読する。	
9	血液の機能(赤血球・白血球・血小板)	予習:教科書の該当箇所を一読する。	
10	血液の機能(血漿蛋白・血液凝固)	予習:教科書の該当箇所を一読する。	
11	血液の機能(血液型)	予習:教科書の該当箇所を一読する。	
12	循環器の機能(心臓の興奮と心電図)	予習:教科書の該当箇所を一読する。	
13	循環器の機能(心臓の収縮)	予習:教科書の該当箇所を一読する。	
14	循環器の機能(微小循環と浮腫)	予習:教科書の該当箇所を一読する。	
15	各器官系の連携	予習:教科書の該当箇所を一読する。	

成績評価方法と基準	割合
①期末試験として筆記試験を行う。期末試験(60点以上で単位認定)	①100%

形態機能学Ⅲ(看護) (Morphofunctional StudiesⅢ)																																																											
授業科目名	北村 清一郎	担当教員	北村 清一郎																																																								
主担当教員	北村 清一郎	専門基礎分野	DP②③																																																								
科目ナンバリング	SB103	科目区分	曜日・時限																																																								
配当年次	1	開講学期	月曜 2 限																																																								
授業形態	講義	単位数	1																																																								
授業概要	<p>形態機能学Ⅲでは、受精と胎児の発生、内分泌系、神経系、感覚器系、運動器系の構造を学習する。すなわち、これらの系に属する解剖構造を、細胞・組織のレベルから理解し、同時並行的に学習する機能・形態機能学Ⅳと関連させつつ習得する。内分泌系、神経系、感覚器系では、人体内外での情報の受容、伝達、処理、統合、出力の仕組み、さらには体内環境を一定に保つ調節の仕組みを理解する。骨と筋から構成される運動器系では、体の動く仕組みを理解する。</p> <p>到達目標</p> <p>(1)受精と胎児の発生の概要を説明できる。 (2)内分泌系器官の構造を機能面から説明できる。 (3)中枢神経系の形態と、各部の役割を説明できる。 (4)末梢神経系の構成と分布、主要神経の役割を説明できる。 (5)感覚器の構造を機能面から説明できる。 (6)人体を構成する骨の名称と部位を述べることができる。 (7)人体を構成する筋の名称と部位、役割を述べることができる。</p> <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>講義は教科書の内容を中心に、構造の理解に不可欠な図を多く取り込んだパワーポイント(スライド)を用いて行う。講義内容はプリントにして、あらかじめ配布するので、これを元に予習ノートを作成する。</p>																																																										
教科書	「解剖生理学 人体の構造と機能①(第9版)」坂井 建雄、岡田 隆夫 (医学書院)																																																										
参考書	特になし																																																										
研究室/オフィスアワー	毎週月曜日・水曜日・木曜日・土曜日の昼休み。																																																										
授業展開及び授業計画表	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>学修内容</th> <th>予習・復習・課題等</th> <th>担当</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>受精と胎児の発生、胎児循環</td> <td>予習:講義プリントに沿って予習ノート作成 復習:授業を元に予習ノートの加筆と修正</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>全身の内分泌腺と内分泌細胞</td> <td>予習:講義プリントに沿って予習ノート作成 復習:授業を元に予習ノートの加筆と修正</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>神経系の構造、脊髄の構造と機能</td> <td>予習:講義プリントに沿って予習ノート作成 復習:授業を元に予習ノートの加筆と修正</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>脳の構造と機能</td> <td>予習:講義プリントに沿って予習ノート作成 復習:授業を元に予習ノートの加筆と修正</td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>脳の構造、脊髄神経の構造と機能</td> <td>予習:講義プリントに沿って予習ノート作成 復習:授業を元に予習ノートの加筆と修正</td> <td></td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>脳神経の構造と機能、自律神経の構造</td> <td>予習:講義プリントに沿って予習ノート作成 復習:授業を元に予習ノートの加筆と修正</td> <td></td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>眼の構造と視覚</td> <td>予習:講義プリントに沿って予習ノート作成 復習:授業を元に予習ノートの加筆と修正</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>耳の構造、味覚と嗅覚</td> <td>予習:講義プリントに沿って予習ノート作成 復習:授業を元に予習ノートの加筆と修正</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>皮膚の構造と機能</td> <td>予習:講義プリントに沿って予習ノート作成 復習:授業を元に予習ノートの加筆と修正</td> <td></td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>骨格の概要と骨の連結</td> <td>予習:講義プリントに沿って予習ノート作成 復習:授業を元に予習ノートの加筆と修正</td> <td></td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>体幹の骨格、上肢の骨格</td> <td>予習:講義プリントに沿って予習ノート作成 復習:授業を元に予習ノートの加筆と修正</td> <td></td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>下肢の骨格、頭蓋</td> <td>予習:講義プリントに沿って予習ノート作成 復習:授業を元に予習ノートの加筆と修正</td> <td></td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>骨格筋の構造、体幹の筋</td> <td>予習:講義プリントに沿って予習ノート作成 復習:授業を元に予習ノートの加筆と修正</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当	1	受精と胎児の発生、胎児循環	予習:講義プリントに沿って予習ノート作成 復習:授業を元に予習ノートの加筆と修正		2	全身の内分泌腺と内分泌細胞	予習:講義プリントに沿って予習ノート作成 復習:授業を元に予習ノートの加筆と修正		3	神経系の構造、脊髄の構造と機能	予習:講義プリントに沿って予習ノート作成 復習:授業を元に予習ノートの加筆と修正		4	脳の構造と機能	予習:講義プリントに沿って予習ノート作成 復習:授業を元に予習ノートの加筆と修正		5	脳の構造、脊髄神経の構造と機能	予習:講義プリントに沿って予習ノート作成 復習:授業を元に予習ノートの加筆と修正		6	脳神経の構造と機能、自律神経の構造	予習:講義プリントに沿って予習ノート作成 復習:授業を元に予習ノートの加筆と修正		7	眼の構造と視覚	予習:講義プリントに沿って予習ノート作成 復習:授業を元に予習ノートの加筆と修正		8	耳の構造、味覚と嗅覚	予習:講義プリントに沿って予習ノート作成 復習:授業を元に予習ノートの加筆と修正		9	皮膚の構造と機能	予習:講義プリントに沿って予習ノート作成 復習:授業を元に予習ノートの加筆と修正		10	骨格の概要と骨の連結	予習:講義プリントに沿って予習ノート作成 復習:授業を元に予習ノートの加筆と修正		11	体幹の骨格、上肢の骨格	予習:講義プリントに沿って予習ノート作成 復習:授業を元に予習ノートの加筆と修正		12	下肢の骨格、頭蓋	予習:講義プリントに沿って予習ノート作成 復習:授業を元に予習ノートの加筆と修正		13	骨格筋の構造、体幹の筋	予習:講義プリントに沿って予習ノート作成 復習:授業を元に予習ノートの加筆と修正	
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当																																																								
1	受精と胎児の発生、胎児循環	予習:講義プリントに沿って予習ノート作成 復習:授業を元に予習ノートの加筆と修正																																																									
2	全身の内分泌腺と内分泌細胞	予習:講義プリントに沿って予習ノート作成 復習:授業を元に予習ノートの加筆と修正																																																									
3	神経系の構造、脊髄の構造と機能	予習:講義プリントに沿って予習ノート作成 復習:授業を元に予習ノートの加筆と修正																																																									
4	脳の構造と機能	予習:講義プリントに沿って予習ノート作成 復習:授業を元に予習ノートの加筆と修正																																																									
5	脳の構造、脊髄神経の構造と機能	予習:講義プリントに沿って予習ノート作成 復習:授業を元に予習ノートの加筆と修正																																																									
6	脳神経の構造と機能、自律神経の構造	予習:講義プリントに沿って予習ノート作成 復習:授業を元に予習ノートの加筆と修正																																																									
7	眼の構造と視覚	予習:講義プリントに沿って予習ノート作成 復習:授業を元に予習ノートの加筆と修正																																																									
8	耳の構造、味覚と嗅覚	予習:講義プリントに沿って予習ノート作成 復習:授業を元に予習ノートの加筆と修正																																																									
9	皮膚の構造と機能	予習:講義プリントに沿って予習ノート作成 復習:授業を元に予習ノートの加筆と修正																																																									
10	骨格の概要と骨の連結	予習:講義プリントに沿って予習ノート作成 復習:授業を元に予習ノートの加筆と修正																																																									
11	体幹の骨格、上肢の骨格	予習:講義プリントに沿って予習ノート作成 復習:授業を元に予習ノートの加筆と修正																																																									
12	下肢の骨格、頭蓋	予習:講義プリントに沿って予習ノート作成 復習:授業を元に予習ノートの加筆と修正																																																									
13	骨格筋の構造、体幹の筋	予習:講義プリントに沿って予習ノート作成 復習:授業を元に予習ノートの加筆と修正																																																									

14	上肢の筋、下肢の筋	予習：講義プリントに沿って予習ノート作成 復習：授業を元に予習ノートの加筆と修正	
15	下肢の筋、頭頸部の筋	予習：講義プリントに沿って予習ノート作成 復習：授業を元に予習ノートの加筆と修正	
成績評価方法と基準		割合	
学期末に筆記試験を行う。筆記試験は100点満点で60%以上の得点をもって合格とする。 合格点に達しない場合には、筆記試験の再試験を1回のみ行う。		筆記試験	100%

授業科目名	形態機能学Ⅳ(看護) (Morphofunctional StudiesⅣ)		
主担当教員	木田 岩男	担当教員	木田 岩男
科目ナンバリング	SB104	科目区分	専門基礎分野
配当年次	1	開講学期	曜日・時限
授業形態	講義	単位数	1
授業概要	形態機能学Ⅳでは、腎・泌尿器系、自律神経系・内分泌系、運動器系、脳・神経系、感覚器系、免疫系、生殖系といった、人体の器官系それぞれの正常な機能(生理機能)について学習する。また、これら器管系の連携による生体の恒常性維持機構についても理解する。さらに、人体の形態(解剖)的特徴と機能との関係と十分に考察することで、疾病を理解するために必要な知識を身につける。		
到達目標	1. 各器管系統別に、人体の正常な機能を、その形態(構造)と関連付けて理解する。 2. 各器管系統別に、人体の各機能の調節機構について理解する。 3. 各器管系の連携とホメオスタシスについて理解する。		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	1. 配布資料は教科書の補足資料として学修の参考にする。 2. 講義前には予習として教科書の該当箇所を一読しておく。 3. 講義中に指示するので、教科書の重要箇所にアンダーラインを引き、そこは必ず復習する。 4. 疑問点があれば何でも質問し、解決してから次に進むようにする。 5. 出席は重視する。		
教科書	坂井 建雄、岡田 隆夫 解剖生理学「人体の構造と機能①」(医学書院)		
参考書	江連 和久、村田 栄子 看護学生のための解剖生理学 (メヂカルフレンド社)		
研究室/オフィスアワー	研究室:西棟233研究室 オフィスアワー:月曜5限・水曜5限		
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	体液の調節と尿の生成(腎臓)	予習:教科書の該当箇所を一読する。	
2	体液の調節と尿の生成(クリアランス)	予習:教科書の該当箇所を一読する。	
3	体液の調節と尿の生成(排尿)	予習:教科書の該当箇所を一読する。	
4	体液の調節と尿の生成(体液の調節)	予習:教科書の該当箇所を一読する。	
5	内臓機能の調節(自律神経)	予習:教科書の該当箇所を一読する。	
6	内臓機能の調節(内分泌総論)	予習:教科書の該当箇所を一読する。	
7	内臓機能の調節(内分泌各論)	予習:教科書の該当箇所を一読する。	
8	身体の支持と運動(筋の収縮)	予習:教科書の該当箇所を一読する。	
9	情報の受容と処理(神経系の基礎)	予習:教科書の該当箇所を一読する。	
10	情報の受容と処理(中枢神経系)	予習:教科書の該当箇所を一読する。	
11	情報の受容と処理(脳の高次機能)	予習:教科書の該当箇所を一読する。	
12	情報の受容と処理(末梢神経系)	予習:教科書の該当箇所を一読する。	
13	情報の受容と処理(感覚器)	予習:教科書の該当箇所を一読する。	
14	生体防御機構(免疫系)	予習:教科書の該当箇所を一読する。	
15	生殖機能・老化	予習:教科書の該当箇所を一読する。	

成績評価方法と基準	割合
①期末試験として筆記試験を行う。期末試験(60点以上で単位認定)	①100%

授業科目名	フィジカルアセスメント(看護) (Physical Assessment)	
主担当教員	住田 陽子	担当教員 住田 陽子、村上 生美、伊津美 孝子、 越智 奈穂美
科目ナンバリング	SB105	専門基礎分野 DP①②
配当年次	2	開講学期 曜日・時限 木曜 1 限 木曜 2 限
授業形態	演習	単位数 2
授業概要	<p>到達目標</p> <p>1. 看護におけるフィジカルアセスメントの必要性を述べることができる。 2. 人間の日常生活行動をささえる身体の構造と機能を理解し、フィジカルアセスメントに活かすことができる。 3. 問診・視診・触診・聴診・聴診の基本原則について、実証を通して述べることができる。 4. 全身状態の観察、生命維持機能(体温の恒常性・呼吸・循環)、感覚機能、消化機能、運動機能の観察を正確に行うことができる。 5. 身体の各機能の観察結果から、人間の日常生活行動についてアセスメントすることができる。</p> <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>1. 心身をよく使い、主体的に授業に参画すること。 2. 授業前後は課題を出す。こなすだけで終わらず、つながりを持って理解すること。 3. 形態機能学の復習をしておくこと。</p> <p>教科書</p> <p>系統看護学講座 専門分野 1 [基礎看護学②]基礎看護技術 1 第 16 版第 4 刷、医学書院、2018</p> <p>参考書</p> <p>大久保暢子(編):日常生活行動からみるヘルスアセスメント、日本看護協会出版会、2016 坂井建雄、岡田隆夫:系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学、医学書院 研究室ノオフィスアワー</p> <p>住田陽子:634 研究室/随時</p> <p>授業展開及び授業計画表</p>	
回数	学修内容	予習・復習・課題等 担当
1	教科ガイダンス フィジカルアセスメントの概念	予習・シラバス・教科書の確認 ※聴診器持参 住田陽子
2	フィジカルアセスメントの基本技術	復習:授業資料、教科書の確認 住田陽子
3	全身状態・全体印象の把握・健康歴聴取	予習・復習・別途指示する 住田陽子
4	身体計測	予習・復習・別途指示する 住田陽子
5	【演習】問診(面接)の技術/身体計測	演習前後レポート 全員
6	【演習】問診(面接)の技術/身体計測	演習前後レポート 全員
7	生命維持機能の観察とアセスメント(体温の恒常性)	予習・復習・別途指示する 住田陽子
8	生命維持機能の観察とアセスメント(呼吸)	予習・復習・別途指示する 住田陽子
9	生命維持機能の観察とアセスメント(循環)	予習・復習・別途指示する 住田陽子
10	【演習】血圧測定・脈拍測定	予習・復習・別途指示する 全員
11	【演習】バイタルサイン測定・呼吸音の聴診	演習前後レポート 全員
12	【演習】バイタルサイン測定・呼吸音の聴診	演習前後レポート 全員

13	感覚機能の観察とアセスメント	予習・復習:別添指示する	住田陽子
14	感覚機能の観察とアセスメント	予習・復習:別添指示する	住田陽子
15	【演習】感覚機能の観察とアセスメント	演習前後レポート	全員
16	【演習】感覚機能の観察とアセスメント	演習前後レポート	全員
17	消化機能の観察とアセスメント	予習・復習:別添指示する	住田陽子
18	消化機能の観察とアセスメント	予習・復習:別添指示する	住田陽子
19	運動機能の観察とアセスメント	予習・復習:別添指示する	住田陽子
20	運動機能の観察とアセスメント	予習・復習:別添指示する	住田陽子
21	【演習】消化機能の観察とアセスメント	演習前後レポート	全員
22	【演習】消化機能の観察とアセスメント	演習前後レポート	全員
23	【演習】運動機能の観察とアセスメント	演習前後レポート	全員
24	【演習】運動機能の観察とアセスメント	演習前後レポート	全員
25	【技術チェック】血圧測定	予習:血圧測定の手順の自己練習	全員
26	【技術チェック】血圧測定	復習:血圧測定手チェックの自己評価	全員
27	事例におけるフィジカルアセスメント	予習:事例の理解に必要な知識を深めておく	住田陽子
28	事例におけるフィジカルアセスメント	予習:事例の理解に必要な知識を深めておく	住田陽子
29	【演習】事例におけるフィジカルアセスメント	演習前後レポート	全員
30	【演習】事例におけるフィジカルアセスメント	演習後レポート	全員
成績評価方法と基準			割合
1. 定期試験(筆記試験のみ):6割以上			1. 50%
2. 技術確認:6割以上			2. 30%
3. レポートの内容、提出状況			3. 20%
上記の1~3を合計する。			
上記の成績評価は、授業時数の2/3以上の出席を対象とする。			

授業科目名	生化学(看護) (Biochemistry)		
主担当教員	河口 直正	担当教員	河口 直正
科目ナンバリング	SB122	科目区分	ディプロマポリシー 該当項目 DP②
配当年次	1	開講学期	曜日・時限 水曜 5 限
授業形態	講義	単位数	必修・選択 必修
授業概要	生体の恒常性維持に必要な基本物質の構造と機能、それらの代謝に関する知識を学ぶ。		
到達目標	1) 細胞の基本構造と細胞内小器官の役割について説明できる。 2) 三大栄養素(タンパク質・糖質・脂質)の構造と機能、代謝の概略について説明できる。 3) 酵素の反応機構ならびに調節機構の概略を説明できる。 4) 核酸の構造と機能、遺伝情報からのタンパク質合成について説明できる。 5) 無機質やホルモンの作用について説明できる。		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	履修上の注意(学生へのメッセージ)		
教科書を中心に講義を行います。配布資料も参考にして理解を深めてください。			
教科書	教科書		
イラスト	生化学入門 相原英孝 他著 東京学芸大学		
参考書	参考書		
医学書院 生化学 人体の構造と機能②			
研究室/オフィスアワー	研究室/オフィスアワー		
研究室在室時	研究室在室時		
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	人体の仕組み	予習:教科書の該当部分を読んでおくこと 復習:配布資料や板書内容も合わせて振り返りを行うこと	
2	タンパク質の構造と働き①	予習:教科書の該当部分を読んでおくこと 復習:配布資料や板書内容も合わせて振り返りを行うこと	
3	タンパク質の構造と働き②	予習:教科書の該当部分を読んでおくこと 復習:配布資料や板書内容も合わせて振り返りを行うこと	
4	糖質の構造と働き①	予習:教科書の該当部分を読んでおくこと 復習:配布資料や板書内容も合わせて振り返りを行うこと	
5	糖質の構造と働き②	予習:教科書の該当部分を読んでおくこと 復習:配布資料や板書内容も合わせて振り返りを行うこと	
6	脂質の構造と働き①	予習:教科書の該当部分を読んでおくこと 復習:配布資料や板書内容も合わせて振り返りを行うこと	
7	脂質の構造と働き②	予習:教科書の該当部分を読んでおくこと 復習:配布資料や板書内容も合わせて振り返りを行うこと	
8	核酸の構造と働き	予習:教科書の該当部分を読んでおくこと 復習:配布資料や板書内容も合わせて振り返りを行うこと	
9	酵素の性質と働き	予習:教科書の該当部分を読んでおくこと 復習:配布資料や板書内容も合わせて振り返りを行うこと	
10	ビタミンの種類と働き	予習:教科書の該当部分を読んでおくこと 復習:配布資料や板書内容も合わせて振り返りを行うこと	

11	水・無機質の働き	予習：教科書の該当部分を読んでおくこと 復習：配布資料や板書内容も合わせて振り返りを行うこと	割合
12	栄養素の消化と吸収	予習：教科書の該当部分を読んでおくこと 復習：配布資料や板書内容も合わせて振り返りを行うこと	①100%
13	生体の恒常性を保つシステム	予習：教科書の該当部分を読んでおくこと 復習：配布資料や板書内容も合わせて振り返りを行うこと	
14	エネルギーの消費と供給	予習：教科書の該当部分を読んでおくこと 復習：配布資料や板書内容も合わせて振り返りを行うこと	
15	生体の防御システム(免疫)	予習：教科書の該当部分を読んでおくこと 復習：配布資料や板書内容も合わせて振り返りを行うこと	
成績評価方法と基準			
①筆記試験			

授業科目名		発達心理学(看護) (Developmental Psychology)	
主担当教員	井手口 範男	担当教員	井手口 範男、岩崎 久志
科目ナンバリング	SB106	科目区分	専門基礎分野
配当年次	1	開講学期	前期
授業形態	講義	単位数	2
<p>授業概要</p> <p>本講義では、人間の発達を生涯的展開からとらえ、人間が誕生し、成長発達、成熟、やがて死に至るといったライフサイクルにおける精神の発達過程を学修する。ここでは、各発達段階(新生児期・乳児期・幼児期・学童期・思春期・青年期・壮年期・熟年期・前期高齢期・後期高齢期)の精神発達の特徴と人間関係の諸相について、いくつかの発達理論をもとに学修する。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人間のライフサイクルの全体像を理解する。 2. ライフサイクルの各段階の特徴を理解する。 3. 新生児期から後期高齢期までの各過程の発達課題とその要因について理解する。 4. ライフサイクルと健康との関連を理解する。 <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「心理学」、および、「看護学」各領域の概論の講義と関連づけて考えること。 <p>教科書</p> <p>特に指定しない</p> <p>参考書</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護のための人間発達学-第4版-、舟島なおみ、2011 ・生涯人間発達論、服部祥子、医学書院、2010 ・看護・チーム支援に活かすカウンセリング、岩崎久志、児洋書房、2014 ・その他、授業の中で適宜紹介する。 <p>研究室/オフィスアワー</p> <p>井手口：E棟4F研究室1/火曜日5時限(空いていれば適宜対応します)</p>			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	ガイダンス、生涯発達とは	シラバスの確認	井手口
2	発達理論-その1-(エリクソン)	第1回配布資料の復習	井手口
3	発達理論-その2-(ピアジェ)	第2回配布資料の復習	井手口
4	新生児期の発達の特徴	第3回配布資料の復習	井手口
5	乳児期の発達の特徴	第4回配布資料の復習	井手口
6	幼児前期の発達の特徴	第5回配布資料の復習	井手口
7	幼児後期の発達の特徴	第6回配布資料の復習	井手口
8	児童期の発達の特徴	第7回配布資料の復習	井手口
9	青年期の心理①	予習：自身が看護師を志望するきっかけとなったことについて、振り返っておく。 復習：講義やグループ討論を踏まえて考察を追記し、次回提出する。	岩崎
10	青年期の心理②	予習：青年期の発達課題について、エリクソンのアイデンティティ概念について調べる。復習：講義やグループ討論を踏まえて考察を追記し、次回提出する。	岩崎
11	青年期の心理③	予習：自らのアイデンティティとそれに基づく今後の人生設計について考えておく。 復習：講義やグループ討論を踏まえて考察を追記	岩崎

		し、次回提出する。	
12	中年期の心理①(壮年期)	予習：中年期の発達課題について調べておく。 復習：講義やグループ討議を踏まえて考察を追記し、次回提出する。	岩崎
13	中年期の心理②(熟年期)	予習：自身の家族や身近な中年期にある人物を観察し、気づいたことを整理しておく。 復習：講義やグループ討議を踏まえて考察を追記し、次回提出する。	岩崎
14	老年期の心理①(前期高齢期)	予習：老年期の発達課題について調べておく。 復習：講義やグループ討議を踏まえて考察を追記し、次回提出する。	岩崎
15	老年期の心理②(後期高齢期)	予習：老年期に特徴的な疾病や障害を抽出し、支援の立場から高齢者のニーズを調べる。 復習：講義全般の内容を整理し、レポート課題に取り組み準備を行う。	岩崎
成績評価方法と基準			割合
1. 筆記試験(井手口範男)			1. 50%
2. レポート試験(岩崎久志)			2. 50%

授業科目名	微生物学(看護) (Microbiology)		
担当教員	安部 辰夫	担当教員	安部 辰夫
科目ナンバリング	SB107	科目区分	専門基礎分野
配当年次	1	開講学期	後期
授業形態	講義	単位数	1
授業概要	臨床現場では感染についての知識は必須である。また一方で、近年新たな感染が世間の耳目を集める事例も多くなってきている。よって、医療従事者はまず感染、ひいては微生物に対する知識や理解が求められている。そこで馴染みのある微生物から新興感染症を引き起こす微生物までを体系的に講義していく。		
到達目標	各種微生物について、その分類と感染経路、感染の機序とその症状、予防や治療などを理解してもらいたい。さらに生体防御のシステム、特に免疫系の働きについても併せて講義するので、生体がどのように微生物と戦っているのかについても学んで欲しい。		
	履修上の注意(学生へのメッセージ)		
	情報量が多くなるため、必ず復習をしておく欲しい。		
教科書			
系統看護学講座	微生物学 医学書院		
参考書			
標準微生物学	医学書院		
研究室/オフィスアワー			
火曜日から金曜日まで	イーストポート4階 研究室20		
授業展開及び授業計画表			
回数	学習内容	予習・復習・課題等	担当
1	微生物学について	テキストやノートなどで予習や復習を行うこと。	
2	細菌の性質と分類	テキストやノートなどで予習や復習を行うこと。	
3	真菌の性質と分類	テキストやノートなどで予習や復習を行うこと。	
4	原虫の特徴	テキストやノートなどで予習や復習を行うこと。	
5	ウイルスの性質と分類	テキストやノートなどで予習や復習を行うこと。	
6	感染経路と発症1	テキストやノートなどで予習や復習を行うこと。	
7	感染経路と発症2	テキストやノートなどで予習や復習を行うこと。	
8	感染症の治療と対策	テキストやノートなどで予習や復習を行うこと。	
9	グラム陽性菌について1	テキストやノートなどで予習や復習を行うこと。	
10	グラム陽性菌について2	テキストやノートなどで予習や復習を行うこと。	
11	グラム陰性菌について1	テキストやノートなどで予習や復習を行うこと。	
12	グラム陰性菌について2	テキストやノートなどで予習や復習を行うこと。	
13	DNAウイルスについて	テキストやノートなどで予習や復習を行うこと。	
14	RNAウイルスについて	テキストやノートなどで予習や復習を行うこと。	
15	真菌、原虫について	テキストやノートなどで予習や復習を行うこと。	
成績評価方法と基準			割合
期末試験			1

授業科目名 病理学(看護) (Pathology)			
主担当教員 安部 辰夫		担当教員 安部 辰夫	
科目ナンバリング	科目区分	ディプロマポリシー 該当項目	DP①②
SB108	専門基礎分野		
配当年次	開講学期	曜日・時間	金曜 1限
授業形態	演習	必修・選択	必修
授業概要	1		
学生が将来臨床の現場に立つ時に目の当たりにする疾患を中心に、その病因や成り立ち、病態を理解できるよう、さまざまな疾患についての詳細な説明と演習を行う。			
到達目標	学生が将来臨床の現場に立つ時に目の当たりにする疾患について、その病因や成り立ち、病態を理解する。		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	病理学の専門用語やいろいろな病態に対する概念は、他の医学分野でも共通に用いられるものである。それらをしっかりと理解し、自らも用いることができ、かつ的確に表現できなければならない。そのためにはそれらを確実に理解し、記憶に留めておかなければならない。		
教科書			
疾病のなりたちと回復の促進1 病理学 医学書院			
参考書			
「新病理学(Qシリーズ)」 日本医事新報社			
研究室/オフィスアワー			
火曜日から金曜日 在室 イーストポート4階 研究室20			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	病理学の概要	予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておきたい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
2	病因論	予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておきたい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
3	先天異常	予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておきたい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
4	遺伝子異常	予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておきたい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
5	代謝障害1	予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておきたい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
6	代謝障害2	予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておきたい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
7	循環障害	予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておきたい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
8	炎症	予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておきたい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	

9	アレルギー	予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておきたい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
10	感染症	予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておきたい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
11	腫瘍1	予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておきたい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
12	腫瘍2	予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておきたい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
13	老化	予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておきたい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
14	総論のまとめ1	予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておきたい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
15	総論のまとめ2	予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておきたい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
成績評価方法と基準			割合
期末試験			1

授業科目名	臨床薬理学(看護) (Clinical Pharmacology)																																										
主担当教員	木田 岩男	担当教員	木田 岩男																																								
科目ナンバリング	SB109	科目区分	ディプロマポリシー 該当項目																																								
配当年次	2	開講学期	曜日・時限 火曜 3限																																								
授業形態	講義	単位数	1																																								
授業概要	<p>疾病の治療や予防に用いられる薬物に関する基本的な知識を修得することで、薬物を用いた医療行為の円滑な実践と、薬物による医療事故の防止を実践できるようにする。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 主要な薬物の作用機序を理解する。 2. 主要な薬物の主な作用と重篤な副作用についての知識を得る。 3. 薬物の適正な使い方を、事例を通して理解する。 <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 配布資料は教科書の補足資料として学修の参考にする。 2. 講義前には予習として教科書の該当箇所を一読しておく。 3. 講義中に指示するので、教科書の重要箇所(アンダーライン)を引き、そこは必ず復習する。 4. 疑問点があれば何でも質問し、解決してから次に進むようにする。 5. 出席は重視する。 																																										
教科書	大庭英世/吉岡亮弘/井岡健著 <系統看護学講座専門基礎分野> [疾病のなりたちと回復の促進3] 薬理学 医学書院																																										
参考書	日本臨床薬理学会編集「臨床薬理学」医学書院																																										
研究室/オフィスアワー	研究室/西構 233 研究室 オフィスアワー...月曜 5 限・水曜 5 限																																										
授業展開及び授業計画表	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>学修内容</th> <th>予習・復習・課題等</th> <th>担当</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>臨床薬理学の概要</td> <td>予習:教科書の該当箇所を一読する。 復習:身近にある薬の添付文書を読む。 予習:微生物学の復習をする。教科書の該当箇所を一読する。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>抗感染薬</td> <td>復習:抗感染薬と抗ウイルス薬についてまとめる。 予習:癌について調べる。教科書の該当箇所を一読する。 復習:代表的な抗癌薬の副作用についてまとめる。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>抗がん薬</td> <td>予習:免疫系の復習をする。教科書の該当箇所を一読する。 復習:免疫抑制薬の副作用についてまとめる。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>免疫治療薬</td> <td>予習:炎症の機序について調べる。教科書の該当箇所を一読する。 復習:ステロイド製剤の副作用についてまとめる。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>抗アレルギー薬 抗炎症薬</td> <td>予習:自律神経について復習する。教科書の該当箇所を一読する。 復習:自律神経薬についてまとめる。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>末梢での神経活動に作用する薬物</td> <td>予習:中枢神経系の機能を復習する。教科書の該当箇所を一読する。 復習:向精神薬の副作用についてまとめる。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>中枢神経系に作用する薬物</td> <td>予習:循環器系の機能を復習する。教科書の該当箇所を一読する。 復習:心臓と血管に作用する薬についてまとめる。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>心臓・血管系に作用する薬物</td> <td>予習:呼吸器系と消化器系の機能を復習する。教科書の該当箇所を一読する。 復習:呼吸器系と消化器系疾患に用いる薬をまとめる。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>呼吸器・消化器・生殖系系に作用する薬物</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当	1	臨床薬理学の概要	予習:教科書の該当箇所を一読する。 復習:身近にある薬の添付文書を読む。 予習:微生物学の復習をする。教科書の該当箇所を一読する。		2	抗感染薬	復習:抗感染薬と抗ウイルス薬についてまとめる。 予習:癌について調べる。教科書の該当箇所を一読する。 復習:代表的な抗癌薬の副作用についてまとめる。		3	抗がん薬	予習:免疫系の復習をする。教科書の該当箇所を一読する。 復習:免疫抑制薬の副作用についてまとめる。		4	免疫治療薬	予習:炎症の機序について調べる。教科書の該当箇所を一読する。 復習:ステロイド製剤の副作用についてまとめる。		5	抗アレルギー薬 抗炎症薬	予習:自律神経について復習する。教科書の該当箇所を一読する。 復習:自律神経薬についてまとめる。		6	末梢での神経活動に作用する薬物	予習:中枢神経系の機能を復習する。教科書の該当箇所を一読する。 復習:向精神薬の副作用についてまとめる。		7	中枢神経系に作用する薬物	予習:循環器系の機能を復習する。教科書の該当箇所を一読する。 復習:心臓と血管に作用する薬についてまとめる。		8	心臓・血管系に作用する薬物	予習:呼吸器系と消化器系の機能を復習する。教科書の該当箇所を一読する。 復習:呼吸器系と消化器系疾患に用いる薬をまとめる。		9	呼吸器・消化器・生殖系系に作用する薬物		
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当																																								
1	臨床薬理学の概要	予習:教科書の該当箇所を一読する。 復習:身近にある薬の添付文書を読む。 予習:微生物学の復習をする。教科書の該当箇所を一読する。																																									
2	抗感染薬	復習:抗感染薬と抗ウイルス薬についてまとめる。 予習:癌について調べる。教科書の該当箇所を一読する。 復習:代表的な抗癌薬の副作用についてまとめる。																																									
3	抗がん薬	予習:免疫系の復習をする。教科書の該当箇所を一読する。 復習:免疫抑制薬の副作用についてまとめる。																																									
4	免疫治療薬	予習:炎症の機序について調べる。教科書の該当箇所を一読する。 復習:ステロイド製剤の副作用についてまとめる。																																									
5	抗アレルギー薬 抗炎症薬	予習:自律神経について復習する。教科書の該当箇所を一読する。 復習:自律神経薬についてまとめる。																																									
6	末梢での神経活動に作用する薬物	予習:中枢神経系の機能を復習する。教科書の該当箇所を一読する。 復習:向精神薬の副作用についてまとめる。																																									
7	中枢神経系に作用する薬物	予習:循環器系の機能を復習する。教科書の該当箇所を一読する。 復習:心臓と血管に作用する薬についてまとめる。																																									
8	心臓・血管系に作用する薬物	予習:呼吸器系と消化器系の機能を復習する。教科書の該当箇所を一読する。 復習:呼吸器系と消化器系疾患に用いる薬をまとめる。																																									
9	呼吸器・消化器・生殖系系に作用する薬物																																										

10	物質代謝に作用する薬物	予習:糖代謝と脂質代謝について復習する。教科書の該当箇所を一読する。 復習:糖尿病治療薬と高脂血症治療薬についてまとめる。
11	皮膚に使用する薬物	予習:皮膚の構造と機能を復習する。教科書の該当箇所を一読する。 復習:皮膚疾患に用いる薬をまとめる。
12	眼科外用薬	予習:眼の構造と機能を復習する。教科書の該当箇所を一読する。 復習:眼疾患に用いる薬をまとめる。
13	救急の際に使用される薬物	予習:ショックの種類について調べる。教科書の該当箇所を一読する。 復習:アドレナリン、ノルアドレナリン、ドパミンの使いについてまとめる。
14	漢方薬	予習:教科書の該当箇所を一読する。 復習:漢方薬の該当箇所について調べる。
15	消毒薬	予習:教科書の該当箇所を一読する。 復習:消毒薬の特徴についてまとめる。
成績評価方法と基準		
①期末試験として筆記試験を行う。期末試験(60点以上で単位認定)		
割合		
①100%		

授業科目名		臨床病態学 I (看護) (Clinical Pathology I)		
主担当教員	青木 元邦	担当教員	青木 元邦	
科目ナンバリング	SB110	専門基礎分野	ディプロマポリシー 該当項目	DP①②
配当年次	2	開講学期	曜日・時間	月曜 2 限
授業形態	講義	単位数	必修・選択	必修
授業概要				
よき医務人になる上で必要不可欠な内科学の知識・考え方について講義する。診断学・症状学を理解し、医療の現場で応用できるようにする。また各種疾患について臓器別に講義を行い、その病態・治療を論理的に理解・説明できるようにする。同時に、患者の訴え・状態から検査・治療の必要性の有無が判断できる能力を身につける。				
到達目標				
1. 各種臓器の働きを理解する。 2. 各種疾病の本質・病態を論理的に理解する。 3. 各種疾病の臨床症状・治療法・ケアが合理的に説明できる。 履修上の注意 (学生へのメッセージ)				
1. 内科学(疾病の理解)は現代医療の基礎知識であることを認識して取り組むこと。 2. 講義を聞かずに教科書だけ読んでも理解困難と考えられるため、出席して講義を聞くこと。 3. 学習すべき量が多いため、効率よく理解すべく必ずノートに板書内容を記載すること。試験前に教科書を読んで全部覚えるのは不可能です。ノートに沿って教科書を活用してください。 4. 疾患について論理的なイメージを理解する努力をすること。 5. 疑問点は大切に、解決に向けて行動をすること。 6. 努力をしない学生・態度不良の学生には単位を与えないこととは 教科書				
浅野嘉延・吉山直樹編 看護のための臨床病態学 南山堂				
参考書				
なし				
研究室/オフィスアワー				
月曜午後・水曜日・金曜日午後(ただし会議等でないこともあります)				
その他、都度個別にいつでも訪問可です。質問等はいつでもご自由にとどうぞ。				
授業展開期及び授業計画表				
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当	
1	臓器の基本的な働きと循環器疾患の病態・治療の理解 1	心臓の解剖・生理機能については、必ず自宅学習で知識を確実にしておくこと。	心臓の解剖・生理機能については、必ず自宅学習で知識を確実にしておくこと。	
2	臓器の基本的な働きと循環器疾患の病態・治療の理解 2	心臓の解剖・生理機能については、必ず自宅学習で知識を確実にしておくこと。	心臓の解剖・生理機能については、必ず自宅学習で知識を確実にしておくこと。	
3	臓器の基本的な働きと循環器疾患の病態・治療の理解 3	学んだ疾患の病態・所見・治療を合理的に説明できるようにしておくこと。小テストや課題提出の可 能性もあります。	学んだ疾患の病態・所見・治療を合理的に説明できるようにしておくこと。小テストや課題提出の可 能性もあります。	
4	臓器の基本的な働きと循環器疾患の病態・治療の理解 4	学んだ疾患の病態・所見・治療を合理的に説明できるようにしておくこと。小テストや課題提出の可 能性もあります。	学んだ疾患の病態・所見・治療を合理的に説明できるようにしておくこと。小テストや課題提出の可 能性もあります。	
5	臓器の基本的な働きと呼吸器疾患の病態・治療の理解 1	肺の解剖・生理機能については、必ず自宅学習で知識を確実にしておくこと。	肺の解剖・生理機能については、必ず自宅学習で知識を確実にしておくこと。	
6	臓器の基本的な働きと呼吸器疾患の病態・治療の理解 2	肺の解剖・生理機能については、必ず自宅学習で知識を確実にしておくこと。	肺の解剖・生理機能については、必ず自宅学習で知識を確実にしておくこと。	
7	臓器の基本的な働きと呼吸器疾患の病態・治療の理解 3	学んだ疾患の病態・所見・治療を合理的に説明できるようにしておくこと。小テストや課題提出の可 能性もあります。	学んだ疾患の病態・所見・治療を合理的に説明できるようにしておくこと。小テストや課題提出の可 能性もあります。	
8	臓器の基本的な働きと呼吸器疾患の病態・治療の理解 4	学んだ疾患の病態・所見・治療を合理的に説明できるようにしておくこと。小テストや課題提出の可 能性もあります。	学んだ疾患の病態・所見・治療を合理的に説明できるようにしておくこと。小テストや課題提出の可 能性もあります。	
9	臓器の基本的な働きと消化器疾患の病態・治療の理解 1	消化器の解剖・生理機能については、必ず自宅学習で知識を確実にしておくこと。	消化器の解剖・生理機能については、必ず自宅学習で知識を確実にしておくこと。	
10	臓器の基本的な働きと消化器疾患の病態・治療の理解 2	学んだ疾患の病態・所見・治療を合理的に説明できるようにしておくこと。小テストや課題提出の可 能性もあります。	学んだ疾患の病態・所見・治療を合理的に説明できるようにしておくこと。小テストや課題提出の可 能性もあります。	
11	臓器の基本的な働きと消化器疾患の病態・治療の理解 3	学んだ疾患の病態・所見・治療を合理的に説明できるようにしておくこと。小テストや課題提出の可 能性もあります。	学んだ疾患の病態・所見・治療を合理的に説明できるようにしておくこと。小テストや課題提出の可 能性もあります。	

		能性もあります。	
12	臓器の基本的な働きと肝胆膵疾患の病態・治療の理解 1	肝臓・胆嚢・膵臓の解剖・生理機能については、必ず自宅学習で知識を確実にしておくこと。	
13	臓器の基本的な働きと肝胆膵疾患の病態・治療の理解 2	学んだ疾患の病態・所見・治療を合理的に説明できるようにしておくこと。	
14	血液疾患の病態・治療の理解 1	血液疾患の病態について合理的説明ができるように復習すること。	
15	血液疾患の病態・治療の理解 2	血液疾患の病態について合理的説明ができるように復習すること。	
成績評価方法と基準			
筆記試験			
割合			
1			

授業科目名	臨床病態学Ⅱ(看護) (Clinical Pathology II)																																																	
主担当教員	青木 元邦	担当教員 青木 元邦																																																
科目ナンバリング	SB111	ディプロマポリシー 該当項目 DP①②																																																
配当年次	2	曜日・時限 月曜 3限																																																
授業形態	講義	単位数 1																																																
授業概要	<p>よき医療人になる上で必要不可欠な内科学の知識・考え方について講義する。診断学・症候学を理解し、医療の現場で応用できるようにする。また各種疾患について臓器別に講義を行い、その病態・治療を論理的に理解・説明できるようにすると同時に、患者の訴え・状態から検査・治療の必要性の有無が判断できる能力を身につける。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 各種臓器の働きを理解する。 2. 各種疾病の本質・病態を論理的に理解する。 3. 各種疾病の臨床症状・治療法・ケアが合理的に説明できる。 <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 内科学(疾病の理解)は現代医療の基礎知識であることを認識して取り組むこと。 2. 講義を聞かずに教科書だけ読んで理解困難と考えるため、出席して講義を聞くこと。 3. 学習すべき量が多いため、効率よく理解すべく必ずノートに板書内容を記載すること。試験前に教科書を読んで全部覚えるのは不可能です。ノートに沿って教科書を活用してください。 4. 疾患については論理的なイメージを理解すること。 5. 疑問点は大切に、解決に向けて行動すること。 6. 努力をしない学生・態度不良の学生には単位を与えないことでは <p>教科書</p> <p>浅野嘉延・吉山直樹編 看護のための臨床病態学 南山堂</p> <p>参考書</p> <p>なし</p> <p>研究室/オフィスアワー</p> <p>月曜午後・水曜日・金曜日午後(ただし会議等でないこともあります) その他、部屋にいればいつでも質問可です。質問等はいつでも自由にとどうぞ。</p>																																																	
授業展開及び授業計画表	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>学修内容</th> <th>予習・復習・課題等</th> <th>担当</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>代謝性疾患の病態・治療の理解1</td> <td>学んだ疾患の病態・所見・治療を合理的に説明できるようにしておくこと。小テストや課題提出の可能性もあります。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>代謝性疾患の病態・治療の理解2</td> <td>学んだ疾患の病態・所見・治療を合理的に説明できるようにしておくこと。小テストや課題提出の可能性もあります。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>内分泌疾患の病態・治療の理解1</td> <td>内分泌臓器の解剖・生理機能については、必ず自宅学習で知識を確実にしておくこと。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>内分泌疾患の病態・治療の理解2</td> <td>学んだ疾患の病態・所見・治療を合理的に説明できるようにしておくこと。小テストや課題提出の可能性もあります。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>内分泌疾患の病態・治療の理解3</td> <td>学んだ疾患の病態・所見・治療を合理的に説明できるようにしておくこと。小テストや課題提出の可能性もあります。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>膠原病・アレルギー疾患の病態・治療の理解1</td> <td>学んだ疾患の病態・所見・治療を合理的に説明できるようにしておくこと。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>膠原病・アレルギー疾患の病態・治療の理解2</td> <td>学んだ疾患の病態・所見・治療を合理的に説明できるようにしておくこと。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>膠原病・アレルギー疾患の病態・治療の理解3</td> <td>学んだ疾患の病態・所見・治療を合理的に説明できるようにしておくこと。小テストや課題提出の可能性もあります。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>臓器の基本的な働きと腎疾患の病態・治療の理解1</td> <td>腎臓の解剖・生理機能については、必ず自宅学習で知識を確実にしておくこと。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>臓器の基本的な働きと腎疾患の病態・治療の理解2</td> <td>学んだ疾患の病態・所見・治療を合理的に説明できるようにしておくこと。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>臓器の基本的な働きと腎疾患の病態・治療の理解3</td> <td>学んだ疾患の病態・所見・治療を合理的に説明できるようにしておくこと。小テストや課題提出の可能性もあります。</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当	1	代謝性疾患の病態・治療の理解1	学んだ疾患の病態・所見・治療を合理的に説明できるようにしておくこと。小テストや課題提出の可能性もあります。		2	代謝性疾患の病態・治療の理解2	学んだ疾患の病態・所見・治療を合理的に説明できるようにしておくこと。小テストや課題提出の可能性もあります。		3	内分泌疾患の病態・治療の理解1	内分泌臓器の解剖・生理機能については、必ず自宅学習で知識を確実にしておくこと。		4	内分泌疾患の病態・治療の理解2	学んだ疾患の病態・所見・治療を合理的に説明できるようにしておくこと。小テストや課題提出の可能性もあります。		5	内分泌疾患の病態・治療の理解3	学んだ疾患の病態・所見・治療を合理的に説明できるようにしておくこと。小テストや課題提出の可能性もあります。		6	膠原病・アレルギー疾患の病態・治療の理解1	学んだ疾患の病態・所見・治療を合理的に説明できるようにしておくこと。		7	膠原病・アレルギー疾患の病態・治療の理解2	学んだ疾患の病態・所見・治療を合理的に説明できるようにしておくこと。		8	膠原病・アレルギー疾患の病態・治療の理解3	学んだ疾患の病態・所見・治療を合理的に説明できるようにしておくこと。小テストや課題提出の可能性もあります。		9	臓器の基本的な働きと腎疾患の病態・治療の理解1	腎臓の解剖・生理機能については、必ず自宅学習で知識を確実にしておくこと。		10	臓器の基本的な働きと腎疾患の病態・治療の理解2	学んだ疾患の病態・所見・治療を合理的に説明できるようにしておくこと。		11	臓器の基本的な働きと腎疾患の病態・治療の理解3	学んだ疾患の病態・所見・治療を合理的に説明できるようにしておくこと。小テストや課題提出の可能性もあります。	
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当																																															
1	代謝性疾患の病態・治療の理解1	学んだ疾患の病態・所見・治療を合理的に説明できるようにしておくこと。小テストや課題提出の可能性もあります。																																																
2	代謝性疾患の病態・治療の理解2	学んだ疾患の病態・所見・治療を合理的に説明できるようにしておくこと。小テストや課題提出の可能性もあります。																																																
3	内分泌疾患の病態・治療の理解1	内分泌臓器の解剖・生理機能については、必ず自宅学習で知識を確実にしておくこと。																																																
4	内分泌疾患の病態・治療の理解2	学んだ疾患の病態・所見・治療を合理的に説明できるようにしておくこと。小テストや課題提出の可能性もあります。																																																
5	内分泌疾患の病態・治療の理解3	学んだ疾患の病態・所見・治療を合理的に説明できるようにしておくこと。小テストや課題提出の可能性もあります。																																																
6	膠原病・アレルギー疾患の病態・治療の理解1	学んだ疾患の病態・所見・治療を合理的に説明できるようにしておくこと。																																																
7	膠原病・アレルギー疾患の病態・治療の理解2	学んだ疾患の病態・所見・治療を合理的に説明できるようにしておくこと。																																																
8	膠原病・アレルギー疾患の病態・治療の理解3	学んだ疾患の病態・所見・治療を合理的に説明できるようにしておくこと。小テストや課題提出の可能性もあります。																																																
9	臓器の基本的な働きと腎疾患の病態・治療の理解1	腎臓の解剖・生理機能については、必ず自宅学習で知識を確実にしておくこと。																																																
10	臓器の基本的な働きと腎疾患の病態・治療の理解2	学んだ疾患の病態・所見・治療を合理的に説明できるようにしておくこと。																																																
11	臓器の基本的な働きと腎疾患の病態・治療の理解3	学んだ疾患の病態・所見・治療を合理的に説明できるようにしておくこと。小テストや課題提出の可能性もあります。																																																

		可能性もあります。	
12	神経・筋疾患の病態・治療の理解1	学んだ疾患の病態・所見・治療を合理的に説明できるようにしておくこと。	
13	神経・筋疾患の病態・治療の理解2	学んだ疾患の病態・所見・治療を合理的に説明できるようにしておくこと。小テストや課題提出の可能性もあります。	
14	神経・筋疾患の病態・治療の理解3	学んだ疾患の病態・所見・治療を合理的に説明できるようにしておくこと。	
15	感染症	主たる感染症の病態・感染経路などを復習しておくこと。	
成績評価方法と基準			割合
筆記試験			1

授業科目名	臨床病態学Ⅲ(看護)(Clinical Pathology Ⅲ)		
主担当教員	三木 宏文	担当教員	三木 宏文
科目ナンバリング	SB112	専門基礎分野	ディプロマポリシー 該当項目 DP①②
配当年次	2	開講学期	前期 月曜 4限
授業形態	講義	単位数	1 必修・選択 必修
授業概要	<p>本講義では外科的アプローチを主体とする各種疾患の理解を深める。周術期管理を中心とした外科学総論を基本とし、心・大血管を 対象とする循環器の外科、肺疾患を主な対象とする呼吸器外科、消化器疾患、内分泌疾患を中心とする一般外科領域を中心に、運 動器系を中心とする整形外科領域、腎・泌尿器系、女性生殖系疾患を対象とする泌尿器科、婦人科領域、頭蓋内疾患を中心とし る脳神経外科領域にも一部触れたい。主要疾患についてそれぞれの概要、病態生理、症状、診断、治療、予後等について主に外科 的側面から修学することを目標とする。</p>		
到達目標	<p>1)解剖学、生理学、臨床病態学Ⅰ、Ⅱを基本とするので、その復習をすること。 2)各領域の疾患に対する病態とそこから考えられる外科的治療・術式の身体に及ぼす影響/周術期患者へのアセスメントを理解す る。 3)外科的治療後の周術期管理の特質を理解し、ケア・援助へのつながりに役立てる。</p>		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	<p>臨床病態学Ⅲは、病態管理・外科系疾患の病態把握・周術期看護の土台であり、補助論の相補となるものである。外科的治療の基 本は局所解剖学をマスターすることであり、さらに、病態・術前術後管理が、看護援助にどのようにつながっているかに留意しなが ら講義に臨んでほしい。当該授業の解剖と診断、全身管理は解剖学、生理学に加え、臨床病態学Ⅰ、Ⅱでカバーされているので、授業 中の質問は座席裏にしたがってこれらを確認することから始める。</p>		
注意事項	<p>1. 講義を聞かずには教科書だけ読んで理解困難と考えられるため、出席して講義を聞くこと</p>		
教科書	<p>新体系看護学全書別巻1「臨床外科看護学Ⅰ」 新体系看護学全書別巻2「臨床外科看護学Ⅱ」 メヂカルフレンド社</p>		
参考書			
必要時、随時提示			
研究室/オフィスアワー			
研究室 13: 在室時いつでも、もしくはメール問い合わせ。			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	外科総論1	インフォームドコンセント、外科看護の特徴、外科看護技術総論について学習し、知識を確実にしておく	
2	外科総論2	各種麻酔薬・手法についての知識・適応を整理すること	
3	循環器系疾患の外科的治療と周術期管理1	循環器の解剖・生理機能については、必ず自宅学習で知識を確実にしておく。	
4	循環器系疾患の外科的治療と周術期管理2	心疾患術後管理・合併症を理解し、周術期看護を整理すること。	
5	呼吸器系疾患の外科的治療と周術期管理	呼吸器疾患術後管理・合併症を理解し、周術期看護を整理すること。	
6	消化器系疾患の外科的治療と周術期管理1	消化器の解剖・生理機能については、必ず自宅学習で知識を確実にしておく	
7	消化器系疾患の外科的治療と周術期管理2	消化器疾患術後管理・合併症を理解し、周術期看護を整理すること。	
8	消化器系疾患の外科的治療と周術期管理3	整形外科疾患術後管理・合併症を理解し、周術期看護を整理すること。	
9	整形外科疾患の外科的治療と周術期管理	整形外科疾患術後管理・合併症を理解し、周術期看護を整理すること。	

10	内分泌・代謝系疾患の外科的治療と周術期管理1	内分泌臓器系疾患術後管理・合併症を理解し、周術期看護を整理すること。	
11	内分泌・代謝系疾患の外科的治療と周術期管理2	腎・泌尿器系疾患術後管理・合併症を理解し、周術期看護を整理すること。	
12	腎・泌尿器系疾患および女性生殖系疾患の外科的治療と周術期管理	腎・泌尿器系疾患および女性生殖系疾患術後管理・合併症を理解し、周術期看護を整理すること。	
13	脳神経系疾患の外科的治療と周術期管理1	脳神経系臓器疾患術後管理・合併症を理解し、周術期看護を整理すること。	
14	脳神経系疾患の外科的治療と周術期管理2	小児の脳外科疾患(二分脊椎・先天性水頭症、軟頭症)に対する理解・周術期看護を整理すること。	
15	高齢者および新生児疾患の外科的治療と周術期管理	先天性疾患に対する理解と新生児の特性を理解した周術期看護を整理すること。高齢者の特性を理解した周術期管理を整理すること。	
成績評価方法と基準			割合
定期試験の点数にて判定する。			1

授業科目名		臨床病態学IV(看護) (Clinical Pathology IV)	
主担当教員	前川 佳敬	担当教員	前川 佳敬、太尾 恵理
科目ナンバリング	SB113	専門基礎分野	ディプロマポリシー 該当項目
配当年次	2	開講学期	後期 曜日・時限 月曜 4 限 木曜 2 限
授業形態	講義	単位数	1
授業概要	必修・選択		
精神科、産科・婦人科、小児科領域における主要疾患、病態及び治療について講義する。			
到達目標			
1) 各種疾患、病態を理解し、論理的に説明できる。			
2) 病態から治療が合理的に説明できる。			
3) 病態、治療の理解を援助論に応用できる。			
履修上の注意(学生へのメッセージ)			
臨床病態学は、看護学(精神看護学、母性看護学、小児看護学)の土台であり、援助論の根拠となるものである。学生は、病態・治療が、看護援助にどのようにつながっているかに留意しながら講義に臨んでほしい。			
注意事項			
1. 講義を聞かずに教科書だけ読んで理解困難と考えられるため、出席して講義を聞くこと。			
2. 疾患についての論理的なイメージを理解する努力をすること。			
3. 疑問点は大切に、解決に向けて行動すること。			
4. 努力をしない学生、態度不良の学生には単位を与えられません。			
5. 私語は授業妨害・他学生への迷惑			
教科書			
系統看護学講座 精神看護学 [1] 医学書院			
系統看護学講座 精神看護学 [2] 医学書院			
系統看護学講座 母性看護学 [1] 医学書院			
病気がみえる vol.10 産科 メディックメディア			
新体系看護学全書 小児看護学2 健康書をもつ小児の看護 メチカルフレンド社			
参考書			
必要時、提示する			
研究室/オフィスアワー			
前川(C棟研究室8)/部屋にいればいつでも訪問可です。質問等はいつでも自由にとどろ。			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	精神科 1. 精神科疾患の診断と分類、精神症状論と状態像	精神科疾患の診断と分類、精神症状論と状態像を理解する(精神看護学 [1] 第 2 章、4 章)	太尾
2	精神科 2. 統合失調症の病態・治療	統合失調症の病態・治療を理解する(精神看護学 [1] 第 4 章、5 章)	太尾
3	精神科 3. 気分(感情)障害の病態・治療	気分(感情)障害の病態・治療を理解する(精神看護学 [1] 第 4 章、5 章)	太尾
4	精神科 4. 神経症性障害・ストレス関連障害および身体表現性障害の病態・治療	神経症性障害・ストレス関連障害および身体表現性障害の病態・治療の理解を深める(精神看護学 [1] 第 4 章、5 章)	太尾
5	精神科 5. 知的障害、心理的発達障害、小児期および青年期に通常発症する行動および情緒器質性精神障害、てんかんの病態と治療	知的障害、心理的発達障害、小児期および青年期に通常発症する行動および情緒器質性精神障害、てんかんの病態と治療の理解を深める(精神看護学 [1] 第 4 章、5 章)	太尾

6	産科・婦人科 1. 性と生殖に関する身近な疾患①	性感染症と予防、母子感染(HIV 含む)の病態・治療の理解を深める。	前川
7	産科・婦人科 2. 性と生殖に関する身近な疾患②	出生前診断、不妊症の病態・治療の理解を深める。	前川
8	産科・婦人科 3. 妊娠に伴う循環器系・内分泌系疾患の病態・治療①	糖代謝異常、妊高血圧症候群・HELLP 症候群の病態・治療の理解を深める。	前川
9	産科・婦人科 4. 妊娠に伴う循環器系・内分泌系疾患の病態・治療②	糖代謝異常、妊高血圧症候群・HELLP 症候群の病態・治療の理解を深める。	前川
10	産科・婦人科 5. 染色体異常、新生児疾患	分卵障害、染色体異常による疾患(21 トリソミー、18 トリソミー等)の理解を深める。	前川
11	小児科 1. 小児期感染症、腎、泌尿器①	小児期感染症(麻疹・風疹など)、糸球体腎炎、尿路感染症、停留精巣、尿道下裂の病態・治療の理解を深める。	前川
12	小児科 2. 小児期感染症、腎、泌尿器②	小児期感染症(麻疹・風疹など)、糸球体腎炎、尿路感染症、停留精巣、尿道下裂の病態・治療の理解を深める。	前川
13	小児科 3. 血液、造血器、悪性新生物	造血器腫瘍、脳腫瘍、神経芽腫の病態・治療の理解を深める。	前川
14	小児科 4. 消化器疾患①	幽門狭窄、イレウス、ヒルシウスゾルンブ病、胆道閉鎖、鎖肛、直腸肛門奇形の病態・治療の理解を深める。	前川
15	小児科 5. 消化器疾患②	幽門狭窄、イレウス、ヒルシウスゾルンブ病、胆道閉鎖、鎖肛、直腸肛門奇形の病態・治療の理解を深める。	前川
成績評価方法と基準			割合
配点割合は、精神科領域が 50%、産科・婦人科・小児科領域が 50%とする。			精神科領域： 筆記テスト 50 点、産科・婦 人科・小児科 領域：筆記テ スト 50 点
精神科領域：筆記テストで評価する。			
産科・婦人科・小児科領域：筆記テストで評価する。			

授業科目名		臨床病理学V (看護) (Clinical Pathology V)		
主担当教員	青木 元邦	担当教員	青木 元邦	
科目ナンバリング	SB114	専門基礎分野	ディプロマポリシー 該当項目	DP①②
配当年次	2	開講学期	曜日・時間	月曜 3限
授業形態	講義	単位数	1	必修・選択 必修
授業概要				
よき医療人になる上で必要不可欠な内科学・感染病学・老年医学の知識・考え方について講義する。診断学・症候学を理解し、医療の現場で応用できるようにする。また各種疾患について臓器別に講義を行い、その病態・治療を論理的に理解・説明できるものとする。同時に、患者の訴え・状態から検査・治療の必要性の有無が判断できる能力を身につける。				
到達目標				
1. 各種臓器の働きを理解する。 2. 各種疾病の本質・病態を論理的に理解する。 3. 各種疾病の臨床症状・治療法・ケアが合理的に説明できる。 履修上の注意 (学生へのメッセージ)				
1. 内科学(疾病の理解)は現代医療の基礎知識であることを認識して取り組むこと。 2. 講義を聞かずに教科書だけ読んでも理解困難と考えられるため、出席して講義を聞くこと。 3. 学習すべき量が多いため、効率よく理解すべく必ずノートに板書内容を記載すること。試験前に教科書を読んで全部覚えるのは不可能です。ノートに沿って教科書を活用してください。 4. 疾患について論理的なイメージを理解する努力をすること。 5. 疑問点は大切にし、解決に向けて行動すること。 6. 努力をしない学生・態度不良の学生には単位を与えないこととは 教科書				
浅野嘉延・吉山直樹編 看護のための臨床病理学 南山堂				
参考書				
なし				
研究室/オフィスアワー				
月曜午後・水曜日・金曜日午後(ただし会議等でいないこともあります) その他、部屋にいればいつでも訪問可です。質問等はいつでもご自由どうぞ。				
授業展開及び授業計画表				
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当	
1	脳血管障害の病態・治療の理解 1	学んだ疾患の病態・所見・治療を合理的に説明できるようにしておくこと。		
2	脳血管障害の病態・治療の理解 2	学んだ疾患の病態・所見・治療を合理的に説明できるようにしておくこと。		
3	認知症	学んだ疾患の病態・所見・治療を合理的に説明できるようにしておくこと。		
4	各種感染症の原因・症状・治療の理解 1	病原微生物の特性について予習しておくこと。		
5	各種感染症の原因・症状・治療の理解 2	学んだ疾患の病態・所見・治療を合理的に説明できるようにしておくこと。小テストや課題提出の可能性もあります。		
6	各種感染症の原因・症状・治療の理解 3	学んだ疾患の病態・所見・治療を合理的に説明できるようにしておくこと。小テストや課題提出の可能性もあります。		
7	眼科疾患の病態と治療の理解 1	眼の解剖・生理機能については、必ず自宅学習で知識を確実にしておくこと		
8	眼科疾患の病態と治療の理解 2	学んだ疾患の病態・所見・治療を合理的に説明できるようにしておくこと。小テストや課題提出の可能性もあります。		
9	耳鼻科疾患の病態・治療の理解 1	耳鼻咽喉頭の解剖・生理機能については、必ず自宅学習で知識を確実にしておくこと。		
10	耳鼻科疾患の病態・治療の理解 2	学んだ疾患の病態・所見・治療を合理的に説明できるようにしておくこと。小テストや課題提出の可能性もあります。		
11	皮膚科疾患の病態・治療の理解 1	皮膚の働きについては、必ず自宅学習で知識を確実にしておくこと。		

12	皮膚科疾患の病態・治療の理解 2	学んだ疾患の病態・所見・治療を合理的に説明できるようにしておくこと。小テストや課題提出の可能性もあります。		
13	老年症候群の理解 1	加齢に伴う生理機能の変化を理解する。		
14	老年症候群の理解 2	高齢者に特有の症候と老年医療のアプローチを理解する。		
15	総復習	授業での総復習を確認しつつ、総合的な復習を自宅で行うこと。		
成績評価方法と基準			割合	
筆記試験			1	

授業科目名	臨床心理学(看護) (Clinical Psychology)		
主担当教員	海蔵寺 陽子	担当教員	海蔵寺 陽子
科目ナンバリング	SB115	科目区分	専門基礎分野 DP②③
配当年次	1	開講学期	後期 金曜 5 限
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	選択		
臨床心理学は、人間の不適応行動の研究や治療を目的とする心理学です。授業では、人の心の構造のほか、具体的な心理検査や心理療法について学習します。			
到達目標			
1. 心の病気とその症状を理解する			
2. 各種の心理検査について理解し、その特徴を説明できる			
3. 各種の心理療法について理解し、その特徴を説明できる			
履修上の注意(学生へのメッセージ)			
1. 身近な経歴を臨床心理学的に考えてみる			
2. 疑問点を大切に、解決に向けて行動すること			
教科書			
臨床心理学序説 高橋雅春・高橋依子 著 ナカニシヤ出版			
参考書			
はじめの臨床心理学 森谷寛之・竹松志乃 編著 北樹出版			
研究室/オフィスアワー			
なし			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	臨床心理学とは	予習：教科書の確認 復習：授業をもとにノート、教科書の確認	
2	心理療法とは	予習：心の健康について考えてみる 復習：授業をもとにノート、教科書の確認	
3	精神力動的心理学法1	予習：心の働きについて新聞・テレビ・メディア記事などを一つ調べる 復習：授業をもとにノート、教科書の確認	
4	精神力動的心理学法2	予習：精神分析について教科書を読んでおく 復習：授業をもとにノート、教科書の確認	
5	精神力動的心理学法3	予習：自分の考え方を記録してみる 復習：授業をもとにノート、教科書の確認	
6	行動療法1	予習：行動療法について教科書を読んでおく 復習：授業をもとにノート、教科書の確認	
7	行動療法2	予習：学習理論について調べておく 復習：授業をもとにノート、教科書の確認	
8	クライエント中心療法	予習：傾聴について調べておく 復習：授業をもとにノート、教科書の確認	
9	その他の心理学法	予習：心理療法に関して新聞・テレビ・メディア記事などを一つ調べる 復習：授業をもとにノート、教科書の確認	
10	心理テストとは	予習：心理テストを実施する際、注意すべきことは何か考えてみる 復習：授業をもとにノート、教科書の確認	
11	性格テスト1	予習：性格テストについて教科書を読んでおく 復習：授業をもとにノート、教科書の確認	
12	性格テスト2	予習：性格テストに関して新聞・テレビ・メディア記事などを一つ調べる 復習：授業をもとにノート、教科書の確認	
13	知能テスト1	予習：知能について考える 復習：授業をもとにノート、教科書の確認	
14	知能テスト2	予習：知能テストについて教科書を読んでおく 復習：授業をもとにノート、教科書の確認	

15	講義全体のまとめと振り返り	予習：心理療法、心理テストを実施するときの注意点について考えてみる 復習：授業をもとにノート、教科書の確認
成績評価方法と基準		割合
①定期試験		①80%
②平常点(レポート、授業態度など)		②20%

授業科目名		医療概論(看護) (Introduction to Medicine)																																									
主担当教員	三木 宏文	担当教員	三木 宏文、村上 生美																																								
科目ナンバリング	SB117	科目区分	ディプロマポリシー 該当項目 DP①②																																								
配当年次	1	開講学期	曜日・時間 金曜 4限																																								
授業形態	講義	単位数	必修・選択 必修																																								
授業概要	<p>本教科目では、これから看護学の専攻科を学ぶに先立って、現代医療の全体像を把握する。今日、少子高齢化が進展し、医療施設においてはIT化・入院期間の短縮化、疾病に対する高度な治療技術が進んでいる。ここでは、現代医療をめぐる社会環境の動向を把握し、患者やクライアントである一般市民を中心とした医療が成果をあげるために、まずは今日の進展する医療の実態を把握するとともに専門職のチームワークが重要であることを広い視点から学ぶ。医療の本質、現代医療の課題、EBN (Evidence Based Nursing) と EBM (Evidence Based Medicine)、医療の対象としての個人や集団、インフォームドコンセント、脳死、臓器移植、医療経済、専門職の役割等について学修する。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会環境や疾病構造の変化を理解する。 2. 患者をはじめとしたクライアントに提供されている医療の実態を把握し、現状を理解する。 3. 医療の対象としての人間(個人・家族・集団、生と死)について理解する。 4. 医療の成実を挙げるための仕組みやチーム医療について理解する。 5. チーム医療における各専門職の役割について理解する。 6. 脳死判定や臓器移植とコーディネーターの役割について理解する。 7. 入院期間の短縮化と遠隔医療の必要性について理解する。 8. 患者の権利宣言や医療倫理に関する事項を理解する。 9. 日本看護協会看護倫理を理解する。 <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療者の考えと患者の医療に対する考えのずれを認識する。 2. 上手な受診と医療者のモラルを考える。 3. 「医療概論」は医療する側の原点であることを認識する。 4. グループ討議には積極的に参加する。 5. 日々の生活の中から現代医療に関する情報を収集し考える習慣をつける。 <p>教科書</p> <p>小泉俊三、平尾智広、有吉浩美、総合医療論 健康支援と社会保障制度① 医学書院</p> <p>参考書</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 厚生省指 掲刊 62(9) 国民衛生の動向 2015/2016 厚生労働統計協会。 2. 日本看護協会編 看護業務基準 2007年改訂版 日本看護協会出版会。 <p>その他、講義時に紹介する。</p> <p>研究室/オフィスアワー</p> <p>各教員から講義時に紹介する</p> <p>授業展開及び授業計画表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>学修内容</th> <th>予習・復習・課題等</th> <th>担当</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>医療の対象としての人間(個人・家族・集団)の理解</td> <td>人間とは? 家族とは? 集団・地域社会とは? について考え、自己の考えをまとめる。</td> <td>村上</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>人間のライフサイクルと生と死の理解。</td> <td>人間の一生や死について考え、まとめておく。</td> <td>村上</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>医療の対象としての患者の理解。</td> <td>「健康」や「疾病」について考えまとめておく。</td> <td>村上</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>患者の心理(当事者からの講義・膠原病友の会関西ブロック)</td> <td>家族や友人から病氣(入院)体験を聞き、重要なポイントをとめておく。</td> <td>村上</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>医療コミュニケーション</td> <td>教科書 P2~9 を読み、配布資料のディスカッションをまとめておくこと</td> <td>三木</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>インフォームドコンセントと医療情報の開示・共有</td> <td>教科書 P132~139 を読み、さらにインターネットで、コマタイトルをKey Wordに検索しておくこと、第3章(P56~95)を読んだおくこと・外集、入院治療から退院まで、医療機関の種類や検査・治療内容の概要を理解する</td> <td>三木</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>わが国の医療の仕組み(1)</td> <td>第3章(P56~95)を隔んでおくこと・わが国の医療保険の種類と保健・福祉行政を理解する</td> <td>三木</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>わが国の医療の仕組み(2)</td> <td>第4章(P98~109)、第5章(P112~122)を読んだおくこと</td> <td>三木</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>医療の最前線とあらたな課題</td> <td></td> <td>三木</td> </tr> </tbody> </table>			回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当	1	医療の対象としての人間(個人・家族・集団)の理解	人間とは? 家族とは? 集団・地域社会とは? について考え、自己の考えをまとめる。	村上	2	人間のライフサイクルと生と死の理解。	人間の一生や死について考え、まとめておく。	村上	3	医療の対象としての患者の理解。	「健康」や「疾病」について考えまとめておく。	村上	4	患者の心理(当事者からの講義・膠原病友の会関西ブロック)	家族や友人から病氣(入院)体験を聞き、重要なポイントをとめておく。	村上	5	医療コミュニケーション	教科書 P2~9 を読み、配布資料のディスカッションをまとめておくこと	三木	6	インフォームドコンセントと医療情報の開示・共有	教科書 P132~139 を読み、さらにインターネットで、コマタイトルをKey Wordに検索しておくこと、第3章(P56~95)を読んだおくこと・外集、入院治療から退院まで、医療機関の種類や検査・治療内容の概要を理解する	三木	7	わが国の医療の仕組み(1)	第3章(P56~95)を隔んでおくこと・わが国の医療保険の種類と保健・福祉行政を理解する	三木	8	わが国の医療の仕組み(2)	第4章(P98~109)、第5章(P112~122)を読んだおくこと	三木	9	医療の最前線とあらたな課題		三木
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当																																								
1	医療の対象としての人間(個人・家族・集団)の理解	人間とは? 家族とは? 集団・地域社会とは? について考え、自己の考えをまとめる。	村上																																								
2	人間のライフサイクルと生と死の理解。	人間の一生や死について考え、まとめておく。	村上																																								
3	医療の対象としての患者の理解。	「健康」や「疾病」について考えまとめておく。	村上																																								
4	患者の心理(当事者からの講義・膠原病友の会関西ブロック)	家族や友人から病氣(入院)体験を聞き、重要なポイントをとめておく。	村上																																								
5	医療コミュニケーション	教科書 P2~9 を読み、配布資料のディスカッションをまとめておくこと	三木																																								
6	インフォームドコンセントと医療情報の開示・共有	教科書 P132~139 を読み、さらにインターネットで、コマタイトルをKey Wordに検索しておくこと、第3章(P56~95)を読んだおくこと・外集、入院治療から退院まで、医療機関の種類や検査・治療内容の概要を理解する	三木																																								
7	わが国の医療の仕組み(1)	第3章(P56~95)を隔んでおくこと・わが国の医療保険の種類と保健・福祉行政を理解する	三木																																								
8	わが国の医療の仕組み(2)	第4章(P98~109)、第5章(P112~122)を読んだおくこと	三木																																								
9	医療の最前線とあらたな課題		三木																																								

10	チーム医療	チーム医療とは何か?各自調べておく	三木
11	臓器移植と脳死判定	脳死判定の実態と、わが国の移植医療の実態を把握する	三木
12	医療安全(1)	教科書の医療安全に関連するところを読んでおく。大塚博隆先生の医療安全対策を通して、医療安全推進のための組織と業務や、医療事故発生時の手順等を学ぶ	三木
13	医療安全(2)	代表的な事故防止マニュアルを学び、医療界の特徴を把握する	三木
14	プラマイケアとさまざまな看護専門職	第7章(P168~192)を読んでおくこと	三木
15	在宅医療	在宅医療におけるコメディカルの役割を考える	三木
成績評価方法と基準			
① 三木:レポート 70点			
② 村上:レポート 30点			

授業科目名	公衆衛生学(看護) (Public Health)		
主担当教員	神田 靖士	担当教員	神田 靖士
科目ナンバリング	SB118	科目区分	専門基礎分野
配当年次	1	開講学期	後期
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	<p>公衆衛生学は、ひとびとの健康維持・増進を実践する方法や技術を学ぶ専門科です。すなわち、何が健康を邪魔しているのか、何をすれば健康が守られるのか、どのようが仕組みを作れば健康の維持・増進にプラスになるのかなどを科学的に解析し、それらを実践する学問です。</p> <p>本講義では、衛生・公衆衛生学の総論、衛生行政、予防医学、健康、老人・成人保健、生活習慣病や難病疾患、産業衛生、母子保健、衛生統計などについて学習する。</p>		

到達目標
国民の基本的な権利としての健康を保障するための科学、技術、倫理を医学の観点から学ぶ学問である。国民の健康を守るべき看護学生として、国民の健康状態と保健、衛生、福祉の体制を正しく理解し、国民の健康を守るための保健医療サービスと公衆衛生事業のしくみと方法について学習し、会得することが目標である。

- 履修上の注意(学生へのメッセージ)
1. 講義を積極的に受講すれば行政のしくみや法におよび統計を理解できるようになります。
 2. 講義内容の他に社会の福祉・保健・統計については新聞に記載されることがあり、日頃から注意してみることで学ぶことができます。新聞を読んでもらいたい。
 3. 出席者は、私語・スマホの使用は厳禁。講義中の私語は授業妨害・他学生への迷惑行為なので遠慮させます。その場合、遅やかた退室すること。
 4. 最低限の礼儀をわきまえること。

教科書	
わかりやすい公衆衛生学(スーヴェヒロカワ)	
参考書	
国民衛生の動向(厚生統計協会)	
研究室/オフィスアワー	

在室時は質問可。
質問がある場合は授業終了時に各自申し出て下さい。また、メールでも随時受付を行います。
メールアドレス: kandas@hirakata.kmu.ac.jp

授業展開及び授業計画表	
回数	学修内容
1	公衆衛生学概論と歴史 予習: シラバス・教科書の確認 復習: 授業を基に配布資料確認
2	人口統計と保健統計 予習: 人口の諸問題を考える 復習: 授業を基に配布資料・教科書の確認
3	保健統計 出生と死亡 予習: シラバス・教科書の確認 復習: 意義と現状、疫学とその応用、疾病の予防について学ぶ。
4	疾病統計 予習: シラバス・教科書の確認 復習: 授業を基に配布資料・教科書の確認
5	感染症とその予防 予習: シラバス・教科書の確認 復習: 授業を基に微生物・予防接種法など確認
6	食品保健と公衆衛生栄養 予習: シラバス・教科書の確認 復習: 授業を基に配布資料・教科書の確認
7	生活環境保全 予習: シラバス・教科書の確認 復習: 配布資料を基に重要語句の確認
8	医療の制度(医療保険、公費負担制度) 予習: シラバス・教科書の確認 復習: 配布資料を基に重要語句の確認
9	地域保健活動 予習: シラバス・教科書の確認 復習: 配布資料を基に重要語句の確認
10	母子保健 予習: シラバス・教科書の確認 復習: 配布資料を基に重要語句の確認。

11	学校保健	予習: シラバス・教科書の確認 復習: 配布資料を基に重要語句の確認
12	生活習慣病対策	予習: シラバス・教科書の確認 復習: 疾病の種類、リスクと予防の確認
13	高齢者対策(後期高齢者医療、介護保険制度)	予習: シラバス・教科書の確認 復習: 高齢者医療の仕組みと介護制度を学ぶ
14	精神保健福祉	予習: シラバス・教科書の確認 復習: 精神保健福祉法、インフォームドコンセントを確認。
15	産業保健	予習: シラバス・教科書の確認 復習: 授業を基に配布資料・教科書の確認
成績評価方法と基準		
①定期試験 ②平常評価(出席状況) 上記①②で総合評価します。		
割合 ①80% ②20%		

看護関係法規(看護) (Nursing Related Laws and Regulations)		看護関係法規(看護)		
授業科目名	大巻 悦子	担当教員	大巻 悦子、橋本 富子、藤本 陽子、外村 昌子、原 邦子	
主担当教員	大巻 悦子	専門基礎分野	DP①	
科目ナンバリング	SB119	科目区分	月曜 2 限 火曜 5 限	
配当年次	3	開講学期	曜日・時限	
授業形態	講義	単位数	2	
授業概要	<p>人のライフサイクルには、疾病、負傷、障がい、失業、災害など様々な危機が存在するが、人々が健康に過ごすためには、保健・医療・福祉とともに社会制度や仕組みを理解することが必要である。</p> <p>この授業では、法的根拠に基づいた個人の権利を保障するため、看護職として必要な健康支援と社会保障制度について学修し、対象者の立場に立った看護サービスの実現ができることを目的とする。</p> <p>また、看護活動の質を高め、対象者のQOLの向上に寄与することができることを理解し、母性看護、成人看護、老年看護、精神看護、公衆衛生看護の各領域から学修する構成とする。</p>			
到達目標	<p>1. 社会人として基本的な法的・倫理的問題の考え方を理解する。</p> <p>2. 看護職として必要な社会保障制度について理解する。</p> <p>3. 看護活動を展開する上で、各領域との関係性・連携について理解する。</p>			
履修上の注意(学生へのメッセージ)	<p>1. 看護職として活動するためには、必要な保健・医療・福祉・社会制度の基礎的知識を認識すること。</p> <p>2. 指示された課題については、主体的に自分で書籍や研究文献でしっかりと調べること。</p> <p>3. 提出期限については厳守すること。</p>			
教科書	<p>公衆衛生がみえる：医療情報科学研究所・メディックメディア 母性看護学概論、小児看護学概論、成人看護学概論、精神看護の基礎、精神看護の展開、老年看護学概論(購入済み)</p>			
参考文献	<p>国民衛生の動向 2018/2019 研究室/オフィスアワー 藤本 W332 研究室 水曜日 橋本 W234 研究室 水曜日 蓮池 W331 研究室 水曜日 大巻 W2F 236 研究室 随時 (いずれの場合も事前に連絡すること)</p>			
授業展開及び授業計画表	回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	保健統計		予習/事前課題 現在の日本における人口統計、疾病、傷病状態などの情報収集し教科書を確認すること。』	大巻悦子
2	社会保障と地域保健		予習・事前課題 ライフサイクルからみた社会保障について確認しておくこと	大巻悦子
3	関係法規(医療法、保健師助産師看護師法等)		予習・課題 ・医療法、保健師助産師看護師法、看護師等人材確保法律について	大巻悦子
4	保健と福祉—感染症対策—		主要感染症の動向、感染症法、検査法、食品保健、食中毒について確認しておくこと	大巻悦子
5	学校保健、産業保健、環境保健		学校保健安全法、労働基準法、労働安全衛生法、職業性疾患、環境基本法職業性疾患、環境基本法について確認しておくこと	大巻悦子
6	医療と社会 ・終末期医療と死の概念、医療の質と安全の確保 ・医療法と医療体制		予習：教科書 P174～P192 復習：授業内容及び配布資料	藤本陽子

7	成人保健と健康増進 ・健康増進法、健康日本 21、生活習慣病対策、特定保健指導、がん対策、難病対策 女性、子・母・父、仕事と育児に関する法律 ① 母子保健法、労働基準法、男女雇用機会均等法、育児休業法 女性、子・母・父、子育てに関する法律 ② 戸籍法、母体保護法、DV 防止法、児童虐待防止法 ③ 予防接種法、児童福祉法、母子及び寡婦福祉法 高齢者保健に関する法律 ① 老人福祉法 ② 高齢者医療確保法 ③ 介護保険法 高齢者保健に関する法律 ① 高齢者虐待防止法 ② 成年後見制度など 精神保健に関する法律 ① 障害者基本法、障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律(障害者自立支援法、障害者総合支援法) ② 障害者差別解消法 精神保健に関する法律 ① 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律 ② 心神喪失等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及び観察等に関する法律(医療観察法) ③ 犯罪被害者基本法 精神保健に関する法律 ① 自殺対策基本法 ② アルコール健康障害対策基本法	予習：教科書 P174～P192 復習：授業内容及び配布資料 予習：教科書と母性看護学概論の該当ページを熟読。 予習：本日の授業内容、配布資料 復習：本日の授業内容、配布資料 予習：教科書と母性看護学概論の該当ページを熟読。 予習：本日の授業内容、配布資料 復習：本日の授業内容、配布資料 予習：老年看護学概論 P40～48 復習：授業内容及び配布資料 予習：老年看護学概論 P49～55 復習：授業内容及び配布資料 予習：配布資料 復習：授業内容及び配布資料	藤本陽子 橋本富子 橋本富子 橋本富子
8	成人保健と健康増進 ・健康増進法、健康日本 21、生活習慣病対策、特定保健指導、がん対策、難病対策 女性、子・母・父、仕事と育児に関する法律 ① 母子保健法、労働基準法、男女雇用機会均等法、育児休業法 女性、子・母・父、子育てに関する法律 ② 戸籍法、母体保護法、DV 防止法、児童虐待防止法 ③ 予防接種法、児童福祉法、母子及び寡婦福祉法 高齢者保健に関する法律 ① 老人福祉法 ② 高齢者医療確保法 ③ 介護保険法 高齢者保健に関する法律 ① 高齢者虐待防止法 ② 成年後見制度など 精神保健に関する法律 ① 障害者基本法、障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律(障害者自立支援法、障害者総合支援法) ② 障害者差別解消法 精神保健に関する法律 ① 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律 ② 心神喪失等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及び観察等に関する法律(医療観察法) ③ 犯罪被害者基本法 精神保健に関する法律 ① 自殺対策基本法 ② アルコール健康障害対策基本法	予習：教科書 P174～P192 復習：授業内容及び配布資料 予習：教科書と母性看護学概論の該当ページを熟読。 予習：本日の授業内容、配布資料 復習：本日の授業内容、配布資料 予習：老年看護学概論 P40～48 復習：授業内容及び配布資料 予習：老年看護学概論 P49～55 復習：授業内容及び配布資料 予習：配布資料 復習：授業内容及び配布資料	藤本陽子 橋本富子 橋本富子 橋本富子
9	成人保健と健康増進 ・健康増進法、健康日本 21、生活習慣病対策、特定保健指導、がん対策、難病対策 女性、子・母・父、仕事と育児に関する法律 ① 母子保健法、労働基準法、男女雇用機会均等法、育児休業法 女性、子・母・父、子育てに関する法律 ② 戸籍法、母体保護法、DV 防止法、児童虐待防止法 ③ 予防接種法、児童福祉法、母子及び寡婦福祉法 高齢者保健に関する法律 ① 老人福祉法 ② 高齢者医療確保法 ③ 介護保険法 高齢者保健に関する法律 ① 高齢者虐待防止法 ② 成年後見制度など 精神保健に関する法律 ① 障害者基本法、障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律(障害者自立支援法、障害者総合支援法) ② 障害者差別解消法 精神保健に関する法律 ① 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律 ② 心神喪失等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及び観察等に関する法律(医療観察法) ③ 犯罪被害者基本法 精神保健に関する法律 ① 自殺対策基本法 ② アルコール健康障害対策基本法	予習：教科書 P174～P192 復習：授業内容及び配布資料 予習：教科書と母性看護学概論の該当ページを熟読。 予習：本日の授業内容、配布資料 復習：本日の授業内容、配布資料 予習：老年看護学概論 P40～48 復習：授業内容及び配布資料 予習：老年看護学概論 P49～55 復習：授業内容及び配布資料 予習：配布資料 復習：授業内容及び配布資料	藤本陽子 橋本富子 橋本富子 橋本富子
10	成人保健と健康増進 ・健康増進法、健康日本 21、生活習慣病対策、特定保健指導、がん対策、難病対策 女性、子・母・父、仕事と育児に関する法律 ① 母子保健法、労働基準法、男女雇用機会均等法、育児休業法 女性、子・母・父、子育てに関する法律 ② 戸籍法、母体保護法、DV 防止法、児童虐待防止法 ③ 予防接種法、児童福祉法、母子及び寡婦福祉法 高齢者保健に関する法律 ① 老人福祉法 ② 高齢者医療確保法 ③ 介護保険法 高齢者保健に関する法律 ① 高齢者虐待防止法 ② 成年後見制度など 精神保健に関する法律 ① 障害者基本法、障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律(障害者自立支援法、障害者総合支援法) ② 障害者差別解消法 精神保健に関する法律 ① 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律 ② 心神喪失等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及び観察等に関する法律(医療観察法) ③ 犯罪被害者基本法 精神保健に関する法律 ① 自殺対策基本法 ② アルコール健康障害対策基本法	予習：教科書 P174～P192 復習：授業内容及び配布資料 予習：教科書と母性看護学概論の該当ページを熟読。 予習：本日の授業内容、配布資料 復習：本日の授業内容、配布資料 予習：老年看護学概論 P40～48 復習：授業内容及び配布資料 予習：老年看護学概論 P49～55 復習：授業内容及び配布資料 予習：配布資料 復習：授業内容及び配布資料	藤本陽子 橋本富子 橋本富子 橋本富子
11	成人保健と健康増進 ・健康増進法、健康日本 21、生活習慣病対策、特定保健指導、がん対策、難病対策 女性、子・母・父、仕事と育児に関する法律 ① 母子保健法、労働基準法、男女雇用機会均等法、育児休業法 女性、子・母・父、子育てに関する法律 ② 戸籍法、母体保護法、DV 防止法、児童虐待防止法 ③ 予防接種法、児童福祉法、母子及び寡婦福祉法 高齢者保健に関する法律 ① 老人福祉法 ② 高齢者医療確保法 ③ 介護保険法 高齢者保健に関する法律 ① 高齢者虐待防止法 ② 成年後見制度など 精神保健に関する法律 ① 障害者基本法、障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律(障害者自立支援法、障害者総合支援法) ② 障害者差別解消法 精神保健に関する法律 ① 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律 ② 心神喪失等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及び観察等に関する法律(医療観察法) ③ 犯罪被害者基本法 精神保健に関する法律 ① 自殺対策基本法 ② アルコール健康障害対策基本法	予習：教科書 P174～P192 復習：授業内容及び配布資料 予習：教科書と母性看護学概論の該当ページを熟読。 予習：本日の授業内容、配布資料 復習：本日の授業内容、配布資料 予習：老年看護学概論 P40～48 復習：授業内容及び配布資料 予習：老年看護学概論 P49～55 復習：授業内容及び配布資料 予習：配布資料 復習：授業内容及び配布資料	藤本陽子 橋本富子 橋本富子 橋本富子
12	成人保健と健康増進 ・健康増進法、健康日本 21、生活習慣病対策、特定保健指導、がん対策、難病対策 女性、子・母・父、仕事と育児に関する法律 ① 母子保健法、労働基準法、男女雇用機会均等法、育児休業法 女性、子・母・父、子育てに関する法律 ② 戸籍法、母体保護法、DV 防止法、児童虐待防止法 ③ 予防接種法、児童福祉法、母子及び寡婦福祉法 高齢者保健に関する法律 ① 老人福祉法 ② 高齢者医療確保法 ③ 介護保険法 高齢者保健に関する法律 ① 高齢者虐待防止法 ② 成年後見制度など 精神保健に関する法律 ① 障害者基本法、障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律(障害者自立支援法、障害者総合支援法) ② 障害者差別解消法 精神保健に関する法律 ① 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律 ② 心神喪失等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及び観察等に関する法律(医療観察法) ③ 犯罪被害者基本法 精神保健に関する法律 ① 自殺対策基本法 ② アルコール健康障害対策基本法	予習：教科書 P174～P192 復習：授業内容及び配布資料 予習：教科書と母性看護学概論の該当ページを熟読。 予習：本日の授業内容、配布資料 復習：本日の授業内容、配布資料 予習：老年看護学概論 P40～48 復習：授業内容及び配布資料 予習：老年看護学概論 P49～55 復習：授業内容及び配布資料 予習：配布資料 復習：授業内容及び配布資料	藤本陽子 橋本富子 橋本富子 橋本富子
13	成人保健と健康増進 ・健康増進法、健康日本 21、生活習慣病対策、特定保健指導、がん対策、難病対策 女性、子・母・父、仕事と育児に関する法律 ① 母子保健法、労働基準法、男女雇用機会均等法、育児休業法 女性、子・母・父、子育てに関する法律 ② 戸籍法、母体保護法、DV 防止法、児童虐待防止法 ③ 予防接種法、児童福祉法、母子及び寡婦福祉法 高齢者保健に関する法律 ① 老人福祉法 ② 高齢者医療確保法 ③ 介護保険法 高齢者保健に関する法律 ① 高齢者虐待防止法 ② 成年後見制度など 精神保健に関する法律 ① 障害者基本法、障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律(障害者自立支援法、障害者総合支援法) ② 障害者差別解消法 精神保健に関する法律 ① 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律 ② 心神喪失等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及び観察等に関する法律(医療観察法) ③ 犯罪被害者基本法 精神保健に関する法律 ① 自殺対策基本法 ② アルコール健康障害対策基本法	予習：教科書 P174～P192 復習：授業内容及び配布資料 予習：教科書と母性看護学概論の該当ページを熟読。 予習：本日の授業内容、配布資料 復習：本日の授業内容、配布資料 予習：老年看護学概論 P40～48 復習：授業内容及び配布資料 予習：老年看護学概論 P49～55 復習：授業内容及び配布資料 予習：配布資料 復習：授業内容及び配布資料	藤本陽子 橋本富子 橋本富子 橋本富子
14	成人保健と健康増進 ・健康増進法、健康日本 21、生活習慣病対策、特定保健指導、がん対策、難病対策 女性、子・母・父、仕事と育児に関する法律 ① 母子保健法、労働基準法、男女雇用機会均等法、育児休業法 女性、子・母・父、子育てに関する法律 ② 戸籍法、母体保護法、DV 防止法、児童虐待防止法 ③ 予防接種法、児童福祉法、母子及び寡婦福祉法 高齢者保健に関する法律 ① 老人福祉法 ② 高齢者医療確保法 ③ 介護保険法 高齢者保健に関する法律 ① 高齢者虐待防止法 ② 成年後見制度など 精神保健に関する法律 ① 障害者基本法、障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律(障害者自立支援法、障害者総合支援法) ② 障害者差別解消法 精神保健に関する法律 ① 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律 ② 心神喪失等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及び観察等に関する法律(医療観察法) ③ 犯罪被害者基本法 精神保健に関する法律 ① 自殺対策基本法 ② アルコール健康障害対策基本法	予習：教科書 P174～P192 復習：授業内容及び配布資料 予習：教科書と母性看護学概論の該当ページを熟読。 予習：本日の授業内容、配布資料 復習：本日の授業内容、配布資料 予習：老年看護学概論 P40～48 復習：授業内容及び配布資料 予習：老年看護学概論 P49～55 復習：授業内容及び配布資料 予習：配布資料 復習：授業内容及び配布資料	藤本陽子 橋本富子 橋本富子 橋本富子
15	成人保健と健康増進 ・健康増進法、健康日本 21、生活習慣病対策、特定保健指導、がん対策、難病対策 女性、子・母・父、仕事と育児に関する法律 ① 母子保健法、労働基準法、男女雇用機会均等法、育児休業法 女性、子・母・父、子育てに関する法律 ② 戸籍法、母体保護法、DV 防止法、児童虐待防止法 ③ 予防接種法、児童福祉法、母子及び寡婦福祉法 高齢者保健に関する法律 ① 老人福祉法 ② 高齢者医療確保法 ③ 介護保険法 高齢者保健に関する法律 ① 高齢者虐待防止法 ② 成年後見制度など 精神保健に関する法律 ① 障害者基本法、障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律(障害者自立支援法、障害者総合支援法) ② 障害者差別解消法 精神保健に関する法律 ① 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律 ② 心神喪失等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及び観察等に関する法律(医療観察法) ③ 犯罪被害者基本法 精神保健に関する法律 ① 自殺対策基本法 ② アルコール健康障害対策基本法	予習：教科書 P174～P192 復習：授業内容及び配布資料 予習：教科書と母性看護学概論の該当ページを熟読。 予習：本日の授業内容、配布資料 復習：本日の授業内容、配布資料 予習：老年看護学概論 P40～48 復習：授業内容及び配布資料 予習：老年看護学概論 P49～55 復習：授業内容及び配布資料 予習：配布資料 復習：授業内容及び配布資料	藤本陽子 橋本富子 橋本富子 橋本富子
成績評価方法と基準			
筆記試験			
割合			
1			

授業科目名		保健統計学(看護) (Health Statistics)	
主担当教員	井手口 範男	担当教員	井手口 範男
科目ナンバリング	SB120	専門基礎分野	DP①
配当年次	2	開講学期	前期
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	<p>保健統計学は、主に健康に関連する数量的比較を基礎として、多くの事実を統計的に観察し、処理する方法を研究する学問である。本講義では統計的方法について必要なデータの収集・分析方法のうち、多変量解析(回帰分析、および因子分析)について学習し、それらが地域における保健活動や健康管理にどのように応用されているかについて理解する。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. データの収集・分析及び統計的解析について理解し、適切に活用することができる 2. 日常的な保健活動において、統計学の知識やスキルを適切に活用することができる 3. 統計学的な知識・スキルについて、正しく説明することができる <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 毎回の授業のつながりが非常に重要で、欠席のないように留意すること 2. 授業の中で課題を課しますので、もれなく提出すること 3. 毎回、自分の手を動かして多くの計算作業をして貰うこととなります <p>教科書</p> <p>向後千春・富永敦子、ファーストブック 統計学がわかる一回帰分析・因子分析編一、技術評論社 適宜、資料を配付する。</p> <p>参考書</p> <p>福富和夫・橋本修二、改訂5版 保健統計・疫学、南山堂 中村好一、医療系のためのやさしい統計学入門、診断と治療社 小島寛之、完全独習 統計学入門、ダイヤモンド社 研究室/オフィスアワー</p>		
E棟4F研究室1/火曜日5時限(空いていれば適宜対応します)			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	ガイダンス	シラバスを確認して、1年次に学習した統計学の内容を復習し、記述統計(母集団、標本、代表値、散布度、相関)、および推測統計(カイ二乗検定、t検定、分散分析)について、説明できるようにしておく。	
2	散布図と相関	テキスト第1章を読む	
3	相関係数	テキスト第2章を読む	
4	相関の検定	テキスト第3章を読む	
5	回帰分析1: 回帰とはなにか?	テキスト第4章を読む	
6	回帰分析2: 回帰直線を求める	テキスト第4章を読む	
7	偏相関1: 偏相関とはなにか?	テキスト第5章を読む	
8	偏相関2: 偏相関係数を求める	テキスト第5章を読む	
9	重回帰分析1: 偏回帰係数と標準回帰係数	テキスト第6章を読む	
10	重回帰分析2: 重回帰モデルと重回帰係数	テキスト第6章を読む	
11	因子分析1: 相関行列を求める	テキスト第7章を読む	
12	因子分析2: 共通因子、固有値	テキスト第8章を読む	
13	因子分析3: 因子負荷量、共通性	テキスト第7章を読む	
14	因子分析4: 単純構造、因子得点	テキスト第7章を読む	

15	保健統計学への応用	保健・看護に関連するデータがどのようなように多変量解析に適応されるかを調べる
成績評価方法と基準		割合
1. 定期試験		1. 80%
2. 小テスト		2. 20%

授業科目名	疫学(看護) (Epidemiology)		
主担当教員	井手口 範男	担当教員	井手口 範男
科目ナンバリング	SB121	科目区分	専門基礎分野
配当年次	2	開講学期	後期
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	<p>看護(保健分野)で直面する健康問題は、疾病-病理の関係のみでは解決できない。個人、環境要因を広く捉える疫学は、今後も健康問題の解決に貢献する学問であろう。本講義では、現場の疑問を解決する疫学的手法について、観察的手法から実験的手法までを学ぶ。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 疫学について正しく定義し、説明することができる 2. 疫学的な専門用語を説明することができる 3. 健康問題に関するデータを分析し、解釈することができる <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>座学による講義形式で授業を進めますが、疫学の性質上、簡単な計算の演習を行なうことがあります。自分の手を動かして計算してみることが非常に大切なので、欠席することなく参加してください。</p> <p>教科書</p> <p>日本疫学会監修、はじめて学ぶやさしい疫学 改訂第3版、南江堂、2018</p> <p>参考書</p> <p>KENNETH J. ROTHMAN 著、矢野栄二・橋本英樹・大脇和浩監訳、ロスマンの疫学 - 科学的思考への誘い、篠原出版新社</p> <p>研究室/オフィスアワー</p> <p>E棟4F研究室1/火曜日5時限(空いていれば適宜対応します)</p>		
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	オリエンテーション - 疫学とは	テキスト第1章を読む (単に読むだけでなく、わからない専門用語等について下調べをしておく、以下同様)	
2	疾病発生の原因説明	テキスト第2章を読む	
3	疫学指標	テキスト第3章を読む	
4	疫学研究開始前の留意点	テキスト第4章を読む	
5	疫学研究方法-1-記述疫学	テキスト第5章を読む	
6	疫学研究方法-2-生体学的研究・横断研究	テキスト第6章、1節を読む	
7	疫学研究方法-3-コホート研究	テキスト第6章、3節を読む	
8	疫学研究方法-4-症例対照研究	テキスト第6章、2節を読む	
9	疫学研究方法-5-介入研究	テキスト第7章を読む	
10	バイアスと交絡	テキスト第9章を読む	
11	因果関係	テキスト第10章を読む	
12	スクリーニング	テキスト11章を読む	
13	情報収集方法	テキスト第12章を読む	
14	生命表・平均寿命、その他保健統計資料	テキスト第15、16、17章を読む	
15	疫学研究と倫理	テキスト第18章を読む	
成績評価方法と基準			割合

1. 定期試験	80%
2. 小テスト、レポート等	20%

授業科目名	看護学概論(看護) (Introduction to Nursing)			村上 生美
主担当教員	村上 生美	担当教員	村上 生美	
科目ナンバリング	FN210	科目区分	専門分野 I	DP①
配当年次	1	開講学期	前期	金曜 3 限
授業形態	講義	単位数	1	必修・選択
授業概要				
看護とは？ この講義は、この問いに答えるものである。この場合の看護は、専門職としての看護を指す。したがって本講義では、実践の学習としての看護学の全体像を述べる。すなわち、看護は誰に対して、何を目的し、どこで、どのようなことを、なぜするのか、今日の看護学を形作っている基盤となる知識を、人間、環境、健康、看護のくくりで述べる。				
到達目標				
<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護の変遷と定義を述べることができる。 2. 看護は人間をどのように観るかを述べることができる。 3. 人間と環境とのかかわりについて述べることができる。 4. 健康とは何か、生活と健康との関連を述べることができる。 5. 看護における倫理の重要性について、基本となるキーワードを説明することができる。 6. 看護の展開期について、援助的関係形成について述べることができる。 7. 看護実践の特性について述べることができる。 				
履修上の注意(学生へのメッセージ)				
<p>予習・課題は一定の時間をかけて果たしておくこと。</p> <p>配布された資料はよく読み、整理しておくこと。</p> <p>身近な経験を通して看護を考えること。</p> <p>疑問点は大切に、解決のためによく調べたり質問すること。</p> <p>クラスメートとよく話し、よく聞き、コミュニケーションを高めること。</p> <p>前期に開講される「医療概論」と関連させて理解すること。</p>				
教科書				
藤崎郁也著 <系統看護学講座 専門分野1> [基礎看護学1] 看護学概論 医学書院				
参考書				
<ol style="list-style-type: none"> 1. 厚生省の指 標 掲 載 65 (9) 国民衛生の動向 2018/2019 厚生労働統計協会 2. フランク・コーグル著 小口忠彦訳「マズローの心理学」産能大学出版部 3. エリックソン, E. H., 著 村瀬学雄他訳「ライファサイクル, その完結」みすず書房 4. 日本看護協会編「看護に活かす基礎・指針・ガイドライン集 2018」日本看護協会 出版会 5. 世界保健機関「ICF 国際生活機能分類-国際障害分類決定版」中央法規 6. 日本看護協会編 平成 27 年版「看護白書」 7. 川崎みどり「看護の力」岩波新書 				
研究室/オフィスアワー				
ガイダンス時に知らせる。				
授業展開及び授業計画表				
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当	備考
1	教科目ガイダンス 現代における看護活動	看護職の活動について考え(身近に看護職の人がいたら聞き取り可)まとめる。	看護職の人	村上
2	看護の変遷	テキストの該当部分を読み、まとめる。		村上
3	看護の定義	「定義」の意味を考える。テキストにある諸氏あるいは語団体の定義を読みまとめる。		村上
4	看護の対象としての人間と環境	人間と環境について、どのような角度からでもよいので考えまとめる。		村上
5	健康について 健康とは ヘルスプロモーションとは 障害について	あなたは健康ですか？ それはなぜですか？ まとめる。WHO の健康の定義を復習しておく。		村上
6	看護活動について 看護実践の方法 看護実践の場	看護職(保健師・助産師・看護師)が活動する場所とその特徴を考えまとめる。		村上
7	看護実践の特性	講義中に指示する		村上

8	看護における倫理	テキストの倫理の部分を読み込んでまとめる。	村上
成績評価方法と基準			
①記述試験			
60 点以上を単位認定する			
割合			
①100%			

授業科目名		看護理論(看護) (Nursing Theory)																																	
主担当教員	村上 生美	担当教員	村上 生美、伊津美 孝子																																
科目ナンバリング	FN202	科目区分	ディプロマポリシー 該当項目 DP①																																
配当年次	1	開講学期	後期 月曜 1限																																
授業形態	講義	単位数	2 必修・選択 必修																																
<p>授業概要</p> <p>看護理論は、看護の本質を筋立てて、体系的に説明する知識の組み合わせである。看護理論は F. Nightingale に端を委し、その後アメリカで創生、普及しており、数多くのものが紹介されている。この授業では、看護専門職にとって認知度が高いだけでなく、広く活用されている F. Nightingale と V. Henderson 等を取り上げる。F. Nightingale や V. Henderson 等の理論の根拠にある考え方を(留字)、それぞれの理論はどのような内容で構成されているのか、F. Nightingale</p> <p>※本科目は実務経験のある教員等による授業科目です</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. F. Nightingale は看護をどのようにとらえているか、説明することができる。 2. V. Henderson は看護をどのようにとらえているか、説明することができる。 3. 次の各看護理論の特徴を述べることができる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ヒルデガート E. ベプロウ ・ドロセア E. オレム ・フェイ G. アブデラ ・ジスター・カリス・タ・ロイ ・ジーン・ワトソン ・バトリシア・ベナー 4. 看護における理論の発達や必要性について考えることができる。 <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>F. Nightingale と V. Henderson の著作をよく読む。 「理論」とは何か? 敬遠しないでよく考える。 本講義は、各領域の看護学とつながる教科目であることとよく認識すること。 GW においては教科書だけでなく、その理論家の著作等の情報を収集して意見交換をする。 グループの編成においては希望をきく。</p> <p>教科書</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. F. Nightingale 湯積ます他訳「看護覚え書」現代社 2. V. Henderson 湯積ます・小玉香津子訳「看護論」日本看護協会出版会 3. 薄井坦子著「生きていくとは 看護の本質とこれからの看護」森/西医療学園出版部 4. 高井真徳編「看護理論」南江堂 <p>参考書</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. アン・マリナー・トメイ他 都留伸子監訳「看護覚え書」現代社 2. V. Henderson 湯積ます・小玉香津子訳「看護論」日本看護協会出版会 3. コニー・M・デニス著 小野寺社紀監訳「オレム看護論入門」医学書院 4. 松木光子編集「ロイ看護モデルを使った看護の実践」NOUVELLE HIROKAWA 5. ジーン・ワトソン著 稲岡文昭 稲岡光子訳「ワトソン看護論」医学書院 <p>研究室/オフィスアワー</p> <p>科目ガイダンス時に知らせる。</p>																																			
<p>授業展開及び授業計画表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>学修内容</th> <th>予習・復習・課題等</th> <th>担当</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>教科目ガイダンス Introduction 「理論」とは</td> <td>「理論」について、いくつかの読書を調べ、考えてくる。</td> <td>村上</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>F. Nightingale 看護論(その生涯と功績)</td> <td>「看護覚え書」P. 1~20 を読み、大切な点をノートにまとめる。</td> <td>村上</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>F. Nightingale 看護論(理論の源泉)</td> <td>同上</td> <td>村上</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>F. Nightingale 看護論</td> <td>「看護覚え書」P. 227~151「補章」以降をまとめる</td> <td>村上</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>F. Nightingale 看護論</td> <td>同上</td> <td>村上</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>V. Henderson 看護論(その生涯と功績)</td> <td>「看護の基本となるもの」P. 1~15 を読み重要な点をまとめる。</td> <td>村上</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>V. Henderson の看護論(理論の源泉)</td> <td>同上のテキスト P. 17~28 をまとめる。</td> <td>村上</td> </tr> </tbody> </table>				回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当	1	教科目ガイダンス Introduction 「理論」とは	「理論」について、いくつかの読書を調べ、考えてくる。	村上	2	F. Nightingale 看護論(その生涯と功績)	「看護覚え書」P. 1~20 を読み、大切な点をノートにまとめる。	村上	3	F. Nightingale 看護論(理論の源泉)	同上	村上	4	F. Nightingale 看護論	「看護覚え書」P. 227~151「補章」以降をまとめる	村上	5	F. Nightingale 看護論	同上	村上	6	V. Henderson 看護論(その生涯と功績)	「看護の基本となるもの」P. 1~15 を読み重要な点をまとめる。	村上	7	V. Henderson の看護論(理論の源泉)	同上のテキスト P. 17~28 をまとめる。	村上
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当																																
1	教科目ガイダンス Introduction 「理論」とは	「理論」について、いくつかの読書を調べ、考えてくる。	村上																																
2	F. Nightingale 看護論(その生涯と功績)	「看護覚え書」P. 1~20 を読み、大切な点をノートにまとめる。	村上																																
3	F. Nightingale 看護論(理論の源泉)	同上	村上																																
4	F. Nightingale 看護論	「看護覚え書」P. 227~151「補章」以降をまとめる	村上																																
5	F. Nightingale 看護論	同上	村上																																
6	V. Henderson 看護論(その生涯と功績)	「看護の基本となるもの」P. 1~15 を読み重要な点をまとめる。	村上																																
7	V. Henderson の看護論(理論の源泉)	同上のテキスト P. 17~28 をまとめる。	村上																																

8	Henderson 看護論	同上のテキスト P. 33 以降の構成要素を簡潔にまとめる。	村上
9	Henderson 看護論	同上	村上
10	各理論に関するグループワーク①	テキストの該当箇所を読み込む。	村上・伊津美
11	グループワーク②	同上	村上・伊津美
12	グループワーク③	同上	村上・伊津美
13	グループワーク④	同上	村上・伊津美
14	グループワーク⑤	同上	村上・伊津美
15	発表と総括	発表会は学生が運営する。発表に際しては後に活用できる資料(A4, 1枚)を作成する。	村上・伊津美
成績評価方法と基準			
①ペーパーテスト			割合 ①90%
②グループワーク(ルーブリック評価)			②10%

授業科目名	生活援助論Ⅰ(看護) (Basic Nursing Skills Ⅰ)		
主担当教員	住田 陽子	担当教員	住田 陽子、村上 生美、伊津美 孝子、越智 奈穂美
科目ナンバリング	FN203	科目区分	専門分野Ⅰ DP①④
配当年次	1	開講学期	前期 火曜 4 限 火曜 5 限
授業形態	演習	単位数	2 必修・選択 必修

授業概要
人間の基本的欲求を看護の視点で捉え、それに基づいた生活行動を整える看護活動を「看護技術」という側面から理解し、修得する。看護技術とは何か、その問いに対し、理論と身近な生活体験をすり合わせるプロセスを通して本質を理解する。本科目では、人間の生活基盤であるコミュニケーション・環境、人間の基本的欲求である食事・排泄について日常生活上での意味を考え、健康が障害された場合の患者のニーズを理解し、援助するための技術を学修する。

※本科目は実務経験のある教員等による授業科目です

到達目標

1. 生活体験を言語化し、その意味を考察できる。
2. 健康が障害された場合の患者のニーズを理解できる。
3. コミュニケーションの本質を理解し、方法を理解できる。
4. 環境調整技術の意義を理解し、方法を修得できる。
5. 食事援助技術の意義と相剋を理解し、方法を考察できる。
6. 排泄援助技術の意義と相剋を理解し、方法を考察できる。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1. 出席が前提である(特に演習)。
2. 演習時は臨地実習と同様にユニフォームを着用し、身だしなみを整える。
3. 提出物の提出期限は厳守する。事前学習課題未提出者は、演習への参加を認めない。
4. 演習物品等の準備、後片付け、基礎看護学実習室の美化は、学生が自律で行う。
5. 講義・演習前後の自学自習を必修とする。

教科書

1. 『系統看護学講座 専門分野Ⅰ』[基礎看護学②]基礎看護技術Ⅰ、医学書院
2. 『系統看護学講座 専門分野Ⅰ』[基礎看護学③]基礎看護技術Ⅱ、医学書院
3. 『相剋と事故防止からみた基礎・臨床看護技術』 医学書院

参考書

1. ヴァージニア・ヘンダーソン(著)、湯積ます、小玉香津子(訳)：看護の基本となるもの、日本看護協会出版会
2. フロレンス・ナイチンゲール(著)、湯積ます、薄井垣子、小玉香津子他(訳)：看護覚え書、現代社
3. 深井喜代子(監修)：ケア技術のエビデンス、へるす出版
4. 川島みどり 著、生活行動援助の技術 ありふれた働きを援助する専門性、看護の科学社
5. 川島みどり：キラリ看護、医学書院

研究室/オフィスアワー

住田陽子 WP604 研究室/随時

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	教科ガイダンス	予習：シラバスの確認	住田陽子
2	生活とは	予習：自身の生活体験を想起しておく	住田陽子
3	コミュニケーション	予習・復習：別途指示する	住田陽子
4	コミュニケーション	予習・復習：別途指示する	住田陽子
5	【GW】人間にとっての環境とは	予習・復習：別途指示する	住田陽子
6	【GW】人間にとっての環境とは	予習・復習：別途指示する	住田陽子
7	【演習】実習オリエンテーション	予習：配布資料確認	全員
8	【演習】環境測定/衛生的な手洗い	演習前後レポート	全員

9	ボディカメラニクス	予習・復習：別途指示する	住田陽子
10	体位変換	予習・復習：別途指示する	住田陽子
11	【演習】ベッドメーカーキング	演習前後レポート	全員
12	【演習】ベッドメーカーキング	演習前後レポート	全員
13	【演習】臥床患者のシーツ交換	演習前後レポート	全員
14	【演習】臥床患者のシーツ交換	演習前後レポート	全員
15	環境調整技術	予習・復習：別途指示する	住田陽子
16	環境調整技術	予習・復習：別途指示する	住田陽子
17	食事援助技術	予習・復習：別途指示する	越智奈穂美
18	食事援助技術	予習・復習：別途指示する	越智奈穂美
19	食事援助技術	予習・復習：別途指示する	越智奈穂美
20	排泄援助技術	予習・復習：別途指示する	住田陽子
21	排泄援助技術	演習前後レポート	住田陽子
22	排泄援助技術	演習前後レポート	住田陽子
23	【演習】食事援助技術	演習前後レポート	全員
24	【演習】食事援助技術	演習前後レポート	全員
25	【演習】排泄援助技術	予習・復習：別途指示する	全員
26	【演習】排泄援助技術	予習・復習：別途指示する	全員
27	【GW】人間にとっての食事とは	予習・復習：別途指示する	越智奈穂美
28	【GW】人間にとっての排泄とは	予習・復習：別途指示する	住田陽子
29	【技術チェック】臥床患者のシーツ交換	予習：臥床患者のシーツ交換の自己練習	全員
30	【技術チェック】臥床患者のシーツ交換	復習：臥床患者のシーツ交換の自己評価	全員
成績評価方法と基準			割合
1. 筆記試験:6 割以上			①50%
2. 技術チェック:6 割以上			②30%
3. 演習前後のレポートの提出状況、取り組み内容			③20%
定期試験を受験するには、4/5 以上の出席が必要である。			

授業科目名	生活援助論Ⅱ(看護) (Basic Nursing Skills II)																																						
主担当教員	住田 陽子	担当教員	住田 陽子、村上 生美、伊津美 孝子、 榎智 奈穂美																																				
科目ナンバリング	FN204	科目区分	専門分野Ⅰ DP①④																																				
配当年次	1	開講学期	後期 火曜 4限 火曜 5限																																				
授業形態	演習	単位数	2 必修・選択 必修																																				
授業概要	<p>日常生活援助技術の原則とその根拠の理解を基盤とする。また基礎看護学実習Ⅰの学びを活用し、殊に健康に障害を持つ人々に対する日常生活援助技術を探究・修得することをねらいとする。各種清潔の維持のための看護ケアを中心に学習する。その演習においては、事前学習を基本とし、学生自身が創意思工巧を重んじながら看護技術を実施する。また看護者として看護技術の一連のプロセスを体験し、ケアを受ける患者の体験を通して、また第三者として行なわれたケアを観察・評価し、看護者・患者・観察者の3つの視点からの気づきを考察し記録を行なうことで学習を深める。看護技術のあり方についてはテキストのみにとらわれない方法論について、その根拠を明確にし、様々な看護場面に応じた援助技術のレディネスを養う。</p> <p>※本科目には実務経験のある教員等による授業科目です</p>																																						
到達目標	<p>1. 日常生活援助技術の原則とその根拠を理解することができる。 2. 学内演習を通して、患者・看護者・観察者の視点から援助技術の実施方法を探求できる。 3. 生活援助論Ⅰで学修した共通看護技術を基盤とし、活動の援助、リネン交換、各種清潔援助技術における一連のプロセスを理解することができる。 4. 生活の主軸となる人間の活動をj通して、清潔、衣生活に関する概念を看護の視点から理解し、アセスメントに基づきそれらの基本的援助を実施することができる。 履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>1. 出席が前提である(特に演習)。 2. 演習時は陸地車習と同様にユニフォームを着用し、身だしなみを整える。 3. 提出物の提出期限は厳守する。事前学習未提出者は、演習への出席を認めない。 4. 演習物品等の準備、後片付け、基礎看護学実習室の美化は、学生が自律して行う。 5. 看護技術の習得には事前事後の自己練習を必須とする。</p>																																						
教科書	<p>1. (系統看護学講座 専門分野Ⅰ)「基礎看護学③」基礎看護技術Ⅱ、医学書院 2. 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院</p>																																						
参考書	<p>1. 深井喜代子(監修)「ケア技術のエビデンス、へるす出版 2. 川島ひとし著「生活行動援助の技術 ありふれた営みを援助する専門性」看護の科学社 3. 竹尾恵子(監修)「医療安全と感染予防をふまえた看護技術プラクティス、学研</p>																																						
研究室/オフィスアワー	住田陽子 WP634 研究室/随時																																						
授業展開及び授業計画表	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>学修内容</th> <th>予習・復習・課題等</th> <th>担当</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>教科ガイダンス 清潔援助技術</td> <td>予習・復習:別途指示する</td> <td>住田陽子</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>清潔援助技術</td> <td>予習・復習:別途指示する</td> <td>住田陽子</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>整容・口腔ケア</td> <td>予習・復習:別途指示する</td> <td>住田陽子</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>整容・口腔ケア</td> <td>予習・復習:別途指示する</td> <td>住田陽子</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>部分浴(手浴・足浴)</td> <td>予習・復習:別途指示する</td> <td>住田陽子</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>部分浴(手浴・足浴)</td> <td>予習・復習:別途指示する</td> <td>住田陽子</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>【演習】洗面・口腔ケア/手浴・爪切り</td> <td>演習前後レポート</td> <td>全員</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>【演習】洗面・口腔ケア/手浴・爪切り</td> <td>演習前後レポート</td> <td>全員</td> </tr> </tbody> </table>			回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当	1	教科ガイダンス 清潔援助技術	予習・復習:別途指示する	住田陽子	2	清潔援助技術	予習・復習:別途指示する	住田陽子	3	整容・口腔ケア	予習・復習:別途指示する	住田陽子	4	整容・口腔ケア	予習・復習:別途指示する	住田陽子	5	部分浴(手浴・足浴)	予習・復習:別途指示する	住田陽子	6	部分浴(手浴・足浴)	予習・復習:別途指示する	住田陽子	7	【演習】洗面・口腔ケア/手浴・爪切り	演習前後レポート	全員	8	【演習】洗面・口腔ケア/手浴・爪切り	演習前後レポート	全員
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当																																				
1	教科ガイダンス 清潔援助技術	予習・復習:別途指示する	住田陽子																																				
2	清潔援助技術	予習・復習:別途指示する	住田陽子																																				
3	整容・口腔ケア	予習・復習:別途指示する	住田陽子																																				
4	整容・口腔ケア	予習・復習:別途指示する	住田陽子																																				
5	部分浴(手浴・足浴)	予習・復習:別途指示する	住田陽子																																				
6	部分浴(手浴・足浴)	予習・復習:別途指示する	住田陽子																																				
7	【演習】洗面・口腔ケア/手浴・爪切り	演習前後レポート	全員																																				
8	【演習】洗面・口腔ケア/手浴・爪切り	演習前後レポート	全員																																				

9	【演習】足浴	演習前後レポート	全員
10	【演習】足浴	演習前後レポート	全員
11	全身清拭	予習・復習・別途指示する	住田陽子
12	全身清拭	予習・復習・別途指示する	住田陽子
13	【演習】全身清拭	演習前後レポート	全員
14	【演習】全身清拭	演習前後レポート	全員
15	【演習】全身清拭	演習前後レポート	全員
16	【演習】全身清拭	演習前後レポート	全員
17	陰部洗浄	予習・復習・別途指示する	住田陽子
18	衣生活	予習・復習・別途指示する	住田陽子
19	【演習】陰部洗浄/寝衣交換	演習前後レポート	全員
20	【演習】陰部洗浄/寝衣交換	演習前後レポート	全員
21	洗髪	予習・復習・別途指示する	住田陽子
22	洗髪	予習・復習・別途指示する	住田陽子
23	【演習】洗髪	演習前後レポート	全員
24	【演習】洗髪	演習前後レポート	全員
25	活動・休息援助技術	予習・復習・別途指示する	住田陽子
26	活動・休息援助技術	予習・復習・別途指示する	住田陽子
27	【演習】移乗・移送/体位変換	演習前後レポート	全員
28	【演習】移乗・移送/体位変換	演習前後レポート	全員
29	死の看取りの援助	予習・復習・別途指示する	住田陽子
30	死の看取りの援助	予習・復習・別途指示する	住田陽子
成績評価方法と基準			
1. 筆記試験:6割以上			
2. 実技試験:6割以上			
3. レポート提出状況・取り組み内容			
定期試験を受験するには、4/5以上の出席が必要である。			

授業科目名		診療援助論Ⅰ(看護) (Basic Nursing Skills (Medical Care)Ⅰ)			
主担当教員	伊津美 孝子	担当教員	伊津美 孝子、村上 生美、住田 陽子、越智 奈穂美	担当	伊津美 孝子
科目ナンバリング	FN205	科目区分	専門分野Ⅰ	DP①④	
配当年次	1	開講学期	後期	曜日・時限	木曜 1 限 木曜 2 限
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	必修
授業概要	健康に障害をきたした人に対する診療を行う際の看護の視点に立った基本的な支援技術を理解し修得することをねらいとする。診療の基本的な技術とそのEBN(evidence based nursing)さらに安全確保・感染防止策について学習する。また、患者が生活者であるという視点から診療を受ける患者(家族を含む)のニーズを理解し、診療を受けることによる身体的・精神的変化から、対象(家族を含む)に対する必要な看護の役割を学習する。				
到達目標	※本科目は実務経験のある教員等による授業科目です				
	1.「診療援助」とは何か「に」について対象者および看護者の立場から考えることができる。				
	2. 基本的な看護技術の原理原則とそのEBN が理解できる。				
	3. 看護援助における症状・身体機能管理技術について理解できる。				
	4. 看護援助における安全確保、感染防止の技術について理解できる。				
	5. 看護援助において、常に対象者の個別性、ニーズ、状況を考えてきた看護援助を考えることができる。				
	履修上の注意(学生へのメッセージ)				
	1. 出席が前提である。				
	2. 演習時は身だしなみを整える(演習は原則ユニフォームとする。不備がある場合、演習への出席を認めない)。				
	3. 演習は常に緊張感を持ち、言葉づかいを含め、医療人を目指す者としてふさわしい態度で臨む。				
	4. 提出物の期限は厳守する。学習課題未提出者は演習への出席を認めない。				
	5. 演習物品などの準備、後片付け、基礎看護学実習室の整備は学生が自立して行う。				
	6. 講義中の私語、飲食、携帯電話の使用は禁止する。				
	7. 原則、途中退席は認めない。ただし、やむを得ない場合はこの限りではない。				
教科書					
1. 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③、医学書院					
2. 任和子・秋山智弥編集 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院					
参考書					
1. ナーシンググラフィック 基礎看護学③ 基礎看護技術 メディカ出版					
2. 竹尾恵子監修 看護技術ブックハウス 学研					
3. 深井喜代子監修 ケア技術のエビデンス へるす出版					
4. 深井喜代子編集 ケア技術のエビデンスⅡ へるす出版					
研究室/オフィスアワー					
随時対応					
授業展開及び授業計画表					
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当		
1	教科ガイダンス 【講義】診療援助とは何か、患者にとつての意味、看護の役割	(予習)シラバス、教科書の熟読 (復習) 講義内容についての復習	伊津美孝子		
2	【講義】診療援助とは何か、患者にとつての意味、看護の役割	(復習) 講義内容についての復習	伊津美孝子		
3	【講義】診療と倫理、法律について	(予習) 診療と倫理、法律について調べる (復習) 講義内容についての復習	伊津美孝子		
4	【講義】診療と倫理、法律について	(復習) 講義内容についての復習	伊津美孝子		
5	【講義】外来看護について	(予習) 外来看護について調べる	伊津美孝子		
6	【講義】外来看護について	(復習) 講義内容についての復習	伊津美孝子		
7	【講義】感染防止の技術 標準予防策 感染経路別予防策	(予習) 感染防止の技術、標準予防策、感染経路別予防策について教科書を熟読 (復習) 講義内容についての復習	伊津美孝子		

8	【講義】感染防止の技術 標準予防策 感染経路別予防策	(復習) 講義内容についての復習	伊津美孝子	
9	【講義】洗浄・消毒・滅菌・無菌操作	(予習) 洗浄・消毒・滅菌・無菌操作について教科書を熟読	伊津美孝子	
10	【講義】洗浄・消毒・滅菌・無菌操作	(復習) 講義内容についての復習	伊津美孝子	
11	【講義】創傷管理技術 創傷処置、包帯法	(予習) 創傷管理技術 創傷処置、包帯法について教科書を熟読 (復習) 講義内容についての復習	伊津美孝子	
12	【講義】創傷管理技術 創傷処置、包帯法	(復習) 講義内容についての復習	伊津美孝子	
13	【演習】 消毒、包帯法、滅菌手袋の装着	(予習)演習前課題	全員	
14	【演習】 消毒、包帯法、滅菌手袋の装着	(復習)演習の振り返り、課題	全員	
15	【講義】生体機能管理技術 検体検査	(予習) 検体検査について教科書を熟読 (復習) 講義内容についての復習	伊津美孝子	
16	【講義】生体機能管理技術 検体検査	(復習) 講義内容についての復習	伊津美孝子	
17	【講義】生体機能管理技術 モニタリング	(予習) モニタリングについて教科書を熟読 (復習) 講義内容についての復習	伊津美孝子	
18	【講義】生体機能管理技術 モニタリング	(復習) 講義内容についての復習	伊津美孝子	
19	【講義】検査・処置の介助	(予習) 検査・処置の介助について教科書を熟読 (復習) 講義内容についての復習	伊津美孝子	
20	【講義】検査・処置の介助	(復習) 講義内容についての復習	伊津美孝子	
21	【講義】安全確保の技術	(予習) 安全確保の技術について教科書を熟読 (復習) 講義内容についての復習	伊津美孝子	
22	【講義】安全確保の技術	(復習) 講義内容についての復習	伊津美孝子	
23	【講義】呼吸・循環を整える技術 酸素吸入、排痰ケア、吸引	(予習) 酸素吸入、排痰ケア、吸引について教科書を熟読 (復習) 講義内容についての復習	伊津美孝子	
24	【講義】呼吸・循環を整える技術 酸素吸入、排痰ケア、吸引	(復習) 講義内容についての復習	伊津美孝子	
25	【演習】酸素吸入、吸引	(予習) 演習前課題	全員	
26	【演習】酸素吸入、吸引	(復習) 演習の振り返り、課題	全員	
27	【講義】非経口的栄養摂取法	(予習) 非経口的栄養摂取法について教科書を熟読 (復習) 講義内容についての復習	越智奈穂美	
28	【講義】非経口的栄養摂取法	(復習) 講義内容についての復習	越智奈穂美	
29	【演習】経鼻経管栄養法	(予習) 演習前課題	全員	
30	【演習】経鼻経管栄養法	(復習) 演習の振り返り、課題	全員	
成績評価方法と基準				割合
1. 筆記試験および実技試験ともに 60 点以上で単位認定とする。どちらか一方が 60 点未満の場合は単位認定できない。				1. 50%、
2. 成績評価は、筆記試験、実技試験とし、筆記試験の評価にはレポート課題、演習の事前課題・事後課題(ルーブリック評価)、小テスト結果を含む。				2. 50%
3. 4/5 以上の出席が必要である。				

授業科目名		診療補助論Ⅱ(看護) (Basic Nursing Skills (Medical Care) II)		
主担当教員	伊津美 孝子	担当教員	伊津美 孝子、村上 生美、住田 陽子、 梶智 奈穂美	
科目ナンバリング	FN206	科目区分	専門分野 I	DP①④
配当年次	2	開講学期	前期	金曜 4 限 金曜 5 限
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択 必修
<p>授業概要 健康に障害をきたした人に対する診療および治療を受ける際に必要な基礎的な看護技術を学修することをねらいとする。健康に障害をきたした対象(患者を含む)が、診療および治療を受ける際に、必要な看護者としての基本的な援助技術を学修する。また、人間の基本的欲求を自分で充足することが困難な状態において、治療・看護を通して、生命の維持および欲求の充足につながる援助技術を学修する。</p> <p>各種の検査や薬物療法など、医療でおこなわれている治療に対する理解と、治療を受ける際に必要な基本的な援助技術および看護の役割について学修する。</p> <p>※本科目には実務経験のある教員等による授業科目です</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 診療及び治療を受ける際に必要な基礎的な看護技術の原理・原則とそのEBNが理解できる。 2. 対象の疾病からの回復を助けるために、必要な看護援助について看護の視点から考えることができる。 3. 対象者の個性性、ニーズ、状況をもとに、看護援助を考えることができる。 4. 薬物療法における看護師の役割と責任を理解し、安全な援助方法について考えることができる。 5. 安全、安楽、倫理的配慮をふまえた確実な診療援助技術を修得できる。 <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 出席が前提である。 2. 演習時は身だしなみを整える(演習は原則ユニフォームとする。不備がある場合、演習への出席を認めない)。 3. 演習中は常に記録簿を持ち、書きつけないを含め、医療人を目指す者としてふさわしい態度で臨む。 4. 提出物の期限は厳守する。学習課題未提出者は演習への出席を認めない。 5. 演習物品などの準備、後片付け、基礎看護学実習室の整備は学生が自立して行う。 6. 講義中の私語、飲食、携帯電話の使用は禁止する。 7. 原則、途中退席は認めない。ただし、やむを得ない場合はこの限りではない。 <p>教科書</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③ 医学書院 2. 任和子・秋山智弥編集 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院 <p>参考書</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ナーシンググラフィック 基礎看護学③ 基礎看護技術 メヂカ出版 2. 竹尾恵子監修 看護技術ブックフェイス 学研 3. 深井喜代子監修 ケア技術のエビデンスへるす出版 4. 深井喜代子編集 ケア技術のエビデンスⅡへるす出版 <p>研究室/オフィスアワー</p>				
随時対応				
授業展開及び授業計画表				
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当	
1	教科ガイダンス 【講義】 教科書 熟読 診察・検査・処置の介助技術① 診察と環境	(予習) 教科書 熟読 (復習) 講義内容の振り返り	伊津美孝子	
2	【講義】 診察・検査・処置の介助技術① 診察と環境	(予習) 教科書熟読 (復習) 講義内容の振り返り	伊津美 孝子	
3	【講義】 診察・検査・処置の介助技術② 外来看護と看護師の役割	(予習) 教科書熟読 (復習) 講義内容の振り返り	伊津美孝子	
4	【講義】 診察・検査・処置の介助技術② 外来看護と看護師の役割	(予習) 教科書熟読 (復習) 講義内容の振り返り	伊津美 孝子	
5	【講義】創傷管理技術 感染性廃棄物の取り扱い	(予習) 教科書熟読 (復習) 講義内容の振り返り	伊津美孝子	

	針刺し防止		
6	【講義】 創傷管理技術 感染性廃棄物の取り扱い 針刺し防止	(予習) 教科書熟読 (復習)講義内容の振り返り	伊津美孝子
7	【講義】 採血	(予習) 教科書熟読 (復習)演習内容の振り返り	伊津美孝子
8	【演習】 創傷処置・包帯法	(予習)演習前課題 (復習)演習の振り返り、課題	伊津美孝子
9	【演習】 採血	(予習)演習前課題	全員
10	【演習】 採血	(復習)演習の振り返りと課題	全員
11	【講義】 導尿	(予習) 教科書熟読 (復習) 講義内容の振り返り	伊津美孝子
12	【講義】 導尿	(復習) 講義内容の振り返り	伊津美孝子
13	【演習】 一時的導尿	(予習) 演習事前課題	伊津美孝子
14	【演習】 一時的導尿	(復習) 演習の振り返り、課題	全員
15	【講義】呼吸管理技術	(予習) 教科書熟読 (復習) 講義内容の振り返り	全員
16	【講義】呼吸管理技術	(復習) 講義内容の振り返り	全員
17	【演習】 酸素吸入・吸入・吸引	(予習) 演習前課題	伊津美孝子
18	【演習】 酸素吸入・吸入・吸引	(復習) 演習内容の振り返り、課題	全員
19	【講義】 与薬①	(予習)内容の確認、教科書の熟読 (復習) 講義内容の振り返り	全員
20	【講義】 与薬①	(復習) 講義内容の振り返り	全員
21	【講義】 与薬②	(予習) 教科書熟読	伊津美孝子
22	【講義】 与薬②	(復習)演習の振り返り、演習後課題レポート	伊津美孝子
23	【講義】 与薬③	(予習) 教科書を熟読 (復習) 授業内容の振り返り	
24	【講義】 与薬③	(復習) 講義内容の振り返り	
25	【演習】 経口与薬	(予習) :演習前課題	全員
26	【演習】 経口与薬	(復習) 演習の振り返り、課題	全員
27	【演習】 筋肉内注射(三角筋、中脛筋)	(予習) 演習前課題	全員
28	【演習】 筋肉内注射(三角筋、中脛筋)	(復習) 演習の振り返り、課題	全員
29	【講義】苦痛の緩和・安楽確保の技術 薬法	(予習)演習前課題 (復習)講義内容の振り返り	伊津美孝子
30	【演習】 薬法	(復習) 演習の振り返り、課題	全員
成績評価方法と基準			
1. 筆記試験 60 点(40 点+小テスト20 点)			
2. 実技試験ともに60 点以上 ・(1,2)どちらか一方が60 点未満の場合は単位認定できない。 ・成績評価は、筆記試験、実技試験とし、筆記試験にはレポート課題、演習の事前課題・事後課題、小テスト結果を含む。			
3. 定期試験受験のために4/5以上の出席が必要である。			

授業科目名		看護過程演習(看護) (Nursing Process Seminar)			
担当教員	伊津美 孝子	担当教員	伊津美 孝子、村上 生美、住田 陽子、越智 奈穂美		
科目ナンバリング	FN207	科目区分	専門分野 I	DP①④	
配当年次	2	開講学期	前期	曜日・時限	水曜 4 限
授業形態	演習	単位数	1	必修・選択	必修
授業概要	<p>ここでは看護実践を支える看護過程の展開について、V. Henderson のモデルを用いて Paper Patient の看護計画を立案・実施、評価する。患者の看護計画を立案することは、医療現場において遭遇しやすいため、専門的知識に基づき、アセスメント(情報収集を行い、患者の健康障害に関連する要因を看護的視点で分析する)、看護診断、計画の立案、実施、評価を事例で展開することを指す。この演習によって、看護学実習時に必要な学修手法を身につけることができる。</p> <p>到達目標</p> <p>看護過程の理論を理解し、以下のプロセスを修得することができる。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①看護過程とは何かについて理解できる。 ②Paper Patient 3 事例(脳梗塞、肺炎、大腿骨頸部骨折)の患者のアセスメント(情報収集、解釈、分析)、関連図を通しその患者の全体像を描くことができる。 ③患者の情報からアセスメントすることにより看護診断することができる。 ④看護診断に対して長期目標と短期目標を設定することができる。 ⑤目標に基づき看護計画を立てることができる。 ⑥立案した看護計画を実施し適切かどうか評価できる。 ⑦アセスメントを通して、学びを共有し、理解を深めることができる。 <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>すでに履修した「看護学概論」「看護理論」の復習は必須である。事例に関する臨床病態学の学習も必須である。自ら調べ、考えるなど能動的な学習への取り組み姿勢を養うため、事前課題(学習)、事後課題(復習や課題)は必ず行う。グループワーク、個人ワークを中心に学修を進めていく。</p> <p>paper Patient3 事例については、1 事例につき 56、6 名/16、で展開していく。</p>				
教科書					
系統看護学講座 専門 I 基礎看護技術 I 基礎看護学③ 医学書院					
参考書					
1. 秋葉公子、江崎フサ子、玉木ヨ子、村中陽子共著:看護過程を使ったハンダーソン看護論の実践第 4 版、NOUVELLE HIRAKAWA					
2. 岩井郁子他共訳:看護過程—ナーシング・プロセス・アセスメント・計画立案・実施・評価					
3. T. ハザー、ハートマン編著:「MANA-I 看護診断 定義と分類」日本看護診断学会監訳					
4. 渡辺トシ子:「ハンダーソン・ゴードン」の考えに基づく実践看護アセスメント、NOUVELLE HIRAKAWA					
5. 黒田裕子編著:「事例展開でわかる 看護診断をアセスメント」医誠					
研究室/オフィスアワー					
随時対応					
授業展開及び授業計画表					
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当		
1	教科ガイダンス 看護過程展開の技術 看護過程とは、人間にとつての基本的欲求	事前課題 ヴァージニア・ハンダーソン著 湯橋ます、児玉香津子訳:看護の基本となるもの(Basic principles of nursing care)を熟読し、基本的看護の構成要素 14 項目を自分の言葉で整理し提出する。 ・看護過程とは何かについて調べておく。	伊津美孝子		
2	看護過程の各段階 ハンダーソン 14 項目のアセスメントの視点 情報収集、アセスメント	(予習)テキストを熟読 (復習)講義内容の振り返り	伊津美孝子		
3	看護診断、問題の明確化	(予習)テキストを熟読 (復習)講義内容の振り返り	伊津美孝子		
4	計画立案、実施、評価	(予習)テキストを熟読 (復習)講義内容の振り返り	伊津美孝子		
5	看護記録について	(予習)テキストを熟読 (復習)講義内容の振り返り	伊津美孝子		
6	学習支援	(予習)テキストを熟読 (復習)講義内容の振り返り	伊津美孝子		

7	Paper Patient ①～③ データベース作成	課題:病態・治療、看護について調べる データベースは完成させる	全員
8	【演習】病態、治療、看護などについて情報を共有する	課題:呼吸、栄養、排泄までの情報収集とアセスメントを行ってくる	全員
9	【演習】情報収集、情報解釈、分析、アセスメント	睡眠、活動、清潔までの情報収集とアセスメントを行ってくる	全員
10	【演習】情報収集、情報解釈、分析、アセスメント	衣服・体温・環境・コミュニケーション・信仰・社会的状況・レクリエーション・健康。学習について情報収集、アセスメントを行ってくる	全員
11	【演習】看護診断、計画立案	関連図を完成させる	全員
12	【演習】看護診断、計画立案	看護計画の立案 短期・長期目標、O-P、視察まで完成させる	全員
13	【演習】看護診断、計画立案	看護計画を完成させる	全員
14	発表(1～7日)	発表準備	全員
15	発表(8日～15日)	課題: 事例を完成させ、提出する。(提出期限は別途指示する)	全員
成績評価方法と基準			
1. 演習に関する個人ワーク、グループワークの取り組み姿勢、レポート提出、内容(アセスメント、看護診断、目標、問題点や看護計画(解決策)の妥当性や整理の仕方など評価(ルーブリック)を行う(50点)。			
2. 筆記試験 50点とする。			
3. 筆記試験の出席をもつて筆記試験の受験資格とする。			
2. 4/5 以上の出席をもつて筆記試験の受験資格とする。			
3. 筆記試験及び課題レポートの合計 60 点以上を単位認定する。			

基礎看護学実習Ⅰ(看護) (Fundamental Nursing Practicum I)		
授業科目名	村上 生美	村上 生美、伊津美 孝子、住田 陽子、緒方 昭子、越智 奈穂美、山下 公子
主担当教員	村上 生美	担当教員
科目ナンバリング	FN208	専門分野 I
配当年次	1	前期
授業形態	実習	曜日・時間
授業概要	1 単位数	必修・選択
到達目標	1. 人間の生活についてその特徴を理解する。 2. 実習施設の構造や機能について理解する。 3. 対象者の生活や社会的役割などを通して人(全体像)を理解する。 4. 人間の基本的欲求に基づく日常生活行動について理解する。 5. 健康障害による基本的欲求の変化と生活への影響を理解する。 6. 患者の自立できない日常生活行動に対する援助の意味を理解する。 7. 対象者との関わりを通して、看護におけるコミュニケーションを理解する。 8. 専門家としての看護師の活動を理解する。	
履修上の注意(学生へのメッセージ)	1. 補習実習はできないので、体調を整えて全出席すること。 2. 全体あるいはグループごとのオリエンテーションには必ず出席すること。 3. 学修の場が地域の施設や医療施設であることをよくわきまえ、看護学生としての自覚と責任、緊張感を持って臨むこと。	
教科書		
ガイダンスで指示する。		
参考書		
ガイダンスで指示する。		
研究室/オフィスアワー		
住田陽子 WP634 研究室/随時		
授業展開及び授業計画表		
回数	学修内容	予習・復習・課題等
1	1. 実習期間 2019年8月19日～8月23日 2. 実習場所 住友病院、大阪急性期・総合医療センター、 大阪国際がんセンター 3. 実習方法 8月19日～21日 病院実習 8月22日 地域での見学や活動 8月23日 学内で実習のまとめと全体カンファ レンス	実習での疑問、不明点を自主的に調べる
成績評価方法と基準		割合
日々の行動、カンファレンスの参加状況、実習レポート、看護師からの情報等を総合して60点以上を単位認定する。詳細は別途配布する。基礎看護学実習要項による。		実習出席 レポート 態度

基礎看護学実習Ⅱ(看護) (Fundamental Nursing Practicum II)		
授業科目名	伊津美 孝子	伊津美 孝子、村上 生美、住田 陽子、越智 奈穂美、山下 公子
主担当教員	伊津美 孝子	担当教員
科目ナンバリング	FN209	専門分野 I
配当年次	2	後期
授業形態	実習	曜日・時間
授業概要	2 単位数	必修・選択
到達目標	1. 年次後期に体系的看護理論やそれを適用するための「看護過程Ⅱ」について学修してきた。基礎看護学実習Ⅱでは、時事刻々と変化している臨床現場において、これまでに学修した看護理論と看護過程を駆使してケアの成立過程やその意義を實際の活動を通して学修する。ケアの成立過程は、アセスメント・看護診断・計画・ケアの実践・評価というプロセスを経る。この実習は、実際に入院中の受け持ち患者を通して学修する。	
履修上の注意(学生へのメッセージ)	1. 患者や家族とのかかわりの中で、援助的な人間関係形成のために意図的にアプローチができる。 2. 看護の概念モデル(V. Henderson)を適用し患者の情報や病歴を意図的に収集できる。 3. 情報を解釈・分析して看護の守備範囲の問題(看護診断)と発生要因をアセスメントできる。 4. 看護診断の解決に向けて目標設定と対策を計画できる。 5. 立案した計画に沿ってケアができる。 6. ケアの結果を通して目標の達成度を評価できる。 7. 実施した看護の全体を説明できる。	
教科書	補習実習はできないので、体調を整えて全出席すること。 実習前の全体オリエンテーションおよび施設、グループオリエンテーションには必ず出席すること。 学修の場が医療施設であることをよくわきまえ、学修の場が医療施設であることをよくわきまえ、看護学生としての自覚と責任、緊張感を持って臨むこと。	
ガイダンスで指示する。		
参考書		
ガイダンスで指示する。		
研究室/オフィスアワー		
随時		
授業展開及び授業計画表		
回数	学修内容	予習・復習・課題等
1	1. 実習期間 前半：2020年2月10日(月)～2月21日(金) 後半：2020年2月25日(火)～3月6日(金) 2. 実習場所 前半：大阪鉄道病院 関西メディカル病院 後半：住友病院 大阪国際がんセンター 関西メディカル病院 3. 実習方法 病院実習 前半：2月10日～2月21日(7日間) 後半：2月25日～3月6日(7日間) 学内実習 前半：2月1	事前：学習ノートを作成し、実習病院について、実習病棟の特徴的な疾患、病態生理、看護についてまとめる。
担当		伊津美孝子

成績評価方法と基準	割合
①日々の行動、カンファレンスの参加状況、実習レポート、看護師からの情報などを総合して60点以上を単位認定する	①)100%

授業科目名	成人看護学概論(看護) (Introduction to Adult Nursing)		
主担当教員	吉村 弥須子	担当教員	吉村 弥須子、藤本 陽子
科目ナンバリング	AN301	科目区分	専門分野Ⅱ
配当年次	2	開講学期	前期
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	<p>ライフサイクルの中で、特に成人期における看護の特徴を、発達、行動、社会、健康の側面から総合的に学修する。成人看護学の対象となる成人各期の発達段階の特徴や生活習慣に関連する健康問題、疾病罹患などを現在の社会背景をふまえて理解する。そのうえで成人期の患者の看護ケアに必要な理論や看護のアプローチ方法について学修する。</p> <p>吉村 弥須子/8回 藤本 陽子/7回</p> <p>※本科目は実務経験のある教員等による授業科目です</p> <p>到達目標</p> <p>1. ライフサイクルにおける成人各期の特徴について説明できる。 2. 成人期における健康問題と疾病罹患について説明できる。 3. 成人期における対象の看護に必要な理論について説明できる。 4. 成人期における対象の健康問題に対する看護のアプローチ方法が説明できる。</p> <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>1. 理論は予習をして授業に臨む。 2. 事前に課題レポートを提出する。課題レポートを活用して授業を行う。 3. グループワークやロールプレイには積極的に参加する。</p> <p>教科書</p> <p>大西和子他編:成人看護学 成人看護学概論第2版 ニューヴェルヒロカワ</p> <p>参考書</p> <p>なし</p> <p>研究室/オフィスアワー</p> <p>334 研究室(吉村 弥須子)/月曜日 16:30~18:00 実習で不在の場合があるので随時相談可。 332 研究室(藤本 陽子)/水曜日 14時~18時予約。</p>		
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	<p>成人看護学の概要</p> <p>到達目標</p> <p>①成人看護学の概要について説明できる。 ②成人看護学の対象となる人を理解する必要性が説明できる。</p>	<p>予習:シラバス・教科書の確認 復習:配布資料・教科書の確認</p>	吉村 弥須子
2	<p>成人各期の特徴① 青年期</p> <p>到達目標</p> <p>①青年期の身体的、心理・社会的特徴が説明できる。 ②青年期の健康問題が説明できる。</p>	<p>青年期の発達課題について学習し、自分自身の体験と照らし合わせて考える。</p>	吉村 弥須子
3	<p>成人各期の特徴② 壮年期・向老期</p> <p>到達目標</p> <p>①壮年期・向老期の身体的、心理・社会的特徴が説明できる。 ②壮年期・向老期の健康問題が説明できる。</p>	<p>第2回配布資料を読んでもくる。自分の身近な壮年期・向老期の人の体験について話を聞き、壮年期・向老期の発達課題について考える。</p>	吉村 弥須子
4	<p>成人期の疾病罹患① がん</p> <p>到達目標</p> <p>①わが国のがんがんとがん患者の特徴、がん医療が説明できる。</p>	<p>配布資料の復習、わが国のがんの動向について学習してくる</p>	吉村 弥須子
5	<p>成人期の疾病罹患② 生活習慣病</p> <p>到達目標</p> <p>①生活習慣病と生活習慣病患者の特徴が説明できる。</p>	<p>配布資料の復習、生活習慣病について学習してくる</p>	吉村 弥須子
6	<p>成人期の看護に活用する理論① ストレス理論・ストレスコーピング理論</p> <p>到達目標</p>	<p>予習:教科書の確認、事前にレポートを提出する 復習:配布資料・教科書の確認</p>	吉村 弥須子

①ストレス理論、ストレスコーピング理論について説明できる。	①急性期の看護と活用する理論 危機理論 到達目標 ①急性期の患者の特徴と看護が説明できる。 ②危機理論と危機理論の活用方法が説明できる。	予習：教科書の確認、危機理論について学習しておく。 復習：配布資料・教科書の確認	吉村 弥須子
7	回復期の看護と活用する理論 自己効力理論 到達目標 ①回復期の患者の特徴と看護が説明できる。 ②自己効力理論と自己効力理論の活用方法が説明できる。	予習：教科書の確認、事前にレポートを提出する 復習：配布資料・教科書の確認	吉村 弥須子
8	慢性期の看護と活用する理論 エンパワーメント 到達目標 ①慢性期にある患者の教育によく使用されるのはなぜか説明できる。 ②エンパワーメント理論について説明できる。	予習：教科書の確認、エンパワーメントについて学習しておく。 復習：配布資料・教科書の確認	藤本 陽子
9	終末期の看護と活用する理論 死の受容過程 到達目標 ①死の受容過程を習得し、終末期にある患者の全人的苦痛の説明ができる。	予習：教科書の確認、ターミナル期野探訪を必要としている対象について学習しておく。 復習：配布資料・教科書の確認	藤本 陽子
10	がん患者の看護 治療と看護、緩和ケア 到達目標 ①緩和ケア医療の変遷を通して、家族支援や緩和ケア療法の説明ができる。	予習：ターミナル期にある患者の心理を理解するために教科書の確認と手記等を読んでおく 教科書(代替・相補療法)の確認	藤本 陽子
11	成人期の看護に活用する理論② 病みの軌跡 到達目標 ①慢性期患者の自己管理の難しさを説明できる。 ②慢性期患者の再入院を病みの軌跡を使い説明できる。	予習：教科書の確認、病みの軌跡について学習しておく。 復習：配布資料・教科書の確認 自分自身のお体験をもとに理論を使い課題としてレポート作成。	藤本 陽子
12	成人期の看護に活用する理論③ 変容ステージ 到達目標 ①変容ステージモデルを使い、各期におけるアプローチ方法が説明できる。	予習：参考書を活用し変化理論について調べておく。 復習：配布資料・教科書の確認	藤本 陽子
13	リハビリテーション看護 到達目標 ①急性期から回復期、社会復帰に至るまでの過程を学修し、さらに退院支援を含んだ援助野必要性が説明できる。 ②リハビリテーションを必要としている疾患や看護の方法等の説明ができる。	予習：チーム医療について学んでおく、在宅ケアを充実させる社会資源について学んでおく、教科書の確認 復習：配布資料の確認	藤本 陽子
14	継続看護と社会資源の活用 到達目標 ①なぜ継続看護が必要とされるか説明ができる。 ②患者や家族が退院に不安を持つか説明ができ、その看護を説明ができる。	予習：チーム医療について学んでおく、在宅ケアを充実させる社会資源について学んでおく、教科書の確認 復習：配布資料の確認	藤本 陽子
15	成績評価方法と基準 ①課題レポート ②筆記試験	割合 ①20% ②80%	

授業科目名	成人看護援助論Ⅰ(看護) (Adult Nursing I)		
主担当教員	吉村 弥須子	担当教員	吉村 弥須子、藤本 陽子、久木元 由紀子、澤田 悦子、宮本 佳子、高木 みどり
科目ナンバリング	AN302	科目区分	専門分野Ⅱ
配当年次	2	開講学期	後期
授業形態	演習	単位数	1
授業概要	周手術期から回復期にある患者およびその家族の看護について学習する。手術を受ける患者の特徴と麻酔・手術侵襲によって生じる生体反応や術後合併症を理解し、手術前から手術後の合併症予防、苦痛の緩和、ADL 拡大、機能回復、退院後の社会復帰を視野に入れた看護について学修する。周手術期ならびに急性期を経過し、回復過程にある成人期の患者がスムーズに社会復帰できるような看護支援について理解し、回復期の患者および家族に必要な看護を学修する。		
到達目標	1. 周手術期から回復期にある患者およびその家族の特徴が説明できる。 2. 麻酔・手術侵襲によって生じる生体反応が説明できる。 3. 術後合併症予防のための看護が説明できる。 4. 疾患の病態生理と手術の特徴をふまえた手術前～手術後の看護が説明できる。 5. 術後回復過程にある患者および家族が望む、社会復帰に必要な看護が説明できる。		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	1. 形態機能学、臨床病態学、成人看護学概論の復習をして授業に臨む。 2. 事前課題を行って授業に臨む。		
教科書	・経書別成人看護学② 周術期看護 メチカルフレンド社 ・鎌倉やよい他、周術期の臨床判断を極く手術侵襲と生体反応から深く看護 医学書院 ・中西純子他編、成人看護学 リハビリテーション看護論 エーヴエルヒロカワ		
参考書	なし		
研究室 / オフィスアワー	334 研究室(吉村) / 月曜日 16:00～18:00 実習で不在の場合があるので随時相談可。 332 研究室(藤本) / 239 研究室(久木元) / 実習で不在の場合があるので随時相談可。		
授業展開及び授業計画表	学修内容	予習・復習・課題等	担当
回数	周手術期看護の概要、手術前の看護 到達目標 ①周手術期にある患者の特徴と周手術期看護が説明できる。 ②術前看護の目的と術前看護が説明できる。	予習：シラバス・教科書の確認 復習：配布資料・教科書の確認	吉村 弥須子
1	手術中の看護 手術看護認定看護師 到達目標 ①手術室看護士の役割と手術中の看護が説明できる。 ②手術侵襲と術後合併症、手術後の看護1	予習：教科書の確認 課題：学んだことをレポートにまとめて提出する	吉村 弥須子 ゲストスピーカー カ-
2	到達目標 ①手術侵襲、全身麻酔に伴う生体反応と回復過程、発生しやすい合併症についてアセスメントでき、合併症を防止する看護について説明できる。	予習：教科書の確認、第1・2回の配布資料の確認、臨床病態学Ⅲの外科総論(主に麻酔)についての学習 復習：配布資料・教科書の確認	久木元 由紀子
3	消化器疾患患者の周手術期の看護 到達目標 ①消化器疾患患者の術後合併症と予防のための看護が説明できる。 ②胃がん患者の術前・術後の看護が説明できる。 ③胃切除術後の術後合併症と予防のための看護	予習：教科書の確認、消化器の解剖生理、臨床病態学Ⅲ、胃がんの病態生理について学習 復習：配布資料・教科書の確認	吉村 弥須子
4			

	が説明できる。			
5	<p>ストーマ造設患者の周手術期の看護 到達目標 ①大腸がん患者の周手術期の看護に必要な知識が説明できる。 ②ストーマ造設術を受ける患者の術前・術後の看護が説明できる。 ③ストーマ造設術後の術後合併症と予防のための看護が説明できる。</p> <p>ストーマケアとその管理方法 皮膚・排泄ケア認定看護師 到達目標 ①ストーマ造設患者の心理を理解するとともにストーマケアの説明ができる。 ②ストーマの管理とトラブルが生じた場合の対処方法を説明できる。</p> <p>手術療養と術後合併症、手術後の看護2 到達目標 ①手術療養・全身麻酔に伴う生体反応と回復過程、発生しやすい合併症についてアセスメントでき、合併症を防ぎ回復を促す看護について説明できる。</p>	<p>予習：大腸の解剖生理、臨床病態学Ⅲ、大腸がんの病態について学習 復習：配布資料・教科書の確認</p> <p>予習：第5回授業の復習 復習：配布資料の確認 課題：学んだことをレポートにまとめて提出する</p>	吉村 弥須子	割合 ①20% ②80%
6	<p>ストーマケアとその他の管理方法 到達目標 ①ストーマ造設患者の心理を理解するとともにストーマケアの説明ができる。 ②ストーマの管理とトラブルが生じた場合の対処方法を説明できる。</p> <p>手術療養と術後合併症、手術後の看護2 到達目標 ①手術療養・全身麻酔に伴う生体反応と回復過程、発生しやすい合併症についてアセスメントでき、合併症を防ぎ回復を促す看護について説明できる。</p>	<p>予習：第3回授業の復習、術後合併症について学習 復習：配布資料・教科書の確認</p>	藤本 陽子 ゲストスピーカー カー	
7	<p>腹腔鏡下手術の看護 到達目標 ①腹腔鏡下手術を受ける患者の術前・術後の看護が説明できる。 ②腹腔鏡下術後の術後合併症と予防のための看護が説明できる。</p> <p>運動器疾患患者の周手術期の看護 到達目標 ①運動器疾患患者の周手術期の看護に必要な知識が説明できる。 ②運動器疾患手術を受ける患者の術前・術後の看護が説明できる。 ③運動器疾患術後の術後合併症と予防のための看護が説明できる。</p>	<p>予習：第3回授業の復習、術後合併症について学習 復習：配布資料・教科書の確認</p>	久木元 由紀 子	
8	<p>腹腔鏡下手術の看護 到達目標 ①腹腔鏡下手術を受ける患者の術前・術後の看護が説明できる。 ②腹腔鏡下術後の術後合併症と予防のための看護が説明できる。</p> <p>運動器疾患患者の周手術期の看護 到達目標 ①運動器疾患患者の周手術期の看護に必要な知識が説明できる。 ②運動器疾患手術を受ける患者の術前・術後の看護が説明できる。 ③運動器疾患術後の術後合併症と予防のための看護が説明できる。</p>	<p>予習：腹腔鏡下手術に起こりやすい合併症について学習 復習：配布資料の確認</p>	吉村 弥須子	
9	<p>運動器疾患患者の周手術期の看護 到達目標 ①運動器疾患患者の周手術期の看護に必要な知識が説明できる。 ②運動器疾患手術を受ける患者の術前・術後の看護が説明できる。 ③運動器疾患術後の術後合併症と予防のための看護が説明できる。</p>	<p>予習：教科書の確認、骨格筋の解剖生理、臨床病態学Ⅲ、変形性股関節症の病態生理について学習 復習：配布資料・教科書の確認</p>	久木元 由紀 子	
10	<p>内分泌疾患患者の周手術期の看護 到達目標 ①内分泌疾患患者の特徴を説明できる。 ②リンパ管浮腫(リンパ浮腫)と看護 ③リンパ管浮腫のある患者の心理を理解し説明できる。</p>	<p>予習：内分泌疾患の病態について復習する 復習：配布資料の確認</p>	澤田 悦子	
11	<p>呼吸器疾患患者の周手術期の看護 到達目標 ①肺切除術を受ける患者の術前・術後の看護が説明できる。 ②胸腔ドレーンの管理が説明できる。 ③胸腔ドレーンにおけるチーム医療の役割が説明できる。</p>	<p>予習：教科書の確認、臨床病態学Ⅲ、乳がんの病態生理について学習 復習：配布資料・教科書の確認</p>	藤本 陽子 ゲストスピーカー カー	
12	<p>呼吸器疾患患者の周手術期の看護 到達目標 ①肺切除術を受ける患者の術前・術後の看護が説明できる。 ②胸腔ドレーンの管理が説明できる。 ③胸腔ドレーンにおけるチーム医療の役割が説明できる。</p>	<p>予習：教科書の確認、呼吸器の解剖生理、臨床病態学Ⅲ、前立腺疾患の病態生理について学習 復習：配布資料・教科書の確認</p>	吉村 弥須子	
13	<p>性・生殖器疾患患者の周手術期の看護 到達目標 ①性・生殖器疾患患者の周手術期の看護に必要な知識が説明できる。 ②性・生殖器疾患手術を受ける患者の術前・術後の看護が説明できる。 ③性・生殖器疾患術後の術後合併症と予防のための看護が説明できる。</p>	<p>予習：今までの授業の復習、教科書の該当する部分を読んでおく。 復習：配布資料の確認</p>		
14	<p>性・生殖器疾患患者の周手術期の看護 到達目標 ①性・生殖器疾患患者の周手術期の看護に必要な知識が説明できる。 ②性・生殖器疾患手術を受ける患者の術前・術後の看護が説明できる。 ③性・生殖器疾患術後の術後合併症と予防のための看護が説明できる。</p>	<p>予習：教科書の確認、性・生殖器の解剖生理、臨床病態学Ⅲ、前立腺疾患の病態生理について学習 復習：配布資料・教科書の確認</p>	久木元 由紀 子	
15	<p>排泄療養のある患者の看護(排泄機能障害と看護) 到達目標 ①排泄のメカニズムを理解できる ②排泄機能障害のアセスメントの視点を理解できる</p>	<p>予習：教科書の確認、排泄の機能的解剖を学習 復習：配布資料の確認</p>		

③排泄機能障害書に対する看護援助を理解できる	
成績評価方法と基準	
①課題レポート ②筆記試験	割合 ①20% ②80%
-4/5 回以上の出席が必要	

授業科目名	成人看護援助論Ⅱ(看護)(Adult Nursing II)																		
主担当教員	吉村 弥須子	担当教員	吉村 弥須子、藤本 陽子、久木元 由紀子、澤田 悦子、宮本 佳子、高木 みどり																
科目ナンバリング	AN303	科目区分	専門分野Ⅱ DP①④																
配当年次	2	開講学期	後期																
授業形態	演習	単位数	1																
授業概要	<p>成人期の患者の看護実践に必要な看護過程の展開を、ゴードンの機能的健康パターンに基づき学修する。周手術期および回復期にある患者の事例を用いて、看護に必要な基礎的知識と成人期の特徴をふまえた科学的根拠に基づいたアセスメントの仕方について学ぶ。アセスメントから看護診断を導き関連図を作成する。看護実践につなげるための看護計画を立案する。</p> <p>吉村 弥須子/8回 藤本 陽子/7回</p>																		
到達目標	<p>1. 周手術期から回復期にある事例患者の看護過程の展開が実践できる。 2. 周手術期から回復期にある患者に必要なアセスメント(分析・統合)の視点が説明できる。 3. 事例患者の情報を整理し、アセスメント(分析・統合)し、関連図を描きながら、看護診断(看護上の問題)を見出すことができる。 4. 事例患者の問題解決に向けた実践可能な目標を設定し、看護計画を立案することができる。</p>																		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	<p>1. 看護過程の展開は、個人ワークとグループワークを実施する。 2. 個人ワークを提出しなければグループワークには参加できない。 3. グループワークには積極的に参加する。 4. 事例1では、胃がんの病態生理と胃全摘出術、事例2では、ストーマ造設術を事前に学習し、授業に臨む。</p>																		
教科書	<p>・経道別成人看護学② 周術期看護 メヂカルフレンド社 ・鎌倉やよい他、周術期の臨床判断を磨く手術医療と生体反応から導く看護 医学書院 ・天西和子他編：成人看護学 成人看護学概論版 ヌーヴェルヒロワ</p>																		
参考書	<p>・渡邊トシ子編：ハンダーソン・ゴードンの考えに基づく実践看護アセスメント 第3版 ヌーヴェルヒロワ</p>																		
研究室/オフィスアワー	<p>334 研究室(吉村)/月曜日 16:00~18:00 実習で不在の場合があるので随時相談可。 332 研究室(藤本)/水曜日 15:00~18:00 随時相談可。</p>																		
授業展開及び授業計画表	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>学修内容</th> <th>予習・復習・課題等</th> <th>担当</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ゴードンの機能的健康パターンを用いた看護過程とは 到達目標 ①ゴードンの機能的健康パターンが説明できる。 ②ゴードンの機能的健康パターンにおける看護過程のアセスメントの仕方について説明できる。 ③周手術期患者のアセスメントの視点が説明できる。</td> <td>看護過程の展開について復習して胃がんのため胃全摘術を受ける患者の周手術期の看護について復習する 事前に資料を準備し持参する</td> <td>吉村 弥須子</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>看護過程の展開(事例1:周手術期) 個人ワーク (1) 情報の整理・解釈・統合(アセスメント) 到達目標 ①事例患者の情報の整理と解釈・統合(アセスメント)が実践できる。</td> <td>胃がんのため胃全摘術を受ける患者の周手術期の看護について復習する 事前に資料を準備し持参する 情報の整理・アセスメントを行う</td> <td>吉村 弥須子、久木元 由紀子</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>看護過程の展開(事例2:回復期) 個人ワーク (1) 情報の整理・解釈・統合(アセスメント) 到達目標 ①事例患者の情報の整理と解釈・統合(アセスメント)が実践できる。</td> <td>胃がんのため胃全摘術を受ける患者の周手術期の看護について復習する 資料を準備し持参する 情報の整理・アセスメントを行う</td> <td>吉村 弥須子、久木元 由紀子</td> </tr> </tbody> </table>			回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当	1	ゴードンの機能的健康パターンを用いた看護過程とは 到達目標 ①ゴードンの機能的健康パターンが説明できる。 ②ゴードンの機能的健康パターンにおける看護過程のアセスメントの仕方について説明できる。 ③周手術期患者のアセスメントの視点が説明できる。	看護過程の展開について復習して胃がんのため胃全摘術を受ける患者の周手術期の看護について復習する 事前に資料を準備し持参する	吉村 弥須子	2	看護過程の展開(事例1:周手術期) 個人ワーク (1) 情報の整理・解釈・統合(アセスメント) 到達目標 ①事例患者の情報の整理と解釈・統合(アセスメント)が実践できる。	胃がんのため胃全摘術を受ける患者の周手術期の看護について復習する 事前に資料を準備し持参する 情報の整理・アセスメントを行う	吉村 弥須子、久木元 由紀子	3	看護過程の展開(事例2:回復期) 個人ワーク (1) 情報の整理・解釈・統合(アセスメント) 到達目標 ①事例患者の情報の整理と解釈・統合(アセスメント)が実践できる。	胃がんのため胃全摘術を受ける患者の周手術期の看護について復習する 資料を準備し持参する 情報の整理・アセスメントを行う	吉村 弥須子、久木元 由紀子
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当																
1	ゴードンの機能的健康パターンを用いた看護過程とは 到達目標 ①ゴードンの機能的健康パターンが説明できる。 ②ゴードンの機能的健康パターンにおける看護過程のアセスメントの仕方について説明できる。 ③周手術期患者のアセスメントの視点が説明できる。	看護過程の展開について復習して胃がんのため胃全摘術を受ける患者の周手術期の看護について復習する 事前に資料を準備し持参する	吉村 弥須子																
2	看護過程の展開(事例1:周手術期) 個人ワーク (1) 情報の整理・解釈・統合(アセスメント) 到達目標 ①事例患者の情報の整理と解釈・統合(アセスメント)が実践できる。	胃がんのため胃全摘術を受ける患者の周手術期の看護について復習する 事前に資料を準備し持参する 情報の整理・アセスメントを行う	吉村 弥須子、久木元 由紀子																
3	看護過程の展開(事例2:回復期) 個人ワーク (1) 情報の整理・解釈・統合(アセスメント) 到達目標 ①事例患者の情報の整理と解釈・統合(アセスメント)が実践できる。	胃がんのため胃全摘術を受ける患者の周手術期の看護について復習する 資料を準備し持参する 情報の整理・アセスメントを行う	吉村 弥須子、久木元 由紀子																

4	看護過程の展開(事例1:周手術期) 個人ワーク (3) アセスメント・関連図提出 到達目標 ①事例患者のアセスメントと関連図作成が実践できる。 看護過程の展開(事例1:周手術期) 振り返り 到達目標 ①個人ワークを振り返り、事例患者のアセスメントの視点と関連図の描き方が説明できる。 ②個人ワークを振り返り、自身のアセスメントと関連図の課題が説明できる。	資料を持参するアセスメントと関連図を仕上げて指定期日までに提出する	吉村 弥須子、久木元 由紀子
5	看護過程の展開(事例1:周手術期) グループワーク(1) 関連図・看護計画立案 到達目標 ①個人ワークを活用し、グループ全体で関連図が作成できる。 看護過程の展開(事例1:周手術期) グループワーク(2) 関連図・看護計画立案提出 到達目標 ①事例患者の看護診断(看護上の問題)の優先順位が決定できる。 ②優先順位の最も高い看護診断の看護計画が立案できる。	グループ毎に関連図と看護計画を作成する	吉村 弥須子、久木元 由紀子
6	看護過程の展開(事例1:周手術期) グループワーク(1) 関連図・看護計画立案 到達目標 ①個人ワークを活用し、グループ全体で関連図が作成できる。 看護過程の展開(事例1:周手術期) グループワーク(2) 関連図・看護計画立案提出 到達目標 ①事例患者の看護診断(看護上の問題)の優先順位が決定できる。 ②優先順位の最も高い看護診断の看護計画が立案できる。	関連図と看護計画について発表する	吉村 弥須子、久木元 由紀子
7	看護過程の展開(事例1:周手術期) 発表会・振り返り 到達目標 ①グループワークで作成した関連図と看護計画について根拠をふまえた発表ができる。 ②発表内容についてグループディスカッションを行い、質問や意見を述べることができる。 看護過程の展開(事例2:回復期) 個人ワーク(1) 情報の整理・解釈・統合(アセスメント) 到達目標 ①事例患者のアセスメントと関連図作成が実践できる。	ストーマ造設術を受ける患者の看護について復習する 事前に資料を準備し持参する 情報の整理・アセスメントを行う	藤本 陽子、澤田 悦子
8	看護過程の展開(事例2:回復期) 個人ワーク(2) 情報の整理・解釈・統合(アセスメント) 到達目標 ①事例患者のアセスメントと関連図作成が実践できる。	ストーマ造設術を受ける患者の看護について復習する 資料を持参する 情報の整理・アセスメントを行う	藤本 陽子、澤田 悦子
9	看護過程の展開(事例2:回復期) 個人ワーク(3) アセスメント・関連図提出 到達目標 ①事例患者のアセスメントと関連図作成が実践できる。 看護過程の展開(事例2:回復期) 振り返り 到達目標 ①個人ワークを振り返り、事例患者のアセスメントの視点と関連図の描き方が説明できる。 ②個人ワークを振り返り、自身のアセスメントと関連図の課題が説明できる。	資料を持参するアセスメントと関連図を仕上げて指定期日までに提出する	藤本 陽子、澤田 悦子
10	看護過程の展開(事例2:回復期) グループワーク(1) 関連図・看護計画立案 到達目標 ①個人ワークを活用し、グループ全体で関連図が作成できる。 看護過程の展開(事例2:回復期) グループワーク(2) 関連図・看護計画立案提出 到達目標 ①事例患者の情報の整理と解釈・統合(アセスメント)が実践できる。	グループ毎に関連図と看護計画を作成する	藤本 陽子、澤田 悦子
11	看護過程の展開(事例2:回復期) 個人ワーク (1) 情報の整理・解釈・統合(アセスメント) 到達目標 ①事例患者の情報の整理と解釈・統合(アセスメント)が実践できる。	関連図と看護計画について発表する	藤本 陽子、澤田 悦子
12	看護過程の展開(事例2:回復期) 個人ワーク (2) 情報の整理・解釈・統合(アセスメント) 到達目標 ①事例患者の情報の整理と解釈・統合(アセスメント)が実践できる。	関連図と看護計画について発表する	藤本 陽子、澤田 悦子
13	看護過程の展開(事例2:回復期) 個人ワーク (3) 情報の整理・解釈・統合(アセスメント) 到達目標 ①事例患者の情報の整理と解釈・統合(アセスメント)が実践できる。	関連図と看護計画について発表する	藤本 陽子、澤田 悦子
14	看護過程の展開(事例2:回復期) グループワーク (1) 情報の整理・解釈・統合(アセスメント) 到達目標 ①事例患者の情報の整理と解釈・統合(アセスメント)が実践できる。 看護過程の展開(事例2:回復期) グループワーク(2) 関連図・看護計画立案提出 到達目標 ①事例患者の情報の整理と解釈・統合(アセスメント)の優先順位が決定できる。 ②優先順位の最も高い看護診断の看護計画が立案できる。	関連図と看護計画を仕上げて指定期日までに提出する	藤本 陽子、澤田 悦子

15	<p>案できる。</p> <p>看護過程の展開(事例2:回復期) 発表会・振り返り 到達目標 ①グループワークで作成した関連図と看護計画について根拠をふまえた発表ができる。 ②発表内容についてグループディスカッションを行い、質問や意見を述べることができる。</p> <p>成績評価方法と基準 ①事例1 個人ワークおよびグループワーク課題 ②事例2 個人ワークおよびグループワーク課題 ・4.5 回以上の出席が必要</p>	<p>関連図と看護計画について発表する 発表準備をする</p>	<p>藤本 陽子、 澤田 悦子</p>
割合			
		①50%	
		②50%	

授業科目名	成人看護援助論Ⅲ(看護) (Adult Nursing III)																														
主担当教員	久木元 由紀子	担当教員	久木元 由紀子、藤本 陽子、吉村 弥須子、澤田 悦子、宮本 佳子、高木 みどり																												
科目ナンバリング	AN304	科目区分	専門分野Ⅱ																												
配当年次	3	開講学期	前期																												
授業形態	演習	単位数	1																												
授業概要	<p>急性期にある対象は突然の発症、健康状態の急激な変化、手術、事故等によって生命の危機的状況にあり、看護においては対象を的確に把握しケアするための基礎的知識、アセスメントに基づく計画的な実践が求められる。本科目ではこのような急性期にある対象およびその家族に必要な看護について学習する。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 急性期にある対象および家族の特性について説明できる。 急性期にある対象および家族に必要な看護について説明できる。 急性期にある対象に必要な看護技術についてロールプレイ・モデルを活用し実施できる。 心肺蘇生法についてモデルを活用し実施できる。 <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <ol style="list-style-type: none"> 形態機能学、臨床病態学、成人看護学概論、成人看護援助論Ⅰ・Ⅱを履修し、授業に臨む。 看護技術の演習の前には必ず事前学習を行い演習に臨む。 演習には積極的に参加する。 心肺蘇生法は必ず習得する。 																														
教科書	<p>・明石恵子他編:経路別成人看護学2 急性期看護:クリティカルケア メヂカルフレンド社</p> <p>参考書</p> <p>・鎌倉やよい他:周術期の臨床判断を磨く 手術侵襲と生体反応から導く看護 医学書院 ・野崎真奈美他編:成人看護学 成人看護技術 改訂第2版 南江堂 ・明石恵子他編:経路別成人看護学2 周手術期看護 メヂカルフレンド社</p> <p>研究室/オフィスアワー</p> <p>久木元:研究室西棟239、授業の無い時は随時質問・相談可。</p>																														
授業展開及び授業計画表	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>学習内容</th> <th>予習・復習・課題等</th> <th>担当</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>急性期の看護1 到達目標: ①急性期にある対象および家族の特性・看護について説明できる。 急性循環機能障害と看護 到達目標: ①急性循環機能障害のある対象および家族の特性・看護について説明できる。 急性呼吸機能障害と看護 到達目標: ①急性呼吸機能障害のある対象および家族への看護について説明できる。</td> <td>予習:シラバス・教科書の確認 復習:配布資料・教科書の確認</td> <td>久木元</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>急性循環機能障害と看護 到達目標: ①急性循環機能障害のある対象および家族の特性・看護について説明できる。 急性呼吸機能障害と看護 到達目標: ①急性呼吸機能障害のある対象および家族への看護について説明できる。</td> <td>予習:教科書の確認、臨床病態学Ⅲ、心臓の解剖生理、心筋梗塞の病態生理、心電図、モニタリングに用いるME機器について学習 復習:配布資料・教科書の確認</td> <td>吉村</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>急性呼吸機能障害と看護 到達目標: ①急性呼吸機能障害のある対象および家族への看護について説明できる。</td> <td>予習:教科書の確認、呼吸器の解剖生理、臨床病態学Ⅲ、酸素吸入、人工呼吸器・気管内吸引について学習 復習:配布資料・教科書の確認</td> <td>久木元</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>急性期の看護2 到達目標: ①急性期にある対象および家族の特性・看護について説明できる。</td> <td>予習:シラバス・教科書の確認 復習:配布資料・教科書の確認</td> <td>久木元</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>脳血管障害患者の看護 到達目標: ①脳血管障害のある対象および家族の特性・看護について説明できる。 心肺停止患者の看護 心肺蘇生法 到達目標: ①心肺停止状態にある対象の特性・一次救命処置・二次救命処置について説明できる。</td> <td>予習:脳血管疾患の病態生理について復習 課題:字んたごをレポートにまとめて提出する</td> <td>振取・嚙下障 害看護認定 看護師</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>心肺停止患者の看護 心肺蘇生法 到達目標: ①心肺停止状態にある対象の特性・一次救命処置・二次救命処置について説明できる。</td> <td>予習:第1～5回授業の復習 復習:配布資料・一次救命処置の手順確認</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			回数	学習内容	予習・復習・課題等	担当	1	急性期の看護1 到達目標: ①急性期にある対象および家族の特性・看護について説明できる。 急性循環機能障害と看護 到達目標: ①急性循環機能障害のある対象および家族の特性・看護について説明できる。 急性呼吸機能障害と看護 到達目標: ①急性呼吸機能障害のある対象および家族への看護について説明できる。	予習:シラバス・教科書の確認 復習:配布資料・教科書の確認	久木元	2	急性循環機能障害と看護 到達目標: ①急性循環機能障害のある対象および家族の特性・看護について説明できる。 急性呼吸機能障害と看護 到達目標: ①急性呼吸機能障害のある対象および家族への看護について説明できる。	予習:教科書の確認、臨床病態学Ⅲ、心臓の解剖生理、心筋梗塞の病態生理、心電図、モニタリングに用いるME機器について学習 復習:配布資料・教科書の確認	吉村	3	急性呼吸機能障害と看護 到達目標: ①急性呼吸機能障害のある対象および家族への看護について説明できる。	予習:教科書の確認、呼吸器の解剖生理、臨床病態学Ⅲ、酸素吸入、人工呼吸器・気管内吸引について学習 復習:配布資料・教科書の確認	久木元	4	急性期の看護2 到達目標: ①急性期にある対象および家族の特性・看護について説明できる。	予習:シラバス・教科書の確認 復習:配布資料・教科書の確認	久木元	5	脳血管障害患者の看護 到達目標: ①脳血管障害のある対象および家族の特性・看護について説明できる。 心肺停止患者の看護 心肺蘇生法 到達目標: ①心肺停止状態にある対象の特性・一次救命処置・二次救命処置について説明できる。	予習:脳血管疾患の病態生理について復習 課題:字んたごをレポートにまとめて提出する	振取・嚙下障 害看護認定 看護師	6	心肺停止患者の看護 心肺蘇生法 到達目標: ①心肺停止状態にある対象の特性・一次救命処置・二次救命処置について説明できる。	予習:第1～5回授業の復習 復習:配布資料・一次救命処置の手順確認	
回数	学習内容	予習・復習・課題等	担当																												
1	急性期の看護1 到達目標: ①急性期にある対象および家族の特性・看護について説明できる。 急性循環機能障害と看護 到達目標: ①急性循環機能障害のある対象および家族の特性・看護について説明できる。 急性呼吸機能障害と看護 到達目標: ①急性呼吸機能障害のある対象および家族への看護について説明できる。	予習:シラバス・教科書の確認 復習:配布資料・教科書の確認	久木元																												
2	急性循環機能障害と看護 到達目標: ①急性循環機能障害のある対象および家族の特性・看護について説明できる。 急性呼吸機能障害と看護 到達目標: ①急性呼吸機能障害のある対象および家族への看護について説明できる。	予習:教科書の確認、臨床病態学Ⅲ、心臓の解剖生理、心筋梗塞の病態生理、心電図、モニタリングに用いるME機器について学習 復習:配布資料・教科書の確認	吉村																												
3	急性呼吸機能障害と看護 到達目標: ①急性呼吸機能障害のある対象および家族への看護について説明できる。	予習:教科書の確認、呼吸器の解剖生理、臨床病態学Ⅲ、酸素吸入、人工呼吸器・気管内吸引について学習 復習:配布資料・教科書の確認	久木元																												
4	急性期の看護2 到達目標: ①急性期にある対象および家族の特性・看護について説明できる。	予習:シラバス・教科書の確認 復習:配布資料・教科書の確認	久木元																												
5	脳血管障害患者の看護 到達目標: ①脳血管障害のある対象および家族の特性・看護について説明できる。 心肺停止患者の看護 心肺蘇生法 到達目標: ①心肺停止状態にある対象の特性・一次救命処置・二次救命処置について説明できる。	予習:脳血管疾患の病態生理について復習 課題:字んたごをレポートにまとめて提出する	振取・嚙下障 害看護認定 看護師																												
6	心肺停止患者の看護 心肺蘇生法 到達目標: ①心肺停止状態にある対象の特性・一次救命処置・二次救命処置について説明できる。	予習:第1～5回授業の復習 復習:配布資料・一次救命処置の手順確認																													

7	急性期の患者に必要な看護技術 到達目標: ①急性期にある対象の身体的状態が説明でき、 フィジカルアセスメントを実施できる(ペーパーベ イシメント・モデルの活用による)。 ②急性期の例として、周手術期にある対象への看 護実践について説明できる。 ③BLS(Basic Life Support)アルゴリズムに基づ く心肺蘇生法(AEDの活用を含む)について説明で きる。 急性期の患者に必要な看護技術 演習(1) 到達目標: ①術前アセスメントに基づく術後合併症予防対策 として術前呼吸訓練・DVT予防が実施できる(ペー パーベイスメント・ロールプレイによる)。 急性期の患者に必要な看護技術 演習(2) 到達目標: ①術後1日目にある対象の身体的状態が説明で きる(ペーパーベイスメント・モデルの活用によ る)。 急性期の患者に必要な看護技術 演習(3) 到達目標: ①術後1日目にある対象の早期離床を目指す援 助が実施できる(ペーパーベイスメント・モデルの 活用による)。 急性期の患者に必要な看護技術 演習(4) 到達目標: ①急性期にある対象のフィジカルアセスメントが 実施できる(モデルの活用による)。 急性期の患者に必要な看護技術 演習(5) 到達目標: ①BLS(Basic Life Support)アルゴリズムに基づ く心肺蘇生法(AEDの活用を含む)が実施できる (モデルの活用による)。 集中治療を受ける患者の看護 到達目標: ①集中治療の受ける対象および家族の特性・看 護について説明できる。	予習: 演習項目に関する資料の収集・学習 課題: 配布資料をもとに資料の収集、第 6 回授業 の復習、実施した技術についてレポートを提出す る 予習: 第 1～13 回授業の復習 課題: 学んだことをレポートにまとめて提出する 予習: 第 1～13 回授業の復習 課題: 学んだことをレポートにまとめて提出する 予習: グループでの発表について取り組む 復習: 看護技術・グループの発表について自己評 価する	全員 全員 全員 全員 全員 急性・重症患 者看護専門 看護師 久木元 救急看護認 定看護師
成績評価方法と基準 1. 演習課題・レポート・グループワーク評価に説明します。 2. 定期試験(筆記試験)による評価 3. 4/5 回以上の出席が必要である。			

授業科目名	成人看護援助論Ⅳ(看護) (Adult Nursing Ⅳ)		講師	藤本 陽子、吉村 弥須子、 久木元 由紀子、澤田 悦子、 宮本 佳子、高木 みどり
主担当教員	藤本 陽子	担当教員		
科目ナンバリング	AN305	科目区分	専門分野Ⅱ	DP①④
配当年次	3	開講学期	前期	月曜 4 限
授業形態	演習	単位数	1	必修・選択
授業概要	慢性期、終末期にある患者及びその家族の看護について学習する。慢性的な経過をたどる状態にある対象の身体的、精神的、社会 的側面において家族を含めた特徴を理解し、対象を取り巻く社会環境や家族看護の現状を念め、00L を向上できるような看護について 学習する。また、看護過程を通じた生活習慣病や慢性疾患の予防、健康回復への関わりとしての教育的支援について学習し、成人期 慢性疾患患者の特性を多面的に理解する。 終末期にある患者や家族の心理的課題に触れ、予期悲嘆のプロセスを促進する援助方法を学習し、現在の社会の考え方につい て説明できる。 到達目標 1. 慢性期にある人の心理や社会的特徴を知り、病気をもちながら生活する人の困難さを説明できる。 2. 慢性期にある患者の看護援助を理論を通して説明できる。 3. 特徴的な慢性疾患の事例(ペーパーベイスメント)を通して看護援助の指導案を作成できる。 4. 終末期にある患者や家族のケアについて学習し、患者の全人的苦痛について説明できる。 5. 終末期にある患者や家族の心理的課題に触れ、予期悲嘆のプロセスを促進する援助方法を学習し、現在の社会の考え方につい て説明できる。			
履修上の注意(学生へのメッセージ)	1. 形態機能学、臨床病態学、成人看護学概論の復習をして授業に臨む。 2. 病氣とともに楽しく生きる方法についてセルフケアの方法を学ぶ。 3. 死を受け入れるとは何かについて学習し、死をとおして家族の形態等の変化について考え、生と死がもたらす影響について考え る。4. グループワークに積極的に参加する。 5. 事前課題や事後課題にレポート提出を予定する。レポート提出にはその都度授業の中で連絡する。			
教科書	教科書 鈴木志津枝 藤田佐和編集 成人看護学 慢性期看護論 HIROKAWA 鈴木志津枝 内布敦子編集 緩和・ターミナルケア看護論 成人看護学 HIROKAWA			
参考文献	必要時資料を配布する。 研究室 / オフィスアワー 西棟 研究室 132 澤田悦子 予約をすること 西棟 研究室 332 藤本陽子 予約をすること 西棟 研究室 331 黒木美紀 予約をすること 授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当	
1	ガイダンス 慢性期看護の概要 到達目標 ①慢性期看護の考え方や、慢性期にある人の特 徴について説明できる。 ②慢性期疾患患者や家族に健康行動理論を応用 できる。 慢性の造血機能障害と看護 到達目標 ①慢性リンパ腫、白血病患者の心理について説 明できる。 ②クリンルームやがん化学療法等を受けける患者 の感嘆管理の看護ができる。	予習: シラバス・教科書の確認、慢性期看護論 P4 ～27 を読んでおく 成人期によく使う行動変容理論について振り返 ておく	藤本陽子	
2	慢性の造血機能障害と看護 到達目標 ①慢性リンパ腫、白血病患者の心理について説 明できる。 ②クリンルームやがん化学療法等を受けける患者 の感嘆管理の看護ができる。	予習: 教科書の確認、慢性期看護論 P337～364 を 読んでおく 慢性の造血機能障害の臨床病態学を確認	澤田 悦子	
3	慢性の脳・神経機能障害と看護 到達目標 ①脳梗塞の慢性期の看護について説明できる。 ②慢性、進行性の筋萎縮性側索硬化症患者への 看護について説明できる。	予習: 教科書の確認、脳・神経機能障害を持つ患 者の看護を呼んでおく、慢性の脳・神経機能障害 の種類と臨床病態学を確認		
4	疼痛緩和 到達目標	予習: 教科書の確認、緩和・ターミナルケア看護論 ターミナル期における緩和ケアの確認	藤本陽子 ゲストスピー	

5	①がん性疼痛の痛みの起る原因や痛みの特徴を説明できる。 ②がん性疼痛における薬物療法とオピオイドの副作用が説明できる。	予習：教科書の確認：慢性期看護論 P208～228 を読んでおく 事後課題：レポート提出 急性期循環障害と看護の資料を確認	カー
6	慢性の循環機能障害と看護 到達目標 ①高血圧、虚血性心疾患、慢性心不全、腎機能障害等のある患者の看護について説明できる。 ②糖尿病、高血圧、脂質異常症等の食事についてカロリ計算、塩分表示について説明できる。 ③多職種で栄養を評価し患者の満足度を高める医療に取り組んでいることが分かる。 NST の役割と看護の果たす役割を説明できる。	予習：教科書の確認教科書慢性期看護論 P207～229 を読んでおく 予習：慢性疾患の食事療法と治療におけるチーム医療、NST チームの役割(構成メンバー等)について確認	澤田 悦子
7	慢性の代謝機能障害と看護 到達目標 ①生活習慣病、合併症予防のための看護を理論用いて看護に応用できる。	糖尿病の臨床病態学を確認 事後課題：レポート提出	藤本陽子 ゲストスピーカー カー
8	●インスリン注射 SMRG 演習① 到達目標 ①インスリン製剤の薬理作用、インスリン自己注射、血糖測定について説明できる。②自己注射の意味を学び患者の精神的苦痛を知り看護を説明できる。 ●慢性期疾患患者の指導書作成 教科書慢性期看護論の 3 事例を用いて指導書を作成できる。	予習：教科書の確認教科書慢性期看護論「糖尿病患者への看護、糖尿病網膜症患者への看護」P305～312、P452～455 を読んでおく インスリン製剤の種類と薬理作用 予習：事前学習：個人ワークで指導書を作成しておく	澤田悦子 藤本陽子 吉村弥須子 久木元由紀
9	●インスリン注射 SMRG 演習② 到達目標 ①インスリン製剤の薬理作用、インスリン自己注射、血糖測定について説明できる。②自己注射の意味を学び患者の精神的苦痛を知り看護を説明できる。 ●慢性期疾患患者の指導書作成 グループワーク 演習② 到達目標 ①慢性期疾患患者の指導書作成 グループワーク 演習② 教科書、慢性期看護論の 3 事例を用いて指導書を作成できる。	予習：教科書の確認、慢性期看護論「糖尿病患者への看護、糖尿病網膜症患者への看護」P305～312、P452～455 を読んでおく インスリン製剤の種類と薬理作用 予習：事前学習：個人ワークで指導書を作成しておく	澤田悦子 藤本陽子 吉村弥須子 久木元由紀
10	慢性の栄養摂取・消化器機能障害と看護 到達目標 ①胃、大腸、肝臓、潰瘍性大腸炎の看護を説明できる。	予習：教科書の確認教科書慢性期看護論 P253～296 を読んでおく 消化器機能障害に関する疾患に関する病態について臨床病態学を確認	藤本陽子
11	内分泌代謝障害を持つ患者の看護 到達目標 ①甲状腺機能異常症と副甲状腺機能異常症の患者の治療や看護を説明できる。	予習：教科書の確認教科書慢性期看護論 P313～336 を読んでおく 脳下垂体、中伏隆、副腎等の疾患について臨床病態学を確認	澤田悦子
12	●終末期の患者の看護 演習③ 到達目標 ①自己決定権、リビングウィル、安楽死等の倫理的課題について説明できる。 ②終末期における患者と家族の心理を考えることができる。 ③在宅における看護の支援の在り方を説明できる。	予習：教科書の確認、緩和・ターミナルケア看護論 P373～376 用語の意味を理解しておく。P100～167 を読んでおく 小児科領域とともに授業を閉帷する。	藤本 陽子
13	●慢性期疾患患者の指導書作成 教科書慢性期看護論の 3 事例を用いて指導書を作成できる。 グループワーク 演習④	積極的にグループワークに参加する	藤本 陽子
14	●指導書発表 演習⑤ 全グループが発表できるように 2 チームに分ける	発表に対して積極的に発言する	藤本 陽子、 吉村 弥須子、 久木元由紀

15	慢性期の患者の看護に必要な看護技術・エンパワメント理論の活用 フィードバック 振り返り	藤本 陽子
成績評価方法と基準		割合
①レポート 20%		①20%
②筆記試験 80%		②80%
・4/5 回以上の出席が必要		

老年看護学概論(看護) (Introduction to Gerontological Nursing)			
授業科目名	老年看護学概論(看護)	担当教員	南部 登志江、外村 昌子
主担当教員	南部 登志江	専門分野	DP①
科目ナンバリング	GN308	科目区分	水曜3限
配当年次	2	開講学期	前期
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	<p>老年期の特徴や加齢に伴う心身の変化等を理解し、高齢者ケアにおける看護の役割とその活動を概観する。特に高齢者の健康管理や健康予防、ライフスタイルを尊重した生活支援、高齢者のQOLや権利擁護などのケアの基本的な視点や考え方を学修する。また、老年者の保健医療福祉サービスの現状や家族支援等を学ぶ。</p> <p>※本科目は実務経験のある教員等による授業科目です</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 前期高齢者・後期高齢者の特徴が理解できる。 2. 老いの意味、老年期の理解ができる。 3. 高齢者を取り巻く社会制度が理解できる。 4. 高齢者・家族ニーズと保健医療福祉サービスの現状が理解できる。 5. 高齢者の権利擁護と倫理的課題について考えることができる。 6. 老年看護の対象となる人々の特徴と高齢者理解が深まる。 7. 加齢に伴う心身の変化等が理解できる。 8. 老年看護に活用できる理論が理解できる。 9. 老年看護のあり方について考えることができる。 <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 配布された講義資料は必ず目を通しておくこと。 2. 出席および授業中の態度は重視する。 3. 身近な高齢者の生活や、高齢者に関する新聞・テレビ等の情報を通して看護を考えてみる。 		
教科書	北川公子他「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学」第9版 医学書院		
参考文献	<p>正木治恵他「老年看護学概論」改訂第2版 南江堂</p> <p>厚生省指 臨時増刊「国民衛生の動向」厚生統計協会 研究室/オフィスアワー</p>		
外村昌子 west port12 階 234 研究室/前期(水曜5限)			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	教科のガイダンス 老いるということ、老いを生きるということ	予習：シラバスと老年看護学のテキスト「第1章」を熟読する 復習：配布資料を確認する	南部 外村
2	老年看護に求められているもの、多職種協働や福祉器具の活用など保健医療福祉サービスの現状を知る	予習：バリアフリーや福祉用具について調べてくる 復習：配布資料を確認する	南部 外村
3	老年看護に求められているもの：超高齢社会におけるバリアフリーと多職種の役割を知る。	課題：各自で「バリアフリー2019」(西日本最大級の総合福祉展)に参加し、学びと感想レポートを提出する。 予習：老年看護学テキスト「第4章」を熟読しておく 復習：配布資料を確認する	南部 外村
4	老年看護の基礎	予習：老年看護学テキスト「第3章」を熟読しておく 復習：配布資料を確認する	南部 外村
5	高齢者疑似体験	予習：事前配布資料を熟読しておく 復習：事後課題レポートを提出する	南部 外村
6	高齢者のヘルスケアマネジメント 身体の変化とアセスメント	予習：老年看護学テキスト「第4章」を熟読しておく 復習：配布資料を確認する	南部 外村
7	高齢者のヘルスケアマネジメント 高齢者によく見られる身体症状とアセスメント	予習：老年看護学テキスト「第4章」を熟読しておく 復習：配布資料を確認する	南部 外村
8	老年看護に活用できる理論①	予習：老年看護学テキスト「理論・概念の活用について」を熟読しておく 復習：配布資料を確認する	南部 外村

9	老年看護に活用できる理論②	予習：老年看護学テキスト「理論・概念の活用について」を熟読しておく 復習：配布資料を確認する	南部 外村
10	超高齢社会と社会保障 高齢者の健康、医療制度、高齢者の介護・福祉施策	予習：老年看護学テキスト「第2章」を熟読しておく 復習：配布資料を確認する	南部 外村
11	超高齢社会と社会保障 高齢者の権利擁護	予習：老年看護学テキスト「第2章」を熟読しておく 復習：配布資料を確認する	南部 外村
12	治療を必要とする高齢者の看護	予習：老年看護学テキスト「第7章」を熟読しておく 復習：配布資料を確認する	南部 外村
13	生活・療養の場における看護 保健医療福祉施設における看護	予習：老年看護学テキスト「第9章」を熟読しておく 復習：配布資料を確認する	南部 外村
14	生活・療養の場における看護 介護を必要とする高齢者を含む家族への看護	予習：老年看護学テキスト「第9章」を熟読しておく 復習：配布資料を確認する	南部 外村
15	がん患者会「がんくんに」による患者体験談を聴講する	予習：老年看護学テキスト「第9章」を熟読しておく 病を持ちながら生活するがん患者の体験談を聴き、学びおよび感想のレポートを提出する	南部 外村
成績評価方法と基準			
①筆記試験			
②レポート			
③課題提出			
上記の平均点の結果、60点以上で単位認定する。			

老年看護探助論Ⅰ(看護) (Gerontological Nursing I)			
授業科目名	老年看護探助論Ⅰ(看護)	担当教員	南部 登志江、外村 昌子、津崎 勝代
主担当教員	南部 登志江	担当教員	南部 登志江、外村 昌子、津崎 勝代
科目ナンバリング	GN309	科目区分	専門分野Ⅱ
配当年次	2	開講学期	後期
授業形態	演習	単位数	1
授業概要	<p>必修・選択</p>		
到達目標	<p>老年期における健康障害のある対象者の特徴を理解し、在宅や保健医療施設と連携した看護を学ぶ。 対象者やその家族とのコミュニケーションおよび関係の成立について理解し、あらゆる健康レベルに応じた看護の在り方を学ぶ。</p>		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	<p>1. 疾患を持つ老年者と家族について理解する 2. 老年期患者とのコミュニケーションおよび関係の成立について理解する 3. 老年期特有の症状と疾患及び治療について理解する 4. 老年期に多い疾患と看護について理解する 5. 運動器障害、感覚器障害のある老年期患者と家族への援助を理解する 6. 老年症候群や生活不活発病(廃用症候群)について理解する 7. 終末期における老年期患者とその家族の援助を理解する 8. 保健医療施設と連携した看護の必要性を理解する</p>		
予め履修が望ましい教科目	<p>老年看護学概論</p>		
教科書	<p>北川千子他 著「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学」第9版 医学書院 鳥羽研二他 著「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護病態・疾患論」第5版 医学書院</p>		
参考文献	<p>1. 木田喜久子編集「老年看護学一高齢者の健康生活を支える看護」医歯薬出版 2. 佐藤博子他著「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 皮膚」医学書院 3. 大庭哲郎他著「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学」13 眼 医学書院 4. 小松哲子他著「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学」14 耳鼻咽喉 医学書院 5. 日本老年医学学会編「老年医学系統講義テキスト」西村書店 6. 正木治郎他著「老年看護学概論」改訂第2版 南江堂 7. 真田弘美他著「老年看護学技術」改訂第2版 南江堂</p>		
研究室/オフィスアワー	<p>外村昌子 west port2階 234 研究室/ 前期水曜 17時~18時 津崎勝代 west port1階 134 研究室/ 前期水曜 17時~18時</p>		
授業展開及び授業計画表	<p>授業展開及び授業計画表</p>		
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	教科ガイダンス 高齢者理解、加齢現象と健康障害の特徴、老年症候群	予習：シラバス、教科書の確認、病態・疾患論第1章、第2章を読んでおく 復習：授業をもとにシラバス、教科書、資料の確認	南部 外村 津崎
2	老年期患者とのコミュニケーションおよび関係の成立 感覚器(聴覚)障害の理解と看護	予習：老年看護学第5章コミュニケーションを読んでおく 課題：高齢者の生活の質(QOL)について 復習：講義内容の確認	南部 外村 津崎
3	循環器疾患の理解と看護	予習：老年看護学「疾患を持つ高齢者への看護」「循環器疾患」の看護を読んでおく 復習：講義内容の確認	南部 外村 津崎
4	脳血管障害の理解と看護	予習：老年看護学「疾患を持つ高齢者への看護」「脳血管障害」の看護を読んでおく 復習：講義内容の確認	南部 外村 津崎
5	消化器疾患の理解と看護	予習：老年看護学「疾患を持つ高齢者への看護」「消化器疾患」の看護を読んでおく 復習：講義内容の確認	南部 外村 津崎

6	神経疾患の理解と看護 パーキンソン病他	復習：講義内容の確認	予習：老年看護学「疾患を持つ高齢者への看護」「神経疾患」、病態・疾患論の「神経疾患」を読んでおく 復習：講義内容の確認	南部 外村 津崎
7	感覚器(視覚)障害の理解と看護	復習：講義内容の確認	予習：老年看護学、疾患病態論の「視覚、視覚障害」について読んでおく 復習：講義内容の確認	南部 外村 津崎
8	感覚器(皮膚感覚)障害の理解と看護	復習：講義内容の確認	予習：老年看護学、疾患病態論の「皮膚、皮膚障害、褥瘡」について読んでおく 復習：講義内容の確認	南部 外村 津崎
9	歯科疾患の理解と看護	復習：講義内容の確認	予習：老年看護学、疾患病態論の「歯科、口腔ケア」について読んでおく 復習：講義内容の確認	南部 外村 津崎
10	運動器障害の理解と看護 ロコモティブシンドローム	復習：講義内容の確認	予習：老年看護学「疾患を持つ高齢者への看護」「運動器障害」、病態・疾患論の「運動器障害」について読んでおく 復習：講義内容の確認	南部 外村 津崎
11	呼吸器疾患の理解と看護	復習：講義内容の確認	予習：老年看護学「疾患を持つ高齢者への看護」「呼吸器疾患」、病態・疾患論の「呼吸器疾患」について読んでおく 復習：講義内容の確認	南部 外村 津崎
12	廃用症候群の予防と看護	復習：講義内容の確認	予習：老年看護学、病態・疾患論の「廃用症候群」について読んでおく 復習：講義内容の確認	南部 外村 津崎
13	エンドオブライフケア 老年患者の終末期看護と家族の悲嘆への援助	復習：講義内容の確認	予習：老年看護学第8章を読んでおく 復習：講義内容の確認	南部 外村 津崎
14	エンドオブライフケア 高齢者の尊厳を支える看護と看取り、家族への支援	復習：講義内容の確認	予習：老年看護学第8章を読んでおく 復習：講義内容の確認	南部 外村 津崎
15	保健医療福祉施設における療養生活を支える看護	復習：講義内容の確認	予習：老年看護学「疾患を持つ高齢者への看護」の看護について読んでおく 復習：講義内容の確認	南部 外村 津崎
成績評価方法と基準				
①筆記試験				
②課題				
③小テスト				
4/5回以上の出席が必要				
割合				
①60%				
②20%				
③20%				

授業科目名	老年看護援助論Ⅱ(看護)(Gerontological Nursing II)		
主担当教員	外村 昌子	担当教員 外村 昌子、津崎 勝代、南部 登志江	
科目ナンバリング	GN310	専門分野Ⅱ DP①④	
配当年次	3	曜日・時間 金曜 2限	
授業形態	演習	必修・選択 必修	
授業概要	<p>老年期における健康障害のある対象者の特徴を理解し、基礎的な看護技術を理解する。00Lを維持する看護支援方法と対象者やその家族に対する指導方法、老年期患者の看護過程の展開について学ぶが、授業は講義とシミュレーション形式で行い、老年看護に必要な看護援助を体験し技術を習得する。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 老年者とリスクマネジメントについて理解できる。 2. 老年期患者および生活機能障害がある老年者の生活援助技術が理解できる。 3. 老年期患者の診療の補助技術が理解できる。 4. 老年期患者の事例展開を通して看護過程が理解できる。 5. 認知症高齢者と家族の援助について理解できる。 6. 老年者のレクリエーションについて理解できる。 <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>予め履修が望ましい教科目: 老年看護概論、老年看護援助論Ⅰ</p> <p>授業の進め方: 1. 講義は教科書を中心にして、参考書やプリント、視覚教材としてパワーポイントを用いて行う。 2. 演習は実習室で行う。 ・技術演習時はナース服を着用する。事前にアパウンスがあるので確認すること ・事前課題が未提出の場合は技術演習に出席できない。 出席と授業中の態度などは成績評価に加味する。</p>		
教科書	北川公子他著 系統看護学講座「老年看護学」第9版 医学書院 鳥羽研二他著 系統看護学講座「老年看護・病態・疾患論」第5版 医学書院		
参考書	<p>1. MaJory Gordon 著「ゴードン博士のよわかわかぬ機能的健康パターン」照林社 2. Juall Carpenito-Moyet 著「新編看護学監訳「看護診断ハンドブック」第10版」医学書院 3. 紙谷亮子著「ステキに家庭介護入門-超高齢社会を不安なく迎えるための介護の常識」ナースینگサイエンスアカデミー 4. 今井弘雄 著「車椅子・片麻痺の人でもできるレクリエーションゲーム集」黎明書房 5. 斎藤道雄 著「特養でもできる楽しいアクティビティ32」黎明書房 6. 大塚真理子</p>		
研究室/オフィスアワー	研究室/ オフィスアワー 外村昌子 west.port2階 234 研究室/ 前期水曜 17時～18時 津崎勝代 west.port1階 132 研究室/ 前期水曜 17時～18時		
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	教科ガイドダンス 老年期の援助技術・リスクマネジメント	予習: シラバス、教科書の確認 老年期の援助技術について教科書などで予習 復習: 講義資料の確認、レポート	南部 外村 津崎
2	生活援助技術 (1) 体位変換、ポジショニング	予習: 老年者の姿勢と体位変換、ポジショニングについて教科書などで予習、事前課題を作成する。 復習: 講義資料の確認とレポート	南部 外村 津崎
3	生活援助技術 (2) 老年者への清潔援助	予習: 清潔・衣などへの援助について教科書などで予習、事前課題を作成する。 復習: 講義・演習内容を確認し、レポート提出	南部 外村 津崎
4	生活援助技術 (3) 障害のある老年者の移乗・移動援助	予習: 移乗・移動援助について教科書などで予習、事前課題を作成する。 復習: 講義資料の確認	南部 外村 津崎
5	生活援助技術 (4) 障害のある老年者の排泄援助	予習: 排泄障害について教科書などで予習、事前課題を作成する。 復習: 講義・演習内容を確認し、レポート提出	南部 外村 津崎
6	認知症の理解と看護、家族への援助	予習: 教科書における認知症の概要を読んでおく 復習: 講義内容の確認とレポート提出	南部 外村 津崎

7	老年者のレクリエーション(グループワーク)	高齢者へのレクリエーションの意義を学ぶ。グループワーク発表の準備を行う	南部 外村 津崎
8	レクリエーションの準備	予習: グループワーク発表の準備をする 復習: グループワーク発表時の自分の役割を確認する	南部 外村 津崎
9	レクリエーションの発表	予習: グループワークの発表を実施する 復習: グループワークの学びを記述し提出	南部 外村 津崎
10	看護過程の概要	予習: 看護過程の概要について予習しておく 復習: 講義資料の確認	南部 外村 津崎
11	事例展開(ペーパー・シミュレーション)	予習: 講義資料を基に事例を用い展開する 復習: 自身の看護過程の展開を振り返る 課題が終了しない場合は補講に必ず出席すること	南部 外村 津崎
12	看護過程の展開	予習: 講義資料を基に事例を用い展開する 復習: 自身の看護過程の展開を振り返る 課題が終了しない場合は補講に必ず出席すること	南部 外村 津崎
13	看護過程の展開	予習: 講義資料を基に事例を用い展開する 復習: 自身の看護過程の展開を振り返る 課題が終了しない場合は補講に必ず出席すること	南部 外村 津崎
14	看護過程の展開	予習: 講義資料を基に事例を用い展開する 復習: 自身の看護過程の展開を振り返る 課題が終了しない場合は補講に必ず出席すること	南部 外村 津崎
15	看護過程の展開	予習: 講義資料を基に事例を用い展開する 復習: 自身の看護過程の展開を振り返る 課題が終了しない場合は補講に必ず出席すること	南部 外村 津崎
成績評価方法と基準			割合
①筆記試験			①60%
②演習レポート			②30%
③課題提出			③10%
4/5 回以上の出席が必要			

授業科目名	母性看護学概論看護 (Introduction to Maternal Nursing)																																						
主担当教員	橋本 富子	担当教員	橋本 富子、家曾 美里																																				
科目ナンバリング	MNS13	科目区分	専門分野Ⅱ DP①																																				
配当年次	2	開講学期	前期																																				
授業形態	講義	単位数	2																																				
授業概要	<p>生命の起源である発生・受精・分化から、生命誕生の仕組みを知り、生きることの尊さ、体と性の動きを理解した「性別」や「性差」をもつ個として humankind について学修する。</p> <p>性と生殖に関する健康と権利 (リプロダクティブヘルス・ライツ) の観点から、女性の各ライフステージにおける生涯を通じた健康課題ならびに健康支援について学修する。</p> <p>健康な女性の性周期に伴う内分泌、身体、心理的变化と影響を理解し、周産期における身体的・心理社会的変化と適応について学修する。</p> <p>※本科目は実務経験のある教員等による授業科目です</p>																																						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> セクシャリティの意味、いのちの意味、自己の尊厳について理解し、自らの言葉で説明できる。 女性における性や生殖に関する現状を理解し、その課題や問題に気づき考察できる。 周産期における女性と家族を支援するための基礎的知識を理解できる。 妊娠・分娩期の正常な身体的・心理的・社会的変化とその適応を理解できる。 <p>履修上の注意 (学生へのメッセージ)</p> <ul style="list-style-type: none"> 全ての人は性と生殖に関する健康を享受する権利を持っています。 人の性と性、生殖、次世代を育む家族について理解するための母性看護学の基礎的科目になります。 いのちへの尊厳、豊かな看護観が醸成されることを期待します。 日々の絶え間ない努力が対人援助職を成ります。出席して主体的に講義を聞きましょう。 資料を選挙するので、復習しながらファイナリングしましょう。 																																						
教科書	<p>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学[1] 母性看護学概論 医学書院</p> <p>母性看護学[2] マタニティサイケル—母と子そして家族へのよりよい看護実践 (看護学テキスト NICE) 南江堂</p> <p>参考文献</p> <p>母性看護学[1] 概論 ライフサイクル (看護学テキスト NICE) 南江堂</p> <p>ウィメンズナレッジ ウィメンズヘルス—ナースナレッジ概論 エーヴェルロカワ</p> <p>母性看護学概論 医歯薬出版株式会社</p> <p>研究室/オフィスアワー</p> <p>西棟 239 橋本 事前約束後に可能</p> <p>西棟 235 家曾 事前約束後に可能</p>																																						
授業展開及び授業計画表	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>学修内容</th> <th>予習・復習・課題等</th> <th>担当</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>性周期におけるホルモン動態と発生</td> <td>生物・保健体育で既習した受精から着床、女性の性周期とホルモンを復習しておく</td> <td>橋本</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>母性看護学における理論と概念</td> <td>性と生殖に関する課題やトピックスについて関連記事を読む</td> <td>橋本</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>セクシュアリティ(ジェンダー含む)性に関する健康教育</td> <td>・「性周期におけるホルモン動態」リポート ・性別や性、日常生活におけるジェンダーなど、社会のトピックスや関連記事を読む。 ・「社会における女性の健康問題」レポート発表のガイダンス</td> <td>橋本</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>思春期と更年期の健康課題</td> <td>関連する書籍や記事を読む</td> <td>橋本 助産学専攻科教員</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>関連する保健統計と制度・施策</td> <td>前回の復習をする</td> <td>橋本</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>医師からみた母性と家族機能</td> <td>生活に根ざした産科臨床と現代の産科医療の目標と展望を考える機会として、産科に関わるニュースや書籍などを読んでおく。</td> <td>橋本 ゲスト</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>社会における女性の健康問題</td> <td>「社会における女性の健康問題」レポート提出グループ発表</td> <td>橋本</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>・前回のまとめ ・母性看護と倫理的課題</td> <td>不妊治療、出生前診断、人工妊娠中絶など自ら心に残る気になる記事や書籍を読む</td> <td>橋本</td> </tr> </tbody> </table>			回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当	1	性周期におけるホルモン動態と発生	生物・保健体育で既習した受精から着床、女性の性周期とホルモンを復習しておく	橋本	2	母性看護学における理論と概念	性と生殖に関する課題やトピックスについて関連記事を読む	橋本	3	セクシュアリティ(ジェンダー含む)性に関する健康教育	・「性周期におけるホルモン動態」リポート ・性別や性、日常生活におけるジェンダーなど、社会のトピックスや関連記事を読む。 ・「社会における女性の健康問題」レポート発表のガイダンス	橋本	4	思春期と更年期の健康課題	関連する書籍や記事を読む	橋本 助産学専攻科教員	5	関連する保健統計と制度・施策	前回の復習をする	橋本	6	医師からみた母性と家族機能	生活に根ざした産科臨床と現代の産科医療の目標と展望を考える機会として、産科に関わるニュースや書籍などを読んでおく。	橋本 ゲスト	7	社会における女性の健康問題	「社会における女性の健康問題」レポート提出グループ発表	橋本	8	・前回のまとめ ・母性看護と倫理的課題	不妊治療、出生前診断、人工妊娠中絶など自ら心に残る気になる記事や書籍を読む	橋本
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当																																				
1	性周期におけるホルモン動態と発生	生物・保健体育で既習した受精から着床、女性の性周期とホルモンを復習しておく	橋本																																				
2	母性看護学における理論と概念	性と生殖に関する課題やトピックスについて関連記事を読む	橋本																																				
3	セクシュアリティ(ジェンダー含む)性に関する健康教育	・「性周期におけるホルモン動態」リポート ・性別や性、日常生活におけるジェンダーなど、社会のトピックスや関連記事を読む。 ・「社会における女性の健康問題」レポート発表のガイダンス	橋本																																				
4	思春期と更年期の健康課題	関連する書籍や記事を読む	橋本 助産学専攻科教員																																				
5	関連する保健統計と制度・施策	前回の復習をする	橋本																																				
6	医師からみた母性と家族機能	生活に根ざした産科臨床と現代の産科医療の目標と展望を考える機会として、産科に関わるニュースや書籍などを読んでおく。	橋本 ゲスト																																				
7	社会における女性の健康問題	「社会における女性の健康問題」レポート提出グループ発表	橋本																																				
8	・前回のまとめ ・母性看護と倫理的課題	不妊治療、出生前診断、人工妊娠中絶など自ら心に残る気になる記事や書籍を読む	橋本																																				

9	妊娠期の定義、妊娠の成立、妊娠の正常経過	該当する箇所の予習 「保健統計と法規」に関する小テストをする	橋本
10	妊娠に伴う身体・心理・社会的変化	前回の復習をすること	橋本
11	妊娠期の看護	前回の復習をすること	橋本
12	分娩の定義と正常経過	前回の復習をすること 「妊娠期」の小テストをする	家曾
13	分娩経過と観察	前回の復習をすること	家曾
14	分娩期の看護	前回の復習をすること	家曾
15	総復習、援助論 I に向けて 定期試験について	疑問点、自己学習で理解できない点について質問できるよりに準備しておく	橋本
成績評価方法と基準			割合
①定期試験			①70%
②小テスト(3回)			②20%
③課題・授業取り組みの姿勢			③10%

母性看護援助論 I (看護) (Maternal Nursing I)																																																											
授業科目名	橋本 富子	担当教員	橋本 富子、冢曾 美里、樋口 優子																																																								
主担当教員	MN314	専門分野 II	DF①④																																																								
科目ナンバリング	2	後期	水曜 2 限																																																								
配当年次	演習	単位数	必修																																																								
授業形態																																																											
授業概要	<p>周産期における妊産婦および新生児の基礎的知識を修得し、母子と家族の変遷について学修する。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 妊娠・分娩・産褥期の正常な身体的・心理的・社会的変化とそれの適応を理解する。 2. 妊娠・分娩・産褥期にある女性と新生児の健康を向上するための看護の必要性を理解する。 3. 妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期における正常からの逸脱を予防し、より良い経過を促進するための看護を理解する。 <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>講義だけでなく演習授業であることを自覚し、主体的に努力すること。 授業内容を聞かずに教科書を読むだけでは理解できないので、出席して授業を聞くこと。 授業中の私語やメール等には厳しく対処する。</p> <p>教科書</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 母性看護学②(マタニティサイクリル-母と子そして家族へのよりよい看護実践(看護学テキストNICE) 南江堂 (2年前期購入済) 2. 系統看護学講座 専門分野II 母性看護学[1] 母性看護学概論 医学書院 (2年前期購入済) 3. 病気がわかる vol.10 産科 メディックメディア <p>参考書</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 系統看護学講座 専門分野II 母性看護学[2] 母性看護学各論 (医学書院) 2. 新体系 看護学全書 母性看護学② マタニティサイクリルにおける母子の健康と看護 メディカルフレンド社 3. 母性看護学 1(妊娠・分娩 第2版) 医歯薬出版 4. 母性看護学 2(産褥・新生児 第2版) 医歯薬出版 <p>研究室/オフィスアワー</p> <p>West237 研究室 橋本 事前の日時調整・約束後に可能 West235 研究室 冢曾 事前の日時調整・約束後に可能</p> <p>授業展開及び授業計画表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>学修内容</th> <th>予習・復習・課題等</th> <th>担当</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>全体ガイダンス (概論授業内容の復習)</td> <td>予習: 前期に既習した概論を復習しておく 復習: 本日の授業内容</td> <td>橋本</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>妊娠 正常からの逸脱と看護</td> <td>復習: 本日の授業内容</td> <td>橋本</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>妊娠 正常からの逸脱と看護</td> <td>復習: 本日の授業内容</td> <td>橋本</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>産褥期の定義と正常経過 産褥期のアセスメントと看護</td> <td>復習: 本日の授業内容</td> <td>橋本</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>産褥期のアセスメントと看護</td> <td>復習: 本日の授業内容</td> <td>橋本</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>産褥期 正常からの逸脱と看護</td> <td>・産褥期の小テスト ・復習: 本日の授業内容</td> <td>橋本</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>新生児とは</td> <td>復習: 本日の授業内容</td> <td>冢曾</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>新生児のアセスメントと看護 出生直後</td> <td>復習: 本日の授業内容</td> <td>冢曾</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>新生児のアセスメントと看護 子宮外生活適応、発達状況</td> <td>復習: 本日の授業内容</td> <td>冢曾</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>ペリネイタルロス</td> <td>復習: 本日の授業内容</td> <td>橋本 ゲスト</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>新生児期 正常からの逸脱と看護</td> <td>・新生児期の小テスト ・復習: 本日の授業内容</td> <td>冢曾</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>分娩期 正常からの逸脱と看護 胎児心拍数陣痛図(CfG)</td> <td>予習: 概論で既習した分娩期を確実に学習しておく</td> <td>冢曾</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>母乳育児支援</td> <td>予習: 既習した進行性変化を確実に学習しておく</td> <td>橋本</td> </tr> </tbody> </table>			回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当	1	全体ガイダンス (概論授業内容の復習)	予習: 前期に既習した概論を復習しておく 復習: 本日の授業内容	橋本	2	妊娠 正常からの逸脱と看護	復習: 本日の授業内容	橋本	3	妊娠 正常からの逸脱と看護	復習: 本日の授業内容	橋本	4	産褥期の定義と正常経過 産褥期のアセスメントと看護	復習: 本日の授業内容	橋本	5	産褥期のアセスメントと看護	復習: 本日の授業内容	橋本	6	産褥期 正常からの逸脱と看護	・産褥期の小テスト ・復習: 本日の授業内容	橋本	7	新生児とは	復習: 本日の授業内容	冢曾	8	新生児のアセスメントと看護 出生直後	復習: 本日の授業内容	冢曾	9	新生児のアセスメントと看護 子宮外生活適応、発達状況	復習: 本日の授業内容	冢曾	10	ペリネイタルロス	復習: 本日の授業内容	橋本 ゲスト	11	新生児期 正常からの逸脱と看護	・新生児期の小テスト ・復習: 本日の授業内容	冢曾	12	分娩期 正常からの逸脱と看護 胎児心拍数陣痛図(CfG)	予習: 概論で既習した分娩期を確実に学習しておく	冢曾	13	母乳育児支援	予習: 既習した進行性変化を確実に学習しておく	橋本
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当																																																								
1	全体ガイダンス (概論授業内容の復習)	予習: 前期に既習した概論を復習しておく 復習: 本日の授業内容	橋本																																																								
2	妊娠 正常からの逸脱と看護	復習: 本日の授業内容	橋本																																																								
3	妊娠 正常からの逸脱と看護	復習: 本日の授業内容	橋本																																																								
4	産褥期の定義と正常経過 産褥期のアセスメントと看護	復習: 本日の授業内容	橋本																																																								
5	産褥期のアセスメントと看護	復習: 本日の授業内容	橋本																																																								
6	産褥期 正常からの逸脱と看護	・産褥期の小テスト ・復習: 本日の授業内容	橋本																																																								
7	新生児とは	復習: 本日の授業内容	冢曾																																																								
8	新生児のアセスメントと看護 出生直後	復習: 本日の授業内容	冢曾																																																								
9	新生児のアセスメントと看護 子宮外生活適応、発達状況	復習: 本日の授業内容	冢曾																																																								
10	ペリネイタルロス	復習: 本日の授業内容	橋本 ゲスト																																																								
11	新生児期 正常からの逸脱と看護	・新生児期の小テスト ・復習: 本日の授業内容	冢曾																																																								
12	分娩期 正常からの逸脱と看護 胎児心拍数陣痛図(CfG)	予習: 概論で既習した分娩期を確実に学習しておく	冢曾																																																								
13	母乳育児支援	予習: 既習した進行性変化を確実に学習しておく	橋本																																																								

14	帝王切開術の看護	復習: 本日の授業内容	橋本
15	総復習、援助論IIに向けて 定期試験について	予習: 既習内容を再直し、質問を準備する	橋本
成績評価方法と基準			割合
①定期試験			①70%
②小テスト(2回)			②20%
③授業に対する関心、意欲・態度(提出物)			③10%
4/5以上の出席を必要とする。			

授業科目名	母性看護援助論Ⅱ(看護) (Maternal Nursing II)		
主担当教員	家曾 美里	担当教員	家曾 美里、橋本 富子、樋口 優子
科目ナンバリング	MN315	科目区分	専門分野Ⅱ DP①④
配当年次	3	開講学期	前期 木曜 4 限
授業形態	演習	単位数	1 必修
授業概要	人間のライフサイクルにおける性と生殖について基礎的知識を修得し、産み育てる女性の健康支援について学修する。		

- 到達目標
1. ウェルネスの看護過程に基づき、看護を展開できる。
 2. 事例を通してフジカルアセスメントを行い、健康レベルを評価できる。
 3. 妊娠・分娩・産褥期における女性の新生児の健康を向上するための看護の必要性を理解できる。
 4. 妊娠・分娩・産褥期における女性と新生児の正常な発達を予防し、より良い経過を促進するための看護、健康教育を理解できる。
- 履修上の注意(学生へのメッセージ)
1. 演習は、基礎的知識を口頭試問で確認しながら実施するため、事前学習しましょう。
 2. 演習の準備から準備、片付けまでの役割を主体的に担いましょう。
 3. 適切な身だしなみ、態度、積極的に学ぶ姿勢で臨みましょう。
 4. 演習室には、指定された物品以外の持ち込みを禁止します。
 5. 提出物は期限厳守です。
 6. 配布資料はもちろんのこと、授業内容は母性看護学実習、国家試験対策で使用します。実習や国家試験対策のためにノートを作成

教科書	1. 母性看護学(2)マタニティサイクリクルー母と子そして家族へのよりよい看護実践 (看護学テキストNIICE) 南江堂 2. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学[1] 母性看護学概論 医学書院 3. 病気がみえる vol.10 産科 メディックメディア 4. ナーシンググラフィック 母性看護学② 母性看護技術 メディカ出版 (1~4:購入済)		
参考書	1. 写真でわかる母性看護技術・看護・新生児の観察とケア、母乳育児を理解しよう!・平沼美穂子・村上睦子 インターメディア 2. 母性看護過程+病態関連図 佐世正勝・石田由利子 医学書院 3. はじめての胎児心拍数モニタリング(016) メディカ出版		
研究室/オフィスアワー			
担当教員に事前連絡後に可能			

授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	全体ガイダンス (援助論Ⅰ授業の復習)	事前学習:既習授業の復習 事後学習:復習	
2	ウェルネス看護過程の展開 1:ウェルネス看護過程とは	事前学習:問題、リスクのない人の看護課題を考 事後学習:復習	
3	演習 妊婦健診における各手法、レオポルド触診法、心音聴取	事前課題:演習内容を 事後課題:演習の学びを記録して提出	
4	演習 新生児のフジカルアセスメント	事前課題:演習内容 事後課題:演習の学びを記録して提出	
5	ウェルネス看護過程の展開 2:産褥期(退行性変化)	事前課題:事例の看護過程の展開(退行性変化) 事後課題:事前課題を修正して提出	
6	ウェルネス看護過程の展開 3:産褥期(進行性変化)	事前課題:事例の看護過程の展開(進行性変化) 事後課題:事前課題を修正して提出	
7	演習 産褥の観察:退行性変化、進行性変化	事前課題:演習内容 事後課題:演習の学びを記録して提出	
8	演習 新生児の沐浴	事前課題:演習内容 事後課題:演習の学びを記録して提出	
9	ウェルネス看護過程の展開 4:産褥期(心理・社会)	事前課題:事例の看護過程の展開(心理・社会) 事後課題:事前課題を修正して提出	
10	ウェルネス看護過程の展開 5:新生児期	事前課題:事例の看護過程の展開(新生児) 事後課題:事前課題を修正して提出	

11	ウェルネス看護過程の展開 6:帝王切開	事前課題:帝王切開後の事例で看護過程の展開 事後学習:復習	
12	地域母子支援(地域における子育て)とは	事後学習:復習	
13	地域母子支援実習にむけて:健康教育計画書作成	事後課題:健康教育計画書を作成する(個人ワーク)	
14	地域母子支援実習にむけて:実践までの準備	事後課題:実習で実施できるように予定を立て準備(グループワーク)	
15	総復習、国家試験対策、実習に向けて 定期試験について	事前学習:既習内容を見直し、質問の準備	
成績評価方法と基準			割合
1. 定期試験			1. 50%
2. 課題、演習での評価			2. 45%
3. 関心・意欲・態度			3. 5%
※4/5以上の出席を必要とする。			

小児看護学概論(看護) (Introduction to Pediatric Nursing)			
授業科目名	黒岩 志紀	担当教員	黒岩 志紀
主担当教員	黒岩 志紀	専門分野 II	DP①
科目ナンバリング	PN317	科目区分	金曜 2限
配当年次	2	開講学期	前期
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	少子高齢化の現代、小児期の子どもとその家族に心身の健康上の問題が山積している。小児期の発達理論や発達課題、発達評価などの基礎的知識を学び、さらに社会における子どもに関する法律や制度と子どもの権利を理解する。小児看護の目標と看護の役割を理解するとともに、子どもの成長・発達の特徴を身体的、精神的、社会的側面から理解する。さらに健康問題や障害が子どもと家族に及ぼす影響を理解する。		
到達目標	※本科科目は実務経験のある教員等による授業科目です		
1. 小児看護が目指すこと(目標)について説明することができる。			
2. 子どもの成長・発達と発達課題を説明することができる。			
3. 小児看護における代表的な発達理論の概要を説明することができる。			
4. 子どもと各期の特徴を総合的に説明することができる。			
5. 子どもと家族を取り巻く社会と特徴的な問題について説明することができる。			
6. 子どもの権利や倫理について考えを述べることができる。			
7. 健康障害や健康問題、入院が小児と家族に与える影響を説明することができる。			
履修上の注意(学生へのメッセージ)			
1. 自分の子ども時代や時代の記憶を振り返り、身の回りの子どもの姿や行為、行動を観察する。			
2. メディアで扱われる子どもにも関する報道に関心をもち、背景や意味を考えてみる。			
子どもが好きな人はもっと子どもが好きになり、子どもが苦手な人には興味を持たないように、子どもに関連した様々な分野から講義を組み立てます。			
教科書	松尾宣武・濱中喜代編 新体系看護学全書 第30巻 小児看護学概論 小児保健 メチカルフレンド社 第5版 松尾宣武・濱中喜代編 新体系看護学全書 第30巻 小児看護学②健康障害をもつ小児の看護 メチカルフレンド社 第5版		
参考書	武藤隆・岡本祐子・大塚治彦編「よくわかる発達心理学」ミネルヴァ書房 小野寺敦子「手に取るように発達心理学がわかる本」かんき出版 子安博生・二宮克義編「キーワードコレクション」発達心理学 新曜社 矢野専夫・落合正行「発達心理学への招待」サイエンス社 研究室/オフィスアワー		
132 研究室(黒岩志紀)/金曜日 13:00~14:30			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	ガイダンス 子ども親や小児医療・小児看護の歴史的变化と看護の対象 到達目標 ①小児看護の対象について述べられる ②小児看護の概要について説明できる	予習：シラバス・教科書の確認(p1-26, 115-127) 復習：講義の内容、教科書の確認(p1-26, 115-127)	
2	小児看護における概念と理論① 到達目標 ①小児に関する概念と理論が説明できる	予習：教科書の確認(p87-111) 復習：講義内容、資料の確認	
3	小児看護における概念と理論② 到達目標 ①小児に関する概念と理論が説明できる	予習：教科書の確認(p87-111) 復習：講義内容、資料の確認	
4	小児の成長・発達①(原理・原則、形態的・機能的) 到達目標 ①成長・発達の原理・原則が説明できる ②形態的・機能的成長発達について説明できる	予習：教科書の確認(p130-137, 145-152) 復習：講義内容、資料の確認	
5	小児の成長・発達②(形態的・機能的) 到達目標 ①形態的・機能的成長発達について説明できる	予習：教科書の確認(p153-159) 復習：講義内容、資料の確認	

6	小児の成長・発達と日常生活援助(乳児) 到達目標 ①乳児期の特徴と必要な援助が説明できる ②幼児期の特徴と必要な援助が説明できる	予習：教科書の確認(p160-230, 231-234) 復習：講義内容、資料の確認	
7	小児の成長・発達と日常生活援助(幼児)	予習：教科書の確認(p160-230, 234-236) 復習：講義内容、資料の確認	
8	小児の心理(母子の分離不安) 到達目標 ①母子分離不安や愛着形成について映像を通して理解を深め、自分の考えが述べられる	予習：母子分離、愛着形成について確認しておく 復習：講義内容について考えたことをまとめ次回提出	
9	小児の成長・発達(学童・思春期) 到達目標 ①学童・思春期の特徴と必要な援助が述べられる ②アイデンティティの確立について自分自身を振り返ることができる	予習：教科書の確認(p1-26, 115-127) 復習：講義内容、資料の確認	
10	小児の成長・発達の評価 到達目標 ①成長・発達の評価をどのようにするか説明できる	予習：教科書の確認(p139-144) 復習：講義内容、資料の確認	
11	小児の栄養 到達目標 ①咀嚼機能と関連付けて、小児の食事について説明できる ②食育の必要性が説明できる	予習：教科書の確認(p173-180) 復習：講義内容、資料の確認	
12	子どもの最善の利益にかんする医療・看護 到達目標 ①子どもの権利についてどのように守っていくべきか、看護師のとるべき態度について説明できる	予習：教科書の確認(p55-83) 復習：講義内容、資料の確認	
13	小児を守る法律と制度 到達目標 ①小児看護に関連する法規や制度について説明できる	予習：教科書の確認(p245-272)、児童虐待についての報道などを調べておく 復習：講義内容、資料の確認	
14	子どもの権利について考える 到達目標 ①子どもの権利や生命倫理などから自己の考えをまとめることができる 健康問題、健康障害および入院が小児と家族に及ぼす影響を説明できる	予習：臓器移植、白血病に関する知識を得ておく 教科書の確認(小児看護学②p372-373) 復習：自己の意見について洞察し、意見をまとめ、次回の講義で提出	
15	健康問題、健康障害 到達目標 ①健康問題や入院が小児の心理面に及ぼす影響を説明できる ②健康問題のある小児の発達課題と看護の指針が述べられる ③小児の病気の理解と受容、適応に向けての看護の必要性が説明できる ④快適な病院環境に向けてどのような看護が必要なのか思考できる	予習：教科書の確認(小児看護学②健康障害をもつ小児の看護p1-31) 復習：講義内容、資料の確認	
成績評価方法と基準			
①レポート「母子の分離不安」子どもの権利に関するもの ※提出期限・作成方法等の詳細は、授業内で説明します 評価基準：①コンルーブリックにそって評価 ②定期試験 出題範囲：授業内で扱った範囲			
			割合 ①20% ②80%

小児看護探助論 I (看護) (Pediatric Nursing I)			
授業科目名	担当教員	担当教員	徳島 佐由美 志紀、安井 者
主担当教員	徳島 佐由美	専門分野 II	DP①④
科目ナンバリング	PN318	後期	水曜 4 限
配当年次	2	1	必修、選択
授業形態	演習		
授業概要	小児看護学概論、小児看護探助論 I での学修を統合し、事例を通して看護過程の展開を行い、問題解決の思考過程を学修するとともに、小児看護における基本的な援助技術を習得する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもとその家族との関係づくりの基礎を習得する。 2. 小児各期の発達段階をふまえて、ヘルスアセスメントをおこなひ、看護過程を展開する能力を養う。 3. 子どもへの発達段階および日常生活をふまえて、個別性を考慮した援助を考へることができる。 4. 健康障害をもつ子どもに対する基本的な小児看護技術を習得する。 		
履修上の注意 (学生へのメッセージ)			
授業の進め方	<ol style="list-style-type: none"> 1. 事例展開、技術演習は、2 クラスに分け、少人数グループで行うことを基本とする。 2. 講義と技術演習は、関連つけた内容を設定して行う。 3. 技術演習時はユニフォームを着用し、「演習入室時の身だしなみ」に準じること。 4. 看護過程は評価対象なので積極的に取り組んでください。 		
教科書	添田啓子、鈴木千衣、他(2018)看護実践のための根拠がわかる 小児看護技術、メジカルフレンド社、第 2 版。 松尾宣武、濱中喜代(2016)健康障害をもつ小児の看護、メジカルフレンド社、第 5 版		
参考文献	石黒彩子、浅野みどり編「発達段階からみた小児看護過程」医学書院 鶴下重彦監修「子どもの病気の地図帳」講談社 山元恵子監修「写真でわかる小児看護技術」インターメディア		
研究室/オフィスアワー	132 研究室(黒岩志紀)/水曜日 16:20~18:00 234 研究室(徳島佐由美)/水曜日 16:20~18:00 331 研究室(安井者)/水曜日 16:20~18:00		
授業展開および授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	ガイダンス 看護過程アセスメント課題の提示 到達目標 ①小児看護の対象の特性を説明することができる ②小児看護の視点を説明することができる ③小児看護過程のアセスメント用紙について理解する	予習：シラバス、小児看護概論の復習 教科書の確認(p2-7, 8-10) 復習：講義の内容、資料の確認	徳島佐由美
2	小児の気管支喘息の病態について(講義) 到達目標 ①小児に気管支喘息の病態が説明できる ②発作時と非発作時の看護が説明できる 小児看護過程(講義)	予習：教科書の確認(小児看護学②健康障害を持つ小児の配布資料、393-401) 復習：講義内容、資料の確認	黒岩志紀
3	看護過程 1 (演習) 到達目標 ①小児看護の事例DVDを視聴し、取り組む看護過程の概要を説明することができる ②小児のアセスメントシートに情報を記入することができる	予習：演習内容の確認・教科書の確認(p8-10)1 回目の配布資料、看護過程について復習：講義内容、資料の確認	徳島佐由美
4	看護過程 2 (演習) 到達目標 事例の情報を記録用紙に整理し、意味を解釈することができる(個人ワーク) 看護過程演習 2 (演習)	予習：前配布資料 復習：講義内容、資料の確認	全員
5	看護過程 3 (演習) 到達目標	予習：前配布資料 復習：講義内容	全員

6	事例の情報を統合し、問題点を抽出することができる(個人ワーク)	予習：教科書の確認(p94-106) 復習：講義内容、資料の確認、教科書の確認	安井者
7	子どもの日常生活援助(講義) 到達目標 ①小児の皮膚の構造と機能が理解できる ②健康問題のある子どもの清潔援助の必要性が理解できる ③小児の歯の特徴が理解できる 子どもの日常生活援助(技術演習) 到達目標 ①安全、安楽に配慮した清潔援助(臀部浴)ができる ②発達段階に応じた清潔援助ができる 看護過程グループワーク(演習) 到達目標 計画表表に向けての指導案作成と準備をグループで話し合い実施することができる	予習：演習内容の確認、教科書の確認(p94-106) 復習：講義内容、資料の確認	全員
8	子どもの日常生活援助(講義) 到達目標 ①安全、安楽に配慮した清潔援助(臀部浴)ができる ②発達段階に応じた清潔援助ができる 看護過程グループワーク(演習) 到達目標 計画表表に向けての指導案作成と準備をグループで話し合い実施することができる	予習：教科書の確認(p119,125) 復習：講義内容、資料の確認	全員
9	子どものバイタルサイン測定・検体採取(講義) 到達目標 ①発達段階や病状に応じたバイタルサインの測定用具、測定方法を理解し、小児の安全、安楽に配慮した測定方法について説明できる ②小児にとって安全で苦痛の少ない検体採取の基本的技術を説明することができる 子どものバイタルサイン測定・検体採取(技術演習) 到達目標 ①発達段階と個別性に応じた測定用具、測定方法、測定技術を習得することができる ②腫膜炎疑いの幼児に、処置台で腫瘍穿刺の固定を実施できる	予習：教科書の確認(p77-92、p200-208) 復習：講義内容、配布資料の確認	徳島佐由美
10	看護過程グループワーク(演習) 事例の看護目標と計画立案をグループで話し合い実施することができる 子どものバイタルサイン測定・検体採取(技術演習) 到達目標 ①発達段階と個別性に応じた測定用具、測定方法、測定技術を習得することができる ②腫膜炎疑いの幼児に、処置台で腫瘍穿刺の固定を実施できる	予習：演習内容、教科書の確認(p77-92、200-208) 復習：講義内容、資料の確認、教科書の確認	全員
11	看護過程グループワーク(演習) 事例の看護目標と計画立案をグループで話し合い実施することができる 子どものバイタルサイン測定・検体採取(技術演習) 到達目標 ①発達段階と個別性に応じた測定用具、測定方法、測定技術を習得することができる ②腫膜炎疑いの幼児に、処置台で腫瘍穿刺の固定を実施できる 看護過程グループワーク(演習) 事例の看護目標と計画立案をグループで話し合い実施することができる 子どもの処置に伴う看護(講義)	予習：教科書の確認(p222-245、p286-293、p252-269) 復習：講義内容、資料の確認、教科書の確認	全員
12	子どもの処置に伴う看護(講義) 事例の看護目標と計画立案をグループで話し合い実施することができる 子どもの処置に伴う看護(講義)	予習：教科書の確認(p222-245、p286-293、p252-269) 復習：講義内容、資料の確認	徳島佐由美

13	<p>子どもの呼吸・栄養(技術演習)</p> <p>到達目標 ①気管支喘息の幼児と母親への説明を行い、協力を得ながら吸入を1分間実施する ②母親への説明を行い、乳児のモテル人形へ安全に配慮しながら経鼻栄養チューブ挿入長の測定を実施する</p> <p>看護過程グループワーク(演習)</p> <p>到達目標 看護計画の実演発表をすることができ</p>	<p>予習:演習内容、教科書の確認(p286-293、p252-259) 復習:講義内容、資料の確認</p>	<p>全員</p>
14	<p>子どもの呼吸・栄養(技術演習)</p> <p>到達目標 ①気管支喘息の幼児と母親への説明を行い、協力を得ながら吸入を1分間実施する ②母親への説明を行い、乳児のモテル人形へ安全に配慮しながら経鼻栄養チューブ挿入長の測定を実施する</p> <p>看護過程グループワーク(演習)</p> <p>到達目標 看護計画の実演発表をすることができ</p>	<p>予習:演習内容の確認、教科書の確認(p286-293、p252-259) 復習:演習内容、資料の確認</p>	<p>全員</p>
15	<p>看護過程のまとめ 講義のまとめ</p> <p>看護計画の方法と基準</p>	<p>予習:演習内容の確認、必要な資料の準備 復習:講義内容、資料の確認</p>	<p>全員</p>
<p>成績評価方法及び基準</p> <p>①定期試験 出題範囲:授業内で扱った範囲 ②レポート:演習の事前課題 看護過程 ※提出期限・作成方法等の詳細は、授業内で説明します 評価基準 授業内で示します ③4/5回以上の出席が必要です。</p>			

授業科目名		小児看護援助論II(看護) (Pediatric Nursing II)	
主担当教員	安井 浩	担当教員	安井 浩、黒岩 志紀、徳島 佐由美
科目ナンバリング	PN319	科目区分	専門分野II DP①④
配当年次	3	開講学期	前期
授業形態	演習	単位数	1
授業概要	<p>小児看護学概論、小児看護援助論Iおよび臨床看護学III、IV(小児疾病論)で学んだ内容を基礎に、健康障害や入院が子どもの成長発達 あるいは、家族に及ぼす影響を学び、子どもと家族への看護について学ぶ。また、さまざまな健康障害や健康レベル、状況にある子どもと家族の特徴、および、アセスメントの視点について学ぶ。</p> <p>黒岩志紀/4回 徳島佐由美/4回 安井 浩/8回</p>		
到達目標	<p>1. 健康障害や入院が、子どもの成長発達と家族に及ぼす影響を理解する。 2. 急性期から慢性期、終末期の各期と在宅療養における子どもと家族への看護を理解する。 3. 小児期の主な症状や疾患、その看護について理解する。 4. さまざまな発達段階にある健康障害をもつ子どもと家族に対するアセスメントの視点を理解する。 5. 小児のBLSを習得する。</p>		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	<p>・予め履修が望ましい教科目 フジカルアセスメント・医療概論・発達心理学(選択)・臨床看護学I～V ・11回目で行う救急蘇生では、上下ジャージ・ナーズシューズを着用すること。 「演習入室時の身だしなみ」に準ずること。</p>		
教科書	<p>松尾宣武、濱中喜代「健康障害をもつ小児の看護」メジカルフレンド社</p>		
参考書	<p>・子どもの病気の地図帳 嶋下重彦他 講談社 ・疾患別小児看護-基礎知識、関連図と実践事例- 桑野タイ子他 中央法規 ・図解よくわかる発達障害の子どもたち 榎原洋一 ナツメ社</p>		
研究室/オフィスアワー	<p>132 研究室(黒岩志紀)/水曜日 16:20～18:00 234 研究室(徳島佐由美)/水曜日 16:20～18:00 331 研究室(安井 浩)/水曜日 16:20～18:00</p>		
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	<p>ガイダンス 子どもの発達段階に匹じた看護(乳児期、幼児期、学童期、思春期、青年期) 到達目標 ①乳児期から青年期の各期の特徴から必要な看護が説明できる ②成人期への移行・過程を生きる小児と家族に必要な看護が説明できる</p>	<p>予習:シラバス、教科書の確認(p51-81、p594-602) 復習:講義の内容、教科書の確認</p>	安井 浩
2	<p>ハイリスク新生児の看護 到達目標 ①新生児期の成長・発達に及ぼす影響について説明できる ②ハイリスク新生児の看護について説明できる 各期(急性期・周手術期・慢性期・回復期)にある子どもと家族の看護</p>	<p>予習:新生児期の特徴(p35-51) 復習:講義内容、資料の確認</p>	外部講師
3	<p>到達目標 ①小児の急性期の特徴、手術の特徴と必要な看護が説明できる ②小児の救急蘇生における必要な看護が説明できる(RLS, ALS) ③小児の回復期の特徴、慢性疾患患者の必要な看護が説明できる</p>	<p>予習:急性期・周手術期の一般概念(p440-444、519-536) 小児の救急蘇生(p474-484) 慢性期、回復期の一般概念(p446-455) 復習:講義内容、資料の確認</p>	安井 浩
4	<p>在宅療養、障害のある子どもと家族の看護 到達目標 ①小児の在宅医療の特徴と療育生活することの</p>	<p>予習:在宅療養(p556-573)、障害のある小児と家族の看護(p537-543) 復習:講義資料、資料の確認</p>	徳島佐由美

成績評価方法と基準	
割合	①80% ②20%

番号	意義が説明できる ②心身障害児と家族への必要な看護が説明できる	予習・教科書の確認(p156-190) 復習：講義内容、資料の確認	安井 浩
5	小児にみられる主な症状と看護 到達目標 小児にみられる症状と看護が説明できる 「看護過程」をベースにした看護① (消化器系疾患、腎・泌尿器系疾患) 到達目標 ①小児期に多い腎疾患であるネフローゼ症候群の病期に応じた看護介入が説明できる ②口蓋裂の病態理解、必要な治療と看護が説明できる	予習：教科書の確認(p307-323、p324-340) 復習：講義内容、資料の確認	徳島佐由美
6	「看護過程」をベースにした看護② (循環器系) 到達目標 アロー一四徴症、川崎病の病態理解、必要な治療と看護が説明できる	予習：教科書の確認(p287-306) 復習：講義内容、資料の確認	黒岩志紀
7	「看護過程」をベースにした看護③ (内分泌・代謝系疾患) 到達目標 ①糖尿病(1型、2型)の病態を理解した上で1型糖尿病患者の看護介入の重要な項目が説明できる ②成長ホルモン分泌不全性低身長症の病態理解、必要な治療と看護が説明できる	予習：教科書の確認(p197-203、p386-392、p409-415) 復習：講義内容、資料の確認	安井 浩
8	「看護過程」をベースにした看護④ (呼吸器・アレルギー疾患) 到達目標 RV、肺炎、アトピー性皮膚炎の病態理解、必要な治療と看護が説明できる	予習：教科書の確認(p277-287、393-408) 復習：講義内容、資料の確認	黒岩志紀
9	「看護過程」をベースにした看護⑤ (小児がん・骨髄移植) 到達目標 ①白血病の病態理解、必要な治療と看護が説明できる ②骨髄移植の理解と治療を受ける子どもと家族の看護が説明できる	予習：教科書の確認(p364-375) 復習：講義内容、資料の確認	安井 浩
10	「看護過程」をベースにした看護⑥ (演習)子どもの救急蘇生 到達目標 ①気道閉塞の応急処置が習得できる ②子どもの救急蘇生の手順と根拠が理解できる ③正しい救急蘇生が習得できる	予習：教科書の確認(p474-484) 復習：講義内容、資料の確認	全員
11	子どもの自己決定権、リビングウィル、看取り等の終末期の子どもと家族の看護 到達目標 ①小児期における死の概念理解の時期が説明できる ②子どもの自己決定と法権について説明できる ③終末期の子どもと家族の看護が説明できる	予習：予後不良、終末期の一般概念(p456-465) 復習：講義内容、資料の確認	全員(成人看護と合同)
12	治療処置、検査を受ける子どもと家族の看護(プレバレーション) 到達目標 ①小児にとっての治療処置、検査の意味が説明できる ②プレバレーションの必要性が説明でき、プレバレーションの4段階が述べられる	予習：教科書の確認(p90-97、p468-473) 復習：講義内容、資料の確認	外部講師
13	小児看護の専門性 到達目標 ①小児救急看護認定看護師、小児看護専門看護師の役割が理解できる ②他の医療スタッフとの連携、家族との調整等の看護実践を知ることができる	予習：認定看護師、専門看護師関連の図書等 復習：講義内容、資料の確認	外部講師
14	発達障害のある子どもと家族の看護 到達目標 ①発達障害の3つのタイプについて理解できる ②発達障害をもつ子どもと家族の必要な看護が説明できる	予習：子どもの発達障害関連の図書等 復習：講義内容、資料の確認	安井 浩

精神看護学概論(看護) (Introduction to Psychiatric and Mental Health Nursing)			
授業科目名	運池 光人	担当教員	運池 光人
主担当教員	OMN321	専門分野Ⅱ	DP①
科目ナンバリング	2	開講学期	前期
配当年次	講義	単位数	2
授業形態			必修・選択
授業概要			
精神看護学概論では、精神看護実践の対象となる人間について「認識論」を学び理解を深める。さらに、精神看護の対象となる人々を理解し、ケアするための概略として、基礎知識となる理論・モデルにふれる。また、当事者の視点を多く取り入れ、多面的な理解をめざす。さらには、精神保健としての予防・啓発を踏まえたメンタルヘルズとその対策にふれる。			
※本科目は実務経験のある教員等による授業科目です			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 精神保健の定義と動向を理解する 精神看護実践の対象となる人々を理解しケアするための理論・モデルを理解する ライフサイクル・生活の場におけるメンタルヘルズに関心を寄せ、深く考える 人間のこころのあり方について理解する 		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	本科目は精神看護学科目の基礎であることに加え、精神看護学実習の先修条件科目であることを自覚したうえで主体的に学んでいただきたい。		
教科書			
系統看護学講座 精神看護学[1]			
系統看護学講座 精神看護学[2]			
参考書	<ul style="list-style-type: none"> 系統看護学講座 精神保健福祉 国民衛生の動向 薄井坦子 科学的看護論 		
研究室/オフィスアワー	331 研究室 月曜日～木曜日 10:40～12:00		
授業展開期及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	精神の健康とは 到達目標 ①精神看護学について理解を深める ②精神の健康・不健康について理解する	教科書[1]はしがき、第1章、第2章、配布資料	運池
2	人間としての内界の発達 到達目標 ①人間の内外界について考える	配布資料	運池
3	人間としての内外界の関係 到達目標 ①人間の内外界と人間関係について考える ②相手に寄り添うことについて考える	配布資料	運池
4	現代社会における精神保健の動向 到達目標 ①精神障害と治療の歴史を知る ②精神看護における法律・制度に関する動向について理解する	教科書[1]第1章、第2章、第7章、配布資料	運池
5	精神の病・障がいと生きにくさ 到達目標 ①精神疾患患者の病的体験の苦痛を理解する ②精神疾患患者の「生きにくさ」について理解する	教科書[1]第1章、第2章、第5章、配布資料	運池
6	精神看護における諸理論・モデル 到達目標 ①精神看護学で活用されている看護理論について理解する ②精神看護の背景を理解する	教科書[1]第1章、第2章、配布資料	運池
7	ストレスと健康の危機 到達目標 ①ストレスと健康の危機について理解する ②心身的危機が精神の健康に及ぼす影響について理解する ③ストレスを乗り越える力を理解する	教科書[1]第2章、配布資料	運池

8	人間の心の諸活動 ①人間の心について考えを深めることができる ②意識と認知機能について理解する ③感情について理解する	教科書[1]第3章、配布資料	運池
9	心のしくみと人格の発達(自我と防衛機制) ①自我同一性について考えることができる ②フロイトの自我の機能について理解する ③防衛機制について理解する	教科書[1]第3章、配布資料	運池
10	心のしくみと人格の発達(発達理論) ①発達理論について理解する ②エリクソンの漸成的発達理論について理解する ③発達段階ごとのメンタルヘルズの問題について考える	教科書[1]第3章、配布資料	運池
11	認識論と発達理論 ①人間の認識について理解する ②人間の認識と発達の関係について理解する	教科書[1]第4章、[2]第8章、第12章、配布資料	運池
12	対人援助職の感情を使いこなす能力 ①看護師における感情労働とメンタルヘルズについて考える ②感情のコントロールについて考える ③感情のセルフケアについて考える	教科書[1]第3章、[2]第8章、終章、配布資料	運池
13	バーノンリテヒキヤラクター ①バーノンリテヒキヤラクターについて理解する ②バーノンリテヒキヤラクターについて理解する	教科書[1]第4章、[2]第8章、第112章、配布資料	運池
14	リエゾン精神看護、一般科における精神看護 ①リエゾン精神看護について理解する ②看護師の精神的健康への支援について考える	教科書[2]第13章、第14章、配布資料	運池
15	精神看護学概論の振り返りとまとめ ①精神看護学について理解を深める ②精神看護学について自分なりの考えをもつ	配布資料	運池
成績評価方法と基準			
①定期試験(筆記)で評価する。 60点以上を単位認定とする			
・2/3以上の出席基準が定期試験受験資格となるが、先修条件科目であることから、原則として欠席は認めない			
・出席の代理行為は双方共に欠席扱いとする			
割合			
①100%			

精神看護援助論 I (看護) (Psychiatric and Mental Health Nursing I)			
授業科目名	精神看護援助論 I (看護)	担当教員	連池 光人、原 邦子、矢野 秀蔵
主担当教員	連池 光人	担当教員	連池 光人、原 邦子、矢野 秀蔵
科目ナンバリング	OMN322	専門分野 II	DP①④
配当年次	2	開講学期	後期
授業形態	演習	単位数	1
授業概要	<p>精神看護援助論 I では、精神看護実践の対象となる人々を理解しケアするための、看護理論を用いて、精神の疾患ごとの看護方法の、対象論、目的論、方法論について考えていく。また、地域における精神看護上の問題にも焦点をあてて、精神看護援助についての理解を深める。</p> <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 精神看護実践の対象となる人々への精神看護援助の、対象論、目的論、方法論について理解を深める 精神看護実践の対象となる人々を取り巻く倫理的問題に関心を寄せ、看護を学ぶ者としての態度を養う 地域における精神看護上の問題について考え、援助方法を理解する <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>本科目は精神看護学概論・臨床病態学Ⅲ(精神)・精神看護援助論Ⅱと関連し、精神看護学実習の先修条件科目であること、および、精神科以外の看護実践にも関係することを自覚のうえ、主体的に学ぶ姿勢を求める</p> <p>教科書</p>		
系統看護学講座	専門分野 II 精神看護学 I [1][2] 医学書院		
参考書	<ul style="list-style-type: none"> 系統看護学講座 精神保健福祉 医学書院 国民衛生の動向 服部祥子・生涯人間発達論 医学書院 その他、適宜紹介する <p>研究室/オフィスアワー</p> <p>授業初回に案内する</p>		
授業期間及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	<p>授業科目のガイダンス、精神看護の基礎</p> <p>①精神看護援助論 I の構成について理解する</p> <p>②精神看護の実践について知る</p>	別途提示する	連池
2	<p>統合失調症の看護</p> <p>①統合失調症の患者像について理解を深める</p> <p>②統合失調症の看護の視点、方法を理解する</p>	別途提示する	連池
3	<p>感情障害の看護</p> <p>①感情障害の患者像について理解を深める</p> <p>②感情障害の看護の視点、方法を理解する</p>	別途提示する	連池
4	<p>発達障害、不安障害、強迫性障害の看護</p> <p>①発達障害、不安障害、強迫性障害の患者像について理解を深める</p> <p>②発達障害、不安障害、強迫性障害の看護の視点、方法を理解する</p>	別途提示する	原
5	<p>PTSD、バーンアウト、障害の看護</p> <p>①PTSD、バーンアウト、障害の患者像について理解を深める</p> <p>②PTSD、バーンアウト、障害の看護の視点、方法を理解する</p>	別途提示する	ゲスト
6	<p>睡眠障害、摂食障害の看護</p> <p>①睡眠障害、摂食障害の患者像について理解を深める</p> <p>②睡眠障害、摂食障害の看護の視点、方法を理解する</p>	別途提示する	原
7	<p>精神科の検査と薬物療法</p> <p>①精神科で用いられる検査について理解を深める</p> <p>②精神科における薬物療法の意味と効果について知る</p>	別途提示する	連池
8	<p>精神科治療と看護①個人療法</p> <p>①個人療法の種類、内容について知る</p>	別途提示する	連池

②個人療法の意味と効果について考える			
9	<p>精神科治療と看護②集団療法</p> <p>①集団療法の種類、内容について知る</p> <p>②集団療法の意味と効果について考える</p>	別途提示する	連池
10	<p>精神科治療と看護③代替療法</p> <p>①代替療法の種類、内容について知る</p> <p>②代替療法の意味と効果について考える</p> <p>地域における精神保健</p>	別途提示する	連池
11	<p>①地域における精神に関する問題と予防を理解できる</p> <p>②地域で生活する精神を病む対象者の生活を考える</p>	別途提示する	連池
12	<p>地域における精神看護</p> <p>①地域における精神看護について理解できる</p> <p>②地域で生活する精神疾患患者を支えるための社会資源を知る</p>	別途提示する	連池
13	<p>プロセスレコード①</p> <p>①プロセスレコードの意味と考え方を理解できる</p>	別途提示する	連池
14	<p>プロセスレコード②</p> <p>①プロセスレコードを実際に作成することができる</p>	別途提示する	連池
15	<p>プロセスレコード③</p> <p>①プロセスレコードを用いて、過程を振り返り考察できる</p>	別途提示する	連池
成績評価方法と基準			割合
①定期試験(筆記)			①70%
②講義・演習への参加状況(提出物含)			②30%
<p>上記①②で総合的に評価し、60点以上を単位認定とする</p> <p>・4/5以上の出席基準を必要とする</p> <p>・出席の代理行為は双方共に欠席扱いとする</p>			

精神看護援助論Ⅱ(看護) (Psychiatric and Mental Health Nursing II)			
授業科目名	運池 光人	担当教員	運池 光人、原 邦子、矢野 秀蔵
主担当教員	OMN323	専門分野Ⅱ	DP①④
科目ナンバリング	3	開講学期	前期
配当年次	演習	単位数	1
授業形態		必修・選択	必修
授業概要	<p>精神看護学概論および精神看護援助論Ⅰで学習した知識を生かし、精神を病む人々に対して必要な看護を展開するためのより実践的な知識・技術を学ぶ。すなわち、精神を病む人々への安全・安楽に配慮した看護師の在り方、および患者―看護師の治療的関係を基盤とした対人プロセスを通して生活援助の具体的な方法と技術などについて学びを深める。</p> <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自由や権利を制限せざるを得ない状況がある精神科治療において、精神障害や精神疾患を抱えた人への尊厳を意識した看護援助の在り方について理解を深める。 ・人に直接はたらきかけるだけでなく、環境や人々の日常生活に働きかける看護師による社会療法についての学びを深める。 ・統合失調症の青年期・成人期における患者の事例を用い、看護理論に基づき看護過程の展開について理解することができる。 <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>本科目は、精神看護学実習の先修条件科目であること、精神科看護実践だけでなく全ての看護実践にも関係することを自覚した上で主体的に学ぶ姿勢を求める</p> <p>教科書</p> <p>系統看護学講座 精神看護学 [1] [2] 医学書院</p> <p>参考書</p> <p>適宜紹介する</p> <p>研究室/オフィスアワー</p>		
授業初回に案内する			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	自己理解、他者理解 到達目標 ①自分と相手との関係の中で感情が生じることを知り、その感情を手がかりにして、自分と相手を理解することが人間関係の前提であることを理解する。 ②自己の感情や言動を客観的に振り返り、自己の傾向に気づくことができる。	教科書 [2] 第7章、配布資料	原
2	精神看護における援助的・治療的関係の展開 到達目標 ①環境要因としての生活や人間関係に着目し、生活を通して患者に働きかける社会療法について理解する。 ②患者の特性を考慮し安全安楽に配慮した社会療法の企画が立案できる。	教科書 [2] 第7章、配布資料	原
3	精神看護における援助的・治療的関係の展開 到達目標 ①環境要因としての生活や人間関係に着目し、生活を通して患者に働きかける社会療法について理解する。 ②患者の特性を考慮し安全安楽に配慮した社会療法の企画が立案できる。	教科書 [1] 第5章、配布資料	原
4	精神科における入院環境とリスクマネジメント 到達目標 ①精神科医療における安全の基本的な考え方を知り、患者の安全を守る為のリスクマネジメントについて理解する。	教科書 [2] 第8章、配布資料	運池

5	行動制限(身体拘束)・暴力(OVPP) 到達目標 ①人権と治療・安全とのバランスを知り身体拘束・暴力の事態に対する看護者の適切な対応について学ぶ。	教科書 [2] 第8章、配布資料	原
6	演習・行動制限(身体拘束) 到達目標 ①患者、看護師の立場にたつて身体拘束の実際を体験することで、法律と人権について考え、また看護師としてのケアについて再確認する。	演習: 身体拘束体験学習	原 運池
7	演習・行動制限(身体拘束) 到達目標 ①患者、看護師の立場にたつて身体拘束の実際を体験することで、法律と人権について考え、また看護師としてのケアについて再確認する。	演習: 身体拘束体験学習	原 運池
8	演習・行動制限(OVPP) 到達目標 ①暴力の事態に対する看護者の適切な対応について学ぶ。	演習: OVPP 体験学習	原
9	精神科における看護過程と精神看護学実習の実際 到達目標 ①統合失調症の青年期における患者の事例を用い、ヘンダーソンのモデルに基づく看護過程について理解する。	教科書ヘンダーソンの看護論、配布資料	原
10	精神科における看護過程(情報の整理) 到達目標 ①基本的欲求を及ぼす常時存在する条件、基本内欲求を要請させる病理的状态、14の欲求について情報を確認し、充足・未充足を判断できる。	教科書ヘンダーソンの看護論、配布資料	原
11	全体像モデルについて 到達目標 ①全体像モデルについて理解を深める	配布資料	運池
12	心理的・身体的・社会的アセスメントプロセス① 到達目標 ①患者の全体像からアセスメントを深め患者のニーズを捉えることができる。	教科書ヘンダーソンの看護論、配布資料	原
13	心理的・身体的・社会的アセスメントプロセス② 到達目標 ①患者の全体像からアセスメントを深め患者のニーズを捉えることができる。	教科書ヘンダーソンの看護論、配布資料	原
14	看護上の問題と目標、計画立案 到達目標 ①看護上の問題点を統合し・優先度の確認・目標設定・計画立案ができる。	教科書ヘンダーソンの看護論、配布資料	原
15	実施、評価 到達目標 ①実施、評価の書き方が理解できる。	教科書ヘンダーソンの看護論、配布資料	原
成績評価方法と基準			
①定期試験(筆記) ②講義、演習への参加状況(提出物)			
上記①②で総合的に評価し、60点以上を単位認定とする ・4/5以上の出席基準を必要とする ・出席の代理行為は双方共に欠席扱いとする			
割合 ①50% ②50%			

授業科目名		成人看護学実習 I (急性)(看護) (Adult Nursing Practicum I (Acute))	
主担当教員	久木元 由紀子	担当教員	久木元 由紀子、吉村 弥須子、宮本 佳子
科目ナンバリング	AN306	科目区分	専門分野 II DP①②③④
配当年次	3	開講学期	後期
授業形態	実習	単位数	3
授業概要	<p>周手術期にある患者およびその家族の手術前・手術中・手術後の看護を実施する。手術を受ける患者の特徴を発達段階、病態生理をふまえてとらえ、病態生理的、状況的、治療的関連因子から予測される問題をアセスメントし、必要な看護を見出す。麻酔・手術侵襲によって生じる生体反応や心理的反応を理解し、手術前から手術後の合併症予防、回復促進、退院後の QOL も視野に入れた看護を実施する。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 手術を受ける患者の特徴を発達段階、病態生理をふまえて理解することができる。 2. 手術を受ける患者および家族の手術前の看護を実施することができる。 3. 手術中の看護を理解することができる。 4. 麻酔・手術侵襲に伴って生じる生体反応を理解することができる。 5. 術後の合併症予防、疼痛の緩和、ADL 拡大の看護を実施することができる。 6. 患者および家族の心理状態に応じた看護を実施することができる。 7. 患者および家族の社会的役割・機能に基づく退院支援について考えることができる。 8. 周手術期にある患者の看護週 <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 3 年次前期までの履修科目の復習をして実習に臨む。 2. 受持ち患者の発達段階、疾患に関する解剖生理学、病態生理学、治療、術式、術後合併症、看護など十分に学習する。 3. 看護技術の復習、練習を行って実習に臨む。 		
教科書	<p>成人看護学概論 成人看護学援助論 臨床病態学の授業で使用したテキスト、講義資料</p> <p>・鎌倉やい他、周手術期の臨床判断を磨く 手術侵襲と生体反応から導く看護 医学書院</p>		
参考文献	<p>・速達トン子編集「ハンダーソン・ゴードンの考えに基づく実践看護アセスメント第 3 版」ヌーヴェルヒロカワ</p>		
授業期間及び授業計画表	<p>久木元 239 研究室:実習不在の場合があるので随時相談可。</p>		
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習期間 3 週間 2. 実習場所 大阪急病期・総合医療センター、大手前病院、大阪鉄道病院 3. 実習方法 1) 病棟実習:手術を受ける患者を 1 名受持ち、看護過程を展開する。 2) 見学実習:病院実習初日に、手術室、ICU 見学実習を行う。受け持ち患者が手術を受ける際、患者とともに手術室に入室し、手術および手術看護の実際を見学する。 3) 学内実習:受け持ち患者の看護過程に関する学習、看護技術練習、実習記録、実習の振り返り、カンファレンスなどを行う。 4) カンファレンス:実習中に適宜カンファレンスを実施する 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 事前学習課題 実習開始までに下記の課題を行いファイルにまとめ、 1) 発達段階:成人期、老年期の特徴 2) 周手術期看護:術前、術中、術後の看護、術後合併症とその予防 3) 疾患と看護:実習に行く病棟の代表的な疾患に関する解剖、生理、病態、疫学、症状、診断(検査)、治療、看護 4) 看護技術:術前訓練、酸素吸入療法、深部静脈血栓症予防、フィジカルアセスメント、ドレーン管理、術後患者の全身清拭・着衣交換など 5) 成人看護学実習 I の抱負を実習初日に提出する。 3. 実習記録 1) 行動計画表を毎日記載し、担当 	割合
成績評価方法と基準			
実習態度、実習内容、実習記録等を総合的に評価する。原則として全出席が評価の対象。			
1			

授業科目名		成人看護学実習 II (慢性)(看護) (Adult Nursing Practicum II (Chronic))	
主担当教員	藤本 陽子	担当教員	藤本 陽子、澤田 悦子、高木 みどり
科目ナンバリング	AN307	科目区分	専門分野 II DP①②③④
配当年次	3	開講学期	後期
授業形態	実習	単位数	3
授業概要	<p>病気をもちながら生活する成人の患者を理解し、自己管理能力を高める援助方法について学び、対象者の状況や、変化に応じた看護を実施するための基礎的な知識・技術・態度を習得する。また、生活をもとにする家族の不安や苦勞を理解した上で、個別的特徴をとらえた援助方法を学ぶ。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 慢性疾患患者の抱える問題を理解し、身体的・精神的・社会的苦痛を理解することができる。 2) 慢性疾患患者・家族が日常生活を送るうえでの問題点を明らかにすることができる。 3) 慢性疾患患者のセルフマネジメントを促す援助を行う。 4) 慢性疾患患者と家族を支える多職種連携の役割を理解し、チームメンバーとしての責任ある行動がとれる。 5) 慢性疾患患者の看護過程の展開と実践ができる。 6) 慢性疾患患者を通して自己洞察を深め、自己の課題を明確にできる。 <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 3 年次前期までの履修科目の復習をして実習に臨む。 2. 受持ち患者の発達段階、疾患に関する解剖生理学、病態生理学、治療、検査、看護など十分に学習する。 3. 看護技術の復習、練習を行って実習に臨む。 <p>教科書</p> <p>成人看護学、臨床病態学の授業で使用したテキスト、講義資料</p> <p>参考書</p> <p>・速達トン子編集「ハンダーソン・ゴードンの考えに基づく実践看護アセスメント第 3 版」ヌーヴェルヒロカワ</p> <p>松本千明著「健康行動理論の基礎」生活習慣病を中心に 医歯薬出版株式会社</p> <p>研究室 / オフィスアワー</p> <p>W棟 研究室 331 藤本美紀 実習期間中の帰校日</p> <p>W棟 研究室 332 藤本陽子 実習期間中の帰校日</p> <p>授業展開及び授業計画表</p>		
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習期間 3 週間 2. 実習場所 大阪急病期・総合医療センター、鉄道病院 3. 実習方法 1) 病棟実習:慢性疾患の患者を 1 名受持ち、看護過程を展開する。 2) 見学実習:受け持ち患者と家族に対して指導案を作成し指導を実施する。実習期間に検査、処置等がある場合、その介助や看護の実際を見学する。 3) 学内実習:受け持ち患者の看護過程に関する学習、看護技術練習、実習記録、実習の振り返り、カンファレンスなどを行う。 4) カンファレンス:実習中に適宜カンファレンスを実施する。中間合同カンファレンスには資料を作成する。 5) 詳細は成人看護学実習 II 要項を参照 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 事前学習課題 実習開始までに下記の課題を行いファイルにまとめ、 1) 慢性疾患患者の特徴と健康行動理論について 2) 疾患と看護:実習に行く病棟の代表的な疾患に関する解剖、生理、病態、疫学、症状、診断(検査)、治療、看護 3) 看護技術:フィジカルアセスメント、日常生活自立できていない患者の全身清拭・着衣交換など 2. 患者教育:糖尿病、腎疾患、呼吸器疾患、循環器疾患等に対して、自己管理能力を高める援助。家族支援や家族指導。 3. 「成人看護学実習 I の抱負」を実習初日に提出する。 4. 実習記録 1) 行動計画表を毎日記載し、担当看護師に発表する。 2) 中間カンファレンスまでに、情報の整理とアセスメント、関連図、看護計画立案を行う。 3) 看護計画に基づき実施したことを、実施・評価に記載する。 4) 見学実習記録を記載する。 5) 実習記録は、実習最終日の 16:00 までに提出する。 	

<p>5. 中間カンファレンス</p> <p>1) 関連図と看護計画を資料として作成する。 2) カンファレンスの司会・進行、時間調整、場所の確認は学生が行い、主体的に取り組む。</p> <p>6. 日々の予習復習</p> <p>1) 事前学習の復習 2) 日々の看護に必要な学習 3) 臨地実習指導者や教員から指導や助言のあった学習</p> <p>7. 「成人看護学実習Ⅱの学び」を実習最終日の16:00までに提出する。</p>	<p>割合</p> <p>1</p>
---	--------------------

<p>授業科目名 老年看護学実習Ⅰ(看護) (Gerontological Nursing Practicum I)</p>		<p>担当教員 南部 登志江、外村 昌子、津崎 勝代</p>	
<p>主担当教員 南部 登志江</p>	<p>科目ナンバリング GN311</p>	<p>科目区分 専門分野Ⅱ</p>	<p>該当項目 DP①②③④</p>
<p>配当年次 3</p>	<p>開講学期 後期</p>	<p>曜日・時間 実習</p>	<p>必修・選択 必修</p>
<p>授業形態 実習</p>	<p>単位数 3</p>	<p>到達目標</p>	
<p>1. 医療施設の概要および老年期の人々の健康問題について理解できる。 2. 受け持ち老年患者を通して看護過程が展開できる。 3. 老年患者、家族の自己決定を尊重したアセスメントができる。 4. 個別性のある看護計画を立案し、実施・評価ができる。 5. 受け持ち老年患者の日常生活援助などの看護ケアができる。 6. 社会資源を活用しながら、社会生活への適応や自立を促した看護が理解できる。</p>			
<p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p>			
<p>退実習や再実習は、病院の受け入れ状況により非常に困難であるので、健康管理に留意して欠席しないこと。 予め履修が望ましい教科目 老年看護学概論 老年看護援助論Ⅰ・Ⅱ</p>			
<p>教科書</p>			
<p>老年看護学概論ならびに老年看護援助論で用いたテキスト その他、実習中に適宜紹介する。</p>			
<p>参考書</p>			
<p>北川公子他著 系統看護学講座「老年看護学」第9版、医学書院 鳥羽研二他著 系統看護学講座「老年看護・病態・疾患論」第5版 医学書院</p>			
<p>研究室/オフィスアワー</p>			
<p>上西洋子 west port3 階 338 研究室/ 後期木曜 17 時～18 時 外村昌子 west port2 階 234 研究室/ 後期木曜 17 時～18 時 津崎勝代 west port1 階 132 研究室/ 後期木曜 17 時～18 時</p>			
<p>授業展開及び授業計画表</p>			
<p>回数</p>	<p>1</p>	<p>学修内容</p> <p>1. 実習期間 3 週間 2. 実習場所 阪和第二東北病院 藤井会リハビリテーション病院 石切生喜病院 日本生命病院 3. 実習方法 1) 機構実習・健康障害を持つ患者を 1 名受け持ち、看護過程を展開する。 2) 学内実習:受け持ち患者の看護過程に関する学習、実習記録、実習の振り返りなどを行う。 3) ミーティング、カンファレンス:実習中に実施する。ミーティング、カンファレンスには資料を作成する。 4) 詳細は老年看護学実習Ⅰ要項を参照。</p>	<p>予習・復習・課題等</p> <p>1. 事前学習 1) 老年期に特徴的な疾患とその看護 老年期における心身の特徴 2) ハイタルサイン測定・日常生活援助などの基礎看護技術 3) 受け持ち患者に関する疾患とその看護 2 「老年看護学実習Ⅰの抱負」を実習初日に提出する。 3. 実習記録 1) 行動計画表を毎日記載し、担当看護師に発表する。 2) 行動計画表に基づき実施内容を、評価・反省を記載する。 3) 看護過程の展開として、情報の整理とアセスメント、全体図、看護計画立案、評価を行う。 4) 看護計画に基づき経過記録を記載する。 5) ミーティング・カン</p>
<p>成績評価方法と基準</p>			
<p>実習内容・態度および実習記録を総合して評価する。 原則として全出席が評価の対象。</p>			
<p>割合</p>			<p>実習内容・態度 60%実習 記録 40%</p>

老年看護学実習Ⅱ(看護) (Gerontological Nursing Practicum II)											
授業科目名	老年看護学実習Ⅱ(看護)	担当教員	南部 登志江、外村 昌子、津崎 勝代								
主担当教員	南部 登志江	専門分野Ⅱ	DP①②③④								
科目ナンバリング	GNS12	科目区分	後期								
配当年次	3	開講学期	後期								
授業形態	実習	単位数	1								
授業概要	高齢社会における医療・介護・福祉施設の概要および様々な施設で生活する老年期の人々の健康問題や、施設サービスの場における老年者の特徴を理解して、人々の健康問題について理解を深めるとともに、入所している老年者のコミュニケーションや援助を通して、クオリティ・オブ・ライフ(QOL)について考え、老年期の生活に基づいた看護のあり方を学ぶ。										
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢社会における医療・介護・福祉施設の概要を知る。 2. 老年保健施設及び介護老人福祉施設における対象の生活の実態を知る。 3. 老年期にある人々の健康問題について理解を深める。 4. 老年者のクオリティ・オブ・ライフ(QOL)について考えることができる。 5. 老年期の生活に基づいた看護のあり方について考えることができる。 										
履修上の注意(学生へのメッセージ)	追実習や再実習は、病院の受け入れ状況により非常に困難であるので、健康管理に留意して欠席しないこと。										
教科書	予め履修が望ましい教科書:老年看護学概論、老年看護学援助論Ⅰ・Ⅱ										
参考書	北川公子他著 系統看護学講座「老年看護学」第9版 医学書院 鳥羽研二他著 系統看護学講座「老年看護・病態・疾患論」第5版 医学書院										
研究室/オフィスアワー	上西洋子 west port3 階 338 研究室/ 後期木曜 17 時～18 時 外村昌子 west port2 階 234 研究室/ 後期木曜 17 時～18 時 津崎勝代 west port1 階 134 研究室/ 後期木曜 17 時～18 時										
授業展開及び授業計画表	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>学修内容</th> <th>予習・復習・課題等</th> <th>担当</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習期間 1 週間 2. 実習場所 特別養護老人ホーム 浜木綿苑 特別養護老人ホーム 飯和苑 特別養護老人ホーム 栢風苑 介護老人保健施設 雅秀苑 介護老人保健施設 聖和苑 3. 実習方法 1) 入所者の生活援助を見学、経験する。 2) 通所者のデイケア、またはデイサービスを見学、経験する。 3) 入所者を対象としたレクリエーションを行う。 4. 詳細は老年看護学実習Ⅱ要項を参照。 </td> <td> <ol style="list-style-type: none"> 1. 事前学習 1) 老年期に特徴的な疾患とその看護 老年期における心身の特徴 2) 介護保険法と高齢者施設の概要について 2. 「老年看護学実習Ⅱの抱負」を実習初日に提出する。 3. 実習記録 1) 行動計画表を毎日記載する。 2) 行動計画表に基づき体験、見学、学びについて記録する。 3) ミーティング・振り返り会の記録を記載する。 4. ミーティング・振り返り会 1) 入所者の生活援助を見学、経験する。 2) 通所者のデイケア、またはデイサービスを見学、経験する。 3) 入所者を対象としたレクリエーションを行う。 4. 詳細は老年看護学実習Ⅱ要項を参照。 </td> <td>割合 実習内容・態度 60% 実習記録 40%</td> </tr> </tbody> </table>			回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当	1	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習期間 1 週間 2. 実習場所 特別養護老人ホーム 浜木綿苑 特別養護老人ホーム 飯和苑 特別養護老人ホーム 栢風苑 介護老人保健施設 雅秀苑 介護老人保健施設 聖和苑 3. 実習方法 1) 入所者の生活援助を見学、経験する。 2) 通所者のデイケア、またはデイサービスを見学、経験する。 3) 入所者を対象としたレクリエーションを行う。 4. 詳細は老年看護学実習Ⅱ要項を参照。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 事前学習 1) 老年期に特徴的な疾患とその看護 老年期における心身の特徴 2) 介護保険法と高齢者施設の概要について 2. 「老年看護学実習Ⅱの抱負」を実習初日に提出する。 3. 実習記録 1) 行動計画表を毎日記載する。 2) 行動計画表に基づき体験、見学、学びについて記録する。 3) ミーティング・振り返り会の記録を記載する。 4. ミーティング・振り返り会 1) 入所者の生活援助を見学、経験する。 2) 通所者のデイケア、またはデイサービスを見学、経験する。 3) 入所者を対象としたレクリエーションを行う。 4. 詳細は老年看護学実習Ⅱ要項を参照。 	割合 実習内容・態度 60% 実習記録 40%
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当								
1	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習期間 1 週間 2. 実習場所 特別養護老人ホーム 浜木綿苑 特別養護老人ホーム 飯和苑 特別養護老人ホーム 栢風苑 介護老人保健施設 雅秀苑 介護老人保健施設 聖和苑 3. 実習方法 1) 入所者の生活援助を見学、経験する。 2) 通所者のデイケア、またはデイサービスを見学、経験する。 3) 入所者を対象としたレクリエーションを行う。 4. 詳細は老年看護学実習Ⅱ要項を参照。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 事前学習 1) 老年期に特徴的な疾患とその看護 老年期における心身の特徴 2) 介護保険法と高齢者施設の概要について 2. 「老年看護学実習Ⅱの抱負」を実習初日に提出する。 3. 実習記録 1) 行動計画表を毎日記載する。 2) 行動計画表に基づき体験、見学、学びについて記録する。 3) ミーティング・振り返り会の記録を記載する。 4. ミーティング・振り返り会 1) 入所者の生活援助を見学、経験する。 2) 通所者のデイケア、またはデイサービスを見学、経験する。 3) 入所者を対象としたレクリエーションを行う。 4. 詳細は老年看護学実習Ⅱ要項を参照。 	割合 実習内容・態度 60% 実習記録 40%								

母性看護学実習(看護) (Maternal Nursing Practicum)															
授業科目名	母性看護学実習(看護)	担当教員	橋本 富子、家曾 美里、樋口 優子												
主担当教員	橋本 富子	専門分野Ⅱ	DP①②③④												
科目ナンバリング	MNS16	科目区分	後期												
配当年次	3	開講学期	後期												
授業形態	実習	単位数	2												
授業概要	リプロダクティブヘルスの観点で生み育てる女性の健康支援における基礎的能力を養うとともに、看護実践を通して周産期における母性看護の特性と役割を学ぶ。														
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 対象を通して、産前・新生児期のフジカルアセスメントを行い、健康状態を評価する。 2. 妊娠期・分娩期・産褥期における女性と新生児の健康を向上するためのための考察と看護の必要性が理解できる。 3. 対象を通して、Wellnessの観点でアセスメントを行い、看護実践ができる。 4. 対象を通して家族関係の再構築と愛着形成について理解する。 5. 母子と家族とエンパワメントするための支援を理解し実践できる。 6. 母子を支える社会資源の活用と看護の役割を理解する。 7. 母子保健システムに関する各職種の役割について理解する 														
履修上の注意(学生へのメッセージ)	原則として記録の提出がない場合は、看護実践に関わることができない。														
教科書	購入した既習教科書全て														
参考書	母性看護学援助論Ⅰ・Ⅱで配布した資料 事前課題 その他各自が必要とするもの														
研究室/オフィスアワー	担当教員に事前連絡をして訪ねること														
授業展開及び授業計画表	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>学修内容</th> <th>予習・復習・課題等</th> <th>担当</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>産科病棟において周産期の母子を受け持ち、ウェルネスの看護の視点に基づきアセスメントし、必要な看護を実践し評価する。</td> <td>1. 受け持ち開始時より母子のフジカルアセスメントができるように事前学習を深めておくこと。 2. 分娩期の実習は、ケアの実践ができるように、必要な看護計画を事前に準備しておくこと。</td> <td>母性看護学 教員</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>地域の「つどいの広場」で、子育てする母子とその家族に対してエンパワメントの視点で関わり、対象理解を深める。また健康教育を実践、評価する。</td> <td>1. 現代社会における子育てに関する問題について調べておくこと 2. 母子を支えるための社会資源とその役割について調べておくこと 3. 健康教育の指導計画書案作成、媒体準備、実施練習を事前にしておくこと</td> <td>母性看護学 教員</td> </tr> </tbody> </table>			回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当	1	産科病棟において周産期の母子を受け持ち、ウェルネスの看護の視点に基づきアセスメントし、必要な看護を実践し評価する。	1. 受け持ち開始時より母子のフジカルアセスメントができるように事前学習を深めておくこと。 2. 分娩期の実習は、ケアの実践ができるように、必要な看護計画を事前に準備しておくこと。	母性看護学 教員	2	地域の「つどいの広場」で、子育てする母子とその家族に対してエンパワメントの視点で関わり、対象理解を深める。また健康教育を実践、評価する。	1. 現代社会における子育てに関する問題について調べておくこと 2. 母子を支えるための社会資源とその役割について調べておくこと 3. 健康教育の指導計画書案作成、媒体準備、実施練習を事前にしておくこと	母性看護学 教員
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当												
1	産科病棟において周産期の母子を受け持ち、ウェルネスの看護の視点に基づきアセスメントし、必要な看護を実践し評価する。	1. 受け持ち開始時より母子のフジカルアセスメントができるように事前学習を深めておくこと。 2. 分娩期の実習は、ケアの実践ができるように、必要な看護計画を事前に準備しておくこと。	母性看護学 教員												
2	地域の「つどいの広場」で、子育てする母子とその家族に対してエンパワメントの視点で関わり、対象理解を深める。また健康教育を実践、評価する。	1. 現代社会における子育てに関する問題について調べておくこと 2. 母子を支えるための社会資源とその役割について調べておくこと 3. 健康教育の指導計画書案作成、媒体準備、実施練習を事前にしておくこと	母性看護学 教員												
成績評価方法と基準	割合 母性看護学実習評価基準に基づき採点する。														
備考	平成 30 年度母性看護学実習要項評価基準に基づき採点する。原則として全出席が評価の対象となる。														

授業科目名		小児看護学実習(看護) (Pediatric Nursing Practicum)	
主担当教員	黒岩 志紀	担当教員	黒岩 志紀、徳島 佐由美、安井 渚
科目ナンバリング	PN320	科目分野II	専門分野II
配当年次	3	開講学期	後期
授業形態	実習	単位数	2
授業概要	健康な子どもとの関わりをおとし、乳幼児期の成長発達の特徴を学ぶとともに、健康障害をもつ小児各期(乳幼児期・学童期・思春期)の子どもと家族を把握し、看護の必要性を考へ、そのために保健所実習1週間、病棟実習1週間を構成し、健康な子どもの成長発達を理解したうえで健康障害のある子どもを対象に看護を実践する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの身体的・精神的・社会的な成長発達を総合的に理解する。 2. 子どもの生活環境と生活リズムを理解する。 3. 子どものかかわりをおとし、発達にむくコミュニケーションを理解する。 4. 健康障害をもつ子どもの身体的・精神的・社会的要因を総合的に理解する。 5. 健康障害をもつ子どもと家族の問題について多角的に理解する。 6. 健康障害をもつ子どもと家族に対する看護の実践を理解する。 7. 実習全体をおとし、自己の小児看護観を深める。 		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	※「看護学臨地実習要項」と「小児看護学実習要項」は必携。 実習事前課題を提示する。 原則として次席は認められないので、常に自己の健康管理に十分配慮すること。 原単位として実習については、検便の実施(すべて強制であること)が要件である。		
教科書	教科書 小児看護援助論Ⅰ・Ⅱで使用したテキスト、配布資料等		
参考書	鈴木康之監修「写真でわかる重症心身障害児(者)のケア」インターメディア、2015年 東京邦「訪問看護師のための重症心身障害児在宅療養支援マニュアル」、平成23年 Nancy R. Finnle 編著梶浦一郎、鈴木恒彦「脳性まひ児の家庭療育」原書第3版、医歯薬出版、2003年 「総持業」重症心身障害児の看護、小児看護、Vol. 34, No. 5、へるす出版、2011年 山下重彦監修「子どもと病気の地図帳」講談社 山元恵子監修「写真でわかる小児」		
研究室/オフィスアワー	132 研究室(黒岩志紀)/水曜日 16:20~18:00 234 研究室(徳島佐由美)/水曜日 16:20~18:00		
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	<p>保育所実習では、配置された園、クラスにおいて園児と関わり、子どもの成長発達を理解するとともに保育士の園児への関わりから発達段階に応じた保育の実践を学ぶ。</p> <p>病棟実習(病院あるいは、障害児施設)では、患児を受け持ち、看護過程(アセスメント-看護計画立案-実施-評価)を展開する。</p> <p>病棟実習は、保健所実習での乳幼児期における健康な子どもの発達の理解に基づいて展開される。</p>	予習・復習・課題等	担当
成績評価方法と基準	<p>①ルーブリックによる評価 ルーブリックは事前に提示する 原則として全出席が評価の対象となる</p>		

授業科目名		精神看護学実習(看護) (Psychiatric and Mental Health Nursing Practicum)	
主担当教員	蓮池 光人	担当教員	蓮池 光人、原 邦子、矢野 秀蔵
科目ナンバリング	OMN324	科目区分	専門分野II
配当年次	3	開講学期	後期
授業形態	実習	単位数	2
授業概要	精神看護学実習では、精神看護実践の対象者についての理解を深め、対象者の強みと可能性を活かした個別的な援助ができる能力を養う。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 対象者に関心を注ぎながら、ケアにおける対人関係が形成・展開できる 2. 精神的健康問題が及ぼす影響について、セルフケア看護アプローチを用いて理解し、看護師としての必要な援助計画が具体的に立案できる 3. 援助計画の一部を実践しながら、対象者のよりよい状態に向けた看護援助が展開できる 4. プロセスレコードを用いて対象者への働きかけを振り返り、自己理解や相互理解の展開に活かすことができる 5. 対象者に関する倫理的な事例に関心を寄せ、看護を学ぶものとして行動できる 		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	* 具体的到達目標は、「看護学臨地実習要項」に記載		
教科書	<p>・本科目は、「精神看護学概論」「精神看護援助論Ⅰ」「精神看護援助論Ⅱ」を履修し、単位を修得しておかなければ履修できない(先修条件)</p> <p>・臨地実習における具体的な注意事項は、「看護学臨地実習要項」「精神看護学実習要項」に記載</p>		
系統看護学講座	精神看護学 [1][1][2] 医学書院		
参考書	精神看護学概論、精神看護援助論Ⅰ・Ⅱ、臨床病態学Ⅲ(精神)、集団援助論(精神)、集団援助論(精神)の講義資料および各科目で提示した参考図書・文献など		
研究室/オフィスアワー	研究室/オフィスアワー		
精神看護学教員随時対応	精神看護学教員随時対応		
授業展開及び授業計画表	授業展開及び授業計画表		
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	精神看護学実習要項 参照	精神看護学実習要項 参照	割合
成績評価方法と基準	<p>・実習態度および達成度を総合的に評価し、60点以上を単位認定とする ・原則として全出席が評価の対象となる</p> <p>* 詳細は、「看護学臨地実習要項」「精神看護学実習要項」に記載</p>		

授業科目名		在宅看護概論(看護) (Introduction to Home Care Nursing)	
主担当教員	清水 容子	担当教員	清水 容子・升田 勇賀子
科目ナンバリング	HHN401	統合分野	ケアロボティクス 該当項目
配当年次	2	開講学期	前期
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	<p>わが国は世界一の高齢先進国となり、とりわけ後期高齢者の増加が著しい。また生活状況の変化と医療の進歩により、疾病や障害を持ちながら生活する人々が増加している。これらの理由から、ますます在宅ケアのニーズが増大してきている。これらに対応するため、在宅ケアの実践にむけての対策が急務となっている。在宅看護概論では、わが国の在宅ケアの現状と将来像を視野におき、在宅看護の概要と特性について理解し、在宅ケアにおける看護の役割について学習する。また今後の在宅分野における看護のあり方について学習する。</p>		
到達目標	<p>1 在宅看護の必要性と社会歴史的背景を理解する。 2 在宅看護の特徴について述べる事が出来る。 3 在宅看護の対象となる本人と家族の理解とアセスメントの視点を理解する。 4 在宅看護を支える法制度について理解できる。 5 在宅におけるリスクマネジメントについて理解できる。 6 人生の最終段階における在宅看護について理解できる。</p>		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	他領域の学修との関連を理解し、講義の予習復習を確実にし、授業に望む。		
教科書	「在宅看護論」石垣和子、上野まり/南江堂		
参考書			
国民衛生の動向	その他授業で適宜紹介する。		
研究室/オフィスアワー			
清水:西棟336号室	(事前に連絡をとり日程調整をすること)		
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	在宅看護の概念1 歴史的変遷と社会的背景	予習:シラバス・教科書の確認、今日の医療の現状について考察し講義に望む。 復習:教科書・配布資料の確認 予習:在宅看護の現状資料のデータ読み取りをする	清水
2	在宅看護の概念2 在宅看護の特徴	復習:在宅看護の現状資料のデータ読み取りをする 在宅看護と病院看護の違いについて考える 復習:教科書・配布資料の確認	清水
3	在宅看護の法的基盤と在宅ケアシステム 一介護保険制度一	予習:教科書の確認 健康保険制度・介護保険制度について学習 復習:教科書・配布資料の確認	升田
4	在宅看護の法的基盤と在宅ケアシステム 一その他の制度一	予習:教科書の確認 復習:教科書・配布資料の確認	升田
5	訪問看護制度 一在宅ケアマネジメントと訪問看護一	予習:教科書の確認 復習:教科書・配布資料の確認	升田
6	在宅看護における連携	予習:教科書の確認 復習:教科書・配布資料の確認	升田
7	在宅看護における姿勢と考え方 (倫理的課題を言む)	予習:看護における倫理的課題について既習内容を復習して講義に臨む 復習:教科書・配布資料の確認	清水
8	在宅看護の対象特徴 一対象としての本人と家族一	予習:教科書の確認 復習:教科書・配布資料の確認	清水
9	在宅看護における家族支援のあり方 一介護問題を中心に一	予習:教科書の確認 復習:教科書・配布資料の確認	清水
10	在宅看護過程の展開1 一ヘルスケアマネジメント一	予習:教科書の確認 復習:教科書・配布資料の確認	清水

在宅看護過程の展開2		予習:教科書の確認 復習:教科書・配布資料の確認	清水
11	環境のアセスメント一	予習:教科書の確認 復習:教科書・配布資料の確認	清水
12	在宅看護過程の展開3 一家族アセスメント・生活の理解一	予習:教科書の確認 復習:教科書・配布資料の確認	清水
13	在宅看護におけるリスクマネジメント 一感染・事故・災害の対応策一	予習:教科書の確認 復習:教科書・配布資料の確認	升田
14	人生の最終段階における在宅看護1	予習:在宅ケア資料について熟読し感想を書きこく 復習:教科書・配布資料の確認	清水
15	人生の最終段階における在宅看護2	予習:教科書の確認 復習:教科書・配布資料の確認	清水
成績評価方法と基準			
1. 筆記試験			
2. 小テスト(その日・前回の講義内容について、事前課題内容についての簡単な振り返り程度) レポート(提出期限厳守)			

在宅看護援助論Ⅰ(看護)(Home Care NursingⅠ)			
授業科目名	担当教員	担当教員	升田 寿賀子、清水 容子、綿治 葉子
主担当教員	升田 寿賀子	該当項目	ディプロマポリシー
科目ナンバリング	HN402	科目区分	統合分野 DP①②④
配当年次	2	開講学期	後期 火曜 3限
授業形態	演習	単位数	1 必修
授業概要	在宅看護援助論Ⅰでは、在宅看護を実践するために必要な知識・技術・態度を学ぶ。療養者・家族の生活全体を把握し、療養者本人の安全・安楽・自立・家族介護者の介護の軽減を図ることができ看護技術や本人・家族への指導、在宅での工夫を学修する。また、在宅ケアに関わる他職種との連携や医療処置等の指導方法についても学修する。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 1 療養者・家族への日常生活上の支援の必要性と方法が理解できる。 2 療養者への日常生活上援助の具体的な方法が実施できる。 3 在宅での医療処置の具体的な方法が実施できる。 4 他職種との連携内容や医療処置の指導内容方法が理解できる。 		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	<ul style="list-style-type: none"> 1 必ず基礎看護学で学修した解剖生理・看護技術の復習を行い講義・演習に臨む。 2 演習時は、半袖白ボロシャツ、大学指定上下ジャージ、白靴下、ナースシューズ、名札を着用し、身だしなみを整え積極的な姿勢で行う。 3 演習の準備・後片付けを行い、物品は丁寧に扱う。 4 演習前後のレポート提出は時間厳守すること。 		
教科書	「在宅看護論」石垣和子・上野まり/南江堂		
参考書			
授業で通覧紹介する。			
研究室/オフィスアワー			
升田：西棟 634 研究室 通直アポイントをとること			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	在宅における移動の支援 1	予習：シラバス、教科書の確認、在宅看護概論の内容を復習し、既習の移動・移乗、援助方法について学習 復習：事前課題、教科書の確認 予習：事前課題、第 1 回の復習、麻痺のある療養者の体位交換、移乗、床からの立ち上がりについて学習 復習：事後課題、教科書・配布資料の確認	清水
2	在宅における移動の支援 2(演習) ・体位交換 ・車椅子移乗 ・床からの立ち上がり	予習：事前課題、教科書・配布資料の確認 復習：事後課題、教科書・配布資料の確認 予習：事前課題、第 3 回の復習、経管栄養法、PEG、在宅中心静脈栄養法について学習 復習：教科書・配布資料の確認	全員
3	在宅における食の支援 1	予習：事前課題、既習の食事・栄養・嚥下、それらの援助方法について学習 復習：事後課題、教科書・配布資料の確認	升田
4	在宅における食の支援 2	予習：教科書の確認、第 3 回の復習、経管栄養法、PEG、在宅中心静脈栄養法について学習 復習：教科書・配布資料の確認	升田
5	在宅における食の支援 3(演習) ・在宅経管栄養法 ・在宅中心静脈栄養法	予習：事前課題、教科書の確認、第 3.4 回の復習、HEN、PEG、HPN について学習 復習：事後課題、教科書・配布資料の確認	全員
6	在宅における排泄の支援 1	予習：教科書の確認、既習の消化管・泌尿器の解剖生理、排泄、援助方法について学習 復習：教科書・配布資料の確認	升田
7	在宅における排泄の支援 2	予習：教科書の確認、第 6 回の復習、既習の導尿、ストーマ、おむつの援助方法等について学習 復習：教科書・配布資料の確認	升田
8	在宅における排泄の支援 3	予習：既習の腎不全、血液透析、CAPD について学習 復習：教科書・配布資料の確認	清水
9	在宅における清潔の支援 1	予習：教科書の確認、既習の清潔、援助方法について学習	清水

在宅看護援助論Ⅰ(看護)(Home Care NursingⅠ)			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
10	在宅における清潔の支援 2(演習) ・入浴・シャワー浴、洗髪	予習：事前課題、第 9 回の復習、入浴・シャワー浴・洗髪等について学習 復習：事後課題、教科書・配布資料の確認	全員
11	在宅における服薬の支援	予習：教科書の確認、既習の薬理作用、与薬方法について学習 復習：教科書・配布資料の確認	升田
12	在宅における呼吸の支援 1	予習：教科書の確認、既習の呼吸の解剖生理、呼吸不全について学習 復習：教科書・配布資料の確認	清水
13	在宅における呼吸の支援 2	予習：教科書の確認、第 12 回の復習 復習：教科書・配布資料の確認	清水
14	在宅における呼吸の支援 3 ・在宅酸素療法 ・在宅人工呼吸器管理指導	予習：教科書の確認、第 12・13 回の復習、HDI、人工呼吸器管理、吸引について学習 復習：教科書・配布資料の確認	清水
15	在宅訪問、コミュニケーション方法(演習)	予習：事前課題、教科書の確認、訪問時のマネーについて考察し演習に望む。 復習：事後課題、教科書・配布資料の確認	升田
成績評価方法と基準			
1. 定期試験			
2. 演習前後レポート課題 (3 回)			
授業時間数の 4/5 回以上の出席を必要とする。			

授業科目名	在宅看護探検論Ⅱ(看護) (Home Care Nursing II)		
主担当教員	清水 容子	担当教員	清水 容子、升田 勇賀子、錦治 葉子
科目ナンバリング	HHN403	科目区分	ディプロマポリシー 該当目
配当年次	3	開講学期	前期
授業形態	演習	単位数	1
授業概要	在宅看護探検論Ⅱでは、ベーパー事例を用いた在宅における看護過程の展開をし、立案した看護計画に基づいた看護技術の演習を行う。これにより、居宅で生活する人の健康障害やそれに伴う生活障害を持つ人とその家族の看護の展開方法を修得する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅で療養する人とその家族の健康状態と健康障害が生活に及ぼす影響を理解できる。 2. 在宅看護の特徴を踏まえ、患者と家族の個別性を配慮した看護計画の立案ができる。 3. 立案した計画に基づく具体的援助方法を考え実践することができる。 4. 立案した看護計画の評価方法を理解できる。 		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 与えられた課題を期限内に自主的に行う。 2. 在宅看護探検論・在宅看護援助論Ⅰを復習して読むこと。 3. 既習の疾患の看護、看護過程を復習して読むこと。 		
教科書			
在宅看護論 編集 石垣和子、上野まり 南江堂(2年次使用テキスト)			
参考書			
必要に応じて紹介する			
研究室/オフィスアワー			
清水:西棟336号室、升田:西棟634号室(事前に連絡をとり日程調整すること)			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	訪問看護過程の特徴1	予習:看護過程及び在宅看護のアセスメント報告について復習して授業に参加する 復習:前回提示の課題作成	清水
2	訪問看護過程の特徴2	予習:配布資料を基に講義内容の復習 復習:前回提示の課題作成	清水
3	在宅療養者とその家族の事例1 —情報分析—	予習:前回提示の課題作成 復習:配布資料を基に講義内容の復習	清水
4	在宅療養者とその家族の事例1 —情報分析—	予習:前回提示の課題作成 復習:配布資料を基に講義内容の復習	清水
5	在宅療養者とその家族の事例1 —看護問題抽出—	予習:前回提示の課題作成 復習:配布資料を基に講義内容の復習	清水
6	在宅療養者とその家族の事例1 —看護計画立案—	予習:前回提示の課題作成 復習:配布資料を基に講義内容の復習	清水
7	在宅療養者とその家族の事例1 —看護計画発表—	予習:提示課題を完成させ、疑問点を明らかにする 復習:事後課題、配布資料の確認	全員
8	在宅療養者と家族の事例2 —情報分析—	予習:分析・問題の抽出に必要な知識の確認、自己課題の作成 復習:事後課題、配布資料の確認	清水
9	療養者と家族事例2 —情報分析—	予習:分析・問題の抽出に必要な知識の確認、自己課題の作成 復習:事後課題、配布資料の確認	清水
10	在宅療養者とその家族事例2 —情報分析—	予習:前回課題の作成 復習:前回の自身の疑問点を明確にし、自己の学習不足に点を学習する	清水
11	在宅療養者とその家族事例2 —看護問題抽出—	予習:自己課題の作成 復習:関連図の作成	清水
12	在宅療養者とその家族 —看護計画立案—	予習:計画の立案に必要な知識の確認、自己課題の作成 復習:事後課題、配布資料の確認	清水
13	在宅療養者とその家族事例2 —看護計画発表—	予習:発表の準備、在宅療養の維持に必要な支援について確認 復習:事後課題、配布資料の確認	全員

14	在宅療養者とその家族事例2 —看護計画の発表—	予習:発表の準備、在宅療養の維持に必要な支援について確認 復習:自身の疑問点、学習不足に点の整理	全員
15	看護過程の評価-全体のまとめ	今回学習した看護過程と病院での看護過程の展開の相違点について学生自身が考えてくる。	清水
成績評価方法と基準			割合
1. 定期試験			1. 60%
2. レポート課題			2. 40%
4/5回以上の出席を必要とする。			

授業科目名	外来看護論(看護) (Nursing on Outpatient Clinic)		
主担当教員	住田 陽子	担当教員	住田 陽子
科目ナンバリング	HHN404	科目区分	統合分野
配当年次	3	開講学期	前期
授業形態	講義	単位数	1
授業概要	<p>日本看護協会委員会において、外来看護は「疾病を持ちながら地域で療養・社会生活を営む患者やその家族等に対し、安全で、安心・信頼される診療が行われるように、また、生活が円滑に送れるように調整を図りながら看護職が診療の補助や療養上の世話を提供すること」と定義されている。医療施設における在院日数の短縮化が進み、医療は施設完結型から地域完結型へ移行してきている中で、外来看護においては、対象者やその家族に対し、治療を継続しながらその人らしい社会生活を送るための質の高い支援が求められている。また、看護へのニーズに応えるためには他職種との連携も必須である。</p> <p>本科目では、今日の医療の動向や現状を理解し、外来看護の役割、課題について学修する。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 外来看護の歴史について学修できる。 2. 外来看護における患者・家族の様々なニーズについて考えることができる。 3. 医療政策に伴う医療情勢や社会情勢に関心を持ち、医療に関する国民のニーズについて考えることができる。 4. 外来における他職種連携について学修できる。 5. 外来看護について、国際的な視点で学修できる。 <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 出席が前提である。 2. 講義中の途中退席は認めない。ただし、やむをえない事情が発生した場合は、この限りではない。 3. 講義中の私語、飲食、携帯電話の使用は禁止する。 <p>教科書</p> <p>なし</p> <p>参考書</p> <p>授業の中で紹介する</p> <p>研究室/オフィスアワー</p> <p>住田:634 研究室/随時</p>		
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	教科目ガイダンス 外来看護の歴史	復習: 授業内容の振り返り	住田
2	【ディスカッション】受療行動調査の分析	事前課題: 受療行動調査の結果を分析し、考察をA4用紙1枚にまとめる。	住田
3	医療施設(診療報酬、地域包括ケアシステム)と 外来看護	復習: 授業内容の振り返り	住田
4	外来看護の現状と課題	復習: 授業内容の振り返り	甲斐玉 憲師 長(大阪国際 がんセンター 外来部門)
5	【ディスカッション】外来における他職種連携と看護の役割	事前課題: 外来における他職種連携、チーム医療に関する研究論文(原著論文)を検索・クリティークし、A4用紙1枚にまとめる。	住田
6	外来看護の国際比較	復習: 授業内容の振り返り	住田
7	【ディスカッション】事例検討	事前課題: 外来看護に関する研究論文(原著論文に限る)を検索・クリティークし、A4用紙1枚にまとめる。	住田
8	【ディスカッション】事例検討	事前課題: 事例検討に臨むにあたっての自身の意見を、所定の用紙にまとめる。	住田
成績評価方法と基準	割合		

テーマ「外来看護論を通して学んだこと」についてレポートを作成、提出されたものに対しルーブリック評価を行う。レポートの体裁は、A4版1枚、40字×40行、フォント:10.5pt、余白:上下左右20mmとし、テーマ、学籍番号、学生名を明記する。最終講義日の1週間後、13:00までにW構634研究室に提出する。また、授業の中で課じた事前学習についても、評価を行う。

レポート:
90%
事前学習:
10%

授業科目名	健康教育論(看護) (Health Education)		
主担当教員	関口 敏彰	担当教員	関口 敏彰、大巻 悦子、富田 久子
科目ナンバリング	lp1406	科目区分	ディプロマポリシー 該当項目 DP①②
配当年次	2	開講学期	曜日・時限 金曜 3限
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	<p>看護の場面で行われる健康教育について、健康教育を実施する目的を明確にし計画、実施、評価方法について学ぶ。また、集団としての対象や方法等の特徴を理解し、効果的な健康教育に不可欠な理論や教育内容に含める科学的根拠に基づき情報の収集についても学ぶ。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護の場で行う健康教育の目的とその方法、意義について理解できる。 2. 集団支援の対象者や方法等について理解できる。 3. 健康教育に活用可能な理論について理解できる。 4. 根拠に基づき健康教育の内容を考案し実施、評価できる。 <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>健康教育は看護職として対象者の方に健康に対する意識を高める大切なツールの一つです。知識を伝えるだけでなく、どのようにすれば行動変容に結び付けることができるかを考えながら、授業に望んでください。</p> <p>教科書</p> <p>荒賀直子、後閑容子編集「公衆衛生看護学」インターメディアカル</p> <p>参考書</p> <p>松本 千明 著「健康行動理論の基礎」医歯薬出版株式会社 松本 千明 著「健康行動理論 実践編」医歯薬出版株式会社 研究室/オフィスアワー</p> <p>大巻悦子 西棟 236 随時 関口敏彰 西棟 234 随時 富田久子 西棟 634 随時</p> <p>授業展開及び授業計画表</p>		
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	健康教育の意義・目的を理解する。	地域診断・PDCA サイクルについて学習しておく。	富田久子
2	健康教育を通じた集団の対象理解①(支援対象)	ホビュレーションアプローチとハイリスクアプローチについて復習しておくこと。地域における各種のグループ(集団や組織)について調べておくこと。	富田久子
3	健康教育を通じた集団の対象理解②(集団の特性を理解したアプローチ方法)	セルフヘルプグループについて復習しておくこと。	富田久子
4	健康教育の歴史の移り変わり①(KAP モデルへヘルスビリーフモデル)	教科書を読み理論について予習しておくこと。	富田久子
5	健康教育の歴史の移り変わり②(ヘルスビリーフモデル～アラインドフレームワーク)	教科書を読み理論について予習しておくこと。	富田久子
6	健康教育の歴史の移り変わり③(アラインドフレームワーク～アラインドアプローチ)	教科書を読み理論について予習しておくこと。	富田久子
7	社会学習理論と自己効力感	教科書を読み理論について予習しておくこと。	富田久子
8	行動変容モデルと実際	理論について復習しておくこと。	富田久子
9	健康教育の実際	事前に配布する資料を読んで予習しておくこと。	関口敏彰
10	科学的根拠にもとづく健康教育内容と情報収集	基礎的ミナールで学んだ情報検索について復習しておくこと。	関口敏彰
11	健康教育の企画①(計画書作成)	健康教育で活用する情報を検索し、取り寄せておくこと。	関口敏彰
12	健康教育の企画②(媒体の検討)	健康教育の資料づくりを進めておくこと。	大巻悦子 富田久子 関口敏彰
13	健康教育の企画③(シナリオの検討)	健康教育の資料づくりを進めておくこと。	大巻悦子 富田久子 関口敏彰

14	健康教育の実施と評価①	健康教育の資料づくりを進めておくこと。	大巻悦子 富田久子 関口敏彰
15	健康教育の実施と評価②	自分が実施した健康教育について自己評価しておくこと。	大巻悦子 富田久子 関口敏彰
成績評価方法と基準			割合
1. テスト			1. 60%
2. 課題(レポート)			2. 20%
3. 健康教育の内容・発表			3. 20%

授業科目名		家族看護学(看護) (Family Health Care Nursing)	
主担当教員	大巻 悦子	担当教員	大巻 悦子、蓮池 光人、黒岩 志紀
科目ナンバリング	h4407	科目区分	統合分野 DP①②
配当年次	3	開講学期	前期 火曜 5限
授業形態	講義	単位数	1
授業概要	現代社会における個人と家族を取り巻く社会は多様性を極めており、家族は看護職が看護の対象とする社会の最小単位である。家族看護学では、「家族」について学び、ライフサイクルにおける健康問題と家族との関係性、家族に対するアセスメントと介入に必要な理論と方法について学び、家族看護の役割を理解する。		
到達目標	<p>1. 家族の概念、形態、機能について理解することができる。</p> <p>2. 家族が、家族の一員の健康問題から受けている影響から、家族へのアセスメント・介入の方法について理解することができる。</p> <p>3. 家族のセルフケア機能を高める家族看護の役割について理解することができる。</p> <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>家族看護はあらゆる領域に共通した家族援助である。家族のセルフケア機能を高める援助とは何かを意圖して履修すること。</p>		
教科書	系統看護学講座 別巻 家族看護学 第1版第2刷 筆者代表:上別府圭子 医学書院		
参考書	大巻・236 研究室 蓮池・331 研究室 黒岩: 研究室		
授業展開及び授業計画表	<p>家族看護学 改訂第2版 -19の臨床場面と8つの実践別から考える-</p> <p>編纂:山崎あけみ/原礼子</p> <p>南江堂</p> <p>研究室/オフィスアワー</p>		
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	家族看護とは何か、看護職と家族の関係。	予習: シラバスの確認、家族看護学 第1章 復習: 本日の授業内容を教科書で確認	大巻悦子
2	家族看護の対象理解	予習: 家族看護学 第2章 復習: 本日の授業内容を教科書で確認	大巻悦子
3	家族看護を支える理論と介入法	予習: 家族看護学 第3章 復習: 本日の授業内容を教科書で確認	大巻悦子
4	家族看護展開の方法	予習: 家族看護学 第4章 復習: 本日の授業内容を教科書で確認	大巻悦子
5	子どもの出生によって家族が受ける影響	予習: 家族看護学 第5章-B, D 復習: 講義内容を振り返り、自身に当てはめて考える	黒岩志紀
6	小児領域における家族援助と援助の実践	予習: 家族看護学 第5章-B, D 復習: どのような家族へのアプローチが効果的か振り返る	黒岩志紀
7	精神障害を持つ家族に対する理解	予習: 家族看護学 第5章-E 復習: 本日の授業内容を教科書で確認	蓮池光人
8	精神障害者を持つ家族への援助の実践	予習: 家族看護学 第5章-E 復習: 本日の授業内容を教科書で確認	蓮池光人
成績評価方法と基準	割合 100%		
①課題レポート 各講師よりそれぞれテーマ、提出期限を提示する			

授業科目名		看護概説(看護) (Introduction to Nursing Teachers)	
主担当教員	辻 立世	担当教員	辻 立世、宮永 啓子
科目ナンバリング	h419	科目区分	統合分野 DP①
配当年次	2	開講学期	前期 木曜 4限
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	看護概説を貫く「看護」について体系的に学ぶ。看護概説の歴史の変遷を理解し、看護概説の職務の特性と専門性を活かし、「看護概説」が看護士としての資質・能力を培い、子どもへの健やかな発達に必要な看護を教育として実践する能力を身につける。		
到達目標	<p>1. 看護概説の歴史の変遷を理解し、学校教育に果たす看護概説の専門性と役割について、説明することができる。</p> <p>2. 看護概説を体系的に学修すると共に、看護概説独自の看護(教育と看護)活動の展開について、具体的に考えることができる。</p> <p>3. 学校教育を基本として、効果的な保健教育活動のあり方について説明することができる。</p> <p>4. 保健室の機能と看護概説の活動過程を理解し、看護概説に求められる資質能力を身につける。</p> <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>看護概説の専門的役割は、看護学・教育学等で学んだ知識と技術を基に教育者としての活動を実践することである。看護学の学修内容を教育に活用できる能力を養うようにしてください。第1回目の講義にシラバスを持参すること。</p>		
教科書	河田加奈子 河田史宝 編著『看護概説』看護学概論 一理論と実践-』東山書房、2016年2月、2,500円+税		
参考書	<p>著者: 平野津江他『新看護概説 第10版』少年写真新聞社 2015年3月1日</p> <p>2,400円+税</p> <p>一年次の教科書『学校保健実務必修』学校保健概論「看護概説のための学校保健」</p>		
授業展開及び授業計画表	<p>「現代的健康課題を捉える子どもたちへの支援～看護概説の役割を中心として～」文部科学省 子どもたちを児童虐待から守るために～看護概説のための児童虐待対応マニュアル～</p> <p>「看護概説を中心とした学校における児童虐待対応マニュアル作成委員会」日本学校保健会</p> <p>研究室/オフィスアワー</p> <p>講義前後の非常勤講師控室</p>		
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	オリエンテーション(講義概要の解説) 看護の本質と概念、看護概説の専門性	予習: 小中高校から看護概説の役割を考える。レポート① 復習: 「看護」と「教育」の関係を理解。	
2	看護概説と学校保健活動	予習: 「学校保健」を復習 復習: 看護概説の役割を理解	
3	看護概説と保健室、保健室経営	予習: 「学校保健」を復習 復習: 保健室経営計画ができる	
4	看護活動の過程、学校における協働・連携並びに組織活動	予習: 学校保健・看護過程を復習 復習: 学校組織及び協働・連携を確認	
5	看護概説が行う研究、看護概説の倫理	予習: 看護の職業倫理を復習 復習: 現場の実践を研究に生かす力と教職員の倫理を理解	
6	学校の特性に応じた看護活動 特別支援教育と看護概説	予習: 学校の特性をテキストで予習 復習: 特性に応じた看護活動を理解 特別支援教育における看護概説の役割を理解	
7	看護概説と学校安全・危機管理	予習: テキストで予習 復習: 健康観察の実践を理解できる	
8	看護活動論: ①健康観察(健康相談)	予習: 「学校保健」で健康診断を復習 復習: 健康診断が企画・実施、事後措置ができる	
9	看護活動論: ②健康診断	予習: 健康相談・保健指導を考える。 復習: 健康相談・保健指導の実践を身につける	
10	看護活動論: ③健康相談・保健指導	予習: 「学校保健」で復習 復習: 健康教育へ導く過程、健康教育の実践を身につける	
11	課外看護活動論: ④健康教育(保健教育)		

	につける	
12	課題別看護活動: ① 学校救急看護、内科・ケガ等外科の救急対応 学校事故における救急対応と看護教師の役割 予習:看護(アセスメント、看護過程)で学んだことを看護活動に活かす対応について考えておく 復習:看護教師としてあるべき姿と感想(課題レポート) 予習:看護で学修したことを看護活動に活かす対応について考えておく 復習:健康課題に関する看護教師の役割を理解・実践できる。 予習:児童虐待の情報をまとめておく 復習:児童虐待・アレルギーマタ等への対応が実践できる(課題レポート)	割合 ①70% ②30%
13	課題別看護活動:②慢性疾患・③心の問題・④対人関係・⑤生活上課題・⑥不登校・保健室登校児への対応	
14	課題別看護活動: ⑦児童虐待の早期発見と対応、⑧アレルギーマタ・アナフィラキシーへの対応	
15	学校環境衛生活動と看護教師 学校感染症予防 まとめ	
成績評価方法と基準		
①定期試験		
②課題レポート		

授業科目名	学校保健(看護) (Disasters and International Nursing)		
主担当教員	宮永 啓子	担当教員	宮永 啓子
科目ナンバリング	lp4420	統合分野	ディプロマポリシー 該当項目
配当年次	1	開講学期	後期
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	<p>学校保健の意義・目的、学校保健安全法及び学校教育関連法規、学校における保健管理と保健指導の基礎的かつ重要な事項について学修する。それぞれの領域での取り組みについては、看護教諭を目指す立場から、主体的に考えて積極的な参加、学生相互の研鑽により実践能力を育成し学修する。</p> <p>到達目標</p> <p>①学校保健の意義と目的、領域構造と内容を理解し、学校保健担当者の役割を説明できる。 ②学校保健推進に必要な学校保健安全法をはじめ関連法規を理解する。 ③保健教育(保健学習と保健指導)について、その位置づけや実践について理解し、説明できるようにする。 ④学校における疾病の予防と管理(子どもの健康課題、感染症の予防、アレルギーマタ対応等)に関して、看護学で学修したことを実践できるようになる。 ⑤保健管理(学校環境衛生管理、学校安全・危機管理等)について理解し、実践力を身につける。 ⑥学校保健の今日的課題を理解しその対応に取り組み、実践力を身につける。</p> <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>看護教諭の業務は、教育と看護学が基礎にあります。看護学を学ぶ中で、看護教諭に必要な知識・技術に関連する分野は意識をして学びを深め、学校保健活動が円滑に推進できる応用能力を身につける様に心がけてください。</p> <p>教科書</p> <p>『学校保健概論』、渡邊正樹、光生館 『看護教諭のための学校保健 改訂版』早女智津子、少年写真新聞社 『新訂版 学校保健実務必携 第4次改訂版』、学校保健・安全実務研究会、第一法規</p> <p>参考書</p> <p>適宜授業時にプリントを配布する。</p> <p>研究室/オフィスアワー</p> <p>非常勤講師控室</p> <p>授業展開及び授業計画表</p>		
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	オリエンテーション、「学校保健」とは 学校保健の意義と目的、構造について	予習:自身の小中高等学校を振り返り、学校保健に関する行事や出来事をまとめる。 復習:授業の復習	
2	子どもの発育発達 健康診断	予習:テキストで予習(2,3章) 復習:授業の復習	
3	子どもの健康課題と病気	予習:子どもに多いアレルギーマタ疾患を調べる。 復習:授業の復習	
4	感染症とその予防	予習:学校で予防すべき感染症について調べる。 復習:授業の復習	
5	児童生徒の生活実態と現代的健康課題への対応 (保健指導)	予習:児童生徒の生活の実態を概観する。 復習:授業の復習	
6	心の健康問題とその対応 性教育(性の健康)に関する現代的課題)	予習:テキストで予習(7,8章) 復習:授業の復習	
7	保健室の機能と役割 看護教諭の役割と歴史の変遷	予習:テキストで予習(9章) 復習:授業の復習	
8	保健室と看護教諭の具体的な事例を学ぶ (救急処置や保健室登校等)	予習:小中高校における保健室を思い出し、看護教諭の役割を考えてくる。 復習:授業の復習	
9	学校安全(学校事故の予防) 危機管理、スポート振興センターについて	予習:テキストで予習(10章) 復習:授業の復習	
10	学校環境衛生管理(含む:学校給食衛生管理) 学校環境衛生基準、環境衛生検査	予習:テキストで予習(11章) 復習:授業の復習	
11	保健教育(保健学習・保健指導) I 指導案の作成	予習:テキストで予習(12章)し、どのような保健教育を行いたいのか考えてくる。 復習:授業の復習	
12	保健教育(保健学習・保健指導) II 指導案の発表	予習:保健学習・保健指導の復習 復習:授業の復習	

13	食育と学校給食 食物アレルギーの子どもの対応	予習:過去のニュースや記事等から、学校給食と食物アレルギーの問題について調べる。 復習:授業の復習	割合
14	特別支援教育と学校保健活動	予習:特別支援教育の現状を調べ、心理学等で学んだ発達障害について復習しておく。 復習:授業の復習	①20%
15	学校保健・安全計画と学校保健組織活動 まとめ	予習:テキストで予習(13章)し、学校保健計画の立案の仕方を知る。 復習:授業の復習、まとめ	②20%
成績評価方法と基準			③60%
①レポート			
②講義中の発表・発言等			
③筆記試験			

授業科目名		健康相談活動論(看護) (Health Counseling Activities)	
主担当教員	辻立世	担当教員	辻立世、高永啓子
科目ナンバリング	lp421	統合分野	DP①
配当年次	2	後期	木曜4限
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	近年の児童生徒の健康問題の多様化は、児童生徒のみならず、保護者・担任からの含め養護教諭の健康相談が重要視されている。養護教諭の職務の特質は、児童生徒の心身の健康問題と日々関わっている。養護教諭の職務の特質や保健室の機能を生かした健康相談の基礎・基本及び健康相談の実践力と力量を身につける。		
到達目標	1. 養護教諭の職務の特質と保健室の機能を生かした健康相談を習得できる。 2. 保健室入室場面を中心に児童生徒のヘルズニーズを理解するためのアセスメント・支援能力を習得できる。 3. 健康相談遂行に必要な専門的知識と技術を身につけて応用・実践できる能力を習得できる。 4. 保護者・担任等、教職員が協働して支援し、校外の関係機関との連携ができるようになる。		
教科書	養護教諭は、児童生徒の悩みや相談や身体的症状の裏にある心の問題に気づきながら職務を遂行している。児童生徒の訴えや心の叫びに耳を傾け、ニーズを見極め、判断し対応できる専門的力を身につけてください。		
参考書	教科書 『新版養護教諭の行う健康相談』、大谷尚子・森田光子、株式会社東山書房 『養護教諭のための学校保健 改訂版』、采女智津子、株式会社少年写真新聞社 『教職員のための子どもの健康相談及び保健指導の手引き』、(著)文部科学省スポーツ・青少年局、(出版)文部科学省		
研究室／オフィスアワー	参考書・参考資料等 学校保健実務必携、新養護概説等 『現代的健康課題を抱える子供たちへの支援～養護教諭の役割を中心として～』平成29年3月文部科学省		
〇講義日、非常勤講師控室	研究室／オフィスアワー		
授業展開及び授業計画表	〇講義日、非常勤講師控室		
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	養護教諭の行う健康相談(養護教諭の役割と活動)の基本的理解	予習:養護教諭に必要な健康相談の専門性について復習しておく。 復習:養護活動としての健康相談を理解する。	辻
2	健康相談と保健室	予習:保健室の特質と健康相談をすすめるための保健室の環境をまとめる。 復習:保健室における健康相談の特質についてまとめる。	辻
3	健康相談の諸理論	予習:テキストで予習 復習:養護教諭が行う健康相談の歴史と意義を理解する。	辻
4	健康相談の過程(1.事例から見る健康相談の過程、2.対象理解と層立)	予習:テキストで予習 復習:授業の復習	辻
5	健康相談の諸問題(1.精神保健の観点を理解、2.身体的問題、非社会的問題、生活上の問題等)	予習:養護概説・精神保健・精神看護学等関連分野を復習して授業に臨む。 復習:精神保健と健康相談における養護教諭の専門性授業の復習。	辻
6	保健室を想定した健康相談、ロールプレイング1、記録の仕方	復習:記録の仕方を確認、ロールプレイングのまとめ。	辻
7	保健室を想定した健康相談、ロールプレイング2	予習:記録の仕方を確認。 復習:記録の仕方を確認、ロールプレイングのまとめ。	辻
8	保健室を想定した健康相談、ロールプレイング3	予習:今までの復習。 復習:ロールプレイング評価・まとめ(レポート)。	辻
9	ロールプレイングの評価、他者評価	予習:今までの復習。 復習:各回の発表のまとめ。	辻
10	保健室登校の迎え方と対応	予習:今までの養護教諭関連科目を復習。 復習:本日の授業を復習。	辻

11	健康相談に必要な力量と学びの方法(1.健康相談をすすめていくための力量と学びの方法)	予習:テキストで予習。 復習:必要な力量を身につける。	辻
12	健康相談における連携と養護教諭の専門性	予習:養護概説・その他関連科目の復習。 復習:校内のチーム支援と医療との連携を理解する。 予習:今までの復習。 復習:養護教諭の専門性が発揮できる事例検討資料を作成できる。	辻
13	保健室を想定した事例検討の資料作成	予習:今までの復習。 復習:保健室の機能を活かした健康相談とは何かを考える。)	辻
14	保健室を想定した事例検討の評価	予習:今までの復習 復習:レポート	辻
15	まとめ(養護教諭の専門性を発揮した健康相談の在り方、保健室の機能を活かした健康相談とは何かを考える。)		辻
成績評価方法と基準			
割合			
①40%			
②60%			
①授業・演習時の参加態度			
②定期試験(レポート)			

公衆衛生看護学概論(看護) (Introduction to Public Health Nursing)			
授業科目名	大巻 悦子	担当教員	大巻 悦子
主担当教員	PHN411	統合分野	DP①
科目ナンバリング	2	開講学期	曜日・時限
配当年次	講義	単位数	2
授業形態		必修・選択	必修
授業概要	公衆衛生看護の歴史の変遷を踏まえ、地域に生活する人々の暮らしと健康を守る意味について学ぶ。公衆衛生看護の対象は、地域で暮らす人々(個人、家族、集団)であり、疾病予防と健康増進に関する学習である。ヘルスプロモーションの理念を理解し、公衆衛生看護活動の展開における理論や方法を理解するための基本的な原則を学ぶが、さらに、公衆衛生看護の視点から社会環境の変化と健康課題について考え学びを深める。		
到達目標	1. 公衆衛生看護の定義と目的を理解する。 2. ヘルスプロモーションの理念とキーワードを理解し、活動の基本を理解する。 3. 公衆衛生看護における歴史の変遷と社会環境の変化を理解する。 4. 公衆衛生看護活動の場、活動内容、方法を理解する。		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	公衆衛生看護の対象は、乳幼児から高齢者まで、健康者から病氣療養の人まで様々であり、個人(患者)だけでなく家族・集団・地域全体に及ぶ視野を広く持つことが重要である。看護が対象とする人々は、「地域で生活する人々である」という視点が重要であることを認識し、深く学ぶ姿勢をもつこと。 保健師課程を選択する学生は、公衆衛生看護学の基本であることを認識すること。		
教科書	荏賀直子、後閑容子編集「公衆衛生看護学」インターメディアカル		
参考書	厚生統計協会編「国民衛生の動向」厚生統計協会 宮崎美砂子、北山美津子、春山早苗、田村須賀子編集「公衆衛生看護学 第2版 総論・各論1・2」日本看護協会出版会 研究室/オフィスアワー		
WEST 236 研究室	随時		
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	公衆衛生看護学の概念1ー予防と公衆衛生看護	復習 授業をもとにシラバス・教科書の確認	
2	公衆衛生看護学の概念2ー健康とは何か ホスピタリティ・ケアとヘルスケア	予習 教科書の確認 復習 授業をもとに配布資料・教科書の確認 クアパローチを説明できること	
3	プライマリヘルスケアとヘルスプロモーション	予習 教科書の確認 復習 授業をもとに配布資料・教科書の確認	
4	地域づくりのためのヘルスプロモーションとキーワード	予習 教科書の確認 復習 授業をもとに配布資料・教科書の確認 ヘルスプロモーションの概念を説明できること	
5	地域づくりのためのヘルスプロモーションの実践	予習 教科書の確認 復習 授業をもとに配布資料・教科書の確認	
6	公衆衛生看護の歴史 ①	予習 教科書の確認 復習 授業をもとに配布資料・教科書の確認	
7	公衆衛生看護の歴史 ②	予習 教科書の確認 復習 授業をもとに配布資料・教科書の確認	
8	公衆衛生看護活動対象の特性(個人・家族・集団・地域・組織)①	予習 教科書の確認 復習 授業をもとに配布資料・教科書の確認	
9	公衆衛生看護活動対象の特性(個人・家族・集団・地域・組織)②	予習 教科書の確認 復習 授業をもとに配布資料・教科書の確認	

10	保健師と公衆衛生看護活動の展開①	予習 教科書の確認 復習 授業をもとに配布資料・教科書の確認	割合
11	保健師と公衆衛生看護活動の展開②	予習 教科書の確認 復習 授業をもとに配布資料・教科書の確認	定期試験 80%、課題 20%
12	地域におけるグループ支援・組織化	予習 教科書の確認 復習 授業をもとに配布資料・教科書の確認 地域におけるグループ支援の特徴を理解する。	
13	公衆衛生看護と産業保健(看護)	予習 教科書の確認 復習 授業をもとに配布資料・教科書の確認 産業保健における保健師・看護師の役割を理解すること	
14	社会環境の変化と健康課題(1)	予習 教科書の確認 復習 授業をもとに配布資料・教科書の確認 社会情勢の変遷とそれに伴う生活や健康観の変化を理解する。	
15	社会環境の変化と健康課題(2)	予習 教科書の確認 復習 授業をもとに配布資料・教科書の確認	
成績評価方法と基準			
定期試験と課題で評価する。			

授業科目名	公衆衛生看護学演習(看護) (Public Health Nursing (Seminar))		
主担当教員	大巻 悦子	担当教員	大巻 悦子、関口 敏彰、富田 久子
科目ナンバリング	PHN412	科目区分	総合分野
配当年次	3	開講学期	前期
授業形態	演習	単位数	2
授業概要	母子保健、成人保健、高齢者保健、結核等感染症対策、難病対策、家庭訪問、健康教育、地域組織活動など個人、家族、集団、組織への保健師活動を展開する上で必要な知識や考え方を学修する。		
到達目標	1. 事例を通じて、個人、家族、集団、組織への展開を考慮することができる。 2. 保健師活動の基本を学び、対象に応じた技術支援方法を自ら考え導き出すことができる。 3. 母子保健と高齢者保健分野での健康教育を実践することができる。		
	履修上の注意(学生へのメッセージ)		
	1. 保健師活動の基本を理解するために、課題や演習には積極的に取り組むこと。 2. 健康教育は「もりもりひろば」および「介護予防教室」で行うので、対象者の把握に努めること。 3. 新聞・テレビ・書籍等常に関心を持って情報収集することを心がけること。		
教科書	教科書		
公衆衛生看護学活動論 技術演習 第2版	編集：岩本里織他 出版：クオリアケア		
参考書	公衆衛生看護学に関する教科書 公衆衛生がみえる		
研究室/オフィスアワー	大巻悦子 西棟 236 随時 関口敏彰 西棟 234 随時 富田久子 西棟 235 随時		
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	健康教育(母子保健及び高齢者保健) ①健康課題に即したテーマを決定し情報収集する。	地域連携推進事業の「もりもりひろば」介護予防教室」に参加し、対象者を把握しておくこと。健康課題を考慮すること。	大巻悦子 関口敏彰 富田久子
2	健康教育 ②実施計画書作成	健康教育論での学びを発展させること。	大巻悦子 関口敏彰 富田久子
3	健康教育 ③シナリオ作成	健康教育論の学びを発展させること。	大巻悦子 関口敏彰 富田久子
4	健康教育 ④シナリオを実践してみる	グループダイナミクスを発揮すること	大巻悦子 関口敏彰 富田久子
5	健康教育 ⑤媒体づくり	健康教育論の学びを発展させること。	大巻悦子 関口敏彰 富田久子
6	健康教育 ⑥媒体づくり	健康教育論の学びを発展させること。	大巻悦子 関口敏彰 富田久子
7	健康教育 ⑦デモストラクションと評価	健康教育の実施に向けて練習した成果を発揮すること。	大巻悦子 関口敏彰 富田久子
8	健康教育 ⑧デモストラクションと評価	健康教育実施後の評価と課題検討	大巻悦子 関口敏彰 富田久子
9	母子保健活動に関する事例検討	配布資料を確認し、課題を検討すること。	大巻悦子
10	母子保健活動に関する事例検討	配布資料を確認し、課題を検討すること。	大巻悦子

11	母子保健活動に関する事例検討と演習	配布資料を確認し、課題を検討すること。	大巻悦子
12	母子保健活動に関する事例検討と演習	配布資料を確認し、課題を検討すること。	大巻悦子
13	成人保健活動に関する事例検討	配布資料を確認し、課題を検討すること。	関口敏彰
14	成人保健活動に関する事例検討	配布資料を確認し、課題を検討すること。	関口敏彰
15	成人保健活動に関する事例検討と演習	配布資料を確認し、課題を検討すること。	関口敏彰
16	成人保健活動に関する事例検討と演習	配布資料を確認し、課題を検討すること。	関口敏彰
17	高齢者保健活動に関する事例検討	配布資料を確認し、課題を検討すること。	富田久子
18	高齢者保健活動に関する事例検討	配布資料を確認し、課題を検討すること。	富田久子
19	高齢者保健活動に関する事例検討と演習	配布資料を確認し、課題を検討すること。	富田久子
20	高齢者保健活動に関する事例検討と演習	配布資料を確認し、課題を検討すること。	富田久子
21	感染症保健活動に関する事例検討	配布資料を確認し、課題を検討すること。	関口敏彰
22	感染症保健活動に関する事例検討	配布資料を確認し、課題を検討すること。	関口敏彰
23	感染症保健活動に関する事例検討と演習	配布資料を確認し、課題を検討すること。	関口敏彰
24	感染症保健活動に関する事例検討と演習	配布資料を確認し、課題を検討すること。	関口敏彰
25	障害者(難病、精神含む)保健活動に関する事例検討	配布資料を確認し、課題を検討すること。 ICF について復習しておくこと。	富田久子
26	障害者(難病、精神含む)保健活動に関する事例検討	配布資料を確認し、課題を検討すること。	富田久子
27	障害者(難病、精神含む)保健活動に関する事例検討と演習	配布資料を確認し、課題を検討すること。	富田久子
28	障害者(難病、精神含む)保健活動に関する事例検討と演習	配布資料を確認し、課題を検討すること。	富田久子
29	自分の周りの公衆衛生看護活動を考える	居住地の公衆衛生看護活動を調べ、具体的にまとめてくること。	大巻悦子
30	自分の周りの公衆衛生看護活動を考える	居住地の公衆衛生看護活動を調べ、具体的にまとめてくること。	大巻悦子
成績評価方法と基準			割合
1. 筆記試験			1. 50%
2. レポート・グループワーク評価			2. 50%
4/5以上の出席が必要			

授業科目名		公衆衛生看護活動論Ⅰ(看護)(Public Health Nursing Activities I)	
主担当教員	大巻悦子	担当教員	大巻悦子
科目ナンバリング	PHN413	統合分野	ディプロマポリシー該当項目
配当年次	2	閉講学期	曜日・時限
授業形態	講義	単位数	必修・選択
授業概要			
公衆衛生看護活動の展開過程を通して、地域で生活する人々(個人・家族・集団)への健康問題や生活支援についての具体的な方法を学ぶ。行政機関(都道府県・市町村)における地域看護活動の基本的な考え方や保健師の活動の実践を理解する。地域看護活動論Ⅰでは、主として母子保健、高齢者保健、感染症保健について学習する。			
到達目標			
人々が自らの健康問題を解決するための立場方法について、対象別の「保健指導」を理解し、保健師に求められる基本的な知識と技術を習得することにより、地区活動の基本と展開方法について理解する。			
履修上の注意(学生へのメッセージ)			
公衆衛生看護の視点(保健師)においても重要で、保健師課程の希望者以外の学生も履修してください。公衆衛生看護活動論Ⅱも必ず履修すること。			
教科書			
荒賀重子、後閑容子編「公衆衛生看護学」インターメディアカル(*1年次使用) 尾形英雄監修「沖田くんのタイムスリップ」財団法人結核予防会 プリント教材を配布			
参考書			
大阪公衆衛生協会編「地球保健ノート」 厚生統計協会編「国民衛生の動向」厚生統計協会 内閣府編「高齢社会白書」佐伯印刷 内閣府「少子化社会白書」佐伯印刷 公衆衛生がみえる : 医療情報科学研究所編集、メディアクマディア発行 研究会「オフィスアワー」			
大巻 W236 研究室 富田久子 W631 研究室 (事前に連絡のこと)			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	公衆衛生看護活動論の概要	予習 シラバス、教科書 P252~271、292~312、363~394 を確認 復習 授業をもとにシラバス・教科書の確認 1回目から15回目を通じ、新聞等を常に確認し、情報を収集すること。	大巻悦子
2	母子保健の動向	予習 教科書の確認 復習 授業をもとに配布資料・教科書の確認	大巻悦子
3	母子保健施策と保健師活動	予習 教科書の確認 復習 授業をもとに配布資料・教科書の確認	大巻悦子
4	母性各期の健康課題と保健指導	予習 教科書の確認 復習 授業をもとに配布資料・教科書の確認	大巻悦子
5	乳幼児期の成長発達と保健指導	予習 教科書の確認 復習 授業をもとに配布資料・教科書の確認	大巻悦子
6	健康上のリスクを持つ母子への保健指導	予習 教科書の確認 復習 授業をもとに配布資料・教科書の確認	大巻悦子
7	高齢者保健の動向	予習 教科書の確認 復習 授業をもとに配布資料・教科書の確認	大巻悦子
8	高齢者の保健福祉施策と保健師活動 介護保険制度	予習 教科書の確認 復習 授業をもとに配布資料・教科書の確認	大巻悦子
9	高齢者の生活と保健指導 (高齢者の虐待)	予習 教科書の確認 復習 授業をもとに配布資料・教科書の確認	大巻悦子

10	在宅要介護高齢者と保健指導 (認知症高齢者への取り組み)	教科書の確認 復習 授業をもとに配布資料・教科書の確認	大巻悦子
11	在宅要介護高齢者と保健指導 (地域包括支援センターと介護予防等)	教科書の確認 復習 授業をもとに配布資料・教科書の確認	大巻悦子
12	感染症保健活動の動向ー感染症保健概論	教科書の確認 復習 授業をもとに配布資料・教科書の確認	大巻悦子
13	感染症予防施策・保健師活動 ①一おもな感染症と保健師活動	教科書の確認 復習 授業をもとに配布資料・教科書の確認	大巻悦子
14	感染症予防施策・保健師活動 ②一結核に対する保健指導	教科書の確認 復習 授業をもとに配布資料・教科書の確認	大巻悦子
15	感染症予防施策・保健師活動 ③一結核に対する保健指導	教科書の確認 復習 授業をもとに配布資料・教科書の確認	大巻悦子
成績評価方法と基準			割合
1. 筆記試験			1. 80%
2. レポート			2. 20%

公衆衛生看護活動論Ⅱ(看護) (Public Health Nursing Activities II)			
授業科目名	関口 敏彰	担当教員	関口 敏彰、富田 久子
主担当教員	関口 敏彰	科目区分	総合分野
科目ナンバリング	PHN414	開講学期	後期
配当年次	2	単位数	2
授業形態	講義	曜日・時間	月曜5限
授業概要	講義	必修・選択	選択
到達目標	<p>1. 対象別の公衆衛生看護活動の目的と計画と展開方法について講義を行う。公衆衛生看護活動の概観となる法律や施策、社会情勢、死亡率や罹患率などの統計的指標、身体やこころのメカニズム、生活と環境など、対象者を取り巻く種々の要因について述べる。そして対象者、その家族、集団の健康の保持増進と生活支援をする保健師活動について具体例を用いて講義する。</p> <p>2. 対象別の公衆衛生看護活動を展開するうえで必要な情報について把握し読み取ることが出来る。</p> <p>3. 活動の根拠となる法律や制度について理解できる。</p> <p>4. 予防活動の対象となる疾患のメカニズムについて理解する。</p>		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	公衆衛生看護の視点は看護師においても重要です。保健師課程の希望者以外の学生も履修して結構です。公衆衛生看護活動論Ⅰも必ず履修すること。		
教科書	教科書		
参考文献	荒賀直子「公衆衛生看護学」パンターメディアカル		
厚生の指標	増刊 国民衛生の動向 厚生労働統計協会		
厚生の指標	増刊 国民の福祉と介護の動向 厚生労働統計協会		
研究室/オフィスアワー	関口敏彰 西棟 234 随時 富田久子 西棟 634 随時		
授業展開及び授業計画表	回数	学修内容	担当
1	健康寿命と健康格差	公衆衛生看護学概論の内容を復習しておくこと。	関口敏彰
2	メタボリックシンドローム対策としての特定健康診査・特定保健指導	特定健康診査と特定保健指導の実施方法を各自居住する自治体について調べておくこと。	関口敏彰
3	特定保健指導における保健師活動の実際	特定健康診査と特定保健指導について復習しておくこと。	関口敏彰
4	がん対策における保健師活動の実際	がん検診の実施体制や受診勧奨の内容を各自居住する自治体について調べておくこと。	関口敏彰
5	禁煙対策における保健師活動の実際	事前に配布する禁煙に関するプリントを用いて予習しておくこと。	関口敏彰
6	飲酒と栄養対策における保健師活動の実際	事前に配布する飲酒対策と栄養摂取に関するプリントを随分予習しておくこと。	関口敏彰
7	歯科保健の事業と支援	市町村の歯科保健事業として何が行われているのか、各自居住する自治体について調べておくこと。	関口敏彰
8	国際保健医療福祉行政の現状と協力体制	WHO や JICA などの国際保健の連携機関、二国間協力や多国間協力などの仕組みに関する資料を随分予習しておくこと。	関口敏彰
9	難病患者の生活の現状と社会保障制度	難病保健活動とはどのような活動であるかを教科書等をよく読みとめておくこと。	富田久子
10	難病患者への社会支援と保健師活動(1)【成人難病患者への支援】	「公衆衛生看護活動論 技術演習第2版」の難病保健活動の事例を読み、具体的な活動を学んでおく。	富田久子
11	難病患者への社会支援と保健師活動(2)【小児難病患者への支援】	「公衆衛生看護活動論 技術演習第2版」の難病保健活動の事例を読み、具体的な活動を学んでおく。	富田久子
12	精神・障害者(児)保健の動向	「公衆衛生看護活動論 技術演習第2版」の難病保健活動の事例を読み、具体的な活動を学んでおく。また三障書及び発達障害の特性等速いを確	富田久子

		認しておくこと。
13	精神・障害者(児)の生活特性と保健師活動(1) 【身体障害者】	身体障害者手帳の内訳を学習し、その特性を学んでおくこと。
14	精神・障害者(児)の生活特性と保健師活動(2) 【知的障害者】	知的障害者手帳の種類や内容について学習し、その特性を学んでおくこと。
15	精神・障害者(児)の生活特性と保健師活動(3) 【精神障害者】	精神障害者保健福祉手帳について学習し、利用できる社会保険制度を学んでおくこと。
成績評価方法と基準		割合
1. 筆記試験		1. 70%
2. レポート・提出物・授業への意欲的参加度		2. 30%

授業科目名	公衆衛生看護活動論Ⅲ(看護) (Public Health Nursing Activities III)														
主担当教員	西内 恭子	担当教員	西内 恭子、辻 立世												
科目ナンバリング	PHN415	統合分野	DP①												
科目区分	閉講学期	曜日・時限	水曜 3 限 水曜 4 限 水曜 5 限												
配当年次	3	前期													
単位数	2	必修・選択	選択												
授業形態	講義														
授業概要	<p>(社 立世) 学校保健の意義と目的及び学校における保健教育と保健管理について学習する。学校保健推進の中心的役割を果たす養護教諭の職務の特質や保健室の機能を理解する。学校保健活動の根拠となる学校保健安全法並びに教育関連法規について理解する。また、いじめ、児童虐待、不登校、心の問題等の現代的健康課題への対応を学習する。保健師が学校保健活動を理解し、学校保健と地域保健の連携について考察できるように学習する。</p>														
到達目標	<p><学校保健> 1. 学校保健の意義と目的及び学校における保健教育と保健管理を理解する。 2. 学校保健活動の推進に必要な学校保健安全法及び関連法規を理解し、教員としての養護教諭の職務の特質・保健室の機能を理解する。 3. 発達段階に応じた児童生徒の健康の実態や現代的健康課題への対応の仕方を理解する。 4. 公衆衛生領域の学校保健活動を理解し、学校保健と地域保健の連携ができる能力を習得する。</p>														
履修上の注意(学生へのメッセージ)	<p><産業保健> 1. 産業保健の目指すものを理解し、その重要性を認識する。 2. 産業保健の動向と現状を理解し、健康課題を認識する。 3. 産業保健の推進体制と推進活動に際する基礎知識を習得する。 4. 産業保健における看護職の役割と職務を理解する。</p>														
教科書	<p><学校保健> 1. 出席重視、講義、グループ演習は積極的に参加する。 2. 学校保健は、教育として推進していることを理解し、地域保健との連携のあり方を考える。 <産業保健> 1. レポート課題は期日までに提出する。 2. 講義には積極的に参加する。</p>														
参考書	<p><学校保健> ①学校保健概論 光生館 渡辺正樹編著 ②国民衛生の動向 <産業保健> なし</p>														
備考	<p><学校保健> 公衆衛生看護学 インターメディアカル 新養護概説 少年写真新聞社 采女智津江 その他適宜紹介する(文部科学省出版の学校保健関連テキスト)</p>														
研究室/オフィスアワー	<p>○講義日、非常勤講師控室</p>														
授業展開及び授業計画表	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>学習内容</th> <th>予習・復習・課題等</th> <th>担当</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>学校保健の目的、養護の本質と概念、養護教諭制度の変遷</td> <td>予習:テキストで予習 復習:学校教育における学校保健を確認</td> <td>辻</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>学校保健の領域、保健管理・保健指導と養護教諭の専門的役割</td> <td>予習:前回の授業の復習 復習:テキストで学校保健活動を理解</td> <td>辻</td> </tr> </tbody> </table>			回数	学習内容	予習・復習・課題等	担当	1	学校保健の目的、養護の本質と概念、養護教諭制度の変遷	予習:テキストで予習 復習:学校教育における学校保健を確認	辻	2	学校保健の領域、保健管理・保健指導と養護教諭の専門的役割	予習:前回の授業の復習 復習:テキストで学校保健活動を理解	辻
回数	学習内容	予習・復習・課題等	担当												
1	学校保健の目的、養護の本質と概念、養護教諭制度の変遷	予習:テキストで予習 復習:学校教育における学校保健を確認	辻												
2	学校保健の領域、保健管理・保健指導と養護教諭の専門的役割	予習:前回の授業の復習 復習:テキストで学校保健活動を理解	辻												

授業科目名		公衆衛生看護活動論Ⅳ(看護) (Public Health Nursing Activities IV)																													
担当教員	大巻 悦子	担当教員	大巻 悦子、菊川 綾子																												
科目ナンバリング	PHN416	科目区分	統合分野																												
配当年次	3	開講学期	前期																												
授業形態	講義	単位数	2																												
授業概要	<p>地球環境の変化(地球の温暖化・オゾン層の破壊・砂漠化・酸性雨・森林の減少・生物種の減少)が健康へ及ぼす影響を学び、健康に悪影響を及ぼす環境基準を把握し、環境の評価を理解する。物理的要因は、気温、湿度、気流、塵埃の理解の4要因の他、気圧(高気圧・低気圧)、騒音(高周波・低周波)、振動(全身振動・局所振動)および放射線の基礎知識を理解する。また、わが国の過去の公害事件を学び、現状の大気汚染、水質汚染、土壌汚染、今後の保健師活動としての対策について考える。また、廃棄物(一般廃棄物・産業廃棄物・有害廃棄物)の現状と処理を学ぶ。環境保健を学ぶ必要性を理解した上で、保健師活動として疾病予防対策や、健康保持増進を考える。</p> <p>また、社会的問題と関連の深い保健師活動についても理解を目指す。増加の一途をたどる子どもたちの現状は、社会的背景も考慮した多職種連携による問題発見・問題解決が求められ、それに貢献しうる保健師活動について学ぶ。国際的な広がりを持つ健康課題への対応についても、各国の協力のもとに行われる国際保健医療活動の意義と必要性について理解する。さらには、国民の生命と健康を守る歴史を拓く保健師活動について理解を深め、健康上のリスクを持つ事例への保健師活動について考える。</p>																														
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地球環境の変化が健康に及ぼす影響を理解する。 2. 気温・気圧・騒音の健康への影響を理解する。 3. 過去の公害の健康への影響を学び、今後の予防対策に役立てる。 4. 放射線の基礎知識および放射線が健康に及ぼす影響について理解する。 5. 廃棄物の現状と対策について理解する。 6. 子ども虐待の現状とその対策に関する保健師活動について理解する。 7. 社会的支援を必要とする子ども・家族について学校現場における現状を理解する。 8. 国際看護活動の意義と必要性について理解する。 9. 国民の生命と健康を守ることとは何か 																														
履修上の注意(学生へのメッセージ)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日頃から新聞・TV・ラジオなどの報道に興味を持って見たり聞いたりする。 2. 自然環境の変動(気温、大気、水温など)に注意して見たり聞いたりする。 3. 子ども虐待について、厚生労働省・行政が出している統計資料、新聞等の情報を収集すること。 4. 森林火災・水害・大規模な災害について多角的に調べておくこと。 																														
教科書	<p>教科書 書籍名:『公衆衛生学 2018』 著者:鈴木庄亮、久道 茂、小山 洋、辻 一郎 出版社:南江堂 復刻版14年目の訪問「森林火災・水害・大規模な災害」の記録……コピーして配布 その他不足があれば随時配布する。</p>																														
参考文献	<p>参考文献 国民衛生の動向 2018/2019 厚生労働統計協会 研究室/オフィスアワー 大巻悦子 西棟 236 4時</p>																														
授業展開及び授業計画表	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>学修内容</th> <th>予習・復習・課題等</th> <th>担当</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>地球環境の変化が健康へ及ぼす影響について</td> <td>予習:教科書の確認 復習:健康被害の現状と課題を考える</td> <td>菊川</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>環境の把握と評価について</td> <td>予習:教科書の確認 復習:授業をもとに教科書確認</td> <td>菊川</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>放射線の健康影響について</td> <td>予習:教科書および報道を読み深くリスクを理解する</td> <td>菊川</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>大気汚染について</td> <td>予習:教科書の確認 復習:授業をもとに地球規模で現状と課題について考える</td> <td>菊川</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>水質汚染及び土水・下水道について</td> <td>予習:教科書の確認 復習:授業をもとに現状と課題について考える</td> <td>菊川</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>土壌汚染について</td> <td>予習:教科書の確認 復習:授業をもとに現状と課題について考える</td> <td>菊川</td> </tr> </tbody> </table>			回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当	1	地球環境の変化が健康へ及ぼす影響について	予習:教科書の確認 復習:健康被害の現状と課題を考える	菊川	2	環境の把握と評価について	予習:教科書の確認 復習:授業をもとに教科書確認	菊川	3	放射線の健康影響について	予習:教科書および報道を読み深くリスクを理解する	菊川	4	大気汚染について	予習:教科書の確認 復習:授業をもとに地球規模で現状と課題について考える	菊川	5	水質汚染及び土水・下水道について	予習:教科書の確認 復習:授業をもとに現状と課題について考える	菊川	6	土壌汚染について	予習:教科書の確認 復習:授業をもとに現状と課題について考える	菊川
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当																												
1	地球環境の変化が健康へ及ぼす影響について	予習:教科書の確認 復習:健康被害の現状と課題を考える	菊川																												
2	環境の把握と評価について	予習:教科書の確認 復習:授業をもとに教科書確認	菊川																												
3	放射線の健康影響について	予習:教科書および報道を読み深くリスクを理解する	菊川																												
4	大気汚染について	予習:教科書の確認 復習:授業をもとに地球規模で現状と課題について考える	菊川																												
5	水質汚染及び土水・下水道について	予習:教科書の確認 復習:授業をもとに現状と課題について考える	菊川																												
6	土壌汚染について	予習:教科書の確認 復習:授業をもとに現状と課題について考える	菊川																												

3	子どもの健康の実態と現代的健康課題と養護教育の役割(養護実践)に向けた取り組み	予習:新聞等で子どもの現代的健康課題を探り対応策を考える 復習:現代的健康課題における地域保健と学校保健の連携の仕方を習得する	辻
4	現代的健康課題への対応、学校における健康観察・健康相談・健康教育(保健指導)と養護教育の専門的役割、児童虐待の早期発見と対応、学校・地域関係機関との連携	予習:前回の授業の復習、関連法規 復習:現代的健康課題からレポート課題提示②	辻
5	保健管理(健康診断と事後措置)、健康診断と学校保健安全法について	予習:前回の授業の復習 復習:レポート課題②提示	辻
6	保健管理(安全管理・危機管理)・学校救急看護	予習:前回の授業の復習 復習:学校救急看護と安全管理、危機管理を理解	辻
7	保健管理(学校感染症対策・学校環境衛生)・地域関係機関との連携	予習:看護学で学習した関連分野を復習して講義に臨む 復習:本日の授業に關して、学校保健安全法及び文部科学省の基準を確認	辻
8	障がい児のための教育(特別支援教育)、特別支援教育における医療的ケアと看護・地域との連携	予習:前回の授業の復習 復習:障がいを持つ子どもとの理解と地域保健との連携を確認	辻
9	オリエンテーション、地域保健における産業保健の位置づけ	復習:キーワードの確認	西内
10	産業保健の目標	予習:前回の授業の復習 復習:キーワードの確認	西内
11	産業保健の歴史	予習:前回の授業の復習 復習:キーワードの確認	西内
12	労働者の健康問題の動向と現状	予習:前回の授業の復習 復習:キーワードの確認 中間レポートについて提示	西内
13	中間レポートの発表、企業と健康	予習:前回の授業の復習 復習:キーワードの確認	西内
14	産業保健活動の課題と展望	予習:前回の授業の復習 復習:キーワードの確認	西内
15	労働衛生の基礎知識、労働衛生行政と管理業務	予習:前回の授業の復習 復習:レポートについて提示	西内
成績評価方法と基準			
<p><学校保健> ①レポート及びテストで評価する。(60点満点) <産業保健> ②中間レポート ③最終レポート</p>			

7	廃棄物の対策と処理について	予習：教科書の確認 復習：授業をもとに現状と課題について考える 確認 復習：授業をもとにプリントと教科書確認	菊川 大巻
8	子どもの虐待—児童虐待予防を踏まえた母子保健活動	予習：事前に入手可能な情報収集をしておくこと、配布資料の確認 復習：授業をもとにプリント確認	大巻
9	子どもの虐待—リスクを持つ母子への支援	予習：事前に配布資料の確認と疑問点を考える 復習：授業をもとにプリント確認	大巻
10	リスクを持つ母子への支援—社会的支援を必要とする生徒へのアプローチ	予習：関連添上国支援について調べておく 課題：国際保健活動の場と対象を明確にし、現状と課題を考える	大巻
11	国際保健の現状と課題	予習：「14年目の訪問」を読み込む 課題：「14年目の訪問」を分析し課題を抽出する	大巻
12	公衆衛生看護活動論総括①	13, 14 回目の講義を通して、保健師活動(公衆衛生看護)の原点を考えることができる。	大巻
13	公衆衛生看護活動論総括②		大巻
14	公衆衛生看護活動論総括③		大巻
15	公衆衛生看護活動論総括④		大巻
成績評価方法と基準			
(菊川)			
1. レポート			
2. 定期試験			
(大巻)			
1. 筆記試験			
2. レポート等提出物			

授業科目名	公衆衛生看護管理論(看護) (Management of Public Health Nursing)			
主担当教員	富田 久子	担当教員	富田 久子、大巻 悦子、関口 敏彰	
科目ナンバリング	PHN417	統合分野	ディプロマポリシー 該当項目	DP①
配当年次	3	開講学期	前期	金曜1限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択 選択
授業概要	地域で公衆衛生看護活動を展開するうえで必要な知識、技能について修得する授業である。地域で生活する個人、家族、地域の特性を把握、アセスメントし、地域の健康問題や健康課題を抽出する地域診断の概念と方法論、自治体における公衆衛生看護活動の計画立案、実施、改善、評価、改善の一連の流れ、公衆衛生看護活動を展開するうえで必要な管理(マネジメント)、平常時、災害時を含めた健康危機管理、地域ケアシステム等事例をまじえて講義する。			
到達目標	1. 地域で生活する個人、家族、地域の特性をアセスメントするための地域診断について理解する。 2. 地域の健康課題、健康問題について考えることができる。 3. 公衆衛生看護活動の計画立案、実施、評価、改善について理解する。 4. 公衆衛生看護活動を展開するうえで必要な組織管理、事業・業務管理、人材育成、人事管理、社会資源管理、事例管理、情報管理、予算管理、リスクマネジメント、健康危機管理について理解する。 5. 公衆衛生看護活動をより有効に展開させるための地域ケアシステムについて理解する			
履修上の注意(学生へのメッセージ)	保健師課程専攻学生対象の講義である			
教科書	教科書			
参考文献	荒貫直子ら 公衆衛生看護学 インターメディアカル 平野かよ子 保健学講座 公衆衛生看護管理論 マチカルフレンド 必要時、プリント教材を配布する			
参考書	参考書			
厚生の指標 増刊 国民衛生の動向	「標準保健師講座 1 公衆衛生看護概論」医学書院 執筆：標美奈子他 「標準保健師講座 2 公衆衛生看護技術」医学書院 執筆：中村裕美子他 「標準保健師講座 3 対象別公衆衛生看護活動」医学書院 執筆：中谷芳美他			
研究室/オフィスアワー				
富田久子 西棟 235 随時				
授業展開及び授業計画表				
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当	
1	公衆衛生看護活動の目的と公衆衛生看護管理の目的	公衆衛生看護活動の目的や理念について予習しておくこと。 プリシード・プロシードモデル、コミュニケーション・パートナーモデルについて復習しておくこと。		
2	地域診断の過程を学ぶ	地域診断の必要性やどのような情報が必要かを予習しておく。		
3	地域診断のための情報収集とアセスメント、分析について実際を知る	情報を取集し、分析する方法について予習しておくこと。		
4	地域診断から健康課題を導く	健康課題に対する対策を考えていくこと。		
5	地域の情報のアセスメントに基づく健康課題	授業内に終わらなかつた課題に取り組みでいくこと。		
6	公衆衛生看護活動の計画立案(健康課題から必要な事業を考える計画する)	居住地の市町村の事業計画について事前に調べ		
7	公衆衛生看護活動の計画立案とその後の実施・評価(PDCA サイクルの活用)	抽出された健康課題に対し、公衆衛生看護活動の計画を考えていくこと。		
8	保健福祉計画の策定における保健師の役割(ハブリックコメントの活用)	教科書の内容を予習しておくこと。		
9	保健福祉計画の策定と予算(実際の保健事業の予算を考える)	教科書の内容を予習しておくこと。		
10	公衆衛生看護管理(1)【運営・人事管理】	教科書の内容について予習しておくこと。		

11	公衆衛生看護管理(2)【情報・ケアの質管理】	教科書の内容について予習しておくこと。
12	健康危機管理(1)【感染症】	授業内資料について予習しておくこと。
13	健康危機管理(2)【食中毒】	授業内資料について予習しておくこと。
14	健康危機管理(3)【災害】	授業内資料について予習しておくこと。
15	地域ケアシステムづくり	授業内資料について予習しておくこと。
成績評価方法と基準		
1、筆記試験		割合
2、課題等提出物・授業への意欲的参加度		1 80%
		2 20%

保健医療福祉行政論(看護) (Health Care and Welfare Administration)																																																											
授業科目名	保健医療福祉行政論(看護)	担当教員	関口 敏彰																																																								
主担当教員	関口 敏彰	担当教員	関口 敏彰																																																								
科目ナンバリング	PHN417	統合分野	DP①																																																								
配当年次	3	開講学期	前期																																																								
授業形態	講義	単位数	2																																																								
授業概要	保健医療福祉行政は、地域に暮らす人々が健康で安心して暮らせるための「地域づくり」であり、それを推進する仕組みである。保健医療福祉行政は、この保健医療福祉行政を具体化する実践である。保健医療福祉行政と保健師活動を連動して理解することを目的とする。																																																										
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保健医療福祉行政の全体像を把握することができる。 2. 保健医療福祉行政の法的基礎とその目標が理解できる。 3. 保健医療福祉行政と公衆衛生の専門職としての保健師の役割を理解できる。 4. 保健医療福祉の地域づくりを推進する行政のしくみと機能を理解できる。 5. 行政における政策化のプロセスと方法論を学修する。 6. 保健医療福祉の地域づくりを推進する保健師活動を学修する。 																																																										
履修上の注意(学生へのメッセージ)	保健師活動の対象は全ての世代にわたっており、全ての法律の基礎は日本国憲法である。保健医療福祉行政の全体像を把握し、法や制度の位置づけを理解することが必要。																																																										
教科書	<p>これからの保健医療福祉行政論 第2版：星田二・麻原きよみ・編集；日本看護協会出版会</p> <p>公衆衛生がみえる。医療情報科学研究所編集；メディアックメディア</p>																																																										
参考書	<p>保健医療福祉行政論 第2版：星田二・麻原きよみ・編集；日本看護協会出版会</p> <p>保健医療福祉行政論 第2版：星田二・麻原きよみ・編集；日本看護協会出版会</p>																																																										
公衆衛生看護学(2年次概論時)に購入済)	研究室/オフィスアワー																																																										
大巻悦子 西棟 236 随時	関口敏彰 西棟 234 随時																																																										
授業展開及び授業計画表	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>学修内容</th> <th>予習・復習・課題等</th> <th>担当</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>保健医療福祉行政の基本</td> <td>公衆衛生看護学概論で学修したヘルスプロモーション、公衆衛生看護学活動論Ⅰ・Ⅱで学修した法律について復習しておくこと。</td> <td>関口敏彰</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>保健医療福祉行政を推進する行政の仕組みと機能</td> <td>事前に指定する教科書の範囲を熟読して予習しておくこと。</td> <td>関口敏彰</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>行政における保健師の役割</td> <td>事前に渡す「保健師活動指針 活用ガイド」の指定する範囲を熟読して予習しておくこと。</td> <td>関口敏彰</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>保健師の活動とその変遷</td> <td>事前に渡す資料を熟読して予習しておくこと。</td> <td>関口敏彰</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>健康問題に対する保健師活動</td> <td>事前に渡す資料を熟読して予習しておくこと。</td> <td>関口敏彰</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>行政における保健師活動の特徴</td> <td>事前に指定する教科書の範囲を熟読して予習しておくこと。</td> <td>関口敏彰</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>保健医療福祉行政における計画</td> <td>事前に指定する計画の概要版を熟読して予習しておくこと。</td> <td>関口敏彰</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>保健医療福祉行政の実践</td> <td>事前に指定する計画(範囲・事前に指定)を熟読して予習しておくこと。</td> <td>関口敏彰</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>保健医療福祉財政における財政の理念と仕組み</td> <td>事前に指定する教科書の範囲を予習しておくこと。</td> <td>関口敏彰</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>保健医療福祉の政策決定への住民参加</td> <td>事前に配布する資料を熟読して予習しておくこと。</td> <td>関口敏彰</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>保健師活動における「地域づくり」</td> <td>事前に配布する資料を熟読して予習しておくこと。</td> <td>関口敏彰</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>保健師活動とソーシャル・キャピタル</td> <td>事前に配布する資料を熟読して予習しておくこと。</td> <td>関口敏彰</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>保健師活動における地域組織の育成</td> <td>事前に配布する資料を熟読して予習しておくこと。</td> <td>関口敏彰</td> </tr> </tbody> </table>			回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当	1	保健医療福祉行政の基本	公衆衛生看護学概論で学修したヘルスプロモーション、公衆衛生看護学活動論Ⅰ・Ⅱで学修した法律について復習しておくこと。	関口敏彰	2	保健医療福祉行政を推進する行政の仕組みと機能	事前に指定する教科書の範囲を熟読して予習しておくこと。	関口敏彰	3	行政における保健師の役割	事前に渡す「保健師活動指針 活用ガイド」の指定する範囲を熟読して予習しておくこと。	関口敏彰	4	保健師の活動とその変遷	事前に渡す資料を熟読して予習しておくこと。	関口敏彰	5	健康問題に対する保健師活動	事前に渡す資料を熟読して予習しておくこと。	関口敏彰	6	行政における保健師活動の特徴	事前に指定する教科書の範囲を熟読して予習しておくこと。	関口敏彰	7	保健医療福祉行政における計画	事前に指定する計画の概要版を熟読して予習しておくこと。	関口敏彰	8	保健医療福祉行政の実践	事前に指定する計画(範囲・事前に指定)を熟読して予習しておくこと。	関口敏彰	9	保健医療福祉財政における財政の理念と仕組み	事前に指定する教科書の範囲を予習しておくこと。	関口敏彰	10	保健医療福祉の政策決定への住民参加	事前に配布する資料を熟読して予習しておくこと。	関口敏彰	11	保健師活動における「地域づくり」	事前に配布する資料を熟読して予習しておくこと。	関口敏彰	12	保健師活動とソーシャル・キャピタル	事前に配布する資料を熟読して予習しておくこと。	関口敏彰	13	保健師活動における地域組織の育成	事前に配布する資料を熟読して予習しておくこと。	関口敏彰
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当																																																								
1	保健医療福祉行政の基本	公衆衛生看護学概論で学修したヘルスプロモーション、公衆衛生看護学活動論Ⅰ・Ⅱで学修した法律について復習しておくこと。	関口敏彰																																																								
2	保健医療福祉行政を推進する行政の仕組みと機能	事前に指定する教科書の範囲を熟読して予習しておくこと。	関口敏彰																																																								
3	行政における保健師の役割	事前に渡す「保健師活動指針 活用ガイド」の指定する範囲を熟読して予習しておくこと。	関口敏彰																																																								
4	保健師の活動とその変遷	事前に渡す資料を熟読して予習しておくこと。	関口敏彰																																																								
5	健康問題に対する保健師活動	事前に渡す資料を熟読して予習しておくこと。	関口敏彰																																																								
6	行政における保健師活動の特徴	事前に指定する教科書の範囲を熟読して予習しておくこと。	関口敏彰																																																								
7	保健医療福祉行政における計画	事前に指定する計画の概要版を熟読して予習しておくこと。	関口敏彰																																																								
8	保健医療福祉行政の実践	事前に指定する計画(範囲・事前に指定)を熟読して予習しておくこと。	関口敏彰																																																								
9	保健医療福祉財政における財政の理念と仕組み	事前に指定する教科書の範囲を予習しておくこと。	関口敏彰																																																								
10	保健医療福祉の政策決定への住民参加	事前に配布する資料を熟読して予習しておくこと。	関口敏彰																																																								
11	保健師活動における「地域づくり」	事前に配布する資料を熟読して予習しておくこと。	関口敏彰																																																								
12	保健師活動とソーシャル・キャピタル	事前に配布する資料を熟読して予習しておくこと。	関口敏彰																																																								
13	保健師活動における地域組織の育成	事前に配布する資料を熟読して予習しておくこと。	関口敏彰																																																								

14	地域ケアシステムの実際	地域の保健・医療・福祉・介護の主なサービスについて復習しておくこと。	関口敏彰
15	地域ケアシステムの実際 共有とまとめ	地域ケアシステムの現状を調べてまとめておくこと。	関口敏彰
成績評価方法と基準			割合
1. 定期テスト			1. 80%
2. レポート等の提出物、授業への意欲的参加度			2. 20%

授業科目名		看護研究(看護) (Nursing Research and Practice)	
担当教員	村上 生美	担当教員	村上 生美、関口 敏彰、久木元 由紀子、蓮池 光人、徳島 佐由美
科目ナンバリング	GR503	統合分野	ディプロマポリシー 該当項目 DP①④
配当年次	3	開講学期	前期
授業形態	演習	単位数	1
授業概要	<p>看護学が発展するためには、新たな知識を獲得し拡大していく必要がある。また今日では専門職に EBN と EBM に基づく実践が強く求められている。これは看護実践者が、専門職として看護における未解決な課題に取り組み、実践に新たな知恵を活用することが重要であることを意味している。本科目では、看護研究に対する基礎知識(テーマ決定から結論を得るまでの基礎的な研究プロセスや研究デザイン等)を理解し、4 年次の卒業研究に活用できることを目指す。また本科目は将来、看護職として活動する場合、しばしば必要となる内容であり、看護実践に研究から得られた知見を活用する方略も含んでいる。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 研究倫理について理解することができる。 2. 看護研究の目的と意義を述べることができる。 3. 看護研究における基本的人権と倫理上の原則を述べることができる。 4. 自己の「こだわり・疑問点」に関する先行研究を検索し、内容をまとめることができる。 5. 学術論文をクリティクすることができる。 6. 主な研究デザイン(質的/量的研究)の概要を説明することができる。 7. 研究計画書を作成することができる。 <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>これまで学修してきた知識や技術あるいは臨地実習の経験をフイードバックし、身近な体験からの「おや?」を大切にし、興味・関心・疑問を想起しておくこと。このことは研究へ着手する際に重要なことです。</p> <p>また「統計学」は復習しておくこと。</p> <p>もし「研究」に対する苦手意識があるようだったらさらさらわらわらしておくこと。</p>		
教科書	教科書		
坂下玲子 宮芝智子 小野博史 著 系統看護学講座別巻「看護研究」医学書院			
参考書	参考書		
石井京子・多尾清子著「ナースのための質問紙調査とデータ分析」医学書院			
研究室/オフィスアワー	研究室/オフィスアワー		
ガイダンス時に知らせる。	ガイダンス時に知らせる。		
授業展開及び授業計画表	授業展開及び授業計画表		
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	教科目ガイダンス 看護研究の目的と意義 研究材料の発見と研究計画立案のプロセス 研究と基本的人権・倫理上の原則	テキストの「序章」を読み、看護研究の必要性を考えておくこと。 テキストの第 4 章「研究における倫理的配慮」を読み、倫理の必要性を考えておくこと。	村上
2	質的記述研究デザイン	事前に配布する質的記述研究の論文を読んでおく。	蓮池
3	文献研究デザイン	事前に配布する文献研究の論文を読んでおく。	久木元
4	量的記述研究デザイン	事前に配布する量的記述研究の論文を読んでおく。	関口
5	実験研究デザイン	事前に配布する実験研究デザインの論文を読んでおく。	村上
6	文献検索	予習：自分の「こだわり」「関心事」等に関する複数のキーワードを準備しておく。	久木元・蓮池・関口・村上
7	研究計画書の作成①	復習：これまで学修してきた 4 種類の研究デザインについて、その研究方法をフィードバックしておく。	全教員
8	研究計画書作成②	同上	全教員
9	GW 研究計画書の作成① ※研究計画書作成は、原則として個人ワークとする	「研究計画書作成」の講義、GW のオリエンテーションにしたがい、目的を見失わないよう主体的に行	全教員

	るが、指導教員を決めるので、必要に応じてグループワークも行う。初回にオリエンテーションをし、最終段階でまとめ、総括を行う。	う。個人への助言・教員についてはオリエンテーション時に伝える。	
10	GW 研究計画書の作成②	同上	全教員
11	GW 研究計画書の作成③	同上	全教員
12	GW 研究計画書の作成④	同上	全教員
13	GW 研究計画書の作成⑤	同上	全教員
14	GW 研究計画書の作成⑥	同上	全教員
15	教科目のまとめ(各、各グループからの発表と評価)	各自、各グループで全資料をもちより自己評価しておく。	全教員
成績評価方法と基準			
提出された「研究計画書」を中心に、ルーブリックを用いて評価する。 4/5以上の出席が必要			
割合			研究計画書 100%評価

看護学科 教職課程
(2019年度 入学生カリキュラム)

授業科目名	教育原理(教職課程・看護) (Principle of Education)		
主担当教員	和崎 光太郎	担当教員	和崎 光太郎
科目ナンバリング	SE609	教職に関する科目	ディプロマポリシー 該当項目
配当年次	1	開講学期	前期 集中講義
授業形態	講義	単位数	2 必修・選択 必修
授業概要	<p>①教育の基礎・本来的な原理を学ぶために教育の歴史や思想などの視点から各時代において教育や学校がどのような位置づけられてきたかを考察する。 ②諸外国の教育について学び、現在の日本の教育がどのような思想的・歴史的背景を有しているのかを理解することで、学校教育や社会教育の在り方について見識を深める。 ③現代における教育の課題や教育改革等の動きにも理解を深め、現代に求められる教師として必要な資質能力の習得を目指す。</p> <p>到達目標</p> <p>①教育の基本的な概念や方法を踏まえ上での教育の意義・目的・理念を理解する。 ②日本及び諸外国の教育に関する歴史や思想、及び学校の働きについての知識を身につける。 ③現代の学校教育について理解を深め、教員として必要な資質能力を身につける。</p> <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>授業中の私語にはかなり厳しく対応します。</p>		
教科書	「小学校学習指導要領Ⅰ(平成29年告示)及びⅡ(中学校学習指導要領Ⅰ(平成29年告示)を、必ず購入して授業に持参してください。他、授業中に配布するレジュメをテキストとします。		
参考書	授業中に適宜紹介する。		
研究室/オフィスアワー	研究室/オフィスアワー		
授業に関して何か質問等ありましたら、メールで、大学名・氏名を明記した上で送付してください(携帯メール不可)。			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	教育学と教育の成り立ち	集中講義として開講するので、適宜授業中に指示する。	
2	教育する意味と目的①:日本国憲法を読む	同上。	
3	教育する意味と目的②:教育基本法の第1章を読む	同上。	
4	教育する意味と目的③:教育基本法の第2章以降を読む	同上。	
5	教育の理念及び目的についてのまとめと到達度評価	同上。	
6	初等教育のわららいと内容①:小学校学習指導要領の第1章・第2章を読む	同上。	
7	初等教育のわららいと内容②:小学校学習指導要領の第3章以降を読む	同上。	
8	前期中等教育のわららいと内容①:中学校学習指導要領の第1章・第2章を読む	同上。	
9	前期中等教育のわららいと内容②:中学校学習指導要領の第3章以降を読む	同上。	
10	学習指導についてのまとめと到達度評価	同上。	
11	西洋教育思想史①:エラスムス・ルター・コメニウス・ロック	同上。	
12	西洋教育思想史②:ルソー・ペスタロッチ・フレール・ヘルベルト	同上。	
13	新教育の思想家と大正自由教育	同上。	
14	戦後日本の教育史	同上。	

15	教育の思想と歴史についてのまとめと到達度評価	同上。
成績評価方法と基準		割合
到達度評価(持込可のテスト)		100%

授業科目名 教職論(教職課程・看護) (Studies of Teacher Training)			
主担当教員	阿部 秀高	担当教員	阿部 秀高
科目ナンバリング	SE608	教職に関する科目	ディプロマポリシー 該当項目
配当年次	1	開講学期	前期
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	現代における教職とはどのような職業なのかを考えていくことを講義の中心とします。教職に関する資格・職務・制度についての基礎知識について理解を深め、教職に対しての心構えについて形成する。		
到達目標	教職に関する基礎的な知識を的確に答えることができる。また、現代の日本に求められる教師像を、自ら探求し、論述することができる。		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	教職志望者であるという強い目的意識をもって受講して欲しい。そもそも、途中で断念することになるであろう。講義形式で授業を進めるが、グループワークを取り入れる予定であり、受講生にも発言を求める。なお、受講生の数、興味・関心に応じて、講義計画を変更することもある。		
教科書			
人間教育を実践する教師への道—教師の仕事と教育行政— 阿部秀高著 (株)ERP			
参考書			
授業の際に必要なことをご紹介します。			
研究室/オフィスアワー			
研究室 20 または教職支援センター/在室時間時			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	オリエンテーション 教師をめざす	・教職課程の概要を確認する ・教員のイメージを話し合ってみよう。	
2	教職とは何か	・教職の意義について確認する。 ・教職の意義について話し合ってみよう。	
3	教師観の変遷と理想の教師像	・教師観の変遷について、時代と教師の役割から考察する。 ・理想の教師像を話し合ってみよう。	
4	学校とは1 成立の歴史と機能	・学校の歴史とその機能について確認する。 ・理想の学校を話し合ってみよう。	
5	学校とは2 自身の学校(高等学校を中心)	・出身校(高等学校)の学校案内・HPより学校の概要を確認する。 ・それぞれの学校についての相違点から、学校とはどのようなものか話し合ってみよう。	
6	教師の仕事 1 小学校・中学校・高等学校教員	・教師の一日のスケジュール ・各校種の教員の仕事を確認する。	
7	教師の仕事 2 養護教諭の仕事	・一日のスケジュールと年間のスケジュール ・養護教諭の仕事を確認する。	
8	学校と教師 1 教科指導・校務分掌	・授業づくりと評価について確認する。 ・校務分掌について、特に保健に関する分掌について確認する。	
9	学校と教師 2 学級経営・課外活動	・学級経営、課外活動について確認する。	
10	学校教育をめぐる現状と教師	・9 回までの学びから学校教育をめぐる現状と教師の役割について話し合ってみよう。	
11	国内の教育政策の動向 1 学力・役割	・文部科学省HPより、最新の教育施策を調べてみよう。 ・今求められる学力と教師の役割について話し合ってみよう。	
12	国内の教育政策の動向 2 資質・能力の向上	・文部科学省HPより、最新の教育施策を調べてみよう。 ・今求められる教員の資質・能力について考え、話し合ってみよう。	

13	諸外国の教師と学校	・外国の学校と教師について確認する。 ・日本との違いについて話し合ってみよう。	
14	教職への進路選択と教員採用試験	・教員採用試験の情報を調べてみよう。	
15	教職論の振り返り 課題レポート	・教職論の学習を振り返り、整理しよう。 ・自分の理想の学校・教師像をまとめてみよう。	
成績評価方法と基準			
①最終回における課題レポート			割合
②授業におけるグループワーク活動への参加・課題への取り組み・学びの履歴シートの出来映え、提出状況などを総合して評価する。グループワークを取り入れる予定。			①30% ②70%

教育行政学(教職課程・看護) (Educational Administration)			
授業科目名	担当教員	担当教員	阿部 秀高
主担当教員	阿部 秀高	教職に関する科目	ティプロマボリナー 該当項目
科目ナンバリング	SE610	科目区分	曜日・時限
配当年次	1	開講学期	火曜 1限
授業形態	講義	単位数	必修・選択 必修
授業概要	<p>教育行政とは、「国や地方公共団体の自治体が、教育法規を基礎に教育制度を運営し、教育条件の整備と教育活動の補助・助成を行うこと」である。本講義では、教育行政学に関して、受講者がこれまでの学校教育の中で経験した教育行政の一端を振り返るとともに、教育行政施策に関するマスコミ報道等を手掛かりとしながら、日本の教育行政の現状と今後の課題について学修する。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育行政の理念、組織、仕組みに関する基礎知識を持つことができる。 2. 教育行政と学校・教員との関係を理解することができる。 3. 教育行政を巡る今日的な課題について理解することができる。 4. 教育行政について考究するために必要な情報の取得方法を知り、活用することができる。 <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 主体的・協働的に学ぶアクティブ・ラーナーになること。 2. 限られた時間内で一定程度の文章を書く習慣を身に付けること。 3. 問題意識を持って受講すること。 4. 授業中の携帯電話等の使用はしないこと。 		
教科書	「人間教育を実践する教師への道—教師の仕事と教育行政—」 阿部秀高著 株式会社 ERP		
参考文献	『教育法規エッセンス』元兼正浩／花書院 その他、必要に応じて紹介する。		
研究室／オフィスアワー	研究室／オフィスアワー		
東棟4階20研究室／在室時は随時	東棟4階20研究室／在室時は随時		
授業展開及び授業計画表	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	オリエンテーション 「教育行政学」の学びのアウトラインを知る	予習：シラバス、教科書の確認 復習：授業をもとに今後の学修を確認する	
2	公教育の原理と思想 公教育の概念や公教育の原理について学ぶ	予習：教科書を読んでおく 復習：三原則の具体例を調べる	
3	学校体系 外国の単線型・複線型学校体系及び日本の学校体系について学ぶ	予習：教科書を読んでおく 復習：日本の学校体系について調べる	
4	教育の法体系① 教育法系の体系及び学校教育法の整備について学ぶ	予習：教科書を読んでおく 復習：学修内容を400字程度でまとめる	
5	教育の法体系② 教育基本法の改正と教育行政の責任の明確化について学ぶ	予習：教科書を読んでおく 復習：今後の課題を調べる	
6	中央教育行政 教育改革における教育行政の役割や文部科学省の組織について学ぶ	予習：教科書を読んでおく 復習：文部科学省の主要施策を調べる	
7	地方教育行政 地方教育行政の役割と教育委員会の制度について学ぶ	予習：教科書を読んでおく 復習：出身地の教育振興基本計画を調べる	
8	教育課程行政 教育課程に関する法制度及び学習指導要領の変遷と教科書採択等について学ぶ	予習：教科書を読んでおく 復習：出身地の教科書を調べる	
9	教育財政と学校財務 教育費の基本原理や教職員にかかる経費について学ぶ	予習：教科書を読んでおく 復習：学修内容を400字程度でまとめる	
10	学校経営改革 学校経営改革の内容を知るとともに地域と共につくる学校について学ぶ	予習：教科書を読んでおく 復習：子どもの今について調べる	

11	学校評価 学校評価の制度及び学校評価システムの展開について学ぶ	予習：教科書を読んでおく 復習：出身地の学校評価を調べる	
12	教員評価 教員評価の制度及び教員評価の実施方法等について学ぶ	予習：教科書を読んでおく 復習：学修内容を400字程度でまとめる	
13	学校安全① いじめ問題への対応及び学校における衛生・健康管理について学ぶ	予習：教科書を読んでおく 復習：いじめ防止対策基本方針を調べる	
14	学校安全② 防犯・安全対策及び学校事故への安全対策と災害に対する備えについて学ぶ	予習：教科書を読んでおく 復習：学校事故のニュースを調べる	
15	課題レポート 講義全体を振り返り、学修状況を確認する。	予習：講義内容の振り返りしておく 復習：学修内容を800字程度でまとめる	
成績評価方法と基準			
1. 授業中に記録した学びの履歴シート【50%】			
2. 最終回の課題レポート【30%】			
3. 授業での発言、主体的な学びの姿勢、及び出席【20%】			
			割合
			1. 50%
			2. 30%
			3. 20%

授業科目名	教育心理学(教職課程・看護) (Educational Psychology)		
主担当教員	北口 勝也	担当教員	北口 勝也
科目ナンバリング	SE611	教職に関する科目	ディプロマポリシー 該当項目
配当年次	1	開講学期	曜日・時限 金曜 3限
授業形態	講義	単位数	2 必修・選択 必修
授業概要	<p>教育心理学は心理学で得られた知見を教育現場に応用する科学である。学校教育を考える上で、教育心理学に関するさまざまな知識や技術を習得し、それらを利用して教育に関わる現象を分析的に捉えることは重要である。また、近年、「不登校」「いじめ」「学習障害」「学習困難」といった学校をめぐる出来事が社会問題化してきている。この授業では、教育心理学の基本的知識を正確に理解し、実際の教育現場をイメージしながら考える基礎を養うことを主な目的としている。</p> <p>到達目標</p> <p>(1) 乳幼児期から青年期の各時期における運動・言語・認知・社会性の発達及び発達上の問題のある子どもへの対応に関する知識と技術を獲得している。</p> <p>(2) 主体的学習を支える記憶、行動、動機づけ、集団づくり、学習評価の在り方などについて、発達の特徴と関連づけて理解している</p> <p>(3) 教育における心理学の意義を理解し、具体的な問題解決を志向する態度を身につけている。</p> <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>授業前に配布する資料を熟読して授業に備えること。授業後には講義内容を復習し、次回授業冒頭の小テストに備えること。小テストは自己採点して、答えられなかった部分については、前回資料をよく復習して、知識を確実に身につけておくこと。</p> <p>教科書</p> <p>なし</p> <p>参考書</p> <p>なし</p> <p>研究室/オフィスアワー</p> <p>非常勤講師控室</p> <p>授業履修期及び授業計画表</p>		
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	発達と教育① ー乳幼児期～幼児期ー	予習として配布資料を熟読すること。復習として小テストを見直して知識を確認すること。	
2	発達と教育② ー学童期～思春期ー	予習として配布資料を熟読すること。復習として小テストを見直して知識を確認すること。	
3	発達と教育③ ー青年期ー	予習として配布資料を熟読すること。復習として小テストを見直して知識を確認すること。	
4	記憶のしくみを知る ー認知心理学ー	予習として配布資料を熟読すること。復習として小テストを見直して知識を確認すること。	
5	記憶に携る教授法を考える ー認知心理学ー	予習として配布資料を熟読すること。復習として小テストを見直して知識を確認すること。	
6	学習のしくみを知る ー学習心理学ー	予習として配布資料を熟読すること。復習として小テストを見直して知識を確認すること。	
7	行動のしくみを知る ー応用行動分析ー	予習として配布資料を熟読すること。復習として小テストを見直して知識を確認すること。	
8	「やる気」の心理学 ー動機づけ心理学ー	予習として配布資料を熟読すること。復習として小テストを見直して知識を確認すること。	
9	授業に必要な心理学的知識に関するまとめ	予習としてまとめテストに備えること。復習としてまとめテストの解答を見直して知識を確認すること。	
10	評価の心理的影響を知る	予習として配布資料を熟読すること。復習として小テストを見直して知識を確認すること。	
11	性格の把握と学べる集団作りを知る ー性格心理学・社会心理学ー	予習として配布資料を熟読すること。復習として小テストを見直して知識を確認すること。	
12	発達障害への対応を知る ー臨床心理学	予習として配布資料を熟読すること。復習として小テストを見直して知識を確認すること。	
13	児童生徒に見られる心の問題 ー臨床心理学ー	予習として配布資料を熟読すること。復習として小テストを見直して知識を確認すること。	
14	教師の専門性とカウンセリングマインド ー臨床心理学ー	予習として配布資料を熟読すること。復習として小テストを見直して知識を確認すること。	
15	個別指導に必要な心理学的知識に関するまとめ	予習としてまとめテストに備えること。復習としてまとめテストの解答を見直して知識を確認すること。	

成績評価方法と基準	割合
①講義中に行われる2回のまとめテスト	①80%
②小テストの成績により評価する。	②20%

看護学科 教職課程
(2017年度以降 入学生カリキュラム)

授業科目名 教育課程論(教職課程・看護) (Curriculum Studies)			
主担当教員	浪本 勝年	担当教員	浪本 勝年
科目ナンバリング	SE612	教職に関する科目	タイプAポリシー 該当項目
配当年次	2	開講学期	曜日・時限 水曜 2 限
授業形態	講義	単位数	2 必修・選択 必修
授業概要	<p>学校の教育計画の全体像を示すものを教育課程(カリキュラム)といっている。ここでは、教育課程の全体像とその歴史の変遷、及び現段階における問題点について様々な角度から考察する。</p> <p>到達目標</p> <p>教育課程に関し、学校において現在どのようなことが問題・課題となっているかについて、その概要を把握し、解決に向けて積極的に考え、行動できるようにする</p> <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>現代日本の学校をめぐる教育課程の問題点について考えるためにも、現在、現実(に)生起している学校におけるさまざまな問題を知るために必ず毎日、新聞に眼を通すこと。</p> <p>教科書</p> <p>浪本勝年ほか編『ハンディ教育六法』北樹出版</p> <p>参考書</p> <p>適宜、授業中に紹介する。</p> <p>研究室/オフィスアワー</p> <p>授業中に指示するE-mail等による。</p>		
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	開講に当たって、教育課程とはなにか	予習：教育課程について考える 復習：学習内容をテキストで再確認する	
2	教育課程論の教育職員免許法における位置と意義1	予習：テキスト及び配付資料を読んで事前学習を行う 復習：テキストの年表・資料及び配付資料を読んで、理解を深める	
3	教育課程論の教育職員免許法における位置と意義2	予習：テキスト及び配付資料を読んで事前学習を行う 復習：テキストの年表・資料及び配付資料を読んで、理解を深める	
4	教育課程についてそれを具体的に示した教科書について考える1 戦前編	予習：テキスト及び配付資料を読んで事前学習を行う 復習：テキストの年表・資料及び配付資料を読んで、理解を深める	
5	教育課程についてそれを具体的に示した教科書について考える2 戦後編	予習：テキスト及び配付資料を読んで事前学習を行う 復習：テキストの年表・資料及び配付資料を読んで、理解を深める	
6	ビデオ教材から学ぶ教育課程	予習：事前配付資料を読んで事前学習を行う 復習：ビデオの内容について、各自の感想をまとめる	
7	戦前の教育課程：教授要目	予習：戦前教育について配付資料を読んで事前学習を行う 復習：テキストの年表・資料及び配付資料を読んで、理解を深める	
8	戦後の教育課程1：その法制的な仕組み	予習：戦後教育についてテキスト及び配付資料を読んで事前学習を行う 復習：テキストの年表・資料及び配付資料を読んで、理解を深める	
9	戦後の教育課程2：学習指導要領(1)	予習：学習指導要領の変遷についてテキスト及び配付資料を読んで事前学習を行う 復習：テキストの年表・資料及び配付資料を読んで、理解を深める	

10	戦後の教育課程3：学習指導要領(2)	予習：テキスト及び配付資料を読んで事前学習を行う 復習：テキストの年表・資料及び配付資料を読んで、理解を深める	
11	戦後の教育課程4：学習指導要領(3)	予習：テキスト及び配付資料を読んで事前学習を行う 復習：テキストの年表・資料及び配付資料を読んで、理解を深める	
12	教育課程をめぐる現代的問題1：諸外国の事例	予習：テキスト及び配付資料を読んで事前学習を行う 復習：テキストの年表・資料及び配付資料を読んで、理解を深める	
13	教育課程をめぐる現代的問題2：教科書検定をめぐる問題	予習：教科書訴訟についてテキスト及び配付資料を読んで事前学習を行う 復習：テキストの年表・資料及び配付資料を読んで、理解を深める	
14	教育課程をめぐる現代的問題3：教科書採択をめぐる問題	予習：教科書採択の問題についてテキスト及び配付資料を読んで事前学習を行う 復習：テキストの年表・資料及び配付資料を読んで、理解を深める	
15	教育課程をめぐる現代的問題4：外国語教育をめぐる問題	予習：テキスト及び配付資料を読んで事前学習を行う 復習：テキストの年表・資料及び配付資料を読んで、理解を深める	
成績評価方法と基準			
1 期末のレポート課題			
2 授業中に要求する小レポート			
			割合
			1 60%
			2 40%

授業科目名		道徳教育論(教職課程・看護) (Moral Education)	
主担当教員	福島 信也	担当教員	福島 信也
科目ナンバリング	SE617	教職に関する科目	ディプロマポリシー 該当項目
配当年次	2	開講学期	後期
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	<p>本授業では、『特別の教科・道徳(小学校4.5分、中学校50分)』の作り方を実践的に学びます。 2018年度から小学校、2019年度から中学校で特別の教科「道徳科」になり、教科書が配布されています。教育実習でも「道徳科」を担当させている学校が増えています。 また、新高等学校学習指導要領(2019.4/1～2022.3/31 移行期間 2022年4/1より施行)の主な改善事項の一つに、「道徳教育の充実」が挙げられ、全ての教師が協力して道徳教育を展開することを規定(総則)しています。 児童・生徒たちが興味をもって深い学びを得られる授業をどうしたらできるでしょうか。 学校現場の様子も説明しながら、受講者同士の話し合い(グループ活動)、教材や授業方法の検討、学習指導案作成、(フチ)模擬授業などを通じて、これらの問題を考えしていきます。</p>		
到達目標	<p>※学校における道徳教育の位置づけやわらわら、内容について理解する ●『中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編(平成29年7月)』の重要事項について、答えることができる。 ●「道徳とは何か」、「なぜ必要なのか」など、説明することができる。</p> <p>※道徳授業の実践に資する知識や技能を身につける ●児童・生徒たちの道徳性の発達や興味・関心、社会的要請などを踏まえ、授業を工夫しながら学習指導案を作成する。(全員) ●作成した学習指導案をもとに、(フチ)模擬授業をする。(全員) ●道徳授業に興味・関心をもち、道徳授業(生命尊重など)をさらにやってみてみたい。</p> <p>履修上の注意(学生へのメッセージ) ●授業で配布したプリントは、必ずファイル(綴じ込んで保存)すること。 ●プリントを適宜読み返し、授業で学んだことを復習すること。 ●授業で配布した課題プリントは、必ず提出すること。 ●教材をじっくり読み込んで(何回も)、学習指導案を作成すること。</p>		
教科書			
使用しない。プリントを配布します。			
参考書			
●文部科学省「中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」平成29年7月			
●授業は配布するプリントに基づいて行います。 学校現場で役立つ内容が含まれているプリントを用意します。プリントは実践に活かすことができるので、ファイル(綴じ込んで保存)すること。 その他、参考となる文献などは授業中に適宜紹介していきます。			
研究室/オフィスアワー			
イーストポート4階 研究室20			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	オリエンテーション 及び 自分を語る ～答えのない道徳の問題 どう解く?～	プリント復習	福島信也
2	「特別の教科 道徳」 改訂のポイント(その1) 【学習指導要領解説】配布	プリント復習	福島信也
3	「特別の教科 道徳」 改訂のポイント(その2) 【道徳教科冊子】配布	プリント復習 「中学校学習指導要領解説」を読み直す。	福島信也
4	福島先生の模擬授業 ～小・中・高校でも利用できる教材を使って～	プリント復習	福島信也
5	「特別の教科 道徳」 改訂のポイント(その3)	プリント復習 教材の分析(内容項目を考えよう)	福島信也
6	道徳授業の指導法(1) 「授業の形態・指導過程」などについて	プリント復習・教材分析	福島信也
7	道徳授業の指導法(2) ～「評価」について、指導案作成のポイント～	プリント復習・教材分析	福島信也

【下書き用課題用紙】配布			
8	道徳授業の指導法(3) 授業(展開)を知ろう!① ～指導案のフラスコタッチをしてみよう!～	プリント復習・教材分析	福島信也
9	道徳授業の指導法(4) 授業(展開)を知ろう!② ～指導案の内容を工夫する～	プリント復習・指導案作成	福島信也
10	道徳授業の指導法(5) 授業(導入・展開・終末)を知ろう!③ ～指導案の内容をさらに工夫する～	プリント復習・指導案作成	福島信也
11	指導案検討 ～指導案の内容をさらに高める～	プリント復習・指導案作成	福島信也
12	指導案検討会 ～指導案をグループで高め合おう&(フチ)模擬 授業を成功させよう～ (フチ)模擬授業の工夫・準備・指導案提出	プリント復習・模擬授業の準備	福島信也
13	(フチ)模擬授業(1)	模擬授業準備 模擬授業の評価・自己評価	福島信也
14	(フチ)模擬授業(2)	模擬授業準備 模擬授業の評価・自己評価	福島信也
15	(フチ)模擬授業(3) まとめ(学校教育における道徳教育の使命)	模擬授業準備 模擬授業の評価・自己評価	福島信也
成績評価方法と基準			割合
			・模擬授業 : 30%
			・道徳指導案 : 35%
			・授業内課題 : 35%

- (フチ)模擬授業は全員が行います。
- 学習指導案は全員が提出します。
- 授業では、課題(プリント・コメントシート)を提出します。

授業科目名		特別活動(職教課程・看護) (Special Activities)	
主担当教員	松田 智子	担当教員	松田 智子
科目ナンバリング	SE618	教職に関する科目	ディプロマポリシー 該当項目
配当年次	2	開講学期	後期
授業形態	講義	単位数	2
授業概要 特別活動では「集団や社会の形成者」としての昂方・考え方を動かせ、その目的に応じた様々な集団活動があることを知り、特別活動の教育的意義を理解する。すべての教育活動の基礎となる学級集団作りを中心に習得し、意識形成、意思決定の指導方法、生徒会や学校行事等の基本的な考え方や指導法を習得するために具体例を基に主体的・対話的に学ぶ。			
到達目標 <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育における特別活動やその中の各活動で育てたい資質・能力を理解する ・学級活動(ホームルーム)・生徒会活動・学校行事の具体的な指導方法を理解する ・特別活動の「カリキュラム・マネジメント」の具体やその評価について理解する ・特別活動と家庭・地域住民との関係を理解する 			
履修上の注意(学生へのメッセージ)			
学習指導要領の解説、特別活動編を熟読すること(育てたい資質・能力に着目すること)			
教科書			
中学校学習指導要領(平成29年3月告示 文部科学省)			
高等学校学習指導要領(平成29年3月告示 文部科学省)			
中学校学習指導要領解説(平成29年6月 文部科学省)			
高等学校学習指導要領解説 特別活動編(平成29年6月 文部科学省)			
特別活動の指導法―各教科、道徳、総合的な学習の時間の連携を通して―(ERP 出版 松田智子、新川晴、林真太郎)			
参考書			
授業中に適宜資料を配付する			
研究室/オフィスアワー			
担当教員に確認する			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	イントロダクション 科目の概要説明と学習指導要領に基づく特別活動の意義と目標	予習: 自己の中学校・高等学校の特別活動を思い出してレポートする	
2	学校全体における教育課程における特別活動の位置づけと育てたい資質・能力	予習: 学習指導要領の特別活動の解説編の目標と育てたい資質・能力を読む	
3	学級活動(1)学級活動の目的と内容	予習: 自己の学級活動のテーマを書き出す	
4	学級活動(2)事例研究を考える (合意形成と意思決定の指導の方法)	予習: 自己の経験の合意形成や意思決定を思い出して書く	
5	生徒会活動(1)生徒会活動の目的と内容	予習: 自己の生徒会の活動を書く	
6	生徒会活動(2)事例研究から考える (生徒会組織のありかたと指導の方法)	復習: 自治的、自発的な社会活動の方法を考える	
7	学校行事(1)学校行事の目的と内容 (学校行事の種類とそれぞれの目的)	予習: 自己の学校行事と目的を書く	
8	学校行事(2)事例研究から考える (学校行事の指導計画作成と指導の留意点)	復習: 学習で印象に残った学校行事の在り方を考えレポートする	
9	特別活動が果たす教育的意義	復習: 特別活動の教育的意義をまとめる	
10	総合的には学習の時間と特別活動との関連と具体的な指導例	復習: 具体的なテーマを選択しまとめる	
11	教科指導と特別活動との関連と具体的な指導例	復習: 具体的な教科を選択しまとめる	
12	特別の教科道徳と特別活動との関連と指導例	復習: 具体的な価値を選択しまとめる	
13	特別活動と地域家庭や社会との連携と指導例	復習: 具体的な事例を選択しまとめる	
14	特別活動の評価の計画と改善の方法	予習: 自己はどのように評価されていたか思い出す	

		して書く
15	講義全体のまとめと振り返り	予習: 振り返りを書く
成績評価方法と基準		
①毎回の授業で提出する授業後のレポート		割合
②授業への参加態度と貢献度		①70% ②30%

授業科目名		教育方法論(教職課程・看護) (Studies of Teaching Methods)	
主担当教員	阿部 秀高	担当教員	阿部 秀高
科目ナンバリング	SE619	教職に関する科目	ディプロマポリシー 該当項目
配当年次	3	開講学期	前期
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	<p>国内外の教育方法についての諸理論や実践記録等の検討を通して、これからの時代に求められる学力等を育成する方法について学ぶとともに、実際の学校における、教育課程編成の理論と方法、指導と評価の計画の作成等について考える。授業は、ペアヤグループなどによる活動を重視する。</p> <p>到達目標</p> <p>学校における教育課程を編成・展開する教育方法についての基礎的・本質的な内容を学び、教育方法の技術の基礎を身に付けることを目標とする。あわせて、学生自身が受けてきた授業を相対化することによって、教育方法を柔軟に捉え直すことを目指す。</p> <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>毎回の課題に対して自分の学びをレポートすることによって、教育方法や技術に対する理解を深め、日常生活において活用してもらいたい。</p>		
教科書	人間教育を興隆する教師への道—インクルーシブ教育方法論— 阿部秀高著 (株)ERP		
参考文献	<p>小学校学習指導要領、中学校学習指導要領、小学校学習指導要領解説総則、中学校学習指導要領解説総則 プログラミング教育実践ガイド(平成26年度) いげれち文部科学省編</p> <p>研究室/オフィスアワー</p> <p>東棟20研究室/在室時間</p>		
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	教育内容と教育方法 生徒に何を(教育内容)どのように(教育方法)教えるのかをその一連の過程における原理と方法を学ぶための導入を行う。	「教育方法」の意味について調べておく、学んだ教育の原理・方法を簡潔にまとめる。	
2	基礎的・本質的な知識及び技能を確実に習得させるための教育方法 学力の重要な要素の一つである基礎的・本質的な知識及び技能を育成する教育方法について学ぶ。	前回の授業を振り返っておく。 基礎的・本質的知識技能について学んだことをまとめる。	
3	思考力・判断力・表現力等を育むための教育方法 学力の重要な要素の一つである思考力・判断力・表現力等を育成する教育方法について学ぶ。	前回の授業のポイントを振り返っておく、思考力・判断力・表現力の内実、関係をまとめる。	
4	主体的に学習に取り組む態度を養うための教育方法 学力の要素の一つである主体的に学習に取り組む態度、学習意欲を高める教育方法について学ぶ。	学習意欲の喚起、主体的な学びができた場面を想起しておく。 今回のポイントを800字程度でレポートする。(課題)	
5	個性を生かす教育の充実を図るための教育方法 個に応じた指導の充実など、現在求められている指導の工夫改善等について幅広く考える。	既有知識を確認し、授業内容を予想しておく。求められている指導の工夫改善について簡潔にまとめる。	
6	生徒理解の方法と実践 生徒理解の重要性と教育相談のあり方、人間関係の構築の方法などについて学ぶ。	生徒指導や相談について経験を想起しておく。生徒理解の重要性について自分の考えをまとめる。	
7	これからの時代に求められる能力と教育方法 学習指導要領の理念である生きる力や、21世紀に求められるスキル等を育成する教育の実践について考える。	「生きる力」とは？について考えをまとめておく。これから求められる教育実践の方向性についてまとめる。	
8	教育課程編成の理論と方法 学習指導要領に基づいた、各学校における教育課程編成の実践について学ぶ。	前回の授業のポイントを確認しておく。教育課程の編成について学んだことをまとめる。	
9	年間の指導と評価の計画の作成方法 各学校の教育課程に基づく具体的な年間の指導と評価の計画の作成について考える。	前回の授業のポイントを確認しておく。年間指導計画作成の重要性についてまとめる。	

10	学習指導要領の作成方法 各学校の年間の指導と評価の計画に基づく具体的な学習指導要領の作成について考える。	学習指導要領について情報を集める。学習指導要領の試案について自分の考えをまとめる。(課題)	
11	授業づくりと教材研究の方法 学習指導要領の趣旨の実現に向けた各教科等の授業づくりと教材研究の在り方考える。	前回の授業のポイントを確認しておく。教材研究の方法について学んだことをまとめる。	
12	メディアと教育方法 学習指導におけるICT等の活用について学び、授業に活用する方法について考える。	ICT活用授業の経験を想起しておく、これからのICT活用方法についてまとめる。(課題)	
13	学習評価の意義と方法 指導と評価の一体化の重要性を学びその具体的な展開について考える。	学習評価についての経験を想起しておく。指導と評価の一体化の重要性についてまとめる。	
14	タイムリーな課題 各回で取り上げることが出来なかった話題で、タイムリーなものや現代教育の課題について学ぶ。	近年の教育時事について考えをまとめる。	
15	これまでの学びの総括と課題レポート これまでの学びの総括を振り返り、課題レポートに取り組み。	これまで書いた各回の振り返りをもとに自分の問題意識をレポートする準備をしておく。	
成績評価方法と基準			
割合			
①毎回の授業にて書くレポート			
②課題			
③論述試験としての最終レポート			
④授業中の発言・プレゼン			

授業科目名		生徒指導論(教職課程・看護) (Student Guidance)	
主担当教員	杉山 雅	担当教員	杉山 雅、辻 立世
科目ナンバリング	SE620	教職に関する科目	ディプロマポリシー 該当項目
配当年次	2	科目区分	曜日・時限
授業形態	講義	開講学期	火曜 4限
授業概要	講義	単位数	必修・選択 必修
この授業では、資料や教育現場での実践記録をもとにして、今日の教師の生徒指導観および中高生の心理や発達上の諸問題についての理解を促す。各教職課程における生徒指導や教育相談の考え方や実践方法を身につける。保健室における児童生徒の生徒指導の問題に対する養護教諭の役割について理解し、問題解決の実践方法を身につける。			
到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育における生徒指導および教育相談の役割や基本的な考え方や実践方法について理解する。 ・教師の教育観・授業観と生徒指導の実態との関連や、中学校・高等学校において比較的多くみられる生徒指導上の問題や課題について考察し、教育現場での解決方法や防止策について学ぶ。 ・保健室における生徒指導上の問題の把握の仕方と解決に向けた取り組みについて理解する。 ・養護教諭の視点で、個に配慮した問題行動の心理・身体・対人関係、生活の乱れ等について健康問題と関連させて解決方法に向けた対応について学ぶ。また、校 履修上の注意(学生へのメッセージ) ・保健室に方を入れてください。受講後、授業で配布された資料を読みなおし、授業のテーマと関連のある参考書の部分に目を通し、理解を深めてください。 ・生徒指導に養護教諭の専門的領域を活用できる能力を養ってください。 			
教科書			
【杉山雅】 毎回、授業テーマに基づいたレジュメ・資料を配布			
【辻立世】 「養護教諭のための学校保健」采女智津江 少年写真新聞社(1年学校保健で使用のテキスト) 『新訂版 学校保健業務必修 第4次改訂版』、学校保健・安全実務研究会、第一法規 『養護教諭のための児童虐待防止』※文部科学省HPよりダウンロード			
参考書			
「生徒指導提要」文部科学省 2010年 教育図書 「教師の仕事を考える」杉山雅 2012年 学文社 ・『平成28年度児童生徒の健康状態サバーイラランス報告書』文部科学省監修、公益財団法人 日本学校保健会 ・『子供たちを児童虐待から守るために～養護教諭のための児童虐待対応マニュアル～』文部科学省監修、公益財団法人 日本学校保健会 ・「喫煙・飲酒、薬物乱用防止に関する指導参考資料」財団法人 日本学校保健会 その他、必要な資料は配付する。			
研究室/オフィスアワー			
○講義日の非常勤講師控室			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	生徒指導とは何か。その基本的な考え方を説明できるようにする。	予習：講義の復習	杉山
2	体罰とは何か、また3つの懲戒権を学び、体罰を乗り越える指導力を養う。	予習：講義の復習	杉山
3	部活動と体罰の問題を、近代スポーツの成立と関連付けて説明できるようにする。	予習：課題ミニレポート「体罰について」	杉山
4	日々の生活指導の技を学び、選別指導等の指導方針を提示できる力を身につける。	予習：講義の復習	杉山
5	行事の指導について、学校事故の観点からも考察し、事故を防ぐ力を高める。	予習：課題ミニレポート「校則について」	杉山
6	校則問題を考え、その改善策を考察できるようにする。	予習：講義の復習	杉山
7	不登校・登校拒否の概念とその変遷について理解できる力を付ける。	予習：講義の復習	杉山

8	不登校・登校拒否の生徒への対応の仕方を学び、指導力を高める。 子どもの貧困問題と生徒指導を関連付けて説明できるようにし、理解を深める。	予習：課題ミニレポート「不登校について」	杉山
9	児童生徒の健康美態と生徒指導、保健室における生徒指導と問題解決のための校内の連携	予習：講義の復習 活かすか考えよう 復習：講義の復習	杉山
10	いじめ・自殺予防と生徒指導、校内の組織体制と地域関係機関との連携	予習：いじめ・自殺など最近の問題を把握しておく 復習：講義の復習	辻
11	児童生徒の早期発見と早期対応(発見と面談の仕方)と発見後の校内体制、校外との連携(担当 辻 立世)	予習：社会における児童虐待の現状を把握しておく 復習：授業の復習、特に養護教諭として校内の組織体制や校外の専門機関との連携の仕方を身につける	辻
12	いじめ・自殺予防、児童虐待等に向けた保護者との連携、保護者への対応について(演習)	予習：保護者への対応を意識して、これまでのいじめ・児童生徒の自殺問題について予防策を考えておく。養護教諭の視点からの児童虐待の発見と対応、校内体制・校外の専門機関との連携ができるレポート①	辻
13	飲酒・喫煙・薬物乱用に対する保護指導、特別活動・学級活動における指導	予習：児童生徒の飲酒・喫煙・薬物乱用の動向を把握しておく 復習：学級活動における保護指導、担任との連携について確認する	辻
14	現代的健康課題(帰宅後の生活：スマホ・携帯・インターネット)と生徒指導(個別指導、担任との連携の演習(ロールプレイング))	予習：児童生徒の帰宅後の生活実態と健康問題を把握し、どのような指導が必要かを考える 復習：養護教諭の専門性を生かした個別指導(ロールプレイング)の評価、集団指導 レポート②	辻
15	成績評価方法と基準		割合
			①杉山 60%
			②辻 40%

授業科目名 教育相談の基礎と方法(教職課程:看護) (Basics and Methods for Educational Counselling)			
主担当教員	吉田 卓司	担当教員	吉田 卓司
科目ナンバリング	SE621	科目区分	ディプロマポリシー 該当項目
配当年次	2	開講学期	曜日・時限
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	<p>本講義では、教育相談に関する基礎理論と具体的な対応策を講義する。取り上げる課題は、個別ケースの対応法から、学校、地域社会等のレベルの制度論・政策論まで、多面的である。本講義では、そのような内容理解と今日の子どもたちのおかれている状況を前提として、ロールプレイなどのアクティブラーニングを取り入れて、教育相談の模擬実践を行い、児童生徒の発達状況や環境等を的確にアセスメントする能力と教育相談の対応力を養成する。</p> <p>到達目標</p> <p>本講義の目的は、教員として、教育相談に必要な知識、技能などの修得である。単なる知識やスキルの理解にとどまらず、可能な限りアクティブラーニングを学習手法を用いながら、教育相談(カウンセリング)における実践的な教育力を育成することを目標とする。</p> <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>教職免許取得を目的とする科目であることから、アクティブラーニングや予習・復習に対する主体的な学習態度と品位ある言動を学習のすべての段階において求める。</p> <p>教科書</p> <p>文部科学省「生徒指導指針要」教育書 吉田卓司『教育実践基礎論』三学出版 兵庫民主教育研究所「子ども虐待と向き合う」三学出版</p> <p>参考書</p> <p>吉田卓司『生徒指導法の実践研究』三学出版 スクールソーシャルワーク評価支援研究所編「すべての子どもたちを包括する支援システム」せせらぎ出版 その他、講義時に適宜紹介する。</p> <p>研究室/オフィスアワー</p> <p>講義時間の前後に質問などを受け。</p>		
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	教育相談とは何かー教育相談の意義	本時の講義内容について、講義前の予習として、テキストの該当部分を読了しておくこと。また、講義後の復習として、講義内容の振り返りと総括を各自のノート及び配布・返却されたプリント等に記載しておくこと。	吉田卓司
2	教育相談(カウンセリング)の基礎理論	本時の講義内容について、講義前の予習として、テキストの該当部分を読了しておくこと。また、講義後の復習として、講義内容の振り返りと総括を各自のノート及び配布・返却されたプリント等に記載しておくこと。	吉田卓司
3	教育相談の方法原理	本時の講義内容について、講義前の予習として、テキストの該当部分を読了しておくこと。また、講義後の復習として、講義内容の振り返りと総括を各自のノート及び配布・返却されたプリント等に記載しておくこと。	吉田卓司
4	教育相談の具体的な方法?ー個別・集団面接等の手法	本時の講義内容について、講義前の予習として、テキストの該当部分を読了しておくこと。また、講義後の復習として、講義内容の振り返りと総括を各自のノート及び配布・返却されたプリント等に記載しておくこと。	吉田卓司
5	教育相談の具体的な方法?ー課題のある児童生徒の理解とソーシャルワーク	本時の講義内容について、講義前の予習として、テキストの該当部分を読了しておくこと。また、講義後の復習として、講義内容の振り返りと総括を各自のノート及び配布・返却されたプリント等に記載しておくこと。	吉田卓司
6	教育相談の具体的な方法?ーカウンセリングガイドと多角的・総合的支援	本時の講義内容について、講義前の予習として、テキストの該当部分を読了しておくこと。また、講義後の復習として、講義内容の振り返りと総括を各自のノート及び配布・返却されたプリント等に記載しておくこと。	吉田卓司

7	教育相談の進め方?受容・共感の姿勢・共感的理解と姿勢	本時の講義内容について、講義前の予習として、テキストの該当部分を読了しておくこと。また、講義後の復習として、講義内容の振り返りと総括を各自のノート及び配布・返却されたプリント等に記載しておくこと。	吉田卓司	7	吉田卓司
8	教育相談の進め方?カウンセラー・ソーシャルワーカー等との協働	本時の講義内容について、講義前の予習として、テキストの該当部分を読了しておくこと。また、講義後の復習として、講義内容の振り返りと総括を各自のノート及び配布・返却されたプリント等に記載しておくこと。	吉田卓司	8	吉田卓司
9	教育相談計画と学校組織ーチーム学校と保護者対応	本時の講義内容について、講義前の予習として、テキストの該当部分を読了しておくこと。また、講義後の復習として、講義内容の振り返りと総括を各自のノート及び配布・返却されたプリント等に記載しておくこと。	吉田卓司	9	吉田卓司
10	個別課題に向き合う教育相談の展開?いじめ	本時の講義内容について、講義前の予習として、テキストの該当部分を読了しておくこと。また、講義後の復習として、講義内容の振り返りと総括を各自のノート及び配布・返却されたプリント等に記載しておくこと。	吉田卓司	10	吉田卓司
11	個別課題に向き合う教育相談の展開?不登校	本時の講義内容について、講義前の予習として、テキストの該当部分を読了しておくこと。また、講義後の復習として、講義内容の振り返りと総括を各自のノート及び配布・返却されたプリント等に記載しておくこと。	吉田卓司	11	吉田卓司
12	個別課題に向き合う教育相談の展開?虐待	本時の講義内容について、講義前の予習として、テキストの該当部分を読了しておくこと。また、講義後の復習として、講義内容の振り返りと総括を各自のノート及び配布・返却されたプリント等に記載しておくこと。	吉田卓司	12	吉田卓司
13	個別課題に向き合う教育相談の展開?自殺防止	本時の講義内容について、講義前の予習として、テキストの該当部分を読了しておくこと。また、講義後の復習として、講義内容の振り返りと総括を各自のノート及び配布・返却されたプリント等に記載しておくこと。	吉田卓司	13	吉田卓司
14	教育相談とチーム学校ー地域・関係機関(医療・福祉・心理等)との連携	本時の講義内容について、講義前の予習として、テキストの該当部分を読了しておくこと。また、講義後の復習として、講義内容の振り返りと総括を各自のノート及び配布・返却されたプリント等に記載しておくこと。	吉田卓司	14	吉田卓司
15	講義の振り返りと総括	本時の講義内容について、講義前の予習として、テキストの該当部分を読了しておくこと。また、講義後の復習として、講義内容の振り返りと総括を各自のノート及び配布・返却されたプリント等に記載しておくこと。	吉田卓司	15	吉田卓司
成績評価方法と基準				割合	
				定期試験 (50%)、講義レポート (20%)、アクティブラーニング (15%)、復習課題 (15%)。	
				定期試験、講義時に作成するレポート、予習・復習課題については、教職免許取得者として必要な知識の理解と学修内容に關して自ら考え、主体的に学びとつたことを裏現できているかを評価の基準とする。また、講義時のアクティブラーニングについては、参加態度の主体性と積極性を評価の基準とする。	

臨床検査学科

(2016 年度以降 入学生カリキュラム)

授業科目名	基礎セミナー(検査) (Basic Seminar)	
主担当教員	上田 真喜子	担当教員 上田 真喜子、森 誠司、小宮山 恭弘、小林 吉晴、竹岡 啓子、脇 英彦、佐伯 康匠、藤原 牧子、小林 彩香、山本 淳
科目ナンバリング	LA001	授業科目 DP②③④
配当年次	1	曜日・時限 木曜 1限
授業形態	演習	必修・選択 必修
授業概要	<p>【上田真喜子、小林吉晴、小宮山恭弘、竹岡啓子、森誠司、脇英彦、小林彩香、佐伯康匠、藤原牧子・8回】 本演習は、新入生が大学生としての役割を身につけることができるように、学生を支援することを目的としている。具体的には、(1)講義ノートを取り方・教科書の読み方、レポート・論文の書き方や文献の探し方、(2)大学での学修に必要で、かつ高等学校までの教育にない取得すべき内容の教育、(3)大学生に求められる一般常識や態度、(4)専門教育への橋渡しとなるような基礎的知識・技能の教育などについて、グループに分かれてディスカッションを交えて演習を行う。</p> <p>【山本淳 7回】 大学では、「自ら問いを立て答えを導く」という考えを導くことと主体的に文献を集め、レポートにまとめていく技法が必要になる。本科目では、そのために必要となる技能を基礎から学び習得していくことを目指す。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 上田真喜子、小林吉晴、小宮山恭弘、竹岡啓子、森誠司、脇英彦、小林彩香、佐伯康匠、藤原牧子・8回】 レポートの書き方、文献検索などのスタディスキル・アカデミックスキルを修得する。 2. 大学生に求められる基礎学力と社会常識を理解する。 3. 医学を学ぶという自覚を確立する。 4. 臨床検査学の各分野で必要な基礎的知識を理解する。 <p>【山本淳】 自分の考えを理論的な文章として表現できるようにすることを重視する。具体的には、 ①ノートを取らう(ノートの取り方) ②大学図書館の利用方法(文献検索) ③文章表現について(大学のレポートにふさわしい用語・符号の使い方や構成など文章表現)を学んでいく。</p> <p>履修上の注意(学生へのメッセージ) 在学中はもちろんなること卒業後も新しい知識や技術を学び身につけていく必要がある。そのために効果的な学習法の修得が重要である。自分にあった学習スタイルを早期に獲得し、生涯にわたって役立ててもらうことを期待する。また検査学科教員より提供される話から臨床検査に求められる基礎的知識・技能とはどのようなものか積極的な議論を通して理解してもらいたい。</p> <p>教科書</p> <p>【上田真喜子、小林吉晴、小宮山恭弘、竹岡啓子、森誠司、脇英彦、小林彩香、佐伯康匠、藤原牧子・8回】 適宜資料を配布する。</p> <p>【山本淳】 特に指定はない。授業時にプリントを配布するので、各自紛失しないようにファイリングし毎回持参すること。</p> <p>参考書</p> <p>【上田真喜子、小林吉晴、小宮山恭弘、竹岡啓子、森誠司、脇英彦、小林彩香、佐伯康匠、藤原牧子・8回】 担当教員が適宜指示する。</p> <p>【山本淳】 講義内で適宜指示する</p> <p>研究室/オフィスアワー</p>	
臨床検査学科 各研究室 月・金曜日 18時以降		
授業展開及び授業計画表		
回数	学修内容	予習・復習・課題等 担当
1	病理検査とは何か。基本的な知識と技術を理解し、イメージをつかむ。(上田真喜子・小林彩香)	予習：組織診検査と細胞診検査とは何かについて復習：病理検査の役割を知る。
2	生体成分の分析法の原理を理解するために必要な、化学の基礎知識を修得する。(小林吉晴)	予習：「元素周期表」とは何か調べておく。

3	生理機能検査はどのような場合に実施されるのか、その目的と有用性について考える。(小宮山 恭弘)	予習：生理機能検査にはどのような種類があるのか調べておく。	小宮山恭弘
4	免疫学検査は免疫の概念について学修し、臨床検査における免疫反応について議論する。(竹岡 啓子)	予習：予防接種とは何か、どのような種類があるかを調べる。	竹岡啓子
5	遺伝子検査・遺伝学的検査のメリット・デメリットについて議論する。(森誠司)	予習：DTC (Direct-to-Consumer Genetic Testing)にどのようなものがあるか調べる。復習：検査から得られる遺伝情報扱いについて考える。	森 誠司
6	臨床検査技師の職業理解と社会の関係について考える。(脇英彦)	予習：臨床検査技師の業務内容について調べる。	脇 英彦
7	微生物と感染症の関連性、および感染制御の重要性について考える。(佐伯康匠)	復習：効果的な感染予防策について調べておく。復習：効果的な感染予防策を習慣づける。	佐伯康匠
8	血液検査が医療現場でどのように活用されているか考える。(藤原牧子)	予習：自分や家族が今まで受けた健康診断の血液検査結果用紙を確認しておく。血液検査項目より項目選び、検査の意義などを調べてくる。復習：血液検査の意義を考える。また、将来自分がどのような臨床検査技師になりたいか考える。	藤原牧子
9	オンラインテーション(講義の働き方・ノートの取り方)(山本淳)	予習は授業のプリント・ノートを読み返すこと。復習は授業のプリント・ノートを読み返すこと。	山本淳
10	大学図書館の利用法(山本淳)	予習は図書館に足を運んでみる。復習は授業のプリント・ノートを読み返すこと。	山本淳
11	レポート・論文①レポート・論文とは(山本淳)	予習・課題は特に無し。復習は授業内で指示する。	山本淳
12	レポート・論文②テーマ・課題を考える(山本淳)	予習・課題は特に無し。復習は授業内で指示する。	山本淳
13	文章表現の基礎①記号・符号の使い方(山本淳)	予習・課題は特に無し。復習は授業内で指示する。	山本淳
14	文章表現の基礎②言葉の使い方(山本淳)	予習・課題は特に無し。復習は授業内で指示する。	山本淳
15	レポート・論文③アウトラインを作る(山本淳)	予習・課題は特に無し。復習は授業内で指示する。	山本淳
成績評価方法と基準			
①【臨床検査学科教員】教員ごとに小テストを行い評価する。50%			
②【山本淳】平常点評価(授業内での課題小テストなど)30%。 講義最終回に作成したアウトラインに基づき課題レポート20%。			
①及び②での評価各々50%ずつを合計したものを総合評価とする。			
全体の2/3以上の出席が必要。			

授業科目名	物理学(検査) (Physics)		久国 正章	担当教員	久国 正章
主担当教員	久国 正章	科目区分	LA003	教養科目	ディプロマポリシー 該当項目
科目ナンバリング	1	開講学期	後期	曜日・時限	月曜 3 限
配当年次	講義	単位数	2	必修・選択	選択
授業形態					
授業概要	到達目標				
さまざまな自然現象をよく観察してみると簡単な基本原理に基づいていることがわかる。物理学とはそのような基本原理を論理的に説明する学習であり、工学はもとより生物学、医学などの幅広い分野の基礎となっている。本講義は力学・熱力学・電磁気学などについて幅広い知識を学習し、医療現場で実際に活用できる知識を習得できる授業構成である。					
到達目標	電氣(回路計算)、電磁氣の基本知識 水の比熱と日本の氣候との関係について ことと原理と人体中での応用 注射器の先端が皮膚に及ぼす圧力について 血圧とは 上記の内容を学修していく。				
履修上の注意(学生へのメッセージ)	1. 自然現象を理解するための基本となる科目であることを認識する。 2. 配布された資料を使用し、講義を行う。 3. 出席は重視する。 4. 身近な自然現象を物理学の観点で考察する。 5. 疑問点は大切にし、解決に向けて努力する。				
教科書					
プリント使用					
参考書					
電氣基礎講座1プログラム学習による基礎電氣工学 直流編					
研究室/オフィスアワー	非常勤控室 月曜と木曜				
授業展開及び授業計画表					
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当		
1	熱力学 比熱 単位について	水の比熱が大きいかことで人間は体温を一定に保つことができる。 スマートフォンバッテリーの単位などについて学習します。			
2	熱力学 電流について	水分が蒸発する際、必要となる熱量について電氣の基本について一つ一つ確認していきます。			
3	熱力学、電圧について	コンセントの電圧は100Vですね。このボルトについて学習していきます。			
4	力とは、抵抗について	抵抗の単位はオームです。			
5	力学、オームの法則について	最も重要な法則です。頑張って覚えましょう。			
6	力学、電氣回路①	オームの法則を利用して回路計算をしていきます。			
7	力学、電氣回路②	直列回路について学習します。			
8	力学、電氣回路③	電池の内部抵抗について			
9	力学、電氣回路④	並列回路について学びます。			
10	力学、電氣回路⑤	直列と並列の融合問題を扱います。			
11	電氣	冬になると静電氣という見えない敵に悩まされますが、静電氣がたまるとは、どういうことなのでしょうか。			

12	力学、電力	電力とは、電灯が光を出したり、モーターが力を出すときに使われる電氣エネルギーの大きさを表します。		
13	電氣 感電ショック、アース	電流値と人体への影響についての表を一読しておいて下さい。		
14	磁氣 磁界、電磁誘導	IH 調理器、リニアモーターカーなど電磁誘導について復習しておきましょう。		
15	電磁波 紫外線	紫外線による人体への影響について確認しておきましょう。		
成績評価方法と基準				
毎回レポートを提出してもらう。				
①定期試験55点				
②レポート45点				
合計100点のうち、60点以上で単位認定する。				
割合				
①55%				
②45%				

授業科目名		生物学(検査) (Biology)	
主担当教員	安部 辰夫	担当教員	安部 辰夫
科目ナンバリング	LA002	教養科目	ディプロマポリシー 該当項目
配当年次	1	科目区分	DP③
授業形態	講義	開講学期	曜日・時間
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	医療人にとって必要な生物学的知識を学習し、この後に展開する基礎医学への理解を容易にする。		
到達目標	生物学自体は高校までの教科としてすでに学んでいるかもしれないが、医学に直結する領域についてはまだ学んでいないか、理解が不十分であろうと思われる。既に学んでいる、知っている学習という認識は排除して新たな教養を学が姿勢で臨んでほしい。		
教科書	「理工系のための生物学」 裳華房		
参考書	生物学 カレッジ版 医学書院		
研究室/オフィスアワー	研究室/オフィスアワー		
火曜日から金曜日まで	イーストポート4階 研究室 1		
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	生命と栄養と代謝	予習 テキストを読み込んでおいてほしい。 復習 講義内容の確認をしておくこと。	
2	糖質の種類	予習 テキストを読み込んでおいてほしい。 復習 講義内容の確認をしておくこと。	
3	糖代謝	予習 テキストを読み込んでおいてほしい。 復習 講義内容の確認をしておくこと。	
4	脂質とその代謝	予習 テキストを読み込んでおいてほしい。 復習 講義内容の確認をしておくこと。	
5	ビタミンの種類と機能	予習 テキストを読み込んでおいてほしい。 復習 講義内容の確認をしておくこと。	
6	細胞の構造とオルガネラ	予習 テキストを読み込んでおいてほしい。 復習 講義内容の確認をしておくこと。	
7	核膜の種類と機能	予習 テキストを読み込んでおいてほしい。 復習 講義内容の確認をしておくこと。	
8	転写と翻訳	予習 テキストを読み込んでおいてほしい。 復習 講義内容の確認をしておくこと。	
9	タンパク質の種類と機能	予習 テキストを読み込んでおいてほしい。 復習 講義内容の確認をしておくこと。	
10	細胞のシグナル伝達	予習 テキストを読み込んでおいてほしい。 復習 講義内容の確認をしておくこと。	
11	細胞分裂と増殖	予習 テキストを読み込んでおいてほしい。 復習 講義内容の確認をしておくこと。	
12	発生と分化	予習 テキストを読み込んでおいてほしい。 復習 講義内容の確認をしておくこと。	
13	免疫システム	予習 テキストを読み込んでおいてほしい。 復習 講義内容の確認をしておくこと。	
14	細胞の初期化と再生医療	予習 テキストを読み込んでおいてほしい。 復習 講義内容の確認をしておくこと。	
15	細胞死とアポトーシス	予習 テキストを読み込んでおいてほしい。 復習 講義内容の確認をしておくこと。	
成績評価方法と基準			
①定期試験			
割合			
①100%			

授業科目名		情報処理(検査 A) (Information Processing)	
主担当教員	井手口 範男	担当教員	井手口 範男
科目ナンバリング	LA004	教養科目	ディプロマポリシー 該当項目
配当年次	1	科目区分	DP③
授業形態	演習	開講学期	曜日・時間
授業形態	演習	単位数	2
授業概要	本講義では、PCを用いて錯視実験を行い、そのレポートを作成する過程を通して、コンピュータを利用する上で必要な基礎知識のほか、レポート作成等に役立つ基礎的な情報処理技術、すなわちワープロや表計算、プレゼンテーションを中心としたソフトウェアの基礎知識と基本操作の習得を目標とする。また、コンピュータ利用技術の習得に加えて、情報化社会に必要な論理観と情報の保護を学ぶために、技術的な面に加えて個人情報保護法等の法令や指針についても学ぶ。なお、コンピュータのオペレーティングシステム(OS)はWindowsを、ソフトウェアはマイクロソフトのWord、Excel、PowerPoint等を使用する。		
到達目標	1. PC利用に限らず、広く情報倫理と個人情報保護の重要性を理解し、説明できる 2. Excelによる基本的なデータの集計・解析ができる 3. Wordによる文書(レポート、論文)の作成ができる 4. PowerPointを用いて資料を作成し、効果的なプレゼンテーションができる 5. インターネットを利用した情報検索のスキルを習得する		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	1. PCを使った演習を行うので、休むことなく参加すること 2. 作業内容(作成したファイル等)を保存するためのUSBメモリを用意すること 3. PC演習までの飲食は禁止(机の上に置くのも禁止)する		
教科書	特に指定しない。 適宜資料を配付する。		
参考書	適宜指示する。		
研究室/オフィスアワー	E棟4F研究室1/火曜日6時限(空いていれば適宜対応します)		
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	ガイダンス	授業をすすめる際に、また今後の学生生活においても必要となるアイテムについて説明をする。そのアイテムは、次回までに用意すること。	
2	情報セキュリティと情報モラル	情報セキュリティに関する意識の如や、情報モラルの次如によって、主にインターネット上で起こった、問題事例について調べる。	
3	コンピュータを利用した錯視実験の実施	De la Boue の錯視について調べる	
4	Excel 基礎-1 Excel の基本操作の習得	前回収集したデータを、分析しやすい形に成形する	
5	Excel 基礎-2 関数を使った計算の基礎	成形したデータの基本的な統計量を算出する	
6	Excel 応用-1 データの図式化	算出した統計量の特徴に応じて、適切な図を作成する	
7	Excel 応用-2 図や表を大学レポート向けに修正する	レポートとして利用する際の注意点を従って、適切な形式に修正する	
8	Word 基礎-1 Word の基本操作の習得	キーボード操作に習熟するため、タイピングの練習を継続して実施する	
9	Word 基礎-2 文書のレイアウト機能の習得	レイアウト操作および操作結果を確認する	
10	Word 応用 Excel で作成した図表の利用	Excel から図表を取り込む際のデータの運びを理解し、使い分けられるようにする	
11	PowerPoint 基礎-1 PowerPoint の基本操作の習得	スライドの概念について理解し、実験データの発表の流れについて考える	

12	PowerPoint 基礎-2-スライドの修飾	スライドを修飾し、興味関心を引く工夫をする
13	PowerPoint 応用アニメーションの設定	より強調したい箇所について考え、特に注目してもらえらるよう工夫する
14	プレゼンテーション-1 錯視実験のデータについて発表を行う	これまで作成したスライドを使用して、クラスで発表する内容を考える
15	プレゼンテーション-2 錯視実験のデータについて発表を行う	前回の発表を参考に、より良い発表ができるよう工夫する
成績評価方法と基準		割合
1. 課題の完成度		1. 55%
1.1. Excel 資料		1.1. 20%
1.2. Word 資料		1.2. 20%
1.3. Powerpoint 資料		1.3. 15%
2. プレゼンテーションの評価		2. 45%

授業科目名		情報処理(検査 B) (Information Processing)		
主担当教員	井手口 範男	担当教員	井手口 範男	
科目ナンバリング	LA004	教養科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP③
配当年次	1	開講学期	前期	火曜 4 限 火曜 5 限
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択
授業概要 本講義では、PC を用いて錯視実験を行い、そのレポートを作成する過程を通して、コンピュータを利用する上で必要な基礎知識のほか、レポート作成等に役立つ基礎的な情報処理技術、すなわちワープロや表計算、プレゼンテーションを中心としたソフトウェアの基礎知識と基本操作の習得を目標とする。また、コンピュータ利用技術の習得に加えて、情報化社会に必要な倫理観と情報の保護を学ぶために、技術的な面に加えて個人情報保護法等の法令や指針についても学ぶ。なお、コンピュータのオペレーティングシステム(OS)は Windows を、ソフトウェアはマイクロソフトの Word、Excel、PowerPoint 等を使用する。				
到達目標				
1. PC 利用に限らず、広く、情報倫理と個人情報保護の重要性を理解し、説明できる 2. Excel による基本的なデータの集計・解析ができる 3. Word による文書(レポート、論文)の作成ができる 4. PowerPoint を用いて資料を作成し、効果的なプレゼンテーションができる 5. インターネットを利用した情報検索のスキルを習得する				
履修上の注意(学生へのメッセージ)				
1. PC を使った演習を行なうので、休むことなく参加すること 2. 作業内容(作成したファイル等)を保存するための USB メモリを用意すること 3. PC 演習室での飲食は禁止(机の上に置くのも禁止) する				
教科書				
特に指定しない、適宜資料を配付する。				
参考書				
適宜指示する。				
研究室/オフィスアワー				
E棟4F研究室1/火曜日6時限(空いていれば適宜対応します)				
授業展開及び授業計画表				
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当	
1	ガイダンス	授業をすすめるに際して、また今後の学生生活においても必要となるアイテムについて説明をする。そのアイテムは、次回までに用意すること。		
2	情報セキュリティと情報モラル	情報セキュリティに関する意識の次如や、情報モラルの次如によって、主にインターネット上で起こった、問題事例について調べる。		
3	コンピュータを利用した錯視実験の実施	De l'boulef の錯視について調べる		
4	Excel 基礎-1-Excel の基本操作の習得	前回収集したデータを、分析しやすい形に成形する		
5	Excel 基礎-2-関数を使った計算の基礎	成形したデータの基本的な統計量を算出する		
6	Excel 応用-1-データの図式化	算出した統計量の特徴に応じて、適切な図を作成する		
7	Excel 応用-2-図や表を大学レポート向けに修正する	レポートとして利用する際の注意点に従って、適切な形式に修正する		
8	Word 基礎-1-Word の基本操作の習得	キーボード操作に習熟するため、タイピングの練習を継続して実施する		
9	Word 基礎-2-文書のレイアウト機能の習得	レイアウト操作および操作結果を確認する		
10	Word 応用 Excel で作成した図表の利用	Excel から図表を取り込む際のデータの正しい理解し、使い分けられるようにする		
11	PowerPoint 基礎-1-PowerPoint の基本操作の習得	スライドの概念について理解し、実際のデータの表の流れについて考える		

12	PowerPoint基礎-2-スライドの修飾	スライドを修飾し、興味関心を引く工夫をする	
13	PowerPoint:応用アニメーションの設定	より強調したい箇所について考え、特に注目してもらえらるよう工夫する	
14	プレゼンテーション-錯視実験のデータについて発表を行う	これまでに作成したスライドを使用して、クラスで発表する内容を考える	
15	プレゼンテーション-2-錯視実験のデータについて発表を行う	前回の発表を参考に、より良い発表ができるよう工夫する	
成績評価方法と基準			割合
1. 課題の完成度			1. 55%
1.1. Excel 資料			1.1. 20%
1.2. Word 資料			1.2. 20%
1.3. Powerpoint 資料			1.3. 15%
2. プレゼンテーションの評価			2. 45%

授業科目名	心理学(検査) (Psychology)		
主担当教員	井手口 範男	担当教員	井手口 範男
科目ナンバリング	LA005	科目区分	ディプロマポリシー 該当項目 DP③
配当年次	1	開講学期	曜日・時限 火曜2限
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	心理学は、人の心の仕組みや働きがどのようになっているかを研究する学問です。授業では人の性格、知覚や感情のほか、人の成長過程や人間関係の心理などについても学習します。		
到達目標	1. 心理学の基本的な研究方法について説明できる 2. 心理学の諸理論について説明ができる 3. 心理学の諸問題と日常生活上の諸問題を結びつけて理解、解決ができる		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	PC によるプレゼンテーション資料を活用した講義形式を中心に授業を進める。適宜、簡単な実習形式の実験を実施し、レポート提出を求めたり、小テストを課することがある。		
教科書	藤田哲也 編著、「絶対」に役立つ教養の心理学-人生を有意義に過ごすために-」ミネルヴァ書房		
参考書	大竹文雄・平井啓 編著、「医療現場の行動経済学-すれ違う医者と患者-」, 東洋経済新報社 その他、適宜指示する。		
研究室/オフィスアワー	研究室/オフィスアワー		
授業展開及び授業計画表	E棟4F研究室1/火曜日6時限(空いていれば適宜対応します)		
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	ガイダンス	テキスト第0章を読む (単に読むだけでなく、わからない専門用語等について下調べをしておく、以下同様)	
2	知覚 1: 人間の目の性質と世界をとらえる しくみ	テキスト第1章1節、2節を読む	
3	知覚 2: 視覚の法則性・まとめ	テキスト第1章3節、4節を読む	
4	記憶 1: 記憶の基本的なしくみと記憶方法	テキスト第2章1節、2節を読む	
5	記憶 2: 行為のし忘れのしくみ・まとめ	テキスト第2章3節、4節を読む	
6	対人関係 1: 他者理解と出会い	テキスト第3章1節、2節を読む	
7	対人関係 2: 認知の一貫性と説得・まとめ	テキスト第3章3節、4節、5節 を読む	
8	動機づけ 1: 動機づけのメカニズムと行動の関わり	テキスト第4章1節、2節を読む	
9	動機づけ 2: やる気を引き出すことばがけ	テキスト第4章3節を読む	
10	思考 1: メタファー	テキスト第5章1節、2節を読む	
11	思考 2: アナロジー・まとめ	テキスト第5章3節、4節、5節 を読む	
12	青年期: 青年期の特徴と悩み	テキスト第6章を読む	
13	発達 1: 思考・ことばの発達	テキスト第7章1節、2節を読む	
14	発達 2: 人との関係づくり・まとめ	テキスト第7章3節、4節を読む	
15	学習: 人間行動の基礎理論(条件付けを中心に)	テキストに含まれない項目なので、各人、適宜「条件付け」について調べる	

成績評価方法と基準	割合
①定期試験	①80%
②小テスト・レポート等	②20%

授業科目名	生命倫理学(検査)		
主担当教員	日高明	担当教員	日高明
科目ナンバリング	LA006	科目区分	ディプロマポリシー 該当項目 DP③
配当年次	1	閉講学期	曜日・時限 木曜2限
授業形態	講義	単位数	必修・選択 2
授業概要	本講義では、現代の社会で起こっている多様な生命倫理上の問題とともに、医療やケアの現場で起こる倫理的な問題を取り上げ、生命倫理の多様な現状を紹介し、受講者がこれらについての考察を行い討議することで、自身の生命観や人間観を捉え直し、ひいては医療人としていかに患者に向き合うかを自覚することを目指します。		
到達目標	1. 講義で扱った生命倫理問題を理解する。具体的には、各テーマについて、大まかな説明ができる。 2. 広く生命倫理の問題を知ること、生命観・人間観を養う。具体的には、「生命とはなにか」「人間とはなにか」という問いに、先人の知見や社会通念を引いて答えることができる。あるいは自分の経験を交えて語るができる。 3. 生命倫理的な社会問題について、広く関心を持つようになる。		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	講義で取り扱った倫理学および生命倫理にかかわるケースについて、他の受講者と話をしてみてください。相手の考えに同意できなけれは、なぜ自分の考えと異なるのかという「面白い問い」を探してください。また、二者択一ではなく、他の方法はないのかも考えてください。		
教科書			
使用しない(適宜、資料を配布する)			
参考書			
小泉博明ほか『テーマで読み解く生命倫理』教育出版、2016年。そのほか必要に応じて紹介する。			
研究室／オフィスアワー			
講義の前後に兼任講師控室にて対応可			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	倫理とは、生命倫理学とは(概要、分類、なぜ学ぶのか)	シラバスの確認、資料の復習	日高明
2	人間とは(「人間」の定義、人間と動物とのギャップ、人間の残虐性と協調性)	配布資料の復習とノートのまとめ。人間とその他の動物を分けるものはなにか、考える。	日高明
3	規範倫理学①(功利主義、義務論)	多数を救うために少数が犠牲になる事例をひとつ想定し、功利主義と義務論それぞれの場合では、どのような態度をとりうるかをまとめ、資料の復習。規範倫理学のそれぞれの立場についてまとめる。	日高明
4	規範倫理学②(徳倫理学、ケアの倫理)	近代医学(科学)は生命をどのようなものとして捉えるか、まとめる。	日高明
5	西洋の生命観	講義中に説明した複数の「死後のあり方」のうち、自分かどれにリアリティを感じるか、またなぜそう感じるのかについて考える。	日高明
6	東洋の生命観	講義で紹介された事例を基に、医療・介護施設において、なにか個人情報に於けるか、第三者へ提供するさいにどういった制限があるかについて、まとめる。	日高明
7	個人情報保護		
8	死について考える①(死の捉え方の変遷、死のプロセス、死の疑似体験)	「10年後の自分を想定し、そこから「今の自分」を振り返り、「喪失したもの」について語ってみる。	日高明
9	死について考える②(EOLのケア、ACP)	実際にアドバンスディレクティブ(事前指示書)に記入し、その時点で指示した代理人と、話し合う。	日高明
10	死について考える③(安楽死・尊厳死)	尊厳死肯定派と否定派、双方の立場についてまとめる。	日高明
11	グループワーク	話し合った内容をまとめる。	日高明

12	生について考える①(出生前診断)	配布資料の復習とノートまとめ。人間の生命のはじまりはどの時点からか、考える。	日高明
13	生について考える②(代理出産)	代理出産をめぐって、どのような問題が生じるか。講義で説明した事例をもとにまとめる。	日高明
14	生について考える③(卵子・精子提供、デザイナーベイビー)	生殖補助医療はどこまで認められているか、どこまで認められるべきか、考える。	日高明
15	グループワーク	話し合った内容をまとめる。	
成績評価方法と基準			割合
1. テスト			1, 60%
2. グループワークと講義への参加度			2, 40%

授業科目名	哲学・宗教学(検査) (Philosophy and Religions)																		
担当教員	松枝 啓至	担当教員	松枝 啓至																
科目ナンバリング	LA007	科目区分	ディプロマポリシー 該当項目 DP③																
配当年次	1	開講学期	曜日・時限 金曜1限																
授業形態	講義	単位数	2																
授業概要	<p>哲学における重大な問題の一つである「懐疑論」をテーマにして、われわれは何をどのような仕方ですら正しく認識できるのか、知ることのできるのかについて学んでいく。</p> <p>「哲学」のもとの意味合いは、「知を愛すること」である。人間にとっての「知識」「知恵」がどのようなものであるのか、あるいはどのような仕方ですらそれらをわれわれは手に入れることができるのか、は哲学における大きな問題の一つである。このような分野では、何らかの学問をやっている上でこの問題を避けて通れないものである。この問題は認識論・知識論と呼ばれている。</p> <p>この授業ではこの認識論・知識論という問題について、「懐疑論」というものを手掛かりに考察を深めていきたい。物事を正しく捉えようとするときに、様々な側面からその対象を疑うという作業は必須のものである。私学における「懐疑論」はその「疑う」という作業を徹底的に行ってきたかというふうなことが、中心テーマとなる。加えてそれらの議論を踏まえた上で、自然科学的な知識はどのような仕方ですら正当化されるのかについても考察する。今回は特に現代科学の直接的な源流である17世紀の自然科学について論じる。</p> <p>そしてこのような問題を扱うときに、宗教的な要素、特に今回はキリスト教の影響を無視することはできない。授業ではこの点についても「懐疑論」「知識論」に関わる範囲で宗教的な要素についても言及する。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ヘレンズム時代の古代懐疑主義が、どのような背景で生まれ、その内容・独自性が何であるかを充分に理解することができる。 2. 近代において復活した古代懐疑主義が近代においてどのように変容され、改変されていったのかを充分に理解することができる。 3. 極端な懐疑の論理構造がいかなるものであるのかを、ウィトゲンシュタインの思想を手掛かりに、批判的に充分に理解することができる。 4. 近代の自然科学的知識がどのように成立していったのかを、17世紀に活躍したデカルトやニュートンの思想を参照して理解することができる。 5. 近代以降の自然科学が発展するにあたって、その方法論がどのようなものかを充分に理解することができる。 <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>現代では何の疑いもなく受け入れられている思想も、過去に様々な変遷をたどってきた。この授業ではそのような思想のダイナミズムの一端を感じ取ってもらいたい。</p> <p>「哲学」および「懐疑論」におけるさまざまな思想を習得するためには、毎回、授業理解を少しずつ積み重ねていく必要がある。このため、この授業では予習として前までの授業内容を充分におさらいして受講することが求められる。また評価方法に記してあるように、授業中に不定期で小テストを行うが、その説明内容は当日の授業だけでなく、それ以前の授業内容を踏まえたものである。毎回の予習・復習を怠らないようにすること。小テストについては、行った回の次回以降で授業中にコメントをするので、それも踏まえ授業内容のより深い理解に努めること。</p> <p>他の受講者の迷惑になるので、私語は厳禁。ひどい場合は成績評価においてペナルティを与える。</p> <p>教科書</p> <p>毎回レジュメプリント・資料プリントを配布する。</p> <p>参考書</p> <p>必要に応じて授業中に紹介する。</p> <p>研究室/オフィスアワー</p> <p>授業内容について質問があるときは、授業時間の前後に直接講師に質問すること。</p> <p>授業展開及び授業計画表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>学修内容</th> <th>予習・復習・課題等</th> <th>担当</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ガイダンス: 講義全体の趣旨・概要と成績評価などについて説明。講義の導入としてソクラテスの哲学を紹介する。</td> <td>(予習)「哲学」および「懐疑論」についてのイメージを自分なりに考えておくこと。 (復習)レジュメプリント・資料プリントに目を通し、授業内容に対する理解を深めておくこと。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>ソクラテスの哲学: 「哲学」がどのような営みかについて、前回に引き続き、ソクラテスを紹介しつつ論じる。</td> <td>(予習)前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。 (復習)レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>ヘレンズム時代の思想①: 懐疑論とはそもそも何か? およびストア主義の思想。</td> <td>(予習)前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。 (復習)レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当	1	ガイダンス: 講義全体の趣旨・概要と成績評価などについて説明。講義の導入としてソクラテスの哲学を紹介する。	(予習)「哲学」および「懐疑論」についてのイメージを自分なりに考えておくこと。 (復習)レジュメプリント・資料プリントに目を通し、授業内容に対する理解を深めておくこと。		2	ソクラテスの哲学: 「哲学」がどのような営みかについて、前回に引き続き、ソクラテスを紹介しつつ論じる。	(予習)前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。 (復習)レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。		3	ヘレンズム時代の思想①: 懐疑論とはそもそも何か? およびストア主義の思想。	(予習)前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。 (復習)レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。	
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当																
1	ガイダンス: 講義全体の趣旨・概要と成績評価などについて説明。講義の導入としてソクラテスの哲学を紹介する。	(予習)「哲学」および「懐疑論」についてのイメージを自分なりに考えておくこと。 (復習)レジュメプリント・資料プリントに目を通し、授業内容に対する理解を深めておくこと。																	
2	ソクラテスの哲学: 「哲学」がどのような営みかについて、前回に引き続き、ソクラテスを紹介しつつ論じる。	(予習)前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。 (復習)レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。																	
3	ヘレンズム時代の思想①: 懐疑論とはそもそも何か? およびストア主義の思想。	(予習)前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。 (復習)レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。																	

授業科目名		社会福祉学(検査) (Social Welfare)	
主担当教員	中村 亮太	担当教員	中村 亮太
科目ナンバリング	LA008	教養科目	ディプロマポリシー 該当項目
配当年次	1	閉講学期	月曜5限
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	障害者の地域生活や現代の社会問題について考察することを通じて、社会福祉の基礎について学ぶ。社会福祉に関する考え方や制度、支援などについて、時事問題や映像資料も踏まえながら具体的に学んでいく。適宜、受講者の意見を聞きながら、授業を進めていく。		
到達目標	様々な社会問題について、社会福祉の視点から考察し、理解できるようにすることを目標とする。		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	毎回の質問や感想を記したコミュニケーションペーパーの提出を求める。そこで提出されたものについては、次の授業で解説やコメントを行なう。		
教科書	毎回の授業においてレジュメを配布する。		
参考書	授業中に適宜紹介する。		
研究室/オフィスアワー	授業の前後、あるいはメール等にて質問などを受け付ける。		
授業展開及び授業計画表	授業展開及び授業計画表		
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	オンラインテーション——社会福祉とは何か	今回の講義内容について見直し、次の講義テーマについて調べる	
2	社会福祉の歴史——社会の変化と福祉	今回の講義内容について見直し、次の講義テーマについて調べる	
3	社会福祉と地域包括ケア	今回の講義内容について見直し、次の講義テーマについて調べる	
4	社会福祉における支援の担い手	今回の講義内容について見直し、次の講義テーマについて調べる	
5	社会福祉におけるケアの質	今回の講義内容について見直し、次の講義テーマについて調べる	
6	社会福祉と地域①:障害者運動の歴史	今回の講義内容について見直し、次の講義テーマについて調べる	
7	社会福祉と地域②:身体障害者の地域生活	今回の講義内容について見直し、次の講義テーマについて調べる	
8	社会福祉と地域③:知的障害者の地域生活	今回の講義内容について見直し、次の講義テーマについて調べる	
9	社会福祉と地域④:精神障害者の地域生活	今回の講義内容について見直し、次の講義テーマについて調べる	
10	社会福祉と市場経済	今回の講義内容について見直し、次の講義テーマについて調べる	
11	社会福祉の分野①:育児問題	今回の講義内容について見直し、次の講義テーマについて調べる	
12	社会福祉の分野②:教育問題	今回の講義内容について見直し、次の講義テーマについて調べる	
13	社会福祉の分野③:雇用問題	今回の講義内容について見直し、次の講義テーマについて調べる	

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
4	ヘレン・メリム時代の思想②:古代懷疑主義の思想。ピュロソフ、アルケンラオス、アイソパテモス、アグリッパなど。	(予習) 前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。 (復習) レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。	
5	近代の懷疑主義的思想①:モンテネーニにおけるピュロソフ主義、およびデカルト思想の全体像。	(予習) 前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。 (復習) レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。	
6	近代の懷疑主義的思想②:デカルトの方法的懷疑その1。	(予習) 前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。 (復習) レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。	
7	近代の懷疑主義的思想③:デカルトの方法的懷疑その2。	(予習) 前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。 (復習) レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。	
8	懷疑論に抗して:ウィットゲンシュタインの思想。	(予習) 前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。 (復習) レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。	
9	自然科学的知識はどのように正当化されるのか? その①:デカルトの自然科学その1。	(予習) 前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。 (復習) レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。	
10	自然科学的知識はどのように正当化されるのか? その②:デカルトの自然科学その2、およびデカルトにおける心身問題その1。	(予習) 前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。 (復習) レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。	
11	自然科学的知識はどのように正当化されるのか? その③:デカルトにおける心身問題その2。	(予習) 前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。 (復習) レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。	
12	自然科学的知識はどのように正当化されるのか? その④:デカルトの自然科学とニュートン物理学、および近代における自然科学と形而上学との関係。	(予習) 前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。 (復習) レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。	
13	自然科学的知識はどのように正当化されるのか? その⑤:近代における自然科学の方法論(帰納法)。	(予習) 前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。 (復習) レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。	
14	自然科学的知識はどのように正当化されるのか? その⑥:近代における自然科学の方法論(仮説演繹法)。	(予習) 前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。 (復習) レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。	
15	講義全体のまとめ 期末試験についての説明	(予習) これまでの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。 (復習) 期末試験に備え、レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。	
成績評価方法と基準		割合	
期末試験を50点、授業中に不定期に行う5回的小テスト(1回につき10)を50点とし、合わせて100点満点として評価する。		割合	小テスト 50% 期末試験 50%
小テストは授業中(授業開始後の30分)が授業終了前の30分、テスト時間とする)に行うのでレジュメやノートを見ながら解き進めなければならない。授業内容を十分に理解し、そのうえで自分の意見や考えを一定の字数で述べる事ができるかどうかを評価する。			
期末試験については、講義全体の流れとキーワードをしっかりと理解しているかを問う。試験の出題範囲や形式の詳細については、第15回目の講義時に説明する。			

14	社会福祉の分野④、老後問題	今回の講義内容について見直し、次回の講義テーマについて調べる
15	講義全体のまとめと振り返り	本講義全体を見直す
成績評価方法と基準		割合
①定期試験		①70%
②平常点(コミュニケーションペーパーなど)		②30%

授業科目名	日本国憲法(検査) (Constitution of Japan)		
主担当教員	植田 重幸	担当教員	植田 重幸
科目ナンバリング	LA009	科目区分	ディプロマポリシー 該当項目 DP③
配当年次	1	開講学期	曜日・時限 金曜 5 限
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	<p>社会規範たる法の理念を理解する中で、法体系のしくみ並びに日本の最高法規としての日本国憲法の現行の重要経緯と、今日の基本的な人権規定に関する論点について解説を行うとともに、時事関連・医療関連事項に関わる問題点及び今後の課題に対しても説明を進める。また、コメディカルをもとに、診療の補助の一員として業務に従事する状況と、人権に対する法的責任の実態を検証する。</p> <p>④ 現在の医療過誤に関する状況と、人権に対する法的責任の検証する。</p> <p>⑤ 時事関連問題として、連立立法審査権に関わる諸項目や裁判員制度の現状と今後の対応課題についての理解を深める。</p>		
到達目標	<p>1. 日本国憲法の成立経緯と特色を理解する。</p> <p>2. 基本的人権の尊重規定をもとに、個人の尊厳に関して法的側面から、その理解を深める。</p> <p>3. 医療と人権に関する大切なことを理解する。</p> <p>4. 臨床検査学科における『臨床検査技師等に関わる法律』をもとに、今後の業務遂行に必要な関係法規のしくみを学習し理解する。</p> <p>5. 現在の医療過誤に関する状況と、人権に対する法的責任の実態を検証する。</p> <p>6. 時事関連問題として、連立立法審査権に関わる諸項目や裁判員制度の現状と今後の対応課題についての理解を深める。</p>		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	<p>1. 日本国憲法の内容理解とともに、医療法規に関する指導説明が加わることから、補充解説たる検査筆記が重要となる。</p> <p>2. 指導内容に即した市販書籍は多数に亘るため、教科書代用の資料冊子にて講義を行う。</p> <p>3. 疑問点や分かりにくい事項が生じた場合は、適宜質問を行うことで理解を進めること。</p> <p>4. 将来の業務実践を見据え、指導内容に対する人権・人格の尊重に十分留意し積極的取り組みを求める。</p>		
教科書	指定しない。		
参考書	特になし。		
研究室/オフィスアワー	研究室/オフィスアワー		
授業前後の非常勤講師控室	授業前後の非常勤講師控室		
授業展開及び授業計画表	授業展開及び授業計画表		
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	法と社会生活① 法の成立並びに社会と規範	予習: シラバス・テキスト冊子の確認を行う 復習: キーワード、重要語句の確認を行う	
2	法と社会生活② 法と道徳、法の支配、法体系のしくみ	予習: 社会規範としての法の意義を考える 復習: 法の概念の理解と確認を行う	
3	日本国憲法の制定史 明治憲法との比較、個人の尊厳と人権保障の限界	予習: 日本国憲法の成立経緯を確認する 復習: 講義内容をもとに、基本的人権規定の各事項を理解し把握する	
4	日本国憲法の特徴 基本理念及び基本原理	予習: テキスト冊子より、キーワードの確認 復習: 重要語句について再チェックする	
5	基本的人権規定① 基本的人権の成立経緯と人権規定	予習: テキスト冊子より、キーワードの確認 復習: 重要語句について再チェックする	
6	基本的人権規定② 包括的基本権、自律的自己決定権	予習: テキスト冊子より第 13 条の役割を確認する 復習: 講義内容の完全理解に努める	
7	基本的人権規定③ 新しい人権(人格権と幸福追求権)	予習: テキスト冊子より、本項の確認を行う 復習: 講義内容の完全理解に努める	
8	基本的人権規定④ 尊厳死の定義、臓器移植法の問題点	予習: 自然死と脳死の捉え方の相違をテキスト冊子から理解する 復習: 本項目の現在の解釈を確認する	
9	関係法規① コメディカルに対する関係法規のしくみと位置づけ	予習: シラバス・テキスト冊子の確認 復習: 講義内容をもとに、コメディカルの役割を確認する	

10	関係法規② 日本国憲法と保健衛生法規とのつながり	予習：シラバス・テキスト冊子の確認を行う 復習：保健衛生法規のしくみの理解と確認を行う	
11	医療過誤と法的責任① 医療過誤の実態と権利侵害	予習：テキスト冊子の本項の確認を行う 復習：キーワード、重要語句の確認を行う	
12	医療過誤と法的責任② 医療過誤における法的責任	予習：医療過誤に関する事例を調べる 復習：特に民事責任に関して確認を行う	
13	統治行為① 国会・内閣規定より、選挙制度並びに議院内閣制	予習：現行の選挙制度を確認する 復習：1票の格差問題について理解を深める	
14	統治行為② 裁判所規定より、連憲立法審査権並びに裁判員制度の現状	予習：テキスト冊子より、キーワードの確認 復習：講義事項についての確認	
15	日本国憲法の改正手続	予習：現行憲法の改正の必要性を調べる 復習：国民投票法の改正における影響を確認する	
成績評価方法と基準			割合
①指導項目に関し、筆記試験を行う。 ※80点以上で単位認定する。			①100%

授業科目名	統計学(検査) (Statistics)		
主担当教員	井手口 範男	担当教員	井手口 範男
科目ナンバリング	LA010	科目区分	ディプロマポリシー 該当項目 DP③
配当年次	1	開講学期	曜日・時限 月曜2限
授業形態	演習	単位数	2
授業概要	統計学の基礎や概念を学び、実験や調査で得られたデータをどのような統計手法を用いて分析し、どのように解釈すればよいかを理解し、それらを元に実際に自分たちでデータを分析することによって、基礎的な統計処理を身につけることを目指す。		
到達目標	1. 統計学の基礎を理解する。 2. 推定と検定の考え方を理解し、説明することができる。 3. 量的データに対して適切な分析方法を選択することができる。		
履修上の注意 (学生へのメッセージ)	毎回の授業のつながりや非常に重要です。また、毎回小テストを実施しますので、欠席のないように留意すること		
教科書	教科書		
参考書	向後千春・富永敦子、ファーストブック 統計学がわかる、技術評論社		
授業内で適宜紹介する	参考書		
研究室/オフィスアワー	授業内で適宜紹介する		
E棟4F研究室1 / 火曜日6時限 (空いていれば適宜対応します)	研究室/オフィスアワー		
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	ガイダンス	シラバスを確認して、テキスト「はじめに」を読む (単に読むだけでなく、わからない専門用語等について下調べをしておく、以下同様)	
2	測定値の性質 (尺度水準)	「尺度水準」とは何か調べる	
3	平均と度数分布・分散と標準偏差	テキスト1章を読む	
4	母集団と標本・区間推定と信頼区間	テキスト2章を読む	
5	相関係数・2変数間の関係	ピアソンの積率相関係数、スピアマンの順位相関係数、ケンドールの順位相関係数について調べる	
6	仮説検定の考え方や帰無仮説	テキスト3-1を読む	
7	観測度数と期待度数	テキスト3-2、3-3を読む	
8	カイ2乗検定	テキスト3-4を読む	
9	被験者ごとの差の平均の信頼区間	テキスト4-1、4-2を読む	
10	対応がないデータによる t 検定 (ウェルチの方法)	テキスト4-3を読む	
11	対応があるデータによる t 検定	テキスト5章を読む	
12	1要因の分散分析-1-	テキスト6-1、6-2を読む	
13	1要因の分散分析-2-	テキスト6-3を読む	
14	2要因の分散分析-1-	テキスト7-1、7-2を読む	
15	2要因の分散分析-2-	テキスト7-3を読む	

成績評価方法と基準	割合
① 定期試験	80%
② 小テスト	20%

授業科目名	英語 I (初級)(検査A) (English I [Beginner])		
主担当教員	藤重 仁子	担当教員	藤重 仁子
科目ナンバリング	LA011	教養科目	ディプロマポリシー 該当項目 DP②
配当年次	1	科目区分	曜日・時限
授業形態	演習	開講学期	水曜 4 限
授業概要	2	単位数	必修・選択 必修
授業概要	英語 I では、日常生活で最低限必要とされる、スピーキング、リスニング、リーディングのスキルを総合的に習得する。基本的な文法を復習し、単語・熟語・慣用句などの語彙を構やしながら、最低限自己表現できるコミュニケーション力を身につける。また、多くのリスニングをこなし、英語に耳を慣らしていく。授業を通して、英語に対する抵抗感をなくし、英語を学ぶことは楽しいという感覚を習得する。さらに、多読を行い、多量のインプットをすることにより、英語力アップを目指す。		
到達目標	日常生活で目や耳にする英語に親しみ、それらを最低限理解できる。 基本的な文法、語彙、表現を身につける。		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	積極的に授業に参加すること。 宿題(特にリーディングの予習)は必ずしてから授業に臨むこと。 私語、携帯電話の使用などは慎むこと。		
教科書	Good Morning World ① (Susan Stempleski, Nancy Doug las, James Morgan / Cengage Learning, 2014)		
参考書	英和辞書		
研究室/オフィスアワー	藤重 仁子/東棟 4 階研究室22 / 木曜日 3 限目		
授業展開及び授業計画表	回数	学修内容	予習・復習・課題等 担当
	1	Greetings and intros	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。
	2	Getting to know you	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。
	3	Countries and Nationalities	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。
	4	Countries of the world	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。
	5	Personal Items	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。
	6	Gift giving	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。
	7	Activities and Interests	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。

8	For here or to go?	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
9	Everyday activities	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
10	Food	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
11	Food and eating habits	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
12	My Family	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
13	This is my family!	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
14	All in the family	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
15	Review	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
成績評価方法と基準			割合
①定期試験			①40%
②プレゼンテーション・その他課題・授業態度・参加			②40%
③多読			③20%
2/3以上の出席が必要。			

授業科目名		英語 I (初級)(検査 B) (English I [Beginner])	
主担当教員	竹内 恵子	担当教員	竹内 恵子
科目ナンバリング	LA011	教養科目	ディプロマポリシー 該当項目 DP②
配当年次	1	開講学期	曜日・時限 水曜 4 限
授業形態	演習	単位数	2
授業概要			
英語 I では、日常生活で最低限必要とされる、スピーキング、リスニング、リーディングのスキルを総合的に習得する。基本的な文法を復習し、単語・熟語・慣用句などの語彙を増やしながら、最低限自己表現できるコミュニケーション能力を身につける。また、多くのリスニングをこなす、英語に耳を慣らしていく。授業を通して、授業に対する抵抗感をなくし、英語を学ぶことは楽しいという感覚を習得する。さらに、多読を行い、多量のインプットをすることにより、英語力アップを目指す。			
到達目標			
日常生活で目や耳にする英語に親しみ、それらを最低限理解できる。 基本的な文法、語彙、表現を身につける。			
履修上の注意(学生へのメッセージ)			
積極的に授業に参加すること。 宿題(特にリーディングの予習)は必ずしてから授業に臨むこと。 私語、携帯電話の使用などは慎むこと。			
教科書			
Good Morning World ① (Susan Stempl eski, Nancy Doug las, James Morgan / Cengage Learning, 2014)			
参考書			
英和辞書			
研究室/オフィスアワー			
東棟1階講師控室			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	Greetings and intros	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
2	Getting to know you	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
3	Countries and Nationalities	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
4	Countries of the world	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
5	Personal Items	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
6	Gift giving	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
7	Activities and Interests	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	

8	For here or to go?	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
9	Everyday activities	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
10	Food	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
11	Food and eating habits	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
12	My Family	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
13	This is my family!	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
14	All in the family	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
15	Review	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
成績評価方法と基準			割合
①定期試験			①40%
②プレゼンテーション・その他課題・授業態度・参加			②40%
③多読			③20%
2/3以上の出席が必要。			

授業科目名	英語Ⅱ(中級)(検査A) (English II 【Intermediate】)		
主担当教員	藤重 仁子	担当教員	藤重 仁子
科目ナンバリング	LA012	科目区分	ディプロマポリシー 該当項目 DP②
配当年次	1	開講学期	曜日・時限 水曜2限
授業形態	演習	単位数	2
授業概要	前期科目の英語Ⅰに引き続き、本授業でも、日常生活で最低限必要とされる、スピーキング、リスニング、リーディングのスキルを総合的に習得する。基本的な文法を復習し、単語・熟語・慣用句などの語彙を増やしながら、最低限自己表現できるコミュニケーション力を身につける。また、多くのリスニングをこなし、英語に耳を慣らし、多読を行い、多量のインプットをすることにより、英会話アプリを目指す。授業を通して、英語に対する抵抗感をなくし、英語を学ぶことは楽しいという感覚を習得する。		
到達目標	基本的な文法、語彙を確実に身につける。 英語で最低限のコミュニケーションが取れる。 簡単な英文を正確に理解できる。 履修上の注意(学生へのメッセージ) 積極的に授業に参加すること。 宿題(特にリーディングの予習)は必ずしてから授業に臨むこと。 私語、携帯電話の使用などは控むこと。		
教科書	教科書 Good Morning World ① (Susan Stempleski, Nancy Douglas, James Morgan / Cengage Learning, 2014) (英語Ⅰで使用したテキストを引き続き使用する。英語Ⅰを履修していない者のみ、購入すること。)		
参考書	参考書 英和辞典 多読用図書		
研究室/オフィスアワー	研究室/オフィスアワー		
木曜日3限目 (E棟4階研究室22)	木曜日3限目 (E棟4階研究室22)		
授業展開及び授業計画表	予習・復習・課題等	担当	
回数	学修内容		
1	Time	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
2	Time and schedules	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
3	Special Occasions	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
4	Holidays and celebrations	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
5	Person to Person	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
6	Living with others	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
7	Home Sweet Home	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
8	Housing	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	

		後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
9	Clothing	後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
10	Shopping for clothes	後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
11	Jobs and Ambitions	後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
12	Jobs	後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
13	Dress the part	後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
14	Good jobs	後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
15	Review	後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
成績評価方法と基準			割合
①定期試験			①40%
②プレゼンテーション・その他課題・授業態度・参加			②40%
③多読			③20%
2/3以上の出席が必要。			

授業科目名 英語Ⅱ(中級)(検査B) (English II [Intermediate])			
主担当教員	竹内 恵子	担当教員	竹内 恵子
科目ナンバリング	LA012	教養科目	ディプロマポリシー 該当項目 DP②
配当年次	1	開講学期	曜日・時限 水曜2限
授業形態	演習	単位数	2 必修・選択 必修
<p>授業概要</p> <p>前期科目の英語Ⅰに引き続き、本授業でも、日常生活で最低限必要とされる、スピーキング、リスニング、リーディングのスキルを総合的に習得する。基本的な文法を習得し、単語・熟語・慣用句などの語彙を蓄えながら、最低限自己表現できるコミュニケーション力を身につける。また、多くのリスニングをこなす。英語に耳を慣らす。さらに、多読を行い、多量のインプットをすることにより、英語力アップを目指す。授業を通して、英語に対する抵抗感をなくし、英語を学ぶことは楽しいという感覚を習得する。</p> <p>到達目標</p> <p>基本的な文法、語彙を確実に身につける。 英語で最低限のコミュニケーションが取れる。 簡単な英文を正確に理解できる。 履修上の注意(学生へのメッセージ) 積極的に授業に参加すること。 宿題(特にリーディングの予習)は必ずしてから授業に臨むこと。 私語、携帯電話の使用などは慎むこと。 教科書 Good Morning World ① (Susan Stempel eski, Nancy Douglas, James Morgan / Cengage Learning, 2014) (英語Ⅰで使用したテキストを引き続き使用する。英語Ⅰを履修していない者のみ、購入すること。) 参考書 英和辞典 多読用図書 研究室/オフィスアワー E棟1階講師控室</p> <p>授業展開及び授業計画表</p>			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	Time	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
2	Time and schedules	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
3	Special Occasions	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
4	Holidays and celebrations	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
5	Person to Person	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
6	Living with others	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
7	Home Sweet Home	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
8	Housing	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	

9	Clothing	後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
10	Shopping for clothes	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
11	Jobs and Ambitions	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
12	Jobs	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
13	Dress the part	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
14	Good jobs	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
15	Review	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
成績評価方法と基準			割合
①定期試験			①40%
②プレゼンテーション・その他課題・授業態度・参加			②40%
③多読			③20%
2/3以上の出席が必要。			

授業科目名	医学英語 I (検査) (English for Medicine I)		
主担当教員	藤重 仁子	担当教員	藤重 仁子
科目ナンバリング	LA015	科目区分	ディプロマポリシー 該当項目 DP②
配当年次	2	開講学期	曜日・時限 水曜 2 限
授業形態	演習	単位数	2
授業概要	医療従事者に必要な英語のコミュニケーション能力を身につけるため、臨床現場で患者の主訴等の発話を正確に理解したり、患者に正確な指示を伝えたりするために必要となる表現や語彙を習得する。また、医学関連の文献や論文、その他情報の収集方法と論文の構成を習得し、専門分野における最先端の研究情報を得るためのスキルを身につける。		
到達目標	最低限患者とコミュニケーションがとれる。		
	最低限の医学用語が理解できる。		
	医学分野の英語の論文がどのような構成になっているのか理解できる。		
	履修上の注意 (学生へのメッセージ)		
	積極的に授業に参加すること。		
	宿題や予習 (特にリーディング) は必ずしてから授業に臨むこと。		
	携帯電話の使用、私語は慎むこと。		
教科書			
実践看護英語 (竹林修一、英宝社、2014)			
参考書			
英和辞書			
研究室 / オフィスアワー			
棟棟 4 階研究室 22 木曜日 3 限目			
授業展開及び授業計画表	予習・復習・課題等	担当	
回数	学修内容		
1	Introduction	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
2	Medical terminology	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
3	Getting to know the patients 1	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
4	Getting to know the patients 2	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
5	Getting to know the patients 3	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
6	Getting to know the patients 4	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
7	Examination 1	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
8	Examination 2	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
9	Instruction medication	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	

10	Treating the patients	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	
11	Pubmed について、論文の構成について	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	
12	Articles on Medical Technology 1	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	
13	Articles on Medical Technology 2	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	
14	Articles on Medical Technology 3	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	
15	Review	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	
成績評価方法と基準			割合
①小テスト			①30%
②プレゼンテーションおよびその他課題			②40%
③授業参加			③30%
2/3以上の出席が必要。			

医学英語 II (検査) (English for Medicine II)		藤重 仁子		藤重 仁子	
主担当教員	藤重 仁子	担当教員	藤重 仁子	藤重 仁子	DP②
科目ナンバリング	LA016	教養科目	ディプロマポリシー	該当項目	DP②
配当年次	2	開講学期	後期	曜日・時限	火曜 4 限
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	選択
<p>授業概要</p> <p>医学英語 I に引き続き、医療従事者に必要となる英語のコミュニケーション能力の向上を目指し、臨床現場で患者の主訴等の発話を正確に理解したり、患者に正確な指示を伝えたりするために必要となる単語や語彙を習得する。また、医学関連の文献や論文、その他の情報の収集方法を学び、実際に自分で興味のあるテーマの論文を検索・収集する。そして、それらの論文から正確に情報を読み取るためのリーディングスキルを習得する。</p> <p>なお、医学英語 I を履修していない者の受講も歓迎する。</p> <p>到達目標</p> <p>患者とコミュニケーションがとれる。 基本的な医学用語が理解できる。 医学分野の英語の論文から正確な情報を読み取ることができる。</p> <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>積極的に授業に参加すること。 宿題や予習(特にリーディング)は必ずしてから授業に臨むこと。 携帯電話の使用、私語は慎むこと。</p> <p>教科書</p> <p>実践看護英語(竹林修一、英宝社、2014) (医学英語 I を履修した者は、再度購入する必要はない。)</p> <p>参考書</p> <p>英和辞典</p> <p>研究室/オフィスアワー</p> <p>E 棟 4 階研究室 22 木曜日 3 限目</p>					

授業展開及び授業計画表		予習・復習・課題等	担当
回数	学修内容		
1	Treating the Patients 1	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	
2	Treating the Patients 2	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	
3	Treating the Patients 3	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	
4	Operation	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	
5	Pregnancy	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	
6	In the Hospital	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	
7	Emergencies	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	
8	Living a Healthy Life	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	
9	Review 1	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	
10	Articles on Medical Technology 1	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	

11	Articles on Medical Technology 2	後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	
12	Articles on Medical Technology 3	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	
13	Articles on Medical Technology 4	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	
14	Articles on Medical Technology 5	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	
15	Review 2	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	
成績評価方法と基準			割合
①小テスト			①30%
②プレゼンテーションおよびその他課題			②40%
③授業参加態度			③30%
2/3回以上の出席が必要。			

授業科目名 英会話Ⅰ(検査) (English Conversation I)			
主担当教員	藤重 仁子	担当教員	藤重 仁子
科目ナンバリング	LA013	教養科目	ディプロマポリシー 該当項目 DP②
配当年次	2	科目区分	曜日・時限 火曜4限
授業形態	演習	開講学期	必修・選択 選択
授業概要	英会話Ⅰでは、基本的な英語によるコミュニケーション能力を習得することを目的とする。英会話の基本的ルールである、(1)主語の存在 (2)語順(主語・動詞・語句文、疑問詞など)、(3)読解力、注意しながら、日常生活の中で、道を尋ねる、買い物をする、自己紹介をするなどといった他人と関わる際に最低限必要な会話を身に付ける。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 自己紹介ができる。 最低限の日常会話が出来る。 自分の考えを最低限伝えることができる。 		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	ペアワーク、グループワークなどによる会話の練習が多いため、積極的に授業に参加すること。前回の授業の復習を必ずしてから授業に臨むこと。 私語、携帯電話の使用などは慎むこと。		
教科書			
	Talk a Lot Book1 -Second Edition- (David Martin 著, EFL Press, 2003)		
参考書			
英和・和英辞典			
研究室/オフィスアワー			
棟棟 4階研究室22 / 木曜日3限目			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	Getting to know each other	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
2	Introducing yourself	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
3	Talking about interests	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
4	Greeting someone	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
5	Talking about family	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
6	Asking and talking about family and relatives	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
7	Talking about people	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	

8	Describing what people look like	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
9	Talking about work	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
10	Telling time	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
11	Talking about past experiences	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
12	Talking about vacations	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
13	Talking about sports	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
14	Talking about physical condition	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
15	Review and oral exam	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
成績評価方法と基準			割合
①口頭試験			①30%
②授業参加態度			②40%
③その他プレゼンテーションや課題など			③30%
2/3以上の出席が必要。			

授業科目名	英会話Ⅱ(検査) (English Conversation II)																																		
主担当教員	藤重 仁子	担当教員	藤重 仁子																																
科目ナンバリング	LA014	教養科目	ディプロマポリシー 該当項目 DP②																																
配当年次	2	開講学期	曜日・時限 水曜1限																																
授業形態	演習	単位数	必修・選択 2																																
授業概要	英会話Ⅱに引き続き、英会話Ⅱでは英語によるコミュニケーション能力を習得することを目的とする。英会話の基本的ルールである、(1)主語の存在、(2)語順(主語・動詞・疑問文・疑問詞など)、(3)膠着力、を意識しながら、日常生活の中で他人と関わる際に必要となる英会話力を身につける。さらに、自分の伝えたいことを的確に表現できる英語力の習得を目指す。																																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活に困らない程度の会話ができる。 自分の考えを的確に伝えることができる。 																																		
	履修上の注意(学生へのメッセージ) ヘアワーク・グループワークなどによる会話の練習が多いため、積極的に授業に参加すること。前回の授業の復習を必ずしてから授業に臨むこと。 私語、携帯電話の使用などは慎むこと。																																		
教科書	Talk a Lot Book1 -Second Edition- (David Martin 著, EFL Press, 2003) ただし、英会話Ⅰの履修者は購入する必要なし。英会話Ⅱからの履修者のみ、購入すること。																																		
参考書	英和・和英辞典																																		
研究室/オフィスアワー	E棟4階研究室22 木曜日3限目																																		
授業展開及び授業計画表	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>学修内容</th> <th>予習・復習・課題等</th> <th>担当</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Talking about other countries</td> <td>次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Nationalities, languages and ethnic foods</td> <td>次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>Talking about experiences</td> <td>次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>Asking about experiences</td> <td>次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>Talking about places</td> <td>次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>Talking about Past Experiences</td> <td>次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>Talking about sports</td> <td>次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当	1	Talking about other countries	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。		2	Nationalities, languages and ethnic foods	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。		3	Talking about experiences	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。		4	Asking about experiences	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。		5	Talking about places	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。		6	Talking about Past Experiences	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。		7	Talking about sports	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当																																
1	Talking about other countries	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。																																	
2	Nationalities, languages and ethnic foods	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。																																	
3	Talking about experiences	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。																																	
4	Asking about experiences	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。																																	
5	Talking about places	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。																																	
6	Talking about Past Experiences	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。																																	
7	Talking about sports	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。																																	

8	Talking about other countries	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
9	Talking about places	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
10	Describing locations and asking directions	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
11	Talking about Japanese things	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
12	Talking about future events	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
13	Talking about school	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
14	Talking about Health	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
15	Review and oral exam	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
成績評価方法と基準			割合
口頭試問			30%
授業参加態度			40%
その他プレゼンテーションや課題など			30%
2/3以上の出席が必要。			

授業科目名	スポーツ健康科学演習(検査) (Sports Health Science Seminar)																										
主担当教員	中原 英博	担当教員	中原 英博、佐野 加奈絵、伊奈 新太郎、信江 彩加、折田 真弓、濱口 幹太、山口 晏奈、伊藤 剛																								
科目ナンバリング	CS017	科目区分	学部共通科目																								
配当年次	1	開講学期	前期																								
授業形態	演習	単位数	2																								
授業概要	<p>本スポーツ健康科学演習では、学生が自らの適正に応じたスポーツ種目を選択できるよう、軽スポーツ、球技スポーツ、ニュースポーツ、ダンスなど多様なスポーツ種目を推薦し、各種目特性を生かして、「思いっきり体を動かす身体感」と「プレーを通じて感じる理屈」の楽しさを存分に体験できるようにゲーム主体の授業プログラムを提供する。その中で、体力のレベルアップや身体動作の向上を図ると同時に、ゲームを自主的に運営する能力を養う。また、スポーツの実践を通して、学生同士の心の交流や人間関係を育み、生涯にわたり楽しく、計画的にスポーツを実践する習慣を育成することも本演習の大きな狙いである。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. スポーツ活動を通じて、学科学の枠を超えた学生同士の心の交流や人間関係を育むことができる。 2. スポーツ活動を通じて、基礎体力や、技術が向上する。 3. スポーツ活動を通じて、チームワークの重要性を認識できる。 4. 生涯にわたり楽しく、計画的にスポーツを実践する習慣を身につけることができる。 <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>履修について</p> <p>(1)各教員からの指示がない限り、トレーニング用ジャージ、シューズは毎週持参し、更衣した後、授業に臨むこと。 (2)シューズは屋外用、屋内用ともにゴム底の運動靴を用意すること。屋外でのスポーツ種目を実施するクラスの場合は、雨天により急ぎ屋内種目に変更する場合がありますので、毎回の授業時において、屋内用シューズは必ず用意しておくこと。 (3)授業中におけるみかネや時計などの破壊、コンタクトレンズや装飾品の紛失について担当教員は責任を負わない。</p> <p>注意事項</p> <p>(1)集合場所 日にち(特に雨天時)によって、各クラス担当教員ごとに、授業を行う場所やバス運行時刻等が変更する場合があります。特別指示がない場合においても、毎回、注意して掲示板を見る習慣をつけること。 (2)各運動施設までの移動手段について 本学では、1回生全員を対象に、本学体育館や下記の代替運動施設を利用して、スポーツ健康科学演習を行います。遠方(バスで約15~20分)の運動施設までの移動には、大学前から現地まで貸し切りバスをチャーターし、みなさんを送迎します。</p> <p>教科書</p> <p>特に指定しない。</p> <p>参考書</p> <p>なし</p> <p>研究室/オフィスアワー</p> <p>原則月曜日 3時限目~4時限目 その他、前屋にいればいつでも訪問可です。質問等はいつでもご自由にとどうぞ。</p>																										
授業展開及び授業計画表	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>学修内容</th> <th>予習・復習・課題等</th> <th>担当</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション クラス分けガイダンス スポーツ種目の選択、コースの決定</td> <td>軽スポーツ、球技スポーツ、ニュースポーツ、ダンスなど多様なスポーツ種目の特性について理解を深めておく。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>オリエンテーション クラス分けガイダンス スポーツ種目の選択、コースの決定</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>スポーツ種目特性の理解 種目・用具特性の把握</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>スポーツ種目特性の理解 種目・用具特性の把握</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>基本技術の習得 スポーツ種目に応じた基本技術の習得①</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当	1	オリエンテーション クラス分けガイダンス スポーツ種目の選択、コースの決定	軽スポーツ、球技スポーツ、ニュースポーツ、ダンスなど多様なスポーツ種目の特性について理解を深めておく。		2	オリエンテーション クラス分けガイダンス スポーツ種目の選択、コースの決定			3	スポーツ種目特性の理解 種目・用具特性の把握			4	スポーツ種目特性の理解 種目・用具特性の把握			5	基本技術の習得 スポーツ種目に応じた基本技術の習得①		
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当																								
1	オリエンテーション クラス分けガイダンス スポーツ種目の選択、コースの決定	軽スポーツ、球技スポーツ、ニュースポーツ、ダンスなど多様なスポーツ種目の特性について理解を深めておく。																									
2	オリエンテーション クラス分けガイダンス スポーツ種目の選択、コースの決定																										
3	スポーツ種目特性の理解 種目・用具特性の把握																										
4	スポーツ種目特性の理解 種目・用具特性の把握																										
5	基本技術の習得 スポーツ種目に応じた基本技術の習得①																										

6	基本技術の習得 スポーツ種目に応じた基本技術の習得①	
7	基本技術の習得 スポーツ種目に応じた基本技術の習得②	
8	基本技術の習得 スポーツ種目に応じた基本技術の習得②	
9	基本技術の習得 スポーツ種目に応じた基本技術の習得③	
10	基本技術の習得 スポーツ種目に応じた基本技術の習得③	
11	応用技術の習得 スポーツ種目に応じた応用技術の習得①	
12	応用技術の習得 スポーツ種目に応じた応用技術の習得①	
13	応用技術の習得 スポーツ種目に応じた応用技術の習得②	
14	応用技術の習得 スポーツ種目に応じた応用技術の習得②	
15	応用技術の習得 スポーツ種目に応じた応用技術の習得③	
16	応用技術の習得 スポーツ種目に応じた応用技術の習得③	
17	基本・応用技術の発展 複雑ゲームの実施とルール理解①	
18	基本・応用技術の発展 複雑ゲームの実施とルール理解①	
19	基本・応用技術の発展 複雑ゲームの実施とルール理解②	
20	基本・応用技術の発展 複雑ゲームの実施とルール理解②	
21	ゲームの展開 学生主体のゲーム運営①	
22	ゲームの展開 学生主体のゲーム運営①	
23	ゲームの展開 学生主体のゲーム運営②	
24	ゲームの展開 学生主体のゲーム運営②	
25	ゲームの展開 学生主体のゲーム運営③	
26	ゲームの展開 学生主体のゲーム運営③	
27	ゲームの展開 学生主体のゲーム運営④	
28	ゲームの展開 学生主体のゲーム運営④	
29	ゲームの展開 学生主体のゲーム運営⑤	
30	ゲームの展開 学生主体のゲーム運営⑤	
成績評価方法と基準		割合
授業回数の2/3(20コマ)以上出席すること(本授業科目においては1日で2コマ分の授業となっているので10日以上出席が必要です)。授業開始後、30分を超えての遅刻は欠席とみなす。成績の評価は、原則として2/3以上出席した者を対象とする。		①100%
その成績が60点未満の者は不可とし、単位を認定しない。		

授業科目名	健康科学(スポーツ社会学を含む)(検査) (Health Science [Including Sports Sociology])		
担当教員	佐野 加奈絵	担当教員	佐野 加奈絵
科目ナンバリング	CS018	科目区分	学部共通科目 DP③
配当年次	1	開講学期	曜日・時限 木曜3限
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	健康に対する意識が高まり、健康食品や健康器具などがブームとなっている近年、マスメディアを通じて流されている情報には、科学的根拠が乏しいものも少なくはない。本授業では、生活習慣病、地域社会における健康維持、増進に関わる取り組みや考え、運動や食事指導に関する科学的根拠に基づいた専門的な知識を身につけることを目標とする。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・運動や食事指導に関する科学的根拠に基づいた専門的な知識を身につける。 ・本邦における健康維持、増進に関わる取り組みや考え方について理解する。 		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	毎回配布する資料を用いて、必ず復習してください。		
教科書	適宜、資料を配布する。		
参考書	出村慎一監修「健康・スポーツ科学講義」杏林書院、2005年 田中憲代次編「健康運動の支援と実践」金芳堂、2006年 研究室/オフィスアワー 棟棟 4F 月曜 9:00-10:30		
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	健康とは？	予習：シラバスの確認。 復習：配布プリント、キーワードの確認。	
2	運動・栄養と肥満症との関係	予習：シラバスの確認。 復習：配布プリント、キーワードの確認。	
3	運動・栄養と糖尿病との関係	予習：シラバスの確認。 復習：配布プリント、キーワードの確認。	
4	運動・栄養と脂質異常症との関係	予習：シラバスの確認。 復習：配布プリント、キーワードの確認。	
5	三大栄養素(糖質・脂質・タンパク質)の役割	予習：シラバスの確認。 復習：配布プリント、キーワードの確認。	
6	微量栄養素(ビタミン・ミネラル)と水の役割	予習：シラバスの確認。 復習：配布プリント、キーワードの確認。	
7	消化器の構造と機能	予習：シラバスの確認。 復習：配布プリント、キーワードの確認。	
8	食品群の理解と応用	予習：シラバスの確認。 復習：配布プリント、キーワードの確認。	
9	エネルギー・摂取量と消費量との関係	予習：シラバスの確認。 復習：配布プリント、キーワードの確認。	
10	運動時におけるエネルギー産生メカニズム	予習：シラバスの確認。 復習：配布プリント、キーワードの確認。	
11	運動処方の方針と実践	予習：シラバスの確認。 復習：配布プリント、キーワードの確認。	
12	運動と食欲の関係 - 最新のトピックス -	予習：シラバスの確認。 復習：配布プリント、キーワードの確認。	
13	日本人の食事摂取基準について	予習：シラバスの確認。 復習：配布プリント、キーワードの確認。	
14	健康づくりに関する本邦の取り組み	予習：シラバスの確認。 復習：配布プリント、キーワードの確認。	
15	講義全体のまとめと振り返り	予習：これまでのプリントの確認。 復習：配布プリント、キーワードの確認。	

成績評価方法と基準	割合
①定期試験で評価する。 15回の講義に対し、必要な時間数の出席が必須である。	①100%

授業科目名	東洋思想史(検査) (History of Oriental Thoughts)		
主担当教員	重信 あゆみ	担当教員	重信 あゆみ
	CS019	学部共通科目	ディプロマポリシー 該当項目 DP③
科目ナンバリング	1	科目区分	曜日・時限
配当年次	1	開講学期	火曜1限
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	<p>古代より中国人は人体に多大な興味を持ち、そのために様々なことを試みてきた。そして、その中で生まれてきたのが中国思想である。この授業においては、東洋医学の背景にある文化、特に思想について学んでいく。そして、その思想と中国医学がどのように影響を及ぼしたのかについて学んでいく。</p>		
到達目標	<p>中国文化の基礎となっている歴史、思想を理解する。中国の思想には「いかに生き抜くか」が根底にある。その中で、諸子百家と呼ばれる人々は多くの思想を生み出し、広めてきた。中国医学の根底となる思想を通じて「ひとはなぜ長生きをしたのか」を考える授業をする。また、現代社会において中国思想がどのように反映されているのかについても理解する。</p>		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	<p>1. 配付された資料には必ず目を通すこと。 2. 出席は重視する。 3. 疑問点は大切に、解決に向けて行動すること。</p>		
教科書	プリントを配布する。		
参考書	マイケル・ビュエット/クリスティー・グロス＝ロー著 熊谷淳子訳 『ハーバードの人生が変わる東洋哲学』早川書房 2016年		
研究室/オフィスアワー	授業後、非常勤講師室		
授業展開及び授業計画表	予習・復習・課題等	担当	
回数	学修内容	半期です時代の流れを復習すること	
1	教科科目のガイダンス		
2	中国の歴史(戦国時代～漢代)	諸子百家と呼ばれる人々が出現した時代背景の復習	
3	孔子「仁」と「礼」	「仁」を中心とした孔子の思想を理解する	
4	孟子「命」	孟子が唱える「命」とはなにか。また、「命」は変えられるのかを考える。	
5	荀子「礼」	荀子の中心思想である「礼」について再考する。なぜ「礼」は唱えられたのかを考える。	
6	韓非子「法」	韓非子は、悪者か。韓非子が唱えた本当の「法」について考える。	
7	墨子「非攻」	戦えば百戦錬磨と言われた墨家集団。この集団において貫かれていた「愛」の思想について考える。	
8	老子「道」	「強くなるために弱くなる」という一見すれば逆説的な老子の思想について考える。	
9	「精」「氣」「神」	「精」「氣」という人にとって基本となる思想について触れる。ほんとうの元氣とは何かについて考える。	

10	荘子「物化」	老荘思想の「荘子」の思想にふれ、とくに「荘子は「物化」を理解することにより宇宙への理解が深まると考えており、「化」とはなににかについて考える。	
11	道教「西王母」	不老長寿の神である西王母について学ぶ。西王母は古来より現在に至るまで信仰されている神である。なぜ、ひととは、不老長寿を追いかけたいのか。西王母の要素を通して考える。	
12	黄泉の国「日本と中国の比較」	前講義につづき、なぜひととは「長生き」をしたかったのか。日本と中国の黄泉の国に対するイメージを比較検討していく。	
13	俳句「張目吐舌」	ひととは生き抜くためにあらゆる手段を講じた。そのなかでも悪業から自身を守るために「縁掛け」をつくる。その共通点が「張目吐舌」である。東西交渉を通して伝えられた「張目吐舌」について考える。	
14	「癒し」	ストレス社会である現在、さまざまな「癒し」がある。各自の癒しについて考え、面白い、なぜ癒されるのかを科学的に検証していく。	
15	思想と東洋医学	半期のまとめを行う。ひととはなぜ「不老長寿」を追い求めてきたのかをまとめを行いながら考えていく。	
成績評価方法と基準			割合
①授業ごとの感想文			①10%
②レポート課題			②20%
③定期試験			③70%

授業科目名		生化学(後査) (Biochemistry)	
主担当教員	森 誠司	担当教員	森 誠司
科目ナンバリング	CS021	学部共通科目	ディプロマポリシー 該当項目
配当年次	1	開講学期	前期
授業形態	講義	単位数	2
授業概要		生化学は生命現象を分子レベルで学ぶ学問である。本講義では人体を構成している化学物質の生体内での生物化学反応と生命維持との関わりについて学ぶ。糖質、アミノ酸、タンパク質、脂質、核酸などの主要な生体構成物質の構造と機能について学び、生命が多様な物質より構成されていることを理解する。	
到達目標		生体を構成する糖質、タンパク質、脂質といった分子の構造と性質について理解する。 生体内での化学反応、すなわち酵素反応について理解する。 履修上の注意(学生へのメッセージ)	
高校までの生物と化学について復習しておくこと。			
教科書		シンブル生化学 (南江堂)	
参考書		マツキ一生化学 (化学同人) リップコットシリーズイラストレイテッド生化学 (丸善) カラーイラストで学ぶ講義 生化学 (メジカルビュー社)	
研究室 / オフィスアワー		随時	
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	生命現象と生化学	予習: 細胞の基本構造について理解しておく 復習: 重要事項をノートにまとめる	
2	糖の定義と分類	予習: 糖の基本的な特徴を理解しておく 復習: 重要事項をノートにまとめる	
3	単糖類、オリゴ糖類、多糖類	予習: 前回の講義を理解しておく 復習: 重要事項をノートにまとめる	
4	糖タンパク質とプロテオグリカン	予習: 前回の講義を理解しておく 復習: 重要事項をノートにまとめる	
5	脂質の定義と分類	予習: 脂質の基本的な特徴を理解しておく 復習: 重要事項をノートにまとめる	
6	脂肪酸の基本的な構造と性質	予習: 前回の講義を理解しておく 復習: 重要事項をノートにまとめる	
7	単脂質と複合脂質	予習: 前回の講義を理解しておく 復習: 重要事項をノートにまとめる	
8	アミノ酸の構造と性質	予習: アミノ酸の基本的な特徴を理解しておく 復習: 重要事項をノートにまとめる	
9	タンパク質の構造と性質	予習: 前回の講義を理解しておく 復習: 重要事項をノートにまとめる	
10	核酸とヌクレオチドの構造と性質	予習: 核酸の基本的な特徴を理解しておく 復習: 重要事項をノートにまとめる	
11	DNA・RNA の構造と性質	予習: 前回の講義を理解しておく 復習: 重要事項をノートにまとめる	
12	酵素の一般的な構造と性質	予習: 酵素とはなにかを理解しておく 復習: 重要事項をノートにまとめる	
13	酵素の構造と活性中心	予習: 酵素の特徴について理解しておく 復習: 重要事項をノートにまとめる	
14	酵素反応速度論	予習: 前回の講義を理解しておく 復習: 重要事項をノートにまとめる	

15	酵素活性性の調節	予習：前回の講義を理解しておく 復習：重要事項をノートにまとめる
成績評価方法と基準		
割合		
1. 20%		
2. 80%		

授業科目名		健康管理学Ⅰ(検査)(Healthcare ManagementⅠ)	
主担当教員	伊黒 浩二	担当教員	伊黒 浩二
科目ナンバリング	CS022	科目区分	学部共通科目
配当年次	2	開講学期	前期
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	<p>近年、生活習慣病の危険因子が明らかになれ、かつある人は疾患に罹患する確率が高くなることから、日常生活でいかに健康管理を行うかについての関心が高まっている。本講義では、運動不足の健康への影響を学び、ライフステージに応じた健康づくりのための身体活動基準、目的に応じた効果的なトレーニング法の原理、原則を学修する。特に、有酸素性運動の健康上の必要性を学び、運動処方条件(強度・時間・頻度)に関する知識を養う。また、運動強度の指標を理解し、ウォーミングアップとクーリングダウン、及びレジスタンス運動を含めた、運動処方プログラムの構成についても学修する。</p>		
到達目標	<p>1. 健康管理と疾病の予防に関する基礎知識を習得し、予防医学の重要性を理解する。 2. 健康づくりのための運動に必要な知識、生活習慣病予防に役立つ基礎知識を説明できる。 3. 健康管理のための正しい知識を身につけ、健康の保持増進に役立てることができる。</p>		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	<p>①寝らない ②喋らない ③内職しない ④スマホを触らない 以上のルールを守って熱心に学習して下さい。</p>		
教科書			
特記事項	特記ありません。		
参考書	健康・スポーツ科学の基礎(出村慎一監修・杏林書院) 健康・スポーツ科学テキスト トレーニング科学(北川薫編集・文光堂) 特定健診・保健指導に役立つ 健康運動指導マニュアル(佐藤祐造編集・文光堂)、他		
研究室/オフィスアワー	研究室内/オフィスアワー		
授業開始前は非常勤講師室にいます。			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	健康管理について 1	予習:シラハスの確認 復習:授業をもとにノート・プリントの確認	
2	健康管理について 2	予習:シラハスの確認 復習:授業をもとにノート・プリントの確認	
3	生活習慣病と運動 1	予習:シラハスの確認 復習:授業をもとにノート・プリントの確認	
4	生活習慣病と運動 2	予習:シラハスの確認 復習:授業をもとにノート・プリントの確認	
5	生活習慣病と運動 3	予習:シラハスの確認 復習:授業をもとにノート・プリントの確認	
6	トレーニングの基礎知識	予習:シラハスの確認 復習:授業をもとにノート・プリントの確認	
7	全身持久カトレニングについて	予習:シラハスの確認 復習:授業をもとにノート・プリントの確認	
8	筋持久カ・筋カトレニングについて 1	予習:シラハスの確認 復習:授業をもとにノート・プリントの確認	
9	筋持久カ・筋カトレニングについて 2	予習:シラハスの確認 復習:授業をもとにノート・プリントの確認	
10	パワーレニングについて	予習:シラハスの確認 復習:授業をもとにノート・プリントの確認	
11	トレーニングでの注意点 1 ウォームアップとウォームダウン 1	予習:シラハスの確認 復習:授業をもとにノート・プリントの確認	
12	トレーニングでの注意点 2 ウォームアップとウォームダウン 2	予習:シラハスの確認 復習:授業をもとにノート・プリントの確認	
13	オーバーワークサイズによる身体的問題	予習:シラハスの確認 復習:授業をもとにノート・プリントの確認	

14	トレーニングでの注意点 4 障害を予防するためのアイシング	予習：シラハスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
15	講義全体のまとめと振り返り	予習：シラハスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
成績評価方法と基準			割合
①筆記試験			①70%
②授業ごとの小テスト・課題提出			②30%
・全授業のうち2/3以上の出席が必要			

授業科目名	健康管理学Ⅱ(検査) (Healthcare Management II)		
主担当教員	伊黒 浩二	担当教員	伊黒 浩二
科目ナンバリング	CS023	科目区分	学部共通科目
配当年次	2	開講学期	後期
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	近年、生活習慣病だけでなく、加齢に伴う生活機能低下を防ぐ対策が重要課題となってきた。健康寿命を延伸するために、日常生活でいかに健康管理を行うかについての関心が高まっている。本講義では、疾病構造の変化と身体活動・運動不足の関連性、身体運動のメカニズム、および健康度の一つの尺度となる体力・日常動作について理解を深めると同時に、第一次予防の視点に立って運動が健康づくり、特に生活習慣病予防・介護予防に役立つ相関について学修する。生活習慣病とロコモティブシンドロームを予防し、健康寿命を延伸するための理論、並びに具体的な実践方法についても理解を深める。		
到達目標	1. 生活習慣病・加齢に伴う生活機能低下に関する基礎知識を習得し、予防医学の重要性を理解する。 2. 健康寿命の延伸に必要な基礎知識、生活習慣病予防・介護予防に役立つ健康づくり運動の知識を説明できる。 3. 健康管理のための正しい知識を身につけ、健康の保持増進に役立てることができ、 履修上の注意(学生へのメッセージ) ①寝ない ②喋らない ③内職しない ④スマホを触らない 以上のルールを守って熱心に学習して下さい。		
教科書			
特におすすめ			
参考書	健康・スポーツ科学の基礎(出村順一監修・杏林書院) 健康・スポーツ科学テキスト(トレニング科学(北川薫編集・文光堂) 特定健診・保健指導に役立つ 健康運動指導マニュアル(佐藤祐造編集・文光堂)、他		
研究室/オフィスアワー			

授業開始前は非常勤講師室にあります。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	健康管理について 1	予習：シラハスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	
2	健康管理について 2	予習：シラハスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	
3	中高年の身体的特徴と運動 1	予習：シラハスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	
4	骨粗鬆症と運動	予習：授業をもとにノート・プリントを確認	
5	変形性関節症と運動	予習：シラハスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	
6	生活習慣病と運動 1 メタボリックシンドローム	予習：シラハスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	
7	生活習慣病と運動 2 高血圧症	予習：シラハスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	
8	生活習慣病と運動 3 糖尿病	予習：シラハスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	
9	生活習慣病と運動 4 高脂血症	予習：シラハスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	
10	生活習慣病と運動 5 虚血性心疾患	予習：シラハスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	
11	有酸素エクササイズについて	予習：シラハスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	
12	レジスタンスエクササイズについて	予習：シラハスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	
13	ウォーームアップとウォームダウンについて 1	予習：シラハスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	

14	ウォームアップとウォームダウンについて 2	予習：シラハバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	
15	講義全体のまとめと振り返り	予習：シラハバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	
成績評価方法と基準			割合
①筆記試験			①70%
②授業ごとの小テスト・課題提出 授業の2/3回以上の出席が必要			②30%

授業科目名	チーム医療とコミュニケーション(検査) (Team Medical Care and Communication)		
主担当教員	小宮山 森弘	担当教員	小宮山 森弘、田畑 泰弘
科目ナンバリング	CS020	科目区分	学部共通科目
配当年次	2	開講学期	後期
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	医療は医師のみが治療にあたるのではない。1人の患者を中心に多職種の特任職が協働してケアにあたる必要がある。その為にはコミュニケーション能力が重要である。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. チームアプローチが必要な病態を学ぶ 2. 患者への検査説明や療養支援の実践を学び、必要となるスキルを習得する。 		
履修上の注意 (学生へのメッセージ)	臨床検査技師の役割は患者の検査を担うのみではない。検査のプロフェッショナルとして専門的な知識を患者指導に役立てることも重要である。臨床の現場で求められる検査技師の知識は医療全体をカバーできるため、役割は多岐にわたっており、積極的な参加が求められている。検査技師ではなく、『臨床検査技師』として患者に寄り添うためのスキルを学ぶ意欲で望んで欲しい。		
教科書			
JAMT 技術教本シリーズ	臨床検査技師のためのチーム医療読本 じほう社		
参考書			
適時資料配布			
研究室/オフィスアワー			
小宮山森弘 研究室 (月)16:30~17:30 (火)16:30~17:30			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	チーム医療のどらえ方(小宮山)	教科書 P2 から P8 予習	小宮山
2	患者を中心としたチームアプローチ①(小宮山)	教科書 P9 から P14 予習	小宮山
3	患者を中心としたチームアプローチ②(小宮山)	教科書 P15 から P25 予習	小宮山
4	患者への直接支援①(田畑)	教科書 P26 から P35 予習	田畑
5	患者への直接支援②(田畑)	教科書 P35 から P40 予習	田畑
6	コミュニケーションスキル(小宮山)	教科書 P42 から P58 予習	小宮山
7	チームアプローチの実践①(小宮山)	教科書 P60 から P76 予習	小宮山
8	チームアプローチの実践②(田畑)	教科書 P77 から P92 予習	小宮山
9	病棟検査技師の役割(小宮山)	教科書 P95 から P112 予習	小宮山
10	検査相談室の実践(小宮山)	教科書 P114 から P129 予習	小宮山
11	臨床検査部門別の検査報告体制(小宮山)	教科書 P130 から P144 予習	小宮山
12	臨床検査技師による検査説明(田畑)	教科書 P146 から P160 予習	田畑
13	病院運営組織への臨床検査技師の参画(田畑)	教科書 P162 から P170 予習	田畑
14	チーム医療に必要なスキル①(田畑)	教科書 P172 から P180 予習	田畑
15	チーム医療に必要なスキル②(小宮山)	教科書 P181 から P197 予習	小宮山
成績評価方法と基準			割合

1.	レポート提出 30点 (次回の予習範囲をレポートとして授業前に提出)
2.	定期試験 70点

栄養学(後査) (Nutriology)		担当教員		西崎 大祐		
主担当教員		西崎 大祐		ディプロマポリシー 該当項目		
科目ナンバリング		CS024		DP③		
科目区分		学部共通科目		火曜3限		
配当年次		2		曜日・時限		
授業形態		講義		必修・選択		
授業概要		2		選択		
身体を維持・運営することについて、食べ物はもちろん時代・社会環境をも含めた中ででの健康というものを考えることができる知識を身につけさせる。基本、教科書を使用。プリントで復習。						
到達目標						
生きるとして事から考えると、食べことは重要だが、このことだけでは健康は手に入らない。栄養はもちろんのことだが、時代・社会・環境問題も含めた中ででの健康を考えられる知識を見につける。						
履修上の注意 (学生へのメッセージ)						
プリントを渡しますので、復習をすること。						
教科書						
イラス、基礎栄養学(大口健司他著)東京教科学社						
参考書						
特になし						
研究室/オフィスアワー						
授業前後の非常勤講師控え室						
授業展開及び授業計画表						
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当			
1	栄養の概念	1. 栄養の定義 2. 栄養と健康・疾患 3. 遺伝形質と栄養の相互作用				
2	食物の摂取	1. 空腹感と食欲 2. 食事のリズムとタイミング				
3	消化・吸収と栄養素の体内動態	1. 消化器系の構造と機能 2. 食物の消化・吸収・排泄の流れ 3. 管腔内消化の調節 4. 腸消化・吸収 5. 栄養素別の消化・吸収 6. 栄養素の体内動態 7. 生物学的利用度				
4	たんぱく質の栄養①	1. たんぱく質代謝の特徴 2. 食後のたんぱく質代謝 3. 食前期のたんぱく質代謝 4. たんぱく質代謝回転の調節機構				
5	たんぱく質の栄養②	5. たんぱく質の栄養管理 6. アミノ酸代謝の臓器差 7. たんぱく質の栄養価 8. たんぱく質の栄養価判定 9. アミノ酸の補足効果				
6	炭水化物の栄養①	1. 食後の糖質代謝 2. 食前期の糖質代謝 3. 血糖の調節機構				
7	炭水化物の栄養②	4. エネルギー源としての糖質の特性 5. 他の栄養素との関連 6. 食物繊維・難消化性オリゴ糖の利用				
8	脂質の栄養①	1. 脂質の体内代謝 2. コレステロール代謝とその調節				
9	脂質の栄養②	3. 摂取する脂質の量と質 4. 他の栄養素との関係				
10	ビタミンの栄養①	1. ビタミンの種類と構造 2. ビタミンの生理機能 3. ビタミンの栄養学的機能				

11	ビタミンの栄養②	4. ビタミンの生物学的利用度 5. 他の栄養素との関係 1. ミネラルの分類と栄養学的機能 2. 硬組織とミネラル 3. 生体機能の調節作用 4. 酵素反応の賦活作用 5. 鉄代謝と栄養 6. ミネラルの生物学的利用度 7. 他の栄養素との関係
12	ミネラル(無機質)の栄養①	1. 体内での水の動き 2. 水の出入 3. 水分のバランス 4. 水・電解質の代謝
13	ミネラル(無機質)の栄養②	1. エネルギー代謝の概念 2. エネルギー消費量 3. 臓器別エネルギー代謝 4. エネルギー代謝量の測定法
14	水・電解質の栄養的意義	
15	エネルギー代謝	
成績評価方法と基準		割合
筆記試験		1

授業科目名 身体運動科学(検査) (Science of Human Body Movement)			
主担当教員		担当教員	外林 大輔
科目ナンバリング	CS025	科目区分	学部共通科目 DP③
配当年次	2	開講学期	曜日・時限 水曜3限
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	本講義では、競技スポーツ、健康運動、運動療法、日常生活活動、労働などの身体活動に対する生体の一時的変化や適応現象のメカニズムについて学び、身体活動の生理学的基礎と、健康、競技スポーツおよび生活習慣病予防のためのトレーニングや栄養との関連性について学ぶ。		
到達目標	重要なもたらす身体への生理学的意義について、これまで学習してきた生理学や解剖学をベースに学ぶことで、改めて基礎医学の重要さを理解し、資格取得後の現場に活かせる知識と考え方を身に付ける。		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	最新のデータや知見を踏まえ、講義を進めます。できるだけ学生さんたちに興味を持ってもらい、講義中のディスカッションや講義に対する内容の要望などがありましたら、遠慮なくお寄せください。		
教科書			
授業時に配布するプリント			
参考書	改訂版 運動生理学の基礎と発展(春日親孝著・フリースペース) 運動生理学のニューエビデンス(宮村実晴著・真興交易医書出版)		
研究室/オフィスアワー			
大学の講義時は非常勤講師室におります。それ以外の時間帯に質問などがありましたら、メールで連絡してください。 sotobayashi@morinomiya.ac.jp			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	身体運動科学の概要	予習: シラハスの確認 復習: 授業をもとにノート・プリントの確認	
2	運動と筋・骨格①	予習: シラハスの確認 復習: 授業をもとにノート・プリントの確認	
3	運動と筋・骨格②	予習: シラハスの確認 復習: 授業をもとにノート・プリントの確認	
4	ストレッチング&コンディショニング	予習: シラハスの確認 復習: 授業をもとにノート・プリントの確認	
5	柔軟性の科学①	予習: シラハスの確認 復習: 授業をもとにノート・プリントの確認	
6	柔軟性の科学②	予習: シラハスの確認 復習: 授業をもとにノート・プリントの確認	
7	運動と循環①	予習: シラハスの確認 復習: 授業をもとにノート・プリントの確認	
8	運動と循環②	予習: シラハスの確認 復習: 授業をもとにノート・プリントの確認	
9	運動と呼吸	予習: シラハスの確認 復習: 授業をもとにノート・プリントの確認	
10	運動と免疫	予習: シラハスの確認 復習: 授業をもとにノート・プリントの確認	
11	運動と栄養	予習: シラハスの確認 復習: 授業をもとにノート・プリントの確認	
12	運動と食生活	予習: シラハスの確認 復習: 授業をもとにノート・プリントの確認	
13	フィジカルチェック	予習: シラハスの確認 復習: 授業をもとにノート・プリントの確認	
14	脳振盪	予習: シラハスの確認 復習: 授業をもとにノート・プリントの確認	
15	講義全体のまとめ・試験対策	予習: シラハスの確認 復習: 授業をもとにノート・プリントの確認	

成績評価方法と基準	割合
1. 授業の3分の2以上の出席が必要です。 2. 期末テスト60点以上で単位認定とします。	①)100%

授業科目名	漢方医学概論(検査) (Introduction to Kampo Medicine)																																									
主担当教員	生島 忍	担当教員 生島 忍																																								
科目ナンバリング	CS026	学部共通科目 DP③																																								
配当年次	2	後期 曜日・時限 金曜4限																																								
授業形態	講義	必修・選択 選択																																								
授業概要	<p>現在の私たちの日常生活では、東洋医学ないし漢方医学に関する知識が、相対的に必要となっている。本講義では、学生諸氏が標準的で正しい知識を得られるよう、意図しています。しかし、鍼灸を専攻しない学生のための選択科目なので、詳細には立ち入らず、東洋医学に興味があるよう、また東洋医学の具体的な内容については、世界標準である「中医学(=中国伝統医学)」にもとづいて、講義をします。</p>																																									
到達目標	<p>中国伝統医学の萌芽、形成と成立、内容、理論などを理解する。 中国伝統医学は、2000年ほど昔に成立したいくつもの経典を基本に、徐々に内容が追加されて現在に至ったものです。内容は自然科学ではなく、むしろ人文科学に近いものといえます。</p>																																									
履修上の注意(学生へのメッセージ)	<p>講義では、全15回の教科書の前半のみ、第3章まで(p.126まで)を学習したい。以降の部分は各自が自分の興味に応じて学習されたい。教科書はカラーでイラストが多く一頁や二頁ですが、大部分の学生諸君にとっては、たぶん生まれて初めて目にする内容にて、暗記が必要となるので、心して取り組んでください。</p>																																									
教科書	<p>「オールカラー版・基本としくみがよくわかる東洋医学の教科書」ナツ社、2014年初版。¥1,500+税。 必要に応じて適宜、参考資料を配布する。</p>																																									
参考書	<p>とくになし</p>																																									
研究室/オフィスアワー	<p>兼任講師のため、授業の前後に兼任講師控室にいます。</p>																																									
授業展開及び授業計画表	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>学修内容</th> <th>予習・復習・課題等</th> <th>担当</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>第1章 東洋医学的なカラダを理解しよう、臟腑論、東洋医学的人体論、人体関連図。肝、心。(p. 7~15)</td> <td>事前に教科書の該当範囲を読み、授業後にもう一度振り返ること</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>脾、肺、腎、胃、小腸・大腸・膀胱。(p. 16~23)</td> <td>事前に教科書の該当範囲を読み、授業後にもう一度振り返ること</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>胆、三焦、脳、胞宮、骨・脈・髓、五官、その他。(p. 24~32)</td> <td>事前に教科書の該当範囲を読み、授業後にもう一度振り返ること</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>第2章 東洋医学基礎講座、東洋医学概論①—東洋医学の成立と発展、東洋医学概論②—現代医学と東洋医学の違い、基本理論①—陰陽論。(p. 33~39)</td> <td>事前に教科書の該当範囲を読み、授業後にもう一度振り返ること</td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>基本理論②—五行論、基本理論③—五行色体系、基本理論④—整体概念。(p. 40~45)</td> <td>事前に教科書の該当範囲を読み、授業後にもう一度振り返ること</td> <td></td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>気血津液概論①—気、血、津液、気血津液概論②—気、血、津液の概念、気血津液概論③—気の不調、気血津液概論④—血の概念、気血津液概論⑤—血の不調。(p. 46~55)</td> <td>事前に教科書の該当範囲を読み、授業後にもう一度振り返ること</td> <td></td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>気血津液概論⑥—津液の概念、気血津液概論⑦—津液の不調、気血津液概論⑧—精の概念、気血津液概論⑨—精の不調。(p. 56~63)</td> <td>事前に教科書の該当範囲を読み、授業後にもう一度振り返ること</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>藏象学説①—藏象学説の基礎理論、藏象学説②—肝の不調、藏象学説③—心の不調、藏象学説④—脾の不調。(p. 64~71)</td> <td>事前に教科書の該当範囲を読み、授業後にもう一度振り返ること</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>藏象学説⑤肺の不調、藏象学説⑥—腎の不調、藏象学説⑦—六腑の不調、藏象学説⑧—奇恒の腑の不調。(p. 72~80)</td> <td>事前に教科書の該当範囲を読み、授業後にもう一度振り返ること</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当	1	第1章 東洋医学的なカラダを理解しよう、臟腑論、東洋医学的人体論、人体関連図。肝、心。(p. 7~15)	事前に教科書の該当範囲を読み、授業後にもう一度振り返ること		2	脾、肺、腎、胃、小腸・大腸・膀胱。(p. 16~23)	事前に教科書の該当範囲を読み、授業後にもう一度振り返ること		3	胆、三焦、脳、胞宮、骨・脈・髓、五官、その他。(p. 24~32)	事前に教科書の該当範囲を読み、授業後にもう一度振り返ること		4	第2章 東洋医学基礎講座、東洋医学概論①—東洋医学の成立と発展、東洋医学概論②—現代医学と東洋医学の違い、基本理論①—陰陽論。(p. 33~39)	事前に教科書の該当範囲を読み、授業後にもう一度振り返ること		5	基本理論②—五行論、基本理論③—五行色体系、基本理論④—整体概念。(p. 40~45)	事前に教科書の該当範囲を読み、授業後にもう一度振り返ること		6	気血津液概論①—気、血、津液、気血津液概論②—気、血、津液の概念、気血津液概論③—気の不調、気血津液概論④—血の概念、気血津液概論⑤—血の不調。(p. 46~55)	事前に教科書の該当範囲を読み、授業後にもう一度振り返ること		7	気血津液概論⑥—津液の概念、気血津液概論⑦—津液の不調、気血津液概論⑧—精の概念、気血津液概論⑨—精の不調。(p. 56~63)	事前に教科書の該当範囲を読み、授業後にもう一度振り返ること		8	藏象学説①—藏象学説の基礎理論、藏象学説②—肝の不調、藏象学説③—心の不調、藏象学説④—脾の不調。(p. 64~71)	事前に教科書の該当範囲を読み、授業後にもう一度振り返ること		9	藏象学説⑤肺の不調、藏象学説⑥—腎の不調、藏象学説⑦—六腑の不調、藏象学説⑧—奇恒の腑の不調。(p. 72~80)	事前に教科書の該当範囲を読み、授業後にもう一度振り返ること	
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当																																							
1	第1章 東洋医学的なカラダを理解しよう、臟腑論、東洋医学的人体論、人体関連図。肝、心。(p. 7~15)	事前に教科書の該当範囲を読み、授業後にもう一度振り返ること																																								
2	脾、肺、腎、胃、小腸・大腸・膀胱。(p. 16~23)	事前に教科書の該当範囲を読み、授業後にもう一度振り返ること																																								
3	胆、三焦、脳、胞宮、骨・脈・髓、五官、その他。(p. 24~32)	事前に教科書の該当範囲を読み、授業後にもう一度振り返ること																																								
4	第2章 東洋医学基礎講座、東洋医学概論①—東洋医学の成立と発展、東洋医学概論②—現代医学と東洋医学の違い、基本理論①—陰陽論。(p. 33~39)	事前に教科書の該当範囲を読み、授業後にもう一度振り返ること																																								
5	基本理論②—五行論、基本理論③—五行色体系、基本理論④—整体概念。(p. 40~45)	事前に教科書の該当範囲を読み、授業後にもう一度振り返ること																																								
6	気血津液概論①—気、血、津液、気血津液概論②—気、血、津液の概念、気血津液概論③—気の不調、気血津液概論④—血の概念、気血津液概論⑤—血の不調。(p. 46~55)	事前に教科書の該当範囲を読み、授業後にもう一度振り返ること																																								
7	気血津液概論⑥—津液の概念、気血津液概論⑦—津液の不調、気血津液概論⑧—精の概念、気血津液概論⑨—精の不調。(p. 56~63)	事前に教科書の該当範囲を読み、授業後にもう一度振り返ること																																								
8	藏象学説①—藏象学説の基礎理論、藏象学説②—肝の不調、藏象学説③—心の不調、藏象学説④—脾の不調。(p. 64~71)	事前に教科書の該当範囲を読み、授業後にもう一度振り返ること																																								
9	藏象学説⑤肺の不調、藏象学説⑥—腎の不調、藏象学説⑦—六腑の不調、藏象学説⑧—奇恒の腑の不調。(p. 72~80)	事前に教科書の該当範囲を読み、授業後にもう一度振り返ること																																								

10	第3章 東洋医学の診察から治療まで 概論 西洋医学と東洋医学の治療観、病因①―病気の原因を知る、病因②―内因、病因③―外因。(p. 81~88)	事前に教科書の該当範囲を読み、授業後にもう一度振り返ること	
11	病因④―不内外因、病機―病気の進行、診察法①―四診による診察、診察法②―望診―全身・局部。(p. 90~97)	事前に教科書の該当範囲を読み、授業後にもう一度振り返ること	
12	診察法③―望診一舌、診察法④―聞診、診察法⑤―問診―寒熱・汗、診察法⑥―問診―痛み。(p. 98~105)	事前に教科書の該当範囲を読み、授業後にもう一度振り返ること	
13	診察法⑦―一切診―脈診、診察法⑧―一切診―聞診、弁証論治①―弁証する(診断する)、弁証論治②―八綱弁証とは?(p. 106~113)	事前に教科書の該当範囲を読み、授業後にもう一度振り返ること	
14	弁証論治③―八綱弁証―寒熱・寒熱、寒熱、弁証論治④―八綱弁証―虛実・陰陽、弁証論治⑤―その他の弁証。(p. 114~121)	事前に教科書の該当範囲を読み、授業後にもう一度振り返ること	
15	治則①―治病求本・扶正?邪など、治則②―治法を決める。(p. 122~126)	事前に教科書の該当範囲を読み、授業後にもう一度振り返ること	
成績評価方法と基準			割合
①定期試験			①80%
②レポート課題			②20%

授業科目名	統合医療概論(検査) (Introduction to Integrative Medicine)		
主担当教員	山下 仁	担当教員	山下 仁、森 美情紀、増山 祥子
科目ナンバリング	CS027	学部共通科目	ディプロマポリシー 該当項目 DP③
配当年次	3	開講学期	前期 曜日・時限 月曜 3限 月曜 4限
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	統合医療という言葉が医療の中で使われるようになってきたが、実際に統合医療が何を指し、どうあるべきなのかについては合意が得られていない。本授業では、統合医療の概念と理論について解説するとともに、統合医療の重要な構成要素であるEBMと補完代替医療について概説する。また、各種治療の有効性と安全性について、エビデンスにもとづく批判的吟味のポイントについても解説する。		
到達目標	1. 統合医療の概念と現状について理解する。 2. EBMの概念と手法について理解する。 3. 補完代替医療の種類と概観について説明できる。 4. 各種医療手段についてエビデンスにもとづく批判的吟味ができる。		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	医療や行政において統合医療は賛否両論である。医師その他の医療従事者も支持派と反対派に分かれている。本学学生も卒業すればいずれその議論に巻き込まれる。なぜ賛否両論があるのか、よく考えながら受講していただきたい。		
教科書			
資料を配布する。			
参考書			
各教員が必要に応じて授業担当時に紹介する。			
研究室/オフィスアワー	山下 仁: 真榊 24 研究室、月・火 6時限		
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	医療におけるエビデンスの重要性	健康関連商品の広告に目を通す	山下
2	EBM	EBMについて調べる	山下
3	EBM シミュレーション	自分の専門領域のエビデンスについて調べる	増山
4	EBM と診療ガイドライン	自分の専門領域または興味のある疾患の診療ガイドラインを調べる	山下
5	健康産業と研究倫理・利益相反	利益相反状態と利益相反行為の違いについて調べる	山下
6	補完代替医療概論	代替医療と補完医療の違いについて調べる	山下
7	あん摩・マッサージ・指圧①	マッサージとリラクゼーションの違いについて調べる	山下
8	あん摩・マッサージ・指圧②	マッサージとリラクゼーションの違いについて調べる	山下
9	アロマセラピー①	エッセンシャルオイルの種類について調べる	森
10	アロマセラピー②	エッセンシャルオイルの種類について調べる	森
11	代表的な補完代替療法①	自分または家族が使っている補完代替療法に相当する健康法や商品を調べる	山下
12	代表的な補完代替療法②	興味のあるサプリメントを幾つか選んでその広告の内容に関する疑問点を調べる	山下
13	統合医療とスピリチュアルとNBM	スピリチュアルという概念について調べる	山下

14	緩和ケア・難病ケアと統合医療	末期がんまたは難病の患者の実情について調べ	増山
15	総括:統合医療は何を統合するのか	14回までに習った内容を整理する	山下
成績評価方法と基準		割合	
①筆記試験		①70%	
②課題提出物		②30%	

授業科目名	人体の構造 I (検査) (Human Anatomy I)		
主担当教員	北村 清一郎	担当教員	北村 清一郎
科目ナンバリング	SB101	科目区分	ディプロマポリシー 該当項目 DP②③
配当年次	1	開講学期	曜日・時限 月曜 1 限
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	<p>人体の構造 I では、人体の概要、細胞と組織、脈管系、および内臓系（内分泌系を除く）を学習する。人体の概要や、細胞と組織では、以後の学習に必要な基礎的概念を把握する。循環器系は、引き続き学習する消化器系や呼吸器系、泌尿器系と密接に関連しており、これらのつながりを把握することも重要である。内臓系では、各系の内臓の構造を、細胞・組織レベルから理解し、機能と関連させることが重要である。</p> <p>到達目標</p> <p>(1) 細胞の構造、組織の概要、細胞・組織・器官の層序性を説明できる。 (2) 循環器系の構成と体内での分布、消化器系、呼吸器系、泌尿器系との関わりを説明できる。 (3) 各内臓系を構成する臓器の位置と形態が分かるとともに、各臓器の構造を機能との関わりから説明できる。</p> <p>履修上の注意 (学生へのメッセージ)</p> <p>講義は教科書の内容を中心に、構造の理解に不可欠な図を多く取り込んだパワーポイント(スライド)を用いて行う。講義内容はプリントにして、あらかじめ配布するので、これを元に予習ノートを作成する。</p> <p>教科書</p> <p>「臨床検査学講座 第2版 解剖学」 佐藤健次 (医歯薬出版)</p> <p>参考書</p> <p>「解剖生理学 人体の構造と機能①(第10版)」 坂井 建雄、岡田 隆夫 (医学書院)</p> <p>研究室/オフィスアワー</p> <p>E棟4階研究室S/毎週月曜日・火曜日・木曜日・土曜日の昼休み。</p>		
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	解剖学序論	予習: 講義プリントに沿って予習ノート作成 復習: 授業を元に予習ノートの加筆と修正	
2	細胞	予習: 講義プリントに沿って予習ノート作成 復習: 授業を元に予習ノートの加筆と修正	
3	上皮組織、支持組織	予習: 講義プリントに沿って予習ノート作成 復習: 授業を元に予習ノートの加筆と修正	
4	筋組織、神経組織	予習: 講義プリントに沿って予習ノート作成 復習: 授業を元に予習ノートの加筆と修正	
5	血液循環、血管壁の構造	予習: 講義プリントに沿って予習ノート作成 復習: 授業を元に予習ノートの加筆と修正	
6	心臓、動脈系	予習: 講義プリントに沿って予習ノート作成 復習: 授業を元に予習ノートの加筆と修正	
7	動脈系、静脈系、胎児循環	予習: 講義プリントに沿って予習ノート作成 復習: 授業を元に予習ノートの加筆と修正	
8	リンパ系、胸腺と脾臓	予習: 講義プリントに沿って予習ノート作成 復習: 授業を元に予習ノートの加筆と修正	
9	呼吸器系	予習: 講義プリントに沿って予習ノート作成 復習: 授業を元に予習ノートの加筆と修正	
10	消化器系、口腔、咽頭、食道	予習: 講義プリントに沿って予習ノート作成 復習: 授業を元に予習ノートの加筆と修正	

11	胃、小腸、大腸、肛門	予習：講義プリントに沿って予習ノート作成 復習：授業を元に予習ノートの加筆と修正	割合 筆記試験 100%
12	肝臓、胆嚢、膵臓、腹腔	予習：講義プリントに沿って予習ノート作成 復習：授業を元に予習ノートの加筆と修正	
13	泌尿器系	予習：講義プリントに沿って予習ノート作成 復習：授業を元に予習ノートの加筆と修正	
14	男性生殖器	予習：講義プリントに沿って予習ノート作成 復習：授業を元に予習ノートの加筆と修正	
15	女性生殖器	予習：講義プリントに沿って予習ノート作成 復習：授業を元に予習ノートの加筆と修正	
成績評価方法と基準			
学期末に筆記試験を行う。筆記試験は100点満点とし、60%以上の得点をもって合格とする。合格点に達しない場合には、筆記試験の再試験を1回のみ行う。			

授業科目名	人体の構造Ⅱ(検査) (Human Anatomy II)		
主担当教員	北村 清一郎	担当教員	北村 清一郎
科目ナンバリング	SB102	科目区分	専門基礎科目 DP②③
配当年次	1	開講学期	曜日・時限 水曜1限
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	<p>人体の構造Ⅱでは、ヒトの発生の概要、および内分泌系、神経系、感覚器系、骨格系、筋系の構造を学習する。内分泌系ではホルモン分泌の仕組みや神経系との関わりを理解する。神経系と感覚器系では、人体内外での情報の受容、伝達、処理、統合、出力などの仕組みを理解する。骨格系と筋系では、体の動く仕組みを理解する。</p> <p>到達目標</p> <p>(1)ヒトの発生の概要を説明できる。 (2)内分泌器系の構造を機能との係わりから説明できる。 (3)中枢神経系の形態と、各部の役割を説明できる。 (4)末梢神経系の分布と、主要神経の役割を説明できる。 (5)感覚器の構造を機能の面から説明できる。 (6)人体を構成する骨の名称と部位を述べることができる。 (7)人体を構成する筋の名称と部位、役割を述べることができる。</p> <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>講義は教科書の内容を中心に、構造の理解に不可欠な図を多く取り込んだパワーポイント(スライド)を用いて行う。講義内容はプリントにして、あらかじめ配布するので、これを元に予習ノートを作成する。</p>		
教科書	「臨床検査学講座 第2版 解剖学」佐藤健次 (医歯薬出版)		
参考書	「解剖生理学 人体の構造と機能①(第10版)」坂井 建雄、岡田 隆夫 (医学書院)		
研究室/オフィスアワー	研究室/オフィスアワー		
E棟4階研究室5/毎週月曜日・水曜日・木曜日の昼休み。			
授業展開及び授業計画表	回数	学修内容	予習・復習・課題等 担当
	1	ヒトの発生	予習：講義プリントに沿って予習ノート作成 復習：授業を元に予習ノートの加筆と修正
	2	内分泌系	予習：講義プリントに沿って予習ノート作成 復習：授業を元に予習ノートの加筆と修正
	3	中枢神経系	予習：講義プリントに沿って予習ノート作成 復習：授業を元に予習ノートの加筆と修正
	4	中枢神経系	予習：講義プリントに沿って予習ノート作成 復習：授業を元に予習ノートの加筆と修正
	5	背髄神経、脳神経	予習：講義プリントに沿って予習ノート作成 復習：授業を元に予習ノートの加筆と修正
	6	脳神経、自律神経	予習：講義プリントに沿って予習ノート作成 復習：授業を元に予習ノートの加筆と修正
	7	視覚器	予習：講義プリントに沿って予習ノート作成 復習：授業を元に予習ノートの加筆と修正
	8	聴覚器・平衡器	予習：講義プリントに沿って予習ノート作成 復習：授業を元に予習ノートの加筆と修正
	9	味覚器、嗅覚器、皮膚	予習：講義プリントに沿って予習ノート作成 復習：授業を元に予習ノートの加筆と修正

10	骨格系総論	予習：講義プリントに沿って予習ノート作成 復習：授業を元に予習ノートの加筆と修正	割合
11	頭蓋骨、体幹の骨	予習：講義プリントに沿って予習ノート作成 復習：授業を元に予習ノートの加筆と修正	筆記試験 100%
12	上肢の骨、下肢の骨	予習：講義プリントに沿って予習ノート作成 復習：授業を元に予習ノートの加筆と修正	
13	筋系総論、頭頸部の筋	予習：講義プリントに沿って予習ノート作成 復習：授業を元に予習ノートの加筆と修正	
14	胸部・腰部・背部の筋	予習：講義プリントに沿って予習ノート作成 復習：授業を元に予習ノートの加筆と修正	
15	上肢の筋、下肢の筋	予習：講義プリントに沿って予習ノート作成 復習：授業を元に予習ノートの加筆と修正	
成績評価方法と基準			
学期末に筆記試験を行う。筆記試験は100点満点とし、60%以上の得点でもって合格とする。合格点に達しない場合には、筆記試験の再試験を1回のみ行う。			

授業科目名	人体の構造実習(検査) (Human Anatomy Training)			
主担当教員	川畑 浩久	担当教員 川畑 浩久		
科目ナンバリング	SB103	科目区分 専門基礎科目		
配当年次	1	開講学期 後期		
授業形態	実習	単位数 1		
授業概要	人体の構造的、機能的最小単位である細胞には様々な形態を有しているものがあり、器官・臓器はそれらが一定の秩序に従って構成されている。本実習ではヒトの身体から頂いた組織標本の顕微鏡観察を通じて、これまで学習した「人体の構造」と「人体の機能」について、ミクロからマクロまで関連づけながら理解を深めるとともに、生命の尊厳についても学習する。			
到達目標	生物の最小単位である細胞がいかなる「形態」を有し、どのような「機能」を發揮しうるのかについて「観察」を通じて理解を深めることと、各器官・臓器の機能についてもより深く理解し、さらに疾病における形態変化がどのような機能障害を生じるかについても考察できるようにする。			
履修上の注意(学生へのメッセージ)	1. 組織学の理解を深めることは、解剖学や生理学のみならず病理学や病態学の理解を深めることにつながるから、積極的に学習すること。 2. 顕微鏡観察においてはイメージを理解することや観察力を身につける努力を要すること。 3. 実習で扱う顕微鏡やプレパラートは精密機器かつ貴重な資料であることから、丁寧に取り扱い扱うこと。 4. 実習室は毎回テーマが異なるため履力出席をしないようにする。 5. 実習室は精密機器を扱うことから飲食を禁止する。 6. 受講にあたっては最低限の礼儀をわきまえること。また私語などは授業妨害・他学生			
教科書	1. 牛木辰男 著「入門組織学」南江堂 2013年。 2. その他適宜プリントを配布する			
参考書	1. 伊藤隆、阿部和厚 著「組織学 第19版」南山堂 2005年。 2. 野上晴雄 著「新組織学 (0シリーズ) 改訂第6版」日本医事新報社 2016年。			
研究室/オフィスアワー	C棟研究室 707:木、金曜日 17:00~18:00ですが、部屋にいればいつでも訪問可です。			
授業展開及び授業計画表	回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	実習の進め方、組織学の歴史、組織学総論(4大組織)についての解説、顕微鏡の使用法	予習:人体の構造、機能で学んだ組織・細胞について調べる 復習:4大組織について復習しておくこと	川畑	
2	上皮組織 1:単層上皮、重層上皮についての解説および観察	予習:人体の構造、機能で学んだ上皮組織(皮膚組織)について調べる 復習:観察した上皮組織(皮膚組織)の構造について復習しておくこと	川畑	
3	消化器系 1:消化管(食道、胃)についての解説および観察	予習:人体の構造、機能で学んだ食道および胃について調べる 復習:観察した食道および胃の組織学的構造について復習しておくこと	川畑	
4	消化器系 2:消化管(小腸、大腸)についての解説および観察	予習:人体の構造、機能で学んだ小腸、大腸の組織学的構造について調べる 復習:観察した小腸、大腸の組織学的構造について復習しておくこと	川畑	
5	消化器系 3:肝臓、胆嚢についての解説および観察	予習:人体の構造、機能で学んだ肝臓、胆嚢について調べる 復習:観察した肝臓、胆嚢の組織学的構造について復習しておくこと	川畑	
6	消化器系 4:膵臓、唾液腺についての解説および観察	予習:人体の構造、機能で学んだ膵臓、唾液腺について調べる 復習:観察した膵臓、唾液腺の組織学的構造について復習しておくこと	川畑	
7	呼吸器系:気管、肺についての解説および観察	予習:人体の構造、機能で学んだ気管、肺について調べる 復習:観察した気管、肺の組織学的構造について復習しておくこと	川畑	

8	循環器系：心・血管(動脈)・リンパ組織(骨髄・胸腺)についての解説および観察	予習：人体の構造、機能で学んだ心・血管(動脈)・骨髄・胸腺について調べる 復習：観察した心・血管(動脈)・リンパ組織(骨髄・胸腺)の組織学的構造について復習しておくこと	川畑
9	泌尿器系：腎(糸球体および尿管)についての観察および解説	予習：人体の構造、機能で学んだ腎(糸球体および尿管)について調べる 復習：観察した腎の組織学的構造について復習しておくこと	川畑
10	内分泌系：内分泌腺(甲状腺、副腎)についての観察および解説	予習：人体の構造、機能で学んだ内分泌腺(甲状腺、副腎)について調べる 復習：観察した甲状腺、副腎の組織学的構造について復習しておくこと	川畑
11	筋組織：横紋筋、平滑筋、心筋についての解説および観察	予習：人体の構造、機能で学んだ筋組織について調べる 復習：観察した横紋筋、平滑筋、心筋の組織学的構造について復習しておくこと	川畑
12	骨格系：骨・軟骨組織(気管軟骨、骨端軟骨)についての解説および観察	予習：人体の構造、機能で学んだ骨・軟骨組織について調べる 復習：観察した骨・軟骨の組織学的構造について復習しておくこと	川畑
13	神経組織：神経組織(骨髄、大脳、小脳)についての解説および観察	予習：人体の構造、機能で学んだ神経組織および骨髄について調べる 復習：観察した骨髄、大脳、小脳の組織学的構造について復習しておくこと	川畑
14	生殖系：生殖腺(精巣、前立腺、卵巣、子宮)についての解説および観察	予習：人体の構造、機能で学んだ精巣、前立腺、卵巣、子宮について調べる 復習：観察した精巣、前立腺、卵巣、子宮の組織学的構造について復習しておくこと	川畑
15	組織学のまとめ、これまで観察してきた正常組織像の総復習	予習：これまで観察してきた正常組織について調べる 復習：まとめて学んだ組織像について復習しておくこと	川畑
成績評価方法と基準			
1. 定期試験			
2. 実習ノートの提出 (※実習ノートは授業終了後必ず提出すること。未提出の際は欠席とみなす場合もある。)			
3. 4/5以上の出席が必要			

授業科目名	人体の機能 I (検査) (Human Physiology I)		
担当教員	河川 直正	担当教員	河川 直正
科目ナンバリング	SB104	科目区分	ディプロマポリシー 該当項目
配当年次	1	開講学期	月曜 2 限
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	<p>生理学について学ぶ、人体の正常な機能について学習し、医学の他の分野を学ぶための基礎を身につけることを目的とする。人体の機能 I では、循環器・呼吸器・消化器をはじめとした内臓系を中心に取り扱う。</p> <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・細胞の構造と機能のあらましを述べることができる。 ・心臓と血管のあらましを説明できるとともに、循環調節について解説することができる。 ・呼吸力学とガス交換を概説できるとともに、呼吸調節について説明できる。 ・消化器の動きを説明できるとともに、栄養素の消化・吸収・代謝について解説できる。 ・腎臓の動きについて説明できるとともに、体液調節の仕組みについて述べることができる。 ・血液と血球の働きを説明できる。 <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>1) 授業態度について：集中して講義を聴講すること。毎回、講義スライドを印刷したプリントを配布する。それをとどに、各自が可能な限りノートを作成すること。講義中の私語は厳禁とする。私語を止められない者は退席させる。</p> <p>2) 予習・復習について：講義内容は膨大であるから、講義ことの予習復習は必須である。</p>		
教科書	奈良信雄、和田隆志 編集、「臨床検査学講座 生理学」医歯薬出版		
参考書	指定しない。		
研究室/オフィスアワー	研究室内に在室時		
回数	字修内容	予習・復習・課題等	担当
1	生理学とは 細胞、組織、器官(その1)	生理学とはどのような学問かを述べられるようにせよ。教科書 1~9 ページを用いて、ヒトの細胞、組織、器官について説明できるようにせよ。	
2	細胞、組織、器官(その2)	教科書 1~9 ページを用いて、ヒトの細胞、組織、器官について説明できるようにせよ。	
3	心血管系(その1)	教科書 11~26 ページを用いて、循環器の働きを概説できるとともに、心ポンプ機能について説明できるようにせよ。	
4	心血管系(その2)	教科書 11~26 ページを用いて、心電図の基本波形が持つ意味と、血管系の働きについて述べられるようにせよ。	
5	心血管系(その3)	教科書 11~26 ページを用いて、血圧の成因と循環調節の仕組みについて述べられるようにせよ。	
6	呼吸器系(その1)	教科書 27~39 ページを用いて、呼吸機能検査と換気力学について述べられるようにせよ。	
7	呼吸器系(その2)	教科書 27~39 ページを用いて、ガス交換と呼吸調節の仕組みについて述べられるようにせよ。	
8	消化器系(その1)	教科書 41~51 ページを用いて、消化器の運動機能・分泌機能について述べられるようにせよ。	
9	消化器系(その2)	教科書 41~51 ページを用いて、消化器の運動機能・分泌機能について述べられるようにせよ。	
10	腎と体液(その1)	教科書 53~63 ページを用いて、体液の分布と尿生成と腎機能調節の仕組みについて述べられるようにせよ。	
11	腎と体液(その2)	教科書 53~63 ページを用いて、水電解調節、酸・塩基平衡、腎ホルモンについて述べられるようにせよ。	
12	血液、造血器、凝固、免疫(その1)	教科書 65~75 ページを用いて、血液の機能、造血器、血液成分について述べられるようにせよ。	

13	血液、造血器、凝固、免疫(その2)	教科書 65～75 ページを用いて、止血、免疫、血液型について述べられるようにせよ。
14	重点項目の復習	人体の機能 I の重要項目について学習の一助とせよ。
15	重点項目の復習	人体の機能 I の重要項目について学習の一助とせよ。
成績評価方法と基準		割合
期末定期試験		100%

授業科目名	人体の機能 II (検査) (Human Physiology II)		
主担当教員	河口 直正	担当教員	河口 直正
科目ナンバリング	SB105	科目区分	専門基礎科目
配当年次	1	閉講学期	後期
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	生理学について学ぶ。人体の正常な機能について学習し、医学の他の分野を学ぶための基礎を身につけることを目的とする。人体の機能 I では、血液・内分泌・神経を中心に扱う。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・神経細胞とシナプスについて概説することができる。中枢神経の主要部位の構造とその主な機能を述べることができる。 ・感覚の受容について述べるができる ・体温の調節について概説できる。 ・さまざまなホルモンの分泌の仕組みと働きについて説明できる。 ・生殖と発生のあらましを説明できる。さまざまなホルモンの分泌の仕組みと働きについて説明できる。 ・筋肉の収縮・弛緩について述べるができる。 		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	<p>1) 授業態度について: 集中して講義を聴講すること。毎回、講義スライドを印刷したプリントを配布する。それをもとに、各自が可能な限り詳しくノートを作成すること。講義中の私語は厳禁とする。私語を止められない者は退席させる。</p> <p>2) 学習・復習について: 講義内容は膨大であるから、講義ことの学習復習は必須である。</p>		
教科書			
奈良信雄、和田隆志 編集、「臨床検査学講座 生理学」 医歯薬出版			
参考書			
指定しない。			
研究室/オフィスアワー			
研究室在室時			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	神経系(その1)	教科書 77～94 ページを用いて、神経組織、神経生理、シナプスの基礎的事項を説明できるようにせよ。	
2	神経系(その2)	教科書 77～94 ページを用いて、中枢神経系の働きについて説明できるようにせよ。	
3	神経系(その3)	教科書 77～94 ページを用いて、中大脳の働きについて説明できるようにせよ。	
4	神経系(その4)	教科書 77～94 ページを用いて、末梢神経系の働きについて説明できるようにせよ。	
5	感覚系(その1)	教科書 95～111 ページを用いて、感覚の受容の仕組みについて概説できるようにせよ。また、体性感覚・内臓感覚について説明できるようにせよ。	
6	感覚系(その2)	教科書 95～111 ページを用いて、視覚の受容の仕組みについて概説できるようにせよ。	
7	感覚系(その3)	教科書 95～111 ページを用いて、聴覚・味覚・嗅覚の受容の仕組みについて概説できるようにせよ。	
8	代謝・栄養系(その1)	教科書 113～124 ページを用いて、栄養素の分類とそれぞれの吸収の仕組みについて述べられるようにせよ。	
9	代謝・栄養系(その2)	教科書 113～124 ページを用いて、栄養素の代謝と体温調節の仕組みについて述べられるようにせよ。	
10	内分泌系(その1)	教科書 125～137 ページを用いて、内分泌系について概説できるようにせよ。	

11	内分泌系(その2)	教科書 125～137 ページを用いて、それぞれのホルモンの分泌調節の仕組みと標的臓器での作用について説明できるようにせよ。	
12	生殖系	教科書 139～148 ページを用いて、生殖と発生との仕組みを説明できるようにせよ。	
13	運動系(その1)	教科書 149～161 ページを用いて、骨・筋の代謝を説明できるようにせよ。	
14	運動系(その2)	教科書 149～161 ページを用いて、骨・関節運動と筋運動をそれぞれ説明できるようにせよ。	
15	重点項目の復習	人体の機能Ⅱの重要項目について学習の一助とせよ。	
成績評価方法と基準			割合
期末定期試験			100%

授業科目名		生化学各論(検査) (Biochemistry)	
主担当教員	森 誠司	担当教員	森 誠司
科目ナンバリング	SB106	科目区分	専門基礎科目 DP①
配当年次	1	開講学期	後期
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	生化学は生命現象を分子レベルで学ぶ学問である。本講義では人体を構成している化学物質の生体内での生物化学反応と生命維持との関わりについて、糖質、脂質、アミノ酸、核酸などの合成と分解の代謝経路の詳細について学習することで、生命活動が多様なシステムより構築されていることを理解する。また免疫反応や腫瘍における生化学、分子生物学、ゲノム解析学、実験技術などの最新の進歩に關しても学習する。		
到達目標	糖質、脂質、アミノ酸、核酸の代謝経路を理解する。 ミトコンドリアにおけるエネルギー代謝を理解する。 それぞれの代謝経路の相互関係と調節機構を理解する。 履修上の注意(学生へのメッセージ)		
前期の「生化学」について復習をしておくこと。			
教科書			
シンブル生化学 (南江堂)			
参考書			
マツキ生化学 (化学同人)			
リップピットシリーズイラストレイテッド生化学 (丸善)			
研究室/オフィスアワー			
随時			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	生体内におけるビタミンの働き。	予習: ビタミンにどのようなものがあるか調べてくる 復習: 重要事項をノートにまとめる	
2	生体膜の構造と物質輸送	予習: 細胞膜の性質について調べてくる 復習: 重要事項をノートにまとめる	
3	消化と吸収	予習: 消化生理学の消化吸収に目を通す 復習: 重要事項をノートにまとめる	
4	糖質の代謝・解糖系・ペントースリン酸回路	予習: 前期の糖の講義の復習 復習: 重要事項をノートにまとめる	
5	グリコーゲン合成と分解	予習: 前回の講義を理解してくる 復習: 重要事項をノートにまとめる	
6	クエン酸回路・糖新生	予習: 前回の講義を理解してくる 復習: 重要事項をノートにまとめる	
7	脂質の代謝・貯蔵と動員	予習: 前期の脂質の講義を復習してくる 復習: 重要事項をノートにまとめる	
8	脂肪酸の分解・脂肪酸の生合成	予習: 前回の講義を理解してくる 復習: 重要事項をノートにまとめる	
9	リン脂質・ステロイド化合物の代謝	予習: 前回の講義を理解してくる 復習: 重要事項をノートにまとめる	
10	アミノ酸の分解	予習: 前期アミノ酸の講義を復習してくる 復習: 重要事項をノートにまとめる	
11	アミノ酸から合成される生体物質	予習: 前回の講義を理解してくる 復習: 重要事項をノートにまとめる	
12	アミノ酸の生合成	予習: 前回の講義を理解してくる 復習: 重要事項をノートにまとめる	
13	新生経路によるモノアクレオチドの代謝	予習: 前期の核酸の講義を復習してくる 復習: 重要事項をノートにまとめる	
14	アクレオチドの代謝分解と再生経路	予習: 前回の講義を理解してくる 復習: 重要事項をノートにまとめる	

15	電子伝達系とATPの産生	予習：前回の講義を理解しておく 復習：重要事項をノートにまとめる	
成績評価方法と基準		割合	
1. 小テスト		1. 20%	
2. 定期試験		2. 80%	

授業科目名		生化学実習(検査) (Biochemistry / Practice)	
主担当教員	森 誠司	担当教員	森 誠司、佐伯 康匠
科目ナンバリング	SB107	科目区分	専門基礎科目
配当年次	2	開講学期	前期
授業形態	実習	単位数	1
授業概要			
<p>人体を構成する有機物質および高分子物質の性質と機能ならびにそれらの合成と分解のメカニズムを理解する。生化学および生化学各論の講義で学んだ生体構成物質それぞれについて特異的な定性法や定量法、また混合物から特定の生体成分の分離同定をおこなう。酵素反応に関しては反応速度の実験から酵素の性質や機能について学修する。これら生化学的実験を通して生命現象は様々な物質と化学反応から構成されるものであることを理解する。</p>			
到達目標			
<p>以下の事項を理解し実践できるようにする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 分光光度計をはじめ機器の正しい取り扱いができる 2. 生化学実験の組み立てと論理の進め方を理解できる。 3. 生体物質分析の原理について説明できる 			
履修上の注意(学生へのメッセージ)			
<p>実習を通して生化学をより深く理解し、科学的操作や物質の定量的測定法になれ、分析することの重要性を修得する。共同実験者と協働的かつ丁寧に実習すること。</p>			
教科書			
配布する実習書			
参考書			
シンプル生化学 (南江堂)			
研究室 / オフィスアワー			
随時			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	オリエンテーション、機器の基本的な取り扱いについて	予習:実習書を熟読し理解しておくこと 復習:テーマごとにレポートを作成すること	
2	アミノ酸の定性 / 定量-1	予習:実習書を熟読し理解しておくこと 復習:テーマごとにレポートを作成すること	
3	〃	〃	
4	アミノ酸の定性 / 定量-2	予習:実習書を熟読し理解しておくこと 復習:テーマごとにレポートを作成すること	
5	〃	〃	
6	糖質の定性 / 定量-1	予習:実習書を熟読し理解しておくこと 復習:テーマごとにレポートを作成すること	
7	〃	〃	
8	糖の定性 / 定量-2	予習:実習書を熟読し理解しておくこと 復習:テーマごとにレポートを作成すること	
9	〃	〃	
10	酵素活性の測定	予習:実習書を熟読し理解しておくこと 復習:テーマごとにレポートを作成すること	
11	〃	〃	
12	タンパク質の分離 / 精製	予習:実習書を熟読し理解しておくこと 復習:テーマごとにレポートを作成すること	
13	〃	〃	

14	タンパク質の定量法	予習：実習書を熟読し理解しておくこと 復習：テーマごとにレポートを作成する
15	〃	〃
成績評価方法と基準		
テーマごとにレポートをまとめ期限内に提出すること。 レポートの点数が基準点に満たないものは救済として再試験期間中に筆記試験をおこなう。 4/5以上の出席が必要。		
割合		割合
レポート		レポート 100%

分析化学(検査) (Analytical Chemistry)																																															
授業科目名	小林 吉晴	担当教員	小林 吉晴																																												
主担当教員	小林 吉晴	専門基礎科目	ディプロマポリシー 該当項目																																												
科目ナンバリング	SB108	科目区分	DP①																																												
配当年次	1	開講学期	曜日・時限 火曜2限																																												
授業形態	講義	単位数	2																																												
授業概要	臨床検査で生体分子を測定するために必要な体系的な分析法(各種クロマトグラフィー、電気泳動、紫外・可視吸光度測定法、蛍光光度測定法、質量分析、NMR)などの原理や検体の前処理法と分析学の基礎理論を修得する。																																														
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生体を構成する元素、原子、分子、化合物を理解する。 2. 溶液の濃度、電解質、イオン強度、について理解する。 3. 酸と塩基、酸化・還元反応について説明できる。 4. 電気泳動法の原理を説明できる。 5. 化学物質の分離・精製方法について理解する。 6. 電磁波について説明できる。 7. 紫外可視分析法、蛍光・りん光分析、赤外分光法を理解する。 8. 核磁気共鳴法、質量分析法、原子吸光法の原理を理解し、臨床検査での利用を理解する。 9. クロマトグラフィーの原理を理解する。 																																														
履修上の注意(学生へのメッセージ)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 分析化学は臨床検査の基礎となる学問であることを認識する。 2. 生体成分の分析は生体を構成する元素、原子、分子、化合物を分析することと認識する。 3. 種々の分析法の特徴について理解し、どの分析法が目的物質の分析に最適か考える。 																																														
教科書	「よくわかる最新分析化学の基本と仕組み」秀和システム・津村ゆかり著 ISBN978-4-7980-4650-1																																														
参考書	特になし																																														
研究室/オフィスアワー	小林吉晴研究室/月曜日 16:00-18:00、火曜日 16:00-18:00																																														
授業展開及び授業計画表	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>学修内容</th> <th>予習・復習・課題等</th> <th>担当</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>水素、窒素、炭素、酸素などの元素としての特徴や元素周期表を学ぶ。</td> <td>予習:不要 復習:元素周期表を第3周期まで自分で書ける。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>水素、窒素、炭素、酸素などの電子軌道を学ぶ。電子について理解する。</td> <td>予習:不要 復習:水素、窒素、炭素、酸素の電子軌道を書ける。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>溶液の濃度の単位や電解質の意味を理解する。</td> <td>予習:不要 復習:授業内容をノートにまとめる。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>酸と塩基の定義を理解する。</td> <td>予習:不要 復習:授業内容をノートにまとめる。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>酸化還元反応を理解する。</td> <td>予習:不要 復習:授業内容をノートにまとめる。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>分析化学で使用する試薬、ガラス器具の使用方法を正しく知る。</td> <td>予習:不要 復習:授業内容をノートにまとめる。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>電気泳動法の原理を理解し、臨床検査での応用例を説明できる。</td> <td>予習:不要 復習:授業内容をノートにまとめる。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>電磁波の種類とその特徴について説明できる。</td> <td>予習:不要 復習:授業内容をノートにまとめる。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>紫外・可視分析法の特徴とランバートベアの法則を説明できる。</td> <td>予習:不要 復習:授業内容をノートにまとめる。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>蛍光とりん光の違いを説明できる。</td> <td>予習:不要 復習:授業内容をノートにまとめる。</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当	1	水素、窒素、炭素、酸素などの元素としての特徴や元素周期表を学ぶ。	予習:不要 復習:元素周期表を第3周期まで自分で書ける。		2	水素、窒素、炭素、酸素などの電子軌道を学ぶ。電子について理解する。	予習:不要 復習:水素、窒素、炭素、酸素の電子軌道を書ける。		3	溶液の濃度の単位や電解質の意味を理解する。	予習:不要 復習:授業内容をノートにまとめる。		4	酸と塩基の定義を理解する。	予習:不要 復習:授業内容をノートにまとめる。		5	酸化還元反応を理解する。	予習:不要 復習:授業内容をノートにまとめる。		6	分析化学で使用する試薬、ガラス器具の使用方法を正しく知る。	予習:不要 復習:授業内容をノートにまとめる。		7	電気泳動法の原理を理解し、臨床検査での応用例を説明できる。	予習:不要 復習:授業内容をノートにまとめる。		8	電磁波の種類とその特徴について説明できる。	予習:不要 復習:授業内容をノートにまとめる。		9	紫外・可視分析法の特徴とランバートベアの法則を説明できる。	予習:不要 復習:授業内容をノートにまとめる。		10	蛍光とりん光の違いを説明できる。	予習:不要 復習:授業内容をノートにまとめる。	
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当																																												
1	水素、窒素、炭素、酸素などの元素としての特徴や元素周期表を学ぶ。	予習:不要 復習:元素周期表を第3周期まで自分で書ける。																																													
2	水素、窒素、炭素、酸素などの電子軌道を学ぶ。電子について理解する。	予習:不要 復習:水素、窒素、炭素、酸素の電子軌道を書ける。																																													
3	溶液の濃度の単位や電解質の意味を理解する。	予習:不要 復習:授業内容をノートにまとめる。																																													
4	酸と塩基の定義を理解する。	予習:不要 復習:授業内容をノートにまとめる。																																													
5	酸化還元反応を理解する。	予習:不要 復習:授業内容をノートにまとめる。																																													
6	分析化学で使用する試薬、ガラス器具の使用方法を正しく知る。	予習:不要 復習:授業内容をノートにまとめる。																																													
7	電気泳動法の原理を理解し、臨床検査での応用例を説明できる。	予習:不要 復習:授業内容をノートにまとめる。																																													
8	電磁波の種類とその特徴について説明できる。	予習:不要 復習:授業内容をノートにまとめる。																																													
9	紫外・可視分析法の特徴とランバートベアの法則を説明できる。	予習:不要 復習:授業内容をノートにまとめる。																																													
10	蛍光とりん光の違いを説明できる。	予習:不要 復習:授業内容をノートにまとめる。																																													

11	赤外分光法の原理と測定法の特徴を説明できる。 核磁気共鳴法の原理と測定法の特徴を説明できる。 質量分析法の原理と測定法の特徴を説明できる。 原子吸光法の原理と測定法の特徴を説明できる。 クロマトグラフィーの原理を説明できる。	予習:不要 復習:授業内容をノートにまとめる。 予習:不要 復習:授業内容をノートにまとめる。 予習:不要 復習:授業内容をノートにまとめる。 予習:不要 復習:授業内容をノートにまとめる。 予習:不要 復習:授業内容をノートにまとめる。	割合 小テスト:20点 本試験:80点
成績評価方法と基準			
1. 小テスト:20点			
2. 定期試験:80点			

小児医学(検査) (Pediatrics)			
授業科目名	担当教員	担当教員	上田 真喜子
主担当教員	上田 真喜子	専門基礎科目	ディプロマポリシー DP②③
科目ナンバリング	SB109	科目区分	火曜3限
配当年次	2	開講学期	曜日・時限
授業形態	講義	単位数	必修・選択
2			選択
授業概要			
未来を担う子どもたちの健やかな成長は、人類共通の願いであると言える。子どもをとりまく医療水準は、近年、飛躍的進歩を遂げているが、他方、今日でもなお、痛氣で苦しむ子どもたちが多いことも事実である。本講義では、小児期に特徴的な疾患の知識、考え方について学修する。			
到達目標			
1. 各種臓器に起こる小児疾患の特徴・病態を、論理的に理解する。			
2. 各種小児疾患の原因、病理、症状などについて、説明できる。			
履修上の注意(学生へのメッセージ)			
1. 講義は教科書を中心に進めるが、講義を聞かずに教科書を読んでも理解が難しいと考えられるので、講義には出席すること。			
2. わからないことは、積極的に質問すること。			
教科書			
小児臨床看護各論 (医学書院)			
参考書			
標準小児科学 第8版、医学書院			
研究室/オフィスアワー			
在室時には、いつでも訪問可です。			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	染色体異常	学習予定の教科書の部分を予習すること。「染色体異常」について、授業で学んだ内容を教科書で再確認しておくこと。	
2	新生児疾患	学習予定の教科書の部分を予習すること。「新生児疾患」について、授業で学んだ内容を教科書で再確認しておくこと。	
3	小児代謝性疾患、小児内分泌疾患	学習予定の教科書の部分を予習すること。「小児代謝性疾患、小児内分泌疾患」について、授業で学んだ内容を教科書で再確認しておくこと。	
4	小児免疫疾患、アレルギー疾患	学習予定の教科書の部分を予習すること。「小児免疫疾患・アレルギー疾患」について、授業で学んだ内容を教科書で再確認しておくこと。	
5	小児感染症・呼吸器疾患①	学習予定の教科書の部分を予習すること。「小児感染症・呼吸器疾患①」について、授業で学んだ内容を教科書で再確認しておくこと。	
6	小児感染症・呼吸器疾患②	学習予定の教科書の部分を予習すること。「小児感染症・呼吸器疾患②」について、授業で学んだ内容を教科書で再確認しておくこと。	
7	小児循環器疾患①	学習予定の教科書の部分を予習すること。「小児循環器疾患①」について、授業で学んだ内容を教科書で再確認しておくこと。	
8	小児循環器疾患②	学習予定の教科書の部分を予習すること。「小児循環器疾患②」について、授業で学んだ内容を教科書で再確認しておくこと。	
9	小児消化器疾患①	学習予定の教科書の部分を予習すること。「小児消化器疾患①」について、授業で学んだ内容を教科書で再確認しておくこと。	
10	小児消化器疾患②	学習予定の教科書の部分を予習すること。「小児消化器疾患②」について、授業で学んだ内容を教科書で再確認しておくこと。	
11	小児血液・造血器疾患、小児悪性新生物	学習予定の教科書の部分を予習すること。「小児血液・造血器疾患、小児悪性新生物」について、授業で学んだ内容を教科書で再確認しておくこと。	

	こと。		
12	小児腎・泌尿器・生殖器疾患	学習予定の教科書の部分を予習すること。「小児腎・泌尿器・生殖器疾患」について、授業で学んだ内容を教科書で再確認しておくこと。	
13	小児神経疾患	学習予定の教科書の部分を予習すること。「小児神経疾患」について、授業で学んだ内容を教科書で再確認しておくこと。	
14	小児運動器疾患、小児皮膚疾患	学習予定の教科書の部分を予習すること。「小児運動器疾患、小児皮膚疾患」について、授業で学んだ内容を教科書で再確認しておくこと。	
15	小児眼疾患、小児耳鼻咽喉疾患	学習予定の教科書の部分を予習すること。「小児眼疾患、小児耳鼻咽喉疾患」について、授業で学んだ内容を教科書で再確認しておくこと。	
成績評価方法と基準			割合
定期試験を行う。毎回の講義で、小テストを行う。			定期試験 80% 授業態度 20%

授業科目名 老年医学(検査) (Geriatrics)			
主担当教員	前川 佳敬	担当教員	前川 佳敬
科目ナンバリング	SB110	科目区分	専門基礎科目 DP②③
配当年次	2	開講学期	前期
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	<p>現在の日本は、これまで先進国が経験したことがないスピードで超高齢社会に突入している。高齢者医療・介護・福祉は、現代社会における大きな課題であり、これからの医療者にとって老年医学は必要不可欠の学問である。</p> <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 1 高齢社会の現状とその対策 2 老化による生体の構造や機能の変化 3 高齢者の代表的疾患と特徴 4 高齢者の介護・福祉などを習得する <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>老年医学に関する知識や情報を習得するだけではなく、自分の意見をもち、かつそれを表出できるようになってほしい。</p> <p>教科書</p> <p>指定の教科書はありません。 随時資料を配布します。</p> <p>参考書</p> <p>老年医学 系統講義テキスト 日本老年医学会 老年病・認知症～長寿の現状～ 監修: 萩原俊男 研究室/オフィスアワー</p> <p>C棟研究室 8/部屋にいればいつでも訪問可です。質問等はいつでもご自由にとらそ。</p>		
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	老年医学総論	毎回レジュメは用意し、参考書などから図表を抜粋する。授業で学んだ内容を再確認しておくこと。	
2	老年医学を学ぶうえでの基本的な事項	〃	
3	老化メカニズムと老化制御	〃	
4	高齢者の診かたと高齢者総合機能評価	〃	
5	老年症候群	〃	
6	臓器の加齢変化と老年疾患の発症(1)	〃	
7	臓器の加齢変化と老年疾患の発症(2)	〃	
8	老年疾患の臨床に必要な基礎知識(1)	〃	
9	老年疾患の臨床に必要な基礎知識(2)	〃	
10	高齢者における主な疾患(1)	〃	
11	高齢者における主な疾患(2)	〃	
12	高齢者における主な疾患(3)	〃	
13	高齢者における主な疾患(4)	〃	
14	高齢者の介護と在宅医療	〃	
15	高齢者の緩和医療・終末期医療	〃	
成績評価方法と基準			割合

授業科目名		救急災害医学(検査) (Emergency Medicine)	
主担当教員		吉岡 敏治	
科目ナンバリング		科目区分	担当教員
	SB111	専門基礎科目	吉岡 敏治
配当年次	2	開講学期	DP②③ 月曜1限
授業形態	講義	単位数	必修・選択 選択
<p>授業概要</p> <p>救急医療は医療の原点であると同時に、内科的知識と外科的知識の両方が必要で、応用医療でもある。講義では多岐にわたる内因性、外因性疾患の救急病態を概説すると同時に、診断と治療が同時に進行する救急医療現場で、どのような対応が求められるかを学ぶ。中でも応急処置は一般市民にも要求される基本的なものであり、これを確実に身につけることが必要である。一方、わが国は近年、耐えまなく地震、豪雨災害等、自然災害に見舞われているが、隣国北朝鮮の存在もさることながら世界では国際的なテロネットワークを有するイスラム過激派の活動もあり、災害医学は自然災害とテロ災害の両面からの理解と対応が必要である。</p>			
<p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) わが国における救急医療システムを理解し、対応の基本を学ぶ。 2) 内因性、外因性救急疾患の代表事例の病態、診断、治療の原則を学ぶ。 3) 蘇生法、止血法、体位保持法、運搬法等、各救急場面における基本処置技術を習得する。 4) わが国における大規模自然災害に対して構築されたシステムと特殊災害(大量殺傷兵器:CBRNE;化学兵器、生物兵器、核、爆弾テロ)への対応を理解する。 5) 卒業後の資格として救急認定看護師、救急認定薬剤師、救急検査認定技師等があるが、その基礎を学ぶ。 			
<p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>救急患者とは健康状態が急変した人であり、救急医療とはただちに何らかの医学的介入を必要とする状態を指す。救急医療に従事した40年余の経験から、実際の事例や研究結果をスライドに示して、対話型で授業を進める。なお、選択科目であることから、最初に受講者名簿を確認し、出席を重視する。</p> <p>注意事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 救急疾患について論理的なイメージを構築する努力をすること。 2. 疑問点を大切にし、解決に向けて行動すること。質問は大歓迎。 3. 救急医療と災害医療の両方に興味を持ち、理解を進めてもらうために、1コマの前半を救急医療、後半を災害医療として場面を変えて、講義する。 4. 卒業後の資格として、救急検査認定技師を目指す人は、是非選択すること。 5. 救急検査認定技師を目指す人以外は、必ずしも教科書を購入する必要はない。配布資料で十分理解できるように資料を整えている。 			
<p>教科書</p> <p>救急検査指針:救急検査認定技師テキスト へるす出版</p>			
<p>参考書</p> <p>救急蘇生法の指針2015(医療従事者用、改訂第5版) へるす出版</p>			
<p>研究室/オフィスアワー</p>			
<p>吉岡敏治(日根、研究室4)/原則月曜日 2:30 時間目ですが、その他、部屋にいればいつでも訪問可です。</p>			
授業履修開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	・オリエンテーション(自己紹介、学習目標の設定)。 ・救急診療の特徴、救急医療体制について。	予習:不要 復習:わが国の救急医療体制の概要とABCODEアプローチを理解する。以下、全ての講義で配布する資料をもとに、復習する習慣を身につけてほしい。	
2	・救急搬送システムと救急医療情報システム。 ・災害の分類と対応の原則	予習:不要 復習:左記講義プリントの復習、三次コードイネードとは緊急度と重症度。	
3	・救急医療総論:心肺蘇生、救急初期診療、根本治療、集中治療、院内連携 ・災害医療体制と災害医療システム	予習:不要 復習:OPRが、なぜ現在の形式になったのかを理解する。	
4	・シヨック:その分類と血行動態 ・日本 DMAT と地域(大阪)DMAT	予習:不要 復習:シヨックの特徴と生体反応の理解 災害派遣チームの訓練内容:CSCATIT を身につける。	

5	<ul style="list-style-type: none"> 救急医療における内因性疾患(1):中枢神経系疾患 広域災害救急医療情報システム(EMIS)と、全国同時警報システム(J-ALERT) 	<p>予習:不要 復習:脳血管障害の診断、病態、医師のアプローチの仕方について復習。 国の構築した災害医療情報システムを理解する。</p>	<p>予習:不要 復習:脳血管障害の診断、病態、医師のアプローチの仕方について復習。 国の構築した災害医療情報システムを理解する。</p>	割合
6	<ul style="list-style-type: none"> 救急医療における内因性疾患(2):循環器系疾患 災害対策(二関連する法律) 	<p>予習:不要 復習:急性冠症候群を中心に症状、診断、治療について復習。 災害対策基本法と国民保護法、関連の法令</p>	<p>予習:不要 復習:急性冠症候群を中心に症状、診断、治療について復習。 災害対策基本法と国民保護法、関連の法令</p>	割合
7	<ul style="list-style-type: none"> 救急医療における内因性疾患(3):呼吸器系疾患 集団災害発生時における現地関係機関(消防、警察、保健所、自衛隊、その他)の役割と連携 	<p>予習:不要 復習:ガス交換機被害の機序(換気・血流出、肺気腫分画等)と代表的な呼吸器系疾患を国や自治体の定める現地関係機関連携指針の理解。</p>	<p>予習:不要 復習:ガス交換機被害の機序(換気・血流出、肺気腫分画等)と代表的な呼吸器系疾患を国や自治体の定める現地関係機関連携指針の理解。</p>	割合
8	<ul style="list-style-type: none"> 救急医療における内因性疾患(4):消化器系疾患 阪神・淡路大震災の患者搬送状況 	<p>予習:不要 復習:消化管の炎症、穿孔、閉塞、感染、血管疾患、その他の急性腹症を理解する。 都市直下型地震時の患者搬送手段と搬送状況から、大規模災害時の初期対応を学ぶ。</p>	<p>予習:不要 復習:消化管の炎症、穿孔、閉塞、感染、血管疾患、その他の急性腹症を理解する。 都市直下型地震時の患者搬送手段と搬送状況から、大規模災害時の初期対応を学ぶ。</p>	割合
9	<ul style="list-style-type: none"> 救急医療における内因性疾患(5):泌尿・生殖器系疾患 阪神・淡路大震災時の傷病別入院患者数と転帰 	<p>予習:不要 復習:尿路結石、尿管、腎梗塞、尿路感染等の症状と初療を理解する。 地震時に発生する外傷の種類と被災地の疾病構造の変化を理解する。</p>	<p>予習:不要 復習:尿路結石、尿管、腎梗塞、尿路感染等の症状と初療を理解する。 地震時に発生する外傷の種類と被災地の疾病構造の変化を理解する。</p>	割合
10	<ul style="list-style-type: none"> 救急医療における内因性疾患(6):内分泌・代謝系疾患 地震災害とクラッシュ症候群 	<p>予習:不要 復習:糖尿病性ケトアシドーシス、非ケトン生高浸透圧症の病態と治療を理解する。 クラッシュ症候群の発生状況、病態、治療を理解する。</p>	<p>予習:不要 復習:糖尿病性ケトアシドーシス、非ケトン生高浸透圧症の病態と治療を理解する。 クラッシュ症候群の発生状況、病態、治療を理解する。</p>	割合
11	<ul style="list-style-type: none"> 救急医療における外因性疾患(1):外傷 阪神・淡路大震災から学んだこと 	<p>予習:不要 復習:多発外傷、頭部、胸部、腹部外傷、心血管損傷。</p>	<p>予習:不要 復習:多発外傷、頭部、胸部、腹部外傷、心血管損傷。</p>	割合
12	<ul style="list-style-type: none"> 救急医療における外因性疾患(2):熱傷、熱中症、偶発性低体温症、電撃傷 災害拠点病院と広域搬送拠点基地(SCU)について 	<p>予習:不要 復習:熱傷、凍傷、熱中症、電撃傷等の診断と治療。災害拠点病院の指定条件、SCU: Staging Care Unit、災害医療コントロールセンターの役割と構築について</p>	<p>予習:不要 復習:熱傷、凍傷、熱中症、電撃傷等の診断と治療。災害拠点病院の指定条件、SCU: Staging Care Unit、災害医療コントロールセンターの役割と構築について</p>	割合
13	<ul style="list-style-type: none"> 救急医療における外因性疾患(3):中毒 東南海地震の被害想定 	<p>予習:不要 復習:中毒、化学損傷の発生状況、治療の原則、中毒情報センターの役割。 想定津波高、想定死者数、ライフラインの断絶期間</p>	<p>予習:不要 復習:中毒、化学損傷の発生状況、治療の原則、中毒情報センターの役割。 想定津波高、想定死者数、ライフラインの断絶期間</p>	割合
14	<ul style="list-style-type: none"> 東日本大震災における医療支援 DMATとドクターヘリの活動 	<p>予習:不要 復習:災害急性期から亜急性期、慢性期に大飯府の行った医療支援</p>	<p>予習:不要 復習:災害急性期から亜急性期、慢性期に大飯府の行った医療支援</p>	割合
15	<ul style="list-style-type: none"> 大規模救急災害(NBCテロ災害)について(OBRNE) 東日本大震災におけるDMATとドクターヘリの活動 化学テロを中心に 	<p>予習:不要 復習:NBC災害の特徴と対応体制について学ぶ</p>	<p>予習:不要 復習:NBC災害の特徴と対応体制について学ぶ</p>	割合
成績評価方法と基準				
①授業中の質問 受講態度(3回、30点)				
②前期期末レポート(70点)				

授業科目名	薬理学(検査) (Pharmacology)		
主担当教員	小林 吉晴	担当教員	小林 吉晴
科目ナンバリング	SB112	科目区分	専門基礎科目
配当年次	2	開講学期	後期
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	体内で薬物と生体内分子がどのように関わりあい、作用を示すのか学ぶ。		
到達目標	薬物の主作用、副作用、相互作用、中毒作用、解毒薬などを説明できる。		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	生化学、人体の構造と機能、生物学の知識が必要なのでこれらの科目と合わせて復習しておくこと。		
教科書	集中講義 薬理学 渡邊康裕 編 メジカルビュー社 ISBN978-4-7583-0096-4		
参考書	シンブル薬理学 南江堂 標準薬理学 医学書院 研究室/オプリアワー		
月曜日 16:00-17:00、火曜日 16:00-17:00			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	薬理学総論 I 受容体	講義を受講後、配布プリントを参考に、まとめノートを作成する。	まとめノート
2	薬理学総論 II トランスポーター、オートコイド、サイトカイン	講義を受講後、配布プリントを参考に、まとめノートを作成する。	まとめノート
3	自律神経系と骨格筋に作用する薬物、作用機序、副作用	講義を受講後、配布プリントを参考に、まとめノートを作成する。	まとめノート
4	統合失調症、躁うつ病、睡眠障害治療薬の薬物名、作用機序、副作用	講義を受講後、配布プリントを参考に、まとめノートを作成する。	まとめノート
5	麻薬性鎮痛薬、全身麻酔薬の薬物名、作用機序、副作用	講義を受講後、配布プリントを参考に、まとめノートを作成する。	まとめノート
6	てんかん、アルツハイマー病、パーキンソン病治療薬の薬物名、作用機序、副作用	講義を受講後、配布プリントを参考に、まとめノートを作成する。	まとめノート
7	高血圧症、狭心症、うっ血性心不全に用いられる薬物名、作用機序、副作用	講義を受講後、配布プリントを参考に、まとめノートを作成する。	まとめノート
8	ジギタリス中毒について、抗不整脈薬の分類と代表的な薬物、作用機序	講義を受講後、配布プリントを参考に、まとめノートを作成する。	まとめノート
9	関節リウマチ、痛風、高尿酸血症、の薬物名、作用機序、副作用	講義を受講後、配布プリントを参考に、まとめノートを作成する。	まとめノート
10	非ステロイド性抗炎症薬、副腎皮質ステロイド、免疫抑制剤の薬物名、作用機序、副作用	講義を受講後、配布プリントを参考に、まとめノートを作成する。	まとめノート
11	呼吸器系薬物、消化性潰瘍治療薬、下剤と止瀉薬、利尿薬の薬物名、作用機序、副作用	講義を受講後、配布プリントを参考に、まとめノートを作成する。	まとめノート
12	糖尿病治療薬、脂質低下薬、性ホルモン薬、甲状腺疾患治療薬の薬物名、作用機序、副作用	講義を受講後、配布プリントを参考に、まとめノートを作成する。	まとめノート
13	骨粗鬆症、貧血治療薬、抗血液凝固作用薬の薬物名、作用機序、副作用	講義を受講後、配布プリントを参考に、まとめノートを作成する。	まとめノート
14	抗感染薬の薬物名、作用機序、副作用	講義を受講後、配布プリントを参考に、まとめノートを作成する。	まとめノート
15	抗腫瘍薬の薬物名、作用機序、副作用	講義を受講後、配布プリントを参考に、まとめノートを作成する。	まとめノート

成績評価方法と基準	割合
1. 小テスト: 20点	小テスト: 20%
2. 定期試験: 80点	本試験: 80%

授業科目名	リハビリテーション概論(検査) (Introduction to Rehabilitation)		
担当教員	金尾 颯郎	担当教員	金尾 颯郎
科目ナンバリング	SB113	科目区分	DP②③
配当年次	3	開講学期	前期
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	<p>リハビリテーション概論では、リハビリテーションの全体像を示し、その概念、理念を理解する。リハビリテーションの対象となる障害その内容(国際障害分類および国際生活機能分類による)を踏まえ、障害者の種別、障害者の心理、リハビリテーションチームの構成と関連職種、リハビリテーションの関係施設(病院リハ、高齢者入所施設リハ、通所リハ、訪問リハ等)などを教授する。さらに、リハビリテーションにおける臨床検査技師の位置づけと役割について、ディスカッションを行う。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. リハビリテーションに対する理解と関心を深める。 2. リハビリテーションに関連する、身近な情報を積極的に収集・分析する。(TV や新聞記事等) 3. 社会におけるリハビリテーションの位置づけや役割、また定義、歴史、目的を考える。 4. リハビリテーションにおける全人的な取り組みを解説できる。 5. 施設別、病期別リハビリテーションにおける対象者の理解の方法、治療手段、治療原理について説明できる。 6. リハビリテーションチーム医療における臨床検査技師の役割を考える。 7. ワークショップ形式での授業も行う。 <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>チーム医療における臨床検査技師の役割を念頭に置き、授業に望んでください。理解できないところは、その都度質問してください。そのままにしておかないようにしましょう。</p>		
教科書			
特に定めず(配布資料作成)			
参考書	<p>中村隆一 入門リハビリテーション概論 第7版 医歯業出版 榎原彰夫 リハビリテーション総論 第2版 診断と治療社 森合慈之 リハビリテーションマニュアルブック 第2版 Gakken 上好昭孝 リハビリテーション概論 第3版 永井書店</p> <p>研究室/オフィスアワー</p>		
水曜日の1限、もしくは、事前に連絡があれば随時対応します。			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	リハビリテーションの概要	到達目標: リハビリテーションの歴史、概要について理解する。	金尾
2	フィールド・ワーク①	ハリアフリー参加。	金尾
3	フィールド・ワーク②	ハリアフリー展に参加した内容をまとめる。	金尾
4	ワークショップ	ハリアフリー展のまとめを発表しディスカッションをする。	金尾
5	疾病と障害、ICIDH と ICF	到達目標: 疾患と障害の違いについて理解し、これを説明できる。	金尾
6	リハビリテーション関連職種	到達目標: リハビリテーション関連職種の職種の違いについて説明できる。	金尾
7	ADL-00L の概念と評価	到達目標: ADL-00L の構成要素を知り評価できる。	金尾
8	リハビリテーションの手段と方法① 理学療法(神経系、運動器系)	到達目標: リハビリテーションの対象となる障害における理学療法を理解し、その評価と手段を想起できる。	金尾
9	リハビリテーションの手段と方法② 理学療法(呼吸・循環・代謝系障害)	到達目標: リハビリテーションの対象となる障害における理学療法を理解し、その評価と手段を想起できる。	金尾
10	リハビリテーションの手段と方法③ 作業療法(身体・小児領域)	到達目標: リハビリテーションの対象となる障害における作業療法を理解し、その評価と手段を想起	金尾

		できる。	
11	リハビリテーションの手段と方法④ 作業療法(老人・精神科領域)	到達目標:リハビリテーションの対象となる障害における作業療法を理解し、その評価と手段を想起できる。	金尾
12	リハビリテーションの手段と方法⑤ 言語聴覚療法(言語・嚥下障害)	到達目標:リハビリテーションの対象となる障害における言語聴覚療法を理解し、その評価と手段を想起できる。	金尾
13	病気別リハビリテーション (急性期、回復期、維持期、終末期)	各病期における特徴とチームアプローチについてまとめる。	金尾
14	ワークシヨップ チームアプローチにおける臨床検査技師の役割①	各班テーマを決めて、発表の準備をする。	金尾
15	ワークシヨップ チームアプローチにおける臨床検査技師の役割②	各班テーマについて、発表する。	金尾
成績評価方法と基準			
1. 定期試験			
2. 小テスト・レポート課題およびグループ課題他			
割合			
1. 80%			
2. 20%			

臨床検査学総論(検査) (Clinical Laboratory Science)		臨床検査学総論(検査)		臨床検査学総論(検査)	
授業科目名	臨床検査学総論(検査)	臨床検査学総論(検査)	臨床検査学総論(検査)	臨床検査学総論(検査)	臨床検査学総論(検査)
担当教員	脇 英彦	担当教員	脇 英彦、小林 吉晴、竹岡 啓子		
科目ナンバリング	SB114	科目区分	専門基礎科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP①
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	金曜3限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	必修
授業概要					
本講義を一般臨床検査、臨床化学検査、血液検査、免疫・輸血関係、微生物検査、病理検査、および生理解能検査に分類し、それぞれの分野の概要および代表的な検査と病態との関係について学習する。					
到達目標					
1. 臨床検査それぞれの意義と重要性を理解する。					
2. 臨床検査の基礎知識と検体採取の取り扱いについて理解する。					
3. 採血行為の範囲、業務に際しての注意事項および採血時の患者状態と血液検体の取り扱い以上の留意点を理解する。					
4. 尿化学検査について理解する(1回目)。					
5. 尿化学検査について理解する(2回目)。					
6. 尿化学検査について理解する(3回目)。					
7. 尿化学検査について理解する(4回目)。					
8. 腎機能検査を理解する。					
9. 尿沈渣の作成、染色、鏡検の手法を理解する。					
10. 尿沈渣の成分所見を説明できるようになる(1回目)。					
11. 尿沈渣の成分所見を説明できるようになる(2回目)。					
12. 尿沈渣の成分所見を説明できるようになる(1回目)。					
13. 糞便検査、喀痰検査の検査を理解する。					
14. 胃液、胃液、十二指腸液の検査を理解する。					
15. 穿刺液、精液、体腔液の検査と結石分析を理解する。					
履修上の注意(学生へのメッセージ)					
1. 疾病と臨床検査の関係を理解するように努める。					
2. 各種測定法の原理を理解し、生体成分の測定意義を説明できるようにする。					
3. 講義終了後のノート整理とまとめの作業で、理解の確認が大切。					
4. 臨床検査データの読める臨床検査技師を目指す。					
教科書					
一般検査学 三村邦裕 宿谷賢一 編 医歯薬出版 ISBN978-4-263-22367-3 G3347					
参考書					
臨床検査ガイドライン JSLM2015 日本臨床検査医学会					
臨床検査提要 第3-4版 金原出版					
標準採血法ガイドライン JCCLS 日本臨床検査標準協議会					
研究室/オフィスアワー					
小林吉晴研究室/ 月曜日 16:00-18:00、火曜日 16:00-18:00					
竹岡啓子研究室/ 月曜日 16:00-18:00、火曜日 16:00-18:00					
脇 英彦研究室/ 月曜日 16:00-18:00、火曜日 16:00-18:00					
授業展開及び授業計画表					
回数	学習内容	予習・復習・課題等	担当		
1	一般検査の意義と重要性を理解する。	復習: 授業内容をノートにまとめる。	小林 吉晴		
2	尿検査の基礎知識と検体採取と取り扱いについて理解する。	復習: 授業内容をノートにまとめる。	小林 吉晴		
3	採血の目的、種類、手法、患者への対応、採血に際しての注意事項・留意点等について理解する。	予習: 採血手技とリスクについて予習すること。 復習: 授業内容をノートにまとめ、理解し学習する。	竹岡 啓子		
4	尿比重と尿蛋白について理解する。	予習: 不要 復習: 授業内容をノートにまとめる。	小林 吉晴		
5	尿糖、尿アセトン体、尿ビリルビン理解する。	予習: 不要 復習: 授業内容をノートにまとめる。	小林 吉晴		
6	尿中アスコルビン酸、尿中薬物、ヒト絨毛性ゴナドトロピンについて理解する。	予習: 不要 復習: 授業内容をノートにまとめる。	小林 吉晴		
7	尿中ホルマリン体、フェニルケトン体、アルカプトン、VMA、脂肪について理解する。	予習: 不要 復習: 授業内容をノートにまとめる。	小林 吉晴		
8	尿の生成過程と腎機能検査を理解する。	復習: 授業内容をノートにまとめる、理解し学習する。	脇 英彦		
9	尿沈渣標本の作成手技と染色方法について理解	復習: 授業内容をノートにまとめ、理解し学習する。	脇 英彦		

10	尿沈渣の有形成分と造膜が理解できる。	復習：授業内容をノートにまとめ、理解し学修する。	脇 英彦
11	尿沈渣の円柱が理解できる。	復習：授業内容をノートにまとめ、理解し学修する。	脇 英彦
12	尿沈渣と尿自動分析装置を理解する。	復習：授業内容をノートにまとめ、理解し学修する。	脇 英彦
13	糞便検査と喀痰検査について理解する。	復習：授業内容をノートにまとめ、理解し学修する。	竹岡 啓子
14	胃液、十二指腸液、について理解する。	予習：胃液、十二指腸液について調べる。 復習：授業内容をノートにまとめる。	竹岡 啓子
15	精液、その他の体液、結石成分分析について理解する。	予習：体液の種類、結石成分について調べる。 復習：授業内容をノートにまとめる。	竹岡 啓子
成績評価方法と基準			
割合			
小テスト:20%			
定期試験:80%			

授業科目名		検査技術科学序論(検査) (Introduction to Medical Technology)																													
主担当教員	上田 真喜子	担当教員	上田 真喜子、森 誠司、小宮山 森弘、小林 吉晴、竹岡 啓子、脇 英彦、佐伯 康匠、藤原 牧子、小林 彩香																												
科目ナンバリング	SB115	科目区分	専門基礎科目																												
配当年次	1	開講学期	後期																												
授業形態	講義	単位数	2																												
授業概要	<p>臨床検査は科学技術(テクノロジー)に基礎をなす学問でありその応用である。検査検査および生理学検査ともに機械工学、電子工学、生体工学といった技術に基づいて発展し、現在の高度化・効率化された検査を構築している。またこれら科学技術を用いて検査を実施するのは臨床検査技師であり、そのために検査や生体あるいは機器を取り扱うために専門的な技能(スキル)を修得する必要がある。各種検査をおこなう上で必要な基礎的な知識から先端技術までを各教員の専門領域の紹介も含めオムニバス形式で講義する。【上田真喜子・2回】、【小林吉晴・2回】、【小宮山森弘・2回】、【竹岡啓子・2回】、【森誠司・2回】、【脇英彦・2回】、【小林彩香・1回】、【佐伯康匠・1回】、【藤原牧子・1回】</p>																														
到達目標	<p>1. 臨床検査を技術的観点からとらえ、それを支える基礎的事項について理解する。 2. 医療において技術を駆使するのは医療従事者でありスキルの重要性を理解する。 3. 科学の進歩に伴い臨床検査の技術も日々進歩していることを理解する。</p>																														
履修上の注意(学生へのメッセージ)	<p>各教員の専門とする検査領域の学問的・技術的な背景が講義の主軸となるが、最新の医療技術についての紹介もある。1年次後期ではまだ十分な知識が備わっていないこともあるので、分からないことは積極的に質問すること。また学習内容と事前指導を確認し準備をしておくこと。</p>																														
教科書	適宜資料を配布する																														
参考書	担当教員が適宜指示する。																														
研究室/オフィスアワー	研究室/オフィスアワー																														
臨床検査学科 各研究室	月-金曜日 18時以降																														
授業展開及び授業計画表	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>学修内容</th> <th>予習・復習・課題等</th> <th>担当</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>病理学検査の基礎から最新技術 ① 担当：上田真喜子</td> <td>予習：不要 復習：講義内容を整理・確認する</td> <td>上田真喜子</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>病理学検査の基礎から最新技術 ② 担当：上田真喜子</td> <td>予習：不要 復習：講義内容を整理・確認する</td> <td>上田真喜子</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>臨床化学検査の基礎から最新技術 ① 担当：小林吉晴</td> <td>予習：不要 復習：講義の内容をノートに整理する</td> <td>小林吉晴</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>臨床化学検査の基礎から最新技術 ② 担当：小林吉晴</td> <td>予習：不要 復習：講義の内容をノートに整理する</td> <td>小林吉晴</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>生理学的検査の基礎から最新技術 ① 担当：小宮山森弘</td> <td>予習：臨床生理学の心電図検査とはどのようなものか理解しておくこと。 復習：心電図と他の循環器機能検査との違いを考える。</td> <td>小宮山 森弘</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>生理学的検査の基礎から最新技術 ② 担当：小宮山森弘</td> <td>予習：臨床生理学の脳波検査とはどのようなものか理解しておくこと。 復習：脳波記録時に波形に影響を与える要因について考える。</td> <td>小宮山 森弘</td> </tr> </tbody> </table>			回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当	1	病理学検査の基礎から最新技術 ① 担当：上田真喜子	予習：不要 復習：講義内容を整理・確認する	上田真喜子	2	病理学検査の基礎から最新技術 ② 担当：上田真喜子	予習：不要 復習：講義内容を整理・確認する	上田真喜子	3	臨床化学検査の基礎から最新技術 ① 担当：小林吉晴	予習：不要 復習：講義の内容をノートに整理する	小林吉晴	4	臨床化学検査の基礎から最新技術 ② 担当：小林吉晴	予習：不要 復習：講義の内容をノートに整理する	小林吉晴	5	生理学的検査の基礎から最新技術 ① 担当：小宮山森弘	予習：臨床生理学の心電図検査とはどのようなものか理解しておくこと。 復習：心電図と他の循環器機能検査との違いを考える。	小宮山 森弘	6	生理学的検査の基礎から最新技術 ② 担当：小宮山森弘	予習：臨床生理学の脳波検査とはどのようなものか理解しておくこと。 復習：脳波記録時に波形に影響を与える要因について考える。	小宮山 森弘
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当																												
1	病理学検査の基礎から最新技術 ① 担当：上田真喜子	予習：不要 復習：講義内容を整理・確認する	上田真喜子																												
2	病理学検査の基礎から最新技術 ② 担当：上田真喜子	予習：不要 復習：講義内容を整理・確認する	上田真喜子																												
3	臨床化学検査の基礎から最新技術 ① 担当：小林吉晴	予習：不要 復習：講義の内容をノートに整理する	小林吉晴																												
4	臨床化学検査の基礎から最新技術 ② 担当：小林吉晴	予習：不要 復習：講義の内容をノートに整理する	小林吉晴																												
5	生理学的検査の基礎から最新技術 ① 担当：小宮山森弘	予習：臨床生理学の心電図検査とはどのようなものか理解しておくこと。 復習：心電図と他の循環器機能検査との違いを考える。	小宮山 森弘																												
6	生理学的検査の基礎から最新技術 ② 担当：小宮山森弘	予習：臨床生理学の脳波検査とはどのようなものか理解しておくこと。 復習：脳波記録時に波形に影響を与える要因について考える。	小宮山 森弘																												

7	免疫学的検査の基礎から最新技術① 担当:竹岡啓子	予習:免疫学と臨床検査との関連性について理解してくる。 復習:免疫学に関するキーワードを整理、確認する。	竹岡啓子
8	免疫学的検査の基礎から最新技術② 担当:竹岡啓子	予習:抗原抗体反応を利用した臨床検査について理解してくる。 復習:臨床検査分野に関する免疫キーワードを整理、確認する。	竹岡啓子
9	生化学・遺伝子検査の基礎から最新技術① 担当:森誠司	予習:高校の生物基礎(DNA、遺伝子、ゲノム)に関して理解してくる。 復習:キーワードの再確認	森 誠司
10	生化学・遺伝子検査の基礎から最新技術② 担当:森誠司	予習:「オーダーメイド医療」という言葉を理解してくる。 復習:遺伝子工学の医療への応用について考える。	森 誠司
11	画像検査に必要な物理① 担当:脇英彦	予習:不要 復習:講義の内容をノートに整理する	脇 英彦
12	画像検査に必要な物理② 担当:脇英彦	予習:不要 復習:講義の内容をノートに整理する	脇 英彦
13	一般検査の基礎から最新技術 担当:小林彩香	予習:健康診断の尿検査について調べてくる。 復習:尿検査のメソッドとアミットについて理解する。	小林彩香
14	微生物学検査の基礎から最新技術 担当:佐伯康匠	予習:微生物学の検査(主に細菌)の手法にどのようなものがあるかを理解してくる。 復習:微生物の検査結果の活用について考える。	佐伯康匠
15	血液学検査の基礎から最新技術 担当:藤原敦子	予習:赤血球、白血球、血小板が生体内で扱う役割について調べてくる。 復習:赤血球、白血球、血小板のいづれかが教員あるいは機能的に異常となった場合について、考えられることをまとめる。	藤原敦子
成績評価方法と基準			割合
1. 各教員の講義の最後に小テストをおこなう。		100%	

授業科目名 病理学(検査) (Pathology)			
主担当教員	上田 真喜子	担当教員	上田 真喜子
科目ナンバリング	SB116	科目区分	専門基礎科目 DP①②③
配当年次	2	開講学期	前期
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	<p>病理学とは、病気の原因、発症メカニズム、病態、形態変化などを説明する学問である。また病理学は、臨床医学を学修する際、その基本となる。まず病理学総論として、病理学の意義、染色体・遺伝子の異常、組織細胞傷害と修復、臨検(病理学)、循環器系、炎症、免疫異常、腫瘍などに関する病理学の基本的概念を学ぶ。次に、病理学各論として、各臓器における主な病変に関する病理学を学ぶ。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 各臓器における主な疾患の病因、成り立ち、病理学的特徴などを説明できる。 2. 病理学で学ぶ「医学用語」は、病理検査学や臨床医学を学ぶ基本となるので、正しく理解する。 3. わからないことは、積極的に質問すること。 <p>1. 人体の正常構造や正常機能を理解していないと、病理学を理解することはできないので、1年次の解剖学、組織学、生理学の教科書を復習してから、病理学の講義にのぞむこと。</p> <p>2. 病理学の講義は、教科書を中心に進めるが、講義を聞かずには教科書を読んでも理解が難しいと考えられるので、講義には出席すること。</p> <p>3. わからないことは、積極的に質問すること。</p>		
教科書	病理学/病理検査学 (医歯薬出版)		
参考書	解剖病理学、第2版、医歯薬出版		
研究室/オフィスアワー	研究室/オフィスアワー		
在室時には、いつでも訪問可です。			
授業展開及び授業計画表			
回数	字修内容	予習・復習・課題等	担当
1	総論: 病理学とは何か、染色体・遺伝子・発生の異常	教科書の「病理学とは何か、染色体・遺伝子・発生の異常」について、予習、復習すること。	
2	総論: 組織細胞傷害とその修復、物質代謝異常	教科書の「組織細胞傷害とその修復、物質代謝異常」について、予習、復習すること。	
3	総論: 循環器系、炎症	教科書の「循環器系、炎症」について、予習、復習すること。	
4	総論: 免疫異常、腫瘍	教科書の「免疫異常、腫瘍」について、予習、復習すること。	
5	各論: 循環器系の疾患	教科書の「循環器系」について、予習、復習すること。	
6	各論: 呼吸器系の疾患	教科書の「呼吸器系」について、予習、復習すること。	
7	各論: 消化器系の疾患 (1)	教科書の「消化器系(前半)」について、予習、復習すること。	
8	各論: 消化器系の疾患 (2)	教科書の「消化器系(後半)」について、予習、復習すること。	
9	各論: 内分泌系の疾患	教科書の「内分泌系」について、予習、復習すること。	
10	各論: 泌尿器系の疾患	教科書の「泌尿器系」について、予習、復習すること。	
11	各論: 生殖器および乳腺の疾患	教科書の「生殖器および乳腺」について、予習、復習すること。	
12	各論: 造血器系の疾患	教科書の「造血器系」について、予習、復習すること。	
13	各論: 神経系の疾患	教科書の「神経系」について、予習、復習すること。	
14	各論: 運動器系の疾患、感覚器系の疾患	教科書の「運動器系、感覚器系」について、予習、復習すること。	

15	各論：皮膚系の疾患、膠原病（自己免疫疾患）に関する教科書の「皮膚系、膠原病（自己免疫疾患）」について、予習、復習をすること。
成績評価方法と基準	割合 定期試験 80% 小テスト 20%
	定期試験を行う。毎回の講義で、小テストを行う。

授業科目名	医学概論(検査) (Introduction to Medicine)	
主担当教員	上田 真喜子	担当教員
科目ナンバリング	SB117	専門基礎科目
配当年次	1	曜日・時限
授業形態	講義	単位数
授業概要	2 必修・選択 必修	
到達目標	<p>医学・医療技術の革新的進歩、超高齢社会の到来、価値観の多様化、社会構造の変化などに伴い、医療を取巻く環境は大きく変化している。本講義では、医療の本質、現代医療の問題点、生命倫理、患者の権利、EBM (evidence based medicine)、インフォームドコンセント、医療経済等を概説し、医療人の基礎となるべき精神・考え方を知識を学修する。さらに、チーム医療の重要性を鑑み、他医療専門職分野の知識・現状も概説し、広く構造的な視点をもちつつ、医療における臨床検査学の在り方を教授する。(上田真喜子・4回、前川佳敬・11回)</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 大学生に求められる基礎学力と社会常識を修得する。 2. 医療従事者になるという動機を明確なものとして確立する。 3. 臨床検査学の各分野で必要な基礎的知識を理解する。 <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>医学・医療に対する考え方や、よき医療人になるための意識・心構えを培うための講座である。</p> <p>医学・医療に関する知識や情報を習得するだけでなく、自分の意見をもち、かつそれを表出できるようにしてほしい。講義内容にあらからしめ目を通し、自分の考えをもっておくことが望ましい。</p> <p>古代医学の誕生から近代医学誕生までの歴史の変遷を学び、医療従事者の一員として臨床検査の成り立ちから今までの臨床検査の歴史を学び、臨床検査の将来展望と検査技術の発展について学ぶ。</p>	
教科書	教科書	
<系統看護学講座 専門基礎分野>健康支援と社会保障制度(1) 総合医療論		
参考書	なし	
教材がある場合は適宜配布する。参考書は特指指定しないが、テーマごとに図書館などを利用して積極的に学習する。		
研究室/オフィスアワー	研究室/オフィスアワー	
上田: 6 棟研究室5 / 在室時には、いつでも訪問可です。		
前川: 6 棟研究室8 / 部屋にいればいつでも訪問可です。質問等はいつでもご自由どうぞ。		
授業展開及び授業計画表		
回数	学修内容	担当
1	援助と共感(上田真喜子)	将来、皆さんが携われる医療者としての心構えについて予習し、授業で学んだ内容を教科書で再確認しておくこと 上田
2	医療と看護の原点①(上田真喜子)	私たち人間にとっかけがえのない命と健康について予習し、授業で学んだ内容を教科書で再確認しておくこと 上田
3	医療と看護の原点②(上田真喜子)	医療従事者が携わる病と癒しについて予習し、授業で学んだ内容を教科書で再確認しておくこと 上田
4	医療の歩みと医療観の変遷(上田真喜子)	現代社会において大きく変化している医療環境について予習し、授業で学んだ内容を教科書で再確認しておくこと 上田
5	私達の生活と医療①(前川佳敬)	もしも私たちが病氣やけがをしたらどうしたらいいのか? を具体的に考えながら予習し、授業で学んだ内容を教科書で再確認しておくこと 前川
6	私達の生活と医療②(前川佳敬)	健康を維持するために重要な環境衛生と疾病予防について予習し、授業で学んだ内容を教科書で再確認しておくこと 前川
7	私達の生活と医療③(前川佳敬)	安心して暮らせる社会作りを目指して国が重点的に行っている高齢社会・障がい者・こころの健康について予習し、授業で学んだ内容を教科書で再確認しておくこと 前川
8	技術社会の高度化と健康・生命をめぐる新たな課題①(前川佳敬)	めぐるしく進化する先端医療技術について予習し、授業で学んだ内容を教科書で再確認しておくこと 前川
9	技術社会の高度化と健康・生命をめぐる新たな課題②(前川佳敬)	めぐるしく進化する先端医療と産業界の発展の影響について予習し、授業で学んだ内容を教科書で再確認しておくこと 前川

10	成熟する社会と人々の意識改革(前川佳敬)	患者の意思を尊重する医療の基本となるインフォームドコンセントについて予習し、授業で学んだ内容を教科書で再確認しておくこと	前川
11	医療を見つめなおす新しい視点①(前川佳敬)	医学・医療の進歩とともに重宝視されている医の倫理について予習し、授業で学んだ内容を教科書で再確認しておくこと	前川
12	医療を見つめなおす新しい視点②(前川佳敬)	医療が円滑かつ効率的に行えるような医療の管理について予習し、授業で学んだ内容を教科書で再確認しておくこと	前川
13	健康概念の質的変化と保健・医療の新しい潮流①(前川佳敬)	医療倫理、医療制度改革、救急医療の見直しなど、医療変革の源について予習し、授業で学んだ内容を教科書で再確認しておくこと	前川
14	健康概念の質的変化と保健・医療の新しい潮流②(前川佳敬)	医学・医療について巻く環境の変化を踏まえたこれからの医療について予習し、授業で学んだ内容を教科書で再確認しておくこと	前川
15	健康概念の質的変化と保健・医療の新しい潮流③(前川佳敬)	住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることが出来るように、厚生労働省が推進している地域包括医療システムについて予習し、授業で学んだ内容を教科書で再確認しておくこと	前川
成績評価方法と基準			
①筆記テスト ②小テスト			

授業科目名	公衆衛生学(検査) (Public Health)		
主担当教員	前川 佳敬	担当教員	前川 佳敬
科目ナンバリング	SB118	科目区分	専門基礎科目 DP③
配当年次	1	開講学期	前期
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	個人水準で健康を扱う臨床医学に対して、公衆衛生学は社会水準で健康を取り扱うので社会医学とも呼ばれます。その範囲は多岐にわたります。健康に影響をおよぼす様々なリスクを特定し、予防活動に結びつける学習です。本講義では、多要因から成る健康の成り立ちを理解し、健康的な生活の保持増進と疾病の予防のために、広い視野に立って考え行動することができるよう、知識と方法論を修得します。		
到達目標	広い視野に立って、人々の健康的な生活の保持増進と疾病予防のために考え行動することができるよう、以下のことを修得します。		
	1)健康増進を人と社会・環境の相互作用として捉え、理解する。 2)人間集団の観察技術を身につけ、社会集団や地域における健康問題と健康の関係を洞察する。 3)広い社会的視野を持ち、社会変動と健康の関係を洞察する。		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	履修上の注意(学生へのメッセージ)		
公衆衛生学に関する知識や情報を習得するだけでなく、自分の意見をもち、かつそれを表出できるようになってほしい。講義内容にあらからしめ目を通し、自分の考えをもっておくことが望ましい。			
教科書	わかりやすい公衆衛生学(スーヴェルヒロカワ)		
参考書	公衆衛生がみえる(MEDIC MEDIA) シンプル衛生公衆衛生学(南江堂)		
研究室/オフィスアワー	C棟研究室8/部屋にいればいつでも訪問可です。質問等はいつでもご自由にとらうぞ。		
授業展開及び授業計画表	回数	学修内容	担当
	1	公衆衛生とは	環境や行動を社会的に整えて人々の健康を守る公衆衛生の概念について予習し、授業で学んだ内容を教科書で再確認しておくこと
	2	健康と環境、疫学的方法	健康は環境など多要因から成り立っている事、多要因を解析する疫学について予習し、授業で学んだ内容を教科書で再確認しておくこと
	3	健康の指標	集団の健康水準を測定する尺度の総称である健康の指標について予習し、授業で学んだ内容を教科書で再確認しておくこと
	4	感染症とその予防	感染症の成立要因と伝播様式を理解し、その発生予防や蔓延防止の方策について予習し、授業で学んだ内容を教科書で再確認しておくこと
	5	食品保健と栄養	食生活の安全を確保するため、食中毒予防の新しい技術や知識ならびに食品衛生の制度について予習し、授業で学んだ内容を教科書で再確認しておくこと
	6	生活環境の保全(1)	現代の生活が環境に何をたらしたか、それが人々の健康にどのような影響をもたらしたか、どのような仕組みで対策を講じているかについて予習し、授業で学んだ内容を教科書で再確認しておくこと
	7	生活環境の保全(2)	現代の生活が環境に何をたらしたか、それが人々の健康にどのような影響をもたらしたか、どのような仕組みで対策を講じているかについて予習し、授業で学んだ内容を教科書で再確認しておくこと

8	医療の制度、地域保健活動	社会保険制度の医療に関わる部分、地域の住民が適切なヘルスサービスを受ける構造について予習し、授業で学んだ内容を教科書で再確認しておくこと
9	母子保健	少子化が急速に進行する中で、我が国の母子保健の現状と今後の方向性について予習し、授業で学んだ内容を教科書で再確認しておくこと
10	学校保健	学校における児童生徒及び職員の仕事管理、学校における安全管理について予習し、授業で学んだ内容を教科書で再確認しておくこと
11	生活習慣病・難病	がん、心疾患、脳卒中、糖尿病などの生活習慣病、医学が進歩した現代においても治療法が確立しない難病について予習し、授業で学んだ内容を教科書で再確認しておくこと
12	健康教育とヘルスプロモーション	健康教育とヘルスプロモーションの概念やその取り組み方について予習し、授業で学んだ内容を教科書で再確認しておくこと
13	精神保健福祉	精神障がい者の人権尊重が重視され、こころの健康づくりが新たな課題となった精神保健福祉について予習し、授業で学んだ内容を教科書で再確認しておくこと
14	産業保健	仕事によって生じる病気・健康障害を予防し、健康を増進する産業保健について予習し、授業で学んだ内容を教科書で再確認しておくこと
15	これからの公衆衛生	将来の社会を展望し、公衆衛生はいつかあるべきかについて予習し、授業で学んだ内容を教科書で再確認しておくこと
成績評価方法と基準		
①筆記テスト ②小テスト		
割合 ①筆記テスト 80%、②小テスト 20%		

授業科目名	IPW論(検査) (Inter-Professional Work)	担当教員	科目区分	科目名	単位数	授業形態	授業概要
主担当教員	小宮山 恭弘	小宮山 恭弘、鍋田 智之、中根 征也、吉村 弥須子、上田 真喜子、森 誠司、小林 吉晴、竹岡 啓子、脇 英彦、佐伯 康匠、藤原 牧子、小林 彩香、小林 貴代、田畑 泰弘	専門基礎科目	DP①②③④	火曜1限 水曜5限 土曜1限 土曜2限 土曜3限 土曜4限	必修	
科目ナンバリング	SB119	小宮山 恭弘	開講学期	前期	1	必修・選択	
配当年次	3	小宮山 恭弘	曜日・時限	前期	1	必修・選択	
授業形態	演習	小宮山 恭弘	単位数	1	1	必修・選択	
授業概要		小宮山 恭弘					
他学科との専門連携や各々の知識、指導技術に触れることを目的に、IPW (interprofessional Work=専門職種連携) を5 学科協働で演習形式にて実践する。オムニバス形式にて IPW の実際について前講・経験・学修する。うち 4 回は 5 学科でのグループワークを行う。							
到達目標							
各分野の専門性を理解し、実際の症例に応じて職種間でのアプローサーの違いを経験する。患者の権利や意思を尊重したチームアプローサー法について学修する。							
履修上の注意 (学生へのメッセージ)							
授業中の私語、スマートフォン利用には厳しく対処する。 疑問点を大切にして探究心を持って自身で文献等検索し解決に結びつけるように行動する。 出席は 3/5 以上を必要とし、その基準を満たした物について成績評価を行う							
教科書							
通時資料配布する							
参考書							
各自準備すること							
研究室 / オフィスアワー							
小宮山研究室/月曜、木曜 18 時～							
授業展開及び授業計画表							
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当				
1	医療系職種①(鍼灸師)	本学鍼灸学科のカリキュラムに目を通しておく	小林 彩 宮山 鍋田				
2	医療系職種②(理学療法士)	本学理学療法学科のカリキュラムに目を通しておく	小林 彩 宮山 中根				
3	医療系職種③(作業療法士)	本学作業療法学科のカリキュラムに目を通しておく	小林 彩 宮山 松下				
4	医療系職種④(看護師)	本学看護学科のカリキュラムに目を通しておく	小林 彩 宮山 吉村				
5	チーム医療の実際 (各学科教員による Case Conference)	各学科の専門性について復習しておく	小林 彩 宮山				
6	症例提示によるアプローサー立案とその考察 ①	臨床検査技師の役割を再確認しておく	小林 彩 宮山				
7	症例提示によるアプローサー立案とその考察 ②	臨床検査技師の役割を再確認しておく	小林 彩 宮山				

8	症例提示によるアプローチ立案とその考察 ③	臨床検査技師の役割を再確認しておく	小林 彩 宮山 小
9	症例提示によるアプローチ立案とその考察 ④	臨床検査技師の役割を再確認しておく	小林 彩 宮山 小
10	症例提示によるアプローチ立案とその考察 ⑤	臨床検査技師の役割を再確認しておく	小林 彩 宮山 小
11	IPW①(11-14は4コマ連続)	各職種の実践性について復習しておく	田畑 彩 小 林
12	IPW②(11-14は4コマ連続)	各職種の専門性について復習しておく	田畑 彩 小 林
13	IPW③(11-14は4コマ連続)	各職種の専門性について復習しておく	田畑 彩 小 林
14	IPW④(11-14は4コマ連続)	各職種の専門性について復習しておく	田畑 彩 小 林
15	IPW⑤(プレゼンテーションと総評)	プレゼンテーションの準備	小林 彩 宮山 小
成績評価方法と基準			割合
1. レポート(1-15のまとめ)			1. 40%
2. IPWプレゼンテーション 出席は2/3以上を必要とし、その基準を満たした者について成績評価を行う			2. 60%

授業科目名	医用工学概論(検査) (Introduction to Medical Engineering)		
主担当教員	吉田 靖	担当教員	吉田 靖・藤 英彦
科目ナンバリング	SBI20	科目区分	専門基礎科目 DP①
配当年次	2	開講学期	前期 月曜4限
授業形態	講義	単位数	2 必修・選択 必修
授業概要	医療分野で行われる生体情報の収集・分析や治療における工学技術の基本となる電気電子工学の基礎について講義した後、生体計測機器、診断装置、治療機器の使用目的、原理、構造、特徴について概説するとともに、医用機器・設備の安全対策について教える		
到達目標	電気電子工学の基礎を理解する。 生体計測機器 医用機器の概要を理解する。 医用機器、設備の安全対策を理解する。		
履修上の注意(学生へのメッセージ)			
医用工学の専門用語や概念が難解ですが、医療資格として不可欠な基礎的な内容が多いので教科書を通読し、講義のサブノートを作成して習得すべきポイントを項目ごとに整理し理解する。			
教科書			
嶋津秀昭ほか(2018)「最新臨床検査学講座 医用工学概論」(医歯薬出版)			
参考書			
木村雄治(2001)「医用工学入門」(コロナ社)他、電気・電子工学に関するテキスト			
研究室／オフィスアワー			
担当教員に確認すること			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	科目内容の説明、生体物性の基礎と医療工学の必要性	教科書の該当項目を通読し不明な単語を抽出する。講義資料をポイントごとに整理する。	
2	電気・電子の基礎(1) 電気工学の基本(単位と記号、オームの法則)	教科書の該当項目を通読し不明な単語を抽出する。講義資料をポイントごとに整理する。	
3	電気・電子の基礎(2) 電磁気学の基礎	教科書の該当項目を通読し不明な単語を抽出する。講義資料をポイントごとに整理する。	
4	電気・電子の基礎(3) 直流回路	教科書の該当項目を通読し不明な単語を抽出する。講義資料をポイントごとに整理する。	
5	電気・電子の基礎(4) 交流回路	教科書の該当項目を通読し不明な単語を抽出する。講義資料をポイントごとに整理する。	
6	電気・電子の基礎(5) 能動素子	教科書の該当項目を通読し不明な単語を抽出する。講義資料をポイントごとに整理する。	
7	医用電子回路(1) 増幅器	教科書の該当項目を通読し不明な単語を抽出する。講義資料をポイントごとに整理する。	
8	医用電子回路(2) 発振回路と濾波回路	教科書の該当項目を通読し不明な単語を抽出する。講義資料をポイントごとに整理する。	
9	医用電子回路(3) テレメータと変調、復調	教科書の該当項目を通読し不明な単語を抽出する。講義資料をポイントごとに整理する。	
10	医用電子回路(4) 電源回路	教科書の該当項目を通読し不明な単語を抽出する。講義資料をポイントごとに整理する。	
11	医用電子回路(5) アナログ回路とデジタル回路	教科書の該当項目を通読し不明な単語を抽出する。講義資料をポイントごとに整理する。	
12	生体からの情報収集 生体信号と電極 生体信号変換器(トランスジューサ)	教科書の該当項目を通読し不明な単語を抽出する。講義資料をポイントごとに整理する。	
13	医療検査機器 波形情報と画像診断装置と治療機器	教科書の該当項目を通読し不明な単語を抽出する。講義資料をポイントごとに整理する。	
14	安全対策(1) 電撃とその対策 医用機器の安全基準	教科書の該当項目を通読し不明な単語を抽出する。講義資料をポイントごとに整理する。	

15	安全対策(2) 漏れ電流との対策	教科書の該当項目を通読し不明な単語を抽出する。講義資料をポイントごとに整理する。
成績評価方法と基準		割合
①筆記試験(80%)と②レポート課題(20%)で評価する		①80% ②20%

授業科目名	医用工学実習(検査) (Medical Engineering (Practice))		
主担当教員	吉田 靖	担当教員	吉田 靖・脇 英彦
科目ナンバリング	SB121	科目区分	専門基礎科目
配当年次	2	開講学期	前期
授業形態	実習	単位数	1
授業概要	電気電子工学の基礎実験、医用エレクトロニクス回路の特性解析、医療測定装置、変換機器などの安全性試験や特性試験などの実験を行う。		
到達目標	測定値を適切に処理できる。 電気素子の測定原理と測定方法を理解し、正しく測定できる。 オシロスコープを用いて、各種電気現象を解析できる。 医療測定機器を用いて、生体信号を正しく測定できる。 履修上の注意(学生へのメッセージ) 実験をする前に必ず実験の目的、原理、方法、注意事項、機器及び電子部品の構造、特性などを良く理解しておくこと。 教員が共同にて実験を行うのを各自協力して円滑に実験を行う。 実験終了後は必ず器具を片付け、万が一機器及び電子部品を破損させたときは直ちに教官に報告すること。 レポートは、簡潔で要領を得たものとする。		
教科書			
参考書	嶋津秀昭ほか(2018)「最新臨床検査学講座 医用工学概論」(医歯薬出版)		
担当教員に確認すること	研究室/オフィスアワー		
授業展開及び授業計画表	担当教員に確認すること		
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	オリエンテーション/実習レポート作成概要	教科書を通読しキーワードを理解する。 実習レポートをポイントごとに整理する。	
2	テストの取扱とその応用	教科書を通読しキーワードを理解する。 実習レポートをポイントごとに整理する。	
3	オシロスコープの基本操作の取得/抵抗素子・コンデンサの特徴	教科書を通読しキーワードを理解する。 実習レポートをポイントごとに整理する。	
4	CR結合回路の周波数特性と時定数の測定	教科書を通読しキーワードを理解する。 実習レポートをポイントごとに整理する。	
5	タイオードの特性/半波整流・全波整流回路	教科書を通読しキーワードを理解する。 実習レポートをポイントごとに整理する。	
6	タイオードを用いた平滑回路	教科書を通読しキーワードを理解する。 実習レポートをポイントごとに整理する。	
7	トランジスタの増幅率測定	教科書を通読しキーワードを理解する。 実習レポートをポイントごとに整理する。	
8	トランジスタの特性の測定	教科書を通読しキーワードを理解する。 実習レポートをポイントごとに整理する。	
9	オペアンプの特性	教科書を通読しキーワードを理解する。 実習レポートをポイントごとに整理する。	
10	オペアンプの各種演算回路	教科書を通読しキーワードを理解する。 実習レポートをポイントごとに整理する。	
11	各種論理回路の特性	教科書を通読しキーワードを理解する。 実習レポートをポイントごとに整理する。	
12	各種論理回路の動作確認	教科書を通読しキーワードを理解する。 実習レポートをポイントごとに整理する。	
13	サーミスタと光電素子の動作	教科書を通読しキーワードを理解する。 実習レポートをポイントごとに整理する。	
14	医用機器安全	教科書を通読しキーワードを理解する。 実習レポートをポイントごとに整理する。	
15	安全と雑音	教科書を通読しキーワードを理解する。 実習レポートをポイントごとに整理する。	

成績評価方法と基準	割合
① 筆記試験 (60%)と②実習レポート(40%)で評価する。4/5の出席が必要	①60% ②40%

授業科目名	臨床病態学 I (検査) (Clinical Pathology I)		
主担当教員	前川 佳敬	担当教員	前川 佳敬
科目ナンバリング	SS201	科目区分	ディプロマポリシー 該当項目 DP①
配当年次	2	開講学期	曜日・時限 木曜 1 限
授業形態	講義	単位数	必修・選択 必修
授業概要	<p>よき医療人になる上で必要不可欠な臨床病態学の知識・考え方について講義する。診断学・疫学を理解し、医療の現場で応用できるようにする。また各種疾患について、その病態・治療を論理的に理解・説明できるようにすると同時に、検査結果から治療の必要性の有無が判断できる能力を身につける。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 各種臓器の働きを理解する。 2. 各種疾病の本質・病態を論理的に理解する。 3. 各種疾病の臨床症状・検査法・治療法が合理的に説明できる。 <p>履修上の注意 (学生へのメッセージ)</p> <p>臨床病態学に関する知識や情報を習得するだけでなく、自分の意見を持ち、かつそれを表出できるようにしてほしい。 講義内容にあらかじめ目を渡し、自分の考えをもっておくことが望ましい。</p>		
教科書	教科書		
	臨床医学総論/臨床検査医学概論 (医歯薬出版株式会社)		
参考書	参考書		
	病気がみえる シリーズ MEDIC MEDIA		
	教材がある場合は適宜配布する。		
	研究室/オフィスアワー		
	C棟研究室 8 / 部屋にいればいつでも訪問可です。質問等はいつでもご自由どうぞ。		
	授業展開及び授業計画表		
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	医学概論	教科書の目次通りのタイトルであり、授業の順番も目次どおりに行う。授業に該当する疾患臓器などの解剖・生理機能については、必ず自宅学習で知識を確実にしておくこと。学んだ疾患の病態・検査・治療を合理的に説明できるようにしておくこと。小テストや課題提出の可能性もあります。	
2	循環器疾患 (1)	〃	
3	循環器疾患 (2)	〃	
4	循環器疾患 (3)	〃	
5	呼吸器疾患 (1)	〃	
6	呼吸器疾患 (2)	〃	
7	消化器疾患 (1)	〃	
8	消化器疾患 (2)	〃	
9	肝・胆・膵疾患 (1)	〃	
10	肝・胆・膵疾患 (2)	〃	
11	感染症 (1)	〃	
12	感染症 (2)	〃	
13	感染症 (3)	〃	
14	感染症 (4)	〃	

15	総復習	授業での総復習を確認しつつ、総合的な復習を自宅で行うこと。
成績評価方法と基準	割合	
筆記テスト	筆記テスト	100%

授業科目名	臨床病態学Ⅱ(検査) (Clinical Pathology II)		
主担当教員	前川 佳敬	担当教員	前川 佳敬
科目ナンバリング	SS202	科目区分	ディプロマポリシー 該当項目 DP①
配当年次	2	開講学期	曜日・時限 月曜3限
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	<p>授業概要</p> <p>よき医療人になる上で必要不可欠な臨床病態学の知識・考え方について講義する。診断学・症候学を理解し、医療の現場で応用できるようにする。また各種疾患について、その病態・治療を論理的に理解・説明できるようにすると同時に、検査結果から治療の必要性の有無が判断できる能力を身につける。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 各種臓器の働きを理解する。 2. 各種疾病の本質・病態を論理的に理解する。 3. 各種疾病の臨床症状・検査法・治療法が合理的に説明できる。 <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>臨床病態学に関する知識や情報を習得するだけでなく、自分の考えをもち、かつそれを表出できるようにしてほしい。</p> <p>講義内容にあらかじめ目を通し、自分の考えをもち、自分の考えをもち、かつそれを表出できるようにしてほしい。</p> <p>教科書</p> <p>臨床医学総論/臨床検査医学概論(医歯薬出版株式会社)</p> <p>参考書</p> <p>病気がみえる シリーズ MEDIC MEDIA 教材がある場合は適宜配布する。</p> <p>研究室/オフィスアワー</p> <p>C棟研究室8/都屋にいればいつでも訪問可です。質問等はいつでも自由にとどうぞ。</p>		
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	血液・造血器疾患(1)	教科書の目次通りのタイトルであり、授業の順番も目次どおりに行う。授業に該当する疾患臓器などの解剖・生理機能については、必ず自宅学習で知識を確実にしておくこと。学んだ疾患の病態・検査・治療を合理的に説明できるようにしておくこと。小テストや課題提出の可能性もあります。	
2	血液・造血器疾患(2)	〃	
3	血液・造血器疾患(3)	〃	
4	内分泌疾患(1)	〃	
5	内分泌疾患(2)	〃	
6	腎・尿路疾患	〃	
7	男性・女性生殖系疾患	〃	
8	神経・運動器疾患(1)	〃	
9	神経・運動器疾患(2)	〃	
10	アレルギー性疾患、膠原病、免疫不全症(1)	〃	
11	アレルギー性疾患、膠原病、免疫不全症(2)	〃	
12	代謝・栄養障害(1)	〃	
13	代謝・栄養障害(2)	〃	
14	感覚器疾患(眼・耳鼻)	〃	

15	染色体・遺伝子異常症 皮膚および乳腺の疾患	”
成績評価方法と基準		割合
筆記テスト		筆記テスト 100%

授業科目名		血液検査学Ⅰ(検査) (Clinical Laboratory Hematology I)	
主担当教員	藤原 牧子	担当教員	藤原 牧子、須宿 敏彦
科目ナンバリング	SS203	科目区分	専門科目
配当年次	2	開講学期	前期
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	<p>血液検査は、貧血、白血球、凝回異常症などの診断や、炎症の有無、抗凝固薬法のモニタリングなど各種疾患のスクリーニング、治療後の効果判定、経過観察などに用いられている。最も一般的に行われる検査であり、正確な検査結果を報告するためには、血液の構成要素について熟知し、検査の原理、異常値の出る要因についての知識を修得することが必要である。血液検査Ⅰでは血液検査の基礎となる血球、凝回・線溶系について基礎知識を習得し、検査方法と結果の判定について学ぶ。</p> <p>※本科目は実務経験のある教員等による授業科目です</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 血球の機能を理解し、産生と崩壊について説明できる。 2. 血球の形態が判別できる。 3. 凝回・線溶機構について理解し、分子マーカーについて説明できる。 4. 血液検査の意義を理解し、異常値について考察できる。 		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	<p>血液検査Ⅰは血液検査学Ⅱ(2年次後期)、血液検査学実習(3年次前期)の基礎知識として非常に重要な内容です。毎回予習、復習に努め、知識を積み重ねてください。</p>		
教科書	『最新臨床検査学講座 血液検査学』奈良信雄 他/医歯薬出版株式会社		
参考書			
必要に応じて紹介する			
研究室/オフィスアワー	C棟7階職員室 水曜 17時～		
授業展開及び授業計画表			
回数	字修内容	予習・復習・課題等	担当
1	血液の基礎① 血液の成分 造血	予習:教科書を読んでくる 復習:授業をもとに教科書を再確認する	
2	血液の基礎② 検体の採取と保存 自動分析法	予習:教科書を読んでくる 復習:授業をもとに教科書を再確認する	
3	赤血球① 赤血球の産生と崩壊 赤血球の機能 エネルギー代謝	予習:教科書を読んでくる 復習:授業をもとに教科書を再確認する	
4	赤血球② 鉄の代謝 ビタミン・葉酸の代謝	予習:教科書を読んでくる 復習:授業をもとに教科書を再確認する	
5	赤血球③ 赤血球の形態異常 基準範囲と検査法	予習:教科書を読んでくる 復習:授業をもとに教科書を再確認する	
6	白血球① 白血球の産生と崩壊 形態と機能 細胞回転	予習:今まで習った範囲を復習 復習:授業をもとに重要箇所を各自整理する	
7	白血球② 白血球の異常と疾患	予習:教科書を読んでくる 復習:授業をもとに教科書を再確認する	
8	白血球③ 白血球系疾患の検査法	予習:教科書を読んでくる 復習:授業をもとに教科書を再確認する	
9	症例検討①	予習:なし 復習:講義内容を整理し、再確認する	

10	血小板① 血小板の産生と崩壊 形態と機能 止血	予習：教科書を読んでくる 復習：授業をもとに教科書を再確認する	
11	血小板② 血小板機能検査法 血小板の異常と疾患	予習：教科書を読んでくる 復習：授業をもとに教科書を再確認する	
12	凝固・線溶系① 血液凝固の機序と制御機構 凝固因子 凝固検査	予習：教科書を読んでくる 復習：授業をもとに教科書を再確認する	
13	凝固・線溶系② 線溶の機序と線溶の制御機構 分子マーカー検査	予習：教科書を読んでくる 復習：授業をもとに教科書を再確認する	
14	凝固・線溶系③ 出血性疾患とその検査法 血栓症	予習：教科書を読んでくる 復習：授業をもとに教科書を再確認する	
15	症例検討②	予習：なし 復習：講義内容を整理し、再確認する	
成績評価方法と基準			割合
1. 小テスト			1. 20%
2. 定期試験			2. 80%

血液検査学Ⅱ(検査) (Clinical Laboratory Hematology II)			
授業科目名	藤原 牧子	担当教員	藤原 牧子、崎宿 敏彦
主担当教員	SS204	専門科目	DP①
科目ナンバリング	2	後期	木曜2限
配当年次	講義	単位数	2
授業形態			必修・選択
授業概要	血液検査は、貧血、白血球、凝固異常症などの診断や、炎症の有無、抗凝固療法でのモニタリングなど各種疾患のスクリーニング、治療後の効果判定、経過観察などに用いられている。最も一般的に行われる検査であり、正確な検査結果を報告するためには、血液の構成要素について熟知し、検査の原理、異常値の出る要因についての知識を修得することが必要である。血液検査Ⅱでは血液検査Ⅰで修得した知識を検査結果の評価と診断への応用、疾患の鑑別を用いる過程について学ぶ。 ※本科目には実務経験のある教員等による授業科目です		
到達目標	1. 血液検査結果が正しく評価できる。 2. 主要な血液疾患についての知識を習得し、診断に用いられる検査項目を列挙することができる。		
	履修上の注意(学生へのメッセージ) 血液検査Ⅱでは、より臨床に即した知識を修得します。血液検査Ⅰ(2年次前期)が基礎知識として必要であるため、前期の学習内容を改めて毎回予習、復習に努め、知識を積み重ねてください。		
教科書	『最新臨床検査学講座 血液検査学』 奈良信雄 他/医歯薬出版株式会社		
参考書			
必要に応じて紹介する			
研究室/オフィスアワー	C棟7階職員室 水曜 17時～		
授業展開及び授業計画表			
回数	字修内容	予習・復習・課題等	担当
1	赤血球系疾患① 血球数算定法(用手・機械) 赤血球数恒数 形態異常	予習：教科書を読んでくる 復習：授業をもとに教科書を再確認する	
2	赤血球系疾患② 貧血・多血症	予習：教科書を読んでくる 復習：授業をもとに教科書を再確認する	
3	赤血球系疾患③ 貧血の検査	予習：教科書を読んでくる 復習：授業をもとに教科書を再確認する	
4	症例検討①	予習：教科書を読んでくる 復習：授業をもとに教科書を再確認する	
5	血小板の異常による出血性疾患① 血小板機能検査 偽性血小板減少症	予習：教科書を読んでくる 復習：授業をもとに教科書を再確認する	
6	血小板の異常による出血性疾患② 血小板減少・増加症 血小板機能異常症	予習：教科書を読んでくる 復習：授業をもとに教科書を再確認する	
7	凝固・線溶因子の異常① 凝固検査 線溶検査 分子マーカー 血友病 VWD	予習：教科書を読んでくる 復習：授業をもとに教科書を再確認する	
8	凝固・線溶因子の異常② クロスマキシング試験 循環抗凝血素 DIC APS	予習：教科書を読んでくる 復習：授業をもとに教科書を再確認する	
9	血管の異常・血管性紫斑病・血栓性疾患 紫斑病 先天性血栓性疾患 深部静脈血栓症	予習：教科書を読んでくる 復習：授業をもとに教科書を再確認する	

10	症例検討②	予習：教科書を読んでくる 復習：授業をもとに教科書を再確認する	割合
11	白血球系疾患① 末梢血標本作製法 正常血液像 形態異常 白血球増加・減少症 リンパ球の異常	予習：教科書を読んでくる 復習：授業をもとに教科書を再確認する	1. 20%
12	造血器の疾患① 白血病 FAB 分類 骨髄像 特殊染色	予習：教科書を読んでくる 復習：授業をもとに教科書を再確認する	2. 80%
13	造血器の疾患② 白血病 WHO 分類 細胞表面抗原検査 遺伝子・染色体検査	予習：教科書を読んでくる 復習：授業をもとに教科書を再確認する	
14	造血器の疾患③ 白血病 WHO 分類 細胞表面抗原検査 遺伝子・染色体検査	予習：教科書を読んでくる 復習：授業をもとに教科書を再確認する	
15	造血器の疾患④ 慢性骨髄増殖性疾患 骨髄腫	予習：教科書を読んでくる 復習：授業をもとに教科書を再確認する	
成績評価方法と基準			
1. 小テスト			
2. 定期試験			

授業科目名 血液検査学実習(検査) (Clinical Laboratory Hematology (Practice))			
主担当教員	鳩宿 敏彦	担当教員	鳩宿 敏彦、藤原 枚子
科目ナンバリング	SS205	科目区分	ディプロマポリシー 該当項目 DP①④
配当年次	3	開講学期	曜日・時限 木曜 3 限 木曜 4 限
授業形態	実習	単位数	1
授業概要			
血液検査に関して、病院実習あるいは臨床現場で必要とされる基礎的な検査技術を実習する。			
到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ① 検査に応じた検体処理ができる。 ② 各種白血球数の算定ができる。 ③ 赤血球指数を計算できる。 ④ 溶血の検査ができる。 ⑤ 末梢血標本を作製できる。 ⑥ 普通染色、特殊染色が行える。 ⑦ 血球形態が判別できる。 ⑧ 血小小板機能検査ができる。 ⑨ 凝固検査ができる。 ⑩ 凝固・線溶系分子マーカーについて理解できる。 			
履修上の注意 (学生へのメッセージ)			
<ul style="list-style-type: none"> ・検査の目的と原理について復習しておくこと。 ・予め実習手順書を熟読し、検査手技をイメージして実習に臨むこと。 ・班単位で実習をおこなう指示がある場合は、班員の役割分担を明確にし、全員が行動できるように工夫して取り組むこと。 ・実習前半と後半で実習内容の割り当てが変わることがある。教員の指示を注意深く聴いて自主的に行動することを期待する。 			
教科書			
配布資料			
参考書			
『JAMT 技術教本シリーズ 血液検査技術教本』 一般社団法人日本臨床衛生検査技術協会監修 丸善出版株式会社			
『臨床検査学実習書シリーズ 血液検査学実習書』 一般社団法人日本臨床検査学教育協議会監修 医歯薬出版株式会社			
研究室 / オフィスアワー			
C棟7階職員室 水曜 17時～			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	①用手法による白血球数算定 (白血球 赤血球 好酸球) ②標本観察の基礎	予習：実習手順書の確認 復習：レポート課題の作成	
2	①ヘモグロビン測定法 ②ヘマトクリット測定法 血沈	予習：実習手順書の確認 復習：レポート課題の作成	
3	①溶血の検査 (バーバート法) ②末梢血液塗抹標本の観察	予習：実習手順書の確認 復習：レポート課題の作成	
4	①普通染色 ②骨髓塗抹標本の観察	予習：実習手順書の確認 復習：レポート課題の作成	
5	①普通染色 ②骨髓塗抹標本の観察	予習：実習手順書の確認 復習：レポート課題の作成	
6	①普通染色 ②骨髓塗抹標本の観察	予習：実習手順書の確認 復習：レポート課題の作成	
7	①普通染色 ②骨髓塗抹標本の観察	予習：実習手順書の確認 復習：レポート課題の作成	
8	①普通染色 ②骨髓塗抹標本の観察	予習：実習手順書の確認 復習：レポート課題の作成	

9	①特殊染色 ②骨髓塗抹標本の観察	予習:実習手順書の確認 復習:レポート課題の作成	
10	"	"	
11	血液疾患の標本観察	予習:実習手順書の確認 復習:レポート課題の作成	
12	①血小板数算定 血小板粘着能 Fonio 法 ②血液疾患の標本観察	予習:実習手順書の確認 復習:レポート課題の作成	
13	"	"	
14	凝固検査(的手法)	予習:実習手順書の確認 復習:レポート課題の作成	
成績評価方法と基準			
1. 講義中の手技確認			
2. レポート			
			割合 1. 50% 2. 50%

病理検査学(検査) (Clinical Laboratory Pathology)			
授業科目名	上田 真喜子	担当教員	上田 真喜子
主担当教員	SS206	専門科目	DP①
科目ナンバリング	3	開講学期	曜日・時限
配当年次	講義	単位数	2
授業形態			必修・選択
授業概要	病理検査は、人体から採取された組織や細胞の一部を顕微鏡で観察し、病変の有無や種類、広がりなどを調べるもので、患者の診断や治療方針にも直結する重要な検査の一つである。正しい病理診断には、迅速で誤りのない標本作製が必要であり、標本作製を担当する臨床検査技師の知識・技術がびくびく関わる。本講義では、病理検査の意義、種類、標本作製法などを学び、人体の臓器、組織、細胞の形態と機能の変化を通じて、疾患の原因・成り立ち、経過・転帰を理解する。		
到達目標	1. 病理検査の意義と標本作製法が説明できる。 2. 様々な染色法の意義・目的・原理・手技などを説明することができる。病理検査学実習へスムーズに移行できる。 3. 上記の知識を習得し、これを用いて正常形態や病的形態を、肉眼レベル・顕微鏡レベルで理解する。		
履修上の注意	(学生へのメッセージ) 人体の構造および人体の構造実習(組紐学)を理解しておくこと 項目ごとに小テストを行うので、講義後に教科書をよく読み復習を十分に行うこと。		
教科書	「病理学/病理検査学」 医歯薬出版 「入門組織学」 南江堂		
参考書	「臨床検査学入門」 KIC 中央出版 「標準病理学」 医学書院 「シンブル病理学」 南江堂 「臨床検査学講座「解剖学」 医歯薬出版		
研究室/オフィスアワー	研究室/在室時には、いつでも訪問可です。 小林彩香 職員室/在室時には、いつでも訪問可です。		

授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	病理学的検査の意義、業務管理、病理解剖について	予習:「人体の構造」病理学を復習しておく。 復習:授業内容をノートにまとめる。	
2	病理組織標本作製法①(固定、切り出し、脱脂、脱灰)	予習:教科書の該当部分を学習しておく。 復習:授業内容をノートにまとめる。	
3	病理組織標本作製法②(包埋、薄切、凍結切片標本作製法)	予習:教科書の該当部分を学習しておく。 復習:授業内容をノートにまとめる。	
4	染色法の一般理論と操作概要	予習:教科書の該当部分を学習しておく。 復習:授業内容をノートにまとめる。	
5	ヘマトキシリン・エオジン染色	予習:教科書の該当部分を学習しておく。 復習:授業内容をノートにまとめる。	
6	結合組織の染色法①(膠原線維)	予習:教科書の該当部分を学習しておく。 復習:授業内容をノートにまとめる。	
7	結合組織の染色法②(弾性線維、細網線維)	予習:教科書の該当部分を学習しておく。 復習:授業内容をノートにまとめる。	
8	多糖類、腎糸球体基底膜の染色法	予習:教科書の該当部分を学習しておく。 復習:授業内容をノートにまとめる。	
9	脂質、核膜、アミロイド、組織内無機物質の染色法	予習:教科書の該当部分を学習しておく。 復習:授業内容をノートにまとめる。	
10	生体内色素、内分泌細胞の染色法	予習:教科書の該当部分を学習しておく。 復習:授業内容をノートにまとめる。	
11	組織内病原体、神経組織の染色法	予習:教科書の該当部分を学習しておく。 復習:授業内容をノートにまとめる。	
12	免疫組織化学染色法	予習:教科書の該当部分を学習しておく。 復習:授業内容をノートにまとめる。	
13	電子顕微鏡標本作製法	予習:教科書の該当部分を学習しておく。 復習:授業内容をノートにまとめる。	
14	細胞学的検査法①(意義、処理法)	予習:教科書の該当部分を学習しておく。 復習:授業内容をノートにまとめる。	

15	細胞学的検査法②（染色、スクリーニング）	予習：教科書の該当部分を学習しておく。 復習：授業内容をノートにまとめる。
成績評価方法と基準		
割合		
小テスト 20%		
定期試験 80%		
1. 授業中に行う小テスト		
2. 定期試験		

授業科目名	病理検査学実習(検査) (Clinical Laboratory Pathology (Practice))		
主担当教員	上田 真喜子	担当教員	上田 真喜子、小林 彩香
科目ナンバリング	SS207	科目区分	ディプロマポリシー 該当項目 DP①④
配当年次	3	開講学期	曜日・時限 水曜3限 水曜4限
授業形態	実習	単位数	1
<p>授業概要</p> <p>病理検査学で学習した項目(固定、薄切、HE染色、特殊染色など)を習得する。標本作製に関する専門的知識の重要性と必要性を理解する。特殊染色と疾患との関連性について学ぶ。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 固定、包埋、薄切～染色までの病理組織学的検査法の一連の流れを理解する。 2. HE染色、特殊染色の原理、染色手順、結果を説明できる。 3. 観察目的に応じた染色法を選択できる。 <p>実習を通じて学習したことについて知識と技術の定着を図る。</p> <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>実習中は、安全な服装に白衣を着用し長い髪は束ねる。鋭利な刃物、有害な薬品等の使用も多いためケガや事故には十分注意する。諸注意を聞かない状態での実験中入室は認めない。</p> <p>スケッチは色鉛筆を使用するので持参すること。本実習では、国家試験で頻出の染色法を選出しているのので、病理検査学の講義内容と関連づけて理解すること。</p> <p>教科書</p> <p>「病理検査技術教本 (JAMIT 技術教本シリーズ)」 日本臨床衛生検査技師会 「病理学/病理検査学」 医歯薬出版 「入門組織学」 南江堂</p> <p>参考書</p> <p>「最新 染色法のすべて」 医歯薬出版 「臨床検査学入門」 KIC 中央出版 「標準病理学」 医学書院</p> <p>研究室/オフィスアワー</p> <p>上田真喜子 研究室/在室時には、いつでも訪問可です。 小林彩香 職員室/在室時には、いつでも訪問可です。</p> <p>授業展開及び授業計画表</p>			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	1.2 ガイダンス(実習内容の説明・注意事項)、染色の準備 固定、切り出し、脱脂、パラフィン浸透	予習: 該当項目を勉強しておく。 復習: 実習内容をまとめる。	上田 小林
2	3.4 包埋、薄切、脱パラフィン～HE染色、封入	予習: 該当項目を勉強しておく。 復習: 実習内容をまとめる。	上田 小林
3	5.6 結合組織の染色法(アザン染色、マッソントリクローム染色、EVG染色)	予習: 該当項目を勉強しておく。 復習: 実習内容をまとめる。	上田 小林
4	7.8 結合組織の染色法(濾過の鏡銀染色、PAM染色、PTAH染色)	予習: 該当項目を勉強しておく。 復習: 実習内容をまとめる。	上田 小林
5	9.10 神経染色法(クリューバー・パルラ染色)多糖類の染色(PAS反応、アルシアン青染色)	予習: 病理検査学の講義内容を復習しておく。 復習: 実習内容をまとめる。	上田 小林
6	11.12 組織内病原体の染色(クロコット染色、チール・ネルゼン染色)	予習: 該当項目を勉強しておく。 復習: 実習内容をまとめる。	上田 小林
7	13.14 無機物質の染色(ベルリン青染色)脂肪染色(オイル赤0)	予習: 該当項目を勉強しておく。 復習: 実習内容をまとめる。	上田 小林
8	15 細胞学的検査法、ハバニコロウ染色	予習: 該当項目を勉強しておく。 復習: 実習内容をまとめる。	上田 小林
成績評価方法と基準			
1. レポート 2. 定期試験 3. 実習での積極性			
割合			
1. 20%			
2. 70%			
3. 10%			

授業科目名 一般検査学(検査) (Urinalysis and Body Fluids)			
主担当教員	小林 彩香	担当教員	小林 彩香、小宮山 恭弘、脇 英彦
科目ナンバリング	SS208	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目
配当年次	2	開講学期	前期
授業形態	演習	単位数	1
授業概要	必修、選択		
到達目標	<p>一般検査学では、尿・便・体液検査等の各項目について、目的・原理・方法・注意点を学習する。また、測定結果の解釈を学ぶことも、検査がどのような病態変化をもたらすために検査が依頼されるのかを理解する。</p> <p>1. 尿・便・体液検査の各項目について、目的・原理・方法・注意点を理解し行える。</p> <p>2. 測定結果がどのような病態を反映しているのかを解釈できる。</p> <p>3. 講義・実習を通じて学習したことについて知識と技術の定着を図る。</p> <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>実習の際には、テキストやノート等の勉強道具以外は持ち込まない。荷物やコートはロッカーに入れておく。実習中は、白衣を着用し長い髪は束ねる。また、遅刻により講義を聞かない状態での実習は不可のため、途中入室は認めない。実習では、自分の尿を用いることで患者心理理解の一助とする。</p>		
教科書	「臨床検査学入門」KTC中央出版		
参考文献	「臨床検査学講座 一般検査学」医歯薬出版 ISBN978-4-263-22367-3 C3347 「臨床検査学実習シリーズ 一般検査学実習書」医歯薬出版		
研究室/オフィスアワー	脇 英彦 研究室/ 月曜日 16:30-17:30 火曜日 16:30-17:30 小宮山 恭弘 研究室/ 月曜日 16:30-17:30 火曜日 16:30-17:30 小林 彩香 職員室/ 月曜日 16:30-17:30 火曜日 16:30-17:30		

授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	一般検査の概論、尿の基礎知識、尿の一般的性状、尿検体・尿試験紙取り扱いについて	予習：1年前期の「臨床検査学総論」の尿に関する部分の復習をしてくる。 復習：授業内容をノートにまとめる。 p1~13	脇英彦
2	尿比重、尿浸透圧、尿pH、尿蛋白、尿糖、ケトンの測定について	予習：教科書の該当部分を学習してくる。 復習：授業内容をノートにまとめる。 p13~24	脇英彦
3	ビリルビン、ウロビリリン体、血尿、亜硝酸塩、白血球、アスコルビン酸、hCG妊娠反応について	予習：教科書の該当部分を学習してくる。 復習：授業内容をノートにまとめる。 p24~35	脇英彦
4	ポルフィリン体、フェニルケトン体、アルカプトン等の病的代謝物質について	予習：教科書の該当部分を学習してくる。 復習：授業内容をノートにまとめる。 p35~47	脇英彦
5	腎機能検査について	予習：教科書の該当部分を学習してくる。 復習：授業内容をノートにまとめる。 p48~50	小林彩香
6	尿沈渣、尿中の有形成分と細胞について 実習の諸注意について	予習：実習書を読んでくる。 復習：実習内容をノートにまとめる。 p50~87	小宮山恭弘
7	尿の性状検査(尿量、色調、混濁の鑑別)、尿試験紙、自動分析装置	予習：実習書を読んでくる。 復習：実習内容をノートにまとめる。	脇英彦 小宮山恭弘 小林彩香

8	尿沈渣(無染色)、顕微鏡操作 実習	尿沈渣(無染色)、顕微鏡操作 実習	予習：実習書を読んでくる。 復習：実習内容をノートにまとめる。	脇英彦 小宮山恭弘 小林彩香
9	尿沈渣(S染色)、尿比重 実習	尿沈渣(S染色)、尿比重 実習	予習：実習書を読んでくる。 復習：実習内容をノートにまとめる。	脇英彦 小宮山恭弘 小林彩香
10	便検査、胃液、十二指腸液、結石について 実習	便検査、胃液、十二指腸液、結石について 実習	予習：教科書の該当部分を学習してくる。 復習：授業内容をノートにまとめる。 p89~97、113~120、p147、148	小林彩香
11	尿沈渣(細胞数カウント)、便検査 実習	尿沈渣(細胞数カウント)、便検査 実習	予習：実習書を読んでくる。 復習：実習内容をノートにまとめる。	脇英彦 小宮山恭弘 小林彩香
12	喀痰、体液、穿刺液について 実習	喀痰、体液、穿刺液について 実習	予習：教科書の該当部分を学習してくる。 復習：授業内容をノートにまとめる。 p107~111、121~127、137~145	小林彩香
13	精液、髄液 実習	精液、髄液 実習	予習：教科書の該当部分を学習してくる。 復習：授業内容をノートにまとめる。 p129~136、99~105	小林彩香
14	髄液検査 実習	髄液検査 実習	予習：実習書を読んでくる。 復習：実習内容をノートにまとめる。	脇英彦 小宮山恭弘 小林彩香
15	総復習(尿の基礎知識から結石まで) 実習	総復習(尿の基礎知識から結石まで) 実習	予習：予習：第1~14回の講義・実習の復習をしてくる。 復習：授業内容をノートにまとめる。	小宮山恭弘
成績評価方法と基準				割合
1. 講義のときは、小テスト。実習のときは、レポート提出				1. 30%
2. 定期試験				2. 70%
3. 4/5以上の出席が必要				

授業科目名	臨床化学検査学 I (検査) (Clinical Chemistry I)		
主担当教員	小林 吉晴	担当教員	小林 吉晴
科目ナンバリング	SS209	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目
配当年次	2	開講学期	前期
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	<p>基本的な臨床化学分析法について解説し、各生体成分の測定原理、疾患との関連について解説する。また、臨床化学分析によって得られるデータから、総合的に病態を理解できるように、さらに検査データが疾病の早期発見や治療効果の判定に用いられることを習得する。</p> <p>到達目標</p> <p>臨床検査値の臨床的意義を理解できるとともに、生体成分の測定法の原理について学ぶ。病態の変動に伴う検査データから病態を解析できるようになる。</p> <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>生化学、人体の構造と機能、生物学の知識が必要なのでこれらの科目と合わせて復習しておくこと。</p>		
教科書	最新 臨床検査学講座 臨床化学検査学 医歯薬出版株式会社 ISBN978-4-263-22363-5 C3347		
参考書			
特になし			
研究室/オフィスアワー	<p>小林 吉晴研究室/月曜日 16:00-18:00、火曜日 16:00-18:00 藤 英彦研究室 (月)16:30~17:30 (火)16:30~17:30 小宮山 恭弘研究室 (月)16:30~17:30 (火)16:30~17:30</p>		
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	臨床化学分析とその意義	教科書 P1-36 復習	
2	臨床化学分析の単位と標準物質	教科書 P8-10 復習	
3	測定値の管理	教科書 P11-18 復習	
4	基準範囲	教科書 P19-22 復習	
5	臨床判断値	教科書 P23-24 復習	
6	生理的変動と測定技術変動 臨床化学分析の標準体系	教科書 P25-36 復習	
7	自動分析装置(ディスプレイ型・ドライケム)	精密さの評価、正確さの評価について復習	
8	電解質と微量分析の分析法と意義①	Na ⁺ ~重炭酸イオン(教科書 P115-124 予習)	
9	電解質と微量分析の分析法と意義②	Ca ²⁺ ~Zn ²⁺ (亜鉛)(教科書 P125-142 予習)	
10	糖質及び血糖関連検査の分析法と意義	Glucose~乳酸(教科書 P143-153 予習)	
11	脂質とリポ蛋白の分析法と意義①	リポ蛋白~TG(教科書 P154-168 予習)	
12	脂質とリポ蛋白の分析法と意義②	リン脂質~ケトン体(教科書 P169-182 予習)	
13	蛋白質と蛋白分画の分析法と意義	TP~Bu 蛋白(教科書 P183-200 予習)	
14	その他蛋白・窒素化合物の分析法と意義	CRP~Cre(教科書 P204-215 予習)	
15	非蛋白性窒素化合物の分析法と意義	UA~ピリビン(教科書 P215-223 予習)	

成績評価方法と基準	割合
小テスト 20点 本試験 80点	小テスト 20% 本試験 80%

授業科目名	臨床化学検査学Ⅱ(検査) (Clinical Chemistry II)		
主担当教員	小林 吉晴	担当教員	小林 吉晴
科目ナンバリング	SS210	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目
配当年次	2	開講学期	後期
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	臨床化学分析の標準法とその原理について学修する。分析項目の測定値と疾患との関連性について病態を交えて知識を深める。検査データが疾患の早期発見や治療効果判定に用いられることを習得する。		
到達目標	臨床検査値の臨床的意義を理解できるとともに、生体成分の測定法の原理について学修する。疾患の進行に伴う検査データ変化から病態を解析できるようになる。		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	国家試験の出題頻度の高い履修科目であり、学修する検査項目も多いため、事前の予習をしっかり行い準備をすること。		
教科書	最新 臨床検査学講座 臨床化学検査学 医歯薬出版株式会社 ISBN978-4-263-22363-5 C3347		
参考書	特になし		
研究室/オフィスアワー	小林 吉晴研究室/月曜日 16:00-18:00、火曜日 16:00-18:00 藤 英彦研究室 (月)16:30~17:30 (火)16:30~17:30 小宮山 恭弘研究室 (月)16:30~17:30 (火)16:30~17:30		
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	酵素活性分析と意義①	AST~ALT(教科書 P224-239 予習)	
2	酵素活性分析と意義②	LD~ALP(教科書 P239-255 予習)	
3	酵素活性分析と意義③	γGT~LIP(教科書 P255-267 予習)	
4	酵素活性分析と意義④	ACP~MAG(教科書 P267-275 予習)	
5	骨代謝マーカー分析と意義	BAP~TR-AcP(教科書 P276-280 予習)	
6	ホルモン分析と意義①	GH~PTH(教科書 P281-297 予習)	
7	ホルモン分析と意義②	コルチゾール~HCG(教科書 P298-309 予習)	
8	ホルモン分析③とビタミン分析と意義	IRI~水溶性ビタミン(教科書 P309-327 予習)	
9	臓器機能評価と病態・肝機能	教科書 肝機能を予習	
10	臓器機能評価と病態・心・循環機能	教科書 心・循環機能を予習	
11	臓器機能評価と病態・腎機能	教科書 腎機能を予習	
12	臓器機能評価と病態・内分泌機能・酸塩基平衡機能	教科書 内分泌機能・酸塩基平衡機能を予習	
13	臓器機能評価と病態・骨代謝機能・炎症	教科書 骨代謝機能・炎症を予習	
14	臓器機能評価と病態・腫瘍マーカー・栄養状態・薬物モニタリング	教科書 腫瘍マーカー・栄養状態・薬物モニタリングを予習	
15	臓器機能評価と病態・総合演習	教科書 臓器機能評価を復習	

成績評価方法と基準	割合
小テスト 20点 本試験 80点	小テスト 20% 本試験 80%

授業科目名		臨床化学検査学実習(検査) (Clinical Chemistry (Practice))	
主担当教員	小林 吉晴	担当教員	小林 吉晴、小林 彩香、間根 将
科目ナンバリング	SS211	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目
配当年次	3	科目区分	DP①④
授業形態	実習	開講学期	前期
授業概要	臨床化学の検体検査で用いられる器具や機器の取り扱いを習熟する。同時に検体の取り扱い方について学ぶ。また、生体成分中の代表的な検査法の測定原理を理解し、各生体成分を用いる手法により測定して測定方法を修得する。さらに、得られた検査結果を病態と関連させて考察する。あわせて薬物などが検査結果に影響を与えることを確認する。レポートの書き方も学修する。		
到達目標	<p>(1)検体の取り扱い方、注意点を習得する。</p> <p>(2)測定法の実技を習得し、測定項目の目的や臨床的意義を理解する。</p> <p>(3)得られた結果を考察し、レポートとしてまとめられる能力を養う。</p>		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	グラフ用紙や電卓を持参すること。積極的に実習に取り組み、実習レポートは毎期日までに提出すること。		
教科書			
プリント及び参考文献	臨床化学検査学 医歯薬出版株式会社 ISBN978-4-263-22363-5 C3347		
研究室/オフィスアワー	なし		
随時			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	分光光度分析の基礎、器具・試薬・検体および予一タの取り扱い方、レポートの書き方	実験手順を再確認する。レポートの書き方を確認する。	小林吉晴、小林彩香
2	血清グルコースのグルコースオキシダーゼ・ペルオキシダーゼ・色素生成法による測定、検体中のアスコルビン酸のグルコース測定に及ぼす影響。測定法の特異性の確認(フルクトース、ガラクトースによる呈色)。	臨床化学検査学で使用した教科書 p88、p97、p145を参考に、予習すること	小林吉晴、小林彩香
3	血清尿酸のウリカナーゼ・ペルオキシダーゼ・色素生成法による測定、総コレステロールのコレステロールオキシダーゼ・ペルオキシダーゼ・色素生成法による測定、アスコルビン酸のグルコース測定に及ぼす影響。	臨床化学検査学で使用した教科書 p217、p162を参考に、予習すること	小林吉晴、小林彩香
4	血清総タンパク質を屈折計法、デュロット法、電気泳動法で測定。	臨床化学検査学で使用した教科書 p185、p186、p193を参考に、予習すること。	小林吉晴、小林彩香
5	血清乳酸脱水素酵素(LD)活性を紫外分光法(UV法)で測定。アミノアミノ酸アミノトランスフェラーゼ(AST)を紫外分光法で測定。	臨床化学検査学で使用した教科書 p233、p240を参考に、予習すること。	小林吉晴、小林彩香
6	血清クレアチニンをヤブコウジ法で測定。クレアチニンクリアランスを求める。	臨床化学検査学で使用した教科書 p213、p347を参考に、予習すること。	小林吉晴、小林彩香
7	血清総ビリルビンをEvelyn-Malloy変法で測定。ドライケミストリーによる検体測定。	臨床化学検査学で使用した教科書 p219、p221を参考に、予習すること。	小林吉晴、小林彩香
8	血清鉄をバソフェンナンスロリン直接法で測定。血清アルカリホスファターゼをKind-King法で測定。	臨床化学検査学で使用した教科書 p136、p251を参考に、予習すること。	小林吉晴、小林彩香
成績評価方法と基準		割合	
各項目ごとにレポートをまとめ期限内に提出すること。4/5回以上の出席が必要。		100%	

授業科目名		放射性同位元素検査学(検査) (Radioisotope Science)	
主担当教員	森 誠司	担当教員	森 誠司
科目ナンバリング	SS212	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目
配当年次	2	科目区分	DP①
授業形態	演習	開講学期	前期
授業概要	放射性同位元素(RI)は診断・治療といった医療の様々な場面で利用されている。本講義では臨床検査におけるRIの利用を中心に学修する。まずRIの物理的・化学的・生物学的な特性およびその検出法について基礎的な事項を学ぶ。放射線防護、放射線障害防止および管理に関する知識を伝え、臓器ごとに応用されるRI検査の原理と概要を概説して意義、またRI検査の知識についても学修する。		
到達目標	<p>※本科目は実務経験のある教員等による授業科目です</p> <p>「放射性物質」は自然科学において基礎から医療まで幅広く活用されており、我々の生活水準の維持や向上に欠くことはできないことを学修する。放射性核種と原子核の特徴、放射性核種の製造法について理解し、放射性核種の測定法を学ぶとともに、臨床検査への応用についての基礎的事項を理解する。</p> <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>高校化学基礎の原子の構造について復習しておくこと。</p>		
教科書	メディカルサイエンス放射線同位元素検査学(近代出版)編集:河村誠治 他		
参考文献	臨床検査学講座 放射線同位元素検査学(医歯薬出版株式会社)		
研究室/オフィスアワー	随時		
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	放射線とエネルギー	予習:原子の構造について理解してくる 復習:重要事項をノートにまとめる	
2	放射線の性質	予習:前回の講義を理解してくる 復習:重要事項をノートにまとめる	
3	放射線の測定①	予習:前回の講義を理解してくる 復習:重要事項をノートにまとめる	
4	放射線の測定②	予習:前回の講義を理解してくる 復習:重要事項をノートにまとめる	
5	放射性同位元素の製造	予習:前回の講義を理解してくる 復習:重要事項をノートにまとめる	
6	放射性医薬品とその基本的性質①	予習:前回の講義を理解してくる 復習:重要事項をノートにまとめる	
7	放射性医薬品とその基本的性質②	予習:前回の講義を理解してくる 復習:重要事項をノートにまとめる	
8	検体検査法 in vitro法①	予習:前回の講義を理解してくる 復習:重要事項をノートにまとめる	
9	検体検査法 in vitro法②	予習:前回の講義を理解してくる 復習:重要事項をノートにまとめる	
10	検体検査法 in vivo法①	予習:前回の講義を理解してくる 復習:重要事項をノートにまとめる	
11	検体検査法 in vivo法②	予習:前回の講義を理解してくる 復習:重要事項をノートにまとめる	
12	体外測定による検査法	予習:前回の講義を理解してくる 復習:重要事項をノートにまとめる	
13	放射線の生物作用	予習:前回の講義を理解してくる 復習:重要事項をノートにまとめる	
14	放射線損傷と細胞応答	予習:前回の講義を理解してくる 復習:重要事項をノートにまとめる	

15	安全取扱法と管理法	予習：前回の講義を理解しておく 復習：重要事項をノートにまとめる	割合
成績評価方法と基準			
1. 小テスト			1. 20%
2. 期末試験			2. 80%
2/3以上の出席を必要とする			

授業科目名	遺伝子検査学(検査) (Medical Genetics)		
主担当教員	森 誠司	担当教員	森 誠司
科目ナンバリング	SS213	科目区分	専門科目 DP①
配当年次	2	開講学期	後期
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	<p>遺伝子検査は分子生物学的解析技術の進歩に伴い、発展の著しい臨床検査分野である。感染症や血液疾患を中心に一部は日常検査として定着している。講義では実際の遺伝子検査について具体的な検査項目を取り上げ教授する。とくに先進的な医療での応用例なども積極的に紹介し遺伝子検査の可能性を学修する。</p> <p>※本科目は実務経験のある教員等による授業科目です</p> <p>到達目標</p> <p>以下の事項を修得する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 遺伝子とその発現機構について理解する 2. 遺伝子の基本的な取扱について理解する 3. 遺伝子解析法の原理と遺伝子検査の実際を理解する <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>生物基礎(DNA、遺伝子、ゲノム)に関して理解しておくこと。また一年次の生物、生化学の核酸についても復習しておくこと。</p>		
教科書	標準臨床検査学 遺伝子検査学 (医学書院)編集:宮地 勇人/横田 浩充		
参考書			
特になし			
研究室/オフィスアワー			
随時			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	セントラルドグマについて	予習:生物・生化学の復習しておく 復習:重要事項をノートにまとめる	
2	染色体の構造と機能	予習:前回の講義を理解しておく 復習:重要事項をノートにまとめる	
3	染色体異常の種類	予習:前回の講義を理解しておく 復習:重要事項をノートにまとめる	
4	遺伝子マッピング	予習:前回の講義を理解しておく 復習:重要事項をノートにまとめる	
5	染色体の検査法	予習:前回の講義を理解しておく 復習:重要事項をノートにまとめる	
6	染色体異常症と疾患	予習:前回の講義を理解しておく 復習:重要事項をノートにまとめる	
7	ゲノムとは	予習:前回の講義を理解しておく 復習:重要事項をノートにまとめる	
8	遺伝子の異常	予習:前回の講義を理解しておく 復習:重要事項をノートにまとめる	
9	遺伝病と遺伝様式	予習:前回の講義を理解しておく 復習:重要事項をノートにまとめる	
10	遺伝子診断その1	予習:前回の講義を理解しておく 復習:重要事項をノートにまとめる	
11	遺伝子診断その2	予習:前回の講義を理解しておく 復習:重要事項をノートにまとめる	
12	遺伝子治療	予習:前回の講義を理解しておく 復習:重要事項をノートにまとめる	
13	遺伝子検査法	予習:前回の講義を理解しておく 復習:重要事項をノートにまとめる	
14	遺伝子検査用機器とその保守管理	予習:前回の講義を理解しておく 復習:重要事項をノートにまとめる	

15	遺伝子検査の応用と課題	予習：前回の講義を理解してくる 復習：重要事項をノートにまとめる	
成績評価方法と基準		割合	
1. 小テスト		1. 20%	
2. 期末試験		2. 80%	

授業科目名		遺伝子検査実習(検査) (Medical Genetics (Practice))	
主担当教員	森 誠司	担当教員	森 誠司、佐伯 康匠
科目ナンバリング	SS214	科目区分	専門科目
配当年次	3	開講学期	前期
授業形態	実習	単位数	1
授業概要	<p>遺伝子検査学の講義で学んだ知識をもとに基礎的な遺伝子分析技術を修得し、臨床検査への応用に必要となる基礎技術を学ぶ。組織から DNA・RNA の抽出を試み、その原理と方法を修得する。制限酵素を利用した DNA の組み換えや形質転換、ポリメラーゼ連鎖反応 (PCR 法) による DNA の増幅、電気泳動による遺伝子を分離・同定する技術などを修得する。</p> <p>到達目標</p> <p>遺伝子検査に必要なサンプルを適切に取扱うことができる。 DNA および RNA の抽出と定量が適切にできる。 PCR 法の原理を理解し実施できる。 核酸の電気泳動ができる。 これら実習を通して遺伝子検査学の基本的な技術を修得し理論を体得することを目標とする。</p>		
履修上の注意 (学生へのメッセージ)			
手順書を熟読し原理を予習しておくこと。			
教科書			
事前に手順書を配布する。			
参考書			
特になし			
研究室 / オフィスアワー			
随時			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	オリエンテーション、機器の基本的な取り扱いについて	予習：実習書を熟読し理解しておくこと 復習：テーマごとにレポートを作成する	
2	組織からの核酸の抽出と定量	予習：実習書を熟読し理解しておくこと 復習：テーマごとにレポートを作成する	
3	〃		
4	細胞からの核酸抽出と増幅	予習：実習書を熟読し理解しておくこと 復習：テーマごとにレポートを作成する	
5	〃		
6	遺伝子発現定量 RT-PCR 法 ①	予習：実習書を熟読し理解しておくこと 復習：テーマごとにレポートを作成する	
7	〃		
8	遺伝子発現定量 RT-PCR 法 ②	予習：実習書を熟読し理解しておくこと 復習：テーマごとにレポートを作成する	
9	〃		
10	多型解析: PCR-RFLP	予習：実習書を熟読し理解しておくこと 復習：テーマごとにレポートを作成する	
11	〃		

12	遺伝子組換え実験①	予習：実習書を熟読し理解しておくこと 復習：テーマごとにレポートを作成する	
13	〃		
14	遺伝子組換え実験②	予習：実習書を熟読し理解しておくこと 復習：テーマごとにレポートを作成する	
15	〃	〃	
成績評価方法と基準			割合
テーマごとにレポートをまとめ期限内に提出する事。 レポートが基準に満たない場合は再試験期間中に筆記試験を課す。 4/5以上の出席が必要。			レポート 100%

授業科目名	バイオテクノロジー演習(検査) (Biotechnology Seminar)		
主担当教員	森 誠司	担当教員	森 誠司
科目ナンバリング	SS215	科目区分	ディプロマポリシー 該当項目 DP①④
配当年次	3	開講学期	前期 曜日・時限 火曜3限
授業形態	演習	単位数	1 必修・選択 必修
授業概要	<p>バイオテクノロジーは生命が持つ多様な機能を解き明かすことを目指した学問であり、それを利用する技術である。医薬品開発、食品生産、品種改良、環境改良など多くの分野に応用されており、基礎研究を通して新しい生物機能の開発や生体活性物質の探索など人々の生活に活用されることにもつながっている。反面バイオハザードの危険性、倫理的な問題もあり医学における生命工学の課題についても学ぶ。将来この分野の知識を生きて活躍できるように遺伝子工学、タンパク質工学、細胞工学の基礎的知識と技術を、演習を通して教授する。</p> <p>到達目標</p> <p>遺伝子工学でもちいる酵素の特性や使用方法を理解する。 遺伝子増幅法の各種応用、および遺伝子組み換え技術とその応用を理解する。 広く産業界で利用されるタンパク質工学、細胞工学の基礎的事項を理解する。 遺伝子工学の医療への応用を理解する。</p> <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>バイオテクノロジーはさまざまな分野で応用されており発展は目覚ましい、興味ある領域に関しては自ら進んで情報収集をしてほしい。講義ではどの分野であっても理解できる基礎的知識を修得してもらいたい。</p> <p>教科書</p> <p>資料等は配布する。</p> <p>参考書</p> <p>基礎から学ぶ遺伝子工学 共立社 理系総合のための生命科学 第3版 東京大学生命科学教科書編集委員会／編</p> <p>研究室／オフィスアワー</p> <p>随時</p>		
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	生物工学の基礎①:情報伝達	予習:生化学・遺伝子検査学を復習しておく 復習:重要事項をノートにまとめる	
2	生物工学の基礎②:発生、分化、増殖	予習:前回の講義を理解しておく 復習:重要事項をノートにまとめる	
3	生物工学の基礎③:ゲノム科学	予習:前回の講義を理解しておく 復習:重要事項をノートにまとめる	
4	生物工学の技術①:クロニング、増幅	予習:前回の講義を理解しておく 復習:重要事項をノートにまとめる	
5	生物工学の技術②:遺伝子導入	予習:前回の講義を理解しておく 復習:重要事項をノートにまとめる	
6	タンパク質工学	予習:前回の講義を理解しておく 復習:重要事項をノートにまとめる	
7	RNA 工学	予習:前回の講義を理解しておく 復習:重要事項をノートにまとめる	
8	細胞工学:培養技術、核酸導入(発現量の制御)	予習:前回の講義を理解しておく 復習:重要事項をノートにまとめる	
9	バイオインフォマティクス	予習:前回の講義を理解しておく 復習:重要事項をノートにまとめる	

10	生殖発生工学①	予習：前回の講義を理解して 復習：重要事項をノートにまとめる	
11	生殖発生工学②	予習：前回の講義を理解して 復習：重要事項をノートにまとめる	
12	産業利用①：発酵、有用菌、植物	予習：前回の講義を理解して 復習：重要事項をノートにまとめる	
13	産業利用②：バイオマス、メタゲノム解析	予習：前回の講義を理解して 復習：重要事項をノートにまとめる	
14	医療利用①：ゲノム創薬、バイオ医薬品	予習：前回の講義を理解して 復習：重要事項をノートにまとめる	
15	医療利用②：再生医療	予習：前回の講義を理解して 復習：重要事項をノートにまとめる	
成績評価方法と基準			割合
1. 期末試験			1. 80%
2. 小テスト			2. 20%
4/5以上の出席が必要。			

微生物検査学 I (検査) (Clinical Laboratory Microbiology I)			
授業科目名	微生物検査学 I (検査)	担当教員	木下 承浩
主担当教員	木下 承浩	担当教員	木下 承浩
科目ナンバリング	SS216	専門科目	DP①
配当年次	1	開講学期	後期
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	感染症の原因微生物について学習し、その形態と強毒微生物、常在菌、日和見感染症の関係を理解する。感染症検査に必要な知識と考え方および微生物の病原性・毒性を解説する。臨床材料から原因微生物を分離・同定するために必要な顕微鏡観察、培養方法、性状試験と薬剤感受性や耐性菌の考え方を学ぶ。培養・同定検査以外の迅速診断検査(POCT)や検出法についても理解する。		
到達目標	感染症診断に必要な基本的な微生物検査法(グラム染色、培養、同定、感受性)を理解する。臨床検査材料から分離される病原微生物の種類と感染症の病態を理解し説明できる。無菌材料と常在菌が混入する検査材料を理解し、原因微生物を考える。		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	微生物名は学名で覚える必要があるため、普段から菌種名を書くようにする。グラム染色による細菌分類を理解し説明できる。感染症の診断に必要な微生物検査法の理論と実際を習得する。		
教科書	教科書		
	「最新 臨床検査学講座 臨床微生物学」 医歯薬出版株式会社 編集／松本哲也		
参考書	参考書		
	新・カラーアトラス微生物検査 山中善代治／編集 医歯薬出版 医科ウイルス学 南山堂 高田實藏		
研究室／オフィスアワー	研究室／オフィスアワー		
講義の日	講義の日		
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	感染症・微生物学の歴史、微生物の分類	予習：細菌・真菌・原生動物・ウイルスの理解 復習：教科書・配布資料	
2	細菌の形態と構造	予習：細菌の構造・配列と性状、形態 復習：教科書・配布資料	
3	細菌の代謝と発育	予習：細菌の発育、培養要求、呼吸と発酵 復習：教科書・配布資料	
4	顕微鏡の種類と細菌の観察法・染色法	予習：顕微鏡による観察法、微生物の染色 復習：教科書・配布資料	
5	細菌の発育に必要な環境および栄養	予習：細菌の栄養素、培地の分類と成分 復習：教科書・配布資料	
6	細菌の培養法および集落観察・同定	予習：培地の種類と目的、培養法と集落観察 復習：教科書・配布資料	
7	微生物の遺伝・変異と遺伝子診断	予習：遺伝子の構成、形質転換、形質導入、接合、プラスミド、遺伝子診断 復習：教科書・配布資料	
8	滅菌および消毒	予習：滅菌・消毒の概念、消毒薬の種類と方法 復習：教科書・配布資料	

9	化学療法の方法の概念と抗腫瘍薬、抗ウイルス薬	予習：抗腫瘍薬の種類と特徴、抗結核薬、抗ウイルス薬 復習：教科書・配布資料	
10	薬剤耐性菌、ワクチンの概念・種類	予習：細菌の薬剤耐性機序、ワクチン接種 復習：教科書・配布資料	
11	正常細菌叢の分布と感染	予習：正常細菌叢の概念、分布、役割 復習：教科書・配布資料	
12	病原性と抵抗力	予習：感染経路、感染因子、生体防御と免疫応答、宿主交代現象、日和見感染 復習：教科書・配布資料	
13	標準予防策と感染経路予防策、バイオセーフティ	予習：各種感染症の感染経路と概念、新興・再興感染症、性感染症 復習：教科書・配布資料	
14	医療関連感染と感染制御チーム	予習：市中感染と院内感染、感染防止対策 復習：教科書・配布資料	
15	感染症関連法規、感染症法・食品衛生法等、まとめ	予習：感染症法と特定病原体、検査法 復習：教科書・配布資料	
成績評価方法と基準			割合
1. 小テスト			30%
2. 定期試験			70%

授業科目名		微生物検査学Ⅱ(検査) (Clinical Laboratory Microbiology II)	
主担当教員	木下 承皓	担当教員	木下 承皓
科目ナンバリング	SS217	科目区分	専門科目
配当年次	2	開講学期	前期
授業形態	講義	単位数	2
授業概要			
感染症の原因微生物について学習し、その病態と強毒微生物、常在菌、日和見感染菌の関係を理解する。感染症検査に必要な知識と考え方および微生物の病原性、毒業を解説する。臨床検査材料から分離・同定するために必要な顕微鏡観察、培養方法、性状試験と薬剤感受性や耐性菌の考え方を学ぶ。培養・同定検査以外の迅速診断検査(POCT)や検出法についても理解する。			
到達目標			
感染症診断に必要な基本的な微生物検査法(グラム染色、培養、同定、感受性)を理解する。臨床検査材料から分離される病原微生物の種類と感染症の病態を説明し説明できる。無菌材料と常在菌が混入する検査材料を理解し、原因微生物を考える。			
履修上の注意(学生へのメッセージ)			
微生物名は学名で覚える必要があるため、普段から菌種名を書くようにする。グラム染色による細菌分類を理解し説明できる。感染症の診断に必要な微生物検査法の理論と実際を習得する。			
教科書			
最新 臨床検査学講座 臨床微生物学 医歯薬出版株式会社 編集 松本哲哉			
参考書			
新・カラーアトラス微生物検査 山中喜代治/編集 医歯薬出版 医科ウイルス学 南山堂 高田賢藏			
研究室/オフィスアワー			
講義の日、連絡及び問い合わせメール kino@med.kobe-u.ac.jp			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	感染症・病原微生物の対応と検査法	全身性炎症性反応(SIRS)の説明、各種染色法、分離・選択培地	
2	グラム陽性球菌、グラム陰性菌の性状・病原性・検査法	ブドウ球菌、連鎖球菌、腸球菌、マイセリア	
3	グラム陰性桿菌 1 の性状・病原性・検査法	腸内細菌、ビブリオ、アエロモナス、プレジオモナス	
4	グラム陰性桿菌 2 の性状・病原性・検査法	ブドウ菌非 fermenting (線菌、アシネバクター)、バクテロイデス、ヘモフィルス、フランジセラ、バルトネラ	
5	グラム陰性桿菌 3、グラム陰性らせん菌の性状・病原性・検査法	レジオネラ、ボルネテラ、カンピロバクター、ヘリコバクター	
6	グラム陽性桿菌の性状・病原性・検査法	バチルス、リステリア、コリネバクテリウム、アクチノマイセス	
7	抗酸菌の性状・病原性・検査法	結核菌、非結核性抗酸菌、ノカルディア	
8	嫌気性菌の性状・病原性・検査法	クロストリジウム、バクテロイデス、アクチノマイセス、フソバクテリウム、グラム陽性球菌	
9	化学療法薬の特徴	ボレリア、スピロヘータ、マイコプラズマ、リケッチア、クラミジア	
10	真菌の分類および病原性	皮膚糸状菌・深部真菌、常在性真菌、酵母・糸状菌	
11	各種真菌の性状と検査法、	染色法、分離培養、スライド培養、同定、βD グルカン	
12	ウイルスの分類	構造と形態、DNA/RNA ウィルス、プリオン	

13	ウイルスの各論(DNA ウイルス)	ポックスウイルス、ヘルペスウイルス、アデノウイルス、ハドナウイルス
14	ウイルスの各論(RNA ウイルス)	インフルエンザウイルス、麻疹・水痘・風疹・ムンプスウイルス、HIV、肝炎ウイルス
15	臨床検査材料の採取・取り扱いと病原微生物の分離法・同定	血液培養、髄液培養、腸管感染症の培養、尿路・泌尿器培養、上気道・下気道の培養
成績評価方法と基準		割合
1. 定期試験: 70%		1. 70%
2. 小テスト: 30%		2. 30%

授業科目名		微生物検査学実習(検査) (Clinical Laboratory Microbiology (Practice))	
主担当教員	木下 承皓	担当教員	木下 承皓、佐伯 康匠、関根 将
科目ナンバリング	SS218	科目区分	ディプロマポリシー 該当項目 DP①④
配当年次	2	開講学期	曜日・時限 木曜 4 限
授業形態	実習	単位数	1
授業概要		必修・選択	
実習を通じて感染症の原因となる微生物について学び、微生物検査を行うのに必要な知識を理解する。臨床検査材料の取扱者が感然しないことや周囲環境の汚染を引き起こさないように消毒・殺菌および標準予防策を学ぶ。細菌を中心とした微生物の基本的な取り扱い方法と無菌操作、標本作成法と顕微鏡観察、培養・同定法、薬剤感受性法の理論と手技を学び習得する。			
到達目標			
感染症診断に必要な基本的な微生物検査法の考え方を理解する。			
実習を通して無菌操作、顕微鏡観察法、分離・同定法、薬剤感受性検査法を習得する。			
各種染色法により細菌、真菌を推定できるようにする。			
履修上の注意(学生へのメッセージ)			
日頃から健康状態に注意すること。			
自己の感染防御に注意するとともに履修があるときは個人で判断せずに教官に申し出ること。			
環境汚染や取り扱いで事故等がある場合は必ず教官等に連絡して対処すること。			
実習レポートは実際にを行った操作・培地・試薬・コメントなどを記載し、できる限り実習後直ちに提出すること。			
教科書			
最新 臨床検査学講座 臨床微生物学 医歯薬出版株式会社 編集 松本哲哉			
参考書			
新・カラーアトラス微生物検査 山中善代治／編集 医歯薬出版 JAMIT 臨床微生物検査技術教本」丸善出版			
研究室／オフィスアワー			
講義の日、連絡及び問い合わせメール kino@med.kobe-u.ac.jp			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	実習ガイドダンスと器材の取り扱い	無菌操作、培地調整、消毒と滅菌、標準予防策(手洗い、手袋、マスク、エプロンなど)	
2	各種塗抹染色法と顕微鏡による観察	グラム染色、芽胞染色(バスターリス、クロストリジウム)	
3	各種培養法および環境検査	培地への接種、釣菌の仕方、菌数定量	
4	グラム陽性球菌の培地選択・集落観察	ブドウ球菌、連鎖球菌、腸球菌の分離	
5	グラム陰性球菌の分離・同定	ブドウ球菌、連鎖球菌、腸球菌の性状試験	
6	グラム陰性桿菌の培地選択・集落観察	腸内細菌、ブドウ糖非発酵菌の分離	
7	グラム陰性桿菌の分離・同定	腸内細菌、ブドウ糖非発酵菌の同定	
8	腸管感染症の毒素検査とO抗原検査	大腸菌、赤痢菌、サルモネラ	
9	その他グラム陰性菌の分離・集落観察・同定	ヘモフィルス、リステリア、ナイセリア	
10	薬剤感受性試験 1	抗菌薬の選択、MIC法、ディスク拡散法	
11	薬剤感受性試験 2	感受性の判定、耐性菌の簡易鑑別	
12	抗酸菌の染色と培地観察	チールネルセン染色、小川培地	
13	真菌の分離培地、集落およびスライド培養の観察	酵母、皮膚糸状菌、アスペルギルス	

14	嫌気培養と微好気培養	バクテロイデス、キャンピロバクター
15	迅速診断検査法とまとめ	尿中抗原、各種ウイルス検査(イムノクロマトグラフィー)
成績評価方法と基準		
割合		
1. 定期試験: 50%		
2. 実技レポート: 50%		

授業科目名		寄生虫検査学(検査) (Medical Parasitology)	
主担当教員	大西 義博	担当教員	大西 義博、佐伯 康匠、関根 将
科目ナンバリング	SS219	科目区分	ディプロマポリシー 該当項目
配当年次	3	開講学期	前期
授業形態	演習	単位数	1
授業概要			
寄生虫とは何かを習熟し、さらに、これらによって惹起される寄生虫病の検査法についても習得する。			
到達目標			
寄生虫検査法である糞便検査法や血液検査法などを習得し、検出した寄生虫の特徴的な形態を観察することによってこれら寄生虫を鑑別し同定できるようにする。			
履修上の注意(学生へのメッセージ)			
白紙ノート(A4 サイズ)、色鉛筆及び白紙の持参。寄生虫はヒトに感染するものであることを認識し、白衣を着用し、検体の取り扱いには十分注意すること(細菌感染やウイルス感染の防止)。			
教科書			
医動物学カラーアトラス、大西義博/三恵社			
参考書			
医動物学、平山謙二/医歯薬出版 KK 図説人体寄生虫学、吉田幸雄・有田直樹共著/南山堂 研究室/オフィスアワー			
E 棟 1 階非常勤講師控室/授業の前後のみ対応可能			
授業展開及び授業計画表			
回数	学習内容	予習・復習・課題等	担当
1	講義: 原虫①赤痢アメーバ原虫とランブル鞭毛虫 条虫①日本海裂頭条虫、大棘殖門条虫 線虫①回虫 実習の心得、顕微鏡の取り扱い方 糞便検査①直接塗抹法、ヨード・ヨードカリウム染色法とコーン染色法	予習: アメーバ類、ランブル鞭毛虫、日本海裂頭条虫と回虫について 復習: アメーバ類、ランブル鞭毛虫、日本海裂頭条虫と回虫について	大西
2	講義: 原虫②クリプトスポリジウム 線虫②鉤虫、糞線虫、東洋毛様線虫、鞭虫 実習の心得、顕微鏡の取り扱い方 糞便検査①直接塗抹法、ヨード・ヨードカリウム染色法とコーン染色法 小テスト①赤痢アメーバとランブル鞭毛虫、日本海裂頭条虫と回虫について	予習: クリプトスポリジウム、鉤虫、糞線虫、東洋毛様線虫、鞭虫 について 復習: クリプトスポリジウム、鉤虫、糞線虫、東洋毛様線虫、鞭虫 について	大西
3	実習: 実習の心得、顕微鏡の取り扱い方 糞便検査①直接塗抹法、ヨード・ヨードカリウム染色法とコーン染色法 スケッチ: 赤痢アメーバ原虫栄養型とランブル鞭毛虫栄養型、大棘殖門条虫卵と回虫卵の観察		大西
4	講義: 糞便検査法②シヨ糖液遠心浮遊法と抗酸染色、飽和食塩水浮遊法と濾紙培養法 吸虫②日本住血吸虫とマンソン住血吸虫、条虫②有鉤条虫、無鉤条虫 線虫③蟯虫 小テスト②クリプトスポリジウム、鉤虫、糞線虫、東洋毛様線虫と鞭虫について	予習: 日本住血吸虫、マンソン住血吸虫、有鉤条虫、無鉤条虫と蟯虫について 復習: 日本住血吸虫、マンソン住血吸虫、有鉤条虫、無鉤条虫と蟯虫について	大西

5	<p>実習： 糞便検査法②シヨ糖液速心浮遊法と抗酸染色、飽和食塩水浮遊法と薄紙培養法 スケッチ：クリプトスポリジウム・バルバム、オオシロコシ、スズメコシ、スズメコシ、糞線虫（一期幼虫、糞線虫三期幼虫（サル糞線虫で代用）と糞虫卵（ホズミ糞虫卵）で代用）の観察</p> <p>講義： 糞便検査法③ホルマリンエーテル法、AMSⅢ法 糞便検査法④セロファン肛門検査法 吸虫③肺吸虫、肝吸虫、横川吸虫 小テス③④日本住血吸虫、マシソン住血吸虫、有鉤条虫、無鉤条虫と蟯虫について</p>	大西	1. 40% 2. 10% 3. 50%
6	<p>実習： 糞便検査法③ホルマリンエーテル法、AMSⅢ法 糞便検査法④セロファン肛門検査法 スケッチ：赤痢アメーバのシスト、ランソル糞毛虫のシスト、日本住血吸虫卵、マシソン住血吸虫卵、無鉤条虫卵と蟯虫卵の観察</p> <p>実習： 糞便検査法③ホルマリンエーテル法、AMSⅢ法 糞便検査法④セロファン肛門検査法 スケッチ：赤痢アメーバのシスト、ランソル糞毛虫のシスト、日本住血吸虫卵、マシソン住血吸虫卵、無鉤条虫卵と蟯虫卵の観察</p>	大西	
7	<p>実習： 糞便検査法③ホルマリンエーテル法、AMSⅢ法 糞便検査法④セロファン肛門検査法 スケッチ：赤痢アメーバのシスト、ランソル糞毛虫のシスト、日本住血吸虫卵、マシソン住血吸虫卵、無鉤条虫卵と蟯虫卵の観察</p> <p>実習： 糞便検査法③ホルマリンエーテル法、AMSⅢ法 糞便検査法④セロファン肛門検査法 スケッチ：赤痢アメーバのシスト、ランソル糞毛虫のシスト、日本住血吸虫卵、マシソン住血吸虫卵、無鉤条虫卵と蟯虫卵の観察</p>	大西	
8	<p>実習：ホルマリンエーテル法の乗法（全員）</p>	大西	
9	<p>実習： スケッチ：ウエステルマン肺吸虫卵、富崎肺吸虫卵、肝吸虫卵、横川吸虫卵、その他の観察</p>	大西	
10	<p>講義： 血液検査法：血液薄層塗抹法と血液厚層塗抹法 原虫③マラリア、トリパノソーマ 小テス④⑤⑥肺吸虫、肝吸虫と横川吸虫について</p>	大西	
11	<p>実習： スケッチ：熱帯熱マラリア原虫（輪状体、栄養型、分裂体、生殖母体）、三日熱マラリア原虫、卵形マラリア原虫の観察</p>	大西	
12	<p>実習： マラリア原虫検出のための血液薄層塗抹標本の作製とギムザ染色（全員）</p>	大西	
13	<p>実習： スケッチ：マラリア原虫（残り）とガンビアトリパノソーマ原虫（trypanostigote型）、クルーズトリパノソーマ原虫（trypanostigote型とamastigote型）とフィラリアのミクロフィラリア（糸状虫で代用）とその他の観察</p>	大西	
14	<p>講義： 原虫④赤痢アメーバによる肝腫瘍、トキソプラズマ症、腫トリコモナス症、リーシュマニア症、シャーガス病、 糸虫③有鉤条虫症、単包虫症と多包虫症 糸虫⑤旋毛虫症、顎口虫症、旋毛虫症 寄生虫病の免疫診断法とPCR 旋毛虫動物（ダニ類と昆虫類） 寄生虫の固定・保存方法、まとめ 小テス⑤⑥トリパノソーマ原虫とハンクログフト糸虫について</p>	大西	
15	<p>実習： スケッチ：トキソプラズマ原虫栄養型とシスト、リーシュマニアの amastigote 型、腫トリコモナス栄養型、旋毛虫筋肉内幼虫とその他の観察</p>	大西	
成績評価方法と基準		割合	

1. スケッチの提出
2. 復習で行う小テスト（国家試験に出題されたもの）
3. 定期試験
4. 出題範囲：小テストから出題（文章問題と写真による問題）
4. 4/5 回以上の出席が必要でです。

授業科目名	免疫検査学Ⅰ(検査)(Clinical Laboratory ImmunologyⅠ)		
主担当教員	竹岡 啓子	担当教員	竹岡 啓子
科目ナンバリング	SS220	科目区分	専門科目
配当年次	2	開講学期	前期
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	免疫は"自己と非自己を識別して非自己を排除する生体のしくみ"で、いわば生体の防御反応であり、複雑な免疫機構で成立しています。免疫検査学は臨床検査において、大きなウェイトを占める科目の一つで、血液検査学とも関連性があります。また、免疫機構を利用した検査は検査分野で広範囲に活用されています。免疫検査学Ⅰでは教科書の第1章と第2章を学修します。免疫に関する基礎知識を深め、たくさん出てくる用語を理解し、臨床免疫および疾患との関わりを学修しましょう。		
到達目標	※本科目は実務経験のある教員等による授業科目です		
	1. 免疫系(生体防御)のしくみを理解する。		
	2. 免疫学的検査と疾患の関わりについて理解する。		
	3. 免疫学的検査の基礎知識を理解する。		
	履修上の注意(学生へのメッセージ)		
	1. 免疫は検査の各分野とも関連性が深く重要で、繰り返し学修することが大切です。		
	2. 講義の内容について説明できるように、各自で資料をまとめましょう。		
	3. 学修内容が多岐に亘るので、疑問点はおろそかにせずに、その都度解決しましょう。		
	教科書		
	「最新臨床検査学講座 免疫検査学」窪田哲朗編集/医歯薬出版		
	参考書		
	必要に応じて紹介します。		
	研究室/オフィスアワー		
	C棟7階 研究室10 / 在室時は随時		

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	第1章「免疫系のしくみ」 I 免疫系の構成要素	予習：教科書を読んでくる。 復習：教科書、配布資料を確認する。	
2	II 天然免疫 III 獲得免疫系への抗原提示	予習：教科書を読んでくる。 復習：教科書、配布資料を確認する。	
3	IV 獲得免疫における抗原の認識 V 獲得免疫におけるI細胞の活性化機構と役割	予習：教科書を読んでくる。 復習：教科書、配布資料を確認する。	
4	VI 獲得免疫における抗体の産生機構と役割	予習：教科書を読んでくる。 復習：教科書、配布資料を確認する。	
5	VII 補体系の役割 VIII 能動免疫と受動免疫 IX 自己寛容	予習：教科書を読んでくる。 復習：教科書、配布資料を確認する。	
6	第1章「免疫系のしくみ」について、復習と演習問題 区自己寛容	教科書の第1章「免疫系のしくみ」について、各自で重要ポイントを確認する。	
7	第2章「免疫学検査が有用な疾患」 I 感染症①	予習：教科書を読んでくる。 復習：教科書、配布資料を確認する。	
8	I 感染症②	予習：教科書を読んでくる。 復習：教科書、配布資料を確認する。	
9	II 腫瘍性疾患 III アレルギー	予習：教科書を読んでくる。 復習：教科書、配布資料を確認する。	
10	IV 自己免疫疾患①	予習：教科書を読んでくる。 復習：教科書、配布資料を確認する。	
11	IV 自己免疫疾患②	予習：教科書を読んでくる。 復習：教科書、配布資料を確認する。	
12	V 免疫不全症	予習：教科書を読んでくる。 復習：教科書、配布資料を確認する。	
13	第2章「免疫学検査が有用な疾患」について、復習と演習問題	教科書の第2章「免疫学検査が有用な疾患」について、各自で重要ポイントを確認する。	

14	総合復習と演習問題	予習：教科書、配布資料を見直す。 復習：配布問題を確認する。	
15	第3章にイントロダクション	予習：教科書の第3章に目を通しておく。	
成績評価方法と基準			割合
1. 出席基準 2/3 以上			1. 30%
2. 授業への出席、授業中に行う小テスト			2. 70%
3. 定期試験			

授業科目名		免疫検査学Ⅱ(検査)(Clinical Laboratory ImmunologyⅡ)	
主担当教員		竹岡 啓子	竹岡 啓子
科目ナンバリング		SS221	専門科目 該当項目
配当年次		2	曜日・時間 月曜 2限
授業形態		講義	単位数 2
授業概要		必修・選択 必修	
<p>免疫は「自己と非自己を識別して非自己を排除する生体のしくみ」で、いわば生体の防御反応であり、複雑な免疫機構で成立しています。免疫検査学は臨床検査において、大きなウェイトを占める科目の一つで、血液検査学とも関連性があります。また、免疫機構を利用した抗原抗体反応原理は検査分野で広範囲に活用されています。免疫検査学Ⅱでは教科書の第3章を学修します。免疫学的検査の測定原理に関する知識を深め、たくさん出てくる用語を理解する。さらに疾患と関連する免疫学的検査について学修しよう。</p> <p>※本科目は要務経線のある教員等による授業科目です</p> <p>到達目標</p> <p>1. 免疫学的検査の基礎となる試験管内抗原抗体反応や沈降反応、非標識・標識抗原抗体測定法、電気泳動法などの原理について理解する。</p> <p>2. 免疫関連疾患の免疫学的検査について理解する。</p> <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>1. 免疫は検査の各分野とも関連性が深く重要です。繰り返し学修することが大切です。</p> <p>2. 講義の内容について説明できるように、各自で資料をまとめよう。</p> <p>3. 学修内容が多岐に亘るので、疑問点ははたおろそかにせずに、その都度解決しましょう。</p> <p>教科書</p> <p>「最新臨床検査学講座 免疫検査学」窪田哲朗編集/医歯薬出版</p> <p>参考書</p> <p>必要に応じて紹介します。</p> <p>研究室/オフィスアワー</p> <p>C棟 / 階 研究室10 / 在室時は随時</p> <p>授業展開及び授業計画表</p>			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	第3章 免疫学的検査の現場「A.免疫学的検査の原理」 I 試験管内抗原抗体反応の基礎	予習：教科書を読んでくる。 復習：教科書、配布資料を確認する。	
2	I 沈降反応 II 凝集反応 IV 溶解反応 V 中和反応	予習：教科書を読んでくる。 復習：教科書、配布資料を確認する。	
3	VI 非標識免疫測定法 VII 標識免疫測定法①	予習：教科書を読んでくる。 復習：教科書、配布資料を確認する。	
4	VII 標識免疫測定法②	予習：教科書を読んでくる。 復習：教科書、配布資料を確認する。	
5	VIII 電気泳動法	予習：教科書を読んでくる。 復習：教科書、配布資料を確認する。	
6	第3章 免疫学的検査の現場「A.免疫学的検査の原理」について、復習と演習問題を整理する。	教科書の第3章「免疫学的検査の現場」A.免疫学的検査の原理について、各自で重要ポイントを整理する。	
7	第3章 免疫学的検査の現場「B.免疫学的検査の実例」 I 感染症の検査①	予習：教科書を読んでくる。 復習：教科書、配布資料を確認する。	
8	I 感染症の検査②	予習：教科書を読んでくる。 復習：教科書、配布資料を確認する。	
9	I 感染症の検査③ II アレルギーの検査	予習：教科書を読んでくる。 復習：教科書、配布資料を確認する。	
10	III 自己免疫疾患関連検査①	予習：教科書、配布資料を確認する。 復習：教科書、配布資料を確認する。	
11	III 自己免疫疾患関連検査②	予習：教科書、配布資料を確認する。 復習：教科書、配布資料を確認する。	

12	IV 免疫不全関連検査 V 腫瘍マーカー検査	予習：教科書を読んでくる。 復習：教科書、配布資料を確認する。	
13	VI 血清蛋白異常症関連検査	予習：教科書を読んでくる。 復習：教科書、配布資料を確認する。	
14	第3章 免疫学的検査の現場「B.免疫学的検査の実例」について、復習と演習問題を整理する。	教科書の第3章「免疫学的検査の実例」について、各自で重要ポイントを整理する。	
15	総合復習と演習問題	予習：教科書、配布資料を見直す。 復習：配布問題を整理する。	
成績評価方法と基準			割合
1. 出席基準 2/3 以上			1. 30%
2. 授業への出席、授業中に行う小テスト			2. 70%
3. 定期試験			

授業科目名 免疫検査学実習(検査) (Clinical Laboratory Immunology (Practice))			
主担当教員	竹岡 啓子	担当教員	竹岡 啓子、藤原 牧子
科目ナンバリング	SS222	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目
配当年次	3	開講学期	金曜 2 限 金曜 3 限
授業形態	実習	単位数	1
必修		必修・選択	必修
授業概要			
免疫検査学 I、II で学んだ生体防御のしくみ、試験管内での抗原抗体反応をはじめとする免疫検査法について理解を深める。実習する検査法の測定原理と検査手法を修得し、結果を正確に分析ができること。			
到達目標			
1. 各測定法の原理を簡単に説明できる。 2. 分析時のピペット操作を完全マスターする。 3. 分析機器等の適切な取り扱いができる。			
履修上の注意 (学生へのメッセージ)			
実習を通して免疫検査学をより理解を深め、臨床検査における検体検査全般に關連する免疫学の重要性を修得する。実習は限られた時間で行うため、共同実験者とのコミュニケーションをとりながら1つ1つ丁寧に進める。グループ1人1人が実習項目の内容について必ず予習をすること。			
教科書			
最新 臨床検査学講座 免疫検査学 医歯薬出版株式会社 配布する実習書の手引き			
参考書			
臨床免疫検査 技術教本 丸善出版			
研究室/オフィスアワー			
C 棟 7 階 研究室 10 / 在室時は随時			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	オリエンテーション	予習:配布資料を熟読し、免疫検査学実習の目的をテーマ単位で調べてレポートする。 復習:2回目の実習内容について、予習書(目的・方法・対象)を作成する。 復習:テーマ毎にレポート(結果、考察、結論)を作成提出する。	竹岡 啓子 藤原 牧子
2	抗原抗体反応(抗原)①	予習:2回目の実習内容について、予習書(目的・方法・対象)を作成する。 復習:テーマ毎にレポート(結果、考察、結論)を作成提出する。	竹岡 啓子 藤原 牧子
3	抗原抗体反応(抗原)②	予習:2回目の実習内容について、予習書(目的・方法・対象)を作成する。 復習:テーマ毎にレポート(結果、考察、結論)を作成提出する。	竹岡 啓子 藤原 牧子
4	抗原抗体反応(抗体)①	予習:4 回目の実習内容について、予習書(目的・方法・対象)を作成する。 復習:テーマ毎にレポート(結果、考察、結論)を作成提出する。	竹岡 啓子 藤原 牧子
5	抗原抗体反応(抗体)②	予習:4 回目の実習内容について、予習書(目的・方法・対象)を作成する。 復習:テーマ毎にレポート(結果、考察、結論)を作成提出する。	竹岡 啓子 藤原 牧子
6	補体結合反応①	予習:6 回目の実習内容について、予習書(目的・方法・対象)を作成する。 復習:テーマ毎にレポート(結果、考察、結論)を作成提出する。	竹岡 啓子 藤原 牧子

7	補体結合反応②	予習:6 回目の実習内容について、予習書(目的・方法・対象)を作成する。 復習:テーマ毎にレポート(結果、考察、結論)を作成提出する。	竹岡 啓子 藤原 牧子
8	凝集反応①	予習:8 回目の実習内容について、予習書(目的・方法・対象)を作成する。 復習:テーマ毎にレポート(結果、考察、結論)を作成提出する。	竹岡 啓子 藤原 牧子
9	凝集反応②	予習:8 回目の実習内容について、予習書(目的・方法・対象)を作成する。 復習:テーマ毎にレポート(結果、考察、結論)を作成提出する。	竹岡 啓子 藤原 牧子
10	二重免疫拡散法①	予習:10 回目の実習内容について、予習書(目的・方法・対象)を作成する。 復習:テーマ毎にレポート(結果、考察、結論)を作成提出する。	竹岡 啓子 藤原 牧子
11	二重免疫拡散法②	予習:10 回目の実習内容について、予習書(目的・方法・対象)を作成する。 復習:テーマ毎にレポート(結果、考察、結論)を作成提出する。	竹岡 啓子 藤原 牧子
12	免疫電気泳動①	予習:12 回目の実習内容について、予習書(目的・方法・対象)を作成する。 復習:テーマ毎にレポート(結果、考察、結論)を作成提出する。	竹岡 啓子 藤原 牧子
13	免疫電気泳動②	予習:12 回目の実習内容について、予習書(目的・方法・対象)を作成する。 復習:テーマ毎にレポート(結果、考察、結論)を作成提出する。	竹岡 啓子 藤原 牧子
14	APP 測定 (FEIA) ①	予習:14 回目の実習内容について、予習書(目的・方法・対象)を作成する。 復習:テーマ毎にレポート(結果、考察、結論)を作成提出する。	竹岡 啓子 藤原 牧子
15	APP 測定 (FEIA) ②	予習:14 回目の実習内容について、予習書(目的・方法・対象)を作成する。 復習:テーマ毎にレポート(結果、考察、結論)を作成提出する。	竹岡 啓子 藤原 牧子
成績評価方法と基準			割合
1. 出席基準:4/5 以上			2. 20%
2. テーマ毎にレポートを提出。提出は1週間以内。評価ポイントは結果、考察です。			3. 80%
3. 成績評価方法:実習操作・結果、考察レポート、定期試験			

輸血・移植検査学検査 (Blood Transfusion and Transplantation Science)			
授業科目名	輸血・移植検査学検査	担当教員	押田 真知子
主担当教員	押田 真知子	専門科目	DP①
科目ナンバリング	SS223	科目区分	後期
配当年次	2	開講学期	後期
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	輸血は疾患に伴う貧血、また外科術や手術に伴う出血に対して不可欠な補充療法である。しかしながら輸血には免疫性・感染性、その他の副作用のリスクも存在する。また、造血幹細胞移植や臓器移植も行われ、HLA や移植時の輸血に関する正しい知識が必要となってきた。本授業では、安全で適正な輸血療法を行うために必要な知識・検査方法を理解し、習得することを目的とする。		
到達目標	輸血用血液製剤の使用目的、使用方法、管理方法、輸血療法に伴う副作用に関して理解し、安全で適正な輸血療法に必要な基礎知識を学習し、理解する。 輸血療法を行う上で必要な検査に関し目的、原理、方法を理解する。		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	配布資料に目を通すなど、予習・復習を必ず行うこと。不明点はその都度確認し理解するよう努める事。		
教科書	最新臨床検査学講座「免疫検査学」医薬出版株式会社 配布資料		
参考書	特になし		
研究室/オフィスアワー	研究室/オフィスアワー		
授業日の非常勤講師控室	授業日以外の非常勤講師控室		
授業展開及び授業計画表	授業展開及び授業計画表		
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	輸血療法について。輸血の歴史、血液製剤の種類と特性	予習:教科書の確認 復習:授業資料の確認	
2	輸血の適応と製剤の選択。輸血療法に関する法律、指針。	予習:授業資料、教科書の確認 復習:授業資料の確認	
3	輸血療法や輸血検査に必要な基礎知識	予習:授業資料、教科書の確認 復習:授業資料の確認	
4	輸血前に必要な検査	予習:授業資料、教科書の確認 復習:授業資料の確認	
5	ABO 血液型と検査法	予習:授業資料、教科書の確認 復習:授業資料の確認	
6	Rh 血液型と検査法	予習:授業資料、教科書の確認 復習:授業資料の確認	
7	AB0、Rh 以外の血液型	予習:授業資料、教科書の確認 復習:授業資料の確認	
8	赤血球不規則抗体とその検査法	予習:授業資料、教科書の確認 復習:授業資料の確認	
9	交差適合試験と適合血の選択	予習:授業資料、教科書の確認 復習:授業資料の確認	
10	直接抗グロブリン試験の目的と検査法、胎児・新生児溶血性疾患	予習:授業資料、教科書の確認 復習:授業資料の確認	

11	輸血副作用	予習: 授業資料、教科書の確認 復習: 授業資料の確認	
12	自己血輸血	予習: 授業資料、教科書の確認 復習: 授業資料の確認	
13	HLA、血小板抗原、顆粒球抗原	予習: 授業資料、教科書の確認 復習: 授業資料の確認	
14	造血幹細胞移植、臓器移植	予習: 授業資料、教科書の確認 復習: 授業資料の確認	
15	医療機関での輸血業務、まとめ	予習: 今までの授業資料の確認 復習: 理解不足の部分を理解する	
成績評価方法と基準			割合
筆記試験			100%

授業科目名 輸血・移植検査実習(検査) (Blood Transfusion and Transplantation Science (Practice))			
主担当教員	押田 眞知子	担当教員	押田 眞知子、佐伯 康匠
科目ナンバリング	SS224	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目 DP①④
配当年次	3	開講学期	前期 火曜 4 限 火曜 5 限
授業形態	実習	単位数	1
授業概要			
輸血を安全に実施するために最低限必要な血液型検査、赤血球不規則抗体検査、交差適合試験、適合血の選択、間接抗グロブリン試験、直接抗グロブリン試験などに関して正しい知識と技術の習得を行う。			
安全な輸血療法を実施するために最低限必要な輸血検査に関する正しい知識・技術の習得を目標とする。			
履修上の注意(学生へのメッセージ)			
予習:輸血・移植検査学の講義資料・実習資料に目を通す 復習:レポート作成を通じて検査の目的、検査原理、技術、結果の解釈について理解する。			
教科書			
臨床検査学講座、輸血、移植検査学講義での配布資料、輸血、移植検査学実習時の配布資料			
参考書			
特に無し			
研究室/オフィスアワー			
授業日の非常勤講師控室			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	輸血検査の流れ、器具の取り扱い方など ABO, Rh D血液型検査① 試験管法、スライド法	予習:講義資料および配布資料に目を通しておくこと 復習:レポート作成を通して、実習内容を理解する。	
2	ABO, RhD血液型検査② カラム凝集法、RhD 陰性確認試験	予習:講義資料および配布資料に目を通しておくこと 復習:レポート作成を通して、実習内容を理解する。	
3	抗体価の測定。 凝集抑制試験による唾液中の血液型物質の測定	予習:講義資料および配布資料に目を通しておくこと 復習:レポート作成を通して、実習内容を理解する。	
4	赤血球不規則抗体検査	予習:講義資料および配布資料に目を通しておくこと 復習:レポート作成を通して、実習内容を理解する。	
5	交差適合試験と適合血の選択	予習:講義資料および配布資料に目を通しておくこと 復習:レポート作成を通して、実習内容を理解する。	
6	直接抗グロブリン試験	予習:講義資料および配布資料に目を通しておくこと 復習:レポート作成を通して、実習内容を理解する。	
7	実技試験	輸血検査の流れ、検査内容、特に血液型、赤血球不規則抗体検査、交差適合試験、適合血の選択について理解しておくこと。	

8	輸血検査のまとめ	割合
成績評価方法と基準		①80%
①定期試験		②20%
②レポート点、実技試験		

生理機能検査学 I (検査) (Clinical Physiology I)			
授業科目名	小宮山 恭弘	担当教員	小宮山 恭弘, 脇 英彦
主担当教員	小宮山 恭弘	専門科目	DP①
科目ナンバリング	SS225	曜日・時限	金曜 4限
配当年次	1	開講学期	後期
授業形態	講義	単位数	2
<p>授業概要</p> <p>生理機能検査学 I は、診療等で用いられている生理検査につき、測定装置、原理、測定方法、臨床的意義を学ぶ。生理検査機器を用いて検査者から生理的情報を取得・解析し、そのデータの臨床的意義を教授する。さらにそのデータを基に疾患の診断、治療に役立つことを学ぶ。内容は、循環器系検査(心電図、心音図、脈波)、神経・筋機能検査(脳波、筋電図、神経伝導検査)、呼吸機能検査、聴覚・平衡検査、基礎代謝、眼底検査などである。</p> <p>※本科科目は実務経験のある教員等による授業科目です</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生理機能検査の業務範囲と特徴を理解する。心臓の機能と心電図の基礎を理解する 2. 異常心電図(不整脈)の臨床的意義を理解する。 3. 異常心電図(心筋疾患)の臨床的意義を理解する。運動負荷心電図の臨床的意義を理解する。 4. ホルター心電図、ヒス束心電図、加算平均心電図の臨床的意義を理解する。 5. 心音図の臨床的意義を理解する。 6. 脈波の臨床的意義を理解する。 7. 脳波の臨床的意義を理解する。 8. 筋電図の臨床的意義を理解する。 9. 呼吸機能の臨床的意義を理解する。 10. 動脈血液ガス分析の臨床的意義を理解する。 11. 睡眠呼吸検査の臨床的意義を理解する。 12. 基礎代謝の検査の臨床的意義を理解する。 13. 聴覚検査の臨床的意義を理解する。 14. 平衡機能検査の臨床的意義を理解する。 15. 眼底検査の臨床的意義を理解する。 <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療人としての臨床検査技師の心構えを理解する。 2. 疾病と生理検査の関係を理解するように努める。 3. 各種測定法の原理を理解し、その臨床的意義を説明できるようにする。 4. 講義終了後のノート整理とまとめの作業で、生理検査の理解と確認が重要である。 5. 臨床検査データの読める臨床検査技師を目指す。 			
教科書			
生理機能検査学 (臨床検査学講座) 東條 尚子 川良 徳弘著 医師業出版 ISBN978-4-163-22368-0			
参考書			
心電図を学ぶ人のために 医学書院 ISBN978-4-260-33381-8			
臨床検査要 第34版 金原出版			
研究室/オフィスアワー			
小宮山恭弘研究室/ 月曜日 16:00-18:00 火曜日 16:00-18:00			
脇 英彦研究室/ 月曜日 16:00-18:00 火曜日 16:00-18:00			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	臨床検査技師等に関する法律で定義されている生理検査の業務範囲を理解する。心臓機能と心電図の成り立ちを理解する。	予習: 生理検査の種類を調べる 復習: 授業内容をノートにまとめる。	脇
2	異常心電図(不整脈)の心電図波形を理解する。	予習: 不整脈の種類について調べる。 復習: 授業内容をノートにまとめる。	脇
3	異常心電図(心筋疾患)の心電図波形を理解する。運動負荷試験臨床的意義を理解する。	予習: 心筋梗塞、心筋炎について調べる。 復習: 授業内容をノートにまとめる。	小宮山
4	ホルター心電図、ヒス束心電図、加算平均心電図の臨床的意義を理解する。	予習: 不整脈の種類について調べる。 復習: 授業内容をノートにまとめる。	脇

5	心周期と心音の成り立ち、心雑音の性質、心疾患と心雑音について理解する。	予習: 心臓弁膜症の概要について調べる 復習: 授業内容をノートにまとめる。	脇
6	脈波の臨床的意義(指尖容積脈波、足関節上腕血圧比、血管内皮機能検査)について理解する。	予習: 動脈硬化の概要について調べる。 復習: 授業内容をノートにまとめる。	小宮山
7	脳波検査の臨床的意義、正常脳波、年齢による脳波の変化、異常脳波を示す疾患について理解する。	予習: 脳の解剖生理について調べる。 復習: 授業内容をノートにまとめる。	小宮山
8	筋電図検査と誘発筋電図検査の臨床的意義と異常を示す疾患について理解する。	予習: 神経の解剖生理について調べる。 復習: 授業内容をノートにまとめる。	小宮山
9	呼吸機能検査の臨床的意義、肺気量分画、一口ボリューム曲線について理解する。	予習: 換気機能について調べる。 復習: 授業内容をノートにまとめる。	小宮山
10	動脈血液ガス分析の臨床的意義を理解する。検体採取法と核体の取り扱いについて理解する。	予習: 酸塩基平衡について調べる。 復習: 授業内容をノートにまとめる。	脇
11	睡眠呼吸検査の臨床的意義を理解する。睡眠ポリグラフ(PSG)について理解する。	予習: 睡眠と呼吸生理について調べる 復習: 授業内容をノートにまとめる。	小宮山
12	間接的熱量測定法の臨床的意義を理解する。	予習: 基礎代謝に影響を与える因子について調べる。 復習: 授業内容をノートにまとめる。	脇
13	純音聴覚検査の臨床的意義を理解する。	予習: 雑音の種類について調べる。 復習: 授業内容をノートにまとめる。	小宮山
14	重心動揺検査の臨床的意義を理解する。	予習: 平衡機能検査の検査前説明と注意点について調べる。 復習: 授業内容をノートにまとめる。	脇
15	眼底検査・眼底撮影の臨床的意義を理解する。	予習: 眼の構造と機能について調べる。 復習: 授業内容をノートにまとめる。	小宮山
成績評価方法と基準			割合
1. 小テスト: 30 点			1. 30%
2. 定期試験: 70 点			2. 70%

授業科目名	生理機能検査学Ⅱ(検査)(Clinical Physiology II)		担当教員	小宮山 恭弘、脇 英彦
主担当教員	小宮山 恭弘	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目
科目ナンバリング	SS226	開講学期	前期	金曜 2 限
配当年次	2	単位数	2	必修
授業形態	講義			
授業概要	<p>生理機能検査学Ⅰでの学修内容をベースに、各々の検査での異常所見について学修を深める。検査所見の特徴とそこから予測される疾患を学ぶ。</p> <p>※本科目は実務経験のある教員等による授業科目です</p> <p>到達目標</p> <p>循環器・呼吸器・神経生理・その他検査での測定原理・基本的な検査手法を学修する。</p> <p>各検査での、異常所見と疾患名の紐付けが行えるように系統的に学習する。</p> <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>異常所見を見る際に重要なことは、基本的知識がきちんと整理できているかが重要となる。</p> <p>正常所見をしっかりと学修した上で、どこに違いがあり、なぜ違いが生じるかを学んで欲しい。</p>			
教科書	<p>JAMIT 技術教本シリーズ循環器機能検査技術教本 じほう社</p> <p>JAMIT 技術教本シリーズ呼吸機能検査技術教本 じほう社</p> <p>JAMIT 技術教本シリーズ神経生理検査技術教本 じほう社</p>			
参考書	<p>適時プリント配布し補足する</p> <p>15 回目講義はインターネット情報などを閲覧する</p> <p>研究室/オフィスアワー</p> <p>脇 英彦研究室 (月)16:30~17:30 (火)16:30~17:30</p> <p>小宮山 恭弘研究室 (月)16:30~17:30 (火)16:30~17:30</p>			
授業展開及び授業計画表	回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
	1	異常心電図 不整脈①	期外収縮について調べる	小宮山
	2	異常心電図 不整脈②	発作性期拍、絶対性不整脈について調べる	小宮山
	3	異常心電図 不整脈③	伝導異常について調べる	小宮山
	4	異常心電図 不整脈④	ペースメーカー適応疾患について調べる	小宮山
	5	異常心電図 心肥大	心肥大について調べる	小宮山
	6	異常心電図 虚血性心疾患	狭心症・心筋梗塞について調べる	小宮山
	7	異常心音図	収縮期雑音・拡張期雑音について調べる	小宮山
	8	異常脈波	頸動脈波・頸静脈波・心尖拍動図異常を調べる	小宮山
	9	異常脳波①	てんかんの種類を調べる	小宮山
	10	異常脳波②	てんかんでの突発性異常脳波を調べる	小宮山
	11	異常防電図①	軸索変性と脱髄について調べる	小宮山
	12	異常防電図②	針筋電図で見られる異常所見を調べる	小宮山
	13	呼吸機能検査の異常所見	換気障害の種類・疾患について調べる	小宮山
	14	精密呼吸機能検査	機能的換気量・肺拡散能について調べる	小宮山

15	味覚検査 嗅覚検査	味覚検査・嗅覚検査について調べる	脇 小宮山
	成績評価方法と基準		割合
	1. 小テスト 30 点		1. 30%
	2. 定期試験 70 点		2. 70%

授業科目名	生理機能検査学Ⅲ (Clinical Physiology Ⅲ)		
主担当教員	脇 英彦	担当教員	脇 英彦、小宮山 恭弘
科目ナンバリング	SS27	科目区分	ディプロマポリシー 該当項目 DP①
配当年次	2	開講学期	前期 木曜 4限 木曜 5限
授業形態	講義	単位数	2 必修・選択 必修
授業概要	超音波の基本原理を学修するとともに、正常画像を判読するための解剖学的知識の再確認を行う。 ※本科目は実務経験のある教員等による授業科目です		
到達目標	超音波の物理特性を学修する。1年次に学んだ人体の構造を立体的(3次元的)にイメージしながら、血管走行、臓器の位置を系統的に学ぶ。		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	超音波検査は、多くの臓器を安全に迅速に検査できます。基本原理をきちんと学んだ上で、そこから得られる画像の特徴を理解しましょう。		
教科書	生理機能検査学 第3版 芥久保 善明 他 医歯薬出版 ISBN978-4-263-22368-0 日超検 心臓超音波テキスト 日本超音波検査学会監修 医歯薬出版 日超検 腹部超音波テキスト 日本超音波検査学会監修 医歯薬出版		
参考書			
適時プリントを配布し補足する			
研究室/オフィスアワー			
脇 英彦研究室 (月)16:30~17:30 (火)16:30~17:30 小宮山 恭弘研究室 (月)16:30~17:30 (火)16:30~17:30			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	超音波の原理①	超音波の性質・物理現象について調べる	脇 小宮山
2	超音波の原理②	超音波の性質 分解能について調べる	脇 小宮山
3	超音波の原理③	ドプラ法について調べる	脇 小宮山
4	超音波の原理④	装置(プローブ・レシーバー・表示部)調べる	脇 小宮山
5	超音波の原理⑤	人工産物(アーファクト)について調べる	脇 小宮山
6	超音波心臓正常画像①	Bモード Mモードについて調べる	脇 小宮山
7	超音波心臓正常画像②	心機能評価法(計算式)について調べる	脇 小宮山
8	超音波心臓正常画像③	房室弁、動脈弁のドプラ波形を調べる	脇 小宮山
9	超音波腹部正常画像①	腹部(肝臓・脾臓)正常画像について調べる	脇 小宮山
10	超音波腹部正常画像②	腹部(胆嚢・膵臓・腎臓)正常画像について調べる	脇 小宮山
11	超音波腹部正常画像③	下腹部 消化器 正常画像について調べる	脇 小宮山
12	超音波腹部異常画像①	腹部(肝臓・脾臓)疾患について調べる	脇 小宮山
13	超音波腹部異常画像②	腹部(胆嚢・膵臓・腎臓)疾患について調べる	脇 小宮山
14	超音波甲状腺画像	甲状腺ホルモンについて調べる	脇 小宮山
15	超音波頸動脈正常画像	血管炎判定法について調べる	脇 小宮山

成績評価方法と基準	割合
1. 小テスト 30点	1. 30%
2. 定期試験 70点	2. 70%

授業科目名	生理機能検査学実習(検査) (Clinical Physiology (Practice))		
主担当教員	小宮山 恭弘	担当教員	小宮山 恭弘、脇 英彦、藤原 牧子、小林 彩香
科目ナンバリング	SS228	科目区分	DP①④
配当年次	2	開講学期	後期
授業形態	実習	単位数	1
授業概要	生理機能検査の各検査の基本的検査手法と機器の操作法について学修する。生理機能検査は患者に直接行う検査であり、患者の安全やプライバシーに配慮する。 ※本科目は実務経験のある教員等による授業科目です		
到達目標	心電図・肺機能・神経伝導速度検査・脳波検査の検査手法をマスターする。情報システム(ファイリング)を用いて、病院と同じ環境で検査を行う		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	履修された機器での実習のため、効率良く実習を行う必要がある。検査手法については実習までに十分に予習しておく。		
教科書	JAMIT 技術教本シリーズ循環器機能検査技術教本 じほう社 JAMIT 技術教本シリーズ呼吸機能検査技術教本 じほう社 JAMIT 技術教本シリーズ神経生理検査技術教本 じほう社		
参考書			
適時資料配布する			
研究室/オフィスアワー			
脇 英彦研究室 (月)16:30~17:30 (火)16:30~17:30 小宮山 恭弘研究室 (月)16:30~17:30 (火)16:30~17:30			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	心電図①	心電図の誘導法を予習しておく	脇 小宮山
2	心電図②	心電図検査手法について理解しておく	脇 小宮山
3	心電図③	マスター2段階負荷心電図について理解しておく	脇 小宮山
4	心電図④	自律神経検査 C-V R-R検査について調べておく	脇 小宮山
5	神経伝導速度検査①	MCS F 波について調べておく	脇 小宮山
6	神経伝導速度検査②	MCS F 波の測定手法について調べておく	脇 小宮山
7	神経伝導速度検査③	SCS について調べておく	脇 小宮山
8	神経伝導速度検査④	SCS の測定手法について調べておく	脇 小宮山
9	脳波検査①	10-20 法について調べておく	脇 小宮山
10	脳波検査②	脳波測定条件 機器設定について調べておく	脇 小宮山
11	脳波検査③	脳波検査レポートについて学習しておく	脇 小宮山
12	脳幹誘発電位検査	脳幹誘発電位検査について調べておく	脇 小宮山
13	呼吸機能検査①	肺活量測定法について調べておく	脇 小宮山
14	呼吸機能検査②	努力性肺活量の測定について調べておく	脇 小宮山

15	総合評価	1-14の実習の総合評価を行う	脇 小宮山
成績評価方法と基準			割合
1. 実習テスト(総合評価) 20点			1. 20%
2. 定期試験 80点			2. 80%
・全授業のうち4/5以上の出席が必要			

授業科目名	画像検査学(検査) (Medical Imaging Technology)		
主担当教員	脇 英彦	担当教員	脇 英彦、小宮山 恭弘
科目ナンバリング	SS29	科目区分	ディプロマポリシー 該当項目 DP①
配当年次	2	開講学期	後期 金曜 3限
授業形態	講義	単位数	2 必修・選択 必修
授業概要	<p>画像検査学は、診療・治療等に広く行われている医用画像診断の方法、原理、手順、測定装置、データ管理・保存の方法、安全対策、画像所見判読の仕方を学ぶ。臨床検査技師が業務として行うものは、超音波検査、磁気共鳴画像検査、サーマグラフィーなどに限られているが、画像診断では、多くの方法で得られた画像と生体検査を総合的に判断する能力が必要とされている。超音波検査、レントゲン検査、CT、内視鏡検査、血管造影、PET 等の画像の基礎的知識と実際の画像から判断について学習する。</p> <p>到達目標</p> <p>超音波検査、X線検査、CT、内視鏡検査、血管造影、PET 等の画像の基礎的知識と実際の画像からの判読ができる。</p> <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>診療の実践で行われている画像診断を模擬経験し、病院で行われている診断・治療の内容を理解できるように心がける。</p> <p>教科書</p> <p>生理機能検査学 大久保 善明 他 医歯薬出版 ISBN978-4-263-22310-9 C3347</p> <p>参考書</p> <p>日本超音波検査学会監修 心臓超音波テキスト 医歯薬出版 ISBN978-4-263-22929-3 C3047</p> <p>日本超音波検査学会監修 腹部超音波テキスト 医歯薬出版 ISBN978-4-263-22931-6 C3047</p> <p>研究室/オフィスアワー</p> <p>脇 英彦研究室 (月)16:30~17:30 (火)16:30~17:30</p> <p>小宮山 恭弘研究室 (月)16:30~17:30 (火)16:30~17:30</p>		
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	胸部・腹部 X線像の見方	X線の原理を調べる。	脇 英彦
2	CT検査の基礎と解剖概論	CTの原理を調べる。	脇 英彦
3	MRI 検査の原理と造影剤	MRIの原理を調べる。	脇 英彦
4	MRI、CT、血管造影(頸頭部)	頸頭部の解剖と疾病を調べる。	脇 英彦
5	MRI、CT、PET(腹部と心臓)	腹部の解剖と疾病を調べる。	脇 英彦
6	画像診断 症例分析 1	提示症例の疾病について復習する。	脇 英彦
7	画像診断 症例分析 2	提示症例の疾病について復習する。	脇 英彦
8	画像診断 症例分析 3	提示症例の疾病について復習する。	脇 英彦
9	画像診断 症例分析 4	提示症例の疾病について復習する。	脇 英彦
10	画像診断 症例分析 5	提示症例の疾病について復習する。	脇 英彦
11	画像診断 症例分析 6	提示症例の疾病について復習する。	小宮山 恭弘
12	画像診断 症例分析 7	提示症例の疾病について復習する。	小宮山 恭弘
13	画像診断 症例分析 8	提示症例の疾病について復習する。	小宮山 恭弘
14	画像診断 症例分析 9	提示症例の疾病について復習する。	小宮山 恭弘
15	画像診断 症例分析 10	提示症例の疾病について復習する。	小宮山 恭弘
成績評価方法と基準			割合

1.	小テスト 20 点
2.	定期試験 80 点

授業科目名	超音波検査学 I (検査) (Ultrasonography Science I)		
主担当教員	脇 英彦	担当教員	脇 英彦、小宮山 恭弘、 藤原 牧子、小林 彩香
科目ナンバリング	SS230	科目区分	専門科目
配当年次	3	開講学期	前期
授業形態	演習	単位数	1
授業概要	心臓超音波検査及び血管(頸動脈、下肢静脈)検査基本技術を習得する。 ※本科目は実務経験のある教員等による授業科目です 到達目標 心臓超音波検査(Bモード、Mモード、Doppler、TI)各モードでの検査ができる。 正常断層像を描出することができる。頸動脈検査及び下肢静脈検査ができる。 履修上の注意(学生へのメッセージ) 心臓及び血管の超音波検査は、計測系の検査であり、超音波の基本原理をしっかりとイメージしながら きれいな画像を描出するテクニック(技術)を身に付けてもらいます。		
教科書			
医歯薬出版 心臓超音波テキスト 第2版 日本超音波検査学会 監修 増田喜一 遠田栄一 編集			
医歯薬出版 血管超音波テキスト 日本超音波検査学会監修			
参考書			
じほう社 JAMIT 技術教本シリーズ 超音波検査技術教本 一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会 監修			
研究室/オフィスアワー			
協研究室/月曜 18時~ 小宮山研究室/月曜、木曜 18時~			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	心臓超音波検査総論	心臓構造と循環生理を理解しておく	脇、小宮山
2	心臓超音波 Bモード画像	左室短軸像 左室長軸像 心尖部像	脇、小宮山
3	心臓超音波 左心機能計測	左心機能計測法を調べておく	脇、小宮山
4	心臓超音波 Doppler 法	4つの弁の狭窄、閉鎖不全調べておく	脇、小宮山
5	心臓超音波 THI 法	拡張能の計測法について調べておく	脇、小宮山
6	頸動脈超音波総論	頸動脈 椎骨動脈の解剖を理解する	脇、小宮山
7	頸動脈超音波 IMT 計測	IMT 計測法と年齢毎基準値を調べる	脇、小宮山
8	頸部超音波 Doppler 法	頸部血管流速波形を調べておく	脇、小宮山
9	経頭蓋超音波総論	事前配布資料にて予習	脇、小宮山
10	経頭蓋超音波 Doppler 法	事前配布資料にて予習	脇、小宮山
11	下肢血管超音波総論	下肢血管の検査意義を調べる	脇、小宮山
12	下肢血管超音波 動脈 Doppler 法	下肢動脈の構造を理解しておく	脇、小宮山
13	下肢血管超音波 静脈 Bモード法	下肢静脈の構造を理解しておく	脇、小宮山
14	下肢血管超音波 静脈 Doppler 法	深部静脈血栓症について調べる	脇、小宮山
15	演習全体のまとめと振り返り	1-14 演習内容を復習しておく	脇、小宮山

成績評価方法と基準	割合
1. レポート 30%	1. 30%
2. 定期試験 70%	2. 70%
3. 4/5 以上の出席が必要	

授業科目名	超音波検査学Ⅱ(検査) (Ultrasonography Science II)																																																														
主担当教員	脇 英彦	担当教員	脇 英彦、小宮山 恭弘、藤原 牧子、小林 彩香																																																												
科目ナンバリング	SS231	科目区分	ディプロマポリシー 該当項目 DP①																																																												
配当年次	3	開講学期	曜日・時限 金曜 5限																																																												
授業形態	演習	単位数	1 必修・選択 必修																																																												
授業概要	<p>腹部超音波検査及び義在(甲状腺、乳腺)検査基本技術を習得する。</p> <p>※本科目は実務経験のある教員等による授業科目です</p>																																																														
到達目標	<p>腹部超音波検査(上腹部 消化管 腎尿路系)検査ができる。</p> <p>正常断層像を描出することができる。甲状腺、乳腺超音波基本断面が描出できる。</p>																																																														
履修上の注意(学生へのメッセージ)	<p>腹部、甲状腺、乳腺超音波検査は、診断系の検査であり、超音波の基本原理をしっかりとイメージしながら、きれいな画像を描出するテクニック(技術)を身に付けてもらいます。またレポートについても学びます。</p>																																																														
教科書	<p>医歯薬出版 日超検 腹部超音波テキスト 第2版 日本超音波検査学会 監修 関根富紀 南重利秀 編集</p>																																																														
参考書	<p>じほう社 JNIT 技術教本シリーズ超音波検査技術教本 一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会 監修</p>																																																														
研究室/オフィスアワー	<p>研究室/月曜 火曜 18時～ 小宮山研究室/月曜、木曜 18時～</p>																																																														
授業展開及び授業計画表	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>学修内容</th> <th>予習・復習・課題等</th> <th>担当</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>腹部超音波検査総論</td> <td>各臓器の解剖を理解しておく</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>腹部超音波 肝臓1</td> <td>肝臓のクイノ-8 区域を理解しておく</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>腹部超音波 肝臓2</td> <td>胆管 門脈 肝動脈を理解する</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>腹部超音波 胆嚢</td> <td>胆嚢の構造を理解しておく</td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>腹部超音波 脾臓 腎臓</td> <td>脾臓 腎臓の構造を理解しておく</td> <td></td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>腹部超音波 膵臓</td> <td>膵臓の構造を理解しておく</td> <td></td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>腹部超音波 胃 大腸</td> <td>胃 小腸 大腸の構造を理解する</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>腹部超音波 Doppler 法</td> <td>門脈 肝精脈流速波形を調べておく</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>腹部超音波 泌尿器 婦人科</td> <td>膀胱 前立腺 婦人科臓器を調べる</td> <td></td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>甲状腺超音波総論</td> <td>甲状腺の構造を理解しておく</td> <td></td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>甲状腺及び副甲状腺</td> <td>甲状腺検査の意義を調べる</td> <td></td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>乳腺超音波総論</td> <td>乳腺・周囲リンパ節の構造を理解する</td> <td></td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>乳腺超音波 Bモード法</td> <td>乳腺超音波での走査法を理解する</td> <td></td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>乳腺超音波 SWエラストグラフィ</td> <td>Shear wave 法について調べる</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当	1	腹部超音波検査総論	各臓器の解剖を理解しておく		2	腹部超音波 肝臓1	肝臓のクイノ-8 区域を理解しておく		3	腹部超音波 肝臓2	胆管 門脈 肝動脈を理解する		4	腹部超音波 胆嚢	胆嚢の構造を理解しておく		5	腹部超音波 脾臓 腎臓	脾臓 腎臓の構造を理解しておく		6	腹部超音波 膵臓	膵臓の構造を理解しておく		7	腹部超音波 胃 大腸	胃 小腸 大腸の構造を理解する		8	腹部超音波 Doppler 法	門脈 肝精脈流速波形を調べておく		9	腹部超音波 泌尿器 婦人科	膀胱 前立腺 婦人科臓器を調べる		10	甲状腺超音波総論	甲状腺の構造を理解しておく		11	甲状腺及び副甲状腺	甲状腺検査の意義を調べる		12	乳腺超音波総論	乳腺・周囲リンパ節の構造を理解する		13	乳腺超音波 Bモード法	乳腺超音波での走査法を理解する		14	乳腺超音波 SWエラストグラフィ	Shear wave 法について調べる	
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当																																																												
1	腹部超音波検査総論	各臓器の解剖を理解しておく																																																													
2	腹部超音波 肝臓1	肝臓のクイノ-8 区域を理解しておく																																																													
3	腹部超音波 肝臓2	胆管 門脈 肝動脈を理解する																																																													
4	腹部超音波 胆嚢	胆嚢の構造を理解しておく																																																													
5	腹部超音波 脾臓 腎臓	脾臓 腎臓の構造を理解しておく																																																													
6	腹部超音波 膵臓	膵臓の構造を理解しておく																																																													
7	腹部超音波 胃 大腸	胃 小腸 大腸の構造を理解する																																																													
8	腹部超音波 Doppler 法	門脈 肝精脈流速波形を調べておく																																																													
9	腹部超音波 泌尿器 婦人科	膀胱 前立腺 婦人科臓器を調べる																																																													
10	甲状腺超音波総論	甲状腺の構造を理解しておく																																																													
11	甲状腺及び副甲状腺	甲状腺検査の意義を調べる																																																													
12	乳腺超音波総論	乳腺・周囲リンパ節の構造を理解する																																																													
13	乳腺超音波 Bモード法	乳腺超音波での走査法を理解する																																																													
14	乳腺超音波 SWエラストグラフィ	Shear wave 法について調べる																																																													

15	演習全体のまとめと振り返り	1-14 演習内容を復習しておく
成績評価方法と基準		割合
1. レポート 30点		1. 30%
2. 定期試験 70点		2. 70%
・全授業のうち出席 4/5以上を必要とする		

授業科目名		検査総合管理学(検査) (Integrated Management of Medical Technology)		
主担当教員	脇 英彦	担当教員	脇 英彦、竹岡 啓子	啓子
科目ナンバリング	SS301	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP①
配当年次	3	開講学期	前期	水曜 1 限
授業形態	講義	単位数	2	必修、選択
授業概要				
検査総合管理学は、臨床検査の管理に必要な事項を総合的に知り、日々変化する医療状況の中で臨床検査室の管理体制の構築の確立、信頼性の高い検査結果を提供するための幅広い知識の修得を目指す。医療状況の変化を理解し、医療における臨床検査の位置づけを学修する。				
到達目標				
臨床検査の業務、人事、物品、検査機器の管理と医療安全、感染性廃棄物の管理について学修する。また、検査成績の信頼性を高める精度管理について学修する。				
履修上の注意(学生へのメッセージ)				
1. 医療人としての臨床検査技師の心構えを理解する。 2. 臨床検査の精度管理を理解するように努める。 3. 講義終了後のノート整理とまとめの作業で、検査総合管理学の理解と確認をする。				
教科書				
最新臨床検査学講座 検査総合管理学三木麻、三村邦裕編 医歯薬出版 ISBN978-4-263-22366-6 C3347				
参考書				
必要な資料を随時配布				
研究室/オフィスアワー				
脇 英彦研究室/ 月曜日 16:10-18:00 火曜日 16:00-18:00				
授業展開及び授業計画表				
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当	
1	臨床検査技師のキャリアアップについて	予習:臨床検査技師の職業倫理と社会的貢献について調べる。 復習:講義内容をノート整理する。	脇英彦	
2	臨床検査の意義	予習:臨床検査の診断法について調べる。 復習:講義内容をノート整理する。	脇英彦	
3	臨床検査の管理	予習:医療機関の組織編制について調べる 復習:講義内容をノート整理する。	脇英彦	
4	臨床検査の検査体制(検体検査)	予習:検査の中央化について調べる。 復習:講義内容をノート整理する。	脇英彦	
5	検体検査の業務体制と迅速検査	予習:医療過誤について調べる。 復習:講義内容をノート整理する。	脇英彦	
6	チーム医療の概要	予習:チーム医療の意義について調べる。 復習:講義内容をノート整理する	脇英彦	
7	検体検査業務管理(マニュアル作成)	復習:講義内容をノート整理する。	脇英彦	
8	臨床検査の情報管理	予習:個人情報保護法について調べる。 復習:講義内容をノート整理する。	脇英彦	
9	臨床検査の財務管理	復習:講義内容をノート整理する。	脇英彦	
10	臨床検査の医療安全・感染管理	予習:医療安全管理学ノートを読み直す。 復習:講義内容をノート整理する。	脇英彦	
11	検査の精度保障(クオリティマネージメント)	予習:検査の国際標準化について調べる。 復習:講義内容をノート整理する	竹岡	

12	臨床検査の誤差	予習:検査の精度と精密度について調べる。 復習:講義内容をノート整理する	脇英彦	
13	臨床検査の精度管理①	予習:X-Rs管理について調べる。 復習:講義内容をノート整理する。	脇英彦	
14	臨床検査の精度管理②	復習:講義内容をノート整理する	脇英彦	
15	検査総合管理学の重要項目を確認する	復習:講義内容をノート整理する。	脇英彦	
成績評価方法と基準				
①小テスト 20点				
②定期テスト 80点				

医療情報科学(検査) (Medical Information Science)				
授業科目名	担当教員	科目区分	専門科目	担当教員
主担当教員	小宮山 恭弘			小宮山 恭弘
科目ナンバリング	SS002			ディプロマポリシー 該当項目
配当年次	3	開講学期	後期	DP① 月曜 1限 月曜 2限 火曜 2限 火曜 3限 金曜 2限 金曜 3限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択
授業概要				
1年次から3年次で学習した専門科目の学習内容と、その報告形式や報告形態について学ぶ。 各種検査項目と部門検査システム(検体・輸血・検体・検体・検体・検体・検体・検体・検体・検体)について学ぶ。 臨床検査部門システムや電子カルテとの連携 病院セキュリティを学ぶ。				
到達目標				
情報系・統計に強い研究能力の高い、臨床検査技師を目指す				
履修上の注意(学生へのメッセージ)				
臨床検査技師として働く際に、役立つ情報管理技術知識と、3年間学習してきた専門科目の内容を授業に盛り込みます。 臨地実習で学んだ知識と学校で学んだ知識を再確認する良い機会にしてください。				
教科書				
医療情報 情報処理技術編 (日本医療情報学会医療情報技師育成部会) 経原出版				
参考書				
医療情報 病院システム編 (日本医療情報学会医療情報技師育成部会) 経原出版 医薬出版 臨床検査学講座 一般検査、血液検査、臨床化学、移植輸血学、微生物学、病理学、生理機能検査学 を適時教員の指示により使用する。				
研究室/オフィスアワー				
小宮山研究室/月 木 18時以降				
授業展開及び授業計画表				
回数	学修内容	予習・復習・課題等		担当
1	コンピュータシステム	P3-64		小宮山
2	プログラミング データベース	P65-115		小宮山
3	ネットワーク技術と情報セキュリティ	P119-349		小宮山
4	臨床検査とシステム1	適時指示する		小宮山
5	臨床検査とシステム2	適時指示する		小宮山
6	臨床検査とシステム3	適時指示する		小宮山
7	臨床検査とシステム4	配布資料		小宮山
8	臨床検査とシステム5	配布資料		小宮山
9	病院部門システム 医事 薬剤 看護	配布資料		小宮山
10	病院部門システム 臨床検査 1	配布資料		小宮山
11	病院部門システム 臨床検査 2	配布資料		小宮山
12	病院部門システム 画像情報管理	配布資料		小宮山

13	画像情報機器とネットワーク接続	配布資料	小宮山
14	臨床検査部門での精度管理手法 1	配布資料	小宮山
15	臨床検査部門での精度管理手法 2	配布資料	小宮山
成績評価方法と基準			
1 小テスト 30点			
2 定期試験 70点			
授業は各担当教員のオンライン形式で行うため、時間割については担当教員の指示に従うこと。 出席は補講を含め2/3以上とする。			
割合			① 30% ② 70%

授業科目名		関係法規(検査) (Related Laws and Regulations)	
主担当教員	脇 英彦	担当教員	脇 英彦
科目ナンバリング	SS303	科目区分	ディプロマポリシー 該当項目 DP①
配当年次	3	開講学期	後期
授業形態	講義	単位数	1
授業概要	<p>関係法規は、臨床検査技師として臨床検査業務に必要な法規を学び、業務遂行の指針とする知識を教授する。また、チーム医療で適切な行動がとれるよう関連領域の法規や臨床検査に関連して起こりやすい医療過誤を知り、それらを未然に防ぐ医療安全を教授する。</p> <p>到達目標</p> <p>医療従事者の法規、医療関係法規について学習する。</p> <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>1. 医療人としての臨床検査技師の心構えを理解する。 2. 臨床検査技師の法律を理解するよう努める。 3. 講義終了後のノート整理とまとめの作業で、関係法規の理解と確認が重要である。</p>		
教科書			
最新臨床検査学 講座 関係法規佐藤乙一編 医歯薬出版 ISBN978-4-263-22360-4 C3347			
参考書			
必要資料は随時配布する。			
研究室/オフィスアワー			
脇 英彦研究室/ 月曜日 16:10-18:00 火曜日 16:00-18:00			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	憲法、医事法概説	復習:講義内容をノート整理する。	脇 英彦
2	臨床検査技師等に関する法律	予習:臨床検査技師業務範囲を調べる。 復習:講義内容をノート整理する。	脇 英彦
3	医療・保健・福祉概説	予習: 医師法、感染症に関する法律を調べる 復習:講義内容をノート整理する。	脇 英彦
4	医療安全に関する法律の概要	予習: 医療過誤について調べる。 復習:講義内容をノート整理する。	脇 英彦
5	医療安全に関する法律の各論	予習: 臨床検査技師に関する主要法令 復習:講義内容をノート整理する。	脇 英彦
6	臨床検査技師に関する主要法令	予習: 臨床検査技師業務範囲を調べる。 復習:講義内容をノート整理する。	脇 英彦
7	臨床検査技師に関する関係通達	予習: 臨床検査技師業務範囲を調べる。 復習:講義内容をノート整理する。	脇 英彦
8	臨床検査技師に関する疑義回答	予習: 臨床検査技師業務範囲を調べる。 復習:講義内容をノート整理する。	脇 英彦
成績評価方法と基準		割合	
小テスト 20 点		小テスト 20 点	
定期テスト 80 点		定期テスト 80 点	

授業科目名		医療安全管理学(検査) (Medical Safety Management)	
主担当教員	脇 英彦	担当教員	脇 英彦
科目ナンバリング	SS304	科目区分	ディプロマポリシー 該当項目 DP①
配当年次	2	開講学期	後期
授業形態	講義	単位数	1
授業概要	<p>臨床検査業務を行う上で重要な臨床倫理、患者接遇とコミュニケーションスキル、患者同意、感染予防の標準予防策、チーム医療、医療過誤、危機管理、リスクマネジメントについて学習する。さらに、検体採取の方法についても学習する。</p> <p>到達目標</p> <p>標準予防策の実践を理解する。患者同意の必要性を理解する。リスクマネジメントを理解する。安全な検体採取の方法を理解する。</p> <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>医療安全と感染管理は、医療従事者として医療機関に勤める際に極めて重要な知識である。</p>		
教科書			
医療安全管理学 医歯薬出版 ISBN978-4-263-22365-9 C3347			
参考書			
随時プリントを配布			
研究室/オフィスアワー			
脇 英彦研究室 (月)16:30~17:30 (火)16:30~17:30			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	臨床倫理	生命倫理について予習する。	脇 英彦
2	患者接遇とコミュニケーションスキル	患者同意について予習する。	脇 英彦
3	チーム医療	ICG NST 糖尿病指導について予習する。	脇 英彦
4	インシデント、アクシデント	医療事故、医療過誤について調べる。	脇 英彦
5	感染対策	ワクチンの意義、手洗い手順について予習する。	脇 英彦
6	採血手順と注意事項	採血方法と禁忌について調べる。	脇 英彦
7	採血以外の検体採取と注意事項	皮膚、口腔、鼻腔、粘膜採取について予習する。	脇 英彦
8	医療安全管理の重要点を確認	安全管理に関する国家試験過去問題を調べる。	脇 英彦
成績評価方法と基準		割合	
1. 小テスト 20 点		1. 小テスト 20 点	
2. 定期テスト 80 点		2. 定期テスト 80 点	

授業科目名	臨床薬理学(検査) (Clinical Pharmacology)			
主担当教員	小林 吉晴	担当教員	小林 吉晴	
科目ナンバリング	SS401	科目区分	ディプロマポリシー 該当項目	DP①
配当年次	3	開講学期	曜日・時限	月曜 2限
授業形態	講義	単位数	必修・選択	選択
授業概要	薬理学・薬理学の基礎知識を深め、主要な疾患別の治療薬ならびに予防薬の薬物、作用機構、副作用、リスキーマネジメント等、臨床における薬物の理論と実際について学習する。また、小児、小児、女性、高齢者等、年齢による特性、個体差のある薬理作用と主要薬物の安全管理を学ぶ。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・薬理学・薬理学の基礎知識を深め、薬物治療の基本概念を理解できる。 ・薬物の作用機序、生体内動態、及び薬理作用と副作用の関係を説明できる。 ・各種疾患の病態生理や病状を考慮した上で、薬理学的根拠に基づいた適切な治療薬物の使用方法を検討できる。 ・主要薬物の安全管理と処方理論を理解できる。 			
履修上の注意(学生へのメッセージ)	生化学、生理学、人体の機能、人体の構造などの講義と合わせて復習する。			
教科書				
カラーイラストで学ぶ 集中講義 薬理学 渡邊康裕 編 メジカルビュー社 ISBN978-4-7583-0096-4				
参考書				
シンプル薬理学 野村 隆英 他 編 南江堂				
研究室/オフィスアワー				
随時				
授業展開及び授業計画表				
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当	
1	薬物の作用(薬の役割、剤形)	講義を受講後、配布プリントを参考に、まとめノートを作成する。	まとめノート	
2	薬の体内動態(吸収・分布・代謝・排泄)、副作用、相乗効果	講義を受講後、配布プリントを参考に、まとめノートを作成する。	まとめノート	
3	中枢神経系の病態と用いられる薬剤	講義を受講後、配布プリントを参考に、まとめノートを作成する。	まとめノート	
4	中枢神経系疾患の臨床における薬剤、副作用	講義を受講後、配布プリントを参考に、まとめノートを作成する。	まとめノート	
5	内分泌、代謝疾患の病態と用いられる薬剤	講義を受講後、配布プリントを参考に、まとめノートを作成する。	まとめノート	
6	内分泌、代謝疾患の臨床における薬剤の使用方法、副作用。糖尿病、痛風など	講義を受講後、配布プリントを参考に、まとめノートを作成する。	まとめノート	
7	循環器系の病態と用いられる薬剤。	講義を受講後、配布プリントを参考に、まとめノートを作成する。	まとめノート	
8	循環器系疾患の臨床における薬剤の使用方法、副作用。利尿薬、抗不整脈・心筋梗塞など	講義を受講後、配布プリントを参考に、まとめノートを作成する。	まとめノート	
9	消化器系の病態と用いられる薬剤	講義を受講後、配布プリントを参考に、まとめノートを作成する。	まとめノート	
10	消化器系疾患の臨床における薬剤の使用方法、副作用。消化性潰瘍、過敏性腸症候群など	講義を受講後、配布プリントを参考に、まとめノートを作成する。	まとめノート	
11	腫瘍の病態と用いられる薬剤	講義を受講後、配布プリントを参考に、まとめノートを作成する。	まとめノート	
12	腫瘍の臨床における薬剤の使用方法、副作用。	講義を受講後、配布プリントを参考に、まとめノートを作成する。	まとめノート	
13	骨疾患の病態と臨床で用いられる薬剤、副作用	講義を受講後、配布プリントを参考に、まとめノートを作成する。	まとめノート	
14	感染症、呼吸器系疾患の病態と用いられる薬剤	講義を受講後、配布プリントを参考に、まとめノートを作成する。	まとめノート	
15	感染症、呼吸器系疾患の臨床における薬剤の使用方法及び副作用	講義を受講後、配布プリントを参考に、まとめノートを作成する。	まとめノート	

成績評価方法と基準		割合
①小テスト	20点	①20%
②本試験	80点	②80%

授業科目名	食品衛生学(検査) (Food Hygienics)		
主担当教員	西崎 大祐	担当教員	西崎 大祐
科目ナンバリング	SS402	科目区分	専門科目
配当年次	3	開講学期	後期
授業形態	講義	単位数	1
授業概要	食品衛生学は、現在の食中毒発生状況を認識し、食品がもたらす様々な危害について具体的な事例を通して講義するとともに、食中毒発生を防止するための対処法について基本的な知識を教授する。また、臨床検査技師の視点から、食品衛生行政、経口感染症、食品関係施設における衛生管理、食品などの規格基準などについて教授する。さらに、残留農薬、遺伝子組み換え食品、有害物質による食品汚染など食品衛生学が抱える新たな課題についても教授する。		
到達目標	<p>1. 汚染する健康食品等に対して、一般消費者がどの分野における様々な情報を正確にかつタイムリーに得て、自らの健康維持増進の目的にあった食品を選択し、安全な生活ができるようにアドバイスできる知識を得る。</p> <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>小テストで評価するので、復習をすること。</p>		
教科書			
保健機能食品学(一般社団法人 日本食品安全協会)			
参考書			
健康食品管理士認定試験のための問題解説集(一般社団法人 日本食品安全協会)			
研究室/オフィスアワー			
E棟1階非常勤講師控室			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	保健機能食品総論①	授業内容の復習	
2	保健機能食品総論②	授業内容の復習	
3	保健機能食品各論①	授業内容の復習	
4	保健機能食品各論②	授業内容の復習	
5	食と栄養①	授業内容の復習	
6	食と栄養②	授業内容の復習	
7	医薬品と食品の相互作用①	授業内容の復習	
8	医薬品と食品の相互作用②	授業内容の復習	
成績評価方法と基準	割合		
授業内での小テスト	100%		

授業科目名	食品関係法規(検査) (Regulation Concerning Food Hygiene)		
主担当教員	竹岡 啓子	担当教員	竹岡 啓子
科目ナンバリング	SS403	科目区分	専門科目
配当年次	3	開講学期	後期
授業形態	講義	単位数	1
授業概要	食品関係法規では、まず法律とは何かという概念を解説した後、食の安全基本法、食品衛生法の役割および位置づけについて教授する。また、臨床検査技師の視点から医療法や保健医療関係者法規などの関連法規を教授し、それを遵守する態度を身につけさせるとともに、医療組織についての理解と知識を深める。さらに知識を深めるために健康増進法、JAS 法、食品衛生法、薬事法などについても解説する。		
到達目標	<p>「機能性表示食品制度」の整備が進められている状況にあつて、食全般の食の安全安心と健康に関することを学修する。</p> <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>食品関係法規を履修上、授業前に「保健機能食品学」の小テストを予習すると理解度が向上するので、予習をして下さい。</p>		
教科書			
保健機能食品学(一般社団法人 日本食品安全協会)			
参考書			
健康食品管理士認定試験のための問題解説集(一般社団法人 日本食品安全協会)			
研究室/オフィスアワー			
在室中隨時			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	関係法規①	予習: 小テストを予習する。 復習: 講義内容を復習、次週の小テストに備える。	
2	関係法規②	予習: 小テストを予習する。 復習: 講義内容を復習、次週の小テストに備える。	
3	病態解析と栄養管理①	予習: 小テストを予習する。 復習: 講義内容を復習、次週の小テストに備える。	
4	病態解析と栄養管理②	予習: 小テストを予習する。 復習: 講義内容を復習、次週の小テストに備える。	
5	病態解析と栄養管理③	予習: 小テストを予習する。 復習: 講義内容を復習、次週の小テストに備える。	
6	食の安全性①	予習: 小テストを予習する。 復習: 講義内容を復習、次週の小テストに備える。	
7	食の安全性② 食品表示	予習: 小テストを予習する。 復習: 講義内容を復習、次週の小テストに備える。	
8	授業全体のまとめ	予習: 関係法規から食品表示まで復習する	
成績評価方法と基準	割合		
成績評価方法と基準	1. 出席基準 2/3 以上		
	2. 定期試験		
	2. 100%		

授業科目名		総合演習Ⅰ(検査)(Integrated SeminarⅠ)																													
主担当教員	上田 真喜子	担当教員	上田 真喜子、森 誠司、小宮山 恭弘、小林 吉晴、前川 佳敬、竹岡 啓子、脇 英彦、佐伯 康匠、藤原 牧子、小林 彩香、間根 将																												
科目ナンバリング	SS404	専門科目	DP①																												
配当年次	4	開講学期	前期																												
授業形態	演習	単位数	2																												
授業概要	臨床検査学が複雑化する学問領域は多岐にわたり、個々の専門科目を独立して学ぶが、検査の実践においては横断的な理解が必要となる。本演習では臨床を勇指え各検査を実践するために必要な知識・技術を統合的に理解できるようにすることを目標とする。総合演習Ⅰでは臨床病理学と形骸検査学(血液検査学、病理検査学、一般検査学)また基礎医学系科目(解剖学、病理学)を中心に基礎から応用まで重要なポイントを整理し学習する。																														
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 病態理解の基礎となる解剖学・生理学・生化学・病理学の知識を確認するものにする。 2) 各検査法を実践するために不可欠な原理・原則について理解を深める。 3) 各種疾患に対して行われる臨床検査から得られるデータを統合的に理解し評価できるようになる。 																														
履修上の注意(学生へのメッセージ)	下記の授業計画は時系列ではない。詳細な日程は教員の指示に従うこと。授業進行には十分な予習と復習が必要であるため、自宅学習は計画的に継続しておこなうこと。理解の足りないところ、苦手なところは後回しにせず早期に克服するを請うること。																														
教科書	指示する。																														
参考書	指示する。																														
研究室/オフィスアワー	各教員は随時対応する。ただし、事前に予約すること。																														
授業展開及び授業計画表	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>学修内容</th> <th>予習・復習・課題等</th> <th>担当</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>臨床検査技師の職業意識と自己のキャリアアップについて</td> <td>臨床検査技師の社会における有用性について調べる。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>解剖学・呼吸器系</td> <td>予習:教科書の該当範囲を予習する。 復習:ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>解剖学・消化器系・内分泌系</td> <td>予習:教科書の該当範囲を予習する。 復習:ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>解剖学・泌尿器・生殖器系</td> <td>予習:教科書の該当範囲を予習する。 復習:ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>解剖学・神経系・感覚器系</td> <td>予習:教科書の該当範囲を予習する。 復習:ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>病理学:組織病理学・修飾機構</td> <td>予習:教科書の該当範囲を予習する。 復習:ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当	1	臨床検査技師の職業意識と自己のキャリアアップについて	臨床検査技師の社会における有用性について調べる。		2	解剖学・呼吸器系	予習:教科書の該当範囲を予習する。 復習:ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。		3	解剖学・消化器系・内分泌系	予習:教科書の該当範囲を予習する。 復習:ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。		4	解剖学・泌尿器・生殖器系	予習:教科書の該当範囲を予習する。 復習:ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。		5	解剖学・神経系・感覚器系	予習:教科書の該当範囲を予習する。 復習:ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。		6	病理学:組織病理学・修飾機構	予習:教科書の該当範囲を予習する。 復習:ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。	
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当																												
1	臨床検査技師の職業意識と自己のキャリアアップについて	臨床検査技師の社会における有用性について調べる。																													
2	解剖学・呼吸器系	予習:教科書の該当範囲を予習する。 復習:ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。																													
3	解剖学・消化器系・内分泌系	予習:教科書の該当範囲を予習する。 復習:ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。																													
4	解剖学・泌尿器・生殖器系	予習:教科書の該当範囲を予習する。 復習:ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。																													
5	解剖学・神経系・感覚器系	予習:教科書の該当範囲を予習する。 復習:ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。																													
6	病理学:組織病理学・修飾機構	予習:教科書の該当範囲を予習する。 復習:ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。																													

7	病理学:代謝障害	予習:教科書の該当範囲を予習する。 復習:ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。
8	病理学:循環障害	予習:教科書の該当範囲を予習する。 復習:ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。
9	病理学:感染症・免疫異常	予習:教科書の該当範囲を予習する。 復習:ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。
10	病理学:腫瘍	予習:教科書の該当範囲を予習する。 復習:ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。
11	臨床病理学:循環器・呼吸器系疾患	予習:教科書の該当範囲を予習する。 復習:ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。
12	臨床病理学:泌尿器系疾患	予習:教科書の該当範囲を予習する。 復習:ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。
13	臨床病理学:感染症・自己免疫疾患	予習:教科書の該当範囲を予習する。 復習:ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。
14	臨床病理学:内分泌系疾患	予習:教科書の該当範囲を予習する。 復習:ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。
15	臨床病理学:神経・筋疾患	予習:教科書の該当範囲を予習する。 復習:ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。
16	病理検査学:組織標本作成・包埋・凍切	予習:教科書の該当範囲を予習する。 復習:ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。
17	病理検査学:一般染色・結合組織染色	予習:教科書の該当範囲を予習する。 復習:ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。
18	病理検査学:糖質・酸性粘多糖類の染色	予習:教科書の該当範囲を予習する。 復習:ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。
19	病理検査学:核酸・アミロイド・脂質の染色	予習:教科書の該当範囲を予習する。 復習:ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。
20	病理検査学:免疫組織化学染色	予習:教科書の該当範囲を予習する。 復習:ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。
21	病理検査学:細胞検査学	予習:教科書の該当範囲を予習する。 復習:ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。
22	血液検査学:血球数算定	予習:教科書の該当範囲を予習する。 復習:ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。
23	血液検査学:赤血球に関する検査	予習:教科書の該当範囲を予習する。 復習:ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。
24	血液検査学:塗抹標本・染色	予習:教科書の該当範囲を予習する。 復習:ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。
25	血液検査学:血液像の観察	予習:教科書の該当範囲を予習する。 復習:ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。
26	血液検査学:凝固検査?	予習:教科書の該当範囲を予習する。 復習:ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。
27	血液検査学:凝固検査②	予習:教科書の該当範囲を予習する。 復習:ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。
28	一般検査学:尿沈査	予習:教科書の該当範囲を予習する。 復習:ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。

29	一般検査学:尿の生化学検査	予習:教科書の該当範囲を予習する。 復習:ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。	割合
30	一般検査学:脳脊髄液・黄便・喀痰検査	予習:教科書の該当範囲を予習する。 復習:ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。	中間テスト 50% 期末テスト 50%
成績評価方法と基準			
マークシート形式の試験を前期末(中間テスト)、後期末(期末テスト)にそれぞれ複数回おこない、総合成績が基準以上であった者に単位を認定する。 4/5以上の出席を必要とする。			

授業科目名		総合演習Ⅱ(検査)(Integrated SeminarⅡ)		
担当教員	上田 真喜子	担当教員	上田 真喜子、森 誠司、小宮山 恭弘、小林 吉晴、前川 佳敬、竹岡 啓子、脇 英彦、佐伯 康匠、藤原 牧子、小林 彰香、関根 将	
科目ナンバリング	SS405	科目区分	専門科目	DP①
配当年次	4	開講学期	前期	前期(火曜3限 水曜2限 水曜3限)、 後期(火曜3限 水曜2限 水曜3限)
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択
授業概要				
臨床検査学が網羅する学問領域は多岐にわたり、個々の専門科目を独立して学ぶが、検査の実践においては横断的な理解が必要となる。本演習では臨床を見据え各検査を実施するために必要な知識・技術を統合的に理解できるようにすることを目標とする。総合演習Ⅱでは生物化学分析検査学(臨床化学、遺伝子検査学、遺伝性同位元素検査学)、病因・生体防御検査学(免疫検査学、輸血・移植検査学、微生物検査学、寄生虫検査学、畜生虫検査学)また基礎医学系科目(生化学)を中心に基礎から応用まで重要なポイントを整理し学習する。				
到達目標				
1) 病態理解の基礎となる解剖学・生理学・生化学・病理学の知識を確固たるものにする。 2) 各検査法を実践するために不可欠な原理・原則について理解を深める。 3) 各種疾患に対して行われる臨床検査から得られるデータを統合的に理解し評価できるようになる。				
履修上の注意(学生へのメッセージ)				
下記の授業計画(日時系列)ではない、詳細な日程は教員の指示に従うこと。 授業進行には十分な予習と復習が必要であるため、自宅学習は計画的に継続しておくこと。 理解の足りないところ、苦手なところは復習しにせよ早期に克服する術を講じること。				
教科書				
指示する。				
参考書				
指示する。				
研究室/オフィスアワー				
随時対応する。ただし、事前に予約すること。				
授業展開及び授業計画表				
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当	
1	生化学:生体構成成分	予習:教科書の該当範囲を予習する。 復習:ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。		
2	生化学:糖鎖系・糖新生	予習:教科書の該当範囲を予習する。 復習:ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。		
3	生化学:酵素反応	予習:教科書の該当範囲を予習する。 復習:ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。		
4	生化学:TOA・サイクル・電子伝達系、脂質代謝	予習:教科書の該当範囲を予習する。 復習:ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。		
5	生化学:アミノ酸代謝	予習:教科書の該当範囲を予習する。 復習:ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。		

6	遺伝子検査学:核酸の性質、	予習:教科書の該当範囲を予習する。 復習:ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。
7	遺伝子検査学:遺伝学的検査・体細胞遺伝子検査	予習:教科書の該当範囲を予習する。 復習:ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。
8	遺伝子検査学:遺伝子検査技術	予習:教科書の該当範囲を予習する。 復習:ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。
9	免疫検査学:生体防御のメカニズム	予習:教科書の該当範囲を予習する。 復習:ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。
10	免疫検査学:感染防御・腫瘍免疫	予習:教科書の該当範囲を予習する。 復習:ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。
11	免疫検査学:アレルギー・自己免疫疾患	予習:教科書の該当範囲を予習する。 復習:ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。
12	免疫検査学:抗原抗体反応を用いた分析法?	予習:教科書の該当範囲を予習する。 復習:ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。
13	免疫検査学:抗原抗体反応を用いた分析法②	予習:教科書の該当範囲を予習する。 復習:ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。
14	免疫検査学:免疫機能検査	予習:教科書の該当範囲を予習する。 復習:ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。
15	輸血・移植検査学:血液型、ABO型、Rh型、HLA	予習:教科書の該当範囲を予習する。 復習:ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。
16	輸血・移植検査学:血液型検査、不規則抗体	予習:教科書の該当範囲を予習する。 復習:ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。
17	輸血・移植検査学:クロスマツチ試験	予習:教科書の該当範囲を予習する。 復習:ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。
18	輸血・移植検査学:輸血管管理:製剤の種類	予習:教科書の該当範囲を予習する。 復習:ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。
19	輸血・移植検査学:移植免疫-HLAタイピング	予習:教科書の該当範囲を予習する。 復習:ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。
20	微生物検査学:無菌操作:検体採取・染色法	予習:教科書の該当範囲を予習する。 復習:ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。
21	微生物検査学:細菌?	予習:教科書の該当範囲を予習する。 復習:ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。
22	微生物検査学:細菌②	予習:教科書の該当範囲を予習する。 復習:ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。
23	微生物検査学:細菌③	予習:教科書の該当範囲を予習する。 復習:ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。
24	微生物検査学:真菌・ウイルス	予習:教科書の該当範囲を予習する。 復習:ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。
25	微生物検査学:微生物検査結果の評価	予習:教科書の該当範囲を予習する。 復習:ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。
26	寄生虫検査学:感染経路と生活史	予習:教科書の該当範囲を予習する。 復習:ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。
27	寄生虫検査学:線虫類・吸虫類・糸虫類	予習:教科書の該当範囲を予習する。 復習:ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。

28	寄生虫検査学:原虫類・衛生動物	予習:教科書の該当範囲を予習する。 復習:ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。
29	放射性同位元素検査学:放射性物質の性質	予習:教科書の該当範囲を予習する。 復習:ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。
30	放射性同位元素検査学:RI検査技術	予習:教科書の該当範囲を予習する。 復習:ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。
成績評価方法と基準		割合
マークシート形式の試験を前期末(中間テスト)、後期末(期末テスト)にそれぞれ複数回おこなひ、総合成績が基準以上であった者に単位を認定する。 4/5以上の出席を必要とする。		中間テスト 50% 期末テスト 50%

総合演習Ⅲ (Integrated Seminar Ⅲ)			
授業科目名	上田 真喜子	担当教員	上田 真喜子、森 誠司、小宮山 恭弘、小林 吉晴、前川 佳敬、竹岡 啓子、脇 英彦、佐伯 康匠、藤原 牧子、小林 彩香、関根 将
主担当教員	上田 真喜子	担当教員	上田 真喜子、森 誠司、小宮山 恭弘、小林 吉晴、前川 佳敬、竹岡 啓子、脇 英彦、佐伯 康匠、藤原 牧子、小林 彩香、関根 将
科目ナンバリング	SS408	専門科目	DP①
配当年次	4	開講学期	前期
授業形態	演習	単位数	2
授業概要	臨床検査学が網羅する学問領域は多岐にわたり、個々の専門科目を独立して学ぶが、検査の奥深さにおいては機能的な理解が必要となる。本演習では臨床を先駆え、各検査を体系的に理解できるようにすることを目標とする。総合演習ⅢI ではと生理機能検査学、検査総合管理学(検査総合管理学、医療情報学、医療情報学系科目(生理学、公衆衛生学、医用工学)を中心に基礎から応用まで重要なポイントを整理し学習する。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 1) 病態理解の基礎となる解剖学・生理学・生化学・病理学の知識を固めるものにする。 2) 各種検査法を実践するために不可欠な原理・原則について理解を深める。 3) 各種疾患に対して行われる臨床検査から得られるデータを統合的に理解し評価できるようになる。 		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	下記の授業計画は時系列ではない。詳細な日程は教員の指示に従うこと。授業進捗には十分な予習と復習が必要であるため、自宅学習は計画的に継続しておくこと。理解の足りないところ、苦手なところは後回しにせず早期に克服する術を講じることに。		
教科書			
指示する。			
参考書			
指示する。			
研究室/オフィスアワー			
随時対応する。ただし、事前に予約すること。			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	生理学:循環器系・呼吸器系	予習:教科書の該当範囲を予習する。 復習:ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。	
2	生理学:消化器系	予習:教科書の該当範囲を予習する。 復習:ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。	
3	生理学:泌尿器・生殖器系	予習:教科書の該当範囲を予習する。 復習:ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。	
4	生理学:内分泌系	予習:教科書の該当範囲を予習する。 復習:ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。	
5	生理学:神経系・感覚器系	予習:教科書の該当範囲を予習する。 復習:ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。	

6	公衆衛生学:健康・予防・生活環境・保健	予習:教科書の該当範囲を予習する。 復習:ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。
7	公衆衛生学:疫学調査	予習:教科書の該当範囲を予習する。 復習:ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。
8	公衆衛生学:生物環境・感染予防	予習:教科書の該当範囲を予習する。 復習:ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。
9	医用工学:電気回路の基本	予習:教科書の該当範囲を予習する。 復習:ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。
10	医用工学:電源・内部抵抗、交流	予習:教科書の該当範囲を予習する。 復習:ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。
11	医用工学:抵抗、コンデンサ、コイル、OR 回路	予習:教科書の該当範囲を予習する。 復習:ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。
12	医用工学:ダイオード、トランジスタ、増幅器	予習:教科書の該当範囲を予習する。 復習:ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。
13	医用工学:生体物性・生体計測・安全対策	予習:教科書の該当範囲を予習する。 復習:ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。
14	生理機能検査学:循環器系検査?	予習:教科書の該当範囲を予習する。 復習:ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。
15	生理機能検査学:循環器系検査②	予習:教科書の該当範囲を予習する。 復習:ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。
16	生理機能検査学:呼吸器系検査	予習:教科書の該当範囲を予習する。 復習:ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。
17	生理機能検査学:神経系検査	予習:教科書の該当範囲を予習する。 復習:ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。
18	生理機能検査学:運動器系検査	予習:教科書の該当範囲を予習する。 復習:ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。
19	生理機能検査学:感覚器系検査	予習:教科書の該当範囲を予習する。 復習:ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。
20	生理機能検査学:画像検査?	予習:教科書の該当範囲を予習する。 復習:ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。
21	生理機能検査学:画像検査②	予習:教科書の該当範囲を予習する。 復習:ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。
22	検査総合管理学:検査部門の安全管理	予習:教科書の該当範囲を予習する。 復習:ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。
23	検査総合管理学:精度管理・基準範囲	予習:教科書の該当範囲を予習する。 復習:ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。
24	検査総合管理学:採血・検体採取と保存	予習:教科書の該当範囲を予習する。 復習:ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。
25	検査総合管理学:検査情報管理	予習:教科書の該当範囲を予習する。 復習:ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。
26	医療情報学:論理演算、データ形式と情報処理	予習:教科書の該当範囲を予習する。 復習:ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。
27	医療情報学:プログラム言語・ネットワークシステム	予習:教科書の該当範囲を予習する。 復習:ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。

28	医療情報学:医療情報システム	予習:教科書の該当範囲を予習する。 復習:ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。	中間テスト
29	関係法規?	予習:教科書の該当範囲を予習する。 復習:ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。	期末テスト
30	関係法規②	予習:教科書の該当範囲を予習する。 復習:ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。	割合 50%
成績評価方法と基準			
マークシート形式の試験を前期末(中間テスト)、後期末(期末テスト)にそれぞれ複数回おこなない、総合成績が基準以上であった者に単位を認定する。 4/5以上の出席を必要とする。			

卒業科目名				卒業研究Ⅰ(検査):上田 真喜子・小林 彩香 (Graduation Research I)			
主担当教員		上田 真喜子		担当教員		上田 真喜子、小林 彩香	
科目ナンバリング		SS501		科目区分		ディプロマポリシー 該当項目 DP①④	
配当年次		3		開講学期		前期 曜日・時限 後期(木曜 5限)	
授業形態		演習		単位数		2 必修・選択 必修	
授業概要							
研究指導教員の下で研究テーマを決め、研究計画やデータ解析、発表を行う。 主に、「病理学」領域の検査や「領域」の研究を行う。 研究成果として、抄録を提出し中間発表会で報告する。 到達目標							
1. 研究倫理について理解することができる。 2. 専門領域について文献収集ができる。 3. 専門領域における実験などの研究方法を理解する。 4. 研究計画を作成し、プレゼンテーションができる。 履修上の注意(学生へのメッセージ)							
1. 教員とよく話し合っ研究活動を進めること。 2. 期日を守ること。							
教科書							
特に定めない。							
参考書							
特に定めない。							
研究室/オフィスアワー							
教員の指示に従う。							
授業展開及び授業計画表							
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当				
1	講義 オリエンテーション	研究領域について、事前、事後の自己学習を行う。	上田真喜子 小林彩香				
2	文献検索・抄読①	研究領域や研究の流れについて文献を読み、理解する。	上田真喜子 小林彩香				
3	文献検索・抄読②	研究領域や研究の流れについて文献を読み、理解する。	上田真喜子 小林彩香				
4	文献検索・抄読③	研究領域や研究の流れについて文献を読み、理解する。	上田真喜子 小林彩香				
5	文献検索・抄読④	研究領域や研究の流れについて文献を読み、理解する。	上田真喜子 小林彩香				
6	文献検索・抄読⑤	研究領域や研究の流れについて文献を読み、理解する。	上田真喜子 小林彩香				
7	研究テーマの設定①	研究テーマについて指導教員とディスカッションする。	上田真喜子 小林彩香				
8	研究テーマの設定②	研究テーマについて指導教員とディスカッションする。	上田真喜子 小林彩香				
9	研究テーマの設定③	研究テーマについて指導教員とディスカッションする。	上田真喜子 小林彩香				
10	研究テーマの設定④	研究テーマについて指導教員とディスカッションする。	上田真喜子 小林彩香				
11	研究テーマの参考文献抄読①	研究テーマに関する参考文献を読み、理解する。	上田真喜子 小林彩香				
12	研究テーマの参考文献抄読②	研究テーマに関する参考文献を読み、理解する。	上田真喜子 小林彩香				
13	研究テーマの参考文献抄読③	研究テーマに関する参考文献を読み、理解する。	上田真喜子 小林彩香				
14	研究テーマの参考文献抄読④	研究テーマに関する参考文献を読み、理解する。	上田真喜子 小林彩香				

15	研究テーマの参考文献抄録⑤	研究テーマに関する参考文献を読み、理解する。	上田真喜子 小林彩香
16	研究計画の立案①	研究計画をたてる。	上田真喜子 小林彩香
17	研究計画の立案②	研究計画をたてる。	上田真喜子 小林彩香
18	研究データの収集と解析①	研究データを収集し、解析する。	上田真喜子 小林彩香
19	研究データの収集と解析②	研究データを収集し、解析する。	上田真喜子 小林彩香
20	研究データの収集と解析③	研究データを収集し、解析する。	上田真喜子 小林彩香
21	研究データの収集と解析④	研究データを収集し、解析する。	上田真喜子 小林彩香
22	研究データの収集と解析⑤	研究データを収集し、解析する。	上田真喜子 小林彩香
23	研究データの収集と解析⑥	研究データを収集し、解析する。	上田真喜子 小林彩香
24	研究データの収集と解析⑦	研究データを収集し、解析する。	上田真喜子 小林彩香
25	中間発表会の準備①	中間発表会用の資料を作成する。	上田真喜子 小林彩香
26	中間発表会の準備②	中間発表会用の資料を作成する。	上田真喜子 小林彩香
27	中間発表会の準備③	中間発表会用の資料を作成する。	上田真喜子 小林彩香
28	中間発表会の準備④	中間発表会用の資料を作成する。	上田真喜子 小林彩香
29	中間発表会①	得られたデータの解析結果と考察を論理的に発表する。	上田真喜子 小林彩香
30	中間発表会②	得られたデータの解析結果と考察を論理的に発表する。	上田真喜子 小林彩香
成績評価方法と基準			割合
1. 研究成果として、抄録の提出が必要となる。規定に従って、期限までに指導教員へ提出する。			1. 50%
2. 研究活動の状況を中間発表会で報告する。			2. 50%
3. 全授業の4/5以上の出席を必要とする。			

授業科目名	卒業研究Ⅰ(検査)森 誠司 (Graduation Research I)		
主担当教員	森 誠司	担当教員	森 誠司
科目ナンバリング	SS501	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目
配当年次	3	開講学期	前期(木曜5限)、 後期(木曜5限)
授業形態	演習	単位数	2
授業概要	がんの進展メカニズムについて in vitro の解析法を主体に研究をおこなう。卒業研究Ⅰではとくに研究に必要な基礎的素養を見つめる。まず当該研究のバックグラウンドから課題を抽出することに十分な時間を割き方向性を見極める。この過程を通して外国語論文の読解力を養うとともに、論文作成の基礎を修得する。次に、卒業研究Ⅱを視野に入れて研究計画を立案する。実験の施行にあたっては、まず実験系の確立と予備実験をおこなう。最終的には、得られたデータから仮説の検証等の考察を加え、他者に説明できるようにする。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究倫理について理解することができる。 2. 当該研究領域に関連する資料および文献収集ができる。 3. 当該研究における実験または調査などの研究方法を理解する。 4. 実行可能な適切な研究計画を作成でき、実行できる。 5. 得られた結果を分析しまとめ考察ができる。 6. 研究成果をプレゼンテーションができる。 		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	指導教員との十分なディスカッションのもと研究活動を進めるが、学生自身の積極的かつ主体的な取り組みも重要である。		
教科書			
指示する			
参考書			
指示する			
研究室/オフィスアワー			
随時			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	1から6回:研究領域の理解と文献抄読	背景について担当教員と議論し理解する	
2	7から9回:実験仮説と方法の立案	論文検索をおこない課題を抽出する	
3	10から12回:プロトコルの作成	論理的かつ実現可能な計画を策定する	
4	13から15回:実験系の確立	実験手法を修得するとともに予備実験をおこなう	
5	16から25回:実験実施(データ収集、解析)	実験データを収集し適宜解釈を加え方向性を見極める	
6	26から29回:結果のまとめ、解釈	実験データを収集し適宜解釈を加え方向性を見極める	
7	30回:プレゼンテーションの準備	図表等の発表資料の作成。論理的に説明する	
成績評価方法と基準			
研究計画書の提出、中間報告会での発表を評価対象とする			
4/5以上の出席が必要			
割合			
100%			

授業科目名	卒業研究Ⅰ(検査)・小宮山 恭弘・藤原 敦子 (Graduation Research I)		
主担当教員	小宮山 恭弘	担当教員	小宮山 恭弘、藤原 敦子
科目ナンバリング	SS501	科目区分	ディプロマポリシー 該当項目 DP①④
配当年次	3	開講学期	前期 曜日・時限 後期(木曜 5限)
授業形態	演習	単位数	2
授業概要	必修・選択		
小宮山	医学、臨床検査分野での興味あるテーマについて、超音波検査やその他の生理機能検査について、先行研究にて明らかにしている論理点とその根拠を理解し、未だ明らかにされていない未開の部分から自らのクリティカルな発想により明らかにする。		
藤原	臨床血液学、血液疾患、各種血液、凝固系検査やそれに関連する病態について、先行研究にて明らかにしている論理点とその根拠を理解し、未だ明らかにされていない未開の部分から自らのクリティカルな発想により明らかにする。		
到達目標	研究論理について理解することができる。これまで大学で学修した医学、臨床検査分野の知識から個々に研究テーマを設定する。研究で得られた結果がどのような意味を持つものかを考える。		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	研究とは明らかにしていない疑問点をどのように解釈していくかの1手法である。超音波診断や新しい超音波検査手法、生理機能検査手法、また臨床血液学、凝固系検査、血液疾患などについて学ぶとともに、血液テーマも加えた総合診断能力を身につけるようにともに勉強しましょう。		
教科書	超音波技術概本 じほう 血液検査学 医歯薬出版		
参考書	研究論文 クリティカルシンキング J・メルツォフ著 中澤 潤 監訳 北大路書房 研究室/オフィスアワー		
小宮山	藤原 研究室/月曜、木曜 18時～		
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	研究と仮説について 研究テーマ選定	1-30 まで随時指示をする	小宮山 藤原
2	研究方法と研究に用いる変数、サンプルの考え方		小宮山 藤原
3	最新の血液疾患治療		小宮山 藤原
4	最新の超音波診断技術		小宮山 藤原
5	研究デザインに対する考え方 研究テーマ決定		小宮山 藤原
6	それぞれの研究テーマに沿った関係文献を読み込む		小宮山
7	それぞれの研究テーマに沿った関係文献を読み込む		小宮山
8	それぞれの研究テーマに沿った関係文献を読み込む		小宮山
9	卒業研究テーマ収集 1		小宮山 藤原
10	卒業研究テーマ収集 2		小宮山
11	卒業研究テーマ収集 3		小宮山
12	卒業研究テーマ収集 4		小宮山
13	卒業研究テーマ収集 5		小宮山

14	卒業研究テーマ収集 6		小宮山
15	研究中間テーマ報告会	発表用データ持参すること	小宮山 藤原
16	文献抄読会 1		小宮山 藤原
17	文献抄読会 2		小宮山
18	文献抄読会 3		小宮山
19	研究結果統計解析 1		小宮山
20	研究結果統計解析 2		小宮山
21	研究結果統計解析 3		小宮山
22	研究結果統計解析 4		小宮山
23	研究結果統計解析 5		小宮山
24	研究結果統計解析 6		小宮山
25	研究室内発表会予演会		小宮山 藤原
26	研究内容まとめ(研究テーマ作成)		小宮山 藤原
27	研究内容まとめ 修正予備日 1		小宮山
28	研究内容まとめ 修正予備日 2		小宮山
29	研究内容まとめ 修正予備日 3		小宮山
30	中間発表会	発表用データ持参すること	小宮山 藤原
成績評価方法と基準			
1. 中間テーマ報告会 15コマ目			
2. 中間発表会及び抄録の提出 30コマ目			
・全授業のうち 4/5 以上の出席を必要とする			
			割合
			1. 40%
			2. 60%

授業科目名 卒業研究Ⅰ(検査)・小林 吉晴・竹岡 啓子 (Graduation Research I)			
主担当教員	小林 吉晴		小林 吉晴、竹岡 啓子
	SS01	科目区分	専門科目
科目ナンバリング	SS01		ディプロマポリシー 該当項目 DP①④
配当年次	3	開講学期	前期 曜日・時限 後期(木曜5限)
授業形態	演習	単位数	2 必修・選択 必修
授業概要			
研究指導教員の下で研究テーマを決め、先行研究レビュー、研究計画作成を行う。 研究成果として、研究計画を中間発表会で報告する。 研究テーマ①は、ステロイドホルモンの分析法の開発とその病態解析への応用とする(小林)。 研究テーマ②は、免疫検査学に関連する分析法の開発とその病態解析への応用とする(竹岡)。 研究方法として、調査研究を実施する。			
到達目標			
1. 研究倫理について理解することができる。 2. 専門領域における資料および文献収集ができる。 3. 専門領域における実験または調査などの研究方法を理解する。 4. 研究計画を作成し、プレゼンテーションができる。 履修上の注意(学生へのメッセージ)			
指導教員とよく話し合っ合わせて研究活動を進めること。			
教科書			
配布資料、文献など			
参考書			
随時紹介する			
研究室/オフィスアワー			
随時			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	オリエンテーション/卒業研究について説明する。	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う	小林吉晴
2	卒業論文テーマの見つけ方などについて説明する。	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う	竹岡啓子
3	卒業論文執筆について/論文執筆方法について説明する。	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う	小林吉晴
4	文献読解と要約の方法/テキストや文献、論文の読解と要約方法を説明する。	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う	竹岡啓子
5	関連領域の論文抄読(1)	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う	竹岡啓子
6	関連領域の論文抄読(2)	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う	小林吉晴
7	関連領域の論文抄読(3)	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う	竹岡啓子
8	関連領域の論文抄読(4)	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う	小林吉晴
9	関連領域の論文抄読(5)	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う	竹岡啓子
10	関連領域の論文抄読(6)	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う	小林吉晴
11	関連領域の論文抄読(7)	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う	竹岡啓子
12	各自の研究テーマのまとめとグループ内での発表準備	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う	小林吉晴
13	各自の研究テーマのまとめとグループ内での発表準備	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う	竹岡啓子

14	各自の研究テーマのまとめとグループ内での発表準備	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う	小林吉晴
15	グループ内で各テーマについて発表する	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う	竹岡啓子
16	グループ内で各テーマについて発表する	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う	小林吉晴
17	グループ内で各テーマについて発表する	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う	竹岡啓子
18	グループ内で各テーマについて発表する	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う	小林吉晴
19	実験計画(プロトコル)作成	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う	竹岡啓子
20	実験計画(プロトコル)作成	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う	小林吉晴
21	実験計画(プロトコル)作成	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う	竹岡啓子
22	実験計画(プロトコル)作成	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う	小林吉晴
23	グループ内での実験計画発表会	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う	小林吉晴
24	グループ内での実験計画発表会	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う	竹岡啓子
25	グループ内での実験計画発表会	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う	小林吉晴
26	中間報告会準備	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う	竹岡啓子
27	中間報告会準備	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う	小林吉晴
28	中間報告会準備	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う	竹岡啓子
29	中間報告会準備	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う	小林吉晴
30	発表会	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う	竹岡啓子
成績評価方法と基準			割合
研究テーマ報告書の提出、中間報告会での発表を評価対象とする。			プレゼンテーション70%、中間報告会30%
4/5以上の出席が必要。			

卒業研究 I (検査) 脇 英彦・前川 佳敬 (Graduation Research I)			
授業科目名	卒業研究 I (検査) 脇 英彦・前川 佳敬	担当教員	脇 英彦・前川 佳敬
主担当教員	脇 英彦	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目 DP①④
科目ナンバリング	SS501	科目区分	前期(木曜 5 限)、 後期(木曜 5 限)
配当年次	3	開講学期	曜日・時限
授業形態	演習	単位数	2
授業概要	1~2 年生で学んだ知識と技術を基礎として、臨床病態学の検査領域について研究する。 担当教員の指導を基に研究計画、結果のまとめ方、発表方法の基礎について学ぶ。 卒業発表に向けての基礎実践力を養う。		
到達目標	① 研究倫理について理解することができる。 ② 本講座を通して、探究心を養う。 ③ 調査方法と結果のまとめ方を養う。 ④ 結果の発表方法を学ぶ。		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	調査・研究テーマについて十分に理解し、積極的に行う。 疑問点は指導教員への質問や討論を通して理解に努める。 研究室のメンバーとして、節度ある行動に心がける。		
教科書			
特に定めない。			
参考書			
指導教員の指示に従う。			
研究室/オフィスアワー			
研究室における指導に準じる。			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	臨床病態学における(循環器、老年、消化器疾患)での研究テーマ、研究方法、結果のまとめ方、発表方法の概論。	予習：調査・研究テーマについて十分に理解する。 復習：疑問点を理解する。	脇 英彦
2	臨床病態学(循環器)における臨床検査の役割について。	予習：調査・研究テーマについて十分に理解する。 復習：疑問点を理解する。	前川 佳敬
3	臨床病態学(老年学)における臨床検査の役割について。	予習：調査・研究テーマについて十分に理解する。 復習：疑問点を理解する。	前川 佳敬
4	臨床病態学(消化器)における臨床検査の役割について。	予習：調査・研究テーマについて十分に理解する。 復習：疑問点を理解する。	脇 英彦
5	臨床病態学(循環器)における画像診断の役割について。	予習：調査・研究テーマについて十分に理解する。 復習：疑問点を理解する。	前川 佳敬
6	臨床病態学(消化器)における画像診断の役割について。	予習：調査・研究テーマについて十分に理解する。 復習：疑問点を理解する。	脇 英彦
7	研究と仮説について①	予習：調査・研究テーマについて十分に理解する。 復習：疑問点を理解する。	脇 英彦 前川 佳敬
8	研究と仮説について②	予習：調査・研究テーマについて十分に理解する。 復習：疑問点を理解する。	脇 英彦 前川 佳敬
9	研究デザインの取り組み方①	予習：調査・研究テーマについて十分に理解する。 復習：疑問点を理解する。	脇 英彦 前川 佳敬

10	研究デザインの取り組み方②	予習：調査・研究テーマについて十分に理解する。 復習：疑問点を理解する。	脇 英彦 前川 佳敬
11	研究テーマの設定①	予習：調査・研究テーマについて十分に理解する。 復習：疑問点を理解する。	脇 英彦 前川 佳敬
12	研究テーマの設定②	予習：調査・研究テーマについて十分に理解する。 復習：疑問点を理解する。	脇 英彦 前川 佳敬
13	卒業研究に必要なデータ収集①	予習：調査・研究テーマについて十分に理解する。 復習：疑問点を理解する。	脇 英彦 前川 佳敬
14	卒業研究に必要なデータ収集②	予習：調査・研究テーマについて十分に理解する。 復習：疑問点を理解する。	脇 英彦 前川 佳敬
15	卒業研究に必要なデータ収集③	予習：調査・研究テーマについて十分に理解する。 復習：疑問点を理解する。	脇 英彦 前川 佳敬
16	卒業研究に必要なデータ収集④	予習：調査・研究テーマについて十分に理解する。 復習：疑問点を理解する。	脇 英彦 前川 佳敬
17	卒業研究に必要なデータ収集⑤	予習：調査・研究テーマについて十分に理解する。 復習：疑問点を理解する。	脇 英彦 前川 佳敬
18	文献抄読会①	予習：調査・研究テーマについて十分に理解する。 復習：疑問点を理解する。	脇 英彦 前川 佳敬
19	文献抄読会②	予習：調査・研究テーマについて十分に理解する。 復習：疑問点を理解する。	脇 英彦 前川 佳敬
20	文献抄読会③	予習：調査・研究テーマについて十分に理解する。 復習：疑問点を理解する。	脇 英彦 前川 佳敬
21	中間報告へのデータ解析①	予習：調査・研究テーマについて十分に理解する。 復習：疑問点を理解する。	脇 英彦 前川 佳敬
22	中間報告へのデータ解析②	予習：調査・研究テーマについて十分に理解する。 復習：疑問点を理解する。	脇 英彦 前川 佳敬
23	中間報告へのデータ解析③	予習：調査・研究テーマについて十分に理解する。 復習：疑問点を理解する。	脇 英彦 前川 佳敬
24	中間報告への小括準備①	予習：調査・研究テーマについて十分に理解する。 復習：疑問点を理解する。	脇 英彦 前川 佳敬
25	中間報告への小括準備②	予習：調査・研究テーマについて十分に理解する。 復習：疑問点を理解する。	脇 英彦 前川 佳敬
26	中間報告への小括準備③	予習：調査・研究テーマについて十分に理解する。 復習：疑問点を理解する。	脇 英彦 前川 佳敬
27	中間報告への小括準備④	予習：調査・研究テーマについて十分に理解する。 復習：疑問点を理解する。	脇 英彦 前川 佳敬
28	中間報告への小括準備⑤	予習：調査・研究テーマについて十分に理解する。 復習：疑問点を理解する。	脇 英彦 前川 佳敬
29	中間発表会①	予習：調査・研究テーマについて十分に理解する。 復習：疑問点を理解する。	脇 英彦 前川 佳敬
30	中間発表会②	予習：調査・研究テーマについて十分に理解する。 復習：疑問点を理解する。	脇 英彦 前川 佳敬
成績評価方法と基準			
1. 出席は 4/5 以上とする。 2. 中間発表会もしくは抄録の提出			
割合 中間発表会も しくは、抄録 100%			

授業科目名 卒業研究Ⅰ(検査):佐伯 康匠 (Graduation Research I)			
主担当教員	佐伯 康匠	担当教員	佐伯 康匠
科目ナンバリング	SS501	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目
配当年次	3	科目区分	前期(木曜5限)、 後期(木曜5限)
授業形態	演習	開講学期	曜日・時限
授業概要	2	単位数	必修・選択
<p>微生物検査に関する研究をおこなう。卒業研究Ⅰではとくに研究に必要な基礎的素養を見つめる。まず当該研究のバックグラウンドから課題を抽出することにより十分な時間を割き方向性を見極める。この過程を通して外国語論文の読解力を養うとともに、論文作成の基礎を修得する。次に、卒業研究Ⅱを視野に入れて研究計画を立案する。実験の施行にあたっては、まず実験系の確立と予備実験をおこなう。最終的には、得られたデータから仮説の検証等の考察を加え、他者に説明できるようにする。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 研究倫理について理解することができる。 2. 当該研究領域に関連する資料および文献の収集ができる。 3. 当該研究における実験または調査などの研究方法を理解する。 4. 実現可能な適切な研究計画を作成でき、実行できる。 5. 得られた結果を分析しまとめ考察ができる。 6. 研究成果をプレゼンテーションできる。 <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>指導教員との十分なディスカッションのもと研究活動を進めるが、学生自身の積極的かつ主体的な取り組みも重要である。</p>			
教科書			
指示する。			
参考書			
指示する。			
研究室/オフィスアワー			
キャンパスポート7階教職員室/随時			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	1から6回:研究領域の理解と文献抄読	背景について担当教員と議論し理解する	
2	7から9回:実験仮説と方法の立案	論文検索をおこない課題を抽出する	
3	10から12回:プロトコルの作成	論理的かつ実現可能な計画を策定する	
4	13から15回:実験系の確立	実験手法を修得するとともに予備実験をおこなう	
5	16から25回:実験実施(データ収集、解析)	実験データを収集し適宜解釈を加え方向性を見極める	
6	26から29回:結果のまとめ、解釈	得られたデータを考察する	
7	30回:プレゼンテーションの準備	図表等の発表資料の作成、論理的に説明する	
成績評価方法と基準			割合
研究計画書の提出、中間報告会での発表を評価対象とする			100%
4/5以上の出席が必要			

授業科目名 卒業研究Ⅱ(検査):上田 真喜子・小林 彩香 (Graduation Research II)			
主担当教員	上田 真喜子	担当教員	上田 真喜子、小林 彩香
科目ナンバリング	SS502	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目
配当年次	4	科目区分	前期(金曜3限)、 後期(金曜3限)
授業形態	演習	開講学期	曜日・時限
授業概要	2	単位数	必修・選択
<p>3年生までに学修した知識や技術や技術を基に、「病理学」や「病理検査学」の領域について、研究を進める。研究指導教員の下で、データ解析、結果のまとめ方、発表方法について学ぶ。</p> <p>卒業発表に向けての実践力を養う。</p> <p>到達目標</p> <p>データ解析を行い、結果をまとめることができる。</p> <p>研究結果のプレゼンテーションができる。</p> <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>指導教員とよく話し合っ、研究活動をすすめること。</p> <p>調査・研究については、積極的に行うこと。</p> <p>質問や討論を通じて、疑問点の解明に努めること。</p> <p>教科書</p> <p>特に定めない。</p> <p>参考書</p> <p>特に定めない。</p> <p>研究室/オフィスアワー</p> <p>教員の指示に従う。</p>			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	卒業研究に必要なデータ収集	テーマについて、十分に予習、復習をする。	上田・小林
2	卒業研究に必要なデータ収集	以降は、担当教員の指示による。	上田・小林
3	卒業研究に必要なデータ収集		上田・小林
4	卒業研究に必要なデータ収集		上田・小林
5	卒業研究に必要なデータ収集		上田・小林
6	卒業研究に必要なデータ収集		上田・小林
7	卒業研究に必要なデータ収集		上田・小林
8	卒業研究に必要なデータ収集		上田・小林
9	データの解析		上田・小林
10	データの解析		上田・小林
11	データの解析		上田・小林
12	データの解析		上田・小林
13	データの解析		上田・小林
14	データの解析		上田・小林
15	データの解析		上田・小林
16	結果のまとめ		上田・小林

17	結果のまとめ	上田・小林
18	結果のまとめ	上田・小林
19	結果のまとめ	上田・小林
20	結果のまとめ	上田・小林
21	結果の考察	上田・小林
22	結果の考察	上田・小林
23	結果の考察	上田・小林
24	結果の考察	上田・小林
25	結果の考察	上田・小林
26	成果発表・抄録	上田・小林
27	成果発表・抄録	上田・小林
28	成果発表・抄録	上田・小林
29	成果発表・抄録	上田・小林
30	成果発表・抄録	上田・小林
成績評価方法と基準		割合
1. 出席は4/5以上とする。 2. 発表会もしくは抄録の提出。		発表もしくは抄録 100%

授業科目名	卒業研究Ⅱ(検査):森 誠司 (Graduation Research II)		
主担当教員	森 誠司	担当教員	森 誠司
科目ナンバリング	SS502	科目区分	専門科目 DP①④
配当年次	4	開講学期	前期 曜日・時限 前期(金曜3限)、 後期(金曜3限)
授業形態	演習	単位数	2 必修・選択 必修
授業概要	がんの進展メカニズムについて in vitro の解析法を主体に研究をおこなう。卒業研究Ⅰでは、まず当該研究のバックグラウンドから課題を抽出し方向性を目標めぐる。卒業研究Ⅱに引き続き実現可能な研究計画を立案する。仮説の検証のための実験を中心に研究を進める。最終的には、得られたデータをまとめ、考察を加え、論文の作成をおこなう。		
到達目標	1. 当該研究領域に関連する資料および文献収集ができる 2. 当該研究における実験または調査などの研究方法を理解する。 3. 実現可能な適切な研究計画を作成でき、実行できる 4. 得られた結果を分析しまとめ考察ができる。 5. 研究成果をプレゼンテーションおよび論文作成ができる。		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	指導教員との十分なディスカッションのもと研究活動を進めるが、学生自身の積極的かつ主体的な取り組みも重要である。		
教科書			
指示する。			
参考書			
指示する。			
研究室/オフィスアワー			
随時			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	1から3回:研究領域の理解と文献抄読	背景について担当教員と議論し理解する	
2	4から6回:実験仮説と方法の立案	論文検索をおこない課題を抽出する	
3	7から9回:プロトコルの作成	論理的かつ実現可能な計画を策定する	
4	10から13回:実験系の確立	実験条件の決定のため予備実験をおこなう	
5	14から25回:実験実施(データ収集、解析)	実験データを収集し適宜解釈を加え方向性を具 極める	
6	26から29回:結果のまとめ、解釈	得られたデータを考察する。論文作成。	
7	30回:プレゼンテーションの準備	図表等の発表資料の作成。論理的に説明する	
成績評価方法と基準	割合		
研究計画書の提出、卒業研究報告会での発表および卒業研究論文を評価対象とする。 4/5以上の出席が必要			100%

授業科目名	卒業研究Ⅱ(検査)・小宮山 恭弘・藤原 牧子 (Graduation Research II)		
主担当教員	小宮山 恭弘	担当教員	小宮山 恭弘、藤原 牧子
科目ナンバリング	SS02	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目 DP①④
配当年次	4	開講学期	前期(金曜3限)、 後期(金曜3限)
授業形態	演習	単位数	2
授業概要	必修・選択		
演習			
到達目標			
3 年次実施した研究前のデータ収集法より求めた、実験データから予測された結果との相違点やその理由など、過去の文献などから考察する。 今回の実験方法の検証結果、方法、結果、考察にまとめ参考引用文献を加え卒業論文を作成する。 履修上の注意(学生へのメッセージ)			
3 年次に実施した実験方法の検証データをまとめおくこと。			
教科書			
卒業研究 1 で使用したものを継続して使用する。			
参考書			
演習内で適時配布する。			
研究室/オフィスアワー			
月曜日 18 時以降			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	研究方法に関連する過去の文献の整理。	統計手法確認しておく。	小宮山
2	研究方法に関連する過去の文献の整理。	統計手法確認しておく。	小宮山
3	実験計画に基づきデータ収集	適時具体的に指示する。	小宮山
4	実験計画に基づきデータ収集	適時具体的に指示する。	小宮山
5	実験計画に基づきデータ収集	適時具体的に指示する。	小宮山
6	実験計画に基づきデータ収集	適時具体的に指示する。	小宮山 藤原
7	実験計画に基づきデータ収集	適時具体的に指示する。	小宮山 藤原
8	実験計画に基づきデータ収集	適時具体的に指示する。	小宮山 藤原
9	実験計画に基づきデータ収集	適時具体的に指示する。	小宮山 藤原
10	実験計画に基づきデータ収集	適時具体的に指示する。	小宮山 藤原
11	実験計画に基づきデータ収集	適時具体的に指示する。	小宮山 藤原
12	実験計画に基づきデータ収集	適時具体的に指示する。	小宮山 藤原
13	実験計画に基づきデータ収集	適時具体的に指示する。	小宮山 藤原
14	実験計画に基づきデータ収集	適時具体的に指示する。	小宮山 藤原
15	実験データ整理	クリティカルシンキング 4-7 章熟読しておく	小宮山 藤原
16	実験データ整理	クリティカルシンキング 4-7 章熟読しておく	小宮山 藤原

17	実験データ整理	クリティカルシンキング 4-7 章熟読しておく	小宮山 藤原
18	実験データ整理	クリティカルシンキング 4-7 章熟読しておく	小宮山 藤原
19	実験データ 統計解析と検証	クリティカルシンキング 4-7 章熟読しておく	小宮山 藤原
20	実験データ 統計解析と検証	クリティカルシンキング 4-7 章熟読しておく	小宮山 藤原
21	実験データ 統計解析と検証	クリティカルシンキング 4-7 章熟読しておく	小宮山
22	実験データ 統計解析と検証	クリティカルシンキング 4-7 章熟読しておく	小宮山
23	追加実験 検証作業	クリティカルシンキング 4-7 章熟読しておく	小宮山
24	追加実験 検証作業	クリティカルシンキング 4-7 章熟読しておく	小宮山
25	論文作成作業	クリティカルシンキング 8 章熟読しておく	小宮山
26	論文作成作業	クリティカルシンキング 8 章熟読しておく	小宮山
27	予演会	クリティカルシンキング 8 章熟読しておく	小宮山
28	論文修正作業	参考引用文献を整理	小宮山
29	論文修正作業	参考引用文献を整理	小宮山 藤原
30	論文完成	論文を自身で校正しておく。	小宮山 藤原
成績評価方法と基準			
卒業論文提出をもって単位取得とする。 2/3 以上の出席が必要。			
割合			論文提出 100%

卒業研究Ⅱ(検査)・小林 吉晴・竹岡 啓子 (Graduation Research II)			
授業科目名	小林 吉晴	担当教員	小林 吉晴、竹岡 啓子
主担当教員	SS502	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目 DP①④
科目ナンバリング	4	科目区分	前期(金曜3限)、 後期(金曜3限)
配当年次	演習	開講学期	前期
授業形態	2	単位数	必修・選択
授業概要	必修		

これまでの取得修得知識や随地実習を想起し3年次に学修した「臨床検査研究」の知識や技術を活用し、各自が立てた研究計画をもとにデータ収集、解析、考察を深め、卒業論文としてその成果をまとめる。

到達目標

1. 研究課題に関連する研究成果を調査し、評価することができる。
2. 研究課題達成のために解決すべき問題点を抽出することができる。
3. 研究課題の内容をまとめることができる。
4. 研究課題の成果を発表し、適切に質疑応答することができる。
5. 研究課題の成果を報告書としてまとめることができる。
6. 自らの研究課題に基づいて、次の研究課題を提案することができる。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

積極的に欧文誌も参考文献として取り入れるように心がける。

教科書

特になし

参考書

特になし

研究室/オフィスアワー

在室の時、随時対応可能

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	関連領域の論文抄読(1)	研究課題に関する事前、事後の自己学習を行う	
2	関連領域の論文抄読(2)		
3	関連領域の論文抄読(3)		
4	関連領域の論文抄読(4)		
5	関連領域の論文抄読(5)		
6	関連領域の論文抄読(6)		
7	関連領域の論文抄読(7)		
8	関連領域の論文抄読(8)		
9	関連領域の論文抄読(9)		
10	関連領域の論文抄読(10)		
11	関連領域の論文抄読(11)		
12	関連領域の論文抄読(12)		
13	関連領域の論文抄読(13)		
14	関連領域の論文抄読(14)		

15	各自の研究課題のまとめとグループ内での発表準備		
16	各自の研究課題のまとめとグループ内での発表準備		
17	各自の研究課題のまとめとグループ内での発表準備		
18	各自の研究課題のまとめとグループ内での発表準備		
19	各自の研究課題のまとめとグループ内での発表準備		
20	各自の研究課題のまとめとグループ内での発表準備		
21	各自の研究課題のまとめとグループ内での発表準備		
22	グループ内で各研究課題について発表する		
23	グループ内で各研究課題について発表する		
24	グループ内で各研究課題について発表する		
25	グループ内で各研究課題について発表する		
26	グループ内で各研究課題について発表する		
27	研究課題を発表会で発表する		
28	研究課題について報告書をまとめる準備(1)		
29	研究課題について報告書をまとめる準備(2)		
30	研究課題について報告書を提出する		
成績評価方法と基準			
割合			
プレゼンテーション 50%			
報告書 50%			
研究課題報告書の提出、研究報告会での発表を評価対象とする。			
4/5以上の出席が必要			

卒業研究Ⅱ(検査):脇 英彦・前川 佳敬 (Graduation Research II)			
授業科目名	脇 英彦	担当教員	脇 英彦、前川 佳敬
主担当教員	脇 英彦	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目
科目ナンバリング	SS502	科目区分	DF①④
配当年次	4	開講学期	前期(金曜3限)、 後期(金曜3限)
授業形態	演習	単位数	2
授業概要	<p>1～3年生で学んだ知識と技術を基礎として、臨床病態学の検査領域について研究する。 担当教員の指導を基に研究計画、結果のまとめ方、発表方法について学ぶ。 卒業発表に向けての実践力を養う。</p> <p>到達目標</p> <p>① 調査方法と結果のまとめ方を養う。 ② 結果の発表方法を学ぶ。</p> <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>調査・研究テーマについて十分に理解し、積極的に行う。 疑問点は指導教員への質問や討論を通して理解に努める。 研究室のメンバーとして、節度ある行動に心がける。</p>		
教科書			
特に定めない。			
参考書			
指導教員の指示に従う。			
研究室/オフィスアワー			
研究室における指導に準じる。			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	卒業研究に必要なデータ収集①	予習:調査・研究テーマについて十分に理解する。 復習:疑問点を理解する。	脇 英彦・ 前川 佳敬
2	卒業研究に必要なデータ収集②	予習:調査・研究テーマについて十分に理解する。 復習:疑問点を理解する。	脇 英彦・ 前川 佳敬
3	卒業研究に必要なデータ収集③	予習:調査・研究テーマについて十分に理解する。 復習:疑問点を理解する。	脇 英彦・ 前川 佳敬
4	卒業研究に必要なデータ収集④	予習:調査・研究テーマについて十分に理解する。 復習:疑問点を理解する。	脇 英彦・ 前川 佳敬
5	卒業研究に必要なデータ収集⑤	予習:調査・研究テーマについて十分に理解する。 復習:疑問点を理解する。	脇 英彦・ 前川 佳敬
6	卒業研究に必要なデータ収集⑥	予習:調査・研究テーマについて十分に理解する。 復習:疑問点を理解する。	脇 英彦・ 前川 佳敬
7	卒業研究に必要なデータ収集⑦	予習:調査・研究テーマについて十分に理解する。 復習:疑問点を理解する。	脇 英彦・ 前川 佳敬
8	卒業研究に必要なデータ収集⑧	予習:調査・研究テーマについて十分に理解する。 復習:疑問点を理解する。	脇 英彦・ 前川 佳敬
9	データの解析と分析①	予習:調査・研究テーマについて十分に理解する。 復習:疑問点を理解する。	脇 英彦・ 前川 佳敬
10	データの解析と分析②	予習:調査・研究テーマについて十分に理解する。 復習:疑問点を理解する。	脇 英彦・ 前川 佳敬

11	データの解析と分析③	予習:調査・研究テーマについて十分に理解する。 復習:疑問点を理解する。	脇 英彦・ 前川 佳敬
12	データの解析と分析④	予習:調査・研究テーマについて十分に理解する。 復習:疑問点を理解する。	脇 英彦・ 前川 佳敬
13	データの解析と分析⑤	予習:調査・研究テーマについて十分に理解する。 復習:疑問点を理解する。	脇 英彦・ 前川 佳敬
14	データの解析と分析⑥	予習:調査・研究テーマについて十分に理解する。 復習:疑問点を理解する。	脇 英彦・ 前川 佳敬
15	データの解析と分析⑦	予習:調査・研究テーマについて十分に理解する。 復習:疑問点を理解する。	脇 英彦・ 前川 佳敬
16	データの解析と分析⑧	予習:調査・研究テーマについて十分に理解する。 復習:疑問点を理解する。	脇 英彦・ 前川 佳敬
17	データの解析と分析⑨	予習:調査・研究テーマについて十分に理解する。 復習:疑問点を理解する。	脇 英彦・ 前川 佳敬
18	データの解析と分析⑩	予習:調査・研究テーマについて十分に理解する。 復習:疑問点を理解する。	脇 英彦・ 前川 佳敬
19	データの解析と分析⑪	予習:調査・研究テーマについて十分に理解する。 復習:疑問点を理解する。	脇 英彦・ 前川 佳敬
20	データの解析と分析⑫	予習:調査・研究テーマについて十分に理解する。 復習:疑問点を理解する。	脇 英彦・ 前川 佳敬
21	データの解析と分析⑬	予習:調査・研究テーマについて十分に理解する。 復習:疑問点を理解する。	脇 英彦・ 前川 佳敬
22	データの解析と分析⑭	予習:調査・研究テーマについて十分に理解する。 復習:疑問点を理解する。	脇 英彦・ 前川 佳敬
23	データの解析と分析⑮	予習:調査・研究テーマについて十分に理解する。 復習:疑問点を理解する。	脇 英彦・ 前川 佳敬
24	データの解析と分析⑯	予習:調査・研究テーマについて十分に理解する。 復習:疑問点を理解する。	脇 英彦・ 前川 佳敬
25	データの解析と分析⑰	予習:調査・研究テーマについて十分に理解する。 復習:疑問点を理解する。	脇 英彦・ 前川 佳敬
26	成果発表①	予習:調査・研究テーマについて十分に理解する。 復習:疑問点を理解する。	脇 英彦・ 前川 佳敬
27	成果発表②	予習:調査・研究テーマについて十分に理解する。 復習:疑問点を理解する。	脇 英彦・ 前川 佳敬
28	成果発表③	予習:調査・研究テーマについて十分に理解する。 復習:疑問点を理解する。	脇 英彦・ 前川 佳敬
29	成果発表④	予習:調査・研究テーマについて十分に理解する。 復習:疑問点を理解する。	脇 英彦・ 前川 佳敬
30	成果発表⑤	予習:調査・研究テーマについて十分に理解する。 復習:疑問点を理解する。	脇 英彦・ 前川 佳敬
成績評価方法と基準			割合
1. 出席は75%以上とする。			発表もしくは抄録 100%
2. 発表会もしくは抄録の提出			

授業科目名		卒業研究Ⅱ(検査)・佐伯 康匠 (Graduation Research II)			
主担当教員		佐伯 康匠	担当教員		佐伯 康匠
科目ナンバリング		SS502	科目区分	専門科目	DP①④
配当年次		4	開講学期	前期	前期(金曜3限)、 後期(金曜3限)
授業形態		演習	単位数	2	必修・選択 必修
<p>授業概要</p> <p>微生物検査に関する研究をおこなう。卒業研究Ⅱでは、まず当該研究のバックグラウンドから課題を抽出し方向性を見極める。「卒業研究Ⅰ」に引き続き実現可能な研究計画を立案する。仮説の検証のための実験を中心に研究を進める。最終的には、得られたデータをまとめ、考察を加え、論文の作成をおこなう。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 当該研究領域に関連する資料および文献収集ができる 2. 当該研究における実験または調査などの研究方法を理解する。 3. 実現可能な適切な研究計画を作成でき、実行できる 4. 得られた結果を分析しまとめ考察ができる。 5. 研究成果をプレゼンテーションおよび論文作成ができる。 <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>指導教員との十分なディスカッションのもと研究活動を進めるが、学生自身の積極的かつ主体的な取り組みも重要である。</p>					
<p>教科書</p> <p>指示する。</p> <p>参考書</p> <p>指示する。</p>					
<p>研究室/オフィスアワー</p> <p>キャリアレポート7階教職員室/随時</p>					
<p>授業展開及び授業計画表</p>					
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当		
1	研究領域の理解と文献抄読	背景について担当教員と議論し理解する			
2	研究領域の理解と文献抄読	背景について担当教員と議論し理解する			
3	研究領域の理解と文献抄読	背景について担当教員と議論し理解する			
4	実験仮説と方法の立案	論文検索をおこない課題を抽出する			
5	実験仮説と方法の立案	論文検索をおこない課題を抽出する			
6	実験仮説と方法の立案	論文検索をおこない課題を抽出する			
7	プロトコル	論理的かつ実現可能な計画を策定する			
8	プロトコル	論理的かつ実現可能な計画を策定する			
9	プロトコル	論理的かつ実現可能な計画を策定する			
10	実験系の確立	実験条件の決定のため予備実験をおこなう			
11	実験系の確立	実験条件の決定のため予備実験をおこなう			
12	実験系の確立	実験条件の決定のため予備実験をおこなう			
13	実験系の確立	実験条件の決定のため予備実験をおこなう			
14	実験実施(データ収集、解析)	実験データを収集し適宜解釈を加え方向性を見極める			
15	実験実施(データ収集、解析)	実験データを収集し適宜解釈を加え方向性を見極める			

16	実験実施(データ収集、解析)	実験データを収集し適宜解釈を加え方向性を見極める			
17	実験実施(データ収集、解析)	実験データを収集し適宜解釈を加え方向性を見極める			
18	実験実施(データ収集、解析)	実験データを収集し適宜解釈を加え方向性を見極める			
19	実験実施(データ収集、解析)	実験データを収集し適宜解釈を加え方向性を見極める			
20	実験実施(データ収集、解析)	実験データを収集し適宜解釈を加え方向性を見極める			
21	実験実施(データ収集、解析)	実験データを収集し適宜解釈を加え方向性を見極める			
22	実験実施(データ収集、解析)	実験データを収集し適宜解釈を加え方向性を見極める			
23	実験実施(データ収集、解析)	実験データを収集し適宜解釈を加え方向性を見極める			
24	実験実施(データ収集、解析)	実験データを収集し適宜解釈を加え方向性を見極める			
25	実験実施(データ収集、解析)	実験データを収集し適宜解釈を加え方向性を見極める			
26	結果のまとめ、解釈	得られたデータを考察する。論文作成。			
27	結果のまとめ、解釈	得られたデータを考察する。論文作成。			
28	結果のまとめ、解釈	得られたデータを考察する。論文作成。			
29	結果のまとめ、解釈	得られたデータを考察する。論文作成。			
30	30回:プレゼンテーションの準備	図表等の発表資料の作成。論理的に説明する			
成績評価方法と基準					割合
研究計画書の提出、卒業研究報告会での発表および卒業研究論文を評価対象とする。					100%
4/5以上の出席が必要					

授業科目名	臨床実習(検査) (Practical Training at the Hospital)		
主担当教員	上田 真喜子	担当教員	上田 真喜子、森 誠司、小宮山 恭弘、小林 吉晴、前川 佳敬、竹岡 啓子、脇 英彦、佐伯 康臣、藤原 牧子、小林 彩香
科目ナンバリング	SS503	科目区分	DP①④
配当年次	3	開講学期	後期
授業形態	実習	単位数	7
授業概要	臨床実習病院で臨床検査を体験し、学習する。臨床検査と生体検査の種数計算で診療の現場行われている検査を見学、体験して学習する。		
到達目標	① 実習病院で行われている臨床検査の進め方と検査技術を理解する。 ② 採血業務と生体検査では、患者に対するマナーと接遇の仕方を理解する。 ③ 臨床検査技師のチーム医療への役割について理解する。		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	病院職員に礼儀正しい態度をとること。病院は患者の治療を行う施設であるため、実習中の行動には十分配慮する。今まで学習したことか基礎となるため、学習と復習を怠らず、臨床現場の検査を有意義に学ぶように努める。以下に記載されている授業内容を実習中に行います(進捗は各施設により異なります)。		
教科書			
臨床検査実習マニュアル(森ノ宮医療大学臨床検査学科編集)			
参考書			
実習病院で配布される資料を用いる。			
研究室/オフィスアワー			
指導教員の指導に準じる。			
授業展開及び授業計画表			
回数	学習内容	予習・復習・課題等	担当
1	臨床現場での臨床検査の意義を学ぶ、検査管理学を確認する。		指導教員 臨床検査技師
2	医療現場の安全管理	医療安全等を復習する。	指導教員 臨床検査技師
3	医療現場の感染対策	標準予防策を確認する。	指導教員 臨床検査技師
4	採血業務の見学	採血手順を確認する。	指導教員 臨床検査技師
5	検体部門(臨床化学・免疫・輸血等) ①	実習病院で行われている臨床検査の進め方と検査技術を理解する。	指導教員 臨床検査技師
6	検体部門(臨床化学・免疫・輸血等) ②	実習病院で行われている臨床検査の進め方と検査技術を理解する。	指導教員 臨床検査技師
7	検体部門(臨床化学・免疫・輸血等) ③	実習病院で行われている臨床検査の進め方と検査技術を理解する。	指導教員 臨床検査技師

8	検体部門(臨床化学・免疫・輸血等) ④	実習病院で行われている臨床検査の進め方と検査技術を理解する。	指導教員 臨床検査技師
9	検体部門(臨床化学・免疫・輸血等) ⑤	実習病院で行われている臨床検査の進め方と検査技術を理解する。	指導教員 臨床検査技師
10	検体部門(臨床化学・免疫・輸血等) ⑥	実習病院で行われている臨床検査の進め方と検査技術を理解する。	指導教員 臨床検査技師
11	検体部門(臨床化学・免疫・輸血等) ⑦	実習病院で行われている臨床検査の進め方と検査技術を理解する。	指導教員 臨床検査技師
12	検体部門(臨床化学・免疫・輸血等) ⑧	実習病院で行われている臨床検査の進め方と検査技術を理解する。	指導教員 臨床検査技師
13	検体部門(臨床微生物・病理等) ①	実習病院で行われている臨床検査の進め方と検査技術を理解する。	指導教員 臨床検査技師
14	検体部門(臨床微生物・病理等) ②	実習病院で行われている臨床検査の進め方と検査技術を理解する。	指導教員 臨床検査技師
15	検体部門(臨床微生物・病理等) ③	実習病院で行われている臨床検査の進め方と検査技術を理解する。	指導教員 臨床検査技師
16	検体部門(臨床微生物・病理等) ④	実習病院で行われている臨床検査の進め方と検査技術を理解する。	指導教員 臨床検査技師
17	検体部門(臨床微生物・病理等) ⑤	実習病院で行われている臨床検査の進め方と検査技術を理解する。	指導教員 臨床検査技師
18	検体部門(臨床微生物・病理等) ⑥	実習病院で行われている臨床検査の進め方と検査技術を理解する。	指導教員 臨床検査技師
19	検体部門(臨床微生物・病理等) ⑦	実習病院で行われている臨床検査の進め方と検査技術を理解する。	指導教員 臨床検査技師
20	検体部門(臨床微生物・病理等) ⑧	実習病院で行われている臨床検査の進め方と検査技術を理解する。	指導教員 臨床検査技師
21	臨床生理部門 ①	実習病院で行われている生理検査の進め方と検査技術を理解する。	指導教員 臨床検査技師
22	臨床生理部門 ②	実習病院で行われている生理検査の進め方と検査技術を理解する。	指導教員 臨床検査技師
23	臨床生理部門 ③	実習病院で行われている生理検査の進め方と検査技術を理解する。	指導教員 臨床検査技師
24	臨床生理部門 ④	実習病院で行われている生理検査の進め方と検査技術を理解する。	指導教員 臨床検査技師
25	臨床生理部門 ⑤	実習病院で行われている生理検査の進め方と検査技術を理解する。	指導教員 臨床検査技師
26	臨床生理部門 ⑥	実習病院で行われている生理検査の進め方と検査技術を理解する。	指導教員 臨床検査技師
27	臨床生理部門 ⑦	実習病院で行われている生理検査の進め方と検査技術を理解する。	指導教員 臨床検査技師
28	臨床生理部門 ⑧	実習病院で行われている生理検査の進め方と検査技術を理解する。	指導教員 臨床検査技師
29	緊急検査 ①	実習病院で行われている緊急検査の進め方と検査技術を理解する。	指導教員 臨床検査技師

30	緊急検査 ②	実習病院で行われている緊急検査の進め方と検査技術を理解する。	指導教員 臨地病院担 当技師
成績評価方法と基準			割合
臨地実習病院の指導者の評価をもとに、学科長が総合評価をする。			5段階評価

作業療法学科

(2016 年度以降 入学生カリキュラム)

授業科目名	基礎ゼミナール(作業) (Basic Seminar)	
主担当教員	伊藤 直子	担当教員 伊藤 直子、橋井 賀津志、松下 太、 小林 貴代、橋本 弘子、中村 めぐみ、 中西 一、金森 幸、山本 淳
科目ナンバリング	LA001	科目区分 DP②③④
配当年次	1	開講学期 木曜 1限
授業形態	演習	単位数 2
授業概要	<p>本演習は、新入生が大学生としての役割を身につけることができるように、学生を支援することを目的としている。具体的には、学生を少人数のグループに分けて担当教員に配属し、(1) 大学での学修に必要で、かつ高等学校までの教育において習得すべき内容の教育、(2) 講義ノートの取り方・教科書の読み方、レポート・論文の書き方や文献の探し方、(3) 大学生に求められる「一般常識や態度、(4) 専門教育への橋渡しとなるような基礎的知識・技能の教育などについて、ディスカッションを交えて演習を行う。(オムニバス方式/全 15 回)</p> <p>(作業療法学科教員/前半 8 回)(共同) (山本 淳/後半 7 回)</p> <p>専門教育への橋渡しとなるような基礎的知識・技能の教育などについて、ディスカッションを交えて演習を行う。</p> <p>(1) 大学での学修に必要で、かつ高等学校までの教育において習得すべき内容の教育、(2) 講義ノートの取り方・教科書の読み方、レポート・論文の書き方や文献の探し方、(3) 大学生に求められる「一般常識や態度」について解説する。</p>	
到達目標	<p>1. 受動的ではなく自ら学ぶ意志を示す。 2. 自ら課題を見つけてそれを解決するための手段がわかる。 3. 集団構成メンバーと積極的に関わる態度がえられる。 4. 意欲的に発表し、意見や質問を積極的に言う。 5. 講義ノートの取り方を理解し、実行できる。 6. 基礎的なレポートやレジュメを作成できるようになる。 7. 論理的に自分の意見を裏打ちできるようにする。 8. 課題に対する文献検索の方法を知っており、実行できる。 9. グループで討議したことを論理的に発表することができる。</p>	
履修上の注意(学生へのメッセージ)	準備学習として、ノートを授業後に整理して復習してください。また、図書館でレポートの書き方や文章の書き方などに関する図書を積極的に読んでください。	
教科書		
論文、記事、関連資料を適宜配布する。教科書の指定はない。		
参考書		
授業内で随時提示します。		
研究室/オフィスアワー		
各教員のオフィスアワーに準ずる。		
授業履修期及び授業計画表		
回数	学修内容	予習・復習・課題等 担当
1	大学での学び	高校での学びと大学での学びの違いを考え、学力を養うための方法をまとめる。伊藤
2	学ぶ姿勢について	自身のこれまでの学びを振り返り、講義後に学びについて目標を設定する。松下
3	グループディスカッションの方法	集団討議に必要なルールを考え、まとめる。橋井
4	レポートの作成方法とプレゼンテーションの基本	レポート作成とプレゼンテーションに必要な知識をまとめ、実際の事例と出さぬ、作業療法士としてのようなどができるか考える。グループ討議後に再検討する。伊藤
5	「医療従事者に求められるもの」① グループ討議	人、環境、作業の理解について考える。伊藤
6	「医療従事者に求められるもの」② グループ討議	発表資料作成と発表準備 伊藤
7	「医療従事者に求められるもの」③ 発表会	発表資料作成と発表準備 伊藤

8	「医療従事者に求められるもの」と「作業療法士の魅力」	講義 5, 6, 7 を振り返り、講演後の気づきを踏まえレポートを作成し提出する。	ゲストスピーカー
9	オリエンテーション(講義の読み方・ノートの取り方)	予習はシラバスの確認。 復習は授業のプリント・ノートを読み返すこと。	山本淳
10	大学図書館の利用法	予習は図書館に足を運んでみる。 復習は授業のプリント・ノートを読み返すこと。	山本淳
11	レポート・論文①レポート・論文とは	予習・課題は特に無し。 復習は授業内で指示する。	山本淳
12	レポート・論文②テーマ・課題を考える	予習・課題は特に無し。 復習は授業内で指示する。	山本淳
13	文章表現の基礎①記号・符号の使い方	予習・課題は特に無し。 復習は授業内で指示する。	山本淳
14	文章表現の基礎②言葉の使い方	予習・課題は特に無し。 復習は授業内で指示する。	山本淳
15	レポート・論文③アウトラインを作る	予習・課題は特に無し。 復習は授業内で指示する。	山本淳
成績評価方法と基準			割合
【作業療法学科教員】 ①授業内での課題 ②レポート課題 【山本淳】 ③平常点評価(授業内での課題小テストなど) ④講義最終回に作成したアウトラインに基づく課題レポート			【学科教員】 ①70% ②30% 【山本淳】 ③60% ④40% ①から④の平均とする。

授業科目名	物理学(作業) (Physics)																																																										
主担当教員	久国 正章	担当教員	久国 正章																																																								
科目ナンバリング	LA003	教養科目	ディプロマポリシー 該当項目 DP③																																																								
配当年次	1	開講学期	後期 木曜 2 限																																																								
授業形態	講義	単位数	2 必修・選択 選択																																																								
授業概要	<p>さまざまな自然現象もよく観察してみると簡単な基本原理に基づいていることがわかります。物理学とはそのような基本原理を論理的に説明する学問であり、工学はもとより生物学、医学などの幅広い分野の基礎となっています。本講義は力学、熱力学に絞り、作業療法士として最低限必要な物理学の教養を身につけることができるようにしてあります。</p> <p>到達目標</p> <p>水の比熱と日本の気候との関係について こと原理と人体中での応用 注射器の先端が皮膚に及ぼす圧力について 血圧とは 上記の内容を学修していく。</p> <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自然現象を理解するための基本となる科目であることを認識する。 2. 配布された資料を使用し、講義を行う。 3. 出席は重視する。 4. 身近な自然現象を物理学の観点で考察する。 5. 疑問点は大切に、解決に向けて努力する。 <p>教科書</p> <p>プリント使用</p> <p>参考書</p> <p>ベッドサイトを科学する 平田雅子 著 Gakken</p> <p>研究室/オフィスアワー</p> <p>非常勤控室 月曜と木曜</p>																																																										
授業展開及び授業計画表	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>学修内容</th> <th>予習・復習・課題等</th> <th>担当</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>水の体積と温度の関係、スカラーとベクトル</td> <td>ベクトルという数学で扱う内容が書かれています が、力を作図すると必要になりますので、わから なくなったら教科書を読みおこなってください。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>比熱、力の合成</td> <td>力の合成は、平行四辺形を作る、ということだけ 覚えましょう。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>代謝量、力の分解</td> <td>力の分解は、力の合成の逆というだけですが、内 容が難しいので、教科書や小テストを何回も読み なおしましょう。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>ニュートンの運動の法則</td> <td>自転車や車の運転を考えると、加速度は力に比 例、質量に反比例することがわかります。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>作用・反作用の法則、力のモーメント</td> <td>シーソーの話は簡単ですが、次回以降につなが りますので、しっかりと復習しましょう。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>摩擦力、第1種のとこ</td> <td>重い頭を支えているのは誰でしょう？</td> <td></td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>心臓マッサージ、第2種のとこ</td> <td>第2種のとこは、人体にはあまりないのです。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>質量と重力の違い、第3種のとこ</td> <td>第3種のとこの利点をおさえますよう。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>力と圧力の違い、腰にかかると 人体とこの関係</td> <td>腰への負担を減らすにはどうすべきだったでしょ うか？</td> <td></td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>気圧とは</td> <td>第1種～第3種のとこについて復習しておきましょ う。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>入浴の圧力効果</td> <td>私たちに1気圧の力が働いています。それを 認識すると、いろいろなことが見えてきます。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>酸素ポンペ、仕事</td> <td>和式風呂と洋式風呂による、人体への影響につ いて確認しましょう。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>酸素ポンペに 残る酸素の量の求め方について</td> <td>酸素ポンペに 残る酸素の量の求め方について</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当	1	水の体積と温度の関係、スカラーとベクトル	ベクトルという数学で扱う内容が書かれています が、力を作図すると必要になりますので、わから なくなったら教科書を読みおこなってください。		2	比熱、力の合成	力の合成は、平行四辺形を作る、ということだけ 覚えましょう。		3	代謝量、力の分解	力の分解は、力の合成の逆というだけですが、内 容が難しいので、教科書や小テストを何回も読み なおしましょう。		4	ニュートンの運動の法則	自転車や車の運転を考えると、加速度は力に比 例、質量に反比例することがわかります。		5	作用・反作用の法則、力のモーメント	シーソーの話は簡単ですが、次回以降につなが りますので、しっかりと復習しましょう。		6	摩擦力、第1種のとこ	重い頭を支えているのは誰でしょう？		7	心臓マッサージ、第2種のとこ	第2種のとこは、人体にはあまりないのです。		8	質量と重力の違い、第3種のとこ	第3種のとこの利点をおさえますよう。		9	力と圧力の違い、腰にかかると 人体とこの関係	腰への負担を減らすにはどうすべきだったでしょ うか？		10	気圧とは	第1種～第3種のとこについて復習しておきましょ う。		11	入浴の圧力効果	私たちに1気圧の力が働いています。それを 認識すると、いろいろなことが見えてきます。		12	酸素ポンペ、仕事	和式風呂と洋式風呂による、人体への影響につ いて確認しましょう。		13	酸素ポンペに 残る酸素の量の求め方について	酸素ポンペに 残る酸素の量の求め方について	
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当																																																								
1	水の体積と温度の関係、スカラーとベクトル	ベクトルという数学で扱う内容が書かれています が、力を作図すると必要になりますので、わから なくなったら教科書を読みおこなってください。																																																									
2	比熱、力の合成	力の合成は、平行四辺形を作る、ということだけ 覚えましょう。																																																									
3	代謝量、力の分解	力の分解は、力の合成の逆というだけですが、内 容が難しいので、教科書や小テストを何回も読み なおしましょう。																																																									
4	ニュートンの運動の法則	自転車や車の運転を考えると、加速度は力に比 例、質量に反比例することがわかります。																																																									
5	作用・反作用の法則、力のモーメント	シーソーの話は簡単ですが、次回以降につなが りますので、しっかりと復習しましょう。																																																									
6	摩擦力、第1種のとこ	重い頭を支えているのは誰でしょう？																																																									
7	心臓マッサージ、第2種のとこ	第2種のとこは、人体にはあまりないのです。																																																									
8	質量と重力の違い、第3種のとこ	第3種のとこの利点をおさえますよう。																																																									
9	力と圧力の違い、腰にかかると 人体とこの関係	腰への負担を減らすにはどうすべきだったでしょ うか？																																																									
10	気圧とは	第1種～第3種のとこについて復習しておきましょ う。																																																									
11	入浴の圧力効果	私たちに1気圧の力が働いています。それを 認識すると、いろいろなことが見えてきます。																																																									
12	酸素ポンペ、仕事	和式風呂と洋式風呂による、人体への影響につ いて確認しましょう。																																																									
13	酸素ポンペに 残る酸素の量の求め方について	酸素ポンペに 残る酸素の量の求め方について																																																									

14	浮力	以前、献血のときに使われていた血液比重。その 仕組みについて確認しましょう。
15	血圧、運動量	体への衝撃は何によらるのでしょうか？
成績評価方法と基準		
毎回レポートを提出してもらおう。		
①定期試験55点		
②レポート45点		
合計100点のうち、60点以上で単位認定する。		
		割合
		①65%
		②45%

授業科目名		生物学(作業) (Biology)			
主担当教員	安部 辰夫	担当教員	安部 辰夫		
科目ナンバリング	LA002	教養科目	ディプロマポリシー 該当項目 DP③		
配当年次	1	開講学期	前期 金曜 3限		
授業形態	講義	単位数	2 必修・選択 選択		
授業概要					
医療人にとって必要な生物学的知識を学習し、この後に展開する基礎医学への理解を容易にする。					
到達目標					
生物に共通する生体のシステムやその仕組みについて学び、人体と連関して思考できるようにする。					
履修上の注意(学生へのメッセージ)					
生物学自体は高校までの教科としてすでに学んでいるかもしれないが、医学に直結する領域についてはまだ学んでいないか、理解が不十分であろうと思われる。既に学んでいる、知っている学問という認識は排除して新たな教科を学ぶ姿勢で臨んでほしい。					
教科書					
「理工系のための生物学」 蒙筆房					
参考書					
生物学 カレッジ版 医学書院					
研究室/オフィスアワー					
火曜日から金曜日入室 イーストポート4階 研究室 1					
授業展開及び授業計画表					
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当		
1	生命と栄養と代謝	予習 テキストを読み込んでおいてほしい。 復習 講義内容の確認をしておくこと。			
2	糖質の種類	予習 テキストを読み込んでおいてほしい。 復習 講義内容の確認をしておくこと。			
3	糖代謝	予習 テキストを読み込んでおいてほしい。 復習 講義内容の確認をしておくこと。			
4	脂質とその代謝	予習 テキストを読み込んでおいてほしい。 復習 講義内容の確認をしておくこと。			
5	ビタミンの種類と機能	予習 テキストを読み込んでおいてほしい。 復習 講義内容の確認をしておくこと。			
6	細胞の構造とオルガネラ	予習 テキストを読み込んでおいてほしい。 復習 講義内容の確認をしておくこと。			
7	核酸の種類と機能	予習 テキストを読み込んでおいてほしい。 復習 講義内容の確認をしておくこと。			
8	転写と翻訳	予習 テキストを読み込んでおいてほしい。 復習 講義内容の確認をしておくこと。			
9	タンパク質の種類と機能	予習 テキストを読み込んでおいてほしい。 復習 講義内容の確認をしておくこと。			
10	細胞のシグナル伝達	予習 テキストを読み込んでおいてほしい。 復習 講義内容の確認をしておくこと。			
11	細胞分裂と増殖	予習 テキストを読み込んでおいてほしい。 復習 講義内容の確認をしておくこと。			

12	発生と分化	予習 テキストを読み込んでおいてほしい。 復習 講義内容の確認をしておくこと。	
13	免疫システム	予習 テキストを読み込んでおいてほしい。 復習 講義内容の確認をしておくこと。	
14	細胞の初期化と再生医療	予習 テキストを読み込んでおいてほしい。 復習 講義内容の確認をしておくこと。	
15	細胞死とアポトーシス	予習 テキストを読み込んでおいてほしい。 復習 講義内容の確認をしておくこと。	
成績評価方法と基準			
①定期試験			
			割合
			①100%

授業科目名	情報処理(作業) (Information Processing)		
主担当教員	平山 裕子	担当教員	平山 裕子
科目ナンバリング	LA004	教養科目	DP③
配当年次	1	開講学期	前期
授業形態	演習	単位数	2
授業概要	<p>本講義では、コンピュータを利用する上で必要な基礎知識のほか、レポート作成等役立つ情報処理技術、すなわちワープロや表計算、プレゼンテーションを中心としたソフトウェアの基礎知識と基本操作の習得を目標とする。また、コンピュータ利用技術の習得に加えて、情報化社会に必要な倫理観と情報の保護を学ぶために、技術的な面に加えて個人情報保護法等の法令や指針についても学ぶ。なお、コンピュータのオペレーティングシステム (OS) は Windows を、ソフトウェアはマイクロソフトの Word、Excel、PowerPoint 等を使用する。</p>		

到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. PC 利用に限らず、広く、情報倫理と個人情報保護の重要性を理解し、説明できる 2. Word による文書 (レポート、論文) の作成ができる 3. Excel による基本的なデータの集計・解析ができる 4. PowerPoint を用いて資料を作成し、効果的なプレゼンテーションができる 5. インターネットを利用した情報検索のスキルを習得する
履修上の注意 (学生へのメッセージ)	<ol style="list-style-type: none"> 1. PC を使った演習を行なうので、休むことなく参加すること 2. 作業内容 (作成したファイル等) を保存するための USB メモリを用意すること 3. PC 演習室での飲食は禁止 (机の上に置くのも禁止) する

教科書	
中村健壽監修、森由紀著、医療従事者のための情報リテラシー、日経 BP 社	
参考書	
佐藤憲一他、Windows 7 によるコ・メディカルのための情報リテラシー、共立出版、2013	
金谷孝之、服部建大、基礎から学ぶ医療情報、共立出版、2014	

研究室/オフィスアワー	
授業前後	

授業展開及び授業計画表		
回数	学修内容	担当
1	ガイダンス	予習・復習・課題等 テキスト「はじめに」および「監修にあたって」を読み、USB メモリを用意する
2	情報セキュリティと情報モラル	テキスト第7章を読む。 (単に読むだけでなく、わからない専門用語等について下調べをしておく、以下同様)
3	コンピュータ概論	第1章を読む
4	Word 基礎-1-	第2章、1節～3節を読む
5	Word 基礎-2-	第2章、4節～5節を読む
6	Word 応用-1-	第3章、1節～2節を読む
7	Word 応用-2-	第3章、3節を読む
8	小テスト1	Word に関する操作・機能を確認する
9	Excel 基礎-1-	第4章、1節～3節を読む
10	Excel 基礎-2-	第4章、4節を読む
11	Excel 応用-1-	第5章、1節～3節を読む

12	Excel 応用-2-	第5章、4節～5節を読む	割合 ①50% ②30% ③20%
13	小テスト2	Excel に関する操作・機能を確認する	
14	PowerPoint 基礎	第6章、1節～3節を読む	
15	PowerPoint 応用	第6章、4節を読む	
成績評価方法と基準			
①定期試験			
②課題の提出状況			
③小テスト			

授業科目名		心理学(作業) (Psychology)	
主担当教員	神澤 創	担当教員	神澤 創
科目ナンバリング	LA005	科目区分	DP③
配当年次	1	開講学期	曜日・時限 木曜 4限
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	<p>心理学は、人の心の仕組みや働きがどのようなかを研究する学問です。授業では性格や認知のほか、こころの健康や人間関係の心理などについても学習します。基本的には講義形式で行いますが必要に応じて、視聴覚教材の活用や心理検査実習、ロールプレイなどを導入する予定です。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 心理学の基本的な研究方法について説明できる 2. 心理学の諸理論について説明ができる 3. 心理学の諸問題と日常生活上の諸問題を結びつけて理解、解決ができる <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>授業計画表はあくまでも予定ですので、進度に合わせて変更することもあります。</p> <p>教科書</p> <p>西川隆三他著、「心自己理解の心理学」福村出版</p> <p>参考書</p> <p>適宜指示する。</p> <p>研究室/オフィスアワー</p> <p>非常勤講師なので質問は講義終了後に教室内で受けることします</p> <p>授業展開及び授業計画表</p>		
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	オリエンテーション	予習：テキスト第0章を読む (単に読むだけでなく、わからない専門用語等について下調べをしておく、以下同様)	
2	性格とは何か	テキスト第1章を読む	
3	性格のタイプと特性	テキスト第2章を読む	
4	心の深層を探る	テキスト第3章を読む	
5	行動から心を見る	テキスト第4章を読む	
6	認知と性格	テキスト第5章を読む	
7	「自己」を見つめて	テキスト第6章を読む	
8	対人関係と行動	テキスト第7章を読む	
9	文化と性格	テキスト第8章を読む	
10	親子関係と愛着	テキスト第9章を読む	
11	ライフサイクルと心の健康	テキスト第10章を読む	
12	ストレスと心の病理	テキスト第11章を読む	
13	人間関係と癒し	テキスト第12章を読む	
14	幸福の心理学	予習：ポジティブ心理学について調べてみる 復習：幸福について自分なりに理解する	
15	振り返り	前期の講義を振り返る	

成績評価方法と基準		割合
①定期試験		①80%
②平常点(レポート、授業態度など)		②20%

授業科目名	生命倫理学(作業) (Bioethics)		
主担当教員	日高明	担当教員	日高明
科目ナンバリング	LA008	教養科目	ディプロマポリシー 該当項目
配当年次	1	開講学期	後期
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	必修		
本講義では、現代の社会で起こっている多様な生命倫理上の問題とともに、医療やケアの現場で起こる倫理的な問題を取り上げ、生命倫理の多様な現状を紹介いたします。受講者がこれらに関する考察を行い、講義することで、自身の生命観や人間観を捉え直し、ひいては医療人としていかに患者に向き合うかを自覚することを目指します。			

到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義で扱った生命倫理問題を理解する。具体的には、各テーマについて、大まかな説明ができる。 2. 広く生命倫理の問題を知ること、生命観・人間観を養う。具体的には、「生命とはなにか」「人間とはなにか」という問いに、先人の知見や社会通念を引いて答えることができる。あるいは自分の経験を交えて語ることができる。 3. 生命倫理的な社会問題について、広く関心を持つようになる。
------	--

履修上の注意(学生へのメッセージ)	講義で取り扱った倫理学および生命倫理にかかわるケースについて、他の受講者と語をしてみてください。相手の考えに同意できないうののかも考えてください。
教科書	受講に当たっての細かいルールは、第一回の講義で説明します。
使用しない(適宜、資料を配布する)	
参考書	

小泉博明ほか『テーマで読み解く生命倫理』教育出版、2016年。そのほか必要に応じて紹介します。
研究室/オフィスアワー
講義の前後に兼任講師控室にて対応可

授業展開及び授業計画表			
回数	学習内容	予習・復習・課題等	担当
1	倫理とは、生命倫理学とは(概要、分類、なぜ学ぶのか)	シラバスの確認、資料の復習	日高明
2	人間とは(「人間」の定義、人間と動物とのギャップ、人間の脆弱性と協調性)	配布資料の復習とノートの手とめ、人間とその他の動物を分けるものはなにか、考える。	日高明
3	規範倫理学①(功利主義、義務論)	多数を救うために少数が犠牲になる事例をひとつ想定し、功利主義と義務論それぞれの立場では、どのような態度をとらうかを手とめ、考える。	日高明
4	規範倫理学②(徳倫理学、ケアの倫理)	資料の復習。規範倫理学のそれぞれの立場についてまとめる。	日高明
5	西洋の生命観	近代医学(科学)は生命をどのようなものとして捉えるか、まとめる。	日高明
6	東洋の生命観	講義中に説明した複数の「死後のあり方」のうち、自分がどれにリアリティを感じるか、またなぜそう感じるのかについて考える。	日高明
7	個人情報保護	講義で紹介された事例をもとに、医療・介護施設において、なにが個人情報にあたるか、第三者へ提供するさいにどのような制限があるかについてまとめる。	日高明
8	死について考える①(死の捉え方の変遷、死のプロセス、死の疑似体験)	「10年後の自分」を想定し、そこから「今の自分」を振り返り、「喪失したもの」について語ってみる。	日高明
9	死について考える②(EOL、ケア、ACP)	実際にアドバンスディレクティブ(事前指示書)に記入し、その時点で指示した代理人と、話し合う。	日高明
10	死について考える③(安楽死・尊厳死)	尊厳死肯定派と否定派、双方の立場についてまとめる。	日高明
11	グループワーク	話し合った内容をまとめる。	日高明

12	生について考える①(出生前診断)	配布資料の復習とノートのまとめ。人間の生命のはじまりはどの時点からか、考える。	日高明
13	生について考える②(代理出産)	代理出産をめぐって、どのような問題が生じるか。講義で説明した事例をもとにまとめる。	日高明
14	生について考える③(卵子・精子提供、デザイナーベイビー)	生補補助医療はどこまで認められているか、どこまで認められるべきか、考える。	日高明
15	グループワーク	話し合った内容をまとめる。	
成績評価方法と基準			割合
1、テスト			1、60%
2、グループワークと講義への参加度			2、40%

哲学・宗教学(作業) (Philosophy and Religions)			
授業科目名	松枝 啓至	担当教員	松枝 啓至
主担当教員	LA007	教養科目	ディプロマポリシー 該当項目
科目ナンバリング	1	科目区分	DP③
配当年次	1	開講学期	曜日・時限 金曜 1 限
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	<p>哲学における重大な問題の一つである「懐疑論」をテーマにして、われわれは何をどのようにならねば正しく認識できるのか、知ることのできるのかについて学んでいく。</p> <p>「哲学」のもともとの意味合いは、「知を愛すること」である。人間にとつての知識「知恵」がどのようなものであるのか、あるいはどのような仕方であるか、は哲学における大きな問題の一つである。どのような分野であれ、何らかの学問をやっている以上この問題は避けて通れないものである。このように問題系は一般には認識論・知識論と呼ばれている。この授業ではこの認識論・知識論という問題を、「懐疑論」というものを手掛かりに考察を深めていき、物事を正しく捉えようとするときに、様々な側面からその対象を疑うという作業は必須のものである。哲学における「懐疑論」はその「疑う」という作業を徹底的に行うことであるが、中心テーマとなる。加えてそれらの議論を踏まえ、自然科学的な知識はどのような方法で正当化されるのかについても考察する。今回は特に現代科学の直接的な潮流である17世紀の自然科学について論じて、そしてこのような問題を扱うときに、宗教的な要素、特に今回はキリスト教の影響を無視することはできない。授業ではこの点についても「懐疑論」知識論に關わる範囲で宗教的な要素についても言及する。</p>		
到達目標	<p>1. ヘレニズム時代の古代懐疑主義が、どのような背景で生まれ、その内容・独自性が何であるかを充分に理解することができる。</p> <p>2. 近代において復活した古代懐疑主義が近代においてどのように変容され、改変されていったのかを充分に理解することができる。</p> <p>3. 極端な懐疑の論理構造がいかなるものであるかを、ウイットゲンシュタインの思想を手掛かりに、批判的に充分に理解することができる。</p> <p>4. 近代の自然科学的知識がどのように成立しているのかを、17世紀に活躍したデカルトやニュートンの思想を参照することを通じて、充分に理解することができる。</p> <p>5. 近代以降の自然科学が発展することによって、その方法論がどのようなものかを知ることができ、懐疑論を批判的に理解することができる。</p>		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	<p>現代では何の疑いもなく受け入れられている思想も、過去に様々な変遷をたどってきた。この授業ではそのような思想のダイナミズムの一端を感じ取ってもらいたい。</p> <p>「哲学」および「懐疑論」におけるさまざまな思想を習得するためには、毎回、授業理解を少しづつ積み重ねていく必要がある。このため、この授業では予習として前回の授業内容を充分に復習することを目指す。また、授業方法に記してあるように、毎回の予習・復習を怠らないうことにすること。小テストについては、行った回の次回以降で授業中にコメントをするので、それも踏まえ授業内容のより深い理解に努めること。</p> <p>他の受講者の迷惑にならないよう、私語は厳禁。ひどい場合は成績評価においてペナルティを与える。</p>		
教科書	<p>毎回レジュメプリント・資料プリントを配布する。</p>		
参考書	<p>必要に応じて授業中に紹介する。</p>		
研究室/オフィスアワー	<p>授業内容について質問があるときは、授業時間の前後に直接講師に質問すること。</p>		
授業展開及び授業計画表	<p>授業期間及び授業計画表</p>		
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	ガイダンス: 講義全体の趣旨・概要と成績評価などについて説明。講義の導入としてソクラテスの哲学を紹介する。	(予習)「哲学」および「懐疑論」についてのイメージを自分なりに考えておくこと。 (復習)レジュメプリント・資料プリントを目を通し、授業内容に対する理解を深めておくこと。	梅田
2	ソクラテスの哲学: 「哲学」はどのような営みかについて、前回に引き続き、ソクラテスを紹介しつつ論じる。	(予習) 前回の授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。 (復習)レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。	梅田
3	ヘレニズム時代の思想①: 懐疑論とはそもそも何か? およびストア主義の思想。	(予習) 前回の授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。 (復習)レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。	梅田

4	ヘレニズム時代の思想②: 古代懐疑主義の思想。ピロノ、アルケンラオス、アキネデモス、アグリッパなど。	(予習) 前回の授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。 (復習)レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。	梅田
5	近代の懐疑主義的思想①: モンテーニュにおけるピロノ主義、およびデカルト思想の全体像。	(予習) 前回の授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。 (復習)レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。	梅田
6	近代の懐疑主義的思想②: デカルトの方法的懐疑その1。	(予習) 前回の授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。 (復習)レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。	梅田
7	近代の懐疑主義的思想③: デカルトの方法的懐疑その2。	(予習) 前回の授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。 (復習)レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。	梅田
8	懐疑論に抗して: ウイットゲンシュタインの思想。	(予習) 前回の授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。 (復習)レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。	梅田
9	自然科学的知識はどのように正当化されるのか? その①: デカルトの自然科学その1。	(予習) 前回の授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。 (復習)レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。	梅田
10	自然科学的知識はどのように正当化されるのか? その②: デカルトの自然科学その2、およびデカルトにおける心身問題その1。	(予習) 前回の授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。 (復習)レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。	梅田
11	自然科学的知識はどのように正当化されるのか? その③: デカルトにおける心身問題その2。	(予習) 前回の授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。 (復習)レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。	梅田
12	自然科学的知識はどのように正当化されるのか? その④: デカルトの自然科学とニュートン物理学。および近代における自然科学と形而上学との関係。	(予習) 前回の授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。 (復習)レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。	梅田
13	自然科学的知識はどのように正当化されるのか? その⑤: 近代における自然科学の方法論(備前法)。	(予習) 前回の授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。 (復習)レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。	梅田
14	自然科学的知識はどのように正当化されるのか? その⑥: 近代における自然科学の方法論(仮説演繹法)。	(予習) 前回の授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。 (復習)レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。	梅田
15	講義全体のまとめ 期末試験についての説明	(予習) これまでの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。 (復習) 期末試験に備え、レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。	梅田
成績評価方法と基準			割合
<p>期末試験を50点、授業中に不定期に行う計5回の小テスト(1回につき10)を50点とし、合わせて100点満点として評価する。</p> <p>小テストは授業中(授業開始後の30分が授業終了前の30分、テスト時間をとる)に行うのでレジュメやノートを見ながら解いて構わない。授業内容を充分に理解し、そのうえで自分の意見や考えを一定の字数で述べることでできるかどうかを評価する。</p> <p>期末試験については、講義全体の流れとキーワードをしっかり理解しているかを問う。試験の出題範囲や形式の詳細については、第15回目の講義時に説明する</p>			<p>小テスト 50%</p> <p>期末試験 50%</p>

授業科目名		社会福祉学(作業) (Social Welfare)	
主担当教員	掛川 直之	担当教員	掛川 直之
科目ナンバリング	LA008	教養科目	ディプロマポリシー 該当項目
配当年次	1	開講学期	後期
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	<p>(貧困)という問題を通じて、社会福祉の基礎を学ぶ。社会福祉にかんする考え方や、制度、課題等について、時事的な問題や映像素材などをとおして具体的に学んでいく。一方通行にならないように、受講生の意見を聴いたり、グループワークをとりいれるなど、できるだけ退屈にならないような参加型の講義を心がける。</p> <p>到達目標</p> <p>日本社会に生じるさまざまな生活問題とその背景について、社会福祉の観点から理解することで、その解決に向けて自分の考えを自分のことばで説明できるようになることを目標とする。</p> <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>講義の進め方や成績評価の方法等の詳細については、初回の授業において説明する。なお、講義毎に、質問や感想を記したコミュニケーションシートを配布し、その提出を求める。ここで出された質問等については、次の講義の冒頭で解説をくわえる。</p> <p>教科書</p> <p>毎回の講義においてレジュメを配布する。</p> <p>参考書</p> <p>金子充『入門 貧困論: ささるあう/すけあう社会をつくるために』(明石書店、2017年)</p> <p>岩田正美・上野春加代子・藤村正之『ワケレヒト イーイング: タウン 社会福祉入門』(改訂版)、『福祉の世界への招待』(有斐閣、2013年)</p> <p>掛川直之編著『不要解消! 出所支援: わたしたちにできること』(旬報社、2018年)</p> <p>研究室/オフィスアワー</p> <p>講義の前夜、あるいはメール等にて質問等を受け付ける。</p>		
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	【オリエンテーション】社会福祉の学び方: 医療と福祉はつながっている	今回の講義内容について見直し、次の講義テーマについて調べる	今回の講義テーマについて調べる
2	【社会福祉の基本①】社会福祉の考え方: 人間はひとりでは生きられない	今回の講義内容について見直し、次の講義テーマについて調べる	今回の講義テーマについて調べる
3	【社会福祉の基本②】貧困問題から社会福祉を考える: あなただけでどうやって生きていく?	今回の講義内容について見直し、次の講義テーマについて調べる	今回の講義テーマについて調べる
4	【社会福祉の基本③】社会福祉のしくみ: 国や自治体の役割を考える	今回の講義内容について見直し、次の講義テーマについて調べる	今回の講義テーマについて調べる
5	【社会福祉の基本④】ドラマ『サイレント・ブア』から考えるソーシャルワーク: ソーシャルワーカーのしごと	今回の講義内容について見直し、次の講義テーマについて調べる	今回の講義テーマについて調べる
6	【社会福祉の分野①】拡大する高齢者の貧困: 老後は年金だけで生活できる?	今回の講義内容について見直し、次の講義テーマについて調べる	今回の講義テーマについて調べる
7	【社会福祉の分野②】病氣や障がいをもつ人と貧困: 適切な医療を受けるために	今回の講義内容について見直し、次の講義テーマについて調べる	今回の講義テーマについて調べる
8	【社会福祉の分野③】女性やマイリティは貧困に陥りやすい? ジェンダーについて考える	今回の講義内容について見直し、次の講義テーマについて調べる	今回の講義テーマについて調べる
9	【社会福祉の分野④】子どもの貧困も自己責任? 成長発達と権利	今回の講義内容について見直し、次の講義テーマについて調べる	今回の講義テーマについて調べる
10	【社会福祉の分野⑤】漫画『健康で文化的な最低限度の生活』から考える生活保護制度: 生きるための最後の砦	今回の講義内容について見直し、次の講義テーマについて調べる	今回の講義テーマについて調べる
11	【社会福祉の分野⑥】映画『わたしは、ダニエル・ブレイク』から考える生活保護受給とハッパング:	今回の講義内容について見直し、次の講義テーマについて調べる	今回の講義テーマについて調べる

差別と偏見の背後にある誤解		
12	【地域と社会福祉】金ヶ崎とホームレス問題: 医療・保健・福祉の機能が集約された迷いのまち	今回の講義内容について見直し、次の講義テーマについて調べる
13	【犯罪と社会福祉】どうして「犯罪者」に福祉が必要なの? : 貧困・社会的排除のスパイラル	今回の講義内容について見直し、次の講義テーマについて調べる
14	【生活と社会福祉】社会の「障壁」をみつける: 社会を要えることとはできるのか?	今回の講義内容について見直し、次の講義テーマについて調べる
15	【社会福祉の応用】私たちにできること: 第1回～第14回までのまとめ	本講義全体を見直す
成績評価方法と基準		割合
①定期試験		①70%
②コミュニケーションペーパー		②30%

日本国憲法(作業) (Constitution of Japan)			
授業科目名	日本国憲法(作業)	担当教員	植田 重幸
主担当教員	植田 重幸	教養科目	ディプロマポリシー 該当項目
科目ナンバリング	LA009	科目区分	DP③
配当年次	1	開講学期	後期
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	<p>社会規範たる法の理念を理解する中で、法体系のしくみ並びに日本の最高法規としての日本国憲法の現行の概要を解説し、今日の基本的な人権規定に関する論点について解説を行うとともに、時事関連事項に関わる問題点及び今後の課題に對しても説明を進める。また、コ・メディアカルをもとに、診療の補助の一人として業務に従事するにおいて、必要不可欠な保健衛生に関する法規(保健衛生関連法規)の理解と把握、並びに職務遂行に伴う人権に対する法的責任の現状について、更なる理解を深めるための指導を行う。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本国憲法の成立経緯と特色を理解する。 2. 基本的人権の尊重規定をもとに、個人の尊厳に関して法的側面から、その理解を深める。 3. 医療と人権に関する大切なことを理解する。 4. 作業療法学科における「理学療法士及び作業療法士法」をもとに、今後の業務遂行に必要な関係法規のしくみを学習し理解する。 5. 現在の医療過誤に関する状況と、人権に対する法的責任の事柄を検証する。 6. 時事関連問題として、憲立法審査権に関わる諸項目や裁判員制度の現状と今後の対応課題についての理解を深める。 		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	<p>1. 日本国憲法の内容理解とともに、医療法規に関する指導説明が加わることから、補充解説たる板書筆記が重要となる。</p> <p>2. 指導内容に即した市販書籍を多数に亘るため、教科書代用の資料冊子にて講義を行う。</p> <p>3. 疑問点や分からない事項が生じた場合は、適宜質問を行うことで理解を進めること。</p> <p>4. 将来の業務実践を促し、指導内容に対する人権・人格の尊重に十分留意し積極的取り組みを求めらる。</p>		
教科書			
指定しない。			
参考書			
特になし。			
研究室/オフィスアワー			
授業前後の非常勤講師控室			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	法と社会生活① 法の成立並びに社会と規範	予習：シラバス・テキスト冊子の確認を行う 復習：キーワード、重要語句の確認を行う	
2	法と社会生活② 法と道徳、法の支配、法体系のしくみ	予習：社会規範としての法の意義を考える 復習：法の概念の理解と確認を行う	
3	日本国憲法の制定史 明治憲法との比較、個人の尊厳と人権保障の限界	予習：日本国憲法の成立経緯を確認する 復習：講義内容をもとに、基本的人権規定の各事項を理解し把握する	
4	日本国憲法の特徴 基本理念及び基本原理	予習：テキスト冊子より、キーワードの確認 復習：重要語句について再チェックする	
5	基本的人権規定① 基本的人権の成立経緯と人権規定	予習：テキスト冊子より、キーワードの確認 復習：重要語句について再チェックする	
6	基本的人権規定② 包括的基本権、自律的自己決定権	予習：テキスト冊子より第13条の役割を確認する 復習：講義内容の完全理解に努める	
7	基本的人権規定③ 新しい人権(人格権と幸福追求権)	予習：テキスト冊子より、本項の確認を行う 復習：講義内容の完全理解に努める	
8	基本的人権規定④ 尊厳死の定義、臓器移植法の問題点	予習：自然死と脳死の捉え方の相違をテキスト冊子から理解する 復習：本項目の現在の解釈を確認する	
9	関係法規① コ・メディアカルに対する関係法規のしくみと位置	予習：シラバス・テキスト冊子の確認 復習：講義内容をもとに、コ・メディアカルの役割を確認する	

づけ	認する
10	関係法規② 日本国憲法と保健衛生法規とのつながり 予習：シラバス・テキスト冊子での確認を行う 復習：保健衛生法規のしくみの理解と確認を行う
11	医療過誤と法的責任① 予習：テキスト冊子の本項の確認を行う 復習：キーワード、重要語句の確認を行う
12	医療過誤と法的責任② 予習：医療過誤に関する事例を調べる 復習：特に民事責任に関して確認を行う
13	統治行為① 国会・内閣規定より、選挙制度並びに議院内閣制 予習：現行の選挙制度を確認する 復習：1票の格差問題について理解を深める
14	統治行為② 裁判所規定より、憲章立法審査権並びに裁判員制度の現状 予習：テキスト冊子より、キーワードの確認 復習：講義事項についての確認
15	日本国憲法の改正手続 予習：現行憲法の改正の必要性を調べる 復習：国民投票法の改正における影響を確認する
成績評価方法と基準	
①指導項目に関し、筆記試験を行う。※60点以上で単位認定する。	
割合 ①100%	

授業科目名 統計学(作業) (Statistics)																																																																			
主担当教員	井手口 範男	担当教員	井手口 範男																																																																
科目ナンバリング	LA010	教養科目	ディプロマポリシー 該当項目 DP③																																																																
配当年次	1	後期	月曜 3限																																																																
授業形態	演習	単位数	2																																																																
授業概要	<p>統計学の基礎と概念を学び、実験や調査で得られたデータをどのような統計手法を用いて分析し、どのように解釈すればよいかを理解し、それらを元に実際に自分たちでデータを分析することによって、基礎的な統計処理を身につけることを目指す。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 統計学の基礎を理解する。 2. 推定と検定の考え方を理解し、説明することができる。 3. 重畳データに対して適切な分析方法を選択することができる。 <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>毎回の授業のつながりが非常に重要です。また、毎回小テストを実施しますので、欠席のないように留意すること</p> <p>教科書</p> <p>向後千春・富永敦子、ファーストブック 統計学がわかる、技術評論社</p> <p>参考書</p> <p>授業内で適宜紹介する</p> <p>研究室/オフィスアワー</p> <p>E棟4F研究室1/火曜日5時限(空いていれば適宜対応します)</p> <p>授業展開及び授業計画表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>学修内容</th> <th>予習・復習・課題等</th> <th>担当</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ガイダンス</td> <td>シラバスを確認して、テキスト「はじめに」を読む(単に読むだけでなく、わからない専門用語等について下調べをしておく、以下同様)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>測定値の性質(尺度水準)</td> <td>「尺度水準」とは何か調べる</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>平均と度数分布・分散と標準偏差</td> <td>テキスト1章を読む</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>母集団と標本・区間推定と信頼区間</td> <td>テキスト2章を読む</td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>相関係数; 2変数間の関係</td> <td>ピアソンの積率相関係数、スピアマンの順位相関係数、ケンドールの順位相関係数について調べる</td> <td></td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>仮説検定の考え方と帰無仮説</td> <td>テキスト3-1を読む</td> <td></td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>観測度数と期待度数</td> <td>テキスト3-2, 3-3を読む</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>カイ2乗検定</td> <td>テキスト3-4を読む</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>被験者ごとの差の平均の信頼区間</td> <td>テキスト4-1, 4-2を読む</td> <td></td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>対応がないデータによるt検定(ウェルチの方法)</td> <td>テキスト4-3を読む</td> <td></td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>対応があるデータによるt検定</td> <td>テキスト5章を読む</td> <td></td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>1要因の分散分析-1-</td> <td>テキスト6-1, 6-2を読む</td> <td></td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>1要因の分散分析-2-</td> <td>テキスト6-3を読む</td> <td></td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>2要因の分散分析-1-</td> <td>テキスト7-1, 7-2を読む</td> <td></td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>2要因の分散分析-2-</td> <td>テキスト7-3を読む</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当	1	ガイダンス	シラバスを確認して、テキスト「はじめに」を読む(単に読むだけでなく、わからない専門用語等について下調べをしておく、以下同様)		2	測定値の性質(尺度水準)	「尺度水準」とは何か調べる		3	平均と度数分布・分散と標準偏差	テキスト1章を読む		4	母集団と標本・区間推定と信頼区間	テキスト2章を読む		5	相関係数; 2変数間の関係	ピアソンの積率相関係数、スピアマンの順位相関係数、ケンドールの順位相関係数について調べる		6	仮説検定の考え方と帰無仮説	テキスト3-1を読む		7	観測度数と期待度数	テキスト3-2, 3-3を読む		8	カイ2乗検定	テキスト3-4を読む		9	被験者ごとの差の平均の信頼区間	テキスト4-1, 4-2を読む		10	対応がないデータによるt検定(ウェルチの方法)	テキスト4-3を読む		11	対応があるデータによるt検定	テキスト5章を読む		12	1要因の分散分析-1-	テキスト6-1, 6-2を読む		13	1要因の分散分析-2-	テキスト6-3を読む		14	2要因の分散分析-1-	テキスト7-1, 7-2を読む		15	2要因の分散分析-2-	テキスト7-3を読む	
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当																																																																
1	ガイダンス	シラバスを確認して、テキスト「はじめに」を読む(単に読むだけでなく、わからない専門用語等について下調べをしておく、以下同様)																																																																	
2	測定値の性質(尺度水準)	「尺度水準」とは何か調べる																																																																	
3	平均と度数分布・分散と標準偏差	テキスト1章を読む																																																																	
4	母集団と標本・区間推定と信頼区間	テキスト2章を読む																																																																	
5	相関係数; 2変数間の関係	ピアソンの積率相関係数、スピアマンの順位相関係数、ケンドールの順位相関係数について調べる																																																																	
6	仮説検定の考え方と帰無仮説	テキスト3-1を読む																																																																	
7	観測度数と期待度数	テキスト3-2, 3-3を読む																																																																	
8	カイ2乗検定	テキスト3-4を読む																																																																	
9	被験者ごとの差の平均の信頼区間	テキスト4-1, 4-2を読む																																																																	
10	対応がないデータによるt検定(ウェルチの方法)	テキスト4-3を読む																																																																	
11	対応があるデータによるt検定	テキスト5章を読む																																																																	
12	1要因の分散分析-1-	テキスト6-1, 6-2を読む																																																																	
13	1要因の分散分析-2-	テキスト6-3を読む																																																																	
14	2要因の分散分析-1-	テキスト7-1, 7-2を読む																																																																	
15	2要因の分散分析-2-	テキスト7-3を読む																																																																	

成績評価方法と基準		割合
① 定期試験		① 80%
② 小テスト		② 20%

授業科目名 英語Ⅰ(初級)(作業A) (English 1【Beginner】)				
主担当教員	藤重 仁子	担当教員	藤重 仁子	
科目ナンバリング	LA011	教養科目	ディプロマポリシー 該当項目 DP②	
配当年次	1	開講学期	曜日・時限 火曜 2限	
授業形態	演習	単位数	必修・選択 必修	
授業概要	英語Ⅰでは、日常生活で最低限必要とされる、スピーキング、リスニング、リーディングのスキルを総合的に習得する。基本的な文法を復習し、単語・熟語・慣用句などの語彙を構やしながら、最低限自己表現できるコミュニケーション力を身につける。また、多くのリスニングをこなし、英語に耳を慣らしていく。授業を通して、英語に対する抵抗感をなくし、英語を学ぶことは楽しいという感覚を習得する。さらに、多読を行い、多量のインプットをすることにより、英語カッパを目指す。			
到達目標	日常生活で目や耳にする英語に親しみ、それらを最低限理解できる。 基本的な文法、語彙、表現を身につける。			
履修上の注意(学生へのメッセージ)	積極的に授業に参加すること。 宿題(特にリーディングの予習)は必ずしてから授業に臨むこと。 私語、携帯電話の使用などは慎むこと。			
教科書	Good Morning World ① (Susan Stempleski, James Morgan / Cengage Learning, 2014)			
参考書				
英和辞書				
研究室/オフィスアワー				
藤重 仁子/東棟4階研究室22 / 木曜日3限目				
授業展開及び授業計画表	回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
	1	Greetings and intros	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもっと一度確認しておくこと。	
	2	Getting to know you	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもっと一度確認しておくこと。	
	3	Countries and Nationalities	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもっと一度確認しておくこと。	
	4	Countries of the world	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもっと一度確認しておくこと。	
	5	Personal Items	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもっと一度確認しておくこと。	
	6	Gift giving	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもっと一度確認しておくこと。	
	7	Activities and Interests	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもっと一度確認しておくこと。	

8	For here or to go?	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもっと一度確認しておくこと。	
9	Everyday activities	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもっと一度確認しておくこと。	
10	Food	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもっと一度確認しておくこと。	
11	Food and eating habits	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもっと一度確認しておくこと。	
12	My Family	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもっと一度確認しておくこと。	
13	This is my family!	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもっと一度確認しておくこと。	
14	All in the family	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもっと一度確認しておくこと。	
15	Review	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもっと一度確認しておくこと。	
成績評価方法と基準			
①定期試験 ②プレゼンテーション・その他課題・授業態度・参加 ③多読 2/3以上の出席が必要。			
			割合 ①40% ②40% ③20%

授業科目名	英語Ⅰ(初級)(作業B) (English I [Beginner])		
主担当教員	長尾 晋宏	担当教員	長尾 晋宏
科目ナンバリング	LA011	教養科目	ディプロマポリシー 該当項目
配当年次	1	開講学期	前期
授業形態	演習	単位数	2
授業概要	英語Ⅰでは、日常生活で最低限必要とされる、スピーキング、リスニング、リーディングのスキルを総合的に習得する。基本的な文法を復習し、単語・熟語・慣用句などの語彙を増やしながら、最低限自己表現できるコミュニケーション能力を身につける。また、多くのリスニングをこなし、英語に耳を慣らし、英語を通して、英語に対する抵抗感をなくし、英語を学ぶことは楽しいという感覚を習得する。さらに、多読を行い、多量のインプットをすることにより、英語カアップを目指す。		
到達目標	日常生活で目や耳にする英語に頼り、それらを最低限理解できる。 基本的な文法、語彙、表現を身につける。		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	積極的に授業に参加すること。 宿題(特にリーディングの予習)は必ずしてから授業に臨むこと。 私語、携帯電話の使用などは慎むこと。		
教科書			
Good Morning World ① (Susan Stempleski, Nancy Douglas, James Morgan / Cengage Learning, 2014)			
参考書			
英和辞書			
研究室/オフィスアワー			
東棟4階研究室14			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	Greetings and intros	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
2	Getting to know you	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
3	Countries and Nationalities	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
4	Countries of the world	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
5	Personal Items	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
6	Gift giving	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
7	Activities and Interests	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	

8	For here or to go?	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
9	Everyday activities	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
10	Food	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
11	Food and eating habits	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
12	My Family	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
13	This is my family!	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
14	All in the family	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
15	Review	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
成績評価方法と基準			割合
①定期試験			①40%
②プレゼンテーション・その他課題・授業態度・参加			②40%
③多読			③20%
2/3以上の出席が必要。			

英語Ⅱ(中級)(作業A) (English II [Intermediate])			
授業科目名	藤重 仁子	担当教員	藤重 仁子
主担当教員	LA012	教養科目	DP②
科目ナンバリング	1	科目区分	曜日・時限
配当年次	演習	開講学期	火曜 3限
授業形態	2	単位数	必修・選択
授業概要	<p>前期科目の英語Ⅰに引き続き、本授業でも、日常生活で最低必要とされる、スピーキング、リスニング、リーディングのスキルを総合的に習得する。基本的な文法を復習し、単語・熟語・慣用句などの語彙を博やしながら、最低限自己表現できるコミュニケーション力を身につける。また、多くのリスニングをこなし、英語に耳を慣らし、多読を行い、多量のアラウドをすることにより、英語力アップを目指す。授業を通して、英語に対する抵抗感をなくし、英語を学ぶことが楽しいという感覚を習得する。</p> <p>到達目標</p> <p>基本的な文法、語彙を確実に身につける。 英語で最低限のコミュニケーションが取れる。 簡単な英文を正確に理解できる。 履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>積極的に授業に参加すること。 宿題(特にリーディングの予習)は必ずしてから授業に臨むこと。 私語、携帯電話の使用などは控むこと。</p> <p>教科書</p> <p>Good Morning World ① (Susan Stempleski, Nancy Douglas / Gengage Learning, 2014) (英語Ⅰで使用したテキストを引き続き使用する。英語Ⅰを履修していない者のみ、購入すること。)</p> <p>参考書</p> <p>英和辞典 多読用図書</p> <p>研究室/オフィスアワー</p> <p>木曜 3限目 (E棟 4階研究室 22)</p>		
授業展開及び授業計画表	予習・復習・課題等	担当	
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	Time	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
2	Time and schedules	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
3	Special Occasions	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
4	Holidays and celebrations	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
5	Person to Person	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
6	Living with others	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
7	Home Sweet Home	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
8	Housing	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	

			後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。
9	Clothing		次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。
10	Shopping for clothes		次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。
11	Jobs and Ambitions		次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。
12	Jobs		次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。
13	Dress the part		次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。
14	Good jobs		次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。
15	Review		次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。
成績評価方法と基準			
①定期試験 ②プレゼンテーション・その他課題・授業態度・参加 ③多読 2/3以上の出席が必要。			
			割合 ①40% ②40% ③20%

授業科目名 英語Ⅱ(中級)(作業B) (English II 【Intermediate】)			
主担当教員	長尾 晋宏	担当教員	長尾 晋宏
科目ナンバリング	LA012	教養科目	ディプロマポリシー 該当項目
配当年次	1	開講学期	後期
授業形態	演習	単位数	2
授業概要	<p>前期科目の英語Ⅰに引き継ぎ、本授業でも、日常生活で最低限必要とされる、スピーキング、リスニング、リーディングのスキルを総合的に習得する。基本的な文法を復習し、単語・熟語・慣用句などの語彙を増やしながら、最低限自己表現できるコミュニケーション力を身につける。また、多くのリスニングをこなし、英語に耳を慣らし、多量に耳をインプットをすることにより、英語力アップを目指す。授業を通して、英語に対する抵抗感をなく、英語を学ぶことは楽しいという感覚を習得する。</p> <p>到達目標</p> <p>基本的な文法、語彙を確実に身につける。 英語で最低限のコミュニケーションが取れる。 簡単な英文を正確に理解できる。</p> <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>積極的に授業に参加すること。 宿題(特にリーディングの予習)は必ずしてから授業に臨むこと。 私語、携帯電話の使用などは控えること。</p> <p>教科書 Good Morning World ① (Susan Stempleski, Nancy Douglas, James Morgan / Gengage Learning, 2014) (英語Ⅰで使用したテキストを引き継ぎ使用する。英語Ⅰを履修していない者のみ、購入すること。)</p> <p>参考書 英和辞典 多読用図書 研究室/オフィスアワー</p>		
E 棟 4 階 研究室 14			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	Time	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
2	Time and schedules	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
3	Special Occasions	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
4	Holidays and celebrations	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
5	Person to Person	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
6	Living with others	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
7	Home Sweet Home	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
8	Housing	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	

		後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
9	Clothing	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
10	Shopping for clothes	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
11	Jobs and Ambitions	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
12	Jobs	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
13	Dress the part	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
14	Good jobs	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
15	Review	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
成績評価方法と基準			
①定期試験			
②プレゼンテーション・その他課題・授業態度・参加			
③多読			
2/3以上の出席が必要。			
			割合
			①40%
			②40%
			③20%

授業科目名		医学英語 I (作業) (English for Medicine I)	
主担当教員	藤重 仁子	担当教員	藤重 仁子
科目ナンバリング	LA015	教養科目	ディプロマポリシー 該当項目
配当年次	2	科目区分	DP②
授業形態	演習	開講学期	曜日・時限
授業概要	2	単位数	木曜 2 限 選択
<p>医療従事者に必要な英語のコミュニケーション能力を身につけるため、臨床現場で患者の病歴を正確に理解したり、患者に正確な指示を伝えたりするために必要となる表現や語彙を習得する。また、医学関連の文献や論文、その他情報の収集方法と論文の構成を習得し、専門分野における最先端の研究情報を得るためのスキルを身につける。</p> <p>将来医療従事者となる皆さんに、ぜひ受講をお勧めする。</p> <p>到達目標</p> <p>最低限の者とコミュニケーションがとれる。 最低限の医学用語が理解できる。 医学分野の英語の論文がどのような構成になっているのか理解できる。</p> <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>積極的に授業に参加すること。 宿題や予習(特にリーディング)は必ずしてから授業に臨むこと。 携帯電話の使用、私語は慎むこと。</p>			
教科書			
実践看護英語(竹林修一、英宝社、2014)			
参考書			
英和辞書			
研究室/オフィスアワー			
東棟 4 階研究室 22 / 木曜日 3 限目			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	Introduction	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	
2	Medical terminology	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	
3	Getting to know the patients 1	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	
4	Getting to know the patients 2	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	
5	Getting to know the patients 3	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	
6	Getting to know the patients 4	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	
7	Examination 1	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	
8	Examination 2	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	
9	Instruction medication	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	

10	Treating the patients	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	
11	Plumbed について、論文の構成について	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	
12	Articles on Occupational Therapy 1	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	
13	Articles on Occupational Therapy 2	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	
14	Articles on Occupational Therapy 3	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	
15	Review	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	
成績評価方法と基準			
①小テスト			
②プレゼンテーションおよびその他課題			
③授業参加			
・全授業のうち 2/3 以上の出席が必要。			
割合			①30%
			②40%
			③30%

授業科目名	医学英語 II (作業) (English for Medicine II)		担当教員	藤重 仁子
主担当教員	藤重 仁子	担当教員	藤重 仁子	
科目ナンバリング	LA016	教養科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP②
配当年次	2	開講学期	曜日・時限	木曜 1限
授業形態	演習	単位数	必修・選択	選択
授業概要	<p>医学英語 I に引き続き、医療従事者に必要な英語のコミュニケーション能力の向上を目指す。臨床現場で患者の主訴等の発話を正確に理解したり、患者に正確な指示を伝えたりするために必要となる表現や語彙を習得する。また、医学関連の文献や論文、その他情報収集の方法を学び、実際に自分で興味のあるテーマの論文を検索・収集する。そして、それらの論文から正確な情報を読み取るためのリーディングのスキルを習得する。</p> <p>なお、医学英語 I を履修していない者の受講も歓迎する。</p>			
到達目標	<p>患者とコミュニケーションがとれる。 基本的な医学用語が理解できる。 医学分野の英語の論文から正確な情報を読み取ることができる。</p>			
履修上の注意 (学生へのメッセージ)	<p>積極的に授業に参加すること。 宿題や予習 (特にリーディング) は必ずしてから授業に臨むこと。 携帯電話の使用、私語は慎むこと。</p>			
教科書	<p>実践看護英語 (竹林修一、英宝社、2014) (医学英語 I を履修した者は、再度購入する必要はない。)</p>			
参考書	<p>英和辞典</p>			
研究室/オフィスアワー	<p>研究室 4 階研究室 14 木曜日 3 限目</p>			
E 棟 4 階研究室 14 木曜日 3 限目				
授業展開及び授業計画表				
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当	
1	Treating the Patients 1	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。		
2	Treating the Patients 2	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。		
3	Treating the Patients 3	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。		
4	Operation	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。		
5	Pregnancy	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。		
6	In the Hospital	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。		
7	Emergencies	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。		
8	Living a Healthy Life	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。		
9	Review 1	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。		
10	Articles on OT 1	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。		

		後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
11	Articles on OT 2	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
12	Articles on OT 3	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
13	Articles on OT 4	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
14	Articles on OT 5	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
15	Review 2	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。	
成績評価方法と基準			
①小テスト			
②プレゼンテーションおよびその他課題			
③授業参加態度			
・全授業のうち 2/3 以上の出席が必要。			
			割合
			①30%
			②40%
			③30%

英会話Ⅰ(作業) (English Conversation I)			
授業科目名	英会話Ⅰ(作業)	担当教員	藤重 仁子
主担当教員	藤重 仁子	教養科目	ディプロマポリシー 該当項目 DP②
科目ナンバリング	LA013	科目区分	曜日・時限
配当年次	2	開講学期	火曜 4限
授業形態	演習	単位数	2
授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	英会話Ⅰでは、基本的な英語によるコミュニケーション能力を習得することを目的とする。英会話の基本的ルールである、(1)主語の存在 (2)語順(主語・動詞・疑問文、疑問詞など)、(3)膨張力、を意識しながら、日常生活の中で、道を尋ねる、買い物をする、自己紹介をするなどといった他人と関わる際に最低限必要な会話を身につける。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 自己紹介ができる。 最低限の日常会話ができる。 自分の考えを最低限伝えることができる。 		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	ペアワーク、グループワークなどによる会話の練習が多いため、積極的に授業に参加すること。前回の授業の復習を必ずしてから授業に臨むこと。 私語、携帯電話の使用などは慎むこと。		
教科書	Talk a Lot Book1 –Second Edition– (David Martin 著, EFL Press, 2003)		
参考書	英和・和英辞典		
研究室/オフィスアワー	東棟4階研究室22 / 木曜日 3限目		
授業展開及び授業計画表	担当		
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	Getting to know each other	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
2	Introducing yourself	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
3	Talking about interests	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
4	Greeting someone	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
5	Talking about family	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
6	Asking and talking about family and relatives	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
7	Talking about people	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	

8	Describing what people look like	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
9	Talking about work	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
10	Telling time	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
11	Talking about past experiences	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
12	Talking about vacations	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
13	Talking about sports	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
14	Talking about physical condition	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
15	Review and oral exam	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
成績評価方法と基準			
①口頭試問 ②授業参加態度 ③その他プレゼンテーションや課題など ・全授業のうち 2/3 以上の出席が必要。			
割合 ①30% ②40% ③30%			

授業科目名 英会話Ⅱ(作業) (English Conversation II)			
主担当教員	藤重 仁子	担当教員	藤重 仁子
科目ナンバリング	LA014	教養科目	ディプロマポリシー 該当項目 DP②
配当年次	2	開講学期	後期
授業形態	演習	単位数	2
授業概要	<p>英会話Ⅱに引き続き、英会話Ⅱでは英語によるコミュニケーション能力を習得することを目的とする。英会話の基本的ルールである、(1)主語の存在、(2)語順(主語・動詞・疑問詞・疑問文、疑問詞など)、(3)時態力、を意識しながら、日常生活の中で他人と関わる際に必要となる英会話力を身につける。さらに、自分の伝えたいことを的確に表現できる英語力の習得を目指す。</p> <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 日常生活に困らない程度の会話ができる。 自分の考えを的確に伝えることができる。 <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>ペアワーク、グループワークなどによる会話の練習が多いため、積極的に授業に参加すること。前回の授業の復習を必ずしてから授業に臨むこと。</p> <p>私語、携帯電話の使用などは慎むこと。</p>		
教科書	Talk a Lot Book1-Second Edition- (David Martin 著, EFL Press, 2003)		
参考書	ただし、英会話Ⅰの履修者は購入する必要なし。英会話Ⅱからの履修者のみ、購入すること。		
英和・和英辞典			
研究室/オフィスアワー			
E 棟 4 階研究室 22 木曜日 3 限目			
授業展開期及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	Talking about other countries	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
2	Nationalities, languages and ethnic foods	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
3	Talking about experiences	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
4	Asking about experiences	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
5	Talking about places	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
6	Talking about Past Experiences	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
7	Talking about sports	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
8	Talking about other countries	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	

		後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
9	Talking about places	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
10	Describing locations and asking directions	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
11	Talking about Japanese things	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
12	Talking about future events	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
13	Talking about school	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
14	Talking about Health	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
15	Review and oral exam	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
成績評価方法と基準			
①口頭質問 ②授業参加態度 ③その他プレゼンテーションや課題など ・全授業のうち 2/3 以上の出席が必要。			割合 ①30% ②40% ③30%

授業科目名		スポーツ健康科学演習(作業) (Sports Health Science Seminar)			
主担当教員	中原 英博	担当教員	中原 英博、佐野 加奈絵、伊奈 新太郎、信江 彩加、折田 真弓、濱口 幹太、山口 晏奈、伊藤 剛		
科目ナンバリング	CS017	科目区分	学部共通科目	DP③	
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	水曜 1 限 水曜 2 限
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	必修
<p>授業概要</p> <p>本スポーツ健康科学演習では、学生が自らの適正に応じてスポーツ種目を選択できるよ、競技スポーツ、球技スポーツ、ニュースポーツ、ダンスなど多様なスポーツ種目を用意し、各種目特性を生かして、「思いっきり体を動かす爽快感」と「プレーを通じて感じる理屈抜きの楽しさ」を存分に経験できるようなゲーム主体の授業プログラムを提供する。その中で、体力のレベルアップや身体動作の向上を図ると同時に、ゲームを自主的に運営する能力を養う。また、スポーツの実践を通じて、学生同士の心の交流や人間関係を育み、生涯にわたって楽しく、計画的にスポーツを実践する習慣を育成することも本演習の大きな狙いである。</p>					
<p>到達目標</p> <p>1. スポーツ活動を通じて、学級の枠を超えた学生同士の心の交流や人間関係を育むことができる。</p> <p>2. スポーツ活動を通じて、基礎体力や、技術が向上する。</p> <p>3. スポーツ活動を通じて、チームワークの重要性を認識できる。</p> <p>4. 生涯にわたって楽しく、計画的にスポーツを実践する習慣を身につけることができる。</p>					
<p>履修上の注意 (学生へのメッセージ)</p> <p>履修について</p> <p>(1) 各教員からの指示がない限り、トレーニング用ジャージ・シューズは毎週持参し、更衣した後、授業に臨むこと。</p> <p>(2) シューズは屋内用、屋内用と別にソールの運動靴を用意すること。屋外でのスポーツ種目を実施するクラスの者は、雨天により急ぎと屋内種目に変更する場合はあるため、毎回の授業時において、屋内用シューズは必ず用意しておくこと。</p> <p>(3) 授業中におけるマガネや時計などの破壊、コンタクトレンズや装飾品の紛失について担当教員は責任を負わない。</p>					
<p>注意事項</p> <p>(1) 集合場所 日ごに(特に雨天時)によって、各クラス担当教員ごとに、授業を行う場所やバス運行時刻等が変更する場合があります。特別指示がない場合においても、毎回、注意して掲示板を見る習慣をつけること。</p> <p>(2) 各運動施設までの移動手段について</p> <p>本学では、「回生全員を対象に、本学体育館や下記の代替運動施設を利用して、スポーツ・健康科学演習を行います。遠方(バスで約15～20分)の運動施設までの移動には、大学前から駅まで買切りバスをチャーターし、みなさんを送迎します。</p>					
<p>教科書</p> <p>特に指定しない。</p>					
<p>参考書</p> <p>特に指定しない。</p>					
<p>研究室/オフィスアワー</p> <p>原則月曜日 3 時限目・4 時限目</p> <p>その他、部屋にいればいつでも訪問可です。質問等はいつでも自由にとどうぞ。</p>					
<p>授業展開及び授業計画表</p>					
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当		
1	オリエンテーション クラス分けガイダンス スポーツ種目の選択、コースの決定	軽スポーツ、球技スポーツ、ニュースポーツ、ダンスなど多様なスポーツ種目の特性について理解を深めておく。			
2	オリエンテーション クラス分けガイダンス スポーツ種目の選択、コースの決定				
3	スポーツ種目特性の理解 種目・用具特性の把握				
4	スポーツ種目特性の把握 種目・用具特性の把握				

5	基本技術の習得 スポーツ種目に応じた基本技術の習得①			
6	基本技術の習得 スポーツ種目に応じた基本技術の習得①			
7	基本技術の習得 スポーツ種目に応じた基本技術の習得②			
8	基本技術の習得 スポーツ種目に応じた基本技術の習得②			
9	基本技術の習得 スポーツ種目に応じた基本技術の習得③			
10	基本技術の習得 スポーツ種目に応じた基本技術の習得③			
11	応用技術の習得 スポーツ種目に応じた応用技術の習得①			
12	応用技術の習得 スポーツ種目に応じた応用技術の習得①			
13	応用技術の習得 スポーツ種目に応じた応用技術の習得②			
14	応用技術の習得 スポーツ種目に応じた応用技術の習得②			
15	応用技術の習得 スポーツ種目に応じた応用技術の習得③			
16	応用技術の習得 スポーツ種目に応じた応用技術の習得③			
17	基本・応用技術の発展 模擬ゲームの実施とルール理解①			
18	基本・応用技術の発展 模擬ゲームの実施とルール理解①			
19	基本・応用技術の発展 模擬ゲームの実施とルール理解②			
20	基本・応用技術の発展 模擬ゲームの実施とルール理解②			
21	ゲームの展開 学生主体のゲーム運営①			
22	ゲームの展開 学生主体のゲーム運営①			
23	ゲームの展開 学生主体のゲーム運営②			
24	ゲームの展開 学生主体のゲーム運営②			
25	ゲームの展開 学生主体のゲーム運営③			
26	ゲームの展開 学生主体のゲーム運営③			
27	ゲームの展開 学生主体のゲーム運営④			
28	ゲームの展開 学生主体のゲーム運営④			
29	ゲームの展開 学生主体のゲーム運営⑤			
30	ゲームの展開 学生主体のゲーム運営⑤			
成績評価方法と基準				割合
授業回数の 2/3(20 コマ)以上出席すること(本授業科目においては1日で2コマ分の授業となっているので、10 日以上出席が必要)です。授業開始後、30 分を超えての遅刻は欠席とみなす。成績の評価は、原則として 2/3 以上出席した者を対象とする。				①100%
①参加・技能・理解・積極性などを総合的に判定するとともに、授業最終日にはレポートの提出を義務づける。その成績が60点未満の者は不可とし単位を認定しない。				

授業科目名	健康科学(スポーツ社会学を含む)(作業) (Health Science [Including Sports Sociology])		
主担当教員	佐野 加奈絵	担当教員	佐野 加奈絵
科目ナンバリング	CS018	学部共通科目	ディプロマポリシー 該当項目 DP③
配当年次	1	開講学期	前期 木曜3限
授業形態	講義	単位数	2 必修・選択 選択
授業概要	健康に対する意識が高まり、健康食品や健康器具などがブームとなっている近年、マスメディアを通じて流されている情報には、科学的根拠が乏しいものも少なくはない。本授業では、生活習慣病、地域社会における健康維持、増進に関わる取り組みや考え方や、運動や食事指導に関する科学的根拠に基づいた専門的な知識を身につけることを目標とする。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・運動や食事指導に関する科学的根拠に基づいた専門的な知識を身につける。 ・本邦における健康維持・増進に関わる取り組みや考え方について理解する。 		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	毎回配布する資料を用いて、必ず復習してください。		
教科書	適宜、資料を配布する。		
参考書	出村慎一 監修「健康・スポーツ科学講義」杏林書院、2005年 田中嘉代次編「健康運動の支援と実践」金芳堂、2006年 研究室/オフィスアワー 東棟 4F 月曜 9:00-10:30		
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	健康とは？	予習：シラハスの確認 復習：配布プリント、キーワードの確認。	
2	運動・栄養と肥満症との関係	予習：シラハスの確認 復習：配布プリント、キーワードの確認。	
3	運動・栄養と糖尿病との関係	予習：シラハスの確認 復習：配布プリント、キーワードの確認。	
4	運動・栄養と脂質異常症との関係	予習：シラハスの確認 復習：配布プリント、キーワードの確認。	
5	三大栄養素(精質・脂質・タンパク質)の役割	予習：シラハスの確認 復習：配布プリント、キーワードの確認。	
6	微量栄養素(ビタミン・ミネラル)と水の役割	予習：シラハスの確認 復習：配布プリント、キーワードの確認。	
7	消化器の構造と機能	予習：シラハスの確認 復習：配布プリント、キーワードの確認。	
8	食品群の理解と応用	予習：シラハスの確認 復習：配布プリント、キーワードの確認。	
9	エネルギー摂取量と消費量との関係	予習：シラハスの確認 復習：配布プリント、キーワードの確認。	
10	運動時におけるエネルギー産生メカニズム	予習：シラハスの確認 復習：配布プリント、キーワードの確認。	
11	運動処方の方の原則と実際	予習：シラハスの確認 復習：配布プリント、キーワードの確認。	
12	運動と食飲の関係—最新のトピックス—	予習：シラハスの確認 復習：配布プリント、キーワードの確認。	
13	日本人の食事摂取基準について	予習：シラハスの確認 復習：配布プリント、キーワードの確認。	
14	健康づくりに関する本邦の取り組み	予習：シラハスの確認 復習：配布プリント、キーワードの確認。	
15	講義全体のまとめと振り返り	予習：これまでのプリントの確認。 復習：配布プリント、キーワードの確認。	

成績評価方法と基準	割合
①定期試験で評価する。 15回の講義に対し、必要な時間数の出席が必須である。	①100%

授業科目名		東洋思想史(作業) (History of Oriental Thoughts)			
主担当教員	重信 あゆみ	担当教員	重信 あゆみ		
科目ナンバリング	CSO19	科目区分	学部共通科目	該当項目	DP③
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時間	火曜 1限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	選択
授業概要 古代より中国人は人体に多大な興味をもち、そのために様々なことを試みてきた。そして、その中で生まれてきたのが中国思想である。この授業においては、東洋医学の背景にある文化、特に思想について学んでいく。そして、その思想と中国医学がどのように影響を及ぼしあっていたのかについて学んでいく。					
到達目標 中国文化の基礎となっている歴史、思想を理解する。中国の思想には「いかに生き抜くか」が根底にある。その中で、諸子百家と呼ばれる人々は多くの思想を生み出し、広めてきた。中国医学の根底となる思想を通じて「ひとはなぜ長生きをしたいのか」を考える授業をする。また、現代社会において中国思想がどのように反映されているのかについても理解する。					
履修上の注意(学生へのメッセージ) 1. 配付された資料には必ず目を通すこと。 2. 出席は重視する。 3. 疑問点は大切に、解決に向けて行動すること。					
教科書 プリントを配布する。					
参考書 マイケル・ビュレット/クリスティーン・グロスロー著 熊谷淳子訳 『ハーバードの人生が変わる東洋哲学』早川書房 2016年					
研究室/オフィスアワー 授業後、非常勤講師室					
授業展開及び授業計画表					
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当		
1	教科科目のガイダンス	半期でする時代の流れを復習すること			
2	中国の歴史(戦国時代～漢代)	諸子百家と呼ばれる人々が出現した時代背景の復習			
3	孔子「仁」と「礼」	「仁」を中心とした孔子の思想を理解する			
4	孟子「命」	孟子が唱える「命」とはなにか。また、「命」は変えられるのかを考える。			
5	荀子「礼」	荀子の中心思想である「礼」について再考する。なぜ「礼」は唱えられたのかを考える。			
6	韓非子「法」	韓非子は、悪者か。韓非子が唱えた本当の「法」について考える。			
7	墨子「非攻」	戦えば百戦錬磨と言われた墨家集団。この集団において貫かれていた「愛」の思想について考える。			
8	老子「道」	「強くなるために弱くなる」という一見すれば逆説的な老子の思想について考える。			
9	「精」「氣」「神」	「精」「氣」という人にとって基本となる思想について触れる。ほんとうの元氣とは何かについて考える。			

10	莊子「物化」	老荘思想の「莊子」の思想にふれる。とくに莊子は「物化」を理解することにより宇宙への理解が深まると考えており、「化」とはなにかについて考える。			
11	道教「西王母」	不老長寿の神である西王母について学ぶ。西王母は古来より現在に至るまで信仰されている神である。なぜ、ひとびとは、不老長寿を追いかけたいのか。西王母の変遷を通じて考える。			
12	黄泉の国「日本と中国の比較」	前講義につづき、なぜひとびとは「長生き」をしたかったのか。日本と中国の黄泉の国に対するイメージを比較検討していく。			
13	俳句「張目吐舌」	ひとびとは生き抜くためにあらゆる手段を講じた。そのなかでも悪霊から自身を守るために「禊祓」をつくる。その共通点が「張目吐舌」である。東西交渉を通じて伝えられた「張目吐舌」について考える。			
14	「禊し」	ストレス社会である現在、さまざまな「禊し」がある。各自の禊しについて考えてもらい、なぜ禊されるのかを科学的に検証していく。			
15	思想と東洋医学	半期のもともめを行う。ひとはなぜ「不老長寿」を追い求めてきたのかをまとめながら考えていく。			
成績評価方法と基準					
①授業ごとの感想文 ②レポート課題 ③定期試験					
割合					
①10%					
②20%					
③70%					

筆記試験	100%
------	------

授業科目名	生化学(作業) (Biochemistry)		西崎 大祐	西崎 大祐
主担当教員	西崎 大祐	担当教員	西崎 大祐	
科目ナンバリング	CS021	科目区分	学部共通科目	DF③
配当年次	2	開講学期	前期	火曜 3 限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択 選択
授業概要	「身体を作って、維持し、動かす」と言う事をするために栄養素が身体の中をどのように流れていくか(代謝)を理解する事を目的とする。			
到達目標	代謝を理解して、その代謝の流れを日常生活(現代社会と環境)の中で健康を柱とした生き方を医療人として考えることができるようになる。			
履修上の注意(学生へのメッセージ)	プリントを渡しますので、復習をしてください。			
教科書	イラスト生化学入門 相原秀孝 東京教養者			
参考書	特になし			
研究室/オフィスアワー	授業前後の非常勤講師控え室			
授業展開及び授業計画表	回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
	1	人体の仕組み	人体の構造と機能	
	2	蛋白質の構造と働き①	蛋白質とアミノ酸の関係を理解する	
	3	蛋白質の構造と働き②	蛋白質の性質と蛋白質から何ができていくか	
	4	糖質の構造と働き①	糖質の構造と性質	
	5	糖質の構造と働き②	糖質からどのようにしてエネルギーができるか	
	6	脂質の構造と働き①	さまざまな脂質について	
	7	脂質の構造と働き②	体内での脂質の運搬	
	8	核酸の構造と働き	どのようにして同じ核糖を作り出すか どのようにして核酸から蛋白質をつくり出すか	
	9	酵素の性質と働き	酵素の働き方	
	10	ビタミンの種類と働き	脂溶性ビタミン・水溶性ビタミンの働き	
	11	水・無機質の働き	水の重要性 さまざまな無機質の働き	
	12	栄養素の消化と吸収	三大栄養素の消化と吸収	
	13	生体の恒常性を保つシステム	ホルモンの働き	
	14	エネルギーの消費と供給	生体のエネルギー	
	15	免疫	生体防御のシステム	
成績評価方法と基準				割合

健康管理学 I (作業) (Healthcare Management I)			
授業科目名	伊黒 浩二	担当教員	伊黒 浩二
主担当教員	伊黒 浩二	学部共通科目	ディプロマポリシー 該当項目
科目ナンバリング	CS022	科目区分	DP③
配当年次	2	開講学期	曜日・時限 木曜 3限
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	<p>近年、生活習慣病の危険因子が明らかになれつつある。危険因子を多く有する人は疾患に罹患する確率が高くなることから、日常生活でいかに健康管理を行うかについての関心が高まっている。本講義では、運動不足の影響を学び、ライフスタイルに応じた健康づくりのための身体活動基準、目的に応じた効果的なトレーニング法の原理・原則を学修する。特に、有酸素性運動の健康上の必要性を学び、運動処方(強度・時間・頻度)に関する知識を養う。また、運動強度の指標を理解し、ウォーミングアップとクールダウン、及びレジスタンス運動を含めた、運動処方プログラムの構成についても学修する。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 健康管理と疾病の予防に関する基礎知識を習得し、予防医学の重要性を理解する。 2. 健康づくりのための運動に必要な知識、生活習慣病予防に役立つ基礎知識を説明できる。 3. 健康管理のための正しい知識を身につけ、健康の保持増進に役立てることができる。 <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>①寝ない ②喋らない ③内職しない ④スマホを触らない 以上のルールを守って熱心に学習して下さい。</p>		
教科書			
特記事項	特記ありません。		
参考書	<p>健康スポーツ科学の基礎(山村慎一監修・杏林書院) 健康・スポーツ科学キーストトレーニング科学(北川薫編集・文光堂) 特定健診・保健指導に役立つ 健康運動指導マニュアル(佐藤祐編集・文光堂)、他</p>		
研究室/オフィスアワー			
授業開始前は非常勤講師室にいます。			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	健康管理について 1	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
2	健康管理について 2	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
3	生活習慣病と運動 1	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
4	生活習慣病と運動 2	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
5	生活習慣病と運動 3	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
6	トレーニングの基礎知識	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
7	全身持久力トレーニングについて	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
8	筋持久力・筋力トレーニングについて 1	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
9	筋持久力・筋力トレーニングについて 2	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
10	パワートレーニングについて	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
11	トレーニングでの注意点 1 ウォームアップとウォームダウン 1	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
12	トレーニングでの注意点 2 ウォームアップとウォームダウン 2	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
13	トレーニングでの注意点 3 オーバーワークサイズによる身体的の問題	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	

14	トレーニングでの注意点 4 障害を予防するためのアイシング	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
15	講義全体のまとめと振り返り	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
成績評価方法と基準			割合
①筆記試験			①70%
②授業ごとの小テスト・課題提出			②30%
*全授業のうち 2/3 以上の出席が必要			

授業科目名		健康管理学Ⅱ(作業)(Healthcare Management II)	
主担当教員	伊黒 浩二	担当教員	伊黒 浩二
科目ナンバリング	CS023	学部共通科目	DP③
配当年次	2	開講学期	後期
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	<p>近年、生活習慣病だけでなく、加齢に伴う生活機能低下を防ぐ対策が重要課題となってきた。健康寿命を延伸するために、日常生活でいかに健康管理を行うかについての関心が高まっている。本講義では、疾病構造の変化と身体活動・運動不足の関連性、身体運動のカニズム、および健康度の一つの尺度となる体力・日常動作について理解を深めると同時に、第一次予防の視点に立って運動が健康づくり、特に生活習慣病予防・介護予防に役立つ根拠について学修する。生活習慣病とロコモティブシンドロームを予防し、健康寿命を延伸するための理論、並びに具体的な実践方法についても理解を深める。</p>		
到達目標	<p>1. 生活習慣病・加齢に伴う生活機能低下に関する基礎知識を習得し、予防医学の重要性を理解する。 2. 健康寿命の延伸に必要な基礎知識、生活習慣病予防・介護予防に役立つ健康づくり運動の知識を説明できる。 3. 健康管理のための正しい知識を身につけ、健康の保持増進に役立てることができる。</p>		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	<p>①寝ない ②喋らない ③内職しない ④スマホを触らない 以上のルールを守って熱心に学習して下さい。</p>		
教科書			
特記事項			
参考書	<p>健康・スポーツ科学の基礎(出村順一監修・杏林書院) 健康・スポーツ科学テキスト トレーニング科学(北川薫編集・文光堂) 特定健診・保健指導に役立つ 健康運動指導マニュアル(佐藤祐彦編集・文光堂)、他</p>		
研究室/オフィスアワー			
授業開始前は非常勤講師室にいます。			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	健康管理について 1	予習：シラハスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	
2	健康管理について 2	予習：シラハスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	
3	中高年者の身体的特徴と運動 1	予習：シラハスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	
4	骨粗鬆症と運動	予習：授業をもとにノート・プリントを確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	
5	変形性関節症と運動	予習：シラハスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	
6	生活習慣病と運動 1 メタボリックシンドローム	予習：シラハスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	
7	生活習慣病と運動 2 高血圧症	予習：シラハスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	
8	生活習慣病と運動 3 糖尿病	予習：シラハスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	
9	生活習慣病と運動 4 高脂血症	予習：シラハスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	
10	生活習慣病と運動 5 虚血性心疾患	予習：シラハスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	
11	有酸素エクササイズについて	予習：シラハスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	
12	レジスタンスエクササイズについて	予習：シラハスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	
13	ウォームアップとウォームダウンについて 1	予習：シラハスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	

14	ウォームアップとウォームダウンについて 2	予習：シラハスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認
15	講義全体のまとめ	予習：シラハスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認
成績評価方法と基準		
①筆記試験		
②授業ごとの小テスト・課題提出		
授業の2/3回以上の出席が必要		
割合		
①70%		
②30%		

授業科目名		チーム医療とコミュニケーション(作業) (Team Medical Care and Communication)			
主担当教員	横井 眞津志	担当教員	横井 眞津志、金尾 顕郎、金森 幸		
科目ナンバリング	CS020	科目区分	学部共通科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP②③
配当年次	2	開講学期	後期	曜日・時間	月曜 1限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	必修
授業概要 保健・医療・福祉の専門職が各々の役割を認識し、目標および問題を共有することの重要性を認識し、互いに連携し協働することによって、質の高い医療が提供できる知識とスキルを学ぶ。また、チーム医療実践のためのチーム・専門職のあり方を、実践例を通して解説する。 チーム医療の構成員として作業療法士の専門性を活かし、積極的に医療に参画できるようにするために、医療の流れ、チーム構成員の職能、医療倫理を始めとするチーム医療の基礎知識を習得する。さらに、作業療法士介入で用いるクライアント中心のトツアウンアローチをチームに紹介する。					
到達目標 1. チーム医療の必要性や意義を理解し、説明できる。 2. 作業療法をチーム員に説明できる。 3. 作業 (occupation) の視点からその人を捉え、チーム員に伝える事ができる。 4. チーム医療を実践するメソッドやスキルを習得する。					
履修上の注意 (学生へのメッセージ) 1. チームワークが医療の質向上、安全性、クライアントの QOL 向上に不可欠であることを認識してください。 2. 新聞やニュースなどで、保健・医療・福祉関連の話題に関心を寄せ、チームという視点で読み取ってください。 3. 図書で雑誌「作業療法」や「作業療法ジャーナル」の多職種連携やチームをキーワードとした症例報告を積極的に読んでください。 4. チーム医療を実践するメソッドやスキルを習得する。					
教科書 論文、記事、関連資料を適宜配布する。教科書の指定はない。					
参考書 1) 福原麻希: チーム医療を成功させる 10 か条ー現場に学ぶチームメンバーの心得。中山書店。 2) 細田満和子: 「チーム医療」とは何かー医療ケアに生かす社会学からのアプローチ。日本看護協会出版会。 研究室/ オフィスアワー					
本曜日 2 限 (10:40-12:10)					
授業展開及び授業計画表					
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当		
1	IPW とは チームでコンセンサスを得る利点	コンセンサスとは何かを調べ、コンセンサスを得るために必要な要素を考える。	横井		
2	チーム医療の必要性、意義 個人と集団の違い	チームとは何か、リーダーシップとは何かを考えてくる。	金森		
3	伝える、伝わる	相手に伝える、伝わるために必要な条件をまとめる。	金森		
4	ディベートとは	テーマに対するメリットとデメリットを考える。リンクマップを作成する。	横井		
5	ディベート準備	テーマに対するメリットとデメリットを考える。リンクマップを作成する。	横井・金森		
6	ディベート発表 1	発表の準備。	横井・金森		
7	ディベート発表 2	発表の準備。	横井・金森		
8	チームにおけるコミュニケーションスキル 1	自己のコミュニケーションを振り返る。	金森		
9	チームにおけるコミュニケーションスキル 2	支援者と患者との関係性を推察する。	金森		
10	疾患と医療チーム (身体・老年期障害領域)	提示された模擬患者の情報を収集する。発表の準備をする。クリニカルパスについて調べる。	横井		
11	疾患と医療チーム (精神・発達障害領域)	提示された模擬患者の情報を収集する。発表の準備をする。クリニカルパスについて調べる。	金森		
12	模擬症例発表準備 1	提示された模擬患者の情報を収集する。発表の準備をする。	横井・金森		
13	模擬症例発表準備 2	提示された模擬患者の情報を収集する。発表の準備をする。	横井・金森		

14	模擬症例発表 1	他者の発表を聞き、作業療法士介入の視点をまとめる。	横井・金森・金尾
15	模擬症例発表 2	他者の発表を聞き、作業療法士介入の視点をまとめる。	横井・金森・金尾
成績評価方法と基準			
① 身体障害・老年期障害の症例レポート ② 精神障害の症例レポート ③ 発達障害の症例レポート ④ ティベート			割合 ① 30% ② 30% ③ 30% ④ 10%

授業科目名	栄養学(作業) (Nutriology)		
主担当教員	西崎 大祐	担当教員	西崎 大祐
科目ナンバリング	CS024	学部共通科目	ディプロマポリシー 該当項目
配当年次	2	開講学期	後期
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	<p>身体を維持・運営することについて、食べ物はもちろん時代・社会環境をも含めた中での健康というものを考えることができる知識を身につけさせる。基本、教科書を使用。プリントで復習。</p> <p>到達目標</p> <p>生きるといふ事から考えると、食べるとは重要だが、このことだけでは健康は手に入らない。栄養はもろんのことだが、時代・社会・環境問題も含めた中での健康を考えられる知識を見につける。</p> <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>プリントを渡しますので、復習をすること。</p>		
教科書			
イラスト基礎栄養学(大口健司(他著)東京教科学社			
参考書			
特になし			
研究室/オフィスアワー			
授業前後の非常勤講師控え室			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	栄養の概念	1. 栄養の定義 2. 栄養と健康・疾患 3. 遺伝形質と栄養の相互作用	
2	食物の摂取	1. 空腹感と食欲 2. 食事のリズムとタイミング 3. 消化器系の構造と機能 4. 食物の消化・吸収・排泄の流れ 5. 腸消化・吸収 6. 栄養素別の消化・吸収 7. 栄養素の体内動態 8. 栄養素の利用度	
3	消化・吸収と栄養素の体内動態		
4	たんぱく質の栄養①	1. たんぱく質代謝の特徴 2. 食後のたんぱく質代謝 3. 食間期のたんぱく質代謝 4. たんぱく質代謝回路的調節機構 5. たんぱく質の栄養管理 6. アミノ酸代謝の臓器差 7. たんぱく質の栄養価判定 8. たんぱく質の栄養価判定 9. アミノ酸の補足効果	
5	たんぱく質の栄養②		
6	炭水化物の栄養①	1. 食後の糖質代謝 2. 食間期の糖質代謝 3. 血糖の調節機構 4. エネルギー源としての糖質の特性 5. 他の栄養素との関連 6. 食物繊維・難消化性オリゴ糖の利用	
7	炭水化物の栄養②		
8	脂質の栄養①	1. 脂質の体内代謝 2. コレステロール代謝とその調節 3. 摂取する脂質の量と質 4. 他の栄養素との関係	
9	脂質の栄養②		
10	ビタミンの栄養①	1. ビタミンの種類と構造 2. ビタミンの生理機能 3. ビタミンの栄養学的機能	

11	ビタミンの栄養②	4. ビタミンの生物学的利用度 5. 他の栄養素との関係	
12	ミネラル(無機質)の栄養①	1. ミネラルの分類と栄養学的機能 2. 硬組織とミネラル 3. 生体機能の調節作用	
13	ミネラル(無機質)の栄養②	4. 酵素反応の賦活作用 5. 鉄代謝と栄養 6. ミネラルの生物学的利用度 7. 他の栄養素との関係	
14	水・電解質の栄養的意義	1. 体内での水の働き 2. 水の出入り 3. 水分のバランス 4. 水・電解質の代謝	
15	エネルギー代謝	1. エネルギー代謝の概念 2. エネルギー消費量 3. 臓器別エネルギー代謝 4. エネルギー代謝量の測定法	
成績評価方法と基準			割合
筆記試験			100%

身体運動科学(作業) (Science of Human Body Movement)				
授業科目名	身体運動科学(作業)	担当教員	外林 大輔	
主担当教員	外林 大輔	担当教員	外林 大輔	
科目ナンバリング	CS025	学部共通科目	ディプロマポリシー 該当項目 DP③	
配当年次	2	開講学期	後期 水曜 3限	
授業形態	講義	単位数	2 必修・選択 選択	
授業概要	本講義では、競技スポーツ、健康運動、運動療法、日常生活活動、労働などの身体活動に対する生体の一時的変化や適応現象のメカニズムについて学び、身体活動の生理学的基礎と、健康、競技スポーツおよび生活習慣病予防のためのトレーニングや栄養との関連性について学ぶ。			
到達目標	運動がもたらす身体への生理学的意義について、これまで学習してきた生理学や解剖学をベースに学ぶことで、改めて基礎医学の運動に対する内容の要望などありましたら、適宜なくお寄せください。			
履修上の注意(学生へのメッセージ)	最新のデータや知見を踏まえて講義を進めます。できるだけ学生さんたちに興味を持ってもらいので、講義中のディスカッションや講義に対する内容の要望などありましたら、適宜なくお寄せください。			
教科書				
授業時に配布するプリント				
参考書	改訂版 運動生理学の基礎と発展(春日親京著・フリースペース) 運動生理学のニューロビデンス(宮村実晴著・真興交易医書出版)			
研究室/オフィスアワー				
大学の講義時は非常勤講師室におります。それ以外の時間帯に質問などがありましたら、メールで連絡してください。 sotobayashi@mor.inomiya.ac.jp				
授業展開及び授業計画表	回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
	1	身体運動科学の概要	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
	2	運動と筋・骨格①	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
	3	運動と筋・骨格②	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
	4	ストレンギス&コンディショニング	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
	5	柔軟性の科学①	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
	6	柔軟性の科学②	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
	7	運動と循環①	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
	8	運動と循環②	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
	9	運動と呼吸	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
	10	運動と免疫	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
	11	運動と栄養	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
	12	運動と食生活	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
	13	フィジカルチェック	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
	14	脳振盪	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
	15	講義全体のまとめ・試験対策	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	

成績評価方法と基準	割合
1. 授業の3分の2以上の出席が必要です。 2. 期末テスト60点以上で単位認定とします。	①100%

授業科目名	漢方医学概論(作業) (Introduction to Kampo Medicine)			
主担当教員	生島 忍	担当教員	生島 忍	
科目ナンバリング	CS026	学部共通科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP②③
配当年次	2	開講学期	後期	金曜 4 限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択 必修
授業概要	現在の私たちの日常生活では、東洋医学ないし漢方医学に関する知識が、相対的に必要となつてきている。本講義では、学生諸氏が標準的に得られるよう、意図しています。しかし、鍼灸を専攻しない学生のための選択科目なので、詳細には立ち入らず、東洋医学に興味があるよう、また東洋医学の具体的な内容については、世界標準である「中国伝統医学」にもとづいて、講義をします。			
到達目標	中国伝統医学の萌芽、形成と成立、内容、理論などを理解する。 中国伝統医学は、2000 年ほど昔に成立したいくつもの古典を基本に、徐々に内容が追加されて現在に至つたものです。内容は自然科学ではなく、むしろ人文科学に近いものといえます。			
履修上の注意(学生へのメッセージ)	講義では、全 15 回で教科書の前半のみ、第 3 章まで(p. 126 まで)を学習したい。以降の部分は各自が自己の興味に応じて学習されたい。教科書はカラーでイラストが多く一風やさしそだが、大部分の学生諸君にとっては、たぶん生まれて初めて目にする内容にて、暗記が必要となるので、心して取り組んでください。			
教科書	「オールドカラー版、基本としくみがよくわかる東洋医学の教科書」ナツメ社、2014 年初版、¥1,500+税。 必要に応じて適宜、参考資料を配布する。			
参考書	とくになし			
研究室/オフィスアワー	授業の前後に兼任講師控室にいます			
授業展開及び授業計画表				
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当	
1	第 1 章 東洋医学的なカラダを理解しよう、臟腑論、東洋医学的人体論、人体関連図。肝、心。(p. 7~15)	事前に教科書の該当範囲を読み、授業後にもう一度振り返ること	事前に教科書の該当範囲を読み、授業後にもう一度振り返ること	事前→教科書の該当範囲を読み、授業後にもう一度振り返ること
2	脾、肺、腎; 胃、小腸・大腸、膀胱。(p. 16~23)	事前に教科書の該当範囲を読み、授業後にもう一度振り返ること	事前に教科書の該当範囲を読み、授業後にもう一度振り返ること	事前→教科書の該当範囲を読み、授業後にもう一度振り返ること
3	胆、三焦、脳、胸宮、骨・脈・髓、五官、その他。(p. 24~32)	事前に教科書の該当範囲を読み、授業後にもう一度振り返ること	事前に教科書の該当範囲を読み、授業後にもう一度振り返ること	事前→教科書の該当範囲を読み、授業後にもう一度振り返ること
4	第 2 章 東洋医学基礎講座、東洋医学概論①—東洋医学の成立と発展、東洋医学概論②—現代医学と東洋医学の違い、基本理論①—陰陽論。(p. 33~39)	事前に教科書の該当範囲を読み、授業後にもう一度振り返ること	事前に教科書の該当範囲を読み、授業後にもう一度振り返ること	事前→教科書の該当範囲を読み、授業後にもう一度振り返ること
5	基本理論②—五行論、基本理論③—五行色体系、基本理論④—整体概念。(p. 40~45)	事前に教科書の該当範囲を読み、授業後にもう一度振り返ること	事前に教科書の該当範囲を読み、授業後にもう一度振り返ること	事前→教科書の該当範囲を読み、授業後にもう一度振り返ること
6	気血津液概論①—気・血・津液、気血津液概論②—気血津液概論③—気血津液概論④—血の概念、気血津液概論⑤—血の不調。(p. 46~55)	事前に教科書の該当範囲を読み、授業後にもう一度振り返ること	事前に教科書の該当範囲を読み、授業後にもう一度振り返ること	事前→教科書の該当範囲を読み、授業後にもう一度振り返ること
7	気血津液概論⑥—津液の概念、気血津液概論⑦—津液の不調、気血津液概論⑧—精の概念、気血津液概論⑨—精の不調。(p. 56~63)	事前に教科書の該当範囲を読み、授業後にもう一度振り返ること	事前に教科書の該当範囲を読み、授業後にもう一度振り返ること	事前→教科書の該当範囲を読み、授業後にもう一度振り返ること
8	蔵象学説①—蔵象学説の基礎理論、蔵象学説②—肝の不調、蔵象学説③—心の不調、蔵象学説④—脾の不調。(p. 64~71)	事前に教科書の該当範囲を読み、授業後にもう一度振り返ること	事前に教科書の該当範囲を読み、授業後にもう一度振り返ること	事前→教科書の該当範囲を読み、授業後にもう一度振り返ること
9	蔵象学説⑤—肺の不調、蔵象学説⑥—腎の不調、蔵象学説⑦—六腑の不調、蔵象学説⑧—奇恒の腑の不調。(p. 72~80)	事前に教科書の該当範囲を読み、授業後にもう一度振り返ること	事前に教科書の該当範囲を読み、授業後にもう一度振り返ること	事前→教科書の該当範囲を読み、授業後にもう一度振り返ること

10	第 3 章 東洋医学の診察から治療まで 概論 西洋医学と東洋医学の治療観、病因①—病気の原因を知る、病因②—内因、病因③—外因。(p. 81~89)	事前に教科書の該当範囲を読み、授業後にもう一度振り返ること	事前に教科書の該当範囲を読み、授業後にもう一度振り返ること	事前→教科書の該当範囲を読み、授業後にもう一度振り返ること
11	病因④—不内外因、病機—病気の進行、診察法①—四診による診察、診察法②—望診—全身・局部。(p. 90~97)	事前に教科書の該当範囲を読み、授業後にもう一度振り返ること	事前に教科書の該当範囲を読み、授業後にもう一度振り返ること	事前→教科書の該当範囲を読み、授業後にもう一度振り返ること
12	診察法③—望診—舌、診察法④—聞診、診察法⑤—問診—寒熱・汗、診察法⑥—問診—痛み。(p. 98~105)	事前に教科書の該当範囲を読み、授業後にもう一度振り返ること	事前に教科書の該当範囲を読み、授業後にもう一度振り返ること	事前→教科書の該当範囲を読み、授業後にもう一度振り返ること
13	診察法⑦—切診—脈診、診察法⑧—切診—腹診、弁証論治①—弁証する(診断する)、弁証論治②—八綱弁証とは?(p. 106~113)	事前に教科書の該当範囲を読み、授業後にもう一度振り返ること	事前に教科書の該当範囲を読み、授業後にもう一度振り返ること	事前→教科書の該当範囲を読み、授業後にもう一度振り返ること
14	弁証論治③—八綱弁証—表裏・寒熱、弁証論治④—八綱弁証—虛実・陰陽、弁証論治⑤—その他の弁証。(p. 114~121)	事前に教科書の該当範囲を読み、授業後にもう一度振り返ること	事前に教科書の該当範囲を読み、授業後にもう一度振り返ること	事前→教科書の該当範囲を読み、授業後にもう一度振り返ること
15	治則①—治病求本、扶正?抑正?邪など、治則②—治法を決める。(p. 122~126)	事前に教科書の該当範囲を読み、授業後にもう一度振り返ること	事前に教科書の該当範囲を読み、授業後にもう一度振り返ること	事前→教科書の該当範囲を読み、授業後にもう一度振り返ること
成績評価方法と基準				
①定期試験				
②レポート課題				
割合				
①80%				
②20%				

授業科目名	統合医療概論(作業) (Introduction to Integrative Medicine)		
主担当教員	山下 仁	担当教員	山下 仁、森 美侑紀、増山 祥子
科目ナンバリング	CS027	科目区分	ディプロマポリシー 該当項目 DP2②③
配当年次	3	開講学期	前期 木曜 3限 木曜 4限
授業形態	講義	単位数	2 必修・選択 必修
授業概要	<p>統合医療という言葉が医療の中で使われるようになってきたが、実際に統合医療が何を指し、どうあるべきなのかについては合意が得られていない。本授業では、統合医療の概念と現状について解説するとともに、統合医療の重要な構成要素である EBM と補完代替医療について概説する。また、各種治療の有効性と安全性について、エビデンスにもとづく批判的吟味のポイントについても解説する。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 統合医療の概念と現状について理解する。 2. EBM の概念と手法について理解する。 3. 補完代替医療の種類と概要について説明できる。 4. 各種医療手段についてエビデンスにもとづく批判的吟味ができる。 <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>医療や行政において統合医療は賛否両論である。医師その他の医療従事者も支持派と反対派に分かれている。本学生も卒業すればいずれその議論に巻き込まれる。なぜ賛否両論があるのか、よく考えながら受講していただきたい。</p>		
教科書			
資料を配布する。			
参考書			
各教員が必要に応じて授業担当時に紹介する。			
研究室/オフィスアワー			
山下 仁: 東棟 24 研究室、月・火6時間			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	医療におけるエビデンスの重要性	健康関連商品の広告に目を通す	山下
2	EBM	EBM について調べる	山下
3	EBM シミュレーション	自分の専門領域のエビデンスについて調べる	増山
4	EBM と診療ガイドライン	自分の専門領域または興味のある疾患の診療ガイドラインを調べる	山下
5	健康産業と研究倫理・利益相反	利益相反状態と利益相反行為の違いについて調べる	山下
6	補完代替医療概論	代替医療と補完医療の違いについて調べる	山下
7	あん摩・マッサージ・指圧①	マッサージとリラクゼーションの違いについて調べる	山下
8	あん摩・マッサージ・指圧②	マッサージとリラクゼーションの違いについて調べる	山下
9	アロマセラピー①	エッセンシャルオイルの種類について調べる	森
10	アロマセラピー②	エッセンシャルオイルの種類について調べる	山下
11	代表的な補完代替療法①	自分または家族が使っている補完代替療法に相当する健康法や商品を調べる	山下
12	代表的な補完代替療法②	興味のあるサプリメントを調べて選ぶとその広告の内容に関する疑問点を調べる	山下
13	統合医療とスピリチュアルと NBM	スピリチュアルという概念について調べる	山下
14	緩和ケア・難病ケアと統合医療	末期がんまたは難病の患者の実情について調べる	増山

15	総括・統合医療は何を統合するのか	14 回までに習った内容を整理する	山下
成績評価方法と基準			割合
①筆記試験			①70%
②課題提出物			②30%

授業科目名 人体の構造演習(作業) (Human Anatomy Seminar 【Motor System】)			
主担当教員 北村 清一郎		担当教員 北村 清一郎	
科目ナンバリング	科目区分	専門基礎科目	DP②③④
SB101	開講学期	前期	前期(木曜2限)、 後期(水曜4限)
配当年次	1	曜日・時限	
授業形態	演習	単位数	2
授業概要	必修・選択		
<p>人体の構造演習(作業)では、人体の基礎を構成し、運動器の中心的役割を担う骨格系と筋肉系を扱う。骨格系については、骨の種類・構造などの総論と、個々の骨の解剖構造や形態的特徴、ならびに隣接骨間の連結などを、講義のみならず骨模型実習を通じて学習する。筋肉系については、筋肉(筋)の種類・構造などの総論に加えて、個々の筋の起始、停止、支配神経、作用などを学習する。これらの学習を通じて、骨と筋が運動器として機能するときどのような連携しているかを考えるとともに、運動時に重要な役割を果たしている関節や筋束の形態と機能についても理解を深める。</p>			
到達目標			
<p>(1)骨の構造と連結の概要、ならびに全身の骨格系の概要が説明できる。 (2)筋肉の構造とはたらきの概要、ならびに筋肉系を支える構造の概略が説明できる。 (3)全身の各骨の主要解剖構造や主要部位の名称が言えるとともに、これらがどう配置しているかが説明できる。 (4)全身の各筋の存在部位とはたらき、ならびに指筋との位置関係が説明できる。 (5)全身の主要関節の構造とそれに依る筋の作用が説明できる。</p>			
履修上の注意(学生へのメッセージ)			
講義は教科書の内容を中心に、構造の理解に不可欠な図を多く取り込んだパワーポイント(スライド)を用いて行う。講義内容はプリントにしてあらかじめ配布するので、これを元に予習ノートを作成する。実習は講義章とは別の部屋で行われる。実習ではスケッチの提出が求められるので、A4の無地ノート(綴りが引かれていない)を準備する。			
教科書			
『標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学(第4版) J 編集 野村 巖 (医学書院)』 『カラートラス人体第4版・解剖と機能』 横地千代 JW Rohen, EL Weinreb (医学書院)			
参考書			
特になし			
研究室/オフィスアワー			
E棟4階研究室5・前期:毎週月曜日・火曜日・木曜日の昼休み、後期:毎週月曜日・水曜日・木曜日の昼休み。			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	骨格系総論 1	予習:講義プリントに沿って予習ノートの作成 復習:授業を元に予習ノートの加筆と修正	
2	ともかく骨を見てみよう(実習)1	予習:講義プリントに沿って予習ノートの作成 復習:授業を元に予習ノートの加筆と修正	
3	靭帯学総論	予習:講義プリントに沿って実習内容を学習 復習:実習内容を元に予習ノートの加筆と修正 課題:指定された骨をスケッチする。	
4	ともかく骨を見てみよう(実習)2	予習:講義プリントに沿って予習ノートの作成 復習:授業を元に予習ノートの加筆と修正	
5	筋学総論	予習:講義プリントに沿って実習内容を学習 復習:実習内容を元に予習ノートの加筆と修正 課題:指定された骨をスケッチする。	
6	ともかく骨を見てみよう(実習)3	予習:講義プリントに沿って実習内容を学習 復習:実習内容を元に予習ノートの加筆と修正 課題:指定された骨をスケッチする。	
7	上肢の骨と関節1	予習:講義プリントに沿って予習ノートの作成 復習:授業を元に予習ノートの加筆と修正	
8	上肢の骨の観察(実習)1	予習:講義プリントに沿って実習内容を学習 復習:実習内容を元に予習ノートの加筆と修正 課題:指定された骨をスケッチする。	

9	上肢の骨と関節 2		予習:講義プリントに沿って予習ノートの作成 復習:授業を元に予習ノートの加筆と修正
10	上肢の骨の観察(実習)2		予習:講義プリントに沿って予習ノートの作成 復習:授業を元に予習ノートの加筆と修正 課題:指定された骨をスケッチする。
11	上肢の骨の観察(実習)3		予習:講義プリントに沿って実習内容を学習 復習:実習内容を元に予習ノートの加筆と修正 課題:指定された骨をスケッチする。
12	浅背筋と淺胸筋		予習:講義プリントに沿って予習ノートの作成 復習:授業を元に予習ノートの加筆と修正
13	上肢帯の筋、上腕の筋		予習:講義プリントに沿って予習ノートの作成 復習:授業を元に予習ノートの加筆と修正
14	前腕の筋、手の筋		予習:講義プリントに沿って予習ノートの作成 復習:授業を元に予習ノートの加筆と修正
15	上肢の筋の解剖 DVD 鑑賞		予習:講義プリントに沿って上肢筋を復習しておく 復習:DVDの内容を元に予習ノートの加筆と修正
16	下肢の骨と関節 1		予習:講義プリントに沿って予習ノートの作成 復習:授業を元に予習ノートの加筆と修正
17	下肢の骨の観察(実習)1		予習:講義プリントに沿って実習内容を学習 復習:実習内容を元に予習ノートの加筆と修正 課題:指定された骨をスケッチする。
18	下肢の骨と関節 2		予習:講義プリントに沿って予習ノートの作成 復習:授業を元に予習ノートの加筆と修正
19	下肢の骨の観察(実習)2		予習:講義プリントに沿って実習内容を学習 復習:実習内容を元に予習ノートの加筆と修正 課題:指定された骨をスケッチする。
20	下肢の骨の観察(実習)3		予習:講義プリントに沿って実習内容を学習 復習:実習内容を元に予習ノートの加筆と修正 課題:指定された骨をスケッチする。
21	下肢帯の筋、大腿の筋		予習:講義プリントに沿って予習ノートの作成 復習:授業を元に予習ノートの加筆と修正
22	下腿の筋、足の筋		予習:講義プリントに沿って予習ノートの作成 復習:授業を元に予習ノートの加筆と修正
23	頭蓋		予習:講義プリントに沿って予習ノートの作成 復習:授業を元に予習ノートの加筆と修正
24	頭蓋・脊柱・胸郭の骨の観察(実習)1		予習:講義プリントに沿って予習ノートの作成 復習:授業を元に予習ノートの加筆と修正 課題:指定された骨をスケッチする。
25	脊柱と胸郭		予習:講義プリントに沿って予習ノートの作成 復習:授業を元に予習ノートの加筆と修正
26	頭蓋・脊柱・胸郭の骨の観察(実習)2		予習:講義プリントに沿って予習ノートの作成 復習:授業を元に予習ノートの加筆と修正 課題:指定された骨をスケッチする。
27	頭蓋・脊柱・胸郭の骨の観察(実習)3		予習:講義プリントに沿って予習ノートの作成 復習:授業を元に予習ノートの加筆と修正 課題:指定された骨をスケッチする。
28	頭部の筋・頸部の筋		予習:講義プリントに沿って予習ノートの作成 復習:授業を元に予習ノートの加筆と修正

29	深胸部の筋・腹部の筋	予習：講義プリントに沿って予習ノート作成 復習：授業を元に予習ノートの加筆と修正	割合
30	深背部の筋・下肢の筋の解剖 DVD 鑑賞	予習：講義プリントに沿って予習ノート作成 復習：授業を元に予習ノートの加筆と修正	筆記試験 87%
成績評価方法と基準		予習：講義プリントに沿って予習ノート作成 復習：授業を元に予習ノートの加筆と修正	割合 筆記試験 87%
筆記試験を前期と後期の計 2 回実施する。また、各期の実習時にスケッチの提出を課する。各期について筆記試験は 100 点満点、実習スケッチ 15 点満点とし、115 点満点の 60%以上の得点をもって合格とする。いずれにも合格することが必要で、合格点に達しない場合には各期につき筆記試験の再試験を行う。			

授業科目名	人体の構造 I (循環・内臓)(作業) (Human Anatomy I (Splanchnic Circulation))	
主担当教員	森谷 正之	担当教員 森谷 正之
科目ナンバリング	SB102	科目区分 専門基礎科目
配当年次	1	開講学期 後期
授業形態	講義	単位数 2
授業概要	人体の構造 I (循環・内臓)では、循環系と内臓系とを中心として人体の正常構造について系統解剖学の立場から基本的な概念と知識の習得を目指す。臨床系専門科目に先駆けて、心臓血管系、リンパ系、消化器系、呼吸器系、泌尿生殖器系、内分泌系など多岐におよぶ学習範囲を系統立てて学習する。単なる名称の記憶にとどまらず、形態と機能との関わりを考え、医療に携わる者として基礎となる知識や論理性のある思考能力を身につける。	
到達目標	①循環系(心臓血管系、リンパ系など)の基本的構成を説明できる。 ②内臓系(消化器、呼吸器、泌尿器、生殖器、生体器、内分泌器など)の基本的構成を説明できる。 履修上の注意(学生へのメッセージ)	
講義は教科書を中心に進めます。適宜資料を配付するので、復習時の参考として理解を深めて下さい。講義の進行・予定や単位認定の詳細等については、初回講義時に説明します。		
教科書		
野村巖 編集『標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学(第 4 版)』医学書院		
参考書		
藤田恒太郎『人体解剖学 改訂第 42 版』(南江堂)		
研究室/オフィスアワー		
E棟4階(研究室 11) 月曜日午後 5 時～午後 7 時、各日昼休みの時間帯は原則研究室に在室しています。		
授業展開及び授業計画表		
回数	学修内容	予習・復習 課題等
1	講義の概要 血液とリンパ 脈管系(循環器系) 総論	事前に教科書の該当部分を読んで下さい。 また、配布資料を復習の際の参考にして下さい。
2	心臓	事前に教科書の該当部分を読んで下さい。 また、配布資料を復習の際の参考にして下さい。
3	小循環(肺循環)と大循環(体循環) 動脈系①(総頸動脈、鎖骨下動脈、胸大動脈)	事前に教科書の該当部分を読んで下さい。 また、配布資料を復習の際の参考にして下さい。
4	動脈系②(腹大動脈、総腸骨動脈)	事前に教科書の該当部分を読んで下さい。 また、配布資料を復習の際の参考にして下さい。
5	静脈系	事前に教科書の該当部分を読んで下さい。 また、配布資料を復習の際の参考にして下さい。
6	胎生期の循環系 リンパ系	事前に教科書の該当部分を読んで下さい。 また、配布資料を復習の際の参考にして下さい。
7	脈管系の復習	脈管系の形態について、教科書、ノート、配布資料などで復習して下さい。
8	内臓学総論 消化器系①(口腔、咽頭、食道)	事前に教科書の該当部分を読んで下さい。 また、配布資料を復習の際の参考にして下さい。
9	消化器系②(胃、小腸、大腸)	事前に教科書の該当部分を読んで下さい。 また、配布資料を復習の際の参考にして下さい。
10	消化器系③(肝臓、膵臓) 呼吸器系①(外鼻、鼻腔)	事前に教科書の該当部分を読んで下さい。 また、配布資料を復習の際の参考にして下さい。
11	呼吸器系②(気管、気管支、肺)	事前に教科書の該当部分を読んで下さい。 また、配布資料を復習の際の参考にして下さい。
12	泌尿器系	事前に教科書の該当部分を読んで下さい。 また、配布資料を復習の際の参考にして下さい。
13	生殖器系①(男性生殖器)	事前に教科書の該当部分を読んで下さい。 また、配布資料を復習の際の参考にして下さい。
14	生殖器系②(女性生殖器) 内分泌系	事前に教科書の該当部分を読んで下さい。 また、配布資料を復習の際の参考にして下さい。
15	内臓系の復習	内臓系の形態について、教科書、ノート、配布資料などで復習して下さい。

成績評価方法と基準	割合
①筆記試験(90%)	①90%
②課題等の提出(10%)	②10%

評価の具体的な内容については、初回講義時に説明します。

授業科目名	人体の構造Ⅱ(神経系)(作業) (Human Anatomy II【Nervous System】)	
主担当教員	森谷 正之	担当教員 森谷 正之、吉田 篤
科目ナンバリング	SB103	専門基礎科目 ディプロマポリシー 該当項目 DP②③
配当年次	1	開講学期 曜日・時限 月曜2限 土曜4限
授業形態	講義	単位数 2 必修・選択 必修

授業概要
 人体の構造Ⅱ(神経系)では、系統解剖学の立場から、感覚器、末梢神経、中枢神経について学習する。感覚器では、外界の情報を受容する器官の構造と機能について学習する。末梢神経では、感覚器により得られた外界の情報を中枢神経に送り、中枢神経系からの出力情報を末梢効果器に伝える神経系について学習する。さらに運動神経系、感覚神経系、自律神経系の機能と形態との関連性について習得する。中枢神経系は脳と脊髄から構成され、外周からの情報を感受し、その情報を処理、統合して行動、情動、思考、記憶など高度な機能を営む重要な部分である。これらの形態と構造に関わる基礎的知識を習得する。

- 到達目標
- (1) 感覚器の種類と基本的構造を説明できる。
 - (2) 末梢神経の基本的構成を説明できる。
 - (3) 中枢神経の基本的構成を説明できる。
 - (4) 感覚器、末梢神経、中枢神経による情報処理の仕組みの概要を説明できる。
- 履修上の注意(学生へのメッセージ)

講義は教科書を中心に進めます。適宜資料を配付するので、復習時の参考として理解を深めて下さい。講義の進行・予定や単位認定の詳細等については、初回講義時に説明します。

教科書
 野村 謙 編集『標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学(第4版)』医学書院

参考書
 藤田恒太郎『人体解剖学 改訂第42版』(南江堂)
 クロスマン、ニアリー(水野、野村 訳)『神経解剖カラ―テキスト 第2版』(医学書院)
 研究室ノオフィスアワー
 E棟4階(研究室11)
 月曜日午後5時～午後7時、各日昼休みの時間帯は原則研究室に在室しています。

授業履修計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	講義の概要、感覚器(外皮、視覚器)	事前に教科書の該当部分を読んで下さい。また、配布資料を復習の際の参考にして下さい。	森谷
2	感覚器(平衡感覚器、嗅覚器、味覚器)	事前に教科書の該当部分を読んで下さい。また、配布資料を復習の際の参考にして下さい。	森谷
3	神経系総論	事前に教科書の該当部分を読んで下さい。また、配布資料を復習の際の参考にして下さい。	森谷
4	末梢神経(脳神経① 第I～VI脳神経)	事前に教科書の該当部分を読んで下さい。また、配布資料を復習の際の参考にして下さい。	吉田
5	末梢神経(脳神経② 第VII～第XII 脳神経)	事前に教科書の該当部分を読んで下さい。また、配布資料を復習の際の参考にして下さい。	森谷
6	末梢神経(脊髄神経① 頸神経、胸神経)	事前に教科書の該当部分を読んで下さい。また、配布資料を復習の際の参考にして下さい。	森谷
7	末梢神経(脊髄神経② 腰神経、仙骨神経、自律神経系)	事前に教科書の該当部分を読んで下さい。また、配布資料を復習の際の参考にして下さい。	森谷
8	感覚器と末梢神経の形態 まとめ	感覚器と末梢神経の形態について、教科書、ノート、配布資料などで復習して下さい。	森谷
9	中枢神経(青髄)	事前に教科書の該当部分を読んで下さい。また、配布資料を復習の際の参考にして下さい。	森谷
10	中枢神経(脳幹)	事前に教科書の該当部分を読んで下さい。また、配布資料を復習の際の参考にして下さい。	森谷
11	中枢神経(小脳)	事前に教科書の該当部分を読んで下さい。また、配布資料を復習の際の参考にして下さい。	森谷
12	中枢神経(間脳、終脳① 大脳皮質)	事前に教科書の該当部分を読んで下さい。また、配布資料を復習の際の参考にして下さい。	森谷
13	中枢神経(終脳② 辺縁系、大脳基底核)	事前に教科書の該当部分を読んで下さい。また、配布資料を復習の際の参考にして下さい。	森谷

14	中枢神経(神経路)	事前に教科書の該当部分を読んで下さい。 また、配布資料を復習の際の参考にして下さい。	森谷
15	中枢神経の形態 まとめ	中脳神経の形態について、教科書、ノート、資料 などで復習して下さい。	森谷
成績評価方法と基準			割合
①筆記試験(90%)			①90%
②課題等の提出(10%)			②10%
評価の具体的な内容については、初回講義時に説明します。			

授業科目名	人体の構造実習(作業) (Human Anatomy Training)		
主担当教員	川畑 浩久	担当教員	川畑 浩久
科目ナンバリング	SB104	科目区分	専門基礎科目 DP②③④
配当年次	2	開講学期	後期
授業形態	実習	単位数	1
授業概要	<p>人体の構造的、機能的な最小単位である細胞には様々な形態を有しているものがあり、器官・臓器はそれらが一定の秩序に従って構成されている。本実習ではヒトの身体から頂いた組織標本の顕微鏡観察を通じて、これまで学習した「人体の構造」と「人体の機能」について、ミクロからマクロまで関連づけながら理解を深めるとともに、生命の尊厳についても学習する。</p> <p>到達目標</p> <p>生物の最小単位である細胞がいかなる「形態」を有し、どのような「機能」を発揮しているのかについて「観察」を通じて理解を深めることで、各器官・臓器の機能についてもより深く理解し、さらに疾病における形態変化がどのような機能障害を生じるのかについても考察できるようにする。</p> <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>1. 組織学の理解を深めることは、解剖学や生理学のみならず病理学や病態学の理解を深めることにつながるから、積極的に学習すること。</p> <p>2. 顕微鏡観察においてはイメージを理解することや観察力を身につける努力をすること。</p> <p>3. 実習で扱う顕微鏡やプレパラートは精密機器かつ貴重な資料であることから、丁寧に取り扱いすること。</p> <p>4. 実習は毎回テーマが異なるため極力欠席をしないようにすること。</p> <p>5. 実習室は精密機器を扱うことから飲食を禁止すること。</p> <p>6. 受講にあたっては最低限の礼儀をわきまえること。また私語などは授業妨害・他学生への迷惑行為などの連発を避ける場合がある。</p>		
教科書			
適宜資料もしくはプリントを配布する			
参考書	<p>1. 牛木匠男 著「入門組織学」 南江堂 2013年</p> <p>2. 伊藤隆、阿部和厚 著「組織学 第19版」 南山堂 2005年</p> <p>3. 野上隆雄 著「新組織学 (0シリーズ) 改訂第6版」 日本医事新報社 2016年</p> <p>研究室/オフィスアワー</p> <p>C棟研究室 707:木、金曜日 17:00~18:00ですが、部屋にいればいつでも訪問可です。</p>		
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	実習の進め方、組織学の歴史、組織標本の観察方法ならびに作成方法、組織学総論(4大組織)についての解説	予習:人体の構造、機能で学んだ組織・細胞について調べておくこと 復習:4大組織について復習しておくこと	川畑
2	上皮組織 1:上皮(皮膚組織)についての解説および観察	予習:人体の構造、機能で学んだ皮膚組織について調べておくこと 復習:観察した皮膚組織の構造について復習しておくこと	川畑
3	上皮組織 2:上皮(消化管粘膜上皮)についての解説および観察	予習:人体の構造、機能で学んだ上皮(食道および胃粘膜上皮)について調べておくこと 復習:観察した食道および胃粘膜上皮の構造について復習しておくこと	川畑
4	上皮組織 3:腺上皮(外分泌腺(胃腺・唾液腺))についての解説および観察	予習:人体の構造、機能で学んだ胃腺・唾液腺について調べる 復習:観察した胃腺・唾液腺の構造について復習しておくこと	川畑
5	上皮組織 4:腺上皮(内分泌腺(甲状腺・腺内分泌腺))についての解説および観察	予習:人体の構造、機能で学んだ甲状腺・腺内分泌腺について調べておくこと 復習:観察した甲状腺・腺内分泌腺の構造について復習しておくこと	川畑
6	支持組織 1:軟骨組織(気管軟骨・骨端軟骨)についての解説および観察	予習:人体の構造、機能で学んだ軟骨組織について調べておくこと 復習:観察した気管軟骨・骨端軟骨の構造について復習しておくこと	川畑

7	支持組織 2:骨組織、血管(動脈)、血液細胞についての解説および観察	予習:人体の構造、機能で学んだ骨、血管(動脈)、血液細胞について調べておくこと 復習:観察した骨、血管(動脈)の組織学的構造について復習しておくこと	川知
8	筋組織:横紋筋、平滑筋、心筋についての解説および観察	予習:人体の構造、機能で学んだ筋組織について調べておくこと 復習:観察した筋組織の組織学的構造について復習しておくこと	川知
9	神経組織:神経組織(青髄、大脳、小脳)についての解説および観察	予習:人体の構造、機能で学んだ神経組織について調べておくこと 復習:観察した青髄、大脳、小脳の組織学的構造について復習しておくこと	川知
10	呼吸器系:気管および肺についての解説および観察	予習:人体の構造、機能で学んだ気管、肺について調べておくこと 復習:観察した気管、肺の組織学的構造について復習しておくこと	川知
11	消化器系 1:消化管(小腸、大腸)についての解説および観察	予習:人体の構造、機能で学んだ小腸、大腸について調べておくこと 復習:観察した小腸、大腸の組織学的構造について復習しておくこと	川知
12	消化器系 2:肝臓、胆嚢についての解説および観察	予習:人体の構造、機能で学んだ肝臓、胆嚢について調べておくこと 復習:観察した肝臓、胆嚢の組織学的構造について復習しておくこと	川知
13	循環器系:心血管・リンパ組織(骨髄、胸腺)についての解説および観察	予習:人体の構造、機能で学んだ心血管・骨髄・胸腺について調べておくこと 復習:観察した心血管・リンパ組織(骨髄、胸腺)の組織学的構造について復習しておくこと	川知
14	泌尿器系:腎(糸球体および尿管)についての解説および観察	予習:人体の構造、機能で学んだ腎(糸球体および尿管)について調べておくこと 復習:観察した腎の組織学的構造について復習しておくこと	川知
15	組織学のまとめ:これまで観察してきた正常組織像の総復習	予習:これまで観察してきた正常組織像について調べておくこと 復習:まとめで学んだ組織像について復習すること	川知
成績評価方法と基準			割合
1. 実習ノートの提出 (※実習ノートは授業終了後必ず提出すること。未提出の際は欠席とみなす場合もある。) 2. 授業内での小テスト 3. 4/5以上の出席が必要			1. 70% 2. 30%

授業科目名	人体の機能 I (動物性機能)(作業) (Human Physiology I (Animal Function))		
主担当教員	河川 直正	担当教員	河川 直正
科目ナンバリング	SB105	専門基礎科目	DP②③
配当年次	1	開講学期	曜日・時限 火曜 4 限
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	生理学について学ぶ。人体の正常な機能について学習し、医学の他の分野を学ぶための基礎を身につけることを目的とする。人体の機能 I では、神経系と血液を中心に取り扱う。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・細胞の構造と機能のあらましを述べることができる。 ・心臓と血管のあらましを説明できるとともに、循環調節について概説することができる。 ・呼吸力学とガス交換の概説できるとともに、呼吸調節について説明できる。 ・腎臓の働きを説明できるとともに、栄養素の消化・吸収・代謝について概説できる。 ・血液と血球の働きを説明できる。 		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	<p>1) 授業態度について: 集中して講義を聴講すること。毎回、講義スライドを印刷したプリントを配布する。それをもとに、各自が可能な限り詳しくノートを作成すること。講義中の私語は厳禁とする。私語を止められない者は退席させる。</p> <p>2) 予習・復習について: 講義内容は膨大であるから、講義ことの予習復習は必須である。科目の性質上、講義後に多くの疑問点が生じるはずである。いかなる内容でも歓迎するので、積極的に質問を行うこと。</p>		
教科書	生理学 第 4 版 (標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野) 医学書院		
参考書	指定しない。		
研究室 / オフィスアワー	研究室 / オフィスアワー		
研究室在室時	研究室在室時		
授業展開及び授業計画表	回数	学修内容	担当
	1	生理学とは 細胞の構造と機能(その1)	予習・復習・課題等 教科書 1~18 ページを用いて、生命現象と人体、細胞の構造と機能についてそれぞれ述べられるようにせよ。
	2	細胞の構造と機能(その2)	教科書 1~18 ページを用いて、細胞の構造と機能、ホメオスタシスについて述べられるようにせよ。
	3	心臓と循環(その1)	教科書 102~127 ページを用いて、循環器の働きを概説できるとともに、心ポンプ機能について説明できるようにせよ。
	4	心臓と循環(その2)	教科書 102~127 ページを用いて、心電図の基本波形が持つ意味と、血管系の働きについて述べられるようにせよ。
	5	心臓と循環(その3)	教科書 102~127 ページを用いて、血圧の成因と循環調節の仕組みについて述べられるようにせよ。
	6	呼吸とガスの運搬(その1)	教科書 131~142 ページを用いて、呼吸機能検査と換気力学について述べられるようにせよ。
	7	呼吸とガスの運搬(その2)	教科書 131~142 ページを用いて、ガス交換と呼吸調節の仕組みについて述べられるようにせよ。
	8	消化と吸収(その1)	教科書 159~170 ページを用いて、消化器の運動機能・分泌機能について述べられるようにせよ。
	9	消化と吸収(その2)	教科書 159~170 ページを用いて、消化器の運動機能・分泌機能について述べられるようにせよ。
	10	尿の生成と排泄、酸塩基平衡(その1)	教科書 144~158 ページを用いて、体液の分布と尿生成と腎機能調節の仕組みについて述べられるようにせよ。

11	尿の生成と排泄、円錐基平衡(その2)	教科書 144～158 ページを用いて、水電解質調節、酸-塩基平衡について述べられるようにせよ。	
12	血液(その1)	教科書 86～99 ページを用いて、血液の成分について概説できるようにせよ。	
13	血液(その2)	教科書 86～99 ページを用いて、白血球、血小板の働きと血液型の仕組みについて説明できるようにせよ。	
14	重点項目の復習	人体の機能 I の重要項目について学習の一助とせよ。	
15	重点項目の復習	人体の機能 I の重要項目について学習の一助とせよ。	
成績評価方法と基準			割合
期末定期試験			100%

授業科目名	人体の機能 II (植物性機能)(作業) (Human Physiology II (Vegetative Function))																																																		
主担当教員	河口 直正	担当教員	河口 直正																																																
科目ナンバリング	SB106	科目区分	ディプロマポリシー 該当項目 DP②③																																																
配当年次	1	開講学期	曜日・時限 木曜 5 限																																																
授業形態	講義	単位数	2																																																
授業概要	<p>生理学について学ぶ、人体の正常な機能について学習し、医学の他の分野を学ぶための基礎を身につけることを目的とする。人体の機能 II では、内分泌・神経・筋肉を中心に取り扱う。</p> <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・神経細胞とシナプスについて概説することができる。中枢神経の主要部位の構造とその主な機能を述べることができる。 ・感覚の受容について述べることができる。 ・体温の調節について概説できる。 ・さまざまなホルモンの分泌の仕組みと働きについて説明できる。 ・生殖と発生のおらまを説明できる。さまざまなホルモンの分泌の仕組みと働きについて説明できる。 ・筋肉の収縮・弛緩について述べることができる。 <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>1) 授業進度について?集中して講義を聴講すること。毎回、講義スライドを印刷したプリントを配布する。それをもとに、各自が可能範囲で詳しくノートを作成すること。講義中の私語は厳禁とする。私語を止められない者は退席させる。</p> <p>2) 予習・復習について?講義内容は膨大であるから、講義ことの予習復習は必須である。科目の性質上、講義後多くの疑問点が生じるはずである。いかなる内容でも歓迎するので、積極的に質問を行うこと。</p>																																																		
教科書	生理学 第4版 (標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野) 医学書院																																																		
参考書	指定しない。																																																		
研究室/オフィスアワー	研究室在室時																																																		
授業展開及び授業計画表	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>学修内容</th> <th>予習・復習・課題等</th> <th>担当</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>神経の興奮と末梢神経、中枢神経系(その1)</td> <td>教科書 21～50 ページを用いて、神経組織、神経生理、シナプスの基礎的事項を説明できるようにせよ。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>神経の興奮と末梢神経、中枢神経系(その2)</td> <td>教科書 21～50 ページを用いて、中枢神経系の働きについて説明できるようにせよ。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>神経の興奮と末梢神経、中枢神経系(その3)</td> <td>教科書 21～50 ページを用いて、大脳の働きについて説明できるようにせよ。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>神経の興奮と末梢神経、中枢神経系(その4)</td> <td>教科書 21～50 ページを用いて、末梢神経系の働きについて説明できるようにせよ。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>感覚(その1)</td> <td>教科書 71～84 ページを用いて、感覚の受容の仕組みについて概説できるようにせよ。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>感覚(その2)</td> <td>教科書 71～84 ページを用いて、視覚の受容の仕組みについて概説できるようにせよ。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>感覚(その3)</td> <td>教科書 71～84 ページを用いて、聴覚・味覚・嗅覚の受容の仕組みについて概説できるようにせよ。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>代謝と体温(その1)</td> <td>教科書 188～198 ページを用いて、栄養素の代謝と体温調節の仕組みについて述べられるようにせよ。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>代謝と体温(その2)</td> <td>教科書 172～185 ページを用いて、内分泌系について概説できるようにせよ。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>内分泌(その1)</td> <td>教科書 172～185 ページを用いて、それぞれのホルモンの分泌調節の仕組みと標的臓器での作用</td> <td></td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>内分泌(その2)</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当	1	神経の興奮と末梢神経、中枢神経系(その1)	教科書 21～50 ページを用いて、神経組織、神経生理、シナプスの基礎的事項を説明できるようにせよ。		2	神経の興奮と末梢神経、中枢神経系(その2)	教科書 21～50 ページを用いて、中枢神経系の働きについて説明できるようにせよ。		3	神経の興奮と末梢神経、中枢神経系(その3)	教科書 21～50 ページを用いて、大脳の働きについて説明できるようにせよ。		4	神経の興奮と末梢神経、中枢神経系(その4)	教科書 21～50 ページを用いて、末梢神経系の働きについて説明できるようにせよ。		5	感覚(その1)	教科書 71～84 ページを用いて、感覚の受容の仕組みについて概説できるようにせよ。		6	感覚(その2)	教科書 71～84 ページを用いて、視覚の受容の仕組みについて概説できるようにせよ。		7	感覚(その3)	教科書 71～84 ページを用いて、聴覚・味覚・嗅覚の受容の仕組みについて概説できるようにせよ。		8	代謝と体温(その1)	教科書 188～198 ページを用いて、栄養素の代謝と体温調節の仕組みについて述べられるようにせよ。		9	代謝と体温(その2)	教科書 172～185 ページを用いて、内分泌系について概説できるようにせよ。		10	内分泌(その1)	教科書 172～185 ページを用いて、それぞれのホルモンの分泌調節の仕組みと標的臓器での作用		11	内分泌(その2)		
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当																																																
1	神経の興奮と末梢神経、中枢神経系(その1)	教科書 21～50 ページを用いて、神経組織、神経生理、シナプスの基礎的事項を説明できるようにせよ。																																																	
2	神経の興奮と末梢神経、中枢神経系(その2)	教科書 21～50 ページを用いて、中枢神経系の働きについて説明できるようにせよ。																																																	
3	神経の興奮と末梢神経、中枢神経系(その3)	教科書 21～50 ページを用いて、大脳の働きについて説明できるようにせよ。																																																	
4	神経の興奮と末梢神経、中枢神経系(その4)	教科書 21～50 ページを用いて、末梢神経系の働きについて説明できるようにせよ。																																																	
5	感覚(その1)	教科書 71～84 ページを用いて、感覚の受容の仕組みについて概説できるようにせよ。																																																	
6	感覚(その2)	教科書 71～84 ページを用いて、視覚の受容の仕組みについて概説できるようにせよ。																																																	
7	感覚(その3)	教科書 71～84 ページを用いて、聴覚・味覚・嗅覚の受容の仕組みについて概説できるようにせよ。																																																	
8	代謝と体温(その1)	教科書 188～198 ページを用いて、栄養素の代謝と体温調節の仕組みについて述べられるようにせよ。																																																	
9	代謝と体温(その2)	教科書 172～185 ページを用いて、内分泌系について概説できるようにせよ。																																																	
10	内分泌(その1)	教科書 172～185 ページを用いて、それぞれのホルモンの分泌調節の仕組みと標的臓器での作用																																																	
11	内分泌(その2)																																																		

		について説明できるようにせよ。
12	生殖と発生・成長と老化	教科書 199～212 ページを用いて、生殖と発生の仕組みについて述べられるようにせよ。
13	筋と骨(その1)	教科書 53～88 ページを用いて、骨、筋の代謝を説明できるようにせよ。
14	筋と骨(その2)	教科書 149～161 ページを用いて、筋運動について説明できるようにせよ。
15	重点項目の復習	人体の機能Ⅱの重要項目について学習の一助とせよ。
成績評価方法と基準		割合
期末定期試験		100%

授業科目名	基礎運動学(作業) (Basic Kinesiology)		
主担当教員	山下 協子	担当教員	山下 協子
科目ナンバリング	SB107	科目区分	専門基礎科目 DP③
配当年次	1	開講学期	曜日・時限 火曜 4 限
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	<p>1. 解剖学で学んだ運動器の知識をもとに、学生相互の身体で確認する。</p> <p>2. 身体運動の仕組みを運動器の構造と機能を中心に理解する。</p>		
到達目標	<p>1-①関節運動と運動に関与する筋がわかる。</p> <p>②各筋の支配神経(末梢神経)、筋節レベルがわかる。</p> <p>③体表から観察できる筋・腱・ラントマーク等を正確に触知できる。</p> <p>④筋の弛緩・収縮および収縮の程度を触知判別できる。</p> <p>2-①運動を力学的に説明できる。</p> <p>②観察された現象を客観的に、専門用語を用いて記載できる。</p> <p>③観察された現象を、運動学(関節運動・防活動・力学)の観点から記載できる。</p>		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	<p>①身体運動や筋収縮を実際に触知し、確認・学習する機会がある科目は、作業療法士の教育課程では限られている。「教えない学習機会に、確実習得する」という自覚を持って臨むこと。</p> <p>②学習部位の触知がしやすい衣類を着用。</p> <p>③グループで実習を行う。全員で協力して取り組むこと。活発な意見交換を期待する。</p>		
教科書	『PT-01のための運動学テキスト』小柳・西村・山下・大西編 金原出版株式会社		
参考書	『基礎運動学』中村・齋藤・長崎著 医歯薬出版 『図解 四肢と背椎の診かた』野島元雄監訳 医歯薬出版		
研究室/オフィスアワー	研究室/オフィスアワー		
講義の前後で随時	講義の前後で随時		
授業展開及び授業計画表	授業展開及び授業計画表		
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	コースオリ・総論・運動学の基礎	予習:教科書 P2-57 復習:教科書・プリント	
2	運動学の基礎	予習:教科書 P2-57 復習:教科書・プリント	
3	肩甲骨の骨関節運動と筋	予習:該当部位の筋骨格系解剖学ワークシートのランドマークや筋の起始・停止など解剖学で学んだ項目をあらかじめ記載しておくこと 復習:教科書・プリントの授業終了範囲ワークシートの完成	
4	肩甲骨の骨関節運動と筋	予習:同上 復習:同上	
5	肩の骨関節運動と筋	予習:同上 復習:同上	
6	肩の骨関節運動と筋	予習:同上 復習:同上	
7	肘・前腕の骨関節運動と筋	予習:同上 復習:同上	

8	手関節の骨関節運動と筋	予習: 同上 復習: 同上	成績評価方法と基準 平常点: 20% (原則毎回小テストと 8 個のワークシートの提出。すべての合計を 20% に換算) 定期試験: 80% 平常点と定期試験の点数を合わせ 100 点とする。	割合 平常点 20% 定期試験 80%	
9	手関節の骨関節運動と筋	予習: 同上 復習: 同上			
10	手の骨関節運動と筋	予習: 同上 復習: 同上			
11	骨盤帯・股関節の骨関節運動と筋	予習: 同上 復習: 同上			
12	膝関節・下腿の骨関節運動と筋	予習: 同上 復習: 同上			
13	足関節・足の骨関節運動と筋	予習: 同上 復習: 同上			
14	頸部・体幹の骨関節運動と筋の機能	予習: 質問点を整理する 復習: 重点にそって知識を整理する			
15	髓鞘シベルと主要筋 質問	予習: 質問点を整理する 復習: 重点にそって知識を整理する			
成績評価方法と基準					割合
平常点: 20% (原則毎回小テストと 8 個のワークシートの提出。すべての合計を 20% に換算)					平常点 20%
定期試験: 80% 平常点と定期試験の点数を合わせ 100 点とする。					定期試験 80%

授業科目名				臨床運動学(作業) (Clinical Kinesiology)			
主担当教員		山下 協子		担当教員		山下 協子	
科目ナンバリング	SB108	科目区分	専門基礎科目	DP③④	該当項目	DP③④	
配当年次	2	開講学期	前期	曜日・時限	月曜 5 限		
授業形態	演習	単位数	1	必修・選択	必修		
授業概要							
1 年次の基礎運動学をもとに、基本的動作の運動学的理解を深め、臨床における動作分析の基礎技術を習得する							
到達目標							
1. 身体活動を運動学的に記述できる ① 正確に専門用語が使える 2. 身体活動を運動学的に分析できる ① 相分類ができる ② 各関節運動を記述できる ③ 各部位の運動の主動筋を言える ④ フロントマーカーや筋・腱が触知できる ④ 運動様式の違いを言える ⑤ 基底面と姿勢の安定性、力学的および運動軌跡の観点から運動を分析できる							
履修上の注意 (学生へのメッセージ)							
① 授業計画を常に確認し、教科書の該当単元を予習する ② グループでの実習が多くなるので、全員が協力し、積極的に参加する ③ 時間内に課題が終了できるよう、速やかに行動する ④ 動きやすい服装(原則ジャージの上下)で授業に臨む							
教科書							
PT・OT のための運動学テキスト 小柳・西村・山下・大西編 金原出版株式会社							
参考書							
なし							
研究室 / オフィスアワー							
講義時の前後で随時							
授業展開及び授業計画表							
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当				
1	運動分析とは	予習: 教科書 85~97 復習: 終了範囲の教科書・プリント ワークシートの完成					
2	姿勢	予習: 教科書 307~315 341~364 復習: 同上					
3	姿勢	予習: 教科書 307~315 341~364 復習: ワークシート完成					
4	歩行	予習: 教科書 365~403 復習: 同上					
5	歩行 階段昇降	予習: 教科書 496~514 復習: ワークシート完成					
6	階段昇降	予習: 教科書 496~514 復習: ワークシート完成					
7	車いす移動	予習: 教科書 427~443 復習: 同上					
8	車いす移動 把握	予習: 教科書 159~162 復習: ワークシート完成					

9	ねがえり	予習：教科書 460～474 復習：ワークシート完成	
10	起き上がり	予習：教科書 460～474 復習：ワークシート完成	
11	立ち座り	予習：教科書 475～495 復習：ワークシート完成	
12	運動分析(自由課題)	予習： 復習：	
13	運動分析(自由課題)	予習： 復習：	
14	運動分析(自由課題) 発表	予習：発表用レジュメ提出と発表の準備 復習：	
15	まとめ・質問	予習：教科書 85～97 疑問点のまとめ	割合
成績評価方法と基準			平常点 30%
平常点 30%(提出物・小テスト)、定期試験 70%			定期試験
2/3以上の出席が必要			70%

授業科目名	リハビリテーション概論(作業) (Introduction to Rehabilitation)		
主担当教員	横井 賀津志	担当教員	横井 賀津志、金尾 顕郎、金森 幸
科目ナンバリング	SB109	科目区分	ディプロマポリシー 該当項目 DP①②③
配当年次	1	開講学期	前期 月曜3限
授業形態	講義	単位数	1 必修・選択
授業概要	<p>リハビリテーション概論では、リハビリテーションの全体像を理解し、作業療法のあり方を教授する。その主な指導内容は、リハビリテーションの概念、理念、歴史、リハビリテーションの対象となる障害、障害の意味(国際障害分類および国際生活機能分類による)、障害者の種別と人数、障害者の心理、リハビリテーションチームの構成と関係職種、リハビリテーションの国際施設(病院リハ、高齢者入所施設リハ、通所リハ、訪問リハ等)、リハビリテーションの規制度と関係法規および行政に関することである。さらに、作業療法の4領域(身体障害、精神障害、老年期障害、発達障害)の実践報告を行い、作業療法のイメージを強化する。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. リハビリテーションに対する理解と関心を深める。 2. リハビリテーションに関連するTVや新聞記事等、身近な情報を積極的に収集・分析する。 3. 社会におけるリハビリテーションの位置づけや役割を考える。 4. リハビリテーションの全体像を解説できる。 5. リハビリテーションの定義、歴史、目的を学ぶ。 6. リハビリテーションの学問体系と技術体系を説明できる。 7. 施設別、病期別リハビリテーションにおける対象者の理解の方法、治療手段、治療原理について説明できる。 8. 作業療法の4領域(身体障害、精神障害、老年期障害、発達障害)をイメージできる。 <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>準備学習として、ノートを授業後に整理して復習をしてください。また、図書館で雑誌「作業療法」や「作業療法ジャーナル」のリハビリテーションの理念についての特集を積極的に読んでください。</p>		
教科書	『リハビリテーション ビジュアルブック 第2版』学研メディカル秀潤社		
参考書	『最新リハビリテーション医学 第3版』江藤文夫、里守明元/医療薬出版 『ICF 国際生活機能分類—国際障害分類改定版—』中央法規出版 研究室／オフィスアワー		
木料：木曜日2限目(10:40-12:10) 金尾：水曜日1限、もしくは、事前に連絡があれば随時対応します。			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	リハビリテーションの概念	リハビリテーションの歴史をまとめる。	横井・金森
2	リハビリテーションと心理	障害受容について考え、まとめる。バリアフリー展への参加準備。	横井・金森
3	リハビリテーションの理解 1 (バリアフリー展への参加)	バリアフリー展参加後に資料を整理する。	横井・金森
4	リハビリテーションの理解 2 (高齢者・障がい者の方の快適な生活)	バリアフリー展の資料をまとめる。	横井・金森
5	ADL, 00L	ADLと00Lについてまとめる。	横井・金森
6	リハビリテーションの理解 3 (発表)	他班の発表を聞き、高齢者・障がい者の方の快適な生活について発表できるようにまとめる。	横井・金森
7	リハビリテーションの理解 4 (発表)	他班の発表を聞き、高齢者・障がい者の方の快適な生活について発表できるようにまとめる。	横井・金森
8	身体障害のリハビリテーションの展開、リハビリテーションの評価とプログラム2(ICIDH, ICF含む)(作業療法、チームアプローチ、手段、対象者)	身体障害領域のリハビリテーションの枠組みをまとめる。ICFに関する資料を読み、講義後に10Fの意義をまとめる。	身体障害領域 学科教員
9	精神障害のリハビリテーションの展開(作業療法、チームアプローチ、手段、対象者)	精神障害領域のリハビリテーションの枠組みをまとめる。	
10	老年期障害のリハビリテーションの展開(作業療法、チームアプローチ、手段、対象者)	老年期障害領域のリハビリテーションの枠組みをまとめる。	老年期障害 領域学科教員
11	発達障害のリハビリテーションの展開(作業療法、チームアプローチ、手段、対象者)	発達障害領域のリハビリテーションの枠組みをまとめる。	金森

12	臨床見学実習に必要となるリハビリテーションの知識と技術	重いす名称や臨床実習中のリスクについてまとめる。	横井
13	理学療法	理学療法士の役割をまとめる。	金尾
14	医療人としての資質	医療人に必要な接遇・マナーを学ぶ。	横井・金森
15	リハビリテーションにおける協業	リハビリテーション関係団体について学び、まとめる。	横井・金尾・金森
成績評価方法と基準			割合
①定期試験			①80%
②グループワーク課題			②20%

授業科目名 公衆衛生学(作業) (Public Health)			
主担当教員	今村 行雄	担当教員	今村 行雄
科目ナンバリング	SB110	専門基礎科目	DP②③
配当年次	1	後期	金曜2限
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	個人水準で健康を扱う臨床医学に対して、衛生・公衆衛生学は社会水準で健康を取り扱うので社会医学とも呼ばれる。その範囲は多岐にわたり、健康に影響をおよぼす様々なリスクを特定し、予防活動に結びつける学問である。本講義では「社会に役立つ公衆衛生」を基本として、衛生・公衆衛生学の理論、衛生行政、予防、健康、老人、成人保健、生活習慣病や難病疾患、産業衛生、母子保健、衛生統計などについて学習する。さらに、世界における日本の現状および動向について理解し、日本における公衆衛生のあり方について考える。		
到達目標	私たちの生活や健康は、社会の制度に支えられている。公衆衛生学は、健康を支える制度そのものである。公衆衛生の歴史や体制、内容を知り、自らの生活や健康を守り、向上を図るための知識を習得する。		
	1. 公衆衛生学とは何かを知る。 2. 疫学について知り、講義について理解する。 3. 健康を害する因子を探り、予防とは何かを理解する。 4. 健康維持のための施策について理解する。 5. 日本の医療状況を理解し、世界各国の状況と比較できる。		
	履修上の注意(学生へのメッセージ)		
	1. 公衆衛生学は、進歩する医療技術や研究成果だけでなく、国の情勢や法律、予算などにも左右され、変化していくものである。講義で習ったことは現時点での事実であることを認識し、講義終了後には統計データなどは最新のものを各自、調べて知識をアップデートする必要がある(特に国家試験前)ことに留意する。 2. 新聞やニュースなどを通じて、社会情勢に目を向けること。 3. 常に疑問を持ち、調べ、客観的に評価し、自分の知識を深めること。		
教科書	なし。(参考書1に基づいて作成した配布資料を使って講義を進めます)		
参考書	1. 学生のための現代公衆衛生(南山堂) 2. 公衆衛生が見える(メディックメディア)		
研究室/オフィスアワー	非常勤講師控室		
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	健康の科学としての公衆衛生学	課題:公衆衛生とは何か、WHO、疫学研究 授業の復習	
2	人口の動向	課題:人口の増減が社会生活にどう影響するか	
3	妊娠・出産と胎児の保健	授業の復習および次回の講義の予習 課題:周産期の保健について理解する	
4	新生児・乳幼児期の保健	授業の復習 課題:胎児、乳幼児期の保健を理解する	
5	青少年の保健	授業の復習と次回講義の予習 課題:学校保健について理解する	
6	成人期の保健	授業の復習および次回の講義の予習 課題:生活習慣病について理解する	
7	老年期の保健と死の問題	予習:シラバス・資料確認 課題:高齢者福祉について理解する	

8	心の健康と心身障害	予習：シラバス・資料の確認 課題：精神保健について理解する	
9	環境の衛生	予習：シラバス・資料の確認 課題：環境とは何か、理解する	
10	環境汚染と公害	予習：シラバス・資料の確認 課題：公害問題について理解する	
11	感染症・微生物による病気	予習：シラバス・資料の確認 課題：感染症について理解	
12	食物と健康 1	予習：シラバス・資料の確認 課題：食中毒について理解	
13	食物と健康 2	予習：シラバス・資料の確認 課題：食中毒菌などの理解を深める	
14	職業生活と健康	予習：シラバス・資料の確認 課題：職業病について理解する	
15	保健・医療の行政	予習：資料の確認 課題：衛生行政の種類について理解する	
成績評価方法と基準			割合
試験(90%)+授業態度(10%)で評価します。試験で評価し、単位認定とする。			試験 90%
単位認定基準及び試験受験資格は、大学の規定に従う。			受講態度 10%

授業科目名		病理学(作業) (Pathology)	
主担当教員	河口 直正	担当教員	河口 直正
科目ナンバリング	SB109	科目区分	専門基礎科目
配当年次	2	開講学期	前期
授業形態	講義	単位数	2
授業概要			
学生が将来臨床の現場に立つ時に目の当たりにする疾患を中心に、その病因や成り立ち、病態を理解できるように、さまざまな疾患についての詳細な説明と演習を行う。			
到達目標			
病気の成り立ちを十分に理解し、その知識を将来臨床の場で生かせるようにする。			
履修上の注意(学生へのメッセージ)			
病理学の専門用語やいろいろな病態に対する概念は、他の医学分野でも共通に用いるものである。それらをつかきと理解し、自らも用いることができ、かつ的確に表現できなければならぬ。そのためにはそれらを確実に理解し、記憶に留めておかなければならぬ。			
教科書			
標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 病理学 医学書院			
参考書			
「シンプル病理学 南江堂			
研究室/オフィスアワー			
研究室在室時			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	病理学とは 退行性病変と進行性病変①	教科書 5～6 ページ、15～23 ページの退行性病変(壊死、アポトーシス、変性、萎縮)について理解でき、退行性病変を説明できる。	
2	退行性病変と進行性病変②	教科書 15 から 23 ページの進行性病変(肥大、過形成、化生)について理解でき進行性病変を説明できる。	
3	炎症①	教科書 61～72 ページの炎症について理解でき急性炎症、慢性炎症について説明できる。	
4	炎症② 再生と創傷治癒	教科書 61～72 ページの炎症について理解でき炎症の種類について説明できる。教科書 23～25 ページの再生と創傷治癒について理解し説明できる。	
5	循環傷害①	教科書 37～48 ページの循環障害(浮腫、充血、動脈血、出血)について理解でき浮腫、充血、動脈血、出血を説明できる。	
6	循環傷害②	教科書 37～45 ページの循環障害(血栓症、塞栓症、虚血と梗塞、高血圧、側副循環)について理解でき血栓症、塞栓症、虚血と梗塞、高血圧、側副循環を説明できる。	
7	免疫と感染症①	教科書 50～59 ページの免疫(自然免疫と獲得免疫)について理解でき自然免疫と獲得免疫、免疫にかかわる細胞、抗体について説明できる。	
8	免疫と感染症②	教科書 50～59 ページの免疫について理解できアレルギー、免疫不全について理解できる。	
9	腫瘍①	教科書 65～72 ページの感染症について理解でき説明できる。	
10	腫瘍②	教科書 73～92 ページの腫瘍(腫瘍の定義、腫瘍の命名と分類)について理解でき腫瘍の定義、腫瘍の命名と分類について説明できる。	
		教科書 73～92 ページの腫瘍(腫瘍の形態、転移、腫瘍の発生病理と原因)について理解でき腫瘍の形態、転移、腫瘍の発生病理と原因について説明できる。	

11	先天異常と奇形①	教科書 101～112 ページの先天異常について理解でき単一遺伝子疾患、メンデルの法則に合わない遺伝性疾患について説明できる。	
12	先天異常と奇形②	教科書 101～112 ページの先天異常について理解でき染色体異常疾患について説明できる。奇形について理解でき発生原因、種類について説明できる。	
13	代謝異常①	教科書 27～35 ページの代謝障害(アミロイドーシス、尿酸代謝障害、脂肪酸代謝障害、脂質代謝障害)について理解でき説明できる。	
14	代謝異常② 老化	教科書 27～35 ページの代謝障害(糖質代謝障害、色素代謝障害)について理解でき説明できる。 教科書 93～100 ページの老化について理解でき説明できる。	
15	病理総論のまとめ	病理総論についてのまとめ	
成績評価方法と基準			割合
①期末試験			①100%

授業科目名	内科学 I (作業) (Internal Medicine I)																																																		
担当教員	五十嵐 淳介	担当教員	五十嵐 淳介																																																
科目ナンバリング	SB112	科目区分	専門基礎科目																																																
配当年次	2	開講学期	前期																																																
授業形態	講義	単位数	2																																																
授業概要	<p>よき医療人になる上で必要不可欠な内科学の知識・考え方について講義する。診断学・症候学を理解し、医療の現場で応用できるようにする。また各種疾患について臓器別に講義を行い、その病態・治療を論理的に理解・説明できるようにする。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 循環・呼吸・消化・肝胆臓の各種臓器の働きを理解する。 2. 症状・病候の病的意義が説明できる。 3. 各種臓器の病態を理解し、そこから臨床症状が合理的に説明できる。 <p>履修上の注意 (学生へのメッセージ)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 内科学(疾病の理解)は現代医療の基礎知識であることを認識して取り組むこと。 2. 講義を聞かずに教科書だけ読んでも理解困難と考えられるため、出席して講義を聞くこと。 3. 学習すべき量が多いため、効率よく理解すべく必ずノートに板書内容を記載すること。試験前に教科書を読んで全部覚えるのは不可能です。ノートに沿って教科書を活用してください。 4. 疾患について論理的なイメージを理解する努力をすること。 5. 疑問点は大切にし、解決に向けて行動すること。 6. 努力をしない学生・態度不良の学生には単位を与えられません。 7. 私語は授業妨害・他学生への迷惑行為なので退室させます。その場合、速やかに退室すること。 8. 最低限の礼儀をわきまえること。 																																																		
教科書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 内科学 (第 3 版) ISBN978-4-260-01707-7 (医学書院)																																																		
参考書	指定しない。ただし、講義では指定教科書以外からも多数の図を引用する。出典は可能な限り示す。希望者にはさらに高度な文献を与えるので、申し出よ。																																																		
研究室/オフィスアワー	研究室/オフィスアワー C棟七階研究室15、オフィスアワーは水曜 5 限(16:20～17:50)。 これ以外の時間に入室を希望する場合は事前予約の連絡を行うこと。講義時に口頭で、または随時電子メールにて受け付ける (junsuke_igarashi@morinomiya-u.ac.jp)。 オフィスアワー以外の入室であって予約がない場合、対応しないことがある。																																																		
授業展開及び授業計画表	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>学修内容</th> <th>予習・復習・課題等</th> <th>担当</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>臓器の基本的な働きと循環器疾患の病態の理解</td> <td>心臓の解剖・生理機能について事前に再度学習しておくこと。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>臓器の基本的な働きと循環器疾患の病態の理解</td> <td>循環器疾患の病態メカニズムについて合理的説明ができるように復習すること。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>臓器の基本的な働きと循環器疾患の病態の理解</td> <td>循環器疾患の病態メカニズムについて合理的説明ができるように復習すること。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>臓器の基本的な働きと呼吸器疾患の病態の理解</td> <td>呼吸器の解剖・生理機能について、事前に再度学習しておくこと。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>臓器の基本的な働きと呼吸器疾患の病態の理解</td> <td>呼吸器疾患の病態メカニズムについて合理的説明ができるように復習すること。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>臓器の基本的な働きと呼吸器疾患の病態の理解</td> <td>呼吸器疾患の病態メカニズムについて合理的説明ができるように復習すること。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>臓器の基本的な働きと消化器疾患の病態の理解</td> <td>消化器の解剖・生理機能について事前に再度学習しておくこと。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>臓器の基本的な働きと消化器疾患の病態の理解</td> <td>消化器疾患の病態メカニズムについて合理的説明ができるように復習すること。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>臓器の基本的な働きと消化器疾患の病態の理解</td> <td>消化器疾患の病態メカニズムについて合理的説明ができるように復習すること。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>臓器の基本的な働きと肝胆臓疾患の病態の理解</td> <td>肝臓・胆嚢・膵臓の解剖・生理機能について事前に再度学習しておくこと。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>臓器の基本的な働きと肝胆臓疾患の病態の理解</td> <td>腎臓疾患の病態メカニズムについて合理的説明ができるように復習すること。</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当	1	臓器の基本的な働きと循環器疾患の病態の理解	心臓の解剖・生理機能について事前に再度学習しておくこと。		2	臓器の基本的な働きと循環器疾患の病態の理解	循環器疾患の病態メカニズムについて合理的説明ができるように復習すること。		3	臓器の基本的な働きと循環器疾患の病態の理解	循環器疾患の病態メカニズムについて合理的説明ができるように復習すること。		4	臓器の基本的な働きと呼吸器疾患の病態の理解	呼吸器の解剖・生理機能について、事前に再度学習しておくこと。		5	臓器の基本的な働きと呼吸器疾患の病態の理解	呼吸器疾患の病態メカニズムについて合理的説明ができるように復習すること。		6	臓器の基本的な働きと呼吸器疾患の病態の理解	呼吸器疾患の病態メカニズムについて合理的説明ができるように復習すること。		7	臓器の基本的な働きと消化器疾患の病態の理解	消化器の解剖・生理機能について事前に再度学習しておくこと。		8	臓器の基本的な働きと消化器疾患の病態の理解	消化器疾患の病態メカニズムについて合理的説明ができるように復習すること。		9	臓器の基本的な働きと消化器疾患の病態の理解	消化器疾患の病態メカニズムについて合理的説明ができるように復習すること。		10	臓器の基本的な働きと肝胆臓疾患の病態の理解	肝臓・胆嚢・膵臓の解剖・生理機能について事前に再度学習しておくこと。		11	臓器の基本的な働きと肝胆臓疾患の病態の理解	腎臓疾患の病態メカニズムについて合理的説明ができるように復習すること。	
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当																																																
1	臓器の基本的な働きと循環器疾患の病態の理解	心臓の解剖・生理機能について事前に再度学習しておくこと。																																																	
2	臓器の基本的な働きと循環器疾患の病態の理解	循環器疾患の病態メカニズムについて合理的説明ができるように復習すること。																																																	
3	臓器の基本的な働きと循環器疾患の病態の理解	循環器疾患の病態メカニズムについて合理的説明ができるように復習すること。																																																	
4	臓器の基本的な働きと呼吸器疾患の病態の理解	呼吸器の解剖・生理機能について、事前に再度学習しておくこと。																																																	
5	臓器の基本的な働きと呼吸器疾患の病態の理解	呼吸器疾患の病態メカニズムについて合理的説明ができるように復習すること。																																																	
6	臓器の基本的な働きと呼吸器疾患の病態の理解	呼吸器疾患の病態メカニズムについて合理的説明ができるように復習すること。																																																	
7	臓器の基本的な働きと消化器疾患の病態の理解	消化器の解剖・生理機能について事前に再度学習しておくこと。																																																	
8	臓器の基本的な働きと消化器疾患の病態の理解	消化器疾患の病態メカニズムについて合理的説明ができるように復習すること。																																																	
9	臓器の基本的な働きと消化器疾患の病態の理解	消化器疾患の病態メカニズムについて合理的説明ができるように復習すること。																																																	
10	臓器の基本的な働きと肝胆臓疾患の病態の理解	肝臓・胆嚢・膵臓の解剖・生理機能について事前に再度学習しておくこと。																																																	
11	臓器の基本的な働きと肝胆臓疾患の病態の理解	腎臓疾患の病態メカニズムについて合理的説明ができるように復習すること。																																																	

12	臓器の基本的な働きと肝臓疾患の病態の理解	学んだ疾患の病態メカニズムについて合理的説明ができるように復習すること。	
13	血液疾患の病態の理解 1	血液疾患の病態について合理的説明ができるように復習すること。	
14	血液疾患の病態の理解 2	血液疾患の病態について合理的説明ができるように復習すること。	
15	総復習	各臓器の解剖・生理的機能およびこれまでに学んだ疾患の病態の総復習すること。	
成績評価方法と基準		割合	
筆記試験		100%	

授業科目名	内科学Ⅱ(作業) (Internal Medicine II)		
主担当教員	五十嵐 淳介	担当教員	五十嵐 淳介
科目ナンバリング	SB113	科目区分	専門基礎科目
配当年次	2	開講学期	後期
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	よき医療人になる上で必要不可欠な内科学の知識・考え方について講義する。診断学・症候学を理解し、医療の現場で応用できるようにする。また各種疾患について臓器別に講義を行い、その病態を論理的に理解・説明できるようにする。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 症状・症候の病的意義が説明できる。 2. 各種疾病の病態を理解し、そこから臨床症状が合理的に説明できる。 		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 内科学(疾病の理解)は現代医療の基礎知識であることを認識して取り組むこと。 2. 講義を聞かずに教科書だけ読んでも理解困難と考えられるため、出席して講義を聞くこと。 3. 学習すべき量が多いため、効率よく理解すべく必ずノートに板書内容を記載すること。試験前に教科書を読んで全部覚えるのは不可能です。ノートに於いて教科書を活用してください。 4. 疾患について論理的なイメージを理解する努力をすること。 5. 疑問点は大切に、解決に向けて行動すること。 6. 努力をしない学生・態度不良の学生には単位を与えません。 7. 私語は授業妨害・他学生への迷惑行為なので退室させます。その場合、速やかに退室すること。 8. 最低限の礼儀をわきまえること。 		
教科書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 内科学(第3版) ISBN978-4-280-01707-7(医学書院)		
参考書	指定しない。ただし、講義では指定教科書以外からも多数の図を引用する。出典は可能な限り示す。希望者にはさらに高度な文献を与えるので、申し出よ。		
研究室/オフィスアワー	C棟七階研究室15。オフィスアワーは水曜五限(16:20~17:50)。これ以外の時間に入室を希望する場合は事前予約の連絡を行うこと。講義時に口頭で、または随時電子メールにて受け付ける。(junsuke_jigarashi@morinomiya-u.ac.jp)。 オフィスアワー以外の来室であつて予約がない場合、対応しないことがある。		

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	代謝性疾患の病態の理解 1	代謝性疾患の病態メカニズムについて合理的説明ができるように復習すること。	
2	代謝性疾患の病態の理解 2	代謝性疾患の病態メカニズムについて合理的説明ができるように復習すること。	
3	臓器の基本的な働きと内分泌疾患の病態の理解 1	各臓器のホルモン分泌機構について事前に予習しておくこと。	
4	臓器の基本的な働きと内分泌疾患の病態の理解 2	各臓器のホルモン分泌機構について知識を確実にしておくこと。	
5	臓器の基本的な働きと内分泌疾患の病態の理解 3	内分泌疾患について合理的説明ができるように復習すること。	
6	臓器の基本的な働きと腎疾患の病態の理解 1	腎臓の解剖・生理機能について事前に再度学習しておくこと。	
7	臓器の基本的な働きと腎疾患の病態の理解 2	腎疾患の病態メカニズムについて合理的説明ができるように復習すること。	
8	臓器の基本的な働きと腎疾患の病態の理解 3	腎疾患の病態メカニズムについて合理的説明ができるように復習すること。	
9	膠原病・アレルギー疾患の病態の理解 1	免疫機構の理解とアレルギーの病態を合理的に説明できるように復習すること。	
10	膠原病・アレルギー疾患の病態の理解 2	各種膠原病について合理的説明ができるように復習すること。	
11	膠原病・アレルギー疾患の病態の理解 3	各種膠原病について合理的説明ができるように復習すること。	
12	神経疾患の病態・症候の理解 1	神経疾患の病態・症候について復習すること。	

13	神経疾患の病態・症候の理解 2	神経疾患の病態・症候について復習すること。
14	感染症の病態・治療の理解 1	感染症の原因・病態・症候について理解を深めること。
15	感染症の病態・治療の理解 2	感染症の原因・病態・症候について理解を深めること。
成績評価方法と基準		割合
筆記試験		100%

救急処置法(作業) (Emergency Treatment)			
授業科目名	救急処置法(作業)	担当教員	吉岡 敏治
主担当教員	吉岡 敏治	専門基礎科目	DP②
科目ナンバリング	SB114	科目区分	曜日・時限
配当年次	3	開講学期	火曜3限
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	<p>救急患者とは健康状態が急変した人であり、救急医療とはだちに何らかの医学的介入を必要とする人を対象とする医療である。講義では多岐にわたる内因性、外因性疾患の救急病態を概観すると同時に、診断と治療が同時に進行する救急医療現場で、どのような対応が求められるかを学ぶ。中でも応急処置は一般市民やクラブ活動の指導者にも要求される基本的なものであり、医療従事者としてこれを確実な身につけることが必要である。作業療法の実施中に起こる不慮の事故を想定し、それに対応できる知識と処置の実践を学ぶ。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) わが国における救急医療システムを理解し、対応の基本を学ぶ。 2) 内因性、外因性救急疾患の代表事例の病態、診断、治療の原則を学ぶ。 3) 蘇生法、止血法、体位保持法、固定法、運搬法等、各救急場面における基本的な処置技術を習得する。 <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>救急医療に従事した40年余の経験から、実際の事例や研究結果をスライドに示して、臨床に密着した講義を行う。救急医療は医療の原点であると同時に、内科的知識と外科的知識の両方が必要な応用医療でもある。したがって3年生までに進められた他の講義と重複する内容も多いので、3年生前期までに得られた知識について復習をしながら、対話形式で授業を進める。評価はこの授業中の質問(30点)、レポート(50点)で行う。理学療法学科では必修科目であり、作業療法学科もなるべく多くの学生に選択して頂きたい。</p> <p>注意事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 救急疾患について論理的なイメージを構築する努力をすること。 2. 疑問点を大切に、解決に向けて行動すること。質問は大歓迎。 3. 配布資料で十分理解できるように資料を整えているので、毎回出席し内容を理解すれば、選択科目でもあり、必ずしも教科書を購入する必要はない。ただし、講義で配布する資料に記した頁数は、教科書欄に記載したテキストの頁数である。 <p>教科書</p> <p>救急検査指針:救急検査認定技師テキスト へるす出版</p> <p>参考書</p> <p>救急蘇生法の指針2015(医療従事者用、改訂第5版) へるす出版 リハビリテーション リスク管理ハンドブック (株)メジカルビュー社 救急法(野外活動における応急手当)・ボーイスカウト連盟 研究室/オフィスアワー</p> <p>吉岡敏治(ご 様、研究室4)/原則月曜日 2-3 時間目ですが、その他、初回にいれればいつでも訪問可です。</p>		
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	オリエンテーション(自己紹介) 救急医療の特徴	予習:不要 復習:救急医療の方程式、ABOIE アプローチを理解する	
2	救急医療体制と搬送システム 関連法について	予習:不要 復習:救急医療機関、救急医療情報システム の整備状況、三次救急ネットワークと精神科救急の現況を理解する	
3	緊急度と重症度 心肺停止と一次救命処置(BLS)	予習:不要 復習:緊急度、重症度の判断とその対応、一次救命処置の重要性を理解する	
4	小児・乳児の心肺蘇生 二次救命処置(ALS)	予習:不要 復習:成人と異なる小児・乳児の心肺蘇生法 を習得するのみならず、アプローチの仕方 を理解する。医師の行う二次救命処置を理 解する	
5	心拍再開後の集中治療 救急カート	予習:不要 復習:心拍再開後の病態(心停止後脳損傷)、 副任降下療法、冠動脈インターベンション の重要性、体温管理、血糖管理、 あり方等 ICUでの治療を理解する。病棟や 外来の救急カートに備える資機材を考える	

6	ショックの分類と病態	予習：不要 復習：循環の3要素、Frank-Starlingの法則、Starling & Pappenheimerの法則、血流の再配分とショック臓器を理解する		
7	ショックの診断と治療 クラッシュ症候群について	予習：不要 復習：ショックの臨床診断、輸液の意義、クラッシュ症候群の発生機序と病態を理解する		
8	中枢神経系疾患	予習：不要 復習：脳血管障害と炎症性脳疾患の診断と治療(理学所見、画像診断、髄液所見)		
9	循環器系疾患 呼吸器系疾患	予習：不要 復習：高血圧性緊急症、感染性心内膜炎、急性冠症候群、不整脈、大動脈解離、ガス交換機序、過換気症候群、アナフラキシー、肺塞栓症、その他の呼吸器疾患		
10	消化器系疾患	予習：不要 復習：消化管出血、穿孔、腸管虚血、腸閉塞、腸重積重直、嵌頓ヘルニア、肝・胆道系の結石、炎症の診断と治療、(急性腹症)		
11	泌尿・生殖器系疾患 内分泌・代謝系疾患、その他	予習：不要 復習：尿路結石症、前立腺肥大の診断と治療、高血糖緊急症(糖尿毒性ケトアシドーシス)、非ケトン生高浸透圧症)の病態と治療		
12	外傷	予習：不要 復習：外傷の重症度と予後(Big Data)、JPTCプロトコルを理解し、外傷患者の観察・処置の流れを理解する		
13	熱傷、熱中症 (凍傷、偶発性低体温症、電撃傷)	予習：不要 復習：熱傷・熱中症の病態を理解し、診断、重症度判定ができるようになる		
14	中毒、化学損傷 異物	予習：不要 復習：急性中毒の基本的な毒物動態を理解し、治療の原則を考える。日本中毒情報センターのホームページを閲覧する		
15	遭遇しやすい症状とその対処法 失神、めまい、痙攣、てんかん発作、発熱と高体温、鼻出血、菌痛	予習：不要 復習：失神やめまいにはその病態により、高リスクのものと低リスクのものがある、良く遭遇するこれらの症状の発症機序と対応の基本を習得する		
成績評価方法と基準			割合	
①授業中の質問			①50%	
②レポート			②50%	

脳神経外科学(作業) (Neurosurgery)				
授業科目名	三木 宏文	担当教員	三木 宏文	
主担当教員	SB115	専門基礎科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP①②
科目ナンバリング	2	開講学期	曜日・時限	金曜 5 限
配当年次	講義	単位数	必修・選択	必修
授業形態				
授業概要	脳神経外科学は、医療法では「脳、脊髄および末梢神経の外科」と規定されている。しかし、脳神経外科学の進歩はめざましく、現在は閉鎖術以外に、定位放射線治療や血管内治療のような「頭を切らない」治療法も確立されている。外科学の一分野として始まった脳神経外科学ではあるが、今ではより広いニューロサイエンスの一分野となっている。本講座では、脳神経疾患の基礎を学び、兆候から診断、治療について、総合的に理解することを目標とする。手術以外の治療法についても、広く解説したい。			
到達目標	1) 神経解剖の基本を確認する。 2) 頭蓋骨の中という特殊な状況下で生じる脳圧亢進、脳浮腫、水頭症について学ぶ。 3) 閉鎖術以外の治療法の長所、短所を理解する。 4) 最新の脳科学の知見についても理解する。			
履修上の注意(学生へのメッセージ)	1) 教科書の理解を助けるために講義に際しては配布資料を準備することがあります。 2) 出席は重視します。 3) 講義内容を理解することが肝要で、教科書のみでの学習は困難です。試験は講義内容から出題されますので、講義を重視して下さい。			
教科書	生埜之敬、種子田藤、山田和雄 編集：ニューロスタンダード脳神経外科学(第3版)			
参考書	なし			
研究室/オフィスアワー	研究室 13			
授業展開及び授業計画表	回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	脳神経外科総論		上記教科書の目次通りのタイトルであり、15回の授業の順番も目次どおりに行う。したがって、毎回の授業範囲が分かりやすいので、予習復習も行きやすいと考える。授業で用いるレジュメの図表も出来る限り教科書とおりのものとした。授業のたびに予習復習を行っておけば、学習効果はあがると考えている。	
2	神経系の形態と機能			
3	主要神経症候と病態			
4	診断法			
5	補助診断法			
6	基本的処置と手術手技、血管内治療			
7	脳腫瘍			
8	脳血管障害			
9	頭部外傷			
10	先天異常			
11	水頭症			

12	中枢神経系の炎症性疾患	〃	
13	機能的脳神経外科	〃	
14	脊髄・脊髄疾患	〃	
15	末梢神経の外科、脳神経外科疾患とリハビリテーション	〃	
成績評価方法と基準			割合
定期試験の成績で行う。			100%

整形外科科学(作業) (Orthopedics)			
授業科目名	宮田 重樹	担当教員	宮田 重樹
主担当教員	宮田 重樹	専門基礎科目	ディプロマポリシー 該当項目
科目ナンバリング	SB116	科目区分	DP①②
配当年次	2	開講学期	曜日・時限 水曜 4 限 水曜 5 限
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	<p>整形外科疾患は、作業療法士が治療する中心の一つである。 四肢・体幹疾患の理学療法を行う上で知っておくべき整形外科科学を学ぶ。 実習に際して必要な知識、国家試験に際して必要な知識、作業療法士として仕事するうえで必要な知識を学ぶ。 教科書、スライドを中心に進め、知識を深めるために順次生徒に質問していく。</p>		
到達目標	<p>1. 整形外科疾患をどのように診断するのか学ぶ。 2. 整形外科疾患をどのように治療するのか学ぶ。 3. 整形外科疾患の保存療法と手術療法を学ぶ。 4. 整形外科疾患に対する治療をすすめる上で必要な整形外科基礎知識を学ぶ。 5. 整形外科疾患が原因の身体障害者に対する基本的動作能力の回復を図るには、何が必要か学ぶ。 6. 運動器の問題を見つける目を育てる。</p>		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	<p>私語etc授業の妨げとなる生徒は退場してもらう。</p>		
教科書	標準整形外科科学(第12版)医学書院		
参考書	特になし		
研究室/オフィスアワー	研究室/オフィスアワー		
講義日の非常勤講師控室	講義日の非常勤講師控室		
授業展開及び授業計画表	授業展開及び授業計画表		
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	整形外科とは 整形外科保存療法とリハビリ	運動器の解剖 授業に使うスライドのプリント	
2	整形外科の診断と診断方法	授業に使うスライドのプリント 小テスト	
3	姿勢とアライメント、動作分析	授業に使うスライドのプリント 小テスト	
4	関節、関節運動学	授業に使うスライドのプリント 小テスト	
5	骨と骨折、外傷1	授業に使うスライドのプリント 小テスト	
6	骨と骨折、外傷2	授業に使うスライドのプリント 小テスト	
7	リウマチと関連疾患	授業に使うスライドのプリント 小テスト	
8	骨代謝疾患、骨腫瘍	授業に使うスライドのプリント 小テスト	
9	整形外科疾患：肩、肘、手	授業に使うスライドのプリント 小テスト	
10	整形外科疾患：頸、胸椎、胸郭	授業に使うスライドのプリント 小テスト	
11	整形外科疾患：腰椎	授業に使うスライドのプリント 小テスト	
12	整形外科疾患：股関節、膝、足	授業に使うスライドのプリント 小テスト	

13	整形神経筋疾患、骨椎損傷	授業に使うスライドのプリント	小テスト
14	ロコモと介護予防運動療法	授業に使うスライドのプリント	小テスト
15	スポーツ障害	授業に使うスライドのプリント	小テスト
成績評価方法と基準			
割合			
①70%			
②30%			
①定期試験			
②小テスト→授業中の口答			

授業科目名		小児科学(人間発達学)(作業) (Pediatrics【Human Development Studies】)	
主担当教員	伊藤 直子	担当教員	伊藤 直子、金森 幸
科目ナンバリング	SB117	専門基礎科目	ディプロマポリシー 該当項目
配当年次	2	後期	曜日・時限
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	<p>到達目標</p> <p>①1年で学んだ基礎知識を再確認し、病態や検査法を理解する ②出産後の機能的変化と、その後の発達期のリスクを理解する。 ③作業療法の対象となった場合の、作業療法士の役割を理解する。</p> <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>各疾患について1年生で学んだ内容を元に各自で発表する形式の授業です。少子高齢化がすすむ社会で、低出生体重児や発達障害児の増加は重大な課題である。ひとりひとりの子どもの発達を息守り、健全な育成をはかる役割を地域医療は担っている。病院や地域で出会う子どもたちの健康に配慮し、安全な教育環境ではくむくむくするための医療職としての基本的な知識と態度を学んでほしい。生活障がいと各種検査の関連、ハイタルや聴診の意味を理解します。</p> <p>教科書</p> <p>標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野「小児科学」第五版 医学書院</p> <p>参考書</p> <p>リハビリテーションのための人間発達学第2版 編集大城昌平 メディカルプレス</p> <p>研究室/オフィスアワー</p> <p>月曜日・火曜日の午後</p> <p>授業展開及び授業計画表</p>		
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	小児の成長・発達・成熟	授業の進め方の理解 小児の発達と健康教育	
2	胎児期・新生児・低出生体重児	出生時のリスク 乳幼児健診のポイント	
3	先天異常と遺伝病	障がい発生の理解 障がい児への支援	
4	神経筋系疾患	神経筋障害の理解 身体管理の基礎	
5	循環器疾患	出産時の変化の理解 ハイタルの意味(聴診①)	
6	呼吸器疾患	呼吸リハビリテーション 医療ケア(聴診②)	
7	感染症	スタンダードプリコーション 医療職としての感染管理	
8	消化器疾患・内分泌代謝疾患	膵臓下垂の基礎 栄養サポートチーム	
9	血液疾患・免疫アレルギー疾患・膠原病	血液の役割 血液検査の理解①	
10	腎・泌尿器・生殖器疾患	腎臓リハビリテーション 血液検査の理解②	
11	腫瘍性疾患	がんリハビリテーション 血液検査の理解③	
12	習癖・睡眠関連疾患・心身症・虐待	子どもを取り巻く環境の理解 健康と家族	
13	医療的ケア	重症心身障害児 超重症児	
14	眼科・耳鼻科的疾患	視覚・聴覚の情報処理 学習障害児の理解	
15	小児疾患の特徴と作業療法を展開するうえでの注意事項	視覚テスト 健康教育の実践	

成績評価方法と基準	割合
①出席票、授業アンケートの提出 授業態度	①10%
②発表	②20%
③レポート、評価基準「医療職としての知識と態度」	③20%
④定期試験 出席を重視します。各自の担当の調査や発表の内容のまとめめなど、提出物やテストで判断します。	④50%

授業科目名	精神医学(作業) (Psychiatric Medicine)		
主担当教員	神澤 創	担当教員	
科目ナンバリング	SB118	専門基礎科目	
配当年次	2	開講学期	
授業形態	講義	単位数	
授業概要	2	必修・選択	
到達目標	<p>本講義では精神医学を総合的に学ぶが、医学・医療における精神医学の意義と役割、基本的な理念、精神医療の歴史を概観したのち、多様な精神症状の概念的知識と評価・検査方法を体系的に学ぶとともに、身体的基礎を有する精神障害から環境や心理的側面の関与が大きい精神障害に至るまで精神障害の原因論と、薬物・身体療法および精神療法に関する基本的知識を体系的に習得する。またその中で、頻度の高い精神障害と、児童期から老年期までのライフステージ各段階における主な精神障害について取り上げ、それらの診断と対応、身体疾患と精神障害との関係を理解する。</p>		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	<p>1. 精神医学の意義と基本的理念を理解し、説明できる。 2. 基本的な精神症状の概念を理解し、用語を正しく使用できる。 3. 精神障害を生物・心理・社会的な観点から多面的に捉えることができる。 4. 精神疾患の分類体系を理解しその概要を説明できる。 5. 代表的な精神疾患の特徴を理解し、その概要を説明できる。 6. 精神科的治療の種類と方法を理解し、その概要を説明できる。</p>		
教科書	<p>精神医学マイテキスト 改訂2版、金芳堂 B9 判・216頁、定価(本体3,800円+税)</p>		
参考書	<p>「PACT モデル～精神保健コミュニケーションケア プログラム～」D. オールネス著亀島信也・神澤創監訳、メディカ出版 研究室／オフィスアワー 神澤：非常勤講師なので質問は講義終了後に教室内で受ける。 前川：G棟研究室8ノ部屋にいればいつでも訪問可です。質問等はいつでも自由どうぞ。</p>		
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	オリエンテーションーヒューマンズとしての精神医学ー	予習：教科書第1章を読み精神医学の全体像をイメージする	前川
2	精神医学の方法と考え方・歴史・諸分野ー	予習：教科書第1章を読み、精神医学の歴史と発展について確認する	神澤
3	精神症候学 ①意識障害 ②見当識障害	教科書第2章を読み、意識障害の分類法、Japan Coma Scale、JCS(3・3・9 度方式)についても調べる	神澤
4	精神症候学③幻覚 ④妄想	教科書第2・6章を読む	神澤
5	精神症候学 ⑤感情・気分障害	教科書第2・7章を読む	神澤
6	精神症候学 ⑥記憶障害 ⑦知能障害	教科書第2・3章を読む	神澤
7	精神症候学 ⑦自我意識障害 ⑧その他	自我意識の障害とは？	神澤
8	精神疾患の分類(古典分類・ICD・DSM)	精神疾患の種類について学んでおく	神澤
9	精神障害の成因 ③家族力動 ④社会力動	家族関係や社会環境の影響とは？	神澤
10	精神疾患概論 ①器質性精神疾患	教科書第13章を読む	神澤
11	精神疾患概論 ②身体素因と精神疾患	統合失調症とは？うつ病、躁うつ病とは？	神澤

12	精神疾患概論 ③心因的要因と精神疾患	心の病とは？環境がもたらす精神疾患とは？	神澤
13	精神科治療総論 ②身体療法	薬物は精神のどこに効く？	神澤
14	精神科治療総論 ③心理療法 ③生活支援	精神障害の患者をどのように支える？	神澤
15	講義全体のまとめ(精神医療の展望)	精神医療が将来目指すものとは？	神澤
成績評価方法と基準			割合
定期試験			100%

授業科目名		精神医学各論(作業) (Detailed Psychiatry)	
主担当教員	神澤 創	担当教員	神澤 創、前川 佳敬
科目ナンバリング	SB119	科目区分	専門基礎科目
配当年次	2	開講学期	後期
授業形態	講義	単位数	2
授業概要			
本講義では精神医学各論を学ぶ。いわゆる内因性精神病(統合失調症、気分障害など)、器質性精神疾患(エビリプシン、薬物・アルコール性精神病、認知症など)、心因性精神疾患、人格障害、発達障害(注意欠陥/多動性障害、広汎性発達障害など)などの主要な障害をとりあげ、国際疾病分類(ICD-10)および米精神医学会診断マニュアル(DSM-IV)による診断基準、病前性格・精神症状・行動の特徴、成因、検査方法、治療方法について修得する。そしてより臨床に即した知識へと発展できるように、各疾患の症例報告を読解し、対象者を支援する。			
到達目標			
1. 精神疾患の分類体系を理解し、国際的な診断基準にもとづいて説明できる。			
2. 精神疾患の分類項目における主要な疾患について、それぞれの診断基準、病前性格、精神症状、行動の特徴、成因、検査方法、治療方法を理解し、説明できる。			
3. 各分類項目における主要な精神疾患の症例報告を読解し、解説できる。			
4. 各疾患の特性を考慮して、対象者を支援する際の課題を検討できる。			
履修上の注意(学生へのメッセージ)			
医学・医療を学ぶにふさわしい厳粛で誠実な態度で授業の場に参加して欲しい。			
大学でひとつの教科を学ぶということは1冊の教科書を丸ごと頭に入れるということです。			
教科書			
精神医学マイテキスト 改訂2版、金芳堂 B5判・216頁、定価(本体3,800円+税)			
参考書			
「PACT モデル」精神保健コミュニケーションケア プログラム～「D. オールネス著亀島信也・神澤創監訳、メディオ出版			
研究室/オフィスアワー			
神澤:非常勤講師なので質問は講義終了後に教室内で受ける。			
前川:心構研究室8ノ部屋にいればいつでも訪問可です。質問等はいつでもご自由どうぞ。			

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	オリエンテーション	総論の振り返りと各論への指針	前川
2	発達障害—知能と情緒—	発達とは何かについて考え教科書第2章を読む	神澤
3	統合失調症スベクトラム	「統合失調症ナビ」などのサイトのサイトで統合失調症に関する情報に触れ、教科書第6章を読む	神澤
4	気分障害・双極性障害・抑うつ障害	双極性障害が疑われる歴史上の人物について調べる、教科書第7章を読む	神澤
5	不安障害	自分にとって不安とは何かについて考え、教科書第8章を読む	神澤
6	強迫性障害	確かめ行為等身近な強迫行為について考え、教科書第8章を読む	神澤
7	心的外傷およびストレス関連障害	ストレスの心身への影響について考え、教科書第8章を読む	神澤
8	解離性障害	解離の問題について考え、教科書第7章を読む	神澤
9	摂食障害	摂食障害を身近な問題ととらえ、教科書第13章を読む	神澤
10	嗜睡性障害(物質・行動)	ネットや薬物などへの依存・乱用について考え、教科書第10章を読む	神澤
11	パーソナリティ障害	人格の障害について考え、教科書第9章を読む	神澤
12	身体的治療	薬物療法などに関して教科書第16章を読む	神澤

13	精神療法	心理療法的アプローチ子に関して教科書第16章を第2節読み 精神保健福祉法、障がい者自立支援法、各種障害福祉サービスについて学ぶとともに「NPO 法人地域精神保健福祉機構・コンポ」等のサイトを閲覧してみる	神澤
14	心理社会的治療		神澤
15	講義全体のまとめと振り返り	予習：精神疾患が人生に与える影響について考える 復習：精神障害の周辺にある「生きづらさ」を理解する	神澤
成績評価方法と基準			割合
定期試験			100%

授業科目名		臨床心理学(作業) (Clinical Psychology)	
主担当教員	神澤 創	担当教員	神澤 創
科目ナンバリング	SB120	科目区分	専門基礎科目
配当年次	2	開講学期	後期
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	臨床心理学は心の健康を維持・増進するための理論と技法からなり、その背景には長年にわたる、科学的心理学と臨床実践の積み重ねがある。本講義では、臨床心理学に関する基本的な理論とアセスメントおよび心理的支援技法について学ぶことを目的とする。基本的には講義形式で行うが必要に応じて、視覚教材の活用や心理検査実習、ロールプレイなどを導入する。		
到達目標	1. 患者・利用者・クライアントなどと呼ばれる人たちの心理的側面に配慮できるようになる。 2. 作業療法評価の一端として、臨床心理学的視点を加えられるようになる。 3. 講義で学んだ知識や技術を実際に臨床場面で活用できるようになる。		
履修上の注意(学生へのメッセージ)			
授業計画表はあくまでも予定ですので、進度に合わせて変更することもあります。			
教科書			
適宜資料を配布します。			
参考書			
『臨床心理面接の実践』心理学のポイント・シリーズ』第9巻 臨床心理学、玉瀬祥治編、学文社 『PACT モデル～精神保健コミュニティケア プログラム～』D. オールネス著亀島信也・神澤創監訳、メディカ出版			
研究室/オフィスアワー			
講義日_非常勤講師控室			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	オリエンテーション 臨床心理学とは何か	予習：ここからたを素早くかくしてくる。 復習：推奨される文献を読み、映画を観る。	神澤
2	臨床心理学の基礎理論 1 力動論	予習：「夢」を記録しておく。 復習：無意識について考えてみる。	神澤
3	臨床心理学の基礎理論 2 行動論	予習：犬と猫ではどちらが「賢い」か考えてみる 復習：「学習」の意味を確認する	神澤
4	心理アセスメント 1 検査と面接	予習：アセスメントの目的について考える 復習：アセスメントの意味を確認する	神澤
5	心理アセスメント 2 知能検査	予習：知能とは何か考えてみる。 復習：知能の意味について確認する。	神澤
6	心理アセスメント 3 質問紙法	予習：占いと心理テストの違いについて考えてみる。 復習：質問紙の特性について理解する。	神澤
7	心理アセスメント 4 投影法①	予習：「力動論」を復習しておく 復習：無意識とは何か理解する。	神澤
8	心理アセスメント 5 投影法②	予習：復習： 復習：	神澤
9	心理療法の実践 1 カウンセリング	予習：できれば映画グッドウィルハルデンティング「普通の人々」を観る。 復習：人の話しを聴いてみる	神澤
10	心理療法の実践 2 プリーセラピー	予習：Mental Research Institute のHPをのぞいておく 復習：使えそう技法を練習する。	神澤
11	心理療法の実践 3 SST	予習：SST普及協会のHPをのぞいてみる 復習：地域にある施設や活動を見学する	神澤
12	心理療法の実践 4 表現療法	予習：自分が気に入った絵や写真を集めておく 復習：ひとりやってみる	神澤
13	臨床心理的地域支援 1 自殺予防対策	予習：日本自殺予防学会のホームページをのぞいてみる 復習：自分にできそうな自殺対策について考える	神澤
14	臨床心理的地域支援 2 精神障害者の活動支援	予習：精神障害の種類や症状について勉強しておく	神澤

	復習：地域にある施設や活動を見学する
15	予習： 復習： 神澤
成績評価方法と基準	割合
筆記試験 60 点以上	100%

授業科目名	老年医学(作業) (Geriatrics)																																														
主担当教員	前川 佳敬	担当教員	前川 佳敬																																												
科目ナンバリング	SB121	科目区分	専門基礎科目																																												
配当年次	3	開講学期	前期																																												
授業形態	講義	単位数	1																																												
授業概要	<p>高齢化社会において必要不可欠である老年病医学について講義する。老化の概念・加齢に伴う生理的変化・老年症候群を概説し、老年期に多く見られる各種疾患の特徴について講義する。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 老化のメカニズムが説明できる。 2. 加齢に伴う機能の変化を理解する。 3. 高齢者の機能評価の意義と手法を説明できる。 4. 老年症候群の意義と病態を理解する。 5. 老年期における各種疾患の病態を把握する。 6. 疾患治療としての医療だけでなく、全人的医療を理解する。 <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢化社会における医療人として、社会的必要性の高い知識であることを認識すること。 2. 講義を聞かずに教科書だけ読んで理解困難と考えられるため、出席して講義を聞くこと。 3. 学習すべき量が多いため、効率よく理解すべく必ずノートに板書内容を記載すること。試験前に教科書を読んで全部覚えるのは不可能です。ノートに沿って教科書を活用してください。 4. 疾患については論理的なイメージを理解する努力をすること。 5. 疑問点は大切に、解決に向けて行動すること。 6. 努力をしない学生・態度不良の学生には単位を与えない 																																														
教科書	標準理学療法学・作業療法学 老年学 (著者：大内耐藏 医学書院)																																														
参考書	なし																																														
研究室/オフィスアワー	研究室/8/ 部屋にいればいつでも訪問可です。質問等はいつでもご自由どうぞ。																																														
授業展開及び授業計画表	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>学修内容</th> <th>予習・復習・課題等</th> <th>担当</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>老化のメカニズムと独立した概念としての老年病医学の理解</td> <td>老年医療の独自性・特殊性を復習して理解する。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>加齢に伴う生理機能・運動機能・精神心理面の変化</td> <td>老化による生理機能・運動機能・精神心理面の変化を自宅学習にて理解しておく。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>高齢者の機能評価</td> <td>機能評価の手法を説明できるようにしておく。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>老年症候群における代表的な症候の理解</td> <td>老年症候群の意味と高齢者医療における重要性を理解しておく。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>精神疾患(認知症・うつ病など)</td> <td>認知症の症状・原因疾患、高齢者のうつ病の特徴について理解を深めること。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>高齢者の脳血管障害</td> <td>種々の脳血管障害の特徴について理解を深めること。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>高齢者の循環器疾患</td> <td>虚血性心疾患・不整脈・心不全の理解を深める。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>高齢者の呼吸器・内分泌疾患</td> <td>高齢者の肺炎・COPD、糖尿病・合併症について理解を深めること。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>成績評価方法と基準</td> <td colspan="3">割合</td> </tr> <tr> <td>筆記テスト</td> <td colspan="3">筆記テスト 100%</td> </tr> </tbody> </table>			回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当	1	老化のメカニズムと独立した概念としての老年病医学の理解	老年医療の独自性・特殊性を復習して理解する。		2	加齢に伴う生理機能・運動機能・精神心理面の変化	老化による生理機能・運動機能・精神心理面の変化を自宅学習にて理解しておく。		3	高齢者の機能評価	機能評価の手法を説明できるようにしておく。		4	老年症候群における代表的な症候の理解	老年症候群の意味と高齢者医療における重要性を理解しておく。		5	精神疾患(認知症・うつ病など)	認知症の症状・原因疾患、高齢者のうつ病の特徴について理解を深めること。		6	高齢者の脳血管障害	種々の脳血管障害の特徴について理解を深めること。		7	高齢者の循環器疾患	虚血性心疾患・不整脈・心不全の理解を深める。		8	高齢者の呼吸器・内分泌疾患	高齢者の肺炎・COPD、糖尿病・合併症について理解を深めること。		成績評価方法と基準	割合			筆記テスト	筆記テスト 100%		
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当																																												
1	老化のメカニズムと独立した概念としての老年病医学の理解	老年医療の独自性・特殊性を復習して理解する。																																													
2	加齢に伴う生理機能・運動機能・精神心理面の変化	老化による生理機能・運動機能・精神心理面の変化を自宅学習にて理解しておく。																																													
3	高齢者の機能評価	機能評価の手法を説明できるようにしておく。																																													
4	老年症候群における代表的な症候の理解	老年症候群の意味と高齢者医療における重要性を理解しておく。																																													
5	精神疾患(認知症・うつ病など)	認知症の症状・原因疾患、高齢者のうつ病の特徴について理解を深めること。																																													
6	高齢者の脳血管障害	種々の脳血管障害の特徴について理解を深めること。																																													
7	高齢者の循環器疾患	虚血性心疾患・不整脈・心不全の理解を深める。																																													
8	高齢者の呼吸器・内分泌疾患	高齢者の肺炎・COPD、糖尿病・合併症について理解を深めること。																																													
成績評価方法と基準	割合																																														
筆記テスト	筆記テスト 100%																																														

授業科目名		リハビリテーション医学(作業) (Rehabilitation Medicine)		
主担当教員	前田 薫	担当教員	前田 薫	
科目ナンバリング	SB122	専門基礎科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP①②③
配当年次	3	開講学期	前期	金曜 1限
授業形態	講義	単位数	1	必修
授業概要				
本講義では、リハビリテーション医学の全体像を解説する。リハビリテーション医学の科学的基礎は多岐に渡り研究されており、めざましく進歩している。これらのうち、基礎と思われる事項について講義を行う。				
到達目標				
リハビリテーション医学の各分野の基礎事項について説明できる。				
履修上の注意(学生へのメッセージ)				
講義内容が多岐に渡る。したがって、講義内容をより良く理解するためには、各回に指定されている予習・復習を行うことが重要である。				
教科書				
千野直一(監修)、現代リハビリテーション医学(改訂第4版)、金原出版				
参考書				
特に指定しない。				
研究室/オフィスアワー				
前田: ポイントメントを事前にとりください。対応困難な時間帯: 毎週月曜2限、毎週火曜、および前田が担当する講義時間				
授業展開及び授業計画表				
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当	
1	リハビリテーション医学総論(前田)	予習: 教科書の当該範囲を読む。 復習: 講義で強調した箇所について理解できているかを確認する。	前田	
2	組織の修復課程(前田)	予習: 事前配布資料を読む。 復習: 講義で強調した箇所について理解できているかを確認する。	前田	
3	リハビリテーション診断、機能障害の評価(前田)	予習: 教科書の当該範囲を読む。 復習: 講義で強調した箇所について理解できているかを確認する。	前田	
4	リハビリテーション治療学および各論①(前田)	予習: 教科書の事前に指定された範囲を読む。 復習: 講義で強調した箇所について理解できているかを確認する。	前田	
5	リハビリテーション治療学および各論②(前田)	予習: 教科書の事前に指定された範囲を読む。 復習: 講義で強調した箇所について理解できているかを確認する。	前田	
6	リハビリテーション治療学および各論③(前田)	予習: 教科書の事前に指定された範囲を読む。 復習: 講義で強調した箇所について理解できているかを確認する。	前田	
7	リハビリテーション治療学および各論④(前田)	予習: 教科書の事前に指定された範囲を読む。 復習: 講義で強調した箇所について理解できているかを確認する。	前田	
8	リハビリテーション治療学および各論⑤(前田)	予習: 教科書の事前に指定された範囲を読む。 復習: 講義で強調した箇所について理解できているかを確認する。	前田	
成績評価方法と基準				
筆記試験の結果、60/100点以上で単位認定する。				割合
				100%

授業科目名		医療関係法規論(作業) (Medicine Related Laws and Regulations)		
主担当教員	李 庸吉	担当教員	李 庸吉	
科目ナンバリング	SB123	専門基礎科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP①
配当年次	2	開講学期	前期	木曜 4限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択
授業概要				
ここで勉強することになる分野は「医事法」と称される領域になるが、それは憲法をはじめ民法、刑法、行政法等、複数の法の複合領域ともいえる。そこで、まず医事法全体を概観しながら法の基本的な概念を身につけていき、次いで作業療法士にとって関連の深い諸法について学び、裁判例などにも触れてみたい。				
到達目標				
1. 作業療法士に関連を有する法律並びに行政について理解させる。 2. 基本的な法概念と法感覚を身につけた上、理学療法士及び作業療法士の法的な位置づけについて知識を習得させる。 3. 医師法をはじめとする医療関係者法並びに医療法の概要、さらに作業療法士の法的な位置づけについての知識を習得させる。 4. また責任法という観点から、法を学ぶことが医療者の行動指針につながることも理解させる。				
履修上の注意(学生へのメッセージ)				
他の教科もそうだが、法学も一夜漬けでどうこうできるものではありません。次第が多いと訳が分からなくなるとは必ずしてよろから、毎回の出席と復習が何より大事だと思います。				
教科書				
手嶋豊『医事法入門』(第5版)』(有斐閣アルマ)				
参考書				
特に無し				
研究室/オフィスアワー				
非常勤講師控室				
授業展開及び授業計画表				
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当	
1	イントロダクション、医療者が法を学ぶ意義	配布資料を基に復習することが望ましいと思います。まずは用語に慣れることも念頭においておくことでよいでしょう。		
2	法とは何か、法の種類と体系	同上また、最初は予習より復習の方に主眼をおくことでよいと思います。		
3	医療と入権(総説)	同上個別具体的な事項については講義の中で適宜お伝えします。		
4	各論:自己決定権、プライバシー権等	同上ゆとりのある方は、上にあげている参考書等を用いて予習をすることができれば、さらに理解が立体的になってよいと思います。		
5	医療における刑法上の問題(総説)	同上		
6	各論:生命・身体に関する罪を中心に	同上		
7	医療における民法上の問題(総説)	同上		
8	各論:医療契約、不法行為	同上		
9	理学療法士及び作業療法士法①(総則、免許、欠格事由)	同上		
10	理学療法士及び作業療法士法②(業務、守秘義務、罰則)	同上		
11	医療関係者法(医師法、歯科医師法、保健師助産師看護師法等)	同上		
12	医療法(医療提供の理念、医療提供施設及びその管理等)	同上		
13	医療安全(医療の質、リスクマネジメント等)	同上(加えて参考資料等を適宜紹介するようになります。)		
14	判例学習	同上		
15	講義全体のまとめと振り返り	試験に向けて総復習となるでしょうが、とにかく反		

<p>復すること、考えることがしつかりした理解にも結びつきます。 法字は決して暗記オンリーの科目ではないことに留意する必要があります。</p>	割合 ①30% ②70%
成績評価方法と基準	
①レポート(ミニレポート)課題 ②定期試験	

理学療法概論(作業) (Introduction to Physical Therapy)			
授業科目名	金尾 颯郎	担当教員	金尾 颯郎
主担当教員	SBI24	専門基礎科目	ディプロマポリシー 該当項目
科目ナンバリング	2	科目区分	DP①②
配当年次	講義	開講学期	曜日・時限 火曜1限
授業形態	1	単位数	必修・選択 選択
授業概要	リハビリテーションにおける作業療法と理学療法の位置づけを学び、理学療法について概略を学びます。理学療法の構成要素を理解し、関連専門職として、チーム医療のへ取り組みについても取り上げます。		
到達目標	関連職種としての理学療法を理解し、作業療法との違いが明確にできる。 障害構造を理解し、理学療法で行う評価、理論と実際について理解する。 履修上の注意(学生へのメッセージ)		
事前配布資料を必ず読んでください。			
教科書			
教科書は特に定めず 配布資料にて定める			
参考書			
奈良勲 編著 理学療法概論 医歯薬出版 細田多穂 編 理学療法入門テキスト 南江堂 中村隆一・佐直彦 編 入門 リハビリテーション概論 医歯薬出版 研究室/オフィスアワー			
水曜日の1限、もしくは、事前に連絡があれば随時対応します。			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	1)リハビリテーションと理学療法・作業療法 2)障害学 ・国際障害分類(ICIDH) ・国際生活機能分類(ICF)	教科書にて、予習をすること。 配布資料にて、復習をすること。	金尾
2	理学療法評価① 筋力・関節可動域 他	予習・復習を行うこと。	金尾
3	理学療法評価② 動作をみる	予習・復習を行うこと。	金尾
4	運動療法①	予習・復習を行うこと。	金尾
5	運動療法②	予習・復習を行うこと。	金尾
6	物理療法	予習・復習を行うこと。	金尾
7	チーム医療① ・急性期・回復期のリハビリテーション	予習・復習を行うこと。	金尾
8	チーム医療② ・維持期(生活期)・終末期のリハビリテーション	予習・復習を行うこと。	金尾
成績評価方法と基準			
1. 定期試験 2. 小テスト・レポート課題およびグループ課題他			
割合 1. 80% 2. 20%			

授業科目名		芸術療法論(作業) (Art Therapy)	
主担当教員	橋本 弘子	担当教員	橋本 弘子、金森 幸
科目ナンバリング	SB125	専門基礎科目	DP①②
配当年次	2	開講学期	前期
授業形態	講義	単位数	1
授業概要	<p>主な芸術療法(ダンスセラピー、アートセラピーなど)の体験を通して自身や他者に養われた身体的・精神的効果を体験し、その効果がいかなるものであるのかを認識能力からも理解を深める。また、様々な疾患に対する芸術療法の適応についても学ぶ。さらには作業療法として必要な集団療法について、芸術療法をどのように生かせるのかを学ぶ。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 芸術療法の概念を学んだ後、体験を通して理解を深める 2. 芸術療法の治療的効果について学ぶ 3. 体験を通して身体と心とのあり方を学ぶ 4. 集団療法の効果について学ぶ <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>8回を通しての芸術療法です必ず出席してください。</p>		
教科書			
指定教科書はありません。			
参考書	<ol style="list-style-type: none"> 1. 表現アートセラピー入門 小野京子 誠信書房 2. 人と集団・場・一人の集まりと場を利用する 第2版 鎌倉矩子編 三輪書店 3. レクリエーション 社会参加を促す治療的レクリエーション 寺山久美子監修 三輪書店 4. 脳卒中者の集団リハビリテーション 大田仁史 三輪書店 		
研究室/オフィスアワー			
水曜日(14:40~16:10) 木曜日(10:40~12:10)			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	芸術療法の歴史 芸術療法の表現様式と適応 芸術療法とリハビリテーション	芸術療法の歴史や様々な様式について知り、どのような疾患に適応するのかを学ぶ。また、作業療法との接点を考える。	
2	ニューロダンス/演技	ダンスを体験し、身体的・精神的変化について実感する。実感したことをレポートに考察を入れて提出する。	
3	ボディワーク/演技	身体活動が精神・認知面へおよび効果についてレポートを提出する	
4	身体、心、脳の関係について学ぶ	身体、心、脳の関係について考える。	
5	集団における芸術療法の適応について学ぶ	集団における芸術療法の適応について説明できる	
6	集団における芸術療法の適応について学ぶ	集団における芸術療法の適応についてレポートを提出	
7	様々な療法の実践方法と効果について学ぶ	療法の実践方法と効果についてレポートを作成する	
8	様々な療法の実践方法と効果について学ぶ	療法の実践方法と効果についてレポートを提出する	
成績評価方法と基準			
1. レポート点			
2. 実技試験			
割合			
1. 60%			
2. 40%			

授業科目名		言語聴覚療法、摂食・嚥下障害学(作業) (Speech-hearing Therapy / Eating and Degultition Disorder)	
主担当教員	堀 竜次	担当教員	堀 竜次、金属 顕郎、渋谷 静英、戸名 久美子
科目ナンバリング	SB126	専門基礎科目	DP①②
配当年次	3	開講学期	後期
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	<p>(概要)オムニバス方式にて理学療法士・作業療法士が知っておくべき言語・高次脳機能障害および摂食・嚥下障害について学習する。</p> <p>【言語聴覚療法 渋谷静英 6回・戸名久美子 4回】 コミュニケーション障害の内容と評価・訓練方法について学習する 【嚥下障害学 渋谷静英 2回】嚥下障害の評価と摂食・嚥下療法について学習する。 【嚥下障害学 金属顕郎 1回】嚥下機能と姿勢調整について学習する。 【嚥下障害学 堀 竜次 2回】嚥下に関わる解剖学と生理学および感染性肺炎予防のアプローチについて学習する。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 言語・高次脳機能障害について理解し、意思伝達時の留意点・工夫などを体得する。 2. 嚥下障害について理解し、理学療法士・作業療法士がどのように介入できるかを考えられるようになる。 <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 講義内容は、理学療法・作業療法を進めるにあたり必要な内容であることを認識すること。 2. 演習やグループワークには積極的に参加し、疑問点について、必ず解決の行動をとること。 <p>教科書</p> <p>「絵でわかる言語障害」毛東真知子 学研 「脳からわかる摂食・嚥下障害」馬場元毅、鎌倉やよい 学研</p> <p>参考書</p> <p>特に無し</p> <p>研究室/オフィスアワー</p> <p>金曜日(10:40~12:10) 水曜日(10:40~12:10) 木曜日(10:40~12:10)</p> <p>堀:金曜日の10時、もしくは、事前に連絡があれば随時対応します。 渋谷、戸名:講義日の非常勤講師授業</p> <p>授業展開及び授業計画表</p>		
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	言葉とは?	予習:教科書の第1章を予習しておく 復習:講義で実施した小テストの復習	戸名
2	聴覚障害	予習:教科書の12~23ページを予習しておく 復習:講義で実施した小テストの復習	戸名
3	構音障害	予習:教科書の24~49ページを予習しておく 復習:音声・発音の仕組みについて復習する	渋谷
4	音声障害	予習:教科書の50~63ページを予習しておく 復習:音声障害の症状について復習する	渋谷
5	失語症 1	予習:教科書の68~99ページを予習しておく 復習:失語症の概念と症状について復習する	渋谷
6	失語症 2	予習:教科書の58~99ページを予習しておく 復習:失語症の評価と対応について復習する	渋谷
7	高次脳機能障害 1	予習:事前に配布する「高次脳機能障害」のプリントを予習しておく 復習:講義で実施した小テストの復習	渋谷
8	高次脳機能障害 2	予習:事前に配布する「高次脳機能障害」のプリントを予習しておく 復習:講義で実施した小テストの復習	渋谷
9	認知症	予習:第1回目講義で配布する「認知症」のプリントを予習しておく 復習:講義で実施した小テストの復習	戸名
10	吃、小児の言語障害、AAC	予習:第1回目講義で配布する「吃、小児の言語障害、AAC」のプリントを予習しておく 復習:講義で実施した小テストの復習	戸名

11	嚥下のメカニズム	予習：嚥下の5期モデルについて予習しておく 復習：嚥下に関わる解剖学と生理学を復習する	堀
12	嚥下機能と姿勢調整	予習：嚥下の運動メカニズムについて予習しておく 復習：嚥下と姿勢の関係について復習する	金尾
13	嚥下障害の評価	予習：教科書の116～120ページを予習しておく 復習：嚥下障害の評価を復習する	渋谷
14	摂食嚥下療法	予習：教科書の121～129ページを予習しておく 復習：直接嚥下訓練、間接嚥下訓練について復習する	渋谷
15	誤嚥性肺炎予防のアプローチ	予習：誤嚥性肺炎について予習しておく 復習：誤嚥性肺炎予防の概念について復習する	堀
成績評価方法と基準			
1. 学期末の筆記試験により評価する(言語聴覚療法:60%、嚥下障害学:40%)			
2. 授業中に実施される課題レポート、小テストを評価の対象とする。			

授業科目名	介護学概論・ボランティア活動論(作業) (Introduction to Nursing Care / Volunteer Activities Studies)			
主担当教員	上田 喜敏	担当教員	上田 喜敏	
科目ナンバリング	SBI27	科目区分	専門基礎科目	ディプロマポリシー 該当項目 DP①②③
配当年次	2	開講学期	後期	月曜2限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択 選択
授業概要	介護学概論では、日本の高齢者や障害のある人々のケア(介護)について述べる。具体的には介護に必要な基本技術について述べてゆき、理解を深める。将来介護保険などの関係者と協業したり、介護保険報酬に就職した時に必要な介護の基本について理解する。ボランティア活動論ではボランティアについての理解と医療従事者として介護のある人々や高齢者の方を思える人間形成として学ぶ。			
到達目標	1. ケア(介護)について理解する。 2. 日本の社会制度について理解することができる。 3. ボランティアについて理解することができる。 4. 車いす介助操作を理解する。 5. 自発性を養うことができる。			
履修上の注意(学生へのメッセージ)	1. 必ず復習はすること(初めての言葉等が多いので) 2. 興味を持つこと 3. 講義中は携帯電話等はカバンに入れること 4. 車いす介助の実技がある(季節によって前にする場合がある)			
教科書				
配布資料ですめる。				
参考書				
介護支援専門員テキスト				
研究室/オフィスアワー				
上田: 研究室 7/木曜日午前				
授業展開及び授業計画表				
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当	
1	介護について、日本の社会保険制度	復習: 授業メモと配布資料を確認		
2	介護保険と日本の高齢化問題	復習: 授業メモと配布資料を確認		
3	高齢者支援展開論 1	復習: 授業メモと配布資料を確認		
4	高齢者支援展開論 2	復習: 授業メモと配布資料を確認		
5	高齢者支援展開論 3	復習: 授業メモと配布資料を確認		
6	高齢者支援展開論 4	復習: 授業メモと配布資料を確認		
7	高齢者の人権	復習: 授業メモと配布資料を確認		
8	障害とは	復習: 授業メモと配布資料を確認		
9	総合支援法 1	復習: 授業メモと配布資料を確認		
10	総合支援法 2 とまとめ	復習: 授業メモと配布資料を確認		
11	ボランティアの歴史と活動の本質	復習: 授業メモと配布資料を確認		
12	ボランティアとコミュニケーション	復習: 授業メモと配布資料を確認		
13	車いす介助の基礎	復習: 授業メモと配布資料を確認		
14	車いす介助 1	実技での練習		
15	車いす介助 2	実技での練習		

成績評価方法と基準	割合
1. 定期試験(90点)	1. 90%
2. レポート等(10点)	2. 10%
*全授業のうち2/3以上の出席が必要	

授業科目名	スポーツ医学(作業) (Sports Medicine)	
主担当教員	川畑 浩久	担当教員 川畑 浩久、吉岡 敏治
科目ナンバリング	SBI28	専門基礎科目 ディプロマポリシー 該当項目 DP①②③
配当年次	2	開講学期 前期 月曜3限
授業形態	演習	単位数 2 必修・選択 選択
授業概要	<p>2年次の整形外科で学んだ運動器の解剖とスポーツ傷害について、メカニカルチェックや症状、対処法などについてより理解を深め、またスポーツ外傷における救急処置の重要性についても学ぶ。あわせてスポーツ現場で遭遇しやすい内科疾患についてもメカニカルチェックや症状について学ぶ。</p> <p>到達目標</p> <p>重症度と緊急性を理解し、スポーツ現場で発生する最も重篤な心肺停止に対応できるようになること、また、発生頻度の高い脳震盪と頭部外傷、熱中症の病態を理解し、発生現場における予防や救急処置法を習得する。</p> <p>さらにスポーツ現場で遭遇する運動器の外傷や障害、内科疾患についてのメカニカルチェックや対処法についても習得する。</p> <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>スポーツ医学は、運動器の解剖学、生理学を土台にするもので、他の講義で学んだ解剖学や運動機能の評価方法、理学所見の取り方を質問することから始める。ほとんどの授業内容は、資料として配布するスライドを中心に進めるので、講義に出席せず、資料だけを見ても理解困難である。心停止や頭部外傷、熱中症等の傷害発生の理論的なイメージを獲得する努力をすることが重要である。</p> <p>教科書</p> <p>配布プリント(適宜配布いたします。)</p> <p>参考書</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床医学名論(第2版)医歯薬出版 179頁～185頁、288頁～301頁 2. 救急蘇生法の指針 2015(医療従事者用、改訂第5版)へるす出版 3. 標準整形外科科学 第12版 中村利孝/松野文夫 監修 医学書院、2014. 4. 新版 スポーツ整形外科マニュアル 稲林徹 監修 中外医学社、2013. 5. スポーツ整形外科科学 中嶋寛之 編集 南江堂、1998年. <p>研究室/オフィスアワー</p> <p>吉岡敏治(0棟研究室4)/原則月曜日2・3時間目ですが、その他、部屋にいれば、いつでも訪問可です。</p> <p>川畑浩久(0棟研究室707)/木、金曜日 17:00～18:00ですが、部屋にいればいつでも訪問可です。</p>	
授業展開及び授業計画表		
回数	学修内容	予習・復習・課題等 担当
1	スポーツ外傷の救急処置 重症度と緊急性、心肺蘇生、脳震盪と頭部外傷、脊髄損傷、熱中症	予習:不要(整形外科科学の外傷部分) 復習:配布プリント 吉岡
2	スポーツ外傷・障害の総論 1)内科的疾患に対する健診およびメカニカルチェック	予習:スポーツにより発生する主な内科疾患の症状などについて予習しておくこと 川畑 復習:これまでに学んだ内科疾患の検査法などについて復習すること
3	スポーツ外傷・障害の総論 1)運動器疾患に対する処置(応急処置(テーピング・三角巾など)および外科的処置)	予習:スポーツにより発生する主な運動器疾患について予習しておくこと 川畑 復習:これまでに学んだ運動器疾患の検査法などについて復習すること
4	肩関節のスポーツ外傷・障害 1)急性外傷の症状(自覚症状・他覚所見)と処置方法(スポーツの中止と応急処置ならびにその後の治療法)	予習:肩関節の解剖学について予習しておくこと 川畑 復習:授業で学んだ肩関節の外傷について復習すること
5	肩関節のスポーツ外傷・障害 1)慢性な障害の症状(自覚症状・他覚所見)と治療法ならびに予防法	予習:肩関節の解剖学、運動学について予習しておくこと 川畑 復習:授業で学んだ肩関節の障害について復習すること
6	肘関節のスポーツ外傷・障害 1)急性外傷の症状(自覚症状・他覚所見)と処置方法(スポーツの中止と応急処置ならびにその後の治療法)および 2)慢性な障害の症状(自覚症状・他覚所見)と治療法ならびに予防法	予習:肘関節の解剖学、運動学について予習しておくこと 川畑 復習:授業で学んだ肘関節の外傷、障害について復習すること

7	手関節のスポーツ外傷・障害: 1)急性外傷の症状(自覚症状・他覚所見)と処置方法(スポーツの中止と応急処置ならびにその後の治療法)および 2)慢性の障害の症状(自覚症状・他覚所見)と治療法ならびに予防法 指関節のスポーツ外傷・障害: 1)急性外傷の症状(自覚症状・他覚所見)と処置方法(スポーツの中止と応急処置ならびにその後の治療法)および 2)慢性の障害の症状(自覚症状・他覚所見)と治療法ならびに予防法	予習:手関節の解剖学、運動学について予習しておくこと 復習:授業で学んだ手関節の外傷、障害について復習すること 予習:指関節の解剖学、運動学について予習しておくこと 復習:授業で学んだ指関節の外傷、障害について復習すること	川畑
8	指関節のスポーツ外傷・障害: 1)急性外傷の症状(自覚症状・他覚所見)と処置方法(スポーツの中止と応急処置ならびにその後の治療法)および 2)慢性の障害の症状(自覚症状・他覚所見)と治療法ならびに予防法 股関節のスポーツ外傷・障害: 1)急性外傷の症状(自覚症状・他覚所見)と処置方法(スポーツの中止と応急処置ならびにその後の治療法)および 2)慢性の障害の症状(自覚症状・他覚所見)と治療法ならびに予防法	予習:指関節の解剖学、運動学について予習しておくこと 復習:授業で学んだ指関節の外傷、障害について復習すること 予習:股関節の解剖学、運動学について予習しておくこと 復習:授業で学んだ股関節の外傷、障害について復習すること	川畑
9	膝関節のスポーツ外傷・障害: 1)急性外傷の症状(自覚症状・他覚所見)と処置方法(スポーツの中止と応急処置ならびにその後の治療法)および 2)慢性の障害の症状(自覚症状・他覚所見)と治療法ならびに予防法 膝関節のスポーツ外傷・障害: 1)急性外傷の症状(自覚症状・他覚所見)と処置方法(スポーツの中止と応急処置ならびにその後の治療法)	予習:膝関節の解剖学、運動学について予習しておくこと 復習:授業で学んだ膝関節の外傷について復習すること 予習:肩関節の解剖学、運動学について予習しておくこと 復習:授業で学んだ肩関節の外傷について復習すること	川畑
10	膝関節のスポーツ外傷・障害: 1)急性外傷の症状(自覚症状・他覚所見)と処置方法(スポーツの中止と応急処置ならびにその後の治療法)および 2)慢性の障害の症状(自覚症状・他覚所見)と治療法ならびに予防法	予習:膝関節の解剖学、運動学について予習しておくこと 復習:授業で学んだ膝関節の外傷について復習すること	川畑
11	膝関節のスポーツ外傷・障害: 1)急性外傷の症状(自覚症状・他覚所見)と処置方法(スポーツの中止と応急処置ならびにその後の治療法)および 2)慢性の障害の症状(自覚症状・他覚所見)と治療法ならびに予防法	予習:膝関節の解剖学、運動学について予習しておくこと 復習:授業で学んだ膝関節の外傷について復習すること	川畑
12	下腿部・足関節のスポーツ外傷・障害: 1)急性外傷の症状(自覚症状・他覚所見)と処置方法(スポーツの中止と応急処置ならびにその後の治療法)および 2)慢性の障害の症状(自覚症状・他覚所見)と治療法ならびに予防法	予習:足関節・足部の解剖学、運動学について予習しておくこと 復習:授業で学んだ足関節・足部の外傷について復習すること	川畑
13	下腿部・足関節のスポーツ外傷・障害: 1)慢性の障害の症状(自覚症状・他覚所見)と治療法ならびに予防法	予習:足関節・足部の解剖学、運動学について予習しておくこと 復習:授業で学んだ足関節・足部の障害について復習すること	川畑
14	体幹(頸部、胸部、腰部)のスポーツ外傷・障害: 1)急性外傷の症状(自覚症状・他覚所見)と処置方法(スポーツの中止と応急処置ならびにその後の治療法)および 2)慢性の障害の症状(自覚症状・他覚所見)と治療法ならびに予防法	予習:頸部、胸部、腰部の解剖学、運動学について予習しておくこと 復習:授業で学んだ頸部、胸部、腰部の外傷、障害について復習すること	川畑
15	スポーツによる内科的疾患: 1)循環器・呼吸器疾患における慢性的な障害の症状(自覚症状・他覚所見)と治療法ならびに予防法 2)消化器、泌尿器疾患における慢性的な障害の症状(自覚症状・他覚所見)と治療法ならびに予防法	予習:スポーツにより発生する主な循環器、呼吸器、消化器、泌尿器などの疾患の症状などについて予習しておくこと 復習:これまで学んだ循環器、呼吸器、泌尿器疾患について復習すること	川畑

成績評価方法と基準

1. 定期試験にて評価する。

漢方医学各論(作業) (Detailed Kampō Medicine)		漢方医学各論(作業)	高屋 豊	担当教員	高屋 豊
授業科目名	漢方医学各論(作業)	高屋 豊	高屋 豊	専門基礎科目	ディプロマポリシー DP②
主担当教員	高屋 豊	SBI29	高屋 豊	前期	木曜5限
科目ナンバリング	SBI29	3	高屋 豊	2	選択
配当年次	3	講義	高屋 豊		
授業形態	講義		高屋 豊		
授業概要			高屋 豊		
到達目標			高屋 豊		
症例ごとの漢方医学的病態を理解し、適切な対応が出来る。			高屋 豊		
履修上の注意(学生へのメッセージ)			高屋 豊		
漢方医学概論で学んだ漢方概念を元に、日常的な診療で遭遇する各疾患に対して、漢方医学的な視点を持って診療出来るようになることを希望します。			高屋 豊		
教科書			高屋 豊		
●寺澤 歳年 (著) 総でみる和漢診療学 (JUNブックス) 出版社: 医学書院 ISBN-10: 42600369199 ISBN-13: 978-42600369190			高屋 豊		
参考書			高屋 豊		
●寺澤 歳年 (著) 症例から学ぶ和漢診療学 第3版 単行本 出版社: 医学書院; 第3版 ISBN-10: 4260013866 ISBN-13: 978-4260013864 研究室/オフィスアワー			高屋 豊		
高屋 豊:E 棟1階 非常勤控室			高屋 豊		
授業展開及び授業計画表			高屋 豊		
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当		
1	講師かららみだ漢方の世界観	これまで学んだ漢方概論を復習し、自分なりの漢方概念を確認しておいて下さい。 漢方概論のおさらいと、お互いの概念の違いなどをディスカッションできればと思います。			
2	和漢診療学とは何か	教科書の第2章、第7章、終章を予め読んで来て下さい。 漢方医学の科学的解明についての知識を身につけて、漢方といえども、科学的な姿勢を持って診療出来る精になれればと思います。			
3	漢方医学の病態のとらえかた	教科書の第3章を予め読んで来て下さい。 漢方医学的な診察法につき、改めて実践を交えな度おさらい致します。			
4	漢方医学の診察法	教科書の第4章を予め読んで来て下さい。 漢方医学的な診察法につき、改めて実践を交えなから、確認して下さい。			
5	漢方薬の成り立ちと特徴	教科書の第5章を予め読んで来て下さい。 基本的かつ重要な処方、生薬についてや、配合の妙などの理解を深めます。			
6	冷えと漢方	漢方概論とこれまでの講義で概説された理念を症候や疾患に対し、より具体的に説明していきます。 「総でみる和漢診療学」を参考にされることを推奨致します。 1 回目には西洋医学では捉えにくい、冷えの症候についての理解を深めます。			

7	疲労と漢方	2 回目は漢方医学的にみた疲労のメカニズムと対応について理解を深めます。	
8	消化器疾患と漢方	3 回目は消化管・肝・胆・脾疾患と漢方治療について理解を深めます。	
9	呼吸器疾患と漢方	4 回目は呼吸器疾患と漢方治療について理解を深めます。	
10	循環器疾患と漢方	5 回目は循環器疾患と漢方治療について理解を深めます。	
11	腎・泌尿器疾患と漢方	6 回目は腎・泌尿器疾患と漢方治療について理解を深めます。	
12	産婦人科疾患と漢方	7 回目は産婦人科疾患と漢方治療について理解を深めます。	
13	神経、精神疾患と漢方	8 回目は神経、精神疾患と漢方治療について理解を深めます。	
14	整形外科疾患と漢方	9 回目は整形外科疾患と漢方治療について理解を深めます。	
15	生活習慣病と高齢者医療に対する漢方	最後は現代医療における漢方医学の位置づけについて総合的な理解を深めます。本病、無病息災の概念から、代謝、内分泌疾患を含めた生活習慣病に対する漢方治療の重要性を理解します。特に高齢者では、疾病が様々で併存していることも多く、高齢者の特徴とこれまで学んで来たことに応用法について理解を深めます。	
成績評価方法と基準			割合
1: 模元ごと(小テスト(5回程度))を実施する。評面は 40%			1. 40%
2: 定期試験(評面は 60%)			2. 60%

授業科目名	東洋医学概論 I (作業) (Introduction to Oriental Medicine I)		
担当教員	横山 浩之	担当教員	横山 浩之
科目ナンバリング	SBI100	科目区分	専門基礎科目
配当年次	3	開講学期	後期
授業形態	講義	単位数	1
授業概要	東アジアで発祥し発展した診断治療体系である東洋医学は、近年エビデンスの検証が進むにつれて批判的吟味と取扱いが行われ、有効性と安全性が示されたものについては現代医療の中で応用する語みがなされるようになってきた。東洋医学は心と身体との調和を重視しており、その考え方や具体的な手法を学ぶことは、健康増進だけでなく健康回復の過程においても充実した生活と人生観を取り戻す一助になると考えられる。この授業では、東洋で発祥し伝承されてきた各種治療体系の概要・生命観・具体的手法を知り、患者や高齢者などどのように臨床応用していけばよいか考える機会を与える。この授業では特に理論と体系の基本を教授する。		
到達目標	<p>下記の内容の概要を理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 東洋医学の分野を理解する。 2. 東洋医学の基本的思考法を理解する。 3. 東洋医学が身近なものであることを認識する。 <p>履修上の注意 (学生へのメッセージ)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 東洋医学の用語に慣れること。 2. 全ての授業に出席すること。 3. できれば、自分のノートをつくること。 		
教科書	なし		
参考書	なし		
研究室/オフィスアワー	なし		
授業前後の非常勤講師控室	なし		
授業履修計画表	なし		
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	ガイダンス、東洋医学とは この講義を学習することの意味を説明できる	復習: 授業の振り返り	
2	東洋医学の分野	予習: 前回の授業を振り返っておくこと 復習: 授業の振り返り	
3	陰陽・五行	予習: 前回の授業を振り返っておくこと 復習: 授業の振り返り	
4	臟腑経絡(1)	予習: 前回の授業を振り返っておくこと 復習: 授業の振り返り	
5	臟腑経絡(2)	予習: 前回の授業を振り返っておくこと 復習: 授業の振り返り	
6	診察	予習: 前回の授業を振り返っておくこと 復習: 授業の振り返り	
7	鍼灸治療	予習: 前回の授業を振り返っておくこと 復習: 授業の振り返り	
8	漢方治療	予習: 前回の授業を振り返っておくこと 復習: 授業の振り返り	
成績評価方法と基準			割合
【評価の配点】			
1. 出席・授業態度			1. 40%
2. レポート提出			2. 60%
* 詳細は授業内で告知する			

授業科目名	東洋医学概論Ⅱ(作業) (Introduction to Oriental Medicine II)																																						
主担当教員	横山 浩之	担当教員	横山 浩之																																				
科目ナンバリング	SB131	科目区分	専門基礎科目 DP②																																				
配当年次	3	開講学期	後期 曜日・時限 水曜 4 限 木曜 4 限																																				
授業形態	講義	単位数	1																																				
授業概要	<p>東洋医学概論Ⅱでは、各種診断治療体系の具体例を教授する。特に、鍼灸、指圧など東洋医学系物理療法の施術の実際を紹介し、それらに共通した経絡と経穴のラビリテーションにおいて応用可能と思われるものを重点的に解説する。また、漢方と鍼灸で一般的に行われる「証」すなわち東洋医学的に見た体質の判断に必要な「望聞問切」のテクニック、例えば脈診、腹診、舌診などを教授し、さらに「気・血・水」といった生命活動の基本的要素に障害が起った時に現れる訴えや症状を知ることによって、「証」にもとづいて行われる各種治療法の施術や処方の特徴を説明する。</p>																																						
到達目標	<p>下記の内容の概要を理解する。 1. 東洋医学の分野を理解する。 2. 東洋医学の基本的思考法を理解する。 3. 東洋医学が身近なものであることを認識する。</p>																																						
履修上の注意(学生へのメッセージ)	<p>1. 東洋医学の用語に慣れること。 2. 全ての授業に出席すること。 3. できれば、自分のノートをつくること。</p>																																						
教科書	なし																																						
参考書	なし																																						
研究室/オフィスアワー	研究前後の非常勤講師控室																																						
授業展開及び授業計画表	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>学修内容</th> <th>予習・復習・課題等</th> <th>担当</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>手技療法</td> <td>復習: 授業の振り返り</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>中医学</td> <td>予習: 前回の授業を振り返っておくこと 復習: 授業の振り返り</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>東洋医学の歴史</td> <td>予習: 前回の授業を振り返っておくこと 復習: 授業の振り返り</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>東洋医学の特徴</td> <td>予習: 前回の授業を振り返っておくこと 復習: 授業の振り返り</td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>東洋医学と国際情勢</td> <td>予習: 前回の授業を振り返っておくこと 復習: 授業の振り返り</td> <td></td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>家庭における東洋医学</td> <td>予習: 前回の授業を振り返っておくこと 復習: 授業の振り返り</td> <td></td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>東洋医学と民間療法</td> <td>予習: 前回の授業を振り返っておくこと 復習: 授業の振り返り</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>東洋医学の将来と課題</td> <td>予習: 前回の授業を振り返っておくこと 復習: 授業の振り返り</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当	1	手技療法	復習: 授業の振り返り		2	中医学	予習: 前回の授業を振り返っておくこと 復習: 授業の振り返り		3	東洋医学の歴史	予習: 前回の授業を振り返っておくこと 復習: 授業の振り返り		4	東洋医学の特徴	予習: 前回の授業を振り返っておくこと 復習: 授業の振り返り		5	東洋医学と国際情勢	予習: 前回の授業を振り返っておくこと 復習: 授業の振り返り		6	家庭における東洋医学	予習: 前回の授業を振り返っておくこと 復習: 授業の振り返り		7	東洋医学と民間療法	予習: 前回の授業を振り返っておくこと 復習: 授業の振り返り		8	東洋医学の将来と課題	予習: 前回の授業を振り返っておくこと 復習: 授業の振り返り	
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当																																				
1	手技療法	復習: 授業の振り返り																																					
2	中医学	予習: 前回の授業を振り返っておくこと 復習: 授業の振り返り																																					
3	東洋医学の歴史	予習: 前回の授業を振り返っておくこと 復習: 授業の振り返り																																					
4	東洋医学の特徴	予習: 前回の授業を振り返っておくこと 復習: 授業の振り返り																																					
5	東洋医学と国際情勢	予習: 前回の授業を振り返っておくこと 復習: 授業の振り返り																																					
6	家庭における東洋医学	予習: 前回の授業を振り返っておくこと 復習: 授業の振り返り																																					
7	東洋医学と民間療法	予習: 前回の授業を振り返っておくこと 復習: 授業の振り返り																																					
8	東洋医学の将来と課題	予習: 前回の授業を振り返っておくこと 復習: 授業の振り返り																																					
成績評価方法と基準	割合																																						
【評価の配点】	1. 40%																																						
1. 出席・授業態度	2. 60%																																						
2. レポート提出	* 詳細は授業内で告知する																																						

授業科目名	IPW 論(作業) (Inter-Professional Work)																		
主担当教員	横井 賀津志	担当教員	横井 賀津志、鍋田 智之、中根 征也、村上 生美、脇 英彦、伊藤 直子、松下 太、小林 貴代、橋本 弘子、中村 めぐみ、中西 一、金森 幸																
科目ナンバリング	SBI32	科目区分	専門基礎科目 DP①②③④																
配当年次	3	開講学期	前期 曜日・時限 月曜 2 限 水曜 5 限 土曜 1 限 土曜 2 限 土曜 3 限 土曜 4 限																
授業形態	演習	単位数	1																
授業概要	<p>各分野の連携や知識・技術に触れることを目的に看護学・鍼灸学・作業療法学・理学療法学・臨床検査学および理学療法学を学び、IPW (Interprofessional Work = 専門職種連携) を 5 学科協働で演習形式にて実践する。 各分野の特徴やチーム内での役割とその専門性を学び、その上で看護、鍼灸、作業療法、臨床検査、理学療法士の各分野で共通する疾患や障害を基に、IPW の実践について、討論・経験・学修する。(オムニバス形式/全 15 回)</p>																		
到達目標	<p>各分野の講義を通じ専門性を理解しつつ、実際の症例を基に IPW を経験し、チーム医療の実践に求められる豊かな感性と倫理観を養う。</p>																		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	<p>1) 授業中の私語、メールなどには厳しく対処する。 2) 課題点を大切に自分で調べて解決するように行動すること。 3) 出席は 3/5 以上を必要とし、その基準を満たした者について成績評価を行う。</p>																		
教科書	資料を配布あり																		
参考書	各自準備すること																		
研究室/オフィスアワー	研究室と共同研究室にて、授業・会議などない時間で随時対応する																		
授業展開及び授業計画表	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>学修内容</th> <th>予習・復習・課題等</th> <th>担当</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>医療系職種の種類①(看護学)</td> <td>予習: 本看護学科のカリキュラムに目を通しておく。 復習: 看護の専門性を理解し、作業療法との接点を理解しておく。</td> <td>村上</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>医療系職種の種類②(鍼灸学)</td> <td>予習: 本看護学科のカリキュラムに目を通しておく。 復習: 鍼灸の専門性を理解し、作業療法との接点を理解しておく。</td> <td>鍋田</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>医療系職種の種類③(理学療法学)</td> <td>予習: 本看護学科のカリキュラムに目を通しておく。 復習: 理学療法士の専門性を理解し、作業療法との接点を理解しておく。</td> <td>中根</td> </tr> </tbody> </table>			回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当	1	医療系職種の種類①(看護学)	予習: 本看護学科のカリキュラムに目を通しておく。 復習: 看護の専門性を理解し、作業療法との接点を理解しておく。	村上	2	医療系職種の種類②(鍼灸学)	予習: 本看護学科のカリキュラムに目を通しておく。 復習: 鍼灸の専門性を理解し、作業療法との接点を理解しておく。	鍋田	3	医療系職種の種類③(理学療法学)	予習: 本看護学科のカリキュラムに目を通しておく。 復習: 理学療法士の専門性を理解し、作業療法との接点を理解しておく。	中根
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当																
1	医療系職種の種類①(看護学)	予習: 本看護学科のカリキュラムに目を通しておく。 復習: 看護の専門性を理解し、作業療法との接点を理解しておく。	村上																
2	医療系職種の種類②(鍼灸学)	予習: 本看護学科のカリキュラムに目を通しておく。 復習: 鍼灸の専門性を理解し、作業療法との接点を理解しておく。	鍋田																
3	医療系職種の種類③(理学療法学)	予習: 本看護学科のカリキュラムに目を通しておく。 復習: 理学療法士の専門性を理解し、作業療法との接点を理解しておく。	中根																

4	医療系職種理解④(臨床検査学)	予習:本学臨床検査学科のカリキュラムに目を通しておく。 復習:臨床検査の専門性を理解し、作業療法との接点を理解しておく。	脳
5	チーム医療の実態 (各学科教員による Case Conference)	予習:各分野の専門性についての復習をしておく。 復習:デモンストラーションを通じ、各分野と作業療法の役割を理解する。	学科教員全 員
6	症例提示におけるアプローチ立案とその考察①	予習:作業療法士の役割を再確認しておく。 復習:立案したアプローチを各分野に説明できるように準備をしておく。	学科教員全 員
7	症例提示におけるアプローチ立案とその考察②	予習:作業療法士の役割を再確認しておく。 復習:立案したアプローチを各分野に説明できるように準備をしておく。	学科教員全 員
8	症例提示におけるアプローチ立案とその考察③	予習:作業療法士の役割を再確認しておく。 復習:立案したアプローチを各分野に説明できるように準備をしておく。	学科教員全 員
9	症例提示におけるアプローチ立案とその考察④	予習:作業療法士の役割を再確認しておく。 復習:立案したアプローチを各分野に説明できるように準備をしておく。	学科教員全 員
10	症例提示におけるアプローチ立案とその考察⑤	予習:作業療法士の役割を再確認しておく。 復習:立案したアプローチを各分野に説明できるように準備をしておく。	学科教員全 員
11	IPW①(11回~14回は4コマ連続)	予習:各分野の専門性についての復習をしておく。 復習:IPWで討議したことをまとめておく。	学科教員全 員
12	IPW②(11回~14回は4コマ連続)	予習:各分野の専門性についての復習をしておく。 復習:IPWで討議したことをまとめておく。	学科教員全 員
13	IPW③(11回~14回は4コマ連続)	予習:各分野の専門性についての復習をしておく。 復習:IPWで討議したことをまとめておく。	学科教員全 員
14	IPW④(11回~14回は4コマ連続)	予習:IPWで討議したことをまとめておく。 復習:プレゼンテーションの準備。	学科教員全 員
15	IPW⑤(プレゼンテーションと振り返り)	予習:プレゼンテーションの準備 復習:IPWや発表で得たことをまとめておく。	学科教員全 員
成績評価方法と基準			割合
1)レポート			1)40%
2)[IPW]プレゼンテーション			2)60%

基礎作業学(作業学) (Basic Occupational Science)			
授業科目名	橋本 弘子	担当教員	橋本 弘子、中村 めぐみ、金森 幸
主担当教員	SS201	専門科目	DP①④
科目ナンバリング	1	科目区分	火曜3限 火曜4限 水曜4限 水曜5限
配当年次	1	開講学期	曜日・時限
授業形態	演習	単位数	必修・選択
授業概要	<p>※本科目は実務経験のある教員等による授業科目です</p> <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作業療法で用いる作業活動の基礎を通し、作業活動に必要な工程を知る ・作業活動の工程分析を通し、作業活動に含まれる治療効果について理解する ・各作業種目に関心を持ち、作業手順を見て自ら作品づくりを行うことができる ・作業活動を行うことで、その作業実施に必要な環境・身体機能・材料・手順を書きだすことができる <p>本講義を通し、作業療法の核である「人が営む作業」に関心を持ち、集団の中で強調して動くことができるようになることが目標である。各種作業活動に関心を抱き、向上心を持って取り組んでほしい。</p> <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>教科書・参考書・配布資料などすべてに目を通すこと 作成した作品およびレポートの提出の厳守</p> <p>教科書</p> <p>作業活動 実習マニュアル つくる・あそぶを治療にいかす 改訂第2版 医歯薬出版株式会社</p> <p>参考書</p> <p>1. 標準作業療法学 専門分野 基礎作業学 第2版 編集 小林 夏子ほか 医学書院 2. 基礎作業学(作業療法学全書) 改訂第3版 澤田 雄二(著、編集)、日本作業療法士協会(監修、監修) 協同医学書出版社</p>		
研究室/オフィスアワー	月曜日、木曜日		
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	オリエンテーション:基礎作業学授業の概要と授業スケジュールを説明する。	教科書をあらかじめ見て目次と学んでおくべき点を知る。	金森
2	集団レクリエーション マクラメ 基本的な編み方を要習。説明書をもとに編み方を理解し実践できる。	経験した作業とその治療的応用と作業の教授法について理解する。 マクラメについて調べておく	金森
3	マクラメ 基本的な編み方を要習。説明書をもとに編み方を理解し実践できる。	マクラメの作品を完成させ、治療的要素を理解する	中村
4	絵画:キミコ方式を用いた絵画法を学ぶ。3原色で色作り。もやし、空を描く。	キミコ方式について調べておく	橋本
5	絵画:キミコ方式を用いた絵画法を学ぶ。3原色で色作り。もやし、空を描く。	キミコ方式について調べておく	橋本
6	陶芸:①ひもづみで作る小鉢(5/14火) ②手回しぐるぐらで作るマグカップ	陶芸作品を本やインターネットでみて、気に入った作品をコピーして持参する	金森

	焼成)について学ぶ。		
8	陶芸:①ひもづみで作る小鉢(4/14火) ②手回しろくろで作るマグカップ 陶芸の基本的な流れ(作成・素焼き・色付け・焼成)について学ぶ。	陶芸作品を本やインターネットでみて、気に入った作品をコピーして持参する レポート提出	金森
9	ダンス:随体で実施されているリハビリテーションダンスを体験し、治療的要素を学ぶ。	ダンスセラピーについて調べておく。 レポート提出	橋本
10	ダンス:随体で実施されているリハビリテーションダンスを体験し、治療的要素を学ぶ。	ダンスセラピーについて調べておく。 レポート提出	橋本
11	木工:(ウッドラック作成) 木工の使用方法を学び、作品の完成図を作成し、採寸、木を切る	のこぎり、そして電動工具の安全な使用および道具の管理方法について知る。	橋本
12	木工:(ウッドラック作成) 木工の使用方法を学び、作品の完成図を作成し、採寸、木を切る	木工における作業分析と木工の治療的要素について学ぶ。	橋本
13	木工:(ウッドラック作成) 木の角の処理を行い、組み立てを行う	木工における作業分析と木工の治療的要素について学ぶ。	橋本
14	木工:(ウッドラック作成) 木の角の処理を行い、組み立てを行う	木工における作業分析と木工の治療的要素について学ぶ。 作品とレポート提出	橋本
15	金工①(七宝焼き)リスタ管理について知る(オーブンの危険性を知る)②七宝焼きで小物を作成する。	七宝について教科書やインターネットなどで調べておく。	金森
16	金工①(七宝焼き)リスタ管理について知る(オーブンの危険性を知る)②七宝焼きで小物を作成する。	七宝について教科書やインターネットなどで調べておく。 作品とレポート提出	金森
17	革細工: 革細工で使用する物品の把握と管理方法および使用方法について学ぶ	革細工できている製品について調べておく。	橋本
18	革細工:(ペンケース作成) 革のカッティング デザインのトレースまで	革細工できている製品について調べておく。	橋本
19	革細工:(ペンケース作成) デザインのトレースから刻印まで	前回の復習と工程の理解をしておく。	橋本
20	革細工:(ペンケース作成) デザインの刻印まで	前回の復習と工程の理解をしておく。	橋本
21	革細工:(ペンケース作成) 刻印と色付けまで	前回の復習と工程の理解をしておく。	橋本
22	革細工:(ペンケース作成) 刻印、色付け、金具付けまで	前回の復習と工程の理解をしておく。	橋本
23	革細工:(ペンケース作成) 金具付けからレーシングまで	前回の復習と工程の理解をしておく。	橋本
24	革細工:(ペンケース作成) 金具付けからレーシングまで	前回の復習と工程の理解をしておく。 作品とレポート提出	橋本
25	藤細工:かご作り 藤細工の基本的な編み方を学ぶ。	底編みから立ち上げまでを次回までに仕上げる。	中村
26	藤細工:かご作り 藤細工の基本的な編み方を学ぶ。	底編みから立ち上げまでを次回までに仕上げる。	中村
27	藤細工:かご作り かごを仕上げる。	藤細工の治療的因子と効果について学ぶ。	中村
28	藤細工:かご作り かごを仕上げる。	藤細工の治療的因子と効果について学ぶ。 作品とレポート提出	中村

29	教授法:経験した作業とその治療的応用と作業の教授法について理解する。 教授法:ペアになりお互いに作業を教え合う。	教授法について学び、作業を実践するだけでなく、対象者に教えるために必要な視点について学び、実践する。	中村
30	教授法:ペアになりお互いに作業を教え合う。	レポート提出	中村
成績評価方法と基準			割合
1. レポート点、2. 提出物、3. 定期試験 ・作業ごとにレポート課題がある。 ・作業工程の理解、作業分析、治療的要素などについて ・定期試験(作業の治療的目的と作業分析、治療効果についての設問と基礎作業学領域における国家試験に出題される問題を解く ・4/5以上の出席が必要。			1. 40% 2. 10% 3. 50%

授業科目名		作業科学入門(作業) (Introduction to Occupational Science)		
主担当教員	梶井 眞津志	担当教員	梶井 眞津志、橋本 弘子	
科目ナンバリング	SS202	科目区分	ディプロマポリシー 該当項目	DP①②
配当年次	1	開講学期	前期	月曜 1限 水曜 3限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択 必修
授業概要				
作業分析に利用することは作業技法の核である。中でも大切なことは、クライアントが必要とする作業が、個人にとってどのような意味を持ち、どの程度ニーズに沿ったものであるのかということである。対象者を作業的存在として捉え、クライアント中心の援助が行えるよう作業の概念を構築する。また、実際の作業場面を通して、その人らしさや作業ニーズをとらえる技術を教授する。				
(梶井 眞津志：前半 7回)				
作業技法評価および介入の核となる作業について、より深く作業を分析(作業の形態、作業の意味、作業の機能、作業の領域)できるようにする。加えて、作業の歴史を振り返ることの重要性を知り、作業的存在の意味を考察できるようにする。				
(橋本 弘子：後半 8回)				
人が日々の生活へ参加・従事することは、毎日の生活における満足感や健康を達成する可能性を担っている。そこでまず自身の生活を振り返り、その日常生活についてどのような環境のもと活動参加が可能になっているかを分析的に捉えることができるようにする。				
※本科目は実務経験のある教員等による授業科目です				
到達目標				
1. すべての人によりよい作業があることを知り、その人を定着づける作業に関心を持つ。(作業とは何かを説明できる)				
2. 作業により、その人が存在するという考えを持つようになる。(作業的存在を説明できる)				
3. その人にとって必要な作業の形態、意味、機能が何であるかを考えるようになる。(作業の特性を説明できる)				
4. クライアント中心の作業療法実践のために、作業を分析し、必要とする作業を引き出すためのマネジメンツールを使用できる。そして、マネジメントが生活行為向上につながることを説明できる。(作業ニーズを捉えることができる)				
5. 人にとっての「生活」の意味を考えながら、日常生活における意味ある作業とは何かを考える視点を持つことができるようになる。(作業の視点で人捉えることができる)				
履修上の注意(学生へのメッセージ)				
授業後にノートを整理して復習してください。また、図書館で雑誌「作業療法ジャーナル」の中で、作業に焦点を当てた特集を積極的に読んでください。				
教科書				
『作業』って何だろう 第2版 作業科学入門 吉川ひろみ / 医歯薬出版				
参考書				
1) Ruth Zemke (編著)、Florence Clark (編著)、佐藤 剛(翻訳)「作業科学—作業的存在としての人間の研究」三輪書店。				
2) エリザベス・タウンゼン (編著)、ヘレン・ボラタイク (編著)、吉川ひろみ(監訳)「作業療法の視点 続 作業を通しての健康と公正」大学教育出版。				
3) 吉川ひろみ・カナダモデルで読み解く作業療法、シービーアール。				
研究室/オフィスアワー				
木曜日 2限 (10:40-12:10)				
授業展開及び授業計画表				
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当	
1	「作業」とは何であるか	「作業」の定義をまとめる。作業と活動の違いをまとめる。自分の作業と他者の作業を比較する。	梶井	
2	「作業」の特性	「作業」の3つの特性をまとめる。「作業」に共通する特性とは何かをまとめる。	梶井	
3	「作業」の分析	身内の「作業」を分析する。	梶井	
4	「作業」は健康に寄与する	身内の作業について聞き取りレポートを書く。	梶井	
5	「作業ニーズ」を見つめるための方法	身内にOOPMを実施する。	梶井	
6	「作業」の分析、作業ハランス	作業に焦点をあてたライフコースを作成する。自分は何者であるか検証する。	梶井	
7	①「作業」を基盤とした症例報告 ②横井担当分の定期試験	作業的存在とは何かをまとめる。	梶井	

8	生・老・病・死を考える 1	テーマ(生・老・病・死)について考えグループディスカッション。	橋本
9	生・老・病・死を考える 2	テーマ(生・老・病・死)について考えグループディスカッション。	橋本
10	生・老・病・死を考える 3	テーマ(生・老・病・死)について発表。 生活はどんな活動で構成されているのかを考える。	橋本
11	生活を送るとは	生活における活動を「OF」の概念に基づいて分類し、生活はどのように成り立っているかを考える。	橋本
12	自身の生活を考える	自身の生活はどのように成り立っているかを考える。過去と現在の生活をワークシートに裏し知る。レポートを作成する。	橋本
13	自身の今後の生活を考える	これまでの自身の生活の過去、現在、希望から今後を考える。	橋本
14	生活における作業の重要性について知る 1	生活の中の作業はどんな行為から成り立っているかを考える。	橋本
15	生活における作業の重要性について知る 2	生活の中の作業はどんな行為から成り立っているか、またその行為を可能にする機能は何かを考える。レポートを作成する。	橋本
成績評価方法と基準			
①定期試験			
②課題レポート、グループワーク課題および発表			

授業科目名	作業療法概論(作業) (Introduction to Occupational Therapy)			
主担当教員	伊藤 直子	担当教員	伊藤 直子	
科目ナンバリング	SS203	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目	
配当年次	1	開講学期	後期 月曜 2 限	
授業形態	講義	単位数	2 必修	
授業概要	<p>世界と日本の作業療法の歴史を学び、作業療法が人の健康と幸福に貢献する専門職であることを確認する。日本や大阪における各領域の先人の功績を知る機会を通じて、自分たちがどのような作業療法士にならなければならないか自らイメージできるように、自分自身で調べ創造する姿勢を身に付ける。市民として地域に貢献できる作業療法士のキャリアデザインを行い、自分の人生とともにある作業療法を構築する。</p> <p>※本科目には実務経験のある教員等による授業科目です</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地元や作業療法士の仕事を知り、「作業療法」を自分の言葉で説明できる。 2. 自分や家族の健康な生活に必要な「作業」を捉えることができる。 3. どんなに重い障害をもついても、人を「作業的存在」として捉えることができる。 4. 障害を受けた人に必要な「作業療法」を説明できる。 5. どのような作業療法士にならなければならないか「現実的に」説明できる。 6. 「作業療法」を支える理論的枠組みを、「医療モデル」と「作業モデル」から説明できる。 <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>これから、自分を取り組む「作業療法士」という職業を正しく理解し、学校や地域で学ぶ姿勢を高めてほしい。人との出会いや地域での生活と向き合うことで、人の「作業」を理解し、地域に貢献できる作業療法士になることを、自分自身の成長を課題として、現実的に捉えてほしい。</p> <p>教科書</p> <p>作業療法学ゴールドマスターテキスト「作業療法概論」Medico View</p> <p>参考書</p> <p>『事例で学ぶ生活行為向上マネジメント 2015(日本作業療法士協会著)』医歯薬出版社 『大阪作業療法ジャーナル』</p> <p>研究室/オフィスアワー</p> <p>月曜日: 10:40~12:10</p>			
授業展開及び授業計画表				
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当	
1	「作業療法の歴史」世界と日本と大阪の作業療法について知る 講義と発表	予習: 教科書等の確認 復習: 大阪作業療法ジャーナルを調べる		
2	「様々な領域の作業療法」自分の興味のある領域の作業療法を報告する	予習: 自分の興味をもった事例報告を読む 復習: 1CF 生活行為向上マネジメントの理解		
3	「原理・理論」作業療法を支える様々な「作業」に関わる理論を学ぶ	予習: 教科書等の確認 復習: 「医療モデル」と「作業モデル」を知る		
4	「国際生活機能分類(1CF)」「健康」とは何か、自分の生活を分析する	予習: 自分を 1CF で説明する 復習: 自分を例に挙げて分析する		
5	「ライフステージ」(命令や時期による「価値観」の違いやその時期の作業を知る	予習: 家族や高齢者への聞き取り 復習: 地域医療(二次医療圏)の現状を知る		
6	生活の中の「作業」を調べる、人にとつての「意味ある作業」とは何か理解する	予習: 一日、一週間、一月、一年の作業分析 復習: 自身の健康な生活について考える		
7	「疾病」と治療理論 関心のある「疾病」と「作業療法」を知る	予習: 当事者団体や個人の HP を調べる 復習: 疾病について調査する方法を確認する		
8	「障害」のある人の「生活」と「人生」と「作業療法」	予習: 当事者に聞く(インタビュー) 復習: 当事者の「生活」と「人生」を考える		
9	「法・制度・サービス」障害者の生活実態を学び、自立生活」を考える	予習: 当事者を取り巻く地域資源を調べる 復習: 居住地の資源を報告する		
10	「作業療法プロセス」「活動」/参加支援」「移行期支援: 人生の転機期を支える」	予習: 関心のある人生の移行期を調べる 復習: 小テスト		
11	「産前・NICU・乳幼児期を取り巻く問題と作業療法」	予習: 人の出生にまつわる制度を知る 復習: 自分の出生について考える		
12	「就学を取り巻く状況と作業療法」「特別支援教育とインクルーシブ教育」	予習: 自分の学生時代を振り返る 復習: 子どもを育てる環境と制度を調べる		

13	自立支援・就労支援 世界の障害者自立運動や当事者運動を知る	予習: 障害者総合支援法を調べる 復習: 障害者差別解消法を理解する	
14	ライフワークライズ・高齢化 障害者を持つたり高齢化することと作業療法	予習: 身近な高齢者と話す 復習: 自分のできる支援を考える	
15	「管理・運営、記録と報告」作業療法士のキャリアデザインをレポートする	予習: 自分の目指す作業療法を考える 復習: そのために、何をすれば考える	
成績評価方法と基準			
①出席票、授業シートの提出 授業態度			
②発表			
③レポート			
④定期試験			
			割合
			①20%
			②20%
			③20%
			④40%

授業科目名 作業療法評価学総論(作業) (General Occupational Therapy Evaluation)																															
主担当教員	横井 寛津志	担当教員	横井 寛津志、橋本 弘子																												
科目ナンバリング	SS204	科目区分	ディプロマポリシー 該当項目 DP①																												
配当年次	1	開講学期	後期																												
授業形態	講義	単位数	2																												
授業概要	<p>作業療法を要するには、クライアントの作業ニーズを把握する必要がある。そして、クライアントの心身機能とクライアントを取りまく環境、クライアントが必要とする作業の 3 つの側面と治療計画が適切に関係づけられなければならない。そのためには作業を基礎とした評価が重要になる。評価は、作業ニーズの把握、作業遂行の観察、検査測定から得た情報を整理・分析・解釈することによって対象者の全体像を把握し、問題点と強みを明らかにして作業療法で対応課題を突き出していく一連の過程である。この講義では、作業療法評価の意義と目的、対象と過程、評価の流れなど講義形式で評価の概要について学修する。そして、今後習得する領域別の評価法に結び付けるための手掛かりとする。</p> <p>横井(前半 7回) 作業を必要としている全ての方を対象に、作業療法プロセスで必要となる評価(「作業ニーズの特定」、「作業遂行の観察」、「全体像の予測と焦点化」、「全体像の再構成」)の流れについて学修する。評価のプロセスは、作業に焦点をあて、かつクライアント中心のトピックで学ぶ。また、評価に役立つ実践モデルであるOIPM (Occupational therapy intervention process model)を中心に教授する。</p> <p>橋本(後半 8回) 精神障害における対象者の生活上の困り事と必要な作業ニーズを把握するため、精神障害リハビリテーションの歴史、精神障害の実態とニーズ、精神障害リハビリテーションの基本的な考え方を教授する。その上で精神障害作業療法評価に対するプロセスを教授する。</p>																														
到達目標	<p>※本科目は実務経験のある教員等による授業科目です</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 障がいのある「その人」を評価するというICFの概念を学び、「その人」に関心を持つ。 2. 作業療法評価の意義と目的を理解し、口頭で説明できるようになる。 3. 作業療法プロセスについて図を用いて表出できるようになる。 4. 作業療法全体のプロセスを理解した上で、作業療法評価を正しく捉えることができる。 5. 精神科作業療法の必要性について述べ評価の視点について説明できるようになる。 																														
履修上の注意(学生へのメッセージ)	履修上として、ノート授業後に整理して復習をしてください。また、図書館で雑誌「作業療法」や「作業療法ジャーナル」の作業療法評価関連の特集を積極的に読んでください。																														
教科書	<ol style="list-style-type: none"> 1)『標準作業療法学・専門分野 作業療法評価学 第3版』岩崎テル子,他/医学書院 2)『ベッドサイドの神経の診かた 改訂17版』田崎薫昭,高藤佳雄,坂井文彦/南山堂 3)『国際生活機能分類 ICFの理解と活用』上田敏/萌文社 4)『精神障害と作業療法 第3版』山根 寛/三輪書店 																														
参考書	作業内で随時提示します。																														
研究室/オフィスアワー	木曜日 2限 (10:40-12:10)																														
授業期間及び授業計画表	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>学修内容</th> <th>予習・復習・課題等</th> <th>担当</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>作業ニーズの捉え方およびニーズの優先順位、作業療法評価の意義と目的、リハビリテーション評価の手順(情報収集、面接、観察、検査測定、統合と解釈、問題点抽出)と作業療法評価の手順。</td> <td>作業ニーズとは何かをまとめる。</td> <td>横井</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>作業療法評価の手順(目標設定、プログラム立案、プログラム実施、再評価、プログラム再考)、ICFの概念と全体像の捉え方。</td> <td>リハビリテーション評価プロセスと作業療法プロセスを明示する。OIPMを明示する。</td> <td>横井</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>骨ランドマーク観察</td> <td>配付した事例報告を読む。</td> <td>横井</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>記録方法 四肢形態計測</td> <td>解剖学の復習</td> <td>横井</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>随反射の意義と検査</td> <td>SOAP法により記載する練習 解剖学の復習</td> <td>横井</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td></td> <td>生理学の復習</td> <td>横井</td> </tr> </tbody> </table>			回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当	1	作業ニーズの捉え方およびニーズの優先順位、作業療法評価の意義と目的、リハビリテーション評価の手順(情報収集、面接、観察、検査測定、統合と解釈、問題点抽出)と作業療法評価の手順。	作業ニーズとは何かをまとめる。	横井	2	作業療法評価の手順(目標設定、プログラム立案、プログラム実施、再評価、プログラム再考)、ICFの概念と全体像の捉え方。	リハビリテーション評価プロセスと作業療法プロセスを明示する。OIPMを明示する。	横井	3	骨ランドマーク観察	配付した事例報告を読む。	横井	4	記録方法 四肢形態計測	解剖学の復習	横井	5	随反射の意義と検査	SOAP法により記載する練習 解剖学の復習	横井	6		生理学の復習	横井
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当																												
1	作業ニーズの捉え方およびニーズの優先順位、作業療法評価の意義と目的、リハビリテーション評価の手順(情報収集、面接、観察、検査測定、統合と解釈、問題点抽出)と作業療法評価の手順。	作業ニーズとは何かをまとめる。	横井																												
2	作業療法評価の手順(目標設定、プログラム立案、プログラム実施、再評価、プログラム再考)、ICFの概念と全体像の捉え方。	リハビリテーション評価プロセスと作業療法プロセスを明示する。OIPMを明示する。	横井																												
3	骨ランドマーク観察	配付した事例報告を読む。	横井																												
4	記録方法 四肢形態計測	解剖学の復習	横井																												
5	随反射の意義と検査	SOAP法により記載する練習 解剖学の復習	横井																												
6		生理学の復習	横井																												

7	バイタル測定(脈拍・血圧)	多くの脈拍、血圧測定を経験する。	横井
8	精神障害者のこらえ方について事例を通して考える。	配布した資料を読む、レポートを作成する。	橋本
9	精神障害リハビリテーションの歴史 1 古代中世から近代までの歴史を学ぶ。	歴史の流れを把握する	橋本
10	精神障害リハビリテーションの歴史 2 近代から現代までの歴史を学ぶ。	精神科の歴史にとって重要な事件、法律などがある。それらの内容とその後に与えた影響などを各グループで調べ、発表できるようにする。	橋本
11	精神科医療を取り巻く状況	現在の精神科医療の動向について歴史を踏まえ、考え、理解する。	橋本
12	精神科リハビリテーションの考え方	精神科リハビリテーションについて理解する	橋本
13	精神科 作業療法の視点を事例を通して学ぶ。	歴史と精神科医療の動向について小テスト実施	橋本
14	精神科 作業療法における作業療法。	精神科作業療法がおこなわれる場合と治療構造について知る。小テスト実施	橋本
15	精神科 作業療法の評価について	精神科作業療法の評価の目的と方法について学ぶ。小テスト実施(場と治療構造)	橋本
成績評価方法と基準			
①定期試験			
②レポート課題、発表および小テスト			
割合			
①80%			
②20%			

授業科目名			身体障害作業療法評価学(作業) (Occupational Therapy Evaluation for Physical Disability)																						
主担当教員	松下 太	担当教員	松下 太、中村 めぐみ、中西 一																						
科目ナンバリング	SS205	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目																						
配当年次	2	開講学期	前期																						
授業形態	演習	単位数	2																						
授業概要	<p>身体障害を有する人々に作業療法を実践していくには、クライエントの作業ニーズを把握した上で、身体機能の状態を正しく捉えてクライエントの障害像を明確に理解する必要がある。この講義では、身体機能障害の障害像を正確に捉えるための評価プロセスや方法、技術(検査・測定)を学修する。特に関節可動域測定、徒手筋力テスト、感覚検査、反射検査などの主要な身体機能評価についてその概要や方法、あるいは基礎技法を要習し修得する。</p> <p>※本科目は実務経験のある教員等による授業科目です</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 関節可動域測定の意義や目的について説明できる。 2) 筋力検査の意義や目的について説明できる。 3) 感覚検査、反射検査、上肢機能検査の意義や目的を説明できる。 4) 上記の基本的評価手法を、解剖学・生理学・運動学の知識と結びつけて説明できる。 5) 上記の基本的評価手法を適切な方法で実施することができる。 																								
履修上の注意(学生へのメッセージ)	<p>本科目は演習科目であり、必要出席時間数(授業時間数の5分の4以上)を採用する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 指定された教科書を毎回の授業に持参すること。 2) 関節可動域測定実習の授業時にはコンピュータ、痛みの反射検査の授業時には打眼器を持参すること。 3) 実習形式の場合には、本学指定のジャーナル、ポロシャツを着用して参加すること。また、骨や筋の触知等を行なうため、肩甲骨・上腕部・大腿部が露出できるようにラウンドカラー・ウエア(ノースリーブ、タンクトップ、短パン等)を着用すること。 4) 身だしなみについては臨場実習の手引きに準じる。特に髪や爪は清潔にしておき、開講までに解剖学・生理学の復習をしておくこと。(特に、筋の起始・停止、表在感覚の伝導路、反射弓、腱体路・腱体外路等について) 																								
教科書	<ol style="list-style-type: none"> 1) 佐谷全子 監修・標準作業療法専門分野 作業療法評価学(第2版)、医学書院、2011 2) 津山直一、中村耕三 訳・徒手筋力検査法 原著第9版、協同医学出版社、2014 3) 田崎泰昭、高藤佳雄 著・ペクトサイトの神経の診かた第18版、南山堂、2016 4) 林典雄 編著・機能解剖学的触診技術上肢改訂第2版、メジカルビュー社、2011 5) 林典雄 編著・機能解剖学的触診技術下肢 改訂第2版、メジカルビュー社、2012 																								
参考書	<ol style="list-style-type: none"> 1) 佐竹勝、石井文康 編・作業療法評価学(改訂第2版)、メジカルビュー社、2015 2) 青木主税 著・動画で学ぶ関節可動域測定法ROM ナビ増補改訂第2版、ラウンドフラット、2013 3) 伊藤俊一 監修・PT-OTのための測定評価DVDシリーズ 1・2・3・4・7、三輪書店 																								
研究室/オフィスアワー	<p>松下 太 :C棟7階研究室/木曜日11:23-18:00 中村めぐみ・C棟7階教職員室/木曜日11:2-18:00 中西 一 :C棟7階教職員室/月曜日16:30-18:00</p>																								
授業展開及び授業計画表	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>学修内容</th> <th>予習・復習・課題等</th> <th>担当</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>関節可動域測定1:概論 関節可動域測定2:実習(上肢)</td> <td>予習:1.教科書「作業療法評価学(第2版)P81-89」を熟読しておくこと 2.左記部位におけるランドマーク位置</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>関節可動域測定3:実習(上肢・手指)</td> <td>予習:左記部位におけるランドマーク位置</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>関節可動域測定4:実習(下肢)</td> <td>予習:左記部位におけるランドマーク位置</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>関節可動域測定5:実習(体幹)</td> <td>予習:左記部位におけるランドマーク位置</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当	1	関節可動域測定1:概論 関節可動域測定2:実習(上肢)	予習:1.教科書「作業療法評価学(第2版)P81-89」を熟読しておくこと 2.左記部位におけるランドマーク位置		2	関節可動域測定3:実習(上肢・手指)	予習:左記部位におけるランドマーク位置		3	関節可動域測定4:実習(下肢)	予習:左記部位におけるランドマーク位置		4	関節可動域測定5:実習(体幹)	予習:左記部位におけるランドマーク位置	
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当																						
1	関節可動域測定1:概論 関節可動域測定2:実習(上肢)	予習:1.教科書「作業療法評価学(第2版)P81-89」を熟読しておくこと 2.左記部位におけるランドマーク位置																							
2	関節可動域測定3:実習(上肢・手指)	予習:左記部位におけるランドマーク位置																							
3	関節可動域測定4:実習(下肢)	予習:左記部位におけるランドマーク位置																							
4	関節可動域測定5:実習(体幹)	予習:左記部位におけるランドマーク位置																							

5	OSCE(実技テスト)	予習:それまで学習したROM-Tのすべて	
6	徒手筋力検査法1:原理原則、注意点 握力、ピンチ力測定法	予習:教科書「作業療法評価学(第2版)P104-108」を熟読しておくこと	
7	徒手筋力検査法2:実習(上肢)	予習:左記の運動に関わる筋の起始、停止、及び支配神経	
8	徒手筋力検査法3:実習(上肢・手指)	予習:左記の運動に関わる筋の起始、停止、及び支配神経	
9	徒手筋力検査法4:実習(手指・頭頸部)	予習:左記の運動に関わる筋の起始、停止、及び支配神経	
10	徒手筋力検査法5:実習(体幹・下肢)	予習:左記の運動に関わる筋の起始、停止、及び支配神経	
11	徒手筋力検査法6:実習(下肢)	予習:左記の運動に関わる筋の起始、停止、及び支配神経	
12	徒手筋力検査法7:実習(下肢) 小テスト	予習:左記の運動に関わる筋の起始、停止、及び支配神経 小テスト範囲:筋の神経支配(神経レベル)とMMTの代償動作	
13	実技テスト(OSCE)	テスト範囲:上肢、手指、頭頸部、体幹、下肢のMMT	
14	感覚検査・痛的反射検査	予習:解剖・生理学で学んだ表在感覚の伝導路、ペルメータム、反射弓、腱体路、腱体外路について復習しておくこと	
15	上肢機能検査(STEF、片麻痺機能テストなど)	予習:教科書「作業療法評価学(第2版)P200-207、P341-347」を熟読しておくこと	
成績評価方法と基準			
1)実技テスト			
2)小テスト			
3)定期試験			
4)平常点			
5)先修条件科目であることから、原則として欠席は認めない。単位認定のための必要出席時間数は「5分の4以上」とする。			
割合			
1)30%			
2)10%			
3)50%			
4)100%			

精神障害作業療法評価学(作業) (Occupational Therapy Evaluation for Mental Disorder)			
授業科目名	精神障害作業療法評価学(作業)	担当教員	橋本 弘子
主担当教員	橋本 弘子	担当教員	橋本 弘子
科目ナンバリング	SS206	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目 DP①④
配当年次	2	開講学期	曜日・時間 木曜 2 限
授業形態	演習	単位数	1
必修		必修・選択	必修
授業概要	精神障害作業療法における評価は、一通りの評価を終えてから治療を開始するといった方法が取りこく、初回の面接時から援助関係の構築から評価を随時行っていく事となる。その評価の基本的な流れ(導入評価→初期評価→再評価→最終評価)といった、評価のプロセス、そして面接、観察の具体的方法、基本的な留意点について学習し、実施できるようにする。また対象者主体に考えた評価項目(過去・現在の生活、これからの生活・環境因子、個人因子、自己理解と受容)と評価の視点と評価の項目を整理し、精神障害作業療法における評価手段を習得する。		
到達目標	1. 精神障害作業療法評価の意義と目的を理解し、口頭で説明できるようになる 2. 精神障害作業療法評価のプロセスを説明できるようになる 3. 精神障害作業療法評価の項目について学習し、説明できるようになる 4. 精神障害作業療法評価における基本的技法である面接、観察の具体的方法を学び実施できるようにする		
履修上の注意(学生へのメッセージ)			
授業後には復習を必ず行い、理解を深めてください。 また精神障害作業療法に関する文献などを積極的に読むようにしてください。			
教科書	1)「精神障害と作業療法 第3版」山根 寛/三輪書店 2)「国際生活機能分類ICFの理解と活用」上田 敏/研文社		
参考書	1)「国際生活機能分類—国際障害分類改訂版—」/WHO		
研究室/オフィスアワー			
木曜日(10:40~12:10)			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	精神障害作業療法評価のプロセスについて学ぶ	精神障害作業療法プロセスを図示する	
2	精神障害作業療法における情報収集と評価について学ぶ	精神障害作業療法評価の流れについて説明する	
3	精神障害作業療法評価とICFについて学ぶ	精神障害作業療法におけるICFを理解し、図示しながら説明する	
4	精神障害の捉え方について	障害相互の影響や活動と参加に対しての促進因子や阻害因子について考える	
5	精神障害とはどんな病気かを知る	当事者のDVDを見てレポートを提出	
6	精神障害の評価項目について学ぶ、1 (外観、第一印象、話し方、運動系自律神経系、対人パターン)	精神障害作業療法の評価項目について説明できる 小テスト(評価項目)	
7	精神障害作業療法の評価項目について学ぶ (日常生活機能評価、社会参加能力評価)	精神障害作業療法の評価項目について説明できる 小テスト(評価項目)	
8	精神障害作業療法の評価項目について学ぶ (作業遂行機能評価)	精神障害作業療法の評価項目について説明できる 小テスト(評価項目)	
9	精神障害作業療法の面接について学ぶ	面接技法を用いながら課題について面接を実施し、その内容をレポートにまとめる。 小テスト(評価項目)	
10	精神障害作業療法の面接について学ぶ	面接技法を用いながら課題について面接を実施し、その内容をレポートにまとめる。 小テスト(評価項目)	
11	精神障害作業療法の作業を通じた観察評価について学ぶ、1	構成的作業と非構成的作業の評価についてレポート提出	

	(構成的作業と非構成的作業)	小テスト(評価項目)	
12	精神障害作業療法の作業を通じた観察評価について学ぶ② (構成的作業と非構成的作業)	構成的作業と非構成的作業の評価についてレポート提出	
13	精神障害作業療法における集団の評価	精神障害作業療法における集団の評価について説明できる 小テスト(評価項目)	
14	精神障害作業療法評価の面接演習	3年生に対し面接を実施する。レポート作成	
15	精神障害作業療法評価の実際について学ぶ、2	ビデオ映像から観察評価レポート提出する	
成績評価方法と基準			割合
1. 定期試験			1. 70%
2. レポート課題			2. 20%
3. 小テストにより総合的に判断します。			3. 10%
必要出席時間数は授業時間数の4/5以上である。			

発達障害作業療法評価学(作業) (Occupational Therapy Evaluation for Developmental Disability)			
授業科目名	発達障害作業療法評価学(作業)	伊藤 直子	伊藤 直子、金森 幸
主担当教員	伊藤 直子	担当教員	伊藤 直子、金森 幸
科目ナンバリング	SS207	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目
配当年次	2	開講学期	後期
授業形態	演習	単位数	1
授業概要	<p>子どもたちの月齢や年齢による変化や行動を観察できるようにする。乳幼児期からの発達を身体運動面から理解し、それに伴う感覚・知覚・認知発達、対象操作や言語コミュニケーション能力との関連を理解する。授業は演技と観察を中心とし、治療者としての身体イメージの獲得、医療者としての表徴(言語や文章・描画による)、正常・異常・異常・個性を理解できるようにする。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 月齢による運動発達の変化と連続性の理解 2. 感覚・知覚・認知発達の理解 3. 身体企画・身体イメージ・身体概念の理解 4. 自律反応と自発運動の関係の理解 5. 言語発達の基礎の理解 <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>授業では、演技演習を重視します。実習用の服装と態度で臨んでください。自分の身体的特徴を十分理解し、健康管理と準備(柔軟性の獲得や協調運動の理解)を日ごろから行ってください。自身のボディイメージを整備し、健康を維持しておくことは、スポーツ選手と同様、医療職としてのパフォーマンスを最大化するために重要です。</p> <p>教科書</p> <p>写真でみる乳児の運動発達 Lois Bly 協同医書出版</p> <p>参考書</p> <p>発達を学ぶ、森岡周著 協同医書出版社 リハビリテーションのための人間発達学第2版 編集大塚昌平 メディカルプレス 正常発達第2版 脳性まひの治療アイデア Jung Sun Hong 三輪書店</p>		
研究室/オフィスアワー	研究室/木曜日午後		
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	総論:正常発達を学ぶ意義 授業の進め方	教科書の概覧 柔軟性操	
2	新生児:基本的な姿勢運動発達の見方	運動学の復習 観察のポイントの理解	
3	3ヶ月児:頭のコントロール、対称的姿勢の獲得	原始反射の意義 視覚の発達	
4	5ヶ月児:拮重姿勢の発達、四肢の運動、随意運動の発達のしくみ	抗重力活動 体幹・四肢の発達	
5	7ヶ月児:寝返りの獲得、視覚と体性感覚の統合	体軸内回旋 視覚と体性感覚の統合	
6	9ヶ月児:座位の獲得と三項関係の理解	四つ這い移動 座位の獲得	
7	1歳児:立位の獲得、平衡反応、両手動作	上肢機能の発達 リーチ・グラスプ・リリース・マニピュレーション	
8	1歳5ヶ月児:言語発達	認知発達 両手動作・道具操作	
9	2歳児:感覚・知覚・認知	ヒアーンエ:発生的認知論 感覚運動期・前概念	
10	3歳児:言語と社会性の発達、幼児期後半	ブルナー:学習過程 ボウルビー:母子相互作用	
11	4歳児:学習基礎能力	集団遊びの発達	
12	5歳児:就学準備	視覚認知発達	
13	6歳児:就学と地域小学校の生活	学童期の発達	

14	学童期の発達	日常生活技能 教科学習の基礎	
15	ノートの編集と実技テスト	実技試験 ノートの完成と提出	
成績評価方法と基準			割合
①各期で実技試験を行います。			①20%
②平常点数(授業態度を含む)、提出レポート、ノートの管理、出席を重視します。			②20%
③定期試験の実施(実技試験、ノートの作成、基礎知識の確認)			③60%
4/5以上の出席が必要			

高次脳機能障害作業療法評価学(作業) (Occupational Therapy Evaluation for Mental Disorder)																							
授業科目名	中村 めぐみ	担当教員	中村 めぐみ、中西 一																				
主担当教員	SS208	専門科目	DP①④																				
科目ナンバリング	2	開講学期	前期																				
配当年次	2	曜日・時間	金曜 2 限																				
授業形態	演習	単位数	1																				
必修		必修・選択	必修																				
授業概要	<p>本演習では、人間が日常生活や社会生活を営む上で必要な高次脳機能の働きについて学ぶ。また、様々な高次脳機能の評価方法を基礎の評価・検査・測定を用いて学習する。</p> <p>臨床で接する、高次脳機能障害を呈する対象者に対し、適切な評価を選択し、かつその評価結果を解釈する力を養う機会となることを期待している。そのためには、脳の機能高次脳機能の成り立ちを含めた解剖学・生理学の知識が必要である。本演習で学習する様々な脳の働きは、脳が障害している活動を支えている。演習を通じて、生活活動の分析がより深く行えるようになるために、評価の方法だけでなく、幅広い視点で学習していくことを目指している。それゆえに、定期試験では選択式ではなく、記述式の解答を求めることがある。また、評価の演習では、セラピストとしての態度を含めて指導する。演習中は作業療法士としての振る舞いを求められていることを忘れず、礼節のある態度をとること。</p>																						
到達目標	<p>1) 認知機能の定義や評価の目的について説明できる</p> <p>2) 注意機能、実行機能の定義や評価項目、評価の目的について説明できる</p> <p>3) 講義で紹介した評価や検査に関連する用語について、解剖学・生理学の知識と結び付けて理解できる</p> <p>4) 講義で紹介した評価を適切な方法で実施することができる</p> <p>5) 高次脳機能障害の臨床症状や評価項目、評価の目的について説明できる</p> <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>1) 講義では配布されたプリントは全てファインリングし、必要に応じて持参すること</p> <p>2) 本演習を履修するには、脳と神経にかかわる解剖学・生理学の知識が必要であるため、復習しておくこと</p> <p>3) 本講義は演習であるため、必要出席時間数は「授業時間の5分の4以上」を採用する。</p> <p>4) 学習状況の確認のために小テストを実施することがある</p>																						
教科書	<p>1) 石合伸夫: 高次脳機能障害学(第2版) 医歯薬出版株式会社, 2012年</p> <p>2) 田崎義昭, 斎藤生雄著, 坂井文彦改訂, ベントサイトの神経の診かた(改訂17版), 南山堂, 2010年。</p> <p>3) 岩崎テル子他編, 標準作業療法学専門分野, 作業療法評価学(第2版), 医学書院, 2011。</p>																						
参考書	<p>能登真一 編: 標準作業療法学専門分野 高次脳機能作業療法学, 医学書院, 2012年。</p> <p>生田宗博 編: 作業療法学全書第3巻 作業療法評価学(第3版), 協同医学出版社, 2009年。</p> <p>刈 雅子 編: 作業療法学全書第8巻 作業治療学5高次脳機能障害(第3版), 共同医学出版社, 2011年。</p> <p>森岡 周・リハビリテーションのための脳・神経科学入門(改訂第2版), 共同医学出版社, 2016年。</p> <p>石原 健司: OD-ROMでレッスン! 脳画像の読み方 医歯薬出版株式会社, 2010年。</p>																						
研究室/オフィスアワー	<p>中村めぐみ: 7階教職員室/木曜日 1:2-3 限目</p> <p>中西 一 : 7階教職員室/月曜日 4-5 限目</p>																						
授業展開及び授業計画表	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>学修内容</th> <th>予習・復習・課題等</th> <th>担当</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>高次脳機能とは 脳の図を書く、意識の評価を学ぶ(JSC, GCS)</td> <td>予習: 「高次脳機能作業療法学」p.1-21, 「ベントサイトの神経の診かた」p.281-306。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>脳の局在と機能を学ぶ。</td> <td>予習: 「高次脳機能作業療法学」p.10-21, 「ベントサイトの神経の診かた」p.129-142。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>注意機能の評価(OAT)と評価/バッテリーの採点、活用について</td> <td>予習: 「高次脳機能作業療法学」p.193-197。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>前頭葉機能とは: 前頭葉機能の評価(FAB他)</td> <td>予習: 「高次脳機能作業療法学」p.136-154, 「作業療法評価学」p.220-231。</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当	1	高次脳機能とは 脳の図を書く、意識の評価を学ぶ(JSC, GCS)	予習: 「高次脳機能作業療法学」p.1-21, 「ベントサイトの神経の診かた」p.281-306。		2	脳の局在と機能を学ぶ。	予習: 「高次脳機能作業療法学」p.10-21, 「ベントサイトの神経の診かた」p.129-142。		3	注意機能の評価(OAT)と評価/バッテリーの採点、活用について	予習: 「高次脳機能作業療法学」p.193-197。		4	前頭葉機能とは: 前頭葉機能の評価(FAB他)	予習: 「高次脳機能作業療法学」p.136-154, 「作業療法評価学」p.220-231。	
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当																				
1	高次脳機能とは 脳の図を書く、意識の評価を学ぶ(JSC, GCS)	予習: 「高次脳機能作業療法学」p.1-21, 「ベントサイトの神経の診かた」p.281-306。																					
2	脳の局在と機能を学ぶ。	予習: 「高次脳機能作業療法学」p.10-21, 「ベントサイトの神経の診かた」p.129-142。																					
3	注意機能の評価(OAT)と評価/バッテリーの採点、活用について	予習: 「高次脳機能作業療法学」p.193-197。																					
4	前頭葉機能とは: 前頭葉機能の評価(FAB他)	予習: 「高次脳機能作業療法学」p.136-154, 「作業療法評価学」p.220-231。																					

5	記憶について: 記憶障害の評価(三委式, WMS-R, リバミード行動記憶検査, ベント視覚記憶検査等)	予習: 「高次脳機能作業療法学」p.19-219, 「ベントサイトの神経の診かた」p.133。		
6	高次脳機能障害の評価: 失認について(視空間認知障害(BIT 等))	予習: 「高次脳機能作業療法学」p.151-180, 「ベントサイトの神経の診かた」p.259-265。		
7	高次脳機能の評価: 身体失認	予習: 「高次脳機能作業療法学」p.179-188, 「ベントサイトの神経の診かた」p.259-265。		
8	高次脳機能障害の評価: 失語症等	予習: 「高次脳機能作業療法学」p.23-57, 「ベントサイトの神経の診かた」p.247-258。		
9	高次脳機能の評価: 失行	予習: 「高次脳機能作業療法学」p.61-104, 「ベントサイトの神経の診かた」p.259-265。		
10	実行機能とは: 実行機能の評価(BADS, レーブン色彩マトリックス検査, WST1, ハノイの塔, ティンカート(テスト等))	予習: 「高次脳機能作業療法学」p.189-231, 「ベントサイトの神経の診かた」p.239-265。		
11	評価体験	これまでの評価項目を復習し、対象や目的の確認をしてください。		
12	臨床における高次脳機能障害の評価と治療(ケーストスビーカー)			学担当教員と作業療法士
13	画像について	予習: 「高次脳機能作業療法学」p.10-21。		
14	ケーススタディ(ゲストスピーカー)	予習: 各自必要な用語を調べる 復習: レポート作成(配点 20 点)		学担当教員と作業療法士
15	評価のまとめ、実技体験	予習: 各自学習・実習したい評価/バッテリーの資料を持参する 復習:		
成績評価方法と基準				
<p>1) ①定期試験, ②レポートの配点とする。提出期限の過ぎたレポートはマイナス10点。</p> <p>2) 必要出席時間は授業時間の5分の4以上である。</p> <p>3) 講義で配布した資料はファインリングして次回以降も必ず持参すること。</p> <p>4) 教科書はテーマに合わせ忘れず持参すること。</p> <p>5) 毎回開始時に小テストを実施する。小テストの平均点が70点を下回る学生は本試験前に補講に参加する必要がある。(開催日時は後日通知)</p>				
割合				
①80%				
②20%				

授業科目名		日常生活活動学(作業) (Activities of Daily Living)			
主担当教員	小林 貴代	担当教員	小林 貴代		
科目ナンバリング	SS301	専門科目	ディプロマポリシー該当項目		
配当年次	1	開講学期	後期		
授業形態	講義	単位数	2		
授業概要	日常生活動作とその概念を知り、疾病や障がいをもたらず問題点や課題を考える。誰もが繰り返し毎日営む、その人らしい日常生活動作を分析し、その過程を通して作業や活動の特性・個別性を知り、人としての生き方を支えることへの理解を深める。作業療法士としてのQOLを支える基本動作(起居・移乗・移動)・セルフケア(食事・排泄・入浴・コミュニケーション等)・応用動作・生活関連動作等の評価及び支援技術を理解し、QOLを向上させるためのADL支援について学修する。				
到達目標	※本科目は実務経験のある教員等による授業科目です				
1	ADLの概念や評価方法について説明できる				
2	動作分析・活動分析により日常生活活動の特性・個別性が理解できる				
3	障がい、モデルと生活環境整備などの関連付けが説明できる				
4	作業療法としてのADL支援技術・適応技術について理解できる				
履修上の注意(学生へのメッセージ)	履修上の注意(学生へのメッセージ)				
視覚教材・配布教材	視覚教材・配布教材を用いた講義と、演習・グループ討議・発表などを並行して行う				
教科書	教科書				
作業療法学全書	作業療法技術学3 日常生活動作:協同医書出版:日本作業療法士協会監修				
参考書	参考書				
新版 日常生活活動(ADL)評価と支援の実際	新版 日常生活活動(ADL)評価と支援の実際 : 医歯薬出版:編集伊藤利之ら				
ADL(P101)ビジュアルテキスト(第1版)	ADL(P101)ビジュアルテキスト(第1版) : 羊土社:柴書察編集				
研究室/オフィスアワー	研究室/オフィスアワー				
研究室C棟7階19号室にて、授業・会議などない時間で随時対応する	研究室C棟7階19号室にて、授業・会議などない時間で随時対応する				
授業展開及び授業計画表					
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当		
1	オリエンテーション 学修の目的・内容について	定義、概念など教科書での予習を行う。配布物の内容を復習する			
2	ADLの概念	ADLの概念を知り、視覚教材にて理解を深める			
3	ADLの総論 ADL-APDL-00L	障がいの有無にかかわらず、人生を通しての生活を知る。生活機能から見たADLの位置付けを知る。			
4	ADL各論 ADL 評価1	ADLの構成要素や評価方法を知る			
5	ADL各論 ADL 評価2	各評価方法の特性を学び、体験する			
6	ADL各論 摂食活動の基礎	摂食嚥下の基本を知り、評価や支援の理論を学ぶ			
7	ADL各論 排泄活動の基礎	排泄活動の基本を知り、評価や支援の理論を学ぶ			
8	ADL各論 入浴活動・清潔活動の基礎	入浴活動・清潔活動の基本を知り、評価や支援の理論を学ぶ			
9	ADL各論 更衣・整容活動の基礎	更衣・整容活動の基本を知り、評価や支援の理論を学ぶ			
10	ADL各論 移乗・移動の基礎	移乗・移動の基本を知り、評価や支援の理論を学ぶ			
11	ADL各論 コミュニケーションの基礎	コミュニケーションの基本を知り、評価や支援の理論を学ぶ			
12	ADL応用 義肢装具とADL	機能の代償である義肢装具の活用について評価や支援の理論を学ぶ			
13	ADL応用 自助具・福祉用具とADL	機能の代償である福祉用具の評価や支援の理論を学ぶ			

14	ADL応用:居住環境とADL	機能の代償である居住環境の評価や支援の理論を学ぶ	
15	疾患別 ADL 支援技術	疾患別の特性に基づいたADLの事例を通して、作業療法的生活機能向上支援技術としてのADL支援を理解する	
成績評価方法と基準			割合
2/3回以上の出席が必要			1. 70%
1. 期考テスト			2. 30%
2. 小テスト、レポート、課題提出			
これらを総合的に評価する			

授業科目名 身体障害作業療法学総論(作業) (General Occupational Therapy for Physical Disability)			
主担当教員	小林 貴代	担当教員	小林 貴代、中村 めぐみ、中西 一
科目ナンバリング	SS002	科目区分	ディプロマポリシー 該当項目 DP①
配当年次	3	開講学期	曜日・時間 月曜 3限
授業形態	講義	単位数	2 必修・選択 必修
授業概要			
身体障害領域における作業療法の治療的介入方法を知り、疾患の特性に合わせた治療および支援・技術を学ぶ。治療学として、評価の選択・評価の実施・問題点の抽出・目標設定・治療プログラムの立案の総論に合わせ、患者自身の「生活」を支援する技術を学ぶ。			
※本科目は実務経験のある教員等による授業科目です			
到達目標			
1. 作業療法的介入を学び、作業療法士の役割を考える 2. 疾患別に評価から治療までの経過を説明することができる 3. 作業療法で用いられる治療的支援技術について学習する			
履修上の注意(学生へのメッセージ)			
1. 基礎医学の知識の総まとめとして疾患に展開できるよう、解剖学・生理学・運動学など復習しておく 2. 作業療法的介入を考えるにあたり、作業遂行や作業科学について復習しておく 3. 作業の遂行を考えるにあたり、日常生活活動学について復習しておく 4. 総合臨床実習に向けて事例検討を行う			
教科書			
作業療法学 コール・マスタキナキ4 身体障害作業療法学 長崎通信編集監修 MEDICAL VIEW			
参考書			
1. PT/OTビジュアルテキスト リハビリテーション・基礎評価学 羊土社 2. リハビリテーション・ビジュアルブック 学研 3. 病気が見える7 脳・神経 MEDIC MEDIA 4. 総て見る脳と神経 しゅくみと障害のメカニズム第3版 医学書院 5. 標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学 第3版 6. 作業療法学全書 4. 作業治療学 1 身体障害 日本作業療法士会 共同医書出版 7. クリニカル作業療法シリーズ 身体領域の作業療法 第2版 中央法規			
研究室/オフィスアワー			
研究室 6 棟 7 階 19 号室と共同研究室にて、授業・会議などない時間で随時対応する			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	身体障害作業療法学総論1	作業療法治療モデル	中村
2	身体障害作業療法学総論2	治療学概論・作業療法的介入	中村
3	身体障害作業療法学総論3	評価から治療への実際	中村
4	身体障害作業療法学 骨関節障害1	高齢者の骨折(大腿部頭部骨折・圧迫骨折・colies骨折)	中西
5	身体障害作業療法学 中枢神経障害1	脳血管障害	中西
6	身体障害作業療法学 中枢神経障害2	変性疾患/パーキンソン	中西
7	身体障害作業療法学 中枢神経障害3	変性疾患/SCD	中西
8	身体障害作業療法学 中枢神経障害4	神経筋疾患 ALS 筋ジス	小林
9	身体障害作業療法学 中枢神経障害5	神経筋障害	小林
10	身体障害作業療法学 中枢神経障害6	背髄損傷(ギラン・バレー・MSなど)	小林
11	身体障害作業療法学 内部障害1	循環器系障害(心血管系)検査データ・心電図	小林
12	身体障害作業療法学 内部障害2	呼吸・嚥下障害(VF・水飲みテストなど)	小林

13	身体障害作業療法学 内部障害3	廃用症候群・アルコール・アイル・生活習慣病	中村
14	身体障害作業療法学 脳血管障害事例	脳血管障害事例	中西
15	身体障害作業療法学 脳血管障害事例	その他事例	中西
成績評価方法と基準			割合
2/3 回の出席必要			1. 70%
1. 期末テスト			2. 30%
2. 提出物			
これらを総合的に評価する			

授業科目名	精神障害作業療法治療学総論(作業) (General Occupational Therapy for Mental Disorder)		
主担当教員	橋本 弘子	担当教員	橋本 弘子
科目ナンバリング	SS303	科目区分	DP①
配当年次	3	開講学期	前期
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	精神科疾患の特徴を理解しながら、日常生活における問題点について学修する。日常生活における問題点を国際生活機能分類(ICF: International Classification of Functioning)に基づいて心身機能・参加・活動・環境因子・個人因子から把握できるようにし、相互依存や相対的独立性の関連性をみつけ、精神科疾患の行動特性と脳機能を関連させて考察できるように学修する。さらに精神科作業療法実践における基本的理論について学修し、精神科作業療法における論理的な思考を習得する。		
到達目標	※本科目は実務経験のある教員等による授業科目です		

1. 国際生活機能分類(ICF: International Classification of Functioning)に基づいた心身機能・参加・活動・環境因子・個人因子における相互依存や相対的独立性の関連性を理解する
 2. 精神科疾患の行動特性と脳機能を関連させて考察できる
 3. 精神科作業療法における理論を理解する
- 履修上の注意(学生へのメッセージ)
- 各因子の関連性、理論、脳機能を統合的に考えることによって、対象者一人一人にどのように治療すればいいかが見えてきます。授業内で実施する小テストは8割を超えるように、毎回の授業の復習をしてください。

教科書

- 1)『精神障害と作業療法 第3版』山根 寛/三輪書店
- 2)統合失調症患者の行動特性 その支援とICF 風田源四郎 金剛出版
- 3)作業療法全書 精神障害 富岡昭子 共同医学出版社

参考書

- 1)作業療法実践のための6つの理論—理論の形成と発展 岩崎テリ子監訳 共同医学出版社
- 2)『国際生活機能分類 ICF の理解と活用』上田敏/萌文社
- 3)国際機能分類—国際障害分類改訂版— WHO 中央法規

研究室/オフィスアワー

木曜日 2 限(10:40~12:10)

授業展開及び授業計画表	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	作業療法実践のプロセス	これまでに実施した精神科作業療法の授業から評価から治療までのプロセスについて教科書、レジュメ等で復習しておく	
2	回復状態に応じた作業療法の役割	復習:作業療法治療プロセスについて予習:疾患の回復状態について予習して小テスト	
3	ICF の特性と各因子の関連性	復習:ICFについて予習:相互依存や相対的独立性といった因子の関連性について	
4	ICF における精神機能1 一全般的精神機能	復習:全般的精神機能について配布資料を見よう	
5	ICF における精神機能2 一個別的精神機能	予習:注意、記憶等について配布資料を見よう	
6	ICF における精神機能3 一個別的精神機能	復習:個別的精神機能について配布資料を見よう	
7	ICF における精神機能4 一個別的精神機能	予習:高次認知機能等について配布資料を見よう	
8	疾患の行動特性およびその支援とICF1	復習:個別的精神機能について小テスト	
9	疾患の行動特性およびその支援とICF2	予習:行動特性について教科書を見よう	
10	理論とは?	復習:行動特性について小テスト	

11	精神科作業療法における理論について	復習:理論について予習:行動特性について教科書を見よう	
12	症例検討1 全体像の把握から治療計画まで(データの整理、要約)	復習:理論について小テスト予習:これまでの配布資料を見よう	
13	症例検討2 全体像の把握から治療計画まで(全体像の把握)	復習:症例を読む予習:全体像を考える	
14	症例検討3 全体像の把握から治療計画まで(治療計画立案)	復習:症例を読む予習:全体像を考える	
15	臨床における精神科作業療法治療	精神科病院で実践されている作業療法について学ぶ	
成績評価方法と基準			割合
1. 定期試験			1. 60%
2. 小テスト			2. 40%
2/3 以上の出席を成績評価対象とする。			

授業科目名 老年期障害作業療法治療学総論(作業) (General Occupational Therapy for Geriatric Disorder)																																																			
主担当教員	松下 太	担当教員	松下 太																																																
科目ナンバリング	SS004	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目																																																
配当年次	3	開講学期	前期																																																
授業形態	講義	単位数	2																																																
授業概要	この科目では、身体機能低下・脳血管障害・骨関節障害・認知症等慢性疾患・自立生活困難・健康維持など高齢者が抱える生活上の問題を高齢や生涯発達という観点の中で捉えながら、介入していく視点と技術、作業療法プログラムについて学習する。また入院・入所や廃用性低下など環境の変化や周囲からの関わり方が活動・参加に及ぼす影響をクラス面だけでなくマイナスイメージから理解する包括的な視野を養う。																																																		
※本科目は実務経験のある教員等による授業科目です																																																			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢社会とその問題点について説明できる。 2. 老年期を対象とする作業療法を実施する場合、考慮すべき老化を列挙し、かつその内容を簡潔に説明できる。 3. 老年期の対象者に対する作業療法の役割を説明できる。 4. 老年期の特徴的な疾患に対する作業療法計画、治療について説明できる。 																																																		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	必ず復習をして十分に理解してください。常日頃より、高齢者問題に関心を持って、新聞やニュース等のメディアを通じて情報を取り入れてください。																																																		
教科書	<ol style="list-style-type: none"> 1. 標準作業療法学専門分野、高齢期作業療法学第3版 松房利恵、新井健五 編 医学書院 2. 認知症をもつ人への作業療法アプローチ 宮口英樹 監修 メジカルビュー社 																																																		
参考書	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小川敬之、竹田徳則、認知症の作業療法 第2版、医歯薬出版 2. 山口晴保、認知症の正しい理解と包括的医療・ケアのポイント 第3版、協同医学出版 3. 高水知夫 編、若年認知症—本人・家族が断ぐ7つの物語—、中央法規 																																																		
研究室/オフィスアワー	0 棟 7 階研究室 17 / 木曜日 1:2-3 限目																																																		
授業展開及び授業計画表	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>学修内容</th> <th>予習・復習・課題等</th> <th>担当</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>高齢社会とその課題 老年期障害作業療法の概念</td> <td>高齢社会の問題や課題について予習・復習すること。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>加齢に伴う身体・精神的変化と特徴</td> <td>特に「知能」や「記憶」に関して、心理学や精神医学等で学んだ内容について予習しておくこと。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>認知症総論(サポーター養成講座兼ねる)</td> <td>4 大認知症について予習・復習すること。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>認知症の人に対するパーソン・センタード・ケアとコミュニケーション(1)</td> <td>パーソン・センタード・ケアを復習すること。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>認知症の人に対するパーソン・センタード・ケアとコミュニケーション(2)</td> <td>パーソン・センタード・ケアを復習し、平日頃から相手の立場に立って物事を考え定めること。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>認知症の人に対するOT 評価(1)</td> <td>4 大認知症の特徴を予習しておくこと。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>認知症の人に対するOT 評価(2)</td> <td>認知症の人に対するOT 評価を復習しておくこと。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>老年期の障害別作業療法(認知症疾患 1)</td> <td>4 大認知症の特徴を予習しておくこと。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>老年期の障害別作業療法(認知症疾患 2)</td> <td>授業で学んだことを必ず復習しておくこと。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>老年期の障害別作業療法(認知症疾患 3)</td> <td>非薬物療法の実践に備えて復習しておくこと。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>老年期の障害別作業療法(中枢性疾患、運動器疾患、廃用性症候群など)</td> <td>授業で学んだことを必ず復習しておくこと。</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当	1	高齢社会とその課題 老年期障害作業療法の概念	高齢社会の問題や課題について予習・復習すること。		2	加齢に伴う身体・精神的変化と特徴	特に「知能」や「記憶」に関して、心理学や精神医学等で学んだ内容について予習しておくこと。		3	認知症総論(サポーター養成講座兼ねる)	4 大認知症について予習・復習すること。		4	認知症の人に対するパーソン・センタード・ケアとコミュニケーション(1)	パーソン・センタード・ケアを復習すること。		5	認知症の人に対するパーソン・センタード・ケアとコミュニケーション(2)	パーソン・センタード・ケアを復習し、平日頃から相手の立場に立って物事を考え定めること。		6	認知症の人に対するOT 評価(1)	4 大認知症の特徴を予習しておくこと。		7	認知症の人に対するOT 評価(2)	認知症の人に対するOT 評価を復習しておくこと。		8	老年期の障害別作業療法(認知症疾患 1)	4 大認知症の特徴を予習しておくこと。		9	老年期の障害別作業療法(認知症疾患 2)	授業で学んだことを必ず復習しておくこと。		10	老年期の障害別作業療法(認知症疾患 3)	非薬物療法の実践に備えて復習しておくこと。		11	老年期の障害別作業療法(中枢性疾患、運動器疾患、廃用性症候群など)	授業で学んだことを必ず復習しておくこと。	
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当																																																
1	高齢社会とその課題 老年期障害作業療法の概念	高齢社会の問題や課題について予習・復習すること。																																																	
2	加齢に伴う身体・精神的変化と特徴	特に「知能」や「記憶」に関して、心理学や精神医学等で学んだ内容について予習しておくこと。																																																	
3	認知症総論(サポーター養成講座兼ねる)	4 大認知症について予習・復習すること。																																																	
4	認知症の人に対するパーソン・センタード・ケアとコミュニケーション(1)	パーソン・センタード・ケアを復習すること。																																																	
5	認知症の人に対するパーソン・センタード・ケアとコミュニケーション(2)	パーソン・センタード・ケアを復習し、平日頃から相手の立場に立って物事を考え定めること。																																																	
6	認知症の人に対するOT 評価(1)	4 大認知症の特徴を予習しておくこと。																																																	
7	認知症の人に対するOT 評価(2)	認知症の人に対するOT 評価を復習しておくこと。																																																	
8	老年期の障害別作業療法(認知症疾患 1)	4 大認知症の特徴を予習しておくこと。																																																	
9	老年期の障害別作業療法(認知症疾患 2)	授業で学んだことを必ず復習しておくこと。																																																	
10	老年期の障害別作業療法(認知症疾患 3)	非薬物療法の実践に備えて復習しておくこと。																																																	
11	老年期の障害別作業療法(中枢性疾患、運動器疾患、廃用性症候群など)	授業で学んだことを必ず復習しておくこと。																																																	

12	介護保険施設における作業療法(1)	介護保険施設の概要を説明できるよう予習しておくこと。
13	介護保険施設における作業療法(2)	生活に關わることの重要性を理解し復習しておくこと。
14	生活期における作業療法	生活期とは何かを予習しておくこと。
15	老年期作業療法の課題	授業で学んだことを必ず復習しておくこと。
成績評価方法と基準		
割合		
1) 定期試験		
2) 授業内発表		
3) レポート		

発達障害作業療法治療学総論(作業) (General Occupational Therapy for Developmental Disability)																																																																			
授業科目名	発達障害作業療法治療学総論(作業)	担当教員	伊藤 直子、金森 幸																																																																
主担当教員	伊藤 直子	専門科目	ディプロマポリシー																																																																
科目ナンバリング	SS05	科目区分	DP①																																																																
配当年次	3	開講学期	前期																																																																
授業形態	講義	単位数	2																																																																
授業概要	<p>週産期から思春期にかけての障がいのある子どもの発達と作業療法士のアプローチを学びます。障がいや年齢にそった日常生活や学業の支援技術を教科書にそって学びながら、より具体的な対応方法を検討します。</p> <p>※本科目は実務経験のある教員等による授業科目です</p> <p>到達目標</p> <p>①作業療法概論・小児科学・発達障害作業療法評価学をふまえ、子どもの発達課題を疾患別に解決していきます。</p> <p>②ICFを基礎とし、生活行為向上・マネジメントをしながら事例検討を行います。</p> <p>③生活の場で、子ども自身が主体的に取り組める「作業」を具出します。</p> <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>①1, 2年生の復習をしっかり行う事(教科書・ノートの活用)</p> <p>②図書類などを利用して事前学習をしてください。</p> <p>③基本的な作業療法士の在り方を考えてください。</p>																																																																		
教科書	イラストでわかる発達障害の作業療法 監修上杉雅之、編集幸嶋千恵子 医療薬出版株式会社																																																																		
参考書	発達を学ぶ 森岡周著 協同医学出版社																																																																		
研究室/オフィスアワー	月曜日 13:00~15:00																																																																		
授業展開及び授業計画表	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>学修内容</th> <th>予習・復習・課題等</th> <th>担当</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>小児の作業療法過程</td> <td>2年次の学習(小児科学・評価学)の復習</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>評価・治療・援助のための基礎知識</td> <td>発達課程と評価表</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>心身機能と発達過程</td> <td>発達の各項目の整理</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>発達障害:広汎性発達障害</td> <td>感覚統合療法</td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>発達障害:注意欠如・多動症</td> <td>粗大運動発達とADL</td> <td></td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>発達障害:学習障害</td> <td>眼球運動と教科学習</td> <td></td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>脳性麻痺:痙直型脳性麻痺</td> <td>GMFSと二次障害予防</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>脳性麻痺:アトニー型脳性麻痺</td> <td>感情のコントロールと自己調整</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>重症心身障害</td> <td>三問表・感覚評価・医療ケア</td> <td></td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>知的障害:ダウン症</td> <td>聴覚認知・ワーキングメモリ・言語発達</td> <td></td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>デュシャンヌ型筋ジストロフィー</td> <td>特別支援教育とIT支援</td> <td></td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>小児整形外科疾患(二分脊椎・分腕麻痺・骨形成不全症)</td> <td>子どもの最善の利益とインフォームドアセント</td> <td></td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>小児リハビリテーションと支援制度</td> <td>児童福祉法、年齢、疾患と制度</td> <td></td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>障がい児の保護者への子育て支援</td> <td>母子相互作用、家族支援、地域支援</td> <td></td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>知識の整理と試験準備</td> <td>疾患と発達、生活支援、参加支援</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当	1	小児の作業療法過程	2年次の学習(小児科学・評価学)の復習		2	評価・治療・援助のための基礎知識	発達課程と評価表		3	心身機能と発達過程	発達の各項目の整理		4	発達障害:広汎性発達障害	感覚統合療法		5	発達障害:注意欠如・多動症	粗大運動発達とADL		6	発達障害:学習障害	眼球運動と教科学習		7	脳性麻痺:痙直型脳性麻痺	GMFSと二次障害予防		8	脳性麻痺:アトニー型脳性麻痺	感情のコントロールと自己調整		9	重症心身障害	三問表・感覚評価・医療ケア		10	知的障害:ダウン症	聴覚認知・ワーキングメモリ・言語発達		11	デュシャンヌ型筋ジストロフィー	特別支援教育とIT支援		12	小児整形外科疾患(二分脊椎・分腕麻痺・骨形成不全症)	子どもの最善の利益とインフォームドアセント		13	小児リハビリテーションと支援制度	児童福祉法、年齢、疾患と制度		14	障がい児の保護者への子育て支援	母子相互作用、家族支援、地域支援		15	知識の整理と試験準備	疾患と発達、生活支援、参加支援	
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当																																																																
1	小児の作業療法過程	2年次の学習(小児科学・評価学)の復習																																																																	
2	評価・治療・援助のための基礎知識	発達課程と評価表																																																																	
3	心身機能と発達過程	発達の各項目の整理																																																																	
4	発達障害:広汎性発達障害	感覚統合療法																																																																	
5	発達障害:注意欠如・多動症	粗大運動発達とADL																																																																	
6	発達障害:学習障害	眼球運動と教科学習																																																																	
7	脳性麻痺:痙直型脳性麻痺	GMFSと二次障害予防																																																																	
8	脳性麻痺:アトニー型脳性麻痺	感情のコントロールと自己調整																																																																	
9	重症心身障害	三問表・感覚評価・医療ケア																																																																	
10	知的障害:ダウン症	聴覚認知・ワーキングメモリ・言語発達																																																																	
11	デュシャンヌ型筋ジストロフィー	特別支援教育とIT支援																																																																	
12	小児整形外科疾患(二分脊椎・分腕麻痺・骨形成不全症)	子どもの最善の利益とインフォームドアセント																																																																	
13	小児リハビリテーションと支援制度	児童福祉法、年齢、疾患と制度																																																																	
14	障がい児の保護者への子育て支援	母子相互作用、家族支援、地域支援																																																																	
15	知識の整理と試験準備	疾患と発達、生活支援、参加支援																																																																	

成績評価方法と基準		割合
①授業態度、主体性と積極性		①30%
②事前学習と発表		②30%
③試験		③40%

授業科目名 身体障害作業療法治療学各論(作業) (Detailed Occupational Therapy for Physical Disability)																																																											
主担当教員	小林 貴代	担当教員	小林 貴代、中村 めぐみ、中西 一																																																								
科目ナンバリング	SS306	科目区分	ディプロマポリシー 該当項目 DP①																																																								
配当年次	3	開講学期	曜日・時間 月曜 1限																																																								
授業形態	講義	単位数	必修・選択 必修																																																								
授業概要	<p>身体障害領域における作業療法の治療的介入方法を学び、疾患の特性に合わせた治療および支援・技術を学ぶ。治療学として、評価の選択・評価の実施・問題点の抽出・目標設定・治療プログラム立案の経過に合わせ、患者自身の「生活」を支援する技術を学ぶ。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 作業療法的介入を学び、作業療法士の役割を考える 2. 疾患別に評価から治療までの経過を説明することができる 3. 作業療法で用いられる治療的支援技術について学修する <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 基礎医学の知識の総まとめとして疾患に展開できるよう、解剖学・生理学・運動学など復習しておく 2. 作業療法的介入を考えるにあたり、作業療法や作業科学について復習しておく 3. 作業の遂行を考えるにあたり、日常生活活動学について復習しておく 4. 総合臨床実習に向けて事例検討を行う <p>教科書</p> <p>クリニカル作業療法シリーズ 身体領域の作業療法 第2版 大嶋伸雄編集 中央法規</p> <p>参考書</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. PT/OTビジュアルテキスト リハビリテーション基礎評価学 羊土社 2. リハビリテーション・ジョブ・テクノロジー学 学研 3. 病気が伝える7 脳・神経 MEDIC MEDIA 4. 総で見る脳と神経 しゅくみと障害のメカニズム第3版 医学書院 5. 標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学 第3版 6. 作業療法学全書 4 作業治療学1 身体障害 日本作業療法士会 7. クリニカル作業療法シリーズ 身体領域の作業療法 第2版 中央法規 <p>研究室/オフィスアワー</p> <p>研究室C棟7階19号室と共同研究室にて、授業・会議などない時間で随時対応する</p>																																																										
授業展開及び授業計画表	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>学修内容</th> <th>予習・復習・課題等</th> <th>担当</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>身体障害作業療法治療学 各論</td> <td>RAについて作業療法治療学を学ぶ</td> <td>中村</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>身体障害作業療法治療学 各論</td> <td>熱傷・外傷・ハンドセラピー①</td> <td>中西</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>身体障害作業療法治療学 各論</td> <td>熱傷・外傷・ハンドセラピー②</td> <td>中村</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>身体障害作業療法治療学 各論</td> <td>上肢骨折・外傷・ハンドセラピー③</td> <td>中西</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>身体障害作業療法治療学 各論</td> <td>骨折・外傷・ハンドセラピー④</td> <td>中村</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>身体障害作業療法治療学 各論</td> <td>頸椎症について作業療法治療学を学ぶ</td> <td>中西</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>身体障害作業療法治療学 各論</td> <td>嚥下障害について作業療法治療学を学ぶ</td> <td>小林</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>身体障害作業療法治療学 各論</td> <td>心臓・循環器系について作業療法治療学を学ぶ</td> <td>小林</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>身体障害作業療法治療学 各論</td> <td>呼吸器系について作業療法治療学を学ぶ</td> <td>小林</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>身体障害作業療法治療学 各論</td> <td>糖尿病・透析などの内部疾患について作業療法治療学を学ぶ</td> <td>小林</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>身体障害作業療法治療学 各論</td> <td>事例検討①</td> <td>全員</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>身体障害作業療法治療学 各論</td> <td>頭部外傷について作業療法治療学を学ぶ</td> <td>中西</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>身体障害作業療法治療学 各論</td> <td>事例検討②</td> <td>全員</td> </tr> </tbody> </table>			回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当	1	身体障害作業療法治療学 各論	RAについて作業療法治療学を学ぶ	中村	2	身体障害作業療法治療学 各論	熱傷・外傷・ハンドセラピー①	中西	3	身体障害作業療法治療学 各論	熱傷・外傷・ハンドセラピー②	中村	4	身体障害作業療法治療学 各論	上肢骨折・外傷・ハンドセラピー③	中西	5	身体障害作業療法治療学 各論	骨折・外傷・ハンドセラピー④	中村	6	身体障害作業療法治療学 各論	頸椎症について作業療法治療学を学ぶ	中西	7	身体障害作業療法治療学 各論	嚥下障害について作業療法治療学を学ぶ	小林	8	身体障害作業療法治療学 各論	心臓・循環器系について作業療法治療学を学ぶ	小林	9	身体障害作業療法治療学 各論	呼吸器系について作業療法治療学を学ぶ	小林	10	身体障害作業療法治療学 各論	糖尿病・透析などの内部疾患について作業療法治療学を学ぶ	小林	11	身体障害作業療法治療学 各論	事例検討①	全員	12	身体障害作業療法治療学 各論	頭部外傷について作業療法治療学を学ぶ	中西	13	身体障害作業療法治療学 各論	事例検討②	全員
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当																																																								
1	身体障害作業療法治療学 各論	RAについて作業療法治療学を学ぶ	中村																																																								
2	身体障害作業療法治療学 各論	熱傷・外傷・ハンドセラピー①	中西																																																								
3	身体障害作業療法治療学 各論	熱傷・外傷・ハンドセラピー②	中村																																																								
4	身体障害作業療法治療学 各論	上肢骨折・外傷・ハンドセラピー③	中西																																																								
5	身体障害作業療法治療学 各論	骨折・外傷・ハンドセラピー④	中村																																																								
6	身体障害作業療法治療学 各論	頸椎症について作業療法治療学を学ぶ	中西																																																								
7	身体障害作業療法治療学 各論	嚥下障害について作業療法治療学を学ぶ	小林																																																								
8	身体障害作業療法治療学 各論	心臓・循環器系について作業療法治療学を学ぶ	小林																																																								
9	身体障害作業療法治療学 各論	呼吸器系について作業療法治療学を学ぶ	小林																																																								
10	身体障害作業療法治療学 各論	糖尿病・透析などの内部疾患について作業療法治療学を学ぶ	小林																																																								
11	身体障害作業療法治療学 各論	事例検討①	全員																																																								
12	身体障害作業療法治療学 各論	頭部外傷について作業療法治療学を学ぶ	中西																																																								
13	身体障害作業療法治療学 各論	事例検討②	全員																																																								

14	身体障害作業療法治療学 各論	症について作業療法治療学を学ぶ	中西
15	身体障害作業療法治療学 各論	作業療法における最新情報について作業療法治療学を学ぶ	小林
成績評価方法と基準			
2/3回の出席必要			
1. 期末テスト			
2. 提出物			
これらを総合的に評価する			
割合			
1. 70%			
2. 30%			

授業科目名 精神障害作業療法治療学各論(作業) (Detailed Occupational Therapy for Mental Disorder)			
主担当教員	橋本 弘子	担当教員	橋本 弘子
科目ナンバリング	SS307	専門科目	ケアプログラム 該当項目 DP①
配当年次	3	後期	曜日・時限 水曜 1限
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	<p>各疾患に対する障害像を理解する 2. 各疾患にあった作業療法の目的と課題を考察することができる 3. 各疾患にあった評価方法を立案できる 4. プログラムを立案できる 5. 回復過程に応じた作業療法を考察することができる 6. 作業療法実施上の留意点について述べる事ができる</p>		
到達目標	<p>1. 各疾患に対する障害像を理解する 2. 各疾患にあった作業療法の目的と課題を考察することができる 3. 各疾患にあった評価方法を立案できる 4. プログラムを立案できる 5. 回復過程に応じた作業療法を考察することができる 6. 作業療法実施上の留意点について述べる事ができる</p>		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	これまで学習してきたことの集大成となります。自ら考え問題解決行動をとるよう授業に参加してください。		
教科書	1)『精神障害と作業療法 第3版』山根 寛/三輪書店 2)統合失調症患者の行動特性 その支援とICF 風田源四郎 金剛出版 3)作業療法全書 精神障害 富岡昭子 共同医学出版社 4)PT/OT 国家試験 必修ポイント 障害別OT治療学 身体障害領域 発達障害領域 精神障害領域 医療薬学出版編		
参考書	1)作業療法実践のための6つの理論—理論の形成と発展 岩崎テリ子監訳 共同医学出版社 2)『国際生活機能分類 ICF の理解と活用』上田敏/萌文社 3)国際機能分類—国際障害分類改訂版— WHO 中央法規 4)精神障害作業療法学 長崎重信監修 メディカルビュー社 研究室/オフィスアワー		
木曜 2 限(10:40~12:10)			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	精神科作業療法 疾患別アプローチについて 統合失調症に対する作業療法 1	復習：精神科作業療法プロセスについて 予習：教科書にて疾患の勉強しておく	
2	統合失調症に対する作業療法 2	復習：精神科作業療法プロセスについて 予習：教科書にて疾患の勉強しておく 統合失調症に関する国家試験形式のテスト実施	
3	気分障害に対する作業療法 1	復習：精神科作業療法プロセスについて 予習：教科書にて疾患の勉強しておく	
4	気分障害に対する作業療法 2	復習：精神科作業療法プロセスについて 予習：教科書にて疾患の勉強しておく 気分障害に関する国家試験形式の小テスト	
5	神経症性障害に対する作業療法 1	復習：精神科作業療法プロセスについて 予習：教科書にて疾患の勉強しておく	
6	神経症性障害に対する作業療法 2	復習：精神科作業療法プロセスについて 予習：教科書にて疾患の勉強しておく 神経症性障害に関する国家試験形式の小テスト	
7	摂食障害、パーソナリティ障害に対する作業療法 1	復習：精神科作業療法プロセスについて 予習：教科書にて疾患の勉強しておく	
8	摂食障害、パーソナリティ障害に対する作業療法 2	復習：精神科作業療法プロセスについて 予習：教科書にて疾患の勉強しておく	

9	てんかん、アルコール・薬物依存に対する作業療法 1	復習：精神科作業療法プロセスについて 予習：教科書にて疾患の勉強しておく てんかん、アルコール・薬物依存に関する国家試験形式の小テスト	摂食障害、パーソナリティ障害に関する国家試験形式の小テスト
10	心理教育・SST・認知行動療法について	復習：精神科作業療法プロセスについて	
11	治療者とは 作業療法の基本構造	復習：精神科作業療法プロセスについて 予習：教科書にて疾患の勉強しておく	
12	症例検討：症例提示(外観、第一印象をまとめる)	復習：精神科作業療法プロセスについて 予習：教科書にて疾患の勉強しておく	
13	症例検討：治療計画立案まで(一般情報のみ)	復習：精神科作業療法プロセスについて 予習：教科書にて疾患の勉強しておく	
14	症例検討：治療計画立案まで(作業療法評価と行動特性の理解 1)	症例を ICF の視点で理解する	
15	症例検討：治療計画立案まで(作業療法評価と行動特性の理解 2)	症例の問題点と利点を抽出する	
成績評価方法と基準			
1. 定期試験			
2. 小テスト			
割合			
1. 90%			
2. 10%			

授業科目名 老年期障害作業療法治療学各論(作業) (Detailed Occupational Therapy for Geriatric Disorder)																																																															
主担当教員	松下 太	担当教員	松下 太																																																												
科目ナンバリング	SS308	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目																																																												
配当年次	3	後期	曜日・時間																																																												
授業形態	講義	単位数	1																																																												
授業概要	<p>老年期障害作業療法治療学総論で学んだ、老年期障害作業療法の基本的な治療理論を踏まえ、事例検討を通して臨床への応用力を養う。</p> <p>到達目標</p> <p>老年期における作業療法の理解を有機的に深め、老年期の各種疾患に対する作業療法を実践できる。</p> <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <ol style="list-style-type: none"> グループ学習が中心となるため、各自が積極的に参加し、積極的に意見を述べること。 他の学生に教授するという責任感と自覚を持って取り組むこと。 レポート等の提出期限・時間は厳守すること。 グループ発表の時間は20分・質疑応答10分とする。 <p>教科書</p> <ol style="list-style-type: none"> 標準作業療法学専門分野 高齢期作業療法学第3版 松房利憲 新井健五 編 医学書院 認知症をもつ人への作業療法アプローチ 宮口英樹 監修 メジカルビュー社 <p>参考書</p> <ol style="list-style-type: none"> 小川敬之 竹田徳則 認知症の作業療法 第2版、医歯薬出版 山口晴保 認知症の正しい理解と包括的医療・ケアのポイント 第3版、協同医学出版 宮永和夫 編、若年認知症—本人・家族が働く7つの物語—、中央法規 																																																														
研究室/オフィスアワー	研究室 0 棟 7 階研究室 17 / 木曜日 1・2・3 限目																																																														
授業展開及び授業計画表	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>学修内容</th> <th>予習・復習・課題等</th> <th>担当</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション</td> <td>3 年前期開講の「老年期障害作業療法治療学総論」で学んだことを、あらかじめ復習しておくこと。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>グループワーク&発表準備</td> <td>事例を PowerPoint にまとめ、レジュメも作成する。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>グループワーク&発表準備</td> <td>事例を PowerPoint にまとめ、レジュメも作成する。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>グループ発表 & 討議①②③</td> <td>レジュメを配布し、PowerPoint で事例発表をする。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>グループ発表 & 討議④⑤⑥</td> <td>レジュメを配布し、PowerPoint で事例発表をする。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>グループ発表 & 討議⑦⑧⑨</td> <td>レジュメを配布し、PowerPoint で事例発表をする。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>グループ発表 & 討議⑩ 集団療法と笑い(講義+演習)</td> <td>レジュメを配布し、PowerPoint で事例発表をする。ゲストスピーカーより、集団療法における笑いの重要性を教授いただく。 課題: レポート提出</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>集団療法と笑い(講義+演習)</td> <td>ゲストスピーカーより、集団療法における笑いの重要性を教授いただく。 課題: レポート提出</td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="4">成績評価方法と基準</td> </tr> <tr> <td colspan="4">1) 授業内発表</td> </tr> <tr> <td colspan="4">2) レポート</td> </tr> <tr> <td colspan="3"></td> <td>割合</td> </tr> <tr> <td colspan="3"></td> <td>1) 70%</td> </tr> <tr> <td colspan="3"></td> <td>2) 30%</td> </tr> </tbody> </table>			回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当	1	オリエンテーション	3 年前期開講の「老年期障害作業療法治療学総論」で学んだことを、あらかじめ復習しておくこと。		2	グループワーク&発表準備	事例を PowerPoint にまとめ、レジュメも作成する。		3	グループワーク&発表準備	事例を PowerPoint にまとめ、レジュメも作成する。		4	グループ発表 & 討議①②③	レジュメを配布し、PowerPoint で事例発表をする。		5	グループ発表 & 討議④⑤⑥	レジュメを配布し、PowerPoint で事例発表をする。		6	グループ発表 & 討議⑦⑧⑨	レジュメを配布し、PowerPoint で事例発表をする。		7	グループ発表 & 討議⑩ 集団療法と笑い(講義+演習)	レジュメを配布し、PowerPoint で事例発表をする。ゲストスピーカーより、集団療法における笑いの重要性を教授いただく。 課題: レポート提出		8	集団療法と笑い(講義+演習)	ゲストスピーカーより、集団療法における笑いの重要性を教授いただく。 課題: レポート提出		成績評価方法と基準				1) 授業内発表				2) レポート							割合				1) 70%				2) 30%
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当																																																												
1	オリエンテーション	3 年前期開講の「老年期障害作業療法治療学総論」で学んだことを、あらかじめ復習しておくこと。																																																													
2	グループワーク&発表準備	事例を PowerPoint にまとめ、レジュメも作成する。																																																													
3	グループワーク&発表準備	事例を PowerPoint にまとめ、レジュメも作成する。																																																													
4	グループ発表 & 討議①②③	レジュメを配布し、PowerPoint で事例発表をする。																																																													
5	グループ発表 & 討議④⑤⑥	レジュメを配布し、PowerPoint で事例発表をする。																																																													
6	グループ発表 & 討議⑦⑧⑨	レジュメを配布し、PowerPoint で事例発表をする。																																																													
7	グループ発表 & 討議⑩ 集団療法と笑い(講義+演習)	レジュメを配布し、PowerPoint で事例発表をする。ゲストスピーカーより、集団療法における笑いの重要性を教授いただく。 課題: レポート提出																																																													
8	集団療法と笑い(講義+演習)	ゲストスピーカーより、集団療法における笑いの重要性を教授いただく。 課題: レポート提出																																																													
成績評価方法と基準																																																															
1) 授業内発表																																																															
2) レポート																																																															
			割合																																																												
			1) 70%																																																												
			2) 30%																																																												

授業科目名 発達障害作業療法治療学各論(作業) (Detailed Occupational Therapy for Developmental Disability)																																																															
主担当教員	伊藤 直子	担当教員	伊藤 直子、金森 幸																																																												
科目ナンバリング	SS309	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目																																																												
配当年次	3	後期	曜日・時間																																																												
授業形態	講義	単位数	1																																																												
授業概要	<p>1, 2 年生で学んだ、健常児の発達や小児の病歴を基礎に、疾患をもつ子どもの年齢に応じた作業療法プログラムを作成していく。作業療法を必要とする子どもたちのシナリオを題材に、必要な情報収集や調査を行いながら、評価や治療計画を作成、実際の治療や指導のプログラムを遂行する。</p> <p>到達目標</p> <p>発達領域でよく使われる治療手法を理解する。</p> <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>具体的な支援技術を学びます。</p> <p>基本的な学習は前期ですませておいてください。</p> <p>教科書</p> <p>作業療法学ゴールドマスターテキスト「発達障害作業療法学」Medical View 社</p> <p>参考書</p> <p>随時指示します。</p> <p>研究室/オフィスアワー</p> <p>金曜日</p>																																																														
授業展開及び授業計画表	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>学修内容</th> <th>予習・復習・課題等</th> <th>担当</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>低出生体重児の育児支援</td> <td>NICU 環境や後方支援の仕組み、障害児の育児環境を知る。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>痙直型両麻痺児 2 歳</td> <td>運動発達の重要性和上肢活動・視覚認知・巧緻協調動作の発達</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>ダウン症児 3 歳</td> <td>言語発達の基盤作りと日常生活指導</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>重症心身障害児 4 歳</td> <td>集団生活での支援・友達関係</td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>脊髄損傷 5 歳</td> <td>学校生活で求められることとその準備</td> <td></td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>知的障害(1 年生)</td> <td>地域学級での過ごし方と教科学習の支援</td> <td></td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>脳性麻痺(2 年生)</td> <td>学校生活での自立度の向上</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>発達障害児(3 年生)</td> <td>十歳の壁・個別教育計画の実践</td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="4">成績評価方法と基準</td> </tr> <tr> <td colspan="4">①出席と授業態度</td> </tr> <tr> <td colspan="4">②定期試験</td> </tr> <tr> <td colspan="3"></td> <td>割合</td> </tr> <tr> <td colspan="3"></td> <td>①20%</td> </tr> <tr> <td colspan="3"></td> <td>②80%</td> </tr> </tbody> </table>			回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当	1	低出生体重児の育児支援	NICU 環境や後方支援の仕組み、障害児の育児環境を知る。		2	痙直型両麻痺児 2 歳	運動発達の重要性和上肢活動・視覚認知・巧緻協調動作の発達		3	ダウン症児 3 歳	言語発達の基盤作りと日常生活指導		4	重症心身障害児 4 歳	集団生活での支援・友達関係		5	脊髄損傷 5 歳	学校生活で求められることとその準備		6	知的障害(1 年生)	地域学級での過ごし方と教科学習の支援		7	脳性麻痺(2 年生)	学校生活での自立度の向上		8	発達障害児(3 年生)	十歳の壁・個別教育計画の実践		成績評価方法と基準				①出席と授業態度				②定期試験							割合				①20%				②80%
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当																																																												
1	低出生体重児の育児支援	NICU 環境や後方支援の仕組み、障害児の育児環境を知る。																																																													
2	痙直型両麻痺児 2 歳	運動発達の重要性和上肢活動・視覚認知・巧緻協調動作の発達																																																													
3	ダウン症児 3 歳	言語発達の基盤作りと日常生活指導																																																													
4	重症心身障害児 4 歳	集団生活での支援・友達関係																																																													
5	脊髄損傷 5 歳	学校生活で求められることとその準備																																																													
6	知的障害(1 年生)	地域学級での過ごし方と教科学習の支援																																																													
7	脳性麻痺(2 年生)	学校生活での自立度の向上																																																													
8	発達障害児(3 年生)	十歳の壁・個別教育計画の実践																																																													
成績評価方法と基準																																																															
①出席と授業態度																																																															
②定期試験																																																															
			割合																																																												
			①20%																																																												
			②80%																																																												

授業科目名		義肢装具学(作業) (Prosthetics)	
主担当教員	小林 貴代	担当教員	小林 貴代
科目ナンバリング	SS10	専門科目	タイプロマトロジー
配当年次	2	後期	曜日・時間
授業形態	演習	単位数	1
授業概要	<p>義肢・装具・補装具における、種類・機能・構造を知り、応用、処方などが理解できるよう学修する。また日常生活活動における機能の代償・代替・補完としての義肢装具療法を知り、OOLの維持拡大について考えることが出来るよう学修する。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 義肢・装具・補装具の基本的な種類・構造・機能について説明できる 2. 各義肢・装具の適応について考えることが出来る 3. 作業療法における基本的な装具療法を考えることが出来る <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>教科書・参考書・視聴覚教材・配付資料など全ての内容に目を通すこと。 <授業の進め方> 1.総論・各論は視聴覚教材を導入した一斉講義を行う 2.装具制作実習では演習・グループ討議・発表などを行う</p>		
教科書	<p>教科書 義肢装具学(作業) 第3版 監修 日本整形外科学会 医学書院 作業療法学全書 改訂第3版 作業療法技術学1「義肢装具学」 古川宏編 共同医書出版 リハビリテーション義肢装具学 清水順市・青木主税編集 Medical View 装具学 日本技師装具学会監修 飛松好子・高嶋孝倫編 医歯薬出版株式会社 義肢学 日本義肢装具学会監修 澤村龍志・田澤英二・内田充彦編 医歯薬出版株式会社</p>		
技師装具と作業療法	評価から実践まで 大庭潤平・西村誠次・柴田八衣子編著 医歯薬出版株式会社		
参考書	<p>義肢装具のチェックポイント 第3版 監修 日本整形外科学会 医学書院 作業療法学全書 改訂第3版 作業療法技術学1「義肢装具学」 古川宏編 共同医書出版 リハビリテーション義肢装具学 清水順市・青木主税編集 Medical View 装具学 日本技師装具学会監修 飛松好子・高嶋孝倫編 医歯薬出版株式会社 義肢学 日本義肢装具学会監修 澤村龍志・田澤英二・内田充彦編 医歯薬出版株式会社</p>		
研究室/オフィスアワー	研究室C棟7階19号室にて、授業・会議などない時間で随時対応する		
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	オリエンテーション(学修の目的・授業内容について)	教科書で予習し、配布プリントで復習する	
2	義肢装具に関するオリエンテーション 義肢装具の歴史と概要 義肢・装具の種類と分類	義肢装具の歴史を知り、総論を学ぶ。視聴覚教材にて理解を深める。	
3	義肢(義足について) 義足の構造と機能	義足の構造と機能について学ぶ	
4	義肢(義手について) 上肢切断と義手	上肢切断と義手の適合を知り、種類と構造を学ぶ	
5	義肢(義手について) 義手の構造と機能	上肢切断と義手の適合を知り、種類と構造を学ぶ	
6	義肢(義手について) 電動義手などその他、義手適応の実際	特殊な義手などについて理解を深める	
7	装具(体幹装具) 体幹装具の構造と機能	体幹装具の構造と機能について学ぶ	
8	装具(下肢装具) 下肢装具の構造と機能	下肢装具の構造と機能について学ぶ	
9	装具(上肢装具) 上肢装具の構造と機能	上肢装具の構造と機能について学ぶ	
10	装具(上肢装具) スプリントの制作実習1	スプリントを作成する1 熱可塑性素材使用	
11	装具(上肢装具) スプリント制作実習2	スプリントを作成する2 熱可塑性素材使用	
12	福祉用具と自動具 装具との適合	その他の補装具や自動具と装具との適応に關して学ぶ	

13	車イスのシーティング	基本的な姿勢を基にした、車イスのシーティングについて学ぶ	
14	グループワーク1 疾患と義肢装具の適合	疾患と義肢装具の適合についてグループで討議し、理解を深める	
15	グループワーク2 疾患と義肢装具の適合	疾患と義肢装具の適合についてグループで討議し、理解を深める。グループ討議のあと発表し、学修を共有する。	
成績評価方法と基準			
2/3 回以上の出席が必要			
1. 期末テスト			
2. 小テスト・レポート・課題提出			
これらを総合的に評価する			
割合			
1. 70%			
2. 30%			

授業科目名	作業療法特論Ⅰ(作業)(Advanced Occupational TherapyⅠ)			
主担当教員	小林 貴代	担当教員	小林 貴代、楠井 賀津志、伊藤 直子、松下 太、橋本 弘子、中村 めぐみ、中西 一、金森 幸	
科目ナンバリング	SS311	科目区分	ディプロマポリシー該当項目 DP①④	
配当年次	4	開講学期	後期 木曜1限	
授業形態	演習	単位数	1 必修・選択 必修	
授業概要				
解剖学、生理学、運動学や一般臨床医学などの基礎分野から、基礎作業療法学、作業療法評価学、作業療法治療学、地域作業療法学などの専門分野まで、国家試験の出題範囲の主要な箇所について、体系的かつ網羅的に学修する。				
到達目標				
臨床において必要な基礎知識と作業療法の実践における考える力を習得する。				
履修上の注意(学生へのメッセージ)				
授業進行において、項目毎の予習・復習が必須となるため、怠らないように注意すること。				
教科書				
1) 医歯薬出版編 理学療法士・作業療法士国家試験必読ポイント-専門基礎分野 基礎医学 2019 電子版・オンラインテスト付 2) 医歯薬出版編 理学療法士・作業療法士国家試験必読ポイント-専門基礎分野 臨床医学 2019 電子版・オンラインテスト付 3) 医歯薬出版編 理学療法士・作業療法士国家試験必読ポイント-基礎OT学 2019 電子版・オンラインテスト付 4) 医歯薬出版編 理学療法士・作業療法士国家試験必読ポイント-障害別OT治療学 2019 電子版・オンラインテスト付				
参考書				
3年次までの全ての授業で使用した教科書				
研究室/オフィスアワー				
各教員のオフィスアワーに準ずる。				
授業展開及び授業計画表				
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当	
1	解剖生理学Ⅰ(植物機能)	循環器系、消化器系、泌尿器系、呼吸器系、代謝、内分泌系、発生と組織など		
2	解剖生理学Ⅱ(動物機能)	中枢神経、末梢神経、骨格筋、感覚など		
3	運動機能学	骨、関節、体表解剖、上肢、下肢、脊柱、四肢、体幹の筋、神経支配、正常歩行、ハイオメガニクス、立位姿勢、運動学習など		
4	人間発達学	小児の反射・反応、小児の運動発達、小児の歩行など		
5	病理学	創傷治癒、組織の病理変化、炎症、感染、腫瘍、病理所見、病因など		
6	内科学	循環器疾患、代謝性疾患、呼吸器疾患、消化器疾患、肝疾患、内分泌疾患、膠原病、自己免疫疾患、慢性腎不全、薬物療法など		
7	整形外科	骨折、骨髄腫、関節リウマチ、骨髄、変形性関節症、四肢血行障害、末梢神経障害、小児整形外科疾患、脊髄損傷、切断、骨粗鬆症など		
8	神経内科学	脳血管障害、高次脳機能障害、変性疾患、嚥下障害、頭蓋内圧亢進、正常圧水頭症、運動ニューロン疾患、脱髄性疾患、神経筋接合部疾患、筋疾患、複合問題、脳液、髄液刺激誘発など		
9	臨床心理学	防衛機制、心理療法、心理検査、障害受容、学習理論、心理発達など		

10	精神医学	統合失調症、気分(感情)障害、認知症、せん妄、依存症、薬物療法、てんかん、神経症性障害、ストレス関連障害、身体表現性障害、摂食障害、パソナリテ、障害/種々のパソナリテ障害、高齢者の精神・心理障害、青年期の精神・心理障害、小児期の精神・心理・発達障害、精神疾患、自殺など		
11	リハビリテーション医学	廃用症候群、高齢者にみられる変化・老年症候群、小児疾患、クニニカルパス、ADL、IADL、個人情報保護法、脳卒中治療ガイドライン、予防医学(一次予防、二次予防、三次予防)など		
12	リハビリテーション概論	国際生活機能分類(ICF)、ユニバーサルデザイン、ノーマライゼーション、バリアフリー新法、身体障害者障害程度等級表、介護保険法など		
13	作業療法の基礎	作業療法概要、正常動作分析など		
14	作業療法評価学	運動系感覚系の評価、発達の評価、高次脳機能障害の評価、日常生活活動の評価、作業能力・職業関連活動の評価、日常生活活動・作業能力・職業関連活動の総合評価など		
15	作業療法治療学	基本介入手段、義肢学、装具学、自励具・福祉用具など		
16	地域作業療法学	地域生活支援・家庭生活支援など		
17	障害別治療学(身体障害領域)	骨関節系障害領域、中枢神経系障害領域、神経筋系障害領域、内臓障害領域など		
18	障害別治療学(精神障害領域)	精神障害総論、精神科集団作業療法、統合失調症・気分(感情)障害等の精神心理障害領域など		
19	障害別治療学(発達障害領域)	脳性麻痺・Down症候群、重症心身障害児・二分症等の運動発達障害領域、知的障害・自閉症・ベクトラム障害・注意欠如・多動性障害(ADHD)・障害児療育/感覚統合的アプローチ・ブレインセラピー等の精神心理発達障害領域など		
成績評価方法と基準				
1) 授業ごとに提示される課題の進捗状況および担当教員による口頭試問で総合評価する。				
2) 必要出席回数は「授業回数」の5分の4以上を採用する				
割合 課題の進捗状況 4割 口頭試問 6割				

授業科目名	作業療法特論Ⅱ(作業) (Advanced Occupational Therapy II)		
主担当教員	小林 貴代	担当教員	小林 貴代、横井 賢津志、伊藤 直子、松下 太、橋本 弘子、中村 めぐみ、中西 一、金森 幸
科目ナンバリング	SS12	科目区分	DP①④
配当年次	4	開講学期	後期
授業形態	演習	単位数	1
授業概要	作業療法特論Ⅰで学修した、国家試験の出題範囲(基礎分野から専門分野まで)について、国家試験に準じた出題基準・内容・時間で4回の模擬試験を実施し、国家試験前の総仕上げを行う。		
到達目標	本学で設定している難易度(国家試験に準ずる)の問題を6割以上解答できること。		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	1)国家試験の出題形式・内容・時間に準じた模擬試験を4回実施する。 2)国家試験に準じるため運刻は厳禁とする。 3)2時間40分の試験時間で途中退席することなく、試験時間を有効活用する。		
教科書			
なし			
参考書	1)医療書出版編 理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイント・専門基礎分野 基礎医学 2019 電子版・オンライント付 2)医療書出版編 理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイント・専門基礎分野 臨床医学 2019 電子版・オンライント付 3)医療書出版編 理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイント・基礎OT学 2019 電子版・オンライント付 4)医療書出版編 理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイント・障害別OT治療学 2019 電子版・オンライント付 5)3年次までの全ての授業で使		
研究室/オフィスアワー	研究室/オフィスアワー		
各教員のオフィスアワーに準ずる。			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	模擬試験1	国家試験の出題基準に準ずる	
2	模擬試験2	国家試験の出題基準に準ずる	
3	模擬試験3	国家試験の出題基準に準ずる	
4	模擬試験4	国家試験の出題基準に準ずる	
成績評価方法と基準	割合		
1)4回の模擬試験において6割以上の成績を単位認定する。 2)必要出席回数は「授業回数の5分の4以上」を採用する。	試験 10割		

授業科目名	身体障害者作業療法治療学演習(作業) (Occupational Therapy for Physical Disability (Seminar))		
主担当教員	小林 貴代	担当教員	小林 貴代、中村 めぐみ、中西 一
科目ナンバリング	SS13	科目区分	DP①④
配当年次	3	開講学期	後期
授業形態	演習	単位数	1
授業概要	身体障害者領域における作業療法の治療的介入方法を知り、疾患の特性に合わせた治療および支援技術を学ぶ。治療学として、評価の選択、評価の実施、問題点の抽出、目標設定、治療プログラム立案の経過に合わせ、患者自身の生活を支援する技術を学ぶ。		
到達目標	1. 作業療法的介入を学び、作業療法士の役割を考える。 2. 疾患別に詳細から治療までの経過を説明することができる。 3. 作業療法で用いられる治療的支援技術について学修する		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	1. 基礎医学の知識の総まとめとして疾患に履修できるよ、解剖学・生理学・運動学など履修しておく 2. 作業療法的介入を考えるにあたり、作業学や作業科学について履修しておく 3. 作業の遂行を考えるにあたり、日常生活活動学について履修しておく 4. 総合臨床実習に向けて事例検討を行う		
教科書			
特に定めない			
配布プリント			
参考書	1. PT/OT ビジュアルテキスト リハビリテーション基礎評価学 羊土社 2. リハビリテーションマニュアルブック 学研 3. 病気が見える7 脳・神経 MEDIC MEDIA 4. 総で見える脳と神経 しゅみと障害のメカニズム第3版 医学書院 5. 標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学 第3版 6. 作業療法学全書 4 作業治療学1 身体障害 日本作業療法士会 共同医書出版 7. クリニカル作業療法シリーズ 身体領域の作業療法 第2版 中央法規		
研究室/オフィスアワー	研究室/オフィスアワー		
研究室C棟7階19号室と共同研究室にて、授業・会議などない時間で随時対応する			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	身体作業療法治療学演習	事例検討 中枢神経系障害	
2	身体作業療法治療学演習	事例検討 中枢神経系障害	
3	身体作業療法治療学演習	事例検討 中枢神経系障害	
4	身体作業療法治療学演習	事例検討 中枢神経系障害	
5	身体作業療法治療学演習	事例検討 骨関節系障害	
6	身体作業療法治療学演習	事例検討 骨関節系障害	
7	身体作業療法治療学演習	事例検討 骨関節系障害	
8	身体作業療法治療学演習	事例検討 骨関節系障害	
9	身体作業療法治療学演習	事例検討 内部障害	
10	身体作業療法治療学演習	事例検討 内部障害	
11	身体作業療法治療学演習	事例検討 内部障害	
12	身体作業療法治療学演習	事例検討 高齢者	

13	身体作業療法治療学演習	事例検討 高齢者
14	身体作業療法治療学演習	事例検討 高齢者
15	身体作業療法治療学演習	事例検討 高齢者
成績評価方法と基準		
4/5回は出席必要		
1. 期表テスト		
2. 提出物		
など総合的に評価する		
		割合
		1. 70%
		2. 30%

精神障害作業療法治療学演習(作業) (Occupational Therapy for Mental Disorder (Seminar))			
授業科目名	橋本 弘子	担当教員	橋本 弘子
主担当教員	橋本 弘子	専門科目	DP①④
科目ナンバリング	SS314	科目区分	後期
配当年次	3	開講学期	水曜 2 限
授業形態	演習	単位数	1
授業概要	<p>治療は評価が終了してから始まるのではなく、作業療法士と出逢ったときから始まっている。その治療をはじめると、まずは作業療法の特徴である、作業という媒体を多様な場面で使用するために論理的に治療条件を整理する方法を学修する。そして治療構造を理解できるようにする。さらに理解を深めるために、様々な症例検討を通して、疾患別に治療目標、プログラム作成、実施計画を立てることができるようにし、授業の演習を経て、臨床実習にて実施できるようにする。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 対象者にあった作業療法の方法の目的と課題を考えることができる 2. 評価方法を立案できる 3. 理論をベースにした治療法を考えることができる 4. プログラムを立案できる 5. 治療実施計画を立案できる 6. 論理的な思考に基づいて評価から治療計画までが一貫して立案、実施できるようにする。 <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>この授業は主に症例検討を行います。臨床的疑問を持ちそれを明らかにしていく過程を身につけられるように、積極的に授業に参加してください。</p> <p>教科書</p> <ol style="list-style-type: none"> 1)『精神障害と作業療法 第3版』山相 寛/三輪書店 2)統合失調症患者の行動特性 その支援とICF 塚田源二郎 金剛出版 3)作業療法全書 精神障害 高岡昭子 共同医学出版社 4)PT/OT 国家試験 必修ポイント 障害別OT治療学Ⅱ 精神障害領域 医歯薬出版編 <p>参考書</p> <ol style="list-style-type: none"> 1)作業療法実践のための6つの理論—理論の形成と発展 岩崎テロ子監訳 共同医学出版社 2)『国際生活機能分類 ICF の理解と活用』上田敏/南文社 3)国際機能分類—国際障害分類改訂版— WHO 中央法規 4)精神障害作業療法学 長崎重信監修 メディカルビュー社 <p>研究室/オフィスアワー</p> <p>木曜日 2 限 (10:40~12:10)</p>		
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	症例検討：治療計画立案①全体像の把握1	復習：評価から治療までのプロセスについて 予習：症例の熟読 症例の特性を考える	
2	症例検討：治療計画立案—全体像の把握と問題点、治療目標の設定	復習：評価から治療までのプロセスについて 予習：症例の熟読、問題点の抽出	
3	症例検討：治療計画立案—全体像の把握と治療計画立案1	復習：評価から治療までのプロセスについて 予習：症例の熟読、治療計画立案 心身機能を考える	
4	症例検討：治療計画立案—全体像の把握と治療計画立案2	復習：評価から治療までのプロセスについて 予習：症例の熟読、 全体像を考え本人の希望、ニーズと照らし合わせる	
5	症例検討：治療計画立案—全体像の把握と治療計画立案3	復習：評価から治療までのプロセスについて 予習：症例の熟読、 利点、問題点の抽出	
6	症例検討：治療計画立案—全体像の把握と治療計画立案4	復習：評価から治療までのプロセスについて 予習：症例の熟読、治療計画立案	
7	症例検討：治療計画立案—治療計画準備	復習：評価から治療までのプロセスについて 予習：症例の熟読、治療計画準備	
8	症例検討：治療計画立案—治療計画準備	復習：評価から治療までのプロセスについて 予習：症例の熟読、治療計画準備	
9	症例検討：治療計画立案—治療計画準備	復習：評価から治療までのプロセスについて 予習：症例の熟読、治療計画準備	

10	症例検討：治療計画立案－治療計画実施	復習：評価から治療までのプロセスについて 予習：症例の熟読、治療計画実施	
11	症例検討：治療計画立案－治療計画実施	復習：評価から治療までのプロセスについて 予習：症例の熟読、治療計画実施	
12	症例検討：治療計画立案－治療計画まとめ4	復習：評価から治療までのプロセスについて 予習：症例の熟読、 治療計画実施について再考	
13	症例検討：治療計画立案－発表準備	復習：評価から治療までのプロセスについて 予習：症例の熟読、治療計画実施について発表準備	
14	症例検討：症例発表1	復習：評価から治療までのプロセスについて 治療計画実施について発表	
15	症例検討：症例発表2 振り返り	復習：評価から治療までのプロセスについて 予習：症例の熟読、 治療計画実施について発表	
成績評価方法と基準			割合
1. 定期試験(口頭試問)			1. 80%
2. 発表			2. 20%
4/5以上の出席を成績評価対象とする			

授業科目名	老年期障害作業療法治療学演習(作業) (Occupational Therapy for Geriatric Disorder (Seminar))		
主担当教員	松下 太	担当教員	松下 太
科目ナンバリング	SS315	科目区分	DP①④
配当年次	3	開講学期	後期
授業形態	演習	単位数	1
授業概要	老年期障害領域における作業療法の主要な対象疾患である認知症の非薬物療法について再確認し、実際に学外の施設等に出向いて認知症高齢者とのコミュニケーションをはかり、認知症高齢者とコミュニケーションを築くとともに、観察力を通じてアセスメントを行い、非薬物療法の理論に基づいた集団療法について、グループごとに企画する。企画した集団療法は、先に出向いた学外の施設等でコミュニケーションをはかり観察した認知症患者を対象に行う。また、集団療法実施後に振り返りを行い、更に作業療法士として認知症高齢者に対する非薬物療法、そして集団療法の担い手となれるよう、その能力を養う。		
到達目標	老年期障害領域におけるさまざまな問題を理解し、作業療法のより実践的な知識と技術を身につける。		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	1. 集団療法をグループごとに企画・実施するため、グループ内でのディスカッションや実践が中心となる。そのため、各自が積極的に関わり組むこと 2. 単なるレクレーションにとどまらず、非薬物療法(特に回想法やROや音楽療法)の理論を取り入れられた集団療法を考えること。 3. レポート等の提出期限・時間は厳守すること。		
教科書	構作作業療法学専門分野、高齢期作業療法学第3版 松房利憲、新井健五 編 医学書院 認知症をもつ人への作業療法アプローチ 宮口英樹 監修 メジカルビュー社		
参考書	1. 小川敬之、竹田徳則、認知症の作業療法 第2版、医歯薬出版 2. 山口晴保、認知症の正しい理解と包括的医療・ケアのポイント 第3版、協同医学出版 3. 宮永利夫 編、若年認知症-本人、家族が新しく7つの物語-、中央法規		
研究室/オフィスアワー	C棟7階研究室17/木曜日1・2・3限目		
授業展開及び授業計画表	回数	学修内容	予習・復習・課題等 担当
	1	オリエンテーション	あらかじめ、老年期作業療法治療学総論や各論で学修した、認知症の人に対する非薬物療法について復習しておくこと。
	2	学外施設における体験学習	集団療法の対象となる認知症高齢者のアセスメント(観察や会話を中心)をおこなう。
	3	学外施設における体験学習	集団療法の対象となる認知症高齢者のアセスメント(観察や会話を中心)をおこなう。
	4	学外施設における体験学習	集団療法の対象となる認知症高齢者のアセスメント(観察や会話を中心)をおこなう。
	5	学外施設における体験学習	集団療法の対象となる認知症高齢者のアセスメント(観察や会話を中心)をおこなう。
	6	グループディスカッション(対象者に合わせた集団療法の検討)	課題：集団療法計画書の作成と提出
	7	グループディスカッション(対象者に合わせた集団療法の検討)	課題：集団療法計画書の作成と提出
	8	グループディスカッション(対象者に合わせた集団療法の検討)	課題：集団療法計画書の作成と提出
	9	グループディスカッション(対象者に合わせた集団療法の検討)	課題：集団療法計画書の作成と提出
	10	学外施設における体験学習(集団療法の実施)	各グループごとに実践
	11	学外施設における体験学習(集団療法の実施)	各グループごとに実践
	12	グループディスカッション(集団療法の振り返り、反省会)	集団療法実施の動画を確認しながら振り返りをおこなう。 課題：レポート提出

13	グループディスカッション(集団療法の振り返り, 反省会)	集団療法場面の動画を確認しながら振り返りをしよう。	割合
14	認知症高齢者をサポートするための課題(講義)	課題: レポート提出	1) 60%
15	認知症高齢者をサポートするための課題(講義)	課題: レポート提出	2) 40%
成績評価方法と基準			
1) 学外施設での集団療法の実施内容			
2) レポート			
3) 演習科目であるため、必要出席回数(授業回数の5分の4以上)を採用する			

授業科目名	発達障害作業療法治療学演習(作業) (Occupational Therapy for Developmental Disability (Seminar))		
主担当教員	伊藤 直子	担当教員	伊藤 直子、金森 幸
科目ナンバリング	SS316	科目区分	ディプロマポリシー 該当項目 DP①④
配当年次	3	開講学期	後期 曜日・時限 火曜2限
授業形態	演習	単位数	1 必修・選択 選択
授業概要	発達領域で必要となる自動具や教材の作成に必要な技術の習得		
到達目標	要請にこたえる支援技術の獲得		
	履修上の注意(学生へのメッセージ)		
	日頃から素材の確保やアイデアの集積を行う 対象者の全体像を把握した支援機器の作成を心掛ける		
	教科書		
	特にありません。授業内でプリントなどを配布します。		
	参考書		
	子どものAAC 入門など		
	研究室/オフィスアワー		
	金曜日		
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	オリエンテーション・集団活動	教室運営	
2	こどもヨガ①	運動学	
3	こどもヨガ②	粗大運動・呼吸法	
4	運動遊び	子どものスポーツ指導	
5	粗大運動とADL(入浴とトイレ)	姿勢変換と介助方法	
6	粗大運動と上肢機能(学童期に必要な手の使用)	保護伸展と空間保持	
7	ポジションニング①	スポンジカット	
8	ポジションニング②	姿勢分析	
9	教材づくり①	視知覚認知	
10	教材づくり②	小学校の教科科学習	
11	クッキング①離乳食	口腔運動分析・離乳過程	
12	クッキング②子どもの調理	工程分析・道具の工夫	
13	視覚・聴覚環境の整備	スヌーズレン	
14	眼球運動・前庭迷路系刺激	ビジョントレーニング	
15	個別オリジナル教材	支援プログラムの実際	
成績評価方法と基準			割合
①授業中の取り組み			①20%
②作品やレポート、提出物			②20%
③プレゼンテーション			③60%
4/5以上の出席が必要			

授業科目名	地域作業療法学(作業) (Occupational Therapy for Communities)		
主担当教員	横井 賀津志	横井 賀津志	
科目ナンバリング	SS401	ディプロマポリシー該当項目	
配当年次	3	曜日・時限	
授業形態	講義	単位数	
授業概要	2 必修・選択 必修		
到達目標	すべての人が住み慣れた地域で安心して暮らすために必要な制度や社会資源を理解した上で、その人が地域生活を営むための基本的な知識・技術について学ぶ。地域作業療法では対象者の作業ニーズを把握し、多職種との協働の中で作業療法士の役割を認識し、作業に焦点をあてた支援が重要となる。この授業では個人の機能を全体像として統合し、多職種とのように協働していけばよいのか、その中で、作業療法理論がどのように実践されるのかについて教授する。さらに、対象者個人のみでなく環境も含めて理解していく視点も身につけ、作業療法の対象は健康な方も含まれるため、高齢者の介護を要する原因の上位を占める認知症や転倒の予防など介護予防の考え方も教授する。さらに、わが国ですすめられている地域ケアシステムについても学ぶ。		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	1) 地域で、その人が必要とする作業を遂行するために、常に「人」「作業」「環境」の3要因で分析する思考を持つ。 2) 地域リハビリテーションの概念を正しく理解し、説明できる。 3) 地域作業療法に関わる法制度・社会資源を正しく理解し、説明できる。 4) 地域作業療法に関わる多職種との連携について理解し、説明できる。 5) 作業を基盤とした介護予防プログラムを立案することができる。 6) 地域で用いている作業療法理論を提示し、説明できる。		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	1) 積極的に地域リハビリテーション実習者の症例報告を読む。 2) 障害福祉領域で活動する作業療法士が執筆した論文や報告書を読む。 3) 社会保険制度に関する新聞記事を読む。		
教科書	『地域リハビリテーション学 第2版』 重森健太、横井賀津志(編集) / 羊土社		
参考書	1) 『地域リハビリテーション論 第5版』 大田仁史、下斗米貴子、澤俊二、浜村明徳 / 三輪書店 2) 『地域作業療法学(標準作業療法学専門分野)』 小川恵子 / 医学書院		
研究室/オフィスアワー	木曜日2限目(10:40-12:10)		
授業展開及び授業計画表	回数 学修内容 予習・復習・課題等 担当		
1	地域リハビリテーションの歴史、対象、法制度、実施施設。	地域リハビリテーションの概念をまとめる。法制度を整理する。	横井
2	地域作業療法のプロセス	地域作業療法のプロセスを図示する。	横井
3	地域作業療法のプロセス(評価1)	地域作業療法において必要な評価を列挙する。	横井
4	地域作業療法のプロセス(評価2)	地域作業療法において必要な評価の実施方法をまとめる。	横井
5	地域作業療法のプロセス(評価3)	地域作業療法において必要な評価の実施方法をまとめる。	横井
6	地域リハビリテーションの実践報告	感想文を提出する。人間作業モジュールの概念をまとめる。	横井、ゲストスピーカー
7	地域リハビリテーションの実践報告	作業と集団についてまとめる。	横井、ゲストスピーカー
8	作業療法の実践基盤 作業を基盤とした社会変革 ソーシャルインクルージョン	理論構築のプロセスを図示する。 作業が社会に変化をもたらし何が記述されている文脈を関連する。	横井
9	地域ケアシステムにおける作業療法士の役割	1. 2. 3 次予防とは何かをまとめる。	横井
10	地域ケアシステムにおける作業療法士の役割(1次予防)	予防啓発プログラムの準備	横井
11	地域ケアシステムにおける作業療法士の役割(1次予防)	予防啓発プログラムの準備	横井
12	地域ケアシステムにおける作業療法士の役割(2次予防)	地域ケアシステムにおける作業療法士の役割(2次予防)は何かを考える。	横井

13	地域ケアシステムにおける作業療法士の役割(2次予防)	地域ケアシステムの中での作業療法士の役割をまとめる。	横井
14	訪問作業療法	訪問作業療法の役割をまとめる。	横井
15	地域作業療法実習にむけての知識と技術の確認・確認試験	保健・福祉実習に必要な知識と技術を整理する。	横井
成績評価方法及び基準			割合
①定期試験			①100%

授業科目名	生活環境論(作業) (Detailed Living Environment)			
主担当教員	小林 貴代	担当教員	小林 貴代	
科目ナンバリング	SS402	科目区分	専門科目	DP①④
配当年次	3	開講学期	前期	水曜 3限
授業形態	演習	単位数	1	必修・選択
授業概要	<p>作業療法は機能の回復を目指すことはもちろんであるが、障害とともに自身の環境下で生活を営むことへの支援も重要である。福祉用具の選択や活用技術、住宅改修などの生活環境論を学び、その人らしい生活を支援することが作業療法の核であり、専門性である。身体機能・精神心理的機能・社会的背景など生活に必要なすべての要因を広く捉え、作業療法士として、人の行為を支えることについて考え、学修する</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 福祉用具について学び、名称や特徴、使用方法など説明できる 2. 住宅環境について学び、略式平面図など簡易に作成し改進黨を考えることができる 3. 人とモノの総合的な適応を考えることができる <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>作業療法の専門分野である生活環境の調整において、福祉用具や住宅改修を学び、作業療法士としての役割を考えることができるよう、1・2年生で履修した日常生活活動学などの科目の復習を行う。</p>			
教科書	テクノカル作業療法シリーズ「福祉用具・住環境整備の作業療法」玉垣努・渡辺慎一編集 中央法規			
参考書	<p>標準作業療法専門分野「日常生活活動・社会生活行為学」浜口豊太編集 医学書院</p> <p>作業療法学「トータル・スキル」日常生活活動・福祉用具学」木之瀬隆編集 Medical View</p> <p>福祉住環境コーディネーター検定試験 3級公式テキスト 東京商工会議所編</p> <p>福祉住環境コーディネーター検定試験 2級公式テキスト 東京商工会議所編</p> <p>作業療法ジャーナル増刊号保存版 テクニカルエイド 生活の視点で役立つ選び方・使い方 三輪書店</p> <p>研究室/オフィスアワー</p>			
研究室 C 棟 7 階 19 号室にて、授業・会議などない時間で随時対応する				
授業展開及び授業計画表				
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当	
1	生活環境論 総論	教科書の予習と配布物の復習を行う		
2	福祉用具の概念と種類	福祉用具の種類を知り、名称や特徴などを学ぶ。目的や場面による選定や活用についても学ぶ。		
3	ADL と疾患 (ベッド・床上動作関連)	ベッド・マットレス・体圧測定・ポジショニングなどを学ぶ。		
4	ADL と疾患 (移乗移動関連)	杖・歩行器・車いす・クワジオン・リフト・スリング・ポット・シートなどについて学ぶ。		
5	ADL と疾患 (食事関連)	摂食嚥下機能について学び、食器用具などの自働具を学ぶ。		
6	ADL と疾患 (整容・更衣関連)	整容・更衣動作から衣類の工夫や動作分析を行い、自働具などについて学ぶ。		
7	ADL と疾患 (入浴関連)	入浴に関連する、リフトやスリット・シャワーチェアなどを学び、浴体に関連する自働具についても学ぶ。		
8	ADL と疾患 (排泄関連)	排泄関連用具を学び、おむつなどの装着体験と解除技術を体験する		
9	ADL と疾患 (コミュニケーション・環境制御装置関連)	コミュニケーション機器を体験し、使用方法を学ぶ。住環境評価を学ぶ		
10	住環境整備・住宅改修 1	簡易略式平面図を学ぶ		
11	住環境整備・住宅改修 2	事例 1		
12	福祉用具プランニングの実際 1	事例 2		
13	福祉用具プランニングの実際 2	事例 3		
14	福祉用具プランニングの実際 3			

15	福祉用具プランニングの実際 4	まとめ
成績評価方法と基準		
4/5 以上回の出席が必要		
1. 期末テスト		
2. 小テスト、課題、レポートなど		
これらを総合的に評価する		
割合		
1. 70%		
2. 30%		

授業科目名	障害者地域生活支援論(作業) (Support for Community Life of the Disabled)																																																																																						
主担当教員	伊藤 直子	担当教員	伊藤 直子																																																																																				
科目ナンバリング	SS403	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目																																																																																				
配当年次	3	後期	曜日・時限 木曜 1限																																																																																				
授業形態	演習	単位数	1																																																																																				
授業概要	<p>子どもや成人障害者の社会参加を支援するために、近隣の社会資源を実際に見学し、そこで働く人たちが利用者やインディビジュアルに、当事者の生活や将来への希望を傾聴する。</p> <p>到達目標</p> <p>TOFおよびMIDLIP(活行為向上マネジメント)における、活動参加支援に必要な情報収集や環境調整に必要な手続きを学ぶ</p> <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>自分の家族や近隣の人々への洞察を深め、支援技術を高める 自分自身のふるまいや言動にも客観的な視点をもち、作業療法士としてふさわしい行動ができるようにしてください。</p> <p>教科書</p> <p>特にありません。各自でHPや図書館、フィールドワークで調査します</p> <p>参考書</p> <p>ケアからエンパワメントへ 北野誠一 ミネルヴァ書房</p> <p>研究室/オフィスアワー</p> <p>金曜日</p>																																																																																						
授業展開及び授業計画表	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>学修内容</th> <th>予習・復習・課題等</th> <th>担当</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>基本的な考え方や用語の理解</td> <td>教科書・厚生労働省HPで制度の確認</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>日本の制度の現状 障害者総合支援法など</td> <td>市民として、必要な制度を調べておく</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>乳幼児を取り巻く環境・母子保健</td> <td>児童福祉法と改正内容の確認</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>児童発達支援事業・相談支援</td> <td>NICU 後方支援と重症児コーディネーター事業</td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>保育所等訪問支援事業</td> <td>障がい児支援施策(厚生労働省HP)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>放課後等サービス</td> <td>障がい児の就学について(大阪府HP)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>特別支援教育</td> <td>インクルーシブ教育(文部科学省HP)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>いきいき・学童・子ども食堂など</td> <td>共働き家庭の放課後</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>入所施設・児童養護施設</td> <td>虐待やDV、いじめ、医療少年院</td> <td></td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>自立支援センター・相談支援施設</td> <td>障がい児の地域生活</td> <td></td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>就労支援施設</td> <td>自立支援・就労支援の仕組み</td> <td></td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>障がい者雇用/ハローワーク</td> <td>障がい者就労の現実</td> <td></td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>特別講演①</td> <td>背景を理解する学習・事後学習の報告</td> <td></td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>特別講演②</td> <td>背景を理解する学習・事後学習</td> <td></td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>特別講演③</td> <td>背景を理解する学習・事後学習</td> <td></td> </tr> <tr> <td>成績評価方法と基準</td> <td colspan="3">割合</td> </tr> <tr> <td>①提出物・調査ノート</td> <td colspan="3">①20%</td> </tr> <tr> <td>②調査報告書</td> <td colspan="3">②20%</td> </tr> <tr> <td>③プレゼンテーション</td> <td colspan="3">③60%</td> </tr> <tr> <td colspan="4">4/5以上の出席を必要とする</td> </tr> </tbody> </table>			回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当	1	基本的な考え方や用語の理解	教科書・厚生労働省HPで制度の確認		2	日本の制度の現状 障害者総合支援法など	市民として、必要な制度を調べておく		3	乳幼児を取り巻く環境・母子保健	児童福祉法と改正内容の確認		4	児童発達支援事業・相談支援	NICU 後方支援と重症児コーディネーター事業		5	保育所等訪問支援事業	障がい児支援施策(厚生労働省HP)		6	放課後等サービス	障がい児の就学について(大阪府HP)		7	特別支援教育	インクルーシブ教育(文部科学省HP)		8	いきいき・学童・子ども食堂など	共働き家庭の放課後		9	入所施設・児童養護施設	虐待やDV、いじめ、医療少年院		10	自立支援センター・相談支援施設	障がい児の地域生活		11	就労支援施設	自立支援・就労支援の仕組み		12	障がい者雇用/ハローワーク	障がい者就労の現実		13	特別講演①	背景を理解する学習・事後学習の報告		14	特別講演②	背景を理解する学習・事後学習		15	特別講演③	背景を理解する学習・事後学習		成績評価方法と基準	割合			①提出物・調査ノート	①20%			②調査報告書	②20%			③プレゼンテーション	③60%			4/5以上の出席を必要とする			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当																																																																																				
1	基本的な考え方や用語の理解	教科書・厚生労働省HPで制度の確認																																																																																					
2	日本の制度の現状 障害者総合支援法など	市民として、必要な制度を調べておく																																																																																					
3	乳幼児を取り巻く環境・母子保健	児童福祉法と改正内容の確認																																																																																					
4	児童発達支援事業・相談支援	NICU 後方支援と重症児コーディネーター事業																																																																																					
5	保育所等訪問支援事業	障がい児支援施策(厚生労働省HP)																																																																																					
6	放課後等サービス	障がい児の就学について(大阪府HP)																																																																																					
7	特別支援教育	インクルーシブ教育(文部科学省HP)																																																																																					
8	いきいき・学童・子ども食堂など	共働き家庭の放課後																																																																																					
9	入所施設・児童養護施設	虐待やDV、いじめ、医療少年院																																																																																					
10	自立支援センター・相談支援施設	障がい児の地域生活																																																																																					
11	就労支援施設	自立支援・就労支援の仕組み																																																																																					
12	障がい者雇用/ハローワーク	障がい者就労の現実																																																																																					
13	特別講演①	背景を理解する学習・事後学習の報告																																																																																					
14	特別講演②	背景を理解する学習・事後学習																																																																																					
15	特別講演③	背景を理解する学習・事後学習																																																																																					
成績評価方法と基準	割合																																																																																						
①提出物・調査ノート	①20%																																																																																						
②調査報告書	②20%																																																																																						
③プレゼンテーション	③60%																																																																																						
4/5以上の出席を必要とする																																																																																							

授業科目名	卒業研究 I (作業):小林 (Graduation Research I)																																																						
主担当教員	小林 貴代	担当教員	小林 貴代																																																				
科目ナンバリング	SS501	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目																																																				
配当年次	3	前期	曜日・時限 曜日(金曜 5限)、 後期(金曜 5限)																																																				
授業形態	演習	単位数	2																																																				
授業概要	<p>作業療法士は保健・医療・福祉領域のリハビリテーション専門職であり、臨床実践の質を高め、社会に貢献していくためには実践の内容について研究していくことが重要な位置を占める。この科目では、作業療法研究における必要性と意義を理解し、調査研究と実践研究を進めるための方法を修得する。具体的な内容はテーマの異なつて、文献検索および文献抄録の方法、調査・実践の実施方法、研究計画書作成、研究論文の基本的な構成、研究発表の方法などを教授する。さらに、卒業論文作成に向けての準備も指導する。</p>																																																						
到達目標	<p>1) 研究倫理について理解することができる。</p> <p>2) 科学的・論理的に自分の意見を表明する。</p> <p>3) 作業療法研究の必要性と意義を説明できる。</p> <p>4) 研究計画書を作成できる。</p> <p>5) 予備実験ができる。</p> <p>6) 結果を分析し、解釈することができる。</p> <p>7) 卒業論文作成の準備ができる。</p> <p>8) プレゼンテーションができる。</p>																																																						
履修上の注意(学生へのメッセージ)	<p>履修学習として、関心のあるテーマを幾つか提示できるように準備しておく。また、図書館で雑誌「作業療法」や「作業療法ジャーナル」の原著論文や総説を積極的に読んでおく。</p>																																																						
教科書	指定する教科書はなし。																																																						
参考書	研究領域に関連する資料、論文、記事を随時提示します。																																																						
授業展開及び授業計画表	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>学修内容</th> <th>予習・復習・課題等</th> <th>担当</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>作業療法研究とは</td> <td>雑誌「作業療法」の原著論文を読む。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>量的研究とは</td> <td>量的研究の方法をまとめる。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>質的研究とは</td> <td>質的研究の方法をまとめる。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>文献検索</td> <td>テーマに関連する文献を検索する。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>文献レビュー</td> <td>検索した文献をレビューする。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>テーマの焦点化</td> <td>テーマを絞る。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>研究計画作成1(対象と方法)</td> <td>研究計画書の推敲</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>研究計画作成2(解析方法)</td> <td>研究計画書の推敲</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>研究計画作成3</td> <td>研究計画書の推敲</td> <td></td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>研究計画発表会1</td> <td>研究計画をプレゼンするための準備。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>研究計画発表会2</td> <td>研究計画をプレゼンするための準備。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>研究計画の再検討</td> <td>研究計画を見直し修正する。</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当	1	作業療法研究とは	雑誌「作業療法」の原著論文を読む。		2	量的研究とは	量的研究の方法をまとめる。		3	質的研究とは	質的研究の方法をまとめる。		4	文献検索	テーマに関連する文献を検索する。		5	文献レビュー	検索した文献をレビューする。		6	テーマの焦点化	テーマを絞る。		7	研究計画作成1(対象と方法)	研究計画書の推敲		8	研究計画作成2(解析方法)	研究計画書の推敲		9	研究計画作成3	研究計画書の推敲		10	研究計画発表会1	研究計画をプレゼンするための準備。		11	研究計画発表会2	研究計画をプレゼンするための準備。		12	研究計画の再検討	研究計画を見直し修正する。	
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当																																																				
1	作業療法研究とは	雑誌「作業療法」の原著論文を読む。																																																					
2	量的研究とは	量的研究の方法をまとめる。																																																					
3	質的研究とは	質的研究の方法をまとめる。																																																					
4	文献検索	テーマに関連する文献を検索する。																																																					
5	文献レビュー	検索した文献をレビューする。																																																					
6	テーマの焦点化	テーマを絞る。																																																					
7	研究計画作成1(対象と方法)	研究計画書の推敲																																																					
8	研究計画作成2(解析方法)	研究計画書の推敲																																																					
9	研究計画作成3	研究計画書の推敲																																																					
10	研究計画発表会1	研究計画をプレゼンするための準備。																																																					
11	研究計画発表会2	研究計画をプレゼンするための準備。																																																					
12	研究計画の再検討	研究計画を見直し修正する。																																																					

13	プレ調査	方法に準じ、パイロット調査を実施する。
14	プレ調査 2	方法に準じ、パイロット調査を実施する。
15	プレ調査 3	方法に準じ、パイロット調査を実施する。
16	プレ調査の結果と解釈 研究実施 1	パイロット調査の結果をまとめ、考察する。
17	研究実施 1	研究実施ノートを作成する。
18	研究実施 2	研究実施ノートを作成する。
19	研究実施 3	研究実施ノートを作成する。
20	研究実施 4	研究実施ノートを作成する。
21	研究実施 5	研究実施ノートを作成する。
22	データの分析 1	分析したデータを解釈する。
23	データの分析 2	分析したデータを解釈する。
24	データの分析 3	分析したデータを解釈する。
25	研究進捗中間発表 1	パワーポイントを用いた発表の準備。
26	研究進捗中間発表 2	パワーポイントを用いた発表の準備。
27	研究進捗中間発表 3	パワーポイントを用いた発表の準備。
28	研究進捗中間発表 4	パワーポイントを用いた発表の準備。
29	研究進捗中間発表 5	パワーポイントを用いた発表の準備。
30	結果に対する考察	先行文献を整理する。
成績評価方法と基準		割合
1 研究計画書の作成		1. 60%
2 パイロット調査の発表		2. 40%

4/5以上の出席を必要とする

授業科目名	卒業研究 I (作業):横井 (Graduation Research I)		
主担当教員	横井 賀津志	担当教員	横井 賀津志
科目ナンバリング	SS501	科目区分	専門科目
配当年次	3	開講学期	前期
授業形態	演習	単位数	2
授業概要	作業療法士は保健・医療・福祉領域のリハビリテーション専門職であり、臨床実践の質を高め、社会に貢献していくためには実践の内容について研究していくことが重要な位置を占める。この科目では、作業療法研究における必要性と意義を理解し、調査研究と実験研究を進めるための方法を修得する。具体的な内容はテーマの見つけ方、文献検索および文献抄録の方法、リサーチクエッションの立て方、研究方法調査・実験の実施方法、研究計画書作成、研究論文の基本的な構成、研究発表の方法などを教授する。さらに、卒業論文作成に向けての準備も指導する。		
到達目標	1) 研究倫理について理解することができる。 2) 科学的・論理的に自分の意見を表現する。 3) 作業療法研究の必要性と意義を説明できる。 4) 研究疑問を明確にすることができる。 5) 研究計画書を作成できる。 6) 予備実験ができる。 7) 結果を分析し、解釈することができる。 8) 卒業論文作成の準備ができる。 9) 研究計画および研究中間報告のプレゼンテーションができる。		
履修上の注意 (学生へのメッセージ)	履修準備として、関心のあるテーマを幾つか提示できるように準備しておく。また、図書館で雑誌「作業療法」や「作業療法ジャーナル」の原著論文や総説を積極的に読んでおく。		
教科書			
指定する教科書はなし。			
参考書			
研究領域に関連する資料、論文、記事を随時提示します。			
研究室 / オフィスアワー			
木曜日 2 限目 (10:40-12:10)			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	作業療法研究とは	雑誌「作業療法」の原著論文を読む。	横井
2	量的研究とは	量的研究の方法をまとめる。	横井
3	質的研究とは	質的研究の方法をまとめる。	横井
4	文献検索	テーマに関連する文献を検索する。	横井
5	文献レビュー	検索した文献をレビューする。	横井
6	研究疑問 テーマの焦点化	テーマを絞る。	横井
7	研究計画作成 1 (対象と方法)	研究計画書の推敲	横井
8	研究計画作成 2 (解析方法)	研究計画書の推敲	横井
9	研究計画作成 3	研究計画書の推敲	横井
10	研究計画発表会 1	研究計画をプレゼンするための準備。	横井
11	研究計画発表会 2	研究計画をプレゼンするための準備。	横井
12	研究計画の再検討	研究計画を見直し修正する。	横井

13	プレ調査 1	方法に準じ、パイロット調査を実施する。	横井
14	プレ調査 2	方法に準じ、パイロット調査を実施する。	横井
15	プレ調査 3	方法に準じ、パイロット調査を実施する。	横井
16	プレ調査の結果と解釈	パイロット調査の結果をまとめ、考察する。	横井
17	研究実施 1	研究実施ノートを作成する。	横井
18	研究実施 2	研究実施ノートを作成する。	横井
19	研究実施 3	研究実施ノートを作成する。	横井
20	研究実施 4	研究実施ノートを作成する。	横井
21	研究実施 5	研究実施ノートを作成する。	横井
22	データの分析 1	分析したデータを解釈する。	横井
23	データの分析 2	分析したデータを解釈する。	横井
24	データの分析 3	分析したデータを解釈する。	横井
25	研究進捗中間発表 1	パワーポイントを用いた発表の準備。	横井
26	研究進捗中間発表 2	パワーポイントを用いた発表の準備。	横井
27	研究進捗中間発表 3	パワーポイントを用いた発表の準備。	横井
28	研究進捗中間発表 4	パワーポイントを用いた発表の準備。	横井
29	研究進捗中間発表 5	パワーポイントを用いた発表の準備。	横井
30	中間発表の振り返り	先行文献を整理する。	横井
成瀬評価方法と基準			割合
4/5以上の出席が必要です。			①60%
①研究計画書の作成。			②40%
②中間発表をルーブリックにて評価します。			

卒業研究 I (作業): 伊藤 (Graduation Research I)			
授業科目名	伊藤 直子	担当教員	伊藤 直子
主担当教員	SS501	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目
科目ナンバリング	3	科目区分	前期(金曜 5 限)、 後期(金曜 5 限)
配当年次	演習	開講学期	曜日・時限
授業形態	2	単位数	必修・選択
授業概要	到達目標 発達領域に関わる研究方法の学習 地域でのナラティブや参与観察による質的研究を支援します。		
到達目標	研究倫理について理解することができる ナラティブや参与観察といった質的研究法を学びながら、対象となる子どもや成人、地域、作業療法への理解を深める 作業科学研究を知る 自分の研究課題を見つける		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	情報収集、文献調査、研究データの収集を積極的に 自分が主体的に取り組める課題を見つけよう		
教科書	よくわかる質的研究の進め方、まとめ方 グレック美鈴他編著 医歯薬出版株式会社		
参考書	子どものエスノグラフィ入門 柴山真琴 新曜社 ソーシャルワーク・リサーチの方法 志村健一著 相川書房		
研究室/オフィスアワー	火曜日 16:20~		
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	全体のプログラムに準じる	研究法の学習	
2	全体のプログラムに準じる	研究法の確認	
3	全体のプログラムに準じる	研究法の確認	
4	発達領域で見られる研究の概観・文献収集	文献検索	
5	関連文献の検索	文献レビュー	
6	関連文献の検索	文献レビュー	
7	研究テーマの検討	関連文献・研究法の検討	
8	研究計画書の作成	研究法の確認	
9	研究計画書の作成	研究法の確認	
10	倫理申請書の作成	倫理審査ガイドライン等の確認	
11	研究実施	結果の考察	
12	研究実施	結果の考察	
13	研究実施	結果の考察	
14	研究結果・論文作成	チェックを受ける	

15	論文作成	修正と仕上げ
成績評価方法と基準		割合
卒業論文審査		100%

4/5以上の出席を必要とする

卒業研究 I (作業): 松下 (Graduation Research I)			
授業科目名	松下 太	担当教員	松下 太
主担当教員	SS501	専門科目	DP①④
科目ナンバリング	3	開講学期	前期(金曜 5限)、 後期(金曜 5限)
配当年次	演習	単位数	2
授業形態		必修・選択	必修
授業概要 作業療法士は保健・医療・福祉・福祉領域のリハビリテーション専門職であり、臨床実践の質を高め、社会に貢献していくためには実践の内容について研究していくことが重要な位置を占める。この科目では、作業療法研究における必要性と意義を理解し、調査研究と実証研究を進めるための方法を修得する。具体的な内容はテーマの見つけ方、文献検索および文献抄録の方法、調査・実験の実施方法、研究計画書作成、研究論文の基本的な構成、研究発表の方法などを教授する。さらに、卒業論文作成に向けての準備も指導する。			
到達目標			
1) 研究倫理について理解することができる。 2) 科学的・論理的に自分の意見を表現する。 3) 作業療法研究の必要性と意義を説明できる。 4) 研究計画書を作成できる。 5) 予備実験ができる。 6) 結果を分析し、報告することができる。 7) 卒業論文作成の準備ができる。 8) プレゼンテーションができる。			
履修上の注意(学生へのメッセージ)			
1) 準備学習として、関心のあるテーマを幾つか提示できるように準備しておくこと。 2) 図書館で雑誌「作業療法」や「作業療法ジャーナル」などの原著論文や総説を積極的に読んでおくこと。 3) 常に、指導教員には研究の進捗状況の報告・連絡・相談をしながら、指導教員とよく話し合っ研究活動を進めること。 4) 期日や時間は必ず守ること。			
教科書			
特に指定する教科書はなし、ゼミ活動の進捗に応じて適宜必要な資料は指導教員から提示する。			
参考書			
特に指定する参考書はなし、ゼミ活動の進捗に応じて適宜必要な参考書、論文、資料等は指導教員から提示する。			
研究室／オフィスアワー			
C棟 7階研究室 17/木曜日 1・2・3 限目			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	作業療法研究とは	雑誌「作業療法」の原著論文を読む。	
2	量的研究とは	量的研究の方法をまとめる。	
3	質的研究とは	質的研究の方法をまとめる。	
4	文献検索 1	研究疑問からキーワードの検討、キーワードに関連する文献を検索する。	
5	文献検索 2	疑問に関する文献を検索する	
6	文献レビューの作成 1	文献レビューを作成する。	
7	文献レビューの作成 2	文献レビューを作成する。	
8	文献レビューの発表	文献レビューを発表しテーマを絞る。	
9	研究計画作成 1(テーマの焦点化)	研究計画書の推敲	
10	研究計画作成 2(対象と方法)	研究計画書の推敲	

11	研究計画作成3(解析方法、その他)	研究計画書の推敲	
12	研究計画の発表1	研究計画をプレゼンするための準備	
13	研究計画の発表2	研究計画をプレゼンするための準備	
14	研究計画確定、研究環境の整備、対象の確保	研究計画を確定させて、研究環境を整備し、対象者を選定・依頼する。対象者には同意書を得る。	
15	プレ実験1	計画に準じプレ実験を実施する。同時に、倫理委員会への申請準備を進める。	
16	プレ実験2	計画に準じ、プレ実験を実施する。同時に、倫理委員会への申請を行なう。	
17	プレ実験の結果の解釈と研究計画の微調整	プレ実験の結果に基づき、研究計画を微調整する。	
18	データ収集	研究実施ノートを作成する。	
19	データ収集	研究実施ノートを作成する。	
20	データ収集	研究実施ノートを作成する。	
21	データ収集	研究実施ノートを作成する。	
22	データ収集	研究実施ノートを作成する。	
23	データの分析1	解析ソフトで統計処理を行なう。	
24	データの分析2	統計処理したデータを解釈する。	
25	データの分析3	統計処理したデータを解釈する。	
26	研究進捗中間発表1	PowerPointを用いた発表の準備	
27	研究進捗中間発表2	PowerPointを用いた発表の準備	
28	研究進捗中間発表3	PowerPointを用いた発表の準備	
29	研究進捗中間発表4	PowerPointを用いた発表の準備	
30	結果に対する考察	先行文献を整理する。	
成績評価方法と基準			割合
1)研究計画書の作成			1)60%
2)プレ実験の発表			2)40%
3)単位認定のための必要出席時間数は「5分の4以上」とする			

授業科目名	卒業研究Ⅰ(作業):橋本 (Graduation Research I)		
主担当教員	橋本 弘子	担当教員	橋本 弘子
科目ナンバリング	SS501	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目
配当年次	3	開講学期	前期 後期(金曜5限)、 後期(金曜5限)
授業形態	演習	単位数	2
授業概要	作業療法士は保健・医療・福祉領域のリハビリテーション専門職であり、臨床実践の質を高め、社会に貢献していくためには実践の内容について研究していくことが重要な位置を占める。この科目では、作業療法研究における必要性と意義を理解し、調査研究と実践研究を進めるための方法を修得する。具体的内容はテーマの異なつて、文献検索および文献抄録の方法、調査・実践の実施方法、研究計画書作成、研究論文の基本的な構成、研究発表の方法などを教授する。さらに、卒業論文作成に向けての準備も指導する。		
到達目標	<p>1) 研究倫理について理解することができる。</p> <p>2) 科学的・論理的に自分の意見を表明する。</p> <p>3) 作業療法研究の必要性と意義を説明できる。</p> <p>4) 研究計画書を作成できる。</p> <p>5) 予備実験ができる。</p> <p>6) 結果を分析し、解釈することができる。</p> <p>7) 卒業論文作成の準備ができる。</p> <p>8) プレゼンテーションができる。</p>		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	履修学習として、関心のあるテーマを幾つか提示できるように準備しておく。また、図書館で雑誌「作業療法」や「作業療法ジャーナル」の原著論文や総説を積極的に読んでおく。		
教科書	指定する教科書はなし。		
参考書	研究領域に関連する資料、論文、記事を随時提示します。		
研究室/オフィスアワー	木曜日(10:40~12:10)		
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	作業療法研究とは	雑誌「作業療法」の原著論文を読む。	
2	量的研究とは	量的研究の方法をまとめる	
3	質的研究とは	質的研究の方法をまとめる	
4	文献検索	テーマに関連する文献を検索する。	
5	文献レビュー	検索した文献をレビューする。	
6	テーマの焦点化	テーマを絞る	
7	研究計画作成1(対象と方法)	研究計画書の推敲	
8	研究計画作成2(解析方法)	研究計画書の推敲	
9	研究計画作成3	研究計画書の推敲	
10	研究計画発表会1	研究計画をプレゼンするための準備。	
11	研究計画発表会2	研究計画をプレゼンするための準備。	
12	研究計画の再検討	研究計画を見直し修正する。	

13	プレ調査 1	方法に準じ、パイロット調査を実施する。
14	プレ調査 2	方法に準じ、パイロット調査を実施する。
15	プレ調査 3	方法に準じ、パイロット調査を実施する。
16	プレ調査の結果と解釈	パイロット調査の結果をまとめ、考察する。
17	研究実施 1	研究実施ノートを作成する。
18	研究実施 2	研究実施ノートを作成する。
19	研究実施 3	研究実施ノートを作成する。
20	研究実施 4	研究実施ノートを作成する。
21	研究実施 5	研究実施ノートを作成する。
22	データの分析 1	分析したデータを解釈する。
23	データの分析 2	分析したデータを解釈する。
24	データの分析 3	分析したデータを解釈する。
25	研究進捗中間発表 1	分析したデータを解釈する。
26	研究進捗中間発表 2	パワーポイントを用いた発表の準備。
27	研究進捗中間発表 3	パワーポイントを用いた発表の準備。
28	研究進捗中間発表 4	パワーポイントを用いた発表の準備。
29	研究進捗中間発表 5	パワーポイントを用いた発表の準備。
30	結果に対する考察	先行文献を整理する。
成績評価方法と基準		
割合		
1. 60%		
2. 40%		
4/5以上の出席を必要とする		

授業科目名	卒業研究 I (作業): 中村 (Graduation Research I)																																																						
主担当教員	中村 めぐみ	担当教員	中村 めぐみ																																																				
科目ナンバリング	SS501	科目区分	ディプロマポリシー 該当項目 DP①④																																																				
配当年次	3	開講学期	前期(金曜 5 限)、 後期(金曜 5 限)																																																				
授業形態	演習	単位数	2																																																				
授業概要	卒業生は健康・医療・福祉領域のリハビリテーション専門職であり、臨床実践の質を高め、社会に貢献していくために実践の内容について研究していくことが重要な位置を占める。この科目では、作業療法研究における必要性と意義を理解し、調査研究と実践研究を進めるための方法を修得する。具体的な内容はテーマの見つけ方、文献検索および文献抄録の方法、調査・実験の実施方法、研究計画書作成、研究論文の基本的な構成、研究発表の方法などを教授する。さらに、卒業論文作成に向けての準備も指導する。																																																						
到達目標	1) 研究倫理について理解することができる。 2) 科学的・論理的に自分の意見を表現する。 3) 作業療法研究の必要性と意義を説明できる。 4) 研究計画書を作成できる。 5) 予備実験ができる。 6) 結果を分析し、解釈することができる。 7) 卒業論文作成の準備ができる。 8) プレゼンテーションができる。																																																						
履修上の注意(学生へのメッセージ)	準備学習として、関心のあるテーマを幾つか提示できるように準備しておく。また、図書館で雑誌「作業療法」や「作業療法ジャーナル」の原著論文や総説を積極的に読んでおく。																																																						
教科書	指定する教科書はなし。																																																						
参考書	研究領域に関連する資料、論文、記事を随時提示します。																																																						
研究室/オフィスアワー	月曜 1, 2 限 木曜 1, 2 限 金曜 4, 5 限																																																						
授業展開及び授業計画表	<table border="1"> <thead> <tr><th>回数</th><th>学修内容</th><th>予習・復習・課題等</th><th>担当</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>作業療法研究とは</td><td>雑誌「作業療法」の原著論文を読む。</td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td>量的研究とは</td><td>量的研究の方法をまとめる。</td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td>質的研究とは</td><td>質的研究の方法をまとめる。</td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td>文献検索</td><td>テーマに関連する文献を検索する。</td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td>文献レビュー</td><td>検索した文献をレビューする。</td><td></td></tr> <tr><td>6</td><td>テーマの焦点化</td><td>テーマを絞る。</td><td></td></tr> <tr><td>7</td><td>研究計画作成 1 (対象と方法)</td><td>研究計画書の推敲</td><td></td></tr> <tr><td>8</td><td>研究計画作成 2 (解析方法)</td><td>研究計画書の推敲</td><td></td></tr> <tr><td>9</td><td>研究計画作成 3</td><td>研究計画書の推敲</td><td></td></tr> <tr><td>10</td><td>研究計画発表会 1</td><td>研究計画をプレゼンするための準備。</td><td></td></tr> <tr><td>11</td><td>研究計画発表会 2</td><td>研究計画をプレゼンするための準備。</td><td></td></tr> <tr><td>12</td><td>研究計画の再検討</td><td>研究計画を見直し修正する。</td><td></td></tr> </tbody> </table>			回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当	1	作業療法研究とは	雑誌「作業療法」の原著論文を読む。		2	量的研究とは	量的研究の方法をまとめる。		3	質的研究とは	質的研究の方法をまとめる。		4	文献検索	テーマに関連する文献を検索する。		5	文献レビュー	検索した文献をレビューする。		6	テーマの焦点化	テーマを絞る。		7	研究計画作成 1 (対象と方法)	研究計画書の推敲		8	研究計画作成 2 (解析方法)	研究計画書の推敲		9	研究計画作成 3	研究計画書の推敲		10	研究計画発表会 1	研究計画をプレゼンするための準備。		11	研究計画発表会 2	研究計画をプレゼンするための準備。		12	研究計画の再検討	研究計画を見直し修正する。	
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当																																																				
1	作業療法研究とは	雑誌「作業療法」の原著論文を読む。																																																					
2	量的研究とは	量的研究の方法をまとめる。																																																					
3	質的研究とは	質的研究の方法をまとめる。																																																					
4	文献検索	テーマに関連する文献を検索する。																																																					
5	文献レビュー	検索した文献をレビューする。																																																					
6	テーマの焦点化	テーマを絞る。																																																					
7	研究計画作成 1 (対象と方法)	研究計画書の推敲																																																					
8	研究計画作成 2 (解析方法)	研究計画書の推敲																																																					
9	研究計画作成 3	研究計画書の推敲																																																					
10	研究計画発表会 1	研究計画をプレゼンするための準備。																																																					
11	研究計画発表会 2	研究計画をプレゼンするための準備。																																																					
12	研究計画の再検討	研究計画を見直し修正する。																																																					

13	プレ調査 1	方法に準じ、パイロット調査を実施する。
14	プレ調査 2	方法に準じ、パイロット調査を実施する。
15	プレ調査 3	方法に準じ、パイロット調査を実施する。
16	プレ調査 4	パイロット調査の結果をまとめ、考察する。
17	研究実施 1	研究実施ノートを作成する。
18	研究実施 2	研究実施ノートを作成する。
19	研究実施 3	研究実施ノートを作成する。
20	研究実施 4	研究実施ノートを作成する。
21	研究実施 5	研究実施ノートを作成する。
22	データの分析 1	分析したデータを解釈する。
23	データの分析 2	分析したデータを解釈する。
24	データの分析 3	分析したデータを解釈する。
25	研究進捗中間発表 1	パワーポイントを用いた発表の準備。
26	研究進捗中間発表 2	パワーポイントを用いた発表の準備。
27	研究進捗中間発表 3	パワーポイントを用いた発表の準備。
28	研究進捗中間発表 4	パワーポイントを用いた発表の準備。
29	研究進捗中間発表 5	パワーポイントを用いた発表の準備。
30	結果に対する考察	先行文献を整理する。
成績評価方法と基準		割合
単位認定のための必要出席時間数は「5分の4以上」とする		①60%
①研究計画書の作成(60%)		②40%
②パイロット調査の発表(40%)		

授業科目名	卒業研究Ⅰ(作業):中西(Graduation Research I)		
主担当教員	中西一	担当教員	中西一
科目ナンバリング	SS501	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目
配当年次	3	開講学期	前期・後期
授業形態	演習	単位数	2
授業概要	作業療法士は保健・医療・福祉領域のリハビリテーション専門職であり、臨床実践の質を高め、社会に貢献していくためには実践の内容について研究していくことが重要な位置を占める。この科目では、作業療法研究における必要性と意義を理解し、調査・実践と実践研究を進めるための方法を修得する。具体的な内容はテーマの見つけ方、文献検索および文献抄録の方法、調査・実践の実施方法、研究計画書作成、研究論文の基本的な構成、研究発表の方法などを教授する。さらに、卒業論文作成に向けての準備も指導する。		
到達目標	1) 研究倫理について理解することができる。 2) 科学的・論理的に自分の意見を表明することができる。 3) 作業療法研究の必要性と意義を説明できる。 4) 研究計画書を作成できる。 5) 予備実験ができる。 6) 結果を分析し、解釈することができる。 7) 卒業論文作成の準備ができる。 8) プレゼンテーションができる。		
教科書	履修上の注意(学生へのメッセージ) 準備学習として、関心のあるテーマを幾つか提示できるように準備しておく。また、図書館で雑誌「作業療法」や「作業療法ジャーナル」の原著論文や総説を積極的に読んでおく。		
指定する教科書はなし。			
参考書			
研究領域に関連する資料、論文、記事を随時提示します。			
研究室/オフィスアワー	共同研究室/金曜 4 限		
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	作業療法研究とは	雑誌「作業療法」の原著論文を読む。	中西
2	量的研究とは	量的研究の方法をまとめる。	中西
3	質的研究とは	質的研究の方法をまとめる。	中西
4	文献検索	テーマに関連する文献を検索する。	中西
5	文献レビュー	検索した文献をレビューする。	中西
6	テーマの焦点化	テーマを絞る。	中西
7	研究計画作成 1(対象と方法)	研究計画書の推敲	中西
8	研究計画作成 2(解析方法)	研究計画書の推敲	中西
9	研究計画作成 3	研究計画書の推敲	中西
10	研究計画発表会 1	研究計画をプレゼンするための準備。	中西
11	研究計画発表会 2	研究計画をプレゼンするための準備。	中西
12	研究計画の再検討	研究計画を見直し修正する。	中西

13	プレ調査 1	方法に準じ、パイロット調査を実施する。	中西
14	プレ調査 2	方法に準じ、パイロット調査を実施する。	中西
15	プレ調査 3	方法に準じ、パイロット調査を実施する。	中西
16	プレ調査の結果と解釈	パイロット調査の結果をまとめ、考察する。	中西
17	研究実施 1	研究実施ノートを作成する。	中西
18	研究実施 2	研究実施ノートを作成する。	中西
19	研究実施 3	研究実施ノートを作成する。	中西
20	研究実施 4	研究実施ノートを作成する。	中西
21	研究実施 5	研究実施ノートを作成する。	中西
22	データの分析 1	分析したデータを解釈する。	中西
23	データの分析 2	分析したデータを解釈する。	中西
24	データの分析 3	分析したデータを解釈する。	中西
25	研究進捗中間発表 1	パワーポイントを用いた発表の準備。	中西
26	研究進捗中間発表 2	パワーポイントを用いた発表の準備。	中西
27	研究進捗中間発表 3	パワーポイントを用いた発表の準備。	中西
28	研究進捗中間発表 4	パワーポイントを用いた発表の準備。	中西
29	研究進捗中間発表 5	パワーポイントを用いた発表の準備。	中西
30	結果に対する考察	先行文献を整理する。	中西
成績評価方法と基準			割合
1) 研究計画書の作成			1) 60%
2) パイロット調査の発表			2) 40%
単位認定のための必要出席時間数は「5分の4以上」とする			

卒業科目名				卒業研究 I (作業): 金森 (Graduation Research I)			
主担当教員		金森 幸		担当教員		金森 幸	
科目ナンバリング		SS501		科目区分		専門科目	
配当年次		3		開講学期		前期 (金曜 5 限)、 後期 (金曜 5 限)	
授業形態		演習		単位数		2	
授業概要		演習		単位数		2	
作業療法士は保健・医療・福祉領域のリハビリテーション専門職であり、臨床実践の質を高め、社会に貢献していくためには実践の内 容について研究していくことが重要な位置を占める。この科目では、作業療法研究における必要性と意義を理解し、調査研究と実証 研究を進めるための方法を修得する。具体的な内容はテーマの見つけ方、文献検索および文献抄録の方法、調査・実験の実施方 法、研究計画書作成、研究論文の基本的な構成、研究発表の方法などを教授する。さらに、卒業論文作成に向けての準備も指導す る。							
到達目標							
1) 研究倫理について理解することができる。							
2) 科学的・論理的に自分の意見を表明する。							
3) 作業療法研究の必要性と意義を説明できる。							
4) 研究計画書を作成できる。							
5) 予備実験ができる。							
6) 結果を分析し、解釈することができる。							
7) 卒業論文作成の準備ができる。							
8) 研究計画および研究中間報告のプレゼンテーションができる。							
履修上の注意 (学生へのメッセージ)							
準備学習として、関心のあるテーマを幾つか提示できるように準備しておく。また、図書館で雑誌「作業療法」や「作業療法ジャーナル」 の原著論文や総説を積極的に読んでおく。							
教科書							
指定する教科書はなし。							
参考書							
研究領域に関連する資料、論文、記事を随時提示します。							
研究室 / オフィスアワー							
随時							
授業展開及び授業計画表							
回数	学習内容	予習・復習・課題等	担当				
1	作業療法研究とは	雑誌「作業療法」の原著論文を読む。					
2	量的研究とは	量的研究の方法をまとめる。					
3	質的研究とは	質的研究の方法をまとめる。					
4	文献検索	テーマに関連する文献を検索する。					
5	文献レビュー	検索した文献をレビューする。					
6	テーマの焦点化	テーマを絞る。					
7	研究計画作成 1 (対象と方法)	研究計画書の推敲					
8	研究計画作成 2 (解析方法)	研究計画書の推敲					
9	研究計画作成 3	研究計画書の推敲					
10	研究計画発表会 1	研究計画をプレゼンするための準備。					
11	研究計画発表会 2	研究計画をプレゼンするための準備。					
12	研究計画の再検討	研究計画を見直し修正する。					

13	プレ調査 1	方法に準じ、バイロット調査を実施する。
14	プレ調査 2	方法に準じ、バイロット調査を実施する。
15	プレ調査 3	方法に準じ、バイロット調査を実施する。
16	プレ調査の結果と解釈	バイロット調査の結果をまとめ、考察する。
17	研究実施 1	研究実施ノートを作成する。
18	研究実施 2	研究実施ノートを作成する。
19	研究実施 3	研究実施ノートを作成する。
20	研究実施 4	研究実施ノートを作成する。
21	研究実施 5	研究実施ノートを作成する。
22	データの分析 1	分析したデータを解釈する。
23	データの分析 2	分析したデータを解釈する。
24	データの分析 3	分析したデータを解釈する。
25	研究進捗中間発表 1	パワーポイントを用いた発表の準備。
26	研究進捗中間発表 2	パワーポイントを用いた発表の準備。
27	研究進捗中間発表 3	パワーポイントを用いた発表の準備。
28	研究進捗中間発表 4	パワーポイントを用いた発表の準備。
29	研究進捗中間発表 5	パワーポイントを用いた発表の準備。
30	結果に対する考察	先行文献を整理する。
成績評価方法と基準		割合
出席基準:4/5以上		①60%
①研究計画書の作成		②40%
②バイロット調査の発表		

卒業研究Ⅱ (身体障害)(作業) (Graduation Research II (Physical Disability))			
授業科目名	小林 貴代	担当教員	小林 貴代、中村 めぐみ、中西 一
主担当教員	小林 貴代	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目 DP①④
科目ナンバリング	SS502	科目区分	前期(月曜1限)、 後期(月曜1限)
配当年次	4	開講学期	曜日・時限
授業形態	演習	単位数	必修・選択 2
授業概要 「運動学J」「日常生活活動学J」「身体障害作業療法学」等で学んだ動作分析、ADL、身体障害領域の知識や技術、病院、施設、在宅における課題を中心に、担当教員の指導の下に研究テーマにそって研究のすべての過程を遂行する。研究テーマに基づき、リサーチアクションを明確にし、研究計画を作成し、実験等によるデータの収集と分析、結果の考察というプロセスを修得する。その総括として、地域作業療法分野の論文完成を目指す。			
到達目標 1. 研究テーマに関する先行研究について検索・入手・通読し、それらの詳細を理解している。 2. 自分の計画した研究のオリジナリティと限界を説明することができる。 3. 倫理的な配慮を理解し、研究倫理審査委員会に提出する書類が作成できる。 4. 研究プロトコルを作成できる。 5. 予備的研究結果を踏まえ、実験することができる。 6. 実験結果を解釈し、考察することができる。 7. 研究成果を論文にすることができ、抄録ならびにパワーポイントを用いて発表できる。			
履修上の注意(学生へのメッセージ) 自身の研究テーマに関連する論文を講読し、文獻レビューを作成する。			
教科書 指定する教科書はなし。			
参考書 研究領域に関連する資料、論文、記事を随時提示します。			
研究室/オフィスアワー 月曜日 5 限目 (16:20-17:50)			
授業展開及び授業計画表			
回数	学習内容	予習・復習・課題等	担当
1	研究テーマの確立 1 から 6 回において、研究倫理審査資料を作成し提出する(卒業研究 I において、既に研究倫理審査を提出済み場合は、研究結果解釈のための先行研究を講読する)	先行研究をレビューし、まとめておく。	小林 中村 中西
2	リサーチアクションの明確化 1 から 6 回において、研究倫理審査資料を作成し提出する(卒業研究 I において、既に研究倫理審査を提出済み場合は、研究結果解釈のための先行研究を講読する)	先行研究をレビューし、まとめておく。	小林 中村 中西
3	プロトコルの厘直しと確立 1 から 6 回において、研究倫理審査資料を作成し提出する(卒業研究 I において、既に研究倫理審査を提出済み場合は、研究結果解釈のための先行研究を講読する)	先行研究をレビューし、まとめておく。	小林 中村 中西
4	予備実験① 1 から 6 回において、研究倫理審査資料を作成し提出する(卒業研究 I において、既に研究倫理審査を提出済み場合は、研究結果解釈のための先行研究を講読する)	先行研究をレビューし、まとめておく。	小林 中村 中西
5	予備実験② 1 から 6 回において、研究倫理審査資料を作成し提出する(卒業研究 I において、既に研究倫理審査を提出済み場合は、研究結果解釈のための先行研究を講読する)	先行研究をレビューし、まとめておく。	小林 中村 中西

6	予備実験結果の解釈と実験開始準備 1から6回において、研究倫理審査資料を作成し 提出する(卒業研究Iにおいて、既に研究倫理審 査を提出済みの場合、研究結果解釈のための 先行研究を講読する)	先行研究をレビューし、まとめておく。	小林 中村 中西
7	データ収集①	倫理審査に提出したデータ管理の方法を確認す る。	小林 中村 中西
8	データ収集②	倫理審査に提出したデータ管理の方法を確認す る。	小林 中村 中西
9	データ収集③	外れ値を解釈する。	小林 中村 中西
10	データ収集④	収集済みデータを入力する。	小林 中村 中西
11	データ収集⑤	収集済みデータを入力する。	小林 中村 中西
12	論文作成①	結果を分析するための分析手法を整理する。	小林 中村 中西
13	論文作成②	結果を分析するための分析手法を整理する。	小林 中村 中西
14	論文作成③	結果を解釈するための先行研究を追加する。	小林 中村 中西
15	論文作成④	結果を解釈するための先行研究を追加する。	小林 中村 中西
16	論文作成⑤	結果を解釈するための先行研究を追加する。	小林 中村 中西
17	論文作成⑥	背景と研究目的を完成させる。	小林 中村 中西
18	論文作成⑦	研究方法記載に不足がないか確認する	小林 中村 中西
19	論文作成⑧	結果を示す文章および図表に過不足がないか確認 する。	小林 中村 中西
20	論文作成⑨	飛躍した考察がないか確認する。	小林 中村 中西
21	論文作成⑩	飛躍した考察がないか確認する。	小林 中村 中西
22	成果発表①	成果発表時の質疑、意見を整理する。他者の研 究についての意見を述べる。	小林 中村 中西
23	成果発表②	成果発表時の質疑、意見を整理する。他者の研 究についての意見を述べる。	小林 中村 中西
24	成果発表③	成果発表時の質疑、意見を整理する。他者の研 究についての意見を述べる。	小林 中村 中西
25	成果発表④	成果発表時の質疑、意見を整理する。他者の研 究についての意見を述べる。	小林 中村 中西
26	研究の眼界の振り返り①	成果発表時のコメントを参考に、研究の眼界につ いてまとめておく。	小林 中村 中西
27	研究の眼界の振り返り②	成果発表時のコメントを参考に、研究の眼界につ いてまとめておく。	小林 中村 中西

28	研究成果の社会的貢献①	研究成果の社会への発信方法をまとめる。	小林 中村 中西
29	研究成果の社会的貢献②	研究成果の社会への発信方法をまとめる。	小林 中村 中西
30	臨床応用について検討する	自身が就職する領域での研究について考えてお く。	小林 中村 中西
成績評価方法と基準			
4/5以上の出席を必要とする。 ①論文作成 ②研究成果発表			
			割合 ①60% ②40%

卒業研究Ⅱ (精神障害)(作業) (Graduation Research II (Mental Disorder))			
授業科目名	橋本 弘子	担当教員	橋本 弘子
主担当教員	SS003	専門科目	DP①④
科目ナンバリング	4	開講学期	前期(月曜1限)、 後期(月曜1限)
配当年次	演習	単位数	2
授業形態			
授業概要	<p>卒業法士は保健・医療・福祉領域のリハビリテーション専門職であり、臨床実践の質を高め、社会に貢献していくためには実践の内容容について研究していくことが重要な位置を占める。この科目では、作業療法研究における必要性と意義を理解し、調査研究と実験研究を進めるための方法を修得する。卒業研究Ⅰで考えた調査・実験の実施方法について、データの収集と分析、結果の考察というプロセスを、段階を踏みながら習得する。その総括として、卒業論文作成と研究発表に向けての準備する。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 研究倫理について理解することができる。 2) 科学的・論理的に自分の意見を表明できる。 3) 作業療法研究の必要性と意義を説明できる。 4) 研究計画書を作成できる。 5) 予備実験ができる。 6) 結果を分析し、解釈することができる。 7) 卒業論文作成ができる。 8) プレゼンテーションができる。 <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>自身の研究目的に沿って、研究疑問を明らかにすべく主体的に取り組むようにしてください。</p>		
教科書	指定する教科書はない。		
参考書	研究領域に関連する資料、論文、記事を随時提示します。		
研究室/オフィスアワー	火曜日(13:00~14:10)		

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	研究計画の検討	中間発表を踏まえて研究計画書を見直し修正する。	
2	研究計画の検討	研究実施のための具体的なプラン作成	
3	研究計画実施の準備	研究実施のための物品等の準備	
4	データを収集	方法に準じ依頼からデータ収集と整理までを実施	
5	データを収集	方法に準じ依頼からデータ収集と整理までを実施	
6	データを収集	方法に準じ依頼からデータ収集と整理までを実施	
7	データを収集	方法に準じ依頼からデータ収集と整理までを実施	
8	データを収集	方法に準じ依頼からデータ収集と整理までを実施	
9	データを収集	方法に準じ依頼からデータ収集と整理までを実施	
10	データを収集	方法に準じ依頼からデータ収集と整理までを実施	
11	データの分析	結果の解析	
12	データの分析	結果の解析	

13	データの分析	結果の解析	
14	データの分析	結果の解析	
15	分析結果の考察	分析結果を先行文献などとともに考察を深める	
16	分析結果の考察	分析結果を先行文献などとともに考察を深める	
17	分析結果の考察	分析結果を先行文献などとともに考察を深める	
18	分析結果の考察	分析結果を先行文献などとともに考察を深める	
19	論文作成	これまでの結果を踏まえ、「要旨、はじめに、方法、結果、考察、研究の限界、今後の展望、おわりに」を論理立てて書き進める	
20	論文作成	これまでの結果を踏まえ、「要旨、はじめに、方法、結果、考察、研究の限界、今後の展望、おわりに」を論理立てて書き進める	
21	論文作成	これまでの結果を踏まえ、「要旨、はじめに、方法、結果、考察、研究の限界、今後の展望、おわりに」を論理立てて書き進める	
22	論文作成	これまでの結果を踏まえ、「要旨、はじめに、方法、結果、考察、研究の限界、今後の展望、おわりに」を論理立てて書き進める	
23	論文作成と発表準備	論文を作成しながら、パワーポイントで発表原稿を作成する	
24	論文作成と発表準備	論文を作成しながら、パワーポイントで発表原稿を作成する	
25	卒業論文発表	論文を作成しながら、パワーポイントで発表原稿を作成する	
26	卒業論文発表	論文を作成しながら、パワーポイントで発表原稿を作成する	
27	卒業論文発表	論文を作成しながら、パワーポイントで発表原稿を作成する	
28	卒業論文発表	論文を作成しながら、パワーポイントで発表原稿を作成する	
29	卒業論文発表	論文を作成しながら、パワーポイントで発表原稿を作成する	
30	卒業論文発表	論文を作成しながら、パワーポイントで発表原稿を作成する	
成績評価方法と基準			
1. 論文の作成			
2. 論文発表			
4/5の出席を必要とする			
割合			
1. 60%			
2. 40%			

卒業研究Ⅱ(老年期障害・地域)(作業)(Graduation Research II (Geriatric Disorder / Community))			
授業科目名	横井 眞津志	担当教員	横井 眞津志、松下 太
主担当教員	横井 眞津志	専門科目	DP①④
科目ナンバリング	SS504	科目区分	前期(月曜1限)、後期(月曜1限)
配当年次	4	開講学期	前期(月曜1限)、後期(月曜1限)
授業形態	演習	単位数	2
授業形態	演習	単位数	2
授業概要	<p>「老年期障害作業療法に関する科目」、「作業科学入門」、「地域作業療法学」で学んだ作業の健康への貢献、認知症に対する作業療法、介護予防の知識や技術、施設や在宅における課題を中心に、担当教員の指導の下に研究テーマによって研究のすべての過程を遂行する。研究テーマに基づき、リサーチエッセンスを明確にし、研究計画を作成し、実験等によるデータの収集と分析、結果の考察というプロセスを修得する。その総括として、地域作業療法分野の論文完成を目指す。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 研究テーマに関する先行研究について検索・入手・通読し、それらの詳細を理解している。 2. 自分の計画した研究のオリジナルタイトルと眼点を説明することができる。 3. 論理的な配慮を理解し、研究倫理審査委員会に提出する書類が作成できる。 4. 研究プロトコルを作成できる。 5. 予備的研究結果を踏まえ、実験することができる。 6. 実験結果を解釈し、考察することができる。 7. 研究成果を論文にすることができ、抄録ならびにパワーポイントを用いて発表できる。 <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>自身の研究テーマに関連する論文を講読し、文献レビューを作成する。</p>		
教科書			
指定する教科書はなし。			
参考書			
研究領域に関連する資料、論文、記事を随時提示します。			
研究室/オフィスアワー			
月曜日 5限目(16:20-17:50)			
授業展開期及び授業計画表			
回数	学習内容	予習・復習・課題等	担当
1	研究テーマの確立 1から6回において、研究倫理審査資料を作成し提出する(卒業研究Ⅰにおいて、既に研究倫理審査を提出済みの場合)、研究結果解釈のための先行研究を講読する)	先行研究をレビューし、まとめておく。	横井、松下
2	リサーチエッセンスの明確化 1から6回において、研究倫理審査資料を作成し提出する(卒業研究Ⅰにおいて、既に研究倫理審査を提出済みの場合)、研究結果解釈のための先行研究を講読する)	先行研究をレビューし、まとめておく。	横井、松下
3	プロトコルの見直しと確立 1から6回において、研究倫理審査資料を作成し提出する(卒業研究Ⅰにおいて、既に研究倫理審査を提出済みの場合)、研究結果解釈のための先行研究を講読する)	先行研究をレビューし、まとめておく。	横井、松下
4	予備実験① 1から6回において、研究倫理審査資料を作成し提出する(卒業研究Ⅰにおいて、既に研究倫理審査を提出済みの場合)、研究結果解釈のための先行研究を講読する)	先行研究をレビューし、まとめておく。	横井、松下
5	予備実験② 1から6回において、研究倫理審査資料を作成し提出する(卒業研究Ⅰにおいて、既に研究倫理審査を提出済みの場合)、研究結果解釈のための先行研究を講読する)	先行研究をレビューし、まとめておく。	横井、松下

6	予備実験結果の解釈と実験開始準備 1から6回において、研究倫理審査資料を作成し提出する(卒業研究Ⅰにおいて、既に研究倫理審査を提出済みの場合)、研究結果解釈のための先行研究を講読する)	先行研究をレビューし、まとめておく。	横井、松下
7	データ収集①	倫理審査に提出したデータ管理の方法を確認する。	横井、松下
8	データ収集②	倫理審査に提出したデータ管理の方法を確認する。	横井、松下
9	データ収集③	外れ値を解釈する。	横井、松下
10	データ収集④	収集済みデータを入力する。	横井、松下
11	データ収集⑤	収集済みデータを入力する。	横井、松下
12	論文作成①	結果を分析するための分析手法を整理する。	横井、松下
13	論文作成②	結果を分析するための分析手法を整理する。	横井、松下
14	論文作成③	結果を解釈するための先行研究を追加する。	横井、松下
15	論文作成④	結果を解釈するための先行研究を追加する。	横井、松下
16	論文作成⑤	結果を解釈するための先行研究を追加する。	横井、松下
17	論文作成⑥	背景と研究目的を完成させる。	横井、松下
18	論文作成⑦	研究方法記載に不足がないか確認する。	横井、松下
19	論文作成⑧	結果を示す文章および図表に過不足がないか確認する。	横井、松下
20	論文作成⑨	飛躍した考察がないか確認する。	横井、松下
21	論文作成⑩	飛躍した考察がないか確認する。	横井、松下
22	成果発表①	成果発表時の質疑、意見を整理する。他者の研究についての意見を述べる。	横井、松下
23	成果発表②	成果発表時の質疑、意見を整理する。他者の研究についての意見を述べる。	横井、松下
24	成果発表③	成果発表時の質疑、意見を整理する。他者の研究についての意見を述べる。	横井、松下
25	成果発表④	成果発表時の質疑、意見を整理する。他者の研究についての意見を述べる。	横井、松下
26	研究の境界の振り返り①	成果発表時のコメントを参考に、研究の境界についてまとめておく。	横井、松下
27	研究の境界の振り返り②	成果発表時のコメントを参考に、研究の境界についてまとめておく。	横井、松下
28	研究成果の社会的貢献①	研究成果の社会への発信方法をまとめる。	横井、松下
29	研究成果の社会的貢献②	研究成果の社会への発信方法をまとめる。	横井、松下
30	臨床応用について検討する	自身が就職する領域での研究について考えておく。	横井、松下
成績評価方法と基準			
4/5以上の出席を必要とする。			
①論文作成			
②研究成果発表			
			割合
			①60%
			②40%

授業科目名 卒業研究Ⅱ(発達障害)(作業) (Graduation Research II (Developmental Disability))			
主担当教員	伊藤 直子	担当教員	伊藤 直子、金森 幸
科目ナンバリング	SS05	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目
配当年次	4	開講学期	前期 後期(月曜1限) 選択
授業形態	演習	単位数	2
授業概要			
「質的研究の進め方、まとめ方」を参考にして、各自ですすめている研究計画にそって、文献研究や結果の考察をすすめる。担当教員には、通時経過を報告し、研究テーマにそって研究のすべての過程を遂行する。研究テーマに基づき、リサーチアクションを明確にし、研究計画を作成し、インタビューやフィールドワーク等によるデータの収集と分析、結果の考察というプロセスを修得する。その総括として、作業療法士としての論文完成を目指す。			
到達目標			
1. 研究テーマに関する先行研究について検索・入手・通読し、それらの詳細を理解している。			
2. 自分の計画した研究のオリジナリティと限界を説明することができる。			
3. 倫理的な配慮を理解し、研究倫理審査委員会に提出する書類が作成できる。			
4. 研究プロトコルを作成できる。			
5. 予備的研究結果を踏まえ、観察、インタビューやフィールドワークを行うことができる。			
6. 実験結果を解釈し、考察することができる。			
7. 研究成果を論文にすることができ、抄録ならびにパワーポイントを用いて発表できる。			
8. 卒業後も発達領域に役立つ作業療法士としての研究活動を継続できるようにすること			
履修上の注意(学生へのメッセージ)			
自身の研究テーマに関連する論文を講読し、文献レビューを作成する。			
研究活動は、各自で自覚をもって主体的に取り組んでください。			
教科書			
特に指定はありません			
参考書			
「質的研究入門」小田博志著、春秋社			
「エスノグラフィ入門」小田博志著、春秋社			
「子どもの参画」ロジャー・ハート著、Uniocef 胡文社			
研究室/オフィスアワー			
研究室にスケジュール表を掲示していますので、事前に相談の予約をとってください(基本的に1回以上)			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	研究計画の確認 1から6回において、研究倫理審査資料を作成し提出する(卒業研究Ⅰにおいて、既に研究倫理審査を提出済みの方は、研究結果解釈のための先行研究を講読する)。 リサーチアクションの明確化	倫理審査の提出 先行研究をレビューし、まとめておく。	
2	1から6回において、研究倫理審査資料を作成し提出する(卒業研究Ⅰにおいて、既に研究倫理審査を提出済みの方は、研究結果解釈のための先行研究を講読する)。	同意書・研究環境の整備 先行研究をレビューし、まとめておく。	
3	プロトコルの真直しと確立 1から6回において、研究倫理審査資料を作成し提出する(卒業研究Ⅰにおいて、既に研究倫理審査を提出済みの方は、研究結果解釈のための先行研究を講読する)。	進捗に必要な資料や文献の整備 先行研究をレビューし、まとめておく。	
4	予備実験① 1から6回において、研究倫理審査資料を作成し提出する(卒業研究Ⅰにおいて、既に研究倫理審査を提出済みの方は、研究結果解釈のための先行研究を講読する)。	研究方法の確認 先行研究をレビューし、まとめておく。	

5	予備実験② 1から6回において、研究倫理審査資料を作成し提出する(卒業研究Ⅰにおいて、既に研究倫理審査を提出済みの方は、研究結果解釈のための先行研究を講読する)。	予備実験の結果の整理 先行研究をレビューし、まとめておく。	
6	予備実験結果の解釈と実験開始準備 1から6回において、研究倫理審査資料を作成し提出する(卒業研究Ⅰにおいて、既に研究倫理審査を提出済みの方は、研究結果解釈のための先行研究を講読する)。	本研究の準備 先行研究をレビューし、まとめておく。	
7	データ収集①	倫理審査に提出したデータ管理の方法を確認する。	
8	データ収集②	倫理審査に提出したデータ管理の方法を確認する。	
9	データ収集③	データを収集する。	
10	データ収集④	収集したデータを入力する。	
11	データ収集⑤	収集したデータを入力する。	
12	論文作成①	分析方法を確認する	
13	論文作成②	分析方法を確認する	
14	論文作成③	結果を解釈するための先行研究を追加する	
15	論文作成④	結果を解釈するための先行研究を追加する	
16	論文作成⑤	結果を解釈するための先行研究を追加する	
17	論文作成⑥	背景と研究目的を完成させる	
18	論文作成⑦	研究方法記載に不足がないか確認する	
19	論文作成⑧	結果を示す文章および図表に過不足がないか確認する。	
20	論文作成⑨	飛躍した考察がないか確認する。	
21	論文作成⑩	飛躍した考察がないか確認する。	
22	成果発表①	成果発表時の質疑・意見を整理する。他者の研究についての意見を述べる。	
23	成果発表②	成果発表時の質疑・意見を整理する。他者の研究についての意見を述べる。	
24	成果発表③	成果発表時の質疑・意見を整理する。他者の研究についての意見を述べる。	
25	成果発表④	成果発表時の質疑・意見を整理する。他者の研究についての意見を述べる。	
26	研究の境界の振り返り①	成果発表時のコメントを参考に、研究の境界についてまとめておく。	
27	研究の境界の振り返り②	成果発表時のコメントを参考に、研究の境界についてまとめておく。	
28	研究成果の社会的貢献①	研究成果の社会への発信方法をまとめる。	
29	研究成果の社会的貢献②	研究成果の社会への発信方法をまとめる。	
30	臨床応用について検討する	自身が就職する領域での研究について考えておく。	
成績評価方法と基準			
4/5以上の出席を必要とする。			
①論文作成			
②研究成果発表			
割合			
割合			
①60%			
②40%			

授業科目名	臨床見学実習(作業) (Clinical Observation Training)			
主担当教員	橋本 弘子	担当教員	橋本 弘子、楠井 眞津志、伊藤 直子、松下 太、小林 貴代、中村 めぐみ、中西 一、金森 幸	
科目ナンバリング	SS06	科目区分	専門科目	DF①②③④
配当年次	1	開講学期	前期	実習
授業形態	実習	単位数	1	必修・選択

授業概要
保健・医療・福祉領域における臨床現場での見学実習を通して、作業療法の対象となる人々の特性を理解し、専門職、社会人としてのルールやマナーに基づいて行動できるようになることを目的とする。それに加えて、作業療法で用いる作業(セルワーク、生産活動、レジャー)の目的を考え、対象者とコミュニケーションの取り方についても解説する。さらに、対象者を中心としたリハビリテーションチームの構成について学び、その役割を把握する。

到達目標
1. 1年前期に開講される「リハビリテーション概論」や「基礎作業学」、「作業科学入門」などの知識を実際の臨床現場で確認できる。
2. 1日の行動予定を立てるとともに、参加・見学した内容をディリノートにまとめる。ディリノートには、見たこと、体験したことなどの事実を記録し、事実に対する考察を記録できる。
3. 実習生としての基本的態度をとることができる。
4. 対象者を一人の人間として尊重する。
5. 実習指導者に必要な報告、連絡、相談ができる。
6. 自ら対象者とのコミュニケーションの機会を持つことができる。
7. 対象者の話を傾聴できる。対象者に不安を与えない対応ができる。
8. 見学した施設における作業療法の役割を述べることができる。
9. 見学した施設におけるチームの役割を述べることができる。

履修上の注意(学生へのメッセージ)
1. 臨床見学実習前後に開催される実習セミナーには必ず出席すること。
2. 臨床見学実習前に配布される実習の手引書を熟読し、分からない点は質問すること。
3. 出席日数も評価対象とします。

教科書
指定教科書はなし、随時資料配布
参考書
必要に応じて紹介する
研究室/オフィスアワー
各実習施設担当教員のオフィスアワーに準ずる。

授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	1)病院・施設見学および作業療法場面を見学する。 2)施設の概要と作業療法の役割について学ぶ。 3)保健・医療・福祉の専門職としての基本的マナーを学ぶ。	1. 実習オリエンテーションで説明した実習内容を十分に理解した上で、見学する施設の概要と作業療法の役割についてまとめる。 2. 日々の学習内容をディリノートに整理する。また、疑問に感じたことを言語化して表出する準備を行う。	学科教員
2	1)病院・施設見学および作業療法場面を見学する。 2)施設の概要と作業療法の役割について学ぶ。 3)保健・医療・福祉の専門職としての基本的マナーを学ぶ。 4)「作業」の目的を学ぶ。	日々の学習内容をディリノートに整理する。また、疑問に感じたことを言語化して表出する準備を行う。	学科教員
3	1)施設の概要と作業療法の役割について学ぶ。 2)チーム医療について学ぶ。	1. 見学施設の概要と作業療法の役割をまとめる。 2. 実習で学んだことをまとめる。	学科教員

4	学内セミナー	1. 見学した内容について知識・技術・態度の面から再検討する。 2. 他の学生と情報交換して、実習で学んだことをまとめる。 3. 実習で指導を受けた内容について発展学習する。 4. 見学施設の概要と作業療法の役割をまとめ発表する。	学科教員
成績評価方法と基準			
1. 実習地での成績 2. 学内でのセミナー 提出物			割合
1. 2より総合的に判断します。			1. 60% 2. 40%

授業科目名	臨床検査実習(作業) (Clinical Examination Training)		
担当教員	中村 めぐみ	担当教員	中村 めぐみ、横井 賀津志、伊藤 直子、松下 太、小林 貴代、橋本 弘子、中西 一、金森 幸
科目ナンバリング	SS507	科目区分	ディプロマポリシー 該当項目 DP①②③④
配当年次	2	開講学期	後期
授業形態	実習	単位数	2
授業概要			

臨床現場での実習を通じて、作業療法プロセスで必要となる心身機能、身体構造、活動、参加、個人因子、環境など ICF で分類されている項目の検査・測定を実践する機会とする。これまで修得してきた各領域での作業療法の面接・観察および検査・測定を、クライアントに正確に実施できる技術を修得する。さらに、得られた検査・測定結果に対して解釈を加え、その結果が生活場面にとどのように影響するかを予測できるようになることも目的とする。

到達目標

1. 2年前後期に開講される各領域の「作業療法評価学」の知識を活用し、検査・測定を実際の臨床現場で明らかな誤りのない範囲で遂行できる。そのために、以下の4つの下位目標を提示する。1)検査・測定実施前に場所の設定や必要な道具の準備をする。2)検査・測定時に、クライアントに目的を適切に説明する。3)検査・測定時にクライアントの状態で手順を説明する。4)検査・測定を適切に実施する。5)検査・測定中は、クライアントの状態を観察し、必要に応じて柔軟に内容を変更する。
2. 作業療法士の面接・観察および検査・測定場面を見学・模倣し、その内容を定期的に記録できる。
3. 1日の行動計画を立てるとともに、検査・測定した内容をディリノートにまとめる。ディリノートには検査・測定の実態を記録し、事案に対する考察を記録できる。

以下は、1年次の臨床見学実習の学習目標の一部である。2年次においても実習の土台となる目標である。

1. 実習生としての基本的態度をとることができる。
2. 対象者を一人の人間として尊重する。
3. 実習指導者に必要な報告、連絡、相談ができる。
4. 自ら対象者とのコミュニケーションの機会を持つことができる。
5. 対象者の話に傾聴できる。対象者に不安を与えない対応ができる。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1. 臨床検査実習の前夜に開催される実習セミナーに必ず出席すること。
2. 臨床検査実習前に配布される実習の手引きを熟読し、分からない点は質問すること。
3. 実習オリエンテーションを含めた出席日数も評価対象とする。

教科書			
なし			
参考書			
2年次までの全ての授業で使用した教科書			
研究室/オフィスアワー			
各実習施設の担当教員のオフィスアワーに準ずる。			

授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	作業療法士の面接・観察および検査・測定場面の見学・模倣し、その内容を記録する。	1. 各領域の「作業療法評価学」を復習しておくこと。特に、検査・測定目的を整理し、正確に実施できるように繰り返し練習しておくこと。 2. 実習オリエンテーションで説明した実習内容を十分に理解した上で、実習施設の概要についてまとめる。	
2	検査・測定を遂行する。1)場所を設定し、必要な道具を準備する。2)クライアントに目的を適切に説明する。3)クライアントに手順を説明する。4)クライアントの状態に応じて柔軟に対応する。	日々の実習内容をディリノートに整理する。実習中に疑問に感じたことを言語化する。同時に、解決するための手立てを講じる。	
3	クライアント一人ひとりに対応方法が異なることを理解し、検査・測定技術の幅を広げる。	1. 検査・測定した内容について知識・技術・態度の面から振り返る。 2. 他の学生と情報交換して、実習で学んだことをまとめる。	

3. 実習で指導を受けた内容について発展学習する。			
4. 実習で経験した検査・測定について、まとめた事を発表する。			
4	実習後セミナー		
成績評価方法と基準			
①実習場での成績			
②学内でのセミナー、提出物により総合的に判断します。			
割合			
①70%			
②30%			

授業科目名	臨床評価実習(作業) (Clinical Evaluation Training)		
主担当教員	梶井 眞津志	担当教員	梶井 眞津志、伊藤 直子、松下 太、 小林 貴代、橋本 弘子、中村 めぐみ、 中西 一、金森 幸
科目ナンバリング	SS508	科目区分	ディプロマポリシー 該当項目 DP①②③④
配当年次	3	開講学期	前期(実習)、 後期(実習)
授業形態	実習	単位数	4 必修・選択 必修
授業概要	<p>臨床現場での実習を通して、「作業ニーズの特定」、「特定された作業の観察」、「検査・測定による確認」、「全体像の予測と焦点化」、「全体像の再構成」という作業療法評価の過程を経験し修得することを目的とする。対象者への面接・観察・検査・測定実施と生体場面の情報収集から対象者の生活障害を構造的に捉え、全体像をまとめ、問題点を抽出し作業療法介入プログラムを立案することを目標にして、実習では、臨床教育指導者が実施する評価を見学・模倣し経験し検査結果を重ねるプロセスを重視する。さらに、臨床教育指導者が実施する疾患別の作業療法評価場面を見学し、疾患に対する作業療法評価の特性を教習する。以下に4週間のおおまかな実習概要を記載する。</p> <p>第1週 作業ニーズの把握、評価計画を立案し実施する。 第2週 評価の実施、実施した評価結果から全体像をまとめる。 第3週 追加評価実施と作業療法で取り組む課題の抽出をする。 第4週 追加評価実施と作業療法実施に向けてのプログラムを立案し、実習全体を振り返る。</p>		
到達目標	<p>1) 2年次の臨床検査実習において習得した検査・測定に関する知識と技術を踏まえ、3年前期に開講される各領域の「作業療法総論」の知識・技術を活用し、作業療法評価を臨床現場で明らかにできない範囲で実行できる。作業療法評価のプロセスは、クライアントの作業ニーズを捉え、作業遂行場面を観察し、検査・測定によりクライアントの強み(肯定的側面)と弱み(否定的側面)を明確にして、全体像を把握することである。そして、可能な範囲で治療プログラムを立案することを含む。加えて、作業療法の領域別、疾患別の評価にも対応できるようにする。</p> <p>2) 臨床教育指導者(作業療法士)の評価場面を見学・模倣し、その内容を客観的に記録できる。</p> <p>3) 1日目の行動計画を立てるとともに、評価した内容をディリノートにまとめ、ディリノートには評価内容の事実を記録し、事実に対する考察を記録できる。</p> <p>以下は、1年次の臨床見学実習の学習目標の一部である。当然3年次においても実習の土台となる目標である。</p> <p>1. 実習生としての基本的態度をとることができる。 2. 対象者を一人の人間として尊重する。 3. 臨床教育指導者に必要な報告、連絡、相談ができる。 4. 自ら対象者とのコミュニケーションの機会を持つことができる。 5. 対象者の話に傾聴できる。対象者に不安を与えない対応ができる。</p>		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	<p>1) 臨床評価実習の前後に開催される実習セミナーには必ず出席すること。 2) 臨床評価実習前に配布される実習の手引きを熟読し、分からない点は質問すること。 3) 出席日数も成績評価の対象とします。</p>		
教科書			
指定する教科書はないが、3年次までの全ての授業で使用した教科書を用いる。			
参考書			
随時提示する。			
研究室/オフィスアワー			
各実習施設の担当教員のオフィスアワーに準ずる。			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	実習前セミナー オリエンテーション	1. 実習前の準備として客観的臨床能力試験(OSCE)を実施する。 2. 実習オリエンテーションで説明した実習内容を十分に理解した上で、実習施設の概要についてまとめる。	学科教員

2	臨床教育指導者(作業療法士)の評価場面を見学・模倣し、客観的事実と考察を、臨床教育指導者の指導のもとに記録する。	1. 各領域の「作業療法評価学」および「作業療法総論」をすべて復習しておくこと。特に、領域別・疾患別評価の目的を整理しておく。2年次に実施した検査・測定は正確に実施できるように繰り返し練習しておくこと。 日々の実習内容をディリノートに整理する。実習中に疑問に感じたことを言語表出するとともに、解決するための手立てを講じる。 学生自身で実習の中間評価を行い、臨床教育指導者の評価との乖離に気づく。そして、実習目標を達成するために後半の実習に向けて具体的な行動計画を立てる。 日々の学習内容をディリノートに整理する。実習中に疑問に感じたことを言語表出するとともに、解決するための手立てを講じる。	学科教員
3	臨床教育指導者(作業療法士)の指導のもと、検査・測定を含めた作業療法評価を遂行する。	1. 実習内容をディリノートに整理する。実習中に疑問に感じたことを言語表出するとともに、解決するための手立てを講じる。	学科教員
4	臨床教育指導者(作業療法士)の評価場面を見学・模倣し、客観的事実と考察を、臨床教育指導者の指導のもとに記録する。	1. 評価した内容について知識・技術・態度の面から振り返る。 2. 担当した症例について、レジュメを作成する。 3. 実施した評価項目・方法・結果について再確認する。 4. 症例報告で指導を受けた内容について発展的に学習する。	学科教員
5	検査・測定を含めた作業療法評価を遂行する。クライアントの強み(肯定的側面)と弱み(否定的側面)を明確にして、臨床教育指導者の指導のもと、全体像をまとめる。	1. 評価した内容について知識・技術・態度の面から振り返る。 2. 担当した症例について、レジュメを作成する。 3. 実施した評価項目・方法・結果について再確認する。 4. 症例報告で指導を受けた内容について発展的に学習する。	学科教員
6	臨床教育指導者(作業療法士)の指導のもと、作業療法評価の一連のプロセスをまとめ、可能な範囲で、作業療法介入プログラムを立案する。	1. 評価した内容について知識・技術・態度の面から振り返る。 2. 担当した症例について、レジュメを作成する。 3. 実施した評価項目・方法・結果について再確認する。 4. 症例報告で指導を受けた内容について発展的に学習する。	学科教員
7	実習後セミナー		学科教員
成績評価方法及び基準			
<p>①実習地での成績 ②学内でのセミナー ③提出物 ④実習前セミナーにおける客観的臨床能力試験(OSCE)</p>			
割合 ①60% ②③40% ④は実習参加の条件とする。			

授業科目名		臨床総合実習(作業) (Comprehensive Clinical Training)			
主担当教員	松下 太	担当教員	松下 太、横井 賢津志、伊藤 直子、 小林 貴代、橋本 弘子、中村 めぐみ、 中西 一、金森 幸		
科目ナンバリング	SS09	科目区分	専門科目	DP①②③④	
配当年次	4	開講学期	前期	実習	
授業形態	実習	単位数	16	必修・選択	必修
授業概要					
3 年次までに履修した作業療法全範囲にわたる知識と技術、臨床評価実習で習得した作業療法評価の実践能力をもとに、臨床現場で臨床教育実習指導者の指導のもと、「評価→プログラム立案→プログラム実施→再評価→プログラム検討・修正」という作業療法の過程を経験し修得することを目的とする。作業療法を実施する中で、クライアントおよび自己の変化を捉え、プログラムの検討を行う。それに加え、クライアントへの援助方法や治療的存在としての作業療法士の態度や行動を身につけ、多職種連携チームの中の作業療法士の役割を学修する。					
1) 方所の臨床実習施設において8 週間の実習を行い、4 年次を通じて2 力所の臨床実習施設で、計16 週間実施する。					
到達目標					
臨床現場での実習を通じて、クライアントのニーズを把握し、クライアントへの面接、観察、評価実施と生活場面の情報収集から、クライアントの生活障壁を構造的に捉える。そして、全体像をまとめ、予後予測・重点化をおこない、作業療法プロセスを実施し、学生自身で検討・修正できることを目標とする。これを実現するための目標を以下の通りとする。					
①職業人として望ましい態度や行動をとることができる。					
②クライアントの全体像を把握できる。					
③クライアントへの作業療法介入計画を立てることができる。					
④クライアントへ治療・指導・援助を実施することができる。					
⑤作業療法の実現を確認し、必要に応じて作業療法計画を見直すことができる。					
⑥記録・報告をすることができる。					
⑦管理・運営について理解することができる。					
履修上の注意(学生へのメッセージ)					
1) 臨床総合実習を履修するためには、必ず事前および事後に開催される実習セミナーに出席することが条件となる。					
2) 上記以外の履修要件として、学科専門科目群・専門基礎科目の必修科目の単位を取得しておくこと					
3) 実習態度には十分に注意する。(言葉遣い、身だしなみ、素行、時間・期限の厳守など、前医学生・学生としての規律やマナーの遵守)					
4) 臨床総合実習前に配布される実習の手引きを熟読し、分からない点は質問すること					
5) 出席日数も成績評価の対象とします。					
教科書					
指定する教科書はないが、3 年次までの全ての授業で使用した教科書を用いる。					
参考書					
随時提示する。					
研究室/オフィスアワー					
各臨床実習施設の担当教員のオフィスアワーに準ずる。					
授業展開及び授業計画表					
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当		
1	実習前セミナー オリエンテーション	1. 実習前の準備として客観的臨床能力試験(OSCE)を実施する。 2. 実習オリエンテーションで説明した実習内容を十分に理解した上で、実習施設の概要についてまとめる。	担当 学科教員		
2	臨床教育指導者(作業療法士)の指導の下、クライアントの情報収集を行い、臨床教育指導者の指導のもと評価計画を立案する。	各領域の「作業療法評価学」および「作業療法総論」をすべて復習しておくこと。特に、領域別・疾患別評価の目的を整理しておく。	担当 学科教員		
3	臨床教育指導者(作業療法士)の指導のもと、面接・観察・検査・測定を含めた作業療法評価面を遂行する。	1. 2 年および3 年次の授業で実施した検査・測定等の評価技術は正確に実施できるように繰り返し練習しておくこと。 2. 実習内容をケースワークに記入・整理する。実習中に疑問に感じたことを言語表出するとともに、解決するための手立てを講じる。	担当 学科教員		

4	実習した作業療法評価をもとに、クライアントの適み(肯定的側面)と弱み(否定的側面)を明確にして、臨床教育指導者の指導のもと、全体像をまとめる。	実習地での成績 ②学内でのセミナー ③指出物 ④実習前セミナーにおける客観的臨床能力試験(OSCE)	割合 ①60% ②③40% ④は実習参加の条件とする。
4	実習内容をケースノートに整理する。実習中に疑問に感じたことを言語表出するとともに、解決するための手立てを講じる。		
5	臨床教育指導者(作業療法士)の指導のもと、作業療法評価の一連のプロセスをまとめ、目標を立案し、クライアントのニーズを踏まえ、作業療法介入プログラムを立案する。		
6	臨床教育指導者(作業療法士)の指導のもと、計画された作業療法介入プログラムを実施する。		
7	臨床教育指導者(作業療法士)の指導のもと、再評価計画を立案し、臨床教育指導者の指導のもと、面接・観察・検査・測定を含めた再評価を遂行する。		
8	実習後セミナー		
成績評価方法と基準			
<p>1. 「作業療法評価学総論」および各領域の「作業療法総論」をすべて復習しておくこと。</p> <p>2. 担当した症例の介入プログラムの立案までについて、レジュメを作成する。</p> <p>1. 日々の経過をケースノートに記載・整理する。</p> <p>2. クラムを修正する。</p> <p>3. 学生自身で実習の中間評価を行い、臨床教育指導者の評価との乖離に気づく。そして、実習目標を達成するために後半の実習に向けて具体的な行動計画を立てる。</p> <p>1. 実施した介入プログラムの効果について検証する。</p> <p>2. 立案した短期目標と照らし合わせ、その到達率に応じた考察を行う。</p> <p>3. 再評価結果により、必要があれば介入プログラムを修正する。</p> <p>4. 担当した事例について、レジュメを作成する。</p> <p>1. 実施した評価・介入プログラム・再評価について再確認する。</p> <p>2. 実施内容の結果からの考察について再検討する。</p> <p>3. レジュメを使って、担当事例を総合的に報告し、指導を受ける。</p> <p>4. 事例報告で指導を受けた内容について発展的に学習する。</p>			

臨床工学科
(2018 年度 入学生カリキュラム)

授業科目名		基礎ゼミナール(工学) (Basic Seminar)	
主担当教員	片山 俊郎	担当教員	片山 俊郎、山本 淳、 中沢 一雄、五十嵐 淳介
科目ナンバリング	LA001	科目区分	ディプロマポリシー 該当項目 DP②③④
配当年次	1	開講学期	前期 木曜 2限 金曜 2限
授業形態	演習	単位数	2 必修・選択 必修
授業概要			
臨床工学科教員の専門的関心を背景にした素材を通じて、真の勉強(研究)の仕方やその成果の発表(報告)の仕方などを学び、その後、大学で学ぶことの初歩から専門的分野まで、そして資料の読み方から、議論の仕方、レポート・論文の作成まで幅広く学びたいと思います。			
到達目標			
①講義を聞いて、学術的な文章を読んでその内容を理解できる。 ②調べたいテーマに関する文献を検索・収集でき、テーマに即した論理的な文章を書くことができる。			
履修上の注意(学生へのメッセージ)			
履修上の注意・履修要件 無断の遅刻・欠席は厳禁です。一人ひとりの自主性を尊重しますので、目的意識を持って積極的にゼミナール活動に参加してください。			
教科書			
使用しない(資料を講義時に配布)			
参考書			
使用しない			
研究室/オフィスアワー			
各教員の指示に従うこと			
授業履修期及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	臨床工学科での学び(カリキュラム、履修方法等について)	予習:シラバスの確認 復習:キーワード調査・レポート作成	片山
2	臨床工学技士について(役割、業務等について)	予習:シラバスの確認 復習:キーワード調査・レポート作成	片山
3	ロジカルシンキングとディスカッションの作法と実践	予習:シラバスの確認 復習:キーワード調査・レポート作成	片山
4	キャリア設計に向けて	予習:シラバスの確認 復習:キーワード調査・レポート作成	片山
5	医療の世界・心臓と血管	予習:シラバスの確認 復習:キーワード調査・レポート作成	五十嵐
6	医療の世界・腎臓と体液	予習:シラバスの確認 復習:キーワード調査・レポート作成	五十嵐
7	工学のすすめ1:シミュレーション/医学・医療(心臓電気現象の基礎)	予習:不要 復習:講義資料の確認	中沢
8	工学のすすめ2:シミュレーション/医学・医療(最近のトピックスなど)	予習:前回講義資料の確認 復習:講義資料の確認 課題:レポート作成	中沢

成績評価方法と基準		割合
【臨床工学科教員】 ①平常点評価(受講態度、発表内容、議論への貢献度など) ②課題評価(レポート提出、内容など) 【山本淳】 ①平常点評価(授業内での課題小テストなど) ②講義最終回に作成したアウトラインに基づき課題レポート		【臨床工学科教員】 ①60% ②40% 【山本】 ①60% ②40%

授業科目名 物理学(工学) (Physics)			
主担当教員	久国 正章	担当教員	久国 正章
科目ナンバリング	LA003	教養科目	ディプロマポリシー 該当項目 DR③
配当年次	1	開講学期	前期 水曜 1限
授業形態	講義	単位数	2 必修・選択
授業概要	さまざまな自然現象をよく観察してみると簡単な基本原理に基づいていることがわかる。物理学とはそのような基本原理を論理的に説明する学問であり、工学はもとより生物学、医学などの幅広い分野の基礎となっている。本講義は力学・熱力学・電磁気学などについて幅広い知識を学習し、医療現場で実際に活用できる知識を習得できる授業構成である。		
到達目標	電気(回路計算)、電磁気の基本知識 水の比熱と日本の気候との関係について こと原理と人体での応用 注射器の先端が皮膚に及ぼす圧力について 血圧とは 上記の内容を学修していく。		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	1. 自然現象を理解するための基本となる科目であることを認識する。 2. 配布された資料を使用し、講義を行う。 3. 出席は重視する。 4. 身近な自然現象を物理学の観点で考察する。 5. 疑問点は大切にし、解決に向けて努力する。		
教科書			
プリント使用			
参考書			
電気基礎講座1プログラム学習による基礎電気工学 直流編			
研究室/オフィスアワー			
非常勤控室 月曜と水曜の午前中			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	熱力学 比熱 単位について	水の比熱が大きいことで人間は体温を一定に保つことができる。 スマートフォンバッテリーの単位などについて学習します。	
2	熱力学 電流について	水分子が蒸発する際、必要となる熱量について 電気の基本について一つ一つ確認していきます。	
3	熱力学、電圧について	コンセントの電圧は100Vです。このボルトについて学習していきます。	
4	力とは、抵抗について	抵抗の単位はオームです。	
5	力学、オームの法則について	最も重要な法則です。頑張ってください。	
6	力学、電気回路①	オームの法則を利用して回路計算をしていきます。	
7	力学、電気回路②	直列回路について学習します。	
8	力学、電気回路③	電池の内部抵抗について	
9	力学、電気回路④	並列回路について学びます。	
10	力学、電気回路⑤	直列と並列の融合問題を扱います。	

11	電気	冬になると静電気という見えない敵に悩まされま すが、静電気がたまるとは、どういうことなの でしょうか。	
12	力学、電力	電力とは、電灯が光を出したり、モーターが力 を出すときに使われる電気エネルギーの大き さを表します。	
13	電気 感電ショック、アース	電流値と人体への影響についての表を一読し ておいて下さい。	
14	電気 感電ショック、アース	IH調理器、リニアモーターカーなど電磁誘 導について復習しておきましょう。	
15	電磁波 紫外線	紫外線による人体への影響について確認し ておきましょう。	
成績評価方法と基準			
①定期試験60点 ②小テスト40点 合計100点のうち、60点以上で単位認定する。			
割合 ①60% ②40%			

授業科目名		生物学(工学) (Biology)		
主担当教員	安部 辰夫	担当教員	安部 辰夫	
科目ナンバリング	LA002	科区分	ディプロマポリシー 該当項目	DP③
配当年次	1	開講学期	曜日・時限	水曜 2限
授業形態	講義	単位数	必修・選択	選択
授業概要				
医療人にとって必要な生物学的知識を学習し、この後に展開する基礎医学への理解を容易にする。				
到達目標				
生物に共通する生体のシステムやその仕組みについて学び、人体と連関して思考できるようにする。				
履修上の注意(学生へのメッセージ)				
生物学自体は高校までの教科としてすでに学んでいるかもしれないが、医学に直結する領域についてはまだ学んでいないか、理解が不十分であろうと思われる。既に学んでいる、知っている学問という認識は排除して新たな教科を学ぶ姿勢で臨んでほしい。				
教科書				
「理工系のための生物学」 裳華房				
参考書				
生物学 カレッジ版 医学書院				
研究室/オフィスアワー				
火曜日から金曜日 在室 イーストボート4階 研究室 1				
授業展開及び授業計画表				
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当	
1	生命と栄養と代謝	予習 テキストを読み込んでおいてほしい。 復習 講義内容の確認をしておくこと。		
2	糖質の種類	予習 テキストを読み込んでおいてほしい。 復習 講義内容の確認をしておくこと。		
3	糖代謝	予習 テキストを読み込んでおいてほしい。 復習 講義内容の確認をしておくこと。		
4	脂質とその代謝	予習 テキストを読み込んでおいてほしい。 復習 講義内容の確認をしておくこと。		
5	ビタミンの種類と機能	予習 テキストを読み込んでおいてほしい。 復習 講義内容の確認をしておくこと。		
6	細胞の構造とオルガネラ	予習 テキストを読み込んでおいてほしい。 復習 講義内容の確認をしておくこと。		
7	核酸の種類と機能	予習 テキストを読み込んでおいてほしい。 復習 講義内容の確認をしておくこと。		
8	転写と翻訳	予習 テキストを読み込んでおいてほしい。 復習 講義内容の確認をしておくこと。		
9	タンパク質の種類と機能	予習 テキストを読み込んでおいてほしい。 復習 講義内容の確認をしておくこと。		
10	細胞のシグナル伝達	予習 テキストを読み込んでおいてほしい。 復習 講義内容の確認をしておくこと。		
11	細胞分裂と増殖	予習 テキストを読み込んでおいてほしい。 復習 講義内容の確認をしておくこと。		
12	発生と分化	予習 テキストを読み込んでおいてほしい。 復習 講義内容の確認をしておくこと。		
13	免疫システム	予習 テキストを読み込んでおいてほしい。 復習 講義内容の確認をしておくこと。		
14	細胞の初期化と再生医療	予習 テキストを読み込んでおいてほしい。 復習 講義内容の確認をしておくこと。		
15	細胞死とアポトーシス	予習 テキストを読み込んでおいてほしい。 復習 講義内容の確認をしておくこと。		
成績評価方法と基準				割合

授業科目名 化学(工学) (Chemistry)			
主担当教員	安部 辰夫	担当教員	安部 辰夫
科目ナンバリング	LA017	教養科目	ディプロマポリシー 該当項目
配当年次	1	開講学期	前期
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	基礎医学科目に必要な化学的事項を正しく理解できることを念頭に置いている。		
到達目標	生体反応に見られる各種の化学反応を正しく理解し、それらが生体機能に密接に関連することを理解して欲しい。		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	たえずすでに化学を履修しているようでも、基礎医学科目で取り上げられる化学はある種生体内の反応に特化しているため、新たに学習が必要があると捉えて欲しい。		
教科書	「ライフサイエンスのための化学」 化学同人		
参考書	「理工系の基礎化学」 化学同人		
研究室/オフィスアワー	研究室/オフィスアワー		
火曜日から金曜日 在室	イーストポート4階 研究室 1		
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	原子の構造と周期表	予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。
2	電子配置とイオン化	予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。
3	化学結合	予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。
4	物質の三態	予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。
5	化学平衡と反応速度論1	予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。
6	化学平衡と反応速度論2	予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。
7	酸と塩基の反応	予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。
8	酸化と還元反応	予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。

9	炭化水素化合物1	予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。
10	炭化水素化合物2	予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。
11	糖質の構造と働き	予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。
12	脂質の構造と働き	予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。
13	タンパク質・アミノ酸の構造と働き	予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。
14	核酸の構造と働き	予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。
15	「化学」のまとめと振り返り	予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。
成績評価方法と基準			
①期末試験			
割合			
①100%			

授業科目名		情報処理(工学A) (Information Processing)			
主担当教員	井手口 範男	担当教員	井手口 範男	井手口 範男	
科目ナンバリング	LA004	科目区分	ディプロマポリシー 該当項目	DP③	
配当年次	1	開講学期	曜日・時間	月曜 3限	
授業形態	演習	単位数	必修・選択	選択	
授業概要	<p>本講義では、PCを用いて錯視実験を行い、そのレポートを作成する過程を通して、コンピュータを利用する上で必要な基礎知識のほか、レポート作成等に役立つ基礎的な情報処理技術、すなわちワープロや表計算、プレゼンテーションを中心としたソフトウェアの基礎知識と基本操作の習得を目標とする。また、コンピュータ利用技術の習得に加えて、情報化社会に必要な倫理観と情報の保護を学ぶために、技術的な面に加えて個人情報保護法等の法令や指針についても学ぶ。なお、コンピュータのオペレーティングシステム(OS)は、Windows を、ソフトウェアはマイクロソフトの Word、Excel、PowerPoint 等を使用する。</p>				
到達目標	<p>1. PC利用に限らず、広く情報倫理と個人情報保護の重要性を理解し、説明できる 2. Excelによる基本的なデータの集計・解析ができる 3. Wordによる文書(レポート、論文)の作成ができる 4. PowerPointを用いて資料を作成し、効果的なプレゼンテーションができる 5. インターネットを利用した情報検索のスキルを習得する</p>				
履修上の注意(学生へのメッセージ)	<p>1. PCを使った演習を行なうので、休むことなく参加すること 2. 作業内容(作成したファイル等)を保存するためのUSBメモリを用意すること 3. PC演習室での飲食は禁止(机の上に置くのも禁止)する</p>				
教科書					
特に指定しない 適宜資料を配付する。					
参考書					
適宜指示する。					
研究室/オフィスアワー					
E棟4F研究室1/火曜日5時限(空いていれば適宜対応します)					
授業展開及び授業計画表					
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当		
1	ガイダンス	授業をすすめるに際して、また今後の学生生活においても必要となるアイテムについて説明をする。そのアイテムは、次回までに用意すること。			
2	情報セキュリティと情報モラル	情報セキュリティに関する基礎的な知識の欠如や、情報モラルの欠如によって、主にインターネット上で起こった、問題事例について調べる。			
3	コンピュータを利用した錯視実験の実施	De l'houeuf の錯視について調べる			
4	Excel 基礎-1 Excelの基本操作の習得	前回収集したデータを、分析しやすい形に成形する			
5	Excel 基礎-2 関数を使った計算の基礎	成形したデータの基本的な統計量を算出する			
6	Excel 応用-1 データの図式化	算出した統計量の特徴に応じて、適切な図を作成する			
7	Excel 応用-2 図や表を大字レポート向けに修正する	レポートとして利用する際の注意点を従って、適切な形式に修正する			
8	Word 基礎-1 Wordの基本操作の習得	キーボード操作に習熟するため、タイピングの練習を継続して実施する			
9	Word 基礎-2 Wordのレイアウト機能の習得	レイアウト操作および操作結果を確認する			
10	Word 応用 Excelで作成した図表の利用	Excelから図表を取り込む際の注意点を理解し、使い分けられるようにする			
11	PowerPoint 基礎-1 PowerPointの基本操作の習得	スライドの概念について理解し、実験データの発表の流れについて考える			
12	PowerPoint 基礎-2 スライドの修飾	スライドを修飾し、興味関心を引く工夫をする			

13	PowerPoint 応用 アニメーションの設定	より強調したい箇所について考え、特に注目してもらえぬように工夫する	
14	プレゼンテーション 錯視実験のデータについて発表を行う	これまで作成したスライドを使用して、クラスで発表する内容を考える	
15	プレゼンテーション 錯視実験のデータについて発表を行う	前回の発表を参考に、より良い発表ができるように工夫する	
成績評価方法と基準			
割合			
1. 課題の完成度			
1.1. Excel 資料 1.1. 20%			
1.2. Word 資料 1.2. 20%			
1.3. Powerpoint 資料 1.3. 15%			
2. プレゼンテーションの評価 2. 45%			

授業科目名		情報処理(工学B) (Information Processing)	
主担当教員	井手口 範男	担当教員	井手口 範男
科目ナンバリング	LA004	教養科目	DP③
配当年次	1	開講学期	前期
授業形態	演習	単位数	2
授業概要	<p>本講義では、PC を用いて錯視実験を行い、そのレポートを作成する過程を通して、コンピュータを利用する上で必要な基礎知識のほか、レポート作成等に役立つ基礎的な情報処理技術、すなわちワープロや表計算、プレゼンテーションを中心としたソフトウェアの基礎知識と基本操作の習得とする。また、コンピュータ利用技術の習得に加え、情報化社会に必要な倫理観と情報の保護を学ぶために、技術的な面に加えて個人情報保護法等の法令や指針についても学ぶ。なお、コンピュータのオペレーティングシステム(OS)は Windows を、ソフトウェアはマイクロソフトの Word、Excel、PowerPoint 等を使用する。</p>		
到達目標	<p>1. PC 利用に限らず、広く、情報倫理と個人情報保護の重要性を理解し、説明できる 2. Excel による基本的なデータの集計・解析ができる 3. Word による文書(レポート、論文)の作成ができる 4. PowerPoint を用いて資料を作成し、効果的なプレゼンテーションができる 5. インターネットを利用して情報検索のスキルを習得する</p>		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	<p>1. PC を使った演習を行うので、休むことなく参加すること 2. 作業内容(作成したファイル等)を保存するための USB メモリを用意すること 3. PC 演習室での飲食は禁止(机の上に置くのも禁止) する</p>		
教科書			
特に指定しない、適宜資料を配付する。			
参考書			
適宜指示する。			
研究室/オフィスアワー			
E棟4F研究室1/火曜日5時限(空いていれば適宜対応します)			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	ガイダンス	授業をすすめるに際して、また今後の学生生活においても必要となるアイテムについて説明をする。そのアイテムは、次回までに用意すること。	
2	情報セキュリティと情報モラル	情報セキュリティに関する意識の欠如や、情報モラルの欠如によって、主にインターネット上で起こった、問題事例について聊べる。	
3	コンピュータを利用した錯視実験の実施	DeIbouef の錯視について聊べる	
4	Excel 基礎-1- Excel の基本操作の習得	前回収集したデータを、分析しやすい形に成形する	
5	Excel 基礎-2- 関数を使った計算の基礎	成形したデータの基本的な統計量を算出する	
6	Excel 応用-1- データの図式化	算出した統計量の特徴に応じて、適切な図を作成する	
7	Excel 応用-2- 図や表を大学レポート向けに修正する	レポートとして利用する際の注意点を従って、適切な形式に修正する	
8	Word 基礎-1- Word の基本操作の習得	キーボード操作に習熟するため、タイピングの練習を継続して実施する	
9	Word 基礎-2- 文書のレイアウト機能の習得	レイアウト操作および操作結果を確認する	
10	Word 応用 Excel で作成した図表の利用	Excel から図表を取り込む際の方法の違いを理解し、使い分けられるようにする	
11	PowerPoint 基礎-1- PowerPoint の基本操作の習得	スライドの概念について理解し、実験データの表の流れについて考える	
12	PowerPoint 基礎-2- スライドの修飾	スライドを修飾し、興味関心を引く工夫をする	

13	PowerPoint 応用 アニメーションの設定	より強調したい箇所について考え、特に注目してもらえるように工夫する	
14	プレゼンテーション-1- 錯視実験のデータについて発表を行う	これまでに作成したスライドを使用して、クラスで発表する内容を考える	
15	プレゼンテーション-2- 錯視実験のデータについて発表を行う	前回の発表を参考に、より良い発表ができるように工夫する	
成績評価方法と基準			
1. 課題の完成度			割合
1.1. Excel 資料			1. 55%
1.2. Word 資料			1.1. 20%
1.3. PowerPoint 資料			1.2. 20%
2. プレゼンテーションの評価			1.3. 15%
			2. 45%

授業科目名		統計学(工学) (Statistics)		担当教員		井手口 範男	
主担当教員		井手口 範男		教養科目		ディプロマポリシー 該当項目	
科目ナンバリング		LA010		科目区分		DP③	
配当年次		1		開講学期		曜日・時間 月曜 3限	
授業形態		演習		単位数		2 必修・選択 選択	
授業概要 統計学の基礎や概念を学び、実験や調査で得られたデータをどのような統計手法を用いて分析し、どのように解釈すればよいかを理解し、それらを元に実際に自分たちでデータを分析することによって、基礎的な統計処理を身につけることを目指す。							
到達目標 1. 統計学の基礎を理解する。 2. 推定と検定の考え方を理解し、説明することができる。 3. 量的データに対して適切な分析方法を選択することができる。							
履修上の注意(学生へのメッセージ)							
毎回の授業のつながり方が非常に重要です。また、毎回小テストを実施しますので、欠席のないように留意すること							
教科書							
向後千春・富永敦子、ファーストブック 統計学がわかる、技術評論社							
参考書							
授業内で適宜紹介する							
研究室/オフィスアワー							
E棟4F研究室1/火曜日5時限(空いていれば適宜対応します)							
授業展開及び授業計画表							
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当				
1	ガイダンス	シラバスを確認して、テキスト「はじめに」を読む(単に読むだけでなく、わからない専門用語等について下調べをしておく、以下同様)					
2	測定値の性質(尺度水準)	「尺度水準」とは何か調べる					
3	平均と度数分布・分散と標準偏差	テキスト1章を読む					
4	母集団と標本・区間推定と信頼区間	テキスト2章を読む					
5	相関係数; 2変数間の関係	ピアソンの積率相関係数、スピアマンの順位相関係数、ケンドールの順位相関係数について調べる					
6	仮説検定の考え方と帰無仮説	テキスト3-1を読む					
7	観測度数と期待度数	テキスト3-2, 3-3を読む					
8	カイ2乗検定	テキスト3-4を読む					
9	被験者ごとの差の平均の信頼区間	テキスト4-1, 4-2を読む					
10	対応がないデータによるt検定(ウェルチの方法)	テキスト4-3を読む					
11	対応があるデータによるt検定	テキスト5章を読む					
12	1要因の分散分析-1-	テキスト6-1, 6-2を読む					
13	1要因の分散分析-2-	テキスト6-3を読む					
14	2要因の分散分析-1-	テキスト7-1, 7-2を読む					
15	2要因の分散分析-2-	テキスト7-3を読む					

成績評価方法と基準		割合	
① 定期試験		① 80%	
② 小テスト		② 20%	

授業科目名	心理学(工学) (Psychology)		
主担当教員	井手口 範男	担当教員	井手口 範男
科目ナンバリング	LA005	教養科目	ディプロマポリシー 該当項目 DP③
配当年次	1	開講学期	前期 火曜 3 限
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	<p>心理学は、人の心の仕組みや動きがどのようにになっているかを研究する学問です。授業では人の性格、知覚や感情のほか、人の成長過程や人間関係の心理などについても学習します。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 心理学の基本的な研究方法について説明できる 2. 心理学の諸理論について説明ができる 3. 心理学の諸問題と日常生活上の諸問題を結びつけて理解、解決ができる <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>PC によるプレゼンテーション資料を活用した講義形式を中心に授業を進める。適宜、簡単な実習形式の実験を実施し、レポート提出を求めたり、小テストを課すことがある。</p> <p>教科書</p> <p>藤田哲也 編著、「絶対に役立つ教養の心理学-人生を有意義に過ごすために-」, ミネルヴァ書房</p> <p>参考書</p> <p>大竹文雄・平井啓 編著, 「医療現場の行動経済学-すれ違う医者と患者-」, 東洋経済新報社 その他、適宜指示する。</p> <p>研究室/オフィスアワー</p>		
E棟4F研究室1/火曜日5時限(空いていれば適宜対応します)			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	ガイダンス	テキスト第 0 章を読む (単に読むだけでなく、わからない専門用語等について下調べをしておく、以下同様)	
2	知覚 1: 人間の目の性質と世界をとらえるしくみ	テキスト第 1 章 1 節、2 節を読む	
3	知覚 2: 積算の法則性、まとめ	テキスト第 1 章 3 節、4 節を読む	
4	記憶 1: 記憶の基本的なしくみと記憶方法	テキスト第 2 章 1 節、2 節を読む	
5	記憶 2: 行為のし忘れのしくみ、まとめ	テキスト第 2 章 3 節、4 節を読む	
6	対人関係 1: 他者理解と出会い	テキスト第 3 章 1 節、2 節を読む	
7	対人関係 2: 認知の一貫性と説得、まとめ	テキスト第 3 章 3 節、4 節、5 節を読む	
8	動機づけ 1: 動機づけのメカニズムと行動の関わり	テキスト第 4 章 1 節、2 節を読む	
9	動機づけ 2: やる気を引き出すことばかけ	テキスト第 4 章 3 節を読む	
10	思考 1: メタファー	テキスト第 5 章 1 節、2 節を読む	
11	思考 2: アナロジー、まとめ	テキスト第 5 章 3 節、4 節、5 節を読む	
12	青年期: 青年期の特徴と悩み	テキスト第 6 章を読む	
13	発達 1: 思考・ことばの発達	テキスト第 7 章 1 節、2 節を読む	
14	発達 2: 人との関係づくり、まとめ	テキスト第 7 章 3 節、4 節を読む	
15	学習: 人間行動の基礎理論(条件付けを中心に)	テキストに含まれない項目なので、各人、適宜条件付けについて調べる	

成績評価方法と基準	割合
①定期試験	①80%
②小テスト・レポート等	②20%

授業科目名	生命倫理学(工学) (Bioethics)		
主担当教員	田中 美子	担当教員	田中 美子
科目ナンバリング	LA006	教養科目	ディプロマポリシー 該当項目
配当年次	1	科目区分	DP③
授業形態	講義	開講学期	曜日・時間 火曜 3限
授業概要	講義	単位数	2
到達目標	<p>「生命倫理学」の主なトピックを取り上げながら、その是非について一筋に真剣に考える時間をもちます。授業は講義が中心ですが、ディスカッションも行う予定です。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「いのち」は誰が決めるのか」と、どの現場でも考えられる習慣を身につける。 2. 「誰のための医療か」「誰のためのケアか」を、他の人の立場でも考えられる。 		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	教科書とノートを用意してください。		
教科書	授業の内容は、多少、変更することがあります。		
教科書	『はじめて学ぶ生命倫理学』小林亜津子著 ちくまプリマー新書 167(筑摩書房) 2011年		
参考書	『生命科学のいまま講義中』岡田弘著 金芳堂 2016年 『生命倫理学とは何か』アラステア・V・キヤンベル著 山本圭一郎他訳 勁草書房 2016年 『生命倫理の教科書』黒崎剛・野村俊明編著 ミネルヴァ書房 2014年 『ルポ 看護の質』小林美希著 岩波新書 1614(岩波書店) 2016年 『00L 調べて何だらう』小林亜津子著 ちくまプリマー新書 2018年 『看護師という生き方』宮子あずさ著 ちくまプリマー新書 2013年 『いのちのなげ大切なのか』小澤竹俊著 ちくまプリマー新書 2007年 研究室/オフィスアワー		
授業の前後に、質問等を受け付けます。 自宅への電話でも受け付けます。番号は改めてお伝えします。			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	倫理学と他の学問とのちがいは	ノートをまとめ直ししょう。	
2	いのちの「終わり」は誰が決めるのか	教科書第1章を読んでおきましょう。	
3	安楽死事件と安楽死に伴う諸問題	自分の考えをノートに記録しておきましょう。	
4	子どもの医療は誰が決めるのか	教科書第2章を読んでおきましょう。	
5	子どもの医療に関する事例 宗教、あるいは人を支えるもの	自分の考えをノートに記録しておきましょう。	
6	判断能力は誰が決めるのか	教科書第3章を読んでおきましょう。	
7	不均衡な構造をもたらす諸問題(男女差別、人種差別、医療者と患者の関係等)	自分の考えをノートに記録しておきましょう。	
8	いのちの「質」は誰が決めるのか	教科書第4章を読んでおきましょう。	
9	デザイナー・ベビーをめぐる諸問題	自分の考えをノートに記録しておきましょう。	
10	双子の生死は誰が決めるのか	教科書第5章を読んでおきましょう。	
11	意識は人格の座か(意識と身体哲学)	自分の考えをノートに記録しておきましょう。	
12	人体実験からインフォームド・コンセントへ	自分の考えをノートに記録しておきましょう。	
13	いのちの「優先順位」は誰が決めるのか	教科書第6章を読んでおきましょう。	
14	いのちの「始まり」は誰が決めるのか	教科書第7章を読んでおきましょう。	

15	受精卵と中絶胎児に関する諸問題	自分の考えをノートに記録しておきましょう。
成績評価方法と基準		
①毎授業の「振り返り(ミニレポート)」。		
②授業の内容が反映されていること。		
③学期末の「レポート」。		
調べた内容が客観的にまとめられていること。		
自分の考察が書かれていること。		
		割合
		①約 50%
		②約 50%

授業科目名	哲学(工学) (Philosophy)	
主担当教員	田中 美子	担当教員 田中 美子
科目ナンバリング	LA018	ディプロマポリシー 該当項目 DR③
配当年次	2	曜日・時限 月曜 3 限
授業形態	講義	単位数 2
授業概要	<p>「何のために生きるのか」をテーマに、「人生を支えるもの」を考えます。元氣なときには人生について思い悩まない人でも、けがや病気をきっかけに、人生について考えるようになります。患者さんの思いに寄り添えることを目指して、古今東西のさまざまな思想や宗教を、おもしろい講義形式で学びます。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 患者さんの悩み(なぜ私はんになつたの?)を、具体的に想像できる。 2. (患者さんの立場に立てみて)悩む自分を、さらにその外側から捉えられる。 3. 古今東西の哲学や宗教の概略を知る。 <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>教科書は使用しません。ノートを用意してください。 授業の内容は、多少、変更することがあります。</p>	
教科書		
使用しない。		
参考書	<p>『生命科学だいま講義中』 岡田弘著 金芳堂 2016 年 『生きるための哲学』 岡田尊司著 河出文庫(河出書房新社) 2016 年 『がん哲学外来へようこそ』 榎野興夫著 新潮新書(新潮社) 2016 年 『死を迎える心構え』 加藤尚武著 PHP 研究所 2016 年 『出家的(人生)のすすめ』 佐々木潤著 集英社新書(集英社) 2015 年 『哲学の使い方』 鷲田清一著 岩波新書(岩波書店) 2014 年 『くじけそうな時の臨床哲学クリニック』 鷲田清一著 ちくま学芸文庫(筑摩書房) 2011 年 『4 コマ哲学教室』</p>	
研究室/オフィスアワー	授業室	
授業の前後に、質問等を受け付けます。 自宅への電話でも受け付けます。番号は改めてお伝えします。		
授業展開及び授業計画表		
回数	学修内容	予習・復習・課題等 担当
1	哲学と他の学問とのちがいがい	ノートをまとも直しましょう。
2	仏教の「毒矢のたとえ」	初期仏教思想について調べて、ノートにまともしておきましょう。
3	「確かなものは何もない」という確かさ	「蘇行無常」や「ニヒリズム」(ニーチェ)について調べ、ノートにまともしておきましょう。
4	死ぬために生きられるか	ハイデガーの哲学について調べ、ノートにまともしておきましょう。
5	悩まない「物」になりたいか	サルトルの哲学について調べ、ノートにまともおきましょう。
6	つらい気持ちを、はき出してみる	フロイトの心理学について調べ、ノートにまともしておきましょう。
7	表現することで救われる	ユングの心理学について調べ、ノートにまともしておきましょう。
8	なぜ病室に千羽鶴があるのか	千羽鶴に込められた意味を知り、他の日本の伝統文化についても調べてみましょう。
9	東洋的アイデンティティ	仏教の「無我」、西田幾多郎の哲学(「矛盾的自己同一」がキーワード)、和辻哲郎の倫理学(「附病」がキーワード)などについて調べ、ノートにまともしておきましょう。
10	がんに期待されているとしたら	東洋思想を応用し、「私」がけがや病気をなんとかするのではなく、「けがや病気が私に何を期待しているのか等」と、発想を転換して考えてみましょう。

11	「がん哲学外来」という試み	授業の内容と併せて、自分の考えもノートにまとめておきましょう。
12	イスラームについて知ろう	イスラーム(イスラム教)について調べ、ノートにまとめておきましょう。
13	正義の味方はだれの味方か	正義論について調べ、ノートにまとめておきましょう。
14	たんなる手段ではなく目的としての人間	カントの哲学やその背景のキリスト教について調べ、ノートにまとめておきましょう。
15	ケース・スタディとディスカッション	けがをした人や病気になる人の気持ちを想像して、目に見えない大切なものについて考えてみましょう。
成績評価方法と基準		割合
①毎授業の「振り返り(ミニレポート)」。		①約 50% ②約 50%
②学期末の「レポート」。		
調べた内容が客観的にまともられていること。自分の考察が書かれていること。		

授業科目名	社会福祉学(工学) (Social Welfare)		
主担当教員	掛川 直之	担当教員	掛川 直之
科目ナンバリング	LA008	授業科目	ディプロマポリシー 該当項目 DP③
配当年次	1	開講学期	前期
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	<p>(貧困)という問題を、社会福祉の基礎を学ぶ、社会福祉にかんする考え方、制度、課題等について、時事的な問題や映像素材などをとおして具体的に学んでいく、一方通行にならないように、受講生の意見を聴いたり、グループワークをとりいれるなど、できるだけ退屈にならないような参加型の講義を心がける。</p> <p>到達目標</p> <p>日本社会に生じるさまざまな生活問題とその背景について、社会福祉の観点から理解すること、その解決に向けて自分の考えを自分のことばで説明できるようにすることを目指す。</p> <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>講義の進め方や成績評価の方法等の詳細については、初回の授業における、初回の授業の冒頭で解説をくわえる。</p> <p>教科書</p> <p>毎回の講義においてレジュメを配布する。</p> <p>参考書</p> <p>金子充『入門 貧困論: ささあろ／たすけあろ社会をつくるために』(明石書店、2017年)</p> <p>岩田正義・上野谷加代子・藤村正之『ウェルビーイング・タウン 社会福祉入門』(改訂版)、『福祉の世界』への招待』(有斐閣、2013年)</p> <p>掛川直之編著『不安解消! 出所支援: わたしたちにできること』(旬報社、2018年)</p> <p>研究室/オフィスアワー</p> <p>講義の前夜、あるいはメール等にて質問等を受け付ける。</p>		
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	〔オリエンテーション〕社会福祉の学び方: 医療と福祉はつながっている	今回の講義内容について見直し、次回の講義テーマについて調べる	
2	〔社会福祉の基本①〕社会福祉の考え方: 人間はひとりでは生きられない	今回の講義内容について見直し、次回の講義テーマについて調べる	
3	〔社会福祉の基本②〕貧困問題から社会福祉を考える: あなたはどんな「溜め」をもっている?	今回の講義内容について見直し、次回の講義テーマについて調べる	
4	〔社会福祉の基本③〕社会保障のしくみ: 国や自治体の役割を考える	今回の講義内容について見直し、次回の講義テーマについて調べる	
5	〔社会福祉の基本④〕ドラマ『サイレント・プア』から考えるソーシャルワーク: ソーシャルワーカーのしごと	今回の講義内容について見直し、次回の講義テーマについて調べる	
6	〔社会福祉の分野①〕拡大する高齢者の貧困: 老後は年金だけで生活できる?	今回の講義内容について見直し、次回の講義テーマについて調べる	
7	〔社会福祉の分野②〕病氣や障がいをもつ人と貧困: 適切な医療を受けるために	今回の講義内容について見直し、次回の講義テーマについて調べる	
8	〔社会福祉の分野③〕女性やマイノリティは貧困に陥りやすい?: ジェンダーについて考える	今回の講義内容について見直し、次回の講義テーマについて調べる	
9	〔社会福祉の分野④〕子どもの貧困も自己責任?: 成長発達の権利	今回の講義内容について見直し、次回の講義テーマについて調べる	
10	〔社会福祉の分野⑤〕漫画『健康で文化的な最低限度の生活』から考える生活保護制度: 生きるための最後の砦	今回の講義内容について見直し、次回の講義テーマについて調べる	
11	〔社会福祉の分野⑥〕映画『わたしは、ダニエル・ブレイク』から考える生活保護受給とパッシング: 差別と偏見の背後にある誤解	今回の講義内容について見直し、次回の講義テーマについて調べる	

12	〔地域と社会福祉〕釜ヶ崎とホームレス問題: 医療・保健・福祉の機能が集約された迷いのまち	今回の講義内容について見直し、次回の講義テーマについて調べる	
13	〔犯罪と社会福祉〕どうして「犯罪者」に福祉が必要なの?: 貧困・社会的排除のスパイラル	今回の講義内容について見直し、次回の講義テーマについて調べる	
14	〔生活と社会福祉〕社会の「障壁」をみつける: 社会を築くことができるのか?	今回の講義内容について見直し、次回の講義テーマについて調べる	
15	〔社会福祉の応用〕私たちにできること: 第1回～第14回のまとめ	本講義全体を見直す	
成績評価方法と基準			割合
①定期試験			①70%
②コミュニケーションペーパー			②30%

授業科目名 日本国憲法(工学) (Constitution of Japan)			
担当教員	楠田 重幸	担当教員	楠田 重幸
科目ナンバリング	LA009	教養科目	ディプロマポリシー 該当項目
配当年次	1	開講学期	後期
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	<p>社会規範たる法の理念を理解する中で、法体系のしくみ並びに日本の憲法としての日本国憲法の現行の概要解釈と、今日の基本的人権規定に関する論点について解説を行うとともに、時事関連・医療関連事項に関する問題点及び今後の課題に対しても説明を進める。また、コンピュータを用いた臨床工学士法をもとに、診療の補助の一人として業務に従事において、必要不可欠な保健衛生に関する法規(保健衛生関連法規)の理解と把握、並びに職務遂行に伴う人権に対する法的責任の現状について、更なる理解を深めるための指導を行う。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本国憲法の成立経緯と特色を理解する。 2. 基本的人権の尊重規定をもとに、個人の尊厳に関して法的側面から、その理解を深める。 3. 医療と人権に関する大切さを理解する。 4. 臨床工学科における臨床工学士法をもとに、今後の業務遂行に必要な関係法規のしくみを学習し理解する。 5. 現在の医療過誤に関する状況と、人権に対する法的責任の実態を検証する。 6. 時事関連問題として、違憲立法審査権に関する諸項目や裁判員制度の現状と今後の対応課題についての理解を深める。 		
教科書	<p>指定しない。</p>		
参考書	<p>特になし。</p>		
研究室/オフィスアワー	<p>授業前後の非常勤講師控室</p>		
授業展開及び授業計画表	<p>授業展開及び授業計画表</p>		
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	法と社会生活① 法の成立並びに社会と規範	予習：シラバス・テキスト冊子の確認を行う 復習：キーワード、重要語句の確認を行う	
2	法と社会生活② 法と道徳、法の支配、法体系のしくみ	予習：社会規範としての法の意義を考える 復習：法の概念の理解と確認を行う	
3	日本国憲法の制定史 明治憲法との比較、個人の尊厳と人権保障の限界	予習：日本国憲法の成立経緯を確認する 復習：講義内容をもとに、基本的人権規定の各事項を理解し把握する	
4	日本国憲法の特徴 基本理念及び基本原理	予習：テキスト冊子より、キーワードの確認 復習：重要語句について再チェックする	
5	基本的人権規定① 基本的人権の成立経緯と人権規定	予習：テキスト冊子より、キーワードの確認 復習：重要語句について再チェックする	
6	基本的人権規定② 包括的基本権、自律の自己決定権	予習：テキスト冊子より第13条の役割を確認する 復習：講義内容の完全理解に努める	
7	基本的人権規定③ 新しい人権(人格権と幸福追求権)	予習：テキスト冊子より、本項の確認を行う 復習：講義内容の完全理解に努める	
8	基本的人権規定④ 尊厳死の定義、臓器移植法の問題点	予習：自然死と脳死の捉え方の相違をテキスト冊子から理解する 復習：本項目の現在の解釈を確認する	
9	関係法規① コンピュータに関する関係法規のしくみと位置	予習：シラバス・テキスト冊子の確認 復習：講義内容をもとに、コンピュータの役割を確認する	

つけ	認する	
10	関係法規② 日本国憲法と保健衛生法規とのつながり 医療過誤と法的責任①	予習：シラバス・テキスト冊子の確認を行う 復習：保健衛生法規のしくみの理解と確認を行う
11	医療過誤の責と権利侵害 医療過誤と法的責任②	予習：テキスト冊子の本項の確認を行う 復習：キーワード、重要語句の確認を行う
12	医療過誤と法的責任 医療過誤における法的責任	予習：医療過誤に関する事例を調べる 復習：特に民事責任に関して確認を行う
13	統治行為① 国会・内閣規定より、選挙制度並びに議院内閣制	予習：現行の選挙制度を確認する 復習：1 黨の特選問題について理解を深める
14	統治行為② 裁判所規定より、違憲立法審査権並びに裁判員制度の現状	予習：テキスト冊子より、キーワードの確認 復習：講義事項についての確認
15	日本国憲法の改正手続	予習：現行憲法の改正の必要性を調べる 復習：国民投票法の改正における影響を確認する
成績評価方法と基準		割合
①指導項目に関し、筆記試験を行う。※60 点以上で単位認定する。		①100%

授業科目名	東洋史概論(工学)		
主担当教員	重信 あゆみ	担当教員	重信 あゆみ
科目ナンバリング	LA019	教養科目	ディプロマポリシー 該当項目
配当年次	1	開講学期	曜日・時間 木曜 1限
授業形態	講義	単位数	必修・選択 2
授業概要	古代より中国人は人体に多大な興味をもち、そのために様々なことを試みてきた。そして、その中で生まれてきたのが中国思想である。この授業においては、東洋医学の背景にある文化、特に思想について学んでいく。そして、その思想と中国医学がどのように影響を及ぼしあっていたのかについて学んでいく。		
到達目標	中国文化の基礎となっている歴史、思想を理解する。中国の思想には「いかに生き抜くか」が根底にある。その中で、諸子百家と呼ばれる人々には多くの思想を生み出し、広めてきた。中国医学の根底となる思想を通じて「ひととはなぜ長生きをしたのか」を考える授業をする。また、現代社会において中国思想がどのように反映されているのかについても理解する。		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	1. 配付された資料には必ず目を通すこと。 2. 出席は重視する。 3. 疑問点は大切に、解決に向けて行動すること。		
教科書			
プリントを配布する。			
参考書			
マイケル・ビュレット/クリスティーン・グロスロー著 熊谷淳子訳 『ハーバードの人生が変わる東洋哲学』早川書房、2016年			
研究室/オフィスアワー			
授業後、非常勤講師室			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	教科科目のガイダンス	半期でする時代の流れを復習すること	
2	死生観のあらわれ	中国の墓の壁画を通じて、死生観を学ぶ	
3	孔子の理想とした西周	西周の遺物を中心に文化・歴史を学ぶ	
4	黄泉の国「中国と日本の比較」	中国と日本の死後の世界を画像を通して比較する	
5	孫子の兵法	孫子の兵法が三國時代や現在にまで影響を及ぼしていることを学ぶ。	
6	古代中国における病気の遠敷方法	古代中国の人々は病気の原因を何に求めたのか、そして、それを遠敷させるには、どのように考えていたのかを考える。	
7	道教の神「西王母」	不老長寿の神である西王母について学ぶ。西王母は古来より現在に至るまで信仰されている神である。なぜ、ひととは、不老長寿を追いかけられるのか。西王母の姿を通じて考える。	
8	張目吐舌	ひととは生き抜くためにあらゆる手段を講じた。そのなかでも悪霊から自身を守るために魔除けをつくる。その共通点が「張目吐舌」である。東西交渉を通じて伝えられた「張目吐舌」について考える。	
9	「精」「氣」「神」	「精」「氣」という人にとって基本となる思想について触れる。ほんとうの元氣とは何かについて考える。	
10	老子「道」	「柔は剛より強い」、この思想を通して、どのように実践されてきたのか、現在にどのように実践しているのかを考える。	
11	科挙制度を学ぶ	科挙制度を通じて、古代中国における人材確保の仕方を学ぶ。また、教育についても触れる。	

12	日本の中の中国①	日本における中国の影響を学ぶ。	
13	日本の中の中国②	前講義につづき、日本の中の中国の影響、そして、変容を学ぶ。ストレス社会である現在、さまざまな「癒し」がある。各自の癒しについて考え、もらい、なぜ癒されるのかを科学的に検証していく。	
14	「癒し」	半期のまとめを行う。ひととはなぜ「不老長寿」を追い求めてきたのかをまとめを行いながら考えていく。	
15	思想と東洋医学		
成績評価方法と基準			割合
①授業ごとの感想文			①10%
②レポート課題			②20%
③定期試験			③70%

授業科目名	西洋史概論(工学)		
主担当教員	松枝 啓至	担当教員	松枝 啓至
科目ナンバリング	LA020	教養科目	ディプロマポリシー 該当項目
配当年次	1	開講学期	後期
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	<p>現代の日本社会においては、意識するしないに関わらず、様々な分野で西洋社会(ヨーロッパ諸国・北アメリカ)の影響を受けている。とりわけ江戸時代が終わり明治時代になって以降、政治・経済システムや文化といった側面では、日本は多くのものを西洋社会から受け入れ、伝統的な日本社会に溶け込ませようとしてきた(それがうまくいった例もあれば、失敗に終わった例もある)。本講義では、そのような点で重要なものである西洋社会の特色について、西洋の歴史を古代から現代まで概観していくことで、理解を深めていくことを目指したい。</p> <p>西洋の歴史もかなり古く、数多くの重大な出来事が起こっているが、本講義ではそれらを網羅的に事細かく解説することは避け、いくつかのトピックに絞って西洋文化・社会の特徴を把握することを試みる。例えば古代ギリシャ・ローマ文明、中世のキリスト教社会の成立、近代の様々な出来事(科学革命・産業革命・政治革命)などである。</p> <p>また本講義では西洋における自然科学史、特に医療にかかわる歴史についても適時紹介し解説していきたい。現代の医療もまた様々な面で西洋文化の影響下にあり、西洋において「医」の考え方がどのように変遷していったのかを理解することは、現代の医療を学ぶ上でも重要な視点を与えてくれるだろう。</p>		

1. 現在の西洋社会の出発点ともいえる古代ギリシャ・ローマ文明の内実と特徴を理解することができる。
2. 現代の西洋社会においても重要な一部を成しているキリスト教が西洋中世においてどのように社会に浸透していったのかを理解することができる。
3. ルネサンス期から近世にかけて、西洋社会で巻き起こった様々な変化を理解することができる。具体的には宗教改革や、17世紀の科学革命、18世紀の啓蒙思想などの内実と特徴を理解することができる。
4. 近代から現代にかけて、西洋社会で巻き起こった様々な変化を理解することができる。
5. 西洋の歴史において、医療についての考え方や医療技術がどのような変遷を経たのかを理解することができる。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

現代の日本社会・文化においては、西洋社会・文化に由来するものが数多くあり、常識となっているものもある(逆に違和感があり馴染めないというものもある)。本講義では、そういったもののルーツとなるものを、西洋の歴史をたどって確認していくことで理解を深めたい。またそういったものについていろいろと考える巡らしてみることが大切だ。

西洋史におけるさまざまなトピックを充分に学修するためには、毎回、授業理解を少しづつ積み重ねていく必要がある。このため、この授業では予習として前回の授業内容を充分におさらいして受講することが求められる。また、評価方法に記してあるように、授業中に不定期の小テストを行うが、その段階内容は当日の授業だけでなく、それ以前の授業内容を踏まえたものである。毎回の予習・復習を怠らないようにすること。小テストについては、行った回の次回以降で授業中にコメントをするので、それも踏まえて授業内容のより深い理解に努めること。

他の受講者の迷惑になるので、私語は厳禁。ひどい場合は成績評価面においてペナルティを与える。

教科書

毎回レジュメプリント・資料プリントを配布する。

参考書

必要に応じて授業中に紹介する。

研究室/オフィスアワー

授業内容について質問があるときは、授業時間の前後に直接講師に質問すること。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	講義全体の趣旨・概要と成績評価などについて説明(ガイダンス)。また講義の導入として古代ギリシャの文化・社会について①。	(予習)西洋社会・文化について自分ができるイメージを抱いているのかを考えておくこと。 (復習)レジュメプリント・資料プリントに目を通し、授業内容に拘る理解を深めておくこと。 (予習)前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。 (復習)レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。	担当
2	古代ギリシャの文化・社会について②。およびペロポネソス半島の「医」について。	(予習)前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。 (復習)レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。	
3	古代ローマの文化・社会について。およびガレノスの「医」について。	(予習)前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。 (復習)レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。	
4	中世キリスト教社会の成立について①。およびヴァイキングの「医」について。	(予習)前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。	

5	中世キリスト教社会の成立について②。および「ペスト(黒死病)」について。	(復習)レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。 (予習)前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。 (復習)レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。	
6	ルネサンス、ルターへの宗教改革、三十年戦争について。および「解剖学」について。	(予習)前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。 (復習)レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。	
7	17世紀の西洋社会・文化について(近代的な国家の形成過程や科学革命など)。および「ハーヴェイの血液循環論」について。	(予習)前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。 (復習)レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。	
8	18世紀の啓蒙思想について(モンテスキュー、ルソー、アダム・スミスなどの思想)。および「レーヴェンブッフの顕微鏡」について。	(予習)前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。 (復習)レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。	
9	産業革命とフランス革命について。および「バスターールの「フランス」」について。	(予習)前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。 (復習)レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。	
10	ウィーン体制と国民国家の形成過程、帝国主義について。および「X線装置」について。	(予習)前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。 (復習)レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。	
11	アメリカ独立戦争とアメリカ合衆国の成立について。および「天然痘」について。	(予習)前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。 (復習)レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。	
12	第一次世界大戦前後の西洋社会・文化について(ロシア革命やヴェルサイユ体制など)。および「人工心肺装置」について。	(予習)前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。 (復習)レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。	
13	第二次世界大戦前後の西洋社会・文化について(世界大恐慌やファシズムの台頭など)。および「リックとワトソンの「二重らせん」」について。	(予習)前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。 (復習)レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。	
14	第二次世界大戦後の西洋社会・文化について(冷戦とポスト冷戦など)。および「MRI スキャナー」について。	(予習)前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。 (復習)レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。	
15	講義全体のまとめ 期末試験についての説明	(予習)これまでの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。 (復習)期末試験に備え、レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。	

成績評価方法と基準

期末試験を60点、授業中に不定期に行う計5回の小テスト(1回につき10)を60点とし、合わせて100点満点として評価する。

小テストは授業中(授業開始後の30分が授業終了前の30分、テスト時間とする)に行うのでレジュメノートやノートから解答して構わない。授業内容を充分に理解し、そのうえで自分の意見や考えを一定の字数で述べることができるかどうかを評価する。

期末試験については、講義全体の流れとキーワードをしっかり理解しているかを問う。試験の出題範囲や形式の詳細については、第15回目の講義時に説明する

割合

小テスト
50%

期末試験
50%

授業科目名 英語Ⅰ(初級)Ⅱ(A) (English I【Beginner】)			
主担当教員	藤重 仁子	担当教員	藤重 仁子
科目ナンバリング	LA011	教養科目	ディプロマポリシー 該当項目 DP②
配当年次	1	開講学期	曜日・時限 水曜 5限
授業形態	演習	単位数	必修・選択 必修
授業概要	英語Ⅰでは、日常生活で最低限必要とされる、スピーキング、リスニング、リーディングのスキルを総合的に習得する。基本的な文法を復習し、単語・熟語・慣用句などの語彙を伸ばしながら、最低限自己表現できるコミュニケーション力を身につける。また、多くのリスニングをこなし、英語に耳を慣らし、英語に対する抵抗感をなくし、英語を学ぶことは楽しいという感覚を習得する。さらに、多読を行い、多量のインプットをすることにより、英語カッパを目指す。		
到達目標	日常生活で目や耳にする英語に親しみ、それらを最低限理解できる。 基本的な文法、語彙、表現を身につける。		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	積極的に授業に参加すること。 宿題(特にリーディングの予習)は必ずしてから授業に臨むこと。 私語、携帯電話の使用などは慎むこと。		
教科書	Good Morning World ① (Susan Stempleski, Nancy Douglas, James Morgan / Cengage Learning, 2014)		
参考書			
英和辞書			
研究室/オフィスアワー	藤重 仁子/東棟4階研究室22 / 木曜日3限目		
授業展開及び授業計画表	回数	学修内容	予習・復習・課題等 担当
1	Greetings and intros	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。
2	Getting to know you	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。
3	Countries and Nationalities	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。
4	Countries of the world	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。
5	Personal Items	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。
6	Gift giving	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。
7	Activities and Interests	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。

8	For here or to go?	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。
9	Everyday activities	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。
10	Food	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。
11	Food and eating habits	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。
12	My Family	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。
13	This is my family!	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。
14	All in the family	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。
15	Review	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。
成績評価方法と基準			
①定期試験 ②プレゼンテーション・その他課題・授業態度・参加 ③多読 2/3以上の出席が必要。			
割合 ①40% ②40% ③20%			

授業科目名 英語Ⅰ(初級)(工学B) (English I [Beginner])			
主担当教員	長尾 晋宏	担当教員	長尾 晋宏、藤重 仁子
科目ナンバリング	LA011	教養科目	ディプロマポリシー 該当項目
配当年次	1	開講学期	前期
授業形態	演習	単位数	2
授業概要	英語Ⅰでは、日常生活で最低限必要とされる、スピーキング、リスニング、リーディングのスキルを総合的に習得する。基本的な文法を復習し、単語・熟語・慣用句などの語彙を増やしながら、最低限自己表現できるコミュニケーション能力を身につける。また、多くのリスニングをこなし、英語に耳を慣らしていく。授業を通して、英語に対する抵抗感をなくし、英語を学ぶことは楽しいという感覚を習得する。さらに、多読を行い、多量のインプットをすることにより、英語カアップを目指す。		
到達目標	日常生活で目や耳にする英語に頼り、それらを最低限理解できる。 基本的な文法、語彙、表現を身につける。		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	積極的に授業に参加すること。 宿題(特にリーディングの予習)は必ずしてから授業に臨むこと。 私語、携帯電話の使用などは慎むこと。		
教科書	Good Morning World ① (Susan Stempleski, Nancy Douglas / Dengage Learning, 2014)		
参考書	英和辞書		
研究室/オフィスアワー	東棟4階研究室 14		
授業期間及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	Greetings and intros	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
2	Getting to know you	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
3	Countries and Nationalities	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
4	Countries of the world	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
5	Personal Items	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
6	Gift giving	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
7	Activities and Interests	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	

8	For here or to go?	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
9	Everyday activities	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
10	Food	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
11	Food and eating habits	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
12	My Family	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
13	This is my family!	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
14	All in the family	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
15	Review	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
成績評価方法と基準			割合
①定期試験			①40%
②プレゼンテーション・その他課題・授業態度・参加			②40%
③多読			③20%
2/3以上の出席が必要。			

英語Ⅱ(中級)工学A (English II [Intermediate])			
授業科目名	藤重 仁子	担当教員	藤重 仁子、長尾 晋宏
主担当教員	藤重 仁子	教養科目	ディプロマポリシー 該当項目 DP②
科目ナンバリング	LA012	科目区分	水曜 4限
配当年次	1	開講学期	曜日・時限
授業形態	演習	単位数	必修・選択 必修
<p>授業概要</p> <p>前期科目の英語Ⅰに引き続き、本授業でも、日常生活で最低必要とされる、スピーキング、リスニング、リーディングのスキルを総合的に習得する。基本的な文法を復習し、単語・熟語・慣用句などの語彙を博し、最低限自己表現できるコミュニケーション力を身につける。また、多くのリスニングをこなし、英語に耳を慣らし、多読を行い、多量の入力をする事により、英語力アップを目指す。授業を通して、英語に対する抵抗感をなくし、英語を学ぶことが楽しいという感覚を習得する。</p> <p>到達目標</p> <p>基本的な文法、語彙を確実に身につける。 英語で最低限のコミュニケーションが取れる。 簡単な英文を正確に理解できる。 履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>積極的に授業に参加すること。 宿題(特にリーディングの予習)は必ずしてから授業に臨むこと。 私語、携帯電話の使用などは控むこと。</p> <p>教科書</p> <p>Good Morning World ① (Susan Stempleski, Nancy Douglas / Gengage Learning, 2014) (英語Ⅰで使用したテキストを引き続き使用する。英語Ⅰを履修していない者のみ、購入すること。)</p> <p>参考書</p> <p>英和辞典 多読用図書</p> <p>研究室/オフィスアワー</p> <p>木曜日 3限目 (E棟 4階研究室 22)</p>			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	Time	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
2	Time and schedules	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
3	Special Occasions	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
4	Holidays and celebrations	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
5	Person to Person	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
6	Living with others	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
7	Home Sweet Home	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
8	Housing	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	

			後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
9	Clothing		次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
10	Shopping for clothes		次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
11	Jobs and Ambitions		次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
12	Jobs		次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
13	Dress the part		次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
14	Good jobs		次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
15	Review		次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
成績評価方法と基準				割合
①定期試験				①40%
②プレゼンテーション・その他課題・授業態度・参加				②40%
③多読				③20%
2/3以上の出席が必要。				

授業科目名 英語Ⅱ(中級)(工学B) (English II 【Intermediate】)			
主担当教員	長尾 晋宏	担当教員	長尾 晋宏、藤重 仁子
科目ナンバリング	LA012	教養科目	ディプロマポリシー 該当項目
配当年次	1	開講学期	後期
授業形態	演習	単位数	2
授業概要	<p>前期科目の英語Ⅰに引き続き、本授業でも、日常生活で最低限必要とされる、スピーキング、リスニング、リーディングのスキルを総合的に習得する。基本的な文法を復習し、単語・熟語・慣用句などの語彙を増やし、最低限自己表現できるコミュニケーション力を身につける。また、多くのリスニングをこなす、英語に耳を慣らし、多量に耳をインプットをすることにより、英語力アップを目指す。授業を通して、英語に対する抵抗感をなく、英語を学ぶことは楽しいという感覚を習得する。</p> <p>到達目標</p> <p>基本的な文法、語彙を確実に身につける。 英語で最低限のコミュニケーションが取れる。 簡単な英文を正確に理解できる。</p> <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>積極的に授業に参加すること。 宿題(特にリーディングの予習)は必ずしてから授業に臨むこと。 私語、携帯電話の使用などは控えること。</p> <p>教科書 Good Morning World ① (Susan Stempleski, Nancy Douglas, James Morgan / Gengage Learning, 2014) (英語Ⅰで使用したテキストを引き続き使用する。英語Ⅰを履修していない者のみ、購入すること。)</p> <p>参考書 英和辞典 多読用図書 研究室/オフィスアワー</p>		
E 棟 4 階 研究室 14			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	Time	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
2	Time and schedules	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
3	Special Occasions	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
4	Holidays and celebrations	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
5	Person to Person	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
6	Living with others	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
7	Home Sweet Home	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
8	Housing	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	

9	Clothing	後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
10	Shopping for clothes	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
11	Jobs and Ambitions	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
12	Jobs	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
13	Dress the part	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
14	Good jobs	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
15	Review	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからぬ箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
成績評価方法と基準			割合
①定期試験			①40%
②プレゼンテーション・その他課題・授業態度・参加			②40%
③多読			③20%
2/3以上の出席が必要。			

授業科目名		英会話(工学) (English Conversation)																																	
主担当教員	藤重 仁子	担当教員	藤重 仁子																																
科目ナンバリング	LA021	教養科目	ディプロマポリシー 該当項目																																
配当年次	2	科目区分	DP②																																
授業形態	演習	開講学期	前期																																
授業概要	単位数	2	火曜 1 限 選択																																
到達目標	<p>本授業では、基本的な英語によるコミュニケーション能力を習得することを目的とする。英会話の基本的ルールである、(1)主語の存在、(2)語順(主語・動詞・疑問文、疑問詞など)、(3)膠着力、を意識しながら、日常生活の中で、道を尋ねる、買い物をする、自己紹介をするなどといった他人と関わる際に最低限必要な会話を身に付ける。</p>																																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 自己紹介ができる。 最低限の日常会話ができる。 自分の考えを最低限伝えることができる。 																																		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	<p>ペアワーク、グループワークなどによる会話の練習が多いため、積極的に授業に参加すること。前回の授業の復習を必ずしてから授業に臨むこと。 私語、携帯電話の使用などは控むこと。</p>																																		
教科書	<p>Talk a Lot Book1-Second Edition- (David Martin 著, EFL Press, 2003)</p>																																		
参考書	<p>英和・和英辞典</p>																																		
研究室/オフィスアワー	<p>東棟 4 階研究室 22 / 木曜日 3 限目</p>																																		
授業展開及び授業計画表	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>学修内容</th> <th>予習・復習・課題等</th> <th>担当</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Getting to know each other</td> <td>次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Introducing yourself</td> <td>次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>Talking about interests</td> <td>次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>Greeting someone</td> <td>次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>Talking about family</td> <td>次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>Asking and talking about family and relatives</td> <td>次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>Talking about people</td> <td>次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当	1	Getting to know each other	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。		2	Introducing yourself	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。		3	Talking about interests	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。		4	Greeting someone	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。		5	Talking about family	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。		6	Asking and talking about family and relatives	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。		7	Talking about people	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当																																
1	Getting to know each other	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。																																	
2	Introducing yourself	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。																																	
3	Talking about interests	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。																																	
4	Greeting someone	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。																																	
5	Talking about family	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。																																	
6	Asking and talking about family and relatives	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。																																	
7	Talking about people	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。																																	

8	Describing what people look like	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
9	Talking about work	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
10	Telling time	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
11	Talking about past experiences	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
12	Talking about vacations	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
13	Talking about sports	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
14	Talking about physical condition	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
15	Review and oral exam	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
成績評価方法と基準			
①口頭試問 ②授業参加態度 ③その他プレゼンテーションや課題など 2/3 以上の出席が必要。			
割合			
①30% ②40% ③30%			

授業科目名		医学英語(工学) (English for Medicine)	
主担当教員	長尾 晋宏	担当教員	長尾 晋宏
科目ナンバリング	LA022	教養科目	テクノロジー 該当項目
配当年次	2	開講学期	後期
授業形態	演習	単位数	2
授業概要	医療従事者に必要な英語のコミュニケーション能力を身につけるため、臨床現場で患者の主訴等の発語を正確に理解したり、患者に正確な指示を伝えたりするために必要となる表現や語彙を習得する。また、医学関連の文献や論文、その他情報の収集方法と論文の構成を習得し、専門分野における最先端の研究情報を得るためのスキルを身につける。 将来医療従事者となる皆さんに、ぜひ受講をお勧めする。 到達目標		
最低限患者とコミュニケーションがとれる。 最低限の医学用語が理解できる。 医学分野の英語の論文がどのような構成になっているのか理解できる。			
履修上の注意(学生へのメッセージ)			
積極的に授業に参加すること。 宿題や予習(特にリーディング)は必ずしてから授業に臨むこと。 携帯電話の使用、私語は慎むこと。			
教科書			
実践看護英語(竹林修一、英宝社、2014)			
参考書			
英和辞書			
研究室/オフィスアワー			
東棟4階研究室14			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	Introduction / Medical terminology / Getting to know the patients 1	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
2	Getting to know the patients 2	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
3	Getting to know the patients 3	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
4	Getting to know the patients 4	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
5	Examination 1	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
6	Examination 2	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
7	Instructing medication	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
8	Treating the patients 1	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
9	Treating the patients 2	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	

10	Treating the patients 3	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
11	Operation / PubMed について、論文の構成について	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
12	Pregnancy / Articles on Medical Engineering 1	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
13	In the hospital / Articles on Medical Engineering 2	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
14	Emergencies / Articles on Medical Engineering 3	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
15	Living a healthy life / Review	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
成績評価方法と基準			
小テスト プレゼンテーションおよびその他課題 授業参加態度 2/3回以上の出席が必要。			
			割合
			30%
			40%
			30%

授業科目名 基礎英語演習(工学)			
主担当教員	藤重 仁子	担当教員	藤重 仁子
科目ナンバリング	LA023	教養科目	ディプロマポリシー 該当項目 DP②
配当年次	2	開講学期	曜日・時限 木曜 5限
授業形態	演習	単位数	必修・選択 2 選択
授業概要			
本授業では、TOEIC 形式の練習問題を解きながら、リーディングカリスニング力を強化することを目的とする。頻出の語彙、熟語、慣用句を確認しつつ、日常生活を添えるうえで相手と十分意思疎通を図ることができる英語力を身に着ける。			
到達目標			
基本的な文法、語彙、表現を徹底的に習得する。 TOEIC500 点相当の英語力を身に着ける。			
履修上の注意(学生へのメッセージ)			
積極的に授業に参加すること。 宿題は必ずしてから授業に臨むこと。 私語、携帯電話の使用などは慎むこと。			
教科書			
Score Booster for the TOEIC L&R Test Pre-Intermediate (Yumiko Mizoguchi, Machiko Yanagita / 金星堂, 2019)			
参考書			
英和辞書			
研究室/オフィスアワー			
E 棟 4 階研究室 22			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	Introduction / Unit 1 Travel	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
2	品詞①:名詞(可算名詞・不可算名詞)	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
3	Unit 2 Dining Out	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
4	品詞②:形容詞(名詞修飾、補語)	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
5	Unit 3 Media	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
6	品詞③:副詞(動詞・形容詞修飾)	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
7	Unit 4 Entertainment	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
8	時制(現在・過去・未来・現在進行形)	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	

9	Unit 5 Purchasing	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
10	3 単語の s(修飾語句を伴う主語)	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
11	Unit 6 Clients	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
12	能動態・受動態(感情を表す表現)	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
13	Unit 7 Recruiting	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
14	動詞の後ろの動名詞・不定詞(前置詞の後ろの動名詞、定型表現)	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
15	Review	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
成績評価方法と基準			割合
①小テスト			①40%
②その他課題・授業態度・参加			②60%
2/3 以上の出席が必要。			

授業科目名	応用英語演習(工学)		
主担当教員	藤重 仁子	担当教員	藤重 仁子
科目ナンバリング	LA024	教養科目	DP②
配当年次	2	開講学期	後期
授業形態	演習	単位数	2
授業概要	本授業では、TOEIC 形式の練習問題を解きながら、リーディングカとリスニング力を強化することを目的とする。頻出の語彙、熟語、慣用句を確認しつつ、日常生活を送るうえで相手と十分な意思疎通を図ることのできる英語力を身に着ける。		
到達目標	文法、語彙、表現を徹底的に習得する。 TOEIC550 点相当程度の英語力を身に着ける。		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	積極的に授業に参加すること。 宿題(特にリーディングの予習)は必ずしてから授業に臨むこと。 私語、携帯電話の使用などは慎むこと。		
教科書	Score Booster for the TOEIC L&R Test Pre-Intermediate (Yumiko Mizoguchi, Machiko Yanagita / 金星堂, 2019)		
参考書	(前期)に基礎英語演習を履修した者は、再度購入する必要はありません		
英和辞書			
研究室/オフィスアワー			

E 棟 4 階研究室 22
授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	Introduction / Unit 8 Personnel	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
2	代名詞(主格・所有格・目的格・所有代名詞)	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
3	Unit 9 Advertising	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
4	比較(比較級、最上級、as ... as)	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
5	Unit 10 Meetings	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
6	前置詞(理由・譲歩・時、定型表現)	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
7	Unit 11 Finance	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
8	接続詞(理由・譲歩・時)	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	

9	Unit 12 Offices	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
10	前置詞・接続詞対比	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
11	Unit 13 Daily Life	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
12	関係代名詞(主格・所有格・目的格)	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
13	Unit 14 Sales & Marketing 語彙①(名詞・形容詞)	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
14	Unit 15 Events 語彙②(動詞・副詞)	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
15	Review	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べておくこと。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
成績評価方法と基準			割合
①小テスト			①40%
②その他課題・授業態度・参加			②20%
③Review Test			③40%
2/3以上の出席が必要。			

授業科目名		スポーツ健康科学演習(工学) (Sports Health Science Seminar)	
主担当教員	中原 英博	担当教員	中原 英博、佐野 加奈絵、伊奈 新太郎、信江 彩加、濱口 幹太、山口 晏奈、長谷川 夏輝、伊藤 剛
科目ナンバリング	CS017	科目区分	学部共通科目
配当年次	1	開講学期	後期
授業形態	演習	単位数	2
授業概要	<p>本スポーツ健康科学演習では、学生が自らの適正に於いてスポーツ・トレーニング種目を選択できるよう、軽スポーツ、球技スポーツ、エアロビクス、ダンス、レジスタンス運動など多様なスポーツ・トレーニング種目を用意し、各種目特性を生かして、「思いっきり体を動かす爽快感」(ブレインを通じて感じる理屈抜き)の楽しさを存分に経験できるようにゲーム主体の授業プログラムを提供する。その中で、体力のレベルアップや身体動作の向上を図ると同時に、ゲーム等を自主的に運営する能力を養う。また、スポーツ・トレーニングの実践を通じて、学生同士の心の交流や人間関係を育み、生涯にわたり楽しく、計画的にスポーツ・トレーニングを実践する習慣を育成することも本演習の大きな狙いである。</p>		
到達目標	<p>1. スポーツ活動を通じて、学級の枠を超えた学生同士の心の交流や人間関係を育むことができる。 2. スポーツ活動を通じて、基礎体力や、技術が向上する。 3. スポーツ活動を通じて、チームワークの重要性を認識できる。 4. 生涯にわたり楽しく、計画的にスポーツを実践する習慣を身につけることができる。</p>		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	<p>服装について (1)各教員からの指示がない限り、トレーニング用ジャージ・ハンカチ・シューズは毎週持参し、更衣した後、授業に臨むこと。 (2)シューズは屋外用、屋内用ともゴム底の運動靴を用意すること。屋外のスポーツ種目を実施するクラスの者は、雨天により急ぎ屋内外種目に変更する場合がありますので、毎回の授業時において、屋内用シューズは必ず用意しておくこと。 (3)授業中におけるメガネや時計などの破壊、コンタクトレンズや装飾品の紛失について担当教員は責任を負わない。</p> <p>注意事項 (1)集合場所 日にも(特に雨天時)によって、各クラス担当教員ごとに、授業を行う場所やバス運行時刻等が変更する場合があります。特別指示がない場合においても、毎回、注意して掲示板を見る習慣をつけること。 (2)各運動施設までの移動手段について 本学では、1回生全員を対象に、本学体育館や近隣の代替運動施設を利用して、スポーツ・健康科学演習を行います。近隣(バスで約10～20分)の運動施設までの移動には、大学前から現地まで貸し切りバスをチャーターし、みなさんを送迎します。 ※鍼灸学科スポーツ特修コース希望者は、資格取得のため必要な運動種目(レジスタンス運動)を選択する必要があります。</p>		
教科書	特に指定しない。		
参考書	特に指定しない。		
研究室/オフィスアワー	原月曜日 3時限目・4時限目 その他の、都度個別に問い合わせも随時可能です。質問等はいつでもご自由にごどうぞ。		
授業展開及び授業計画表	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	オリエンテーション、クラス分けガイダンス、スポーツ種目の選択、コースの決定	軽スポーツ、球技スポーツ、ダンスなど多様なスポーツ種目の特性について理解を深めておく。	
2	スポーツ種目特性の理解 種目・用具特性の把握		
3	基本技術の習得 スポーツ種目に応じた基本技術の習得①		

4	基本技術の習得 スポーツ種目に応じた基本技術の習得②		
5	基本技術の習得 スポーツ種目に応じた基本技術の習得③		
6	応用技術の習得 スポーツ種目に応じた応用技術の習得①		
7	応用技術の習得 スポーツ種目に応じた応用技術の習得②		
8	応用技術の習得 スポーツ種目に応じた応用技術の習得③		
9	基本・応用技術の発展 模擬ゲームの実施とルールの理解①		
10	基本・応用技術の発展 模擬ゲームの実施とルールの理解②		
11	ゲームの展開 学生主体のゲーム運営①		
12	ゲームの展開 学生主体のゲーム運営②		
13	ゲームの展開 学生主体のゲーム運営③		
14	ゲームの展開 学生主体のゲーム運営④		
15	ゲームの展開 学生主体のゲーム運営⑤		
16	健康づくりとレジスタンス運動		
17	形態測定、身体組成の評価		
18	レジスタンス運動の種類①		筋の活動様式から見た分類とその特徴 等尺性筋収縮: アイソメトリックトレーニング 等速性筋収縮: アイソキネティックトレーニング
19	レジスタンス運動の種類②		運動様式から見た分類
20	アイソニックトレーニングの実践①		適切なプログラムの立案の基礎
21	アイソニックトレーニングの実践②		基礎体力の養成
22	アイソニックトレーニングの実践③		目的別トレーニング
23	アイソニックトレーニングの実践④		最大筋力の測定法
24	アイソニックトレーニングの実践⑤		フリーウェイトトレーニングとマシントレーニング
25	アイソニックトレーニングの実践⑥		長所と短所
26	身体各部のレジスタンストレーニング①		胸部のトレーニング種目
27	身体各部のレジスタンストレーニング②		上肢の筋群(上腕部・前腕部)のトレーニング種目
28	身体各部のレジスタンストレーニング③		背部の筋群のトレーニング種目
29	身体各部のレジスタンストレーニング④		肩関節・腹部の筋群のトレーニング種目
30	身体各部のレジスタンストレーニング⑤		下肢の筋群(脚部・臀部)のトレーニング種目
成績評価方法と基準			
授業回数(2/3(20コマ)以上出席すること(本授業科目においては1日で2コマ分の授業となっているので10日以上出席が必要)です。授業開始後、30分を超えての遅刻は欠席とみなす。成績の評価は、原則として2/3以上出席した者を対象とする。			
①参加・技能・理解・積極性などを総合的に判定するとともに、授業最終日にはレポートの提出を義務づける。その成績が60点未満の者は不可と単位数を認定しない。			
割合			
①100%			

授業科目名 健康科学(スポーツ社会学を含む)(工学) (Health Science [Including Sports Sociology])			
主担当教員	佐野 加奈絵	担当教員	佐野 加奈絵
科目ナンバリング	CS018	学部共通科目	ディプロマポリシー 該当項目 DP③
配当年次	1	開講学期	前期 木曜3限
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	健康に対する意識が高まり、健康食品や健康器具などがブームとなっている近年、マスメディアを通じて流されている情報には、科学的根拠が乏しいものも少なくはない。本授業では、生活習慣病、地域社会における健康維持、増進に関わる取り組みや考え方や、運動や食事指導に関する科学的根拠に基づいた専門的な知識を身につけることを目標とする。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・運動や食事指導に関する科学的根拠に基づいた専門的な知識を身につける。 ・本邦における健康維持・増進に関わる取り組みや考え方について理解する。 		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	毎回配布する資料を用いて、必ず復習してください。		
教科書	適宜、資料を配布する。		
参考書	<ul style="list-style-type: none"> 出村慎一 監修「健康・スポーツ科学講義」杏林書院、2005年 田中嘉代次編「健康運動の支援と実践」金芳堂、2006年 研究室/オフィスアワー 		
授業期間及び授業計画表	東棟 4F 月曜 9:00-10:30		
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	健康とは？	予習：シラハスの確認 復習：配布プリント、キーワードの確認。	
2	運動・栄養と肥満症との関係	予習：シラハスの確認 復習：配布プリント、キーワードの確認。	
3	運動・栄養と糖尿病との関係	予習：シラハスの確認 復習：配布プリント、キーワードの確認。	
4	運動・栄養と脂質異常症との関係	予習：シラハスの確認 復習：配布プリント、キーワードの確認。	
5	三大栄養素(糖質・脂質・タンパク質)の役割	予習：シラハスの確認 復習：配布プリント、キーワードの確認。	
6	微量栄養素(ビタミン・ミネラル)と水の役割	予習：シラハスの確認 復習：配布プリント、キーワードの確認。	
7	消化器の構造と機能	予習：シラハスの確認 復習：配布プリント、キーワードの確認。	
8	食品群の理解と応用	予習：シラハスの確認 復習：配布プリント、キーワードの確認。	
9	エネルギー摂取量と消費量との関係	予習：シラハスの確認 復習：配布プリント、キーワードの確認。	
10	運動時におけるエネルギー産生メカニズム	予習：シラハスの確認 復習：配布プリント、キーワードの確認。	
11	運動処方の方の原則と実際	予習：シラハスの確認 復習：配布プリント、キーワードの確認。	
12	運動と食飲の関係—最新のトピックス—	予習：シラハスの確認 復習：配布プリント、キーワードの確認。	
13	日本人の食事摂取基準について	予習：シラハスの確認 復習：配布プリント、キーワードの確認。	
14	健康づくりに関する本邦の取り組み	予習：シラハスの確認 復習：配布プリント、キーワードの確認。	
15	講義全体のまとめと振り返り	予習：これまでのプリントの確認。 復習：配布プリント、キーワードの確認。	

成績評価方法と基準		割合
①定期試験で評価する。 15回の講義に対し、必要な時間数の出席が必須である。		①100%

健康管理学 I (工学) (Healthcare Management I)			
授業科目名	伊黒 浩二	担当教員	伊黒 浩二
主担当教員	伊黒 浩二	学部共通科目	ディプロマポリシー 該当項目
科目ナンバリング	CS022	科目区分	DP③
配当年次	2	開講学期	曜日・時限 木曜 3限
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	<p>近年、生活習慣病の危険因子が明らかになれつつある。危険因子を多く有する人は疾患に罹患する確率が高くなることから、日常生活でいかに健康管理を行うかについての関心が高まっている。本講義では、運動不足の影響を学び、ライフスタイルに応じた健康づくりのための身体活動基準、目的に応じた効果的なトレーニング法の原理・原則を学修する。特に、有酸素性運動の健康上の必要性を学び、運動処方(強度・時間・頻度)に関する知識を養う。また、運動強度の指標を理解し、ウォーミングアップとクールダウン、及びレジスタンス運動を含めた、運動処方プログラムの構成についても学修する。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 健康管理と疾病の予防に関する基礎知識を習得し、予防医学の重要性を理解する。 2. 健康づくりのための運動に必要な知識、生活習慣病予防に役立つ基礎知識を説明できる。 3. 健康管理のための正しい知識を身につけ、健康の保持増進に役立てることができる。 <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>①寝ない ②喋らない ③内職しない ④スマホを触らない 以上のルールを守って熱心に学習して下さい。</p>		
教科書			
特記事項	特にありません。		
参考書	<p>健康スポーツ科学の基礎(出村慎一監修・杏林書院) 健康・スポーツ科学キーストトレーニング科学(北川薫編集・文光堂) 特定健診・保健指導に役立つ 健康運動指導マニュアル(佐藤祐編集・文光堂)、他</p>		
研究室/オフィスアワー			
授業開始前は非常勤講師室にいます。			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	健康管理について 1	予習:シラバスの確認 復習:授業をもとにノート・プリントの確認	
2	健康管理について 2	予習:シラバスの確認 復習:授業をもとにノート・プリントの確認	
3	生活習慣病と運動 1	予習:シラバスの確認 復習:授業をもとにノート・プリントの確認	
4	生活習慣病と運動 2	予習:シラバスの確認 復習:授業をもとにノート・プリントの確認	
5	生活習慣病と運動 3	予習:シラバスの確認 復習:授業をもとにノート・プリントの確認	
6	トレーニングの基礎知識	予習:シラバスの確認 復習:授業をもとにノート・プリントの確認	
7	全身持久力トレーニングについて	予習:シラバスの確認 復習:授業をもとにノート・プリントの確認	
8	筋持久力・筋力トレーニングについて 1	予習:シラバスの確認 復習:授業をもとにノート・プリントの確認	
9	筋持久力・筋力トレーニングについて 2	予習:シラバスの確認 復習:授業をもとにノート・プリントの確認	
10	パワートレーニングについて	予習:シラバスの確認 復習:授業をもとにノート・プリントの確認	
11	トレーニングでの注意点 1 ウォームアップとウォームダウン 1	予習:シラバスの確認 復習:授業をもとにノート・プリントの確認	
12	トレーニングでの注意点 2 ウォームアップとウォームダウン 2	予習:シラバスの確認 復習:授業をもとにノート・プリントの確認	
13	トレーニングでの注意点 3 オーバーワークサイズによる身体的の問題	予習:シラバスの確認 復習:授業をもとにノート・プリントの確認	

14	トレーニングでの注意点 4 障害を予防するためのアイシング	予習:シラバスの確認 復習:授業をもとにノート・プリントの確認	
15	講義全体のまとめと振り返り	予習:シラバスの確認 復習:授業をもとにノート・プリントの確認	
成績評価方法と基準			割合
①筆記試験			①70%
②授業ごとの小テスト・課題提出			②30%
*全授業のうち 2/3 以上の出席が必要			

授業科目名		健康管理学Ⅱ(工学) (Healthcare Management II)	
主担当教員	伊黒 浩二	担当教員	伊黒 浩二
科目ナンバリング	CS023	学部共通科目	DP③
配当年次	2	後期	木曜 3限
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	<p>近年、生活習慣病だけでなく、加齢に伴う生活機能低下を防ぐ対策が重要課題となってきた。健康寿命を延伸するために、日常生活でいかに健康管理を行うかについての関心が高まっている。本講義では、疾病構造の変化と身体活動・運動不足の関連性、身体運動のカニシズム、および健康度の一つの尺度となる体力・日常動作について理解を深めると同時に、第一次予防の視点に立って運動が健康づくり、特に生活習慣病予防・介護予防に役立つ根拠について学修する。生活習慣病とロコモティブシンドロームを予防し、健康寿命を延伸するための理論、並びに具体的な実践方法についても理解を深める。</p>		
到達目標	<p>1. 生活習慣病・加齢に伴う生活機能低下に関する基礎知識を習得し、予防医学の重要性を理解する。 2. 健康寿命の延伸に必要な基礎知識、生活習慣病予防・介護予防に役立つ健康づくり運動の知識を説明できる。 3. 健康管理のための正しい知識を身につけ、健康の保持増進に役立てることができる。</p>		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	<p>①寝ない ②喋らない ③内職しない ④スマホを触らない 以上のルールを守って熱心に学習して下さい。</p>		
教科書			
特記事項			
参考書	<p>健康・スポーツ科学の基礎(出村順一監修、杏林書院) 健康・スポーツ科学テキスト トレーニング科学(北川薫編集・文光堂) 特定健診・保健指導に役立つ 健康運動指導マニュアル(佐藤祐彦編集・文光堂)、他</p>		
研究室/オフィスアワー			
授業開始前は非常勤講師室にいます。			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	健康管理について 1	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	
2	健康管理について 2	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	
3	中高年者の身体的特徴と運動 1	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	
4	骨粗鬆症と運動	予習：授業をもとにノート・プリントを確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	
5	変形性関節症と運動	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	
6	生活習慣病と運動 1 メタボリックシンドローム	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	
7	生活習慣病と運動 2 高血圧症	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	
8	生活習慣病と運動 3 糖尿病	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	
9	生活習慣病と運動 4 高脂血症	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	
10	生活習慣病と運動 5 虚血性心疾患	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	
11	有酸素エクササイズについて	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	
12	レジスタンスエクササイズについて	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	
13	ウォームアップとウォームダウンについて 1	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	

14	ウォームアップとウォームダウンについて 2	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認
15	講義全体のまとめ	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認
成績評価方法と基準		
①筆記試験		
②授業ごとの小テスト・課題提出		
授業の2/3回以上の出席が必要		
割合		
①70%		
②30%		

チーム医療とコミュニケーション(工学) (Team Medical Care and Communication)			
授業科目名	藤江 建明	担当教員	藤江 建明
主担当教員	藤江 建明	学部長/副学部長	藤江 建明
科目ナンバリング	CS020	科目区分	DP②③
配当年次	2	開講学期	後期
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	<p>現代の医療は、高度化と細分化により各専門職種は互いに連携しチームとして治療に携わることが必然となっている。また、厚生労働省の在宅医療推進により、臨床工学技士も在宅医療チームに参加しはじめており、臨床工学技士が携わるチーム医療の規模は膨らみつつある。それらの現状を踏まえ、本科目ではチーム医療に関わる医療・保健・福祉分野の各職種の役割を理解し、臨床工学技士の専門性とチーム医療内での役割について理解する。また、チーム医療に参加するためのコミュニケーション能力についても深く考え、基礎となる聞く・表現する、話し合うの3技法について理解する。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. チーム医療の意義と必要性について理解し説明ができる。 2. 臨床工学技士の役割について理解し説明ができる。 3. チーム医療内での各職種の役割について理解することができる。 4. チーム医療を実践するためのコミュニケーション能力について理解し習得できる。 <p>(具体的には、他者の立場や意見を理解し、自らの意見を表現することができる)</p>		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	<p>1. チーム医療は、特別なものではなく、院内で当然のように行われている日常的なものです。チーム医療がもたらす効果について認識してください。</p> <p>2. 授業以外でも、指示してある参考書にも目を通して考えてみてください。</p> <p>3. チーム医療に関心を寄せ、将来のあなたの自身の臨床工学技士観について考えてみてください。</p> <p>4. 授業中は適宜、グループワークを行います。限られた時間内に意見をまとめ、どのようにしてグループ内の意見を作り上げればよいか考えてみてください。</p>		
教科書			
適時資料を配布します。			
参考書	<ol style="list-style-type: none"> 1. 福原麻希: チーム医療を成功させる10か条—現場に学ぶチームメンバーの心得、中山書店。 2. 水本清久 他編: 実践チーム医療論、医歯薬出版。 3. 東京慈恵会医科大学付属病院 看護部・医療安全管理部編著: TeamSTEPS を活用したヒューマンエラー防止策、日本看護協会出版会。 		
研究室/オフィスアワー			
木曜日 5 限(16:20-17:50)			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	本科目のガイダンス チーム医療のとは何か、意義と必要性について	予習: チーム医療とは何かについて調べてくる。 復習: 学修内容1で学んだ事をまとめる。	
2	臨床工学技士の役割について	予習: 臨床工学技士とは何かを調べる。 復習: 学修内容2で学んだ事をまとめる。	
3	チーム医療に関わる医療職について①	予習: チーム医療とは何かについて調べる。 復習: 学修内容3で学んだ事をまとめる。	
4	チーム医療に関わる医療職について②	予習: チーム医療に関わる職種について調べる。 復習: 学修内容4で学んだ事をまとめる。	
5	各チーム医療の役割と実践	予習: チーム医療の種類について調べてくる。 復習: 学修内容5で学んだ事をまとめる。	

6	各チーム医療と臨床工学技士の関わり方	予習: チーム医療に臨床工学技士がどう関わっているか調べてくる。 復習: 学修内容6で学んだ事をまとめる。	
7	患者の心理とキーパーソン心理について	予習: 患者・キーパーソンとは何か、調べてくる。 復習: 学修内容7で学んだ事をまとめる。	
8	"聞く"について考える	予習: 傾聴とは何かについて調べてくる。 復習: 学修内容8で学んだ事をまとめる。	
9	"表現する"について考える	予習: 発言するとは何かについて調べてくる。 復習: 学修内容9で学んだ事をまとめる。	
10	"話し合う"について考える	予習: ディベートとは何か調べてくる。 復習: 学修内容10で学んだ事をまとめる。	
11	アンガーマネジメントについて	予習: なぜ人は怒ってしまうのかについて調べてくる。 復習: 学修内容11で学んだ事をまとめる。	
12	医療事故とコミュニケーション①	予習: 医療事故とは何かについて調べてくる。 復習: 学修内容12で学んだ事をまとめる。	
13	医療事故とコミュニケーション②	予習: 臨床工学技士としてチーム医療に参加する手法を学ぶ。 復習: 学修内容13で学んだ事をまとめる。	
14	臨床工学技士としてチーム医療に参加する手法	予習: 今までの学修内容を復習する。	
15	チーム医療とコミュニケーションのまとめ		
成績評価方法と基準			
1. 課題提出			
2. 定期試験			
			割合
			1. 30%
			2. 70%

授業科目名	栄養学(工学)(Nutriology)		
主担当教員	南方 克之	担当教員	南方 克之
科目ナンバリング	CS024	学部共通科目	ディプロマポリシー 該当項目 DP③
配当年次	1	開講学期	後期
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	<p>国民総医療費は38兆5650億円に達し、その医療費の55.6%は65歳以上の高齢者が占めているとのことである。2013年度の高齢者数は3190万人(全人口の25.1%)であるが、2030年度には3685万人(31.6%)に達すると予測されている。総医療費の半分以上を占める高齢者が、15年後には3人に1人の割合になることを考えると、いかにして高齢者の健康寿命を長くするかとても重要ななる。1人でも多くの高齢者が健康で過ごせるように医療従事者が食事指導できることが大切と考え、健康の保持増進に次ぐことのできない「栄養」に関する正しい知識を学修する。</p>		
到達目標	<p>1. 栄養の種類と働きについて理解し、食生活と疾病の関わりについて説明できる。 2. 消化と吸収およびエネルギー代謝について説明できる。 3. ライフサイクルと栄養摂取について理解し、栄養アセスメントについて説明できる。</p>		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	<p>1. 「栄養学」に興味を持って授業に臨んでください。 2. 初回授業で実施の詳細を説明します。</p>		
教科書	『イラスト基礎栄養学第2版』大口健司・小野廣配・田村明／東京化学社		
参考書	なし		
授業展開及び授業計画表	<p>研究室／オフィスアワー 森ノ宮医療大学：西棟4F434研究室(火曜日11:00～18:00) 森ノ宮医療学園専門学校：2F職員事務室／授業外対応可能(木曜日以外)</p>		
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	栄養の概念	予習：教科書(P.1～12)の確認 復習：授業をもとに授業内容の確認	
2	食物の摂取	予習：教科書(P.13～19)の確認 復習：授業をもとに授業内容の確認	
3	消化・吸収と栄養の体内動態①	予習：教科書(P.21～38)の確認 復習：授業をもとに授業内容の確認	
4	消化・吸収と栄養の体内動態②	予習：教科書(P.21～38)の確認 復習：授業をもとに授業内容の確認	
5	たんぱく質の栄養①	予習：教科書(P.39～52)の確認 復習：授業をもとに授業内容の確認	
6	たんぱく質の栄養②	予習：教科書(P.39～52)の確認 復習：授業をもとに授業内容の確認	
7	炭水化物の栄養①	予習：教科書(P.53～63)の確認 復習：授業をもとに授業内容の確認	
8	炭水化物の栄養②	予習：教科書(P.53～63)の確認 復習：授業をもとに授業内容の確認	
9	脂質の栄養①	予習：教科書(P.67～77)の確認 復習：授業をもとに授業内容の確認	
10	脂質の栄養②	予習：教科書(P.67～77)の確認 復習：授業をもとに授業内容の確認	
11	ビタミンの栄養①	予習：教科書(P.79～97)の確認 復習：授業をもとに授業内容の確認	
12	ビタミンの栄養②	予習：教科書(P.79～97)の確認 復習：授業をもとに授業内容の確認	
13	ミネラル(無機質)の栄養	予習：教科書(P.99～112)の確認 復習：授業をもとに授業内容の確認	
14	水・電解質の栄養的意義	予習：教科書(P.113～121)の確認 復習：授業をもとに授業内容の確認	
15	エネルギー代謝	予習：教科書(P.123～136)の確認 復習：授業をもとに授業内容の確認	

成績評価方法と基準	割合
定期試験 出題範囲:授業内で扱った範囲	100%

授業科目名		医学概論(工学)	
主担当教員	吉岡 敏治	担当教員	吉岡 敏治
科目ナンバリング	SB101	専門基礎分野	DP②
配当年次	1	開講学期	前期
授業形態	講義	単位数	1
授業概要	<p>本教科目では、現代医療の全体像を把握する。少子高齢化の進展する今日、医療施設においてはIT化、入院期間の短縮化、疾病に対する高度な治療技術の導入が進んでいる。</p> <p>ここでは、現代医療をめぐり、社会環境の変化・動向を把握し、患者中心の医療が成果をあげるために、まずは進歩する現代医療の実態を把握するとともに、各専門職のチームワークが重要であることを、広い視点から学修する。</p> <p>医療の本質、現代医療の課題、EBM(Evidence Based Medicine)、医療の対象としての個人や集団、インフォームドコンセント、医療安全、生命の誕生と死(脳死)、臓器移植、医療経済、各種専門職の役割 IPW(Inter-professional Work)、IPE(Inter-professional Education)等について学修する。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会環境や疾病構造の変化を理解する。 2. 患者の権利宣言や医療倫理に関する事項を理解する。 3. 患者に提供されている医療の実態を把握し、現状を理解する。 4. 医療の対象としての人間(生と死、個人・家族・集団)について考え、理解する。 5. 医療の成果を挙げるための仕組みやチーム医療、各学科の垣根を越えた専門職種間連携(IPW)について理解する。 6. 実験的・最新医療の臨床応用と災害医療における生命倫理について考え、理解する。 7. 脳死判定と臓器移植とコーディネイターの役割について理解する。 8. 医療におけるリスクマネジメントについて理解する。 		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療者の考えと患者の医療に対する考えのずれを認識する。 2. 医療システムと上手な受診、医療者のモラルを考える。 3. 「医学概論」は医療者側の原点であることを認識する。 4. グループ討議には積極的に参加する。 5. 日々の学生生活の中から現代医療に関する情報を収集し、考える習慣をつける。 		
教科書			
小泉俊三、平尾智広、有吉浩美、総合医療論 健康支援と社会保険制度① 医学書院			
参考書			
中島泉、医学概論 医学のコンセプトと医療のエッセンス 南江堂			
厚生省の指標 増刊 61(9) 国民衛生の動向 2014/2015 厚生労働統計協会。			
その他、講義時に紹介する			
研究室/オフィスアワー			
0 棟、研究室4、原則月曜日 2-3 時間目ですが、その他、部屋にいればいつでも訪問可です。			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	自己紹介、オリエンテーション(レポートの課題説明等)、医療コミュニケーション	予習：教科書 2 頁～9 頁を読んでおくこと(医療コミュニケーションとはなにかを理解すること)。 復習：配布資料により、レポートの課題内容を理解すること	吉岡
2	生命倫理について、人の誕生と死に関する諸課題	予習：教科書の載在する関連部分を読んでおくこと 復習：配布物より、生と死について、持論を確立すること	吉岡
3	わが国の医療システムと医療スタッフの役割	予習：教科書 56 頁～72 頁を読んでおくこと 復習：配布資料より、わが国の医療システムと医療機関内におけるチーム医療を理解すること	吉岡
4	インフォームドコンセントと医療情報の開示・共有	予習：教科書 132 頁～139 頁を読んでおくこと 復習：配布物より、進化した基幹病院の多職種間のカルテ共有システムと地域チーム医療を理解すること	吉岡
5	疾病の一次予防と健康増進	予習：教科書 73 頁～95 頁を読んでおくこと 復習：配布資料より健康日本21の内容を理解すること	吉岡

6	実験的・最新医療の臨床応用と災害医療における生命倫理	予習：教科書 88 頁～111 頁を読んでおくこと 復習：配布物により、災害医療における生命倫理を理解すること	吉岡
7	脳死判定と臓器移植	予習：不要 復習：配布物より、臓器移植の現状を知り、脳死を理解するだけでなく、その判定手順を学ぶ	吉岡
8	医療安全・リスクマネジメント	予習：148 頁～153 頁 復習：配布物により、実践的なリスク管理を身につけること	吉岡
成績評価方法と基準			
①期末レポート ②講義内容の小レポート (詳細な評価方法は講義の中で発表する)。			
			割合
			①60% ②40%

授業科目名	公衆衛生学(工学) (Public Health)	
主担当教員	神田 靖士	担当教員 神田 靖士
科目ナンバリング	SB102	専門基礎分野 該当項目 DP②
配当年次	1	後期 月曜 4 限
授業形態	講義	単位数 2 必修・選択
授業概要	公衆衛生学は、ひとびとの健康維持、増進を实践する方法や技術を学ぶ専門科です。すなわち、何が健康を邪魔しているのか、何をすれば健康が守られるのか、どのようが仕組みを作れば健康の維持、増進にプラスになるのかなどを科学的に解析し、それらを実践する学問です。 本講義では、衛生・公衆衛生学の総論、衛生行政、予防医学、健康、老人・成人保健、生活習慣病や難病疾患、産業衛生、母子保健、衛生統計などについて学習する。	

到達目標

国民の基本的な権利としての健康を保障するための科学、技術、倫理を医学の観点から学ぶ学問である。国民の健康を守るべき看護学生として、国民の健康状態と保健、衛生、福祉の体制を正しく理解し、国民の健康を守るための保健医療サービスと公衆衛生事業のしくみと方法について学習し、会得することが目標である。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1. 講義を積極的に受講すれば行政のしくみや法におよび統計を理解できるようになります。
2. 講義内容の他に社会の福祉・保健・統計については新聞に記載されることがあり、日頃から注意してみることで学ぶことができます。新聞を読んでもください。
3. 出席者は、私語・スマホの使用は厳禁。講義中の私語は授業妨害・他学生への迷惑行為なので遠慮させます。その場合、遅やかたに退室すること。
4. 最低限の礼儀をわきまえること。

教科書

わかりやすい公衆衛生学(スーヴェルヒロカワ)

参考書

国民衛生の動向(厚生統計協会)

研究室/オフィスアワー

在室時は訪問可。
質問がある場合は授業終了時に各自申し出て下さい。また、メールでも随時受付を行います。
メールアドレス: kandas@hirakata.kmu.ac.jp

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	公衆衛生学概論と歴史	予習: シラバス・教科書の確認 復習: 授業を基に配布資料確認	
2	人口統計と保健統計	予習: 人口の諸問題を考える 復習: 授業を基に配布資料・教科書の確認	
3	保健統計 出生と死亡	予習: シラバス・教科書の確認 復習: 意義と現状、疫学とその応用、疾病の予防について学ぶ。	
4	疾病統計	予習: シラバス・教科書の確認 復習: 授業を基に配布資料・教科書の確認	
5	感染症とその予防	予習: シラバス・教科書の確認 復習: 授業を基に微生物・予防接種法など確認	
6	食品保健と公衆衛生栄養	予習: シラバス・教科書の確認 復習: 授業を基に配布資料・教科書の確認	
7	生活環境保全	予習: シラバス・教科書の確認 復習: 配布資料を基に重要語句の確認	
8	医療の制度(医療保険、公費負担制度)	予習: シラバス・教科書の確認 復習: 配付資料を基に重要語句の確認	
9	地域保健活動	予習: シラバス・教科書の確認 復習: 配布資料を基に重要語句の確認	
10	母子保健	予習: シラバス・教科書の確認 復習: 配付資料を基に重要語句の確認。	
11	学校保健	予習: 配布資料を基に重要語句の確認	

12	生活習慣病対策	予習: シラバス・教科書の確認 復習: 疾病の種類、リスクと予防の確認	
13	高齢者対策(後期高齢者医療、介護保険制度)	予習: シラバス・教科書の確認 復習: 高齢者医療の仕組みと介護制度を学ぶ	
14	精神保健福祉	予習: シラバス・教科書の確認 復習: 精神保健福祉法、インフォームドコンセントを確認。	
15	産業保健	予習: シラバス・教科書の確認 復習: 授業を基に配付資料・教科書の確認	
成績評価方法と基準			割合
①定期試験			①80%
②平常評価(出席状況)			②20%
上記①②で総合評価します。			

授業科目名	人体の構造 I (工学) (Human Anatomy I)																																						
主担当教員	森谷 正之	担当教員	森谷 正之																																				
科目ナンバリング	SB103	専門基礎分野	ディプロマポリシー 該当項目 DP②③																																				
配当年次	1	開講学期	曜日・時間 火曜 2 限																																				
授業形態	講義	単位数	2 必修・選択 必修																																				
授業概要	<p>生理学・解剖学を含めた、人体に関する基本事項について学ぶ。当科目では細胞、組織など生体を構成する要素の概要、運動系、神経系を取り扱う。</p> <p>到達目標</p> <p>生命現象の基礎となる細胞や組織の概要について説明できる。 骨格や筋など運動器を構成する要素の機能と形態について概要を説明できる。 中枢神経系と末梢神経系の機能と形態について概要を説明できる。</p> <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>1)教科書と配布資料を用いて講義を進行します。教科書は 2 冊を指定しています。講義時には 2 冊とも持参して下さい。また、課題の提出を課すので、必ず提出して下さい。 2)初回講義時に講義の進行について説明します。学習内容の特性を踏まえて、積極的に学習に取り組んで下さい。 3)「人体の機能 I」と共通の教科書で並行して講義が進行します。両科目での学習項目を十分に整理して理解するように心掛けて下さい。</p>																																						
教科書	<p>原田 玲子他 編纂『人体の構造と機能(第 4 版)』医歯薬出版株式会社 坂井建夫 岡田隆夫『専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能①』医学書院</p>																																						
参考書	<p>日本人体解剖学(南山堂)、人体解剖学(南江堂)、標準生理学(医学書院)、生理学テキスト(文光堂)など</p>																																						
研究室/オフィスアワー	<p>E 棟4階(研究室 11) 月曜日午後 5 時～午後 7 時、各日昼休みの時間帯は原則研究室に在室しています。</p>																																						
授業展開及び授業計画表	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>学修内容</th> <th>予習・復習・課題等</th> <th>担当</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>細胞、組織、器官系</td> <td>予習：教科書の該当ページを読んで下さい。 復習：講義プリントを利用してキーワードを十分に理解して下さい。</td> <td>森谷</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>運動系とは(運動系総論)、骨格(骨の構造と機能、全身の骨格)</td> <td>予習：教科書の該当ページを読んで下さい。 復習：講義プリントを利用してキーワードを十分に理解して下さい。</td> <td>森谷</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>骨格(身体の支柱：脊柱)</td> <td>予習：教科書の該当ページを読んで下さい。 復習：講義プリントを利用してキーワードを十分に理解して下さい。</td> <td>森谷</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>関節、骨格筋(骨格筋の構造と機能)</td> <td>予習：教科書の該当ページを読んで下さい。 復習：講義プリントを利用してキーワードを十分に理解して下さい。</td> <td>森谷</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>骨格筋(筋収縮の機構、全身の骨格筋、抗重力筋)</td> <td>予習：教科書の該当ページを読んで下さい。 復習：講義プリントを利用してキーワードを十分に理解して下さい。</td> <td>森谷</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>骨格筋(四肢の筋、頭部の筋、呼吸筋、骨盤底筋)</td> <td>予習：教科書の該当ページを読んで下さい。 復習：講義プリントを利用してキーワードを十分に理解して下さい。</td> <td>森谷</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>運動の調節(骨格筋の神経支配、運動反射)</td> <td>予習：教科書の該当ページを読んで下さい。 復習：講義プリントを利用してキーワードを十分に理解して下さい。</td> <td>森谷</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>細胞、組織、運動器系のとめ</td> <td>予習・復習：これまでの学習内容について、教科書とプリントで要点整理をして下さい。</td> <td>森谷</td> </tr> </tbody> </table>			回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当	1	細胞、組織、器官系	予習：教科書の該当ページを読んで下さい。 復習：講義プリントを利用してキーワードを十分に理解して下さい。	森谷	2	運動系とは(運動系総論)、骨格(骨の構造と機能、全身の骨格)	予習：教科書の該当ページを読んで下さい。 復習：講義プリントを利用してキーワードを十分に理解して下さい。	森谷	3	骨格(身体の支柱：脊柱)	予習：教科書の該当ページを読んで下さい。 復習：講義プリントを利用してキーワードを十分に理解して下さい。	森谷	4	関節、骨格筋(骨格筋の構造と機能)	予習：教科書の該当ページを読んで下さい。 復習：講義プリントを利用してキーワードを十分に理解して下さい。	森谷	5	骨格筋(筋収縮の機構、全身の骨格筋、抗重力筋)	予習：教科書の該当ページを読んで下さい。 復習：講義プリントを利用してキーワードを十分に理解して下さい。	森谷	6	骨格筋(四肢の筋、頭部の筋、呼吸筋、骨盤底筋)	予習：教科書の該当ページを読んで下さい。 復習：講義プリントを利用してキーワードを十分に理解して下さい。	森谷	7	運動の調節(骨格筋の神経支配、運動反射)	予習：教科書の該当ページを読んで下さい。 復習：講義プリントを利用してキーワードを十分に理解して下さい。	森谷	8	細胞、組織、運動器系のとめ	予習・復習：これまでの学習内容について、教科書とプリントで要点整理をして下さい。	森谷
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当																																				
1	細胞、組織、器官系	予習：教科書の該当ページを読んで下さい。 復習：講義プリントを利用してキーワードを十分に理解して下さい。	森谷																																				
2	運動系とは(運動系総論)、骨格(骨の構造と機能、全身の骨格)	予習：教科書の該当ページを読んで下さい。 復習：講義プリントを利用してキーワードを十分に理解して下さい。	森谷																																				
3	骨格(身体の支柱：脊柱)	予習：教科書の該当ページを読んで下さい。 復習：講義プリントを利用してキーワードを十分に理解して下さい。	森谷																																				
4	関節、骨格筋(骨格筋の構造と機能)	予習：教科書の該当ページを読んで下さい。 復習：講義プリントを利用してキーワードを十分に理解して下さい。	森谷																																				
5	骨格筋(筋収縮の機構、全身の骨格筋、抗重力筋)	予習：教科書の該当ページを読んで下さい。 復習：講義プリントを利用してキーワードを十分に理解して下さい。	森谷																																				
6	骨格筋(四肢の筋、頭部の筋、呼吸筋、骨盤底筋)	予習：教科書の該当ページを読んで下さい。 復習：講義プリントを利用してキーワードを十分に理解して下さい。	森谷																																				
7	運動の調節(骨格筋の神経支配、運動反射)	予習：教科書の該当ページを読んで下さい。 復習：講義プリントを利用してキーワードを十分に理解して下さい。	森谷																																				
8	細胞、組織、運動器系のとめ	予習・復習：これまでの学習内容について、教科書とプリントで要点整理をして下さい。	森谷																																				

9	神経系とは、神経細胞と神経組織	予習：教科書の該当ページを読んで下さい。 復習：講義プリントを利用してキーワードを十分に理解して下さい。	森谷
10	中枢神経系(中枢神経系の構造、中枢神経系の統合機能)	予習：教科書の該当ページを読んで下さい。 復習：講義プリントを利用してキーワードを十分に理解して下さい。	森谷
11	中枢神経系(大脳の構造と機能、視床と視床下部の構造と機能、脳幹の構造と機能)	予習：教科書の該当ページを読んで下さい。 復習：講義プリントを利用してキーワードを十分に理解して下さい。	森谷
12	中枢神経系(小脳の構造と機能、脊髄の構造と機能、中枢神経の保護と栄養)	予習：教科書の該当ページを読んで下さい。 復習：講義プリントを利用してキーワードを十分に理解して下さい。	森谷
13	末梢神経系(脳神経、脊髄神経と神経叢)	予習：教科書の該当ページを読んで下さい。 復習：講義プリントを利用してキーワードを十分に理解して下さい。	森谷
14	末梢神経系(自律神経系)	予習：教科書の該当ページを読んで下さい。 復習：講義プリントを利用してキーワードを十分に理解して下さい。	森谷
15	中枢神経系と末梢神経系のとめ	予習・復習：これまでの学習内容について、教科書とプリントで要点整理をして下さい。	森谷
成績評価方法と基準			
①筆記試験(90%)			
②課題等の提出(10%)			
評価の具体的な内容については、初回講義時に説明します。			
			割合
			①90%
			②10%

授業科目名	人体の構造Ⅱ(工学) (Human Anatomy II)		
主担当教員	森谷 正之	担当教員 森谷 正之	
科目ナンバリング	SB104	専門基礎分野 サブプログラム 該当項目 DP②③	
配当年次	1	曜日・時限 月曜 2 限	
授業形態	演習	必修・選択 必修	
授業概要			
生理学・解剖学を含めた、人体に関する基本事項について学ぶ。当科目では感覚器系、体温調節、内分泌、生殖を取り扱う。			
到達目標			
感覚器を構成する要素の機能と形態について概要を説明できる。 体温調節の仕組みの概要について説明できる。 内分泌系の機能と形態について概要を説明できる。 生殖の仕組みと生殖器の機能と形態について概要を説明できる。			
履修上の注意(学生へのメッセージ)			
1)教科書と配布資料を用いて講義を行います。教科書は2冊を指定しています。講義時には2冊とも持参して下さい。また、課題の提出を遅らすので、必ず提出して下さい。 2)前期の「人体の構造Ⅰ」に密接に関連している事項を学習します。必要に応じて、前期の関連項目を十分に復習して下さい。 3)初回講義時に講義の進行について説明します。学習内容の特性を踏まえて、積極的に学習に取り組んで下さい。 4)「人体の機能Ⅱ」と共通の教科書で並行して講義が進行します。両科目での学習項目を十分に整理して理解するよう心掛けて下さい。			
教科書			
原田 祐子他 編集『人体の構造と機能(第4版)』医歯薬出版株式会社 坂井建夫、岡田隆夫『専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能①』医学書院			
参考書			
日本人体解剖学(南山堂)、人体解剖学(南江堂)、標準生理学(医学書院)、生理学テキスト(文光堂)など 研究室/オフィスアワー E_棟4階(研究室Ⅰ) 月曜日午後5時～午後7時、各日休みの時間帯は原則研究室に在室しています。			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	感覚器系(感覚器の一般的性質)	予習:教科書の該当ページを読んで下さい。 復習:講義プリントを利用してキーワードを十分に理解して下さい。 予習:教科書の該当ページを読んで下さい。 復習:講義プリントを利用してキーワードを十分に理解して下さい。	森谷
2	感覚器系(視覚)	予習:教科書の該当ページを読んで下さい。 復習:講義プリントを利用してキーワードを十分に理解して下さい。 予習:教科書の該当ページを読んで下さい。 復習:講義プリントを利用してキーワードを十分に理解して下さい。	森谷
3	感覚器系(聴覚、平衡覚)	予習:教科書の該当ページを読んで下さい。 復習:講義プリントを利用してキーワードを十分に理解して下さい。 予習:教科書の該当ページを読んで下さい。 復習:講義プリントを利用してキーワードを十分に理解して下さい。	森谷
4	感覚器系(味覚、嗅覚、体性感覚)	予習:教科書の該当ページを読んで下さい。 復習:講義プリントを利用してキーワードを十分に理解して下さい。 予習:教科書の該当ページを読んで下さい。 復習:講義プリントを利用してキーワードを十分に理解して下さい。	森谷
5	感覚器系(内臓感覚、痛覚)	予習:教科書の該当ページを読んで下さい。 復習:講義プリントを利用してキーワードを十分に理解して下さい。 予習:教科書の該当ページを読んで下さい。 復習:講義プリントを利用してキーワードを十分に理解して下さい。	森谷
6	感覚器系(まとめ)	予習:復習:これまでの学習内容について、教科書とプリントで要点整理して下さい。 予習:教科書の該当ページを読んで下さい。 復習:講義プリントを利用してキーワードを十分に理解して下さい。	森谷
7	体温調節(体温、体温の調節)	予習:講義プリントを利用してキーワードを十分に理解して下さい。 予習:教科書の該当ページを読んで下さい。 復習:講義プリントを利用してキーワードを十分に理解して下さい。	森谷
8	体温調節(体温の異常)	予習:教科書の該当ページを読んで下さい。 復習:講義プリントを利用してキーワードを十分に理解して下さい。 予習:教科書の該当ページを読んで下さい。 復習:講義プリントを利用してキーワードを十分に理解して下さい。	森谷
9	内分泌系(ホルモンの種類、ホルモン分泌の調節)	予習:教科書の該当ページを読んで下さい。 復習:講義プリントを利用してキーワードを十分に理解して下さい。 予習:教科書の該当ページを読んで下さい。 復習:講義プリントを利用してキーワードを十分に理解して下さい。	森谷

10	内分泌系(視床下部、下垂体、甲状腺、上皮小体、睪丸)	予習:教科書の該当ページを読んで下さい。 復習:講義プリントを利用してキーワードを十分に理解して下さい。 予習:教科書の該当ページを読んで下さい。 復習:講義プリントを利用してキーワードを十分に理解して下さい。	森谷
11	内分泌系(副腎皮質、副腎髓質、消化管のホルモン、腎臓のホルモン、性腺ホルモン、その他のホルモン)	予習:教科書の該当ページを読んで下さい。 復習:講義プリントを利用してキーワードを十分に理解して下さい。 予習:教科書の該当ページを読んで下さい。 復習:講義プリントを利用してキーワードを十分に理解して下さい。	森谷
12	生殖と老化(生殖とは、女性の生殖器系)	予習:教科書の該当ページを読んで下さい。 復習:講義プリントを利用してキーワードを十分に理解して下さい。 予習:教科書の該当ページを読んで下さい。 復習:講義プリントを利用してキーワードを十分に理解して下さい。	森谷
13	生殖と老化(男性の生殖器系、受精と発生)	予習:教科書の該当ページを読んで下さい。 復習:講義プリントを利用してキーワードを十分に理解して下さい。 予習:教科書の該当ページを読んで下さい。 復習:講義プリントを利用してキーワードを十分に理解して下さい。	森谷
14	生殖と老化(成長と老化)	予習:教科書の該当ページを読んで下さい。 復習:講義プリントを利用してキーワードを十分に理解して下さい。 予習:教科書の該当ページを読んで下さい。 復習:講義プリントを利用してキーワードを十分に理解して下さい。	森谷
15	体温調節、内分泌系、生殖と老化のまとめ	予習・復習:これまでの学習内容について、教科書とプリントで要点整理して下さい。	森谷
成績評価方法と基準			
①筆記試験(90%) ②課題等の提出(10%) 評価の具体的な内容については、初回講義時に説明します。			
割合 ①90% ②10%			

授業科目名	人体の機能Ⅰ(工学) (Human Physiology I)		
主担当教員	五十嵐 淳介	担当教員 五十嵐 淳介	
科目ナンバリング	SB105	ディプロマポリシー 該当項目 DP2②③	
配当年次	1	曜日・時間 水曜 4限	
授業形態	講義	必修・選択 必修	
授業概要	生理学・解剖学を含めた、人体に関する基本事項について学ぶ。当科目では自律機能(不随意機能)を有する臓器を中心に取り扱う。		
到達目標	ホメオスタシス(生体の恒常性)について説明できる。 体液の種類および、細胞の構造と機能のあらましを述べることができる。 血液と血管の働きを説明できる。 心臓と血管のあらましを説明できるとともに、循環調節について概説することができる。		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	1)授業態度について:集中して講義を聴講すること。毎回、講義スライドを印刷したプリントを配布する。それをもとに、各自が可能な限りノートを作成すること。講義中の私語は厳禁とする。私語を止められない者は退席させる。 2)予習・復習について:講義内容は膨大であるから、講義ごとの予習復習は必須である。科目の性質上、講義後に多くの疑問点が生じるはずである。いかなる内容でも歓迎するので、積極的に質問を行うこと。 3)練習問題について:第十四回目的の講義終了時に練習問題を配付する。補助教材として活用せよ。第十五回目の講義にて解答を回収する。提出の有無は評点の対象とする。 4)他科目との関連:当講義は別科目「人体の構造Ⅰ・人体の構造Ⅱ」と共通の教科書を用いて進める。内容も密接に関連しているので、並行して学習すること。		
教科書	人体の構造と機能 第4版 医歯薬出版株式会社 原田 玲子ほか編纂		
参考書	系統解剖学 解剖生理学 第9版 医学書院 坂井建雄ほか編纂 図表は指定教科書・参考書以外からも多数引用するが、個々の図表は可能な限り示す。発展学習を希望する者にはさらに高度な教科書を個別に推薦するので、申し出よ。		
研究室/オフィスアワー	研究室/オフィスアワー C棟七階研究室15。オフィスアワーは水曜5限(16:20~17:50)。 これ以外の時間に来章を希望する場合は事前予約の連絡を行うこと。講義時に口頭で、または随時電子メールにて受け付ける(junsuke_igarashi@morinomiya-u.ac.jp)。 オフィスアワー以外の来章であって予約がない場合、対応しないことがある。		
授業展開及び授業計画表	授業展開及び授業計画表		
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	自律機能性臓器による人体機能の調節	概要:前期・後期に取り扱う自律機能性臓器の働きを、臨床工学士の職分との関連を交えながら概観する 予習:要さない 復習:講義プリントを用いよ。在学中に自らが学ぶべき事項の多さを知れ。	
2	生体の恒常性	予習:教科書15~20ページ 復習:講義プリント、教科書21ページ	
3	体液	予習:教科書209~217ページ 復習:講義プリント、教科書218ページ	
4	血液(1):総論、赤血球	予習:教科書191~198ページ 復習:講義プリント	
5	血液(2):白血球、止血機構	予習:教科書198~205ページ 復習:講義プリント	
6	血液(3):血液型 生体防御(1):非特異的防御機構	予習:教科書206~207ページ、219~225ページ 復習:講義プリント、教科書208ページ	
7	生体防御(2):特異的防御機構、リンパ系器官	予習:教科書225~234ページ 復習:講義プリント、教科書235ページ	
8	中間試験	予習:第1~7回講義 復習:第1~7回講義	
9	循環器(1):循環器の概観、心臓の構造	予習:教科書153~159ページ 復習:講義プリント	

10	循環器(2):心周期、心電図	予習:教科書159~164ページ 復習:講義プリント	
11	循環器(3):血管の構造、血管の役割、肺循環、体循環	予習:教科書164~175ページ 復習:講義プリント	
12	循環器(4):血圧の成因、循環調節	予習:教科書181~187ページ 復習:講義プリント	
13	循環器(5):局所循環、胎児循環	予習:教科書175~180ページ 復習:講義プリント	
14	循環器(6):リンパ管	講義後に、練習問題を受け取れ 予習:教科書187~189ページ 復習:講義プリント、教科書190ページ	
15	練習問題	講義前に、練習問題解答を提出せよ 予習:第1~14回講義、練習問題 復習:第1~14回講義、練習問題	
成績評価方法と基準			割合
中間試験(論述式・マークシート式)			30%
期末定期試験(マークシート式)			60%
練習問題提出(第14~15回講義)			10%

授業科目名	人体の機能Ⅱ(工学) (Human Physiology II)		
主担当教員	五十嵐 淳介	五十嵐 淳介	
科目ナンバリング	SB106	専門基礎分野	
配当年次	1	後期	
授業形態	演習	単位数	
授業概要	1 必修・選択 必修 4 限		
生理学・解剖学を含めた、人体に関する基本事項について学ぶ。当科目では自律機能(不随意機能)を有する臓器を中心に取り扱う。	到達目標		
	呼吸力学とガスの運搬を概説できるとともに、呼吸調節について説明できる。		
	腎臓の働きについて説明できるとともに、体液調節の仕組みについて述べることができる。		
	消化器の働きを説明できるとともに、栄養素の消化・吸収について概説できる。		
	人体における代謝の仕組みについて説明できる		
	履修上の注意(学生へのメッセージ)		
	1)授業態度について:集中して講義を聴講すること。毎回、講義スライドを印刷したプリントを配布する。それをもとに、各自が可能な限り詳しくノートを作成すること。講義中の私語は厳禁とする。私語を止められない者は退席させる。		
	2)予習・復習について:講義内容は膨大であるから、講義ごとの予習復習は必須である。科目の性質上、講義後に多くの疑問点が生じるはずである。いかなる内容でも歓迎するので、積極的に質問を行うこと。		
	3)練習問題について:第十四回目的の講義終了時に練習問題を配付する。補助教材として活用せよ。第十五回目の講義にて解答を回収する。提出の有無は評点の対象とする。		
	4)他科目との関連:当講義は別科目「人体の構造Ⅰ・人体の構造Ⅱ」と共通の教科書をを用いて進める。内容も密接に関連しているのので、並行して学習すること。		
教科書	人体の構造と機能 第4版 医歯薬出版株式会社 原田 玲子ほか編集		
参考書	系統看護学講座 解剖生理学 第9版 医学書院 坂井建雄ほか編集		
図表は指定教科書・参考書以外からも多数引用するが、個々の出典は可能な限り示す。発展学習を希望する者にはさらに高度な教科書を個別に推薦するので、申し出よ。	研究室/オフィスアワー		
	C棟七階研究室15。オフィスアワーは水曜五限(16:20~17:50)。		
	これ以外の時間に来室を希望する場合は事前予約の連絡を行うこと。講義時に口頭で、または随時電子メールにて受け付ける(junsuke.igarashi@morinomiya-u.ac.jp)。		
	オフィスアワー以外の来室であって予約がない場合、対応しないことがある。		
授業展開及び授業計画表	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	呼吸器(1):概観、上気道	予習:教科書237~245ページ 復習:講義プリント	
2	呼吸器(2):肺、換気力学	予習:教科書245~252ページ 復習:講義プリント	
3	呼吸器(3):ガスの交換と輸送	予習:教科書252~255ページ 復習:講義プリント	
4	呼吸器(4):呼吸の調節	予習:教科書256~260ページ 復習:講義プリント、教科書261ページ	
5	腎臓(1):ネフロン、腎機能の測定	予習:教科書311~326ページ 復習:講義プリント	
6	腎臓(2):腎機能の調節、蓄尿と排尿	予習:教科書311~326ページ 復習:講義プリント、教科書327ページ	
7	酸塩基平衡	予習:教科書209~217ページ 復習:講義プリント、教科書218ページ	
8	中間試験	予習:第1~7回講義 復習:第1~7回講義	
9	消化器(1):概観、上部消化管	予習:教科書263~269ページ 復習:講義プリント	
10	消化器(2):消化管の運動 (指定教科書とは異なる構成とする)	予習:教科書269~288ページ 復習:講義プリント	
11	消化器(3):消化管の分泌 (指定教科書とは異なる構成とする)	予習:教科書269~288ページ 復習:講義プリント	

12	消化器(4):栄養素の消化と吸収 (指定教科書とは異なる構成とする)	予習:教科書269~288ページ 復習:講義プリント、教科書289ページ	
13	代謝(1):栄養素の代謝	予習:教科書291~308ページ 復習:講義プリント	
14	代謝(2):生体物質の代謝	講義後に、練習問題を受け取れ 予習:教科書291~308ページ 復習:講義プリント、教科書309ページ	
15	練習問題	講義前に、練習問題解答を提出せよ 予習:第1~14回講義、練習問題 復習:第1~14回講義、練習問題	
成績評価方法と基準			
	中間試験(論述式・マークシート式)		割合
	期末定期試験(マークシート式)		30%
	練習問題提出(第14~15回講義)		60%
			10%

授業科目名		生化学(工学) (Biochemistry)	
主担当教員	森 誠司	担当教員	森 誠司
科目ナンバリング	SB107	科目区分	専門基礎分野
配当年次	1	開講学期	前期
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	<p>生化学は生命現象を分子レベルで学ぶ学問である。糖質、アミノ酸、タンパク質、脂質、核酸などの主要な生体構成物質の構造と機能について学び、生命が多様な物質より構成されていることを理解する。またこれら人体を構成している化学物質の生体内での生物化学反応と生命維持との関わりについて学ぶ。</p>		
到達目標	<p>生体を構成する糖質、タンパク質、脂質といった分子の構造と性質について理解する。 生体内での化学反応、すなわち酵素反応について理解する。 糖質、脂質、アミノ酸、核酸の代謝経路を理解する。 ミトコンドリアにおけるエネルギー代謝を理解する。 それぞれの代謝経路の相互関係と調節機構を理解する。</p>		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	高校までの生物と化学について復習しておくこと。		
教科書	シンブル生化学 (南江堂)		
参考書	マッキー生化学 (化学同人) リップンウッドシリーズイラストレイテッド生化学 (丸善) カラーイラストで学ぶ集中講義 生化学 (メジカルビュー社) 研究室/オフィスアワー		
随時	随時		
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	糖の定義と分類	予習：糖とはなにか調べてくる 復習：重要事項をノートにまとめる	
2	単糖類、オリゴ糖類、多糖類	予習：前回の講義を理解しておく 復習：重要事項をノートにまとめる	
3	脂質の定義と分類	予習：前回の講義を理解しておく 復習：重要事項をノートにまとめる	
4	脂肪酸の基本的な構造と性質	予習：前回の講義を理解しておく 復習：重要事項をノートにまとめる	
5	アミノ酸の構造と性質	予習：前回の講義を理解しておく 復習：重要事項をノートにまとめる	
6	アミノ酸の構造と性質	予習：前回の講義を理解しておく 復習：重要事項をノートにまとめる	
7	核酸とヌクレオチドの構造と性質	予習：前回の講義を理解しておく 復習：重要事項をノートにまとめる	
8	酵素の構造と性質	予習：前回の講義を理解しておく 復習：重要事項をノートにまとめる	
9	酵素反応の調節	予習：前回の講義を理解しておく 復習：重要事項をノートにまとめる	

10	糖質の代謝・解糖系・糖新生・ペントースリン酸回路	予習：前回の講義を理解しておく 復習：重要事項をノートにまとめる	
11	クエン酸回路・電子伝達系	予習：前回の講義を理解しておく 復習：重要事項をノートにまとめる	
12	脂肪酸の分解・脂肪酸の生成	予習：前回の講義を理解しておく 復習：重要事項をノートにまとめる	
13	アミノ酸の分解	予習：前回の講義を理解しておく 復習：重要事項をノートにまとめる	
14	アミノ酸から合成される生体物質	予習：前回の講義を理解しておく 復習：重要事項をノートにまとめる	
15	ヌクレオチドの代謝分解と再生経路	予習：前回の講義を理解しておく 復習：重要事項をノートにまとめる	
成績評価方法と基準			割合
期末試験			100%

授業科目名	病理学(工学) (Pathology)		
主担当教員	安部 辰夫	担当教員	安部 辰夫
科目ナンバリング	SB108	科目区分	専門基礎分野
配当年次	2	開講学期	前期
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	学生が将来臨床の現場に立つ時に目の当たりにする疾患を中心に、その病因や成り立ち、病態を理解できるように、さまざまな疾患についての詳細な説明と演習を行う。		
到達目標	学生が将来臨床の現場に立つ時に目の当たりにする疾患について、その病因や成り立ち、病態を理解する。		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	病理学の専門用語やいろいろな病態に対する概念は、他の医学分野でも共通に用いられるものである。それらをしっかりと理解し、自らも用いることができ、かつ的確に表現できなければならない。そのためにはそれら授業に理解し、記憶に留めておかなければならない。		
教科書			
疾病のなりたちと回復の促進	病理学	医学書院	
参考書			
「新病理学(Gシリーズ)」	日本医事新報社		
研究室/オフィスアワー			
火曜日から金曜日 在室	イーストポート4階	研究室20	

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	病理学の概要	予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
2	病因論	予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
3	退行性病変	予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
4	進行性病変	予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
5	循環障害	予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
6	免疫	予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
7	炎症	予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
8	感染症	予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	

9	腫瘍	予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
10	腫瘍2	予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
11	放射線障害	予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
12	老化	予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
13	先天異常	予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
14	総論のまとめと振り返り1	予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
15	総論のまとめと振り返り2	予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
成績評価方法と基準			割合
①期末試験			①100%

授業科目名		免疫学(工学)	
主担当教員	安部 辰夫	担当教員	安部 辰夫
科目ナンバリング	SB109	専門基礎分野	ディプロマポリシー 該当項目
配当年次	2	開講学期	前期
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	臨床工学技士に求められる免疫学を体系的に学習する		
到達目標	臨床の現場で必要とされる免疫学的知識から国家試験で出題される免疫学的知識までを理解する		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	はじめて聞く用語や概念が難々出てくるため、予習復習は欠かせない。		
教科書	「図説 免疫学入門」 東京化学同人		
参考書	「免疫生物学」 南江堂		
研究室/オフィスアワー	研究室/オフィスアワー		
火曜日から金曜日まで	イーストポート4階 研究室 1		
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	免疫に基本構造	予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておきたい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
2	自然免疫	予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておきたい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
3	獲得免疫	予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておきたい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
4	抗原レセプター	予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておきたい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
5	抗原提示	予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておきたい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
6	リンパ球の分化	予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておきたい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
7	抗体の構造と種類	予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておきたい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
8	抗体遺伝子再構成	予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておきたい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	

9	サイトカインの機能	予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておきたい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
10	免疫不全	予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておきたい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
11	アレルギーの分類1	予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておきたい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
12	アレルギーの分類2	予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておきたい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
13	移植免疫	予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておきたい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
14	自己免疫疾患	予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておきたい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
15	腫瘍免疫	予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておきたい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
成績評価方法と基準			割合
①期末試験			①100%

授業科目名	薬理学(工学) (Pharmacology)		
主担当教員	五十嵐 淳介	担当教員 五十嵐 淳介	
科目ナンバリング	SB110	ディプロマポリシー 該当項目 DP①②	
配当年次	2	後期 金曜 5限	
授業形態	講義	単位数 2 必修・選択 必修	
授業概要	疾病の治療や予防に用いられる薬物に関する基本的な知識を修得することで、薬物を用いた医療行為の円滑な実践と、薬物による医療事故の防止を実践できるようにする。		
到達目標	1. 主要な薬物の作用機序を理解する。 2. 主要な薬物の主な作用と重篤な副作用についての知識を得る。 3. 薬物の適正な使い方を、事例を通して理解する。		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	1) 授業態度について: 集中して講義を聴講すること。毎回、講義スライドを印刷したプリントを配布する。それをもとに、各自が可能な限り採寸ノートを作成すること。講義中の私語は厳禁とする。私語を止められない者は退席させる。 2) 予習・復習について: 講義内容は膨大であるから、講義ごとの予習復習は必須である。科目の性質上、講義後に多くの疑問点が生じるはずである。いかなる内容でも教習するので、積極的に質問を行うこと。 3) 練習問題について: 第十四回目的の講義終了時に練習問題を配付する。補助教材として活用せよ。第十五回目的の講義にて解答を回収する。提出の有無は評点の対象とする。		
教科書	カラーイラストで学ぶ 集中講義 薬理学 改訂2版 ISBN978-4-7583-0096-4		
参考書	指定しない。ただし、講義では指定教科書以外からも多数の図を引用する。出典は可能な限り示す。希望者にはさらに高度な文献を与えるので、申し出よ。		
研究室/オフィスアワー	研究室/オフィスアワー C棟七階研究室15。オフィスアワーは水曜5限(16:20~17:50)。 これ以外の時間に来室を希望する場合は事前予約の連絡を行うこと。講義時に口頭で、または随時電子メールにて受け付ける(junsuke.igarashi@morinomiyu.ac.jp)。 オフィスアワー以外の来室であって予約がない場合、対応しないことがある。		
授業展開及び授業計画表	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	薬理学総論(1)	予習:教科書 2-19 ページ 復習:講義プリント	
2	薬理学総論(2)	予習:教科書 2-19 ページ 復習:講義プリント	
3	自律神経・骨格筋支配薬	予習:教科書 20-35 ページ 復習:講義プリント	
4	中枢神経作用薬	予習:教科書 40-49 ページ 復習:講義プリント	
5	循環器作用薬(1)	予習:教科書 56-71 ページ 復習:講義プリント	
6	循環器作用薬(2)	予習:教科書 56-71 ページ 復習:講義プリント	
7	抗炎症薬・呼吸器作用薬	予習:教科書 74-87 ページ 復習:講義プリント	
8	消化器作用薬・腎臓作用薬	予習:教科書 88-97 ページ 復習:講義プリント	
9	代謝作用薬	予習:教科書 102-111 ページ 復習:講義プリント	
10	血液作用薬	予習:教科書 118-125 ページ 復習:講義プリント	
11	抗感染症薬(1)	予習:教科書 126-149 ページ 復習:講義プリント	
12	抗感染症薬(2)	予習:教科書 126-149 ページ 復習:講義プリント	
13	臨床薬理(1)	予習:教科書 160-189 ページ 復習:講義プリント	

14	臨床薬理(2)	講義後に、練習問題を受け取れ 予習:教科書 160-189 ページ 復習:講義プリント	
15	練習問題	講義前に、練習問題解答を提出せよ 予習?第1~14回講義、練習問題 復習?第1~14回講義、練習問題	
成績評価方法と基準			割合
期末定期試験(マークシート式)			90%
練習問題提出(第14~15回講義)			10%

看護学概論(工学) (Introduction to Nursing)			
授業科目名	伊津美 孝子	担当教員	伊津美 孝子
主担当教員	伊津美 孝子	専門基礎分野	タイプロマトリナー 該当項目
科目ナンバリング	SB111	科目区分	DP①②
配当年次	2	開講学期	火曜 3限 水曜 5限
授業形態	講義	単位数	1
授業概要	必修・選択		
到達目標	看護を担う者としてまた、質の高い多職種連携を行なうためには、共に協働する専門職者がそれぞれの役割や必要な能力を理解することは重要である。本講義では、国民の健康や生活に貢献し、健康とは何か、看護の対象は誰なのか、看護の目的や方法など実践的学習としての看護についての看護について全体像を概観する。また、医療事故など医療安全や倫理、施設についても考えていく。		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	1. 国民の健康・生活の全体像を把握できる 2. 人間の基本的欲求と日常生活の関連が理解できる 3. 健康とは何か、看護の対象と家族について理解できる 4. 看護とは何か、看護の役割と機能について理解できる 5. 倫理、医療安全、施設について理解できる 6. 看護活動について理解できる 7. 看護実践について理解できる		
教科書	1. 身近な経験を通して看護を考えてみる 2. 専門職を担う者として看護について理解する 3. 講義資料は配布するためよく読んでおく 4. 他職種連携について自己の役割について考えてみる		
使用しない			
参考書			
系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学① 看護学概論 医学書院			
研究室/オフィスアワー			
WP432 随時			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	教科ガイダンス 国民の健康と生活の全体像の把握① 健康とは何か、障害とは何か、生活と健康	予習：人間にとっての健康とは何か	伊津美孝子
2	国民の健康と生活の全体像の把握② ライフサイクルと健康・生活について	予習：人間のライフサイクルについて	伊津美孝子
3	人間の基本的欲求と日常生活	予習：人間の基本的欲求について	伊津美孝子
4	看護とは何か	予習：看護とは何か	伊津美孝子
5	看護の対象の理解 家族とは何か	予習：看護の対象、家族について	伊津美孝子
6	倫理、医療事故と安全	予習：現代社会と倫理について	伊津美孝子
7	看護提供のしくみ	予習：看護提供のしくみについて	伊津美孝子
8	看護活動	予習：看護の活動領域について	伊津美孝子
成績評価方法と基準			割合
	①課題レポート/看護学概論を学修して考えたこと、副題は自分をつける 詳細については、別途指示する		① 90%
	②事前課題		② 10%

基礎医学実習(工学 A)			
授業科目名	片山 俊郎	担当教員	片山 俊郎、西垣 孝行、布江田 友理
主担当教員	片山 俊郎	専門基礎分野	タイプロマトリナー 該当項目
科目ナンバリング	SB112	科目区分	DP①②
配当年次	2	開講学期	月曜 2限 月曜 3限
授業形態	実習	単位数	1
授業概要	必修・選択		
到達目標	①生理機能測定、測定法やその技術を学び、得られた結果からその生理学的意義について理解する。 ②生体構成主要成分である糖質・脂質・タンパク質・核酸について、それぞれの構造・性質・代謝を、実習を通して理解する。		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	①生体の働きについてのメカニズムの基本的事項を、人体構造学の知識を基礎に人体の生理機能を理解させる事を目標とする。 ②生体構成主要成分である糖質・脂質・タンパク質・核酸について、それぞれの構造・性質・代謝を、実習を通して理解する。		
教科書	あらかじめ実習書・講義資料・教科書などを参考に、実習内容について十分下調べを行った上で、目的意識を持って積極的に実習に臨んでください。無断の遅刻・欠席は厳禁です。		
オリエンテーション時に実習書を配布します。			
参考書			
1年及び2年前期までに開講された人体の構造、人体の機能、生化学及び病理学の教科書・講義資料			
研究室/オフィスアワー			
各実習担当のオフィスアワー			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	臨床工学科担当教員カンファレンス(実習書の説明、随修方法について)	予習：シラバスの確認 復習：実習書の熟読・実習準備	片山、西垣、 布江田
2	【生理機能実習】心臓・循環・呼吸機能の演習・実習	予習：実習書の熟読・実習準備 復習：レポート作成	片山、西垣、 布江田
3	【生理機能実習】心臓・循環・呼吸機能の演習・実習	予習：実習書の熟読・実習準備 復習：レポート作成	片山、西垣、 布江田
4	【生理機能実習】心臓・循環・呼吸機能の演習・実習	予習：実習書の熟読・実習準備 復習：レポート作成	片山、西垣、 布江田
5	【生理機能実習】心臓・循環・呼吸機能の演習・実習	予習：実習書の熟読・実習準備 復習：レポート作成	片山、西垣、 布江田
6	【生理機能実習】心臓・循環・呼吸機能の演習・実習	予習：実習書の熟読・実習準備 復習：レポート作成	片山、西垣、 布江田
7	【生理機能実習】心臓・循環・呼吸機能の演習・実習	予習：実習書の熟読・実習準備 復習：レポート作成	片山、西垣、 布江田
8	臨床検査学科担当教員カンファレンス(実習書の説明、随修方法について)	予習：シラバスの確認 復習：実習書の熟読・実習準備	片山、西垣、 布江田
9	【生理機能実習】超音波診断装置の講義・実習	予習：実習書の熟読・実習準備 復習：レポート作成	脇
10	【生化学実習】糖質・グルコース測定	予習：実習書の熟読・実習準備 復習：レポート作成	脇
11	【生化学実習】蛋白質・総蛋白測定	予習：実習書の熟読・実習準備 復習：レポート作成	森、小林
12	【生化学実習】脂質・中性脂肪測定	予習：実習書の熟読・実習準備 復習：レポート作成	森、小林
13	【生化学実習】非蛋白性窒素・クレアチニン測定	予習：実習書の熟読・実習準備 復習：レポート作成	森、小林
14	【病理学実習】組織標本の顕微鏡観察	予習：実習書の熟読・実習準備 復習：レポート作成	川畑
15	予備日	予習：レポート作成 復習：	片山、西垣、 布江田

成績評価方法と基準	割合
【臨床工学科教員】 ①平常点評価(受講態度、発表内容、議論への貢献度など) ②課題評価(レポート提出、内容など) 【臨床検査学科教員】 ①平常点評価(受講態度、発表内容、議論への貢献度など) ②課題評価(レポート提出、内容など) 出席基準:4/5以上	【臨床工学科教員】 ①30% ②20% 【臨床検査学科教員】 ①30% ②20%

授業科目名	基礎医学実習(工学B)	
主担当教員	片山 俊郎	担当教員 片山 俊郎、西垣 孝行、布江田 友理
科目ナンバリング	SB112	専門基礎分野 ディプロマポリシー 該当項目 DP①②
配当年次	2	後期 曜日・時限 月曜2限 月曜3限
授業形態	実習	必修・選択 1 必修
授業概要	<p>①生理機能を測定し、測定法やその技術を学び、得られた結果からその生理学的意義について理解する。 ②生体構成主要成分である脂質・脂質・タンパク質・核酸について、それぞれ、構造・性質・代謝を、実習を通して理解する。</p> <p>到達目標</p> <p>①生体の働きについてのメカニズムの基本的事項を、人体構造学の知識を基盤に人体の生理機能を理解させる事を目標とする。 ②生物体を構成する物質の構造、性質、機能、分布、存在状態などを学び、物質の示す生物学的機能と化学構造との関係や生命現象における意義について理解することを目的とする。</p> <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>あらかじめ実習書・講義資料・教科書などを参考に、実習内容について十分下調べを行った上で、目的意識を持って積極的に実習に臨んでください。無断の遅刻・欠席は厳禁です。</p> <p>教科書</p> <p>オリエンテーション時に実習書を配布します。</p> <p>参考書</p> <p>1年及び2年前期までに開講された人体の構造、人体の機能、生化学及び病理学の教科書・講義資料</p> <p>研究室/オフィスアワー</p> <p>各実習担当のオフィスアワー</p>	

授業展開及び授業計画表	回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	臨床工学科担当教員カンファレンス(実習書の説明、履修方法について)	予習:シラバスの確認 復習:実習書の熟読・実習準備	片山、西垣、布江田	
2	【生理機能実習】(心臓・循環・呼吸機能の演習・実習)	予習:実習書の熟読・実習準備 復習:レポート作成	片山、西垣、布江田	
3	【生理機能実習】(心臓・循環・呼吸機能の演習・実習)	予習:実習書の熟読・実習準備 復習:レポート作成	片山、西垣、布江田	
4	【生理機能実習】(心臓・循環・呼吸機能の演習・実習)	予習:実習書の熟読・実習準備 復習:レポート作成	片山、西垣、布江田	
5	【生理機能実習】(心臓・循環・呼吸機能の演習・実習)	予習:実習書の熟読・実習準備 復習:レポート作成	片山、西垣、布江田	
6	【生理機能実習】(心臓・循環・呼吸機能の演習・実習)	予習:実習書の熟読・実習準備 復習:レポート作成	片山、西垣、布江田	
7	【生理機能実習】(心臓・循環・呼吸機能の演習・実習)	予習:実習書の熟読・実習準備 復習:レポート作成	片山、西垣、布江田	
8	臨床検査学科担当教員カンファレンス(実習書の説明、履修方法について)	予習:シラバスの確認 復習:実習書の熟読・実習準備	脇	
9	【生理機能実習】(超音波診断装置の講義・実習)	予習:実習書の熟読・実習準備 復習:レポート作成	脇	
10	【生化学実習】(糖質・グルコース測定)	予習:実習書の熟読・実習準備 復習:レポート作成	森、小林	
11	【生化学実習】(蛋白質・総蛋白測定)	予習:実習書の熟読・実習準備 復習:レポート作成	森、小林	
12	【生化学実習】(脂質・中性脂肪測定)	予習:実習書の熟読・実習準備 復習:レポート作成	森、小林	
13	【生化学実習】(非蛋白性窒素:クレアチニン測定)	予習:実習書の熟読・実習準備 復習:レポート作成	森、小林	
14	【病理学実習】(組織標本の顕微鏡観察)	予習:実習書の熟読・実習準備 復習:レポート作成	川畑	
15	予備日	予習:レポート作成 復習:	片山、西垣、布江田	

成績評価方法と基準	割合
【臨床工学科教員】 ①平常点評価(受講態度、発表内容、議論への貢献度など) ②課題評価(レポート提出、内容など) 【臨床検査学科教員】 ①平常点評価(受講態度、発表内容、議論への貢献度など) ②課題評価(レポート提出、内容など) 出席基準:4/5以上	【臨床工学科 教員】 ①30% ②20% 【臨床検査学 科教員】 ①30% ②20%

授業科目名	医用工学(工学)	
主担当教員	片山 俊郎	担当教員 片山 俊郎、布江田 友理
科目ナンバリング	SB113	専門基礎分野 DP①
配当年次	1	開講学期 前期 月曜2限
授業形態	講義	単位数 2 必修・選択 必修
授業概要	医用工学は医学と工学の融合された学問で、この歴史的發展を追いながら、生体情報の収集・分析に使用される生体計測機器の原理、構造、特徴、安全対策を講義した後、臨床工学技士業務で使用する治療機器、生体機能代行装置の使用目的、原理、構造、特徴について教授する。	
到達目標	医用工学の領域と意義、生体の構造・機能の特徴概要について説明できる。 様々な医療機器について知り、その原理や用途についての概要が説明できる。	
履修上の注意(学生へのメッセージ)	履修上の注意(学生へのメッセージ)	
教科書の「授業計画」欄に記載されている内容に相当する部分を予め読み、講義後は、疑問点を放置せず、自ら解決できるように努力し、授業内容を自分自身の言葉でまとめ直すこと。		
教科書		
「イラスト図解医療機器と検査・治療のしくみ」日本実業出版社		
参考書		
講義中に紹介		
研究室/オフィスアワー		
適宜相談に応じる		
授業展開及び授業計画表		
回数	学修内容	予習・復習・課題等 担当
1	医用工学の歴史と発展	予習:シラバス確認・講義内容の把握 復習:キーワード確認・講義ノートの完成 片山
2	生体の構造と物理化学的特性	予習:シラバス確認・講義内容の把握 復習:キーワード確認・講義ノートの完成 片山
3	生体情報の計測法:センサ等	予習:シラバス確認・講義内容の把握 復習:キーワード確認・講義ノートの完成 片山
4	生体電気現象の計測 1:心電計	予習:シラバス確認・講義内容の把握 復習:キーワード確認・講義ノートの完成 片山
5	生体電気現象の計測 2:脳波計・筋電計	予習:シラバス確認・講義内容の把握 復習:キーワード確認・講義ノートの完成 片山
6	生体物理現象の計測:血圧・心音	予習:シラバス確認・講義内容の把握 復習:キーワード確認・講義ノートの完成 片山
7	生体化学現象の計測:pH・O ₂	予習:シラバス確認・講義内容の把握 復習:キーワード確認・講義ノートの完成 片山
8	生体を媒体とする計測:医用画像診断装置	予習:シラバス確認・講義内容の把握 復習:キーワード確認・講義ノートの完成 片山
9	治療機器 1:電気メス	予習:シラバス確認・講義内容の把握 復習:キーワード確認・講義ノートの完成 布江田
10	治療機器 2:除細動器・AED	予習:シラバス確認・講義内容の把握 復習:キーワード確認・講義ノートの完成 布江田
11	治療機器 3:ペースメーカー	予習:シラバス確認・講義内容の把握 復習:キーワード確認・講義ノートの完成 布江田
12	治療機器 4:輸液ポンプ・シリンジポンプ	予習:シラバス確認・講義内容の把握 復習:キーワード確認・講義ノートの完成 布江田
13	生体機能代行装置 1:血液浄化装置	予習:シラバス確認・講義内容の把握 復習:キーワード確認・講義ノートの完成 布江田
14	生体機能代行装置 2:人工心臓装置	予習:シラバス確認・講義内容の把握 復習:キーワード確認・講義ノートの完成 布江田
15	生体機能代行装置 3:人工呼吸器	予習:シラバス確認・講義内容の把握 復習:キーワード確認・講義ノートの完成 布江田

成績評価方法と基準	割合
【片山】 ①平常点評価(受講態度、講義ノートの確認) ②試験評価	片山: ①30% ②70%
【布江田】 ①平常点評価(受講態度、講義ノートの確認、小テスト) ②試験評価	布江田: ①30% ②70%

授業科目名	数学演習(工学)		担当教員	片山 俊郎	片山 俊郎
主担当教員	片山 俊郎	科目区分	専門基礎分野	ディプロマポリシー 該当項目	DP①
科目ナンバリング	SB114	開講学期	後期	曜日・時限	木曜2限
配当年次	1	単位数	1	必修・選択	必修
授業形態	演習				
授業概要	医学・医療で必要とされる微積分を本格的に学ぶために、必要な内容を高校の数学課程の枠組みにとらわれずに再構成し、なるべく素早く微積分の入口に到達できるように問題演習を中心とした講義を行います。				
到達目標	医学・医療に起こる現象や問題を数式で表現することにより問題点を象証的に明示し、それによって、論理的に将来を予測／対応する数理的思考能力を身につけるための準備を整えることを目標とします。				
履修上の注意(学生へのメッセージ)	履修上の注意(学生へのメッセージ)				
高校から大学の教育課程までの数学を1学期間で駆け抜けるというスピードについていけなくなるので、この授業を受講する前後に各自でしっかり予習・復習をすることが求められ、毎回小テストを行います。					
教科書					
使用しない					
講義毎に問題と資料を配布					
参考書	高校数学課程の教科書、参考書				
研究室／オフィスアワー					
担当教員に確認すること					
授業展開及び授業計画表					
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当		
1	授業形態の説明、中学数学の確認テスト	予習: 復習:テスト内容の確認	片山		
2	クイズを数学で解くI	予習: 復習:クイズ内容の確認	片山		
3	方程式と関数	予習:方程式と関数の予習 復習:3回問題の復習	片山		
4	図形と方程式	予習:図形と方程式の予習 復習:4回問題の復習	片山		
5	ベクトルと複素数	予習:ベクトルと複素数の予習 復習:5回問題の復習	片山		
6	クイズを数学で解くII	予習: 復習:クイズの確認	片山		
7	三角関数	予習:三角関数の予習 復習:7回問題の復習	片山		
8	指数関数と対数関数	予習:指数関数と対数関数の予習 復習:8回問題の復習	片山		
9	クイズを数学で解くIII	予習: 復習:クイズの確認	片山		
10	微分とは	予習:微分の予習 復習:10回問題の復習	片山		
11	微分の使い方	予習:微分の予習 復習:11回問題の復習	片山		
12	積分とは	予習:積分の予習 復習:12回問題の復習	片山		
13	積分の使い方	予習:積分の予習 復習:13回問題の復習	片山		
14	微分法と積分法	予習:微分法と積分法の予習 復習:14回問題の復習	片山		
15	講義全体のまとめ	予習:使用した全問題の復習 復習:使用した全問題の復習	片山		

成績評価方法と基準	割合 ①50% ②20% ③30%
成績評価の種別: ①筆記試験 ②小テスト ③平常点(問題演習への取り組み等)	
成績評価の基準: 筆記試験、小テスト、平常点を総合して評価し、60点以上を可とする	

授業科目名	応用数学(工学)		
主担当教員	片山 俊郎	担当教員 片山 俊郎	
科目ナンバリング	SB115	科目区分 専門基礎分野	
配当年次	2	開講学期 前期	
授業形態	講義	単位数 2	
授業概要	<p>随伴工学士の国家試験や在学中に受験可能な第2種 ME 検定、更には随伴工学士士となつてからも各種認定試験の資格取得では多くの計算問題が出題される。この講義では、微分方程式の数学的解法やラプラス変換による解法任意について学習し、実際の現象に数学を適用する応用力を身につける。</p> <p>到達目標</p> <p>電気工学で必要となる三角関数、指数関数、対数関数について復習し、複素数を使った交流の表記法及び周波数特性について理解し、必要とされる微分・積分の具体的な計算を体得し、過渡特性と微分方程式との関係を理解し、微分方程式を解析する手法としてのラプラス変換を行う。次に、任意の波形を数学的に表記するフーリエ級数についても学習する。</p> <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>講義内容に従って、理解を深めるための演習を行うので、復習を忘れないように行い、講義内容で分かつたことと分かつたことを明確にし、分らないことは質問すること。</p> <p>教科書</p> <p>使用しない</p> <p>講義毎に問題と資料を配布</p> <p>参考書</p> <p>電気工学・電子工学の教科書、参考書 「基礎科学のための数学的手法」、小田垣孝著、裳華房</p> <p>研究室/オフィスアワー</p> <p>南棟7階研究室21/電気がついていれば在室です。質問があればいつでもどうぞ。</p>		
授業展開及び授業計画表			
回数	学習内容	予習・復習・課題等 担当	
1	【指数と対数】(指数と対数は、臨床工学分野では必須の概念であり、電気工学での指数と対数を理解し応用できる。)	予習: 数学演習の資料の確認 復習: テスト・課題内容の確認	片山
2	【複素数と三角関数(1)】(複素数について復習し、三角関数との関係を説明できる。)	予習: 数学演習の資料の確認 復習: テスト・課題内容の確認	片山
3	【複素数と三角関数(2)】(複素数について習し、三角関数との関係を説明できる。)	予習: 複素空間の予習 復習: テスト・課題内容の確認	片山
4	【微分法(1)】(電気回路において用いられる微分を理解し、微分法を応用できる。)	予習: 数学演習の資料と電気回路の確認 復習: テスト・課題内容の確認	片山
5	【微分法(2)】(電気回路において用いられる微分を理解し、微分法を応用できる。)	予習: 数学演習の資料と電気回路の確認 復習: テスト・課題内容の確認	片山
6	【積分法(1)】(電気回路において用いられる積分を理解し、積分法を応用できる。)	予習: 数学演習の資料と電気回路の確認 復習: テスト・課題内容の確認	片山
7	【積分法(2)】(電気回路において用いられる積分を理解し、積分法を応用できる。)	予習: 数学演習の資料と電気回路の確認 復習: テスト・課題内容の確認	片山
8	【微分方程式(1)】(微分方程式を解くことで過渡現象を理解し、時定数を説明できる。)	予習: 微分法・積分法の確認 復習: テスト・課題内容の確認	片山
9	【微分方程式(2)】(微分方程式を解くことで過渡現象を理解し、時定数を説明できる。)	予習: 微分法・積分法の確認 復習: テスト・課題内容の確認	片山
10	【ラプラス変換(1)】(微分方程式をラプラス変換で解き、システム制御を説明できる。)	予習: 微分方程式の確認 復習: テスト・課題内容の確認	片山
11	【ラプラス変換(2)】(微分方程式をラプラス変換で解き、システム制御を説明できる。)	予習: 微分方程式の確認 復習: テスト・課題内容の確認	片山
12	【周波数応答(1)】(電気回路において用いられる周波数特性を理解し、周波数応答に應用する。)	予習: 電気回路の確認 復習: テスト・課題内容の確認	片山
13	【周波数応答(2)】(電気回路において用いられる周波数特性を理解し、周波数応答に應用する。)	予習: 電気回路の確認 復習: テスト・課題内容の確認	片山

14	【周波数応答(3)】(電気回路において用いられる周波数特性を理解し、周波数応答に応用する。)	予習: 電気回路の確認 復習: テスト、課題内容の確認	片山
15	まとめ	予習: 使用した全問題の確認 復習: 使用した全問題の復習	片山
成績評価方法と基準			
成績評価の種別: 1.筆記試験、2.小テスト、3.平常点(問題演習への取り組み等)			
成績評価の基準: 筆記試験、小テスト、平常点を総合して評価し、60点以上を可とする 出席基準: 2/3回			

授業科目名	応用物理学(工学)		
主担当教員	稲田 慎	担当教員	稲田 慎
科目ナンバリング	SB116	科目区分	専門基礎分野
配当年次	2	開講学期	前期
授業形態	演習	単位数	1
授業概要	医療機器を扱う臨床工学技士は、生体計測や治療において、エネルギーの生体への作用を安全かつ効果的に行うために、人体生理の機序や医用機器の動作原理を熟知している必要がある。そのための基礎となる科目が物理学や電気工学である。物理学を学ぶ目的の一つは、少数の原理を用いて多様な現象を理解、説明すること、理學・工學的思考法を習得することである。応用物理学では、物理学や電気工学など、これまでに学んだ基礎科目と生体現象や医療機器とがどのように関係しているかを理解し、説明できるようにすることを目標とする。		

到達目標

1. 基本単位、組立単位について理解し、説明することができる
2. 簡単な運動、電気回路について微分方程式を立て、解くことができる
3. ポンプの原理について理解し、説明することができる
4. 熱に関連した素子、測定機器について理解し、説明することができる
5. 生体計測に必要なフィルタ回路、インピーダンス整合について理解し、説明することができる
6. 電極の等価回路など、現実の複雑な問題を単純化して考える手法を理解し、説明することができる
7. 音波に関する特性と音波の医療への応用について理解し、説明する

履修上の注意(学生へのメッセージ)

毎回、前回の講義内容に関する演習を行う。そのため、復習をしっかりすること、理解が不十分な項目については早めに質問し、理解できるように努力すること。

教科書

使用しない、毎回、資料を配付する。

参考書

必要に応じて参考書を紹介する。

研究室/オフィスアワー

オフィスアワーは本曜日 1 時限とするが、オフィスアワー以外であっても、研究室に在室であれば、随時、質問等を受け付ける。ただし、状況によっては対応できないこともある。そのため、事前にメール等で連絡を行うことを希望する。

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	授業形態の説明、物理の基礎に関する小テスト	復習: 小テストの復習	稲田
2	基本単位、組立単位、次元解析、接頭辞	復習: 講義内容、演習問題の復習	稲田
3	運動方程式(微分方程式)の立て方	復習: 講義内容、演習問題の復習	稲田
4	運動方程式(微分方程式)の解き方	復習: 講義内容、演習問題の復習	稲田
5	単振動などの運動	復習: 講義内容、演習問題の復習	稲田
6	円運動、ポンプの原理(容積型ポンプ、遠心ポンプ)	復習: 講義内容、演習問題の復習	稲田
7	熱および熱に関連した素子、測定機器	復習: 講義内容、演習問題の復習	稲田
8	電気工学の復習、フィルタ回路、インピーダンス整合	復習: 講義内容、演習問題の復習	稲田
9	電極の等価回路、心電計の構成、心電図の測定原理	復習: 講義内容、演習問題の復習	稲田
10	波、音波、トプラー効果、超音波、衝撃波	復習: 講義内容、演習問題の復習	稲田
11	光、屈折、反射、回折、レンズ、光ファイバ、内視鏡	復習: 講義内容、演習問題の復習	稲田
12	放射線、X線の発生原理	復習: 講義内容、演習問題の復習	稲田
13	電気エネルギーに対する生体反応	復習: 講義内容、演習問題の復習	稲田

14	機械、熱、光、放射線エネルギーに対する生体反応	復習：講義内容、演習問題の復習	稲田
15	講義全体のまとめ	予習：全講義内容、全演習問題の確認 復習：全講義内容、全演習問題の復習	稲田
成績評価方法と基準			割合
1. 小テスト、演習問題			1. 50%
2. 定期試験			2. 50%

授業科目名	応用化学(工学)		
主担当教員	稲田 慎	担当教員	稲田 慎
科目ナンバリング	SB117	科目区分	専門基礎分野 DP①
配当年次	2	開講学期	曜日・時限 木曜 4 限
授業形態	演習	単位数	1
授業概要	1 必修・選択 必修		
到達目標	<p>本科目は、血液浄化装置や体外循環装置の動作原理の理解に必要な化学の基礎知識を高めることを目的とした演習科目である。これらの装置の動作原理を理解するためには、血液の流体力学や溶液中の物質移動現象について理解する必要がある。本科目では、これらの装置で用いられている材料の基礎となる有機化合物、濃度や浸透圧などの溶液化学について概説する。</p>		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	<p>毎回、前回の講義内容に関する演習を行う。そのため、復習をしっかりすること、理解が不十分な項目については早めに質問し、理解できるように努めること。</p>		
教科書	使用しない、毎回、資料を配付する。		
参考書	必要に応じて参考書を紹介する。		
研究室/オフィスアワー	研究室/オフィスアワー		
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	授業形態の説明、化学の基礎に関する小テスト	復習：小テストの復習	稲田
2	有機化学(有機化合物の構造、官能基)	復習：講義内容、演習問題の復習	稲田
3	有機化学(有機化合物の性質、反応)	復習：講義内容、演習問題の復習	稲田
4	有機化学(糖質、脂質)	復習：講義内容、演習問題の復習	稲田
5	有機化学(アミノ酸、タンパク質)	復習：講義内容、演習問題の復習	稲田
6	物質と濃度	復習：講義内容、演習問題の復習	稲田
7	当量	復習：講義内容、演習問題の復習	稲田
8	浸透圧	復習：講義内容、演習問題の復習	稲田
9	流体力学	復習：講義内容、演習問題の復習	稲田
10	血液の性質	復習：講義内容、演習問題の復習	稲田
11	血液の流動特性	復習：講義内容、演習問題の復習	稲田
12	透析の原理とその応用	復習：講義内容、演習問題の復習	稲田
13	濾過の原理とその応用	復習：講義内容、演習問題の復習	稲田
14	吸着の原理とその応用	復習：講義内容、演習問題の復習	稲田
15	講義全体のまとめ	予習：全講義内容、全演習問題の確認 復習：全講義内容、全演習問題の復習	稲田

成績評価方法と基準	割合
1. 小テスト、演習問題	1. 50%
2. 定期試験	2. 50%

授業科目名	電気工学Ⅰ(工学)	
主担当教員	原良昭	担当教員
科目ナンバリング	SB118	科目区分
配当年次	1	開講学期
授業形態	講義	単位数
授業概要	<p>人工心肺装置や人工透析装置といった臨床工学技術が取り扱う医療機器の多くは電気を動力源としており、内部では様々な電気回路が動作している。また、神経信号の伝達や筋肉の収縮などは電気が重要な役目を果たしている。したがって、臨床工学技術士にとって電気に関する知識は必要不可欠である。電気工学Ⅰでは、電気回路の基礎的な知識習得を目的に、電圧や電流といった電気に関する基礎的な要素から始め、直流回路および磁気について学習する。</p>	
到達目標	<p>1. 電圧や電流、電流といった電気工学の基礎的な専門用語について数値的な定義に基づき説明ができるようになる 2. 直流回路について、オームの法則やキルヒホッフの法則などを用いて、回路中の電圧や電流などの計算ができるようになる 3. 直流回路で消費される電力を計算できるようになる 4. 磁界、磁束、磁束密度といった磁気に関する専門用語について説明できる。また、電磁誘導や電磁力について数式を用いて説明できるようになる 5. 自己誘導、相互誘導及びインダクタに蓄えられるエネルギーについて数式に基づいて説明できるようになる</p>	
履修上の注意(学生へのメッセージ)	<p>1. 電気工学Ⅰは積み上げ型の教科であるため、各講義内容は、以前の講義内容を理解していることを前提としています。したがって、わからない箇所を放置すると、それ以降の講義が全てわからなくなりますが、そのため、講義終了後には必ず復習を行い、授業内容の理解度について確認して下さい。復習中にわからないことがあれば、必ず質問に来て下さい。</p>	
教科書	<p>1. 『電気基礎講座1 プログラム学習による基礎電気工学 直流編』監修 末武国弘、編著 松下電器工学院 / 廣済堂出版 2. 『電気基礎講座2 プログラム学習による基礎電気工学 磁気・静電編』監修 末武国弘、編著 松下電器工学院 / 廣済堂出版 3. 『電気基礎講座4 プログラム学習による基礎電気工学 電気回路編』監修 末武国弘、編著 松下電器工学院 / 廣済堂出版</p>	
参考書	<p>1. 『臨床工学講座 医用電気工学Ⅰ』監修一般社団法人日本臨床工学技術士教育施設協議会/医療薬出版株式会社 2. 『臨床工学講座 医用電気工学Ⅱ』監修一般社団法人日本臨床工学技術士教育施設協議会/医療薬出版株式会社</p>	
研究室／オフィスアワー	C棟7階 教職員室 / 火曜日3限	
授業展開及び授業計画表		
回数	予習・復習・課題等	担当
1	<p>電気工学の基礎 ・臨床工学技術士にとって電気工学の知識が不可欠な理由を説明できる ・電流、電位などを説明できるようになる。 ・電圧計、電流計の接続方法を説明できるようになる</p>	<p>予習：1年生前期で履修した物理学における電気について復習する。 復習：講義内容の確認。</p>
2	<p>オームの法則と抵抗の性質 ・オームの法則を用いて回路の電圧、電流及び抵抗を算出できる ・抵抗器の断面積や長さ抵抗値に及ぼす影響を数式で説明できるようになる</p>	<p>予習：前回の講義で指定された教科書の範囲を確認 復習：講義内容の確認</p>
3	<p>抵抗器の直列接続 ・直列接続された抵抗器の合成抵抗を算出できるようになる。 ・電圧計の測定範囲を拡大させる方法を抵抗器の直列接続を用いて説明できるようになる</p>	<p>予習：前回の講義で指定された教科書の範囲を確認 復習：講義内容の確認</p>
4	<p>抵抗器の並列接続 ・並列接続された抵抗器の合成抵抗を算出できるようになる。 ・電流計の測定範囲を拡大させる方法を抵抗器の</p>	<p>予習：前回の講義で指定された教科書の範囲を確認 復習：講義内容の確認</p>

	並列接続を用いて説明できるようになる		
5	電圧源の内部分極を数式で説明できるようになる ・電圧源の内部分極を数式で説明できる。また、ブリッジ回路の平衡条件を数式で説明できる。また、未知抵抗の抵抗値を計算できるようになる ・キルヒホッフの法則および重ね合わせの理、キルヒホッフの法則を用いて複雑な回路を解くことができる。 ・重ねの理を用いて複雑な回路を解くことができる。	予習： 前回の講義で指定された教科書の範囲を確認 復習： 講義内容の確認	予習： 前回の講義で指定された教科書の範囲を確認 復習： 講義内容の確認
6	直流回路の電力 ・電流による発熱作用を数式で説明できる。また、発熱量を計算できる。 ・電力について、定義の説明、供給電力が最大になる条件の説明と最大供給電力の算出ができる。 ・送配電について、送配電における電力損失及び漏電と感電について説明できる。	予習： 前回の講義で指定された教科書の範囲を確認 復習： 講義内容の確認	予習： 前回の講義で指定された教科書の範囲を確認 復習： 講義内容の確認
7	電気の性質 ・磁気、磁極、磁力、磁界、磁束などを説明できるようになる。 ・磁極間にはたらく引力と斥力を磁束を用いて説明できるようになる	予習： 前回の講義で指定された教科書の範囲を確認 復習： 講義内容の確認	予習： 前回の講義で指定された教科書の範囲を確認 復習： 講義内容の確認
8	電流の磁気作用 ・電線導体や円形コイルに電流を流したとき、電流の方向と磁界の方向との関係、アンペアの右ねじの法則を用いて説明できるようになる ・アンペアの周回路の法則を用いて、電流の大きさから磁界の強さを算出できるようになる ・アンペアの周回路の法則を用いて、環状コイルの内部磁界を算出できるようになる	予習： 前回の講義で指定された教科書の範囲を確認 復習： 講義内容の確認	予習： 前回の講義で指定された教科書の範囲を確認 復習： 講義内容の確認
9	電磁誘導 ・ファラデーの電磁誘導の法則、レンツの法則とフレミングの右手の法則を説明できるようになる ・誘導起電力について数式を用いて説明できるようになる。	予習： 前回の講義で指定された教科書の範囲を確認 復習： 講義内容の確認	予習： 前回の講義で指定された教科書の範囲を確認 復習： 講義内容の確認
10	インダクタンス ・自己誘導、相互誘導について説明できるようになる。	予習： 前回の講義で指定された教科書の範囲を確認 復習： 講義内容の確認	予習： 前回の講義で指定された教科書の範囲を確認 復習： 講義内容の確認
11	電磁力 ・磁界中の導体に電流が流れたときに、導体における電磁力を説明できるようになる。 ・フレミングの左手の法則を用いて、電磁力の向きを説明できるようになる	予習： 前回の講義で指定された教科書の範囲を確認 復習： 講義内容の確認	予習： 前回の講義で指定された教科書の範囲を確認 復習： 講義内容の確認
12	数の磁化曲線 ・インダクタンスに電流を流したときの鉄心の磁化力と磁束密度の関係を表す磁化曲線を説明できるようになる ・磁化力と磁束密度から透磁率を説明できるようになる ・磁性体のヒステリシス曲線から残留磁気、保磁力、ヒステリシス損失などが説明できるようになる	予習： 前回の講義で指定された教科書の範囲を確認 復習： 講義内容の確認	予習： 前回の講義で指定された教科書の範囲を確認 復習： 講義内容の確認
13	磁気回路 ・磁気回路を電気回路に列成させて説明できるようになる ・磁気エネルギー ・誘導電流や渦電流の説明ができるようになる ・インダクタンスに蓄積される磁気エネルギーを算出できるようになる	予習： 前回の講義で指定された教科書の範囲を確認 復習： 講義内容の確認	予習： 前回の講義で指定された教科書の範囲を確認 復習： 講義内容の確認
14	成績評価方法と基準		
15	1. 定期試験 授業内で扱った範囲を対象として筆記試験を行います。		

授業科目名	電気工学Ⅱ(工学)		
主担当教員	原良昭	担当教員	原良昭
科目ナンバリング	SB119	科目区分	専門基礎分野
配当年次	1	開講学期	後期
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	電気工学Ⅱでは、電気工学Ⅰで学習した直流回路と磁気回路の発展として、静電気と交流回路を学ぶ。静電気では、電界や電束について理論を深め、キャパシタの静電容量を導出できる知識を身につける。交流回路では、交流回路における抵抗器やキャパシタ、インダクタの特性を学習する。その後、交流回路を解析する手法としてベクトルでの表示法や複素数での表示法について示す。また、電気工学Ⅰで学習した知識と併せて、医療機器の取り扱いで重要な基礎知識であるフィルタ回路や過渡応答、電力装置、電磁波について学習する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 電気力線、電束、仕事に対する電圧と電位の関係といった静電気に関して説明できるようになる 2. キャパシタに関しては、誘電率や導体形状が静電容量に及ぼす影響、複数のキャパシタを連結したときの合成静電容量及びキャパシタが蓄えるエネルギーなどを説明できるようになる。また、実際のどの様な種類のキャパシタがあるかについて説明できるようにする。 3. 受動素子の特性について、数式を用いて説明できるようになる 4. 受動素子からなる交流回路についても、回路中の電圧や電流、インピーダンスなどを計算できる。また、求めた値を用いて、回路をベクトル図や複素数を用いて表現できるようになる 5. 交流電力を数値的な定数に基づき説明できる。また、回路で消費される電力が計算できるようになる 6. 電力に基づき共振回路を数値的に説明できる。また、共振回路の特性を数値的に説明できるようになる 7. ORフィルタ回路や過渡応答について説明できるようになる 8. 電力装置である変圧器、インバータ、コンバータ、電動機及び発電機を説明できる。また、変圧器と電動機については仕組みについて数式に基づいて説明できるようになる 9. 電磁波について、その種類と性質、また、電磁波障害とノイズ対策について説明できるようになる 		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 電気工学Ⅱは積み上げ型の教科であるため、各講義は、以前の講義内容及び電子工学Ⅰを理解していることを前提として授業を行う。したがって、わからない箇所を放置すると、それ以降の講義が全てわからなくなりますが、必ず質問して下さい。授業内容の理解度について確認して下さい。復習中にわからないことがあれば、必ず質問して下さい。 		
教科書	<ol style="list-style-type: none"> 1.『電気基礎講座2 プログラム学習による基礎電気工学 磁気・静電気編』監修 末武国弘、編著 松下電器工学院 / 廣済堂出版 2.『電気基礎講座3 プログラム学習による基礎電気工学 交流編』監修 末武国弘、編著 松下電器工学院 / 廣済堂出版 3.『電気基礎講座4 プログラム学習による基礎電気工学 電気回路編』監修 末武国弘、編著 松下電器工学院 / 廣済堂出版 		
参考書	<ol style="list-style-type: none"> 1.『臨床工学講座 医用電気工学1』監修 一般社団法人 日本臨床工学技士教育施設協議会 / 医歯薬出版株式会社 2.『臨床工学講座 医用電気工学2』監修 一般社団法人 日本臨床工学技士教育施設協議会 / 医歯薬出版株式会社 		
研究室/オフィスアワー	C棟7階 教職員室 / 火曜13時		
授業展開及び授業計画表	担当		
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	<p>静電気の性質</p> <ul style="list-style-type: none"> ・静電気とは何かを説明できるようになる ・電荷、電気量、帯電を説明できるようになる。 ・静電誘導作用、静電運搬といった静電現象を説明できるようになる。 ・電流の大きさと電気量との関係を説明できるようになる ・静電気力に関するクーロンの法則を説明できるようになり、静電力を計算で求めることができるようになる ・誘電率を説明できるようになる 	<p>予習：電気工学Ⅰの履修の講義で指定された教科書の範囲を確認。指定がない場合は、教科書1(p.137-140)及び教科書2(p.182-190)の確認</p> <p>復習：講義内容の確認。特に、微分と積分の考え方には十分に慣れること</p>	
2	<p>電界と電束</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電界を説明できるようになる ・電界と電束を説明できるようになる 	<p>予習：前回の講義で指定された教科書の範囲を確認</p>	

	<ul style="list-style-type: none"> 電荷周囲の電界の強さをクーロンの法則から算出できるようにする 電束・電束密度を説明できるようにする 電気力線・電気力線密度を説明できるようにする 電束密度と電界の強さの関係を説明できるようにする 一様電界(平等電界)における電束密度と電界の強さの関係を数式で説明できるようにする 	<p>復習: 講義内容の確認</p>	
3	<ul style="list-style-type: none"> 電位と等電位面 電位や電位差の概念・定義・単位の使い方を説明できる 球状導体上の電荷を対象とした電位や電位差について説明できる 一様電界内の電位や電位差を算出できるようにする 等電位面を説明できるようにする 電束と等電位面を用いて電界の状態を表現できるようにする 	<p>予習: 前回の講義で指定された教科書の範囲を確認 確認 復習: 講義内容の確認</p>	
4	<ul style="list-style-type: none"> 静電容量 電荷を蓄えるキャパシタの概念を説明できるようにする キャパシタの静電容量は、蓄えた電荷と生じた電位によって表現されることを説明できるようにする 球状導体および平行平板間の静電容量を算出できるようにする キャパシタが蓄積する静電エネルギーを算出できるようにする 	<p>予習: 前回の講義で指定された教科書の範囲を確認 確認 復習: 講義内容の確認</p>	
5	<ul style="list-style-type: none"> キャパシタの合成静電容量 直列接続されたキャパシタの合成静電容量が算出できるようにする 並列接続されたキャパシタの合成静電容量が算出できるようにする 	<p>予習: 前回の講義で指定された教科書の範囲を確認 確認 復習: 講義内容の確認</p>	
6	<ul style="list-style-type: none"> 交流の特性 直流と交流の違いを説明できるようにする 周波数や位相など交流波形の特徴付けを説明できるようにする 三角関数を用いて交流波形を表現できるようにする 	<p>予習: 前回の講義で指定された教科書の範囲を確認 確認 復習: 講義内容の確認</p>	
7	<ul style="list-style-type: none"> 交流回路における受動素子(抵抗、インダクタ、キャパシタ)の特性 ベクトルで交流波形を表すことができるようになる 交流回路における抵抗の特性を数式で説明できるようにする 交流回路におけるインダクタの特性を数式で説明できるようにする 交流回路におけるキャパシタの特性を数式で説明できるようにする インピーダンスの説明と算出ができるようになる 	<p>予習: 前回の講義で指定された教科書の範囲を確認 確認 復習: 講義内容の確認</p>	
8	<ul style="list-style-type: none"> 受動素子を直列に接続した交流回路の特性 RL直列回路、RC直列回路及びRLC直列回路の各回路について、特性の説明、電圧、電流及びインピーダンスの計算ができるようになる 	<p>予習: 前回の講義で指定された教科書の範囲を確認 確認 復習: 講義内容の確認</p>	
9	<ul style="list-style-type: none"> 受動素子を並列に接続した交流回路の特性及び複素数 RL並列回路、RC並列回路及びRLC並列回路の各回路について、特性の説明、電圧、電流及びインピーダンスの計算ができるようになる 複素数について説明できるようにする 	<p>予習: 前回の講義で指定された教科書の範囲を確認 確認 復習: 講義内容の確認</p>	
10	<ul style="list-style-type: none"> 直列回路及び並列回路の複素数表記 RL直列回路、RC並列回路及びRLC直列回路の各回路について、複素数を用いた表現及び電圧・電流・インピーダンスの算出ができるようになる RL並列回路、RC並列回路及びRLC並列回路の 	<p>予習: 前回の講義で指定された教科書の範囲を確認 確認 復習: 講義内容の確認</p>	

	<ul style="list-style-type: none"> 各回路について、複素数を用いた表現及び電圧・電流・インピーダンスの算出ができるようになる 	<p>予習: 前回の講義で指定された教科書の範囲を確認 確認 復習: 講義内容の確認</p>	
11	<ul style="list-style-type: none"> 交流回路の電力および共振回路 交流回路における電力の特徴である、瞬時電圧・電圧と電流の位相差が電力に及ぼす影響、力率について数式で説明できるようにする 皮相電力、有効電力、無効電力について数式で説明できるようにする 共振回路の特徴を電力に関連づけて説明できるようにする 直列共振回路の特性について数式を用いて説明できるようにする 並列共振回路の特性について数式を用いて説明できるようにする 	<p>予習: 前回の講義で指定された教科書の範囲を確認 確認 復習: 講義内容の確認</p>	
12	<ul style="list-style-type: none"> フィルタ回路 キャパシタと抵抗で構成されるフィルタ回路の特性について数式を用いて説明できるようにする 	<p>予習: 前回の講義で指定された教科書の範囲を確認 確認 復習: 講義内容の確認</p>	
13	<ul style="list-style-type: none"> 過渡現象 電気回路における過渡現象として、充放電時及び方形波入力時における電圧及び電流の変化を数式に基づいて説明できるようにする 	<p>予習: 前回の講義で指定された教科書の範囲を確認 確認 復習: 講義内容の確認</p>	
14	<ul style="list-style-type: none"> 電力装置 変圧器の仕組みについて数式に基づき説明できるようにする コンバータとインバータを説明できるようにする 電動機の仕組みについて数式を用いて説明できるようにする 電動機と発電機の関係を説明できるようにする 	<p>予習: 前回の講義で配布する資料を確認 確認 復習: 講義内容の確認</p>	
15	<ul style="list-style-type: none"> 電磁波の性質 電磁波の種類と性質について数式を交えながら説明できるようにする 電磁波障害とノイズ対策について説明できるようにする 	<p>予習: 前回の講義で指定された資料を確認 確認 復習: 講義内容の確認</p>	
成績評価方法と基準			
1. 定期試験 授業内で扱った範囲を対象とした筆記試験を行います。			
			割合
			1. 100%

授業科目名		電気工学実習(工学A)	
主担当教員	原 良昭	担当教員	原 良昭, 稲田 慎
科目ナンバリング	SB120	専門基礎分野	DP①④
配当年次	2	開講学期	前期
授業形態	実習	単位数	1
授業概要	<p>電気工学 I および電気工学 II では、受動素子の特性や静電気、磁気について学習した。電気工学実習では、電気現象を計測するために計測機器の取り扱いを学び、受動素子にかかる電圧などを計測する。電気工学 I や電気工学 II で学習した理論から求めた値と実際に計測された値を比較し、差異について考察することで電気工学 I 及び電気工学 II で学んだ理論の定着を図る。</p> <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 計測機器の取り扱いを学習し、電気工学 I および電気工学 II で学んだ理論値と計測された値を比較することで、電気回路 I と電気回路 II に関する知識を深める。具体的には、 <ul style="list-style-type: none"> ・オンスコープ、ファンクションジェネレータ、テスタを適切に取り扱えるようになる ・複数の抵抗器を組み合わせた合成抵抗器の値を計測したり、閉回路における起電力と降下電圧を計測したりすることで、合成抵抗及びキルヒホッフの法則の理解を深める ・インダクタ内部を磁石を通過するときの誘導電流を計測することで、誘導電流に関する理解を深める ・キャパシタにおける極間距離や極面積と静電容量の関係を用いることで、キャパシタに関する知識を深める ・LCR 回路を構築し、周波数、回路におけるインダクタンスとキャパシタンスの関係を用いることで、共振周波数に関する知識を深める ・ノリス波形状が入力された OR 回路の抵抗器およびキャパシタの両端電圧を計測し、OR 回路の時定数が出力波形に及ぼす影響を明らかにすることで、過渡応答に関する理解を深める ・OR 回路で構築したハイパス及びローパスフィルタについて、入力される電圧信号の周波数、抵抗器の抵抗及びキャパシタの静電容量が出力波形に及ぼす影響を計測することで、OR フィルタ回路に関する知識を深める 		
履修上の注意 (学生へのメッセージ)	履修上の注意 (学生へのメッセージ)		
実習手順をイメージできるように、配布する手順書を事前に熟読してください。	実習手順をイメージできるように、配布する手順書を事前に熟読してください。		
教科書			
事前に手順書を配布します。	事前に手順書を配布します。		
参考書			
特になし			
研究室/オフィスアワー	研究室/オフィスアワー		
原 C 棟教職員室 / 火曜日 5 限	原 C 棟教職員室 / 火曜日 5 限		
稲田 C 棟研究室 14 / 木曜日 1 限	稲田 C 棟研究室 14 / 木曜日 1 限		
授業展開及び授業計画表	授業展開及び授業計画表		
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	オリエンテーション: 実習装置の取り扱い方、実習結果のまとめ方、レポートの作成方法など実習に関する注意事項を説明する。 また、実習内容の手順書を配布する。	予習: 電気工学 I および電気工学 II の復習 復習: 配布された手順書の確認	原 良昭 稲田 慎
2	計測装置 (オンスコープ、テスタ) とファンクションジェネレータを用いた信号計測の実習:	予習: 講義開始時から実習を遅滞なく行うため、実習書を熟読し理解しておくこと。もし、わからないことがあれば、先に実習を行った班もしくは教員に確認すること	原 良昭 稲田 慎
3	"	復習: レポート作成時にわからなかったことを調べ る	原 良昭 稲田 慎
4	合成抵抗及びキルヒホッフの法則の確認	予習: 講義開始時から実習を遅滞なく行うため、実習書を熟読し理解しておくこと。もし、わからないことがあれば、先に実習を行った班もしくは教員に確認すること	原 良昭 稲田 慎
5	"	復習: レポート作成時にわからなかったことを調べ る	原 良昭 稲田 慎
6	誘導電流の計測:	予習: 講義開始時から実習を遅滞なく行うため、	原 良昭

		実習書を熟読し理解しておくこと。もし、わからないことがあれば、先に実習を行った班もしくは教員に確認すること	稲田 慎
7	"	復習: レポート作成時にわからなかったことを調べ る	原 良昭 稲田 慎
8	キャパシタにおける静電容量の評価	予習: 講義開始時から実習を遅滞なく行うため、実習書を熟読し理解しておくこと。もし、わからないことがあれば、先に実習を行った班もしくは教員に確認すること	原 良昭 稲田 慎
9	"	復習: レポート作成時にわからなかったことを調べ る	原 良昭 稲田 慎
10	共振回路の周波数特性	予習: 講義開始時から実習を遅滞なく行うため、実習書を熟読し理解しておくこと。もし、わからないことがあれば、先に実習を行った班もしくは教員に確認すること	原 良昭 稲田 慎
11	"	復習: レポート作成時にわからなかったことを調べ る	原 良昭 稲田 慎
12	過渡応答: 時定数の計測	予習: 講義開始時から実習を遅滞なく行うため、実習書を熟読し理解しておくこと。もし、わからないことがあれば、先に実習を行った班もしくは教員に確認すること	原 良昭 稲田 慎
13	"	復習: レポート作成時にわからなかったことを調べ る	原 良昭 稲田 慎
14	OR フィルタの回路特性	予習: 講義開始時から実習を遅滞なく行うため、実習書を熟読し理解しておくこと。もし、わからないことがあれば、先に実習を行った班もしくは教員に確認すること	原 良昭 稲田 慎
成績評価方法と基準			割合
1. 実習毎に作成するレポートで評価する			1. 100%

授業科目名		電気工学実習(工学B)	
主担当教員	原良昭	担当教員	原良昭、稲田 慎
科目ナンバリング	SB120	専門基礎分野	ディプロマポリシー 該当項目 DP①④
配当年次	2	開講学期	金曜 3限 金曜 4限
授業形態	実習	単位数	必修・選択 必修
授業概要			
電気工学および電気工学IIでは、受動素子の特性や静電気・磁気について学習した。電気工学実習では、電気現象を計測するための計測機器の取り扱いを学び、受動素子にかかる電圧などを計測する。電気工学Iや電気工学IIで学習した理論から求めた値と実際に計測された値を比較し、差異について考察することで電気工学I及び電気工学IIで学んだ理論の定着を図る。			
到達目標			
計測機器の取り扱いを学習し、電気工学Iおよび電気工学IIで学んだ理論値と計測された値を比較することで、電気回路Iと電気回路IIに関する知識を深める。具体的には、 ・オシロスコープ、ファンクションジェネレータ、テスタを適切に取り扱えるようになる ・複数の抵抗器を組み合わせた合成抵抗器の値を計測したり、閉回路における起電力と降下電圧を計測したりすることで、合成抵抗及びキルヒホッフの法則の理解を深める ・インダクタ内部の磁石を通過するときの誘導電流に関する知識を深める ・キャパシタにおける極間距離や極面積と静電容量の関係や誘導電流を測ることで、誘導電流に関する知識を深める ・LR回路を構築し、周波数、回路におけるインダクタンスとキャパシタンスと抵抗器の両端電圧の関係を明らかにすることで、共振周波数に関する知識を深める ・ハルシ波形成が入力されたOR回路の抵抗器およびキャパシタの両端電圧を計測し、OR回路の時定数が出力波形に及ぼす影響を明らかにすることで、過渡応答に関する理解を深める ・OR回路で構築したハイパス及びローパスフィルタについて、入力される電圧信号の周波数、抵抗器の抵抗及びキャパシタの静電容量が出力波形に及ぼす影響を計測することで、ORフィルタ回路に関する知識を深める			
履修上の注意(学生へのメッセージ)			
実習手順をイメージできるように、配布する手順書を事前に熟読してください。			
教科書			
事前に手順書を配布します。			
参考書			
特になし			
研究室/オフィスアワー			
原 C棟教職員室 / 火曜日5限			
稲田 C棟研究室14 / 木曜日1限			
授業展開及び授業計画表			
回数	学習内容	予習・復習・課題等	担当
1	オリエンテーション: 実習装置の取り扱い、実習結果のまとめ方、レポートの作成方法など実習に関する注意事項を説明する。 また、実習内容を配布する。	予習: 電気工学Iおよび電気工学IIの復習 復習: 配布された手順書の確認	原良昭 稲田 慎
2	計測装置(オシロスコープ、テスタ)とファンクションジェネレーターを用いた信号計測の実習。	予習: 講義開始時から実習を遅滞なく行うため、実習書を熟読し理解しておくこと。もし、わからないことがあれば、先に実習を行った班もしくは教員に確認すること 復習: レポート作成時にわからないことを調べる	原良昭 稲田 慎
3	〃	予習: 講義開始時から実習を遅滞なく行うため、実習書を熟読し理解しておくこと。もし、わからないことがあれば、先に実習を行った班もしくは教員に確認すること 復習: レポート作成時にわからないことを調べる	原良昭 稲田 慎
4	合成抵抗及びキルヒホッフの法則の確認	予習: 講義開始時から実習を遅滞なく行うため、実習書を熟読し理解しておくこと。もし、わからないことがあれば、先に実習を行った班もしくは教員に確認すること 復習: レポート作成時にわからないことを調べる	原良昭 稲田 慎
5	〃	予習: 講義開始時から実習を遅滞なく行うため、実習書を熟読し理解しておくこと。もし、わからないことがあれば、先に実習を行った班もしくは教員に確認すること 復習: レポート作成時にわからないことを調べる	原良昭 稲田 慎
6	誘導電流の計測:	予習: 講義開始時から実習を遅滞なく行うため、実習書を熟読し理解しておくこと。もし、わからないことがあれば、先に実習を行った班もしくは教員に確認すること 復習: レポート作成時にわからないことを調べる	原良昭 稲田 慎

7	〃	予習: 講義開始時から実習を遅滞なく行うため、実習書を熟読し理解しておくこと。もし、わからないことがあれば、先に実習を行った班もしくは教員に確認すること 復習: レポート作成時にわからないことを調べる	原良昭 稲田 慎
8	キャパシタにおける静電容量の評価	予習: 講義開始時から実習を遅滞なく行うため、実習書を熟読し理解しておくこと。もし、わからないことがあれば、先に実習を行った班もしくは教員に確認すること 復習: レポート作成時にわからないことを調べる	原良昭 稲田 慎
9	〃	予習: 講義開始時から実習を遅滞なく行うため、実習書を熟読し理解しておくこと。もし、わからないことがあれば、先に実習を行った班もしくは教員に確認すること 復習: レポート作成時にわからないことを調べる	原良昭 稲田 慎
10	共振回路の周波数特性	予習: 講義開始時から実習を遅滞なく行うため、実習書を熟読し理解しておくこと。もし、わからないことがあれば、先に実習を行った班もしくは教員に確認すること 復習: レポート作成時にわからないことを調べる	原良昭 稲田 慎
11	〃	予習: 講義開始時から実習を遅滞なく行うため、実習書を熟読し理解しておくこと。もし、わからないことがあれば、先に実習を行った班もしくは教員に確認すること 復習: レポート作成時にわからないことを調べる	原良昭 稲田 慎
12	過渡応答: 時定数の計測	予習: 講義開始時から実習を遅滞なく行うため、実習書を熟読し理解しておくこと。もし、わからないことがあれば、先に実習を行った班もしくは教員に確認すること 復習: レポート作成時にわからないことを調べる	原良昭 稲田 慎
13	〃	予習: 講義開始時から実習を遅滞なく行うため、実習書を熟読し理解しておくこと。もし、わからないことがあれば、先に実習を行った班もしくは教員に確認すること 復習: レポート作成時にわからないことを調べる	原良昭 稲田 慎
14	ORフィルタの回路特性	予習: 講義開始時から実習を遅滞なく行うため、実習書を熟読し理解しておくこと。もし、わからないことがあれば、先に実習を行った班もしくは教員に確認すること 復習: レポート作成時にわからないことを調べる	原良昭 稲田 慎
15	〃	予習: 講義開始時から実習を遅滞なく行うため、実習書を熟読し理解しておくこと。もし、わからないことがあれば、先に実習を行った班もしくは教員に確認すること 復習: レポート作成時にわからないことを調べる	原良昭 稲田 慎
成績評価方法と基準			割合
1. 実習毎に作成するレポートで評価する			1. 100%

授業科目名		電子工学Ⅱ(工学)																					
担当教員	原良昭	担当教員	原良昭																				
科目ナンバリング	SB122	科目区分	専門基礎分野																				
配当年次	2	開講学期	前期																				
授業形態	講義	単位数	2																				
授業概要	医療機器を取り扱う臨床工学技士にとって、医療機器に組み込まれている電子回路の動作・仕組みを理解することは必要不可欠である。電子工学Ⅱでは、ディジタル回路を主題として、論理回路やA/D及びD/A変換回路などを学ぶ。また、変調・復調回路を取り扱う。																						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> LEDや受光素子など代表的な電子回路部品や半導体センサなどの特徴や仕様を説明できるようになる アナログとディジタルの差を理解し、二進法を使いこなせるようになる 論理代数を理解し、ベン図やカルノー図を活用しながら論理演算を行うことができるようになる 論理演算を実際の電子回路で行うために、各論理素子における回路の動作を説明できるようになる フリックフリップフロップ回路及びカウンタ回路の動作を説明できるようになる A/D及びD/A変換回路を説明できるようになる 発振回路を構築し、その動作を説明できるようになる 変調・復調の方法を説明できるようになる 																						
履修上の注意(学生へのメッセージ)	<p>電子工学Ⅱは積み上げ型の教科であるため、各講義内容は、以前の講義内容を理解していることを前提としています。したがって、わからない箇所を放置すると、それ以降の講義が全てわからなくなりますが、そのため、講義終了後には必ず復習を行い、授業内容の理解程度について確認して下さい。復習中にわからないことがあれば、必ず質問に来て下さい。</p>																						
教科書	『臨床工学講座 医用電子工学 第2版』監修 一般社団法人日本臨床工学技士教育施設協議会、医歯薬出版株式会社																						
参考書	『臨床工学技士のための基礎電子工学』 稲岡秀雄・野城真理、コロナ社																						
研究室/オフィスアワー	C棟7階 教職員室 / 火曜日5限																						
授業展開及び授業計画表	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>学修内容</th> <th>予習・復習・課題等</th> <th>担当</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>電子回路部品と半導体センサ: ・LEDや受光素子など代表的な電子回路部品や半導体センサなどの特徴や仕様を説明できるようになる。</td> <td>予習: 電気工学Ⅰ最終回で指示した1年生前期で履修した物理学における電気について復習する。 復習: 講義内容の確認。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>ディジタルの基礎: ・アナログとディジタルの差異を説明できるようにする。 ・二進法での計算を説明できるようにする。</td> <td>予習: 前回の講義で指定された教科書範囲もしくは資料の確認 復習: 講義内容の確認</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>論理代数: ・論理代数の説明及び実例の計算ができるようになる</td> <td>予習: 前回の講義で指定された教科書範囲もしくは資料の確認 復習: 講義内容の確認</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>ベン図とカルノー図: ・ベン図やカルノー図の説明ができるようになる。 具体的なベン図を用いた論理演算の可視化でき、カルノー図を用いた論理演算の簡略化ができるようになる。</td> <td>予習: 前回の講義で指定された教科書範囲もしくは資料の確認 復習: 講義内容の確認</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当	1	電子回路部品と半導体センサ: ・LEDや受光素子など代表的な電子回路部品や半導体センサなどの特徴や仕様を説明できるようになる。	予習: 電気工学Ⅰ最終回で指示した1年生前期で履修した物理学における電気について復習する。 復習: 講義内容の確認。		2	ディジタルの基礎: ・アナログとディジタルの差異を説明できるようにする。 ・二進法での計算を説明できるようにする。	予習: 前回の講義で指定された教科書範囲もしくは資料の確認 復習: 講義内容の確認		3	論理代数: ・論理代数の説明及び実例の計算ができるようになる	予習: 前回の講義で指定された教科書範囲もしくは資料の確認 復習: 講義内容の確認		4	ベン図とカルノー図: ・ベン図やカルノー図の説明ができるようになる。 具体的なベン図を用いた論理演算の可視化でき、カルノー図を用いた論理演算の簡略化ができるようになる。	予習: 前回の講義で指定された教科書範囲もしくは資料の確認 復習: 講義内容の確認	
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当																				
1	電子回路部品と半導体センサ: ・LEDや受光素子など代表的な電子回路部品や半導体センサなどの特徴や仕様を説明できるようになる。	予習: 電気工学Ⅰ最終回で指示した1年生前期で履修した物理学における電気について復習する。 復習: 講義内容の確認。																					
2	ディジタルの基礎: ・アナログとディジタルの差異を説明できるようにする。 ・二進法での計算を説明できるようにする。	予習: 前回の講義で指定された教科書範囲もしくは資料の確認 復習: 講義内容の確認																					
3	論理代数: ・論理代数の説明及び実例の計算ができるようになる	予習: 前回の講義で指定された教科書範囲もしくは資料の確認 復習: 講義内容の確認																					
4	ベン図とカルノー図: ・ベン図やカルノー図の説明ができるようになる。 具体的なベン図を用いた論理演算の可視化でき、カルノー図を用いた論理演算の簡略化ができるようになる。	予習: 前回の講義で指定された教科書範囲もしくは資料の確認 復習: 講義内容の確認																					

5	論理ゲート ・AND, OR, NOTといった基本的な論理素子の回路図をタイオードやトランジスタを用いて作成できるようになる。作成した回路の動作を説明できるようになる。 ・NAND, NOR, EXORを含む基本的な論理素子の動作を説明できるようになる。 ・論理ゲートの組み合わせによる論理回路 ・基本的な論理素子を組み合わせて半加算器回路や全加算器回路、一致回路などを構築できるようになる。	予習: 前回の講義で指定された教科書範囲もしくは資料の確認 復習: 講義内容の確認	予習: 前回の講義で指定された教科書範囲もしくは資料の確認 復習: 講義内容の確認
6	フリックフリップフロップ回路 ・カウンタ回路 ・一般的なカウンタ回路を構築し、動作を説明できるようになる。	予習: 前回の講義で指定された教科書範囲もしくは資料の確認 復習: 講義内容の確認	予習: 前回の講義で指定された教科書範囲もしくは資料の確認 復習: 講義内容の確認
7	A/D変換回路 ・A/D変換における基本的な用語である量子化やサンプリング定理、量子化などを説明できるようになる。	予習: 前回の講義で指定された教科書範囲もしくは資料の確認 復習: 講義内容の確認	予習: 前回の講義で指定された教科書範囲もしくは資料の確認 復習: 講義内容の確認
8	D/A変換回路 ・復号化や補間、アパーチャ効果などD/A変換で用いる用語について説明できるようになる。 ・D/A変換を行う回路について説明できるようになる。	予習: 前回の講義で指定された教科書範囲もしくは資料の確認 復習: 講義内容の確認	予習: 前回の講義で指定された教科書範囲もしくは資料の確認 復習: 講義内容の確認
9	発振回路 ・発振回路の基本的な仕組みを説明できるようになる。 ・様々な発振回路から代表的な発振回路であるLC発振回路の種類やその仕組みと特徴を説明できるようになる。 ・水温発振回路の説明ができるようになる。	予習: 前回の講義で指定された教科書範囲もしくは資料の確認 復習: 講義内容の確認	予習: 前回の講義で指定された教科書範囲もしくは資料の確認 復習: 講義内容の確認
10	マルチバイプレータ ・無安定マルチバイプレータの動作を説明できるようになる。 ・単安定マルチバイプレータの動作を説明できるようになる。 ・双安定マルチバイプレータの動作を説明できるようになる。	予習: 前回の講義で指定された教科書範囲もしくは資料の確認 復習: 講義内容の確認	予習: 前回の講義で指定された教科書範囲もしくは資料の確認 復習: 講義内容の確認
11	通信の基礎 ・現在社会における通信の果たす役割の概要を説明できるようになる。 ・変調・復調の概念について説明できるようになる。 ・振幅変調の概念を理解し、振幅変調及び復調を行う回路の動作を説明できるようになる。 ・アナログ信号を対象とした変調・復調 ・周波数変調の概念を理解し、その動作を説明できるようになる。 ・位相変調の概念を理解し、その動作を説明できるようになる。	予習: 前回の講義で指定された教科書範囲もしくは資料の確認 復習: 講義内容の確認	予習: 前回の講義で指定された教科書範囲もしくは資料の確認 復習: 講義内容の確認
12	ディジタル信号を対象とした変調・復調 ・ディジタル信号を対象とした変調・復調方法の原理と特徴を説明できるようになる。	予習: 前回の講義で指定された教科書範囲もしくは資料の確認 復習: 講義内容の確認	予習: 前回の講義で指定された教科書範囲もしくは資料の確認 復習: 講義内容の確認
13	成績評価方法と基準		割合
14	1. 定期試験 授業内で扱った範囲を対象とした筆記試験を行います。		1. 100%

授業科目名	電子工学実習(工学A)		
主担当教員	原 良昭	担当教員	原 良昭、稲田 慎
科目ナンバリング	SB123	科目区分	ディプロマポリシー 該当項目 DP①④
配当年次	2	開講学期	水曜 3限 水曜 4限
授業形態	実習	単位数	1 必修・選択 必修

授業概要
医療機器には電子回路が含まれており、電子回路の深い理解は、医療機器を扱う臨床工学技士にとって必須である。本学集では、電子工学1及び電子工学2で学習した電子工学の回路を、実際に組み上げ作成し特性評価を行うことで、電子工学1及び電子工学2で学習した知識の定着を図る。

到達目標
電子工学1および電子工学IIで学習した知識と実際の電子回路での計測値を比較することで、電子回路に関する知識を深める。具体的には、
・ダイオードを用いた波形整形回路を構築することで、ダイオードの特性および波形整形回路の特性に関する知識を深める。
・トランジスタを用いたエミッタフォロワ回路を構築することで、トランジスタの特性およびエミッタフォロワ回路の特性に関する知識を深める。
・オペアンプを用いた反転増幅回路、非反転増幅回路を構築し特性を評価することで、オペアンプの特性に関する知識を深める。
・オペアンプを用いた差動増幅回路を構築し特性を評価することで、オペアンプの特性に関する知識を深める。
・論理素子からなるデジタル回路を構築し動作を確認することで、論理演算に関する知識を深める。
・共振回路を構築し動作を確認することで、共振回路に関する知識を深める。
・電圧一周波数変換回路を構築することで、オペアンプの特性、A/D変換、変調に関する知識を深める
である。

履修上の注意(学生へのメッセージ)
実習手順をイメージできるように、配布する手順書を事前に熟読してください。

教科書
事前に手順書を配布します
参考書
特になし

研究室/オフィスアワー
原 C棟教職員室 / 火曜日3限
稲田 C棟研究室14 / 木曜日1限
授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	オリエンテーション: 実習装置の取り扱い方、実習結果のまとめ方、レポートの作成方法など実習に関する注意事項を説明する。 また、実習内容の手順書を配布する。	予習: 電子工学1および電子工学IIについて復習をする。 復習: 配布された手順書を確認する	原 良昭 稲田 慎
2	ダイオードを利用した波形整形回路の特性評価	予習: 講義開始時から実習を遅滞なく行うため、実習書を熟読し理解しておくこと。もし、わからないことがあれば、先に実習を行った班もしくは教員に確認すること 復習: レポート作成時にわからなかったことを調べ	原 良昭 稲田 慎
3	"	予習: 講義開始時から実習を遅滞なく行うため、実習書を熟読し理解しておくこと。もし、わからないことがあれば、先に実習を行った班もしくは教員に確認すること 復習: レポート作成時にわからなかったことを調べ	原 良昭 稲田 慎
4	トランジスタを用いた回路の特性評価	予習: 講義開始時から実習を遅滞なく行うため、実習書を熟読し理解しておくこと。もし、わからないことがあれば、先に実習を行った班もしくは教員に確認すること 復習: レポート作成時にわからなかったことを調べ	原 良昭 稲田 慎
5	"	予習: 講義開始時から実習を遅滞なく行うため、実習書を熟読し理解しておくこと。もし、わからないことがあれば、先に実習を行った班もしくは教員に確認すること 復習: レポート作成時にわからなかったことを調べ	原 良昭 稲田 慎
6	オペアンプの基本的回路における特性評価	予習: 講義開始時から実習を遅滞なく行うため、実習書を熟読し理解しておくこと。もし、わからないことがあれば、先に実習を行った班もしくは教員に確認すること 復習: レポート作成時にわからなかったことを調べ	原 良昭 稲田 慎

7	"	実習: レポート作成時にわからなかったことを調べ	原 良昭 稲田 慎
8	オペアンプを用いた応用的回路における特性評価	予習: 講義開始時から実習を遅滞なく行うため、実習書を熟読し理解しておくこと。もし、わからないことがあれば、先に実習を行った班もしくは教員に確認すること 復習: レポート作成時にわからなかったことを調べ	原 良昭 稲田 慎
9	"	予習: 講義開始時から実習を遅滞なく行うため、実習書を熟読し理解しておくこと。もし、わからないことがあれば、先に実習を行った班もしくは教員に確認すること 復習: レポート作成時にわからなかったことを調べ	原 良昭 稲田 慎
10	デジタル回路の特性評価	予習: 講義開始時から実習を遅滞なく行うため、実習書を熟読し理解しておくこと。もし、わからないことがあれば、先に実習を行った班もしくは教員に確認すること 復習: レポート作成時にわからなかったことを調べ	原 良昭 稲田 慎
11	"	予習: 講義開始時から実習を遅滞なく行うため、実習書を熟読し理解しておくこと。もし、わからないことがあれば、先に実習を行った班もしくは教員に確認すること 復習: レポート作成時にわからなかったことを調べ	原 良昭 稲田 慎
12	共振回路の特性評価	予習: 講義開始時から実習を遅滞なく行うため、実習書を熟読し理解しておくこと。もし、わからないことがあれば、先に実習を行った班もしくは教員に確認すること 復習: レポート作成時にわからなかったことを調べ	原 良昭 稲田 慎
13	"	予習: 講義開始時から実習を遅滞なく行うため、実習書を熟読し理解しておくこと。もし、わからないことがあれば、先に実習を行った班もしくは教員に確認すること 復習: レポート作成時にわからなかったことを調べ	原 良昭 稲田 慎
14	電圧一周波数変換回路の特性評価	予習: 講義開始時から実習を遅滞なく行うため、実習書を熟読し理解しておくこと。もし、わからないことがあれば、先に実習を行った班もしくは教員に確認すること 復習: レポート作成時にわからなかったことを調べ	原 良昭 稲田 慎
成績評価方法と基準			
1. 実習毎に作成するレポートで評価する			
割合 1. 100%			

授業科目名		電子工学実習(工学B)		原 良昭	担当教員	原 良昭、稲田 慎
主担当教員		原 良昭	科目区分	専門基礎分野	該当項目	DP①④
科目ナンバリング		SB123	開講学期	後期	曜日・時限	水曜 3限 水曜 4限
配当年次		2	単位数	1	必修・選択	必修
授業形態		実習				
授業概要 医療機器には電子回路が含まれており、電子回路の深い理解は、医療機器を扱う臨床工学技士にとって必須である。本学集では、電子工学1及び電子工学2で学習した電子工学の回路を、実際に組み上げ作成し特性評価を行うことで、電子工学1及び電子工学2で学習した知識の定着を図る。						
到達目標 電子工学1および電子工学IIで学習した知識と実際の電子回路での計測値を比較することで、電子回路に関する知識を深める。具体的には、 ・ダイオードを用いた波形整形回路を構築することで、ダイオードの特性および波形整形回路の特性に関する知識を深める。 ・トランジスタを用いたエミッタフォロワ回路を構築することで、トランジスタの特性およびエミッタフォロワ回路の特性に関する知識を深める。 ・オペアンプを用いた反転増幅回路、非反転増幅回路を構築し特性を評価することで、オペアンプの特性に関する知識を深める。 ・オペアンプを用いた差動増幅回路を構築し特性を評価することで、オペアンプの特性に関する知識を深める。 ・論理素子からなるデジタル回路を構築し動作を確認することで、論理演算に関する知識を深める。 ・発振回路を構築し動作を確認することで、発振回路に関する知識を深める。 ・電圧一周波数変換回路を構築することで、オペアンプの特性、A/D変換、変調に関する知識を深める。						
履修上の注意(学生へのメッセージ)						
実習手順をイメージできるように、配布する手順書を事前に熟読してください。						
教科書						
事前に手順書を配布します						
参考書						
特になし						
研究室/オフィスアワー						
原 C棟教職員室 / 火曜日3限						
稲田 C棟研究室14 / 木曜日1限						
授業展開及び修業計画表						
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当			
1	オリエンテーション: 実習装置の取り扱い方、実習結果のまとめ方、レポートの作成方法など実習に関する注意事項を説明する。 また、実習内容の手順書を配布する。	予習: 電子工学1および電子工学IIについて復習をする。 復習: 配布された手順書を確認する	原 良昭 稲田 慎			
2	ダイオードを利用した波形整形回路の特性評価	予習: 講義開始時から実習を遅滞なく行うため、実習書を熟読し理解しておくこと。もし、わからないことがあれば、先に実習を行った班もしくは教員に確認すること	原 良昭 稲田 慎			
3	"	復習: レポート作成時にわからなかったことを調べる	原 良昭 稲田 慎			
4	トランジスタを用いた回路の特性評価	予習: 講義開始時から実習を遅滞なく行うため、実習書を熟読し理解しておくこと。もし、わからないことがあれば、先に実習を行った班もしくは教員に確認すること	原 良昭 稲田 慎			
5	"	復習: レポート作成時にわからなかったことを調べる	原 良昭 稲田 慎			
6	オペアンプの基本的回路における特性評価	予習: 講義開始時から実習を遅滞なく行うため、	原 良昭			

7	"	予習: 講義開始時から実習を遅滞なく行うため、実習書を熟読し理解しておくこと。もし、わからないことがあれば、先に実習を行った班もしくは教員に確認すること	原 良昭 稲田 慎			
8	オペアンプを用いた応用的回路における特性評価	予習: 講義開始時から実習を遅滞なく行うため、実習書を熟読し理解しておくこと。もし、わからないことがあれば、先に実習を行った班もしくは教員に確認すること	原 良昭 稲田 慎			
9	"	復習: レポート作成時にわからなかったことを調べる	原 良昭 稲田 慎			
10	デジタル回路の特性評価	予習: 講義開始時から実習を遅滞なく行うため、実習書を熟読し理解しておくこと。もし、わからないことがあれば、先に実習を行った班もしくは教員に確認すること	原 良昭 稲田 慎			
11	"	復習: レポート作成時にわからなかったことを調べる	原 良昭 稲田 慎			
12	発振回路の特性評価	予習: 講義開始時から実習を遅滞なく行うため、実習書を熟読し理解しておくこと。もし、わからないことがあれば、先に実習を行った班もしくは教員に確認すること	原 良昭 稲田 慎			
13	"	復習: レポート作成時にわからなかったことを調べる	原 良昭 稲田 慎			
14	電圧一周波数変換回路の特性評価	予習: 講義開始時から実習を遅滞なく行うため、実習書を熟読し理解しておくこと。もし、わからないことがあれば、先に実習を行った班もしくは教員に確認すること	原 良昭 稲田 慎			
15	"	復習: レポート作成時にわからなかったことを調べる	原 良昭 稲田 慎			
成績評価方法と基準						
1. 実習毎に作成するレポートで評価する						
割合						
1. 100%						

放射線工学概論(工学)			
授業科目名	長井 英仁	担当教員	長井 英仁
主担当教員	長井 英仁	専門基礎分野	ディプロマポリシー 該当項目
科目ナンバリング	SB124	科目区分	DP①
配当年次	2	開講学期	曜日・時限 火曜 3限
授業形態	講義	単位数	1 必修・選択 必修
授業概要			
放射線の基礎と医療への応用について概説する。放射線の基礎、生体における放射線の影響、医療における放射線の役割に至るまで、放射線の臨床応用に関して幅広く講義する。			
到達目標			
①放射線の種類と特徴を説明できる。②放射線医療機器の種類、役割と特徴を説明できる。③放射線に対する被ばく低減を説明できる。			
履修上の注意(学生へのメッセージ)			
課題は必ず提出して下さい。			
教科書			
未定			
参考書			
なし			
研究室/オフィスアワー			
非常勤講師控室/授業の前後のみ対応可能			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	放射線とアイソトープの基礎1		
2	放射線とアイソトープの基礎2		
3	医療における放射線の利用(X線機器)1		
4	医療における放射線の利用(X線機器)2		
5	医療における放射線の利用(核医学)1		
6	医療における放射線の利用(核医学)2		
7	放射線の生体を与える影響・放射線の安全管理・放射線治療		
8	授業のまとめ(総括)・学習到達度の確認テスト		
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			
17			
18			

19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
成績評価方法と基準			
評価対象:定期試験、課題レポート、小テスト			
①評価基準:授業中に行う小テスト・課題			
②評価基準:定期試験			
			割合
			①50%
			②50%

授業科目名	情報処理工学(工学)		担当教員	中沢 一雄	中沢 一雄
主担当教員	中沢 一雄		専門基礎分野	該当項目	DP①
科目ナンバリング	SB125	科目区分	前期	曜日・時限	木曜 2 限
配当年次	2	開講学期	2	必修・選択	必修
授業形態	講義	単位数			
授業概要	本講義では、デジタル信号の表現と論理演算、論理回路、コンピュータの基本構成とコンピュータの動作原理、オペレーティングシステム、プログラムの開発とプログラミング言語、ユーザインタフェース、データ処理アルゴリズム、データベース、データ通信とネットワーク、コンピュータ列による計測・制御の考え方や方法、コンピュータが構成要素となっている医療・治療機器事例や計測システム、医療情報システム事例、医療現場でのセキュリティ対策など情報技術の基礎を学ぶ。				
到達目標	医療従事者として知っておいてもらいたいコンピュータの基本技術や情報処理の基礎的考え方を理解する。				
履修上の注意(学生へのメッセージ)	無断の複製・転載は厳禁です。				
情報処理工学に関する基本的な知識を身につけ、専門用語に親しんでください。					
教科書	寺嶋廣克、他著、はじめて学ぶコンピュータ概論 - ハードウェア・ソフトウェアの基本 -、コロナ社、2016年				
参考書	日本臨床工学士教育施設協議会監修、臨床工学講座 医用情報処理工学、医歯薬出版、2010年(2019年春改訂予定)				
研究室/オフィスアワー	C棟7階研究室 720/授業後				
授業展開及び授業計画表	回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当	
1	ガイダンス		復習：講義資料の確認	中沢 一雄	
2	10進数と2進数、ビットとバイト、コンピュータにかかわる単位		予習：1章 コンピュータの基礎 を読んでおくこと 復習：講義資料の確認	中沢 一雄	
3	基数、各2, 8, 16進数の表記、2進数から10進数への基数変換等、2進数の演算、負数の表現、突数、浮動小数点、誤差		予習：2章 数の表現 を読んでおくこと 復習：講義資料の確認	中沢 一雄	
4	論理演算の種類の基本定理、論理回路とその表記		予習：3章 論理演算と論理回路 を読んでおくこと 復習：講義資料の確認	中沢 一雄	
5	コンピュータの種類と特徴 コンピュータを構成する各装置-CPU、記憶装置、入出力装置、インタフェース		予習：4章 コンピュータの種類とこと 5章 コンピュータの構成要素 を読んでおくこと 復習：講義資料の確認	中沢 一雄	
6	小テスト			中沢 一雄	
7	処理形態、利用形態、システムの構成、システムの信頼性、データの信頼性、性能、経済性		予習：6章 システム構成 を読んでおくこと 復習：講義資料の確認	中沢 一雄	
8	システムソフトウェア、アプリケーション、オーブンス		予習：7章 ソフトウェア を読んでおくこと 復習：講義資料の確認	中沢 一雄	
9	オペレーティングシステムのAPI、ジョブ管理、タスク管理、主記憶管理、入出力管理、ファイル管理等の各種管理について		予習：8章 オペレーティングシステム を読んでおくこと 復習：講義資料の確認	中沢 一雄	
10	応用ソフトウェアの種類、各代表的なソフトウェア		予習：9章 応用ソフトウェア を読んでおくこと 復習：講義資料の確認	中沢 一雄	
11	ユーザインタフェースの進展と構成要素、GUI、部品の画面設計、帳票設計、Webデザイン、ユニバーサルデザイン		予習：10章 ユーザインタフェース を読んでおくこと 復習：講義資料の確認	中沢 一雄	
12	コンピュータで扱うマルチメディア(データ、文字、画像、音声)		予習：11章 マルチメディア を読んでおくこと 復習：講義資料の確認	中沢 一雄	

13	データベースとファイルの違い、データベースの種類、リレーションショナルDB、データベースの設計、正規化、操作	予習：12章 データベース を読んでおくこと 復習：講義資料の確認	中沢 一雄
14	プログラムの作成と実行、プログラミング言語の種類、アルゴリズム、データ構造	予習：13章 プログラム言語 を読んでおくこと 復習：講義資料の確認	中沢 一雄
15	全体総括		中沢 一雄
成績評価方法と基準			
①筆記試験			
②小テスト			
割合			
①80%			
②20%			

授業科目名	医療統計学(工学)		
主担当教員	片山 俊郎	担当教員	
科目ナンバリング	SB126	片山 俊郎	
配当年次	2	専門基礎分野	
授業形態	講義	曜日・時限	
授業概要	2	必修・選択	
到達目標	必修		
保健・医療分野の研究においてデータ解析を行う上で必須となる統計学の知識を学び、そして実践的技術を習得することを目的とする。統計学の基礎知識についての講義を行い、演習において結果の解釈方法を習得し、更には適切なデータの収集方法に関する講義を行う。			
履修上の注意(学生へのメッセージ)			
講義内容に従って、理解を深めるための演習を行うので、復習を忘れないように行い、講義内容で分かったことと分からないことを明確にし、分からないことは質問すること。			
教科書			
「バイオサイエンスのための統計学」/市原清志/南江堂			
講義毎に問題と資料を配布			
参考書			
「エクセル活用コマンド教材」統計テキスト/宮崎重二/医歯薬出版			
「やさしく学ぶ統計学 Excelによる統計解析」/石村貞夫他/東京図書			
研究室/オフィスアワー			
南棟7階研究室21/電気がついていなければ在室です。質問があればいつでもどうぞ。			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	【標本と母集団】[母集団と標本について説明でき、無作為抽出法について説明できる]	予習:シラバスの確認 復習:統計用語の確認	片山
2	【確率分布】[正規分布について説明できる、他の分布について概要を説明できる]	予習:テキストの予習 復習:統計用語の確認	片山
3	【標本と母集団、点推定と区間推定】[標本と母集団および点推定と区間推定について理解し、説明できる]	予習:テキストの予習 復習:統計用語の確認	片山
4	【データの種類の(尺度水準)】 [尺度水準について理解し、説明できる]	予習:テキストの予習 復習:統計用語の確認	片山
5	【分布の特徴を記述する①:代表値】 [算術平均の計算ができる;中央値、最頻値について説明ができる]	予習:テキストの予習 復習:統計用語の確認	片山
6	【分布の特徴を記述する②:散布度】 [分散と標準偏差について説明できる;範囲と四分位数について説明できる]	予習:テキストの予習 復習:統計用語の確認	片山
7	【演習:算術平均と標準偏差を中心にしたデータの種類の、内容により、様々な分布の特徴があることを理解する]	予習:統計用語の確認 復習:演習内容の確認	片山
8	【2変数間の関連性とその強さの記述(1)】 [相関係数、回帰直線、クロス表、連関係数等について理解し、説明できる]	予習:テキストの予習 復習:統計用語の確認	片山
9	【2変数間の関連性とその強さの記述(2)】 [相関係数、回帰直線、クロス表、連関係数等について理解し、説明できる]	予習:テキストの予習 復習:統計用語の確認	片山
10	【演習:相関係数、回帰直線を中心にしたデータの種類の、内容により、様々な解釈があることを理解する]	予習:統計用語の確認 復習:演習内容の確認	片山
11	【統計的検定(重なりデータ)】 [統計的検定とは何かを説明でき、帰無仮説と対立仮説、両側検定と片側検定の違いを説明できる]	予習:テキストの予習 復習:統計用語の確認	片山

12	【統計的検定(重なりデータ)】 [質的データの検定に用いる検定法を理解し、説明できる]	予習:テキストの予習 復習:統計用語の確認	片山
13	【検定方法の選択】 [データの種類の、検定内容により、様々な検定方法を理解する]	予習:テキストの予習 復習:統計用語の確認	片山
14	【演習:検定と二乗検定を中心にしたデータの種類の、検定内容により、様々な検定法があることを理解する]	予習:統計用語の確認 復習:演習内容の確認	片山
15	まとめ	予習:使用した演習問題の確認 復習:使用した演習問題の確認	片山
成績評価方法と基準			割合
成績評価の種類:1.筆記試験、2.小テスト、3.平常点(問題演習への取り組み等)			1. 50%
成績評価の基準:筆記試験、小テスト、平常点を総合して評価し、60点以上を可とする			2. 20%
出席基準:2/3回			3. 30%

授業科目名	システム制御工学(工学)			
主担当教員	原 良昭	担当教員	原 良昭	
科目ナンバリング	SB127	専門基礎分野	ディプロマポリシー 該当項目	DP①
配当年次	2	開講学期	曜日・時限	月曜 4 限
授業形態	講義	単位数	必修・選択	必修
授業概要	<p>生体や臨床工学技術士が扱う医療機器の仕組みを理解するにはシステムとして把握することが重要である。また、医療機器の多くは機能的・電子的に制御されているため、臨床工学技術士にとって制御工学の理解は必須である。本講義では、工学的見地からシステムに関する説明を行い、システムの信頼性を学ぶ。その後、制御工学として、制御方式の一般的な説明を皮切りに、ラプラス変換・逆変換、伝達関数、ブロック線図、過渡応答、周波数応答を学習する。そして、特に重要な制御方式であるフィードバック制御の1つであるPID制御の特徴について理解を深める。</p>			
到達目標	<p>複数のサブシステムから構築されるシステムの信頼度を数式を用いて説明できるようになる ・ラプラス変換、逆変換を数式を用いて説明できるようになる ・比例要素、積分要素、微分要素、一次遅れ要素、二次遅れ要素の伝達関数について説明できる。 ・各要素を繋ぐブロック線図を作成することができ、また、ブロック線図の等価変換を行うことができる ・比例要素、積分要素、微分要素、一次遅れ要素、二次遅れ要素について過渡応答、周波数応答が説明できる ・ポード線図に見方について説明できる ・フィードバック制御の特徴を説明できるようになる ・PID制御の特徴を説明できるようになる</p>			
履修上の注意(学生へのメッセージ)	<p>システム制御工学は積み上げ型の教科であるため、各講義内容は、以前の講義内容を理解していることを前提としています。したがって、わからない箇所を放置すると、それ以降の講義が全てわからなくなりますが、必ず復習を行い、授業内容の理解度について確認して下さい。復習中にわからないことがあれば、必ず質問に来て下さい。</p>			
教科書	<p>2. システム制御工学では、「システムの種類性」や「周波数応答」などの算出・数式的知識が必要となります。数学演習で学んだ三角関数や微分積分については、十分に慣れるまで復習しておくことが望ましいです。</p>			
参考文献	<p>1. 『臨床工学講座 医用システム・制御工学』 医療業出版株式会社 嶋津秀昭・堀内邦雄 2. 『絵とぎでわかる機械制御 第2版』 オーム社 宇津木 諭</p>			
特になし				
研究室/オフィスアワー				
0 棟7階 教職員室 / 火曜日5限				
授業展開期及び授業計画表				
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当	
1	システム工学の基本的な考え方 ・システム工学の基本的な考え方がサブシステムについて説明できるようになる	予習：教科書1の pp. 1-13までを確認し、理解が不十分であったことをまとめておくこと 復習：予習でわからなかったことを中心に講義内容の確認。復習でもわからなかった内容がある場合は、教員に確認すること	原 良昭	
2	システムの設計と評価 ・システムの設計に用いる線形計画法について説明できるようになる	予習：教科書1の pp. 15-35までを確認し、理解が不十分であったことをまとめておくこと 復習：予習でわからなかったことを中心に講義内容の確認。復習でもわからなかった内容がある場合は、教員に確認すること	原 良昭	
3	システムの信頼性と安全性および生体システム ・システムの信頼度を数式を用いて説明できる ・平均修理時間と平均故障間隔を数式を用いて説明できる	予習：教科書2の pp. 37-60までを確認し、理解が不十分であったことをまとめておくこと 復習：予習でわからなかったことを中心に講義内容の確認。復習でもわからなかった内容がある場合は、教員に確認すること	原 良昭	
4	自動制御の概要 ・制御方法の種類や各制御方法の特徴を説明できる	予習：教科書2の pp. 2-16までを確認し、理解が不十分であったことをまとめておくこと 復習：予習でわからなかったことを中心に講義内容の確認。復習でもわからなかった内容がある場合は、教員に確認すること	原 良昭	
5	制御系における開環の扱い ・線形関数について説明できるようになる	予習：教科書2の pp. 18-44までを確認し、理解が不十分であったことをまとめておくこと 復習：予習でわからなかったことを中心に講義内容の確認。復習でもわからなかった内容がある場合は、教員に確認すること	原 良昭	

6	・ラプラス変換とラプラス逆変換について説明できるようになる 伝達関数の基本 ・伝達関数について説明ができるようになる ・比例・積分・微分要素について説明ができるようになる	予習：教科書2の pp. 46-55までを確認し、理解が不十分であったことをまとめておくこと 復習：予習でわからなかったことを中心に講義内容の確認。復習でもわからなかった内容がある場合は、教員に確認すること	原 良昭	予習：予習でわからなかったことを中心に講義内容の確認。復習でもわからなかった内容がある場合は、教員に確認すること
7	一次および二次遅れ要素の伝達関数 ・一次遅れ要素と二次遅れ要素の説明ができるようになる ・むだ時間について説明できるようになる	予習：教科書2の pp. 56-64までを確認し、理解が不十分であったことをまとめておくこと 復習：予習でわからなかったことを中心に講義内容の確認。復習でもわからなかった内容がある場合は、教員に確認すること	原 良昭	予習：予習でわからなかったことを中心に講義内容の確認。復習でもわからなかった内容がある場合は、教員に確認すること
8	ブロック線図 ・ブロック線図について説明できるようになる ・結合則を用いてブロック線図を等価変換できるようになる	予習：教科書2の pp. 66-86までを確認し、理解が不十分であったことをまとめておくこと 復習：予習でわからなかったことを中心に講義内容の確認。復習でもわからなかった内容がある場合は、教員に確認すること	原 良昭	予習：予習でわからなかったことを中心に講義内容の確認。復習でもわからなかった内容がある場合は、教員に確認すること
9	ラプラス変換と逆変換、伝達関数、ブロック線図の統合 ・ブロック線図から各要素の伝達関数を求め、ラプラス逆変換を用いて、実際の式に変換できるようになる ・実際の制御システム系について、各要素の伝達関数を求め、システム全体をブロック線図で表現できるようになる	予習：教科書2の pp. 88-97までを確認し、理解が不十分であったことをまとめておくこと 復習：予習でわからなかったことを中心に講義内容の確認。復習でもわからなかった内容がある場合は、教員に確認すること	原 良昭	予習：予習でわからなかったことを中心に講義内容の確認。復習でもわからなかった内容がある場合は、教員に確認すること
10	基本要素と一次遅れの過渡応答 ・過渡応答に用いる代表的な入力信号を説明できる ・比例要素、積分要素、微分要素の過渡応答を説明できる ・一次遅れ要素の過渡応答を説明できる	予習：教科書2の pp. 110-125までを確認し、理解が不十分であったことをまとめておくこと 復習：予習でわからなかったことを中心に講義内容の確認。復習でもわからなかった内容がある場合は、教員に確認すること	原 良昭	予習：予習でわからなかったことを中心に講義内容の確認。復習でもわからなかった内容がある場合は、教員に確認すること
11	基本要素と一次遅れの周波数応答 ・周波数応答の表示に用いるポード線図を説明できる ・比例要素、積分要素、微分要素の周波数応答を説明できる ・一次遅れ要素の周波数応答を説明できる	予習：教科書2の pp. 98-107および pp. 122-133までを確認し、理解が不十分であったことをまとめておくこと 復習：予習でわからなかったことを中心に講義内容の確認。復習でもわからなかった内容がある場合は、教員に確認すること	原 良昭	予習：予習でわからなかったことを中心に講義内容の確認。復習でもわからなかった内容がある場合は、教員に確認すること
12	2. 次遅れ要素の過渡応答と周波数応答 ・2. 次遅れ要素の過渡応答を説明できるようになる ・2. 次遅れ要素の周波数応答を説明できるようになる	予習：教科書2の pp. 136-149までを確認し、理解が不十分であったことをまとめておくこと 復習：予習でわからなかったことを中心に講義内容の確認。復習でもわからなかった内容がある場合は、教員に確認すること	原 良昭	予習：予習でわからなかったことを中心に講義内容の確認。復習でもわからなかった内容がある場合は、教員に確認すること
13	フィードバック制御系 ・正帰還と負帰還について説明できるようになる ・フィードバック制御における各指標を説明できるようになる ・フィードバック制御における指標として、特に、定常偏差について説明できるようになる	予習：教科書2の pp. 150-155までを確認し、理解が不十分であったことをまとめておくこと 復習：予習でわからなかったことを中心に講義内容の確認。復習でもわからなかった内容がある場合は、教員に確認すること	原 良昭	予習：予習でわからなかったことを中心に講義内容の確認。復習でもわからなかった内容がある場合は、教員に確認すること
14	PID制御 ・P制御について説明できるようになる ・PI制御について説明できるようになる ・PID制御について説明できるようになる	予習：教科書1の pp. 121-127までを確認し、理解が不十分であったことをまとめておくこと 復習：予習でわからなかったことを中心に講義内容の確認。復習でもわからなかった内容がある場合は、教員に確認すること	原 良昭	予習：予習でわからなかったことを中心に講義内容の確認。復習でもわからなかった内容がある場合は、教員に確認すること
15	医療における制御 ・輸液ポンプや透析装置の典型的な制御内容を説明できるようになる	予習：教科書1の pp. 121-127までを確認し、理解が不十分であったことをまとめておくこと 復習：予習でわからなかったことを中心に講義内容の確認。復習でもわからなかった内容がある場合は、教員に確認すること	原 良昭	予習：予習でわからなかったことを中心に講義内容の確認。復習でもわからなかった内容がある場合は、教員に確認すること
成績評価方法と基準			割合	
1. 定期試験 学習した範囲内を対象とした筆記試験を行います			100%	

授業科目名		情報処理・システム制御工学実習(工学A)	
主担当教員	片山 俊郎	担当教員	片山 俊郎、中沢 一雄、原 良昭
科目ナンバリング	SB128	科目区分	専門基礎分野 DP①④
配当年次	2	開講学期	後期 月曜 4限 月曜 5限
授業形態	実習	単位数	1 必修・選択 必修
授業概要			
<p>1. 2年次前期で学習した「情報処理工学」の内容を実習において確認する。特にエクセルVBAにおいて実用的なデータ処理やアルゴリズムの基本となる考え方を要請する。</p> <p>2. 2年次前期で学習した「システム制御工学」の内容を実習において確認する。特に医療機器の制御で用いられている各制御方法の特徴について実習を通じて理解を深める</p> <p>3. 自作プログラムの入力方法、実行方法を習得するとともに、データ処理の基本を体験する。</p>			
到達目標			
<p>1. 医療従事者として必要と思われる業務的なデータ処理が実行できる。</p> <p>2. 実習を通じて各制御方法の特徴に対する理解を深め、適切な制御方法を選択できる知識を習得する。</p> <p>3. プログラミングの基礎を習得する。</p>			
履修上の注意(学生へのメッセージ)			
無断の遅刻・欠席は厳禁です。遅刻は全体の学習計画の遅延につながるのをご注意願います。			
目的意識を持って積極的に実習を行ってください。			
実習終了後は必ず実習機材を片付け、実習機材を破壊させたときは直ちに教員に報告してください。			
教科書			
使用しない(必要に応じて資料を講義時に配布)			
参考書			
中沢「入門者のEXCAL VBA」J、立山秀利、講談社ブルーバックス			
研究室/オフィスアワー			
中沢:C棟7階 研究室720 / 授業後			
原 :C棟7階 教職員室 / 火曜日3限			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	ガイダンスと情報リテラシーの復習	予習:ワード・エクセル等の基本機能を確認しておくこと 復習:講義内容の確認	中沢 一雄
2	エクセル(1):DBと関数機能	予習:実習書の確認	中沢 一雄
3	エクセル(2):マクロ機能	予習:実習書の確認 課題:小テスト有	中沢 一雄
4	エクセル(3):VBAの基本	予習:実習書の確認	中沢 一雄
5	エクセル(4):VBAによるシミュレーション	予習:実習書の確認 課題:小テスト有	中沢 一雄
6	プログラム実習(1):プログラムの基礎について講義した後、プログラムの実習環境の使い方を確認し、実際にノートパソコンを用いてプログラミングの実習を行う。ソーティング(数値を並べ替える)プログラムを実行し、実行する。	予習:実習書の確認	中沢 一雄
7	プログラム実習(2):デジタル信号のフィルタ処理等のプログラムを入力し、実行する。	復習:プログラムの実行結果についてレポートを作成する	中沢 一雄
8	原理の理解と動作確認	予習:実習書の確認	原 良昭
9	フィードバック制御の実習(2)	予習:実習書の確認 復習:実習内容についてレポートを作成する	原 良昭
10	ロボットカーの制御(1):実習装置の動作原理の理解と動作確認	予習:実習書の確認	原 良昭
11	ロボットカーの制御(2)	予習:実習書の確認 復習:実習内容についてレポートを作成する	原 良昭

12	生体計測データのプログラミング処理(1)	予習:実習書の確認	片山 俊郎
13	生体計測データのプログラミング処理(2)	予習:実習書の確認 復習:実習内容についてレポートを作成する	片山 俊郎
14	全体総括(1)		中沢 一雄
15	全体総括(2)		中沢 一雄
成績評価方法と基準			割合
①課題評価(レポート提出、内容など)			①80%
②小テスト			②20%

授業科目名	情報処理・システム制御工学実習(工学B)		
主担当教員	片山 俊郎	担当教員	片山 俊郎、中沢 一雄、原 良昭
科目ナンバリング	SB128	科目区分	専門基礎分野 該当項目 DP①④
配当年次	2	開講学期	後期 月曜 4 限 月曜 5 限
授業形態	実習	単位数	1 必修・選択
授業概要	<p>1. 2年次前期で学習した「情報処理工学」の内容を実習において確認する。特にエクセル VBA において実用的なデータ処理やアルゴリズムの基本となる考え方を実践する。</p> <p>2. 2年次前期で学習した「システム制御工学」の内容を実習において確認する。特に医療機器の制御で用いられている各制御方法の特徴について実習を通じて理解を深める。</p> <p>3. 自作プログラムの入力方法、実行方法を習得するとともに、データ処理の基本を体験する。</p>		
到達目標	<p>1. 医療従事者として必要と思われる実務的なデータ処理が実行できる。</p> <p>2. 実習を通じて各制御方法の特徴に対する理解を深め、適切な制御方法を選択できる知識を習得する。</p> <p>3. プログラミングの基礎を習得する。</p>		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	無断の遅刻・欠席は厳禁です。遅刻は全体の実習計画の遅延につながるので注意願います。自覚意識を持って積極的に実習を行ってください。実習終了後は必ず実習機材を片付け、実習機材を破損させたときは直ちに教員に報告してください。		
教科書	使用しない(必要に応じて資料を講義時に配布)		
参考書			
中沢:「入門者の EXCAL VBA J」、立山秀利、講談社ブルーバックス			
研究室/オフィスアワー			
中沢: C棟7階 研究室720 / 授業後			
原 : C棟7階 教職員室 / 火曜日3限			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	ガイダンスと情報リテラシーの復習	予習:ワード・エクセル等の基本機能を確認しておくこと 復習:講義内容の確認	中沢 一雄
2	エクセル(1):DBと関数機能	予習:実習書の確認	中沢 一雄
3	エクセル(2):マクロ機能	予習:実習書の確認 課題:小テスト有	中沢 一雄
4	エクセル(3):VBAの基本	予習:実習書の確認	中沢 一雄
5	エクセル(4):VBAによるシミュレーション	予習:実習書の確認 課題:小テスト有	中沢 一雄
6	プログラム実習(1) プログラムの基礎について講義した後、プログラムの実習環境の使い方を確認し、実際にノートパソコンを用いてプログラミングの実習を行う。ローディング(数値を並べ替える)プログラムを入力し、実行する。	予習:実習書の確認	中沢 一雄
7	プログラム実習(2) デジタル信号のフィルタ処理等のプログラムを入力し、実行する。	復習:プログラムの実行結果についてレポートを作成する	中沢 一雄
8	フィードバック制御の実習(1): 実習装置の動作原理の理解と動作確認	予習:実習書の確認	原 良昭
9	フィードバック制御の実習(2)	予習:実習書の確認 復習:実習内容についてレポートを作成する	原 良昭
10	ロボットカーの制御(1):実習装置の動作原理の理解と動作確認	予習:実習書の確認	原 良昭
11	ロボットカーの制御(2)	復習:実習内容についてレポートを作成する	原 良昭

12	生体計測データのプログラミング処理(1)	予習:実習書の確認	片山 俊郎
13	生体計測データのプログラミング処理(2)	予習:実習書の確認 復習:実習内容についてレポートを作成する	片山 俊郎
14	全体総括(1)		中沢 一雄
15	全体総括(2)		中沢 一雄
成績評価方法と基準			割合
①課題評価(レポート提出、内容など)			①80%
②小テスト			②20%

授業科目名		生体物性工学(工学)	
主担当教員	稲田 慎	担当教員	稲田 慎
科目ナンバリング	SS201	専門科目	DP①
配当年次	2	後期	金曜 2限
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	<p>臨床において使用される生体計測機器や治療機器の多くは、様々な物理エネルギーを生体に加えている。そのため、これらの機器を安全かつ効果的に使用するためには、生体へのエネルギーの作用に対する応答を予測することが重要であり、そのためには生体の物理的特性を理解する必要がある。本講義では、物理学や応用物理学で学んだ内容を基盤とし、物理的エネルギーと生体との関係について講義する。</p>		
到達目標	<p>1. 生体物質について理解し、説明することができる 2. 生体の電気的特性について理解し、説明することができる 3. 生体の音響特性について理解し、説明することができる 4. 生体の力学的特性について理解し、説明することができる 5. 生体の流体的特性について理解し、説明することができる 6. 生体の熱的特性について理解し、説明することができる 7. 生体の光特性について理解し、説明することができる 8. 生体の放射線特性について理解し、説明することができる 9. 計測工学、生体計測装置学、治療機器学、医療機器安全管理学など、3年生で学ぶ科目へ向けた視野を獲得する</p>		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	毎回、前回の講義内容に関する演習を行う。そのため、復習をしっかりすること、理解が不十分な項目については早めに質問し、理解できるように努力すること。		
教科書	村林俊、臨床工学技士のための生体物性、コロナ社		
参考書	必要に応じて参考書を紹介する。		
研究室/オフィスアワー	研究室/オフィスアワー		
授業展開及び授業計画表	オフィスアワーは木曜日 1 時限とするが、オフィスアワー以外であっても、研究室に在室であれば、随時、質問等を受け付ける。ただし、状況によっては対応できないこともある。そのため、事前にメール等で連絡を行うことを希望する。		
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	授業形態の説明、小テスト、生体物性の概要	復習：講義内容、小テストの復習	稲田
2	生体物質(水、電解質、タンパク質)	復習：講義内容、演習問題の復習	稲田
3	生体物質(脂質と細胞膜)	復習：講義内容、演習問題の復習	稲田
4	生体の電気的特性(受動的的特性)	復習：講義内容、演習問題の復習	稲田
5	生体の電気的特性(能動的的特性)	復習：講義内容、演習問題の復習	稲田
6	生体の電気的特性(電流の生体作用、電磁界の生体作用)	復習：講義内容、演習問題の復習	稲田
7	生体の音響特性	復習：講義内容、演習問題の復習	稲田
8	生体の力学的特性(力学的性質)	復習：講義内容、演習問題の復習	稲田
9	生体の力学的特性(生体組織の力学モデル)	復習：講義内容、演習問題の復習	稲田
10	生体の力学的特性(生体組織の力学的特性)	復習：講義内容、演習問題の復習	稲田
11	生体の流体的特性	復習：講義内容、演習問題の復習	稲田
12	生体の熱的特性	復習：講義内容、演習問題の復習	稲田
13	生体の光特性	復習：講義内容、演習問題の復習	稲田

14	生体の放射線特性	復習：講義内容、演習問題の復習	稲田
15	講義全体のまとめ	予習：全講義内容、全演習問題の確認 復習：全演習問題の復習	稲田
成績評価方法と基準			割合
1. 小テスト、演習問題			1. 40%
2. 定期試験			2. 60%

授業科目名	生体材料工学(工学)		稲田 慎	担当教員	稲田 慎
主担当教員	稲田 慎	科目区分	SS202	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目
科目ナンバリング	SS202	開講学期	後期	曜日・時限	DP① 金曜 3限
配当年次	2	単位数	2	必修・選択	必修
授業形態	講義				
授業概要	現代の医療では様々な医用材料が医療用具や医療機器に用いられている。安全かつ適切な医療を提供するためには、医用材料の特性を正しく理解する必要がある。本講義では、まず医用材料を学ぶために必要な化学の基礎について講義し、次に医用材料の種類、性質、用途、生体適合性等について講義する。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医用材料の基礎となる化学の基礎(金属材料、無機材料、有機材料)について理解し、説明することができる 2. 医用材料の種類について理解し、説明することができる 3. 医用材料の応用について理解し、説明することができる 4. 医用材料と生体との相互作用について理解し、説明することができる 5. 医用材料の生体適合性について理解し、説明することができる 6. 医用材料の滅菌について理解し、説明することができる 7. 医用材料の安全性評価について理解し、説明することができる 				
履修上の注意(学生へのメッセージ)	毎回、前回の講義内容に関する演習を行う。そのため、復習をしっかりすること、理解が不十分な項目については早めに質問し、理解できるように努力すること。				
教科書					
堀内孝、村林俊、医用材料工学、コロナ社					
参考書					
必要に応じて参考書を紹介する。					
研究室/オフィスアワー					
研究室/オフィスアワー	ただし、状況によっては対応できないこともある。そのため、事前にメール等で連絡を行うことを希望する。				

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	授業形態の説明、小テスト、医用材料の基礎(原子の結合と材料)	復習: 講義内容、小テストの復習	稲田
2	医用材料の基礎(金属材料、無機材料)	復習: 講義内容、演習問題の復習	稲田
3	医用材料の基礎(有機材料)	復習: 講義内容、演習問題の復習	稲田
4	医用材料の種類(金属材料、無機材料)	復習: 講義内容、演習問題の復習	稲田
5	医用材料の種類(高分子材料、生体由来材料)	復習: 講義内容、演習問題の復習	稲田
6	医用材料の応用(非靭血的組織代替材料)	復習: 講義内容、演習問題の復習	稲田
7	医用材料の応用(靭血的組織代替材料)	復習: 講義内容、演習問題の復習	稲田
8	医用材料の応用(体外循環治療用材料)	復習: 講義内容、演習問題の復習	稲田
9	医用材料の応用(インフォームス材料)	復習: 講義内容、演習問題の復習	稲田
10	医用材料の生体適合性(医用材料と生体の相互作用)	復習: 講義内容、演習問題の復習	稲田
11	医用材料の生体適合性(血栓形成反応)	復習: 講義内容、演習問題の復習	稲田
12	医用材料の生体適合性(補体活性化反応、その他の反応)	復習: 講義内容、演習問題の復習	稲田
13	医用材料の滅菌	復習: 講義内容、演習問題の復習	稲田
14	医用材料の安全性評価	復習: 講義内容、演習問題の復習	稲田

15	講義全体のまとめ	予習: 全講義内容、全演習問題の確認 復習: 全講義内容、全演習問題の復習	稲田
	成績評価方法と基準		割合
	1. 小テスト、演習問題		1. 40%
	2. 定期試験		2. 60%

授業科目名	バイオメカニクス(工学)			稲田 慎																																																									
主担当教員	稲田 慎	担当教員	稲田 慎																																																										
科目ナンバリング	SS203	科目区分	専門科目	DP①																																																									
配当年次	2	開講学期	後期	火曜 1限																																																									
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択																																																									
<p>授業概要</p> <p>バイオメカニクスは、生体の構造や機能を力学的に解析し、医学に役立つ学問である。本講義では、流体力学、熱力学、材料力学、機械力学等を講義する。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 圧力について理解し、問題を解くことができる 2. 流体力学に関する基礎的な定理、法則を理解し、問題を解くことができる 3. 熱に関する概念、法則を理解し、問題を解くことができる 4. 機械要素の強度、変形に関する概念、法則を理解し、問題を解くことができる 5. 機械要素について理解し、説明できる 6. 剛体の力学に関する原理を理解し、問題を解くことができる 7. 音波、超音波に関する法則を理解し、問題を解くことができる 8. 摩擦に関する概念について理解し、説明することができる <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>毎回、前回の講義内容に関する演習を行う。そのため、復習をしっかりすること、理解が不十分な項目については早めに質問し、理解できるように努力すること。</p> <p>教科書</p> <p>馬淵清貴, 医用機械工学, コロナ社</p> <p>参考書</p> <p>必要に応じて参考書を紹介する。</p> <p>研究室/オフィスアワー</p> <p>オフィスアワーは本曜日 1 時限とするが、オフィスアワー以外であっても、研究室に在室中であれば、随時、質問等を受け付ける。ただし、状況によっては対応できないこともある。そのため、事前にメール等で連絡を行うことを希望する。</p> <p>授業展開及び授業計画表</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>学修内容</th> <th>予習・復習・課題等</th> <th>担当</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>授業形態の説明、小テスト、流体力学(流体静力学)</td> <td>復習: 講義内容、小テストの復習</td> <td>稲田</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>流体力学(連続の式、トリチエリーの式、グレアムの法則、ベルヌーイの定理)</td> <td>復習: 講義内容、演習問題の復習</td> <td>稲田</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>流体力学(ハーゲン・ポアゼイユの法則)</td> <td>復習: 講義内容、演習問題の復習</td> <td>稲田</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>流体力学(層流・乱流、粘度測定、水撃)</td> <td>復習: 講義内容、演習問題の復習</td> <td>稲田</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>熱力学(温度と熱)</td> <td>復習: 講義内容、演習問題の復習</td> <td>稲田</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>熱力学(温度管理)</td> <td>復習: 講義内容、演習問題の復習</td> <td>稲田</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>材料力学(強度、応力、ひずみ)</td> <td>復習: 講義内容、演習問題の復習</td> <td>稲田</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>材料力学(弾性係数、梁の曲げ、安全率)</td> <td>復習: 講義内容、演習問題の復習</td> <td>稲田</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>機械要素</td> <td>復習: 講義内容、演習問題の復習</td> <td>稲田</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>機械力学(剛体の力学)</td> <td>復習: 講義内容、演習問題の復習</td> <td>稲田</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>機械力学(リンク機構)</td> <td>復習: 講義内容、演習問題の復習</td> <td>稲田</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>波動工学</td> <td>復習: 講義内容、演習問題の復習</td> <td>稲田</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>トライボロジー(固体の接触、摩擦)</td> <td>復習: 講義内容、演習問題の復習</td> <td>稲田</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>トライボロジー(摩擦、潤滑)</td> <td>復習: 講義内容、演習問題の復習</td> <td>稲田</td> </tr> </tbody> </table>	回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当	1	授業形態の説明、小テスト、流体力学(流体静力学)	復習: 講義内容、小テストの復習	稲田	2	流体力学(連続の式、トリチエリーの式、グレアムの法則、ベルヌーイの定理)	復習: 講義内容、演習問題の復習	稲田	3	流体力学(ハーゲン・ポアゼイユの法則)	復習: 講義内容、演習問題の復習	稲田	4	流体力学(層流・乱流、粘度測定、水撃)	復習: 講義内容、演習問題の復習	稲田	5	熱力学(温度と熱)	復習: 講義内容、演習問題の復習	稲田	6	熱力学(温度管理)	復習: 講義内容、演習問題の復習	稲田	7	材料力学(強度、応力、ひずみ)	復習: 講義内容、演習問題の復習	稲田	8	材料力学(弾性係数、梁の曲げ、安全率)	復習: 講義内容、演習問題の復習	稲田	9	機械要素	復習: 講義内容、演習問題の復習	稲田	10	機械力学(剛体の力学)	復習: 講義内容、演習問題の復習	稲田	11	機械力学(リンク機構)	復習: 講義内容、演習問題の復習	稲田	12	波動工学	復習: 講義内容、演習問題の復習	稲田	13	トライボロジー(固体の接触、摩擦)	復習: 講義内容、演習問題の復習	稲田	14	トライボロジー(摩擦、潤滑)	復習: 講義内容、演習問題の復習	稲田
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当																																																										
1	授業形態の説明、小テスト、流体力学(流体静力学)	復習: 講義内容、小テストの復習	稲田																																																										
2	流体力学(連続の式、トリチエリーの式、グレアムの法則、ベルヌーイの定理)	復習: 講義内容、演習問題の復習	稲田																																																										
3	流体力学(ハーゲン・ポアゼイユの法則)	復習: 講義内容、演習問題の復習	稲田																																																										
4	流体力学(層流・乱流、粘度測定、水撃)	復習: 講義内容、演習問題の復習	稲田																																																										
5	熱力学(温度と熱)	復習: 講義内容、演習問題の復習	稲田																																																										
6	熱力学(温度管理)	復習: 講義内容、演習問題の復習	稲田																																																										
7	材料力学(強度、応力、ひずみ)	復習: 講義内容、演習問題の復習	稲田																																																										
8	材料力学(弾性係数、梁の曲げ、安全率)	復習: 講義内容、演習問題の復習	稲田																																																										
9	機械要素	復習: 講義内容、演習問題の復習	稲田																																																										
10	機械力学(剛体の力学)	復習: 講義内容、演習問題の復習	稲田																																																										
11	機械力学(リンク機構)	復習: 講義内容、演習問題の復習	稲田																																																										
12	波動工学	復習: 講義内容、演習問題の復習	稲田																																																										
13	トライボロジー(固体の接触、摩擦)	復習: 講義内容、演習問題の復習	稲田																																																										
14	トライボロジー(摩擦、潤滑)	復習: 講義内容、演習問題の復習	稲田																																																										

15	講義全体のまとめ	予習: 全講義内容、全演習問題の確認 復習: 全講義内容、全演習問題の復習	稲田
成績評価方法と基準			割合
1. 小テスト、演習問題			1. 40%
2. 定期試験			2. 60%

授業科目名	生体情報処理工学(工学)		
主担当教員	中沢 一雄	担当教員	中沢 一雄
科目ナンバリング	SS206	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目
配当年次	2	開講学期	後期
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	2 必修・選択 選択		
到達目標	生体情報の基礎となる知識を身につける。特に脳神経系および心臓循環器系の情報処理機構を学び、生体情報の理論的基礎や処理手法について学習する。さらに、医用画像処理や人工心臓についても基本知識や最新の研究成果などについて知識を広める。		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	脳神経系および心臓循環器系を中心に種々の生体情報の時性を理解する。 生体情報のデータ処理やモデル・シミュレーションの手法の考え方を身につける。		
無断の遅刻・欠席は厳禁です。 臨床工学技士として業務に役立つ知識を身につけて、できれば研究分野への応用にも興味を広げてほしいと思います。			
教科書	無し。講義資料を配布する。		
参考書	授業の中で紹介します。		
研究室/オフィスアワー	0 棟 7 階研究室 720/授業後		
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	ガイダンス: 生体の情報処理に学ぶ。	復習:講義資料の確認	中沢
2	脳神経系の情報処理(1) ニューロンと神経回路	復習:講義資料の確認	中沢
3	脳神経系の情報処理(2) 学習・記憶・AI	復習:講義資料の確認	中沢
4	コンピュータ・シミュレーションの基礎	復習:講義資料の確認とレポートを提出する	中沢
5	心臓循環器系の情報処理(1):心臓の機能と構造、心臓電気生理学概論	復習:講義資料の確認	中沢
6	心臓循環器系の情報処理(2):心電図解析による不整脈発生起源の同定	復習:講義資料の確認	中沢
7	心臓循環器系の情報処理(3):計算科学概論、活動電位モデル、心臓形状モデルの構築	復習:講義資料の確認	中沢
8	心臓循環器系の情報処理(4):許洞とシミュレーションによる心臓刺激伝導系の解析	復習:講義資料の確認	中沢
9	心臓循環器系の情報処理(5):スパーコンピュータを用いた大規模シミュレーションによる不整脈解析	復習:講義資料の確認とレポートを提出する	中沢
10	医用画像処理(1)	復習:講義資料の確認	中沢
11	医用画像処理(2)	復習:講義資料の確認	中沢
12	医用画像処理(3)	復習:講義資料の確認とレポートを提出する	中沢
13	人工心臓(1)	復習:講義資料の確認	中沢
14	人工心臓(2)	復習:講義資料の確認とレポートを提出する	中沢
15	全体総括		中沢

成績評価方法と基準	割合
①筆記試験	①40%
②レポート等の提出	②60%

授業科目名 医用機器学概論(工学)			
主担当教員	布江田 友理	担当教員	布江田 友理
科目ナンバリング	SS207	科目区分	ディプロマポリシー 該当項目 DP①
配当年次	2	開講学期	曜日・時限 月曜 1限
授業形態	講義	単位数	2 必修・選択 必修
授業概要			
<p>医用機器の全体概と臨床医療における医用機器の役割を教授する。具体的には、医用機器の歴史と発展、生体計測・監視用機器の構成、原理、使用環境および使用条件、治療用機器の構成、原理、使用環境および使用条件、生体機能代行補助機器の構成、原理、使用環境および使用条件、医用電子機器の構成、原理、使用環境および使用条件、医用機器で使用する電磁波、超音波、放射線、レーザーなどの人体への影響と適用原理、医用機器の事故事例と安全対策、医用機器適用時の備理などについて解説する。</p> <p>※本科目は実務経験のある教員等による授業科目です</p>			
到達目標			
様々な医療機器の構造・機能の特徴・概要について説明できる。			
履修上の注意(学生へのメッセージ)			
「授業計画」欄に記載されている内容に相当する部分を予め調べ、講義後は、疑問点を放置せず、自ら解決できるように努力し、授業内容を自分自身の言葉でまとめ直すこと。			
教科書			
「イラスト図解医療機器と検査・治療のしくみ」日本実業出版社			
参考書			
MEの基礎知識と安全管理 改訂第6版 南江堂			
研究室/オフィスアワー			
研究室			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	医療機器とは	予習：シラバス確認・講義内容の把握 復習：キーワードの確認・授業をもとに自己学習ノ ート作成	
2	医療機器の安全対策	予習：シラバス確認・講義内容の把握 復習：キーワードの確認・授業をもとに自己学習ノ ート作成	
3	生体計測の基礎 生体情報の計測	予習：シラバス確認・講義内容の把握 復習：キーワードの確認・授業をもとに自己学習ノ ート作成	
4	生体計測機器1：心電計、心電図モニター	予習：シラバス確認・講義内容の把握 復習：キーワードの確認・授業をもとに自己学習ノ ート作成	
5	生体計測機器1：血圧計	予習：シラバス確認・講義内容の把握 復習：キーワードの確認・授業をもとに自己学習ノ ート作成	
6	生体計測機器1：体温計	予習：シラバス確認・講義内容の把握 復習：キーワードの確認・授業をもとに自己学習ノ ート作成	
7	生体計測機器1：パルスオキシメータ	予習：シラバス確認・講義内容の把握 復習：キーワードの確認・授業をもとに自己学習ノ ート作成	
8	生体計測機器1：カブノメータ	予習：シラバス確認・講義内容の把握 復習：キーワードの確認・授業をもとに自己学習ノ ート作成	

一ト作成	
9	講義全体のまとめ1 予習：シラバス確認・講義内容の把握 復習：キーワードの確認・授業をもとに自己学習ノ ート作成
10	治療の基礎 予習：シラバス確認・講義内容の把握 復習：キーワードの確認・授業をもとに自己学習ノ ート作成
11	医用治療機器 輸液ポンプ・シリンジポンプ 予習：シラバス確認・講義内容の把握 復習：キーワードの確認・授業をもとに自己学習ノ ート作成
12	医用治療機器 除細動器 AED 予習：シラバス確認・講義内容の把握 復習：キーワードの確認・授業をもとに自己学習ノ ート作成
13	医用治療機器 ベースメーカ 予習：シラバス確認・講義内容の把握 復習：キーワードの確認・授業をもとに自己学習ノ ート作成
14	講義全体のまとめ2 予習：13 回目の講義終了時に提示された課題を 提出する。 復習：キーワードの確認・授業をもとに自己学習ノ ート作成
15	医療機器の事故事例 安全対策 予習：医療機器の事故事例を調べ、安全対策を 考える。 復習：キーワードの確認・授業をもとに自己学習ノ ート作成
成績評価方法と基準	
1. 平常点評価(受講態度、小テスト、課題)	
2. 定期試験 出題範囲:授業内に扱った全範囲(配布したプリントも含む)	
割合	
1. 30%	
2. 70%	

授業科目名		画像診断装置学(工学)	
主担当教員	片山 俊郎	担当教員	片山 俊郎、長井 英仁
科目ナンバリング	SS212	科目区分	ディプロマポリシー 該当項目 DP①
配当年次	2	開講学期	後期
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	2	必修・選択	選択
到達目標	人体を傷つけることなく、外部からは目視できない生体内部を画像化し、断層像や3次元画像を得る医用画像装置の普及は目覚ましいものがあります。本講義では、臨床現場で利用されている超音波診断装置、X線CT、MRI、核医学診断装置などの装置としての原理を学びます。本講義では、臨床現場で利用されている。今後、医用画像分野における情報通信工学の技術者となるために必要な基礎を築くことを目的とします。		
到達目標	医用画像装置の原理に関する知識を身につけ、構造、要素技術、技術変遷、臨床利用などを知識として習得する		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	教科書の「授業計画」欄に記載されている内容に相当する部分を予め読み、講義後は、疑問点を放置せず、自ら解決できるように努力し、授業内容を自分自身の言葉でまとめ直すこと。		
教科書	「臨床工学講座 生体計測装置学」医歯薬出版		
参考書	「MEの基礎知識と安全管理」南江堂		
研究室/オフィスアワー	南棟7階研究室21/電気がついていれば入室です。質問があればいつでもどうぞ。		
授業展開及び授業計画表	回数 学修内容 予習・復習・課題等 担当		
1	【画像診断装置学】その種類と特徴	予習：シラバスの確認・講義内容の把握 復習：キーワード確認・講義ノートの完成	片山
2	【超音波診断装置学】超音波の物理的特性	予習：シラバスの確認・講義内容の把握 復習：キーワード確認・講義ノートの完成	片山
3	【超音波診断装置学】超音波の発生と検出	予習：シラバスの確認・講義内容の把握 復習：キーワード確認・講義ノートの完成	片山
4	【超音波診断装置学】ドプラ法の原理と種類	予習：シラバスの確認・講義内容の把握 復習：キーワード確認・講義ノートの完成	片山
5	【超音波診断装置学】超音波診断装置とは	予習：シラバスの確認・講義内容の把握 復習：キーワード確認・講義ノートの完成	片山
6	【MR】核磁気共鳴とは	予習：シラバスの確認・講義内容の把握 復習：キーワード確認・講義ノートの完成	片山
7	【MR】MR装置とは	予習：シラバスの確認・講義内容の把握 復習：キーワード確認・講義ノートの完成	片山
8	【MR】MR画像再構成	予習：シラバスの確認・講義内容の把握 復習：キーワード確認・講義ノートの完成	片山
成績評価方法と基準	割合 片山：①30% ②70% 長井：①30% ②70%		
	片山：①平常点評価(受講態度、講義ノートの確認) ②試験評価 長井：①平常点評価(受講態度、講義ノートの確認、小テスト) ②試験評価		

授業科目名		体外循環装置学(工学)	
主担当教員	西垣 孝行	担当教員	西垣 孝行
科目ナンバリング	SS301	科目区分	ディプロマポリシー 該当項目 DP①
配当年次	2	開講学期	後期
授業形態	演習	単位数	1
授業概要	生命維持管理装置の一つである人工心肺システムを構成する材料をはじめ血液ポンプ、人工肺、フィルタ、リザーバーなどについてその基礎から最新の技術面を含めて教授する。また、血液ポンプ、人工肺、人工心肺の原理と構成について解説する。次に血液に対する影響、内分泌、免疫への影響、循環動態などの体外循環の病態生理について解説し、さらに人工心肺充填液、通正灌流量、モニタリング、心筋保護などの体外循環技術の学習させる。また体外循環のトラブル対策、合併症など安全管理について教授する。		
到達目標	※本科目は実務経験のある教員等による授業科目です 人工心肺の歴史から現在の臨床現場で使用されているシステム構成と特徴が説明できる。 体外循環の病態生理が説明できる。 人工心肺装置の操作に必要なモニタリングや充填液組成、心筋保護液組成などが説明できる。 人工心肺装置のトラブルや合併症の対策について、説明できる。		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	人工心肺装置は、全身の生理学や解剖学、血液学など、非常に多岐にわたる基礎知識を患者さんの病態に合わせて結びつけながら学習しなければなりません。さらに人工心肺の管理中は、非生理学と書かれる程、人体は非常に特殊な状況になります。予習・復習を必ず実施してください。		
教科書	臨床工学講座「生体機能代行装置学 体外循環装置」医歯薬出版株式会社、監修：一般社団法人 日本臨床工学技士教育施設協議会 編集：見目 恭一、福長 一義、ISBN978-4-263-73411-7 C3347		
参考書	日本体外循環技術医学会ホームページ http://jasect.sakura.ne.jp/ 近畿地方会ホームページ http://jasect-k.uimin.jp/		
研究室/オフィスアワー	C棟7階・教員室/オフィスアワー：水曜日午前、木曜日午前・午後 必ず事前ご連絡してください。		
授業展開及び授業計画表	回数 学修内容 予習・復習・課題等 担当		
1	人工心肺の概要と歴史	予習：教科書および参考資料を用いて関連する事項に目を通す。 復習：授業の内容をまとめる	
2	人工心肺総論	予習：教科書および参考資料を用いて関連する事項に目を通す。 復習：授業の内容をまとめる	
3	人工心肺回路のデバイス構成	予習：教科書および参考資料を用いて関連する事項に目を通す。 復習：授業の内容をまとめる	
4	人工心肺装置の周辺機器と構成	予習：教科書および参考資料を用いて関連する事項に目を通す。 復習：授業の内容をまとめる	
5	生体との接続とトラブル	予習：教科書および参考資料を用いて関連する事項に目を通す。 復習：授業の内容をまとめる	
6	人工心肺装置のモニタリング	予習：教科書および参考資料を用いて関連する事項に目を通す。 復習：授業の内容をまとめる	

7	心臓手術時の生体側モニタリング	予習：教科書および参考資料を用いて関連する事項に目を通す。 復習：授業の内容をまとめる	
8	体外循環の生理	予習：教科書および参考資料を用いて関連する事項に目を通す。 復習：授業の内容をまとめる	
9	体外循環の病態生理	予習：教科書および参考資料を用いて関連する事項に目を通す。 復習：授業の内容をまとめる	
10	心筋保護の目的と概念	予習：教科書および参考資料を用いて関連する事項に目を通す。 復習：授業の内容をまとめる	
11	心筋保護液の注入の種類と実際	予習：教科書および参考資料を用いて関連する事項に目を通す。 復習：授業の内容をまとめる	
12	通常の体外循環操作の実際	予習：教科書および参考資料を用いて関連する事項に目を通す。 復習：授業の内容をまとめる	
13	人工心肺の安全管理(トラブルシューティング)	予習：教科書および参考資料を用いて関連する事項に目を通す。 復習：授業の内容をまとめる	
14	人工心肺の離脱と止血操作	予習：教科書および参考資料を用いて関連する事項に目を通す。 復習：授業の内容をまとめる	
15	人工心肺の実際のまとめ	予習：教科書および参考資料を用いて関連する事項に目を通す。 復習：授業の内容をまとめる	
成績評価方法と基準			割合
1、授業中に行う小テスト 2、小テストの範囲をレポート提出 「〇〇をわかりやすい図を使って、解説しなさい」(1200程度) * 提出期限・作成方法等の詳細は、授業内で説明します。 3、定期試験 出題範囲：授業内で扱った範囲(小テストの内容を含む) 4、2/3 回以上の出席が必要。			1、20% 2、10% 3、70%

授業科目名	血液浄化装置学(工学)		
主担当教員	辻 義弘	担当教員	辻 義弘、人見 泰正
科目ナンバリング	SS304	科目区分	タイププログラム 該当目 DP①
配当年次	2	開講学期	曜日・時限 木曜 4 限
授業形態	演習	単位数	1
授業概要	必修・選択 必修		
到達目標	血液浄化療法は、腎機能の低下により、慢性腎臓病に陥り体液の恒常性を維持できなくなった状態を体外循環技術を用いて是正する治療法である。本講義では、血液透析を中心とした血液浄化療法の原理、人工腎臓、透析液、ハズキキュアアクセスなどを理解する。また、血液浄化装置の構造及び保守点検管理、水処理システムなどを学び、治療の実際と患者管理について基礎知識の習得を目標とする。 ※本科目は実務経験のある教員等による授業科目です		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	1) 毎回、講義スライドを印刷したプリントと演習問題のプリントを配布する。各講義の予習・復習は必ず行うこと。 2) 適宜、小テスト、課題、レポートを課す。 3) 血液浄化装置学は臨床工学技士にとって非常に重要な科目の1つであるので積極的な態度と姿勢で授業へ参加すること。		
教科書	「血液浄化療法ハンドブック2019」透析療法法合委員会 企画・編集 共同医学出版社 ISBN 978-4-7639-5026-0		
参考書	臨床工学講座 生体機能代行装置学 血液浄化療法装置、竹清真吾他編、医歯薬出版		
研究室/オフィスアワー	在室していればいつでも対応します。		
授業展開及び授業計画表	回数	学修内容	予習・復習・課題等 担当
1	腎臓病の病態と症状、血液透析の適応について	予習：教科書の当該範囲を熟読 復習：配布した演習問題を行う	
2	血液浄化装置の構成とその周辺装置について、血液回路の構成と役割	予習：教科書の当該範囲を熟読 復習：配布した演習問題を行う	
3	血液透析の原理	予習：教科書の当該範囲を熟読 復習：配布した演習問題を行う	
4	バスキュラーアクセス	予習：教科書の当該範囲を熟読 復習：配布した演習問題を行う	
5	血液透析器の種類と特徴	予習：教科書の当該範囲を熟読 復習：配布した演習問題を行う	
6	透析液の種類と特徴	予習：教科書の当該範囲を熟読 復習：配布した演習問題を行う	
7	血液浄化療法における抗凝固薬	予習：教科書の当該範囲を熟読 復習：配布した演習問題を行う	
8	水処理装置と透析液の清浄化	予習：教科書の当該範囲を熟読 復習：配布した演習問題を行う	
9	血液濾過と血液透析濾過の原理	予習：教科書の当該範囲を熟読 復習：配布した演習問題を行う	
10	血液透析の実際と血液浄化療法施行中の安全管理	予習：教科書の当該範囲を熟読 復習：配布した演習問題を行う	

11	適正透析について	予習：教科書の当該範囲を読む 復習：配布した演習問題を行う	
12	長期透析に伴う合併症、薬物療法と食事療法	予習：教科書の当該範囲を読む 復習：配布した演習問題を行う	
13	特殊透析療法の原理と構成 1	予習：教科書の当該範囲を読む 復習：配布した演習問題を行う	
14	特殊透析療法の原理と構成 2	予習：教科書の当該範囲を読む 復習：配布した演習問題を行う	
15	我が国における透析療法の現況と血液浄化療法の歴史	予習：教科書の当該範囲を読む 復習：配布した演習問題を行う	
成績評価方法と基準			割合
出席は4/5以上を必要とし、その基準を満たした者について成績評価を行う。			1. 30%
1. 小テスト・課題・レポート			2. 70%
2. 定期試験			

授業科目名	人工呼吸装置学(工学)		
主担当教員	布江田 友理	担当教員	布江田 友理
科目ナンバリング	SS307	科目区分	DP①
配当年次	2	開講学期	後期
授業形態	演習	単位数	1
授業概要	補助装置を含めた人工呼吸器の構造・装置・操作について総合的に教授する。まず、人工呼吸器の目的と医用ガスの物性と気体力学などの原理および人工呼吸器の種類と構造について学習させる。人工呼吸の技術として、自発呼吸と人工呼吸、換気モード、開始基準、人工呼吸器の設定、患者状態の把握等について解説する。さらに、在宅呼吸管理(酸素療法、人工呼吸、安全管理の手法として各機器の安全管理、日常・定期点検、消毒と洗浄などについて解説する。		
到達目標	※本科目は実務経験のある教員等による授業科目です		
	1. 人工呼吸器の構造・原理・機能、さらに付属部品の必要性について説明ができる。		
	2. 臨床工学技士が関わる呼吸治療業務を把握し、現状を説明ができる。		
	履修上の注意(学生へのメッセージ)		
	1. 「授業計画」に記載されている学習内容に相当する内容を教科書で確認し、予習しておく。		
	2. 講義後は復習し、疑問点があれば、次の講義までに解決しておく。		
教科書			
臨床工学技士のための呼吸治療ガイドブック MEDICAL VIEW 社			
参考書			
特になし			
研究室/オフィスアワー			
研究室			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	呼吸療法総論 呼吸療法の歴史・現状など	予習：シラバス・教科書の確認 復習：授業をもとに教科書の確認・自己学習ノート作成	
2	呼吸管理に必要な解剖・呼吸器系の役割	予習：シラバス・教科書の確認 復習：授業をもとに教科書の確認・自己学習ノート作成	
3	呼吸不全の病態	予習：シラバス・教科書の確認 復習：授業をもとに教科書の確認・自己学習ノート作成	
4	酸素療法	予習：シラバス・教科書の確認 復習：授業をもとに教科書の確認・自己学習ノート作成	
5	高気圧酸素療法	予習：シラバス・教科書の確認 復習：授業をもとに教科書の確認・自己学習ノート作成	
6	人工呼吸器1 基本構造・付属品	予習：シラバス・教科書の確認 復習：授業をもとに教科書の確認・自己学習ノート作成	
7	人工呼吸器2 管理・医療ガスの基礎	予習：シラバス・教科書の確認 復習：授業をもとに教科書の確認・自己学習ノート作成	

8	授業全体のまとめ1	予習：シラバス、教科書の確認 復習：授業をもとに教科書の確認・自己学習ノート作成	
9	気道確保と気道管理	予習：シラバス、教科書の確認 復習：授業をもとに教科書の確認・自己学習ノート作成	
10	人工呼吸器の機能1 換気方式	予習：シラバス、教科書の確認 復習：授業をもとに教科書の確認・自己学習ノート作成	
11	人工呼吸器の機能2 換気モード	予習：シラバス、教科書の確認 復習：授業をもとに教科書の確認・自己学習ノート作成	
12	人工呼吸器の機能3 設定項目	予習：シラバス、教科書の確認 復習：授業をもとに教科書の確認・自己学習ノート作成	
13	人工呼吸器のモニタリング・ウィーニング	予習：シラバス、教科書の確認 復習：授業をもとに教科書の確認・自己学習ノート作成	
14	非侵襲的陽圧換気法	予習：シラバス、教科書の確認 復習：授業をもとに教科書の確認・自己学習ノート作成	
15	授業全体のまとめ2	予習：14 回目授業で配布した資料内の穴埋め問題などを解き、提出する。 復習：授業をもとに教科書の確認・自己学習ノート作成	
成績評価方法と基準			割合
1. 授業中に行う小テスト			1. 20%
2. 定期試験 出題範囲：授業内に扱った全範囲（配布したプリントも含む）			2. 80%
3. 4/5 回以上の出席が必要である。			

授業科目名	人体機能補助装置(工学)		
主担当教員	西垣 孝行	担当教員	西垣 孝行
科目ナンバリング	SS310	科目区分	専門科目 DP①
配当年次	2	開講学期	後期 水曜1限
授業形態	演習	単位数	1
授業概要	<p>人体機能補助装置では、循環系の補助装置である大動脈内バルーンポンピング(IABP)、経皮的心臓補助装置(PPPS)、ペースメーカーおよび補助人工心臓などの目的、原理、使用する物品・機器および装着手順と操作方法について解説し、動作チェックをおよびトラブル対策について教授する。さらに脈管カテーテル治療、検査の目的、原理、使用する物品・機器および装着手順と操作方法について解説する。さらに脈管カテーテル治療機器のトラブルや合併症の対策について説明できる。</p> <p>※本科科目は実務経験のある教員等による授業科目です</p> <p>到達目標</p> <p>各種補助循環装置およびカテーテル治療機器の歴史から現在の臨床現場で使用されているシステム構成と特徴が説明できる。</p> <p>各種補助循環装置およびカテーテル治療機器の病態生理が説明できる。</p> <p>各種補助循環装置およびカテーテル治療機器の特徴や操作の流れが説明できる。</p> <p>各種補助循環装置およびカテーテル治療機器のトラブルや合併症の対策について説明できる。</p> <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>各種補助循環装置およびカテーテル治療機器は、全身の生理学や解剖学、血液学など、非常に多岐にわたる基礎知識を患者さんの病態に合わせて結びつけることが学習しなければなりません。さらに各種補助循環装置は、非生理学と言われる程、人体は非常に特殊な状況になります。さらにカテーテル治療機器は、新規デバイスがほとんど開発され低侵襲化が非常に進んでいます。</p> <p>予習・復習を必ず実施してください。</p>		
教科書	<p>臨床工学講座「医用治療機器学」、医歯薬出版株式会社、監修：一般社団法人 日本臨床工学技士教育施設協議会 編集：篠原 一彦、ISBN978-4-263-73400-1 C3347</p> <p>参考書</p> <p>人体のメカニズムから学ぶ臨床工学「循環器治療学」、メジカルビュー社、監修：聖明、編集：白山 武司、八木克史、ISBN978-4-7583-1716-0 C3347</p> <p>日本体外循環技術医学会ホームページhttp://jasect.sakura.ne.jp/</p> <p>近畿地方会ホームページhttp://jasect-k.umin.jp/</p> <p>日本人工臓器学会ホームページhttp://www.jsao.org/</p>		
研究室/オフィスアワー	<p>研究室/オフィスアワー：水曜日午前、木曜日午前・午後</p> <p>C棟7階：教員室/オフィスアワー：水曜日午前、木曜日午前・午後</p> <p>必ず事前に連絡してください。</p>		
授業展開及び授業計画表	回数	学修内容	担当
1	各種補助循環装置およびカテーテル治療機器の総論	予習：教科書および参考資料を用いて関連する事項に目を通す。 復習：授業の内容をまとめる	
2	大動脈内バルーンポンピング(IABP)の目的、原理、使用する物品・機器、合併症	予習：教科書および参考資料を用いて関連する事項に目を通す。 復習：授業の内容をまとめる	
3	経皮的心臓補助装置(PPPS)の目的、原理、使用する物品・機器、合併症	予習：教科書および参考資料を用いて関連する事項に目を通す。 復習：授業の内容をまとめる	
4	補助人工心臓の目的、原理、使用する物品・機器、合併症	予習：教科書および参考資料を用いて関連する事項に目を通す。 復習：授業の内容をまとめる	
5	心内留置型ポンプカテーテルの目的、原理、使用する物品・機器、合併症	予習：教科書および参考資料を用いて関連する事項に目を通す。 復習：授業の内容をまとめる	

		復習：授業の内容をまとめる	
6	各種補助循環デバイスの選択基準と併用	予習：教科書および参考資料を用いて関連する事項に目を通す。 復習：授業の内容をまとめる	
7	冠動脈カテーテル治療の目的、原理、使用する物品・機器、合併症	予習：教科書および参考資料を用いて関連する事項に目を通す。 復習：授業の内容をまとめる	
8	弁膜症カテーテル治療の目的、原理、使用する物品・機器、合併症	予習：教科書および参考資料を用いて関連する事項に目を通す。 復習：授業の内容をまとめる	
9	人工血管グラフト治療の目的、原理、使用する物品・機器、合併症	予習：教科書および参考資料を用いて関連する事項に目を通す。 復習：授業の内容をまとめる	
10	ペースメーカーの目的、原理、使用する物品・機器、合併症	予習：教科書および参考資料を用いて関連する事項に目を通す。 復習：授業の内容をまとめる	
11	植え込み型除細動装置(ICD)の目的、原理、使用する物品・機器、合併症	予習：教科書および参考資料を用いて関連する事項に目を通す。 復習：授業の内容をまとめる	
12	両心室ペースメーキング機能付き除細動装置(CRT-D)の目的、原理、使用する物品・機器、合併症	予習：教科書および参考資料を用いて関連する事項に目を通す。 復習：授業の内容をまとめる	
13	カテーテルアブレーション装置の目的、原理、使用する物品・機器、合併症	予習：教科書および参考資料を用いて関連する事項に目を通す。 復習：授業の内容をまとめる	
14	各種補助循環装置およびカテーテル治療機器における臨床の実態まとめ	予習：教科書および参考資料を用いて関連する事項に目を通す。 復習：授業の内容をまとめる	
15	各種補助循環装置およびカテーテル治療機器に関する遠隔医療の実態と将来性	予習：教科書および参考資料を用いて関連する事項に目を通す。 復習：授業の内容をまとめる	
成績評価方法と基準			割合
1、授業中に行う小テスト 2、小テストの範囲をレポート提出 「〇」をわかりやすい図を使って、解説しなさい(1200字程度) *提出期限・作成方法等の詳細は、授業内で説明します。 3、定期試験 出題範囲：授業内で扱った範囲(小テストの内容を含む) 4、4/5回以上の出席が必要。			1、20% 2、10% 3、70%

保健医療学専攻(修士課程)
(2017年度以降 入学生カリキュラム)

授業科目名		代替・統合医療特論(保健医療学専攻) (Alternative and Integrative Medicine 【Advanced】)	
主担当教員	山下 仁	担当教員	山下 仁、森 美侑紀
科目ナンバリング	HLA001	共通科目	DP①
配当年次	1	開講学期	前期
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	統合医療という言葉が知られるようになったが、その定義、概念、臨床応用、および学問体系は統一されていない。統合医療を理解し発展させるために、現代医療と代替医療、東洋伝統医療それぞれの長所と短所を理解した上で、科学的エビデンスと患者の価値観の両方を重視することの重要性を解説する。また、統合医療の重要な構成要素である代替医療の各種治療法について概説し、それぞれの有効性と安全性について批判的吟味を行う。最後に、個々の学生のもつ医療資格において、統合医療にどのような形で関与できるかを考える。		
到達目標	統合医療の概念、現状、および課題について理解する。 なぜ統合医療が必要という意見があるのか、その背景が説明できる。 代替医療の主な治療法について種類と概要の説明、および批判的吟味ができる。 自身の医療資格でどのように統合医療に関与すべきか、自分なりの考えが持てる。		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	履修上の注意(学生へのメッセージ)		
患者は様々な療法を要し、医薬品や健康食品を購入している。自分の持っている医療資格に関係なく、患者の立場で必要な知識やセンスを身に付けてほしい。	患者は様々な療法を要し、医薬品や健康食品を購入している。自分の持っている医療資格に関係なく、患者の立場で必要な知識やセンスを身に付けてほしい。		
教科書	なし。関連学術雑誌に掲載された論文などを、必要に応じて紹介する。		
参考書	医学雑誌に掲載された論文 代替医療のトリック サイモン・シン、エツァート・エルンスト 新潮社 研究室/オフィスマワー		
山下 仁：東棟 24 研究室、月・火 6 時間	山下 仁：東棟 24 研究室、月・火 6 時間		
授業展開及び授業計画表	授業展開及び授業計画表		
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	代替医療・統合医療の定義と概念(山下)	自分または家族の代替医療関連療法・商品の利用状況を知る	
2	代替医療・統合医療の現状と背景(山下)	自分または家族が利用している療法や商品について、なぜ使用しているのかを考える	
3	代替医療・統合医療とEBM(山下)	自分または家族が利用している療法や商品について、効果と安全性がどの程度説明されているのか調べる	
4	代替医療・統合医療とプラセボ効果(山下)	自分または家族が利用している療法や商品について、それぞれプラセボ効果がどれくらい含まれるか推定する	
5	代替医療・統合医療とスピリチュアル(山下)	自分または家族が難治性の病気になるたとき、医療に何を求めるか仮想する	
6	代替医療の各種治療法①(山下) 東洋伝統医療	附属図書館にある書籍・雑誌・資料で、東洋伝統医療に関する基本情報を調べる	
7	代替医療の各種治療法②(山下) ハーブ・サブ	附属図書館にある書籍・雑誌・資料で、ハーブ・サブリンメントに関する基本情報を調べる	
8	代替医療の各種治療法③(森) アロマセラピー	附属図書館にある書籍・雑誌・資料で、アロマセラピーに関する基本情報を調べる	
9	代替・統合医療とビジネス・利益相反(山下)	附属図書館にある学術雑誌に掲載されている代替医療の有効性検証に関する原簿論文をひとつ選んで、その利益相反の関与について考える	
10	代替医療・統合医療と看護(緒方)	日本国内の代替医療・統合医療と看護の現状を知る	
11	各種代替医療の批判的吟味: 院生による調査報告①(山下)	代替医療をひとつテーマに挙げて、その概要・エビデンス・安全性を調べてレポートにまとめる	

12	各種代替医療の批判的吟味: 院生による調査報告②(山下)	代替医療をひとつテーマに挙げて、その概要・エビデンス・安全性を調べてレポートにまとめる	調査報告
13	各種代替医療の批判的吟味: 院生による調査報告③(山下)	代替医療をひとつテーマに挙げて、その概要・エビデンス・安全性を調べてレポートにまとめる	調査報告
14	各種代替医療の批判的吟味: 院生による調査報告④(山下)	代替医療をひとつテーマに挙げて、その概要・エビデンス・安全性を調べてレポートにまとめる	調査報告
15	各種代替医療の批判的吟味: 院生による調査報告⑤(山下)	今まで授業で習ってきた知識を総合して、自身の医療資格が患者を主体とした統合医療にどのように関与できるのか考える	調査報告
成績評価方法と基準			
①講義におけるディスカッションの内容			
②提出レポートの内容			
			割合
			①30%
			②70%

授業科目名	東洋医学史特論(保健医療学専攻) (History of Oriental Medicine)		
主担当教員	大形 徹	担当教員	大形 徹
科目ナンバリング	HLA002	科目区分	ディプロマポリシー 一 該当項目
			DR①
			月曜 1限 月曜 2限 月曜 3限 月曜 4限 月曜 5限 火曜 1限 火曜 2限 火曜 3限 火曜 4限 火曜 5限 水曜 1限 水曜 2限 水曜 3限 水曜 4限 水曜 5限
配当年次	1	開講学期	曜日・時限
授業形態	講義	単位数	必修・選択 2
授業概要	中国医学は鍼灸治療と薬物学の二つから成り立つが、大学院ではこの両者についての基礎的な知識を深めるために、鍼灸書の古典と本草書の古典の概要を解説するとともに、それらが日本古代の医薬治療にも深く影響を与えていることをも解説する。		
到達目標	講義では中国・日本・欧米の最新の研究成果にもついて鍼灸学と本草学を解説するが、日本語による理解だけに止まらず、できれば古典文献をも少しは読解できるように努めたい。		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	漢文の原典を読んだり、一部、中国語を読んだりするかもしれません。辞書や検索の方法については、授業時に紹介します。		
教科書	プリントを配付します。		
参考書	中国科学技術史(医学巻) 藤青祥・鄭金生ほか 科学出版社(1998) 中国医学古典と日本 小曾戸洋 瑞書房		
研究室/オフィスアワー	非常勤ですので、オフィスアワーはありません。本務校は、大阪府立大学人間社会学研究科です。 メールは ohigata28@attマーク gmail.com にご連絡ください。		
授業展開及び授業計画表	授業展開及び授業計画表		
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	伝統中医学の基本理念 中国医学は「氣」の身体観から成り立っている	授業で学んだことを復習しておくこと	大形
2	黄帝内経素問 最古の鍼灸医学の基礎的理論を説く書	授業で学んだことを復習しておくこと	大形

3	靈樞經 素問よりやや要点的に鍼灸的治療を説く	授業で学んだことを復習しておくこと	大形
4	八十一難經 脈診など中医の基礎理論を八十一の問答で説く	授業で学んだことを復習しておくこと	大形
5	神農本草經 中国最古の薬物書であり、上中下の三品に分類される	授業で学んだことを復習しておくこと	大形
6	傷寒論 漢代の急性熱性疾患の薬物による治療法を説く	授業で学んだことを復習しておくこと	大形
7	鍼灸甲乙經 六朝時代に現れた鍼灸の臨床応用を説いた書。	授業で学んだことを復習しておくこと	大形
8	脈經 六朝時代に出了脈博による診断法を説いた書。	授業で学んだことを復習しておくこと	大形
9	黄帝内経素問・明堂經 隋唐代の経典的鍼灸書であり、日本に深く影響した	授業で学んだことを復習しておくこと	大形
10	千金要方 医聖・孫思邈の著したスタンダードな医学書	授業で学んだことを復習しておくこと	大形
11	唐宋時代の医学教育 唐宋時代には中央・地方に医学教育機関が成立した	授業で学んだことを復習しておくこと	大形
12	医心方 我が国最古の医学書	授業で学んだことを復習しておくこと	大形
13	金元医学 桃山・江戸時代に曲直瀬道三を通じて実践的医師が伝承した	授業で学んだことを復習しておくこと	大形
14	綱目の陰陽因縁、十四経發揮 今日の陰穴、経脈の基本となる書	授業で学んだことを復習しておくこと	大形
15	近年出土の医薬資料 戦国秦漢墓から出土した素問・靈樞や本草に先立つ医薬書	授業で学んだことを復習しておくこと	大形
成績評価方法と基準			割合
レポートによる評価			100%

保健医療研究学専攻 (Healthcare Research Methods)			
授業科目名	山下 仁	担当教員	山下 仁、増山 祥子、井手口 範男、青木 元邦、前田 薫、森谷 正之
主担当教員	山下 仁	担当教員	山下 仁、増山 祥子、井手口 範男、青木 元邦、前田 薫、森谷 正之
科目ナンバリング	HLA003	科目区分	共通科目
配当年次	1	開講学期	前期
授業形態	講義	単位数	2
<p>授業概要</p> <p>保健医療学研究の基本的流れ、および各領域における主な研究方法と方法論について学ぶ。権教職員によるオムニバス方式の授業形態とし、研究計画、文献検索、倫理委員会書類作成、データ分析、論文執筆、学会発表など一連の流れを解説するとともに、各分野特有の研究・実験の手法を紹介する。また、研究者の倫理、不正行為、論文の質の評価などについても理解させる。さらに、保健医療系の研究に必要な英語論文の読み方と書き方の基本的手法を身に付ける。</p> <p>到達目標</p> <p>保健医療学研究のデザインから成果発表までの一連の流れを理解する。 研究における倫理や不正防止を含む基本的なルールを理解し、遵守できる。 研究プロトコルが作成できる。</p> <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>自分が行う特別研究(修士論文)の内容に当てはめて理解し、総論と各論(自身のケース)の両面から考えること。</p>			
教科書			
必要に応じて資料を配布する。			
参考書			
科学を志す人びとへ 科学倫理検討委員会編 化学同人			
研究室/オフィスアワー			
山下 仁：東棟 24 研究室、月・火 6 時間			
授業履修期及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	研究計画と研究デザイン (山下)	自分の研究テーマについて指導教員と相談しながら具体化する	
2	文献収集 (山下)	自分の研究テーマに関連する文献を検索・収集する	
3	図書館利用法 (山下)	事前に図書館に行って環境を見ておく	
4	EBM (1) (山下)	自分の研究領域における EBM との関わりについて考える	
5	EBM (2) (山下)	自分の研究領域における EBM との関わりについて考える	
6	基礎研究・動物実験 (森谷)	自分の研究テーマに関連する動物実験の論文を検索・入手して読む	
7	臨床研究 (山下)	自分の研究テーマにおけるデータの種類の特性・配慮などについて考える	
8	ランダム化比較試験 (増山)	自分の研究テーマにおけるデータの種類の特性・配慮などについて考える	
9	トランスレーションリサーチ (青木)	授業で学んだトランスレーションリサーチの手法を理解し、研究倫理的問題への配慮についても認識しておく	
10	システムティック・レビューとメタアナリシス (山下)	ネット検索でシステムティック・レビューとメタアナリシスについて調べる	

11	動物実験の研究倫理 (森谷)	関連する情報をネットで調べる	
12	人を対象とした研究における倫理 (山下)	関連する情報をネットで調べる	
13	データの取扱い・解析・提示法 (前田)	自分の研究テーマにおけるデータの種類の特性・配慮などについて考える	
14	生物統計学 (井手口)	自分の研究で必要になる統計処理について考える	
15	成果の発表 (山下)	自分の研究テーマにおけるデータの種類の特性・配慮などについて考える	
成績評価方法と基準			割合
①提出レポート			①100%

授業科目名	保健医療教育特論(保健医療学専攻) (Healthcare Education 【Advanced】)		
担当教員	老田 準司	担当教員	老田 準司、村上 生美、鍋田 智之、中根 征也
科目ナンバリング	HLA004	科目区分	共通科目
配当年次	1	開講学期	前期
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	保健医療の領域で「教育」を考える場合、2つの視点がある。保健医療従事者としてクライアント(患者・家族・集団・地域住民等)に対する教育機能と、専門職としての保健医療従事者を育成する教育(基礎教育・卒後教育)である。前者は、主として健康上の課題達成のための行動変容を目指すかかわりを指す。後者は、各専門職教育の歴史・目的・目標・方法等がテーマとなる。いずれの場合も、教育の本質は変わらない。ここでは本質を共有しつつ、各専門職(看護・理学療法・鍼灸)を切り口にして、現状分析を試み、教育の機能を展望したい。履修教員によるオン・オフ形式の授業形態をとり、受講生は他職種との役割について認識を深めながら、各自の立場における課題を察していただきたい。		

到達目標

1. 教育の本質について自己の考えを表現することができる。
2. 保健医療の各領域における教育のニーズを表現することができる。
3. 保健医療の各領域における教育の方法や課題について表現することができる。
4. 保健医療従事者としての各専門職教育(基礎教育・卒後教育)について、自己の考えを表現することができる。
5. 学生が主体的・創造的に学習に取り組むための方法について洞察し、自己の考えを表現することができる。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

自己の教育に関する学修のニーズを整理しておくこと。
講義は鍼灸・理学・看護という各領域の視点を深く理解できるように履修するが、各自の専門領域の課題としても考えを深めていただきたい。

教科書

教科書は使用しない。
随時、論文を紹介する。

参考書

随時紹介する。

研究室/オフィスアワー

講義の初めに各教員が連絡する。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	教育の原理① 教育を取巻く環境	自己の「教育観」について考えをまとめておくこと。	
2	教育の原理 教育史	前回の講義内容をもとに洞察しておくこと。	
3	教育方法論① 教育方法の変遷 アクティブラーニング	自己の専門領域における教育実践の経験について、考えをまとめておくこと。	
4	教育方法論② アクティブラーニングの実際	次回の発表準備をする。	
5	鍼灸領域における教育の機能と専門職の教育①	講義中に論文を紹介する。紹介された論文をクリティークしておくこと。	
6	鍼灸領域における教育の機能と専門職の教育②	同上	
7	理学療法領域における教育の機能と専門職の教育①	同上	
8	理学療法領域における教育の機能と専門職の教育②	同上	
9	看護学領域における教育機能と専門職(保健師・助産師・看護師)の教育①	授業概要から各自の学修ニーズをまとめておくこと。	
10	看護学領域における教育機能と専門職の教育②	講義中に紹介された論文をクリティークしておくこと。また当日行われた講義(あるいはデイスカッション)について洞察しておくこと。	

11	看護学領域の教育機能と専門職の教育③	同上
12	看護学領域の教育機能と専門職の教育④	同上
13	看護学領域の教育機能と専門職の教育⑤	同上
14	看護学領域の教育機能と専門職の教育⑥	同上
15	講義全体のまとめと振り返り	医療従事者として教育とは何かを創造的に考え、認識を新たにすることを指す。
成績評価方法と基準		
①講義・グループワークでのディスカッション内容		
②レポート(テーマは講義中に指示する)		
割合		
①30%		
②70%		

看護研究方法論(保健医療専攻) (Research Methodology in Nursing)			
授業科目名	伊津美 孝子	担当教員	伊津美 孝子、久木元 由紀子、中西 伸子
主担当教員	伊津美 孝子	共通科目	DP①
科目ナンバリング	HLA005	科目区分	ディプロマポリシー 該当項目
配当年次	1	開講学期	曜日・時限 火曜 5限
授業形態	講義	単位数	2 必修・選択 選択
授業概要			
看護研究の意義を学び、研究課題や研究疑問の検証に向けた適切な研究手法を理解し、研究実施能力ともに、修士論文作成、プレゼンテーションの基礎的知識を習得する。			
到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究課題の着眼の方法を理解できる。 2. 看護研究の意義を理解できる。 3. 研究における倫理的配慮を意義と方法と理解できる。 4. 文献収集やクリティックについて理解できる。 5. 研究デザインや理論・概念枠組み・データの収集・測定用具・分析方法・分析結果の解釈について理解する。 6. 研究計画書を作成するための要件を理解できる。 7. 論文の作成、研究発表について理解できる。 			
履修上の注意(学生へのメッセージ)			
履修する院生のニーズに沿って展開する			
教科書			
指定なし			
参考書			
ガイダンスで指示する			
研究室/オフィスアワー			
適宜相談に応じる。 伊津美孝子西棟 432 / 随時			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	授業ガイダンス における研究の重要性	自己の研究着眼点を発表する	伊津美孝子
2	研究の目的と意義	研究目的、意義について予習	伊津美孝子
3	研究倫理の重要性 研究計画の立案と計画書の書き方	研究倫理、倫理的配慮について予習	伊津美孝子
4	文献収集とクリティック 論文整理について	論文のクリティックについて予習	伊津美孝子
5	研究デザイン 看護における実験研究	研究デザインについて予習 事前に配布する文献の文献検討を各自行って くる	伊津美孝子
6	看護における質的研究	質的研究とは何か 事前に配布する文献の文献検討を各自行って くる	伊津美孝子
7	量的研究デザインの種類と特徴	量的研究について予習してくる	中西伸子
8	量的研究デザインの種類と特徴	量的研究と質的研究の違いについて予習して くる	中西伸子
9	量的研究に関する研究方法と研究計画書の書 き方について	量的研究の研究計画書の書き方について予習 してくる	中西伸子
10	量的研究に関する研究方法とクリティック	事前に配布する文献の文献検討を各自行って くる	中西伸子
11	量的研究に関する研究方法とクリティック	量的論文を自分で抽出し、クリティックしてく る。	中西伸子

12	システムティックレビューについて 到達目標 ①システムティックレビューの目的、方法につ いて説明できる。	システムティックレビューの目的、方法につ いて説明できる。	システムティックレビューについて予習する	久木元由紀子
13	システムティックレビューの意義について 到達目標 ①自己の研究分野のシステムティックレビュー 文献を検索し、説明できる。	システムティックレビューの意義について 到達目標 ①自己の研究分野のシステムティックレビュー 文献を検索し、説明できる。	院生は研究着眼点に関連した先行研究のうち、 システムティックレビューを検索・熟読してく る。	久木元由紀子
14	システムティックレビューのクリティック方 法について 到達目標 ①システムティックレビューのクリティック 方法について説明することができる。	システムティックレビューのクリティック方 法について 到達目標 ①システムティックレビューのクリティック 方法について説明することができる。	システムティックレビューのクリティック方 法について予習する	久木元由紀子
15	システムティックレビューのクリティックの 実際 到達目標 ①自己の研究課題のシステムティックレビ ューをクリティックすることができる。	システムティックレビューのクリティックの 実際 到達目標 ①自己の研究課題のシステムティックレビ ューをクリティックすることができる。	自己の研究課題のシステムティックレビ ューをクリティックする。	久木元由紀子
成績評価方法と基準				
①グループディスカッション・課題・研究に取り組む姿勢などから総合的に評価する				
割合				
①100%				

授業科目名	看護理論特論(保健医療学専攻) (Theory of Nursing (Advanced))			
主担当教員	村上 生美	担当教員	村上 生美	
科目ナンバリング	HLA006	科目区分	共通科目	DP①
配当年次	1	開講学期	後期	火曜 2 限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択 選択
授業概要	看護が専門職として認知されて久しい。看護は実践の学問であり、今日では、個人や集団・地域や国民全体の健康や安寧を目標とした多様なかわりか展開され、発展している。専門職としての実践には理論が不可欠であるが、看護理論は熱心に学ばれているようには思えない。ここでは、看護理論とは何か、どのように発展してきたのか、その歴史的経過、理論の重要性について考える。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護が専門職であることを説明することができる。 2. 「専門職」の必要要件を説明することができる。 3. Science とは何か？ 自己の考えを述べることができる。 4. 看護理論とは？ 看護実践における意義について説明することができる。 5. 自己が選んだ理論家の特徴について、プレゼンテーションすることができる。 			
履修上の注意(学生へのメッセージ)	これまでの経験してきた看護実践についてふりかえっておいて下さい。 主体的に読んでください(聞ける・発言する・他者の話を聞く)。 院生の希望を取り入れたいと思います。			
教科書				
使用しない。				
参考書				
簡井真盛美、看護理論―看護理論 20 の理解と実践への応用 南江堂				
研究室/オフィスアワー				
初回に伝えます。				

授業展開及び授業計画表				
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当	
1	科目ガイダンス 自己紹介(これまでの看護実践について)	これまでの看護実践(看護職でない場合は、自己の専門職の領域)をふりかえる。 現代はプロフェッショナルの時代と言われるが、プロフェッショナルであればどのような条件がなければならぬか、考えまとめておく。 看護基礎教育について、自己の経験を考えまとめておく。	村上	村上
2	専門職とは？ 各自の考えを発表・討論する。	看護教育と看護理論について自己の経験を述べ、討論する。	村上	村上
3	看護教育と看護理論について(講義①)	我が国の看護理論について考えておく。	村上	村上
4	アメリカにおける看護理論の発展について(講義②)	同上	村上	村上
5	論文のクリティック①	論文①のクリティックのポイントをクリックアップしておく。	村上	村上
6	論文のクリティック②	論文②のクリティックのポイントをクリックアップしておく。	村上	村上
7	看護理論 A の検討①(理論は院生の希望で取り上げる)	看護理論 A を読んでポイントを考える。	村上	村上
8	看護理論 A の検討②	同上	村上	村上
9	看護理論 A の検討③	同上	村上	村上
10	看護理論 B の検討①	看護理論 B を読んでポイントを考える。	村上	村上
11	看護理論 B の検討②	同上	村上	村上
12	看護理論 B の検討③	希望するテーマを考えておく。	村上	村上

14	同上	同上	村上
15	講義全体のまとめ	本教科の受講の成果を考慮しておく。	村上
成績評価方法と基準			割合
①小論(テーマは後半に伝えます)を提出してもらいます。			①100%

授業科目名		QOL 評価法特論(保健医療学専攻) (QOL Evaluation Method 【Advanced】)	
主担当教員	吉村 弥須子	担当教員	吉村 弥須子、教員未確定
科目ナンバリング	HLA007	科目区分	共通科目
配当年次	1	開講学期	後期
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	<p>QOL (Quality of life) は「生活の質」などと訳され、さまざまな意味合いを包含する概念があるが、概ね人が充実感や満足感を持って日常生活を送ることができていることを意味する。この QOL が医療分野において重視されるようになった背景には、急速に進む高齢化、がんや慢性疾患の増加、患者の自己決定権の尊重などがあり、患者の病状・障害等を持つ患者の QOL について学び、実践、研究への活用について探査する。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. QOL について理解できる。 2. QOL 評価法について説明できる。 3. 専門領域の QOL についてプレゼンテーションができる。 4. QOL 評価の実践、研究への活用について説明できる。 <p>履修上の注意 (学生へのメッセージ)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業は講義、ディスカッション、プレゼンテーションを組み合わせて行う。 2. 専門領域における QOL について各自がプレゼンテーションを行うので、事前に準備する。 		
教科書	なし		
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・ 福原俊一他監訳、ピーター・H・フェイヤーズ他著：QOL 評価学 中山書店、2005 ・ 池上巳他編纂：臨床のための QOL 評価ハンドブック、医学書院、2001 <p>その他、授業の中で紹介する。</p>		
研究室/オフィスアワー	334 研究室 (吉村) / 月曜日 16:00~18:00 奥習で不在の場合があるので随時相談可。 338 研究室 (上西) / 水曜日 16:00~18:00 奥習で不在の場合があるので随時相談可。		
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	QOL の概論① QOL の概念、QOL 評価のための尺度	自己の研究課題や QOL について発表する	吉村弥須子
2	QOL の概論② QOL の評価方法	第 1 回授業の復習、配布資料の確認	吉村弥須子
3	専門領域における QOL 各論① がん①	がん① QOL に関する文献検索、配布資料の確認	吉村弥須子
4	専門領域における QOL 各論② がん②	第 3 回授業の復習、配布資料の確認	吉村弥須子
5	専門領域における QOL 各論③ 生活習慣病と QOL	生活習慣病と QOL に関する文献検索、配布資料の確認	吉村弥須子
6	専門領域における QOL 各論④ 臓器移植と QOL①	臓器移植と QOL に関する文献検索、配布資料の確認	吉村弥須子
7	専門領域における QOL 各論⑤ 臓器移植と QOL②	臓器移植と QOL に関する文献検索、配布資料の確認	吉村弥須子
8	専門領域における QOL 各論⑥ 看護・鍼灸・理学・作業・臨床検査における QOL	各自の専門領域または興味あるテーマの QOL についてまとめ、プレゼンテーションする (事前に準備する)	吉村弥須子
9	専門領域における QOL 各論⑦ 看護・鍼灸・理学・作業・臨床検査における QOL②	各自の専門領域または興味あるテーマの QOL についてまとめ、プレゼンテーションする (事前に準備する)	吉村弥須子
10	専門領域における QOL 各論⑧ 看護・鍼灸・理学・作業・臨床検査における QOL③	各自の専門領域または興味あるテーマの QOL についてまとめ、プレゼンテーションする (事前に準備する)	吉村弥須子
11	専門領域における QOL 各論⑨ 高齢者と QOL	シラバスの確認 高齢者と QOL に関する文献検索、配布資料の確認	上西洋子

12	専門領域における QOL 各論⑩ 認知症高齢者と QOL	認知症高齢者と QOL に関する文献検索、配布資料の確認	上西洋子
13	専門領域における QOL 各論⑪ ロービジョンと QOL	ロービジョンと QOL に関する文献検索、配布資料の確認	上西洋子
14	専門領域における QOL 各論⑫ 視覚障害者と QOL	視覚障害者と QOL に関する文献検索、配布資料の確認	上西洋子
15	専門領域における QOL⑬ 骨粗鬆症と QOL	骨粗鬆症と QOL に関する文献検索、配布資料の確認	上西洋子
成績評価方法と基準			割合
①プレゼンテーション、ディスカッション			①40%
②レポート			②60%

授業科目名	英語文献講読(保健医療学専攻) (English Article Reading)		
主担当教員	藤重 仁子	担当教員	藤重 仁子、前田 薫、山下 仁、久木元 由紀子
科目ナンバリング	HLA008	科目区分	共通科目 DP①
配当年次	1	開講学期	後期 曜日・時限 月曜 2 限 火曜 5 限
授業形態	講義	単位数	2 必修・選択 選択
授業概要	英語文献を読み、基本的な単語や構文について解説する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 保健医療学領域の英語論文が読める。 自分の専門領域の英語論文に類出する単語や構文がわかる。 		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	事前の単語チェックが重要である。		
教科書	必要に応じて資料を配布する		
参考書	必要に応じて資料を配布する		
研究室/オフィスアワー	山下 仁：東棟 24 研究室、月・火 6 時限		
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	英語論文読解の基礎① (藤重)	関連する基本的な英単語と表現を調べる	藤重
2	英語論文読解の基礎② (藤重)	関連する基本的な英単語と表現を調べる	藤重
3	英語論文読解の基礎③ (藤重)	関連する基本的な英単語と表現を調べる	藤重
4	英語論文読解の基礎④ (藤重)	関連する基本的な英単語と表現を調べる	藤重
5	英語論文読解の基礎⑤ (藤重)	関連する基本的な英単語と表現を調べる	藤重
6	領域別の英語論文講読①	指定された論文の単語を調べる	
7	領域別の英語論文講読②	指定された論文の単語を調べる	
8	領域別の英語論文講読③	指定された論文の単語を調べる	
9	領域別の英語論文講読④	指定された論文の単語を調べる	
10	領域別の英語論文講読⑤	指定された論文の単語を調べる	
11	領域別の英語論文講読⑥	指定された論文の単語を調べる	
12	領域別の英語論文講読⑦	指定された論文の単語を調べる	
13	領域別の英語論文講読⑧	予習：自分が読みたい英語論文を準備しておく	久木元
14	領域別の英語論文講読⑨	予習：英語論文の訳を自分で行う。	久木元
15	領域別の英語論文講読⑩	予習：英語論文の訳を行う。	久木元

成績評価方法と基準	割合
①毎回の資料の予習 (単語調べ、読み) の状況、および授業時の理解度にもとづき評価する	①100%

授業科目名	人体構造学特論(保健医療学専攻) (Human Anatomy 【Advanced】)		
主担当教員	北村 清一郎	担当教員	北村 清一郎、森谷 正之
科目ナンバリング	HP001	科目区分	ディプロマポリシー Ⅱ 該当項目 DP②③
配当年次	1	開講学期	曜日・時間 月曜 3限
授業形態	講義	単位数	2 必修・選択 選択
授業概要	<p>咀嚼、嚥下、呼吸は生命維持の根幹をなす機能である。これらは神経系が求心性(感覚性)情報と遠心性(運動性)情報とを適正に伝達、処理・統合することによって遂行されている。本特論では、これら情報伝達などのような神経ネットワークの下で遂行されているのかを、これまでで明らかになっている研究成果や我々が進めている研究結果に基づいて神経解剖学の立場から解説する。</p> <p>到達目標</p> <p>(1) 咀嚼・嚥下・呼吸運動に関わる神経機構の概略を説明できる。 (2) 口腔前庭領域の感覚伝達機構の概略を説明できる。 (3) 基本的な反射回路を説明できる。 (4) 随意性運動の制御機構の概略を説明できる。</p> <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>自分の身体の「かたち(=形態)」と「はたらき(=機能)」が密接に関連し、生命維持がなされていることをしっかりと学んで下さい。</p>		
教科書			
特に無し			
参考書			
中村嘉男 「咀嚼運動の生理学」(医歯薬出版)			
研究室/オフィスアワー			
森谷：E棟4階(研究室11) 月曜日午後5時～午後7時、各日昼休みの時間帯は原則研究室に在室しています。			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	咀嚼・嚥下関連筋の機能解剖学	講義プリントの理解に必要な基本的知識を出来るだけ調べて下さい。	北村
2	咀嚼・嚥下関連筋の解剖学、2. 嚥下の概要	講義プリントの理解に必要な基本的知識を出来るだけ調べて下さい。	北村
3	咀嚼・嚥下関連筋の動きと筋	講義プリントの理解に必要な基本的知識を出来るだけ調べて下さい。	北村
4	咀嚼・嚥下関連筋の機能解剖学	講義プリントの理解に必要な基本的知識を出来るだけ調べて下さい。	北村
5	口腔機能の改善はなぜ嚥下機能の改善につながるのか①	講義プリントの理解に必要な基本的知識を出来るだけ調べて下さい。	北村
6	口腔機能の改善はなぜ嚥下機能の改善につながるのか②	講義プリントの理解に必要な基本的知識を出来るだけ調べて下さい。	北村
7	神経解剖学研究法① 神経組織の固定法と染色法	当該領域の基本的知識について出来るだけ調べて下さい。	森谷
8	神経解剖学研究法② 神経経路学の研究法	当該領域の基本的知識について出来るだけ調べて下さい。	森谷
9	三叉神経系の基礎① 咀嚼運動の基礎	当該領域の基本的知識について出来るだけ調べて下さい。	森谷
10	三叉神経系の基礎② 咀嚼運動に関わる神経機構	当該領域の基本的知識について出来るだけ調べて下さい。	森谷
11	呼吸運動に関わる神経機構 呼吸運動の中枢神経による制御	当該領域の基本的知識について出来るだけ調べて下さい。	森谷
12	咀嚼・呼吸・嚥下運動の制御① Prenotoneuron の分布と機能(孤束核、延髄レベル)	当該領域の基本的知識について出来るだけ調べて下さい。	森谷
13	咀嚼・呼吸・嚥下運動の制御② Prenotoneuron の分布と機能(中脳・橋レベル)	当該領域の基本的知識について出来るだけ調べて下さい。	森谷

14	咀嚼・呼吸・嚥下運動の制御③ 咀嚼・呼吸・嚥下運動の相互制御機構	当該領域の基本的知識について出来るだけ調べて下さい。	森谷
15	中枢神経系による運動制御機構 随意性調節機構と反射の関係	当該領域の基本的知識について出来るだけ調べて下さい。	森谷
成績評価方法と基準			割合
①講義中のディスカッション			①60%
②レポート			②40%

授業科目名		人体機能学特論(保健医療学専攻) (Human Physiology 【Advanced】)	
主担当教員	中原 英博	担当教員	中原 英博
科目ナンバリング	HP002	専門科目	DP②③
配当年次	1	開講学期	後期
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	<p>我々の体内は、外部環境(気温、湿度など)の変化や主体的条件の変化(運動時や心理的負荷時など)に対し、自律神経系や内分泌系が主体となり、各器官を生理的・形態的に適応させることによって恒常性(ホメオスタシス)を維持している。そのため、生体の内部や外部の環境因子に対する適応現象は、健康を定着する上で重要な要素でもある。本講義では、これまでに学んだ人体の生理機能の知識に基づき、運動や心理状態が変化することによって観察される様々な人体の適応機構、特に呼吸・循環器系の応答と適応に関する理解を深める。</p> <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動時の呼吸・循環機能の適応現象を理解する。 ・心理的負荷時の呼吸・循環機能の適応現象を理解する。 ・適応生理に関連する英語論文を検索、入手し、読解できる。 ・測定したデータを処理し、統計処理ができる。 		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	初回の講義に必ず出席すること。		
教科書			
適宜資料を配布します。			
参考書			
特になし。			
研究室/オフィスアワー			
月曜日 10:00~11:00			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	人体機能学総論	シラバスを確認しておくこと。	
2	運動適応について1	運動時の呼吸・循環機能について予習しておくこと。	
3	運動適応について2	運動適応に関する論文を検索・入手しておくこと。	
4	運動による呼吸機能の適応	呼吸機能の計測方法を理解しておくこと。	
5	運動による循環機能の適応	循環機能の計測方法について理解しておくこと。	
6	運動時の自律神経機能適応	自律神経の評価方法について予習しておくこと。	
7	文献レビュー1	運動時の呼吸・循環応答に関する英語文献をレビューし、説明できるようにしておくこと。	
8	心理的負荷について1	心理的負荷時の呼吸・循環応答について予習しておくこと。	
9	心理的負荷について2	心理的負荷時における呼吸・循環応答に関連する文献を入手しておくこと。	
10	心理的負荷に対する呼吸機能の応答	呼吸機能の計測方法を予習しておくこと。	
11	心理的負荷に対する循環機能の応答	循環機能の計測方法を予習しておくこと。	
12	心理的負荷に対する自律神経機能の応答	自律神経活動の評価方法を予習しておくこと。	
13	文献レビュー2	心理的負荷時の呼吸・循環応答に関する英語文献をレビューし、説明できるようにしておくこと。	

14	測定データ処理法1	エクセルを用いたデータ処理方法を予習しておくこと。
15	測定データ処理法2	対応のあるt検定について理解しておくこと。
成績評価方法と基準		割合
①プレゼンテーション		①40%
②課題レポート		②60%

授業科目名		栄養・代謝生化学特論(保健医療学専攻) (Nutrition and Metabolism Biochemistry 【Advanced】)	
主担当教員	森 美侑紀	担当教員	森 美侑紀
科目ナンバリング	HP003	科目区分	専門科目
配当年次	1	開講学期	後期
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	健康と食・栄養との関係について総合的に学び、生活習慣や社会環境など様々な観点から健康づくりと食・栄養の関連性について考える。さらに疾病の発症や病態との関わりを、栄養・代謝の観点から生命科学的に説明し、考察できるようにすることを目指す。		
到達目標	<p>生化学・栄養学の知識をもとに、疾患と代謝の関係を科学的に考察する力を身につける。自らの考えを体系的かつ理論的にまとめ、レポート報告ならびにプレゼンテーションとして、適切かつ効果的に伝えることができる。</p> <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループワークやディスカッションなど積極的に発言をしてください。 ・論文から最新の情報収集を行い、知識や経験を深めてください。 		
教科書			
配布プリント			
参考書			
なし			
研究室/オフィスアワー			
木曜日 午後5時～7時			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	栄養と代謝概論	予習：栄養と代謝について調べておくこと 復習：栄養と代謝についての復習	
2	栄養障害①	予習：栄養障害について調べておくこと 復習：栄養障害についての復習	
3	栄養障害②	予習：栄養障害について調べておくこと 復習：栄養障害についての復習	
4	代謝障害①	予習：代謝障害について調べておくこと 復習：代謝障害についての復習	
5	代謝障害②	予習：代謝障害について調べておくこと 復習：代謝障害についての復習	
6	プレゼンテーション(栄養と代謝障害)	予習：栄養と代謝障害について調べておくこと 復習：栄養と代謝障害についての復習	
7	社会の変化と食生活	予習：近年の食傾向について調べておくこと 復習：近年の食傾向についての復習	
8	文献検討(食生活に関わる諸問題Ⅰ)	予習：文献を読んでおくこと 復習：文献の復習	
9	文献検討(食生活に関わる諸問題Ⅱ)	予習：文献を読んでおくこと 復習：文献の復習	
10	文献検討(食生活に関わる諸問題Ⅲ)	予習：文献を読んでおくこと 復習：文献の復習	
11	プレゼンテーション(社会の変化と食生活)	予習：近年の食傾向について調べ資料作成をし ておくこと 復習：近年の食傾向についての復習	
12	日本食の特徴と食文化	予習：日本食の特徴と食文化について調べておくこと 復習：日本食の特徴と食文化についての復習	
13	文献検討(日本食と健康の関わりⅠ)	予習：文献を読んでおくこと 復習：文献の復習	
14	文献検討(日本食と健康の関わりⅡ)	予習：文献を読んでおくこと 復習：文献の復習	
15	プレゼンテーション(日本食の特徴と食文化)	予習：日本食の食文化について調べて資料作成 しておくこと	

成績評価方法と基準		割合
・課題レポート		50%
・プレゼンテーション		50%

復習：日本食の特徴と食文化についての復習

授業科目名		発達健康支援看護学特論(保健医療学専攻) (Life-Long Development and Health Support Nursing (Advanced))	
主担当教員	大巻 悦子	担当教員	大巻 悦子、中西 伸子
科目ナンバリング	HP004	科目区分	ディプロマポリシー 一 該当項目 DP②③
配当年次	2	開講学期	曜日・時限 木曜 2 限
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	発達健康支援看護学特論では、受病から死に至るまでの個人の発達について理解し支援することを目的とする。人は、全生涯を通して続く発達と適応過程を生きていく。ライフサイクルにおいて、若年期、思春期、青年期、高年齢者、高齢者の立場から、発達と健康課題に対する理解を深め、個から家族そして社会の関与する健康課題に対する有用な支援について考察する。余り長く幸福な人生を積み重ねるためにサクセスデベロップメント・サクセスフル・エイジングについて看護の可能性を模索する。発達段階における健康課題に関するトピックスを取り入れて授業を展開する。授業前半では、高齢社会における社会的課題を高年齢者のみならず次世代の課題と捉えて考察する。また、ハンセン病対策について回復者と家族の課題について考える。		
到達目標	1. 生涯発達の思考を培い、個人・家族・社会発達について理解する。 2. 人の、全生涯で継続する適応過程と各ライフサイクルにおける共通した発達と発達課題の課題について理解する。 3. 育てられるものから、育てるものへ親になる過程における適応過程と発達そして発達課題について理解する。 4. 一生運をかけてサクセスフルエイジングの適応と発達を高年齢者の生き方と死から考察する。 5. 個の発達と健康が健全でより良いものであるために、有用な支援の在り方について考察する。		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	柔軟な思考でディベートができるように生涯発達に関連するトピックスや書籍に良く触れること。		
教科書			
必要時にプリントを配布する			
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・ 服部祥子 (2010) : 生涯人間発達論 第2版, 医学書院 ・ 舟島なほみ (2011) : 看護のための人間発達学 第4版, 医学書院 ・ アーDMン・B. バルモア (著), 奥山正司 (翻訳) (1995) : エイジズム—優遇と偏見・差別, 法政大学出版局 ・ 鈴木隆雄 (2012) : 超高齢社会の基礎知識, 講談社 ・ 福西正子 (著) : ハンセン病家族の絆, 昭和堂 ・ 黒坂登衣 (著) : ハンセン病家族の物語, 世織書房 ・ 古林海月 (作・画) : 蘭由岐子 (監修) : 妻はあの島 1~4巻 すいれん舎 		
研究室/オフィスアワー			
west port 236 大巻 適宜対応する (事前ご連絡すること)			
授業展開期及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	「若い」と社会的価値観	エイジズムAgingを考える。自らの「若い」に対するイメージを構築する。ハンセン病回復者とその家族に関する資料を収集し、書籍を読むこと。	大巻悦子
2	超高齢社会のサクセスフル・エイジング Successful Aging	高齢化をポジティブにいきる「サクセスフル・エイジング」の課題を模索する。	大巻悦子
3	「高齢社会」に関する社会的問題(1)	高齢者が進むハンセン病回復者の方々が生きてきた道のりから「サクセスフル・エイジング」とは何かを考える。	大巻悦子
4	「高齢社会」に関する社会的問題(2)	療養所に暮らし「社会から疎外されたまま迎える死」の現実を考える。	大巻悦子
5	「高齢社会」に関する社会的問題(3)	ハンセン病問題を家族の立場から考える。	大巻悦子
6	「高齢社会」に関する社会的問題(4)	「若い」に関する課題をメディアが媒体としてどのように扱っているのかを評価し検討する。	大巻悦子
7	「高齢社会」に関する社会的問題(5)	高齢社会に関する社会的課題の現状と動向	大巻悦子

8	周産期・子育て期における家族支援について	家族機能の変化(適応)について学修する。	中西 伸子
9	子育て期の適応とストレス対処について	母親のストレスケアの重要性について学修し、母親役割の獲得と家族の発達段階の移行について関わる。	中西 伸子
10	子どもの育つ力を伸ばすデベロップメンタルケアについて	新生児集中治療室(NICU)に入院した子どもをもつ母親と子どもとの相互の適応と発達に関する支援についてディベートする準備をしておく。	中西 伸子
11	健康課題がある家族と共に暮らす子どもの発達	精神疾患或いは精神的健康課題がある家族に生じる発達の課題について、子どもの立場で考える。	中西 伸子
12	児童・思春期をとよりまく社会背景と健康課題	児童・思春期の発達段階・発達課題を踏まえて不適応、いじめを捉え、ディベートで考える。	中西 伸子
13	青年期、前成人期をこよりまく社会背景と健康課題	青年期、前成人期の発達段階・発達課題を踏まえて依存を捉えディベートで考える。	中西 伸子
14	生涯発達論の看護への活用	随時で捉える視点と方法、さらにはその意義について考える。	中西 伸子
15	生涯発達における看護の役割と可能性	プレゼンテーションで考える。	中西 伸子
成績評価方法と基準			
メディア(映画・テレビドラマ・書籍・広告など)から「若い」に関して取り上げているものを選び、「若い」に関する分析を行う。詳細については授業で行う。(欠席)			
①プレゼンテーション(大巻・中西)			
②レポート(中西)			
出席 4/5以上			

授業科目名	発達支援看護関係特論(保健医療学専攻) (Nursing Development in Growth Support (Advanced))			
主担当教員	橋本 富子	担当教員	橋本 富子、中西 伸子	
科目ナンバリング	HP005	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP②③
配当年次	2	後期	曜日・時限	火曜 3限 水曜 4限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択 選択
<p>授業概要 人は生涯、発達を続ける。その発達を生物学的、心理学的、社会的にさまざまな角度から総合的に捉え、どのように発達すべきか、発達する人間にどのようなように対応すべきかを考え、多角的視点から学ぶ。 さらに、次世代を生か育てる時期あるいはその準備期でもある思春期・青年期・成人期において、健康に問題を抱えた女性の対象とする発達支援看護学の基礎理論を体系的に理解することを旨とする。特に成長発達過程にある思春期や周産期の女性の健康障害が生じた場合やリスクが高い場合について、予防・回復するための根拠、諸活動支援について学ぶ。</p>				
<p>到達目標 成長段階に応じた発達はどうあるのか、どのような因子が影響しているのかを考察し、発達理論を基に多角的に学習する。 看護、教育、心理、福祉の視点をもち、女性の健全な発達を幸福を取り巻く環境（家族、カッパル、学校、職場、社会）から支援を考察する。</p>				
<p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p>				
<p>主体的な学習態度を求める</p>				
<p>教科書</p>				
<p>舟島なをみ、看護のための人間発達学第4版、医学書院、2015</p>				
<p>参考書</p>				
<p>服部祥子、生涯人間発達論第2版、医学書院、2014 服部祥子、人を育む人間関係論、医学書院、2014 渡辺久子、母子臨床と世代間伝達、金剛出版、2006 渡辺久子、抱きしめてあげて、太陽出版、2005 研究室/オフィスアワー</p>				
<p>適宜相談に応じる</p>				
<p>授業展開及び授業計画表</p>				
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当	
1	人間発達学と発達に影響を及ぼす因子	テキストに目を通し、トピックなど社会的背景等なども踏まえて自分の意見が言えるようにしておくこと。	中西	
2	発達理論とその歴史	テキストに目を通し、トピックなど社会的背景等なども踏まえて自分の意見が言えるようにしておくこと。	中西	
3	胎児期の心と身体	テキストに目を通し、トピックなど社会的背景等なども踏まえて自分の意見が言えるようにしておくこと。	中西	
4	乳幼児期の発達	テキストに目を通し、トピックなど社会的背景等なども踏まえて自分の意見が言えるようにしておくこと。	中西	
5	乳幼児期の発達の評価	テキストに目を通し、トピックなど社会的背景等なども踏まえて自分の意見が言えるようにしておくこと。	中西	
6	乳幼児期の発達への支援と課題	テキストに目を通し、トピックなど社会的背景等なども踏まえて自分の意見が言えるようにしておくこと。	中西	
7	発達障がいとは	テキストに目を通し、トピックなど社会的背景等なども踏まえて自分の意見が言えるようにしておくこと。	中西	
8	乳幼児虐待と発達に及ぼす影響	テキストに目を通し、トピックなど社会的背景等なども踏まえて自分の意見が言えるようにしておくこと。	中西	

9	人間発達と看護	生涯人間発達論を基盤に、近年の課題を通して、看護が果たす役割を考えていく。近年の世界および日本の社会情勢が生理人間発達に影響を及ぼしていると感じる出来事を確認しておく。	橋本
10	ライフサイクルと発達-思春期	性成熟と社会的自立の時間的乖離から生じる思春期を取り巻く課題と支援を考える。事例をもとに討論できるように準備する。	橋本
11	ライフサイクルと発達-青年期・成人期	終わらない青年期と運れていく生殖性/親密性から生じる課題と支援を考える。事例をもとに討論できるように準備する。	橋本
12	思春期の発達-教育における支援	思春期臨床に關わる対人援助職とともに、課題や支援を討論し考えていく(健康教育としての性教育を考える)。	橋本
13	人を育む人間関係-自己と他者、関係の諸相	人間関係論の基本的視点とその発達を考えていく。個人や対人援助職者としての人間関係の強みと弱みを振り返っておく。	橋本
14	人を育む人間関係-コミュニケーション	自己を知り相手を理解するためのコミュニケーションを考える。	橋本
15	人を育む人間関係-ストレスマネジメントとストレスコーピング	より良い人間関係を築き、持続していくためのプロセスを考える。	橋本
成績評価方法と基準			
①講義における発表や討論内容から評価する。 詳細については、授業内で適宜説明する。			
割合 ①100%			

授業科目名	運動生理学特論(保健医療学専攻) (Exercise Physiology 【Advanced】)		
主担当教員	中原 英博	担当教員	中原 英博
科目ナンバリング	HP006	科目区分	専門科目 DP②③
配当年次	2	開講学期	前期
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	呼吸化学調節系や動脈圧受容器系系は、血液ガスやpH、血圧の恒常性維持に必要な不可欠なフィードバックシステムである。この生体調節系の運動時における機能評価について、本特論では、システム生理学の手法を用いて、呼吸・循環系応答の制御メカニズムを系統的に研究分析する方法論を紹介すると同時に、様々な外乱刺激に対する呼吸循環系応答の動作原理や、運動トレーニングによる生体適応変化の法則性、および呼吸循環反応に現れる病態異常所見のメカニズムについて、最新の研究成果や我々の研究結果を基にシステム生理学、及び運動生理学の立場から解説する。		
到達目標	生体の構造と機能について細胞・組織・個体レベルでそれらがどのように連携して働いているかを統合的かつ定量的な視点から理解できるようにする。		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	生体システムの運動に対するダイナミックな振る舞いを理解するため、コンピュータシミュレーションを多用します。PCやエクセル(表計算ソフト)の基本的な操作方法はすでに習得していることを前提に、授業を展開するので注意してください。		
教科書	なし		
参考書	Handbook of Physiology, Sect. 12, Exercise: Regulation and integration of multiple systems, Ed. By Rowell L. B. and Shepherd, J. T., Am. Physiol. Soc., New York, 1996		
研究室/オフィスアワー	原則月曜日3時限目・4時限目 その他、部屋にいればいつでも訪問可です。質問等はいつでも自由どうぞ。		
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	運動生理機能の評価とシステム解析について	運動負荷に対する生体システムの応答性を評価する生理学的意義	
2	生体システムの構造同定①	フィードバックシステムの構造同定	
3	生体システムの構造同定②	呼吸化学調節系の制御部における構造と機能	
4	生体システムの構造同定③	呼吸化学調節系の制御対象部における構造と機能	
5	生体システムの構造同定④	循環調節系の制御部における構造と機能	
6	生体システムの構造同定⑤	循環調節系の制御対象部における構造と機能	
7	生体システムの分析①	呼吸化学調節系の動作点決定機構の定量的理解	
8	生体システムの分析②	循環調節系の動作点決定機構の定量的理解	
9	生体システムの動作原理①	運動に対する呼吸循環系応答の動作原理①	
10	生体システムの動作原理②	運動に対する呼吸循環系応答の動作原理②	
11	生体システムの応答①	運動トレーニングによる生体適応変化①	
12	生体システムの応答②	運動トレーニングによる生体適応変化②	
13	生体システムの制御①	呼吸循環反応に現れる病態異常の評価	
14	生体システムの制御②	呼吸循環反応に現れる病態異常のメカニズム	

15	生体システムの制御③	呼吸循環反応に現れる病態異常の治療原理
成績評価方法と基準		割合
①講義中の討議、レポートによる総合評価		①100%

バイオメカニクス健康科学特論(保健医療学専攻) (Biomechanics Health Science 【Advanced】)			
授業科目名	前田 薫	担当教員	前田 薫、工藤 慎太郎、井上 護
主担当教員	HP007	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目
科目ナンバリング	2	開講学期	前期
配当年次	講義	単位数	2
授業形態		必修・選択	選択
授業概要	人間の身体を物理学的視点からとらえることは、運動器における種々の病態を理解するとともに、それらを予防するうえで必要不可欠である。この講義では、人間の姿勢と歩行に関する研究のうち、バイオメカニクスの観点から行われたものを題材として、そこで用いられている研究方法について解説する。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・バイオメカニクス的な研究方法とその理論的背景について理解する。 ・バイオメカニクス的な研究方法の臨床応用の実際について理解する。 ・バイオメカニクス的な研究方法の利点と限界について理解する。 		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	参考書は必須ではないが、理解を深めるためには購入を勧める		
教科書	指定しない。		
参考書	金子公智、福永哲夫(編)、バイオメカニクス、杏林書院		
研究室/オフィスアワー	前田：月曜2限、火曜、第3木曜3限以外で予約を取り、来室してください。		
授業展開及び授業計画表	授業展開期及び授業計画表		
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	<バイオメカニクスの基礎①> バイオメカニクスの研究において重要な物理学(特に力学)について講義する①。	予習：ニュートン力学(一般物理学)について確認しておく。 復習：身体運動への力学の適用の仕方について復習する。	前田
2	<バイオメカニクスの基礎②> バイオメカニクスの研究において重要な物理学(特に力学)について講義する②。	予習：ニュートン力学(一般物理学)について確認しておく。 復習：身体運動への力学の適用の仕方について復習する。	前田
3	<姿勢の研究1> ヒトの姿勢の平衡について、バイオメカニクスの観点から講義する。	予習：波動(物理学)について確認しておく。 特に周波数の概念が重要。 復習：フーリエ変換の概念、床反力計の仕組みについて復習する。	前田
4	<姿勢の研究2> ヒトの姿勢の研究について講義する②	予習：筋骨格系の解剖学と運動学を確認しておく。 復習：講義において説明した知見について復習する。	仲本
5	<姿勢の研究3> ヒトの姿勢の研究について講義する③	予習：筋骨格系の解剖学と運動学を確認しておく。 復習：講義において説明した知見について復習する。	仲本
6	<バイオメカニクスに基づく臨床①> バイオメカニクスに基づく臨床実践について解説する①	運動学の内容について予習・復習を行う。	井上
7	<バイオメカニクスに基づく臨床②> バイオメカニクスに基づく臨床実践について解説する②	運動学の内容について予習・復習を行う。	井上
8	<歩行解析実習①>	予習：力学の項目と歩行の運動学的説明を復習しておく。 復習：3次元動作解析の原理について復習す	工藤

9	<歩行解析実習②>	予習：正常歩行のハリエーションと典型的異常歩行の背景について復習する。 復習：正常歩行から逸脱した歩行様式の運動力学的解釈を復習する。	工藤
10	<筋活動解析実習①> 筋活動解析のための方法論の実際について、演習を交えて講義する。 <筋活動解析実習②> 筋活動解析のための方法論の実際について、演習を交えて講義する。	筋活動解析実習①について、演習を交えて講義する。 筋活動解析実習②について、演習を交えて講義する。	前田
11	<走動作の研究①> 走行のバイオメカニクス的研究手法と知見	前回の内容をノートなどを参考に復習しておく。 予習：加速度、力のベクトル、エネルギー保存則について確認しておく。 復習：講義において説明した知見について復習する。	前田
12	<走動作の研究②> 走行のバイオメカニクス的研究手法と知見	予習：前回の講義内容を復習する。 復習：講義において説明した知見について復習する。	前田
14	<姿勢解析実習①> 姿勢研究に用いるパラメータを計測、解析する① <姿勢解析実習②> 姿勢研究に用いるパラメータを計測、解析する②	測定機器について復習しておく。	仲本
15		前回の内容をノート等を参考に復習しておく。	仲本
成績評価方法と基準			
①期末試験で評価する(前田、井上、仲本担当部分)			
②レポート課題にて評価する(工藤担当部分)			
合計で60%以上の得点があれば単位を認定する。			
割合 ①70% ②30%			

授業科目名	鍼灸健康科学特論(保健医療学専攻) (Acupuncture/Moxibustion Health Science 【Advanced】)		
主担当教員	中西 宏元	担当教員	中西 宏元
科目ナンバリング	HP008	科目区分	ディプロマポリシー 一 該当項目 DP②③
配当年次	2	開講学期	曜日・時間 水曜 4 限
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	<p>ライフスタイル、高齢社会（老化）により生活習慣病の増加、急性病から慢性病への移行など疾病の構造変化が進んでいるため予防医学が注目されている。東洋医学の概念には古来より「疾病になる前段階の状態に治療し、疾病の発生を防ぐ予防法」や「養生法（五くから行われている健康を維持し増進する法）」がある。本特論は鍼灸治療による疾病予防と健康増進に関して、これまでに明らかにされている基礎研究と臨床研究、その研究方法論を解説する。</p> <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活習慣病と鍼灸治療法について説明できる。 高齢社会（老化）と生活習慣病に関する学説を説明できる。 予防医学である治未病や養生法を説明できる。 活性酸素と酸化ストレスについて説明できる。 <p>履修上の注意（学生へのメッセージ）</p> <p>配布資料の復習をおこない健康科学に対する認識を確認する</p>		
教科書			
配布資料			
参考書	老年学テキスト、鍼灸師、鳥居研二南江堂		
研究室/オフィスアワー	研究室/オフィスアワー		
東棟 4 階研究室 9	昼休み/随時相談		

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	生活習慣病とは	予習：生活習慣病の定義と疾患について 復習：生活習慣病の定義と疾患について	
2	老化現象とは	予習：老化現象と疾患の関係について 復習：老化現象と疾患の関係について	
3	活性酸素の基礎① 活性酸素、酸化ストレスの基礎	予習：活性酸素とは 復習：活性酸素の作用について	
4	活性酸素の基礎② 活性酸素、酸化ストレスの研究法	予習：各種実験方法について 復習：酸化と抗酸化の実験方法について	
5	活性酸素の基礎③ 活性酸素、酸化ストレスと鍼治療	予習：各種実験方法 復習：活性酸素の測定方法	
6	活性酸素の基礎④ 活性酸素、酸化ストレス灸治療	予習：各種実験方法 復習：活性酸素の測定方法	
7	高齢化に伴う整形外科疾患 炎症性疾患の基礎研究と臨床研究	予習：炎症性疾患について 復習：治療方法について	
8	高齢化に伴う代謝疾患 糖尿病の基礎研究と臨床研究	予習：病態について 復習：治療方法について	
9	高齢化に伴う循環器疾患 高血圧の基礎研究と臨床研究	予習：病態について 復習：治療方法について	
10	鍼灸と運動療法① 有酸素運動と鍼灸の基礎研究	予習：病態について 復習：治療方法について	
11	鍼灸と運動療法② コンディショニングと鍼灸	予習：病態について 復習：治療方法について	
12	健康と鍼灸治療の基礎① 鍼灸治療の解剖学的研究法	予習：組織化学 復習：解剖学的研究法	
13	健康と鍼灸治療の基礎② 鍼灸治療の免疫・生理学的研究法	予習：電気生理学 復習：免疫・生理学的研究法	
14	健康増進と鍼灸① 治未病の考究	予習：食物と健康 復習：食物と健康 復習：中医学と食物	

15	健康増進と鍼灸② 養生法の考究	予習：食物と健康 復習：中医学と食物
成績評価方法と基準		割合
①講義中のディスカッション		①30%
②レポートによる評価		②70%

看護技術特論(保健医療学専攻) (Art of Nursing (Advanced))			
授業科目名	村上 生美	担当教員	村上 生美
主担当教員	村上 生美	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目 DP②③
科目ナンバリング	HP009	科目区分	月曜3限
配当年次	2	開講学期	前期
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	<p>この授業を通して、「看護技術」とは何かを問う。そのためには看護とは何かという問いが必要であり、さらに「技術とは」が必要になってくる。これまで「看護技術」に関する見解には変更が認められたが、「ヒューマンケアリング」の時代の看護技術はどうあるべきだろうか？ このことを課題として受講者とともに考えていきたい。</p> <p>到達目標</p> <p>この授業を通して、「看護技術とは」に対する自己の定義を明確にする。 看護技術が看護の技術であるための必要要件（構成要素）を提示することができる。 看護技術の構成要素のつながりを考えることができる。 臨床的・基本的なケアで具体的に「看護技術」を説明できる。 履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>「看護は実践の学問」という考えに異論のある人はいないと思います。では、専門職の実践はいかなるものであるか？ 原点に戻って考えてほしい。「こうでなければ専門職としての看護技術とは言えない」というものを提示するよう、主体的に臨んでほしい。</p> <p>教科書</p> <p>使わない</p> <p>参考書</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日野原重明・川島みどり・石飛幸三著「看護の時代—看護が変わる医療が変わる」日本看護協会出版会 2. 日本看護技術学会編「看護技術の探求」 3. 吉田みつ子著「看護技術ナラティブが教えてくれたこと」 4. ミルトン・メイロフ著 田村真・向野宣之訳「ケアの本質」ゆみり出版 5. シスター・M・シモース・ローチ著 鈴木智之 操筆子 森岡繁訳「アクト・オブ・ケアリング」ゆみり出版 <p>研究室/オフィスアワー</p> <p>初回に発表する。</p>		
授業履修期及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	ガイダンス 「看護技術」に関する見解を述べて討論する	各自「看護技術」とは何か、定義してくる。 必要時、資料作成。	村上
2	同上	同上	村上
3	同上	同上	村上
4	同上	同上	村上
5	看護技術の構成要素とそれらの関連について各自の見解を述べて討論する	他者に説明するために図あるいはレジュメ等の資料作成。	村上
6	同上	同上	村上
7	同上	同上	村上
8	同上	同上	村上
9	同上	同上	村上
10	各自の看護技術を実践的に行為で説明する(基礎看護学実習室)	事前にパフォーマンスの内容を報告し、必要な準備をする。	村上
11	同上	同上	村上
12	同上	同上	村上

13	同上	同上	村上
14	看護技術の変遷	まとめ	村上
15	講義全体のまとめ		村上
成績評価方法と基準			割合
①最終のパフォーマンスとその説明で評価する。			①100%

授業科目名	生体防御系臨床免疫学特論(保健医療学専攻) (and Moxibustion 【Advanced】)			
主担当教員	松熊 秀明	担当教員	松熊 秀明	
科目ナンバリング	HP010	科目区分	専門科目	DP②③
配当年次	2	開講学期	後期	水曜 2 限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択
授業概要	循環システムは生命維持の根幹をなす機能である。また、生体を維持する上で、生体防御システムは無くしてはならない機構である。本特論では、関節炎等における循環システムや急性・慢性炎症機構の原因、細胞反応、形態学的メカニズムのほか、生体の免疫学的機序について紹介すると同時に、鍼灸がこれらの機構に及ぼす影響とその機序について、最新の研究成果や我々の研究結果を基に臨床鍼灸学の立場から解説する。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 鍼灸の循環システムに対する作用について説明できる。 ・ 急性・慢性炎症機構の概略を説明できる。 ・ 鍼灸の抗炎症作用について説明できる。 ・ 鍼灸のアレルギ-自己免疫疾患・腫瘍に対する効果について説明できる。 			
履修上の注意(学生へのメッセージ)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 出席を重視する。 2. 授業態度が不良(私語、携帯を見ること等)の者は減点対象とする。 3. 配布された講義資料にも目を通すこと。 4. 疑問点は大切に、解決に向けて行動すること。 			
教科書				
特になし				
参考書	「精選生理学」：医学書院 「はりきゆう理論」医道の日本社 「解明病理学」医薬出版株式会社 研究室/オフィスマア-			
研究室1(棟棟4F)/月曜日3限				
授業展開及び授業計画表				
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当	
1	循環システム血液について。	課題：参考資料、関連論文等で調べ、まとめること。	松熊	
2	鍼灸の循環システムに与える影響① 血液量、血流量、血圧への作用について。	課題：参考資料、関連論文等で調べ、まとめること。	松熊	
3	鍼灸の循環システムに与える影響② 血球への作用について。	課題：参考資料、関連論文等で調べ、まとめること。	松熊	
4	急性炎症の機構① 原因と微小循環系について。	課題：参考資料、関連論文等で調べ、まとめること。	松熊	
5	急性炎症の機構② 組織細胞反応について。	課題：参考資料、関連論文等で調べ、まとめること。	松熊	
6	急性炎症の機構③ 炎症の終息と帰結について。	課題：参考資料、関連論文等で調べ、まとめること。	松熊	
7	急性炎症の機構④ 形態学的メカニズムについて。	課題：参考資料、関連論文等で調べ、まとめること。	松熊	
8	慢性炎症の機構① 原因と組織細胞反応について。	課題：参考資料、関連論文等で調べ、まとめること。	松熊	
9	慢性炎症の機構② 形態学的メカニズムについて。	課題：参考資料、関連論文等で調べ、まとめること。	松熊	
10	鍼灸の生体防御に与える影響① 鍼灸の抗炎症効果について。	課題：参考資料、関連論文等で調べ、まとめること。	松熊	
11	アレルギー疾患 アレルギー反応の原因と発症メカニズムについて	課題：参考資料、関連論文等で調べ、まとめること。	松熊	
12	鍼灸の生体防御に与える影響② アレルギー疾患に対する鍼灸の効果。	課題：参考資料、関連論文等で調べ、まとめること。	松熊	

13	免疫応答 自己と非自己の識別のメカニズムについて	課題：参考資料、関連論文等で調べ、まとめること。	松熊
14	鍼灸の生体防御に与える影響③ 自己免疫疾患に対する鍼灸の効果。	課題：参考資料、関連論文等で調べ、まとめること。	松熊
15	鍼灸の生体防御に与える影響④ 腫瘍に対する鍼灸の効果。	課題：参考資料、関連論文等で調べ、まとめること。	松熊
成績評価方法と基準			割合
レポート			100%

授業科目名	心身健康科学特論(保健医療学専攻) (Mind-Body Health Sciences)		
主担当教員	井手口 範男	担当教員	井手口 範男
科目ナンバリング	HP011	科目区分	ディプロマポリシー ① ② ③
配当年次	2	開講学期	後期
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	心身の健康問題の測定法や対処法について概説する。主に、心身に関する心理学(行動科学, 認知科学)に関する知見を紹介する。		
到達目標	心身の健康問題に対する基本的な心理学的測定法, および対処法を修得し, 活用することができる。		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	心理学的な視点から講義を進めます。初めて触れる考え方もあるかもしれないが、疑問があれば、迷わず質問してくれることを期待している。		
教科書			
特に指定しないが、必要に応じて資料を配布する。			
参考書			
適宜紹介する。			
研究室/オフィスアワー			
E棟4F研究室1/火曜日5時限(空いていれば適宜対応します)			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	ガイダンス：心身医学における心理学的研究の意義	シラバスを確認し、現在の心理学の主要な研究対象がなんであるかを調べておく。	
2	心身医学とは	ガイダンスの内容をまとめておく。	
3	精神分析的理論	フロイトの精神分析学について、簡単にまとめておく。	
4	学習理論1：条件づけ(レスポナント条件づけ), オペラント条件づけ	レスポナント条件づけ, オペラント条件づけについて調べておく。	
5	学習理論2：条件づけ(社会的学習理論, 認知的行動変容)	社会的学習理論, 認知的行動変容について調べておく。	
6	心と身体	ジェームズ・ラング説とキャノン・ハーバード説について調べておく。	
7	心と身体	ストレスとは何か, 調べておく。	
8	対人行動	対人コミュニケーション, 非言語コミュニケーション, コミュニケーションスキル等をキーワードに調べる。	
9	医療における人間関係	人間関係の枠組について, 役割理論をキーワードに調べる。	
10	対人コミュニケーション演習	対人コミュニケーションについて調べ, 演習の結果をまとめる。	
11	アサーショントレーニング演習	アサーションについて調べ, 演習の結果について質問紙法についてまとめる。	
12	心理検査1：質問紙法	質問紙法の心理検査について予習し, 自分自身のテストの結果についてまとめる。	
13	心理検査2：投影法	投影法の心理検査について予習し, 自分自身のテストの結果についてまとめる。	
14	精神医学的測定法1：フェヒナーの法則	フェヒナーの法則について予習し, 心理実験の結果をまとめる。	
15	精神医学的測定法2：ステューブンスの法則	ステューブンスの法則について予習し, 心理実験の結果をまとめる。	

成績評価方法と基準	割合
①講義内での課題	①25%
②講義内容に関するディスカッション等への参加状況	②35%
③レポート	③40%
上記の結果、総合60点以上で単位認定とする。	

授業科目名	分子循環器病特論(保健医療学専攻)【Advanced】		
主担当教員	青木 元邦	担当教員	青木 元邦
科目ナンバリング	HR001	科目区分	ディプロマポリシー ① ② ③
配当年次	1	開講学期	後期
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	生活習慣病である動脈硬化性心血管疾患を中心に、疫学と病態について概説する。生活習慣病においてはさまざまな生理活性物質の機能が亢進または低下する。この講義では生活習慣病において代謝性臓器からの分泌の異常がしばしば観察される近傍分泌物質である、ミオカイン・アディポカインについて紹介する。さらに、それらのミオカイン・アディポカインの影響のもとに心血管系の細胞の機能がどのように変化するかについて考察する。それらの医学・生物学的知見が臨床応用されていくにあたっての課題についても述べる。		
到達目標	保健医療学・公衆衛生学・老年病医学的側面における生活習慣病の重要性を説明できる。 各種疾患の病態と治療法、病状における問題点を説明できる。 生体内における遺伝子の働きを説明できる。 各種疾患の分子メカニズムを理解し、新精治療法への応用が理解できる。		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	双方向性の講義を目指すので、活発な質疑・討論を行って頂きたい。		
教科書			
使用しない			
参考書			
特になし。			
研究室/オフィスアワー	C棟七階研究室115。オフィスアワーは水曜五限(16:20~17:50)。 これ以外の時間に来室を希望する場合は事前予約の連絡を行うこと。講義時に口頭で、または随時電子メールにて受け付ける。 (junsuke.igarashi@morinomiya-u.ac.jp)。 オフィスアワー以外の来室であって予約がない場合、対応しないことがある。		
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	生活習慣病の疫学	生活習慣病の疫学に関する知識を習得せよ。	
2	生活習慣病の病態(1)喫煙	喫煙が人体に対して与える影響について述べられるようにせよ。 高血圧症が人体に対して与える影響について述べられるようにせよ。	
3	生活習慣病の病態(2)高血圧症	高血圧症が人体に対して与える影響について述べられるようにせよ。 高脂血症が人体に対して与える影響について述べられるようにせよ。	
4	生活習慣病の病態(3)高脂血症	糖尿病が人体に対して与える影響について述べられるようにせよ。	
5	生活習慣病の病態(4)糖尿病	アディポネクチンが生活習慣病において果たす役割を述べられるようにせよ。	
6	ミオカインとアディポカイン(1)アディポネクチン	血管内皮成長因子(VEGF)が生活習慣病において果たす役割を述べられるようにせよ。	
7	ミオカインとアディポカイン(2)血管内皮成長因子(VEGF)	腫瘍壊死因子(TNF)が生活習慣病において果たす役割を述べられるようにせよ。	
8	ミオカインとアディポカイン(3)腫瘍壊死因子(TNF)	レプチンが生活習慣病において果たす役割を述べられるようにせよ。	
9	ミオカインとアディポカイン(4)レプチン	内皮型一酸化窒素合成酵素(eNOS)に対して生活習慣病が与える変化について述べられるようにせよ。	
10	生活習慣病が心血管系の細胞に与える影響(1)血管内皮と内皮型一酸化窒素合成酵素(eNOS)	血管障害に伴って生じる新生内膜に対して生活習慣病が与える変化について述べられるようにせよ。	
11	生活習慣病が心血管系の細胞に与える影響(2)新生内膜		

12	生活習慣病が心血管系の細胞に与える影響(3)腎系球体	腎系球体とその機能に対して生活習慣病が与える変化について述べられるようにせよ。	
13	生活習慣病が心血管系の細胞に与える影響(4)網膜血管内皮	網膜血管内皮とその機能に対して生活習慣病が与える変化について述べられるようにせよ。	
14	生活習慣病が心血管系の細胞に与える影響(5)末梢神経	末梢神経とその機能に対して生活習慣病が与える変化について述べられるようにせよ。	
15	講義全体のまとめと振り返り	総復習して下さい	
成績評価方法と基準			割合
①講義中のディスカッション			①70%
②レポート			②30%

授業科目名		血管病理病態学特論(保健医療学専攻)	
主担当教員	上田 真喜子	担当教員	上田 真喜子
科目ナンバリング	HR002	専門科目	ディプロマポリシー 一 該当項目 DP②③
配当年次	2	開講学期	曜日・時限 木曜 4限
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	<p>近年わが国では、社会の高齢化や肥満、糖尿病、高血圧、脂質異常症などの生活習慣病の増加を背景として、動脈硬化病変とそれに基づく病的血栓形成を発症原因とする心筋梗塞、脳梗塞などの心血管イベントの発症率が増加してきている。本講義では、動脈硬化病変の成り立ち・発症メカニズム・病理や、動脈硬化研究の流れ、心血管イベントの発症原因・機序、血液透析と心血管合併症、その他の血管病変の病理などについて解説する。</p> <p>到達目標</p> <p>動脈硬化病変の形成・進展メカニズムの概略を説明できる。 病的血栓形成と、動脈硬化症との関連性を説明できる。 動脈硬化病変と、種々の生活習慣病との関連性を説明できる。 心血管イベントの発症メカニズムの概略を説明できる。 血液透析と心血管合併症について説明できる。 川崎病の血管病変、移植臓器の血管病変、ステント後新生内膜形成・再狭窄について説明できる。 履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>講義、ディスカッションなどを組み合わせて実施する。</p>		
教科書			
必要に応じて、資料を配布する。			
参考書			
「ロビンス 基礎病理学」 原書9版 丸善出版			
「解剖病理学」 第2版 医歯薬出版			
研究室/オフィスアワー			
研究室在室時には、いつでも訪問可です。			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	正常血管の構造と機能	予習 : 参考資料や関連文献を読んでおく 復習 : 授業で学んだことをまとめる	上田
2	動脈硬化の形成・進展メカニズム① 内皮細胞、血管作動性物質	予習 : 参考資料や関連文献を読んでおく 復習 : 授業で学んだことをまとめる	上田
3	動脈硬化の形成・進展メカニズム② テロメアと老化	予習 : 参考資料や関連文献を読んでおく 復習 : 授業で学んだことをまとめる	上田
4	動脈硬化の形成・進展メカニズム③ 血管平滑筋細胞、増殖因子	予習 : 参考資料や関連文献を読んでおく 復習 : 授業で学んだことをまとめる	上田
5	動脈硬化の形成・進展メカニズム④ 白血球、マクロファージ	予習 : 参考資料や関連文献を読んでおく 復習 : 授業で学んだことをまとめる	上田
6	動脈硬化の形成・進展メカニズム⑤ 脂質沈着、アテローム(粥腫)	予習 : 参考資料や関連文献を読んでおく 復習 : 授業で学んだことをまとめる	上田
7	動脈硬化の形成・進展メカニズム⑥ 細胞外マトリックスの増殖、石灰化	予習 : 参考資料や関連文献を読んでおく 復習 : 授業で学んだことをまとめる	上田
8	動脈硬化の形成・進展メカニズム⑦ 酸化ストレス、酸化LDL	予習 : 参考資料や関連文献を読んでおく 復習 : 授業で学んだことをまとめる	上田
9	動脈硬化の形成・進展メカニズム⑧ 病的血栓形成、血管新生	予習 : 参考資料や関連文献を読んでおく 復習 : 授業で学んだことをまとめる	上田
10	動脈硬化症と生活習慣病との関連性	予習 : 参考資料や関連文献を読んでおく 復習 : 授業で学んだことをまとめる	上田
11	心血管イベントの発症メカニズム① 心筋梗塞、急性冠症候群	予習 : 参考資料や関連文献を読んでおく 復習 : 授業で学んだことをまとめる	上田
12	心血管イベントの発症メカニズム② 脳卒中	予習 : 参考資料や関連文献を読んでおく 復習 : 授業で学んだことをまとめる	上田

13	血液透析と心血管合併症	予習 : 参考資料や関連文献を読んでおく 復習 : 授業で学んだことをまとめる	上田
14	川崎病の血管病変、移植臓器の血管病変	予習 : 参考資料や関連文献を読んでおく 復習 : 授業で学んだことをまとめる	上田
15	ステント後新生内膜形成・再狭窄メカニズム	予習 : 参考資料や関連文献を読んでおく 復習 : 授業で学んだことをまとめる	上田
成績評価方法と基準			割合
講義中のディスカッションとレポートによる評価			ディスカッション 60% レポート 40%

授業科目名		臨床検査画像診断学特論(保健医療学専攻)	
主担当教員	脇 英彦	担当教員	脇 英彦、小宮山 恭弘
科目ナンバリング	HR003	科目区分	ディプロマポリシー 一 該当項目 DP②③
配当年次	1	開講学期	曜日・時限 火曜 4 限
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	超音波、放射線をはじめとする画像診断の原理を理解する。次いで、正常像ならびに代表的疾患の特徴的画像を学修し、画像診断の診断能力を修得する。		
到達目標	超音波、放射線をはじめとする画像診断装置の原理と画像の成り立ちを理解する。次いで、正常像ならびに代表的疾患の特徴的画像を学修し、画像診断の診断能力を修得する。		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	異常所見を見る際に重要なことは、基本的知識がきちんと整理できているかが重要となる。正常所見をしっかりと学修した上で、どこに違いがあり、なぜ違いが生じるかを学んで欲しい。		
教科書			
適時プリント配布し補足する。			
参考書			
なし			
研究室/オフィスアワー	研究室内/オフィスアワー		
脇英彦研究室 (月曜、火曜 16:00~18:00)			
小宮山恭弘研究室 (月曜、火曜 16:00~18:00)			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	超音波診断の基礎 1 超音波物理特性	超音波の基礎について復習すること	脇英彦
2	超音波診断の基礎 2 画像表示法	超音波の基礎について復習すること	脇英彦
3	超音波診断の基礎 3 血流表示法	ドプラ法について復習すること	脇英彦
4	超音波診断の基礎 4 造影超音波	超音波造影剤について復習すること	脇英彦
5	超音波診断法 1 心臓超音波	心臓の解剖について復習すること	脇英彦
6	超音波診断法 2 腹部超音波	肝臓の解剖について復習すること	脇英彦
7	超音波診断法 3 表在・血管超音波	四肢血管について復習すること	脇英彦
8	循環器画像診断 1	提示した循環器疾患について復習すること	小宮山恭弘
9	循環器画像診断 2	提示した循環器疾患について復習すること	小宮山恭弘
10	循環器画像診断 3	提示した循環器疾患について復習すること	小宮山恭弘
11	消化器画像診断 1	提示した肝胆脾疾患について復習すること	小宮山恭弘
12	消化器画像診断 2	提示した消化器疾患について復習すること	小宮山恭弘
13	消化器画像診断 3	提示した消化器疾患について復習すること	小宮山恭弘
14	疾病の画像診断演習 1	循環器疾患についてのレポート提出	小宮山恭弘
15	疾病の画像診断演習 2	消化器疾患についてのレポート提出	小宮山恭弘
成績評価方法と基準		割合	
① レポート提出		① 70%	
② 画像診断テスト		② 30%	

授業科目名		リハビリテーション学特論(保健医療学専攻) (Rehabilitation (Advanced) 【Advanced】)	
主担当教員	金尾 顕郎	担当教員	金尾 顕郎、三木屋 良輔、角田 晃啓、木内 隆裕、松下 太、小林 貴代、橋本 弘子
科目ナンバリング	HR004	科目区分	ディプロマポリシー 一 該当項目 DP②③
配当年次	1	開講学期	曜日・時限 火曜 1 限
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	リハビリテーション医学の分野とその対象は多岐にわたる。リハビリテーションをより理解するために、リハビリテーションの基礎や運動器系障害、呼吸循環器系障害、神経系障害、認知・精神障害などの臨床医学の観点からわかりやすく論じる。		
到達目標	リハビリテーションの意義、その重要性、方法などを理解する。		
履修上の注意(学生へのメッセージ)			
必ず予習復習をしましょう			
教科書			
なし			
参考書			
適宜授業内で指定する。			
研究室/オフィスアワー	研究室内/オフィスアワー		
金尾：水曜日の1限、もしくは、事前に連絡があれば随時対応します。			
松下：C棟7階研究室17/木曜日1・2・3限目			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	リハビリテーションと神経科学①	英文抄読を部分的に課すこと、基本的な医学英語に慣れおくこと。	木内
2	リハビリテーションと神経科学②	英文抄読を部分的に課すこと、基本的な医学英語に慣れおくこと。	木内
3	神経難病のリハビリテーション①	神経難病について予習	小林
4	神経難病のリハビリテーション②	予習・復習を怠らないように取り組むこと コミュニケーション機器の体験を行う	小林
5	クライン・フォーゲルバハの運動学	簡単な力学を予習すること 実技でできる服装を用意	金尾
6	運動におけるシナジーとストラテジー	簡単な反射・反応を予習すること 実技でできる服装を用意	金尾
7	身体運動を考える	実技でできる服装を用意	金尾
8	緩和ケアについて	予習：終末期医療について簡単な基礎知識を予習しておくこと。 復習：終末期の心理状態について復習する。	三木屋
9	サルコペニアについて	予習：骨格筋について予習しておくこと。 復習：筋力増強について復習しておくこと。	三木屋
10	内部障害リハビリテーションにおける行動変容①	授業内で指定された行動変容についての和文を抄読する。	角田
11	内部障害リハビリテーションにおける行動変容②	授業内で指定された行動変容について英文を抄読する。	角田
12	認知症の人のリハビリテーション①	4 大認知症について理解を深め、認知症の非薬物療法について予習すること。	松下
13	認知症の人のリハビリテーション②	予習：バーンソン・センタード・ケアについて復習：認知症の人のリハについて	松下

14	精神科におけるリハビリテーション 精神疾患を脳科学の視点で理解する	統合失調症や気分障害について予習 予習：ニューロリハビリテーションの考え方、 薬術療法について 復習：レポート提出	橋本
15	ニューロリハビリテーションにおけるダンス の可能性 ～ニューロダンス～		橋本
成績評価方法と基準			割合
1. 授業への取り組み姿勢およびレポート等にて評価			1. 100%

授業科目名		柔道整復学特論(仮称医療学専攻) (Joseifuku Therapy 【Advanced】)	
主担当教員	森 美侖	担当教員	森 美侖、川畑 浩久、外林 大輔
科目ナンバリング	HR005	科目区分	ディプロマポリシー 該当項目 DF②③
配当年次	1	開講学期	水曜 4限 木曜 4限 木曜 5限
授業形態	講義	単位数	2
<p>授業概要</p> <p>運動器疾患は、日常生活のみならずスポーツ活動、就労活動をも妨げ、とりわけ高齢者では寝たがりの原因となり、QOLを著しく低下させる。</p> <p>柔道整復は運動器の外傷・障害に対する施術を主な業務とするものであることから、骨関節外傷や障害などの病態、治療法についてより深く解説し、その研究法についても概説する。</p> <p>また近年運動器疾患と生活習慣病の関連性が注目されていることから、これについても柔道整復、統合医療の観点から概説する。</p>			
到達目標			
<p>1. 各運動器の正常な構造・機能を正確に説明できる</p> <p>2. 各運動器疾患の病態について組織学的、分子生物学的に説明することができる</p> <p>3. 各運動器疾患と生活習慣病との関連性について説明できる</p> <p>4. 各運動器疾患と酸化ストレスの関連性について説明できる</p> <p>5. 各運動器疾患の組織学的、分子生物学的研究方法について理解し、新たな研究への応用を説明できる</p>			
履修上の注意(学生へのメッセージ)			
グループ討議には積極的に参加する。			
教科書			
なし			
参考書	<p>1. 標準整形外科学 第12版 中村利孝/松野丈夫 監修 医学書院、2014.</p> <p>2. Kawahata H, et al. Continuous infusion of angiotensin II modulates hypertrophic differentiation and apoptosis of chondrocytes in cartilage formation in a fracture model mouse. <i>Hypertens Res.</i> 38: 389-393, 2015.</p> <p>3. Sotabayashi D, et al. Therapeutic effect of intra-articular injection of ribbon-type decoy oligonucleotides for hypoxia inducible factor-1 on joint contracture in an immobilized knee animal model. <i>J Gene Med.</i> 18: 180-92, 2016.</p> <p>4. Mori HM, et al. Wound healing potential of lavender oil by acceleration of granulation and wound contraction through induction of TGF-β in a rat model. <i>BMC Complement Altern Med.</i> 2016 May 26;16:144. doi:10.1186/s12906-016-1128-7.</p> <p>5. そのほか適宜紹介、配布する</p>		
研究室/オフィスアワー			
川畑浩久、外林大輔：C棟研究室707：木、金曜日 17:00～18:00 ですが、部屋にいればいつでも訪問可です。			
森美侖：木曜日 17:00～19:00			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	柔道整復学概論① 柔道整復学とは	予習：特に必要なし 復習：柔道整復学で扱う運動器疾患(骨折、脱臼、靭帯・筋損傷)の総論について復習しておくこと	川畑
2	運動器疾患の病理学的研究法(組織学的研究および分子生物学的研究)の概略	予習：組織学的研究および分子生物学的研究の概論について予習しておくこと 復習：運動器疾患の病理学的研究法について復習しておくこと	川畑
3	運動器外傷学① 骨損傷の病態および治療法	予習：骨折の病態について、その概略を予習しておくこと 復習：骨折の病態、特に修復過程について復習しておくこと	川畑
4	運動器外傷学② 関節軟骨損傷の病態および治療法	予習：関節軟骨損傷の病態について、その概略を予習しておくこと 復習：関節軟骨損傷の病態、特に修復過程について	川畑

		いて復習しておくこと		
5	運動器外傷学③ 靭帯損傷の病態および治療法	予習：靭帯損傷の病態について、その概略を予習しておくこと 復習：靭帯損傷の病態、特に修復過程について復習しておくこと	川畑	
6	運動器障害学①(川畑) 骨疾患(骨粗鬆症など)の病態および治療法	予習：骨粗鬆症の病態について、その概略を予習しておくこと 復習：骨粗鬆症などの病態について復習しておくこと	川畑	
7	運動器障害学②(川畑) 関節疾患(変形性関節症、関節リウマチなど)の病態および治療法	予習：変形性関節症、関節リウマチなどの病態について、その概略を予習しておくこと 復習：変形性関節症、関節リウマチなどの病態について復習しておくこと	川畑	
8	運動器障害学②(川畑) ロコモティブシンドロームとメタボリックシンドロームの関連性	予習：ロコモティブシンドローム、メタボリックシンドロームについて、その概略を予習しておくこと 復習：ロコモティブシンドロームとメタボリックシンドロームの関連性について復習しておくこと	川畑	
9	運動器障害学③(外林) 関節拘縮の病態および治療法	予習：関節拘縮の病態について、その概略を予習しておくこと 復習：関節拘縮の病態、特に滑膜組織の変化について復習しておくこと	外林	
10	運動器障害学③(外林) 筋損傷の病態および治療法	予習：筋損傷の病態について、その概略を予習しておくこと 復習：筋損傷の病態、特に修復過程について復習しておくこと	外林	
11	運動器疾患と生活習慣病の関連性(森)	予習：生活習慣病の概略について予習しておくこと 復習：自らの生活習慣を見直しながら復習を行う	森	
12	運動器疾患と糖化・酸化ストレス①(森) 骨粗鬆症との関連性	予習：骨粗鬆症の概略について予習しておくこと 復習：骨粗鬆症と糖化・酸化ストレスとの関連性について復習を行う	森	
13	運動器疾患と糖化・酸化ストレス②(森) 変形性関節症との関連性	予習：変形性関節症の概略について予習しておくこと 復習：糖化・酸化ストレスと糖化・酸化ストレスとの関連性について復習を行う	森	
14	運動器疾患と生活習慣病の予防法③(森) 糖化・酸化ストレスを防ぐには	予習：糖化・酸化ストレスを予防する生活習慣について予習しておくこと 復習：糖化・酸化ストレスを予防する生活習慣についてレポートを提出する	森	
15	運動器疾患への統合医療的アプローチ(森) 運動器疾患に対するアロマセラピーの実践	予習：アロマセラピーの概要について予習しておくこと 復習：アロマセラピーの概要と使用方法について復習を行う	森	
成績評価方法と基準			割合	
①講義中のディスカッション			①30%	
②レポート評価			②70%	

授業科目名	療養支援看護学特論(保健医療学専攻) (Home Care Support Nursing (Advanced))	担当教員	吉村 弥須子	吉村 弥須子、清水 容子
主担当教員	吉村 弥須子	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP②③
科目ナンバリング	HR007	科目区分	前期	火曜5限 木曜5限
配当年次	2	開講学期	前期	火曜5限 木曜5限
授業形態	講義	単位数	2	選択
授業概要	人口の高齢化、生活習慣病やがん罹患者の増加に伴い、さまざまな健康問題を抱え、医療施設や在宅等で療養生活を送る人々が増加している。長期にわたり治療や療養生活を送る人々とその家族に対する QOL 向上のための療養生活支援、健康回復支援、エビデンスに基づく看護実践 (EBN: Evidence Based Nursing) などについて学修する。主に成人期から老年期にある人々とその家族に対して活用できる理論の活用方法や健康評価・分析方法、高度の専門的援助の実践などについて学修する。また在宅ケアに関わる諸制度、関係多職種との連携など、在宅ケアシステム全体を視野に置き、健康障害をしながら、地域で生活する人々とその家族の支援について探求する。			
到達目標	1. 療養支援に活用できる諸理論について理解し、活用方法について説明できる。 2. 社会環境や社会福祉施策などを包括して、健康問題へのよりよい支援のあり方について文献検索を行い検討することができる。 3. 健康問題を抱え療養生活を送る人々に必要な支援について、プレゼンテーションを行うことができる。			
履修上の注意(学生へのメッセージ)	1. 授業は講義、ディスカッション、プレゼンテーションを組み合わせで行う。 2. プレゼンテーションのための資料を事前に準備する。			
教科書	必要時資料を配布する。			
参考書	必要時資料を配布する。			
研究室/オフィスアワー	334 研究室 (吉村) / 月曜日 16:30~18:00 実習で不在の場合があるので随時相談可。			
授業展開及び授業計画表	学修内容	予習・復習・課題等	担当	
1	成人期から老年期の健康問題と療養支援に関する現状と課題	成人期から老年期の健康問題と療養支援について調べてくる	吉村弥須子	
2	療養生活におけるストレスコーピングとストレスマネジメント	ストレスコーピング理論について復習し、ストレスマネジメントに関する文献検索を行う	吉村弥須子	
3	療養生活におけるセルフケア支援	セルフケア理論について復習しセルフケア支援に関する文献検索を行う	吉村弥須子	
4	急状況における危機介入と意思決定支援	危機理論、意思決定に関する理論について復習し文献検索を行う	吉村弥須子	
5	がん治療における意思決定支援	がん患者の意思決定支援に関する文献検索を行う	吉村弥須子	
6	高齢者の健康評価・分析方法、老年症候群やフレイル、サルコペニアの予防とサクセスフルエイジング	包括的なアセスメントの視点と主なアセスメントツールの評価・分析方法について学習する	上西洋子	
7	高齢者のストレングスを活かした専門的援助とリスクマネジメント、虐待および身体拘束と倫理	事前に高度の専門的援助のエビデンスや、事故防止と身体拘束、虐待などの倫理について文献検索をしておく。文献をもとに討議する。	上西洋子	
8	高齢者の健康問題と療養支援および家族への支援	ライブレビュー、ライブヒストリーとナラティブアプローチを理解し、レジリエンス、エンパワメント、スピリチュアリティなどを活用した支援のあり方や、チームアプローチの必要性について復習する。	上西洋子	
9	高齢者の認知症予防と認知症高齢者のアセスメント、家族を含めた支援とサポートシステム、非薬物療法と評価	認知症予防と認知症高齢者のアセスメント、家族を含めた支援とサポートシステム、非薬物療法と評価について復習する。	上西洋子	

10	多死社会における終末期医療の決定プロセス、終末期高齢者の緩和ケアと00L、看取りと家族支援	事前に終末期医療と終末期の生き方や死の迎え方、尊厳を支える看護と看取り、家族支援、事前指示などについて文献検索をしておく。討議を通してケアのあり方や終末期高齢者の緩和ケアと00Lについて検討する。	上西洋子
11	在宅療養を支える諸制度とその課題	在宅療養生活を支える現行制度について整理をする。	清水容子
12	在宅療養生活を支える制度と課題	在宅療養生活の問題となることと現行制度について考察し、現代の在宅看護の課題について考察する。	清水容子
13	療養者と家族を支える看護	在宅療養を支える職種について学習する。また、家族を支える看護理論について学習しておく。	清水容子
14	療養者と家族を支える看護職の役割	がん、非がんを問わず終末期の在宅見取りを含む在宅看護の役割を考える。	清水容子
15	療養者と家族を支える看護職の役割	在宅療養生活を支える看護職の役割に必要な権限、在宅看護領域における看護師に必要な能力と療養生活を支える看護師を育成するために、志向が必要かを考察する。	清水容子
成績評価方法と基準		割合	
・プレゼンテーション、ディスカッション		・40%	
・レポート		・60%	

療養支援看護関連特論(保健医療学専攻) (Nursing Development in Home Care Support)			
授業科目名	療養支援看護	担当教員	吉村 弥須子
主担当教員	吉村 弥須子	担当教員	吉村 弥須子
科目ナンバリング	HR008	科目区分	ディプロマポリシー 一 該当項目
配当年次	2	開講学期	曜日・時限 火曜 2限
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	<p>人口の高齢化、生活習慣病やがん罹患者の増加に伴い、さまざまな健康問題を抱え、医療施設や在宅等で療養生活を送る人々が増加している。早期にわたり治療や療養生活を送る人々とその家族に対する00L 向上のための療養生活支援、健康回復支援、エビデンスに基づき看護実践 (EBN: Evidence Based Nursing) などについて学習する。主に成人期から老年期にある人々とその家族に対して活用できる理論の活用方法や健康評価・分析手法、高度の専門的援助の実践などについて学習する。また医療施設から在宅や地域における関係多職種との連携など、健康増進を待ちながら、地域で生活する人々とその家族の支援について探求する。</p>		
到達目標	<p>1. 療養支援に活用できる諸理論について理解し、活用方法について説明できる。 2. 社会環境や社会福祉施策などを包摂して、健康問題へのよりよい支援のあり方について文献検索を行い検討することができる。 3. 健康問題を抱え療養生活を送る人々に必要な支援について、プレゼンテーションを行うことができる。</p>		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	1. 授業は講義、ディスカッション、プレゼンテーションを組み合わせで行う。 2. プレゼンテーションのための資料を事前に準備する。		
教科書	必要時資料を配布する。		
参考書	必要時資料を配布する。		
必要時資料を配布する。	研究室/オフィスアワー		
研究室	334 研究室 (吉村) / 月曜日 16:00~18:00 実習で不在の場合があるので随時相談可。		
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	成人期の健康問題と療養支援に関する現状と課題	成人期の健康問題と療養支援について調べてくる。	
2	老年期の健康問題と療養支援に関する現状と課題	老年期の健康問題と療養支援について調べてくる。	
3	療養生活におけるストレスコーピングとストレスマネジメント	ストレスコーピング理論について復習し、ストレスマネジメントに関する文献検索を行う。	
4	生活習慣病患者のセルフケア支援	セルフケア理論について復習し、生活習慣病患者のセルフケア支援に関する文献検索を行う。	
5	生活習慣病患者に対する他職種連携支援	生活習慣病患者に対する他職種連携支援について文献検索を行う。	
6	がん患者の意思決定支援	がん患者の意思決定支援に関する文献検索を行う。	
7	がん患者の症状マネジメント	がん患者の症状と症状マネジメントに関する文献検索を行う。	
8	がん患者のエビデンスに基づく緩和ケア	がん医療と緩和ケアに関する文献検索を行う。	
9	がん患者の就労支援	がん患者の就労支援に関する文献検索を行う。	
10	がん患者に対する他職種連携支援	がん患者に対する他職種連携支援について文献検索を行う。	
11	健康危機状況における危機介入と意思決定支援	危機理論、意思決定に関する理論について復習し文献検索を行う。	
12	高齢者の家族支援	高齢者の家族支援に関する文献検索を行う。	
13	医療施設から在宅ケアに向けての現状と課題	医療施設から在宅ケアに移行するうえでの問題点や課題を調べてくる。	
14	在宅ケアにおける多職種連携支援	在宅ケアに関わる職種間の連携における文献検索を行う。	

15	機養支援における理論の活用と看護実践、研究への活用	自分の考えをまとめて発表する
成績評価方法と基準		割合
①レポート		①60%
②プレゼンテーション、ディスカッション		②40%

授業科目名	神経系理学療法学特論(保健医療学専攻) (Physical Therapy for Nervous System 【Advanced】)	
主担当教員	澤田 優子	担当教員 澤田 優子
科目ナンバリング	HR009	専門科目 DP②③
配当年次	2	曜日・時限 金曜4限
授業形態	講義	単位数 2
授業概要	脳血管障害や脊髄損傷、神経筋疾患などの神経系疾患による運動障害や認知障害は多彩である。これらの身体構造・機能障害を客観的に理解し、根拠のある理学療法を展開するために、神経系理学療法学に関する研究成果を取り入れて、臨床現場でみられる患者の問題点について、治療方針の課題を臨床研究も含め検討し解説する方法を学ぶ。	
到達目標	神経系疾患後遺症者の理学療法分野で行われている研究を挙げ、それぞれの意義を説明できる。	
	履修上の注意(学生へのメッセージ)	
	本講義を通じて、テーマに関する国内外の文献についてレビューを行い、ディスカッションを経験し、自分の考えをまとめていくスキルを身に付けてください。	
	教科書	
	配布資料	
	参考書	
	随時紹介する	
	研究室/オフィスアワー	
	月曜日3時限目	

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	中枢神経系の理学療法と研究方法	予習：授業テーマに関する文献を読んでおく 復習：授業テーマに関する自分の考えをまとめる	
2	脳卒中の理学療法と研究①	予習：授業テーマに関する文献を読んでおく 復習：授業テーマに関する自分の考えをまとめる	
3	脳卒中の理学療法と研究②	予習：授業テーマに関する文献を読んでおく 復習：授業テーマに関する自分の考えをまとめる	
4	脳卒中の理学療法と研究③	予習：授業テーマに関する文献を読んでおく 復習：授業テーマに関する自分の考えをまとめる	
5	パーキンソン病の理学療法と研究①	予習：授業テーマに関する文献を読んでおく 復習：授業テーマに関する自分の考えをまとめる	
6	パーキンソン病の理学療法と研究②	予習：授業テーマに関する文献を読んでおく 復習：授業テーマに関する自分の考えをまとめる	
7	運動失調の理学療法と研究	予習：授業テーマに関する文献を読んでおく 復習：授業テーマに関する自分の考えをまとめる	
8	多発性硬化症の理学療法と研究	予習：授業テーマに関する文献を読んでおく 復習：授業テーマに関する自分の考えをまとめる	
9	頭部外傷・脳損傷に対する理学療法と研究	予習：授業テーマに関する文献を読んでおく 復習：授業テーマに関する自分の考えをまとめる	
10	筋萎縮性側索硬化症の理学療法と研究	予習：授業テーマに関する文献を読んでおく 復習：授業テーマに関する自分の考えをまとめる	
11	脊髄損傷の理学療法と研究	予習：授業テーマに関する文献を読んでおく 復習：授業テーマに関する自分の考えをまとめる	

12	その他中枢神経系疾患の理学療法と研究	<p>予習：授業テーマに関する文献を読んでおく 復習：授業テーマに関する自分の考えをまとめ</p> <p>予習：授業テーマに関する文献を読んでおく 復習：授業テーマに関する自分の考えをまとめ</p> <p>予習：授業テーマに関する文献を読んでおく 復習：授業テーマに関する自分の考えをまとめ</p>	割合 ①30% ②30% ③40%
13	脳性麻痺の理学療法と研究	<p>予習：授業テーマに関する文献を読んでおく 復習：授業テーマに関する自分の考えをまとめ</p>	
14	その他小児中枢神経系疾患の理学療法と研究	<p>予習：全講義内容について整理し、疑問点を明確にしておく 復習：全講義内容についてまとめ</p>	
15	神経疾患の理学療法の特殊性、講義全体のまとめ		
成績評価方法と基準			
①講義中のプレゼンテーション（毎授業にて実施、計15回）			
②ディスカッション（毎授業にて実施、計15回）			
③レポートによる評価（毎授業にて実施、計15回）			

授業科目名 介護福祉学特論(保健医療学専攻) (Care and Welfare 【Advanced】)			
担当教員	上田 喜敏	担当教員	上田 喜敏、横井 賀津志
科目ナンバリング	HR010	科目区分	ディプロマポリシー 該当項目 DF②③
配当年次	2	開講学期	曜日・時限 月曜2限
授業形態	講義	単位数	2
授業概要			
介護福祉学特論では、日本の高齢者問題、認知症問題や日本の人口問題と社会情勢を分析した上で、世界の介護（ケア）、特にアメリカの現状について述べる。それに基づいた援助技術についての基礎について一部実技をしながら、理解をすすめる。			
到達目標			
介護や福祉についての知見を深めることができる。			
履修上の注意（学生へのメッセージ）			
1. 配布された講義資料は、読んでおくこと。 2. わからない箇所があれば、必ず質問すること。 3. 興味を持つこと 4. 英語文献の翻訳課題がある。			
教科書			
配布資料にて実施。			
参考書			
Patient Handling and Movement Assessments: A White Paper Safe Patient Handling and Movement			
研究室/オフィスアワー			
主に研究室 7/月曜午後			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	日本の高齢化の状況と高齢社会の実施状況 1	配布する論文の「背景」を読み解く。	横井
2	日本の高齢化の状況と高齢社会の実施状況 2	配布する論文の「方法」を読み解く。	横井
3	日本の高齢化の状況と高齢社会の実施状況 3	配布する論文の「結果、考察」を読み解く、論文の枠組み提出。	横井
4	日本の高齢化の状況と高齢社会の実施状況（日本の介護将来）	復習：配布資料とメモを確認	上田
5	日本の高齢化の状況と高齢社会の実施状況（日本の介護将来） 2	復習：配布資料とメモを確認	上田
6	世界の介護について 1	復習：配布資料とメモを確認	上田
7	世界の介護について 2	復習：配布資料とメモを確認	上田
8	世界の介護について 3	復習：配布資料とメモを確認	上田
9	世界の介護について 4	復習：配布資料とメモを確認	上田
10	世界の介護について 5	復習：配布資料とメモを確認	上田
11	世界の介護について 6	復習：配布資料とメモを確認	上田
12	安全な患者/利用者介助 1	復習：配布資料と実技確認	上田
13	安全な患者/利用者介助 2	復習：配布資料と実技確認	上田
14	安全な患者/利用者介助 3	復習：配布資料と実技確認	上田
15	安全な患者/利用者介助 4	復習：配布資料と実技確認	上田

成績評価方法と基準	割合
2/3以上の出席と課題レポートと提出物等で評価	①)100%

授業科目名		内科系理学療法特論(保健医療学専攻) (Physical Therapy for Internal Medicine 【Advanced】)																																									
主担当教員	金尾 顕郎	担当教員	金尾 顕郎、堀 竜次																																								
科目ナンバリング	HR10	科目区分	専門科目 DP②③																																								
配当年次	2	開講学期	後期																																								
授業形態	講義	単位数	2																																								
授業概要	<p>概要 オムニバス方式にて呼吸・循環器疾患および生活習慣病等の理学療法プロセス、日常生活動作指導について、理学療法の実践、リスク管理、再評価などの技術を学習する。</p> <p>生活習慣病や呼吸循環障害は、日常生活の活動性低下や寝たきりの原因となる。本特論では、運動生理学を基に、臨床でみられる内科系障害について評価、運動療法、日常生活動作、リスク管理など整理し、内科系障害特に呼吸器系、循環器系、代謝系障害に対する理学療法をとりあげる。また、内部障害として、術後肺合併症も取り上げる。臨床現場での問題についてより解説するため、運動負荷試験により運動制限因子や他の評価との関係などを再学習する。</p> <p>到達目標</p> <p>内科系障害の成り立ちや評価方法を理解し、運動療法の組み立てが理解できる。リスク管理が理解できる。</p> <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>1. 講義内容は、多くの障害を理解するために必要な内容である。 2. 研究、臨床、教育を進める上で、疑問点について、必ず解決の行動をとること。 3. 下記授業計画は時系列ではなく、授業内容はあくまでも各教員ごとに展開されるので注意すること。</p>																																										
教科書	<p>教科書は使用しない 資料は随時配布する</p> <p>参考書</p> <p>医療情報科学研究所 編 病気が見える vol.1.2 循環器 MEDIC MEDIA 医療情報科学研究所 編 病気が見える vol.1.3 糖尿病・代謝・内分泌 MEDIC MEDIA 医療情報科学研究所 編 病気が見える vol.1.4 呼吸器 MEDIC MEDIA 谷本 隆一 心肺運動負荷テストと運動療法、南江堂</p> <p>研究室/オフィスアワー</p> <p>金尾：水曜日の1限、もしくは、事前に連絡があれば随時対応します。 堀：金曜日3・4限目(研究室)</p>																																										
授業展開及び授業計画表	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>学修内容</th> <th>予習・復習・課題等</th> <th>担当</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>呼吸循環器系の基礎 1 呼吸器の解剖と生理の要約</td> <td>予習：呼吸器・循環器の解剖生理と確認しておくこと</td> <td>金尾</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>呼吸循環器系の基礎 2 循環器の解剖と生理の要約</td> <td>予習：呼吸器・循環器の解剖生理と確認しておくこと</td> <td>堀</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>運動負荷試験と運動の制限因子の解説</td> <td>予習：運動生理学を見直しておくこと</td> <td>金尾・堀・角田</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>慢性呼吸不全の理学療法 ・COPD ・間質性肺炎</td> <td>予習：慢性呼吸不全を調べておくこと</td> <td>金尾</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>ADL・QOLの評価と指導(患者教育)</td> <td>予習：関係文献を読んでおくこと</td> <td>金尾</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>呼吸介助法</td> <td>実技のできる服装が必要</td> <td>金尾</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>心循環リスクと理学療法</td> <td>予習：心循環リスクについて調べておく 復習：当日の講義の要約をまとめ報告書を提出する</td> <td>堀</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>脳循環リスクと理学療法</td> <td>予習：脳循環リスクについて調べておく 復習：当日の講義の要約をまとめ報告書を提出する</td> <td>堀</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>膵臓リスクと理学療法</td> <td>予習：膵臓リスクについて調べておく 復習：当日の講義の要約をまとめ報告書を提出する</td> <td>堀</td> </tr> </tbody> </table>			回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当	1	呼吸循環器系の基礎 1 呼吸器の解剖と生理の要約	予習：呼吸器・循環器の解剖生理と確認しておくこと	金尾	2	呼吸循環器系の基礎 2 循環器の解剖と生理の要約	予習：呼吸器・循環器の解剖生理と確認しておくこと	堀	3	運動負荷試験と運動の制限因子の解説	予習：運動生理学を見直しておくこと	金尾・堀・角田	4	慢性呼吸不全の理学療法 ・COPD ・間質性肺炎	予習：慢性呼吸不全を調べておくこと	金尾	5	ADL・QOLの評価と指導(患者教育)	予習：関係文献を読んでおくこと	金尾	6	呼吸介助法	実技のできる服装が必要	金尾	7	心循環リスクと理学療法	予習：心循環リスクについて調べておく 復習：当日の講義の要約をまとめ報告書を提出する	堀	8	脳循環リスクと理学療法	予習：脳循環リスクについて調べておく 復習：当日の講義の要約をまとめ報告書を提出する	堀	9	膵臓リスクと理学療法	予習：膵臓リスクについて調べておく 復習：当日の講義の要約をまとめ報告書を提出する	堀
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当																																								
1	呼吸循環器系の基礎 1 呼吸器の解剖と生理の要約	予習：呼吸器・循環器の解剖生理と確認しておくこと	金尾																																								
2	呼吸循環器系の基礎 2 循環器の解剖と生理の要約	予習：呼吸器・循環器の解剖生理と確認しておくこと	堀																																								
3	運動負荷試験と運動の制限因子の解説	予習：運動生理学を見直しておくこと	金尾・堀・角田																																								
4	慢性呼吸不全の理学療法 ・COPD ・間質性肺炎	予習：慢性呼吸不全を調べておくこと	金尾																																								
5	ADL・QOLの評価と指導(患者教育)	予習：関係文献を読んでおくこと	金尾																																								
6	呼吸介助法	実技のできる服装が必要	金尾																																								
7	心循環リスクと理学療法	予習：心循環リスクについて調べておく 復習：当日の講義の要約をまとめ報告書を提出する	堀																																								
8	脳循環リスクと理学療法	予習：脳循環リスクについて調べておく 復習：当日の講義の要約をまとめ報告書を提出する	堀																																								
9	膵臓リスクと理学療法	予習：膵臓リスクについて調べておく 復習：当日の講義の要約をまとめ報告書を提出する	堀																																								

10	コンディショニング	予習：コンディショニング方法について調べておく 復習：当日の講義の要約をまとめ報告書を提出する	堀・金尾
11	術後肺合併症と理学療法	予習：術後合併症について調べておく 復習：当日の講義の要約をまとめ報告書を提出する	堀
12	ICU・NICUでの理学療法	人工呼吸器等の急性期管理について調べておくこと 新生児の特徴について調べておくこと	金尾
13	運動時の血糖変動	血糖値の変化要因について調べておくこと	角田
14	糖尿病とサルコペニア	サルコペニアの一般的な知識について調べておくこと	角田
15	糖尿病とエンバワメント	エンバワメントの一般的な概念について調べておくこと	角田
成績評価方法と基準			
1. 講義中のディスカッション			
2. レポートによる評価			

授業科目名 専門演習(保健医療学専攻)：堀・角田 (Specialized Practice)			
担当教員	堀 竜次	担当教員	堀 竜次、角田 晃啓
科目ナンバリング	SR001	科目区分	ディプロマポリシー 該当項目 DF②③④
配当年次	1	開講学期	前期 (金曜 5限)、 後期 (金曜 5限)
授業形態	実験・実習	単位数	4
授業概要 各学生の専門領域に応じて、担当教員の指導のもとに臨床系あるいは基礎系の演習を行う。臨床系演習として大学附属施設所演習および関連病院演習を、基礎系演習として実験室演習および文献講義演習を設ける。臨床系演習は医療資格取得者のみが可能であり、医療施設において教員の臨床活動の補助をしながら、症例の集積と分析を行う。基礎系演習は、専門領域の実験手法を習得した文献収集と情報抽出力を強化したりする。			
到達目標 自分の専門領域における臨床あるいは実験の手法、または情報収集・分析の能力を身に付ける。 臨床系演習では症例の客観的な分析ができる。 基礎系演習では実験テクニックや文献情報抽出のスキルを強化する。			
履修上の注意(学生へのメッセージ) 指導教員と相談の上、学生個別の担当教員を決定する。			
教科書 各指導教員が個別に提示する。			
参考書 各指導教員が個別に提示する。			
研究室/オフィスアワー 山下：月曜 4・6限 その他の教員については、担当となった時点で直接交渉して決定してください。			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	臨床系演習 1. 大学附属施設所における鍼灸臨床のトレーニングと症例の集積・分析 森ノ宮医療大学附属鍼灸施設所または学外提携医療施設において、疾患や病態について特定のテーマを設け、それに対する鍼灸施術と臨床データの収集を行い、過去の文献と比較しながら分析する。また、鍼灸臨床に必要な医療面接の方法と検査方法、病態把握の仕方、インフォームド・コンセントの手順について実践を通して学ぶ。さらに、鍼灸施術を通して健康維持増進をどのように行うのか、その方法、評価法、検証法などを模索する。 2. 関連病院における臨床活動の観察、実践、および症例集積 疾患や病態について特定のテーマを設け、それに対する臨床データを収集・分析・評価し文献調査を加えて検討する。また、病院等臨床施設において必要な治療あるいはケアのプロセスについて、臨床観察、実践、臨床評価、および症例分析を通して当該分野における臨床能力を高める。	個別に相談して決定する	

基礎系演習	<p>1. 実験室における実験手法および実験環境管理手法の習得 各専門分野における特別研究テーマを達成するために必要な基本的な手法と理論を習得する。</p> <p>2. 図書館あるいは研究室における文献の収集と情報抽出力の強化 図書館またはインターネットを用いて文献を検索・収集し、原文を読んで重要な情報を抽出する能力を身に付ける。また、保健医学分野の英語論文の基本的な用語や構文を学び、自分の特別研究テーマに必要な情報を収集できる能力を習得する。</p>
成績評価方法と基準	割合 左記割合にて100%
授業での技能チェック4.0%、授業での知識チェック3.0%、取り組みの態度3.0%。	

授業科目名				専門演習(保健医療専攻)：工藤・角田 (Specialized Practice)			
主担当教員		工藤 慎太郎		担当教員		工藤 慎太郎、角田 晃啓	
科目ナンバリング		SR001		専門科目		DP②③④	
配当年次		1		開講学期		前期 (金曜5限)、 後期 (金曜5限)	
授業形態		実験・実習		単位数		4	
授業概要				必修・選択		必修	
<p>各学生の専門領域に応じて、担当教員の指導のもとに臨床系あるいは基礎系の演習を行う。臨床系演習として大学附属施設内所演習および関連病院演習を、基礎系演習として実験室演習および文献講読演習を設ける。臨床系演習は医療資格取得者のみ可能であり、医療施設において教員の臨床活動の補助をしながら、症例の薬料と分析を行う。基礎系演習は、専門領域の実験手法を習得したり文献収集と情報抽出力を強化したりする。</p>							
到達目標							
<p>自分の専門領域における臨床あるいは実験の手法、または情報収集・分析の能力を身に付ける。 臨床系演習では症例の客観的な分析ができる。 基礎系演習では実験テクニックや文献情報抽出のスキルを強化する。</p>							
履修上の注意(学生へのメッセージ)							
指導教員と相談の上、学生個別の主担当教員を決定する。							
教科書							
各指導教員が個別に提示する。							
参考書							
各指導教員が個別に提示する。							
研究室／オフィスアワー							
山下：月曜4・6限 その他の教員については、担当となった時点で直接交渉して決定してください。							
授業展開及び授業計画表							
回数	学修内容	予習・復習・課題等				担当	
1	<p>臨床系演習</p> <p>1. 大学附属施設内における鍼灸臨床のトレーニングと症例の薬積・分析 森ノ宮医療大学附属鍼灸施設または学外提携医療施設において、疾患や病態について特定のテーマを設け、それに対する鍼灸施術と臨床データの収集を行い、過去の文献と比較しながら分析する。また、鍼灸臨床に必要な医療面接の方法と検査方法、病態把握の仕方、インフォームド・コンセントの手順について実践を通して学ぶ。さらに、鍼灸施術を通して健康維持増進をどのように行うのか、その方法、評価法、検証法などを観察する。</p> <p>2. 関連病院における臨床活動の観察、実践、および症例集積 疾患や病態について特定のテーマを設け、それに対する臨床データを収集・分析・評価し、文献調査を加えて検討する。また、病院等臨床施設において必要な治療あるいはケアのプロセスについて、臨床観察、実践、臨床評価、および症例分析を通して当該分野における臨床能力を高める。</p>	個別に相談して決定する					

基礎系演習	<p>1. 実験室における実験手法および実験環境管理手法の習得 各専門分野における特別研究テーマを達成するために必要な基本的な手法と理論を習得する。</p> <p>2. 図書館あるいは研究室における文献の収集と情報抽出力の強化 図書類またはインターネットを用いて文献を検索・収集し、原文を読んで重要な情報を抽出する能力を身に付ける。また、保健医学分野の英語論文の基本的な用語や構文を学び、自分の特別研究テーマに必要な情報を収集できる能力を習得する。</p>
成績評価方法と基準	割合
授業での技能チェック40%、授業での知識チェック30%、取り組みの態度30%。	左記割合にて100%

授業科目名				専門演習(保健医療学専攻)：工藤・前田 (Specialized Practice)			
主担当教員		工藤 慎太郎		担当教員		工藤 慎太郎、前田 薫	
科目ナンバリング		SR001		科目区分		ディプロマポリシー 該当項目 DF②③④	
配当年次		1		開講学期		前期 (金曜 5限)、 後期 (金曜 5限)	
授業形態		実験・実習		単位数		4	
授業概要							
<p>各学生の専門領域に応じて、担当教員の指導のもとに臨床系あるいは基礎系の演習を行う。臨床系演習として大学附属施設前所演習および関連病院演習を、基礎系演習として実験室演習および文献講読演習を設ける。臨床系演習は医療資格取得者のみが可能であり、医療施設において教員の臨床活動の補助をしながら、症例の集積と分析を行う。基礎系演習は、専門領域の実験手法を習得したり文献収集と情報抽出力を強化したりする。</p>							
到達目標							
<p>自分の専門領域における臨床あるいは実験の手法、または情報収集・分析の能力を身に付ける。 臨床系演習では症例の客観的な分析ができる。 基礎系演習では実験テクニックや文献情報抽出のスキルを強化する。</p>							
履修上の注意(学生へのメッセージ)							
指導教員と相談の上、学生個別の主担当教員を決定する。							
教科書							
各指導教員が個別に提示する。							
参考書							
各指導教員が個別に提示する。							
研究室／オフィスアワー							
山下：月曜 4・6限							
その他の教員については、担当となった時点で直接交渉して決定してください。							
授業展開及び授業計画表							
回数	学修内容	予習・復習・課題等				担当	
1	<p>臨床系演習</p> <p>1. 大学附属施設前所における鍼灸臨床のトレーニングと症例の集積・分析 森ノ宮医療大学附属鍼灸施設前所または学外提携医療施設において、疾患や病態について特定のテーマを設け、それに対する鍼灸施術と臨床データの収集を行い、過去の文献と比較しながら分析する。また、鍼灸臨床に必要な医療面接の方法と検査方法、病態把握の仕方、インフォームド・コンセントの手順について実践を通して学ぶ。さらに、鍼灸施術を通して健康維持増進をどのように行うのか、その方法、評価法、検証法などを模索する。</p> <p>2. 関連病院における臨床活動の観察、実践、および症例集積 関連病院において特定のテーマを設け、それに対する臨床データを収集・分析・評価し、文献調査を加えて検討する。また、病院等臨床施設において必要な治療あるいはケアのプロセスについて、臨床観察、実践、臨床評価、および症例分析を通して当該分野における臨床能力を高める。</p>	<p>個別に相談して決定する</p>					

<p>基礎系演習</p> <p>1. 実験室における実験手法および実験環境管理手法の習得 各専門分野における特別研究テーマを達成するために必要な基本的な手法と理論を習得する。</p> <p>2. 図書館あるいは研究室における文献の収集と情報抽出力の強化 図書館またはインターネットを用いて文献を検索・収集し、原文を読んで重要な情報を抽出する能力を身に付ける。また、保健医学分野の英語論文の基本的な用語や構文を学び、自分の特別研究テーマに必要な情報を収集できる能力を習得する。</p>	<p>成績評価方法と基準</p> <p>授業での技能チェック4.0%、授業での知識チェック3.0%、取り組みの態度3.0%、</p> <p>割合 左記割合にて100%</p>
---	---

授業科目名 専門演習(保健医療専攻)：伊津美・村上 (Specialized Practice)			
主担当教員	伊津美 孝子	担当教員	伊津美 孝子、村上 生美
科目ナンバリング	SR001	科目区分	ディプロマポリシー DP②③④
配当年次	1	開講学期	前期 (金曜5限)、 後期 (金曜5限)
授業形態	実験・実習	単位数	4
授業概要	<p>各学生の専門領域に応じて、担当教員の指導のもとに臨床系あるいは基礎系の演習を行う。臨床系演習として大学附属施設内所演習および関連病院演習を、基礎系演習として実験室演習および文献講読演習を設ける。臨床系演習は医療資格取得者のみ可能であり、医療施設において教員の臨床活動の補助をしながら、症例の薬料と分析を行う。基礎系演習は、専門領域の実験手法を習得したり文献収集と情報抽出力を強化したりする。</p>		
到達目標	<p>自分の専門領域における臨床あるいは実験の手法、または情報収集・分析の能力を身に付ける。 臨床系演習では症例の客観的な分析ができる。 基礎系演習では実験テクニックや文献情報抽出のスキルを強化する。</p>		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	<p>指導教員と相談の上、学生個別の主担当教員を決定する。</p>		
教科書	<p>各指導教員が個別に提示する。</p>		
参考書	<p>各指導教員が個別に提示する。</p>		
研究室／オフィスアワー	<p>山下：月曜4・6限 その他の教員については、担当となった時点で直接交渉して決定してください。</p>		
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	<p>臨床系演習</p> <p>1. 大学附属施設内における鍼灸臨床のトレーニングと症例の集積・分析 提議医療施設において、疾患や病態について特定のテーマを設け、それに対する鍼灸施術と臨床データの収集を行い、過去の文献と比較しながら分析する。また、鍼灸臨床に必要な医療面接の方法と検査方法、病態把握の仕方、インフォームド・コンセントの手順について実践を通して学ぶ。さらに、鍼灸施術を通して健康維持増進をどのように行うのか、その方法、評価法、検証法などを観索する。</p> <p>2. 関連病院における臨床活動の観察、実践、および症例集積 疾患や病態について特定のテーマを設け、それに対する臨床データを収集・分析・評価し、文献調査を加えて検討する。また、病院内臨床施設において必要な法整備あるいはケアのプロセスについて、臨床観察、実践、臨床評価、および症例分析を通して当該分野における臨床能力を高める。</p>	個別に相談して決定する	

基礎系演習	<p>1. 実験室における実験手法および実験環境管理手法の習得 各専門分野における特別研究テーマを達成するために必要な基本的な手法と理論を習得する。</p> <p>2. 図書館あるいは研究室における文献の収集と情報抽出力の強化 図書館またはインターネットを用いて文献を検索・収集し、原文を讀んで重要な情報を抽出する能力を身に付ける。また、保健医学分野の英語論文の基本的な用語や構文を学び、自分の特別研究テーマに必要な情報を収集できる能力を習得する。</p>	割合
成績評価方法と基準		割合 左記割合にて100%
授業での技能チェック4.0%、授業での知識チェック3.0%、取り組みの態度3.0%。		

授業科目名 専門演習(保健医療学専攻)：仲西・藤重 (Specialized Practice)			
主担当教員	仲西 宏元	担当教員	仲西 宏元、藤重 仁子
科目ナンバリング	SR001	科目区分	DF②③④
配当年次	1	開講学期	前期 (金曜 5限)、 後期 (金曜 5限)
授業形態	実験・実習	単位数	4
授業概要	<p>各学生の専門領域に応じて、担当教員の指導のもとに臨床系あるいは基礎系の演習を行う。臨床系演習として大学附属施設所演習および関連病院演習を、基礎系演習として実験室演習および文献講義演習を設ける。臨床系演習は医療資格取得者のみが可能であり、医療施設において教員の臨床活動の補助をしながら、症例の集積と分析を行う。基礎系演習は、専門領域の実験手法を習得したり文献収集と情報抽出力を強化したりする。</p>		
到達目標	<p>自分の専門領域における臨床あるいは実験の手法、または情報収集・分析の能力を身に付ける。 臨床系演習では症例の客観的な分析ができる。 基礎系演習では実験テクニックや文献情報抽出のスキルを強化する。</p>		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	<p>指導教員と相談の上、学生個別の主担当教員を決定する。</p>		
教科書			
各指導教員が個別に提示する。			
参考書			
各指導教員が個別に提示する。			
研究室/オフィスアワー			
山下：月曜 4・6限			
その他の教員については、担当となった時点で直接交渉して決定してください。			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	<p>臨床系演習</p> <p>1. 大学附属施設所における鍼灸臨床のトレーニングと症例の集積・分析 森ノ宮医療大学附属鍼灸施設所または学外提携医療施設において、疾患や病態について特定のテーマを設け、それに対する鍼灸施術と臨床データの収集を行い、過去の文献と比較しながら分析する。また、鍼灸臨床に必要な医療面接の方法と検査方法、病態把握の仕方、インフォームド・コンセントの手順について実践を通して学ぶ。さらに、鍼灸施術を通して健康維持増進などのように行うのか、その方法、評価法、検証法などを模索する。</p> <p>2. 関連病院における臨床活動の観察、実践、および症例集積 疾患や病態について特定のテーマを設け、それに対する臨床データを収集・分析・評価し文献調査を加えて検討する。また、病院等臨床施設において必要な治療あるいはケアのプロセスについて、臨床観察、実践、臨床評価、および症例分析を通して当該分野における臨床能力を高める。</p>	<p>個別に相談して決定する</p>	

<p>基礎系演習</p> <p>1. 実験室における実験手法および実験環境管理手法の習得 各専門分野における特別研究テーマを達成するために必要な基本的な手法と理論を習得する。</p> <p>2. 図書館あるいは研究室における文献の収集と情報抽出力の強化 図書館またはインターネットを用いて文献を検索・収集し、原文を読んで重要な情報を抽出する能力を身に付ける。また、保健医学分野の英語論文の基本的な用語や構文を学び、自分の特別研究テーマに必要な情報を収集できる能力を習得する。</p>	<p>成績評価方法と基準</p> <p>授業での技能チェック40%、授業での知識チェック30%、取り組みの態度30%。2/3以上の出席が必要。</p> <p>割合 左記割合にて100%</p>
---	--

授業科目名 専門演習(保健医療学専攻)：伊藤・横井 (Specialized Practice)			
主担当教員	伊藤 直子	担当教員	伊藤 直子、横井 賀津志
科目ナンバリング	SR001	科目区分	ディプロマポリシー 該当項目 DP②③④
配当年次	1	開講学期	前期 (金曜5限)、 後期 (金曜5限)
授業形態	実験・実習	単位数	4
授業概要	<p>各学生の専門領域に応じて、担当教員の指導のもとに臨床系あるいは基礎系の演習を行う。臨床系演習として行政の事業および関連病院演習を、基礎系演習として実験室演習および文献講読演習を設ける。臨床系演習は医療資格取得者のみ可能であり、医療施設において教員の臨床活動の補助をしながら、症例の集積と分析を行う。基礎系演習は、専門領域の実験手法を習得したり文献収集と情報抽出力を強化したりする。</p>		
到達目標	<p>自身の専門領域における臨床あるいは実験の手法、または情報収集・分析の能力を身に付ける。 臨床系演習では症例の客観的な分析ができる。 基礎系演習では実験テクニックや文献情報抽出のスキルを強化する。</p>		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	<p>研究テーマに関連した最新の研究成果を検索し、論文を手に入れておく。</p>		
教科書	<p>適宜、研究領域に関連する参考図書を紹介する。</p>		
参考書	<p>適宜、研究領域に関連する参考図書を紹介する。</p>		
研究室／オフィスアワー	<p>木曜日2限 (10:40-12:10)、月曜日5限 (16:20-17:50)</p>		
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	<p>臨床系演習</p> <p>1. 症例の集積・分析 学外提携医療施設において、疾患や病態について特定のテーマを設け、それに対する作業療法と臨床データの収集を行い、過去の文献と比較しながら分析する。また、作業療法に必要な医療面接の方法と検査方法、病態把握の仕方、インフォームド・コンセントの手順について実践を通して学ぶ。さらに、作業を通して健康維持増進をどのように行うのが、その方法、評価法、検証法などを構築する。</p> <p>2. 関連病院における臨床活動の観察、実践、および症例集積 疾患や病態について特定のテーマを設け、それに対する臨床データを収集・分析・評価し、文献調査を加えて検討する。また、病院等臨床施設において必要な治療あるいはケアのプロセスについて、臨床観察、実践、臨床評価、および症例分析を通して当該分野における臨床能力を高める。</p>	<p>臨床研究、基礎研究の進捗に応じて、文献レビューのまとめ、症例報告書の作成、最新の研究成果についての文献抄読を課す。</p>	横井、松下

基礎系演習	<p>1. 実験室における実験手法および実験環境管理手法の習得。各専門分野における特別研究テーマを達成するために必要な基本的な手法と理論を習得する。</p> <p>2. 図書館あるいは研究室における文献の収集と情報出力の強化。図書館またはインターネットを用いて文献を検索・収集し、原文を読んで重要な情報を抽出する能力を身に付ける。また、保健医療分野の英語論文の基本的な用語や構文を学び、自分の特別研究テーマに必要な情報を収集できる能力を習得する。</p>
成績評価方法と基準	割合
授業での技能チェック40%、授業での知識チェック30%、取り組みの態度30%。	左記割合にて100%

特別研究(保健医療学専攻)：伊津美・村上 (Special Research)			
授業科目名	伊津美 孝子	担当教員	伊津美 孝子、村上 生美
主担当教員	伊津美 孝子	担当教員	伊津美 孝子、村上 生美
科目ナンバリング	SR002	科目区分	ディプロマポリシー 該当項目
配当年次	1	開講学期	前期 曜日・時限
授業形態	実験・実習	単位数	6
授業概要	<p>研究指導教員の力で研究テーマを決め、先行研究レビュー、プロトコル作成、倫理的配慮、研究手法の習得、研究の実施、データ分析、考察、論文執筆、プレゼンテーションなど、一連の研究過程を学ぶ。その成果として、過去に提示されていないオリジナルのデータを含む修士論文を提出して審査を受ける。</p> <p>到達目標</p> <p>専門領域における文献収集、実験または調査、およびデータ分析ができる。専門領域における研究結果について、論理的解釈にもとづき論文執筆ができる。自身の研究結果と解釈についてプレゼンテーションとディスカッションができる。</p> <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>上記「担当教員」のうち1名が研究指導教員となる。大学院生ごとに研究指導教員が異なるので、当該教員とよく話し合ってください。</p> <p>教科書</p> <p>資料を配布する。また、各指導教員が個別に提示する。</p> <p>参考書</p> <p>資料を配布する。また、各指導教員が個別に提示する。</p> <p>研究室／オフィスアワー</p> <p>自分の研究指導教員と相談して決定してください。</p>		
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	1～5. 研究テーマの関連文献の収集方法を身に付け、実際に収集と調整を行うことにより取り扱う分野における最新情報を把握する。	徹底指示する	
2	6～10. 関連文献をダイジェストし、教員や同級生とディスカッションを行う。また、研究計画書の原案を作成する。		
3	11～15. 研究デザイン構築を行い、ディスカッションとアドバイスにもとづき計画書を完成させる。倫理審査が必要な研究は申請書を提出する。		
4	16～20. 予備的な実験または調査を行った研究計画の妥当性を検討し、研究計画書の最終版を完成させ、データ収集を開始する。		
5	21～25. 実験、調査、または臨床試験を実施してデータを収集する。また、中間発表を行う。指導教員の教員や研究者から意見を聞き、軌道修正する。		
6	26～30. 実験、調査、または臨床試験を行ってデータを収集する。		
7	31～35. 実験、調査、または臨床試験を行ってデータを収集する。また、データの解析を		

	行って、論理的な解釈を行い、論文を執筆する。
8	3.6～4.0. 論文を執筆するとともに、追加実験、再分析、文献再取集が必要な場合はそれらを実施する。
9	4.1～4.5. 公開発表会において研究成果を発表し、そこでの指摘を反映させて論文を完成させて提出し、審査による最終評価を受ける。
成績評価方法と基準	
本大学院の学則および学位審査に関する細則にもとづき審査して決定する	
	割合
	100%

授業科目名 特別研究(保健医療専攻)：工藤・角田 (Special Research)			
主担当教員	工藤 慎太郎	担当教員	工藤 慎太郎、角田 晃啓
科目ナンバリング	SR002	科目区分	DP②③④
配当年次	1	開講学期	2019 年度 前期 (金曜 4 限)、 2019 年度 後期 (金曜 4 限)、 2020 年度 前期 (水曜 5 限)、 2020 年度 後期 (水曜 5 限)
授業形態	実験・実習	単位数	6
授業概要	研究指導教員の下で研究テーマを決め、先行研究レビュー、プロトコール作成、倫理的配慮、研究方法の習得、研究の実施、データ分析、考察、論文執筆、プレゼンテーションなど、一連の研究過程を学ぶ。その成果として、過去に提示されていないオリジナルのデータを含む修士論文を提出して審査を受ける。		
到達目標	専門領域における文献収集、実験または調査、およびデータ分析ができる。専門領域における研究結果について、論理的解釈にもとづき論文執筆ができる。自身の研究成果と解釈についてプレゼンテーションとディスカッションができる。		
教科書	履修上の注意(学生へのメッセージ) 上記「担当教員」のうち1名が研究指導教員となる。大学院生ごとに研究指導教員が異なるので、当該教員とよく話し合ってください。		
資料を配布する。また、各指導教員が個別に提示する。			
参考書			
資料を配布する。また、各指導教員が個別に提示する。			
研究室／オフィスアワー			
自分の研究指導教員と相談して決定してください。			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	1～5. 研究テーマの関連文献の収集方法を身に付け、実際に収集と調整を行うことにより取り扱う分野における最新情報を把握する。	相談の上、決定する	
2	6～10. 関連文献をダイジェストし、教員や同級生とディスカッションを行う。また、研究計画書の原案を作成する。		
3	11～15. 研究デザイン発表を行い、ディスカッションとアドバイスにもとづき計画書を完成させる。倫理審査が必要な研究は申請書を提出する。		
4	16～20. 予備的な実験または調査を行った研究計画の妥当性を検討し、研究計画書の最終版を完成させ、データ収集を開始する。		
5	21～25. 実験、調査、また臨床試験を実施してデータを収集する。また、中間発表を行って複数の教員や研究者から意見を聞き、軌道修正する。		
6	26～30. 実験、調査、または臨床試験を行ってデータを収集する。		
7	31～35. 実験、調査、または臨床試験を行ってデータを収集する。また、データの解析を		

	行って、論理的な解釈を行い、論文を執筆する。	
8	36～40. 論文を執筆するとともに、追加実験、再分析、文献再収集が必要な場合はそれらを実施する。	
9	41～45. 公開発表会において研究成果を発表し、そこの指摘を反映させて論文を完成させて提出し、審査による最終評価を受ける。	
成績評価方法と基準		割合
本大学院の学則および学位審査に関する細則にもとづき審査して決定する		100%

特別研究(医歯医療学専攻)：堀・角田 (Special Research)			
授業科目名	堀 竜次	担当教員	堀 竜次、角田 晃啓
主担当教員	堀 竜次	堀 竜次	堀 竜次、角田 晃啓
科目ナンバリング	SR002	科目区分	DF②③④
配当年次	1	開講学期	2019 年度 前期 (金曜 4 限)、 2019 年度 後期 (金曜 4 限)、 2020 年度 前期 (水曜 5 限)、 2020 年度 後期 (水曜 5 限)
授業形態	実験・実習	単位数	6
<p>授業概要</p> <p>研究指導教員の下で研究テーマを決め、先行研究レビュー、プロトコール作成、倫理的配慮、研究手法の習得、研究の実施、データ分析、考察、論文執筆、プレゼンテーションなど、一連の研究過程を学ぶ。その成果として、過去に提示されていないオリジナルのデータを含む修士論文を提出して審査を受ける。</p> <p>到達目標</p> <p>専門領域における文献収集、実験または調査、およびデータ分析ができる。専門領域における研究結果について、論理的解釈にもとづき論文執筆ができる。自身の研究結果と解釈についてプレゼンテーションとディスカッションができる。</p> <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>上記「担当教員」のうち1名が研究指導教員となる。大学院生ごとに研究指導教員が異なるので、当該教員とよく話し合ってください。</p> <p>教科書</p> <p>資料を配布する。また、各指導教員が個別に提示する。</p> <p>参考書</p> <p>資料を配布する。また、各指導教員が個別に提示する。</p> <p>研究室/オフィスアワー</p> <p>自分の研究指導教員と相談して決定してください。</p>			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	1～5. 研究テーマの関連文献の収集方法を身に付け、実際に収集と調整を行うことにより取り扱う分野における最新情報を把握する。	個別に相談して決定する	
2	6～10. 関連文献をダイジェストし、教員や同級生とディスカッションを行う。また、研究計画書の原案を作成する。		
3	11～15. 研究デザイン構築を行い、ディスカッションとアドバイザーにもとづき計画書を完成させる。倫理審査が必要な研究は申請書提出する。		
4	16～20. 予備的な実験または調査を行った研究計画の妥当性を検討し、研究計画書の最終版を完成させ、データ収集を開始する。		
5	21～25. 実験、調査、または臨床試験を実施してデータを収集する。また、中間発表を行って指導の教員や研究者から意見を聞き、軌道修正する。		
6	26～30. 実験、調査、または臨床試験を行ってデータを収集する。		
7	31～35. 実験、調査、または臨床試験を行ってデータを収集する。また、データの解析を		

	行って、論理的な解釈を行い、論文を執筆する。	
8	3.6～4.0. 論文を執筆するとともに、追加実験、再分析、文献再取集が必要な場合はそれらを実施する。	
9	4.1～4.5. 公開発表会において研究成果を発表し、そこでの指摘を反映させて論文を完成させて提出し、審査による最終評価を受ける。	
成績評価方法と基準		割合
本大学院の学則および学位審査に関する細則にもとづき審査して決定する		100%

授業科目名 特別研究(保健医療学専攻)：仲西・藤重 (Special Research)			
担当教員	仲西 宏元	担当教員	仲西 宏元、藤重 仁子
科目ナンバリング	SR002	科目区分	ディプロマポリシー 該当項目 DP②③④
配当年次	1	開講学期	2019 年度 前期 (金曜 4 限)、 2019 年度 後期 (金曜 4 限)、 2020 年度 前期 (水曜 5 限)、 2020 年度 後期 (木曜 5 限)
授業形態	実験・実習	単位数	6
授業概要	研究指導教員の下で研究テーマを決め、先行研究レビュー、プロトコール作成、倫理的配慮、研究方法の習得、研究の実施、データ分析、考察、論文執筆、プレゼンテーションなど、一連の研究過程を学ぶ。その成果として、過去に提示されていないオリジナルのデータを含む修士論文を提出して審査を受ける。		
到達目標	専門領域における文献収集、実験または調査、およびデータ分析ができる。専門領域における研究結果について、論理的解釈にもとづき論文執筆ができる。自身の研究成果と解釈についてプレゼンテーションとディスカッションができる。		
教科書	履修上の注意(学生へのメッセージ) 上記「担当教員」のうち1名が研究指導教員となる。大学院生ごとに研究指導教員が異なるので、当該教員とよく話し合ってください。		
資料を配布する。また、各指導教員が個別に提示する。			
参考書			
資料を配布する。また、各指導教員が個別に提示する。			
研究室/オフィスアワー			
自分の研究指導教員と相談して決定してください。			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	1～5. 研究テーマの関連文献の収集方法を身に付け、実際に収集と調整を行うことにより取り扱う分野における最新情報を把握する。	都度指示する	
2	6～10. 関連文献をダイジェストし、教員や同級生とディスカッションを行う。また、研究計画書の原案を作成する。		
3	11～15. 研究デザイン発表を行い、ディスカッションとアドバイスにもとづき計画書を完成させる。倫理審査が必要な研究は申請書を提出する。		
4	16～20. 予備的な実験または調査を行った研究計画の妥当性を検討し、研究計画書の最終版を完成させ、データ収集を開始する。		
5	21～25. 実験、調査、また臨床試験を実施してデータを収集する。また、中間発表を行って複数の教員や研究者から意見を聞き、軌道修正する。		
6	26～30. 実験、調査、または臨床試験を行ってデータを収集する。		
7	31～35. 実験、調査、または臨床試験を行ってデータを収集する。また、データの解析を		

	行って、論理的な解釈を行い、論文を執筆する。	
8	36～40. 論文を執筆するとともに、追加実験、再分析、文献再収集が必要な場合はそれらを実施する。	
9	41～45. 公開発表会において研究成果を発表し、そこの指摘を反映させて論文を完成させて提出し、審査による最終評価を受ける。	
成績評価方法と基準		割合
本大学院の学期および学位審査に関する細則にもとづき審査して決定する		100%
4/5以上の出席が必要		

特別研究(医歯薬学専攻)：山下・増山 (Special Research)			
授業科目名	山下 仁	担当教員	山下 仁、増山 祥子
主担当教員	SR002	専門科目	DF②③④
科目ナンバリング		科目区分	2019 年度 前期 (金曜 4 限)、 2019 年度 後期 (金曜 4 限)、 2020 年度 前期 (水曜 5 限)、 2020 年度 後期 (水曜 5 限)
配当年次	1	開講学期	曜日・時限
授業形態	実験・実習	単位数	必修・選択
授業概要	6 必修		
到達目標	研究指導教員の指示に従って、先行研究レビュー、プロトコル作成、倫理的配慮、研究手法の習得、研究の実施、データ分析、考察、論文執筆、プレゼンテーションなど、一連の研究過程を学ぶ。その成果として、過去に提示されていないオリジナルのデータを含む修士論文を提出して審査を受ける。		
専門領域における文献収集、実験または調査、およびデータ分析ができる。専門領域における研究結果について、論理的解釈にもとづき論文執筆ができる。自身の研究結果と解釈についてプレゼンテーションとディスカッションができる。			
履修上の注意(学生へのメッセージ)	上記「担当教員」のうち1名が研究指導教員となる。大学院生ごとに研究指導教員が異なるので、当該教員とよく話し合っスケジュールに遅れないように研究活動を進めていただきたい。		
教科書			
資料を配布する。また、各指導教員が個別に提示する。			
参考書			
資料を配布する。また、各指導教員が個別に提示する。			
研究室/オフィスアワー			
月曜日 18 時以降			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	1～5. 研究テーマの関連文献の収集方法を身に付け、実際に収集と調整を行うことにより取り扱う分野における最新情報を把握する。	適時指示する。	小宮山
2	6～10. 関連文献をダイジェストし、教員や同級生とディスカッションを行う。また、研究計画書の原案を作成する。	適時指示する。	小宮山
3	11～15. 研究デザイン構築を行い、ディスカッションとアドバイスのもとづき計画書を完成させる。倫理審査が必要な研究は申請書を提出する。	適時指示する。	小宮山
4	16～20. 予備的な実験または調査を行って研究計画の妥当性を検討し、研究計画書の最終版を完成させ、データ収集を開始する。	適時指示する。	小宮山
5	21～25. 実験、調査、また臨床試験を実施してデータを収集する。また、中間発表を行って指導教員の教員や研究者から意見を聞き、軌道修正する。	適時指示する。	小宮山
6	26～30. 実験、調査、または臨床試験を行ってデータを収集する。	適時指示する。	小宮山
7	31～35. 実験、調査、または臨床試験を行ってデータを収集する。また、データの解析を	適時指示する。	小宮山

	行って、論理的な解釈を行い、論文を執筆する。	
8	3.6～4.0. 論文を執筆するとともに、追加実験、再分析、文献再取集が必要な場合はそれらを実施する。	小宮山 適時指示する。
9	4.1～4.5. 公開発表会において研究成果を発表し、そこでの指摘を反映させて論文を完成させて提出し、審査による最終評価を受ける。	小宮山 適時指示する。
成績評価方法と基準		割合
本大学院の学則および学位審査に関する細則にもとづき審査して決定する		100%

授業科目名 特別研究(保健医療専攻)：伊藤・横井 (Special Research)			
担当教員	伊藤 直子	担当教員	伊藤 直子、横井 賀津志
科目ナンバリング	SR002	科目区分	ディプロマポリシー 該当項目
配当年次	1	開講学期	2019 年度 前期 (金曜 4 限)、 2019 年度 後期 (土曜 4 限)、 2020 年度 前期 (水曜 5 限)、 2020 年度 後期 (水曜 5 限)
授業形態	実験・実習	単位数	6
授業概要	研究指導教員の下で研究テーマを決め、先行研究レビュー、プロトコル作成、倫理的配慮、研究方法の習得、研究の実施、データ分析、考察、論文執筆、プレゼンテーションなど、一連の研究過程を学ぶ。その成果として、過去に提示されていないオリジナルのデータを含む修士論文を提出して審査を受ける。		
到達目標	専門領域における文献収集、実験または調査、およびデータ分析ができる。専門領域における研究結果について、論理的解釈にもとづき論文執筆ができる。自身の研究結果と解釈についてプレゼンテーションとディスカッションができる。		
教科書	履修上の注意(学生へのメッセージ) 上記「担当教員」のうち1名が研究指導教員となる。大学院生ごとに研究指導教員が異なるので、当該教員とよく話し合いスケジュールに遅れないように研究活動を進めていただきたい。		
資料を配布する。また、各指導教員が個別に提示する。			
参考書			
資料を配布する。また、各指導教員が個別に提示する。			
研究室/オフィスアワー			
自分の研究指導教員と相談して決定してください。			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	1～5. 研究テーマの関連文献の収集方法を身に付け、実際に収集と調整を行うことにより取り扱う分野における最新情報を把握する。	文献レビュー表を作成する。	横井
2	6～10. 関連文献をダイジェストし、教員や同級生とディスカッションを行う。また、研究計画書の原案を作成する。	研究方法が同じ研究のプロトコルを収集する。	横井
3	11～15. 研究デザイン発表を行い、ディスカッションとアドバイスのもとづき計画書を完成させる。倫理審査が必要な研究は申請書を提出する。	研究倫理審査に関する書籍を読む。	横井
4	16～20. 予備的な実験または調査を行った研究計画の妥当性を検討し、研究計画書の最終版を完成させ、データ収集を開始する。	予備実験データの解釈に必要な先行研究を再確認する。	横井
5	21～25. 実験、調査、また臨床試験を実施してデータを収集する。また、中間発表を行って複数の教員や研究者から意見を聞き、軌道修正する。	中間発表後の修正	横井
6	26～30. 実験、調査、または臨床試験を行ってデータを収集する。	収集したデータを入力し、データを概観する。	横井
7	31～35. 実験、調査、または臨床試験を行ってデータを収集する。また、データの解釈を	解析結果を解釈する。	横井

	行って、論理的な解釈を行い、論文を執筆する。	
8	36～40. 論文を執筆するとともに、追加実験、再分析、文献再収集が必要な場合はそれらを実施する。	横井
9	41～45. 公開発表会において研究成果を発表し、そこの指摘を反映させて論文を完成させて提出し、審査による最終評価を受ける。	横井
成績評価方法と基準		割合
本大学院の学則および学位審査に関する細則にもとづき審査して決定する。		100%

特別研究(医歯医療学専攻)：工藤・前田 (Special Research)																																			
授業科目名	工藤 慎太郎	担当教員	工藤 慎太郎、前田 薫																																
主担当教員	工藤 慎太郎	専門科目	DF②③④																																
科目ナンバリング	SR002	科目区分	2019 年度 前期 (金曜 4 限)、 2019 年度 後期 (金曜 4 限)、 2020 年度 前期 (水曜 5 限)、 2020 年度 後期 (水曜 5 限)																																
配当年次	1	開講学期	曜日・時限																																
授業形態	実験・実習	単位数	6																																
<p>授業概要</p> <p>研究指導教員の指导下で研究テーマを決め、先行研究レビュー、プロトコル作成、倫理的配慮、研究手法の習得、研究の実施、データ分析、考察、論文執筆、プレゼンテーションなど、一連の研究過程を学ぶ。その成果として、過去に提示されていないオリジナルのデータを含む修士論文を提出して審査を受ける。</p> <p>到達目標</p> <p>専門領域における文献収集、実験または調査、およびデータ分析ができる。専門領域における研究結果について、論理的解釈にもとづき論文執筆ができる。自身の研究結果と解釈についてプレゼンテーションとディスカッションができる。</p> <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>上記「担当教員」のうち1名が研究指導教員となる。大学院生ごとに研究指導教員が異なるので、当該教員とよく話し合いスケジュールに遅れないように研究活動を進めていただきたい。</p> <p>教科書</p> <p>資料を配布する。また、各指導教員が個別に提示する。</p> <p>参考書</p> <p>資料を配布する。また、各指導教員が個別に提示する。</p> <p>研究室／オフィスアワー</p> <p>自分の研究指導教員と相談して決定してください。</p>																																			
<p>授業展開及び授業計画表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>学修内容</th> <th>予習・復習・課題等</th> <th>担当</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>1～5. 研究テーマの関連文献の収集方法を身に付け、実際に収集と調整を行うことにより取り扱う分野における最新情報を把握する。</td> <td>文献レビュー表を作成する。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>6～10. 関連文献をダイジェストし、教員や同級生とディスカッションを行う。また、研究計画書の原案を作成する。</td> <td>研究手法が同じ研究のプロトコルを収集する。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>11～15. 研究デザイン構築を行い、デイスカッションとアドバイスをにもとづき計画書を完成させる。倫理審査が必要な研究は申請書を提出する。</td> <td>研究倫理審査に関する書籍を読む。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>16～20. 予備的な実験または調査行なって研究計画の妥当性を検討し、研究計画書の最終版を完成させ、データ収集を開始する。</td> <td>予備実験データの解釈に必要な先行研究を再確認する。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>21～25. 実験、調査、また臨床試験を実施してデータを収集する。また、中間発表を行って講師の教員や研究者から意見を聞き、軌道修正する。</td> <td>中間発表後の修正</td> <td></td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>26～30. 実験、調査、または臨床試験を行ってデータを収集する。</td> <td>収集したデータを入力し、データを概観する。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>31～35. 実験、調査、または臨床試験を行ってデータを収集する。また、データの解析を</td> <td>解析結果を解釈する。</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当	1	1～5. 研究テーマの関連文献の収集方法を身に付け、実際に収集と調整を行うことにより取り扱う分野における最新情報を把握する。	文献レビュー表を作成する。		2	6～10. 関連文献をダイジェストし、教員や同級生とディスカッションを行う。また、研究計画書の原案を作成する。	研究手法が同じ研究のプロトコルを収集する。		3	11～15. 研究デザイン構築を行い、デイスカッションとアドバイスをにもとづき計画書を完成させる。倫理審査が必要な研究は申請書を提出する。	研究倫理審査に関する書籍を読む。		4	16～20. 予備的な実験または調査行なって研究計画の妥当性を検討し、研究計画書の最終版を完成させ、データ収集を開始する。	予備実験データの解釈に必要な先行研究を再確認する。		5	21～25. 実験、調査、また臨床試験を実施してデータを収集する。また、中間発表を行って講師の教員や研究者から意見を聞き、軌道修正する。	中間発表後の修正		6	26～30. 実験、調査、または臨床試験を行ってデータを収集する。	収集したデータを入力し、データを概観する。		7	31～35. 実験、調査、または臨床試験を行ってデータを収集する。また、データの解析を	解析結果を解釈する。	
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当																																
1	1～5. 研究テーマの関連文献の収集方法を身に付け、実際に収集と調整を行うことにより取り扱う分野における最新情報を把握する。	文献レビュー表を作成する。																																	
2	6～10. 関連文献をダイジェストし、教員や同級生とディスカッションを行う。また、研究計画書の原案を作成する。	研究手法が同じ研究のプロトコルを収集する。																																	
3	11～15. 研究デザイン構築を行い、デイスカッションとアドバイスをにもとづき計画書を完成させる。倫理審査が必要な研究は申請書を提出する。	研究倫理審査に関する書籍を読む。																																	
4	16～20. 予備的な実験または調査行なって研究計画の妥当性を検討し、研究計画書の最終版を完成させ、データ収集を開始する。	予備実験データの解釈に必要な先行研究を再確認する。																																	
5	21～25. 実験、調査、また臨床試験を実施してデータを収集する。また、中間発表を行って講師の教員や研究者から意見を聞き、軌道修正する。	中間発表後の修正																																	
6	26～30. 実験、調査、または臨床試験を行ってデータを収集する。	収集したデータを入力し、データを概観する。																																	
7	31～35. 実験、調査、または臨床試験を行ってデータを収集する。また、データの解析を	解析結果を解釈する。																																	

	行って、論理的な解釈を行い、論文を執筆する。		
8	36～40. 論文を執筆するとともに、追加実験、再分析、文献再取集が必要な場合はそれらを実施する。	結果を解釈するための先行研究を再吟味する。	
9	41～45. 公開発表会において研究成果を発表し、そこでの指摘を反映させて論文を完成させて提出し、審査による最終評価を受ける。	研究成果を論文にする。	
成績評価方法と基準			
本大学院の学位および学位審査に関する細則にもとづき審査して決定する。			
			割合
			100%

医療科学専攻(博士後期課程)
(2018年度以降 入学生カリキュラム)

医療科学概論(医療科学専攻)			
授業科目名	青木 元邦	担当教員	青木 元邦、山下 仁、前田 薫、村上 生美、中原 英博、森谷 正之
主担当教員	青木 元邦	担当教員	青木 元邦、山下 仁、前田 薫、村上 生美、中原 英博、森谷 正之
科目ナンバリング	HLA009	科目区分	ディプロマポリシー 該当項目
配当年次	1	開講学期	前期
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	医療科学の定義や共通概念について説明し、さらにシステム生理学、神経解剖学、分子生物学、バイオメカニクス、看護技術学、臨床鍼灸学の各分野の立場からみた医療科学的側面について講義する。本講義によって各自の専攻する研究専門分野における医療科学の捉え方および学術的アプローチに関する思考の基盤を形成する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療における科学的側面とその視点から行う研究の意味について理解している。 2. 看護、リハビリテーション、伝経医学などの臨床における医療科学的研究の動向に関する最新の知識がある。 3. 自身の医療または健康に関する専門領域について医療科学的な視点から深い洞察を加え、課題を指摘することができる。 		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	オムニバス方式による講義で、知識・事例の解説と質疑応答を交えながら進行する。毎回のテーマに関する論文、記事、資料を事前に指定するのを目を通し、授業後には自身の専門分野と予定している研究テーマに当てはめて未解決の課題を抽出すること。		
教科書			
論文、記事、関連資料を適宜配付する。書籍等は特に指定しない。			
参考書			
必要が生じた場合は適宜紹介する。			
研究室/オフィスアワー			
青木 元邦/適宜対応する			
山下 仁/適宜対応する			
宮本 忠吉/E棟4階 (研究室12) :原則 月曜日 3時限目・4時限目			
その他、部屋にいははいいつでも訪問可です。質問等はいつでも自由どうぞ。			
森谷 正之/E棟4階 (研究室11) 月曜日午後5時~午後7時、各日昼休みの時間帯は原則研究室に在室しています。			
前田 薫/適宜対応する			
村上 生美/適宜対応する			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	【医療科学とは】 医療科学の定義と共通概念 【医療科学の歴史】	様々な医療領域に関する知識を深め、自らの専門分野と周辺科学領域の関連を考察する。	青木
2	医療・健康・臨床における科学的アプローチの変遷	様々な医療領域のこれまでの発展を理解する。	青木
3	【分子生物学】 分子生物学の概要	遺伝子発現制御機構・再生医療について理解を深める。	青木
4	【システム生理学】 システム生理学の概要	生命をシステムとしての理解することの意義や内部環境の恒常性を維持する生体システムの動作原理、及びその動的な制御機構についての理解を深める。 予習：システムバイオロジーについて事前に調べておくこと。	宮本

5	【適応生理学】 システム生理学から見た人体の適応メカニズム	様々な環境条件下において、ダイナミックな振る舞いをみせる生体の環境適応機構について理解する。 予習：生命の環境適応(重力、暑熱寒冷、低酸素、運動)の戦略について事前に調べておくこと。	宮本
6	【代謝生理学】 肥満とその治療の代謝生理学的メカニズム	代謝性疾患にみられる、生体調節系の異常と、呼吸循環系に強れる病態異常所見のメカニズムについてシステム生理学的アプローチを用いて理解する。 予習：バイタルサイン(呼吸、循環、代謝)に異常所見がみられる各種疾患の兆候について事前に調べておくこと。	宮本
7	【看護学】 看護における医療科学的側面		村上
8	【看護技術学】 医療科学的観点から行う看護技術開発		村上
9	【ヒューマンケア】 医療科学的分析と研究方法		村上
10	【動物実験】 医療科学としての動物実験の意義	予習：動物実験における「3R」について事前に調べて下さい。 復習：配布資料等で動物実験を実施する際の倫理的配慮について学習を深めて下さい。	森谷
11	【神経解剖学】 医療科学的側面から見た神経解剖学	予習：神経解剖学研究の方法論について事前に調べて下さい。 復習：配布資料等で神経解剖学研究の歴史と方法論について学習を深めて下さい。	森谷
12	【リハビリテーション】 リハビリテーションにおける医療科学的側面	予習：配布資料を読み、不明点を明確にしておく。	前田
13	【バイオメカニクス】 バイオメカニクスの概要と医療科学的应用	予習：配布資料を読み、不明点を明確にしておく。	前田
14	【東洋医学と代替医療】 東洋医学・代替医療における医療科学的側面		山下
15	【鍼灸】 鍼灸における医療科学的思考の重要性とその成果		山下
成績評価方法と基準			割合
①レポート			①70%
②質疑応答時の発言内容			②30%

授業科目名	医療科学研究方法論(医療科学専攻)	
主担当教員	山下 仁	担当教員 山下 仁、森谷 正之、青木 元邦、前田 薫、川畑 浩久、中原 英博、仲西 宏元、澤田 優子、吉村 弥須子、横井 賀津志
科目ナンバリング	HLA010	共通科目 該当項目
配当年次	1	前期
授業形態	講義	単位数 2
授業概要	<p>医療科学領域における様々な研究の国際共通ルールや方法論を学ぶことにより、自身の行う特別研究において採用する研究方法の質を高め、より適切で信頼性の高い研究が実施できるための基礎固めを行う。また、異なる研究分野や研究テーマをもつ学生同士が研究計画と研究方法論を紹介し、互いに科学的立場から建設的な批判を行わせる機会を設けることにより、自身の研究方法論に関する課題を認識させる。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療科学研究における共通の規範と研究方法論について理解している。 2. 医療科学研究におけるリサーチ・クエスチョンに対して適切な研究方法を選択することができる。 3. 自身が行う(予定の)特別研究において用いている方法論について、その理論と技術を熟知しており、長所と短所を詳細に説明できる。 <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>オムニバス方式による講義で、知識・事例の解説と質疑応答を交えながら進行する。毎回のテーマに関わる論文、記事、資料を事前に指定するのを目を通し、授業後には自身の専門分野と予定している研究テーマに当てはめて未解決の課題を抽出すること</p> <p>教科書</p> <p>論文、記事、関連資料を適宜配布する。書籍等は特に指定しない。</p> <p>参考書</p> <p>必要が生じた場合は適宜紹介する。</p> <p>研究室/オフィスアワー</p> <p>宮本 忠吉/E棟4階(研究室12):原則 月曜日 3時限目・4時限目 その他、部屋にいればいつでも訪問可です。質問等はいつでもご自由どうぞ。 山下 仁/適宜対応する 川畑 浩久/E棟研究室707:木、金曜日17:00~18:00ですが、部屋にいればいつでも訪問可です。 仲西 宏元/適宜対応する 青木 元邦/E棟4階(研究室11):月曜日午後5時~午後7時、各日昼休みの時間帯は原則研究室に入室していません。 森谷 正之/E棟4階(研究室11):月曜日午後5時~午後7時、各日昼休みの時間帯は原則研究室に入室していません。 前田 薫/適宜対応する 澤田 優子/適宜対応する 吉村 弥須子/W棟3</p>	
授業展開及び授業計画表		
回数	学修内容	予習・復習・課題等 担当
1	【システム生理学】 システム生理学的研究方法論	血液ガスやpH、血圧、体温、血糖の正常値を決定している動的フィードバック制御システムの機能を定量的評価する方法論について理解を深める。 予習：フィードフォワード制御、ネガティブフィードバック制御などの用語について、事前に調べておいてください。

2	【組織形態学】 組織形態学的方法論	予習：組織標本の作成方法について、事前に調べておいて下さい。 復習：講義で学習した内容と事前に調べた内容を総合して、組織標本の作成過程を論理的に理解して下さい。	森谷
3	【動物実験ルール】 動物実験における国際的な共通認識とルール	予習：事前に動物実験倫理についての情報収集をして下さい。 復習：講義内容を参考に、動物実験における「3R」の原則など、動物実験倫理について理解を深めて下さい。	森谷
4	【臨床研究ルール】 臨床研究における国際的な共通認識とルール		山下
5	【臨床試験】 医療科学領域における臨床試験の方法論		山下
6	【創薬】 創薬における研究方法論	創薬における法的規制・臨床研究・治験・倫理的な確保等の知識を深める。	青木
7	【トランスレーショナル・リサーチ】 トランスレーショナル・リサーチの実践	トランスレーショナル・リサーチの実践と問題点を学ぶ。	青木
8	【バイオメカニクス】 バイオメカニクス研究方法論	予習：力学(物理学)を復習しておく。 復習：力学の生体運動への応用法の例について、ノート等をもとに再確認しておく。	前田
9	【調査研究】 医療科学領域における調査研究の方法論	医療科学領域における調査方法論について、理論と実践を学ぶ。	澤田
10	【分子病態学】 分子病態学的方法論	さまざまな疾患における病態の分子生物学的な解析方法について学ぶ。	川畑
11	【リハビリテーション学】 リハビリテーション分野における疫学調査の方法論	横断研究と縦断研究についての方法と結果の解釈を学ぶ。	横井
12	【質的研究】 医療科学領域における質的研究の方法論	予習：質的研究について学習しておく。 復習：質的研究の手法を用いた研究論文を読み、クリティクしてみる。	吉村
13	【免疫組織学】 免疫組織学研究方法論		仲西
14	【学生研究計画(1)】 学生研究計画・研究方法の案と質疑応答	予習：研究計画の立案時の帰無仮説を必ず明確にした上で、授業に臨むこと。 復習：研究計画イメージを作成しておく。	宮本
15	【学生研究計画(2)】 学生研究計画・研究方法の案と質疑応答	予習：授業での討論をもとに研究計画イメージの加筆・修正を行って頂く。	前田
成績評価方法と基準			割合
①レポート			①70%
②質疑応答時の発言内容			②30%

授業科目名		研究倫理特論(医療科学専攻)																																					
主担当教員	山下 仁	担当教員	山下 仁、神田 靖士、青木 元邦																																				
科目ナンバリング	HLA011	科目区分	共通科目																																				
配当年次	1	開講学期	前期																																				
授業形態	講義	単位数	2																																				
到達目標	<p>医療科学分野で必要となる研究倫理および生命倫理について知識を深め、実際に医療科学研究を行う際に適切な判断・配慮・対応ができる能力を身に付ける。近年社会的問題となった研究倫理および生命倫理に関する事例を取り上げ、その詳細を知り問題点を分析し考察するとともに、海外および国内における関連領域の法令や指針を読み解くことにより研究公正や人権尊重の考え方を深め、どう行動すべきかを修得する。また、利益相反とそのマネージメント、患者の権利の保護、インフォームド・コンセント、研究不正の告発システム等について、その現状および取るべき行動の具体例を学ぶ。</p>																																						
授業概要	<p>医療科学分野における研究倫理と生命倫理について、その意味を理解し、研究実施時に適切な行動ができる。</p> <p>2. 研究公正や人権尊重に関する国内外の基本的な法令および指針の内容を理解している。</p> <p>3. 研究倫理および生命倫理における審査申請その他の諸手続きが適切に行える。</p> <p>4. 医療科学分野における他者の研究発表や研究論文について倫理的観点からの確かな問題指摘と修正提案ができる。</p>																																						
履修上の注意(学生へのメッセージ)	<p>オムニバス方式による講義で、実例の紹介と質疑応答を交えながら進化する。</p> <p>毎回のテーマに関わる論文や記事を事前に検索・入手して目を通し、授業後にはそこから倫理的観点からみた問題点を抽出すること。</p>																																						
教科書	論文、記事、関連資料を適宜配布する。書籍等は特に指定しない。																																						
参考文献	<p>科学の健全な発展のためにー講義な科学者の心得ー(日本学術振興会「科学の健全な発展のために」編集委員会)</p> <p>人を対象とする医学系研究に関する倫理指針(文部科学省、厚生労働省)</p> <p>科学研究における健全性の向上について(日本学術会議)</p> <p>研究室/オフィスマナー</p>																																						
担当	神田 靖士/在室時は訪問可。質問がある場合は授業終了時に申し出て下さい。メールでも随時受付を行います。 メールアドレス: kandas@hirakata.knu.ac.jp 山下 仁/適宜対応する 青木 元邦/適宜対応する																																						
授業展開及び授業計画表	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>学修内容</th> <th>予習・復習・課題等</th> <th>担当</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>【研究倫理概論】 科学者としての態度や研究公正の意味と重要性</td> <td></td> <td>山下</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>【研究不正】 FFPとその具体例、不正告発システム</td> <td></td> <td>山下</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>【研究者・著者の責任】 研究行為の責務、オーサーシップ、著作権</td> <td></td> <td>山下</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>【利益相反】 利益相反の定義・範囲とそのマネージメント</td> <td>研究者として、利益相反に関する知識とマネージメントを学ぶ。</td> <td>青木</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>【データの管理・保護】 データの管理・保護 ラボノート、個人情報保護</td> <td>信頼できるデータとは何か：研究の透明性・倫理性について学ぶ。</td> <td>青木</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>【法令と指針】 国内外の関連法令および指針の通読と解説</td> <td>研究の倫理性・透明性に関する各種法律・指針を学ぶ。</td> <td>青木</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>【倫理審査の申請・臨床試験登録】 研究倫理委員会・IRBの申請および臨床試験事前登録の実態</td> <td>研究計画の倫理委員会への提出にあたり必要なことを学ぶ。</td> <td>青木</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>【生命倫理概論】 生命倫理とはどのような学問か</td> <td></td> <td>神田</td> </tr> </tbody> </table>			回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当	1	【研究倫理概論】 科学者としての態度や研究公正の意味と重要性		山下	2	【研究不正】 FFPとその具体例、不正告発システム		山下	3	【研究者・著者の責任】 研究行為の責務、オーサーシップ、著作権		山下	4	【利益相反】 利益相反の定義・範囲とそのマネージメント	研究者として、利益相反に関する知識とマネージメントを学ぶ。	青木	5	【データの管理・保護】 データの管理・保護 ラボノート、個人情報保護	信頼できるデータとは何か：研究の透明性・倫理性について学ぶ。	青木	6	【法令と指針】 国内外の関連法令および指針の通読と解説	研究の倫理性・透明性に関する各種法律・指針を学ぶ。	青木	7	【倫理審査の申請・臨床試験登録】 研究倫理委員会・IRBの申請および臨床試験事前登録の実態	研究計画の倫理委員会への提出にあたり必要なことを学ぶ。	青木	8	【生命倫理概論】 生命倫理とはどのような学問か		神田
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当																																				
1	【研究倫理概論】 科学者としての態度や研究公正の意味と重要性		山下																																				
2	【研究不正】 FFPとその具体例、不正告発システム		山下																																				
3	【研究者・著者の責任】 研究行為の責務、オーサーシップ、著作権		山下																																				
4	【利益相反】 利益相反の定義・範囲とそのマネージメント	研究者として、利益相反に関する知識とマネージメントを学ぶ。	青木																																				
5	【データの管理・保護】 データの管理・保護 ラボノート、個人情報保護	信頼できるデータとは何か：研究の透明性・倫理性について学ぶ。	青木																																				
6	【法令と指針】 国内外の関連法令および指針の通読と解説	研究の倫理性・透明性に関する各種法律・指針を学ぶ。	青木																																				
7	【倫理審査の申請・臨床試験登録】 研究倫理委員会・IRBの申請および臨床試験事前登録の実態	研究計画の倫理委員会への提出にあたり必要なことを学ぶ。	青木																																				
8	【生命倫理概論】 生命倫理とはどのような学問か		神田																																				

9	【着床前診断と出生前診断】 受精卵、胎児の先天的遺伝性疾患の検査法、優生保護の考え方		神田
10	【尊厳死と安楽死】 尊厳ある生命の終わりと安楽死との相違点	レポート	神田
11	【脳死と臓器移植】 脳死はヒトの死か、臓器移植法の改正と臓器移植の現状		神田
12	【再生医療とクローン技術】 ES細胞、iPS細胞を利用した再生医療、ヒトクローン胚の考え方	レポート	神田
13	【インフォームド・コンセント】 医療現場における患者の権利と医療従事者の義務		神田
14	【代理出産】 代理出産とわが国における親子関係のあり方	レポート	神田
15	【総括】 学習した概念相互のつながりの確認と質疑応答		神田
成績評価方法と基準			割合
①レポート			①70%
②質疑応答時の発言内容			②30%

医史学・医療社会学概論(医療科学専攻)			
授業科目名	大形 徹	担当教員	大形 徹、田中 美子
主担当教員	大形 徹	共通科目	ディプロマポリシー 該当項目
科目ナンバリング	HLA012	科目区分	前期
配当年次	1	開講学期	曜日・時限
授業形態	講義	単位数	1
授業概要	<p>東アジアにおける医学と保健医療の歴史・哲学・社会的な観点を紹介するとともに、東アジア伝統医学の概念と理論について概説し、医療における科学的側面と哲学的・文化的側面を対比することによって、医療科学の位置づけや進むべき方向性についてより深く考察する。まず、医療における哲学的・社会的なアプローチの概要を知り、古今東西の思想や宗教の特徴と保健医療学との関わりを理解する。次に、東アジア、特に中国古典医学とその影響を受けて日本の漢方医学が発展するまでの経緯を理解する。</p>		
到達目標	<p>1. 中国・日本・欧米の最新の研究成果にもとづいて鍼灸学と本草学を理解する。 2. 鍼灸学と本草学について、日本語による理解に止まらず、古典文献をも読解できることを目指す。</p>		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	<p>配布資料の読解と質疑応答を怠らなから進捗する。 毎回のテーマに関わる論文、記事、資料を事前に指定するのを目を通し、授業後には自身の専門分野と予定している研究テーマに当てはめて未解決の課題を抽出すること。</p>		
教科書	<p>論文、記事、関連資料を適宜配布する。書籍等は特に指定しない。 田中の担当箇所も、教科書は使用しない。</p>		
参考書	<p>必要が生じた場合は適宜紹介する。</p>		
研究室/オフィスアワー	<p>大形 徹 / ohigata728@gmail.com 田中 美子 / 授業の前夜。あるいは自宅への電話 (番号は改めて伝える)。</p>		
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	【現代医療の中心構造】 医療社会学では、医療を医療の外側から考察する。 医療施設の展開と現状を知る。	授業内容と自分で調べた内容を、ノートにまとめる。	田中
2	【現代医療の支持構造】 主に医療者と患者の関係を分析する。	授業内容と自分で調べた内容を、ノートにまとめる。	田中
3	【現代医療の周縁】 主に健康至上主義という社会現象を紹介する。	授業内容と自分で調べた内容を、ノートにまとめる。	田中
4	【東アジアの医史学と古典文献】 東アジア医史学の特徴、漢文で書かれた文献講読の基礎	授業内容と自分で調べた内容を、ノートにまとめる。	大形
5	【古代中国医学の基本理念】 「氣」の身体観。近年出た出来た医療資料からわかる古代中国の保健医療の状況	授業内容と自分で調べた内容を、ノートにまとめる。	大形
6	【鍼灸学の基礎的理論】 黄帝内経素問、靈枢経、八十一難経など	授業内容と自分で調べた内容を、ノートにまとめる。	大形
7	【本草学の基礎的理論】 神農本草経、傷寒論など	授業内容と自分で調べた内容を、ノートにまとめる。	大形
8	【日本最古の医書】 医心方、金元医学、桃山・江戸時代の実践的医術、その後の日本の漢方医学への影響など	授業内容と自分で調べた内容を、ノートにまとめる。	大形

成績評価方法と基準		割合
①レポート		①70%
②質疑応答時の発言内容		②30%

授業科目名		システム生理学特論(医療科学専攻)	
主担当教員	宮本 忠吉	担当教員	宮本 忠吉、中原 英博、教員未確定
科目ナンバリング	HFS001	科目区分	ディプロマポリシー 該当項目
配当年次	1	開講学期	曜日・時間 木曜 5 限
授業形態	講義	単位数	必修・選択 選択
授業概要			
<p>生体には、血液ガスや pH、血圧、体温、血漿の恒常性維持に必要不可欠な動的フィードバック制御システムが備わっている。本特論では、様々な環境条件下において、生体恒常性を維持すべくダイナミックなふるまいをみせる生体システムの動作原理や、その動的な制御機構の詳細を系統的に研究分析する方法論の基礎（動物実験を含む）と応用を学ぶ。また最新の研究成果についても、我々の研究結果を基にシステム生理学の立場から解説する。</p>			
到達目標			
<p>生体システムの構造と機能を理解した上で、細胞・組織・個体レベルでそれらがどのように連携して働いているかを、システム生理学的手法を用いて、生体システムの構造及び機能同定し、さらにシステムモデリングを通じて、統合的かつ定量的な視点（システム生理学の視点）から説明できる。</p>			
履修上の注意（学生へのメッセージ）			
<p>生体システムに対するダイナミックな振る舞いを理解するため、周波数解析や伝達関数を用いた定量的評価に関する基本的な知識が必要となります。</p> <p>PCやエクセル(表計算ソフト)の基本的な操作方法はもちろん、プログラミングの基礎や基本的なアルゴリズムについては、すでに習得していることを前提に、授業を展開するので注意してください。</p>			
教科書			
論文、資料を適宜配布する。			
参考書			
「Handbook of Physiology, Sect. 12, Exercise: Regulation and integration of multiple systems」, ed. by Rowell L. B. and Shepherd, J. T., Am. Physiol. Soc., New York, 1996			
「システムバイオロジー-生命をシステムとして理解する-」 北野宏明、秀潤社、2001			
研究室/オフィスアワー			
宮本 忠吉/原則月曜日 3 時限目・4 時限目			
その他、部屋にいればいつでも訪問可です。質問等はいつでもご自由どうぞ。			
中原 英博/適宜対応する			
上田 真也/適宜対応する			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	【システム生理学の基礎】 生体システムの階層的理解	運動の生理学（特に呼吸循環代謝系のダイナミクス）の基本的な知識、生体システムの運動に対するダイナミックな振る舞いを理解するための、周波数解析や伝達関数を用いた定量的評価に関する基本的な知識、基本的なアルゴリズムについて再確認しておくこと。	宮本
2	【動的システムの構造同定①】 生体調節系（呼吸・代謝システム）のプロック線図		宮本
3	【動的システムの構造同定②】 生体調節系（循環システム）のプロック線図		中原
4	【動的システムの機能同定①】 生体調節系（呼吸・代謝システム）による血液ガス、pH、血糖 維持調節機構の定量的解析		上田
5	【動的システムの機能同定②】 生体調節系（循環・体温調節系）による、血圧、体温維持調節機構の定量的解析		宮本
6	【動的システムの分析と評価①】 生体調節系（制御部）の静特性的理解		宮本
7	【動的システムの分析と評価②】 生体調節系（制御部）の動特性的理解		宮本
8	【動的システムの分析と評価③】 生体調節系（制御対象部）の静特性的理解		宮本
9	【動的システムの分析と評価④】 生体調節系（制御対象部）の動特性的理解		宮本

10	【動的システムの統合的理解①】 フィードバック制御システム（トータルシステム）の静特性的理解	【動的システムの統合的理解①】 フィードバック制御システム（トータルシステム）の静特性的理解	宮本
11	【動的システムの統合的理解②】 フィードバック制御システム（トータルシステム）の動特性的理解	【動的システムの統合的理解②】 フィードバック制御システム（トータルシステム）の動特性的理解	宮本
12	【システム制御①】 システムモデリングの基礎①	【システム制御①】 システムモデリングの基礎①	宮本
13	【システム制御②】 システム設計①	【システム制御②】 システム設計①	宮本
14	【システム設計②】 システムモデリングの応用①	【システム設計②】 システムモデリングの応用①	宮本
15	【システム設計③】 システムモデリングの応用②	【システム設計③】 システムモデリングの応用②	宮本
成績評価方法と基準			割合
①講義中の発問・質疑応答			①70%
②レポート			②30%

授業科目名	臨床神経解剖学特論(医歯科学専攻)			担当教員	森谷 正之
主担当教員	森谷 正之	科目区分	HFS002	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目
科目ナンバリング	HFS002	開講学期	1	後期	曜日・時限
配当年次	1	単位数	2	講義	水曜 4 限
授業形態	講義				必修・選択
授業概要	<p>生体活動の基盤は、生体外部あるいは生体内での環境変化により生じる感覚情報が中枢神経系で処理統合され、その結果として運動が発現し、恒常性維持や生活活動が遂行されることで成立している。本特論では、神経系について過去から現在に至る研究方法論や研究成果、知見を検討することを通じて、臨床上重要となる神経系の特性について、神経解剖学の立場から理解を深める。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生体活動における「形態」と「機能」の関連性について、神経解剖学の立場から説明できる。 2. 看護、リハビリテーション、伝統医学、検査技術などの領域で神経系に関連する臨床事項について、神経解剖学的視点から説明できる。 <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>基本的には論文、資料等の講読により講義を進行する。各講義の事前に論文、資料等を配布するのでその内容について学習しておく。講義時に議論できるように準備しておくこと。</p> <p>教科書</p> <p>論文、資料等を適宜配布する。書籍等は特に指定しない。</p> <p>参考書</p> <p>必要が生じた場合は適宜紹介する。</p> <p>研究室/オフィスアワー</p> <p>E 棟 4 階 (研究室 11)</p> <p>月曜日午後 5 時～午後 7 時、各日昼休みの時間帯は原則研究室に在室しています。</p> <p>授業展開及び授業計画表</p>				
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当		
1	【神経解剖学とは】 【神経解剖学の成り立ちについて】 【神経解剖学の歴史】	神経解剖学の位置付けについて考えておいて下さい。 神経解剖学の歴史について調べておいて下さい。	森谷		
2	【神経解剖学の研究方法】 【咽喉と嚥下の神経解剖学】	神経解剖学の歴史について調べておいて下さい。 神経解剖学の研究方法について調べておいて下さい。	森谷		
3	【痛みの基礎知識】 【痛みのメカニズム】	咽喉、嚥下機能を制御する神経機構について調べておいて下さい。 痛みの定義と研究の歴史について調べておいて下さい。	森谷		
4	【痛みの制御】 【痛みのメカニズム】	咽喉、嚥下機能を制御する神経機構について調べておいて下さい。 痛みの定義と研究の歴史について調べておいて下さい。	森谷		
5	【痛みの制御】 【痛みのメカニズム】	咽喉、嚥下機能を制御する神経機構について調べておいて下さい。 痛みの定義と研究の歴史について調べておいて下さい。	森谷		
6	【痛みの制御】 【痛みのメカニズム】	咽喉、嚥下機能を制御する神経機構について調べておいて下さい。 痛みの定義と研究の歴史について調べておいて下さい。	森谷		
7	【痛みの制御】 【痛みのメカニズム】	咽喉、嚥下機能を制御する神経機構について調べておいて下さい。 痛みの定義と研究の歴史について調べておいて下さい。	森谷		
8	【痛みの制御】 【痛みのメカニズム】	咽喉、嚥下機能を制御する神経機構について調べておいて下さい。 痛みの定義と研究の歴史について調べておいて下さい。	森谷		
9	【痛みの制御】 【痛みのメカニズム】	咽喉、嚥下機能を制御する神経機構について調べておいて下さい。 痛みの定義と研究の歴史について調べておいて下さい。	森谷		
10	【痛みの制御】 【痛みのメカニズム】	咽喉、嚥下機能を制御する神経機構について調べておいて下さい。 痛みの定義と研究の歴史について調べておいて下さい。	森谷		
11	【痛みの制御】 【痛みのメカニズム】	咽喉、嚥下機能を制御する神経機構について調べておいて下さい。 痛みの定義と研究の歴史について調べておいて下さい。	森谷		
12	【痛みの制御】 【痛みのメカニズム】	咽喉、嚥下機能を制御する神経機構について調べておいて下さい。 痛みの定義と研究の歴史について調べておいて下さい。	森谷		
13	【痛みの制御】 【痛みのメカニズム】	咽喉、嚥下機能を制御する神経機構について調べておいて下さい。 痛みの定義と研究の歴史について調べておいて下さい。	森谷		
14	【痛みの制御】 【痛みのメカニズム】	咽喉、嚥下機能を制御する神経機構について調べておいて下さい。 痛みの定義と研究の歴史について調べておいて下さい。	森谷		

15	【健康長寿と神経解剖学】 健康長寿における神経系の賦活について	神経系の賦活について調べて下さい。	森谷
成績評価方法と基準			
①提出物			
②講義発表内容			
			割合
			①50%
			②50%

分子治療学特論(医療科学専攻)			
授業科目名	分子治療学特論(医療科学専攻)	担当教員	萩原 俊男、川畑 浩久、青木 元邦
主担当教員	萩原 俊男	専門科目	遺伝学
科目ナンバリング	HFS003	科目区分	後期
配当年次	1	開講学期	後期
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	近年さまざまな疾患において、遺伝子や様々な分子を標的とした新たな治療法の可能性が検討されている。これは多くの疾患において組織・細胞・形態的・機能的変化をもたらす中心的な因子が生体内の分子であるとする学問的裏付けに基づいていて、本講義では、循環器疾患や運動器疾患を中心に、病態の分子メカニズムを分子生物学的実験手法の説明とともに概説し、関連分子を標的とした治療法の開発手法について講義する。		
到達目標	1. 循環器疾患や運動器疾患の発症や病態進展における分子メカニズムを理解できる。 2. またそれらを探査・検証するための実験方法(分子生物学的的手法)についても理解し、研究方法について立案できる。 3. 分子を標的とした治療法の効果や問題点について、実験的な検証方法を立案し、その結果について解析・考察できる。		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	1. オムニバス方式による講義で、知識・事例の解説と質疑応答を交えるながら進捗する。 2. 事前に関心のある論文、記事、資料を事前に指定するのを目を通し、不明な用語や手法、疾患、病態などについては事前に調べておくこと。 3. 授業後には自身の専門分野と予定している研究テーマに当てはめて未解決の課題を抽出すること。		
教科書	論文、記事、関連資料を適宜配布する。		
参考書	必要が生じた場合は適宜紹介する。		
研究室/オフィスアワー	萩原 俊男/適宜対応する 川畑 浩久/適宜対応する 青木 元邦/適宜対応する		
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	【分子を標的とした治療法の概説】 分子を標的とした治療法の概念と方法	分子生物学の基礎を学び、分子治療法の基本戦略を理解する。	萩原
2	【高血圧症の分子メカニズム】 高血圧症の発症・病態における分子メカニズム	代表的な生活習慣病である高血圧症に関する知識を深め、その制圧の重要性を学ぶ。	萩原
3	【高血圧症と分子治療】 高血圧症に対する分子治療法	高血圧治療の新たな展開である分子治療の現状を学ぶ。	萩原
4	【老化と分子治療】 分子治療によるアンチエイジング	抗加齢医学の進歩を学び、アンチエイジング分野における新たな治療戦略を理解する。	萩原
5	【核酸を標的とした分子治療法】 核酸医薬をもちいた分子治療法	抗加齢医学の進歩を学び、アンチエイジング分野における新たな治療戦略を理解する。	青木
6	【虚血性心疾患と分子治療】 虚血性心疾患に対する分子治療法	虚血性心疾患に対する分子治療法の基本戦略と現状を学ぶ。	青木
7	【動脈閉塞性疾患と分子治療】 動脈閉塞性疾患に対する分子治療法	閉塞性動脈硬化症に対する分子治療法の基本戦略と現状を学ぶ。	青木
8	【炎症性疾患と分子治療】 炎症性疾患に対するNF-κBを標的とした分子治療法	アトピー性皮膚炎・炎症性腸疾患・大動脈瘤など各種炎症性疾患に対する分子治療法の基本戦略と現状を学ぶ。	青木
9	【関節拘縮と分子治療】 関節拘縮に対するHIF-1を標的とした分子治療法	予習：関節拘縮の病態について、組織学的変化や病態関連分子について調べておくこと 復習：関節拘縮における滑膜組織の線維化メカニズムとこれに対する分子治療法について確認、理解しておくこと	川畑

10	【自己免疫疾患と分子治療】 関節リウマチに対するサイトカインを標的とした分子治療法	予習：関節リウマチの病態について、組織学的な変化や病態関連分子について調べておくこと 復習：関節リウマチの病態における炎症性サイトカインの関与とそれに対する分子治療法について確認、理解しておくこと	川畑
11	【骨疾患と分子治療】 骨粗鬆症や骨折修復に対する分子治療法	予習：骨粗鬆症や骨折の病態について、組織学的な変化や病態関連分子について調べておくこと 復習：骨粗鬆症や骨折の病態について、組織学的な変化や病態関連分子について調べておくこと	川畑
12	【分子治療法の検証方法 (1)】 分子治療法の作用機序を検証するための組織学的的手法(免疫組織化学染色法、in situ hybridization法)の解説	予習：免疫組織化学染色法、in situ hybridization法の概略について調べておくこと 復習：免疫組織化学染色法、in situ hybridization法の実験について確認、理解しておくこと	川畑
13	【分子治療法の検証方法 (2)】 分子治療法の作用機序を検証するための分子生物学的的手法(mRNA、タンパクの抽出と定量化)の解説	予習：mRNA、タンパクの抽出と定量化の具体的な分析法の概略について調べておくこと 復習：mRNA、タンパクの抽出と定量化の具体的な分析手法の実験について確認、理解しておくこと	川畑
14	【分子治療の現状と課題】 現在行われている分子治療の現状と課題について	予習：現在行われている分子治療の現状と課題について調べておくこと 復習：分子治療の現状と課題についてまとめておくこと	青木
15	【分子治療の未来】 分子を標的としたオナーメイド医療について	予習：分子を標的としたオナーメイド医療について調べておくこと 復習：オナーメイド医療の現状と課題についてまとめておくこと	萩原
成績評価方法と基準			
①レポート ②討論時の発言内容 ③出席は2/3とする			
割合 ①70% ②30%			

分子病態検査学特論(医療科学専攻)			
授業科目名	分子病態検査学特論(医療科学専攻)	担当教員	上田 真喜子、森 誠司、前川 佳敬
主担当教員	上田 真喜子	専門科目	テプロマボリナー 該当項目
科目ナンバリング	HFS004	科目区分	曜日・時限
配当年次	1	開講学期	後期
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	必修・選択 選択		
疾病の本態を解明する、基礎と臨床の両者にまたがった医学・医療の基本となる学問である。			
到達目標			
1. 病因・病態の解明や診断に有用な検査法の理論や手法を説明できる。			
2. 国際的・学際的な研究の現状や展望などを説明できる。			
3. 国際的にも通用する自立した研究を実施できる。			
履修上の注意(学生へのメッセージ)			
オムニバス方式による講義で、知識・実例の解説と質疑応答を交えながら進行する。			
毎回のテーマに関する論文、記事、資料を事前に指定するのを目を通し、授業後には自身の専門分野と予定している研究テーマに当てはめて未解決の課題を抽出すること。			
教科書			
論文、記事、関連資料を適宜配布する。教科書の指定はない。			
参考書			
Robbins and Cotran: Pathologic Basis of Disease, 8th Edition, Saunders Braunwald's Heart Disease: A Textbook of Cardiovascular Medicine, Single Volume, 10e Hypertension: A Companion to Braunwald's Heart Disease, 3e The Biology of Cancer, 2nd edition: Robert A. Weinberg, Garland Science 研究室/オフィスアワー			
上田 真喜子/〇棟研究室5: 在室時には、いつでも訪問可です。			
森 誠司/月ら5階以降、これ以外は事前に問い合わせください。			
前川 佳敬/〇棟研究室8: 原則月曜午後、金曜日午後(ただし会議等でない限り)その他、部屋にいればいつでも訪問可です。質問等はいつでもご自由どうぞ。			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	【血管内皮細胞】 血管内皮細胞の傷害と、修復・再生	学修内容について、予習・復習をすること。	上田
2	【血管平滑筋細胞】 血管平滑筋細胞の脱分化・増殖・再分化メカニズム	学修内容について、予習・復習をすること。	上田
3	【白血球と動脈硬化】 動脈硬化の進展・不安定化における血小板血栓形成メカニズムと、赤血球血栓増大メカニズム	学修内容について、予習・復習をすること。	上田
4	【血栓形成機構】 動脈硬化の進展・不安定化における種々の血液凝固因子の役割	学修内容について、予習・復習をすること。	上田
5	【酸化LDLと動脈硬化】 動脈硬化の形成・進展・不安定化における酸化一酸化窒素(NO)と、酸化LDLの意義	学修内容について、予習・復習をすること。	上田
6	【血液バイオマーカー】 動脈硬化の進展・不安定化における種々の血液バイオマーカーの動態と、早期診断への応用	学修内容について、予習・復習をすること。	上田
7	【動脈硬化とステント治療】 動脈硬化症に対するステント治療と、その後の新生内膜形成・再狭窄メカニズム	学修内容について、予習・復習をすること。	上田
8	【循環器疾患】 心疾患、高血圧症における各種検査法		前川
9	【遺伝子】 高血圧症、動脈硬化における遺伝的素因		前川
10	【薬物治療】 各種検査による薬物評価方法		前川

11	【生命予後】 各種検査を用いた生命予後の推測	前川
12	【がんの微小環境】 がん特有な微小環境と悪性化との関連性	森
13	【がんの浸潤・転移】 がんの浸潤・転移の分子メカニズム	森
14	【がんと血管新生】 がんの増殖と血管新生の分子メカニズム	森
15	【細胞外マトリックスと癌細胞の相互作用】 細胞外マトリックスと癌細胞の相互作用	森
成績評価方法と基準		割合
①レポート		①70%
②質疑応答時の発言内容		②30%

授業科目名		介護予防技術開発特論(医療科学専攻)		担当教員	前川 佳敬、前田 薫、横井 賀津志
主担当教員	前川 佳敬	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目	
科目ナンバリング	MTD001	開講学期	後期	曜日・時限	火曜 3限 木曜 2限
配当年次	1	単位数	2	必修・選択	選択
授業形態	講義				
授業概要	医療科学の視点から、介護を要する疾患のリスク因子を知り、健康寿命延伸のために効果的な介入を紹介する。さらに、介入自体の妥当性を検証し、その効果判定について講義する。ポピュレーションアプローチとしての1次予防、虚弱高齢者に対する2次予防および疾患の重症化予防である3次予防における代表的な介入について講義する。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 介護を要する疾患のリスク因子および介護予防に効果的な介入を文献レビューし、医療科学的な視点から深い洞察を加えることができる。 2. 1, 2, 3次予防の必要性を医療科学的な視点で説明できる。 3. 自身が行う予定の特別研究において、介護予防介入を計画することができる。 				
履修上の注意(学生へのメッセージ)	オムニバス方式による講義で、知識・実例の解説と質疑応答を交えながら進行する。毎回のテーマに関する論文、記事、資料を事前に指定するのを目を通し、授業後には自身の専門分野と予定している研究テーマに当てはめて未解決の課題を抽出すること。				
教科書	論文、記事、関連資料を適宜配布する。教科書の指定はない。				
参考書	質疑に応じて、適宜紹介する。				
研究室/オフィスアワー	研究室/オフィスアワー				
回数	前川 佳敬/1棟研究室8：原則月曜午後、金曜日午後（ただし急講等でないこともあります）その他、部屋にいればいつでも訪問可です。質問等はいつでもご自由にとどうぞ。 前田 薫/適宜対応する 横井 賀津志/木曜日 2限目 (10:40-12:10)				
授業展開及び授業計画表					
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当		
1	【介護予防概論】 介護予防の概念および健康寿命延伸のための戦略	健康寿命に関連する文献レビュー	横井		
2	【高齢医療学概論】 老化のメカニズムと機能の理解	老化に関連する文献レビュー	前川		
3	【高齢者総合機能評価】 高齢者の生活機能評価と臨床応用	高齢者生活機能評価に関する文献レビュー	前川		
4	【多職種連携】 高齢者ケアにおけるチーム医療	高齢者ケアに関する文献レビュー チーム医療に関する文献レビュー	前川		
5	【包括的医療】 高齢者における全人的医療	高齢者に関する総説を読み解き、高齢者医療を考察する	前川		
6	【高齢者の立位バランス】 当該テーマに関する基礎研究のレビュー	事前に配布する文献を読み、不明点を明らかにしておく。	前田		
7	【高齢者の歩行安定性】 当該テーマに関する基礎研究のレビュー	事前に配布する文献を読み、不明点を明らかにしておく。	前田		
8	【高齢者の立位バランスと歩行安定性の評価】 立位バランスと歩行安定性の評価法に関する研究のレビュー	事前に配布する文献を読み、不明点を明らかにしておく。	前田		
9	【高齢者の立位バランスの改善の試み】 当該テーマに関する文献レビュー	事前に配布する文献を読み、不明点を明らかにしておく。	前田		
10	【高齢者の歩行安定性の改善の試み】 当該テーマに関する文献レビュー	事前に配布する文献を読み、不明点を明らかにしておく。	前田		

11	【認知症発症のリスク因子】 認知症発症を結果指標とした疫学研究	認知症発症のリスクに関する文献レビュー 認知機能低下抑制に関する文献レビュー	横井
12	【認知症予防のための介入技術】 認知症予防のエビデンス	認知症予防に関する総説を読み解く。	横井
13	【転倒発生のリスク因子】 転倒発生を結果指標とした疫学研究	転倒のリスクに関する文献レビュー	横井
14	【転倒予防のための介入技術】 転倒予防のエビデンス	転倒予防に関する総説を読み解く。	横井
15	【介護予防介入のための効果判定】 認知症予防・転倒予防の効果判定指標	認知症予防・転倒予防の原簿論文を読み解く。	横井
成績評価方法と基準			
①課題レポート			
②質疑応答時が発言内容			
割合			
①70%			
②30%			

授業科目名	鍼灸医療技術開発特論(医療科学専攻)		
主担当教員	中西 宏元	担当教員	中西 宏元、山下 仁
科目ナンバリング	MTD002	科目区分	ディプロマポリシー 該当項目
配当年次	1	開講学期	後期
授業形態	講義	単位数	2
授業概要	鍼灸が現代医療に導入されるにあたって必要な臨床的エビデンス、臨床応用可能性の検証法、治療技術開発および臨床応用の前例などを学ぶ。鍼灸における臨床研究方法、トランスレーショナル・リサーチの例、安全性検証法、安全技術の開発手法、免疫の組織再生補助技術、鍼と脳高次機能解析などの知識と技法について学修する。		
到達目標	鍼灸の臨床的エビデンスと研究方法を検証する。 1. ランダム化比較試験とその対照群の設定方法、安全性検証のための前向き調査の方法について理解している。 2. 安全な施術のために必要な器具・機器の仕様、およびその国際的規格とその開発方法について説明できる。(山下/1回) 3. 灸を用いた組織再生補助技術としての電気生理学的手法、免疫組織化学染色法の検証方法を理解している。 4. 鍼灸刺激と脳誘発電位測定を用いた脳活動の関連性と方法論について説明できる。 5. 未病対策としての鍼灸の応用可能性について説明できる。(中西/8回)		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	オムニバス方式による講義で、知識・実例の解説と質疑応答を交えながら進行する。毎回のテーマに関わる論文、記事、資料を事前に指定するのを目を通し、授業後には自身の専門分野と予定している研究テーマに当てはめて発想法の課題を抽出すること		
教科書	論文、記事、関連資料を適宜配布する。書籍等は特に指定しない。		
参考書			
必要が生じた場合は適宜紹介する。			
研究室/オフィスアワー			
中西 宏元/真棟 4階研究室9、昼休み随時相談 山下 仁/東棟 4階研究室24、昼休み随時相談			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	【臨床研究方法論概論】 研究方法論とエビデンス・レベル、素朴臨床試験と鍼灸臨床研究の違い	エビデンス・レベルについて予習すること	
2	【鍼灸のランダム化比較試験】 ランダム化比較試験の実際、実施上のルール、報告基準 (CONSORT, STRICTA)	ランダム化比較について予習すること	
3	【鍼灸のメタアナリシス】 データの統合、バイアス・リスク、GRADE システム	メタアナリシスについて予習すること	
4	【基礎と臨床の橋渡し】 鍼灸におけるトランスレーショナル・リサーチの解釈と実例		
5	【安全性検証(1)】 主な検証方法論、有効性検証との違い		
6	【安全性検証(2)】 多施設前向き試験の手法と実例		
7	【安全性検証(3)】 安全性向上技術の手法、環境設定、臨床現場へのフィードバック		
8	【電気生理学】 電気生理学の基礎と応用		
9	【臨床生理学】 末梢神経再生測定に関わる誘発電位の方法論		
10	【神経科学】 神経科学の基礎と応用		
11	【神経科学研究(1)】 末梢神経再生に関わる免疫組織学の方法論		

12	【神経科学研究(2)】 神経系における各種活性物質の形態学的研究の方法論		
13	【神経科学研究(3)】 脳と誘発電位の測定方法論		
14	【神経科学研究(4)】 高次機能と神経活動の記録方法論(1)		
15	【神経科学研究(5)】 高次機能と神経活動の記録方法論(2)		
成績評価方法と基準			
①レポート			
②質疑応答時の発言内容			
割合			
①70%			
②30%			

授業科目名		看護技術開発特論(医療科学専攻)	
主担当教員	村上 生美	担当教員	村上 生美、吉村 弥須子
科目ナンバリング	MTD003	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目
配当年次	1	開講学期	後期 月曜 3限
授業形態	講義	単位数	2 必修・選択 選択
授業概要			
看護技術は多様な分類が可能であるが、ここではあらゆる場において直接、対象にはたらきかけるものを言う。看護技術は看護態様の増進をなす重要な領域であり、今日では Evidence-Based Nursing(以下 EBN)の考え方が重視されている。一方でケアを受ける対象のニーズの多様化によって看護技術の展開は経験に頼らざるを得ない場合や、試行錯誤に終始することも多い。そこで本科目では、わが国における看護技術の現状を概観し、ある領域の対象の特定のニーズを検討、それに対する看護技術を開発・評価するための知識と方法を講じる。			
到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護技術の概念について説明することができる。 2. 看護にはどのような技術があるか、分類することができる。 3. 看護技術の特徴(構成要素とそれらの関係)を説明することができる。 4. 看護技術における今日的な課題について、自己の考えを述べることができる。 5. 自己のこれまでの経験をもとに、臨床的あるいは基本的な看護技術の問題について、新たな方向性や方法を提案できる。 6. 問題視した特定領域の看護技術開発について新たな方向性や方法を提案できる。 			
履修上の注意(学生へのメッセージ)			
本科目の履修までに、自己の臨床あるいは教育の経験のなかから看護技術における「こだわり」を整理し、考えをまとめて臨んで下さい。			
教科書			
教科書は使用せず、文献を用いる。			
参考書			
単行本や文献・資料を適宜提供する。			
研究室/オフィスアワー			
村上 生美/適宜対応する 吉村 弥須子/適宜対応する			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	看護技術観の明確化①	技術の概念についてまとめる。	村上・吉村
2	看護技術観の明確化②	同上	村上・吉村
3	看護技術の分類①	看護実践の領域における技術の特徴を考察しておく。	村上・吉村
4	看護技術の分類②	同上	村上・吉村
5	看護技術の分類③	同上	村上・吉村
6	患者のニーズに対応する看護技術の評価①	関心のある技術を焦点化する。	村上・吉村
7	患者のニーズに対応する看護技術の評価②	同上	村上・吉村
8	患者のニーズに対応する看護技術の評価③	同上	村上・吉村
9	患者のニーズに対応する看護技術の評価④	同上	村上・吉村
10	患者のニーズに対応する看護技術の評価⑤	同上	村上・吉村
11	患者のニーズに対応する看護技術の評価⑥	同上	村上・吉村
12	新たな視点を取り入れた技術の提案①	検証の方法を考察する。	村上・吉村
13	新たな視点を取り入れた技術の提案②	同上	村上・吉村
14	新たな視点を取り入れた技術の提案③	同上	村上・吉村

15	新たな視点を取り入れた技術の提案④	同上	村上・吉村
成績評価方法と基準			割合
看護技術の現状認識、看護実践の現状分析、根拠のある提案、プレゼンテーションシヨウカ。			100%

授業科目名	後期専門演習(医療科学専攻:横井・山下)		
主担当教員	横井 賀津志	担当教員	横井 賀津志、山下 仁
科目ナンバリング	SR003	科目区分	ディプロマポリシー 該当項目
配当年次	1	開講学期	後期
授業形態	演習	単位数	2
授業概要	<p>後期専門演習は、後期特別研究の指導教員の下で、前半は自身の行う研究で用いている研究手法について論文や資料を読んで教員と議論しながら具体的な技術を模索し、後半は、鍼灸治療を行っている病院、診療所、または鍼灸院において臨床現場において最も近い臨床現場に向き、参与観察を行いながら医療における具体的な課題を抽出し、それを解決あるいは改良できるような研究を構想する作業に取り組みます。</p> <p>前半は特別研究で用いている研究手法について論文や資料を読んで教員と議論しながら具体的な技術を模索し、後半は、鍼灸治療を行っている病院、診療所、または鍼灸院において臨床現場において最も近い臨床現場に向き、参与観察を行いながら医療における具体的な課題を抽出し、それを解決あるいは改良できるような研究を構想する作業に取り組みます。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自身の行う特別研究で用いている研究手法の具体的な技術を熟知しており、実行することができる。 2. 自身の研究領域に関連する医療上の課題が分析でき、それを論理的に説明することができる。 3. 自身の研究領域に関連する医療上の課題の解決、改善のための方策をいくつか考案でき、その検証作業計画を立案できる。 <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>前半は論文、資料の通読と討論を、後半は臨床現場での観察・記録・分析作業を行う。 鍼灸安全性に関する論文を事前に検索、入手して目を通し、授業後には授業で得たポイント、アイデア、問題点、および分析を文章化して記録すること。</p> <p>教科書</p> <p>論文、記事、関連資料を適宜配布する。</p> <p>参考書</p> <p>日本医学教育学会/医療の質・安全学会合同ワーキンググループ監修「医療安全学」(巻原出版新社、初版、2010年) 日本救急医学会・中島和江監訳「有害事象の報告・学習システムのためのWHOドラフトガイドライン」(へるす出版、初版、2011年) The British Medical Acupuncture Society「Code of Practice & Complaints Procedure」(Version 9, 2009年) 研究室/オフィスアワー</p>		
山下 仁: East Port (東横) 24 研究室: 月・火 6 限			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	医療安全の文化: 医療安全の文化に関する最新英語文献の講読と討論	都度、指示する	
2	ヒューマンエラー: ヒューマンエラーに関する最新英語文献の講読と討論		
3	概念・実践モデル: 医療事故防止策の概念または実践モデルに関する最新英語文献の講読と討論		
4	インシデント報告: インシデント報告に関する最新英語文献の講読と討論		
5	鍼灸の有害事象総論: 鍼灸の有害事象に関する最新英語文献の講読と討論		
6	鍼灸の有害事象各論(1): 鍼灸の有害事象のケースレポートおよび前向き調査に関する最新英語文献の講読と討論(1)		
7	鍼灸の有害事象各論(2): 鍼灸の有害事象のケースレポートおよび前向き調査に関する最新英語文献の講読と討論(2)		

8	き調査に関する最新英語文献の講読と討論(2)		
8	臨床現場観察(1): 鍼灸臨床施設の参与観察、事象記録、環境分析(1)		
9	臨床現場観察(2): 鍼灸臨床施設の参与観察、事象記録、環境分析(2)		
10	臨床現場観察(3): 鍼灸臨床施設の参与観察、事象記録、環境分析(3)		
11	臨床現場観察(4): 鍼灸臨床施設の参与観察、事象記録、環境分析(4)		
12	臨床現場観察(5): 鍼灸臨床施設の参与観察、問題点の分類と分析(1)		
13	臨床現場観察(6): 鍼灸臨床施設の参与観察、問題点の分類と分析(2)		
14	臨床現場観察(7): 鍼灸臨床施設の参与観察、問題点の分類と分析(3)		
15	総括と方策立案: 前半に際した先行研究の内容を参考にして鍼灸臨床現場の医療安全性向上の方策とその検証方法を立案		
成績評価方法と基準			
①レポート			
②討論時の発言内容で評価する。			
割合			
①70%			
②30%			

授業科目名		後期専門演習(医療科学専攻:川畑)																																									
主担当教員	川畑 浩久	担当教員	川畑 浩久																																								
科目ナンバリング	SR003	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目																																								
配当年次	1	開講学期	後期																																								
授業形態	演習	単位数	2																																								
到達目標	<p>前半は特別研究で用いようとしている研究方法について、論文や資料を読んで教員と討論しながら具体的な技術を継承し体得させる。後半は、運動器疾患の治療を行っている医療機関や接骨院などの臨床現場を観察させ、疾患の病態および現在行われている施術の正当性や問題点などを、組織学ならびに分子生物学的な観点から抽出し、詳細な病態把握と施術法の有効性や安全性について基礎医学的な観点から検証する。</p>																																										
履修上の注意(学生へのメッセージ)	<p>前半は組織学および分子生物学の基礎を学び、組織学を利用した種々の実験手法の理論を理解し、実際に実験手法を修得する。後半は医療機関や接骨院での疾患病態やその施術の実際を観察・記録し、正当性や問題点を抽出・分析する。 授業で授業に実験結果を分析できるようにするために、各実験手法の理論ならびに分析法に關しては事前に予習しておくこと。また現場観察に向けて、骨・関節ならびに筋疾患の病態や施術法についての知識を事前に予習しておくこと。</p>																																										
教科書	<p>1. 標準整形外科第12版. 松野丈夫、中村利孝 総編纂者/馬場久敏ほか編纂. 医学書院. 2014年. 2. Kawahata H, et al. Continuous infusion of angiotensin II modulates hypertrophic differentiation and apoptosis of chondrocytes in cartilage formation in a fracture model mouse. Hypertens Res. 38: 382-3</p>																																										
参考文献	<p>1. 骨関節疾患. 宮坂哲之、野田政樹、西岡久壽樹編纂. 朝倉書店. 2012年. 2. Orthopaedic Pathology. 5th ed. P. G. Bullough, MOSSBY UK (南江堂). 2010年. 3. Bone and Cartilage 2ed: Developmental and Evolutionary Skeletal Biology. Academic Press, INC (南江堂). 2015年. 4. Robbins Basic Pathology. 9th ed., with Online Access. V. Kumar, A. K. Abbas, J. C. Aster, SAUNDERS (南江堂). 2013年.</p>																																										
研究室/オフィスアワー	C棟研究室707: 木、金曜日 17:00~18:00 ですが、部屋にいわれなくても訪問可です。																																										
授業展開及び授業計画表	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>学修内容</th> <th>予習・復習・課題等</th> <th>担当</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>動物実験に関する倫理教育</td> <td>動物実験を行うにあたり、関連法律について予習しておくこと。</td> <td>川畑</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>組織学、分子生物学の基礎</td> <td>組織学、分子生物学の概念ならびに実験方法について予習しておくこと。</td> <td>川畑</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>組織学的実験手法の理解と実践(1)</td> <td>組織採取法と組織切片(パラフィン切片および凍結切片)の作製手法について予習しておくこと。</td> <td>川畑</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>組織学的実験手法の理解と実践(2)</td> <td>各種染色(H&E染色、細胞外基質の各染色法)の理論と実験手法について予習しておくこと。</td> <td>川畑</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>組織学的実験手法の理解と実践(3)</td> <td>免疫組織化学的染色、in situ hybridizationの理論と実験手法について予習しておくこと。</td> <td>川畑</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>組織学的実験による病態解析(1)</td> <td>組織学的実験による骨疾患(骨粗鬆症、骨折修復)、病態解析について予習しておくこと。</td> <td>川畑</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>組織学的実験による病態解析(2)</td> <td>組織学的実験による関節・筋疾患(関節拘縮、筋萎縮)病態解析について予習しておくこと。</td> <td>川畑</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>臨床現場観察(1)</td> <td>臨床施設の参与観察、事象記録をもとに、病態把握と施術法の有効性や安全性について課題を抽出し、検討すること。</td> <td>川畑</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>臨床現場観察(2)</td> <td>臨床施設の参与観察、事象記録をもとに、病態把握と施術法の有効性や安全性について課題を抽出し、検討すること。</td> <td>川畑</td> </tr> </tbody> </table>			回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当	1	動物実験に関する倫理教育	動物実験を行うにあたり、関連法律について予習しておくこと。	川畑	2	組織学、分子生物学の基礎	組織学、分子生物学の概念ならびに実験方法について予習しておくこと。	川畑	3	組織学的実験手法の理解と実践(1)	組織採取法と組織切片(パラフィン切片および凍結切片)の作製手法について予習しておくこと。	川畑	4	組織学的実験手法の理解と実践(2)	各種染色(H&E染色、細胞外基質の各染色法)の理論と実験手法について予習しておくこと。	川畑	5	組織学的実験手法の理解と実践(3)	免疫組織化学的染色、in situ hybridizationの理論と実験手法について予習しておくこと。	川畑	6	組織学的実験による病態解析(1)	組織学的実験による骨疾患(骨粗鬆症、骨折修復)、病態解析について予習しておくこと。	川畑	7	組織学的実験による病態解析(2)	組織学的実験による関節・筋疾患(関節拘縮、筋萎縮)病態解析について予習しておくこと。	川畑	8	臨床現場観察(1)	臨床施設の参与観察、事象記録をもとに、病態把握と施術法の有効性や安全性について課題を抽出し、検討すること。	川畑	9	臨床現場観察(2)	臨床施設の参与観察、事象記録をもとに、病態把握と施術法の有効性や安全性について課題を抽出し、検討すること。	川畑
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当																																								
1	動物実験に関する倫理教育	動物実験を行うにあたり、関連法律について予習しておくこと。	川畑																																								
2	組織学、分子生物学の基礎	組織学、分子生物学の概念ならびに実験方法について予習しておくこと。	川畑																																								
3	組織学的実験手法の理解と実践(1)	組織採取法と組織切片(パラフィン切片および凍結切片)の作製手法について予習しておくこと。	川畑																																								
4	組織学的実験手法の理解と実践(2)	各種染色(H&E染色、細胞外基質の各染色法)の理論と実験手法について予習しておくこと。	川畑																																								
5	組織学的実験手法の理解と実践(3)	免疫組織化学的染色、in situ hybridizationの理論と実験手法について予習しておくこと。	川畑																																								
6	組織学的実験による病態解析(1)	組織学的実験による骨疾患(骨粗鬆症、骨折修復)、病態解析について予習しておくこと。	川畑																																								
7	組織学的実験による病態解析(2)	組織学的実験による関節・筋疾患(関節拘縮、筋萎縮)病態解析について予習しておくこと。	川畑																																								
8	臨床現場観察(1)	臨床施設の参与観察、事象記録をもとに、病態把握と施術法の有効性や安全性について課題を抽出し、検討すること。	川畑																																								
9	臨床現場観察(2)	臨床施設の参与観察、事象記録をもとに、病態把握と施術法の有効性や安全性について課題を抽出し、検討すること。	川畑																																								

10	臨床現場観察(3)	臨床施設の参与観察、事象記録をもとに、病態把握と施術法の有効性や安全性について課題を抽出し、検討すること。	川畑
11	臨床現場観察(4)	臨床施設の参与観察、事象記録をもとに、病態把握と施術法の有効性や安全性について課題を抽出し、検討すること。	川畑
12	臨床現場観察(5)	臨床施設の参与観察、事象記録をもとに、病態把握と施術法の有効性や安全性について課題を抽出し、検討すること。	川畑
13	臨床現場観察(6)	臨床施設の参与観察、事象記録をもとに、病態把握と施術法の有効性や安全性について課題を抽出し、検討すること。	川畑
14	臨床現場観察(7)	臨床施設の参与観察、事象記録をもとに、病態把握と施術法の有効性や安全性について課題を抽出し、検討すること。	川畑
15	総括と方策立案	前半で学んだ組織学のおよび分子生物学的な知識を応用して、臨床現場で観察した疾患の病態ならびに施術に対する有効性、安全性について分析し、研究の方策を立案、構想する。	川畑
成績評価方法と基準			
1. レポート提出(提出については適量指示いたします。)			
2. 討論時の発言内容			
3. 4/5以上の出席が必要			
割合			
1. 70%			
2. 30%			

授業科目名		後期専門演習(医療科学専攻:中原)	
主担当教員	中原 英博	担当教員	中原 英博
科目ナンバリング	SR003	専門科目	ディプロマポリシー該当項目
配当年次	1	開講学期	後期
授業形態	演習	単位数	2
授業概要	<p>後期専門演習は、後期特別研究の指導教員の下で、前半は自身の行う研究で用いている研究手法について論文や資料を読んで教員と議論しながら具体的な技術を構築し体得させる。後半は、各学生の研究領域および医療資格に最も近い臨床現場に向き、参与観察を行いながら医療における具体的な課題を抽出し、それを解決あるいは改良できるような研究を構想する作業に取り組みさせる。</p> <p>前半は特別研究で用いようとしている適応生理学の研究手法について論文や資料を読んで教員と討論しながら具体的な技術を構築し体得させる。</p> <p>後半は、外部の臨床施設を観察させ、医療における適応生理学的研究の位置づけや展開について考察させる。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自身の行う特別研究で用いる研究手法の具体的な技術を熟知しており、実行することができる。 2. 自身の研究領域に関連する医療上の課題が分析でき、それを論理的に説明することができる。 3. 自身の研究領域に関連する医療上の課題の解決、改善のための方策をいくつかが考案でき、その検証作業計画を立てることができる。 		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	前半は論文・資料の通読と討論を、後半は臨床現場での観察・記録・分析作業を行う。		
教科書	Karlman Wasserman 「Principles of Exercise Testing and Interpretation: Including Pathophysiology and Clinical Applications」(Wolters Kluwer, 5 th Edition) William D. McArdle 「Exercise Physiology: Nutrition, Energy, and Human Performance J (Wolters Kluwer, 8 th Edition)」		
参考書	John E. Hall 「Guyton and Hall Textbook of Medical Physiology」(W.B. SAUNDERS COMPANY, 13th Edition, 2015 年) 松井 豊 「心理測定尺度集Ⅲ」(サイエンス社, 2011 年)		
研究室/オフィスアワー	東棟4階研究室 水曜日 17:00~18:00		
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	適応生理学 (1) : 生体の短期的適応に関する最新英語文献の講読と討論	シラバスを確認しておくこと。	
2	適応生理学 (2) : 生体の長期的適応に関する最新英語文献の講読と討論	関連する文献を読んでおくこと。	
3	心理的指標の測定と評価 : 研究テーマに必要な心理的指標に関する方法論の解説とそれに関連する英語文献の講読と討論	関連する文献を読んでおくこと。	
4	生理的指標の測定と評価 (1) : 研究テーマに必要な呼吸機能評価に関する方法論の解説とそれに関連する英語文献の講読と討論	関連する文献を読んでおくこと。	
5	生理的指標の測定と評価 (2) : 研究テーマに必要な循環系の形態及び機能評価に関する方法論の解説とそれに関連する英語文献の講読と討論	関連する文献を読んでおくこと。	
6	測定データの分析評価 (1) : 研究テーマに必要な測定データの分析法の解説とそれに関する最新英語文献の講読と討論 (1)	関連する文献を読んでおくこと。	

7	測定データの分析評価 (2) : 研究テーマに必要な測定データの分析法の解説とそれに関する最新英語文献の講読と討論 (2)	関連する文献を読んでおくこと。	
8	臨床現場観察 (1) : 事象記録、病態分析 (1)	関連する文献を読んでおくこと。	
9	臨床現場観察 (2) : 事象記録、病態分析 (2)	関連する文献を読んでおくこと。	
10	臨床現場観察 (3) : 事象記録、病態分析 (3)	関連する文献を読んでおくこと。	
11	臨床現場観察 (4) : 事象記録、患者と治療法の適応生理学的分析 (1)	関連する文献を読んでおくこと。	
12	臨床現場観察 (5) : 事象記録、患者と治療法の適応生理学的分析 (2)	関連する文献を読んでおくこと。	
13	臨床現場観察 (6) : 事象記録、患者と治療法の適応生理学的分析 (3)	関連する文献を読んでおくこと。	
14	臨床現場観察 (7) : 事象記録、患者と治療法の適応生理学的分析 (4)	関連する文献を読んでおくこと。	
15	総括 : 前半に読んだ先行研究の内容および修得した研究手法を踏まえて、臨床応用可能な生理・心理データの解釈や利用法を考案	関連する文献を読んでおくこと。	
成績評価方法と基準			
①レポート			
②討論時の発言内容で評価する。			
			割合
			①70%
			②30%

授業科目名		後期専門演習(医療科学専攻・中西)	
主担当教員	中西 宏元	担当教員	中西 宏元
科目ナンバリング	SR003	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目
配当年次	1	開講学期	後期
授業形態	演習	単位数	2
授業概要	<p>後期専門演習は、後期特別研究の指導教員の下で、前半は自身の行う研究で用いようとしている研究方法について論文や資料を讀んで教員と議論しながら、具体的な技術を機軸として得させる。後半は、各学生の研究領域および医療資格に最も近い臨床現場に向き、参与観察を行いながら医療における具体的な課題を抽出し、それを解決あるいは改良できるような研究を構想する作業に取り組ませる。</p> <p>前半は特別研究で用いようとしている研究方法について論文や資料を讀んで教員と議論しながら具体的な技術を機軸として得させる。後半は、鍼灸治療を行っている臨床施設における具体的な課題を抽出し、それを論理的に説明することができる。考えられる問題点を抽出させる。医療現場に關連する医療上の課題の解決・改善のための方策をいくつか考案でき、その検証作業計画を立案できる。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自身の行う特別研究で用いる研究方法の具体的な技術を熟知しており、実行することができる。 2. 自身の研究領域に關連する医療上の課題が分析でき、それを論理的に説明することができる。 3. 自身の研究領域に關連する医療上の課題の解決・改善のための方策をいくつか考案でき、その検証作業計画を立案できる。 <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>前半は論文・資料の通読と討論を、後半は臨床現場での観察・記録・分析作業を行う。鍼灸安全性に關する論文を事前に検索・入手して目を通し、授業後には授業で得たポイント、アイデア、問題点、および分析を文章化して記録すること。</p> <p>教科書</p> <p>論文、記事、関連資料を適宜配布する。</p> <p>参考書</p> <p>矢野 忠編著「図解鍼灸療法技術ガイドI」(文光堂、初版、2012年) 矢野 忠編著「図解鍼灸療法技術ガイドII」(文光堂、初版、2012年) 日中共同編纂「鍼灸学基礎編」(東洋学術出版社、初版、1991年)</p> <p>研究室/オフィスアワー</p> <p>東棟4階研究室9、昼休み同時相談</p>		
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	中医学の生理観・鍼灸治療の基礎理念である中医学について文献購読と討論	都度指示する	
2	中医学の病因病機・病因病機に關する文献の購読と討論		
3	内科疾患と鍼灸・内科疾患の鍼灸治療に關する文献の購読と討論		
4	アレルギー疾患と鍼灸・アレルギー疾患の鍼灸治療に關する文献の購読と討論		
5	感覚器疾患と鍼灸・感覚器疾患の鍼灸治療に關する文献の購読と討論		
6	外科疾患と鍼灸・外科疾患の鍼灸治療に關する文献の購読と討論		
7	鍼灸治療の症例報告・鍼灸治療の症例報告に關する文献の購読と討論		
8	臨床現場観察(1)・鍼灸臨床施設の参与観察、記録、分析		

9	臨床現場観察(2) : 鍼灸臨床施設の参与観察、記録、分析(2)		
10	臨床現場観察(3) : 鍼灸臨床施設の参与観察、記録、分析(3)		
11	臨床現場観察(4) : 鍼灸臨床施設の参与観察、記録、分析(4)		
12	臨床現場観察(5) : 鍼灸臨床施設の参与観察、治療計画の分析(1)		
13	臨床現場観察(6) : 鍼灸臨床施設の参与観察、治療計画の分析(2)		
14	臨床現場観察(7) : 鍼灸臨床施設の参与観察、治療計画の分析(3)		
15	総括と方策立案 : 前半に讀んだ先行研究の内容を参考に鍼灸臨床現場の治療計画と治療技術の向上、症例報告の方法を立案		
成績評価方法と基準			
①レポート			割合
②討論時の発言内容で評価する。			①70%
③2/3以上の出席			②30%

授業科目名		後期専門演習(医療科学専攻:宮本)	
主担当教員	宮本 忠吉	担当教員	宮本 忠吉
科目ナンバリング	SR003	専門科目	テプロマボジナー 該当項目
配当年次	1	開講学期	後期
授業形態	演習	単位数	2
授業概要	<p>後期専門演習は、後期特別研究の指導教員の下で、前半は自身の行う研究で用いている研究方法について論文や資料を読んで教員と議論しながら具体的な技術を職業として習得させる。後半は、各学生の研究領域および医療資格に最も近い臨床現場に向き、参与観察を行いながら医療における具体的な課題を抽出し、それを解決あるいは改良できるような研究を構想する作業に取り組みさせる。</p> <p>前半は特別研究で用いているシステム生理解析の理論について、論文や資料を読んで教員と討論しながら、具体的な技術であるコンピュータプログラミングやシミュレーションを用いて構築し、本実験を実施する前段階にて、コンピュータを用いた仮説に基づく思考実験を繰り返して実施することの重要性について体得させる。</p> <p>後半は、本学と連携している病院または診療所において呼吸・循環系の疾患をもつ患者や治療の現状を観察・記録させ、特別研究で行おうとしているシステム生理解析のテーマとの関連性や研究展開法について考察させる。</p>		
到達目標	<p>1. 自身の行う特別研究で用いている研究方法の具体的な技術を熟知しており、実行することができる。</p> <p>2. 自身の研究領域に関連する医療上の課題が分析でき、それを論理的に説明することができる。</p> <p>3. 自身の研究領域に関連する医療上の課題の解決・改善のための方策をいくつかが考えでき、その検証作業計画を立案できるとともに、問題点、および分析を文章化して記録すること。</p>		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	前半はシステム生理解析の研究手法を理解した上で、同手法を用いた研究論文及びデータ処理の方法、生理学的データの解釈の仕方について学び、後半は、呼吸・循環系の疾患をもつ患者や治療の現状について知る。		
教科書	システム生理解析の手法を用いた研究論文、データ資料を事前に検索・入手して目を通し、授業後には授業で得たポイント、アイデア、問題点、および分析を文章化して記録すること。		
論文、記事、関連資料を適宜配布する。	研究室内/オフイスアワー		
参考書	原則月曜日3 時限目・4 時限目		
特に指定しない。	その他、部屋にあればいつでも訪問可です。質問等はいつでもご自由どうぞ。		
研究室/オフィスアワー	授業展開及び授業計画表		
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	システム生理解析の研究方法について：生命をシステムとしての理解することの意義	学と提議している病院または診療所において呼吸・循環系の疾患をもつ患者や治療の現状を事前把握しておく。	
2	システムモデリング(1)：呼吸・循環系制御対象のシステム的理解とシミュレーション		
3	システムモデリング(2)：呼吸・循環系制御対象のシステム的理解とシミュレーション		
4	システム解析の理論的背景(1)：時間軸及び周波数軸からみた制御システムにおける静・動的応答特性の定量的評価法の理解		
5	システム解析の理論的背景(2)：制御対象システムにおける静・動的応答特性の定量的評価法の理解		
6	システム解析の遷移(1)：時間軸及び周波数軸からみた制御対象システムにおける静・動的応答特性の定量化		
7	システム解析の遷移(2)：呼吸・循環系制御システムの統合的理解と動的制御機能の定量化		

8	臨床現場観察(1)：臨床施設の参与観察、事象記録、病態分析(1)		
9	臨床現場観察(2)：臨床施設の参与観察、事象記録、病態分析(2)		
10	臨床現場観察(3)：臨床施設の参与観察、事象記録、病態分析(3)		
11	臨床現場観察(4)：臨床施設の参与観察、事象記録、病態分析(4)		
12	臨床現場観察(5)：臨床施設の参与観察、事象記録、病態評価、治療法のシステム生理解析的考察(1)		
13	臨床現場観察(6)：臨床施設の参与観察、事象記録、病態評価、治療法のシステム生理解析的考察(2)		
14	臨床現場観察(7)：臨床施設の参与観察、事象記録、病態評価、治療法のシステム生理解析的考察(3)		
15	総括：前半のシステム生理解析的研究アプローチの手法と後半の医療の現状や臨床的病態の知見を統合して、臨床研究および基礎(動物実験)研究での検証法を立案		
成績評価方法と基準			割合
①レポート			①70%
②討論時の発言内容で評価する。			②30%

後期専門演習(医療科学専攻・森谷)		担当教員		森谷 正之	
主担当教員		森谷 正之		テラプロモポリシー 該当項目	
科目ナンバリング		SR003		科目区分 後期	
配当年次		1		曜日・時間 月曜 1限	
授業形態		演習		単位数 2	
授業概要		演習		必修・選択 必修	
<p>後期専門演習は、後期特別研究指導教員の下で、前半は自身の行う研究で用いている研究手法について論文や資料を講義しながら、具体的な技術を構築し体得させる。後半は、各学生の研究領域および医療資格にも近い臨床現場に向き、参与観察を行いながら医療における具体的な課題を抽出し、それを解決あるいは改良できるような研究を構成する作業に取り結ませる。</p> <p>前半は特別研究で検討しようとしている研究テーマについて、先行論文や資料を読んで教員と討論しながら具体的な手法と目標を設定させ、動物実験において口腔顔面領域の疾患をもつ患者や治療の現状を観察・記録させ、その検証作業計画を立案する。後半は、臨床施設において口腔顔面領域の疾患をもつ患者や治療の現状を観察・記録させ、その検証作業計画を立案する。</p> <p>テーマとの関連性や研究展開法について考察させる。</p>					
到達目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 自身の行う特別研究で用いる研究手法の具体的な技術を熟知しており、実行することができる。 2. 自身の研究領域に関連する医療上の課題が分析でき、それを論理的に説明することができる。 3. 自身の研究領域に関連する医療上の課題の解決・改善のための方法をいくつかが考案でき、その検証作業計画を立案できる。 					
履修上の注意(学生へのメッセージ)					
論文、資料の講読と討論を中心に学習する。自身の特別研究に関する論文を事前に検索・入手して目を通し、授業後には授業で得たポイント、アイデア、問題点、および分析を文章化して記録すること。					
教科書					
論文、記事、関連資料を適宜配布する。					
参考書					
必要が生じた場合は適宜紹介する。					
研究室/オフィスアワー					
E棟4階(研究室11) 月曜日午後5時～午後7時、各日昼休みの時間帯は原則研究室に在室していません。					
授業展開及び修業計画表					
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当		
1	咀嚼運動制御に関わる神経機構： 咀嚼運動制御に関わる先行論文、資料の講読と内容の検討	咀嚼運動制御に関わる論文を収集し、予め内容を十分に理解しておく	森谷		
2	嚥下運動制御に関わる神経機構： 嚥下運動制御に関わる先行論文、資料の講読と内容の検討	咀嚼運動制御に関わる論文を収集し、その内容を説明できるように準備しておく	森谷		
3	呼吸運動制御に関わる神経機構： 呼吸運動制御に関わる先行論文、資料の講読と内容の検討	咀嚼運動制御に関わる論文を収集し、その内容を説明できるように準備しておく	森谷		
4	電気生理の基礎知識： 電気生理学的手法による記録のとりに方について学習する	電気生理学の基本について学習しておく	森谷		
5	神経解剖学の基礎知識： 神経解剖学的手法による記録のとりに方について学習する	神経解剖学的手法について事前に調べておく	森谷		
6	神経トレーサーの基礎知識： 神経トレーサーの種類と特性について学習する	神経トレーサーの種類と特性について事前に調べておく	森谷		
7	口腔顔面領域の神経解剖学： 口腔顔面領域の神経解剖学に関連する論文の講読、知見の整理、問題点の抽出	配布した論文を予め読んでおく	森谷		
8	臨床現場観察(1)： 臨床施設の参与観察、病態分析、課題抽出	臨床現場における口腔顔面領域の問題点を論理的に整理しておく	森谷		
9	臨床現場観察(2)： 臨床施設の参与観察、病態分析、課題抽出	臨床現場における口腔顔面領域の問題点を論理的に整理しておく	森谷		

10	臨床現場観察(3)： 臨床施設の参与観察、病態分析、課題抽出(3)	臨床現場における口腔顔面領域の問題点を論理的に整理して下さい。	森谷
11	臨床現場観察(4)： 臨床施設の参与観察、病態分析、課題抽出(4)	臨床現場における口腔顔面領域の問題点を論理的に整理して下さい。	森谷
12	臨床現場観察(5)： 臨床施設の参与観察、病態と治療法の神経解剖学的考察(1)	臨床現場における口腔顔面領域の問題点について、神経解剖学的観点からその成因や治療法等について検討して下さい。	森谷
13	臨床現場観察(6)： 臨床施設の参与観察、病態と治療法の神経解剖学的考察(2)	臨床現場における口腔顔面領域の問題点について、神経解剖学的観点からその成因や治療法等について検討して下さい。	森谷
14	臨床現場観察(7)： 臨床施設の参与観察、病態と治療法の神経解剖学的考察(3)	臨床現場における口腔顔面領域の問題点について、神経解剖学的観点からその成因や治療法等について検討して下さい。	森谷
15	総括と方策立案： 前半に習得した知識・技術と後半の臨床現場の知見を統合して、臨床神経解剖学的な立場からみた研究方法の可能性と具体的な検証法を立案	これまでに習得した知識・技術、臨床現場の知見を統合して、臨床神経解剖学的な立場からみた研究方法の可能性と具体的な検証法を立案して下さい。	森谷
成績評価方法と基準			
①レポート			
②討論時の発言内容での評価			
割合			
①70%			
②30%			

授業科目名	後期専門演習(医療科学専攻:青木)																																											
主担当教員	青木 元邦	担当教員	青木 元邦																																									
科目ナンバリング	SR003	専門科目	テロモポリン 該当項目																																									
配当年次	1	開講学期	後期	月曜1限																																								
授業形態	演習	単位数	2	必修																																								
授業概要																																												
<p>後期専門演習は、後期特別研究の指導教員の下で、前半は自身の行う研究で用いようとしている研究方法について論文や資料を読んで教員と議論しながら具体的な技術を継承し体得させる。後半は、各学生の研究領域および医療資格に最も近い臨床現場に向き、参与観察を行いながら医療における具体的な課題を抽出し、それを解決あるいは改良できるような研究を構想する作業に取り組みます。</p> <p>前半は特別研究で用いようとしている実験手法について理論と手法を体得させる。 後半は、臨床現場における疾患治療等の観察・分析から既存治療の問題点を抽出し、分子生物学的アプローチで新規治療概念構築の可能性を検証する。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自身の行う特別研究で用いる研究方法の具体的な技術を熟知しており、実行することができる。 2. 自身の研究領域に関連する医療上の課題が分析でき、それを論理的に説明することができる。 3. 自身の研究領域に関連する医療上の課題の解決・改善のための方策をいくつか考案でき、その検証作業計画を立案できる。 <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>前半は分子生物学の基礎を学び、分子生物学を利用した種々の実験手法の理論を理解する。実際に手技を行い、手法を獲得する。後半は医療機関(病院)で疾患・治療の実態を観察・記録し、治療上の問題点を分析する。授業で確実に実験手法獲得できるようにするため、実験手法の理論に関して事前に予習しておくこと。また、現場観察に向けて、高血圧、骨・軟骨疾患についての知識を事前に予習しておくこと。</p>																																												
<p>教科書</p> <p>論文、記事、関連資料を適宜配布する。</p> <p>参考書</p> <p>Bruce Alberts 「Essential Cell Biology」(Garland Science, 4th Edition)</p> <p>研究室/オフィスマニュアル</p> <p>随時</p>																																												
<p>授業展開及び授業計画表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>学修内容</th> <th>予習・復習・課題等</th> <th>担当</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>分子生物学の基礎： 分子生物学の概念を理解する。</td> <td>入手資料を読んで質問事項をまとめておく</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>動物実験に関する倫理教育： 動物実験を行うにあたり、関連法律の理解し、必要な倫理教育を受ける。</td> <td>入手資料を読んで質問事項をまとめておく</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>分子生物学の実験手法の理解と実践(1)： 免疫組織染色法の理論理解と手技の獲得</td> <td>入手資料を読んで質問事項をまとめておく</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>分子生物学の実験手法の理解と実践(2)： 免疫組織染色法の理論理解と手技の獲得</td> <td>入手資料を読んで質問事項をまとめておく</td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>分子生物学の実験手法の理解と実践(3)： mRNA抽出法の理論理解と手技の獲得</td> <td>入手資料を読んで質問事項をまとめておく</td> <td></td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>分子生物学の実験手法の理解と実践(4)： PCR (polymerase chain reaction) (ポリメラーゼ連鎖反応)の理論理解</td> <td>入手資料を読んで質問事項をまとめておく</td> <td></td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>分子生物学の実験手法の理解と実践(5)： PCRの手技の獲得</td> <td>入手資料を読んで質問事項をまとめておく</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>臨床現場観察(1)： 医療機関(病院)の参与観察</td> <td>入手資料を読んで質問事項をまとめておく</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>臨床現場観察(2)： 医療機関(病院)の参与観察</td> <td>入手資料を読んで質問事項をまとめておく</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当	1	分子生物学の基礎： 分子生物学の概念を理解する。	入手資料を読んで質問事項をまとめておく		2	動物実験に関する倫理教育： 動物実験を行うにあたり、関連法律の理解し、必要な倫理教育を受ける。	入手資料を読んで質問事項をまとめておく		3	分子生物学の実験手法の理解と実践(1)： 免疫組織染色法の理論理解と手技の獲得	入手資料を読んで質問事項をまとめておく		4	分子生物学の実験手法の理解と実践(2)： 免疫組織染色法の理論理解と手技の獲得	入手資料を読んで質問事項をまとめておく		5	分子生物学の実験手法の理解と実践(3)： mRNA抽出法の理論理解と手技の獲得	入手資料を読んで質問事項をまとめておく		6	分子生物学の実験手法の理解と実践(4)： PCR (polymerase chain reaction) (ポリメラーゼ連鎖反応)の理論理解	入手資料を読んで質問事項をまとめておく		7	分子生物学の実験手法の理解と実践(5)： PCRの手技の獲得	入手資料を読んで質問事項をまとめておく		8	臨床現場観察(1)： 医療機関(病院)の参与観察	入手資料を読んで質問事項をまとめておく		9	臨床現場観察(2)： 医療機関(病院)の参与観察	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当																																									
1	分子生物学の基礎： 分子生物学の概念を理解する。	入手資料を読んで質問事項をまとめておく																																										
2	動物実験に関する倫理教育： 動物実験を行うにあたり、関連法律の理解し、必要な倫理教育を受ける。	入手資料を読んで質問事項をまとめておく																																										
3	分子生物学の実験手法の理解と実践(1)： 免疫組織染色法の理論理解と手技の獲得	入手資料を読んで質問事項をまとめておく																																										
4	分子生物学の実験手法の理解と実践(2)： 免疫組織染色法の理論理解と手技の獲得	入手資料を読んで質問事項をまとめておく																																										
5	分子生物学の実験手法の理解と実践(3)： mRNA抽出法の理論理解と手技の獲得	入手資料を読んで質問事項をまとめておく																																										
6	分子生物学の実験手法の理解と実践(4)： PCR (polymerase chain reaction) (ポリメラーゼ連鎖反応)の理論理解	入手資料を読んで質問事項をまとめておく																																										
7	分子生物学の実験手法の理解と実践(5)： PCRの手技の獲得	入手資料を読んで質問事項をまとめておく																																										
8	臨床現場観察(1)： 医療機関(病院)の参与観察	入手資料を読んで質問事項をまとめておく																																										
9	臨床現場観察(2)： 医療機関(病院)の参与観察	入手資料を読んで質問事項をまとめておく																																										

10	臨床現場観察(3)： 医療機関(病院)の参与観察、事象記録(3)	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
11	臨床現場観察(4)： 医療機関(病院)の参与観察、事象記録(4)	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
12	臨床現場観察(5)： 医療機関(病院)の参与観察、疾患治療における課題の分析(1)	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
13	臨床現場観察(6)： 医療機関(病院)の参与観察、疾患治療における課題の分析(2)	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
14	臨床現場観察(7)： 医療機関(病院)の参与観察、疾患治療における課題の分析(3)	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
15	総話と研究構想： 現場で見出した疾患治療における課題を解決しようとする治療概念を、本演習前半で学んだ分子生物学的実験手法の知識を応用して構想する。	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
成績評価方法と基準			
①レポート			
②討論時の発言内容で評価する。			
			割合
			①70%
			②30%

後期専門演習(医療科学専攻・前田)			
授業科目名	前田 薫	担当教員	前田 薫
主担当教員	SR003	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目
科目ナンバリング	1	科目区分	曜日・時限
配当年次	演習	開講学期	後期
授業形態	2	単位数	必修・選択
授業概要	<p>後期専門演習は、後期特別研究の指導教員の下で、前半は自身の行う研究で用いている研究方法について論文や資料を讀みながら、具体的な技術を模索し体得させる。後半は、各学生の研究領域および医療資格に最も近い臨床現場に向き、参与観察を行いながら医療における具体的な課題を抽出し、それを解決あるいは改良できるような研究を構想する作業に取り結ませる。</p> <p>新たな技術および評価法の開発においては、まず、既存の手法を知り、それらを実施できること（または実施経験）が重要である。この授業では、(1)姿勢制御能の計測と評価法を習得すること、(2)医療・介護現場での計測実施状況の観察を通してその計測・評価法の課題をあげられるようになることを目指す。</p>		
到達目標	<p>1. 自身の行う特別研究で用いる研究方法の具体的な技術を熟知しており、実行することができる。 2. 自身の研究領域に関連する医療上の課題が分析でき、それを論理的に説明することができる。 3. 自身の研究領域に関連する医療上の課題の解決・改善のための方策をいくつかが考案でき、その検証作業計画を立案できると。</p>		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	英語論文の講義が複数回あるが、英文の理解ではなく研究内容についての討論を行うために配布された文献の内容を事前に理解するよう努めること。		
教科書	論文等の資料を適宜配布する。		
参考文献	論文、記事、関連資料を適宜配布する。		
研究室/オフィスアワー	月曜2限、火曜、第3木曜3限以外で予約を取り来室してください。		
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	姿勢制御能の評価：姿勢制御能の評価に関する英語文献の講読と討論	事前の配布資料を讀み、不明な点を明らかにしておく。	前田
2	床反力の測定：姿勢制御能の評価に床反力計を用いた論文の講読と討論、測定の実施	事前の配布資料を讀み、不明な点を明らかにしておく。	前田
3	加速度の測定：姿勢制御能の評価に加速度計を用いた論文の講読と討論、測定の実施	事前の配布資料を讀み、不明な点を明らかにしておく。	前田
4	筋活動の測定(1)：生体アンプの使用法、および姿勢制御能の評価に筋電図を用いた論文の講読と討論	事前の配布資料を讀み、不明な点を明らかにしておく。	前田
5	筋活動の測定(2)：筋活動の測定を実施する	事前の配布資料を讀み、不明な点を明らかにしておく。	前田
6	脳活動の測定(1)：姿勢制御能の評価に脳電位を用いた論文の講読と討論	事前の配布資料を讀み、不明な点を明らかにしておく。	前田
7	脳活動の測定(2)：姿勢制御能の評価中の脳活動を測定する。	事前の配布資料を讀み、不明な点を明らかにしておく。	前田
8	動作解析：姿勢制御能の評価に動作解析を用いた論文の講読と討論、3次元動作の記録と分析の実施	事前の配布資料を讀み、不明な点を明らかにしておく。	前田

9	介護・医療現場における姿勢制御能の評価の観察：医療現場に赴き、そこで高齢者および患者に対して行われている姿勢制御能の評価を観察し、測定・評価法の課題について討論する。	姿勢制御能の評価指標について復習しておく。	前田
10	介護・医療現場における姿勢制御能の評価の観察：介護現場に赴き、そこで高齢者および患者に対して行われている姿勢制御能の評価を観察し、測定・評価法の課題について討論する。	姿勢制御能の評価指標について復習しておく。	前田
11	介護・医療現場における姿勢制御能の評価の観察：介護現場に赴き、そこで高齢者および患者に対して行われている姿勢制御能の評価を観察し、測定・評価法の課題について討論する。	姿勢制御能の評価指標について復習しておく。	前田
12	介護・医療現場における姿勢制御能の評価の観察：介護現場に赴き、そこで高齢者および患者に対して行われている姿勢制御能の評価を観察し、測定・評価法の課題について討論する。	姿勢制御能の評価指標について復習しておく。	前田
13	介護・医療現場における姿勢制御能の評価の観察：介護現場に赴き、そこで高齢者および患者に対して行われている姿勢制御能の評価を観察し、測定・評価法の課題について討論する。	姿勢制御能の評価指標について復習しておく。	前田
14	介護・医療現場における姿勢制御能の評価の観察：介護現場に赴き、そこで高齢者および患者に対して行われている姿勢制御能の評価を観察し、測定・評価法の課題について討論する。	姿勢制御能の評価指標について復習しておく。	前田
15	姿勢制御能の評価法についてのプレゼンテーション：姿勢制御能の評価法の歴史と現状について、プレゼンテーションを行い、討論する。	プレゼンテーションの準備をしておく。	前田
成績評価方法と基準			
①レポート			
②討論時の発言内容で評価する。			
割合			
①70%			
②30%			

授業科目名	後期専門演習(医療科学専攻:澤田)																																																		
主担当教員	澤田 優子	担当教員	澤田 優子																																																
科目ナンバリング	SR003	科目区分	専門科目																																																
配当年次	1	開講学期	後期																																																
授業形態	演習	単位数	2																																																
授業概要	<p>後期専門演習は、後期特別研究の指導教員の下で、前半は自身の行う研究で用いている研究方法について論文や資料を読んで教員と議論しながら具体的な技術を確実し得させる。後半は、各学生の研究領域および医療資格に最も近い臨床現場に向き、参加観察を行いながら医療における具体的な課題を抽出し、それを解決あるいは改良できるような研究を構想する作業に取り組みさせる。</p> <p>前半はコミュニケーション・エンバウメントおよび生涯発達ケアについて国内外の論文や資料を収集し、整理、分析を行う。後半は、フィールドワークを実施している自治体、病院において臨床現場を観察させ、レポート研究や観察研究、介入研究の実際および臨床的な意義について理解することを目標とする。</p>																																																		
到達目標	<p>1. 自身の行う特別研究で用いる研究方法の具体的な技術を熟知しており、実行することができる。</p> <p>2. 自身の研究領域に関連する医療上の課題が分析でき、それを論理的に説明することができる。</p> <p>3. 自身の研究領域に関連する医療上の課題の解決、改善のための方策をいくつかが考えられ、その検証作業計画を立てることができる。</p>																																																		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	本講義を通じて、テーマに関する国内外の論文、資料のレビュー、ディスカッションを経験し、自分の考えをまとめていくスキルを身に付けてください。																																																		
教科書	論文等の資料を適宜配布する。																																																		
参考書	論文、記事、関連資料を適宜配布する。																																																		
研究室/オフィスアワー	月曜日 3 限目																																																		
授業展開及び授業計画表	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>学修内容</th> <th>予習・復習・課題等</th> <th>担当</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>コミュニケーション・エンバウメント(1): コミュニティ・エンバウメントに関する文献の収集と討論(1)</td> <td>予習: 当該範囲の自己学習 復習: 当該範囲の復習と発展学習</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>コミュニケーション・エンバウメント(2): コミュニティ・エンバウメントに関する文献の収集と討論(2)</td> <td>予習: 当該範囲の自己学習 復習: 当該範囲の復習と発展学習</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>コミュニケーション・エンバウメント(3): コミュニティ・エンバウメントに関する文献の収集と討論(3)</td> <td>予習: 当該範囲の自己学習 復習: 当該範囲の復習と発展学習</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>コミュニケーション・エンバウメント(4): コミュニティ・エンバウメントに関する文献の収集と討論(4)</td> <td>予習: 当該範囲の自己学習 復習: 当該範囲の復習と発展学習</td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>生涯発達ケア(1): 生涯発達ケアに関する文献の収集と討論(1)</td> <td>予習: 当該範囲の自己学習 復習: 当該範囲の復習と発展学習</td> <td></td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>生涯発達ケア(2): 生涯発達ケアに関する文献の収集と討論(2)</td> <td>予習: 当該範囲の自己学習 復習: 当該範囲の復習と発展学習</td> <td></td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>生涯発達ケア(3): 生涯発達ケアに関する文献の収集と討論(3)</td> <td>予習: 当該範囲の自己学習 復習: 当該範囲の復習と発展学習</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>臨床現場観察(1): 自治体フィールドワークの参加観察(1)</td> <td>予習: 当該範囲の自己学習 復習: 当該範囲の復習と発展学習</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>臨床現場観察(2): 自治体フィールドワークの参加観察(2)</td> <td>予習: 当該範囲の自己学習 復習: 当該範囲の復習と発展学習</td> <td></td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>臨床現場観察(3): 自治体フィールドワークの参加観察(3)</td> <td>予習: 当該範囲の自己学習 復習: 当該範囲の復習と発展学習</td> <td></td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>臨床現場観察(4): 自治体フィールドワークの参加観察(4)</td> <td>予習: 当該範囲の自己学習 復習: 当該範囲の復習と発展学習</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当	1	コミュニケーション・エンバウメント(1): コミュニティ・エンバウメントに関する文献の収集と討論(1)	予習: 当該範囲の自己学習 復習: 当該範囲の復習と発展学習		2	コミュニケーション・エンバウメント(2): コミュニティ・エンバウメントに関する文献の収集と討論(2)	予習: 当該範囲の自己学習 復習: 当該範囲の復習と発展学習		3	コミュニケーション・エンバウメント(3): コミュニティ・エンバウメントに関する文献の収集と討論(3)	予習: 当該範囲の自己学習 復習: 当該範囲の復習と発展学習		4	コミュニケーション・エンバウメント(4): コミュニティ・エンバウメントに関する文献の収集と討論(4)	予習: 当該範囲の自己学習 復習: 当該範囲の復習と発展学習		5	生涯発達ケア(1): 生涯発達ケアに関する文献の収集と討論(1)	予習: 当該範囲の自己学習 復習: 当該範囲の復習と発展学習		6	生涯発達ケア(2): 生涯発達ケアに関する文献の収集と討論(2)	予習: 当該範囲の自己学習 復習: 当該範囲の復習と発展学習		7	生涯発達ケア(3): 生涯発達ケアに関する文献の収集と討論(3)	予習: 当該範囲の自己学習 復習: 当該範囲の復習と発展学習		8	臨床現場観察(1): 自治体フィールドワークの参加観察(1)	予習: 当該範囲の自己学習 復習: 当該範囲の復習と発展学習		9	臨床現場観察(2): 自治体フィールドワークの参加観察(2)	予習: 当該範囲の自己学習 復習: 当該範囲の復習と発展学習		10	臨床現場観察(3): 自治体フィールドワークの参加観察(3)	予習: 当該範囲の自己学習 復習: 当該範囲の復習と発展学習		11	臨床現場観察(4): 自治体フィールドワークの参加観察(4)	予習: 当該範囲の自己学習 復習: 当該範囲の復習と発展学習	
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当																																																
1	コミュニケーション・エンバウメント(1): コミュニティ・エンバウメントに関する文献の収集と討論(1)	予習: 当該範囲の自己学習 復習: 当該範囲の復習と発展学習																																																	
2	コミュニケーション・エンバウメント(2): コミュニティ・エンバウメントに関する文献の収集と討論(2)	予習: 当該範囲の自己学習 復習: 当該範囲の復習と発展学習																																																	
3	コミュニケーション・エンバウメント(3): コミュニティ・エンバウメントに関する文献の収集と討論(3)	予習: 当該範囲の自己学習 復習: 当該範囲の復習と発展学習																																																	
4	コミュニケーション・エンバウメント(4): コミュニティ・エンバウメントに関する文献の収集と討論(4)	予習: 当該範囲の自己学習 復習: 当該範囲の復習と発展学習																																																	
5	生涯発達ケア(1): 生涯発達ケアに関する文献の収集と討論(1)	予習: 当該範囲の自己学習 復習: 当該範囲の復習と発展学習																																																	
6	生涯発達ケア(2): 生涯発達ケアに関する文献の収集と討論(2)	予習: 当該範囲の自己学習 復習: 当該範囲の復習と発展学習																																																	
7	生涯発達ケア(3): 生涯発達ケアに関する文献の収集と討論(3)	予習: 当該範囲の自己学習 復習: 当該範囲の復習と発展学習																																																	
8	臨床現場観察(1): 自治体フィールドワークの参加観察(1)	予習: 当該範囲の自己学習 復習: 当該範囲の復習と発展学習																																																	
9	臨床現場観察(2): 自治体フィールドワークの参加観察(2)	予習: 当該範囲の自己学習 復習: 当該範囲の復習と発展学習																																																	
10	臨床現場観察(3): 自治体フィールドワークの参加観察(3)	予習: 当該範囲の自己学習 復習: 当該範囲の復習と発展学習																																																	
11	臨床現場観察(4): 自治体フィールドワークの参加観察(4)	予習: 当該範囲の自己学習 復習: 当該範囲の復習と発展学習																																																	

12	臨床現場観察(5): 医療施設での参加観察(1)	予習: 当該範囲の自己学習 復習: 当該範囲の復習と発展学習	
13	臨床現場観察(6): 医療施設での参加観察(2)	予習: 当該範囲の自己学習 復習: 当該範囲の復習と発展学習	
14	臨床現場観察(7): 医療施設での参加観察(3)	予習: 当該範囲の自己学習 復習: 当該範囲の復習と発展学習	
15	総括: 前半に読んだ文献の内容とそこから習得した研究方法と、後半の臨床現場観察知見を考慮し合わせて、より臨床の現状を踏まえた研究方法のあり方を考察	予習: 当該範囲の自己学習 復習: 当該範囲の復習と発展学習	
成績評価方法と基準			割合
1. レポート			1. 50%
2. 討論時の発言内容			2. 50%

授業科目名	後期専門演習(医療科学専攻・村上)		
主担当教員	村上 生美	担当教員	村上 生美
科目ナンバリング	SR003	科目区分	ディプロマポリシー 該当項目
配当年次	1	開講学期	後期
授業形態	演習	単位数	2
授業概要	後期専門演習は、後期特別研究の指導教員の下で、前半は自身の行う研究で用いようとしている研究方法について論文や資料を添削して教員と議論しながら、具体的な技術を構築し体得させる。後半は、各学生の研究領域および医療資格に最も近い臨床現場に向き、参与観察を行いながら医療における具体的な課題を抽出し、それを解決あるいは改良できるような研究を構想する作業に取り組みさせる。		
到達目標	<p>本科目は、各自が特別研究で取り組もうとしている領域のスキルを原理原則に基づいて獲得することにある。看護研究は大別すると専門研究と質的研究に分類することができるが、今日ではこれらを統合したデザインへの取組も多い、また研究目的によって対象・手段も多様であるので自身のリサーチ・ウェッションが何かを明確にしておく必要がある。そのうえでそれを可能にするスキルを体得しなければならない。</p> <p>前半は特別研究で用いる研究方法、特に看護におけるコミュニケーションまたは技術開発・検証に関する論文や資料をクリティックし、教員と討論しながら具体的な研究方法を体得させる。後半は、病状において看護の臨床現場を観察させ、現行の看護技術における問題点を抽出させる。抽出した問題点の背景、根本原因、解決策などの分析を行うことにより、改善策および検証方法を立案させる。</p>		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	<p>1. 自身の行う特別研究で用いる研究方法の具体的な技術を熟知しており、実行することができる。</p> <p>2. 自身の研究領域に関連する医療上の課題が分析でき、それを論理的に説明することができる。</p> <p>3. 自身の研究領域に関連する医療上の課題の解決・改善のための方策をいくつか考案でき、その検証作業計画を立案できる。</p>		
教科書	履修上の注意(学生へのメッセージ)		
論文、記事、関連資料を適宜配布する。	自身が取り組もうとしている研究テーマ周辺の事柄について、話題提供し討論できるような心がけてほしい。また研究のため		
参考文献	の研究にならないように、看護実践現場との関連を重視してほしい。		
単行本、論文、資料等を適宜配布する。	教科書		
研究室/オフィスアワー	論文、記事、関連資料を適宜配布する。		
開始時に指示する。	参考文献		
授業展開及び授業計画表	単行本、論文、資料等を適宜配布する。		
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	研究テーマの絞り込み： 看護におけるコミュニケーションまたは技術開発・検証などからのテーマの絞り込み	テーマに関連した論文を検索し、クリティックを進める。	村上
2	研究テーマの絞り込み： 看護におけるコミュニケーションまたは技術開発・検証などからのテーマの絞り込み	同上	村上
3	研究論文のクリティック： 自己が取り組むテーマに関連した先行研究の看護学論文を収集しクリティック	同上	村上
4	研究論文のクリティック： 自己が取り組むテーマに関連した先行研究の看護学論文を収集しクリティック	同上	村上
5	研究論文のクリティック： 自己が取り組むテーマに関連した先行研究の看護学論文を収集しクリティック	同上	村上
6	データ収集・解析法： データの収集方法ならびに解析の方法について類似した領域の看護学系文献を採り出して抽出する	同上	村上

7	データ収集・解析法： データの収集方法ならびに解析の方法について類似した領域の看護学系文献を採り出して抽出する	同上	村上
8	臨床現場観察(1)： 臨床施設の参与観察、記録、環境分析(1)	臨床現場の構造や機能を多角的に把握する。	村上
9	臨床現場観察(2)： 臨床施設の参与観察、記録、環境分析(2)	同上	村上
10	臨床現場観察(3)： 臨床施設の参与観察、記録、環境分析(3)	同上	村上
11	臨床現場観察(4)： 臨床施設の参与観察、記録、環境分析(4)	同上	村上
12	臨床現場観察(5)： 臨床施設の参与観察、問題点の分類と分析(1)	同上	村上
13	臨床現場観察(6)： 臨床施設の参与観察、問題点の分類と分析(2)	同上	村上
14	臨床現場観察(7)： 臨床施設の参与観察、問題点の分類と分析(3)	同上	村上
15	総括と方策立案： 前半と後半の内容を総合して、具体的な看護コミュニケーションあるいは看護技術開発のための方策と検証方法を立案	同上	村上
成績評価方法と基準			
①レポート			
②討論時の発言内容で評価する。			
割合			
①70%			
②30%			

授業科目名	後期専門演習(医療科学専攻:吉村)			
主担当教員	吉村 弥须子	担当教員	吉村 弥须子	
科目ナンバリング	SR003	専門科目	デジタル医療	
配当年次	1	開講学期	後期	月曜1限
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択
授業概要	<p>後期専門演習は、後期特別研究の指導教員の下で、前半は自身の行う研究で用いようとしている研究方法について論文や資料を熟読し、議論しながら具体的な技術を確立させる。後半は、各学生の研究領域および医療資格に最も近い臨床現場に向き、参与観察を行いながら医療における具体的な課題を抽出し、それを解決あるいは改良できるような研究を構想する作業に取り組ませる。</p> <p>前半は特別研究で用いようとしている研究方法について、特に看護におけるさまざまな質的研究に関する論文や資料をクリティカルし、教員と討論しながら具体的な研究方法を体得させる。</p> <p>後半は、病院において看護の臨床現場を観察させ、がん患者や手術患者に対する00L向上を目指した看護実践やサポートシステムに関する問題点を抽出させる。抽出した問題点の背景、根本原因、解決策などの分析を行うことにより、改善策および新しい技術やシステム開発と検証方法を考察させる。</p>			
到達目標	<p>1. 自身の行う特別研究で用いている研究方法の具体的な技術を熟知しており、実行することができる。</p> <p>2. 自身の研究領域に関連する医療上の課題が分析でき、それを論理的に説明することができる。</p> <p>3. 自身の研究領域に関連する医療上の課題の解決・改善のための方法をいくつかが考案でき、その検証作業計画を立案できる。</p>			
履修上の注意(学生へのメッセージ)	前半は論文、資料のクリティカルと討論を、後半は臨床現場での観察・記録・分析作業を行う。自身の行う特別研究で用いる研究方法・分析手法を身に付けるために、事前に質的研究に関するセミナーや講習会などに出席しておくことが望ましい。			
教科書	論文、記事、関連資料を適宜配布する。			
参考書	<p>谷津裕子「Start Up 質的看護研究」[第2版] (Gakken, 2015年)</p> <p>北条子、谷津裕子「質的研究の実践と評価のためのサブストラクチャー」(医学書院, 2009年)</p> <p>章間直美「質的研究実践ノート」(医学書院, 2007年)</p> <p>マーガレット・サンデロウスキ著、谷津裕子、江藤裕之訳「質的研究をめぐる10のキーワードエッセイ」(医学書院, 2013年)</p> <p>研究室/オフィスアワー</p>			
W棟3階334研究室(吉村) / 月曜日 16:00~18:00 実習で不在の場合があるので随時相談可。				
授業展開及び授業計画表				
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当	
1	質的研究の概要・方法論：質的研究とは、質的研究で明らかにすること、さまざまな質的研究の方法論	質的研究の概要、方法論について学習しておく。		
2	質的研究論文のクリティカル：質的記述的研究方法、グラウンテッド・セオリー	予習：左記の研究手法を用いた論文を検索し読んでくる。 復習：今回用いた研究手法と同様の研究手法を用いた他の論文をクリティカルする。		
3	質的研究論文のクリティカル：質的記述的研究方法、グラウンテッド・セオリー	予習：左記の研究手法を用いた論文を検索し読んでくる。 復習：今回用いた研究手法と同様の研究手法を用いた他の論文をクリティカルする。		
4	質的研究論文のクリティカル：質的記述的研究方法、グラウンテッド・セオリー	予習：左記の研究手法を用いた論文を検索し読んでくる。 復習：今回用いた研究手法と同様の研究手法を用いた他の論文をクリティカルする。		

5	質的研究論文のクリティカル：質的記述的研究方法、グラウンテッド・セオリー	予習：左記の研究手法を用いた論文を検索し読んでくる。 復習：今回用いた研究手法と同様の研究手法を用いた他の論文をクリティカルする。
6	インタビューや参加観察のシミュレーション	予習：インタビュー、参加観察の方法を学習してくる。 復習：インタビュー、参加観察を実施してみよう。
7	逐語録、フィールドノート、データ分析：収集したデータの逐語録、フィールドノートの作成、データ分析と信頼性・妥当性を確保する方法	予習：逐語録、フィールドノートの作成方法を学習してくる。 復習：インタビュー、参加観察を実施したデータの逐語録、フィールドノートを作成してみる。
8	臨床現場観察(1)：臨床施設の参与観察、記録、環境分析(1)	予習：どのような看護場面を観察するかあけてくる。 復習：観察した場面の逐語録やフィールドノートを作成する。
9	臨床現場観察(2)：臨床施設の参与観察、記録、環境分析(2)	予習：どのような看護場面を観察するかあけてくる。 復習：観察した場面の逐語録やフィールドノートを作成する。
10	臨床現場観察(3)：臨床施設の参与観察、記録、環境分析(3)	予習：どのような看護場面を観察するかあけてくる。 復習：観察した場面の逐語録やフィールドノートを作成する。
11	臨床現場観察(4)：臨床施設の参与観察、記録、環境分析(4)	予習：どのような看護場面を観察するかあけてくる。 復習：観察した場面の逐語録やフィールドノートを作成する。
12	臨床現場観察(5)：臨床施設の参与観察、問題点の分類と分析(1)	予習：復習：作成した逐語録やフィールドノートをともに、臨床の看護場面における問題点や課題を考察する。
13	臨床現場観察(6)：臨床施設の参与観察、問題点の分類と分析(2)	予習・復習：作成した逐語録やフィールドノートをともに、臨床の看護場面における問題点や課題を考察する。
14	臨床現場観察(7)：臨床施設の参与観察、問題点の分類と分析(3)	予習・復習：作成した逐語録やフィールドノートをともに、臨床の看護場面における問題点や課題を考察する。
15	総括と立案：前半と後半の内容を総合して、具体的な看護技術開発やシステム構築のための方策と検証方法を立案	予習・復習：臨床の看護場面における問題点や課題に対する具体的な看護技術開発やシステム構築のための方策と検証方法を立案する。
成績評価方法と基準		
①レポート		
②討論時の発言内容で評価する。		
割合		
①70%		
②30%		

授業科目名		後期専門演習(医療科学専攻:吉岡)	
主担当教員	吉岡 敏治	担当教員	吉岡 敏治
科目ナンバリング	SR003	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目
配当年次	1	開講学期	後期 月曜1限
授業形態	演習	単位数	2 必修・選択 必修
授業概要			
<p>後期専門演習は、後期特別研究の指導教員の下で、前半は自身の行う研究で用いようとしている研究方法について論文や資料を熟読しながら、具体的な技術を構築し、後半は、各学生の研究領域および医療資格に最も近い臨床現場に向き、参与観察を行いながら医療における具体的な課題を抽出し、それを解決あるいは改良できるような研究を構想する作業に取り組ませる。</p> <p>前半は特別研究で用いようとしている研究方法について論文や資料を熟読しながら具体的な技術を構築し、後半は、救急医療を担う大阪府救急医療情報センター、小児電話相談、救急安心センター大阪、日本中毒情報センター、救急医療を行っている病院(救命救急センター)においてその活動現場、臨床現場を観察させ、有効性、安全性に関する問題点を抽出させる。抽出した問題点を対応能力、効果性、適誤、副作用、情報漏洩など可能性のある帰結別に分類し、それぞれの原因分析を行うことにより、その有効性と安全性について検証させる。</p>			
到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 自身の行う特別研究で用いる研究方法の具体的な技術を熟知しており、実行することができる。 自身の研究領域に関連する医療上の課題が分析でき、それを論理的に説明することができる。 自身の研究領域に関連する医療上の課題の解決、改善のための方法をいくつかが考案でき、その検証作業計画を立てることができる。 			
履修上の注意(学生へのメッセージ)			
<p>前半は論文、資料の通読と討論を、後半は各施設において観察・データの抽出、記録・分析作業を行う。先進国の救急医療システムに関する論文を事前に検索・入手して目を通し、授業後には授業で得たポイント、アイデア、問題点、および分析を文書化して記録すること。</p>			
教科書			
論文、記事、関連資料を適宜配付する。			
参考書			
日本医学教育学会/医療の質、安全学会合同ワーキンググループ監修「医療安全学」(経原出版新社、初版、2010年)			
日本救急医学会・中島和江監訳「有害事象の報告・学習システムのためのWHOドラフトガイドライン」(へるす出版、初版、2011年)			
研究室/オフィスアワー			
吉岡敏治(C棟、研究室4) / 原則月曜日 2・3時間目ですが、その他、部屋にいればいつでも訪問可です。			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	医療安全の文化：医療安全の文化に関する最新英語文献の講読と討論	都度指示する	
2	ヒューマンエラー：ヒューマンエラーに関する最新英語文献の講読と討論		
3	概念・実践モデル：医療事故防止策の概念または実践モデルに関する最新英語文献の講読と討論		
4	インシデント報告：インシデント報告に関する最新英語文献の講読と討論		
5	大阪府救急医療情報センターの現場観察：参与観察、事象記録、業務内容、環境分析		
6	安心センター大阪の現場観察(1)：参与観察、事象記録、業務内容、環境分析		
7	安心センター大阪の現場観察(2)：参与観察、事象記録、業務内容、環境分析		
8	大阪中毒110番の現場観察(1)：参与観察、事象記録、業務内容、環境分析		

9	大阪中毒110番の現場観察(2)：参与観察、事象記録、業務内容、環境分析		
10	救命救急センターの臨床現場観察(1)：参与観察、事象記録、業務内容、環境分析		
11	救命救急センターの臨床現場観察(2)：参与観察、事象記録、業務内容、環境分析		
12	救命救急センターの臨床現場観察(3)：参与観察、事象記録、業務内容、環境分析		
13	臨床現場観察(4)：一次救急施設の参与観察、問題点の分類と分析		
14	臨床現場観察(5)：二次救急施設の参与観察、問題点の分類と分析		
15	総括と方策立案：前半に読んだ先行研究の内容を参考にして救急医療現場の効果性と医療安全性の向上方策とその検証方法を立案		
成績評価方法と基準			
①レポート			
②討論時の発言内容を評価する。			
			割合
			①70%
			②30%

授業科目名	後期専門演習(医療科学専攻: 上田真喜子)		
主担当教員	上田 真喜子	担当教員	上田 真喜子
科目ナンバリング	SR003	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目
配当年次	1	開講学期	後期
授業形態	演習	単位数	2
授業概要	<p>後期専門演習は、後期特別研究の指導教員の下で、前半は自身の行う研究で用いている研究方法について論文や資料を熟読しながら具体的な技術を模索し、後半は、動脈硬化の診断・治療、血管インターベンション治療、循環器病の診断・治療などをやっている病院内において臨床現場を想定して、現在の動脈硬化検査・評価やプラーク不安定化の検査・評価についての現状把握とともに問題点を抽出させる。そして、未解決の課題について、解析していく方向性と方法論を考察させる。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 自身の行う特別研究で用いている研究方法の具体的な技術を熟知しており、実行することができる。 自身の研究領域に関連する医療上の課題が分析でき、それを論理的に説明することができる。 自身の研究領域に関連する医療上の課題の解決・改善のための方法をいくつか考案でき、その検証作業計画を立案できる。 <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>前半は、論文・資料の通読と討論を、後半は臨床現場での観察・記録・分析作業を行う。</p> <p>動脈硬化検査・評価やプラーク不安定化の検査・評価に関する論文を事前に読解し、入手して目を通し、授業後には授業で得たポイント、アイデア、問題点、および分析を文章化して記録すること。</p> <p>教科書</p> <p>論文、記事、関連資料を適宜配布する。</p> <p>参考書</p> <p>Robbins and Cotran : Pathologic Basis of Disease, 8th Edition, Saunders Braunwald' s Heart Disease : A Textbook of Cardiovascular Medicine, Single Volume, 10e</p> <p>研究室/オフィスアワー</p> <p>研究室在室時には、いつでも訪問可です。</p>		
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	虚血性心疾患； 虚血性心疾患に関する最新英語文献の講読と討論	学修内容について、予習をして理解すること。	
2	不安定プラークの病理検査； 不安定プラークの病理検査に関する最新英語文献の講読と討論	学修内容について、予習をして理解すること。	
3	不安定プラークの画像検査(1)； 不安定プラークの画像検査に関する最新英語文献の講読と討論(1)	学修内容について、予習をして理解すること。	
4	不安定プラークの画像検査(2)； 不安定プラークの画像検査に関する最新英語文献の講読と討論(2)	学修内容について、予習をして理解すること。	
5	プラーク不安定化と血栓検査(1)； プラーク不安定化と血栓検査に関する最新英語文献の講読と討論(1)	学修内容について、予習をして理解すること。	
6	プラーク不安定化と血栓検査(2)； 英語文献の講読と討論(2)	学修内容について、予習をして理解すること。	
7	プラーク不安定化とバイオマーカー(1)； 最新英語文献の講読と討論(1)	学修内容について、予習をして理解すること。	
8	プラーク不安定化とバイオマーカー(2)； 最新英語文献の講読と討論(2)	学修内容について、予習をして理解すること。	

9	臨床現場観察(1)； 臨床施設での観察、事象記録、分析(1)		
10	臨床現場観察(2)； 臨床施設での観察、事象記録、分析(2)		
11	臨床現場観察(3)； 臨床施設での観察、事象記録、分析(3)		
12	臨床現場観察(4)； 臨床施設での観察、問題点の分類と分析(1)		
13	臨床現場観察(5)； 臨床施設での観察、問題点の分類と分析(2)		
14	臨床現場観察(6)； 臨床施設での観察、問題点の分類と分析(3)		
15	総括と立案； 前半に誘導した先行研究の内容を参考にして、動脈硬化検査・評価やプラーク不安定化の検査・評価に関する未解決課題を解決するための方策・方法を立案		
成績評価方法と基準			
①レポート			
②討論時の発言内容で評価する。			
			割合
			①70%
			②30%

授業科目名		後期専門演習(医療科学専攻・森)		
主担当教員	森 誠司	担当教員	森 誠司	
科目ナンバリング	SR003	科目区分	ディプロマポリシー 該当項目	
配当年次	1	開講学期	後期	月曜 1限
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択
授業概要	<p>後期専門演習は、後期特別研究の指導教員の下で、前半は自身の行う研究で用いようとしている研究方法について論文や資料を揃えて教員と議論しながら、具体的な技術を構築し体得させる。後半は、各学生の研究領域および医療資格に最も近い臨床現場に向き、参与観察を行いながら医療における具体的な課題を抽出し、それを解決あるいは改良できるような研究を構想する作業に取り組みさせる。</p> <p>前半は検査医学領域における分子生物学的、細胞生物学的な研究方法について論文や資料を揃えて教員と議論し、特別研究への導入について議論する。</p> <p>後半は、遺伝子検査・染色体検査を行っている病院・検査センターにおいて臨床現場を観察させ、遺伝子・染色体検査の現状とわかる課題を抽出させる。これらの課題に対して検査の種類ごとに原因について分析し改善法を考察する。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自身の行う特別研究で用いる研究方法の具体的な技術を熟知しており、実行することができる。 2. 自身の研究領域に関連する医療上の課題が分析でき、それを論理的に説明することができる。 3. 自身の研究領域に関連する医療上の課題の解決・改善のための方策をいくつか考案でき、その検証作業計画を立案できる。 <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>前半は論文・資料の通読と討論を、後半は臨床現場での観察・記録・分析作業を行う。</p> <p>最新の遺伝子検査の精度管理に関する論文・資料を事前に検索・入手し通読しておくこと。</p>			
教科書				
論文、記事、関連資料を適宜配布する。				
参考書				
質疑に応じて、適宜紹介する。				
研究室/オフィスアワー				
Eメールにて事前に都合を問い合わせること				
授業展開及び授業計画表				
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当	
1	遺伝子検査の品質管理： 検体の種類や検査の目的に応じた適切な処理 について議論する。	本邦における遺伝子検査の概要を事前に把握 しておくこと		
2	遺伝子検査の品質管理： 検体の種類や検査の目的に応じた適切な処理 について議論する。			
3	遺伝子検査の標準化： 遺伝子検査の標準化について議論する。			
4	遺伝子検査の標準化： 遺伝子検査の標準化について議論する。			
5	次世代技術と遺伝子検査： 技術革新の新しい解析技術とその遺伝子検査 室への導入について議論する。			
6	次世代技術と遺伝子検査： 技術革新の新しい解析技術とその遺伝子検査 室への導入について議論する。			
7	遺伝子検査の展望： 遺伝子検査と個別化医療について議論する。			
8	臨床現場観察(1)： 遺伝子検査室の参与観察、			
9	臨床現場観察(2)： 遺伝子検査室の参与観察			
10	臨床現場観察(3)： 遺伝子検査室の参与観察			

11	臨床現場観察(4)： 遺伝子検査室の参与観察			
12	臨床現場観察(5)： 遺伝子検査室の参与観察、課題抽出、分析			
13	臨床現場観察(6)： 遺伝子検査室の参与観察、課題抽出、分析			
14	臨床現場観察(7)： 遺伝子検査室の参与観察、課題抽出、分析			
15	将来展望と総括： 前半での議論と現場での観察から総合的に遺 伝子検査の現状と将来展望について議論する。			
成績評価方法と基準				割合
①レポート				①70%
②討論時の発言内容で評価する。				②30%

後期専門演習(医療科学専攻:前川)			
授業科目名	前川 佳敬	担当教員	前川 佳敬
主担当教員	SR003	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目
科目ナンバリング	1	科目区分	曜日・時限 月曜 1 限
配当年次	演習	開講学期	後期
授業形態	2	単位数	必修・選択 必修
授業概要			
<p>後期専門演習は、後期特別研究の指導教員の下で、前半は自身の行う研究で用いようとしている研究方法について論文や資料を読んで教員と議論しながら具体的な技術を構築し体得させる。後半は、各学生の研究領域および医療資格に最も近い臨床現場に向き、参与観察を行いながら医療における具体的な課題を抽出し、それを解決あるいは改良できるような研究を構想する作業に即り進ませる。</p> <p>前半は特別研究で用いようとしている研究方法について論文や資料を読んで教員と討論しながら具体的な技術を構築し体得させる。後半は、病院、検査センターにおいて臨床現場を観察させ、手法、精度、安全性、検査プロセス、情報管理等に関する課題を抽出させる。これら課題に対して検査の種類ごとに原因について分析し改善法を考察する。</p>			
到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 自身の行う特別研究で用いる研究方法の具体的な技術を熟知しており、実行することができる。 2. 自身の研究領域に関連する医療上の課題が分析でき、それを論理的に説明することができる。 3. 自身の研究領域に関連する医療上の課題の解決・改善のための方策をいくつか考案でき、その検証作業計画を立案できる。 			
履修上の注意(学生へのメッセージ)			
前半は論文、資料の読解と討論を、後半は臨床現場での観察・記録・分析作業を行う。関係する論文を事前に検索・入手して目を通し、授業後には授業で得たポイント、アイデア、問題点、および分析を文章化して記録すること。			
教科書			
Henry's Clinical Diagnosis & Management by Laboratory Methods, 23rd ed R. A. McPherson, M. R. Pincus SAUNDERS 2017 年			
参考書			
Braunwald's Heart Disease: A Textbook of Cardiovascular Medicine, Single Volume, 10e HyperTension. A Companion to Braunwald's Heart Disease, 3e			
研究室/オフィスアワー			
0 棟研究室8 / 部屋にいれればいつでも訪問可です。質問等はいつでもご自由どうぞ。			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	疾患と病態検査： 病因・病態の解明や診断に有用な理論や手法を議論	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
2	疾患と病態検査： 病因・病態の解明や診断に有用な理論や手法を議論		
3	臨床病態の解明とオーダーメイド医療： 病因・病態の解明によるオーダーメイド医療について議論		
4	臨床病態の解明とオーダーメイド医療： 病因・病態の解明によるオーダーメイド医療について議論		
5	次世代技術と病態検査： 技術革新の著しい解析技術とその病態検査への導入について議論		
6	次世代技術と病態検査： 技術革新の著しい解析技術とその病態検査への導入について議論		
7	病態検査の展望： 病態検査と個別化医療について議論		
8	臨床現場観察(1)： 臨床施設の参与観察		

9	臨床現場観察(2)： 臨床施設の参与観察		
10	臨床現場観察(3)： 臨床施設の参与観察		
11	臨床現場観察(4)： 臨床施設の参与観察		
12	臨床現場観察(5)： 臨床施設の参与観察、課題抽出、分析		
13	臨床現場観察(6)： 臨床施設の参与観察、課題抽出、分析		
14	臨床現場観察(7)： 臨床施設の参与観察、課題抽出、分析		
15	総括： 前半での議論と現場での観察から総合的に分子病態検査の現状と将来展望についての検討		
成績評価方法と基準			
①レポート			割合
②討論時の発言内容で評価する。			①70% ②30%

授業科目名		後期専門演習(医療科学専攻・横井)		
主担当教員	横井 眞津志	担当教員	横井 眞津志	横井
科目ナンバリング	SR003	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目	横井
配当年次	1	科目区分	曜日・時限	月曜 1限
授業形態	演習	開講学期	後期	
授業概要	演習	単位数	2	必修
<p>後期専門演習は、後期特別研究の指導教員の下で、前半は自身の行う研究で用いようとしている研究方法について論文や資料を添って教員と議論しながら、具体的な技術を機軸として、後半は、各学生の研究領域および医療資格に最も近い臨床現場に向き、参与観察を行いながら医療における具体的な課題を抽出し、それを解決あるいは改良できるような研究を構想する作業に取り組ませる。</p> <p>前半は特別研究で用いようとしている研究方法について論文や資料を添って教員と議論しながら具体的な技術を機軸として得させる。後半は、住民健診事業を実施している市町村および介護予防事業もしくは地域支援事業を実施している市町村や通所系サ―ビスにおいて現場に関与させ、疫学手法を用いて介護が必要となる原因疾患の疫学的調査(横断研究、縦断研究)もしくは効果的な介護予防介入を計画させる。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自身の行う特別研究で用いる研究方法の具体的な技術を熟知しており、実行することができる。 2. 自身の研究領域に関連する医療上の課題が分析でき、それを論理的に説明することができる。 3. 自身の研究領域に関連する医療上の課題の解決・改善のための方策をいくつか考案でき、その検証作業計画を立案できる。 <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>前半は論文・資料の読解と討論を、後半は現場での観察・記録・分析作業を行う。</p> <p>介護予防に関する論文を事前に検索・入手して目を通し、授業後には授業で得たポイント、アイデア、問題点、および分析を文章化して記録すること。</p>				
教科書				
論文、記事、関連資料を適宜配布する。				
参考書				
質疑に応じて、適宜紹介する。				
研究室/オフィスアワー				
木曜日 2 限目 (10:40-12:10)				
授業展開及び授業計画表				
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当	
1	介護予防介入のエビデンス： 介護予防に関する最新英語文献の講読と討論	メタアナリシスおよびシステマティックレビューを中心に講読する。	横井	
2	認知症発症および転倒発生のリスク： 認知症発症と転倒発生を結果指標とした最新英語文献の講読と討論	認知症発症予防、認知機能低下予防、転倒予防に関する文献をレビューしておく。	横井	
3	認知症予防介入および転倒予防介入のエビデンス： 認知症予防、転倒予防に関する最新英語文献の講読と討論、米岡ガイドラインおよびコクランライブラリーの精読。	認知症発症予防、認知機能低下予防、転倒予防に関する RCT を文献レビューしておく。	横井	
4	実践モデル： 介護予防実践モデルに関する最新英語文献の講読と討論	介護予防に関するモデル、理論を学習する。	横井	
5	認知症発症リスクの傾向きおよび後ろ向きコホート研究に焦点を当てた最新英語文献の講読と討論(1)	認知症発症、MCI に関する疫学調査をまとめる。	横井	
6	転倒発症リスクの傾向きおよび後ろ向きコホート研究に焦点を当てた最新英語文献の講読と討論(2)	転倒に関する疫学調査をまとめる。	横井	

7	介入技術の妥当性(1)： 認知症予防および転倒予防介入手法の妥当性に関する最新英語文献の講読と討論(1)	運動に関する介入方法をまとめる。	横井
8	介入技術の妥当性(2)： 認知症予防および転倒予防介入手法の妥当性に関する最新英語文献の講読と討論(1)	運動以外の介入方法についてまとめる。	横井
9	介護予防現場観察(1)： 住民健診事業および介護予防事業へ関与し、疫学調査手法もしくは介護予防介入手法を検討(1)	フィールド調査を準備する。	横井
10	介護予防現場観察(2)： 住民健診事業および介護予防事業へ関与し、疫学調査手法もしくは介護予防介入手法を検討(2)	フィールド調査時の記録をとる。	横井
11	介護予防現場観察(3)： 住民健診事業および介護予防事業へ関与し、疫学調査手法もしくは介護予防介入手法を検討(3)	フィールド調査時の記録をとる。	横井
12	介護予防現場観察(4)： 住民健診事業および介護予防事業へ関与し、疫学調査手法もしくは介護予防介入手法を検討(4)	フィールド調査時の記録をとる。	横井
13	介護予防現場観察(5)： 住民健診事業および介護予防事業へ関与し、疫学調査手法もしくは介護予防介入手法を検討(5)	フィールド調査時の記録をとる。	横井
14	介護予防現場観察(6)： 住民健診事業および介護予防事業へ関与し、疫学調査手法もしくは介護予防介入手法を検討(6)	フィールド調査時の記録をとる。	横井
15	総括と介入立案： 前半に就んだ先行研究の内容および現場観察より、疫学調査手法もしくは介護予防介入手法を立案	自身の研究領域における疫学研究もしくは介入手法を発表する。	横井
成績評価方法と基準			
出席基準：4/5以上。			
①レポート			
②討論時の発言内容で評価する。			
割合			
①70%			
②30%			

授業科目名	後期専門演習(医療科学専攻: 荻原)		
主担当教員	荻原 俊男	担当教員	荻原 俊男
科目ナンバリング	SR003	科目区分	ディプロマポリシー 該当項目
配当年次	1	開講学期	後期 月曜 1 限
授業形態	演習	単位数	2 必修・選択 必修
授業概要	<p>後期専門演習は、後期特別研究の指導教員の下で、前半は自身の行う研究で用いようとしている研究方法について論文や資料を読んで教員と議論しながら具体的な技術を確立し得させる。後半は、各学生の研究領域および医療資格に最も近い臨床現場に向き、参与観察を行いながら医療における具体的な課題を抽出し、それを解決あるいは改良できるような研究を構想する作業に取り組みさせる。</p> <p>高血圧研究の歴史を学び、高血圧の成因と病態・高血圧の分子メカニズムについて理解する。また高血圧による臓器障害について理解し、骨代謝に及ぼす影響について検証する。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自身の行う特別研究で用いる研究方法の具体的な技術を熟知しており、実行することができる。 2. 自身の研究領域に関連する医療上の課題が分析でき、それを論理的に説明することができる。 3. 自身の研究領域に関連する医療上の課題の解決・改善のための方法をいくつかが考案でき、その検証作業計画を立案できる。 <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>前半は高血圧研究の歴史から、高血圧の成因と病態・高血圧の分子メカニズム、臓器障害について、これまでの知見を整理する。特に骨代謝への影響について先行研究を参考に、血圧と骨代謝の関連の有無を探索する。</p> <p>後半は医療機関(病院)で疾患・治療の実態を観察・記録し、また骨疾患との合併について分析する。現場観察に向けて、高血圧の病態・治療戦略についての知識を事前に予習しておくこと。</p> <p>教科書</p> <p>論文、記事、関連資料を適宜配布する。</p> <p>参考書</p> <p>特に指定しない。</p> <p>研究室/オフィスアワー</p> <p>随時</p>		
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	高血圧研究の歴史(1) : これまでの高血圧に関する医学研究の歴史・発展について文献的に調査し理解する。	都度指示する	
2	高血圧研究の歴史(2) : これまでの高血圧に関する医学研究から高血圧の成因・病態の詳細について理解する。		
3	高血圧治療薬の歴史と発展 : 高血圧治療薬開発の歴史について学び、降圧剤の作用機序について理解する。		
4	高血圧の分子メカニズム : 高血圧の分子メカニズムについて、最近の知見を収集し理解する。		
5	骨代謝の分子メカニズム : 骨代謝の分子メカニズムについて、最近の知見を収集し理解する。		
6	高血圧と骨疾患の関連性(1) : 高血圧と骨疾患の合併頻度、降圧剤と骨折リスク等に関する先行疫学研究を探索し、これまでにわかっている知見をまとめる。		
7	高血圧と骨疾患の関連性(2) : 高血圧と骨疾患の合併頻度、降圧剤と骨折リスク等に関する先行疫学研究を探索し、これまでにわかっている知見をまとめる。		
8	臨床現場観察(1) : 医療機関(病院)の参与観察、事象記録(1)		

9	臨床現場観察(2) : 医療機関(病院)の参与観察、事象記録(2)		
10	臨床現場観察(3) : 医療機関(病院)の参与観察、事象記録(3)		
11	臨床現場観察(4) : 医療機関(病院)の参与観察、事象記録(4)		
12	臨床現場観察(5) : 臨床現場観察(病院)の参与観察、疾患治療の現状分析(1)		
13	臨床現場観察(6) : 医療機関(病院)の参与観察、疾患治療の現状分析(2)		
14	臨床現場観察(7) : 医療機関(病院)の参与観察、疾患治療の現状分析(3)		
15	総括と研究構想 : 現場で抽出した疾患治療における課題を解決しようとする治療概念を、本演習前半で知識を応用して構想する。		
成績評価方法と基準			
①レポート			
②討論時の発言内容で評価する。			
			割合
			随時説明

授業科目名	後期特別研究Ⅰ(医療科学専攻・山下・横井)		
主担当教員	山下 仁	担当教員	山下 仁、横井 眞津志
科目ナンバリング	SR004	専門科目	ティロロマボリン 該当項目
配当年次	1	科目区分	前期
授業形態	演習	開講学期	前期
		単位数	4
授業概要	必修・選択 必修		

後期特別研究は、1～3年次まで継続される学位論文作成に直接関わる科目であり、各指導教員の研究テーマにそって研究のすべての過程を遂行する。後期特別研究Ⅰでは、テーマの設定、先行研究レビュー、研究計画立案、研究倫理審査申請、およびプロトコル発表を行わせる。

現代の医療システムに導入するにあたって必要とされる有効性または安全性の臨床的エビデンスを検証する。具体的には以下のいずれかのテーマを設定し、Evidence-Based Medicine (EBM) の概念に則ってランダム化比較試験、メタアナリシス、または prospective な観察研究を行う。

1. 鍼灸に関する既存の技法または新しく開発した技法の臨床応用可能性の検証
 2. 鍼灸の臨床試験における適切な対照群の開発と検証
 3. 鍼灸の過誤、副作用の情報収集・解析・フィードバックシステムの開発と検証
- テーマを決定したら、先行研究レビュー、研究計画立案、研究倫理審査申請、およびプロトコル発表をさせる。

到達目標

1. 研究テーマに関する国内外の先行研究について検索・入手・通読し、それらの詳細を理解している。
2. リサーチ・クエスチョンが明確であり、先行研究を踏まえて研究計画を立案することができる。
3. 自分の計画した研究のオリジナリティと限界を理解しており、それを説明することができる。
4. 倫理的な配慮を理解し、研究倫理審査委員会に提出する書類が作成できる。
5. 研究プロトコルに関する必要スライドと配布資料が作成でき、それらを用いた発表と質疑応答ができる。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

研究室において論文・資料・コンピュータ等を活用して個別指導する。まずは自発的な発想と行動にもとづいて作成した原案を提出させ、それを討論と示唆により修正させるプロセスを反復する。

必要な先行論文は早期にすべて検索・入手して分類し、不明な用語、概念、手法については事前に調べておくこと。授業前・中・後に生じたアイデア、資料、行動、討論、指導の内容も含め、すべてをラボノートに記録すること。

教科書

論文、記事、関連資料を適宜配布する。

参考書

藤井俊幸「看護研究者・医療研究者のための系統的文献検索概説」(近畿病院図書室協議会 初版、2013年)
MacPherson H, Hamner Schlag R, Lewith G, Sohmyer R (Edit.) Acupuncture Research? Strategies for Establishing an Evidence Base (Churchill Livingstone, 1st Edition, 2007年)
Leung SW, Hu H (Edit.) Evidence-based Research Methods for Chinese Medicine (Springer, 1st Edition, 2016年)

研究室/オフィスアワー

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	ガイダンス・特別研究の概要と目的、1年間の予定、留意事項など	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
2	研究テーマの仮設定・可能性のある研究テーマのリストアップ	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
3	先行研究論文の検索・文献データベースを用いた先行研究論文の検索	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
4	先行研究論文講読・仮設定したテーマに関する研究の現状に関する情報入手	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
5	先行研究論文講読・仮設定したテーマに関する研究の現状に関する情報入手	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
6	先行研究論文講読・仮設定したテーマに関する研究の現状に関する情報入手	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	

7	先行研究論文講読・仮設定したテーマに関する研究の現状に関する情報入手	先行研究論文講読・仮設定したテーマに関する研究の現状に関する情報入手	入手資料を読んで質問事項をまとめておく
8	先行研究論文講読・仮設定したテーマに関する研究の現状に関する情報入手	先行研究論文講読・仮設定したテーマに関する研究の現状に関する情報入手	入手資料を読んで質問事項をまとめておく
9	先行研究論文講読・仮設定したテーマに関する研究の現状に関する情報入手	先行研究論文講読・仮設定したテーマに関する研究の現状に関する情報入手	入手資料を読んで質問事項をまとめておく
10	研究テーマの決定・先行研究の現状と実行可能性を踏まえて研究テーマ決定	先行研究の現状と実行可能性を踏まえて研究テーマ決定	入手資料を読んで質問事項をまとめておく
11	先行研究レビュー・当該領域の研究レビューを作成	先行研究レビュー・当該領域の研究レビューを作成	入手資料を読んで質問事項をまとめておく
12	先行研究レビュー・当該領域の研究レビューを作成	先行研究レビュー・当該領域の研究レビューを作成	入手資料を読んで質問事項をまとめておく
13	先行研究レビュー・当該領域の研究レビューを作成	先行研究レビュー・当該領域の研究レビューを作成	入手資料を読んで質問事項をまとめておく
14	先行研究レビュー・リサーチ・クエスチョン	先行研究レビュー・リサーチ・クエスチョン	入手資料を読んで質問事項をまとめておく
15	研究テーマのリサーチ・クエスチョンの明確化	研究テーマのリサーチ・クエスチョンの明確化	入手資料を読んで質問事項をまとめておく
16	研究デザイン・リサーチ・クエスチョンに適合した研究デザインの設定とその限界の考察	研究デザイン・リサーチ・クエスチョンに適合した研究デザインの設定とその限界の考察	入手資料を読んで質問事項をまとめておく
17	研究計画の立案・研究計画書(プロトコル)の立案と執筆	研究計画の立案・研究計画書(プロトコル)の立案と執筆	入手資料を読んで質問事項をまとめておく
18	研究計画の立案・研究計画書(プロトコル)の立案と執筆	研究計画の立案・研究計画書(プロトコル)の立案と執筆	入手資料を読んで質問事項をまとめておく
19	研究計画の立案・研究計画書(プロトコル)の立案と執筆	研究計画の立案・研究計画書(プロトコル)の立案と執筆	入手資料を読んで質問事項をまとめておく
20	研究計画の立案・研究計画書(プロトコル)の立案と執筆	研究計画の立案・研究計画書(プロトコル)の立案と執筆	入手資料を読んで質問事項をまとめておく
21	倫理審査申請・研究倫理審査の申請書作成と提出	倫理審査申請・研究倫理審査の申請書作成と提出	入手資料を読んで質問事項をまとめておく
22	倫理審査申請・研究倫理審査の申請書作成と提出	倫理審査申請・研究倫理審査の申請書作成と提出	入手資料を読んで質問事項をまとめておく
23	倫理審査申請・研究倫理審査の申請書作成と提出	倫理審査申請・研究倫理審査の申請書作成と提出	入手資料を読んで質問事項をまとめておく
24	予備研究・予備研究の実施と問題点の抽出・分析	予備研究・予備研究の実施と問題点の抽出・分析	入手資料を読んで質問事項をまとめておく
25	予備研究・予備研究の実施と問題点の抽出・分析	予備研究・予備研究の実施と問題点の抽出・分析	入手資料を読んで質問事項をまとめておく
26	予備研究・予備研究の実施と問題点の抽出・分析	予備研究・予備研究の実施と問題点の抽出・分析	入手資料を読んで質問事項をまとめておく
27	予備研究・予備研究の実施と問題点の抽出・分析	予備研究・予備研究の実施と問題点の抽出・分析	入手資料を読んで質問事項をまとめておく
28	発表準備・プロトコル発表会のスライドおよび配布資料の作成	発表準備・プロトコル発表会のスライドおよび配布資料の作成	入手資料を読んで質問事項をまとめておく
29	プロトコル発表・プロトコル発表会における発表と質疑応答	プロトコル発表・発表会における発表と質疑応答	入手資料を読んで質問事項をまとめておく
30	プロトコル修正・発表会における質疑応答と問題点指摘を踏まえた研究計画の修正	プロトコル修正・発表会における質疑応答と問題点指摘を踏まえた研究計画の修正	入手資料を読んで質問事項をまとめておく
成績評価方法及び基準			割合
①文献検索、先行研究レビュー、および研究論文の理解度			①30%
②リサーチ・クエスチョン、プロトコル、および倫理審査申請書の作成能力			②30%
③プロトコル発表会のスライドと資料、発表の技法と内容、および質疑応答時の発言内容			③40%
上記の①～③で総合的に評価する。			

授業科目名		後期特別研究Ⅰ(医療科学専攻:村上・吉村)		村上 生美		担当教員		村上 生美、吉村 弥須子	
主担当教員		村上 生美		SR004		専門科目		ディプロマポリシー 該当項目	
科目ナンバリング		1		開講学期		前期		前期(月曜1限)、 後期(月曜1限)	
配当年次		1		単位数		4		必修・選択 必修	
授業形態		演習		4		必修・選択		必修	
授業概要		後期特別研究Ⅰは、1～3年次まで継続される学位論文作成に直接関わる科目であり、各指導教員の研究テーマにそって研究のすべての過程を遂行する。後期特別研究Ⅰでは、テーマの設定、先行研究レビュー、研究計画立案、研究倫理審査申請、およびプロトコル発表を行わせる。		現代の医療システムに導入するにあたって必要な鍼灸の有効性または安全性の臨床的エビデンスを検証する。具体的には以下のいずれかのテーマを設定し、Evidence-based Medicine (EBM) の概念に則ってランダム化比較試験、メタアナリシス、または prospective な観察研究を行う。		鍼灸に関する既存の技法または新しく開発した技法の臨床応用可能性の検証		鍼灸の臨床試験における適切な対照群の開発と検証	
到達目標		1. 研究テーマに関する国内外の先行研究について検索、入手、選読し、それらの詳細を理解している。		2. リサーチ・クエスチョンが明確であり、先行研究を踏まえて研究計画を立案することができる。		3. 自分の計画した研究のオリジナリティと限界を理解しており、それを説明することができる。		4. 倫理的な配慮を理解し、研究倫理審査委員会に提出する書類が作成できる。	
参考文献		1. 研究プロトコルに関する必要なスライドと配布資料が作成でき、それらを用いた発表と質疑応答ができる。		履修上の注意(学生へのメッセージ)		研究室において論文、資料、コンピュータ等を適宜用いて個別指導する。まずは自発的な発想と行動にもとづいて作成した原案を提出させ、それを討論と示唆により修正させるプロセスを反復する。		必要な先行論文は早期にすべて検索、入手して分類し、手法については事前に調べておくこと。授業前・中・後に生じたアイデア、資料、行動、討論、指導の内容も含め、すべてをラボノートに記録すること。	
授業展開及び授業計画表		論文、記事、関連資料を適宜配布する。		参考文献		諏訪俊幸「看護研究者、医療研究者のための系統的文献検索概説」(近畿病院図書室協議会、初版、2013年) MacPherson H, Hammerschlag R, Lew th G, Schnyer R (Edit.) 「Acupuncture Research ? Strategies for Establishing an Evidence Base」(Churchill Livingstone, 1st Edition, 2007年)		Leung SW, Hu H (Edit.) 「Evidence-based Research Methods for Chinese Medicine」(Springer, 1st Edition, 2016年)	
回数		学修内容		予習・復習・課題等		担当			
1		ガイダンス： 特別研究の概要と目的、1年間の予定、留意事項など		入手資料を読んで質問事項をまとめておく		担当			
2		研究テーマの仮設定： 可能性のある研究テーマ		入手資料を読んで質問事項をまとめておく		担当			
3		先行研究論文の検索： 文献データベースを用いた先行研究文献の検索		入手資料を読んで質問事項をまとめておく		担当			
4		先行研究論文講読： 仮設定したテーマに関する研究の現状に関する情報入手		入手資料を読んで質問事項をまとめておく		担当			
5		仮設定したテーマに関する研究の現状に関する情報入手		入手資料を読んで質問事項をまとめておく		担当			
6		仮設定したテーマに関する研究の現状に関する情報入手		入手資料を読んで質問事項をまとめておく		担当			

7		先行研究論文講読： 仮設定したテーマに関する研究の現状に関する情報入手		入手資料を読んで質問事項をまとめておく			
8		先行研究論文講読： 仮設定したテーマに関する研究の現状に関する情報入手		入手資料を読んで質問事項をまとめておく			
9		先行研究論文講読： 仮設定したテーマに関する研究の現状に関する情報入手		入手資料を読んで質問事項をまとめておく			
10		研究テーマの仮設定： 先行研究の現状と実行可能性を踏まえて研究テーマ決定		入手資料を読んで質問事項をまとめておく			
11		先行研究レビュー： 当該領域の研究レビューを作成		入手資料を読んで質問事項をまとめておく			
12		先行研究レビュー： 当該領域の研究レビューを作成		入手資料を読んで質問事項をまとめておく			
13		先行研究レビュー： 当該領域の研究レビューを作成		入手資料を読んで質問事項をまとめておく			
14		先行研究レビュー： リサーチ・クエスチョン； 当該領域の研究レビューを作成		入手資料を読んで質問事項をまとめておく			
15		研究テーマのリサーチ・クエスチョンの明確化 研究デザイン； リサーチ・クエスチョンに適合した研究デザイン の決定とその限界の考察		入手資料を読んで質問事項をまとめておく			
16		研究計画の立案； 研究計画の立案と執筆		入手資料を読んで質問事項をまとめておく			
17		研究計画の立案； 研究計画の立案と執筆		入手資料を読んで質問事項をまとめておく			
18		研究計画の立案； 研究計画の立案と執筆		入手資料を読んで質問事項をまとめておく			
19		研究計画の立案； 研究計画の立案と執筆		入手資料を読んで質問事項をまとめておく			
20		研究計画の立案； 研究計画の立案と執筆		入手資料を読んで質問事項をまとめておく			
21		倫理審査申請； 研究倫理審査の申請書作成と提出		入手資料を読んで質問事項をまとめておく			
22		倫理審査申請； 研究倫理審査の申請書作成と提出		入手資料を読んで質問事項をまとめておく			
23		倫理審査申請； 研究倫理審査の申請書作成と提出		入手資料を読んで質問事項をまとめておく			
24		予備研究； 予備研究の実施と問題点の抽出・分析		入手資料を読んで質問事項をまとめておく			
25		予備研究； 予備研究の実施と問題点の抽出・分析		入手資料を読んで質問事項をまとめておく			
26		予備研究； 予備研究の実施と問題点の抽出・分析		入手資料を読んで質問事項をまとめておく			
27		予備研究； 予備研究の実施と問題点の抽出・分析		入手資料を読んで質問事項をまとめておく			
28		発表準備； プロトコル発表会のスライドおよび配布資料の作成		入手資料を読んで質問事項をまとめておく			
29		プロトコル発表； プロトコル発表会における発表と質疑応答		入手資料を読んで質問事項をまとめておく			
30		プロトコル修正 発表会における質疑応答 と問題点指摘を踏まえた研究計画の修正		入手資料を読んで質問事項をまとめておく			

成績評価方法及び基準

- ①文献検索、先行研究レビュー、および研究論文の理解度
 - ②リサーチ・クエスチョン、プロトコル、および倫理審査申請書の作成能力
 - ③プロトコル発表会のスライドと資料、発表の技法と内容、および質疑応答時の発言内容
- 上記の①～③で総合的に評価する。

割合

- ①30%
- ②30%
- ③40%

授業科目名	後期特別研究Ⅰ(医療科学専攻・青木・山下)		
主担当教員	青木 元邦	担当教員	青木 元邦、山下 仁
科目ナンバリング	SR004	科目区分	専門科目
配当年次	1	開講学期	前期 後期(月曜1限) 後期(月曜1限)
授業形態	演習	単位数	4
授業概要	必修・選択		

後期特別研究は、1～3年次まで継続される学位論文作成に直接関わる科目であり、各指導教員の研究テーマにそって研究のすべての過程を遂行する。後期特別研究Ⅰでは、テーマの設定、先行研究レビュー、研究計画立案、研究倫理審査申請、およびプロトコル発表を行なう。

さまざまな環境の変化に応じて最適な特性を選択する、人体に備わっている短期・長期的な適応メカニズムを生理・心理学的手法を用いて検証する。具体的には、自らの研究に関連する先行研究レビュー、研究計画の立案、研究倫理審査申請、研究計画書の作成を行う。

1. 運動時のヒートの呼吸・循環・代謝適応に最も効果的かつ効率的なトレーニング手法の解明
2. 音刺激によって惹起する感情が呼吸・循環応答に与える影響の検証
3. 脳電刺激を用いた、心血管疾患リスク軽減のための外部制御システムの探索

到達目標

1. 研究テーマに関する国内外の先行研究について検索・入手・通読し、それらの詳細を理解している。
2. リサーチ・クエスチョンが明確であり、先行研究を踏まえて研究計画を立案することができる。
3. 自分の計画した研究のオリジナリティと限界を理解しており、それを説明することができる。
4. 倫理的な配慮を理解し、研究倫理審査委員会に提出する書類が作成できる。
5. 研究プロトコルに関する必要スライドと配布資料が作成でき、それらを用いた発表と質疑応答ができる。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

研究室において論文・資料・コンピュータ等を適宜用いて個別指導する。まずは自発的な発想と行動にもとづいて作成した原案を提出させ、それを討論と示唆により修正させるプロセスを反復する。

必要な先行論文は早期にすべて検索・入手して分類し、概念・手法については事前に調べておくこと。授業前・中・後に生じたアイデア、資料、行動、討論、指導の内容も含め、すべてをラボノートに記録すること。

教科書

Karlinan Wasserman 『Principles of Exercise Testing and Interpretation: Including Pathophysiology and Clinical Applications』(Wolters Kluwer, 5 th Edition)
William D. McArdle 『Exercise Physiology: Nutrition, Energy, and Human Performance』(Wolters Kluwer, 8 th Edition)

参考文献

諏訪俊幸 『看護研究者・医療研究者のための系統的文献検索概説』(近畿病院図書室協議会、初版、2013年)

研究室/オフィスアワー

東棟4階研究室 水曜日 17:00～18:00

授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	ガイダンス： 特別研究の概要と目的、1年間の予定、留意事項など	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
2	先行研究論文の検索： 可能性のある研究テーマのリストアップ	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
3	文献データベースを用いた先行研究文献の検索	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
4	先行研究論文講読： 仮設定したテーマに関する研究の現状に関する情報入手	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
5	先行研究論文講読： 仮設定したテーマに関する研究の現状に関する情報入手	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
6	先行研究論文講読： 仮設定したテーマに関する研究の現状に関する情報入手	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	

7	先行研究論文講読： 仮設定したテーマに関する研究の現状に関する情報入手	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
8	先行研究論文講読： 仮設定したテーマに関する研究の現状に関する情報入手	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
9	先行研究論文講読： 仮設定したテーマに関する研究の現状に関する情報入手	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
10	研究テーマの決定： 先行研究の現状と実行可能性を踏まえて研究テーマ決定	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
11	先行研究レビュー： 当該領域の研究レビューを作成	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
12	先行研究レビュー： 当該領域の研究レビューを作成	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
13	先行研究レビュー： 当該領域の研究レビューを作成	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
14	先行研究レビュー： 当該領域の研究レビューを作成	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
15	リサーチ・クエスチョン、 研究テーマのリサーチ・クエスチョンの明確化	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
16	研究デザイン： リサーチ・クエスチョンに適合した研究デザイン の決定とその根拠の考察	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
17	研究計画の立案： 研究計画書(プロトコル)の立案と執筆	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
18	研究計画の立案： 研究計画書(プロトコル)の立案と執筆	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
19	研究計画の立案： 研究計画書(プロトコル)の立案と執筆	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
20	研究計画の立案： 研究計画書(プロトコル)の立案と執筆	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
21	倫理審査申請： 研究倫理審査の申請書作成と提出	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
22	倫理審査申請： 研究倫理審査の申請書作成と提出	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
23	倫理審査申請： 研究倫理審査の申請書作成と提出	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
24	予備研究： 予備研究の実施と問題点の抽出・分析	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
25	予備研究： 予備研究の実施と問題点の抽出・分析	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
26	予備研究： 予備研究の実施と問題点の抽出・分析	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
27	予備研究： 予備研究の実施と問題点の抽出・分析	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
28	発表準備： プロトコル発表会のスライドおよび配布資料の作成	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
29	プロトコル発表： プロトコル発表会における発表と質疑応答	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
30	プロトコル修正： 発表会における質疑応答と問題点指摘を踏まえた研究計画の修正	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
成績評価方法と基準			割合
①文献検索、先行研究レビュー、および研究論文の理解度			①30%
②リサーチ・クエスチョン、プロトコル、および倫理審査申請書の作成能力			②30%
③プロトコル発表会のスライドと資料、発表の技法と内容、および質疑応答時の発言内容			③40%
上記の①～③で総合的に評価する。			

後期特別研究Ⅰ(医療科学専攻:前川・山下)			
授業科目名	前川 佳敬	担当教員	前川 佳敬、山下 仁
主担当教員	SR004	専門科目	テロロポロジー 該当項目
科目ナンバリング	1	科目区分	前期(月曜1限)、 後期(月曜1限)
配当年次	演習	開講学期	曜日・時限
授業形態	4	単位数	必修・選択
授業概要	<p>後期特別研究は、1~3年次まで継続される学位論文作成に直接関わる科目であり、各指導教員の研究テーマにそって研究のすべての過程を遂行する。後期特別研究Ⅰでは、テーマの設定、先行研究レビュー、研究計画立案、研究倫理審査申請、およびプロトコル発表を行わせる。</p> <p>現代の医療システムに導入するにあたって耳鼻咽喉科領域の鍼灸治療について、有効性または安全性の臨床的エビデンスを検証する。具体的には以下のテーマを設定し、Evidence-Based Medicine (EBM) の概念に即ってランダム化比較試験、メタアナリシス、またはprospectiveな観察研究を行う。</p> <p>1. 鍼灸に関する既存の技法または新しく開発した技法の臨床応用可能性の検証 2. 鍼灸の臨床試験における適切な対照群の開発と検証 3. 鍼灸の適性、副作用の情報収集・解析、フィードバックシステムの開発と検証</p> <p>テーマを決定したら、先行研究レビュー、研究計画立案、研究倫理審査申請、およびプロトコル発表をさせる。</p>		
到達目標	<p>1. 研究テーマに関する国内外の先行研究について検索、入手、通読し、それらの詳細を理解している。 2. リサーチ・クエスチョンが明確であり、先行研究を踏まえて研究計画を立案することができる。 3. 自分の計画した研究のオリジナリティと限界を理解しており、それを説明することができる。 4. 倫理的な配慮を理解し、研究倫理審査委員会に提出する書類を作成できる。 5. 研究プロトコルに関する必要なスライドと配布資料を作成でき、それらを用いた発表と質疑応答ができる。</p> <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>研究室において論文・資料・コンピュータ等を通用して個別指導する。まずは自発的な発想と行動にもとづいて作成した原案を提出させ、それを討論と示唆により修正させるプロセスを反復する。 必要な先行論文は早期にすべて検索・入手して分類し、不明な用語・概念・手法については事前に調べておくこと。授業前・中・後に生じたアイデアや、資料、行動、討論、指導の内容も含め、すべてをラボノートに記録すること。</p>		
教科書	論文、記事、関連資料を適宜配布する。		
参考文献	<p>舘訪俊幸「看護研究者・医療研究者のための系統的文献検索概説」(近畿病院図書協議会、初版、2013年) MacPherson H, Hammerschlag R, Lewth G, Schnyer R (Edit.) 「Acupuncture Research ? Strategies for Establishing an Evidence Base」(Churchill Livingstone, 1st Edition, 2007年) Leung SW, Hu H (Edit.) 「Evidence-based Research Methods for Chinese Medicine」(Springer, 1st Edition, 2016年) 日中共同編集「鍼灸学臨床編」(東洋学術出版社、初版、1991年) 標準耳鼻咽喉科・頭頸部外科学 (医学書院、初版1983年)</p>		
研究室/オフィスアワー	東棟4階研究室9 昼休み随時相談		
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	ガイダンス； 特別研究の概要と目的、1年間の予定、留意事項など	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
2	耳鼻咽喉科疾患の設定； 可能性のある研究テーマのリストアップ		
3	先行研究論文の検索； 文献データベースを用いた先行研究文献の検索		
4	先行研究論文の検索； 文献データベースを用いた先行研究文献の検索		
5	先行研究論文講読； 仮設定したテーマに関する研究の現状に関する情報入手		

6	先行研究論文講読； 仮設定したテーマに関する研究の現状に関する情報入手		
7	先行研究論文講読； 仮設定したテーマに関する研究の現状に関する情報入手		
8	研究テーマの決定； 先行研究の現状と実行可能性を踏まえて研究テーマ決定		
9	研究テーマの決定； 先行研究の現状と実行可能性を踏まえて研究テーマ決定		
10	先行研究レビュー； 当該領域の研究レビューを作成		
11	先行研究レビュー； 当該領域の研究レビューを作成		
12	リサーチ・クエスチョン； 研究テーマのリサーチ・クエスチョンの明確化		
13	リサーチ・クエスチョン； 研究テーマのリサーチ・クエスチョンの明確化		
14	リサーチ・クエスチョン； 研究テーマのリサーチ・クエスチョンの明確化		
15	研究デザイン； リサーチ・クエスチョンに適合した研究デザイン		
16	研究デザイン； リサーチ・クエスチョンに適合した研究デザイン		
17	研究デザイン； リサーチ・クエスチョンに適合した研究デザイン		
18	研究計画の立案； 研究計画書(プロトコル)の立案と執筆		
19	研究計画の立案； 研究計画書(プロトコル)の立案と執筆		
20	研究計画の立案； 研究計画書(プロトコル)の立案と執筆		
21	倫理審査申請； 研究倫理審査の申請書作成と提出		
22	予備研究； 予備研究の実施と問題点の抽出・分析		
23	予備研究； 予備研究の実施と問題点の抽出・分析		
24	予備研究； 予備研究の実施と問題点の抽出・分析		
25	発表準備； プロトコル発表会のスライドおよび配布資料の作成		
26	発表準備； プロトコル発表会のスライドおよび配布資料の作成		
27	発表準備； プロトコル発表会のスライドおよび配布資料の作成		
28	プロトコル発表； プロトコル発表会における発表と質疑応答		
29	発表会における質疑応答と問題点指摘を踏まえた研究計画の修正		
30	最終報告； 最終修正してきた研究をリスト化する		
成績評価方法と基準			
①文献検索、先行研究レビュー、および研究論文の理解度 ②リサーチ・クエスチョン、プロトコル、および倫理審査申請書の作成能力 ③プロトコル発表会のスライドと資料、発表の技法と内容、および質疑応答時の発言内容 上記の①~③で総合的に評価する。			
割合			
①30% ②80% ③40%			

授業科目名		後期特別研究Ⅱ(医療科学専攻:青木・村上)	
主担当教員	青木 元邦	担当教員	青木 元邦、村上 生美
科目ナンバリング	SR005	科目区分	ディプロマポリシー 該当項目
配当年次	2	開講学期	前期 後期(金曜 5 限)、 後期(金曜 5 限)
授業形態	演習	単位数	4 必修・選択 必修
授業概要 後期特別研究は、1～3 年次まで継続される学位論文作成に直接関わる科目であり、各指導教員の研究テーマにそって研究のすべての過程を遂行する。後期特別研究Ⅱではデータ収集、解析、結果の解釈、論文執筆、学術雑誌への投稿、および中間報告会発表を行わせる。			
生体内での主たる高血圧調節機構であるレニン-アンジオテンシン系と骨・軟骨代謝(分化、細胞死)との関連について検証する。後期特別研究Ⅰを踏まえて作成したプロトコールにもとづきデータ収集、解析、結果の解釈を行い、論文を執筆して投稿するとともに中間報告会で成果を発表させる。			
到達目標 1. 研究計画と研究倫理規範にもとづいて適正なデータ収集、解析、および結果の解釈ができる。 2. 結果の解釈について、先行研究や関連文献を踏まえた深い考察ができる。 3. 研究の背景、目的、方法、結果、考察、および結論について論理的かつ明快に文章化できる。 4. 研究の概要と結果に関する必要なスライドと配布資料が作成でき、それらを用いた発表と質疑応答ができる。 5. 専門領域の学術雑誌(査読付き)に論文を投稿するまでの一連の作業ができる。			
履修上の注意(学生へのメッセージ) 研究室主には臨床現場において実験にデータ収集を行い、収集されたデータの処理と解釈について個別指導する。データと関連文献をもとに文書を作成させ、それを討論と修正指導によりブラッシュアップする。データはすべてをラボノートに記録し、必要に応じ仮説の修正を随時行うこと。			
教科書 論文、記事、関連資料を適宜配布する。			
参考書 Bruce Alberts 「Essential Cell Biology」(Garland Science, 4th Edition)			
研究室/オフィスアワー			
随時			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	データ収集: 実験プロトコールにもとづきデータ収集	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
2	データ収集: 実験プロトコールにもとづきデータ収集	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
3	データ収集: 実験プロトコールにもとづきデータ収集	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
4	実験プロトコールにもとづきデータ収集	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
5	データ収集: 実験プロトコールにもとづきデータ収集	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
6	データ収集: 実験プロトコールにもとづきデータ収集	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
7	データ収集: 実験プロトコールにもとづきデータ収集	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
8	データ収集: 実験プロトコールにもとづきデータ収集	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
9	データ収集: 実験プロトコールにもとづきデータ収集	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
10	データ収集: 実験プロトコールにもとづきデータ収集	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
11	データ収集: 実験プロトコールにもとづきデータ収集	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	

12	データ収集: 実験プロトコールにもとづきデータ収集	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
13	データ解析・解釈: 収集したデータの統計学的解析とその解釈	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
14	データ解析・解釈: 収集したデータの統計学的解析とその解釈	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
15	データ解析・解釈: 収集したデータの統計学的解析とその解釈	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
16	結果の考察: 先行研究と関連文献を参考に結果を考察	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
17	結果の考察: 先行研究と関連文献を参考に結果を考察	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
18	投稿論文の執筆: 学術雑誌に投稿する論文を作成	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
19	投稿論文の執筆: 学術雑誌に投稿する論文を作成	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
20	投稿論文の執筆: 学術雑誌に投稿する論文を作成	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
21	投稿論文の執筆: 学術雑誌に投稿する論文を作成	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
22	投稿論文の執筆: 学術雑誌に投稿する論文を作成	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
23	投稿論文の推敲: 投稿論文に関する討論と推敲	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
24	投稿論文の推敲: 投稿論文に関する討論と推敲	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
25	投稿論文の推敲: 投稿論文に関する討論と推敲	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
26	投稿論文の推敲: 投稿論文に関する討論と推敲	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
27	中間報告会準備: 中間報告会のスライドおよび配布資料の作成	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
28	中間報告会準備: 中間報告会のスライドおよび配布資料の作成	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
29	中間報告会: 中間報告会における発表と質疑応答	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
30	投稿論文の完成・投稿: 発表会における質疑応答と問題点指摘を踏まえた投稿論文の修正と学術雑誌への投稿	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
成績評価方法と基準			
①データ収集、統計解析、および結果解釈の完成度 ②先行研究と関連論文を踏まえた考察、論理的かつ明快な論文執筆、および図表の作成能力 ③中間報告会のスライドと資料、発表の技法と内容、質疑応答時の発言内容、および中間報告会を踏まえた投稿論文の修正能力 上記の①～③で総合的に評価する。			
割合 ①30% ②30% ③40%			

後期特別研究Ⅱ(医療科学専攻:村上・吉村)			
授業科目名	村上 生美	担当教員	村上 生美、吉村 弥須子
主担当教員	SR005	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目
科目ナンバリング	2	科目区分	前期(金曜5限)、 後期(金曜5限)
配当年次	演習	開講学期	曜日・時限
授業形態	4	単位数	必修・選択
授業概要	<p>後期特別研究は、1～3年次まで継続される学位論文作成に直接関わる科目であり、各指導教員の研究テーマにそって研究のすべての過程を遂行する。後期特別研究Ⅱではデータ収集、解析、結果の解釈、論文執筆、学術雑誌への投稿、および中間報告会発表を行わせる。</p> <p>後期特別研究Ⅰにおいて検討した「看護領域のコミュニケーション」あるいは「看護技術の方法や効果」に関するリサーチ・ウェッジョン、研究デザイン、研究計画書、倫理申請書等に基づいて、データ収集、解析、結果の解釈を行い、中間発表会で一連のプロセスを発表し、論文としてまとめ投稿する。</p>		
到達目標	<p>1. 研究計画と研究倫理規範にもとづいて適正なデータ収集、解析、および結果の解釈ができる。</p> <p>2. 結果の解釈について、先行研究や関連文献を踏まえた深い考察ができる。</p> <p>3. 研究の背景、目的、方法、結果、考察、および結論について論理的かつ明快に文章化できる。</p> <p>4. 研究の概要と結果に関する必要なスライドと配布資料が作成でき、それらを用いた発表と質疑応答ができる。</p> <p>5. 専門領域の学術雑誌(査読付き)に論文を投稿するまでの一連の作業ができる。</p>		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	<p>後期特別研究Ⅰと密接に連絡するので、その内容を充分にフィードバックしておくこと。</p> <p>データの取り扱いは倫理申請書に認められたように厳重にすること。</p> <p>常にリサーチ・ウェッジョンに立ち戻り、看護の対象者にとっての意味を考えること。</p> <p>データと関連文書をもとに文章を作成し、教員の指導の下にブラッシュアップする。</p> <p>投稿予定の学術雑誌の投稿規定をよく把握しておくこと。</p> <p>一連の過程は全てラボノートに整理しておくこと。</p>		
教科書			
論文、記事、関連資料を適宜配布する。			
参考書			
文献や関連書籍は授業において紹介する。			
研究室/オフィスアワー			
随時			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	データ収集: 研究計画に基づきデータを収集する。		
2	データ収集: 研究計画に基づきデータを収集する。		
3	データ収集: 研究計画に基づきデータを収集する。		
4	データ収集: 研究計画に基づきデータを収集する。		
5	データ収集: 研究計画に基づきデータを収集する。		
6	データ収集: 研究計画に基づきデータを収集する。		
7	データ収集: 研究計画に基づきデータを収集する。		
8	データ収集: 研究計画に基づきデータを収集する。		
9	データ収集: 研究計画に基づきデータを収集する。		

10	データ収集: 研究計画に基づきデータを収集する。		
11	データ収集: 研究計画に基づきデータを収集する。		
12	データ収集: 研究計画に基づきデータを収集する。		
13	データの解釈: 収集したデータの統計学的解析とその解釈。		
14	データの解釈: 収集したデータの統計学的解析とその解釈。		
15	データの解釈: 収集したデータの統計学的解析とその解釈。		
16	結果の考察: 先行研究と関連文献を照らし結果を考察する。		
17	結果の考察: 先行研究と関連文献を照らし結果を考察する。		
18	投稿論文の執筆: 学術雑誌に投稿する論文を作成する。		
19	投稿論文の執筆: 学術雑誌に投稿する論文を作成する。		
20	投稿論文の執筆: 学術雑誌に投稿する論文を作成する。		
21	投稿論文の執筆: 学術雑誌に投稿する論文を作成する。		
22	投稿論文の執筆: 学術雑誌に投稿する論文を作成する。		
23	投稿論文の推敲: 投稿論文に対する討論とブラッシュアップ。		
24	投稿論文の推敲: 投稿論文に対する討論とブラッシュアップ。		
25	投稿論文の推敲: 投稿論文に対する討論とブラッシュアップ。		
26	中間発表会の準備: 中間発表会のスライド・資料を作成し発表に備える。		
27	中間発表会の準備: 中間発表会のスライド・資料を作成し発表に備える。		
28	中間発表会の準備: 中間発表会のスライド・資料を作成し発表に備える。		
29	中間発表会の準備: 中間発表会のスライド・資料を作成し発表に備える。		
30	中間発表会の準備: 中間発表会のスライド・資料を作成し発表に備える。		
成績評価方法と基準			
割合			
①データ収集、統計解析、および結果解釈の完成度			
②先行研究と関連論文を踏まえた考察、論理的かつ明快な論文執筆、および図表の作成能力			
③中間報告会のスライドと資料、発表の技法と内容、質疑応答時の発言内容、および中間報告会を踏まえた投稿論文の修正能力			
上記の①～③で総合的に評価する。			

授業科目名		後期特別研究Ⅱ(医療科学専攻:青木・山下)	
主担当教員	青木 元邦	担当教員	青木 元邦、山下 仁
科目ナンバリング	SR005	科目区分	専門科目 該当項目
配当年次	2	開講学期	前期 曜日・時限 前期(金曜 5 限)、 後期(金曜 5 限)
授業形態	演習	単位数	4 必修・選択 必修
授業概要			
後期特別研究は、1~3 年次まで継続される学位論文作成に直接関わる科目であり、各指導教員の研究テーマにそって研究のすべての過程を遂行する。後期特別研究Ⅱでは、データ収集、解析、結果の解釈、論文執筆、学術雑誌への投稿、および中間報告会発表を行わせる。			
生体内での主たる高血圧調節機構であるレニン-アンジオテンシン系と骨・軟骨代謝(分化、細胞死)との関連について検証する。後期特別研究Ⅰを踏まえて作成したプロトコールにもとづきデータ収集、解析、結果の解釈を行い、論文を執筆して投稿するとともに中間報告会で成果を発表させる。			
到達目標			
1. 研究計画と研究倫理規範にもとづいて適正なデータ収集、解析、および結果の解釈ができる。 2. 結果の解釈について、先行研究や関連文献を踏まえた深い考察ができる。 3. 研究の背景、目的、方法、結果、考察、および結論について論理的かつ明快に文章化できる。 4. 研究の概要と結果に関する必要なスライドと配布資料が作成でき、それらを用いた発表と質疑応答ができる。 5. 専門領域の学術雑誌(査読付き)に論文を投稿するまでの一連の作業ができる。			
履修上の注意(学生へのメッセージ)			
研究室主には臨床現場において実際にデータ収集を行い、収集されたデータの処理と解釈について個別指導する。データと関連文献をもとに文章を作成させ、それを討論と修正指導によりブラッシュアップする。データはすべてをラボノートに記録し、必要に応じ仮説の修正を随時行うこと。			
教科書			
論文、記事、関連資料を適宜配布する。			
参考書			
Bruce Alberts 「Essential Cell Biology」 (Garland Science, 4th Edition)			
研究室/オフィスアワー			
随時			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	データ収集: 実験プロトコールにもとづきデータ収集		
2	データ収集: 実験プロトコールにもとづきデータ収集		
3	データ収集: 実験プロトコールにもとづきデータ収集		
4	データ収集: 実験プロトコールにもとづきデータ収集		
5	データ収集: 実験プロトコールにもとづきデータ収集		
6	データ収集: 実験プロトコールにもとづきデータ収集		
7	データ収集: 実験プロトコールにもとづきデータ収集		
8	データ収集: 実験プロトコールにもとづきデータ収集		
9	データ収集: 実験プロトコールにもとづきデータ収集		
10	データ収集: 実験プロトコールにもとづきデータ収集		
11	データ収集: 実験プロトコールにもとづきデータ収集		

12	データ収集: 実験プロトコールにもとづきデータ収集		
13	データ解析・解釈: 収集したデータの統計学的解釈とその解釈		
14	データ解析・解釈: 収集したデータの統計学的解釈とその解釈		
15	データ解析・解釈: 収集したデータの統計学的解釈とその解釈		
16	結果の考察: 先行研究と関連文献を参考に結果を考察		
17	結果の考察: 先行研究と関連文献を参考に結果を考察		
18	投稿論文の執筆: 学術雑誌に投稿する論文を作成		
19	投稿論文の執筆: 学術雑誌に投稿する論文を作成		
20	投稿論文の執筆: 学術雑誌に投稿する論文を作成		
21	投稿論文の執筆: 学術雑誌に投稿する論文を作成		
22	投稿論文の執筆: 学術雑誌に投稿する論文を作成		
23	投稿論文の執筆: 投稿論文に関する討論と推敲		
24	投稿論文の執筆: 投稿論文に関する討論と推敲		
25	投稿論文の執筆: 投稿論文に関する討論と推敲		
26	投稿論文の執筆: 投稿論文に関する討論と推敲		
27	中間報告会準備: 中間報告会のスライドおよび配布資料の作成		
28	中間報告会準備: 中間報告会のスライドおよび配布資料の作成		
29	中間報告会: 中間報告会における発表と質疑応答		
30	投稿論文の完成・投稿: 発表会における質疑応答と問題点指摘を踏まえた投稿論文の修正と学術雑誌への投稿		
成績評価方法と基準			
割合			
①データ収集、統計解析、および結果解釈の完成度			
②先行研究と関連論文を踏まえた考察、論理的かつ明快な論文執筆、および図表の作成能力			
③中間報告会のスライドと資料、発表の技法と内容、質疑応答時の発言内容、および中間報告会を踏まえた投稿論文の修正能力			
①~③で総合的に判断する。			

後期特別研究Ⅱ(医療科学専攻:前川・山下)																																							
授業科目名	前川 佳敬	担当教員	前川 佳敬、山下 仁																																				
主担当教員	SR005	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目																																				
科目ナンバリング	2	科目区分	前期(金曜5限)、 後期(金曜5限)																																				
配当年次	演習	開講学期	曜日・時限																																				
授業形態	4	単位数	必修・選択																																				
授業概要	<p>後期特別研究は、1～3年次まで継続される学位論文作成に直接関わる科目であり、各指導教員の研究テーマにそって研究のすべての過程を遂行する。後期特別研究Ⅱではデータ収集、解析、結果の解釈、論文執筆、学術雑誌への投稿、および中間報告会発表を行わせる。</p> <p>現代の医療システムに導入するにあたって必要な分子形態検査の有効性または安全性の臨床的エビデンスを検証する。具体的には、後期特別研究Ⅰを踏まえて修正した研究計画に基づきデータ収集、解析、結果の解釈を行い、論文を執筆して投稿するとともに中間報告会で成果を発表させる。</p>																																						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究計画と研究倫理規範にもとづいて適正なデータ収集、解析、および結果の解釈ができる。 2. 結果の解釈について、先行研究や関連文献を踏まえた深い考察ができる。 3. 研究の背景、目的、方法、結果、考察、および結論について論理的かつ明快地文章化できる。 4. 研究の背景と結果に関する必要なスライドと配布資料を作成でき、それらを用いた発表と質疑応答ができる。 5. 専門領域の学術雑誌(査読付き)に論文を投稿するまでの一連の作業ができる。 																																						
履修上の注意(学生へのメッセージ)	<p>研究室または臨床現場において実際にデータ収集を行い、収集されたデータの処理と解釈について個別指導する。データと関連文献をもとに文章を作成させ、それを討論と修正指導によりブラッシュアップする。</p> <p>必要な関連文献はすべて事前に検索・入手して通読し、授業前・中・後に生じた研究作業、変更内容、気づき、疑問、考察などは指導の内容も含め、すべてをラボノートに記録すること。</p>																																						
教科書	<p>Henry's Clinical Diagnosis & Management by Laboratory Methods, 23rd ed. R. A. McPherson, M. R. Pincus SAUNDERS 2017年</p>																																						
参考書	<p>Braunwald's Heart Disease: A Textbook of Cardiovascular Medicine, Single Volume, 10e Hypertension: A Companion to Braunwald's Heart Disease, 3e</p>																																						
研究室/オフィスアワー	研究室8																																						
授業展開及び授業計画表	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>学修内容</th> <th>予習・復習・課題等</th> <th>担当</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>データ収集: 研究計画にもとづきデータ収集</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>データ収集: 研究計画にもとづきデータ収集</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>データ収集: 研究計画にもとづきデータ収集</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>データ収集: 研究計画にもとづきデータ収集</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>データ収集: 研究計画にもとづきデータ収集</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>データ収集: 研究計画にもとづきデータ収集</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>データ収集: 研究計画にもとづきデータ収集</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>データ収集: 研究計画にもとづきデータ収集</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当	1	データ収集: 研究計画にもとづきデータ収集			2	データ収集: 研究計画にもとづきデータ収集			3	データ収集: 研究計画にもとづきデータ収集			4	データ収集: 研究計画にもとづきデータ収集			5	データ収集: 研究計画にもとづきデータ収集			6	データ収集: 研究計画にもとづきデータ収集			7	データ収集: 研究計画にもとづきデータ収集			8	データ収集: 研究計画にもとづきデータ収集		
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当																																				
1	データ収集: 研究計画にもとづきデータ収集																																						
2	データ収集: 研究計画にもとづきデータ収集																																						
3	データ収集: 研究計画にもとづきデータ収集																																						
4	データ収集: 研究計画にもとづきデータ収集																																						
5	データ収集: 研究計画にもとづきデータ収集																																						
6	データ収集: 研究計画にもとづきデータ収集																																						
7	データ収集: 研究計画にもとづきデータ収集																																						
8	データ収集: 研究計画にもとづきデータ収集																																						

9	データ収集: 研究計画にもとづきデータ収集		
10	データ収集: 研究計画にもとづきデータ収集		
11	データ収集: 研究計画にもとづきデータ収集		
12	データ収集: 研究計画にもとづきデータ収集		
13	データ解析・解釈: 収集したデータの統計学的解析とその解釈		
14	データ解析・解釈: 収集したデータの統計学的解析とその解釈		
15	データ解析・解釈: 収集したデータの統計学的解析とその解釈		
16	結果の考察: 先行研究と関連文献を参考に結果を考察		
17	結果の考察: 先行研究と関連文献を参考に結果を考察		
18	投稿論文の執筆: 学術雑誌に投稿する論文を作成		
19	投稿論文の執筆: 学術雑誌に投稿する論文を作成		
20	投稿論文の執筆: 学術雑誌に投稿する論文を作成		
21	投稿論文の執筆: 学術雑誌に投稿する論文を作成		
22	投稿論文の執筆: 学術雑誌に投稿する論文を作成		
23	投稿論文の推敲: 投稿論文に関する討論と推敲		
24	投稿論文の推敲: 投稿論文に関する討論と推敲		
25	投稿論文の推敲: 投稿論文に関する討論と推敲		
26	投稿論文の推敲: 投稿論文に関する討論と推敲		
27	中間報告会準備: 中間報告会のスライドおよび配布資料の作成		
28	中間報告会準備: 中間報告会のスライドおよび配布資料の作成		
29	中間報告会: 投稿論文の完成・投稿: 発表会における質疑応答と問題点指摘を踏まえた投稿論文の修正と学術雑誌への投稿		
30	中間報告会: 投稿論文の完成・投稿: 発表会における質疑応答と問題点指摘を踏まえた投稿論文の修正と学術雑誌への投稿		
成績評価方法と基準			
割合			
①データ収集、統計解析、および結果解釈の完成度			
②先行研究と関連論文を踏まえた考察、論理的かつ明快的な論文執筆、および図表の作成能力			
③中間報告会のスライドと資料、発表の技法と内容、質疑応答時の発言内容、および中間報告会を踏まえた投稿論文の修正能力			
上記の①～③で総合的に評価する。			

助産学専攻科
(2019 年度 入学生カリキュラム)

授業科目名		助産学総論(助産) (General Midwifery)	
主担当教員	中西 伸子	担当教員	中西 伸子
科目ナンバリング	BIM001	科目区分	ディプロマポリシー 該当項目 DP①②③④
配当年次	1	開講学期	曜日・時限 水曜 5限
授業形態	講義	単位数	必修・選択 1
授業概要	助産の基本概念と理論、助産の歴史と変遷、助産学教育や動向など助産の課題と方向性について理解を深める。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 助産の概念について理解する。 2. 助産の歴史や変遷を理解する。 3. 助産ケアの理論的根拠を説明できる。 4. 周産期の生命倫理について説明できる。 5. 女性の権利と尊厳について説明できる。 6. 日本における助産と周産期医療の今後の課題を考察できる。 		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	助産学の基礎知識を学び、専門職者としての助産師の在り方を考察する一助とする。		
教科書	助産師基礎教育テキスト2019版 第1巻 助産概論 日本看護協会出版 出生と死をめぐる生命倫理 医学書院 2019年出題基準別助産師国家試験問題 メディカ出版		
参考書	助産概論 助産学講座1 基礎助産学 医学書院 助産実践能力育成のための教育プログラム 新版助産師業務要覧 第3版 基礎編 新版助産師業務要覧 第3版 実践編 新版助産師業務要覧 第3版 アドバンス編 日本産婦人科学会編(2017)産婦人科診療ガイドライン-妊娠期・分娩期 2016 日本助産学会 エビデンスに基づく助産ガイドライン-妊娠期・分娩期		
研究室/オフィスアワー	適宜、質問・相談に応じます。		
授業展開及び授業計画表	授業展開及び授業計画表		
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	助産の概念について	教科書第1章を読んでおくこと。 「ICM 基本的助産業務に必要な能力」を読み7つ能力を理解する。	中西
2	助産診断について理解する	看護診断・医師診断・助産診断の違いを予習しておく	中西
3	助産の歴史	助産の歴史を理解し、先人の助産について予習しておく。助産の基本概念や助産ケアを理解する。	中西
4	助産ケアの根拠と理論および周産期の倫理	助産ケア対象に関する基本的な3つの理論について調べておくこと。 助産師教育、助産の研究の動向を理解する。女性の意思決定を支える仕組みとケアを理解する。	中西
5	日本における周産期医療と産婦の思い	日本における周産期医療の現状を把握し、助産師が行うケアの理念について理解し、説明できる。	中西
6	日本における周産期医療の今後の課題	ICM「助産師の国際倫理綱領」、助産師声明による「助産師の倫理綱領」を読んでおくこと。 助産実践のための倫理や、助産師制度の変遷と法制化の動きを理解し、日本の周産期医療の今後について考える。	中西

7	日本におけるお産と文化	時代背景に伴う母子保健や助産のありかたについて学修しておくこと。	中西
8	助産師会の役割と活動	キャリアパスを描き、周産期医療における今後の展望、助産師の業務改善と今後の課題について考えておくこと。 周産期医療における今後の展望を考察する。	中西
成績評価方法と基準			割合
①レポート			①50%
②フレゼンテーション能力			②20%
③質疑応答への参加			③20%
④出席 4/5 以上・態度 (提出物の評価を含む)			④10%

授業科目名 周産期医学論(助産) (Perinatal Medicine)			
主担当教員	木田 岩男	担当教員	木田 岩男、前川 佳敬
科目ナンバリング	BM002	科目区分	基礎助産学 ディプロマポリシー 該当項目
配当年次	1	開講学期	前期 火曜 3限 水曜 4限
授業形態	講義	単位数	2 必修・選択 必修
授業概要			
妊娠・分娩・産褥といった周産期の理解に必要な医学的知識を習得する。具体的には、女性生殖器の構造と機能(生殖機能・内分泌機能)、妊娠の機序、妊娠に起因する疾患など、助産診断の基礎となる周産期の解剖・生理・病理・病態について習得する。また、産科検査、治療(手術や産科的医療処置)、産科危機や出血ガイドラインについても学ぶ。			
到達目標			
周産期におけるケアや助産診断、産科危機対応を学ぶ上で必要となってくる。妊娠・分娩・産褥にまつわる解剖・生理・病理・病態等、基本的医学知識を習得する。			
履修上の注意(学生へのメッセージ)			
受講にあたって、解剖生理学(女性生殖器)・母性看護学で学んだ内容の復習をしておいて下さい。			
教科書			
病気が見える(婦人科・乳腺外科):メディックメディア 病気が見える(産科):メディックメディア			
参考書			
特になし。			
研究室/オフィスアワー			
木田:西棟233研究室/月曜5限 前川:G棟研究室8/部屋にいればいつでも訪問可です。質問等はいつでも自由にとどうぞ。			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	女性生殖器の解剖生理	テキストを一読しておく。	
2	性分化と染色体異常		
3	性感染症		
4	女性生殖器の類腫瘍性病変・前置病変・腫瘍		
5	婦人科一般診察		
6	出生前診断と人工妊娠中絶		
7	不妊症とその各種検査及び治療		
8	妊娠の成立と着床		
9	産科DIC		
10	妊娠高血圧症候群		
11	子癇、HELLP症候群		
12	糖代謝異常妊娠		
13	合併症妊娠①		
14	合併症妊娠②		
15	母子感染症と胎児及び新生児へのリスク		

成績評価方法と基準		割合
①筆記試験(100点満点で、60点以上を合格とする。)		①100%

女性健康学総論(助産)			
授業科目名	担当教員	科目区分	担当教員
主担当教員	中西 伸子		中西 伸子、山下 仁、大平 純子
科目ナンバリング	BM003	基礎助産学	ディプロマポリシー 該当項目
配当年次	1	開講学期	金曜 1限 金曜 2限
授業形態	講義	単位数	必修・選択 必修
授業概要			
女性の健康の概念と歴史的背景を理解し、女性の各ライフサイクルにおける健康課題に対する支援の方略を修得する。補完代替医療について理解し、女性のヘルスプロモーション、助産ケアの中に取り入れることの有効性について学ぶ。			
到達目標			
①女性の健康に関する国内外の歴史的背景と女性の健康の概念が理解できる。			
②女性の健康問題の特徴をとらえ、課題を明確化できる。			
③代替補完医療を用いた女性の健康支援の有効性を学修する。			
履修上の注意(学生へのメッセージ)			
助産師は周産期だけでなく、女性の一生に関わることが必要とされています。各ライフサイクルの健康課題をしっかりと学びましょう。			
教科書			
助産師基礎教育テキスト2019版 女性の健康とケア 日本看護協会出版会			
助産学講座3 基礎助産学3 母子の健康科学第5版			
助産学講座5 基礎助産学5 母子の健康科学第5版			
参考書			
出生前診断 朝日新書			
卵子老化の真実 文春新書			
研究室/オフィスアワー			
研究室 238 にいます。通時、質問・相談に応じます。			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	女性の身体の仕組みと健康	女性の身体の生理的・解剖学的特徴について復習しておく。	中西伸子
2	女性の身体の仕組みと健康	女性の一生におけるホルモン変動と症状について復習しておく。	中西伸子
3	ライフサイクルにおける女性の健康課題とヘルスプロモーション	ライフサイクル各期の健康課題について復習・予習しておく。	中西伸子
4	ライフサイクルにおける女性の健康課題とヘルスプロモーション	ライフサイクル各期の健康課題について復習・予習しておく。	中西伸子
5	ライフサイクルにおける女性の健康課題とヘルスプロモーション	ライフサイクル各期の健康課題について復習・予習しておく。	中西伸子
6	女性と漢方		ゲストスピーカー
7	女性と漢方		ゲストスピーカー
8	補完代替医療のエビデンス	補完代替医療について調べてくる	山下 仁
9	補完代替医療のエビデンス	補完代替医療のリスクや事故の事例について調べてくる	山下 仁
10	補完代替医療の活用	学んだことを実践に行かせるよう復習しておく。	山下 仁
11	補完代替医療の活用	学んだことを実践に行かせるよう復習しておく。	山下 仁
12	東洋医学を取り入れた妊婦への支援(温熱療法)	陰陽五行説、臟腑・経絡説について資料を讀んでくる	大平純子
13	東洋医学を取り入れた妊婦への支援(温熱療法)	学んだことを実践に行かせるよう復習しておく。	大平純子
14	女性と漢方セルフメディケーション	女性健康支援に興味を持ったテーマについて学習し、プレゼンテーションする。	ゲストスピーカー
15	女性と漢方セルフメディケーション	女性健康支援に興味を持ったテーマについて学習し、プレゼンテーションする。	ゲストスピーカー

成績評価方法と基準	割合
①プレゼンテーション	①40%
②レポート	②40%
③出席 4/5以上(態度・質疑応答参加状況含む)	③20%

授業科目名	新生児診断・発達論(助産) (Neonatal Diagnosis and Development)		
主担当教員	望月 成隆	担当教員	望月 成隆
科目ナンバリング	BM004	科目区分	ディプロマポリシー 該当項目
配当年次	1	開講学期	曜日・時限
授業形態	講義	単位数	1
授業概要	胎産診断の基礎となる新生児と胎児の発達、生理さらにはハイリスク新生児の病態について学修する。胎内から胎外生活への移行期や移行後の助産診断に必要な形態機能学ならびに新生児の健康状態の診断、正常からの逸脱を識別するために必要な基礎的な知識(疾患と病態)について学修する。また、新生児医療の背景と胎児新生児学における倫理を学ぶ。		
到達目標	助産診断・技術学Ⅲと関連づいた新生児から乳児の助産診断に必要な基礎医学系科目である。当該科目で学修した知識を助産診断・技術学Ⅲ(新生児のフィジカルアセスメントと新生児助産診断)へ反映させ、助産学実習の助産診断に活用できる。		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	実習では出生直後から新生児に関わり、実際にケアをしていきます。NICUも実習に行きます。新生児の観察と助産診断が適切にできるよう、予習・復習を含め、講義に真剣に取り組んでください。		
教科書	新生児学入門 医学書院 助産学講座6 助産診断・技術学Ⅱー [3] 新生児期・乳幼児期 医学書院 2018		
参考書	出生と死をめぐる生命倫理 医学書院 NPCR2015 新生児蘇生法テキスト第3版 メヂカルビュー社 目で見える妊婦と出産 文光堂 研究室/オフィスアワー		
質問等はいつでも自由にとらうぞ。			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	新生児の発育・発達とその評価(胎児・新生児の発育、成熟度の判定)	胎児・新生児の成長・発育について予習・復習しておくこと。	望月成隆
2	新生児の診断(新生児の診断方法と新生児に特徴的な所見について)	新生児の特徴と診断方法について予習復習・しておくこと。	望月成隆
3	新生児の特徴と管理①(呼吸、体温調節、水・電解質バランス)	学んだ内容について復習し、理解を深めておくこと。	望月成隆
4	新生児の特徴と管理②(黄疸、感染症、血液系、免疫)	学んだ内容について復習し、理解を深めておくこと。	望月成隆
5	NICU入院時の管理、ハイリスク新生児の管理	学んだ内容について復習し、理解を深めておくこと。	望月成隆
6	新生児の様々な疾患の理解(先天性代謝疾患・血液系疾患・中枢系疾患)	学んだ疾患について復習し、理解を深めておくこと。	望月成隆
7	主要疾患の病態と管理	学んだ内容について復習し、理解を深めておくこと。	望月成隆
8	先天異常・新生児医療における生命倫理	学んだ内容を熟考し、自分の考えを持つこと	望月成隆
成績評価方法と基準	割合		
	①筆記試験(100点満点で、60点以上を合格とする。)		
	②出席率4/5以上		

授業科目名	ハイリスク母子支援論(助産) (Support for High-risk Mother and Child)		
主担当教員	中西 伸子	担当教員	中西 伸子
科目ナンバリング	PM005	科目区分	ディプロマポリシー 該当項目
配当年次	1	開講学期	曜日・時限
授業形態	講義	単位数	1
授業概要	周産期における母子の健康状態のアセスメントやリスクを評価するための知識を習得する。周産期に発症しやすい心身の異常を理解し、正常から逸脱した状態にある妊婦・分娩・産褥期にある女性と子ども、家族に必要な助産ケアを学ぶ。		
到達目標	社会的ハイリスク母子やその家族に対する助産師の役割と支援の必要性について理解できる。		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	周産期の健康逸脱、異常予測のヘルスアセスメントは重要です。正常な経過を維持するためにしっかりと学びましょう。さらに、産褥うつや児の虐待に至る、社会的リスクや家族の発達過程、母子の愛着形成などにも着目し、ハイリスク妊産婦とそその家族に対する助産師の役割を学びましょう。		
教科書	助産師基礎教育テキスト2019年版ハイリスク妊産婦・新生児へのケア日本看護協会出版会 目で見える妊婦と出産 文光堂 出生と死をめぐる生命倫理 医学書院		
参考書	NPCR2015 新生児蘇生法テキスト第3版 不妊治療を考えたら読む本 講談社 研究室/オフィスアワー 研究室は238です。質問・相談に応じます。		
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	周産期におけるハイリスクな女性と助産師の役割	周産期におけるハイリスク母子について学習しておく。	中西伸子
2	ハイリスク新生児と家族への支援	NICU入院児へのかわり方について予習しておく。	ゲストスピーカ
3	ハイリスク新生児と助産師のかわり	ハイリスク児へのかわり方について考えておく。	ゲストスピーカ
4	無痛分娩について		ゲストスピーカ
5	無痛分娩について		ゲストスピーカ
6	助産師のかわり		ゲストスピーカ
7	ハイリスク家族と虐待		中西伸子
8	里親制度の現状と課題	里親制度について予習しておく。	中西伸子
成績評価方法と基準	割合		
	①レポート		
	②出席率4/5以上(態度・質疑応答参加状況含む)		

授業科目名				ウイメンズヘルスとリプロダクティブケア(助産) (Women's Health and Reproductive Care)			
主担当教員	橋本 富子	担当教員	橋本 富子	科目	基礎助産学	DF①②③④	
科目ナンバリング	BM006	科目区分	基礎助産学	該当項目			
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時間	火曜 2限		
授業形態	講義	単位数	1	必修・選択	必修		
授業概要	<p>女性と次世代家族を総合的にとらえ、生涯の健康増進、00L(生命の質)、well-being(安寧)を目指すことを目的に、リプロダクティブ・ヘルス/ライツの視点からセクシャルヘルスの健康課題と支障の実態を学修する。受胎調節実施指導員の認定講習となる。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 女性の権利とリプロダクティブ・ヘルス/ライツについて学ぶことができる。 2. 家族計画と受胎調節の意義と目的について学ぶことができる。 3. 母体保護法、薬事法など関連法規を学び、受胎調節実施指導員の資格と業務について理解することができる。 4. 女性の健康課題である性感覚の動向とリプロダクティブ・ヘルスに及ぼす影響について学ぶことができる。 5. 各避妊法について学ぶことができる。 <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. この科目は受胎調節実施指導員認定講習である。認定講習は、「ウイメンズヘルスとリプロダクティブケア(土曜日補講を含む)」授業と助産学実習Ⅱで構成される。 2. 関連する母性看護学・形態機能学・臨床病態学を復習しておく。 3. リプロダクティブ・ヘルス/ライツの概念を深め、助産師としてのアイデンティティを培うこと。 <p>教科書</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 助産師基礎教育テキスト2017年度版 第2巻女性の健康とケア 日本看護協会出版会 2. 受胎調節実施指導員テキストー受胎調節実施講習会指導指針、一般社団法人日本家族計画協会、2016 <p>参考書</p> <ul style="list-style-type: none"> ・低用量ピル(経口避妊薬)とは一正しい理解を深めようピルのこと(改訂第6版)、一般社団法人日本家族計画協会、2016 ・「若者の性」白書 第7回行動全国調査報告 財団法人日本性教育協会編、小学館、2011 ・病気がみえる10 産科 メディックメテア ・病気がみえる9 婦人科 メディックメテア <教材・器具> ・受胎調節指導本(避妊用器材基本セット) 株式会社 京都科学 ・避妊指導キット 一般社団法人 日本家族計画協会 						
研究室/オフィスアワー	研究室内/オフィスアワー						
WP2F 237 研究室	随時可						
授業展開及び授業計画表							
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当				
1	性と生殖総論	母性看護学に関連する科目を復習しておく	以下、橋本が担当する。				
2	リプロダクティブ・ヘルス/ライツと日本の課題	前回授業の復習 教科書・参考書の予習(学習内容に関する現状を書籍・データ・記事などから確認しておく)					
3	性感覚の動向と関係法規	前回授業の復習 教科書・参考書の予習(学習内容に関する現状を書籍・データ・記事などから確認しておく)					
4	性感覚がリプロダクティブヘルスへ及ぼす影響	前回授業の復習 教科書・参考書の予習(学習内容に関する現状を書籍・データ・記事などから確認しておく)					
5	助産師の行う受胎調節の意義	助産師がリプロダクティブケアに関わる目的・意義を考えておく。 教科書・参考書の予習					
6	受胎調節と倫理	前回授業の復習 教科書・参考書の予習(学習内容に関する現状を書籍・データ・記事などから確認しておく)					
7	避妊法総論・各論	前回授業の復習 教科書・参考書の予習					
8	各種受胎調節のメリット・デメリット	前回授業の復習 教科書・参考書の予習					

成績評価方法と基準		割合
①この科目は、考查点で評価される。		①100%

授業科目名		分娩介助技術学演習(助産)	
主担当教員	西川 美樹	担当教員	西川 美樹・中西 伸子、青山 桂子 塚田 悠代
科目ナンバリング	PM001	科目区分	実践助産学
配当年次	1	開講学期	前期
授業形態	演習	単位数	2
授業概要	<p>分娩介助の原理原則を理解し、分娩介助者(直接介助および間接介助)の役割と基本的な介助技術を修得する。出生直後の児の観察に必要な助産技術を修得する。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 分娩介助の意義および原則を説明できる。 2. 分娩介助における助産師の役割を説明できる。 3. 分娩介助技術の基本を修得できる。 4. 出生直後の新生児のケアに必要な技術を修得できる。 5. 早期母子接触に必要な技術を修得できる。 <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>自発的に分娩介助技術のトレーニングを積み、技術の修得に努めること。</p> <p>技術演習に関して、学生が演習室の使用および準備から終了まで主体的に運用すること。</p>		
教科書	<p>助産師教育テキスト 第5巻 分娩期の診断とケア 日本看護協会出版会</p> <p>助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ [2]分娩期・産褥期 医学書院</p> <p>分娩介助学 第2版 進純郎 医学書院</p> <p>今日の助産 マタニティサイケルの助産診断・実践過程 改訂第4版 南江堂</p> <p>産婦人科診療ガイドライン 産科編2017 日本産婦人科学会/日本産婦人科医学</p>		
参考書	<p>エビデンスに基づく助産ガイドライン-妊娠期・分娩期 2016 日本助産学会</p> <p>目でみる妊娠と出産 馬場一憲 文光堂</p> <p>助産師のためのファンクショナルガミミネーション 第2版 我那山キヨ子/大石晴子 医学書院</p> <p>写真でわかる助産技術アドバンス 平瀬美穂子 村上藤子・インタメーデンカ</p> <p>新生児ベネンツクケア 家族中心のケア理念をもとに 榎尾京子 医学書院</p> <p>※授業内で随時資料を配布します。</p>		
研究室/オフィスアワー	研究室/オフィスアワー		
授業展開及び授業計画表	研究室/132 オフィスアワー/適宜		
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	分娩介助の意義 映像でイメージする分娩介助	予習：母性看護学で学んだ正常分娩経過を復習し、授業に臨むこと。 復習：授業内容の確認。	西川
2	【演習】分娩介助技術の修得に向けて 演習室オリエンテーション、ガイダンス	予習：分娩介助手順書を熟読し、必要な箇所は自己学習する。 復習：演習内容を確認する。	西川
3	【演習】分娩介助に向けた準備 必要物品の準備、清潔操作	予習：清潔操作について復習しておく(特に紐子・鎖子の取り扱い)。 復習：演習内容の自己練習。	西川 青山 中西

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
4	【演習】外陰部消毒～導尿 外陰部消毒、清潔野の作成、ガウン装着	予習：分娩介助手順の熟読。導尿の手順を復習および清潔操作を自己学習する。 復習：演習内容の自己練習。	塚田 西川 青山 中西
5	【演習】外陰部消毒～導尿 外陰部消毒、清潔野の作成、ガウン装着	予習：分娩介助手順の熟読。導尿の手順を復習および清潔操作を自己学習する。 復習：演習内容の自己練習。	西川 青山 中西
6	【演習】内診～児娩出介助 内診、肛門保護、会陰保護、児頭娩出 体幹娩出	予習：演習内容に関わる助産診断・技術学Ⅱの授業内容の復習。分娩介助手順の熟読。 復習：演習内容の自己練習。	西川 青山 中西
7	【演習】内診～児娩出介助 内診、肛門保護、会陰保護、児頭娩出 体幹娩出	予習：演習内容に関わる助産診断・技術学Ⅱの授業内容の復習。分娩介助手順の熟読。 復習：演習内容の自己練習。	西川 青山 中西
8	【演習】胎盤娩出～分娩第Ⅳ期 胎盤剝離徴候、胎盤娩出、分娩第Ⅳ期	予習：演習内容に関わる助産診断・技術学Ⅱの授業内容の復習。分娩介助手順の熟読。 復習：演習内容の自己練習。	西川 青山 中西
9	【演習】胎盤娩出～分娩第Ⅳ期 胎盤剝離徴候、胎盤娩出、分娩第Ⅳ期	予習：演習内容に関わる助産診断・技術学Ⅱの授業内容の復習。分娩介助手順の熟読。 復習：演習内容の自己練習。	西川 青山 中西
10	【演習】出生直後の新生児ケア 母子早期接触	予習：助産学講座7 出生直後の新生児ケア、助産学講座8 出生時のケアを一読する。 復習：演習内容の自己練習。	西川 青山 中西
11	分娩介助技術評価試験	詳細は別途伝えます。 本技術評価試験は助産学実習履修のための先修条件となるため、技術評価試験に備えて日々自己演習に励むこと。	西川 青山 中西
12	分娩介助技術評価試験	同上	西川 青山 中西
13	分娩介助技術評価試験	同上	西川 青山 中西
14	分娩介助技術評価試験	同上	西川 青山 中西
15	分娩介助技術評価試験	同上	西川 青山 中西
成績評価方法と基準			
①技術評価試験(分娩介助技術)			
②態度(授業及び演習への積極的参加姿勢)			
③4/5以上の出席を必要とする			
割合			
①80%			
②10%			
③10%			

授業科目名		助産診断・技術学Ⅰ(助産)	
主担当教員	青山 桂子	担当教員	青山 桂子、中西 伸子、西川 美樹 塚田 桃代
科目ナンバリング	PM002	科目区分	ディプロマポリシー 該当項目
配当年次	1	開講学期	月曜 3限 月曜 4限 月曜 5限
授業形態	演習	単位数	2 必修・選択 必修
授業概要			
妊娠初期の助産過程に必要な基礎的知識と技術について学習する。妊娠と胎児のフィジカルアセスメントおよび妊娠の日常生活や心理社会的側面のアセスメントに基づく助産診断について学習する。安定した妊娠経過をサポートし母親役割獲得を促進するための支援について学習する。			
到達目標			
1. 妊娠経過のアセスメントに必要な情報を収集するための基礎的技法を実施できる。 2. 妊娠経過に応じた助産診断過程の思考過程を記述できる。 3. 妊娠が安定した妊娠経過を送るための健康教育を企画、実施できる。 4. 効果的な健康教育のための教育媒体を作成することができる。			
履修上の注意(学生へのメッセージ)			
1. 母性看護学(妊娠経過の看護)について確実な知識、技術を習得しておく。 2. ウェルネス型およびリスクリスク型の看護過程について展開可能なレベルで理解しておく。 3. 学生参加型の授業であるため計画的に予習・準備を進め、自主的な学習を展開する。 4. 授業中の口頭試問や演習には積極的に参加する。			
教科書			
助産師基礎教育テキスト第4巻 妊娠経過の診断とケア 2019年版 日本看護協会出版会 助産学講座6 助産診断・技術学Ⅱ [1] 妊娠経過 医学書院 助産師のためのファミリーケアガイドライン 産婦人科診療ガイドライン産科編2017 日本産婦人科学会 日本産婦人科学会編(2017) 産婦人科診療ガイドライン産科編2017 日本産婦人科学会 助産業務ガイドライン2019 日本助産師会 今日の助産 マタニティサイケルの助産診断・実践過程 第4版 南江堂 図説CGIテキスト 中井草人 メディカルビュー その他適宜紹介			
参考文献			
周産期ケアマニュアル第2版 改訂版 立岡弓子編 サイオ出版 写真でわかる助産技術アトハンス インターメディアカ 母性の心理社会的側面と看護ケア 医学書院 助産外来の産科技術 医学書院 CGIテキスト アトハンス メディカルビュー その他適宜紹介			
研究室/オフィスアワー			
適宜相談に応じる			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	妊娠経過のケアの特性と助産師の役割 妊娠経過の診断に必要な知識、妊娠経過の診断・アセスメントの視点	シラバス・教科書の確認 妊娠経過の診断についておこなう身体的・心理的・社会的変化の特徴について学習しておくこと	青山
2	妊娠の成立、胎児の成長と発達、胎児付着物について	妊娠の成立過程、胎児の形態と発育、胎児付着物の形態について学習しておくこと	青山
3	妊娠による母体の変化① 全身の変化・生殖器の変化	妊娠に伴う生理的な全身の変化について学習しておくこと	青山
4	妊娠による母体の変化② 同上	同上	青山
5	妊娠による母体の変化③ 心理的・社会的変化	妊娠の妊娠の受容および情緒の変化と家族としての変化について学習しておくこと	青山
6	妊娠初期の助産診断 事例を用いて	妊娠初期のアセスメントから助産計画まで助産過程の展開について学習しておくこと	青山

7	妊娠初期の助産診断② 同上	同上	同上	青山 西川 中西 塚田
8	妊娠初期の助産診断③ 同上	同上	同上	青山 西川 中西 塚田
9	妊娠経過と産科学的診断① 妊娠に関連した検査及び測定 胎児の検査とモニタリング 事例を用いて 演習含む	妊娠健診時に実施される検査や測定、胎児モニタリング(超音波検査やNST)について、学習しておくこと		青山
10	妊娠経過と産科学的診断② 同上	同上	同上	青山 西川 中西 塚田
11	妊娠経過と産科学的診断③ 同上	同上	同上	青山 西川 中西 塚田
12	妊娠経過に伴うマイナートラブルや食生活・衣生活・住生活・住生活・運動・休息・性生活について学習しておくこと	妊娠経過に伴うマイナートラブルや食生活・衣生活・住生活・住生活・運動・休息・性生活について学習しておくこと		青山
13	妊娠中期の助産診断① 事例を用いて	妊娠中期のアセスメントから助産計画まで助産過程の展開について学習しておくこと		青山
14	妊娠中期の助産診断② 同上	同上	同上	青山 西川 中西 塚田
15	妊娠中期の助産診断③ 同上	同上	同上	青山 西川 中西 塚田
16	親になる準備へのケア① 親になる準備へのケア②	親になる準備とパースプラン、保健医療サービスについて学習しておくこと		青山
17	親になる準備へのケア③ 同上	同上	同上	青山
18	妊娠後期の助産診断① 事例を用いて	妊娠後期のアセスメントから助産計画まで助産過程の展開について学習しておくこと		青山
19	妊娠後期の助産診断② 同上	同上	同上	青山 西川 中西 塚田
20	妊娠後期の助産診断③ 同上	同上	同上	青山 西川 中西 塚田
21	妊娠後期の助産診断④ 同上	同上	同上	青山 西川 中西 塚田
22	妊娠初期の助産診断・分娩期・産褥期・新生児期に向けての統合① 事例を用いて	出産直前期のアセスメントから助産計画まで助産過程の展開について学習しておくこと		青山
23	妊娠初期の助産診断・分娩期・産褥期・新生児期に向けての統合② 同上	同上	同上	青山 西川 中西 塚田
24	妊娠初期の助産診断・分娩期・産褥期・新生児期に向けての統合③ 同上	同上	同上	青山 西川 中西 塚田
25	妊娠の日常生活への指導と出産準備の個別指導① 演習含む	妊娠経過に伴うマイナートラブルや日常生活(食生活・衣生活・住生活・運動・休息・性生活等)について具体的なケア及び指導について学習しておくこと 出産準備の指導について学習しておくこと		青山
26	妊娠の日常生活への指導と出産準備の個別指導② 同上	同上	同上	青山 西川 中西

			塚田
27	健康教育（出産準備教室）の企画① 教育媒体作成 演習含む	健康教育（出産準備教室）の目的・方法について学習しておくこと	青山
28	健康教育（出産準備教室）の企画② 同上	同上	青山
29	健康教育（出産準備教室）の企画③ 同上	同上	青山 西川 中西 塚田
30	健康教育（出産準備教室）の企画④ 同上	同上	青山 西川 中西 塚田
成績評価方法と基準			
①定期試験			
②レポート、課題提出状況			
③態度（授業への積極的参加姿勢）4/5以上の出席を必要とする			

授業科目名	助産診断・技術学Ⅱ（助産）		
主担当教員	西川 美樹	担当教員	西川 美樹、中西 伸子、青山 桂子 塚田 桃代
科目ナンバリング	PM003	科目区分	実践助産学 ディプロマポリシー 該当項目
配当年次	1	開講学期	前期 曜日・時間 月曜1限 火曜4限 火曜5限
授業形態	演習	単位数	2 必修・選択 必修
授業概要			
分娩期の助産過程の展開に必要な知識を統合し、エビデンスに基づいた診断の方法を理解する。 産婦（胎児および新生児を含む）とその家族へ、安全・安楽な支援に必要な助産診断・技術を学ぶ。			
到達目標			
1. 分娩期の診断とアセスメントの視点を述べることができる。 2. 正常経過にある産婦と胎児の健康状態をアセスメントすることができる。 3. 分娩経過に伴う正常経過逸脱を予測するための観察の視点を述べるができる。 4. 正常経過逸脱の予防的支援およびケアについて理解することができる。 5. 胎児心拍モニタリングを判断し、正常経過逸脱の対応について説明することができる。 6. 出生直後の児の観察の視点を理解し、アセスメントすることができる。 7. 母子早期接触に向けてのアセスメントを行い、具体的援助について説明することができる。 8. フリースタイル分娩における分娩進行、支援技術、分娩介助技術の基礎知識を得ることができる。 9. 急変状態発生時の適切な対応を知ることができる。			
履修上の注意（学生へのメッセージ）			
母性看護学で学んだ正常分娩経過を復習したうえで初回の授業に臨んでください。 分娩期は即時の判断と安全な技術が求められます。常に知識や技術を定着させるために、復習をしっかり行い、自己学習を積み重ねて研鑽していきましょう。			

教科書	助産師基礎教育テキスト 第5巻 分娩期の診断とケア 日本看護協会出版会 助産学講座 7 助産診断・技術学Ⅱ [2]分娩期・産褥期 医学書院 助産学講座 8 助産診断・技術学Ⅱ [3]新生児期・乳幼児期 医学書院 今日の助産 マタニティサイクリクルの助産診断・実践過程 改訂第4版 南江堂 分娩介助学 第2版 速純郎 医学書院 日本産婦人科学会編 (2017)産婦人科診療ガイドライン産科編 2017 日本産婦人科学会		
参考書	エビデンスに基づく助産ガイドライン-妊娠・分娩期 2016 日本助産学会 助産師のためのフジカルイグザミネーション アセスメント力を磨く 我部山キヨ子 医学書院 図説 CTG テキスト 中井章人 MEDICAL VIEW ※授業内で随時資料を配布します		
研究室/オフィスアワー	研究室/132 オフィスアワー/適宜		
授業展開及び授業計画表	回数	学修内容	予習・復習・課題等 担当
	1	分娩経過の診断に必要な知識、分娩経過の診断・アセスメントの視点を 予習：母性看護学での既習内容を復習したうえで授業に臨む。 復習：授業内容を深めておく。	西川
	2	分娩の生理 予習：教科書の該当ページ読んで授業に臨む。 復習：授業内容を深めておく。	西川
	3	分娩期の心理社会的変化とケア 予習：教科書の該当ページ読んで授業に臨む。 復習：授業内容を深めておく。	西川

授業科目名	助産診断・技術学Ⅲ(助産)		
主担当教員	青山 桂子	担当教員	青山 桂子、中西 伸子、西川 美術 塚田 雄代
科目ナンバリング	PM004	科目区分	実践助産学
配当年次	1	開講学期	前期
授業形態	演習	単位数	2
授業概要	<p>【産褥期】 産褥経過における助産診断に必要な基礎知識および助産技術について学修する。 産褥経過における正常経過と逸脱を予測するためのアセスメントのポイントと逸脱への予防的支援について学修し、具体的な支援方法を修得する。</p> <p>【新生児期】 新生児期の助産過程に必要な基礎知識と技術について学修する。 新生児のヘルスアセスメントに基づく助産診断と、正常からの逸脱への予防的支援について学修することができる。 乳児期に向けた健やかな発育を促進するための支援について学修する。</p> <p>到達目標</p> <p>【産褥期】 1. 産褥ケアの理念を理解できる。 2. 産褥期の診断と援助を行うための知識・技術を修得し、助産過程を履修することができる。 3. 対象（事例）の個別性に沿った保健指導計画を立案することができる。</p> <p>【新生児期】 1. 新生児のヘルスアセスメントに必要な情報を収集するための基礎的技法を実施できる。 2. 子宮外生活適応過程に応じた助産診断の思考過程を記述できる。 3. 新生児の生理的適応からの逸脱を判断することができる。 4. 乳児の発達と健康診査について理解できる。</p> <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>【産褥期】 母性看護学の既習の知識・技術は復習してから授業に臨んでください。自己学習のための課題は適時提示する予定です。 母性看護学および小児看護学（新生児、乳児期の看護）について確実な知識、技術を習得しておく。 ウエルネス型およびリスク型の看護過程、新生児の看護過程について履修可能なレベルで理解しておく。 学生参加型の授業であるため計画的に予習・準備を進め、自主的な学習を展開する。 授業中の口頭試問や演習には積極的に参加する。</p> <p>教科書</p> <p>【産褥期】 助産師基礎教育テキスト 第6巻 産褥期のケア 新生児期・乳幼児期のケア 日本看護協会出版会 助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ(2)分娩期・産褥期 医学書院 今日の助産 マタニティサイケル(助産診断・実践過程 第4版 南江堂 日本産婦人科学会編(2017)産婦人科診療ガイドライン産科編 2017 日本産婦人科学会</p> <p>【新生児期】 助産師基礎教育テキスト 2019年版産褥期/新生児期・乳幼児期の診断とケア 日本看護協会出版会 助産学講座8 助産診断・技術学Ⅱ [3] 新生児期・乳幼児期 医学書院</p> <p>参考書</p> <p>【産褥期】 助産師のためのフィジカル・イグザミネーション—アセスメントを磨く 我部山キヨ子 医学書院 母乳育児支援スタンダード 第2版 NP0 法人日本ラクテーション・コンサルタンツ協会 医学書院 ※授業内で随時資料を配布します。</p> <p>【新生児期】 日本産婦人科学会編(2017)産婦人科診療ガイドライン産科編 2017 日本産婦人科学会 助産学講座ガイドライン 2019 日本助産師会 産褥期ケアマニュアル第2版 改訂版 立岡弓子編 サイオ出版</p>		

その他適宜紹介			
研究室/オフィスアワー			
適宜相談に応じる			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	産褥経過の診断に必要な知識、産褥経過の診断・アセスメントの視点	予習：母性看護学での既習内容を復習したうえで授業に臨む。 復習：授業内容を深めておく。	西川
2	産褥期の生理、産褥期の心理社会的変化	予習：教科書の該当ページ読んで授業に臨む。 復習：授業内容を深めておく。	西川
3	産褥期のフィジカルアセスメント	予習：教科書の該当ページ読んで授業に臨む。 復習：授業内容を深めておく。	西川
4	乳房ケア①	予習：教科書の該当ページ読んで授業に臨む。 復習：授業内容を深めておく。	西川
5	乳房ケア②	予習：教科書の該当ページ読んで授業に臨む。 復習：授業内容を深めておく。	西川
6	【事例展開】：産褥1日目 経過診断・母子関係の促進と育児技術取得に向けた支援	予習：配布した事例を読んでおくこと。 復習：事例の情報の整理とアセスメントを各自行う。	西川 青山 中西 塚田
7	【事例展開】：産褥2～3日目 経過診断・母子関係の促進と育児技術取得に向けた支援	予習：前回までの情報の整理およびアセスメント計画の見直し。 復習：事例の情報の整理とアセスメントを各自行う。	西川 青山 中西 塚田
8	【事例展開】：産褥4～5日目 経過診断・母子関係の促進と育児技術取得に向けた支援	予習：前回までの情報の整理およびアセスメント計画の見直し。 復習：事例の情報の整理とアセスメントを各自行う。	西川 青山 中西 塚田
9	【演習】 褥婦の支援	予習：演習項目についてはあらかじめ提示します。教科書及びテキストで予習をして臨みます。立案した保健指導計画をもとにロールプレイをします。準備を整えておくこと。 復習：演習内容の自己練習。次回の演習に向けての準備。	西川 青山 中西 塚田
10	【演習】 褥婦の支援	予習：演習項目についてはあらかじめ提示します。教科書及びテキストで予習をして臨みます。立案した保健指導計画をもとにロールプレイをします。準備を整えておくこと。 復習：演習内容の自己練習。次回の演習に向けての準備。	西川 青山 中西 塚田
11	【演習】 褥婦の支援	予習：演習項目についてはあらかじめ提示します。教科書及びテキストで予習をして臨みます。立案した保健指導計画をもとにロールプレイをします。準備を整えておくこと。 復習：演習内容の自己練習。次回の演習に向けての準備。	西川 青山 中西 塚田
12	【演習】 褥婦の支援	予習：演習項目についてはあらかじめ提示します。教科書及びテキストで予習をして臨みます。立案した保健指導計画をもとにロールプレイをします。準備を整えておくこと。 復習：演習内容の自己練習。次回の演習に向けての準備。	西川 青山 中西 塚田

		での準備。			西川 青山 中西 塚田
13	【演習】 婦科の支援	予習：演習項目についてはあらかじめ提示します。教科書及びテキストで予習をして臨む。立案した保健指導計画をもとにロールプレイをします。準備を整えておくこと。復習：演習内容の自己練習。次回の演習に向けての準備。			
14	退院後の継続ケア 2. 週間健診、一か月健診	予習：教科書の該当ページ読んでうえで授業に臨む。 復習：授業内容を確認し自己学習を深めておく。			西川
15	帝王切開術における助産師の役割 術後のケア	予習：教科書の該当ページ読んでうえで授業に臨む。 復習：授業内容を確認し自己学習を深めておく。			西川
16	新生児のケアの特性と助産師の役割 新生児に必要な知識、新生児期の助産診断・アセスメントの視点	シラバス・教科書の確認 新生児期に用いる用語の復習をしておくこと 新生児期の特徴とケアの特徴を学習しておくこと			青山
17	新生児の胎外生活適応過程の助産診断① 子宮内生活と子宮外生活	胎内環境が新生児の胎外生活に及ぼす影響について、学習しておくこと			青山
18	新生児の胎外生活適応過程の助産診断② 形態的・機能的成長	新生児の形態的・機能的特徴について学習しておくこと			青山
19	新生児の胎外生活適応過程の助産診断③ 生理的適応過程と逸脱の有無	新生児の出生後の生理的変化について学習しておくこと			青山
20	家庭生活への移行の助産診断 退院に向けての準備	新生児の退院に向けての視点について学習しておくこと			青山
21	【事例展開】：生後1日目 経過診断・胎外生活適応過程の診断と援助	新生児の胎外生活適応のアセスメントから助産計画まで助産過程の展開について学習しておくこと			青山 西川 中西 塚田
22	【事例展開】：生後2~3日目 経過診断・生理的変化の診断と援助	新生児の生理的変化のアセスメントから助産計画まで助産過程の展開について学習しておくこと			青山 西川 中西 塚田
23	【事例展開】：生後4~5日目 経過診断・退院に向けての準備と援助	退院に向けての新生児の健康問題のアセスメントから助産計画まで助産過程の展開について学習しておくこと			青山 西川 中西 塚田
24	【演習】 新生児のフィジカルアセスメント	新生児の系統的観察手法・身体計測・バイタルサインについて学習しておくこと			青山 西川 中西 塚田
25	【演習】 新生児の援助① 事例展開含む	事例の状況に応じたケア内容を検討し、演習に臨む準備をしておくこと 事例は講義の前に提示する			青山 西川 中西 塚田
26	【演習】 新生児の援助② 同上	同上			青山 西川 中西 塚田
27	帝王切開・吸引分娩で産まれた新生児の助産診断 事例展開含む	正常出産以外での分娩様式で出産した児について学習しておくこと			青山 西川 中西 塚田
28	ハイリスク新生児（早産・GDMの母より出生した児・産後治療を受ける児）の助産診断 事例展開含む	ハイリスク新生児（早産・GDMの母より出生した児・産後治療を受ける児）について、学習しておくこと			青山 西川 中西 塚田
29	乳幼児の発達と健診① 定期健康診査と疾病予防	乳幼児期に行われる健康診査について学習しておくこと			青山

30	乳幼児の発達と健診② 今までの復習	同上	青山
成績評価方法と基準			割合
①定期試験			①70%
②レポート、課題提出状況			②20%
③態度（授業への積極的参加姿勢）4/5以上の出席を必要とする			③10%

授業科目名	助産診断・技術学Ⅳ(助産)		
主担当教員	中西 伸子	担当教員	中西 伸子、成瀬 勝彦、西村 史朋
科目ナンバリング	PM005	科目区分	実践助産学 サブコマブリッジ 該当項目
配当年次	1	開講学期	前期
授業形態	演習	単位数	1
授業概要			
周産期における母子の健康状態のアセスメントやリスクを評価するための知識を習得する。周産期に発症しやすい異常を理解し、正常から逸脱した状態にある妊娠・分娩・新生児に必要な助産ケアを学ぶ。			
到達目標			
①周産期にある母子の異常予測の助産診断、および正常分娩時のケアに必要な知識を学ぶ。 ②妊娠期・分娩期・産褥期に発症しやすい異常とその病態・検査・治療について説明できる。 ③社会的ハイリスク母子やその家族に対する助産師の役割と支援の必要性について理解できる。			
履修上の注意(学生へのメッセージ)			
周産期の健康逸脱、異常予測のヘルスアセスメントは重要で、妊娠期・分娩期・産褥期に発症しやすい異常とその病態・検査・治療について理解し、ケアにつなげるようしっかりと学びましょう。			
教科書			
目で見える妊娠と出産 文光堂 助産師基礎教育テキスト2019 年版ハイリスク妊娠婦、新生児へのケア 日本看護協会出版会 NCFR2015 新生児蘇生法テキスト第3 版 日本産婦人科学会編(2017) 産婦人科診療ガイドライン産科編(2017) 日本産婦人科学会			
参考書			
最新産科学異常編 荒木勤 文光堂			
研究室/オフィスアワー			
講義の後など、質問に応じます。			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	周産期におけるハイリスクと助産師の役割	周産期の異常の診断と対応について助産師として必要な知識について予習しておく。	中西伸子
2	妊娠初期の異常と診断・管理	妊娠初期の異常について予習しておく。	西村史朋
3	胎児と付属物、羊水の異常と診断・管理	胎児・胎盤・臍帯・羊水の異常について予習しておく。	西村史朋
4	母体の合併症と診断・管理	妊娠中の母体の合併症について予習しておく。	西村史朋
5	分娩時のリスクと診断・管理	分娩時の異常について予習しておく。	西村史朋
6	分娩経過の異常と診断・管理	分娩時の異常について予習しておく。	西村史朋
7	産科出血と妊娠婦管理	分娩時の異常と出血について予習しておく。	西村史朋
8	産科処置・手術の診断と管理	帝王切開・吸引分娩などの異常分娩についてよましておく。	西村史朋
9	無痛分娩の管理	無痛分娩のトピックや現状について調べておく。	西村史朋
10	超音波演習	助産師として診断に活かすことができるようしっかりと学ぶ。	成瀬勝彦
11	超音波演習	助産師として診断に活かすことができるようしっかりと学ぶ。	成瀬勝彦
12	超音波演習	助産師として診断に活かすことができるようしっかりと学ぶ。	成瀬勝彦
13	産科救急処置演習	助産師として診断に活かすことができるようしっかりと学ぶ。	成瀬勝彦

14	産科救急処置演習(母体救命)	助産師として診断に活かすことができるようしっかりと学ぶ。	成瀬勝彦
15	産科救急処置演習(母体救命)	助産師として診断に活かすことができるようしっかりと学ぶ。	成瀬勝彦
成績評価方法と基準			
①テスト			割合
②出席 4/5 以上 (態度と質疑応答参加状況を含む)			①80% ②10%

授業科目名		地域母子保健学(助産) (Community Maternal and Child Health)	
主担当教員	中西 伸子	担当教員	中西 伸子、大平 純子
科目ナンバリング	PM007	実践助産学	DP②④
配当年次	1	曜日・時間	火曜 1限
授業形態	講義	必修・選択	必修
授業概要	母子保健行政の仕組み、制度・施策・動向を理解し、助産師による地域母子保健活動の役割と機能について学修する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域母子保健の意義を理解する 2. 地域母子保健活動における助産師の支援と活動 3. 日本および海外の母子保健の現状と課題について理解する 4. 母子保健関係法規、母子保健制度、母子保健施策を理解する 5. 母子保健統計から母子保健の現状と動向、問題点を理解する 		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	助産師は地域でも活動が求められています。その役割と意義について理解し、将来の活躍の場の一つとして考えていきましょう。		
教科書	助産学講座 9 地域母子保健・国際母子保健 医学書院 2019年出版 基礎別助産師国家試験問題 メディカ出版		
参考書	助産師基礎教育テキスト 第1巻 助産概論 日本看護協会 産み育てる助産の歴史 医学書院		
研究室/オフィスアワー	適宜、質問・相談に応じます。		
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	地域母子保健の意義	地域における母子保健の受容性について理解する。	中西伸子
2	地域における助産師の支援と活動	母子保健を取り巻く現状に関する書籍・記事を読んでおく。地域における助産師の必要性について意見を述べることができる。	中西伸子
3	虐待問題における日本の母子保健の現状と課題	虐待問題における日本の母子保健の現状と課題について意見を出し合うことができるようにしておく。	中西伸子
4	地域で活躍する助産師の実態①	地域で活躍する助産師に実際に話を聞き、現状と課題などの状況を知る。	大平純子
5	地域で活躍する助産師の実態②	地域で活躍する助産師の実態②	ゲストスピーカー
6	地域で活躍する助産師の実態③	地域で活躍する助産師の実態③	ゲストスピーカー
7	地域で活躍する助産師の実態④	地域で活躍する助産師の実態④	ゲストスピーカー
8	地域で活躍する助産師の実態⑤	地域で活躍する助産師の実態⑤	ゲストスピーカー
成績評価方法と基準	割合		
①レポート	150%		
②プレゼンテーション	230%		
③態度(質疑・応答、提出物の評価を含む)、4/5以上の出席を必要とする	320%		

授業科目名		助産管理学(助産) (Control of Midwifery)	
主担当教員	中西 伸子	担当教員	中西 伸子、藤本 陽子、大平 純子、西 幸江
科目ナンバリング	PM007	実践助産学	DP②③④
配当年次	1	曜日・時間	木曜 4限 木曜 5限
授業形態	演習	単位数	2
授業概要	助産業務管理に必要な知識や助産業務に付随する法的責任を修得し、助産師としてのセルフマネジメントについての対策を考察できる能力を養う。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 施設(病院、開業助産所等)における助産業務の管理、および関連する法規と責任を説明できる。 2. 周産期における医療事故を予防するために必要な基本的な管理を学び、助産師としてのセルフマネジメントのあり方を考察できる。 3. 独立開業を行う場合に必要な資源、人材等の経営的視点について考察できる。 4. 周産期医療システムの連携について理解する。 5. 災害時の助産師の役割について説明できる。 		
履修上の注意(学生へのメッセージ)	助産師としての助産師の在り方を考察する一助とする。		
教科書	助産師基礎教育テキスト 2019年版 第3版 周産期における医療の質と安全 日本看護協会出版会 助産学講座 10 助産管理 医学書院 2019年出版 基礎別助産師国家試験問題 メディカ出版		
参考書	新編助産師業務要覧 第3版 基礎編 新版助産師業務要覧 第3版 実践編 新版助産師業務要覧 第3版 アトハンス編 助産業務ガイドライン2014 日本助産師会		
研究室/オフィスアワー	適宜、質問・相談に応じます。		
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	助産師と管理	助産師と管理についてテキストを読んでおく	中西伸子
2	災害時における助産管理	災害時における助産師の役割や業務について考えておくこと	藤本陽子
3	災害時における助産管理	災害時における助産管理について発表できるようにしておく。	藤本陽子
4	助産管理とリスクマネジメント	周産期における医療安全保障のしくみ、医療安全のための支援について事例を通して学修する。リスクマネジメントについて考える。	西 幸江
5	医療の質と助産管理	周産期における現状や課題について学習しておく。	西 幸江
6	助産管理と社会保険制度	助産管理と社会保険制度	西 幸江
7	病棟における助産業務管理	病棟における助産業務管理	西 幸江
8	助産外来の役割と管理	助産外来の役割と管理	西 幸江
9	院内助産	院内助産	西 幸江

10	助産の質保障と医療事故	西 幸江
11	助産の質保障と倫理	西 幸江
12	周産期における助産ケアと管理	中西伸子
13	周産期における助産ケアと管理	中西伸子
14	助産院における助産管理	大平純子
15	助産院における助産管理	大平純子
成績評価方法と基準		
①レポート ②プレゼンテーション ③出席 4/5以上、態度（質疑応答・提出物の評価を含む）		
割合 ①60% ②20% ③20%		

授業科目名	助産学実習Ⅰ(助産) (Midwifery (Practice I))										
主担当教員	中西 伸子	担当教員	中西 伸子、青山 桂子、西川 美樹 塚田 桃代								
科目ナンバリング	PM008	科目区分	実践助産学 DP①④								
配当年次	1	開講学期	前期(実習)、後期(実習)								
授業形態	実習	単位数	8								
授業概要	周産期にある母子や家族を対象に助産過程を展開し、助産実践に必要な理論と技術・態度を修得する。対象の妊娠、分娩経過を総合的に診断し、助産計画に基づいた援助を行い、そのケアを考察する。実習を通して助産師としての倫理を学び、アイデンティティの形成をはぐくむ。										
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 科学的根拠に基づいた助産診断・技術を活用し、妊・産・褥婦・新生児の基礎的な援助の実践ができる。 2. 正常分娩経過において安全で安楽な分娩援助実践のあり方を理解し実践できる。 3. 助産診断と正常分娩の介助を通して産婦の主體的な分娩のあり方を理解し実践できる。 4. 正常から逸脱した対象者の診断、援助および緊急時の対応と助産師の役割を理解する。 5. 母体とその家族に対して新たな家族の役割の変化と役割獲得への必要な援助ができる。 6. 援助の提供を通して助産倫理の重要性を理解することができる。 7. 自己の助産師像を述べることができる。 										
履修上の注意(学生へのメッセージ)	<p>尊いのちの誕生の現場に立ち、分娩介助をはじめとする助産ケアを行うことに対する謙虚さと、主体的な姿勢をもち、感謝の気持ちを忘れず臨地実習に臨むこと。</p> <p>学生の実習開始時期、施設は異なるため、担当教員との連絡を十分にとり実習に必要な準備やスケジュール管理を自律して行う実習に臨むこと。</p> <p>1 事例を大切に実施した判断・支援を評価し、自己の課題を見出しながら、10 例程度の分娩介助・周産期ケアに対して主体的に学修を積み上げていくことを期待します。</p>										
教科書	<p>今日の助産 改訂第 4 版 南江堂</p> <p>助産師基礎教育テキスト 2015 年版 第 5 巻 分娩期の診断とケア 日本看護協会出版会</p> <p>新生児学入門第 4 版 仁志田博司 医学書院</p> <p>日本産婦人科学会編 (2017). 産婦人科診療ガイドライン産科編 2017. 日本産婦人科学会</p>										
参考書	<p>周産期ケアマニュアル第 2 版 サイオ出版</p> <p>分娩介助学第 2 版 医学書院</p>										
研究室/オフィスアワー	研究室 中西 適宜相談に応じます。										
西棟 238 研究室	西棟 238 研究室 中西 適宜相談に応じます。										
授業展開及び授業計画表	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>学修内容</th> <th>予習・復習・課題等</th> <th>担当</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td> <p>1. 病院において分娩介助実習・周産期保健指導実習・新生児ケア実習の助産学実習を行う。(詳細は実習要項参照)</p> <p>1) 分娩介助実習は分娩第 1 期から IV 期までを受け持ち、産婦の助産診断とケアおよび分娩介助を実施する。さらに前後介助、出生直後の児のケアを実施する。</p> <p>2. 保健指導においては、妊娠前から産褥期まで実施し、外来の妊婦健康診査、マザークラスの見学実施を含み、施設における、集団・個別指導の学びを深める。</p> <p>3. 周産期における助産師の業務の実際を学び、多職種との共同やチームメンバーとしての役割に</p> </td> <td> <p>事前に十分に知識の復習・技術の復習を行い、対象者の方に真摯に向き合う気持ちを持ち、実習に臨む。</p> <p>事前に十分に知識の復習・技術の復習を行い、対象者の方に真摯に向き合う気持ちを持ち、実習に臨む。</p> </td> <td> <p>中西 伸子 青山 桂子 西川 美樹 塚田 桃代</p> </td> </tr> </tbody> </table>			回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当	1	<p>1. 病院において分娩介助実習・周産期保健指導実習・新生児ケア実習の助産学実習を行う。(詳細は実習要項参照)</p> <p>1) 分娩介助実習は分娩第 1 期から IV 期までを受け持ち、産婦の助産診断とケアおよび分娩介助を実施する。さらに前後介助、出生直後の児のケアを実施する。</p> <p>2. 保健指導においては、妊娠前から産褥期まで実施し、外来の妊婦健康診査、マザークラスの見学実施を含み、施設における、集団・個別指導の学びを深める。</p> <p>3. 周産期における助産師の業務の実際を学び、多職種との共同やチームメンバーとしての役割に</p>	<p>事前に十分に知識の復習・技術の復習を行い、対象者の方に真摯に向き合う気持ちを持ち、実習に臨む。</p> <p>事前に十分に知識の復習・技術の復習を行い、対象者の方に真摯に向き合う気持ちを持ち、実習に臨む。</p>	<p>中西 伸子 青山 桂子 西川 美樹 塚田 桃代</p>
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当								
1	<p>1. 病院において分娩介助実習・周産期保健指導実習・新生児ケア実習の助産学実習を行う。(詳細は実習要項参照)</p> <p>1) 分娩介助実習は分娩第 1 期から IV 期までを受け持ち、産婦の助産診断とケアおよび分娩介助を実施する。さらに前後介助、出生直後の児のケアを実施する。</p> <p>2. 保健指導においては、妊娠前から産褥期まで実施し、外来の妊婦健康診査、マザークラスの見学実施を含み、施設における、集団・個別指導の学びを深める。</p> <p>3. 周産期における助産師の業務の実際を学び、多職種との共同やチームメンバーとしての役割に</p>	<p>事前に十分に知識の復習・技術の復習を行い、対象者の方に真摯に向き合う気持ちを持ち、実習に臨む。</p> <p>事前に十分に知識の復習・技術の復習を行い、対象者の方に真摯に向き合う気持ちを持ち、実習に臨む。</p>	<p>中西 伸子 青山 桂子 西川 美樹 塚田 桃代</p>								

成績評価方法と基準	ついて理解する	割合
①実習記録および課題提出、準備、報告、連絡、相談を含む取り組みも評価対象とする。助産診断、助産技術到達度、対象者や臨床実習指導者との関係性の構築、保健指導の内容、実習態度を総合して評価する。		①100%

授業科目名	助産学実習Ⅱ(助産) (Midwifery (Practice II))		
主担当教員	中西 伸子	担当教員	中西 伸子、青山 桂子、西川 美樹 塚田 桃代
科目ナンバリング	PM009	科目区分	実践助産学 DP①④
配当年次	1	開講学期	前期(実習)、 後期(実習)
授業形態	実習	単位数	2 必修・選択 必修
授業概要	<p>助産学実習Ⅱに基づき、妊娠・産褥および新生児とその家族を総合的に理解し、産褥期のWellness向上に必要な援助の提供方法を習得する。実習Ⅰ・Ⅱを通して助産師としての自律性を学び、アイデンティティの形成を目指す。</p> <p>到達目標</p> <p>助産学実習Ⅰの到達目標を満たしたうえで、さらに以下の到達目標を定める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 分娩介助事例を対象に産褥期の助産過程を産褥する。 受け持ち時(妊娠末期または分娩期)からの助産診断により、対象者の価値観、個別性をふまえた健康教育の企画、実施、評価ができる。 受け持ち事例を対象に、産後の育児開始期の母親やその家族の心理について理解し保健指導・援助の実践ができる。 <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>個別性を考慮した、母子とその家族への支援へできることを目指す。</p> <p>1例以上の母子を受け持ち分娩から産褥、新生児、育児期まで継続的に支援をする。事前に情報を収集し妊娠経過・妊娠に伴う心理社会的適応なども考慮した個別性のある健康教育を実施する。可能な実習施設においては妊娠前から受け持ち、継続的に退院後の育児や生活支援を行う。</p> <p>学生によって実習開始時期、臨床施設、実習形態が異なるため、学生は自立して実習スケジュールを立て、積極的に実習に臨むこと。情報や学びの共有を図ること。</p>		
教科書	<p>今日の助産 改訂第4版 南江堂</p> <p>助産師基礎教育テキスト2019年版 第4巻 妊娠期の診断とケア 日本看護協会出版会</p> <p>助産師基礎教育テキスト2019年版 第5巻 分娩期の診断とケア 日本看護協会出版会</p> <p>助産師基礎教育テキスト2019年版 第6巻 産褥期のケア・新生児期・乳幼児期のケア 日本看護協会出版会</p> <p>新生児学入門 第4版 仁志田博司 医学書院</p> <p>日本産婦人科学会編(2017).産婦人科診療ガイドライン産科編2017.日本産婦人科学会</p> <p>参考書</p> <p>周産期ケアマニュアル 第2版 サイオ出版</p> <p>分娩介助学 第2版 医学書院</p> <p>新生児ベレーシックケア 医学書院</p> <p>助産師のためのフィジカルイグザミネーション 医学書院</p> <p>研究室ノオフィスアワー</p>		
適宜相談に応じる			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	<p>1.産褥期の継続的支援を通して、継続的支援の重要性を学ぶ。</p> <p>2.母子に関わることで、産褥期の育児不安の軽減に向けた入院期の母親の支援のポイントが理解できる。</p> <p>3.家族の形成に向けた産褥期の支援の方向性が理解できる。</p> <p>4.個別性をふまえた健康教育の企画、実施、評価ができる。</p>	<p>継続した支援の重要性と助産師の支援の必要性を学び、自分の助産師像が作れるよう知識やコミュニケーション能力を結集し、実習に臨む。</p>	<p>中西 伸子 青山 桂子 西川 美樹 塚田 桃代</p>
成績評価方法と基準	割合		
①実習に対する課題提出、準備、報告、連絡、相談を含む取り組みも評価対象とする。個別性のある健康教育の企画、実施前の調整、実施、振り返りを通して到達度を設定し評価する。助産診断、助産技術到達度、対象者や臨床実習指導者との関係性の構築、実習態度を総合して評価する。	①100%		

授業科目名		ハイリスク母子実習(助産) (High-risk Mother and Child (Practice))			
主担当教員	中西 伸子	担当教員	中西 伸子、青山 桂子、西川 美樹 塚田 桃代		
科目ナンバリング	PM010	科目区分	実践助産学		
配当年次	1	開講学期	後期		
授業形態	実習	単位数	1		
授業概要	<p>周産期と育児期における身体的、心理的、社会的ハイリスク母子ならびにその家族に必要な支援について学修する。NICU/GCU実習では、周産期のハイリスクに関する講義・演習を基礎に助産師の分娩時のかわり的重要性を理解する。さらに周産期医療体制のシステム、母子分離時の愛着形成の促進、デバイスメンタルケア、両親への育児支援、地域母子保健活動との連携について学修する。</p> <p>乳児院では心理、社会的ハイリスクの母親とその家族として入所児に必要な援助の実際と、愛着障害をもつ子の成長発達を促進するための支援について理解する</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 早産児・低出生体重児へ行われているデバイスメンタルケアの基本概念を理解し、見学を通して生理的機能、神経行動発達、精神の発達への影響を考察する。 2. NICUで実施されている家族支援を見学し、児がNICU/GCUに入院している周産期の母親のメンタルヘルス、親と子の関係性の発達、家族心理のプロセスについて考察する。 3. NICU退院前後の支援の見学を通じ、ハイリスク状態にある児の退院後の生活、育児負担感、児を家族に迎え入れる 4. NICU/GCU実習をとおして、周産期の助産師のかかわりや <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>ハイリスク状態にある周産期の妊産婦および母子・家族に対し、助産師として何が出来るかを常に思考しながら関わることと、実習終了時に学んだことをプレゼンテーションします。学生間でティイベートしながら学びを深められるよう実習前から準備して臨むこと。</p> <p>教科書</p> <p>助産師基礎教育テキスト 2019 年版 第7巻 ハイリスク妊産婦、新生児へのケア 日本看護協会出版会</p> <p>参考書</p> <p>NICU看護の知識と実際 メディカ出版</p> <p>研究室/オフィスアワー</p> <p>研究室 238 です。質問や相談に応じます。</p>				
授業展開及び授業計画表					
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当		
1	<p>学内におけるハイリスクの講義・演習を基に周産期のハイリスクについての知識を深める。施設や学内において講義等を受けるとともにNICU/GCU実習もしくは乳児院実習を行う。(詳細は実習要項参照)</p>	<p>事前の講義や演習を基に対象者への知識や意識を深め、真摯に学ぶ姿勢を持つ。実習を基に助産師としての考えを持てるように実習に臨む。</p>	中西伸子 青山桂子 西川美樹 塚田桃代		
成績評価方法と基準					
①実習記録等を含めた総括的評価					
②出席・態度(施設における発表態度や質疑応答などを含む)					

授業科目名		地域母子保健実習(助産)			
主担当教員	中西 伸子	担当教員	中西 伸子、青山 桂子、西川 美樹 塚田 桃代		
科目ナンバリング	PM011	科目区分	実践助産学		
配当年次	1	開講学期	後期		
授業形態	実習	単位数	1		
授業概要	<p>助産院実習を通して自立した助産師を知る。さらに地域における助産師の役割を理解し、必要性を学ぶ。さらに周産期にある女性とその家族を対象に対象者のセルフケア能力の向上と次世代家族の発達のための地域での支援の在り方と出産・育児力を高める保健技術指導を習得する。</p> <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域における助産師の働き方を知り、助産師の必要性と支援方法を理解する。 ・助産院の施設実習におけるケアや保健指導の実際を学び、実践に応用できる。 ・助産師の将来像を描くことができる。 <p>履修上の注意(学生へのメッセージ)</p> <p>病院の産科とは違ったかわりが必要とされる助産師を学ぶことができます。助産師は女性のライフサイクル全般に支援できるという視点で自分の助産師の将来像を描けるよう学んでください。</p> <p>教科書</p> <p>助産学講座 9 地域母子保健・国際母子保健 医学書院</p> <p>助産師基礎教育テキスト 2019 年版 女性の健康とケア 日本看護協会出版会</p> <p>参考書</p> <p>助産師基礎教育テキスト 第1巻 助産概論 日本看護協会出版</p> <p>研究室/オフィスアワー</p> <p>研究室 238 です。質問・相談に応じます。</p>				
授業展開及び授業計画表					
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当		
1	助産院、助産師会など、病院とは違う施設で働く助産師の役割を実習を通して理解する。	地域母子保健学で学んだ知識を基に、地域での助産師の働き方や役割を知り、自分の助産師像を確立していけるよう学ぶ。	中西伸子 青山桂子 西川美樹 塚田桃代		
成績評価方法と基準					
①実習記録 レポート					
②出席・態度(ティイベートへの参加や質疑応答状況を含む)					

補完代替医療とアロマセラピー(助産) (Complementary and Alternative Medicine and Aroma Therapies)			
授業科目名	森 美栞記	担当教員	森 美栞記
主担当教員	IM001	統合助産学	ディプロマポリシー 該当項目
科目ナンバリング		科目区分	DP③④
配当年次	1	開講学期	前期
授業形態	演習	単位数	2
授業概要	女性のヘルスプロモーション、とりわけ心身共に大きな変化を生じやすい妊娠期、産褥期、育児期に適したアロマセラピーを学ぶが、妊娠中にアロマセラピーを用いることの意義、アロマセラピーに関する基礎知識、禁忌や注意事項、精油の選択方法、状況に応じたケア方法など「安全かつ的確に用いる」ための実践方法を学ぶ。 到達目標 ・補完代替医療の中でアロマセラピーの役割を理解する。 ・妊娠前に対するアロマセラピーの役割を理解し、安全かつ的確な実践方法を学ぶ。 履修上の注意(学生へのメッセージ) アロマセラピーの有用性のみを目を向けるのではなく、禁忌や注意事項に関する理解を深め、「安全で的確な」実践方法を身につけてください。実技にも積極的に参加し、自らの心身両面を通してアロマセラピーの有用性・危険性を感じ、学んでいただきたいと思えます。		
教科書	・Aromacoordinator Essential oil Guide book: 日本アロマコーディネーター協会 ・Aromacoordinator Lesson Text Book: 日本アロマコーディネーター協会 (教材を含む)		
参考書	・もっと身近にアロマセラピー メディカルから日常まで 改定増補版/森 美栞記著/森ノ宮医療学園出版部		
研究室/オフィスアワー			
木曜日 午後5時～7時			
授業展開及び授業計画表			
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	植物精油の基礎知識	アロマセラピーの実際について書籍やネットで調べる	
2	マタニティケアにおける精油選択と理解	マタニティアロマセラピーの実際について書籍やネットで調べる	
3	植物オイルの基礎知識	植物オイルに関する知識を整理する	
4	精油のブレンド方法	ブレンドファクターやブレンド方法に関する知識を整理する	
5	香りが脳に与える影響	配布資料を元に復習し学習内容を整理する	
6	アロマセラピーの歴史	配布資料を元に復習し学習内容を整理する	
7	精油の安全性と危険性	配布資料を元に復習し学習内容を整理する	
8	精油の作用と身体へのしくみ	配布資料を元に復習し学習内容を整理する	
9	香りの心理作用	配布資料を元に復習し学習内容を整理する	
10	精油成分を類ごとに知る	配布資料を元に復習し学習内容を整理する	
11	禁忌の理由を考えるアロマセラピーの法令	配布資料を元に復習し学習内容を整理する	
12	妊娠初期～中期のケアと精油の選択	1回～11回までの学習内容を整理する	
13	妊娠後期のケアと精油の選択	1回～11回までの学習内容を整理する	
14	分娩時のケアと精油の選択	1回～11回までの学習内容を整理する	

15	産褥期のケアと精油の選択	1回～11回までの学習内容を整理する	
16	マタニティアロマセラピーの実践 ①背部・臀部へのトリートメント基礎 ②マタニティアロマセラピーの実践 ③マタニティアロマセラピーの実践	背部・臀部ケアにおける注意事項の復習 および手技の復習	
17	マタニティアロマセラピーの実践 ④マタニティアロマセラピーの実践 ⑤マタニティアロマセラピーの実践	背部・臀部ケアにおける注意事項の復習 および手技の復習	
18	マタニティアロマセラピーの実践 ⑥マタニティアロマセラピーの実践 ⑦マタニティアロマセラピーの実践	背部・臀部・肩甲骨ケアにおける注意事項の復習 および手技の復習	
19	マタニティアロマセラピーの実践 ⑧マタニティアロマセラピーの実践 ⑨マタニティアロマセラピーの実践	背部・臀部・肩甲骨ケアにおける注意事項の復習 および手技の復習	
20	マタニティアロマセラピーの実践 ⑩マタニティアロマセラピーの実践 ⑪マタニティアロマセラピーの実践	下肢のケアにおける注意事項の復習 および手技の復習	
21	マタニティアロマセラピーの実践 ⑫マタニティアロマセラピーの実践 ⑬マタニティアロマセラピーの実践	上肢のケアにおける注意事項の復習 および手技の復習	
22	マタニティアロマセラピーの実践 ⑭マタニティアロマセラピーの実践 ⑮マタニティアロマセラピーの実践	上肢・下肢のケアにおける注意事項の復習 および手技の復習	
23	マタニティアロマセラピーの実践 ⑯マタニティアロマセラピーの実践 ⑰マタニティアロマセラピーの実践	フェイスクケアにおける注意事項の復習 および手技の復習	
24	マタニティアロマセラピーの実践 ⑱マタニティアロマセラピーの実践 ⑲マタニティアロマセラピーの実践	フェイスクケアにおける注意事項の復習 および手技の復習	
25	マタニティアロマセラピーの実践 ⑳マタニティアロマセラピーの実践 ㉑マタニティアロマセラピーの実践	16～24回までのケアの総復習	
26	マタニティアロマセラピーの実践 ㉒マタニティアロマセラピーの実践 ㉓マタニティアロマセラピーの実践	16～24回までのケアの総復習	
27	マタニティアロマセラピーの実践 ㉔マタニティアロマセラピーの実践 ㉕マタニティアロマセラピーの実践	関連学術雑誌やネットにて論文検索を行う	
28	総括 1: マタニティケアと植物精油	27回までに学習した内容を整理する	
29	総括 2: マタニティケアにおけるアロマセラピーの役割	27回までに学習した内容を整理する	
30	総括 3: 補完代替医療としてのアロマセラピーの役割	27回までに学習した内容を整理する	
成績評価方法と基準			
割合			
①講義中のディスカッション			
②レポートによる評価			

授業科目名		助産学課題研究(助産) (Midwifery Research Project)		
主担当教員	中西 伸子	担当教員	中西 伸子、青山 桂子、西川 美樹、勝井 伸子、塚田 椋代	
科目ナンバリング	IM002	科目区分	統合助産学	DP③④
配当年次	1	開講学期	前期	前期(集中講義)、後期(集中講義)
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択
授業概要				
女性の健康、助産実践、母と子、その家族が抱える問題や課題を明確化し、解明するための研究に取り組む。その研究プロセスを得て、研究を行うための基本的能力を修得するとともに看護実践に役立つ新しい知見や支援方法を明らかにする。				
到達目標				
1. 先行研究のクリティック 2. 研究課題の明確化 3. 研究方法の検討 4. 研究計画書の作成 5. 倫理審査 6. 研究計画に沿ったデータ収集 7. データ分析・考察 8. 助産学研究論文の作成と公表				
履修上の注意(学生へのメッセージ)				
・助産学課題研究は、看護研究に必要な基本的理解を踏まえうえで4月から開始する。 ・研究指導教員は1年間チューター教員となり、継続して受ける。公表の時期、論文提出時期はガイダンスで説明する。 ・4月以降、教員にアポイントメントをとり助産学課題研究に対する自らの着眼点をプレゼンする。指導教員は調整し決定する。 ・その後は指導教員の指導のもと研究計画書に沿って研究活動を実施し助産学課題研究論文を作成すること。 ・8月以降は随時実習のインターバルを利用して主体的に進行させること。				
教科書				
APAに学ぶ看護系論文執筆のルール 医学書院 JUNスベシヤル No.94 看護研究の進め方論文の書き方 第2版 医学書院 適宜、講義内容により、担当教員より資料配布。				
参考書				
担当教員より適宜、提示する。				
研究室/オフィスアワー				
適宜担当教員とともに相談に応じます。				
授業展開及び授業計画表				
回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当	
1	看護研究とは	看護研究のテキストを読み予習しておく。	中西 青山 西川 塚田	
2	英文購読法	配布された資料に基づき復習する。	勝井伸子	
3	英文購読法	事前に配布された資料を予習・復習する。	勝井伸子	
4	英文購読法	事前に配布された資料を予習・復習する。	勝井伸子	
5	先行研究のクリティック	テキストを読み、クリティックについて予習する。	中西 青山 西川 塚田	
6	先行研究のクリティック	クリティックする論文を読み、意見をまとめておく。	中西 青山 西川 塚田	
7	先行研究のクリティック	クリティックする論文を読み、意見をまとめておく。	中西 青山 西川 塚田	
8	担当教員のもとで以下を進めていき、12月に成果発表する。	担当教員と適宜面談し、研究をすすめていく。	中西 西川	

	研究課題の明確化 研究方法の選択・研究計画書の作成 データ収集 論文作成			
9	担当教員のもとで以下を進めていき、12月に成果発表する。 研究課題の明確化 研究方法の選択・研究計画書の作成 データ収集 論文作成	担当教員と適宜面談し、研究をすすめていく。	中西 西川 青山 塚田	
10	担当教員のもとで以下を進めていき、12月に成果発表する。 研究課題の明確化 研究方法の選択・研究計画書の作成 データ収集 論文作成	担当教員と適宜面談し、研究をすすめていく。	中西 西川 青山 塚田	
11	担当教員のもとで以下を進めていき、12月に成果発表する。 研究課題の明確化 研究方法の選択・研究計画書の作成 データ収集 論文作成	担当教員と適宜面談し、研究をすすめていく。	中西 西川 青山 塚田	
12	担当教員のもとで以下を進めていき、12月に成果発表する。 研究課題の明確化 研究方法の選択・研究計画書の作成 データ収集 論文作成	担当教員と適宜面談し、研究をすすめていく。	中西 西川 青山 塚田	
13	担当教員のもとで以下を進めていき、12月に成果発表する。 研究課題の明確化 研究方法の選択・研究計画書の作成 データ収集 論文作成	担当教員と適宜面談し、研究をすすめていく。	中西 西川 青山 塚田	
14	成果発表	研究の成果発表に向けて準備する。	中西 西川 青山 塚田	
	成果発表	研究の成果発表の評価を行う。	中西 西川 青山 塚田	
成績評価方法と基準				
①研究計画書、助産学課題論文 ②研究発表 ③提出期限・取り組み姿勢、態度				
割合 ①50% ②30% ③20%				